(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)公開番号
特開2025-29280
(P2025-29280A)
(43)公開日　令和7年3月6日(2025.3.6)

(51)国際特許分類		FI			テーマコード（参考）
Ａ６３Ｆ　7/02 (2006.01)		Ａ６３Ｆ	7/02	３２６Ｚ	２Ｃ０８８
		Ａ６３Ｆ	7/02	３３４	

審査請求　未請求　請求項の数　1　ＯＬ　（全1548頁）

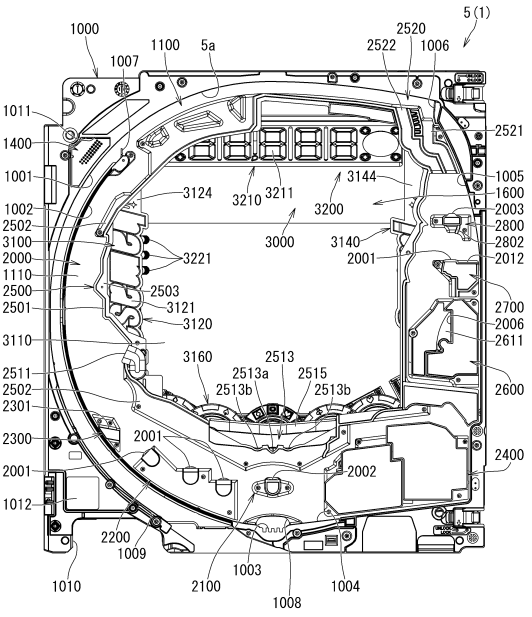
(21)出願番号　特願2023-133821(P2023-133821)
(22)出願日　令和5年8月21日(2023.8.21)

(71)出願人　000148922
株式会社大一商会
愛知県北名古屋市沖村西ノ川１番地
(72)発明者　市原　高明
愛知県北名古屋市沖村西ノ川１番地　株式会社大一商会内
(72)発明者　坂根　渉
愛知県北名古屋市沖村西ノ川１番地　株式会社大一商会内

Ｆターム（参考）　2C088　BC31 EA10

(54)【発明の名称】　遊技機

(57)【要約】
【課題】　電子基板への不正に対するセキュリティの低下を抑制することができる遊技機を提供することにある。
【解決手段】　複数の電子部品が実装される複数の基板を備え、始動条件の成立に基づいて抽選を行い、該抽選の結果に基づいて特典を付与する遊技機であって、複数の基板は、抽選に関わる処理を実行する主制御基板と、該主制御基板からの信号に基づいて複数の演出手段の制御に関連する複数の演出基板と、を含み、複数の演出基板のうちの特別演出基板には、複数の演出手段のうちの特定演出手段を制御する特定電子部品と、該特定電子部品と電気的に接続される特別電子部品と、が少なくとも実装されており、特別電子部品は、特定電子部品との間で電子部品を実装できない電子部品実装不可領域を挟んで特定電子部品と隣接配置され、特別演出基板に実装される他の電子部品と異なる特別色の外装を有する。
【選択図】図１２９



【特許請求の範囲】
【請求項１】
複数の電子部品が実装される複数の基板を備え、始動条件の成立に基づいて抽選を行い、該抽選の結果に基づいて特典を付与する遊技機であって、
前記複数の基板は、
前記抽選に関わる処理を実行する主制御基板と、
該主制御基板からの信号に基づいて複数の演出手段の制御に関連する複数の演出基板と、を含み、
前記複数の演出基板のうちの特別演出基板には、
前記複数の演出手段のうちの特定演出手段を制御する特定電子部品と、
該特定電子部品と電気的に接続される特別電子部品と、が少なくとも実装されており、
前記特別電子部品は、前記特定電子部品との間で電子部品を実装できない電子部品実装不可領域を挟んで前記特定電子部品と隣接配置され、前記特別演出基板に実装される他の電子部品と異なる特別色の外装を有し、
前記特定電子部品は、少なくとも前記特別電子部品とは異なる色の外装を有しており、
さらに前記主制御基板は、封印手段を備える基板ボックスに収納されている
ことを特徴とする遊技機。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、遊技機に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
従来、遊技盤に設けられた始動口への遊技球の入球に基づいて抽選を行い、抽選結果が大当りとなった場合には、図柄を変動表示する表示装置に大当り図柄を停止表示して大当り遊技を発生させる遊技機がある。このような遊技機において、表面実装タイプの電子部品が実装される電子基板を備える遊技機が提案されている（例えば、特許文献１）。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】特開２０２０－０４４０１７号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
しかしながら、上記した表面実装タイプの電子部品が実装される複数の電子基板を備える従来の遊技機では、セキュリティの低下抑制を図るために未だ改善の余地がある。
【０００５】
本発明は、このような事情に鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、電子基板への不正に対するセキュリティの低下を抑制することができる遊技機を提供することにある。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
上述の目的を達成するための有効な解決手段を以下に示す。なお、必要に応じてその作用等の説明を行う。また、理解の容易のため、発明の実施の形態において対応する構成等についても適宜示すが、何ら限定されるものではない。
【０００７】
請求項１に係る発明によれば、
複数の電子部品が実装される複数の基板を備え、始動条件の成立に基づいて抽選を行い、該抽選の結果に基づいて特典を付与する遊技機であって、
前記複数の基板は、

前記抽選に関わる処理を実行する主制御基板と、
該主制御基板からの信号に基づいて複数の演出手段の制御に関連する複数の演出基板と、を含み、
前記複数の演出基板のうちの特別演出基板には、
前記複数の演出手段のうちの特定演出手段を制御する特定電子部品と、
該特定電子部品と電気的に接続される特別電子部品と、が少なくとも実装されており、
前記特別電子部品は、前記特定電子部品との間で電子部品を実装できない電子部品実装不可領域を挟んで前記特定電子部品と隣接配置され、前記特別演出基板に実装される他の電子部品と異なる特別色の外装を有し、
前記特定電子部品は、少なくとも前記特別電子部品とは異なる色の外装を有しており、
さらに前記主制御基板は、封印手段を備える基板ボックスに収納されている
ことを特徴とする。

【０００８】

上記発明によれば、特別演出基板に実装される他の電子部品と異なる特別色の外装を有して特定電子部品と電気的に接続される特別電子部品を、特定演出手段を制御する特定電子部品との間で電子部品を実装できない電子部品実装不可領域を挟んで隣接配置するため、特別電子部品を視標として特定電子部品を容易に特定して特別演出基板に対する不正が行われたか否かを容易に判別することができるようになる。これにより、特別演出基板に実装される特定電子部品が改変されるような不正を抑制することが可能となって遊技機のセキュリティの向上を図ることができるし、不正が行われた場合であっても不正が行われたことをすぐに発見することができ、遊技者に不利益を与えない（例えば、段落６３７６～段落６４０２参照）。

【発明の効果】

【０００９】

本発明の遊技機においては、セキュリティの低下を抑制することができる。

【図面の簡単な説明】

【００１０】

【図１】本発明の一実施形態であるパチンコ機の正面図である。
【図２】パチンコ機の右側面図である。
【図３】パチンコ機の左側面図である。
【図４】パチンコ機の背面図である。
【図５】パチンコ機を右前から見た斜視図である。
【図６】パチンコ機を左前から見た斜視図である。
【図７】パチンコ機を後ろから見た斜視図である。
【図８】演出操作ユニットの押圧操作部が上昇位置の時のパチンコ機の正面図である。
【図９】演出操作ユニットの押圧操作部が上昇位置の時のパチンコ機を右前から見た斜視図である。
【図１０】本体枠から扉枠を開放させると共に、外枠から本体枠を開放させた状態で前から見たパチンコ機の斜視図である。
【図１１】パチンコ機を扉枠、遊技盤、本体枠、及び外枠に分解して前から見た分解斜視図である。
【図１２】パチンコ機を扉枠、遊技盤、本体枠、及び外枠に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１３】パチンコ機における外枠の正面図である。
【図１４】外枠の背面図である。
【図１５】外枠の右側面図である。
【図１６】外枠を前から見た斜視図である。
【図１７】外枠を後ろから見た斜視図である。
【図１８】外枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図１９】外枠の外枠左組立体及び外枠右組立体を夫々分解して前から見た分解斜視図で

ある。
【図２０】外枠の外枠下組立体を分解して前から見た分解斜視図である。
【図２１】（ａ）は外枠の外枠上ヒンジ組立体を分解して前上から見た分解斜視図であり、（ｂ）は（ａ）を前下から見た分解斜視図である。
【図２２】パチンコ機における扉枠の正面図である。
【図２３】扉枠の背面図である。
【図２４】扉枠の左側面図である。
【図２５】扉枠の右側面図である。
【図２６】扉枠を右前から見た斜視図である。
【図２７】扉枠を左前から見た斜視図である。
【図２８】扉枠を後ろから見た斜視図である。
【図２９】扉枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図３０】扉枠を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図３１】（ａ）は扉枠の扉枠ベースユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は扉枠ベースユニットを後ろから見た斜視図である。
【図３２】扉枠ベースユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図３３】扉枠ベースユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図３４】（ａ）は扉枠のシリンダ錠を前から見た斜視図であり、（ｂ）は（ａ）のシリンダ錠を後ろ前から見た斜視図であり、（ｃ）は従来のパチンコ機におけるシリンダ錠を前から見た斜視図であり、（ｄ）は（ａ）のシリンダ錠を後ろから見た斜視図である。
【図３５】（ａ）は図３４（ａ）のシリンダ錠を分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は図３４（ａ）のシリンダ錠を分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図３６】（ａ）は図３４（ａ）のシリンダ錠の可動機構を正面から示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）の状態から反時計回りの方向へ９０度回転させた状態で示すシリンダ錠の説明図であり、（ｃ）は（ａ）の状態から時計回りの方向へ９０度回転させた状態で示すシリンダ錠の説明図である。
【図３７】（ａ）は扉枠ベースユニットの球送給ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は球送給ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図３８】（ａ）は球送給ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は球送給ユニットの後ケースと不正防止部材を外して後から見た分解斜視図である。
【図３９】（ａ）は扉枠ベースユニットのファールカバーユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）はファールカバーユニットを後ろから見た斜視図である。
【図４０】蓋部材を外した状態のファールカバーユニットの正面図である。
【図４１】（ａ）は扉枠におけるハンドルユニット及びハンドルカバーユニットの部位を示す拡大正面図であり、（ｂ）は扉枠におけるハンドルユニット及びハンドルカバーユニットの部位を示す拡大斜視図である。
【図４２】ハンドルカバーユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図４３】ハンドルカバーユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図４４】ハンドルユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図４５】ハンドルユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図４６】図４１（ａ）におけるイ－イ線で切断した断面図である。
【図４７】図１におけるア－ア線で切断した断面図である。
【図４８】扉枠の皿ユニットを見た斜視図である。
【図４９】皿ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図５０】（ａ）は扉枠において下皿球供給口の部位で水平に切断して要部を示す断面図であり、（ｂ）は従来の扉枠において（ａ）と同じ部位を切断して要部を示す断面図である。
【図５１】扉枠の皿ユニットにおける球貸操作ユニットの部位を拡大して示す平面図である。
【図５２】（ａ）は演出操作ボタンを上方へ向けた状態で演出操作ユニットを前から見た

斜視図であり、（ｂ）は（ａ）の演出操作ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図５３】演出操作ユニットを主な部材毎に分解して前上から見た分解斜視図である。
【図５４】演出操作ユニットを主な部材毎に分解して前下から見た分解斜視図である。
【図５５】（ａ）は演出操作部ユニットが下降位置で昇降バネ下保持部材が上方へ移動端の位置の状態の演出操作ユニットの断面図であり、（ｂ）は（ａ）の状態から演出操作部ユニットが上昇位置へ移動した状態の演出操作ユニットの断面図である。
【図５６】演出操作部ユニットが下降位置で昇降バネ下保持部材が下方へ移動端の位置の状態の演出操作ユニットの断面図である。
【図５７】演出操作ユニットを押圧操作部の押圧方向から見た平面図において演出操作部外周装飾基板、ボタン外装飾基板、及びボタン内装飾基板の位置関係を示す説明図である。
【図５８】（ａ）は通常の状態で示す皿ユニットの正面図であり、（ｂ）は演出操作部ユニットが上昇位置の時の皿ユニットの正面図である。
【図５９】演出操作ユニットの演出操作部ユニットにおいて接触検知体を複数設けた例を示す演出操作部ユニットの平面図である。
【図６０】（ａ）は一つの接触検知センサ本体に複数の接触検知体を接続した例を模式的に示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）において接触検知センサ本体と複数の接触検知体との間に切換部を設けた例を模式的に示す説明図であり、（ｃ）は皿ユニットの皿左装飾ユニット、皿右装飾ユニット、及び演出操作ユニット等を前後方向へ進退可能とし演出操作ユニット等の前側と後側に接触検知体を設けた例を示す説明図である。
【図６１】（ａ）は装飾性を有した接触検知体の一例を示す説明図であり、（ｂ）は演出操作ユニットの別の実施形態を模式的に示す説明図である。
【図６２】（ａ）は扉枠の扉枠左サイドユニットの正面図であり、（ｂ）は扉枠左サイドユニットを前から見た斜視図であり、（ｃ）は扉枠左サイドユニットを後ろから見た斜視図である。
【図６３】扉枠左サイドユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図６４】扉枠左サイドユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図６５】図６２（ａ）においてウ－ウ線で切断した断面図である。
【図６６】（ａ）は扉枠の扉枠右サイドユニットの正面図であり、（ｂ）は扉枠右サイドユニットの右側面図であり、（ｃ）は扉枠右サイドユニットを前から見た斜視図であり、（ｄ）は扉枠右サイドユニットを後ろから見た斜視図である。
【図６７】扉枠右サイドユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図６８】扉枠右サイドユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図６９】図６６（ａ）においてエ－エ線で切断した断面図である。
【図７０】図６６（ａ）においてオ－オ線で切断した断面図である。
【図７１】（ａ）は扉枠において２色成形の外側層を不透明にした状態で示す扉枠右サイドユニットの右側面図であり、（ｂ）は（ａ）において内側層をそのままにして外側層を透明にした状態で示す扉枠右サイドユニットの右側面図である。
【図７２】扉枠の各装飾基板を示す正面図である。
【図７３】扉枠の演出操作ユニットの部位の装飾基板を示す平面図である。
【図７４】扉枠の扉窓の周囲に設けられている各装飾基板を示す背面図である。
【図７５】パチンコ機における本体枠の正面図である。
【図７６】パチンコ機における本体枠の背面図である。
【図７７】本体枠を右前から見た斜視図である。
【図７８】本体枠を左前から見た斜視図である。
【図７９】本体枠を後ろから見た斜視図である。
【図８０】本体枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図８１】本体枠を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図８２】（ａ）は本体枠における正面左下隅を示す拡大斜視図であり、（ｂ）は本体枠に対して扉枠を開いた時の本体枠の正面左下隅を示す拡大斜視図である。

【図８３】本体枠に対する扉枠の開閉時における本体枠の接続ケーブル案内部材の動作を示す説明図である。
【図８４】（ａ）は本体枠における球発射装置を前から見た斜視図であり、（ｂ）は球発射装置を後ろから見た斜視図である。
【図８５】（ａ）は本体枠の払出ベースユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は払出ベースユニットを後ろから見た斜視図である。
【図８６】（ａ）は本体枠における払出ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は払出ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図８７】（ａ）は払出ユニットを主な構成毎に分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は払出ユニットを主な構成毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図８８】払出ユニットの払出装置を払出羽根の前後方向中央で切断した背面断面図である。
【図８９】（ａ）は球抜可動片が開状態の時に払出装置を払出羽根の前後方向中央で切断した背面断面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるＡ－Ａ線で切断した断面図である。
【図９０】扉枠のファールカバーユニットと下部満タン球経路ユニットとの関係を示す説明図である。
【図９１】本体枠における遊技球の流れを示す説明図である。
【図９２】（ａ）は本体枠の基板ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は基板ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図９３】基板ユニットを後ろ下から見た斜視図である。
【図９４】基板ユニットを主な構成毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図９５】基板ユニットを主な構成毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図９６】左右方向中央で切断したパチンコ機の下部を示す拡大側面断面図である。
【図９７】（ａ）は本体枠の施錠ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は施錠ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図９８】（ａ）は本体枠の平面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるＢ－Ｂ線で切断した断面図である。
【図９９】本体枠を後ろから見た斜視図において上部を拡大して示す拡大図である。
【図１００】（ａ）は球タンクにタンクレール等を組立てた状態で前上から見た斜視図であり、（ｂ）は（ａ）を前下から見た斜視図である。
【図１０１】図１００（ａ）を分解して前から見た分解斜視図である。
【図１０２】本体枠上部における球タンクから溢れた遊技球が流通する領域を示す説明図である。
【図１０３】本体枠上部における球タンクから溢れた遊技球の流れを示す説明図である。
【図１０４】本体枠上部における迂回通路への遊技球の流れを示す説明図である。
【図１０５】本体枠をヒンジ側の後ろから見た斜視図においてタンクレール付近を拡大して示す拡大図である。
【図１０６】別の実施形態のタンクレール等を備えたパチンコ機を後ろから見てタンクレールの部位を拡大して示す斜視図である。
【図１０７】（ａ）は図１０６のタンクレール等を球タンクと共に組立てた状態で示す平面図であり、（ｂ）は（ａ）のタンクレール等を前から見た斜視図であり、（ｃ）は（ａ）のタンクレール等を後ろから見た斜視図である。
【図１０８】（ａ）は図１０７のタンクレール等を分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は図１０７のタンクレール等を分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１０９】図１０７（ａ）においてカ－カ線で切断したタンクレール等の断面図である。
【図１１０】図１０７のタンクレール内での遊技球の流れを断面で示す説明図である。
【図１１１】（ａ）は別の実施形態の基板ユニットの正面図であり、（ｂ）は（ａ）の基板ユニットを右前から見た斜視図であり、（ｃ）は（ａ）の基板ユニットを左前から見た斜視図である。

【図１１２】（ａ）は図１１１（ａ）の基板ユニットを右上後ろから見た斜視図であり、（ｂ）は図１１１（ａ）の基板ユニットを右下後ろから見た斜視図である。
【図１１３】図１１１（ａ）の基板ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図１１４】図１１１（ａ）の基板ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１１５】（ａ）は図１１１（ａ）におけるキ－キ線で切断した断面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるク－ク線で切断した断面図であり、（ｃ）は（ａ）におけるケ－ケ線で切断した断面図である。
【図１１６】図１１１（ａ）の基板ユニットを備えたパチンコ機において扉枠よりも後側の部位を示す底面図である。
【図１１７】アウト球通路のアウト球排出口に誘導片を設けた例を示す説明図である。
【図１１８】（ａ）はアウトセンサを着脱可能とした例を示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）においてアウトセンサを取外した状態を示す説明図である。
【図１１９】（ａ）は電源ユニット、払出制御ユニット、及びインターフェイスユニットを省略して示す第三実施形態の基板ユニットを右前から見た斜視図であり、（ｂ）は（ａ）の基板ユニットを左前から見た斜視図である。
【図１２０】（ａ）は図１１９の基板ユニットを右上後ろから見た斜視図であり、（ｂ）は（ａ）の基板ユニットを右下後ろから見た斜視図である。
【図１２１】（ａ）は図１１９の基板ユニットの平面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるコ－コ線で切断した断面図であり、（ｃ）は（ａ）におけるサ－サ線で切断した断面図である。
【図１２２】図１２１（ａ）におけるシ－シ線で切断した断面図である。
【図１２３】図１１９の基板ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図１２４】図１１９の基板ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１２５】（ａ）は図１１９の基板ユニットの球経路部材を前から見た斜視図であり、（ｂ）は図１１９の基板ユニットの球経路部材を後ろから見た斜視図である。
【図１２６】図１１９の基板ユニットにおける球詰りの解消を示す説明図である。
【図１２７】図１１９の基板ユニットにおける線状の不正工具の侵入の阻止を示す説明図である。
【図１２８】図１１９の基板ユニットにおけるゴミ落としを示す説明図である。
【図１２９】パチンコ機においてセンター役物等を不透明にした遊技盤の正面図である。
【図１３０】図１２９の遊技盤を右前から見た斜視図である。
【図１３１】図１２９の遊技盤を左前から見た斜視図である。
【図１３２】遊技盤を後ろから見た斜視図である。
【図１３３】主制御基板における機能表示ユニットからの配線の引き回しの概略説明図である。
【図１３４】センター役物等を透明にした状態の遊技盤の正面図である。
【図１３５】遊技盤を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図１３６】遊技盤を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１３７】遊技パネルの面と平行に表ユニットを切断して遊技球が流通する遊技領域内と障害釘とを現した状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１３８】（ａ）は遊技盤における前構成部材及び遊技パネルを前から見た斜視図であり、（ｂ）は前構成部材及び遊技パネルを後ろから見た斜視図である。
【図１３９】（ａ）は前構成部材及び遊技パネルの右上隅を拡大して示す正面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるス－ス線で切断した断面図であり、（ｃ）は（ａ）を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図１４０】（ａ）は遊技盤における表ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は遊技盤における表ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図１４１】（ａ）はセンター役物における右下案内通路の部位を分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）はセンター役物における右下案内通路の前側の前部材における分離孔の部位で左右に切断して右方から見た側面断面図である。

【図１４２】（ａ）はゲート部材を前から見た斜視図であり、（ｂ）はゲート部材を分解して前から見た分解斜視図であり、（ｃ）はゲート部材を分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１４３】（ａ）はゲート部材の正面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるセ－セ線で切断した断面図である。
【図１４４】表ユニットにおける右側の遊技球の流路を示す説明図である。
【図１４５】図１４４における第一アタッカユニットと第二アタッカユニットの部位を拡大して示す説明図である。
【図１４６】磁気センサの配置を示す遊技盤の正面図である。
【図１４７】（ａ）は磁石からの磁力線を検知可能な磁気センサの向きを示す説明図であり、（ｂ）は磁石からの磁力線を検知不能な磁気センサの向きを示す説明図であり、（ｃ）は磁気センサによる検知範囲を斜視図により模式的に示す説明図であり、（ｄ）は磁石からの磁力線が検知不能となる磁気センサと磁性体との位置関係を示す説明図であり、（ｅ）は磁石からの磁力線が検知可能となる磁気センサと磁性体との位置関係を示す説明図である。
【図１４８】（ａ）は保持部材に磁気センサが保持されている状態を示す斜視図であり、（ｂ）は保持部材と磁気センサとを分離させた状態で示す分解斜視図であり、（ｃ）は保持部材を断面で示す分解図である。
【図１４９】（ａ）は遊技盤の裏ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は遊技盤の裏ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図１５０】裏ユニットにおける裏前演出ユニットの正面図である。
【図１５１】（ａ）は裏ユニットにおける裏前演出ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏ユニットにおける裏前演出ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図１５２】（ａ）は裏前演出ユニットを上下方向の中央付近で切断して上から見た断面図であり、（ｂ）は（ａ）における左部の拡大断面図であり、（ｃ）は（ａ）における右部の拡大断面図である。
【図１５３】裏前演出ユニットの裏前左装飾ユニットを分解して導光板と共に前から見た分解斜視図である。
【図１５４】裏前左装飾ユニットを分解して裏前左第一装飾体、裏前左第二装飾体、裏前左第三装飾体、及び裏前左装飾体ベースのみを後ろから見た分解斜視図である。
【図１５５】（ａ）は透明な状態で示す裏前左第一装飾体の正面図であり、（ｂ）は透明な状態で示す裏前左第二装飾体の正面図であり、（ｃ）は透明な状態で示す裏前左第三装飾体の正面図であり、（ｃ）は透明な状態で示す裏前左装飾体ベースの正面図である。
【図１５６】（ａ）は裏前演出ユニットにおける導光板と導光板及び裏前左装飾ユニットを発光装飾させるための装飾基板との関係を正面から示す説明図であり、（ｂ）は裏前演出ユニットにおける導光板と裏前下演出ユニットの装飾体を発光装飾させるための装飾基板との関係を正面から示す説明図である。
【図１５７】裏前左装飾ユニットを発光装飾させた状態を示す正面図である。
【図１５８】（ａ）は導光板の第一絵柄を発光させた状態を示す説明図であり、（ｂ）は導光板の第二絵柄を発光させた状態を示す説明図である。
【図１５９】導光板の第二絵柄の発光構成を示す説明図である。
【図１６０】導光板の第二絵柄を発光させた状態で示す裏前演出ユニットの正面図である。
【図１６１】裏ユニットの裏後上演出ユニットにおける裏後上可動装飾体の裏後上第一装飾部を前方へ向けた状態で下降位置へ移動させた状態を示す遊技盤の正面図である。
【図１６２】裏ユニットの裏後上演出ユニットにおける裏後上可動装飾体を下降位置へ移動させた状態で裏後上第二装飾部を前方へ向けた状態を示す遊技盤の正面図である。
【図１６３】裏ユニットの裏後下演出ユニットにおける裏後左可動装飾体及び裏後右可動装飾体を出現位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１６４】裏ユニットの裏前演出ユニットの裏前下演出ユニットにおける裏前下中装飾

体を上昇させた状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１６５】裏ユニットの裏前演出ユニットにおける裏前左装飾ユニット３１２０の裏前左ロゴ装飾部、裏前左上ロゴ装飾部、裏前左サブ装飾部、及び裏前左帯装飾部を発光装飾させた状態を示す遊技盤の正面図である。
【図１６６】裏ユニットの裏前演出ユニットにおける導光板の第一絵柄を発光装飾させた状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１６７】裏ユニットの裏前演出ユニットにおける導光板の第一絵柄を発光装飾させると共に、裏後下演出ユニットにおける裏後左可動装飾体及び裏後右可動装飾体を出現位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１６８】裏ユニットの裏前演出ユニットにおける導光板の第二絵柄を発光装飾させた状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１６９】パチンコ機の制御構成を概略で示すブロック図である。
【図１７０】周辺制御ユニットの正面分解斜視図である。
【図１７１】周辺制御ユニットの背面分解斜視図である。
【図１７２】周辺制御ユニットの正面図である。
【図１７３】変換基板を有するＲＯＭソケットの斜視図（ａ）あり、リードレス型のパッケージを有する制御ＲＯＭがＲＯＭソケットに取り付けた状態における上面図（ｂ）である。
【図１７４】図１７３（ａ）のＰ矢視図である。
【図１７５】周辺制御基板に形成されるスルーホールと変換基板に形成されるスルーホールとの位置関係の概要を示すスルーホールの断面図である。
【図１７６】変換基板に実装されるリードレス型のパッケージを有する制御ＲＯＭやＲＯＭソケットの斜視図（ａ）あり、リードレス型のパッケージを有する制御ＲＯＭがＲＯＭソケットに取り付けた状態における上面図（ｂ）である。
【図１７７】周辺制御基板の基板管理番号を示す概略図（ａ）～（ｃ）である。
【図１７８】パチンコ遊技機の電源システムを示すブロック図である。
【図１７９】主制御基板の回路を示す概略回路図である。
【図１８０】エラー検知機能付き主制御入力回路を示す回路図である。
【図１８１】停電監視回路を示す回路図である。
【図１８２】払出制御基板の回路を示す概略回路図である。
【図１８３】カバー体に主制御基板を取り付けてベース体をカバー体の開口側を覆うようにスライド移動する前の状態を示す主制御基板ボックスの斜視図（ａ）であり、カバー体とベース体とを封印機構により封印した主制御基板ボックスの斜視図（ｂ）である。
【図１８４】設定キースイッチの正面右斜めから見た斜視図（ａ）であり、設定キースイッチの正面左斜めから見た斜視図（ｂ）であり、設定キースイッチの上面図（ｃ）である。
【図１８５】設定キースイッチと主制御基板ボックスのカバー体との関係を示す概略図である。
【図１８６】設定キースイッチが実装される主制御基板の実装面（表面）を示す図（ａ）であり、設定キースイッチが実装される主制御基板の実装面（表面）と対応する主制御基板のハンダ面（裏面）を示す図（その１）（ｂ）であり、設定キースイッチが実装される主制御基板の実装面（表面）と対応する主制御基板のハンダ面（裏面）を示す図（その２）（ｃ）である。
【図１８７】図１８６の続きであり、設定キースイッチが実装される主制御基板の実装面（表面）と対応する主制御基板のハンダ面（裏面）を示す図（その３）（ｄ）であり、設定キースイッチが実装される主制御基板の実装面（表面）と対応する主制御基板のハンダ面（裏面）を示す図（その４）（ｅ）である。
【図１８８】主制御基板の実装面（表面）に実装される各種電子部品の配置の概要を説明する概要図である。
【図１８９】主制御基板の主制御ＭＰＵへの各種配線パターンの概要を説明する主制御基

板のハンダ面（裏面）の概要図である。
【図１９０】主制御基板の実装面（表面）に形成される第１実施形態に係る入力信号配線パターン用スルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を説明する概略図（ａ）であり、（ａ）におけるＸ－Ｘ線の断面の概略図（ｂ）であり、（ｂ）の変形例の概略図（ｃ）である。
【図１９１】主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される第２実施形態に係る入力信号配線パターン用スルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を説明する概略図（ａ）であり、（ａ）におけるＸ－Ｘ線の断面の概略図（ｂ）であり、（ｂ）の変形例の概略図（ｃ）である。
【図１９２】主制御基板の実装面（表面）に形成される第３実施形態に係る入力信号配線パターン用スルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を説明する概略図（ａ）であり、（ａ）におけるＸ－Ｘ線の断面の概略図（ｂ）であり、（ｂ）の変形例の概略図（ｃ）である。
【図１９３】主制御基板の実装面（表面）に形成される第４実施形態に係る入力信号配線パターン用スルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を説明する概略図（ａ）であり、（ａ）におけるＸ－Ｘ線の断面の概略図（ｂ）であり、（ｂ）の変形例の概略図（ｃ）である。
【図１９４】第１実施形態に係る遊技盤に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を説明する概略図（ａ）、（ａ）におけるＸ－Ｘ線の断面の概略図（ｂ）、（ｂ）の変形例の概略図（ｃ）である。
【図１９５】第２実施形態に係る遊技盤に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を説明する概略図（ａ）、（ａ）におけるＸ－Ｘ線の断面の概略図（ｂ）、（ｂ）の変形例の概略図（ｃ）である。
【図１９６】第３実施形態に係る遊技盤に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を説明する概略図（ａ）、（ａ）におけるＸ－Ｘ線の断面の概略図（ｂ）、（ｂ）の変形例の概略図（ｃ）である。
【図１９７】第４実施形態に係る遊技盤に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を説明する概略図（ａ）、（ａ）におけるＸ－Ｘ線の断面の概略図（ｂ）、（ｂ）の変形例の概略図（ｃ）である。
【図１９８】（ａ）は第一実施形態の遊技盤の一部を拡大して示す正面図であり、（ｂ）は（ａ）と同じ部位で第二実施形態の遊技盤の一部を拡大して示す正面図である。
【図１９９】（ａ）は第二実施形態の遊技盤の一部を拡大して示す正面図であり、（ｂ）は（ａ）において裏前演出ユニットの裏前左装飾ユニットを発光装飾させた状態で示す説明図である。
【図２００】図１９９（ａ）において遊技パネルのパネル板を発光装飾させた状態で示す説明図である。
【図２０１】第三実施形態の遊技盤におけるパネル板とセルとを分解して前から見た分解斜視図である。
【図２０２】（ａ）は第二実施形態の機能表示ユニットの正面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるソ－ソ線断面図であり、（ｃ）は（ａ）の機能表示ユニットを前から見た斜視図であり、（ｄ）は（ａ）の機能表示ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図２０３】図２０２の機能表示ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図２０４】図２０２の機能表示ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図２０５】図２０２の機能表示ユニットと遊技者との関係を模式的に示す説明図である。
【図２０６】第三実施形態の機能表示ユニットと遊技者との関係を模式的に示す説明図である。
【図２０７】第四実施形態の機能表示ユニットの断面図である。
【図２０８】（ａ）は磁気センサの取付けの第二実施形態を示す断面図であり、（ｂ）は（ａ）の磁気センサの取付けを斜視図で示す説明図であり、（ｃ）は（ｂ）の磁気センサ

の取付けを分解して示す分解斜視図であり、（ｄ）は（ｃ）とは異なる保持部材で示す磁気センサの取付けの分解斜視図である。
【図２０９】（ａ）は装飾体を取外すための第一部材の分離孔を第二部材に対する位置決孔と兼用している例を断面で示す説明図であり、（ｂ）は装飾体を取外すための第一部材の分離孔の後方に第二部材により閉鎖空間が形成されている例を断面で示す説明図であり、（ｃ）は（ｂ）において厚さの異なる装飾体を取付けている状態を断面で示す説明図であり、（ｄ）は装飾体を取外すための第一部材の分離孔を装飾体の取付孔と兼用している例を断面で示す説明図である。
【図２１０】（ａ）は第一部材に装飾体を取付けた状態で正面から示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）の断面図であり、（ｃ）は（ａ）とは異なる装飾体を取付けた第一部材を正面から示す説明図である。
【図２１１】（ａ）は横長矩形状の装飾体と第一部材との関係を示す説明図であり、（ｂ）は円形の装飾体と第一部材との関係を示す説明図であり、（ｃ）は対称に設けられる装飾体及び第一部材との関係を示す説明図であり、（ｄ）は（ｃ）とは異なる形状で対称に設けられる装飾体及び第一部材との関係を示す説明図である。
【図２１２】（ａ）は装飾体及び可動する第一部材との関係を正面から示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）においてタ－タ線で切断した断面図であり、（ｃ）は（ａ）及び（ｃ）において装飾体と第一部材との位置関係を示す説明図であり、（ｄ）は（ａ）とは異なる形態の装飾体及び可動する第一部材との関係を正面から示す説明図であり、（ｅ）は（ｄ）においてチ－チ線で切断した断面図である。
【図２１３】スロットマシンの概略斜視図である。
【図２１４】打ち止め用カウンタの推移に対して算出される出玉量の一例を示すタイムチャートである。
【図２１５】「打ち止め状態が開始される前に算出された出玉量」及び「打ち止め状態中の遊技の制限」のクリア条件を示すテーブルである。
【図２１６】出玉量が特定値に達して遊技が制限された場合におけるパチンコ機の挙動を示すタイムチャートである。
【図２１７】電源遮断後の再投入時に遊技の制限を解除した場合におけるパチンコ機の挙動を示すタイムチャートである。
【図２１８】大当り遊技中に大入賞口に遊技球が入球したタイミングで出玉量が特定値に達する場合における具体的な演出例である。
【図２１９】特別図柄の変動表示中に一般入賞口に遊技球が入球したタイミングで出玉量が特定値に達する場合における具体的な演出例である。
【図２２０】制限クリアパターン選択スイッチが「４」の場合に選択される制限クリアパターンテーブル４である。
【図２２１】通常状態や打ち止め状態中に軽度の異常が発生した場合におけるパチンコ機の挙動を示すタイムチャートである。
【図２２２】通常状態中に重度の異常が発生した場合におけるパチンコ機の挙動を示すタイムチャートである。
【図２２３】打ち止め状態中に重度の異常が発生した場合におけるパチンコ機の挙動を示すタイムチャートである。
【図２２４】打ち止め準備状態中に軽度の異常が発生した場合におけるパチンコ機の挙動を示すタイムチャートである。
【図２２５】打ち止め準備状態中に重度の異常が発生した場合におけるパチンコ機の挙動を示すタイムチャートである。
【図２２６】通常状態や打ち止め状態中に軽度の異常が発生した場合における具体的な演出例である。
【図２２７】通常状態や打ち止め状態中に重度の異常が発生した場合における具体的な演出例である。
【図２２８】打ち止め準備状態中に軽度の異常や重度の異常が発生した場合における具体

的な演出例である。
【図２２９】事前告知表示を開始した後における事前告知表示の推移を示すタイムチャートである。
【図２３０】電源投入時における制限クリアパターンテーブル４の変形例である。
【図２３１】打ち止め準備状態および打ち止め状態の開始前に特殊外部信号の出力を開始することを示すタイムチャートである。
【図２３２】電源投入時に打ち止め状態をクリアした後に打ち止め類似状態が発生する場合におけるパチンコ機の挙動を示すタイムチャートである。
【図２３３】待機状態中に事前告知表示や進行不能表示が表示されている場合におけるパチンコ機の挙動を示すタイムチャートである。
【図２３４】特別図柄の変動表示中に打ち止め状態に移行しない場合における可動体の動作を示すタイムチャートである。
【図２３５】特別図柄の変動表示中における可動体の動作タイミングよりも前に打ち止め状態に移行し、以降に可動体を動作しない場合を示すタイムチャートである。
【図２３６】特別図柄の変動表示中における可動体の動作中に打ち止め状態に移行し、以降に可動体を動作しない場合を示すタイムチャートである。
【図２３７】特別図柄の変動表示中における可動体の動作タイミングよりも前に打ち止め状態に移行し、以降に可動体を動作する場合を示すタイムチャートである。
【図２３８】特別図柄の変動表示中における可動体の動作中に打ち止め状態に移行し、以降に可動体を動作しない場合における具体的な演出例である。
【図２３９】特別図柄の変動表示中における可動体の動作タイミングよりも前に打ち止め状態に移行し、以降に可動体を動作する場合における具体的な演出例である。
【図２４０】特別図柄の変動表示中における可動体の動作タイミングよりも前に打ち止め状態に移行し、以降に可動体を動作する場合における具体的な演出の別例である。
【図２４１】特別図柄の変動表示中における可動体の非動作中に打ち止め状態に移行し、以降に可動体の祝い動作を実行する場合を示すタイムチャートである。
【図２４２】特別図柄の変動表示中における可動体の動作中に打ち止め状態に移行し、以降に可動体の祝い動作を実行する場合を示すタイムチャートである。
【図２４３】可動体の異常停止中に打ち止め状態に移行し、可動体が初期位置に戻った時点で可動体の祝い動作を実行する場合を示すタイムチャートである。
【図２４４】可動体の異常停止中に打ち止め状態に移行し、可動体が初期位置に戻らなかった場合を示すタイムチャートである。
【図２４５】電源の遮断時に遊技盤を交換した場合におけるパチンコ機の挙動を示すタイムチャートである。
【図２４６】電源の遮断前に遊技盤を交換した場合におけるパチンコ機の挙動を示すタイムチャートである。
【図２４７】通常の待機状態、省エネモード、打ち止め状態における発光や音声に関する報知態様を比較するテーブルである。
【図２４８】打ち止め状態中に省エネモードに移行する場合におけるパチンコ機の挙動を示すタイムチャートである。
【図２４９】打ち止め状態中に報知態様Ｃに移行する場合における発光や音声に関する報知態様を比較するテーブルである。
【図２５０】打ち止め状態中に報知態様Ｃに移行する場合におけるパチンコ機の挙動を示すタイムチャートである。
【図２５１】省エネモード中に第１の管理者作業や第２の管理者作業が行われて打ち止め状態に移行する場合におけるパチンコ機の挙動を示すタイムチャートである。
【図２５２】小当り遊技中に出玉量が特定値に達した場合を示すタイムチャートである。
【図２５３】特殊大当り遊技中に出玉量が特定値に達しない場合を示すタイムチャートである。
【図２５４】特殊大当り遊技中に出玉量が特定値に達した場合を示すタイムチャートであ

る。
【図２５５】主制御側電源投入時処理の一例を示すフローチャートである。
【図２５６】図２５５の主制御側電源投入時処理のつづきを示すフローチャートである。
【図２５７】主制御側タイマ割り込み処理の一例を示すフローチャートである。
【図２５８】設定変更処理の一例を示すフローチャートである。
【図２５９】設定値確認表示処理の一例を示すフローチャートである。
【図２６０】エラー表示処理の一例を示すフローチャートである。
【図２６１】払出制御部電源投入時処理の一例を示すフローチャートである。
【図２６２】図２６１の払出制御部電源投入時処理のつづきを示すフローチャートである。
【図２６３】図２６２に続いて払出制御部電源投入時処理のつづきを示すフローチャートである。
【図２６４】払出制御部タイマ割り込み処理の一例を示すフローチャートである。
【図２６５】周辺制御部電源投入時処理の一例を示すフローチャートである。
【図２６６】周辺制御部Ｖブランク割り込み処理の一例を示すフローチャートである。
【図２６７】周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の一例を示すフローチャートである。
【図２６８】周辺制御部コマンド受信割り込み処理の一例を示すフローチャートである。
【図２６９】周辺制御部停電予告信号割り込み処理の一例を示すフローチャートである。
【図２７０】特別図柄及び特別電動役物制御処理（ステップＳ１１４）についてその手順を示すフローチャートである。
【図２７１】第一始動口通過処理（ステップＳ２３２）についてその手順を示すフローチャートである。
【図２７２】演出事前判定処理（ステップＳ２４５）についてその手順を示すフローチャートである。
【図２７３】第二始動口通過処理（ステップＳ２３４）についてその手順を示すフローチャートである。
【図２７４】第一特別図柄プロセス処理（ステップＳ２３８）についてその手順を示すフローチャートである。
【図２７５】第一特別図柄通常処理（ステップＳ２８０）についてその手順を示すフローチャートである。
【図２７６】当り判定処理（ステップＳ３０５）についてその手順を示すフローチャートである。
【図２７７】当り判定テーブル（Ａ）、大当り図柄決定テーブル（Ｂ）、小当り図柄決定テーブル（Ｃ）を示す各種テーブル。
【図２７８】第一特別図柄停止図柄設定処理（ステップＳ２８１）についてその手順を示すフローチャートである。
【図２７９】第一変動パターン設定処理（ステップＳ２８２）についてその手順を示すフローチャートである。
【図２８０】第一特別図柄変動処理（ステップＳ２８３）についてその手順を示すフローチャートである。
【図２８１】第一特別図柄停止処理（ステップＳ２８４）についてその手順を示すフローチャートである。
【図２８２】大当り制御処理（ステップＳ２３５Ａ）についてその手順を示すフローチャートである。
【図２８３】虹色演出の一例を示す説明図である。
【図２８４】遊技盤に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤのグループ分けを示す説明図である。
【図２８５】扉枠に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤのグループ分けを示す説明図である。
【図２８６】虹色演出の一例を示すタイミング図である。

【図２８７】異常時における虹色演出の一例を示すタイミング図である。
【図２８８】（Ａ）裏後上可動装飾体の正面斜視図であり、（Ｂ）裏後上可動装飾体をＡ－Ａ線で切った断面図である。
【図２８９】虹色演出の第１の変形例を示すタイミング図である。
【図２９０】虹色演出の第１の変形例を示すタイミング図である。
【図２９１】虹色演出の第２の変形例を示すタイミング図である。
【図２９２】虹色演出の第２の変形例を示すタイミング図である。
【図２９３】金色演出の一例を示す説明図である。
【図２９４】金色演出の一例を示すタイミング図である。
【図２９５】低期待金色演出の一例を示す説明図である。
【図２９６】金色演出におけるエフェクト処理の一例を示す説明図である。
【図２９７】パチンコ機の正面図である。
【図２９８】金色演出時の光量調節の一例を示すタイミング図である。
【図２９９】金色演出時の音量調節の一例を示すタイミング図である。
【図３００】インフォメーション表示器の一例を示す説明図である。
【図３０１】インフォメーション表示器の一例を示す説明図である。
【図３０２】分割遊技盤の概略正面図（ａ）であり、分割遊技盤の概略背面図（ｂ）である。
【図３０３】分割遊技盤を構成する右側遊技盤と左側遊技盤とを合体する前における分割遊技盤の左下後方から見た背面斜視図（ａ）であり、分割遊技盤を左下後方から見た背面斜視図（ｂ）である。
【図３０４】図３０２（ａ）における分割遊技盤の飾り換えを行った分割遊技盤の概略正面図である。
【図３０５】ＩＤ出力回路の一例を示す回路図である。
【図３０６】フォトセンサ情報シリアル出力回路の一例を示す回路図である。
【図３０７】複数のＩＤ出力回路の一例を示す回路図である。
【図３０８】組み合わせの適合（整合）／不適合（不整合）テーブルを示す一覧表である。
【図３０９】ＩＤ判定を行うことができる周辺制御部電源投入時処理の一例を示すフローチャートである。
【図３１０】電源投入時における各種エラー対応（具体例１）を示すテーブルである。
【図３１１】電源投入後の演出の進行時または客待ち時における磁気検出を伴わない各種エラー対応（具体例１）を示すテーブルである。
【図３１２】電源投入後の演出の進行時または客待ち時における磁気検出を伴う各種エラー対応（具体例１）を示すテーブルである。
【図３１３】電源投入時における各種エラー対応（具体例２）を示すテーブルである。
【図３１４】電源投入後の演出の進行時または客待ち時における磁気検出を伴わない各種エラー対応（具体例２）を示すテーブルである。
【図３１５】電源投入後の演出の進行時または客待ち時における磁気検出を伴う各種エラー対応（具体例２）を示すテーブルである。
【図３１６】ＩＤ比較回路の一例を示す回路図である。
【図３１７】皿ユニットに設けられる中継基板の回路の一例を示す回路図である。
【図３１８】図３１６の変形例の一例を示す回路である。
【図３１９】図３１６に示した枠側装飾基板に備えるＩＤ比較回路を構成するＬＥＤドライバからシリアルパラレル変換回路へ代替した場合の一例を示す回路図である。
【図３２０】各ユニットの割り振りの概略を示す概略図である。
【図３２１】各ユニットにおけるＩＤ出力回路の一例を示す回路図である。
【図３２２】図３２１の各ユニットにおけるＩＤ出力回路に製造元識別符号（製造元識別値）をさらに含ませる回路の一例を示す回路図である。
【図３２３】ＩＤエラー判定スイッチが設けられる分割遊技盤の概略正面図（ａ）であり

、ＩＤエラー判定スイッチが設けられる分割遊技盤の概略背面図（ｂ）である。
【図３２４】右側遊技盤を右側遊技パネルと右側裏箱とに分解して前方から見た概略分解斜視図である。
【図３２５】右側遊技盤の裏ユニットの右側裏箱の一部を前方から見た概略斜視図である。
【図３２６】右側遊技盤の一部を右側遊技パネルと右側裏箱とに分解して前方から見た概略分解斜視図である。
【図３２７】分割遊技盤５Ａの組み合わせとして左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとから構成される分割遊技盤５Ａが適合（整合）する状態で設定値の設定変更を行う場合の挙動例である。
【図３２８】分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態で設定値の設定変更を行う場合の挙動例である。
【図３２９】分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態で設定変更処理の実行中に不正な磁気が発生した場合の挙動例である。
【図３３０】分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態で設定変更処理の終了後に実行される電源投入時動作確認の実行中に不正な磁気が発生した場合の挙動例である。
【図３３１】右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態で設定値の設定変更を行う場合の挙動例である。
【図３３２】右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態で設定変更処理の実行中に不正な磁気が発生した場合の挙動例である。
【図３３３】右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態で設定変更処理の終了後に実行される電源投入時動作確認の実行中に不正な磁気が発生した場合の挙動例である。
【図３３４】分割遊技盤５Ａの組み合わせとして左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとから構成される分割遊技盤５Ａが適合（整合）する状態で設定値の確認表示を行う場合の挙動例である。
【図３３５】分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態で設定値の確認表示を行う場合の挙動例である。
【図３３６】分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態で設定値確認表示処理の実行中に不正な磁気が発生した場合の挙動例である。
【図３３７】分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態で設定値確認表示処理の終了後に実行される電源投入時動作確認の実行中に不正な磁気が発生した場合の挙動例である。
【図３３８】右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態で設定値の確認表示を行う場合の挙動例である。
【図３３９】右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態で設定値確認表示処理の実行中に不正な磁気が発生した場合の挙動例である。
【図３４０】右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態で設定値確認表示処理の終了後に実行される電源投入時動作確認の実行中に不正な磁気が発生した場合の挙動例である。
【図３４１】主制御基板の変形例を示す概略図である。
【図３４２】分割遊技盤５Ａの組み合わせとして左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとから構成される分割遊技盤５Ａが適合（整合）する状態で確認モードに移行制御する場合の挙動例である。
【図３４３】分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態で確認モードに移行制御する場合の挙動例である。
【図３４４】右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態で確認モードに移行制御する場合の挙動例である。
【図３４５】特定演出の開始タイミングを示すタイムチャートである。
【図３４６】特定演出を終了させる場合のタイムチャートである。
【図３４７】異常状態において特定演出の開始タイミングを示すタイムチャートである。

【図３４８】異常状態において特定演出を終了させる場合のタイムチャートである。
【図３４９】演出表示装置の表示態様の一例を示すタイミングチャートである。
【図３５０】演出表示装置の表示態様の一例を示す説明図である。
【図３５１】（Ａ）は第２特定演出中の演出態様の一例を示すタイミングチャートであり、（Ｂ）は第１特定演出中の演出態様の一例を示すタイミングチャートである。
【図３５２】（Ｃ）は第２特定演出中の演出態様の一例を示すタイミングチャートである。
【図３５３】（Ａ）は第２特定演出中の演出態様の一例を示すタイミングチャートであり、（Ｂ）は第１特定演出中の演出態様の一例を示すタイミングチャートである。
【図３５４】演出表示装置の表示態様の一例を示す説明図である。
【図３５５】裏後左可動装飾体に設けられる裏後左可動装飾基板の表実装面の一例を示す説明図である。
【図３５６】裏後左可動装飾体に設けられる裏後左可動装飾基板の変形例を示す説明図である。
【図３５７】裏後左可動装飾体に設けられる裏後左可動装飾基板の裏実装面の一例を示す説明図である。
【図３５８】別例における主制御基板の一部を示す概略図であり、（Ａ）主制御基板の実装面（表面）における電子部品の実装状態を示す概略図、（Ｂ）主制御基板の実装面（表面）におけるスルーホール及びパッドを示す概略図である。
【図３５９】別例における主制御基板の一部を示す概略図であり、（Ａ）主制御基板の実装面（表面）の配線パターンを示す概略図、図３５９（Ｂ）主制御基板のハンダ面（裏面）ｙの配線パターンを示す概略図である。
【図３６０】別例における主制御基板の実装面（表面）の一部を示す概略図である。
【図３６１】別例における機能表示ユニットを示す概略図である。
【図３６２】（ａ）は、磁気センサ基板の前面（表面）を示す斜視図であり、（ｂ）は、磁気センサ基板の後面（裏面）を示す斜視図である。
【図３６３】別例における主制御基板の実装面を示す概略図である。
【図３６４】別例における主制御基板の実装面（表面）の一部を示す概略図である。
【図３６５】別例における主制御基板のスルーホールを示す概略図である。
【図３６６】別例における機能表示基板を示す説明図であり、（Ａ）表実装面、（Ｂ）裏実装面、（Ｃ）裏実装面の一部を拡大した拡大図、（Ｄ）裏実装面の一部を拡大した拡大図、である。
【図３６７】別例における主制御基板の実装状態を示す概略図である。
【図３６８】別例における主制御基板の実装状態を示す概略図である。
【図３６９】別例における主制御基板の実装状態を示す概略図である。
【図３７０】別例における主制御基板の実装状態を示す概略図である。
【図３７１】別例における主制御基板の実装状態を示す概略図である。
【図３７２】変形例におけるセンサ基板の実装状態の一例を示す説明図である。
【図３７３】変形例における裏後左可動装飾基板の実装状態の一例を示す説明図である。
【図３７４】（Ａ）変形例における主制御基板の実装状態の一例を示す説明図であり、（Ｂ）変形例における周辺制御基板の実装状態の一例を示す説明図である。
【図３７５】パターンおよびランドの一例を示す説明図である。
【図３７６】遊技盤に取り付けられた異なる形態の第一アタッカユニットや第二アタッカユニットを示す斜視図である。
【図３７７】遊技盤から取り外された第一アタッカユニットや第二アタッカユニットを示す斜視図である。
【図３７８】第一アタッカユニットを示す分解斜視図である。
【図３７９】（ａ）は、大入賞口扉及び第二始動口扉が閉状態に遷移された第一進退動装置を示す斜視図であり、（ｂ）は、大入賞口扉及び第二始動口扉が開状態に遷移された第一進退動装置を示す斜視図である。

【図３８０】第二アタッカユニットを示す分解斜視図である。
【図３８１】（ａ）は、役物入賞口扉が退避状態に遷移された第二進退動装置を示す正面図であり、（ｂ）は、役物入賞口扉が進出状態に遷移された第二進退動装置を示す正面図である。
【図３８２】（ａ）は、第二始動口扉及び大入賞口扉が進出状態に遷移された第一進退動装置を下面側から視た下面図であり、（ｂ）は、第二始動口扉及び大入賞口扉が退避状態に遷移された第一進退動装置を下面側から視た下面図である。
【図３８３】（ａ）は、進出状態の第二始動口扉及び大入賞口扉を示す第一進退動装置を下面視した概略図であり、（ｂ）は、退避状態の第二始動口扉及び大入賞口扉を示す第一進退動装置を下面視した概略図であり、（ｃ）及び（ｄ）は、動作不良状態の第二始動口扉及び大入賞口扉を示す第一進退動装置を下面視した概略図である。
【図３８４】（ａ）は、進出状態の第二始動口扉及び大入賞口扉を示す第一進退動装置を下面視した概略図であり、（ｂ）は、退避状態の第二始動口扉及び大入賞口扉を示す第一進退動装置を下面視した概略図であり、（ｃ）及び（ｄ）は、動作不良状態の第二始動口扉及び大入賞口扉を示す第一進退動装置を下面視した概略図である。
【図３８５】（ａ）乃至（ｄ）は、他の態様の視認部が設けられた大入賞口扉の下面を示す第一進退動装置を下面視した概略図である。
【図３８６】（ａ）は、役物入賞口扉が退避状態に遷移された第二進退動装置の一部を背面側から視た部分背面図であり、（ｂ）は、役物入賞口扉が進出状態に遷移された第二進退動装置の一部を背面側から視た部分背面図である。
【図３８７】（ａ）は、退避状態の役物入賞口扉を示す第二進退動装置を背面視した概略図であり、（ｂ）は、進出状態の役物入賞口扉を示す第二進退動装置を背面視した概略図である。
【図３８８】（ａ）は、第二始動口扉及び大入賞口扉が進出状態に遷移された第一進退動装置を上面側から視た上面図であり、（ｂ）は、第二始動口扉及び大入賞口扉が退避状態に遷移された第一進退動装置を上面側から視た上面図である。
【図３８９】（ａ）は、進出状態の第二始動口扉及び大入賞口扉を示す第一進退動装置を上面視した概略図であり、（ｂ）は、退避状態の第二始動口扉及び大入賞口扉を示す第一進退動装置を上面視した概略図であり、（ｃ）及び（ｄ）は、動作不良状態の第二始動口扉及び大入賞口扉を示す第一進退動装置を上面視した概略図である。
【図３９０】（ａ）は、進出状態の第二始動口扉及び大入賞口扉を示す第一進退動装置を上面視した概略図であり、（ｂ）は、退避状態の第二始動口扉及び大入賞口扉を示す第一進退動装置を上面視した概略図であり、（ｃ）及び（ｄ）は、動作不良状態の第二始動口扉及び大入賞口扉を示す第一進退動装置を上面視した概略図である。
【図３９１】（ａ）は、役物入賞口扉が退避状態に遷移された第二進退動装置の一部を背面側から視た部分背面図であり、（ｂ）は、役物入賞口扉が退避異常状態に遷移された第二進退動装置の一部を背面側から視た部分背面図である。
【図３９２】（ａ）は、退避状態の役物入賞口扉を示す第二進退動装置を背面視した概略図であり、（ｂ）は、進出状態の役物入賞口扉を示す第二進退動装置を背面視した概略図である。
【図３９３】（ａ）は、第二始動口扉及び大入賞口扉が進出状態に遷移された第一進退動装置を下面側から視た下面図であり、（ｂ）は、第二始動口扉及び大入賞口扉が退避状態に遷移された第一進退動装置を下面側から視た下面図である。
【図３９４】（ａ）は、進出状態の第二始動口扉及び大入賞口扉を示す第一進退動装置を下面視した概略図であり、（ｂ）は、退避状態の第二始動口扉及び大入賞口扉を示す第一進退動装置を下面視した概略図であり、（ｃ）は、動作不良状態の第二始動口扉及び大入賞口扉を示す第一進退動装置を下面視した概略図である。
【図３９５】（ａ）乃至（ｃ）は、動作不良状態の第二始動口扉及び大入賞口扉を示す第一進退動装置を下面視した概略図である。
【図３９６】（ａ）乃至（ｄ）は、進出状態の大入賞口扉を示す第一進退動装置を下面視

した概略図である。
【図３９７】（ａ）は、役物入賞口扉が退避状態に遷移された第二進退動装置の一部を背面側から視た部分背面図であり、（ｂ）は、役物入賞口扉が退避異常状態に遷移された第二進退動装置の一部を背面側から視た部分背面図である。
【図３９８】（ａ）は、役物入賞口扉が進出状態に遷移された第二進退動装置の一部を背面側から視た部分背面図であり、（ｂ）は、役物入賞口扉が進出異常状態に遷移された第二進退動装置の一部を背面側から視た部分背面図である。
【図３９９】（Ａ）主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに形成されるテストポイントＴＰの近傍領域を示す拡大図であり、（Ｂ）グランドラインに形成されるテストポイントの変形例を示す拡大図であり、（Ｃ）グランドラインに形成される通常のランドの一例を示す拡大図であり、（Ｄ）グランドラインに形成されるテストポイントのハンダが溶着された態様を示す拡大図である。
【図４００】変形例における主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘの一部領域を示す拡大図である。
【図４０１】変形例における周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘの一部領域を示す拡大図である。
【図４０２】変形例における主制御基板１３１０の信号ラインに形成されるテストポイントＴＰの一例を示す拡大図であり、図４０２（Ａ）は主制御基板１３１０の信号ラインに形成されて電子部品の実装に用いられていない通常のランド１３１０ｓを備えるテストポイントＴＰの一例を示す拡大図であり、図４０２（Ｂ）は信号ラインに形成されて電子部品の実装に用いられていない通常のパッド１３１０ｋを備えるテストポイントＴＰの一例を示す拡大図である。
【図４０３】主制御側タイマ割り込み処理の変形例を示すフローチャートである。
【図４０４】裏前左装飾ユニットや裏後下演出ユニットが取り付けられた遊技盤を示す正面図である。
【図４０５】裏後下演出ユニットの裏後左可動装飾体を示す分解斜視図である。
【図４０６】（ａ）は、裏後下演出ユニットの裏後左可動装飾体の背面を示す背面図であり、（ｂ）は、図３５１（ａ）のＡ－Ａ断面図である。
【図４０７】裏後下演出ユニットの裏後左可動装飾体の背面の一部を示す斜視図である。
【図４０８】図３５１（ａ）のＢ－Ｂ断面図である。
【図４０９】他の態様の裏後左可動装飾体の断面図である。
【図４１０】（Ａ）～（Ｃ）は、遊技に関する情報が表示されたインフォメーション表示器を示す正面図である。
【図４１１】（ａ）は、インフォメーション表示器の正面側を示す斜視図であり、（ｂ）は、インフォメーション表示器の背面側を示す斜視図である。
【図４１２】図３５６（ａ）のＡ－Ａ断面を示す断面図である。
【図４１３】表側裏後上可動装飾体及び表側裏後上可動装飾体から取り外された裏後上第一装飾基板の一部を示す斜視図である。
【図４１４】表側裏後上可動装飾体及び表側裏後上可動装飾体に取り付けられた裏後上第一装飾基板の一部を示す斜視図である。
【図４１５】（ａ）乃至（ｄ）は、表側裏後上可動装飾体の一部を示す背面図である。
【図４１６】表側裏後上可動装飾体及び表側裏後上可動装飾体から取り外された裏後上第一装飾基板の一部を示す斜視図である。
【図４１７】表側裏後上可動装飾体及び表側裏後上可動装飾体に取り付けられた裏後上第一装飾基板の一部を示す斜視図である。
【図４１８】裏後上可動装飾体及び裏後上可動装飾体から取り外された裏後上第一装飾基板を示す分解斜視図である。
【図４１９】裏後上第一装飾基板収納部が収納された裏後上可動装飾体を示す分解斜視図である。
【図４２０】裏後上可動装飾体の表側裏後上可動装飾体を示す背面図である。

【図４２１】（ａ）乃至（ｆ）は、表側裏後上可動装飾体の一部を示す背面図である。
【図４２２】主制御ユニットを示す背面斜視図である。
【図４２３】主制御ユニットを示す分解斜視図である。
【図４２４】従来のカバー体とカバー体を介して視認される主制御基板との一部を示す部分拡大図である。
【図４２５】カバー体とカバー体を介して視認される主制御基板との一部を示す背面図である。
【図４２６】カバー体とカバー体を介して視認される主制御基板との一部を示す背面図である。
【図４２７】カバー体とカバー体を介して視認される主制御基板とを示す背面図である。
【図４２８】（ａ）乃至（ｇ）は、成型痕が形成されたカバー体の一部を示す部分拡大図である。
【図４２９】カバー体とカバー体を介して視認される主制御基板の一部を示す背面図である。
【図４３０】（ａ）及び（ｂ）は、カバー体とカバー体を介して視認される主制御基板との一部を示す部分拡大図である。
【図４３１】（Ａ）～（Ｆ）は、電子部品の不正な改変を抑制する構成の変形例を示す説明図である。
【図４３２】（Ｇ）は、電子部品の不正な改変を抑制する構成の変形例を示す説明図である。

【発明を実施するための形態】
【００１１】
［１．パチンコ機の全体構造］
本発明の一実施形態であるパチンコ機１について、図面を参照して詳細に説明する。まず、図１乃至図１２を参照して本実施形態のパチンコ機１の全体構成について説明する。図１は本発明の一実施形態であるパチンコ機の正面図である。図２はパチンコ機の右側面図であり、図３はパチンコ機の左側面図であり、図４はパチンコ機の背面図である。図５はパチンコ機を右前から見た斜視図であり、図６はパチンコ機を左前から見た斜視図であり、図７はパチンコ機を後ろから見た斜視図である。図８は演出操作ユニットの押圧操作部が上昇位置の時のパチンコ機の正面図であり、図９は演出操作ユニットの押圧操作部が上昇位置の時のパチンコ機を右前から見た斜視図である。また、図１０は、本体枠から扉枠を開放させると共に、外枠から本体枠を開放させた状態で前から見たパチンコ機の斜視図である。図１１はパチンコ機を扉枠、遊技盤、本体枠、及び外枠に分解して前から見た分解斜視図であり、図１２はパチンコ機を扉枠、遊技盤、本体枠、及び外枠に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【００１２】
本実施形態のパチンコ機１は、遊技ホールの島設備（図示しない）に設置される枠状の外枠２と、外枠２の前面を開閉可能に閉鎖する扉枠３と、扉枠３を開閉可能に支持していると共に外枠２に開閉可能に取付けられている本体枠４と、本体枠４に前側から着脱可能に取付けられると共に扉枠３を通して遊技者側から視認可能とされ遊技者によって遊技球Ｂ（図８９を参照）が打込まれる遊技領域５ａを有した遊技盤５と、を備えている。
【００１３】
外枠２は、正面視の形状が上下に延びた四角形の枠に形成されている。外枠２は、左右に離間しており上下に延びている外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０と、外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０の上端同士を連結している外枠上部材３０と、外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０の下端同士を連結している外枠下組立体４０と、外枠上部材３０の上面左端に取付けられている外枠上ヒンジ組立体５０と、外枠左組立体１０の右側面下部と外枠下組立体４０の上面左端に取付けられている外枠下ヒンジ部材６０と、を備えている。
【００１４】

外枠２は、パチンコ機１が設置される遊技ホールの島設備に取付けられ、外枠上ヒンジ組立体５０と外枠下ヒンジ部材６０とによって、本体枠４の本体枠上ヒンジ部材５１０と本体枠下ヒンジ組立体５２０とを同軸上で回転可能に支持して、本体枠４を正面視左側を中心にして前方へ開閉可能に取付けるためのものである。

【００１５】

また、扉枠３は、本体枠４を閉じた時に、外枠下組立体４０が、本体枠４における基板ユニット６２０のスピーカユニット６２０ａと協働して、本体枠スピーカ６２２のエンクロージャ６２４の一部を形成し、本体枠スピーカ６２２の後方へ出力されたサウンドを、位相反転させて前方へ放射することで、より重低音のサウンドを遊技者に聴かせることができるものである。

【００１６】

扉枠３は、遊技球Ｂが打込まれる遊技盤５の遊技領域５ａを前側から視認可能に閉鎖し、遊技領域５ａ内に打込むための遊技球Ｂを貯留すると共に、貯留している遊技球Ｂを遊技領域５ａ内へ打込むために遊技者が操作するハンドル１９５を備えているものである。また、扉枠３は、パチンコ機１の前面全体を装飾するものである。

【００１７】

また、扉枠３は、ハンドル１９５とは別に遊技者が操作可能な演出操作部３０１を備えており、遊技者参加型演出が実行された際に、遊技者が演出操作部３０１を操作することで遊技者が演出に参加できるようになり、遊技球Ｂによる遊技に加えて、演出操作部３０１の操作によっても遊技者を楽しませることができるようにしている。

【００１８】

本体枠４は、後部が外枠２の枠内に挿入可能とされると共に遊技盤５の外周を支持可能とされた枠状の本体枠ベースユニット５００と、本体枠４を外枠２に対して開閉可能に取付けると共に扉枠３を開閉可能に取付けるための本体枠上ヒンジ部材５１０及び本体枠下ヒンジ組立体５２０と、本体枠ベースユニット５００を補強している本体枠補強フレーム５３０と、遊技盤５の遊技領域５ａ内に遊技球Ｂを打込むための球発射装置５４０と、遊技ホールの島設備から供給される遊技球Ｂを受取る払出ベースユニット５５０と、払出ベースユニット５５０で受取った遊技球Ｂを遊技者側へ払出すための払出ユニット５６０と、パチンコ機１の電源投入を行うことができる電源スイッチ６３０ａを備える電源基板６３０のほかに払出制御基板６３３を有している基板ユニット６２０と、本体枠ベース５０１に取付けられた遊技盤５の後側を覆う裏カバー６４０と、外枠２と本体枠４、及び扉枠３と本体枠４の間を施錠する施錠ユニット６５０と、を備えている。

【００１９】

本体枠４は、遊技球Ｂを打込むことで遊技が行われる遊技領域５ａを有した遊技盤５を保持すると共に、遊技球Ｂを遊技者側へ払出したり、遊技に使用された遊技球Ｂをパチンコ機１の後方（遊技ホールの島設備側）へ排出したり、するためのものである。本体枠４は、前方が開放された箱状に形成されており、内部に前方から遊技盤５が着脱可能に収容される。また、本体枠４は、正面左辺側前端の上下において、遊技ホールの島設備に取付けられる枠状の外枠２に開閉可能に取付けられると共に、開放された前面側が閉鎖されるように扉枠３が開閉可能に取付けられる。

【００２０】

遊技盤５は、遊技者の操作によって遊技球Ｂが行われる遊技領域５ａと、遊技領域５ａの外周を区画し外形が正面視略四角形状とされた前構成部材１０００と、前構成部材１０００の後側に取付けられており遊技領域５ａの後端を区画する板状の遊技パネル１１００と、遊技パネル１１００の後側下部に取付けられている基板ホルダ１２００と、基板ホルダ１２００の後面に取付けられており主制御基板１３１０及び設定変更基板１３１１を有している主制御ユニット１３００と、主制御基板１３１０からの制御信号に基づいて遊技状況を表示する機能表示ユニット１４００と、遊技パネル１１００の後側に配置されている周辺制御ユニット１５００（図１２を参照）と、正面視において遊技領域５ａの中央に配置されており所定の演出画像を表示可能な演出表示装置１６００と、遊技パネル１１０

０の前面に取付けられる表ユニット２０００と、遊技パネル１１００の後面に取付けられる裏ユニット３０００と、を備えている。裏ユニット３０００には、遊技状態に応じて可動演出や発光演出を行うことが可能な各種の演出ユニットを備えている。

【００２１】

遊技盤５の遊技領域５ａ内には、遊技球Ｂと当接し所定のゲージ配列で植設されている複数の障害釘Ｎと、遊技球Ｂの受入れ又は通過により遊技者に対して所定の特典（例えば、所定数の遊技球Ｂの払出し）を付与する一般入賞口２００１、第一始動口２００２、ゲート２００３、第二始動口２００４、及び大入賞口２００５と、を備えている。障害釘Ｎは、遊技パネル１１００の前面に植設されている。一般入賞口２００１、第一始動口２００２、ゲート２００３、第二始動口２００４、及び大入賞口２００５は、表ユニット２０００に備えられている。

【００２２】

遊技盤５の遊技領域５ａ内には、遊技者がハンドルユニット１８０のハンドル１９５を操作することで、遊技球Ｂを打込むことができる。これにより、遊技球Ｂが、遊技領域５ａ内の一般入賞口２００１、第一始動口２００２、ゲート２００３、第二始動口２００４、及び大入賞口２００５等に、受入れられたり通過したりするように、遊技者に対してハンドル１９５の打込操作を楽しませることができる。

【００２３】

また、遊技盤５は、遊技領域５ａ内に遊技球Ｂを打込むことで変化する遊技状態に応じて、演出表示装置１６００に所定の演出画像を表示させたり、裏前演出ユニット３１００、裏後上演出ユニット３２００、裏後下演出ユニット３３００、等により発光演出や可動演出を行わせたりして、遊技者を楽しませることができる。

【００２４】

［２．外枠の全体構成］

パチンコ機１の外枠２について、図１３乃至図１８を参照して説明する。図１３はパチンコ機における外枠の正面図であり、図１４は外枠の背面図であり、図１５は外枠の右側面図である。また、図１６は外枠を前から見た斜視図であり、図１７は外枠を後ろから見た斜視図である。図１８は、外枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。外枠２は、遊技ホール等のパチンコ機１が設置される島設備（図示は省略）に取付けられるものである。外枠２は、正面視の形状が上下に延びた四角形の枠に形成されている。

【００２５】

外枠２は、図示するように、左右に離間しており上下に延びている外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０と、外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０の上端同士を連結している外枠上部材３０と、外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０の下端同士を連結している外枠下組立体４０と、外枠上部材３０の上面左端に取付けられている外枠上ヒンジ組立体５０と、外枠左組立体１０の右側面下部と外枠下組立体４０の上面左端に取付けられている外枠下ヒンジ部材６０と、を備えている。

【００２６】

外枠２は、本体枠４を閉じた時に、外枠下組立体４０が、本体枠４における基板ユニット６２０のスピーカユニット６２０ａと協働して、本体枠スピーカ６２２のエンクロージャ６２４の一部を形成していると共に、本体枠スピーカ６２２の後方へ出力されたサウンドを、位相反転させて前方へ放射することができるものである。

【００２７】

外枠２は、外枠上ヒンジ組立体５０が、本体枠４の本体枠上ヒンジ部材５１０を着脱可能に支持することができる。外枠２は、外枠上ヒンジ組立体５０と外枠下ヒンジ部材６０とによって、本体枠４の本体枠上ヒンジ部材５１０と本体枠下ヒンジ組立体５２０とを同軸上で回転可能に支持することができ、本体枠４を正面視左側を中心にして前方へ開閉可能に取付けることができる。

【００２８】

［２－１．外枠左組立体及び外枠右組立体］

外枠２の外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０について、主に図１９を参照して詳細に説明する。図１９は、外枠の外枠左組立体及び外枠右組立体を夫々分解して前から見た分解斜視図である。外枠２の外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０は、夫々が上下に延びており、互いに左右に離間して配置されている。外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０は、本体枠４の本体枠上ヒンジ部材５１０及び本体枠下ヒンジ組立体５２０を同軸上で回転可能に支持して、外枠２に対して本体枠４を開閉可能に取付けるためのものである。

【００２９】

まず、外枠左組立体１０は、前後方向が一定の幅（奥行）で上下に延びている外枠左部材１１と、外枠左部材１１の右側面上端に取付けられている左上連結部材１２と、外枠左部材１１の右側面下端に取付けられている左下連結部材１３と、を備えている。

【００３０】

外枠左部材１１は、一定の断面形状で上下に延びており、アルミ合金の押出型材によって形成されている。外枠左部材１１は、左側面における前後方向を三等分したうちの後側の部位において平坦状に右方へ窪んでいる凹部１１ａと、右側面における凹部１１ａとは反対側の部位から右方へ膨出している膨出部１１ｂと、膨出部１１ｂを上下に貫通している空洞部１１ｃと、を備えている。外枠左部材１１は、凹部１１ａや膨出部１１ｂによって、強度・剛性が高められていると共に、空洞部１１ｃによって、重量が軽減されている。

【００３１】

また、外枠左部材１１は、左右両側面において、上下に延びた複数の溝が形成されている。左側面の複数の溝は、Ｖ字状に形成されており、右側面の複数の溝は、半円形状に形成されている。外枠左部材１１は、後述する外枠右組立体２０の外枠右部材２１と左右対称形状に形成されている。

【００３２】

左上連結部材１２は、外枠左部材１１の上端と外枠上部材３０の左端とを連結するためのものである。左上連結部材１２は、水平に延びた平板状の水平固定部１２ａと、水平固定部１２ａの左辺における前後方向の中間から上方へ延出している平板状の上横固定部１２ｂと、水平固定部１２ａの左辺における上横固定部１２ｂの前後両側から下方へ延出している平板状の一対の下横固定部１２ｃと、を備えている。左上連結部材１２は、平板状の金属板を屈曲させて形成されている。

【００３３】

左上連結部材１２は、後側の下横固定部１２ｃを外枠左部材１１の空洞部１１ｃ内に挿入させると共に、水平固定部１２ａを外枠左部材１１の上端に当接させ、更に、前側及び後側の下横固定部１２ｃを外枠左部材１１の右側面に当接させた状態で、外枠左部材１１の左側面の外側から下横固定部１２ｃにビスを捩じ込むことで、外枠左部材１１に取付けられる。また、左上連結部材１２は、水平固定部１２ａを外枠上部材３０の左端側の下面に当接させると共に、上横固定部１２ｂを外枠上部材３０の左側面の切欠部３０ａ内に挿入させた状態で、水平固定部１２ａ及び上横固定部１２ｂを通して外枠上部材３０にビスを捩じ込むことで、外枠上部材３０に取付けられる。

【００３４】

左下連結部材１３は、外枠左部材１１の下端と外枠下組立体４０（外枠下部材４１）の左端とを連結するためのものである。左下連結部材１３は、水平に延びた平板状の水平固定部１３ａと、水平固定部１３ａの左辺から上方へ延出していると共に水平固定部１３ａよりも後方へ延出している平板状の上横固定部１３ｂと、上横固定部１３ｂの下辺における水平固定部１３ａよりも後側の部位から下方へ延出している平板状の下横固定部１３ｃと、上横固定部１３ｂの後辺から右方へ短く延出している平板状の当接部１３ｄと、を備えている。左下連結部材１３は、平板状の金属板を屈曲させて形成されている。

【００３５】

左下連結部材１３は、当接部１３ｄの後面を外枠左部材１１の膨出部１１ｂの前面に当接させると共に、上横固定部１３ｂの左側面を外枠左部材１１の右側面に当接させ、水平

固定部１３ａの下面を外枠左部材１１の下端と一致させた状態で、外枠左部材１１の左側面の外側から上横固定部１３ｂにビスを捩じ込むことで、外枠左部材１１に取付けられる。また、左下連結部材１３は、水平固定部１３ａを外枠下部材４１の左端側の上面に当接させると共に、下横固定部１３ｃを外枠下部材４１の左側面の切欠部４１ａに挿入させた状態で、水平固定部１３ａ及び下横固定部１３ｃを通して外枠下部材４１にビスを捩じ込むことで、外枠下部材４１に取付けられる。

【００３６】

次に、外枠右組立体２０は、前後方向が一定の幅（奥行）で上下に延びている外枠右部材２１と、外枠右部材２１の左側面上端に取付けられている右上連結部材２２と、外枠右部材２１の左側面下端に取付けられている右下連結部材２３と、外枠右部材２１の左側面上部に取付けられている上鉤掛部材２４と、外枠右部材２１の左側面下部に取付けられている下鉤掛部材２５と、を備えている。

【００３７】

外枠右部材２１は、一定の断面形状で上下に延びており、アルミ合金の押出型材によって形成されている。外枠右部材２１は、右側面における前後方向を三等分したうちの後側の部位において平坦状に左方へ窪んでいる凹部２１ａと、左側面における凹部２１ａとは反対側の部位から左方へ膨出している膨出部２１ｂと、膨出部２１ｂを上下に貫通している空洞部２１ｃと、を備えている。外枠右部材２１は、凹部２１ａや膨出部２１ｂによって、強度・剛性が高められていると共に、空洞部２１ｃによって、重量が軽減されている。

【００３８】

また、外枠右部材２１は、左右両側面において、上下に延びた複数の溝が形成されている。右側面の複数の溝は、Ｖ字状に形成されており、左側面の複数の溝は、半円形状に形成されている。外枠右部材２１は、外枠左組立体１０の外枠左部材１１と左右対称形状に形成されている。

【００３９】

右上連結部材２２は、外枠右部材２１の上端と外枠上部材３０の右端とを連結するためのものである。右上連結部材２２は、水平に延びた平板状の水平固定部２２ａと、水平固定部２２ａの右辺における前後方向の中間から上方へ延出している平板状の上横固定部２２ｂと、水平固定部２２ａの右辺における上横固定部２２ｂの前後両側から下方へ延出している平板状の一対の下横固定部２２ｃと、を備えている。右上連結部材２２は、平板状の金属板を屈曲させて形成されている。

【００４０】

右上連結部材２２は、後側の下横固定部２２ｃを外枠右部材２１の空洞部２１ｃ内に挿入させると共に、水平固定部２２ａを外枠右部材２１の上端に当接させ、更に、前側及び後側の下横固定部２２ｃを外枠右部材２１の左側面に当接させた状態で、外枠右部材２１の右側面の外側から下横固定部２２ｃにビスを捩じ込むことで、外枠右部材２１に取付けられる。また、右上連結部材２２は、水平固定部２２ａを外枠上部材３０の右端側の下面に当接させると共に、上横固定部２２ｂを外枠上部材３０の右側面の切欠部３０ａ内に挿入させた状態で、水平固定部２２ａ及び上横固定部２２ｂを通して外枠上部材３０にビスを捩じ込むことで、外枠上部材３０に取付けられる。

【００４１】

右下連結部材２３は、外枠右部材２１の下端と外枠下組立体４０（外枠下部材４１）の右端とを連結するためのものである。右下連結部材２３は、水平に延びた平板状の水平固定部２３ａと、水平固定部２３ａの右辺から上方へ延出していると共に水平固定部２３ａよりも後方へ延出している平板状の上横固定部２３ｂと、上横固定部２３ｂの下辺における水平固定部２３ａよりも後側の部位から下方へ延出している平板状の下横固定部２３ｃと、上横固定部２３ｂの後辺から左方へ短く延出している平板状の当接部２３ｄと、を備えている。右下連結部材２３は、平板状の金属板を屈曲させて形成されている。

【００４２】

右下連結部材２３は、当接部２３ｄの後面を外枠右部材２１の膨出部２１ｂの前面に当接させると共に、上横固定部２３ｂの右側面を外枠右部材２１の左側面に当接させ、水平固定部２３ａの下面を外枠右部材２１の下端と一致させた状態で、外枠右部材２１の右側面の外側から上横固定部２３ｂにビスを捩じ込むことで、外枠右部材２１に取付けられる。また、右下連結部材２３は、水平固定部２３ａを外枠下部材４１の右端側の上面に当接させると共に、下横固定部２３ｃを外枠下部材４１の右側面の切欠部４１ａに挿入させた状態で、水平固定部２３ａ及び下横固定部２３ｃを通して外枠下部材４１にビスを捩じ込むことで、外枠下部材４１に取付けられる。

【００４３】

上鉤掛部材２４及び下鉤掛部材２５は、後述する本体枠４における施錠ユニット６５０の外枠用鉤６５３が掛止されるものである。上鉤掛部材２４は、前後方向に一定の幅で上下に延びており外枠右部材２１の左側面に取付けられる平板状の取付部２４ａと、取付部２４ａの前辺から左方へ延出しており上側の外枠用鉤６５３が掛止される平板状の掛止片部２４ｂと、を備えている。

【００４４】

下鉤掛部材２５は、前後方向に一定の幅で上下に延びており外枠右部材２１の左側面に取付けられる平板状の取付部２５ａと、取付部２５ａの前辺から左方へ延出しており下側の外枠用鉤６５３が掛止される平板状の掛止片部２５ｂと、掛止片部２５ｂを前後に貫通しており下側の外枠用鉤６５３が挿通可能な挿通口２５ｃと、を備えている。

【００４５】

［２－２．外枠上部材］

外枠２の外枠上部材３０について、主に図１８を参照して詳細に説明する。外枠上部材３０は、左右に離間している外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０の上端同士を連結するためのものである。外枠上部材３０は、前後方向の幅が、外枠左部材１１及び外枠右部材２１の前後方向と略同じ幅で、上下方向の厚さが一定で、左右方向に延びており、木材によって形成されている。外枠上部材３０は、左右方向の長さが、後述する外枠下組立体４０の外枠下部材４１の左右方向の長さと同じに形成されている。

【００４６】

外枠上部材３０は、左右両側面における前後方向の中央において、上下に貫通した状態で左右方向中央側へ夫々窪んでいる切欠部３０ａを備えている。これら左右両端の切欠部３０ａには、左上連結部材１２の上横固定部１２ｂ及び右上連結部材２２の上横固定部２２ｂが夫々挿入された状態で取付けられる。

【００４７】

また、外枠上部材３０は、左側端部において、上面と前面が一般面よりも窪んだ取付段部３０ｂを備えている。この取付段部３０ｂには、後述する外枠上ヒンジ組立体５０が取付けられる。

【００４８】

［２－３．外枠下組立体］

外枠２の外枠下組立体４０について、主に図２０を参照して詳細に説明する。図２０は、外枠の外枠下組立体を分解して前から見た分解斜視図である。外枠下組立体４０は、左右に離間している外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０の下端同士を連結すると共に、パチンコ機１において扉枠３よりも下側を閉鎖して装飾するためのものである。

【００４９】

外枠下組立体４０は、左右に離間している外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０の下端同士を連結しており左右に延びている外枠下部材４１と、外枠下部材４１の前方に配置されており外枠下部材４１に沿って左右に延びていると共に後方が開放されている箱状の幕板前部材４２と、幕板前部材４２の後側に取付けられていると共に外枠下部材４１の上面に取付けられており前方が開放されている左右に延びた箱状の幕板後部材４３と、幕板後部材４３の上面における左端に形成されている球噛防止機構４４と、を備えている。

【００５０】

外枠下部材４１は、前後方向の幅が、外枠左部材１１及び外枠右部材２１の前後方向と略同じ幅で、上下方向の厚さが一定で、左右方向に延びており、木材によって形成されている。外枠下部材４１は、左右方向の長さが、外枠上部材３０の左右方向の長さと同じに形成されている。

【００５１】

外枠下部材４１は、左右両側面における前後方向の中央において、上下に貫通した状態で左右方向中央側へ夫々窪んでいる切欠部４１ａを備えている。これら左右両端の切欠部４１ａには、左下連結部材１３の下横固定部１３ｃ及び右下連結部材２３の下横固定部２３ｃが夫々挿入された状態で取付けられる。これにより、外枠左部材１１及び外枠右部材２１の下端同士を連結することができる。

【００５２】

また、外枠下部材４１は、上面から凹んでおり、幕板後部材４３の下部が挿入される凹部４１ｂを備えている。凹部４１ｂは、左右に延びていると共に、前後方向中央の後ろ寄りの位置から前端側へ抜けている。この凹部４１ｂにより、幕板前部材４２及び幕板後部材４３により形成される幕板内部空間４０ａの容積を可及的に広くしている。

【００５３】

幕板前部材４２は、左右方向の長さが外枠下部材４１と同じ長さに延びており、高さに対して前後方向の奥行が短い横長の直方体状の箱状に形成されており、後側の全面が開放されている。幕板前部材４２は、開放されている後側を、幕板後部材４３によって閉鎖することで、幕板後部材４３と協働して本体枠スピーカ６２２のエンクロージャ６２４の一部となる幕板内部空間４０ａを形成する。幕板前部材４２は、右端付近の前面において、前後に貫通していると共に左右に延びている長孔状の開口部４２ａを備えている。

【００５４】

幕板後部材４３は、左右方向の長さが外枠下部材４１よりも若干短く延びており、前方が開放された箱状に形成されている。幕板後部材４３は、前面に幕板前部材４２を取付けることで、幕板前部材４２と協働して本体枠スピーカ６２２のエンクロージャ６２４の一部となる幕板内部空間４０ａを形成する。幕板後部材４３は、上面における左右方向中央部において、左右に延びていると共に上方へ突出しており幕板内部空間４０ａと連通している筒状の接続筒部４３ａを有している。接続筒部４３ａは、上端が、幕板後部材４３の一般的な上面と一致している前端側から後方へ向かうほど上方へ位置するように傾斜している。本実施形態では、接続筒部４３ａの上端は、４５度の角度で傾斜している。

【００５５】

この接続筒部４３ａは、左右方向の長さが、幕板後部材４３全体の約１／３の長さに形成されていると共に、前後方向の奥行が、幕板後部材４３全体の奥行よりも若干短く形成されている。接続筒部４３ａ内には、前端側と後端側とを結ぶ複数のリブ４３ｂが備えられている。この接続筒部４３ａの上端には、外枠２に対して本体枠４を閉じた時に、本体枠４における基板ユニット６２０のスピーカユニット６２０ａにおけるスピーカカバー６２１の接続部６２１ｃが接続されて、スピーカユニット６２０ａの内部空間と連通した状態となり、エンクロージャ６２４を形成する。

【００５６】

球噛防止機構４４は、幕板後部材４３の上面における左端において、外枠下ヒンジ部材６０の部位に遊技球Ｂが滞留することで、外枠２と本体枠４との間に遊技球Ｂが挟まれるのを防止するためのものである。

【００５７】

球噛防止機構４４は、幕板後部材４３の上面における左端に形成されており、後述する外枠下ヒンジ部材６０が際されるように平坦に形成された載置部４４ａと、載置部４４ａの左端において上方へ向かって開口している第一排出口４４ｂと、載置部４４ａにおける第一排出口４４ｂよりも右方で上方へ向かって開口している第二排出口４４ｃと、載置部４４ａの後辺及び右辺から上方へ延出している立壁部４４ｄと、立壁部４４ｄの上端から前方へ突出していると共に上面が後方へ向かうに従って上方に位置するように傾斜してい

る上端突出部４４ｅと、を備えている。
【００５８】
第一排出口４４ｂは、後述する外枠下ヒンジ部材６０の排出孔６０ｄと一致する位置に形成されている。第一排出口４４ｂ及び第二排出口４４ｃは、遊技球Ｂが通過可能な大きさに形成されている。第一排出口４４ｂ及び第二排出口４４ｃは、幕板内部空間４０ａとは連通しておらず、幕板後部材４３の後面に開口している。従って、第一排出口４４ｂ及び第二排出口４４ｃに進入した遊技球Ｂを、幕板後部材４３の後方へ排出することができる。
【００５９】
この球噛防止機構４４は、球噛防止機構４４は、外枠下ヒンジ部材６０と後述する本体枠下ヒンジ組立体５２０との間の隙間を通して、ピアノ線等の不正な工具が挿入された場合、載置部４４ａの後端から立上っている立壁部４４ｄにより、不正な工具の侵入を阻止することができる。仮に、不正な工具の先端が立壁部４４ｄに当接することで、上方へ曲がったとしても、立壁部４４ｄの上端に備えられている前方へ突出した上端突出部４４ｅに当接し、これ以上の侵入を阻止することができる。従って、外枠下ヒンジ部材６０の部位を介して、不正行為が行われるのを防止することができる。
【００６０】
ところで、載置部４４ａの後端に立壁部４４ｄを備えた場合、外枠２に対して本体枠４を開けた時に、何らかの理由により載置部４４ａ上に落下した遊技球Ｂが、立壁部４４ｄによって外枠２の後方への移動が阻止されるため、載置部４４ａ上に遊技球Ｂが滞留し易くなる。そして、載置部４４ａ上に遊技球Ｂが滞留していると、外枠２に対して本体枠４を閉じる際に、外枠２と本体枠４との間に遊技球Ｂが挟み込まれてしまい、本体枠４を閉じることができなくなる問題が発生する。
【００６１】
これに対して、本実施形態の球噛防止機構４４では、外枠下ヒンジ部材６０上や載置部４４ａ上に落下した遊技球Ｂを、外枠下ヒンジ部材６０の排出孔６０ｄと第一排出口４４ｂを通して、又は、第二排出口４４ｃを通して、遊技球Ｂを幕板後部材４３の後方（外枠２の後方）へ排出することができ、外枠２と本体枠４との間に遊技球Ｂが挟まれるのを防止することができる。
【００６２】
外枠下組立体４０は、幕板前部材４２及び幕板後部材４３の上面に左右に離間して配置されている一対の案内部材４５と、幕板前部材４２の開口部４２ａを後側から閉鎖している平板状のグリル部材４６と、グリル部材４６を挟んで開口部４２ａを閉鎖するように幕板前部材４２の内部に取付けられており前後に延びた二つの円筒を有したポート部材４７と、幕板後部材４３の接続筒部４３ａの上端に配置される枠状のシール部材４８と、を備えている。
【００６３】
一対の案内部材４５は、外枠２に対して本体枠４を閉じた時に、扉枠３の下端が当接するものである。案内部材４５は、摩擦抵抗の低い低摩擦材料によって形成されており、本体枠４の下端を滑り易くして、開閉を容易にしている。
【００６４】
グリル部材４６は、左右方向へ延びた帯板状で、上下方向へ間隔をあけて設けられている複数の羽根部４６ｂを有している。羽根部４６ｂは、前端側が後端側よりも高くなるように、傾斜した状態で設けられている（図４７を参照）。このグリル部材４６は、羽根部４６ｂ同士の間の隙間を通して、幕板前部材４２の内部（幕板内部空間４０ａ）と外部とを通気可能に連通させている。
【００６５】
ポート部材４７は、二つの円筒により、グリル部材４６における羽根部４６ｂ同士の間の隙間を介して幕板内部空間４０ａ（エンクロージャ６２４）と外枠２の前方とを連通させている。ポート部材４７は、二つの円筒が、所定の内径で所定の長さに形成されており

、ヘルムホルツ共鳴の原理により本体枠スピーカ６２２から後方（エンクロージャ６２４内）へ発せられた低音を共振・増幅させて、豊かな低音を外枠２の前方（遊技者側）へ放射することができる。つまり、本実施形態では、本体枠スピーカ６２２のエンクロージャ６２４がバスレフ型とされており、遊技者に対して重低音を聞かせることができる。

【００６６】

シール部材４８は、外枠２に対して本体枠４を閉じた時に、接続筒部４３ａの上端と本体枠４におけるスピーカカバー６２１の接続部６２１ｃの下端との間に挟まれて圧縮されるものであり、接続筒部４３ａと接続部６２１ｃとの間から本体枠スピーカ６２２のエンクロージャ６２４内の音が漏れるのを防止するものである。

【００６７】

本実施形態のグリル部材４６によれば、本体枠スピーカ６２２により幕板内部空間４０ａから外部へ放出される空気振動を、傾斜している複数の羽根部４６ｂにより、斜め上前方のハンドルカバーユニット２９０におけるハンドルカバー２９５の下側の切欠開口部２９５ｂを通してハンドルユニット１８０が収容されているハンドルカバーベース２９１の前筒部２９１ａ内へ向けさせることができる。これにより、遊技者が、ハンドルカバー２９５（ハンドルカバーベース２９１の前筒部２９１ａ）の内側に手指を突っ込んで、ハンドル１９５を回転操作（遊技球Ｂの打込装置）している時に、本体枠スピーカ６２２を振動させて前筒部２９１ａ内へ風を送ることで、遊技者を驚かせることができ、これまでにない演出を行うことができる。

【００６８】

また、ポート部材４７を前方へ向かって開口させていることから、グリル部材４６の複数の羽根部４６ｂを通ってポート部材４７から放出される音圧の一部が、前方へ放出されることとなるため、本パチンコ機１の前方に着座している遊技者や、本パチンコ機１が設置されている遊技ホール内を回遊している他の遊技者に対しても、ポート部材４７から放出される演出サウンドが聞えることとなり、演出サウンドによっても遊技者の関心を引付けることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【００６９】

また、本体枠４に設けられている本体枠スピーカ６２２のエンクロージャ６２４に対して、ポート部材４７を外枠２の外枠下組立体４０に設けていることから、エンクロージャ６２４の容積を大きくすることができるため、より重低音の演出サウンドを出力することができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【００７０】

［２－４．外枠上ヒンジ組立体］

外枠２の外枠上ヒンジ組立体５０について、主に図２１を参照して詳細に説明する。図２１（ａ）は外枠の外枠上ヒンジ組立体を分解して前上から見た分解斜視図であり、（ｂ）は（ａ）を前下から見た分解斜視図である。外枠上ヒンジ組立体５０は、外枠左組立体１０の上端と外枠上部材３０の左端に取付けられるものであり、外枠２に対して本体枠４をヒンジ回転可能に取付けるためのものである。外枠上ヒンジ組立体５０は、外枠左部材１１の凹部１１ａの上端と外枠上部材３０の取付段部３０ｂとに取付けられる外枠上ヒンジ部材５１と、外枠上ヒンジ部材５１に取付けられているロック部材５２と、ロック部材５２を外枠上ヒンジ部材５１に取付けている取付ビス５３と、を備えている。

【００７１】

外枠上ヒンジ部材５１は、水平に延びた平板状で外枠上部材３０の取付段部３０ｂの上面に取付けられる上固定部５１ａと、上固定部５１ａの前辺から前方へ延出している平板状の前方延出部５１ｂと、前方延出部５１ｂの右辺の途中から前方へ向かうに従って前方延出部５１ｂの左右中央へ延びており上下に貫通している軸受溝５１ｃと、上固定部５１ａの左辺から下方へ延びている平板状の横固定部５１ｄと、前方延出部５１ｂの左辺から前辺を周って軸受溝５１ｃが開口している部位までの端縁から下方へ延びており横固定部５１ｄと連続している平板状の端縁壁部５１ｅと、を備えている。外枠上ヒンジ部材５１は、金属板をプレス成型により打抜き・屈曲させて形成されている。外枠上ヒンジ部材５

１は、軸受溝５１ｃ内において、本体枠上ヒンジ部材５１０の後述する本体枠上ヒンジピン５１２を回転可能に支持することができる。

【００７２】

ロック部材５２は、前後に延びている帯板状のロック本体５２ａと、ロック本体５２ａの後端から右方へ突出している操作片５２ｂと、ロック本体５２ａの後端から左方へ延びた後に斜め左前方へ延びている弾性変形可能な棒状の弾性部５２ｃと、ロック本体５２ａの後端付近で上下に貫通している取付孔５２ｄと、を備えている。ロック部材５２は、合成樹脂によって形成されている。ロック部材５２は、取付ビス５３によって、外枠上ヒンジ部材５１における前方延出部５１ｂの下面で、軸受溝５１ｃよりも後側の部位に回動可能に取付けられる。

【００７３】

ロック部材５２は、外枠上ヒンジ部材５１に取付けた状態で、ロック本体５２ａが、平面視で軸受溝５１ｃを遮ることができると共に、前端付近の右側面が、外枠上ヒンジ部材５１の端縁壁部５１ｅにおける軸受溝５１ｃの開口まで延びている部位と当接可能となるように前方へ延びている。また、ロック本体５２ａの後端から左方へ延びている弾性部５２ｃの先端は、外枠上ヒンジ部材５１における端縁壁部５１ｅの内周面に当接している。このロック部材５２は、弾性部５２ｃの付勢力によって取付孔５２ｄを中心に、前端が左方へ回動する方向に付勢されている。従って、通常の状態では、ロック部材５２のロック本体５２ａの前端付近の右側面が、端縁壁部５１ｅに当接している。この状態では、軸受溝５１ｃにおけるロック本体５２ａよりも前側の部位に、本体枠上ヒンジ部材５１０の本体枠上ヒンジピン５１２を収容可能な空間が形成される。

【００７４】

このロック部材５２は、操作片５２ｂを操作することで、弾性部５２ｃの付勢力に抗してロック本体５２ａを回動させることができる。そして、操作片５２ｂの操作によって、ロック本体５２ａを、その前端が左方へ移動する方向へ回動させることで、平面視において軸受溝５１ｃからロック本体５２ａを後退させることができ、軸受溝５１ｃが全通している状態とすることができる。これにより、軸受溝５１ｃ内に本体枠上ヒンジピン５１２を挿入したり、軸受溝５１ｃ内から本体枠上ヒンジピン５１２を外したりすることができる。

【００７５】

［２－５．外枠下ヒンジ部材］

外枠２の外枠下ヒンジ部材６０について、主に図１８を参照して詳細に説明する。外枠下ヒンジ部材６０は、水平に延びた平板状の水平部６０ａと、水平部６０ａの左辺において前後方向中央よりも後側の部位から上方へ立上っている平板状の立上部６０ｂと、水平部６０ａの前端付近から上方へ突出している外枠下ヒンジピン６０ｃと、水平部６０ａを上下に貫通しており遊技球Ｂが一つのみ通過可能な大きさの排出孔６０ｄと、を備えている。この外枠下ヒンジ部材６０は、金属板をプレス成型により打抜き・屈曲させて形成されている。

【００７６】

外枠下ヒンジ部材６０の水平部６０ａは、平面視において、左辺を底辺とした台形に形成されている。外枠下ヒンジピン６０ｃは、円柱状で、上下方向中央よりも上部が、上端が窄まった円錐台状に形成されている。この外枠下ヒンジピン６０ｃは、水平部６０ａの前端付近における左寄りの位置に取付けられている。排出孔６０ｄは、水平部６０ａにおいて、立上部６０ｂの前後方向中央の部位と接し、水平部６０ａの左辺から右方へ逆Ｕ字状に延びるように形成されている。この排出孔６０ｄは、外枠下組立体４０における球噛防止機構４４の第一排出口４４ｂと、略同じ大きさに形成されている。

【００７７】

外枠下ヒンジ部材６０は、外枠２に組立てた状態で、水平部６０ａの後部が、外枠下組立体４０における幕板後部材４３の載置部４４ａ上に載置され、図示しないビスによって幕板後部材４３に固定されている。また、立上部６０ｂが、外枠左部材１１の右側面にお

ける膨出部１１ｂよりも前側の部位に、図示しないビスによって取付けられている。この外枠下ヒンジ部材６０は、外枠下ヒンジピン６０ｃを、本体枠４の本体枠下ヒンジ組立体５２０における外枠用下ヒンジ孔５２１ａに挿通させることで、外枠上ヒンジ部材５１と協働して本体枠４を開閉可能に取付けることができる。

【００７８】

また、外枠２を組立てた状態では、排出孔６０ｄが、外枠下組立体４０における球噛防止機構４４の第一排出口４４ｂと一致している。これにより、水平部６０ａ上の遊技球Ｂを、排出孔６０ｄ及び第一排出口４４ｂを通して、外枠２の後方へ落下（排出）させることができる。詳述すると、外枠２に対して本体枠４を閉じる時に、外枠２と本体枠４との間に落下した遊技球Ｂが、本体枠４が閉じられるのに従って、外枠２と本体枠４との間が徐々に狭くなることから、間隔が広い後方側へ転動とすることとなり、排出孔６０ｄから排出させることができる。この際に、排出孔６０ｄが、パチンコ機１に組立てた状態で、外枠２に対して本体枠４を閉じた時に、本体枠４の後端と略同じとなる位置に形成されているため、外枠２と本体枠４との間に落下した遊技球Ｂを、排出孔６０ｄから排出させることで本体枠４よりも後側へ転動するのを阻止し易くすることができ、外枠下ヒンジ部材６０の部位に遊技球Ｂが留まり難くすることができる。

【００７９】

［３．扉枠の全体構成］

パチンコ機１の扉枠３について、主に図２２乃至図３０を参照して詳細に説明する。図２２はパチンコ機における扉枠の正面図であり、図２３は扉枠の背面図であり、図２４は扉枠の左側面図であり、図２５は扉枠の右側面図である。図２６は扉枠を右前から見た斜視図であり、図２７は扉枠を左前から見た斜視図であり、図２８は扉枠を後ろから見た斜視図である。図２９は扉枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図３０は扉枠を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【００８０】

扉枠３は、外枠２の枠内と略同じ大きさで正面視において上下に延びた四角形に形成されており、本体枠４を介して外枠２の枠内を前側から開閉可能に取付けられている。扉枠３は、遊技球Ｂが打込まれる遊技盤５の遊技領域５ａを前側から視認可能に閉鎖し、遊技領域５ａ内に打込むための遊技球Ｂを貯留すると共に、貯留している遊技球Ｂを遊技領域５ａ内へ打込むために遊技者が操作するハンドル１９５を備えているものである。また、扉枠３は、パチンコ機１の前面全体を装飾するものである。

【００８１】

扉枠３は、正面視の外形が上下に延びた四角形で枠状の扉枠ベースユニット１００と、扉枠ベースユニット１００に着脱可能に取付けられており本体枠４に取付けられた遊技盤５の遊技領域５ａを前方から視認可能に閉鎖しているガラスユニット１６０と、ガラスユニット１６０の下部を後側から覆うように扉枠ベースユニット１００に取付けられている防犯カバー１７０と、扉枠ベースユニット１００の前面右下隅に取付けられているハンドルユニット１８０と、ハンドルユニット１８０の外周を覆うハンドルカバーユニット２９０と、扉枠ベースユニット１００の前面下部に取付けられている皿ユニット２００と、皿ユニット２００の上側で扉枠ベースユニット１００の前面左部に取付けられている扉枠左サイドユニット４２０と、皿ユニットの上側で扉枠ベースユニット１００の前面右部に取付けられている扉枠右サイドユニット４３０と、扉枠左サイドユニット４２０及び扉枠右サイドユニット４３０の上側で扉枠ベースユニット１００の前面上部に取付けられている扉枠トップユニット４５０と、を備えている。

【００８２】

扉枠ベースユニット１００は、正面視の外形が上下に延びた四角形（長方形）に形成されており前後に貫通している扉窓１０１ａを有した扉枠ベース１０１と、扉枠ベース１０１の後側で背面視右下隅に取付けられているスピーカダクト１０３と、扉枠ベース１０１の後側の下部における背面視右端付近に取付けられている扉枠主中継基板１０４と、扉枠主中継基板１０４の背面視左方に取付けられている扉枠副中継基板１０５と、扉枠副中継

基板１０５の背面視左方に取付けられているハンドル後中継基板１０６と、扉枠主中継基板１０４と扉枠副中継基板１０５の一部とを後側から被覆する扉枠中継基板カバー１０７と、ハンドル後中継基板１０６を後側から被覆するハンドル後中継基板カバー１０８と、配線ケーブルを被覆するケーブルカバー１０９と、を備えている。

【００８３】

また、扉枠ベースユニット１００は、扉枠ベース１０１の後側に取付けられている枠状の扉枠補強ユニット１１０と、扉枠補強ユニット１１０に取付けられている扉枠上ヒンジ組立体１２０及び扉枠下ヒンジ部材１２５と、扉枠補強ユニット１１０に取付けられている開閉用のシリンダ錠１３０と、扉枠ベース１０１の後側でハンドル後中継基板１０６の上方に取付けられている球送給ユニット１４０と、扉枠ベース１０１の後側の下部における背面視右側に取付けられているファールカバーユニット１５０と、を備えている。

【００８４】

扉枠補強ユニット１１０は、扉枠ベース１０１の後側に取付けられることで、扉枠ベース１０１を補強して剛性を付与するものである。扉枠上ヒンジ組立体１２０及び扉枠下ヒンジ部材１２５は、扉枠３を本体枠４に対して開閉可能に取付けるためのものである。シリンダ錠１３０は、本体枠４の施錠ユニット６５０と協働して、扉枠３と本体枠４との開閉、及び、外枠２と本体枠４との開閉施錠に使用されるものである。

【００８５】

また、球送給ユニット１４０は、上皿２０１内の遊技球Ｂを一つずつ本体枠４の球発射装置５４０へ供給するためのものである。ファールカバーユニット１５０は、球発射装置５４０により発射されて遊技盤５の遊技領域５ａ内に到達しなかった遊技球Ｂ（ファール球）を、下皿２０２に誘導すると共に、払出装置５８０から払出された遊技球Ｂを、上皿２０１又は下皿２０２に誘導するためのものである。

【００８６】

ガラスユニット１６０は、透明なガラス板１６２を有しており扉枠ベース１０１の扉窓１０１ａを閉鎖している。防犯カバー１７０は、ガラスユニット１６０の下部を後方から覆うように扉枠ベース１０１に取付けられている。ハンドルユニット１８０は、遊技者が回転操作可能なハンドル１９５を備えており、ハンドルユニット１８０は、外周を覆うハンドルカバーユニット２９０を操作することで、上皿２０１内の遊技球Ｂを、球発射装置５４０によって遊技盤５の遊技領域５ａ内に打込む遊技を行うためのものである。

【００８７】

［３－１．扉枠ベースユニットの全体構成］

扉枠３の扉枠ベースユニット１００について、主に図３１乃至図３３を参照して詳細に説明する。図３１（ａ）は扉枠の扉枠ベースユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は扉枠ベースユニットを後ろから見た斜視図である。図３２は扉枠ベースユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図３３は扉枠ベースユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【００８８】

扉枠ベースユニット１００は、正面視左辺側が本体枠４に対してヒンジ回転可能に取付けられ、本体枠４の前面を開閉可能に閉鎖していると共に、本体枠４に取付けられている遊技盤５の遊技領域５ａを前方から視認可能としている。扉枠ベースユニット１００は、外形が上下に延びた四角形で平板状の扉枠ベース１０１と、扉枠ベース１０１の後側で背面視右下隅に取付けられているスピーカダクト１０３と、を備えている。

【００８９】

また、扉枠ベースユニット１００は、扉枠ベース１０１の後側の下部における背面視右端付近に取付けられている扉枠主中継基板１０４と、扉枠ベース１０１の後側の下部における扉枠主中継基板１０４の背面視左方に取付けられている扉枠副中継基板１０５と、扉枠ベース１０１の後側の下部における扉枠副中継基板１０５の背面視左方に取付けられているハンドル後中継基板１０６と、扉枠ベース１０１の後側に取付けられており扉枠主中継基板１０４と扉枠副中継基板１０５の一部とを後側から被覆する扉枠中継基板カバー１

０７と、扉枠ベース１０１の後側に取付けられておりハンドル後中継基板１０６を後側から被覆するハンドル後中継基板カバー１０８と、扉枠ベース１０１の後側に取付けられており配線ケーブルを被覆するケーブルカバー１０９と、を備えている。

【００９０】

更に、扉枠ベースユニット１００は、扉枠ベース１０１の後側に取付けられている枠状の扉枠補強ユニット１１０と、扉枠補強ユニット１１０に取付けられている扉枠上ヒンジ組立体１２０及び扉枠下ヒンジ部材１２５と、扉枠補強ユニット１１０に取付けられている開閉用のシリンダ錠１３０と、扉枠ベース１０１の後側でハンドル後中継基板１０６の上方に取付けられている球送給ユニット１４０と、扉枠ベース１０１の後側の下部における背面視右側に取付けられているファールカバーユニット１５０と、を備えている。

【００９１】

この扉枠ベースユニット１００には、前面下隅にハンドルユニット１８０及びハンドルカバーユニット２９０が、扉窓１０１ａの下側前面に皿ユニット２００が、扉窓１０１ａの左外側前面に扉枠左サイドユニット４２０が、扉窓１０１ａの右外側前面に扉枠右サイドユニット４３０が、扉窓１０１ａの上外側前面に扉枠トップユニット４５０が、夫々取付けられるものである。

【００９２】

また、扉枠ベースユニット１００には、扉窓１０１ａを後方から閉鎖するようにガラスユニット１６０が取付けられると共に、ガラスユニット１６０の下部を後方から覆うように透明な防犯カバー１７０が取付けられるものである。

【００９３】

［３－１ａ．扉枠ベース］

扉枠３における扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１について、主に図３１乃至図３３を参照して詳細に説明する。扉枠ベース１０１は、正面視の外形が上下に延びた四角形（長方形）に形成されている。扉枠ベース１０１は、前後に貫通しており、正面視における内周形状が上下に延びた略四角形に形成された扉窓１０１ａを備えている。扉窓１０１ａは、内周を形成している上辺及び左右両辺が、扉枠ベース１０１の外周辺に夫々接近しており、内周を形成している下辺が、扉枠ベース１０１の下端から上下方向の約１／３の高さに位置している。このように、扉枠ベース１０１は、前後に貫通している扉窓１０１ａにより全体が枠状に形成されている。この扉枠ベース１０１は、合成樹脂により一体成形されている。

【００９４】

扉枠ベース１０１は、前面における正面視右下隅に形成されており左端側が右端側よりも前方へやや突出するように傾斜しているハンドル取付座面１０１ｂ（図４２等を参照）と、ハンドル取付座面１０１ｂと扉窓１０１ａとの間で前後に貫通して扉枠補強ユニット１１０のシリンダ取付フレーム１１５が挿入されるシリンダ挿通孔１０１ｄと、シリンダ挿通孔１０１ｄ及びハンドル取付座面１０１ｂの正面視左側で前後に貫通しており球送給ユニット１４０の進入口１４１ａ及び球抜口１４１ｂを前方に臨ませるための球送給開口１０１ｅと、を備えている。

【００９５】

また、扉枠ベース１０１は、左右方向中央より左寄りで且つハンドル取付座面１０１ｂと略同じ高さで前後に貫通しておりファールカバーユニット１５０の球放出口１５０ｄを前方に臨ませる下皿用球通過口１０１ｆと、正面視左端付近で扉窓１０１ａの下辺に隣接するように前後に貫通しておりファールカバーユニット１５０の貫通球通路１５０ａを前方に臨ませる上皿用球通過口１０１ｇと、扉窓１０１ａの内周に沿って後面から前方へ向かって窪み、ガラスユニット１６０のガラス枠１６１が挿入されるガラスユニット取付部１０１ｈと、を備えている。

【００９６】

また、扉枠ベース１０１は、正面視左下隅（上皿用球通過口１０１ｇの下方）に形成されており前後に貫通した縦長の複数のスリット１０１ｉを、備えている。複数のスリット

１０１ｉの後側にスピーカダクト１０３が取付けられる。また、複数のスリット１０１ｉは、パチンコ機１を組立てた状態で、前方に皿ユニット２００における皿ユニットベース２１１のスピーカ口２１１ｂが位置していると共に、後方に本体枠４のスピーカユニット６２０ａにおける本体枠スピーカ６２２が位置しており、本体枠スピーカ６２２からの音を前方へ放射することができる。

【００９７】

更に、扉枠ベース１０１は、扉窓１０１ａの下方でハンドル取付座面１０１ｂの上方において、前後に貫通している貫通孔１０１ｊを備えている。この貫通孔１０１ｊは、扉枠ベースユニット１００側と皿ユニット２００側とを接続する配線ケーブル（図示は省略）が挿通されるものであり、後述する扉枠補強ユニット１１０における中間補強フレーム１１４の貫通部１１４ｂと一致するように形成されている。

【００９８】

［３－１ｂ．スピーカダクト］

扉枠ベースユニット１００のスピーカダクト１０３について、主に図３１乃至図３３を参照して詳細に説明する。このスピーカダクト１０３は、筒状に形成されており、扉枠ベース１０１の後側において複数のスリット１０１ｉが形成されている部位に取付けられる。スピーカダクト１０３は、パチンコ機１を組立てた状態で、筒状の部位の後端が、本体枠４の本体枠スピーカ６２２の前方に位置している。これにより、本体枠４の本体枠スピーカ６２２から放射（出力）された音（サウンド）を、拡散させることなく前方へ誘導することができ、扉枠ベース１０１の複数のスリット１０１ｉ及び皿ユニット２００の皿ユニットベース２１１におけるスピーカ口２１１ｂを通して、パチンコ機１の前方（遊技者側）へ良好に誘導することができる。

【００９９】

また、スピーカダクト１０３は、筒状の部位の下方の後面に、接続ケーブル５０３を保持するケーブルホルダ１０３ａを備えている。ケーブルホルダ１０３ａは、扉枠中継基板カバー１０７よりも正面視左方に配置されており、扉枠主中継基板１０４及び扉枠副中継基板１０５に接続されている接続ケーブル５０３を、扉枠３の左端側へ延びるように保持している。

【０１００】

［３－１ｃ．扉枠主中継基板・扉枠副中継基板・ハンドル後中継基板］

扉枠ベースユニット１００の扉枠主中継基板１０４、扉枠副中継基板１０５、ハンドル後中継基板１０６について、主に図３２及び図３３等を参照して説明する。扉枠主中継基板１０４は、外形が上下に延びた四角形に形成されており、扉枠ベース１０１の後側の下部における背面視右下隅に取付けられる。扉枠主中継基板１０４は、ハンドル後中継基板１０６と本体枠４の基板ユニット６２０におけるインターフェイス基板６３５との接続を中継するためのものであり、本体枠４から延びている接続ケーブル５０３（図８２及び図８３を参照）の一部が接続される。

【０１０１】

扉枠副中継基板１０５は、外形が、上下に延びた四角形の上部の正面視右側に左右に延びた四角形が組み合された逆Ｌ字状に形成されており、上下に延びている部位が扉枠主中継基板１０４の背面視左方に隣接するように、扉枠ベース１０１の後側に取付けられている。扉枠副中継基板１０５は、ハンドルユニット１８０のハンドル装飾基板１８４、皿ユニット２００の皿ユニット中継基板２１４、扉枠左サイドユニット４２０の扉枠左サイド上装飾基板４２２及び扉枠左サイド下装飾基板４２３、扉枠右サイドユニット４３０の扉枠右サイド上装飾基板４３２及び扉枠右サイド下装飾基板４３３、扉枠トップユニット４５０の扉枠トップ中継基板等と、本体枠４のインターフェイス基板６３５との接続を中継するためのものであり、本体枠４から延びている接続ケーブル５０３の残りが接続される。

【０１０２】

扉枠主中継基板１０４及び扉枠副中継基板１０５は、接続端子が後方へ向かって突出す

るように、扉枠ベース１０１に取付けられる。扉枠主中継基板１０４及び扉枠副中継基板１０５は、扉枠ベースユニット１００を組立てた状態で、扉枠主中継基板１０４と扉枠副中継基板１０５の上下に延びている部位とが、扉枠中継基板カバー１０７によって後側が被覆された状態となり、扉枠副中継基板１０５の残りの部位が、ファールカバーユニット１５０によって後側が被覆された状態となる。

【０１０３】

ハンドル後中継基板１０６は、外形が左右に延びた四角形に形成されており、扉枠ベース１０１の後側における球送給開口１０１ｅの下方でハンドル取付座面１０１ｂの後側に取付けられる。ハンドル後中継基板１０６は、扉枠主中継基板１０４とハンドルユニット１８０のハンドル回転検知センサ１８９、ハンドルタッチセンサ１９２、単発ボタン操作センサ１９４、及び球送給ユニット１４０の球送給ソレノイド１４５との接続を中継するためのものである。ハンドル後中継基板１０６は、扉枠ベースユニット１００を組立てた状態で、ハンドル後中継基板カバー１０８によって後側が被覆された状態となる。

【０１０４】

［３－１ｄ．扉枠中継基板カバー・ハンドル後中継基板カバー・ケーブルカバー］

扉枠ベースユニット１００の扉枠中継基板カバー１０７、ハンドル後中継基板カバー１０８、及びケーブルカバー１０９について、主に図３１乃至図３３を参照して説明する。扉枠中継基板カバー１０７は、扉枠ベース１０１の後側に取付けることで、扉枠主中継基板１０４と扉枠副中継基板１０５の一部（逆Ｌ字状の上下に延びている部位）の後側を被覆するものである。扉枠中継基板カバー１０７は、前方及び正面視左方が開放された箱状に形成されている。扉枠ベースユニット１００に組立てた状態では、後側を被覆している扉枠主中継基板１０４及び扉枠副中継基板１０５の接続端子が扉枠中継基板カバー１０７の内部に露出しており、開放されている左側から接続ケーブル５０３を内部に挿入して、それら端子に接続することができる。

【０１０５】

ハンドル後中継基板カバー１０８は、ハンドル後中継基板１０６の後側を被覆するように扉枠ベース１０１の後側に取付けられるものである。ケーブルカバー１０９は、扉枠補強ユニット１１０における中間補強フレーム１１４の後側に取付けられ、扉枠主中継基板１０４と皿ユニット２００の球貸操作ユニット２２０とを接続する配線ケーブル（図示は省略）を被覆するためのものである。ケーブルカバー１０９は、左右に延びた箱状に形成されており、前面の左端付近と下面の左右方向中央に、配線ケーブルを通すための開口が形成されている。

【０１０６】

［３－１ｅ．扉枠補強ユニット］

扉枠ベースユニット１００の扉枠補強ユニット１１０について、主に図３１乃至図３３を参照して詳細に説明する。扉枠補強ユニット１１０は、扉枠ベース１０１の後側に取付けられることで、平板状の扉枠ベース１０１を補強して、扉枠ベースユニット１００に剛性を付与している。扉枠補強ユニット１１０は、左右に離間して配置されている上下に延びた左補強フレーム１１１及び右補強フレーム１１２と、左補強フレーム１１１及び右補強フレーム１１２の上端同士を連結している左右に延びた上補強フレーム１１３と、左補強フレーム１１１の下端から上寄りの位置に左端側が取付けられており右補強フレーム１１２付近まで右方へ延びた中間補強フレーム１１４と、中間補強フレーム１１４の右端と右補強フレーム１１２とを連結しているシリンダ取付フレーム１１５と、右補強フレーム１１２の後側に上下に離間して複数取付けられており本体枠４の施錠ユニット６５０の扉枠用鉤６５２が掛止される鉤掛部材１１６と、を備えている。

【０１０７】

左補強フレーム１１１及び右補強フレーム１１２は、左右方向が一定の幅で、扉枠ベース１０１の上下の高さと略同じ長さで上下に延びている。右補強フレーム１１２には、上下方向に離間しており、前後方向に貫通している複数の挿通孔が形成されている。これら挿通孔は、本体枠４に対して扉枠３を閉めた時に、施錠ユニット６５０の扉枠用鉤６５２

の先端が挿通される。上補強フレーム１１３は、上下方向が一定の幅で、扉枠ベース１０１の左右の幅と略同じ長さで左右に延びている。

【０１０８】

中間補強フレーム１１４は、上下方向が上補強フレーム１１３の上下の幅よりも広い幅で左右に延びている。中間補強フレーム１１４は、左端付近において上端から下方へ四角く切欠かれた切欠部１１４ａと、右端付近において前後に貫通している貫通部１１４ｂと、を有している。切欠部１１４ａは、扉枠ベース１０１の上皿用球通過口１０１ｇと、貫通部１１４ｂは、扉枠ベース１０１の貫通孔１０１ｊと、夫々一致する位置に形成されている。

【０１０９】

シリンダ取付フレーム１１５は、左右に離間して配置されており正面視において上下に延びた四角形の平板状に形成されている一対の後片部と、一対の後片部の対面している夫々の辺から前方へ平板状に延出している一対の側片部と、一対の前方延出部の前端の辺同士を連結している平板状の前片部と、を備えている。このシリンダ取付フレーム１１５は、平面視の形状が前方へ突出した凸形状に形成されている。シリンダ取付フレーム１１５は、左側の後片部が中間補強フレーム１１４の右端に取付けられ、右側の後片部が右補強フレーム１１２に取付けられる。このシリンダ取付フレーム１１５は、前片部にシリンダ錠１３０が取付けられる。

【０１１０】

鉤掛部材１１６は、右補強フレーム１１２の後側において、前後に貫通している挿通孔の部位に取付けられている。これら鉤掛部材１１６は、施錠ユニット６５０の扉枠用鉤６５２が掛止される。

【０１１１】

扉枠補強ユニット１１０を構成している左補強フレーム１１１、右補強フレーム１１２、上補強フレーム１１３、中間補強フレーム１１４、シリンダ取付フレーム１１５、及び鉤掛部材１１６は、金属板をプレス成型によって打抜き・屈曲することで形成されている。これらは、リベットによって組立てられている。

【０１１２】

扉枠補強ユニット１１０は、左補強フレーム１１１、右補強フレーム１１２、及び上補強フレーム１１３が、扉枠ベース１０１の左辺、右辺、及び上辺に沿うように組立てられていると共に、中間補強フレーム１１４が、扉枠ベース１０１の扉窓１０１ａの下方に位置するように組立てられている。

【０１１３】

扉枠補強ユニット１１０は、図示しない複数のビスにより扉枠ベース１０１の後側に取付けられる。この扉枠補強ユニット１１０は、扉枠ベース１０１に取付けた状態で、中間補強フレーム１１４の切欠部１１４ａ及び貫通部１１４ｂが、扉枠ベース１０１の上皿用球通過口１０１ｇ及び貫通孔１０１ｊと一致した状態となると共に、シリンダ取付フレーム１１５が、扉枠ベース１０１のシリンダ挿通孔１０１ｄに挿入された状態となる。

【０１１４】

［３－１ｆ．扉枠上ヒンジ組立体］

扉枠ベースユニット１００の扉枠上ヒンジ組立体１２０について、主に図３１乃至図３３を参照して説明する。扉枠上ヒンジ組立体１２０は、扉枠補強ユニット１１０の正面視左上隅に取付けられる。扉枠上ヒンジ組立体１２０は、扉枠３を、扉枠下ヒンジ部材１２５と協働して本体枠４に対してヒンジ回転可能に取付けるためのものである。扉枠上ヒンジ組立体１２０は、扉枠補強ユニット１１０に取付けられるヒンジブラケット１２１と、ヒンジブラケット１２１に上下方向へ移動可能に取付けられる扉枠上ヒンジピン１２２と、扉枠上ヒンジピン１２２に取付けられる鍔部材１２３と、扉枠上ヒンジピン１２２を上方へ移動するように付勢しているロックバネ１２４と、を備えている。

【０１１５】

ヒンジブラケット１２１は、正面視四角形の平板状の取付片１２１ａと、取付片１２１

ａの上辺及び下辺から前方へ延出している平板状の突出片１２１ｂと、を備えている。ヒンジブラケット１２１は、取付片１２１ａが扉枠補強ユニット１１０に取付けられる。ヒンジブラケット１２１は、金属板を屈曲させて形成されている。

【０１１６】

扉枠上ヒンジピン１２２は、円柱状の金属棒をＬ字状に屈曲させたものである。扉枠上ヒンジピン１２２は、扉枠上ヒンジ組立体１２０に組立てた状態で、上下に延びている部位が、ヒンジブラケット１２１における一対の突出片１２１ｂの前端付近において下方から貫通し、上端が上側の突出片１２１ｂよりも上方へ延び出していると共に、水平に延びている部位が下側の突出片１２１ｂの下面に当接している。扉枠上ヒンジピン１２２は、上端が本体枠４の本体枠上ヒンジ部材５１０における上ヒンジ本体５１１の扉枠用上ヒンジ孔５１１ａに回転可能に挿通される。

【０１１７】

鍔部材１２３は、Ｅリングとされており、扉枠上ヒンジピン１２２における一対の突出片１２１ｂの間となる部位に取付けられている。ロックバネ１２４は、コイル状に形成されており、鍔部材１２３とヒンジブラケット１２１における下側の突出片１２１ｂとの間において扉枠上ヒンジピン１２２の上下に延びている部位の周りに被せられている。このロックバネ１２４により、鍔部材１２３を介して扉枠上ヒンジピン１２２が上方へ付勢されている。

【０１１８】

扉枠上ヒンジ組立体１２０は、扉枠上ヒンジピン１２２がロックバネ１２４により上方へ付勢された状態となっており、扉枠上ヒンジピン１２２における下端の水平に延びている部位が下側の突出片１２１ｂの下面に当接することで、これ以上の上方への移動が規制されている。この状態では、扉枠上ヒンジピン１２２の上端が、上側の突出片１２１ｂの上面よりも所定量上方に突出している。

【０１１９】

扉枠上ヒンジ組立体１２０は、扉枠上ヒンジピン１２２における下端の水平に延びている部位を、ロックバネ１２４の付勢力に抗してその部位を下方へ移動させると、扉枠上ヒンジピン１２２を全体的に下方へ移動させることができ、扉枠上ヒンジピン１２２の上端を、上側の突出片１２１ｂの上面よりも下方へ没入させることができる。従って、扉枠上ヒンジ組立体１２０は、扉枠上ヒンジピン１２２の上端を、本体枠上ヒンジ部材５１０の扉枠用上ヒンジ孔５１１ａに対して下方から挿入させたり、下方へ抜いたりすることができる。これにより、扉枠上ヒンジピン１２２の上端を、本体枠上ヒンジ部材５１０の扉枠用上ヒンジ孔５１１ａに挿入させることで、扉枠３の正面視上部左端を、本体枠４に対してヒンジ回転可能に支持させることができる。

【０１２０】

また、扉枠上ヒンジ組立体１２０は、扉枠上ヒンジピン１２２における上下に延びている部位が、後述する扉枠下ヒンジ部材１２５の扉枠下ヒンジピン１２６と同軸上に位置している。これにより、扉枠上ヒンジピン１２２と扉枠下ヒンジピン１２６とによって、扉枠３を本体枠４に対して良好な状態でヒンジ回転させることができる。

【０１２１】

［３－１ｇ．扉枠下ヒンジ部材］

扉枠ベースユニット１００の扉枠下ヒンジ部材１２５について、主に図３１乃至図３３を参照して説明する。扉枠下ヒンジ部材１２５は、扉枠補強ユニット１１０の正面視左下隅に取付けられる。扉枠下ヒンジ部材１２５は、扉枠３を、扉枠上ヒンジ組立体１２０と協働して本体枠４に対してヒンジ回転可能に取付けるためのものである。

【０１２２】

扉枠下ヒンジ部材１２５は、扉枠補強ユニット１１０に取付けられ正面視四角形で平板状の取付片１２５ａと、取付片１２５ａの下辺から前方へ延出している平板状の突出片１２５ｂと、突出片１２５ｂの前端付近の下面から下方へ突出している扉枠下ヒンジピン１２６（図２２等を参照）と、を備えている。

【０１２３】
扉枠下ヒンジ部材１２５の取付片１２５ａ及び突出片１２５ｂは、金属板を屈曲させて形成されている。扉枠下ヒンジピン１２６は、円柱状の金属棒で、下端部の外周にテーパ状の面取りが施されている。この扉枠下ヒンジピン１２６は、扉枠ベースユニット１００に組立てた状態で、突出片１２５ｂにおける扉枠上ヒンジ組立体１２０の扉枠上ヒンジピン１２２の上下に延びている部位と同軸上となる部位に取付けられている。
【０１２４】
この扉枠下ヒンジ部材１２５は、扉枠下ヒンジピン１２６を本体枠下ヒンジ組立体５２０の扉枠用下ヒンジ孔５２２ａに挿入することで、扉枠３を本体枠４に対してヒンジ回転可能に支持することができる。
【０１２５】
［３－１ｈ．シリンダ錠］
扉枠３の扉枠ベースユニット１００におけるシリンダ錠１３０について、主に図３４乃至図３６を参照して詳細に説明する。図３４（ａ）は扉枠のシリンダ錠を前から見た斜視図であり、（ｂ）は（ａ）のシリンダ錠を後ろ前から見た斜視図であり、（ｃ）は従来のパチンコ機におけるシリンダ錠を前から見た斜視図であり、（ｄ）は（ａ）のシリンダ錠を後ろから見た斜視図である。図３５（ａ）は図３４（ａ）のシリンダ錠を分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は図３４（ａ）のシリンダ錠を分解して後ろから見た分解斜視図である。図３６（ａ）は図３４（ａ）のシリンダ錠の可動機構を正面から示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）の状態から反時計回りの方向へ９０度回転させた状態で示すシリンダ錠の説明図であり、（ｃ）は（ａ）の状態から時計回りの方向へ９０度回転させた状態で示すシリンダ錠の説明図である。
【０１２６】
シリンダ錠１３０は、扉枠補強ユニット１１０のシリンダ取付フレーム１１５に取付けられ、本体枠４の施錠ユニット６５０と協働して、扉枠３と本体枠４との開閉、及び、外枠２と本体枠４との開閉施錠に使用されるものである。シリンダ錠１３０は、前後に延びた円柱状のシリンダ本体１３１と、シリンダ本体１３１の前端面に形成されている鍵穴１３２と、シリンダ本体１３１の後方に設けられており鍵穴１３２に挿入された正規の鍵を回転させると一緒に回転する回転伝達部材１３３と、を備えている。
【０１２７】
シリンダ錠１３０のシリンダ本体１３１は、シリンダ取付フレーム１１５の前片部を後方から貫通して後端が前片部に取付けられている。回転伝達部材１３３は、後方が開放された円筒状（詳しくは、後方へ向かうに従って直径が大きくなる円錐筒状）に形成されており、中心軸を挟んで対向した位置に後端から前方へ向かって切欠かれた一対の切欠部を有している。回転伝達部材１３３は、本体枠４における施錠ユニット６５０の伝達シリンダ６５４が後方から挿入されるように形成されており、伝達シリンダ６５４の一対の突起が一対の切欠部内に挿入されることで、回転伝達部材１３３（鍵穴１３２に挿入された鍵）の回転を、伝達シリンダ６５４に伝達させて回転させることができる。
【０１２８】
更に詳述すると、シリンダ錠１３０は、シリンダ本体１３１の後端側に設けられており鍵穴１３２に挿入された正規の鍵を回転させると一緒に回転する第一カム部材１３４と、シリンダ取付フレーム１１５におけるシリンダ本体１３１よりも下方の部位で前後方向の軸周りに対して回転可能に取付けられている第二カム部材１３５と、上端側が第一カム部材１３４における回転中心よりも右方の部位で回転可能に取付けられていると共に下端側が第二カム部材１３５における回転中心よりも右方の部位で回転可能に取付けられている帯板状の第一アーム１３６と、上端側が第一カム部材１３４における回転中心よりも下方の部位で回転可能に取付けられていると共に下端側が第二カム部材１３５における回転中心よりも下方の部位で回転可能に取付けられている帯板状の第二アーム１３７と、を備えている。
【０１２９】

また、シリンダ錠１３０は、第二カム部材１３５（回転伝達部材１３３）を除いてシリンダ本体１３１、第一カム部材１３４、第一アーム１３６、及び第二アーム１３７を後方から覆うようにシリンダ取付フレーム１１５に取付けられている後カバー１３８と、第一アーム１３６及び第二アーム１３７の夫々の上下両端側を、夫々第一カム部材１３４や第二カム部材１３５に対して回転可能に取付けているリベット１３９と、を備えている。

【０１３０】

第一カム部材１３４は、第一アーム１３６の上端側が後面側に取付けられていると共に、第二アーム１３７の上端側が前面側に取付けられている。第二カム部材１３５は、シリンダ取付フレーム１１５により後側から回転可能に取付けられており、シリンダ取付フレーム１１５の前面を挟んだ後側に、回転伝達部材１３３が一体回転可能に取付けられている。第二カム部材１３５は、第一アーム１３６の下端側が前面側に取付けられていると共に、第二アーム１３７の下端側が第一アーム１３６よりも前方で前面側に取付けられている。

【０１３１】

第一カム部材１３４及び第二カム部材１３５は、夫々において、第一アーム１３６が取付けられる部位と、第二アーム１３７が取付けられる部位とが、夫々の回転軸を中心に９０度の角度で離隔している。また、第一カム部材１３４及び第二カム部材１３５は、夫々において、第一アーム１３６が取付けられる部位が、第二アーム１３７が取付けられる部位よりも、回転中心から遠ざかった位置に設けられている。

【０１３２】

後カバー１３８は、左右両側面の下端から外方へ円柱状に突出した軸部１３８ａが、シリンダ取付フレーム１１５のＬ字状の係止スリット１１５ｂに係止された状態で、上端側が図示しないビスにより、シリンダ取付フレーム１１５に着脱可能に取付けられている。

【０１３３】

このシリンダ錠１３０は、シリンダ取付フレーム１１５、シリンダ本体１３１、回転伝達部材１３３、第一カム部材１３４、第二カム部材１３５、第一アーム１３６、及び第二アーム１３７が、金属により形成されている。

【０１３４】

シリンダ錠１３０は、扉枠３に組立てた状態で、シリンダ本体１３１の前端が扉枠右サイドユニット４３０のシリンダ挿通口４４０ｂの前端と略一致した状態となる。

【０１３５】

ここで、従来のシリンダ錠１３０Ａについて説明する。従来のシリンダ錠１３０Ａは、図３４（ｃ）及び（ｄ）に示すように、シリンダ本体１３１が、シリンダ取付フレーム１１５Ａの前片部を後方から貫通して後端が前片部に取付けられている。このシリンダ錠１３０Ａは、シリンダ本体１３１の軸芯上に回転伝達部材１３３が設けられている。

【０１３６】

続いて、本実施形態のシリンダ錠１３０の作動について説明する。従来のシリンダ錠１３０は、図３４（ｃ）及び（ｄ）に示すように、シリンダ本体１３１の軸芯上に回転伝達部材１３３が設けられているのに対して、本実施形態のシリンダ錠１３０は、図３４（ａ）及び（ｂ）等に示すように、シリンダ本体１３１の軸芯から下方へ離隔した位置に回転伝達部材１３３が設けられている。

【０１３７】

このシリンダ錠１３０は、通常の状態では、図３６（ａ）に示すように、第一アーム１３６の上下両端側が、第一カム部材１３４及び第二カム部材１３５の夫々において、夫々の回転中心の右方の部位に取付けられていると共に、第二アーム１３７の上下両端側が、第一カム部材１３４及び第二カム部材１３５の夫々において、夫々の回転中心の下方の部位に取付けられている。シリンダ本体１３１では、正規の鍵によって、通常の状態から、時計回りの方向、及び反時計回りの方向へ、夫々９０度の角度で回転することができる。

【０１３８】

この状態で、鍵穴１３２に挿入した鍵により、シリンダ本体１３１のシリンダを介して

第一カム部材１３４を反時計回りの方向へ回転させると、第一アーム１３６及び第二アーム１３７が上方へ移動することとなる。この際に、第一アーム１３６では、上端側が第一カム部材１３４の回転中心の右方に取付けられているため、第一アーム１３６により第二カム部材１３５を反時計回りの方向へ回転させようとする力が大きく作用するのに対して、第二アーム１３７では、上端側が第一カム部材１３４の回転中心の下方に取付けられているため、第二アーム１３７からは第二カム部材１３５を反時計回りの方向へ回転させようとする力が殆ど作用しない。

【０１３９】

このようにして、第一カム部材１３４が、通常の状態から反時計回りの方向へ回転すると、主に第一アーム１３６を介して力が伝達されて、第二カム部材１３５が反時計回りの方向へ回転し、第二カム部材１３５と一緒に回転伝達部材１３３が回転することとなる。この第一カム部材１３４の反時計回りの方向への回転により上方へ作用する力は、第一アーム１３６及び第二アーム１３７が第一カム部材１３４に取付けられている部位と、第一カム部材１３４の回転中心との間の左右方向の距離に比例している。そのため、第一カム部材１３４が、通常の状態から反時計回りの方向へ回転するのに従って、第一アーム１３６では上方へ作用する力が小さくなるのに対して、第二アーム１３７では上方へ作用する力が大きくなる。

【０１４０】

従って、第一カム部材１３４が、通常の状態から反時計回りの方向への回転角度が４５度を越えると、第一アーム１３６よりも第二アーム１３７の方が上方へ作用する力が大きくなり、主に第二アーム１３７を介して、第二カム部材１３５が反時計回りの方向へ回転することとなる。そして、鍵穴１３２に挿入した鍵を、通常の状態から、反時計回りの方向へ９０度の角度まで回転させることができる（図３６（ｂ）を参照）。

【０１４１】

なお、鍵により、通常の状態から反時計回りの方向へ９０度回転させた状態から、時計回りの方向へ９０度回転させて通常の状態に復帰させる際には、上記とは逆の作用により動作することとなる。

【０１４２】

一方、通常の状態から、鍵穴１３２に挿入した鍵により、シリンダ本体１３１のシリンダを介して第一カム部材１３４を時計回りの方向へ回転させると、上端側が第一カム部材１３４の回転中心の右方に取付けられている第一アーム１３６が下方へ移動すると共に、上端側が第一カム部材１３４の回転中心の下方に取付けられている第二アーム１３７が上方へ移動することとなる。この際に、第一アーム１３６では、上端側が第一カム部材１３４の回転中心の右方に取付けられているため、第一アーム１３６により第二カム部材１３５を時計回りの方向へ回転させようとする力が大きく作用するのに対して、第二アーム１３７では、上端側が第一カム部材１３４の回転中心の下方に取付けられているため、第二アーム１３７からは第二カム部材１３５を時計回りの方向へ回転させようとする力が殆ど作用しない。

【０１４３】

このようにして、第一カム部材１３４が、通常の状態から時計回りの方向へ回転すると、主に第一アーム１３６を介して力が伝達されて、第二カム部材１３５が時計回りの方向へ回転し、第二カム部材１３５と一緒に回転伝達部材１３３が回転することとなる。第一アーム１３６及び第二アーム１３７による第一カム部材１３４の回転を第二カム部材１３５に伝達する力は、第一アーム１３６及び第二アーム１３７が第一カム部材１３４に取付けられている部位と、第一カム部材１３４の回転中心との間の左右方向の距離に比例している。そのため、第一カム部材１３４が、通常の状態から時計回りの方向へ回転するのに従って、第一アーム１３６では第二カム部材１３５を回転させようとする力が小さくなるのに対して、第二アーム１３７では第二カム部材１３５を回転させようとする力が大きくなる。

【０１４４】

従って、第一カム部材１３４が、通常の状態から時計回りの方向への回転角度が４５度を越えると、第一アーム１３６よりも第二アーム１３７の方が第二カム部材１３５を回転させようとする力が大きくなり、主に第二アーム１３７を介して、第二カム部材１３５が時計回りの方向へ回転することとなる。そして、鍵穴１３２に挿入した鍵を、通常の状態から、時計回りの方向へ９０度の角度まで回転させることができる（図３６（ｃ）を参照）。

【０１４５】

なお、鍵により、通常の状態から時計回りの方向へ９０度回転させた状態から、時計回りの方向へ９０度回転させて通常の状態に復帰させる際には、上記とは逆の作用により動作することとなる。

【０１４６】

このように、本実施形態のシリンダ錠１３０によれば、第一カム部材１３４と第二カム部材１３５とを、互いに９０度の角度で位相させて取付けた第一アーム１３６と第二アーム１３７とで連結して、回転を伝達させるようにしているため、第一カム部材１３４（鍵穴１３２に挿入された鍵）がどの回転位置にあっても、第一アーム１３６及び第二アーム１３７の少なくとも一方により回転を伝達させて、第二カム部材１３５（回転伝達部材１３３）を回転させることができ、扉枠３や本体枠４の施錠や開錠を良好なものとすることができる。

【０１４７】

また、本実施形態のシリンダ錠１３０によれば、回転伝達機構としての第一アーム１３６及び第二アーム１３７により回転を伝達させることで、シリンダ本体１３１の軸芯に対して、回転伝達部材１３３（本体枠４における施錠ユニット６５０の伝達シリンダ６５４）の軸芯を、異なる位置に設けることができるため、施錠ユニット６５０を変更しなくても、扉枠３におけるシリンダ本体１３１の位置を任意の位置に変更することが可能となり、扉枠３の装飾の邪魔にならない部位にシリンダ本体１３１（鍵穴１３２）を設けることができ、扉枠３の装飾性の高いパチンコ機１を提供することができる。

【０１４８】

また、上述したように、扉枠３においてシリンダ本体１３１の位置を変更しても、本体枠４における施錠ユニット６５０を変更する必要がないため、施錠ユニット６５０を流用することができ、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。

【０１４９】

ところで、従来のシリンダ錠１３０Ａでは、シリンダ本体１３１の後方に回転伝達部材１３３が設けられているため、当該構成を知見している不正行為者が、前方からシリンダ本体１３１の後方へ工具を挿入し、当該工具により回転伝達部材１３３を不正に回転させることで、扉枠３を開けて不正行為を行う恐れがある。これに対して、本実施形態のシリンダ錠１３０は、シリンダ本体１３１の軸芯（後方）から離れた位置に回転伝達部材１３３を設けていることから、シリンダ本体１３１の後方に工具を挿入して回転伝達部材１３３を回転させようとしても、当該部位に回転伝達部材１３３が存在していないため、回転伝達部材１３３を回転させることができず、扉枠３や本体枠４等を開けた不正行為が行われることを防止することができる。

【０１５０】

更に、シリンダ錠１３０において、第一アーム１３６に対して第二アーム１３７が、第一カム部材１３４及び第二カム部材１３５において９０度の回転角度で離間した部位同士を連結しているため、第一アーム１３６又は第二アーム１３７の一方の第一カム部材１３４及び第二カム部材１３５に取付けられている部位が、第一カム部材１３４の中心と第二カム部材１３５の中心とを結んだ直線上に位置しても、第一アーム１３６又は第二アーム１３７の他方が、第一カム部材１３４の中心と第二カム部材１３５の中心とを結んだ直線から最も離れた部位同士を連結している状態となる。従って、第一アーム１３６又は第二アーム１３７の一方が、第一カム部材１３４及び第二カム部材１３５の死点に位置することで、第一カム部材１３４からの回転を第二カム部材１３５へ伝達させることができなく

ても、第一アーム１３６又は第二アーム１３７の他方が、第一カム部材１３４からの回転を第二カム部材１３５へ伝達させることができるため、第一カム部材１３４の回転に大きな抵抗がかかることはなく、鍵穴１３２に挿入されている鍵を滑らかに回転させることができ、開錠・施錠を容易に行うことができると共に、鍵穴に挿入された鍵を無理に回転させられることを回避させることができ、鍵の破損を防止することができる。

【０１５１】

また、第一アーム１３６と第二アーム１３７の二つのアームで鍵穴１３２に挿入された鍵の回転を偏芯した位置に設けられている回転伝達部材１３３へ伝達させるようにしているため、何らかの理由により一方のアームが破損しても、残りのアームにより回転を伝達させることができ、信頼性の高いシリンダ錠１３０を有したパチンコ機１を提供することができる。

【０１５２】

また、滑らかな棒状（帯板状）の第一アーム１３６及び第二アーム１３７により、鍵穴１３２に挿入された鍵の回転を偏芯した位置に設けられている回転伝達部材１３３へ伝達させるようにしているため、ギアにより回転を伝達させるようにした場合では、工具の先端をギアの歯に引掛けることでギアが回転して回転伝達部材１３３が回転させられてしまう恐れがあるが、第一アーム１３６及び第二アーム１３７を表面が滑らかな棒状としていることで、工具の先端を第一アーム１３６や第二アーム１３７に引っ掛かり難くすることができ、第一アーム１３６や第二アーム１３７が動かされることで回転伝達部材１３３が回転させられてしまうことを回避させることができ、施錠ユニット６５０が不正に操作されて扉枠３や本体枠４が開錠させられてしまうことを確実に防止することができる。

【０１５３】

なお、本実施形態のシリンダ錠１３０では、第一カム部材１３４の回転を第二カム部材１３５へ伝達させる回転伝達機構として、第一アーム１３６と第二アーム１３７とを用いたものを示したが、これに限定するものではなく、例えば、複数の歯車を用いた回転伝達機構、歯車とラックギアを用いた回転伝達機構、スプロケットとチェーンを用いた回転伝達機構、プーリとベルトを用いた回転伝達機構、等としても良い。

【０１５４】

［３－１ｉ．球送給ユニット］

扉枠ベースユニット１００の球送給ユニット１４０について、主に図３７及び図３８を参照して詳細に説明する。図３７（ａ）は扉枠ベースユニットの球送給ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は球送給ユニットを後ろから見た斜視図である。図３８（ａ）は球送給ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は球送給ユニットの後ケースと不正防止部材を外して後から見た分解斜視図である。球送給ユニット１４０は、皿ユニット２００の上皿２０１から供給される遊技球Ｂを一つずつ本体枠４の球発射装置５４０へ供給することができると共に、上皿２０１内に貯留された遊技球Ｂを、上皿球抜ボタン２２２の操作によって下皿２０２へ抜くことができるものである。

【０１５５】

球送給ユニット１４０は、皿ユニット２００の上皿２０１から遊技球Ｂが供給され前後方向に貫通している進入口１４１ａ、及び進入口１４１ａの下側に開口する球抜口１４１ｂを有し後方が開放された箱状の前カバー１４１と、前カバー１４１の後端を閉鎖すると共に前方が開放された箱状で、前後方向に貫通している前カバー１４１の進入口１４１ａから進入した遊技球Ｂを球発射装置５４０へ供給するための打球供給口１４２ａを有した後カバー１４２と、後カバー１４２及び前カバー１４１の間で前後方向へ延びた軸周りに回動可能に軸支され前カバー１４１の後側で進入口１４１ａと球抜口１４１ｂとの間を仕切る仕切部１４３ａを有した球抜部材１４３と、球抜部材１４３の仕切部１４３ａ上の遊技球Ｂを一つずつ後カバー１４２の打球供給口１４２ａへ送り、前カバー１４１と後カバー１４２との間で上下方向へ延びた軸周りに回動可能に支持された球送給部材１４４と、球送給部材１４４を回動させる球送給ソレノイド１４５と、を備えている。

【０１５６】

この球送給ユニット１４０は、図示するように、正面視で、球送給部材１４４が進入口１４１ａの右側に配置されており、球送給部材１４４の左側に球抜部材１４３が、球送給部材１４４の右側に球送給ソレノイド１４５が夫々配置されている。

【０１５７】

球送給ユニット１４０の前カバー１４１は、正面視で球抜口１４１ｂの左側に、球抜部材１４３の回転中心に対して同心円状に形成された円弧状のスリット１４１ｃを備えており、このスリット１４１ｃから後述する球抜部材１４３の作動棹１４３ｃが前方へ延びだすようになっている。また、前カバー１４１は、進入口１４１ａの上縁から上側が上方へ延びだしており、扉枠３を組立てた際に、上皿球抜後ユニット２４０における後ベース２４１の球送給誘導路２４１ｂ及び球抜誘導路２４１ｃの上流端側の後方へ開放されている部位を後側から閉鎖するように形成されている。

【０１５８】

球抜部材１４３は、進入口１４１ａよりも下側で進入口１４１ａと球抜口１４１ｂとの間を仕切り上面が球送給部材１４４の方向へ向かって低くなる仕切部１４３ａと、仕切部１４３ａの球送給部材１４４とは反対側の端部から下方へ延出すると共に上下方向の中間付近から球抜口１４１ｂの下側中央へ向かってく字状に屈曲し下端が前後方向へ延びた軸周りに回動可能に支持される回動棹部１４３ｂと、回動棹部１４３ｂの上端から前方へ向かって突出する棒状の作動棹１４３ｃと、作動棹１４３ｃよりも下側で回動棹部１４３ｂの側面から仕切部１４３ａとは反対側へ突出した錘部１４３ｄと、を備えている。球抜部材１４３の作動棹１４３ｃは、前カバー１４１に形成された円弧状のスリット１４１ｃを通して前方へ突出するように形成されている（図３７（ａ）を参照）。作動棹１４３ｃは、扉枠ベース１０１の球送給開口１０１ｅを介して皿ユニット２００の上皿球抜ボタン２２２の押圧操作によって下方へ移動する上皿球抜スライダ２４２の作動伝達部２４２ｂの上端（上面）と当接する。

【０１５９】

球送給部材１４４は、進入口１４１ａ及び球抜部材１４３の仕切部１４３ａの方を向き上下方向へ延びた回転軸芯を中心とした平面視が扇状の遮断部１４４ａと、遮断部１４４ａの後端から回転軸芯側へ円弧状に窪んだ球保持部１４４ｂと、球保持部１４４ｂの後端から下方へ延出する棒状の棹部１４４ｃと、を備えている。球送給部材１４４における遮断部１４４ａと球保持部１４４ｂは、夫々回転軸芯を中心とした約１８０°の角度範囲内に隣接して形成されている。また、球送給部材１４４の球保持部１４４ｂは、一つの遊技球Ｂを保持可能な大きさとされている。球送給部材１４４は、球送給ソレノイド１４５の駆動によって回転軸芯と偏芯した位置に配置された棹部１４４ｃが左右方向へ移動させられることで、回転軸芯周りに回動する。

【０１６０】

この球送給部材１４４は、遮断部１４４ａが仕切部１４３ａの方向を向くと同時に球保持部１４４ｂが打球供給口１４２ａと連通した方向を向いた供給位置と、球保持部１４４ｂが仕切部１４３ａの方向へ向いた保持位置との間で回動するようになっている。球送給部材１４４が供給位置の時には、球保持部１４４ｂに保持された遊技球Ｂが、打球供給口１４２ａから球発射装置５４０へ供給されると共に、進入口１４１ａから仕切部１４３ａ上に進入した遊技球Ｂが、遮断部１４４ａによって球保持部１４４ｂ（打球供給口１４２ａ）側への移動が遮断されて仕切部１４３ａ上に留まった状態となる。一方、球送給部材１４４が保持位置へ回動すると、球保持部１４４ｂが仕切部１４３ａの方向を向くと共に、球保持部１４４ｂの棹部１４４ｃ側の端部が打球供給口１４２ａを閉鎖した状態となり、仕切部１４３ａ上の遊技球Ｂが一つだけ球保持部１４４ｂ内に保持される。

【０１６１】

また、球送給ユニット１４０は、球送給ソレノイド１４５の駆動（通電）によって先端が上下方向へ揺動する球送給作動棹１４６と、球送給作動棹１４６における上下方向へ揺動する先端の動きによって前後方向へ延びた軸周りに回動すると共に、球送給部材１４４を上下方向へ延びた軸周りに回動させる球送給クランク１４７と、を備えている。

【０１６２】
球送給作動棹１４６は、球送給ソレノイド１４５の下方の部位に鉄板１４６ａを備えている。球送給作動棹１４６は、左右に延びており、球送給クランク１４７とは反対側の端部（右端部）が前後に延びた軸周りに回転可能に前カバー１４１及び後カバー１４２に取付けられている。球送給作動棹１４６は、球送給ソレノイド１４５が駆動されると、発生する磁力によって鉄板１４６ａが球送給ソレノイド１４５の方（上方）へ引寄せられ、右端部を中心にして球送給クランク１４７に近い左端部側が上方へ移動するように回動する。その後、球送給ソレノイド１４５の駆動が解除されると、磁力が消滅することによって鉄板１４６ａの自重が作用して、右端部を中心にして球送給クランク１４７に近い左端部側が下方へ移動するように回動して初めの状態に復帰する。これにより、球送給作動棹１４６は、球送給ソレノイド１４５によって、球送給クランク１４７に近い左端部（先端）が上下方向に揺動することとなる。
【０１６３】
球送給クランク１４７は、球送給作動棹１４６の上下動する先端と係合可能とされ左右方向へ延びた係合部１４７ａと、係合部１４７ａの球送給作動棹１４６と係合する側とは反対側に配置され前カバー１４１と後カバー１４２との間で前後方向へ延びた軸周りに回動可能に軸支される軸部１４７ｂと、軸部１４７ｂから上方へ延出しており、球送給部材１４４における回動中心に対して偏芯した位置から下方へ突出する棒状の棹部１４４ｃ（図３８（ｂ）を参照）と係合する伝達部１４７ｃと、を備えている。
【０１６４】
この球送給ユニット１４０は、球送給ソレノイド１４５の駆動により球送給作動棹１４６の先端（左端）を上方へ移動させることで、球送給作動棹１４６を介して球送給クランク１４７を前後に延びた軸周りに回動させることができる。
【０１６５】
球送給ユニット１４０は、球送給ソレノイド１４５の非駆動時（通常時）では、球送給作動棹１４６が球送給ソレノイド１４５の下端から離れて先端が下方へ位置した状態となり、この状態では球送給部材１４４が供給位置に位置した状態となる。また、球送給ソレノイド１４５の駆動時では、球送給作動棹１４６が球送給ソレノイド１４５の下端に吸引されて先端（左端）が上方へ位置した状態となり、球送給部材１４４が保持位置へ回動する。つまり、球送給ソレノイド１４５が駆動される（ＯＮの状態）と、球送給部材１４４が遊技球Ｂを一つ受入れ、球送給ソレノイド１４５の駆動が解除される（ＯＦＦの状態）と、球送給部材１４４が受入れた遊技球Ｂを球発射装置５４０側へ送る（供給する）ことができる。この球送給ユニット１４０における球送給ソレノイド１４５の駆動は、払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂ（図１６９を参照）により発射ソレノイド５４２の駆動制御と同期して制御される。
【０１６６】
また、球送給ユニット１４０は、回動可能に軸支されている球抜部材１４３か、錘部１４３ｄによって正面視反時計周りの方向へ回転するようなモーメントがかかるようになっている。しかしながら、球抜部材１４３の前方へ突出している作動棹１４３ｃが、皿ユニット２００の上皿球抜ボタン２２２の押圧操作によって動作する上皿球抜スライダ２４２の作動伝達部２４２ｂの上端と当接することで、その回動が規制されているため、通常の状態では、球抜部材１４３の仕切部１４３ａが進入口１４１ａと球抜口１４１ｂとの間に位置して仕切っており、球抜口１４１ｂ側へ遊技球Ｂが侵入することはない。
【０１６７】
そして、遊技者が、皿ユニット２００の上皿球抜ボタン２２２を下方へ押圧操作すると、上皿球抜スライダ２４２が作動伝達部２４２ｂと共に下方へスライドし、作動伝達部２４２ｂの下方への移動に伴って作動棹１４３ｃも相対的に下方へ移動することとなる。作動伝達部２４２ｂと共に作動棹１４３ｃが下方へ移動すると、球抜部材１４３が正面視反時計周りの方向へ回動し、仕切部１４３ａが進入口１４１ａと球抜口１４１ｂとの間から移動して仕切りが解除される。これにより、進入口１４１ａから進入した遊技球Ｂが、球

抜口１４１ｂ側へ落下し、球抜口１４１ｂから皿ユニット２００における上皿球抜後ユニット２４０の球抜誘導路２４１ｃへと排出され、下皿球供給口２１１ｃを介して下皿２０２へ排出（供給）させることができる。

【０１６８】

なお、球抜部材１４３の作動棹１４３ｃが当接する作動伝達部２４２ｂが形成されている上皿球抜スライダ２４２は、バネによって上方へ付勢されているので、仕切部１４３ａ上に遊技球Ｂが勢い良く供給されても、その衝撃を、作動棹１４３ｃを介してバネによって吸収させることができ、球抜部材１４３等が破損するのを防止することができると共に、遊技球Ｂが仕切部１４３ａで跳ね返るのを防止することができる。

【０１６９】

また、球送給ユニット１４０は、後カバー１４２における打球供給口１４２ａの背面視で右上に前方へ窪んだ矩形状の取付凹部１４２ｂ（図３８（ｂ）等を参照）が形成されていると共に、その取付凹部１４２ｂ内に不正防止部材１４８が取付けられている。球送給ユニット１４０の不正防止部材１４８は、工具鋼やステンレス等の硬質の金属板により形成されており、後カバー１４２の取付凹部１４２ｂ内に対して後側から脱着可能に取付けられている。

【０１７０】

不正防止部材１４８は、正面視の外形が左右に延びた長方形状に形成されており、右辺から左方へ所定距離の間において、上下方向略中央で上下に分離している上片部１４８ａ及び下片部１４８ｂと、上片部１４８ａ及び下片部１４８ｂの互いに対向している辺の先端側（正面視右端側）でＣ面取り状に夫々形成されている傾斜部１４８ｃと、を備えている。不正防止部材１４８の上片部１４８ａは、不正防止部材１４８の一般面に対して、正面視右端が後方へ突出するように屈曲させられている。下片部１４８ｂは、不正防止部材１４８の一般面と同一面上に延びている。これにより、平面視において、上片部１４８ａと下片部１４８ｂとによって、右方に向かうに従って広がるＶ字状の溝を形成している。

【０１７１】

不正防止部材１４８は、後カバー１４２の取付凹部１４２ｂに取付けられることで、上片部１４８ａと下片部１４８ｂとで形成されるＶ字状の溝が、打球供給口１４２ａ内と連通した状態となる。

【０１７２】

この不正防止部材１４８によれば、紐を取付けた不正な遊技球Ｂを、上皿から球送給ユニット１４０を介して球発射装置５４０により遊技領域５ａ内に打込み、不正な遊技球Ｂに取付けられた紐を操作して、不正な遊技球Ｂを第一始動口２００２等に出し入れさせるような不正行為が行われる際に、球発射装置５４０により発射（打球）された不正な遊技球Ｂの勢いによって、不正な遊技球Ｂに取付けられた紐を、上片部１４８ａと下片部１４８ｂとの間に挿入させた上で、上片部１４８ａと下片部１４８ｂとによって形成されたＶ字状の狭くなった部位により切断させることができ、紐を取付けた不正な遊技球Ｂを用いた不正行為が行われるのを防止することができる。

【０１７３】

［３－１ｊ．ファールカバーユニット］

扉枠ベースユニット１００のファールカバーユニット１５０について、主に図３９及び図４０を参照して詳細に説明する。図３９（ａ）は扉枠ベースユニットのファールカバーユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）はファールカバーユニットを後ろから見た斜視図である。また、図４０は、蓋部材を外した状態のファールカバーユニットの正面図である。ファールカバーユニット１５０は、扉枠ベース１０１の後側の下部における背面視右側に取付けられている。ファールカバーユニット１５０は、球発射装置５４０により発射されて遊技盤５の遊技領域５ａ内に到達しなかった遊技球Ｂ（ファール球）を、下皿２０２に誘導すると共に、払出装置５８０から払出された遊技球Ｂを、上皿２０１又は下皿２０２に誘導するためのものである。ファールカバーユニット１５０は、図示するように、扉枠ベース１０１の後側に取付けられ前側が開放された浅い箱状のユニット本体１５１

と、ユニット本体１５１の前面に取付けられている平板状の蓋部材１５２と、を備えている。

【０１７４】

ファールカバーユニット１５０は、正面視左上隅において前後に貫通しており本体枠４の下部満タン球経路ユニット６１０の下部通常払出通路６１０ａと皿ユニット２００の上皿球供給口２１１ａとを連通させる貫通球通路１５０ａと、貫通球通路１５０ａの正面視右下側で後方へ向かって開口しており本体枠４の下部満タン球経路ユニット６１０の下部満タン払出通路６１０ｂと連通可能な満タン球受口１５０ｂと、を備えている。

【０１７５】

また、ファールカバーユニット１５０は、満タン球受口１５０ｂの正面視右側で上方へ向かって開口しており本体枠４の球発射装置５４０により発射されにも関わらず遊技領域５ａ内へ到達しなかった遊技球Ｂ（ファール球）を受けるファール球受口１５０ｃと、正面視右下隅付近で前方へ向かって開口しており満タン球受口１５０ｂ及びファール球受口１５０ｃに受入れられた遊技球Ｂを前方へ放出すると共に皿ユニット２００の下皿球供給口２１１ｃと連通する球放出口１５０ｄと、を備えている。

【０１７６】

更に、ファールカバーユニット１５０は、ユニット本体１５１及び蓋部材１５２によって、満タン球受口１５０ｂ及びファール球受口１５０ｃと球放出口１５０ｄとの間に形成されており所定量の遊技球Ｂを貯留可能な広さを有している貯留通路１５０ｅを、備えている。

【０１７７】

貫通球通路１５０ａは、ユニット本体１５１と蓋部材１５２の両方に跨って形成されている。満タン球受口１５０ｂ及びファール球受口１５０ｃは、ユニット本体１５１に形成されている。球放出口１５０ｄは、蓋部材１５２に形成されている。貯留通路１５０ｅは、ユニット本体１５１と蓋部材１５２とで形成されている。

【０１７８】

また、ファールカバーユニット１５０は、貯留通路１５０ｅの内壁の一部を構成しており下端が回動可能にユニット本体１５１及び蓋部材１５２に取付けられている平板状の可動片１５３と、可動片１５３の貯留通路１５０ｅから遠ざかる方向への回動を検知する満タン検知センサ１５４と、可動片１５３を貯留通路１５０ｅ側へ付勢しているバネ１５５と、を備えている。

【０１７９】

このファールカバーユニット１５０は、皿ユニット２００の下皿２０２内が遊技球Ｂで一杯になって、球放出口１５０ｄから遊技球Ｂが下皿２０２側へ放出されなくなると、貯留通路１５０ｅ内にある程度の数の遊技球Ｂを貯留することができる。そして、貯留通路１５０ｅ内にある程度の数の遊技球Ｂが貯留されると、遊技球Ｂの重さによって可動片１５３の上端がバネ１５５の付勢力に抗して貯留通路１５０ｅから遠ざかる方向へ移動するように可動片１５３が回動し、その回動が満タン検知センサ１５４によって検知される。これにより、下皿２０２が遊技球Ｂで満タンになっていると判断することができるため、満タン検知センサ１５４により満タンが検知されると、これ以上の遊技球Ｂの払出しを停止させると共に、その旨を遊技者や遊技ホールの係員等に報知して、下皿２０２の満タンを解消させるように促すことができる。

【０１８０】

また、ファールカバーユニット１５０は、ユニット本体１５１の後側で貫通球通路１５０ａの下側に取付けられており、本体枠４の後述する払出ユニット５６０における下部満タン球経路ユニット６１０の払出通路開閉扉６１３の作動突部６１３ａが当接可能な扉開閉当接部１５０ｆを備えている（図９０を参照）。扉開閉当接部１５０ｆは、後面が下方へ向かうに従って前方へ移動するように傾斜している。この扉開閉当接部１５０ｆに払出通路開閉扉６１３の作動突部６１３ａが当接することで、払出通路開閉扉６１３を回動させて下部通常払出通路６１０ａ及び下部満タン払出通路６１０ｂの下流端（前側開口）を

開放させることができる。
【０１８１】
［３－２．ガラスユニット］
扉枠３におけるガラスユニット１６０について、主に図２９及び図３０等を参照して詳細に説明する。ガラスユニット１６０は、扉枠ベースユニット１００における扉枠ベース１０１の扉窓１０１ａを閉鎖するように、後方からガラスユニット取付部１０１ｈ内に挿入されて着脱可能に取付けられている。このガラスユニット１６０は、扉枠３を本体枠４に対して閉めた時に、本体枠４に取付けられている遊技盤５の遊技領域５ａを遊技者側（前方）から視認可能とすると共に、遊技領域５ａの前方を閉鎖するものである。
【０１８２】
ガラスユニット１６０は、扉枠ベース１０１の扉窓１０１ａの内周形状よりも大きくガラスユニット取付部１０１ｈに取付可能な枠状のガラス枠１６１と、ガラス枠１６１の枠内を閉鎖し外周がガラス枠１６１に取付けられている透明な二つのガラス板１６２と、扉枠ベースユニット１００における扉枠ベース１０１の後側に回転可能に取付けられガラス枠１６１を扉枠ベース１０１に取付けるための一対のガラスユニット取付部材１６３と、を備えている。
【０１８３】
ガラス枠１６１は、正面視左右上隅よりも下側の位置から外方へ平板状に延出している一対の取付片１６１ａと、下端から下方へ突出していると共に下辺に沿って延びている帯板状の係止片１６１ｂと、を有している。ガラス枠１６１の取付片１６１ａは、ガラスユニット取付部材１６３の突出部１６３ｂと当接可能とされている。係止片１６１ｂは、扉枠ベース１０１と扉枠補強ユニット１１０の中間補強フレーム１１４との間の空間内に挿入可能とされている（図９６を参照）。二つのガラス板１６２は、ガラス枠１６１の前端側と後端側とに夫々取付けられており、互いの間に空間が形成されるように前後に離間している（図９６を参照）。
【０１８４】
ガラスユニット取付部材１６３は、扉枠ベース１０１の後側で前後に延びた軸線周りに対して回転可能に取付けられる円盤状の基部１６３ａと、基部１６３ａから回転軸線に対して直角方向へ棒状に突出している突出部１６３ｂと、を有している。ガラスユニット取付部材１６３は、扉枠ベース１０１の後面における扉窓１０１ａの四隅のうち上側の二つの隅の外側に、夫々回転可能に取付けられる。
【０１８５】
ガラスユニット１６０を扉枠ベース１０１に取付けるには、まず、扉枠ベース１０１に取付けられているガラスユニット取付部材１６３を、突出部１６３ｂが基部１６３ａよりも上方に位置するように回転させた状態とする。そして、扉枠ベース１０１の後側から、ガラスユニット１６０のガラス枠１６１の係止片１６１ｂを、扉枠ベース１０１と扉枠補強ユニット１１０の中間補強フレーム１１４との間の隙間に上方から挿入した上で、ガラス枠１６１の前端を扉枠ベース１０１のガラスユニット取付部１０１ｈの後面に当接させる。その後、ガラスユニット取付部材１６３を、突出部１６３ｂが基部１６３ａよりも下方に位置するように回転させて、突出部１６３ｂをガラス枠１６１の取付片１６１ａの後面と当接させる。これにより、ガラスユニット１６０が扉枠ベース１０１に取付けられる。
【０１８６】
ガラスユニット１６０を扉枠ベース１０１から取外す場合は、上記と逆の手順により、取外すことができる。これにより、ガラスユニット１６０は、扉枠ベース１０１（扉枠ベースユニット１００）に対して着脱可能となっている。
【０１８７】
なお、ガラスユニット１６０では、ガラスユニット取付部材１６３の突出部１６３ｂが、基部１６３ａよりも下方に位置している回転位置の時に、突出部１６３ｂによりガラス枠１６１の後方への移動を規制しているため、ガラスユニット取付部材１６３に振動等が

作用しても、突出部１６３ｂが基部１６３ａよりも上方となるように位置へ回転することはない。従って、ガラス枠１６１の後方への移動の規制が自然に解除されることはなく、ガラスユニット１６０が扉枠ベース１０１から自然に外れることはない。

【０１８８】

［３－３．防犯カバー］

扉枠３における防犯カバー１７０について、主に図２９及び図３０等を参照して詳細に説明する。防犯カバー１７０は、ガラスユニット１６０の後面下部を覆うように扉枠ベースユニット１００の後側に取付けられ、透明な合成樹脂により形成されている。防犯カバー１７０は、外周が所定形状に形成された平板状の本体部１７１と、本体部１７１の外周縁に沿って後方へ短く突出した平板状の後方突片１７２と、左右に離間して配置され本体部１７１よりも前方に突出し、扉枠ベース１０１の後側に係止可能とされている一対の係止片１７３と、を備えている。

【０１８９】

防犯カバー１７０の本体部１７１は、扉枠ベースユニット１００に取付けた状態で下端がガラスユニット１６０の下端よりも下方へ突出するように形成されている。また、本体部１７１は、上端が、パチンコ機１に組立てた状態で、遊技盤５における遊技領域５ａの下端に沿った形状に形成されている。詳述すると、本体部１７１の上端は、後述する前構成部材１０００の内レール１００２の一部、アウト誘導部１００３、右下レール１００４の一部、及び右レール１００５に沿った形状に形成されており、パチンコ機１に組立てた状態で遊技領域５ａ内に突出しないように形成されている。

【０１９０】

後方突片１７２は、本体部１７１の外周縁の略全周に亘って形成されている。従って、防犯カバー１７０は、本体部１７１と後方突片１７２とによって、後方へ開放された浅い箱状に形成されており、強度・剛性が高くなっている。また、後方突片１７２は、本体部１７１の外周縁とは異なる本体部１７１の後面の一部からも後方に突出している。この本体部１７１の後面の一部から後方に突出している後方突片１７２は、パチンコ機１に組立てた状態で遊技盤５の前構成部材１０００における外レール１００１の一部と沿うように形成されている。

【０１９１】

なお、後方突片１７２は、パチンコ機１に組立てた状態で、遊技盤５における外レール１００１と内レール１００２との間に位置する部位には形成されていない。これにより、外レール１００１と内レール１００２との間を通る遊技球Ｂ（球発射装置５４０により発射された遊技球Ｂ）が、防犯カバー１７０の後方突片１７２に当接することはなく、遊技領域５ａ内への遊技球Ｂの打込みを阻害することはない。

【０１９２】

一対の係止片１７３は、扉枠ベースユニット１００（スピーカダクト１０３及びケーブルカバー１０９）の後側に弾性係止される。これにより、防犯カバー１７０は、扉枠ベースユニット１００に対して容易に着脱することができる。

【０１９３】

防犯カバー１７０は、パチンコ機１に組立てた状態で、本体部１７１の前面がガラスユニット１６０の後面（ガラス枠１６１の後端）と当接し、本体部１７１の下辺から後方へ突出している部位を除いた後方突片１７２が、前構成部材１０００の防犯凹部１００９内に挿入された状態となる。また、防犯カバー１７０は、本体部１７１の下辺から後方に突出している後方突片１７２が、前構成部材１０００の下面と接するように前構成部材１０００の前面よりも後方へ突出している状態となる。これにより、防犯カバー１７０と遊技盤５（前構成部材１０００）との間が、防犯カバー１７０の後方突片１７２と前構成部材１０００の防犯凹部１００９とによって複雑に屈曲した状態となるため、遊技盤５の前面下方より防犯カバー１７０と前構成部材１０００との間を通してピアノ線等の不正な工具を遊技領域５ａ内に侵入させようとしても、後方突片１７２や防犯凹部１００９に阻まれることとなり、遊技領域５ａ内への不正な工具の侵入を阻止することができる。

【０１９４】
［３－４．ハンドルユニット及びハンドルカバーユニット］
扉枠３におけるハンドルユニット１８０及びハンドルカバーユニット２９０について、主に図４１乃至図４７等を参照して詳細に説明する。図４１（ａ）は扉枠におけるハンドルユニット及びハンドルカバーユニットの部位を示す拡大正面図であり、（ｂ）は扉枠におけるハンドルユニット及びハンドルカバーユニットの部位を示す拡大斜視図である。図４２はハンドルカバーユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図４３はハンドルカバーユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図４４はハンドルユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図４５はハンドルユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図４６は、図４１（ａ）におけるイ－イ線で切断した断面図である。図４７は、図１におけるア－ア線で切断した断面図である。なお、図４６では、外枠２及び本体枠４を省略した扉枠３のみの断面図としている。
【０１９５】
本実施形態のハンドルユニット１８０は、外周を覆うハンドルカバーユニット２９０と一緒に、扉枠ベースユニット１００及び皿ユニット２００に取付けられ、遊技者が操作することで、上皿２０１内の遊技球Ｂを遊技盤５の遊技領域５ａ内に打込むことができるものである。
【０１９６】
まず、ハンドルユニット１８０について説明する。ハンドルユニット１８０は、後述するハンドルカバーユニット２９０のハンドルカバーベース２９１を介して後端が扉枠ベース１０１のハンドル取付座面１０１ｂに取付けられるハンドルベース１８１と、ハンドルベース１８１の前端に回転可能に取付けられるハンドル１９５と、ハンドル１９５の後側に取付けられ後述するハンドルカバーベース２９１に案内される複数のハンドルガイド１９６と、ハンドル１９５の前端側の中央を覆うようにハンドルベース１８１に取付けられる円盤状のカバー台座１８３と、カバー台座１８３の前側に取付けられており前面に複数のＬＥＤ１８４ａが実装されているハンドル装飾基板１８４と、ハンドル装飾基板１８４の前側を覆うようにカバー台座１８３に取付けられているハンドル前レンズ１８５と、を備えている。
【０１９７】
また、ハンドルユニット１８０は、ハンドル１９５の後側でハンドルベース１８１の前面に取付けられるインナーベース１８６と、前端にハンドル１９５が取付けられると共にインナーベース１８６とハンドルベース１８１とによって回転可能に取付けられ外周に駆動ギア部１８７ａを有している軸部材１８７と、軸部材１８７の駆動ギア部１８７ａと噛合している伝達ギア１８８と、伝達ギア１８８と一体回転する検知軸１８９ａを有しハンドルベース１８１とインナーベース１８６との間に挟持されているハンドル回転検知センサ１８９と、を備えている。
【０１９８】
更に、ハンドルユニット１８０は、一端側がハンドルベース１８１に取付けられると共に他端側がハンドル１９５に取付けられハンドル１９５を初期回転位置（正面視で反時計周りの方向への回転端）へ復帰させるように付勢しているハンドル復帰バネ１９０と、一端側がインナーベース１８６に取付けられると共に他端側が伝達ギア１８８に取付けられ伝達ギア１８８を介してハンドル回転検知センサ１８９の検知軸１８９ａを正面視で時計回りの方向へ付勢している補助バネ１９１と、を備えている。
【０１９９】
また、ハンドルユニット１８０は、インナーベース１８６の後方でハンドルベース１８１に取付けられているハンドルタッチセンサ１９２と、先端側がハンドルベース１８１の前端外周面の正面視おける左側から外方に突出していると共に基端側がインナーベース１８６の後方でハンドルベース１８１に前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられている単発ボタン１９３と、単発ボタン１９３の押圧操作を検知しハンドルベース１８１に取付けられている単発ボタン操作センサ１９４と、を備えている。

【０２００】
ハンドルユニット１８０のハンドルベース１８１は、前後に延びた円筒状の基部１８１ａと、基部１８１ａの前端から半径方向へ突出している円盤状の前端部１８１ｂと、円筒状の基部１８１ａの外周面から窪んでいると共に軸方向に延びており周方向へ不等間隔で三つ形成されている溝部１８１ｃと、を備えている。ハンドルベース１８１の基部１８１ａは、外径がハンドルカバーユニット２９０におけるハンドルカバーベース２９１の後筒部２９１ｃの内径よりも若干小さく形成されている。また、三つの溝部１８１ｃは、後述するハンドルカバーベース２９１の三つの突条２９１ｄと対応した位置に形成されている。従って、三つの溝部１８１ｃを三つの突条２９１ｄと一致させた状態で、基部１８１ａをハンドルカバーベース２９１の後筒部２９１ｃ内に挿入させることができると共に、三つの溝部１８１ｃ内に夫々突条２９１ｄが挿入されることで、ハンドルベース１８１がハンドルカバーベース２９１に対して相対回転不能な状態となる。
【０２０１】
ハンドル１９５は、円盤状の中央ハブ部１９５ａと、中央ハブ部１９５ａから周方向へ間隔をあけて放射状に外方へ延出している複数（ここでは三つ）のスポーク部１９５ｂと、複数のスポーク部１９５ｂの先端同士を連結している円環状の外周リング部１９５ｃと、回転軸（軸部材１８７）を中心として円弧状に延びていると共に中央ハブ部１９５ａを前後方向に貫通している二つのスリット１９５ｄと、スリット１９５ｄよりも回転中心に対して内側の位置から後方に突出しておりハンドル復帰バネ１９０の他端側が係止される係止突起１９５ｅと、を備えている。中央ハブ部１９５ａの外径は、従来のパチンコ機のハンドル一般外周面の外径と略同じである。
【０２０２】
ハンドル１９５の三つのスポーク部１９５ｂは、ハンドル１９５がフリーの状態（回転させていない状態）で、中央ハブ部１９５ａから水平に左方へ延出した一つのスポーク部１９５ｂを中心として、時計回り及び反時計回りの方向へ夫々１２０度の角度の部位から二つのスポーク部１９５ｂが延出している。三つのスポーク部１９５ｂは、中央ハブ部１９５ａと外周リング部１９５ｃとの間に遊技者の指が挿入可能な隙間が形成されるような長さで延出している。
【０２０３】
ハンドル１９５の外周リング部１９５ｃは、中央ハブ部１９５ａの中心と同軸上に設けられている。外周リング部１９５ｃは、Ｕ字のアール側を前方へ向けた一定の断面形状で円環状に形成されている。
【０２０４】
このハンドル１９５は、全体が透光性を有するように形成されていると共に、部分的に中央ハブ部１９５ａから外周リング部１９５ｃまで電気的に連続したメッキ部が施されている。これにより、外周リング部１９５ｃのみに触れた状態でも、ハンドルタッチセンサ１９２によりハンドル１９５のタッチが検知されるようになっている。従って、外周リング部１９５ｃを回しても、遊技球Ｂを打込むことができる。
【０２０５】
ハンドルガイド１９６は、ハンドル１９５の中心側へ向かって開放されたコ字状のガイド部１９６ａと、ガイド部１９６ａの前端から中心側へ延出している平板状の取付ステー１９６ｂと、を有している。三つのハンドルガイド１９６は、ガイド部１９６ａがハンドル１９５における外周リング部１９５ｃの後方に位置するように、取付ステー１９６ｂがハンドル１９５のスポーク部１９５ｂの後側に取付けられる。ハンドルガイド１９６は、ガイド部１９６ａの内部に、後述するハンドルカバーベース２９１のガイド片２９１ｇが挿入されることで、前後方向への移動が規制される。
【０２０６】
カバー台座１８３は、ハンドル１９５における中央ハブ部１９５ａ外径よりも小径の円盤状に形成されており、後面から後方へ突出している三つの取付ボス１８３ａを備えている。三つの取付ボス１８３ａは、ハンドル１９５のスリット１９５ｄを前方から貫通して

ハンドルベース１８１の前面に取付けられる。カバー台座１８３の取付ボス１８３ａが、ハンドル１９５のスリット１９５ｄを貫通していることから、取付ボス１８３ａがスリット１９５ｄの周方向端部に当接することとなり、ハンドル１９５の回転角度を規制している。本例では、ハンドル１９５を、約１２０度の回転角度の範囲内で回転させることができる。

【０２０７】

ハンドル装飾基板１８４は、中心に１個と、中間の円周上に周方向へ一定の間隔をあけた３個と、外周に沿って周方向へ一定の間隔をあけた６個、の合計１０個のＬＥＤ１８４ａ（フルカラーＬＥＤ）が、三重の同心円状に実装されている。これらのＬＥＤ１８４ａは、中心の１個と、中間の３個と、及び、外周の左上の２個と、外周の右上の２個と、外周の下側の２個と、の５組に分けられている（図７２を参照）。このハンドル装飾基板１８４には、各ＬＥＤ１８４ａを発光させるための固有のアドレスを有した２４ビットのＬＥＤドライバ１８４ｂが実装されている。このＬＥＤドライバ１８４ｂは、最大で２４系統まで制御することができ、５組に分けられた１０個のＬＥＤ１８４ａを夫々フルカラーで発光できるように、１組に対して３系統の合計１５系統で制御するようにしている。

【０２０８】

このハンドル装飾基板１８４には、図示は省略するが、ＬＥＤ１８４ａ及びＬＥＤドライバ１８４ｂを駆動するための電力を供給する２本の電力線（１本はアース線）と、周辺制御基板１５１０からのコマンド及びアドレス等の信号を受信するための１本の制御信号線と、ＬＥＤドライバ１８４ｂを周辺制御基板１５１０と同期させるための１本のクロック線と、の４本の電線からなる配線ケーブルが接続されている。そして、このハンドル装飾基板１８４のＬＥＤドライバ１８４ｂでは、周辺制御基板１５１０（演出制御基板）から制御信号線を介して当該アドレス宛のコマンドを受信すると、そのコマンドに応じて、５組に分けられた１０個のＬＥＤ１８４ａを、各組毎に適宜の色と強さで発光させることができる。

【０２０９】

このように、このハンドル装飾基板１８４では、ＬＥＤドライバ１８４ｂを有していることから、接続される配線ケーブルを構成している電線の数よりも多い数のＬＥＤ１８４ａの発光を、個別（ここでは組毎）に制御することができるため、電線の数を低減させることができ、電気配線にかかる構成を簡略化することができる。

【０２１０】

ハンドル前レンズ１８５は、前面が前方へ丸く膨出しており、透光性を有している。ハンドル前レンズ１８５は、内部に、透明な部材で立体的に形成されたレンズ部材が備えられている。このハンドル前レンズ１８５は、ハンドル装飾基板１８４の前面のＬＥＤを適宜発光させることで、発光装飾させられる。

【０２１１】

ハンドル回転検知センサ１８９は、可変抵抗器とされており、ハンドル１９５を回転させると、軸部材１８７及び伝達ギア１８８を介してハンドル回転検知センサ１８９の検知軸１８９ａが回転する。この検知軸１８９ａの回転角度に応じてハンドル回転検知センサ１８９の内部抵抗が変化する。従って、ハンドル１９５を回転させてハンドル回転検知センサ１８９の内部抵抗を変化させると、その内部抵抗に応じて後述する球発射装置５４０における発射ソレノイド５４２の駆動力が変化することとなり、ハンドル１９５の回転角度に応じた強さで、遊技球Ｂを遊技領域５ａ内へ打込むことができる。

【０２１２】

ハンドルタッチセンサ１９２は、ハンドルユニット１８０に作用する静電気を検知するものであり、遊技者がハンドル１９５に接触することで、遊技者から作用する静電気を検知し、遊技者のハンドル１９５への接触を検出する。そして、ハンドルタッチセンサ１９２が遊技者の接触を検出している時に、ハンドル１９５を回動させると、ハンドル回転検知センサ１８９の検知が受付けられ、ハンドル１９５の回転角度に応じた強さで発射ソレノイド５４２の駆動が制御されて、遊技球Ｂを打込むことができる。

【０２１３】
従って、遊技者がハンドル１９５に触れずに、何らかの方法でハンドル１９５を回転させて遊技球Ｂを遊技領域５ａ内に打込もうとしても、ハンドルタッチセンサ１９２が遊技者の接触を検知していないことから、発射ソレノイド５４２は駆動されず、遊技球Ｂを打込むことができないようになっている。これにより、遊技者が本来とは異なる方法でハンドル１９５を回転させて遊技が行われるのを防止することができ、パチンコ機１を設置する遊技ホールに係る負荷（負担）を軽減させることができる。
【０２１４】
単発ボタン操作センサ１９４は、遊技者による単発ボタン１９３の押圧操作を検知するものである。この単発ボタン操作センサ１９４が単発ボタンの１９３の操作を検知すると、払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂによって発射ソレノイド５４２の駆動が停止させられる。従って、遊技者がハンドル１９５を回転操作中に単発ボタンの１９３を押圧操作すると、ハンドル１９５の回転操作を戻さなくても、遊技球Ｂの発射を一時的に停止させることができると共に、単発ボタン１９３の押圧操作を解除することで、単発ボタン１９３を操作する前の打込強さで再び遊技球Ｂを遊技領域５ａ内に打込むことができる。
【０２１５】
次に、ハンドルカバーユニット２９０について説明する。ハンドルカバーユニット２９０は、ハンドルユニット１８０におけるハンドル１９５よりも後側の外周を覆い、後端が扉枠ベース１０１のハンドル取付座面１０１ｂに取付けられるハンドルカバーベース２９１と、ハンドルカバーベース２９１の外周を覆い、後端が皿ユニット２００の皿ユニット本体２５２に取付けられるインナー２９２と、インナー２９２の前側に設けられており、前面に複数のＬＥＤ２９３ａが実装されている円環状のハンドルカバー装飾基板２９３と、ハンドルカバー装飾基板２９３を前方から覆っている円環状の基板カバー２９４と、インナー２９２の外周を覆い、後端が皿ユニット２００の皿ユニット本体２５２に取付けられるハンドルカバー２９５と、を備えている。
【０２１６】
ハンドルカバーベース２９１は、ハンドル１９５の外周リング部１９５ｃの内径と略同じ内径で前後に延びた筒状の前筒部２９１ａと、前筒部２９１ａの後端から前方へ向かうに従って内径が小さくなるように延びている中壁部２９１ｂと、中壁部２９１ｂを貫通しハンドルベース１８１の基部１８１ａを挿入可能な内径で前後に延びている筒状の後筒部２９１ｃと、後筒部２９１ｃの内周から内側へ突出していると共に前後に延びており、周方向におけるハンドルベース１８１の溝部１８１ｃと対応した位置に複数（ここでは三つ）設けられている突条２９１ｄと、を備えている。
【０２１７】
また、ハンドルカバーベース２９１は、前筒部２９１ａの外周の前端よりも後側の部位から外方へ延出しているフランジ部２９１ｅと、フランジ部２９１ｅの途中から前筒部２９１ａの前端と同じ位置まで前方へ突出している円筒状の外筒部２９１ｆと、前筒部２９１ａの前端とフランジ部２９１ｅとの間の部位において、前筒部２９１ａから外方へ突出しているガイド片２９１ｇと、前筒部２９１ａの下部において貫通している開口部２９１ｈと、を備えている。
【０２１８】
ハンドルカバーベース２９１の中壁部２９１ｂは、前筒部２９１ａの後端から前後方向の中央付近まで断面が外方へ膨らんだ円弧状に延びている。後筒部２９１ｃは、後端が扉枠ベース１０１のハンドル取付座面１０１ｂに取付けられる。この後筒部２９１ｃは、ハンドルベース１８１の基部１８１ａと同じ長さに形成されており、内部にハンドルベース１８１の基部１８１ａが挿入される。三つの突条２９１ｄは、ハンドルベース１８１の三つの溝部１８１ｃと対応しており、溝部１８１ｃ内に挿入されることで、ハンドルベース１８１を相対回転不能とすることができる。外筒部２９１ｆは、フランジ部２９１ｅの径方向の中央よりも外側の位置から前方へ延出している。このハンドルカバーベース２９１では、フランジ部２９１ｅの前面と外筒部２９１ｆの外周面とを繋ぐように三角形状のリ

ブが周方向へ複数設けられている。

【０２１９】

ガイド片２９１ｇは、前筒部２９１ａの外周と外筒部２９１ｆの内周との間の中央から前筒部２９１ａ寄りの位置まで、前筒部２９１ａの外周から突出している。ガイド片２９１ｇは、約１１０度の範囲の長さで周方向へ延びており、１０度の角度の間隔をあけて、周方向へ三つ設けられている。このガイド片２９１ｇ同士の間を通して、ハンドルユニット１８０におけるハンドルガイド１９６のガイド部１９６ａの後端側を、ガイド片２９１ｇよりも後方へ挿入してハンドル１９５を回転させることで、コ字状のガイド部１９６ａ内にガイド片２９１ｇを位置させて、ガイド部１９６ａ（ハンドル１９５）の前後方向への移動を規制することができる。

【０２２０】

開口部２９１ｈは、前後方向が前筒部２９１ａの後端からフランジ部２９１ｅ付近までの長さで、周方向が約９０度の角度の範囲の大きさで、前筒部２９１ａを貫通している。

【０２２１】

インナー２９２は、ハンドルカバーベース２９１の前筒部２９１ａの外径よりも若干大きい内径でフランジ部２９１ｅよりも大きい外径の円環状の基部２９２ａと、基部２９２ａの外周縁から後方へ延出している脚部２９２ｂと、脚部２９２ｂの後端から基部２９２ａ付近まで切欠かれており、周方向へ離隔して設けられている複数（ここでは四つ）の切欠部２９２ｃと、を有している。基部２９２ａは、前方からハンドルカバーベース２９１の前筒部２９１ａが挿入されて、フランジ部２９１ｅの後方に位置する。脚部２９２ｂは、外側へ膨らむような湾曲状に延出しており、後端が皿ユニット２００の皿ユニット本体２５２に取付けられる。切欠部２９２ｃは、脚部２９２ｂにおける上下の部位と左右の部位に夫々設けられている。

【０２２２】

ハンドルカバー装飾基板２９３は、ハンドルカバーベース２９１の前筒部２９１ａの外径よりも若干大きい内径でフランジ部２９１ｅと同じ外径の円環状に形成されている。ハンドルカバー装飾基板２９３は、１２個のＬＥＤ２９３ａと、各ＬＥＤ２９３ａを発光させるための固有のアドレスを有したＬＥＤドライバ２９３ｂと、が実装されている。１２個のＬＥＤ２９３ａ（フルカラーＬＥＤ）は、周方向へ間隔をあけて一列に設けられている。これら１２個のＬＥＤ２９３ａは、中心から左下の２個と、左側の２個と、左上の２個と、右上の２個と、右側の２個と、右下の２個と、の６組に分けられている（図７２を参照）。ＬＥＤドライバ２９３ｂは、最大で２４系統まで制御することができ、６組に分けられた１０個のＬＥＤ２９３ａを夫々フルカラーで発光できるように、１組に対して３系統の合計１８系統で制御するようにしている。

【０２２３】

このハンドルカバー装飾基板２９３には、図示は省略するが、ＬＥＤ２９３ａ及びＬＥＤドライバ２９３ｂを駆動するための電力を供給する２本の電力線（１本はアース線）と、周辺制御基板１５１０からのコマンド及びアドレス等の信号を受信するための１本の制御信号線と、ＬＥＤドライバ２９３ｂを周辺制御基板１５１０と同期させるための１本のクロック線と、の４本の電線からなる配線ケーブルが接続されている。そして、このハンドルカバー装飾基板２９３のＬＥＤドライバ２９３ｂでは、周辺制御基板１５１０（演出制御基板）から制御信号線を介して当該アドレス宛のコマンドを受信すると、そのコマンドに応じて、６組に分けられた１２個のＬＥＤ２９３ａを、各組毎に適宜の色と強さで発光させることができる。

【０２２４】

基板カバー２９４は、ハンドルカバーベース２９１の前筒部２９１ａの外径よりも若干大きい内径でインナー２９２の基部２９２ａの外径と略同じ外径の円環状の前板部２９４ａと、前板部２９４ａの外周縁が後方へ短く延出している筒状の側板部２９４ｂと、を有している。この基板カバー２９４は、前板部２９４ａがハンドルカバーベース２９１のフランジ部２９１ｅとハンドルカバー装飾基板２９３との間に位置し、側板部２９４ｂがイ

ンナー２９２の基部２９２ａまで延びている。
【０２２５】
ハンドルカバー２９５は、前端にハンドルカバーベース２９１の外筒部２９１ｆの外径と同じ内形の前孔２９５ａを有し、後方へ向かうに従って膨出するような紡錘台（かまくら型、或いは、お椀型、等）の筒状に形成されており、後端から前方へ向かって切欠かれた切欠開口部２９５ｂが周方向へ複数（ここでは四つ）設けられている。ハンドルカバー２９５は、インナー２９２の外周を覆うように形成されており、複数の切欠開口部２９５ｂが切欠部２９２ｃと一致するように形成されている。ハンドルカバー２９５の後端は、インナー２９２を介して皿ユニット２００の皿ユニット本体２５２に取付けられる。
【０２２６】
ハンドルカバー２９５は、色や透光性（光の透過率）の異なる合成樹脂により２色成形されている。詳述すると、ハンドルカバー２９５は、内側層３ａと外側層３ｂとの２種類の樹脂により２色成形されており、内側層３ａの一部が外側層３ｂを貫通して外側面に現れることで、円形や放射状の模様が形成されている。つまり、ハンドルカバー２９５の表面に表れている円形や放射状の模様は、内側層３ａであり、円形や放射状の模様は外側層３ｂの裏側で繋がっている（図７１（ａ）を参照）。なお、ハンドルカバー２９５を成形する際に、内側層３ａを先に射出成形しても良いし、外側層３ｂを先に射出成形しても良い。
【０２２７】
本実施形態のハンドルユニット１８０及びハンドルカバーユニット２９０は、図４６等に示すように、パチンコ機１に組立てた状態で、ハンドルカバーベース２９１の前筒部２９１ａの内部に、ハンドルユニット１８０におけるハンドル１９５よりも後側の部位が挿入されていると共に、ハンドルカバーユニット２９０よりも前方側にハンドル１９５やハンドル前レンズ１８５等が位置している。ハンドルユニット１８０のハンドルベース１８１の後端は、ハンドルカバーユニット２９０におけるハンドルカバーベース２９１の後筒部２９１ｃの後端を閉鎖している部位を挟んだ状態で、扉枠ベース１０１のハンドル取付座面１０１ｂに取付けられている。
【０２２８】
このハンドルユニット１８０のハンドル１９５は、中央の中央ハブ部１９５ａが、ハンドルベース１８１により回転可能に支持されている。また、ハンドル１９５は、中央ハブ部１９５ａの外側の外周リング部１９５ｃが、その後側に取付けられているハンドルガイド１９６によりハンドルカバーユニット２９０により回転可能に支持されている。このハンドルガイド１９６は、ガイド部１９６ａの後端側が、ハンドルカバーベース２９１における前筒部２９１ａと外筒部２９１ｆとの間で、且つ、フランジ部２９１ｅとガイド片２９１ｇとの間に挿入（係止）されており、前後方向（軸方向）への移動が規制された状態で、回転可能に支持されている。
【０２２９】
ハンドル１９５、及び、ハンドルカバーユニット２９０におけるハンドルカバーベース２９１、インナー２９２、基板カバー２９４、ハンドルカバー２９５は、透光性を有するように形成されており、ハンドルカバー装飾基板２９３のＬＥＤ２９３ａを発光させることで、ハンドル１９５の外周リング部１９５ｃを発光装飾させることができる他に、ハンドルカバーベース２９１（前筒部２９１ａ）の内部や、ハンドルカバー２９５、等も発光装飾させることができる。
【０２３０】
ハンドルカバーユニット２９０は、ハンドルカバー２９５及びインナー２９２に、互いに一致する切欠開口部２９５ｂ及び切欠部２９２ｃを有しているため、外側から見た時に、左右両側と下側に、ハンドルカバーベース２９１の前筒部２９１ａの内部と連通する穴が開いているように見せることができる。これにより、遊技者に対して、ハンドル１９５の中央ハブ部１９５ａと外周リング部１９５ｃとの間を通してハンドルカバーベース２９１の前筒部２９１ａの内部に手（指）を突っ込む精神的な不安を和らげることができる。

【０２３１】
なお、ハンドルカバー２９５の上側の切欠開口部２９５ｂ（インナー２９２の上側の切欠部２９２ｃ）は、皿右装飾ユニット２７５と扉枠右サイドユニット４３０とによって閉鎖されている。
【０２３２】
本実施形態のハンドルカバーユニット２９０は、ハンドルユニット１８０の後側が挿入されているハンドルカバーベース２９１の前筒部２９１ａの内部が、開口部２９１ｈを通して、インナー２９２及びハンドルカバー２９５の夫々の下側の切欠部２９２ｃ及び切欠開口部２９５ｂと連通している（図４７を参照）。これにより、ハンドル１９５の中央ハブ部１９５ａと外周リング部１９５ｃとの間の隙間を通して、飲み物等の液体や遊技球Ｂ等がハンドルカバーベース２９１の前筒部２９１ａ内へ侵入しても、下側の開口部２９１ｈ、切欠部２９２ｃ、及び切欠開口部２９５ｂを介してハンドルカバーユニット２９０の下方へ排出させることができる。
【０２３３】
また、ハンドルカバー２９５の左右両側の切欠開口部２９５ｂ内に、液体や遊技球Ｂが侵入した場合は、前筒部２９１ａとインナー２９２の脚部２９２ｂとの間の隙間を通って、下側の切欠開口部２９５ｂから下方へ排出することができる。
【０２３４】
また、ハンドルカバーベース２９１の開口部２９１ｈ、インナー２９２の下側の切欠部２９２ｃ、及びハンドルカバー２９５の下側の切欠開口部２９５ｂは、図４７に示すように、外枠２の外枠下組立体４０におけるグリル部材４６の羽根部４６ｂの傾斜方向の延長線上に設けられている。これにより、本体枠スピーカ６２２の振動により羽根部４６ｂを介してグリル部材４６から斜め上前方へ放出された風（風圧）を、開口部２９１ｈ、切欠部２９２ｃ、及び切欠開口部２９５ｂを通して、前筒部２９１ａ内へ進入させることができる。従って、遊技者が、ハンドルカバー２９５（ハンドルカバーベース２９１の前筒部２９１ａ）の内側に手指を突っ込んで、ハンドル１９５を回転操作（遊技球Ｂの打込装置）している時に、本体枠スピーカ６２２を振動させて前筒部２９１ａ内へ風を送ることで、遊技者を驚かせることができ、これまでにない演出を行うことができる。
【０２３５】
更に、ハンドルカバー２９５に切欠開口部２９５ｂを有しているため、扉枠３や本体枠４を開ける際に、右側の切欠開口部２９５ｂに指を掛けて引っ張ることができ、扉枠３等を開放する時の取っ手とすることができる。
【０２３６】
また、ハンドル１９５では、外周リング部１９５ｃまでメッキ部が施されているため、ハンドルタッチセンサ１９２がハンドル１９５のタッチを検知することができ、外周リング部１９５ｃだけに触れた状態でも、遊技球Ｂを打込むことができる。
【０２３７】
また、ハンドルカバー２９５に切欠開口部２９５ｂを有しているため、ハンドル１９５の外周リング部１９５ｃと切欠開口部２９５ｂとに指を掛けて掴むようにすることで、ハンドル１９５の回転位置を簡単に固定することができ、手をひねり続けていなくても一定の強さで遊技球Ｂを遊技領域５ａ内へ打込み続けることができる。このように、多様な方法でハンドル１９５を回転させて遊技球Ｂを打込むことができるため、遊技者に適した打込操作を選択可能なパチンコ機１を提供することができる。
【０２３８】
このハンドルユニット１８０は、扉枠ベース１０１のハンドル取付座面１０１ｂに対して、ハンドルカバーユニット２９０（ハンドルカバーベース２９１）を介して取付けられる。この扉枠ベース１０１のハンドル取付座面１０１ｂは、平面視において、右端側が左端側よりも後方に位置するように傾斜しており、外側（開放側）を向いているため、ハンドルカバーベース２９１を介して取付けられるハンドルユニット１８０も平面視で外側に傾斜（換言すると、パチンコ機１の前面に直交する線に対してその先端部がパチンコ機１

の外側に向かうように傾斜している。）して扉枠３に取付固定される。これにより、遊技者がハンドルユニット１８０のハンドル１９５が握り易く、違和感がなく回動操作を行わせることができる。

【０２３９】

このように、本実施形態のハンドルユニット１８０及びハンドルカバーユニット２９０によれば、左辺側を軸芯にして開閉可能に設けられ、遊技盤５の遊技領域５ａを前方から視認可能に閉鎖している扉枠３における右下隅に、円盤状の中央ハブ部１９５ａと、中央ハブ部１９５ａから放射状に突出している複数のスポーク部１９５ｂと、複数のスポーク部１９５ｂの先端同士を繋いでいる円環状の外周リング部１９５ｃと、を有するハンドル１９５を設けていると共に、外周リング部１９５ｃから後方へ延びているような筒状のハンドルカバーユニット２９０を設けているため、従来のパチンコ機におけるハンドルが設けられている部位に、これまでに見たこともないような形態のハンドル１９５とハンドルカバーユニット２９０とが見えることとなり、遊技者に対して強いインパクトを与えることができ、遊技者の関心を強く引付けさせることができると共に、遊技者に対して本パチンコ機１での遊技に対する意欲を高めさせることができ、本パチンコ機１が設置されている遊技ホール内を回遊している遊技者に対し、遊技するパチンコ機として本パチンコ機１を選択させ易くすることができる。

【０２４０】

また、ハンドル１９５における中央ハブ部１９５ａと外周リング部１９５ｃとの間を通して遊技者の指をハンドルカバーユニット２９０（ハンドルカバーベース２９１の前筒部２９１ａ）内へ挿入可能としていることから、遊技者が遊技領域５ａに遊技球Ｂを打込むためにハンドル１９５を操作する際に、遊技者がハンドル１９５の中央ハブ部１９５ａを掴むと、遊技者の指がハンドルカバーユニット２９０内に挿入された状態となるため、ハンドル１９５の操作に対して、従来のパチンコ機のハンドルとは異なった感覚を遊技者に付与することができ、新感覚の遊技球Ｂの打込操作により遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【０２４１】

そして、遊技者がハンドル１９５を操作している時に、本体枠４の基板ユニット６２０Ａにおけるスピーカユニット６２０ａに設けられている本体枠スピーカ６２２から演出サウンドを出力させると、本体枠スピーカ６２２の振動によりスピーカボックス６２３によるエンクロージャ６２４内の空気が振動し、エンクロージャ６２４と連通している外枠２における外枠下組立体４０の幕板内部空間４０ａ及びポート部材４７を通してエンクロージャ６２４内の空気の振動が音圧（音風）として前方へ放出される。この際に、ポート部材４７の前端に設けられているグリル部材４６の複数の羽根部４６ｂにより、本体枠スピーカ６２２からの音圧（音風）を、ハンドルカバー２９５の切欠開口部２９５ｂ及びハンドルカバーベース２９１の開口部２９１ｈを通してハンドルカバーユニット２９０内（ハンドルカバーベース２９１の前筒部２９１ａ内）へ誘導することができ、中央ハブ部１９５ａと外周リング部１９５ｃとの間を通してハンドルカバーユニット２９０内に指を挿入した状態でハンドル１９５を操作している遊技者の指に対して、音圧による刺激を付与することができる。従って、遊技領域５ａ内における遊技状態に応じて、ハンドルカバーユニット２９０内に挿入されている遊技者の手指に、切欠開口部２９５ｂ及び開口部２９１ｈを通してポート部材４７からの音圧を供給することで、遊技者を驚かせたり、チャンスの到来を予感させたり、ハンドル操作の操作量を変更させたり、することができ、遊技者を楽しませることができると共に、遊技者を飽きさせ難くすることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【０２４２】

また、切欠開口部２９５ｂ及び開口部２９１ｈを通してハンドルカバーユニット２９０（ハンドルカバーベース２９１の前筒部２９１ａ）内に本体枠スピーカ６２２からの音圧（音風）を供給することができるため、ハンドルカバーユニット２９０内を涼しくすることができ、ハンドル１９５を操作している遊技者の手指まわりの環境を快適にすることで

、遊技者にかかるストレスを緩和させて遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【０２４３】

また、上述したように、中央ハブ部１９５ａと外周リング部１９５ｃとの間を通してハンドルカバーユニット２９０内に指を挿入した状態でハンドル１９５を操作している遊技者の指に対して、ハンドル１９５やハンドルカバーユニット２９０が設けられている扉枠３とは異なる外枠２の外枠下組立体４０に設けられたポート部材４７から前方へ放出される音圧（音風）を、グリル部材４６の複数の羽根部４６ｂにより誘導して刺激を付与するようにしているため、ハンドル１９５に振動装置を設けるようにした場合と比較して、ハンドル１９５に設けられている各種のセンサ（ハンドル回転検知センサ１８９、ハンドルタッチセンサ１９２、単発ボタン操作センサ１９４、等）や軸受機構等にダメージを与えることはなく、ハンドルユニット１８０を破損し難くすることが可能となり、ハンドルユニット１８０の破損により遊技者に不快感を与えてしまうことを回避させることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【０２４４】

更に、ハンドル１９５に、中央ハブ部１９５ａ、スポーク部１９５ｂ、及び外周リング部１９５ｃを有するようにしていることから、ハンドル１９５が自動車のステアリングホイールのような外観となるため、従来のパチンコ機のハンドルとは外観が大きく異なっていても、遊技者に対してハンドル１９５の操作が従来のパチンコ機と同様であることを直感的に認識させることが可能となる。従って、本パチンコ機１を初めて見た遊技者であっても、戸惑わせることなく本パチンコ機１のハンドル１９５を操作させることができ、遊技者を躊躇させることなく遊技するパチンコ機として本パチンコ機１を選択させ易くすることができる。

【０２４５】

また、ハンドル１９５の中央ハブ部１９５ａと外周リング部１９５ｃとの間を通して遊技者の指を挿入可能なハンドルカバーユニット２９０の外周面の下側を向いている部位に切欠開口部２９５ｂ及び開口部２９１ｈを設けていることから、前方からハンドルカバーユニット２９０（ハンドルカバーベース２９１の前筒部２９１ａ）内を見た時に、開口部２９１ｈ及び下側の切欠開口部２９５ｂを通してハンドルカバーユニット２９０よりも下方が見えることとなり、筒状のハンドルカバーユニット２９０に対して開放感を付与することができるため、ハンドルカバーユニット２９０に指を挿入することに対する遊技者の不安感を軽減させることができ、遊技者を躊躇させることなくハンドル１９５を操作させることができる。

【０２４６】

また、ハンドルカバーユニット２９０の外周面における下側を向いている部位に、貫通している切欠開口部２９５ｂ及び開口部２９１ｈを設けていると共に、外枠２（外枠下組立体４０）のポート部材４７を前方へ向かって開口させているため、ハンドルカバーユニット２９０内に飲み物等の液体や遊技球Ｂ等が入っても、下側の切欠開口部２９５ｂ及び開口部２９１ｈから下方へ排出させることができると共に、切欠開口部２９５ｂ及び開口部２９１ｈから下方へ排出された液体等をポート部材４７内に入り難くすることができる。

【０２４７】

更に、ハンドル１９５に、中央ハブ部１９５ａ、スポーク部１９５ｂ、及び外周リング部１９５ｃを有するようにしていると共に、前端の径が外周リング部１９５ｃと同じ径のハンドルカバーユニット２９０のハンドルカバー２９５に複数の切欠開口部２９５ｂを設けるようにしているため、中央ハブ部１９５ａにより従来のパチンコ機のハンドルと同じようなに手で掴んで操作したり、スポーク部１９５ｂにより指だけで操作したり、外周リング部１９５ｃにより自動車のステアリングホイールのような操作をしたり、外周リング部１９５ｃと切欠開口部２９５ｂとに指を掛けて掴むような操作をしたり、外周リング部１９５ｃを跨ぐようにしてハンドルカバーユニット２９０の内側と外側とを指で摘むよう

な操作をしたりすることができ、多彩な遊技球Ｂの打込操作（ハンドル操作）が可能なパチンコ機１を提供することができる。従って、遊技状態や遊技者の状態等に応じて、遊技者が操作し易い方法で遊技球Ｂを遊技領域５ａへ打込むことができ、遊技者を飽きさせ難くすることができると共に、遊技者に遊技球Ｂの打込操作を楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【０２４８】

また、ハンドル１９５の外周リング部１９５ｃと切欠開口部２９５ｂとに指を掛けて掴むようにしたり、外周リング部１９５ｃを跨ぐようにしてハンドルカバーユニット２９０の内側と外側とを指で摘むようにしたりすることで、ハンドル１９５の操作位置を固定することが可能となる。従って、従来のパチンコ機のハンドルと同様のハンドル操作に加えて、従来のパチンコ機では成し得ないハンドル操作も行うことができるため、遊技者に対して多彩なハンドル操作を提供することができ、ハンドル操作を楽しませて遊技者を飽きさせ難くすることができる。

【０２４９】

また、ハンドルカバーユニット２９０の前端の径を、ハンドル１９５における外周リング部１９５ｃの径と同じとしているため、ハンドルカバーユニット２９０が外周リング部１９５ｃから後方へ延びているような形態となり、ハンドルカバーユニット２９０がハンドル１９５と一体となっているような外観とすることができ、見栄えを良くして遊技者の関心を引付けることが可能なパチンコ機１とすることができる。

【０２５０】

また、ハンドルカバーユニット２９０の前端の径が外周リング部１９５ｃと同じ径であるため、ハンドルカバーユニット２９０の上下方向の寸法が必要以上に大きくなることを抑制することが可能となり、ハンドルカバーユニット２９０により遊技領域５ａ（扉窓１０１ａ）が上方へ圧迫されることを抑制することで、遊技領域５ａが狭くなることを回避させることができ、相対的に遊技領域５ａを大きくすることができると共に、大きな遊技領域５ａにより本パチンコ機１を目立たせることができ、遊技者の関心を強く引付けられる訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。

【０２５１】

更に、ハンドルカバー装飾基板２９３のＬＥＤ２９３ａを適宜発光させることで、ハンドルカバーユニット２９０（ハンドルカバーベース２９１の前筒部２９１ａ内やハンドルカバー２９５）やハンドル１９５の外周リング部１９５ｃを発光装飾させることができるため、遊技者がハンドル１９５を操作していても、遊技者の手によってハンドルカバー２９５や外周リング部１９５ｃの発光装飾が遮られることはなく、ハンドルカバー２９５や外周リング部１９５ｃを目立たせることができ、遊技者の関心を強く引付けることが可能な訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【０２５２】

また、扉枠３におけるヒンジ側とは反対側の右下隅にハンドル１９５を設けていると共に、ハンドルカバーユニット２９０のハンドルカバー２９５における外周面の右側を向いている部位に切欠開口部２９５ｂを設けているため、当該切欠開口部２９５ｂを、扉枠３を開閉させる時の取っ手に用いることができる。従って、扉枠３に見栄えが悪くなるような取っ手を設ける必要が無く、扉枠３の見栄えを良くすることができる。

【０２５３】

また、ハンドルカバーユニット２９０（ハンドルカバーベース２９１）に、ハンドル１９５の外周リング部１９５ｃ（ハンドルガイド１９６）を、周方向へ回転可能に支持すると共に、前後方向への移動を規制するフランジ部２９１ｅ及びガイド片２９１ｇを有するようにしており、ハンドル１９５の外周リング部１９５ｃが前方へ引っ張られても、ガイド片２９１ｇ等によって外周リング部１９５ｃの前方への移動を規制することができるため、外周リング部１９５ｃや、外周リング部１９５ｃと中央ハブ部１９５ａとを繋いでいるスポーク部１９５ｂが変形することはなく、ハンドル１９５が破損してしまうことを防止することができる。

【０２５４】
　また、ハンドルタッチセンサ１９２により遊技者がハンドル１９５に触れていることを検知した上で、ハンドル１９５の操作を受付けて遊技球Ｂを打込むようにしているため、スポーク部１９５ｂや外周リング部１９５ｃのみに触れた状態でハンドル１９５を操作しても遊技球Ｂを打込むことができ、上述したような多彩な打込操作（ハンドル操作）が可能なパチンコ機１とすることができると共に、遊技者がハンドル１９５に触れていない状態での遊技球Ｂの打込みを阻止することができ、道具を用いたハンドル操作が行われることを防止して遊技ホール側の負担を軽減させることができる。
【０２５５】
［３－５．皿ユニットの全体構成］
　扉枠３における皿ユニット２００について、主に図４８及び図４９を参照して詳細に説明する。図４８は扉枠の皿ユニットを見た斜視図であり、図４９は皿ユニットを後ろから見た斜視図である。皿ユニット２００は、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１の前面における扉窓１０１ａよりも下側の部位に取付けられる。皿ユニット２００は、遊技領域５ａ内に打込むための遊技球Ｂを貯留する上皿２０１と、上皿２０１の下側に配置されており上皿２０１やファールカバーユニット１５０から供給される遊技球Ｂを貯留可能な下皿２０２と、を備えている。
【０２５６】
　皿ユニット２００は、上皿２０１を有しており扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１の前面に取付けられている皿ベースユニット２１０と、皿ベースユニット２１０の前面に取付けられており下皿２０２を有している皿装飾ユニット２５０と、皿装飾ユニット２５０及び皿ベースユニット２１０の前面に取付けられており遊技者が操作可能な演出操作ユニット３００と、を備えている。
【０２５７】
　皿ベースユニット２１０は、左右に延びた平板状の皿ユニットベース２１１と、皿ユニットベース２１１の前面上部に取付けられ上皿２０１を有している上皿本体２１２と、上皿本体２１２の右方に取付けられており前方へ突出している取付ベース（図示は省略）と、取付ベースの右方に取付けられている皿ユニット中継基板（図示は省略）と、取付ベースの上面に取付けられている球貸操作ユニット２２０と、取付ベースの下方に取付けられている上皿球抜前ユニット（図示は省略）と、上皿球抜前ユニットの後方に取付けられている上皿球抜後ユニット２４０と、を備えている。
【０２５８】
　皿装飾ユニット２５０は、皿ユニットベース２１１の前面下部に取付けられており下皿２０２を有している下皿本体２５１と、下皿本体２５１の外周を覆うように皿ユニットベース２１１の前面に取付けられる皿ユニット本体２５２と、下皿本体２５１の下面に取付けられている下皿球抜ユニット２６０と、皿ユニット本体２５２の前面上部に左右に離間して夫々取付けられている皿左装飾ユニット２７０及び皿右装飾ユニット２７５と、を備えている。
【０２５９】
　演出操作ユニット３００は、遊技者が操作可能な演出操作部３０１として、遊技者が接触操作可能な接触操作部３０２と、遊技者が押圧操作可能な押圧操作部３０３と、を備えている。演出操作ユニット３００は、外面が球形状の演出操作部カバーユニット３１０と、演出操作部カバーユニット３１０に内に収容され皿装飾ユニット２５０の前面に取付けられる操作部ベース３１５と、操作部ベース３１５の上面に取付けられている円環状の演出操作部外周装飾基板３２０と、演出操作部外周装飾基板３２０の上方を覆っている外周基板カバー３２５と、操作部ベース３１５の後側に取付けられている操作部中継基板ユニット３３０と、を備えている。
【０２６０】
　また、演出操作ユニット３００は、演出操作部カバーユニット３１０から上方へ突出可能とされており演出操作部３０１が設けられている演出操作部ユニット３５０と、操作部

ベース３１５に取付けられており演出操作部ユニット３５０を昇降可能に支持している演出操作部昇降機構３６０と、演出操作部昇降機構３６０による演出操作部ユニット３５０の上方への突出力を調整する突出力調整機構３８０と、を備えている。

【０２６１】

皿ユニット２００は、全体が前方へ膨出しており、左右方向中央において演出操作部３０１の上面が斜め上前方を向くように演出操作ユニット３００が配置されており、上面における演出操作ユニット３００の左側に上皿２０１が演出操作ユニット３００の右側に球貸操作ユニット２２０が配置されていると共に、上皿２０１の下側で演出操作ユニット３００の左側に下皿２０２が配置されている。

【０２６２】

［３－５ａ．上皿］

皿ユニット２００の上皿２０１について、主に図４８及び図４９等を参照して詳細に説明する。上皿２０１は、皿ユニットベース２１１と上皿本体２１２とによって形成されており、正面視左右の中央より左側の方が大きく前方へ膨出し、上方へ開放された容器状に形成されている。上皿２０１（上皿本体２１２）は、扉枠３の左右方向の幅に対して左端から右方へ約１／３の部位が最も前方に膨出している。上皿２０１は、最も膨出した部位から正面視右方へ向かうに従って、前端が後方へ後退しており、前後方向の奥行が遊技球Ｂの外径よりも若干大きい誘導通路部２０１ａ（図７３を参照）を有している。上皿２０１は、誘導通路部２０１ａを含む底面の全体が、右端側が低くなるように傾斜しており、誘導通路部２０１ａの正面視右端側が、球貸操作ユニット２２０の下方へ潜り込んでいる。

【０２６３】

上皿２０１は、皿ユニット２００に組立てた状態で、その底面が、皿ユニットベース２１１の上皿球供給口２１１ａよりも下側の位置から上皿球送給口（図示は省略）の上端に対して遊技球Ｂの外径よりも若干下側の位置へ向かって低くなるように傾斜している。これにより、上皿球供給口２１１ａから前方へ放出された遊技球Ｂが、上皿２０１内に受けられて貯留させることができると共に、受けられた遊技球Ｂを誘導通路部２０１ａの右端側から上皿球送給口を通って球送給ユニット１４０側へ供給させることができる。

【０２６４】

なお、誘導通路部２０１ａには、パチンコ機１において電気的に接地（アース）されている金属製のアース金具が備えられており、遊技球Ｂが接触（転動）することで、遊技球Ｂに帯電した静電気を除去させることができる。

【０２６５】

［３－５ｂ．下皿］

皿ユニット２００の下皿２０２について、主に図４８及び図５０等を参照して詳細に説明する。図５０（ａ）は扉枠において下皿球供給口の部位で水平に切断して要部を示す断面図であり、（ｂ）は従来の扉枠において（ａ）と同じ部位を切断して要部を示す断面図である。下皿２０２は、上皿２０１の下方で、正面視おいて皿ユニット２００（扉枠３）の左右方向中央よりも左側に配置されている。下皿２０２は、下皿本体２５１と皿ユニットベース２１１とで形成されている。下皿２０２は、遊技球Ｂを貯留可能な容器状に形成されており、底壁に上下に貫通し遊技球Ｂを排出可能とされた下皿球抜孔２０２ａを備えている。下皿２０２の下皿球抜孔２０２ａは、下皿球抜ユニット２６０の下皿球抜蓋２６５によって開閉可能に閉鎖されている。

【０２６６】

下皿２０２は、平面視の形状が左右に延びた略四角形に形成されており、左右方向中央より左側の前端が右側よりも前方へ突出している。下皿２０２は、上下に貫通している下皿球抜孔２０２ａが、右端付近の前端付近に配置されている。この下皿２０２は、底面が下皿球抜孔２０２ａへ向かって低くなるように傾斜している。下皿２０２の下皿球抜孔２０２ａは、皿ユニット２００に組立てた状態で、下皿球供給口２１１ｃの前方に対して左寄りで演出操作ユニット３００の下方に位置している。

【０２６７】
下皿２０２は、下皿球抜孔２０２ａを閉鎖している状態で、下皿球供給口２１１ｃから前方へ放出された遊技球Ｂを貯留することができると共に、下皿球抜孔２０２ａを開放することで貯留されている遊技球Ｂを皿ユニット２００の下方（例えば、ドル箱）へ排出させることができる。また、下皿２０２の下皿球抜孔２０２ａが開放されている状態では、下皿球抜孔２０２ａが下皿球供給口２１１ｃの前方に配置されていることから、下皿球供給口２１１ｃから前方へ放出された遊技球Ｂを、最短距離の移動で速やかに下皿球抜孔２０２ａから下方へ排出させることができる。
【０２６８】
ここで、従来のパチンコ機では、図５０（ｂ）に示すように、ファールカバーユニット１５０の球放出口１５０ｄと連通している皿ベースユニット２１０における皿ユニットベース２１１の下皿球供給口２１１ｊに対して、その中心軸線上の前方に下皿２０２の下皿球抜孔２０２ｂを設けている。そして、球放出口１５０ｄから前方へ放出された遊技球Ｂが、真直ぐに下皿球抜孔２０２ｂへ向かうように、下皿球供給口２１１ｊを前方へ真直ぐに延びた筒状としている。これにより、下皿球供給口２１１ｊから前方へ放出された遊技球Ｂを、最短距離の移動で速やかに下皿球抜孔２０２ｂから下方へ排出させることができるようにしている。
【０２６９】
ところで、下皿球供給口２１１ｊにより遊技球Ｂを下皿球抜孔２０２ｂへ向かって真直ぐに誘導させるようにした場合、下皿球抜孔２０２ｂが下皿球抜蓋２６５により閉鎖されていると、下皿球抜孔２０２ｂや下皿球供給口２１１ｊが下皿２０２の右端付近に設けられていることから、下皿２０２内の中央よりも右側の領域において、遊技球Ｂの貯留が集中してしまう恐れがある。そして、下皿２０２内の右側の領域に集中した遊技球Ｂが、下皿球供給口２１１ｊの前を塞いでしまうと、ファールカバーユニット１５０の貯留通路１５０ｅ内から遊技球Ｂが下皿２０２側へ放出されなくなることで、満タン検知センサ１５４が作動して、下皿２０２内の左側の領域にまだ余裕があるのにも関わらず、下皿２０２が満タンであると判定されてしまう恐れがある。
【０２７０】
これに対して、本実施形態では、図５０（ａ）に示すように、下皿球供給口２１１ｃの左側の側壁を、斜め左前方へ延びるように傾斜させている。詳述すると、下皿球供給口２１１ｃにおける左側の側壁を、下皿球抜孔２０２ａの真後ろとなる部位では皿ユニットベース２１１の前面との間の距離が、少なくとも一つの遊技球Ｂが流通可能な距離となるように、斜め左前方へ傾斜させている。
【０２７１】
また、本実施形態では、図５０に示すように、下皿球抜孔２０２ａを、下皿球供給口２１１ｃの後端（球放出口１５０ｄ）の中心軸線（一点鎖線で示す線）よりも左方へ移動させている。
【０２７２】
これにより、下皿球抜孔２０２ａを左方へ移動させることで、下皿２０２の最も低くなっている部位（下皿球抜孔２０２ａの部位）が、左方へ移動することとなり、下皿球抜孔２０２ａが閉鎖されている状態で、遊技球Ｂが下皿２０２内の右側に集中して貯留されることを低減させることができる。そして、下皿２０２内において、下皿球抜孔２０２ａの部位から複数の遊技球Ｂが貯留されて、下皿２０２の後端（皿ユニットベース２１１の前面）に到達しても、下皿球供給口２１１ｃの左側の側壁が斜めに延びて下皿２０２の後端との間に遊技球Ｂが流通可能な隙間を形成しているため、ファールカバーユニット１５０（球放出口１５０ｄ）や上皿球抜後ユニット２４０（球抜誘導路２４１ｃ）から下皿球供給口２１１ｃ側へ放出された遊技球Ｂを、斜めに延びた左側の側壁に沿って下皿２０２内の左側へ誘導して放出させることができ、下皿２０２内の全体に遊技球Ｂをきちんと貯留させることができる。
【０２７３】

従って、下皿２０２内において遊技球Ｂを貯留できる領域が十分に残っているのにも関わらず、満タン検知センサ１５４が作動して満タンが報知されてしまうことを防止することができる。

【０２７４】

［３－５ｃ．皿ベースユニット］

皿ユニット２００における皿ベースユニット２１０について、主に図４８及び図４９を参照して詳細に説明する。皿ベースユニット２１０は、扉枠ベースユニット１００の前面下部に取付けられ左右に延びた平板状の皿ユニットベース２１１と、皿ユニットベース２１１の前面上部に取付けられ上皿２０１を有している上皿本体２１２と、皿ユニットベース２１１の後面で右下隅付近に取付けられている皿ユニット中継基板２１４と、を備えている。

【０２７５】

また、皿ベースユニット２１０は、皿ユニットベース２１１の前面の上部に取付けられている球貸操作ユニット２２０と、球貸操作ユニット２２０の下方で皿ユニットベース２１１の前面に取付けられている上皿球抜前ユニット（図示は省略）と、上皿球抜前ユニットの後方で皿ユニットベース２１１の後側に取付けられている上皿球抜後ユニット２４０と、を備えている。

【０２７６】

［３－５ｃ－１．皿ユニットベース］

皿ベースユニット２１０の皿ユニットベース２１１について、主に図４８及び図４９を参照して詳細に説明する。皿ユニットベース２１１は、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１の前面における扉窓１０１ａの下方に取付けられ、扉枠ベース１０１の全幅に亘って左右に延びた平板状（後方が開放された浅い箱状）に形成されている。

【０２７７】

皿ユニットベース２１１は、正面視左上隅付近で前後に貫通していると共に後方へ筒状に延びている上皿球供給口２１１ａと、上皿球供給口２１１ａの下方で前後に貫通しており前側にパンチングメタルが取付けられているスピーカ口２１１ｂと、正面視左右中央に対して左寄りの下部において前後に貫通していると共に後方へ筒状に延びている下皿球供給口２１１ｃと、下皿球供給口２１１ｃの後方へ筒状に延びている部位の右側壁において遊技球Ｂが通過可能な大きさに切欠かれている切欠部２１１ｄと、下皿球供給口２１１ｃの正面視右上側で前後に貫通していると共に上下に延びており上部が上皿本体２１２の右端に位置する上皿球送給口（図示は省略）と、を備えている。

【０２７８】

皿ユニットベース２１１の上皿球供給口２１１ａは、扉枠３に組立てた状態で、前端が上皿２０１の後壁に開口し、筒状の後端が扉枠ベース１０１の上皿用球通過口１０１ｇを前側から貫通してファールカバーユニット１５０の貫通球通路１５０ａの前端と接続している。これにより、払出ユニット５６０の払出装置５８０から払出された遊技球Ｂが、上皿球供給口２１１ａを通って上皿２０１内に供給（払出）される。

【０２７９】

下皿球供給口２１１ｃは、扉枠３に組立てた状態で、前端が下皿２０２の後壁に開口し、筒状の後端が扉枠ベース１０１の下皿用球通過口１０１ｆを前側から貫通してファールカバーユニット１５０の球放出口１５０ｄの前端と接続している。これにより、ファールカバーユニット１５０の貯留通路１５０ｅ内を流通する遊技球Ｂが、下皿球供給口２１１ｃを通って下皿２０２内に供給される。また、下皿球供給口２１１ｃの筒状に延びている部位に形成されている切欠部２１１ｄには、上皿球抜後ユニット２４０の後ベース２４１における球抜誘導路２４１ｃの下流端が接続されている。これにより、上皿２０１に貯留されている遊技球Ｂが、上皿球抜ボタン２２２の操作により、上皿球送給口、球送給ユニット１４０の進入口１４１ａ及び球抜口１４１ｂ、上皿球抜後ユニット２４０の球送給誘導路２４１ｂ及び球抜誘導路２４１ｃ、及び切欠部２１１ｄを介して、下皿球供給口２１１ｃから下皿２０２内に排出される。

【０２８０】
上皿球送給口は、皿ベースユニット２１０に組立てた状態で、上皿球抜後ユニット２４０における後ベース２４１の球受口（図示は省略）の前方に位置しており、上皿２０１内の遊技球Ｂが、上皿球抜後ユニット２４０の球受口から球送給誘導路２４１ｂへ供給される。
【０２８１】
［３－５ｃ－２．上皿本体］
皿ベースユニット２１０の上皿本体２１２について、主に図４８及び図４９等を参照して詳細に説明する。上皿本体２１２は、皿ユニットベース２１１の前面に取付けられ、皿ユニットベース２１１と協働して上皿２０１を形成するものである。上皿本体２１２は、上方及び後方が開放された容器状（皿状）に形成されている。上皿本体２１２は、左右に延びており、正面視左右の中央より左側の方が大きく前方へ膨出している。上皿本体２１２は、最も前方へ膨出した部位から正面視右方へ向かうに従って、前端が後方へ後退しており、前後方向の奥行が遊技球Ｂの外径よりも若干大きい幅に形成されている。上皿本体２１２の底面は、右端が最も低くなるように傾斜している。上皿本体２１２は、右端付近の上方が閉鎖されている。
【０２８２】
上皿本体２１２は、皿ユニット２００に組立てた状態で、右端付近の上方が閉鎖されている部位が、球貸操作ユニット２２０の下方に潜り込むように取付けられている。また、上皿本体２１２は、上部における左右方向の中間部に、演出操作ユニット取付部２１２ａが形成されており、この演出操作ユニット取付部２１２ａに演出操作ユニット３００の一部が取付けられる。
【０２８３】
［３－５ｃ－３．皿ユニット中継基板］
皿ベースユニット２１０の皿ユニット中継基板２１４は、扉枠ベースユニット１００における扉枠副中継基板１０５と、皿左装飾基板２７３、皿右装飾基板２７８、及び操作部中継基板３３２との接続を中継するためのものである。皿ユニット中継基板２１４は、皿ユニットベース２１１の後面における右下隅付近に取付けられる。この皿ユニット中継基板２１４は、皿ユニットベース２１１に取付けた状態では、後面が皿ユニットベース２１１の後側に臨んでいる。
【０２８４】
［３－５ｃ－４．球貸操作ユニット］
皿ベースユニット２１０の球貸操作ユニット２２０について、主に図５１を参照して説明する。図５１は、扉枠の皿ユニットにおける球貸操作ユニットの部位を拡大して示す平面図である。この球貸操作ユニット２２０は、上皿２０１に貯留されている遊技球Ｂを下皿２０２へ排出したり、パチンコ機１に隣接して設けられた球貸機（図示は省略）に対して現金やプリペイドカードを投入した上で、所定数の遊技球Ｂを皿ユニット２００の上皿２０１内へ貸出したり、球貸機に投入された現金やプリペイドカードの残量を表示したり、球貸機に投入された現金やプリペイドカードを貸出された遊技球Ｂの分を差し引いて返却したり、音量を調節したり、光量を調節したり、するためのものである。
【０２８５】
球貸操作ユニット２２０は、皿ユニットベース２１１の前面の上部に取付けられるベース部２２１と、ベース部２２１の上面の左端付近に配置されている上皿球抜ボタン２２２と、ベース部２２１の上面における上皿球抜ボタン２２２の右方に配置されており透光性を有した円盤状の球貸操作ベース２２３と、球貸操作ベース２２３の前部左側に配置されている球貸ボタン２２４と、球貸操作ベース２２３の前部右側に配置されている返却ボタン２２５と、球貸操作ベース２２３の後部下方に配置されている球貸表示部２２６と、ベース部２２１の外側で球貸ボタン２２４の前方に配置されている音量調節ボタン２２７と、音量調節ボタン２２７の左側に配置されている光量調節ボタン２２８と、を備えている。

【０２８６】
上皿球抜ボタン２２２は、ベース部２２１の上面から円柱状に上方へ突出しており、遊技者が押圧操作することで下方へ移動することができる。球貸ボタン２２４は、円形状に形成されており、上面に「玉」の文字が施されている。返却ボタン２２５は、三角形状に形成されている。球貸表示部２２６は、三つの７セグメントＬＥＤと一つの砲弾型ＬＥＤにより構成されており、発光している状態で透明な球貸操作ベース２２３を通して遊技者側から良好に視認することができる。
【０２８７】
球貸操作ユニット２２０は、上皿球抜ボタン２２２を押圧操作することで、上皿２０１に貯留されている遊技球Ｂを下皿へ排出することができる。また、球貸機に現金や残金のあるプリペイドカードを投入した上で、球貸ボタン２２４を押圧操作すると、所定数の遊技球Ｂが上皿２０１に供給される。返却ボタン２２５を押圧操作すると、球貸機に投入されている現金やプリペイドカードに対して、貸出された遊技球Ｂの分を差し引いて返却する。球貸表示部２２６には、球貸機に投入されている現金やプリペイドカードの残量が表示される。また、球貸表示部２２６には、球貸機が故障した時にエラーコードが表示される。
【０２８８】
音量調節ボタン２２７は、扉枠３のトップ中央スピーカ及びトップサイドスピーカと、本体枠４の低音用の本体枠スピーカ６２２から出力される音楽、音声、効果音、等の演出用のサウンドの音量を調節するためのものである。この音量調節ボタン２２７は、二つの円を組合せたような双円形のひょうたん型に形成されている。音量調節ボタン２２７は、一方（上側）の円の中心に「＋」の文字が、他方（下側）の円の中心に「－」の文字が夫々施されていると共に、二つの円の間の部位に、スピーカから音が出ているような絵柄が施されている。音量調節ボタン２２７は、「＋」側の円の直径が、「－」側の円の直径よりも大きく形成されている。この音量調節ボタン２２７は、「＋」側を押圧すると音量が大きくなり、「－」側を押圧すると音量が小さくなる。
【０２８９】
光量調節ボタン２２８は、扉枠３や遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤの光量（輝度）を調節するためのものである。この光量調節ボタン２２８は、二つの円を組合せたような双円形のひょうたん型に形成されている。光量調節ボタン２２８は、一方（上側）の円の中心に「＋」の文字が、他方（下側）の円の中心に「－」の文字が夫々施されていると共に、二つの円の間の部位に、電球の絵柄が施されている。光量調節ボタン２２８は、「＋」側の円の直径が、「－」側の円の直径よりも大きく形成されている。この光量調節ボタン２２８は、「＋」側を押圧すると明るくなり、「－」側を押圧すると暗くなる。なお、扉枠３や遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤに加えて演出表示装置１６００の表示画面の明るさも調節できるようにしてもよい。
【０２９０】
音量調節ボタン２２７と光量調節ボタン２２８は、互いに異なる色（例えば、音量調節ボタン２２７を白色、光量調節ボタン２２８を黒色、）とされており、遊技者が間違え難いようにしている。
【０２９１】
ところで、演出操作部３０１の接触操作部３０２や押圧操作部３０３を用いて音量や光量を調節するようにした場合、演出操作部３０１の操作を必要とする遊技者参加型演出が実行されていない時に、演出操作部３０１を適宜操作して音量や光量等を調節するための設定用のメニューを演出表示装置１６００に表示させて調節する項目を選択した上で、接触操作部３０２を操作して音量の大きさや光量の明るさ等を変更することとなり、音量や光量を調節するのに手間（時間）がかかることとなる。これに対して、本実施形態によれば、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８を操作することで、音量や光量を直接（ダイレクト）に調節することができ、音量や光量の調節にかかる手間を簡略化して短時間で調節することが可能なパチンコ機１を提供することができる。

【０２９２】
［３－５ｃ－５．上皿球抜後ユニット］
皿ベースユニット２１０における上皿球抜前ユニット及び上皿球抜後ユニット２４０について、主に図４９を参照して詳細に説明する。上皿球抜後ユニット２４０は、球貸操作ユニット２２０の上皿球抜ボタン２２２が押圧操作された時に、球送給ユニット１４０と協働して、上皿２０１内に貯留されている遊技球Ｂを下皿２０２へ排出させるためのものである。
【０２９３】
上皿球抜後ユニット２４０は、上皿球送給口を後方から閉鎖するように皿ユニットベース２１１の後面に取付けられる後ベース２４１と、後ベース２４１の前面に上下方向へスライド可能に取付けられている上皿球抜スライダ２４２と、上皿球抜スライダ２４２を上方へ付勢しているバネ（図示は省略）と、後ベース２４１の後側に取付けられている後カバー２４４と、を備えている。
【０２９４】
後ベース２４１は、上皿球抜スライダ２４２をスライド可能に取付ける部位から上方へ突出していると共に前方へ向かって開口しており遊技球Ｂが通過可能な球受口（図示は省略）と、球受口に受入れられた遊技球Ｂを後ベース２４１の後面において下方へ誘導した後に後方へ誘導する球送給誘導路２４１ｂと、後ベース２４１の後面において球送給誘導路２４１ｂよりも下側の位置から遊技球Ｂを下方へ誘導した後に背面視右方へ誘導する球抜誘導路２４１ｃと、を備えている。
【０２９５】
球受口は、皿ベースユニット２１０に組立てた状態で、上皿２０１の誘導通路部２０１ａ下流端（正面視右端）において、皿ユニットベース２１１の上皿球送給口を通して前方へ向かって開口する位置に形成されている。球送給誘導路２４１ｂは、扉枠３に組立てた状態で、下部の後方に球送給ユニット１４０の進入口１４１ａが位置するように形成されている。これにより、上皿２０１に供給された遊技球Ｂが、球受口及び球送給誘導路２４１ｂを通って球送給ユニット１４０の進入口１４１ａに進入するようになっている。
【０２９６】
球抜誘導路２４１ｃの左右に延びている部位は、上皿球抜スライダ２４２をスライド可能に取付けている部位よりも背面視右方へ突出していると共に、背面視右端側が低くなるように傾斜しており、背面視右側面に開口している。球抜誘導路２４１ｃの左右に延びている部位は、後側が後カバー２４４によって閉鎖される。球抜誘導路２４１ｃは、扉枠３に組立てた状態で、球送給誘導路２４１ｂの下方で上下に延びている部位の上部が、球送給ユニット１４０の球抜口１４１ｂの前方に位置すると共に、左右に延びている部位の背面視右端が皿ユニットベース２１１における下皿球供給口２１１ｃの切欠部２１１ｄに接続されるように形成されている。これにより、球送給ユニット１４０の球抜口１４１ｂから排出された遊技球Ｂは、球抜誘導路２４１ｃ及び切欠部２１１ｄを介して下皿球供給口２１１ｃから下皿２０２内へ放出される。
【０２９７】
上皿球抜スライダ２４２は、正面視の形状が四角形に形成されており、左上隅から前方へ突出している作動受部（図示は省略）と、作動受部の後側となる後面から後方へ突出している作動伝達部２４２ｂと、を備えている。作動受部は、上面が平坦に形成されている。また、作動伝達部２４２ｂは、上面が後方へ向かうに従って下方へ位置するように傾斜しており、上面の後端と繋がるように下面が水平に延びている。
【０２９８】
上皿球抜スライダ２４２は、扉枠３に組立てた状態で、作動受部が、皿ユニットベース２１１を後側から貫通して前方へ突出していると共に、作動受部の上面に上皿球抜ボタン２２２の下端が当接している。また、上皿球抜スライダ２４２は、扉枠３に組立てた状態で、作動伝達部２４２ｂが、後ベース２４１の後方に突出していると共に、上面に球送給ユニット１４０の球抜部材１４３における作動棹１４３ｃが当接している。

【０２９９】
バネは、上端が後ベース２４１に取付けられていると共に、下端が上皿球抜スライダ２４２に取付けられており、上皿球抜スライダ２４２を上方へ付勢している。従って、上皿球抜スライダ２４２は、バネの付勢力により上方への移動端に位置しており、バネの付勢力に抗することで下方へ移動することができる。
【０３００】
上皿球抜後ユニット２４０は、バネの付勢力により、上皿球抜スライダ２４２が上方への移動端に位置させていると共に、上皿球抜スライダ２４２の作動受部を介して上皿球抜ボタン２２２を上方への移動端に位置させている。また、バネの付勢力により、上皿球抜スライダ２４２が上方への移動端に位置させていることから、作動伝達部２４２ｂの上面に当接している作動棹１４３ｃの下方への移動を阻止しており、球抜部材１４３の仕切部１４３ａを進入口１４１ａと球抜口１４１ｂとの間に位置させて、両者の間を仕切っている。
【０３０１】
従って、上皿球抜ボタン２２２を押圧していない状態では、球送給ユニット１４０において進入口１４１ａと球抜口１４１ｂとの間が仕切られており、上皿２０１から球受口へ送られた遊技球Ｂを、進入口１４１ａ及び球送給部材１４４を介して打球供給口１４２ａから球発射装置５４０側へ送ることができる。
【０３０２】
一方、上皿球抜ボタン２２２を、バネの付勢力に抗して下方へ押圧すると、上皿球抜スライダ２４２が下方へ移動し、上皿球抜スライダ２４２の作動伝達部２４２ｂの上面に当接している球抜部材１４３の作動棹１４３ｃが下方へ移動できるようになり、球抜部材１４３の錘部１４３ｄの荷重により球抜部材１４３が回動して仕切部１４３ａが進入口１４１ａと球抜口１４１ｂとの間から後退する。これにより、上皿２０１から球受口及び球送給誘導路２４１ｂを通って進入口１４１ａに進入した遊技球Ｂが、進入口１４１ａの下方に開口している球抜口１４１ｂから前方へ排出されることとなる。そして、球抜口１４１ｂから前方へ排出された遊技球Ｂは、球抜誘導路２４１ｃを通って切欠部２１１ｄから下皿球供給口２１１ｃ内へ誘導された後に、下皿球供給口２１１ｃから下皿２０２内へ放出され、上皿２０１内の遊技球Ｂが下皿２０２内へ排出されることとなる。
【０３０３】
上皿球抜ボタン２２２の下方への押圧を解除すると、バネの付勢力により上皿球抜スライダ２４２が上方へ移動し、上皿球抜ボタン２２２が上昇すると共に、作動伝達部２４２ｂと当接している作動棹１４３ｃにより球抜部材１４３が回動して進入口１４１ａと球抜口１４１ｂとの間に仕切部１４３ａが位置して元の状態に復帰することとなる。
【０３０４】
このように、上皿球抜後ユニット２４０によって、上皿２０１内の遊技球Ｂを、球送給ユニット１４０を介して球発射装置５４０側へ送給したり、下皿２０２側へ排出したりすることができる。
【０３０５】
［３－５ｄ．皿装飾ユニット］
皿ユニット２００における皿装飾ユニット２５０について、主に図２２乃至図４８等を参照して詳細に説明する。皿装飾ユニット２５０は、下皿２０２を有しており皿ベースユニット２１０の前面に取付けられると共に、左右方向中央に前方から演出操作ユニット３００が取付けられるものである。皿装飾ユニット２５０は、皿ユニット２００の略全体を装飾している。
【０３０６】
皿装飾ユニット２５０は、皿ユニットベース２１１の前面下部に取付けられ皿ユニットベース２１１と協働して下皿２０２を形成する下皿本体２５１と、下皿本体２５１の外周を覆うように皿ユニットベース２１１の前面に取付けられる皿ユニット本体２５２と、下皿本体２５１の下面に取付けられている下皿球抜ユニット２６０と、皿ユニット本体２５

２の前面上部に左右に離間して夫々取付けられている皿左装飾ユニット２７０及び皿右装飾ユニット２７５と、を備えている。

【０３０７】

［３－５ｄ－１．下皿本体］

皿装飾ユニット２５０における下皿本体２５１について、主に図４８及び図５０等を参照して詳細に説明する。下皿本体２５１は、皿ベースユニット２１０の皿ユニットベース２１１と協働して下皿２０２を形成するものである。下皿本体２５１は、左右に延びていると共に、上方及び後方が開放された容器状（皿状）に形成されている。この下皿本体２５１は、皿ユニットベース２１１の前面下部における左右方向中央より左側の部位に、開放されている後方が閉鎖されるように取付けられる。

【０３０８】

下皿本体２５１は、平面視の形状が左右に延びた略四角形に形成されており、左右方向中央より左側の前端が右側よりも前方へ突出している。下皿本体２５１には、平面視において、右端の前端付近において、上下に貫通している下皿球抜孔２０２ａが形成されている。下皿本体２５１は、底面が、下皿球抜孔２０２ａへ向かって低くなるように傾斜している。下皿球抜孔２０２ａは、下皿球抜ユニット２６０の下皿球抜蓋２６５によって開閉可能に閉鎖される。

【０３０９】

下皿本体２５１は、皿装飾ユニット２５０に組立てた状態で、外周と下面の一部とが皿ユニット本体２５２に覆われた状態となる。また、下皿本体は、皿ユニット２００に組立てた状態で、底面が皿ユニットベース２１１の下皿球供給口２１１ｃよりも下方に位置していると共に、下皿球抜孔２０２ａが下皿球供給口２１１ｃの前方に位置している。これにより、下皿球供給口２１１ｃから前方へ放出された遊技球Ｂを、貯留することができる。

【０３１０】

［３－５ｄ－２．皿ユニット本体］

皿装飾ユニット２５０における皿ユニット本体２５２について、主に図４８及び図４９等を参照して詳細に説明する。皿ユニット本体２５２は、皿ベースユニット２１０における皿ユニットベース２１１の前面に取付けられ、皿ユニット２００の前面を装飾するものである。皿ユニット本体２５２は、上部側では左右方向の中央が前方へ突出するように膨出しており、下部側では左右方向の左側が前方へ突出するように膨出している。また、皿ユニット本体２５２は、上面が、左右方向の中央が最も低くなるように湾曲している。皿ユニット本体２５２は、後方へ開放された箱状に形成されている。

【０３１１】

皿ユニット本体２５２は、上部において左右両端から左右方向中央へ向かうに従って前方へ膨出していると共に下方へ延びており左右に離間している上部サイド膨出部２５２ａと、下部において左右方向中央より左側が下皿本体２５１の外周を被覆するように前方へ膨出している下部前面装飾部２５２ｂと、を備えている。

【０３１２】

左右の上部サイド膨出部２５２ａは、夫々の前面に皿左装飾ユニット２７０及び皿右装飾ユニット２７５が取付けられる。

【０３１３】

皿ユニット本体２５２は、左側の上部サイド膨出部２５２ａと下部前面装飾部２５２ｂとの間で前後に貫通している下皿開口部２５２ｄが形成されている。下皿開口部２５２ｄは、遊技者の手指が挿入可能な大きさで、左方へ向かうに従って上下が広くなるように形成されている。下皿開口部２５２ｄは、下皿本体２５１と左側の上部サイド膨出部２５２ａの下面とによって、前後に延びた筒状に形成されている。

【０３１４】

更に、図示は省略するが、皿ユニット本体２５２は、左右方向中央となる一対の上部サイド膨出部２５２ａの間に形成されており演出操作ユニット３００が取付けられる演出操

作ユニット取付部を備えている。演出操作ユニット取付部は、皿ユニット本体２５２の左右方向の幅の約１／３の幅に形成されている。

【０３１５】

皿ユニット本体２５２は、皿ユニット２００に組立てた状態で、皿ベースユニット２１０の前面を全体的に覆うように形成されており、下皿開口部２５２ｄを通してスピーカ口２１１ｂが前方へ臨んだ状態となる。

【０３１６】

［３－５ｄ－３．下皿球抜ユニット］

皿装飾ユニット２５０における下皿球抜ユニット２６０について、主に図２７及び図５０等を参照して詳細に説明する。下皿球抜ユニット２６０は、下皿本体２５１の下面に取付けられ、下皿球抜孔２０２ａを開閉させることで、下皿２０２に遊技球Ｂを貯留させたり、下皿２０２から遊技球Ｂを排出させたりするためのものである。

【０３１７】

下皿球抜ユニット２６０は、下皿球抜ボタン２６３と、下皿球抜ボタン２６３の操作により貫通孔を開閉する下皿球抜蓋２６５と、を備えている。

【０３１８】

下皿球抜ユニット２６０は、皿装飾ユニット２５０に組立てた状態で、下皿球抜ボタン２６３が、皿ユニット本体２５２における下部前面装飾部２５２ｂの前面と一致していると共に、下皿球抜蓋２６５が下皿球抜孔２０２ａを閉鎖している。この通常の状態では、下皿球抜孔２０２ａが下皿球抜蓋２６５によって閉鎖されており、下皿２０２に遊技球Ｂを貯留させることができる。

【０３１９】

通常の状態において、下皿球抜ボタン２６３を後方へ押圧すると、下皿球抜蓋２６５が移動して、下皿球抜孔２０２ａが開いた状態となり、下皿球抜孔２０２ａを通して下皿２０２内の遊技球Ｂを皿ユニット２００の下方へ排出させることができる。

【０３２０】

なお、下皿球抜ボタン２６３の押圧により下皿球抜蓋２６５を移動させると、下皿球抜蓋２６５が移動したままの状態となり、下皿球抜孔２０２ａが開放されたままの状態で維持され、下皿２０２内の遊技球Ｂを連続して下方へ排出させることができる。

【０３２１】

この状態から下皿球抜孔２０２ａを閉鎖するには、下部前面装飾部２５２ｂの前面よりも後退している下皿球抜ボタン２６３を後方へ押圧した後に押圧を放すと、下皿球抜蓋２６５が通常の状態の位置に復帰し、下皿球抜孔２０２ａが閉鎖された状態となる。これにより、下皿２０２内に遊技球Ｂを貯留させることができる。

【０３２２】

［３－５ｄ－４．皿左装飾ユニット及び皿右装飾ユニット］

皿装飾ユニット２５０における皿左装飾ユニット２７０及び皿右装飾ユニット２７５について、主に図４８等を参照して詳細に説明する。皿左装飾ユニット２７０及び皿右装飾ユニット２７５は、皿ユニット本体２５２の上部サイド膨出部２５２ａにおける前面の上部に取付けられる。皿左装飾ユニット２７０及び皿右装飾ユニット２７５は、皿ユニット２００の上部で演出操作ユニット３００の左右両側を装飾するものである。

【０３２３】

皿左装飾ユニット２７０は、半円筒状で左右に延びており透光性を有している皿左装飾体２７１と、皿左装飾体２７１を貫通している透光性を有した皿左装飾レンズ２７２と、皿左装飾レンズ２７２の後側に設けられており前面に複数のＬＥＤが実装されている皿左装飾基板２７３と、を備えている。

【０３２４】

皿左装飾体２７１は、左端から右端へ向かうに従って、前方へ移動すると共に下方へ移動するように曲線状に延びており、左側の上部サイド膨出部２５２ａの上部に取付けられる。皿左装飾体２７１は、前方へ膨出した半円弧が、左端では中心軸が斜め左上に延びて

いると共に、右端では中心軸が左右に延びており、半円筒が捩れているような形状に形成されている。この皿左装飾体２７１は、乳白色に形成されている。

【０３２５】

皿左装飾レンズ２７２は、皿左装飾体２７１の前面と一致した状態でその長手方向へ延びている。皿左装飾基板２７３に実装されている複数のＬＥＤは、フルカラーＬＥＤとされており、発光させることで、皿左装飾体２７１を発光装飾させることができる。

【０３２６】

皿左装飾ユニット２７０は、扉枠３に組立てた状態で、左端が扉枠左サイドユニット４２０の下端と連続している。皿左装飾ユニット２７０は、皿左装飾体２７１において長手方向の途中にリブを有していないことから、皿左装飾基板２７３の複数のＬＥＤを発光させると、皿左装飾体２７１の前面全体を略均一に発光装飾させることができ、蛍光灯が埋め込まれているように見せることができる。

【０３２７】

皿右装飾ユニット２７５は、半円筒状で左右に延びており透光性を有している皿右装飾体２７６と、皿右装飾体２７６を貫通している透光性を有した皿右装飾レンズ２７７と、皿右装飾レンズ２７７の後側に設けられており前面に複数のＬＥＤが実装されている皿右装飾基板２７８と、を備えている。

【０３２８】

皿右装飾体２７６は、右端から左端へ向かうに従って、前方へ移動すると共に下方へ移動するように曲線状に延びており、右側の上部サイド膨出部２５２ａの上部に取付けられる。皿右装飾体２７６は、前方へ膨出した半円弧が、右端では中心軸が斜め右上に延びていると共に、左端では中心軸が左右に延びており、半円筒が捩れているような形状に形成されている。この皿右装飾体２７６は、乳白色に形成されている。

【０３２９】

皿右装飾レンズ２７７は、皿右装飾体２７６の前面と一致した状態でその長手方向へ延びている。皿右装飾基板２７８に実装されている複数のＬＥＤは、フルカラーＬＥＤとされており、発光させることで、皿右装飾体２７６を発光装飾させることができる。

【０３３０】

皿右装飾ユニット２７５は、扉枠３に組立てた状態で、右端が扉枠右サイドユニット４３０の下端と連続している。皿右装飾ユニット２７５は、皿右装飾体２７６において長手方向の途中にリブを有していないことから、皿右装飾基板２７８の複数のＬＥＤを発光させると、皿右装飾体２７６の前面全体を略均一に発光装飾させることができ、蛍光灯が埋め込まれているように見せることができる。

【０３３１】

皿左装飾ユニット２７０及び皿右装飾ユニット２７５は、扉枠３に組立てた状態で、皿装飾ユニット２５０の皿ユニット本体２５２における上部サイド膨出部２５２ａの前端よりも一部が上方へ突出しており、上部サイド膨出部２５２ａとの間で皿左装飾ユニット２７０及び皿右装飾ユニット２７５側が高くなった段差を形成することができる。これにより、皿左装飾ユニット２７０及び皿右装飾ユニット２７５と上部サイド膨出部２５２ａとの段差を利用して、遊技者が指を引掛けることができ、上皿２０１内の遊技球Ｂを均したり、後述する演出操作部３０１を操作したり、する際の指掛りとすることができる。また、皿左装飾ユニット２７０及び皿右装飾ユニット２７５と上部サイド膨出部２５２ａとの段差により、上部サイド膨出部２５２ａ上の遊技球Ｂが、前方へ流出することを防止することができる。

【０３３２】

［３－５ｅ．演出操作ユニットの全体構成］

皿ユニット２００における演出操作ユニット３００の全体構成について、主に図５２乃至図５６等を参照して詳細に説明する。図５２（ａ）は演出操作ボタンを上方へ向けた状態で演出操作ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は（ａ）の演出操作ユニットを後ろから見た斜視図である。図５３は演出操作ユニットを主な部材毎に分解して前上から

見た分解斜視図であり、図５４は演出操作ユニットを主な部材毎に分解して前下から見た分解斜視図である。図５５（ａ）は演出操作部ユニットが下降位置で昇降バネ下保持部材が上方へ移動端の位置の状態の演出操作ユニットの断面図であり、（ｂ）は（ａ）の状態から演出操作部ユニットが上昇位置へ移動した状態の演出操作ユニットの断面図である。図５６は、演出操作部ユニットが下降位置で昇降バネ下保持部材が下方へ移動端の位置の状態の演出操作ユニットの断面図である。

【０３３３】

演出操作ユニット３００は、皿ユニット２００における左右方向中央に備えられており、皿ユニット２００を装飾していると共に、遊技者参加型演出が実行された際に遊技者が操作して演出に参加することができるものである。演出操作ユニット３００は、皿ベースユニット２１０と皿装飾ユニット２５０とに取付けられている。

【０３３４】

演出操作ユニット３００は、遊技者が操作可能な演出操作部３０１を備えている。演出操作部３０１は、遊技者が接触操作可能な接触操作部３０２と、遊技者が押圧操作可能な押圧操作部３０３と、から構成され、遊技者の操作を受付けたり、演出操作部３０１を可動（振動）させたりすることができ、遊技者に対して遊技球Ｂの打込操作だけでなく、遊技中の演出にも参加することができるようにするものである。演出操作部３０１は、接触操作部３０２が押圧操作部３０３の上部に設けられている。演出操作部３０１は、接触操作部３０２及び押圧操作部３０３が、演出操作ユニット３００の外径に対して約５／８の大きさの直径の円形状に形成されている。

【０３３５】

演出操作ユニット３００は、皿ユニット２００の左右方向中央の前面に設けられ外形が球状の演出操作部カバーユニット３１０と、演出操作部カバーユニット３１０が外側に取付けられており皿装飾ユニット２５０の前面に取付けられる操作部ベース３１５と、操作部ベース３１５の上面に設けられており演出操作部カバーユニット３１０の上部（ユニット上カバー３１２）を発光装飾させるための複数のＬＥＤ３２０ａが実装されている演出操作部外周装飾基板３２０と、演出操作部外周装飾基板３２０を上方から覆うように操作部ベース３１５に取付けられている外周基板カバー３２５と、操作部ベース３１５の後面に取付けられている操作部中継基板ユニット３３０と、を備えている。

【０３３６】

また、演出操作ユニット３００は、演出操作部３０１を有している演出操作部ユニット３５０と、演出操作部ユニット３５０を昇降させる演出操作部昇降機構３６０と、演出操作部ユニット３５０の突出力を調整する突出力調整機構３８０と、を備えている。演出操作部ユニット３５０は、演出操作部昇降機構３６０により、演出操作部カバーユニット３１０の上面から上方へ進退可能に設けられている。

【０３３７】

［３－５ｅ－１．演出操作部カバーユニット］

演出操作ユニット３００の演出操作部カバーユニット３１０について、主に図５３乃至図５６等を参照して詳細に説明する。演出操作部カバーユニット３１０は、操作部ベース３１５を介して、皿装飾ユニット２５０の皿ユニット本体２５２の演出操作ユニット取付部に取付けられる。演出操作部カバーユニット３１０は、皿ユニット２００の左右方向中央で演出操作ユニット３００の外周（演出操作部ユニット３５０の周囲）を装飾するものである。

【０３３８】

演出操作部カバーユニット３１０は、上方及び後方へ開放された半球状のユニット下カバー３１１と、ユニット下カバー３１１の上方に設けられ演出操作部３０１が挿通される挿通口３１２ａを有した円環状のユニット上カバー３１２と、を備えている。ユニット下カバー３１１は、操作部ベース３１５の前方及び下方を覆うように半球状に形成されている。ユニット上カバー３１２は、ユニット下カバー３１１の外面と連続するように形成されている。つまり、演出操作部カバーユニット３１０は、外面が略球形に形成されている

。因みに、本実施形態の演出操作部カバーユニット３１０は、直径が２１６ｍｍの球形状である。
【０３３９】
演出操作部カバーユニット３１０は、円環状のユニット上カバー３１２の軸線が、上方へ向かうに従って前方へ位置するように、傾斜した状態で取付けられる。本実施形態では、鉛直線に対して約１８度（１８．６５度）の角度で傾斜している。
【０３４０】
演出操作部カバーユニット３１０は、扉枠３に組立てた状態で、その前端が扉枠３の前端となっており、扉枠ベース１０１の前面からユニット下カバー３１１の前端までの距離が、扉枠ベース１０１の左右方向の全幅の約１／２の距離となっている。
【０３４１】
演出操作部カバーユニット３１０は、少なくともユニット上カバー３１２が透光性を有しており、後述する演出操作部外周装飾基板３２０の複数のＬＥＤの発光により、発光装飾させることができる。
【０３４２】
演出操作部カバーユニット３１０は、皿ユニット２００に組立てた状態で、前端が、上皿２０１や下皿２０２よりも前方へ大きく突出している。また、演出操作部カバーユニット３１０は、ユニット下カバー３１１の左右両側から皿左装飾体２７１及び皿右装飾体２７６が外方へ延出するように接続されている。これにより、演出操作ユニット３００を目立たせていると共に、一体的な装飾により見栄えを良くしている。
【０３４３】
［３－５ｅ－２．操作部ベース］
演出操作ユニット３００の操作部ベース３１５について、主に図５３乃至図５６等を参照して詳細に説明する。操作部ベース３１５は、後側が皿ベースユニット２１０における上皿本体２１２の演出操作ユニット取付部２１２ａに取付けられる。操作部ベース３１５は、前方と下方がユニット下カバー３１１により覆われていると共に、上方がユニット上カバー３１２及び演出操作部３０１により覆われている。操作部ベース３１５は、上方が開放された容器状に形成されている。
【０３４４】
操作部ベース３１５は、上方が開放された略立方体の箱状の本体部３１５ａと、本体部の上端から外方へ延出しており外周が円形状に形成されているフランジ部３１５ｂと、を備えている。本体部３１５ａは、内部に演出操作部ユニット３５０が収容される。また、本体部３１５ａは、底壁に後述する演出操作部ユニット３５０における演出操作部昇降機構３６０の一対のガイドシャフト３６２と中央シャフト３６６の下端が取付けられる。また、本体部３１５ａは、底壁の上面において、突出力調整機構３８０の調整スクリュー３８４の下端側を回転可能に支持している。更に、本体部３１５ａの後壁の後面に、操作部中継基板ユニット３３０の基板ベース３３１が取付けられる。
【０３４５】
フランジ部３１５ｂは、上面に演出操作部外周装飾基板３２０が載置される。また、フランジ部３１５ｂは、演出操作部外周装飾基板３２０を挟むように、円環状の外周基板カバー３２５が取付けられる。外周基板カバー３２５にユニット上カバー３１２が取付けられている。
【０３４６】
操作部ベース３１５は、演出操作ユニット３００に組立てた状態で、フランジ部３１５ｂの上面が、ユニット下カバー３１１の上面に対して略同一面上に位置している。
【０３４７】
［３－５ｅ－３．操作部中継基板ユニット］
演出操作ユニット３００の操作部中継基板ユニット３３０について、主に図５３乃至図５６等を参照して詳細に説明する。操作部中継基板ユニット３３０は、操作部ベース３１５の後面に取付けられている。操作部中継基板ユニット３３０は、操作部ベース３１５に

おける本体部３１５ａの後面に取付けられる基板ベース３３１と、基板ベース３３１の後面に取付けられる操作部中継基板３３２と、操作部中継基板３３２を後方から覆うように基板ベース３３１に取付けられる基板カバー３３３と、を備えている。

【０３４８】

操作部中継基板３３２は、演出操作部外周装飾基板３２０（前装飾基板３２１及び後装飾基板３２２）、ボタン外装飾基板３５５、振動モータ３５６、接触検知センサ本体３５８、ボタン中装飾基板３６４、操作ボタン昇降駆動モータ３６７、押圧検知センサ３７３、昇降検知センサ３７４、突出力検知センサ３７５、及び突出力調整駆動モータ３８１と、皿ベースユニット２１０の皿ユニット中継基板２１４との接続を中継している。

【０３４９】

［３－５ｅ－４．演出操作部ユニット］

演出操作ユニット３００における演出操作部ユニット３５０について、主に図５３乃至図５６等を参照して詳細に説明する。演出操作部ユニット３５０は、演出操作部カバーユニット３１０におけるユニット上カバー３１２の挿通口３１２ａから外方へ臨むように設けられており、接触操作部３０２や押圧操作部３０３として機能することができるものである。

【０３５０】

演出操作部ユニット３５０は、上端側が閉鎖されている有底筒状のボタン本体３５１と、ボタン本体３５１内の上部に取付けられている円盤状の接触検知体３５２と、下方からボタン本体３５１内に挿入されている円筒状のボタンスリーブ３５３と、ボタンスリーブ３５３の下端に取付けられており演出操作部昇降機構３６０により昇降可能に支持される円盤状のボタンベース３５４と、ボタンベース３５４の上方に配置されており上面に複数のＬＥＤ３５５ａが実装されている円環状のボタン外装飾基板３５５と、を備えている。

【０３５１】

また、演出操作部ユニット３５０は、ボタン本体３５１とボタンスリーブ３５３との間に配置されている振動モータ３５６と、振動モータ３５６をボタンスリーブ３５３に取付けているモータカバー３５７と、接触検知体３５２と接続されておりボタンスリーブ３５３の外周に取付けられる接触検知センサ本体３５８と、を備えている。

【０３５２】

ボタン本体３５１は、全体が透明に形成されている。ボタン本体３５１は、上方へ膨出するように湾曲している円盤状の上面部３５１ａと、上面部３５１ａの外周から下方へ延出している筒状の筒状部３５１ｂと、筒状部３５１ｂの下端から下方へ突出している係止部３５１ｃと、を有している。上面部３５１ａは、演出操作部カバーユニット３１０の球状の表面と同じ直径の球面の一部を構成する形状に形成されている。この上面部３５１ａには、外径の約１／２の直径に形成されている円形の装飾が施されている。上面部３５１ａ（筒状部３５１ｂ）の外径（直径）は、演出操作部カバーユニット３１０の直径の約５／８である。筒状部３５１ｂの長さ（高さ）は、上面部３５１ａの直径の約５／８である。係止部３５１ｃは、筒状部の３５１ｂの周方向へ等間隔に四つ設けられている。係止部３５１ｃは、ボタンベース３５４に係止される。因みに、本実施形態のボタン本体３５１は、直径が約１２７ｍｍである。

【０３５３】

接触検知体３５２は、外周が円形で、外周から一定の幅の内側が上方へ膨出した皿状に形成されている。接触検知体３５２は、ボタン本体３５１の上面部３５１ａにおける円形の装飾の下方の部位で、上方へ斜めに膨出しその内側が平坦に形成されている。これにより、接触検知体３５２がボタン本体３５１の装飾の一部のように見えるようになっている。接触検知体３５２は、外周縁の左右両端と後端から下方へ延出した平板状の下方延出片３５２ａを有している。接触検知体３５２は、ボタン本体３５１の上面部３５１ａの下面に取付けられている。接触検知体３５２は、パンチングメタルにより形成されている。接触検知体３５２は、パンチングメタルの複数の孔により、全体の面積に対する静電容量が抑制されており、誤検知が防止されている。また、接触検知体３５２をパンチングメタル

としているため、下方に設けられているボタン中装飾基板３６４のＬＥＤ３６４ａからの光を上方へ透過させることができ、ボタン本体３５１の上面部３５１ａの中央部分を良好な状態で発光装飾させることができる。

【０３５４】

接触検知体３５２は、接触検知センサ本体３５８における接続コネクタの外部電極端子に接続されている。これにより、接触検知体３５２が静電容量を検知するためのセンサ電極として機能することができ、ボタン本体３５１の上面や側面への被検知対象（遊技者の手）接触や接近を検知することができる。つまり、接触検知体３５２と接触検知センサ本体３５８とで、ボタン本体３５１を接触操作部３０２として機能させることができる。

【０３５５】

ボタンスリーブ３５３は、上下に延びた筒状のスリーブ本体３５３ａと、スリーブ本体３５３ａの下端から外方へ延出している円環状のフランジ部３５３ｂと、を有している。ボタンスリーブ３５３は、全体が透明に形成されている。スリーブ本体３５３ａは、外径がボタン本体３５１の内径の約４／７であり、長さがボタン本体３５１の筒状部３５１ｂの長さと略同じである。ボタンスリーブ３５３は、フランジ部３５３ｂを通して、ボタン外装飾基板３５５の複数のＬＥＤ３５５ａからの光を上方へ透過させることができる。

【０３５６】

ボタンベース３５４は、ボタン本体３５１の外径と略同じ直径の円盤状であり、ボタン本体３５１の開放されている下端側を閉鎖するようにボタン本体３５１の下端に取付けられている。ボタンベース３５４は、中心に対して対称となる部位で上下に貫通している一対のガイド孔３５４ａと、中心において上下に貫通している中央孔３５４ｂと、中央孔の内面から中心へ向かって突出している一対の案内ピン３５４ｃと、を備えている。一対のガイド孔３５４ａは、夫々演出操作部昇降機構３６０のガイドシャフト３６２が摺動可能に挿入される。中央孔３５４ｂは、昇降カム部材３７１が通過可能な大きさの内径に形成されている。一対の案内ピン３５４ｃは、同一軸芯上で互いに対向していると共に、軸芯周りに回転可能に取付けられている。

【０３５７】

ボタンベース３５４は、下方へ延出しており、演出操作部昇降機構３６０の押圧検知センサ３７３により検知される平板状の検知片３５４ｄを、更に有している。ボタンベース３５４は、ボタン本体３５１の係止部３５１ｃが外周面に係止される。ボタンベース３５４は、一対のガイド孔３５４ａに一対のガイドシャフト３６２が挿通されることで、上下方向へ昇降可能に案内される。また、ボタンベース３５４は、一対の案内ピン３５４ｃが、昇降カム部材３７１のカム部３７１ａに案内されることで、上下方向へ移動させられる。ボタンベース３５４は、下面に、演出操作部昇降機構３６０の一対の昇降バネ３６５の上端が当接しており、一対の昇降バネ３６５により上方へ付勢されている。

【０３５８】

ボタン外装飾基板３５５は、上面に複数のＬＥＤ３５５ａが実装されている。複数のＬＥＤ３５５ａは、同心円の二重の円周上に列設されている。詳述すると、複数のＬＥＤ３５５ａは、ボタンスリーブ３５３のスリーブ本体３５３ａよりもやや外側の部位と、フランジ部３５３ｂの幅の中央付近の部位と、に設けられている。ボタン外装飾基板３５５のＬＥＤ３５５ａを適宜発光させることで、ボタン本体３５１の上面における接触検知体３５２よりも外側の部位と、ボタン本体３５１の側面（周面）とを発光装飾させることができる。

【０３５９】

振動モータ３５６は、回転軸に偏芯した錘が取付けられており、錘を回転させることで振動を発生させることができるものである。振動モータ３５６は、回転軸が左右方向へ延びるように配置されている。換言すると、振動モータ３５６は、演出操作部３０１の進退方向に対して直交する方向へ回転軸が延びるように配置されている。また、振動モータ３５６は、演出操作部３０１（演出操作部ユニット３５０）を上下方向へ案内する一対のガイドシャフト３６２を通る直線上の部位に設けられている。これにより、振動モータ３５

６からの振動を演出操作部３０１へ良好に伝達させることができる。また、振動モータ３５６による振動により、一対のガイド孔３５４ａ（一対のガイドシャフト３６２）への影響を軽減させることができる。

【０３６０】

接触検知センサ本体３５８は、静電容量センサである。接触検知センサ本体３５８は、詳細な図示は省略するが、サージ保護回路、発信回路、検波平滑回路、及び比較回路等を有したセンサＩＣと、出力回路と、センサＩＣや出力回路に電力を供給する定電圧回路と、センサ電極と、接続コネクタと、を有している。接触検知センサ本体３５８は、内部に有しているセンサ電極の静電容量を検知することができる。また、接触検知センサ本体３５８の接続コネクタは、センサ電極と接続されている外部電極端子を有しており、当該外部電極端子が接触検知体３５２に接続されている。つまり、接触検知センサ本体３５８は、接触検知体３５２を外部のセンサ電極として機能させることができるものである。接触検知センサ本体３５８は、センサ電極で静電容量を検知するとともに、外部抵抗で設定される所定の静電容量を越えたときにＯＮ信号を出力するものである。なお、本実施形態では、所定の静電容量を超えたときにＯＮ信号を出力するものであるが、静電容量の大小に応じて複数段階の信号を出力するものであっても良い。

【０３６１】

本実施形態の演出操作部ユニット３５０は、ボタン本体３５１の上面部３５１ａの下面に、接触検知センサ本体３５８により静電容量を検知するためのセンサ電極として機能させられる接触検知体３５２が設けられているため、接触検知体３５２を介してボタン本体３５１の上面への被検知対象（遊技者の手）接触や接近を検知することができる。また、演出操作部ユニット３５０の接触検知体３５２は、下方へ延出している複数の下方延出片３５２ａを有しているため、演出操作部ユニット３５０を上方へ突出させた状態で、ボタン本体３５１の側面への被検知対象（遊技者の手）接触や接近を検知することができる。このようなことから、演出操作部ユニット３５０は、接触検知体３５２と接触検知センサ本体３５８とで、ボタン本体３５１を接触操作部３０２として機能させることができる。

【０３６２】

この演出操作部ユニット３５０は、演出操作部昇降機構３６０により上下方向へ昇降可能に支持されている。演出操作部ユニット３５０は、最も下方へ移動した状態（通常の状態）では、ボタン本体３５１の上面部３５１ａが、演出操作部カバーユニット３１０のユニット上カバー３１２の上面と一致しており、演出操作ユニット３００が一つの球体に見えるようになっている。そして、演出操作部ユニット３５０を、演出操作部昇降機構３６０により通常の状態から上方へ移動させた状態では、ボタン本体３５１の上面部３５１ａがユニット上カバー３１２の上面よりも上方へ突出した状態となり、昇降バネ３６５の付勢力に抗して下方へ押圧することで、押圧操作部３０３として機能することができる。

【０３６３】

詳述すると、演出操作部ユニット３５０は、最も下方へ移動した状態（通常の状態）では、押圧してもこれ以上下方へ移動することはなく、押圧操作を行うことができない状態となっている。この通常の状態では、ボタンベース３５４の検知片３５４ｄが、演出操作部昇降機構３６０の押圧検知センサ３７３により検知されている。そして、演出操作部昇降機構３６０により演出操作部ユニット３５０を通常の状態よりも上方へ移動させた状態にすると、ボタンベース３５４の検知片３５４ｄが押圧検知センサ３７３から離れ、非検知の状態となる。そして、演出操作部ユニット３５０の上面を下方へ押圧し、昇降バネ３６５の付勢力に抗して演出操作部ユニット３５０を下方の移動端まで下降させると、ボタンベース３５４の検知片３５４ｄが押圧検知センサ３７３により検知される。これにより、演出操作部ユニット３５０（押圧操作部３０３）の押圧操作が検知される。

【０３６４】

また、演出操作部ユニット３５０は、パンチングメタルからなる接触検知体３５２の上方をボタン本体３５１で覆っているため、接触操作部３０２を操作する際に、滑らかな球状のボタン本体３５１の上面に触れることとなり、複数の孔による凹凸を有したパンチン

グメタルの表面を遊技者が直接触れることはなく、遊技者に対して接触操作部３０２を滑らかに操作させることができる。また、接触検知体３５２をボタン本体３５１で覆っているため、ボタン本体３５１の表面（上面）に、微細な凹凸や複数の筋等を形成することで、接触操作部３０２に対して任意の触感を付与させることが可能となり、接触操作部３０２に対する設計自由度を高めることができ、より遊技者を楽しませられるパチンコ機１を提供することができる。

【０３６５】

なお、上記では、ボタン本体３５１を透明なものとしたが、これに限定するものではなく、ボタン本体３５１を通して下方側が視認し難い、不透明、又は、半透明なものとしても良い。これにより、ボタン本体３５１を通してパンチングメタルからなる接触検知体３５２が見え辛くなるため、演出操作部ユニット３５０の見栄えを良くすることができる。また、ボタン本体３５１を不透明なものとした場合、透光性を有するようにすることが望ましい。これにより、下方に設けられているボタン外装飾基板３５５のＬＥＤ３５５ａやボタン中装飾基板３６４のＬＥＤ３６４ａ等からの光により、ボタン本体３５１を発光装飾させることができ、ボタン本体３５１の発光演出により遊技者を楽しませることができる。

【０３６６】

［３－５ｅ－５．演出操作部昇降機構］

演出操作ユニット３００における演出操作部昇降機構３６０について、主に図５３乃至図５６等を参照して詳細に説明する。演出操作部昇降機構３６０は、操作部ベース３１５に取付けられており、演出操作部ユニット３５０を昇降させることができるものである。演出操作部昇降機構３６０は、演出操作部ユニット３５０の下方で操作部ベース３１５の本体部３１５ａ内に取付けられており外周が略円形状の昇降機構ベース３６１と、昇降機構ベース３６１の中心軸を対称に配置されており下端が操作部ベース３１５の本体部３１５ａの底壁に取付けられていると共に上端が操作部ベース３１５及びボタンベース３５４を貫通して上方へ延出している円柱状の一対のガイドシャフト３６２と、一対のガイドシャフト３６２の上端同士を連結しており外周がボタンスリーブ３５３の内径よりも小さい円盤状の上部ベース３６３と、上部ベース３６３の上面に取付けられており上方へ光を照射可能な複数のＬＥＤ３６４ａが実装されているボタン中装飾基板３６４と、を備えている。

【０３６７】

また、演出操作部昇降機構３６０は、一対のガイドシャフト３６２が夫々挿通されておりボタンベース３５４を上方へ付勢している一対の昇降バネ３６５と、昇降機構ベース３６１及びボタンベース３５４の中心において上下に貫通しており下端が本体部３１５ａの底壁に取付けられていると共に上端が上部ベース３６３に取付けられている中央シャフト３６６と、を備えている。

【０３６８】

更に、演出操作部昇降機構３６０は、昇降機構ベース３６１の下面に回転軸が上方へ突出するように取付けられている操作ボタン昇降駆動モータ３６７と、操作ボタン昇降駆動モータ３６７の回転軸に取付けられている平歯車状の昇降駆動ギア３６８と、昇降駆動ギア３６８と噛合しており昇降機構ベース３６１の上側に回転可能に取付けられている平歯車状の従動ギア３６９と、従動ギア３６９により回転させられ中央シャフト３６６が挿通されて回転可能に取付けられている昇降カム駆動ギア部材３７０と、を備えている。

【０３６９】

また、演出操作部昇降機構３６０は、昇降カム駆動ギア部材３７０と下端が連結されていると共に中央シャフト３６６が挿通されて回転可能に取付けられており回転することでボタンベース３５４を昇降させる昇降カム部材３７１と、昇降駆動ギア３６８、従動ギア３６９、及び昇降カム駆動ギア部材３７０を上方から覆うように昇降機構ベース３６１の上側に取付けられている円盤状のギアカバー３７２と、を備えている。

【０３７０】

また、演出操作部昇降機構３６０は、昇降機構ベース３６１に取付けられており押圧操作部３０３の押圧操作を検知する押圧検知センサ３７３と、昇降機構ベース３６１に取付けられており昇降カム駆動ギア部材３７０（昇降カム部材３７１）の回転位置を検知することで演出操作部ユニット３５０の昇降を検知する昇降検知センサ３７４と、昇降機構ベース３６１に取付けられており突出力調整機構３８０の昇降バネ下保持部材３８５の昇降を検知することで演出操作部ユニット３５０の突出力を検知する突出力検知センサ３７５と、を備えている。

【０３７１】

昇降機構ベース３６１は、円盤状に形成されているベース本体３６１ａと、ベース本体３６１ａから下方へ突出している複数の脚部３６１ｂと、ベース本体３６１ａを貫通しており一対のガイドシャフト３６２と共に昇降バネ３６５が通過可能な一対の貫通孔３６１ｃと、を備えている。昇降機構ベース３６１のベース本体３６１ａは、外径が、操作部ベース３１５における本体部３１５ａの内周径よりも若干小さい大きさに形成されている。ベース本体３６１ａには、従動ギア３６９、昇降カム駆動ギア部材３７０、ギアカバー３７２、押圧検知センサ３７３、及び突出力検知センサ３７５が、上面に取付けられている。また、ベース本体３６１ａには、操作ボタン昇降駆動モータ３６７、昇降検知センサ３７４、及び突出力調整駆動モータ３８１が、下面に取付けられている。昇降機構ベース３６１は、脚部３６１ｂの下端が操作部ベース３１５における本体部３１５ａの底壁に取付けられる。これにより、操作部ベース３１５の本体部３１５ａの底壁と昇降機構ベース３６１のベース本体３６１ａとの間に、突出力調整機構３８０が配置される空間が形成されている。一対の貫通孔３６１ｃは、昇降機構ベース３６１のベース本体３６１ａにおいて、中心から前方及び後方へ、ベース本体３６１ａの直径の半分の距離の位置に夫々設けられている。

【０３７２】

一対のガイドシャフト３６２は、昇降機構ベース３６１のベース本体３６１ａにおいて、中心から前方及び後方へ、ベース本体３６１ａの直径の半分の距離の位置に設けられている一対の貫通孔３６１ｃを貫通している。中央シャフト３６６は、昇降機構ベース３６１のベース本体３６１ａの中心を貫通している。一対のガイドシャフト３６２及び中央シャフト３６６は、夫々の下端が操作部ベース３１５における本体部３１５ａの底壁に取付けられていると共に、夫々の上端が上部ベース３６３に取付けられている。一対のガイドシャフト３６２及び中央シャフト３６６は、金属棒によって形成されている。

【０３７３】

上部ベース３６３は、外径が昇降機構ベース３６１のベース本体３６１ａの外径の約１／２の大きさに形成されている。上部ベース３６３は、下方へ突出している下突部を有している。上部ベース３６３は、下突部をギアカバー３７２の上突部に当接させることにより、上部ベース３６３と昇降機構ベース３６１との間に、昇降カム部材３７１を収容可能な空間を形成することができる。

【０３７４】

ボタン中装飾基板３６４は、上面に実装されている複数のＬＥＤ３６４ａがフルカラーＬＥＤとされている。ボタン中装飾基板３６４は、複数のＬＥＤ３６４ａを適宜発光させることで、ボタン本体３５１の上面の中央部分を発光装飾させることができる。

【０３７５】

一対の昇降バネ３６５は、コイルスプリングとされており、夫々においてガイドシャフト３６２が挿通されている。一対の昇降バネ３６５は、下端が突出力調整機構３８０の昇降バネ下保持部材３８５に当接していると共に、上端がボタンベース３５４に当接している。

【０３７６】

昇降カム駆動ギア部材３７０は、従動ギア３６９と噛合する平歯車状のギア部３７０ａと、ギア部３７０ａから上方へ突出しており昇降カム部材３７１の下端が連結される連結部３７０ｂと、ギア部３７０ａから下方へ筒状に突出していると共に対向している二箇所

が切欠かれており昇降検知センサ３７４により検知される昇降検知片３７０ｃと、を備えている。昇降カム駆動ギア部材３７０は、ギア部３７０ａの中心に中央シャフト３６６が挿入されることで、回転可能に取付けられる。

【０３７７】

昇降カム部材３７１は、円柱状に形成されており、中心に中央シャフト３６６が挿通されることで、回転可能に取付けられる。昇降カム部材３７１は、ギアカバー３７２を貫通しており、上部ベース３６３と昇降機構ベース３６１との間に設けられている。昇降カム部材３７１は、円柱状の外周面において周方向へ１８０度離間しており、外方へ突出している一対のカム部３７１ａを備えている。一対のカム部３７１ａは、ボタンベース３５４の案内ピン３５４ｃを案内するものである。

【０３７８】

カム部３７１ａは、下端付近において軸芯に対して直角方向へ延びている第一カム３７１ｂと、第一カム３７１ｂの中間で上方へ窪んでいる係止部３７１ｃと、第一カム３７１ｂの一方の端部から軸芯と平行に上方へ延びている第二カム３７１ｄと、第一カム３７１ｂの第二カム３７１ｄとは反対側の端部から螺旋状に上方へ延びている第三カム３７１ｅと、を備えている（図５５等を参照）。第二カム３７１ｄと第三カム３７１ｅは、同じ高さまで上方へ延びており、隣接するカム部３７１ａ同士の間では、ボタンベース３５４の案内ピン３５４ｃの直径よりも小さい距離で離間している。

【０３７９】

また、昇降カム部材３７１は、下端に昇降カム駆動ギア部材３７０の連結部３７０ｂと連結する被連結部３７１ｆを備えている。

【０３８０】

昇降カム部材３７１は、カム部３７１ａの第二カム３７１ｄが、昇降カム部材３７１の平面視において反時計回りの方向へ回転させた時に、第一カム３７１ｂの後端側から上方へ延出するように形成されている。昇降カム部材３７１は、回転することで、カム部３７１ａによりボタンベース３５４の案内ピン３５４ｃを案内することができ、昇降バネ３６５により上方へ付勢されているボタンベース３５４（演出操作部ユニット３５０）を昇降させることができる。

【０３８１】

ギアカバー３７２は、昇降バネ３６５及び昇降カム部材３７１が通過可能な貫通孔を有している。また、ギアカバー３７２は、上部ベース３６３の下突部と対面する部位に、上方へ突出している上突部を有している。ギアカバー３７２は、上突部を上部ベース３６３の下突部の下端に当接させることにより、上部ベース３６３と昇降機構ベース３６１との間に、昇降カム部材３７１を収容可能な空間を形成することができる。

【０３８２】

押圧検知センサ３７３は、演出操作部ユニット３５０におけるボタンベース３５４の検知片３５４ｄを検知することで、演出操作部ユニット３５０（押圧操作部３０３）の押圧操作を検知するものである。押圧検知センサ３７３は、演出操作部ユニット３５０が最も下方へ移動した状態（通常の状態）では、ボタンベース３５４の検知片３５４ｄを常時検知している。この押圧検知センサ３７３は、演出操作部昇降機構３６０により演出操作部ユニット３５０を通常の状態よりも上方へ移動させると、ボタンベース３５４の検知片３５４ｄが離れるため、非検知の状態となる。そして、押圧検知センサ３７３は、演出操作部ユニット３５０の上面が下方へ押圧されて、昇降バネ３６５の付勢力に抗して演出操作部ユニット３５０が下方の移動端まで下降させると、ボタンベース３５４の検知片３５４ｄを検知し、演出操作部ユニット３５０（押圧操作部３０３）の押圧操作を検知することができる。

【０３８３】

昇降検知センサ３７４は、昇降カム駆動ギア部材３７０の昇降検知片３７０ｃを検知することで、昇降カム駆動ギア部材３７０の連結部３７０ｂに連結されている被連結部３７１ｆを介して、昇降カム部材３７１の回転位置を検知している。

【０３８４】
突出力検知センサ３７５は、突出力調整機構３８０における昇降バネ下保持部材３８５の検知片３８５ｄを検知するものである。
【０３８５】
演出操作部昇降機構３６０は、前後に並んだ一対のガイドシャフト３６２によりボタンベース３５４を介して演出操作部ユニット３５０を昇降可能に支持することができると共に、一対の昇降バネ３６５によりボタンベース３５４を介して演出操作部ユニット３５０を上方へ付勢することができる。また、演出操作部昇降機構３６０は、操作ボタン昇降駆動モータ３６７により昇降カム部材３７１を回転させることで、演出操作部ユニット３５０（演出操作部３０１）を、演出操作部カバーユニット３１０に対して昇降させることができる。また、演出操作部昇降機構３６０は、ボタン中装飾基板３６４に実装されている複数のＬＥＤ３６４ａを適宜発光させることで、ボタン本体３５１の上面の中央部分を発光装飾させることができる。
【０３８６】
演出操作部昇降機構３６０は、通常の状態では、昇降カム部材３７１の下端側に設けられている係止部３７１ｃに、ボタンベース３５４の案内ピン３５４ｃが係止されている（図５５（ａ）を参照）。この通常の状態では、ボタンベース３５４を介して演出操作部ユニット３５０が下方への移動端に位置しており、演出操作部ユニット３５０（押圧操作部３０３）を下方へ押圧しても、演出操作部ユニット３５０は下方へ移動することはない。従って、通常の状態では、押圧操作部３０３の押圧操作が検知されない。また、通常の状態では、演出操作部カバーユニット３１０におけるユニット上カバー３１２の表面（上面）と、演出操作部ユニット３５０におけるボタン本体３５１の上面とが、一致しており、演出操作部カバーユニット３１０とボタン本体３５１とで一つの球体を形成している。
【０３８７】
通常の状態（演出操作部ユニット３５０が下降位置の状態）で、操作ボタン昇降駆動モータ３６７により昇降駆動ギア３６８を平面視において反時計回りの方向へ回転させると、昇降駆動ギア３６８と噛合している従動ギア３６９を介して昇降カム駆動ギア部材３７０が平面視反時計回りの方向へ回転し、昇降カム駆動ギア部材３７０と連結されている昇降カム部材３７１も同じ方向へ回転することとなる。この昇降カム部材３７１が反時計回りの方向へ回転すると、図５５（ａ）において正面に見えているカム部３７１ａが右方へ移動することとなり、ボタンベース３５４の案内ピン３５４ｃが、係止部３７１ｃから第一カム３７１ｂにおける係止部３７１ｃの左方の部位へ転動すると共に、案内ピン３５４ｃを介してボタンベース３５４が昇降バネ３６５の付勢力に抗して僅かに下方へ移動する。
【０３８８】
そして、昇降カム部材３７１の回転に伴って、第一カム３７１ｂに沿って相対的に左方へ転動する案内ピン３５４ｃが、第一カム３７１ｂの左端から第二カム３７１ｄ側へ位置すると、第二カム３７１ｄが第一カム３７１ｂに対して垂直に上方へ延びていることから、昇降バネ３６５の付勢力により案内ピン３５４ｃが第二カム３７１ｄに沿って上方へ移動することとなり、案内ピン３５４ｃと一緒にボタンベース３５４が上昇して、演出操作部ユニット３５０が上昇位置の状態となる。この状態では、押圧検知センサ３７３から検知片３５４ｄが離れるため、押圧検知センサ３７３が非検知の状態となっている。
【０３８９】
なお、昇降バネ３６５の下端が当接している突出力調整機構３８０の昇降バネ下保持部材３８５は、詳細は後述するが、突出力調整駆動モータ３８１により上下方向の様々な位置に移動させることができる。そして、昇降バネ下保持部材３８５の上下方向の位置に応じて、昇降バネ３６５の圧縮量を変化させることができるため、昇降バネ３６５の圧縮量に応じた突出力で演出操作部ユニット３５０を上昇位置へ突出させることができる。
【０３９０】
演出操作部ユニット３５０が上昇位置の状態では、図５５（ｂ）に示すように、ボタン

ベース３５４の案内ピン３５４ｃが、一方のカム部３７１ａの第二カム３７１ｄと残りのカム部３７１ａの第三カム３７１ｅとに接した状態となっている。この状態で、操作ボタン昇降駆動モータ３６７の駆動が一旦停止される。

【０３９１】

演出操作部ユニット３５０が上昇位置の状態では、ボタンベース３５４の上面が上部ベース３６３の下面に当接しており、ボタンベース３５４のこれ以上の上方への移動が規制されている。また、演出操作部ユニット３５０が上昇位置の状態では、演出操作部ユニット３５０（演出操作部３０１）全体が上方へ移動していると共に、ボタン本体３５１の上面部３５１ａがユニット上カバー３１２の上面よりも上方へ突出している。

【０３９２】

この上昇位置の状態で、演出操作部ユニット３５０のボタン本体３５１（押圧操作部３０３）を、昇降バネ３６５の付勢力よりも強い力で下方へ押圧した場合、演出操作部ユニット３５０が昇降バネ３６５の付勢力に抗して下方へ移動し、ボタンベース３５４がギアカバー３７２に当接することとなる。ボタンベース３５４がギアカバー３７２に当接することで、ボタンベース３５４が下降位置の状態となり、ボタンベース３５４と共に演出操作部ユニット３５０（押圧操作部３０３）も下降位置の状態となる。

【０３９３】

このように、ボタンベース３５４がギアカバー３７２に当接すると、ボタンベース３５４から下方へ突出している検知片３５４ｄが、押圧検知センサ３７３に検知された状態となり、演出操作部ユニットのボタン本体３５１（押圧操作部３０３）の押圧が検知される。

【０３９４】

演出操作部ユニット３５０（押圧操作部３０３）を、上昇位置から下降位置へ戻すには、操作ボタン昇降駆動モータ３６７により、昇降カム部材３７１を平面視反時計回りの方向へ回転させると、図５５（ｂ）において、ボタンベース３５４の案内ピン３５４ｃの左上と当接している第三カム３７１ｅが、右方（案内ピン３５４ｃの方向）へ移動することとなるため、第三カム３７１ｅによって案内ピン３５４ｃが下方へ押圧され、案内ピン３５４ｃを介してボタンベース３５４が昇降バネ３６５の付勢力に抗して下方へ移動することとなる。

【０３９５】

なお、演出操作部ユニット３５０を下降位置へ戻す際に、突出力調整機構３８０の突出力調整駆動モータ３８１により昇降バネ下保持部材３８５を下方へ移動させて、昇降バネ３６５の圧縮量を小さくした状態とする（図５６を参照）。これにより、演出操作部ユニット３５０を上方へ付勢している昇降バネ３６５の付勢力が弱くなるため、ボタンベース３５４の案内ピン３５４ｃを介して昇降カム部材３７１の第三カム３７１ｅに作用する力も弱くなり、昇降カム部材３７１を回転させる操作ボタン昇降駆動モータ３６７にかかる負荷を軽減させることができ、操作ボタン昇降駆動モータ３６７の破損（故障）を低減させることができる。また、操作ボタン昇降駆動モータ３６７として、トルクの低い安価なものを用いることができる。

【０３９６】

そして、昇降カム部材３７１の回転に伴って案内ピン３５４ｃが第三カム３７１ｅの下端から第一カム３７１ｂ側へ移動すると、ボタンベース３５４の下方への移動が停止し、案内ピン３５４ｃが第一カム３７１ｂに沿って転動する。その後、案内ピン３５４ｃが第一カム３７１ｂの途中の係止部３７１ｃの位置に到達すると、昇降バネ３６５の付勢力により案内ピン３５４ｃが上方へ窪んだ係止部３７１ｃ内に挿入されると共に、操作ボタン昇降駆動モータ３６７による昇降カム部材３７１の回転を停止させることで、演出操作部ユニット３５０が元の下降位置の状態となる。

【０３９７】

なお、上記では、演出操作部昇降機構３６０において、操作ボタン昇降駆動モータ３６７により昇降カム部材３７１を反時計回りの方向へ回転させることにより、ボタンベース

３５４の案内ピン３５４ｃを、第一カム３７１ｂ（係止部３７１ｃ）から第二カム３７１ｄへ移動させて、ボタンベース３５４（ボタン本体３５１）を下降位置から上昇位置へ一気に突出させる例を説明したが、ボタンベース３５４の案内ピン３５４ｃが昇降カム部材３７１の係止部３７１ｃに係止されてボタン本体３５１（演出操作部ユニット３５０）が下降位置に移動している通常の状態において、操作ボタン昇降駆動モータ３６７により昇降カム部材３７１を平面視において時計回りの方向へ回転させるようにしても良い。因みに、本実施形態における演出操作部昇降機構３６０によるボタン本体３５１（演出操作部ユニット３５０）の昇降距離は、約４０ｍｍである。

【０３９８】

通常の状態で昇降カム部材３７１を時計周りの方向へ回転させると、案内ピン３５４ｃが第一カム３７１ｂから第三カム３７１ｅへ移動し、昇降バネ３６５の付勢力により案内ピン３５４ｃが第三カム３７１ｅに沿って上方へ移動することとなる。そして、案内ピン３５４ｃが第三カム３７１ｅの途中の位置の時に、昇降カム部材３７１の回転を停止させると、ボタン本体３５１を下降位置と上昇位置との間の任意の位置で上方への突出を停止させることができる。そして、ボタン本体３５１を下降位置よりも上方の位置へ突出させることで、昇降バネ３６５の付勢力に抗してボタン本体３５１を下方へ押圧することが可能となり、ボタン本体３５１を押圧操作部３０３として機能させることができる。

【０３９９】

なお、第三カム３７１ｅによりボタン本体３５１を上方へ突出させる際には、突出力調整機構３８０の昇降バネ下保持部材３８５を下方へ移動させて、昇降バネ３６５の付勢力を弱くしておくことが望ましい。これにより、昇降カム部材３７１（操作ボタン昇降駆動モータ３６７）の回転にかかる負荷を軽減させることができると共に、ボタン本体３５１の押圧操作の操作感を軽くすることができる。

【０４００】

このように、昇降カム部材３７１の回転位置に応じて、ボタン本体３５１（演出操作部ユニット３５０）の突出量を変化させることができるため、遊技状態に応じて（例えば、第一始動口２００２や第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより抽選される特別抽選結果に応じて）、ボタン本体３５１の突出量を異ならせることで、遊技に対する期待度を遊技者に示唆させることができる。

【０４０１】

なお、昇降カム部材３７１の第三カム３７１ｅの途中に、案内ピン３５４ｃを係止可能な浅い凹部を少なくとも一つ設けるようにしても良い。これにより、同じ突出量の位置へ安定してボタン本体３５１（演出操作部ユニット３５０）を突出させることができ、突出量のバラツキを防止することができる。また、第三カム３７１ｅの途中の少なくとも一か所に凹部を設けるようにした場合、凹部に案内ピン３５４ｃが係止されることで、操作ボタン昇降駆動モータ３６７により昇降カム部材３７１を回転停止させ続ける必要が無く、操作ボタン昇降駆動モータ３６７にかかる負荷を軽減させることができる。

【０４０２】

［３－５ｅ－６．突出力調整機構］

演出操作ユニット３００における突出力調整機構３８０について、主に図５３乃至図５６等を参照して説明する。突出力調整機構３８０は、演出操作部ユニット３５０を上方へ付勢している昇降バネ３６５の圧縮量を変化させることで、演出操作部ユニット３５０（押圧操作部３０３）が上方へ突出する勢い（突出力）を変化させることができるものである。突出力調整機構３８０は、操作部ベース３１５における本体部３１５ａの底壁と、昇降機構ベース３６１のベース本体３６１ａとの間に設けられている。

【０４０３】

突出力調整機構３８０は、昇降機構ベース３６１のベース本体３６１ａの下面に取付けられている突出力調整駆動モータ３８１と、突出力調整駆動モータ３８１の回転軸に取付けられている平歯車状のピニオンギア３８２と、ピニオンギア３８２と噛合しておりベース本体３６１ａの下面に回転可能に取付けられている伝達ギア３８３と、伝達ギア３８３

と噛合している平歯車状のギア部３８４ａ、及びギア部３８４ａから下方へ円柱状に延出しており外周にスパイラル状の溝が形成されているスクリュー部３８４ｂを有しており、中央シャフト３６６が挿通されて回転可能に支持されている調整スクリュー３８４と、調整スクリュー３８４のスクリュー部３８４ｂと噛合しており一対のガイドシャフト３６２が貫通していると共に一対の昇降バネ３６５の下端が当接している昇降バネ下保持部材３８５と、を備えている。

【０４０４】

突出力調整駆動モータ３８１は、昇降機構ベース３６１のベース本体３６１ａの下面との間に隙間が形成されるように、ベース本体３６１ａの下面に取付けられている。突出力調整駆動モータ３８１は、ベース本体３６１ａとの間の隙間に回転軸が突出している。

【０４０５】

調整スクリュー３８４は、上下が、操作部ベース３１５における本体部３１５ａの底壁から、昇降機構ベース３６１のベース本体３６１ａまでに亘る長さに形成されている。調整スクリュー３８４のスクリュー部３８４ｂは、ギア部３８４ａよりも大きい直径の円柱状に形成されている。

【０４０６】

昇降バネ下保持部材３８５は、前後に延びている本体部３８５ａと、本体部３８５ａの中央で上下に貫通しておりスクリュー部３８４ｂと螺合している螺合孔３８５ｂと、本体部３８５ａの前後両端に設けられており昇降バネ３６５の下端を収容可能な下方へ凹んだバネ保持凹部３８５ｃと、本体部３８５ａの前端から上方へ延出している平板状の検知片３８５ｄと、を有している。昇降バネ下保持部材３８５は、一対のバネ保持凹部３８５ｃの中央において、ガイドシャフト３６２が夫々貫通している。検知片３８５ｄは、演出操作部昇降機構３６０の突出力検知センサ３７５により検知される。

【０４０７】

突出力調整機構３８０は、突出力調整駆動モータ３８１によりピニオンギア３８２を回転させると、伝達ギア３８３及びギア部３８４ａを介して調整スクリュー３８４を中央シャフト３６６の周りに回転させることができる。そして、突出力調整機構３８０は、突出力調整駆動モータ３８１により調整スクリュー３８４を回転させることで、スクリュー部３８４ｂと噛合している螺合孔３８５ｂにより昇降バネ下保持部材３８５を上下方向へ移動させることができる。

【０４０８】

突出力調整機構３８０は、昇降バネ下保持部材３８５を上方へ移動させると、バネ保持凹部３８５ｃに保持されている昇降バネ３６５の下端が上方へ移動することとなり、昇降バネ３６５の圧縮量が大きくなる。一方、昇降バネ下保持部材３８５を下方へ移動させると、バネ保持凹部３８５ｃに保持されている昇降バネ３６５の下端が下方へ移動することとなり、昇降バネ３６５の圧縮量が小さくなる（図５６を参照）。つまり、昇降バネ下保持部材３８５を上方へ移動させると、昇降バネ３６５による演出操作部ユニット３５０を上方へ付勢する付勢力を大きくすることができ、昇降バネ下保持部材３８５を下方へ移動させると、昇降バネ３６５による演出操作部ユニット３５０を上方へ付勢する付勢力を小さくすることができる。これにより、突出力調整機構３８０によって、演出操作部ユニット３５０の上方への突出力を調整することができる。

【０４０９】

昇降バネ下保持部材３８５の検知片３８５ｄは、昇降バネ下保持部材３８５を最も上昇させた時に、突出力検知センサ３７５により検知される。つまり、昇降バネ３６５の圧縮量が最も大きくなる状態の時に、検知片３８５ｄが突出力検知センサ３７５により検知される。これにより、突出力調整駆動モータ３８１により昇降バネ下保持部材３８５を上方へ移動させている時に、突出力検知センサ３７５が検知片３８５ｄを検知すると、突出力調整駆動モータ３８１による昇降バネ下保持部材３８５の上方への移動を停止させるようにすることで、昇降バネ３６５のこれ以上の圧縮を防止することができ、突出力調整機構３８０の破損を防止することができる。

【０４１０】
　また、突出力調整機構３８０は、上述したように、演出操作部ユニット３５０の突出力を適宜調整することができるため、演出操作部ユニット３５０が下降位置の状態で、接触検知体３５２によりボタン本体３５１への被検知対象（例えば、遊技者の手指等）の接触又は接近を検知して、演出操作部昇降機構３６０により演出操作部ユニット３５０を突出させて被検知対象に当接させるようにした時に、昇降バネ下保持部材３８５の上下方向の位置を適宜選択してボタン本体３５１の突出力を異ならせるようにしても良い。これにより、ボタン本体３５１が上方へ突出した時に、遊技者の手指等にかかる強さを異ならせることができるため、ボタン本体３５１が強く当接すると、遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技者の遊技に対する期待感を高めさせることができる。従って、突出力調整機構３８０によれば、遊技状態に応じて（例えば、第一始動口２００２や第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより抽選される特別抽選結果に応じて）、ボタン本体３５１の突出力を強くしたり弱くしたりすることにより、遊技に対する期待度を遊技者に示唆させることができる。
【０４１１】
　ところで、バネの付勢力を変化させる方法として、バネに捩れを加えることにより付勢力を変化させることが考えられる。しかしながら、演出操作部ユニット３５０を突出させるためには圧縮されたバネ（圧縮コイルバネ）を用いる必要があり、圧縮コイルバネに捩れを加えて付勢力を変化させるようにすると、本来の使用とは異なる無理な応力が圧縮コイルバネに作用することとなり、内部組織が早期に劣化して破損してしまう恐れがある。これに対して、本実施形態の突出力調整機構３８０では、昇降バネ下保持部材３８５の上下方向への移動により昇降バネ３６５の圧縮量を変化させることで、演出操作部ユニット３５０の突出力（付勢力）を調整するようにしているため、昇降バネ３６５に無理な応力が作用することはなく、昇降バネ３６５が早期に劣化してしまうことを低減させることができ、演出操作部ユニット３５０を長期に亘って安定的に突出させることができる。
【０４１２】
［３－５ｅ－７．演出操作ユニットの作用］
　次に、演出操作ユニット３００の作用について、主に図５７及び図５８等を参照して詳細に説明する。図５７は、演出操作ユニットを押圧操作部の押圧方向から見た平面図において演出操作部外周装飾基板、ボタン外装飾基板、及びボタン内装飾基板の位置関係を示す説明図である。図５８（ａ）は通常の状態で示す皿ユニットの正面図であり、（ｂ）は演出操作部ユニットが上昇位置の時の皿ユニットの正面図である。演出操作ユニット３００は、全体が球状に形成されており、上面に遊技者が操作可能な演出操作部３０１を備えている。演出操作部３０１は、遊技者の手等の接触や接近による操作が可能な接触操作部３０２と、押圧操作が可能な押圧操作部３０３とで構成されている。接触操作部３０２は、押圧操作部３０３（ボタン本体３５１）の上部に設けられている。
【０４１３】
　演出操作ユニット３００は、上方へ突出可能な押圧操作部３０３（演出操作部ユニット３５０）の突出方向が、鉛直方向に対して上方が前方へ位置するように傾斜した状態で皿ユニット２００に組立てられている。つまり、演出操作部３０１の中央が、球状の演出操作ユニット３００の頂点よりも前方に位置している。これにより、本パチンコ機１の前方に着座した遊技者から、演出操作部３０１が見え易くなっている。
【０４１４】
　演出操作ユニット３００は、通常の状態では、押圧操作部３０３（演出操作部ユニット３５０）が下降位置の状態となっており、演出操作部ユニット３５０のボタン本体３５１の湾曲している上面が、演出操作部カバーユニット３１０の球面状の表面と一致している。また、通常の状態では、押圧操作部３０３を下方へ押圧しても、押圧操作部３０３（演出操作部ユニット３５０）が下方へ移動することはない。従って、通常の状態では、遊技者に対して演出操作ユニット３００が単なる球状の装飾体のように見え、操作可能なものであることを認識させ難くしている。

【０４１５】
演出操作ユニット３００は、図５７に示すように、押圧操作部３０３（演出操作部ユニット３５０）の外周を囲んでいるユニット上カバー３１２の下方に演出操作部外周装飾基板３２０が配置されていると共に、押圧操作部３０３の外縁付近の内側に円環状のボタン外装飾基板３５５と、更にその内側にボタン中装飾基板３６４とが配置されている。演出操作ユニット３００は、ボタン中装飾基板３６４を中心にして、ボタン外装飾基板３５５、演出操作部外周装飾基板３２０の順に、外方へ配置されている。なお、ボタン中装飾基板３６４とボタン外装飾基板３５５の内側のＬＥＤ３５５ａは、接触検知体３５２の下方に配置されているが、接触検知体３５２がパンチングメタルにより形成されていることで透光性を有しているため、それらからの光を上方（遊技者側）へ良好に透過させることができる。

【０４１６】
演出操作ユニット３００は、演出操作部外周装飾基板３２０のＬＥＤ３２０ａにより、環状のユニット上カバー３１２を発光装飾させることができる。また、ボタン外装飾基板３５５のＬＥＤ３５５ａにより、ボタン本体３５１の上面の周縁付近と外周面とを発光装飾させることができる。更に、ボタン中装飾基板３６４のＬＥＤ３６４ａにより、ボタン本体３５１の上面の中央部分を発光装飾させることができる。

【０４１７】
演出操作部外周装飾基板３２０の複数のＬＥＤ３２０ａ、ボタン外装飾基板３５５の複数のＬＥＤ３５５ａ、及びボタン中装飾基板３６４の複数のＬＥＤ３６４ａは、夫々において円周上に列設されているため、周方向へ順次発光させることで、押圧操作部３０３の中央を中心にして光が回転するような発光演出を遊技者に見せることができる。また、複数のＬＥＤ３２０ａ、ＬＥＤ３５５ａ、及びＬＥＤ３６３ａは、同心円状に配置されているため、押圧操作部３０３の中央から外側へ光が広がるような発光演出や、外側から押圧操作部３０３の中央へ光が収束するような発光演出を遊技者に見せることができる。

【０４１８】
演出操作ユニット３００は、通常の状態では、図５８（ａ）に示すように、押圧操作部３０３（演出操作部ユニット３５０）が、その上面をユニット上カバー３１２の表面と一致させた下降位置の状態となっている。この状態では、押圧操作部３０３の押圧操作が不能な状態となっている。一方、接触操作部３０２では、実行される遊技者参加型演出に応じて、接触操作を可能にすることができる。

【０４１９】
押圧操作部３０３（演出操作部ユニット３５０）を突出させていない通常の状態での演出（遊技者参加型演出）としては、例えば、演出操作ユニット３００の上面に触れるように促す演出画像を演出表示装置１６００に表示したり、音声や効果音等を出力したりする。そして、接触検知体３５２によりボタン本体３５１への接触（又は接近）を検知したら、次の演出段階へ移行させる。なお、接触を検知した時に、ボタン外装飾基板３５５のＬＥＤ３５５ａやボタン中装飾基板３６４のＬＥＤ３６４ａの発光によりボタン本体３５１を発光装飾させることで、遊技者に対して接触操作が受付けられたことを認識させることができ、接触操作部３０２に対する操作感を付与させるようにしても良い。この際に、ボタン本体３５１の発光色や、発光輝度、発光パターン等により、遊技（例えば、「大当り」遊技のような遊技者が有利となる有利遊技状態の発生）に対する期待度を遊技者に示唆させるようにしても良い。

【０４２０】
或いは、接触検知体３５２によりボタン本体３５１への接触（又は接近）を検知した時に、振動モータ３５６の駆動によりボタン本体３５１を振動させるようにしても良い。これにより、接触操作部３０２に対する操作感を付与することができ、遊技者に対して接触操作が受付けられたことを強く認識させることができる。なお、この際に、振動モータ３５６により強い振動を与えたり、弱い振動を与えたり、所定のリズムを有した振動を与えたりすることにより、遊技に対する期待度を遊技者に示唆させるようにしても良い。

【０４２１】
　また、通常の状態での演出（遊技者参加型演出）としては、演出操作ユニット３００の上面に触れるように促す演出画像を演出表示装置１６００に表示したり、音声や効果音等を出力したりした後に、接触検知体３５２によりボタン本体３５１の上面に対して遊技者（の手や指）の接触を検知したら、演出操作部昇降機構３６０によりボタン本体３５１（演出操作部ユニット３５０）を、昇降バネ３６５の付勢力により上方へ突出（ポップアップ）させる。詳述すると、通常の状態で、操作ボタン昇降駆動モータ３６７により、昇降カム部材３７１を平面視において反時計回りの方向へ回転させると、ボタンベース３５４の案内ピン３５４ｃがカム部３７１ａ（第一カム３７１ｂ）から外れて、一対の昇降バネ３６５の付勢力により、ボタンベース３５４と共に演出操作部ユニット３５０（ボタン本体３５１、押圧操作部３０３）が勢いよく上方へ突出して上昇位置の状態となる（図５５（ｂ）を参照）。この上昇位置の状態では、ボタン本体３５１の上面がユニット上カバー３１２の上面よりも大きく上方に位置しており、ボタン本体３５１が上方へ突出している。そして、上記のようにボタン本体３５１が上方へ突出することにより、ボタン本体３５１に触れた手指が、ボタン本体３５１と共に上方へ押上げられるため、遊技者を大いに驚かせることができ、遊技者の関心を強く引付けさせることができる。
【０４２２】
　その後、ボタン本体３５１（押圧操作部３０３）を押圧操作させる演出へ移行し、遊技者に対して押圧操作部３０３の押圧操作を楽しませる。詳述すると、ボタン本体３５１（押圧操作部３０３）が上昇位置の状態で、ボタン本体３５１を昇降バネ３６５の付勢力に抗して下方へ押圧すると、ボタン本体３５１（演出操作部ユニット３５０）が下方へ移動し、ボタン本体３５１の上面がユニット上カバー３１２の上面と同一面上となると共に、ボタンベース３５４の検知片３５４ｄが押圧検知センサ３７３により検知される。これにより、ボタン本体３５１（押圧操作部３０３）の押圧操作が検知されることとなり、押圧操作を契機として演出を変化させて、遊技者参加型演出により遊技者を楽しませることができる。
【０４２３】
　なお、上記の演出の際に、突出力調整機構３８０により、ボタン本体３５１を突出させる突出力（勢い）を強くしたり弱くしたりすることで、突出力の強弱によって遊技に対する期待度を遊技者に示唆させるようにしても良い。また、ボタン本体３５１のポップアップ時や押圧操作時に、振動モータ３５６によりボタン本体３５１を振動させるようにしても良い。
【０４２４】
　演出操作部ユニット３５０を突出させる演出において、接触検知体３５２により、遊技者の手指等が、上方へ突出するボタン本体３５１の移動範囲内（突出範囲内）に接近したことを検知した時に、ボタン本体３５１（演出操作部ユニット３５０）を上方へ突出させるようにしても良い。これにより、遊技者の手指等に、ボタン本体３５１が当接して衝撃が与えられるため、遊技者をビックリさせることができ、遊技者の関心を強く引付けさせることができる。この場合でも、突出力調整機構３８０により、ボタン本体３５１が突出かる突出力を強くしたり弱くしたりして、突出力の強弱により遊技に対する期待度を遊技者に示唆させるようにしても良い。
【０４２５】
　また、演出操作部ユニット３５０を突出させる演出において、接触検知体３５２により、遊技者の手指等が、上方へ突出するボタン本体３５１の突出範囲外で、突出したボタン本体３５１から所定距離の範囲内に接近したことを検知した時に、ボタン本体３５１（演出操作部ユニット３５０）を上方へ突出させるようにしても良い。これにより、遊技者の手指等に、ボタン本体３５１の突出により発生する風圧を当てることができるため、遊技者を驚かせることができ、遊技者の関心を強く引付けさせることができる。この場合でも、突出力調整機構３８０により、ボタン本体３５１が突出かる突出力を強くしたり弱くしたりして、遊技者の手指等に当る風圧の強弱により遊技に対する期待度を遊技者に示唆さ

せるようにしても良い。
【０４２６】
更に、演出操作部ユニット３５０を突出させる演出として、接触検知体３５２による遊技者の手指等の検知に関わらず、ボタン本体３５１（演出操作部ユニット３５０）を上方へ突出させるようにしても良い。この際に、突出力調整機構３８０により、強い突出力でボタン本体３５１を突出させると、ボタン本体３５１が勢い良く突出して音（突出音）が発生するため、突出音により遊技者を驚かせることができる。また、突出力調整機構３８０により、弱い突出力でボタン本体３５１を突出させると、ボタン本体３５１が静かに突出することから、遊技者に対してボタン本体３５１の突出に気付かせ難くすることができ、いつの間にかボタン本体３５１が突出していることで遊技者を驚かせることができる。
【０４２７】
演出操作部ユニット３５０（ボタン本体３５１）を突出させた後の演出としては、突出力調整機構３８０により昇降バネ３６５の付勢力を弱くして、ボタン本体３５１（押圧操作部３０３）を、一般的な押圧ボタンと同様の押圧操作させるような演出を実行するようにしても良い。或いは、突出力調整機構３８０により昇降バネ３６５の付勢力を強くして、遊技者に対して、強い力でボタン本体３５１を押圧させるような演出を実行するようにしても良い。
【０４２８】
また、演出操作部ユニット３５０（ボタン本体３５１）を突出させた後の演出としては、突出しているボタン本体３５１に対して接触操作させるような演出を実行するようにしても良い。この際に、接触検知体３５２には、下方へ延出した下方延出片３５２ａを有しているため、ボタン本体３５１の側面を接触操作させるようにしても良い。また、この際に、突出力調整機構３８０により昇降バネ３６５の付勢力を強くしておくことが望ましく、これにより、突出しているボタン本体３５１を動き難くすることができ、ボタン本体３５１（接触操作部３０２）の接触操作を行い易いものとすることができる。
【０４２９】
なお、演出操作部ユニット３５０を突出させる演出として、上記では、演出操作部昇降機構３６０において、操作ボタン昇降駆動モータ３６７により昇降カム部材３７１を反時計回りの方向へ回転させることにより、ボタンベース３５４の案内ピン３５４ｃを、第一カム３７１ｂ（係止部３７１ｃ）から第二カム３７１ｄへ移動させて、ボタンベース３５４（ボタン本体３５１）を下降位置から上昇位置へ一気に突出させる例を示したが、これに限定するものではない。
【０４３０】
例えば、ボタンベース３５４の案内ピン３５４ｃが昇降カム部材３７１の係止部３７１ｃに係止されてボタン本体３５１（演出操作部ユニット３５０）が下降位置に移動している通常の状態において、操作ボタン昇降駆動モータ３６７により昇降カム部材３７１を平面視において時計回りの方向へ回転させることにより、案内ピン３５４ｃを第一カム３７１ｂから第三カム３７１ｅへ移動させ、第三カム３７１ｅの途中で昇降カム部材３７１の回転を停止させて、ボタン本体３５１を下降位置と上昇位置との間の位置で上方への突出を停止させるようにしても良い。この際に、突出力調整機構３８０の昇降バネ下保持部材３８５を下方へ移動させて、昇降バネ３６５の付勢力を弱くしておく。
【０４３１】
このように、昇降カム部材３７１の第三カム３７１ｅによりボタン本体３５１を途中まで突出させるようにした場合でも、ボタン本体３５１を押圧操作することができ、ボタン本体３５１を押圧操作部３０３として機能させて、遊技者参加型演出を遊技者に楽しませることができる。この場合、昇降カム部材３７１の回転位置に応じて、ボタン本体３５１の上方へ突出量を異ならせることができるため、ボタン本体３５１の突出量に応じて、遊技に対する期待度を示唆させることができ、遊技者を楽しませることができる。
【０４３２】
更に、突出させた演出操作部ユニット３５０（ボタン本体３５１）を押圧操作させる演

出として、演出操作部ユニット３５０を突出させた後に、昇降バネ下保持部材３８５を下方へ移動させて昇降バネ３６５の圧縮を最小の状態にする。これにより、昇降バネ３６５の付勢力が最弱の状態となっているため、軽い（弱い）力で演出操作部ユニット３５０を押圧操作することができ、押圧操作の操作性を高めて押圧操作を楽しませることができる。また、演出操作部ユニット３５０（ボタン本体３５１）を押圧操作させる演出として、抽選された特別抽選結果に応じて、昇降バネ下保持部材３８５を上下方向の適宜の位置にして昇降バネ３６５の付勢力を最強から最弱までの何れかの強さとするようにしても良い。これにより、遊技者に演出操作部ユニット３５０を強く押させたり弱く押させたりすることができるため、演出操作部ユニット３５０の操作力の違いにより遊技者を楽しませることができると共に、より多彩な演出を提示することができ、遊技者を飽きさせ難くすることができる。

【０４３３】

また、演出操作ユニット３００を用いた演出として、接触操作部３０２（ボタン本体３５１）への遊技者の手指等の接触に対して複数の接触段階（接近段階）で検知できるように、接触検知体３５２の静電容量に応じた複数段階の閾値を設け、各段階に応じて演出を変化させるようにしても良い。つまり、遊技者の手指等がボタン本体３５１（接触検知体３５２）へ接近するに従って、接触検知体３５２の静電容量が大きくなることに着目し、その静電容量の大小に対して複数の閾値を設けることで多段階に検知して、演出に活用するようにしても良い。具体的には、例えば、遊技者の手指等がボタン本体３５１から所定距離以上離れている段階、遊技者の手指等がボタン本体３５１から所定距離以内でボタン本体３５１に接触していない段階、遊技者の手指等がボタン本体３５１に接触している段階、等に分けて、夫々の段階に応じて演出を変化させることで、一つの接触検知センサ本体３５８でも多彩な演出を遊技者に提示することができ、遊技者を飽きさせ難くして興趣の低下を抑制させることができる。

【０４３４】

なお、上記の実施形態では、演出操作ユニット３００の通常の状態として、図５５（ａ）に示すように、演出操作部ユニット３５０（ボタン本体３５１）を下降位置にすると共に、昇降バネ下保持部材３８５を上方へ移動させた状態を示したが、これに限定するものではなく、図５６（ａ）に示すように、演出操作部ユニット３５０を下降位置にすると共に、昇降バネ下保持部材３８５を下方へ移動させた状態としても良い。これにより、通常の状態において、昇降バネ３６５が強く圧縮されていないため、昇降バネ３６５が早期に劣化（疲労）することを抑制させることができる。また、強く圧縮された昇降バネ３６５の付勢力により、ボタンベース３５４や昇降バネ下保持部材３８５が早期に劣化（疲労）することを抑制させることができる。

【０４３５】

このように、本実施形態の演出操作ユニット３００によれば、様々なパターンの遊技者参加型演出に用いることができるため、多彩な演出を遊技者に楽しませることができ、遊技者を飽きさせ難くして興趣の低下を抑制させることができる。

【０４３６】

ところで、演出操作ユニット３００は、球形状の演出操作部カバーユニット３１０の上部に、円環状（二つの円弧を合わせた）の演出操作部外周装飾基板３２０が設けられていると共に、演出操作部外周装飾基板３２０よりも内側において昇降する演出操作部ユニット３５０に接触検知センサ本体３５８が設けられている。また、演出操作部ユニット３５０のボタンスリーブ３５３の内部には、位置が固定されているボタン中装飾基板３６４が設けられている。この接触検知センサ本体３５８には、静電容量を検知するためのセンサ電極が設けられているため、演出操作部ユニット３５０を下降位置から上昇位置へ移動させると、接触検知センサ本体３５８（センサ電極）が演出操作部外周装飾基板３２０やボタン中装飾基板３６４に接近することとなり、演出操作部外周装飾基板３２０やボタン中装飾基板３６４の接近によりセンサ電極の静電容量が変化して接触検知センサ本体３５８が誤検知してしまう恐れがある。

【０４３７】
そこで、演出操作部外周装飾基板３２０と接触検知センサ本体３５８との間、及び、ボタン中装飾基板３６４と接触検知センサ本体３５８との間に、グランド（ＧＮＤ）に接続された導電性を有するシールド（例えば、パンチングメタル、金属板、エキスパンドメタル、金網、金属線、金属箔、等）を設けるようにしても良い。これにより、演出操作部ユニット３５０を上下に移動させることで、接触検知センサ本体３５８と、演出操作部外周装飾基板３２０やボタン中装飾基板３６４との距離が変化しても、接触検知センサ本体３５８と、演出操作部外周装飾基板３２０やボタン中装飾基板３６４との間に、接触検知センサ本体３５８からの距離が変化しないグランド（ＧＮＤ）に接続されたシールドにより、演出操作部外周装飾基板３２０やボタン中装飾基板３６４の接近による静電容量の変化の影響を低減させることができ、接触検知センサ本体３５８における誤検知を防止することができる。
【０４３８】
［３－５ｆ．皿ユニットの別の実施形態］
続いて、上記とは異なる実施形態の皿ユニット２００について、主に図５９乃至図６１等を参照して説明する。図５９は、演出操作ユニットの演出操作部ユニットにおいて接触検知体を複数設けた例を示す演出操作部ユニットの平面図である。図６０（ａ）は一つの接触検知センサ本体に複数の接触検知体を接続した例を模式的に示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）において接触検知センサ本体と複数の接触検知体との間に切換部を設けた例を模式的に示す説明図であり、（ｃ）は皿ユニットの皿左装飾ユニット、皿右装飾ユニット、及び演出操作ユニット等を前後方向へ進退可能とし演出操作ユニット等の前側と後側に接触検知体を設けた例を示す説明図である。図６１（ａ）は装飾性を有した接触検知体の一例を示す説明図であり、（ｂ）は演出操作ユニットの別の実施形態を模式的に示す説明図である。なお、図５９乃至図６１では、上記と同様の構成部分については、同一の符号を付している。
【０４３９】
図５９に示す実施形態は、演出操作部ユニット３５０のボタン本体３５１の下側において、接触検知体３５２を、接触検知体左３９０Ｌと接触検知体右３９０Ｒとの左右に分割したものとしていると共に、接触検知体左３９０Ｌ及び接触検知体右３９０Ｒの夫々に対して、接触検知センサ本体左３９１Ｌ及び接触検知センサ本体右３９１Ｒを接続するようにしたものである。この実施形態によれば、ボタン本体３５１の上面において、例えば、遊技者が手指等を左側から右側へ移動させるようにした場合、まず、遊技者の手指等がボタン本体３５１の左側に位置すると、接触検知体左３９０Ｌの静電容量が変化して接触検知センサ本体左３９１Ｌが検知となると共に接触検知体右３９０Ｒの静電容量は変化することはなく接触検知センサ本体右３９１Ｒは非検知のままとなる。そして、遊技者の手指等がボタン本体３５１の中央に移動すると、接触検知体左３９０Ｌ及び接触検知体右３９０Ｒの両方の静電容量が変化することで接触検知センサ本体左３９１Ｌ及び接触検知センサ本体右３９１Ｒの両方が検知となる。更に、遊技者の手指等がボタン本体３５１の右側に移動すると、接触検知体左３９０Ｌの静電容量が元に戻り接触検知センサ本体左３９１Ｌが非検知となると共に接触検知体右３９０Ｒの静電容量が変化しており接触検知センサ本体右３９１Ｒが検知したままとなる。
【０４４０】
このように、接触検知体左３９０Ｌ及び接触検知体右３９０Ｒによる接触検知センサ本体左３９１Ｌ及び接触検知センサ本体右３９１Ｒの検知・非検知の組合せとその変化のバターンにより、遊技者の手指等の動きを検知することができる。これにより、より多彩な動きの接触操作を検知することができ、接触操作部３０２に対して多彩な接触操作を行わせることが可能な遊技者参加型演出を遊技者に提示することができると共に、接触操作部３０２を操作する遊技者参加型演出をより楽しませることができる。なお、接触検知体を増設すれば、更に複雑な動作を検知できるようになる。
【０４４１】

図６０（ａ）に示す実施形態は、一つの接触検知センサ本体３９２に対して、複数の接触検知体３９３を接続した例である。この実施形態によれば、複数の接触検知体３９３を、互いに異なる複数の箇所に夫々設けた状態で、一つの接触検知センサ本体３９２により、何れかの接触検知体３９３において人体等の接触を検知することができる。

【０４４２】

例えば、複数の接触検知体３９３を、ボタン本体３５１の内側（下側）に分散配置することで、遊技者の手指等がボタン本体３５１の表面の何れの部位に接触しても、何れかの接触検知体３９３により接触を検知することができ、接触操作部３０２への接触に対する検知精度を高めることができる。

【０４４３】

また、複数の接触検知体３９３を、パチンコ機１における遊技者に触れられたくない部位（例えば、遊技者が怪我をする恐れのある部位、他の遊技者に対して迷惑をかけてしまう恐れのある部位、不正行為が行われる恐れのある部位、等）に設けるようにして、何れかの接触検知体３９３において人体等を検知した時に、注意や警告等を報知するようにしても良い。

【０４４４】

また、図６０（ｂ）に示す実施形態は、一つの接触検知センサ本体３９２と複数の接触検知体３９３との間に、何れかの接触検知体３９３のみを接触検知センサ本体３９２と接続させる切換部３９４を設けた例である。この実施形態によれば、切換部３９４により複数のうちの何れかの接触検知体３５２に接続を切換えることで、所望の部位（接触検知体３５２）のみにおける人体等の接触を検知することができる。なお、切換部３９４としては、「リレーやトランジスタによるスイッチング回路により切換えるもの」、「その他の電子回路により切換えるもの」、「可動部材（例えば、図６０（ｃ）に示すような可動する皿左装飾ユニット２７０、皿右装飾ユニット２７５、及び演出操作ユニット３００）の移動に伴って切換わるもの」、等が挙げられる。

【０４４５】

例えば、演出操作部３０１（接触操作部３０２）において、複数の接触検知体３９３を分散配置し、各接触検知体３９３により検知される部位を順番に触れさせるような遊技者参加型演出を実行した時に、接触検知センサ本体３９２と接続される接触検知体３９３を切換部３９４により触れる順番で切換えて、当該接触検知体３９３により遊技者の手指等が接触したか否かを検知するようにしても良い。これにより、複数の接触検知体３９３によるゲーム性の高い遊技者参加型演出を遊技者に提示することができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【０４４６】

また、図６０（ｃ）に示すように、皿左装飾ユニット２７０、皿右装飾ユニット２７５、及び演出操作ユニット３００を、前方へ進退できるようにした場合、演出操作ユニット３００の前面側に第一接触検知体３９３ａを設けると共に、皿左装飾ユニット２７０、皿右装飾ユニット２７５、及び演出操作ユニット３００の後側に第二接触検知体３９３ｂを設け、演出操作ユニット３００等を前方へ突出させる時には、切換部３９４により第一接触検知体３９３ａと接触検知センサ本体３９２とを接続し、演出操作ユニット３００等を後退させる時には、切換部３９４により第二接触検知体３９３ｂと接触検知センサ本体３９２とを接続するように切換えるようにしても良い。

【０４４７】

これにより、演出操作ユニット３００等を前方へ突出（移動）させる時に、第一接触検知体３９３ａにより遊技者の接触又は接近を検知して、演出操作ユニット３００等の前方への移動を停止させるようにする。これにより、演出操作ユニット３００等が本パチンコ機１の前方に着座している遊技者を無用に圧迫してしまうことを防止することができ、遊技者に不快感を与えてしまうことを回避させることができる。

【０４４８】

一方、演出操作ユニット３００等を前方へ突出させると、演出操作ユニット３００等の

後側には隙間が形成される場合があり、その隙間に遊技者の手指等が挿入されている状態で、演出操作ユニット３００等を初めの位置へ後退させると、遊技者の手指等が挟まれて怪我をしてしまう恐れがある。そこで、この実施形態では、前方へ移動させた演出操作ユニット３００等を後方へ移動させる際に、切換部３９４により第二接触検知体３９３ｂが接触検知センサ本体３９２に接続されるように切換える。そして、第二接触検知体３９３ｂにより遊技者の手指等を検知した場合には、演出操作ユニット３００等の後方への移動を停止させ、演出操作ユニット３００等の後側から手指等を離させる旨の案内を遊技者に報知し、第二接触検知体３９３ｂが非検知の状態でのみ演出操作ユニット３００等を後方へ移動させて最初の状態に復帰させる。これにより、演出操作ユニット３００等の後側の隙間により、遊技者が怪我をしてしまうことを防止することができ、パチンコ機１の安全性を高めることができる。

【０４４９】

また、図６１（ａ）に示す実施形態は、遊技者の手指等の接触を検知する接触検知体３９５の外形を星形として、装飾性（意匠性）を有するようにしたものである。なお、装飾性を有した接触検知体３９５の形状は、星形に限定するものではなく、円形状、多角形状、幾何学模様の形状、所定のキャラクタを模した形状、所定のアイテムを模した形状、所定のロゴを模した形状、額縁状の形状、等としても良い。これにより、透明なボタン本体３５１を通して見える接触検知体３９５が装飾性（意匠性）を有しているため、接触検知体３９５自身によりボタン本体３５１ひいてはパチンコ機１の見栄えを良くすることができ、遊技者に対する訴求力高いパチンコ機１を提供することができる。

【０４５０】

更に、上記の実施形態では、接触検知体３５２をパンチングメタルにより形成したものを示したが、これに限定するものではなく、接触検知体を、金属板、エキスパンドメタル、金網、金属線、メッキ、金属蒸着、箔押し、等により形成するようにしても良く、上記と同様の作用効果を奏することができる。なお、接触検知体は、遊技者の手指等が直接触れないように、透明な表面部材の裏面側に設けることが望ましく、接触検知体の摩耗を回避させることができると共に、表面部材により触感を滑らかなものとすることができる。

【０４５１】

更に、上記の実施形態では、接触検知体３５２の下方にボタン中装飾基板３６４（ＬＥＤ３６４ａ）を設けたものを示したが、これに限定するものではなく、図６１（ｂ）に示すように、透明な表面部材３９６の下側に接触検知体３９７を設けると共に、その下方に装飾体３９８を設けるようにしても良い。これにより、表面部材３９６及び接触検知体３９７を通して装飾体３９８が見えることで、表面部材３９６が設けられている演出操作ユニットの装飾性を高めることができ、パチンコ機１の見栄えを良くすることができる。

【０４５２】

なお、図６１（ｂ）の実施形態において、接触検知体３９７を金属蒸着により形成し、通常の状態では、接触検知体３９７の金属光沢により下方に設けられている装飾体３９８が視認できないようにし、表面部材３９６への接触の検知等により接触検知体３９７の下方に設けたＬＥＤにより装飾体３９８を照明することで、表面部材３９６及び接触検知体３９７を通して装飾体３９８が視認できるようにしても良い。

【０４５３】

また、接触検知体３５２を、遊技者から認識不能に形成するようにしても良い。ここで、認識不能な接触検知体としては、「透明な部材により形成したもの」、「ボタン本体等の表面部材の装飾と一体的に見えるように形成したもの」、等が挙げられる。これにより、当該接触検知体３５２が設けられている演出操作部３０１では、接触検知体３５２を認識できないことから、遊技者に対して手指等の接触を検知したり接触操作したりするものではないと錯覚させることができるため、例えば、所定の遊技者参加型演出が実行されて、遊技者の手指等がボタン本体３５１に接触又は接近した時に、演出操作部昇降機構３６０によりボタン本体３５１を上方へ突出させることで、遊技者が初めて接触検知体３５２（接触操作部３０２）の存在に気付くこととなり、遊技者を大いに驚かせることができ、

遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。
【０４５４】
［３－６．扉枠左サイドユニット］
扉枠３における扉枠左サイドユニット４２０について、主に図６２乃至図６５等を参照して詳細に説明する。図６２（ａ）は扉枠の扉枠左サイドユニットの正面図であり、（ｂ）は扉枠左サイドユニットを前から見た斜視図であり、（ｃ）は扉枠左サイドユニットを後ろから見た斜視図である。図６３は扉枠左サイドユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図６４は扉枠左サイドユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図６５は、図６２（ａ）においてウ－ウ線で切断した断面図である。扉枠左サイドユニット４２０は、皿ユニット２００の上側で扉枠ベースユニット１００の前面左部に取付けられており、正面視において遊技領域５ａの左外側を装飾するものである。
【０４５５】
扉枠左サイドユニット４２０は、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１の前面における扉窓１０１ａの左外側に取付けられる扉枠左サイドベース４２１と、扉枠左サイドベース４２１の前面の上部に取付けられており前面に一定の間隔をあけて上下に設設された複数の第一ＬＥＤ４２２ａが実装されている扉枠左サイド上装飾基板４２２と、扉枠左サイドベース４２１の前面の下部に取付けられており前面に一定の間隔をあけて上下に設設された複数の第一ＬＥＤ４２３ａが実装されている扉枠左サイド下装飾基板４２３と、扉枠左サイド上装飾基板４２２の前側を覆うように扉枠左サイドベース４２１に取付けられている左サイド上リフレクタ４２４と、扉枠左サイド下装飾基板４２３の前側を覆うように扉枠左サイドベース４２１に取付けられている左サイド下リフレクタ４２５と、左サイド上リフレクタ４２４及び左サイド下リフレクタ４２５の前側を覆うように扉枠左サイドベース４２１に取付けられている扉枠左サイド装飾体４２６と、を備えている。
【０４５６】
また、扉枠左サイドユニット４２０は、扉枠左サイド上装飾基板４２２の第一ＬＥＤ４２２ａからの光を前方へ導光する左サイド上導光部材４２７と、扉枠左サイド下装飾基板４２３における上下方向の中央よりも上側の第一ＬＥＤ４２３ａからの光を前方へ導光する左サイド中導光部材４２８と、扉枠左サイド下装飾基板４２３における上下方向の中央よりも下側の第一ＬＥＤ４２３ａからの光を前方へ導光する左サイド下導光部材４２９と、を備えている。
【０４５７】
扉枠左サイドベース４２１は、上下に延びており前方へ開放された箱状に形成されている。扉枠左サイドベース４２１は、色や透光性（光の透過率）の異なる合成樹脂により２色成形されている。詳述すると、扉枠左サイドベース４２１は、上記のハンドルカバー２９５と同様に、内側層３ａと外側層３ｂとの２種類の樹脂により２色成形されており、内側層３ａの一部が外側層３ｂを貫通して外側面に現れることで、円形や放射状の模様が形成されている。つまり、扉枠左サイドベース４２１の表面に表れている円形や放射状の模様は、内側層３ａであり、円形や放射状の模様は外側層３ｂの裏側で繋がっている（図７１（ａ）を参照）。なお、扉枠左サイドベース４２１を成形する際に、内側層３ａを先に射出成形しても良いし、外側層３ｂを先に射出成形しても良い。
【０４５８】
扉枠左サイド上装飾基板４２２は、上下に延びた帯板状に形成されている。扉枠左サイド上装飾基板４２２の前面には、上下方向へ一定の間隔をあけて複数の第一ＬＥＤ４２２ａが実装されていると共に、第一ＬＥＤ４２２ａ同士の間に上下に並んで二つずつ第二ＬＥＤ４２２ｂが実装されている。また、扉枠左サイド上装飾基板４２２には、第一ＬＥＤ４２２ａ及び第二ＬＥＤ４２２ｂを発光させるための固有のアドレスを有した２４ビットのＬＥＤドライバ４２２ｃが実装されている。
【０４５９】
この扉枠左サイド上装飾基板４２２では、第一ＬＥＤ４２２ａが４個、第二ＬＥＤ４２２ｂが８個、の合計１２個のフルカラーＬＥＤが実装されている。また、上下両側に第二

ＬＥＤ４２２ｂが設けられている第一ＬＥＤ４２２ａは、それら第二ＬＥＤ４２２ｂ同士の中央（間の中心）に設けられている。また、少なくとも第二ＬＥＤ４２２ｂは、前面に対して垂直方向の光軸を中心として１３０度の角度の範囲で光を照射可能な広角のトップビュータイプのＬＥＤである。

【０４６０】

扉枠左サイド上装飾基板４２２では、図７２に示すように、４個の第一ＬＥＤ４２２ａが、上の２個と残りの２個の２組に分けられている。また、８個の第二ＬＥＤ４２２ｂは、上の２個と、上より３個目から５個目までの３個と、上より６個目から８個目までの３個と、の３組に分けられている。ＬＥＤドライバ４２２ｃは、最大で２４系統まで制御することができ、２組に分けられた４個の第一ＬＥＤ４２２ａと、３組に分けられた８個の第二ＬＥＤ４２２ｂとを、夫々フルカラーで発光できるように、１組に対して３系統の合計１５系統で制御するようにしている。

【０４６１】

この扉枠左サイド上装飾基板４２２には、図示は省略するが、第一ＬＥＤ４２２ａ、第二ＬＥＤ４２２ｂ、及びＬＥＤドライバ４２２ｃを駆動するための電力を供給する２本の電力線（１本はアース線）と、周辺制御基板１５１０からのコマンド及びアドレス等の信号を受信するための１本の制御信号線と、ＬＥＤドライバ４２２ｃを周辺制御基板１５１０と同期させるための１本のクロック線と、の４本の電線からなる配線ケーブルが接続されている。そして、この扉枠左サイド上装飾基板４２２のＬＥＤドライバ４２２ｃでは、周辺制御基板１５１０（演出制御基板）から制御信号線を介して当該アドレス宛のコマンドを受信すると、そのコマンドに応じて、２組に分けられた４個の第一ＬＥＤ４２２ａと、３組に分けられた８個の第二ＬＥＤ４２２ｂとを、各組毎に適宜の色と強さで発光させることができる。

【０４６２】

扉枠左サイド下装飾基板４２３は、上下に延びた帯板状に形成されており、右辺側が凸凹に形成されている。扉枠左サイド下装飾基板４２３の前面には、上下方向へ一定の間隔をあけて複数の第一ＬＥＤ４２３ａが実装されていると共に、第一ＬＥＤ４２３ａ同士の間に上下に並んで二つずつ第二ＬＥＤ４２３ｂが実装されている。また、扉枠左サイド下装飾基板４２３には、第一ＬＥＤ４２３ａ及び第二ＬＥＤ４２３ｂを発光させるための固有のアドレスを有した２４ビットのＬＥＤドライバ４２３ｃが実装されている。

【０４６３】

この扉枠左サイド下装飾基板４２３では、第一ＬＥＤ４２３ａが６個、第二ＬＥＤ４２３ｂが１２個、の合計１８個のフルカラーＬＥＤが実装されている。また、上下両側に第二ＬＥＤ４２３ｂが設けられている第一ＬＥＤ４２３ａは、それら第二ＬＥＤ４２３ｂ同士の中央（間の中心）に設けられている。また、少なくとも第二ＬＥＤ４２３ｂは、前面に対して垂直方向の光軸を中心として１３０度の角度の範囲で光を照射可能な広角のトップビュータイプのＬＥＤである。

【０４６４】

扉枠左サイド下装飾基板４２３では、図７２に示すように、６個の第一ＬＥＤ４２３ａが、上から２個ずつ順番に一組として３組に分けられている。また、１２個の第二ＬＥＤ４２３ｂは、上より１個目から３個目までの３個と、上より４個目から６個目までの３個と、上より７個目から９個目までの３個と、上より１０個目から１２個目まで３個と、の４組に分けられている。ＬＥＤドライバ４２３ｃは、最大で２４系統まで制御することができ、３組に分けられた６個の第一ＬＥＤ４２３ａと、４組に分けられた１２個の第二ＬＥＤ４２３ｂとを、夫々フルカラーで発光できるように、１組に対して３系統の合計２１系統で制御するようにしている。

【０４６５】

この扉枠左サイド下装飾基板４２３には、図示は省略するが、第一ＬＥＤ４２３ａ、第二ＬＥＤ４２３ｂ、及びＬＥＤドライバ４２３ｃを駆動するための電力を供給する２本の電力線（１本はアース線）と、周辺制御基板１５１０からのコマンド及びアドレス等の信

号を受信するための１本の制御信号線と、ＬＥＤドライバ４２３ｃを周辺制御基板１５１０と同期させるための１本のクロック線と、の４本の電線からなる配線ケーブルが接続されている。そして、この扉枠左サイド下装飾基板４２３のＬＥＤドライバ４２３ｃでは、周辺制御基板１５１０（演出制御基板）から制御信号線を介して当該アドレス宛のコマンドを受信すると、そのコマンドに応じて、３組に分けられた６個の第一ＬＥＤ４２３ａと、４組に分けられた１２個の第二ＬＥＤ４２３ｂとを、各組毎に適宜の色と強さで発光させることができる。

【０４６６】

左サイド上リフレクタ４２４は、扉枠左サイド上装飾基板４２２に実装されている第二ＬＥＤ４２２ｂと対応する位置に前後に貫通している貫通孔４２４ａが形成されていると共に、第一ＬＥＤ４２２ａと対応する位置に前後に延びた筒状の保持筒４２４ｂが形成されている。左サイド上リフレクタ４２４は、貫通孔４２４ａ周りの後端が、扉枠左サイド上装飾基板４２２の前面に当接するように形成されていると共に、貫通孔４２４ａの前面側の周りが、前方へ向かって広がる皿状に形成されている。これにより、第二ＬＥＤ４２２ｂからの光を前方へ広く拡散させることができる。

【０４６７】

左サイド上リフレクタ４２４の保持筒４２４ｂは、後述する左サイド上導光部材４２７の円柱状の導光軸部４２７ａが挿入されることで、導光軸部４２７ａを前後方向へ真直ぐに保持するものである。この保持筒４２４ｂは、貫通孔４２４ａ同士の間の中央に設けられている。これにより、保持筒４２４ｂを貫通して前方へ突出した左サイド上導光部材４２７の導光軸部４２７ａにおいて、その上下両側の貫通孔４２４ａより臨んだ扉枠左サイド上装飾基板４２２の第二ＬＥＤ４２２ｂからの光が、導光軸部４２７ａに対して上下両側から均等な光量で照射されることとなり、扉枠左サイド装飾体４２６の裏側に導光軸部４２７ａの影が写ることを回避させることができる。

【０４６８】

また、左サイド上リフレクタ４２４では、貫通孔４２４ａ同士の間の中央（中央線上）に、扉枠左サイドベース４２１に取付けるための取付孔が設けられている。これにより、取付孔に挿通されたビスの頭部の影が、扉枠左サイド装飾体４２６の裏側に写らないようになっている。

【０４６９】

左サイド下リフレクタ４２５は、扉枠左サイド下装飾基板４２３に実装されている第二ＬＥＤ４２３ｂと対応する位置に前後に貫通している貫通孔４２５ａが形成されていると共に、第一ＬＥＤ４２３ａと対応する位置に前後に延びた筒状の保持筒４２５ｂが形成されている。左サイド下リフレクタ４２５は、貫通孔４２５ａ周りの後端が、扉枠左サイド下装飾基板４２３の前面に当接するように形成されていると共に、貫通孔４２５ａの前面側の周りが、前方へ向かって広がる皿状に形成されている。これにより、第二ＬＥＤ４２３ｂからの光を前方へ広く拡散させることができる。

【０４７０】

左サイド下リフレクタ４２５の保持筒４２５ｂは、後述する左サイド中導光部材４２８の円柱状の導光軸部４２８ａや左サイド下導光部材４２９の円柱状の導光軸部４２９ａが挿入されることで、それら導光軸部４２８ａや導光軸部４２９ａを前後方向へ真直ぐに保持するものである。この保持筒４２５ｂは、貫通孔４２５ａ同士の間の中央に設けられている。これにより、保持筒４２５ｂを貫通して前方へ突出した左サイド中導光部材４２８の導光軸部４２８ａや左サイド下導光部材４２９の導光軸部４２９ａにおいて、その上下両側の貫通孔４２５ａより臨んだ扉枠左サイド下装飾基板４２３の第二ＬＥＤ４２３ｂからの光が、導光軸部４２８ａや導光軸部４２９ａに対して上下両側から均等な光量で照射されることとなり、扉枠左サイド装飾体４２６の裏側に導光軸部４２８ａや導光軸部４２９ａの影が写ることを回避させることができる。

【０４７１】

また、左サイド下リフレクタ４２５では、貫通孔４２５ａ同士の間の中央（中央線上）

に、扉枠左サイドベース４２１に取付けるための取付孔が設けられている。これにより、取付孔に挿通されたビスの頭部の影が、扉枠左サイド装飾体４２６の裏側に写らないようになっている。

【０４７２】

扉枠左サイド装飾体４２６は、透光性を有した乳白色に形成されている。扉枠左サイド装飾体４２６は、前方へ膨出した半円弧が上下に延びた形態に形成されている。これにより、扉枠左サイド装飾体４２６は、後方へ開放された半チューブ状に形成されている。この扉枠左サイド装飾体４２６は、左右方向の幅の中心に沿って上下方向へ一定の間隔で前後に貫通している複数の開口部４２６ａを有している。複数の開口部４２６ａは、左サイド上リフレクタ４２４の保持筒４２４ｂ、及び左サイド下リフレクタ４２５の保持筒４２５ｂと対応した位置に設けられている。これら開口部４２６ａには、左サイド上導光部材４２７の導光軸部４２７ａ、左サイド中導光部材４２８の導光軸部４２８ａ、及び左サイド下導光部材４２９の導光軸部４２９ａ、の夫々の先端が、後方から挿入される。この扉枠左サイド装飾体４２６は、扉枠左サイドベース４２１よりも光の透過率の高い合成樹脂により形成されている。また、扉枠左サイド装飾体４２６は、複数の開口部４２６ａを避けるように、円弧状に窪んだ一定の形状で、左右方向の幅の中心に沿って延びている装飾部４２６ｂを、更に有している。

【０４７３】

左サイド上導光部材４２７は、円柱状に前後に延びた四つの導光軸部４２７ａと、四つの導光軸部４２７ａの下端同士を連結しているランナー部４２７ｂと、を有しており、透明な素材により形成されている。四つの導光軸部４２７ａは、左サイド上リフレクタ４２４の四つの保持筒４２４ｂと対応するように上下に一定の間隔で設けられている。また、導光軸部４２７ａは、保持筒４２４ｂの内径と略同じ直径で前後に延びている。各導光軸部４２７ａは、左サイド上リフレクタ４２４の保持筒４２４ｂを後側から貫通して、扉枠左サイド装飾体４２６の対応している開口部４２６ａに挿入され、先端面が扉枠左サイド装飾体４２６の表面と一致した状態となる。この左サイド上導光部材４２７は、導光軸部４２７ａにより、扉枠左サイド上装飾基板４２２の第一ＬＥＤ４２２ａからの光を前方へ誘導して、先端から外方へ照射することができ、扉枠左サイド装飾体４２６の開口部４２６ａを明るく発光させることができる。

【０４７４】

左サイド中導光部材４２８は、円柱状に前後に延びた三つの導光軸部４２８ａと、三つの導光軸部４２８ａの下端同士を連結しているランナー部４２８ｂと、を有しており、透明な素材により形成されている。三つの導光軸部４２８ａは、左サイド下リフレクタ４２５の上側三つの保持筒４２５ｂと対応するように上下に一定の間隔で設けられている。また、導光軸部４２８ａは、保持筒４２５ｂの内径と略同じ直径で前後に延びている。各導光軸部４２８ａは、左サイド下リフレクタ４２５の保持筒４２５ｂを後側から貫通して、扉枠左サイド装飾体４２６の対応している開口部４２６ａに挿入され、先端面が扉枠左サイド装飾体４２６の表面と一致した状態となる。この左サイド中導光部材４２８は、導光軸部４２８ａにより、扉枠左サイド下装飾基板４２３の第一ＬＥＤ４２３ａからの光を前方へ誘導して、先端から外方へ照射することができ、扉枠左サイド装飾体４２６の開口部４２６ａを明るく発光させることができる。

【０４７５】

左サイド下導光部材４２９は、円柱状に前後に延びた三つの導光軸部４２９ａと、三つの導光軸部４２９ａの下端同士を連結しているランナー部４２９ｂと、を有しており、透明な素材により形成されている。三つの導光軸部４２９ａは、左サイド下リフレクタ４２５の下側の三つの保持筒４２５ｂと対応するように上下に一定の間隔で設けられている。また、導光軸部４２９ａは、保持筒４２５ｂの内径と略同じ直径で前後に延びている。各導光軸部４２９ａは、左サイド下リフレクタ４２５の保持筒４２５ｂを後側から貫通して、扉枠左サイド装飾体４２６の対応している開口部４２６ａに挿入され、先端面が扉枠左サイド装飾体４２６の表面と一致した状態となる。この左サイド下導光部材４２９は、導

光軸部４２９ａにより、扉枠左サイド下装飾基板４２３の第一ＬＥＤ４２３ａからの光を前方へ誘導して、先端から外方へ照射することができ、扉枠左サイド装飾体４２６の開口部４２６ａを明るく発光させることができる。

【０４７６】

本実施形態の扉枠左サイドユニット４２０は、扉枠左サイドベース４２１における円形や放射状の模様の部位の色が、ハンドルカバー２９５における円形や放射状の模様の部位の色と同じ色に形成されていると共に、扉枠左サイドベース４２１における円形や放射状の模様の外側の部位の色が、ハンドルカバー２９５における円形や放射状の模様の外側の部位の色と同じ色に形成されている。

【０４７７】

本実施形態の扉枠左サイドユニット４２０は、上下方向の中央より上側の部位が、下側の部位よりも前方へやや突出していると共に下端付近が右側に緩く湾曲している。この扉枠左サイドユニット４２０は、上端が扉窓１０１ａよりも上方で扉枠上ヒンジ組立体１２０の下側に位置し、下端が扉窓１０１ａよりも下方で皿ベースユニット２１０の皿ユニットベース２１１におけるスピーカ口２１１ｂの上側に位置している。また、扉枠左サイドユニット４２０は、上部が扉枠トップユニット４５０の左外側に位置している。扉枠左サイドユニット４２０は、扉枠３に組立てた状態で、扉枠ベース１０１の扉窓１０１ａの左外側を装飾しており、円柱状の蛍光灯が埋め込まれているように見せている。

【０４７８】

本実施形態の扉枠左サイドユニット４２０によれば、扉枠左サイド装飾体４２６の前面よりも後方へある程度離れた位置に、扉枠左サイド上装飾基板４２２及び扉枠左サイド下装飾基板４２３を設けているため、それらに実装されている第二ＬＥＤ４２２ｂ及び第二ＬＥＤ４２３ｂからの光が十分に広がった状態で、扉枠左サイド装飾体４２６の裏側に照射されることとなるため、扉枠左サイド装飾体４２６を均一に発光装飾させることができる。

【０４７９】

また、扉枠左サイド装飾体４２６の前面から後方へ離れた位置に設けられている扉枠左サイド上装飾基板４２２の第一ＬＥＤ４２２ａ及び扉枠左サイド下装飾基板４２３の第一ＬＥＤ４２３ａからの光を、左サイド上導光部材４２７の導光軸部４２７ａ、左サイド中導光部材４２８の導光軸部４２８ａ、及び左サイド下導光部材４２９の導光軸部４２９ａにより前方へ誘導（導光）して、扉枠左サイド装飾体４２６の開口部４２６ａの部位を、その他の部位よりも点状に明るく発光させることができる。

【０４８０】

また、扉枠左サイド上装飾基板４２２の第一ＬＥＤ４２２ａ及び扉枠左サイド下装飾基板４２３の第一ＬＥＤ４２３ａと、左サイド上導光部材４２７の導光軸部４２７ａ、左サイド中導光部材４２８の導光軸部４２８ａ及び左サイド下導光部材４２９の導光軸部４２９ａとを、隣接している二つの第二ＬＥＤ４２２ｂ及び第二ＬＥＤ４２３ｂ同士の間の中央に設けている。これにより、導光軸部４２７ａ、導光軸部４２８ａ及び導光軸部４２９ａに対して、両側の第二ＬＥＤ４２２ｂや第二ＬＥＤ４２３ｂから均等な光量で光が照射されることとなるため、扉枠左サイド装飾体４２６に後方から導光軸部４２７ａ、導光軸部４２８ａ及び導光軸部４２９ａの影が投影されても、当該影が見え辛くなり、扉枠左サイド装飾体４２６をムラなく面状に発光装飾させることができる。

【０４８１】

更に、扉枠左サイド装飾体４２６に、複数の開口部４２６ａ同士を繋ぐように左右方向の幅の中心に沿って延びている装飾部４２６ｂを有するようにしている。これにより、仮に、第二ＬＥＤ４２２ｂや第二ＬＥＤ４２３ｂからの光により導光軸部４２７ａ、導光軸部４２８ａ及び導光軸部４２９ａの影が、扉枠左サイド装飾体４２６に投影されたとしても、当該影が投影される部位に、装飾部４２６ｂを有しているため、導光軸部４２７ａ、導光軸部４２８ａ及び導光軸部４２９ａの影を判り辛くすることができ、扉枠左サイド装飾体４２６の発光装飾における見栄えを良くすることができる。

【０４８２】
［３－７．扉枠右サイドユニット］
次に、扉枠３における扉枠右サイドユニット４３０について、主に図６６乃至図７０等を参照して詳細に説明する。図６６（ａ）は扉枠の扉枠右サイドユニットの正面図であり、（ｂ）は扉枠右サイドユニットの右側面図であり、（ｃ）は扉枠右サイドユニットを前から見た斜視図であり、（ｄ）は扉枠右サイドユニットを後ろから見た斜視図である。図６７は扉枠右サイドユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図６８は扉枠右サイドユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図６９は、図６６（ａ）においてエ－エ線で切断した断面図である。図７０は、図６６（ａ）においてオ－オ線で切断した断面図である。扉枠右サイドユニット４３０は、皿ユニット２００の上側で扉枠ベースユニット１００の前面右部に取付けられており、正面視において遊技領域５ａの右外側を装飾するものである。
【０４８３】
扉枠右サイドユニット４３０は、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１の前面における扉窓１０１ａの右外側に取付けられる扉枠右サイドベース４３１と、扉枠右サイドベース４３１の前面の上部に取付けられており前面に一定の間隔をあけて上下に設設された複数の第一ＬＥＤ４３２ａが実装されている扉枠右サイド上装飾基板４３２と、扉枠右サイドベース４３１の前面の下部に取付けられており前面に一定の間隔をあけて上下に設設された複数の第一ＬＥＤ４３３ａが実装されている扉枠右サイド下装飾基板４３３と、扉枠右サイド上装飾基板４３２及び扉枠右サイド下装飾基板４３３の前側を覆うように扉枠右サイドベース４３１に取付けられている右サイドリフレクタ４３４と、右サイドリフレクタ４３４の前側を覆うように扉枠右サイドベース４３１に取付けられている扉枠右サイド装飾体４３５と、を備えている。
【０４８４】
また、扉枠右サイドユニット４３０は、扉枠右サイド上装飾基板４３２の第一ＬＥＤ４２３ａからの光を前方へ導光する右サイド上導光部材４３６と、扉枠右サイド下装飾基板４３３の第一ＬＥＤ４３３ａからの光を前方へ導光する右サイド下導光部材４３７と、を備えている。
【０４８５】
更に、扉枠右サイドユニット４３０は、扉枠右サイドベース４３１の左側面を覆うように覆い取付けられ、所定形状で左右に貫通している複数の装飾孔４３８ａを有している扉枠右サイド左側面装飾体４３８と、扉枠右サイド左側面装飾体４３８と扉枠右サイドベース４３１との間に設けられており、扉枠右サイド左側面装飾体４３８の装飾孔４３８ａを閉鎖するように嵌合される装飾部４３９ａを有した透光性を有する右サイド左レンズ４３９と、扉枠右サイドベース４３１の右側面を覆うように覆い取付けられ、所定形状で左右に貫通している複数の装飾孔４４０ａを有している扉枠右サイド右側面装飾体４４０と、扉枠右サイド右側面装飾体４４０と扉枠右サイドベース４３１との間に設けられており、扉枠右サイド右側面装飾体４４０の装飾孔４４０ａを閉鎖するように嵌合される装飾部４４１ａを有した透光性を有する右サイド右レンズ４４１と、を備えている。
【０４８６】
扉枠右サイドベース４３１は、左右が略一定の幅で上下に延びている。また、扉枠右サイドベース４３１は、後端側が、全高に亘って垂直に延びており、前端側が、上端から下方へ略真っ直ぐに上下方向の中央付近まで延びたところで、後側へ湾曲して斜め後方へ延びた後に、下部付近で垂直方向へ湾曲して下端まで垂直に延びている。
【０４８７】
扉枠右サイドベース４３１は、扉枠右サイド左側面装飾体４３８の装飾孔４３８ａ及び扉枠右サイド右側面装飾体４４０の装飾孔４４０ａ（右サイド左レンズ４３９の装飾部４３９ａ及び右サイド右レンズ４４１の装飾部４４１ａ）が設けられている高さの部位に、左右の側面側から窪んでおり前方へ前端まで延びている複数のリフレクタ部４３１ａを有している。これらリフレクタ部４３１ａは、装飾部４３９ａ及び装飾部４４１ａの内側と

なる後端側が側面側へ向かって傾斜していると共に、底面が湾曲している。
【０４８８】
　また、扉枠右サイドベース４３１は、扉枠右サイド左側面装飾体４３８及び扉枠右サイド右側面装飾体４４０において前後方向の中央よりも後側に設けられている装飾孔４３８ａ及び装飾孔４４０ａ（右サイド左レンズ４３９の装飾部４３９ａ及び右サイド右レンズ４４１の装飾部４４１ａ）と対応しているリフレクタ部４３１ａが、装飾部４３９ａ及び装飾部４４１ａの内側となる部位を除いた前側の部位が、左右方向へ貫通している（左右の側面から凹んで互いに繋がっている）。
【０４８９】
　これら、扉枠右サイドベース４３１のリフレクタ部４３１ａは、後述する扉枠右サイド上装飾基板４３２の第三ＬＥＤ４３２ｃ及び扉枠右サイド下装飾基板４３３の第三ＬＥＤ４３３ｃから後方へ照射された光を左右方向へ反射して、右サイド左レンズ４３９の装飾部４３９ａ及び右サイド右レンズ４４１の装飾部４４１ａを発光装飾させるものである（図７０等を参照）。
【０４９０】
　扉枠右サイド上装飾基板４３２は、上下に延びた帯板状に形成されている。扉枠右サイド上装飾基板４３２の前面には、上下方向へ一定の間隔をあけて複数の第一ＬＥＤ４３２ａが実装されていると共に、第一ＬＥＤ４３２ａ同士の間に上下に並んで二つずつ第二ＬＥＤ４３２ｂが実装されている。また、扉枠右サイド上装飾基板４３２の後面には、上下方向へ間隔をあけて複数の第三ＬＥＤ４３２ｃが実装されている。更に、扉枠右サイド上装飾基板４３２には、第一ＬＥＤ４３２ａ、第二ＬＥＤ４３２ｂ、及び第三ＬＥＤ４３２ｃを発光させるための固有のアドレスを有した２４ビットのＬＥＤドライバ４３２ｄが実装されている。
【０４９１】
　この扉枠右サイド上装飾基板４３２では、第一ＬＥＤ４３２ａが４個、第二ＬＥＤ４３２ｂが８個、第三ＬＥＤ４３２ｃが４個、の合計１６個のフルカラーＬＥＤが実装されている。また、上下両側に第二ＬＥＤ４３２ｂが設けられている第一ＬＥＤ４３２ａは、それら第二ＬＥＤ４３２ｂ同士の中央（間の中心）に設けられている。また、少なくとも第二ＬＥＤ４３２ｂ及び第三ＬＥＤ４３２ｃは、前面に対して垂直方向の光軸を中心として１３０度の角度の範囲で光を照射可能な広角のトップビュータイプのＬＥＤである。
【０４９２】
　扉枠右サイド上装飾基板４３２では、図７２に示すように、４個の第一ＬＥＤ４３２ａが、上の２個と残りの２個の２組に分けられている。また、８個の第二ＬＥＤ４３２ｂは、上の２個と、上より３個目から５個目までの３個と、上より６個目から８個目までの３個と、の３組に分けられている。更に、４個の第三ＬＥＤ４３２ｃは、上の２個と残りの２個の２組に分けられている。
【０４９３】
　この扉枠右サイド上装飾基板４３２は、第一ＬＥＤ４３２ａが２組、第二ＬＥＤ４３２ｂが３組、第三ＬＥＤ４３２ｃが２組、に夫々分けられていることから、各第一ＬＥＤ４３２ａ、第二ＬＥＤ４３２ｂ、及び第三ＬＥＤ４３２ｃを夫々フルカラーで発光させるため、１組に対して３系統の合計２１系統である。これに対して、扉枠右サイド上装飾基板４３２のＬＥＤドライバ４３２ｄは、最大で２４系統まで制御することができることから、上記の２１系統に加えて、後述する扉枠右サイド下装飾基板４３３における２組に分けられている第三ＬＥＤ４３３ｃの上側の１組分３系統の合計２４系統を制御するようにしている。
【０４９４】
　この扉枠右サイド上装飾基板４３２には、図示は省略するが、第一ＬＥＤ４３２ａ、第二ＬＥＤ４３２ｂ、第三ＬＥＤ４３２ｃ、扉枠右サイド下装飾基板４３３の上の２個の第三ＬＥＤ４３３ｃ、及びＬＥＤドライバ４３２ｄを駆動するための電力を供給する２本の電力線（１本はアース線）と、周辺制御基板１５１０からのコマンド及びアドレス等の信

号を受信するための１本の制御信号線と、ＬＥＤドライバ４３２ｄを周辺制御基板１５１０と同期させるための１本のクロック線と、の４本の電線からなる配線ケーブルが接続されている。そして、この扉枠右サイド上装飾基板４３２のＬＥＤドライバ４３２ｄでは、周辺制御基板１５１０（演出制御基板）から制御信号線を介して当該アドレス宛のコマンドを受信すると、そのコマンドに応じて、２組に分けられた４個の第一ＬＥＤ４３２ａと、３組に分けられた８個の第二ＬＥＤ４３２ｂと、２組に分けられた４個の第三ＬＥＤ４３２ｃと、扉枠右サイド下装飾基板４３３において２組分けられたうちの上側の組の２個の第三ＬＥＤ４３３ｃとを、各組毎に適宜の色と強さで発光させることができる。

【０４９５】

扉枠右サイド下装飾基板４３３は、上下に延びた帯板状に形成されている。扉枠右サイド下装飾基板４３３の前面には、上下方向へ一定の間隔をあけて複数の第一ＬＥＤ４３３ａが実装されていると共に、第一ＬＥＤ４３３ａ同士の間に上下に並んで二つずつ第二ＬＥＤ４３３ｂが実装されている。また、扉枠右サイド下装飾基板４３３の後面には、上下に間隔をあけて複数の第三ＬＥＤ４３３ｃが実装されている。更に、扉枠右サイド下装飾基板４３３には、第一ＬＥＤ４３３ａ、第二ＬＥＤ４３３ｂ、及び第三ＬＥＤ４３３ｃを発光させるための固有のアドレスを有した２４ビットのＬＥＤドライバ４３３ｄが実装されている。

【０４９６】

この扉枠右サイド下装飾基板４３３では、第一ＬＥＤ４３３ａが６個、第二ＬＥＤ４３３ｂが１２個、第三ＬＥＤ４３３ｃが４個、の合計２２個のフルカラーＬＥＤが実装されている。また、上下両側に第二ＬＥＤ４３３ｂが設けられている第一ＬＥＤ４３３ａは、それら第二ＬＥＤ４３３ｂ同士の中央（間の中心）に設けられている。また、少なくとも第二ＬＥＤ４３３ｂ及び第三ＬＥＤ４３３ｃは、前面に対して垂直方向の光軸を中心として１３０度の角度の範囲で光を照射可能な広角のトップビュータイプのＬＥＤである。

【０４９７】

扉枠右サイド下装飾基板４３３では、図７２に示すように、６個の第一ＬＥＤ４３３ａが、上から２個ずつ順番に一組として３組に分けられている。また、１２個の第二ＬＥＤ４３３ｂは、上より１個目から３個目までの３個と、上より４個目から６個目までの３個と、上より７個目から９個目までの３個と、上より１０個目から１２個目まで３個と、の４組に分けられている。更に、４個の第三ＬＥＤ４３３ｃは、上の２個と残りの２個の２組に分けられている。

【０４９８】

この扉枠右サイド下装飾基板４３３は、第一ＬＥＤ４３３ａが３組、第二ＬＥＤ４３３ｂが４組、第三ＬＥＤ４３３ｃが２組、に夫々分けられていることから、各第一ＬＥＤ４３３ａ、第二ＬＥＤ４３３ｂ、及び第三ＬＥＤ４３３ｃを夫々フルカラーで発光させるため、１組に対して３系統の合計２７系統である。これに対して、扉枠右サイド下装飾基板４３３のＬＥＤドライバ４３３ｄは、最大で２４系統までしか制御できないため、扉枠右サイド下装飾基板４３３では、２組に分けられている第三ＬＥＤ４３３ｃのうち上側の１組分３系統を、扉枠右サイド上装飾基板４３２のＬＥＤドライバ４３２ｄに制御させ、残りの２４系統（前側の第一ＬＥＤ４３３ａ及び第二ＬＥＤ４３３ｂの全部と、後側の第三ＬＥＤ４３３ｃの下側の２個）を、扉枠右サイド下装飾基板４３３のＬＥＤドライバ４３３ｄが制御するようにしている。これにより、ＬＥＤドライバの数の増加を抑制することができる。

【０４９９】

この扉枠右サイド下装飾基板４３３には、図示は省略するが、第一ＬＥＤ４３３ａ、第二ＬＥＤ４３３ｂ、下の２個の第三ＬＥＤ４３３ｃ、及びＬＥＤドライバ４３３ｄを駆動するための電力を供給する２本の電力線（１本はアース線）と、周辺制御基板１５１０からのコマンド及びアドレス等の信号を受信するための１本の制御信号線と、ＬＥＤドライバ４３３ｄを周辺制御基板１５１０と同期させるための１本のクロック線と、の４本の電線からなる配線ケーブルが接続されている。そして、この扉枠右サイド下装飾基板４３３

のＬＥＤドライバ４３３ｄでは、周辺制御基板１５１０（演出制御基板）から制御信号線を介して当該アドレス宛のコマンドを受信すると、そのコマンドに応じて、３組に分けられた６個の第一ＬＥＤ４３３ａと、４組に分けられた１２個の第二ＬＥＤ４３３ｂと、２組に分けられたうちの下側の組の２個の第三ＬＥＤ４３３ｃとを、各組毎に適宜の色と強さで発光させることができる。

【０５００】

右サイドリフレクタ４３４は、扉枠右サイド上装飾基板４３２の第二ＬＥＤ４３２ｂ及び扉枠右サイド下装飾基板４３３の第二ＬＥＤ４３３ｂと対応する位置に前後に貫通している貫通孔４３４ａが形成されていると共に、第一ＬＥＤ４３２ａ及び第一ＬＥＤ４３３ａと対応する位置に前後に延びた筒状の保持筒４３４ｂが形成されている。右サイドリフレクタ４３４は、貫通孔４３４ａ周りの後端が、扉枠右サイド上装飾基板４３２や扉枠右サイド下装飾基板４３３の前面に当接するように形成されていると共に、貫通孔４３４ａの前面側の周りが、前方へ向かって広がる皿状に形成されている。これにより、第二ＬＥＤ４３２ｂ及び第二ＬＥＤ４３３ｂからの光を前方へ広く拡散させることができる。

【０５０１】

右サイドリフレクタ４３４の保持筒４３４ｂは、後述する右サイド上導光部材４３６の円柱状の導光軸部４３６ａや右サイド下導光部材４３７の円柱状の導光軸部４３７ａが挿入されることで、導光軸部４３６ａや導光軸部４３７ａを前後方向へ真直ぐに保持するものである。この保持筒４３４ｂは、貫通孔４３４ａ同士の間の中央に設けられている。これにより、保持筒４３４ｂを貫通して前方へ突出した導光軸部４３６ａや導光軸部４３７ａにおいて、その上下両側の貫通孔４３４ａより臨んだ扉枠右サイド上装飾基板４３２の第二ＬＥＤ４３２ｂや扉枠右サイド下装飾基板４３３の第二ＬＥＤ４３３ｂからの光が、導光軸部４３６ａや導光軸部４３７ａに対して上下両側から均等な光量で照射されることとなり、扉枠右サイド装飾体４３５の裏側に導光軸部４３６ａや導光軸部４３７ａの影が写ることを回避させることができる。

【０５０２】

また、右サイドリフレクタ４３４では、貫通孔４３４ａ同士の間の中央（中央線上）に、扉枠右サイドベース４３１に取付けるための取付孔が設けられている。これにより、取付孔に挿通されたビスの頭部の影が、扉枠右サイド装飾体４３５の裏側に写らないようになっている。

【０５０３】

扉枠右サイド装飾体４３５は、透光性を有した乳白色に形成されている。扉枠右サイド装飾体４３５は、前方へ膨出した半円弧が上下に延びた形態に形成されている。これにより、扉枠右サイド装飾体４３５は、後方へ開放された半チューブ状に形成されている。この扉枠右サイド装飾体４３５は、左右方向の幅の中心に沿って上下方向へ一定の間隔で前後に貫通している複数の開口部４３５ａを有している。複数の開口部４３５ａは、右サイドリフレクタ４３４の保持筒４３４ｂと対応した位置に設けられている。これら開口部４３５ａには、右サイド上導光部材４３６の導光軸部４３６ａ、及び右サイド下導光部材４３７の導光軸部４３７ａ、の夫々の先端が、後方から挿入される。この扉枠右サイド装飾体４３５は、扉枠右サイド左側面装飾体４３８や扉枠右サイド右側面装飾体４４０よりも光の透過率の高い合成樹脂により形成されている。扉枠右サイド装飾体４３５は、扉枠左サイド装飾体４２６と光の透過率が同じである。また、扉枠右サイド装飾体４３５は、複数の開口部４３５ａを避けるように、円弧状に窪んだ一定の形状で、左右方向の幅の中心に沿って延びている装飾部４３５ｂを、更に有している。

【０５０４】

右サイド上導光部材４３６は、円柱状に前後に延びた四つの導光軸部４３６ａと、四つの導光軸部４３６ａの下端同士を連結しているランナー部４３６ｂと、を有しており、透明な素材により形成されている。四つの導光軸部４３６ａは、右サイドリフレクタ４３４の上から四つの保持筒４３４ｂと対応するように上下に一定の間隔で設けられている。また、導光軸部４３６ａは、保持筒４３４ｂの内径と略同じ直径で前後に延びている。各導

光軸部４３６ａは、右サイドリフレクタ４３４の保持筒４３４ｂを後側から貫通して、扉枠右サイド装飾体４３５の対応している開口部４３５ａに挿入され、先端面が扉枠右サイド装飾体４３５の表面と一致した状態となる。この右サイド上導光部材４３６は、導光軸部４３６ａにより、扉枠右サイド上装飾基板４３２の第一ＬＥＤ４３２ａからの光を前方へ誘導して、先端から外方へ照射することができ、扉枠右サイド装飾体４３５の開口部４３５ａを明るく発光させることができる。

【０５０５】

右サイド下導光部材４３７は、円柱状に前後に延びた六つの導光軸部４３７ａと、六つの導光軸部４３７ａの下端同士を連結しているランナー部４３７ｂと、を有しており、透明な素材により形成されている。六つの導光軸部４３７ａは、右サイドリフレクタ４３４の下から六つの保持筒４３４ｂと対応するように上下に一定の間隔で設けられている。また、導光軸部４３７ａは、保持筒４３４ｂの内径と略同じ直径で前後に延びている。各導光軸部４３７ａは、右サイドリフレクタ４３４の保持筒４３４ｂを後側から貫通して、扉枠右サイド装飾体４３５の対応している開口部４３５ａに挿入され、先端面が扉枠右サイド装飾体４３５の表面と一致した状態となる。この右サイド下導光部材４３７は、導光軸部４３７ａにより、扉枠右サイド下装飾基板４３３の第一ＬＥＤ４３３ａからの光を前方へ誘導して、先端から外方へ照射することができ、扉枠右サイド装飾体４３５の開口部４３５ａを明るく発光させることができる。

【０５０６】

扉枠右サイド左側面装飾体４３８は、上下に延びた板状に形成されており、所定形状（放射状の模様形状）に左右方向へ貫通した複数の装飾孔４３８ａを有している。扉枠右サイド左側面装飾体４３８は、前端側が扉枠右サイド装飾体４３５の後端に沿った形状に形成されている。扉枠右サイド左側面装飾体４３８は、色や透光性（光の透過率）の異なる合成樹脂により２色成形されている。詳述すると、扉枠右サイド左側面装飾体４３８は、上記のハンドルカバー２９５や扉枠左サイドベース４２１と同様に、内側層３ａと外側層３ｂとの２種類の樹脂により２色成形されており、内側層３ａの一部が外側層３ｂを貫通して外側面に現れることで、円形や放射状の模様が形成されている。つまり、扉枠右サイド左側面装飾体４３８の表面に表れている円形や放射状の模様の一部は、内側層３ａであり、円形や放射状の模様は外側層３ｂの裏側で繋がっている（図７１（ａ）を参照）。なお、扉枠右サイド左側面装飾体４３８を成形する際に、内側層３ａを先に射出成形しても良いし、外側層３ｂを先に射出成形しても良い。

【０５０７】

右サイド左レンズ４３９は、扉枠右サイド左側面装飾体４３８の内側（右側）の面に沿った平板状に形成されており、左方へ突出して扉枠右サイド左側面装飾体４３８の装飾孔４３８ａに内側（右側）から嵌合する装飾部４３９ａを有している。装飾部４３９ａは、装飾孔４３８ａに嵌合させた状態で、表面が扉枠右サイド左側面装飾体４３８の外側（左側）の面と一致する（図７０を参照）。この右サイド左レンズ４３９は、扉枠右サイド左側面装飾体４３８よりも光の透過率の高い合成樹脂により形成されている。この右サイド左レンズ４３９の装飾部４３９ａは、扉枠右サイドベース４３１におけるリフレクタ部４３１ａの左方に位置しており、扉枠右サイド上装飾基板４３２の第三ＬＥＤ４３２ｃや扉枠右サイド下装飾基板４３３の第三ＬＥＤ４３３ｃからの光により発光装飾することができる。

【０５０８】

また、右サイド左レンズ４３９は、扉枠右サイド左側面装飾体４３８における内側層３ａと同じ色に形成されている。これにより、組立てた状態では、扉枠右サイド左側面装飾体４３８の装飾孔４３８ａから臨んでいる装飾部４３９ａが、扉枠右サイド左側面装飾体４３８において２色成形されている放射状の模様の部位と同じように見え、第三ＬＥＤ４３２ｃや第三ＬＥＤ４３３ｃにより発光装飾される装飾部４３９ａの部位との見分けが付き難くなっている。

【０５０９】

扉枠右サイド右側面装飾体４４０は、上下に延びた板状に形成されており、所定形状（放射状の模様形状）に左右方向へ貫通した複数の装飾孔４４０ａを有している。また、扉枠右サイド右側面装飾体４４０は、シリンダ錠１３０のシリンダ本体１３１における前端に鍵穴１３２を有した円筒状の部位が挿入されるシリンダ挿通口４４０ｂを有している。この扉枠右サイド右側面装飾体４４０は、上下方向が扉枠３の全高と略同じに形成されている。また、扉枠右サイド右側面装飾体４４０は、上端からシリンダ挿通口４４０ｂまでの前端側が、扉枠右サイド装飾体４３５の後端に沿った形状に形成されている。

【０５１０】

扉枠右サイド右側面装飾体４４０は、色や透光性（光の透過率）の異なる合成樹脂により２色成形されている。詳述すると、扉枠右サイド右側面装飾体４４０は、上記のハンドルカバー２９５や扉枠左サイドベース４２１、及び扉枠右サイド左側面装飾体４３８と同様に、内側層３ａと外側層３ｂとの２種類の樹脂により２色成形されており、内側層３ａの一部が外側層３ｂを貫通して外側面に現れることで、円形や放射状の模様が形成されている。つまり、扉枠右サイド右側面装飾体４４０の表面に表れている円形や放射状の模様の一部は、内側層３ａであり、円形や放射状の模様は外側層３ｂの裏側で繋がっている（図７１（ａ）を参照）。なお、扉枠右サイド右側面装飾体４４０を成形する際に、内側層３ａを先に射出成形しても良いし、外側層３ｂを先に射出成形しても良い。

【０５１１】

右サイド右レンズ４４１は、扉枠右サイド右側面装飾体４４０のシリンダ挿通口４４０ｂよりも上側の内側（右側）の面に沿った平板状に形成されており、右方へ突出して扉枠右サイド右側面装飾体４４０の装飾孔４４０ａに内側（左側）から嵌合する装飾部４４１ａを有している。装飾部４４１ａは、装飾孔４４０ａに嵌合させた状態で、表面が扉枠右サイド右側面装飾体４４０の外側（右側）の面と一致する（図７０を参照）。この右サイド右レンズ４４１は、扉枠右サイド右側面装飾体４４０よりも光の透過率の高い合成樹脂により形成されている。この右サイド右レンズ４４１の装飾部４４１ａは、扉枠右サイドベース４３１におけるリフレクタ部４３１ａの右方に位置しており、扉枠右サイド上装飾基板４３２の第三ＬＥＤ４３２ｃや扉枠右サイド下装飾基板４３３の第三ＬＥＤ４３３ｃからの光により発光装飾することができる。

【０５１２】

また、右サイド右レンズ４４１は、扉枠右サイド右側面装飾体４４０における内側層３ａと同じ色に形成されている。これにより、組立てた状態では、扉枠右サイド右側面装飾体４４０の装飾孔４４０ａから臨んでいる装飾部４４１ａが、扉枠右サイド右側面装飾体４４０において２色成形されている放射状の模様の部位と同じように見え、第三ＬＥＤ４３２ｃや第三ＬＥＤ４３３ｃにより発光装飾される装飾部４４１ａの部位との見分けが付き難くなっている。

【０５１３】

本実施形態の扉枠右サイドユニット４３０は、扉枠右サイド左側面装飾体４３８及び扉枠右サイド右側面装飾体４４０における円形や放射状の模様の部位の色が、ハンドルカバー２９５や扉枠左サイドベース４２１における円形や放射状の模様の部位の色と同じ色に形成されていると共に、扉枠右サイド左側面装飾体４３８及び扉枠右サイド右側面装飾体４４０における円形や放射状の模様の外側の部位の色が、ハンドルカバー２９５や扉枠左サイドベース４２１における円形や放射状の模様の外側の部位の色と同じ色に形成されている。

【０５１４】

本実施形態の扉枠右サイドユニット４３０は、上下方向の中央より上側の部位が、反対側の扉枠左サイドユニット４２０における同じ高さの部位よりも前方へ大きく突出している。この扉枠右サイドユニット４３０は、扉枠３の上端から下端までと略同じ高さに形成されている。扉枠右サイドユニット４３０は、上部が、扉枠トップユニット４５０の右外側に位置している。

【０５１５】

扉枠右サイドユニット４３０は、扉枠３に組立てた状態で、扉枠ベース１０１の扉窓１０１ａの右外側を装飾しており、扉枠右サイド装飾体４３５の部位が円柱状の蛍光灯が埋め込まれているように見える。

【０５１６】

扉枠右サイドユニット４３０は、上から略半部の高さの部位までが前方へ大きく突出しており、衝立を形成している。これにより、遊技ホールの島設備において、右側に隣接して設けられているパチンコ機の前方に着座している遊技者から、扉窓１０１ａ（遊技領域５ａ）内を視認し辛くしている。従って、扉枠右サイドユニット４３０を衝立状に形成していることから、近隣に位置している遊技者の視線を遮ることができるため、他の遊技者から遊技領域５ａの全体を見え辛くすることができ、他の遊技者から見られているような感じを受け難くすることで他の遊技者に気兼ねすることなく遊技を行わせることができる。

【０５１７】

本実施形態の扉枠右サイドユニット４３０によれば、扉枠右サイド装飾体４３５の前面よりも後方へある程度離れた位置に、扉枠右サイド上装飾基板４３２及び扉枠右サイド下装飾基板４３３を設けているため、それらに実装されている第二ＬＥＤ４３２ｂ及び第二ＬＥＤ４３３ｂからの光が十分に広がった状態で、扉枠右サイド装飾体４３５の裏側に照射されることとなるため、扉枠右サイド装飾体４３５を均一に発光装飾させることができる。

【０５１８】

また、扉枠右サイドユニット４３０は、扉枠右サイド装飾体４３５の前面から後方へ離れた位置に設けられている扉枠右サイド上装飾基板４３２の第一ＬＥＤ４３２ａ及び扉枠右サイド下装飾基板４３３の第一ＬＥＤ４３３ａからの光を、右サイド上導光部材４３６の導光軸部４３６ａ及び右サイド下導光部材４３７の導光軸部４３７ａにより前方へ誘導（導光）して、扉枠右サイド装飾体４３５の開口部４３５ａの部位を、その他の部位よりも点状に明るく発光させることができる。

【０５１９】

更に、扉枠右サイドユニット４３０は、扉枠右サイド上装飾基板４３２の第三ＬＥＤ４３２ｃ及び扉枠右サイド下装飾基板４３３の第三ＬＥＤ４３３ｃを発光させることで、扉枠右サイドベース４３１のリフレクタ部４３１ａを介して、扉枠右サイド左側面装飾体４３８の装飾孔４３８ａに嵌め込まれている右サイド左レンズ４３９の装飾部４３９ａ、及び扉枠右サイド右側面装飾体４４０の装飾孔４４０ａに嵌め込まれている右サイド右レンズ４４１の装飾部４４１ａを、発光装飾させることができる。また、衝立状の扉枠右サイドユニット４３０の左右の側面の一部（装飾部４３９ａ及び装飾部４４１ａの部位）を発光装飾させることができるため、他の遊技者に対して本パチンコ機１を目立たせることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【０５２０】

また、本実施形態の扉枠右サイドユニット４３０によれば、扉枠右サイド上装飾基板４３２の前面側の第一ＬＥＤ４３２ａ及び第二ＬＥＤ４３２ｂと、扉枠右サイド下装飾基板４３３の前面側の第一ＬＥＤ４３３ａ及び第二ＬＥＤ４３３ｂとで、前端側の扉枠右サイド装飾体４３５を発光装飾させるようにしていると共に、扉枠右サイド上装飾基板４３２の後面側の第三ＬＥＤ４３２ｃと、扉枠右サイド下装飾基板４３３の後面側の第三ＬＥＤ４３３ｃとで、扉枠右サイド装飾体４３５よりも後側の扉枠右サイド左側面装飾体４３８及び扉枠右サイド右側面装飾体４４０を発光装飾させるようにしているため、扉枠右サイド上装飾基板４３２及び扉枠右サイド下装飾基板４３３の存在により、第一ＬＥＤ４３２ａ、第二ＬＥＤ４３２ｂ、第一ＬＥＤ４３３ａ、第二ＬＥＤ４３３ｂからの光が、後側の扉枠右サイド左側面装飾体４３８及び扉枠右サイド右側面装飾体４４０を照射して発光装飾させたり、第三ＬＥＤ４３２ｃ及び第三ＬＥＤ４３３ｃからの光が、前側の扉枠右サイド装飾体４３５を照射して発光装飾させたり、することを防止することができる。これにより、扉枠右サイド装飾体４３５と、その後側の扉枠右サイド左側面装飾体４３８及び扉

枠右サイド右側面装飾体４４０とを、完全に独立させて発光装飾させることができるため、より演出効果の高い発光演出を遊技者に提示することが可能なパチンコ機１を提供することができる。

【０５２１】

また、扉枠右サイドユニット４３０は、扉枠右サイド上装飾基板４３２の第一ＬＥＤ４３２ａ及び扉枠右サイド下装飾基板４３３の第一ＬＥＤ４３３ａと、右サイド上導光部材４３６の導光軸部４３６ａ及び右サイド下導光部材４３７の導光軸部４３７ａとを、隣接している二つの第二ＬＥＤ４３２ｂ及び第二ＬＥＤ４３３ｂ同士の間の中央に設けている。これにより、導光軸部４３６ａ及び導光軸部４３７ａに対して、両側の第二ＬＥＤ４３２ｂや第二ＬＥＤ４３３ｂから均等な光量で光が照射されることとなるため、扉枠右サイド装飾体４３５に後方から導光軸部４３６ａ及び導光軸部４３７ａの影が投影されても、当該影が見え辛くなり、扉枠右サイド装飾体４３５をムラなく面状に発光装飾させることができる。

【０５２２】

更に、扉枠右サイドユニット４３０は、扉枠右サイド装飾体４３５に、複数の開口部４３５ａ同士を繋ぐように左右方向の幅の中心に沿って延びている装飾部４３５ｂを有するようにしている。これにより、仮に、第二ＬＥＤ４３２ｂや第二ＬＥＤ４３３ｂからの光により導光軸部４３６ａ及び導光軸部４３７ａの影が、扉枠右サイド装飾体４３５に投影されたとしても、当該影が投影される部位に、装飾部４３５ｂを有しているため、導光軸部４３６ａ及び導光軸部４３７ａの影を判り辛くすることができ、扉枠右サイド装飾体４３５の発光装飾における見栄えを良くすることができる。

【０５２３】

［３－８．扉枠トップユニット］

扉枠３における扉枠トップユニット４５０について、主に図２９及び図３０等を参照して説明する。扉枠トップユニット４５０は、扉枠左サイドユニット４２０及び扉枠右サイドユニット４３０の夫々の上部の間に挟まれるように扉枠ベースユニット１００の前面上部に取付けられるものである。

【０５２４】

扉枠トップユニット４５０は、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１の前面における扉窓１０１ａよりも上側に取付けられる扉枠トップベース４５１と、扉枠トップベース４５１の左右両側と前面上部を覆うように扉枠トップベース４５１に取付けられているトップ上カバー４５２と、トップ上カバー４５２の前端に取付けられている扉枠トップ装飾体４５３と、扉枠トップ装飾体４５３の下端と扉枠トップベース４５１の下端とを連結している扉枠トップ底板（図示は省略）と、を備えている。

【０５２５】

また、扉枠トップユニット４５０は、扉枠トップ装飾体４５３の後方でトップ上カバー４５２の前面中央に取付けられており前面に複数のＬＥＤが実装されている扉枠トップ中央装飾基板４５５と、扉枠トップ装飾体４５３の後方でトップ上カバー４５２の前面における扉枠トップ中央装飾基板４５５の左方に取付けられており前面に複数のＬＥＤが実装されている扉枠トップ左装飾基板４５６と、扉枠トップ装飾体４５３の後方でトップ上カバー４５２の前面における扉枠トップ中央装飾基板４５５の右方に取付けられており前面に複数のＬＥＤが実装されている扉枠トップ右装飾基板４５７と、を備えている（図７２を参照）。

【０５２６】

また、扉枠トップユニット４５０は、扉枠トップベース４５１の前面に設けられている一対のトップ中央スピーカ（図示は省略）と、一対のトップ中央スピーカの左右両外側に設けられている一対のトップサイドスピーカ（図示は省略）と、トップ中央スピーカ及びトップサイドスピーカの前方を覆うように扉枠トップ装飾体４５３の下側に取付けられているトップ下カバー４６５と、扉枠トップベース４５１の前面の右端付近に取付けられている扉枠トップ中継基板（図示は省略）と、扉枠トップベース４５１の上方を覆うように

トップ上カバー４５２に取付けられている扉枠トップ天板４６８と、を備えている。
【０５２７】
扉枠トップベース４５１は、扉枠左サイドユニット４２０と扉枠右サイドユニット４３０との間の距離と略同じ長さで左右に延びている。トップ上カバー４５２は、平面視において、半円弧状に前方へ突出しており、後端から前方へ向かって大きく切欠かれた開口部４５２ａを有している。この開口部４５２ａは、扉枠トップ天板４６８によって閉鎖される。
【０５２８】
扉枠トップ装飾体４５３は、透光性を有した乳白色に形成されている。扉枠トップ装飾体４５３は、平面視おいて、トップ上カバー４５２の前端に沿うように、半円弧状に左右に延びている。また、扉枠トップ装飾体４５３は、上下方向の中央が前方へ突出するように前面が半円弧状に形成されている。これにより、扉枠トップ装飾体４５３は、後方へ開放された半チューブ状に形成されている。
【０５２９】
扉枠トップ中央装飾基板４５５は、左右に延びた帯板状に形成されている。扉枠トップ中央装飾基板４５５は、前面に実装されている複数のＬＥＤ４５５ａが、フルカラーＬＥＤとされている。この扉枠トップ中央装飾基板４５５は、複数のＬＥＤ４５５ａを適宜発光させることで、扉枠トップ装飾体４５３の中央部分を発光装飾させることができる。
【０５３０】
扉枠トップ左装飾基板４５６は、左右に延びた帯板状に形成されている。扉枠トップ左装飾基板４５６は、前面に実装されている複数のＬＥＤ４５６ａが、フルカラーＬＥＤとされている。この扉枠トップ左装飾基板４５６は、複数のＬＥＤ４５６ａを適宜発光させることで、扉枠トップ装飾体４５３の左部分を発光装飾させることができる。
【０５３１】
扉枠トップ右装飾基板４５７は、左右に延びた帯板状に形成されている。扉枠トップ右装飾基板４５７は、前面に実装されている複数のＬＥＤ４５７ａが、フルカラーＬＥＤとされている。この扉枠トップ右装飾基板４５７は、複数のＬＥＤ４５７ａを適宜発光させることで、扉枠トップ装飾体４５３の右部分を発光装飾させることができる。
【０５３２】
一対のトップ中央スピーカは、左右に離隔して設けられている。一対のトップ中央スピーカは、フルレンジスピーカとされており、広い周波数帯域で音声や音楽等のサウンドを出力するものである。一対のトップサイドスピーカは、ツイータとされており、音声や音楽等のサウンドの高音域を出力するものである。
【０５３３】
トップ下カバー４６５は、無数の貫通孔を有した金属板からなるパンチングメタルによって形成されている。トップ下カバー４６５を通して、トップ中央スピーカやトップサイドスピーカから出力されたサウンドが、前方且つ下方へ向けて放射される。
【０５３４】
扉枠トップ中継基板は、扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、扉枠トップ右装飾基板４５７、トップ中央スピーカ、及びトップサイドスピーカと、扉枠ベースユニット１００の扉枠副中継基板１０５との接続を中継するためのものである。
【０５３５】
扉枠トップ天板４６８は、トップ上カバー４５２の開口部４５２ａを閉鎖するものであり、前端がトップ上カバー４５２に係止されると共に、後端が扉枠ベースユニット１００に取付けられる。
【０５３６】
扉枠トップユニット４５０は、扉枠３に組立てた状態で、扉枠ベース１０１の扉窓１０１ａの上外側を装飾している。扉枠トップユニット４５０は、扉枠トップ装飾体４５３の左右両端が、扉枠左サイド装飾体４２６及び扉枠右サイド装飾体４３５の上部の内側よりも後方の部位へ前方から沈み込むように接続されている。また、扉枠トップユニット４５

０は、一対のトップ中央スピーカ及び一対のトップサイドスピーカによって、音声や音楽等のサウンドを遊技者側へ出力することができる。

【０５３７】

［３－９．扉枠の装飾］

次に、扉枠３の装飾（外装）について、主に図２２乃至図２８、及び図７１等を参照して詳細に説明する。図７１（ａ）は扉枠において２色成形の外側層を不透明にした状態で示す扉枠右サイドユニットの右側面図であり、（ｂ）は（ａ）において内側層をそのままにして外側層を透明にした状態で示す扉枠右サイドユニットの右側面図である。扉枠３は、図示するように、正面視中央に、ガラスユニット１６０の透明なガラス板１６２によって閉鎖されている上下に延びた略四角形の扉窓１０１ａを有している。扉枠３は、皿ユニット２００の皿左装飾体２７１、皿右装飾体２７６、演出操作ユニット３００のユニット上カバー３１２及びボタン本体３５１、扉枠左サイドユニット４２０の扉枠左サイド装飾体４２６、扉枠右サイドユニット４３０の扉枠右サイド装飾体４３５、及び扉枠トップユニット４５０の扉枠トップ装飾体４５３によって、扉窓１０１ａの外周が全周に亘って囲まれている。

【０５３８】

扉窓１０１ａの外周を囲っている皿左装飾体２７１、皿右装飾体２７６、扉枠左サイド装飾体４２６、扉枠右サイド装飾体４３５、及び扉枠トップ装飾体４５３は、半チューブ状に形成されているため、扉窓１０１ａの全周が蛍光灯で囲まれているような装飾を遊技者に見せることができる。

【０５３９】

扉枠３では、扉窓１０１ａの外周を囲っている皿左装飾体２７１、皿右装飾体２７６、ユニット上カバー３１２、扉枠左サイド装飾体４２６、扉枠右サイド装飾体４３５、及び扉枠トップ装飾体４５３の後方又は下方に、皿左装飾基板２７３、皿右装飾基板２７８、演出操作部外周装飾基板３２０、扉枠左サイド上装飾基板４２２及び扉枠左サイド下装飾基板４２３、扉枠右サイド上装飾基板４３２及び扉枠右サイド下装飾基板４３３、扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、及び扉枠トップ右装飾基板４５７が配置されているため、それら装飾基板のＬＥＤを適宜発光させることで、扉窓１０１ａの外周全体を発光装飾させたり、扉窓１０１ａの外周に沿って光が移動するように発光演出を遊技者に見せたり、することができる。

【０５４０】

扉枠３の皿ユニット２００では、左右方向の中央に、上皿２０１の前後方向の距離よりも直径が大きい球形状の演出操作ユニット３００が取付けられている。これにより、皿ユニット２００において、大きな球形状の演出操作ユニット３００が中央に位置しているため、見た目のインパクトを高めることができ、演出操作ユニット３００の演出操作部３０１（接触操作部３０２や押圧操作部３０３）を目立たせることができる。

【０５４１】

また、通常の状態では、演出操作部３０１としてのボタン本体３５１の上面が、ユニット上カバー３１２の上面と連続するように一致していることで、一つの球体を形成しているため、遊技者に対して演出操作部３０１（ボタン本体３５１）が操作可能であるものと認識させ難くすることができると共に、巨大な球体からなる演出操作ユニット３００により、遊技者に対して、一見して他のパチンコ機とは異なるパチンコ機１であることを認識させることができ、遊技者の関心を強く引付けさせることができると共に、遊技者に対する訴求力を高めることができ、遊技するパチンコ機として本パチンコ機１を選択させ易くすることができる。

【０５４２】

また、皿ユニット２００において、演出操作ユニット３００の演出操作部３０１の中央（中心）を、球状の演出操作ユニット３００の頂点よりも前方に位置させているため、演出操作部３０１（接触操作部３０２や押圧操作部３０３）の上面が本パチンコ機１の前方に着座した遊技者の頭（顔）の方向を向くこととなる。従って、皿ユニット２００の中央

に設けられている巨大な球体が演出操作部３０１であると認識した遊技者に対して、演出操作部３０１の全容を見え易くすることができ、演出操作部３０１を大きく見せることができる。また、遊技者に対して巨大な球体状の演出操作部３０１を操作してみたいと強く思わせることができ、演出操作部３０１を操作する遊技者参加型演出の実行に対する期待感を高めさせることができると共に、遊技者参加型演出が実行された時に、遊技者に対して能動的に演出操作部３０１を操作させることができ、演出操作部３０１の操作により遊技者参加型演出を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【０５４３】

続いて、本実施形態の扉枠３の外装は、図２乃至図５等に示すように、その外表面に複数の円形や放射状の模様が施されている。図７１では、扉枠３の外装の一部として、扉枠右サイドユニット４３０を例として示している。

【０５４４】

詳述すると、扉枠３の外装として、外表面に施されている複数の円形や放射状の模様は、色や透光性（光の透過率）の異なる２種類の合成樹脂を用いて２色成形により形成されている。扉枠３における模様が施されている外装の部位は、内側層３ａと外側層３ｂとの２種類の樹脂により２色成形されており、内側層３ａの一部が外側層３ｂを貫通して外側面に現れることで、円形や放射状の模様が形成されている。

【０５４５】

例えば、扉枠右サイドユニット４３０を例に説明すると、図７１（ａ）に示すように、内側層３ａにハニカム状の模様を施し、外側層３ｂを不透明にすると、円形の模様の部位に内側層３ａのハニカム状の模様が見え、模様以外の部位は不透明な外側層３ｂが見えることとなり、円形や放射状の模様が強調された外観の外装となる。

【０５４６】

これに対して、図７１（ｂ）に示すように、外側層３ｂを透明にすると、外側層３ｂを通して内側層３ａに施されているハニカム状の模様が見えるようになり、相対的に円形や放射状の模様が見え辛くなる。つまり、内側層３ａに施されているハニカム状の模様が強調された外観の外装となる。

【０５４７】

なお、図７１では、外装の一部として２色成形されている扉枠右サイド右側面装飾体４４０において、装飾孔４４０ａに嵌め込まれている装飾部４４１ａが右サイド右レンズ４４１の一部として、扉枠右サイド右側面装飾体４４０とは異なる別部材としているため、外側層３ｂを透明にしても、装飾孔４４０ａ（装飾部４４１ａ）の模様は変化しない。

【０５４８】

このように、本実施形態によれば、扉枠３の外装を構成している主な部材を、２色成形により形成しているため、内側層３ａと外側層３ｂとに用いられる材料（合成樹脂）の色や光の透過率等を適宜選択して組み合わせることにより、形状はそのままでも見栄えを大きく異ならせることができる。

【０５４９】

従って、例えば、マイナーチェンジ等の時に、外側層３ｂを透明にして内側層３ａの模様を見えるようにすることで、コストをかけることなくパチンコ機１の外装を変更させることができる。

【０５５０】

或いは、製造ロット毎に内側層３ａと外側層３ｂの色等を変更し、異なるロットのパチンコ機１を同一の遊技ホールに出荷して島設備に設置させることで、カラフルな感じにして遊技者に対する訴求力を高めさせたりすることができる。

【０５５１】

なお、上記の実施形態では、２色成形したものを示したが、これに限定するものではなく、３色成形や４色成形等の多色成型としても良い。具体的には、上記の実施形態では、２色成形の扉枠右サイド右側面装飾体４４０に、右サイド右レンズ４４１を組み合わせて外装を構成したものを示したが、３色成形として、扉枠右サイド右側面装飾体４４０と右

サイド右レンズ４４１とを一体に形成するようにしても良い。
【０５５２】
　また、上記の実施形態では、円形や放射状の模様を形成したものを示したが、これに限定するものではなく、様々な形状の模様を形成するようにしても良い。
【０５５３】
　このように、本実施形態のパチンコ機１によれば、扉枠３における遊技領域５ａが前方へ臨む扉窓１０１ａの外側に設けられるハンドルカバー２９５、扉枠左サイドベース４２１、扉枠右サイド左側面装飾体４３８及び扉枠右サイド右側面装飾体４４０等装飾体を、光透過率の異なる二つの合成樹脂により２色成形（多色成形）すると共に、当該２色成形により水玉模様の装飾を施すようにしていることから、装飾体を所望の形状に形成すると同時に、装飾体に対して所望の装飾が施されることとなるため、従来のパチンコ機の装飾体のように、所望の形状に形成した上で塗装等により所望の装飾を施す必要が無く、装飾にかかる手間を省略してコストの増加を抑制させることができる。
【０５５４】
　また、装飾体の装飾を２色成形により形成しているため、使用する合成樹脂の色を変更することで、装飾体の見栄え（外観）を簡単に変更することができる。詳述すると、２色成形により水玉模様の装飾を形成する場合、水玉模様の円の内側を構成している内側層３ａと、円の外側を構成している外側層３ｂと、を夫々光透過率の異なる同じ色で形成した場合、内側層３ａと外側層３ｂとが同じ色であることから水玉模様の円が見え辛くなり、水玉模様の装飾が施されていないような外観となる。一方、水玉模様の円の内側を構成している内側層３ａを白色に、円の外側を構成している外側層３ｂを桃色にした場合、内側層３ａと外側層３ｂとの色の違いにより水玉模様の円が明確に見えるようになり、桃色の地に白の水玉模様の装飾が施されている外観となる。このように、装飾体を形成する際に、使用する合成樹脂の光透過率（色を含む）を適宜選択することで、装飾体の外観を容易に変更することができ、外観の変更にかかるコストを抑制させることができる。
【０５５５】
　また、上述したように、装飾体を形成する際に、使用する合成樹脂の光透過率（色を含む）を適宜選択することで、装飾体の外観を容易に変更することができることから、製造ロット毎に使用する合成樹脂の組合せを変更し、異なるロットの本パチンコ機１を同一の遊技ホールに出荷して島設備において一列に設置させるようにした場合、当該島設備をカラフルな感じにすることができるため、遊技ホール内を回遊している遊技者に対して強いインパクトを与えることができ、遊技者を誘引可能な訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。
【０５５６】
　更に、扉枠３における遊技領域５ａが前方へ臨む扉窓１０１ａよりも外側の部位に、光透過率の異なる複数の合成樹脂により２色成形された装飾を有するハンドルカバー２９５、扉枠左サイドベース４２１、扉枠右サイド左側面装飾体４３８、及び扉枠右サイド右側面装飾体４４０等の装飾体を設けているため、当該装飾体により扉窓１０１ａの外側を装飾して見栄えを良くすることができる。
【０５５７】
　また、２色成形されている装飾体の外側層３ｂを、残りの内側層３ａよりも光透過率の低い合成樹脂で形成しているため、外側層３ｂを通して内側層３ａを見え難くすることができ、相対的に内側層３ａにより構成される装飾（水玉模様）の境界が明確に見えるようになり、装飾をハッキリ見えるようにすることができる。
【０５５８】
　また、外側層３ｂの光透過率を残りの内側層３ａよりも低くしていることから、外側層３ｂを通して内側層３ａを見え難くすることができるため、初期モデルでは、外側層３ｂを光透過率の低いものとして内側層３ａが外側から透けて見えないようにし、モデルチェンジの際に、外側層３ｂに光透過率の高い合成樹脂を使用して、内側層３ａが透けて見えるようにすることで、装飾体の装飾の見方を大きく変化させることができ、装飾体の形状

を変更することなく外観（装飾）を容易に変更することができる。
【０５５９】
　また、上述したように、光透過率の低い外側層３ｂにより、内側層３ａを見え難くすることができることから、内側層３ａの表面に模様（形状による模様、塗装や印刷やシールの貼り付け等による模様）を施し、初期モデルでは、光透過率の低い不透明な外側層３ｂにより、外側層３ｂを通して内側層３ａの模様が透けて見えないようにし、モデルチェンジの際に、外側層３ｂに透明な合成樹脂を使用することで、内側層３ａの模様が透けて見えるようにすることができるため、装飾体の形状を変更することなく、装飾体の外観（装飾）を大きく変更することができ、モデルチェンジにかかるコストの増加を抑制させることができる。
【０５６０】
　更に、扉枠右サイド左側面装飾体４３８及び扉枠右サイド右側面装飾体４４０の内側に、光を照射可能な扉枠右サイド上装飾基板４３２の第三ＬＥＤ４３２ｃ及び扉枠右サイド下装飾基板４３３の第三ＬＥＤ４３３ｃを備えていると共に、内側層３ａを他よりも光透過率の高い合成樹脂で形成しているため、扉枠右サイド左側面装飾体４３８及び扉枠右サイド右側面装飾体４４０の内側に設けられている第三ＬＥＤ４３２ｃ及び第三ＬＥＤ４３３ｃを発光させると、扉枠右サイド左側面装飾体４３８及び扉枠右サイド右側面装飾体４４０の表面に形成されている装飾のうち内側層３ａの部位（水玉の部位）を明るく発光装飾させることができ、遊技領域５ａが臨む扉窓１０１ａの外側を発光装飾させることで、見栄えを良くすることができると共に、遊技者に扉枠右サイド左側面装飾体４３８及び扉枠右サイド右側面装飾体４４０の発光装飾を楽しませることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。
【０５６１】
　また、外側層３ｂの光透過率によっては、内側層３ａを通して外側層３ｂに照射された第三ＬＥＤ４３２ｃ及び第三ＬＥＤ４３３ｃからの光によって、外側層３ｂも発光装飾させることができるため、扉枠右サイド左側面装飾体４３８及び扉枠右サイド右側面装飾体４４０全体を発光装飾させることができ、扉枠右サイド左側面装飾体４３８及び扉枠右サイド右側面装飾体４４０を綺麗に見せて遊技者の関心を強く引付けることが可能な訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。
【０５６２】
　また、上述したように、扉枠右サイド左側面装飾体４３８及び扉枠右サイド右側面装飾体４４０等の装飾体の装飾が、光透過率の異なる複数の合成樹脂の２色成形（多色成形）により形成されているため、表面までの層の数や、使用している合成樹脂の光透過率の違い等によって、第三ＬＥＤ４３２ｃ及び第三ＬＥＤ４３３ｃ等のＬＥＤ（発光手段）を発光させていない時に見える装飾と、ＬＥＤを発光させている時に見える装飾とを、異ならせることができ、装飾が変化することで、遊技者の関心を強く引付けさせることができる。詳述すると、例えば、多色成形として２色成形を例に説明すると、内側層３ａにおいて、外側層３ｂにより覆われる部位に所定の形状の孔を形成するようにした場合、ＬＥＤを発光させていない状態では、内側層３ａにおける表面に露出している部位のみが見える。一方、ＬＥＤを発光させると、内側層３ａにおける孔が形成されている部位では、内側層３ａを通さずにＬＥＤからの光が外側層３ｂに直接照射されるため、外側層３ｂの表面に内側層３ａの孔の形状が見えるようになり、内側層３ａにおける表面に露出している部位と孔の部位とが見えることとなり、ＬＥＤを発光させていない時とは異なる装飾が見えることとなる。或いは、例えば、内側層３ａを黄色に、外側層３ｂを青色とした場合、ＬＥＤを黄色に発光させると、表面の装飾における内側層３ａの部位のみが発光装飾される。一方、ＬＥＤを緑色（又は白色）に発光させると、表面における内側層３ａの部位と外側層３ｂの部位の両方が発光装飾されるため、ＬＥＤにおいて発光させる光の色によって、装飾体における発光装飾される部位を異ならせることができ、発光装飾される装飾を変化させることができる。このように、ＬＥＤの発光により、装飾体の装飾を異ならせることができるため、遊技者の関心を強く引付けることができ、遊技者を楽しませることができ

る。また、遊技状態に応じてＬＥＤを発光させるようにすることで、装飾体の装飾の変化により、遊技者に対して、チャンスの到来や打込操作の変更（例えば、「右打ち」）等を示唆させるようにすることができ、多彩な演出が可能なパチンコ機１を提供することができる。

【０５６３】

また、扉窓１０１ａ（遊技領域５ａ）の左右両外側に設けられている扉枠左サイド装飾体４２６と扉枠右サイド装飾体４３５の夫々の前後方向の突出量を異ならせていることから、本パチンコ機１を左前方から見た時と右前方から見た時の印象（見え方）を異ならせることができるため、本パチンコ機１が設置されている遊技ホール内において、回遊している遊技者が一旦は本パチンコ機１の前方を通り過ぎても反対側から本パチンコ機１に接近した際に、先の回遊の時とは見え方が異なることで本パチンコ機１への関心を引付けさせることができ、遊技するパチンコ機１を選択するために遊技ホール内を回遊している遊技者を本パチンコ機１へ誘引することが可能な訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。

【０５６４】

［３－１０．扉枠におけるＬＥＤの配置と系統］

次に、扉枠３に設けられている各ＬＥＤの配置と制御の系統について、主に図７２及び図７３等を参照して詳細に説明する。図７２は扉枠の各装飾基板を示す正面図であり、図７３は扉枠の演出操作ユニットの部位の装飾基板を示す平面図である。扉枠３は、図７２に示すように、正面視において右下隅に、遊技者が回転操作することで遊技球Ｂを遊技盤５の遊技領域５ａ内へ打込むハンドル１９５が設けられている。このハンドル１９５は、中央ハブ部１９５ａと、中央ハブ部１９５ａが外方へ延出している三つのスポーク部１９５ｂと、各スポーク部１９５ｂの先端同士を繋いでいる円環状の外周リング部１９５ｃと、を有しており、自動車のハンドル（ステアリング）と類似した外観を呈している。

【０５６５】

ハンドル１９５は、中央ハブ部１９５ａの前側がハンドル前レンズ１８５により覆われており、ハンドル前レンズ１８５と中央ハブ部１９５ａとの間に、前面に複数のＬＥＤ１８４ａが実装されているハンドル装飾基板１８４が設けられている。また、ハンドル１９５の外周リング部１９５ｃの後方に、前面に複数のＬＥＤ２９３ａが実装されているハンドルカバー装飾基板２９３が設けられている。

【０５６６】

ハンドル装飾基板１８４は、中心に１個と、中間の円周上に周方向へ一定の間隔をあけた３個と、外周に沿って周方向へ一定の間隔をあけた６個、の合計１０個のＬＥＤ１８４ａ（フルカラーＬＥＤ）が、三重の同心円状に実装されている。これらのＬＥＤ１８４ａは、中心の１個と、図７２において破線で結ばれている中間の３個と、及び夫々が破線で結ばれている、外周の左上の２個と、外周の右上の２個と、外周の下側の２個と、の５組に分けられている。これら５組に分けられたＬＥＤ１８４ａは、ＬＥＤドライバ１８４ｂにより１５系統で制御されており、各組のＬＥＤ１８４ａが、適宜色のフルカラーで発光することができる。

【０５６７】

一方、ハンドルカバー装飾基板２９３には、１２個のＬＥＤ２９３ａが周方向へ間隔をあけて一列に設けられている。これら１２個のＬＥＤ２９３ａは、図７２において破線で結んでいるように、中心から左下の２個と、左側の２個と、左上の２個と、右上の２個と、右側の２個と、右下の２個と、の６組に分けられている。これら６組に分けられたＬＥＤ２９３ａは、ＬＥＤドライバ２９３ｂにより１８系統で制御されており、各組のＬＥＤ２９３ａが、適宜色のフルカラーで発光することができる。

【０５６８】

このように、ハンドル１９５には、ハンドル装飾基板１８４とハンドルカバー装飾基板２９３とが設けられているため、ハンドル１９５を中心にして光が回転するような発光演出や、ハンドル１９５の中心へ向かって光が集中するような発光演出や、ハンドル１９５

の外側へ向かって光が広がるような発光演出を、遊技者に見せることができる。また、ハンドルカバー装飾基板２９３のＬＥＤ２９３ａにより、ハンドルカバー２９５の外側や内側を発光装飾させることができる。

【０５６９】

また、扉枠３は、図示するように、正面視中央に、ガラスユニット１６０の透明なガラス板１６２によって閉鎖されている上下に延びた略四角形の扉窓１０１ａを有している。扉枠３は、皿ユニット２００の皿左装飾体２７１、皿右装飾体２７６、演出操作ユニット３００、扉枠左サイドユニット４２０の扉枠左サイド装飾体４２６、扉枠右サイドユニット４３０の扉枠右サイド装飾体４３５、及び扉枠トップユニット４５０の扉枠トップ装飾体４５３によって、扉窓１０１ａの外周が全周に亘って囲まれている。

【０５７０】

扉窓１０１ａの外周を囲っている皿左装飾体２７１、皿右装飾体２７６、扉枠左サイド装飾体４２６、扉枠右サイド装飾体４３５、及び扉枠トップ装飾体４５３は、半チューブ状に形成されているため、扉窓１０１ａの略全周が蛍光灯で囲まれているような装飾を遊技者に見せることができる。

【０５７１】

この扉枠３では、図７２に示すように、扉窓１０１ａの外周を囲っている皿左装飾体２７１の後方の皿左装飾基板２７３、皿右装飾体２７６の後方の皿右装飾基板２７８、扉枠左サイド装飾体４２６の後方の扉枠左サイド上装飾基板４２２及び扉枠左サイド下装飾基板４２３、扉枠右サイド装飾体４３５の後方の扉枠右サイド上装飾基板４３２及び扉枠右サイド下装飾基板４３３、扉枠トップ装飾体４５３の後方の扉枠トップ中央装飾基板４５５及び扉枠トップ左装飾基板４５６及び扉枠トップ右装飾基板４５７が、前方へ向けて設けられている。

【０５７２】

詳述すると、皿左装飾基板２７３には、左右方向へ一列に並んで前面に実装されている４個のＬＥＤ２７３ａと、ＬＥＤ２７３ａと後述する皿右装飾基板２７８のＬＥＤ２７３ａとを発光させるためのＬＥＤドライバ（図示は省略）と、を備えている。これら４個のＬＥＤ２７３ａは、図７２において破線で結んでいるように、左の２個と、右の２個と、の２組に分けられている。これら２組に分けられたＬＥＤ２７３ａは、ＬＥＤドライバにより６系統で制御されており、各組のＬＥＤ２７３ａが、適宜色のフルカラーで発光することができる。

【０５７３】

皿右装飾基板２７８には、左右方向へ一列に並んで前面に実装されている４個のＬＥＤ２７８ａを備えている。これら４個のＬＥＤ２７８ａは、図７２において破線で結んでいるように、左の２個と、右の２個と、の２組に分けられている。これら２組に分けられたＬＥＤ２７８ａは、皿左装飾基板２７３のＬＥＤドライバにより６系統で制御されており、各組のＬＥＤ２７８ａが、適宜色のフルカラーで発光することができる。

【０５７４】

扉枠左サイド上装飾基板４２２には、上下方向へ一定の間隔をあけて実装されている４個の第一ＬＥＤ４２２ａと、第一ＬＥＤ４２２ａ同士の間に上下に並んで二つずつ実装されている８個の第二ＬＥＤ４２２ｂと、合計１２個の第一ＬＥＤ４２２ａ及び第二ＬＥＤ４２２ｂを発光させるためＬＥＤドライバ４２２ｃと、を備えている。第一ＬＥＤ４２２ａ及び第二ＬＥＤ４２２ｂは、前面に実装されている。扉枠左サイド上装飾基板４２２の４個の第一ＬＥＤ４２２ａは、図７２において二点鎖線で結んでいるように、上の２個と残りの２個の２組に分けられている。また、８個の第二ＬＥＤ４２２ｂは、図７２において一点鎖線で結んでいるように、上の２個と、上より３個目から５個目までの３個と、上より６個目から８個目までの３個と、の３組に分けられている。２組に分けられた４個の第一ＬＥＤ４２２ａと、３組に分けられた８個の第二ＬＥＤ４２２ｂとは、ＬＥＤドライバ４２２ｃにより１５系統で制御されており、各組の第一ＬＥＤ４２２ａや第二ＬＥＤ４２２ｂが、適宜色のフルカラーで発光することができる。

【０５７５】
扉枠左サイド下装飾基板４２３には、上下方向へ一定の間隔をあけて実装されている６個の第一ＬＥＤ４２３ａと、第一ＬＥＤ４２３ａ同士の間に上下に並んで二つずつ実装されている１２個の第二ＬＥＤ４２３ｂと、合計１８個の第一ＬＥＤ４２３ａ及び第二ＬＥＤ４２３ｂを発光させるためのＬＥＤドライバ４２３ｃと、を備えている。第一ＬＥＤ４２３ａ及び第二ＬＥＤ４２３ｂは、前面に実装されている。６個の第一ＬＥＤ４２３ａは、図７２において二点鎖線で結んでいるように、上から２個ずつ順番に一組として３組に分けられている。また、１２個の第二ＬＥＤ４２３ｂは、図７２において一点鎖線で結んでいるように、上より１個目から３個目までの３個と、上より４個目から６個目までの３個と、上より７個目から９個目までの３個と、上より１０個目から１２個目まで３個と、の４組に分けられている。３組に分けられた６個の第一ＬＥＤ４２３ａと、４組に分けられた１２個の第二ＬＥＤ４２３ｂとは、ＬＥＤドライバ４２３ｃにより２１系統で制御されており、各組の第一ＬＥＤ４２３ａや第二ＬＥＤ４２３ｂが、適宜色のフルカラーで発光することができる。
【０５７６】
扉枠右サイド上装飾基板４３２には、上下方向へ一定の間隔をあけて前面に実装されている４個の第一ＬＥＤ４３２ａと、第一ＬＥＤ４３２ａ同士の間に上下に並んで二つずつ前面に実装されている８個の第二ＬＥＤ４３２ｂと、上下方向へ間隔をあけて後面に実装されている４個の第三ＬＥＤ４３２ｃと、を備えている。また、扉枠右サイド上装飾基板４３２は、合計１６個の第一ＬＥＤ４３２ａ、第二ＬＥＤ４３２ｂ、第三ＬＥＤ４３２ｃと、扉枠右サイド下装飾基板４３３の２個の第三ＬＥＤ４３３ｃとを、発光させるためのＬＥＤドライバ４３２ｄを備えている。４個の第一ＬＥＤ４３２ａは、図７２において二点鎖線で結んでいるように、上の２個と残りの２個の２組に分けられている。また、８個の第二ＬＥＤ４３２ｂは、図７２において一点鎖線で結んでいるように、上の２個と、上より３個目から５個目までの３個と、上より６個目から８個目までの３個と、の３組に分けられている。更に、４個の第三ＬＥＤ４３２ｃは図７２において一点鎖線で結んでいるように、上の２個と残りの２個の２組に分けられている。２組に分けられた第一ＬＥＤ４３２ａと、３組に分けられた第二ＬＥＤ４３２ｂと、２組に分けられた第三ＬＥＤ４３２ｃと、扉枠右サイド下装飾基板４３３における２組に分けられた第三ＬＥＤ４３３ｃのうちの上側の１組の第三ＬＥＤ４３３ｃとは、ＬＥＤドライバ４３２ｄにより２４系統で制御されており、各組の第一ＬＥＤ４３２ａ、第二ＬＥＤ４３２ｂ、第三ＬＥＤ４３２ｃ、第三ＬＥＤ４３３ｃが、適宜色のフルカラーで発光することができる。
【０５７７】
扉枠右サイド下装飾基板４３３には、上下方向へ一定の間隔をあけて前面に実装されている６個の第一ＬＥＤ４３３ａと、第一ＬＥＤ４３３ａ同士の間に上下に並んで二つずつ前面に実装されている１２個の第二ＬＥＤ４３３ｂと、上下方向へ間隔をあけて後面に実装されている４個の第三ＬＥＤ４３３ｃと、第一ＬＥＤ４３３ａ、第二ＬＥＤ４３３ｂ、下側の２個の第三ＬＥＤ４３３ｃを発光させるためのＬＥＤドライバ４３３ｄと、を備えている。６個の第一ＬＥＤ４３３ａは、図７２において二点鎖線で結んでいるように、上から２個ずつ順番に一組として３組に分けられている。また、１２個の第二ＬＥＤ４３３ｂは、図７２において一点鎖線で結んでいるように、上より１個目から３個目までの３個と、上より４個目から６個目までの３個と、上より７個目から９個目までの３個と、上より１０個目から１２個目まで３個と、の４組に分けられている。更に、後側の４個の第三ＬＥＤ４３３ｃは、図７２において破線で結んでいるように、上の２個と残りの２個の２組に分けられている。３組に分けられた６個の第一ＬＥＤ４３３ａと、４組に分けられた１２個の第二ＬＥＤ４３３ｂと、２組に分けられたうちの下側の１組の２個の第三ＬＥＤ４３３ｃとは、ＬＥＤドライバ４３３ｄにより２４系統で制御されており、各組の第一ＬＥＤ４３３ａ、第二ＬＥＤ４３３ｂ、第三ＬＥＤ４３３ｃが、適宜色のフルカラーで発光することができる。
【０５７８】

本実施形態では、扉窓１０１ａの左側に設けられている扉枠左サイド上装飾基板４２２及び扉枠左サイド下装飾基板４２３と、扉窓１０１ａの右側に設けられている扉枠右サイド上装飾基板４３２及び扉枠右サイド下装飾基板４３３とが、扉窓１０１ａの左右方向中央を境にして、左右非対称の形状に形成されている。また、扉枠左サイド上装飾基板４２２及び扉枠左サイド下装飾基板４２３と、扉枠右サイド上装飾基板４３２及び扉枠右サイド下装飾基板４３３とは、前後方向の形状も互いに異なっている。

【０５７９】

なお、扉枠左サイド上装飾基板４２２及び扉枠左サイド下装飾基板４２３と、扉枠右サイド上装飾基板４３２及び扉枠右サイド下装飾基板４３３とは、夫々の前面に実装されている第一ＬＥＤ４２２ａ、第二ＬＥＤ４２２ｂ、第一ＬＥＤ４２３ａ、第二ＬＥＤ４２３ｂと、第一ＬＥＤ４３２ａ、第二ＬＥＤ４３２ｂ、第一ＬＥＤ４３３ａ、第二ＬＥＤ４３３ｂとの数が、互いに同じであると共に、配置及び系統（図７２において一点鎖線や二点鎖線で結んだ系統）が左右対称に設けられている。これにより、発光演出を行うためのＬＥＤの点灯パターンのデータの作成を容易なものとすることができる。

【０５８０】

扉枠トップ中央装飾基板４５５には、左右方向へ間隔をあけて前面に実装されている６個のＬＥＤ４５５ａと、ＬＥＤ４５５ａと扉枠トップ左装飾基板４５６のＬＥＤ４５６ａ及び扉枠トップ右装飾基板４５７のＬＥＤ４５７ａとを発光させるためのＬＥＤドライバ（図示は省略）と、を備えている。６個のＬＥＤ４５５ａは、図７２において破線で結んでいるように、左から２個ずつの３組に分けられている。３組に分けられた６個のＬＥＤ４５５ａは、ＬＥＤドライバにより９系統で制御されており、各組のＬＥＤ４５５ａが、適宜色のフルカラーで発光することができる。

【０５８１】

扉枠トップ左装飾基板４５６には、左右方向へあけて前面に実装されている４個のＬＥＤ４５６ａを、備えている。４個のＬＥＤ４５６ａは、図７２において破線で結んでいるように、左側の２個と右側の２個との２組に分けられている。２組に分けられた４個のＬＥＤ４５６ａは、扉枠トップ中央装飾基板４５５のＬＥＤドライバにより、６系統で制御されており、各組のＬＥＤ４５６ａが、適宜色のフルカラーで発光することができる。

【０５８２】

扉枠トップ右装飾基板４５７には、左右方向へあけて前面に実装されている４個のＬＥＤ４５７ａを、備えている。４個のＬＥＤ４５７ａは、図７２において破線で結んでいるように、左側の２個と右側の２個との２組に分けられている。２組に分けられた４個のＬＥＤ４５７ａは、扉枠トップ中央装飾基板４５５のＬＥＤドライバにより、６系統で制御されており、各組のＬＥＤ４５７ａが、適宜色のフルカラーで発光することができる。

【０５８３】

本実施形態の扉枠３によれば、扉枠左サイド上装飾基板４２２の第一ＬＥＤ４２２ａ、扉枠左サイド下装飾基板４２３の第一ＬＥＤ４２３ａ、扉枠右サイド上装飾基板４３２の第一ＬＥＤ４３２ａ、及び扉枠右サイド下装飾基板４３３の第一ＬＥＤ４３３ａからの光が、左サイド上導光部材４２７の導光軸部４２７ａ、左サイド中導光部材４２８の導光軸部４２８ａ、左サイド下導光部材４２９の導光軸部４２９ａ、右サイド上導光部材４３６の導光軸部４３６ａ、及び右サイド下導光部材４３７の導光軸部４３７ａにより、扉枠左サイド装飾体４２６の開口部４２６ａや扉枠右サイド装飾体４３５の開口部４３５ａまで誘導されて、外方（前方）へ照射される。これにより、扉枠左サイド装飾体４２６や扉枠右サイド装飾体４３５の前面において、点状に明るく発光する発光演出を遊技者に見せることができ、これまでのパチンコ機にはない点状にきらりとスポット発光する発光演出により、遊技者を「ハッ」とさせることができる。

【０５８４】

また、扉枠３では、扉窓１０１ａの外周を囲んでいる皿左装飾基板２７３のＬＥＤ２７３ａ、皿右装飾基板２７８のＬＥＤ２７８ａ、扉枠左サイド上装飾基板４２２の第二ＬＥＤ４２２ｂ、扉枠左サイド下装飾基板４２３の第二ＬＥＤ４２３ｂ、扉枠右サイド上装飾

基板４３２の第二ＬＥＤ４３２ｂ、扉枠右サイド下装飾基板４３３の第二ＬＥＤ４３３ｂ、扉枠トップ中央装飾基板４５５のＬＥＤ４５５ａ、扉枠トップ左装飾基板４５６のＬＥＤ４５６ａ、及び扉枠トップ右装飾基板４５７のＬＥＤ４５７ａを、適宜発光させることにより、扉窓１０１ａの外周全体を発光装飾させたり、扉窓１０１ａの外周に沿って光が移動するように発光演出を遊技者に見せたり、することができる。

【０５８５】

つまり、扉枠３では、図７２において二点鎖線で結ばれているＬＥＤの系統により、扉枠左サイド装飾体４２６や扉枠右サイド装飾体４３５の前面において、スポット発光する発光演出を実行することができ、図７２において一点鎖線で結ばれているＬＥＤの系統により、扉枠左サイド装飾体４２６や扉枠右サイド装飾体４３５が面状に発光（面発光）する発光演出を実行することができる。

【０５８６】

また、扉枠３によれば、第一ＬＥＤ４２２ａ、第一ＬＥＤ４２３ａ、第一ＬＥＤ４３２ａ、及び第一ＬＥＤ４３３ａからの光を、導光軸部４２７ａ、導光軸部４２８ａ、導光軸部４２９ａ、導光軸部４３６ａ、及び導光軸部４３７ａにより、扉枠左サイド装飾体４２６の開口部４２６ａや扉枠右サイド装飾体４３５の開口部４３５ａに挿入されている前端まで導光して、そこから前方へ照射しているため、扉枠左サイド装飾体４２６や扉枠右サイド装飾体４３５の一般面と比較して、開口部４２６ａ及び開口部４３５ａの部位を高輝度で明るくスポット発光させることができる。この際に、扉枠左サイド装飾体４２６及び扉枠右サイド装飾体４３５が、遊技領域５ａが臨む扉窓１０１ａよりも外側に配置されているため、扉枠左サイド装飾体４２６の開口部４２６ａ及び扉枠右サイド装飾体４３５の開口部４３５ａの部位を高輝度でスポット発光させても、その眩しさにより扉窓１０１ａから臨む遊技領域５ａ内が見え辛くなることはなく、扉窓１０１ａを通して遊技領域５ａ内の遊技球Ｂや演出画像や装飾体等を良好な状態で視認させることができる。

【０５８７】

また、扉枠３によれば、扉枠左サイド装飾体４２６及び扉枠右サイド装飾体４３５を、扉窓１０１ａ（遊技領域５ａ）よりも前方へ突出させていると共に、高輝度でスポット発光する開口部４２６ａ及び開口部４３５ａを、前方へ突出した扉枠左サイド装飾体４２６及び扉枠右サイド装飾体４３５の前端となる尾根の部位（平面視において前方へ円弧状に突出している前端を結んだ上下方向の線上）に設けているため、スポット発光の光が後方側（扉窓１０１ａ側）へ照射されることはない。従って、扉枠左サイド装飾体４２６及び扉枠右サイド装飾体４３５におけるスポット発光の光が、扉窓１０１ａに設けられているガラス板１６２により遊技者側へ反射して、扉窓１０１ａの後方の遊技領域５ａ内が見え辛くなることはないと共に、高輝度でスポット発光させることで他の遊技者の関心を本パチンコ機１へ向けさせることができる。

【０５８８】

更に、扉枠３によれば、スポット発光する部位を、扉枠３における扉窓１０１ａよりも外側で前方へ突出している扉枠左サイド装飾体４２６及び扉枠右サイド装飾体４３５に設けているため、スポット発光する部位がパチンコ機１の外周付近と略同じ位置となる。そのため、本パチンコ機１の前方に遊技者が着座していても、スポット発光する部位が遊技者よりも外側に位置するため、当該遊技者がスポット発光の光を遮ることはない。これにより、扉枠左サイド装飾体４２６及び扉枠右サイド装飾体４３５においてスポット発光させると、本パチンコ機１の前方に着座していない他の遊技者からも高輝度のスポット発光の光が見えることとなるため、他の遊技者に対して本パチンコ機１の存在をアピールすることができ、遊技者の関心を強く引付けることができると共に、遊技するパチンコ機を選択するために遊技ホール内を回遊している遊技者を本パチンコ機１へ誘引することが可能な訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。

【０５８９】

なお、扉枠左サイド装飾体４２６や扉枠右サイド装飾体４３５の前面をスポット発光させるためのスポット用ＬＥＤ（第一ＬＥＤ４２２ａ、第一ＬＥＤ４２３ａ、第一ＬＥＤ４

３２ａ、第一ＬＥＤ４３３ａ）を挟んだ両側の面用ＬＥＤ（第二ＬＥＤ４２２ｂ、第二ＬＥＤ４２３ｂ、第二ＬＥＤ４３２ｂ、第二ＬＥＤ４３３ｂ）は、同一の系統に属するようにすることが望ましい。これにより、スポット用ＬＥＤの光を誘導する導光ピン（導光軸部４２７ａ、導光軸部４２８ａ、導光軸部４２９ａ、導光軸部４３６ａ、及び導光軸部４３７ａ）を挟んだ両側の面用ＬＥＤが同一の点灯態様となるため、導光ピンの両側から同じタイミングで同じ光量の光が照射されることとなり、扉枠左サイド装飾体４２６や扉枠右サイド装飾体４３５において導光ピンの影をより一層見え難くすることができる。

【０５９０】

更に、扉枠３は、図７３に示すように、演出操作ユニット３００の演出操作部３０１における接触操作部３０２の下方に設けられており、上面に３１個のＬＥＤ３２０ａが実装されている円環状の演出操作部外周装飾基板３２０を備えている。この演出操作部外周装飾基板３２０は、３１個のＬＥＤ３２０ａを発光させるための２個のＬＥＤドライバを、備えている。演出操作部外周装飾基板３２０は、前装飾基板３２１と後装飾基板３２２の二つに分割されている。

【０５９１】

演出操作部外周装飾基板３２０における前装飾基板３２１には、３１個のＬＥＤ３２０ａのうち１８個のＬＥＤ３２０ａが実装されている。前装飾基板３２１の１８個のＬＥＤ３２０ａは、６個が内周に近い円周上で間隔をあけて設けられており、３個が内周と外周との中間の円周上で間隔をあけて設けられており、残りの９個が外周に近い円周上で間隔をあけて設けられている。

【０５９２】

演出操作部外周装飾基板３２０における後装飾基板３２２には、残りの１３個のＬＥＤ３２０ａが実装されている。後装飾基板３２２の１３個のＬＥＤ３２０ａは、４個が内周に近い円周上で円弧の両端付近で間隔をあけて２個ずつ設けられており、３個が内周と外周との中間の円周上で間隔をあけて設けられており、残りの６個が外周に近い円周上で円弧の両端付近で間隔をあけて３個ずつ設けられている。

【０５９３】

前装飾基板３２１の１８個のＬＥＤ３２０ａは、図７３において一点鎖線で繋いでいるように、内側の円周上の６個が周方向へ２個ずつの３組、中間の円周上の３個が夫々１個ずつの３組、外側の円周上の９個が周方向へ３個ずつの３組、の合計９組に分けられている。また、後装飾基板３２２の１８個のＬＥＤ３２０ａは、図７３において一点鎖線で繋いでいるように、内側の円周上の４個が両端付近の２個ずつの２組、中間の円周上の３個が夫々１個ずつの３組、外側の円周上の９個が両端付近の３個ずつの２組、の合計７組に分けられている。つまり、演出操作部外周装飾基板３２０では、３１個のＬＥＤ３２０ａが、１６組に分けられている。これら１６組に分けられたＬＥＤ３２０ａは、２個のＬＥＤドライバにより４８系統で制御されており、各組のＬＥＤ３２０ａが、適宜色のフルカラーで発光することができる。

【０５９４】

この演出操作部外周装飾基板３２０によれば、３１個、４８系統のＬＥＤ３２０ａを適宜発光させることで、演出操作部３０１において光が回転するような発光演出や、光が中心へ集中するような発光演出や、光が外側へ広がるような発光演出を遊技者に見せることができる。

【０５９５】

更に、扉枠３によると、遊技領域５ａが臨む扉窓１０１ａの左右方向の一方と他方の夫々の外側に、互いに前後方向の突出量が異なるように扉窓１０１ａに沿って上下に延びている扉枠左サイドユニット４２０の扉枠左サイド装飾体４２６と扉枠右サイドユニット４３０の扉枠右サイド装飾体４３５とが設けられており、扉枠左サイド装飾体４２６と扉枠右サイド装飾体４３５の夫々の後方に複数の第一ＬＥＤ４２２ａと第二ＬＥＤ４２２ｂとが実装されている扉枠左サイド上装飾基板４２２と複数の第一ＬＥＤ４２３ａと第二ＬＥＤ４２３ｂが実装されている扉枠左サイド下装飾基板４２３、及び複数の第一ＬＥＤ４３

２ａと第二ＬＥＤ４３２ｂが実装されている扉枠右サイド上装飾基板４３２と複数の第一ＬＥＤ４３３ａと第二ＬＥＤ４３３ｂが実装されている扉枠右サイド下装飾基板４３３とが設けられていると共に、第一ＬＥＤ４２２ａ、第一ＬＥＤ４２３ａ、第一ＬＥＤ４３２ａ、第一ＬＥＤ４３３ａからの光を扉枠左サイド装飾体４２６や扉枠右サイド装飾体４３５の前面付近まで誘導して前方へ照射する左サイド上導光部材４２７の導光軸部４２７ａ、左サイド中導光部材４２８の導光軸部４２８ａ、左サイド下導光部材４２９の導光軸部４２９ａ、右サイド上導光部材４３６の導光軸部４３６ａ、及び右サイド下導光部材４３７の導光軸部４３７ａを設けているため、扉枠左サイド上装飾基板４２２、扉枠左サイド下装飾基板４２３、扉枠右サイド上装飾基板４３２、扉枠右サイド下装飾基板４３３の第二ＬＥＤ４２２ｂ、第二ＬＥＤ４２３ｂ、第二ＬＥＤ４３２ｂ、第二ＬＥＤ４３３ｂを発光させることで扉枠左サイド装飾体４２６及び扉枠右サイド装飾体４３５を面状に発光装飾（面発光）させることができ、扉枠左サイド上装飾基板４２２、扉枠左サイド下装飾基板４２３、扉枠右サイド上装飾基板４３２、扉枠右サイド下装飾基板４３３の第一ＬＥＤ４２２ａ、第一ＬＥＤ４２３ａ、第一ＬＥＤ４３２ａ、第一ＬＥＤ４３３ａを発光させると、前方へ照射された光が柱状の導光軸部４２７ａ、導光軸部４２８ａ、導光軸部４２９ａ、導光軸部４３６ａ、導光軸部４３７ａにより扉枠左サイド装飾体４２６及び扉枠右サイド装飾体４３５の前面付近まで誘導された後に、それらの前端（前端面）から前方へ放射されることとなり、扉枠左サイド装飾体４２６及び扉枠右サイド装飾体４３５における導光軸部４２７ａ、導光軸部４２８ａ、導光軸部４２９ａ、導光軸部４３６ａ、導光軸部４３７ａの先端と対応している部位を点状に発光装飾（スポット発光）させることができる。

【０５９６】

従って、扉枠左サイド上装飾基板４２２、扉枠左サイド下装飾基板４２３、扉枠右サイド上装飾基板４３２、扉枠右サイド下装飾基板４３３の第一ＬＥＤ４２２ａと第二ＬＥＤ４２２ｂ、第一ＬＥＤ４２３ａと第二ＬＥＤ４２３ｂ、第一ＬＥＤ４３２ａと第二ＬＥＤ４３２ｂ、及び第一ＬＥＤ４３３ａと第二ＬＥＤ４３３ｂ、を適宜発光させることで、遊技領域５ａ（扉窓１０１ａ）よりも外側に設けられている扉枠左サイド装飾体４２６及び扉枠右サイド装飾体４３５の全体を面状に発光装飾させたり、扉枠左サイド装飾体４２６及び扉枠右サイド装飾体４３５の一部を点状に発光装飾させたり、扉枠左サイド装飾体４２６及び扉枠右サイド装飾体４３５の全体を面状に発光装飾させつつ一部を点状に発光装飾させたり、することができるため、多彩な発光演出を遊技者に見せることができ、遊技者を飽きさせ難くすると共に楽しませて遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【０５９７】

この際に、扉枠左サイド上装飾基板４２２及び扉枠左サイド下装飾基板４２３の複数の第一ＬＥＤ４２２ａ、第二ＬＥＤ４２２ｂ、第一ＬＥＤ４２３ａ、第二ＬＥＤ４２３ｂが分けられている系統と、扉枠右サイド上装飾基板４３２及び扉枠右サイド下装飾基板４３３の複数の第一ＬＥＤ４３２ａ、第二ＬＥＤ４３２ｂ、第一ＬＥＤ４３３ａ、第二ＬＥＤ４３３ｂが分けられている系統と、を互いに左右対称としていると共に、夫々において複数の第一ＬＥＤ４２２ａ、第一ＬＥＤ４２３ａ、第一ＬＥＤ４３２ａ、第一ＬＥＤ４３３ａと、複数の第二ＬＥＤ４２２ｂ、第二ＬＥＤ４２３ｂ、第二ＬＥＤ４３２ｂ、第二ＬＥＤ４３３ｂと、を互いに異なる系統としているため、扉枠左サイド装飾体４２６側の第一ＬＥＤ４２２ａ、第二ＬＥＤ４２２ｂ、第一ＬＥＤ４２３ａ、第二ＬＥＤ４２３ｂと、扉枠右サイド装飾体４３５側の第一ＬＥＤ４３２ａ、第二ＬＥＤ４３２ｂ、第一ＬＥＤ４３３ａ、第二ＬＥＤ４３３ｂとの点灯パターンのデータを作成する際に、例えば、扉枠左サイド装飾体４２６側用のデータを、扉枠右サイド装飾体４３５側用のデータに流用したり、扉枠左サイド装飾体４２６側と扉枠右サイド装飾体４３５側とで同じような流れのデータとしたり、することが可能となることから、点灯パターンのデータの作成にかかる手間を容易なものとすることができ、（同じ作成時間では）より複雑な点灯パターンのデータを構築し易くなり、点灯パターンの多彩な発光演出を遊技者に見せることができると共に

、演出効果の高い多彩な発光演出を遊技者に見せることができ、扉窓１０１ａの左右両外側の扉枠左サイド装飾体４２６及び扉枠右サイド装飾体４３５における発光演出に対して十分な演出効果を発揮させ得るパチンコ機１を提供することができる。

【０５９８】

また、第一ＬＥＤ４２２ａ、第一ＬＥＤ４２３ａ、第一ＬＥＤ４３２ａ、第一ＬＥＤ４３３ａを間にして設けられている二つの第二ＬＥＤ４２２ｂ、第二ＬＥＤ４２３ｂ、第二ＬＥＤ４３２ｂ、第二ＬＥＤ４３３ｂを、同じ系統としていることから、第一ＬＥＤ４２２ａ、第一ＬＥＤ４２３ａ、第一ＬＥＤ４３２ａ、第一ＬＥＤ４３３ａ（導光軸部４２７ａ、導光軸部４２８ａ、導光軸部４２９ａ、導光軸部４３６ａ、導光軸部４３７ａ）を挟むように設けられている二つの第二ＬＥＤ４２２ｂ、第二ＬＥＤ４２３ｂ、第二ＬＥＤ４３２ｂ、第二ＬＥＤ４３３ｂが必ず同時に点灯することとなるため、導光軸部４２７ａ、導光軸部４２８ａ、導光軸部４２９ａ、導光軸部４３６ａ、導光軸部４３７ａの両側から光が照射されることで、夫々の第二ＬＥＤ４２２ｂ、第二ＬＥＤ４２３ｂ、第二ＬＥＤ４３２ｂ、第二ＬＥＤ４３３ｂからの光による導光軸部４２７ａ、導光軸部４２８ａ、導光軸部４２９ａ、導光軸部４３６ａ、導光軸部４３７ａの影が打ち消されるように薄くなり、扉枠左サイド装飾体４２６や扉枠右サイド装飾体４３５に投影される導光軸部４２７ａ、導光軸部４２８ａ、導光軸部４２９ａ、導光軸部４３６ａ、導光軸部４３７ａの影を見え辛くすることができ、扉枠左サイド装飾体４２６や扉枠右サイド装飾体４３５をムラなく面状に発光装飾させることができる。

【０５９９】

また、第二ＬＥＤ４２２ｂ、第二ＬＥＤ４２３ｂ、第二ＬＥＤ４３２ｂ、第二ＬＥＤ４３３ｂにより面状に発光装飾する扉枠左サイド装飾体４２６及び扉枠右サイド装飾体４３５が、第一ＬＥＤ４２２ａ、第一ＬＥＤ４２３ａ、第一ＬＥＤ４３２ａ、第一ＬＥＤ４３３ａにより導光軸部４２７ａ、導光軸部４２８ａ、導光軸部４２９ａ、導光軸部４３６ａ、導光軸部４３７ａの前端に対応する部位を点状に発光装飾させることができるため、面状に発光しつつ部分的に点状に発光するような、これまでのパチンコ機では見ることができなかった発光演出を遊技者に見せることができ、点状に明るく発光する発光演出等により遊技者の関心を強く引付けさせることができると共に、これまでのパチンコ機にはない点状にきらりとスポット発光する発光演出により、遊技者を「ハッ」とさせることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。

【０６００】

更に、左右方向の一方側（左側）の扉枠左サイド上装飾基板４２２及び扉枠左サイド下装飾基板４２３と、他方側（右側）の扉枠右サイド上装飾基板４３２及び扉枠右サイド下装飾基板４３３とを、互いに左右非対称の形状としていることから、一見して扉枠左サイド上装飾基板４２２、扉枠左サイド下装飾基板４２３、扉枠右サイド上装飾基板４３２、及び扉枠右サイド下装飾基板４３３を見分けることができるため、パチンコ機１の組立作業において組み付ける扉枠左サイド上装飾基板４２２、扉枠左サイド下装飾基板４２３、扉枠右サイド上装飾基板４３２、及び扉枠右サイド下装飾基板４３３を間違えてしまうことを回避させることができ、組立ての作業性を向上させてコストの増加を抑制させることができる。

【０６０１】

［３－１１．装飾基板の識別］

続いて、扉枠３を例にして本パチンコ機１におけるＬＥＤが実装されている各種の装飾基板の識別について、主に図７４等を参照して詳細に説明する。図７４は、扉枠の扉窓の周囲に設けられている各装飾基板を示す背面図である。ここでは、扉枠３における扉窓１０１ａの周囲に設けられている皿左装飾基板２７３、皿右装飾基板２７８、扉枠左サイド上装飾基板４２２、扉枠左サイド下装飾基板４２３、扉枠右サイド上装飾基板４３２、扉枠右サイド下装飾基板４３３、扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、及び扉枠トップ右装飾基板４５７、を例にして詳細に説明する。

【０６０２】

本実施形態のパチンコ機１では、ＬＥＤが実装されている装飾基板に、白色の基板を用いており、当該装飾基板に取付けられる白色以外のＬＥＤドライバや接続コネクタ等は、基板の後面側に取付けるようにしている。これにより、装飾基板の前面に実装されているＬＥＤからの光を、前方側へ反射させて前方の装飾体等をより明るく発光装飾させることができるようにしていると共に、前方（遊技者側）から装飾基板を目立ち難いものとしている。

【０６０３】

なお、白色の装飾基板は、白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされているものであっても良いし、基板の板材そのものが白色のものであっても良い。

【０６０４】

パチンコ機１では、多くの装飾基板を有していることから、夫々の装飾基板を容易に識別できるように、各装飾基板の後面に互いに異なる識別部７が施されている（図７４を参照）。この識別部７は、漢字や仮名、アルファベット、記号、数字、型番、等の文字による文字識別部７ａと、互いに異なった色（図７４において、濃淡の異なる網掛けで示す）による色識別部７ｂと、を有している。

【０６０５】

詳述すると、文字識別部７ａとして、皿左装飾基板２７３では「下左」の文字が、皿右装飾基板２７８では「下右」の文字が、扉枠左サイド上装飾基板４２２では「左上」の文字が、扉枠左サイド下装飾基板４２３では「左下」の文字が、扉枠右サイド上装飾基板４３２では「右上」の文字が、扉枠右サイド下装飾基板４３３では「右下」の文字が、扉枠トップ中央装飾基板４５５では「上中」の文字が、扉枠トップ左装飾基板４５６では「上左」の文字が、扉枠トップ右装飾基板４５７では「上右」の文字が、夫々施されている。

【０６０６】

また、色識別部７ｂは、装飾基板毎に異なる色としており、後面の略前面に亘って施されている。なお、本実施形態では、図７４に示すように、色識別部７ｂが、後面の全面ではなく、装飾基板に実装されるＬＥＤ等のハンダ付けの妨げとならないように部分的に施されている。

【０６０７】

識別部７は、印刷（シルク印刷）、シールの貼り付け、塗料の塗布、等によって装飾基板に施されている。

【０６０８】

なお、上記では、扉枠３における扉窓１０１ａの周りに設けられている装飾基板を例に説明したが、ハンドルユニット１８０、演出操作ユニット３００、及び遊技盤５、等に設けられている各種の装飾基板に対しても、文字識別部７ａや色識別部７ｂ等の識別部７を設けるようにしても良い。

【０６０９】

また、上記の実施形態では、識別部７として、文字識別部７ａと色識別部７ｂとの両方を施したものを示したが、これに限定するものではなく、文字識別部７ａのみとしても良いし、色識別部７ｂのみとしても良い。

【０６１０】

本実施形態のパチンコ機１によれば、ＬＥＤが実装されている装飾基板に識別部７（文字識別部７ａや色識別部７ｂ）を設けているため、似たような形状の装飾基板を容易に区別することができ、組立作業の際に間違った装飾基板を組み付けてしまうことを防止することができると共に、組立ての作業性を向上させることができる。

【０６１１】

また、パチンコ機１によれば、識別部７を装飾基板の後面に設けているため、装飾基板の前面側を可能な限り白色とすることができ、装飾基板の前面に実装されているＬＥＤからの光を、装飾基板の前面で前方側へ反射させて前方の装飾体等をより明るく発光装飾させることができると共に、装飾基板を前方（遊技者側）から目立ち難くすることができ、見栄えを良くすることができる。

【０６１２】
更に、パチンコ機１によれば、識別部７としての色識別部７ｂを、装飾基板の略全体に亘って施すようにしているため、装飾基板の一部を見ただけで所望（所望の色）の装飾基板であるか否かを認識することができる。従って、組立て等の際に、複数種類の装飾基板が重なっているような状態でも、装飾基板の一部が見えていれば、所望の装飾基板を容易に見つけることができ、組立作業にかかる手間を簡略化することができる。
【０６１３】
また、パチンコ機１によれば、装飾基板毎に色識別部７ｂの色を異ならせているため、組立て時において、一つのパチンコ機１に必要な装飾基板を用意する際に、同じ色の色識別部７ｂが施された装飾基板がある場合には、同じ装飾基板が重複して用意されていることを簡単に認識することができる。或いは、用意した装飾基板の色識別部７ｂにおいて色が足りない場合には、用意されていない装飾基板があることを簡単に認識することができる。従って、パチンコ機１の組立てに必要な装飾基板を用意する際に、余分に装飾基板を用意してしまったり、用意した装飾基板が足りなかったり、していることを簡単に認識することができるため、確実に必要な分だけ装飾基板を用意することができ、組立て時における段取りのし易いパチンコ機１とすることができる。従って、パチンコ機１の組立作業をスムーズに行うことができ、組立てにかかる時間を短縮してコストの増加を抑制させることができる。
【０６１４】
また、パチンコ機１によれば、装飾基板の後面に、他の基板と区別するための識別部７としての文字識別部７ａが施されているため、作業者が文字識別部７ａの文字を読むことで、当該装飾基板がどの部位のものであるのかを容易に知ることができ、上述と同様の作用効果を奏することができる。
【０６１５】
更に、パチンコ機１によれば、各装飾基板の前面及び後面を白色としていると共に、後面に識別部７を設けているため、装飾基板の前方に設けられている、装飾体の透明度が高くても、前方（遊技者側）から装飾基板を目立ち難いものとすることができ、装飾体の見栄えを良くすることができると共に、装飾基板の白色の前面によりＬＥＤからの光を前方へ反射させることが可能となり、装飾体をより明るく発光装飾させることができ、演出効果の高い発光演出により遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。
【０６１６】
また、パチンコ機１によれば、ＬＥＤドライバ等の機能部品を、装飾基板の後面に設けており、前方（遊技者側）から機能部品を見えないようにしているため、装飾体を通して機能部品が見えることで見栄えが悪くなることを回避させることができ、装飾体（遊技機）の見栄えを良くすることができる。また、装飾基板の後面に設けることで機能部品を見えないようしているため、目立たないように機能部品を白色（又は黄色）に着色する必要が無く、素のままで機能部品を用いることができ、機能部品に着色する手間を省略してパチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。
【０６１７】
［３－１２．扉枠の作用効果］
本実施形態によれば、パチンコ機１において互いに異なる位置に設けられている複数の接触検知体３９３に対して、遊技者の接近又は接触を検知したい所望の部位に設けられている接触検知体３９３と接触検知センサ本体３９２とが接続されるように切換部３９４により切換えることで、所望の部位の接触検知体３９３に遊技者が接近又は接触すると、当該接触検知体３９３の静電容量が変化することとなり、当該接触検知体３９３と接続されている接触検知センサ本体３９２により静電容量の変化を検知することができるため、所望の部位への遊技者の接近又は接触を検知することができ、接触検知センサ本体３９２の検知に応じて主制御基板１３１０、周辺制御基板１５１０、周辺制御部１５１１、及び演出表示制御部１５１２等の制御手段により所定の制御を実行することができる。一方、切換部３９４により所望の部位の接触検知体３９３と接触検知センサ本体３９２とを接続し

ている状態では、その他の部位に設けられている接触検知体３９３と接触検知センサ本体３９２との接続が切断されることとなるため、その他の部位に遊技者が接近又は接触することでその他の部位に設けられている接触検知体３９３の静電容量が変化しても、当該接触検知体３９３が切換部３９４により接続が切断されていることから、当該接触検知体３９３の静電容量の変化を検知することはなく、所望の部位の接触検知体３９３の静電容量のみを確実に検知することができ、誤検知を防止することができる。

【０６１８】

このように、互いに異なる位置に設けられている複数の接触検知体３９３に対して、接触検知センサ本体３９２と接続する接触検知体３９３を切換部３９４により適宜選択して切換えるようにしているため、複数の接触検知体３９３に対して一つの接触検知センサ本体３９２で静電容量を検知することが可能となり、主制御基板１３１０、周辺制御基板１５１０、周辺制御部１５１１、及び演出表示制御部１５１２等の制御手段において遊技者の接近又は接触の検知にかかるチャンネルの数を少なくとすることができ、相対的に演出に使用できるチャンネルの数を多くすることができる。従って、より多くの演出手段（例えば、可動装飾体、発光装飾体、演出表示装置、等）を制御手段によって制御させることが可能となるため、演出手段の増加によりより多彩な演出を遊技者に提示することができ、遊技者を飽きさせ難くすることができると共に、遊技者を十分に楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【０６１９】

また、パチンコ機１における遊技者に触れられたくない複数の部位に、夫々接触検知体３９３を設けるようにし、遊技状態に応じて切換部３９４により所望の部位に設けられている接触検知体３９３と接触検知センサ本体３９２とを接続し、所望の部位への遊技者の接近又は接触を検知して、主制御基板１３１０、周辺制御基板１５１０、周辺制御部１５１１、及び演出表示制御部１５１２等の制御手段により所定の注意や警報を放置するようにすることが可能となるため、一つの接触検知センサ本体３９２でパチンコ機１の広い範囲を監視しつつ、演出に使用できるチャンネルの数を相対的に多くすることができ、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【０６２０】

また、複数の接触検知体３９３を一つの接触検知センサ本体３９２で静電容量を検知するようにしていることから、各接触検知体３９３と接触検知センサ本体３９２とが離れて設けられていることとなるため、センサＩＣや出力回路のような電子部品等を有しているセンサ本体を遊技者から見え辛い部位に設けることができ、パチンコ機１の見栄えを良くして遊技者に対する訴求力を高めることができる。

【０６２１】

更に、接触検知センサ本体３９２に、複数の接触検知体３９３を電気的に接続するための接続端子を、予め有するようにしていることから、接触検知体３９３からの配線を、接触検知センサ本体３９２の接続端子に接続するだけで、接触検知センサ本体３９２により接触検知体３９３の静電容量を検知することができるため、パチンコ機１の組立にかかる手間を容易なものとすることができ、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。

【０６２２】

また、接触検知センサ本体３９２に接続端子を予め設けるようにしており、接触検知体３９３からの配線を接触検知センサ本体３９２の接続端子に接続するだけで、接触検知センサ本体３９２と接触検知体３９３とを接続することができるため、接触検知センサ本体３９２のセンサ電極に導電部材を接触させて、当該導電部材を介して接触検知体３９３と接続するようにした場合と比較して、部品点数を少なくすることができ、パチンコ機１にかかるコストを低減させることができると共に、接触検知体３９３と接続するための導電部材の取り回しの設計を無くすことができ、接触検知体３９３や接触検知センサ本体３９２の配置自由度を高めることができ、上述した作用効果を奏するパチンコ機１を具現化し易くすることができる。

【０６２３】
　また、接触検知センサ本体３９２に接続する接触検知体３９３を切換える切換部３９４を設けており、切換部３９４により検知したい接触検知体３９３を選択することができるため、例えば、複数の接触検知体３９３を分散配置し、分散配置した複数の接触検知体３９３を所定の順番で触れさせるような遊技者参加型演出を実行した時に、遊技者が順番に触れるタイミングで切換部３９４により接触検知センサ本体３９２と接続される接触検知体３９３を切換えるようにすることで、遊技者が順番通りに接触検知体３９３を触れたか否かを検知することができ、ゲーム性の高い遊技者参加型演出を一つの接触検知センサ本体３９２により実現することが可能となり、より遊技者を楽しませられるパチンコ機１を提供することができる。
【０６２４】
　更に、本実施形態によれば、扉枠３の皿ユニット２００における演出操作ユニット３００おいて、遊技者が押圧操作可能な演出操作部ユニット３５０におけるボタン本体３５１に遊技者の手指等が接近又は接触すると、ボタン本体３５１により遊技者側が覆われている金属板のパチングメタルからなる接触検知体３５２に遊技者が接近することとなり、接触検知体３５２の静電容量が変化する。この接触検知体３５２の静電容量を接触検知センサ本体３５８により検知していることから、接触検知体３５２の静電容量の変化を検知することができるため、接触検知体３５２を介してボタン本体３５１（演出操作部ユニット３５０）への遊技者の接近又は接触を検知することができる。
【０６２５】
　このようにして接触検知体３５２及び接触検知センサ本体３５８を用いて演出操作部ユニット３５０への遊技者の接近又は接触が検知されると、ボタン外装飾基板３５５、振動モータ３５６、演出操作部昇降機構３６０、ボタン中装飾基板３６４、及び突出力調整機構３８０等の演出手段により所定の演出が接触検知体３５２及びボタン本体３５１を通して遊技者側へ出力されるため、当該演出により遊技者を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。この際に、演出操作部ユニット３５０に遊技者が接近又は接触すると、所定の演出が出力されることから、接触検知体３５２及び接触検知センサ本体３５８により演出操作部ユニット３５０を非接触操作部や接触操作部として機能させることができる。そして、非接触操作部や接触操作部として機能する演出操作部ユニット３５０を、突出させた時に遊技者が押圧操作可能としていることから、演出操作部ユニット３５０により非接触操作、接触操作、及び押圧操作のような多彩な演出操作を行うことができるため、押圧操作のみが可能な操作ボタンを備えた従来のパチンコ機とは異なる外観のパチンコ機１を具現化し易くすることができ、他のパチンコ機との差別化を図ることで遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。
【０６２６】
　また、接触検知センサ本体３５８による接触検知体３５２の静電容量の検知に応じて所定の演出を遊技者側に出力するようにしており、静電容量は、接触検知体３５２（ボタン本体３５１）と遊技者との距離に応じて異なるため、静電容量の閾値を複数設けて、夫々の閾値毎に異なる演出を出力することが可能となる。従って、ボタン本体３５１（演出操作部ユニット３５０）への遊技者の接近から接触までの間（距離）を多段階に分けて検知することが可能となるため、夫々の段階に応じた演出を出力することで、より多彩な演出を遊技者に提示することができ、遊技者を飽きさせ難くして興趣の低下を抑制させることができる。
【０６２７】
　また、接触検知体３５２の静電容量を検知する接触検知センサ本体３５８を、接触検知体３５２から離れて設けているため、センサＩＣや出力回路のような電子部品等を有している接触検知センサ本体３５８を、演出操作部ユニット３５０における遊技者から見え辛い部位に設けることができ、パチンコ機１の見栄えを良くして遊技者に対する訴求力を高めることができる。

【０６２８】
　また、上述したように、操作ユニットにより非接触操作、接触操作、及び押圧操作のような多彩な演出操作を行うことができるため、遊技者の演出操作が可能となる遊技者参加型演出を実行することで、多彩な演出操作を楽しませることができ、遊技者を飽きさせ難くすることができると共に、遊技者に遊技者参加型演出を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。
【０６２９】
　更に、接触検知センサ本体３５８により静電容量が検知される接触検知体３５２を、複数の孔が形成されている金属板からなるパンチングメタルとしているため、複数の孔により遊技者がボタン本体３５１に接近又は接触していない状態における接触検知体３５２の静電容量を小さくすることができ、接触検知センサ本体３５８による誤検知の発生を回避させることができる。従って、複数の孔の数や大きさや配置等を適宜選択することにより、静電容量の増加を抑制しつつ接触検知体３５２の面積を大きくすることが可能となるため、接触検知体３５２によるボタン本体３５１（演出操作部ユニット３５０）への遊技者の接近又は接触を検知する範囲を広くすることができる。これにより、接触検知体３５２を大きくして検知範囲を広くすることができるため、上記の実施形態のように、遊技者が押圧操作可能なボタン本体３５１（演出操作部ユニット３５０）を大きくすると共に、接触検知体３５２をボタン本体３５１の上面部３５１ａと同じような大きさにした場合、遊技者参加型演出の実行により遊技者が演出操作部ユニット３５０（ボタン本体３５１）への接近又は接触を要求された時に、ボタン本体３５１により覆われている接触検知体３５２がボタン本体３５１の上面部３５１ａと同じように大きいことから、演出操作部ユニット３５０への遊技者の手指等を接近又は接触させる移動距離が短くなり、演出操作部ユニット３５０を素早く操作することができ、遊技者参加型演出において操作タイミングを逃し難くすることができると共に、遊技者参加型演出に確実に参加させることができ、当該演出により遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。
【０６３０】
　また、接触検知体３５２を、パンチングメタルとしているため、接触検知体３５２に形成されている複数の孔を通して、接触検知体３５２における遊技者側とは反対側に設けられている演出手段としてのボタン中装飾基板３６４のＬＥＤ３６４ａからの発光演出を遊技者側へ出力させることができ、当該発光演出を遊技者に確実に楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。
【０６３１】
　また、押圧操作が可能な演出操作部ユニット３５０（ボタン本体３５１）に、接触検知体３５２を設けるようにしているため、ある程度の強度・剛性を有した金属板であるパンチングメタルからなる接触検知体３５２により、演出操作部ユニット３５０を補強することができ、遊技者が押圧操作をする際に、演出操作部ユニット３５０（ボタン本体３５１）を強く押圧したり叩いたりしても、演出操作部ユニット３５０が変形したり破損したりし難いものとすることができる。従って、接触検知体３５２により演出操作部ユニット３５０を破損し難くすることができるため、遊技者に対して演出操作部ユニット３５０を心置きなく押圧操作させることができ、演出操作部ユニット３５０を操作する遊技者参加型演出をより楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。
【０６３２】
　更に、接触検知体３５２を、パンチングメタルとしており、接触検知体３５２を同じ板厚の金属板から加工したエキスパンドメタルとした場合と比較して、接触検知体３５２の板厚を薄くすることができるため、接触検知体３５２を設けるためのスペースを確保し易くすることができ、接触検知体３５２を設け易くすることができると共に、設計自由度を高めることができ、より遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１を設計し易くすることができる。
【０６３３】
　また、接触検知体３５２をパンチングメタルとしていることから、エキスパンドメタル

と比較して、板厚が一定であるため、プレス加工によって接触検知体３５２を立体的な所望の形状に容易に加工することが可能となり、ボタン本体３５１（演出操作部ユニット３５０）への遊技者の接近又は接触の検知に最適な形状にし易くすることができ、上述した作用効果を確実に具現化することができる。

【０６３４】

また、演出操作部ユニット３５０において、接触検知体３５２の遊技者側をボタン本体３５１で覆うようにしているため、ボタン本体３５１により複数の孔が形成されているパンチングメタルからなる接触検知体３５２を遊技者が直接触れないようにすることができ、複数の孔が形成されている接触検知体３５２に遊技者が触れることで不快感を与えてしまうことを回避させることができると共に、ボタン本体３５１を操作部として用いる遊技者参加型演出においてボタン本体３５１を違和感なく操作させることができ、当該演出を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【０６３５】

更に、パンチングメタルからなる接触検知体３５２の遊技者側をボタン本体３５１で覆うようにしているため、接触検知体３５２に形成されている複数の孔に、ほこりや飲食物等の汚れが付着することはなく、清掃にかかる手間を容易なものとすることができ、清掃の容易なパチンコ機１として本パチンコ機１を設置する遊技ホール側の負担を軽減させることができる。

【０６３６】

また、ボタン外装飾基板３５５、振動モータ３５６、演出操作部昇降機構３６０、ボタン中装飾基板３６４、及び突出力調整機構３８０等の演出手段を、接触検知体３５２における遊技者側とは反対側に設け、接触検知体３５２及びボタン本体３５１を通して所定の演出を遊技者側に出力可能としており、接触検知センサ本体３５８によりボタン本体３５１（演出操作部ユニット３５０）への遊技者の接近又は接触を検知すると、所定の演出が接触検知体３５２に形成されている複数の孔及び透明なボタン本体３５１を通して出力されるため、遊技者の関心を演出操作部ユニット３５０へ強く引付けさせることができ、演出操作部ユニット３５０を通して（介して）出力される演出を確実に楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【０６３７】

また、ボタン外装飾基板３５５、振動モータ３５６、演出操作部昇降機構３６０、ボタン中装飾基板３６４、及び突出力調整機構３８０等の演出手段を、接触検知体３５２の遊技者側とは反対側に設けるようにしていることから、接触検知体３５２により演出手段を覆うような状態となり、接触検知体３５２（演出操作部ユニット３５０）と演出手段とをコンパクトに纏めることが可能となるため、上述したような作用効果を奏する演出操作部ユニット３５０及び演出手段等をパチンコ機１における所望の部位に設け易くすることができ、他のパチンコ機に対して差別化できる訴求力の高いパチンコ機１を提供し易くすることができる。

【０６３８】

更に、本実施形態によれば、扉枠３の皿ユニット２００において、上下方向へ進退可能に設けられている演出操作部ユニット３５０（ボタン本体３５１）に遊技者が接近又は接触することで、演出操作部ユニット３５０の接触検知体３５２の静電容量が変化することから、接触検知センサ本体３５８により接触検知体３５２の静電容量を検知することにより、演出操作部ユニット３５０への遊技者の接近又は接触を検知することができる。そして、接触検知センサ本体３５８により演出操作部ユニット３５０への遊技者の接近又は接触が検知されると、演出操作部昇降機構３６０の昇降バネ３６５の付勢力により演出操作部ユニット３５０が上方へ突出するため、遊技者が演出操作部ユニット３５０に接触していない状態で演出操作部ユニット３５０が突出すると遊技者に当接（衝突）し、遊技者が演出操作部ユニット３５０に接触している状態で演出操作部ユニット３５０が突出すると遊技者を押すような物理的な力による演出を遊技者に提示することができる。従って、これまでのパチンコ機にはない演出により遊技者に対して強いインパクトを与えることがで

き、遊技者の関心を演出操作部ユニット３５０へ強く引付けさせることができると共に、遊技者に対して演出操作部ユニット３５０の突出を確実に気付かせることができる。

【０６３９】

この演出操作部ユニット３５０を突出させる際に、突出力調整機構３８０の昇降バネ下保持部材３８５を、昇降バネ３６５の上端部側の方向（上方）へ移動させると、昇降バネ３６５の圧縮が強くなって付勢力を大きくすることができ、昇降バネ３６５の上端部側から遠ざかる方向（下方）へ移動させると、昇降バネ３６５の圧縮が弱くなって付勢力を小さくすることができ、昇降バネ下保持部材３８５を適宜の位置へ移動させることにより、昇降バネ３６５による演出操作部ユニット３５０の付勢力を変更することができる。このように、様々な突出力で演出操作部ユニット３５０を突出させることができるため、物理的な力による演出のバリエーションを増やすことができ、遊技者を飽きさせ難くすることができると共に、演出操作部ユニット３５０の突出による演出を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【０６４０】

また、遊技状態に応じて演出操作部ユニット３５０の突出力を変更するようにしているため、遊技者が手指等を演出操作部ユニット３５０に接近又は接触させた時に、強い力で演出操作部ユニット３５０が当接すると、遊技者に強いインパクトが与えられることで、何か良いこと（例えば、遊技者が有利となる有利遊技状態の発生）があるのではないかと強く思わせることができ、遊技に対する期待感を高めさせて興趣の低下を抑制させることができる。

【０６４１】

また、演出操作部ユニット３５０を、押圧操作が可能な押圧操作部３０３としているため、遊技者参加型演出を実行した時に、遊技者に対して演出操作部ユニット３５０を押圧操作させることで、遊技者参加型演出に遊技者を参加させることができ、演出操作部ユニット３５０の押圧操作を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【０６４２】

また、演出操作部ユニット３５０を押圧操作可能なものとしているため、何時でも押圧操作できるように、演出操作部ユニット３５０（ボタン本体３５１の上面）に手指等を置いているような遊技者に対して、演出操作部ユニット３５０を押圧操作する遊技者参加型演出が実行された時に、演出操作部昇降機構３６０により演出操作部ユニット３５０を突出させることで、演出画像やサウンド等により遊技者参加型演出の実行開始を案内しなくても、いち早く遊技者に遊技者参加型演出の実行開始を認識させることができ、演出操作部ユニット３５０の押圧操作に対する意欲を高めさせて遊技者参加型演出をより一層楽しませることができる。

【０６４３】

更に、演出操作部昇降機構３６０における昇降バネ３６５の付勢力により演出操作部ユニット３５０を突出させるようにしているため、駆動モータを用いて演出操作部ユニット３５０を突出させるようにした場合と比較して、演出操作部ユニット３５０を容易に勢い良く突出させることができ、上述したような作用効果をより奏し易いものとすることができる。

【０６４４】

また、接触検知センサ本体３５８によって接触検知体３５２の静電容量を検知することにより、演出操作部ユニット３５０への遊技者の接近又は接触を検知するようにしており、接触検知体３５２の静電容量は、演出操作部ユニット３５０と遊技者との距離に応じて異なるため、静電容量の閾値を複数設けて、夫々の閾値毎に異なる突出力で演出操作部ユニット３５０を突出させることが可能となる。従って、接触検知センサ本体３５８により演出操作部ユニット３５０への遊技者の手指等の接近から接触までの間（距離）を多段階に分けて検知することが可能となるため、夫々の段階に応じた突出力で突出させることで、より多彩な演出を遊技者に提示することができ、遊技者を飽きさせ難くして興趣の低下を抑制させることができる。

【０６４５】
更に、本実施形態によれば、扉枠３の皿ユニット２００において、遊技者参加型演出の実行によりポップアップさせることで、遊技者が進退可能に設けられている演出操作部ユニット３５０に、遊技者が接近又は接触すると、演出操作部ユニット３５０の遊技者が接触するボタン本体３５１の裏側に設けられている接触検知体３５２の静電容量が変化する。一方、演出操作部ユニット３５０における接触検知体３５２と離れて設けられている接触検知センサ本体３５８では、接触検知体３５２の静電容量を検知していることから、遊技者の接近又は接触による接触検知体３５２の静電容量の変化を捉えることができるため、演出操作部ユニット３５０のボタン本体３５１への遊技者の接近又は接触を検知することができ、接触検知センサ本体３５８が静電容量により遊技者を検知することができる。そして、接触検知センサ本体３５８の検知や遊技者による演出操作部ユニット３５０の進退（押圧）により、演出操作部外周装飾基板３２０、ボタン外装飾基板３５５、演出操作部昇降機構３６０、ボタン中装飾基板３６４、突出力調整機構３８０、及び演出表示装置１６００等の演出手段によって所定の演出が実行されることとなる。つまり、遊技者が演出操作部ユニット３５０を進退させたり演出操作部ユニット３５０に接近又は接触したりすることで、所定の演出が実行されるため、当該演出により遊技者を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。
【０６４６】
この際に、遊技者が演出操作部ユニット３５０に接近又は接触すると、演出が実行されるため、演出操作部ユニット３５０（ボタン本体３５１）を演出操作部（非接触操作部、接触操作部）のように機能させることができる。一方、遊技者が演出操作部ユニット３５０を進退（押圧）させると、演出が実行されるため、演出操作部ユニット３５０を演出操作部（押圧操作部）のように機能させることができる。このようなことから、遊技者が多彩な演出操作を行うことが可能となるため、遊技者の演出操作が可能となる遊技者参加型演出を実行することで、多彩な演出操作を楽しませることができ、遊技者を飽きさせ難くすることができると共に、遊技者に遊技者参加型演出を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。
【０６４７】
また、演出操作部ユニット３５０におけるボタン本体３５１の遊技者が接触する部位付近（上面部３５１ａの下側）に設けられている接触検知体３５２の静電容量により遊技者を検知するようにしており、接触検知体３５２の静電容量は、接触検知体３５２（ボタン本体３５１）と遊技者との距離に応じて異なるため、所定の演出を実行させる静電容量の閾値を複数設けて、夫々の閾値毎に異なる演出を実行させるようにすることが可能となる。従って、演出操作部ユニット３５０への遊技者の手指等の接近から接触までの間（距離）を多段階に分けて検知することが可能となるため、夫々の段階に応じて演出を提示することで、より多彩な演出を遊技者に提示することができ、遊技者を飽きさせ難くして興趣の低下を抑制させることができる。
【０６４８】
また、接触検知体３５２及び接触検知センサ本体３５８による遊技者の検知によって所定の演出が実行されるため、当該演出により接触検知体３５２及び接触検知センサ本体３５８を用いた演出操作（非接触操作、接触操作）に対して操作感を付与することができ、遊技者に対して演出操作をより楽しませることができる。
【０６４９】
更に、遊技者が進退可能（押圧可能）な演出操作部ユニット３５０と、演出操作部ユニット３５０への遊技者の接近又は接触を検知可能な接触検知体３５２及び接触検知センサ本体３５８とを備えているため、遊技者参加型演出において、遊技者に、演出操作部ユニット３５０を進退させる操作（押圧操作）や、演出操作部ユニット３５０に手指等を接近又は接触させる操作（非接触操作、接触操作）等の多彩な操作を要求することが可能となり、多彩な操作により遊技者に対して遊技者参加型演出への参加意欲を高めさせることができ、遊技者参加型演出に参加させ易くすることができる。そして、遊技者が遊技者参加

型演出に参加した際に、演出操作部ユニット３５０や接触検知体３５２及び接触検知センサ本体３５８を用いた多彩な操作により、遊技者を飽きさせ難くすることができると共に、遊技者参加型演出を楽しませることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【０６５０】

また、演出操作部ユニット３５０のボタンベース３５４の案内ピン３５４ｃを、演出操作部昇降機構３６０における昇降カム部材３７１の係止部３７１ｃに係止させることにより演出操作部ユニット３５０を進退不能にロックすることができるため、演出操作部ユニット３５０を進退させるような演出が実行されるまでは、案内ピン３５４ｃと昇降カム部材３７１とにより演出操作部ユニット３５０を進退不能としておくことで、演出操作部ユニット３５０が勝手に動いたり揺れたりすることを防止することができる。従って、演出操作部ユニット３５０が勝手に動いたり揺れたりすることで、遊技者に不信感や不安感を抱かせてしまうことを回避させることができ、演出操作部ユニット３５０による演出をより楽しませられるようにすることができる。

【０６５１】

更に、演出操作部ユニット３５０において、接触検知センサ本体３５８を接触検知体３５２から離れた位置に設けるようにしているため、センサＩＣや出力回路のような電子部品等を有している接触検知センサ本体３５８を遊技者から見え辛い部位に設けることができ、パチンコ機１の見栄えを良くすることができる。

【０６５２】

また、静電容量を検知するための接触検知体３５２と、接触検知体３５２の静電容量を検知するセンサＩＣや出力回路等を有した接触検知センサ本体３５８とを、別体としていることから、接触検知センサ本体３５８とは無関係に接触検知体３５２の形状や素材等を適宜選択することができるため、接触検知体３５２を、演出操作部ユニット３５０のボタン本体３５１の形状や形態や仕様等に最適に対応したものとすることができ、上述したような作用効果を奏するパチンコ機１を確実に具現化することができる。

【０６５３】

更に、本実施形態によれば、扉枠３の演出操作ユニット３００において、ボタン外装飾基板３５５やボタン中装飾基板３６４、又は装飾体３９８を被覆しているボタン本体３５１又は表面部材３９６に遊技者が手指等を接近又は接触させると、ボタン本体３５１又は表面部材３９６とボタン外装飾基板３５５やボタン中装飾基板３６４又は装飾体３９８との間に設けられている接触検知体３５２又は接触検知体３９７の静電容量が変化し、その変化に応じてボタン外装飾基板３５５やボタン中装飾基板３６４又は装飾体３９８により遊技者側へ光が照射される所定の演出が実行されるため、遊技者側へ照射される光によって遊技者の関心をボタン外装飾基板３５５やボタン中装飾基板３６４又は装飾体３９８へ強く引付けさせることができ、実行された演出により遊技者を楽しませることができる。この際に、ボタン本体３５１又は表面部材３９６とボタン外装飾基板３５５やボタン中装飾基板３６４又は装飾体３９８との間に設けられている接触検知体３５２又は接触検知体３９７が、ボタン本体３５１又は表面部材３９６に設けられている装飾部に沿うように形成されているため、遊技者に対して接触検知体３５２又は接触検知体３９７を装飾部の一部のように錯覚させることができ、遊技者に対して接触検知体３５２又は接触検知体３９７が遊技者を検出するためのものであるということ認識不能にすることができる。

【０６５４】

このように、接触検知体３５２又は接触検知体３９７を、遊技者側から認識不能としているため、喩え、接触検知体３５２又は接触検知体３９７がボタン外装飾基板３５５やボタン中装飾基板３６４又は装飾体３９８（演出）の一部を遮ったとしても、遊技者は接触検知体３５２又は接触検知体３９７が気になることはないと共に、ボタン外装飾基板３５５やボタン中装飾基板３６４又は装飾体３９８の手前に接触検知体３５２又は接触検知体３９７が設けられていても、接触検知体３５２又は接触検知体３９７の存在により遊技者に違和感を与えてしまうことはない。従って、遊技者に対してボタン外装飾基板３５５や

ボタン中装飾基板３６４又は装飾体３９８による演出を良好な状態で見せることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【０６５５】

また、ボタン本体３５１又は表面部材３９６への遊技者の手指等の接近又は接触を接触検知体３５２又は接触検知体３９７により検出することにより、ボタン本体３５１又は表面部材３９６により被覆されているボタン外装飾基板３５５やボタン中装飾基板３６４又は装飾体３９８において遊技者側へ光が照射される演出が実行されるようにしているため、ボタン本体３５１又は表面部材３９６を演出操作部３０１（接触操作部３０２）のように機能させることができると共に、遊技者に対して光による操作感を付与することができる。従って、例えば、遊技者参加型演出を実行した時に、遊技者の手指等をボタン本体３５１又は表面部材３９６へ接近又は接触させるようにし、接触検知体３５２又は接触検知体３９７による手指等の接近又は接触の検出によって、ボタン外装飾基板３５５やボタン中装飾基板３６４又は装飾体３９８により演出が実行されることで、遊技者参加型演出に遊技者を参加させることができ、遊技者に遊技者参加型演出を楽しませることができる。

【０６５６】

更に、接触検知体３５２又は接触検知体３９７によりボタン本体３５１又は表面部材３９６への遊技者の接近又は接触を検出するようにしていることから、ボタン本体３５１又は表面部材３９６と遊技者の手指等との距離に応じて、ボタン外装飾基板３５５やボタン中装飾基板３６４又は装飾体３９８による演出を異ならせることが可能となるため、遊技者の手指等の動き（位置）によってボタン外装飾基板３５５やボタン中装飾基板３６４又は装飾体３９８による演出を変化させることができ、より多彩な演出を遊技者に見せることができると共に、多彩な演出により遊技者を飽きさせ難くすることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【０６５７】

また、接触検知体３５２又は接触検知体３９７の静電容量の変化を検出するようにしており、遊技者がボタン本体３５１又は表面部材３９６へ接近又は接触すると、ボタン本体３５１又は表面部材３９６とボタン外装飾基板３５５やボタン中装飾基板３６４又は装飾体３９８との間に設けられている接触検知体３５２又は接触検知体３９７の静電容量が変化するため、ボタン本体３５１又は表面部材３９６への遊技者の手指等の接近又は接触を容易に検出することができ、上述した作用効果を奏するパチンコ機１を確実に具現化することができる。

【０６５８】

また、接触検知体３５２又は接触検知体３９７により静電容量の変化を検出させるようにしていることから、接触検知体３５２又は接触検知体３９７を導電性の部材とすることができるため、例えば、接触検知体３９７を金属蒸着膜とした場合、蒸着膜を薄くすることで透明にすることができ、蒸着膜を厚くして金属光沢を有するようにすることで装飾の一部のように見せることができる。或いは、接触検知体３５２及び接触検知体３９５を星形やハート形のような意匠性を有する外形のパンチングメタルとした場合、接触検知体３５２及び接触検知体３９５を装飾の一部のように見せることができる。このようなことから、遊技者側から認識不能な接触検知体３５２、接触検知体３９５、及び接触検知体３９７とすることができ、上述した作用効果を確実に奏することができる。

【０６５９】

更に、本実施形態によれば、扉枠３の演出操作ユニット３００において、上面側（表面側）を覆っている透明なボタン本体３５１への遊技者の手指等の接近又は接触により静電容量が変化し、その変化により、ボタン外装飾基板３５５、振動モータ３５６、演出操作部昇降機構３６０、ボタン中装飾基板３６４、突出力調整機構３８０、及び演出表示装置１６００等の演出提示手段によって所定の演出を提示させるための接触検知体３９５等（接触検知体３５２、接触検知体左３９０Ｌ、接触検知体右３９０Ｒ、接触検知体３９３、及び接触検知体３９７、等を含む）を、意匠性を有する所定の外周形状に形成しているため、接触検知体３９５自身によってパチンコ機１を装飾することができ、見栄えを良くし

て遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。また、接触検知体３９５等の表面側を透明なボタン本体３５１で覆い、接触検知体３９５への遊技者の手指等の接近による接触検知体３９５等の静電容量の変化に応じて、演出提示手段によりボタン本体３５１及び接触検知体３９５等を介して所定の演出を提示するようにしているため、ボタン本体３５１への遊技者の手指等の接近又は接触に応じて、所定の演出が提示されることとなり、ボタン本体３５１を演出操作部３０１として機能させることができる。そして、ボタン本体３５１を通して見える接触検知体３９５等が意匠性を有していることから、演出操作部３０１が意匠性を有しているように見えることとなり、これまでのパチンコ機にはない演出操作部３０１を備えたパチンコ機１であるとして遊技者に強いインパクトを与えることができ、他のパチンコ機との差別化を図ることが可能な訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。また、上述したように、意匠性を有した接触検知体３９５等により、遊技者に強いインパクトを与えることができるため、接触検知体３９５等（ボタン本体３５１）への関心を強く抱かせることができ、ボタン本体３５１（演出操作部３０１）の操作に対する期待感を高めさせることができると共に、ボタン本体３５１を操作する遊技者参加型演出が実行された時に、ボタン本体３５１の操作を楽しませることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【０６６０】

また、ボタン本体３５１への遊技者の手指等の接近又は接触を検知する接触検知体３９５等が、意匠性を有した外周形状に形成しているため、一見した時に、遊技者によっては演出提示手段により演出を提示させるための演出操作部３０１（ボタン本体３５１）の存在に気付かせ難くすることができる。従って、演出操作部３０１を操作する遊技者参加型演出が実行された時に、遊技者に対してボタン本体３５１への接近又は接触を促すことで、初めてボタン本体３５１が接触検知体３９５等による演出操作部３０１であることに気付かせることができ、遊技者に意外性を付与して遊技者参加型演出をより楽しませることができる。或いは、演出操作部３０１を操作する遊技者参加型演出が実行させた時に、遊技者が演出操作部３０１とは知らずにボタン本体３５１に手指等を接近又は接触すると、接触検知体３９５等の静電容量が変化して演出提示手段により演出が提示されるため、遊技者をびっくりさせることができ、提示された演出により遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【０６６１】

更に、接触検知体３９５等における静電容量の変化に応じて演出提示手段により演出を提示するようにしているため、接触検知体３９５等を覆っているボタン本体３５１への遊技者の手指等の接近や接触を容易に検知することができ、上述した作用効果を奏するパチンコ機１を具現化し易くすることができる。また、接触検知体３９５等の静電容量の変化に応じて演出を提示するようにしていることから、接触検知体３９５等を覆っているボタン本体３５１への遊技者の手指等の接近から接触までの間（距離）を多段階に分けて検知することが可能となるため、夫々の段階に応じて演出を提示することで、より多彩な演出を遊技者に提示することができ、遊技者を飽きさせ難くして興趣の低下を抑制させることができる。

【０６６２】

また、接触検知体３９５等の外周を所定の形状に形成しているため、導電性を有する接触検知体３９５等として、パンチングメタル、エキスパンドメタル、金網、のような無機質なものを用いても、接触検知体３９５等に意匠性を付与することができ、接触検知体３９５等による見栄えの悪化を防止することができると共に、接触検知体３９５等を目立たせることができ、上記の作用効果を奏するパチンコ機１を具現化し易くすることができる。

【０６６３】

また、接触検知体３９５等の外周形状を、所定の形状に形成しているため、接触検知体３９５等を立体的な形状に形成しなくても、意匠性を有したものを構築することができる。従って、接触検知体３９５等を平面形状や単純な立体形状のものとすることができ、接

触検知体３９５等の製造にかかるコストを低減させることができる。
【０６６４】
更に、接触検知体３９５等の表面側を透明なボタン本体３５１で覆うようにしているため、接触検知体３９５等にほこりや飲食物等の汚れが付着することはなく、清掃にかかる手間を容易なものとすることができる。詳述すると、接触検知体３９５等に、パンチングメタルのような凹凸を有するものを用いていることから、その凹凸内にほこりや飲食物等の汚れが付着し易くなり、その汚れの清掃に手間がかかることとなるが、接触検知体３９５等の表面側をボタン本体３５１で覆っているため、接触検知体３９５等にパンチングメタルのような凹凸を有するようなものを用いても、ボタン本体３５１により汚れの付着を防止することができ、清掃の容易なものとして本パチンコ機１を設置する遊技ホール側の負担を軽減させることができる。
【０６６５】
また、接触検知体３９５等の表面側を透明なボタン本体３５１で覆うようにしており、遊技者が接触検知体３９５等に触れないようにしているため、接触検知体３９５等として金属蒸着膜や箔押し等のような意匠性を高められるものを用いた場合、遊技者が触れることで早期に摩耗してしまうことを防止することができ、接触検知体３９５等の耐久性を高めることができる。
【０６６６】
更に、接触検知体３９５等の表面側を透明なボタン本体３５１で覆うようにしており、上述したように、透明なボタン本体３５１により遊技者が接触検知体３９５等に直接触れないことから、接触検知体３９５等として手触りの悪いものや遊技者に不快感を与えてしまうようなものを用いることが可能となるため、接触検知体３９５等に用いる素材の自由度を高めることができ、ニーズに応じた素材により接触検知体３９５等を形成することができる。
【０６６７】
また、接触検知体３９５等を覆っているボタン本体３５１に遊技者の手指等を接近又は接触させることにより、接触検知体３９５等の静電容量を変化させると、ボタン本体３５１及び接触検知体３９５等を介して所定の演出が遊技者に提示されるため、ボタン本体３５１及び接触検知体３９５等を介して提示される演出により、遊技者が手指等をボタン本体３５１に接近又は接触させたことを直感的に認識させることができ、遊技者に対して手指等の動作を楽しませることができる。
【０６６８】
また、ボタン本体３５１及び接触検知体３９５等を介して遊技者に演出を提示するようにしており、接触検知体３９５等を覆っているボタン本体３５１への遊技者の手指等の接近又は接触により、ボタン本体３５１及び接触検知体３９５等を介して遊技者に提示される演出が実行されるため、ボタン本体３５１を接触操作部のように機能させることができると共に、提示される演出により操作感を付与することができ、ボタン本体３５１を用いた操作（遊技者参加型演出）を楽しませることができる。
【０６６９】
更に、本実施形態によれば、複数の操作が可能な演出操作部ユニット３５０のボタン本体３５１を操作するために、遊技者が手指等をボタン本体３５１に接近又は接触させて、接触検知体３５２（接触検知センサ本体３５８）により手指等の検知領域内への進入が検知されると、ボタン外装飾基板３５５の複数のＬＥＤ３５５ａやボタン中装飾基板３６４の複数のＬＥＤ３６４ａの発光によりボタン本体３５１を通して遊技者に光が照射される発光演出、振動モータ３５６によるボタン本体３５１を通して（介して）接触している遊技者の手指等を振動させる演出、演出操作部昇降機構３６０によるボタン本体３５１の上方へ突出によりボタン本体３５１を通して（介して）遊技者に衝撃や押上げや風圧等を付与する演出、等が実行されるため、ボタン本体３５１を接触操作部３０２として機能させることができ、遊技者を楽しませることができる。また、この際に、ボタン本体３５１を通して光や振動、衝撃や押上げや風圧等の演出が遊技者に付与されるため、当該演出によ

り遊技者を驚かせることができると共に、遊技者を楽しませることができ、ボタン本体３５１の操作に対する意欲を高めさせることができる。そして、遊技者の手指等がボタン本体３５１に触れた状態で、手指等を適宜動かしてボタン本体３５１を下方へ押圧することで、ボタン本体３５１が押圧操作部３０３として機能するため、接触検知体３５２による遊技者の手指等の接近又は接触の検知による接触操作と、ボタン本体３５１の押圧操作とによって、遊技者に多彩な演出操作を楽しませることができ、遊技者を飽きさせ難くして興趣の低下を抑制させることができる。

【０６７０】

また、遊技者の手指等の接近又は接触を検知する検知手段を、接触検知体３５２と接触検知センサ本体３５８とで構成し、接触検知体３５２をボタン本体３５１の上面部３５１ａの裏面付近に設けるようにしているため、検知回路が設けられている接触検知センサ本体３５８をボタン本体３５１の上面部３５１ａから離れたボタンスリーブ３５３のフランジ部３５３ｂに配置しても、接触検知体３５２によりボタン本体３５１の上面部３５１ａでの遊技者の手指等の接近又は接触を検知することができ、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【０６７１】

更に、遊技者の手指等の接近又は接触を検知する検知手段を、接触検知体３５２と接触検知センサ本体３５８とで構成するようにしているため、検知回路が設けられている接触検知センサ本体３５８をボタン本体３５１の上面部３５１ａ（接触検知体３５２）から離れたボタンスリーブ３５３のフランジ部３５３ｂに配置することができることから、接触検知センサ本体３５８を目立ち難い部位に配置することができ、パチンコ機１の見栄えを良くすることができる。

【０６７２】

また、ボタン本体３５１の裏側（下方）に、ボタン外装飾基板３５５及びボタン中装飾基板３６４や、演出操作部昇降機構３６０、を設けているため、それらによりボタン本体３５１を通して遊技者に、光や振動、衝撃や押上げや風圧等の演出を付与させ易くすることができ、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【０６７３】

［４．本体枠の全体構成］

パチンコ機１における本体枠４の全体構成について、主に図７５乃至図８１を参照して詳細に説明する。図７５はパチンコ機における本体枠の正面図であり、図７６はパチンコ機における本体枠の背面図である。図７７は本体枠を右前から見た斜視図であり、図７８は本体枠を左前から見た斜視図であり、図７９は本体枠を後ろから見た斜視図である。図８０は本体枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図８１は本体枠を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【０６７４】

本体枠４は、遊技球Ｂを打込むことで遊技が行われる遊技領域５ａを有した遊技盤５を保持すると共に、遊技球Ｂを遊技者側へ払出したり、遊技に使用された遊技球Ｂをパチンコ機１の後方（遊技ホールの島設備側）へ排出したり、するためのものである。本体枠４は、図示するように、前方が開放された箱状に形成されており、内部に前方から遊技盤５が着脱可能に収容される。本体枠４は、正面左辺側前端の上下において、遊技ホールの島設備に取付けられる枠状の外枠２に開閉可能に取付けられると共に、開放された前面側が閉鎖されるように扉枠３が開閉可能に取付けられる。

【０６７５】

本体枠４は、後部が外枠２の枠内に挿入可能とされると共に遊技盤５の外周を支持可能とされた枠状の本体枠ベースユニット５００と、本体枠ベースユニット５００の正面視左側の上端に取付けられ外枠２の外枠上ヒンジ組立体５０に回転可能に取付けられると共に扉枠３の扉枠上ヒンジ組立体１２０が回転可能に取付けられる本体枠上ヒンジ部材５１０と、本体枠ベースユニット５００の正面視左側の下端に取付けられ外枠２の外枠下ヒンジ部材６０に回転可能に取付けられると共に扉枠３の扉枠下ヒンジ部材１２５が回転可能に

取付けられる本体枠下ヒンジ組立体５２０と、を備えている。
【０６７６】
また、本体枠４は、本体枠ベースユニット５００の正面視左側面に取付けられる本体枠補強フレーム５３０と、本体枠ベースユニット５００の前面下部に取付けられており遊技盤５の遊技領域５ａ内に遊技球Ｂを打込むための球発射装置５４０と、本体枠ベースユニット５００の後側における正面視上辺及び左辺に沿って取付けられている逆Ｌ字状の払出ベースユニット５５０と、払出ベースユニット５５０の後側に取付けられており遊技者側へ遊技球Ｂを払出すための払出ユニット５６０と、本体枠ベースユニット５００の後面下部に取付けられている基板ユニット６２０と、本体枠ベースユニット５００の後側に開閉可能に取付けられ本体枠ベース５０１に取付けられた遊技盤５の後側を覆う裏カバー６４０と、本体枠ベースユニット５００の正面視右側面に取付けられており外枠２と本体枠４、及び扉枠３と本体枠４の間を施錠する施錠ユニット６５０と、を備えている。
【０６７７】
本体枠ベースユニット５００は、正面視の形状が上下に延びた長方形の枠状に形成されている本体枠ベース５０１と、扉枠３側と接続するための接続ケーブル５０３を案内する接続ケーブル案内部材５０２と、遊技盤５を着脱可能に保持するための遊技盤ロック部材５０５と、を備えている。
【０６７８】
払出ベースユニット５５０は、本体枠ベースユニット５００の本体枠ベース５０１の後側に取付けられる払出ベース５５１と、払出ベース５５１に取付けられており左右に延びた箱状で上方へ開放されている球タンク５５２と、球タンク５５２の左側に取付けられており上方へ開放された溝状に左方へ延びているタンクレール５５３と、タンクレール５５３の上端に取付けられている第一レールカバー５５４と、第一レールカバー５５４から正面視左方に離間してタンクレール５５３の上端に取付けられている第二レールカバー５５５と、第一レールカバー５５４と第二レールカバー５５５の間の位置でタンクレール５５３の上端に取付けられている球整流部材５５６と、タンクレール５５３の下流側端に取付けられている球止部材５５７と、を備えている。
【０６７９】
払出ユニット５６０は、タンクレール５５３からの遊技球Ｂを蛇行状に下方へ誘導する球誘導ユニット５７０と、球誘導ユニット５７０により誘導された遊技球Ｂを払出制御基板６３３からの指示に基づいて一つずつ払出す払出装置５８０と、払出装置５８０を通った遊技球Ｂを下方へ誘導する上部満タン球経路ユニット６００と、上部満タン球経路ユニット６００を通った遊技球Ｂを扉枠３側又は基板ユニット６２０側へ誘導する下部満タン球経路ユニット６１０と、を備えている。
【０６８０】
基板ユニット６２０は、本体枠ベースユニット５００の本体枠ベース５０１に取付けられるスピーカユニット６２０ａと、本体枠ベース５０１の後面に取付けられるベースユニット６２０ｂと、ベースユニット６２０ｂの後側に取付けられている電源ユニット６２０ｃと、電源ユニット６２０ｃの後側に取付けられている払出制御ユニット６２０ｄと、スピーカユニット６２０ａの後面に取付けられているインターフェイスユニット６２０ｅと、を備えている。
【０６８１】
施錠ユニット６５０は、本体枠ベース５０１に取付けられるユニットベース６５１と、ユニットベース６５１から前方へ突出しており扉枠３と係止可能な複数の扉枠用鉤６５２と、ユニットベース６５１から後方へ突出しており外枠２と係止可能な複数の外枠用鉤６５３と、扉枠用鉤６５２又は外枠用鉤６５３を上下方向へ移動させる伝達シリンダ６５４と、扉枠用鉤６５２を下方へ付勢していると共に外枠用鉤６５３を上方へ付勢している錠バネ６５５と、外枠用鉤６５３を下方へ移動させる外枠用開錠レバー６５６と、を備えている。
【０６８２】

［４－１．本体枠ベースユニット］
本体枠４における本体枠ベースユニット５００について、主に図７５乃至図８３等を参照して詳細に説明する。図８２（ａ）は本体枠における正面左下隅を示す拡大斜視図であり、（ｂ）は本体枠に対して扉枠を開いた時の本体枠の正面左下隅を示す拡大斜視図である。図８３は、本体枠に対する扉枠の開閉時における本体枠の接続ケーブル案内部材の動作を示す説明図である。本体枠ベースユニット５００は、前方から後部が外枠２の枠内に挿入されると共に、前方から挿入された遊技盤５の外周を保持するものである。
【０６８３】
本体枠ベースユニット５００は、正面視の形状が上下に延びた長方形の枠状に形成されている本体枠ベース５０１と、本体枠ベース５０１の前面における左下隅に取付けられており接続ケーブル５０３を案内する接続ケーブル案内部材５０２と、本体枠ベース５０１の前面下部に前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられており遊技盤５を着脱可能に保持するための遊技盤ロック部材５０５と、を備えている。
【０６８４】
本体枠ベースユニット５００の本体枠ベース５０１は、正面視の形状が上下に延びた長方形に形成されているベース本体５０１ａと、ベース本体５０１ａの上端よりやや下側の位置から全高の約３／４の高さの範囲で前後に貫通しており遊技盤５が前側から挿入される遊技盤挿入口５０１ｂと、遊技盤挿入口５０１ｂの下辺を形成しており遊技盤５が載置される遊技盤載置部５０１ｃと、遊技盤載置部５０１ｃの左右方向中央から上方へ突出しており遊技盤５の下端の左右及び後方への移動を規制する遊技盤規制部５０１ｄと、を備えている。
【０６８５】
また、本体枠ベース５０１は、ベース本体５０１ａの前面における遊技盤載置部５０１ｃの正面視右下側で後方へ窪んでおり球発射装置５４０を取付けるための発射装置取付部５０１ｅと、発射装置取付部５０１ｅの正面視右側で前後に貫通しており施錠ユニット６５０の伝達シリンダ６５４が挿通されるシリンダ挿通口５０１ｆと、遊技盤載置部５０１ｃの正面視左下側で前後に貫通しており基板ユニット６２０におけるスピーカユニット６２０ａの本体枠スピーカ６２２を前方へ臨ませる円形状のスピーカ用開口部５０１ｇと、本体枠ベース５０１は、スピーカ用開口部５０１ｇの下方で後方へ窪んでいると共に左右に延びており接続ケーブル案内部材５０２が取付けられるケーブル取付凹部５０１ｈと、ケーブル取付凹部５０１ｈの正面視右端上部において前後に貫通しているケーブル挿通口５０１ｉと、を備えている。
【０６８６】
更に、本体枠ベース５０１は、ベース本体５０１ａにおける遊技盤挿入口５０１ｂの正面視右辺から後方へ板状に延出しており、右側面に施錠ユニット６５０が取付けられると共に、後端に裏カバー６４０が回動可能に取付けられる後方延出部５０１ｊと、ベース本体５０１ａの後面における正面視左端の上下両端部付近に形成されており、本体枠上ヒンジ部材５１０及び本体枠下ヒンジ組立体５２０を取付けるための上ヒンジ取付部５０１ｋ及び下ヒンジ取付部５０１ｌと、を備えている。
【０６８７】
また、本体枠ベース５０１は、ベース本体５０１ａの前面における施錠ユニット６５０の伝達シリンダ６５４が挿通されるシリンダ挿通口５０１ｆの下方の位置に、本体枠４に対する扉枠３の開放を検出するための扉枠開放スイッチが取り付けられている。扉枠開放スイッチは、本体枠４に対して扉枠３が開かれる（開放される）と、その押圧が解除されて扉枠３の開放を検出することができるようになっている。扉枠開放スイッチからの検出信号は、払出制御基板６３３を介して、主制御基板１３１０へ入力されている。また、本体枠ベース５０１は、扉枠開放スイッチが取り付けられた位置よりも下方のベース本体５０１ａの後面において、外枠２に対する本体枠４の開放を検出するための本体枠開放スイッチが取り付けられている。本体枠開放スイッチは、外枠２に対して本体枠４が開かれる（開放される）と、その押圧が解除されて本体枠４の開放を検出することができるように

なっている。本体枠開放スイッチからの検出信号は、払出制御基板６３３を介して、主制御基板１３１０へ入力されている。

【０６８８】

本体枠ベース５０１には、前面における遊技盤載置部５０１ｃの下方でスピーカ用開口部５０１ｇの右方の位置に、遊技盤ロック部材５０５が前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられる。遊技盤ロック部材５０５は、遊技盤挿入口５０１ｂに挿通された遊技盤５の前方への移動を規制可能とすることで、遊技盤挿入口５０１ｂに挿入された遊技盤５を着脱可能としている。

【０６８９】

本体枠ベース５０１のケーブル取付凹部５０１ｈは、下ヒンジ取付部５０１ｌの右端側からスピーカ用開口部５０１ｇよりも右方で遊技盤ロック部材５０５が取付けられ部位の下方の位置まで左右方向に延びている。ケーブル取付凹部５０１ｈは、接続ケーブル案内部材５０２を収容可能な大きさに形成されており、接続ケーブル案内部材５０２の右端側を上下に延びた軸周りに回転可能に取付けることができる。

【０６９０】

本体枠ベースユニット５００の接続ケーブル案内部材５０２は、左右に延びた平板状の案内本体５０２ａと、案内本体５０２ａの上下両辺において夫々前方へ突出していると共に案内本体５０２ａの右端よりも右方へ延出している帯板状の一対の枠片５０２ｂと、一対の枠片５０２ｂの右端同士を連結している円柱状の取付軸５０２ｃと、案内本体５０２ａの上下両端において前後に貫通していると共に左右方向へ列設されている複数の貫通孔５０２ｄと、を備えている。

【０６９１】

接続ケーブル案内部材５０２は、左右方向の長さが、本体枠ベース５０１のケーブル取付凹部５０１ｈの左右方向の長さよりも若干短い長さとされており、ケーブル取付凹部５０１ｈ内に収容可能な大きさに形成されている。接続ケーブル案内部材５０２は、取付軸５０２ｃが、ケーブル取付凹部５０１ｈ内における右端付近において上下に延びた軸周りに回転可能に取付けられる。これにより、接続ケーブル案内部材５０２は、左端側が前方へ突出するように回動（ヒンジ回転）することができる。

【０６９２】

この接続ケーブル案内部材５０２は、接続ケーブル５０３を案内するためのものである。接続ケーブル５０３は、複数の配線コードからなり、一方の端部が基板ユニット６２０のインターフェイス基板６３５に接続されると共に、反対側の端部が扉枠３の扉枠主中継基板１０４及び扉枠副中継基板１０５に接続される。

【０６９３】

続いて、接続ケーブル案内部材５０２による作用効果について説明する。接続ケーブル案内部材５０２は、図８３等に示すように、本体枠ベース５０１に対して、左右方向における扉枠３をヒンジ回転可能に取付ける側（左側）とは反対側の端部（右側端部）が、扉枠３のヒンジ軸と平行に延びた軸周りに回転可能に取付けられる。

【０６９４】

そして、本体枠４のインターフェイス基板６３５と扉枠３の扉枠主中継基板１０４及び扉枠副中継基板１０５とを接続する接続ケーブル５０３は、インターフェイス基板６３５に接続されている側が、接続ケーブル案内部材５０２の案内本体５０２ａの右方から左方へ延びるように案内本体５０２ａの前面に当接させた状態で、案内本体５０２ａの上下両端側に形成されている複数の貫通孔５０２ｄのうち左右方向が同じ位置の一組の貫通孔５０２ｄに挿通した結束バンド５０４により、案内本体５０２ａと一緒に締付けられることで、案内本体５０２ａに取付けられる。

【０６９５】

本体枠４の接続ケーブル案内部材５０２は、パチンコ機１に組立て扉枠３を本体枠４に対して閉じた状態で、扉枠３の扉枠主中継基板１０４及び扉枠副中継基板１０５の後方に位置している（図８３（ａ）を参照）。この状態では、接続ケーブル５０３が、接続ケー

ブル案内部材５０２から左方へ延び出した後、下ヒンジ取付部５０１ｌの前方で曲げ返されて扉枠３のケーブルホルダ１０３ａを通って扉枠中継基板カバー１０７内へ延出している。扉枠３のケーブルホルダ１０３ａは、接続ケーブル案内部材５０２の左端よりも左方に配置されている。

【０６９６】

この状態で、扉枠３を本体枠４に対して開くようにヒンジ回転させると、接続ケーブル案内部材５０２の左端側が、接続ケーブル５０３における扉枠３に取付けられている側によって前方へ引っ張られ、接続ケーブル案内部材５０２が右端の取付軸５０２ｃを中心にして回動することとなる。この際に、本実施形態では、扉枠３の開角度αと、接続ケーブル案内部材５０２の開角度βとの関係が、　α／２≧β　（望ましくは、α／３≧β）を満たすように形成されている（図８３（ｂ）を参照）。

【０６９７】

接続ケーブル案内部材５０２の開角度βは、扉枠３が閉じている状態（扉枠３の開角度αが０度の状態）では、０度となっている。接続ケーブル案内部材５０２の開角度βは、扉枠３を開いて開角度αが大きくなるに従って、大きくなるが、開角度αがある程度（例えば、約９０度）よりも大きくなると、増加が停止するように推移する。本実施形態では、開角度βの最大角度が、４５度未満とされている。

【０６９８】

このように、扉枠３を開けた時に、接続ケーブル案内部材５０２の左端側が、本体枠ベース５０１よりも前方へ移動するように接続ケーブル案内部材５０２が回動するため、接続ケーブル案内部材５０２に接続ケーブル５０３が案内されることで、扉枠３と本体枠４との間で接続ケーブル５０３が垂れ下がってしまうのを防止することができる。

【０６９９】

開いた扉枠３を閉める時には、接続ケーブル５０３における扉枠３に取付けられている部位が相対的に後方へ移動することとなるため、接続ケーブル５０３によって接続ケーブル案内部材５０２の左端側が後方へ押圧され、接続ケーブル案内部材５０２が取付軸５０２ｃを中心にして左端側が後方へ移動するように回動することとなる。この際に、接続ケーブル案内部材５０２が、４５度未満の開角度βで開いているため、接続ケーブル案内部材５０２が扉枠３の閉じる方向への移動を阻害することはなく、扉枠３をスムーズに閉めることができる。また、接続ケーブル５０３が接続ケーブル案内部材５０２に案内されているため、扉枠３を閉める際に、接続ケーブル５０３が扉枠３と本体枠４との間に挟まれることはなく、接続ケーブル５０３に不具合が生じるのを防止することができる。

【０７００】

また、本体枠４に対して扉枠３を閉じた時に、接続ケーブル案内部材５０２に案内されている接続ケーブル５０３を、１８０度折返していることから、接続ケーブル５０３の折返している部位に、折り癖を付けることができる。これにより、扉枠３を開くことで、接続ケーブル５０３の１８０度折返されている部位が開くように変化した時に、折り癖により接続ケーブル５０３に対して閉じようとする力が作用することとなるため、扉枠３を閉じる際に、その折り癖により接続ケーブル５０３（接続ケーブル案内部材５０２）が開く方向へ移動するのを阻止することができると共に、接続ケーブル５０３（接続ケーブル案内部材５０２）を閉じる方向へ誘導させることができ、扉枠３を円滑に閉じさせることができる。

【０７０１】

更に、扉枠３側において、折返されている接続ケーブル５０３を接続ケーブル案内部材５０２の先端よりも扉枠上ヒンジピン１２２及び扉枠下ヒンジピン１２６の中心軸（軸芯）に近い位置でケーブルホルダ１０３ａによって保持していることから、本体枠４に対して扉枠３を閉じる際に、ケーブルホルダ１０３ａによって保持されている接続ケーブル５０３により、接続ケーブル案内部材５０２の先端側を扉枠上ヒンジピン１２２及び扉枠下ヒンジピン１２６の中心軸（軸芯）側へ引寄せることができる。

【０７０２】

また、本実施形態では、接続ケーブル案内部材５０２の回転中心を通り、扉枠上ヒンジピン１２２及び扉枠下ヒンジピン１２６の中心軸（軸芯）を中心として、スピーカダクト１０３におけるケーブルホルダ１０３ａよりも扉枠上ヒンジピン１２２及び扉枠下ヒンジピン１２６の中心軸（軸芯）側で後方へ突出している部位（押圧部）を通る円に接する接線と、本体枠４の前面と交差する角度が、４５度以下となるように構成している。これにより、これにより、本体枠４に対して扉枠３を閉じる時に、押圧部が接続ケーブル５０３に当接することにより、接続ケーブル５０３を介して開いている接続ケーブル案内部材５０２の先端側を閉じる方向へ押圧することができるため、扉枠３の閉方向への移動に伴って接続ケーブル案内部材５０２をスムーズに閉じさせることができ、扉枠３を確実に閉じることができる。また、扉枠３の開閉に伴って回転（開閉）する接続ケーブル案内部材５０２の最大開角度βを、４５度以下とすることができるため、扉枠３を閉じる際に、接続ケーブル案内部材５０２を閉じる方向へ確実に回転させることができ、上述と同様の作用効果を奏することができる。

【０７０３】

［４－２．本体枠上ヒンジ部材］

本体枠４における本体枠上ヒンジ部材５１０について、主に図８０及び図８１等を参照して詳細に説明する。本体枠上ヒンジ部材５１０は、本体枠ベースユニット５００の本体枠ベース５０１における上ヒンジ取付部５０１ｋに取付けられ、外枠２の外枠上ヒンジ組立体５０に回転可能に取付けられると共に、扉枠３の扉枠上ヒンジ組立体１２０を回転可能に取付けるものである。

【０７０４】

本体枠上ヒンジ部材５１０は、水平に延びた平板状の板材の後部が下方へＬ字状に折り曲げられている上ヒンジ本体５１１と、上ヒンジ本体５１１の前端から上方へ円柱状に突出しており外枠上ヒンジ組立体５０に軸支される本体枠上ヒンジピン５１２と、を備えている。上ヒンジ本体５１１は、水平に延びた部位における本体枠上ヒンジピン５１２の正面視左側で上下方向に貫通しており扉枠上ヒンジ組立体１２０を軸支するための扉枠用上ヒンジ孔５１１ａを備えている。

【０７０５】

本体枠上ヒンジ部材５１０は、上ヒンジ本体５１１における下方へ折り曲げられて上下に延びている部位が、本体枠ベースユニット５００の本体枠ベース５０１における上ヒンジ取付部５０１ｋに取付けられる。本体枠上ヒンジ部材５１０は、本体枠上ヒンジピン５１２が、外枠上ヒンジ組立体５０における外枠上ヒンジ部材５１の軸受溝５１ｃ内に挿入されて軸支される。上ヒンジ本体５１１の扉枠用上ヒンジ孔５１１ａには、扉枠３の扉枠上ヒンジ組立体１２０における扉枠上ヒンジピン１２２が下方から回転可能に挿入される。

【０７０６】

この本体枠上ヒンジ部材５１０は、本体枠下ヒンジ組立体５２０と協働して、本体枠４を外枠２に対してヒンジ回転可能に取付けることができると共に、本体枠４に対して扉枠３をヒンジ回転可能に取付けることができる。

【０７０７】

［４－３．本体枠下ヒンジ組立体］

本体枠４における本体枠下ヒンジ組立体５２０について、主に図８０及び図８１等を参照して詳細に説明する。本体枠下ヒンジ組立体５２０は、本体枠ベースユニット５００の本体枠ベース５０１における下ヒンジ取付部５０１ｌに取付けられ、外枠２の外枠下ヒンジ部材６０に回転可能に取付けられると共に、扉枠３の扉枠下ヒンジ部材１２５が回転可能に取付けられる。

【０７０８】

本体枠下ヒンジ組立体５２０は、水平に延びた平板状の板材の後部が上方へＬ字状に折り曲げられている下ヒンジ第一本体５２１と、下ヒンジ第一本体５２１の上側に配置されており水平に延びた平板状の板材の後部が上方へＬ字状に折り曲げられている下ヒンジ第

二本体５２２と、を備えている。本体枠下ヒンジ組立体５２０は、下ヒンジ第一本体５２１の水平に延びている部位から上方へ間隔をあけて下ヒンジ第二本体５２２の水平に延びている部位が配置されていると共に、下ヒンジ第一本体５２１の垂直に延びている部位の前面に、下ヒンジ第二本体５２２の垂直に延びている部位が当接している。

【０７０９】

下ヒンジ第一本体５２１は、水平に延びている部位の前端付近で上下に貫通しており外枠２の外枠下ヒンジ部材６０における外枠下ヒンジピン６０ｃが下方から挿入される外枠用下ヒンジ孔５２１ａを有している。外枠用下ヒンジ孔５２１ａは、本体枠上ヒンジ部材５１０の本体枠上ヒンジピン５１２と同軸上に形成されている。

【０７１０】

下ヒンジ第二本体５２２は、水平に延びている部位の前端付近で上下に貫通しており扉枠３の扉枠下ヒンジ部材１２５の扉枠下ヒンジピン１２６が上方から挿入される扉枠用下ヒンジ孔５２２ａと、水平に延びている部位の左辺における扉枠用下ヒンジ孔５２２ａよりも後側の位置から上方へ延出しており扉枠３の回動範囲を規制するための規制片５２２ｂと、を備えている。扉枠用下ヒンジ孔５２２ａは、本体枠上ヒンジ部材５１０の上ヒンジ本体５１１における扉枠用上ヒンジ孔５１１ａと同軸上に形成されている。

【０７１１】

本体枠下ヒンジ組立体５２０は、下ヒンジ第一本体５２１と下ヒンジ第二本体５２２とにおける垂直に延びている部位が、本体枠ベースユニット５００の本体枠ベース５０１における下ヒンジ取付部５０１ｌに取付けられる。本体枠下ヒンジ組立体５２０は、本体枠上ヒンジ部材５１０と協働して、本体枠４を外枠２に対してヒンジ回転可能に取付けることができると共に、本体枠４に対して扉枠３をヒンジ回転可能に取付けることができる。

【０７１２】

［４－４．本体枠補強フレーム］

本体枠４における本体枠補強フレーム５３０について、主に図８０及び図８１等を参照して詳細に説明する。本体枠補強フレーム５３０は、本体枠ベースユニット５００における本体枠ベース５０１の左側面に取付けられる。本体枠補強フレーム５３０は、平面視の断面形状が、右側が開放されたコ字状に形成されており、一定の断面形状で上下に延びている。本実施形態では、本体枠補強フレーム５３０が、金属の押出型材によって形成されている。

【０７１３】

本体枠補強フレーム５３０には、前端から右方へ延びている部位の後側に、本体枠ベース５０１の遊技盤挿入口５０１ｂに挿入された遊技盤５が前方及び上下に移動するのを規制する左位置規制部材５３１が、上下に離間して二つ取付けられている。

【０７１４】

本体枠補強フレーム５３０は、平面視において右側が開放されたコ字状に形成されている前側に、右方へ開放されていると共に上下に延びている溝部５３０ａを有している。この溝部５３０ａは、本体枠４に対して扉枠３を閉じた時に、扉枠３における扉枠補強ユニット１１０の左補強フレーム１１１の後部左端が挿入されるものである。溝部５３０ａ内に左補強フレーム１１１が挿入されることで、平面視において、本体枠補強フレーム５３０と左補強フレーム１１１との間の隙間が蛇行した状態となり、パチンコ機１の左側面から不正な工具が内部に挿入されることを防止することができる。本体枠補強フレーム５３０は、本体枠ベースユニット５００の本体枠ベース５０１の左側（ヒンジ側）を補強していると共に、外枠２と本体枠４の間を通した左側からの本体枠４内（遊技盤５）への不正な工具の差し込みを防止している。

【０７１５】

［４－５．球発射装置］

本体枠４における球発射装置５４０について、主に図８４等を参照して詳細に説明する。図８４（ａ）は本体枠における球発射装置を前から見た斜視図であり、（ｂ）は球発射装置を後ろから見た斜視図である。球発射装置５４０は、本体枠ベースユニット５００の

前面下部に取付けられており、扉枠３における皿ユニット２００の上皿２０１に貯留されている遊技球Ｂを、本体枠４に取付けられた遊技盤５の遊技領域５ａ内に打込むためのものである。球発射装置５４０は、扉枠３の前面右下隅のハンドルユニット１８０のハンドル１９５の回動角度に応じた強さで遊技球Ｂを打込むことができる。

【０７１６】

球発射装置５４０は、本体枠ベースユニット５００における本体枠ベース５０１の発射装置取付部５０１ｅに取付けられる平板状の発射ベース５４１と、発射ベース５４１の正面視右部の後面に取付けられており回動軸が発射ベース５４１を貫通して前方へ延出しているロータリーソレノイドからなる発射ソレノイド５４２と、発射ソレノイド５４２の回転軸に基端が取付けられている打球槌５４３と、打球槌５４３の先端付近から左斜め上方へ延出するように発射ベース５４１の前面に取付けられており遊技球Ｂが転動可能な発射レール５４４と、を備えている。

【０７１７】

球発射装置５４０は、扉枠３の球送給ユニット１４０から遊技球Ｂが発射レール５４４の上面右端に供給されるようになっており、発射レール５４４の上面右端に遊技球Ｂが供給されている状態で、ハンドル１９５を回動操作すると、その回動操作角度に応じた強さで発射ソレノイド５４２が駆動して、打球槌５４３により遊技球Ｂを打球する。そして、打球槌５４３により打たれた遊技球Ｂは、発射レール５４４を通って遊技盤５の外レール１００１及び内レール１００２に案内されて遊技領域５ａ内に打込まれる。

【０７１８】

なお、遊技球Ｂの打込強さ等の関係で、打球した遊技球Ｂが遊技領域５ａ内に到達しなかった場合は、発射レール５４４と遊技盤５（外レール１００１及び内レール１００２）との間から、下方のファールカバーユニット１５０のファール球受口１５０ｃへ落下し、ファールカバーユニット１５０内を通って下皿２０２に排出される。

【０７１９】

［４－６．払出ベースユニット］

本体枠４における払出ベースユニット５５０について、主に図８５等を参照して詳細に説明する。図８５（ａ）は本体枠の払出ベースユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は払出ベースユニットを後ろから見た斜視図である。払出ベースユニット５５０は、逆Ｌ字状に形成されており、本体枠ベースユニット５００の後側に取付けられる。

【０７２０】

払出ベースユニット５５０は、本体枠ベースユニット５００における本体枠ベース５０１の後側に取付けられる払出ベース５５１を備えている。払出ベース５５１は、前後方向が略一定の幅で左右に延びている天板部５５１ａと、天板部５５１ａの正面視左辺から前後方向の幅が天板部と略同じ幅で下方へ長く延びている左側板部５５１ｂと、天板部５５１ａの正面視右辺から前後方向の幅が天板部５５１ａと略同じ幅で下方へ短く延びている右側板部５５１ｃと、天板部５５１ａの後辺から右側板部５５１ｃの下辺と同じ位置まで下方へ延びている背板上部５５１ｄと、左側板部５５１ｂの後辺よりも前方寄りの位置から右方へ略一定の幅で下端付近まで延びている背板左部５５１ｅと、背板左部５５１ｅの右辺から後方へ左側板部５５１ｂの後辺と同じ位置まで延びている内側板部５５１ｆと、左側板部５５１ｂの下辺の前部から右方へ背板左部５５１ｅの右辺と略同じ位置まで延びている底板部５５１ｇと、底板部５５１ｇの右辺と内側板部５５１ｆの下辺とを連結している連結板部５５１ｈと、を備えている。払出ベース５５１は、正面視において逆Ｌ字状に形成されており、前方とＬ字の内方へ開放された箱状に形成されている。

【０７２１】

払出ベース５５１は、天板部５５１ａが本体枠ベース５０１の遊技盤挿入口５０１ｂの左右方向の幅と略同じ長さで左右に延びていると共に、左側板部５５１ｂが遊技盤挿入口５０１ｂの上下方向の高さと略同じ長さで上下に延びている。払出ベース５５１は、天板部５５１ａ、左側板部５５１ｂ、及び右側板部５５１ｃの前端が本体枠ベース５０１の後側に取付けられる。

【０７２２】
　また、払出ベース５５１は、左側板部５５１ｂ、背板左部５５１ｅ、及び内側板部５５１ｆによって、後方へ開放されており上下に延びている浅い凹部状の部位を備えており、その部位に払出ユニット５６０が取付けられる。また、払出ベース５５１は、内側板部５５１ｆの正面視右側面の上部において右方へ突出しており、裏カバー６４０が取付けられる裏カバー取付部５５１ｉを有している。
【０７２３】
　払出ベースユニット５５０は、払出ベース５５１の天板部５５１ａの上面に取付けられており左右に延びた箱状で上方へ開放されている球タンク５５２と、払出ベース５５１の左右に延びている部位の上側における球タンク５５２の左側に取付けられており上方へ開放された溝状に左方へ延びているタンクレール５５３と、を備えている。
【０７２４】
　また、払出ベースユニット５５０は、タンクレール５５３の上端における左右方向の途中に取付けられている第一レールカバー５５４と、第一レールカバー５５４から正面視左方に離間してタンクレール５５３の上端に取付けられておりタンクレール５５３の左端まで延びている第二レールカバー５５５と、第一レールカバー５５４と第二レールカバー５５５の間の位置でタンクレール５５３の上端に取付けられている球整流部材５５６と、タンクレール５５３の下端における正面視左端付近に取付けられている球止部材５５７と、を備えている。
【０７２５】
　球タンク５５２は、左右方向が払出ベース５５１の天板部５５１ａの左右方向の幅の約半分の長さに形成されていると共に、前後方向が天板部５５１ａの前後方向の奥行よりも短い長さに形成されている。球タンク５５２は、天板部５５１ａの上面において、左右方向の右寄りの位置に取付けられている。球タンク５５２の底面は、左端側が低くなるように傾斜している。球タンク５５２は、左端側がタンクレール５５３と連通している。
【０７２６】
　タンクレール５５３は、払出ベース５５１の天板部５５１ａの上面における左右方向中央より左側の後端付近に取付けられている。タンクレール５５３は、平面視の形状が、球タンク５５２と連通している右端から左方且つ後方へ斜めで前後方向の奥行が遊技球Ｂの外径の数倍の奥行から略一つ分の奥行になるように延びた後に、前後方向の奥行が遊技球Ｂの外径よりも若干大きい奥行で左方へ真直ぐに延びた形状に形成されている。タンクレール５５３は、左端側が低くなるように底面が傾斜しており、底面の左端が遊技球Ｂの外径よりも若干大きい大きさで下方へ向かって開口している。タンクレール５５３の底面の左端の開口が、払出ユニット５６０の球誘導ユニット５７０における誘導通路５７０ａの上端開口と連通している。
【０７２７】
　また、タンクレール５５３は、左方へ真直ぐに延びている部位の上端が、左端側の高さが遊技球Ｂの外径よりも若干大きい高さとなるように、底面よりも水平に対して急な角度で左端側が低くなるように傾斜している。タンクレール５５３は、左方へ真直ぐに延びている部位の後端が、天板部５５１ａの後辺と略一致するように天板部５５１ａの上面に取付けられる。また、タンクレール５５３は、左方へ真直ぐ延びている部位の上端に、第一レールカバー５５４、第二レールカバー５５５、球整流部材５５６、及び球止部材５５７が取付けられる。
【０７２８】
　第一レールカバー５５４及び第二レールカバー５５５は、タンクレール５５３における左方へ真直ぐに延びている部位の上端に取付けられる。第一レールカバー５５４及び第二レールカバー５５５は、タンクレール５５３の上端の前後方向の奥行が、タンクレール５５３内の遊技球Ｂの圧力によって、広がったり、狭くなったりするのを防止するためのものである。
【０７２９】

球整流部材５５６は、タンクレール５５３の上端における第一レールカバー５５４と第二レールカバー５５５との間に部位において、第一レールカバー５５４側の端部が前後方向に延びた軸周りに対して回転可能に取付けられている。球整流部材５５６は、タンクレール５５３内へ突出し左右方向に延びている整流片５５６ａを備えている（図９１を参照）。この整流片５５６ａによって上下二段になって流通している遊技球Ｂの上段側の遊技球Ｂの流れを遅らせて、下流側では一段となって流れるように整流することで、タンクレール５５３内の高さが低くなっても球詰りしないようにしている。

【０７３０】

球止部材５５７は、タンクレール５５３の下面における正面視左端付近において、左右方向へスライド可能に取付けられており、左方へスライドさせることで、タンクレール５５３の底面左端の開口を閉鎖して、タンクレール５５３から下流の払出ユニット側へ遊技球Ｂが流通しないようにすることができる。

【０７３１】

更に、払出ベースユニット５５０は、払出ベース５５１の左右に延びている部位の上面における球タンク５５２の正面視左方に取付けられている外部端子板５５８を、更に備えている。外部端子板５５８は、パチンコ機１とパチンコ機１が設置される遊技ホールの島設備との間で電気的な接続を行うためのものである。外部端子板５５８は、図示は省略するが、本体枠ベース５０１の遊技盤挿入口５０１ｂ側へ臨んだアース接続部を備えている。アース接続部には、遊技盤５側から延びたアース線が接続される。

【０７３２】

［４－７．払出ユニットの全体構成］

本体枠４における払出ユニット５６０の全体構成について、主に図８６及び図８７等を参照して詳細に説明する。図８６（ａ）は本体枠における払出ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は払出ユニットを後ろから見た斜視図である。図８７（ａ）は払出ユニットを主な構成毎に分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は払出ユニットを主な構成毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。払出ユニット５６０は、払出ベースユニット５５０の払出ベース５５１の背板左部５５１ｅの後面に取付けられるものである。

【０７３３】

払出ユニット５６０は、タンクレール５５３からの遊技球Ｂを蛇行状に下方へ誘導する球誘導ユニット５７０と、球誘導ユニット５７０の下側に配置されており球誘導ユニット５７０により誘導された遊技球Ｂを払出制御基板６３３からの指示に基づいて一つずつ払出す払出装置５８０と、払出装置５８０を通った遊技球Ｂを下方へ誘導する上部満タン球経路ユニット６００と、上部満タン球経路ユニット６００を通った遊技球Ｂを扉枠３側又は基板ユニット６２０側へ誘導する下部満タン球経路ユニット６１０と、を備えている。

【０７３４】

球誘導ユニット５７０は、タンクレール５５３により一列に整列された遊技球Ｂを、払出装置５８０へ供給する。払出装置５８０は、球誘導ユニット５７０から供給された遊技球Ｂが流通可能な払出通路５８０ａと、払出通路５８０ａの途中から分岐している球抜通路５８０ｂとを有しており、通常の状態では、払出制御基板６３３からの指示に基づいて払出通路５８０ａから上部満タン球経路ユニット６００側へ遊技球Ｂを放出し、球抜レバー５９３が操作される球抜通路５８０ｂから上部満タン球経路ユニット６００側へ遊技球Ｂを放出するものである。

【０７３５】

上部満タン球経路ユニット６００は、払出装置５８０の払出通路５８０ａから放出された遊技球Ｂと、球抜通路５８０ｂから放出された遊技球Ｂとを、分けて下方へ誘導するものである。下部満タン球経路ユニット６１０は、上部満タン球経路ユニット６００を介して、払出装置５８０の払出通路５８０ａから放出された遊技球Ｂを扉枠３側へ誘導し、球抜通路５８０ｂから放出された遊技球Ｂを基板ユニット６２０側へ誘導するものである。

【０７３６】

［４－７ａ．球誘導ユニット］

払出ユニット５６０における球誘導ユニット５７０について、主に図８６及び図８７等を参照して詳細に説明する。球誘導ユニット５７０は、払出ベースユニット５５０における払出ベース５５１の背板左部５５１ｅの後面上部に後方から取付けられ、タンクレール５５３からの遊技球Ｂを受取って払出装置５８０側へ遊技球Ｂを誘導するためのものである。

【０７３７】

球誘導ユニット５７０は、遊技球Ｂが流通可能な蛇行状に延びた誘導通路５７０ａを有しており前方へ開放されている箱状の誘導ユニットベース５７１と、誘導ユニットベース５７１の前側を閉鎖している平板状の誘導通路前蓋５７２と、誘導通路５７０ａ内を流通する遊技球Ｂにより可動する可動片部材５７３と、可動片部材５７３の可動を検知することで誘導通路５７０ａ内の遊技球Ｂの有無を検知する球切検知センサ５７４と、を備えている（図９１を参照）。

【０７３８】

球誘導ユニット５７０は、誘導ユニットベース５７１及び誘導通路前蓋５７２の正面視の形状が、上下に延びた四角形に形成されている。誘導通路５７０ａは、誘導ユニットベース５７１の上面の左端付近において上方へ開口しており、上端から誘導ユニットベース５７１の高さ方向中央付近まで垂直に下方へ延びた後に、右方へ屈曲し、誘導ユニットベース５７１の左右方向の幅の間で折返しを繰返しながら蛇行状に下方へ延びて、誘導ユニットベース５７１の下面の左端付近において下方へ開口している。

【０７３９】

誘導通路５７０ａは、遊技球Ｂが流通する流通方向に対して、前後右方の奥行と、左右方向の幅とが、遊技球Ｂの外径よりも若干大きく形成されており、遊技球Ｂを一列で誘導することができる。

【０７４０】

球誘導ユニット５７０は、上部付近において、可動片部材５７３が誘導通路５７０ａ内へ進退可能に取付けられている。詳しくは、可動片部材５７３は、上部が誘導通路５７０ａの正面視右外側の部位で前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられており、自重により下端の一部が誘導通路５７０ａ内へ突出するように形成されている。この可動片部材５７３は、誘導通路５７０ａ内へ突出している部位に遊技球Ｂが当接することで、突出している部位が遊技球Ｂに押されて誘導通路５７０ａ内から後退して突出していない状態となる。

【０７４１】

球切検知センサ５７４は、可動片部材５７３の一部が誘導通路５７０ａ内へ突出している時には、可動片部材５７３を検知せず、可動片部材５７３の一部が誘導通路５７０ａ内から後退して突出していない時には、可動片部材５７３を検知する。従って、球切検知センサ５７４は、誘導通路５７０ａ内に遊技球Ｂが存在している時には検知の状態となり、誘導通路５７０ａ内に遊技球Ｂが存在していない時には非検知の状態となる。

【０７４２】

球誘導ユニット５７０は、本体枠４に組立てた状態で、誘導通路５７０ａの上流端が、タンクレール５５３の下流端と連通していると共に、誘導通路５７０ａの下流端が、払出装置５８０の払出通路５８０ａの上流端と連通している。球誘導ユニット５７０は、遊技球Ｂを誘導する誘導通路５７０ａが蛇行状に延びていることから、球誘導ユニット５７０の全高によりも誘導通路５７０ａが長く延びており、誘導通路５７０ａ内に多くの遊技球Ｂを貯留することができる。また、球誘導ユニット５７０は、球切検知センサ５７４によって誘導通路５７０ａ内の遊技球Ｂの有無を検知することができるため、誘導通路５７０ａを介して球タンク５５２内の遊技球Ｂの有無を検知することができる。

【０７４３】

［４－７ｂ．払出装置］

払出ユニット５６０における払出装置５８０について、主に図８６乃至図８９等を参照して詳細に説明する。図８８は、払出ユニットの払出装置を払出羽根の前後方向中央で切

断した背面断面図である。図８９（ａ）は球抜可動片が開状態の時に払出装置を払出羽根の前後方向中央で切断した背面断面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるＡ－Ａ線で切断した断面図である。払出装置５８０は、払出ベースユニット５５０の払出ベース５５１における背板左部５５１ｅの後面の球誘導ユニット５７０の下側に後方から着脱可能に取付けられる。

【０７４４】

払出装置５８０は、後方へ開放された箱状で遊技球Ｂが流通可能な払出通路５８０ａ及び払出通路５８０ａの途中から分岐している球抜通路５８０ｂを有している払出装置本体５８１と、払出装置本体５８１を後側から閉鎖している平板状の払出装置後蓋５８２と、払出装置本体５８１の前側に取付けられており後方へ開放された浅い箱状の払出装置前蓋５８３と、を備えている。

【０７４５】

また、払出装置５８０は、払出装置本体５８１の後面に取付けられており回転軸が払出装置本体５８１と払出装置前蓋５８３との間に突出している払出モータ５８４と、払出モータ５８４の回転軸に取付けられている平歯車状の駆動ギア５８５と、駆動ギア５８５と噛合しており払出装置本体５８１と払出装置前蓋５８３とによって回転可能に取付けられている平歯車状の第一伝達ギア５８６と、第一伝達ギア５８６と噛合しており払出装置本体５８１と払出装置前蓋５８３とによって回転可能に取付けられている平歯車状の第二伝達ギア５８７と、第二伝達ギア５８７と噛合している平歯車状の払出ギア５８８ａ及び払出ギア５８８ａよりも外方へ延出している複数の検知片５８８ｂを有し払出装置本体５８１と払出装置前蓋５８３との間で回転可能に取付けられている払出ギア部材５８８と、払出装置本体５８１と払出装置後蓋５８２との間で払出ギア部材５８８と一体回転し払出通路５８０ａ内に突出している複数の羽根片５８９ａを有した払出羽根５８９と、払出装置本体５８１の後側に取付けられており払出ギア部材５８８の検知片５８８ｂを検知する羽根回転検知センサ５９０と、を備えている。

【０７４６】

更に、払出装置５８０は、払出通路５８０ａの下流端において払出装置本体５８１と払出装置後蓋５８２とによって取付けられており遊技球Ｂを検知する払出検知センサ５９１と、払出装置本体５８１と払出装置後蓋５８２とによって払出通路５８０ａから分岐する部位で球抜通路５８０ｂを開閉可能に取付けられている球抜可動片５９２と、球抜可動片５９２が球抜通路５８０ｂを閉鎖している位置で保持可能とされており払出装置本体５８１と払出装置後蓋５８２とによって上下方向へスライド可能に取付けられている球抜レバー５９３と、を備えている。

【０７４７】

払出装置５８０は、平面視の形状が上下に延びた四角形に形成されている。払出装置５８０は、左右方向の幅が、球誘導ユニット５７０の左右方向の幅よりも正面視右方へ大きく形成されている。

【０７４８】

払出装置５８０の払出通路５８０ａは、図８８に示すように、背面視において、上流端が左右方向の中央から左寄りの位置で上方へ開口しており、下流端が左右方向の右端付近の位置で下方へ開口している。払出通路５８０ａは、上流端から下方へ向かうに従って少しずつ左方へ移動するように上から全高の約１／３の高さほど下方へ斜めに延び、そこから右方やや斜め下へ折れ曲がった後に、左右の幅の約１／３のところで折れ曲がって払出羽根５８９の中心（回転軸）へ向かうように下方へ略垂直に延びている。そして、払出羽根５８９の中心よりも上側において、遊技球Ｂの外径よりも若干大きい幅で背面視右方へ折れ曲がった後に、払出羽根５８９の外周との間に遊技球Ｂよりも若干大きい隙間が形成されるように払出羽根５８９と同心円の円弧状に下方へ延びた上で、払出羽根５８９の中心よりも背面視右方の位置で下流端まで下方へ垂直に延びている。

【０７４９】

払出通路５８０ａ内において、払出羽根５８９よりも下方で下流端の直上に払出検知セ

ンサ５９１が配置されている。
【０７５０】
球抜通路５８０ｂは、払出通路５８０ａ内における上流端から斜め下方へ延びて右方へ折れ曲がっている部位で分岐して、背面視左辺に沿って下端まで垂直に延びており、底面の背面視における左端付近で下方へ開口している。
【０７５１】
払出装置本体５８１及び払出装置後蓋５８２は、払出通路５８０ａと球抜通路５８０ｂとが分岐している部位における球抜可動片５９２が取付けられている側において、互いに対向し遊技球Ｂの外径よりも狭い隙間を形成するように夫々から後方及び前方へ突出していると共に、夫々が払出通路５８０ａと球抜通路５８０ｂの背面視における左側壁と連続するように形成されている本体側ガイド壁５８１ａ及び後蓋側ガイド壁５８２ａを備えている。本体側ガイド壁５８１ａ及び後蓋側ガイド壁５８２ａは、払出通路５８０ａにおける球抜通路５８０ｂと分岐して上から約１／３の高さの位置で背面視右方へ延びている部位の背面視左方の位置に形成されている。本体側ガイド壁５８１ａ及び後蓋側ガイド壁５８２ａは、背面視において左斜め上へ窪むように湾曲しており、主に球抜通路５８０ｂの側壁を構成するように形成されている。本体側ガイド壁５８１ａと後蓋側ガイド壁５８２ａとの間を通って球抜可動片５９２が回動する。
【０７５２】
払出モータ５８４は、払出装置本体５８１における払出通路５８０ａが上流端から斜め下方へ延びている部位の背面視右方に取付けられている。駆動ギア５８５、第一伝達ギア５８６、第二伝達ギア５８７、及び払出ギア部材５８８は、払出装置本体５８１の前方に配置されており、前側が払出装置前蓋５８３によって被覆されている。払出ギア部材５８８は、外方へ延出している平板状の検知片５８８ｂが、周方向へ１２０度の角度の間隔で三つ備えられている。
【０７５３】
払出羽根５８９は、払出装置本体５８１と払出装置後蓋５８２との間に配置されている。払出羽根５８９は、外方へ平板状に延出している複数の羽根片５８９ａが、周方向へ１２０度の角度の間隔で三つ備えられている。羽根片５８９ａは、払出通路５８０ａ内における上方から回転軸に向かって延びた後に背面視右方へ延びている部位において、払出通路の側壁との間が遊技球Ｂの外径よりも狭くなるように、払出通路５８０ａ内へ突出している。払出羽根５８９は、三つの羽根片５８９ａの間に、中心側へ遊技球Ｂの半径よりも若大きい半径の円弧で窪んだ球収容部５８９ｂを備えている。この球収容部５８９ｂには、遊技球Ｂを一つのみ収容可能とされている。これにより、払出羽根５８９は、羽根片５８９ａによって払出通路５８０ａ内の遊技球Ｂが、払出羽根５８９よりも下流側へ移動するのを規制することができると共に、背面視時計回りの方向へ回転することで球収容部５８９ｂに収容された遊技球Ｂを下流側へ移動させることができる。
【０７５４】
払出ギア部材５８８と払出羽根５８９は、払出装置後蓋５８２と払出装置前蓋５８３とによって同軸上で一体回転可能に取付けられている。羽根回転検知センサ５９０は、背面視において、払出ギア部材５８８の回転軸の背面視左方に配置されている。羽根回転検知センサ５９０は、払出羽根５８９と一体回転する払出ギア部材５８８の検知片５８８ｂを検知することで、払出羽根５８９の回転を検知するためのものである。
【０７５５】
球抜可動片５９２は、上端が、本体側ガイド壁５８１ａ及び後蓋側ガイド壁５８２ａの上端において前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられている。球抜可動片５９２は、く字状に屈曲しており、窪んでいる側が払出通路５８０ａ内を向くように取付けられている。球抜可動片５９２は、前後方向の奥行が、本体側ガイド壁５８１ａと後蓋側ガイド壁５８２ａとの間の隙間よりも小さく形成されており、本体側ガイド壁５８１ａ及び後蓋側ガイド壁５８２ａの間の隙間を通って、球抜通路５８０ｂ内へ突出したり球抜通路５８０ｂ外へ後退したりすることができる。

【０７５６】
球抜レバー５９３は、球抜可動片５９２の上端付近の背面視左方において上下方向へスライド可能に、払出装置本体５８１及び払出装置後蓋５８２に取付けられている。球抜レバー５９３は、一部が払出装置後蓋５８２を貫通して後方へ突出しており、その突出している部位を操作することで、スライドさせることができる。球抜レバー５９３は、下降端に位置させることで、下部が球抜可動片５９２と当接可能となり、球抜可動片５９２の背面視時計回りの方向への回動を規制することができ、球抜可動片５９２によって球抜通路５８０ｂを閉鎖させることができる。また、球抜レバー５９３は、上昇端に位置させることで、球抜可動片５９２を球抜通路５８０ｂの外側へ回動できるようにすることができ、球抜通路５８０ｂを開くことができる（図８９を参照）。

【０７５７】
球抜レバー５９３を上昇させて球抜可動片５９２を回動可能な状態とすると、球抜可動片５９２の上流側で数珠繋ぎのような状態となっていた遊技球Ｂが、球抜可動片５９２を越えて球抜通路５８０ｂ側へ流下することとなる。この際に、球抜通路５８０ｂが払出通路５８０ａの上流側から真直ぐに直線状に延びているため、払出通路５８０ａの上流から流下してきた遊技球Ｂが、真直ぐに球抜通路５８０ｂ側へ流下すると共に、球抜通路５８０ｂの下流側が島設備側に連通していることから、払出羽根５８９のように遊技球Ｂの流れを抑制するようなものがないため、遊技球Ｂが払出通路５８０ａ側よりも早く流下することとなる。

【０７５８】
このように、球抜可動片５９２を回動可能としている状態では、球抜通路５８０ｂ内を遊技球Ｂが早い速度で流下することから、球抜通路５８０ｂ内に突出している球抜可動片５９２の下端側に遊技球Ｂが勢い良く当接することとなるが、球抜可動片５９２が払出装置本体５８１の本体側ガイド壁５８１ａと払出装置後蓋５８２の後蓋側ガイド壁５８２ａとの間を通して球抜通路５８０ｂの内面よりも外側へ移動することができることから、その当接の力によって球抜可動片５９２が球抜通路５８０ｂの外側へ移動することとなるため、球抜可動片５９２が球抜通路５８０ｂの壁面と遊技球Ｂとの間に挟まれることはなく、遊技球Ｂにより球抜可動片５９２に強い力が作用しないようにすることができ、遊技球Ｂの衝突による球抜可動片５９２の耐久性の低下や破損を抑制させることができる。

【０７５９】
このようなことから、球抜可動片５９２を破損し難くすることができることから、球抜通路５８０ｂの下流側の島設備側へより多くの遊技球Ｂをより早く排出させることができるため、パチンコ機１の交換やメンテナンス等にかかる時間の増加を抑制させることができ、遊技ホール側の負担を軽減させることができる。

【０７６０】
また、球抜可動片５９２が回動可能な状態の時に、球抜可動片５９２が遊技球Ｂよりも狭い間隔の本体側ガイド壁５８１ａと後蓋側ガイド壁５８２ａとの間を通して球抜通路５８０ｂの外側へ移動するため、球抜通路５８０ｂ内に突出している球抜可動片５９２に遊技球Ｂが当接することで球抜可動片５９２が本体側ガイド壁５８１ａと後蓋側ガイド壁５８２ａとの間を通して外側へ移動する際に、球抜可動片５９２と一緒に遊技球Ｂが本体側ガイド壁５８１ａと後蓋側ガイド壁５８２ａとの間側へ移動しても、遊技球Ｂよりも間隔の狭い本体側ガイド壁５８１ａと後蓋側ガイド壁５８２ａとの間により、遊技球Ｂのみが外側への移動を阻止することができる。

【０７６１】
そして、本体側ガイド壁５８１ａと後蓋側ガイド壁５８２ａとの間によって遊技球Ｂの外側への移動が阻止されることで、球抜可動片５９２から遊技球Ｂが離れることとなり、その後の球抜可動片５９２の移動が慣性力によることとなるため、球抜可動片５９２に対して強い力が作用することはなく、球抜可動片５９２を破損し難くすることができると共に、本体側ガイド壁５８１ａと後蓋側ガイド壁５８２ａとの間から遊技球Ｂが球抜通路５８０ｂの外側へ飛び出すことはなく、遊技球Ｂを球抜通路５８０ｂの下流側へ確実に流通

させることができる。
【０７６２】
［４－７ｃ．上部満タン球経路ユニット］
払出ユニット５６０における上部満タン球経路ユニット６００について、主に図８６及び図８７等を参照して詳細に説明する。上部満タン球経路ユニット６００は、払出ベースユニット５５０における払出ベース５５１の背板左部５５１ｅの後面下部で払出装置５８０の下側に後方から取付けられる。上部満タン球経路ユニット６００は、払出装置５８０から下方へ放出され遊技球Ｂを、下部満タン球経路ユニット６１０へ誘導するためのものである。上部満タン球経路ユニット６００は、正面視の形状が上下に延びた四角形に形成されている。
【０７６３】
上部満タン球経路ユニット６００は、払出ベース５５１に取付けられ後側が開放された箱状の上部満タンベース６０１と、上部満タンベース６０１の後側に取付けられており前側が開放された箱状の上部満タンカバー６０２と、上部満タンカバー６０２の上端付近に回転可能に取付けられており払出装置５８０を上方へ押圧可能な払出装置押圧部材６０３と、を備えている。上部満タンベース６０１は、正面視右辺から右方へ突出しており、裏カバーを取付けるための裏カバー取付部６０１ａを備えている。
【０７６４】
また、上部満タン球経路ユニット６００は、上面における正面視左端付近において上方へ開口しており下から全高の約２／３の高さの位置まで左辺に沿って下方へ延出している上部払出球受通路６００ａと、上部払出球受通路６００ａと連通しており正面視右方へ全幅の約３／４ほど延びていると共に下から全高の約１／６の高さまで下方へ延出している上部球貯留通路６００ｂと、上部球貯留通路６００ｂの左右方向中央より正面視左側から下方へ延びており下面において下方へ開口している上部通常払出通路６００ｃと、上部通常払出通路６００ｃと隣接し上部球貯留通路６００ｂの左右方向中央より正面視右側から下方へ延びており下面において下方へ開口している上部満タン払出通路６００ｄと、上面における正面視右端付近において上方へ開口して下方へ略垂直に延びた後に下面の右端付近において下方へ開口している上部球抜通路６００ｅと、を備えている（図９１を参照）。
【０７６５】
上部満タン球経路ユニット６００は、下面において、正面視左側から、上部通常払出通路６００ｃ、上部満タン払出通路６００ｄ、及び上部球抜通路６００ｅが、順に並んで下方へ開口している。上部満タン球経路ユニット６００は、払出ユニット５６０に組立てた状態で、上部払出球受通路６００ａの上流端が、払出装置５８０における払出通路５８０ａの下流端の直下で開口しており、上部球抜通路６００ｅの上流端が、払出装置５８０における球抜通路５８０ｂの下流端の直下で開口している。これにより、払出装置５８０の払出通路５８０ａから放出（払出）された遊技球Ｂは、上部払出球受通路６００ａ及び上部球貯留通路６００ｂを通って、上部通常払出通路６００ｃ又は上部満タン払出通路６００ｄの何れかから下方へ放出される。また、払出装置５８０の球抜通路５８０ｂから下方へ放出された遊技球Ｂは、上部球抜通路６００ｅを通って下方へ放出される。
【０７６６】
［４－７ｄ．下部満タン球経路ユニット］
払出ユニット５６０における下部満タン球経路ユニット６１０について、主に図８６及び図８７等を参照して詳細に説明する。下部満タン球経路ユニット６１０は、払出ベースユニット５５０における払出ベース５５１の底板部５５１ｇに載置されると共に、上部満タン球経路ユニット６００の下部に取付けられる。下部満タン球経路ユニット６１０は、上部満タン球経路ユニット６００から下方へ放出された遊技球Ｂを、扉枠３側へ誘導したり、基板ユニット６２０側へ誘導したりするものである。下部満タン球経路ユニット６１０は、前端側が低くなるように前後方向に延びていると共に、後端が上方へ延びている。
【０７６７】

下部満タン球経路ユニット６１０は、下部通常払出通路６１０ａ、下部満タン払出通路６１０ｂ、及び下部球抜通路６１０ｃを有しており前後方向に延びていると共に上方へ開放されている下部満タンベース６１１と、下部満タンベース６１１の上側に取付けられている下部満タンカバー６１２と、下部満タンベース６１１の前端に前後に延びた軸周りに回動可能に取付けられており下部通常払出通路６１０ａ及び下部満タン払出通路６１０ｂの下流端開口を開閉可能としている払出通路開閉扉６１３と、下部通常払出通路６１０ａ及び下部満タン払出通路６１０ｂの下流端開口を閉鎖する方向へ払出通路開閉扉６１３を付勢している閉鎖バネ６１４と、を備えている。

【０７６８】

下部満タン球経路ユニット６１０は、後端の上方へ延びている部位の上面に、正面視左から順に、下部通常払出通路６１０ａ、下部満タン払出通路６１０ｂ、及び下部球抜通路６１０ｃが並んだ状態で、夫々の上流端が上方へ向かって開口している。下部通常払出通路６１０ａ及び下部満タン払出通路６１０ｂは、左右に並んだ状態で前方へ延びた上で、下部満タン球経路ユニット６１０の前端において前方へ向かって開口している。下部満タン払出通路６１０ｂは、下部通常払出通路６１０ａよりも若干低い状態で前方へ延びている。下部球抜通路６１０ｃは、下部満タン払出通路６１０ｂの正面視右側面に沿って前方へ延びており、前後方向の途中において右方へ向かって開口している。

【０７６９】

払出通路開閉扉６１３は、下部通常払出通路６１０ａと下部満タン払出通路６１０ｂとの夫々の前端開口の間の位置で回動可能に取付けられている。この払出通路開閉扉６１３は、閉鎖バネ６１４によって正面視時計回りの方向へ付勢されており、通常の状態では、下部通常払出通路６１０ａ及び下部満タン払出通路６１０ｂの夫々の前端開口（下流端開口）を閉鎖している。払出通路開閉扉６１３は、前方へ突出している作動突部６１３ａを備えている。作動突部６１３ａは、正面視の形状が、払出通路開閉扉６１３の回動中心を中心とした短い円弧状に形成されており、前端面が、反時計回りの方向の端部側へ近付くに従って前方へ突出するように傾斜している。この作動突部６１３ａは、本体枠４に対して扉枠３を閉めた時に、扉枠３におけるファールカバーユニット１５０の扉開閉当接部１５０ｆと当接するように形成されている。

【０７７０】

下部満タン球経路ユニット６１０は、払出ユニット５６０に組立てた状態で、後部上端において上方へ開口している下部通常払出通路６１０ａ、下部満タン払出通路６１０ｂ、下部球抜通路６１０ｃが、夫々上部満タン球経路ユニット６００の上部通常払出通路６００ｃ、上部満タン払出通路６００ｄ、及び上部球抜通路６００ｅの下流端の直下に位置している。これにより、上部通常払出通路６００ｃから下方へ放出された遊技球Ｂは、下部通常払出通路６１０ａを流通し、上部満タン払出通路６００ｄから下方へ放出された遊技球Ｂは下部満タン払出通路６１０ｂを流通し、上部球抜通路６００ｅから下方へ放出された遊技球Ｂは下部球抜通路６１０ｃを流通することとなる。

【０７７１】

また、下部満タン球経路ユニット６１０は、パチンコ機１に組立てた状態で、下部通常払出通路６１０ａ及び下部満タン払出通路６１０ｂの前端（下流端）が、扉枠３におけるファールカバーユニット１５０の貫通球通路１５０ａ及び満タン球受口１５０ｂの直後で開口している。また、下部球抜通路６１０ｃの下流端は、基板ユニット６２０のベースユニット６２０ｂにおける左方へ開口した球抜誘導部６２７と対向するように開口している。

【０７７２】

下部満タン球経路ユニット６１０は、通常の状態（本体枠４に対して扉枠３を閉じている状態）では、払出通路開閉扉６１３の作動突部６１３ａがファールカバーユニット１５０の扉開閉当接部１５０ｆと当接することで、閉鎖バネ６１４の付勢力に抗して正面視反時計回りの方向へ回動している。これにより、下部通常払出通路６１０ａ及び下部満タン払出通路６１０ｂの夫々の下流端の開口が開いた状態となっており、ファールカバーユニ

ット１５０の貫通球通路１５０ａ及び満タン球受口１５０ｂと連通した状態となっている。

【０７７３】

一方、本体枠４に対して扉枠３を開いた状態とすると、払出通路開閉扉６１３の作動突部６１３ａがファールカバーユニット１５０の扉開閉当接部１５０ｆから離れることとなり、払出通路開閉扉６１３が閉鎖バネ６１４の付勢力によって正面視時計回りの方向へ回動し、下部通常払出通路６１０ａ及び下部満タン払出通路６１０ｂの夫々の下流端の開口が閉じられた状態となる。この状態では、下部通常払出通路６１０ａ及び下部満タン払出通路６１０ｂ内の遊技球Ｂが、夫々の前端開口から前方へ移動することができなくなる。これにより、本体枠４に対して扉枠３を開けても、下部通常払出通路６１０ａ及び下部満タン払出通路６１０ｂから遊技球Ｂがこぼれることはない。

【０７７４】

［４－７ｅ．払出ユニットにおける遊技球Ｂの流れ］

続いて、払出ユニット５６０における遊技球Ｂの流れについて、主に図９１を参照して詳細に説明する。図９１は、本体枠における遊技球の流れを示す説明図である。払出ユニット５６０は、本体枠４に組立てた状態では、払出ベース５５１の後面に取付けられている。通常の状態では、払出装置５８０の球抜レバー５９３が下降端に位置しており、払出通路５８０ａから分岐している球抜通路５８０ｂを分岐部分において閉鎖している。また、下部満タン球経路ユニット６１０では、払出通路開閉扉６１３が開状態となっている。

【０７７５】

上方へ開放されている球タンク５５２には、パチンコ機１を設置している遊技ホール島設備から、例えば、球誘導ユニット５７０の球切検知センサ５７４による球切れの検知に基づいて、所定数の遊技球Ｂが供給される。球タンク５５２に供給・貯留された遊技球Ｂは、タンクレール５５３によって一列に整列された状態で、球誘導ユニット５７０の誘導通路５７０ａを通って払出装置５８０の払出通路５８０ａ内へと送られる。払出モータ５８４が回転していない状態では、遊技球Ｂが払出羽根５８９よりも下流側へ移動（流下）することができず、払出羽根５８９よりも上流側に複数の遊技球Ｂが滞留した状態となる。

【０７７６】

そして、球誘導ユニット５７０の誘導通路５７０ａ内の遊技球Ｂが可動片部材５７３を押圧し、球切検知センサ５７４が可動片部材５７３を検知することなる。これにより、少なくとも可動片部材５７３から払出羽根５８９までの間の通路内に遊技球Ｂが貯留されていることが判る。

【０７７７】

この状態で、払出モータ５８４により払出羽根５８９が背面視時計周りの方向へ回転すると、球収容部５８９ｂに収容された遊技球Ｂが背面視時計回りの方向へ移動し、払出通路５８０ａにおける払出羽根５８９よりも下流側へ放出される。そして、払出羽根５８９（球収容部５８９ｂ）から放出された遊技球Ｂは、払出検知センサ５９１に検知された後に、上部満タン球経路ユニット６００の上部払出球受通路６００ａへと送られる。

【０７７８】

上部満タン球経路ユニット６００の上部払出球受通路６００ａへ送られた遊技球Ｂは、通常の状態では、上部球貯留通路６００ｂを通って、上部払出球受通路６００ａの直下に配置されている上部通常払出通路６００ｃへと流下する。そして、上部通常払出通路６００ｃへと流下した遊技球Ｂは、下部満タン球経路ユニット６１０の下部通常払出通路６１０ａ、扉枠３のファールカバーユニット１５０の貫通球通路１５０ａを通って、皿ユニット２００における皿ユニットベース２１１の上皿球供給口２１１ａから上皿２０１内へ放出される。

【０７７９】

払出装置５８０から多くの遊技球Ｂが払出されて、上皿２０１内が遊技球Ｂで一杯になると、上皿球供給口２１１ａから前方へ遊技球Ｂを放出することができなくなるため、払

出装置５８０から払出された遊技球Ｂが、下部満タン球経路ユニット６１０の下部通常払出通路６１０ａ内に滞留するようになり、更に遊技球Ｂが払出されると、下部通常払出通路６１０ａと上流側で連通している上部満タン球経路ユニット６００の上部通常払出通路６００ｃ内にも滞留することとなる。そして、上部通常払出通路６００ｃ内が遊技球Ｂで一杯になった状態で、更に遊技球Ｂが払出されると、上部通常払出通路６００ｃの上流側で連通している上部球貯留通路６００ｂ内に遊技球Ｂが滞留し始める共に、遊技球Ｂが上部通常払出通路６００ｃと隣接している上部満タン払出通路６００ｄ側へ流下し初める。

【０７８０】

そして、上部満タン払出通路６００ｄ側へ流下した遊技球Ｂは、下部満タン球経路ユニット６１０の下部満タン払出通路６１０ｂを通って、扉枠３のファールカバーユニット１５０における満タン球受口１５０ｂに受けられる。その後、満タン球受口１５０ｂに受けられた遊技球Ｂは、貯留通路１５０ｅ、球放出口１５０ｄ、及び皿ユニットベース２１１の下皿球供給口２１１ｃを通って下皿２０２内へ放出される。これにより、上皿２０１が遊技球Ｂで満タンになった状態で、更に遊技球Ｂが払出された場合、遊技球Ｂを自動的に下皿２０２へ払出させることができる。

【０７８１】

なお、下皿２０２が遊技球Ｂで一杯になって、下皿球供給口２１１ｃから前方へ遊技球Ｂを放出することができなくなった状態で、更に遊技球Ｂが払出されると、下皿球供給口２１１ｃの上流側のファールカバーユニット１５０の貯留通路１５０ｅ内に遊技球Ｂが滞留して貯留されることとなる。そして、貯留通路１５０ｅ内にある程度の数の遊技球Ｂが貯留されると、可動片１５３が可動して満タン検知センサ１５４に検知され、上皿２０１及び下皿２０２が遊技球Ｂで満杯（満タン）になっていることを遊技者に音声（例えば「球を抜いてください！」等）で案内すると共に、払出装置５８０の払出モータ５８４を、満タン検知センサ１５４が非検知の状態となるまで一時的に停止させる。

【０７８２】

パチンコ機１のメンテナンスや交換等の際に、球タンク５５２内に貯留されている遊技球Ｂをパチンコ機１から排出する場合は、払出装置５８０の球抜レバー５９３を下降端の位置から上方へスライドさせて上昇端の位置の状態とする。その後、球抜可動片５９２の下端側が遊技球Ｂに押されて、背面視時計回りの方向へ回動することとなり、球抜可動片５９２が本体側ガイド壁５８１ａと後蓋側ガイド壁５８２ａとの間を通って、球抜通路５８０ｂの外側へ押し出された状態となる。これにより、払出通路５８０ａから分岐している球抜通路５８０ｂへ遊技球Ｂが進入可能となり、上流側の遊技球Ｂが球抜通路５８０ｂを通って下方へ放出される。

【０７８３】

この際に、球抜可動片５９２の部位では、流下する遊技球Ｂが、球抜可動片５９２よりも本体側ガイド壁５８１ａ及び後蓋側ガイド壁５８２ａに強く当接するため、球抜可動片５９２が破損し難くなっている。

【０７８４】

そして、払出装置５８０の球抜通路５８０ｂから下方へ放出された遊技球Ｂは、上部満タン球経路ユニット６００の上部球抜通路６００ｅ、及び下部満タン球経路ユニット６１０の下部球抜通路６１０ｃを通って、下部球抜通路６１０ｃの下流端開口から基板ユニット６２０の球抜誘導部６２７へ放出された後に、排出球受部６２８及び球排出口６２９を通ってパチンコ機１の後方外部（遊技ホールの島設備側）に排出される。

【０７８５】

［４－８．基板ユニット］

本体枠４における基板ユニット６２０について、主に図９２乃至図９６等を参照して詳細に説明する。図９２（ａ）は本体枠の基板ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は基板ユニットを後ろから見た斜視図である。図９３は、基板ユニットを後ろ下から見た斜視図である。図９４は基板ユニットを主な構成毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図９５は基板ユニットを主な構成毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。図９

６は、左右方向中央で切断したパチンコ機の下部を示す拡大側面断面図である。基板ユニット６２０は、本体枠ベースユニット５００の後面下部に取付けられている。

【０７８６】

基板ユニット６２０は、本体枠ベースユニット５００における本体枠ベース５０１の後面における遊技盤載置部５０１ｃよりも下側に取付けられるスピーカユニット６２０ａと、スピーカユニット６２０ａの一部を後方から覆うように本体枠ベース５０１の後面に取付けられるベースユニット６２０ｂと、ベースユニット６２０ｂの後側に取付けられている電源ユニット６２０ｃと、電源ユニット６２０ｃの後側に取付けられている払出制御ユニット６２０ｄと、払出制御ユニット６２０ｄの一部を後方から覆うようにスピーカユニット６２０ａの後面に取付けられているインターフェイスユニット６２０ｅと、を備えている。

【０７８７】

スピーカユニット６２０ａは、本体枠ベースユニット５００における本体枠ベース５０１の後面における遊技盤載置部５０１ｃよりも下側に取付けられるスピーカカバー６２１と、スピーカカバー６２１の後面における正面視左端付近において前方へ向けて取付けられている本体枠スピーカ６２２と、本体枠スピーカ６２２の後側を覆うようにスピーカカバー６２１の後側に取付けられており前方へ開放された容器状のスピーカボックス６２３と、を備えている。

【０７８８】

スピーカカバー６２１は、左右方向へ延びており、正面視左端付近において前後に貫通しており上下に延びた複数のスリットにより構成されている円形状のスピーカ取付部６２１ａと、スピーカ取付部６２１ａの正面視右方側で後方から前方へ膨出するように窪んでいる空間用前凹部６２１ｂと、空間用前凹部６２１ｂの下面から下方へ突出していると共に左右方向へ延びており斜め下後へ向けて開口している接続部６２１ｃと、を備えている。

【０７８９】

スピーカカバー６２１のスピーカ取付部６２１ａに、後側から本体枠スピーカ６２２が前方へ向けて取付けられる。また、スピーカカバー６２１の接続部６２１ｃは、下端が外枠２の外枠下組立体４０における幕板後部材４３の接続筒部４３ａの上端と一致するように４５度の角度で傾斜している。本体枠スピーカ６２２は、主に低音を出力するコーン型スピーカとされている

【０７９０】

スピーカボックス６２３は、前方へ開放された容器状に形成されており、本体枠スピーカ６２２の後側となる部位が後方へ最も大きく突出しており、正面視右方へ向かうに従って、階段状に後方への突出が小さくなるように形成されている。これにより、スピーカボックス６２３の正面視中央より右側の後方の空間を十分に確保することができ、ベースユニット６２０ｂや電源ユニット６２０ｃ等が配置できるようにしている。スピーカボックス６２３は、スピーカカバー６２１の接続部６２１ｃを除いた後面の全体を被覆する（閉じる）ように形成されている。

【０７９１】

スピーカユニット６２０ａは、スピーカカバー６２１とスピーカボックス６２３とで本体枠スピーカ６２２から後方へ出力されるサウンドを封じ込めるエンクロージャ６２４の一部を形成している。このエンクロージャ６２４は、スピーカカバー６２１においてスピーカ取付部６２１ａの正面視右方に前方へ膨出した空間用前凹部６２１ｂが形成されていることから、スピーカボックス６２３が右方へ向かうに従って後方への突出量が小さくなるように階段状に形成されていても、本体枠スピーカ６２２よりも右方の空間を充分に広く確保されている。

【０７９２】

スピーカユニット６２０ａは、外枠２に対して本体枠４を閉じた状態とすると、スピーカカバー６２１の接続部６２１ｃがシール部材４８を挟むように接続筒部４３ａに接続さ

れ、本体枠スピーカ６２２の後方の空間と、外枠２の幕板内部空間４０ａとが連通した状態となる。従って、本体枠スピーカ６２２の後側に、スピーカカバー６２１、スピーカボックス６２３、幕板前部材４２、及び幕板後部材４３によって、広い空間のエンクロージャ６２４を形成することができ、本体枠スピーカ６２２の後方へ出力されたサウンドを幕板前部材４２の開口部４２ａから前方へ出力（放射）させることができる。

【０７９３】

詳述すると、上述したように、スピーカユニット６２０ａでは、本体枠スピーカ６２２の後方の空間（エンクロージャ６２４の一部）を、比較的広い奥行で正面視右方まで延出させて、接続部６２１ｃ及び接続筒部４３ａを介して外枠下組立体４０側へ連通させていることから、本体枠スピーカ６２２から後方へ出力されたサウンドにおいて、特に低音域を減衰させることなく、外枠下組立体４０側へ伝達させることができると共に、伝達された低音域を二つのポート部材４７を通すことで共振・増幅させて幕板前部材４２の開口部４２ａから前方へ放射することができる。

【０７９４】

この際に、幕板前部材４２の開口部４２ａから前方へ放射されるサウンドは、位相が反転された状態で、放射されるようにしているため、本体枠スピーカ６２２の前面から出力されて皿ユニット２００のスピーカ口２１１ｂから放射されたサウンドに対して、増幅させるように共振することとなり、本体枠スピーカ６２２の口径が小さくても重低音が響く大きなサウンドを出力することができる。

【０７９５】

つまり、本実施形態では、本体枠スピーカ６２２のエンクロージャ６２４がバスレフ型とされており、遊技者に対して重低音を聞かせることができる。これにより、本体枠スピーカ６２２の前面から出力されて皿ユニット２００のスピーカ口２１１ｂから放射されるサウンドと、本体枠スピーカ６２２の後面から出力されて外枠２のグリル部材４６から放射されるサウンドとによって、豊かな低音を有したサウンドを遊技者に聴かせることができる。

【０７９６】

また、スピーカユニット６２０ａは、スピーカカバー６２１に、スピーカ取付部６２１ａの下部と空間用前凹部６２１ｂとの間の位置で前後方向に貫通している貫通口６２１ｄが形成されていると共に、スピーカボックス６２３に、貫通口６２１ｄと連通して筒状に延びており前後に貫通している貫通筒６２３ａが形成されている。スピーカユニット６２０ａに組立てた状態では、貫通口６２１ｄと貫通筒６２３ａが互いに連通し、エンクロージャ６２４とは独立した状態となる。これら貫通口６２１ｄ及び貫通筒６２３ａには、接続ケーブル５０３が挿通される。

【０７９７】

基板ユニット６２０のベースユニット６２０ｂは、スピーカボックス６２３の一部を後方から覆うように本体枠ベース５０１の後面に取付けられる前ベース６２５と、前ベース６２５の後側に取付けられており後面に電源ユニット６２０ｃが取付けられる後ベース６２６と、を備えている。

【０７９８】

また、ベースユニット６２０ｂは、前ベース６２５と後ベース６２６とで協働して形成しており、下部満タン球経路ユニット６１０の下部球抜通路６１０ｃから放出された遊技球Ｂを受取って正面視右方へ誘導する球抜誘導部６２７と、球抜誘導部６２７の下流側で正面視右方において上方へ開口しており遊技盤５から下方に排出された遊技球Ｂを受ける排出球受部６２８と、球抜誘導部６２７及び排出球受部６２８を通った遊技球Ｂを下方へ排出する球排出口６２９と、を備えている。

【０７９９】

球抜誘導部６２７は、上流端が正面視において左側面の上部に左方へ向けて開口しており、下流端が排出球受部６２８の左端側に開口している。球抜誘導部６２７は、本体枠４に組立てた状態で、上流端の開口が、下部満タン球経路ユニット６１０の下部球抜通路６

１０ｃの下流端開口と一致するように対向しており、下部球抜通路６１０ｃから放出された遊技球Ｂを受取って、排出球受部６２８へ誘導することができる。
【０８００】
排出球受部６２８は、上方へ開放されていると共に、左右に長く延びている。排出球受部６２８の底面は、正面視左端が球抜誘導部６２７の底面と連続しており、右方へ向かうに従って低くなるように傾斜している。
【０８０１】
ベースユニット６２０ｂは、球タンク５５２から抜かれた遊技球Ｂや、遊技盤５から排出された遊技球Ｂを、球抜誘導部６２７や排出球受部６２８によって正面視右方へ誘導した後に、球排出口６２９から下方へ排出するようにしているため、正面視において左右方向中央より左側の空間を広く確保し易くすることができる。これにより、スピーカユニット６２０ａのエンクロージャ６２４の空間を広くすることができ、従来のパチンコ機よりも豊かな低音を有したサウンドを遊技者に聴かせることができる。
【０８０２】
基板ユニット６２０の電源ユニット６２０ｃは、ベースユニット６２０ｂの後ベース６２６の後側に取付けられている電源基板６３０と、電源基板６３０の後側を覆うように後ベース６２６に取付けられている電源基板カバー６３１と、を備えている。
【０８０３】
払出制御ユニット６２０ｄは、電源ユニット６２０ｃにおける電源基板カバー６３１の後側に着脱可能に取付けられる箱状の払出制御基板ボックス６３２と、払出制御基板ボックス６３２内に収容されている払出制御基板６３３（図９６を参照）と、を備えている。払出制御基板６３３は、皿ユニット２００における球貸操作ユニット２２０の球貸ボタン２２４の押圧操作や、遊技盤５の主制御基板１３１０等からの払出コマンドに応じて、払出装置５８０の払出モータ５８４を制御して、指示された数の遊技球Ｂを遊技者側（上皿２０１又は下皿２０２）に払出すためのものである。払出制御基板ボックス６３２は、開閉の痕跡が残るように形成されている。これにより、払出制御基板６３３に対する不正な改造を察知することができ、不正行為に対する抑止力を高めている。
【０８０４】
インターフェイスユニット６２０ｅは、スピーカユニット６２０ａにおけるスピーカボックス６２３の後側に取付けられている基板ベース６３４と、基板ベース６３４の後面に取付けられているインターフェイス基板６３５と、インターフェイス基板６３５の後側を覆うように基板ベース６３４に取付けられているインターフェイス基板カバー６３６と、を備えている。
【０８０５】
基板ベース６３４は、スピーカボックス６２３の後面における本体枠スピーカ６２２の後方となる後方へ最も突出している部位に取付けられている。インターフェイス基板６３５は、接続ケーブル５０３の一方（本体枠４側）の端部が接続されている。インターフェイス基板６３５は、電源基板６３０、払出制御基板６３３、主制御基板１３１０、周辺制御基板１５１０、等が接続されると共に、パチンコ機１の外部に設置されているＣＲユニットと接続される。インターフェイス基板カバー６３６は、払出制御ユニット６２０ｄの一部を覆うように基板ベース６３４（インターフェイス基板６３５）よりも正面視右方へ延出している。
【０８０６】
［４－９．裏カバー］
本体枠４における裏カバー６４０について、主に図７５乃至図８１を参照して詳細に説明する。裏カバー６４０は、本体枠ベースユニット５００の本体枠ベース５０１の遊技盤挿入口５０１ｂ内に前方から挿入されて取付けられた遊技盤５の後側を覆うものである。裏カバー６４０は、正面視における右辺が、本体枠ベース５０１の後方延出部５０１ｊの上下に延びている後端に、上下に延びた軸周りに回転可能に取付けられ、左辺が、払出ベース５５１の裏カバー取付部５５１ｉと上部満タン球経路ユニット６００の裏カバー取付

部６０１ａとに取付けられる。
【０８０７】
裏カバー６４０は、上下左右に延びた平板の正面視右辺側が前方へ折り曲げられたような形状に形成されており、本体枠４に組立てた状態で、後面が払出ベース５５１の背板上部５５１ｄの後面と略同一面上に位置するように形成されている。裏カバー６４０は、前後に貫通し上下に延びている複数のスリット６４１が形成されている。本実施形態では、裏カバー６４０は、透明な合成樹脂によって形成されており、パチンコ機１の後側から本体枠４内を視認することができる。
【０８０８】
［４－１０．施錠ユニット］
本体枠４における施錠ユニット６５０について、主に図９７を参照して詳細に説明する。図９７（ａ）は本体枠の施錠ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は施錠ユニットを後ろから見た斜視図である。施錠ユニット６５０は、本体枠４の本体枠ベース５０１に取付けられ、本体枠４と扉枠３、本体枠４と外枠２、との間を施錠するものである。
【０８０９】
施錠ユニット６５０は、本体枠ベース５０１の後方延出部５０１ｊの右側面に取付けられ上下に延びているユニットベース６５１と、ユニットベース６５１から前方へ突出しており扉枠３と係止可能な複数の扉枠用鉤６５２と、ユニットベース６５１から後方へ突出しており外枠２と係止可能な複数の外枠用鉤６５３と、ユニットベース６５１の前端下部から前方へ突出しており回転方向によって扉枠用鉤６５２又は外枠用鉤６５３を上下方向へ移動させる伝達シリンダ６５４と、を備えている。
【０８１０】
また、施錠ユニット６５０は、扉枠用鉤６５２を下方へ付勢していると共に外枠用鉤６５３を上方へ付勢している錠バネ６５５と、ユニットベース６５１の前端における伝達シリンダ６５４よりも上方の位置から前方へ突出しており下方へスライドさせることで、外枠用鉤６５３を下方へ移動させる外枠用開錠レバー６５６と、を備えている。
【０８１１】
施錠ユニット６５０は、本体枠４に組立てた状態で、複数（三つ）の扉枠用鉤６５２、伝達シリンダ６５４、及び外枠用開錠レバー６５６が、本体枠ベース５０１の前面よりも前方へ突出している。伝達シリンダ６５４は、本体枠ベース５０１のシリンダ挿通口５０１ｆを通って前方へ突出し、本体枠４に対して扉枠３を閉じた状態とすることで、前端が扉枠３のシリンダ錠１３０の回転伝達部材１３３と係合し、鍵穴１３２に挿入された鍵の回転が伝達されて回転する。
【０８１２】
施錠ユニット６５０は、複数（三つ）の扉枠用鉤６５２が、扉枠３の扉枠ベースユニット１００における扉枠補強ユニット１１０の鉤掛部材１１６に係止され、複数（二つ）の外枠用鉤６５３が、外枠２における外枠右組立体２０の上鉤掛部材２４と下鉤掛部材２５とに係止される。
【０８１３】
施錠ユニット６５０は、パチンコ機１に組立てた状態で、シリンダ錠１３０の鍵穴１３２に対応している鍵を差し込んで、正面視反時計回りの方向へ回転させると、伝達シリンダ６５４を介して複数の扉枠用鉤６５２が上方へ移動し、本体枠４に対して扉枠３が開錠される。一方、鍵を正面視時計回りの方向へ回転させると、伝達シリンダ６５４を介して複数の外枠用鉤６５３が下方へ移動し、外枠２に対して本体枠４が開錠される。本体枠４に対して扉枠３を開いた状態では、外枠用開錠レバー６５６を下方へスライドさせると、複数の外枠用鉤６５３が下方へ移動し、外枠２に対して本体枠４が開錠される。このようにして、本体枠４と扉枠３との間や、本体枠４と外枠２との間の施錠を、開錠することができる。
【０８１４】
本体枠４と扉枠３との間や、本体枠４と外枠２との間を施錠する場合は、扉枠用鉤６５

２及び外枠用鉤６５３の先端側が細くなるように傾斜しているため、本体枠４に対して扉枠３を閉じたり、外枠２に対して本体枠４を閉じたりすると、扉枠用鉤６５２や外枠用鉤６５３が、鉤掛部材１１６や上鉤掛部材２４及び下鉤掛部材２５を乗り越えるように下方や上方へ移動した後に、錠バネ６５５の付勢力によって施錠状態となる。

【０８１５】

［４－１１．本体枠上部の詳細な構成］

続いて、本体枠４の上部の詳細な構成について、主に図９８乃至図１０５を参照して詳細に説明する。図９８（ａ）は本体枠の平面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるＢ－Ｂ線で切断した断面図である。図９９は、本体枠を後ろから見た斜視図において上部を拡大して示す拡大図である。図１００（ａ）は球タンクにタンクレール等を組立てた状態で前上から見た斜視図であり、（ｂ）は（ａ）を前下から見た斜視図である。図１０１は、図１００（ａ）を分解して前から見た分解斜視図である。図１０２は、本体枠上部における球タンクから溢れた遊技球が流通する領域を示す説明図である。図１０３は、本体枠上部における球タンクから溢れた遊技球の流れを示す説明図である。図１０４は、本体枠上部における迂回通路への遊技球の流れを示す説明図である。図１０５は、本体枠をヒンジ側の後ろから見た斜視図においてタンクレール付近を拡大して示す拡大図である。

【０８１６】

本体枠４は、上述したように、後部が外枠２の枠内に挿入可能とされると共に本体枠上ヒンジ部材５１０及び本体枠下ヒンジ組立体５２０により外枠２に対して着脱可能且つヒンジ回転可能に取付けられ遊技盤５の外周を支持可能とされた枠状の本体枠ベース５０１と、本体枠ベース５０１の後側における正面視上辺及び左辺に沿って取付けられている逆Ｌ字状の払出ベース５５１と、払出ベース５５１に取付けられており左右に延びた箱状（容器状）で上方へ開放されている球タンク５５２と、球タンク５５２の左側に取付けられており上方へ開放された溝状に左方へ延びているタンクレール５５３と、タンクレール５５３の上端の一部に取付けられている第一レールカバー５５４と、第一レールカバー５５４から正面視左方に離間してタンクレール５５３の上端に取付けられている第二レールカバー５５５と、第一レールカバー５５４と第二レールカバー５５５の間の位置でタンクレール５５３の上端に取付けられている球整流部材５５６と、タンクレール５５３の下流側端に取付けられている球止部材５５７と、払出ベース５５１の後側でタンクレール５５３の下流側に取付けられており遊技者側へ遊技球Ｂを払出すための払出装置５８０と、を備えている。

【０８１７】

球タンク５５２は、平面視の形状が左右方向へ延びた四角形に形成されており正面視において左側が低くなるように傾斜している底壁５５２ａと、底壁５５２ａの前辺及び後辺から夫々上方へ延びている前壁５５２ｂ及び後壁５５２ｃと、底壁５５２ａの左右両辺から夫々上方へ延びている左側壁５５２ｄ及び右側壁５５２ｅと、を有し、上側が開放されている容器状に形成されている。球タンク５５２には、パチンコ機１が設置される遊技ホール等の島設備から供給される遊技球Ｂが貯留される。

【０８１８】

また、球タンク５５２は、前壁５５２ｂにおいて上方から切欠いて残りの外周上端縁よりも低く形成されている越流部５５２ｆを有している。この越流部５５２ｆは、前壁５５２ｂにおける左側壁５５２ｄの端部側から反対側（右側壁５５２ｅ側）の端部へ向かって、前壁５５２ｂの左右方向の長さの約３／４の長さに亘って形成されている。

【０８１９】

タンクレール５５３は、正面視において右端側（上流側）が球タンク５５２の内部と連通していると共に、球タンク５５２から遠ざかるように下流側が左右方向の一方側（左方側）へ延びている。タンクレール５５３は、底部において上流付近から下流端まで延びており遊技球Ｂの流通方向に直交する幅方向が遊技球Ｂを一つのみ流通可能に形成されている樋状の主誘導部５５３ａを有している。主誘導部５５３ａは、正面視左方へ向かうほど低くなるように傾斜している。また、主誘導部５５３ａは、平面視において、右端側から

左方へ左右方向に延びた軸線に対して平行に右端から左右方向の全長の約１／１０の位置まで延びた後に、左方へ向かうに従って後方へ移動するように右端から左右方向の全長の約４／１０の位置まで斜めに延び、そこから左右方向に延びた軸線に対して平行に左端まで延びたクランク状に形成されている。タンクレール５５３は、主誘導部５５３ａにおいて、左端から右方へ左右方向に延びた軸線に対して平行に延びている部位が、同じ幅で上端まで延びており、この部位の上端に第一レールカバー５５４、第二レールカバー５５５、及び球整流部材５５６が取付けられることで上側が閉鎖される。また、タンクレール５５３は、上側が閉鎖される部位において、遊技球Ｂが流通する流路の高さが下流端（左端）へ向かうに従って低くなるように形成されており、下流端では遊技球Ｂが一つのみ流通可能な高さ（遊技球Ｂの外径よりも若干高い高さ）に形成されている。

【０８２０】

また、タンクレール５５３は、主誘導部５５３ａよりも上方で上流端から上側が閉鎖される部位まで延びており、遊技球Ｂの流通方向に直交する幅方向へ遊技球Ｂが複数並ぶように主誘導部５５３ａの幅よりも広く膨出していると共に上流端から下流側へ向かって幅方向が狭くなって主誘導部５５３ａの幅と一致するように変化している膨出部５５３ｂを有している。この膨出部５５３ｂによって、上流側では幅方向に広がっていた複数の遊技球Ｂを、下流側へ向かうに従って、幅方向を遊技球Ｂ一つ分の幅となるように整列させることができる。また、膨出部５５３ｂは、上端側から下方の主誘導部５５３ａへ向かうに従って幅方向が狭くなるように形成されている。このようなことから、タンクレール５５３は、膨出部５５３ｂを流通している複数の遊技球Ｂを、下流側及び下方側へ向かうに従って、幅方向が一列となるように整列させることができる。

【０８２１】

タンクレール５５３の膨出部５５３ｂは、曲率の中心が内部側に配置されており、三次元的に湾曲した形状に形成されている。膨出部５５３ｂは、湾曲している曲率の中心が、主誘導部５５３ａよりも上方に配置されているため、タンクレール５５３では、主誘導部５５３ａと膨出部５５３ｂとの境に、わずかに面取りされた角が形成されている。また、膨出部５５３ｂは、上流側よりも下流側の方が、湾曲している曲率が大きく形成されている。このようなことから、三次元的に湾曲している膨出部５５３ｂを流通する遊技球Ｂでは、当接する膨出部５５３ｂの位置によって、膨出部５５３ｂ側からの反力が作用する向きが様々に方向へ変化することとなり、膨出部５５３ｂ内において球ガミの発生を抑制させることができる。詳述すると、膨出部５５３ｂを一定に延びている形状に形成した場合、膨出部５５３ｂ内を流通する遊技球Ｂには、膨出部５５３ｂの内面から常に一定の方向へ反力が作用することとなり、反力が分散し難くなるため、内部の遊技球Ｂが常に一定の方向へ押されることで、遊技球Ｂが逃げ難くなり、球詰り（球ガミ）が発生し易くなる。これに対して、膨出部５５３ｂを三次元的な湾曲面としていることから、遊技球Ｂの位置によって膨出部５５３ｂの内面から作用する反力の向きが区々となるため、内部を流通する複数の遊技球Ｂの押される方向が分散されることで、押された遊技球Ｂを逃げ易くすることができ、球詰り（球ガミ）を発生し難くすることができる。

【０８２２】

また、タンクレール５５３は、透明な素材により形成されており、外側から内部を視認することができるように構成されている。これにより、仮に、タンクレール５５３内において球詰り（球ガミ）が発生しても、外側からタンクレール５５３内の遊技球Ｂの状態を見ることができるため、球詰りしている場所を素早く特定することができる。従って、タンクレール５５３内での球詰りを、素早く解消させることができるため、球詰りの発生による遊技の中断を可及的に短くすることができ、遊技の中断による遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。また、タンクレール５５３を透明にしていることから、後方からタンクレール５５３を通して本体枠４に取付けられている遊技盤５の後側（裏ユニット３０００）を視認することができるため、遊技盤５の可動演出ユニット等において可動の不具合が発生した時に、遊技盤５を本体枠４に取付けたままの状態で、駆動モータやギアやベルト等の伝達機構の状況を確認することができ、上記と同様の作用効果

を奏することができる。
【０８２３】
本体枠４は、球タンク５５２の前側に備えられ、前後方向へ延びていると共に左右方向におけるタンクレール５５３の下流側と同じ側（正面視において左側）が球タンク５５２の左側壁５５２ｄよりも外方（左方）へ延びており、球タンク５５２から前方へ溢れた遊技球Ｂを球タンク５５２へ戻すために後端側が越流部５５２ｆと同じ高さで前端側が高くなるように傾斜している越流面部５０１ｍと、越流面部５０１ｍの後端における球タンク５５２の左側壁５５２ｄの外側からタンクレール５５３における上側が開放されている膨出部５５３ｂの上方まで後方へ延び、後端側が低くなるように傾斜していると共に、左右方向において球タンク５５２から遠ざかっている側（左側）が低くなるように傾斜しており、球タンク５５２から越流面部５０１ｍに溢れた遊技球Ｂの一部を誘導する迂回通路５５２ｇと、を備えている。
【０８２４】
また、本体枠４は、迂回通路５５２ｇの左右方向両外側のうち球タンク５５２の左側壁５５２ｄとは反対側に備えられており、左右方向の間隔が遊技球Ｂの外径よりも広く、底面の高さがタンクレール５５３における上側が開放されている部位よりも低い排出部５５１ｊと、排出部５５１ｊを間にして迂回通路５５２ｇとは反対側で、越流面部５０１ｍよりも低い位置に備えられており、後方から電気配線を接続可能とされている複数の電線接続端子５５８ａを有した外部端子板５５８と、複数の電線接続端子５５８ａ（外部端子板５５８）の上側を覆い、上面が越流面部５０１ｍよりも高い位置で水平に延びている端子カバー５５１ｋと、を備えている。
【０８２５】
越流面部５０１ｍは、本体枠ベース５０１に形成されている。越流面部５０１ｍは、正面視の形状が上下に延びた長方形に形成されているベース本体５０１ａの後面における上辺から遊技球Ｂの外径の２倍～４倍の距離低い位置から後方へ平板状に延出している。越流面部５０１ｍは、左右方向の長さが、本体枠ベース５０１の左右方向の長さの約１／３の長さに形成されており、正面視における左端が、本体枠ベース５０１の左端から左右方向の全長の１／３よりも右方に位置している。越流面部５０１ｍは、前端から後端までの高さが、遊技球Ｂの外径の約１／２の高さに形成されている。この越流面部５０１ｍは、本体枠４を外枠２に対して閉じた状態で、外枠上部材３０との間に、遊技球Ｂの外径の約２倍の距離の隙間が形成される。
【０８２６】
本体枠ベース５０１は、越流面部５０１ｍの左右両側に配置されており、越流面部５０１ｍの前端と同じ高さで略水平に延びている平板状の左段部５０１ｎ及び右段部５０１ｏと、左段部５０１ｎ及び右段部５０１ｏの夫々の左右方向両外側において左段部５０１ｎ及び右段部５０１ｏよりも上端が高く前後方向へ帯板状に延びており、左右方向へ遊技球Ｂの外径よりも狭い間隔で列設されている複数のリブ５０１ｐと、を有している。左段部５０１ｎは、前後方向の長さに対して、左右方向の長さが短く形成されている。また、左段部５０１ｎは、水平面に対して、正面視において後端右隅が僅かに低くなるように傾斜している。右段部５０１ｏは、前後方向の長さに対して、左右方向の長さが長く形成されている。また、右段部５０１ｏは、水平面に対して、正面視において後端左隅が僅かに低くなるように傾斜している。
【０８２７】
本体枠ベース５０１の複数のリブ５０１ｐは、端子カバー５５１ｋの上面よりも高く形成されており、本体枠４を外枠２に対して閉じた状態では、外枠２の外枠上部材３０の下面との間の隙間が、遊技球Ｂの外径よりも狭くなる高さに形成されている。
【０８２８】
本体枠ベース５０１は、本体枠４に組立てた状態で、正面視において、越流面部５０１ｍの右端が球タンク５５２における越流部５５２ｆの右端と左右方向が一致していると共に、越流面部５０１ｍの左端が迂回通路５５２ｇの左端と左右方向が度一致しており、右

段部５０１ｏの右端が球タンク５５２の右側壁５５２ｅと左右方向が一致している。

【０８２９】

迂回通路５５２ｇは、球タンク５５２と一体に形成されている。なお、以下では、底壁５５２ａ、前壁５５２ｂ、後壁５５２ｃ、左側壁５５２ｄ、及び右側壁５５２ｅで囲まれた容器状の領域を、単に球タンク５５２とも称する。迂回通路５５２ｇは、球タンク５５２の左側壁５５２ｄの外側から左方へ平板状に延出しており前端が越流部５５２ｆと同じ高さで後端が低くなるように傾斜している通路面５５２ｈと、通路面５５２ｈにおける左側壁５５２ｄとは反対側の端辺から上方へ左側壁５５２ｄと同じ高さまで延出している堰部と、を有している。迂回通路５５２ｇの通路面５５２ｈの後端辺は、正面視において後端辺の左端側（堰部５５２ｉ側）が、球タンク５５２の後壁５５２ｃと同じ位置まで後方に延びており、その左端側から右端側へ向かうに従って前方へ移動するように斜めに延びている。なお、迂回通路５５２ｇの通路面５５２ｈは、左右方向の傾斜を水平にしてもよい。

【０８３０】

迂回通路５５２ｇは、本体枠４に組立てた状態で、後端が、左右方向へクランク状に延びているタンクレール５５３において、左右方向に対して斜めに延びている部位の前端側と沿うように延びている。つまり、迂回通路５５２ｇの後端は、左右方向に対して斜めに延びている。これにより、迂回通路５５２ｇにより後方へ誘導された遊技球Ｂは、斜めになっている後端より、その流通方向が斜めの後端に対して垂直方向となるように変化することとなる。迂回通路５５２ｇの斜めに延びている後端は、タンクレール５５３の斜めに延びている部位と、略平行（タンクレール５５３内における遊技球Ｂの流通方向）に延びている。従って、迂回通路５５２ｇの後端からは、タンクレール５５３の流通方向（幅方向）に対して略垂直な方向へ遊技球Ｂが放出されるため、タンクレール５５３で幅の広い部位で迂回通路５５２ｇからの遊技球Ｂを受けることができる。また、迂回通路５５２ｇからタンクレール５５３内へは、遊技球Ｂの流通方向に対して略垂直方向（直角方向）に遊技球Ｂが供給されるため、迂回通路５５２ｇからの遊技球Ｂによるタンクレール５５３内での球詰りを発生し難くすることができる。

【０８３１】

迂回通路５５２ｇは、後端が、タンクレール５５３の下流側へ向かうに従って後方へ移動するように、左右方向に対して斜めに延びているため、迂回通路５５２ｇからタンクレール５５３側へ遊技球Ｂが放出される際に、斜めに延びている後端により、遊技球Ｂを、タンクレール５５３の幅が狭くなっている下流側よりも幅の広くなっている上流側へ放出することができ、幅の広い部位に放出することでタンクレール５５３内での球ガミの発生を抑制することができる。

【０８３２】

また、迂回通路５５２ｇにより遊技球Ｂを誘導する部位は、タンクレール５５３において、球タンク５５２の左側壁５５２ｄの後部と後壁５５２ｃの正面視左部の外側に該当している。この部位には、球タンク５５２内から、球タンク５５２の案内面部５５２ｊの下側（開口部５５２ｋの天井側）を潜った遊技球Ｂが流通する。このようなことから、タンクレール５５３における迂回通路５５２ｇの後方となる部位では、上下方向に積み重なった複数の遊技球Ｂの高さが、開口部５５２ｋの天井の高さ（タンクレール５５３の壁の高さ）を越えることはない。従って、タンクレール５５３における球タンク５５２の下流側、つまり、迂回通路５５２ｇの後端側において、上側へ遊技球Ｂを積み重ねることが可能なスペース（空き）を確保することができるため、迂回通路５５２ｇにより後方へ誘導された遊技球Ｂを、タンクレール５５３において確実に受取ることができ、タンクレール５５３から遊技球Ｂが後方へこぼれることはない。

【０８３３】

球タンク５５２は、前壁５５２ｂ、後壁５５２ｃ、及び左側壁５５２ｄに囲まれた内側において、左側壁５５２ｄにおける越流部５５２ｆよりも若干低い位置から右方へ低くなるように延びている平板状の案内面部５５２ｊを有している。案内面部５５２ｊは、前後

方向が前壁５５２ｂから後壁５５２ｃまで延びている。また、案内面部５５２ｊは、正面視において右端辺が、前壁５５２ｂにおける左端から前壁５５２ｂの左右方向の全長の約１／３の位置から、前壁５５２ｂにおける左端から前壁５５２ｂの左右方向の全長の約１／９で前壁５５２ｂから左側壁５５２ｄの前後方向の全長の約１／２付近の位置まで後方へ斜めに延びた後に、左側壁５５２ｄと平行に後壁５５２ｃの近傍まで延び、そこから後壁５５２ｃに平行に前後方向が一定の幅で後壁５５２ｃの左端から後壁５５２ｃの左右方向の全長の約１／３の位置まで延びた形状に形成されている。

【０８３４】

球タンク５５２には、平面視において、上記のような形状に形成されている案内面部５５２ｊの右端辺と、当該右端辺の前壁５５２ｂ側の端と後壁５５２ｃ側の端とを結んだ直線とで囲まれた領域が、上下方向に貫通するように形成された開口部５５２ｋを有している。また、球タンク５５２は、右側壁５５２ｅの前端側と迂回通路５５２ｇの堰部５５２ｉの前端側に、夫々前壁５５２ｂと同一面上で左右方向外方及び上下方向に延びている平板状のフランジ部５５２ｌを有している。球タンク５５２は、前壁５５２ｂにおける越流部５５２ｆを除いた部位の上端縁と、二つのフランジ部５５２ｌの上端縁の高さが、左側壁５５２ｄや後壁５５２ｃの上端縁（本体枠ベース５０１の左段部５０１ｎ及び右段部５０１ｏの上面）よりも高く形成されている。

【０８３５】

球タンク５５２とタンクレール５５３は、互いに組立てた状態では、球タンク５５２の開口部５５２ｋに、タンクレール５５３の上流端（正面視において右端）が接続されている。また、平面視においてクランク状に左右方向へ延びているタンクレール５５３の斜めに延びている部位とその左側の左右方向へ真直ぐに延びている部位とは、球タンク５５２よりも後方に位置（突出）している。そして、球タンク５５２の左側壁５５２ｄの左側の迂回通路５５２ｇの後端辺は、クランク状に左右方向へ延びているタンクレール５５３の斜めに延びている部位の前端に位置している。

【０８３６】

排出部５５１ｊは、払出ベース５５１の上面に形成されている。排出部５５１ｊは、本体枠４に組立てた状態で、迂回通路５５２ｇよりも低い高さから球タンク５５２の底壁５５２ａと同じ高さまで後方へ向かって階段状に低くなるように、球タンク５５２における正面視左側のフランジ部５５２ｌの後側からタンクレール５５３まで後方へ延びた後に、タンクレール５５３に沿って左方へタンクレール５５３の上端よりも高くなる位置（第二レールカバー５５５の左右方向中央付近の位置）まで延びた上で、後方へ向かって延びている。

【０８３７】

外部端子板５５８は、後面に複数の電線接続端子５５８ａが左右方向へ並んだ状態で取付けられている。この電線接続端子５５８ａは、レバーの操作により把持部が開いて電気配線の先端を把持することができワンタッチターミナルである。外部端子板５５８は、本体枠４に組立てた状態で、タンクレール５５３における上側が第一レールカバー５５４、第二レールカバー５５５、及び球整流部材５５６により閉鎖される部位の前方に配置されている。外部端子板５５８（複数の電線接続端子５５８ａ）の上側を覆う端子カバー５５１ｋは、払出ベース５５１の上面に形成されている。端子カバー５５１ｋの上面は、球タンク５５２におけるフランジ部５５２ｌの上端と略同じ高さに形成されている。

【０８３８】

次に、パチンコ機１における本体枠４の上部の作用効果について説明する。まず、越流面部５０１ｍ、左段部５０１ｎ、右段部５０１ｏ、及び迂回通路５５２ｇは、図１０２において白抜きの矢印で示すように、越流面部５０１ｍと迂回通路５５２ｇは後端側が低くなるように傾斜しており、左段部５０１ｎは後端右隅が、右段部５０１ｏは後端左隅が、夫々低くなるように傾斜している。また、球タンク５５２の底壁５５２ａ及びタンクレール５５３（主誘導部５５３ａ）は、正面視において、夫々左端側が低くなるように傾斜している。また、球タンク５５２の案内面部５５２ｊは、底壁５５２ａとは逆方向の右端側

が低くなるように傾斜している。

【０８３９】

そして、島設備から供給されることで球タンク５５２内に貯留されている遊技球Ｂの量が増えてくると、まず初めに、外周上端縁のうち最も高さの低い越流部５５２ｆを越えて球タンク５５２の外側（前方）へ流出させることができ、球タンク５５２から溢れた遊技球Ｂを越流面部５０１ｍに逃すことができると共に、球タンク５５２から前方の越流面部５０１ｍへ流出させた遊技球Ｂを、越流面部５０１ｍの傾斜により球タンク５５２内へ戻すことができる（図１０３を参照）。従って、球タンク５５２内でのこれ以上の遊技球Ｂの増加を防止することができるため、球タンク５５２内において遊技球Ｂ同士が強く押し合うこと（球圧の増加）を抑制させることができ、球タンク５５２内において遊技球Ｂ同士の噛み合いによる詰り（所謂、球ガミ）の発生を防止することができる。

【０８４０】

また、迂回通路５５２ｇを備えていることから、図１０４に示すように、球タンク５５２から越流面部５０１ｍに溢れた遊技球Ｂを、迂回通路５５２ｇを介してタンクレール５５３へ送ることができる。これにより、越流面部５０１ｍに溜った遊技球Ｂにより球タンク５５２内の遊技球Ｂに後方への押圧力が強く作用することを回避させることができ、球タンク５５２内における遊技球Ｂの詰りを防止することができる。また、迂回通路５５２ｇを介して遊技球Ｂをタンクレール５５３へ送ることができるため、球タンク５５２や越流面部５０１ｍから溢れた遊技球Ｂが本体枠４の外側（後側）にこぼれるのを防止することができる。従って、本体枠４の外側にこぼれた遊技球Ｂが、外枠２と本体枠４との間に挟まれて本体枠４が開閉できなくなるような不具合の発生を回避させることができる。

【０８４１】

更に、球タンク５５２から越流面部５０１ｍに溢れた遊技球Ｂの一部を、迂回通路５５２ｇによりタンクレール５５３の下流側へ誘導することができると共に、球タンク５５２から遠ざかっている左側に沿った一定の位置から遊技球Ｂをタンクレール５５３へ送ることができるため、迂回通路５５２ｇによってタンクレール５５３へ送られた遊技球Ｂによる流れ（圧力）をタンクレール５５３の下流側へ向けさせることができ、タンクレール５５３内において遊技球Ｂ同士が強く押し合うのを抑制して遊技球Ｂが詰まるのを防止することができる。

【０８４２】

また、球タンク５５２の外周上端縁において、越流部５５２ｆ以外の残りの上端縁の高さを越流部５５２ｆよりも高くしていることから、球タンク５５２と迂回通路５５２ｇとの間の球タンク５５２における左右方向の一方側の左側壁５５２ｄの上端縁が、越流部５５２ｆ、つまり、越流面部５０１ｍの後端よりも高くなっている。これにより、球タンク５５２から越流部５５２ｆを越えて越流面部５０１ｍに溢れた上で、越流面部５０１ｍから迂回通路５５２ｇへ流通している遊技球Ｂが、球タンク５５２の一方側の左側壁５５２ｄにより遮られることで、迂回通路５５２ｇから球タンク５５２側へ戻ってしまうことを防止することができ、迂回通路５５２ｇ側の遊技球Ｂが球タンク５５２内の遊技球Ｂを押圧して球タンク５５２内において遊技球Ｂの詰りが発生することを防止することができる。

【０８４３】

更に、上述したように、球タンク５５２と迂回通路５５２ｇとの間の左側壁５５２ｄの上端縁が、越流面部５０１ｍの後端（迂回通路５５２ｇにおける遊技球Ｂが転動する通路面５５２ｈ）よりも高くなっているため、越流面部５０１ｍを介することなく遊技球Ｂが球タンク５５２から迂回通路５５２ｇへ溢れてしまうことを防止することができる。これにより、迂回通路５５２ｇに対して横（球タンク５５２）からの遊技球Ｂの流入を防止することができるため、迂回通路５５２ｇにおける遊技球Ｂの流れを、前端側の越流面部５０１ｍから後端側のタンクレール５５３へ向かう一定の方向の流れとすることができ、迂回通路５５２ｇからタンクレール５５３へ誘導される遊技球Ｂの圧力を一定方向とすることができる。従って、タンクレール５５３内において、遊技球Ｂにかかる圧力の向きがば

らばらとなることで遊技球Ｂ同士が押し合って噛み込んでしまうことを防止することができ、遊技球Ｂの詰りの発生を防止することができる。

【０８４４】

また、タンクレール５５３の底部に、下流端まで延びている主誘導部５５３ａを備えていることから、タンクレール５５３内の遊技球Ｂが主誘導部５５３ａに到達することで、左右方向へ一列に並んだ状態となるため、タンクレール５５３内の遊技球Ｂを整列させることができ、遊技球Ｂを下流側の払出装置５８０へ確実に誘導することができる。また、タンクレール５５３における上側が開放されている部位において、複数の遊技球Ｂが並ぶことが可能な幅の広い膨出部５５３ｂを備えているため、迂回通路５５２ｇの後端から放出された遊技球Ｂを確実に受けることができ、上述した作用効果を確実に奏することができる。

【０８４５】

また、タンクレール５５３の膨出部５５３ｂを、上流端から上側が閉鎖されている部位まで延びるようにすると共に、上流端から下流側へ向かって幅方向が狭くなって主誘導部５５３ａの幅と一致するように変化させるようにしているため、複数の遊技球Ｂが膨出部５５３ｂ内において下流側へ向かうに従って、それらが幅方向に対して一列となるように整列させられることができる。また、タンクレール５５３における上側が閉鎖されている部位を、遊技球Ｂが流通する流路の高さが下流端へ向かうに従って低くなるように形成しているため、上流側（球タンク５５２側）において高さ方向へ複数段に積み重なっていた複数の遊技球Ｂを、タンクレール５５３における上側が閉鎖されている部位を通って下流側へ流通させることで、高さ方向の段数を少なくして一列に整列させることができる。従って、タンクレール５５３により、複数の遊技球Ｂを、一列に整列させた状態で下流側（払出装置５８０側）へ誘導することができる。

【０８４６】

更に、越流面部５０１ｍ及び迂回通路５５２ｇを備えていることから、それらにおいて或る程度の数の遊技球Ｂを貯留することが可能となると共に、タンクレール５５３に膨出部５５３ｂを備えていることから、タンクレール５５３内の容積を大きくすることができるため、球タンク５５２と合わせてより多くの遊技球Ｂを貯留することができる。

【０８４７】

また、迂回通路５５２ｇ及び排出部５５１ｊを間にして球タンク５５２とは反対側に、電気配線が接続される複数の電線接続端子５５８ａを備えた外部端子板５５８と、複数の電線接続端子５５８ａ（外部端子板５５８）の上側を覆う端子カバー５５１ｋとを備えているため、島設備から遊技球Ｂが供給される球タンク５５２に対して、電線接続端子５５８ａ及び端子カバー５５１ｋを遠くすることができるため、島設備から供給された遊技球Ｂが、球タンク５５２や越流面部５０１ｍにおいて跳ねたり勢いよく供給されたりしても、電線接続端子５５８ａ等に到達（当接）し難くすることができ、遊技球Ｂの当接によりショートしたり電気配線が外れたりするような不具合が発生することはない。

【０８４８】

また、複数の電線接続端子５５８ａを後方へ向けると共に、端子カバー５５１ｋの上面を、越流面部５０１ｍよりも高くしているため、島設備から球タンク５５２に供給された遊技球Ｂが球タンク５５２や越流面部５０１ｍで跳ねても、端子カバー５５１ｋの上面に乗り難くすることができると共に、端子カバー５５１ｋの上面に遊技球Ｂが乗っても、後側から落下し難くすることができ上述したような不具合の発生を回避させ易くすることができる。

【０８４９】

更に、越流面部５０１ｍから球タンク５５２の案内面部５５２ｊに戻された遊技球Ｂは、案内面部５５２ｊの傾斜により球タンク５５２の上流側（図１０３において右方向）へ送られる。これにより、案内面部５５２ｊ上の遊技球Ｂが、球タンク５５２内の遊技球Ｂに対して下流方向へ押圧することを防止することができ、球タンク５５２内において遊技球Ｂの詰りが発生することを防止することができる。

【０８５０】
　また、島設備から球タンク５５２に供給された遊技球Ｂが、球タンク５５２や越流面部５０１ｍで跳ねて、越流面部５０１ｍの左右両側にある左段部５０１ｎや右段部５０１ｏに乗っても、図１０３に示すように、それらの傾斜により遊技球Ｂを越流面部５０１ｍや迂回通路５５２ｇへ誘導することができ、本体枠４の外側に遊技球Ｂがこぼれることで不具合が発生するのを防止することができる。
【０８５１】
　また、球タンク５５２からタンクレール５５３側へ遊技球Ｂが流通する際に、遊技球Ｂが案内面部５５２ｊの下側を通る構成としているため、案内面部５５２ｊによりタンクレール５５３において上側に積み重なる遊技球Ｂの量（高さ）を、案内面部５５２ｊの下面よりも高くならないように規制することができる。従って、タンクレール５５３における球タンク５５２（案内面部５５２ｊ）の下流側、つまり、迂回通路５５２ｇの後端側において、上側へ遊技球Ｂを積み重ねることが可能なスペース（空き）を確保することができ、迂回通路５５２ｇにより誘導された遊技球Ｂを確実に受取ることができる。
【０８５２】
　更に、複数の電線接続端子５５８ａ及び端子カバー５５１ｋを、タンクレール５５３における上側が閉鎖されている部位の前方に配置しているため、端子カバー５５１ｋから後方へ遊技球Ｂが落下しても、その遊技球Ｂがタンクレール５５３に受入られることはなく、当該遊技球Ｂがタンクレール５５３内の遊技球Ｂに影響を与えて不具合が発生することを防止することができる。
【０８５３】
［４－１２．タンクレール等の別の実施形態］
　続いて、本体枠４におけるタンクレール５５３等の別の実施形態について、主に図１０６乃至図１１０等を参照して詳細に説明する。図１０６は、別の実施形態のタンクレール等を備えたパチンコ機を後ろから見てタンクレールの部位を拡大して示す斜視図である。図１０７（ａ）は図１０６のタンクレール等を球タンクと共に組立てた状態で示す平面図であり、（ｂ）は（ａ）のタンクレール等を前から見た斜視図であり、（ｃ）は（ａ）のタンクレール等を後ろから見た斜視図である。図１０８（ａ）は図１０７のタンクレール等を分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は図１０７のタンクレール等を分解して後ろから見た分解斜視図である。図１０９は、図１０７（ａ）においてカ－カ線で切断したタンクレール等の断面図である。図１１０は、図１０７のタンクレール内での遊技球の流れを断面で示す説明図である。上記とは別の実施形態のタンクレール５５３Ａ等は、タンクレール５５３Ａの他に、第一レールカバー５５４Ａ、第二レールカバー５５５Ａ、及び球整流部材５５６Ａが、上記の実施形態のタンクレール５５３、第一レールカバー５５４、第二レールカバー５５５、及び球整流部材５５６とは異なっており、同様の構成については同一の符号を付して説明する。
【０８５４】
　本実施形態のタンクレール５５３Ａは、球タンク５５２に貯留されている遊技球Ｂを整流して、払出ユニット５６０の球誘導ユニット５７０へ受渡すものである。このタンクレール５５３Ａは、上方へ開放された溝状に左方へ延びている。タンクレール５５３Ａには、上端側を閉鎖するように第一レールカバー５５４Ａと、第一レールカバー５５４Ａの正面視左方に設けられている第二レールカバー５５５Ａと、第二レールカバー５５５Ａの上側に設けられている球整流部材５５６Ａとが取付けられていると共に、タンクレール５５３Ａの下流側端に遊技球Ｂの流通を阻止可能な球止部材５５７が取付けられている。
【０８５５】
　タンクレール５５３Ａは、図１０７（ａ）等に示すように、膨出部５５３ｂよりも下流側に、前後方向へ蛇行している蛇行部５５３ｃを有している。この蛇行部５５３ｃにより、遊技球Ｂの流通速度を抑制させることができる。第一レールカバー５５４Ａは、蛇行部５５３ｃよりも上流側（球タンク５５２側）に取付けられている。
【０８５６】

第二レールカバー５５５Ａは、タンクレール５５３Ａにおける開放されている上端側において、第一レールカバー５５４Ａから蛇行部５５３ｃを含んで下流端（正面視において左端）まで覆うように左右方向へ延びている。第二レールカバー５５５Ａは、タンクレール５５３Ａの上端を閉鎖する板状のカバー部５５５ａと、カバー部５５５ａにおける左右方向中央より上流側の前後両端から上方へ延出している一対の保護壁５５５ｂと、一対の保護壁５５５ｂ同士の間でカバー部５５５ａを貫通している開口部５５５ｃと、を有している。一対の保護壁５５５ｂは、タンクレール５５３Ａの蛇行部５５３ｃが設けられている部位では、蛇行部５５３ｃに倣って蛇行した形状に形成されている。開口部５５５ｃには、後述する球整流部材５５６Ａの整流片５５６ａが上方から貫通するように挿入される。

【０８５７】

球整流部材５５６Ａは、上流端側が前後に延び軸周りに回転可能に取付けられる。球整流部材５５６Ａは、第二レールカバー５５５Ａにおけるカバー部５５５ａよりも上側で、一対の保護壁５５５ｂの間に設けられ、第二レールカバー５５５Ａの開口部５５５ｃを貫通してタンクレール５５３Ａ内へ突出する平板状の整流片５５６ａを有している。この球整流部材５５６Ａは、タンクレール５５３Ａ内において複数段に積み重なった遊技球Ｂに対して上から当接することで、遊技球Ｂの段を崩して一列に整列させ易くしていると共に、最も上側の遊技球Ｂが下流側へ速く移動することを抑制してタンクレール５５３Ａの下流側において球噛みが発生することを防止するようにしている。

【０８５８】

本実施形態のタンクレール５５３Ａ等によれば、組立てた状態で、球整流部材５５６Ａが、第二レールカバー５５５Ａにおける一対の保護壁５５５ｂ同士の間で、保護壁５５５ｂの上端よりも下方に位置している。これにより、タンクレール５５３Ａにおける球整流部材５５６Ａが取付けられている部位の前上側に設けられている外部端子板５５８の電線接続端子５５８ａに接続されている電線（図１０６において破線で示す）が、球整流部材５５６Ａに対して上方から接触することを防止することができる。ところで、電線接続端子５５８ａに接続された電線が球整流部材５５６Ａに上から接触すると、その電線の重みによって、球整流部材５５６Ａの整流片５５６ａに遊技球Ｂが当接しても、球整流部材５５６Ａが上方へ回動することができなくなる恐れがあり、球整流部材５５６Ａによる遊技球Ｂの整流作用を十分に発揮させることができなくなる恐れがある。これに対して、本実施形態では、第二レールカバー５５５Ａの一対の保護壁５５５ｂにより、球整流部材５５６Ａに対して電線接続端子５５８ａに接続された電線の接触を防止することができるため、球整流部材５５６Ａの整流片５５６ａに遊技球Ｂが当接した時に、球整流部材５５６Ａが上方へ回動することができ、整流作用を十分に発揮させて、タンクレール５５３Ａ内での球噛みや球詰まりの発生を防止することができる。

【０８５９】

また、タンクレール５５３Ａに蛇行部５５３ｃを設けているため、蛇行部５５３ｃにより遊技球Ｂの流通速度を抑制させることができる。ところで、下流側へ向かって高さが狭くなるタンクレール５５３Ａ内において、複数段に積み重なった遊技球Ｂのうち、上側の遊技球Ｂが先に下流側へ移動すると、球噛みが発生し易くなる。これに対して、本実施形態では、上述したように、蛇行部５５３ｃによって遊技球Ｂの流通速度を抑制させることができるため、上側の遊技球Ｂが先に下流側へ移動してしまうことを抑制させることができ、球噛みの発生を低減させることができる。

【０８６０】

また、上述したように、第二レールカバー５５５Ａの保護壁５５５ｂによって球整流部材５５６Ａへの電線の当接を阻止して、球詰りの発生を防止することができるため、タンクレール５５３Ａを多くの電線が接続される端子板（例えば、外部端子板５５８）や制御基板の近くに配置したり、タンクレール５５３Ａの近くに多くの電線が接続される端子板や制御基板を配置したり、することができ、タンクレール５５３Ａ（球タンク５５２）や端子板等の配置自由度の高いパチンコ機１を提供することができる。

【０８６１】
［４－１３．基板ユニットの別の実施形態］
続いて、上記とは別の実施形態（第二実施形態）の基板ユニット６２０Ａについて、主に図１１１乃至図１１６等を参照して詳細に説明する。図１１１（ａ）は別の実施形態の基板ユニットの正面図であり、（ｂ）は（ａ）の基板ユニットを右前から見た斜視図であり、（ｃ）は（ａ）の基板ユニットを左前から見た斜視図である。図１１２（ａ）は図１１１（ａ）の基板ユニットを右上後ろから見た斜視図であり、（ｂ）は図１１１（ａ）の基板ユニットを右下後ろから見た斜視図である。図１１３は図１１１（ａ）の基板ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図１１４は図１１１（ａ）の基板ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図１１５（ａ）は図１１１（ａ）におけるキ－キ線で切断した断面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるク－ク線で切断した断面図であり、（ｃ）は（ａ）におけるケ－ケ線で切断した断面図である。図１１６は、図１１１（ａ）の基板ユニットを備えたパチンコ機において扉枠よりも後側の部位を示す底面図である。

【０８６２】
本実施形態の基板ユニット６２０Ａは、上記の基板ユニット６２０に換えて、本体枠ベースユニット５００の後面下部に取付けられるものである。本実施形態の基板ユニット６２０Ａでは、ベースユニット６６０の構成が、上記の基板ユニット６２０のベースユニット６２０ｂと大きく異なっている。ここでは、上記の基板ユニット６２０と同様の構成については、同じ符号を付し、詳細な説明は省略する。

【０８６３】
基板ユニット６２０Ａは、本体枠ベースユニット５００における本体枠ベース５０１の後面における遊技盤載置部５０１ｃよりも下側に取付けられるスピーカユニット６２０ａと、スピーカユニット６２０ａの一部を後方から覆うように本体枠ベース５０１の後面に取付けられるベースユニット６６０と、ベースユニット６６０の後側に取付けられている電源ユニット６２０ｃと、電源ユニット６２０ｃの後側に取付けられている払出制御ユニット６２０ｄと、払出制御ユニット６２０ｄの一部を後方から覆うようにスピーカユニット６２０ａの後面に取付けられているインターフェイスユニット６２０ｅと、を備えている。

【０８６４】
ベースユニット６６０は、スピーカボックス６２３の一部を後方から覆うように本体枠ベース５０１の後面に取付けられる前ベース６６１と、前ベース６６１の後側に取付けられており後面に電源ユニット６２０ｃが取付けられる後ベース６６２と、前ベース６６１と後ベース６６２との間に設けられており、遊技盤５から下方へ排出された遊技球Ｂが流通するアウト球通路６６３と、アウト球通路６６３を流通する遊技球Ｂを一つずつ検知するアウトセンサ６６４と、下部満タン球経路ユニット６１０の下部球抜通路６１０ｃから放出された遊技球Ｂを受取って正面視右方へ誘導する球抜誘導部６２７と、球抜誘導部６２７により誘導された遊技球Ｂが流通し、後ベース６６２におけるアウト球通路６６３よりも後方に設けられている球抜排出通路６６５と、球抜排出通路６６５の後側を閉鎖するように後ベース６６２に取付けられている通路壁部材６６６と、を備えている。

【０８６５】
前ベース６６１は、前方へ開放された左右に長い箱状に形成されている。後ベース６６２は、上下方向へ略一定の高さで左右に延びた平板状の区画壁部６６２ａを有しており、区画壁部６６２ａの前側にアウト球通路６６３及び球抜誘導部６２７が形成されていると共に、区画壁部６６２ａの後側に球抜排出通路６６５が形成されている。後ベース６６２は、区画壁部６６２ａよりも後側が、後方へ開放された箱状に形成されている。

【０８６６】
ベースユニット６６０は、前ベース６６１、後ベース６６２、及び通路壁部材６６６が、透明な部材により形成されている。従って、球抜誘導部６２７、アウト球通路６６３、及び球抜排出通路６６５も、透明に形成されている。従って、ベースユニット６６０の上

側や下側から、球抜誘導部６２７、アウト球通路６６３、及び球抜排出通路６６５、の内部を良好に視認することができ、球詰り等を確認し易くなっている。

【０８６７】

アウト球通路６６３は、後ベース６６２における上下方向へ略一定の高さで左右に延びた平板状の区画壁部６６２ａの前側に、前方が開放された状態で形成されており、開放されている前端が前ベース６６１により閉鎖されている。

【０８６８】

アウト球通路６６３は、パチンコ機１における左右方向の略中央の位置において上方へ開放されていると共に左右に延びている球排出受部６６３ａと、球排出受部６６３ａに受けられた遊技球Ｂを左右方向へ大きく蛇行させながら一列に整流するアウト球整流部６６３ｂと、アウト球整流部６６３ｂにより一列に整流された遊技球Ｂを下方へ誘導する下方誘導部６６３ｃと、下方誘導部６６３ｃの下端で下方へ向かって開口しており、ベースユニット６６０の下面から遊技球Ｂを下方へ排出するアウト球排出口６６３ｄと、を有している。アウト球通路６６３のアウト球排出口６６３ｄは、外枠２よりも後方に設けられている（図１１６を参照）。

【０８６９】

アウト球通路６６３の球排出受部６６３ａは、前後方向の奥行きが、遊技球Ｂの外径の約２．５倍に形成されている。球排出受部６６３ａは、右端側が低くなるように緩い角度で傾斜している。

【０８７０】

アウト球整流部６６３ｂは、球排出受部６６３ａの右端よりも右方の位置から球排出受部６６３ａの下方へ向かって左端側が低くなるように緩い角度で傾斜している。また、アウト球整流部６６３ｂは、下流側（左方）へ向かうに従って、前後方向の奥行きが狭くなり、球排出受部６６３ａの下方となる下流端付近では、遊技球Ｂの直径よりも若干大きい奥行となっている。また、アウト球整流部６６３ｂにおける球排出受部６６３ａの右端よりも左側となる部位は、下流側（左方）へ向かうに従って、上下の高さが低くなり、下流端付近では、遊技球Ｂの直径よりも若干大きい高さとなっている。これにより、アウト球整流部６６３ｂにおいて、遊技球Ｂを一列に整列させることができる。

【０８７１】

下方誘導部６６３ｃは、球排出受部６６３ａの下方となるアウト球整流部６６３ｂの下流端から下方へ延びており、上下方向の途中において、前壁が後壁（区画壁部）と同一面上になるように後方へ小さくクランク状に曲線的に屈曲している。これにより、下方誘導部６６３ｃの下流端（アウト球排出口６６３ｄ）は、後ベース６６２の区画壁部６６２ａの前面よりも後方に位置している。この下方誘導部６６３ｃにおけるクランクしている部位よりも上流側に、アウトセンサ６６４が設けられている。この下方誘導部６６３ｃは、クランク状に屈曲している部位が、水平方向へ延びた部分を有しないように曲線状に形成されているため、アウトセンサ６６４を通過してクランク状に屈曲している部位に遊技球Ｂが当接しても、上方のアウトセンサ６６４側へ跳ね上がることはなく、アウトセンサ６６４により一つの遊技球Ｂが２回検知されてしまうのを防止することができる。

【０８７２】

アウトセンサ６６４は、遊技球Ｂが頻繁に通過するため、耐久性が高く寿命の長い非接触タイプの電磁式の近接スイッチを用いている。

【０８７３】

球抜誘導部６２７は、アウト球通路６６３における球排出受部６６３ａよりも左方に設けられている。球抜誘導部６２７は、上流端が正面視において左側面の上部に左方へ向けて開口しており、下流側が後方へ屈曲し後ベース６６２の区画壁部６６２ａの後側まで延びた上で、球抜排出通路６６５の上流端に接続されている（図１１５（ａ）等を参照）。

【０８７４】

球抜排出通路６６５は、後ベース６６２における区画壁部６６２ａの後側に形成されている。球抜排出通路６６５は、後方へ開放された状態で後ベース６６２に形成されており

、後端側が通路壁部材６６６により閉鎖されている。この球抜排出通路６６５は、後端が、後ベース６６２の後端よりも遊技球Ｂの外径の一つ分ほど、前方に位置している。つまり、球抜排出通路６６５と後ベース６６２の後側に取付けられる電源ユニット６２０ｃの電源基板６３０との間には、遊技球Ｂ一つ分以上の隙間が形成されるようになっている。

【０８７５】

この球抜排出通路６６５は、上流端（左端）が球抜誘導部６２７の下流端と接続されており、アウト球通路６６３の球排出受部６６３ａと同じ傾斜で、球排出受部６６３ａよりも右方へ延びた横誘導部６６５ａと、横誘導部６６５ａの下流端（右端）から下方へ垂直に後ベース６６２の下面まで延びている縦誘導部６６５ｂと、縦誘導部６６５ｂの下流端（下端）において下方へ向かって開口している球抜排出口６６５ｃと、を有している。球抜排出口６６５ｃは、アウト球通路６６３のアウト球排出口６６３ｄよりも若干後方に設けられている（図１１６を参照）。

【０８７６】

また、球抜排出通路６６５は、縦誘導部６６５ｂの左右の内壁において、上下方向へ一定の間隔をあけて交互に内側へ突出している複数の突起６６５ｄを有している。球抜排出通路６６５は、垂直に下方へ延びている縦誘導部６６５ｂを流通する遊技球Ｂが、複数の突起６６５ｄに交互に当接することで、遊技球Ｂをジグザグ状に流下させてその流通速度の増加を抑制することができ、球抜排出口６６５ｃから下方へ排出される遊技球Ｂの速度を抑制することができる。

【０８７７】

この球抜排出通路６６５は、横誘導部６６５ａと縦誘導部６６５ｂとにより単純なＬ字状の通路としているため、球抜レバー５９３を操作して球タンク５５２内の遊技球Ｂを排出する時に、多くの遊技球Ｂをスムーズに誘導して排出することができる。

【０８７８】

この実施形態の基板ユニット６２０Ａによれば、遊技領域５ａ内に打込まれて遊技盤５から排出された遊技球Ｂを、アウト球通路６６３の球排出受部６６３ａで受取った上でアウトセンサ６６４により検知して遊技ホールの島設備側へ排出するようにしている。一方、球タンク５５２内等の遊技球Ｂを排出する（抜く）ために、払出装置５８０の球抜レバー５９３を操作して球抜通路５８０ｂ側へ排出された遊技球Ｂを、アウト球通路６６３とは分離独立した球抜誘導部６２７及び球抜排出通路６６５を通して、遊技ホールの島設備側へ排出するようにしている。これにより、遊技盤５から排出された遊技球Ｂのみを、アウト球通路６６３に設けられているアウトセンサ６６４により検知することができるため、遊技盤５から排出された遊技球Ｂのみを正確にカウントすることができる。従って、払出装置５８０の払出検知センサ５９１によりカウントされた遊技球Ｂ（セーフ球）の数と、アウトセンサ６６４によりカウントされた遊技球Ｂ（アウト球）の数とにより、正確な遊技球Ｂの払出率（出玉率）を算出することが可能なパチンコ機１とすることができる。

【０８７９】

アウトセンサ６６４によりカウントされる遊技球Ｂの数（アウト球数）は、遊技領域５ａ内に打込まれて一般入賞口２００１、第一始動口２００２、ゲート２００３、第二始動口２００４、大入賞口２００５、役物入賞口２００６、等の入賞口に受入れられて遊技盤５から排出された遊技球Ｂの数と、遊技領域５ａ内に打込まれた後に何れの入賞口に受入れられることなくアウト口１００８に受入れられて遊技盤５から排出された遊技球Ｂの数と、を足したものであり、遊技領域５ａ内に打込まれた遊技球Ｂの数（発射球数）のことである。

【０８８０】

なお、払出率（出玉率）は、遊技状態に応じて変化するため、所定期間（例えば、単位時間当り、所定時間当り、一日当たり、等）内の払出率として、「所定期間内の払出数÷所定期間内のアウト球数＝所定期間内の払出率」のように算出する。

【０８８１】

また、本実施形態によれば、遊技盤５が着脱可能に取付けられる本体枠４の基板ユニッ

ト６２０Ａに、遊技盤５から排出された遊技球Ｂが流通するアウト球通路６６３を設けると共に、アウト球通路６６３内を流通する遊技球Ｂをアウトセンサ６６４により検知するようにしており、遊技盤５から排出された遊技球Ｂを検知することができるため、遊技盤５に「アウト球」を検知するアウト球検知ユニットを設ける必要が無く、遊技盤５にかかる構成を簡略化してコストを低減させることができる。

【０８８２】

更に、本実施形態によれば、球抜排出通路６６５の後端と、後ベース６６２の後側に取付けられる電源ユニット６２０ｃの電源基板６３０との間に、遊技球Ｂの外径よりも大きい隙間を形成するようにしているため、アウト球通路６６３や球抜排出通路６６５が電源基板６３０や払出制御基板６３３等から遠ざかることとなり、アウト球通路６６３や球抜排出通路６６５を多くの遊技球Ｂが流通することで発生する静電気や誘導電流等による電気的なノイズによる電源基板６３０や払出制御基板６３３等への影響を少なくすることができ、遊技球Ｂの流通による誤作動の少ないパチンコ機１とすることができる。

【０８８３】

また、本実施形態によれば、アウト球通路６６３のアウト球整流部６６３ｂにより流通速度が抑制された遊技球Ｂを、アウトセンサ６６４により検知するようにしていることから、遊技球Ｂの流通によりアウトセンサ６６４にかかる衝撃を弱くすることができるため、アウトセンサ６６４が早期に消耗して破損してしまうことを低減させることができる。

【０８８４】

更に、所定時間当りのセーフ球数と所定時間当りのアウト球数とから算出した所定時間当りの払出率（出玉率）を、遊技者側から視認できるように表示するようにした場合、遊技者としては多くの遊技球Ｂの払出しを望むことから、表示されている払出率が大きいと、多くの遊技球Ｂが払出される可能性が高いパチンコ機１であると即座に認識することができ、遊技するパチンコ機１を選択させ易くすることができる。また、払出率を、遊技者側から視認可能に表示するようにした場合、遊技球Ｂが多く払出されるような不正行為を行うと、表示されている払出率が通常よりも大きくなることから、他の遊技者やパチンコ機１を設置している遊技ホールの係員等が、不正行為に気付き易くなるため、不正行為の実行を躊躇させることができ、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１とすることができる。

【０８８５】

また、セーフ球の数とアウト球の数とから算出した払出率を、遊技者側から視認不能な位置に表示するようにした場合、遊技ホールの係員等が見ることで、上記と同様の理由により不正行為を察知することができる。また、パチンコ機１をメンテナンス等する際に、表示されている払出率が通常の値よりも異なる場合は、パチンコ機１内（例えば、障害釘Ｎ、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３、中継基板、コネクタ、配線ケーブル、各種センサ、等）での不具合の可能性が考えられるため、不具合に対して早期に対応することが可能となり、遊技ホール側の負担を軽減させることができる。

【０８８６】

更に、遊技盤５から排出された遊技球Ｂが流通するアウト球通路６６３にアウトセンサ６６４を設けているため、遊技盤５に対して排出される遊技球Ｂを検知するための構成（例えば、アウト球検知ユニット）を設ける必要が無く、遊技盤５にかかるコストを低減させることができると共に、遊技盤５において、排出される遊技球Ｂを検知するための構成の分だけスペースを確保することが可能となり、確保したスペースに演出装置を設けるようにすることで、より遊技者を楽しませられるパチンコ機１（遊技盤５）とすることができる。

【０８８７】

また、球抜排出通路６６５に複数の突起６６５ｄが交互に突出している縦誘導部６６５ｂを有していることから、当該縦誘導部６６５ｂを遊技球Ｂが流通することで、遊技球Ｂの流通速度を抑制させることができるため、流通する遊技球Ｂの衝撃による球抜排出通路６６５内の破損や、球抜排出通路６６５から排出された遊技球Ｂを受取る遊技ホールの島

設備側の破損、等を防止することができる。
【０８８８】
　また、アウト球通路６６３に蛇行しているアウト球整流部６６３ｂを設けていると共に、球抜排出通路６６５に複数の突起６６５ｄが突出している縦誘導部６６５ｂを設けており、それらにより遊技球Ｂの流通速度を抑制することができることから、アウト球通路６６３内や球抜排出通路６６５内を流通する遊技球Ｂから放出される電気的なノイズを低減させることができるため、近くに設けられている電源基板６３０や払出制御基板６３３等への影響を少なくすることができ、遊技球Ｂの流通による誤作動の少ないパチンコ機１とすることができる。
【０８８９】
　また、アウト球通路６６３と球抜排出通路６６５の夫々のアウト球排出口６６３ｄと球抜排出口６６５ｃを、下方へ向けて開口させるようにしていることから、アウト球通路６６３や球抜排出通路６６５から遊技球Ｂが下方へ排出されることとなるため、島設備において遊技球Ｂが当該パチンコ機１の後方に設けられている他のパチンコ機や壁等に衝突し難くなり、他のパチンコ機や壁等が破損してしまうことを回避させることができる。また、アウト球通路６６３や球抜排出通路６６５から遊技球Ｂが下方へ排出されるため、排出された遊技球Ｂが飛び散り難くなり、島設備側においてアウト球通路６６３や球抜排出通路６６５から排出された遊技球Ｂの回収を容易なものとすることができる。
【０８９０】
　更に、本体枠４における遊技盤５が取付けられる部位の下方に、球抜排出通路６６５とアウト球通路６６３とが形成されたベースユニット６６０を設けるようにしていることから、遊技盤５において、遊技領域５ａ内に打込まれた遊技球Ｂを下方へ排出するだけで、ベースユニット６６０のアウト球通路６６３に受渡すことが可能となるため、遊技盤５における遊技球Ｂの排出にかかる構成を、単純（簡単）な構成とすることができ、遊技盤５にかかるコストを低減させることができる。
【０８９１】
　また、球抜排出通路６６５の球抜排出口６６５ｃやアウト球通路６６３のアウト球排出口６６３ｄを、外枠２よりも後方に設けていることから、球抜排出通路６６５やアウト球通路６６３から排出された遊技球Ｂが外枠２に衝突することを回避させることができるため、球抜排出通路６６５やアウト球通路６６３を勢い良く流通する遊技球Ｂが、外枠２に衝突することで外枠２が破損してしまうことを回避させることができ、破損し難いパチンコ機１を提供することができる。
【０８９２】
　また、球抜排出通路６６５の球抜排出口６６５ｃやアウト球通路６６３のアウト球排出口６６３ｄを、外枠２よりも後方に設けているため、島設備側の遊技球Ｂを回収する部位（アウト受部、バケツ、等）を外枠２に重なる位置まで前進させる必要が無く、パチンコ機１の設置の手間と、パチンコ機１の移動の手間とを軽減させることができる。
【０８９３】
［４－１３ａ．基板ユニットにおける球排出の別の実施形態］
　次に、上記の基板ユニット６２０Ａにおける球排出の別の実施形態について、図１１７及び図１１８等を参照して詳細に説明する。図１１７は、アウト球通路のアウト球排出口に誘導片を設けた例を示す説明図である。図１１８（ａ）はアウトセンサを着脱可能とした例を示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）においてアウトセンサを取外した状態を示す説明図である。
【０８９４】
　図１１７に示す実施形態は、ベースユニット６６０におけるアウト球通路６６３の下流端のアウト球排出口６６３ｄの部位に、遊技球Ｂを後側へ誘導する誘導片６６７を設けたものである。詳述すると、この実施形態では、アウト球通路６６３の下流端付近において、球抜排出通路６６５と合流する合流部６６３ｅを有している。合流部６６３ｅは下方へ開口しており、その開口端がアウト球排出口６６３ｄ（球抜排出口６６５ｃ）となってい

る。そして、誘導片６６７は、アウト球排出口６６３ｄにおける前側の壁から短く後方へ突出している。

【０８９５】

この図１１７の実施形態によれば、アウト球排出口６６３ｄから下方へ排出された遊技球Ｂが誘導片６６７に当接することで、遊技球Ｂの排出方向を斜め後下方へ向けさせることができる。これにより、本パチンコ機１を遊技ホールの島設備に設置した時に、島設備の前面よりも後側（島設備内）に設けられている遊技球Ｂを回収する部位（アウト受部、バケツ、等）側へ、遊技球Ｂを放出させ易くすることができ、島設備側において遊技球Ｂを確実に回収させることができる。

【０８９６】

また、図１１７に示す実施形態によれば、誘導片６６７により遊技球Ｂの放出方向を斜め後下方へ向けさせることができるため、アウト球通路６６３のアウト球排出口６６３ｄを、本体枠４に取付けられている遊技盤５の遊技領域５ａの直下に近い位置（島設備内における前側に近い位置）に設けても、遊技球Ｂを島設備内のバケツ等へ確実に受取らせることができる。従って、アウト球通路６６３（アウト球排出口６６３ｄ）を、可及的に前方の部位に配置することが可能となることから、本体枠４におけるアウト球通路６６３の後方のスペースを広くすることができるため、アウト球通路６６３が電源基板６３０や払出制御基板６３３等から遠ざかることで、アウト球通路６６３を多くの遊技球Ｂが流通することで発生する静電気や誘導電流等による電気的なノイズによる電源基板６３０や払出制御基板６３３等への影響を少なくすることができ、遊技球Ｂの流通による誤作動の少ないパチンコ機１とすることができる。

【０８９７】

続いて、図１１８に示す実施形態は、アウト球通路６６３におけるアウト球排出口６６３ｄの部位に、アウトセンサ６６４を下方から着脱可能としたものである。この実施形態では、アウト球通路６６３における下方誘導部６６３ｃの下流端に形成されアウトセンサ６６４を収容可能に下方へ開放されているセンサ取付凹部６６３ｆと、センサ取付凹部６６３ｆに収容されているアウトセンサ６６４の下方への移動を規制するセンサカバー６６８と、を備えている。

【０８９８】

センサ取付凹部６６３ｆは、ベースユニット６６０のアウト球通路６６３におけるアウト球整流部６６３ｂの下流端に接続されている下方誘導部６６３ｃの下端の部位に形成されている。本実施形態においても、ベースユニット６６０は透明な部材により形成されており、ベースユニット６６０の上側や下側から、アウト球通路６６３内を視認することができる。

【０８９９】

センサカバー６６８は、センサ取付凹部６６３ｆよりも長く延びており基端側がベースユニット６６０に回転可能に取付けられる本体部６６８ａと、本体部６６８ａにおけるセンサ取付凹部６６３ｆに収容されているアウトセンサ６６４の検知孔と一致する部位で遊技球Ｂが通過可能に貫通している貫通孔６６８ｂと、本体部６６８ａにおける基端側とは反対側に設けられており弾性変形可能な係止爪部６６８ｃと、を有している。

【０９００】

このセンサカバー６６８は、ベースユニット６６０におけるセンサ取付凹部６６３ｆに対してアウト球整流部６６３ｂとは反対の外側の部位に、基端側が回転可能に取付けられる。センサカバー６６８の係止爪部６６８ｃは、ベースユニット６６０におけるセンサ取付凹部６６３ｆに対してアウト球整流部６６３ｂ側の外側に設けられている係止部６６３ｇに係止される。

【０９０１】

センサカバー６６８は、アウトセンサ６６４の検知孔がアウト球通路６６３と一致するように、センサ取付凹部６６３ｆ内にアウトセンサ６６４を収容させた状態で、係止爪部６６８ｃが上方へ移動するように回転させて、係止爪部６６８ｃを係止部６６３ｇに係止

させて閉じることで、本体部６６８ａがアウトセンサ６６４の下面に当接し、アウトセンサ６６４の下方への移動を規制して、アウトセンサ６６４をベースユニット６６０に取付けることができる（図１１８（ａ）を参照）。この状態では、センサカバー６６８の貫通孔６６８ｂが、アウトセンサ６６４の検知孔と一致しており、アウト球通路６６３を流通した遊技球Ｂが、アウトセンサ６６４により検知された後に、貫通孔６６８ｂを通って下方へ排出される。このセンサカバー６６８の貫通孔６６８ｂは、アウト球通路６６３のアウト球排出口６６３ｄを兼ねている。

【０９０２】

アウトセンサ６６４を交換（取外す）場合は、センサカバー６６８の係止爪部６６８ｃを操作することで、係止爪部６６８ｃを弾性変形させて係止部６６３ｇとの係止を解除させる。そして、係止爪部６６８ｃが下方へ移動するように、センサカバー６６８を本体部６６８ａの基端側を中心にして回転させて開くことで、センサカバー６６８の本体部６６８ａがアウトセンサ６６４の下面から遠ざかり、アウトセンサ６６４をセンサ取付凹部６６３ｆから取外すことができる（図１１８（ｂ）を参照）。

【０９０３】

図１１８（ｂ）に示すように、本実施形態では、センサカバー６６８を回転させて開いた状態で、センサカバー６６８の下端と、二点鎖線で示す接触危惧物の上端（例えば、外枠２における外枠下組立体４０の上端面、幕板後部材４３の接続筒部４３ａの上端、等）との間、或いは、本体枠４の下端との間、にある程度の隙間ができるようになっている。これにより、センサカバー６６８が開いている状態で、本体枠４を外枠２に対して開閉させても、センサカバー６６８が接触危惧物に接触することはなく、センサカバー６６８の破損を防止することができる。

【０９０４】

図１１８に示す実施形態によれば、アウトセンサ６６４は、遊技盤５の遊技領域５ａ内に打込まれた全ての遊技球Ｂを検知するものであることから、多くの遊技球Ｂが流通することで早期に消耗して破損する虞があるが、上述したように、センサカバー６６８を開くことでアウトセンサ６６４を下方から着脱することができるため、アウトセンサ６６４の交換を容易に行うことができる。

【０９０５】

また、この実施形態によれば、センサカバー６６８が開いている状態で、本体枠４を外枠２に対して開閉させても、センサカバー６６８が外枠２等の接触危惧物に接触することはなく、センサカバー６６８の破損を防止することができる。詳述すると、センサカバー６６８はアウトセンサ６６４を下方から支持しているものであるが、アウトセンサ６６４には上方から多くの遊技球Ｂが接触することとなるため、多くの遊技球Ｂの接触による振動によってセンサカバー６６８の係止爪部６６８ｃが外れて、センサカバー６６８が開いてしまう恐れがある。遊技中にセンサカバー６６８が開いてアウトセンサ６６４が下方へ脱落してしまうと、遊技領域５ａ内に遊技球Ｂが打込まれているのにも関わらず、アウトセンサ６６４で遊技球Ｂが検知されなくなるため、主制御基板１３１０等により異常の発生が報知されることとなる。この異常発生の報知により、遊技ホールの係員等が異常の確認をするために、本体枠４を外枠２に対して開けることとなるが、開いているセンサカバー６６８の下端と、外枠２等の接触危惧物との間に隙間があるため、センサカバー６６８が接触危惧物に接触することなく、本体枠４を開けることができ、センサカバー６６８の破損を防止することができる。

【０９０６】

更に、図１１８の実施形態によれば、センサ取付凹部６６３ｆにおけるアウト球整流部６６３ｂとは反対の外側の部位で、センサカバー６６８の基端側をベースユニット６６０に対して回転可能に取付けていると共に、ベースユニット６６０を透明としているため、センサカバー６６８を開いてアウトセンサ６６４を取外した状態とすることで、下方からアウト球通路６６３内を良好に視認することができる。従って、アウト球通路６６３内において遊技球Ｂが球詰りした時に、外部からアウト球通路６６３内を視認することができ

るため、遊技球Ｂが球詰りしている場所を一見して特定することができ、遊技球Ｂの球詰りを早期に解消させることができる。

【０９０７】

また、本実施形態のパチンコ機１によれば、扉枠３における扉枠トップユニット４５０の上面が、外枠２における外枠上部材３０の上面と略同一面上となるように形成されているため、本パチンコ機１をひっくり返して逆さまの状態で直立させることができ、センサカバー６６８の開閉によるアウトセンサ６６４の交換作業や、透明なベースユニット６６０を通した底面側からのアウト球通路６６３内や球抜排出通路６６５内の確認作業、等を容易に行うことができる。

【０９０８】

また、本実施形態によれば、アウトセンサ６６４が破損しても、アウトセンサ６６４を容易に交換することができるため、アウトセンサ６６４の破損により中断していた遊技を早期に再開させることができ、遊技の中断による遊技者の苛立ちを緩和させて興趣の低下を抑制させることができると共に、本パチンコ機１の稼働率の低下を抑制させることができ、遊技ホール側の負担を軽減させることができる。

【０９０９】

更に、センサカバー６６８の一方の端部を、回転可能にベースユニット６６０に取付けていることから、アウトセンサ６６４を交換する際に、センサカバー６６８を開いても、センサカバー６６８がベースユニット６６０から吊下がった状態となり脱落することはないため、センサカバー６６８が紛失することを回避させることができる。

【０９１０】

また、アウトセンサ６６４を下方から保持しているセンサカバー６６８において、ベースユニット６６０における多くの遊技球Ｂが流通するアウト球通路６６３に近い外側の部位で、前後方向（水平方向）の軸周りに対して回転可能に取付けるようにしているため、遊技球Ｂの流通によりアウトセンサ６６４を介してセンサカバー６６８にかかる下向きの力の分布が、ベースユニット６６０に回転可能に取付けられている側（一方の端部側）に大きくかかることとなり、相対的に、ベースユニット６６０の係止部６６３ｇに係止されている係止爪部６６８ｃ側（他方の端部側）では小さくなる。従って、アウトセンサ６６４を多くの遊技球Ｂが通過することで、センサカバー６６８にアウトセンサ６６４を介して下向きの力が作用しても、回転可能に取付けられている一方の端部側でその多くを受けることができるため、他方の端部側の係止爪部６６８ｃでの係止が解除され難くなり、センサカバー６６８が開いてアウトセンサ６６４が脱落してしまうことを低減させることができる。

【０９１１】

［４－１４．基板ユニットの第三実施形態］

次に、上記とは更に異なる第三実施形態の基板ユニット７００について、図１１９乃至図１２８等を参照して詳細に説明する。図１１９（ａ）は電源ユニット、払出制御ユニット、及びインターフェイスユニットを省略して示す第三実施形態の基板ユニットを右前から見た斜視図であり、（ｂ）は（ａ）の基板ユニットを左前から見た斜視図である。図１２０（ａ）は図１１９の基板ユニットを右上後ろから見た斜視図であり、（ｂ）は（ａ）の基板ユニットを右下後ろから見た斜視図である。図１２１（ａ）は図１１９の基板ユニットの平面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるコ－コ線で切断した断面図であり、（ｃ）は（ａ）におけるサ－サ線で切断した断面図であり、図１２２は図１２１（ａ）におけるシ－シ線で切断した断面図である。

【０９１２】

図１２３は図１１９の基板ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図１２４は図１１９の基板ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図１２５（ａ）は図１１９の基板ユニットの球経路部材を前から見た斜視図であり、（ｂ）は図１１９の基板ユニットの球経路部材を後ろから見た斜視図である。図１２６は、図１１９の基板ユニットにおける球詰りの解消を示す説明図である。図１２７は、図１１９の基板ユニットに

おける線状の不正工具の侵入の阻止を示す説明図である。図１２８は、図１１９の基板ユニットにおけるゴミ落としを示す説明図である。

【０９１３】

第三実施形態の基板ユニット７００は、上記の基板ユニット６２０及び基板ユニット６２０Ａとはベースユニット７１０の構成が異なるのみで、その他の構成については同一であるため、ここでは、上記の基板ユニット６２０や基板ユニット６２０Ａと同様の構成については、同じ符号を付し、詳細な説明は省略する。また、図１１９乃至図１２８では、電源ユニット６２０ｃ、払出制御ユニット６２０ｄ、及びインターフェイスユニット６２０ｅの図示を省略している。

【０９１４】

本実施形態の基板ユニット７００は、上記の基板ユニット６２０又は基板ユニット６２０Ａに換えて、本体枠ベースユニット５００の後面下部に取付けられるものである。基板ユニット７００は、本体枠ベースユニット５００における本体枠ベース５０１の後面における遊技盤載置部５０１ｃよりも下側に取付けられるスピーカユニット６２０ａと、スピーカユニット６２０ａの一部を後方から覆うように本体枠ベース５０１の後面に取付けられるベースユニット７１０と、ベースユニット７１０の後側に取付けられている電源ユニット６２０ｃと、電源ユニット６２０ｃの後側に取付けられている払出制御ユニット６２０ｄと、払出制御ユニット６２０ｄの一部を後方から覆うようにスピーカユニット６２０ａの後面に取付けられているインターフェイスユニット６２０ｅと、を備えている。

【０９１５】

この基板ユニット７００は、遊技盤５から下方へ放出された遊技球Ｂが流通可能な第一球経路７０１と、第一球経路７０１よりも後方に設けられており遊技盤５から下方へ放出された遊技球ｂが流通可能な第二球経路７０２と、第一球経路７０１を流通している遊技球Ｂを検知する第一球センサ７０３と、第二球経路７０２を流通している遊技球ｂを検知する第二球センサ７０４と、下部満タン球経路ユニット６１０の下部球抜通路６１０ｃから放出された遊技球Ｂが流通する球抜通路７０５と、を備えている。第一球経路７０１及び第二球経路７０２は、夫々入口が上方へ向けて開口しており、夫々において第一球センサ７０３及び第二球センサ７０４で遊技球Ｂを一つずつ検知した上で下方へ排出する。

【０９１６】

本実施形態では、遊技盤５において、アウト口１００８、第一サブアウト口２０２１及び第二サブアウト口２０２２に受入れられた遊技球Ｂが、第一球経路７０１を流通し、遊技盤５において、一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、大入賞口２００５、及び役物入賞口２００６に受入れられた遊技球ｂが、第二球経路７０２を流通するように構成されている。つまり、アウト球が第一球経路７０１を流通し、セーフ球が第二球経路７０２を流通するように構成されており、第一球センサ７０３により全てのアウト球の数をカウントすることができると共に、第二球センサ７０４により全てのセーフ球の数をカウントすることができる。これにより、遊技盤５の一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、大入賞口２００５、及び役物入賞口２００６等の入賞口（入賞口センサ）に対して不正行為が行われた場合、遊技盤５側でのセーフ球の数と、第二球センサ７０４によりカウントされるセーフ球の数とが異なることとなり、入賞口に対する不正行為を検知することができる。

【０９１７】

更に詳述すると、基板ユニット７００のベースユニット７１０は、スピーカボックス６２３の一部を後方から覆うようにスピーカカバー６２１の後側に取付けられる前ベース７１１と、前ベース７１１の後側に取付けられていると共に後面に電源ユニット６２０ｃが取付けられ球抜通路７０５を有している後ベース７１２と、前ベース７１１と後ベース７１２との間に設けられており第一球経路７０１及び第二球経路７０２を有している球経路部材７１３と、第一球経路７０１及び第二球経路７０２内における遊技球Ｂの球詰りを解消させると共に不正工具の侵入を防止するために前ベース７１１及び後ベース７１２に開閉可能に設けられている防犯カバー７１４と、後ベース７１２の後側に取付けられ球抜通

路７０５の後端側を閉鎖している通路壁部材７１５と、後ベース７１２の後側に取付けられている枠中継基板７１６と、を備えている。ベースユニット７１０において、前ベース７１１、後ベース７１２、球経路部材７１３、及び通路壁部材７１５は、透明に形成されている。

【０９１８】

前ベース７１１は、後方及び上方に開放された左右に長い箱状に形成されている。前ベース７１１は、内部に球経路部材７１３が後方から収容される。前ベース７１１は、前壁によって球経路部材７１３の第一球経路７０１の前端側を閉鎖している。前ベース７１１は、上側の周壁部において左右方向へ長く開口している球受口７１１ａと、下側の周壁部の左右方向中央から右寄りの位置において開口している解消口７１１ｂと、を有している。前ベース７１１は、内部に球経路部材７１３を収容した状態で、球受口７１１ａから球経路部材７１３の第一球経路７０１及び第二球経路７０２が上方へ臨んでいる。また、前ベース７１１は、解消口７１１ｂの前端側において、防犯カバー７１４を左右方向に延びた軸周りに回転可能に支持している。

【０９１９】

後ベース７１２は、後方に開放された左右に長い箱状に形成されている。後ベース７１２は、前壁によって球経路部材７１３の第二球経路７０２の後端側を閉鎖している。後ベース７１２は、下部満タン球経路ユニット６１０の下部球抜通路６１０ｃから放出された遊技球Ｂを受取って正面視右方へ誘導した上で下方へ誘導して排出する球抜通路７０５を、有している。球抜通路７０５は、箱状の後ベース７１２内に設けられており、全体が後方へ開放されている。球抜通路７０５は、通路壁部材７１５によって後端側が閉鎖されている。後ベース７１２の球抜通路７０５におけるスピーカボックス６２３よりも上側に位置している部位（正面視左端側の部位）は、前後方向に貫通しており、前端側が前ベース７１１により閉鎖されていると共に、後側が通路壁部材７１５により閉鎖されている。

【０９２０】

また、後ベース７１２は、球経路部材７１３の第一球経路７０１を流通した遊技球Ｂを受取って後方へ誘導した後に下方へ排出する第一排出誘導部７１２ａと、球経路部材７１３の第二球経路７０２を流通した遊技球Ｂを受取って後方へ誘導した後に下方へ排出する第二排出誘導部７１２ｂと、を有している。第一排出誘導部７１２ａ及び第二排出誘導部７１２ｂの入口側は、後ベース７１２の前壁よりも前方へ突出しており、第一排出誘導部７１２ａの入口が前方へ向かって開口していると共に、第二排出誘導部７１２ｂの入口が上方へ向かって開口している。第一排出誘導部７１２ａ及び第二排出誘導部７１２ｂの出口は、前後方向が同じ位置に設けられている。第一排出誘導部７１２ａ及び第二排出誘導部７１２ｂは、前壁よりも後側が後方へ開放されており、通路壁部材７１５により後端側が閉鎖されている。

【０９２１】

後ベース７１２は、球抜通路７０５、第一排出誘導部７１２ａ、及び第二排出誘導部７１２ｂの夫々の出口が、前ベース７１１の解消口７１１ｂよりも正面視左方に位置しており、左から右へ順番に並んで設けられている。球抜通路７０５の出口は、第一排出誘導部７１２ａ及び第二排出誘導部７１２ｂの出口に対して、前端側が前方へ大きく広がっていると共に後端側が後方へ小さく広がっている（図１２０（ｂ）を参照）。つまり、球抜通路７０５の出口は、第一排出誘導部７１２ａ及び第二排出誘導部７１２ｂの出口よりも前後方向が大きく（広く）形成されている。

【０９２２】

球経路部材７１３は、箱状の前ベース７１１内に後方から挿入されて収容されるものである。球経路部材７１３は、第一球経路７０１と第二球経路７０２とを有している。球経路部材７１３は、右端において上端から下方へ垂直に延出している左壁部７１３ａと、左壁部７１３ａの下端から右方へ向かって低くなるように傾斜している上左棚部７１３ｂと、上左棚部７１３ｂの右端から下方へ垂直に延出している段壁部７１３ｃと、段壁部７１３ｃの下端から右方へ向かって低くなるように傾斜している上右棚部７１３ｄと、上右棚

部７１３ｄの右端から斜め左下へ延出している整流壁部７１３ｅと、整流壁部７１３ｅの下端に対して右方へ離隔している位置から右方へ向かって高くなると共に上右棚部７１３ｄよりも右方に延出している下棚部７１３ｆと、下棚部７１３ｆの右端から左壁部７１３ａの上端と略同じ高さまで垂直に上方へ延出している右壁部７１３ｇと、右壁部７１３ｇの上端から上右棚部７１３ｄの右端と同じ位置まで左方へ延出している上壁部７１３ｈと、上壁部７１３ｈの左端に接続されており上方へ開放されたコ字状の溝壁部７１３ｉと、を有している。溝壁部７１３ｉの左端は、上右棚部７１３ｄの左右方向中央に対して右寄りの部位に位置している。

【０９２３】

また、球経路部材７１３は、整流壁部７１３ｅの下端から左方へ延出している下壁部上７１３ｊと、下壁部上７１３ｊの左端から上左棚部７１３ｂの下面まで垂直に上方へ延出している中壁部７１３ｋと、中壁部７１３ｋの左側面の途中から左方へ向かって低くなるように延出している庇部７１３ｌと、下棚部７１３ｆの左端付近から下方へ短く垂直に延出している垂下壁部７１３ｍと、垂下壁部７１３ｍの下端から下壁部上７１３ｊと平行に左方へ延出している下壁部下７１３ｎと、を有している。下壁部下７１３ｎにおける整流壁部７１３ｅの下端と下棚部７１３ｆの左端との間の下方に位置する部位は、遊技球Ｂが通過可能な大きさで上下に切欠かれている。

【０９２４】

更に、球経路部材７１３は、上左棚部７１３ｂ、下棚部７１３ｆ、及び上壁部７１３ｈの夫々の下面から下方へ延出しており、左右方向に間隔をあけて設けられている複数の阻害リブ７１３ｏを、有している。また、球経路部材７１３は、左壁部７１３ａ、上左棚部７１３ｂ、段壁部７１３ｃ、上右棚部７１３ｄ、整流壁部７１３ｅ、下棚部７１３ｆ、右壁部７１３ｇ、溝壁部７１３ｉ、下壁部上７１３ｊ、中壁部７１３ｋ、垂下壁部７１３ｍ、下壁部下７１３ｎで囲まれている空間を前後に仕切っている平板状の仕切壁部７１３ｐを、有している。

【０９２５】

また、球経路部材７１３は、上左棚部７１３ｂ、上右棚部７１３ｄ、及び下棚部７１３ｆにおいて、夫々の前端と後端から仕切壁部７１３ｐ側へ向かって凹むように切欠かれている複数の切欠部７１３ｑを、有している。夫々の切欠部７１３ｑは、基板ユニット７００に組立てた時に、前ベース７１１や後ベース７１２との間に、遊技球Ｂの半径よりも前後方向が小さい隙間が形成されるように設けられており、当該隙間を通して第一球経路７０１内や第二球経路７０２内のゴミや塵等を下方へ排出させることができる。

【０９２６】

また、球経路部材７１３は、仕切壁部７１３ｐの前面における整流壁部７１３ｅと下棚部７１３ｆとの間の部位に設けられており、左右に延びている複数の案内突条７１３ｒを、有している。

【０９２７】

更に、球経路部材７１３は、仕切壁部７１３ｐよりも前側において、下壁部上７１３ｊ、垂下壁部７１３ｍ、及び下壁部下７１３ｎにより囲まれており、第一球センサ７０３が収容されるセンサ収容部前７１３ｓと、仕切壁部７１３ｐよりも後側において、下壁部上７１３ｊ、垂下壁部７１３ｍ、及び下壁部下７１３ｎにより囲まれており、第二球センサ７０４が収容されるセンサ収容部後７１３ｔと、を有している。

【０９２８】

センサ収容部前７１３ｓ及びセンサ収容部後７１３ｔには、第一球センサ７０３及び第二球センサ７０４の検知孔が、整流壁部７１３ｅと下棚部７１３ｆとの間に部位の下方に位置するように、つまり、検知孔を右側にした状態で、第一球センサ７０３及び第二球センサ７０４が収容される。図示は省略するが、第一球センサ７０３及び第二球センサ７０４から延びている配線ケーブルは、センサ収容部前７１３ｓ及びセンサ収容部後７１３ｔから中壁部７１３ｋよりも左方へ延出している。

【０９２９】

また、球経路部材７１３は、下壁部下７１３ｎの下面における仕切壁部７１３ｐよりも前方の部位に設けられており、下方へ突出していると共に後方へ開放されている第一球誘導部７１３ｕを、有している。第一球誘導部７１３ｕは、基板ユニット７００に組立てた時に、後端側の右半分が後ベース７１２の前面により閉鎖されると共に、左半分が後ベース７１２の第一排出誘導部７１２ａの入口側に臨んでいる。第一球誘導部７１３ｕは、仕切壁部７１３ｐの前方において、整流壁部７１３ｅと下棚部７１３ｆとの間から下方へ流下した遊技球Ｂを、右方へ誘導した後に後方へ誘導して、後ベース７１２の第一排出誘導部７１２ａに受け渡すことができる。

【０９３０】

一方、球経路部材７１３における仕切壁部７１３ｐよりも後側では、下壁部下７１３ｎの下方へ開放されている部位（センサ収容部後７１３ｔに収容されている第二球センサ７０４の検知孔の部位）の下方には、後ベース７１２の第二排出誘導部７１２ｂの上方へ向かって開口している入口が位置する。これにより、仕切壁部７１３ｐの後方において、整流壁部７１３ｅと下棚部７１３ｆとの間から下方へ流下した遊技球Ｂを、後ベース７１２の第二排出誘導部７１２ｂに受け渡すことができる。

【０９３１】

上左棚部７１３ｂの右端は、前ベース７１１における解消口７１１ｂの左端よりも若干右寄りに位置している。上右棚部７１３ｄの右端は、前ベース７１１における解消口７１１ｂの右端よりも右寄りに位置している。下棚部７１３ｆの左端は、前ベース７１１における解消口７１１ｂの左端よりも左方に位置している。従って、前ベース７１１の解消口７１１ｂの直上の上方は、整流壁部７１３ｅによって覆われている。上左棚部７１３ｂ、上右棚部７１３ｄ、及び下棚部７１３ｆは、直線状に傾斜している。一方、整流壁部７１３ｅは、曲線状に傾斜しており、左端側が下方へ垂直に向くように湾曲している。整流壁部７１３ｅと下棚部７１３ｆとの間の距離（高さ）は、左端側が一つの遊技球Ｂが通過可能な高さとなるように、左方へ向かうに従って狭くなるように傾斜している。この整流壁部７１３ｅと下棚部７１３ｆとにより複数の遊技球Ｂを一列に整流して下方へ誘導することができる。

【０９３２】

整流壁部７１３ｅと下棚部７１３ｆとの間は、上述したように、左方（遊技球Ｂが流通する下流の方向）へ向かうに従って上下の寸法が狭くなるように形成されているため、遊技球Ｂの流通量等によっては複数の遊技球Ｂが整流壁部７１３ｅと下棚部７１３ｆとの間に噛み込んで、球詰りが発生する恐れがある（図１２６を参照）。この整流壁部７１３ｅは、解消口７１１ｂの上方に位置していることから、整流壁部７１３ｅと下棚部７１３ｆとの間で球詰りが発生した場合、防犯カバー７１４を開いて解消口７１１ｂを開放させた状態とし、下方から解消口７１１ｂ及び下棚部７１３ｆの切欠部７１３ｑを通して棒状の工具を整流壁部７１３ｅと下棚部７１３ｆとの間に挿入し、その工具より噛み込んだ遊技球Ｂを突くことで球詰りを解消させることができる。

【０９３３】

ところで、下棚部７１３ｆには、球詰りを解消させたりゴミや塵を下方へ落下させたりするための切欠部７１３ｑが設けられているため、ピアノ線やカテーテル等のような線状の不正工具を下方から切欠部７１３ｑを通して下棚部７１３ｆの上方（第一球経路７０１や第二球経路７０２）へ侵入させ、更に不正工具の先端を、球経路部材７１３（第一球経路７０１や第二球経路７０２）から上方へ延出させて、上方に設けられている遊技盤５に対して不正行為が行われる恐れがある。このような不正工具の挿入は、下棚部７１３ｆに限らず、切欠部７１３ｑが設けられている上左棚部７１３ｂや上右棚部７１３ｄにおいても同様の危惧がある。

【０９３４】

これに対して、本実施形態では、上左棚部７１３ｂ、下棚部７１３ｆ、及び上壁部７１３ｈの下面には、左右方向に離隔し下方へ延出している複数の平板状の阻害リブ７１３ｏを設けているため、線状の不正工具の先端が、上左棚部７１３ｂ、下棚部７１３ｆ、及び

上壁部７１３ｈの下面を伝って移動しようとしても、阻害リブ７１３ｏに当接して先端の移動を阻止することができ、これ以上の不正工具の挿入を阻止することができる（図１２７を参照）。従って、球経路部材７１３（第一球経路７０１や第二球経路７０２）を通した遊技盤５への不正行為の実行を防止することができ、本パチンコ機１を設置する遊技ホール側の負担を軽減させることができると共に、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【０９３５】

なお、上右棚部７１３ｄと上左棚部７１３ｂにおける中壁部７１３ｋよりも右側の部位では、それらの下方及び左右の側方が、切欠部７１３ｑが設けられていない整流壁部７１３ｅ、下壁部上７１３ｊ、及び中壁部７１３ｋにより閉鎖されているため、上右棚部７１３ｄと上左棚部７１３ｂの該当部位の切欠部７１３ｑを通して下方から不正工具が挿入されることはなく、当該部位の切欠部７１３ｑを介して不正行為が行わることはない。

【０９３６】

球経路部材７１３は、上述したように、上左棚部７１３ｂ、上右棚部７１３ｄ、及び下棚部７１３ｆに複数の切欠部７１３ｑが設けられているため、切欠部７１３ｑを通してゴミや塵を下方へ排出することができる（図１２８を参照）。上左棚部７１３ｂにおけるセンサ収容部前７１３ｓ及びセンサ収容部後７１３ｔの上方に位置している切欠部７１３ｑを通して下方へ排出されたゴミ等は、整流壁部７１３ｅ、下壁部上７１３ｊ、及び中壁部７１３ｋにより囲まれた空間内に収容される。これにより、センサ収容部前７１３ｓ及びセンサ収容部後７１３ｔに収容されている第一球センサ７０３及び第二球センサ７０４に対して、ゴミ等が付着することはない。

【０９３７】

また、センサ収容部前７１３ｓ及びセンサ収容部後７１３ｔに収容されている第一球センサ７０３及び第二球センサ７０４の左端側には、配線ケーブルがコネクタにより接続されており、配線ケーブル及びコネクタがセンサ収容部前７１３ｓ及びセンサ収容部後７１３ｔから左方へ突出している。つまり、第一球センサ７０３及び第二球センサ７０４の配線ケーブル及びコネクタが中壁部７１３ｋよりも左方に突出している。この中壁部７１３ｋでは、左側面におけるセンサ収容部前７１３ｓ及びセンサ収容部後７１３ｔの上方の部位から庇部７１３ｌが左方へ延出しているため、上方の上左棚部７１３ｂに形成されている切欠部７１３ｑを通して下方へ落下したゴミや塵が、庇部７１３ｌの傾斜により左方へ誘導され、中壁部７１３ｋよりも左方に突出している第一球センサ７０３及び第二球センサ７０４の配線ケーブル及びコネクタに落下することを防止することができ、ゴミ等を起因とする不具合の発生を回避させることができる。

【０９３８】

ベースユニット７１０は、球経路部材７１３における仕切壁部７１３ｐの前方側の左壁部７１３ａ、上左棚部７１３ｂ、段壁部７１３ｃ、上右棚部７１３ｄ、整流壁部７１３ｅ、下棚部７１３ｆ、右壁部７１３ｇ、溝壁部７１３ｉ、第一球誘導部７１３ｕ、及び後ベース７１２の第一排出誘導部７１２ａにより第一球経路７０１を形成していると共に、球経路部材７１３における仕切壁部７１３ｐの後方側の左壁部７１３ａ、上左棚部７１３ｂ、段壁部７１３ｃ、上右棚部７１３ｄ、整流壁部７１３ｅ、下棚部７１３ｆ、右壁部７１３ｇ、溝壁部７１３ｉ、及び後ベース７１２の第二排出誘導部７１２ｂにより第二球経路７０２を形成している。

【０９３９】

防犯カバー７１４は、平板状に形成されており、前端側が左右方向の軸周りに対して回転可能な状態で前ベース７１１の解消口７１１ｂの前端付近に取付けられている。また、防犯カバー７１４は、後端側に、後ベース７１２に係止される弾性係止部７１４ａを有している。図１２２に示すように、この防犯カバー７１４は、弾性係止部７１４ａを後ベース７１２に係止して水平にした状態では、解消口７１１ｂを閉鎖しており、弾性係止部７１４ａの係止を解除して後端側が下方へ位置するように回転させて垂直にした状態では、解消口７１１ｂを開放している。つまり、防犯カバー７１４により、解消口７１１ｂを開

閉させることができる。
【０９４０】
防犯カバー７１４は、閉じた状態とすることで前ベース７１１の解消口７１１ｂを閉鎖することができるため、解消口７１１ｂから線状の不正工具が球経路部材７１３内（第一球経路７０１や第二球経路７０２）へ挿入されることを防止することができる。また、防犯カバー７１４は、球経路部材７１３の整流壁部７１３ｅと下棚部７１３ｆとの間で球詰りが発生した時に、開いた状態とすることで、前ベース７１１の解消口７１１ｂを開放させることができるため、下方から解消口７１１ｂ及び下棚部７１３ｆの切欠部７１３ｑを通して棒状の工具を整流壁部７１３ｅと下棚部７１３ｆとの間に挿入して遊技球Ｂの球詰りを解消させることができる。この球詰りの解消作業は、外枠２に対して本体枠４を前方へ開いた状態で実施される。
【０９４１】
この防犯カバー７１４は、解消口７１１ｂを開放させた状態（垂直にした状態）では、下端（弾性係止部７１４ａ側の端部）が、接触危惧物（ここでは、外枠２における幕板後部材４３の接続筒部４３ａ）の高さ（図１２２において一点鎖線で示す高さ）よりも下方に位置している。従って、球経路部材７１３内での遊技球Ｂの球詰りを解消させるために、外枠２に対して本体枠４を前方へ開いた後に、防犯カバー７１４を開けたままの状態で本体枠４を外枠２に対して閉じようとしても、開いている防犯カバー７１４が接触危惧物（幕板後部材４３の接続筒部４３ａ）に当接し、本体枠４を閉じることができない。これにより、防犯カバー７１４の閉め忘れを回避させることができ、防犯カバー７１４を確実に閉じさせて、防犯カバー７１４による防犯機能を発揮させることができる。
【０９４２】
また、本実施形態では、外枠２に対して本体枠４を閉じている時に、何らかの理由により防犯カバー７１４が開いた場合、そのままの状態で本体枠４を外枠２に対して開いても、開いている防犯カバー７１４に前方から接触危惧物が当接することとなるが、防犯カバー７１４の前端側が左右方向の軸周りに対して回転可能に取付けられていることから、前方から接触危惧物が当接すると防犯カバー７１４が閉じる方向へ回転するため、防犯カバー７１４が接触危惧物に引っ掛かることなく本体枠４を開くことができ、防犯カバー７１４や接触危惧物の破損を回避させることができる。
【０９４３】
なお、本実施形態の防犯カバー７１４は、整流壁部７１３ｅと下棚部７１３ｆとの間での遊技球Ｂの球詰りの発生が稀であり、閉じたままの状態を基本としているため、開き難いように弾性係止部７１４ａによる係止が硬めに設定されている。
【０９４４】
通路壁部材７１５は、後ベース７１２の後側に取付けられており、後方へ開放されている球抜通路７０５の後端側を閉鎖している。また、通路壁部材７１５は、後ベース７１２における第一排出誘導部７１２ａ及び第二排出誘導部７１２ｂの出口側において後方へ開放されている部位を閉鎖しており、第一排出誘導部７１２ａ及び第二排出誘導部７１２ｂを流通してきた遊技球Ｂを下方へ排出させることができる。更に、通路壁部材７１５は、後ベース７１２とで枠中継基板７１６を挟持していると共に、枠中継基板７１６の後側を覆っている。
【０９４５】
枠中継基板７１６は、後ベース７１２と通路壁部材７１５との間に挟持されている。枠中継基板７１６は、扉枠３のハンドルタッチセンサ１９２、単発ボタン操作センサ１９４、第一球センサ７０３、及び第二球センサ７０４と、主制御基板１３１０との接続を中継するためのものである。
【０９４６】
本実施形態のベースユニット７１０は、図１２１（ａ）に示すように、前ベース７１１の球受口７１１ａから、球経路部材７１３の上左棚部７１３ｂと上右棚部７１３ｄの一部とが上方へ臨んでおり、遊技盤５から下方へ放出された全ての遊技球Ｂを受取ることがで

きる。球受口７１１ａを通して上左棚部７１３ｂや上右棚部７１３ｄに落下した遊技球ｂは、右方へ転動して上右棚部７１３ｄの右端から下棚部７１３ｆ上へ流下する。そして、下棚部７１３ｆに流下した遊技球Ｂは、下棚部７１３ｆを左方へ転動する。この際に、下棚部７１３ｆ上において複数の遊技球Ｂが上下に積み重なっていると、左方へ向かうほど一列になるように上方の整流壁部７１３ｅにより崩される。

【０９４７】

下棚部７１３ｆを左方へ転動した遊技球Ｂは、下棚部７１３ｆの左端から下方へ落下し、仕切壁部７１３ｐよりも前方の場合は、センサ収容部前７１３ｓに収容されている第一球センサ７０３に検知された上で第一球誘導部７１３ｕを通った後に、後ベース７１２の第一排出誘導部７１２ａを通って下方へ排出される。一方、仕切壁部７１３ｐよりも後方の場合は、センサ収容部後７１３ｔに収容されている第二球センサ７０４に検知された後に、後ベース７１２の第二排出誘導部７１２ｂを通って下方へ排出される。

【０９４８】

このように、本実施形態のベースユニット７１０では、球経路部材７１３の仕切壁部７１３ｐの前後で互いに分離した経路を遊技球Ｂが流通して下方へ排出するようにしており、仕切壁部７１３ｐよりも前側を第一球経路７０１としていると共に、仕切壁部７１３ｐよりも後側を第二球経路７０２としている。従って、遊技盤５から球経路部材７１３の仕切壁部７１３ｐよりも前方へ落下した遊技球Ｂは、第一球経路７０１を流通し、第一球センサ７０３により検知された上で下方へ排出させることができる。一方、遊技盤５から球経路部材７１３の仕切壁部７１３ｐよりも後方へ落下した遊技球Ｂは、第二球経路７０２を流通し、第二球センサ７０４により検知された上で下方へ排出させることができる。

【０９４９】

また、ベースユニット７１０は、球タンク５５２内等の遊技球Ｂを抜くために下部満タン球経路ユニット６１０の下部球抜通路６１０ｃから放出された遊技球Ｂを、後ベース７１２の球抜通路７０５を通して下方へ排出することができる。ベースユニット７１０の第一排出誘導部７１２ａ（第一球経路７０１）、第二排出誘導部７１２ｂ（第二球経路７０２）、及び球抜通路７０５から下方へ排出された遊技球Ｂは、島設備側の遊技球Ｂを回収する部位（アウト受部、バケツ、等）に受け渡される。

【０９５０】

本実施形態の基板ユニット７００におけるベースユニット７１０によれば、上左棚部７１３ｂ、上右棚部７１３ｄ、及び下棚部７１３ｆに複数の切欠部７１３ｑを設けていることから、切欠部７１３ｑを通してゴミや塵を落下させて第一球経路７０１や第二球経路７０２から排除することができるため、ゴミ等が遊技球Ｂの流通を妨げることを回避させることができ、球詰り等の発生を抑制させることができる。

【０９５１】

また、前ベース７１１、後ベース７１２、球経路部材７１３、及び通路壁部材７１５を透明に形成しているため、本体枠４に対して扉枠３を前方へ開くと共に、本体枠４から遊技盤５を取外した状態とすることで、ベースユニット７１０（基板ユニット７００）の上方から、球経路部材７１３（第一球経路７０１及び第二球経路７０２）内での遊技球Ｂの球詰りの有無を容易に確認することができる。そして、球経路部材７１３における整流壁部７１３ｅと下棚部７１３ｆとにより遊技球Ｂを一列に整列させる部位において、下棚部７１３ｆに切欠部７１３ｑを設けているため、整流壁部７１３ｅと下棚部７１３ｆとの間で球詰りが発生した場合、外枠２に対して本体枠４を前方へ開くと共に、防犯カバー７１４を開くことで、解消口７１１ｂ及び切欠部７１３ｑを通して下方から棒状の工具を整流壁部７１３ｅと下棚部７１３ｆとの間に挿入することができ、その工具より球詰りを解消させることができる。

【０９５２】

更に、下棚部７１３ｆにおける整流壁部７１３ｅの下方の部位に、下方へ開放された解消口７１１ｂを設けていると共に、解消口７１１ｂを閉鎖する防犯カバー７１４を設けているため、解消口７１１ｂを通して上記のように球詰りを解消させることができる上に、

通常の状態では防犯カバー７１４により解消口７１１ｂを閉鎖しておくことで、解消口７１１ｂから線状の不正工具が第一球経路７０１や第二球経路７０２に挿入されることを阻止することができ、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【０９５３】

また、解消口７１１ｂを開閉する防犯カバー７１４を、前端側において左右方向の軸周りに対して回転させることで開閉するようにしていることから、防犯カバー７１４を閉め忘れた状態で本体枠４を外枠２に対して閉めようとすると、防犯カバー７１４が接触危惧物（幕板後部材４３の接続筒部４３ａ）に当接して、本体枠４を閉じることができなくなるため、防犯カバー７１４の閉め忘れに気付かせることができ、防犯カバー７１４を確実に閉じさせて、防犯カバー７１４による防犯機能を発揮させることができる。

【０９５４】

更に、上左棚部７１３ｂ、下棚部７１３ｆ、及び上壁部７１３ｈの下面には、左右方向に離隔し下方へ延出している複数の平板状の阻害リブ７１３ｏを設けているため、線状の不正工具の先端が、上左棚部７１３ｂ、下棚部７１３ｆ、及び上壁部７１３ｈの下面を伝って移動しようとしても、阻害リブ７１３ｏに当接して先端の移動を阻止することができ、これ以上の不正工具の挿入を阻止することができる。従って、球経路部材７１３（第一球経路７０１や第二球経路７０２）を通した遊技盤５への不正行為の実行を防止することができ、本パチンコ機１を設置する遊技ホール側の負担を軽減させることができると共に、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【０９５５】

また、第一球経路７０１及び第二球経路７０２は、上記のように、後ベース７１２の第一排出誘導部７１２ａ及び第二排出誘導部７１２ｂや球経路部材７１３により、蛇行したりクランクしたりする複雑な流通経路を構成するようにしているため、第一排出誘導部７１２ａや第二排出誘導部７１２ｂの出口側から線状の不正工具を挿入しても、複雑な経路により侵入を阻むことができ、第一球経路７０１及び第二球経路７０２を通した遊技盤５への不正工具の侵入を阻止することができる。

【０９５６】

また、第一球センサ７０３及び第二球センサ７０４により、遊技盤５から放出された全ての遊技球Ｂを検知（カウント）することができるため、遊技盤５に対して排出される遊技球Ｂを検知するための構成（例えば、アウト球検知ユニット）を設ける必要が無く、遊技盤５にかかるコストを低減させることができると共に、遊技盤５において、排出される遊技球Ｂを検知するための構成の分だけスペースを確保することが可能となり、確保したスペースに演出装置を設けるようにすることで、より遊技者を楽しませられるパチンコ機１（遊技盤５）とすることができる。

【０９５７】

また、第一球経路７０１をアウト球が、第二球経路７０２をセーフ球が、夫々流通するようにしているため、遊技盤５におけるセーフ球のカウント数と、第二球センサ７０４によるセーフ球のカウント数とを比較することで、遊技盤５に対して不正行為が行われているか否かを判定することができ、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【０９５８】

更に、所定時間当りのセーフ球数と所定時間当りのアウト球数とから算出した所定時間当りの払出率（出玉率）を、遊技者側から視認できるように表示するようにした場合、遊技者としては多くの遊技球Ｂの払出しを望むことから、表示されている払出率が大きいと、多くの遊技球Ｂが払出される可能性が高いパチンコ機１であると即座に認識することができ、遊技するパチンコ機１を選択させ易くすることができる。また、払出率を、遊技者側から視認可能に表示するようにした場合、遊技球Ｂが多く払出されるような不正行為を行うと、表示されている払出率が通常よりも大きくなることから、他の遊技者やパチンコ機１を設置している遊技ホールの係員等が、不正行為に気付き易くなるため、不正行為の

実行を躊躇させることができ、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１とすることができる。

【０９５９】

また、セーフ球の数とアウト球の数とから算出した払出率を、遊技者側から視認不能な位置に表示するようにした場合、遊技ホールの係員等が見ることで、上記と同様の理由により不正行為を察知することができる。また、パチンコ機１をメンテナンス等する際に、表示されている払出率が通常の値よりも異なる場合は、パチンコ機１内（例えば、障害釘Ｎ、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３、中継基板、コネクタ、配線ケーブル、各種センサ、等）での不具合の可能性が考えられるため、不具合に対して早期に対応することが可能となり、遊技ホール側の負担を軽減させることができる。

【０９６０】

また、第一球経路７０１及び第二球経路７０２は、球タンク５５２内の遊技球Ｂを排出するための球抜通路７０５と分離しているため、第一球センサ７０３や第二球センサ７０４において球抜きの遊技球Ｂは計数されない。従って、第一球センサ７０３及び第二球センサ７０４により、遊技盤５から放出された遊技球Ｂのみを正確に計数することができる。

【０９６１】

なお、上記の実施形態では、第一球経路７０１をアウト球が、第二球経路７０２をセーフ球が、夫々流通するものを示したが、これに限定するものではなく、第一球経路７０１をセーフ球が第二球経路７０２をアウト球が夫々流通するようにしても良いし、セーフ球及びアウト球に関わらず遊技盤５から排出された遊技球Ｂが第一球経路７０１及び第二球経路７０２の何れかを流通するものとしても良い。

【０９６２】

また、上記の実施形態では、防犯カバー７１４を回転させることにより解消口７１１ｂを開閉させるものを示したが、これに限定するものではなく、前後又は左右にスライドさせることで解消口７１１ｂを開閉させるものとしても良い。

【０９６３】

また、上記の実施形態では、一つの仕切壁部７１３ｐにより仕切ることで、遊技盤５から下方へ放出された遊技球Ｂを、第一球経路７０１及び第二球経路７０２の前後に別れた二つの球経路の何れかを通って排出させるものを示したが、これに限定するものではなく、複数の仕切壁部により前後に三つ以上に別れた球経路を備え、何れかの球経路を通って遊技盤５から放出された遊技球Ｂを下方へ排出させるようにしても良い。

【０９６４】

［５．遊技盤の全体構成］

パチンコ機１における遊技盤５の全体構成について、主に図１２９乃至図１３７を参照して詳細に説明する。図１２９は、パチンコ機においてセンター役物等を不透明にした遊技盤の正面図である。図１３０は図１２９の遊技盤を右前から見た斜視図であり、図１３１は図１２９の遊技盤を左前から見た斜視図であり、図１３２は遊技盤を後ろから見た斜視図である。図１３３は、主制御基板における機能表示ユニットからの配線の引き回しの概略説明図である。図１３４は、センター役物等を透明にした状態の遊技盤の正面図である。図１３５は遊技盤を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図１３６は遊技盤を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。図１３７は、遊技パネルの面と平行に表ユニットを切断して遊技球が流通する遊技領域内と障害釘とを現した状態で示す遊技盤の正面図である。

【０９６５】

パチンコ機１の遊技盤５は、遊技者がハンドルユニット１８０のハンドル１９５を操作することで遊技球Ｂが打込まれる遊技領域５ａを有している。遊技領域５ａには、遊技球Ｂの受入れ又は通過により遊技者に対して所定の特典（例えば、所定数の遊技球Ｂの払出し）を付与する一般入賞口２００１、第一始動口２００２、ゲート２００３、第二始動口２００４、大入賞口２００５、及び役物入賞口２００６が備えられている。この遊技盤５

は、遊技球Ｂが、遊技領域５ａ内の一般入賞口２００１、第一始動口２００２、ゲート２００３、第二始動口２００４、大入賞口２００５、及び役物入賞口２００６等に、受入れられる又は通過するように、ハンドル１９５の打込操作と遊技領域５ａ内での遊技球Ｂの流通とを楽しませる遊技を行うためのものである。

【０９６６】

遊技盤５は、遊技領域５ａの外周を区画し外形が正面視略四角形状とされた前構成部材１０００と、前構成部材１０００の後側に取付けられており遊技領域５ａの後端を区画する板状の遊技パネル１１００と、遊技領域５ａ内において不正に作用する磁気を検知する複数の磁気センサ１０５０と、を備えている。遊技パネル１１００の前面における遊技領域５ａ内となる部位には、遊技球Ｂと当接する複数の障害釘Ｎ（図１３７等を参照）が所定のゲージ配列で植設されている。

【０９６７】

また、遊技盤５は、遊技パネル１１００の後側下部に取付けられている基板ホルダ１２００と、基板ホルダ１２００の後面に取付けられており遊技球Ｂを遊技領域５ａ内へ打込むことで行われる遊技内容を制御する主制御基板１３１０（図１６９等を参照）を有している主制御ユニット１３００と、を備えている。

【０９６８】

また、遊技盤５は、主制御基板１３１０からの制御信号に基づいて遊技状況を表示し前構成部材１０００の左上隅に遊技者側へ視認可能に取付けられている機能表示ユニット１４００と、遊技パネル１１００の後側に配置されている周辺制御ユニット１５００と、正面視において遊技領域５ａの中央に配置されており所定の演出画像を表示可能な演出表示装置１６００と、遊技パネル１１００の後側に配置されており主制御基板１３１０と周辺制御基板１５１０との接続を中継しているパネル中継基板１７１０と、遊技パネル１１００の前面に取付けられる表ユニット２０００と、遊技パネル１１００の後面に取付けられる裏ユニット３０００と、を更に備えている。

【０９６９】

裏ユニット３０００の後面に演出表示装置１６００が取付けられていると共に、演出表示装置１６００の後面に周辺制御ユニット１５００が取付けられている。裏ユニット３０００の後面における演出表示装置１６００の後方に、パネル中継基板１７１０が取付けられている。パネル中継基板１７１０は、主制御基板１３１０と、一般入賞口センサ３００１、第一始動口センサ３００２、第二始動口センサ２４０１、ゲートセンサ２８０１、大入賞口センサ２４０２、役物入賞口センサ２６０１、Ｖ入賞口センサ３００３、ハズレ口センサ３００４、始動口ソレノイド２４１２、アタッカソレノイド２４１４、役物入賞口ソレノイド２６１２、Ｖ振分ソレノイド３００７、磁気センサ１０５０、等との接続を中継するためのものである。

【０９７０】

表ユニット２０００は、遊技領域５ａ内に打込まれた遊技球Ｂを受入可能に常時開口している複数（ここでは三つ）の一般入賞口２００１と、複数の一般入賞口２００１とは遊技領域５ａ内の異なる位置で遊技球Ｂを受入可能に常時開口している第一始動口２００２と、遊技領域５ａ内の更に異なる位置で遊技球Ｂを受入可能に常時開口しているゲート２００３と、遊技球Ｂがゲート２００３に受入れられることにより抽選される普通抽選結果に応じて遊技球Ｂの受入れが可能となる第二始動口２００４と、第一始動口２００２又は第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより抽選される第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果に応じて遊技球Ｂの受入れが可能となる大入賞口２００５と、第一始動口２００２又は第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより抽選される第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果に応じて遊技球Ｂの受入れが可能となる役物入賞口２００６と、役物入賞口２００６に受入れられた遊技球Ｂに対して受入れの機会が付与されるＶ入賞口２００７及びハズレ口２００８と、遊技領域５ａ内において不正に作用する磁気を検知する複数の磁気センサ１０５０と、を備えている。

【０９７１】

また、表ユニット２０００は、遊技領域５ａ内の左右方向中央で遊技領域５ａの下端の直上に取付けられており第一始動口２００２を有している始動口ユニット２１００と、始動口ユニット２１００の正面視左方で内レール１００２に沿うように取付けられており三つの一般入賞口２００１を有しているサイドユニット２２００と、サイドユニット２２００の正面視左方のやや上側に取付けられているサイド左上ユニット２３００と、遊技領域５ａ内の正面視右下隅となる始動口ユニット２１００の正面視右方に設けられており第二始動口２００４、大入賞口２００５、及び第一サブアウト口２０２１を有している第一アタッカユニット２４００と、始動口ユニット２１００及びサイドユニット２２００よりも上方で、遊技領域５ａ内の正面視略中央やや上寄りに設けられている枠状のセンター役物２５００と、を備えている。

【０９７２】

また、表ユニット２０００は、センター役物２５００の右方で第一アタッカユニット２４００の上方に設けられており役物入賞口２００６を有している第二アタッカユニット２６００と、第二アタッカユニット２６００の上方に設けられており一つの一般入賞口２００１及び第二サブアウト口２０２２を有しているサイド右中ユニット２７００と、サイド右中ユニット２７００の上方に設けられておりゲート２００３を有しているゲート部材２８００と、を備えている。

【０９７３】

第一アタッカユニット２４００には、第二始動口２００４に受入れられた遊技球Ｂを検知する第二始動口センサ２４０１と、大入賞口２００５に受入れられた遊技球Ｂを検知する大入賞口センサ２４０２と、を備えている。第二アタッカユニット２６００には、役物入賞口２００６に受入れられた遊技球Ｂを検知する役物入賞口センサ２６０１を、備えている。ゲート部材２８００には、遊技球Ｂによるゲート２００３の通過を検知するゲートセンサ２８０１が設けられている。

【０９７４】

裏ユニット３０００は、遊技パネル１１００におけるパネルホルダ１１２０の後面に取付けられ前方が開放されている箱状で後壁に四角い開口部３０１０ａを有している裏箱３０１０と、裏箱３０１０の後面に取付けられており演出表示装置１６００を着脱可能に取付けるためのロック機構（図示は省略）と、を備えている。　また、裏ユニット３０００は、表ユニット２０００に設けられている一般入賞口２００１に受入れられた遊技球Ｂを検知する一般入賞口センサ３００１と、第一始動口２００２に受入れられた遊技球Ｂを検知する第一始動口センサ３００２と、役物入賞口２００６に受入れられた後にＶ入賞口２００７に振分けられた遊技球Ｂを検知するＶ入賞口センサ３００３と、役物入賞口２００６に受入れられた後にハズレ口２００８に振分けられた遊技球Ｂを検知するハズレ口センサ３００４と、を有している（図１４５等を参照）。

【０９７５】

また、裏ユニット３０００は、Ｖ入賞口２００７を開閉するための前後に進退可能なＶ入賞口扉３００６と、Ｖ入賞口扉３００６を前後に進退させて役物入賞口２００６に受入れられた遊技球ＢをＶ入賞口２００７又はハズレ口２００８の何れかに振分けるＶ振分ソレノイド３００７と、を備えている。

【０９７６】

更に、裏ユニット３０００は、裏箱３０１０内の前端付近に設けられている裏前演出ユニット３１００と、裏前演出ユニット３１００の後側で裏箱３０１０内の上部に設けられている裏後上演出ユニット３２００と、裏後上演出ユニットの下方で裏箱３０１０内の下部に設けられている裏後下演出ユニット３３００と、を備えている。

【０９７７】

［５－１．前構成部材］

遊技盤５における前構成部材１０００について、主に図１３８及び図１３９を参照して詳細に説明する。図１３８（ａ）は遊技盤における前構成部材及び遊技パネルを前から見た斜視図であり、（ｂ）は前構成部材及び遊技パネルを後ろから見た斜視図である。図１

３９（ａ）は前構成部材及び遊技パネルの右上隅を拡大して示す正面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるスース線で切断した断面図であり、（ｃ）は（ａ）を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。

【０９７８】

前構成部材１０００は、全体が透明に形成されている。前構成部材１０００は、正面視の外形が略正方形とされ、内形が略円形状に前後方向へ貫通しており、内形の内周によって遊技領域５ａの外周を区画している。この前構成部材１０００は、正面視で左右方向中央から左寄りの下端から時計回りの周方向へ沿って円弧状に延び正面視左右方向中央上端を通り過ぎて右斜め上部まで延びた外レール１００１と、外レール１００１に略沿って前構成部材１０００の内側に配置され正面視左右方向中央下部から正面視左斜め上部まで円弧状に延びた内レール１００２と、内レール１００２の下端の正面視右側で遊技領域５ａの最も低くなった位置に形成されており後方へ向かって低くなるように傾斜しているアウト誘導部１００３と、を備えている。

【０９７９】

また、前構成部材１０００は、アウト誘導部１００３の正面視右端から前構成部材１０００の右辺付近まで右端側が僅かに高くなるように直線状に傾斜している右下レール１００４と、右下レール１００４の右端から前構成部材１０００の右辺に沿って外レール１００１の上端の下側まで延びており上部が前構成部材１０００の内側へ湾曲している右レール１００５と、右レール１００５の上端と外レール１００１の上端とを繋いでおり外レール１００１に沿って転動して来た遊技球Ｂが当接する衝止部１００６と、を備えている。

【０９８０】

また、前構成部材１０００は、内レール１００２の上端に回動可能に軸支され、外レール１００１との間を閉鎖するように内レール１００２の上端から上方へ延出した閉鎖位置と正面視時計回りの方向へ回動して外レール１００１との間を開放した開放位置との間でのみ回動可能とされると共に閉鎖位置側へ復帰するように図示しないバネによって付勢された逆流防止部材１００７を、備えている。

【０９８１】

更に、前構成部材１０００は、枠内における正面視左右方向中央下部で、アウト誘導部１００３の後端において前後に貫通しているアウト口１００８を備えている。アウト誘導部１００３によって後方へ誘導された遊技球Ｂは、アウト口１００８を通って前構成部材１０００（遊技パネル１１００）の後方へ排出される。

【０９８２】

また、前構成部材１０００は、外レール１００１及び内レール１００２における下端から略垂直に延びた付近の部位の外側、アウト誘導部１００３及び右下レール１００４の下側、及び右レール１００５の外側、の夫々の部位において、前端から後方へ窪んだ防犯凹部１００９を備えている。この防犯凹部１００９は、遊技盤５を本体枠４に取付けて、本体枠４に対して扉枠３を閉じた状態とすると、扉枠３における防犯カバー１７０の後方へ突出した後方突片１７２が挿入された状態となる。これにより、防犯カバー１７０と遊技盤５（前構成部材１０００）との間が、防犯カバー１７０の後方突片１７２と前構成部材１０００の防犯凹部１００９とによって複雑に屈曲した状態となるため、遊技盤５の前面下方より防犯カバー１７０と前構成部材１０００との間を通してピアノ線等の不正な工具を遊技領域５ａ内に侵入させようとしても、後方突片１７２や防犯凹部１００９に阻まれることとなり、遊技領域５ａ内への不正な工具の侵入を阻止することができる。

【０９８３】

また、前構成部材１０００は、正面視左下隅において下端から上方へ切欠かれている切欠部１０１０を備えている。この切欠部１０１０は、遊技パネル１１００の切欠部１１２２と一致しており、遊技盤５を本体枠４に取付けた時に、切欠部１０１０及び切欠部１１２２を貫通して下部満タン球経路ユニット６１０の下部通常払出通路６１０ａ及び下部満タン払出通路６１０ｂの前端開口が前方へ臨むようになっている。

【０９８４】

更に、前構成部材１０００は、正面視において左上隅に形成されており、機能表示ユニット１４００が取付けられる機能表示ユニット取付部１０１１と、左下隅に形成されている証紙貼付部１０１２と、を備えている。

【０９８５】

また、前構成部材１０００は、略全体が透明に形成されており、後側に配置されている遊技パネル１１００を前方から視認することができる。

【０９８６】

また、前構成部材１０００は、図１３９に示すように、正面視右上隅における衝止部１００６から右レール１００５に沿った所定範囲の部位において前面から後方へ凹んでおりパチンコ機１のスペックが表示されているスペックシール１０２０が貼り付けられるスペックシール貼付部１０２１と、スペックシール貼付部１０２１の後方から円柱状に突出しており衝止部１００６を位置決めするための挿通ピン１０２２と、挿通ピン１０２２の中心において前後に貫通している分離孔１０２３と、を備えている。

【０９８７】

スペックシール貼付部１０２１は、スペックシール１０２０の外形よりも一回り大きい大きさに形成されており、スペックシール１０２０の厚さよりも深く（０．４ｍｍ～１．０ｍｍ）後方へ凹んでいる（図１３９（ｂ）を参照）。このスペックシール貼付部１０２１では、下端における水平に延出している部位と、当該部位の右端から上方へ垂直に延出している部位の直線部分とが、スペックシール１０２０を貼り付けるための当て面に設定されている。

【０９８８】

挿通ピン１０２２は、スペックシール貼付部１０２１の後面から前構成部材１０００の後端と同じ位置まで後方へ延出している。衝止部１００６は、挿通ピン１０２２が挿入されることで、位置決めされている。

【０９８９】

分離孔１０２３は、前構成部材１０００の前側から後側まで貫通している。分離孔１０２３は、円形で一定の内径で前後に延びている。この分離孔１０２３は、遊技盤５に組立てた状態で、スペックシール貼付部１０２１に貼り付けられているスペックシール１０２０により前方側が閉鎖されていると共に、遊技パネル１１００のパネル板１１１０により後方側が閉鎖されており、分離孔１０２３内が閉鎖された空間（閉鎖空間）となっている。この分離孔１０２３は、図示するように、スペックシール貼付部１０２１（スペックシール１０２０）の端縁付近の位置に設けられている。

【０９９０】

本実施形態の分離孔１０２３は、内径が２ｍｍ～６ｍｍの範囲内とされている。分離孔１０２３がこれ以上小さいと、分離孔１０２３に挿入される分離用の棒状部材（工具）の直径が小さくなることで曲がり易くなりスペックシール１０２０を十分に押圧することができなくなる恐れがあるためであり、分離孔１０２３がこれ以上大きいと、スペックシール１０２０における分離孔１０２３の部位で撓みが発生し、スペックシール１０２０の見栄えが悪くなる恐れがあるためである。

【０９９１】

本実施形態の前構成部材１０００によれば、パチンコ機１の製造時において、スペックシール貼付部１０２１に対してスペックシール１０２０を正しく貼り付けることができなかった場合、前構成部材１０００の後方から分離孔１０２３に棒状部材を通し、その先端によりスペックシール１０２０を後方から前方へ押圧することで、スペックシール１０２０の端縁付近が前方へ捲れるように外すことができ、その捲れた部分を作業者が引っ張ることでスペックシール１０２０をスペックシール貼付部１０２１から容易に外すことができ、スペックシール１０２０を貼り直すことができる。

【０９９２】

また、前構成部材１０００と遊技パネル１１００とを離した状態で、前構成部材１０００の後方から分離孔１０２３に棒状部材を通し、その先端によりスペックシール１０２０

を後方から押圧することで、スペックシール１０２０をスペックシール貼付部１０２１から容易に外すことができるため、機種変更に伴うスペックシール１０２０の取替作業を容易なものとすることができる。

【０９９３】

更に、上述したように、前構成部材１０００と遊技パネル１１００とを離した状態では、分離孔１０２３を使用してスペックシール１０２０をスペックシール貼付部１０２１から容易に取外すことができるため、パチンコ機１の構成部品に対して素材毎の分別作業を行い易いものとすることができ、パチンコ機１の廃棄にかかるコストを低減させることができる。

【０９９４】

また、スペックシール貼付部１０２１にスペックシール１０２０を貼り付けることにより前方から分離孔１０２３を隠すことができるため、分離孔１０２３による見栄えの悪化を抑制させることができると共に、遊技者に対して分離孔１０２３の存在に気付かせ難くすることができ、分離孔１０２３を利用した不正行為を画策させ難くすることができる。

【０９９５】

また、パチンコ機１に組立てられている状態では、スペックシール１０２０が貼り付けられている前構成部材１０００の後側に組付けられている遊技パネル１１００によって、分離孔１０２３を後方から閉鎖するようにしており、従来のパチンコ機のように後側まで通るような孔を貫通させていないため、当該孔を通してピアノ線のような線状の不正工具が遊技盤５内に差し込まれることを回避させることができ、不正行為が行われることを防止することができる。

【０９９６】

また、遊技パネル１１００により分離孔１０２３を後方から閉鎖していることから、不正工具を、前方からスペックシール１０２０を貫いて分離孔１０２３に挿通させても、遊技パネル１１００（パネル板１１１０）によりそれ以上の後方への挿入（侵入）を阻止することができるため、分離孔１０２３を通した前方からの遊技盤５内への不正工具の侵入を阻止することができ、不正行為が行われることを防止することができると共に、不正工具がスペックシール１０２０を貫くことでスペックシール１０２０に痕跡が残るため、不正行為の実行を躊躇させることができ、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【０９９７】

なお、上記の実施形態では、分離孔１０２３をスペックシール貼付部１０２１に設けたものを示したが、これに限定するものではなく、証紙貼付部１０１２等のシールの貼り付けられる部位に分離孔を設けるようにしても良い。

【０９９８】

［５－２．遊技パネル］

遊技盤５における遊技パネル１１００について、主に図１３８等を参照して詳細に説明する。遊技パネル１１００は、前構成部材１０００の後面に取付けられており、表ユニット２０００及び裏ユニット３０００が取付けられるものである。遊技パネル１１００は、外周が枠状の前構成部材１０００の内周よりもやや大きく形成されていると共に透明な合成樹脂で形成されている平板状のパネル板１１１０と、パネル板１１１０の外周を保持しており前構成部材１０００の後側に取付けられると共に後面に裏ユニット３０００が取付けられる枠状のパネルホルダ１１２０と、を備えている。遊技パネル１１００の前面には、所定のゲージ配列で複数の障害釘Ｎが植設されている（図１３７等を参照）。

【０９９９】

遊技パネル１１００のパネル板１１１０は、アクリル樹脂、ポリカーボネート樹脂、ポリアリレート樹脂、メタクリル樹脂等の合成樹脂板や、ガラスや金属等の無機質板により形成されている。このパネル板１１１０の板厚は、パネルホルダよりも薄く、障害釘Ｎを前面に植設したり表ユニット２０００を取付けたりしても十分に保持可能な必要最低限の厚さ（８～１０ｍｍ）とされている。なお、本実施形態では、透明な合成樹脂板によって

パネル板１１１０が形成されている。
【１０００】
パネル板１１１０は、遊技領域５ａ内において最も低い位置となり前構成部材１０００のアウト口１００８と対応した位置が、下端から上方へ窪んでいる。また、パネル板１１１０には、前後に貫通しており表ユニット２０００を取付けるための開口部１１１２が複数形成されている。
【１００１】
また、図示は省略するが、パネル板１１１０は、前後に貫通した丸孔及び短い長孔に形成されている複数の位置決孔と、上縁と下縁とにおいて夫々左右方向へ離隔しており板厚が薄く形成されている複数の係合段部と、を備えている。位置決孔は、パネルホルダ１１２０の突出ピン（図示は省略）が挿入されることで、パネルホルダ１１２０との位置決めをするためのものである。係合段部は、パネルホルダ１１２０の係合爪（図示は省略）や係合片（図示は省略）に係合されることで、パネルホルダ１１２０に対して着脱可能に取付けられるためのものである。
【１００２】
パネル板１１１０は、図１３８示すように、センター役物２５００を取付けるための大きな開口部１１１２が、正面視において中央よりも右上にオフセットしている。これにより、パネル板１１１０が枠状となっており、正面視において、遊技球Ｂの流通方向（枠状の周方向）に対して直交している幅が、中央より左側と下側が複数の遊技球Ｂが並ぶことが可能な広い幅となっており、上側が複数の遊技球Ｂが並ぶことが不能な狭い幅となっている。
【１００３】
遊技パネル１１００のパネルホルダ１１２０は、パネル板１１１０を包含する大きさで外形が略四角形状とされ、パネル板１１１０よりも厚く（本実施形態では、約２０ｍｍ）形成されている。パネルホルダ１１２０は、透明な合成樹脂（例えば、熱可塑性合成樹脂）により形成されている。このパネルホルダ１１２０は、パネル板１１１０と略同じ大きさで前面側から後方側に向かって凹んでいる保持段部（図示は省略）と、保持段部を略遊技領域５ａと同等の大きさで前後方向に貫通している貫通口１１２１を備えている。
【１００４】
また、パネルホルダ１１２０は、正面視左下隅において下端から上方へ切欠かれている切欠部１１２２を備えている。この切欠部１１２２は、前構成部材１０００の切欠部１０１０と一致するように形成されており、遊技盤５を本体枠４に取付けた時に、切欠部１０１０及び切欠部を貫通して貫通して下部満タン球経路ユニット６１０の下部通常払出通路６１０ａ及び下部満タン払出通路６１０ｂの前端開口が前方へ臨むようになっている。
【１００５】
更に、パネルホルダ１１２０には、下端からアウト口１００８に対応した位置まで上方へ延びており、後面から前方へ向かって窪んでいるアウト凹部１１２３が形成されている。アウト凹部１１２３は、上部がアウト口１００８と連通している。
【１００６】
また、パネルホルダ１１２０は、図示は省略するが、保持段部から前方へ突出しておりパネル板１１１０の複数の位置決孔に夫々が挿入される複数の突出ピンと、保持段部よりも外側に配置されておりパネル板１１１０の上側と左下の傾斜している部位の係合段部に対して弾性係合する三つの係合爪と、保持段部の下外側から上方へ突出しておりパネル板１１１０の下辺の二つの係合段部と夫々係合する一対の係合片と、を備えている。パネルホルダ１１２０は、前方斜め上からパネル板１１１０の下辺の係合段部を、係合片に係合させた上で、パネル板１１１０の上部を後方へ移動させて、上側と左下の傾斜している部位の係合段部を係合爪に弾性係合させることで、パネル板１１１０を保持段部に収容した状態で着脱可能に取付けることができる。この際に、パネル板１１１０の位置決孔に、パネルホルダ１１２０の突出ピンが挿入され、パネル板１１１０がパネルホルダ１１２０に対して所定の位置に位置決めされる。

【１００７】
この遊技パネル１１００は、前側に取付けられる前構成部材１０００と共に透明に形成されているため、遊技盤５に組立てた時に、遊技領域５ａの境界が明瞭に見えることを低減させることができ、遊技者に対して開放感を与えることができると共に、実際の遊技領域５ａの大きさが変わらないものの、遊技者に対して遊技領域５ａを大きく（広く）見せることができる。
【１００８】
また、遊技パネル１１００を、前構成部材１０００と共に透明としているため、演出表示装置１６００、表ユニット２０００や裏ユニット３０００、等からの光を、前方（遊技者側）へ反射させたり屈折させたりすることで発光しているように見せることができ、遊技盤５の全体の装飾性をより高めることができる。
【１００９】
［５－３．基板ホルダ］
遊技盤５における基板ホルダ１２００について、主に図１３５及び図１３６等を参照して詳細に説明する。基板ホルダ１２００は、上方及び前方が開放された横長の箱状に形成されており、底面が左右方向中央へ向かって低くなるように傾斜している。基板ホルダ１２００は、底面における左右方向中央において、前端から後方へ向かって切欠かれている排出部１２０１を有している。この基板ホルダ１２００は、遊技盤５に組立てた状態で、遊技パネル１１００の後側に取付けられている裏ユニット３０００の下部を下側及び後側から覆っていると共に、後面に主制御ユニット１３００の主制御基板ボックス１３２０が取付けられている。
【１０１０】
基板ホルダ１２００は、パチンコ機１に組立てた状態で、排出部１２０１が、本体枠４の基板ユニット６２０におけるベースユニット６２０ｂの排出球受部６２８の直上に位置している。これにより、アウト口１００８を通って遊技パネル１１００の後側へ排出された遊技球Ｂ、及び、表ユニット２０００及び裏ユニット３０００から下方へ排出された遊技球Ｂ、を全て受けることができ、底面に形成された排出部１２０１から下方の排出球受部６２８又はアウト球通路６６３（図１１５を参照）へ排出させることができる。アウト球通路６６３へ排出された遊技球Ｂは、アウトセンサ６６４により一つずつ検知（カウント）される。
【１０１１】
［５－４．主制御基板ユニット］
遊技盤５における主制御ユニット１３００について、主に図１３５及び図１３６等を参照して詳細に説明する。主制御ユニット１３００は、基板ホルダ１２００の後面に着脱可能に取付けられている。主制御ユニット１３００は、遊技内容及び遊技球Ｂの払出し等を制御する主制御基板１３１０（図１６９を参照）と、遊技性能を設定することができる設定変更基板１３１１（図１３３を参照）と、主制御基板１３１０と設定変更基板１３１１とを収容しており基板ホルダ１２００に取付けられる主制御基板ボックス１３２０と、を備えている。
【１０１２】
主制御基板ボックス１３２０は、カバー体とベース体とから構成されている。カバー体とベース体とは、ポリカーボネートの樹脂製であり、透明に成型されている。カバー体とベース体とにより形成される内部空間には、主制御基板１３１０及び設定変更基板１３１１を収容することができるようになっている。カバー体とベース体とがポリカーボネートの樹脂製により透明に成型されていることにより、主制御基板１３１０及び設定変更基板１３１１の表面側や裏面側の状態（不正な改変が行われているか否か、又は不正ＩＣが実装されているか否か）を、主制御基板ボックス１３２０の外側から確認することができるようになっている。また、主制御基板ボックス１３２０は、カバー体とベース体とにそれぞれ対応するように複数の封印機構を備えており、一つの封印機構を用いて主制御基板ボックス１３２０を閉じると、次に、主制御基板ボックス１３２０を開けるためにはその封

印機構を破壊する必要があり、主制御基板ボックス１３２０の開閉の痕跡を残すことができる。したがって、開閉の痕跡を見ることで、主制御基板ボックス１３２０の不正な開閉を発見することができ、主制御基板１３１０への不正行為に対する抑止力が高められている。

【１０１３】

主制御ユニット１３００の主制御基板１３１０は、インターフェイス基板６３５、周辺制御基板１５１０、設定変更基板１３１１と、接続されている。また、主制御基板１３１０は、機能表示ユニット１４００、一般入賞口センサ３００１、第一始動口センサ３００２、ゲートセンサ２８０１、第二始動口センサ２４０１、大入賞口センサ２４０２、役物入賞口センサ２６０１、Ｖ入賞口センサ３００３、ハズレ口センサ３００４、始動口ソレノイド２４１２、アタッカソレノイド２４１４、役物入賞口ソレノイド２６１２、Ｖ振分ソレノイド３００７、磁気センサ１０５０、等と接続されている。

【１０１４】

主制御ユニット１３００の設定変更基板１３１１は、パチンコ機１の設定値の切り替えと設定値の確認とを行うことができる設定キースイッチ１３１１ａ、設定値を選択して切り替えることができる設定切替ボタン１３１１ｂ、パチンコ機１の設定値の切り替えが許可されている状態を示す設定変更許可ランプ１３１１ｃと、を備えている。設定変更基板１３１１のコネクタＳＭＣＮは、主制御基板１３１０のコネクタＭＳＣＮとコネクタ接続（基板間接続）されている（設定変更基板１３１１のコネクタＳＭＣＮと主制御基板１３１０のコネクタＭＳＣＮとのコネクタ間を、ハーネスを介して、電気的に接続してもよい）。このコネクタ接続（基板間接続）されることにより、設定キースイッチ１３１１ａからの信号、設定切替ボタン１３１１ｂからの信号は、主制御基板１３１０と電気的に接続される。設定変更基板１３１１は、その右辺及び左辺の上下方向の距離寸法が主制御基板１３１０の右辺及び左辺の上下方向の距離寸法とほぼ同一であり、その左右方向の距離寸法が主制御基板１３１０の左右方向の距離寸法と比べて短く、主制御基板１３１０の右辺と左辺とのそれぞれの中点を通る中心線と、設定変更基板１３１１の右辺と左辺とのそれぞれの中点を通る中心線と、が合致している。

【１０１５】

設定変更基板１３１１のコネクタＳＭＣＮは、設定変更基板１３１１の右辺に沿って、その上下方向の距離寸法の中心となる位置が中心線上に配置されているとともに、主制御基板１３１０のコネクタＭＳＣＮは、主制御基板１３１０の左辺に沿って、その上下方向の距離寸法の中心となる位置が中心線上に配置されている。設定変更基板１３１１の中心線より下方に設定キーが挿入されて回動操作される設定キーシリンダを有する設定キースイッチ１３１１ａが配置され、設定変更基板１３１１の中心線より上方に押圧操作部を有する設定切替ボタン１３１１ｂが配置され、設定変更基板１３１１の中心線上であって設定キースイッチ１３１１ａの左上方（設定切替ボタン１３１１ｂの左下方）に単色（例えば、赤色）に発光することができる設定変更許可ランプ１３１１ｃが配置されている。主制御基板１３１０の中心線より上方であってコネクタＭＳＣＮの近傍に小数点付き（いわゆる、ドット付き）７セグメントＬＥＤ表示器単体で構成される設定表示器１３１０ｇが配置され、主制御基板１３１０の中心線より下方であって中央から右辺へ向かって小数点付き（いわゆる、ドット付き）７セグメントＬＥＤ表示器が６つ一列に連なって構成されるベースモニタ１３１０ｈが配置され、主制御基板１３１０の下辺の中央寄りに押圧操作部を有するＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆが配置されている。なお、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆは、主制御基板１３１０に設置されるものに限らず、払出制御基板６３３や電源基板６３０に配置されるものであってもよい。すなわち、主制御基板１３１０と払出制御基板６３３と電源基板６３０とのいずれか１つにＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆを配置するようにしてもよい。

【１０１６】

本実施形態では、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダに形成される差し込み口に設定キーが差し込まれる準備が整っている位置（例えば、矩形状を有する差し込み

口の長手方向が上下方向へ沿う位置）において、初期位置として設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦとする状態となっている。設定キーシリンダが初期位置にあるときにおいて、差し込み口に設定キーを差し込むことができるとともに、差し込み口から設定キーを抜き取ることができるようになっている。なお、本実施形態では、差し込み口に設定キーが差し込まれた状態のまま、外枠２に対して本体枠４を閉鎖したとしても、遊技ホールの島設備に背向かいで列設される他のパチンコ機の部材（又は遊技ホールの島設備の部材）と設定キーとが互いに干渉せずに損傷しないように設定キースイッチ１３１１ａの奥行き方向の距離寸法を採用している。

【１０１７】

設定キーシリンダが初期位置から時計方向へ向かって６０度回動操作されて第１のＯＮ操作されることにより設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮとすることができ、この設定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力される。また、設定キーシリンダが初期位置から反時計方向へ向かって６０度回転操作されて第２のＯＮ操作されることにより設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮとすることができ、この決定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力される。また、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように設定キーシリンダが反時計方向へ向かって６０度回転操作されてＯＦＦ操作されることにより設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦとすることができるとともに、設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように設定キーシリンダが時計方向へ向かって６０度回転操作されてＯＦＦ操作されることにより設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦとすることができる。このＯＦＦの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力される。本実施形態では、設定キーＯＮという機能と決定キーＯＮという機能とが全く異なる２つの機能を、設定キーシリンが回動操作される方向によって、設定キースイッチ１３１１ａという単体のみで実現することができ、設定キースイッチ１３１１ａという単体のみによって、設定キーＯＮとする操作と決定キーＯＮとする操作とをまとめて行うことができる。

【１０１８】

設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの前面、設定切替ボタン１３１１ｂの押圧操作部、及びＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの押圧操作部は、それぞれ対応する主制御基板ボックス１３２０のカバー体に形成される開口部を介して露出されているものの、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの前面、設定切替ボタン１３１１ｂの押圧操作部、及びＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの押圧操作部とそれぞれ対応する開口部とに形成される「すき間」から針金などを侵入して設定変更基板１３１１及び主制御基板１３１０を改変することができないように、これらの開口部に対して針金侵入防止部がカバー体にそれぞれ成型されている構造となっている。設定表示器１３１０ｇ、及びベースモニタ１３１０ｈは、カバー体とベース体とにより形成される内部空間に収容されて全く触れることができないものの、カバー体が、上述したように、透明に成型されているため、カバー体を通して、設定表示器１３１０ｇが表示する設定値と、ベースモニタ１３１０ｈが表示する算出結果と、を視認することができるようになっている。ここで、設定表示器１３１０ｇには、パチンコ機１の設定値を表示することを可能とするのに対し、ベースモニタ１３１０ｈには、入球数に対する払出数（入球数に対する賞球個数）の割合の算出結果を表示することを可能にしているが、ベースモニタ１３１０ｈのみを設けるようにし、パチンコ機１の設定値を表示する機能と、入球数に対する払出数の割合の算出結果を表示する機能と、を兼用するようにしてもよい。このような場合、ベースモニタ１３１０ｈには、設定値の設定変更を行うことが可能な状態（変更許可状態）や設定値の確認表示が行われている状態（確認表示状態）で、パチンコ機１の設定値を表示するのに対し、変

更許可状態や確認表示状態を除いた状態で、入球数に対する払出数の割合の算出結果を表示するようにしている。これにより、部品点数を削減することができ、コストダウンを図ることができる。

【１０１９】

なお、不正な改変を防止するために、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーＯＮの信号が伝送される配線パターンと、設定キースイッチ１３１１ａの決定キーＯＮの信号が伝送される配線パターンと、設定キースイッチ１３１１ａのＯＦＦの信号が伝送される配線パターンと、設定切替ボタン１３１１ｂからの信号が伝送される配線パターンと、の引き回しとして、設定変更基板１３１１において相互に近づけないように（相互に離間して）形成されるとともに、設定変更基板１３１１のコネクタＳＭＣＮの端子（主制御基板１３１０のコネクタＭＳＣＮの端子）への接続も離間して形成され、主制御基板１３１０においても、設定キースイッチ１３１１ａからの各種信号が伝送される配線パターン（つまり、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーＯＮの信号が伝送される配線パターン、設定キースイッチ１３１１ａの決定キーＯＮの信号が伝送される配線パターン、及び設定キースイッチ１３１１ａのＯＦＦの信号が伝送される配線パターン）と設定切替ボタン１３１１ｂからの信号が伝送される配線パターンとの引き回しも相互に近づけないように（相互に離間して）形成されているとともに、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆからの信号が伝送される配線パターンとの引き回しも相互に近づけないように（相互に離間して）形成されている。

【１０２０】

設定キースイッチ１３１１ａ、設定切替ボタン１３１１ｂ、及び設定表示器１３１０ｇについて簡単に説明する。ここで、まず設定値の設定変更を行う場合について簡単に説明し、現在の設定値の確認表示を行う場合について簡単に説明する。なお、設定キーは、設定値の変更のほかに、設定されている現状の設定値の確認等を行うことができる重要なキーであるため、遊技ホールの店長を含め限られた者のみ所持が許可され、２～３人に限定されている。

【１０２１】

設定値の設定変更を行う場合には、パチンコ機１の電源投入時や停電後の電力回復時における復電時において、外枠２に対して本体枠４が開放され、かつ、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの差し込み口に設定キーが差し込まれ、設定キーシリンダが時計方向へ向かって６０度回動操作されて第１のＯＮ操作されることで設定キースイッチ１３１１ａが設定キーＯＮされているという「予め定めた設定値変更許可条件」が成立する必要がある。つまり、実際に設定値の設定変更を行う者は、まずパチンコ機１が電源投入されていない状態（パチンコ機１の電源が遮断されている状態）を確認してから、外枠２に対して本体枠４を開放する作業を行い、続いて設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの差し込み口に設定キーを差し込んで時計方向へ向かって６０度回動操作して第１のＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮし、パチンコ機１の電源投入を行うこととなる。なお、上記した「予め定めた設定値変更許可条件」として、さらにＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの押圧操作部が操作されて操作信号が入力されていることを条件としてもよい。即ち、パチンコ機１の電源投入時や停電後の電力回復時における復電時において、外枠２に対して本体枠４が開放され、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの差し込み口に設定キーが差し込まれ、設定キーシリンダが時計方向へ向かって６０度回動操作されて第１のＯＮ操作されることで設定キースイッチ１３１１ａが設定キーＯＮされ、かつＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの押圧操作部が操作されているという「予め定めた設定値変更許可条件」が成立する場合に設定値の設定変更を実行可能としてもよい。

【１０２２】

設定値の設定変更を行う者は、まずパチンコ機１が電源投入されていない状態（パチンコ機１の電源が遮断されている状態）を確認してから、外枠２に対して本体枠４を開放する作業を行い、続いて設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの差し込み口に設

定キーを差し込み、設定キーシリンダを時計方向へ向かって６０度回動操作して第１のＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮとする。続いて図７の電源スイッチ６３０ａを操作してパチンコ機１の電源投入を行う。これにより、設定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力される。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、その内蔵されているＲＡＭの特定領域に格納されている現状の設定値（設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダが第１のＯＮ操作された時点における設定値１～設定値６のうち設定されている値）を設定表示器１３１０ｇに表示し、設定変更許可ランプ１３１１ｃを消灯した状態から点灯する状態へと切り替える。

【１０２３】

設定値の設定変更を行う者は、設定切替ボタン１３１１ｂの押圧操作部を押圧操作すると、設定変更基板１３１１の設定切替ボタン１３１１ｂからの検出信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力される。設定値の設定変更を行う者が設定切替ボタン１３１１ｂの押圧操作部を押圧操作するごとに、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、設定変更基板１３１１の設定切替ボタン１３１１ｂからの検出信号に基づいて、現状の設定値から値１ずつ増加し、最大値である設定値６に達すると、初期値である設定値１へ戻り、再び値１ずつ増加し、設定値を設定表示器１３１０ｇに表示する制御を行う。なお、設定変更切替ボタン１３１１ｂを設けることなく、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆを用いて設定値を切り替えるようにしてもよく、この場合にはＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの押圧操作部を押圧操作するとＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆからの検出信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力され、設定値の設定変更を行う者がＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの押圧操作部を押圧操作するごとに、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆからの検出信号に基づいて、現状の設定値から値１ずつ増加し、最大値である設定値６に達すると、初期値である設定値１へ戻り、再び値１ずつ増加し、設定値を設定表示器１３１０ｇに表示する制御を行うようにしてもよい。

【１０２４】

設定値の設定変更を行う者は、設定値を決定する場合には、設定キーシリンダを反時計方向へ向かって１２０度回動操作して（つまり、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように反時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作し、さらに反時計方向へ向かって６０度回転操作して）第２のＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮとする。この決定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力される。これにより、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、設定変更して決定した設定値を主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されているＲＡＭの特定領域に格納する。

【１０２５】

なお、設定キーシリンダを反時計方向へ向かって１２０度回動操作して（つまり、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻したときに決定キーのＯＮの信号を設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力するようにしてもよく、この場合には設定切替ボタン１３１１ｂの押圧操作部を押圧操作して設定値を設定表示器１３１０ｇに表示させた後、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦするだけで設定値を決定してそのまま設定キーを設定キーシリンダから抜くことができるようになり、作業性が向上する。

【１０２６】

設定値の設定変更を行う者は、設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように設定キーシリンダが時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦとする。この設定キーＯＦＦの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰ

Ｕ１３１０ａへ入力される。これにより、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、設定表示器１３１０ｇに対して設定値を表示する状態から非表示する状態へ切り替え、設定変更許可ランプ１３１１ｃを点灯する状態から消灯する状態へ切り替える。すなわち、設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように設定キーシリンダが時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦとするという「予め定めた設定値変更終了条件」が成立することにより、設定値を設定変更可能な期間（設定値の設定変更が可能となる期間）が終了する。

【１０２７】

設定値の設定変更を行う者は、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの差し込み口から設定キーを抜き取り、外枠２に対して本体枠４を閉鎖する作業を行い、設定値の設定変更の作業を完了する。

【１０２８】

現在設定されている設定値の確認表示を行う場合には、パチンコ機１の電源投入時や停電後の電力回復時における復電時において、外枠２に対して本体枠４が開放され、かつ、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの差し込み口に設定キーが差し込まれ、設定キーシリンダが時計方向へ向かって６０度回動操作されて第１のＯＮ操作されることで設定キースイッチ１３１１ａが設定キーＯＮされているという「予め定めた設定値表示許可条件」が成立する必要がある。つまり、実際に現在設定されている設定値の確認表示を行う者は、まずパチンコ機１が電源投入されている状態（停電や瞬停が発生して電力が回復した状態）を確認してから、外枠２に対して本体枠４を開放する作業を行い、続いて設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの差し込み口に設定キーを差し込んで時計方向へ向かって６０度回動操作して第１のＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮすることとなる。

【１０２９】

現在設定されている設定値の確認表示を行う者は、まずパチンコ機１が電源投入されている状態（停電や瞬停が発生して電力が回復した状態）を確認してから、外枠２に対して本体枠４を開放する作業を行い、続いて設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの差し込み口に設定キーを差し込んで時計方向へ向かって６０度回動操作して第１のＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮする。この設定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力される。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、その内蔵されているＲＡＭの特定領域に格納されている現状の設定値（設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダが第１のＯＮ操作された時点における設定値１～設定値６のうち設定されている値）を設定表示器１３１０ｇに表示する。このとき、設定変更許可ランプ１３１１ｃを消灯した状態が維持され、また現在設定されている設定値の確認表示を行う者が設定切替ボタン１３１１ｂの押圧操作部を押圧操作しても、この押圧操作に対応して設定値が全く変更されないし、設定表示器１３１０ｇに表示された内容も変更されない。

【１０３０】

現在設定されている設定値の確認表示を行う者は、現在設定されている設定値の確認を完了すると、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように反時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作する。この設定キーＯＦＦの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力される。

【１０３１】

主制御ＭＰＵ１３１０ａは、設定表示器１３１０ｇに対して設定値を表示する状態から非表示する状態へ切り替える。すなわち、設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯ

ＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように設定キーシリンダが時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦとするという「予め定めた設定値表示終了条件」が成立することにより、設定値を確認可能な期間（設定値が設定表示器１３１０ｇに表示される期間）が終了する。

【１０３２】

現在設定されている設定値の確認表示を行う者は、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの差し込み口から設定キーを抜き取り、外枠２に対して本体枠４を閉鎖する作業を行い、現在設定されている設定値の確認表示の作業を完了する。

【１０３３】

なお、予め定めた設定値変更許可条件は、上述したように、パチンコ機１の電源投入時や停電後の電力回復時における復電時において、外枠２に対して本体枠４が開放され、かつ、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの差し込み口に設定キーが差し込まれ、設定キーシリンダが時計方向へ向かって６０度回動操作されて第１のＯＮ操作されることで設定キーＯＮ操作され、さらにＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの押圧操作部が操作されて操作信号が入力されていることが必要であるのに対して、予め定めた設定値表示許可条件は、上述したように、パチンコ機１の電源投入時や停電後の電力回復時における復電時において、外枠２に対して本体枠４が開放され、かつ、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの差し込み口に設定キーが差し込まれ、設定キーシリンダが時計方向へ向かって６０度回動操作されて第１のＯＮ操作されることで設定キーＯＮ操作されていることが必要である。このように、予め定めた設定値変更許可条件と予め定めた設定値表示許可条件とは、外枠２に対して本体枠４が開放され、かつ、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの差し込み口に設定キーが差し込まれ、設定キーシリンダが時計方向へ向かって６０度回動操作されて第１のＯＮ操作されることで設定キーＯＮ操作されているという点で共通する要件がある。なお、設定値変更許可条件としてパチンコ機１の電源投入時や停電後の電力回復時における復電時において、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの差し込み口に設定キーが差し込まれ、設定キーシリンダが時計方向へ向かって６０度回動操作されて第１のＯＮ操作されることで設定キーＯＮ操作され、さらにＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの押圧操作部が操作されて操作信号が入力されていることとし、設定値表示許可条件としてパチンコ機１の電源投入時や停電後の電力回復時における復電時において、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの差し込み口に設定キーが差し込まれ、設定キーシリンダが時計方向へ向かって６０度回動操作されて第１のＯＮ操作されることで設定キーＯＮ操作されていることとしてもよく、外枠２に対して本体枠４が開放されていることについては設定値変更許可条件及び設定値表示許可条件に含まないようにしてもよい。

【１０３４】

ここで、設定値について簡単に説明すると、「設定値」とは、大当りか否かを抽選判定するための確率や小当りか否かを抽選判定するための確率のほかに、確変時から通常時へ移行する際に抽選判定するための確率、遊技者にとって有利となる領域への振分け率等を変更することができるものであり、遊技者にとって有利となる（つまり、遊技者が獲得することができる遊技球Ｂの球数を増やすことができる）確率（有利度合い）が予め設定されているものである。本実施形態では、設定値として、設定値１、設定値２、設定値３、設定値４、設定値５、及び設定値６が予め用意されており、設定値１から設定値６へ向かって遊技者にとって有利となる確率（有利度合い）が予め設定されている。主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、設定値と対応付けた各種抽選判定で用いられる各種テーブル（例えば、大当りに当選したことを示す大当り判定値の割合が規定される大当り判定テーブル、大当り図柄の決定の判定値の割合が規定される大当り図柄決定テーブル、小当りに当選したことを示す小当り判定値の割合が規定される小当り判定テーブル、小当り図柄の決定の判定値の割合が規定される小当り図柄決定テーブル、確変時から通常時への移行決定の判定値の割合が規定される通常時移行判定テーブル等）を選択したり、設定値と対応付けた各種振分け率で用いられる各種テーブル（例えば、振分ける時間が規定さ

れる振分けテーブル、モータやソレノイド等の電気的駆動源の駆動を管理するブロック等）を選択したりする。設定値と対応付けた各種抽選判定で用いられる各種テーブルには、各種判定値には所定の割合で割り振られている。なお、各種抽選判定で用いられる各種テーブルは、相互に少なくとも一部の値が異なるように設定され、各種振分け率で用いられる各種テーブルは、相互に少なくとも一部の値が異なるように設定されているものもあれば、一の電気的駆動源の駆動を管理するブロックに対応するテーブルと他の電気的駆動源の駆動を管理するブロックに対応するテーブルとの関係性に基づいて値が異なるように設定されているものもある。また、上述した設定値としては、設定値１から設定値６までに亘る範囲の６つの設定値（整数）としていたが、これと比べて少ない範囲のものでもあってもよいし、多い範囲のものであってもよい。例えば、設定値１～設定値４までに亘る範囲の４つの設定値（整数）としてもよいし、設定値１～設定値８までに亘る範囲の８つの設定値（整数）としてもよい。

【１０３５】

設定表示器１３１０ｇは、上述したように、設定値の表示を行うほかに、主制御ＭＰＵ１３１０ａが復電時に自身に内蔵されているＲＡＭの内容をチェックして異常があるか否かを判定して異常があると判定した場合、電源遮断時に主制御側電源断時処理が正常に終了していない場合には、自身に内蔵されているＲＡＭに格納されている内容に異常がある（又は信用することができないものである）として、その旨を伝えるエラー表示を行う。本実施形態では、主制御ＭＰＵ１３１０ａがエラー表示として英字Ｅを設定表示器１３１０ｇに表示するようになっている。

【１０３６】

次に、ベースモニタ１３１０ｈについて簡単に説明すると、ベースモニタ１３１０ｈは、遊技の進行に伴い増加する入球数や払出数（賞球個数）を計数して、ベース値（入球数に対する払出数の割合）を表示するものである。遊技領域５ａに発射された遊技球Ｂのうち、アウト口１００８により回収された遊技球Ｂは、アウトセンサ６６４（図１６９等を参照）で検出され、この検出信号がパネル中継基板１７１０を介して主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力される。

【１０３７】

主制御ＭＰＵ１３１０ａは、入球数（遊技盤５に区画形成される遊技領域５ａに設けられる入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数）に対する払出数（入賞口への入球により賞球として払い出される（付与される）遊技球Ｂの球数）の割合を算出し、その算出結果をベース値として、内蔵されているＲＡＭの特定領域に格納するとともに、ベースモニタ１３１０ｈに表示するようにしている。なお、入球数に対する払出数の割合の算出式としては、「ベース値＝（払出数÷入球数）×１００」が挙げられる。例えば、入球数に対する払出数の割合が多くなり過ぎている場合には、入球口のうち、入球により賞球を払い出す対象である入賞口ばかりに入球している可能性があり、ベースモニタ１３１０ｈに表示される情報を監視することで、不正行為により入賞口に入球させていないかなどを把握することができる。

【１０３８】

なお、本例では、複数の遊技状態のうち、低確率非時短状態である場合のみ、入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数（入球数）と、賞球として払い出される遊技球Ｂの球数（払出数）と、を計数するようにし、ベースモニタ１３１０ｈへの表示に反映させている。ここで、低確率時短状態（時短状態）や高確率時短状態（確変状態）では、第二始動口２００４に頻繁に入球することから、賞球として払い出される遊技球Ｂの球数も多くなり、入球数に対する払出数の割合が多くなる傾向にある。つまり、入球数に対する払出数の割合が多くなるか否かは、低確率時短状態（時短状態）や高確率時短状態（確変状態）としている期間に左右されることになるが、そのような期間を除外することで、不正行為などがなければ、入球数に対する払出数の割合を一定の範囲内に収めることができる。

【１０３９】

また、ベースモニタ１３１０ｈには、入球数に対する払出数の割合を表示しているが、入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数（入球数）と、賞球として払い出される遊技球Ｂの球数（払出数）と、をそれぞれ表示することを可能にしてもよい。

【１０４０】

また、ベースモニタ１３１０ｈについては、主制御ＭＰＵ１３１０ａで入球数に対する払出数の割合を算出し、その算出結果を、内蔵されているＲＡＭの特定領域に格納するとともに、そのベースモニタ１３１０ｈに表示するようにしている。また、ＲＡＭの特定領域に記憶されている情報（入球数に対する払出数の割合）については、電源投入時にＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆを操作していたとしても、その情報がクリアされることがない。ただし、入球数に対する払出数の割合については、入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数（入球数）が６００００球に到達するごとに、新たに入球数に対する払出数の割合を算出するようにし、古くなった入球数に対する払出数の割合の算出結果については、所定回数の算出結果までを履歴として保存するようにしている。このようなベースモニタ１３１０ｈの仕様において、例えば、新たに入球数に対する払出数の割合を算出する時点から、少なくとも入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数（入球数）が１０００球に到達するまでの間、その新たな入球数に対する払出数の割合に関する表示の実行を制限するようにしてもよい。これは、新たに入球数に対する払出数の割合を算出する直後においては、入球により賞球を払い出す対象である入賞口に入球する状況が続いて、基準値よりも入球数に対する払出数の割合が高くなったり、入球により賞球を払い出す対象である入賞口に入球しない状況が続いて、基準値よりも入球数に対する払出数の割合が低くなったりする等、偏りが生じやすくなっている。このため、新たに入球数に対する払出数の割合を算出する直後においては、ベースモニタ１３１０ｈ情報コマンドから得られる情報が信頼性の低いものであると判断し、入球数に対する払出数の割合に関する表示を実行しないこととすればよい。

【１０４１】

また、本例では、アウト口１００８や第一サブアウト口２０２１、第二サブアウト口２０２２に回収された遊技球Ｂについては、本体枠４側に設けられたアウト球センサにより検知（カウント）され、一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、大入賞口２００５、役物入賞口２００６のような入賞口に入球した遊技球Ｂについては、本体枠４側に設けられたセーフ球センサにより検知（カウント）されているが、これらのセンサについては、遊技盤５側に設けられてもよい。また、アウト口１００８や第一サブアウト口２０２１、第二サブアウト口２０２２に回収された遊技球Ｂと、各種入賞口に入球した遊技球Ｂと、が合流するように通路を形成し、その通路上に１つのセンサを設けるようにし、その１つのセンサの検知により入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数（入球数）を計数するようにしてもよい。

【１０４２】

また、本例では、ベースモニタ１３１０ｈについては、主制御基板１３１０に配置されているが、払出制御基板６３３に配置されてもよい。このような場合、入球数に対する払出数の割合については、主制御基板１３１０側で算出し、その算出結果を、払出制御基板６３３を介してベースモニタ１３１０ｈに表示しているが、別の手法を用いてもよい。例えば、所定のタイミングで、入球数や払出数に関するコマンドを主制御基板１３１０から払出制御基板６３３に向けて送信するようにし、払出制御基板６３３では、入球数に対する払出数の割合を算出し、その算出結果を、ベースモニタ１３１０ｈに表示するようにしてもよい。このように、払出制御基板６３３側でベースモニタ１３１０ｈ関連の制御の一部を担うことで、主制御基板１３１０側の制御負担を軽減することができる。なお、賞球の払い出しを行わない管理遊技機においては、賞球の管理を行う基板（払出制御基板６３３に相当する基板）にベースモニタ１３１０ｈを配置するようにしてもよい。

【１０４３】

また、本例では、アウト球センサやセーフ球センサを用いて入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数（入球数）を算出しているが、別の構成により、入球口（入

賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数（入球数）を算出するようにしてもよい。例えば、払出制御基板６３３側で入球数に対する払出数の割合を算出する場合等は、遊技領域５ａに発射された遊技球の数を算出し、この数値（遊技領域５ａに発射された遊技球の数）を「入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数（入球数）」に代替するようにしてもよい。なお、ここでいう「遊技領域に発射された遊技球の数」には、上述したファール球として処理された球数は除くことが好ましい。このようにした場合、払出制御基板６３３側でのベース値の演算は、「ベース値＝（払出数÷遊技領域に発射された遊技球の数）×１００）」等が例示できる。このように、払出制御基板６３３側でベースモニタ１３１０ｈ関連の制御の一部を担うことでも、主制御基板１３１０側の制御負担を軽減することができる。

【１０４４】

なお、上述した実施形態では、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように反時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作し、さらに反時計方向へ向かって６０度回転操作して）第２のＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮとすることができ、この決定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力されるようになっていたが、この設定キースイッチ１３１１ａを初期位置から設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置までに亘る範囲のみ回動操作することができる設定キースイッチ１３１１ａ'としてもよい。この場合、設定キースイッチ１３１１ａ'を設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように反時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａ'を決定キーＯＮとすることができ、この決定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力されるようにしてもよい（設定キースイッチ１３１１ａ'の態様を「決定キーの変形例（１）」と記載する場合がある）。

【１０４５】

また、上述した実施形態では、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように反時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作し、さらに反時計方向へ向かって６０度回転操作して）第２のＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮとすることができ、この決定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力されるようになっていたが、これに代えて、設定変更基板１３１１に押圧操作部を有する決定キーボタンを設けてもよい。この場合、決定キーボタンの押圧操作部は、決定キーボタンと対応する主制御基板ボックス１３２０のカバー体に形成される開口部を介して露出され、決定キーボタンの押圧操作部と、これに対応する開口部と、に形成される「すき間」から針金などを侵入して設定変更基板１３１１及び主制御基板１３１０を改変することができないように、開口部に対して針金侵入防止部がカバー体に成型される構造となる。決定キーボタンの押圧操作部が押圧操作されると、この操作信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力される。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、決定キーボタンからの検出信号に基づいて決定キーボタンの押圧操作部が押圧操作されているときには決定キーＯＮであると判定することができる一方、決定キーボタンの押圧操作部が押圧操作されていないときには決定キーＯＮでないと判定することができる。

【１０４６】

なお、設定変更基板１３１１に決定キーボタンを配置する位置は、設定キースイッチ１３１１ａの近傍であってもよし、設定切替ボタン１３１１ｂの近傍であってもよい。主制御基板ボックス１３２０のカバー体には、決定キーボタンと設定切替ボタン１３１１ｂと

が混同されないように決定キーボタンと設定切替ボタン１３１１ｂとにそれぞれ対応する位置に、各ボタンの名称が印刷されたシールが貼られている（このシールに替えてカバー体に各ボタンの名称が成型されていてもよい）。また、決定キーボタンと設定切替ボタン１３１１ｂとが混同されないように、決定キーボタンと設定切替ボタン１３１１ｂとのうちいずれか一方の押圧操作部を覆うカバー付きのボタン（押圧操作部を押圧操作するためにカバーを開放する必要がある。）を採用してもよいし、押圧操作部の色を異なるものを採用してもよいし、決定キーボタンと設定切替ボタン１３１１ｂとの外形の形状又は押圧操作部の形状が異なるものを採用してもよいし、決定キーボタンとして押圧操作部を有するものでない他の種類のスイッチを採用してもよい。決定キーボタンとして押圧操作部を有するものでない他の種類のスイッチとしては、例えば、レバーを有するトグルスイッチ、スライド部を有するスライドスイッチ、回転操作部を有するロータリースイッチ、ロッカスイッチ、タッチスイッチ等の各種スイッチを挙げることができる。また、設定変更基板１３１１に決定キーボタンと設定切替ボタン１３１１ｂとを設ける場合には、不正な改変を防止するために、決定キーボタンへの配線パターンと設定切替ボタン１３１１ｂへの配線パターンとの引き回しとして設定変更基板１３１１において相互に近づけないように（相互に離間して）形成されるとともに、設定変更基板１３１１のコネクタＳＭＣＮの端子（主制御基板１３１０のコネクタＭＳＣＮの端子）への接続も離間して形成され、主制御基板１３１０においても、決定キーボタンからの検出信号が伝送される配線パターンと設定切替ボタン１３１１ｂからの検出信号が伝送される配線パターンとの引き回しも相互に近づけないように（相互に離間して）形成されている。また、設定変更基板１３１１に決定キーボタンを設ける場合には、設定キースイッチ１３１１ａを初期位置から設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置までに亘る範囲のみ回動操作することができる設定キースイッチ１３１１ａ'としてもよい（決定キーボタンの態様（設定キースイッチ１３１１ａ'の態様を含めてもよい。）を「決定キーの変形例（２）」と記載する場合がある）。

【１０４７】

また、上述した実施形態では、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように反時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作し、さらに反時計方向へ向かって６０度回転操作して）第２のＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮとすることができ、この決定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力されるようになっていたが、これに代えて、ハンドルユニット１８０おける、ハンドル１９５に手のひらや指が触れているか否かを検出するハンドルタッチセンサ１９２からの検出信号、及び遊技者の意志によって遊技球Ｂの打ち出しを強制的に停止するか否かを検出する単発ボタン操作センサ１９４からの検出信号が、払出制御基板６３３において分岐されて払出制御基板６３３を介して、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力され、これらの検出信号に基づいて決定キーＯＮの有無を判定してもよい。この場合、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ハンドルタッチセンサ１９２からの検出信号に基づいてハンドル１９５に手のひらや指が触れているときには決定キーＯＮであると判定することができる一方、ハンドル１９５に手のひらや指が触れていないときには決定キーＯＮでないと判定することができるし、及び／又は、単発ボタン操作センサ１９４からの検出信号に基づいて遊技球Ｂの打ち出しを強制的に停止しているときには決定キーＯＮであると判定することができる一方、遊技球Ｂの打ち出しを強制的に停止していないときには決定キーＯＮでないと判定することができる（ハンドルタッチセンサの態様（単発ボタン操作センサの態様を含めてもよい。）を「決定キーの変形例（３）」と記載する場合がある）。

【１０４８】

また、上述した実施形態では、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１

ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように反時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作し、さらに反時計方向へ向かって６０度回転操作して）第２のＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮとすることができ、この決定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力されるようになっていたが、これに代えて、後述する払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂに備える発射タイミング制御回路から発射基準パルスが払出制御基板６３３において分岐されて払出制御基板６３３を介して、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力され、これらの発射基準パルスに基づいて決定キーＯＮの有無を判定してもよい。発射基準パルスは、１分当たり１００個の遊技球Ｂが遊技領域５ａに向かって打ち出すことができる基準パルスであり、発振回路からのクロック信号に基づいて生成されるものである。この場合、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、払出制御基板６３３からの発射基準パルスが入力されると、決定キーＯＮであると判定することができる一方、発射基準パルスが入力されないと、決定キーＯＮでないと判定することができる（発射基準パルスの態様を「決定キーの変形例（４）」と記載する場合がある）。

【１０４９】

また、上述した実施形態では、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように反時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作し、さらに反時計方向へ向かって６０度回転操作して）第２のＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮとすることができ、この決定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力されるようになっていたが、パチンコ機１の対面に着座する遊技者の動作を検出することができる測距センサが遊技盤５に設けられ、この測距センサからの検出信号が中継基板を介して周辺制御基板１５１０へ入力されている場合には、この測距センサからの検出信号が中継基板において分岐されて中継基板を介して主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力され、この検出信号に基づいて決定キーＯＮの有無を判定してもよい。測距センサは、発光部が発した光が扉枠３におけるガラスユニット１６０の透明なガラス板１６２を通過して、予め定めた距離寸法内において、遊技者の腕又は手等に反射し、この反射した光が再び透明なガラス板１６２を通過して受光部で受光されることにより遊技者の動作を検出することができるものである。この場合、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、測距センサからの検出信号が中継基板を介して入力されると、この検出信号に基づいて動作の有無を判定し、動作があると判定したときには決定キーＯＮであると判定することができる一方、動作がないと判定したときには決定キーＯＮでないと判定することができる（測距センサの態様を「決定キーの変形例（５）」と記載する場合がある）。

【１０５０】

また、上述した実施形態では、設定キーシリンダが初期位置から時計方向へ向かって６０度回動操作されて第１のＯＮ操作されることにより設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮとすることができ、この設定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力され、また、設定キーシリンダが初期位置から反時計方向へ向かって６０度回転操作されて第２のＯＮ操作されることにより設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮとすることができ、この決定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力され、また、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように設定キーシリンダが反時計方向へ向かって６０度回転操作されてＯＦＦ操作されることにより設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦとすることができるとともに、設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように設定キーシリンダが時計方向へ向かって６０度回転操作されてＯＦＦ操作されることにより設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦとすること

ができ、このＯＦＦの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力されるようになっていたが、設定キーＯＮ、決定キーＯＮ、及びＯＦＦを伝える情報を、シリアル情報として、外部へシリアル出力することができるシリアル出力回路を、設定キースイッチ１３１１ａに設けてもよい。これにより、設定キースイッチ１３１１ａからの信号に対してセキュリティを向上することができる。このシリアル出力回路が設けられる設定キースイッチ１３１１ａは、設定変更基板１３１１に備えていたが、これに代えて、主制御基板１３１０に備えていてもよいし、払出制御基板６３３に備えていてもよい。このシリアル出力回路からシリアル出力されるシリアル情報が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力されると、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、受信したシリアル情報から設定キーＯＮ、決定キーＯＮ、及びＯＦＦのうち、いずれを伝えるものであるかを判別することができる（シリアル回路を有する設定キースイッチ１３１１ａの態様を「決定キーの変形例（６）」と記載する場合がある）。

【１０５１】

また、上述した実施形態では、設定キーシリンダが初期位置から時計方向へ向かって６０度回動操作されて第１のＯＮ操作されることにより設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮとすることができ、この設定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力され、また、設定キーシリンダが初期位置から反時計方向へ向かって６０度回転操作されて第２のＯＮ操作されることにより設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮとすることができ、この決定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力され、また、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように設定キーシリンダが反時計方向へ向かって６０度回転操作されてＯＦＦ操作されることにより設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦとすることができるとともに、設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように設定キーシリンダが時計方向へ向かって６０度回転操作されてＯＦＦ操作されることにより設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦとすることができ、このＯＦＦの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力されるようになっていたが、設定キーＯＮ、決定キーＯＮ、及びＯＦＦを伝える情報を、パルス信号として、外部へ出力することができるパルス出力回路を、設定キースイッチ１３１１ａに設けてもよい。これにより、設定キースイッチ１３１１ａからの信号に対してセキュリティを向上することができる。このパルス出力回路が設けられる設定キースイッチ１３１１ａは、設定変更基板１３１１に備えていたが、これに代えて、主制御基板１３１０に備えていてもよいし、払出制御基板６３３に備えていてもよい。このパルス出力回路から出力されるパルス信号は、例えば、設定キーＯＮを伝える情報である場合にはパルス幅が１ｍｓに設定され、決定キーＯＮを伝える情報である場合にはパルス幅が３ｍｓに設定され、ＯＦＦを伝える情報である場合にはパルス幅が５ｍｓに設定される。このパルス出力回路から出力されるパルス信号は、設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力されると、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、入力されたパルス信号から設定キーＯＮ、決定キーＯＮ、及びＯＦＦのうち、いずれを伝える情報であるかを判別することができる（パルス出力回路を有する設定キースイッチ１３１１ａの態様を「決定キーの変形例（７）」と記載する場合がある）。

【１０５２】

また、上述した実施形態では、設定キーシリンダが初期位置から時計方向へ向かって６０度回動操作されて第１のＯＮ操作されることにより設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮとすることができ、この設定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力され、また、設定キーシリンダが初期位置から反時計方向へ向かって６０度回転操作されて第２のＯＮ操作されることにより設定キ

ースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮとすることができ、この決定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力され、また、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように設定キーシリンダが反時計方向へ向かって６０度回転操作されてＯＦＦ操作されることにより設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦとすることができるとともに、設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように設定キーシリンダが時計方向へ向かって６０度回転操作されてＯＦＦ操作されることにより設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦとすることができ、このＯＦＦの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力されるようになっていたが、設定キーＯＮの信号の電圧レベル、決定キーＯＮの信号の電圧レベル、及びＯＦＦの信号の電圧レベルを、設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０までに亘る基板間において、中間電位（例えば、ゼロＶから５Ｖまでのうち、２Ｖから３Ｖまでの電位）を用い、主制御基板１３１０においてコンパレータ回路を設けて、コンパレータ回路による比較結果が主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力されることで、主制御ＭＰＵ１３１０ａが設定キーＯＮの信号のＯＮ／ＯＦＦ、決定キーＯＮの信号のＯＮ／ＯＦＦ、及びＯＦＦの信号のＯＮ／ＯＦＦを判定してもよい。これにより、設定キースイッチ１３１１ａからの信号に対してセキュリティを向上することができる（中間電位を用いる設定キースイッチの態様を「決定キーの変形例（８）」と記載する場合がある）。

【１０５３】

また、上述した実施形態では、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように反時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作し、さらに反時計方向へ向かって６０度回転操作して）第２のＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮとすることができ、この決定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力されるようになっていたが、これに代えて、払出制御基板６３３に押圧操作部を有する決定キーボタンを設けてもよい。この場合、決定キーボタンの押圧操作部は、決定キーボタンと対応する払出制御基板ボックス６３２のカバー体に形成される開口部を介して露出され、決定キーボタンの押圧操作部と、これに対応する開口部と、に形成される「すき間」から針金などを侵入して払出制御基板６３３を改変することができないように、開口部に対して針金侵入防止部がカバー体に成型される構造となる。決定キーボタンの押圧操作部が押圧操作されると、この操作信号が払出制御基板６３３から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力される。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、決定キーボタンからの検出信号に基づいて決定キーボタンの押圧操作部が押圧操作されているときには決定キーＯＮであると判定することができる一方、決定キーボタンの押圧操作部が押圧操作されていないときには決定キーＯＮでないと判定することができる。

【１０５４】

なお、払出制御基板６３３に決定キーボタンを配置する位置は、後述する押圧操作部を有するエラー解除スイッチの近傍であってもよい。払出制御基板６３３のカバー体には、決定キーボタンとエラー解除スイッチとが混同されないように決定キーボタンとエラー解除スイッチとにそれぞれ対応する位置に、各ボタンの名称が印刷されたシールが貼られている（このシールに替えてカバー体に各ボタンの名称が成型されていてもよい）。また、決定キーボタンとエラー解除スイッチとが混同されないように、決定キーボタンとエラー解除スイッチとのうちいずれか一方の押圧操作部を覆うカバー付きのボタン（押圧操作部を押圧操作するためにカバーを開放する必要がある。）を採用してもよいし、押圧操作部の色を異なるものを採用してもよいし、決定キーボタンとエラー解除スイッチとの外形の形状又は押圧操作部の形状が異なるものを採用してもよいし、決定キーボタンとして押圧

操作部を有するものでない他の種類のスイッチを採用してもよい。決定キーボタンとして押圧操作部を有するものでない他の種類のスイッチとしては、例えば、レバーを有するトグルスイッチ、スライド部を有するスライドスイッチ、回転操作部を有するロータリースイッチ、ロッカスイッチ、タッチスイッチ等の各種スイッチを挙げることができる。また、払出制御基板６３３に決定キーボタンとエラー解除スイッチとを設ける場合には、不正な改変を防止するために、決定キーボタンへの配線パターンとエラー解除スイッチへの配線パターンとの引き回しとして払出制御基板６３３において相互に近づけないように（相互に離間して）形成されるとともに、払出制御基板６３３のコネクタの端子（主制御基板１３１０のコネクタの端子）への接続も離間して形成され、主制御基板１３１０においても、決定キーボタンからの検出信号が伝送される配線パターンとエラー解除スイッチからの検出信号が伝送される配線パターンとの引き回しも相互に近づけないように（相互に離間して）形成されている。また、払出制御基板６３３に決定キーボタンを設ける場合には、設定キースイッチ１３１１ａを初期位置から設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置までに亘る範囲のみ回動操作することができる設定キースイッチ１３１１ａ'としてもよい（決定キーボタンの態様（設定キースイッチ１３１１ａ'の態様を含めてもよい。）を「決定キーの変形例（９）」と記載する場合がある）。

【１０５５】

また、上述した実施形態では、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように反時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作し、さらに反時計方向へ向かって６０度回転操作して）第２のＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮとすることができ、この決定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力されるようになっていたが、これに代えて、払出制御基板６３３に押圧操作部を有するエラー解除スイッチからの信号が、払出制御基板６３３において分岐されて払出制御基板６３３を介して、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力され、この信号に基づいて決定キーＯＮの有無を判定してもよい。エラー解除スイッチは、上述したように、エラーＬＥＤ表示器に表示されているエラーを解除するためのものであり、復電後においてパチンコ機１のシステムが起動完了し（各種制御基板の電源時投入時処理を完了して割り込み処理を行っている状態となり）、パチンコ機１の状態としてエラーが発生していない場合には、エラー解除スイッチの押圧操作部を操作することが全くない。そこで、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、エラー解除スイッチからの信号に基づいてエラー解除スイッチの押圧操作部が操作されているときには決定キーＯＮであると判定することができる一方、エラー解除スイッチからの信号に基づいてエラー解除スイッチの押圧操作部が操作されていないときには決定キーＯＮでないと判定することができる。これにより、決定キーＯＮの有無に対してセキュリティを向上することができる（エラー解除スイッチの態様を「決定キーの変形例（１０）」と記載する場合がある）。

【１０５６】

また、上述した実施形態では、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように反時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作し、さらに反時計方向へ向かって６０度回転操作して）第２のＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮとすることができ、この決定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力されるようになっていたが、これに代えて、払出制御基板６３３に押圧操作部を有するエラー解除スイッチからの信号の論理を払出制御基板６３３の払出制御ＭＰＵが後述する払出制御部電源投入時処理のポート入力処理において監視してコマンドを作成し、後述する払出制御部電源投入時処理のコマンド送信処理において作成したコマンドを主制御基板１３１０へ送信し、このコマンドを受信した主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが決定キーＯＮの有無を判定してもよい。エラー解除スイッチは、上述し

たように、エラーＬＥＤ表示器に表示されているエラーを解除するためのものであり、復電後においてパチンコ機１のシステムが起動完了し（各種制御基板の電源時投入時処理を完了して割り込み処理を行っている状態となり）、パチンコ機１の状態としてエラーが発生していない場合には、エラー解除スイッチの押圧操作部を操作することが全くない。そこで、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、後述する主制御タイマ割り込み処理における枠コマンド受信処理において、エラー解除スイッチからの信号に基づいて押圧操作部が操作されていると払出制御ＭＰＵが判定してその旨を伝えるコマンドを受信したときには決定キーＯＮであると判定することができる一方、エラー解除スイッチからの信号に基づいて押圧操作部が操作されていないと払出制御ＭＰＵが判定してその旨を伝えるコマンドを受信したときには決定キーＯＮでないと判定することができる。これにより、決定キーＯＮの有無に対してセキュリティを向上することができる（エラー解除スイッチの態様２を「決定キーの変形例（１１）」と記載する場合がある）。

【１０５７】

また、上述した実施形態では、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆが主制御基板１３１０に備えられ、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように反時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作し、さらに反時計方向へ向かって６０度回転操作して）第２のＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮとすることができ、この決定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力されるようになっていたが、これに代えて、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆを払出制御基板６３３に備えるようにして、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆからの操作信号が払出制御基板６３３の払出制御ＭＰＵへ入力されるとともに、払出制御基板６３３において分岐されて払出制御基板６３３を介して主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力され、主制御ＭＰＵ１３１０ａが入力される操作信号に基づいて決定キーＯＮの有無を判定してもよい。ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆは、後述するように、復電時に押圧操作部が操作されている場合（正確には、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの押圧操作部を押圧操作しながらパチンコ機１の電源投入を行う場合）、設定値を変更決定することができる設定変更を行う場合（主制御ＭＰＵ１３１０ａが後述する設定変更処理を行った場合）には、主制御ＭＰＵ１３１０ａが自身に内蔵されているＲＡＭの所定領域（ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除く領域。）を必ずクリアする。そこで、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの押圧操作部が押圧操作されながらパチンコ機１の電源投入が行われることで主制御ＭＰＵ１３１０ａが自身に内蔵されているＲＡＭの所定領域を必ずクリアするため、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆを決定キーとして流用することができ、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、払出制御基板６３３に備えるＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆからの操作信号に基づいてＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの押圧操作部が押圧操作されているときには決定キーＯＮであると判定することができる一方、払出制御基板６３３に備えるＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆからの操作信号に基づいてＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの押圧操作部が押圧操作されていないときには決定キーＯＮでないと判定することができる。これにより、決定キーＯＮの有無に対してセキュリティを向上することができる。

【１０５８】

払出制御基板６３３に備えるＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの押圧操作部は、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆと対応する払出制御基板ボックス６３２のカバー体に形成される開口部を介して露出され、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの押圧操作部と、これに対応する開口部と、に形成される「すき間」から針金などを侵入して払出制御基板６３３を改変することができないように、開口部に対して針金侵入防止部がカバー体に成型される構造となる。

【１０５９】

なお、払出制御基板６３３にＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆを配置する位置は、後述する押圧操作部を有するエラー解除スイッチの近傍であってもよい。払出制御基板６３３

のカバー体には、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆとエラー解除スイッチとが混同されないようにＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆとエラー解除スイッチとにそれぞれ対応する位置に、各ボタンの名称が印刷されたシールが貼られている（このシールに替えてカバー体に各ボタンの名称が成型されていてもよい）。また、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆとエラー解除スイッチとが混同されないように、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆとエラー解除スイッチとのうちいずれか一方の押圧操作部を覆うカバー付きのボタン（押圧操作部を押圧操作するためにカバーを開放する必要がある。）を採用してもよいし、押圧操作部の色を異なるものを採用してもよいし、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆとエラー解除スイッチとの外形の形状又は押圧操作部の形状が異なるものを採用してもよいし、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆとして押圧操作部を有するものでない他の種類のスイッチを採用してもよい。ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆとして押圧操作部を有するものでない他の種類のスイッチとしては、例えば、レバーを有するトグルスイッチ、スライド部を有するスライドスイッチ、回転操作部を有するロータリースイッチ、ロッカスイッチ、タッチスイッチ等の各種スイッチを挙げることができる。また、払出制御基板６３３にＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆとエラー解除スイッチとを設ける場合には、不正な改変を防止するために、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆへの配線パターンとエラー解除スイッチへの配線パターンとの引き回しとして払出制御基板６３３において相互に近づけないように（相互に離間して）形成されるとともに、払出制御基板６３３のコネクタの端子（主制御基板１３１０のコネクタの端子）への接続も離間して形成され、主制御基板１３１０においても、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆからの操作信号が伝送される配線パターンとエラー解除スイッチからの検出信号が伝送される配線パターンとの引き回しも相互に近づけないように（相互に離間して）形成されている。また、払出制御基板６３３にＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆを設ける場合には、設定キースイッチ１３１１ａを初期位置から設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置までに亘る範囲のみ回動操作することができる設定キースイッチ１３１１ａ'としてもよい（ＲＡＭクリアスイッチの態様（設定キースイッチ１３１１ａ'の態様を含めてもよい。）を「決定キーの変形例（１２）」と記載する場合がある）。

【１０６０】

また、上述した実施形態では、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆが主制御基板１３１０に備えられ、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように反時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作し、さらに反時計方向へ向かって６０度回転操作して）第２のＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮとすることができ、この決定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力されるようになっていたが、これに代えて、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆを払出制御基板６３３に備えるようにして、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆからの操作信号の論理を払出制御基板６３３の払出制御ＭＰＵが後述する払出制御部電源投入時処理のポート入力処理において監視してコマンドを作成し、後述する払出制御部電源投入時処理のコマンド送信処理において作成したコマンドを主制御基板１３１０へ送信し、このコマンドを受信した主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが決定キーＯＮの有無を判定してもよい。ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆは、後述するように、復電時に押圧操作部が操作されている場合（正確には、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの押圧操作部を押圧操作しながらパチンコ機１の電源投入を行う場合）、設定値を変更決定することができる設定変更を行う場合（主制御ＭＰＵ１３１０ａが後述する設定変更処理を行った場合）には、主制御ＭＰＵ１３１０ａが自身に内蔵されているＲＡＭの所定領域（ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除く領域。）を必ずクリアする。そこで、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの押圧操作部が押圧操作されながらパチンコ機１の電源投入が行われることで主制御ＭＰＵ１３１０ａが自身に内蔵されているＲＡＭの所定領域を必ずクリアするため、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆを決定キーとして流用することができ、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、後

述する主制御タイマ割り込み処理における枠コマンド受信処理において、払出制御基板６３３に備えるＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆからの操作信号に基づいてＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの押圧操作部が操作されていると払出制御ＭＰＵが判定してその旨を伝えるコマンドを受信したときには決定キーＯＮであると判定することができる一方、払出制御基板６３３に備えるＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆからの操作信号に基づいてＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの押圧操作部が操作されていないと払出制御ＭＰＵが判定してその旨を伝えるコマンドを受信したときには決定キーＯＮでないと判定することができる。これにより、決定キーＯＮの有無に対してセキュリティを向上することができる（ＲＡＭクリアスイッチの態様２（設定キースイッチ１３１１ａ'の態様を含めてもよい。）を「決定キーの変形例（１３）」と記載する場合がある）。

【１０６１】

また、上述した実施形態では、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように反時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作し、さらに反時計方向へ向かって６０度回転操作して）第２のＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮとすることができ、この決定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力されるようになっていたが、これに代えて、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、又は払出検知センサ５９１からの検出信号が払出制御基板６３３の払出制御ＭＰＵへ入力されるとともに、払出制御基板６３３において分岐されて払出制御基板６３３を介して主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力され、これらの検出信号に基づいて主制御ＭＰＵ１３１０ａが決定キーＯＮの有無を判定してもよいし、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、又は払出検知センサ５９１からの検出信号の論理を払出制御基板６３３の払出制御ＭＰＵが後述する払出制御部電源投入時処理のポート入力処理において監視してコマンドを作成し、後述する払出制御部電源投入時処理のコマンド送信処理において作成したコマンドを主制御基板１３１０へ送信し、このコマンドを受信した主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが決定キーＯＮの有無を判定してもよい。この場合、設定キースイッチ１３１１ａを初期位置から設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置までに亘る範囲のみ回動操作することができる設定キースイッチ１３１１ａ'としてもよい（払出ユニットの態様（設定キースイッチ１３１１ａ'の態様を含めてもよい。）を「決定キーの変形例（１６）」と記載する場合がある）。

【１０６２】

また、上述した実施形態では、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように反時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作し、さらに反時計方向へ向かって６０度回転操作して）第２のＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮとすることができ、この決定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力されるようになっていたが、これに代えて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、本体枠開放スイッチからの検出信号に基づいて、外枠２に対して本体枠４が閉鎖されたときには決定キーＯＮであると判定することができる一方、外枠２に対して本体枠４が開放されたままの状態が維持されているときには決定キーＯＮでないと判定することができる。この場合、設定キースイッチ１３１１ａを初期位置から設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置までに亘る範囲のみ回動操作することができる設定キースイッチ１３１１ａ'としてもよい（本体枠開放スイッチの態様（設定キースイッチ１３１１ａ'の態様を含めてもよい。）を「決定キーの変形例（１７）」と記載する場合がある）。なおｄ、この場合、設定値の設定変更を行う者は、決定キーＯＮとするために、外枠２に対して本体枠４を閉鎖する必要があり、決定キーＯＮした後に、外枠２に対して本体枠４を再び開放して、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの

差し込み口から設定キーを抜き取り、外枠２に対して本体枠４を再び閉鎖する必要がある。

【１０６３】

また、上述した実施形態では、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように反時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作し、さらに反時計方向へ向かって６０度回転操作して）第２のＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮとすることができ、この決定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力されるようになっていたが、これに代えて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、扉枠開放スイッチからの検出信号に基づいて、本体枠４に対して扉枠３が開放されたときには決定キーＯＮであると判定することができる一方、本体枠４に対して扉枠３が閉鎖されたままの状態が維持されているときには決定キーＯＮでないと判定することができる。この場合、設定キースイッチ１３１１ａを初期位置から設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置までに亘る範囲のみ回動操作することができる設定キースイッチ１３１１ａ'としてもよい（扉枠開放スイッチの態様（設定キースイッチ１３１１ａ'の態様を含めてもよい。）を「決定キーの変形例（１７）」と記載する場合がある）。なお、この場合、設定値の設定変更を行う者は、決定キーＯＮとするために、本体枠４に対して扉枠３を開放する必要があり、決定キーＯＮした後に、本体枠４に対して扉枠３を再び閉鎖し、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの差し込み口から設定キーを抜き取り、外枠２に対して本体枠４を閉鎖する必要がある。

【１０６４】

また、上述した実施形態では、設定変更基板１３１１に備える設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように反時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作し、さらに反時計方向へ向かって６０度回転操作して）第２のＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮとすることができ、この決定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力されるようになっていたが、この設定キースイッチ１３１１ａを主制御基板１３１０に備えるようにしてもよい（設定キースイッチの態様を「決定キーの変形例（１８）」と記載する場合がある）。

【１０６５】

また、上述した実施形態では、設定変更基板１３１１に備える設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように反時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作し、さらに反時計方向へ向かって６０度回転操作して）第２のＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮとすることができ、この決定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力されるようになっていたが、この設定キースイッチ１３１１ａを主制御基板１３１０に備えるとともに、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から初期位置へ回動操作されてＯＦＦ操作されることにより設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦとすることができ、このＯＦＦの信号が主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力されることで、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ＯＦＦの信号が入力されたときには決定キーＯＮであると判定することができる一方、ＯＦＦの信号が入力されていないときには決定キーＯＮでないと判定することができる。この場合、設定キースイッチ１３１１ａを初期位置から設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置までに亘る範囲のみ回動操作することができる設定キースイッチ１３１１ａ'としてもよい（設定キースイッチの態様２（設定キースイッチ１３１１ａ'の態様を含めてもよい。）を「決定キーの変形例（１９）」と記載する場合がある）。

【１０６６】
　また、上述した実施形態では、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように反時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作し、さらに反時計方向へ向かって６０度回転操作して）第２のＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮとすることができ、この決定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力されるようになっていたが、これに代えて、主制御基板１３１０に押圧操作部を有する決定キーボタンを設けてもよい。この場合、決定キーボタンの押圧操作部は、決定キーボタンと対応する主制御基板ボックス１３２０のカバー体に形成される開口部を介して露出され、決定キーボタンの押圧操作部と、これに対応する開口部と、に形成される「すき間」から針金などを侵入して主制御基板１３１０を改変することができないように、開口部に対して針金侵入防止部がカバー体に成型される構造となる。決定キーボタンの押圧操作部が押圧操作されると、この操作信号が主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力される。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、決定キーボタンからの検出信号に基づいて決定キーボタンの押圧操作部が押圧操作されているときには決定キーＯＮであると判定することができる一方、決定キーボタンの押圧操作部が押圧操作されていないときには決定キーＯＮでないと判定することができる。
【１０６７】
　なお、主制御基板１３１０に決定キーボタンを配置する位置は、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの近傍であってもよい。主制御基板ボックス１３２０のカバー体には、決定キーボタンとＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆとが混同されないように決定キーボタンとＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆとにそれぞれ対応する位置に、各ボタンの名称が印刷されたシールが貼られている（このシールに替えてカバー体に各ボタンの名称が成型されていてもよい）。また、決定キーボタンとＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆとが混同されないように、決定キーボタンとＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆとのうちいずれか一方の押圧操作部を覆うカバー付きのボタン（押圧操作部を押圧操作するためにカバーを開放する必要がある。）を採用してもよいし、押圧操作部の色を異なるものを採用してもよいし、決定キーボタンとＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆとの外形の形状又は押圧操作部の形状が異なるものを採用してもよいし、決定キーボタンとして押圧操作部を有するものでない他の種類のスイッチを採用してもよい。決定キーボタンとして押圧操作部を有するものでない他の種類のスイッチとしては、例えば、レバーを有するトグルスイッチ、スライド部を有するスライドスイッチ、回転操作部を有するロータリースイッチ、ロッカスイッチ、タッチスイッチ等の各種スイッチを挙げることができる。また、主制御基板１３１０に決定キーボタンとＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆとを設ける場合には、不正な改変を防止するために、決定キーボタンへの配線パターンとＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆへの配線パターンとの引き回しとして主制御基板１３１０において相互に近づけないように（相互に離間して）形成されている。また、主制御基板１３１０に決定キーボタンを設ける場合には、設定キースイッチ１３１１ａを初期位置から設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置までに亘る範囲のみ回動操作することができる設定キースイッチ１３１１ａ'としてもよい（決定キーボタンの態様２（設定キースイッチ１３１１ａ'の態様を含めてもよい。）を「決定キーの変形例（２０）」と記載する場合がある）。
【１０６８】
　また、上述した実施形態では、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように反時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作し、さらに反時計方向へ向かって６０度回転操作して）第２のＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮとすることができ、この決定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１

３１０ａへ入力されるようになっていたが、これに代えて、主制御ＭＰＵ１３１０ａが入力されるＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆからの操作信号に基づいて決定キーＯＮの有無を判定してもよい。ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆは、後述するように、復電時に押圧操作部が操作されている場合（正確には、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの押圧操作部を押圧操作しながらパチンコ機１の電源投入を行う場合）、設定値を変更決定することができる設定変更を行う場合（主制御ＭＰＵ１３１０ａが後述する設定変更処理を行った場合）には、主制御ＭＰＵ１３１０ａが自身に内蔵されているＲＡＭの所定領域（ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除く領域。）を必ずクリアする。そこで、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの押圧操作部が押圧操作されながらパチンコ機１の電源投入が行われることで主制御ＭＰＵ１３１０ａが自身に内蔵されているＲＡＭの所定領域を必ずクリアするため、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆを決定キーとして流用することができ、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆからの操作信号に基づいてＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの押圧操作部が押圧操作されているときには決定キーＯＮであると判定することができる一方、払出制御基板６３３に備えるＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆからの操作信号に基づいてＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの押圧操作部が押圧操作されていないときには決定キーＯＮでないと判定することができる。これにより、決定キーＯＮの有無に対してセキュリティを向上することができる。この場合、設定キースイッチ１３１１ａを初期位置から設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置までに亘る範囲のみ回動操作することができる設定キースイッチ１３１１ａ'としてもよい（ＲＡＭクリアスイッチの態様３（設定キースイッチ１３１１ａ'の態様を含めてもよい。）を「決定キーの変形例（２１）」と記載する場合がある）。なお、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの押圧操作部が押圧操作される期間がパチンコ機１の電源投入時と限定されるとともに、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆからの操作信号は、後述するように、払出制御基板６３３の払出制御ＭＰＵに入力されるため、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆが後述するエラー解除スイッチの機能を兼ねるように構成する場合には、払出制御基板６３３にエラー解除スイッチが不要となる。

【１０６９】

また、上述した実施形態では、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように反時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作し、さらに反時計方向へ向かって６０度回転操作して）第２のＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮとすることができ、この決定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力されるようになっていたが、これに代えて、遊技盤５に設けられる、ゲート２００３のゲートセンサ２８０１、各種入賞口の各種センサ（例えば、第二始動口センサ２４０１、大入賞口センサ２４０２、役物入賞口センサ２６０１、一般入賞口センサ３００１、第一始動口センサ３００２）、本体枠４のアウトセンサ６６４からの検出信号が入力される主制御ＭＰＵ１３１０ａがこれらの検出信号に基づいて決定キーＯＮの有無を判定してもよい。この場合、設定キースイッチ１３１１ａを初期位置から設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置までに亘る範囲のみ回動操作することができる設定キースイッチ１３１１ａ'としてもよい（各種センサ等の態様（設定キースイッチ１３１１ａ'の態様を含めてもよい。）を「決定キーの変形例（２２）」と記載する場合がある）。なお、この場合、設定値の設定変更を行う者は、決定キーＯＮとするために、本体枠４に対して扉枠３を開放して、ゲート２００３へ遊技球Ｂを送り込んだり、各種入賞口へ遊技球Ｂを送り込んだり、アウト口１００８へ遊技球Ｂを送り込んだりする必要がある。

【１０７０】

また、上述した実施形態では、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように反時計方向へ向かって６０度

回転操作してＯＦＦ操作し、さらに反時計方向へ向かって６０度回転操作して）第２のＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮとすることができ、この決定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力されるようになっていたが、これに代えて、主制御ＭＰＵ１３１０ａがステッピングモータ、ＤＣモータ、ソレノイド等の電気的駆動源の駆動制御を行って可動体（役物）の作動を制御し、光学式センサ（フォトセンサや測距センサ等）から検出信号に基づいて可動体（役物）の原位置や作動位置等を判定する場合には、この光学式センサからの検出信号に基づいて主制御ＭＰＵ１３１０ａが決定キーＯＮの有無を判定してもよい。この場合、設定キースイッチ１３１１ａを初期位置から設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置までに亘る範囲のみ回動操作することができる設定キースイッチ１３１１ａ'としてもよい（光学式役物センサの態様（設定キースイッチ１３１１ａ'の態様を含めてもよい。）を「決定キーの変形例（２３）」と記載する場合がある）。なお、この場合、設定値の設定変更を行う者は、決定キーＯＮとするために、本体枠４に対して扉枠３を開放して、光学式センサが可動体（役物）の原位置や作動位置等を検知するように、可動体（役物）を移動させる必要がある。

【１０７１】

また、上述した実施形態では、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように反時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作し、さらに反時計方向へ向かって６０度回転操作して）第２のＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮとすることができ、この決定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力されるようになっていたが、これに代えて、遊技領域５ａ内における不正な磁気を検知する磁気センサ１０５０からの検出信号が入力される主制御ＭＰＵ１３１０ａが磁気センサ１０５０からの検出信号に基づいて決定キーＯＮの有無を判定してもよい。この場合、設定キースイッチ１３１１ａを初期位置から設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置までに亘る範囲のみ回動操作することができる設定キースイッチ１３１１ａ'としてもよい（磁気センサの態様（設定キースイッチ１３１１ａ'の態様を含めてもよい。）を「決定キーの変形例（２４）」と記載する場合がある）。なお、この場合、設定値の設定変更を行う者は、決定キーＯＮとするために、パチンコ機１の正面から遊技盤５の前面へ向かって磁石を近づける必要がある。

【１０７２】

また、上述した実施形態では、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように反時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作し、さらに反時計方向へ向かって６０度回転操作して）第２のＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮとすることができ、この決定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力されるようになっていたが、これに代えて、パチンコ機１をゆすったり、叩いたりすることでパチンコ機１に振動を加えて遊技盤５に区画形成される遊技領域５ａを流下する遊技球Ｂの進路を変更して遊技盤５に設けられる各種入賞口やゲート部（ゲート）に入球させる不正行為を検知する振動センサを遊技盤５に設ける場合には、主制御ＭＰＵ１３１０ａが振動センサからの検出信号に基づいて不正行為の有無を判定するとともに、振動センサからの検出信号に基づいて決定キーＯＮの有無を判定してもよい。この場合、設定キースイッチ１３１１ａを初期位置から設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置までに亘る範囲のみ回動操作することができる設定キースイッチ１３１１ａ'としてもよい（振動センサの態様（設定キースイッチ１３１１ａ'の態様を含めてもよい。）を「決定キーの変形例（２５）」と記載する場合がある）。なお、この場合、設定値の設定変更を行う者は、決定キーＯＮとするために、パチンコ機１をゆすったり、叩いたりする必要がある。

【１０７３】
　また、上述した実施形態では、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように反時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作し、さらに反時計方向へ向かって６０度回転操作して）第２のＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮとすることができ、この決定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力されるようになっていたが、これに代えて、パチンコ機１に電波を照射して遊技盤５に設けられる各種入賞口の各種センサや払出装置５８０に設けられる各種センサの誤動作をさせて遊技球Ｂを不正に獲得する不正行為を検知する電波センサを遊技盤５や払出装置５８０に設ける場合には、主制御ＭＰＵ１３１０ａが電波センサからの検出信号に基づいて不正行為の有無を判定するとともに、電波センサからの検出信号に基づいて決定キーＯＮの有無を判定してもよい。この場合、設定キースイッチ１３１１ａを初期位置から設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置までに亘る範囲のみ回動操作することができる設定キースイッチ１３１１ａ'としてもよい（電波センサの態様（設定キースイッチ１３１１ａ'の態様を含めてもよい。）を「決定キーの変形例（２６）」と記載する場合がある）。なお、この場合、設定値の設定変更を行う者は、決定キーＯＮとするために、パチンコ機１に電波を照射する必要がある。
【１０７４】
　また、上述した実施形態では、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように反時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作し、さらに反時計方向へ向かって６０度回転操作して）第２のＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮとすることができ、この決定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力されるようになっていたが、これに代えて、演出操作部ユニット３５０の押圧操作部３０３の押圧操作を検知する押圧検知センサ３７３からの検出信号、演出操作部ユニット３５０の接触操作部３０２の接触を検知する接触検知センサ本体３５８からの検出信号が周辺制御基板１５１０へ入力されるとともに、周辺制御基板１５１０において分岐されて主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力され、これらの検出信号に基づいて主制御ＭＰＵ１３１０ａが決定キーＯＮの有無を判定してもよい。この場合、設定キースイッチ１３１１ａを初期位置から設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置までに亘る範囲のみ回動操作することができる設定キースイッチ１３１１ａ'としてもよい（演出操作ボタンユニットの態様（設定キースイッチ１３１１ａ'の態様を含めてもよい。）を「決定キーの変形例（２７）」と記載する場合がある）。
【１０７５】
　また、上述した実施形態では、カバー体とベース体とから構成されている主制御基板ボックス１３２０の内部空間に主制御基板１３１０及び設定変更基板１３１１が収容されていたが、設定変更基板１３１１を別体の設定変更基板ボックスに収容して主制御基板ボックス１３２０の周囲又は隣接して配置してもよい。主制御基板ボックス１３２０は、カバー体とベース体とがカシメ部のワンウェイネジ等によりカシメられている。このカシメ部は、封印機構であり、複数備えている。一つの封印機構を用いてカバー体とベース体とがカシメ部のワンウェイネジ等によりカシメられることで主制御基板ボックス１３２０を閉じることができ、次に、主制御基板ボックス１３２０を開けるためにはその封印機構を破壊する必要がある。つまり、その封印機構を破壊しない限り、カバー体をベース体から取り外すことができない。このような主制御基板ボックス１３２０の構造は、設定変更基板ボックスの構造においても、適用することができる。この場合、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの前面、及び決定キーボタンの押圧操作部は、それぞれと対応する主制御基板ボックス１３２０のカバー体に形成される開口部を介して露出されているも

のの、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの前面、及び決定キーボタンの押圧操作部とそれぞれ対応する開口部とに形成される「すき間」から針金などを侵入して設定変更基板１３１１を改変することができないように、開口部に対して針金侵入防止部がカバー体に成型される構造となる。なお、設定変更基板ボックスの構造として、上述した主制御基板ボックス１３２０の構造と異なり、カバー体をベース体から開放又は閉鎖することができるように構成されている場合には、ベース体に対してカバー体の開放を検出することができる設定変更基板カバー体用開閉スイッチを設けてもよい。この場合、設定変更基板カバー体用開閉スイッチからの検出信号を主制御基板１３１０へ直接入力されるように構成してもよいし、設定変更基板１３１１を介して主制御基板１３１０へ（間接）入力されるように構成してもよい。設定変更基板カバー体用開閉スイッチからの検出信号に基づいて、カバー体をベース体から開放されている場合ことを、上述した予め定めた設定値変更許可条件に含むことができる（設定変更基板ボックスの態様を「決定キーの変形例（２８）」と記載する場合がある）。

【１０７６】

また、上述した実施形態では、設定変更基板１３１１のコネクタＳＭＣＮと主制御基板１３１０のコネクタＭＳＣＮの端子とが接続されるように構成され、不正な改変を防止するために、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーＯＮの信号が伝送される配線パターンと、設定キースイッチ１３１１ａの決定キーＯＮの信号が伝送される配線パターンと、設定キースイッチ１３１１ａのＯＦＦの信号が伝送される配線パターンと、設定切替ボタン１３１１ｂからの信号が伝送される配線パターンと、の引き回しとして、設定変更基板１３１１において相互に近づけないように（相互に離間して）形成されるとともに、設定変更基板１３１１のコネクタＳＭＣＮの端子（主制御基板１３１０のコネクタＭＳＣＮの端子）への接続も離間して形成され、主制御基板１３１０においても、設定キースイッチ１３１１ａからの各種信号が伝送される配線パターン（つまり、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーＯＮの信号が伝送される配線パターン、設定キースイッチ１３１１ａの決定キーＯＮの信号が伝送される配線パターン、及び設定キースイッチ１３１１ａのＯＦＦの信号が伝送される配線パターン）と設定切替ボタン１３１１ｂからの信号が伝送される配線パターンとの引き回しも相互に近づけないように（相互に離間して）形成されていたが、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーＯＮの信号が伝送される配線パターンと、設定キースイッチ１３１１ａの決定キーＯＮの信号が伝送される配線パターンと、のうち、いずれか一方の配線パターンついては、設定変更基板１３１１のコネクタＳＭＣＮと別体に設定変更基板１３１１に設けられる他のコネクタを介して、主制御基板１３１０のコネクタＭＳＣＮと別体に主制御基板１３１０に設けられる他のコネクタとコネクタ接続（基板間接続）されてもよく、この設定変更基板１３１１に設けられる他のコネクタと主制御基板１３１０に設けられる他のコネクタとを、ハーネスを介して、電気的に接続されてもよい（配線パターンの引き回しの態様を「決定キーの変形例（２９）」と記載する場合がある）。

【１０７７】

また、上述した決定キーの変形例（１）～（２９）のうち、適宜選択して組み合わせた態様を採用してもよい（変形例の選択組み合わせの態様を「決定キーの変形例（３０）」と記載する場合がある）。

【１０７８】

また、上述した設定値では、大当りか否かを抽選判定するための確率や小当りか否かを抽選判定するための確率のほかに、確変時から通常時へ移行する際に抽選判定するための確率、遊技者にとって有利となる領域への振分け率等を変更することができるものであり、遊技者にとって有利となる（つまり、遊技者が獲得することができる遊技球Ｂの球数を増やすことができる）確率（有利度合い）が予め設定されている。本実施形態では、設定値として、設定値１、設定値２、設定値３、設定値４、設定値５、及び設定値６が予め用意されており、設定値１から設定値６へ向かって遊技者にとって有利となる確率（有利度合い）が予め設定されていた。ところで、本実施形態のパチンコ機１には、設定値１～設

定値６までに亘って複数の設定値が存在するものの、他のパチンコ機には遊技者にとって有利となる確率（有利度合い）が予め設定される単一の設定値が存在するものもある。つまり、本実施形態のパチンコ機１のように遊技者にとって有利となる確率（有利度合い）が予め複数の設定値として存在して設定変更が必要な遊技仕様のものと、遊技者にとって有利となる確率（有利度合い）が予め単一の設定値のみが存在して設定変更が全く必要ない遊技仕様のものと、がある。ところが、このような遊技仕様に応じて主制御基板１３１０のハードウェア構成を設計変更するとともに、設定変更基板１３１１のハードウェア構成を設計変更又は不使用とすると、主制御基板１３１０及び設定変更基板１３１１が遊技仕様に依存されることとなるため、遊技仕様に応じてハードウェア構成が類似する又は異なる主制御基板１３１０及び設定変更基板１３１１を有することとなる。そこで、主制御基板１３１０及び設定変更基板１３１１を、遊技仕様に依存されない、つまりハードウェア構成の設計変更を伴わずに共通して使用することができるものが求められる。

【１０７９】

例えば、遊技者にとって有利となる確率（有利度合い）が予め単一の設定値のみが存在して設定変更が全く必要ない遊技仕様においては、設定値を遊技者にとって有利となる確率（有利度合い）として使用する必要が全くなくなるため、設定値１、設定値２、設定値３、設定値４、設定値５、及び設定値６を、次のような内容として割り当てるソフトウェアによる設計変更により対応することができる。

【１０８０】

例えば、主制御ＭＰＵ１３１０ａが自身に内蔵されているＲＡＭの所定領域（ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除く領域。）をクリアした後に実機確認動作パターンを複数設定することができる（ＲＡＭクリア後におけるパチンコ機１の起動方法にバリエーションを持たせることができる）設定値として使用することができる。この場合には、主制御ＭＰＵ１３１０ａが制御する対象となっている可動体（役物）の動作、ランプやＬＥＤ等の発光体の点灯に対して、設定値１として「全動作（可動体（役物）の動作、発光体の点灯）」を指定する実機確認動作パターン１が割り当てられ、設定値２として「可動体（役物）の動作」を指定する実機確認動作パターン２が割り当てられ、設定値３として「発光体の点灯」を指定する実機確認動作パターン３が割り当てられ、設定値４として「可動体（役物）の詳細動作（移動速度の可変、作動領域全体に亘る移動、他の構造体や他の可動体（役物）との干渉チェック、他の可動体（役物）との作動順番などの動作）」を指定する実機確認動作パターン４が割り当てられ、設定値５として「発光体１ポート単位（主制御ＭＰＵ１３１０ａの所定の出力ポート単位（つまり、１つの出力ポートごと）による発光体の点灯）の点灯」を指定する実機確認動作パターン５が割り当てられ、設定値６として「動作なし」を指定する実機確認動作パターン６が割り当てられる（ＲＡＭクリア後の実機確認動作の変更設定の態様を「共通ハードウェア構成による変形例（１）」と記載する場合がある）。なお、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ＲＡＭクリア後の実機確認動作を、後述する主制御側タイマ割り込み処理を繰返し行うことにより可動体（役物）の動作、ランプやＬＥＤ等の発光体の点灯を行う。主制御ＭＰＵ１３１０ａからの設定変更コマンドを受信する周辺制御基板１５１０は、設定変更コマンドに含まれる設定値に応じた内容（実機確認動作パターン）で周辺制御基板１５１０が制御する対象となっている可動体（役物）の動作、発光体の点灯を行うことができる。このＲＡＭクリア後の実機確認動作の変更設定の態様により、ＲＡＭクリア後におけるパチンコ機１の起動方法にバリエーションを持たせることができる。

【１０８１】

また、例えば、図柄の変動終了後からデモンストレーション（遊技者待ち状態となって行われるデモ演出）となるまでの時間を複数設定することができる設定値として使用することができる。この場合には、設定値１として「１０秒」を指定する時間設定パターン１が割り当てられ、設定値２として「１５秒」を指定する時間設定パターン２が割り当てられ、設定値３として「２０秒」を指定する時間設定パターン３が割り当てられ、設定値４として「２５秒」を指定する時間設定パターン４が割り当てられ、設定値５として「３０

秒」を指定する時間設定パターン５が割り当てられ、設定値６として「３５秒」を指定する時間設定パターン６が割り当てられる（図柄の変動終了後から遊技者待ち状態となるまでの時間の変更設定の態様を「共通ハードウェア構成による変形例（２）」と記載する場合がある）。なお、主制御ＭＰＵ１３１０ａからの設定変更コマンドを受信する周辺制御基板１５１０は、設定変更コマンドに含まれる設定値に応じた時間（時間設定パターン）でデモンストレーションを開始することができる。この図柄の変動終了後から遊技者待ち状態となるまでの時間の変更設定の態様により、図柄の変動終了後からデモンストレーションとなるまでの時間にバリエーションを持たせることができる。

【１０８２】

また、例えば、図柄の変動終了後に行われるデモンストレーション（遊技者待ち状態となって行われるデモ演出）の内容を複数設定することができる設定値として使用することができる。この場合には、設定値１として「コミカル演出」を指定するデモ演出設定パターン１が割り当てられ、設定値２として「コミカル演出、可動体（役物）の動作演出」を指定するデモ演出設定パターン２が割り当てられ、設定値３として「シリアス演出」を指定するデモ演出設定パターン３が割り当てられ、設定値４として「シリアル演出、可動体（役物）の動作演出」を指定するデモ演出設定パターン４が割り当てられ、設定値５として「時代劇風演出」を指定するデモ演出設定パターン５が割り当てられ、設定値６として「時代劇風演出、可動体（役物）」を指定するデモ演出設定パターン６が割り当てられる（デモ演出の内容の変更設定の態様を「共通ハードウェア構成による変形例（３）」と記載する場合がある）。なお、主制御ＭＰＵ１３１０ａからの設定変更コマンドを受信する周辺制御基板１５１０は、設定変更コマンドに含まれる設定値に応じたデモ演出（デモ演出設定パターン）でデモンストレーションを行うことができる。このデモ演出の内容の変更設定の態様により、図柄の変動終了後に行われるデモ演出の内容にバリエーションを持たせることができる。

【１０８３】

また、例えば、周辺制御基板１５１０に備える音量調整スイッチにより調整されるデフォルト音量を複数設定することができる設定値として使用することができる。音量調整スイッチが回転操作されることでデフォルト音量から音量を大きくしたり、小さくしたりすることができる。この場合には、設定値１として「音量１」を指定する音量設定パターン１が割り当てられ、設定値２として「音量２」を指定する音量設定パターン２が割り当てられ、設定値３として「音量３」を指定する音量設定パターン３が割り当てられ、設定値４として「音量４」を指定する音量設定パターン４が割り当てられ、設定値５として「音量５」を指定する音量設定パターン５が割り当てられ、設定値６として「音量６」を指定する音量設定パターン６が割り当てられる（デフォルト音量の変更設定の態様を「共通ハードウェア構成による変形例（４）」と記載する場合がある）。なお、設定値１から設定値６へ向かって音量が大きくなるように設定されている。主制御ＭＰＵ１３１０ａからの設定変更コマンドを受信する周辺制御基板１５１０は、設定変更コマンドに含まれる設定値に応じた音量（音量設定パターン）でデフォルト音量が設定される。また、設定値１に割り当てられる「音量１」のデフォルト音量は、音量調整スイッチが音量を小さくする方向へ移動され（音量を大きくする方向と反対方向へ移動され）、音量最小側末端へ移動完了されて最小側音量に調整されたときには、消音となるようにしてもよいし、パチンコ機の前面で立ち止まると、音を認識することができる音量としてもよい。また、設定値６に割り当てられる「音量６」のデフォルト音量は、音量調整スイッチが音量を大きくする方向へ移動され（音量を小さくする方向と反対方向へ移動され）、音量最大側末端へ移動完了されて最大側音量に調整されたときには、最大音量としてもよいし、最大音量の所定割合（例えば、８５％）の音量としてもよい。このデフォルト音量の変更設定の態様により、周辺制御基板１５１０に備える音量調整スイッチにより調整されるデフォルト音量にバリエーションを持たせることができる。

【１０８４】

また、例えば、各種の不具合、ゴト、及びエラー等のエラー報知におけるエラー報知音

の音量を複数設定することができる設定値として使用することができる。各種エラー報知音は、周辺制御基板１５１０に備える音量調整スイッチの操作により調整することができないもの（つまり、依存されないもの）であり、最大音量とすることでエラー報知音が発するパチンコ機を遊技ホールの店員等の係員が気付きやすいものの、他のパチンコ機で遊技を行っている遊技者に対して、耳障りに感じる場合もある。そこで、各種エラー報知音の音量を調整することができるものも求められる。この場合には、設定値１として「エラー報知音量１」を指定するエラー報知音量設定パターン１が割り当てられ、設定値２として「エラー報知音量２」を指定するエラー報知音量設定パターン２が割り当てられ、設定値３として「エラー報知音量３」を指定するエラー報知音量設定パターン３が割り当てられ、設定値４として「音量４」を指定するエラー報知音量設定パターン４が割り当てられ、設定値５として「エラー報知音量５」を指定するエラー報知音量設定パターン５が割り当てられ、設定値６として「エラー報知音量６（最大音量）」を指定するエラー報知音量設定パターン６が割り当てられる（エラー報知音の音量の変更設定の態様を「共通ハードウェア構成による変形例（５）」と記載する場合がある）。なお、設定値１（消音とならない音量であって、エラー報知音を発するパチンコ機の前面で立ち止まると、そのエラー報知音を認識することができる音量）から設定値６（最大音量であって、エラー報知音を発するパチンコ機から数メートル離れてもそのエラー報知音を十分に認識することができる音量）へ向かってエラー報知音の音量が大きくなるように設定されている。主制御ＭＰＵ１３１０ａからの設定変更コマンドを受信する周辺制御基板１５１０は、設定変更コマンドに含まれる設定値に応じたエラー報知音の音量（エラー報知音量設定パターン）でエラー報知音を発する制御を行う。このエラー報知音の音量の変更設定の態様により、エラー報知におけるエラー報知音の音量にバリエーションを持たせることができる。

【１０８５】

また、例えば、ランプやＬＥＤ等の発光体のデフォルト輝度を複数設定することができる設定値として使用することができる。主制御ＭＰＵ１３１０ａが制御する対象となっている発光体に対して、デフォルト輝度から輝度を高くしたり、低くしたりすることができる。この場合には、設定値１として「輝度１」を指定するデフォルト輝度設定パターン１が割り当てられ、設定値２として「輝度２」を指定するデフォルト輝度設定パターン２が割り当てられ、設定値３として「輝度３」を指定するデフォルト輝度設定パターン３が割り当てられ、設定値４として「輝度４」を指定するデフォルト輝度設定パターン４が割り当てられ、設定値５として「輝度５」を指定するデフォルト輝度設定パターン５が割り当てられ、設定値６として「輝度６」を指定するデフォルト輝度設定パターン６が割り当てられる（デフォルト輝度の変更設定の態様を「共通ハードウェア構成による変形例（６）」と記載する場合がある）。なお、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、デフォルト輝度の変更設定を、後述する主制御側タイマ割り込み処理を繰返し行うことにより発光体の輝度を調整して発光体の点灯、点滅、階調点等を行う。主制御ＭＰＵ１３１０ａからの設定変更コマンドを受信する周辺制御基板１５１０は、設定変更コマンドに含まれる設定値に応じたデフォルト輝度（デフォルト輝度設定パターン）に基づいて周辺制御基板１５１０が制御する対象となっている発光体の輝度を調整して発光体の点灯、点滅、階調点等を行うことができる。このデフォルト輝度の内容の変更設定の態様により、ランプやＬＥＤ等の発光体のデフォルト輝度にバリエーションを持たせることができる。

【１０８６】

また、例えば、各種の不具合、ゴト、及びエラー等のエラー報知におけるランプやＬＥＤ等の発光体の輝度を複数設定することができる設定値として使用することができる。主制御ＭＰＵ１３１０ａが制御する対象となっているランプに対して、設定値１として「エラー報知輝度１」を指定するエラー報知輝度設定パターン１が割り当てられ、設定値２として「エラー報知輝度２」を指定するエラー報知輝度設定パターン２が割り当てられ、設定値３として「エラー報知輝度３」を指定するエラー報知輝度設定パターン３が割り当てられ、設定値４として「エラー報知輝度４」を指定するエラー報知輝度設定パターン４が割り当てられ、設定値５として「エラー報知輝度５」を指定するエラー報知輝度設定パタ

ーン５が割り当てられ、設定値６として「エラー報知輝度６（最大輝度）」を指定するエラー報知輝度設定パターン６が割り当てられる（エラー報知における発光体の輝度の変更設定の態様を「共通ハードウェア構成による変形例（７）」と記載する場合がある）。なお、設定値１（消灯とならないものの、ランプの輝度が低く、パチンコ機の前面で立ち止まると、エラー報知を認識することができるランプの輝度）から設定値６（最大輝度）へ向かってランプの輝度が高くなるように設定されている。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、エラー報知における発光体の輝度の変更設定を、後述する主制御側タイマ割り込み処理を繰返し行うことにより発光体の輝度を調整して発光体の点灯、点滅、階調点等を行う。主制御ＭＰＵ１３１０ａからの設定変更コマンドを受信する周辺制御基板１５１０は、設定変更コマンドに含まれる設定値に応じたエラー報知輝度（エラー報知輝度設定パターン）に基づいて周辺制御基板１５１０が制御する対象となっている発光体の輝度を調整して発光体の点灯、点滅、階調点等を行うことができる。このエラー報知における発光体の輝度の変更設定の態様により、エラー報知におけるランプやＬＥＤ等の発光体の輝度にバリエーションを持たせることができる。

【１０８７】

また、上述した共通ハードウェア構成による変形例（１）～（７）に割り当てられる各種設定値は、主制御ＭＰＵ１３１０ａが行う後述する設定値確認表示処理において予め定めた設定値表示許可条件が成立したときに設定表示器１３１０ｇに表示されるようになっているが、パチンコ機１の電源投入後から電源遮断時までに亘って常に設定表示器１３１０ｇに表示されるようにしてもよい（設定値表示の態様を「共通ハードウェア構成による変形例（８）」と記載する場合がある）。

【１０８８】

また、上述した共通ハードウェア構成による変形例（１）～（８）のうち、いずれか１つを適宜選択して、上述した決定キーの変形例（３０）に採用してもよい。

【１０８９】

また、上述した予め定めた設定値変更許可条件は、パチンコ機１の電源投入時や停電後の電力回復時における復電時において、外枠２に対して本体枠４が開放され、かつ、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの差し込み口に設定キーが差し込まれ、設定キーシリンダが時計方向へ向かって６０度回動操作されて第１のＯＮ操作されることで設定キーＯＮ操作されていることが必要であった。ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの押圧操作部を押圧操作しながらパチンコ機１の電源投入が行われると、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、後述する主制御側電源投入時処理において主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアし、その後、割り込み許可設定などを行うことで遊技を進行する。また、パチンコ機１の復電時において上述した予め定めた設定値変更許可条件が成立すると、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、後述する主制御側電源投入時処理において設定変更処理を行って主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアし、その後、割り込み許可設定などを行うことで遊技を進行する。つまり、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの押圧操作部を押圧操作しながらパチンコ機１の電源投入を行う場合、パチンコ機１の復電時において上述した予め定めた設定値変更許可条件が成立する場合には、いずれにおいても、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、後述する主制御側電源投入時処理において主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアし、その後、割り込み許可設定などを行うことで遊技を進行することとなる。そこで、上述した予め定めた設定値変更許可条件として、パチンコ機１の電源投入時や停電後の電力回復時における復電時において、外枠２に対して本体枠４が開放され、かつ、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの差し込み口に設定キーが差し込まれ、設定キーシリンダが時計方向へ向かって６０度回動操作されて第１のＯＮ操作されることで設定キーＯＮ操作されていることに加えて、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの押圧操作部が押圧操作されていてもよい（「予め定めた設定値変更許可条件の変形例」と記載する場合がある）。

【１０９０】

また、上述した予め定めた設定値表示許可条件は、パチンコ機１の電源投入時や停電後

の電力回復時における復電時において、外枠２に対して本体枠４が開放され、かつ、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの差し込み口に設定キーが差し込まれ、設定キーシリンダが時計方向へ向かって６０度回動操作されて第１のＯＮ操作されることで設定キーＯＮ操作され、かつ、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの押圧操作部が操作されていないことが必要であった。なお、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、予め定めた設定値表示許可条件の変形例が成立して設定値確認表示処理を行う場合には、まだ割り込み許可設定を行っていないため、主制御側タイマ割り込み処理を行わず、外枠２に対する本体枠４の開放を検出するための本体枠開放スイッチからの検出信号と、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの差し込み口に設定キーが差し込まれ、設定キーシリンダが初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）から時計方向へ向かって６０度回動操作されて第１のＯＮ操作されることで設定キースイッチ１３１１ａが設定キーＯＮされ、設定キースイッチ１３１１ａからの設定キーＯＮの信号と、を読み取って後述する入力情報として主制御内蔵ＲＡＭの入力情報記憶領域に記憶していない。このため、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、予め定めた設定値表示許可条件の変形例が成立して設定値確認表示処理を行う場合に、外枠２に対する本体枠４の開放を検出するための本体枠開放スイッチからの検出信号と、設定キースイッチ１３１１ａからの設定キーＯＮの信号と、を読み取る。

【１０９１】

上述した予め定めた設定値変更許可条件の変形例と上述した予め定めた設定値表示許可条件の変形例とを共に採用することにより、パチンコ機１の電源投入時や停電後の電力回復時における復電時において、外枠２に対して本体枠４が開放され、かつ、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの差し込み口に設定キーが差し込まれ、設定キーシリンダが時計方向へ向かって６０度回動操作されて第１のＯＮ操作されることで設定キーＯＮ操作されていることを前提として、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの押圧操作部が押圧操作されているときには、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、後述する主制御側電源投入時処理において設定変更処理を行って主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアし、その後、割り込み許可設定などを行うことで遊技を進行するのに対して、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの押圧操作部が押圧操作されていないときには、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、後述する主制御側電源投入時処理において設定値確認表示処理を行い、その後、割り込み許可設定などを行うことで遊技を進行する。この態様を採用することにより、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、遊技の進行を開始すると、設定値確認表示処理が一度も行われない。つまり、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、割り込み許可設定などを行うことで遊技の進行を開始すると、設定されている現状の設定値を設定表示器１３１０ｇに表示することが一度もない。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、後述する主制御側タイマ割り込み処理の球数計数処理において入球数（遊技盤５に区画形成される遊技領域５ａに設けられる入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数）に対する払出数（入賞口への入球により賞球として払い出される（付与される）遊技球Ｂの球数）の割合を算出し、その算出結果をベース値として、内蔵されているＲＡＭの特定領域に格納するとともに、ベースモニタ１３１０ｈに表示する。そこで、設定表示器１３１０ｇが表示する設定されている現状の設定値を、上述したベースモニタ１３１０ｈに表示するようにしてもよい（「ベースモニタの利用方法の変形例」と記載する場合がある）。これにより、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ベースモニタ１３１０ｈを用いて、復電してから割り込み許可設定などを行うことで遊技の進行を開始するまでの期間において、設定されている現状の設定値を表示することができるとともに、復電してから割り込み許可設定などを行うことで遊技の進行を開始すると、入球数（遊技盤５に区画形成される遊技領域５ａに設けられる入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数）に対する払出数（入賞口への入球により賞球として払い出される（付与される）遊技球Ｂの球数）の割合の算出結果を表示することができるため、設定表示器１３１０ｇを設ける必要がなくなりコスト削減に寄与することができる。

【１０９２】

また、上述した予め定めた設定値変更許可条件の変形例、上述した予め定めた設定値表示許可条件の変形例、及び上述したベースモニタの利用方法の変形例のうち、いずれか一つを適宜選択して、上述した決定キーの変形例（３０）に採用してもよい。

【１０９３】

また、上述した予め定めた設定値変更許可条件の変形例、上述した予め定めた設定値表示許可条件の変形例、及び上述したベースモニタの利用方法の変形例のうち、いずれか一つを適宜選択して、上述した共通ハードウェア構成による変形例（１）～（８）に採用してもよい。

【１０９４】

［５－５．機能表示ユニット］

遊技盤５における機能表示ユニット１４００について、主に図１２９等を参照して詳細に説明する。機能表示ユニット１４００は、遊技領域５ａの外側で前構成部材１０００の左上隅に取付けられている。機能表示ユニット１４００は、パチンコ機１に組立てた状態で、扉枠３の扉窓１０１ａを通して前方（遊技者側）から視認することができる。この機能表示ユニット１４００は、主制御基板１３１０からの制御信号に基づき複数のＬＥＤを用いて、遊技状態（遊技状況）や、普通抽選結果や特別抽選結果等を表示するものである。

【１０９５】

機能表示ユニット１４００は、詳細な図示は省略するが、遊技状態を表示する三つのＬＥＤからなる状態表示器と、ゲート２００３への遊技球Ｂの受入れにより抽選される普通抽選結果を表示する二つのＬＥＤからなる普通図柄表示器と、ゲート２００３への遊技球Ｂの受入れに係る保留数を表示する二つのＬＥＤからなる普通保留表示器と、を備えている。

【１０９６】

また、機能表示ユニット１４００は、第一始動口２００２への遊技球Ｂの受入れにより抽選された第一特別抽選結果を表示する八つのＬＥＤからなる第一特別図柄表示器と、第一始動口２００２への遊技球Ｂの受入れに係る保留数を表示する二つのＬＥＤからなる第一特別保留数表示器と、第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより抽選された第二特別抽選結果を表示する八つのＬＥＤからなる第二特別図柄表示器と、第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れに係る保留数を表示する二つのＬＥＤからなる第二特別保留数表示器と、を備えている。

【１０９７】

更に、機能表示ユニット１４００は、第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果が「当り」等の時に、大入賞口２００５の開閉パターンの繰返し回数（ラウンド数）を表示する五つのＬＥＤからなるラウンド表示器、を備えている。

【１０９８】

この機能表示ユニット１４００では、備えられているＬＥＤを、適宜、点灯、消灯、及び、点滅、等させることにより、保留数や図柄等を表示することができる。

【１０９９】

［５－６．周辺制御ユニット］

遊技盤５における周辺制御ユニット１５００について、主に図１３２及び図１３６等を参照して説明する。周辺制御ユニット１５００は、裏ユニット３０００の裏箱３０１０の後面に取付けられている演出表示装置１６００の後側に取付けられている。周辺制御ユニット１５００は、主制御基板１３１０からの制御信号に基づいて遊技者に提示する演出を制御する周辺制御基板１５１０（図１６９を参照）と、周辺制御基板１５１０を収容している周辺制御基板ボックス１５２０と、を備えている。周辺制御基板１５１０は、発光演出、サウンド演出、及び可動演出、等を制御するための周辺制御部１５１１と、演出画像を制御するための演出表示制御部１５１２と、を備えている。

【１１００】

周辺制御ユニット１５００の周辺制御基板１５１０は、主制御基板１３１０、演出操作

ユニット３００、扉枠３側の各種装飾基板、演出表示装置１６００、等と接続されている（図１６９を参照）。
【１１０１】
［５－７．演出表示装置］
遊技盤５における演出表示装置１６００について、主に図１３５及び図１３６等を参照して説明する。演出表示装置１６００は、正面視において遊技領域５ａの中央に配置されており、遊技パネル１１００の後側に、裏ユニット３０００の裏箱３０１０を介して取付けられている。演出表示装置１６００は、裏箱３０１０の後壁の略中央の後面に対して、着脱可能に取付けられている。演出表示装置１６００は、遊技盤５を組立てた状態で、透明な遊技パネル１１００や枠状のセンター役物２５００の枠内を通して、前側（遊技者側）から視認することができる。
【１１０２】
演出表示装置１６００は、白色ＬＥＤをバックライトとした１９ｉｎｃｈのフルカラーの液晶表示装置であり、縦長の状態で取付けられている。演出表示装置１６００は、周辺制御基板１５１０に接続されており、所定の静止画像や動画を表示することができる。
【１１０３】
演出表示装置１６００は、左側面から左方へ突出している一つの左固定片１６０１と、右側面から右方へ突出している二つの右固定片１６０２と、を備えている。この演出表示装置１６００は、液晶画面を前方へ向けた状態で、後述する裏箱３０１０の枠状の液晶取付部３０１０ｂ内の右内周面に開口している二つの固定溝３０１０ｃに、裏箱３０１０の斜め後方から二つの右固定片１６０２挿入した上で、左固定片１６０１側を前方へ移動させて、左固定片１６０１をロック機構の開口部内に挿入し、ロック機構を背面視において上方へスライドさせることにより、裏箱３０１０に取付けられる。
【１１０４】
［５－８．表ユニットの全体構成］
遊技盤５における表ユニット２０００について、主に図１４０及び図１４４等を参照して詳細に説明する。図１４０（ａ）は遊技盤における表ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は遊技盤における表ユニットを後ろから見た斜視図である。図１４４は表ユニットにおける右側の遊技球の流路を示す説明図である。図１４５は、図１４４における第一アタッカユニットと第二アタッカユニットの部位を拡大して示す説明図である。表ユニット２０００は、遊技パネル１１００に、前方から取付けられており、前端が遊技パネル１１００の前面よりも前方へ突出していると共に、後端の一部が遊技パネル１１００の開口部１１１２内に突出している。
【１１０５】
表ユニット２０００は、遊技領域５ａ内に打込まれた遊技球Ｂを受入可能としており常時開口している複数（ここでは四つ）の一般入賞口２００１と、複数の一般入賞口２００１とは遊技領域５ａ内の異なる位置で遊技球Ｂを受入可能に常時開口している第一始動口２００２と、遊技領域５ａ内の所定位置に設けられており遊技球Ｂの通過を検知するゲート２００３と、遊技球Ｂがゲート２００３を通過することにより抽選される普通抽選結果に応じて遊技球Ｂの受入れが可能となる第二始動口２００４と、第一始動口２００２又は第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより抽選される第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果に応じて遊技球Ｂの受入れが可能となる大入賞口２００５と、大入賞口２００５とは異なる位置に設けられており第一始動口２００２又は第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより抽選される第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果に応じて遊技球Ｂの受入れが可能となる役物入賞口２００６と、役物入賞口２００６に受入れられた遊技球Ｂに対して受入れの機会が付与されるＶ入賞口２００７と、を備えている。
【１１０６】
複数（ここでは四つ）の一般入賞口２００１は、三つが遊技領域５ａ内の下部における左右方向中央に対して左側に配置されており、残りの一つが遊技領域５ａ内の右部における上下方向中央より上側に配置されている。第一始動口２００２は、遊技領域５ａ内の左

右方向中央で最下端にあるアウト口１００８の直上に配置されている。ゲート２００３は、遊技領域５ａ内における正面視右端付近で上下方向の下から約３／４の高さに配置されている。第二始動口２００４は、遊技領域５ａの右下隅で左端の一般入賞口２００１よりも若干高い高さに配置されている。大入賞口２００５は、第一始動口２００２と第二始動口２００４との間に配置されている。役物入賞口２００６は、第二始動口２００４の上方で右側の一般入賞口２００１の直下に配置されている。Ｖ入賞口２００７は、役物入賞口２００６と第二始動口２００４との間の高さで、遊技パネル１１００の後方に配置されている。

【１１０７】

第一サブアウト口２０２１は、第二始動口２００４の下方に配置されており、第二サブアウト口２０２２は、右側の一般入賞口２００１の右側に配置されている。

【１１０８】

表ユニット２０００は、遊技領域５ａ内の左右方向中央で遊技領域５ａの下端の直上に取付けられており第一始動口２００２を有している始動口ユニット２１００と、始動口ユニット２１００の正面視左方で内レール１００２に沿うように設けられており三つの一般入賞口２００１を有しているサイドユニット２２００と、サイドユニット２２００の正面視左方のやや上側に設けられているサイド左上ユニット２３００と、遊技領域５ａ内の正面視右下隅となる始動口ユニット２１００の正面視右方に設けられており第二始動口２００４、大入賞口２００５、及び第一サブアウト口２０２１を有している第一アタッカユニット２４００と、始動口ユニット２１００及びサイドユニット２２００よりも上方で、遊技領域５ａ内の正面視略中央やや上寄りに設けられている枠状のセンター役物２５００と、を備えている。

【１１０９】

また、表ユニット２０００は、センター役物２５００の右方で第一アタッカユニット２４００の上方に設けられており役物入賞口２００６を有している第二アタッカユニット２６００と、第二アタッカユニット２６００の上方に設けられており一つの一般入賞口２００１及び第二サブアウト口２０２２を有しているサイド右中ユニット２７００と、サイド右中ユニット２７００の上方に設けられておりゲート２００３を有しているゲート部材２８００と、を備えている。

【１１１０】

［５－８ａ．始動口ユニット］

次に、表ユニット２０００の始動口ユニット２１００について、主に図１４０等を参照して説明する。表ユニット２０００の始動口ユニット２１００は、遊技領域５ａ内において、左右方向中央の下端部付近でアウト口１００８の直上に配置されており、遊技パネル１１００に前方から取付けられている。始動口ユニット２１００は、遊技球Ｂが一つのみ受入可能な幅で上方へ向かって常時開口している第一始動口２００２を有している。

【１１１１】

始動口ユニット２１００は、遊技パネル１１００に取付けることで、第一始動口２００２が、遊技パネル１１００の前面よりも前方に突出した上で、上方へ開放された状態となり、センター役物２５００の左右方向中央の直下に位置する。

【１１１２】

始動口ユニット２１００は、遊技パネル１１００に取付けた状態で、第一始動口２００２に受入れられた遊技球Ｂを遊技パネル１１００の後方へ誘導し、裏ユニット３０００の裏前演出ユニット３１００における裏前下演出ユニット３１６０の第二排出通路３１８２に受渡すことができる。

【１１１３】

［５－８ｂ．サイドユニット］

次に、表ユニット２０００のサイドユニット２２００について、主に図１４０等を参照して説明する。表ユニット２０００のサイドユニット２２００は、遊技領域５ａ内において、始動口ユニット２１００の左方で内レール１００２に沿うように延びており、遊技パ

ネル１１００に前方から取付けられている。サイドユニット２２００は、遊技球Ｂを常時受入可能に開口している三つの一般入賞口２００１を備えている。サイドユニット２２００の三つの一般入賞口２００１は、内レール１００２に沿うように円弧状に列設されている。右側の二つの一般入賞口２００１は上方へ向けて開口しており、左側の一般入賞口２００１は左上へ向けて開口している。

【１１１４】

サイドユニット２２００は、遊技盤５に組立てた状態で、三つの一般入賞口２００１が遊技パネル１１００の前面よりも前方に突出している。このサイドユニット２２００は、一般入賞口２００１に受入れられた遊技球Ｂを、遊技パネル１１００の後方に誘導し、裏ユニット３０００の裏前演出ユニット３１００における裏前下演出ユニット３１６０の第一排出通路３１８１に受渡すことができる。

【１１１５】

［５－８ｃ．サイド左上ユニット］

次に、表ユニット２０００のサイド左上ユニット２３００について、主に図１４０等を参照して説明する。表ユニット２０００のサイド左上ユニット２３００は、遊技領域５ａ内において、サイドユニット２２００の左方で内レール１００２に接するように、遊技パネル１１００に前方から取付けられている。サイド左上ユニット２３００は、右方へ低くなるように傾斜した棚部２３０１を有している。

【１１１６】

サイド左上ユニット２３００は、遊技盤５に組立てた状態で、棚部２３０１が遊技パネル１１００の前面よりも前方へ突出している。サイド左上ユニット２３００は、センター役物２５００の左側を流下してきた遊技球Ｂを、棚部２３０１により、センター役物２５００の下方となる右方側へ誘導することができる。

【１１１７】

［５－８ｄ．第一アタッカユニット］

次に、表ユニット２０００の第一アタッカユニット２４００について、主に図１４０乃至図１４５等を参照して説明する。表ユニット２０００の第一アタッカユニット２４００は、遊技領域５ａ内において、正面視右下隅となる始動口ユニット２１００の正面視右方に配置されており、遊技パネル１１００の前面に前方から取付けられている。この第一アタッカユニット２４００は、ゲート２００３、第二始動口２００４、及び大入賞口２００５を備えている（図１４４等を参照）。

【１１１８】

第一アタッカユニット２４００は、正面視において、第二始動口２００４が左右方向中央から右寄りの上部に設けられており、大入賞口２００５が左右方向中央より左側で第二始動口２００４よりも低い位置に設けられており、第一サブアウト口２０２１が第二始動口２００４の下方で大入賞口２００５よりも低い位置に設けられている。

【１１１９】

また、第一アタッカユニット２４００は、第二始動口２００４に受入れられた遊技球Ｂを検知する第二始動口センサ２４０１と、大入賞口２００５に受入れられた遊技球Ｂを検知する大入賞口センサ２４０２と、不正な磁気を検知する磁気センサ１０５０と、を備えている（図１６９等を参照）。大入賞口センサ２４０２は、並列に二つ設けられている。

【１１２０】

第一アタッカユニット２４００は、第二始動口２００４へ遊技球Ｂを誘導可能な第二始動口扉２４１１と、第二始動口扉２４１１をゲート２００３における遊技球Ｂの通過により抽選される普通抽選結果に応じて開閉させる始動口ソレノイド２４１２と、大入賞口２００５を開閉可能な大入賞口扉２４１３と、大入賞口扉２４１３を第一始動口２００２又は第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより抽選される第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果に応じて開閉させるアタッカソレノイド２４１４と、を備えている。

【１１２１】

第一アタッカユニット２４００は、図１４４に示すように、正面視において、右上隅付

近から左方へ低くなるように延びている第一棚部２４２１と、第一棚部２４２１の左端から左方へ遊技球Ｂの直径よりも若干長く間隔をあけると共に第一棚部２４２１の左端よりも低い位置から左方へ低くなるように第一棚部２４２１よりも短く延びており、第一棚部２４２１との間で第二始動口２００４を形成している第二棚部２４２２と、第二棚部２４２２の左端よりも左方で遊技球Ｂの直径よりも低い位置から左方へ低くなるように第二棚部２４２２よりも短く延びている第三棚部２４２３と、第三棚部２４２３の左端から左方へ遊技球Ｂの直径の４倍～６倍の長さの間隔をあけると共に第三棚部２４２３よりも低い位置から左方へ低くなるように延びており、第三棚部２４２３との間で大入賞口２００５を形成している第四棚部２４２４と、を有している。

【１１２２】

第一棚部２４２１の右端は、第一アタッカユニット２４００の右辺から、遊技球Ｂの直径よりも若干長く左方へ離れている。第一棚部２４２１、第二棚部２４２２、第三棚部２４２３は、夫々が同じ角度で傾斜しており、第四棚部２４２４は、第一棚部２４２１等よりも急な角度で傾斜している。

【１１２３】

また、第一アタッカユニット２４００は、第一棚部２４２１の右端から下方へ垂直に延びている第一立壁部２４２５と、第一棚部２４２１の左端から下方へ垂直に第一立壁部２４２５の下端と同じ高さまで延びている第二立壁部２４２６と、第二棚部２４２２の右端から下方へ垂直に第一立壁部２４２５の下端と同じ高さまで延びている第三立壁部２４２７と、第三棚部２４２３の右端から下方へ垂直に第一アタッカユニット２４００の下辺まで延びている第四立壁部２４２８と、第三棚部２４２３の左端から下方へ延びている第五立壁部２４２９と、第四棚部２４２４の右端から下方へ延びている第六立壁部２４３０と、第四棚部２４２４の左端から下方へ延びている第七立壁部２４３１と、を有している。

【１１２４】

第五立壁部２４２９は、第三棚部２４２３の左端から下方へ第四棚部２４２４よりも低い位置まで延びた後に左方へ低くなるように遊技球Ｂの直径よりも若干長く延びた上で、更に下方へ第一アタッカユニット２４００の下辺まで延びている。また、第六立壁部２４３０は、第四棚部２４２４の右端から下方へ第四棚部２４２４よりも低い位置まで延びた後に右方へ低くなるように遊技球Ｂの直径よりも若干長く延びた上で、更に下方へ第一アタッカユニット２４００の下辺まで延びている。第五立壁部２４２９と第六立壁部２４３０との下部同士の左右方向の間隔は、遊技球Ｂの直径の２倍よりも長い間隔である。

【１１２５】

更に、第一アタッカユニット２４００は、第一立壁部２４２５、第二立壁部２４２６、及び第三立壁部２４２７の下端同士を連結している第一横壁部２４３２と、第一アタッカユニット２４００の右辺における第一立壁部２４２５の下端よりも低い位置から、第一横壁部２４３２との間で遊技球Ｂが流通可能な間隔をあけて左方へ低くなるように傾斜した後に左方の第四立壁部２４２８の途中へ向かって高くなるように傾斜している第二横壁部２４３３と、を有している。第二横壁部２４３３は、第二始動口２００４の下方の第一サブアウト口２０２１の部位が最も低くなるように形成されている。

【１１２６】

また、第一アタッカユニット２４００は、第五立壁部２４２９及び第六立壁部２４３０の夫々の下部付近から、互いに接近する方向へ、夫々第五立壁部２４２９と第六立壁部２４３０との間の中央付近まで延びている第三横壁部２４３４と、二つの第三横壁部２４３４の対向している夫々の端部同士を連結していると共に上方へ延出している仕切部２４３５と、を有している。

【１１２７】

更に、第一アタッカユニット２４００は、上辺に沿って左方へ低くなるように階段状に延びており、第二棚部２４２２及び第三棚部２４２３の間で遊技球Ｂが流通可能な間隔をあけて設けられている上棚部２４３６を、有している。上棚部２４３６は、右端が第一棚部２４２１の左端の直上に位置しており、左端が第四棚部２４２４の右端よりも若干右方

に位置している。また、上棚部２４３６は、右端付近が右方へ低くなるように傾斜している。

【１１２８】

また、第一アタッカユニット２４００は、詳細な図示は省略するが、上棚部２４３６と大入賞口２００５との間の遊技球Ｂが左方へ流通可能な空間内において、当該空間を形成している前壁と後壁とから左右方向へ互い違いとなるように、平面視三角形状の複数の当接部が当該空間内に突出している。これら複数の当接部は、大入賞口２００５が閉状態の時に、大入賞口扉２４１３上を転動している遊技球Ｂを、前後方向へ大きくジグザグ状に流通させるものである。

【１１２９】

この第二始動口扉２４１１は、前後方向へ移動するように設けられている。第二始動口扉２４１１は、始動口ソレノイド２４１２が通電されていない状態では、始動口ソレノイド２４１２のプランジャがバネの付勢力により突出することにより前方へ移動し、第二始動口２００４を閉鎖している。また、第二始動口扉２４１１は、始動口ソレノイド２４１２が通電されている状態では、始動口ソレノイド２４１２のプランジャがバネの付勢力に抗して後退することにより、後方へ移動し、第二始動口２００４を開放している。

【１１３０】

始動口ソレノイド２４１２は、通電していない状態では図示しないバネの付勢力によってプランジャが前方へ突出しており、通電することによりプランジャが後退する。

【１１３１】

大入賞口扉２４１３は、左右に長い平板状で、前後に移動するように設けられている。大入賞口扉２４１３は、アタッカソレノイド２４１４のプランジャの前後方向への進退により、大入賞口２００５を開閉することができる。大入賞口扉２４１３は、アタッカソレノイド２４１４が通電されていない状態では、アタッカソレノイド２４１４のプランジャがバネの付勢力により突出することにより前方へ移動し、大入賞口２００５を閉鎖している。また、大入賞口扉２４１３は、アタッカソレノイド２４１４が通電されている状態では、アタッカソレノイド２４１４のプランジャがバネの付勢力に抗して後退することにより、後方へ移動し、大入賞口２００５を開放している。

【１１３２】

アタッカソレノイド２４１４は、は、通電していない状態では図示しないバネの付勢力によってプランジャが前方へ突出しており、通電することによりプランジャが後退する。

【１１３３】

第一アタッカユニット２４００は、通常の状態では、始動口ソレノイド２４１２及びアタッカソレノイド２４１４が、夫々非通電（ＯＦＦ）の状態となっている。この通常の状態では、始動口ソレノイド２４１２のプランジャが、図示しないバネの付勢力により前方へ突出していると共に、第二始動口扉２４１１が前方へ突出している。この状態では、第二始動口扉２４１１が、第二始動口２００４の上方に位置しており、第二始動口扉２４１１により第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れが不能な状態となっている。つまり、第二始動口２００４が第二始動口扉２４１１により閉鎖されている（図１４４及び図１４５を参照）。

【１１３４】

また、通常の状態では、アタッカソレノイド２４１４のプランジャが、図示しないバネの付勢力により前方へ突出していると共に、大入賞口扉２４１３が前方へ突出している。この状態では、大入賞口扉２４１３が、大入賞口２００５の上方に位置しており、大入賞口２００５への遊技球Ｂの受入れが不能な状態となっている。つまり、大入賞口２００５が大入賞口扉２４１３により閉鎖されている（図１４４及び図１４５を参照）。

【１１３５】

この通常の状態で、第一棚部２４２１上に遊技球Ｂが流下すると、第一棚部２４２１の傾斜により遊技球Ｂが左方へ転動し、第二始動口扉２４１１の上面、及び第二棚部２４２２を転動した上で、第二棚部２４２２の左端から左方へ放出される。第二棚部２４２２か

ら左方へ放出された遊技球Ｂは、その勢いに応じて、第三棚部２４２３又は大入賞口扉２４１３上に落下し、それらの傾斜により左方へ転動する。なお、第二棚部２４２２から左方へ放出された遊技球Ｂが、上棚部２４３６の下面に当接して右方へ跳ね返ると、第二棚部２４２２と第三棚部２４２３との間の隙間に進入することがある。

【１１３６】

この際に、大入賞口２００５を閉鎖している大入賞口扉２４１３上を転動している遊技球Ｂは、上棚部２４３６と大入賞口２００５との間の空間に設けられている複数の当接部に対して、交互に当接することとなり、前後方向へジグザグしながら左方へ転動することとなる。大入賞口扉２４１３上を左方へ転動した遊技球Ｂは、第四棚部２４２４を転動した後に、その左端から第一アタッカユニット２４００外へ放出される。

【１１３７】

この第一アタッカユニット２４００では、第一棚部２４２１よりも右方に遊技球Ｂが流下すると、第一立壁部２４２５の右側を通り、第二横壁部２４３３の右端付近に落下し、第二横壁部２４３３の傾斜により左方へ転動して第一サブアウト口２０２１に進入する。また、遊技球Ｂが、第二棚部２４２２と第三棚部２４２３との間の隙間に進入すると、第三立壁部２４２７と第四立壁部２４２８との間を通って第二横壁部２４３３の左端付近に落下し、第二横壁部２４３３の傾斜により右方へ転動して第一サブアウト口２０２１に進入する。

【１１３８】

第一サブアウト口２０２１に進入した遊技球Ｂは、遊技領域５ａ内に戻されることなく裏ユニット３０００の裏前演出ユニット３１００における裏前下演出ユニット３１６０の第五排出通路３１８５受け渡され、第五排出通路３１８５から下方の基板ホルダ１２００上に排出される。この第一アタッカユニット２４００では、第一棚部２４２１の右側を流通した遊技球Ｂと、第二棚部２４２２と第三棚部２４２３の間の隙間を通った遊技球Ｂとが、何れも第一サブアウト口２０２１に進入するように形成されており、実質的に第一サブアウト口２０２１が二つ設けられている。

【１１３９】

この通常の状態において、ゲート２００３を遊技球Ｂが通過することで抽選された普通抽選結果に応じて、始動口ソレノイド２４１２に通電（ＯＮ）されると、バネの付勢力に抗してプランジャが後退し、第二始動口扉２４１１が後方に移動する。そして、第二始動口扉２４１１が後方へ移動することにより、第二始動口２００４の上方が開放された状態となり、第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れが可能となる。つまり、第二始動口２００４が開状態となる。

【１１４０】

第二始動口２００４が開状態の時に、遊技球Ｂが第二始動口２００４に受入れられると、第二立壁部２４２６と第三立壁部２４２７との間を流下し、第二始動口センサ２４０１に検知された後に、第一アタッカユニット２４００から後方へ放出される。第二始動口２００４に受入れられて第一アタッカユニット２４００から後方へ放出された遊技球Ｂは、裏ユニット３０００の裏前演出ユニット３１００における裏前下演出ユニット３１６０の第三排出通路３１８３に受け渡され、第三排出通路３１８３から下方の基板ホルダ１２００上に排出される。

【１１４１】

一方、通常の状態において、第一始動口２００２や第二始動口２００４に遊技球Ｂが受入れられることで抽選された特別抽選結果（第一特別抽選結果や第二特別抽選結果）に応じて、アタッカソレノイド２４１４に通電（ＯＮ）されると、バネの付勢力に抗してプランジャが後退し、大入賞口扉２４１３が後方へ移動する。大入賞口扉２４１３が後方へ移動することにより、大入賞口２００５が上方へ開放された状態となり、大入賞口２００５への遊技球Ｂの受入れが可能な状態となる。つまり、大入賞口２００５が開状態となる。

【１１４２】

大入賞口２００５が開状態の時に、遊技球Ｂが大入賞口２００５に受入れられると、第

五立壁部２４２９と第六立壁部２４３０との間を通った上で、第五立壁部２４２９と仕切部２４３５との間、又は、第六立壁部２４３０と仕切部２４３５との間を通って、二つの大入賞口センサ２４０２のうちの一つに検知された上で、第三横壁部２４３４上に落下し、第一アタッカユニット２４００から後方へ放出される。大入賞口２００５に受入れられて第一アタッカユニット２４００から後方へ放出された遊技球Ｂは、裏ユニット３０００の裏前演出ユニット３１００における裏前下演出ユニット３１６０の第四排出通路３１８４に受け渡され、第四排出通路３１８４から下方の基板ホルダ１２００上に排出される。

【１１４３】

このように、本実施形態の第一アタッカユニット２４００によれば、大入賞口２００５に受入れられた遊技球Ｂを、仕切部２４３５により二つに分けて、夫々を異なる大入賞口センサ２４０２により検知してから後方へ放出するようにしているため、大入賞口２００５と大入賞口センサ２４０２との間で遊技球Ｂが滞ることを抑制させることができると共に、短時間で多くの遊技球Ｂを受入れることができる。

【１１４４】

［５－８ｅ．センター役物］

次に、表ユニット２０００におけるセンター役物２５００について、主に図１４０及び図１４１等を参照して詳細に説明する。図１４１（ａ）はセンター役物における右下案内通路の部位を分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）はセンター役物における右下案内通路の前側の前部材における分離孔の部位で左右に切断して右方から見た側面断面図である。表ユニット２０００のセンター役物２５００は、遊技領域５ａ内において、始動口ユニット２１００よりも上方で、正面視略中央やや上寄りに配置されており、遊技パネル１１００におけるパネル板１１１０の前面に取付けられている。センター役物２５００は、透明な枠状に形成されており、遊技パネル１１００の後方に設けられた演出表示装置１６００や裏ユニット３０００に備えられている各種演出ユニット等を前方から視認することができる。

【１１４５】

枠状のセンター役物２５００は、全周に亘って遊技パネル１１００の前面よりも前方へ突出している部位を有しており、遊技領域５ａ内に打込まれた遊技球Ｂが、枠内に侵入できないようになっている。

【１１４６】

センター役物２５００は、前後方向に延びている枠状の周壁部２５０１（センターフレームとも称する）と、周壁部２５０１の外周から突出しており遊技パネル１１００のパネル板１１１０の前面に当接する平板状のフランジ部２５０２と、周壁部２５０１の内周から突出している平板状のサポート部２５０３と、を有している。周壁部２５０１は、遊技盤５に組立てた状態で、後端が遊技パネル１１００のパネル板１１１０の後面と一致する位置まで後方に延びている。また、周壁部２５０１は、パネル板１１１０におけるセンター役物２５００が挿入される開口部１１１２の内周に沿うような形状に形成されている。この周壁部２５０１は、遊技盤５に組立てた状態で、センター役物２５００の外側から枠内の内側への遊技球Ｂの侵入を防止することができる。

【１１４７】

フランジ部２５０２とサポート部２５０３の厚さは、パネル板１１１０の厚さよりも薄く（パネル板１１１０の厚さの１／４～１／５の厚さ）形成されている。フランジ部２５０２とサポート部２５０３は、前後方向の同じ位置で周壁部２５０１から突出している。従って、サポート部２５０３（フランジ部２５０２）の後面から周壁部２５０１の後端までの距離が、パネル板１１１０の厚さと同じである。

【１１４８】

サポート部２５０３は、周壁部２５０１の内周において、部分的に複数設けられている。また、サポート部２５０３は、周壁部２５０１におけるフランジ部２５０２の突出していない部位に設けられており、周壁部２５０１を補強している。また、サポート部２５０３は、周壁部２５０１から突出した端辺が、周壁部２５０１の正面形状に倣った形状、若

しくは、直線状に形成されており、サポート部２５０３が目立たないようにしている。このサポート部２５０３は、周壁部２５０１からの突出量を、サポート部２５０３の厚さ～パネル板１１１０の厚さ（１ｍｍ～１０ｍｍ）、の範囲内としており、補強としての効果を発揮させつつ遊技者から目立ち難いようにしている。

【１１４９】

また、センター役物２５００は、枠状の周壁部２５０１の後端を閉鎖している透明平板状の閉鎖板２５０５を、備えている。この閉鎖板２５０５により、遊技球Ｂがセンター役物２５００の枠内を通って後方（裏ユニット３０００）へ侵入することを防止している。

【１１５０】

センター役物２５００は、周壁部２５０１における正面視左側で遊技パネル１１００（パネル板１１１０）の前面よりも前側の部位において、遊技領域５ａ内の遊技球Ｂが進入可能に開口しているワープ入口２５１１と、ワープ入口２５１１に進入した遊技球Ｂを放出可能とされ遊技パネル１１００の前面よりも後側で枠内に開口しているワープ出口２５１２と、ワープ出口２５１２から放出された遊技球Ｂを左右方向に転動させた後に遊技領域５ａ内へ放出可能なステージ２５１３と、ステージ２５１３の上方を覆うように設けられているステージカバー２５１５と、を備えている（図１３８等を参照）。ステージカバー２５１５は、ステージ２５１３上で跳ねた遊技球Ｂをステージ２５１３側へ跳ね返すことで、センター役物２５００の枠外から枠内への遊技球Ｂの侵入を防止するためのものである。

【１１５１】

センター役物２５００のステージ２５１３は、左右方向の中央側が窪んだ湾曲状で、始動口ユニット２１００の第一始動口２００２の直上と対応した位置、つまり、センター役物２５００を遊技パネル１１００のパネル板１１１０に取付けた状態で左右方向の略中央の位置が、その左右両側よりも若干高くなるような波状（Ｗ字状）に形成されている。このステージ２５１３は、左右方向中央の左右両側よりも若干高くなっている部位（中央放出部２５１３ａ）と、その左右両側の最も低くなっている部位（サイド放出部２５１３ｂ）とが、前方へ向かって低くなるように傾斜しており、それらの部位から遊技球Ｂを遊技領域５ａ内へ放出させることができる。

【１１５２】

センター役物２５００は、遊技盤５に組立てた状態で、ステージ２５１３の左右方向中央の高くなっている部位（中央放出部２５１３ａ）が、始動口ユニット２１００の第一始動口２００２の直上に位置している。これにより、ステージ２５１３の中央の中央放出部２５１３ａから遊技球Ｂが放出されると、極めて高い確率で第一始動口２００２に受入れられる。

【１１５３】

また、センター役物２５００は、右上隅に設けられており遊技球Ｂが流通可能な二つの通路からなる案内通路群２５２０を備えている。このセンター役物２５００は、遊技盤５に組立てた状態で、案内通路群２５２０の右端（センター役物２５００の右上隅の端部）が、遊技領域５ａの内周縁（前構成部材１０００の衝止部１００６付近の右レール１００５）に略接しており、センター役物２５００の上方の右側に打込まれた遊技球Ｂが、必ず案内通路群２５２０を通るように形成されている。

【１１５４】

案内通路群２５２０は、上下方向の長さが、遊技領域５ａの全高に対して、約１／７の長さである。この案内通路群２５２０は、何れも前方へ開放された溝状に形成されており、内部を流通する遊技球Ｂを、前方から良好な状態で視認することができる。

【１１５５】

案内通路群２５２０は、センター役物２５００における周壁部２５０１の外側に設けられており、周壁部２５０１から離れている第一案内通路２５２１と、第一案内通路２５２１の右方で周壁部２５０１に沿って延びている第二案内通路２５２２と、から構成されている。第一案内通路２５２１の入口と第二案内通路２５２２の入口は、左右に離隔してい

る。また、第一案内通路２５２１の出口と第二案内通路２５２２の出口は、左右に隣接しており、右レール１００５上部の円弧に沿うように斜め右下へ向かって開口している。

【１１５６】

案内通路群２５２０は、センター役物２５００を遊技盤５に組立てた状態で、ゲート２００３の上方に位置している。また、第一案内通路２５２１は、その入口の右端が前構成部材１０００の衝止部１００６の下端の直下に位置しており、衝止部１００６に当接した遊技球Ｂの殆どが第一案内通路２５２１へ進入するように形成されている。

【１１５７】

また、センター役物２５００は、周壁部２５０１の右下隅から右方へ突出しており、上方からの遊技球Ｂを右方へ誘導した後に下方へ放出する右下案内通路２５３０を、備えている。この右下案内通路２５３０は、入口が左右方向の前幅に亘って上方へ開口しており、出口が遊技球Ｂ一つ分の幅で斜め左下へ向かって開口している。

【１１５８】

この右下案内通路２５３０は、遊技盤５に組立てた状態で、右端が右レール１００５に略接しており、第一アタッカユニット２４００と第二アタッカユニット２６００との間に位置している。従って、案内通路群２５２０と右下案内通路２５３０との間には、第二アタッカユニット２６００、サイド右中ユニット２７００、及びゲート部材２８００が、配置されている。

【１１５９】

センター役物２５００について更に詳述すると、センター役物２５００は、周壁部２５０１、フランジ部２５０２、サポート部２５０３、等を有している枠状の透明なセンター台板２５４０と、右下案内通路２５３０の前側を閉鎖するようにセンター台板２５４０に取付けられている透明で平板状の前部材２５３１と、前部材２５３１の前面に貼り付けられており所定の装飾が印刷されている右下案内通路装飾シール２５３２と、を備えている（図１４１を参照）。

【１１６０】

センター台板２５４０は、正面視右下隅においてフランジ部２５０２の一部を構成し右方へ平板状に延出している案内通路フランジ部２５４０ａと、案内通路フランジ部２５４０ａの下辺に沿って周壁部２５０１の外周面におけるフランジ部２５０２よりも前方の部位から右端側が低くなるように右方へ案内通路フランジ部２５４０ａよりも短く延出している案内通路壁２５４０ｂと、案内通路フランジ部２５４０ａの右端付近において右端辺に沿って上下に延びていると共に案内通路壁２５４０ｂの前面と同じ位置まで前方へ延出している平板状の立壁部２５４０ｃと、立壁部２５４０ｃの下端辺と連続し斜め左下へ延出した後に斜め右下へ延出して屈曲している左方誘導部２５４０ｄと、を有している。案内通路壁２５４０ｂと立壁部２５４０ｃとの間は、遊技球Ｂが一つ通過可能な隙間が形成されている。

【１１６１】

センター台板２５４０は、上方から案内通路壁２５４０ｂに流下してきた遊技球Ｂを、案内通路壁２５４０ｂにより右方へ誘導した上で、案内通路壁２５４０ｂと立壁部２５４０ｃとの間から下方へ流下させた後に、左方誘導部２５４０ｄにより斜め左下へ放出させることができる。センター台板２５４０は、案内通路フランジ部２５４０ａ、案内通路壁２５４０ｂ、立壁部２５４０ｃ、及び左方誘導部２５４０ｄにより右下案内通路２５３０の殆どを構成している。

【１１６２】

前部材２５３１は、周壁部２５０１の内周面と同じ位置から案内通路フランジ部２５４０ａの右端辺と同じ位置まで左右方向に延出しており、上端辺が案内通路フランジ部２５４０ａの上端辺よりも上方に位置していると共に、下端辺が案内通路壁２５４０ｂよりも下方に位置している。

【１１６３】

前部材２５３１は、外周形状に沿うように前面から後方へ凹んでいる貼付凹部２５３１

ａと、貼付凹部２５３１ａにおける正面視において案内通路壁２５４０ｂと一致する部位で前後に貫通している分離孔２５３１ｂと、後面から円柱状に後方へ突出しておりセンター台板２５４０に取付けるための複数の取付ボス２５３１ｃと、を有している。

【１１６４】

貼付凹部２５３１ａは、右下案内通路装飾シール２５３２の厚さよりも深く（０．４ｍｍ～１．０ｍｍ）後方へ凹んでいる（図１４１（ｂ）を参照）。貼付凹部２５３１ａでは、左端辺の部位と、上端辺における左端辺に接する付近の部位とが、右下案内通路装飾シール２５３２を貼り付けるための当て面に設定されている。

【１１６５】

分離孔２５３１ｂは、内形が円形の丸孔である。この分離孔２５３１ｂは、センター役物２５００に組立てた時に、貼付凹部２５３１ａに貼り付けられている右下案内通路装飾シール２５３２により前方側が閉鎖されると共に、センター台板２５４０の案内通路壁２５４０ｂの前面により後方側が閉鎖され、分離孔２５３１ｂ内が閉鎖空間となる。

【１１６６】

本実施形態の分離孔２５３１ｂは、内径が２ｍｍ～６ｍｍの範囲内とされている。分離孔２５３１ｂがこれ以上小さいと、分離孔２５３１ｂに挿入される分離用の棒状部材（工具）の直径が小さくなることで曲がり易くなり右下案内通路装飾シール２５３２を十分に押圧することができなくなる恐れがあるためであり、分離孔２５３１ｂがこれ以上大きいと、右下案内通路装飾シール２５３２における分離孔２５３１ｂの部位で撓みが発生し、右下案内通路装飾シール２５３２の見栄えが悪くなる恐れがあるためである。

【１１６７】

本実施形態のセンター役物２５００によれば、パチンコ機１の製造時において、前部材２５３１の貼付凹部２５３１ａに対して右下案内通路装飾シール２５３２を正しく貼り付けることができなかった場合、前部材２５３１の後方から分離孔２５３１ｂに棒状部材を通し、その先端により右下案内通路装飾シール２５３２を後方から前方へ押圧することで、右下案内通路装飾シール２５３２の端縁付近が前方へ捲れるように外すことができ、その捲れた部分を作業者が引っ張ることで右下案内通路装飾シール２５３２を貼付凹部２５３１ａから容易に外すことができ、右下案内通路装飾シール２５３２を貼り直すことができる。

【１１６８】

また、前部材２５３１とセンター台板２５４０とを離した状態で、前部材２５３１の後方から分離孔２５３１ｂに棒状部材を通し、その先端により右下案内通路装飾シール２５３２を後方から押圧することで、右下案内通路装飾シール２５３２を貼付凹部２５３１ａから容易に外すことができるため、機種変更に伴う右下案内通路装飾シール２５３２の取替作業を容易なものとすることができる。

【１１６９】

更に、上述したように、前部材２５３１とセンター台板２５４０とを離した状態では、分離孔２５３１ｂを使用して右下案内通路装飾シール２５３２を貼付凹部２５３１ａから容易に取外すことができるため、パチンコ機１の構成部品に対して素材毎の分別作業を行い易いものとすることができ、パチンコ機１の廃棄にかかるコストを低減させることができる。

【１１７０】

また、貼付凹部２５３１ａに右下案内通路装飾シール２５３２を貼り付けることにより前方から分離孔２５３１ｂを隠すことができるため、分離孔２５３１ｂによる見栄えの悪化を抑制させることができると共に、遊技者に対して分離孔２５３１ｂの存在に気付かせ難くすることができ、分離孔２５３１ｂを利用した不正行為を画策させ難くすることができる。

【１１７１】

また、パチンコ機１に組立てられている状態では、右下案内通路装飾シール２５３２が貼り付けられている前部材２５３１の後側に組付けられているセンター台板２５４０の案

内通路壁２５４０ｂによって、分離孔２５３１ｂを後方から閉鎖するようにしており、従来のパチンコ機のように後側まで通るような孔を貫通させていないため、当該孔を通してピアノ線のような線状の不正工具が遊技盤５内や遊技球Ｂが流通する部位に差し込まれることを回避させることができ、不正行為が行われることを防止することができる。

【１１７２】

また、センター台板２５４０の案内通路壁２５４０ｂにより分離孔２５３１ｂを後方から閉鎖していることから、不正工具を、前方から右下案内通路装飾シール２５３２を貫いて分離孔２５３１ｂに挿通させても、案内通路壁２５４０ｂによりそれ以上の後方への挿入（侵入）を阻止することができるため、分離孔２５３１ｂを通した前方からの遊技盤５内や遊技球Ｂが流通する部位への不正工具の侵入を阻止することができ、不正行為が行われることを防止することができると共に、不正工具が右下案内通路装飾シール２５３２を貫くことで右下案内通路装飾シール２５３２に痕跡が残るため、不正行為の実行を躊躇させることができ、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【１１７３】

更に、本実施形態のセンター役物２５００によれば、周壁部２５０１から内側へ突出したサポート部２５０３を設けるようにしていることから、サポート部２５０３を設けた部位では、周壁部２５０１がセンター役物２５００の外縁となるため、周壁部２５０１の内側（センター役物２５００の枠内）を相対的に広くすることができ、センター役物２５００の枠内を通して後方の演出表示装置１６００の演出画像や、裏ユニット３０００の装飾等をより見え易くすることができる。

【１１７４】

また、周壁部２５０１におけるフランジ部２５０２が設けられていない部位に内側へ突出したサポート部２５０３を設けているため、周壁部２５０１の強度を補強することができる。これにより、周壁部２５０１におけるサポート部２５０３が設けられている部位の外側に遊技球Ｂが当接しても、周壁部２５０１が変形したり破損したりすることを防止することができる。また、サポート部２５０３によりセンター役物２５００の強度を高めることができるため、センター役物２５００を変形させることなく射出成形型から脱型することができる。

【１１７５】

また、透明なサポート部２５０３を周壁部２５０１の内周から短く突出させていると共に、周壁部２５０１の全周に対して部分的に設けているため、サポート部２５０３が後方に設けられている裏ユニット３０００の装飾体や演出表示装置１６００の演出画像等の視認性を妨げることを低減させることができる。

【１１７６】

更に、サポート部２５０３を設けることにより、周壁部２５０１から外方へ突出しているフランジ部２５０２が設けられていない部位を有するようにしているため、遊技パネル１１００（パネル板１１１０）におけるサポート部２５０３に近い部位では、周壁部２５０１に対して可及的に接近した位置に障害釘Ｎを植設することができる。これにより、遊技領域５ａ内において複数の障害釘Ｎによる遊技の領域を可及的に広くすることができ、本来の遊技を楽しませられるパチンコ機１とすることができる。

【１１７７】

また、周壁部２５０１をパネル板１１１０の開口部１１１２の内周形状と同じような形状とした上で、周壁部２５０１の後端をパネル板１１１０の後面と同一面上としていると共に、サポート部２５０３をパネル板１１１０の前面と略同一面上に設けているため、遊技者に対してサポート部２５０３を目立ち難くすることができると共に、センター役物２５００がパネル板１１１０と一体化しているように見せることができる。

【１１７８】

更に、センター役物２５００の全周の一部にサポート部２５０３を設けているため、全周に亘ってサポート部２５０３を設けるようにした場合と比較して、センター役物２５００の枠内をより広くすることができ、後方に設けられている演出表示装置１６００の表示

画面をより見え易くすることができる。換言すると、センター役物２５００の周壁部２５０１（センターフレーム）により区画される非流通領域（枠の内側）を大きく見せたい場合、サポート部２５０３を、周壁部２５０１の全周の一部に設けるようにしても良い。或いは、サポート部２５０３を、正面視において、後方に設けられている演出表示装置１６００の表示画面とは重ならない程度の延出量とすることが好ましい。

【１１７９】

なお、上記の実施形態では、前部材２５３１に一つの分離孔２５３１ｂを設けたものを示したが、これに限定するものではなく、正面視において案内通路壁２５４０ｂと一致する部位に分離孔２５３１ｂを複数設けるようにしても良い。

【１１８０】

或いは、分離孔２５３１ｂを、センター台板２５４０における屈曲している左方誘導部２５４０ｄよりも内側の部位（正面視において右側の部位）に設けるようにしても良い。当該部位に分離孔２５３１ｂを設けた場合、分離孔２５３１ｂの後側がセンター台板２５４０によって直接的に閉鎖されることはないが、分離孔２５３１ｂの後方に案内通路フランジ部２５４０ａや遊技パネル１１００が位置するため、分離孔２５３１ｂと連続する孔が遊技盤５の後方まで貫通しないため、上記と同様の作用効果を奏することができる。また、この場合、前方から右下案内通路装飾シール２５３２を貫いて分離孔２５３１ｂに不正工具を挿入しても、左方誘導部２５４０ｄにより不正工具の先端を右下案内通路２５３０内等の遊技球Ｂが流通する領域内へ侵入させることを阻止することができる。更に、この場合、左方誘導部２５４０ｄの右方が開放されていることから、Ｊ字状に曲がった線状の工具を用いることで、前部材２５３１を組立てたままの状態でも後方から分離孔２５３１ｂに工具を挿入することができ、右下案内通路装飾シール２５３２を取外すことができる。

【１１８１】

［５－８ｆ．第二アタッカユニット］

続いて、表ユニット２０００の第二アタッカユニット２６００について、主に図１４０乃至図１４５等を参照して詳細に説明する。表ユニット２０００の第二アタッカユニット２６００は、センター役物２５００の周壁部２５０１における右辺よりも右側で、右下案内通路２５３０と遊技領域５ａの上下方向の中央との間に配置されており、遊技パネル１１００におけるパネル板１１１０の前面に取付けられている。第二アタッカユニット２６００は、左方へ向けて開閉可能に開口している役物入賞口２００６を備えている。

【１１８２】

第二アタッカユニット２６００は、役物入賞口２００６に受入れられた遊技球Ｂを検知する役物入賞口センサ２６０１と、役物入賞口２００６付近に作用する不正な磁気を検知する磁気センサ１０５０（図１４６を参照）と、を備えている。また、第二アタッカユニット２６００は、役物入賞口２００６を開閉可能に閉鎖するための役物入賞口扉２６１１と、役物入賞口扉２６１１を可動させて役物入賞口２００６を開閉するための役物入賞口ソレノイド２６１２と、役物入賞口ソレノイド２６１２のプランジャの進退を伝達させて役物入賞口扉２６１１を可動させる伝達部材（図示は省略）と、役物入賞口２００６に受入れられた遊技球Ｂを誘導して後方へ放出する誘導通路２６１３と、を有している。

【１１８３】

第二アタッカユニット２６００は、役物入賞口２００６が左右方向中央から右寄りの位置で左方へ向かって開口しており、その役物入賞口２００６を左方から閉鎖するように役物入賞口扉２６１１が設けられている。

【１１８４】

役物入賞口扉２６１１は、下方へ膨出した半円形状の下辺と、下辺の右端に接して上方へ直線状に延びている右辺と、右辺の上端から左方へ膨出するように下辺の左側に接している円弧状の左辺と、で構成された、所謂羽根状に形成されている。役物入賞口扉２６１１は、半円形状の下辺の中心を軸芯として前後方向に延びた円柱状の回転軸２６１１ａと、回転軸よりも離れた位置から後方へ円柱状に突出しているリンクピン（図示は省略）と

、を有している。役物入賞口扉２６１１は、上端が左方へ移動するように、下部の回転軸が回転可能に取付けられている。

【１１８５】

役物入賞口ソレノイド２６１２は、詳細な図示は省略するが、プランジャが下方へ突出する向きで取付けられている。図示しない伝達部材は、役物入賞口ソレノイド２６１２のプランジャの先端に取付けられる基部と、前後方向に貫通していると共に左右方向に延びており役物入賞口扉２６１１のリンクピンが摺動可能に挿入されるスリットと、を有しており、上下方向へスライド可能に取付けられている。

【１１８６】

第二アタッカユニット２６００は、遊技盤５に組立てた状態で、右辺が前構成部材１０００の右レール１００５に略接するように位置しており、役物入賞口２００６とセンター役物２５００の周壁部２５０１における右辺側との間に、遊技球Ｂが流通可能な空間を形成している。また、第二アタッカユニット２６００は、遊技盤５に組立てた状態で、誘導通路２６１３の後端を含む後面が、遊技パネル１１００におけるパネル板１１１０の後面よりも後方へ突出している。

【１１８７】

この第二アタッカユニット２６００は、通常の状態では、役物入賞口ソレノイド２６１２が非通電（ＯＦＦ）の状態となっており、プランジャが自身の自重と伝達部材の自重とにより下方へ突出している。この状態では、役物入賞口扉２６１１が直立しており、役物入賞口２００６が役物入賞口扉２６１１により閉鎖されている。つまり、通常の状態では、役物入賞口２００６に対して遊技球Ｂが受入不能となっている。

【１１８８】

この通常の状態において、第一始動口２００２や第二始動口２００４に遊技球Ｂが受入れられることで抽選された特別抽選結果（第一特別抽選結果や第二特別抽選結果）に応じて、役物入賞口ソレノイド２６１２に通電（ＯＮ）されると、プランジャと一緒に伝達部材が上方へ移動し、伝達部材のスリット内に挿入されている役物入賞口扉２６１１のリンクピンが、上方へ引き上げられると共に、スリット内を摺動することで、役物入賞口扉２６１１が回転軸２６１１ａを中心として反時計回りの方向へ回動することとなる。

【１１８９】

これにより、役物入賞口扉２６１１の上端が左方へ移動して、役物入賞口２００６が左方へ開放された状態となると共に、役物入賞口扉２６１１の右端側が低くなるように傾斜した状態となる。つまり、役物入賞口２００６が開状態となる。この状態で、流下してきた遊技球Ｂが役物入賞口扉２６１１に当接すると、その傾斜により右方へ転動して、役物入賞口２００６に受入れられることとなる。役物入賞口２００６に受入れられた遊技球Ｂは、役物入賞口センサ２６０１により検知された後に、誘導通路２６１３により誘導されて後方へ放出される。誘導通路２６１３から後方へ放出された遊技球Ｂは、裏ユニット３０００の裏前演出ユニット３１００における裏前右装飾ユニット３１４０の振分通路３１５８に受け渡され、Ｖ入賞口２００７又はハズレ口２００８の何れかに振分けられた後に、裏前下演出ユニット３１６０を介して下方の基板ホルダ１２００上に排出される。

【１１９０】

［５－８ｇ．サイド右中ユニット］

次に、表ユニット２０００におけるサイド右中ユニット２７００について、主に図１４０及び図１４４等を参照して詳細に説明する。表ユニット２０００のサイド右中ユニット２７００は、遊技領域５ａ内において、第二アタッカユニット２６００の直上に配置されており、遊技パネル１１００におけるパネル板１１１０の前面に取付けられている。このサイド右中ユニット２７００は、一つの一般入賞口２００１と、第二サブアウト口２０２２と、を備えている。

【１１９１】

サイド右中ユニット２７００は、左右方向が遊技球Ｂ一つの分の幅で上方へ向かって一般入賞口２００１が常時開口していると共に、一般入賞口２００１の右側に隣接して、左

右方向が遊技球Ｂ二つ分の幅で上方へ向かって第二サブアウト口２０２２が常時開口している。

【１１９２】

また、サイド右中ユニット２７００は、一般入賞口２００１に受入れられた遊技球Ｂを後方へ誘導する第一誘導通路２７０１と、第二サブアウト口２０２２に受入れられた遊技球Ｂを後方へ誘導する第二誘導通路２７０２と、を有している。第一誘導通路２７０１は、一般入賞口２００１から後方へ延出した後に、右方へ屈曲した上で更に後方へ屈曲した、クランク状に形成されている。第二誘導通路２７０２は、第二サブアウト口２０２２から第一誘導通路２７０１よりも下方へ延出した後に、後方へ屈曲している。第一誘導通路２７０１の出口と第二誘導通路２７０２の出口は、上下に並んでいる。

【１１９３】

このサイド右中ユニット２７００は、遊技盤５に組立てた状態で、第一誘導通路２７０１及び第二誘導通路２７０２の夫々の後端が、遊技パネル１１００におけるパネル板１１１０の後面よりも後方へ突出している。

【１１９４】

また、サイド右中ユニット２７００は、遊技盤５に組立てた状態で、右端が前構成部材１０００の右レール１００５と略接していると共に、下端が第二アタッカユニット２６００の上端と略接しており、左端とセンター役物２５００における周壁部２５０１の右辺との間に遊技球Ｂが流通可能な空間を形成している。このサイド右中ユニット２７００は、一般入賞口２００１が役物入賞口２００６よりも若干左方の位置で上方に開口しており、第二サブアウト口２０２２が一般入賞口２００１と右レール１００５との間の略全体に亘って上方に開口している（図１４４を参照）。

【１１９５】

サイド右中ユニット２７００は、一般入賞口２００１に受入れられた遊技球Ｂを、第一誘導通路２７０１により遊技パネル１１００のパネル板１１１０よりも後側へ誘導した上で、後方に設けられている裏ユニット３０００の裏前演出ユニット３１００における裏前右装飾ユニット３１４０の第一裏誘導通路３１５６に受け渡すことができる。第一裏誘導通路３１５６に受け渡された遊技球Ｂは、一般入賞口センサ３００１により検知された上で、裏前下演出ユニット３１６０を通して下方の基板ホルダ１２００上に排出される。また、サイド右中ユニット２７００は、第二サブアウト口２０２２に受入れられた遊技球Ｂを、第二誘導通路２７０２によりパネル板１１１０よりも後側へ誘導した上で、後方に設けられている裏ユニット３０００の裏前演出ユニット３１００における裏前右装飾ユニット３１４０の第二裏誘導通路３１５７に受け渡すことができる。第二裏誘導通路３１５７に受け渡された遊技球Ｂは、裏前下演出ユニット３１６０を通って下方の基板ホルダ１２００上に排出される。

【１１９６】

［５－８ｈ．ゲート部材］

次に、表ユニット２０００におけるゲート部材２８００について、主に図１４２及び図１４３等を参照して詳細に説明する。図１４２（ａ）はゲート部材を前から見た斜視図であり、（ｂ）はゲート部材を分解して前から見た分解斜視図であり、（ｃ）はゲート部材を分解して後ろから見た分解斜視図である。図１４３（ａ）はゲート部材の正面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるセ－セ線で切断した断面図である。

【１１９７】

表ユニット２０００のゲート部材２８００は、遊技領域５ａ内において、センター役物２５００の案内通路群２５２０とサイド右中ユニット２７００との間に配置されており、遊技パネル１１００におけるパネル板１１１０の前面に取付けられている。ゲート部材２８００は、遊技球Ｂの通過により第二始動口２００４を開閉させる普通抽選結果の抽選が行われるゲート２００３と、ゲート２００３を遊技球Ｂが通過したことを検知するためのゲートセンサ２８０１と、を有している。ゲートセンサ２８０１における遊技球Ｂを検知するための検知孔を、ゲート２００３としている。

【１１９８】
ゲート部材２８００は、下面の右端付近から斜め左下へ向かって突出している誘導片２８０２を有している。誘導片２８０２は、ゲート２００３を通過した遊技球Ｂを左下へ誘導するためのものである。この誘導片２８０２は、遊技盤５に組立てた状態で、その延長線が、サイド右中ユニット２７００における一般入賞口２００１の左端付近を通るように傾斜している。
【１１９９】
ゲート部材２８００は、遊技盤５に組立てた状態で、前構成部材１０００の右レール１００５とセンター役物２５００の周壁部２５０１の右辺との間の略中央に位置しており、左右両外側に遊技球Ｂが流通可能な隙間を形成している。このゲート部材２８００は、センター役物２５００の案内通路群２５２０における第一案内通路２５２１の直下よりもやや左寄りに位置していると共に、サイド右中ユニット２７００の一般入賞口２００１の直上よりも右寄りに位置している。
【１２００】
更にゲート部材２８００を詳述すると、ゲート部材２８００は、遊技パネル１１００（パネル板１１１０）の前面に取付けられゲートセンサ２８０１を保持しているゲート本体２８１０と、ゲート本体２８１０の前面に取付けられ所定の装飾が印刷されているゲートシール２８１１と、を有している。ゲート本体２８１０は、透明に形成されている。
【１２０１】
ゲート本体２８１０は、左右に長い平板状の前板部２８１０ａと、前板部２８１０ａの前面において横長の略矩形状で後方へ凹んでいる貼付凹部２８１０ｂと、貼付凹部２８１０ｂにおける左上隅に設けられている誤貼付防止部２８１０ｃと、貼付凹部２８１０ｂにおける右端付近において前板部２８１０ａを前後に貫通している分離孔２８１０ｄと、前板部２８１０ａの左右両端辺から後方へ延出している一対のアーム部２８１０ｅと、一対のアーム部２８１０ｅの後端から左右方向外方へ延出していると共に前板部２８１０ａよりも下方の部位で互いに繋がっている平板状のフランジ部２８１０ｆと、を備えている。
【１２０２】
一対のアーム部２８１０ｅは、互いに向き合っている面同士が、ゲートセンサ２８０１の検知孔の直径よりも大きく離れている。また、フランジ部２８１０ｆは、後面を遊技パネル１１００のパネル板１１１０の前面に当接させた状態で、パネル板１１１０に取付けられる。
【１２０３】
また、ゲート本体２８１０は、前板部２８１０ａの後面と一対のアーム部２８１０ｅの向かい合っている夫々の面とにおいて上下方向が一定の高さで凹んでおりゲートセンサ２８０１を収容するための収容溝２８１０ｇと、左側のアーム部２８１０ｅの後端から当該アーム部２８１０ｅ及び収容溝２８１０ｇを延長するように後方へ延出している後方延出部２８１０ｈと、右側のアーム部２８１０ｅの後端から後方延出部２８１０ｈよりも後方へ延出しており後端が左方に屈曲しており収容溝２８１０ｇに収容されているゲートセンサ２８０１を係止するための係止部２８１０ｉと、を備えている。
【１２０４】
更に、ゲート本体２８１０は、前板部２８１０ａと左側のアーム部２８１０ｅとが交わっている部位の収容溝２８１０ｇ内に突出している突起部２８１０ｊを、備えている。突起部２８１０ｊは、ゲートセンサ２８０１の切欠部２８０１ａと対応した形状に形成されている。また、ゲート本体２８１０は、右側のアーム部２８１０ｅの下面から下方へ延出している誘導片２８０２を、備えている。
【１２０５】
ゲート本体２８１０の貼付凹部２８１０ｂは、ゲートシール２８１１の厚さよりも深く（０．４ｍｍ～１．０ｍｍ）後方へ凹んでいる（図１４３（ｂ）を参照）。誤貼付防止部２８１０ｃは、貼付凹部２８１０ｂにおける他の隅部の面取りよりも大きいＣ面取り状に形成されている。このゲート部材２８００では、ゲートシール２８１１（貼付凹部２８１

０ｂ）を左右に長い矩形状としていることから、ゲートシール２８１１の上下の向きが判り辛く、上下を逆向きにして貼り付けられてしまう恐れがあるが、この誤貼付防止部２８１０ｃにより、ゲートシール２８１１の貼り付け向きを特定させることができ、正規の向き（誤貼付防止部２８１０ｃにケートシール２８１１の切欠部２８１１ａが一致する向き）でゲートシール２８１１を貼り付けさせることができる。なお、ゲートシール２８１１を、上下逆向きにして貼付凹部２８１０ｂに貼り付けようとすると、誤貼付防止部２８１０ｃによりゲートシール２８１１の一部が貼付凹部２８１０ｂからはみだした状態となり、作業者に対してゲートシール２８１１の誤貼り付けに気付かせることができる。

【１２０６】

この貼付凹部２８１０ｂでは、左端辺の部位と、誤貼付防止部２８１０ｃの斜めの部位とが、ゲートシール２８１１を貼り付けるための当て面に設定されている。これにより、上下方向及び左右方向に加えて、誤貼付防止部２８１０ｃの斜めに延びている部位の垂直方向にも、ゲートシール２８１１を貼り付けるためのクリアランスを確保することができる。換言すると、ゲートシール２８１１を貼り付ける時に有効なクリアランス方向を、上下方向、左右方向、及び斜め方向の三方向としており、貼付け作業を行い易いものとしている（図２１１（ａ）を参照）。

【１２０７】

分離孔２８１０ｄは、上下に延びた矩形状の角孔である。この分離孔２８１０ｄは、ケート部材２８００に組立てた時に、貼付凹部２８１０ｂに貼り付けられているゲートシール２８１１により前方側が閉鎖されると共に、収容溝２８１０ｇに収容されているゲートセンサ２８０１の前面により後方側が閉鎖され、分離孔２８１０ｄ内が閉鎖空間となる。

【１２０８】

本実施形態の分離孔２８１０ｄは、長辺及び短辺の長さが２ｍｍ～６ｍｍの範囲内とされている。分離孔２８１０ｄがこれ以上小さいと、分離孔２８１０ｄに挿入される分離用の棒状部材（工具）の直径が小さくなることで曲がり易くなりゲートシール２８１１を十分に押圧することができなくなる恐れがあるためであり、分離孔２８１０ｄがこれ以上大きいと、ゲートシール２８１１における分離孔２５３１ｂの部位で撓みが発生し、ゲートシール２８１１の見栄えが悪くなる恐れがあるためである。

【１２０９】

この分離孔２８１０ｄは、右側の内周面が、右側のアーム部２８１０ｅに形成されている収容溝２８１０ｇの底面（左方を向いている面）と同一面上である。また、分離孔２８１０ｄの上下方向の寸法に対して係止部２８１０ｉの上下寸法が小さく形成されていると共に、分離孔２８１０ｄの左右方向の寸法に対して係止部２８１０ｉの後端（爪部）が左方へ短く突出している。

【１２１０】

この分離孔２８１０ｄは、後述するゲートシール２８１１を外すための機能の他に、ゲート本体２８１０を射出成型する際に、アンダーとなる係止部２８１０ｉの後端を形成するための中子が挿通される挿通孔としても機能させることができ、ゲート本体２８１０の射出成形を容易なものとすることができる。

【１２１１】

ゲートシール２８１１は、貼付凹部２８１０ｂの外形から一定の距離で内側へオフセットした形状に対して、左右方向が若干長く形成されている。ゲートシール２８１１の左上隅には、誤貼付防止部２８１０ｃと対応しているＣ面取り状の切欠部２８１１ａが形成されており、貼付凹部２８１０ｂに対する正規の貼り付け向き（ここでは上下の向き）が判るようになっている。このゲートシール２８１１は、裏面の全面が、粘着力を有した糊面とされている。

【１２１２】

本実施形態のゲート部材２８００によれば、パチンコ機１の製造時において、ゲート本体２８１０の貼付凹部２８１０ｂに対してゲートシール２８１１を正しく貼り付けることができなかった場合、ゲート本体２８１０（前板部２８１０ａ）の後方から分離孔２８１

０ｄに棒状部材を通し、その先端によりゲートシール２８１１を後方から前方へ押圧することで、ゲートシール２８１１の端縁付近が前方へ捲れるように外すことができ、その捲れた部分を作業者が引っ張ることでゲートシール２８１１を貼付凹部２８１０ｂから容易に外すことができ、ゲートシール２８１１を貼り直すことができる。

【１２１３】

また、ゲート本体２８１０とゲートセンサ２８０１とを離した状態で、ゲート本体２８１０の後方から分離孔２８１０ｄに棒状部材を通し、その先端によりゲートシール２８１１を後方から押圧することで、ゲートシール２８１１を貼付凹部２８１０ｂから容易に外すことができるため、機種変更に伴うゲートシール２８１１の取替作業を容易なものとすることができる。

【１２１４】

更に、上述したように、ゲート本体２８１０とゲートセンサ２８０１とを離した状態では、分離孔２８１０ｄを使用してゲートシール２８１１を貼付凹部２８１０ｂから容易に取外すことができるため、パチンコ機１の構成部品に対して素材毎の分別作業を行い易いものとすることができ、パチンコ機１の廃棄にかかるコストを低減させることができる。

【１２１５】

また、貼付凹部２８１０ｂにゲートシール２８１１を貼り付けることにより前方から分離孔２８１０ｄを隠すことができるため、分離孔２８１０ｄによる見栄えの悪化を抑制させることができると共に、遊技者に対して分離孔２８１０ｄの存在に気付かせ難くすることができ、分離孔２８１０ｄを利用した不正行為を画策させ難くすることができる。

【１２１６】

また、パチンコ機１に組立てられている状態では、ゲートシール２８１１が貼り付けられているゲート本体２８１０の収容溝２８１０ｇに収容されているゲートセンサ２８０１の前面によって、分離孔２８１０ｄを後方から閉鎖するようにしており、従来のパチンコ機のように後側まで通るような孔を貫通させていないため、当該孔を通してピアノ線のような線状の不正工具が遊技盤５内やゲートセンサ２８０１の検知孔に差し込まれることを回避させることができ、不正行為が行われることを防止することができる。

【１２１７】

また、ゲートセンサ２８０１の前面により分離孔２８１０ｄを後方から閉鎖していることから、不正工具を、前方からゲートシール２８１１を貫いて分離孔２８１０ｄに挿通させても、ゲートセンサ２８０１の前面によりそれ以上の後方への挿入（侵入）を阻止することができるため、分離孔２８１０ｄを通した前方からの遊技盤５内やゲートセンサ２８０１の検知孔への不正工具の侵入を阻止することができ、不正行為が行われることを防止することができると共に、不正工具がゲートシール２８１１を貫くことでゲートシール２８１１に痕跡が残るため、不正行為の実行を躊躇させることができ、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【１２１８】

更に、ゲートシール２８１１が貼り付けられる貼付凹部２８１０ｂに、誤貼付防止部２８１０ｃを設けているため、ゲートシール２８１１を上下逆向きにして貼り付けようとすると、ゲートシール２８１１を正しく貼り付けることをできなくすることができ、作業者に対してゲートシール２８１１の誤貼付けに気付かせることができると共に、正規の向きでゲートシール２８１１を貼り付けさせることができ、ゲートシール２８１１が上下逆向きにして貼り付けられたままの状態で出荷されてしまうことを防止することができる。

【１２１９】

また、ゲート本体２８１０において、収容溝２８１０ｇに突起部２８１０ｊを設けているため、突起部２８１０ｊとゲートセンサ２８０１の切欠部２８０１ａとが一致しない向きでゲートセンサ２８０１を後方から収容溝２８１０ｇに挿入すると、ゲートセンサ２８０１の前面が、前板部２８１０ａの後面に当接する前に突起部２８１０ｊに当接してしまい、ゲートセンサ２８０１の後面に係止部２８１０ｉを係止できないようにすることができる。つまり、突起部２８１０ｊとゲートセンサ２８０１の切欠部２８０１ａとが一致す

る向きでゲートセンサ２８０１を収容溝２８１０ｇに挿入した時のみ、ゲートセンサ２８０１の後端に係止部２８１０ｉが係止されて、ゲートセンサ２８０１が保持されるようにしているため、ゲートセンサ２８０１の向きを誤った状態で組立てられてしまうことを回避させることができ、ゲートセンサ２８０１にかかる不具合の発生を抑制させることができる。

【１２２０】

更に、ゲート本体２８１０の収容溝２８１０ｇに、ゲートセンサ２８０１を後方から収容すると共に、係止部２８１０ｉをゲートセンサ２８０１に係止させることで、収容溝２８１０ｇと係止部２８１０ｉと貼付凹部２８１０ｂの後側とにより、ゲートセンサ２８０１の上下方向、左右方向、及び前後方向への移動を規制して位置決めすることができ、パチンコ機１（ゲート部材２８００）の組立てを容易なものとしてパチンコ機１にかかるコストを低減させることができる。この際に、ゲート本体２８１０における収容溝２８１０ｇの前側の部位に分離孔２８１０ｄが位置しているため、収容溝２８１０ｇにゲートセンサ２８０１を収容させると、ゲートセンサ２８０１の前端によって分離孔２８１０ｄが後方から閉鎖されることとなる。従って、パチンコ機１に組立てられている状態では、ゲートシール２８１１が着接されている（貼り付けられている）ゲート本体２８１０の後側に組付けられているゲートセンサ２８０１によって、分離孔２８１０ｄを後方から閉鎖するようにしており、従来のパチンコ機のように後側まで通るような孔を貫通させていないため、当該孔を通してピアノ線のような線状の不正工具がパチンコ機１内に差し込まれることを回避させることができ、不正行為が行われることを防止することができる。

【１２２１】

また、上述したように、ゲートセンサ２８０１をゲート本体２８１０の係止部２８１０ｉに係止させることで、前後方向の移動を規制することができるため、前方からゲートシール２８１１及び分離孔２８１０ｄを貫いた不正工具によりゲートセンサ２８０１を後方へ押圧しても、係止部２８１０ｉの係止によりゲートセンサ２８０１の後方への移動を阻止することができ、ゲートセンサ２８０１による分離孔２８１０ｄの後方からの閉鎖を維持して不正行為が行われることを防止することができる。

【１２２２】

また、ゲート本体２８１０の係止部２８１０ｉを分離孔２８１０ｄの正面投影範囲内に突出させているため、分離孔２８１０ｄを、係止部２８１０ｉを形成するための中子が挿通する挿通孔と兼用することができ、ゲート本体２８１０を射出成型により形成することができる。

【１２２３】

以上のことから以下のような技術思想Ａ～Ｃを把握することができる。

【１２２４】

［技術思想Ａ］

遊技機において、

「所定の装飾が施されている装飾体と、

該装飾体が前方から着接される被装飾部、及び該被装飾部を前後に貫通しており着接されている前記装飾体を後方から押圧して分離可能とする分離孔、を有している前部材と、

該前部材の前記分離孔を後方から閉鎖するように前記前部材の後側に設けられており、遊技媒体が流通可能な通路部を有している通路部材と

を具備し、

前記前部材は、

前記被装飾部の後側から後方へ延出し後端から前方へ向かって凹んでいると共に前端側に前記分離孔が位置しており、前記通路部材の少なくとも一部を後方から収容可能な収容部を、更に有している」ものであることを特徴とする。

【１２２５】

ここでは、ゲートシール２８１１が装飾体に、ゲート本体２８１０が前部材に、貼付凹部２８１０ｂが被装飾部に、ゲート２００３（ゲートセンサ２８０１の検知孔）が通路部

に、ゲートセンサ２８０１が通路部材に、収容溝２８１０ｇが収容部に、夫々相当している。

【１２２６】

これにより、前部材において、収容部の前側の部位に分離孔が位置しているため、収容部に通路部材の少なくとも一部を収容させると、通路部材の前端によって分離孔を後方から閉鎖することができ、上述と同様の作用効果を奏する遊技機を提供することができる。

【１２２７】

また、前部材に収容部を有しているため、通路部材の少なくとも一部を後方から収容部に収容することで、収容部により、通路部材の上下方向、左右方向、及び前方への移動を規制して位置決めすることができ、遊技機の組立てを容易なものとして遊技機にかかるコストを低減させることができる。

【１２２８】

［技術思想Ｂ］

遊技機において、

「所定の装飾が施されている装飾体と、

該装飾体が前方から着接される被装飾部、及び該被装飾部を前後に貫通しており着接されている前記装飾体を後方から押圧して分離可能とする分離孔、を有している前部材と、

該前部材の前記分離孔を後方から閉鎖するように前記前部材の後側に設けられており、遊技媒体が流通可能な通路部を有している通路部材と

を具備し、

前記前部材は、

前記被装飾部よりも後方で前記分離孔の正面投影範囲内に突出しており、前記通路部材を係止するための係止部を、更に有している」ものであることを特徴とする。

【１２２９】

ここでは、ゲートシール２８１１が装飾体に、ゲート本体２８１０が前部材に、貼付凹部２８１０ｂが被装飾部に、ゲート２００３（ゲートセンサ２８０１の検知孔）が通路部に、ゲートセンサ２８０１が通路部材に、係止部２８１０ｉが係止部に、夫々相当している。

【１２３０】

これにより、通路部材に係止される係止部を、分離孔の正面投影範囲内に突出させているため、係止部に通路部材を係止させると、分離孔を後方から閉鎖するように通路部材が被覆装飾部の後側と係止部との間に挟まれた状態となり、通路部材により分離孔を閉鎖することができると共に、通路部材の前後方向の移動を規制することができる。

【１２３１】

また、上述したように、通路部材を係止部に係止させることで、前後方向の移動を規制することができるため、前方から装飾体及び分離孔を貫いた不正工具により通路部材を後方へ押圧しても、係止部の係止により通路部材の後方への移動を阻止することができ、通路部材による分離孔の後方からの閉鎖を維持して不正行為が行われることを防止することができる。

【１２３２】

更に、前部材の係止部を分離孔の正面投影範囲内に突出させているため、分離孔を、係止部を形成するための中子が挿通する挿通孔と兼用することができ、前部材を射出成型により形成することができる。

【１２３３】

［技術思想Ｃ］

遊技機において、

「所定の装飾が施されている装飾体と、

該装飾体の前後方向の奥行きよりも後方へ凹んでおり該装飾体が前方から着接される被装飾部、該被装飾部を前後に貫通しており着接されている前記装飾体を後方から押圧して分離可能とする分離孔、前記被装飾部の後側から後方へ延出し後端から前方へ向かって凹

んでいると共に前端側に前記分離孔が位置している収容部、及び前記被装飾部よりも後方で前記分離孔の正面投影範囲内に突出している係止部、を有している前部材と、
該前部材の前記分離孔を後方から閉鎖するように前記収容部に後方から少なくとも一部が収容されていると共に、前記係止部に係止されており、遊技媒体が流通可能な通路部を有している通路部材と
を具備している」ものであることを特徴とする。
【１２３４】
ここでは、ゲートシール２８１１が装飾体に、ゲート本体２８１０が前部材に、貼付凹部２８１０ｂが被装飾部に、ゲート２００３（ゲートセンサ２８０１の検知孔）が通路部に、ゲートセンサ２８０１が通路部材に、収容溝２８１０ｇが収容部に、係止部２８１０ｉが係止部に、夫々相当している。
【１２３５】
これにより、遊技媒体が流通する通路部を有している通路部材の前側に設けられている前部材の前面となる被装飾部に、所定の装飾が施されている装飾体を着接しているため、装飾体の装飾により通路部材の見栄えを良くすることができる。また、装飾体が着接される被装飾部を、装飾体の前後方向の奥行きよりも後方へ凹ませていることから、被装飾部に装飾体を着接すると、前部材における被装飾部の周囲の部分が装飾体の前面よりも前方へ突出した状態となるため、前部材の前方へ突出している部位により縁取りされることで装飾体を引き立たせることができ、装飾体の装飾による装飾効果を発揮させ易くして遊技機の見栄えを良くすることができる。
【１２３６】
また、装飾体が着接される被装飾部を後方へ凹ませているため、前部材における被装飾部の突出している周囲をガイドにして装飾体を着接することにより、装飾体を正しい位置に着接させ易くすることができ、装飾体の着接の失敗を低減させて遊技機にかかるコストの増加を抑制することができる。
【１２３７】
この遊技機では、前部材の被装飾部を後方へ凹ませているため、装飾体を被装飾部に着接した状態において、装飾体と被装飾部との接触面が奥まった位置にあることから、被装飾部に着接されている装飾体を外そうとしても前側からは装飾体を引掛け難く、取外す手間がかかることとなる。これに対して、被装飾部に分離孔を設けているため、前部材の後方から分離孔に棒状部材を通して装飾体を前方へ押圧することで、被装飾部との着接を容易に解除することができ、被装飾部から装飾体を容易に取外すことができる。従って、製造時において、前部材の被装飾部に対して装飾体を正しく着接することができなかった場合、前部材の後方から分離孔に棒状部材を通し、その先端により装飾体を後方から押圧することで、被装飾部との着接を容易に解除することができるため、被装飾部から装飾体を容易に取外すことができ、装飾体を着接し直すことができる。また、前部材と通路部材とを離した状態で、前部材の後方から分離孔に棒状部材を通し、その先端により装飾体を後方から押圧することで、被装飾部との着接を容易に解除することができるため、被装飾部から装飾体を容易に取外すことができ、機種変更に伴う装飾体の取替作業を容易なものとすることができる。更に、上述したように、前部材と通路部材とを離した状態では、分離孔を使用して装飾体を被装飾部から容易に取外すことができるため、遊技機の構成部品に対して素材毎の分別作業を行い易いものとすることができ、遊技機の廃棄にかかるコストを低減させることができる。
【１２３８】
また、被装飾部に分離孔を設けているため、被装飾部に装飾体を着接することにより前方から分離孔を見え難くしたり隠したりすることができ、分離孔による見栄えの悪化を抑制させることができると共に、遊技者に対して分離孔の存在に気付かせ難くすることができ、分離孔を通した不正行為を画策させ難くすることができる。
【１２３９】
そして、前部材の収容部に、通路部材の少なくとも一部を後方から収容すると共に、係

止部を通路部材に係止させることで、収容部と係止部と被装飾部の後側とにより、通路部材の上下方向、左右方向、及び前後方向への移動を規制して位置決めすることができ、遊技機の組立てを容易なものとして遊技機にかかるコストを低減させることができる。この際に、前部材における収容部の前側の部位に分離孔が位置しているため、収容部に通路部材の少なくとも一部を収容させると、通路部材の前端によって分離孔が後方から閉鎖されることとなる。従って、遊技機に組立てられている状態では、装飾体が着接されている前部材の後側に組付けられている通路部材によって、分離孔を後方から閉鎖するようにしており、従来の遊技機のように後側まで通るような孔を貫通させていないため、当該孔を通してピアノ線のような線状の不正工具が遊技機内に差し込まれることを回避させることができ、不正行為が行われることを防止することができる。

【１２４０】

また、通路部材により分離孔を後方から閉鎖していることから、不正工具を、前方から装飾体を貫いて分離孔に挿通させても、通路部材によりそれ以上の後方への挿入（侵入）を阻止することができるため、分離孔を通した前方からの通路部内への不正工具の侵入を阻止することができ、不正行為が行われることを防止することができると共に、不正工具が装飾体を貫くことで装飾体に痕跡が残るため、不正行為の実行を躊躇させることができ、不正行為に対する抑止力の高い遊技機を提供することができる。

【１２４１】

また、上述したように、通路部材を係止部に係止させることで、前後方向の移動を規制することができるため、前方から装飾体及び分離孔を貫いた不正工具により通路部材を後方へ押圧しても、係止部の係止により通路部材の後方への移動を阻止することができ、通路部材による分離孔の後方からの閉鎖を維持して不正行為が行われることを防止することができる。

【１２４２】

また、前部材の係止部を分離孔の正面投影範囲内に突出させているため、分離孔を、係止部を形成するための中子が挿通する挿通孔と兼用することができ、前部材を射出成型により形成することができる。

【１２４３】

［５－８ｉ．遊技領域内での遊技球の流れ］

次に、遊技領域５ａ内での遊技球Ｂの流れについて、主に図１３７、図１４４及び図１４５等を参照して詳細に説明する。遊技盤５に組立てた状態では、センター役物２５００が遊技領域５ａの略中央に設けられている。遊技領域５ａ内において、センター役物２５００の左右両外側の部位と下側の部位に、複数の障害釘Ｎが所定のゲージ配列で植設されている。また、センター役物２５００の左側でサイド左上ユニット２３００の上方に、遊技球Ｂの当接により回転する風車Ｗが設けられている。

【１２４４】

センター役物２５００の左側に植設されている複数の障害釘Ｎは、センター役物２５００の左側に打込まれた遊技球Ｂを、風車Ｗの中心よりも右側の部位、へ主に進入するように調整されていると共に、それらより低い確率で、風車Ｗの中心よりも左側の部位へ進入するように調整されている。これにより、遊技球Ｂが、センター役物２５００の左側を流下するように打込むことにより、ある程度の確率で、センター役物２５００のワープ入口２５１１に進入させることができる。

【１２４５】

センター役物２５００の案内通路群２５２０とゲート部材２８００との間に植設されている複数の障害釘Ｎは、案内通路群２５２０の右側の第一案内通路２５２１を流通した遊技球Ｂよりも、案内通路群２５２０の左側の第二案内通路２５２２を流通した遊技球Ｂの方が、高い確率でゲート２００３を通過するように調整されている。また、案内通路群２５２０とゲート部材２８００との間に植設されている複数の障害釘Ｎは、主に、ゲート部材２８００の右側の部位よりも左側を遊技球Ｂが流通するように調整されている。

【１２４６】

ゲート部材２８００とサイド右中ユニット２７００との間に植設されている複数の障害釘Ｎは、主に、サイド右中ユニット２７００よりも左側を遊技球Ｂが流通するように調整されている。

【１２４７】

遊技領域５ａ内には、遊技球Ｂが、外レール１００１と内レール１００２とに案内されて左側から遊技領域５ａの周縁に沿って上部に打込まれる。遊技領域５ａ内に対してセンター役物２５００の左側を流通するように遊技球Ｂを打込んだ場合、図１３７に示すように、センター役物２５００の左側に植設されている複数の障害釘Ｎにより、センター役物２５００のワープ入口２５１１、又は、風車Ｗの中心よりも右側の部位、の何れかに進入するように誘導され、それらよりも低い確率で風車Ｗの中心よりも左側の部位に進入するように誘導される。

【１２４８】

風車Ｗの中心よりも左側の部位に誘導された遊技球Ｂは、サイド左上ユニット２３００の棚部２３０１により、右方へ誘導されてサイドユニット２２００へ流下する。そして、サイドユニット２２００に設けられている三つの一般入賞口２００１に受入れられる可能性がある。一般入賞口２００１に受入れられた遊技球Ｂは、遊技パネル１１００の後方へ誘導された後に、裏ユニット３０００の裏前演出ユニット３１００における裏前下演出ユニット３１６０の第一排出通路３１８１に受け渡されて、一般入賞口センサ３００１により検知された上で基板ホルダ１２００上に排出される。一般入賞口センサ３００１により遊技球Ｂが検知されると、所定数の遊技球Ｂが払出される特典が付与される。風車Ｗの中心よりも左側の部位へ誘導された遊技球Ｂは、第一始動口２００２に受入れられることは殆んどない。そして、一般入賞口２００１に受入れられなかった遊技球Ｂは、アウト口１００８から遊技領域５ａ外へ排出される。

【１２４９】

風車Ｗの中心よりも右側に誘導された遊技球Ｂは、センター役物２５００の下辺に沿って斜めに列設されている複数の障害釘Ｎにより、左右方向の中央（第一始動口２００２）側へ誘導され、第一始動口２００２に受入れられる可能性がある。また、風車Ｗの中心よりも右側に誘導された遊技球Ｂは、斜めに列設されている複数の障害釘Ｎの間を通って、サイドユニット２２００上へ流下することがあり、サイドユニット２２００の一般入賞口２００１に受入れられる可能性がある。

【１２５０】

センター役物２５００のワープ入口２５１１に進入した（受入れられた）遊技球Ｂは、ワープ出口２５１２からステージ２５１３に供給される。ステージ２５１３に供給された遊技球Ｂは、ステージ２５１３上を転動して左右に行ったり来たりして、左右方向中央部分から前方へ放出される。ステージ２５１３の中央の中央放出部２５１３ａから遊技球Ｂが遊技領域５ａ内に放出されると、その中央放出部２５１３ａが第一始動口２００２の直上に位置していることから、高い確率で第一始動口２００２に受入れられる。中央放出部２５１３ａの左右両側のサイド放出部２５１３ｂから遊技球Ｂが放出されると、或る程度の確率で第一始動口２００２に受入れられる。

【１２５１】

第一始動口２００２に受入れられた遊技球Ｂは、遊技パネル１１００の後方へ誘導された後に、裏ユニット３０００の裏前演出ユニット３１００における裏前下演出ユニット３１６０の第二排出通路３１８２に受け渡されて、第一始動口センサ３００２により検知された上で基板ホルダ１２００上に排出される。第一始動口センサ３００２により遊技球Ｂが検知されると、第一特別抽選結果の抽選が行われると共に所定数の遊技球Ｂが払出される等の特典が付与される。ステージ２５１３から放出されて第一始動口２００２に受入れられなかった遊技球Ｂは、アウト口１００８から遊技領域５ａ外へ排出される。

【１２５２】

なお、遊技領域５ａ内におけるセンター役物２５００の左側を流通した遊技球Ｂは、ゲート２００３を通過したり、第二始動口２００４、大入賞口２００５及び役物入賞口２０

０６に受入れられたりする可能性はない。
【１２５３】
本実施形態の遊技盤５では、センター役物２５００の右側へ打込んだ遊技球Ｂが第二始動口２００４に受入れられる確率に対して、センター役物２５００の左側へ打込んだ遊技球Ｂが第一始動口２００２に受入れられる確率の方が、高く設定されている。これにより、大入賞口２００５や役物入賞口２００６が開状態でない時には、センター役物２５００の左側への遊技球Ｂの打込操作（「左打ち」）を促すことができる。
【１２５４】
本実施形態の遊技盤５では、センター役物２５００の周壁部２５０１の上辺における左右方向中央付近から右方へ向かって低くなる部位の上方に、遊技球Ｂが進入する強さで遊技球Ｂを打込むと、案内通路群２５２０の第一案内通路２５２１又は第二案内通路２５２２の何れかを遊技球Ｂが流通する。
【１２５５】
具体的に詳述すると、遊技球Ｂを、遊技領域５ａの周縁の一部を構成する外レール１００１から内方へ突出している衝止部１００６に当接する強さで打込む（所謂、右打ちする）と、衝止部１００６に当接した遊技球Ｂが第一案内通路２５２１に進入する。この第一案内通路２５２１に進入した遊技球Ｂは、ゲート２００３の直上よりもやや右寄りの位置で下方へ放出される。
【１２５６】
第一案内通路２５２１の出口から下方へ放出された遊技球Ｂは、案内通路群２５２０とゲート部材２８００との間に植設されている複数の障害釘Ｎにより、ゲート部材２８００の左側、ゲート２００３、ゲート部材２８００の右側、の順に確率が低くなるように誘導されて、サイド右中ユニット２７００側へ流下する。
【１２５７】
一方、センター役物２５００の上部の右側に打込まれた遊技球Ｂが第二案内通路２５２２の入口に進入して、第二案内通路２５２２を流通すると、第一案内通路２５２１の出口よりも左側から下方へ放出される。第二案内通路２５２２の出口から下方へ放出された遊技球Ｂは、ゲート２００３とゲート部材２８００の左側とが略同じ確率で、ゲート部材２８００の右側がそれらよりも低い確率となるように誘導されて、サイド右中ユニット２７００側へ流下する。
【１２５８】
ゲート部材２８００の右側を通った遊技球Ｂは、第二サブアウト口２０２２に受入れられる。第二サブアウト口２０２２に受入れられた遊技球Ｂは、遊技パネル１１００の後方へ誘導されて、裏ユニット３０００の裏前演出ユニット３１００における裏前右装飾ユニット３１４０の第二裏誘導通路３１５７に受け渡された後に、裏前下演出ユニット３１６０を通って遊技領域５ａ外へ排出される。また、ゲート２００３を通過した遊技球Ｂは、ゲートセンサ２８０１により検知された後に、サイド右中ユニット２７００側へ放出される。このゲートセンサ２８０１による遊技球Ｂの検知により、第二始動口２００４が開閉する普通抽選結果の抽選が行われる。
【１２５９】
ゲート２００３及びゲート部材２８００の左側を通った遊技球Ｂは、ゲート部材２８００とサイド右中ユニット２７００との間に植設されている複数の障害釘Ｎにより、高い確率でサイド右中ユニット２７００の左側を流下し、たまにサイド右中ユニット２７００の一般入賞口２００１に受入れられたり、まれに第二サブアウト口２０２２に受入れられたりする。サイド右中ユニット２７００の一般入賞口２００１に受入れられた遊技球Ｂは、遊技パネル１１００の後方へ誘導された後に、裏ユニット３０００の裏前演出ユニット３１００における裏前右装飾ユニット３１４０の第一裏誘導通路３１５６に受け渡されて、一般入賞口センサ３００１により検知された上で裏前下演出ユニット３１６０を通って基板ホルダ１２００上に排出される。この際に、所定数の遊技球Ｂが払出される特典が付与される。

【１２６０】
サイド右中ユニット２７００の左側を流下する遊技球Ｂは、サイド右中ユニット２７００の左側に植設されている複数の障害釘Ｎに誘導されて、第二アタッカユニット２６００における役物入賞口２００６の左方を流下する。
【１２６１】
この際に、第一始動口２００２や第二始動口２００４に遊技球Ｂが受入れられて第一特別抽選結果や第二特別抽選結果として「役物当り」が抽選されている場合、役物入賞口２００６が所定のパターンで開閉するため、サイド右中ユニット２７００の左側を流下した遊技球Ｂが、高い確率で役物入賞口２００６に受入れられる。
【１２６２】
役物入賞口２００６に受入れられた遊技球Ｂは、役物入賞口センサ２６０１に検知された上で、遊技領域５ａ外となる遊技パネル１１００の後方へ誘導された後に、裏ユニット３０００の裏前演出ユニット３１００における裏前右装飾ユニット３１４０の振分通路３１５８に受け渡される。この役物入賞口センサ２６０１による遊技球Ｂの検知により、所定数の遊技球Ｂが払出される特典が付与される。
【１２６３】
そして、振分通路３１５８に受け渡された遊技球Ｂは、Ｖ振分ソレノイド３００７の駆動によりＶ入賞口２００７又はハズレ口２００８の何れかに振分けられる。Ｖ入賞口２００７に振分けられた遊技球Ｂは、Ｖ入賞口センサ３００３に検知された上で、基板ホルダ１２００上に排出される。一方、ハズレ口２００８に振分けられた遊技球Ｂは、Ｖ入賞口センサ３００３に検知されることなく、ハズレ口センサ３００４に検知された上で基板ホルダ１２００上に排出される。このＶ入賞口２００７に遊技球Ｂが受入れられると、大入賞口２００５が所定のパターンで開閉する特典が付与される。
【１２６４】
なお、役物入賞口２００６に受入れられずに、役物入賞口２００６の左方を流下した遊技球Ｂは、センター役物２５００の右下案内通路２５３０に進入し、右下案内通路２５３０の出口から第一アタッカユニット２４００側へ放出される。
【１２６５】
センター役物２５００の右下案内通路２５３０から下方（斜め左下）へ放出された遊技球Ｂは、第一アタッカユニット２４００の第一棚部２４２１上に流下する。なお、右下案内通路２５３０と第一アタッカユニット２４００との間には、複数の障害釘Ｎが植設されているため、遊技球Ｂが、右下案内通路２５３０から直接第一アタッカユニット２４００における第一立壁部２４２５の右側へ流下することはない。
【１２６６】
第一アタッカユニット２４００の第一棚部２４２１に流下した遊技球Ｂは、その傾斜により左方へ転動して、第二始動口扉２４１１の上面、及び第二棚部２４２２を転動した上で、第二棚部２４２２の左端から左方へ放出される。そして、第二棚部２４２２から左方へ放出された遊技球Ｂは、その勢いに応じて、第三棚部２４２３又は大入賞口扉２４１３上に落下し、それらの傾斜により左方へ転動し、大入賞口扉２４１３から第四棚部２４２４を転動した後に、第四棚部２４２４から第一アタッカユニット２４００外となる左方へ放出される。
【１２６７】
ところで、センター役物２５００の右下案内通路２５３０から放出された遊技球Ｂの勢いによっては、複数の障害釘Ｎに当接することで、第一棚部２４２１に流下せずに、上棚部２４３６に流下することがある。そして、上棚部２４３６に流下した遊技球Ｂは、その傾斜により左方へ転動して上棚部２４３６の左端から左方へ放出された上で、左方に植設されている障害釘Ｎに当接して下方へ向きを変えて、大入賞口扉２４１３の上面の左端付近に流下した後に、大入賞口扉２４１３及び第四棚部２４２４を左方へ転動して第一アタッカユニット２４００外へ放出される。従って、遊技球Ｂが上棚部２４３６上を転動した場合でも、上棚部２４３６から遊技球Ｂが放出されるタイミングと、大入賞口２００５が

開状態となるタイミングとによっては、大入賞口２００５に受入れられることがある。
【１２６８】
　また、センター役物２５００の右下案内通路２５３０から放出された遊技球Ｂの勢いによっては、障害釘Ｎや上棚部２４３６の右端への当接等により、右方へ跳ね返って第一棚部２４２１上に流下することで、第一棚部２４２１をその傾斜に抗して右方へ転動して、第一棚部２４２１の右端から右方（下方）へ放出されることがある。第一棚部２４２１の右端から右方へ放出された遊技球Ｂは、第一立壁部２４２５と前構成部材１０００の右レール１００５との間を通って、第二横壁部２４３３の右端付近に流下し、第二横壁部２４３３の傾斜により左方へ転動して第一サブアウト口２０２１に受入れられる。第一サブアウト口２０２１に受入れられた遊技球Ｂは、遊技領域５ａ内に戻されることなく裏ユニット３０００の裏前演出ユニット３１００における裏前下演出ユニット３１６０の第五排出通路３１８５に受け渡され、第五排出通路３１８５から下方の基板ホルダ１２００上に排出される。
【１２６９】
　センター役物２５００の右下案内通路２５３０から遊技球Ｂが放出された際に、ゲート２００３での遊技球Ｂの通過により普通抽選結果として「普通当り」が抽選されている場合、第二始動口扉２４１１が可動して第二始動口２００４が所定のパターンで開状態となるため、第一棚部２４２１を左方へ転動している遊技球Ｂが、第二始動口２００４に受入れられる可能性がある。そして、遊技球Ｂが第二始動口２００４に受入れられると、第二始動口センサ２４０１に検知された後に、遊技領域５ａ外となる基板ホルダ１２００上に排出される。第二始動口センサ２４０１により遊技球Ｂが検知されると、第二特別抽選結果の抽選が行われると共に所定数の遊技球Ｂが払出される等の特典が付与される。
【１２７０】
　また、第二棚部２４２２から左方へ遊技球Ｂが放出された際に、第一始動口２００２や第二始動口２００４に遊技球Ｂが受入れられて第一特別抽選結果や第二特別抽選結果として「大当り」が抽選されている場合、大入賞口扉２４１３が可動して大入賞口２００５が所定のパターンで開閉するため、第二棚部２４２２から左方へ放出された遊技球Ｂが、高い確率で大入賞口２００５に受入れられることとなる。大入賞口２００５に受入れられた遊技球Ｂは、大入賞口センサ２４０２により検知された上で、遊技領域５ａ外の基板ホルダ１２００上に排出される。この大入賞口センサ２４０２による遊技球Ｂの検知により、所定数の遊技球Ｂが払出される特典が付与される。
【１２７１】
　なお、第二棚部２４２２から左方へ放出された遊技球Ｂの勢いによっては、上棚部２４３６の下面の段差に当接することで、斜め右下へ流下して第二棚部２４２２と第三棚部２４２３との間の隙間に遊技球Ｂが進入することがある。第二棚部２４２２と第三棚部２４２３との間の隙間に進入した遊技球Ｂは、第三立壁部２４２７と第四立壁部２４２８との間を通って第二横壁部２４３３の左端付近に落下し、第二横壁部２４３３の傾斜により右方へ転動して第一サブアウト口２０２１に受入れられる。
【１２７２】
　センター役物２５００の右下案内通路２５３０から第一アタッカユニット２４００側へ放出された遊技球Ｂが、第二始動口２００４、大入賞口２００５、及び第一サブアウト口２０２１の何れにも受け入れられなかった場合は、遊技領域５ａの下端のアウト口１００８から、遊技領域５ａ外となる遊技パネル１１００の後方の下方へ排出される。
【１２７３】
　このようなことから、大入賞口２００５や役物入賞口２００６を開閉させるためには、第一始動口２００２又は第二始動口２００４に遊技球Ｂを受入れさせて、「役物当り」や「大当り」等の第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果の抽選を行わせる必要がある。第一始動口２００２は常時開口しているのに対して、第二始動口２００４はゲート２００３に遊技球Ｂを通過させて普通抽選結果としての「普通当り」を抽選させる（引き当てる）必要があるため、第二始動口２００４へ遊技球Ｂを受入れさせる機会は、第一始動口２０

０２よりも低くなっている。
【１２７４】
従って、通常の状態では、遊技者に対して、第一始動口２００２に遊技球Ｂが受入れられるように、センター役物２５００の左側を遊技球Ｂが流下するように、遊技球Ｂの打込操作を行わせることができ、複数の障害釘Ｎにより案内される遊技球Ｂの動きを見せてパチンコ機１による本来の遊技を楽しませることができると共に、第一始動口２００２への遊技球Ｂの受入れに対する期待感を高めさせることができる。
【１２７５】
そして、第一始動口２００２へ遊技球Ｂが受入れられることで、第一特別抽選結果として「役物当り」や「大当り」が抽選されると、大入賞口２００５又は役物入賞口２００６が開閉するため、大入賞口２００５又は役物入賞口２００６に遊技球Ｂが受入れられるように、遊技球Ｂの打込操作を「右打ち」に変更させて、大入賞口２００５又は役物入賞口２００６への遊技球Ｂの受入れに対する期待感を高めさせることができる。
【１２７６】
この際に、センター役物２５００の右上隅に第一案内通路２５２１と第二案内通路２５２２とからなる案内通路群２５２０が設けられており、流通させる案内通路によって、ゲート２００３を通過させ易かったり、第二サブアウト口２０２２に受入れられ易かったりするため、所望の案内通路を遊技球Ｂが流通するように、遊技球Ｂの打込強さを調整させることができ、遊技者に対して遊技球Ｂの打込操作を楽しませることができる。
【１２７７】
また、「右打ち」を行うことで、ゲート２００３に遊技球Ｂを通過させることで、第二始動口２００４が開状態となる「普通当り」が抽選される可能性があり、開状態の第二始動口２００４に遊技球Ｂを受入れさせて、「役物当り」や「大当り」が抽選される可能性があるため、遊技に対する期待感を高めさせることができ、興趣の低下を抑制させることができる。
【１２７８】
［５－８ｊ．磁気センサ］
続いて、遊技盤５における複数の磁気センサ１０５０について、主に図１４６乃至図１４８等を参照して詳細に説明する。図１４６は、磁気センサの配置を示す遊技盤の正面図である。図１４７（ａ）は磁石からの磁力線を検知可能な磁気センサの向きを示す説明図であり、（ｂ）は磁石からの磁力線を検知不能な磁気センサの向きを示す説明図であり、（ｃ）は磁気センサによる検知範囲を斜視図により模式的に示す説明図であり、（ｄ）は磁石からの磁力線が検知不能となる磁気センサと磁性体との位置関係を示す説明図であり、（ｅ）は磁石からの磁力線が検知可能となる磁気センサと磁性体との位置関係を示す説明図である。図１４８（ａ）は保持部材に磁気センサが保持されている状態を示す斜視図であり、（ｂ）は保持部材と磁気センサとを分離させた状態で示す分解斜視図であり、（ｃ）は保持部材を断面で示す分解図である。
【１２７９】
磁気センサ１０５０は、遊技盤５に複数設けられており、遊技領域５ａ内に作用する不正な磁気（磁力線）を検知するためのものである。磁気センサ１０５０は、図１４８（ｃ）に示すように、磁気を検知するためのセンサ本体１０５１と、センサ本体１０５１が実装されている表面が白色のセンサ基板１０５２と、センサ基板１０５２及びセンサ本体１０５１を覆っている透明なセンサケース１０５３と、を備えている。なお、図示は省略するが、センサ基板１０５２には、センサ本体１０５１の他に、ＩＣ、トランジスタ、抵抗器、ダイオード、接続用コネクタ、等が実装されている。
【１２８０】
磁気センサ１０５０は、平面視が長方形で、当該長方形の短辺の長さよりも低い高さの直方体状に形成されており、高さ方向の辺の一つの部位がＣ面取りされている。この磁気センサ１０５０は、透明なセンサケース１０５３を通して、内部のセンサ本体１０５１やセンサ基板１０５２を外部から視認することができる。

【１２８１】
磁気センサ１０５０は、直方体における最も長い長辺と平行な磁力線の通過を検知することができるものである。従って、図１４７（ａ）に示すような磁気センサ１０５０の向きと磁石１０５５との位置関係の時には、磁石１０５５の磁力線が、長辺と平行な方向に通過するため、磁石１０５５の磁気（磁力線）を検知することができる。
【１２８２】
一方、図１４７（ｂ）に示すような磁気センサ１０５０の向きと磁石１０５５との位置関係の時には、磁石１０５５の磁力線が、長辺と直角方向（長辺と短辺とによる長方形の面に対して垂直方向）に通過するため、磁石１０５５の磁気（磁力線）を検知することができない。
【１２８３】
このようなことから、この磁気センサ１０５０は、図１４７（ｃ）において網掛けで示すように、磁気センサ１０５０を中心にした長辺方向の一方側と他方側に、磁石１０５５の磁気の検知領域ＤＡを有している。換言すると、磁気センサ１０５０は、二つの球を組み合わせたヒョウタン型の検知領域ＤＡを有している。
【１２８４】
そして、本実施形態の遊技盤５では、図１４６に示すように、複数の磁気センサ１０５０が夫々適宜の方向へ向けて設けられている。各磁気センサ１０５０は、遊技領域５ａにおける一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、大入賞口２００５、役物入賞口２００６、及びワープ入口２５１１、付近に作用する不正な磁気を検知することができるように配置されている。つまり、遊技領域５ａ内における磁石を用いた不正行為が行われると予測される部位が、磁気センサ１０５０の検知領域ＤＡ（図１４６において二点鎖線で示す領域）に含まれるように、夫々の磁気センサ１０５０が適宜の向きで配置されている。
【１２８５】
また、遊技盤５では、各磁気センサ１０５０が、始動口ソレノイド２４１２、アタッカソレノイド２４１４、役物入賞口ソレノイド２６１２、Ｖ振分ソレノイド、及び、裏ユニット３０００に設けられている駆動モータ、等からの磁気（磁力線）を検知しないように、夫々の検知領域ＤＡがソレノイドや駆動モータにかからないようにしている。
【１２８６】
次に、図１４７（ｄ）に示すように、磁石１０５５からの磁力線を検知可能な磁気センサ１０５０に対して、磁性体１０５６を並列に配置した場合、磁力線が磁性体１０５６に引き寄せられることで、磁気センサ１０５０を通過する磁力線が減少し、磁気センサ１０５０により磁石１０５５からの磁力線（磁気）を検知することができなくなることがある。
【１２８７】
一方、図１４７（ｅ）に示すように、磁石１０５５からの磁力線を検知可能な磁気センサ１０５０に対して、磁性体１０５７を直列に配置した場合、磁性体１０５７により磁力線が引き寄せられることで、磁気センサ１０５０を通過する磁力線を増加させることができる。これにより、遠くの磁石１０５５や、磁力の弱い磁石１０５５の磁気を検知することができる。
【１２８８】
ところで、従来のパチンコ機では、磁性体からなるネジを使用して磁気センサを遊技盤に取付けているため、磁気センサとネジとの位置関係によっては、不正行為を行うための磁石からの磁力線が、透磁率の高いネジに引き寄せられることにより、磁気センサを通過する磁力線が減少し、磁石の接近を検知することができなくなる問題があった。これに対して、本実施形態では、ネジを用いることなく磁気センサ１０５０を取付けるようにしている。
【１２８９】
具体的に詳述すると、図１４８に示すように、磁気センサ１０５０は、非磁性体（ここ

では、合成樹脂）からなる保持部材１０６０を介して遊技盤５に取付けられている。保持部材１０６０は、磁気センサ１０５０を一方側から収容可能な収容部１０６１と、収容部１０６１に収容されている磁気センサ１０５０に係止されている弾性爪１０６２と、を有している。また、保持部材１０６０は、弾性爪１０６２の脚部から収容部１０６１内へ突出している突起１０６３を有している。この保持部材１０６０は、透明な合成樹脂により形成されている。

【１２９０】

この保持部材１０６０は、外部から磁気センサ１０５０を収容部１０６１へ挿入させると、弾性爪１０６２が収容部１０６１から遠ざかる方向へ弾性変形し、磁気センサ１０５０が収容部１０６１に収容されると、弾性爪１０６２が復帰して磁気センサ１０５０に係止される。この際に、弾性爪１０６２の脚部に設けられている突起１０６３が磁気センサ１０５０に当接しており、磁気センサ１０５０を収容部１０６１の内面における弾性爪１０６２とは反対側の部位に押圧している。

【１２９１】

この弾性爪１０６２の係止により、磁気センサ１０５０の収容部１０６１から抜ける方向への移動を阻止することができ、磁気センサ１０５０の脱落を防止することができる。また、突起１０６３の当接によって磁気センサ１０５０を収容部１０６１内に押圧しているため、収容部１０６１内での磁気センサ１０５０のガタツキを防止することができる。

【１２９２】

このように、保持部材１０６０を非磁性体としているため、遊技領域５ａに磁石が近づけられた際に、保持部材１０６０が磁石からの磁力線を引寄せてしまうことを回避させることができ、磁気センサ１０５０を通過する磁力線の減少を防止することができる。従って、遊技領域５ａに作用する磁気を検知し易くすることができ、磁石を使用した不正行為を早期に検知することができると共に、磁気センサ１０５０による不審な磁気の検知を報知することで不正行為を思い止まらせることができ、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【１２９３】

また、非磁性体からなる保持部材１０６０により磁石からの磁力線の引寄せを回避させて、磁気センサ１０５０を通過する磁力線の減少を防止することができるため、従来のパチンコ機よりも少ない数の磁気センサ１０５０により遊技領域５ａに作用する磁気を効果的に検知することが可能となり、従来よりも磁気センサ１０５０の数を少なくすることができ、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。

【１２９４】

また、保持部材１０６０の弾性爪１０６２を弾性変形させることで、保持部材１０６０に対する磁気センサ１０５０の取付けや取外しを容易に行うことができるため、従来のパチンコ機のように、磁性体からなる金属製のネジを使用しなくても、弾性爪１０６２により磁気センサ１０５０を取付けることができると共に、パチンコ機１の組立にかかる手間を容易なものとすることができ、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。

【１２９５】

更に、保持部材１０６０の突起１０６３により磁気センサ１０５０を収容部１０６１へ付勢（押圧）していることから、突起１０６３による付勢によって磁気センサ１０５０が細かく振動することを抑制することができるため、当該振動により磁気センサ１０５０に接続されているコネクタが外れたり接触不良が発生したりすることを低減させることができ、磁気センサ１０５０を確実に作動させることができる。

【１２９６】

また、非磁性体からなる保持部材１０６０により磁気センサ１０５０を保持して遊技盤５に設けるようにしていることから、保持部材１０６０における遊技盤５に取付けられる部位を、磁気センサ１０５０から離れた位置、或いは、遊技領域５ａにおける磁気の検知領域ＤＡ外の位置、に設けることが可能となる。これにより、保持部材１０６０を遊技盤

５に取付けるためのネジ等の磁性体による影響を可及的に低減させることができるため、磁気センサ１０５０によって遊技領域５ａに作用する磁気を確実に検知させることができ、磁石を使用した不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【１２９７】

また、磁気センサ１０５０を透明な保持部材１０６０により視認可能に保持していると共に、磁気センサ１０５０のセンサケース１０５３を透明としているため、透明なセンサケース１０５３を通してセンサ基板１０５２に実装されているセンサ本体１０５１を遊技者に見せることができる。この際に、センサ本体１０５１が実装されているセンサ基板１０５２の表面を白色としているため、色の異なる（例えば、黒色）センサ本体１０５１を目立たせることができる。従って、遊技者に対して磁気センサ１０５０がダミーでなく本物であることを強く認識させることができ、磁気センサ１０５０が見えることで磁石を使用した不正行為を行おうとする者に対して、不正行為の実行を躊躇させることができると共に、不正行為に対する抑止力を高めることができ、本パチンコ機１を設置する遊技ホール側の負担を軽減させることができる。

【１２９８】

更に、磁気センサ１０５０において、センサ本体１０５１が実装されているセンサ基板１０５２の表面を白色としているため、センサ基板１０５２を目立ち難くすることができると共に、センサ基板１０５２をＬＥＤが実装されている装飾基板と誤認させることができる。従って、磁気センサ１０５０のセンサ基板１０５２が見えていても、通常の遊技者であれば気になることはなく、遊技領域５ａ内の見栄えが悪くなることを回避させることができる。

【１２９９】

また、磁気センサ１０５０のセンサ本体１０５１を外部から見ることができることから、センサ本体１０５１の破損の有無を外部から確認することができるため、パチンコ機１のメンテナンスにかかる手間を容易なものとすることができ、本パチンコ機１を設置している遊技ホール側の負担を軽減させることができる。

【１３００】

［５－９．裏ユニットの全体構成］

遊技盤５における裏ユニット３０００の全体構成について、主に図１４９等を参照して詳細に説明する。図１４９（ａ）は遊技盤の裏ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は遊技盤の裏ユニットを後ろから見た斜視図である。遊技盤５における裏ユニット３０００は、遊技パネル１１００の後面に取付けられており、後側に演出表示装置１６００及び駆動基板ユニット１７００が取付けられている。

【１３０１】

裏ユニット３０００は、遊技パネル１１００におけるパネルホルダ１１２０の後面に取付けられ前方が開放されている箱状で後壁に四角い開口部３０１０ａを有している裏箱３０１０と、裏箱３０１０の後面に取付けられており演出表示装置１６００を着脱可能に取付けるためのロック機構（図示は省略）と、を備えている。

【１３０２】

また、裏ユニット３０００は、裏箱３０１０内の前端付近に設けられている裏前演出ユニット３１００と、裏前演出ユニット３１００の後側で裏箱３０１０内の上部に設けられている裏後上演出ユニット３２００と、裏後上演出ユニットの下方で裏箱３０１０内の下部に設けられている裏後下演出ユニット３３００と、を備えている。

【１３０３】

裏ユニット３０００の裏箱３０１０は、前方が開放されている箱状で後壁に四角く貫通している開口部３０１０ａと、開口部３０１０ａの周縁から間隔を開けて後方へ突出している平板枠状の液晶取付部３０１０ｂと、液晶取付部３０１０ｂにおける右辺において枠内の内側から右方へ向かって窪んでおり演出表示装置１６００の右固定片１６０２が挿入される二つの固定溝３０１０ｃと、液晶取付部３０１０ｂの左辺の上下方向中央付近において後端から裏箱３０１０の後壁まで切欠かれロック機構が取付けられる切欠部３０１０

ｄと、を備えている。
【１３０４】
裏箱３０１０の開口部３０１０ａは、演出表示装置１６００の表示画面と略同じ大きさに形成されている。また、液晶取付部３０１０ｂは、枠内に演出表示装置１６００を嵌め込むことが可能な大きさに形成されている。裏箱３０１０は、後面における切欠部３０１０ｄの背面視左側にロック機構が上下にスライド可能に取付けられる。
【１３０５】
また、裏箱３０１０は、前端から外方へ延出している平板状の固定片部３０１０ｅを備えている。この固定片部３０１０ｅは、前面が遊技パネル１１００の後面に当接した状態で、遊技パネル１１００に取付けられる。裏箱３０１０は、裏前演出ユニット３１００等を取付けるためのボスや取付孔等が適宜位置に形成されている。
【１３０６】
また、裏ユニット３０００は、表ユニット２０００に設けられている一般入賞口２００１に受入れられた遊技球Ｂを検知する一般入賞口センサ３００１と、第一始動口２００２に受入れられた遊技球Ｂを検知する第一始動口センサ３００２と、役物入賞口２００６に受入れられた後にＶ入賞口２００７に振分けられた遊技球Ｂを検知するＶ入賞口センサ３００３と、役物入賞口２００６に受入れられた後にハズレ口２００８に振分けられた遊技球Ｂを検知するハズレ口センサ３００４と、を有している（図１６９等を参照）。
【１３０７】
更に、裏ユニット３０００は、Ｖ入賞口２００７を開閉するための前後に進退可能なＶ入賞口扉３００６と、Ｖ入賞口扉３００６を前後に進退させて役物入賞口２００６に受入れられた遊技球ＢをＶ入賞口２００７又はハズレ口２００８の何れかに振分けるＶ振分ソレノイド３００７と、を備えている。これら、一般入賞口センサ３００１、第一始動口センサ３００２、Ｖ入賞口センサ３００３、ハズレ口センサ３００４、Ｖ入賞口扉３００６、及びＶ振分ソレノイド３００７は、裏前演出ユニット３１００に設けられている。
【１３０８】
［５－９ａ．裏前演出ユニット］
続いて、裏ユニット３０００の裏前演出ユニット３１００について、主に図１５０乃至図１６０を参照して詳細に説明する。図１５０は、裏ユニットにおける裏前演出ユニットの正面図である。図１５１（ａ）は裏ユニットにおける裏前演出ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏ユニットにおける裏前演出ユニットを後ろから見た斜視図である。図１５２（ａ）は裏前演出ユニットを上下方向の中央付近で切断して上から見た断面図であり、（ｂ）は（ａ）における左部の拡大断面図であり、（ｃ）は（ａ）における右部の拡大断面図である。図１５３は、裏前演出ユニットの裏前左装飾ユニットを分解して導光板と共に前から見た分解斜視図である。図１５４は、裏前左装飾ユニットを分解して裏前左第一装飾体、裏前左第二装飾体、裏前左第三装飾体、及び裏前左装飾体ベースのみを後ろから見た分解斜視図である。図１５５（ａ）は透明な状態で示す裏前左第一装飾体の正面図であり、（ｂ）は透明な状態で示す裏前左第二装飾体の正面図であり、（ｃ）は透明な状態で示す裏前左第三装飾体の正面図であり、（ｃ）は透明な状態で示す裏前左装飾体ベースの正面図である。
【１３０９】
図１５６（ａ）は裏前演出ユニットにおける導光板と導光板及び裏前左装飾ユニットを発光装飾させるための装飾基板との関係を正面から示す説明図であり、（ｂ）は裏前演出ユニットにおける導光板と裏前下演出ユニットの装飾体を発光装飾させるための装飾基板との関係を正面から示す説明図である。図１５７は、裏前左装飾ユニットを発光装飾させた状態を示す正面図である。図１５８（ａ）は導光板の第一絵柄を発光させた状態を示す説明図であり、（ｂ）は導光板の第二絵柄を発光させた状態を示す説明図である。図１５９は、導光板の第二絵柄の発光構成を示す説明図である。図１６０は、導光板の第二絵柄を発光させた状態で示す裏前演出ユニットの正面図である。
【１３１０】

裏ユニット３０００における裏前演出ユニット３１００は、裏箱３０１０内の前端に取付けられている。裏前演出ユニット３１００は、正面視中央に設けられている透明平板状の導光板３１１０と、導光板３１１０の左端部側に設けられている裏前左装飾ユニット３１２０と、導光板３１１０の右端部側に設けられている裏前右装飾ユニット３１４０と、導光板３１１０の下端部側に設けられており裏前左装飾ユニット３１２０と裏前右装飾ユニット３１４０との夫々の下端同士を連結している裏前下演出ユニット３１６０と、裏前左装飾ユニット３１２０と裏前右装飾ユニット３１４０との夫々の上端同士を連結している上連結ベース３１９０と、を備えている。

【１３１１】

裏前右装飾ユニット３１４０は、サイド右中ユニット２７００の一般入賞口２００１に受入れられた遊技球Ｂを検知する一般入賞口センサ３００１と、第二アタッカユニット２６００の役物入賞口２００６に受入れられた後にＶ入賞口２００７に振分けられた遊技球Ｂを検知するＶ入賞口センサ３００３と、第二アタッカユニット２６００の役物入賞口２００６に受入れられた後にハズレ口２００８に振分けられた遊技球Ｂを検知するハズレ口センサ３００４と、を備えている。また、裏前右装飾ユニット３１４０は、第二アタッカユニット２６００の役物入賞口２００６に受入れられた遊技球Ｂを、Ｖ入賞口２００７又はハズレ口２００８の何れかに振分けるためのＶ入賞口扉３００６と、Ｖ入賞口扉３００６を進退（開閉）させるためのＶ振分ソレノイド３００７と、を備えている。

【１３１２】

裏前下演出ユニット３１６０は、サイドユニット２２００の一般入賞口２００１に受入れられた遊技球Ｂを検知する一般入賞口センサ３００１と、始動口ユニット２１００の第一始動口２００２に受入れられた遊技球Ｂを検知する第一始動口センサ３００２と、を備えている。

【１３１３】

［５－９ａ－１．導光板］

裏前演出ユニット３１００における導光板３１１０は、左右からの光のみを前方へ反射させることにより発光表示される第一絵柄３１１１（図１５８（ａ）を参照）と、下方の特定部位からの光のみを前方へ反射させることにより発光表示される第二絵柄３１１２（図１５８（ｂ）を参照）と、を備えている。つまり、導光板３１１０は、後述する裏前左装飾ユニット３１２０における裏前左装飾基板３１２８の複数の導光板用ＬＥＤ３１２８ｇと、裏前右装飾ユニット３１４０における裏前右第一装飾基板３１４８、裏前右第二装飾基板３１４９、及び裏前右導光板用装飾基板３１５０の複数の導光板用ＬＥＤとを発光させると、第一絵柄３１１１を発光表示させることができる。また、裏前下演出ユニット３１６０の導光板下左装飾基板３１７４及び導光板下右装飾基板３１７５の複数のＬＥＤ３１７６を発光させると、第二絵柄３１１２を発光表示させることができる。

【１３１４】

導光板３１１０の第一絵柄３１１１は、図示するように、中央の「Ａ」の文字を図案化した絵柄と、その左右両外側の「翼」を広げたような絵柄と、から構成されている。この第一絵柄３１１１は、図示するように、絵柄の部位によって発光表示の濃淡や光り具合が異なるように構成されており、絵柄の意匠性や装飾性が高められている。詳述すると、第一絵柄３１１１は、図１５８（ａ）において、網掛けの濃淡が最も濃い部位はＬＥＤからの光の色のままで発光する複数の点により構成されており、濃淡が最も薄い部位はＬＥＤからのカクテル光を分光させて発光する複数の点により構成されており、その他の濃淡の部位はＬＥＤからの光の色のままで発光する複数の線により構成されている。

【１３１５】

ここで、カクテル光とは、光の三つの原色のうち、二つ以上を含んだ色の光のことである。例えば、カクテル光として、赤色と緑色の光を混ぜ合わせた黄色の光を、分光発光部へ照射すると、黄色の光の成分が赤色の光と緑色の光とに分光され、当該部位において赤色や緑色に見える部分が現れる。或いは、カクテル光として白色の光を分光発光部へ照射すると、白色の光の成分が赤色の光と緑色の光と青色の光とに分光され、当該部位におい

て赤色や緑色や青色に見える部分や、それらが適宜混ざり合った色の光が現れることとなり、虹色にキラキラした発光を見せることができる。なお、この分光発光部へ光の三原色のうちの一つのみの色の光を照射すると、当該光には分光される成分がないため、当該色の光で発光することとなる。このようなことから、分光発光部では、照射する光の色によって、単一の色で発光させたり、キラキラと複数の色で発光させたりすることができ、より多彩な発光演出を行うことができる。

【１３１６】

第一絵柄３１１１を発光表示させるためのＬＥＤ（導光板用ＬＥＤ３１２８ｇ等）は、裏前左装飾ユニット３１２０の裏前左装飾基板３１２８と、裏前右装飾ユニット３１４０の裏前右第一装飾基板３１４８、裏前右第二装飾基板３１４９、及び裏前右導光板用装飾基板３１５０に実装されている。

【１３１７】

導光板３１１０の第二絵柄３１１２は、下端付近における左右方向へ間隔をあけた複数の部位を中心として、放射状に上方へ延出した複数のライン３１１３（直線）により構成されている。第二絵柄３１１２の各ライン３１１３は、後述する導光板下左装飾基板３１７４及び導光板下右装飾基板３１７５のＬＥＤ３１７６からの光の色のままで発光する複数の点により構成されている。第二絵柄３１１２を構成している複数のライン３１１３は、夫々が対応しているＬＥＤ３１７６からの光のみを前方へ反射させるように形成されており、夫々が独立して発光表示できるように形成されている。

【１３１８】

第二絵柄３１１２は、複数のライン３１１３が、左から第一ライン群３１１４ａ、第二ライン群３１１４ｂ、第三ライン群３１１４ｃ、第四ライン群３１１４ｄ、第五ライン群３１１４ｅ、の五つのライン群３１１４に分けられている。そして、各ライン群３１１４は、左から第一ライン３１１３ａ、第二ライン３１１３ｂ、第三ライン３１１３ｃ、第四ライン３１１３ｄ、第五ライン３１１３ｅ、の五つのライン３１１３により構成されている。一つのライン群３１１４における第一ライン３１１３ａ～第五ライン３１１３ｅの五つのライン３１１３は、夫々の下端が同じ位置に配置されており、下端の位置を中心として放射状に上方へ延出している。

【１３１９】

この第二絵柄３１１２の発光表示により、あたかもコンサートステージにおける下方からのサーチライトのような発光演出を遊技者に見せることができ、遊技領域５ａ内を煌びやかに見せることができると共に、遊技者を楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【１３２０】

第二絵柄３１１２を発光表示させるためのＬＥＤ３１７６は、裏前演出ユニット３１００における裏前下演出ユニット３１６０の導光板下左装飾基板３１７４及び導光板下右装飾基板３１７５に実装されている。

【１３２１】

［５－９ａ－２．裏前左装飾ユニット］

裏前演出ユニット３１００における裏前左装飾ユニット３１２０は、パチンコ機１（遊技盤５）のコンセプトに沿った所定のロゴを形成しており複数のアルファベットの文字列からなる上下に長い裏前左ロゴ装飾部３１２１と、裏前左ロゴ装飾部３１２１の上方に設けられており「Ａ」の文字を図案化した裏前左上ロゴ装飾部３１２２と、裏前左ロゴ装飾部３１２１の左方に設けられている裏前左サブ装飾部３１２３と、を有している。

【１３２２】

裏前左装飾ユニット３１２０は、正面視の形状が上下に長い長方形で透明な裏前左第一装飾体３１２４と、裏前左第一装飾体３１２４の後方に設けられている透明な裏前左第二装飾体３１２５と、裏前左第二装飾体３１２５の後方に設けられている透明な裏前左第三装飾体３１２６と、裏前左第三装飾体３１２６の後方に設けられている透明な裏前左装飾体ベース３１２７と、を備えている。

【１３２３】
　また、裏前左装飾ユニット３１２０は、導光板３１１０の第一絵柄３１１１、裏前左ロゴ装飾部３１２１、裏前左上ロゴ装飾部３１２２、及び裏前左サブ装飾部３１２３を発光装飾させるための裏前左装飾基板３１２８と、裏前左上ロゴ装飾部３１２２を発光装飾させるための裏前左上装飾基板３１２９と、裏前左ロゴ装飾部３１２１及び裏前左サブ装飾部３１２３を発光装飾させるための裏前左下装飾基板３１３０と、を備えている。
【１３２４】
　更に、裏前左装飾ユニット３１２０は、裏前左装飾基板３１２８の右側に設けられている裏前左リフレクタ３１３１と、裏前左上装飾基板３１２９の下側に設けられている裏前左上リフレクタ３１３２と、裏前左下装飾基板３１３０の上側に設けられている裏前左下リフレクタ３１３３と、を備えている。
【１３２５】
　また、裏前左装飾ユニット３１２０は、裏前左第三装飾体３１２６と裏前左装飾体ベース３１２７との間に設けられている左拡散レンズ３１３４を、備えている。
【１３２６】
　裏前左第一装飾体３１２４は、裏前左第二装飾体３１２５、裏前左第三装飾体３１２６、左拡散レンズ３１３４、及び導光板３１１０の左端部を挟むように裏前左装飾体ベース３１２７の前面に取付けられるものである。裏前左第一装飾体３１２４は、透明平板状で上下に長い長方形に形成されている。裏前左第一装飾体３１２４は、下から約３／４の高さの部位に、左右に延びていると共に前後に貫通している区切装飾部３１２４ａを有している。
【１３２７】
　また、裏前左第一装飾体３１２４は、前後に貫通している複数の貫通装飾部３１２４ｂを、有している。複数の貫通装飾部３１２４ｂは、上端付近及び下端付近と、区切装飾部３１２４ａの右端の上方付近とに、設けられている。貫通装飾部３１２４ｂは、正方形の四辺を内側へ膨出した円弧に置き換えたような菱形に形成されている。
【１３２８】
　また、裏前左第一装飾体３１２４は、前面における区切装飾部３１２４ａの下方に設けられており裏前左ロゴ装飾部３１２１の一部を構成している第一表左ロゴ装飾部３１２４ｃと、後面における第一表左ロゴ装飾部３１２４ｃと対応している部位に設けられているレリーフ状の第一裏左ロゴ装飾部３１２４ｄと、を有している。裏前左第一装飾体３１２４の右辺は、第一表左ロゴ装飾部３１２４ｃ及び第一裏左ロゴ装飾部３１２４ｄのロゴの文字列に沿った形状に形成されている。
【１３２９】
　また、裏前左第一装飾体３１２４は、裏面における区切装飾部３１２４ａの上方にレリーフ状に設けられており裏前左上ロゴ装飾部３１２２の一部を構成している第一左上ロゴ装飾部３１２４ｅと、裏面における第一裏左ロゴ装飾部３１２４ｄよりも左方でレリーフ状に設けられており裏前左サブ装飾部３１２３の一部を構成している複数の第一左サブ装飾部３１２４ｆと、を有している。第一左上ロゴ装飾部３１２４ｅは、裏前左上ロゴ装飾部３１２２の最も外側の部位を構成している。第一左サブ装飾部３１２４ｆは、同じ大きさの円を四分の一ずつ重ねて一つの円の部位を抜き出した七宝模様と、七宝模様の外側の円を無くした菱模様と、に形成されており、上下に列設されている。
【１３３０】
　裏前左第一装飾体３１２４は、図１５３及び図１５４等では不透明として示しているが、実際には透明であるため、図１５５（ａ）に示すように、前方から後面に設けられている第一裏左ロゴ装飾部３１２４ｄ、第一左上ロゴ装飾部３１２４ｅ、及び第一左サブ装飾部３１２４ｆを視認することができる。
【１３３１】
　裏前左第一装飾体３１２４は、裏前左装飾ユニット３１２０に組立てた状態で、裏前左第二装飾体３１２５の前方に位置しており、左辺側に対して右辺側が後方に位置するよう

に傾斜した状態で取付けられている（図１５２を参照）。また、裏前左第一装飾体３１２４は、組立てた状態では、左側面が裏前左第二装飾体３１２５の基板保持部３１２５ｂの右側面と接するように位置しており、その左方に裏前左装飾基板３１２８の第一下ＬＥＤ３１２８ａ及び第一上ＬＥＤ３１２８ｂが位置している。また、裏前左第一装飾体３１２４は、組立てた状態で、上面の上方に裏前左上装飾基板３１２９の第一ＬＥＤが位置していると共に、下面の下方に裏前左下装飾基板３１３０の第一ＬＥＤ３１３０ａが位置している。

【１３３２】

裏前左第一装飾体３１２４は、裏前左装飾基板３１２８の第一下ＬＥＤ３１２８ａと裏前左下装飾基板３１３０の第一ＬＥＤ３１３０ａとを発光させると、裏前左第二装飾体３１２５の基板保持部３１２５ｂを介して左側面の区切装飾部３１２４ａよりも下方の部位から内部に入射された光や下面から内部に入射された光により、第一表左ロゴ装飾部３１２４ｃ、第一裏左ロゴ装飾部３１２４ｄ、及び第一左サブ装飾部３１２４ｆが発光装飾する。この際に、区切装飾部３１２４ａの内面と、下端付近に設けられている貫通装飾部３１２４ｂの内面も、発光装飾する。

【１３３３】

なお、区切装飾部３１２４ａでは、裏前左装飾基板３１２８の第一下ＬＥＤ３１２８ａや裏前左下装飾基板３１３０の第一ＬＥＤ３１３０ａから内部に入射された光が、下側の内周面に到達すると、その内周面により到達した光の一部が区切装飾部３１２４ａの下方の内部側へ反射すると共に、残りが内周面から区切装飾部３１２４ａの孔の内側へ放射される。そして、区切装飾部３１２４ａの内側へ放射された光が、反対側の内周面に到達すると、その一部が区切装飾部３１２４ａの内側へ反射すると共に、残りが内周面から区切装飾部３１２４ａの上方の内部側へ入射することとなる。このように、裏前左装飾基板３１２８の第一下ＬＥＤ３１２８ａや裏前左下装飾基板３１３０の第一ＬＥＤ３１３０ａからの光が、区切装飾部３１２４ａを通ることで大きく減光することとなるため、裏前左装飾基板３１２８の第一下ＬＥＤ３１２８ａや裏前左下装飾基板３１３０の第一ＬＥＤ３１３０ａからの光によって、区切装飾部３１２４ａの上方の第一左上ロゴ装飾部３１２４ｅが殆ど発光表示（発光装飾）されることはなく、もっぱら第一表左ロゴ装飾部３１２４ｃ及び第一裏左ロゴ装飾部３１２４ｄや第一左サブ装飾部３１２４ｆのみを明るく発光表示させることができる。

【１３３４】

また、裏前左第一装飾体３１２４は、裏前左装飾基板３１２８の第一上ＬＥＤ３１２８ｂと裏前左上装飾基板３１２９の第一ＬＥＤとを発光させると、裏前左第二装飾体３１２５の基板保持部３１２５ｂを介して左側面の区切装飾部３１２４ａよりも上方の部位から内部に入射された光や上面から内部に入射された光により、第一左上ロゴ装飾部３１２４ｅが発光装飾する。この際に、区切装飾部３１２４ａの内面と、区切装飾部３１２４ａよりも上方に設けられている貫通装飾部も、発光装飾する。

【１３３５】

なお、区切装飾部３１２４ａでは、裏前左装飾基板３１２８の第一上ＬＥＤ３１２８ｂや裏前左上装飾基板３１２９の第一ＬＥＤから内部に入射された光が、上側の内周面に到達すると、その内周面により到達した光の一部が区切装飾部３１２４ａの上方の内部側へ反射すると共に、残りが内周面から区切装飾部３１２４ａの孔の内側へ放射される。そして、区切装飾部３１２４ａの内側へ放射された光が、反対側の内周面に到達すると、その一部が区切装飾部３１２４ａの内側へ反射すると共に、残りが内周面から区切装飾部３１２４ａの下方の内部側へ入射することとなる。このように、裏前左装飾基板３１２８の第一上ＬＥＤ３１２８ｂや裏前左上装飾基板３１２９の第一ＬＥＤからの光が、区切装飾部３１２４ａを通ることで大きく減光することとなるため、裏前左装飾基板３１２８の第一上ＬＥＤ３１２８ｂや裏前左上装飾基板３１２９の第一ＬＥＤからの光によって、区切装飾部３１２４ａの下方の第一表左ロゴ装飾部３１２４ｃ及び第一裏左ロゴ装飾部３１２４ｄや第一左サブ装飾部３１２４ｆが殆ど発光表示（発光装飾）されることはなく、もっぱ

ら第一左上ロゴ装飾部３１２４ｅや上側の貫通装飾部３１２４ｂのみを明るく発光表示させることができる。

【１３３６】

このように、裏前左第一装飾体３１２４では、区切装飾部３１２４ａを境にして、上側と下側とを夫々独立して発光装飾（発光表示）できるように構成されている。

【１３３７】

裏前左第二装飾体３１２５は、全体が透明に形成されており、裏前左第一装飾体３１２４と平行な平板状の装飾板部３１２５ａと、装飾板部３１２５ａの右辺を除いた周辺（左辺、上辺、下辺）に設けられている基板保持部３１２５ｂと、を有している。基板保持部３１２５ｂは、装飾板部３１２５ａよりも外側へ延出していると共に、前方へ突出しており、後面側から前方へ窪んでいる。基板保持部３１２５ｂは、裏前左装飾体ベース３１２７の基板保持部３１２７ｂと協働して、裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９、及び裏前左下装飾基板３１３０を挟持して保持するためのものである。裏前左第二装飾体３１２５は、基板保持部３１２５ｂの前面が遊技パネル１１００の前面と平行であるのに対して、装飾板部３１２５ａが左辺側よりも右辺側が後方に位置するように傾斜している。

【１３３８】

また、裏前左第二装飾体３１２５は、装飾板部３１２５ａにおける下から約３／４の高さの部位に、左右に延びていると共に前後に貫通している区切装飾部３１２５ｃを有している。この区切装飾部３１２５ｃは、裏前左第一装飾体３１２４の区切装飾部３１２４ａと同じ大きさで、同じ高さに形成されている。

【１３３９】

また、裏前左第二装飾体３１２５は、後面における区切装飾部３１２５ｃの下方に設けられており裏前左ロゴ装飾部３１２１の一部を構成しているレリーフ状の第二裏左ロゴ装飾部３１２５ｄを、有している。裏前左第二装飾体３１２５の右辺は、第二裏左ロゴ装飾部３１２５ｄのロゴの文字列に沿った形状に形成されている。

【１３４０】

また、裏前左第二装飾体３１２５は、裏面における区切装飾部３１２５ｃの上方にレリーフ状に設けられており裏前左上ロゴ装飾部３１２２の一部を構成している第二左上ロゴ装飾部３１２５ｅと、裏面における第二裏左ロゴ装飾部３１２５ｄよりも左方でレリーフ状に設けられており裏前左サブ装飾部３１２３の一部を構成している複数の第二左サブ装飾部３１２５ｆと、を有している。第二左上ロゴ装飾部３１２５ｅは、裏前左第一装飾体３１２４の第一左上ロゴ装飾部３１２４ｅよりも一回り小さい大きさに形成されている。第二左サブ装飾部３１２５ｆは、第一左サブ装飾部３１２４ｆと対応する位置に設けられており、一回り小さい同じような形状に形成されている。

【１３４１】

裏前左第二装飾体３１２５は、図１５３及び図１５４等では不透明として示しているが、実際には透明であるため、図１５５（ｂ）に示すように、前方から後面に設けられている第二裏左ロゴ装飾部３１２５ｄ、第二左上ロゴ装飾部３１２５ｅ、及び第二左サブ装飾部３１２５ｆを視認することができる。

【１３４２】

裏前左第二装飾体３１２５は、裏前左装飾ユニット３１２０に組立てた状態で、図１５２等に示すように、装飾板部３１２５ａの前方に裏前左第一装飾体３１２４が位置していると共に後方に裏前左第三装飾体３１２６が位置している。また、裏前左第二装飾体３１２５は、組立てた状態では、前方へ凹んでいる基板保持部３１２５ｂに、裏前左装飾基板３１２８及び裏前左リフレクタ３１３１の前端側、裏前左上装飾基板３１２９及び裏前左上リフレクタ３１３２の前端側、裏前左下装飾基板３１３０及び裏前左下リフレクタ３１３３の前端側が、夫々挿入されている。装飾板部３１２５ａの左面の左方に裏前左装飾基板３１２８の第二下ＬＥＤ３１２８ｃ及び第二上ＬＥＤ３１２８ｄが、上面の上方に裏前左上装飾基板３１２９の第二ＬＥＤが、下面の下方に裏前左下装飾基板３１３０の第二Ｌ

ＥＤ３１３０ｂが、夫々位置している。
【１３４３】
裏前左第二装飾体３１２５は、裏前左装飾基板３１２８の第二下ＬＥＤ３１２８ｃと裏前左下装飾基板３１３０の第二ＬＥＤ３１３０ｂとを発光させると、装飾板部３１２５ａの左面における区切装飾部３１２５ｃよりも下方の部位から内部に入射された光や、装飾板部３１２５ａの下面から内部に入射された光により、第二裏左ロゴ装飾部３１２５ｄ、及び第二左サブ装飾部３１２５ｆが発光装飾する。この際に、区切装飾部３１２５ｃの内面も、発光装飾する。
【１３４４】
なお、区切装飾部３１２５ｃでは、裏前左装飾基板３１２８の第二下ＬＥＤ３１２８ｃや裏前左下装飾基板３１３０の第二ＬＥＤ３１３０ｂから内部に入射された光が、下側の内周面に到達すると、その内周面により到達した光の一部が区切装飾部３１２５ｃの下方の内部側へ反射すると共に、残りが内周面から区切装飾部３１２５ｃの孔の内側へ放射される。そして、区切装飾部３１２５ｃの内側へ放射された光が、反対側の内周面に到達すると、その一部が区切装飾部３１２５ｃの内側へ反射すると共に、残りが内周面から区切装飾部３１２５ｃの上方の内部側へ入射することとなる。このように、裏前左装飾基板３１２８の第二下ＬＥＤ３１２８ｃや裏前左下装飾基板３１３０の第二ＬＥＤ３１３０ｂからの光が、区切装飾部３１２５ｃを通ることで大きく減光することとなるため、裏前左装飾基板３１２８の第二下ＬＥＤ３１２８ｃや裏前左下装飾基板３１３０の第二ＬＥＤ３１３０ｂからの光によって、区切装飾部３１２５ｃの上方の第二左上ロゴ装飾部３１２５ｅが殆ど発光表示（発光装飾）されることはなく、もっぱら第二裏左ロゴ装飾部３１２５ｄや第二左サブ装飾部３１２５ｆのみを明るく発光表示させることができる。
【１３４５】
また、裏前左第二装飾体３１２５は、裏前左装飾基板３１２８の第二上ＬＥＤ３１２８ｄと裏前左上装飾基板３１２９の第二ＬＥＤとを発光させると、装飾板部３１２５ａの左面における区切装飾部３１２５ｃよりも上方の部位から内部に入射された光や、装飾板部３１２５ａの上面から内部に入射された光により、第二左上ロゴ装飾部３１２５ｅが発光装飾する。この際に、区切装飾部３１２５ｃの内面も発光装飾する。
【１３４６】
なお、区切装飾部３１２５ｃでは、裏前左装飾基板３１２８の第二上ＬＥＤ３１２８ｄや裏前左上装飾基板３１２９の第二ＬＥＤから内部に入射された光が、上側の内周面に到達すると、その内周面により到達した光の一部が区切装飾部３１２５ｃの上方の内部側へ反射すると共に、残りが内周面から区切装飾部３１２５ｃの孔の内側へ放射される。そして、区切装飾部３１２５ｃの内側へ放射された光が、反対側の内周面に到達すると、その一部が区切装飾部３１２５ｃの内側へ反射すると共に、残りが内周面から区切装飾部３１２５ｃの下方の内部側へ入射することとなる。このように、裏前左装飾基板３１２８の第二上ＬＥＤ３１２８ｄや裏前左上装飾基板３１２９の第二ＬＥＤからの光が、区切装飾部３１２５ｃを通ることで大きく減光することとなるため、裏前左装飾基板３１２８の第二上ＬＥＤ３１２８ｄや裏前左上装飾基板３１２９の第二ＬＥＤからの光によって、区切装飾部３１２５ｃの下方の第二裏左ロゴ装飾部３１２５ｄや第二左サブ装飾部３１２５ｆが殆ど発光表示（発光装飾）されることはなく、もっぱら第二左上ロゴ装飾部３１２５ｅのみを明るく発光表示させることができる。
【１３４７】
このように、裏前左第二装飾体３１２５では、区切装飾部３１２５ｃを境にして、上側と下側とを夫々独立して発光装飾（発光表示）できるように構成されている。
【１３４８】
裏前左第三装飾体３１２６は、全体が透明に形成されており、裏前左第一装飾体３１２４及び裏前左第二装飾体３１２５の装飾板部３１２５ａと平行な平板状の装飾板部３１２６ａと、装飾板部３１２６ａの右辺を除いた周辺（左辺、上辺、下辺）から後方へ延出しているフランジ部３１２６ｂと、を有している。裏前左第三装飾体３１２６は、フランジ

部３１２６ｂの後面が遊技パネル１１００の前面と平行であるのに対して、装飾板部３１２６ａが左辺側よりも右辺側が後方に位置するように傾斜している。

【１３４９】

また、裏前左第三装飾体３１２６は、装飾板部３１２６ａにおける下から約３／４の高さの部位に、左右に延びていると共に前後に貫通している区切装飾部３１２６ｃを有している。この区切装飾部３１２６ｃは、裏前左第一装飾体３１２４の区切装飾部３１２４ａと同じ大きさで、同じ高さに形成されている。

【１３５０】

また、裏前左第三装飾体３１２６は、後面における区切装飾部３１２６ｃの下方に設けられており裏前左ロゴ装飾部３１２１の一部を構成しているレリーフ状の第三裏左ロゴ装飾部３１２６ｄを、有している。裏前左第三装飾体３１２６の右辺は、第三裏左ロゴ装飾部３１２６ｄのロゴの文字列に沿った形状に形成されている。

【１３５１】

また、裏前左第三装飾体３１２６は、裏面における区切装飾部３１２６ｃの上方にレリーフ状に設けられており裏前左上ロゴ装飾部３１２２の一部を構成している第三左上ロゴ装飾部３１２６ｅと、裏面における第三裏左ロゴ装飾部３１２６ｄよりも左方でレリーフ状に設けられており裏前左サブ装飾部３１２３の一部を構成している複数の第三左サブ装飾部３１２６ｆと、を有している。第三左上ロゴ装飾部３１２６ｅは、裏前左第二装飾体３１２５の第二左上ロゴ装飾部３１２５ｅよりも一回り小さい大きさに形成されている。第三左サブ装飾部３１２６ｆは、第一左サブ装飾部３１２４ｆと対応する位置に設けられており、第一左サブ装飾部３１２４ｆと第二左サブ装飾部３１２５ｆとの間の大きさで同じような形状に形成されている。

【１３５２】

裏前左第三装飾体３１２６は、図１５３及び図１５４等では不透明として示しているが、実際には透明であるため、図１５５（ｃ）に示すように、前方から後面に設けられている第三裏左ロゴ装飾部３１２６ｄ、第三左上ロゴ装飾部３１２６ｅ、及び第三左サブ装飾部３１２６ｆを視認することができる。

【１３５３】

裏前左第三装飾体３１２６は、裏前左装飾ユニット３１２０に組立てた状態で、図１５２等に示すように、装飾板部３１２６ａの前方に裏前左第一装飾体３１２４及び裏前左第二装飾体３１２５の装飾板部３１２５ａが位置していると共に、後方に導光板３１１０及び左拡散レンズ３１３４が位置している。また、裏前左第三装飾体３１２６は、組立てた状態では、装飾板部３１２６ａの左面の左方に裏前左装飾基板３１２８の第三下ＬＥＤ３１２８ｅ及び第三上ＬＥＤ３１２８ｆが、上面の上方に裏前左上装飾基板３１２９の第三ＬＥＤが、下面の下方に裏前左下装飾基板３１３０の第三ＬＥＤ３１３０ｃが、夫々位置している。

【１３５４】

裏前左第三装飾体３１２６は、裏前左装飾基板３１２８の第三下ＬＥＤ３１２８ｅと裏前左下装飾基板３１３０の第三ＬＥＤ３１３０ｃとを発光させると、装飾板部３１２６ａの左面における区切装飾部３１２６ｃよりも下方の部位から内部に入射された光や、装飾板部３１２６ａの下面から内部に入射された光により、第三裏左ロゴ装飾部３１２６ｄ、及び第三左サブ装飾部３１２６ｆが発光装飾する。この際に、区切装飾部３１２６ｃの内面も、発光装飾する。

【１３５５】

なお、区切装飾部３１２６ｃでは、裏前左装飾基板３１２８の第三下ＬＥＤ３１２８ｅや裏前左下装飾基板３１３０の第三ＬＥＤ３１３０ｃから内部に入射された光が、下側の内周面に到達すると、その内周面により到達した光の一部が区切装飾部３１２６ｃの下方の内部側へ反射すると共に、残りが内周面から区切装飾部３１２６ｃの孔の内側へ放射される。そして、区切装飾部３１２６ｃの内側へ放射された光が、反対側の内周面に到達すると、その一部が区切装飾部３１２６ｃの内側へ反射すると共に、残りが内周面から区切

装飾部３１２６ｃの上方の内部側へ入射することとなる。このように、裏前左装飾基板３１２８の第三下ＬＥＤ３１２８ｅや裏前左下装飾基板３１３０の第三ＬＥＤ３１３０ｃからの光が、区切装飾部３１２６ｃを通ることで大きく減光することとなるため、裏前左装飾基板３１２８の第三下ＬＥＤ３１２８ｅや裏前左下装飾基板３１３０の第三ＬＥＤ３１３０ｃからの光によって、区切装飾部３１２６ｃの上方の第三左上ロゴ装飾部３１２６ｅが殆ど発光表示（発光装飾）されることはなく、もっぱら第三裏左ロゴ装飾部３１２６ｄや第三左サブ装飾部３１２６ｆのみを明るく発光表示させることができる。

【１３５６】

また、裏前左第三装飾体３１２６は、裏前左装飾基板３１２８の第三上ＬＥＤ３１２８ｆと裏前左上装飾基板３１２９の第三ＬＥＤとを発光させると、装飾板部３１２６ａの左面における区切装飾部３１２６ｃよりも上方の部位から内部に入射された光や、装飾板部３１２６ａの上面から内部に入射された光により、第三左上ロゴ装飾部３１２６ｅが発光装飾する。この際に、区切装飾部３１２６ｃの内面も発光装飾する。

【１３５７】

なお、区切装飾部３１２６ｃでは、裏前左装飾基板３１２８の第三上ＬＥＤ３１２８ｆや裏前左上装飾基板３１２９の第三ＬＥＤから内部に入射された光が、上側の内周面に到達すると、その内周面により到達した光の一部が区切装飾部３１２６ｃの上方の内部側へ反射すると共に、残りが内周面から区切装飾部３１２６ｃの孔の内側へ放射される。そして、区切装飾部３１２６ｃの内側へ放射された光が、反対側の内周面に到達すると、その一部が区切装飾部３１２６ｃの内側へ反射すると共に、残りが内周面から区切装飾部３１２６ｃの下方の内部側へ入射することとなる。このように、裏前左装飾基板３１２８の第三上ＬＥＤ３１２８ｆや裏前左上装飾基板３１２９の第三ＬＥＤからの光が、区切装飾部３１２６ｃを通ることで大きく減光することとなるため、裏前左装飾基板３１２８の第三上ＬＥＤ３１２８ｆや裏前左上装飾基板３１２９の第三ＬＥＤからの光によって、区切装飾部３１２６ｃの下方の第三裏左ロゴ装飾部３１２６ｄや第三左サブ装飾部３１２６ｆが殆ど発光表示（発光装飾）されることはなく、もっぱら第三左上ロゴ装飾部３１２６ｅのみを明るく発光表示させることができる。

【１３５８】

このように、裏前左第三装飾体３１２６では、区切装飾部３１２６ｃを境にして、上側と下側とを夫々独立して発光装飾（発光表示）できるように構成されている。

【１３５９】

裏前左装飾体ベース３１２７は、全体が透明に形成されており、平板状の装飾板部３１２７ａと、装飾板部３１２７ａの右辺を除いた周辺（左辺、上辺、下辺）に設けられている基板保持部３１２７ｂと、を有している。装飾板部３１２７ａは、遊技パネル１１００の前面と平行である。

【１３６０】

基板保持部３１２７ｂは、装飾板部３１２７ａよりも外側へ延出していると共に、後面が後方に位置しており、前面側から後方へ窪んでいる。基板保持部３１２７ｂは、裏前左第二装飾体３１２５の基板保持部３１２５ｂと協働して、裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９、及び裏前左下装飾基板３１３０を挟持して保持するためのものである。また、基板保持部３１２７ｂは、上部に上連結ベース３１９０の左端部が取付けられると共に、下部に裏前下演出ユニット３１６０におけるユニットベース３１７８の上端の左端部が取付けられる。

【１３６１】

また、裏前左装飾体ベース３１２７は、装飾板部３１２７ａの後面における上下方向の中央付近に、上下に一定の高さで全幅に亘って延びており、上下に間隔をあけて設けられている三つの裏前左帯装飾部３１２７ｃと、装飾板部３１２７ａの後面における上部付近にレリーフ状に設けられており裏前左上ロゴ装飾部３１２２の一部を構成しているベース左上ロゴ装飾部３１２７ｄと、を有している。ベース左上ロゴ装飾部３１２７ｄは、裏前左第三装飾体３１２６の第三左上ロゴ装飾部３１２６ｅよりも一回り小さい大きさに形成

されている。
【１３６２】
裏前左装飾体ベース３１２７は、図１５３及び図１５４等では不透明として示しているが、実際には透明であるため、図１５５（ｄ）に示すように、前方から後面に設けられている裏前左帯装飾部３１２７ｃ、及びベース左上ロゴ装飾部３１２７ｄを視認することができる。
【１３６３】
裏前左装飾体ベース３１２７は、裏前左装飾ユニット３１２０に組立てた状態で、図１５２等に示すように、装飾板部３１２７ａの前方に導光板３１１０及び左拡散レンズ３１３４が位置している。また、裏前左装飾体ベース３１２７は、組立てた状態では、後方へ凹んでいる基板保持部３１２７ｂに、裏前左装飾基板３１２８及び裏前左リフレクタ３１３１の後端側、裏前左上装飾基板３１２９及び裏前左上リフレクタ３１３２の後端側、裏前左下装飾基板３１３０及び裏前左下リフレクタ３１３３の後端側が、夫々挿入されている。装飾板部３１２７ａの左面の左方に裏前左装飾基板３１２８のベース下ＬＥＤ３１２８ｈ及びベース上ＬＥＤ３１２８ｉが、夫々位置している。
【１３６４】
裏前左装飾体ベース３１２７は、裏前左装飾基板３１２８のベース下ＬＥＤ３１２８ｈを発光させると、装飾板部３１２７ａの裏前左帯装飾部３１２７ｃを発光装飾させることができる。三つの裏前左帯装飾部３１２７ｃは、夫々独立して発光装飾することができる。また、裏前左装飾体ベース３１２７は、裏前左装飾基板３１２８のベース上ＬＥＤ３１２８ｉを発光させると、ベース左上ロゴ装飾部３１２７ｄを発光装飾させることができる。
【１３６５】
裏前左装飾基板３１２８は、上下に長い平板状で、板面を左右方向へ向けている。裏前左装飾基板３１２８は、裏前左第一装飾体３１２４、裏前左第二装飾体３１２５の装飾板部３１２５ａ、裏前左第三装飾体３１２６の装飾板部３１２６ａ、及び裏前左装飾体ベース３１２７の装飾板部３１２７ａの左方に配置されている。裏前左装飾基板３１２８は、裏前左リフレクタ３１３１と一緒に、裏前左第二装飾体３１２５の基板保持部３１２５ｂと、裏前左装飾体ベース３１２７の基板保持部３１２７ｂとの間に挟持されている。
【１３６６】
裏前左装飾基板３１２８は、裏前左第一装飾体３１２４の左方に位置し、区切装飾部３１２４ａよりも下方に設けられている複数の第一下ＬＥＤ３１２８ａと、裏前左第一装飾体３１２４の左方に位置し、区切装飾部３１２４ａよりも上方に設けられている複数の第一上ＬＥＤ３１２８ｂと、裏前左第二装飾体３１２５の装飾板部３１２５ａの左方に位置し、区切装飾部３１２５ｃよりも下方に設けられている複数の第二下ＬＥＤ３１２８ｃと、裏前左第二装飾体３１２５の装飾板部３１２５ａの左方に位置し、区切装飾部３１２５ｃよりも上方に設けられている複数の第二上ＬＥＤ３１２８ｄと、裏前左第三装飾体３１２６の装飾板部３１２６ａの左方に位置し、区切装飾部３１２６ｃよりも下方に設けられている複数の第三下ＬＥＤ３１２８ｅと、裏前左第三装飾体３１２６の装飾板部３１２６ａの左方に位置し、区切装飾部３１２６ｃよりも上方に設けられている複数の第三上ＬＥＤ３１２８ｆと、を備えている。
【１３６７】
また、裏前左装飾基板３１２８は、左拡散レンズ３１３４（導光板３１１０）の左方に位置している複数の導光板用ＬＥＤ３１２８ｇと、裏前左装飾体ベース３１２７の装飾板部３１２７ａにおける裏前左帯装飾部３１２７ｃの左方に位置している三つのベース下ＬＥＤ３１２８ｈと、裏前左装飾体ベース３１２７の装飾板部３１２７ａにおけるベース左上ロゴ装飾部３１２７ｄの左方に位置している複数のベース上ＬＥＤ３１２８ｉと、を備えている。
【１３６８】
裏前左装飾基板３１２８の複数の第一下ＬＥＤ３１２８ａを発光させると、裏前左第一

装飾体３１２４の第一表左ロゴ装飾部３１２４ｃや第一裏左ロゴ装飾部３１２４ｄ等を発光装飾させることができる。裏前左装飾基板３１２８の複数の第一上ＬＥＤ３１２８ｂを発光させると、裏前左第一装飾体３１２４の第一左上ロゴ装飾部３１２４ｅ等を発光装飾させることができる。裏前左装飾基板３１２８の複数の第二下ＬＥＤ３１２８ｃを発光させると、裏前左第二装飾体３１２５の第二裏左ロゴ装飾部３１２５ｄ等を発光装飾させることができる。裏前左装飾基板３１２８の複数の第二上ＬＥＤ３１２８ｄを発光させると、裏前左第二装飾体３１２５の第二左上ロゴ装飾部３１２５ｅ等を発光装飾させることができる。

【１３６９】

また、裏前左装飾基板３１２８の複数の第三下ＬＥＤ３１２８ｅを発光させると、裏前左第三装飾体３１２６の第三裏左ロゴ装飾部３１２６ｄ等を発光装飾させることができる。裏前左装飾基板３１２８の複数の第三上ＬＥＤ３１２８ｆを発光させると、裏前左第三装飾体３１２６の第三左上ロゴ装飾部３１２６ｅ等を発光装飾させることができる。

【１３７０】

裏前左装飾基板３１２８の複数の導光板用ＬＥＤ３１２８ｇを発光させると、左拡散レンズ３１３４を介して導光板３１１０の第一絵柄３１１１を発光表示させることができる。裏前左装飾基板３１２８の複数（三つ）のベース下ＬＥＤ３１２８ｈを発光させると、裏前左装飾体ベース３１２７の裏前左帯装飾部３１２７ｃを発光装飾させることができる。裏前左装飾基板３１２８の複数のベース上ＬＥＤ３１２８ｉを発光させると、裏前左装飾体ベース３１２７のベース左上ロゴ装飾部３１２７ｄを発光装飾させることができる。

【１３７１】

裏前左装飾基板３１２８の右面に実装されている第一下ＬＥＤ３１２８ａ、第一上ＬＥＤ３１２８ｂ、第二下ＬＥＤ３１２８ｃ、第二上ＬＥＤ３１２８ｄ、第三下ＬＥＤ３１２８ｅ、第三上ＬＥＤ３１２８ｆ、導光板用ＬＥＤ３１２８ｇ、ベース下ＬＥＤ３１２８ｈ、ベース上ＬＥＤ３１２８ｉは、フルカラーＬＥＤである。

【１３７２】

また、裏前左装飾基板３１２８は、表面に、白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされている。この白色のソルダーレジストにより、裏前左装飾基板３１２８を見え辛くすることができると共に、実装されているＬＥＤからの光を反射させることができ、導光板３１１０の第一絵柄３１１１、裏前左ロゴ装飾部３１２１、裏前左上ロゴ装飾部３１２２、裏前左サブ装飾部３１２３、等をより明るく発光装飾させることができる。また、裏前左装飾基板３１２８は、実装されるＬＥＤ等の電子部品や他の装飾基板との混同を避けるための文字や記号が、明度や彩度の高い色（例えば、黄色）のインクを用いてスクリーン印刷により施されている。これにより、文字や記号を目立ち難くしている。更に、図示は省略するが、裏前左装飾基板３１２８には、ＬＥＤの他に、コネクタ、抵抗器、ＬＥＤドライバ、等が実装されている。

【１３７３】

裏前左上装飾基板３１２９は、左右に長い平板状で、板面を上下方向へ向けている。裏前左上装飾基板３１２９は、裏前左第一装飾体３１２４、裏前左第二装飾体３１２５の装飾板部３１２５ａ、裏前左第三装飾体３１２６の装飾板部３１２６ａ、及び裏前左装飾体ベース３１２７の装飾板部３１２７ａの上方に配置されている。裏前左上装飾基板３１２９は、裏前左上リフレクタ３１３２と一緒に、裏前左第二装飾体３１２５の基板保持部３１２５ｂと、裏前左装飾体ベース３１２７の基板保持部３１２７ｂとの間に挟持されている。

【１３７４】

裏前左上装飾基板３１２９は、図示は省略するが、裏前左第一装飾体３１２４の上方に設けられている複数の第一ＬＥＤと、裏前左第二装飾体３１２５の装飾板部３１２５ａの上方に設けられている複数の第二ＬＥＤと、裏前左第三装飾体３１２６の装飾板部３１２６ａの上方に設けられている複数の第三ＬＥＤと、を備えている。

【１３７５】

裏前左上装飾基板３１２９の複数の第一ＬＥＤを発光させると、裏前左第一装飾体３１２４の第一左上ロゴ装飾部３１２４ｅ等を発光装飾させることができる。裏前左上装飾基板３１２９の複数の第二ＬＥＤを発光させると、裏前左第二装飾体３１２５の第二左上ロゴ装飾部３１２５ｅ等を発光装飾させることができる。裏前左上装飾基板３１２９の複数の第三ＬＥＤを発光させると、裏前左第三装飾体３１２６の第三左上ロゴ装飾部３１２６ｅを発光装飾させることができる。

【１３７６】

裏前左上装飾基板３１２９の下面に実装されている複数の第一ＬＥＤ、第二ＬＥＤ、及び第三ＬＥＤは、フルカラーＬＥＤである。

【１３７７】

また、裏前左上装飾基板３１２９は、表面に、白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされている。この白色のソルダーレジストにより、裏前左上装飾基板３１２９を見え辛くすることができると共に、実装されているＬＥＤからの光を反射させることができ、裏前左上ロゴ装飾部３１２２等をより明るく発光装飾させることができる。また、裏前左上装飾基板３１２９は、実装されるＬＥＤ等の電子部品や他の装飾基板との混同を避けるための文字や記号が、明度や彩度の高い色（例えば、黄色）のインクを用いてスクリーン印刷により施されている。これにより、文字や記号を目立ち難くしている。更に、図示は省略するが、裏前左上装飾基板３１２９には、ＬＥＤの他に、コネクタ、抵抗器、ＬＥＤドライバ、等が実装されている。

【１３７８】

裏前左下装飾基板３１３０は、左右に長い平板状で、板面を上下方向へ向けている。裏前左下装飾基板３１３０は、裏前左第一装飾体３１２４、裏前左第二装飾体３１２５の装飾板部３１２５ａ、裏前左第三装飾体３１２６の装飾板部３１２６ａ、及び裏前左装飾体ベース３１２７の装飾板部３１２７ａの下方に配置されている。裏前左下装飾基板３１３０は、裏前左下リフレクタ３１３３と一緒に、裏前左第二装飾体３１２５の基板保持部３１２５ｂと、裏前左装飾体ベース３１２７の基板保持部３１２７ｂとの間に挟持されている。

【１３７９】

裏前左下装飾基板３１３０は、裏前左第一装飾体３１２４の下方に設けられている複数の第一ＬＥＤ３１３０ａと、裏前左第二装飾体３１２５の装飾板部３１２５ａの下方に設けられている複数の第二ＬＥＤ３１３０ｂと、裏前左第三装飾体３１２６の装飾板部３１２６ａの下方に設けられている複数の第三ＬＥＤ３１３０ｃと、を備えている。

【１３８０】

裏前左下装飾基板３１３０の複数の第一ＬＥＤ３１３０ａを発光させると、裏前左第一装飾体３１２４の第一表左ロゴ装飾部３１２４ｃや第一裏左ロゴ装飾部３１２４ｄ等を発光装飾させることができる。裏前左下装飾基板３１３０の複数の第二ＬＥＤ３１３０ｂを発光させると、裏前左第二装飾体３１２５の第二裏左ロゴ装飾部３１２５ｄ等を発光装飾させることができる。裏前左下装飾基板３１３０の複数の第三ＬＥＤ３１３０ｃを発光させると、裏前左第三装飾体３１２６の第三裏左ロゴ装飾部３１２６ｄ等を発光装飾させることができる。

【１３８１】

裏前左下装飾基板３１３０の下面に実装されている複数の第一ＬＥＤ３１３０ａ、第二ＬＥＤ３１３０ｂ、及び第三ＬＥＤ３１３０ｃは、フルカラーＬＥＤである。

【１３８２】

また、裏前左下装飾基板３１３０は、表面に、白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされている。この白色のソルダーレジストにより、裏前左下装飾基板３１３０を見え辛くすることができると共に、実装されているＬＥＤからの光を反射させることができ、裏前左ロゴ装飾部３１２１等をより明るく発光装飾させることができる。また、裏前左下装飾基板３１３０は、実装されるＬＥＤ等の電子部品や他の装飾基板との混同を避けるための文字や記号が、明度や彩度の高い色（例えば、黄色）のインクを用いてスクリ

ーン印刷により施されている。これにより、文字や記号を目立ち難くしている。更に、図示は省略するが、裏前左下装飾基板３１３０には、ＬＥＤの他に、コネクタ、抵抗器、ＬＥＤドライバ、等が実装されている。

【１３８３】

左拡散レンズ３１３４は、導光板３１１０と裏前左装飾基板３１２８（裏前左リフレクタ３１３１）との間に配置されていると共に、裏前左第三装飾体３１２６と裏前左装飾体ベース３１２７との間に挟持されている。左拡散レンズ３１３４は、裏前左装飾基板３１２８の複数の導光板用ＬＥＤ３１２８ｇからの光を拡散させて、導光板３１１０の左側面に照射させるものである。

【１３８４】

裏前左装飾ユニット３１２０は、図１５７に示すように、裏前左第一装飾体３１２４の第一表左ロゴ装飾部３１２４ｃ及び第一裏左ロゴ装飾部３１２４ｄ、裏前左第二装飾体３１２５の第二裏左ロゴ装飾部３１２５ｄ、裏前左第三装飾体３１２６の第三裏左ロゴ装飾部３１２６ｄ、が前後に重なることにより一つの裏前左ロゴ装飾部３１２１を形成している。これら、第一表左ロゴ装飾部３１２４ｃ及び第一裏左ロゴ装飾部３１２４ｄ、第二裏左ロゴ装飾部３１２５ｄ、第三裏左ロゴ装飾部３１２６ｄは、前後方向の位置が異なっているため、遊技者の目の位置が移動すると、それらの重なり具合が変化することとなり、複数のアルファベットからなる所定のロゴを立体的に見せることができる。

【１３８５】

また、裏前左装飾ユニット３１２０は、裏前左装飾基板３１２８の第一下ＬＥＤ３１２８ａ、第二下ＬＥＤ３１２８ｃ、第三下ＬＥＤ３１２８ｅ、及び裏前左下装飾基板３１３０の第一ＬＥＤ３１３０ａ、第二ＬＥＤ３１３０ｂ、第三ＬＥＤ３１３０ｃ、を適宜発光させることにより、第一表左ロゴ装飾部３１２４ｃ及び第一裏左ロゴ装飾部３１２４ｄ、第二裏左ロゴ装飾部３１２５ｄ、第三裏左ロゴ装飾部３１２６ｄ、を夫々独立して発光装飾させることができ、裏前左ロゴ装飾部３１２１を多彩な発光態様で発光装飾させることができる。

【１３８６】

更に、裏前左装飾ユニット３１２０は、図１５７に示すように、裏前左第一装飾体３１２４の第一左上ロゴ装飾部３１２４ｅ、裏前左第二装飾体３１２５の第二左上ロゴ装飾部３１２５ｅ、裏前左第三装飾体３１２６の第三左上ロゴ装飾部３１２６ｅ、裏前左装飾体ベース３１２７のベース左上ロゴ装飾部３１２７ｄ、が前後に重なることにより一つの裏前左上ロゴ装飾部３１２２を形成している。これら、第一左上ロゴ装飾部３１２４ｅ、第二左上ロゴ装飾部３１２５ｅ、第三左上ロゴ装飾部３１２６ｅ、ベース左上ロゴ装飾部３１２７ｄ、前後方向の位置が異なっているため、遊技者の目の位置が移動すると、それらの重なり具合が変化することとなり、「Ａ」の文字を図案化したロゴを立体的に見せることができる。

【１３８７】

また、裏前左装飾ユニット３１２０は、正面から見て略同じ位置にある第一左上ロゴ装飾部３１２４ｅ、第二左上ロゴ装飾部３１２５ｅ、第三左上ロゴ装飾部３１２６ｅ、ベース左上ロゴ装飾部３１２７ｄ、のようなロゴでも、裏前左第一装飾体３１２４、裏前左第二装飾体３１２５、裏前左第三装飾体３１２６、裏前左装飾体ベース３１２７、を順次発光装飾させることにより、遊技者に対して動きのある疑似的なアニメーションを見せることができ、遊技者に強くアピールすることができる。このアニメーションのような発光演出は、第一表左ロゴ装飾部３１２４ｃ及び第一裏左ロゴ装飾部３１２４ｄ、第二裏左ロゴ装飾部３１２５ｄ、第三裏左ロゴ装飾部３１２６ｄ、を順次発光装飾させても同様の作用効果を奏することができる。

【１３８８】

また、裏前左装飾ユニット３１２０は、裏前左装飾基板３１２８の第一上ＬＥＤ３１２８ｂ、第二上ＬＥＤ３１２８ｄ、第三上ＬＥＤ３１２８ｆ、ベース上ＬＥＤ３１２８ｉ、及び裏前左上装飾基板３１２９の第一ＬＥＤ、第二ＬＥＤ、第三ＬＥＤ、を適宜発光させ

ることにより、第一左上ロゴ装飾部３１２４ｅ、第二左上ロゴ装飾部３１２５ｅ、第三左上ロゴ装飾部３１２６ｅ、ベース左上ロゴ装飾部３１２７ｄ、を夫々独立して発光装飾させることができ、裏前左上ロゴ装飾部３１２２を多彩な発光態様で発光装飾させることができる。

【１３８９】

更に、裏前左装飾ユニット３１２０は、図１５７に示すように、裏前左第一装飾体３１２４の第一左サブ装飾部３１２４ｆ、裏前左第二装飾体３１２５の第二左サブ装飾部３１２５ｆ、裏前左第三装飾体３１２６の第三左サブ装飾部３１２６ｆ、が前後に重なることにより一つの裏前左サブ装飾部３１２３を形成している。これら、第一左サブ装飾部３１２４ｆ、第二左サブ装飾部３１２５ｆ、第三左サブ装飾部３１２６ｆ、前後方向の位置が異なっているため、遊技者の目の位置が移動すると、それらの重なり具合が変化することとなり、裏前左サブ装飾部３１２３を立体的に見せることができる。

【１３９０】

また、裏前左装飾ユニット３１２０は、裏前左装飾基板３１２８の第一下ＬＥＤ３１２８ａ、第二下ＬＥＤ３１２８ｃ、第三下ＬＥＤ３１２８ｅ、及び裏前左下装飾基板３１３０の第一ＬＥＤ３１３０ａ、第二ＬＥＤ３１３０ｂ、第三ＬＥＤ３１３０ｃ、を適宜発光させることにより、第一左サブ装飾部３１２４ｆ、第二左サブ装飾部３１２５ｆ、第三左サブ装飾部３１２６ｆ、を夫々独立して発光装飾させることができ、裏前左サブ装飾部３１２３を多彩な発光態様で発光装飾させることができる。

【１３９１】

更に、裏前左装飾ユニット３１２０は、裏前左第一装飾体３１２４の区切装飾部３１２４ａ、裏前左第二装飾体３１２５の区切装飾部３１２５ｃ、裏前左第三装飾体３１２６の区切装飾部３１２６ｃ、を備えているため、区切装飾部３１２４ａ、区切装飾部３１２５ｃ、区切装飾部３１２６ｃ、を境にして下側（裏前左ロゴ装飾部３１２１、裏前左サブ装飾部３１２３）と上側（裏前左上ロゴ装飾部３１２２）の発光装飾を明確に区切ることができ、裏前左ロゴ装飾部３１２１及び裏前左サブ装飾部３１２３の発光装飾や裏前左上ロゴ装飾部３１２２の発光装飾による装飾効果をより高めることができる。この際に、区切装飾部３１２４ａ、区切装飾部３１２５ｃ、区切装飾部３１２６ｃ、も発光装飾するため、区切装飾部３１２４ａ、区切装飾部３１２５ｃ、区切装飾部３１２６ｃ、の見栄えを良くすることができると共に発光装飾を楽しませることができる。

【１３９２】

また、裏前左装飾ユニット３１２０は、裏前左装飾基板３１２８の第一下ＬＥＤ３１２８ａ、及び裏前左下装飾基板３１３０の第一ＬＥＤ３１３０ａ、を発光させると、裏前左第一装飾体３１２４の区切装飾部３１２４ａよりも下方の貫通装飾部３１２４ｂを発光装飾させることができる。また、裏前左装飾基板３１２８の第一上ＬＥＤ３１２８ｂ、及び裏前左上装飾基板３１２９の第一ＬＥＤ、を発光させると、裏前左第一装飾体３１２４の区切装飾部３１２４ａよりも上方の貫通装飾部３１２４ｂを発光装飾させることができる。これら貫通装飾部３１２４ｂの発光装飾によっても見栄えを良くすることができる。

【１３９３】

また、裏前左装飾ユニット３１２０は、裏前左装飾基板３１２８の導光板用ＬＥＤ３１２８ｇを発光させることで、裏前右装飾ユニット３１４０における裏前右第一装飾基板３１４８、裏前右第二装飾基板３１４９、及び裏前右導光板用装飾基板３１５０の導光板用ＬＥＤと協働して導光板３１１０の第一絵柄３１１１を発光表示させることができる。

【１３９４】

このように、裏前左装飾ユニット３１２０によれば、裏前左ロゴ装飾部３１２１、裏前左上ロゴ装飾部３１２２、裏前左サブ装飾部３１２３、のような透明感のある立体的な装飾により、遊技領域５ａ内の見栄えを良くすることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【１３９５】

また、裏前左ロゴ装飾部３１２１、裏前左上ロゴ装飾部３１２２、裏前左サブ装飾部３

１２３、を様々な発光態様で発光装飾させることができるため、多彩な発光演出により遊技者を飽きさせ難くすることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【１３９６】

なお、上記では、ＬＥＤからの光を遮断する区切装飾部３１２４ａ、区切装飾部３１２５ｃ、区切装飾部３１２６ｃ、として前後に貫通しているものを示したが、これに限定するものではなく、溝状、突条、としても良い。また、裏前左第二装飾体３１２５に、裏前左第一装飾体３１２４の貫通装飾部３１２４ｂに挿入される突起を設け、突起の挿入により裏前左第一装飾体３１２４を位置決めできるようにしても良い。つまり、貫通装飾部３１２４ｂを位置決孔としても良い。

【１３９７】

［５－９ａ－３．裏前右装飾ユニット］

裏前演出ユニット３１００における裏前右装飾ユニット３１４０は、パチンコ機１（遊技盤５）のコンセプトに沿った所定のロゴを形成しており複数のアルファベットの文字列からなる上下に長い裏前右ロゴ装飾部３１４１と、裏前右ロゴ装飾部３１４１の上方に設けられており「Ａ」の文字を図案化した裏前右上ロゴ装飾部３１４２（図１５１（ｂ）を参照）と、裏前右ロゴ装飾部３１４１の近傍に設けられている裏前右サブ装飾部（図示は省略）と、を有している。

【１３９８】

裏前右装飾ユニット３１４０は、正面視の形状が上下に長い透明な裏前右第一装飾体３１４４と、裏前右第一装飾体３１４４の後方に設けられている透明な裏前右第二装飾体３１４５と、裏前右第二装飾体３１４５の後方に設けられている透明な裏前右第三装飾体３１４６と、裏前右第三装飾体３１４６の後方に設けられている透明な裏前右装飾体ベース３１４７と、を備えている（図１５２を参照）。

【１３９９】

裏前右装飾体ベース３１４７は、上部に上連結ベース３１９０の右端部が取付けられると共に、下部に裏前下演出ユニット３１６０におけるユニットベース３１７８の上端の右端部が取付けられる。また、裏前右装飾体ベース３１４７は、上下方向の中央付近に、上下に一定の高さで全幅に亘って延びており、上下に間隔をあけて設けられている三つの裏前右帯装飾部３１４７ａを有している（図１５１（ｂ）を参照）。

【１４００】

また、裏前右装飾ユニット３１４０は、導光板３１１０の第一絵柄３１１１、裏前右ロゴ装飾部３１４１、裏前右上ロゴ装飾部３１４２、及び裏前右サブ装飾部を発光装飾させるための裏前右第一装飾基板３１４８及び裏前右第二装飾基板３１４９と、導光板３１１０の第一絵柄３１１１を発光装飾させるための裏前右導光板用装飾基板３１５０と、裏前右上ロゴ装飾部３１４２を発光装飾させるための裏前右上装飾基板３１５１と、裏前右ロゴ装飾部３１４１を発光装飾させるための裏前右下装飾基板３１５２と、を備えている（図１５６を参照）。

【１４０１】

また、裏前右装飾ユニット３１４０は、導光板３１１０と裏前右第一装飾基板３１４８との間設けられている右上拡散レンズ３１５３と、導光板３１１０と裏前右第二装飾基板３１４９との間に設けられている右中拡散レンズ３１５４と、導光板３１１０と裏前右導光板用装飾基板３１５０との間に設けられている右下拡散レンズ３１５５と、を備えている（図１５６を参照）。右上拡散レンズ３１５３、右中拡散レンズ３１５４、右下拡散レンズ３１５５は、裏前右第三装飾体３１４６と裏前右装飾体ベース３１４７との間に設けられている。

【１４０２】

更に、裏前右装飾ユニット３１４０は、サイド右中ユニット２７００の一般入賞口２００１に受入れられて第一誘導通路２７０１により後方へ誘導された遊技球Ｂを受取って下方へ誘導する第一裏誘導通路３１５６と、サイド右中ユニット２７００の第二サブアウト口２０２２に受入れられて第二誘導通路により後方へ誘導された遊技球Ｂを受取って下方

へ誘導する第二裏誘導通路３１５７と、を備えている。第一裏誘導通路３１５６内には、一つの一般入賞口センサ３００１が設けられている。第一裏誘導通路３１５６及び第二裏誘導通路３１５７に誘導された遊技球Ｂは、裏前下演出ユニット３１６０を介して下方の基板ホルダ１２００へ排出される。

【１４０３】

また、裏前右装飾ユニット３１４０は、第二アタッカユニット２６００の役物入賞口２００６に受入れられて誘導通路２６１３により後方へ誘導された遊技球Ｂが流通し、Ｖ入賞口２００７及びハズレ口２００８が設けられている振分通路と、振分通路内に進退し役物入賞口２００６に受入れられた遊技球ＢをＶ入賞口２００７及びハズレ口２００８の何れかに振分けるＶ入賞口扉３００６と、Ｖ入賞口扉３００６を進退させるＶ振分ソレノイド３００７と、Ｖ入賞口２００７に振分けられた遊技球Ｂを検知するＶ入賞口センサ３００３と、ハズレ口２００８に振分けられた遊技球Ｂを検知するハズレ口センサ３００４と、を備えている。Ｖ入賞口センサ３００３やハズレ口センサ３００４に検知された遊技球Ｂは、裏前下演出ユニット３１６０を介して下方の基板ホルダ１２００へ排出される。

【１４０４】

裏前右装飾ユニット３１４０における裏前右ロゴ装飾部３１４１、裏前右上ロゴ装飾部３１４２、裏前右サブ装飾部等の構成は、裏前左装飾ユニット３１２０と同じ構成であり、詳細な説明は省略する。

【１４０５】

また、裏前右装飾ユニット３１４０の裏前右第一装飾体３１４４、裏前右第二装飾体３１４５、及び裏前右第三装飾体３１４６には、裏前右ロゴ装飾部３１４１と裏前右上ロゴ装飾部３１４２との間に、左右に延びていると共に前後に貫通している区切装飾部３１４４ａを有している。この区切装飾部３１４４ａにより、裏前右ロゴ装飾部３１４１と裏前右上ロゴ装飾部３１４２とを夫々独立して発光装飾させることができる。

【１４０６】

更に、裏前右第一装飾体３１４４には、前後に貫通している複数の貫通装飾部３１４４ｂを有している。これら複数の貫通装飾部３１４４ｂは、裏前左第一装飾体３１２４の貫通装飾部３１２４ｂと同様の作用効果を奏することができる。

【１４０７】

このように、裏前右装飾ユニット３１４０によれば、裏前左装飾ユニット３１２０と同様に、裏前右ロゴ装飾部３１４１、裏前右上ロゴ装飾部３１４２、裏前右サブ装飾部、のような透明感のある立体的な装飾により、遊技領域５ａ内の見栄えを良くすることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【１４０８】

また、裏前右ロゴ装飾部３１４１、裏前右上ロゴ装飾部３１４２、裏前右サブ装飾部、を様々な発光態様で発光装飾させることができるため、多彩な発光演出により遊技者を飽きさせ難くすることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【１４０９】

また、正面から見て略同じ位置にある裏前右ロゴ装飾部３１４１や裏前右上ロゴ装飾部３１４２において、裏前右第一装飾体３１４４、裏前右第二装飾体３１４５、裏前右第三装飾体３１４６、裏前右装飾体ベース３１４７を順次発光装飾させることにより、遊技者に対して動きのある疑似的なアニメーションを見せることができ、遊技者に強くアピールすることができる。

【１４１０】

［５－９ａ－４．裏前下演出ユニット］

裏前演出ユニット３１００における裏前下演出ユニット３１６０は、左右方向中央の上部に「ＳＰＩＮ」の文字が施されている円盤状の裏前下中装飾体３１６１と、裏前下中装飾体３１６１を前後方向の軸周りに対して回転させる裏前下回転駆動モータ（図示は省略）と、裏前下中装飾体３１６１を昇降させる裏前下昇降駆動モータ３１６２と、を備えている。裏前下中装飾体３１６１は、透光性を有している。

【１４１１】
　また、裏前下演出ユニット３１６０は、裏前下中装飾体３１６１の左側に設けられており同じ大きさの円盤状の裏前下左内装飾体３１６３と、裏前下左内装飾体３１６３の左側に設けられており同じ大きさの円盤状の裏前下左外装飾体３１６４と、裏前下中装飾体３１６１の右側に設けられており同じ大きさの円盤状の裏前下右内装飾体３１６５と、裏前下右内装飾体３１６５の右側に設けられており同じ大きさの円盤状の裏前下右外装飾体３１６６と、を備えている。裏前下左内装飾体３１６３、裏前下左外装飾体３１６４、裏前下右内装飾体３１６５、裏前下右外装飾体３１６６は、透光性を有している。
【１４１２】
　また、裏前下演出ユニット３１６０は、裏前下左外装飾体３１６４の左方に設けられており、「Ｑｕｅｅｎ」の文字が施されている裏前下ロゴ装飾体３１６７を、備えている。裏前下ロゴ装飾体３１６７は、透光性を有している。
【１４１３】
　更に、裏前下演出ユニット３１６０は、裏前下中装飾体３１６１を発光装飾させるための裏前下中装飾基板３１６８と、裏前下左内装飾体３１６３を発光装飾させるための裏前下左内装飾基板３１６９と、裏前下左外装飾体３１６４を発光装飾させるための裏前下左外装飾基板３１７０と、裏前下右内装飾体３１６５を発光装飾させるための裏前下右内装飾基板３１７１と、裏前下右外装飾体３１６６を発光装飾させるための裏前下右外装飾基板３１７２と、裏前下ロゴ装飾体３１６７を発光装飾させるための裏前下ロゴ装飾基板３１７３と、を備えている（図１５６（ｂ）を参照）。
【１４１４】
　これら裏前下中装飾基板３１６８、裏前下左内装飾基板３１６９、裏前下左外装飾基板３１７０、裏前下右内装飾基板３１７１、裏前下右外装飾基板３１７２、裏前下ロゴ装飾基板３１７３は、裏前下中装飾体３１６１、裏前下左内装飾体３１６３、裏前下左外装飾体３１６４、裏前下右内装飾体３１６５、裏前下右外装飾体３１６６、裏前下ロゴ装飾体３１６７、の後方に設けられている。
【１４１５】
　また、裏前下中装飾基板３１６８、裏前下左内装飾基板３１６９、裏前下左外装飾基板３１７０、裏前下右内装飾基板３１７１、裏前下右外装飾基板３１７２、裏前下ロゴ装飾基板３１７３は、前面に複数のフルカラーＬＥＤが実装されていると共に、表面に白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされている。この白色のソルダーレジストにより、ＬＥＤや前方から等の光を反射させることができ、夫々の前方に設けられている装飾体を明るく発光装飾させることができる。
【１４１６】
　また、裏前下中装飾基板３１６８、裏前下左内装飾基板３１６９、裏前下左外装飾基板３１７０、裏前下右内装飾基板３１７１、裏前下右外装飾基板３１７２、裏前下ロゴ装飾基板３１７３には、実装されるＬＥＤ等の電子部品や他の装飾基板との混同を避けるための文字や記号が、明度や彩度の高い色（例えば、黄色）のインクを用いてスクリーン印刷により施されている。これにより、前方に設けられている装飾体を通して、文字や記号を目立ち難くすることができ、装飾体による装飾効果を確実に発揮させることができる。
【１４１７】
　なお、裏前下中装飾基板３１６８に実装されている複数のＬＥＤは、トップビュータイプのＬＥＤである。一方、裏前下左内装飾基板３１６９、裏前下左外装飾基板３１７０、裏前下右内装飾基板３１７１、裏前下右外装飾基板３１７２、裏前下ロゴ装飾基板３１７３に実装されている複数のＬＥＤは、サイドビュータイプのＬＥＤである。
【１４１８】
　また、これらの装飾基板では、ＬＥＤ以外の発光しない部材（例えば、コネクタ、抵抗器、ＬＥＤドライバ、等）が後面（裏面）に設けられており、発光装飾の妨げとならないように配慮がなされている。
【１４１９】

裏前下中装飾体３１６１、裏前下左内装飾体３１６３、裏前下左外装飾体３１６４、裏前下右内装飾体３１６５、裏前下右外装飾体３１６６、裏前下ロゴ装飾体３１６７は、図１５６に示すように、上端から、導光板３１１０の下端よりも上方に位置している。これにより、導光板３１１０の下端が遊技者側（前方）から視認不能となっている。また、裏前下中装飾体３１６１、裏前下左内装飾体３１６３、裏前下左外装飾体３１６４、裏前下右内装飾体３１６５、裏前下右外装飾体３１６６は、夫々の上端が、図１６０に示すように、導光板３１１０の第二絵柄３１１２の下端よりも下方に位置していると共に、第二絵柄３１１２を構成している各ライン群３１１４と対応するような間隔で左右方向に配置されている。

【１４２０】

詳述すると、裏前下中装飾体３１６１は第三ライン群３１１４ｃに、裏前下左内装飾体３１６３は第二ライン群３１１４ｂに、裏前下左外装飾体３１６４は第一ライン群３１１４ａに、裏前下右内装飾体３１６５は第四ライン群３１１４ｄに、裏前下右外装飾体３１６６は第五ライン群３１１４ｅに、夫々対応するように設けられている。従って、裏前下中装飾体３１６１、裏前下左内装飾体３１６３、裏前下左外装飾体３１６４、裏前下右内装飾体３１６５、裏前下右外装飾体３１６６、を発光（上端部のみを発光、又は、全体を発光）させると、第二絵柄３１１２のライン３１１３が、あたかも裏前下中装飾体３１６１、裏前下左内装飾体３１６３、裏前下左外装飾体３１６４、裏前下右内装飾体３１６５、裏前下右外装飾体３１６６、からの光により発光表示されているように遊技者を錯覚させることができ、これまでのパチンコ機にはない発光演出を遊技者に見せることができる。

【１４２１】

また、裏前下演出ユニット３１６０は、裏前下中装飾基板３１６８、裏前下左内装飾基板３１６９、裏前下左外装飾基板３１７０、裏前下右内装飾基板３１７１、裏前下右外装飾基板３１７２、裏前下ロゴ装飾基板３１７３、よりも後方に設けられており、導光板３１１０の第二絵柄３１１２を発光表示（発光装飾）させるための導光板下左装飾基板３１７４及び導光板下右装飾基板３１７５を、備えている（図１５６（ａ）を参照）。

【１４２２】

導光板下左装飾基板３１７４及び導光板下右装飾基板３１７５には、夫々が五つのＬＥＤ３１７６からなる五つのＬＥＤ群３１７７を有している。各ＬＥＤ群３１７７に含まれている五つのＬＥＤ３１７６は、右から、第一ＬＥＤ３１７６ａ、第二ＬＥＤ３１７６ｂ、第三ＬＥＤ３１７６ｃ、第四ＬＥＤ３１７６ｄ、第五ＬＥＤ３１７６ｅ、の順に列設されている。また、各ＬＥＤ群３１７７は、導光板３１１０の第二絵柄３１１２における各ライン群３１１４と対応しており、左から、第一ＬＥＤ群３１７７ａ、第二ＬＥＤ群３１７７ｂ、第三ＬＥＤ群３１７７ｃ、第四ＬＥＤ群３１７７ｄ、第五ＬＥＤ群３１７７ｅ、の順に配置されている。

【１４２３】

導光板下左装飾基板３１７４には、第一ＬＥＤ群３１７７ａと第二ＬＥＤ群３１７７ｂのＬＥＤ３１７６が実装されている。導光板下右装飾基板３１７５には、第三ＬＥＤ群３１７７ｃ、第四ＬＥＤ群３１７７ｄ、第五ＬＥＤ群３１７７ｅ、のＬＥＤ３１７６が実装されている。

【１４２４】

導光板下左装飾基板３１７４及び導光板下右装飾基板３１７５に実装されている複数のＬＥＤ３１７６は、サイドビュータイプのフルカラーＬＥＤである。導光板下左装飾基板３１７４及び導光板下右装飾基板３１７５は、表面に白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされており、この白色のソルダーレジストにより、前方から導光板下左装飾基板３１７４及び導光板下右装飾基板３１７５を目立ち難くしている。また、導光板下左装飾基板３１７４及び導光板下右装飾基板３１７５には、実装されるＬＥＤ３１７６等の電子部品や他の装飾基板との混同を避けるための文字や記号が、明度や彩度の高い色（例えば、黄色）のインクを用いてスクリーン印刷により施されている。これにより、前方

に設けられている装飾体を通して、文字や記号を目立ち難くすることができ、装飾体による装飾効果を確実に発揮させることができる。

【１４２５】

導光板下左装飾基板３１７４及び導光板下右装飾基板３１７５は、各ＬＥＤ群３１７７において、第一ＬＥＤ３１７６ａを発光させると、導光板３１１０の第二絵柄３１１２における対応するライン群３１１４の第一ライン３１１３ａを、発光表示（発光装飾）させることができる。また、第二ＬＥＤ３１７６ｂを発光させると、導光板３１１０の第二絵柄３１１２における第二ライン３１１３ｂを、発光表示（発光装飾）させることができる。また、第三ＬＥＤ３１７６ｃを発光させると、導光板３１１０の第二絵柄３１１２における第三ライン３１１３ｃを、発光表示（発光装飾）させることができる。更に、第四ＬＥＤ３１７６ｄを発光させると、導光板３１１０の第二絵柄３１１２における第四ライン３１１３ｄを、発光表示（発光装飾）させることができる。また、第五ＬＥＤ３１７６ｅを発光させると、導光板３１１０の第二絵柄３１１２における第五ライン３１１３ｅを、発光表示（発光装飾）させることができる。

【１４２６】

これにより、導光板３１１０の第二絵柄３１１２を構成している複数の各ライン３１１３を、夫々独立して発光表示（発光装飾）させることができ、多彩な発光演出を遊技者に見せることができると共に、遊技者を飽きさせ難くすることができ、興趣の低下を抑制させることができる。

【１４２７】

更に、裏前下演出ユニット３１６０は、裏前下中装飾体３１６１、裏前下左内装飾体３１６３、裏前下左外装飾体３１６４、裏前下右内装飾体３１６５、裏前下右外装飾体３１６６、裏前下ロゴ装飾体３１６７、裏前下中装飾基板３１６８、裏前下左内装飾基板３１６９、裏前下左外装飾基板３１７０、裏前下右内装飾基板３１７１、裏前下右外装飾基板３１７２、裏前下ロゴ装飾基板３１７３、導光板下左装飾基板３１７４及び導光板下右装飾基板３１７５、等を支持しており、左右に長い平板状のユニットベース３１７８を備えている。ユニットベース３１７８の上端の左右両端付近に、裏前左装飾ユニット３１２０及び裏前右装飾ユニット３１４０の夫々の下端が取付けられている。

【１４２８】

また、裏前下演出ユニット３１６０は、サイドユニット２２００の三つの一般入賞口２００１に受入れられた遊技球Ｂを受取って下方の基板ホルダ１２００へ排出する第一排出通路３１８１と、始動口ユニット２１００の第一始動口２００２に受入れられた遊技球Ｂを受取って下方の基板ホルダ１２００へ排出する第二排出通路３１８２と、第一アタッカユニット２４００の第二始動口２００４に受入れられた遊技球Ｂを受取って下方の基板ホルダ１２００へ排出する第三排出通路３１８３と、第一アタッカユニット２４００の大入賞口２００５に受入れられた遊技球Ｂを受取って下方の基板ホルダ１２００へ排出する第四排出通路３１８４と、第一アタッカユニット２４００の第一サブアウト口２０２１に受入れられた遊技球Ｂを受取って下方の基板ホルダ１２００へ排出する第五排出通路３１８５と、を備えている。

【１４２９】

第一排出通路３１８１は、サイドユニット２２００の三つの一般入賞口２００１に対応するように受渡口が三つ設けられており、夫々の受渡口に対応するように一般入賞口センサ３００１が三つ設けられている。また、第二排出通路３１８２には、第一始動口センサ３００２が設けられている。

【１４３０】

この裏前下演出ユニット３１６０は、裏前下中装飾体３１６１、裏前下左内装飾体３１６３、裏前下左外装飾体３１６４、裏前下右内装飾体３１６５、裏前下右外装飾体３１６６、裏前下ロゴ装飾体３１６７によって、遊技領域５ａの下部を装飾することができる、見栄えを良くすることができると共に、それらを発光装飾させることで発光演出により遊技者を楽しませることができる。また、裏前下中装飾体３１６１は、裏前下回転駆動モー

タにより回転することができると共に、裏前下昇降駆動モータ３１６２により昇降することができ、可動演出によって遊技者を楽しませることができる。

【１４３１】

また、裏前下演出ユニット３１６０は、導光板下左装飾基板３１７４及び導光板下右装飾基板３１７５の複数のＬＥＤ３１７６により、導光板３１１０の第二絵柄３１１２を発光表示させることができ、第二絵柄３１１２による発光演出を遊技者に楽しませることができる。

【１４３２】

［５－９ｂ．裏後上演出ユニット］

次に、裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００について、主に図１２９及び図１４９等を参照して説明する。裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００は、裏箱３０１０内における裏前演出ユニット３１００の後方の上部に取付けられている。裏後上演出ユニット３２００は、左右に延びた軸周りに回動可能とされていると共に昇降可能とされている裏後上可動装飾体３２１０と、裏前左装飾ユニット３１２０の裏前左装飾体ベース３１２７における三つの裏前左帯装飾部３１２７ｃと続くように、前後方向へ延出している三つの裏後左帯装飾部３２２１を有している裏後左サイド装飾体３２２０と、裏前右装飾ユニット３１４０の裏前右装飾体ベース３１４７における三つの裏前右帯装飾部３１４７ａと続くように、前後方向へ延出している三つの裏後右帯装飾部３２３１を有している裏後右サイド装飾体３２３０（図１３１を参照）と、を備えている。

【１４３３】

裏後上可動装飾体３２１０は、五つの７セグメント表示部が左右に並んでいる裏後上第一装飾部３２１１（図１２９等を参照）と、裏後上第一装飾部３２１１の裏側に設けられており所定の文字（ここでは、「ＪＡＣＫＰＯＴ」）が列設されている裏後上第二装飾部３２１２（図１６２を参照）と、を有している。

【１４３４】

裏後上可動装飾体３２１０の裏後上第一装飾部３２１１は、五つの７セグメント表示部における夫々のセグメントが独立して発光可能とされており、各セグメントの組合せにより多彩な文字や数字、絵柄、等を表示することができる。これにより、第一始動口２００２や第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより抽選された第一特別抽選結果や第二特別抽選結果が「大当り」であるか否かの期待度等を表示することができる。また、裏後上第二装飾部３２１２は、夫々の文字が独立して発光可能とされている。

【１４３５】

裏後上可動装飾体３２１０は、通常の状態では、裏後上第一装飾部３２１１を前方へ向けた状態で、上昇位置の状態としている。この裏後上可動装飾体３２１０は、第一始動口２００２や第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより抽選された第一特別抽選結果や第二特別抽選結果に応じて、或いは、Ｖ入賞口２００７への遊技球Ｂの受入れ（振分け）に応じて、左右に延びた軸周りに対して１８０度回動して裏後上第二装飾部３２１２を前方へ向けたり、上昇位置から下降位置（図１６１及び図１６２を参照）へ移動したりする。

【１４３６】

この裏後上可動装飾体３２１０によれば、回動したり昇降したりすることで、遊技者に対してチャンスの到来を示唆させることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【１４３７】

裏後左サイド装飾体３２２０の三つの裏後左帯装飾部３２２１は、裏前左装飾ユニット３１２０の裏前左装飾体ベース３１２７における左右に延出している三つの裏前左帯装飾部３１２７ｃの夫々の右端から後方へ延出するように設けられている。裏後左帯装飾部３２２１は、夫々が独立して発光可能とされていると共に、前後方向へ光が流れるように発光可能とされている。

【１４３８】

裏後右サイド装飾体３２３０の三つの裏後右帯装飾部３２３１は、裏前右装飾ユニット３１４０の裏前右装飾体ベース３１４７における左右に延出している三つの裏前右帯装飾部３１４７ａの夫々の右端から後方へ延出するように設けられている。裏後右帯装飾部３２３１は、夫々が独立して発光可能とされていると共に、前後方向へ光が流れるように発光可能とされている。

【１４３９】

［５－９ｃ．裏後下演出ユニット］

次に、裏ユニット３０００における裏後下演出ユニット３３００について、主に図１３５等を参照して説明する。裏ユニット３０００の裏後下演出ユニット３３００は、裏箱３０１０内における裏前演出ユニット３１００の後方の下部で裏後上演出ユニット３２００の下方に取付けられている。

【１４４０】

裏後下演出ユニット３３００は、互いに左右に隣接している基端側が夫々前後方向の軸周りに回動可能に支持されていると共に昇降可能に支持されている裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２を、有している。裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２は、基端側の昇降に伴って、互いに相反する方向へ回動するように形成されている。

【１４４１】

裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２は、通常の状態では、夫々の先端側が互いに離間する方向へ回動しており、裏前演出ユニット３１００の後方に隠れて前方（遊技者側）から視認不能な退避位置の状態となっている（図１２９等を参照）。

【１４４２】

裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２は、第一始動口２００２や第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより抽選された第一特別抽選結果や第二特別抽選結果に応じて、基端側を中心として夫々の先端側が上方へ移動するように回動すると共に上昇し、裏後左可動装飾体３３０１の右辺と裏後右可動装飾体３３０２の左辺とが互いに当接して状態となる。これにより、裏後左可動装飾体３３０１と裏後右可動装飾体３３０２とが一体となって一つの大きな装飾体を形成すると共に、前方から視認可能な出現位置の状態となる（図１６３を参照）。

【１４４３】

これにより、裏後左可動装飾体３３０１と裏後右可動装飾体３３０２とで、「Ａ」の文字を図案化した大きな装飾体が中央に出現するため、遊技者を驚かせることができ、遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせて興趣の低下を抑制させることができる。この裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２は、透光性樹脂により形成される発光装飾部を有すると共に、発光装飾部の背部に複数のＬＥＤが実装されている装飾基板が設けられており、複数のＬＥＤにより発光装飾部を発光装飾させることで、見栄えを良くすることができると共に、遊技者の関心を引付けさせることができる。

【１４４４】

この裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２は、図１６７に示すように、出現位置の状態では、導光板３１１０の第一絵柄３１１１の後方に重なるように位置している。これにより、裏後左可動装飾体３３０１と裏後右可動装飾体３３０２とによる大きな装飾体を第一絵柄３１１１により発光装飾させることができるため、裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２による立体の装飾と第一絵柄３１１１による平面の発光表示とにより深みのある装飾を遊技者に見せることができ、遊技者に対して強いインパクトを与えることができると共に、遊技者の関心を強く引付けさせることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【１４４５】

［５－１０．遊技盤における演出］

次に、遊技盤５における主な演出について、主に図１６１乃至図１６８等を参照して詳細に説明する。図１６１は、裏ユニットの裏後上演出ユニットにおける裏後上可動装飾体

の裏後上第一装飾部を前方へ向けた状態で下降位置へ移動させた状態を示す遊技盤の正面図である。図１６２は、裏ユニットの裏後上演出ユニットにおける裏後上可動装飾体を下降位置へ移動させた状態で裏後上第二装飾部を前方へ向けた状態を示す遊技盤の正面図である。図１６３は、裏ユニットの裏後下演出ユニットにおける裏後左可動装飾体及び裏後右可動装飾体を出現位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図である。図１６４は、裏ユニットの裏前演出ユニットの裏前下演出ユニットにおける裏前下中装飾体を上昇させた状態で示す遊技盤の正面図である。

【１４４６】

図１６５は、裏ユニットの裏前演出ユニットにおける裏前左装飾ユニット３１２０の裏前左ロゴ装飾部、裏前左上ロゴ装飾部、裏前左サブ装飾部、及び裏前左帯装飾部を発光装飾させた状態を示す遊技盤の正面図である。図１６６は、裏ユニットの裏前演出ユニットにおける導光板の第一絵柄を発光装飾させた状態で示す遊技盤の正面図である。図１６７は、裏ユニットの裏前演出ユニットにおける導光板の第一絵柄を発光装飾させると共に、裏後下演出ユニットにおける裏後左可動装飾体及び裏後右可動装飾体を出現位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図である。図１６８は、裏ユニットの裏前演出ユニットにおける導光板の第二絵柄を発光装飾させた状態で示す遊技盤の正面図である。

【１４４７】

本実施形態の遊技盤５は、遊技領域５ａの外周を区画している前構成部材１０００、遊技領域５ａの後端側を区画している遊技パネル１１００、始動口ユニット２１００、サイドユニット２２００、サイド左上ユニット２３００、第一アタッカユニット２４００、センター役物２５００、第二アタッカユニット２６００、サイド右中ユニット２７００、及びゲート部材２８００が、略全体的に透明に形成されていることから、通常の状態では、図１３４に示すように、それらを通して、遊技パネル１１００の後方に配置されている裏ユニット３０００における裏前演出ユニット３１００の裏前左装飾ユニット３１２０、裏前右装飾ユニット３１４０、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１、裏前下左内装飾体３１６３、裏前下左外装飾体３１６４、裏前下右内装飾体３１６５、裏前下右外装飾体３１６６、裏前下ロゴ装飾体３１６７、裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後左サイド装飾体３２２０、及び裏後右サイド装飾体３２３０、等を良好に視認することができると共に、センター役物２５００の枠内を通して、演出表示装置１６００に表示されている演出画像を、良好に視認することができる。

【１４４８】

更に詳述すると、裏前左装飾ユニット３１２０の裏前左第一装飾体３１２４等は、センター役物２５００の左辺部付近に位置し、半分ほどがセンター役物２５００の枠内に位置している。また、裏前右装飾ユニット３１４０の裏前右第一装飾体３１４４等は、センター役物２５００の右辺部付近に位置し、一部がセンター役物２５００の枠内に位置している。裏前下演出ユニット３１６０は、遊技領域５ａの下部で左右に延びており、透明な遊技パネル１１００及びセンター役物２５００を通して視認することができると共に、一部がセンター役物２５００の枠内を通して良好に視認することができる。

【１４４９】

また、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１は、第一始動口２００２の上方でセンター役物２５００のステージ２５１３の後方に位置している。裏前下左内装飾体３１６３及び裏前下左外装飾体３１６４は、サイドユニット２２００の一般入賞口２００１の上方でセンター役物２５００の下辺付近に位置している。裏前下右内装飾体３１６５及び裏前下右外装飾体３１６６は第一アタッカユニット２４００の大入賞口２００５の上方でセンター役物２５００の下辺付近に位置している。裏前下中装飾体３１６１、裏前下左内装飾体３１６３、裏前下左外装飾体３１６４、裏前下右内装飾体３１６５、裏前下右外装飾体３１６６は、上部がセンター役物２５００の枠内に位置している。裏前下ロゴ装飾体３１６７は、センター役物２５００よりも外側で遊技領域５ａの左下隅に位置している。

【１４５０】

また、裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０は、上昇位置に位置していることから遊技領域５ａの上部で左右に延びており、左右方向中央より左側の上部が、透明な遊技パネル１１００及びセンター役物２５００を通して視認することができると共に、一部がセンター役物２５００の枠内を通して良好に視認することができる。裏後上可動装飾体３２１０は、複数の７セグメント部を有している裏後上第一装飾部３２１１を前方へ向けている。

【１４５１】

裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２は、裏前下演出ユニット３１６０の後方の退避位置の状態となっており、前方（遊技者側）から視認不能となっている。

【１４５２】

遊技盤５は、第一始動口２００２や第二始動口２００４に遊技球Ｂが受入れられることで抽選される第一特別抽選結果や第二特別抽選結果に応じて、裏ユニット３０００の裏前演出ユニット３１００、裏後上演出ユニット３２００、及び裏後下演出ユニット３３００、等が所定の可動演出や発光演出を行う。

【１４５３】

具体的には、裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０を用いた可動演出としては、例えば、図１６１に示すように、五つの７セグメント部を有している裏後上第一装飾部３２１１を前方へ向けたままの状態で、裏後上可動装飾体３２１０を上昇位置から下降位置へ移動させる。これにより、裏後上可動装飾体３２１０の殆どが、センター役物２５００の枠内に位置することから、裏後上第一装飾部３２１１が良好な状態で視認することができるようになる。この際に、裏後上第一装飾部３２１１の五つの７セグメント部を変動表示させることで、遊技者の関心を強く引付けさせることができ、五つの７セグメント部に所望の数字や絵柄が表示されるか否かによって遊技者をハラハラ・ドキドキさせることができる。

【１４５４】

また、裏後上可動装飾体３２１０を用いた演出としては、例えば、上記のように、裏後上第一装飾部３２１１を前方へ向けたまま下降位置へ移動させた後に、図１６２に示すように、左右方向の軸周りに１８０度回動させて、複数の文字列を有している裏後上第二装飾部３２１２を前方へ向ける。これにより、「ＪＡＣＫＰＯＴ」の文字が前方へ向くため、遊技者に対して「大当り」であることを認識させることができ、遊技者が有利となる有利遊技状態（「大当り」遊技状態）に対する期待感を高めさせて興趣の低下を抑制させることができる。

【１４５５】

更に、裏後上可動装飾体３２１０を用いた演出としては、例えば、左右方向の軸周りに回動させる際に、裏後上第一装飾部３２１１と裏後上第二装飾部３２１２の中間の部位で、正転・逆転を繰り返すようにして、裏後上第一装飾部３２１１又は裏後上第二装飾部３２１２の何れかを前方へ向けて回動停止させるようにしても良い。これにより、裏後上第二装飾部３２１２の「ＪＡＣＫＰＯＴ」が前方へ向くか否かによって、遊技者をハラハラは・ドキドキさせることができ、遊技者の期待感を高めさせて興趣の低下を抑制させることができる。

【１４５６】

また、裏後上可動装飾体３２１０を用いた演出としては、例えば、上昇位置の状態のままで、左右方向の軸周りに１８０度回動させて裏後上第二装飾部３２１２を前方へ向けるようにしても良い。

【１４５７】

また、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２を用いた演出としては、例えば、図１６３に示すように、夫々の先端が互いに離反して下方に位置している退避位置の状態から、夫々の基端側において、夫々の先端が上昇して互いに接するように、前後に延びた軸周りに互いに相反する方向へ回動させると共

に上昇させて、互いを当接させた出現位置へ移動させる。これにより、裏後左可動装飾体３３０１と裏後右可動装飾体３３０２とで、「Ａ」の文字を図案化した一つの大きな装飾体が、演出表示装置１６００の表示画面の前方で遊技領域５ａの中央に出現することとなるため、遊技者を大いに驚かせることができ、遊技者の関心を強く引付けさせることができると共に、遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技に対する期待感を高めさせて興趣の低下を抑制させることができる。

【１４５８】

更に、裏前演出ユニット３１００の裏前下演出ユニット３１６０における裏前下中装飾体３１６１を用いた演出としては、例えば、図１６４に示すように、上昇させたり、前後方向の軸周りに対して回転させたりする。これにより、遊技領域５ａ内の中央の下部において、裏前下中装飾体３１６１が回転するため、遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技に対する期待感を高めさせることができる。また、裏前下中装飾体３１６１は、第一始動口２００２の直上でステージ２５１３の後方に設けられていることから、裏前下中装飾体３１６１が回転したり昇降したりすることで、遊技者に対して第一始動口２００２を狙った遊技球Ｂの打込操作を促すことができ、パチンコ機１本来の遊技球Ｂの打込操作を楽しませることができる。

【１４５９】

また、裏前演出ユニット３１００の裏前左装飾ユニット３１２０を用いた演出としては、例えば、図１６５に示すように、裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９、及び裏前左下装飾基板３１３０、に実装されているＬＥＤを適宜発光させることで、裏前左ロゴ装飾部３１２１、裏前左上ロゴ装飾部３１２２、裏前左サブ装飾部３１２３、裏前左帯装飾部３１２７ｃ、等を発光装飾させる発光演出を行うことができる。例えば、裏前左ロゴ装飾部３１２１において、第一表左ロゴ装飾部３１２４ｃ及び第一裏左ロゴ装飾部３１２４ｄ、第二裏左ロゴ装飾部３１２５ｄ、第三裏左ロゴ装飾部３１２６ｄ、を順番に発光装飾させることで、前後に流れるようなネオンサインのような発光演出を見せることができ、遊技者を楽しませることができる。

【１４６０】

なお、図示は省略するが、裏前右装飾ユニット３１４０においても、裏前左装飾ユニット３１２０と同様の発光演出を行うことができ、遊技者を楽しませることができる。

【１４６１】

更に、裏前演出ユニット３１００の導光板３１１０を用いた演出としては、例えば、図１６６に示すように、裏前左装飾ユニット３１２０における裏前左装飾基板３１２８の複数の導光板用ＬＥＤ３１２８ｇと、裏前右装飾ユニット３１４０における裏前右第一装飾基板３１４８、裏前右第二装飾基板３１４９、及び裏前右導光板用装飾基板３１５０の複数の導光板用ＬＥＤとを発光させて、第一絵柄３１１１を発光表示（発光装飾）させる。これにより、演出表示装置１６００の表示画面の前方で遊技領域５ａの中央に、「Ａ」の文字を図案化した大きな第一絵柄３１１１が発光表示されるため、遊技者を驚かせることができ、遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせて興趣の低下を抑制させることができる。

【１４６２】

また、導光板３１１０を用いた演出としては、例えば、図１６７に示すように、第一絵柄３１１１を発光表示させると共に、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２を退避位置から出現位置へ移動させる。これにより、第一絵柄３１１１と、裏後左可動装飾体３３０１と裏後右可動装飾体３３０２とによる大きな装飾体とが、前後に重なった状態となるため、遊技者に対して強いインパクトを与えることができ、遊技者を楽しませることができると共に、遊技者に対して遊技者が有利となる有利遊技状態（例えば、「大当り」遊技）が発生するのではないかと思わせることができ、遊技に対する期待感を高めさせることができる。

【１４６３】

また、導光板３１１０を用いた演出としては、例えば、図１６８に示すように、裏前下

演出ユニット３１６０の導光板下左装飾基板３１７４及び導光板下右装飾基板３１７５の複数のＬＥＤ３１７６を適宜発光させて、第二絵柄３１１２を発光表示（発光装飾）させる。これにより、裏前下演出ユニット３１６０における裏前下中装飾体３１６１、裏前下左内装飾体３１６３、裏前下左外装飾体３１６４、裏前下右内装飾体３１６５、裏前下右外装飾体３１６６、の五つの装飾体の上方の部位を起点として上方へ延出した複数のライン３１１３が発光表示されるため、あたかもコンサートステージにおける下方からのサーチライトのような発光演出を遊技者に見せることができ、遊技領域５ａ内を煌びやかに見せて遊技者を楽しませることができる。

【１４６４】

また、導光板３１１０を用いた演出としては、例えば、図１６８に示すように、第二絵柄３１１２を発光表示させた状態で、裏前下演出ユニット３１６０における裏前下中装飾体３１６１、裏前下左内装飾体３１６３、裏前下左外装飾体３１６４、裏前下右内装飾体３１６５、裏前下右外装飾体３１６６、の上端部又は全体を発光装飾させるようにしても良い。或いは、第二絵柄３１１２における発光表示されているライン群３１１４の下方に位置する装飾体を発光装飾させるようにしても良い。これにより、第二絵柄３１１２を構成しているライン３１１３が、裏前下中装飾体３１６１、裏前下左内装飾体３１６３、裏前下左外装飾体３１６４、裏前下右内装飾体３１６５、裏前下右外装飾体３１６６、等の装飾体からの光によって発光表示されているように遊技者を錯覚させることができ、これまでにない発光演出を遊技者に見せて楽しませることができる。

【１４６５】

更に、図示は省略するが、導光板３１１０の第二絵柄３１１２を発光表示させると共に、裏後上可動装飾体３２１０を下降位置へ移動させるようにしても良い。これにより、裏後上可動装飾体３２１０が下方からサーチライトで照らされているような発光演出を遊技者に見せることができるため、裏後上可動装飾体３２１０をゴージャスに見せて楽しませることができる。

【１４６６】

なお、本実施形態の遊技盤５では、上記したような発光演出と可動演出とを適宜組合せることができる共に、演出表示装置１６００の表示画面に表示される演出画像（表示演出）とも組合せることができる。これにより、発光演出、表示演出、等を適宜組合せることで多彩なパターンの演出を遊技者に提示することができ、遊技者を飽きさせ難くすることができると共に、各種の演出によって遊技者を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。

【１４６７】

［６．制御構成］

次に、パチンコ機１の各種制御を行う制御構成について、図１６９等を参照して説明する。図１６９は、パチンコ機の制御構成を概略で示すブロック図である。パチンコ機１の主な制御構成は、図示するように、遊技盤５に取付けられる主制御基板１３１０及び周辺制御基板１５１０と、本体枠４に取付けられる払出制御基板６３３と、から構成されており、夫々の制御が分担されている。主制御基板１３１０は、遊技動作（遊技の進行）を制御する。周辺制御基板１５１０は、主制御基板１３１０からのコマンドに基づいて遊技中の各種演出を制御する周辺制御部１５１１と、周辺制御部１５１１からのコマンドに基づいて演出表示装置１６００での演出画像の表示を制御する演出表示制御部１５１２と、を備えている。払出制御基板６３３は、遊技球Ｂの払出し等を制御する払出制御部６３３ａと、ハンドル１９５の回転操作による遊技球Ｂの発射を制御する発射制御部６３３ｂと、を備えている。

【１４６８】

［６－１．主制御基板］

遊技の進行を制御する主制御基板１３１０は、詳細な図示は省略するが、各種処理プログラムや各種コマンドを記憶するＲＯＭや一時的にデータを記憶するＲＡＭ等が内蔵されるマイクロプロセッサである主制御ＭＰＵ１３１０ａと、入出力デバイス（Ｉ／Ｏデバイ

ス）としての主制御Ｉ／Ｏポートと、各種検出スイッチからの検出信号が入力される主制御入力回路と、各種ソレノイドを駆動するための主制御ソレノイド駆動回路１３１０ｄと、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されているＲＡＭに記憶された情報を完全に消去するためのＲＡＭクリアスイッチと、設定値の表示やエラー表示を行うための設定表示器１３１０ｇ、入球数（遊技盤５に区画形成される遊技領域５ａに設けられる入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数）に対する払出数（入賞口への入球により賞球として払い出される（付与される）遊技球Ｂの球数）の割合算出結果を表示するためのベースモニタ１３１０ｈと、を備えている。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、その内蔵されたＲＯＭやＲＡＭのほかに、その動作（システム）を監視するウォッチドックタイマや不正を防止するための機能等も内蔵されている。

【１４６９】

主制御ＭＰＵ１３１０ａには、その内蔵されているＲＡＭ（以下、「主制御内蔵ＲＡＭ」と記載する。）や、その内蔵されているＲＯＭ（以下、「主制御内蔵ＲＯＭ」と記載する。）のほかに、その動作（システム）を監視するウォッチドックタイマ（以下、「主制御内蔵ＷＤＴ」と記載する。）や不正を防止するための機能等も内蔵されている。

【１４７０】

また、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、不揮発性のＲＡＭが内蔵されている。この不揮発性のＲＡＭには、主制御ＭＰＵ１３１０ａを製造したメーカーによって個体を識別するためのユニークな符号（世界で１つしか存在しない符号）が付された固有のＩＤコードが予め記憶されている。この一度付されたＩＤコードは、不揮発性のＲＡＭに記憶されるため、外部装置を用いても書き換えることができない。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、不揮発性のＲＡＭからＩＤコードを取り出して参照することができるようになっている。

【１４７１】

また、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、電気的なノイズの影響を受けると、ハードウェアによって強制的にリセットがかかる回路も内蔵されている（以下、「内蔵リセット回路」と記載する）。内蔵リセット回路は、主制御ＭＰＵ１３１０ａの所定のレジスタの内容を監視して、つじつまの合わない内容にレジスタが変化した場合に、電気的なノイズの影響を受けたとして、主制御ＭＰＵ１３１０ａを強制的にリセットする回路である。このような内蔵リセット回路による強制リセットは、ユーザプログラムによって制御して無効化することができない仕組みとなっている。このため、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、内蔵リセット回路による強制リセットがかかると、後述する主制御側電源断時処理を実行することなく、リセットがかかり、再び、後述する主制御側電源投入時処理を実行することとなる。この場合、主制御側電源断時処理が実行されていないため、後述するように、必ず主制御内蔵ＲＡＭのチェックサム（サム値）エラーとなるため、主制御内蔵ＲＡＭの内容が完全に消去（クリア）されることとなる。なお、主制御ＭＰＵ１３１０ａが内蔵リセット回路により強制リセットがかかったとしても、主制御ＭＰＵ１３１０ａの内蔵リセット回路から払出制御基板６３３に対してリセット信号を出力することがないため、主制御基板１３１０（主制御ＭＰＵ１３１０ａ）のみが再起動することとなり、払出制御基板６３３は起動した状態が維持されている。

【１４７２】

また、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、遊技に関する各種乱数のうち、大当り遊技状態や小当り遊技状態を発生させるか否かの決定に用いるための特別乱数をハードウェアにより更新するハード乱数回路（以下、「主制御内蔵ハード乱数回路」と記載する。）が内蔵されている。この主制御内蔵ハード乱数回路は、予め定めた数値範囲（本実施形態では、最小値として値０～最大値として値６５５３５という数値範囲が予め設定されている。）内において乱数を生成し、初期値として予め定めた値が固定されず（つまり、初期値が固定されず）、主制御ＭＰＵ１３１０ａがリセットされるごとに異なる値がセットされるように回路構成されている。具体的には、主制御内蔵ハード乱数回路は、主制御ＭＰＵ１３１０ａがリセットされると、まず、予め定めた数値範囲内における一の値を初期値として、主制御ＭＰＵ１３１０ａに入力されるクロック信号（主制御ＭＰＵ１３１０ａと別体に設け

た図示しない水晶発振器から出力されるクロック信号）に基づいて高速に予め定めた数値範囲内における他の値を重複することなく次々に抽出し、予め定めた数値範囲内におけるすべての値を抽出し終えると、再び、予め定めた数値範囲内における一の値を抽出して、主制御ＭＰＵ１３１０ａに入力されるクロック信号に基づいて高速に予め定めた数値範囲内における他の値を重複することなく次々に抽出する。このような高速な抽選を主制御内蔵ハード乱数回路が繰返し行い、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、主制御内蔵ハード乱数回路から値を取得する時点における主制御内蔵ハード乱数回路が抽出した値を特別乱数としてセットするようになっている。

【１４７３】

主制御入力回路は、その各種入力端子に各種センサからの検出信号がそれぞれ入力された情報を強制的にリセットするためのリセット端子が設けられず、リセット機能を有していない。このため、主制御入力回路は、図示しない主制御システムリセットからのシステムリセット信号が入力されない回路として構成されている。つまり、主制御入力回路は、その各種入力端子に入力されている各種センサからの検出信号に基づく情報が主制御システムリセットによりリセットされないことによって、その情報に基づく各種信号がその各種出力端子から出力される回路として構成されている。

【１４７４】

主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、第一始動口２００２に受入れられた遊技球Ｂを検出する第一始動口センサ３００２、第二始動口２００４に受入れられた遊技球Ｂを検出する第二始動口センサ２４０１、一般入賞口２００１に受入れられた遊技球Ｂを検出する一般入賞口センサ３００１、ゲート２００３を通過した遊技球Ｂを検知するゲートセンサ２８０１、大入賞口２００５に受入れられた遊技球Ｂを検知する大入賞口センサ２４０２、役物入賞口２００６に受入れられた遊技球Ｂを検知する役物入賞口センサ２６０１、Ｖ入賞口２００７に受入れられた遊技球Ｂを検知するＶ入賞口センサ３００３、ハズレ口２００８に受入れられた遊技球Ｂを検知するハズレ口センサ３００４、遊技盤５から排出された遊技球Ｂを検知するアウトセンサ６６４、遊技領域５ａ内における不正な磁気を検知する磁気センサ１０５０、及び遊技盤５に作用する振動を検知する振動センサ、等からの検出信号は、主制御入力回路を介して主制御ＭＰＵ１３１０ａの所定の入力ポートの入力端子に入力されている。

【１４７５】

また、設定変更基板１３１１に備える設定キースイッチ１３１１ａ、設定切替ボタン１３１１ｂからのそれぞれの検出信号は、主制御入力回路を介して主制御ＭＰＵ１３１０ａの所定の入力ポートの入力端子に入力されている。

【１４７６】

また、扉枠開放スイッチからの検出信号と本体枠開放スイッチからの検出信号とは、払出制御基板６３３を介して（経由して、つまり、後述する、払出制御入力回路、そして払出制御出力回路を介すことなく、そのまま）、主制御基板１３１０へそれぞれ入力されると、主制御入力回路を介して、主制御ＭＰＵ１３１０ａの所定の入力ポートの入力端子にそれぞれ入力されている。

【１４７７】

なお、アウトセンサ６６４、第一始動口センサ３００２、及び第二始動口センサ２４０１からのそれぞれの検出信号は、他の基板を介すことなく、つまり直接、主制御基板１３１０に入力され、主制御入力回路を介して主制御ＭＰＵ１３１０ａの所定の入力ポートの入力端子に入力されている。これに対して、一般入賞口センサ３００１、ゲートセンサ２８０１、大入賞口センサ２４０２、役物入賞口センサ２６０１、Ｖ入賞口センサ３００３、ハズレ口センサ３００４、磁気センサ１０５０、及び振動センサからのそれぞれの検出信号は、パネル中継基板１７１０を介して、つまり間接的に、主制御基板１３１０に入力され、主制御入力回路を介して主制御ＭＰＵ１３１０ａの所定の入力ポートの入力端子に入力されている。

【１４７８】

主制御ＭＰＵ１３１０ａは、これらの検出信号に基づいて、その所定の出力ポートの出力端子から主制御ソレノイド駆動回路に制御信号を出力することにより、主制御ソレノイド駆動回路から始動口ソレノイド２４１２、アタッカソレノイド２４１４、役物入賞口ソレノイド２６１２、Ｖ振分ソレノイド３００７、へそれぞれの駆動信号を、パネル中継基板１７１０を介して、つまり間接的に、出力したり、その所定の出力ポートの出力端子から機能表示ユニット１４００の状態表示器、普通図柄表示器、普通保留表示器、第一特別図柄表示器、第一特別保留数表示器、第二特別図柄表示器、第二特別保留数表示器、ラウンド表示器、へそれぞれの駆動信号を、他の基板を介すことなく、つまり直接、出力したり、する。また、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、これらの検出信号に基づいて、その所定の出力ポートの出力端子から駆動信号を出力することにより、設定変更基板１３１１の設定変更許可ランプ１３１１ｃへ駆動信号を出力する。

【１４７９】

また、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、その所定の出力ポートの出力端子から遊技に関する各種情報（遊技情報）を出力することにより、払出制御基板６３３に対して遊技に関する各種情報（遊技情報）を出力したり、その所定の出力ポートの出力端子から信号（停電クリア信号）を出力することにより、停電監視回路に対して信号（停電クリア信号）を出力したり、その所定の出力ポートの出力端子から遊技球Ｂの発射を許可する旨を伝える発射許可信号を出力することにより、払出制御基板６３３に対して遊技球Ｂの発射を許可する旨を伝える発射許可信号を出力したりする。この発射を許可する旨を伝える発射許可信号の論理は、発射を許可するときには発射許可論理に設定される一方、発射を許可しないときには発射許可論理を反転させた発射停止論理（発射非許可論理）に設定される。なお、発射許可信号の論理は、初期値（デフォルト）として、パチンコ機１が電源投入されてから（復電してから）後述する主制御側タイマ割り込み処理における発射許可信号設定処理が開始されるまでに亘って、発射許可論理を反転させた発射停止論理（発射非許可論理）に設定されるようにリセット機能付き主制御出力回路を含むハードウェアにより構成されている。

【１４８０】

なお、本実施形態おいて、第一始動口センサ３００２、第二始動口センサ２４０１、ゲートセンサ２８０１、大入賞口センサ２４０２、役物入賞口センサ２６０１、Ｖ入賞口センサ３００３、ハズレ口センサ３００４、アウトセンサ６６４には、非接触タイプの電磁式の近接スイッチを用いているのに対して、一般入賞口センサ３００１には、接触タイプのＯＮ／ＯＦＦ動作式のメカニカルスイッチを用いている。これは、遊技球Ｂが、第一始動口２００２や第二始動口２００４、ゲート２００３には頻繁に入球又は通過するため、第一始動口センサ３００２、第二始動口センサ２４０１、及びゲートセンサ２８０１による遊技球Ｂの検出も頻繁に発生する。このため、第一始動口センサ３００２、第二始動口センサ２４０１、及びゲートセンサ２８０１には、耐久性が高く寿命の長い近接スイッチを用いている。

【１４８１】

また、遊技者にとって有利となる有利遊技状態（「大当り」遊技、等）が発生すると、大入賞口２００５が開放されて遊技球Ｂが頻繁に入球するため、大入賞口センサ２４０２による遊技球Ｂの検出も頻繁に発生する。このため、大入賞口センサ２４０２にも、耐久性が高く寿命の長い近接スイッチを用いている。また、遊技領域５ａに発射された遊技球Ｂは、遊技盤５に区画形成される遊技領域５ａに設けられるアウト口１００８により多量に回収されるため、アウトセンサ６６４による遊技球Ｂの検出も頻繁に発生する。このため、アウトセンサ６６４に対しても、耐久性が高く寿命の長い近接スイッチを用いている。これに対して、遊技球Ｂが頻繁に入球しない一般入賞口２００１には、一般入賞口センサ３００１による検出も頻繁に発生しない。このため、一般入賞口センサ３００１には、近接スイッチより寿命が短いメカニカルスイッチを用いている。なお、一般入賞口２００１に遊技球Ｂが頻繁に入球するしないに関係なく、耐久性が高く寿命の長い近接スイッチを用いてもよい。

【１４８２】
　また、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、遊技に関する各種情報（遊技情報）及び払出しに関する各種コマンド等を払出制御基板６３３に送信したり、この払出制御基板６３３からのパチンコ機１の状態に関する各種コマンド等を受信したりする。更に、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、遊技演出の制御に関する各種コマンド及びパチンコ機１の状態に関する各種コマンドを、主制御Ｉ／Ｏポートを介して周辺制御基板１５１０の周辺制御部１５１１に送信したりする。なお、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、その詳細な説明は後述するが、払出制御基板６３３からパチンコ機１の状態に関する各種コマンドを受信すると、これらの各種コマンドを整形して周辺制御部１５１１に送信する。
【１４８３】
　主制御基板１３１０には、詳細な説明は後述するが、基板ユニット６２０の電源基板６３０から各種電圧が供給されている。この主制御基板１３１０に各種電圧を供給する電源基板６３０は、電源遮断時にでも所定時間、主制御基板１３１０に電力を供給するためのバックアップ電源としての電気二重層キャパシタ（以下、単に「キャパシタ」と記載する。）を備えている。このキャパシタにより主制御ＭＰＵ１３１０ａは、電源遮断時にでも電源断時処理において各種情報をＲＡＭに記憶することができる。この記憶した各種情報は、電源投入時に主制御基板１３１０のＲＡＭクリアスイッチが操作されると、ＲＡＭから完全に消去（クリア）される。このＲＡＭクリアスイッチの操作信号（検出信号）は、払出制御基板６３３にも出力される。
【１４８４】
　また、主制御基板１３１０には、停電監視回路が設けられている。この停電監視回路は、電源基板６３０から供給される各種電圧の低下を監視しており、それらの電圧が停電予告電圧以下となると、停電予告として停電予告信号を出力する。この停電予告信号は、主制御Ｉ／Ｏポートを介して主制御ＭＰＵ１３１０ａに入力される他に、払出制御基板６３３等にも出力されている。
【１４８５】
［６－２．払出制御基板］
　遊技球Ｂの払出し等を制御する払出制御基板６３３は、各種電子部品が実装される実装面６３３ｘと、電子部品が実装されないハンダ面６３３ｙと、を有し（片面実装）、実装面６３３ｘには、払出しに関する各種制御を行う払出制御部６３３ａと、発射ソレノイド５４２による発射制御を行うとともに、球送給ソレノイド１４５による球送給制御を行う発射制御部６３３ｂと、パチンコ機１の状態を表示するエラーＬＥＤ表示器と、エラーＬＥＤ表示器に表示されているエラーを解除するための押圧操作部を有するエラー解除スイッチと、メンテナンスの際に、球タンク５５２、タンクレール５５３、球誘導ユニット５７０、及び払出装置５８０内の遊技球Ｂを、パチンコ機１の外部（上皿２０１）に排出して、球抜き動作を開始するための球抜スイッチと、を備えている。なお、本例の払出制御基板６３３は、基板表面に設けられたスルーホールにリード端子を挿入してハンダ付けされるリードタイプ（スルーホール実装タイプ、挿入実装タイプ）の電子部品のみが実装されるが、リードタイプ（スルーホール実装タイプ、挿入実装タイプ）の電子部品と、スルーホールを用いることなしに基板表面に設けられたパッドに電極（接続端子）がハンダ付けされる表面実装タイプの電子部品（チップ部品、ＳＭＤ（Ｓｕｒｆａｃｅ　Ｍｏｕｎｔ　ＤｅｖＩＣｅ））と、の両方が実装される混載基板としてもよいし、表面実装タイプの電子部品（チップ部品、ＳＭＤ（Ｓｕｒｆａｃｅ　Ｍｏｕｎｔ　ＤｅｖＩＣｅ））のみが実装される基板としてもよい。
【１４８６】
［６－２ａ．払出制御部］
　払出制御基板６３３における払出しに関する各種制御を行う払出制御部６３３ａは、詳細な図示は省略するが、各種処理プログラムや各種コマンドを記憶するＲＯＭや一時的にデータを記憶するＲＡＭ等が内蔵されるマイクロプロセッサである払出制御ＭＰＵと、Ｉ／Ｏデバイスとしての払出制御Ｉ／Ｏポートと、払出制御ＭＰＵが正常に動作しているか

否かを監視するための外部ＷＤＴ（外部ウォッチドックタイマ）と、払出装置５８０の払出モータ５８４に駆動信号を出力するための払出モータ駆動回路と、払出しに関する各種検出スイッチからの検出信号が入力される払出制御入力回路と、を備えている。払出制御ＭＰＵには、その内蔵されたＲＯＭやＲＡＭのほかに、不正を防止するため機能等も内蔵されている。

【１４８７】

払出制御部６３３ａの払出制御ＭＰＵは、主制御基板１３１０からの遊技に関する各種情報（遊技情報）及び払い出しに関する各種コマンドを払出制御Ｉ／Ｏポートを介してシリアル方式で受信したり、主制御基板１３１０からのＲＡＭクリアスイッチの操作信号（検出信号）が払出制御Ｉ／Ｏポートを介して入力されたりする他に、満タン検知センサ１５４からの検出信号が入力されたり、球切検知センサ５７４、払出検知センサ５９１、及び羽根回転検知センサ５９０からの検出信号が入力される。

【１４８８】

球誘導ユニット５７０の球切検知センサ５７４、払出装置５８０の払出検知センサ５９１及び羽根回転検知センサ５９０からの検出信号は、払出制御入力回路に入力され、払出制御Ｉ／Ｏポートを介して払出制御ＭＰＵに入力される。

【１４８９】

また、本体枠４に対する扉枠３の開放を検出する扉枠開放スイッチ、及び外枠２に対する本体枠４の開放を検出する本体枠開放スイッチからの検出信号は、払出制御入力回路に入力され、払出制御Ｉ／Ｏポートを介して払出制御ＭＰＵに入力される。

【１４９０】

また、ファールカバーユニット１５０の満タン検知センサ１５４からの検出信号、払出装置５８０の羽根回転検知センサ５９０からの検出信号、払出装置５８０の払出検知センサ５９１からの検出信号、主制御基板１３１０の停電監視回路からの停電予告信号、エラー解除スイッチからのエラー解除信号は、払出制御入力回路を介して、払出制御ＭＰＵの所定の入力ポートへ入力されている。

【１４９１】

払出制御ＭＰＵは、払出モータ５８４を駆動するための駆動信号を、払出制御Ｉ／Ｏを介して払出モータ５８４に出力したり、パチンコ機１の状態をエラーＬＥＤ表示器に表示するための信号を、払出制御Ｉ／Ｏポートを介してエラーＬＥＤ表示器に出力したり、パチンコ機１の状態を示すためのコマンドを、払出制御Ｉ／Ｏポートを介して主制御基板１３１０にシリアル方式で送信したり、実際に払出した遊技球Ｂの球数を払出制御Ｉ／Ｏポートを介して外部端子板５５８に出力したりする。この外部端子板５５８は、遊技ホール側に設置されたホールコンピュータに接続されている。このホールコンピュータは、パチンコ機１が払出した遊技球Ｂの球数やパチンコ機１の遊技情報等を把握することにより遊技者の遊技を監視している。

【１４９２】

エラーＬＥＤ表示器（図示は省略）は、セグメント表示器であり、英数字や図形等を表示してパチンコ機１の状態を表示している。エラーＬＥＤ表示器が表示して報知する内容としては、次のようなものがある。例えば、図形「－」が表示されているときには「正常」である旨を報知し、数字「０」が表示されているときには「接続異常」である旨（具体的には、主制御基板１３１０と払出制御基板６３３との基板間の電気的な接続に異常が生じている旨）を報知し、数字「１」が表示されているときには「球切れ」である旨（具体的には、球切検知センサ５７４からの検出信号に基づいて払出装置５８０内に遊技球Ｂがない旨）を報知し、数字「２」が表示されているときには「球がみ」である旨（具体的には、羽根回転検知センサ５９０からの検出信号に基づいて払出装置５８０の払出通路５８０ａと払出羽根５８９との間に遊技球Ｂがかみ込んで払出羽根５８９が回転困難となっている旨）を報知し、数字「３」が表示されているときには「計数スイッチエラー」である旨（具体的には、払出検知センサ５９１からの検出信号に基づいて払出検知センサ５９１に不具合が生じている旨）を報知し、数字「５」が表示されているときには「リトライエ

ラー」である旨（具体的には、払出し動作のリトライ回数が予め設定された上限値に達した旨）を報知し、数字「６」が表示されているときには「満タン」である旨（具体的には、満タン検知センサ１５４からの検出信号に基づいてファールカバーユニット１５０内に貯留された遊技球Ｂで満タンである旨）を報知し、数字「７」が表示されているときには「ＣＲ未接続」である旨（払出制御基板６３３からＣＲユニットまでに亘るいずれかにおいて電気的な接続が切断されている旨）を報知し、数字「９」が表示されているときには「ストック中」である旨（具体的には、まだ払出していない遊技球Ｂの球数が予め定めた球数に達している旨）を報知している。

【１４９３】

球貸ボタン２２４からの遊技球Ｂの球貸要求信号、及び返却ボタン２２５からのプリペイドカードの返却要求信号は、ＣＲユニットに入力される。ＣＲユニットは、球貸要求信号に従って貸し出す遊技球Ｂの球数を指定した信号を、払出制御基板６３３にシリアル方式で送信し、この信号が払出制御Ｉ／Ｏポートで受信されて払出制御ＭＰＵに入力される。またＣＲユニットは、貸出した遊技球Ｂの球数に応じて挿入されたプリペイドカードの残度を更新するとともに、その残度の表示信号を球貸操作ユニット２２０へ出力し、この信号が球貸操作ユニット２２０の球貸表示部２２６に入力されて表示される。

【１４９４】

［６－２ｂ．発射制御部］

発射制御部６３３ｂは、発射ソレノイド５４２による発射制御と、球送給ソレノイド１４５による球送給制御と、を行う。発射制御部６３３ｂは、詳細に図示は省略するが、発射に関する各種検出スイッチからの検出信号が入力される発射制御入力回路と、定時間毎にクロック信号を出力する発振回路と、このクロック信号に基づいて遊技球Ｂを遊技領域５ａに向かって打ち出すための発射基準パルスを出力する発射タイミング制御回路と、この発射基準パルスに基づいて発射ソレノイド５４２に駆動信号を出力する発射ソレノイド駆動回路と、発射基準パルスに基づいて球送給ソレノイド１４５に駆動信号を出力する球送給ソレノイド駆動回路と、を備えている。発射タイミング制御回路は、発振回路からのクロック信号に基づいて、１分当たり１００個の遊技球Ｂが遊技領域５ａに向かって打ち出されるよう発射基準パルスを生成して発射ソレノイド駆動回路に出力するとともに、発射基準パルスを所定数倍した球送基準パルスを生成して球送給ソレノイド駆動回路に出力する。

【１４９５】

ハンドルユニット１８０の関係では、ハンドル１９５に手のひらや指が触れているか否かを検出するハンドルタッチセンサ１９２、及び遊技者の意志によって遊技球Ｂの打ち出しを強制的に停止するか否かを検出する単発ボタン操作センサ１９４からの検出信号は、発射制御入力回路に入力された後に、発射タイミング制御回路に入力される。またＣＲユニットとＣＲユニット接続端子板とが電気的に接続されると、ＣＲ接続信号として発射制御入力回路に入力され、発射タイミング制御回路に入力される。遊技球Ｂの発射を許可する旨を伝える主制御基板１３１０からの発射許可信号は、発射制御入力回路に入力された後に、発射タイミング制御回路に入力される。ハンドル１９５の回転位置に応じて遊技球Ｂを遊技領域５ａに向かって打ち出す強度を電気的に調節するハンドル回転検知センサ１８９からの信号は、発射ソレノイド駆動回路に入力される。

【１４９６】

発射タイミング制御回路は、ハンドルタッチセンサ１９２からの検出信号に基づいてハンドル１９５に手のひらや指が触れているという発射条件１が成立し、ＣＲ接続信号に基づいてＣＲユニットとＣＲユニット接続端子板とが電気的に接続されるという発射条件２が成立し、主制御基板１３１０からの発射許可信号に基づいて遊技球Ｂの発射が許可されているという発射条件３が成立しなければ、遊技球Ｂを遊技領域５ａに向かって打ち出すための発射基準パルスを出力しないため、例えば、発射ソレノイド駆動回路が発射ソレノイド５４２に駆動信号を出力せず遊技球Ｂを発射することができない。

【１４９７】

この発射ソレノイド駆動回路は、ハンドル回転検知センサ１８９からの信号に基づいて、ハンドル１９５の回転位置に見合う打ち出し強度で遊技球Ｂを遊技領域５ａに向かって打ち出すための駆動電流を、発射基準パルスが入力されたことを契機として、発射ソレノイド５４２に出力する。一方、球送給ソレノイド駆動回路は、球送基準パルスが入力されたことを契機として、球送給ソレノイド１４５に一定電流を出力することにより、皿ユニット２００の上皿２０１に貯留された遊技球Ｂを球送給ユニット１４０内に１球受入れ、その球送基準パルスの入力が終了したことを契機として、その一定電流の出力を停止することにより受入れた遊技球Ｂを球発射装置５４０側へ送る。このように、発射ソレノイド駆動回路から発射ソレノイド５４２に出力される駆動電流は可変に制御されるのに対して、球送給ソレノイド駆動回路から球送給ソレノイド１４５に出力される駆動電流は一定に制御されている。

【１４９８】

なお、本実施形態では、発射ソレノイド５４２による発射制御を行うと共に球送給ソレノイド１４５による球送給制御を行う発射制御部６３３ｂを、払出制御基板６３３に備えたが、電源基板６３０に備えるように構成してもよい。この場合、主制御基板１３１０からの発射許可信号は、電源基板６３０に直接入力されるように構成してもよいし、払出制御基板６３３を介して電源基板６３０へ入力されてもよいし、図示しない中継基板を介して電源基板６３０へ入力されてもよい。

【１４９９】

［６－３．周辺制御基板］

周辺制御基板１５１０は、図１６９に示すように、主制御基板１３１０からのコマンドに基づいて演出制御を行う周辺制御部１５１１と、この周辺制御部１５１１からの制御データに基づいて、演出表示装置１６００の描画制御を行う演出表示制御部１５１２と、を備えている。

【１５００】

［６－３ａ．周辺制御部］

周辺制御基板１５１０における演出制御を行う周辺制御部１５１１は、詳細な図示は省略するが、ＣＰＵ、ＲＡＭ、そして各種Ｉ／Ｏインターフェイス等が１つの半導体チップ上に集積された周辺制御ＩＣと、各種処理プログラムや各種コマンドを記憶する周辺制御ＲＯＭと、高音質の演奏を行う音源ＩＣと、この音源ＩＣが参照する音楽、音声、及び効果音等の音情報が記憶されている音ＲＯＭと、を備えている。

【１５０１】

周辺制御ＩＣには、１つの半導体チップ上にパラレルＩ／Ｏポート、シリアルＩ／Ｏポート等を複数集積されており、主制御基板１３１０から各種コマンドを受信すると、この各種コマンドに基づいて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは遊技盤５の各装飾基板に設けられたカラーＬＥＤ等への点灯信号、点滅信号又は階調点灯信号を出力するための遊技盤側発光データをランプ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポートから遊技盤５の各装飾基板に送信したり、遊技盤５に設けられた各種演出ユニットを作動させる駆動モータへの駆動信号を出力するための遊技盤側駆動データを遊技盤装飾駆動基板用シリアルＩ／Ｏポートから遊技盤５の駆動モータ或いは駆動ソレノイドに送信したり、扉枠３に設けられた振動モータ３５６、操作ボタン昇降駆動モータ３６７、及び突出力調整駆動モータ３８１等への駆動信号を出力するための扉側駆動データと、扉枠３の各装飾基板に設けられたカラーＬＥＤ等への点灯信号、点滅信号又は階調点灯信号を出力するための扉側発光データと、から構成される扉側駆動発光データを枠装飾駆動基板用シリアルＩ／Ｏポートから扉枠３側に送信したり、演出表示装置１６００に表示させる画面を示す制御データ（表示コマンド）を表示制御部用シリアルＩ／Ｏポートから演出表示制御部１５１２に送信したり、するほかに、音ＲＯＭから音情報を抽出するための制御信号（音コマンド）を音源ＩＣに出力したりする。

【１５０２】

扉枠３に設けられた演出操作ユニット３００の接触検知センサ本体３５８、押圧検知センサ３７３、昇降検知センサ３７４及び突出力検知センサ３７５からの検知信号は、周辺

制御ＩＣに入力されている。
【１５０３】
　また周辺制御ＩＣのＣＰＵは、演出表示制御部１５１２が正常に動作している旨を伝える信号（動作信号）が演出表示制御部１５１２から入力されており、この動作信号に基づいて演出表示制御部１５１２の動作を監視している。
【１５０４】
　音源ＩＣは、周辺制御ＩＣのＣＰＵからの制御データ（音コマンド）に基づいて音ＲＯＭから音情報を抽出し、扉枠３や本体枠４等に設けられた、トップ中央スピーカ、トップサイドスピーカや、本体枠４の本体枠スピーカ６２２等から各種演出に合せた音楽及び効果音等のサウンドが流れるように制御を行う。なお、周辺制御基板１５１０が収容された周辺制御基板ボックスから後方へ突出している音量調整スイッチを回転操作することで、音量を調整することができるようになっている。本実施形態では、扉枠３側のトップ中央スピーカ、トップサイドスピーカと、本体枠４の低音用の本体枠スピーカ６２２とに、音情報としての音響信号（例えば、２ｃｈステレオ信号、４ｃｈステレオ信号、２．１ｃｈサラウンド信号、或いは、４．１ｃｈサラウンド信号、等）を送ることで、従来よりも臨場感のある音響効果（音響演出）を提示することができる。
【１５０５】
　なお、周辺制御部１５１１は、周辺制御ＩＣのＣＰＵに内蔵された内蔵ＷＤＴ（ウォッチドックタイマ）のほかに、図示しない、外部ＷＤＴ（ウォッチドックタイマ）も備えており、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、内蔵ＷＤＴと外部ＷＤＴとを併用して自身のシステムが暴走しているか否かを診断している。
【１５０６】
　この周辺制御ＩＣのＣＰＵから演出表示制御部１５１２に出力される表示コマンドはシリアル入出力ポートにより行われ、本実施形態では、ビットレート（単位時間あたりに送信できるデータの大きさ）として１９．２キロ（ｋ）ビーピーエス（ｂｉｔｓ　ｐｅｒ　ｓｅｃｏｎｄ、以下、「ｂｐｓ」と記載する）が設定されている。一方、周辺制御ＩＣのＣＰＵから遊技盤５側に出力される、初期データ、扉枠側点灯点滅コマンド、遊技盤側点灯点滅コマンド、可動体駆動コマンド等は、表示コマンドと異なる複数のシリアル入出力ポートにより行われ、本実施形態では、ビットレートとして２５０ｋｂｐｓが設定されている。
【１５０７】
［６－３ｂ．演出表示制御部］
　演出表示制御部１５１２は、演出表示装置１６００の描画制御を行うものである。演出表示制御部１５１２は、詳細な図示は省略するが、マイクロプロセッサとしての表示制御ＭＰＵと、各種処理プログラム、各種コマンド及び各種データを記憶する表示制御ＲＯＭと、演出表示装置１６００を表示制御するＶＤＰ（Ｖｉｄｅｏ　Ｄｉｓｐｌａｙ　Ｐｒｏｃｅｓｓｏｒの略）と、演出表示装置１６００に表示される画面の各種データを記憶する画像ＲＯＭと、この画像ＲＯＭに記憶されている各種データが転送されてコピーされる画像ＲＡＭと、を備えている。
【１５０８】
　この表示制御ＭＰＵは、パラレルＩ／Ｏポート、シリアルＩ／Ｏポート等を内蔵しており、周辺制御部１５１１からの制御データ（表示コマンド）に基づいてＶＤＰを制御して演出表示装置１６００の描画制御を行っている。なお、表示制御ＭＰＵは、正常に動作していると、その旨を伝える動作信号を周辺制御部１５１１に出力する。また表示制御ＭＰＵは、ＶＤＰから実行中信号が入力されており、この実行中信号の出力が１６ｍｓごとに停止されたことを契機として、割り込み処理を行っている。
【１５０９】
　表示制御ＲＯＭは、演出表示装置１６００に描画する画面を生成するための各種プログラムのほかに、周辺制御部１５１１からの制御データ（表示コマンド）と対応するスケジュールデータ、その制御データ（表示コマンド）と対応する非常駐領域転送スケジュール

データ等を複数記憶している。スケジュールデータは、画面の構成を規定する画面データが時系列に配列されて構成されており、演出表示装置１６００に描画する画面の順序が規定されている。非常駐領域転送スケジュールデータは、画像ＲＯＭに記憶されている各種データを画像ＲＡＭの非常駐領域に転送する際に、その順序を規定する非常駐領域転送データが時系列に配列されて構成されている。この非常駐領域転送データは、スケジュールデータの進行に従って演出表示装置１６００に描画される画面データを、前もって、画像ＲＯＭから画像ＲＡＭの非常駐領域に各種データを転送する順序が規定されている。

【１５１０】

表示制御ＭＰＵは、周辺制御部１５１１からの制御データ（表示コマンド）と対応するスケジュールデータの先頭の画面データを表示制御ＲＯＭから抽出してＶＤＰに出力した後に、先頭の画面データに続く画面データを表示制御ＲＯＭから抽出してＶＤＰに出力する。このように、表示制御ＭＰＵは、スケジュールデータに時系列に配列された画面データを、先頭の画面データから１つずつ表示制御ＲＯＭから抽出してＶＤＰに出力する。

【１５１１】

ＶＤＰは、表示制御ＭＰＵから出力された画面データが入力されると、この入力された画面データに基づいて画像ＲＡＭからスプライトデータを抽出して演出表示装置１６００に表示する描画データを生成し、この生成した描画データを、演出表示装置１６００に出力する。またＶＤＰは、演出表示装置１６００が、表示制御ＭＰＵからの画面データを受入れないときに、その旨を伝える実行中信号を表示制御ＭＰＵに出力する。なお、ＶＤＰは、ラインバッファ方式が採用されている。この「ラインバッファ方式」とは、演出表示装置１６００の左右方向を描画する１ライン分の描画データをラインバッファに保持し、このラインバッファに保持した１ライン分の描画データを、演出表示装置１６００に出力する方式である。

【１５１２】

画像ＲＯＭには、極めて多くのスプライトデータが記憶されており、その容量が大きくなっている。画像ＲＯＭの容量が大きくなると、つまり、演出表示装置１６００に描画するスプライトの数が多くなると、画像ＲＯＭのアクセス速度が無視できなくなり、演出表示装置１６００に描画する速度に影響することとなる。そこで、本実施形態では、アクセス速度の速い画像ＲＡＭに、画像ＲＯＭに記憶されているスプライトデータを転送してコピーし、この画像ＲＡＭからスプライトデータを抽出している。なお、スプライトデータは、スプライトをビットマップ形式に展開する前のデータである基データであり、圧縮された状態で画像ＲＯＭに記憶されている。

【１５１３】

ここで、「スプライト」について説明すると、「スプライト」とは、演出表示装置１６００に、纏まった単位として表示されるイメージである。例えば、演出表示装置１６００に、種々の人物（キャラクタ）を表示させる場合には、夫々の人物を描くためのデータを「スプライト」と呼ぶ。これにより、演出表示装置１６００に複数人の人物を表示させる場合には、複数のスプライトを用いることとなる。また人物のほかに、背景を構成する家、山、道路等もスプライトであり、背景全体を１つのスプライトとすることもできる。これらのスプライトは、画面に配置される位置やスプライト同士が重なる場合の上下関係（以下、「スプライトの重ね合わせの順序」と記載する。）が設定されて演出表示装置１６００に描画される。

【１５１４】

なお、スプライトは縦横それぞれ６４画素の矩形領域を複数張り合わせて構成されている。この矩形領域を描くためのデータを「スプライトキャラクタ」と呼ぶ。小さなスプライトの場合には１つのスプライトキャラクタを用いて表現することができるし、人物など比較的大きいスプライトの場合には、例えば横２×縦３などで配置した合計６個のスプライトキャラクタを用いて表現することができる。背景のように更に大きいスプライトの場合には更に多数のスプライトキャラクタを用いて表現することができる。このように、スプライトキャラクタの数及び配置は、スプライトごとに任意に指定することができるよう

になっている。
【１５１５】
演出表示装置１６００は、その正面から見て左から右に向かって順次、画素に沿った一方向に画素ごとの表示状態を設定する主走査と、その一方向と交差する方向に主走査を繰返し行う副走査と、によって駆動される。演出表示装置１６００は、演出表示制御部１５１２から出力された１ライン分の描画データが入力されると、主走査として演出表示装置１６００の正面から見て左から右に向かって順次、１ライン分の画素にそれぞれ出力する。そして１ライン分の出力が完了すると、演出表示装置１６００は、副走査として直下のラインに移行し、同様に次ライン分の描画データが入力されると、この次ライン分の描画データに基づいて主走査として演出表示装置１６００の正面から見て左から右に向かって順次、１ライン分の画素にそれぞれ出力する。
【１５１６】
［７．周辺制御ユニットの構成］
次に、遊技盤５に備える遊技パネル１１００の後側に配置される周辺制御ユニット１５００の全体構成について、図１７０～図１７２を参照して詳細に説明する。図１７０は周辺制御ユニットの正面分解斜視図であり、図１７１は周辺制御ユニットの背面分解斜視図であり、図１７２は周辺制御ユニットの正面図である。ここでは、パチンコ機１の背面側を周辺制御ユニット１５００の正面側として説明する。なお、図１７１には、各種コネクタの端子が周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘから裏面（ハンダ面）１５１０ｙへ挿通され、各種コネクタの端子が周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙから突出しているが、図面の見易さから省略した。
【１５１７】
周辺制御ユニット１５００は、図１７０及び図１７１に示すように、後方が開口されると共に上下方向と比べて左右方向に長いボックス形状を有するカバー体１５０１と、遊技の進行を制御する主制御ユニット１３００の主制御基板１３１０からのコマンドに基づいて演出の進行を制御することができる周辺制御基板１５１０と、周辺制御基板１５１０と電気的に接続される周辺データＲＯＭ基板１５２０と、周辺制御基板１５１０と電気的に接続される液晶出力基板１５３０と、カバー体１５０１の開口を塞ぐベース体１５０２と、を備えている。カバー体１５０１の内部空間内には、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板がそれぞれ所定位置に取り付けられ、カバー体１５０１の開口をベース体１５０２により塞ぐことにより、カバー体１５０１とベース体１５０２とによる周辺制御基板ボックス１５０５（封印基板ボックス）が構成されている。
【１５１８】
［７－１．カバー体］
カバー体１５０１の内部空間内に取り付けられる各種基板には、周辺制御基板１５１０のほかに、周辺制御基板１５１０の制御対象となっている各種の制御情報（周辺データ）を記憶することができる周辺データＲＯＭ基板１５２０と、演出表示装置１６００に画像を描画するための描画データを出力することができる液晶出力基板１５３０と、がある。周辺制御基板１５１０は、カバー体１５０１を背面から見て、約３分の２の領域を有する横長の長方形状を有し、カバー体１５０１の左側に詰めて配置されている。周辺データＲＯＭ基板１５２０と液晶出力基板１５３０とは、カバー体１５０１を背面から見て、残り約３分の１の領域のうち、周辺データＲＯＭ基板１５２０が正方形状を有してカバー体１５０１の右上側に配置されている一方、液晶出力基板１５３０が周辺データＲＯＭ基板１５２０と比べて二回り大きい正方形状を有してカバー体１５０１の右下側に配置されている。
【１５１９】
周辺制御基板１５１０と周辺データＲＯＭ基板１５２０との基板間は、後述する基板間コネクタにより電気的に接続され、周辺制御基板１５１０と液晶出力基板１５３０との基板間は、後述する基板間コネクタにより電気的に接続されている。これにより、周辺制御

基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）ラインと、周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）ラインと、液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ラインと、が電気的に接続され、同一のグランド（ＧＮＤ）となっている。なお、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ラインは、本体枠４の基板ユニット６２０における電源基板６３０のグランド（ＧＮＤ）ラインと電気的に接続されている。

【１５２０】

カバー体１５０１は、ポリカーボネートにカーボンを含有した導電性の樹脂製であり、不透明な黒色に成型され、その正面から見て、横長の長方形状のカバー平板１５０１ａ（板厚：２ｍｍ）の上辺、左辺、下辺、及び右辺にカバー側壁１５０１ｂ～１５０１ｅが後方（パチンコ機１の正面側）へ向かってそれぞれ突設されることにより開口を有するボックス形状に形成されている。

【１５２１】

カバー平板１５０１ａは、その正面から見て、その中央やや右上側であって、カバー平板１５０１ａの裏面側に取り付けられる周辺制御基板１５１０に備える周辺制御ＩＣ１５１０ａと対応する位置に、空冷ファンＦＡＮを取り付けるための正方形状を有するＦＡＮ取付凹部１５０１ａａがカバー体１５０１の開口側へ向かって突出されて形成されている。ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの底面には、この底面の上下左右方向の中心を中心点とする複数の同心円上に沿って、円弧形状のスリット孔１５０１ａａａが複数それぞれ形成されている。またＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの底面の四隅には、正方形状を有する空冷ファンＦＡＮの四隅に形成される貫通孔ｔｈ１～ｔｈ４と対応する位置に、この貫通孔ｔｈ１～ｔｈ４に挿通される円柱形状の所定高さ（空冷ファンＦＡＮの奥行き方向の距離寸法より短い距離寸法）を有する案内突出部１５０１ａａｂ１～１５０１ａａｂ４がカバー体１５０１の開口側と反対側へ向かって突出されてそれぞれ形成されている。なお、円弧形状のスリット孔１５０１ａａａとして形成することにより、周辺制御基板１５１０に備える各種電子部品を、周辺制御基板１５１０から不正に取り出す不正行為を防止することができるようになっている。

【１５２２】

またカバー平板１５０１ａには、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの近傍であって対角状に一対の取付孔１５０１ａａｃ１，ａａｃ２が形成されている。空冷ファンＦＡＮをＦＡＮ取付凹部１５０１ａａに押し込んで取り付けると、空冷ファンＦＡＮの正面側の面と、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａの正面側の面と、が同一の平面上に配置されるようになっている。この状態において、一対の取付孔１５０１ａａｃ１，ａａｃ２にそれぞれカバー平板１５０１ａの正面から後方へ向かって、図示しない金属製の座付きナベねじ（ナベ頭と平ワッシャーとを一体とした形状を有するねじ）をねじ込むことにより、座付きナベねじの座部分である平ワッシャーが空冷ファンＦＡＮの正面とカバー体１５０１のカバー平板１５０１ａの正面とに当接する状態となることによって、空冷ファンＦＡＮがＦＡＮ取付凹部１５０１ａａから飛び出すことを防止することができるようになっている。

【１５２３】

カバー平板１５０１ａの裏面側に周辺制御基板１５１０が固定されると、周辺制御ＩＣ１５１０ａの表面（品番や型式が印刷されている面）とＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの後面とに所定の距離寸法を有する隙間（本実施形態では、２．３ｍｍ）が形成される状態となる。

【１５２４】

なお、カバー平板１５０１ａは、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａに連通すると共に、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの底面と比べて高い位置（カバー平板１５０１ａの正面からＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの底面までの距離寸法と比べて短い距離寸法を有する位置）に、配線引出凹部１５０１ａｂがカバー体１５０１の開口部へ向かって突出されて形成されている。空冷ファンＦＡＮがＦＡＮ取付凹部１５０１ａａに取り付けられて固定されると、

空冷ファンＦＡＮからの複数の配線を配線引出凹部１５０１ａｂから引き出せるようになっている。

【１５２５】

カバー平板１５０１ａは、その正面から見て、その下辺側に沿って、カバー平板１５０１ａの裏面側に取り付けられる、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備えるコネクタＣＮ１～ＣＮ７、及び音量調整スイッチ１５１０ｄと対応する位置を１つの閉じたほぼ横長の長方形領域（正確には、音量調整スイッチ１５１０ｄとコネクタＣＮ１とを上部とすると共に、コネクタＣＮ２～コネクタＣＮ７を下部とする凸状領域）としてコネクタ凹部１５０１ａｃがＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの底面と比べて低い位置（カバー平板１５０１ａの正面からＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの底面までの距離寸法と比べて長い距離寸法を有する位置）に、カバー体１５０１の開口側へ向かって突出されて形成されている。コネクタ凹部１５０１ａｃの底面には、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備えるコネクタＣＮ１～ＣＮ７、及び音量調整スイッチ１５１０ｄと対応する位置に、コネクタ穴１５０１ａｃ１～１５０１ａｃ７、及び音量調整穴１５０１ａｃ８がそれぞれ形成されている。なお、コネクタ凹部１５０１ａｃの底面は、カバー平板１５０１ａを正面から見て、右下側の領域を概ね占有している。このため、コネクタ凹部１５０１ａｃの底面の面積が大きくなることによって生ずるカバー体１５０１（カバー平板１５０１ａ）の強度不足及び反りの対策として、コネクタ凹部１５０１ａｃの底面には、コネクタ穴１５０１ａｃ１～１５０１ａｃ７、及び音量調整穴１５０１ａｃ８と干渉しない位置であって、上下方向に細長い２つの補強リブ１５１０ａｃｉ１，１５１０ａｃｉ２が所定間隔をあけて前方へ突出して形成されている。

【１５２６】

カバー平板１５０１ａの裏面側に周辺制御基板１５１０が固定されると、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備えるコネクタＣＮ１～ＣＮ７、及び音量調整スイッチ１５１０ｄは、コネクタ凹部１５０１ａｃの底面に形成されるコネクタ穴１５０１ａｃ１～１５０１ａｃ７、及び音量調整穴１５０１ａｃ８からそれぞれ露出する状態となる。

【１５２７】

カバー平板１５０１ａは、その正面から見て、その下辺側に沿って、カバー平板１５０１ａの裏面側に取り付けられる液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備えるコネクタＣＮ８，ＣＮ９と対応する位置を１つの閉じた横長の長方形領域としてコネクタ凹部１５０１ａｄがＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの底面と比べて低い位置（カバー平板１５０１ａの正面からＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの底面までの距離寸法と比べて長い距離寸法を有する位置）に、カバー体１５０１の開口側へ向かって突出されて形成され、コネクタ凹部１５０１ａｄの底面とコネクタ凹部１５０１ａｃの底面とが同一の平面上に配置されている。コネクタ凹部１５０１ａｄの底面には、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備えるコネクタＣＮ８，ＣＮ９と対応する位置に、コネクタ穴１５０１ａｃ９，１５０１ａｃ１０がそれぞれ形成されている。

【１５２８】

カバー平板１５０１ａの裏面側に液晶出力基板１５３０が固定されると、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備えるコネクタＣＮ８，ＣＮ９は、コネクタ凹部１５０１ａｄの底面に形成されるコネクタ穴１５０１ａｃ９，１５０１ａｃ１０からそれぞれ露出する状態となる。

【１５２９】

またカバー平板１５０１ａは、その正面から見て、その左辺側に沿って、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備えるＣＮ１０と対応する位置に、配線引出開口部１５０１ａｅが形成されている。この配線引出開口部１５０１ａｅに連通すると共に、配線引出開口部１５０１ａｅを塞ぐことができる横長の長方形状を有する配線カバー体１５０３を取り付けるための取付凹部１５０１ａｆが上述したＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの底面と比べて高い位置（カバー平板１５０１ａの正面からＦＡＮ取付凹部１５０１ａａ

の底面までの距離寸法と比べて短い距離寸法を有する位置）に、カバー体１５０１の開口部へ向かって突出されて形成されている。取付凹部１５０１ａｆは、配線カバー体１５０３に形成される貫通穴１５０３ａと対応する位置に、この貫通穴１５０３ａに挿通される円柱形状の所定高さ（配線カバー体１５０３の奥行き方向の距離寸法より短い距離寸法）を有する突出部１５０１ａｆａがカバー体１５０１の開口側と反対側へ向かって突出されて形成されると共に、配線カバー体１５０３に形成される貫通孔１５０３ｂ１，１５０３ｂ２と対応する位置に、取付孔１５０１ａｆｂ１，１５０１ａｆｂ２がそれぞれ形成されている。

【１５３０】

配線カバー体１５０３を取付凹部１５０１ａｆに嵌め合わせると、配線カバー体１５０３の正面側の面と、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａの正面側の面と、が同一の平面上に配置されるようになっている。この状態において、配線カバー体１５０３に形成される貫通孔１５０３ｂ１，１５０３ｂ２に図示しない金属製のナベねじを挿入して取付孔１５０１ａｆｂ１，１５０１ａｆｂ２にそれぞれ配線カバー体１５０３の正面から後方へ向かってねじ込むことにより、配線カバー体１５０３を取付凹部１５０１ａｆに固定することができる。

【１５３１】

配線カバー体１５０３が取付凹部１５０１ａｆに固定されると、配線引出開口部１５０１ａｅを塞ぐと共に、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備えるコネクタＣＮ１０と接続されるフレキシブルフラットケーブル（ＦＦＣ（Ｆｌｅｘｉｂｌｅ　Ｆｌａｔ　Ｃａｂｌｅの略。フレキシブルフラットケーブルは、演出表示装置１６００に描画データを伝送するための複数の平型導体が平行に配置されると共に、これらの複数の平型導体が絶縁体で被覆されている。））を触れることができないように保護するカバーとして配線カバー体１５０３が機能することができるようになっている。配線カバー体１５０３は、ポリカーボネートにカーボンを含有した導電性の樹脂製であり、不透明な黒色に成型されている。

【１５３２】

カバー体１５０１を正面から見て、左側のカバー側壁１５０１ｃのカバー体１５０１の開口側近傍であって中央所定間隔をあけて上下それぞれ外側へ突出する板状の案内部１５０１ｃａ，１５０１ｃｂが形成されていると共に、案内部１５０１ｃａの上方に配置され外側へ突出するヒンジ掛け部１５０１ｃｃと、案内部１５０１ｃｂの下方に配置され外側へ突出するヒンジ掛け部１５０１ｃｄと、がそれぞれ形成されている。案内部１５０１ｃａ，１５０１ｃｂの左端の後面側は面取りが形成されている。これに対して、ヒンジ掛け部１５０１ｃｃ，１５０１ｃｄの左端の前面側に前方に対して突出するＬ字状の鉤部１５０１ｃｃａ，１５０１ｃｄａが形成されている。また、右側のカバー側壁１５０１ｅのカバー体１５０１の中央には、外側へ突出するカバー側封印部１５０１ｅａが形成されている。

【１５３３】

周辺制御基板１５１０がカバー体１５０１の背面の左側に詰めて配置されるように、カバー平板１５０１ａは、その背面から見て、周辺制御基板１５１０に形成される４つの貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４と対応する位置に、４つの取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４がカバー平板１５０１ａの裏面からカバー体１５０１の開口側へ向かって突出されて形成されている。周辺制御基板１５１０に形成される４つの貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４の周囲は、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側に円形状を有するハンダ付け用銅箔（いわゆる、「ランド」）１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４と、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ側に円形状を有するハンダ付け用銅箔（いわゆる、「ランド」）１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４と、がそれぞれ形成されると共に、これらのランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４，１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４は、それぞれ周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）ラインと電気的に接続されるように配線パターンが周辺制御基板１５１０に形成されている。また、これらのラ

ンド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４，１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４は、その表面である銅箔が剥き出しとならないようにそれぞれハンダ付けされている。

【１５３４】

周辺制御基板１５１０をカバー平板１５０１ａの裏面側に取り付けるときには、周辺制御基板１５０１の表面（実装面）１５１０ｘをカバー平板１５０１ａの裏面側へ向けると共に、周辺制御基板１５１０に形成される貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４を、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４に合わせるように配置し、貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４に図示しない金属製のナベねじを挿入して取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４へ向かってねじ込むことにより周辺制御基板１５１０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定することができる。この状態において、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側に形成されるランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４と、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４の取付面（ボス面）と、がそれぞれ当接した状態となると共に、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ側に形成されるランド１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４と、金属製のナベねじの座面と、がそれぞれ当接した状態となる。さらに、金属製のナベねじの軸（ネジ部）がカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４にねじ込まれた状態となる。

【１５３５】

カバー体１５０１は、上述したように、ポリカーボネートにカーボンを含有した導電性の樹脂製であるため、金属製のナベねじを介して、カバー体１５０１（カバー平板１５０１ａ）が周辺制御基板１５１０に形成されるランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４，１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４と電気的に接続される状態となる。これにより、カバー体１５０１は、周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続されることとなる。周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）ラインは、上述したように、周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）ラインと、液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ラインと、が電気的に接続され、同一のグランド（ＧＮＤ）となっているため、カバー体１５０１は、金属製のナベねじを介して、周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続されることにより、周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）と、液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）と、が電気的に接続されることとなり、同一のグランド（ＧＮＤ）となる。

【１５３６】

なお、周辺制御基板１５１０がカバー平板１５０１ａの裏面側に固定されると、貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４に挿入されてねじ込んだ金属製のナベねじの頭部がカバー体１５０１のカバー側壁１５０１ｂ～１５０１ｅの開口側の端面より内側に（つまり、カバー側壁１５０１ｂ～１５０１ｅの開口側の端面より外側へ飛び出さないように）配置されるようになっている。

【１５３７】

周辺データＲＯＭ基板１５２０がカバー体１５０１の背面の右上側に配置されるように、カバー平板１５０１ａは、その背面から見て、周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成される４つの貫通孔１５２０ｒ１～１５２０ｒ４と対応する位置に、一対の取付ボス孔１５０１ａｈ１，１５０１ａｈ２と、一対の取付ボス突出部１５０１ａｉ１，１５０１ａｉ２と、が対角状に、カバー平板１５０１ａの裏面からカバー体１５０１の開口側へ向かって突出されて形成されている。周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成される４つの貫通孔１５２０ｒ１～１５２０ｒ４の周囲は、周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘ側に円形状を有するハンダ付け用銅箔（いわゆる、「ランド」）１５２０ｒｆ１～１５２０ｒｆ４と、周辺データＲＯＭ基板１５２０の裏面（ハンダ面）１５２０ｙ側に円形状を有するハンダ付け用銅箔（いわゆる、「ランド」）１５２０ｒｂ１～１５２０ｒｂ４と、がそれぞれ形成されると共に、これらのランド１５２０ｒｆ１～１５２０ｒｆ４，１５２０ｒｂ１～１５２０ｒｂ４は、それぞれ周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）ラインと電気的に接続されるように配線パターンが周辺データＲＯＭ基板１

５２０に形成されている。また、これらのランド１５２０ｒｆ１～１５２０ｒｆ４，１５２０ｒｂ１～１５２０ｒｂ４は、その表面である銅箔が剥き出しとならないようにそれぞれハンダ付けされている。

【１５３８】

周辺データＲＯＭ基板１５２０をカバー平板１５０１ａの裏面側に取り付けるときには、周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘをカバー平板１５０１ａの裏面側へ向けると共に、周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成される貫通孔１５２０ｒ１，１５２０ｒ３を、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス突出部１５０１ａｉ１，１５０１ａｉ２に挿入し、周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成される貫通孔１５２０ｒ２，１５２０ｒ４に図示しない金属製のナベねじを挿入してカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｈ１，１５０１ａｈ２へ向かってねじ込むことにより周辺データＲＯＭ基板１５２０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定することができる。この状態において、周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘ側に形成されるランド１５２０ｒｆ１～１５２０ｒｆ４と、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス突出部１５０１ｉ１，１５０１ｉ２の取付面（ボス面）及び取付ボス孔１５０１ａｈ１，１５０１ａｈ２の取付面（ボス面）と、がそれぞれ当接した状態となると共に、周辺データＲＯＭ基板１５２０の裏面（ハンダ面）１５２０ｙ側に形成されるランド１５２０ｒｂ１～１５２０ｒｂ４と、金属製のナベねじの座面と、がそれぞれ当接した状態となる。さらに、金属製のナベねじの軸（ネジ部）がカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｈ１，１５０１ａｈ２にねじ込まれた状態となる。

【１５３９】

カバー体１５０１は、上述したように、ポリカーボネートにカーボンを含有した導電性の樹脂製であるため、金属製のナベねじを介して、カバー体１５０１（カバー平板１５０１ａ）が周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成されるランド１５２０ｒｆ１～１５２０ｒｆ４，１５２０ｒｂ１～１５２０ｒｂ４と電気的に接続される状態となる。これにより、カバー体１５０１は、周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続されることとなる。周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）ラインは、上述したように、周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）ラインと、液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ラインと、が電気的に接続され、同一のグランド（ＧＮＤ）となっているため、カバー体１５０１は、金属製のナベねじを介して、周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続されることにより、周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）と、液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）と、が電気的に接続されることとなり、同一のグランド（ＧＮＤ）となる。

【１５４０】

なお、周辺データＲＯＭ基板１５２０がカバー平板１５０１ａの裏面側に固定されると、貫通孔１５２０ｒ２，１５２０ｒ４に挿入されてねじ込んだ金属製のナベねじの頭部がカバー体１５０１のカバー側壁１５０１ｂ～１５０１ｅの開口側の端面より内側に（つまり、カバー側壁１５０１ｂ～１５０１ｅの開口側の端面より外側へ飛び出さないように）配置されると共に、周辺データＲＯＭ基板１５２０の裏面（ハンダ面）１５２０ｙと、カバー平板１５０１ａの裏面側に固定される周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙと、が同一の平面上に配置されるようになっている。

【１５４１】

液晶出力基板１５３０がカバー体１５０１の背面の右下側に配置されるように、カバー平板１５０１ａは、その背面から見て、液晶出力基板１５３０に形成される４つの貫通孔１５３０ｒ１～１５３０ｒ４と対応する位置に、一対の取付ボス孔１５０１ａｍ１，１５０１ａｍ２と、一対の取付ボス突出部１５０１ａｎ１，１５０１ａｎ２と、が対角状に、カバー平板１５０１ａの裏面からカバー体１５０１の開口側へ向かって突出されて形成されている。液晶出力基板１５３０に形成される４つの貫通孔１５３０ｒ１～１５３０ｒ４の周囲は、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘ側に円形状を有するハンダ

付け用銅箔（いわゆる、「ランド」）１５３０ｒｆ１～１５３０ｒｆ４と、液晶出力基板１５３０の裏面（ハンダ面）１５３０ｙ側に円形状を有するハンダ付け用銅箔（いわゆる、「ランド」）１５３０ｒｂ１～１５３０ｒｂ４と、がそれぞれ形成されると共に、これらのランド１５３０ｒｆ１～１５３０ｒｆ４，１５３０ｒｂ１～１５３０ｒｂ４は、それぞれ液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ラインと電気的に接続されるように配線パターンが液晶出力基板１５３０に形成されている。また、これらのランド１５３０ｒｆ１～１５３０ｒｆ４，１５３０ｒｂ１～１５３０ｒｂ４は、その表面である銅箔が剥き出しとならないようにそれぞれハンダ付けされている。

【１５４２】

液晶出力基板１５３０をカバー平板１５０１ａの裏面側に取り付けるときには、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０をカバー平板１５０１ａの裏面側へ向けると共に、液晶出力基板１５３０に形成される貫通孔１５３０ｒ２，１５３０ｒ４を、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス突出部１５０１ａｎ１，１５０１ａｎ２に挿入し、液晶出力基板１５３０に形成される貫通孔１５３０ｒ１，１５３０ｒ３に図示しない金属製のナベねじを挿入してカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｍ１，１５０１ａｍ２へ向かってねじ込むことにより液晶出力基板１５３０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定することができる。この状態において、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘ側に形成されるランド１５３０ｒｆ１～１５３０ｒｆ４と、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス突出部１５０１ｎ１，１５０１ｎ２の取付面（ボス面）及び取付ボス孔１５０１ａｍ１，１５０１ａｍ２の取付面（ボス面）と、がそれぞれ当接した状態となると共に、液晶出力基板１５３０の裏面裏面（ハンダ面）１５３０ｙ側に形成されるランド１５３０ｒｂ１～１５３０ｒｂ４と、金属製のナベねじの座面と、がそれぞれ当接した状態となる。さらに、金属製のナベねじの軸（ネジ部）がカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｍ１，１５０１ａｍ２にねじ込まれた状態となる。

【１５４３】

カバー体１５０１は、上述したように、ポリカーボネートにカーボンを含有した導電性の樹脂製であるため、金属製のナベねじを介して、カバー体１５０１（カバー平板１５０１ａ）が液晶出力基板１５３０に形成されるランド１５３０ｒｆ１～１５３０ｒｆ４，１５３０ｒｂ１～１５３０ｒｂ４と電気的に接続される状態となる。これにより、カバー体１５０１は、液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続されることとなる。液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ラインは、上述したように、周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）ラインと、周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）ラインと、が電気的に接続され、同一のグランド（ＧＮＤ）となっているため、カバー体１５０１は、金属製のナベねじを介して、液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続されることにより、周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）と、周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）と、が電気的に接続されることとなり、同一のグランド（ＧＮＤ）となる。

【１５４４】

なお、液晶出力基板１５３０がカバー平板１５０１ａの裏面側に固定されると、貫通孔１５３０ｒ１，１５３０ｒ３に挿入されてねじ込んだ金属製のナベねじの頭部がカバー体１５０１のカバー側壁１５０１ｂ～１５０１ｅの開口側の端面より内側に（つまり、カバー側壁１５０１ｂ～１５０１ｅの開口側の端面より外側へ飛び出さないように）配置されると共に、液晶出力基板１５３０の裏面（ハンダ面）１５３０ｙと、カバー平板１５０１ａの裏面側に固定される周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙと、カバー平板１５０１ａの裏面側に固定される周辺データＲＯＭ基板１５２０の裏面（ハンダ面）１５２０ｙと、が同一の平面上に配置されるようになっている。

【１５４５】

このように、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板がカバー平板１５０１ａの裏面側の所定位置に固定される状態に

おいては、各種基板の表面（カバー平板１５０１ａの裏面側と対向する面）とカバー平板１５０１ａの裏面との間に所定高さの距離寸法（本実施形態では、１４．８ｍｍ）を有する空間が形成される状態となる。この状態において、周辺制御ＩＣ１５１０ａの表面（品番や型式が印刷されている面）とＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの後面とには、上述した所定の距離寸法を有する隙間（本実施形態では、２．３ｍｍ）が形成される状態となる。

【１５４６】

カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａには、複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚがＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの右側、右下側、左下側、及び左側にそれぞれ形成されている。ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａに取り付けられる空冷ファンＦＡＮの羽部が回転すると、この回転により羽部を介して、カバー体１５０１の内側空間の空気を周辺制御ユニット１５００の外部へ向かってはき出すことにより、周辺制御ユニット１５００の外部から空気を、これらの通風孔１５０１ａｚを介して、取り込むことでカバー体１５０１の内側空間（特に、周辺制御ＩＣ１５１０ａ）を空冷することができる。これらの通風孔１５０１ａｚは、直径が３ｍｍ、左右方向のピッチ幅が６．５ｍｍ、上下方向のピッチ幅が６．０ｍｍ～６．５ｍｍを有して形成されている。

【１５４７】

カバー平板１５０１ａの裏面側に周辺制御基板１５１０が固定されると、周辺制御基板１５１０に備える７つのコネクタＣＮ１～ＣＮ７と、カバー体１５０１に形成される７つのコネクタ穴１５０１ａｃ１～１５０１ａｃ７と、にすき間が形成されると共に、周辺制御基板１５１０に備える音量調整スイッチ１５１０ｄと、カバー体１５０１に形成される音量調整穴１５０１ａｃ８と、にすき間が形成される。また、カバー平板１５０１ａの裏面側に液晶出力基板１５３０が固定されると、液晶出力基板１５３０に備える２つのコネクタＣＮ８，ＣＮ９と、カバー体１５０１に形成される２つのコネクタ穴１５０１ａｃ９，１５０１ａｃ１０と、にすき間が形成される。このため、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａに取り付けられる空冷ファンＦＡＮの羽部が回転すると、この回転により羽部を介して、カバー体１５０１の内側空間の空気を周辺制御ユニット１５００の外部へ向かってはき出すことにより、周辺制御ユニット１５００の外部から空気を、叙述した通風孔１５０１ａｚを介して、取り込むと共に、上述したすき間（周辺制御基板１５１０に備える７つのコネクタＣＮ１～ＣＮ７と、カバー体１５０１に形成される７つのコネクタ穴１５０１ａｃ１～１５０１ａｃ７と、に形成されるすき間、周辺制御基板１５１０に備える音量調整スイッチ１５１０ｄと、カバー体１５０１に形成される音量調整穴１５０１ａｃ８と、に形成されるすき間、そして液晶出力基板１５３０に備える２つのコネクタＣＮ８，ＣＮ９と、カバー体１５０１に形成される２つのコネクタ穴１５０１ａｃ９，１５０１ａｃ１０と、に形成されるすき間）を介して、取り込むこととなる。

【１５４８】

ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの底面に形成される複数の円弧形状のスリット孔１５０１ａａａにおけるそれぞれ面積を加えたもの（総面積）は、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに複数形成される通風孔１５０１ａｚにおける面積と、上述したすき間（周辺制御基板１５１０に備える７つのコネクタＣＮ１～ＣＮ７と、カバー体１５０１に形成される７つのコネクタ穴１５０１ａｃ１～１５０１ａｃ７と、に形成されるすき間、周辺制御基板１５１０に備える音量調整スイッチ１５１０ｄと、カバー体１５０１に形成される音量調整穴１５０１ａｃ８と、に形成されるすき間、そして液晶出力基板１５３０に備える２つのコネクタＣＮ８，ＣＮ９と、カバー体１５０１に形成される２つのコネクタ穴１５０１ａｃ９，１５０１ａｃ１０と、に形成されるすき間）における面積と、を加えたものより小さくなっている。このため、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａに取り付けられる空冷ファンＦＡＮの羽部が回転すると、この回転により羽部を介して、カバー体１５０１の内側空間の空気を周辺制御ユニット１５００の外部へ向かってはき出すことにより、周辺制御ユニット１５００の外部から空気を、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに複数形成される通風孔１５０１ａｚを介して、取り込む際に、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに複数形成される通風孔１５０１ａｚのそれぞれに流入する空気の流速を小さ

く抑えることができるようになっている。
【１５４９】
なお、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａに取り付けられる空冷ファンＦＡＮの羽部が回転すると、この回転により羽部を介して、カバー体１５０１の内側空間の空気を周辺制御ユニット１５００の外部へ向かってはき出すことにより、周辺制御ユニット１５００の外部から空気を、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに複数形成される通風孔１５０１ａｚを介して、取り込む際に、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに複数形成される通風孔１５０１ａｚのそれぞれに流入する空気の流速を小さく抑えることができるようになっているが、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａに取り付けられる空冷ファンＦＡＮの羽部が回転すると、この回転により羽部を介して、空気を吸い込んで周辺制御ＩＣ１５１０ａへ向かって空気を送り出すようにしてもよい。換言すると、空冷ファンＦＡＮを、カバー体１５０１とベース体１５０２との空間内における空気の交換を主目的とせず、単に周辺制御ＩＣ１５１０ａを空冷することを主目的としてもよい。
【１５５０】
［７－２．ベース体］
カバー体１５０１の開口を塞ぐベース体１５０２は、ポリカーボネートにカーボンを含有した導電性の樹脂製であり、不透明な黒色に成型され、その正面から見て、横長の長方形状のベース平板１５０２ａの上辺、左辺、下辺、及び右辺にベース側壁１５０２ｂ～１５０２ｅが前方（パチンコ機１の背面側）へ向かってそれぞれ突設されることにより開口を有するボックス形状に形成されている。ベース体１５０２のベース側壁１５０２ｂ～１５０２ｅにより形成される開口の大きさは、カバー体１５０１のカバー側壁１５０１ｂ～１５０１ｅにより形成される開口の大きさと比べると、一回り大きく形成されている。これにより、カバー体１５０１にベース体１５０２を被せることによりカバー体１５０１の開口をベース体１５０２で塞ぐ状態においては、ベース体１５０２のベース側壁１５０２ｂ～１５０２ｅの内側にカバー体１５０１のカバー側壁１５０１ｂ～１５０１ｅが嵌まると共に内接（面接触）する状態となる。
【１５５１】
ベース平板１５０２ａは、その正面から見て、下辺側に沿って、所定間隔をあけて、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備えるコネクタＣＮ２～ＣＮ７と干渉しない位置（つまり、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備えるコネクタＣＮ２～ＣＮ７の各端子が周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘから裏面（ハンダ面）１５１０ｙへ挿通され、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙから突出しているため、この突出する各端子と干渉しない位置）に、これらのコネクタＣＮ２～ＣＮ７に対して配線を接続するためのコネクタを挿入するときの力により周辺制御基板１５１０が反って周辺制御基板１５１０に形成される電気配線パターンが断線するのを防ぐ上下方向に細長い断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３がそれぞれ形成されている。
【１５５２】
ベース体１５０２を正面から見て、左側のベース側壁１５０２ｃのベース体１５０２の開口側近傍には、外側へ突出する係合部１５０２ｃａが形成されている。この係合部１５０２ｃａには、カバー体１５０１に形成される板状の案内部１５０１ｃａ，１５０１ｃｂと対応する位置に案内受部１５０２ｃａａ，１５０２ｃａｂと、カバー体１５０１に形成されるヒンジ掛け部１５０１ｃｃ，１５０１ｃｄと対応する位置にヒンジ受け部１５０２ｃａｃ，１５０２ｃａｄと、がそれぞれ形成されている。ヒンジ受け部１５０２ｃａｃ，１５０２ｃａｄは、Ｕ字溝形状の袋部１５０２ｃａｅ，１５０２ｃａｆが形成されている。
【１５５３】
案内受部１５０２ｃａａ，１５０２ｃａｂに、上述したカバー体１５０１に形成される板状の案内部１５０１ｃａ，１５０１ｃｂを挿入すると共に、ヒンジ受け部１５０２ｃａｃ，１５０２ｃａｄのＵ字溝形状の袋部１５０２ｃａｅ，１５０２ｃａｆに、上述したカ

バー体１５０１に形成されるヒンジ掛け部１５０１ｃｃ，１５０１ｃｄのＬ字状の鉤部１５０１ｃｃａ，１５０１ｃｄａを挿入する。そして、ヒンジ受け部１５０２ｃａｃ，１５０２ｃａｄのＵ字溝形状の袋部１５０２ｃａｅ，１５０２ｃａｆに、カバー体１５０１に形成されるヒンジ掛け部１５０１ｃｃ，１５０１ｃｄのＬ字状の鉤部１５０１ｃｃａ，１５０１ｃｄａが当接した状態で回り込ませることによって、ヒンジ受け部１５０２ｃａｃ，１５０２ｃａｄのＵ字溝形状の袋部１５０２ｃａｅ，１５０２ｃａｆに、カバー体１５０１に形成されるヒンジ掛け部１５０１ｃｃ，１５０１ｃｄのＬ字状の鉤部１５０１ｃｃａ，１５０１ｃｄａを引っ掛けて係合することができるようになっている。

【１５５４】

また、右側のベース側壁１５０２ｅの中央には、カバー体１５０１に形成されるカバー側封印部１５０１ｅａと対応する位置に外側へ突出するベース側封印部１５０２ｅａが形成されている。また右側のベース側壁１５０２ｅの上側及び下側には、周辺制御ユニット１５００を遊技盤５に備える遊技パネル１１００に取り付けるための貫通孔１５０２ｅｂ１，１５０２ｅｂ２がそれぞれ形成されている。

【１５５５】

［７－３．各種コネクタ］

カバー体１５０１の内部空間内に取り付けられる周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘには、ＣＰＵ、ＲＡＭ、ＶＤＰ、音源、シリアルＡＴＡコントローラ（Ａｄｖａｎｃｅｄ　Ｔｅｃｈｎｏｌｏｇｙ　Ａｔｔａｃｈｍｅｎｔ、以下、「ＳＡＴＡコントローラ」と記載する。）、そして各種Ｉ／Ｏインターフェイス等が１つの半導体チップ上に集積される周辺制御ＩＣ１５１０ａと、遊技演出の進行やデモンストレーション（遊技者待ち状態となって行われるデモ演出）を制御することができる各種プログラムや演出の進行を規定する各種スケジュールデータ（演出データ）を予め記憶する制御ＲＯＭ１５１０ｂと、周辺データＲＯＭ基板１５２０に備える周辺データＲＯＭ１５２０ａに記憶される各種の制御情報（周辺データ）が転送されて記憶することができるＳＤＲＡＭ（Ｓｙｎｃｈｒｏｎｏｕｓ　ＤｙｎａｍＩＣ　Ｒａｎｄｏｍ　Ａｃｃｅｓｓ　Ｍｅｍｏｒｙ）１５１０ｃ１，１５１０ｃ２から構成されるＳＤＲＡＭ１５１０ｃと、音量を調整することができるスライド方式の音量調整スイッチ１５１０ｄと、図示しないリアルタイムクロックＩＣに電源断時においても電源を供給することができるバックアップ電源１５１０ｅと、各種電源電圧を作成する図示しない電源作成回路と、各種コネクタＣＮ１～ＣＮ７と、を備えている。バックアップ電源１５１０ｅは図示しないホルダに収容されている。

【１５５６】

周辺制御基板１５１０に備える周辺制御ＩＣ１５１０ａは、上述したように、ＣＰＵ、ＲＡＭ、ＶＤＰ、音源、シリアルＡＴＡコントローラ、そして各種Ｉ／Ｏインターフェイス等が１つの半導体チップ上に集積されるものであり、上述した周辺制御部１５１１（各種ＲＯＭの機能を除く。）と演出表示制御部１５１２（各種ＲＯＭの機能を除く。）との機能を併せ持つものである。

【１５５７】

周辺制御基板１５１０に備える制御ＲＯＭ１５１０ｂは、上述した周辺制御部１５１１の周辺制御ＲＯＭの機能、及び上述した演出表示制御部１５１２の表示制御ＲＯＭの機能等を含むものであり、２５６Ｍｂｉｔ（又は１２８Ｍｂｉｔ）の記憶容量を有し、周辺制御基板１５１０に備えるＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２は、それぞれ２Ｇｂｉｔの記憶容量を有している。周辺データＲＯＭ基板１５２０に備える周辺データＲＯＭ１５２０ａは、６２Ｇｂｉｔの記憶容量を有している。

【１５５８】

周辺制御基板１５１０の各種Ｉ／Ｏインターフェイスとしては、各種シリアルＩ／Ｏ、各種パラレルＩ／Ｏ等がある。各種シリアルＩ／Ｏとしては、ＳＰＩ（Ｓｅｒｉａｌ　Ｐｅｒｉｐｈｅｒａｌ　Ｉｎｔｅｒｆａｃｅ）通信、ＵＡＲＴ（Ｕｎｉｖｅｒｓａｌ　Ａｓｙｎｃｈｒｏｎｏｕｓ　Ｒｅｃｅｉｖｅｒ　Ｔｒａｎｓｍｉｔｔｅｒ）通信、及びＩ２Ｃ（Ｉｎｔｅｒ－Ｉｎｔｅｇｒａｔｅｄ　Ｃｉｒｃｕｉｔ）通信等である。

【１５５９】
本実施形態では、主制御基板１３１０からのコマンドを受信する通信方法としてＵＡＲＴ通信を採用し（コネクタＣＮ５を介して通信する。）、遊技盤５側に備える各種基板、扉枠側に備える各種基板に対して制御データを送信する通信方法としてＳＰＩ通信やＩ２Ｃ通信を採用している（コネクタＣＮ３、コネクタＣＮ６、及びコネクタＣＮ７のうち、対応するコネクタを介して通信している）。
【１５６０】
本実施形態では、ＳＰＩ通信やＩ２Ｃ通信を用いて、遊技盤５側に備える電気的駆動源（例えば、各種モータや各種ソレノイドであり、コネクタＣＮ６を介して通信している。）や、扉枠３側に備える電気的駆動源（例えば、各種モータや各種ソレノイドであり、コネクタＣＮ３を介して通信している。）を駆動する駆動制御ＩＣに対して駆動データを送信したり、遊技盤５側に備える複数のＬＥＤ（コネクタＣＮ７を介して通信している。）や扉枠３側に備える複数のＬＥＤ（コネクタＣＮ３を介して通信している。）に対してＬＥＤ制御ＩＣに対して発光データを送信したり、遊技盤５側に備える各種センサ（コネクタＣＮ６を介して通信している。）からの信号を検知データとして受信したり、扉枠３側に備える各種センサ（コネクタＣＮ３を介して通信している。）からの信号を検知データとして受信したりする。なお、本実施形態では、ＳＰＩ通信による転送速度は、２５０ｋｐｂｓに設定され、Ｉ２Ｃ通信による転送速度は、１ｋｂｐｓに設定されている。
【１５６１】
各種パラレルＩ／Ｏとしては、ＧＰＩＯ（Ｇｅｎｅｒａｌ　Ｐｕｒｐｏｓｅ　Ｉｎｐｕｔ／Ｏｕｔｐｕｔ、汎用ＩＯ）がある。本実施形態では、遊技盤５の周辺制御ユニット１５００に備える空冷ファンＦＡＮの回転状態を伝える空冷ファンＦＡＮからの信号が（コネクタＣＮ１を介して）ＧＰＩＯに入力されたり、遊技盤５側に備える図示しない制御対象の動作や原点位置を確認する各種センサからの信号が（コネクタＣＮ６を介して）ＧＰＩＯに入力されたり、遊技盤５側に備える図示しない制御対象に対する制御信号をＧＰＩＯから（コネクタＣＮ６を介して）出力したり、周辺制御ＩＣ１５１０ａが動作している旨を報知するための周辺制御基板１５１０に備えるＬＥＤＭＬ４に信号をＧＰＩＯから出力したりする。
【１５６２】
本実施形態では、例えば、コネクタＣＮ１にはＧＰＩＯが割り当てられ、コネクタＣＮ３にはＳＰＩ通信、及びＩ２Ｃ通信が割り当てられ（つまり、コネクタＣＮ３は、ＳＰＩ通信、及びＩ２Ｃ通信が併存するコネクタとして割り当てられ）、コネクタＣＮ５にはＵＡＲＴ通信が割り当てられ、コネクタＣＮ６にはＳＰＩ通信、及びＧＰＩＯが割り当てられ（つまり、コネクタＣＮ６は、ＳＰＩ通信、及びＧＰＩＯが併存するコネクタとして割り当てられ）、コネクタＣＮ７にはＳＰＩ通信が割り当てられている。
【１５６３】
周辺制御ＩＣ１５１０ａのＳＡＴＡコントローラは、周辺データＲＯＭ基板１５２０に備える周辺データＲＯＭ１５２０ａとＳＡＴＡ規格に準拠する通信を確立することができ、２Ｇｂｐｓという高速な転送速度（３Ｇｂｐｓまで対応。）を実現している。周辺制御ＩＣ１５１０ａのＳＡＴＡコントローラは、周辺制御ＩＣ１５１０ａのＣＰＵの指示により、周辺データＲＯＭ基板１５２０に備える周辺データＲＯＭ１５２０ａからの各種の制御情報（周辺データ）を、周辺制御ＩＣ１５１０ａのＲＡＭに高速に転送したり、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２に高速に転送したりすることができるようになっている。
【１５６４】
ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２は、ＤＤＲ３　ＳＤＲＡＭ（Ｄｏｕｂｌｅ　Ｄａｔａ　Ｒａｔｅ３　Ｓｙｎｃｈｒｏｎｏｕｓ　ＤｙｎａｍＩＣ　Ｒａｎｄｏｍ　Ａｃｃｅｓｓ　Ｍｅｍｏｒｙ）であり、高速なデータ通信速度を実現することができるものである。ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２は、周辺データＲＯＭ基板１５２０に備える周辺データＲＯＭ１５２０ａからの各種の制御情報（周辺データ）が周辺制御ＩＣ１５１

０ａのＳＡＴＡコントローラにより高速に転送される。
【１５６５】
周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘには、さらに、周辺データＲＯＭ基板１５２０と基板間接続するための特殊コネクタＳＣＮ１と、液晶出力基板１５３０と基板間接続するための特殊コネクタＳＣＮ２と、を備えている。周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘは、周辺制御基板１５１０と基板間接続するための特殊コネクタＳＣＮ３を備えている。液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘは、周辺制御基板１５１０と基板間接続するための特殊コネクタＳＣＮ４を備えている。
【１５６６】
周辺制御基板１５１０は、演出表示装置等の表示装置に描画する画像の描画データを複数種類の映像信号の方式で特殊コネクタＳＣＮ２から出力する。この複数種類の映像信号の方式としては、例えば、ＲＧＢ方式、ＬＶＤＳ方式、ＭＩＰＩ（Ｍｏｂｉｌｅ Ｉｎｄｕｓｔｒｙ Ｐｒｏｃｅｓｓｏｒ Ｉｎｔｅｒｆａｃｅ）方式、ｅＤＰ（Ｅｍｂｅｄｄｅｄ ＤｉｓｐｌａｙＰｏｒｔ）方式及びクロックレス方式等の複数種類の方式があり、本実施形態では、ＲＧＢ方式を１系統、ＬＶＤＳ方式を２系統（第１のＬＶＤＳ方式、第２のＬＶＤＳ方式）、及びＭＩＰＩ方式という４つの方式（合計４系統）が採用されている。また、本実施形態では、演出表示装置１６００に入力される映像信号の方式として、２つのＬＶＤＳ方式の系統のうち、一方のＬＶＤＳ方式の系統（例えば、第１のＬＶＤＳ方式の系統）が採用されている。なお、ＭＩＰＩ方式に代えて例えばｅＤＰ方式を採用し、ＲＧＢ方式を１系統、ＬＶＤＳ方式を２系統（第１のＬＶＤＳ方式、第２のＬＶＤＳ方式）、及びｅＤＰ方式を１系統とする周辺制御基板１５１０を作成することもできる。
【１５６７】
また、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘには、さらに、制御ＲＯＭ１５１０ｂの近傍にＬＥＤＭＬ１と、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃの近傍にＬＥＤＭＬ２と、特殊コネクタＳＣＮ１の近傍にＬＥＤＭＬ３と、特殊コネクタＳＣＮ２の近傍にＬＥＤＭＬ４と、を備えている。周辺制御基板１５１０は、基板ユニット６２０の電源基板６３０からの各種電圧（＋２４Ｖ、＋１２Ｖ、及び＋５Ｖ）がインターフェイス６３５を介して供給されている。ＬＥＤＭＬ１は、＋５Ｖが供給されている状態を確認（モニター）するものであり、＋５Ｖが供給されている状態において点灯状態が維持される。ＬＥＤＭＬ２は、＋１２Ｖが供給されている状態を確認（モニター）するものであり、＋１２Ｖが供給されている状態において点灯状態が維持される。ＬＥＤＭＬ３は、＋２４Ｖが供給されている状態を確認（モニター）するものであり、＋２４Ｖが供給されている状態において点灯状態が維持される。ＬＥＤＭＬ４は、周辺制御ＩＣ１５１０ａの動作を確認（モニター）するものであり、周辺制御ＩＣ１５１０ａが動作している状態において点灯状態が維持される。
【１５６８】
周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板がカバー平板１５０１ａの裏面側の所定位置に取り付けられて固定されると、上述したように、各種基板の表面（カバー平板１５０１ａの裏面側と対向する面）とカバー平板１５０１ａの裏面との間に所定高さの距離寸法（本実施形態では、１４．８ｍｍ）を有する空間が形成される状態となる。このように形成される空間内を、周辺制御基板１５１０の表面に備えるＬＥＤＭＬ１～ＬＥＤＭＬ４が点灯することによって、明るく照らすことができるようになっている。
【１５６９】
周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ１，ＳＣＮ２、周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ３、及び液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ４は、フローティング機構を備えている点で、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備えるコネクタＣＮ１～ＣＮ７、及び液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備えるコネクタＣＮ８～ＣＮ１０と構造が全くことなっている。こ

れらのコネクタＣＮ１～ＣＮ１０は、それぞれソケットであり、周辺制御基板１５１０及び液晶出力基板１５３０に対して垂直方向に、対応するコネクタのプラグを挿入して押し込むことによりソケットとプラグとが嵌合する。コネクタＣＮ１～ＣＮ１０のソケットは、この嵌合する際に、周辺制御基板１５１０及び液晶出力基板１５３０を正面から見てそれぞれ上下方向へ移動する量が全くない構造となっている。

【１５７０】

周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ１，ＳＣＮ２は、それぞれプラグであり、周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ３、及び液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ４は、それぞれソケットである。

【１５７１】

周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ３のソケットを、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ１のプラグに挿入して押し込むことによりソケットとプラグとが嵌合する。周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ３のソケットは、この嵌合する際に、周辺データＲＯＭ基板１５２０（周辺制御基板１５１０）を正面から見てソケットが前後方向（パチンコ機１の背面と正面との方向）へ向かって所定距離範囲を動くことによって押し込む際に生ずる前後方向の誤差を吸収することができるというフローティング機構が設けられている構造となっている。なお、周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ３のソケットは、周辺データＲＯＭ基板１５２０がカバー体１５０１のカバー平板１５０１ａの裏面側の所定位置に取り付けられて固定される状態において、周辺データＲＯＭ基板１５２０（周辺制御基板１５１０）を正面から見て上述した所定距離範囲のうち、最大限動いたとしても、特殊コネクタＳＣＮ３のソケットの正面（上面）がカバー体１５０１のカバー平板１５０１ａの裏面に接触しないように、特殊コネクタＳＣＮ３のソケットの正面（上面）と、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａの裏面と、の間にすき間が形成されている。

【１５７２】

液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ４のソケットを、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ２のプラグに挿入して押し込むことによりソケットとプラグとが嵌合する。液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ４のソケットは、この嵌合する際に、液晶出力基板１５３０（周辺制御基板１５１０）を正面から見てソケットが前後方向（パチンコ機１の背面と正面との方向）へ向かって所定距離範囲を可動することによって押し込む際に生ずる前後方向の誤差を吸収することができるというフローティング機構が設けられている構造となっている。なお、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ４のソケットは、液晶出力基板１５３０がカバー体１５０１のカバー平板１５０１ａの裏面側の所定位置に取り付けられて固定される状態において、液晶出力基板１５３０（周辺制御基板１５１０）を正面から見て上述した所定距離範囲のうち、最大限動いたとしても、特殊コネクタＳＣＮ４のソケットの正面（上面）がカバー体１５０１のカバー平板１５０１ａの裏面に接触しないように、特殊コネクタＳＣＮ４のソケットの正面（上面）と、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａの裏面と、の間にすき間が形成されている。

【１５７３】

ここで、周辺データＲＯＭ基板１５２０に特殊コネクタＳＣＮ３、液晶出力基板１５３０に特殊コネクタＳＣＮ４を採用した理由について簡単に説明する。周辺データＲＯＭ基板１５２０には、周辺制御基板１５１０の制御対象となっている各種の制御情報（周辺データ）を記憶することができる周辺データＲＯＭ１５２０ａ（上述した演出表示制御部１５１２の画像ＲＯＭの機能等を含む。）を備えている。各種の制御情報（周辺データ）としては、演出表示装置１６００にさまざまな演出画像を描画するための背景画像、キャラ

クタ画像、図柄画像等の画像データ、扉枠３や遊技盤５に備える各種装飾基板に複数実装される各種ＬＥＤ等の発光態様（点灯、階調、点滅、消灯等）を規定する発光データ、音楽、音声、警告音、報知音等の音データ、扉枠３や遊技盤５に備える各種可動演出体を駆動制御するための駆動データ等を挙げることができる。

【１５７４】

周辺データＲＯＭ１５２０ａは、ＮＡＮＤ型フラッシュ（不揮発性）メモリであり、ＮＯＲ型フラッシュ（不揮発性）メモリと比べて安価であり、大容量であり、そして各種データの書き込みを高速に行うことができる。周辺データＲＯＭ１５２０ａは、動作電圧が低く、消費電力を抑制することができと共に、ＳＡＴＡ規格に準拠する通信による高速な転送速度を実現することができる。

【１５７５】

このように、周辺データＲＯＭ１５２０ａとしてＮＡＮＤ型フラッシュ（不揮発性）メモリを採用することによって、コストダウンを実現すると共に、消費電力の抑制に寄与し、記憶した各種データを高速な転送速度により読み出すことができる。ところが、周辺データＲＯＭ１５２０ａは、その動作電圧が低いことにより消費電力を抑制することができるものの、動作電圧が低いことによってノイズの影響を受けやすい。また周辺データＲＯＭ基板１５２０から、周辺データＲＯＭ１５２０ａに記憶される各種データを周辺制御基板１５１０に対して、正確にかつ確実に伝送する必要がある。そこで、本実施形態では、周辺データＲＯＭ基板１５２０と周辺制御基板１５１０との基板間を、配線（ハーネス）を介して、電気的に接続するという構成を採用せず、周辺データＲＯＭ基板１５２０と周辺制御基板１５１０とを基板間コネクタにより電気的に接続するという構成を採用することで基板間伝送路に対して侵入するノイズの影響を低減している。

【１５７６】

カバー体１５０１の内部空間内に各種基板の取り付け手順については後述するが、周辺データＲＯＭ基板１５２０は、自身の表面（実装面）１５２０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ３のソケットを、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ１のプラグに挿入して押し込んだ後に、周辺制御基板１５１０と共に、周辺データＲＯＭ基板１５２０及び液晶出力基板１５３０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定する必要があるため、上述したフローティング機構が設けられる特殊コネクタＳＣＮ３のソケットを採用することにより、この周辺制御基板１５１０と共に、周辺データＲＯＭ基板１５２０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定する際に生ずる前後方向の誤差を吸収することで、プラグとソケットとに複数形成される接続端子の破損を防止して、周辺制御基板１５１０と周辺データＲＯＭ基板１５２０との基板間における伝送路を確実に形成することができることができる。

【１５７７】

また、カバー体１５０１は、上述したように、ポリカーボネートにカーボンを含有した導電性の樹脂製であるため、設計寸法距離公差内であるものの、成型後にカバー体１５０１のカバー平板１５０１ａが反る場合がある。このような場合であっても、上述したフローティング機構が設けられる特殊コネクタＳＣＮ３のソケットを採用することにより、周辺制御基板１５１０と共に、周辺データＲＯＭ基板１５２０を、反ったカバー平板１５０１ａの裏面側に固定する際に生ずる前後方向の誤差を吸収することで、プラグとソケットとに複数形成される接続端子の破損を防止して、周辺制御基板１５１０と周辺データＲＯＭ基板１５２０との基板間における伝送路を確実に形成することができることができる。

【１５７８】

液晶出力基板１５３０は、周辺制御基板１５１０から伝送される演出表示装置１６００に描画する画像の描画データをコネクタＣＮ１０から出力することにより、演出表示装置１６００に遊技演出の進行（例えば、遊技者に対して通常状態と比べて有利な大当り遊技状態が発生する旨を伝える画像、大当り遊技状態が発生しない旨を伝える画像、大当り遊技状態が発生しないものの、通常状態と比べて大当り遊技状態が発生する状態へ近づいている旨を伝える画像等）やデモンストレーション（遊技者待ち状態となって行われるデモ

演出）を画像として描画する重要な基板である。このため、周辺制御基板１５１０からの演出表示装置１６００に描画する画像の描画データを液晶出力基板１５３０に対して、正確にかつ確実に伝送する必要がある。そこで、本実施形態では、液晶出力基板１５３０と周辺制御基板１５１０との基板間を、配線（ハーネス）を介して、電気的に接続するという構成を採用せず、液晶出力基板１５３０と周辺制御基板１５１０とを基板間コネクタにより電気的に接続するという構成を採用することで基板間伝送路に対して侵入するノイズの影響を低減している。

【１５７９】

カバー体１５０１の内部空間内に各種基板の取り付け手順については後述するが、液晶出力基板１５３０は、自身の表面（実装面）１５３０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ４のソケットを、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ２のプラグに挿入して押し込んだ後に、周辺制御基板１５１０と共に、周辺データＲＯＭ基板１５２０及び液晶出力基板１５３０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定する必要があるため、上述したフローティング機構が設けられる特殊コネクタＳＣＮ４のソケットを採用することにより、この周辺制御基板１５１０と共に、液晶出力基板１５３０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定する押し込む際に生ずる前後方向の誤差を吸収することで、プラグとソケットとに複数形成される接続端子の破損を防止して、周辺制御基板１５１０と液晶出力基板１５３０との基板間における伝送路を確実に形成することができることができる。

【１５８０】

また、カバー体１５０１は、上述したように、ポリカーボネートにカーボンを含有した導電性の樹脂製であるため、設計寸法距離公差内であるものの、成型後にカバー体１５０１のカバー平板１５０１ａが反る場合がある。このような場合であっても、上述したフローティング機構が設けられる特殊コネクタＳＣＮ４のソケットを採用することにより、周辺制御基板１５１０と共に、液晶出力基板１５３０を、反ったカバー平板１５０１ａの裏面側に固定する際に生ずる前後方向の誤差を吸収することで、プラグとソケットとに複数形成される接続端子の破損を防止して、周辺制御基板１５１０と液晶出力基板１５３０との基板間における伝送路を確実に形成することができることができる。

【１５８１】

なお、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０がカバー平板１５０１ａの裏面側に固定されると、上述したように、周辺制御基板１５１０の裏面と、周辺データＲＯＭ基板１５２０の裏面と、液晶出力基板１５３０の裏面と、が同一の平面上に配置されるようになっているため、周辺制御基板１５１０に表面に対して周辺データＲＯＭ基板１５２０や液晶出力基板１５３０を配置するという立体配置を行う場合と比べると、周辺制御ユニット１５００の前後方向（つまり奥行き方向）の距離寸法を小さくすることができるため、例えば、遊技盤５に大型の可動演出ユニット（可動演出体を作動することができる電気的駆動源や駆動機構、及び原点位置や作動位置を検出するための各種センサ）を配置するための奥行き方向の距離寸法の確保に寄与することができる。

【１５８２】

［７－４．周辺制御ユニットの組み立て方法］

ここで、周辺制御ユニット１５００の組み立て方法について説明する。まず、周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ３のソケットを、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ１のプラグに挿入して押し込む。続いて、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ４のソケットを、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ２のプラグに挿入して押し込む。

【１５８３】

続いて、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０及び液晶出力基板１５３０をカバー平板１５０１ａの裏面側に取り付けるために、周辺制御基板１５１０の表面

（実装面）１５１０ｘ、周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘ及び液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘをカバー平板１５０１ａの裏面側へ向けると共に、周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成される貫通孔１５２０ｒ１，１５２０ｒ３を、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス突出部１５０１ａｉ１，１５０１ａｉ２に挿入すると共に、液晶出力基板１５３０に形成される貫通孔１５３０ｒ２，１５３０ｒ４を、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス突出部１５０１ａｎ１，１５０１ａｎ２に挿入する。これにより、周辺制御基板１５１０に形成される貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４は、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４と対応する配置となり、周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成される貫通孔１５２０ｒ２，１５２０ｒ４は、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｈ１，１５０１ａｈ２と対応する配置となり、そして液晶出力基板１５３０に形成される貫通孔１５３０ｒ１，１５３０ｒ３は、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｍ１，１５０１ａｍ２と対応する配置となる。

【１５８４】

続いて、周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成される貫通孔１５２０ｒ２，１５２０ｒ４に図示しない金属製のナベねじを挿入してカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｈ１，１５０１ａｈ２へ向かってねじ込むことにより周辺データＲＯＭ基板１５２０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定し、液晶出力基板１５３０に形成される貫通孔１５３０ｒ１，１５３０ｒ３に図示しない金属製のナベねじを挿入してカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｍ１，１５０１ａｍ２へ向かってねじ込むことにより液晶出力基板１５３０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定する。

【１５８５】

続いて、周辺制御基板１５１０に形成される貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４を、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４に合わせるように配置し、貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４に図示しない金属製のナベねじを挿入して取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４へ向かってねじ込むことにより周辺制御基板１５１０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定する。このように、周辺データＲＯＭ基板１５２０、液晶出力基板１５３０、及び周辺制御基板１５１０のうち、周辺制御基板１５１０を最後にカバー平板１５０１ａの裏面側に固定するようになっている。

【１５８６】

周辺データＲＯＭ基板１５２０は、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス突出部１５０１ａｉ１，１５０１ａｉ２に挿入されことにより上下左右方向の移動が拘束されると共に、液晶出力基板１５３０は、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス突出部１５０１ａｎ１，１５０１ａｎ２に挿入されることにより上下左右方向の移動が拘束されるのに対して、周辺制御基板１５１０には、上下左右方向を拘束するための取付ボス突出部がカバー平板１５０１ａの裏面側に形成されていない。これは、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定することにより上下左右方向を拘束して、このような拘束による寸法誤差を、周辺制御基板１５１０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定する際に、周辺制御基板１５１０に形成される貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４と、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４と、にそれぞれ持たせた寸法的な余裕により吸収することができるようになっているためである。

【１５８７】

続いて、カバー平板１５０１ａの裏面側に周辺データＲＯＭ基板１５２０、液晶出力基板１５３０、及び周辺制御基板１５１０が固定された状態において、カバー体１５０１に形成される板状の案内部１５０１ｃａ，１５０１ｃｂを、ベース体１５０２の係合部１５０２ｃａに形成される案内受部１５０２ｃａａ，１５０２ｃａｂに挿入すると共に、カバ

ー体１５０１に形成されるヒンジ掛け部１５０１ｃｃ，１５０１ｃｄのＬ字状の鉤部１５０１ｃｃａ，１５０１ｃｄａを、ベース体１５０２の係合部１５０２ｃａに形成されるヒンジ受け部１５０２ｃａｃ，１５０２ｃａｄのＵ字溝形状の袋部１５０２ｃａｅ，１５０２ｃａｆに挿入する。

【１５８８】

続いて、ヒンジ受け部１５０２ｃａｃ，１５０２ｃａｄのＵ字溝形状の袋部１５０２ｃａｅ，１５０２ｃａｆに、カバー体１５０１に形成されるヒンジ掛け部１５０１ｃｃ，１５０１ｃｄのＬ字状の鉤部１５０１ｃｃａ，１５０１ｃｄａが当接した状態でベース体１５０２によりカバー体１５０１の開口側を覆うように回り込ませてそのままベース体１５０２をカバー体１５０１に被せた状態において、カバー体１５０１に形成されるカバー側封印部１５０１ｅａに図示しない金属製のアンカーリベットが挿入された金属製ワンウェイネジを挿入してベース体１５０２に形成されるベース側封印部１５０２ｅａへ向かってねじ込む。金属製ワンウェイネジがねじ込まれることにより金属製アンカーリベットの先端面がベース側封印部１５０２ｅａにおいて外部へ向かって広がることによって、カバー体１５０１に形成されるカバー側封印部１５０１ｅａと、ベース体１５０２に形成されるベース側封印部１５０２ｅａと、が封印される状態となる。

【１５８９】

このような封印された状態においては、ベース体１５０２のベース側壁１５０２ｂ～１５０２ｅの内側にカバー体１５０１のカバー側壁１５０１ｂ～１５０１ｅが嵌まると共に内接（面接触）する状態となると共に、ベース体１５０２に形成される断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３の正面が周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙと当接した状態となる。これにより、カバー体１５０１、及びベース体１５０２は、上述したように、ポリカーボネートにカーボンを含有した導電性の樹脂製であるため、カバー体１５０１、及びベース体１５０２が導通する状態となる。なお、このような封印された状態を解除する場合には、カバー体１５０１に形成されるカバー側封印部１５０１ｅａを工具により破壊しなければならい構造となっている。したがって、開閉の痕跡を見ることで、カバー体１５０１とベース体１５０２とから構成される周辺制御基板ボックス１５０５の不正な開閉を発見することができ、周辺制御基板ボックス１５０５への不正行為に対する抑止力が高められている。

【１５９０】

続いて、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに形成されるＦＡＮ取付凹部１５０１ａａに空冷ファンＦＡＮを押し込み、空冷ファンＦＡＮからの複数の配線をカバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに形成される配線引出凹部１５０１ａｂから引き出し、取付孔１５０１ａａｃ１，ａａｃ２にそれぞれカバー平板１５０１ａの正面から後方へ向かって、図示しない金属製の座付きナベねじ（ナベ頭と平ワッシャーとを一体とした形状を有するねじ）をねじ込む。

【１５９１】

続いて、液晶出力基板１５３０のコネクタＣＮ１０に対して、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに形成される配線引出開口部１５０１ａｅを介して、演出表示装置１６００への複数の配線（ハーネス）を接続するためのコネクタを挿入して取り付けて、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに形成される取付凹部１５０１ａｆに配線カバー体１５０３を嵌め合わせる。配線カバー体１５０３に形成される貫通孔１５０３ｂ１，１５０３ｂ２に図示しない金属製のナベねじを挿入して取付孔１５０１ａｆｂ１，１５０１ａｆｂ２にそれぞれ配線カバー体１５０３の正面から後方へ向かってねじ込むことにより、配線カバー体１５０３を取付凹部１５０１ａｆに固定する。これにより、複数の配線は、配線カバー体１５０３によりカバーされて触れることができない。

【１５９２】

このように組み立てられる周辺制御ユニット１５００を遊技盤５に備える遊技パネル１１００に取り付ける場合には、周辺制御ユニット１５００を正面から見て、周辺制御ユニット１５００の左辺側（周辺制御ユニット１５００のベース体１５０２に形成される係合

部１５０２ｃａ側）を遊技パネル１１００に設けられる図示しない装着溝に挿入して周辺制御ユニット１５００のベース体１５０２に形成される貫通孔１５０２ｅｂ１，１５０２ｅｂ２に図示しない金属製のナベねじを挿入して遊技パネル１１００に設けられる図示しない取付孔へ向かってねじ込むことにより固定する。

【１５９３】

なお、上述した組み立て方法のうち、カバー体１５０１の内部空間内に各種基板の取り付け手順においては、例えば、まず周辺データＲＯＭ基板１５２０を周辺制御基板１５１０のカバー平板１５０１ａの裏面側における上述した所定位置（周辺データＲＯＭ基板１５２０は、カバー体１５０１を背面から見て、カバー体１５０１の右上側に配置されている。）に固定すると共に、液晶出力基板１５３０を周辺制御基板１５１０のカバー平板１５０１ａの裏面側における上述した所定位置（液晶出力基板１５３０とは、カバー体１５０１を背面から見て、カバー体１５０１の右下側に配置されている。）に固定した後において、周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ３のソケットを、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ１のプラグに挿入して押し込むと共に、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ４のソケットを、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ２のプラグに挿入して押し込み、周辺制御基板１５１０を上述した所定位置（周辺制御基板１５１０は、カバー体１５０１を背面から見て、カバー体１５０１の左側に詰めて配置されている。）に固定することもできる。このような各種基板の取り付け手順においても、上述したフローティング機構が設けられる特殊コネクタＳＣＮ３，ＳＣＮ４のソケットを採用することにより、この押し込む際に生ずる前後方向の誤差を吸収することで、プラグとソケットとに複数形成される接続端子の破損を防止して、周辺データＲＯＭ基板１５２０と周辺制御基板１５１０との基板間における伝送路を確実にそれぞれ形成することができることができると共に、液晶出力基板１５３０と周辺制御基板１５１０との基板間における伝送路を確実に形成することができることができる。

【１５９４】

ところで、パチンコ機に装着される遊技盤には、遊技仕様が異なる複数種類のものが存在する。本実施形態では、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａの裏面側に、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板を３つに分割してそれぞれ取り付けることができるように構成すると共に、周辺制御基板１５１０はパチンコ機に装着される遊技盤の遊技仕様に依存されない共通に利用することができる基板とし、周辺データＲＯＭ基板１５２０は周辺データＲＯＭ１５２０ａに遊技盤の遊技仕様ごとに対応する周辺データが記憶されることで遊技盤の遊技仕様に依存される基板とし、液晶出力基板１５３０は演出表示装置１６００に入力される映像信号の方式に依存される基板としている。

【１５９５】

これにより、周辺制御基板１５１０は、遊技盤の遊技仕様に依存されない基板であって、かつ、演出表示装置１６００に入力される映像信号の方式に依存されない基板であり、共通化された基板となっているため、再利用（使い回し）することができる。また、遊技盤の遊技仕様ごとに対応する周辺データが記憶される周辺データＲＯＭ１５２０ａを備える周辺データＲＯＭ基板１５２０と周辺制御基板１５１０とが上述した基板間コネクタにより電気的に接続されるようになっているため、遊技盤の遊技仕様に合わせて、周辺データＲＯＭ基板１５２０を容易に交換することができる。

【１５９６】

演出表示装置等の表示装置に入力される映像信号の方式には、例えば、上述したように、ＲＧＢ方式、ＬＶＤＳ方式、ＭＩＰＩ方式、ｅＤＰ方式及びクロックレス方式等の複数種類の方式がある。これら複数種類の方式と対応する液晶出力基板１５３０と周辺制御基板１５１０とが上述した基板間コネクタにより電気的に接続されるようになっている。つまり、演出表示装置１６００に入力される映像信号の方式に合わせて、液晶出力基板１５

３０を容易に交換することができる。本実施形態では、上述したように、演出表示装置１６００に入力される映像信号の方式として、２つのＬＶＤＳ方式の系統のうち、一方のＬＶＤＳ方式の系統（例えば、第１のＬＶＤＳ方式の系統）が採用されているため、演出表示装置１６００に入力される映像信号の方式（ＬＶＤＳ方式）に合わせた液晶出力基板１５３０が周辺制御基板１５１０と上述した基板間コネクタにより電気的に接続されている。

【１５９７】

また、本実施形態では、カバー体１５０１、ベース体１５０２、及び配線カバー体１５０３は、すべてポリカーボネートにカーボンを含有した導電性の樹脂製として構成されると共に、カバー体１５０１（カバー平板１５０１ａ）の裏面側に周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板が金属製のナベねじによりそれぞれ固定されると、これらのグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続されて同一のグランド（ＧＮＤ）となるように構成されているため、カバー体１５０１、ベース体１５０２、及び配線カバー体１５０３から侵入したノイズを基板グランド（各種基板のグランド（ＧＮＤ））へ流し、ノイズを除去することができるようになっている（以下、「導電性樹脂製の周辺制御基板ボックス１５０５によるノイズ対策効果」と記載する場合がある）。これにより、各種基板に、このようなノイズを除去する専用のフィルタをそれぞれ備える必要がなく、各種基板のコストダウンに寄与することができる。

【１５９８】

ここで、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに形成される複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚの配置について説明する。これらの複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚは、上述したように、カバー体１５０１の内側空間を空冷することができると共に、不正の有無を確認することができる機能も有している。

【１５９９】

具体的には、周辺制御ユニット１５００が上述したように組み立てると、図１７２に示すように、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの右側に形成される複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚは、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える制御ＲＯＭ１５１０ｂの表面に印刷されている品番や型式（又は管理番号）と、制御ＲＯＭ１５１０ｂのＩＣピンの状態と、を視認することができるように、つまり多方向の角度から制御ＲＯＭ１５１０ｂの表面とＩＣピンの状態とを確認することができるように、制御ＲＯＭ１５１０ｂの形状より大きな領域となるようにそれぞれ分散して配置されている。これにより、制御ＲＯＭ１５１０ｂの改変を、複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚを介して、確認することができる。また、制御ＲＯＭ１５１０ｂの近傍に配置されるＬＥＤＭＬ１は、基板ユニット６２０の電源基板６３０からの＋５Ｖがインターフェイス基板６３５を介して供給されている状態において点灯状態が維持されるようになっているため、本来、＋５Ｖが供給されている状態を確認（モニター）する機能を有しているものの、制御ＲＯＭ１５１０ｂを明るく照らすというスポットライトとしての機能も更に有することによって、制御ＲＯＭ１５１０ｂの表面とＩＣピンの状態との視認性の向上に寄与することができるようになっている。

【１６００】

また、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの左側に形成される複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚは、周辺制御基板１５１０と周辺データＲＯＭ基板１５２０との基板間コネクタの接続状態を確認することができるように、基板間コネクタの形状（周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ１と周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ３とにより構成される形状）より大きな領域であって、さらに、周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘに備える周辺データＲＯＭ１５２０ａの表面に印刷されている品番や型式（又は管理番号）と、周辺データＲＯＭ１５２０ａのＩＣピンの状態と、を視認することができるように、つまり多方向の角度から周辺データＲＯＭ１５２０ａの表面とＩＣピンの状態とをほぼ確認することができる大きな領域となるようにそれぞれ分散して配置されて

いる。これにより、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ１と周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ３とによる基板間コネクタの改変を、複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚを介して、確認することができる。また、特殊コネクタＳＣＮ１の近傍に配置されるＬＥＤＭＬ３は、基板ユニット６２０の電源基板６３０からの＋２４Ｖがインターフェイス基板６３５を介して供給されている状態において点灯状態が維持されるようになっているため、本来、＋２４Ｖが供給されている状態を確認（モニター）する機能を有しているものの、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ１と周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ３とによる基板間コネクタを明るく照らすというスポットライトとしての機能も更に有することによって、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ１と周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ３とによる基板間コネクタの視認性の向上に寄与することができるようになっている。

【１６０１】

また、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの左下側に形成される複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚは、周辺制御基板１５１０と液晶出力基板１５３０との基板間コネクタの接続状態を確認することができるように、基板間コネクタの形状（周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ２と液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ４とにより構成される形状）より大きな領域となるようにそれぞれ分散して配置されている。これにより、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ２と液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ４とによる基板間コネクタの改変を、複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚを介して、確認することができる。また、特殊コネクタＳＣＮ２の近傍に配置されるＬＥＤＭＬ４は、周辺制御ＩＣ１５１０ａが動作している状態において点灯状態が維持されるようになっているため、本来、周辺制御ＩＣ１５１０ａの動作を確認（モニター）する機能を有しているものの、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ２と液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ４とによる基板間コネクタを明るく照らすというスポットライトとしての機能を有することによって、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ２と液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ４とによる基板間コネクタの視認性の向上に寄与することができるようになっている。

【１６０２】

また、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの右下側に形成される複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚは、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備えるＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２の表面に印刷されている品番や型式と、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２のＩＣピンの状態と、を視認することができるように、つまり多方向の角度からＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２の表面とＩＣピンの状態とを確認することができるように、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２の形状より大きな領域となるようにそれぞれ分散して配置されている。これにより、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２の改変を、複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚを介して、確認することができる。また、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２から構成されるＳＤＲＡＭ１５１０ｃの近傍に配置されるＬＥＤＭＬ２は、基板ユニット６２０の電源基板６３０からの＋１２Ｖがインターフェイス基板６３５を介して供給されている状態において点灯状態が維持されるようになっているため、本来、＋１２Ｖが供給されている状態を確認（モニター）する機能を有しているものの、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃを明るく照らすというスポットライトとしての機能も更に有することによって、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ（つまり、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２）の表面とＩＣピンの状態との視認性の向上に寄与することができるようになっている。

【１６０３】
　また、空冷ファンＦＡＮの羽部を構成する複数のブレードのうち、ブレードとブレードとのすき間（具体的には、検査人が空冷ファンＦＡＮの羽部を回転させることによりブレードとブレードとのすき間）から周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える周辺制御ＩＣ１５１０ａの品番を確認することができる。これにより、周辺制御ＩＣ１５１０ａの周囲に不正基板が配置されていないかを、複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚを介して、確認することができる。
【１６０４】
　なお、本実施形態では、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備えるＬＥＤＭＬ１～ＬＥＤＭＬ４として、面実装型であって角度が１２０度程度というワイドなものであり、指向性の弱いタイプのものが採用されているため、照明としての用途にも適している。周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板がカバー平板１５０１ａの裏面側の所定位置に取り付けられて固定されると、上述したように、各種基板の表面（カバー平板１５０１ａの裏面側と対向する面）とカバー平板１５０１ａの裏面との間に所定高さの距離寸法（本実施形態では、１４．８ｍｍ）を有する空間が形成される状態となる。照明としての用途にも適している周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備えるＬＥＤＭＬ１～ＬＥＤＭＬ４が点灯することによって、このように形成される空間内を明るく照らすことができる。
【１６０５】
　また、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備えるＬＥＤＭＬ１～ＬＥＤＭＬ４の発光面とそれぞれ対向する、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａの裏面の領域及びその周囲に対しては、ＬＥＤＭＬ１～ＬＥＤＭＬ４が発した光を反射させて再び周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘへ向かわせる図示しない反射部がそれぞれ形成されている。これらの図示しない反射部としては、白色などの明るい色の着色塗料のほかに光沢を有する着色塗料であってもよいし、光沢を有する金属製シートを貼り付けてもよい。
【１６０６】
　また、遊技盤５の近傍には、遊技盤５の上方に球タンク５５２やタンクレール５５３が配置され、遊技盤５の側方に払出ユニット５６０が配置されるため、これらにより構成される球経路において遊技球が互いにこすれ合って帯電して静電放電することでノイズ源となる。このため、球経路が形成される遊技盤５の近傍は、遊技球からの静電放電によるノイズの影響を受ける環境が存在する。またパチンコ機１は、遊技ホールの島設備に背向かいで列設されているため、他のパチンコ機がノイズ源となってノイズの影響を受ける場合もある。このように、遊技盤５の周囲はノイズの影響を極めて受け易い環境下にある。そこで、本実施形態においては、カバー体１５０１、ベース体１５０２、及び配線カバー体１５０３を、上述したように、ポリカーボネートにカーボンを含有した導電性の樹脂製とすると共に、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０と同一のグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続する構成を採用した。これにより、遊技盤５の遊技パネル１１００の後側に取り付けられる周辺制御ユニット１５００のカバー体１５０１、及びベース体１５０２等を介して侵入するノイズを、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の基板グランド（各種基板のグランド（ＧＮＤ））へ流し、ノイズを除去することができる。
【１６０７】
［７－５．制御ＲＯＭの実装］
　ここで、周辺制御基板１５１０への制御ＲＯＭ１５１０ｂの実装方法について、図１７３～図１７６を参照して説明する。図１７３は、変換基板を有するＲＯＭソケットの斜視図（ａ）あり、リードレス型のパッケージを有する制御ＲＯＭがＲＯＭソケットに取り付けた状態における上面図（ｂ）である。図１７４は、図１７３（ａ）のＰ矢視図である。図１７５は、周辺制御基板に形成されるスルーホールと変換基板に形成されるスルーホールとの位置関係の概要を示すスルーホールの断面図である。図１７６は、変換基板に実装

されるリードレス型のパッケージを有する制御ＲＯＭやＲＯＭソケットの斜視図（ａ）あり、リードレス型のパッケージを有する制御ＲＯＭがＲＯＭソケットに取り付けた状態における上面図（ｂ）である。

【１６０８】

まず、制御ＲＯＭ１５１０ｂが配置される周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘには、図１７３～図１７６に示すように、矩形形状を有するパッド１５１０ｖが複数形成されており、予め定めた距離寸法だけ離間して２列に整列して配置されている。具体的には、パッド１５１０ｖは、リード型のパッケージ（ＳＳＯＰ（Ｓｈｒｉｎｋ　Ｓｍａｌｌ　Ｏｕｔｌｉｎｅ　Ｐａｃｋａｇｅ）、以下、「リード型のパッケージ」と記載する場合がある。）を有する制御ＲＯＭ１５１０ｂが着脱されるリード型のＲＯＭソケットにおける長手方向の両側面から外側へ向かってそれぞれ突出する複数のリード端子とそれぞれ対応する位置に配置されている。周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖには、リード型のＲＯＭソケットのリード端子がハンダ付けされることでリード型のＲＯＭソケットが周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに固定される。なお、パッド１５１０ｖは、上述した周辺制御ＩＣ１５１０ａの近傍に配置されている。

【１６０９】

周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘには、表面側実装電子部品である制御ＲＯＭ１５１０ｂの他に、表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が、緑色に対して目立ち易い白色の塗料で、ベタ塗りされた緑色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている（例えば、図１７３（ｂ）の制御ＲＯＭ１５１０ｂの部品番号１５１０ｖ１、制御ＲＯＭ１５１０ｂを配置する位置（四隅を示す記号（Ｌ字状の記号）により示される内側領域）１５１０ｖ２、制御ＲＯＭ１５１０ｂの実装向き（実装方向、第１端子の配置位置を示す記号（三角記号（△））１５１０ｖ３）。

【１６１０】

また、周辺制御基板１５１０の裏面（制御ＲＯＭ１５１０ｂが実装されていない面として、以下、「非実装面」と記載する場合がある。）１５１０ｙには、裏面側実装電子部品である抵抗、コンデンサ、各種ＩＣの他に、裏面側電子部品の部品番号、裏面側電子部品を配置する位置を示す領域等の裏面側電子部品の属性（さらに、裏面側電子部品の形状、裏面側電子部品の大きさ、裏面側電子部品の実装向き（実装方向）、裏面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す裏面側表記部が、緑色に対して目立ち易い白色の塗料で、ベタ塗りされた緑色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。

【１６１１】

本実施形態では、リード型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂが２５６Ｍビットの記憶容量を有し、長手方向の両側面から外側へ向かってそれぞれ３５本のリード端子（両側面を合わせて７０本のリード端子）が突出している。

【１６１２】

制御ＲＯＭ１５１０ｂは、リード型のパッケージを有するものであるが、供給不足となったり、製造中止となったりする場合には、他のパッケージを有するもので代用する必要がある。ところが、パッケージが変更されると、リードレス型（いわゆる、ＬＧＡ（Ｌａｎｄ　Ｇｒｉｄ　Ａｒｒａｙ））のパッケージ（以下、「リードレス型のパッケージ」と記載する場合がある。）では、リードレス型のパッケージの側面からリード端子が突出されずリードレス型のパッケージの底面に接続端子が配置されるため、パッド１５１０ｖの形状及び配置、パッド１５１０ｖへの配線パターンの引き回しを修正する必要があり、パッケージの変更という理由で、他の回路に電気的な問題が全くないにもかかわらず、周辺制御基板１５１０を製造する必要がある。

【１６１３】

そこで、パッド１５１０ｖは、リード型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂが着脱されるリード型のＲＯＭソケットにおける長手方向の両側面から外側へ向かってそれぞれ突出する複数のリード端子とそれぞれ対応する位置に配置されるように周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成し、このパッド１５１０ｖにハンダ付けされる対象を変更することにより、パッケージの変更に対応することができる仕組みを採用した。つまり、制御ＲＯＭ１５１０ｂのパッケージが変更されても、周辺制御基板１５１０のパッド１５１０ｖの形状及び配置、パッド１５１０ｖへの配線パターンの引き回しを修正する必要がなくなって（パッド１５１０ｖの形状及び配置、パッド１５１０ｖへの配線の引き回しが同一となって）共通に使用することができる仕組みとなっており、予め定めた距離寸法だけ離間して１列あたり３５個のパッド１５１０ｖが２列に整列して周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されている。

【１６１４】

リード型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂのリード端子は、上述したように、合計７０本であるのに対して、リードレス型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂの接続端子は、リードレス型のパッケージの底面に５６本（接続端子が５６本から少ない本数である場合もある。）配置されて、本数が少なくなっている。これは、外部からの制御電源が電気的に接続される電源端子と、グランド（回路グランド）（ＧＮＤ）と電気的に接続されるグランド端子と、未接続（ノンコネクション）となっているＮＣ端子と、の本数が少なくなっているからである。

【１６１５】

制御ＲＯＭ１５１０ｂのパッケージがリード型のパッケージからリードレス型のパッケージに変更される場合には、図１７３（ａ）に示すように、リードレス型パッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂを着脱可能なＲＯＭソケット１５１０ｓ、端子数を変更する変換基板１５１０ｔを用いて対応することができるようになっている。ＲＯＭソケット１５１０ｓは、リードレス型を有する制御ＲＯＭ１５１０ｂを専用工具を用いて着脱することができるものであり、載置部１５１０ｓａ、一対の回転保持片１５１０ｓｂ，１５１０ｓｂ、複数のリード端子１５１０ｓｃから主として構成されている。載置部１５１０ｓａは、リードレス型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂが載置されるものであり、一対の回転保持片１５１０ｓｂ，１５１０ｓｂは、載置部１５１０ｓａにリードレス型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂを載置するときには、開いた状態となっているのに対して、載置部１５１０ｓａにリードレス型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂを載置して保持するときには、リードレス型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂの上面を底面へ向かって力が働くように回転して保持する閉じた状態となる。

【１６１６】

一対の回転保持片１５１０ｓｂ，１５１０ｓｂが閉じた状態となることにより、リードレス型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂの上面を底面へ向かって働く力が維持され、載置部１５１０ｓａに載置されるリードレス型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂの底面の５６本の接続端子とそれぞれ対応するリード端子１５１０ｓｃ（５６本）の一端が電気的に接続された状態が維持されるようになっている。

【１６１７】

５６本のリード端子１５１０ｓｃは、これらのリード端子１５１０ｓｃと対応するように形成される変換基板１５１０ｔの表面（実装面）１５１０ｔｘにパッド１５１０ｔａ（５６本）にハンダ付けされて固定されている。

【１６１８】

変換基板１５１０ｔの表面（実装面）１５１０ｔｘに形成されるパッド１５１０ｔａの形状は、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖの形状（例えば、２．５ｍｍ×０．５ｍｍの矩形形状）と同一の形状であり、その大きさは同一であり、パッド間の距離寸法（いわゆる、ピッチ）も同一（例えば、０．８ｍｍ）である。変換基板１５１０ｔの表面（実装面）１５１０ｔｘに形成されるパッド１５１０ｔａの２列間の距離寸法は、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成

されるパッド１５１０ｖの２列間の距離寸法と比べて小さい。
【１６１９】
変換基板１５１０ｔの外形は、矩形形状を有する板状であり、ＩＣパッケージの外形と比べて大きく、リード型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂが着脱されるリード型のＲＯＭソケットの外形とほぼ同一となっている。
【１６２０】
変換基板１５１０ｔの板厚は、周辺制御基板１５１０の板厚（１．６ｍｍ）と比べて薄く（０．８ｍｍや１．０ｍｍ）、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ及び裏面（ハンダ面、非実装面）１５１０ｙにパッド１５１０ｔａ、配線パターン、ランドが形成される層（銅プレーン）の上に緑色のレジスト液が塗布されて形成される緑色塗膜により緑色のレジスト層が形成されている。変換基板１５１０ｔには、表面（実装面）１５１０ｔｘ及び裏面（非実装面）１５１０ｔｙに形成される配線パターン電気的に接続するランドを有するスルーホール（以下、「スルーホール」と記載する場合がある。）が複数形成されており、スルーホールの内周壁に銅メッキが施されて導電性を有している。後述する端面スルーホール１５１０ｔｂを除くスルーホールの孔は、絶縁性樹脂が充てんされ、スルーホールの孔を塞いだ絶縁性の樹脂の一端及び他端が表面（実装面）１５１０ｔｘ及び裏面（非実装面）１５１０ｔｙと面一となるようにそれぞれに加工され、ランドと共に、スルーホールの孔を塞いだ絶縁性の樹脂の一端及び他端が緑色塗膜によりそれぞれ完全に覆われている（「樹脂埋め」という）。
【１６２１】
変換基板１５１０ｔにおける長手方向の両側面には、図１７４に示すように、リード型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂが着脱されるリード型のＲＯＭソケットにおける長手方向の両側面から外側へ向かってそれぞれ突出する複数のリード端子と対応する位置に半円状を有する端面スルーホール１５１０ｔｂがそれぞれ形成され、端面スルーホール１５１０ｔｂの内周壁１５１０ｔｂａに銅メッキが施されて導電性を有している。端面スルーホール１５１０ｔｂは、製造時に円状に形成された形成後にルータ加工により半円状に整形されている。なお、端面スルーホール１５１０ｔｂには、ランドが変換基板１５１０ｔの表面（実装面）１５１０ｔｘ及び裏面（非実装面）１５１０ｔｙにそれぞれ形成されている。
【１６２２】
変換基板１５１０ｔにおける長手方向の両側面に形成される端面スルーホール１５１０ｔｂは、リード型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂのリード端子と、同一の位置に配置されており、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖのパッド間の距離寸法（いわゆる、ピッチ）と同一（例えば、０．８ｍｍ）となっている。
【１６２３】
リード型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂとリードレス型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂとの相違点は、上述したように、外部からの制御電源が電気的に接続される電源端子と、グランド（回路グランド）（ＧＮＤ）と電気的に接続されるグランド端子と、未接続（ノンコネクション）となっているＮＣ端子と、の本数である。このため、変換基板１５１０ｔの表面（実装面）１５１０ｔｘ及び裏面（非実装面）１５１０ｔｙには、リードレス型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂの接続端子を、電源端子、グランド端子、及びＮＣ端子の本数を合わせるように、リード型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂのリード端子の配置となるように配線パターンが端面スルーホール１５１０ｔｂに電気的に接続されるよう引き回されている。
【１６２４】
図１７３に戻り、変換基板１５１０ｔの表面（実装面）１５１０ｔｘに形成される合計５６本のパッド１５１０ｔａと、変換基板１５１０ｔにおける長手方向の両側面に形成される合計７０本の端面スルーホール１５１０ｔｂと、の位置関係については、図１７３（ｂ）に示すように、変換基板１５１０ｔの表面（実装面）１５１０ｔｘの上辺下辺の中心

を結ぶ線と左辺右辺の中心を結ぶ線とが交わる点（中心点）と、ＲＯＭソケット１５１０ｓの上辺下辺の中心を結ぶ線と左辺右辺の中心を結ぶ線とが交わる点（中心点）と、が一致する（ほぼ一致する場合も含む。）ように配置されることにより、パッド１５１０ｔａと端面スルーホール１５１０ｔｂとが電気的に接触しないようにクリアランスとして予め定めた距離寸法ｚｄを有して離間されて配置されている。

【１６２５】

変換基板１５１０ｔにおける長手方向の両側面に形成される合計７０本の端面スルーホール１５１０ｔｂは、端面スルーホール１５１０ｔｂの内周壁１５１０ｔｂａと周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖとがハンダ付けされることにより変換基板１５１０ｔの裏面（非実装面）１５１０ｔｙと周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘとが面接触した状態（つまり、変換基板１５１０ｔが周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに表面実装され、すき間のない状態）で固定される。

【１６２６】

なお、変換基板１５１０ｔの表面（実装面）１５１０ｔｘ及び裏面（非実装面）１５１０ｔｙにおける露出する銅部分の表面は、ハンダリベラーにより、ハンダがのっており（ハンダによりコーティングされており）、露出する銅部分の表面の保護や実装時の濡れ性を向上させる処理が施されている。変換基板１５１０ｔに対するハンダリベラーは、水溶性フラックスでもよい。

【１６２７】

変換基板１５１０ｔの裏面（非実装面）１５１０ｔｙに形成される端面スルーホール１５１０ｔｂのランドは、端面スルーホール１５１０ｔｂの内周壁１５１０ｔｂａと周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖとがハンダ付けされる際に、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖと面接触した状態となって電気的に導通した状態となる。これは、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されパッド１５１０ｖの表面は、ハンダリベラーによる処理が施されて予めハンダがのっている（ハンダによりコーティングされている）とともに、変換基板１５１０ｔの裏面（非実装面）１５１０ｔｙに形成される端面スルーホール１５１０ｔｂのランドもハンダリベラーによる処理が施されて予めハンダがのっている（ハンダによりコーティングされている）ため、端面スルーホール１５１０ｔｂの内周壁１５１０ｔｂａと周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖとがハンダ付けされる際に、変換基板１５１０ｔの裏面（非実装面）１５１０ｔｙに形成される端面スルーホール１５１０ｔｂのランドは、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖと面接触した状態となるからである。周辺制御基板１５１０に対するハンダリベラーは、水溶性フラックスでもよい。

【１６２８】

端面スルーホール１５１０ｔｂには、ランドが変換基板１５１０ｔの表面（実装面）１５１０ｔｘ及び裏面（非実装面）１５１０ｔｙにそれぞれ形成されているが、ランドを形成しなくてもよい。この場合、端面スルーホール１５１０ｔｂの表面（実装面）１５１０ｔｘに形成されるパッド１５１０ｔａと端面スルーホール１５１０ｔｂの両側面に形成される端面スルーホール１５１０ｔｂとが電気的に接触しないようにクリアランスとして予め定めた距離寸法ｚｄ（例えば、０．５ｍｍ以上）を有して離間されて配置されていることが好ましい。またこの場合、変換基板１５１０ｔの裏面（非実装面）１５１０ｔｙには、端面スルーホール１５１０ｔｂの下端側と電気的に接続される下側パッドをそれぞれ形成してもよい。この下側パッドの形状は、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖの形状（例えば、２．５ｍｍ×０．５ｍｍの矩形形状）と比べて小さい形状（例えば、１．５ｍｍ～１．６ｍｍ×０．５ｍｍ～０．５５ｍｍの矩形形状）であり、パッド間の距離寸法（いわゆる、ピッチ）は、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖと同一（例えば、０．８ｍｍ

）である。この下側パッドには、上述したように、ハンダリベラーにより、ハンダがのっており（ハンダによりコーティングされており）、露出する銅部分の表面の保護や実装時の濡れ性を向上させる処理が施されている。このように構成しても、変換基板１５１０ｔの裏面（非実装面）１５１０ｔｙに形成される端面スルーホール１５１０ｔｂの下端側と電気的に接続される下側パッドは、端面スルーホール１５１０ｔｂの内周壁１５１０ｔｂａと周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖとがハンダ付けされる際に、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖと面接触した状態となって電気的に導通した状態となる。また、このように構成することにより、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖに変換基板１５１０ｔの端面スルーホール１５１０ｔｂの内周壁１５１０ｔｂａ及び変換基板１５１０ｔの裏面（非実装面）１５１０ｔｙに形成される下側パッドがハンダ付けされた場合におけるパッド１５１０ｖが周辺制御基板１５１０の基材から剥がれる剥離強度をより高めることができる。

【１６２９】

変換基板１５１０ｔの表面（実装面）１５１０ｔには、表面側実装電子部品であるＲＯＭソケット１５１０ｓの他に、表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が、緑色に対して目立ち易い白色の塗料で、ベタ塗りされた緑色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている（例えば、ＲＯＭソケット１５１０ｓの部品番号１５１０ｓ１、ＲＯＭソケット１５１０ｓを配置する位置（四隅を示す記号（Ｌ字状の記号）により示される内側領域）１５１０ｓ２、ＲＯＭソケット１５１０ｓの実装向き（実装方向、第１端子の配置位置を示す記号（三角記号（△））１５１０ｓ３）。

【１６３０】

なお、変換基板１５１０ｔの表面（実装面）１５１０ｔｘに形成されるパッド１５１０ｔａは、合計５６本であるのに対して、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖは、合計７０本であり、変換基板１５１０ｔの表面（実装面）１５１０ｔｘに形成されるパッド１５１０ｔａと比べて本数が多い。また、変換基板１５１０ｔの表面（実装面）１５１０ｔｘに形成されるパッド１５１０ｔａの形状は、上述したように、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖの形状と同一の形状であり、その大きさも同一である。更に、ＲＯＭソケット１５１０ｓのリード端子１５１０ｓｃと変換基板１５１０ｔの表面（実装面）１５１０ｔｘに形成されるパッド１５１０ｔａとの接触面積（接合面積）は、変換基板１５１０ｔの両側面に形成される端面スルーホール１５１０ｔｂの内周壁１５１０ｔｂａ及び変換基板１５１０ｔの裏面（非実装面）１５１０ｔｙに形成されるランド（又はランドに代えて上述した下側パッド）と周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘとの接触面積（接合面積）と比べると、小さくなるため、変換基板１５１０ｔの両側面に形成される端面スルーホール１５１０ｔｂの内周壁１５１０ｔｂａ及び変換基板１５１０ｔの裏面（非実装面）１５１０ｔｙに形成されるランド（又はランドに代えて上述した下側パッド）と周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘとの接合強度は、ＲＯＭソケット１５１０ｓのリード端子１５１０ｓｃと変換基板１５１０ｔの表面（実装面）１５１０ｔｘに形成されるパッド１５１０ｔａとの接合強度と比べると、高くなる。

【１６３１】

このため、変換基板１５１０ｔの表面（実装面）１５１０ｔｘに形成されるパッド１５１０ｔａにＲＯＭソケット１５１０ｓのリード端子１５１０ｓｃがハンダ付けされた場合におけるパッド１５１０ｔａが変換基板１５１０ｔの基材から剥がれる剥離強度は、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖに変換基板１５１０ｔの端面スルーホール１５１０ｔｂの内周壁１５１０ｔｂａ及び変換基板１５１０ｔの裏面（非実装面）１５１０ｔｙに形成されるランドがハンダ付けされた場合におけ

るパッド１５１０ｖが周辺制御基板１５１０の基材から剥がれる剥離強度と比べて小さくなる。

【１６３２】

換言すると、ＲＯＭソケット１５１０ｓに外力が加わった際に、変換基板１５１０ｔの表面（実装面）１５１０ｔｘに形成されるパッド１５１０ｔａが変換基板１５１０ｔの基材から剥がれる剥離強度は、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖが周辺制御基板１５１０の基材から剥がれる剥離強度と比べて小さいため、ＲＯＭソケット１５１０ｓのリード端子１５１０ｓｃとハンダ付けされた変換基板１５１０ｔの表面（実装面）１５１０ｔｘに形成されるパッド１５１０ｔａが変換基板１５１０ｔの基材から剥がれることができるようになっているため、変換基板１５１０ｔの端面スルーホール１５１０ｔｂの内周壁１５１０ｔｂａ及び変換基板１５１０ｔの裏面（非実装面）１５１０ｔｙに形成されるランドとハンダ付けされた周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖが周辺制御基板１５１０の基材から剥がれることを防止することができるため、周辺制御基板１５１０の損傷を防止することができる。

【１６３３】

一方、ＲＯＭソケット１５１０ｓのリード端子１５１０ｓｃと変換基板１５１０ｔに形成されるパッド１５１０ｔａとの半田付け部分はＲＯＭソケット１５１０ｓのリード端子１５１０ｓｃに剥離方向に力が加わった場合、細い金属線なので変形しやすくそのため余計にリード端子１５１０ｓｃそれぞれに掛かる負荷が増し、変換基板１５１０ｔに形成されるパッド１５１０ｔａ及び変換基板１５１０ｔに形成される配線パターンを剥離する力が掛かる。これにより、細い金属線を有するＲＯＭソケット１５１０ｓ側のハンダ付け部はパターン剥離が発生する蓋然性が高いが、周辺制御基板１５１０側のハンダ付け部（変換基板１５１０ｔの端面スルーホール１５１０ｔｂの内周壁１５１０ｔｂａ及び変換基板１５１０ｔの裏面（非実装面）１５１０ｔｙに形成されるランド（又はランドに代えて上述した下側パッド）と周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖとのハンダ付け部分）はパターン剥離が発生する蓋然性は低いと言える。

【１６３４】

このように、ＲＯＭソケット１５１０ｓが周辺制御基板１５１０に直接実装されず、変換基板１５１０ｔに実装されるという新たな態様とすることにより、ＲＯＭソケット１５１０ｓへ加わった外力による周辺制御基板１５１０のダメージを軽減することができる。したがって、周辺制御基板１５１０に対する電子部品である制御ＲＯＭ１５１０ｂの装着手法を新たな態様にし、より利便性を高くすることができる。

【１６３５】

また、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ及び裏面（ハンダ面、非実装面）１５１０ｙと、変換基板１５１０ｔの表面（実装面）１５１０ｔｘ及び裏面（非実装面）１５１０ｔｙとは、上述したように、共に緑色塗膜により緑色のレジスト層が形成され、統一色となっている。このように、周辺制御基板１５１０と変換基板１５１０ｔとのレジストを同じ色（緑色）にすることにより、変換基板１５１０ｔの存在を周辺制御基板１５１０に対してわかり難くすることができ、不正の対象との認識を持たせ難くすることができる。

【１６３６】

また、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘには、制御ＲＯＭ１５１０ｂの実装向き（実装方向、第１端子の配置位置を示す記号（三角記号（△））１５１０ｖ３が、レジストの緑色に対して目立ち易い白色の塗料で、ベタ塗りされた緑色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。これにより、周辺制御基板１５１０と変換基板１５１０ｔのレジストが同じ色（緑色）の場合、実装する際、変換基板１５１０ｔの配置方向がわかり難いので、緑色のレジストに対し認識し易い白色のレジストにて１ピン箇所（第１端子の配置位置）を表記することにより変換基板１５１０ｔの方向がわかり易くすることができる。つまり、周辺制御基板１５１０には１ピン箇所（第１端子の配置位置）が

あり変換基板１５１０ｔにも１ピン箇所（第１端子の配置位置）があるので、周辺制御基板１５１０と変換基板１５１０ｔのレジストが同じ色（緑色）の場合であっても、変換基板１５１０ｔの方向がわかり易くすることができる。

【１６３７】

また、変換基板１５１０ｔの端面スルーホール１５１０ｔｂを除くスルーホールの孔は、絶縁性樹脂が充てんされ、スルーホールの孔を塞いだ絶縁性の樹脂の一端及び他端が変換基板１５１０ｔの表面（実装面）１５１０ｔｘ及び裏面（非実装面）１５１０ｔｙと面一となるようにそれぞれに加工され、スルーホールのランドと共に、スルーホールの孔を塞いだ絶縁性の樹脂の一端及び他端が緑色塗膜によりそれぞれ完全に覆われている（樹脂埋め）。これにより、スルーホールの金属露出部がなくなることで、周辺制御基板１５１０に形成される例えばスルーホールの金属露出部との接触を回避して電気的トラブルの発生を防ぐことができる。

【１６３８】

これについて図１７５を参照して簡単に説明する。例えば、図１７５に示すように、周辺制御基板１５１０に形成されるスルーホールと変換基板１５１０ｔに形成されるスルーホールとがたまたま重なる場合もあれば、重ならない場合もある。たまたま重なった場合においては、周辺制御基板１５１０に形成されるスルーホールと変換基板１５１０ｔに形成されるスルーホールとが電気的に接続されることで導通することとなり、これを回避するために、変換基板１５１０ｔに形成されるスルーホールの孔には上述した樹脂埋めが施されている。

【１６３９】

また、例えばＲＯＭソケット１５１０ｓが搭載されている基板に周辺制御基板１５１０と接続するためのコネクタを設け、周辺制御基板１５１０側のコネクタとの接続により電気的に接続を行なう基板を考えた場合、搭載されている制御ＲＯＭが周辺制御基板ボックス１５０５のカバー体１５０１のカバー平板１５０１ａ（基板ケース）に近づいてしまい、外来ノイズの影響が強くなる。これに対し、本実施例の変換基板１５１０ｔは、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘと変換基板１５１０ｔの裏面（非実装面）１５１０ｔｙとが面接触した状態で上述したハンダ付けにて接続されているので、搭載されている制御ＲＯＭ１５１０ｂは周辺制御基板ボックス１５０５のカバー体１５０１のカバー平板１５０１ａ（基板ケース）より遠ざけることができるので外来ノイズの影響を受け難くすることができる。

【１６４０】

また、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖは、リード型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂのリード端子と対応するために７０本であるのに対して、リードレス型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂの接続端子は、リードレス型のパッケージの底面に５６本（接続端子が５６本から少ない本数である場合もある。）である。このため、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖには、例えば、リード型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂのリード端子に予め割り当てられた未接続（ノンコネクション）となっているＮＣ端子の本数が結果的に過剰となって配置されているものもある。このように過剰となっているパッド１５１０ｖの存在により、周辺制御基板１５１０側のハンダ付け部（変換基板１５１０ｔの端面スルーホール１５１０ｔｂの内周壁１５１０ｔｂａ及び変換基板１５１０ｔの裏面（非実装面）１５１０ｔｙに形成されるランドと周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖとのハンダ付け部分）の補強の効果があり、周辺制御基板１５１０側のハンダ付け部の接合面の強さに寄与することができる。つまり、わざわざＮＣ端子の本数を増やして周辺制御基板１５１０側のハンダ付け部（変換基板１５１０ｔの端面スルーホール１５１０ｔｂの内周壁１５１０ｔｂａ及び変換基板１５１０ｔの裏面（非実装面）１５１０ｔｙに形成されるランドと周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖとのハンダ付け部分）の接合面を強くしている。

【１６４１】
　また、変換基板１５１０ｔの両側面に形成される端面スルーホール１５１０ｔｂの内周壁１５１０ｔｂａは、変換基板１５１０ｔの裏面（非実装面）１５１０ｔｙに形成されるランド（又はランドに代えて上述した下側パッド）（銅箔）により繋がっているため、単純なパッドを用いたハンダ付けと比べて接合強度を高めることができる。変換基板１５１０ｔ側のハンダ付け部（ＲＯＭソケット１５１０ｓのリード端子１５１０ｓｃと変換基板１５１０ｔに形成されるパッド１５１０ｔａとのハンダ付け部分）は、変換基板１５１０ｔの表面（実装面）１５１０ｔｘのみのパッドであり、周辺制御基板１５１０側のハンダ付け部（変換基板１５１０ｔの端面スルーホール１５１０ｔｂの内周壁１５１０ｔｂａ及び変換基板１５１０ｔの裏面（非実装面）１５１０ｔｙに形成されるランド（又はランドに代えて上述した下側パッド）と周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖとのハンダ付け部分）は、変換基板１５１０ｔの端面スルーホール１５１０ｔｂの内周壁１５１０ｔｂａ及び変換基板１５１０ｔの裏面（非実装面）１５１０ｔｙに形成されるランド（又はランドに代えて上述した下側パッド）（銅箔）により繋がっているため、周辺制御基板１５１０側のハンダ付け部は、変換基板１５１０ｔ側のハンダ付け部と比べて接合強度が強い構成とすることができる。
【１６４２】
　また、変換基板１５１０ｔの表面（実装面）１５１０ｔｘに形成されるパッド１５１０ｔａの形状は、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖの形状（例えば、２．５ｍｍ×０．５ｍｍの矩形形状）と同一の形状であり、その大きさは同一であり、パッド間の距離寸法（いわゆる、ピッチ）も同一（例えば、０．８ｍｍ）であり、変換基板１５１０ｔの表面（実装面）１５１０ｔｘに形成されるパッド１５１０ｔａの２列間の距離寸法は、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖの２列間の距離寸法と比べて小さいものとなっており、パッド間の距離寸法（ピッチ）と比べて長くなっている。変換基板１５１０ｔの両側面に形成される端面スルーホール１５１０ｔｂは、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖのパッド間の距離寸法（いわゆる、ピッチ）と同一（例えば、０．８ｍｍ）となっている。変換基板１５１０ｔの両側面にそれぞれ形成される端面スルーホール１５１０ｔｂの距離寸法（つまり、変換基板１５１０ｔの両側面間の距離寸法）は、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖの２列間の距離寸法のうち、２列間のパッド１５１０ｖの内側距離寸法と比べて大きく、かつ、２列間のパッド１５１０ｖの外側距離寸法と比べて小さくものとなっており、さらに、変換基板１５１０ｔの表面（実装面）１５１０ｔｘに形成されるパッド１５１０ｔａの２列間の距離寸法と比べて長くなっている。これにより、変換基板１５１０ｔの端面スルーホール１５１０ｔｂの内周壁１５１０ｔｂａ及び変換基板１５１０ｔの裏面（非実装面）１５１０ｔｙに形成されるランド（又はランドに代えて上述した下側パッド）と、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖと、の接合部のピッチを長くすることにより周辺制御基板１５１０のたわみ防止効果を高めることができる。なお、さらに、周辺制御基板１５１０のたわみ防止効果を高めるためには、例えば、変換基板１５１０ｔの基板厚を厚くすることを挙げることができる。
【１６４３】
　また、変換基板１５１０ｔ側のハンダ付け部（ＲＯＭソケット１５１０ｓのリード端子１５１０ｓｃと変換基板１５１０ｔに形成されるパッド１５１０ｔａとのハンダ付け部分）と、周辺制御基板１５１０側のハンダ付け部（変換基板１５１０ｔの端面スルーホール１５１０ｔｂの内周壁１５１０ｔｂａ及び変換基板１５１０ｔの裏面（非実装面）１５１０ｔｙに形成されるランド（又はランドに代えて上述した下側パッド）と周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖとのハンダ付け部分）とは、上述したように、変換基板１５１０ｔの裏面（非実装面）１５１０ｔｙと周辺制御基板１５１０の裏面１５１０ｙとが面接触した状態で表面実装することができる構成となっている。これにより、変換基板１５１０ｔと周辺制御基板１５１０を隙間なく電気的に

接続することができるため、周辺制御基板ボックス１５０５のカバー体１５０１のカバー平板１５０１ａ（基板ケース）との距離を離すことができるのでノイズに強い接続方法とすることができる。

【１６４４】

また、変換基板１５１０ｔの端面スルーホール１５１０ｔｂの内周壁１５１０ｔｂａ及び変換基板１５１０ｔの裏面（非実装面）１５１０ｔｙに形成されるランド（又はランドに代えて上述した下側パッド）と、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖとがハンダ付けされることにより、このハンダを介して電気的に接続されている。これにより、変換基板１５１０ｔと周辺制御基板１５１０を隙間なく電気的に接続することができるため、周辺制御基板ボックス１５０５のカバー体１５０１のカバー平板１５０１ａ（基板ケース）との距離を離すことができるのでノイズに強い接続方法とすることができる。

【１６４５】

また、変換基板１５１０ｔの端面スルーホール１５１０ｔｂを除くスルーホールの孔は、絶縁性樹脂が充てんされ、スルーホールの孔を塞いだ絶縁性の樹脂の一端及び他端が変換基板１５１０ｔの表面（実装面）１５１０ｔｘ及び裏面（非実装面）１５１０ｔｙと面一となるようにそれぞれに加工され、スルーホールのランドと共に、スルーホールの孔を塞いだ絶縁性の樹脂の一端及び他端が緑色塗膜によりそれぞれ完全に覆われ（樹脂埋め）、変換基板１５１０ｔの裏面（非実装面）１５１０ｔｙと周辺制御基板１５１０の裏面１５１０ｙとを面接触した状態で表面実装することができるため、隙間なく接続される変換基板１５１０ｔと周辺制御基板１５１０との短絡を防止することができる。

【１６４６】

また、ＲＯＭソケット１５１０ｓには、制御ＲＯＭ１５１０ｂが着脱されるものの、この作業には、人の手が介在し誤って制御ＲＯＭ１５１０ｂや配線パターンを損傷する可能性がある。このため、変換基板１５１０ｔにＲＯＭソケット１５１０ｓを搭載し、制御ＲＯＭ１５１０ｂや変換基板１５１０ｔに形成される配線パターンが損傷した場合、変換基板１５１０ｔを周辺制御基板１５１０から取り外して新たなものへ交換するという作業を行うことで周辺制御基板１５１０はそのまま（同じものを）使用することができる。

【１６４７】

また、変換基板１５１０ｔには、ＲＯＭソケット１５１０ｓのみ搭載されている。これにより、ＲＯＭソケット１５１０ｓが損傷したり変換基板１５１０ｔが損傷したりして交換する場合は、最小単位のＲＯＭソケット１５１０ｓと変換基板１５１０ｔだけでよい。

【１６４８】

また、変換基板１５１０ｔの端面スルーホール１５１０ｔｂの内周壁１５１０ｔｂａ及び変換基板１５１０ｔの裏面（非実装面）１５１０ｔｙに形成されるランド（又はランドに代えて上述した下側パッド）とハンダ付けされる周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖは、上述した周辺制御ＩＣ１５１０ａの近傍に配置されている。周辺制御ＩＣ１５１０ａは、大きなパッケージを有するＩＣであり且つ表面実装タイプの電子部品であるため、このような表面実装タイプの電子部品は、特に基板のたわみに弱い（電子部品の接続端子やリード端子が基板の表面から剥がれたりするおそれがある）。そこで、変換基板１５１０ｔを周辺制御ＩＣ１５１０ａの近くに実装することにより周辺制御基板１５１０のたわみに対し補強することができる。

【１６４９】

また、リード型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂからリードレス型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂに変更する場合が生じても、リードレス型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂが着脱可能なＲＯＭソケット１５１０ｓを備える変換基板１５１０ｔを周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに実装することで対応することができため、制御ＲＯＭ１５１０ｂのパッケージが変更されても、周辺制御基板１５１０のパッド１５１０ｖの形状及び配置、パッド１５１０ｖへの配線パターンの引き回しを修正する必要がなくなって（パッド１５１０ｖの形状及び配置、パッド１５１０ｖ

への配線の引き回しが同一となって）共通に使用することができる。
【１６５０】
　また、制御ＲＯＭ１５１０ｂは、周辺制御基板１５１０を再利用する場合、製造工程において不具合の有無を検査する抜き取り検査（サンプル）を行う場合に、ＲＯＭソケット１５１０ｓから専用工具を用いて取り外される際に、制御ＲＯＭ１５１０ｂがＲＯＭソケット１５１０ｓに引っ掛かってＲＯＭソケット１５１０ｓに外力が加わる場合でも、変換基板１５１０ｔの表面（実装面）１５１０ｔｘに形成されるパッド１５１０ｔａが変換基板１５１０ｔの基材から剥がれる剥離強度は、上述したように、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖが周辺制御基板１５１０の基材から剥がれる剥離強度と比べて小さいため、ＲＯＭソケット１５１０ｓのリード端子１５１０ｓｃとハンダ付けされた変換基板１５１０ｔの表面（実装面）１５１０ｔｘに形成されるパッド１５１０ｔａが変換基板１５１０ｔの基材から剥がれることにより、変換基板１５１０ｔの端面スルーホール１５１０ｔｂの内周壁１５１０ｔｂａとハンダ付けされた周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖが周辺制御基板１５１０の基材から剥がれることを防止することができるため、周辺制御基板１５１０の損傷を防止することができる。これにより、損傷したＲＯＭソケット１５１０ｓが実装される変換基板１５１０ｔごと周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘから取り外して、新たなＲＯＭソケット１５１０ｓが実装される変換基板１５１０ｔを周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに実装すればよく、周辺制御基板１５１０自体を新たな周辺制御基板１５１０に交換することなしに、利用することができる。
【１６５１】
　また、変換基板１５１０ｔが周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに表面実装され、すき間のない状態で固定されるようになっているため、変換基板１５１０ｔの裏面（非実装面）１５１０ｔｙと周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘとのすき間に対して不正な電子部品の配置を困難とすることができる。
【１６５２】
　また、リード型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂからリードレス型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂに変更する場合には、上述したように、変換基板１５１０ｔを用いる必要があるものの、変換基板１５１０ｔの板厚は、上述したように、周辺制御基板１５１０の板厚（１．６ｍｍ）と比べて薄いため（０．８ｍｍや１．０ｍｍ）、周辺制御基板１５１０が周辺制御基板ボックス１５０５（封印基板ボックス）に収容されて封印されている状態において、周辺制御基板１５１０に実装される制御ＲＯＭ１５１０ｂの上面から周辺制御基板ボックス１５０５のカバー体１５０１のカバー平板１５０１ａの裏面までに亘る所定の高さ距離寸法も、最大でも変換基板１５１０ｔの板厚程度であり、カバー体１５０１から侵入するノイズに対して、耐ノイズ性を高く維持することができる。
【１６５３】
　また、制御ＲＯＭ１５１０ｂは、上述したように、周辺制御基板１５１０を再利用する場合、製造工程において不具合の有無を検査する抜き取り検査（サンプル）を行う場合に、ＲＯＭソケット１５１０ｓから専用工具を用いて取り外される。つまり、制御ＲＯＭ１５１０ｂが実装される変換基板１５１０ｔは、周辺制御基板１５１０を再利用する場合、製造工程において不具合の有無を検査する抜き取り検査（サンプル）を行う場合に、ＲＯＭソケット１５１０ｓから専用工具を用いて取り外される。リード型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂからリードレス型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂに変更する場合には、上述したように、変換基板１５１０ｔを用いる必要があるものの、変換基板１５１０ｔからリード端子が外部へ向かって突出していないため、制御ＲＯＭ１５１０ｂが実装される変換基板１５１０ｔをＲＯＭソケット１５１０ｓから専用工具を用いて取り外す作業を行っている者があやまって制御ＲＯＭ１５１０ｂが実装される変換基板１５１０ｔを落下させても、リード型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂのようにリード端子が屈曲することがなく、使用不可となることを防止することができる。

【１６５４】
　また、変換基板１５１０ｔにおける長手方向の両側面には、上述したように、半円状を有する端面スルーホール１５１０ｔｂがそれぞれ形成され、端面スルーホール１５１０ｔｂの孔の直径が、変換基板１５１０ｔの表面（実装面）１５１０ｔｘに形成されるパッド１５１０ｔａの形状（例えば、２．５ｍｍ×０．５ｍｍの矩形形状）の幅寸法（０．５ｍｍ）とほぼ同一の寸法となるように形成されている。これに代えて、端面スルーホール１５１０ｔｂの孔の直径を変換基板１５１０ｔの表面（実装面）１５１０ｔｘに形成されるパッド１５１０ｔａの形状（例えば、２．５ｍｍ×０．５ｍｍの矩形形状）の幅寸法（０．５ｍｍ）と比べて大きい寸法（例えば、０．６ｍｍ～０．７ｍｍ）としてもよい。この場合、半円と比べて短い円弧状を有する端面スルーホール１５１０ｔｂとなる。
【１６５５】
　また、パッド１５１０ｖは、リード型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂが着脱されるリード型のＲＯＭソケットにおける長手方向の両側面から外側へ向かってそれぞれ突出する複数のリード端子とそれぞれ対応する位置に配置されるように周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成し、このパッド１５１０ｖにハンダ付けされる対象を変更することにより、パッケージの変更に対応することができる仕組みを採用していたが、他の仕組みを採用してもよい。例えば、図１７６（ａ）に示すように、パッド１５１０ｖにリード型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂが着脱されるリード型のＲＯＭソケット１５１０ｓ'のリード端子１５１０ｓｃ（合計７０本）をハンダ付けし（つまり、従来のＲＯＭソケット１５１０ｓ'をそのまま流用するものであって）、リードレス型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂがハンダ付けされた変換基板１５１０ｔ'をＲＯＭソケット１５１０ｓ'の載置部１５１０ｓａ'に載置して、一対の回転保持片１５１０ｓｂ'，１５１０ｓｂ'を閉じた状態とする。なお、載置部１５１０ｓａ'、一対の回転保持片１５１０ｓｂ'，１５１０ｓｂ'、複数のリード端子１５１０ｓｃ'は、図１７３（ａ）に示したＲＯＭソケット１５１０ｓの載置部１５１０ｓａ、一対の回転保持片１５１０ｓｂ，１５１０ｓｂ、複数のリード端子１５１０ｓｃと機能が同一であるため、ここでの説明を省略する。
【１６５６】
　なお、変換基板１５１０ｔ'の表面（実装面）１５１０ｔｘ'及び裏面（非実装面）１５１０ｔｙ'には、リードレス型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂがハンダ付けされたるパッド、配線パターン、ランドが形成される層（銅プレーン）の上に緑色のレジスト液が塗布されて形成される緑色塗膜により緑色のレジスト層が形成されている。変換基板１５１０ｔ'には、表面（実装面）１５１０ｔｘ及び裏面（非実装面）１５１０ｔｙに形成される配線パターン電気的に接続するランドを有するスルーホール（以下、「スルーホール」と記載する場合がある。）が複数形成されており、スルーホールの内周壁に銅メッキが施されて導電性を有している。スルーホールの孔は、絶縁性樹脂が充てんされ、スルーホールの孔を塞いだ絶縁性の樹脂の一端及び他端が表面（実装面）１５１０ｔｘ'及び裏面（非実装面）１５１０ｔｙ'と面一となるようにそれぞれに加工され、ランドと共に、スルーホールの孔を塞いだ絶縁性の樹脂の一端及び他端と、が緑色塗膜によりそれぞれ完全に覆われている（樹脂埋め）。
【１６５７】
　また、変換基板１５１０ｔ'の裏面（非実装面）１５１０ｔｙ'の長手方向の両端には、下方へ向かって突出する突出部が形成され、この突出部にパッドが形成されている。このパッドは、ＲＯＭソケット１５１０ｓ'のリード端子１５１０ｓｃ'と対応する位置にそれぞれ配置され、一端３５本及び他端３５本で合計７０本形成されている。
【１６５８】
　リードレス型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂがハンダ付けされた変換基板１５１０ｔ'をＲＯＭソケット１５１０ｓ'の載置部１５１０ｓａ'に載置して、一対の回転保持片１５１０ｓｂ'，１５１０ｓｂ'を閉じた状態とすると、図１７６（ｂ）に示すように、変換基板１５１０ｔ'の表面（実装面）１５１０ｔｘ'の上辺下辺の中心を結ぶ線と

左辺右辺の中心を結ぶ線とが交わる点（中心点）と、ＲＯＭソケット１５１０ｓの上辺下辺の中心を結ぶ線と左辺右辺の中心を結ぶ線とが交わる点（中心点）と、が一致する（ほぼ一致する場合も含む。）ように配置される。

【１６５９】

リード型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂからリードレス型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂに変更した場合に、周辺制御基板１５１０の基板管理番号を修正する必要があり、ここでは、周辺制御基板１５１０の基板管理番号を修正について、図１７７を参照して簡単に説明する。図１７７（ａ）～（ｃ）は、周辺制御基板の基板管理番号を示す概略図である。なお、周辺制御基板１５１０に搭載される部品が変更となることにより、周辺制御基板１５１０の基板管理番号を変更する必要が生じる。

【１６６０】

周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘの所定置（例えば、周辺制御基板１５１０の四隅のうち一隅）には、図１７７（ａ）に示すように、箔抜き領域ＫＢＲＧＮ（つまり、配線パターンが形成される銅箔面において、各端子及び配線パターンを除いて、銅箔を抜いて形成される領域）が形成されるとともに、この箔抜き領域ＫＢＲＧＮ内において左詰に、管理番号の共通部（同図では、「ＸＹＺＡ」）を基板管理番号として配線パターンで箔抜き文字ＫＢＮＵＭを形成し、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０にベタ塗りされる緑色のレジスト液により箔抜き領域ＫＢＲＧＮと箔抜き文字ＫＢＮＵＭとがそれぞれ覆われている。

【１６６１】

リード型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂからリードレス型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂに変更した場合には、例えば、図１７７（ｂ）に示すように、レーザーマーカーを用いて、箔抜き領域ＫＢＲＧＮ内において左詰に配置された箔抜き文字ＫＢＮＵＭに続いて、記号ＨＫＢＮＵＭ（同図には英字Ａ）が印字され（記号ＨＫＢＮＵＭに沿って表面から所定深さに掘られ）、レーザーマーカーを用いると、変換基板１５１０ｔの置換（修復を含める。）ごとに、箔抜き文字ＫＢＮＵＭに続いて記号ＨＫＢＮＵＭを印字することで基板管理番号（同図では、「ＸＹＺＡＡ」）とすることができる。なお、レーザーマーカーにより箔抜き文字の一部を消すことによって基板管理番号を変更してもよいし、箔抜き文字の一部を消すことと、文字を追加することと、の両方を行って基板管理番号を変更してもよい。

【１６６２】

また、例えば、図１７７（ｃ）に示すように、管理番号の共通部（同図では、「ＸＹＺ－」）を基板管理番号として配線パターンで箔抜き文字ＫＢＮＵＭを形成し、箔抜き領域ＫＢＲＧＮとは別の領域であって近傍の領域（同図では、箔抜き領域ＫＢＲＧＮの真下）に箔抜き領域ＲＧＮ１，ＲＧＮ２，ＲＧＮ３を形成するとともに、箔抜き領域ＲＧＮ１，ＲＧＮ２，ＲＧＮ３内に記号（同図には英字Ａ，英字Ｂ，英字Ｃ）として配線パターンで箔抜き文字を形成し、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０にベタ塗りされる緑色のレジスト液により箔抜き領域ＫＢＲＧＮと領域ＲＧＮ１，ＲＧＮ２，ＲＧＮ３とがそれぞれ覆われている。領域ＲＧＮ１，ＲＧＮ２，ＲＧＮ３の周囲には、ルータによりミシン目状に孔があけられており、領域ＲＧＮ１，ＲＧＮ２，ＲＧＮ３を周辺制御基板１５１０から除去できるようになっている。領域ＲＧＮ１，ＲＧＮ２，ＲＧＮ３を周辺制御基板１５１０から除去されていない状態では、周辺制御基板１５１０の基板管理番号は、「ＸＹＺＡ－ＡＢＣ」となっている。リード型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂからリードレス型のパッケージを有する制御ＲＯＭ１５１０ｂに変更した場合には、領域ＲＧＮ１，ＲＧＮ２，ＲＧＮ３のうちいずれか一つ、二つ、又はすべてを周辺制御基板１５１０から除去することにより基板管理番号とすることができる。

【１６６３】

なお、周辺制御基板１５１０には、各種電源電圧を作成する図示しない電源作成回路が設けられており、この電源作成回路は、矩形形状を有する基板に各種電子部品が実装され、この基板の裏面側が周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに面接触した状

態で直接ハンダ付けされた状態となっている。この基板の表面（実装面）は、金属製のカバー体により基板の端片を挟持するようにカシメられて覆われている。電源作成回路の基板は、周辺制御基板１５１０に実装されると、脱着可能な電子部品ではなく、電源作成回路が損傷した場合に、電源作成回路の基板を交換して新たな基板を周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに面接触した状態で直接ハンダ付けするものではなく、周辺制御基板１５１０そのものを交換することとなる。

【１６６４】

なお、従来より、ＲＯＭ等の電子部品が装着される演出制御基板を備えた遊技機が知られている（例えば、特開２０１７－２１７３８１号公報（段落［００６１］、図５））。しかしながら、従来の遊技機は、制御基板に対する電子部品の装着手法について改良の余地があった。

【１６６５】

以上説明した本実施形態のパチンコ機１によれば、遊技に関する演出制御を司る演出制御手段である図１７０の周辺制御ユニット１５００を備えている。周辺制御ユニット１５００は、制御基板である図１７３の周辺制御基板１５１０と、演出データが記憶されたＲＯＭである図１７３の制御ＲＯＭ１５１０ｂが装着されるＲＯＭソケットである図１７３のＲＯＭソケット１５１０ｓと、ＲＯＭソケット１５１０ｓが実装される特定基板である図１７３の変換基板１５１０ｔと、を備えている。周辺制御基板１５１０の面部である表面（実装面）１５１０ｘには、変換基板１５１０ｔが重なるように実装される特定基板実装領域である図１７３の制御ＲＯＭ１５１０ｂを配置する位置１５１０ｖ２が形成されている。変換基板１５１０ｔには、ＲＯＭソケット１５１０ｓのみがハンダ付けされ実装されている。

【１６６６】

このように、ＲＯＭソケット１５１０ｓが周辺制御基板１５１０に実装されず、変換基板１５１０ｔに実装されるという新たな態様とすることにより、ＲＯＭソケット１５１０ｓへ加わった外力による周辺制御基板１５１０のダメージを軽減することができる。したがって、周辺制御基板１５１０に対する電子部品である制御ＲＯＭ１５１０ｂの装着手法を新たな態様にし、より利便性を高くすることができる。

【１６６７】

また、以上説明した本実施形態のパチンコ機１によれば、遊技に関する演出制御を司る演出制御手段である図１７０の周辺制御ユニット１５００を備えている。周辺制御ユニット１５００は、制御基板である図１７３の周辺制御基板１５１０と、演出データが記憶されたＲＯＭである図１７３の制御ＲＯＭ１５１０ｂが装着されるＲＯＭソケットである図１７３のＲＯＭソケット１５１０ｓと、ＲＯＭソケット１５１０ｓが実装される特定基板である図１７３の変換基板１５１０ｔと、を備えている。周辺制御基板１５１０の面部である表面（実装面）１５１０ｘには、変換基板１５１０ｔが重なるように実装される特定基板実装領域である図１７３の制御ＲＯＭ１５１０ｂを配置する位置１５１０ｖ２が形成されている。変換基板１５１０ｔは、それぞれハンダ付け可能な第１板面部である図１７３の変換基板１５１０ｔの表面（実装面）１５１０ｔｘに形成されるパッド１５１０ｔａと、第２板面部である図１７３の変換基板１５１０ｔの両側面に形成される側面スルーホール１５１０ｔｂの内周壁１５１０ｔｂａと、を有し、ＲＯＭソケット１５１０ｓと変換基板１５１０ｔとは、ＲＯＭソケット１５１０ｔのリード端子部であるリード端子１５１０ｓｃと、変換基板１５１０ｔの第１板面部であるパッド１５１０ｔａと、がハンダ付けにて接続され（ハンダ付けにより電気的に接続され）、周辺制御基板１５１０変換基板１５１０ｔとは、周辺制御基板１５１０の板面部である図１７３の周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｖと、変換基板１５１０ｔの第２板面部である側面スルーホール１５１０ｔｂの内周壁１５１０ｔｂａとがハンダ付けにて接続されている（ハンダ付けされて電気的に接続されている）。

【１６６８】

このように、ＲＯＭソケット１５１０ｓが周辺制御基板１５１０に実装されず、変換基

板１５１０ｔに実装されるという新たな態様とすることにより、ＲＯＭソケット１５１０ｓへ加わった外力による周辺制御基板１５１０のダメージを軽減することができる。したがって、周辺制御基板１５１０に対する電子部品である制御ＲＯＭ１５１０ｂの装着手法を新たな態様にし、より利便性を高くすることができる。

【１６６９】

また、以上説明した本実施形態のパチンコ機１によれば、遊技に関する演出制御を司る演出制御手段である図１７０の周辺制御ユニット１５００を備えている。周辺制御ユニット１５００は、制御基板である図１７３の周辺制御基板１５１０と、演出データが記憶されたＲＯＭである図１７３の制御ＲＯＭ１５１０ｂが装着されるＲＯＭソケットである図１７３のＲＯＭソケット１５１０ｓと、ＲＯＭソケット１５１０ｓが実装される特定基板である図１７３の変換基板１５１０ｔと、を備えている。変換基板１５１０ｔには、ＲＯＭソケット１５１０ｓを実装する実装面にＲＯＭソケット１５１０ｓを電気的に接続するための第１端子部である、図１７４の変換基板１５１０ｔの表面（実装面）１５１０ｔｘに形成されるパッド１５１０ｔａと、ＲＯＭソケット１５１０ｓを実装する実装面の裏面に周辺制御基板１５１０を電気的に接続するための第２端子部である、変換基板１５１０ｔの両側面に形成される側面スルーホール１５１０ｔｂの内周壁１５１０ｔｂａと、が設けられている。第１端子部と第２端子部とは、異なる態様であり、第２端子部は、周辺制御基板１５１０の板面である表面（実装面）１５１０ｘとハンダ（ハンダ）を介して電気的に接続されている。

【１６７０】

このように、ＲＯＭソケット１５１０ｓが周辺制御基板１５１０に実装されず、変換基板１５１０ｔに実装されるという新たな態様とすることにより、ＲＯＭソケット１５１０ｓへ加わった外力による周辺制御基板１５１０のダメージを軽減することができる。したがって、周辺制御基板１５１０に対する電子部品である制御ＲＯＭ１５１０ｂの装着手法を新たな態様にし、より利便性を高くすることができる。

【１６７１】

［８．電源システム］

次に、パチンコ機１の電源システムについて、図１７８を参照して説明する。図１７８はパチンコ遊技機の電源システムを示すブロック図である。まず、電源基板について説明し、続いてバックアップ電源、各制御基板等へ供給される電源について説明する。なお、各種基板の基板グランド（ＧＮＤ）や各種端子板の基板グランド（ＧＮＤ）は、電源基板６３０のグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続されており、同一のグランド（ＧＮＤ）となっている。

【１６７２】

［８－１．電源基板］

図９４及び図９５等に示した基板ユニット６２０に取付けられる電源ユニット６２０ｃの電源基板６３０は、電源コードと電気的に接続されており、この電源コードのプラグが遊技ホールの島設備の電源コンセントに差し込まれている。遊技ホールの島設備では、通常１つのトランスに対して、例えば４台のパチンコ機１を１つのグループとして交流電源（交流２４Ｖ）をそれぞれ供給するというシステムが採用されている。例えば、１列に２０台のパチンコ機１が設置される遊技ホールの島設備においては、４台のパチンコ機１が５つのグループとして管理され、それぞれのグループに対して１つずつトランスが設けられ（合計５つのトランスにより）、交流電源（交流２４Ｖ）がそれぞれ供給されるというシステムが採用されているため、最大許容容量：１０００ＶＡという性能を有するトランスが設けられている。

【１６７３】

電源スイッチ６３０ａがＯＮ操作されると、遊技ホールの島設備から供給されている交流電源（交流２４Ｖ）が電源基板６３０へ供給され、パチンコ機１の電源投入を行うことができる一方、電源スイッチ６３０ａがＯＦＦ操作されると、遊技ホールの島設備から供給されている交流電源（交流２４Ｖ）が電源基板６３０へ供給されなくなり、パチンコ機

１の電源遮断を行うことができる。電源スイッチ６３０ａは、通常、ＯＮ操作された状態が維持され、遊技ホールの店員等の係員が営業開始するときに、遊技ホールに設置されるブレーカをＯＮ操作する（入れる）ことにより遊技ホールの島設備に複数列設されたパチンコ機１の電源投入を一斉に行う。そして、遊技ホールの店員等の係員が営業終了後に、遊技ホールに設置されるブレーカをＯＦＦ操作する（切る）ことにより遊技ホールの島設備に複数列設されたパチンコ機１の電源遮断を一斉に行う。このため、遊技ホールの島設備に複数列設されたパチンコ機１のうち、個別にパチンコ機１の電源投入や電源遮断を行う場合としては、例えば、遊技ホールの店員等の係員がメンテナンスを行うときに電源スイッチ６３０ａをＯＦＦ操作して、メンテナンスを終了したときに電源スイッチ６３０ａを再びＯＮ操作する場合、何らかのトラブルが発生したパチンコ機１に対してそのトラブルを解消するために遊技ホールの店員等の係員が電源スイッチ６３０ａをＯＦＦ操作し、そのトラブルを解消したときに電源スイッチ６３０ａを再びＯＮ操作する場合等を挙げることができる。

【１６７４】

電源基板６３０は、図１７８に示すように、電源スイッチ６３０ａのほかに、ヒューズＦＵＳＥ１，ＦＵＳＥ２、ノイズ対策回路６３０ｂ、整流回路６３０ｃ、電源破壊回路６３０ｇ、力率改善回路６３０ｄ、平滑化回路６３０ｅ、電源作成回路６３０ｆ、バックアップ電源回路６３０ｈを備えている。遊技ホールの島設備から供給されている交流電源（交流２４Ｖ（以下、「ＡＣ２４Ｖ」と記載する。））は、電源スイッチ６３０ａのＯＮ操作／ＯＦＦ操作にかかわらず、電源基板６３０を介してインターフェイス基板６３５へ供給され、このインターフェイス基板６３５からパチンコ機１に隣接して設けられた球貸機（例えば、ＣＲユニット）へ供給されている。

【１６７５】

電源スイッチ６３０ａがＯＮ操作されると、遊技ホールの島設備から供給されるＡＣ２４Ｖは、ヒューズＦＵＳＥ１，ＦＵＳＥ２、そして電源スイッチ６３０ａを介してノイズ対策回路６３０ｂへ供給され、このノイズ対策回路６３０ｂにおいてノイズが除去される。ノイズが除去されたＡＣ２４Ｖは、整流回路６３０ｃへ供給され、この整流回路６３０ｃにおいて整流（交流から直流に変換（ＡＣ－ＤＣ変換））されて直流電源となる。この整流された直流電源は、電源破壊回路６３０ｇを介して力率改善回路６３０ｄへ供給され、力率改善回路６３０ｄにおいて力率を改善した直流＋３５Ｖ（以下、「＋３５Ｖ」と記載する。）が作成される。この作成された＋３５Ｖは、平滑化回路６３０ｅへ供給され、平滑化回路６３０ｅにおいて＋３５Ｖのリップルが除去されて平滑化される。この平滑化された＋３５Ｖは、電源作成回路６３０ｆへ供給される。

【１６７６】

電源破壊回路６３０ｇは、自身へ供給される電圧が所定電圧を超えるとヒューズＦＵＳＥ１，ＦＵＳＥ２に許容電流上限（それぞれ予め定めた遮断電流）を超える大電流を流して溶断させて遊技ホールの島設備から供給されるＡＣ２４Ｖを電気的に切断するものである。ヒューズＦＵＳＥ１，ＦＵＳＥ２は、許容電流上限（遮断電流）を超える大電流（異常電流）が流れると、ヒューズＦＵＳＥ１，ＦＵＳＥ２のエレメント部が溶断してヒューズＦＵＳＥ１，ＦＵＳＥ２を介して供給される後続へのＡＣ２４Ｖを遮断する。

【１６７７】

平滑化された＋３５Ｖが供給される電源作成回路６３０ｆは、＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａ、＋１２Ｖ電源作成回路６３０ｆｂ、＋２４Ｖ電源作成回路６３０ｆｃを備えている。＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａは、平滑化回路６３０ｅから供給される＋３５Ｖから直流＋５Ｖ（以下、「＋５Ｖ」と記載する。）を作成している。＋１２Ｖ電源作成回路６３０ｆｂは、平滑化回路６３０ｅから供給される＋３５Ｖから直流＋１２Ｖ（以下、「＋１２Ｖ」と記載する。）を作成している。＋２４Ｖ電源作成回路６３０ｆｃは、平滑化回路６３０ｅから供給される＋３５Ｖから直流＋２４Ｖ（以下、「＋２４Ｖ」と記載する。）を作成している。＋５Ｖ、＋１２Ｖ、及び＋２４Ｖは、払出制御基板６３３及びインターフェイス基板６３５へそれぞれ供給されている。電源基板６３０で作成される＋５Ｖが

印加されて供給される電源ライン（電源系統）が＋５Ｖ電源ライン、電源基板６３０で作成される＋１２Ｖが印加されて供給される電源ライン（電源系統）が＋１２Ｖ電源ライン、そして電源基板６３０で作成される＋２４Ｖが印加されて供給される電源ライン（電源系統）が＋２４Ｖ電源ラインとなる。

【１６７８】

［８－２．バックアップ電源］

バックアップ電源回路６３０ｈは、キャパシタＢＣ０，ＢＣ１を備えている。キャパシタＢＣ０は、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されたＲＡＭ（以下、「主制御内蔵ＲＡＭ」と記載する。）へのバックアップ電源を供給し、キャパシタＢＣ１は、払出制御基板６３３における払出制御部６３３ａの払出制御ＭＰＵ６３３ａａに内蔵されたＲＡＭ（以下、「払出制御内蔵ＲＡＭ」と記載する。）へのバックアップ電源を供給している。

【１６７９】

電源作成回路６３０ｆの＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａで作成される＋５Ｖは、払出制御基板６３３へ供給されている。払出制御基板６３３へ供給される＋５Ｖは、払出制御フィルタ回路６３３ｈを介して払出制御基板６３３における＋５Ｖ電源ラインとなり、払出制御ＭＰＵ６３３ａａの電源端子に印加されるとともに、ダイオードＰＤ０を介して払出制御内蔵ＲＡＭの電源端子に印加されるようになっている。電源作成回路６３０ｆの＋１２Ｖ電源作成回路６３０ｆｂで作成される＋１２Ｖは、払出制御基板６３３を介して主制御基板１３１０の＋５Ｖ作成回路１３１０ｇへ供給されている。この＋５Ｖ作成回路１３１０ｇは、払出制御基板６３３からの＋１２Ｖから主制御ＭＰＵ１３１０ａの制御電源となるローカル電源として＋５Ｖを作成している。＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成される＋５Ｖ（以下、「主制御基板側作成＋５Ｖ」と記載する場合がある。）は、主制御フィルタ回路１３１０ｈを介して主制御基板１３１０における主制御基板側作成＋５Ｖ電源ラインとなり、主制御ＭＰＵ１３１０ａの電源端子へ供給されるとともに、ダイオードＭＤ０を介して主制御内蔵ＲＡＭの電源端子へ供給されるようになっている。なお、電源基板６３０における電源作成回路６３０ｆの＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａで作成される＋５Ｖと、主制御基板１３１０に備える＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成される＋５Ｖ（主制御基板側作成＋５Ｖ）と、は電気的に接続されず、それぞれ独立している。

【１６８０】

電源基板６３０のキャパシタＢＣ１のマイナス端子は、電源基板６３０のグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続される一方、キャパシタＢＣ１のプラス端子は、払出制御基板６３３の払出制御内蔵ＲＡＭの電源端子と電気的に接続されるとともに、払出制御基板６３３のダイオードＰＤ０のカソード端子と電気的に接続されている。つまり、電源基板６３０における電源作成回路６３０ｆの＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａで作成される＋５Ｖは、払出制御ＭＰＵ６３３ａａの電源端子へ向かって電流が流れるとともに、ダイオードＰＤ０により順方向である払出制御内蔵ＲＡＭの電源端子と、キャパシタＢＣ１のプラス端子と、へ向かって電流が流れるようになっている。

【１６８１】

このように、キャパシタＢＣ１は、電源基板６３０における電源作成回路６３０ｆの＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａで作成される＋５Ｖが払出制御基板６３３、そして再び払出制御基板６３３から電源基板６３０に戻ってくるという電気的な接続方法により、＋５Ｖが供給されて充電することができるようになっている。これにより、電源作成回路６３０ｆの＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａで作成される＋５Ｖが払出制御基板６３３へ供給されなくなった場合には、キャパシタＢＣ１に充電された電荷が払ＶＢＢとして払出制御基板６３３へ供給されるようになっているため、払出制御ＭＰＵ６３３ａａの電源端子にはダイオードＰＤ０により電流が妨げられて流れず払出制御ＭＰＵ６３３ａａが作動しないものの、払出制御内蔵ＲＡＭの電源端子には払ＶＢＢが供給されることにより払出制御内蔵ＲＡＭの記憶内容が保持されるようになっている。

【１６８２】

電源基板６３０のキャパシタＢＣ０のマイナス端子は、電源基板６３０のグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続される一方、キャパシタＢＣ０のプラス端子は、払出制御基板６３３を介して主制御基板１３１０の主制御内蔵ＲＡＭの電源端子と電気的に接続されるとともに、主制御基板１３１０のダイオードＭＤ０のカソード端子と電気的に接続されている。つまり、＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成される＋５Ｖ（主制御基板側作成＋５Ｖ）は、主制御ＭＰＵ１３１０ａの電源端子へ向かって電流が流れるとともに、ダイオードＭＤ０により順方向である主制御内蔵ＲＡＭの電源端子と、キャパシタＢＣ０のプラス端子と、へ向かって電流が流れるようになっている。

【１６８３】

このように、キャパシタＢＣ０は、＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成される＋５Ｖ（主制御基板側作成＋５Ｖ）が主制御基板１３１０、そして払出制御基板６３３から電源基板６３０へ供給されるという電気的な接続方法により、主制御基板側作成＋５Ｖが供給されて充電することができるようになっている。これにより、電源基板６３０における電源作成回路６３０ｆの＋１２Ｖ電源作成回路６３０ｆｂで作成される＋１２Ｖが払出制御基板６３３を介して主制御基板１３１０の＋５Ｖ作成回路１３１０ｇへ供給されなくなって＋５Ｖ作成回路１３１０ｇが＋５Ｖ（主制御基板側作成＋５Ｖ）を作成することができなくなった場合には、キャパシタＢＣ０に充電された電荷が主ＶＢＢとして、払出制御基板６３３を介して、主制御基板１３１０へ供給されるようになっているため、主制御ＭＰＵ１３１０ａの電源端子にはダイオードＭＤ０により電流が妨げられて流れず主制御ＭＰＵ１３１０ａが作動しないものの、主制御内蔵ＲＡＭの電源端子には主ＶＢＢが供給されることにより主制御内蔵ＲＡＭの記憶内容が保持されるようになっている。

【１６８４】

［８－３．各制御基板等へ供給される電源］

次に、各制御基板等へ供給される電源についての概要を説明し、続いて、主として払出制御基板へ供給される電源、そして主制御基板へ供給される電源について説明する。

【１６８５】

電源基板６３０における電源作成回路６３０ｆの＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａ、＋１２Ｖ電源作成回路６３０ｆｂ、及び＋２４Ｖ電源作成回路６３０ｆｃでそれぞれ作成された＋５Ｖ、＋１２Ｖ、及び＋２４Ｖという３種類の電源は、図１７８に示すように、払出制御基板６３３へ供給され、これら３種類の電源のうち、＋１２Ｖ及び＋２４Ｖという２種類の電源は、払出制御基板６３３を介して主制御基板１３１０へ供給されている。また電源基板６３０における電源作成回路６３０ｆの＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａ、＋１２Ｖ電源作成回路６３０ｆｂ、及び＋２４Ｖ電源作成回路６３０ｆｃでそれぞれ作成された＋５Ｖ、＋１２Ｖ、及び＋２４Ｖという３種類の電源は、インターフェイス基板６３５へ供給されるとともに、このインターフェイス基板６３５を介して、周辺制御基板１５１０、扉枠主中継基板１０４、扉枠服中継基板１０５等へそれぞれ供給されている。

【１６８６】

なお、インターフェイス基板６３５、扉枠主中継基板１０４、扉枠服中継基板１０５等へそれぞれ供給される＋５Ｖ、＋１２Ｖ、及び＋２４Ｖという３種類の電源は、これらの各電源ラインへ過電流が流れるにより溶断することができる図示しない＋５Ｖ用ヒューズ、図示しない＋１２Ｖ用ヒューズ、及び図示しない＋２４Ｖ用ヒューズを、インターフェイス基板６３５、扉枠主中継基板１０４、扉枠服中継基板１０５等にそれぞれ設けてもよい。

【１６８７】

特に、＋１２Ｖ電源ライン及び＋２４Ｖ電源ラインは、後述するように、主制御基板１３１０の停電監視回路１３１０ｅにより電位の低下が監視されており、＋１２Ｖ電源ラインの電位や＋１２Ｖ電源ラインの電位が低下して停電予告信号が主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａや払出制御基板６３３の払出制御ＭＰＵ６３３ａａへ出力されると、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、後述する主制御側電源投入時処理における主制御側電源断時処理を行って遊技の進行を停止し、払出制御ＭＰＵ６３３ａａは、後述する払出制御部

電源投入時処理における払出制御部電源断時処理を行って払出の進行（遊技球を賞球として払い出す動作）を停止することとなる。

【１６８８】

そこで、図示しない＋１２Ｖ用ヒューズ、及び図示しない＋２４Ｖ用ヒューズを、インターフェイス基板６３５、扉枠主中継基板１０４、扉枠服中継基板１０５等にそれぞれ設ける場合には、主基板を構成する主制御基板１３１０、払出制御基板６３３が正常に作動している場合に、インターフェイス基板６３５、扉枠主中継基板１０４、扉枠服中継基板１０５等の＋１２Ｖ電源ラインや＋２４Ｖ電源ラインにおいて、インターフェイス基板６３５、扉枠主中継基板１０４、扉枠服中継基板１０５等への何らかの理由による電気的なトラブルにより、漏れ電流が発生したり、短絡（ショート）が発生したりして、インターフェイス基板６３５、扉枠主中継基板１０４、扉枠服中継基板１０５等に過電流が流れると、インターフェイス基板６３５、扉枠主中継基板１０４、扉枠服中継基板１０５等に設けられる＋１２Ｖ用ヒューズや＋２４Ｖ用ヒューズが溶断するように構成することができる。これにより、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３へ供給される＋１２Ｖ電源ラインの電位や＋２４Ｖ電源ラインの電位の低下を抑制して、主制御基板１３１０の停電監視回路１３１０ｅにより停電予告信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａや払出制御ＭＰＵ６３３ａａへ出力されずに済み、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、後述する主制御側電源投入時処理における主制御側電源断時処理を行わずに遊技の進行を継続することができるし、払出制御ＭＰＵ６３３ａａは、後述する払出制御部電源投入時処理における払出制御部電源断時処理を行わずに払出の進行（遊技球を賞球として払い出す動作）を継続することができる。

【１６８９】

周辺制御基板１５１０へ供給される＋５Ｖ、＋１２Ｖ、及び＋２４Ｖという３種類の電源は、図示しない＋５Ｖ用ヒューズ、＋１２Ｖ用ヒューズ、及び＋２４Ｖ用ヒューズを介して、周辺制御基板１５１０の後続基板へそれぞれ供給されている。

【１６９０】

図示しない＋５Ｖ用ヒューズは、周辺制御基板１５１０の＋５Ｖ電源ラインにおける、周辺制御基板１５１０自身で使用する電流と、周辺制御基板１５１０を介して後続基板で使用する電流と、が加味されてその容量が予め設定されており、＋５Ｖ電源ライン周辺制御基板許容電流上限（遮断電流）まで電流を流すことができる。図示しない＋５Ｖ用ヒューズは、＋５Ｖ電源ライン周辺制御基板許容電流上限を超える過電流（異常電流）が流れると、図示しない＋５Ｖ用ヒューズのエレメント部が溶断して図示しない＋５Ｖ用ヒューズを介して供給される後続への＋５Ｖ電源ラインを遮断する。

【１６９１】

図示しない＋１２Ｖ用ヒューズは、周辺制御基板１５１０の＋１２Ｖ電源ラインにおける、周辺制御基板１５１０自身で使用する電流と、周辺制御基板１５１０を介して遊技盤５の各種装飾基板等の後続基板で使用される電流と、周辺制御基板１５１０を介して後続装置で使用される電流と、が加味されてその容量が予め設定されており、＋１２Ｖ電源ライン周辺制御基板許容電流上限（遮断電流）まで電流を流すことができる。図示しない＋１２Ｖ用ヒューズは、＋１２Ｖ電源ライン周辺制御基板許容電流上限を超える過電流（異常電流）が流れると、図示しない＋１２Ｖ用ヒューズのエレメント部が溶断して図示しない＋１２Ｖ用ヒューズを介して供給される後続への＋１２Ｖ電源ラインを遮断する。

【１６９２】

図示しない＋２４Ｖ用ヒューズは、周辺制御基板１５１０の＋２４Ｖ電源ラインにおける、周辺制御基板１５１０を介して後続基板で使用される電流が加味されてその容量が予め設定されており、＋２４Ｖ電源ライン周辺制御基板許容電流上限（遮断電流）まで電流を流すことができる。なお、周辺制御基板１５１０において＋２４Ｖを使用して電気的駆動源（例えば、駆動ソレノイド）を＋２４Ｖ系ドライバ回路を設ける場合には、図示しない＋２４Ｖ用ヒューズの容量として、＋２４Ｖ電源ラインにおける、周辺制御基板１５１０自身で使用する電流と、周辺制御基板１５１０を介して後続基板で使用される電流と、

が加味されて予め設定される。図示しない＋２４Ｖ用ヒューズは、＋２４Ｖ電源ライン周辺制御基板許容電流上限を超える過電流（異常電流）が流れると、図示しない＋２４Ｖ用ヒューズのエレメント部が溶断して図示しない＋２４Ｖ用ヒューズを介して供給される後続への＋２４Ｖ電源ラインを遮断する。

【１６９３】

なお、図示しない、＋５Ｖ用ヒューズ、＋１２Ｖ用ヒューズ、＋２４Ｖ用ヒューズは、周辺制御基板１５１０から後続基板へ＋５Ｖ電源ライン、＋１２電源ライン、＋２４Ｖ電源ラインが供給される大元のヒューズであり、流れる電流が大きく、発熱する場合があるため、この発熱の影響を受けてＩＣに内蔵されるサーマルシャットダウンによる障害が発生しないように、周辺制御部１５１１や演出表示制御部１５１２の各電子部品（例えば、マイクロプロセッサ、ＶＤＰなど）から離間して配置することが好ましく、インターフェイス基板６３５からの＋５Ｖ、＋１２Ｖ、＋２４Ｖが供給されるコネクタの近傍（特に、インターフェイス基板６３５からの＋５Ｖ、＋１２Ｖ、＋２４Ｖが供給される電源ラインが接続される端子のコネクタの近傍）に配置されることが好ましい。

【１６９４】

周辺制御基板１５１０は、図示しない＋１２Ｖ用ヒューズを介して供給される＋１２Ｖから周辺制御部１５１１や演出表示制御部１５１２の制御電源となるローカル電源として直流３．３Ｖ（以下、「＋３．３Ｖ」と記載する。）を作成する図示しない制御電源作成回路を備えている。図示しない制御電源作成回路で作成される＋３．３Ｖは、図示しない制御電源用ヒューズを介して周辺制御部１５１１や演出表示制御部１５１２の電子部品へ供給される。図示しない制御電源作成回路で作成される＋３．３Ｖは、図示しない制御電源用ヒューズを介して周辺制御基板１５１０における＋３．３Ｖ電源ラインとなる。図示しない制御電源作成回路は、図示しない＋１２Ｖ用ヒューズを介して供給される＋１２Ｖ電源ラインを除いて、図示しない＋５Ｖ用ヒューズを介して供給される＋５Ｖ電源ライン及び／又は図示しない＋２４Ｖ用ヒューズを介して供給される＋２４Ｖ電源ラインに対して異常電流が流れて溶断した場合であっても、＋１２Ｖ電源ラインからの＋１２Ｖから周辺制御部１５１１や演出表示制御部１５１２の制御電源となるローカル電源である＋３．３Ｖを作成することができるため、周辺制御部１５１１や演出表示制御部１５１２は停止せず、継続して作動し、図示しない＋２４Ｖ用ヒューズが溶断している場合には＋２４Ｖ系電気的駆動源（駆動ソレノイド）を駆動することが困難となるものの、演出の進行を継続することができる。

【１６９５】

なお、図示しない制御電源作成回路は、＋３．３Ｖのほかに、ローカル電源として例えば周辺制御基板１５１０の制御ＲＯＭ等の各デバイスに対応する複数の制御電源（例えば、直流１．５Ｖ（以下、「＋１．５Ｖ」と記載する。）、直流１．２５Ｖ（以下、「＋１．２５Ｖ」と記載する。）等）を作成するようにしてもよい。この場合、図示しない制御電源用ヒューズは、複数の制御電源に対応してそれぞれ設けられることとなる（例えば、＋３．３Ｖに対しては＋３．３Ｖ用ヒューズ、＋１．５Ｖに対しては＋１．５Ｖ用ヒューズ、＋１．２５Ｖに対しては＋１．５Ｖ用ヒューズをそれぞれ設け、＋３．３Ｖ用ヒューズを介して＋３．３Ｖ電源ラインとなり、＋１．５Ｖ用ヒューズを介して＋１．５Ｖ電源ラインとなり、＋１．２５Ｖ用ヒューズを介して＋１．２５Ｖ電源ラインとなる）。

【１６９６】

図示しない制御電源用ヒューズは、＋３．３Ｖ電源ラインにおける、周辺制御基板１５１０自身で使用する電流と、周辺制御基板１５１０を介して後続基板で使用する電流と、が加味されてその容量が予め設定されており、＋３．３Ｖ電源ライン周辺制御基板許容電流上限（遮断電流）まで電流を流すことができる。図示しない制御電源用ヒューズは、＋３．３Ｖ電源ライン周辺制御基板許容電流上限を超える過電流（異常電流）が流れると、図示しない制御電源用ヒューズのエレメント部が溶断して図示しない制御電源用ヒューズを介して供給される後続への＋３．３Ｖ電源ラインを遮断する。なお、図示しない制御電源用ヒューズを複数の制御電源に対応してそれぞれ設けられる場合（例えば、＋３．３Ｖ

に対しては＋３．３Ｖ用ヒューズ、＋１．５Ｖに対しては＋１．５Ｖ用ヒューズ、＋１．２５Ｖに対しては＋１．２５Ｖヒューズがそれぞれ設けられる場合）には、周辺制御基板１５１０自身で使用する電流と、周辺制御基板１５１０を介して後続基板で使用するときにはこの電流と、が加味されてその容量が予め設定され、複数の制御電源のそれぞれの電源ライン周辺制御基板許容電流上限（遮断電流）まで電流を流すことができるとともに、複数の制御電源のそれぞれの電源ライン周辺制御基板許容電流上限を超える過電流（異常電流）が流れると、複数の制御電源に対応してそれぞれ設けられる図示しない制御電源用ヒューズのエレメント部が溶断し、この溶断した図示しない制御電源用ヒューズを介して供給される後続への制御電源の電源ラインを遮断する。

【１６９７】

なお、図示しない制御電源用ヒューズは、周辺制御部１５１１や演出表示制御部１５１２等の制御電源となる＋３．３Ｖ電源ラインの大元のヒューズであり、流れる電流が大きく、発熱する場合があるため、この発熱の影響を受けて周辺制御部１５１１や演出表示制御部１５１２における特定の電子部品に内蔵されるサーマルシャットダウンによる障害が発生しないように、特定の電子部品から離間して配置することが好ましく、制御電源作成回路の近傍（特に、＋３．３Ｖを作成して＋３．３電源ラインとして供給する端子の近傍）に配置されることが好ましい。

【１６９８】

本実施形態では、周辺制御基板１５１０の図示しない、＋５Ｖ用ヒューズ、＋１２Ｖ用ヒューズ、＋２４Ｖ用ヒューズ、及び制御電源用ヒューズは、表面実装タイプ（いわゆる、ＳＭＤタイプ）のチップヒューズであり、予め定めた許容電流上限（それぞれ予め定めた遮断電流）を超える電流が流れると、溶断するものであり、リセッタブルヒューズと異なり、一度溶断すると、その電流が低下しても、後続に対して電源ラインを供給することができない電子部品である。

【１６９９】

なお、周辺制御基板１５１０の図示しない、＋５Ｖ用ヒューズ、＋１２Ｖ用ヒューズ、＋２４Ｖ用ヒューズ、及び制御電源用ヒューズとして、ＳＭＤタイプのチップヒューズに代えて、リードタイプ（挿入実装タイプ（スルーホール実装タイプ））のヒューズにしてもよい。また、周辺制御基板１５１０の図示しない、＋５Ｖ用ヒューズ、＋１２Ｖ用ヒューズ、＋２４Ｖ用ヒューズ、及び制御電源用ヒューズとして、ＳＭＤタイプ又はリードタイプのサーミスタ等のリセッタブルヒューズを使用してもよい。こうすれば、リセッタブルヒューズを使用する場合には、予め定めた許容電流上限を超える電流が流れると、後続に対して電源ラインを供給することができないものの、その電流が低下すると、再び後続に対して電源ラインを供給することができる。

【１７００】

周辺制御基板１５１０の後続基板へ供給される＋５Ｖ、＋１２Ｖ、及び＋２４Ｖという３種類の電源のうち、＋５Ｖは図示しない＋５Ｖ用ヒューズを介して図示しない入力バッファ回路等へ供給され、＋２４Ｖは図示しない＋２４Ｖ用ヒューズを介して遊技盤５の＋２４Ｖ系電気的駆動源（駆動ソレノイド）を駆動制御する図示しない＋２４Ｖ系ドライバ回路へ供給され、＋１２Ｖは図示しない＋１２Ｖ用ヒューズを介して遊技盤５の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）を駆動制御する図示しない＋１２Ｖ系ドライバ回路へ供給されるとともに、遊技盤５に備える複数の装飾基板（以下、「遊技盤５の各装飾基板」と記載する場合がある。）へそれぞれ供給されている。

【１７０１】

図示しない＋５Ｖ用ヒューズは、周辺制御基板１５１０の後続基板の＋５Ｖ電源ラインにおける、周辺制御基板１５１０の後続基板自身で使用する電流が加味されてその容量が予め設定されており、＋５Ｖ電源ライン後続基板許容電流上限（遮断電流）まで電流を流すことができる。図示しない＋５Ｖ用ヒューズは、＋５Ｖ電源ライン後続基板許容電流上限を超える過電流（異常電流）が流れると、図示しない＋５Ｖ用ヒューズのエレメント部が溶断して図示しない＋５Ｖ用ヒューズを介して供給される後続への＋５Ｖ電源ラインを

遮断する。
【１７０２】
図示しない＋１２Ｖ用ヒューズは、周辺制御基板１５１０の後続基板の＋１２Ｖ電源ラインにおける、遊技盤５の各装飾基板を除く周辺制御基板１５１０の後続基板自身で使用する電流と、遊技盤５の各装飾基板で使用する電流と、が加味されてその容量が予め設定されており、＋１２Ｖ電源ライン後続動基板許容電流上限（遮断電流）まで電流を流すことができる。図示しない＋１２Ｖ用ヒューズは、＋１２Ｖ電源ライン後続基板許容電流上限を超える過電流（異常電流）が流れると、図示しない＋１２Ｖ用ヒューズのエレメント部が溶断して図示しない＋１２Ｖ用ヒューズを介して供給される後続への＋１２Ｖ電源ラインを遮断する。
【１７０３】
図示しない＋２４Ｖ用ヒューズは、周辺制御基板１５１０の後続基板の＋２４Ｖ電源ラインにおける、周辺制御基板１５１０の後続基板自身で使用する電流が加味されてその容量が予め設定されており、＋２４Ｖ電源ライン後続基板許容電流上限（遮断電流）まで電流を流すことができる。図示しない＋２４Ｖ用ヒューズは、＋２４Ｖ電源ライン後続基板許容電流上限を超える過電流（異常電流）が流れると、図示しない＋２４Ｖ用ヒューズのエレメント部が溶断して図示しない＋２４Ｖ用ヒューズを介して供給される後続への＋２４Ｖ電源ラインを遮断する。
【１７０４】
なお、図示しない、＋５Ｖ用ヒューズ、＋１２Ｖ用ヒューズ、＋２４Ｖ用ヒューズは、＋５Ｖ電源ライン、＋１２電源ライン、＋２４Ｖ電源ラインを供給するヒューズであり、周辺制御基板１５１０における大元の＋５Ｖ用ヒューズ、＋１２Ｖ用ヒューズ、＋２４Ｖ用ヒューズと比べると、流れる電流が小さいものの、電流は大きく、発熱する場合があるため、例えば、この発熱の影響を受けて図示しない＋１２Ｖドライバ回路に内蔵されるサーマルシャットダウン部による機能によりシャットダウンによる障害が発生しないように、図示しない＋１２Ｖドライバ回路等の電子部品から離間して配置することが好ましく、周辺制御基板１５１０からの＋５Ｖ、＋１２Ｖ、＋２４Ｖが供給されるコネクタの近傍（特に、周辺制御基板１５１０からの＋５Ｖ、＋１２Ｖ、＋２４Ｖが供給される電源ラインが接続される端子のコネクタの近傍）に配置されることが好ましい。
【１７０５】
図示しない入力バッファ回路は、周辺制御基板１５１０から伝送される制御信号（シリアル信号であってもよいし、パラレル信号であってもよい。）が入力され、この入力された制御信号からノイズを除去して図示しない＋２４Ｖ系ドライバ回路、図示しない＋１２Ｖ系ドライバ回路へ出力するものである。具体的には、図示しない入力バッファ回路は、周辺制御基板１５１０と、周辺制御基板１５１０の後続基板との基板間を電気的に接続する複数配線（ハーネス）に対して、それぞれ、図示しない＋５Ｖ用ヒューズを介して供給される＋５Ｖが印加される抵抗の一端と、グランド（ＧＮＤ）に接地された抵抗の一端と、が電気的に接続される回路として構成されており、複数配線（ハーネス）に侵入したノイズを除去することでノイズ耐力を向上することができるものである。
【１７０６】
図示しない＋２４Ｖ系ドライバ回路は、遊技盤５の＋２４Ｖ系電気的駆動源（駆動ソレノイド）を駆動するドライバＩＣと、このドライバＩＣへの過電流を遮断するヒューズ（以下、「図示しない＋２４Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズ」と記載する場合がある。）と、から主として構成されている。図示しない＋２４Ｖ用ヒューズを介して供給される＋２４Ｖは、ヒューズを介してドライバＩＣへ供給されている。
【１７０７】
図示しない＋２４Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズは、周辺制御基板１５１０の後続基板の＋２４Ｖ電源ラインにおける、遊技盤５の＋２４Ｖ系電気的駆動源（駆動ソレノイド）や図示しない＋２４Ｖ系ドライバ回路で使用する電流が加味されてその容量が予め設定されており、遊技盤側駆動ソレノイド許容電流上限（遮断電流）まで電流を流すこ

とができる。図示しない＋２４Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズは、遊技盤側駆動ソレノイド許容電流上限を超える過電流（異常電流）が流れると、図示しない＋２４Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズのエレメント部が溶断して図示しない＋２４Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズを介して供給される後続への＋２４Ｖ電源ラインを遮断する。

【１７０８】

図示しない＋１２Ｖ系ドライバ回路は、遊技盤５の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）を駆動するドライバＩＣ、このドライバＩＣへの過電流を遮断するヒューズ（以下、「図示しない＋１２Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズ」と記載する場合がある。）と、から主として構成されている。図示しない＋１２Ｖ用ヒューズを介して供給される＋１２Ｖは、ヒューズを介してドライバＩＣへ供給されている。

【１７０９】

図示しない＋１２Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズは、周辺制御基板１５１０の後続基板の＋１２Ｖ電源ラインにおける、遊技盤５の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）や図示しない＋１２Ｖ系ドライバ回路で使用する電流が加味されてその容量が予め設定されており、遊技盤側駆動モータ許容電流上限（遮断電流）まで電流を流すことができる。図示しない＋１２Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズは、遊技盤側駆動モータ許容電流上限を超える過電流（異常電流）が流れると、図示しない＋１２Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズのエレメント部が溶断して図示しない＋１２Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズを介して供給される後続への＋１２Ｖ電源ラインを遮断する。

【１７１０】

本実施形態では、周辺制御基板１５１０の後続基板の図示しない、＋５Ｖ用ヒューズ、＋１２Ｖ用ヒューズ、＋２４Ｖ用ヒューズ、＋２４Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズ、及び＋１２Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズは、表面実装タイプ（いわゆる、ＳＭＤタイプ）のチップヒューズであり、予め定めた許容電流上限（それぞれ予め定めた遮断電流）を超える電流が流れると、溶断するものであり、リセッタブルヒューズと異なり、一度溶断すると、その電流が低下しても、後続に対して電源ラインを供給することができない電子部品である。なお、周辺制御基板１５１０の後続基板の図示しない、＋５Ｖ用ヒューズ、＋１２Ｖ用ヒューズ、＋２４Ｖ用ヒューズ、＋２４Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズ、及び＋１２Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズとして、ＳＭＤタイプのチップヒューズに代えて、リードタイプのヒューズ（ディップヒューズともいう）にしてもよい。また、周辺制御基板１５１０の後続基板の図示しない、＋５Ｖ用ヒューズ、＋１２Ｖ用ヒューズ、＋２４Ｖ用ヒューズ、＋２４Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズ、及び＋１２Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズとして、ＳＭＤタイプ又はリードタイプのサーミスタ等のリセッタブルヒューズを使用してもよい。こうすれば、リセッタブルヒューズを使用する場合には、予め定めた許容電流上限を超える電流が流れると、後続に対して電源ラインを供給することができないものの、その電流が低下すると、再び後続に対して電源ラインを供給することができる。

【１７１１】

遊技盤５の各装飾基板へ供給される＋１２Ｖは、図示しない＋１２Ｖ用ヒューズを介して遊技盤５に備えるフルカラーＬＥＤや単色のＬＥＤ等の複数のＬＥＤ（以下、「遊技盤５の各種ＬＥＤ等」と記載する場合がある。）を点灯、消灯、点滅、階調点灯等の多様な発光を制御するＬＥＤ定電流駆動回路へ供給される。ＬＥＤ定電流駆動回路は、遊技盤５の各種ＬＥＤ等に定電流を流すことができるシンク（吸い込み）タイプの定電流駆動回路と、遊技盤５の各種ＬＥＤ等に流す電流の最大電流を設定することができる最大電流設定回路と、から主として構成されている。なお、ＬＥＤ定電流駆動回路に入力バッファ回路が設けられていない場合には、ＬＥＤ定電流駆動回路の前段に入力バッファ回路を設けてもよい。

【１７１２】

図示しない＋１２Ｖ用ヒューズは、遊技盤５の各装飾基板の＋１２Ｖ電源ラインにおい

て、遊技盤５の各装飾基板で使用するそれぞれの電流が加味されてその容量が予め設定されており、遊技盤側装飾基板許容電流上限（遮断電流）まで電流を流すことができる。図示しない＋１２Ｖ用ヒューズは、遊技盤側装飾基板許容電流上限を超える過電流（異常電流）が流れると、図示しない＋１２Ｖ用ヒューズのエレメント部が溶断して図示しない＋１２Ｖ用ヒューズを介して供給される後続への＋１２Ｖ電源ラインを遮断する。

【１７１３】

なお、図示しない＋１２Ｖ用ヒューズは、＋１２電源ラインを供給するヒューズであり、周辺制御基板１５１０における大元の＋１２Ｖ用ヒューズと比べると、流れる電流が小さいものの、電流は大きく、発熱する場合があるため、この発熱の影響を受けて装飾基板に実装さえる各種ＬＥＤが損傷しないように、各種ＬＥＤやＬＥＤ定電流駆動回路から離間して配置することが好ましく、＋１２Ｖが供給されるコネクタの近傍（特に、＋１２Ｖが供給される電源ラインが接続される端子のコネクタの近傍）に配置されることが好ましい。

【１７１４】

本実施形態では、遊技盤５の各装飾基板の図示しない＋１２Ｖ用ヒューズは、表面実装タイプ（いわゆる、ＳＭＤタイプ）のチップヒューズであり、予め定めた許容電流上限（それぞれ予め定めた遮断電流）を超える電流が流れると、溶断するものであり、リセッタブルヒューズと異なり、一度溶断すると、その電流が低下しても、後続に対して電源ラインを供給することができない電子部品である。なお、遊技盤５の各装飾基板の図示しない＋１２Ｖ用ヒューズとして、ＳＭＤタイプのチップヒューズに代えて、リードタイプのヒューズにしてもよい。また、遊技盤５の各装飾基板の図示しない＋１２Ｖ用ヒューズとして、ＳＭＤタイプ又はリードタイプのサーミスタ等のリセッタブルヒューズを使用してもよい。こうすれば、リセッタブルヒューズを使用する場合には、予め定めた許容電流上限を超える電流が流れると、後続に対して電源ラインを供給することができないものの、その電流が低下すると、再び後続に対して電源ラインを供給することができる。

【１７１５】

扉枠服中継基板１０５へ供給される＋５Ｖ、＋１２Ｖ、及び＋２４Ｖという３種類の電源は、扉枠３に備える図示しない扉枠側駆動基板（以下、「扉枠３の各駆動基板」と記載する場合がある。）や扉枠３に備える複数の装飾基板（以下、「扉枠３の各装飾基板」と記載する場合がある。）が自身に必要とする電源がそれぞれ供給されており、電源と対応する図示しないヒューズが基板にそれぞれ設けられている。

【１７１６】

扉枠３の各駆動基板は、電源と対応する図示しないヒューズ（例えば、＋５Ｖ用ヒューズ、＋２４Ｖ用ヒューズ、＋１２Ｖ用ヒューズ）のほかに、例えば、＋２４Ｖ系電気的駆動源（例えば、駆動ソレノイド）を駆動制御する＋２４Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズ、＋１２Ｖ系電気的駆動源（例えば、駆動モータ）を駆動制御する＋１２Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズ等も設けられている。電源と対応する図示しないヒューズは、扉枠３の各駆動基板の電源と対応する電源ラインにおける、扉枠３の各駆動基板で使用する電流が加味されてその容量が予め設定さており、扉枠側各電源ライン駆動基板許容電流上限（例えば、扉枠側＋５Ｖ電源ライン駆動基板許容電流上限（遮断電流）、扉枠側＋２４Ｖ電源ライン駆動基板許容電流上限（遮断電流）、扉枠側＋１２Ｖ電源ライン駆動基板許容電流上限（遮断電流））まで電流をそれぞれ流すことができる。電源と対応する図示しないヒューズは、扉枠側各電源ライン駆動基板許容電流上限（例えば、扉枠側＋５Ｖ電源ライン駆動基板許容電流上限、扉枠側＋２４Ｖ電源ライン駆動基板許容電流上限、扉枠側＋１２Ｖ電源ライン駆動基板許容電流上限）を超える過電流（異常電流）が流れると、電源と対応する図示しないヒューズのエレメント部が溶断し、この溶断した電源と対応する図示しないヒューズを介して供給される後続への電源ラインを遮断する。

【１７１７】

＋２４Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズは、扉枠３の各駆動基板の＋２４Ｖ電源ラインにおける、扉枠３の＋２４Ｖ系電気的駆動源（駆動ソレノイド）や＋２４Ｖ系ドラ

イバ回路で使用する電流が加味されてその容量が予め設定されており、扉枠側駆動ソレノイド許容電流上限（遮断電流）まで電流を流すことができる。＋２４Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズは、扉枠側駆動ソレノイド許容電流上限を超える過電流（異常電流）が流れると、＋２４Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズのエレメント部が溶断して＋２４Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズを介して供給される後続への＋２４Ｖ電源ラインを遮断する。＋１２Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズは、扉枠３の各駆動基板の＋１２Ｖ電源ラインにおける、扉枠３の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）や＋１２Ｖ系ドライバ回路で使用する電流が加味されてその容量が予め設定されており、扉枠側駆動モータ許容電流上限（遮断電流）まで電流を流すことができる。＋１２Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズは、扉枠側駆動モータ許容電流上限を超える過電流（異常電流）が流れると、＋１２Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズのエレメント部が溶断して＋１２Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズを介して供給される後続への＋１２Ｖ電源ラインを遮断する。

【１７１８】

扉枠３の各装飾基板の図示しないヒューズは、扉枠３の各装飾基板の＋１２Ｖ電源ラインにおいて、扉枠３の各装飾基板で使用するそれぞれの電流が加味されてその容量が予め設定されており、扉枠側装飾基板許容電流上限（遮断電流）まで電流を流すことができる。扉枠３の各装飾基板の図示しないヒューズは、扉枠側装飾基板許容電流上限を超える過電流（異常電流）が流れると、扉枠３の各装飾基板の図示しないヒューズのエレメント部が溶断して扉枠３の各装飾基板の図示しないヒューズを介して供給される後続への＋１２Ｖ電源ラインを遮断する。

【１７１９】

例えば、扉枠３の各駆動基板のうち、一の駆動基板、複数の駆動基板、又はすべての駆動基板が＋１２Ｖを必要とする場合には、図示しない＋１２Ｖ用ヒューズを介して扉枠３に備える電気的駆動源である駆動モータの駆動を制御する図示しない＋１２Ｖ系ドライバ回路へ供給される。＋１２Ｖ系ドライバ回路は、扉枠３の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）を駆動する図示しないドライバＩＣ、このドライバＩＣへの過電流を遮断する図示しないヒューズと、から主として構成されている。＋１２Ｖ用ヒューズを介して供給される＋１２Ｖは、ヒューズを介してドライバＩＣへ供給されている。＋１２Ｖ系ドライバ回路のヒューズは、駆動基板の＋１２Ｖ電源ラインにおける、扉枠３の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）や＋１２Ｖ系ドライバ回路で使用する電流が加味されてその容量が予め設定されており、扉枠側駆動モータ許容電流上限（遮断電流）まで電流を流すことができる。＋１２Ｖ系ドライバ回路のヒューズは、扉枠側駆動モータ許容電流上限を超える過電流（異常電流）が流れると、＋１２Ｖ系ドライバ回路のヒューズのエレメント部が溶断して＋１２Ｖ系ドライバ回路のヒューズを介して供給される後続への＋１２Ｖ電源ラインを遮断する。

【１７２０】

なお、扉枠３の各駆動基板のうち、＋１２Ｖ系ドライバ回路が設けられる（実装される、搭載される）駆動基板に対しては、図示しない＋５Ｖ用ヒューズと図示しない入力バッファ回路とが設けられており、遊技盤５に備える周辺制御基板１５１０から伝送される制御信号（この制御信号は、シリアル信号であってもよいし、パラレル信号であってもよい。）が入力され、この入力された制御信号からノイズを除去して＋１２Ｖ系ドライバ回路へ出力する。具体的には、入力バッファ回路は、遊技盤５に備える周辺制御基板１５１０と、扉枠３の駆動基板との基板間を電気的に接続する複数配線（ハーネス）に対して、それぞれ、＋５Ｖ用ヒューズを介して供給される＋５Ｖが印加される抵抗の一端と、グランド（ＧＮＤ）に接地された抵抗の一端と、が電気的に接続される回路として構成されており、複数配線（ハーネス）に侵入したノイズを除去することでノイズ耐力を向上することができるものである。この抵抗に供給される＋５Ｖに代えて、＋１２Ｖ用ヒューズを介して供給される＋１２Ｖとしても、同一の効果（つまりノイズ耐力の向上）を奏することができる。

【１７２１】
　また、例えば、扉枠３の各駆動基板のうち、一の駆動基板、複数の駆動基板、又はすべての駆動基板が＋２４Ｖを必要とする場合には、図示しない＋２４Ｖ用ヒューズを介して扉枠３に備える電気的駆動源（例えば、駆動ソレノイド）の駆動を制御する図示しない＋２４Ｖ系ドライバ回路へ供給される。＋２４Ｖ系ドライバ回路は、扉枠３の＋２４Ｖ系電気的駆動源（駆動ソレノイド、駆動モータ）を駆動する図示しないドライバＩＣ、このドライバＩＣへの過電流を遮断する図示しないヒューズと、から主として構成されている。＋２４Ｖ用ヒューズを介して供給される＋２４Ｖは、ヒューズを介してドライバＩＣへ供給されている。＋２４Ｖ系ドライバ回路のヒューズは、駆動基板の＋２４Ｖ電源ラインにおける、扉枠３の＋２４Ｖ系電気的駆動源（駆動ソレノイド、駆動モータ）や＋２４Ｖ系ドライバ回路で使用する電流が加味されてその容量が予め設定されており、扉枠側駆動ソレノイド許容電流上限（遮断電流）まで電流を流すことができる。＋２４Ｖ系ドライバ回路のヒューズは、扉枠側駆動ソレノイド許容電流上限を超える過電流（異常電流）が流れると、＋２４Ｖ系ドライバ回路のヒューズのエレメント部が溶断して＋２４Ｖ系ドライバ回路のヒューズを介して供給される後続への＋２４Ｖ電源ラインを遮断する。
【１７２２】
　なお、扉枠３の各駆動基板のうち、＋２４Ｖ系ドライバ回路が設けられる（実装される、搭載される）駆動基板に対しては、図示しない＋５Ｖ用ヒューズと図示しない入力バッファ回路とが設けられており、遊技盤５に備える周辺制御基板１５１０から伝送される制御信号（この制御信号は、シリアル信号であってもよいし、パラレル信号であってもよい。）が入力され、この入力された制御信号からノイズを除去して＋２４Ｖ系ドライバ回路へ出力する。具体的には、入力バッファ回路は、遊技盤５に備える周辺制御基板１５１０と、扉枠３の各駆動基板との基板間を電気的に接続する複数配線（ハーネス）に対して、それぞれ、＋５Ｖ用ヒューズを介して供給される＋５Ｖが印加される抵抗の一端と、グランド（ＧＮＤ）に接地された抵抗の一端と、が電気的に接続される回路として構成されており、複数配線（ハーネス）に侵入したノイズを除去することでノイズ耐力を向上することができるものである。この抵抗に供給される＋５Ｖに代えて、＋２４Ｖ用ヒューズを介して供給される＋２４Ｖ又は＋１２Ｖも供給されているときには＋１２Ｖ用ヒューズを介して供給される＋１２Ｖとしても、同一の効果（つまりノイズ耐力の向上）を奏することができる。
【１７２３】
　また、例えば、扉枠３の各装飾基板のうち、一の装飾基板、複数の装飾基板、又はすべての装飾基板が＋１２Ｖを必要とする場合には、図示しない＋１２Ｖ用ヒューズを介して扉枠３に備えるフルカラーＬＥＤや単色のＬＥＤ等の複数のＬＥＤ（以下、「扉枠３の各種ＬＥＤ等」と記載する場合がある。）を点灯、消灯、点滅、階調点灯等の多様な発光を制御するＬＥＤ定電流駆動回路へ供給される。ＬＥＤ定電流駆動回路は、扉枠３の各種ＬＥＤ等に定電流を流すことができるシンク（吸い込み）タイプの定電流駆動回路と、扉枠３の各種ＬＥＤ等に流す電流の最大電流を設定することができる最大電流設定回路と、から主として構成されている。図示しない＋１２Ｖ用ヒューズは、装飾基板の＋１２Ｖ電源ラインにおける、扉枠３の各装飾基板で使用するそれぞれの電流が加味されてその容量が予め設定されており、扉枠側装飾基板許容電流上限（遮断電流）まで電流を流すことができる。図示しない＋１２Ｖ用ヒューズは、扉枠側装飾基板許容電流上限を超える過電流（異常電流）が流れると、図示しない＋１２Ｖ用ヒューズのエレメント部が溶断して図示しない＋１２Ｖ用ヒューズを介して供給される後続への＋１２Ｖ電源ラインを遮断する。
【１７２４】
　なお、扉枠３の各装飾基板のうち、一の装飾基板であって、ＬＥＤ定電流駆動回路が設けられず扉枠３の他の装飾基板に設けられるＬＥＤ定電流駆動回路により一の装飾基板自身に実装される複数のＬＥＤの発光が制御される場合には、図示しない＋１２Ｖ用ヒューズを一の装飾基板に設けてもよいし、設けなくてもよい。また、ＬＥＤ定電流駆動回路に扉枠３の駆動基板に設けられる（実装される、搭載される）入力バッファ回路が設けられ

ていない場合には、ＬＥＤ定電流駆動回路の前段に、入力バッファ回路を設けてもよい。
【１７２５】
本実施形態では、扉枠３側に設けられる上述した各ヒューズは、表面実装タイプ（いわゆる、ＳＭＤタイプ）のチップヒューズであり、予め定めた許容電流上限（それぞれ予め定めた遮断電流）を超える電流が流れると、溶断するものであり、リセッタブルヒューズと異なり、一度溶断すると、その電流が低下しても、後続に対して電源ラインを供給することができない電子部品である。なお、扉枠３側に設けられる上述した各ヒューズとして、ＳＭＤタイプのチップヒューズに代えて、リードタイプのヒューズにしてもよい。また、扉枠３側に設けられる上述した各ヒューズとして、ＳＭＤタイプ又はリードタイプのサーミスタ等のリセッタブルヒューズを使用してもよい。こうすれば、リセッタブルヒューズを使用する場合には、予め定めた許容電流上限を超える電流が流れると、後続に対して電源ラインを供給することができないものの、その電流が低下すると、再び後続に対して電源ラインを供給することができる。
【１７２６】
［８－３－１．払出制御基板へ供給される電圧］
払出制御基板６３３は、図１７８に示すように、払出制御ＭＰＵ６３３ａａ等のほかに、払出制御フィルタ回路６３３ｈ等を備えている。この払出制御フィルタ回路６３３ｈは、電源基板６３０からの＋５Ｖが供給されており、この＋５Ｖからノイズを除去している。この＋５Ｖは、ダイオードＰＤ０を介して電源基板６３０のキャパシタＢＣ１へ供給されるほかに、例えば、払出制御部６３３ａの払出制御ＭＰＵ６３３ａａや払出制御入力回路６３３ａｂ等へ供給されている。電源基板６３０からの＋１２Ｖは、例えば、払出制御部６３３ａの払出制御入力回路６３３ａｂ等へ供給されるとともに、払出制御基板６３３を介して、外部端子板５５８の外部通信回路５５８ｚへ供給されている。この外部端子板５５８の外部通信回路５５８ｚは、パチンコ機１が払い出した遊技球の球数やパチンコ機１の遊技情報等を伝える信号を遊技ホールに設置されたホールコンピュータへ出力する回路である。ホールコンピュータは、外部通信回路５５８ｚから出力される信号から、パチンコ機１が払い出した遊技球の球数やパチンコ機１の遊技情報等を把握することにより遊技者の遊技を監視している。なお、電源基板６３０からの＋２４は、払出制御基板６３３において何ら使用されずに、払出制御基板６３３を介して、主制御基板１３１０へ供給されている。
【１７２７】
［８－３－２．主制御基板へ供給される電圧］
主制御基板１３１０は、図１７８に示すように、主制御ＭＰＵ１３１０ａ等のほかに、＋５Ｖ作成回路１３１０ｇ、主制御フィルタ回路１３１０ｈ、停電監視回路１３１０ｅ等を備えている。＋５Ｖ作成回路１３１０ｇは、電源基板６３０からの＋１２Ｖが払出制御基板６３３を介して供給され、この＋１２Ｖから主制御ＭＰＵ１３１０ａの制御電源である＋５Ｖを作成している。本実施形態では、電源基板６３０における電源作成回路６３０ｆの＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａで作成される＋５Ｖと、主制御基板１３１０の＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成される主制御基板側作成＋５Ｖと、が電気的に接続されることがないように回路構成されているため、電源基板６３０における電源作成回路６３０ｆの＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａで作成される＋５Ｖが主制御基板１３１０の各種電子部品と電気的に接続されることがないし、主制御基板１３１０の＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成される主制御基板側作成＋５Ｖが主制御基板１３１０を除く他の基板等の各種電子部品と電気的に接続されることもない。
【１７２８】
主制御フィルタ回路１３１０ｈは、＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成される＋５Ｖ（主制御基板側作成＋５Ｖ）が供給されており、この＋５Ｖからノイズを除去している。この＋５Ｖは、ダイオードＭＤ０を介して電源基板６３０のキャパシタＢＣ０へ供給されるほかに、例えば、主制御ＭＰＵ１３１０ａや主制御入力回路１３１０ｂ等へ供給されている。払出制御基板６３３からの＋１２Ｖは、例えば、主制御入力回路１３１０ｂ等へ供給さ

れ、払出制御基板６３３からの＋２４Ｖは、例えば、主制御ソレノイド駆動回路１３１０ｄ等へ供給されている。

【１７２９】

停電監視回路１３１０ｅは、電源基板６３０からの＋１２Ｖ及び＋２４Ｖが払出制御基板６３３を介して供給されており、これら＋１２Ｖ及び＋２４Ｖの停電又は瞬停の兆候を監視している。停電監視回路１３１０ｅは、＋１２Ｖ及び＋２４Ｖの停電又は瞬停の兆候を検出すると、停電予告として停電予告信号を主制御ＭＰＵ１３１０ａに出力する。停電予告信号は、主制御基板１３１０、そして払出制御基板６３３の払出制御入力回路６３３ａｂを介して払出制御ＭＰＵ６３３ａａに入力される。また、停電予告信号は、主制御基板１３１０を介して周辺制御基板１５１０に入力される。

【１７３０】

本実施形態では、停電監視回路１３１０ｅは、＋１２Ｖ電源ラインと＋２４Ｖ電源ラインとの２つの電源ラインに印加される電圧をそれぞれ監視することによって、＋１２Ｖ電源ライン又は＋２４Ｖ電源ラインの一方の電源ラインに印加される電圧を監視する場合と比べて、停電又は瞬停等の電源断の兆候をより正確に把握することができる。

【１７３１】

このように、本実施形態におけるパチンコ機１の電源システムでは、電源基板６３０における電源作成回路６３０ｆの＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａ、＋１２Ｖ電源作成回路６３０ｆｂ、及び＋２４Ｖ電源作成回路６３０ｆｃでそれぞれ作成された＋５Ｖ、＋１２Ｖ、及び＋２４Ｖという３種類の電源のうち、＋１２Ｖ、＋２４Ｖという２種類の電源は、上述したように、払出制御基板６３３、主制御基板１３１０、周辺制御基板１５１０、及び周辺制御基板１５１０の後続基板等の各種基板へ供給されている。つまり、本実施形態におけるパチンコ機１の電源システムでは、＋１２Ｖという電源が各種基板において同一の電位となっているとともに、＋２４Ｖという電源が各種基板において同一の電位となっている。また、電源基板６３０における電源作成回路６３０ｆの＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａで作成される＋５Ｖと、主制御基板１３１０に備える＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成される＋５Ｖと、は電気的に接続されることがないが、同一の電位となっている。

【１７３２】

また、本実施形態におけるパチンコ機１の電源システムでは、上述したように、払出制御基板６３３、及び主制御基板１３１０を除いて、周辺制御基板１５１０には、図示しない＋１２Ｖ用ヒューズ、図示しない＋２４Ｖ用ヒューズが設けられている（実装されている、搭載されている）とともに、周辺制御基板１５１０の後続基板には、図示しない＋１２Ｖ用ヒューズ、＋２４Ｖ用ヒューズが設けられている（実装されている、搭載されている）。

【１７３３】

更に、本実施形態におけるパチンコ機１の電源システムでは、上述したように、＋１２Ｖという電源、＋２４Ｖという電源は、いずれも主制御基板１３１０の停電監視回路１３１０ｅでそれぞれ監視されている。

【１７３４】

つまり、本実施形態におけるパチンコ機１の電源システムでは、主制御基板１３１０の停電監視回路１３１０ｅにおいて監視される電源である＋１２Ｖと、周辺制御基板１５１０に設けられる（実装される、搭載される）図示しない＋１２Ｖ用ヒューズと、周辺制御基板１５１０の後続基板に設けられる（実装される、搭載される）図示しない＋１２Ｖ用ヒューズと、が同電位となっているし、主制御基板１３１０の停電監視回路１３１０ｅにおいて監視される電源である＋２４Ｖと、周辺制御基板１５１０に設けられる（実装される、搭載される）図示しない＋２４Ｖ用ヒューズと、周辺制御基板１５１０の後続基板に設けられる（実装される、搭載される）図示しない＋２４Ｖ用ヒューズと、が同電位となっている。

【１７３５】

また、本実施形態におけるパチンコ機１の電源システムでは、扉枠３の各駆動基板のう

ち、一の駆動基板、複数の駆動基板、又はすべての駆動基板が＋１２Ｖを必要とする場合には、上述したように、図示しない＋１２Ｖ用ヒューズを介して扉枠３に備える電気的駆動源である駆動モータの駆動を制御する図示しない＋１２Ｖ系ドライバ回路へ供給されるし、扉枠３の各駆動基板のうち、一の駆動基板、複数の駆動基板、又はすべての駆動基板が＋２４Ｖを必要とする場合には、上述したように、図示しない＋２４Ｖ用ヒューズを介して扉枠３に備える電気的駆動源（例えば、駆動ソレノイド、駆動モータ）の駆動を制御する図示しない＋２４Ｖ系ドライバ回路へ供給される。この場合、本実施形態におけるパチンコ機１の電源システムでは、遊技盤５の主制御基板１３１０の停電監視回路１３１０ｅにおいて監視される電源である＋１２Ｖと、遊技盤５の周辺制御基板１５１０に設けられる（実装される、搭載される）図示しない＋１２Ｖ用ヒューズと、遊技盤５の周辺制御基板１５１０の後続基板に設けられる（実装される、搭載される）図示しない＋１２Ｖ用ヒューズと、扉枠３の駆動基板に設けられる（実装される、搭載される）図示しない＋１２Ｖ用ヒューズと、が同電位となっているし、遊技盤５の主制御基板１３１０の停電監視回路１３１０ｅにおいて監視される電源である＋２４Ｖと、遊技盤５の周辺制御基板１５１０に設けられる（実装される、搭載される）図示しない＋２４Ｖ用ヒューズと、遊技盤５の周辺制御基板１５１０の後続基板に設けられる（実装される、搭載される）図示しない＋２４Ｖ用ヒューズと、扉枠３の駆動基板に設けられる（実装される、搭載される）図示しない＋２４Ｖ用ヒューズと、が同電位となっている。

【１７３６】

［９．主制御基板の回路、払出制御基板の回路］

次に、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３の回路について、図１７９～図１８２を参照して簡単に説明する。図１７９は主制御基板の回路を示す概略回路図であり、図１８０はエラー検知機能付き主制御入力回路を示す回路図であり、図１８１は停電監視回路を示す回路図であり、図１８２は払出制御基板の回路を示す概略回路図である。まず、主制御基板１３１０の回路について説明し、払出制御基板６３３の回路について説明する。ここでは、上述した設定変更基板１３１１に実装される設定キースイッチ１３１１ａが主制御基板１３１０に実装され、主制御基板１３１０のみ主制御基板ボックス１３２０に収容されている例として説明する。なお、各種基板の回路における電源及び入力信号基板への配線についても適宜説明する。

【１７３７】

［９－１．主制御基板の回路］

主制御基板１３１０の回路における電源のうち、マイクロプロセッサである主制御ＭＰＵ１３１０ａの制御電源は電源基板６３０における電源作成回路６３０ｆの＋１２Ｖ電源作成回路６３０ｆｂからの＋１２Ｖが払出制御基板６３３を介して供給され、この供給される＋１２Ｖから＋５Ｖ作成回路１３１０ｇにおいて主制御基板１３１０の制御電源となるローカル電源として＋５Ｖが作成されている。このローカル電源である＋５Ｖは、電源基板６３０における電源作成回路６３０ｆの＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａで作成される＋５Ｖと同一の電位となっている。

【１７３８】

＋５Ｖ作成回路１３１０ｇにおいて主制御基板１３１０の制御電源となるローカル電源として＋５Ｖは、図１７９に示すように、まず、主制御フィルタ回路１３１０ｈに入力される。この主制御フィルタ回路１３１０ｈは、主制御３端子フィルタＭＩＣ０を主として構成されている。この主制御３端子フィルタＭＩＣ０は、Ｔ型フィルタ回路であり、フェライトで磁気シールドした減衰特性の優れたものである。主制御３端子フィルタＭＩＣ０は、その１番端子に、＋５Ｖ作成回路１３１０ｇからの＋５Ｖが印加され、その２番端子がグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続され、その３番端子からノイズ成分を除去した＋５Ｖが出力されている。１番端子に印加される＋５Ｖは、一端がグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されるコンデンサＭＣ０の他端と電気的に接続されることにより、まずリップル（電圧に畳重された交流成分）が除去されて平滑化されている。

【１７３９】
３番端子から出力される＋５Ｖは、一端がグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続される、コンデンサＭＣ１及び電解コンデンサＭＣ２（本実施形態では、静電容量：４７０マイクロファラッド（μＦ））の他端とそれぞれ電気的に接続されることにより、さらにリップルが除去されて平滑化されている。この平滑化された＋５Ｖは、主制御ＭＰＵ１３１０ａの電源端子であるＶＤＤ端子に印加されている。なお、主制御ＭＰＵ１３１０ａの電源端子であるＶＤＤ端子には、瞬停が発生して遊技ホールからの電源が遮断された場合に、電解コンデンサＭＣ２に充電された電荷が、瞬停が発生してから約７ミリ秒（ｍｓ）という期間に亘って、＋５Ｖとして印加されるようになっている。
【１７４０】
主制御ＭＰＵ１３１０ａのＶＤＤ端子は一端がグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されるコンデンサＭＣ３の他端と電気的に接続されるとともにダイオードＭＤ０のアノード端子と電気的に接続されている。ＶＤＤ端子に印加される＋５Ｖはコンデンサ３によりさらにリップルが除去されて平滑化されている。主制御ＭＰＵ１３１０ａのグランド端子であるＶＳＳ端子はグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されている。
【１７４１】
主制御ＭＰＵ１３１０ａの主制御内蔵ＲＡＭの電源端子であるＶＢＢ端子は、ダイオードＭＤ０のカソード端子と電気的に接続されている。また、主制御ＭＰＵ１３１０ａの主制御内蔵ＲＡＭの電源端子であるＶＢＢ端子は、一端がグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されるコンデンサＭＣ４の他端と電気的に接続されているほかに、抵抗ＭＲ０を介して、電源基板６３０のバックアップ電源回路６３０ｈのキャパシタＢＣ０のプラス端子と電気的に接続されている。これにより、主制御ＭＰＵ１３１０ａの主制御内蔵ＲＡＭの電源端子であるＶＢＢ端子には、電源基板６３０のバックアップ電源回路６３０ｈからの主ＶＢＢが抵抗ＭＲ０を介して供給されるのに対して、主制御ＭＰＵ１３１０ａの電源端子であるＶＤＤ端子には、ダイオードＭＤ０により、電源基板６３０のバックアップ電源回路６３０ｈからの主ＶＢＢが抵抗ＭＲ０を介して供給されることが妨げられている。
【１７４２】
主制御基板１３１０の回路における入力信号のうち、例えば、払出制御基板６３３に備えるＲＷＭスイッチ６３３ｄ（ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆとしてもよい）からの主ＲＷＭ信号、一般入賞口センサ３００１からの検出信号、ゲートセンサ２８０１からの検出信号、第一始動口センサ３００２からの検出信号、第二始動口センサ２４０１からの検出信号、設定キースイッチ１３１００ａからの検出信号等は、エラー検知機能なしの主制御入力回路１３１０ｂやエラー検知機能付き主制御入力回路１３１０ｂ２に入力されている。
【１７４３】
具体的には、例えば、払出制御基板６３３に備えるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの主ＲＷＭ信号は、エラー検知機能なしの主制御入力回路１３１０ｂ（以下、単に「主制御入力回路１３１０ｂ」と記載する場合がある。）を介して主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）に入力され、設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号は、主制御入力回路１３１０ｂ、そして論理反転回路１３１０ｉｖを介して主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）に入力されている。これに対して、一般入賞口センサ３００１からの検出信号、ゲートセンサ２８０１からの検出信号、第一始動口センサ３００２からの検出信号、第二始動口センサ２４０１からの検出信号等は、エラー検知機能付き主制御入力回路１３１０ｂ２を介して主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ１～ＰＡ４にそれぞれ入力されている。
【１７４４】
停電監視回路１３１０ｅからの停電予告信号は、主制御入力回路１３１０ｂを介して主

制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＢの入力端子ＰＢ０に入力されるとともに、主制御出力回路１３１０ｃを介して払出制御基板６３３や演出表示装置１６００等へ出力される。入力ポートＰＡ，ＰＢは、８ビットにより構成されている。また、他のセンサからの検出信号が主制御入力回路１３１０ｂ又はエラー検知機能付き主制御入力回路１３１０ｂ２を介して入力ポートＰＡ，ＰＢの所定の入力端子にそれぞれ入力され、空き端子となる入力端子については、空き端子処理としてグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）に電気的に接続されている。

【１７４５】

主制御ＭＰＵ１３１０ａは、その所定の出力ポートの出力端子から各種信号を、主制御出力回路１３１０ｃを介して出力する。例えば、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、その所定の出力ポートの出力端子から、停電クリア信号を、主制御出力回路１３１０ｃを介して停電監視回路１３１０ｅへ出力したり、駆動信号を、主制御出力回路１３１０ｃを介して主制御ソレノイド駆動回路１３１０ｄへ出力したりする。

【１７４６】

なお、他のセンサからの検出信号は、主制御入力回路１３１０ｂを介してポートＰＢのほかに、ポートＰＣの所定の入力端子にそれぞれ入力される場合があり、ポートＰＣにおける空き端子となる入力端子については、空き端子処理としてグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）に電気的に接続されている。ポートＰＣは、入力ポートＰＡ，ＰＢと同様に、８ビットにより構成されている。

【１７４７】

［９－１－１．主制御入力回路］

次に、主制御入力回路１３１０ｂについて説明する。主制御入力回路１３１０ｂは同一の回路であるため、ここでは、払出制御基板６３３に備えるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの主ＲＷＭ信号が入力される主制御入力回路１３１０ｂと、設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号が入力される主制御入力回路１３１０ｂと、について説明する。

【１７４８】

［９－１－１ａ．ＲＷＭスイッチからの主ＲＷＭ信号］

払出制御基板６３３に備えるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの主ＲＷＭ信号が入力される主制御入力回路１３１０ｂは、図１７９に示すように、一端が＋１２Ｖ電源ライン（電源作成回路６３０ｆの＋１２Ｖ電源作成回路６３０ｆｂで作成されて供給される電源ライン（つまり、＋１２Ｖ電源ライン）と電気的に接続される抵抗ＭＲ２の他端と電気的に接続されるとともに、抵抗ＭＲ３を介して、トランジスタＭＴＲ０のベース端子と電気的に接続されている。トランジスタＭＴＲ０のベース端子は、抵抗ＭＲ３の他に、一端が主制御基板１３１０のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続された抵抗ＭＲ４の他端と電気的に接続されている。トランジスタＭＴＲ０のエミッタ端子は、主制御基板１３１０のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されている。トランジスタＭＴＲ０のコレクタ端子は、一端が主制御基板側作成＋５Ｖ電源ライン（主制御基板１３１０に備える＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成された＋５Ｖの電源ラインであって、電源作成回路６３０ｆの＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａで作成されて供給される電源ライン（つまり、＋５Ｖ電源ライン）と異なる。）と電気的に接続された抵抗ＭＲ５の他端と電気的に接続されるとともに、主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）と電気的に接続されている。払出制御基板６３３に備えるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの主ＲＷＭ信号は、主制御入力回路１３１０ｂを介して、ＲＷＭ信号として主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）に入力される。

【１７４９】

なお、抵抗ＭＲ２の他端には、払出制御基板６３３に備えるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの主ＲＷＭ信号の波形と整えるために、さらに、一端が主制御基板１３１０のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されたコンデンサの他端と電気的に接続されるようにしてもよい。

【１７５０】
　また、主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）に対して、主制御ＭＰＵ１３１０ａの内部において、主制御基板側作成＋５Ｖ電源ライン（主制御基板１３１０に備える＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成された＋５Ｖの電源ラインであって、電源作成回路６３０ｆの＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａで作成されて供給される電源ライン（つまり、＋５Ｖ電源ライン）と異なる。）で電気的に接続された内部プルアップ抵抗と電気的に接続されている場合には、抵抗ＭＲ５を主制御基板１３１０に実装することなく、トランジスタＭＴＲ０のコレクタ端子を主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）に電気的に接続するようにしてもよい。
【１７５１】
［９－１－１ｂ．設定キースイッチからの検出信号］
　設定キースイッチ１３１１ａは、ＣＯＭ１端子、ＣＯＭ２端子、Ａ端子、及びＢ端子を有し、Ｂ端子が主制御基板１３１０のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されるとともに、ＣＯＭ１端子、ＣＯＭ２端子、及びＡ端子が電気的に接続されている。設定キースイッチ１３１１ａがＯＦＦ操作されているときには、ＣＯＭ１端子及びＣＯＭ２端子とＡ端子とが内部回路において電気的に回路接続されてＣＯＭ１端子及びＣＯＭ２端子とＡ端子との内部回路が導通した状態となるのに対して、設定キースイッチ１３１１ａがＯＮ操作されているときには、ＣＯＭ１端子及びＣＯＭ２端子とＢ端子とが内部回路において電気的に回路接続されてＣＯＭ１端子及びＣＯＭ２端子とＢ端子との内部回路が導通して主制御基板１３１０のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続された状態となる。
【１７５２】
　設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号は、設定キースイッチ１３１１ａがＯＦＦ操作されているときには、ＣＯＭ１端子及びＣＯＭ２端子とＡ端子とが内部回路において電気的に回路接続されたものとなるのに対して、設定キースイッチ１３１１ａがＯＮ操作されているときには、ＣＯＭ１端子及びＣＯＭ２端子とＢ端子とが内部回路において電気的に回路接続されて主制御基板１３１０のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されたものとなる。
【１７５３】
　設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号が入力される主制御入力回路１３１０ｂは、図１７９に示すように、一端が主制御基板側作成＋５Ｖ電源ライン（主制御基板１３１０に備える＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成された＋５Ｖの電源ラインであって、電源作成回路６３０ｆの＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａで作成されて供給される電源ライン（つまり、＋５Ｖ電源ライン）と異なる。）と電気的に接続される抵抗ＭＲ１０の他端と電気的に接続される他に、一端が主制御基板１３１０のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されたコンデンサＭＣ１０の他端と電気的に接続されるとともに、抵抗ＭＲ１１を介して、トランジスタＭＴＲ１０のベース端子と電気的に接続されている。トランジスタＭＴＲ１０のベース端子は、抵抗ＭＲ１１の他に、一端が主制御基板１３１０のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続された抵抗ＭＲ１２の他端と電気的に接続されている。トランジスタＭＴＲ１０のエミッタ端子は、主制御基板１３１０のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されている。トランジスタＭＴＲ１０のコレクタ端子は、一端が主制御基板側作成＋５Ｖ電源ライン（主制御基板１３１０に備える＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成された＋５Ｖの電源ラインであって、電源作成回路６３０ｆの＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａで作成されて供給される電源ライン（つまり、＋５Ｖ電源ライン）と異なる。）と電気的に接続された抵抗ＭＲ１３の他端と電気的に接続されるとともに、論理反転回路１３１０ｉｖを介して主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）と電気的に接続されている。
【１７５４】
　論理反転回路１３１０ｉｖは、主制御入力回路１３１０ｂを介して入力される設定キー

スイッチ１３１１ａからの検出信号の論理を反転する回路である。論理反転回路１３１０ｉｖは、抵抗ＭＲ１４，ＭＲ１５，ＭＲ１６、トランジスタＭＴＲ１１から構成されている。主制御入力回路１３１０ｂを構成するトランジスタＭＴＲ１０のコレクタ端子は、一端が主制御基板側作成＋５Ｖ電源ライン（主制御基板１３１０に備える＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成された＋５Ｖの電源ラインであって、電源作成回路６３０ｆの＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａで作成されて供給される電源ライン（つまり、＋５Ｖ電源ライン）と異なる。）と電気的に接続された抵抗ＭＲ１３の他端と電気的に接続されるとともに、抵抗ＭＲ１４を介して、トランジスタＭＴＲ１１のベース端子と電気的に接続されている。トランジスタＭＴＲ１１のベース端子は、抵抗ＭＲ１４の他に、一端が主制御基板１３１０のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続された抵抗ＭＲ１５の他端と電気的に接続されている。トランジスタＭＴＲ１１のエミッタ端子は、主制御基板１３１０のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されている。トランジスタＭＴＲ１１のコレクタ端子は、一端が主制御基板側作成＋５Ｖ電源ライン（主制御基板１３１０に備える＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成された＋５Ｖの電源ラインであって、電源作成回路６３０ｆの＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａで作成されて供給される電源ライン（つまり、＋５Ｖ電源ライン）と異なる。）と電気的に接続された抵抗ＭＲ１６の他端と電気的に接続されるとともに、主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）と電気的に接続されている。設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号は、主制御入力回路１３１０ｂ、そして論理反転回路１３１０ｉｖを介して、設定キー信号として主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）に入力される。

【１７５５】

なお、主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）に対して、主制御ＭＰＵ１３１０ａの内部において、主制御基板側作成＋５Ｖ電源ライン（主制御基板１３１０に備える＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成された＋５Ｖの電源ラインであって、電源作成回路６３０ｆの＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａで作成されて供給される電源ライン（つまり、＋５Ｖ電源ライン）と異なる。）で電気的に接続された内部プルアップ抵抗と電気的に接続されている場合には、抵抗ＭＲ１６を主制御基板１３１０に実装することなく、トランジスタＭＴＲ１１のコレクタ端子を主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）に電気的に接続するようにしてもよい。また、入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子），ＰＡ５（設定キー信号入力端子）の他の入力端子ＰＡ１～ＰＡ４，ＰＡ６～ＰＡ７に対して、主制御ＭＰＵ１３１０ａの内部において、主制御基板側作成＋５Ｖ電源ライン（主制御基板１３１０に備える＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成された＋５Ｖの電源ラインであって、電源作成回路６３０ｆの＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａで作成されて供給される電源ライン（つまり、＋５Ｖ電源ライン）と異なる。）で電気的に接続された内部プルアップ抵抗と電気的に接続されている場合にも、一端が主制御基板側作成＋５Ｖ電源ラインと電気的に接続された抵抗の他端と電気的に接続されることなく、つまりこの抵抗を主制御基板１３１０に実装することなく、トランジスタのコレクタ端子を主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ１～ＰＡ４，ＰＡ６～ＰＡ７に電気的に接続するようにしてもよい

【１７５６】

設定キースイッチ１３１１ａがＯＦＦ操作されているときには、ＣＯＭ１端子及びＣＯＭ２端子とＡ端子とが内部回路において電気的に回路接続されたものとなるため、設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号は、その電圧が主制御入力回路１３１０ｂの抵抗ＭＲ１０により主制御基板側作成＋５Ｖ側に引き上げられて、その論理がＨＩとなって主制御入力回路１３１０ｂのトランジスタＭＴＲ１０がＯＮする。これに伴いトランジスタＭＴＲ１０のコレクタ端子に印加される電圧が主制御基板１３１０のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）側へ引き下げられて論理反転回路１３１０ｉｖのトランジスタＭＴＲ１１がＯＦＦし、このトランジスタＭＴＲ１１のコレクタ端子の電圧が論理反転回路１３１０

ｉｖの抵抗ＭＲ１６により主制御基板側作成＋５Ｖ側に引き上げられ、その論理がＨＩとなった設定キー信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）に入力されることとなる。つまり、設定キースイッチ１３１１ａがＯＦＦ操作されているときには、設定キー信号の論理がＨＩ（設定不可状態を伝える論理）となって主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）に入力される。

【１７５７】

これに対して、設定キースイッチ１３１１ａがＯＮ操作されているときには、ＣＯＭ１端子及びＣＯＭ２端子とＢ端子とが内部回路において電気的に回路接続されて主制御基板１３１０のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されたものとなるため、設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号は、その論理がＬＯＷとなって主制御入力回路１３１０ｂのトランジスタＭＴＲ１０がＯＦＦする。これに伴いトランジスタＭＴＲ１０のコレクタ端子に印加される電圧が主制御入力回路１３１０ｂの抵抗ＭＲ１３により主制御基板側作成＋５Ｖ側に引き上げられて論理反転回路１３１０ｉｖのトランジスタＭＴＲ１１がＯＮし、このトランジスタＭＴＲ１１のコレクタ端子の電圧が主制御基板１３１０のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）に引き下げられ、その論理がＬＯＷとなった設定キー信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）に入力されることとなる。つまり、設定キースイッチ１３１１ａがＯＮ操作されているときには、設定キー信号の論理がＬＯＷ（設定可状態を伝える論理）となって主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）に入力される。

【１７５８】

払出制御基板６３３に備えるＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部が操作されていないときには、ＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号が後述するように払出制御基板６３３のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されてないため、後述する払出制御基板６３３に備える払出制御入力回路６３３ａｂの抵抗ＰＲ５０により電源作成回路６３０ｆの＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａで作成されて供給される電源（＋５Ｖ）側に引き上げられて後述する払出制御基板６３３に備える払出制御出力回路６３３ａｃのトランジスタＰＴＲ６０がＯＮし、このトランジスタＰＴＲ６０のコレクタ端子の電圧が払出制御基板６３３のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）側へ引き下げられてＲＷＭスイッチ６３３ｄからの主ＲＷＭ信号の論理がＬＯＷとなって主制御基板１３１０に入力される。論理がＬＯＷとなったＲＷＭスイッチ６３３ｄからの主ＲＷＭ信号が主制御入力回路１３１０ｂに入力されると、主制御入力回路１３１０ｂのトランジスタＭＴＲ０がＯＦＦしてトランジスタＭＴＲ０のコレクタ端子に印加される電圧が主制御入力回路１３１０ｂの抵抗ＭＲ５により主制御基板側作成＋５Ｖ側に引き上げられ、その論理がＨＩとなったＲＷＭ信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）に入力されることとなる。つまり、払出制御基板６３３に備えるＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部が操作されていないときには、ＲＷＭ信号の論理がＨＩ（押圧非操作状態を伝える論理）となって主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）に入力される。

【１７５９】

これに対して、払出制御基板６３３に備えるＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部が操作されているときには、ＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号が後述するように払出制御基板６３３のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されるため、払出制御基板６３３に備える払出制御出力回路６３３ａｃのトランジスタＰＴＲ６０がＯＦＦし、このトランジスタＰＴＲ６０のコレクタ端子の電圧が主制御基板１３１０に備える主制御入力回路１３１０ｂの抵抗ＭＲ２により主制御基板側作成＋５Ｖ側に引き上げられ、ＲＷＭスイッチ６３３ｄからの主ＲＷＭ信号の論理がＨＩとなる。これに伴い主制御入力回路１３１０ｂのトランジスタＭＴＲ０がＯＮしてトランジスタＭＴＲ０のコレクタ端子に印加される電圧が主制御基板１３１０のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）に引き下げ

られ、その論理がＬＯＷとなったＲＷＭ信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）に入力されることとなる。つまり、払出制御基板６３３に備えるＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部が操作されているときには、ＲＷＭ信号の論理がＬＯＷ（押圧操作状態を伝える論理）となって主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）に入力される。

【１７６０】

このように、設定キースイッチ１３１１ａがＯＮ操作されていると、その旨を伝える設定キー信号の論理が論理反転回路１３１０ｉｖによりＨＩとなるし、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部が操作されていると、その旨を伝えるＲＡＷＭ信号の論理がＨＩとなる。また、設定キースイッチ１３１１ａがＯＦＦ操作されていると、その旨を伝える設定キー信号の論理が論理反転回路１３１０ｉｖによりＬＯＷとなるし、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部が操作されていないと、その旨を伝えるＲＡＷＭ信号の論理がＬＯＷとなる。つまり、設定キースイッチ１３１１ａがＯＮ操作されている旨を伝える論理と、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部が操作されている旨を伝える論理と、が同一の論理（ＨＩ）となっているし、設定キースイッチ１３１１ａがＯＦＦ操作されている（ＯＮ操作されていない）旨を伝える論理と、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部が操作されていない旨を伝える論理と、が同一の論理（ＬＯＷ）となっている。

【１７６１】

［９－１－２．エラー検知機能付き主制御入力回路］

次に、エラー検知機能付き主制御入力回路１３１０ｂ２について説明する。エラー検知機能付き主制御入力回路１３１０ｂ２は同一の回路であるため、ここでは、ゲートセンサ２８０１からの検出信号が入力されるエラー検知機能付き主制御入力回路１３１０ｂについて説明する。

【１７６２】

ゲートセンサ２８０１からの検出信号が入力されるエラー検知機能付き主制御入力回路１３１０ｂ２は、図１８０に示すように、処理回路１３１０ｂ２ａを主として構成されている。処理回路１３１０ｂ２ａは、ＶＣＣ端子を介して供給される主制御基板側作成＋５Ｖ電源ライン（主制御基板１３１０に備える＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成された＋５Ｖの電源ラインであって、電源作成回路６３０ｆの＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａで作成されて供給される電源ライン（つまり、＋５Ｖ電源ライン）と異なる。）が内部電源として各種内部回路にそれぞれ供給され、各種内部回路のグランド（ＧＮＤ）がＧＮＤ端子を介して主制御基板１３１０のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されている。

【１７６３】

また処理回路１３１０ｂ２ａは、ＶＳ端子を介して供給される＋１２Ｖ電源ライン（電源作成回路６３０ｆの＋１２Ｖ電源作成回路６３０ｆｂで作成されて供給される電源ライン（つまり、＋１２Ｖ電源ライン）の電源監視を行う電源端子回路と、入力端子を介して入力されるゲートセンサ２８０１からの検出信号に基づいて断線の有無を監視する断線監視回路と、入力端子を介して入力されるゲートセンサ２８０１からの検出信号に基づいて短絡の有無を監視する短絡監視回路と、入力端子を介して入力されるゲートセンサ２８０１からの検出信号に基づいて遊技球の通過の有無を予め定めたしきい値と比較判定する比較回路と、電源監視回路、断線監視回路、および短絡監視回路等の各監視回路からの監視結果に基づいて異常の有無を判別して異常時の処理を行う異常時処理回路と、各監視回路からの検査結果に基づいて異常時にその旨を伝えるエラー出力回路と、比較回路による比較結果を出力する出力回路と、を備えている。

【１７６４】

異常時処理回路は、各監視回路からの監視結果に基づいて異常時であると判別したとき（エラー検知時）には、エラー出力回路からその旨（異常時である旨）を、ＥＲ端子を介して、外部へ出力する論理を設定制御するとともに、出力回路から出力される比較回路による比較結果の停止を、出力端子を介して、外部へ出力の論理を設定制御する。

【１７６５】
処理回路１３１０ｂ２ａのＶＳ端子は、＋１２Ｖ電源ライン（電源作成回路６３０ｆの＋１２Ｖ電源作成回路６３０ｆｂで作成されて供給される電源ライン（つまり、＋１２Ｖ電源ライン）が電気的に接続される他に、抵抗ＭＲ５０の一端と電気的に接続されるとともに、一端が主制御基板１３１０のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されるコンデンサＭＣ５０の他端と電気的に接続されている。
【１７６６】
処理回路１３１０ｂ２ａの入力端子は、ゲートセンサ２８０１からの検出信号が電気的に接続される他に、抵抗ＭＲ５０の他端と電気的に接続されている。なお、処理回路１３１０ｂ２ａの入力端子には、ゲートセンサ２８０１からの検出信号の波形と整えるために、さらに、一端が主制御基板１３１０のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されるコンデンサの他端と電気的に接続されるようにしてもよい。
【１７６７】
処理回路１３１０ｂ２ａのＶＣＣ端子は、一端が主制御基板１３１０のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されるコンデンサＭＣ５１の他端と電気的に接続されている。
【１７６８】
処理回路１３１０ｂ２ａの出力端子は、一端が主制御基板側作成＋５Ｖ電源ライン（主制御基板１３１０に備える＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成された＋５Ｖの電源ラインであって、電源作成回路６３０ｆの＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａで作成されて供給される電源ライン（つまり、＋５Ｖ電源ライン）と異なる。）と電気的に接続された抵抗ＭＲ５１の他端と電気的に接続されているとともに、主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ２と電気的に接続されている。ゲートセンサ２８０１からの検出信号は、エラー検知機能付き主制御入力回路１３１０ｂ２ａを介して、ゲート信号として主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ２に入力される。
【１７６９】
処理回路１３１０ｂ２ａのＥＲ端子は、一端が主制御基板側作成＋５Ｖ電源ライン（主制御基板１３１０に備える＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成された＋５Ｖの電源ラインであって、電源作成回路６３０ｆの＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａで作成されて供給される電源ライン（つまり、＋５Ｖ電源ライン）と異なる。）と電気的に接続された抵抗ＭＲ５２の他端と電気的に接続されているとともに、主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＢの入力端子ＰＢ７と電気的に接続されている。また、処理回路１３１０ｂ２ａのＥＲ端子は、他のエラー検知機能付き主制御入力回路１３１０ｂ２のＥＲ端子と電気的に接続されている。つまり、複数のエラー検知機能付き主制御入力回路１３１０ｂ２のＥＲ端子からの各信号がＯＲ接続されている。エラー検知機能付き主制御入力回路１３１０ｂ２のＥＲ端子からの信号は、センサエラー信号として主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＢの入力端子ＰＢ７に入力される。
【１７７０】
ここで、処理回路１３１０ｂ２ａの異常時処理回路において、処理回路１３１０ｂ２ａの電源監視回路、断線監視回路、短絡監視回路等の各監視回路からの監視結果に基づいて異常時であると判別したとき（エラー検知時）における処理回路１３１０ｂ２ａの入力端子の状態について説明する。処理回路１３１０ｂ２ａの異常時処理回路が処理回路１３１０ｂ２ａの電源監視回路からの監視結果に基づいて異常時であると判別したとき（エラー検知時）には、電源異常時として、処理回路１３１０ｂ２ａの入力端子の論理が不定となっている。処理回路１３１０ｂ２ａの異常時処理回路が処理回路１３１０ｂ２ａの断線監視回路からの監視結果に基づいて異常時であると判別したとき（エラー検知時）には、断線時として、処理回路１３１０ｂ２ａの入力端子の論理がＨＩとなっている。処理回路１３１０ｂ２ａの異常時処理回路が処理回路１３１０ｂ２ａの短絡監視回路からの監視結果に基づいて異常時であると判別したとき（エラー検知時）には、短絡時として、処理回路１３１０ｂ２ａの入力端子の論理がＬＯＷとなっている。

【１７７１】
　また、処理回路１３１０ｂ２ａの異常時処理回路において、処理回路１３１０ｂ２ａの電源監視回路、断線監視回路、短絡監視回路等の各監視回路からの監視結果に基づいて異常時であると判別したとき（エラー検知時）における処理回路１３１０ｂ２ａの出力端子、ＥＲ端子の状態について説明する。処理回路１３１０ｂ２ａの異常時処理回路が処理回路１３１０ｂ２ａの電源監視回路からの監視結果に基づいて異常時であると判別したとき（エラー検知時）には、電源異常時として、処理回路１３１０ｂ２ａの出力回路から出力される処理回路１３１０ｂ２ａの比較回路による比較結果を停止するために処理回路１３１０ｂ２ａの異常時処理回路が処理回路１３１０ｂ２ａの出力端子の論理をＬＯＷとなるように処理回路１３１０ｂ２ａの出力回路を設定制御するとともに、異常時である旨を伝えるために処理回路１３１０ｂ２ａの異常時処理回路が処理回路１３１０ｂ２ａのＥＲ端子の論理をＨＩとなるに処理回路１３１０ｂ２ａのエラー出力回路を設定制御する。
【１７７２】
　処理回路１３１０ｂ２ａの異常時処理回路が処理回路１３１０ｂ２ａの断線監視回路からの監視結果に基づいて異常時であると判別したとき（エラー検知時）には、断線時として、処理回路１３１０ｂ２ａの出力回路から出力される処理回路１３１０ｂ２ａの比較回路による比較結果を停止するために処理回路１３１０ｂ２ａの異常時処理回路が処理回路１３１０ｂ２ａの出力端子の論理をＬＯＷとなるように処理回路１３１０ｂ２ａの出力回路を設定制御するとともに、異常時である旨を伝えるために処理回路１３１０ｂ２ａの異常時処理回路が処理回路１３１０ｂ２ａのＥＲ端子の論理をＨＩとなるに処理回路１３１０ｂ２ａのエラー出力回路を設定制御する。
【１７７３】
　処理回路１３１０ｂ２ａの異常時処理回路が処理回路１３１０ｂ２ａの短絡監視回路からの監視結果に基づいて異常時であると判別したとき（エラー検知時）には、短絡時として、処理回路１３１０ｂ２ａの出力回路から出力される処理回路１３１０ｂ２ａの比較回路による比較結果を停止するために処理回路１３１０ｂ２ａの異常時処理回路が処理回路１３１０ｂ２ａの出力端子の論理をＬＯＷとなるように処理回路１３１０ｂ２ａの出力回路を設定制御するとともに、異常時である旨を伝えるために処理回路１３１０ｂ２ａの異常時処理回路が処理回路１３１０ｂ２ａのＥＲ端子の論理をＨＩとなるに処理回路１３１０ｂ２ａのエラー出力回路を設定制御する。
【１７７４】
［９－１－３．停電監視回路］
　主制御基板１３１０は、図１７８に示したように、電源基板６３０における電源作成回路６３０ｆの＋１２Ｖ電源作成回路６３０ｆｂから＋１２Ｖ及び電源基板６３０における電源作成回路６３０ｆの＋２４Ｖ電源作成回路６３０ｆｃから＋２４Ｖという２種類の電圧が払出制御基板６３３を介して供給されており、＋１２Ｖ及び＋２４Ｖが停電監視回路１３１０ｅに入力されている。
【１７７５】
　停電監視回路１３１０ｅは、＋１２Ｖ及び＋２４Ｖの停電又は瞬停の兆候を監視しており、停電又は瞬停の兆候を検出すると、停電予告として停電予告信号を、主制御ＭＰＵ１３１０ａのほかに、払出制御基板６３３の払出制御ＭＰＵ６３３ａａ、周辺制御基板１５１０、演出表示装置１６００等へ出力する。停電監視回路１３１０ｅから停電予告信号が出力されると、例えば、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、後述する主制御側電源投入時処理における主制御側電源断時処理を行い遊技の進行を停止し、払出制御基板６３３の払出制御ＭＰＵ６３３ａａは、後述する払出制御部電源投入時処理における払出制御部電源断時処理を行い払出の進行（遊技球を賞球として払い出す動作）を停止し、周辺制御基板１５１０は、演出情報のバックアップ処理を行い、演出表示装置１６００は、主制御ＭＰＵ１３１０ａによる主制御側電源断時処理、及び払出制御６３３ａａによる払出制御部電源断時処理を確実に完了できるように、電力消費をカットするためバックライト用の電源を作成する図示しないインバータをＯＦＦし演出の進行を停止する。

【１７７６】
ここでは、まず停電監視回路の構成について説明し、続いて＋２４Ｖの停電又は瞬停の監視、＋１２Ｖの停電又は瞬停の監視、そして停電予告信号の出力について説明する。
【１７７７】
［９－１－３ａ．停電監視回路の構成］
停電監視回路１３１０ｅは、図１８１に示すように、シャント式安定化電源回路ＭＩＣ２０、オープンコレクタ出力タイプのコンパレータＭＩＣ２１、Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２、トランジスタＭＴＲ２０～ＭＴＲ２３を主として構成されている。
【１７７８】
シャント式安定化電源回路ＭＩＣ２０の基準電圧入力端子であるＲＥＦ端子、及びカソード端子であるＫ端子は、一端が主制御基板側作成＋５Ｖ電源ライン（主制御基板１３１０に備える＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成された＋５Ｖの電源ラインであって、電源作成回路６３０ｆの＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａで作成されて供給される電源ライン（つまり、＋５Ｖ電源ライン）と異なる。）と電気的に接続される抵抗ＭＲ２０の他端と電気的に接続されて主制御基板側作成＋５Ｖが印加されており、ＲＥＦ端子に入力される電流が抵抗ＭＲ２０により制限されている。Ｋ端子は、コンパレータＭＩＣ２１の比較基準電圧となるリファレンス電圧Ｖｒｅｆ（本実施形態では、２．４９５Ｖが設定されている。）を出力する。Ｋ端子は、一端がグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されるコンデンサＭＣ２０の他端と電気的に接続されており、Ｋ端子から出力されるリファレンス電圧Ｖｒｅｆは、コンデンサＭＣ２０によりリップル（電圧に畳重された交流成分）が除去されて平滑化されている。なお、シャント式安定化電源回路ＭＩＣ２０のアノード端子であるＡ端子はグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されている。
【１７７９】
コンパレータＭＩＣ２１は、２つの電圧比較回路を備えており、その１つ（ＭＩＣ２１Ａ）を、＋２４Ｖ電源ライン（電源作成回路６３０ｆの＋２４Ｖ電源作成回路６３０ｆｃで作成されて供給される電源ライン（つまり、＋２４Ｖ電源ライン）の監視電圧Ｖ１（以下、「＋２４Ｖの監視電圧Ｖ１」と記載する。）とリファレンス電圧Ｖｒｅｆとを比較するために用いているとともに、残りの１つ（ＭＩＣ２１Ｂ）を、＋１２Ｖ電源ライン（電源作成回路６３０ｆの＋１２Ｖ電源作成回路６３０ｆｂで作成されて供給される電源ライン（つまり、＋１２Ｖ電源ライン）の監視電圧Ｖ２（以下、「＋１２Ｖの監視電圧Ｖ２」と記載する。）とリファレンス電圧Ｖｒｅｆとを比較するために用いている。ＭＩＣ２１Ａのプラス端子である３番端子は、＋２４Ｖの監視電圧Ｖ１が印加され、ＭＩＣ２１Ａのマイナス端子である２番端子は、リファレンス電圧Ｖｒｅｆが印加されている。ＭＩＣ２１Ｂのプラス端子である５番端子は、＋１２Ｖの監視電圧Ｖ２が印加され、ＭＩＣ２１Ｂのマイナス端子である６番端子は、リファレンス電圧Ｖｒｅｆが印加されている。これらの比較結果は、ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２に入力されている。このＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２は、２つのＤタイプフリップフロップ回路を備えており、その１つ（ＭＩＣ２２Ａ）を本実施形態に用いている。コンパレータＭＩＣ２１の電源端子であるＶｃｃ端子は、一端がグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されるコンデンサＭＣ２１の他端と電気的に接続されており、コンパレータＭＩＣ２１の電源端子であるＶｃｃ端子に印加される主制御基板側作成＋５Ｖは、コンデンサＭＣ２１によりリップルが除去されて平滑化され、コンパレータＭＩＣ２１のグランド端子であるＧＮＤ端子は、グランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されている。
【１７８０】
［９－１－３ｂ．＋２４Ｖの停電又は瞬停の監視］
＋２４Ｖの停電又は瞬停の監視は、上述したように、コンパレータＭＩＣ２１のＭＩＣ２１Ａが＋２４Ｖの監視電圧Ｖ１とリファレンス電圧Ｖｒｅｆとを比較することにより行われている。＋２４Ｖの監視電圧Ｖ１が印加されるコンパレータＭＩＣ２１のＭＩＣ２１Ａのプラス端子である３番端子は、図１８１に示すように、一端が＋２４Ｖ電源ライン（電源作成回路６３０ｆの＋２４Ｖ電源作成回路６３０ｆｃで作成されて供給される電源ラ

インＭＩＣ２１Ａのプラス端子である３番端子に印加される＋２４Ｖの監視電圧Ｖ１は、抵抗ＭＲ２１，ＭＲ２２による抵抗比によって＋２４Ｖが分圧され、コンデンサＭＣ２３によりリップルが除去されて平滑化されている。抵抗ＭＲ２１，ＭＲ２２の値は、＋２４Ｖが停電又は瞬停した際に、その電圧が＋２４Ｖから落ち始めて予め設定した停電検知電圧Ｖ１ｐｆ（本実施形態では、２１．４０Ｖに設定されている。）となったときに、＋２４Ｖの監視電圧Ｖ１がリファレンス電圧Ｖｒｅｆと同値になるように設定されている。

【１７８１】

コンパレータＭＩＣ２１のＭＩＣ２１Ａの出力端子である１番端子は、オープンコレクタ出力となっており、一端が主制御基板側作成＋５Ｖ電源ラインと電気的に接続されるプルアップ抵抗ＭＲ２３の他端と電気的に接続されるとともに、一端がグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されるコンデンサＭＣ２４の他端と電気的に接続されてＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２のプリセット端子であるＰＲ端子と電気的に接続されている。コンデンサＭＣ２４は、ローパスフィルタとしての役割を担っている。

【１７８２】

＋２４Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ１ｐｆより大きいときには、＋２４Ｖの監視電圧Ｖ１がリファレンス電圧Ｖｒｅｆより大きくなり、コンパレータＭＩＣ２１のＭＩＣ２１Ａの出力端子である１番端子に印加される電圧は、プルアップ抵抗ＭＲ２３により主制御基板側作成＋５Ｖ側に引き上げられ、論理がＨＩとなった信号がＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２のプリセット端子であるＰＲ端子に入力される。

【１７８３】

一方、＋２４Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ１ｐｆより小さいときには、＋２４Ｖの監視電圧Ｖ１がリファレンス電圧Ｖｒｅｆより小さくなり、コンパレータＭＩＣ２１のＭＩＣ２１Ａの出力端子である１番端子に印加される電圧は、グランド（ＧＮＤ）（基板グランド）側に引き下げられ、論理がＬＯＷとなった信号がＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２のプリセット端子であるＰＲ端子に入力される。

【１７８４】

［９－１－３ｃ．＋１２Ｖの停電又は瞬停の監視］

＋１２Ｖの停電又は瞬停の監視は、上述したように、コンパレータＭＩＣ２１のＭＩＣ２１Ｂが＋１２Ｖの監視電圧Ｖ２とリファレンス電圧Ｖｒｅｆとを比較することにより行われている。＋１２Ｖの監視電圧Ｖ２が印加されるコンパレータＭＩＣ２１のＭＩＣ２１Ｂのプラス端子である５番端子は、図１８１に示すように、一端が＋１２Ｖ電源ライン（電源作成回路６３０ｆの＋１２Ｖ電源作成回路６３０ｆｂで作成されて供給される電源ライン（つまり、＋１２Ｖ電源ライン）と電気的に接続される抵抗ＭＲ２４の他端と、一端がグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）に電気的に接続される抵抗ＭＲ２５の他端と、が電気的に接続されるとともに抵抗ＭＲ２４，ＭＲ２５の他端と、一端がグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されるコンデンサＭＣ２５の他端と、が電気的に接続されている。コンパレータＭＩＣ２１のＭＩＣ２１Ｂのプラス端子である５番端子に印加される＋１２Ｖの監視電圧Ｖ２は、抵抗ＭＲ２４，ＭＲ２５による抵抗比によって＋１２Ｖが分圧され、コンデンサＭＣ２５によりリップルが除去されて平滑化されている。抵抗ＭＲ２４，ＭＲ２５の値は、＋１２Ｖが停電又は瞬停した際に、その電圧が＋１２Ｖから落ち始めて予め設定した停電検知電圧Ｖ２ｐｆ（本実施形態では、１０．４７Ｖに設定されている。）となったときに、＋１２Ｖの監視電圧Ｖ２がリファレンス電圧Ｖｒｅｆと同値になるように設定されている。

【１７８５】

コンパレータＭＩＣ２１のＭＩＣ２１Ｂの出力端子である７番端子は、オープンコレク

タ出力となっており、上述したＭＩＣ２１Ａの出力端子である１番端子と電気的に接続されているため、一端が主制御基板側作成＋５Ｖ電源ラインと電気的に接続されるプルアップ抵抗ＭＲ２３の他端と電気的に接続されるとともに、一端がグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されるコンデンサＭＣ２４の他端と電気的に接続されてＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２のプリセット端子であるＰＲ端子と電気的に接続されている。コンデンサＭＣ２４は、上述したように、ローパスフィルタとしての役割を担っている。

【１７８６】

＋１２Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ２ｐｆより大きいときには、＋１２Ｖの監視電圧Ｖ２がリファレンス電圧Ｖｒｅｆより大きくなり、コンパレータＭＩＣ２１のＭＩＣ２１Ｂの出力端子である７番端子に印加される電圧は、プルアップ抵抗ＭＲ２３により主制御基板側作成＋５Ｖ側に引き上げられ、論理がＨＩとなった信号がＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２のプリセット端子であるＰＲ端子に入力される。

【１７８７】

一方、＋１２Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ２ｐｆより小さいときには、＋１２Ｖの監視電圧Ｖ２がリファレンス電圧Ｖｒｅｆより小さくなり、コンパレータＭＩＣ２１のＭＩＣ２１Ｂの出力端子である７番端子に印加される電圧は、グランド（ＧＮＤ）（基板グランド）側に引き下げられ、論理がＬＯＷとなった信号がＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２のプリセット端子であるＰＲ端子に入力される。

【１７８８】

［９－１－３ｄ．停電予告信号の出力］

ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２は、クロック入力端子である１ＣＫ端子に入力されるクロック信号のエッジの変化により、Ｄ入力端子である１Ｄ端子に入力される信号の値（論理）を記憶し、この記憶値（論理）を、出力端子である１Ｑ端子から出力するとともに、その記憶値（論理）を反転させた値を、出力端子である負論理１Ｑ端子から出力する。また、ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２は、クリア端子であるＣＬＲ端子に論理がＬＯＷとなった信号が入力されると、ラッチ状態を解除してプリセット端子であるＰＲ端子に入力されている信号の論理を反転させた信号を出力端子である１Ｑ端子から出力する（このとき、１Ｑから出力される信号の論理を反転させた信号、つまりプリセット端子であるＰＲ端子に入力されている信号の論理と同一の論理となった信号を負論理１Ｑ端子から出力する）一方、クリア端子であるＣＬＲ端子に論理がＨＩとなった信号が入力されると、ラッチ状態をセットする。また、ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２は、クリア端子であるＣＬＲ端子に論理がＨＩとなった信号が入力されてラッチ状態をセットするようになっている際に、プリセット端子であるＰＲ端子に論理がＬＯＷとなった信号が入力されると、論理をＨＩとする信号を出力端子である１Ｑ端子から出力する状態を維持する（このとき、１Ｑから出力される信号の論理を反転させた信号を負論理１Ｑ端子から出力する状態を維持する）。

【１７８９】

ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２は、本実施形態において、Ｄ入力端子である１Ｄ端子、及びクロック入力端子である１ＣＫ端子は、グランド（ＧＮＤ）（基板グランド）とそれぞれ電気的に接続されているため、クロック入力端子である１ＣＫ端子に入力されるクロック信号のエッジの変化がなく、Ｄ入力端子である１Ｄ端子に入力される信号の値（論理）を記憶して出力端子である１Ｑ端子から出力することがないように回路構成されている。ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２は、プリセット端子であるＰＲ端子に、上述したように、＋２４Ｖの停電又は瞬停の監視を行うコンパレータＭＩＣ２１のＭＩＣ２１Ａの出力端子である１番端子からの信号と、＋１２Ｖの停電又は瞬停の監視を行うコンパレータＭＩＣ２１のＭＩＣ２１Ｂの出力端子である７番端子からの信号と、が入力され、これらの信号に基づいて、出力端子である１Ｑ端子から信号を出力する。なお、電源端子であるＶｃｃ端子は、一端がグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されるコンデンサＭＣ２２の他端と電気的に接続されており、ＤタイプフリップフロップＭＩ

ＣＲ２２の電源端子であるＶｃｃ端子に印加される主制御基板側作成＋５Ｖは、コンデンサＭＣ２２によりリップルが除去されて平滑化され、グランド端子であるＧＮＤ端子は、グランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続され、出力端子である１Ｑ端子の論理を反転する負論理１Ｑ端子は外部と電気的に未接続の状態となっている。

【１７９０】

ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２は、本実施形態において、クリア端子であるＣＬＲ端子に主制御ＭＰＵ１３１０ａからの停電クリア信号が主制御出力回路１３１０ｃを介して入力されている。この停電クリア信号は、主制御ＭＰＵ１３１０ａが行う後述する主制御側電源投入時処理において、出力開始されて所定時間経過後に停止されるようになっている。ＣＬＲ端子は負論理入力であるため、主制御ＭＰＵ１３１０ａからの停電クリア信号は、主制御出力回路１３１０ｃを介してその論理がＬＯＷとなってＣＬＲ端子に入力される。ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２は、ＣＬＲ端子に停電クリア信号が入力されると、ラッチ状態を解除するようになっており、このとき、プリセット端子であるＰＲ端子に入力された論理を反転して出力端子である１Ｑ端子から出力する。

【１７９１】

一方、主制御ＭＰＵ１３１０ａからの停電クリア信号の出力が停止されると、主制御出力回路１３１０ｃを介してその論理がＨＩとなってＣＬＲ端子に入力される。ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２は、ＣＬＲ端子に停電クリア信号が入力されないときには、ラッチ状態をセットするようになっており、ＰＲ端子に論理がＬＯＷとなって入力された状態をラッチする。

【１７９２】

ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子は、主制御入力回路１３１０ｂを介して主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＢの入力端子と電気的に接続され、ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号が停電予告信号として主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＢの入力端子に入力されるようになっている。また、ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子は、主制御出力回路１３１０ｃと電気的に接続され、ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号を主制御出力回路１３１０ｃから払出制御基板６３３に払出停電予告信号として出力するとともに、周辺制御基板１５１０に周辺停電予告信号として出力する。

【１７９３】

ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子と、主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＢの入力端子と、を電気的に接続する主制御入力回路１３１０ｂは、図１８１に示すように、ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子が、一端が主制御基板側作成＋５Ｖ電源ラインと電気的に接続される抵抗ＭＲ２６の他端と電気的に接続されるとともに抵抗ＭＲ２７を介してトランジスタＭＴＲ２０のベース端子と電気的に接続されている。トランジスタＭＴＲ２０のベース端子は、抵抗ＭＲ２７と電気的に接続されるほかに、一端がグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続される抵抗ＭＲ２８の他端と電気的に接続されている。トランジスタＭＴＲ２０のエミッタ端子は、グランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続され、トランジスタＭＴＲ２０のコレクタ端子は、一端が主制御基板側作成＋５Ｖ電源ラインと電気的に接続される抵抗ＭＲ２９の他端と電気的に接続されるとともに主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＢの入力端子ＰＢ０と電気的に接続されている。

【１７９４】

なお、主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＢの入力端子ＰＢ０に対して、主制御ＭＰＵ１３１０ａの内部において、主制御基板側作成＋５Ｖ電源ライン（主制御基板１３１０に備える＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成された＋５Ｖの電源ラインであって、電源作成回路６３０ｆの＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａで作成されて供給される電源ライン（つまり、＋５Ｖ電源ライン）と異なる。）で電気的に接続された内部プルアップ抵抗と電気的に接続されている場合には、抵抗ＭＲ２９を主制御基板１３１０に実装することなく、

トランジスタＭＴＲ２０のコレクタ端子を主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＢの入力端子ＰＢ０に電気的に接続するようにしてもよい。

【１７９５】

また、主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＢの他の入力端子ＰＢ１～ＰＢ７に対して、主制御ＭＰＵ１３１０ａの内部において、主制御基板側作成＋５Ｖ電源ライン（主制御基板１３１０に備える＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成された＋５Ｖの電源ラインであって、電源作成回路６３０ｆの＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａで作成されて供給される電源ライン（つまり、＋５Ｖ電源ライン）と異なる。）で電気的に接続された内部プルアップ抵抗と電気的に接続されている場合にも、一端が主制御基板側作成＋５Ｖ電源ラインと電気的に接続された抵抗の他端と電気的に接続されることなく、つまりこの抵抗を主制御基板１３１０に実装することなく、トランジスタのコレクタ端子を主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＢの入力端子ＰＢ１～ＰＢ７に電気的に接続するようにしてもよい。

【１７９６】

また、主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡ，ＰＢの他に、主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＣの入力端子ＰＣ０～ＰＣ７に対して、主制御ＭＰＵ１３１０ａの内部において、主制御基板側作成＋５Ｖ電源ライン（主制御基板１３１０に備える＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成された＋５Ｖの電源ラインであって、電源作成回路６３０ｆの＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａで作成されて供給される電源ライン（つまり、＋５Ｖ電源ライン）と異なる。）で電気的に接続された内部プルアップ抵抗と電気的に接続されている場合には、一端が主制御基板側作成＋５Ｖ電源ラインと電気的に接続された抵抗の他端と電気的に接続されることなく、つまりこの抵抗を主制御基板１３１０に実装することなく、トランジスタのコレクタ端子を主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＣの入力端子ＰＣ０～ＰＣ７に電気的に接続するようにしてもよい。

【１７９７】

抵抗ＭＲ２７，ＭＲ２８、及びトランジスタＭＴＲ２０から構成される回路は、Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号によりＯＮ／ＯＦＦするスイッチ回路である。

【１７９８】

Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号の論理がＬＯＷであるときには、トランジスタＭＴＲ２０のベース端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）側に引き下げられてトランジスタＭＴＲ２０がＯＦＦし、スイッチ回路もＯＦＦすることとなる。一方、Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号の論理がＨＩであるときには、トランジスタＭＴＲ２０のベース端子に印加される電圧が主制御基板側作成＋５Ｖ側に引き上げられてトランジスタＭＴＲ２０がＯＮし、スイッチ回路もＯＮすることとなる。

【１７９９】

＋２４Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ１ｐｆより大きいという条件、及び＋１２Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ２ｐｆより大きいという条件の両方の条件が成立したときには、論理がＨＩとなった信号がＤタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２のプリセット端子であるＰＲ端子に入力されるため、Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号がその論理がＬＯＷとなってトランジスタＭＴＲ２０のベース端子に入力されることでトランジスタＭＴＲ２０がＯＦＦする。これにより、トランジスタＭＴＲ２０のコレクタ端子に印加される電圧が抵抗ＭＲ２９により主制御基板側作成＋５Ｖ側に引き上げられて論理がＨＩとなった停電予告信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＢの入力端子に入力される。

【１８００】

一方、＋２４Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ１ｐｆより小さいという条件、及び＋１２Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ２ｐｆより小さいという条件のうち、いずれか一方の条件が成立したときには、論理がＬＯＷとなった信号がＤタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２のプリセット端子であるＰＲ端子に入力されるため、Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２の出力

端子である１Ｑ端子から出力される信号がその論理がＨＩとなってトランジスタＭＴＲ２０のベース端子に入力されることでトランジスタＭＴＲ２０がＯＮする。これにより、トランジスタＭＴＲ２０のコレクタ端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）側に引き下げられて論理がＬＯＷとなった停電予告信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＢの入力端子に入力される。

【１８０１】

また、Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号を払出制御基板６３３に払出停電予告信号として出力する主制御出力回路１３１０ｃは、図１８１に示すように、オープンコレクタ出力タイプとして回路構成されており、Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子が上述した主制御入力回路１３１０ｂの抵抗ＭＲ２６と電気的に接続されて抵抗ＭＲ３０を介して前段のトランジスタＭＴＲ２１のベース端子と電気的に接続されている。前段のトランジスタＭＴＲ２１のベース端子は、抵抗ＭＲ３０と電気的に接続されるほかに、一端がグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続される抵抗ＭＲ３１の他端と電気的に接続されている。前段のトランジスタＭＴＲ２１のエミッタ端子は、グランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続され、前段のトランジスタＭＴＲ２１のコレクタ端子は、一端が主制御基板側作成＋５Ｖ電源ラインと電気的に接続される抵抗ＭＲ３２の他端と電気的に接続されるとともに抵抗ＭＲ３３を介して後段のトランジスタＭＴＲ２２のベース端子と電気的に接続されている。後段のトランジスタＭＴＲ２２のベース端子は、抵抗ＭＲ３３と電気的に接続されるほかに、一端がグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続される抵抗ＭＲ３４の他端と電気的に接続されている。後段のトランジスタＭＴＲ２２のエミッタ端子は、グランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続され、後段のトランジスタＭＴＲ２２のコレクタ端子は、一端がグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されるコンデンサＭＣ２６の他端と電気的に接続され、そして配線（ハーネス）を介して払出制御基板６３３と電気的に接続されている。なお、後段のトランジスタＭＴＲ２２のコレクタ端子は、配線（ハーネス）を介して、払出制御基板６３３と電気的に接続されると、払出制御基板６３３における払出制御部６３３ａの払出制御入力回路６３３ａｂにおいて、一端が＋１２Ｖ電源ライン（電源作成回路６３０ｆの＋１２Ｖ電源作成回路６３０ｆｂで作成されて供給される電源ライン（つまり、＋１２Ｖ電源ライン）と電気的に接続される図示しないプルアップ抵抗の他端と電気的に接続されるとともに払出制御ＭＰＵ６３３ａａの所定の入力ポートの入力端子と電気的に接続される。

【１８０２】

抵抗ＭＲ３０，ＭＲ３１、及び前段のトランジスタＭＴＲ２１から構成される回路は前段のスイッチ回路であり、抵抗ＭＲ３３，ＭＲ３４、及び後段のトランジスタＭＴＲ２２から構成される回路は後段のスイッチ回路であり、Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号によりＯＮ／ＯＦＦするものである。

【１８０３】

Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号の論理がＬＯＷであるときには、前段のトランジスタＭＴＲ２１のベース端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）側に引き下げられて前段のトランジスタＭＴＲ２１がＯＦＦし、前段のスイッチ回路もＯＦＦすることとなり、後段のトランジスタＭＴＲ２２のベース端子に印加される電圧である、前段のトランジスタＭＴＲ２１のコレクタ端子に印加される電圧が抵抗ＭＲ３２により主制御基板側作成＋５Ｖ側に引き上げられることで後段のトランジスタＭＴＲ２２がＯＮし、後段のスイッチ回路もＯＮすることとなる。一方、Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号の論理がＨＩであるときには、トランジスタＭＴＲ２１のベース端子に印加される電圧が主制御基板側作成＋５Ｖ側に引き上げられてトランジスタＭＴＲ２１がＯＮし、前段のスイッチ回路もＯＮすることとなり、後段のトランジスタＭＴＲ２２のベース端子に印加される電圧である、前段のトランジスタＭＴＲ２１のコレクタ端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）側に引き下げられることで後段のトランジスタ

ＭＴＲ２２がＯＦＦし、後段のスイッチ回路もＯＦＦすることとなる。
【１８０４】
＋２４Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ１ｐｆより大きいという条件、及び＋１２Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ２ｐｆより大きいという条件の両方の条件が成立したときには、論理がＨＩとなった信号がＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２のプリセット端子であるＰＲ端子に入力されるため、ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号がその論理がＬＯＷとなって前段のトランジスタＭＴＲ２１のベース端子に入力されることで前段のトランジスタＭＴＲ２１がＯＦＦする。これにより、前段のトランジスタＭＴＲ２１のコレクタ端子に印加される電圧が抵抗ＭＲ３２により主制御基板側作成＋５Ｖ側に引き上げられて後段のトランジスタＭＴＲ２２のベース端子に印加されることで後段のトランジスタＭＴＲ２２がＯＮする。これにより、後段のトランジスタＭＴＲ２２のコレクタ端子に印加される電圧が配線（ハーネス）を介して払出制御基板６３３においてグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）側に引き下げられることで論理がＬＯＷとなった払出停電予告信号が払出制御基板６３３に入力される。
【１８０５】
一方、＋２４Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ１ｐｆより小さいという条件、及び＋１２Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ２ｐｆより小さいという条件のうち、いずれか一方の条件が成立したときには、論理がＬＯＷとなった信号がＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２のプリセット端子であるＰＲ端子に入力されるため、ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号がその論理がＨＩとなって前段のトランジスタＭＴＲ２１のベース端子に入力されることで前段のトランジスタＭＴＲ２１がＯＮする。これにより、前段のトランジスタＭＴＲ２１のコレクタ端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）に引き下げられて後段のトランジスタＭＴＲ２２のベース端子に印加されることで後段のトランジスタＭＴＲ２２がＯＦＦする。これにより、後段のトランジスタＭＴＲ２２のコレクタ端子に印加される電圧が配線（ハーネス）を介して払出制御基板６３３における払出制御部６３３ａの払出制御入力回路６３３ａｂにおいてプルアップ抵抗により＋１２Ｖ側に引き上げられることで論理がＨＩとなった払出停電予告信号が払出制御基板６３３に入力される。
【１８０６】
また、ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号を周辺制御基板１５１０に周辺停電予告信号として出力する主制御出力回路１３１０ｃは、図１８１に示すように、オープンコレクタ出力タイプとして回路構成されており、ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子が上述した主制御入力回路１３１０ｂの抵抗ＭＲ２６と電気的に接続されて抵抗ＭＲ３５を介してトランジスタＭＴＲ２３のベース端子と電気的に接続されている。トランジスタＭＴＲ２３のベース端子は、抵抗ＭＲ３５と電気的に接続されるほかに、一端がグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続される抵抗ＭＲ３６の他端と電気的に接続されている。トランジスタＭＴＲ２３のエミッタ端子は、グランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続され、トランジスタＭＴＲ２３のコレクタ端子は、配線（ハーネス）を介して周辺制御基板１５１０と電気的に接続されている。なお、トランジスタＭＴＲ２３のコレクタ端子は、配線（ハーネス）を介して周辺制御基板１５１０と電気的に接続されると、周辺制御基板１５１０における図示しない周辺制御入力回路において、一端が＋１２Ｖ電源ライン（電源作成回路６３０ｆの＋１２Ｖ電源作成回路６３０ｆｂで作成されて供給される電源ライン（つまり、＋１２Ｖ電源ライン）と電気的に接続される図示しないプルアップ抵抗の他端と電気的に接続されるとともに周辺制御部１５１１の所定の入力ポートの入力端子と電気的に接続される。
【１８０７】
抵抗ＭＲ３５，ＭＲ３６、及びトランジスタＭＴＲ２３から構成される回路は、ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号によりＯＮ／ＯＦＦするスイッチ回路である。

【１８０８】
Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号の論理がＬＯＷであるときには、トランジスタＭＴＲ２３のベース端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）側に引き下げられてトランジスタＭＴＲ２３がＯＦＦし、スイッチ回路もＯＦＦすることとなる。一方、Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号の論理がＨＩであるときには、トランジスタＭＴＲ２３のベース端子に印加される電圧が主制御基板側作成＋５Ｖ側に引き上げられてトランジスタＭＴＲ２３がＯＮし、スイッチ回路もＯＮすることとなる。
【１８０９】
＋２４Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ１ｐｆより大きいという条件、及び＋１２Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ２ｐｆより大きいという条件の両方の条件が成立したときには、論理がＨＩとなった信号がＤタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２のプリセット端子であるＰＲ端子に入力されるため、Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号がその論理がＬＯＷとなってトランジスタＭＴＲ２３のベース端子に入力されることでトランジスタＭＴＲ２３がＯＦＦする。これにより、トランジスタＭＴＲ２３のコレクタ端子に印加される電圧が配線（ハーネス）を介して周辺制御基板１５１０における周辺制御部４１５０の払出制御入力回路においてプルアップ抵抗により＋１２Ｖ側に引き上げられることで論理がＨＩとなった周辺停電予告信号が周辺制御基板１５１０に入力される。
【１８１０】
一方、＋２４Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ１ｐｆより小さいという条件、及び＋１２Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ２ｐｆより小さいという条件のうち、いずれか一方の条件が成立したときには、論理がＬＯＷとなった信号がＤタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２のプリセット端子であるＰＲ端子に入力されるため、Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号がその論理がＨＩとなってトランジスタＭＴＲ２３のベース端子に入力されることでトランジスタＭＴＲ２３がＯＮする。これにより、トランジスタＭＴＲ２３のコレクタ端子に印加される電圧が配線（ハーネス）を介して周辺制御基板１５１０においてグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）側に引き下げられることで論理がＬＯＷとなった周辺停電予告信号が周辺制御基板１５１０に入力される。
【１８１１】
このように、Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号を主制御ＭＰＵ１３１０ａに停電予告信号として伝える主制御入力回路１３１０ｂと、Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号を周辺制御基板１５１０に周辺停電予告信号として出力する主制御出力回路１３１０ｃと、にはトランジスタがそれぞれ１つであり、主制御ＭＰＵ１３１０ａに入力される停電予告信号と周辺制御基板１５１０に入力される周辺停電予告信号との論理が同一論理となっているのに対して、Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号を払出制御基板６３３に払出停電予告信号として出力する主制御出力回路１３１０ｃにはトランジスタが前段と後段との２つであり、払出停電予告信号の論理は、主制御ＭＰＵ１３１０ａに入力される停電予告信号の論理と周辺制御基板１５１０に入力される周辺停電予告信号の論理とを反転させた論理となっており、停電予告信号の論理及び周辺停電予告信号の論理と異なっている。
【１８１２】
また、主制御入力回路１３１０ｂのトランジスタＭＴＲ２０のコレクタ端子は、一端が主制御基板側作成＋５Ｖ電源ラインと電気的に接続される抵抗ＭＲ２９の他端と電気的に接続されるとともに主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＢの入力端子と電気的に接続されているのに対して、主制御出力回路１３１０ｃの後段のトランジスタＭＴＲ２２のコレクタ端子は、配線（ハーネス）を介して、払出制御基板６３３における払出制御部６３３ａの払出制御入力回路６３３ａｂにおいて、一端が＋１２Ｖ電源ラインと電気的に接続されるプルアップ抵抗の他端と電気的に接続されているとともに、主制御出力回路１３１

０ｃのトランジスタＭＴＲ２３のコレクタ端子は、配線（ハーネス）を介して、周辺制御基板１５１０における周辺制御部４１５０の払出制御入力回路において、一端が＋１２Ｖ電源ラインと電気的に接続されるプルアップ抵抗と電気的に接続されている。これは、主制御入力回路１３１０ｂのトランジスタＭＴＲ２０のコレクタ端子と主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＢの入力端子との端子間においては、主制御入力回路１３１０ｂのトランジスタＭＴＲ２０と主制御ＭＰＵ１３１０ａとが主制御基板１３１０に実装されているため、主制御ＭＰＵ１３１０ａの制御電源である主制御基板側作成＋５Ｖを用いた停電予告信号の論理（ＯＮ／ＯＦＦ信号）によって停電予告を行うのに対して、主制御基板１３１０と払出制御基板６３３との基板間、及び主制御基板１３１０と周辺制御基板１５１０との基板間においては、基板間を電気的に接続する配線（ハーネス）に侵入するノイズの影響を抑えるために、主制御ＭＰＵ１３１０ａ、払出制御ＭＰＵ６３３ａａ、及び周辺制御部１５１１の制御電源である例えば＋５Ｖよりも高い直流電源である＋１２Ｖを用いた停電予告信号の論理（ＯＮ／ＯＦＦ信号）によって停電予告を行っている。

【１８１３】

このように、電源基板６３０における電源作成回路６３０ｆの＋１２Ｖ電源作成回路６３０ｆｂで作成されて供給される電源ライン（つまり、＋１２Ｖ電源ライン）は、上述したように、主制御基板１３１０の主制御入力回路１３１０ｂ、主制御基板１３１０の停電監視回路１３１０ｅのほかに、払出制御基板６３３の払出制御入力回路６３３ａｂ、周辺制御基板１５１０の図示しない制御電源作成回路、周辺制御基板の後続基板の図示しない＋１２Ｖ系ドライバ回路、遊技盤５の各装飾基板のＬＥＤ定電流駆動回路、演出表示装置１６００の図示しない液晶パネル電源作成回路、演出表示装置１６００の図示しない液晶パネル、バックライト、及び駆動回路等に供給されている。つまり、＋１２Ｖ電源ラインは、主制御基板１３１０のほかに、払出制御基板６３３、周辺制御基板１５１０、周辺制御基板１５１０の後続基板、遊技盤５の各装飾基板、演出表示装置１６００等に供給されているため、主基板を構成する主制御基板１３１０、払出制御基板６３３が正常に作動していても、例えば、周辺制御基板１５１０の図示しない制御電源作成回路への何らかの理由による電気的なトラブルにより、図示しない制御電源作成回路へ過電流が流れることで＋１２Ｖ電源ラインの電位が下がったり、演出表示装置１６００の図示しない液晶パネル電源作成回路、演出表示装置１６００の図示しない液晶パネル、バックライト、駆動回路への何らかの理由による電気的なトラブルにより、演出表示装置１６００の図示しない液晶パネル電源作成回路、演出表示装置１６００の図示しない液晶パネル、バックライト、駆動回路等のいずれかへ過電流が流れることで＋１２Ｖ電源ラインの電位が下がったり、周辺制御基板１５１０の後続基板の図示しない＋１２Ｖ系ドライバ回路により遊技盤５の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）が駆動されている際に（又は遊技盤５の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）の駆動を待機している際に）、何らかの理由による過負荷や電気的なトラブルにより、遊技盤５の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）や図示しない＋１２Ｖ系ドライバ回路へ過電流が流れることで＋１２Ｖ電源ラインの電位が下がったり、遊技盤５の装飾基板のＬＥＤ定電流駆動回路への何らかの理由による電気的なトラブルにより、遊技盤５の装飾基板のＬＥＤ定電流駆動回路へ過電流が流れることで＋１２Ｖ電源ラインの電位が下がったりする。また、周辺制御基板１５１０、周辺制御基板１５１０の後続基板、演出表示装置１６００、遊技盤５の各装飾基板等の基板に形成される配線パターンや基板間等を電気的に接続する配線（ハーネス）等に何らかの電気的なトラブルにより、漏れ電流が発生したり、短絡（ショート）が発生した場合にも、過電流により＋１２Ｖ電源ラインの電位が下がったりする。そうすると、主制御基板１３１０の停電監視回路１３１０ｅにより停電予告信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａへ出力されることにより、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、後述する主制御側電源投入時処理における主制御側電源断時処理を行い遊技の進行を停止することとなる。

【１８１４】

また、電源作成回路６３０ｆの＋２４Ｖ電源作成回路６３０ｆｃで作成されて供給される電源ライン（つまり、＋２４Ｖ電源ライン）は、上述したように、主制御基板１３１０

の主制御ソレノイド駆動回路１３１０ｄ、主制御基板１３１０の停電監視回路１３１０ｅのほかに、払出制御基板６３３（主制御基板１３１０は払出制御基板６３３を介して＋１２Ｖ電源ラインが供給されている。）、周辺制御基板１５１０、周辺制御基板１５１０の後続基板の図示しない＋２４Ｖ系ドライバ回路に供給されている。つまり、＋２４Ｖ電源ラインは、主制御基板１３１０のほかに、払出制御基板６３３、周辺制御基板１５１０、周辺制御基板１５１０の後続基板等に供給されているため、主基板を構成する主制御基板１３１０、払出制御基板６３３が正常に作動していても、周辺制御基板１５１０の後続基板の図示しない＋２４Ｖ系ドライバ回路により遊技盤５の＋２４Ｖ系電気的駆動源（駆動ソレノイド）が駆動されている際に（又は遊技盤５の＋２４Ｖ系電気的駆動源（駆動ソレノイド）の駆動を待機している際に）、何らかの理由による過負荷や電気的なトラブルにより、遊技盤５の＋２４Ｖ系電気的駆動源（駆動ソレノイド）や図示しない＋２４Ｖ系ドライバ回路へ過電流が流れることで＋２４Ｖ電源ラインの電位が下がったりする。また、＋２４Ｖ電源ラインを供給する周辺制御基板１５１０、周辺制御基板１５１０の後続基板等の基板に形成される配線パターンや基板間等を電気的に接続する配線（ハーネス）等に何らかの電気的なトラブルにより、漏れ電流が発生したり、短絡（ショート）が発生した場合にも、＋２４Ｖ電源ラインの電位が下がったりする。そうすると、主制御基板１３１０の停電監視回路１３１０ｅにより停電予告信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａへ出力されることにより、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、後述する主制御側電源投入時処理における主制御側電源断時処理を行い遊技の進行を停止することとなる。

【１８１５】

［９－１－４．＋１２Ｖ電源ライン及び＋２４Ｖ電源ラインへの過電流保護］

［９－１－４ａ．＋１２Ｖ電源ラインへの過電流保護］

そこで、本実施形態では、＋１２Ｖ電源ラインへの過電流保護として、＋１２Ｖ電源ラインには、過電流対策として、周辺制御基板１５１０に＋１２Ｖ電源ライン周辺制御基板許容電流上限まで電流を流すことができる図示しない＋１２Ｖ用ヒューズを設け、演出表示装置１６００に演出表示装置１６００の大元ヒューズとして大元許容電流上限まで電流を流すことができる図示しない＋１２Ｖ用ヒューズを設け、演出表示装置１６００に図示しない＋１２Ｖ用ヒューズから２系統へ分岐する分岐第１系統のヒューズとして分岐第１系統の許容電流上限まで電流を流すことができる図示しない＋１２Ｖ用ヒューズを設け、演出表示装置１６００に図示しない＋１２Ｖ用ヒューズから２系統へ分岐する分岐第２系統のヒューズとして分岐第２系統の許容電流上限まで電流を流すことができる図示しない＋１２Ｖ用ヒューズを設け、周辺制御基板１５１０の後続基板に＋１２Ｖ電源ライン演出駆動基板許容電流上限まで電流を流すことができる図示しない＋１２Ｖ用ヒューズを設けるとともに周辺制御基板１５１０の後続基板における図示しない＋１２Ｖ系ドライバ回路に遊技盤側駆動モータ許容電流上限まで電流を流すことができるヒューズを設け、遊技盤５の各装飾基板のうちＬＥＤ定電流駆動回路が実装されている装飾基板に遊技盤側装飾基板許容電流上限まで電流を流すことができる図示しない＋１２Ｖ用ヒューズを設けている（なお、ＬＥＤ定電流駆動回路の有無にかかわらず＋１２Ｖ電源ラインが供給される遊技盤５のすべて装飾基板に対して遊技盤側装飾基板許容電流上限まで電流を流すことができる図示しない＋１２Ｖ用ヒューズを設けてもよい）。なお、分岐第１系統のヒューズとして図示しない＋１２Ｖ用ヒューズを介して供給される＋１２Ｖは、図示しない液晶パネル電源作成回路で液晶パネル電源が作成され、この液晶パネル電源が演出表示装置１６００の図示しない液晶パネル、バックライト、駆動回路へ供給されているため、演出表示装置１６００の図示しない液晶パネル、バックライト、駆動回路には、分岐第１系統のヒューズとして図示しない＋１２Ｖ用ヒューズを介して供給される＋１２Ｖから作成される液晶パネル電源と、分岐第２系統のヒューズとして図示しない＋１２Ｖ用ヒューズを介して供給される＋１２Ｖと、が供給されている。

【１８１６】

本実施形態では、主基板を構成する主制御基板１３１０、払出制御基板６３３が正常に作動している場合に、周辺制御基板１５１０の＋１２Ｖ電源ラインにおいて、周辺制御基

板１５１０の図示しない制御電源作成回路への何らかの理由による電気的なトラブルにより、図示しない制御電源作成回路へ＋１２Ｖ電源ライン周辺制御基板許容電流上限を超える過電流が流れると、周辺制御基板１５１０の図示しない＋１２Ｖ用ヒューズが溶断するようになっている。このように、周辺制御基板１５１０に図示しない＋１２Ｖ用ヒューズを設けて＋１２Ｖ電源ライン周辺制御基板許容電流上限を超える過電流により図示しない＋１２Ｖ用ヒューズが溶断するようになっているため、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３へ供給される＋１２Ｖ電源ラインの電位の低下を抑制して、主制御基板１３１０の停電監視回路１３１０ｅにより停電予告信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａや払出制御ＭＰＵ６３３ａａへ出力されずに済み、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、後述する主制御側電源投入時処理における主制御側電源断時処理を行わずに遊技の進行を継続することができるし、払出制御ＭＰＵ６３３ａａは、後述する払出制御部電源投入時処理における払出制御部電源断時処理を行わずに払出の進行（遊技球を賞球として払い出す動作）を継続することができる。

【１８１７】

また、本実施形態では、主基板を構成する主制御基板１３１０、払出制御基板６３３が正常に作動している場合に、演出表示装置１６００の＋１２Ｖ電源ラインにおいて、演出表示装置１６００の図示しない液晶パネル電源作成回路への何らかの理由による電気的なトラブルにより、図示しない液晶パネル電源作成回路へ分岐第１系統の許容電流上限を超える過電流が流れると、演出表示装置１６００の分岐第１系統のヒューズである図示しない＋１２Ｖ用ヒューズが溶断するようになっている。また、本実施形態では、演出表示装置１６００の図示しない液晶パネル、バックライト、駆動回路への何らかの理由による電気的なトラブルにより、分岐第２系統のヒューズとして図示しない＋１２Ｖ用ヒューズを介して供給される＋１２Ｖから液晶パネル電源を作成する図示しない液晶パネル電源作成回路へ分岐第１系統の許容電流上限を超える過電流が流れると、演出表示装置１６００の分岐第１系統のヒューズである図示しない＋１２Ｖ用ヒューズが溶断するようになっているし、演出表示装置１６００の図示しない液晶パネル、バックライト、駆動回路への何らかの理由による電気的なトラブルにより、演出表示装置１６００の図示しない液晶パネル、バックライト、駆動回路等のいずれかへ分岐第２系統の許容電流上限を超える過電流が流れると、演出表示装置１６００の分岐第２系統のヒューズである図示しない＋１２Ｖ用ヒューズが溶断するようになっている。また、本実施形態では、演出表示装置１６００の大元ヒューズである図示しない＋１２Ｖ用ヒューズは、その容量が、分岐第１系統のヒューズである図示しない＋１２Ｖ用ヒューズと、分岐第２系統のヒューズである図示しない＋１２Ｖ用ヒューズと、のうち、いずれのヒューズの容量よりも大きく、かつ、両者を加えた容量よりも小さいものが予め選定されている。このため、大元ヒューズである図示しない＋１２Ｖ用ヒューズは、＋１２Ｖ電源ラインにおいて、分岐第１系統のヒューズである図示しない＋１２Ｖ用ヒューズと、分岐第２系統のヒューズである図示しない＋１２Ｖ用ヒューズと、のうち、過電流が流れていずれかのヒューズが溶断しても、この溶断したヒューズの系統にまだ過電流が流れて大元許容電流上限を超える場合には、溶断する場合がある。なお、演出表示装置１６００の大元ヒューズである図示しない＋１２Ｖ用ヒューズの容量として、分岐第１系統のヒューズである図示しない＋１２Ｖ用ヒューズの容量と、分岐第２系統のヒューズである図示しない＋１２Ｖ用ヒューズの容量と、を加えたものと同一のものとする場合には、大元ヒューズである図示しない＋１２Ｖ用ヒューズは、＋１２Ｖ電源ラインにおいて、分岐第１系統のヒューズである図示しない＋１２Ｖ用ヒューズと、分岐第２系統のヒューズである図示しない＋１２Ｖ用ヒューズと、のうち、過電流が流れていずれかのヒューズが溶断すると、この溶断したヒューズの系統にまだ過電流が流れて大元許容電流上限を超えるときには、溶断する場合があるし、分岐第１系統のヒューズである図示しない＋１２Ｖ用ヒューズと、分岐第２系統のヒューズである図示しない＋１２Ｖ用ヒューズと、に過電流が流れていずれのヒューズも溶断すると、溶断する。このように、演出表示装置１６００に演出表示装置１６００の大元ヒューズである図示しない＋１２Ｖ用ヒューズ、分岐第１系統のヒューズである図示しない＋１２Ｖ用ヒューズ、

分岐第２系統のヒューズである図示しない＋１２Ｖ用ヒューズを設けて過電流により大元ヒューズである図示しない＋１２Ｖ用ヒューズ、分岐第１系統のヒューズである図示しない＋１２Ｖ用ヒューズ、分岐第２系統のヒューズである図示しない＋１２Ｖ用ヒューズが溶断するようになっているため、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３へ供給される＋１２Ｖ電源ラインの電位の低下を抑制して、主制御基板１３１０の停電監視回路１３１０ｅにより停電予告信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａや払出制御ＭＰＵ６３３ａａへ出力されずに済み、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、後述する主制御側電源投入時処理における主制御側電源断時処理を行わずに遊技の進行を継続することができるし、払出制御ＭＰＵ６３３ａａは、後述する払出制御部電源投入時処理における払出制御部電源断時処理を行わずに払出の進行（遊技球を賞球として払い出す動作）を継続することができる。

【１８１８】

また、本実施形態では、主基板を構成する主制御基板１３１０、払出制御基板６３３が正常に作動している場合に、周辺制御基板１５１０の後続基板の＋１２Ｖ電源ラインにおいて、周辺制御基板の後続基板の図示しない＋１２Ｖ系ドライバ回路により遊技盤５の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）が駆動されている際に（又は遊技盤５の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）の駆動を待機している際に）、何らかの理由による過負荷や電気的なトラブルにより、遊技盤５の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）や図示しない＋１２Ｖ系ドライバ回路へ遊技盤側駆動モータ許容電流上限を超える過電流が流れると、図示しない＋１２Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズが溶断するようになっている。周辺制御基板１５１０の後続基板の図示しない＋１２Ｖ用ヒューズを介して供給される＋１２Ｖは、図示しない＋１２Ｖ系ドライバ回路のほかに、遊技盤５の各装飾基板へ供給されるようになっているため、図示しない＋１２Ｖ用ヒューズの容量は、図示しない＋１２Ｖ系ドライバ回路の遊技盤側駆動モータ許容電流上限と、遊技盤５の各装飾基板が遊技盤側装飾基板許容電流上限と、に基づいて予め選定されている。

【１８１９】

遊技盤５の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）は駆動に電流がかなり必要となるため、遊技盤５の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）による演出と、遊技盤５の各装飾基板による各種ＬＥＤの発光演出と、のうち、遊技盤５の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）による演出よりも、遊技盤５の各装飾基板による各種ＬＥＤの発光演出を優先して継続するようになっている。このため、遊技盤５の各装飾基板の図示しない＋１２Ｖ用ヒューズが溶断するよりも、周辺制御基板１５１０の後続基板の図示しない＋１２Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズが先に溶断するように、遊技盤５の各装飾基板の図示しない＋１２Ｖ用ヒューズの容量と、周辺制御基板１５１０の後続基板の図示しない＋１２Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズの容量と、が予め選定されているとともに、遊技盤５の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）による演出よりも、遊技盤５の各装飾基板による各種ＬＥＤの発光演出を優先して継続することができるように周辺制御基板１５１０の後続基板の図示しない＋１２Ｖ用ヒューズの容量が予め設定されている。

【１８２０】

遊技盤５の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）による演出よりも、遊技盤５の各装飾基板による各種ＬＥＤの発光演出を優先して継続する場合として、例えば、周辺制御基板１５１０の後続基板の図示しない＋１２Ｖ用ヒューズの容量として、遊技盤５の各装飾基板がそれぞれ遊技盤側装飾基板許容電流上限まで使用するものとして選定される容量よりも大きく、かつ、この選定される容量と図示しない＋１２Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズの容量とを加えたものよりも小さいものが予め選定されている場合には、図示しない＋１２Ｖ用ヒューズは、遊技盤５の各装飾基板がそれぞれ遊技盤側装飾基板許容電流上限まで使用している状態において、遊技盤５の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）や図示しない＋１２Ｖ系ドライバ回路へ遊技盤側駆動モータ許容電流上限を超える過電流が流れて図示しない＋１２Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズが溶断しても、まだ過電流が流れて＋１２Ｖ電源ライン演出駆動基板許容電流上限を超える場合には、溶断する場合がある。また、例えば、周辺制御基板１５１０の後続基板の図示しない＋１２Ｖ用

ヒューズの容量として、遊技盤５の各装飾基板がそれぞれ遊技盤側装飾基板許容電流上限まで使用するものとして選定される容量と、図示しない＋１２Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズの容量と、を加えたものと同一のものが予め選定される場合には、図示しない＋１２Ｖ用ヒューズは、遊技盤５の各装飾基板がそれぞれ遊技盤側装飾基板許容電流上限まで使用している状態において、遊技盤５の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）や図示しない＋１２Ｖ系ドライバ回路へ遊技盤側駆動モータ許容電流上限を超える過電流が流れて図示しない＋１２Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズが溶断しても、まだ過電流が流れて＋１２Ｖ電源ライン演出駆動基板許容電流上限を超える場合には、溶断する場合がある。

【１８２１】

なお、遊技盤５の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）による演出と、遊技盤５の各装飾基板による各種ＬＥＤの発光演出と、のうち、遊技盤５の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）による演出よりも、遊技盤５の各装飾基板による各種ＬＥＤの発光演出を優先して継続する場合とは逆に、遊技盤５の各装飾基板による各種ＬＥＤの発光演出よりも、遊技盤５の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）による演出を優先して継続する場合には、周辺制御基板１５１０の後続基板の図示しない＋１２Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズが溶断するよりも、遊技盤５の各装飾基板の図示しない＋１２Ｖ用ヒューズが先に溶断するように、遊技盤５の各装飾基板の図示しない＋１２Ｖ用ヒューズの容量と、周辺制御基板１５１０の後続基板の図示しない＋１２Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズの容量と、が予め選定されるとともに、遊技盤５の各装飾基板による各種ＬＥＤの発光演出よりも、遊技盤５の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）による演出を優先して継続することができるように周辺制御基板１５１０の後続基板の図示しない＋１２Ｖ用ヒューズの容量が予め設定されることとなる。

【１８２２】

また、周辺制御基板１５１０の後続基板の１２Ｖ電源ラインへの何らかの理由による過負荷や電気的なトラブルにより、周辺制御基板１５１０の後続基板の１２Ｖ電源ラインに過電流が流れ、遊技盤５の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）による演出と、遊技盤５の各装飾基板による各種ＬＥＤの発光演出と、の両方の演出を停止する場合には、周辺制御基板１５１０の後続基板の図示しない＋１２Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズの容量と、遊技盤５の各装飾基板の図示しない＋１２Ｖ用ヒューズの容量と、のうち、いずれか小さいヒューズの容量以下に、周辺制御基板１５１０の後続基板の図示しない＋１２Ｖ用ヒューズの容量が予め設定されることとなる。

【１８２３】

このように、周辺制御基板１５１０の後続基板に図示しない＋１２Ｖ用ヒューズを設けるとともに、図示しない＋１２Ｖ系ドライバ回路にヒューズを設けることで過電流により図示しない＋１２Ｖ用ヒューズ、図示しない＋１２Ｖ系ドライバ回路のヒューズが溶断するようになっているため、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３へ供給される＋１２Ｖ電源ラインの電位の低下を抑制して、主制御基板１３１０の停電監視回路１３１０ｅにより停電予告信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａや払出制御ＭＰＵ６３３ａａへ出力されずに済み、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、後述する主制御側電源投入時処理における主制御側電源断時処理を行わずに遊技の進行を継続することができるし、払出制御ＭＰＵ６３３ａａは、後述する払出制御部電源投入時処理における払出制御部電源断時処理を行わずに払出の進行（遊技球を賞球として払い出す動作）を継続することができる。

【１８２４】

また、本実施形態では、主基板を構成する主制御基板１３１０、払出制御基板６３３が正常に作動している場合に、遊技盤５の各装飾基板の＋１２Ｖ電源ラインにおいて、遊技盤５の各装飾基板のうちＬＥＤ定電流駆動回路が実装されている装飾基板の図示しない＋１２Ｖ用ヒューズにより、遊技盤５の各ＬＥＤや遊技盤５の装飾基板に遊技盤側装飾基板許容電流上限を超える過電流が流れると、遊技盤５の装飾基板の図示しない＋１２Ｖ用ヒューズが溶断するようになっている。なお、ＬＥＤ定電流駆動回路の有無にかかわらず＋

１２Ｖ電源ラインが供給される遊技盤５のすべて装飾基板に対して遊技盤側装飾基板許容電流上限まで電流を流すことができる図示しない＋１２Ｖ用ヒューズを設ける場合には、遊技盤５のすべて装飾基板の図示しない＋１２Ｖ用ヒューズにより、遊技盤５の各ＬＥＤや遊技盤５のすべての装飾基板に遊技盤側装飾基板許容電流上限を超える過電流が流れると、遊技盤５のすべての装飾基板の図示しない＋１２Ｖ用ヒューズが溶断するようになっている。このように、遊技盤５の各装飾基板のうちＬＥＤ定電流駆動回路が実装されている装飾基板に図示しない＋１２Ｖ用ヒューズを設けて遊技盤側装飾基板許容電流上限を超える過電流により図示しない＋１２Ｖ用ヒューズが溶断するようになっているため（なお、ＬＥＤ定電流駆動回路の有無にかかわらず＋１２Ｖ電源ラインが供給される遊技盤５のすべて装飾基板に対して遊技盤側装飾基板許容電流上限まで電流を流すことができる図示しない＋１２Ｖ用ヒューズを設ける場合には、遊技盤５のすべて装飾基板に図示しない＋１２Ｖ用ヒューズを設けて遊技盤側装飾基板許容電流上限を超える過電流により図示しない＋１２Ｖ用ヒューズが溶断するようになっているため）、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３へ供給される＋１２Ｖ電源ラインの電位の低下を抑制して、主制御基板１３１０の停電監視回路１３１０ｅにより停電予告信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａや払出制御ＭＰＵ６３３ａａへ出力されずに済み、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、後述する主制御側電源投入時処理における主制御側電源断時処理を行わずに遊技の進行を継続することができるし、払出制御ＭＰＵ６３３ａａは、後述する払出制御部電源投入時処理における払出制御部電源断時処理を行わずに払出の進行（遊技球を賞球として払い出す動作）を継続することができる。

【１８２５】

また、本実施形態では、主基板を構成する主制御基板１３１０、払出制御基板６３３が正常に作動している場合に、周辺制御基板１５１０、周辺制御基板１５１０の後続基板、演出表示装置１６００、遊技盤５の各装飾基板等の＋１２Ｖ電源ラインにおいて、周辺制御基板１５１０、周辺制御基板１５１０の後続基板、演出表示装置１６００、遊技盤５の各装飾基板等への何らかの理由による電気的なトラブルにより、漏れ電流が発生したり、短絡（ショート）が発生したりして、周辺制御基板１５１０、周辺制御基板１５１０の後続基板、演出表示装置１６００、遊技盤５の各装飾基板等に過電流が流れると、各基板に設けられる図示しない＋１２Ｖ用ヒューズがそれぞれ溶断するようになっていることにより、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３へ供給される＋１２Ｖ電源ラインの電位の低下を抑制して、主制御基板１３１０の停電監視回路１３１０ｅにより停電予告信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａや払出制御ＭＰＵ６３３ａａへ出力されずに済み、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、後述する主制御側電源投入時処理における主制御側電源断時処理を行わずに遊技の進行を継続することができるし、払出制御ＭＰＵ６３３ａａは、後述する払出制御部電源投入時処理における払出制御部電源断時処理を行わずに払出の進行（遊技球を賞球として払い出す動作）を継続することができる。なお、周辺制御基板１５１０の後続基板への何らかの理由による電気的なトラブルにより、漏れ電流が発生したり、短絡（ショート）が発生した場合には、周辺制御基板１５１０の後続基板に過電流が流れるとともに周辺制御基板１５１０の後続基板の上位基板となる周辺制御基板１５１０にも過電流が流れるため、周辺制御基板１５１０に設けられる図示しない＋１２Ｖ用ヒューズが溶断することとなる。

【１８２６】

なお、本実施形態では、主基板を構成する主制御基板１３１０、払出制御基板６３３が正常に作動している場合に、扉枠３の各駆動基板の＋１２Ｖ電源ラインにおいて、扉枠３の各駆動基板の＋１２Ｖ系ドライバ回路により扉枠３の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）が駆動されている際に（又は扉枠３の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）の駆動を待機している際に）、何らかの理由による過負荷や電気的なトラブルにより、扉枠３の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）や＋１２Ｖ系ドライバ回路へ扉枠側駆動モータ許容電流上限を超える過電流が流れると、＋１２Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズが溶断するようになっている。扉枠３の各駆動基板の＋１２Ｖ用ヒューズの容量は、扉枠

３の各駆動基板の＋１２Ｖ系ドライバ回路の扉枠側駆動モータ許容電流上限に基づいて予め選定されている。扉枠３の各駆動基板の＋１２Ｖ用ヒューズは、扉枠３の各駆動基板の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）や＋１２Ｖ系ドライバ回路へ扉枠側駆動モータ許容電流上限を超える過電流が流れて＋１２Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズが溶断しても、まだ過電流が流れて扉枠側＋１２Ｖ電源ライン駆動基板許容電流上限を超える場合には、溶断するようになっている。このように、扉枠３の各駆動基板に＋１２Ｖ用ヒューズを設けるとともに、＋１２Ｖ系ドライバ回路にヒューズを設けることで過電流により＋１２Ｖ用ヒューズ、＋１２Ｖ系ドライバ回路のヒューズが溶断するようになっているため、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３へ供給される＋１２Ｖ電源ラインの電位の低下を抑制して、主制御基板１３１０の停電監視回路１３１０ｅにより停電予告信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａや払出制御ＭＰＵ６３３ａａへ出力されずに済み、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、後述する主制御側電源投入時処理における主制御側電源断時処理を行わずに遊技の進行を継続することができるし、払出制御ＭＰＵ６３３ａａは、後述する払出制御部電源投入時処理における払出制御部電源断時処理を行わずに払出の進行（遊技球を賞球として払い出す動作）を継続することができる。

【１８２７】

また、本実施形態では、主基板を構成する主制御基板１３１０、払出制御基板６３３が正常に作動している場合に、扉枠３の各装飾基板の＋１２Ｖ電源ラインにおいて、扉枠３の各装飾基板のうちＬＥＤ定電流駆動回路が実装されている装飾基板の＋１２Ｖ用ヒューズにより、扉枠３の各ＬＥＤや扉枠３の装飾基板に扉枠側装飾基板許容電流上限を超える過電流が流れると、扉枠３の装飾基板の＋１２Ｖ用ヒューズが溶断するようになっている。なお、ＬＥＤ定電流駆動回路の有無にかかわらず＋１２Ｖ電源ラインが供給される扉枠３のすべて装飾基板に対して扉枠側装飾基板許容電流上限まで電流を流すことができる＋１２Ｖ用ヒューズを設ける場合には、扉枠３のすべて装飾基板の＋１２Ｖ用ヒューズにより、扉枠３の各ＬＥＤや扉枠３のすべての装飾基板に扉枠側装飾基板許容電流上限を超える過電流が流れると、扉枠３のすべての装飾基板の＋１２Ｖ用ヒューズが溶断するようになっている。このように、扉枠３の各装飾基板のうちＬＥＤ定電流駆動回路が実装されている装飾基板に＋１２Ｖ用ヒューズを設けて扉枠側装飾基板許容電流上限を超える過電流により＋１２Ｖ用ヒューズが溶断するようになっているため（なお、ＬＥＤ定電流駆動回路の有無にかかわらず＋１２Ｖ電源ラインが供給される扉枠３のすべて装飾基板に対して遊技盤側装飾基板許容電流上限まで電流を流すことができる＋１２Ｖ用ヒューズを設ける場合には、扉枠３のすべて装飾基板に＋１２Ｖ用ヒューズを設けて扉枠側装飾基板許容電流上限を超える過電流により＋１２Ｖ用ヒューズが溶断するようになっているため）、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３へ供給される＋１２Ｖ電源ラインの電位の低下を抑制して、主制御基板１３１０の停電監視回路１３１０ｅにより停電予告信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａや払出制御ＭＰＵ６３３ａａへ出力されずに済み、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、後述する主制御側電源投入時処理における主制御側電源断時処理を行わずに遊技の進行を継続することができるし、払出制御ＭＰＵ６３３ａａは、後述する払出制御部電源投入時処理における払出制御部電源断時処理を行わずに払出の進行（遊技球を賞球として払い出す動作）を継続することができる。

【１８２８】

また、本実施形態では、主基板を構成する主制御基板１３１０、払出制御基板６３３が正常に作動している場合に、扉枠３の各駆動基板、扉枠３の各装飾基板等の＋１２Ｖ電源ラインにおいて、扉枠３の各駆動基板、扉枠３の各装飾基板等への何らかの理由による電気的なトラブルにより、漏れ電流が発生したり、短絡（ショート）が発生したりして、扉枠３の各駆動基板、扉枠３の各装飾基板等に過電流が流れると、各基板に設けられる＋１２Ｖ用ヒューズが溶断するようになっていることにより、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３へ供給される＋１２Ｖ電源ラインの電位の低下を抑制して、主制御基板１３１０の停電監視回路１３１０ｅにより停電予告信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａや払出制御ＭＰＵ６３３ａａへ出力されずに済み、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、後述する主制御側電源

投入時処理における主制御側電源断時処理を行わずに遊技の進行を継続することができるし、払出制御ＭＰＵ６３３ａａは、後述する払出制御部電源投入時処理における払出制御部電源断時処理を行わずに払出の進行（遊技球を賞球として払い出す動作）を継続することができる。

【１８２９】

［９－１－４ｂ．＋２４Ｖ電源ラインへの過電流保護］

また、本実施形態では、＋２４Ｖ電源ラインへの過電流保護として、＋２４Ｖ電源ラインには、過電流対策として、周辺制御基板１５１０に＋２４Ｖ電源ライン周辺制御基板許容電流上限まで電流を流すことができる図示しない＋２４Ｖ用ヒューズを設け、演出表示装置１６００に演出表示装置１６００の大元ヒューズとして大元許容電流上限まで電流を流すことができる図示しない＋１２Ｖ用ヒューズを設け、周辺制御基板１５１０の後続基板に＋２４Ｖ電源ライン演出駆動基板許容電流上限まで電流を流すことができる図示しない＋２４Ｖ用ヒューズを設けるとともに周辺制御基板１５１０の後続基板における図示しない＋２４Ｖ系ドライバ回路に遊技盤側駆動ソレノイド許容電流上限まで電流を流すことができるヒューズを設けている。

【１８３０】

本実施形態では、主基板を構成する主制御基板１３１０、払出制御基板６３３が正常に作動している場合に、周辺制御基板１５１０の＋１２Ｖ電源ラインにおいて、周辺制御基板１５１０自身、及び／又は、周辺制御基板１５１０の後続基板等への何らかの理由による電気的なトラブルにより、＋２４Ｖ電源ライン周辺制御基板許容電流上限を超える過電流が流れると、周辺制御基板１５１０の図示しない＋２４Ｖ用ヒューズが溶断するようになっている。このように、周辺制御基板１５１０に図示しない＋２４Ｖ用ヒューズを設けて＋２４Ｖ電源ライン周辺制御基板許容電流上限を超える過電流により図示しない＋２４Ｖ用ヒューズが溶断するようになっているため、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３へ供給される＋２４Ｖ電源ラインの電位の低下を抑制して、主制御基板１３１０の停電監視回路１３１０ｅにより停電予告信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａや払出制御ＭＰＵ６３３ａａへ出力されずに済み、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、後述する主制御側電源投入時処理における主制御側電源断時処理を行わずに遊技の進行を継続することができるし、払出制御ＭＰＵ６３３ａａは、後述する払出制御部電源投入時処理における払出制御部電源断時処理を行わずに払出の進行（遊技球を賞球として払い出す動作）を継続することができる。

【１８３１】

また、本実施形態では、主基板を構成する主制御基板１３１０、払出制御基板６３３が正常に作動している場合に、周辺制御基板１５１０の後続基板の＋２４Ｖ電源ラインにおいて、周辺制御基板１５１０の後続基板の図示しない＋２４Ｖ系ドライバ回路により遊技盤５の＋２４Ｖ系電気的駆動源（駆動ソレノイド）が駆動されている際に（又は遊技盤５の＋２４Ｖ系電気的駆動源（駆動ソレノイド）の駆動を待機している際に）、何らかの理由による過負荷や電気的なトラブルにより、遊技盤５の＋２４Ｖ系電気的駆動源（駆動ソレノイド）や図示しない＋２４Ｖ系ドライバ回路へ遊技盤側駆動ソレノイド許容電流上限を超える過電流が流れると、図示しない＋２４Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズが溶断するようになっている。図示しない＋２４Ｖ用ヒューズは、図示しない＋２４Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズが溶断しても、まだ過電流が流れて＋２４Ｖ電源ライン演出駆動基板許容電流上限を超えると、溶断するようになっている。このように、周辺制御基板１５１０の後続基板に図示しない＋２４Ｖ用ヒューズを設けるとともに、図示しない＋２４Ｖ系ドライバ回路にヒューズを設けることで過電流により図示しない＋２４Ｖ用ヒューズ、図示しない＋２４Ｖ系ドライバ回路のヒューズが溶断するようになっているため、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３へ供給される＋２４Ｖ電源ラインの電位の低下を抑制して、主制御基板１３１０の停電監視回路１３１０ｅにより停電予告信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａや払出制御ＭＰＵ６３３ａａへ出力されずに済み、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、後述する主制御側電源投入時処理における主制御側電源断時処理を行わずに

遊技の進行を継続することができるし、払出制御ＭＰＵ６３３ａａは、後述する払出制御部電源投入時処理における払出制御部電源断時処理を行わずに払出の進行（遊技球を賞球として払い出す動作）を継続することができる。

【１８３２】

また、本実施形態では、主基板を構成する主制御基板１３１０、払出制御基板６３３が正常に作動している場合に、周辺制御基板１５１０、周辺制御基板１５１０の後続基板等の＋２４Ｖ電源ラインにおいて、周辺制御基板１５１０、周辺制御基板１５１０の後続基板等への何らかの理由による電気的なトラブルにより、漏れ電流が発生したり、短絡（ショート）が発生したりして、周辺制御基板１５１０、周辺制御基板１５１０の後続基板等に過電流が流れると、各基板に設けられる図示しない＋２４Ｖ用ヒューズが溶断するようになっていることにより、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３へ供給される＋２４Ｖ電源ラインの電位の低下を抑制して、主制御基板１３１０の停電監視回路１３１０ｅにより停電予告信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａや払出制御ＭＰＵ６３３ａａへ出力されずに済み、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、後述する主制御側電源投入時処理における主制御側電源断時処理を行わずに遊技の進行を継続することができるし、払出制御ＭＰＵ６３３ａａは、後述する払出制御部電源投入時処理における払出制御部電源断時処理を行わずに払出の進行（遊技球を賞球として払い出す動作）を継続することができる。

【１８３３】

なお、本実施形態では、主基板を構成する主制御基板１３１０、払出制御基板６３３が正常に作動している場合に、扉枠３の各駆動基板の＋２４Ｖ電源ラインにおいて、扉枠３の各駆動基板の＋２４Ｖ系ドライバ回路により扉枠３の＋２４Ｖ系電気的駆動源（駆動ソレノイド）が駆動されている際に（又は扉枠３の＋２４Ｖ系電気的駆動源（駆動ソレノイド）の駆動を待機している際に）、何らかの理由による過負荷や電気的なトラブルにより、扉枠３の＋２４Ｖ系電気的駆動源（駆動ソレノイド）や＋２４Ｖ系ドライバ回路へ扉枠側駆動ソレノイド許容電流上限を超える過電流が流れると、＋２４Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズが溶断するようになっている。扉枠３の各駆動基板の＋２４Ｖ用ヒューズの容量は、扉枠３の各駆動基板の＋２４Ｖ系ドライバ回路の扉枠側駆動ソレノイド許容電流上限に基づいて予め選定されている。扉枠３の各駆動基板の＋２４Ｖ用ヒューズは、扉枠３の各駆動基板の＋２４Ｖ系電気的駆動源（駆動ソレノイド）や＋２４Ｖ系ドライバ回路へ扉枠側駆動ソレノイド許容電流上限を超える過電流が流れて＋２４Ｖ系ドライバ回路に設けられるヒューズが溶断しても、まだ過電流が流れて扉枠側＋２４Ｖ電源ライン駆動基板許容電流上限を超える場合には、溶断するようになっている。このように、扉枠３の各駆動基板に＋２４Ｖ用ヒューズを設けるとともに、＋２４Ｖ系ドライバ回路にヒューズを設けることで過電流により＋２４Ｖ用ヒューズ、＋２４Ｖ系ドライバ回路のヒューズが溶断するようになっているため、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３へ供給される＋２４Ｖ電源ラインの電位の低下を抑制して、主制御基板１３１０の停電監視回路１３１０ｅにより停電予告信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａや払出制御ＭＰＵ６３３ａａへ出力されずに済み、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、後述する主制御側電源投入時処理における主制御側電源断時処理を行わずに遊技の進行を継続することができるし、払出制御ＭＰＵ６３３ａａは、後述する払出制御部電源投入時処理における払出制御部電源断時処理を行わずに払出の進行（遊技球を賞球として払い出す動作）を継続することができる。

【１８３４】

また、本実施形態では、主基板を構成する主制御基板１３１０、払出制御基板６３３が正常に作動している場合に、扉枠３の各駆動基板等の＋２４Ｖ電源ラインにおいて、扉枠３の各駆動基板等への何らかの理由による電気的なトラブルにより、漏れ電流が発生したり、短絡（ショート）が発生したりして、扉枠３の各駆動基板等に過電流が流れると、各基板に設けられる＋２４Ｖ用ヒューズが溶断するようになっていることにより、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３へ供給される＋２４Ｖ電源ラインの電位の低下を抑制して、主制御基板１３１０の停電監視回路１３１０ｅにより停電予告信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａや払出制御ＭＰＵ６３３ａａへ出力されずに済み、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、

後述する主制御側電源投入時処理における主制御側電源断時処理を行わずに遊技の進行を継続することができるし、払出制御ＭＰＵ６３３ａａは、後述する払出制御部電源投入時処理における払出制御部電源断時処理を行わずに払出の進行（遊技球を賞球として払い出す動作）を継続することができる。

【１８３５】

［９－２．払出制御基板の回路］

払出制御基板６３３の回路における電源のうち、マイクロプロセッサである払出制御ＭＰＵ６３３ａａの制御電源は電源基板６３０の電源作成回路６３０ｆの＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａからの＋５Ｖが供給されているとともに、払出制御ＭＰＵ６３３ａａの払出制御内蔵ＲＡＭに供給されるバックアップ電源は電源基板６３０のバックアップ電源回路６３０ｈから払ＶＢＢとして供給されている。

【１８３６】

電源基板６３０の電源作成回路６３０ｆの＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａからの＋５Ｖは、図１８２に示すように、まず、払出制御フィルタ回路６３３ｈに入力される。この払出制御フィルタ回路６３３ｈは、払出制御３端子フィルタＰＩＣ０を主として構成されている。この払出制御３端子フィルタＰＩＣ０は、Ｔ型フィルタ回路であり、フェライトで磁気シールドした減衰特性の優れたものである。払出制御３端子フィルタＰＩＣ０は、その１番端子に、電源基板６３０の電源作成回路６３０ｆの＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａからの＋５Ｖが印加され、その２番端子がグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続され、その３番端子からノイズ成分を除去した＋５Ｖが出力されている。１番端子に印加される＋５Ｖは、一端がグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されるコンデンサＰＣ０の他端と電気的に接続されることにより、まずリップル（電圧に畳重された交流成分）が除去されて平滑化されている。

【１８３７】

３番端子から出力される＋５Ｖは、一端がグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続される、コンデンサＰＣ１及び電解コンデンサＰＣ２（本実施形態では、静電容量：１８０マイクロファラッド（μＦ））の他端とそれぞれ電気的に接続されることにより、さらにリップルが除去されて平滑化されている。この平滑化された＋５Ｖは、払出制御ＭＰＵ６３３ａａの電源端子であるＶＤＤ端子に印加されている。なお、払出制御ＭＰＵ６３３ａａの電源端子であるＶＤＤ端子には、瞬停が発生して遊技ホールからの電源が遮断された場合に、電解コンデンサＰＣ２に充電された電荷が、瞬停が発生してから約７ミリ秒（ｍｓ）という期間に亘って、＋５Ｖとして印加されるようになっている。なお、主制御基板１３１０に備える主制御ＭＰＵ１３１０ａの消費電力は、払出制御基板６３３の払出制御部６３３ａに備える払出制御ＭＰＵ６３３ａａの消費電力と比べると、大きいため、主制御基板１３１０の電解コンデンサＭＣ２の容量（本実施形態では、静電容量：４７０マイクロファラッド（μＦ））は、払出制御基板６３３の電解コンデンサＰＣ２の容量（本実施形態では、静電容量：１８０マイクロファラッド（μＦ））と比べると、大きいものが選定されている。これにより、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３は、瞬停が発生して遊技ホールからの電源が遮断された場合に、主制御基板１３１０の電解コンデンサＭＣ２、払出制御基板６３３の電解コンデンサＰＣ２にそれぞれ充電された電荷が、瞬停が発生してから約７ミリ秒（ｍｓ）という期間に亘って、＋５Ｖとしてそれぞれ印加されるようになっている。

【１８３８】

払出制御ＭＰＵ６３３ａａのＶＤＤ端子は一端がグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されるコンデンサＰＣ３の他端と電気的に接続されるとともにダイオードＰＤ０のアノード端子と電気的に接続されている。ＶＤＤ端子に印加される＋５Ｖはコンデンサ３によりさらにリップルが除去されて平滑化されている。払出制御ＭＰＵ６３３ａａのグランド端子であるＶＳＳ端子はグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されている。

【１８３９】

払出制御ＭＰＵ６３３ａａの払出制御内蔵ＲＡＭの電源端子であるＶＢＢ端子は、ダイオードＰＤ０のカソード端子と電気的に接続されている。また、払出制御ＭＰＵ６３３ａａの払出制御内蔵ＲＡＭの電源端子であるＶＢＢ端子は、一端がグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されるコンデンサＰＣ４の他端と電気的に接続されているほかに、抵抗ＰＲ０を介して、電源基板６３０のバックアップ電源回路６３０ｈのキャパシタＢＣ１のプラス端子と電気的に接続されている。これにより、払出制御ＭＰＵ６３３ａａの払出制御内蔵ＲＡＭの電源端子であるＶＢＢ端子には、電源基板６３０のバックアップ電源回路６３０ｈからの払ＶＢＢが抵抗ＰＲ０を介して供給されるのに対して、払出制御ＭＰＵ６３３ａａの電源端子であるＶＤＤ端子には、ダイオードＰＤ０により、電源基板６３０のバックアップ電源回路６３０ｈからの払ＶＢＢが抵抗ＰＲ０を介して供給されることが妨げられている。

【１８４０】

払出制御基板６３３の回路における入力信号のうち、例えば、満タン検知センサ１５４からの検出信号、球切検知センサ５７４からの検出信号、羽根回転検知センサ５９０からの検出信号、払出検知センサ５９１からの検出信号、払出制御基板６３３に備えるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの信号は、払出制御入力回路６３３ａｂにそれぞれ入力されている。

【１８４１】

満タン検知センサ１５４からの検出信号、球切検知センサ５７４からの検出信号、羽根回転検知センサ５９０からの検出信号、払出検知センサ５９１からの検出信号、ＲＷＭスイッチ６３３ｄからの信号は、それぞれ払出制御入力回路６３３ａｂを介して、払出制御ＭＰＵ６３３ａａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）～ＰＡ４にそれぞれ入力されている。この入力ポートＰＡは８ビットにより構成されている。

【１８４２】

主制御基板１３１０の停電監視回路１３１０ｅからの停電予告信号である払出停電予告信号は、払出制御入力回路６３３ａｂを介して、払出制御ＭＰＵ６３３ａａの入力ポートＰＢの入力端子ＰＢ０に入力される。入力ポートＰＡ，ＰＢは、８ビットにより構成されている。また、他のセンサからの検出信号が払出制御入力回路６３３ａｂを介して入力ポートＰＡ，ＰＢの所定の入力端子にそれぞれ入力され、空き端子となる入力端子については、空き端子処理としてグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）に電気的に接続されている。

【１８４３】

［９－２－１．払出制御入力回路］

次に、払出制御入力回路６３３ａｂについて説明する。払出制御入力回路６３３ａｂは同一の回路であるため、ここでは、払出制御基板６３３に備えるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの信号が入力される払出制御入力回路６３３ａｂと、主制御基板１３１０の停電監視回路１３１０ｅからの停電予告信号である払出停電予告信号が入力される払出制御入力回路６３３ａｂと、について説明する。

【１８４４】

まず、払出制御基板６３３に備えるＲＷＭスイッチ６３３ｄは、パチンコ機１の電源投入時において払出制御基板６３３の払出制御ＭＰＵ６３３ａａの払出制御内蔵ＲＡＭ、及び主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａの主制御内蔵ＲＡＭに格納（記憶）される各種情報（遊技情報）をクリア（消去）することができるＲＡＭクリアスイッチ（ＲＡＭクリアボタン）としての機能と、パチンコ機１の電源投入後の所定期間において設定値を選択して切り替えることができる設定切替ボタンとしての機能と、パチンコ機１の電源投入後においてエラー報知されている際に、そのエラーを解除することができるエラー解除ボタンとしての機能と、兼ね備えている。

【１８４５】

［９－２－１ａ．ＲＷＭスイッチからの信号］

払出制御基板６３３に備えるＲＷＭスイッチ６３３ｄは、１番端子～４番端子を有し、

１番端子及び２番端子が払出制御基板６３３のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されるとともに、３番端子及び４番端子が電気的に接続されている。ＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部が押圧操作されていないときには、１番端子及び２番端子と３番端子及び４番端子とが内部回路において電気的に回路接続されないのに対して、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部が押圧操作されているときには、１番端子及び２番端子と３番端子及び４番端子とが内部回路において電気的に回路接続されて１番端子及び２番端子と３番端子及び４番端子との内部回路が導通して払出制御基板６３３のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続された状態となる。

【１８４６】

ＲＷＭスイッチ６３３ｄからの信号は、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部が押圧操作されていないときには、１番端子及び２番端子と３番端子及び４番端子とが内部回路において電気的に回路接続されないのに対して、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部が押圧操作されているときには、１番端子及び２番端子と３番端子及び４番端子との内部回路が導通して払出制御基板６３３のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されたものとなる。

【１８４７】

ＲＷＭスイッチ６３３ｄからの信号が入力される払出制御入力回路６３３ａｂは、図１８２に示すように、一端が電源作成回路６３０ｆの＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａで作成されて供給される電源ライン（つまり、＋５Ｖ電源ライン）と電気的に接続される抵抗ＰＲ５０の他端と電気的に接続される他に、一端が払出制御基板６３３のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されたコンデンサＰＣ５０の他端と電気的に接続されるとともに、抵抗ＰＲ５１を介して、トランジスタＰＴＲ５０のベース端子と電気的に接続されている。トランジスタＰＴＲ５０のベース端子は、抵抗ＰＲ５１の他に、一端が払出制御基板６３３のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続された抵抗ＰＲ５２の他端と電気的に接続されている。トランジスタＰＴＲ５０のエミッタ端子は、払出制御基板６３３のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されている。トランジスタＰＴＲ５０のコレクタ端子は、一端が電源作成回路６３０ｆの＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａで作成されて供給される電源ライン（つまり、＋５Ｖ電源ライン）と電気的に接続された抵抗ＰＲ５３の他端と電気的に接続されるとともに、払出制御ＭＰＵ６３３ａａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ４と電気的に接続されている。払出制御基板６３３に備えるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの信号は、払出制御入力回路６３３ａｂを介して、ＲＷＭ信号２として払出制御ＭＰＵ６３３ａａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ４に入力される。

【１８４８】

なお、抵抗ＰＲ５０の他端とコンデンサＰＣ５０の他端とは、抵抗ＰＲ５１の一端（トランジスタＰＴＲ５０のベース端子と電気的に接続される抵抗ＰＲ５１の他端と反対側）と電気的に接続されるほかに、払出制御出力回路６３３ａｃと電気的に接続されている。払出制御出力回路６３３ａｃは、抵抗ＰＲ６０，ＰＲ６１、トランジスタＰＴＲ６０から構成されている。抵抗ＰＲ５０の他端とコンデンサＰＣ５０の他端とは、抵抗ＰＲ５１の一端（トランジスタＰＴＲ５０のベース端子と電気的に接続される抵抗ＰＲ５１の他端と反対側）と電気的に接続されるほかに、抵抗ＰＲ６０を介してトランジスタＰＴＲ６０のベース端子と電気的に接続されている。トランジスタＰＴＲ６０のベース端子は、抵抗ＰＲ６０の他に、一端が払出制御基板６３３のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続された抵抗ＰＲ６１の他端と電気的に接続されている。トランジスタＰＴＲ６０のエミッタ端子は、払出制御基板６３３のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されている。トランジスタＰＴＲ６０のコレクタ端子は、配線（ハーネス）を介して主制御基板１３１０と電気的に接続され、図１７９に示した主制御入力回路１３１０ｂ（一端が＋１２Ｖ電源ライン（電源作成回路６３０ｆの＋１２Ｖ電源作成回路６３０ｆｂで作成されて供給される電源ライン（つまり、＋１２Ｖ電源ライン）と電気的に接続される抵抗ＭＲ２の他端）と電気的に接続されている。払出制御基板６３３の払出制御出力回

路６３３ａｃにおけるトランジスタＰＴＲ６０のコレクタ端子から出力される信号は、主ＲＷＭ信号として、配線（ハーネス）を介して主制御基板１３１０へ入力される。

【１８４９】

［９－２－１ｂ．停電監視回路からの停電予告信号である払出停電予告信号］

主制御基板１３１０の停電監視回路１３１０ｅからの停電予告信号である払出停電予告信号が入力される払出制御入力回路６３３ａｂは、図１８２に示すように、一端が＋１２Ｖ電源ライン（電源作成回路６３０ｆの＋１２Ｖ電源作成回路６３０ｆｂで作成されて供給される電源ライン（つまり、＋１２Ｖ電源ライン）と電気的に接続される抵抗ＰＲ４０の他端と電気的に接続されるとともに、抵抗ＰＲ４１を介して、トランジスタＰＴＲ４０のベース端子と電気的に接続されている。トランジスタＰＴＲ４０のベース端子は、抵抗ＰＲ４１の他に、一端が払出制御基板６３３のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続された抵抗ＰＲ４２の他端と電気的に接続されている。トランジスタＰＴＲ４０のエミッタ端子は、払出制御基板６３３のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されている。トランジスタＰＴＲ４０のコレクタ端子は、一端が電源作成回路６３０ｆの＋５Ｖ電源作成回路６３０ｆａで作成されて供給される電源ライン（つまり、＋５Ｖ電源ライン）と電気的に接続された抵抗ＰＲ４３の他端と電気的に接続されるとともに、払出制御ＭＰＵ６３３ａａの入力ポートＰＢの入力端子ＰＢ０と電気的に接続されている。主制御基板１３１０の停電監視回路１３１０ｅからの停電予告信号である払出停電予告信号は、払出制御入力回路６３３ａｂを介して、停電予告信号２として払出制御ＭＰＵ６３３ａａの入力ポートＰＢの入力端子ＰＢ０に入力される。なお、抵抗ＰＲ４０の他端には、主制御基板１３１０の停電監視回路１３１０ｅからの停電予告信号である払出停電予告信号の波形と整えるために、さらに、一端が主制御基板１３１０のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されたコンデンサの他端と電気的に接続されるようにしてもよい。

【１８５０】

［１０．主制御基板ボックス］

次に、遊技の進行を制御する主制御基板１３１０を収容する主制御基板ボックス１３２０について図１８３を参照して説明する。ここでは、上述した設定変更基板１３１１に実装される設定キースイッチ１３１１ａが主制御基板１３１０に実装され、主制御基板１３１０のみ主制御基板ボックス１３２０に収容されている例として説明する。図１８３はカバー体に主制御基板を取り付けてベース体をカバー体の開口側を覆うようにスライド移動する前の状態を示す主制御基板ボックスの斜視図（ａ）であり、カバー体とベース体とを封印機構により封印した主制御基板ボックスの斜視図（ｂ）である。

【１８５１】

パチンコ機１において主制御基板１３１０は、遊技の進行を制御する重要な基板である。このため、主制御基板１３１０に対して不正な改変を行って不正な遊技球を獲得しようとする者から主制御基板１３１０を防止する必要がある。そこで、主制御基板１３１０は、透明なカバー体１３０１と透明なベース体１３０２とから構成される主制御基板ボックス１３２０に収容されるとともに、カバー体１３０１とベース体１３０２とが封印機構であるカシメ部１３０３の例えばワンウェイネジ等によりカシメられている。

【１８５２】

このカシメ部１３０３は、封印機構であり、複数備えている。一つの封印機構を用いてカバー体１３０１とベース体１３０２とがカシメ部１３０３のワンウェイネジ等によりカシメられることで主制御基板ボックス１３２０を閉じることができ、次に、主制御基板ボックス１３２０を開けるためにはその封印機構を破壊する必要がある。つまり、その封印機構を破壊しない限り、カバー体１３０１をベース体１３０２から取り外すことができない。

【１８５３】

カバー体１３０１とベース体１３０２とは、上述したように、ポリカーボネートの樹脂製であり、透明に成型されている。カバー体１３０１とベース体とにより形成される内部

空間には、主制御基板１３１０を収容することができるようになっている。カバー体１３０１とベース体１３０２とがポリカーボネートの樹脂製により透明に成型されていることにより、主制御基板１３１０の実装面（表面）側やハンダ面（裏面）側の状態（不正な改変が行われているか否か、又は不正ＩＣが実装されているか否か）を、主制御基板ボックス１３２０の外側から確認することができるようになっている。また、主制御基板ボックス１３２０は、カバー体１３０１とベース体１３０２とにそれぞれ対応するように複数の封印機構を備えており、一つの封印機構を用いて主制御基板ボックス１３２０を閉じると、次に、主制御基板ボックス１３２０を開けるためにはその封印機構を破壊する必要があり、主制御基板ボックス１３２０の開閉の痕跡を残すことができる。したがって、開閉の痕跡を見ることで、主制御基板ボックス１３２０の不正な開閉を発見することができ、主制御基板１３１０への不正行為に対する抑止力が高められている。

【１８５４】

主制御基板ボックス１３２０の組み立て方法について簡単に説明すると、図１８３（ａ）に示すように、カバー体１３０１の底面に主制御基板１３１０の実装面（表面）が対向するように（臨むように）配置し、主制御基板１３１０の実装面（表面）に実装される各種コネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ８及び設定キースイッチ１３１１ａの一部がそれぞれ対応するカバー体１３０１に形成される開口部から露出する状態とする。続いて、主制御基板１３１０の四隅に形成される貫通孔に対して固定ネジを主制御基板のハンダ面（裏面）からそれぞれ挿通してカバー体１３０１の内側四隅に形成される取付ボス孔へ向かってねじ込むことで主制御基板１３１０をカバー体１３０１の内側空間に固定することができる。続いて、カバー体１３０１の開口側を略塞ぐようにベース体１３０２を所定位置に合わせて配置し、カバー体１３０１の長手方向に沿ってベース体１３０２を特定方向（図中の矢印の方向）へ向かってスライド移動（移動距離寸法ｓｄ）してカバー体１３０１の内周面内にベース体１３０２の外周面が収まり、カバー体１３０１の開口側を完全に塞いで、カバー体１３０１とベース体１３０２とにより形成される空間内に主制御基板１３１０が収容された状態となる。続いて、カバー体１３０１とベース体１３０２とをカシメ部１３０３のワンウェイネジ等によりねじ込んでカシメることにより、図１８３（ｂ）に示すように、カバー体１３０１とベース体１３０２とが固定され、主制御基板ボックス１３２０が封印される（つまり、主制御基板ボックス１３２０を閉じることができる）。

【１８５５】

なお、カバー体１３０１の内壁には、主制御基板１３１０がカバー体１３０１の底面に取り付けられた際に、主制御基板１３１０の実装面（表面）の外周と当接可能なカバー体側リブ部１３０１ｒｂが所定距離寸法離間して複数形成されている。また、ベース体１３０２には、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）の外周と当接可能なベース体側リブ部１３０２ｒｂが所定距離寸法離間して複数形成されている。主制御基板１３１０が主制御基板ボックス１３２０に収容された状態では、主制御基板１３１０がカバー体１３０１に複数形成されるカバー体側リブ部１３０１ｒｂとベース体１３０２に複数形成されるベース体側リブ部１３０２ｒｂとにより形成される狭間（空間）に配置（挟持）された状態となる。

【１８５６】

また、ベース体１３０２には、主制御基板１３１０の実装面（表面）に実装される設定キースイッチ１３１１ａと対応する主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）と当接可能な突出部１３０２ｐが形成されている。突出部１３０２ｐは、設定キースイッチ１３１１ａに設定キーが差し込まれた際に、この差し込まれた力により主制御基板１３１０が湾曲して撓むと、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）と当接することにより、これ以上、主制御基板１３１０が湾曲して撓むことを防止して、主制御基板１３１０に形成される配線パターンの断線やハンダの剥離を防止することができるものである。

【１８５７】

［１１．設定キースイッチ］

次に、設定キースイッチ１３１１ａについて図１８４を参照して説明する。図１８４は

設定キースイッチの正面右斜めから見た斜視図（ａ）であり、設定キースイッチの正面左斜めから見た斜視図（ｂ）であり、設定キースイッチの上面図（ｃ）である。ここでは、上述した設定変更基板１３１１に実装される設定キースイッチ１３１１ａが主制御基板１３１０に実装される例として説明する。

【１８５８】

設定キースイッチ１３１１ａは、樹脂製の外筒の内側に対して、設定キーが挿入されて回動操作される樹脂製の設定キーシリンダが収容されているタイプのもの（以下、「樹脂製タイプの設定キースイッチ１３１１ａ」と記載する場合がある。）と、金属製の筒状の外筒に対して、設定キーが挿入されて回動操作される金属製の設定キーシリンダが収容されているタイプのもの（以下、「金属製タイプの設定キースイッチ１３１１ａ」と記載する場合がある。）と、がある。樹脂製タイプの設定キースイッチ１３１１ａと金属製タイプの設定キースイッチ１３１１ａとの構造は同一であり、材質が一部異なっている。

【１８５９】

［１１－１．樹脂製タイプの設定キースイッチ］

樹脂製タイプの設定キースイッチ１３１１ａは、図１８４（ａ），（ｂ）に示すように、非導電性の有する樹脂製の筒状の外筒１３１１ａａと、外筒１３１１ａａの内側に対して、設定キーが挿入されて回動操作される非導電性を有する樹脂製の設定キーシリンダ１３１１ａｂと、外筒１３１１ａａと接続されると共に設定キーシリンダ１３１１ａｂの回動操作により接点をＯＮ又はＯＦＦする回路が形成される非導電性を有する樹脂製の直方体状のベース体１３１１ａｃと、外筒１３１１ａａと対応する位置に外筒１３１１ａａを貫通する穴が形成されてベース体１３１１ａｃの表面及び側面を覆うように屈曲されてベース体１３１１ａｃの後方に突出する一対の突出片１３１１ａｄａ，１３１１ａｄａが両側面（同図中、前側面及び後側面）に形成される金属製のフレーム板１３１１ａｄと、から構成されている。

【１８６０】

外筒１３１１ａａの前面は、設定キーシリンダ１３１１ａｂの前面とほぼ同一平面状に配置されている。設定キーシリンダ１３１１ａｂの前面には、金属製の設定キーを差し込むための差し込み口１３１１ａｂａが設けられている。金属製の設定キーは、図１８４（ｃ）に示すように、設定キーシリンダ１３１１ａｂの回転位置が外筒１３１１ａａに形成される抜き差し基準位置１３１１ａａａにあるときにおいて（つまり、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂの前面に形成される差し込み口１３１１ａｂａに設定キーが差し込まれる準備が整っている位置（矩形状を有する差し込み口１３１１ａｂａの長手方向が上下方向へ沿う位置）において）、差し込み口１３１１ａｂａに差し込むことができると共に、差し込み口１３１１ａｂａから抜き取ることができるようになっている。ベース体１３１１ａｃは、フレーム板１３１１ａｄに形成される一対の突出片１３１１ａｄａ，１３１１ａｄａと９０度回転させた側面から黄銅製のリード端子が２本ずつ所定距離寸法だけ離間して両側面（同図中、右側面及び左側面）に形成されている。

【１８６１】

同図中、左側面の上側リード端子であるＣＯＭ１端子と左側面の下側リード端子であるＣＯＭ２端子とは、共通端子であり、いずれか一方の端子、又は両端を用いることができる。右側面の上側リード端子であるＡ端子と右側面の下側リード端子であるＢ端子とは、設定キーシリンダ１３１１ａｂの回転位置が外筒１３１１ａａに形成される抜き差し基準位置１３１１ａａａにあるときにおいて、ベース体１３１１ａｃに形成される回路により、ＣＯＭ１端子及びＣＯＭ２端子とＡ端子とを電気的に接続して導通するとともに、ＣＯＭ１端子及びＣＯＭ２端子とＢ端子とを電気的に非接続して遮断する（これにより、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーＯＦＦの信号が伝送される）一方、設定キーシリンダ１３１１ａｂの回転位置が外筒１３１１ａａに形成される抜き差し基準位置１３１１ａａａから６０度だけ回動操作されたときにおいて、ベース体１３１１ａｃに形成される回路により、ＣＯＭ１端子及びＣＯＭ２端子とＡ端子とを電気的に非接続して遮断するとともに、ＣＯＭ１端子及びＣＯＭ２端子とＢ端子とを電気的に接続して導通する（これにより

、設定キースイッチ１３１１ａのＯＮの信号が伝送される）。なお、ＣＯＭ１端子とＣＯＭ２端子とにおける端子間の距離寸法と、Ａ端子とＢ端子とにおける端子間の距離寸法は、同一の距離寸法を有している。

【１８６２】

金属製のフレーム板１３１１ａｄからベース体１３１１ａｃの後方に延出して突出する一対の突出片１３１１ａｄａ，１３１１ａｄａは、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）でハンダ付けされることで設定キースイッチ１３１１ａを主制御基板１３１０に固定することができるようになっている。ベース体１３１１ａｃのＡ端子、Ｂ端子、ＣＯＭ１端子、及びＣＯＭ２端子は、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）でハンダ付けされる。ベース体１３１１ａｃの裏面側には、設定キースイッチ１３１１ａが主制御基板１３１０の実装面（表面）に実装される際に、抜き差し基準位置１３１１ａａａが同図中に示すように上側を向くように設定キースイッチ１３１１ａの配置向きを指定する図示しない円柱状の突出部が突出して形成されている。この円柱状の突出部により、製造元の作業者が設定キースイッチ１３１１ａを主制御基板１３１０の実装面（表面）に実装する際に、例えば設定キースイッチ１３１１ａの上下方向をひっくり返し（間違えて）ハンダ付けされないようにすることができる。

【１８６３】

なお、設定キーシリンダ１３１１ａｂの前面に形成される差し込み口１３１１ａｂａに金属製の設定キーを差し込む場合に、この金属製の設定キーを介して電磁波ノイズが侵入したとしても、樹脂製タイプの設定キースイッチ１３１１ａが、上述したように、外筒１３１１ａａ、設定キーシリンダ１３１１ａｂ、及びベース体１３１１ａｃがそれぞれ非導電性を有する樹脂製により成型されているため、Ａ端子、Ｂ端子、ＣＯＭ１端子、及びＣＯＭ２端子への影響がない。

【１８６４】

［１１－２．金属製タイプの設定キースイッチ］

次に、金属製タイプの設定キースイッチ１３１１ａは、金属製の筒状の外筒１３１１ａａと、外筒１３１１ａａの内側に対して、設定キーが挿入されて回動操作される金属製の設定キーシリンダ１３１１ａｂと、において、上述した樹脂製タイプの設定キースイッチ１３１１ａと同一構成における材質が異なる点で樹脂製タイプの設定キースイッチ１３１１ａと同一の構成である。また、外筒１３１１ａａ、及び設定キーシリンダ１３１１ａｂが金属製により成型されていると共に、外筒１３１１ａａと設定キーシリンダ１３１１ａｂとが電気的に接続された状態となっている。外筒１３１１ａａは、非導電性を有する樹脂製のベース体１３１１ａｃと接続されているものの、金属製のフレーム板１３１１ａｄは、外筒１３１１ａａと対応する位置に外筒１３１１ａａを貫通する穴が形成されてベース体１３１１ａｃの表面及び側面を覆っている。つまり、設定キーシリンダ１３１１ａｂの前面に形成される差し込み口１３１１ａｂａに金属製の設定キーを差し込む場合に、この金属製の設定キーを介して電磁波ノイズが侵入すると、上述したように、外筒１３１１ａａと設定キーシリンダ１３１１ａｂとが電気的に接続された状態となっているため、金属製のフレーム板１３１１ａｄに電磁波ノイズが侵入するおそれがある。

【１８６５】

［１１－３．設定キースイッチと主制御基板ボックスのカバー体との関係］

ここで、設定キースイッチ１３１１ａと主制御基板ボックス１３２０のカバー体１３０１との関係について図１８５を参照して説明する。図１８５は設定キースイッチと主制御基板ボックスのカバー体との関係を示す概略図である。

【１８６６】

設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂの前面には、上述したように、金属製の設定キーを差し込むための差し込み口１３１１ａｂａが設けられている。主制御基板１３１０が主制御基板ボックス１３２０に収容された状態において、設定キースイッチ１３１１ａの前面（つまり、外筒１３１１ａａの前面、及び設定キーシリンダ１３１１ａｂの前面）が主制御基板ボックスのカバー体１３０１から露出するように、主制

御基板ボックス１３２０のカバー体１３０１には、図１８５に示すように、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂと対応する位置に、設定キーシリンダ１３１１ａｂの外径より大きい直径（例えば、設定キーシリンダ１３１１ａｂの外径より２ｍｍ大きい直径）を有する貫通穴１３０１ｚの内周に沿って主制御基板１３１０へ向かって所定距離寸法を有するチューブ状のリブ部１３０１ｚａ（チューブ状のリブ部１３０１ｚａの厚みは、カバー体１３０１の厚みと同一の厚みを有している。）が形成されている。貫通穴１３０１ｚの内周とチューブ状のリブ部１３０１ｚａの内周とは段差なく同一の内周面となるように連通している。これにより、設定キースイッチ１３１１ａの前面（つまり、外筒１３１１ａａの前面、及び設定キーシリンダ１３１１ａｂの前面）と主制御基板ボックスのカバー体１３０１の表面（前面）とが同一の平面に配置される（面一となる）。

【１８６７】

貫通穴１３０１ｚは、設定キースイッチ１３１１ａにアクセスする者の指や拳が当たる部分でもあるため、リブ部１３０１ｚａにより貫通穴１３０１ｚの周囲の強度を高めることができるようになっている。これにより、人の力により貫通穴１３０１ｚの周囲を押し込んで貫通穴１３０１ｚの周囲を撓ませて貫通穴１３０１ｚと設定キーシリンダ１３１１ａｂとのすき間を大きくしたり、貫通穴１３０１ｚの周囲を損傷させて貫通穴１３０１ｚの外径を大きくして貫通穴１３０１ｚと設定キーシリンダ１３１１ａｂとのすき間を大きくしたりすることを防止することができるため、例えば、設定キースイッチ１３１１ａに不正にアクセスする者が故意に指や拳を貫通穴１３０１ｚの周囲を押し込んでも、貫通穴１３０１ｚと設定キーシリンダ１３１１ａｂとのすき間に針金などの細長い不正工具を挿入することを防止することに寄与することができる。

【１８６８】

なお、貫通穴１３０１ｚの直径は、設定キースイッチ１３１１ａの直方体を有するベース体１３１１ａｃの表面形状である矩形形状の内側に収まるようになっている。リブ部１３０１ｚａの端部と設定キースイッチ１３１１ａの金属製のフレーム板１３１１ａｄの表面との距離寸法ｄ１（本実施形態では、約２ｍｍ）だけ離間しており、設定キースイッチ１３１１ａの金属製のフレーム板１３１１ａｄが設定キースイッチ１３１１ａにアクセスする者から直接触れられないように構成されている。

【１８６９】

これにより、カバー体１３０１の貫通穴１３０１ｚ及びリブ部１３１０ｚａと設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂとの「すき間（本実施形態では、貫通穴１３０１ｚの直径が設定キーシリンダ１３１１ａｂの外径より２ｍｍ大きく形成されているため、すき間が１ｍｍとなる。）」に針金などの細長い不正工具を挿入しても、貫通穴１３０１ｚの直径は、設定キースイッチ１３１１ａの直方体を有するベース体１３１１ａｃの表面形状である矩形形状の内側に収まるように形成さているため、細長い不正工具の先端がベース体１３１１ａｃの表面に当たって屈曲して主制御基板１３１０へ向かって侵入することができないようになっている。つまり、主制御基板１３１０を改変することを防止するこができるようになっている。

【１８７０】

また、樹脂製タイプの設定キースイッチ１３１１ａでは、上述したように、外筒１３１１ａａ、及び設定キーシリンダ１３１１ａｂがそれぞれ非導電性を有する樹脂製により成型されているため、仮に静電気を帯びた者が設定キースイッチ１３１１ａの前面（つまり、外筒１３１１ａａの前面、及び設定キーシリンダ１３１１ａｂの前面）に指を近づけたり触れたりしても、静電放電による電磁波ノイズが設定キースイッチ１３１１ａを介して主制御基板１３１０へ侵入することを防止することができる。また、非導電性を有する樹脂製のカバー体１３０１の貫通穴１３０１ｚの外周に沿って形成されるリブ部１３０１ｚａの端部と設定キースイッチ１３１１ａの金属製のフレーム板１３１１ａｄの表面とが距離寸法ｄ１（本実施形態では、約２ｍｍ）だけ離間しているため、仮に静電気を帯びた者が非導電性を有する樹脂製のカバー体１３０１の貫通穴１３０１ｚやその周辺に指を近づ

けたり触れたりしても、静電放電による電磁波ノイズが貫通穴１３０１ｚ及びリブ部１３０１ｚａを介して設定キースイッチ１３１１ａの金属製のフレーム板１３１１ａｄに侵入することが困難となることにより設定キースイッチ１３１１ａを介して主制御基板１３１０へ侵入することを防止することができる。

【１８７１】

なお、金属製タイプの設定キースイッチ１３１１ａでは、上述したように、外筒１３１１ａａ、及び設定キーシリンダ１３１１ａｂが金属製により成型されていると共に、外筒１３１１ａａと設定キーシリンダ１３１１ａｂとが電気的に接続された状態となっている。外筒１３１１ａａは、非導電性を有する樹脂製のベース体１３１１ａｃと接続されているものの、金属製のフレーム板１３１１ａｄは、外筒１３１１ａａと対応する位置に外筒１３１１ａａを貫通する穴が形成されてベース体１３１１ａｃの表面及び側面を覆っている。つまり、仮に静電気を帯びた者が非導電性を有する樹脂製のカバー体１３０１の貫通穴１３０１ｚやその周辺に指を近づけたり触れたりすると、静電放電による電磁波ノイズが、外筒１３１１ａａと設定キーシリンダ１３１１ａｂとが電気的に接続された状態となっているため、金属製のフレーム板１３１１ａｄに電磁波ノイズが侵入するおそれがある。このため、仮に静電気を帯びた者が非導電性を有する樹脂製のカバー体１３０１の貫通穴１３０１ｚやその周辺に指を近づけたり触れたりすると、静電放電による電磁波ノイズが金属製のフレーム板１３１１ａｄに侵入して設定キースイッチ１３１１ａを介して主制御基板１３１０へ侵入するおそれがある。

【１８７２】

また、設定キースイッチ１３１１ａの前面（つまり、外筒１３１１ａａの前面、及び設定キーシリンダ１３１１ａｂの前面）と主制御基板ボックスのカバー体１３０１の表面（前面）とが同一の平面に配置される（面一となる）ため、作業者が遊技盤５を遊技ホールの島設備に設置されるパチンコ機１の本体枠４に装着する作業を行う場合には、まず、パチンコ機１の前面やその周囲に仮置きするため、この仮置きした遊技盤５を作業中にあやまって作業者の脚が遊技盤５に当たって転倒させた場合に設定キースイッチ１３１１ａが床と衝突して破損することを防止することができる。また、設定キースイッチ１３１１ａの前面（つまり、外筒１３１１ａａの前面、及び設定キーシリンダ１３１１ａｂの前面）と主制御基板ボックスのカバー体１３０１の表面（前面）とが同一の平面に配置される（面一となる）ため、パチンコ機１の本体枠４から遊技基板５を取り外す作業を行う場合においても、取り外した遊技盤５をパチンコ機１の前面やその周囲に仮置きするため、この仮置きした遊技盤５を作業中にあやまって作業者の脚が遊技盤５に当たって転倒させた場合に設定キースイッチ１３１１ａが床と衝突して破損することを防止することができる。

【１８７３】

なお、設定キースイッチ１３１１ａの前面（つまり、外筒１３１１ａａの前面、及び設定キーシリンダ１３１１ａｂの前面）と主制御基板ボックスのカバー体１３０１の表面（前面）とが同一の平面に配置される（面一となる）ため、設定キースイッチ１３１１ａの前面（つまり、外筒１３１１ａａの前面、及び設定キーシリンダ１３１１ａｂの前面）を保護するたの保護カバー（保護カバーは、ポリカーボネートの樹脂製であり、透明に成型されている。）をカバー体１３０１に設けるようにしてもよい。

【１８７４】

［１１－４．設定キースイッチと主制御基板ボックスのベース体との関係］

ここで、設定キースイッチ１３１１ａと主制御基板ボックス１３２０のベース体１３０２との関係について図１８５～図１８７を参照して説明する。図１８６は設定キースイッチが実装される主制御基板の実装面（表面）を示す図（ａ）であり、設定キースイッチが実装される主制御基板の実装面（表面）と対応する主制御基板のハンダ面（裏面）を示す図（その１）（ｂ）であり、設定キースイッチが実装される主制御基板の実装面（表面）と対応する主制御基板のハンダ面（裏面）を示す図（その２）（ｃ）である。図１８７は図１８６の続きであり、設定キースイッチが実装される主制御基板の実装面（表面）と対応する主制御基板のハンダ面（裏面）を示す図（その３）（ｄ）であり、設定キースイッ

チが実装される主制御基板の実装面（表面）と対応する主制御基板のハンダ面（裏面）を示す図（その４）（ｅ）である。

【１８７５】

主制御基板１３１０が主制御基板ボックス１３２０に収容された状態では、上述したように、主制御基板１３１０がカバー体１３０１に複数形成されるカバー体側リブ部１３０１ｒｂとベース体１３０２に複数形成されるベース体側リブ部１３０２ｒｂとにより形成される狭間（空間）に配置（挟持）された状態となる。また、ベース体１３０２には、上述したように、主制御基板１３１０の実装面（表面）に実装される設定キースイッチ１３１１ａと対応する主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）と当接可能な突出部１３０２ｐが形成されている。突出部１３０２ｐは、設定キーシリンダ１３１１ａｂの前面に形成される差し込み口１３１１ａｂａに金属製の設定キーが差し込まれた際に、この差し込まれた力により主制御基板１３１０が湾曲して撓むと、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）と当接することにより、これ以上、主制御基板１３１０が湾曲して撓むことを防止して、主制御基板１３１０に形成される配線パターンの断線やハンダの剥離を防止することができるものである。

【１８７６】

主制御基板１３１０が主制御基板ボックス１３２０に収容された状態であって、設定キーシリンダ１３１１ａｂの前面に形成される差し込み口１３１１ａｂａに金属製の設定キーが差し込まれていないとき（又は、設定キーシリンダ１３１１ａｂが時計方向へ向かって６０度回動操作されてＯＮ操作されて設定キーから手を離して設定キーによる押圧が解除されたとき））には、図１８５に示すように、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）と突出部１３０２ｐの前面とは、クリアランスとして距離寸法ｄ２（本実施形態では、約１ｍｍ）だけ離間した状態となっており、設定キーシリンダ１３１１ａｂが押圧されていない状態では、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）と突出部１３０２ｐの前面とが接触しないようになっている。

【１８７７】

突出部１３０２ｐは、円柱形状を有するものと、ベース体１３０２の長手方向へ沿って一定幅（本実施形態では、円柱形状を有する突出部１３０２ｐの外径と同一の寸法を一定幅の寸法としている。）を有するものと、がある。ここでは、まず、設定キースイッチ１３１１ａへの配線パターンの引き回しについて説明し、続いて円柱形状を有する突出部１３０２ｐ、ベース体１３０２の長手方向へ沿って一定幅を有する突出部１３０２ｐについて説明する。

【１８７８】

［１１－４－１．設定キースイッチ１３１１ａへの配線の引き回し］

設定キースイッチ１３１１ａは、図１８６（ａ）に示すように、主制御基板１３１０の下辺近傍であって設定キースイッチ１３１１ａの直方体状のベース体１３１１ａｃの側面（外筒１３１１ａａに形成される抜き差し基準位置１３１１ａａａの下方の側面と反対側の側面）が主制御基板１３１０の下辺と平行となるように実装面（表面）１３１０ｘに実装されている。つまり、設定キースイッチ１３１１ａは、外筒１３１１ａａに形成される抜き差し基準位置１３１１ａａａが主制御基板１３１０の上辺側へ向くように実装面（表面）１３１０ｘに実装されている。

【１８７９】

具体的には、設定キースイッチ１３１１ａの金属製のフレーム板１３１１ａｄに形成される一対の突出片１３１１ａｄａ，１３１１ａｄａを挿通することができる主制御基板１３１０の左右方向（長手方向）に沿って長い長穴形状を有する一対の対向するランドを有するロングスルーホールＳＬＨ１，ＳＬＨ２（以下、単に「ロングスルーホールＳＬＨ１，ＳＬＨ２」と記載する場合がある。）が主制御基板１３１０の上下方向に形成されていると共に、設定キースイッチ１３１１ａのベース体１３１１ａｃの右側面に形成される２本のリード端子であるＡ端子、Ｂ端子をそれぞれ挿通することができる一対のランドを有するスルーホールＳＬＴＨ１，ＳＬＴＨ２（以下、単に「スルーホールＳＬＴＨ１，ＳＬ

ＴＨ２」と記載する場合がある。）と、設定キースイッチ１３１１ａのベース体１３１１ａｃの左側面に形成される２本のリード端子であるＣＯＭ１端子、ＣＯＭ２端子をそれぞれ挿通することができる一対のランドを有するスルーホールＳＬＴＨ３，ＳＬＴＨ４（以下、単に「スルーホールＳＬＴＨ３，ＳＬＴＨ４」と記載する場合がある。）と、が一対の対向するロングスルーホールＳＬＨ１，ＳＬＨ２と９０度回転角度を有して主制御基板１３１０にそれぞれ形成されている。

【１８８０】

また、設定キースイッチ１３１１ａのベース体１３１１ａｃの裏面側に設けられる設定キースイッチ１３１１ａの配置向きを指定する図示しない円柱状の突出部を挿通することができる貫通孔ＳＳＴＤが、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに設定キースイッチ１３１１ａが実装された際に設定キースイッチ１３１１ａの左右方向の中心線上であって、スルーホールＳＬＴＨ１，ＳＬＴＨ２，ＳＬＴＨ３，ＳＬＴＨ４とロングスルーホールＳＬＨ１，ＳＬＨ２とに囲まれた領域内に形成されている。

【１８８１】

主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙには、例えば図１８６（ｂ）に示すように、設定キースイッチ１３１１ａのＣＯＭ２端子が挿通されてハンダ付けされるスルーホールＳＬＴＨ４と、設定キースイッチ１３１１ａのＣＯＭ１端子が挿通されてハンダ付けされるスルーホールＳＬＴＨ３と、を電気的に接続する上下方向直線配線パターンＳＰＴＮ１が主制御基板１３１０の上下方向に沿って直線状に引き回されて形成されている。つまり、上下方向直線配線パターンＳＰＴＮ１は、スルーホールＳＬＴＨ４からスルーホールＳＬＴＨ４へ向かって直線状に引き回されているため、その長さが最小長さとなっている。

【１８８２】

また、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙには、設定キースイッチ１３１１ａのＣＯＭ１端子が挿通されてハンダ付けされるスルーホールＳＬＴＨ３と、設定キースイッチ１３１１ａのＡ端子が挿通されてハンダ付けされるスルーホールＳＬＴＨ１と、を電気的に接続する左右方向直線配線パターンＳＰＴＮ２が主制御基板の左右方向（長手方向）に沿って直線状に形成されている。つまり、左右方向直線配線パターンＳＰＴＮ２は、主制御基板１３１０の下辺と平行して、スルーホールＳＬＴＨ３からスルーホールＳＬＴＨ１へ向かって直線状に引き回されているため、その長さが最小長さとなっている。

【１８８３】

また、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙには、設定キースイッチ１３１１ａのＡ端子が挿通されてハンダ付けされるスルーホールＳＬＴＨ１と、図１７９に示した主制御入力回路１３１０ｂ（一端が主制御基板側作成＋５Ｖ電源ラインと電気的に接続された抵抗ＭＲ１０の他端、又は、一端がグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されたコンデンサＭＣ１０の他端）と、を電気的に接続する屈曲配線パターンＳＰＴＮ３が主制御基板１３１０の上下左右方向に複数屈曲して引き回されて形成されている。

【１８８４】

また、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙには、設定キースイッチ１３１１ａのＢ端子が挿通されてハンダ付けされるスルーホールＳＬＴＨ２と電気的に接続される各種配線パターンが存在せず、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘのベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙのベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）とに電気的に接続されている。

【１８８５】

なお、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙには、設定キースイッチ１３１１ａのＡ端子が挿通されてハンダ付けされるスルーホールＳＬＴＨ１から主制御ＭＰＵ１３１０ａの所定の入力端子（入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５）までに亘る設定信号伝送経路を形成する各種配線パターンは、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０

ｙに形成されている。つまり、設定信号伝送経路には、実装面（表面）１３１０ｘとハンダ面（裏面）１３１０ｙとの各種配線パターンを電気的に接続するスルーホールが介在されないようになっており、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘを視認できる状態であっても、設定キースイッチ１３１１ａの各種端子へ電気的に接続される各配線パターンがどのように引き回れているかわからないようになっている。

【１８８６】

また、主制御基板１３１０は、上述したように、カバー体１３０１の底面に取り付けてカバー体１３０１の内側空間に固定される。カバー体１３０１の開口側を略塞ぐようにベース体１３０２を所定位置に合わせて配置し、カバー体１３０１の長手方向に沿ってベース体１３０２を特定方向へ向かってスライド移動（移動距離寸法ｓｄ）してカバー体１３０１の開口側を完全に塞ぐ。このため、カバー体１３０１の長手方向に沿ってベース体１３０２を特定方向へ向かってスライド移動する際に、ベース体１３０２に形成される突出部１３０２ｐもベース体１３０２とともに特定方向へ向かってスライド移動することとなる。このスライド移動しているときに、突出部１３０２ｐの前面が主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに接触して擦れて主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙを傷つけるおそれがある。そこで、突出部１３０２ｐがスライド移動する領域及びその周囲に各種配線パターンが引き回されないようにないっている。つまり、突出部１３０２ｐがスライド移動する際に、突出部１３０２ｐが各種配線パターンを跨ぐことがないように各種配線パターンが引き回されている。これにより、主制御基板ボックス１３２０を組み立てる作業を行っている場合に、スライド移動する突出部１３０２ｐにより各種配線パターンが傷つけられることを防止することができる。

【１８８７】

主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙには、設定キースイッチ１３１１ａのＣＯＭ２端子が挿通されてハンダ付けされるスルーホールＳＬＴＨ４、設定キースイッチ１３１１ａのＣＯＭ１端子が挿通されてハンダ付けされるスルーホールＳＬＴＨ３、及び設定キースイッチ１３１１ａのＡ端子が挿通されてハンダ付けされるスルーホールＳＬＴＨ１の周囲における銅箔が抜かれ、設定信号伝送経路を形成する各種配線パターン（例えば、上下方向直線配線パターンＳＰＴＮ１、左右方向直線配線パターンＳＰＴＮ２、屈曲配線パターンＳＰＴＮ３等）の周囲における銅箔が抜かれ、設定キースイッチ１３１１ａの配置向きを指定する図示しない円柱状の突出部を挿通することができる貫通孔ＳＳＴＤの周囲における銅箔が抜かれている。

【１８８８】

これに対して、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘ及びハンダ面（裏面）１３１０ｙには、ロングスルーホールＳＬＨ１，ＳＬＨ２のほぼ周囲における銅箔がそれぞれ抜かれるとともに、各ロングホールの長手方向の両端に設けた領域に、ベタパターン（ベタグランドともいう）とランドとを電気的かつ物理的に接続するサーマルパターン（十字形状（一部が欠けているものでもよい）や×形状（一部が欠けているものでもよい）を有するパターン）を有するサーマルランドがそれぞれ形成されている。サーマルランドによりロングスルーホールＳＬＨ１，ＳＬＨ２が主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘのベタグランド（基板グランド）及びハンダ面（裏面）１３１０ｙのベタグランド（基板グランド）と電気的に接続された状態となる。また、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘ及びハンダ面（裏面）１３１０ｙには、設定キースイッチ１３１１ａのＢ端子が挿通されてハンダ付けされるスルーホールＳＬＴＨ２のほぼ周囲における銅箔がそれぞれ抜かれるとともに、サーマルランドがそれぞれ形成されている。サーマルランドによりスルーホールＳＬＴＨ２が主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘのベタグランド（基板グランド）及びハンダ面（裏面）１３１０ｙのベタグランド（基板グランド）と電気的に接続された状態となる。

【１８８９】

主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘ及びハンダ面（裏面）１３１０ｙの全面は、例えば図１８６（ａ），（ｂ）に示すように、各種スルーホール（例えば、電子部

品のリード端子が挿通されてハンダ面（裏面）１３１０ｙでハンダ付けされるもの、実装面（表面）１３１０ｘとハンダ面（裏面）１３１０ｙとの配線パターンを電気的に接続するもの、実装面（表面）１３１０ｘのベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）とハンダ面（裏面）１３１０ｙのベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）とを電気的に接続するもの、電子部品を固定するもの）のうち特定のスルーホール（例えば、実装面（表面）１３１０ｘとハンダ面（裏面）１３１０ｙとの配線パターンを電気的に接続するスルーホール）を除いて、各種配線パターンや各種スルーホールが形成される銅薄層（銅プレーン）を覆うように絶縁性を有する所定色（本実施形態では、緑色）のレジスト液が塗布されて実装面側絶縁塗膜１３１０ｘｒ及びハンダ面側絶縁塗膜１３１０ｙｒがそれぞれ形成されている。実装面側絶縁塗膜１３１０ｘｒの上には、さらに、設定キースイッチ１３１１ａを配置する位置を示す領域ＳＳＬＫＳＷ１がシルク印刷として絶縁性を有するものであってレジスト液の所定色と異なる色（本実施形態では、白色）の塗料により実線で印刷されている。なお、レジスト液の色は、緑色に代えて、赤色、黄色、橙色、青色、白色、黒色でもよく、シルク印刷の塗料の色は、レジスト液の色と異なる色であれば、緑色、赤色、黄色、橙色、青色、白色、黒色のうちいずれの色でもよい。

【１８９０】

領域ＳＳＬＫＳＷ１の大きさは、設定キースイッチ１３１１ａの外形と比べて大きく形成されており、領域ＳＳＬＫＳＷ１に設定キースイッチ１３１１ａが配置されて実装（主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙでハンダ付け）された状態では、設定キースイッチ１３１１ａの外形外側に領域ＳＳＬＫＳＷ１の線（四角形の実線）が配置されるようになっている。つまり、設定キースイッチ１３１１ａが実装されても、設定キースイッチ１３１１ａにより領域ＳＳＬＫＳＷ１の線（四角形の実線）が重ならないようになっている。

【１８９１】

［１１－４－２．円柱形状を有する突出部］

ベース体１３０２に形成される突出部１３０２ｐが円柱形状を有するものである場合には、突出部１３０２ｐの前面が円形状となる。設定キースイッチ１３１１ａのＣＯＭ１端子とＣＯＭ２端子とにおける端子間の距離寸法と、設定キースイッチ１３１１ａのＡ端子とＢ端子とにおける端子間の距離寸法は、上述したように、同一の距離寸法を有している。円柱形状を有する突出部１３０２ｐの外径は、設定キースイッチ１３１１ａのＡ端子とＢ端子とにおける端子間の距離寸法の半分より小さい寸法であり、主制御基板ボックス１３２０を組み立てる作業を行っている場合に、スライド移動する突出部１３０２ｐの前面が主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに仮に接触（当接）しても、スライド移動する突出部１３０２ｐの前面が、設定キースイッチ１３１１ａのＡ端子が挿通されてハンダ付けされるスルーホールＳＬＴＨ１のランドと、設定キースイッチ１３１１ａのＢ端子が挿通されてハンダ付けされるスルーホールＳＬＴＨ２のランドと、にそれぞれ接触しない寸法となっている。

【１８９２】

設定キーシリンダ１３１１ａｂの前面に形成される差し込み口１３１１ａｂａに金属製の設定キーが差し込まれた際に、この差し込まれた力により主制御基板１３１０が湾曲して撓むと、円形状を有する突出部１３０２ｐの前面と主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙとが当接することとなる。円形状を有する突出部１３０２ｐの前面と主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙとが当接すると、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙにおける絶縁性を有する所定色（本実施形態では、緑色）のレジスト液が塗布されて形成されるハンダ面側絶縁塗膜１３１０ｙｒが突出部１３０２ｐの前面により擦られ、ハンダ面側絶縁塗膜１３１０ｙｒが削られ、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙにおけるベタグランド（基板グランド）を傷付けるおそれがある。

【１８９３】

そこで、突出部１３０２ｐの前面が当接する主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１

３１０ｙの領域及びその周囲には、図１８６（ｂ）に示すように、銅箔が抜かれた円形状を有する箔抜き領域ＳＩＮＳｙが形成されている。これにより、突出部１３０２ｐによりハンダ面側絶縁塗膜１３１０ｙｒが削られても、突出部１３０２ｐによる主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙにおけるベタグランド（基板グランド）の損傷を防止することができる。銅箔が抜かれた円形状を有する箔抜き領域ＳＩＮＳｙは、限られた基板面積を安全かつ有効に利用している。

【１８９４】

なお、主制御基板ボックス１３２０を組み立てる作業を行う場合には、上述したように、カバー体１３０１の長手方向に沿ってベース体１３０２を特定方向へ向かってスライド移動（移動距離寸法ｓｄ）する必要がある。このとき、ベース体１３０２に形成される突出部１３０２ｐもベース体１３０２とともに特定方向へ向かってスライド移動（移動距離寸法ｓｄ）することとなる。

【１８９５】

そこで、突出部１３０２ｐがスライド移動する領域及びその周囲には、図１８６（ｃ）に示すように、銅箔が抜かれた長穴形状を有する箔抜き領域ＳＩＮＳｙが形成されるようにしてもよい。これにより、主制御基板ボックス１３２０を組み立てる作業を行っている場合に、スライド移動（移動距離寸法ｓｄ）する突出部１３０２ｐによりハンダ面側絶縁塗膜１３１０ｙｒが削られても、突出部１３０２ｐによる主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙにおけるベタグランド（基板グランド）の損傷を防止することができる。銅箔が抜かれた長穴形状を有する箔抜き領域ＳＩＮＳｙは、限られた基板面積を安全かつ有効に利用している。

【１８９６】

［１１－４－３．ベース体の長手方向へ沿って一定幅を有する突出部］

ベース体１３０２に形成される突出部１３０２ｐがベース体１３０２の長手方向へ沿って一定幅（本実施形態では、円柱形状を有する突出部１３０２ｐの外径と同一の寸法を一定幅の寸法としている。）を有するものである場合には、突出部１３０２ｐの前面がベース体１３０２の長手方向に沿って長い矩形状となる。なお、ベース体１３０２の長手方向に沿って長い矩形状を有する突出部１３０２ｐの前面の両端部にはＲ部が施されており、円形状を有している。設定キースイッチ１３１１ａのＣＯＭ１端子とＣＯＭ２端子とにおける端子間の距離寸法と、設定キースイッチ１３１１ａのＡ端子とＢ端子とにおける端子間の距離寸法は、上述したように、同一の距離寸法を有している。円柱形状を有する突出部１３０２ｐの外径は、設定キースイッチ１３１１ａのＡ端子とＢ端子とにおける端子間の距離寸法の半分より小さい寸法であり、主制御基板ボックス１３２０を組み立てる作業を行っている場合に、スライド移動する突出部１３０２ｐの前面が主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに仮に接触（当接）しても、スライド移動する突出部１３０２ｐの前面が、設定キースイッチ１３１１ａのＡ端子が挿通されてハンダ付けされるスルーホールＳＬＴＨ１のランドと、設定キースイッチ１３１１ａのＢ端子が挿通されてハンダ付けされるスルーホールＳＬＴＨ２のランドと、にそれぞれ接触しない寸法となっている。

【１８９７】

設定キーシリンダ１３１１ａｂの前面に形成される差し込み口１３１１ａｂａに金属製の設定キーが差し込まれた際に、この差し込まれた力により主制御基板１３１０が湾曲して撓むと、ベース体１３０２の長手方向に沿って長い矩形状を有する突出部１３０２ｐの前面と主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙとが当接することとなる。ベース体１３０２の長手方向に沿って長い矩形状を有する突出部１３０２ｐの前面と主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙとが当接すると、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙにおける絶縁性を有する所定色（本実施形態では、緑色）のレジスト液が塗布されて形成されるハンダ面側絶縁塗膜１３１０ｙｒが突出部１３０２ｐの前面により擦られ、ハンダ面側絶縁塗膜１３１０ｙｒが削られ、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙにおけるベタグランド（基板グランド）を傷付けるおそれがある。

【１８９８】
そこで、突出部１３０２ｐの前面が当接する主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙの領域及びその周囲には、図１８７（ｄ）に示すように、銅箔が抜かれた、ベース体１３０２の長手方向に沿って長い矩形状を有する箔抜き領域ＳＩＮＳｙが形成されている。箔抜き領域ＳＩＮＳｙの両端にはＲ部が施されており、円形状を有している。これにより、突出部１３０２ｐによりハンダ面側絶縁塗膜１３１０ｙｒが削られても、突出部１３０２ｐによる主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙにおけるベタグランド（基板グランド）の損傷を防止することができる。銅箔が抜かれた、ベース体１３０２の長手方向に沿って長い矩形状を有する箔抜き領域ＳＩＮＳｙは、限られた基板面積を安全かつ有効に利用している。
【１８９９】
なお、主制御基板ボックス１３２０を組み立てる作業を行う場合には、上述したように、カバー体１３０１の長手方向に沿ってベース体１３０２を特定方向へ向かってスライド移動する必要がある。このとき、ベース体１３０２に形成される突出部１３０２ｐもベース体１３０２とともに特定方向へ向かってスライド移動することとなる。
【１９００】
そこで、突出部１３０２ｐがスライド移動する領域及びその周囲には、図１８７（ｅ）に示すように、銅箔が抜かれた長穴形状を有する箔抜き領域ＳＩＮＳｙが形成されるようにしてもよい。これにより、主制御基板ボックス１３２０を組み立てる作業を行っている場合に、スライド移動（移動距離寸法ｓｄ）する突出部１３０２ｐによりハンダ面側絶縁塗膜１３１０ｙｒが削られても、突出部１３０２ｐによる主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙにおけるベタグランド（基板グランド）の損傷を防止することができる。銅箔が抜かれた長穴形状を有する箔抜き領域ＳＩＮＳｙは、限られた基板面積を安全かつ有効に利用している。
【１９０１】
［１１－５．設定変更に使用するＲＷＭスイッチの配置場所の報知］
設定キースイッチ１３１１ａが実装される主制御基板１３１０は、主制御基板ボックス１３２０に収容されて、この主制御基板ボックス１３２０が遊技盤５の基板ホルダ１２００の後側に取付けられている。これに対して、ＲＷＭスイッチ６３３ｄ（ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆとしてもよい）が実装される払出制御基板６３３は、払出制御基板ボックス６３２に収容されて、この払出制御基板ボックス６３２が本体枠４の基板ユニット６２０における電源基板カバー６３１の後側に取付けられている。このように、設定キースイッチ１３１１ａ、及びＲＷＭスイッチ６３３ｄをそれぞれ別々の基板に配置すると共に、基板が取付けられる対象も異なるようにすることで設定キースイッチ１３１１ａ、及びＲＷＭスイッチ６３３ｄを離間させることができる。１つの基板に設定キースイッチ１３１１ａ、及びＲＷＭスイッチ６３３ｄを集約して配置する場合には、１つの基板に対してのみ不正な改変を行えばよく、防犯上好ましくない。そこで、本実施形態では、設定キースイッチ１３１１ａ、及びＲＷＭスイッチ６３３ｄをそれぞれ別々の基板に配置すると共に、基板が取付けられる対象も異なるような構成を採用したことにより、設定キースイッチ１３１１ａ、及びＲＷＭスイッチ６３３ｄに対する防犯性を高めている。
【１９０２】
なお、主制御基板１３１０（主制御ＭＰＵ１３１０ａ）は、遊技準備の制御と遊技の制御とを行う（遊技準備の制御に続いて、遊技の制御を行う）。遊技準備の制御は、主制御基板１３１０の実装面（表面）に実装される設定キースイッチ１３１１ａからの信号に基づいて、設定値の変更可能状態とすることができる第１工程（後述する主制御側電源投入時処理におけるステップＳ１４の判定、ステップＳ１６Ａの処理）と、この第１工程に続いて、払出制御基板６３３のＲＷＭスイッチ６３３ｄ（ここでは、設定値を選択して切り替えるための設定切替ボタンとして機能する。）からの信号に基づいて、設定値を選択して切り替えることができる第２工程（後述する設定変更処理におけるステップＳ２１６の判定、ステップＳ２１８の処理）と、から構成されている。遊技準備の制御に続いて、遊

技の制御は、後述する主制御側電源投入時処理における主制御側メイン処理や後述する主制御側タイマ割込処理等から構成されている。

【１９０３】

このような防犯性を高めることができるものの、設定キースイッチ１３１１ａ、及びＲＷＭスイッチ６３３ｄをそれぞれ別々の基板に配置すると共に、基板が取付けられる対象も異なるような構成を採用したことにより、設定キースイッチ１３１１ａが主制御基板ボックス１３２０に収容されているため、特に設定キースイッチ１３１１ａがどこに配置されているのかを伝える必要がないのに対して、設定切替ボタンの機能を兼ねるＲＷＭスイッチ６３３ｄがどこに配置されているのかを、遊技ホールの店長、遊技ホールの店員等の係員は、不慣れな場合もあるため、わかり難い場合がある。

【１９０４】

そこで、本実施形態では、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの配置場所を伝えることができる所在情報となる表記が主制御基板ボックス１３２０に付されている。具体的には、主制御基板ボックス１３２０のカバー体１３０１には、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの配置場所を伝えることができる図示しないシールが貼られている。このシールは透明な矩形シートであり、この矩形シートには、例えば、赤色の半透明な文字（高さ：７ｍｍ）で「ＲＷＭスイッチ（設定切替ボタン）は払出制御基板にあります」と印刷されている。これにより、ＲＷＭスイッチ６３３ｄ（設定切替ボタン）の配置場所を、遊技ホールの店長、遊技ホールの店員等の係員に伝えることができるため、遊技ホールの店長、遊技ホールの店員等の係員は、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの操作する際に、ＲＷＭスイッチ６３３ｄを容易に見つけ出すことができることにより目が回らずに済む。したがって、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの所在を容易に知ることができる。

【１９０５】

なお、このシールは、主制御基板ボックス１３２０のカバー体１３０１に貼られても、主制御基板１３１０の視認性を妨げるものでもない。また、このシールの矩形シートに印刷される文字に代えて、矢印などの記号でもよい。

【１９０６】

また、上述した実施形態では、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの配置場所を伝えることができる所在情報となる表記として主制御基板ボックス１３２０のカバー体１３０１にシールが貼られていたが、これに代えて、主制御基板ボックス１３２０のカバー体１３０１を成型するときに、凹状の文字又は凸状の文字を併せて成型するようにしてもよい（つまり、カバー体１３０１と文字とを一体成型してするようにしてもよい）。このように構成しても、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの所在を容易に知ることができる。

【１９０７】

また、上述した実施形態では、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの配置場所を伝えることができる所在情報となる表記として主制御基板ボックス１３２０のカバー体１３０１にシールが貼られていたが、これに代えて、主制御基板１３１０の実装面（表面）に文字（高さ：７ｍｍ）「ＲＷＭスイッチ（設定切替ボタン）は払出制御基板にあります」を白色でシルク印刷として印刷してもよいし、払出制御基板６３３の実装面（表面）に文字（高さ：７ｍｍ）「ＲＷＭスイッチ（設定切替ボタン）」を白色でシルク印刷として印刷してもよい。なお、シルク印刷の色は、同一色でもよいし、異なる色でもよい。また、シルク印刷される文字に代えて、矢印などの記号でもよい。このように構成しても、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの所在を容易に知ることができる。

【１９０８】

また、上述した実施形態では、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの配置場所を伝えることができる所在情報となる表記として主制御基板ボックス１３２０のカバー体１３０１にシールが貼られていたが、これに代えて、主制御基板１３１０の実装面（表面）に文字部分をマスクして抜き文字（高さ：７ｍｍ）「ＲＷＭスイッチ（設定切替ボタン）は払出制御基板にあります」としてレジストにより形成してもよいし、払出制御基板６３３の実装面（表面）に文字部分をマスクして抜き文字（高さ：７ｍｍ）「ＲＷＭスイッチ（設定切替ボタン

）」としてレジストにより形成してもよい。なお、レジストの色は同一色でもよいが、異なる色とした方が基板の区別ができて好ましい。また、抜き文字に代えて、矢印などの記号をマスクした抜き記号でもよい。このように構成しても、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの所在を容易に知ることができる。

【１９０９】

また、上述した実施形態では、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの配置場所を伝えることができる所在情報となる表記として主制御基板ボックス１３２０のカバー体１３０１にシールが貼られていたが、これに代えて、主制御基板１３１０の実装面（表面）に同様のシール（このシールは透明な矩形シートであり、この矩形シートには、例えば、赤色の半透明な文字（高さ：７ｍｍ）で「ＲＷＭスイッチ（設定切替ボタン）は払出制御基板にあります」と印刷されている。）を貼ってもよいし、払出制御基板６３３の実装面（表面）に赤色の半透明な文字（高さ：７ｍｍ）で「ＲＷＭスイッチ（設定切替ボタン）」という透明な矩形シートを貼ってもよい。このように構成しても、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの所在を容易に知ることができる。

【１９１０】

また、上述した実施形態では、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの配置場所を伝えることができる所在情報となる表記として主制御基板ボックス１３２０のカバー体１３０１にシールが貼られていたが、これに代えて、ＲＷＭスイッチ６３３ｄがどこに配置されているのかを、アナウンス音声を各種スピーカから流すようにしてもよいし、演出表示装置１６００にアナウンス画像を表示するようにしてもよい。具体的には、例えば、パチンコ機１が電源投入された状態で、遊技ホールの店長、遊技ホールの店員等の係員が演出操作ユニット３００の演出操作部３０１を操作して、演出表示装置１６００に各種設定画面を表示して、ＲＷＭスイッチ６３３ｄ（設定切替ボタン）の配置場所についての項目を選択する。これにより、ＲＷＭスイッチ６３３ｄがどこに配置されているのかを伝える「ＲＷＭスイッチは払出制御基板にあります。ＲＷＭスイッチは設定切替ボタンを兼ねています。」というアナウンス音声が各種スピーカから流れるとともに、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの配置場所を伝えるアナウンス画像（写真で撮影したものでもよい。）が演出表示装置１６００に表示される。遊技ホールの店長、遊技ホールの店員等の係員は、このようなアナウンス音声やアナウンス画像によりＲＷＭスイッチ６３３ｄの配置場所を把握した後に、パチンコ機１の電源を遮断して、設定値の変更をスムーズに行うことができる。このように構成しても、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの所在を容易に知ることができる。

【１９１１】

また、上述した実施形態では、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの配置場所を伝えることができる所在情報となる表記として主制御基板ボックス１３２０のカバー体１３０１にシールが貼られていたが、これに代えて、設定値の設定変更を行う場合に、設定切替ボタンの機能を兼ねるＲＷＭスイッチ６３３ｄがどこに配置されているのかを、アナウンス音声を各種スピーカから流すようにしてもよい。具体的には、例えば、パチンコ機１が電源投入されて主制御ＭＰＵ１３１０ａが設定値を変更決定することができる設定変更処理を行うときに所定のコマンドを周辺制御基板１５１０へ送信することにより、周辺制御基板１５１０の制御によりＲＷＭスイッチ６３３ｄがどこに配置されているのかを伝える「ＲＷＭスイッチは払出制御基板にあります。ＲＷＭスイッチは設定切替ボタンを兼ねています。ＲＷＭスイッチを操作して設定値を変更してください。」というアナウンス音声が各種スピーカから繰り返し流れる。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、設定変更処理を完了すると、周辺制御基板１５１０へ所定のコマンドを送信することにより、周辺制御基板１５１０は、アナウンス音声を停止して受信した所定のコマンドに基づいて各種処理を進行（演出を進行や客待ちの状態の演出（デモ演出）等を進行）することとなる。このように構成しても、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの所在を容易に知ることができる。なお、このようなアナウンス音声に続けて、設定値を決定した後に設定キーの操作方法を伝えるアナウンス音声を各種スピーカから流すようにしてもよい。また、アナウンス音声を流しているときに、演出表示装置１６００に「設定中」という画像を表示するようにしてもよい。

【１９１２】
　また、上述した実施形態では、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの配置場所を伝えることができる所在情報となる表記として主制御基板ボックス１３２０のカバー体１３０１にシールが貼られていたが、これに加えて、設定値の設定変更を行う場合に、設定切替ボタンの機能を兼ねるＲＷＭスイッチ６３３ｄがどこに配置されているのかを、アナウンス音声を各種スピーカから流すようにしてもよい。具体的には、例えば、パチンコ機１が電源投入されて主制御ＭＰＵ１３１０ａが設定値を変更決定することができる設定変更処理を行うときに所定のコマンドを周辺制御基板１５１０へ送信することにより、周辺制御基板１５１０の制御によりＲＷＭスイッチ６３３ｄがどこに配置されているのかを伝える「ＲＷＭスイッチは払出制御基板にあります。ＲＷＭスイッチは設定切替ボタンを兼ねています。ＲＷＭスイッチを操作して設定値を変更してください。」というアナウンス音声が各種スピーカから繰り返し流れる。これにより、主制御基板ボックス１３２０のカバー体１３０１に貼られたシールを探す必要がなくなる。なお、このようなアナウンス音声が各種スピーカから繰り返し流れるものの、アナウンス音声の内容を聞き漏らす場合も想定して、次回のアナウンス音声が流れる始めるまえに、主制御基板ボックス１３２０のカバー体１３０１に貼られたシールを目視することにより、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの配置場所を知ることができるようになっている。アナウンス音声には、「ＲＷＭスイッチは払出制御基板にあります。ＲＷＭスイッチは設定切替ボタンを兼ねています。ＲＷＭスイッチを操作して設定値を変更してください。」に加えて、ＲＷＭスイッチの所在を示すシールが貼られている場所を伝える内容も案内するようにしてもよい。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ＲＷＭスイッチが操作されると、周辺制御基板１５１０へ所定のコマンドを送信することにより、周辺制御基板１５１０は、アナウンス音声を停止する。設定値の設定変更を行う者は、その作業により設定値の設定変更に慣れてきて耳障りとなっている場合にも、その作業を開始してすぐにＲＷＭスイッチを操作すると、これを契機として、アナウンス音声を速やかに停止することができるし、また、やむを得ず遊技ホールの営業開始した後にその作業を行う必要があった場合にも遊技者に迷惑が掛からないように、その作業を開始してすぐにＲＷＭスイッチを操作すると、これを契機として、アナウンス音声を速やかに停止することができる。なお、このようなアナウンス音声に続けて、設定値を決定した後に設定キーの操作方法を伝えるアナウンス音声を各種スピーカから流すようにしてもよい。また、アナウンス音声を流しているときに、演出表示装置１６００に「設定中」という画像を表示するようにしてもよい。
【１９１３】
［１１－６．設定値の設定変更の手順、設定値の確認表示の手順］
　次に、主制御基板１３１０の実装面（表面）に実装される設定キースイッチ１３１１ａ、払出制御基板６３３の実装面（表面）に実装されるＲＷＭスイッチ６３３ｄ、及び主制御基板１３１０の実装面（表面）に実装される設定表示器としての機能を兼ねるベースモニタ１３１０ｈについて簡単に説明する。ここで、まず設定値の設定変更を行う場合について簡単に説明し、現在の設定値の確認表示を行う場合について簡単に説明する。なお、設定キーは、設定値の変更のほかに、設定されている現状の設定値の確認等を行うことができる重要なキーであるため、遊技ホールの店長を含め限られた者のみ所持が許可され、２～３人に限定されている。
【１９１４】
　設定値の設定変更を行う場合には、パチンコ機１の電源投入時や停電後の電力回復時における復電時において、外枠２に対して本体枠４が開放され、主制御基板１３１０の実装面（表面）に実装される設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂの差し込み口１３１１ａｂａに設定キーが差し込まれ、設定キーシリンダ１３１１ａｂが時計方向へ向かって６０度回動操作されてＯＮ操作されることで設定キースイッチ１３１１ａが設定キーＯＮされ、かつ、払出制御基板６３３の実装面（表面）に実装されるＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部が操作されているという「予め定めた設定値変更許可条件」が成立する必要がある。つまり、実際に設定値の設定変更を行う者は、まずパチンコ機

１が電源投入されていない状態（パチンコ機１の電源が遮断されている状態）を確認してから、外枠２に対して本体枠４を開放する作業を行い、続いて設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂの差し込み口１３１１ａｂａに金属製の設定キーを差し込んで時計方向へ向かって６０度回動操作してＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮし、続いてＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部を操作しながら、電源スイッチ６３０ａを操作してパチンコ機１の電源投入を行うこととなる。

【１９１５】

設定値の設定変更を行う者は、まずパチンコ機１が電源投入されていない状態（パチンコ機１の電源が遮断されている状態）を確認してから、外枠２に対して本体枠４を開放する作業を行い、続いて設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂの差し込み口１３１１ａｂａに金属製の設定キーを差し込み、設定キーシリンダを時計方向へ向かって６０度回動操作してＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮとする。続いてＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部を操作しながら、電源スイッチ６３０ａを操作してパチンコ機１の電源投入を行う。これにより、設定キーＯＮの信号が主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力される。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、その内蔵されているＲＡＭの特定領域に格納されている現状の設定値（設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂがＯＮ操作された時点における設定値１～設定値６のうち設定されている値）を設定表示器としての機能を兼ねるベースモニタ１３１０ｈに表示する。

【１９１６】

ベースモニタ１３１０ｈは、上述したように、小数点付き（いわゆる、ドット付き）７セグメントＬＥＤ表示器が６つ一列に連なって構成されているものであり、６桁までの数値を表示することができるものである。ベースモニタ１３１０ｈが設定表示器としての機能する場合には、６つ一列に連なった７セグメントＬＥＤ表示器のうち最も右側に配置される７セグメントＬＥＤ表示器に設定値を表示する（つまり６桁のうち一の位を表示する１桁）ようにしてもよし（この場合、ドットは点灯してもよいし、消灯してもよい。また、ドットを設定変更許可ランプとしての機能を兼ねるようにする場合には、設定変更を行っているときに点灯し、設定変更を完了したときに消灯するようにする。）、６つ一列に連なった７セグメントＬＥＤ表示器のうち、一つの７セグメントＬＥＤ表示器、複数の７セグメントＬＥＤ表示器、またはすべての７セグメントＬＥＤ表示器に設定値を表示する（この場合、ドットは点灯してもよいし、消灯してもよい。また、ドットを設定変更許可ランプとしての機能を兼ねるようにする場合には、設定変更を行っているときに点灯し、設定変更を完了したときに消灯するようにする。）ようにしてもよい。

【１９１７】

設定値の設定変更を行う者は、払出制御基板６３３の実装面（表面）に実装されるＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部を押圧操作すると、ＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号が払出制御基板６３３から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力される。設定値の設定変更を行う者がＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部を押圧操作するごとに、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号に基づいて、現状の設定値から値１ずつ増加し、最大値である設定値６に達すると、初期値である設定値１へ戻り、再び値１ずつ増加し、設定値を設定表示器としての機能を兼ねるベースモニタ１３１０ｈに表示する制御を行う。

【１９１８】

設定値の設定変更を行う者は、設定値を決定する場合には、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように反時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作する。この設定キーＯＦＦの信号が主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力される。これにより、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、設定変更して決定した設定値を主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されているＲＡＭの特定領域に格納し、設定表示器としての機能を兼ねるベースモニタ１３１０ｈに

対して設定値を表示する状態から非表示する状態へ切り替え、その後又は直後（設定値の表示を非表示にした後、ベースモニタ１３１０ｈとして算出結果を表示する前に設定値や算出結果とは別の表示（例えば「－」を表示し、その後にベースモニタ１３１０ｈとして算出結果を表示するようにしてもよい））に、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されているＲＡＭの特定領域から、入球数（遊技盤５に区画形成される遊技領域５ａに設けられる入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数）に対する払出数（入賞口への入球により賞球として払い出される（付与される）遊技球Ｂの球数）の割合の算出結果を表示する制御を行う。すなわち、設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように設定キーシリンダが時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦとするという「予め定めた設定値変更終了条件」が成立することにより、設定値を設定変更可能な期間（設定値の設定変更が可能となる期間）が終了する。

【１９１９】

設定値の設定変更を行う者は、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂの差し込み口１３１１ａｂａから金属製の設定キーを抜き取り、外枠２に対して本体枠４を閉鎖する作業を行い、設定値の設定変更の作業を完了する。

【１９２０】

現在設定されている設定値の確認表示を行う場合には、パチンコ機１の電源投入時や停電後の電力回復時における復電時において、外枠２に対して本体枠４が開放され、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂの差し込み口１３１１ａｂａに設定キーが差し込まれ、設定キーシリンダ１３１１ａｂが時計方向へ向かって６０度回動操作されてＯＮ操作されることで設定キースイッチ１３１１ａが設定キーＯＮされ、かつ、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部が操作されていないという「予め定めた設定値表示許可条件」が成立する必要がある。つまり、実際に現在設定されている設定値の確認表示を行う者は、まずパチンコ機１が電源投入されていない状態（パチンコ機１の電源が遮断されている状態）を確認してから、外枠２に対して本体枠４を開放する作業を行い、続いて設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂの差し込み口１３１１ａｂａに金属製の設定キーを差し込んで時計方向へ向かって６０度回動操作してＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮし、続いてＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部を操作することなく、電源スイッチ６３０ａを操作してパチンコ機１の電源投入を行うこととなる。

【１９２１】

現在設定されている設定値の確認表示を行う者は、まずパチンコ機１が電源投入されていない状態（パチンコ機１の電源が遮断されている状態）を確認してから、外枠２に対して本体枠４を開放する作業を行い、続いて設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂの差し込み口１３１１ａｂａに金属製の設定キーを差し込み、設定キーシリンダを時計方向へ向かって６０度回動操作してＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮとする。続いてＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部を操作することなく、電源スイッチ６３０ａを操作してパチンコ機１の電源投入を行う。これにより、設定キーＯＮの信号が主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力される。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、その内蔵されているＲＡＭの特定領域に格納されている現状の設定値（設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂがＯＮ操作された時点における設定値１～設定値６のうち設定されている値）を設定表示器としての機能を兼ねるベースモニタ１３１０ｈに表示する。このとき、また現在設定されている設定値の確認表示を行う者がＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部を押圧操作しても、この押圧操作に対応して設定値が全く変更されないし、設定表示器１３１０ｇに表示された内容も変更されない。

【１９２２】

ベースモニタ１３１０ｈは、上述したように、小数点付き（いわゆる、ドット付き）７

セグメントＬＥＤ表示器が６つ一列に連なって構成されているものであり、６桁までの数値を表示することができるものである。ベースモニタ１３１０ｈが設定表示器としての機能する場合には、６つ一列に連なった７セグメントＬＥＤ表示器のうち最も右側に配置される７セグメントＬＥＤ表示器に設定値を表示する（つまり６桁のうち一の位を表示する１桁）ようにしてもよし（この場合、ドットは点灯してもよいし、消灯してもよい。また、ドットを設定変更許可ランプとしての機能を兼ねるようにする場合には、現在設定されている設定値の確認を行っているときに点灯し、現在設定されている設定値の確認を完了したときに消灯するようにする。）、６つ一列に連なった７セグメントＬＥＤ表示器のうち、一つの７セグメントＬＥＤ表示器、複数の７セグメントＬＥＤ表示器、またはすべての７セグメントＬＥＤ表示器に設定値を表示する（この場合、ドットは点灯してもよいし、消灯してもよい。また、ドットを設定変更許可ランプとしての機能を兼ねるようにする場合には、現在設定されている設定値の確認を行っているときに点灯し、現在設定されている設定値の確認を完了したときに消灯するようにする。）ようにしてもよい。

【１９２３】

現在設定されている設定値の確認表示を行う者は、現在設定されている設定値の確認を完了すると、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように反時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作する。この設定キーＯＦＦの信号が主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力される。これにより、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、設定表示器としての機能を兼ねるベースモニタ１３１０ｈに対して設定値を表示する状態から非表示する状態へ切り替え、その後又は直後に、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されているＲＡＭの特定領域から、入球数（遊技盤５に区画形成される遊技領域５ａに設けられる入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数）に対する払出数（入賞口への入球により賞球として払い出される（付与される）遊技球Ｂの球数）の割合の算出結果を表示する制御を行う。

【１９２４】

現在設定されている設定値の確認表示を行う者は、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂの差し込み口１３１１ａｂａから金属製の設定キーを抜き取り、外枠２に対して本体枠４を閉鎖する作業を行い、現在設定されている設定値の確認表示の作業を完了する。

【１９２５】

なお、予め定めた設定値変更許可条件は、上述したように、パチンコ機１の電源投入時や停電後の電力回復時における復電時において、外枠２に対して本体枠４が開放され、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂの差し込み口１３１１ａｂａに設定キーが差し込まれ、設定キーシリンダ１３１１ａｂが時計方向へ向かって６０度回動操作されてＯＮ操作されることで設定キーＯＮ操作され、かつ、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部が操作されていることが必要であるのに対して、予め定めた設定値表示許可条件は、上述したように、パチンコ機１の電源投入時や停電後の電力回復時における復電時において、外枠２に対して本体枠４が開放され、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂの差し込み口１３１１ａｂａに設定キーが差し込まれ、設定キーシリンダ１３１１ａｂが時計方向へ向かって６０度回動操作されてＯＮ操作されることで設定キーＯＮ操作され、かつ、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部が操作されていないことが必要である。このように、予め定めた設定値変更許可条件と予め定めた設定値表示許可条件とは、パチンコ機１の電源投入時や停電後の電力回復時における復電時において、外枠２に対して本体枠４が開放され、かつ、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂの差し込み口１３１１ａｂａに設定キーが差し込まれ、設定キーシリンダ１３１１ａｂが時計方向へ向かって６０度回動操作されてＯＮ操作されることで設定キーＯＮ操作されているという点で共通する要件があり、予め定めた設定値変更許可条件には「パチンコ機１の電源投入時や停電後の電力回復時における復電時に、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部が操作されていること」を要件とするのに対して、予め定めた

設定値表示許可条件には「パチンコ機１の電源投入時や停電後の電力回復時における復電時に、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部が操作されていないこと」を要件とする点で相違する。

【１９２６】

［１２．主制御基板における設定キースイッチ及びＲＷＭスイッチの配線パターン］

次に、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装される設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号を伝送する配線パターンと払出制御基板６３３の実装面（表面）に実装されるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号を伝送する配線パターンと、について図１８８及び図１８９を参照して説明する。図１８８は主制御基板の実装面（表面）に実装される各種電子部品の配置の概要を説明する概要図であり、図１８９は主制御基板の主制御ＭＰＵへの各種配線パターンの概要を説明する主制御基板のハンダ面（裏面）の概要図である。ここでは、上述した設定変更基板１３１１に実装される設定キースイッチ１３１１ａが主制御基板１３１０に実装され、主制御基板１３１０のみ主制御基板ボックス１３２０に収容されている例として説明する。

【１９２７】

主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘには、コネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ８、水晶発振器、各種ＩＣ等のＤＩＰタイプの電子部品、設定キースイッチ１３１１ａ、抵抗、集合抵抗、ダイオード、コンデンサ、電解コンデンサ、トランジスタ等のリードタイプの電子部品（リード部品、挿入実装電子部品、ディップ部品）が実装されている。ＤＩＰタイプの電子部品の各リード端子は、主制御基板１３１０に形成されるスルーホールに主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘから主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙへ向かって挿通されて主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙにおいてハンダ付けされて固定される。リードタイプの電子部品（リード部品、挿入実装電子部品、ディップ部品）の各リード端子は、主制御基板１３１０に形成されるスルーホールに主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘから主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙへ向かって挿通されて主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙにおいてハンダ付けされて固定される。

【１９２８】

主制御基板１３１０に入力される各種センサからの各種検出信号は、コネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ５を介してエラー検知機能付き主制御入力回路１３１０ｂ２に入力されているものと、エラー検知機能を有しない主制御入力回路１３１０ｂに入力されているものと、がある。コネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ５は、主制御基板１３１０の上辺近傍であって、上辺中央から左辺へ向かってに順番に配置され、コネクタＭＣＮ５が主制御基板１３１０の上辺近傍であって左辺近傍に配置されている。

【１９２９】

コネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ３を介して入力される各種検出信号は、エラー検知機能付き主制御入力回路１３１０ｂ２に入力され、コネクタＭＣＮ５を介して入力される各種検出信号は、エラー検知機能付き主制御入力回路１３１０ｂ２に入力されているものと、エラー検知機能を有しない主制御入力回路１３１０ｂ（上述した、抵抗とトランジスタとから構成される回路）に入力されているものと、がある。なお、コネクタＭＣＮ４は、周辺制御基板１５１０へのコマンドを出力するためのものである。

【１９３０】

主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘには、複数のエラー検知付き主制御入力回路１３１０ｂ２（本実施形態では、８個のエラー検知機能付き主制御入力回路１３１０ｂ２）が集積されたＤＩＰタイプのＩＣとして複数（本実施形態では、２つ）実装されている。なお、複数のエラー検知付き主制御入力回路１３１０ｂ２をＩＣ化せずに、エラー検知付き主制御入力回路１３１０ｂ２単体を主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに複数実装するようにしてもよい。

【１９３１】

コネクタＭＣＮ６～ＭＣＮ８は、主制御基板１３１０の下辺近傍であって、左辺から下

辺中央へ向かってコネクタＭＣＮ６、コネクタＭＣＮ７、設定キースイッチ１３１１ａ、そしてコネクタＭＣＮ８という順番で配置され、コネクタＭＣＮ８が主制御基板１３１０の下辺近傍であって下辺中央より左辺寄りに配置されている。コネクタＭＣＮ６は、遊技盤５に備える電気的駆動源（ソレノイド）を駆動する信号が出力されるものであり、コネクタＭＣＮ７は、払出制御基板６３３とのコマンドのやり取りに関する信号の入出力を行うとともに、払出制御基板６３３の実装面（表面）に実装されるＲＷＭスイッチ６３３ｄ（以下、「払出制御基板６３３に備えるＲＷＭスイッチ６３３ｄ」と記載する場合がある。）からの検出信号（主ＲＷＭ信号）が入力されるものである。コネクタＭＣＮ８は、検査照合を行う際に、各種信号をやり取りするためのものである。

【１９３２】

主制御基板１３１０の左辺中心と右辺中心とを結ぶ中心線から上方寄りであって主制御基板１３１０の中央から右方寄りに主制御ＭＰＵ１３１０ａが主制御基板１３１０の下辺（上辺）と平行となるように（つまり、主制御基板１３１０の長手方向に沿って）配置されている。この主制御ＭＰＵ１３１０ａは、のＩＣパッケージは、ＺＩＰ（Ｚｉｇｚａｇ Ｉｎ－ｌｉｎｅ Ｐａｃｋａｇｅ）であり、主制御ＭＰＵ１３１０ａの本体底面から垂直に突出するリード端子が交互に折り曲げられることにより主制御ＭＰＵ１３１０ａの本体底面の長手方向に沿って２列に配置されて形成されている。ここでは、説明の都合上、２列に配置されたリード端子を、上側列に配置されたリード端子、下側列に配置されたリード端子として説明する。

【１９３３】

主制御基板１３１０の下辺近傍に配置される設定キースイッチ１３１１ａの上方には、リードタイプの抵抗、ダイオード、コンデンサ等が複数配置され、これらの上方にリードタイプの集合抵抗が左右に２つ一列に主制御基板１３１０の下辺に平行となるように配置され、このリードタイプの左側集合抵抗の上方（つまり、主制御ＭＰＵ１３１０ａから離れる方向）に、払出制御基板６３３に備えるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号（主ＲＷＭ信号）がコネクタＭＣＮ７を介して入力される主制御入力回路１３１０ｂを構成する抵抗ＭＲ２，ＭＲ５が配置されるとともに、このリードタイプの左側集合抵抗の下方に（つまり、リードタイプの左側集合抵抗を境界（防護壁）として）払出制御基板６３３に備えるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号（主ＲＷＭ信号）がコネクタＭＣＮ７を介して入力される主制御入力回路１３１０ｂを構成する抵抗ＭＲ３，ＭＲ４、及びトランジスタＭＴＲ０が配置されている。

【１９３４】

つまり、払出制御基板６３３に備えるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号（主ＲＷＭ信号）がコネクタＭＣＮ７を介して入力される主制御入力回路１３１０ｂは、リードタイプの左側集合抵抗を境界（防護壁）として構成されており、リードタイプの左側集合抵抗の下方には、主制御入力回路１３１０ｂを構成する抵抗ＭＲ３，ＭＲ４、及びトランジスタＭＴＲ０が配置され、リードタイプの左側集合抵抗の上方には、主制御入力回路１３１０ｂを構成する抵抗ＭＲ２，ＭＲ５が配置されている。これにより、リードタイプの左側集合抵抗を防護壁とすることにより、リードタイプの左側集合抵抗の上方に配置される抵抗ＭＲ２，ＭＲ５に対する不正改変を行えないようにすることができ、セキュリティ向上に寄与することができる。さらに、トランジスタＭＴＲ０は、バイアス用抵抗として抵抗ＭＲ３，ＭＲ４が内蔵されているものであるため、この点においても、抵抗ＭＲ３，ＭＲ４に対する不正改変を行えないようにすることができ、セキュリティ向上に寄与することができる。

【１９３５】

主制御基板１３１０の下辺近傍に配置される設定キースイッチ１３１１ａの右方に配置されるコネクタＭＣＮ８の上方には、設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号が入力される主制御入力回路１３１０ｂを構成する抵抗ＭＲ１０～ＭＲ１３、コンデンサＭＣ１０、及びトランジスタＭＴＲ１０が配置されている。なお、トランジスタＭＴＲ１０は、バイアス用抵抗として抵抗ＭＲ１１，ＭＲ１２が内蔵されているものである。これにより

、抵抗ＭＲ１１，ＭＲ１２に対する不正改変を行えないようにすることができ、セキュリティ向上に寄与することができる。

【１９３６】

設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号が入力される主制御入力回路１３１０ｂの右方には、この主制御入力回路１３１０ｂを介して入力される設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号の論理を反転する論理反転回路１３１０ｉｖを構成する抵抗ＭＲ１４～ＭＲ１６、及びトランジスタＭＴＲ１１が配置されている。なお、トランジスタＭＴＲ１１は、バイアス用抵抗として抵抗ＭＲ１４，ＭＲ１５が内蔵されているものである。これにより、抵抗ＭＲ１４，ＭＲ１５に対する不正改変を行えないようにすることができ、セキュリティ向上に寄与することができる。

【１９３７】

主制御基板１３１０の上辺近傍に一列に上辺に平行となるように配置されるコネクタＭＣＮ１～５、主制御基板１３１０の下辺近傍に一列に下辺に平行となるように配置されるコネクタＭＣＮ６～ＭＣ８、及び設定キースイッチ１３１１ａは、主制御基板１３１０が主制御基板ボックス１３２０に収容された状態では、上述したように、その一部が主制御基板ボックス１３２０のカバー体１３０１から露出する状態となり、カバー体１３０１とコネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ８、及び設定キースイッチ１３１１１ａとにより形成されるすき間から不正工具（例えば、細い針金等）を侵入させて、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａを不正改変しようとしても、コネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ８、及び設定キースイッチ１３１１１ａの周辺には、電解コンデンサ、抵抗、ダイオード、コンデンサ、集合抵抗、各種ＩＣ、トランジスタ等の電子部品が配置されるとともに、主制御ＭＰＵ１３１０ａの周辺には、抵抗、ダイオード、コンデンサ、水晶発振器（主制御ＭＰＵ１３１０ａの下方近傍に配置されている。）、集合抵抗、各種ＩＣ等の電子部品が配置されているため、これらの電子部品が障害物又は防護壁となって、不正工具（例えば、細い針金等）を複数屈曲させる必要があり、現実的に不正工具（例えば、細い針金等）が主制御ＭＰＵ１３１０ａに到達することができない。

【１９３８】

主制御基板１３１０には、ＺＩＰタイプの主制御ＭＰＵ１３１０ａの各リート端子が挿通されるスルーホールが複数形成されている。これらのスルーホールに、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘから主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙへ向かって主制御ＭＰＵ１３１０ａの各リード端子が挿通されて主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙでハンダ付けされて固定される。

【１９３９】

主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙには、図１８９に示すように、主制御ＭＰＵ１３１０ａのリート端子のうち、グランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されるリード端子が主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙのベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されている。また、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙには、主制御ＭＰＵ１３１０ａのリート端子のうち、主制御基板側作成＋５Ｖ電源ライン（主制御基板１３１０に備える＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成された＋５Ｖの電源ライン）や電源基板６３０のバックアップ電源回路６３０ｈのキャパシタＢＣ０から供給される主ＶＢＢの電源ラインと電気的に接続される＋５Ｖ電源供給用配線パターンが形成されている。また、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙには、主制御ＭＰＵ１３１０ａのリート端子のうち、リード端子から各種信号を出力する出力信号配線パターン、リード端子に各種信号が入力される入力信号配線パターンが形成されている。

【１９４０】

入力信号配線パターンには、払出制御基板６３３に備えるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号（主ＲＷＭ信号）が入力されるコネクタＭＣＮ７から主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）までに亘るＲＷＭ信号伝送経路を形成するＲＷＭ信号配線パターン（以下、「各種配線パターン」と記載する場合があ

る。）と、設定キースイッチ１３１１ａのＡ端子から主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）までに亘る設定信号伝送経路を形成する設定キー信号配線パターン（以下、「各種配線パターン」と記載する場合がある。）と、停電監視回路１３１０ｅからの検出信号（停電監視回路１３１０ｅを構成するＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２（ＭＩＣ２２Ａ）の１Ｑ端子から主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＢの入力端子ＰＢ０までに亘る停電予告信号伝送経路を形成する停電予告信号配線パターン（以下、「各種配線パターン」と記載する場合がある。）と、が含まれる。

【１９４１】

主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙには、ＺＩＰタイプの主制御ＭＰＵ１３１０ａの各リート端子が挿通されるスルーホールのうち、ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されるものを除くスルーホールの周辺、＋５Ｖ電源供給用配線パターンの周辺、信号出力用配線パターンの周辺、入力信号配線パターンの周辺、及び特定のスルーホール（例えば、実装面（表面）１３１０ｘとハンダ面（裏面）１３１０ｙとの出力信号配線パターンを電気的に接続するスルーホール）の周辺における銅箔が箔抜きされた箔抜き領域が形成されている。

【１９４２】

主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙにおける各種配線パターンが形成される領域、各種スルーホールが形成される領域、及び箔抜きが形成される領域を除いた他の領域は、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙのベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）として形成され、主制御基板１３１０の基材、及び銅薄層（銅プレーン、銅箔面）を覆うように絶縁性を有する所定色（本実施形態では、緑色）のレジスト液が塗布されて主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙの全領域にハンダ面側絶縁塗膜１３１０ｙｒが形成される。

【１９４３】

また、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘには、ＺＩＰタイプの主制御ＭＰＵ１３１０ａの各リート端子が挿通されるスルーホールのうち、ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されるものを除くスルーホールの周辺、＋５Ｖ電源供給用配線パターンの周辺、出力信号配線パターンの周辺、及び特定のスルーホール（例えば、実装面（表面）１３１０ｘとハンダ面（裏面）１３１０ｙとの出力信号配線パターンを電気的に接続するスルーホール）の周辺における銅箔が箔抜きされた箔抜き領域が形成されているものの、ＺＩＰタイプの主制御ＭＰＵ１３１０ａにおける、上側列に配置されたリード端子と、下側列に配置されたリード端子と、の端子間には、ＺＩＰタイプの主制御ＭＰＵ１３１０ａの長手方向に沿って（主制御基板１３１０の左右方向に沿って、主制御基板１３１０の長手方向に沿って、主制御基板１３１０の上辺（下辺又は主制御基板１３１０の左辺中心と右辺中心とを結ぶ中心線と平行に）箔抜き領域が形成されず、ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）が形成されている。

【１９４４】

主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおける出力信号配線パターンが形成される領域、各種スルーホールが形成される領域、及び箔抜きが形成される領域を除いた他の領域は、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘのベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）として形成され、主制御基板１３１０の基材、及び銅薄層（銅プレーン、銅箔面）を覆うように絶縁性を有する所定色（本実施形態では、緑色）のレジスト液が塗布されて主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘの全領域に実装面側絶縁塗膜１３１０ｘｒが形成される。

【１９４５】

なお、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙの銅箔層（銅プレーン、銅箔面）には、主制御ＭＰＵ１３１０ａのリート端子へ引き回される各種配線パターンにより、各種配線パターンと主制御ＭＰＵ１３１０ａの多数のリード端子とにより囲まれる小さい銅箔領域が形成される場合がある。このため、小さい銅箔領域のグランドを安定化する

ために、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘのベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙのベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と、を電気的に接続するベタグランド用スルーホールが形成されている。

【１９４６】

なお、ベタグランド用スルーホールにおけるランドの大きさは、複数の大きさあり、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘと主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙとの配線パターンを電気的に接続する配線パターン用スルーホールのランドの大きさと同一の大きさを有するもの、電子部品のリード端子が挿通されてハンダ面（裏面）１３１０ｙでハンダ付けされるリード端子用スルーホールのランドの大きさと同一の大きさを有するもの、配線パターン用スルーホールのランドの大きさと比べて大きく且つリード端子用スルーホールのランドの大きさと比べて小さいもの、リード端子用スルーホールのランドの大きさと比べて大きいもの等があり、ベタグラン用スルーホールは、主制御基板１３１０の略全面に複数ちりばめて形成されている。これにより、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘのベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙのベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と、を同一のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）となるように安定化させている。

【１９４７】

また、主制御基板１３１０には、各種信号が入力される配線パターンに対しては、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘと主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙとの配線パターンを電気的に接続する配線パターン用スルーホールが全く形成されていないのに対して、各種信号を出力する配線パターンに対しては配線パターンの引き回しで配線パターンの干渉を防ぐために、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘと主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙとの配線パターンを電気的に接続するための配線パターン用スルーホールが複数形成される場合がある。

【１９４８】

なお、主制御基板１３１０には、各種信号が入力される配線パターンに対しては、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘと主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙとの配線パターンを電気的に接続する配線パターン用スルーホールが全く形成されていないようにすることが好ましいが、配線パターンの引き回しにより、他の配線パターンと干渉を回避するために、やむを得ず各種信号が入力される配線パターンに対して、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘと主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙとの配線パターンを電気的に接続する配線パターン用スルーホールを形成する場合がある。

【１９４９】

ところが、各種信号が入力される配線パターンに対して形成される配線パターン用スルーホール（以下、「入力信号配線パターン用スルーホール」と記載する。）を、例えばベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）や主制御基板側作成＋５Ｖ電源ラインと電気的に切り替えるという不正改変が行われると、主制御ＭＰＵ１３１０ａが遊技の進行を制御する重要な電子部品であるため、不正行為者に不正な遊技球が獲得されるおそれがある。

【１９５０】

そこで、入力信号配線パターン用スルーホールに対するセキュリティ対策を講ずる必要がある。

【１９５１】

［１２－１．入力信号配線パターン用スルーホールに対するセキュリティ対策］

入力信号配線パターン用スルーホールに対するセキュリティ対策として、入力信号配線パターン用スルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成（以下、「第１乃至第４実施形態に係る入力信号配線パターン用スルーホールのランドに対する絶縁被膜を被せる構成」）について図１９０～図１９３を参照して説明する。図１９０は主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される第１実施形態に係る入力信号配線パターン用

スルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を説明する概略図（ａ）であり、（ａ）におけるＸ－Ｘ線の断面の概略図（ｂ）であり、（ｂ）の変形例の概略図（ｃ）であり、図１９１は主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される第２実施形態に係る入力信号配線パターン用スルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を説明する概略図（ａ）であり、（ａ）におけるＸ－Ｘ線の断面の概略図（ｂ）であり、（ｂ）の変形例の概略図（ｃ）であり、図１９２は主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される第３実施形態に係る入力信号配線パターン用スルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を説明する概略図（ａ）であり、（ａ）におけるＸ－Ｘ線の断面の概略図（ｂ）であり、（ｂ）の変形例の概略図（ｃ）であり、図１９３は主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される第４実施形態に係る入力信号配線パターン用スルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を説明する概略図（ａ）であり、（ａ）におけるＸ－Ｘ線の断面の概略図（ｂ）であり、（ｂ）の変形例の概略図（ｃ）である。なお、図１９０～図１９３では、同じ機能を奏するものに対しては、同じ符号を付して表した。

【１９５２】

各種スルーホールは、貫通する孔の内周壁に銅メッキが施されて導電性を有している。主制御基板１３１０には、スルーホール以外にノンスルーホールも設けられており、ノンスルーホールは、貫通する孔の内周壁に銅メッキが施されず、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘ及びハンダ面（裏面）１３１０ｙにランドを有していない点で、貫通する孔の内周壁に銅メッキが施されるとともに、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘ及びハンダ面（裏面）１３１０ｙにランドを有するスルーホールと大きく異なっている。ノンスルーホールは、基板を部材に取り付けるために形成されたり、外力が加わる電子部品（配線の着脱が行われるコネクタ等）を基板に固定するために形成されたりするものである。なお、スルーホールのランドに対する絶縁被膜を被せる構成を、電子部品を実装する（つまり、電子部品の各リード端子を挿通する）ためのスルーホールに対して採用することに差し支えはない。また、スルーホールのランドに対する絶縁被膜を被せる構成を、各種信号が出力される配線パターンに対して形成される配線パターン用スルーホール（以下、「出力信号配線パターン用スルーホール」と記載する場合がある。）のランドに対して採用することに差し支えはない。また、スルーホールのランドに対する絶縁被膜を被せる構成を、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘのベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙのベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と、を電気的に接続するベタグランド用スルーホールのランドに対して採用することに差し支えはない。

【１９５３】

［１２－１－１．第１実施形態に係る入力信号配線パターン用スルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成］

第１実施形態に係る入力信号配線パターン用スルーホールのランドに対する絶縁被膜を被せる構成では、図１９０（ａ），（ｂ）に示すように、主制御基板１３１０の基材Ｋ１３１０ｏの板厚方向（主制御基板１３１０の基材Ｋ１３１０ｏの表面垂直（裏面垂直）方向）に対して細い貫通孔が形成されるとともに、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘの銅箔面と、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙの銅箔面と、において銅箔を抜くことで外径ＫＴＨＤ１をそれぞれ有する実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１とハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１が形成されているとともに、実装面（表面）側配線パターンＳＰＴＮやハンダ面（裏面）側配線パターンが形成されている。貫通孔の内周面全体に対して導電性を有するメッキ加工が施されることでスルーホールＫＴＨ１が形成されている。主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１の外径と主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成されるハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１の外径とが外径ＫＴＨＤ１であり同一の大きさとなっている。

【１９５４】

主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１と、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される実装面（表面）側配線パターンＳＰＴＮの一端と、が電気的に接続されているとともに、実装面（表面）側配線パターンＳＰＴＮの他端と、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される他の実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１又は電子部品の特定の端子がハンダ付けされるランド（パッド）と、が電気的に接続されている。

【１９５５】

主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成されるハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１と、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成されるハンダ面（裏面）側配線パターンの一端とが電気的に接続されているとともに、ハンダ面（裏面）側配線パターンの他端と、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成されるハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１又は電子部品の特定の端子がハンダ付けされるランド（パッド）と、が電気的に接続されている。

【１９５６】

主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１と主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成されるハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１とは、スルーホールＫＴＨ１を介して、電気的に接続された状態となっており、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される実装面（表面）側配線パターンＳＰＴＮと、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成されるハンダ面（裏面）側配線パターンと、が主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１、スルーホールＫＴＨ１、そして主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成されるハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１を介して、電気的に接続されている状態となっている。

【１９５７】

主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘの銅箔面の上には、絶縁被膜として緑色のレジスト液が塗布されて実装面側絶縁塗膜１３１０ｘｒが形成されているものの、実装面側絶縁塗膜１３１０ｘｒのうち実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１と対応する領域には、実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１の外径ＫＴＨＤ１より小さい開口径ＫＢｘｒＤ１を有する実装面（表面）側レジスト開口部ＫＢｘｒａが形成されている。

【１９５８】

また、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙの銅箔面上には、絶縁被膜として緑色のレジスト液が塗布されてハンダ面側絶縁塗膜１３１０ｙｒが形成されているものの、ハンダ面側絶縁塗膜１３１０ｙｒのうちハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１と対応する領域には、ハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１の外径ＫＴＨＤ１より小さい開口径ＫＢｙｒＤ１を有するハンダ面（裏面）側レジスト開口部ＫＢｙｒａが形成されている。

【１９５９】

実装面（表面）側レジスト開口部ＫＢｘｒａの開口径ＫＢｘｒＤ１とハンダ面（裏面）側レジスト開口部ＫＢｙｒａの開口径ＫＢｙｒＤ１とが同一の大きさとなっている。

【１９６０】

主制御基板１３１０は、実際には１枚の定尺の銅張積層板（基材）から複数の基板を配置して最終的に切り出して製造されるものである。１枚の定尺の銅張積層板（基材）を製造装置に固定して塗装をする工程、乾燥する工程、孔を空ける行程、他の工程等があり、最終的に各基板が切り出される。

【１９６１】

このように、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおいて、実装面側絶縁塗膜１３１０ｘｒのうち実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１と対応する領域には、実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１の外径ＫＴＨＤ１より小さい開口径ＫＢｘｒＤ１を有する実装面（表面）側レジスト開口部ＫＢｘｒａが形成されているため、実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１の外径ＫＴＨＤ１の外周から実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１の中心へ向

かって実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１の外周部分が絶縁被膜として緑色のレジストにより被さった状態となっている。これにより、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおける実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１の外周部分全体に絶縁被膜として緑色のレジストが被さった状態とすることができるため、銅箔が剥き出しとなっている実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１の面積を小さく抑えることができる。これにより、入力信号配線パターン用スルーホールを、例えばベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）や主制御基板側作成＋５Ｖ電源ラインと電気的に切り替えるという不正改変を行い難くすることができ、入力信号配線パターン用スルーホールに対するセキュリティ対策を講ずることができる。したがって、入力信号配線パターン用スルーホールに対するセキュリティ向上に寄与することができる。

【１９６２】

また、実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１及びハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１は、共に銅箔が剥き出しとなっているため、主制御基板１３１０の実装面（表面）側から実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１に対してコンタクトプローブの先端部を接触させて主制御基板１３１０の電気検査（動作確認や異常電位の確認）を行うことができるし、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）側からハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１に対してコンタクトプローブの先端部を接触させて主制御基板１３１０の電気検査（動作確認や異常電位の確認）を行うことができる。つまり、実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１及びハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１を主制御基板１３１０の電気検査を行う場合に、チェック端子として利用することができる。なお、コンタクトプローブとして、専用のプローブでもよいし、いわゆる「テスタ」の導通チェックを行うテストリードであってもよい。

【１９６３】

なお、第１実施形態に係る入力信号配線パターン用スルーホールのランドに対する絶縁被膜を被せる構成では、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙにおいて、ハンダ面側絶縁塗膜１３１０ｙｒのうちハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１と対応する領域には、ハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１の外径ＫＴＨＤ１より小さい開口径ＫＢｙｒＤ１を有するハンダ面（裏面）側レジスト開口部ＫＢｙｒａが形成されることにより、ハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１の外径ＫＴＨＤ１の外周からハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１の中心へ向かってハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１の外周部分が絶縁被膜として緑色のレジストにより被さった状態となっていたが、図１９０（ｃ）に示すように、ハンダ面側絶縁塗膜１３１０ｙｒのうちハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１と対応する領域には、ハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１の外径ＫＴＨＤ１より大きい開口径ＫＢｙｒＤ２（＞開口径ＫＢｙｒＤ１）を有するハンダ面（裏面）側レジスト開口部ＫＢｙｒａが形成されるようにしてもよい。これは、パチンコ機１には主制御基板１３１０が主制御基板ボックス１３２０に収容された状態で遊技盤５の裏面側に配置されているため、このような状態で主制御基板１３１０に対して不正改変を行う場合には、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘしか目視することができないからである。また、主制御基板１３１０の検査を行う作業者は、主制御基板１３１０に形成される複数の各種スルーホールのうち、どのスルーホールが入力信号配線パターン用スルーホールであるかを判別する際に、実装面（表面）１３１０ｘのランドとハンダ面（裏面）１３１０ｙのランドとの大きさを比べることで入力信号配線パターン用スルーホールであるか否かを判別することに寄与することができる。

【１９６４】

［１２－１－２．第２実施形態に係る入力信号配線パターン用スルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成］

第２実施形態に係る入力信号配線パターン用スルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、図１９１（ａ），（ｂ）に示すように、主制御基板１３１０の基材Ｋ１３１０ｏの板厚方向（主制御基板１３１０の基材Ｋ１３１０ｏの表面垂直（裏面垂直）方向）に対して細い貫通孔が形成されるとともに、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘの銅箔面と、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙの銅箔面と、に

おいて銅箔を抜くことで外径ＫＴＨＤ１をそれぞれ有する実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１とハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１が形成されているとともに、実装面（表面）側配線パターンＳＰＴＮやハンダ面（裏面）側配線パターンが形成されている。貫通孔の内周面全体に対して導電性を有するメッキ加工が施されることでスルーホールＫＴＨ１が形成されている。主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１の外径と主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成されるハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１の外径とが外径ＫＴＨＤ１であり同一の大きさとなっており、上述した第１実施形態に係る入力信号配線パターン用スルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成における実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１の外径とハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１の外径と同一の大きさとなっている。

【１９６５】

主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１と、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される実装面（表面）側配線パターンＳＰＴＮの一端と、が電気的に接続されているとともに、実装面（表面）側配線パターンＳＰＴＮの他端と、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される他の実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１又は電子部品の特定の端子がハンダ付けされるランド（パッド）と、が電気的に接続されている。

【１９６６】

主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成されるハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１と、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成されるハンダ面（裏面）側配線パターンの一端とが電気的に接続されているとともに、ハンダ面（裏面）側配線パターンの他端と、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成されるハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１又は電子部品の特定の端子がハンダ付けされるランド（パッド）と、が電気的に接続されている。

【１９６７】

主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘの銅箔面の上には、絶縁被膜として緑色のレジスト液が塗布されて実装面側絶縁塗膜１３１０ｘｒが形成されているものの、実装面側絶縁塗膜１３１０ｘｒのうち実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１と対応する領域には、実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１の外径ＫＴＨＤ１より小さく、且つ、上述した第１実施形態に係る入力信号配線パターン用スルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成における開口径ＫＢｙｒＤ１の外径よりさらに小さく、且つ、スルーホールＫＴＨ１の孔の内径より大きい開口径ＫＢｘｒＤ１を有する実装面（表面）側レジスト開口部ＫＢｘｒａが形成されている。この開口径ＫＢｘｒＤ２の内径は、スルーホールＫＴＨ１の孔における実装面（表面）側内周縁から同心円状に外側へ広がるレジスト液侵入防止領域が加味されたものであり、スルーホールＫＴＨ１の孔における実装面（表面）側内周縁からレジスト液侵入防止距離寸法（レジスト液侵入防止距離寸法は、緑色のレジスト液が主制御基板１３１０のスルーホールＫＴＨ１の孔への侵入を防止するために、少なくとも、０．５ｍｍ以上の距離寸法が必要であり、第２実施形態に係る入力信号配線パターン用スルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、０．５ｍｍが採用されている。）だけ離れた大きさとなっている。このため、開口径ＫＢｘｒＤ２の内径は、スルーホールＫＴＨ１の孔の内径に対してレジスト液侵入防止距離寸法（０．５ｍｍ）を２倍したものを加えたものとなり、スルーホールＫＴＨ１の孔の内径より１．０ｍｍだけ大きいものとなっている。

【１９６８】

これに対して、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙの銅箔面上には、絶縁被膜として緑色のレジスト液が塗布されてハンダ面側絶縁塗膜１３１０ｙｒが形成されているものの、ハンダ面側絶縁塗膜１３１０ｙｒのうちハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１と対応する領域には、ハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１の外径ＫＴＨＤ１より小さい開口径ＫＢｙｒＤ１を有するハンダ面（裏面）側レジスト開口部ＫＢｙｒａが形成されている。開口径ＫＢｙｒＤ１の外径は、上述した第１実施形態に係る入力信号配線パタ

ーン用スルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成における開口径ＫＢｙｒＤ１の外径と同一の大きさとなっている。

【１９６９】

主制御基板１３１０は、実際には１枚の定尺の銅張積層板（基材）から複数の基板を配置して最終的に切り出して製造されるものである。１枚の定尺の銅張積層板（基材）を製造装置に固定して塗装をする工程、乾燥する工程、孔を空ける行程、他の工程等があり、最終的に各基板が切り出される。

【１９７０】

このように、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおいて、実装面側絶縁塗膜１３１０ｘｒのうち実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１と対応する領域には、実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１の外径ＫＴＨＤ１より小さく、且つ、上述した第１実施形態に係る入力信号配線パターン用スルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成における開口径ＫＢｙｒＤ１の外径よりさらに小さく、且つ、スルーホールＫＴＨ１の孔の内径より大きい開口径ＫＢｘｒＤ１を有する実装面（表面）側レジスト開口部ＫＢｘｒａが形成されているため、実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１の外径ＫＴＨＤ１の外周から実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１の中心へ向かって実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１のうちレジスト液侵入防止領域（つまり、スルーホールＫＴＨ１の孔における実装面（表面）側内周縁からレジスト液侵入防止距離寸法（０．５ｍｍ）だけ離れた位置までに亘る領域）を除いて外周部分が絶縁被膜として緑色のレジストにより被さった状態となっている。これにより、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおける実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１のほぼ内側から外周部分全体に亘って（つまり、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおける実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１のうちレジスト液侵入防止領域を除いた領域に亘って）絶縁被膜として緑色のレジストが被さった状態とすることができるため、銅箔が剥き出しとなっている部分がレジスト液侵入防止領域となることにより、銅箔が剥き出しとなっている実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１の面積を、第１実施形態に係る入力信号配線パターン用スルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成におけるものと比べると、極めて小さく抑えることができる。これにより、入力信号配線パターン用スルーホールを、例えばベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）や主制御基板側作成＋５Ｖ電源ラインと電気的に切り替えるという不正改変を行い難くすることができ、入力信号配線パターン用スルーホールに対するセキュリティ対策を講ずることができる。したがって、入力信号配線パターン用スルーホールに対するセキュリティ向上に寄与することができる。

【１９７１】

また、主制御基板１３１０のスルーホールＫＴＨ１の孔に対してレジスト液侵入防止領域が設けられているため、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘの銅箔面の上に絶縁被膜として緑色のレジスト液が塗布される場合に、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘが鉛直上向きとなるように（主制御基板１３１０は、実際には１枚の定尺の銅張積層板（基材）から複数の基板を配置して最終的に切り出して製造されるため、１枚の定尺の銅張積層板（基材）の前面が鉛直上向きとなるように）製造装置に固定されて実際に緑色のレジスト液が塗布されても、緑色のレジスト液が主制御基板１３１０のスルーホールＫＴＨ１の孔へ侵入し、この孔を塞ぐことなく乾燥されるようになっている。

【１９７２】

また、実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１及びハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１は、共に銅箔が剥き出しとなっているため、主制御基板１３１０の実装面（表面）側から実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１に対してコンタクトプローブの先端部を接触させて主制御基板１３１０の電気検査（動作確認や異常電位の確認）を行うことができるし、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）側からハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１に対してコンタクトプローブの先端部を接触させて主制御基板１３１０の電気検査（動作確認や異常電位の確認）を行うことができる。つまり、実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１及びハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１を主制御基板１３１０の電気検査を行う場合に、チェッ

ク端子として利用することができる。なお、コンタクトプローブとして、専用のプローブでもよいし、いわゆる「テスタ」の導通チェックを行うテストリードであってもよい。

【１９７３】

なお、第２実施形態に係る入力信号配線パターン用スルーホールのランドに対する絶縁被膜を被せる構成では、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙにおいて、ハンダ面側絶縁塗膜１３１０ｙｒのうちハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１と対応する領域には、ハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１の外径ＫＴＨＤ１より小さい開口径ＫＢｙｒＤ１を有するハンダ面（裏面）側レジスト開口部ＫＢｙｒａが形成されることにより、ハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１の外径ＫＴＨＤ１の外周からハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１の中心へ向かってハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１の外周部分が絶縁被膜として緑色のレジストにより被さった状態となっていたが、図１９１（ｃ）に示すように、ハンダ面側絶縁塗膜１３１０ｙｒのうちハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１と対応する領域には、ハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１の外径ＫＴＨＤ１より大きい開口径ＫＢｙｒＤ２（＞開口径ＫＢｙｒＤ１）を有するハンダ面（裏面）側レジスト開口部ＫＢｙｒａが形成されるようにしてもよい。これは、パチンコ機１には主制御基板１３１０が主制御基板ボックス１３２０に収容された状態で遊技盤５の裏面側に配置されているため、このような状態で主制御基板１３１０に対して不正改変を行う場合には、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘしか目視することができないからである。また、主制御基板１３１０の検査を行う作業者は、主制御基板１３１０に形成される複数の各種スルーホールのうち、どのスルーホールが入力信号配線パターン用スルーホールであるかを判別する際に、実装面（表面）１３１０ｘのランドとハンダ面（裏面）１３１０ｙのランドとの大きさを比べることで入力信号配線パターン用スルーホールであるか否かを判別することに寄与することができる。

【１９７４】

［１２－１－３．第３実施形態に係る入力信号配線パターン用スルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成］

第３実施形態に係る入力信号配線パターン用スルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、図１９２（ａ），（ｂ）に示すように、主制御基板１３１０の基材Ｋ１３１０ｏの板厚方向（主制御基板１３１０の基材Ｋ１３１０ｏの表面垂直（裏面垂直）方向）に対して細い貫通孔が形成されるとともに、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘの銅箔面と、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙの銅箔面と、において銅箔を抜くことで外径ＫＴＨＤ１をそれぞれ有する実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１とハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１が形成されているとともに、実装面（表面）側配線パターンＳＰＴＮやハンダ面（裏面）側配線パターンが形成されている。貫通孔の内周面全体に対して導電性を有するメッキ加工が施されることでスルーホールＫＴＨ１が形成されている。主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１の外径と主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成されるハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１の外径とが外径ＫＴＨＤ１であり同一の大きさとなっており、上述した第１実施形態に係る入力信号配線パターン用スルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成における実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１の外径とハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１の外径と同一の大きさとなっている。

【１９７５】

主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１と、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される実装面（表面）側配線パターンＳＰＴＮの一端と、が電気的に接続されているとともに、実装面（表面）側配線パターンＳＰＴＮの他端と、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される他の実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１又は電子部品の特定の端子がハンダ付けされるランド（パッド）と、が電気的に接続されている。

【１９７６】

主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘの銅箔面の上には、絶縁被膜として緑

色のレジスト液が塗布されて実装面側絶縁塗膜１３１０ｘｒが形成されているため、実装面側絶縁塗膜１３１０ｘｒのうち実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１と対応する領域も絶縁被膜として緑色のレジスト液が塗布されて実装面側絶縁塗膜１３１０ｘｒが形成されている。

【１９７７】

主制御基板１３１０は、実際には１枚の定尺の銅張積層板（基材）から複数の基板を配置して最終的に切り出して製造されるものである。１枚の定尺の銅張積層板（基材）を製造装置に固定して塗装をする工程、乾燥する工程、孔を空ける行程、他の工程等があり、最終的に各基板が切り出される。このため、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘの銅箔面の上に、絶縁被膜として緑色のレジスト液が塗布される場合に、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘが鉛直上向きとなるように（主制御基板１３１０は、実際には１枚の定尺の銅張積層板（基材）から複数の基板を配置して最終的に切り出して製造されるため、１枚の定尺の銅張積層板（基材）の前面が鉛直上向きとなるように）製造装置に固定され、主制御基板１３１０のスルーホールＫＴＨ１の孔における実装面（表面）側内周縁から緑色のレジスト液が侵入し、この孔を塞ぐこととなる。主制御基板１３１０のスルーホールＫＴＨ１の孔に侵入した緑色のレジスト液は、自重により、スルーホールＫＴＨ１の孔における実装面（表面）側内周縁から孔の中央へ向かって窪んだ状態となって乾燥することとなる。

【１９７８】

これに対して、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙの銅箔面上には、絶縁被膜として緑色のレジスト液が塗布されてハンダ面側絶縁塗膜１３１０ｙｒが形成されているものの、ハンダ面側絶縁塗膜１３１０ｙｒのうちハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１と対応する領域には、ハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１の外径ＫＴＨＤ１より小さい開口径ＫＢｙｒＤ１を有するハンダ面（裏面）側レジスト開口部ＫＢｙｒａが形成されている。開口径ＫＢｙｒＤ１の外径は、上述した第１実施形態に係る入力信号配線パターン用スルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成における開口径ＫＢｙｒＤ１の外径と同一の大きさとなっている。

【１９７９】

このように、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおいて、実装面側絶縁塗膜１３１０ｘｒのうち実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１と対応する領域も絶縁被膜として緑色のレジストにより被さった状態となっているとともに、主制御基板１３１０のスルーホールＫＴＨ１の孔における実装面（表面）側内周縁から緑色のレジスト液が侵入し、この孔を塞いだ状態となっている。これにより、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおける実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１の全体とスルーホールＫＴＨ１の孔とを絶縁被膜として緑色のレジストが被さった状態とすることができるため、実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１を銅箔が剥き出しとならず、且つ、スルーホールＫＴＨ１の孔の内周面全体に施された導電性を有するメッキ部分が主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘから剥き出しとならないようにすることができる。また、主制御基板１３１０のスルーホールＫＴＨ１の孔を塞いだ状態とすることができる。これにより、入力信号配線パターン用スルーホールを、例えばベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）や主制御基板側作成＋５Ｖ電源ラインと電気的に切り替えるという不正改変を行い難くすることができ、入力信号配線パターン用スルーホールに対するセキュリティ対策を講ずることができる。したがって、入力信号配線パターン用スルーホールに対するセキュリティ向上に寄与することができる。

【１９８０】

また、主制御基板１３１０のスルーホールＫＴＨ１の孔における実装面（表面）側内周縁から緑色のレジスト液が侵入し、この孔を塞いだ状態となっているものの、主制御基板１３１０のスルーホールＫＴＨ１の孔におけるハンダ面（裏面）側は開放された状態となっている。つまり、主制御基板１３１０のスルーホールＫＴＨ１の孔は、実装面（表面）側が緑色のレジスト液により塞がれているのに対して、ハンダ面（裏面）側が開放されて

いる。これは、主制御基板１３１０のスルーホールＫＴＨ１の孔における実装面（表面）側内周縁から緑色のレジスト液が侵入し、主制御基板１３１０のスルーホールＫＴＨ１の孔の内部に空気が残った状態で主制御基板１３１０のスルーホールＫＴＨ１のハンダ面（裏面）側を塞いだ状態とすると、レジスト除去液等の液体がスルーホールＫＴＨ１の内部に残留するおそれがあり、この液体の影響によりスルーホールＫＴＨ１の内部の導電性を有するメッキが腐食することで接触不良が起きたり、熱が加わるハンダ（リフローなど）工程等においてスルーホールＫＴＨ１の内部の液体が瞬間的に気化して膨張（いわゆる、「水蒸気爆発」）することによりスルーホールＫＴＨ１の内部の導電性を有するメッキが破損することでスルーホールＫＴＨ１の電気的な切断が起きたりするおそれがあるからである。

【１９８１】

また、実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１やスルーホールＫＴＨ１の孔は存在するものの、緑色のレジストによりその存在を隠すことができるようになっているため、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにベタ塗りされた緑色のレジストに対して、実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１を目立たなくすることができるし、スルーホールＫＴＨ１の孔を目立たなくすることができる。これにより、入力信号配線パターン用スルーホールを、例えばベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）や主制御基板側作成＋５Ｖ電源ラインと電気的に切り替えるという不正改変を行おうとする不正行為者に対して、入力信号配線パターン用スルーホール（実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１やスルーホールＫＴＨ１の孔）を発見し難くすることができる。

【１９８２】

また、ハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１は、共に銅箔が剥き出しとなっているため、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）側からハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１に対してコンタクトプローブの先端部を接触させて主制御基板１３１０の電気検査（動作確認や異常電位の確認）を行うことができる。つまり、ハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１を主制御基板１３１０の電気検査を行う場合に、チェック端子として利用することができる。なお、コンタクトプローブとして、専用のプローブでもよいし、いわゆる「テスタ」の導通チェックを行うテストリードであってもよい。

【１９８３】

なお、第３実施形態に係る入力信号配線パターン用スルーホールのランドに対する絶縁被膜を被せる構成では、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙにおいて、ハンダ面側絶縁塗膜１３１０ｙｒのうちハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１と対応する領域には、ハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１の外径ＫＴＨＤ１より小さい開口径ＫＢｙｒＤ１を有するハンダ面（裏面）側レジスト開口部ＫＢｙｒａが形成されることにより、ハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１の外径ＫＴＨＤ１の外周からハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１の中心へ向かってハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１の外周部分が絶縁被膜として緑色のレジストにより被さった状態となっていたが、図１９２（ｃ）に示すように、ハンダ面側絶縁塗膜１３１０ｙｒのうちハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１と対応する領域には、ハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１の外径ＫＴＨＤ１より大きい開口径ＫＢｙｒＤ２（＞開口径ＫＢｙｒＤ１）を有するハンダ面（裏面）側レジスト開口部ＫＢｙｒａが形成されるようにしてもよい。これは、パチンコ機１には主制御基板１３１０が主制御基板ボックス１３２０に収容された状態で遊技盤５の裏面側に配置されているため、このような状態で主制御基板１３１０に対して不正改変を行う場合には、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘしか目視することができないからである。また、主制御基板１３１０の検査を行う作業者は、主制御基板１３１０に形成される複数の各種スルーホールのうち、どのスルーホールが入力信号配線パターン用スルーホールであるかを判別する際に、実装面（表面）１３１０ｘのランドとハンダ面（裏面）１３１０ｙのランドとの大きさを比べることで入力信号配線パターン用スルーホールであるか否かを判別することに寄与することができる。

【１９８４】

［１２－１－４．第４実施形態に係る入力信号配線パターン用スルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成］

第４実施形態に係る入力信号配線パターン用スルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、図１９３（ａ），（ｂ）に示すように、主制御基板１３１０の基材Ｋ１３１０ｏの板厚方向（主制御基板１３１０の基材Ｋ１３１０ｏの表面垂直（裏面垂直）方向）に対して細い貫通孔が形成されるとともに、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘの銅箔面と、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙの銅箔面と、において銅箔を抜くことで外径ＫＴＨＤ１をそれぞれ有する実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１とハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１が形成されているとともに、実装面（表面）側配線パターンＳＰＴＮやハンダ面（裏面）側配線パターンが形成されている。貫通孔の内周面全体に対して導電性を有するメッキ加工が施されることでスルーホールＫＴＨ１が形成されている。主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１の外径と主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成されるハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１の外径とが外径ＫＴＨＤ１であり同一の大きさとなっており、上述した第１実施形態に係る入力信号配線パターン用スルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成における実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１の外径とハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１の外径と同一の大きさとなっている。

【１９８５】

主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１と、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される実装面（表面）側配線パターンＳＰＴＮの一端と、が電気的に接続されているとともに、実装面（表面）側配線パターンＳＰＴＮの他端と、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される他の実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１又は電子部品の特定の端子がハンダ付けされるランド（パッド）と、が電気的に接続されている。

【１９８６】

主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘの銅箔面の上には、絶縁被膜として緑色のレジスト液が塗布されて実装面側絶縁塗膜１３１０ｘｒが形成されているものの、実装面側絶縁塗膜１３１０ｘｒのうち実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１と対応する領域には、実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１の外径ＫＴＨＤ１より小さい開口径ＫＢｘｒＤ１を有する実装面（表面）側レジスト開口部ＫＢｘｒａが形成されている。開口径ＫＢｘｒＤ１の外径は、上述した第１実施形態に係る入力信号配線パターン用スルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成における開口径ＫＢｘｒＤ１の外径と同一の大きさとなっている。

【１９８７】

これに対して、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙの銅箔面の上には、絶縁被膜として緑色のレジスト液が塗布されてハンダ面側絶縁塗膜１３１０ｙｒが形成されているため、ハンダ面側絶縁塗膜１３１０ｙｒのうちハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１と対応する領域も絶縁被膜として緑色のレジスト液が塗布されてハンダ面側絶縁塗膜１３１０ｙｒが形成されている。

【１９８８】

主制御基板１３１０は、実際には１枚の定尺の銅張積層板（基材）から複数の基板を配置して最終的に切り出して製造されるものである。１枚の定尺の銅張積層板（基材）を製造装置に固定して塗装をする工程、乾燥する工程、孔を空ける行程、他の工程等があり、最終的に各基板が切り出される。このため、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙの銅箔面の上に、絶縁被膜として緑色のレジスト液が塗布される場合に、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙが鉛直上向きとなるように（主制御基板１３１０は、実際には１枚の定尺の銅張積層板（基材）から複数の基板を配置して最終的に切り出して製造されるため、１枚の定尺の銅張積層板（基材）の後面が鉛直上向きとなるように）製造装置に固定され、主制御基板１３１０のスルーホールＫＴＨ１の孔におけるハンダ面（裏面）側内周縁から緑色のレジスト液が侵入し、この孔を塞ぐこととなる。主制御

基板１３１０のスルーホールＫＴＨ１の孔に侵入した緑色のレジスト液は、自重により、スルーホールＫＴＨ１の孔におけるハンダ面（裏面）側内周縁から孔の中央へ向かって窪んだ状態となって乾燥することとなる。

【１９８９】

このように、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおいて、実装面側絶縁塗膜１３１０ｘｒのうち実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１と対応する領域には、実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１の外径ＫＴＨＤ１より小さい開口径ＫＢｘｒＤ１を有する実装面（表面）側レジスト開口部ＫＢｘｒａが形成されているため、実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１の外径ＫＴＨＤ１の外周から実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１の中心へ向かって実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１の外周部分が絶縁被膜として緑色のレジストにより被さった状態となっている。また、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙにおいて、ハンダ面側絶縁塗膜１３１０ｙｒのうちハンダ面（裏面）側ランドＫＲＤｙ１と対応する領域も絶縁被膜として緑色のレジストにより被さった状態となっているとともに、主制御基板１３１０のスルーホールＫＴＨ１の孔におけるハンダ面（裏面）側内周縁から緑色のレジスト液が侵入し、この孔を塞いだ状態となっている。これにより、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおける実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１の外周部分全体に絶縁被膜として緑色のレジストが被さった状態とすることができるため、銅箔が剥き出しとなっている実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１の面積を小さく抑えることができるとともに、主制御基板１３１０のスルーホールＫＴＨ１の孔を塞いだ状態とすることができる。これにより、入力信号配線パターン用スルーホールを、例えばベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）や主制御基板側作成＋５Ｖ電源ラインと電気的に切り替えるという不正改変を行い難くすることができ、入力信号配線パターン用スルーホールに対するセキュリティ対策を講ずることができる。したがって、入力信号配線パターン用スルーホールに対するセキュリティ向上に寄与することができる。

【１９９０】

また、実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１は、銅箔が剥き出しとなっているため、主制御基板１３１０の実装面（表面）側から実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１に対してコンタクトプローブの先端部を接触させて主制御基板１３１０の電気検査（動作確認や異常電位の確認）を行うことができる。つまり、実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１を主制御基板１３１０の電気検査を行う場合に、チェック端子として利用することができる。なお、コンタクトプローブとして、専用のプローブでもよいし、いわゆる「テスタ」の導通チェックを行うテストリードであってもよい。

【１９９１】

また、主制御基板１３１０のスルーホールＫＴＨ１の孔におけるハンダ面（裏面）側内周縁から緑色のレジスト液が侵入し、この孔を塞いだ状態となっているものの、主制御基板１３１０のスルーホールＫＴＨ１の孔における実装面（表面）側は開放された状態となっている。つまり、主制御基板１３１０のスルーホールＫＴＨ１の孔は、ハンダ面（裏面）側が緑色のレジスト液により塞がれているのに対して、実装面（表面）側が開放されている。これは、主制御基板１３１０のスルーホールＫＴＨ１の孔におけるハンダ面（裏面）側内周縁から緑色のレジスト液が侵入し、主制御基板１３１０のスルーホールＫＴＨ１の孔の内部に空気が残った状態で主制御基板１３１０のスルーホールＫＴＨ１の実装面（表面）側を塞いだ状態とすると、レジスト除去液等の液体がスルーホールＫＴＨ１の内部に残留するおそれがあり、この液体の影響によりスルーホールＫＴＨ１の内部の導電性を有するメッキが腐食することで接触不良が起きたり、熱が加わるハンダ（リフローなど）工程等においてスルーホールＫＴＨ１の内部の液体が瞬間的に気化して膨張（いわゆる、「水蒸気爆発」）することによりスルーホールＫＴＨ１の内部の導電性を有するメッキが破損することでスルーホールＫＴＨ１の電気的な切断が起きたりするおそれがあるからである。

【１９９２】

また、実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１やスルーホールＫＴＨ１の孔は存在するもの

の、実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１は主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおける緑色のレジストによりその存在を隠すことができ、スルーホールＫＴＨ１の孔は主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙにおける緑色のレジストによりその存在を隠すことができるようになっているため、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにベタ塗りされた白色のレジストに対して、実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１を目立たなくすることができるし、スルーホールＫＴＨ１の孔を目立たなくすることができる。これにより、入力信号配線パターン用スルーホールを、例えばベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）や主制御基板側作成＋５Ｖ電源ラインと電気的に切り替えるという不正改変を行おうとする不正行為者に対して、入力信号配線パターン用スルーホール（実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１やスルーホールＫＴＨ１の孔）を発見し難くすることができる。

【１９９３】

なお、第４実施形態に係る入力信号配線パターン用スルーホールのランドに対する絶縁被膜を被せる構成では、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおいて、実装面側絶縁塗膜１３１０ｘｒのうち実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１と対応する領域には、実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１の外径ＫＴＨＤ１より小さい開口径ＫＢｘｒＤ１を有する実装面（表面）側レジスト開口部ＫＢｘｒａが形成されることにより、実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１の外径ＫＴＨＤ１の外周から実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１の中心へ向かって実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１の外周部分が絶縁被膜として白色のレジストにより被さった状態となっていたが、図１９３（ｂ）に示すように、実装面側絶縁塗膜１３１０ｘｒのうち実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１と対応する領域には、実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１の外径ＫＴＨＤ１より小さく、且つ、開口径ＫＢｙｒＤ１の外径よりさらに小さく、且つ、スルーホールＫＴＨ１の孔の内径より大きい開口径ＫＢｘｒＤ２を有する実装面（表面）側レジスト開口部ＫＢｘｒａが形成されるようにしてもよい。この開口径ＫＢｘｒＤ２の内径は、スルーホールＫＴＨ１の孔における実装面（表面）側内周縁から同心円状に外側へ広がるレジスト液侵入防止領域が加味されたものであり、スルーホールＫＴＨ１の孔における実装面（表面）側内周縁からレジスト液侵入防止距離寸法（レジスト液侵入防止距離寸法は、白色のレジスト液が主制御基板１３１０のスルーホールＫＴＨ１の孔への侵入を防止するために、少なくとも、０．５ｍｍ以上の距離寸法が必要であり、第４実施形態に係る入力信号配線パターン用スルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、０．５ｍｍが採用されている。）だけ離れた大きさとなっている。このため、開口径ＫＢｘｒＤ２の内径は、スルーホールＫＴＨ１の孔の内径に対してレジスト液侵入防止距離寸法（０．５ｍｍ）を２倍したものを加えたものとなり、スルーホールＫＴＨ１の孔の内径より１．０ｍｍだけ大きいものとなっている。

【１９９４】

これにより、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおける実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１のほぼ内側から外周部分全体に亘って（つまり、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおける実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１のうちレジスト液侵入防止領域を除いた領域に亘って）絶縁被膜として緑色のレジストが被さった状態とすることができるため、銅箔が剥き出しとなっている部分がレジスト液侵入防止領域となることにより、銅箔が剥き出しとなっている実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１の面積を極めて小さく抑えることができる。

【１９９５】

また、主制御基板１３１０のスルーホールＫＴＨ１の孔に対してレジスト液侵入防止領域が設けられているため、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘの銅箔面の上に絶縁被膜として緑色のレジスト液が塗布される場合に、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘが鉛直上向きとなるように（主制御基板１３１０は、実際には１枚の定尺の銅張積層板（基材）から複数の基板を配置して最終的に切り出して製造されるため、１枚の定尺の銅張積層板（基材）の前面が鉛直上向きとなるように）製造装置に固定されて実際に緑色のレジスト液が塗布されても、緑色のレジスト液が主制御基板１３１０のス

ルーホールＫＴＨ１の孔へ侵入し、この孔を塞ぐことなく乾燥されるようになっている。
【１９９６】
　また、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおける実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１のほぼ内側から外周部分全体に亘って（つまり、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおける実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１のうちレジスト液侵入防止領域を除いた領域に亘って）絶縁被膜として緑色のレジストが被さった状態とすることで銅箔が剥き出しとなっている部分がレジスト液侵入防止領域となって小さくなっているものの、主制御基板１３１０の実装面（表面）側から実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１に対してコンタクトプローブの先端部を接触させて主制御基板１３１０の電気検査（動作確認や異常電位の確認）を行うことができるため、実装面（表面）側ランドＫＲＤｘ１を主制御基板１３１０の電気検査を行う場合に、チェック端子として利用することができる。なお、コンタクトプローブとして、専用のプローブでもよいし、いわゆる「テスタ」の導通チェックを行うテストリードであってもよい。
【１９９７】
［１２－２．入力端子への配線パターン］
【１９９８】
　主制御基板１３１０に備える停電監視回路１３１０ｅからの検出信号は、この検出信号を伝送する各種配線パターン（停電予告信号配線パターン）を介して、主制御ＭＰＵ１３１０ａの上側列に配置されたリード端子のうち図中左から３番目に配置された入力ポートＰＢの入力端子ＰＢ０に停電予告信号として入力される。払出制御基板６３３に備えるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号（主ＲＷＭ信号）は、この検出信号を伝送する各種配線パターン（ＲＷＭ信号配線パターン）を介して、主制御ＭＰＵ１３１０ａの下側列に配置されたリード端子のうち図中左から８番目に配置された入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）にＲＷＭ信号として入力される。主制御基板１３１０に備える設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号は、この検出信号を伝送する各種配線パターン（設定キー信号配線パターン）を介して、主制御ＭＰＵ１３１０ａの下側列に配置されたリード端子のうち図中左から２０番目（図中右から１３番目）に配置された入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）に入力される。
【１９９９】
　主制御基板１３１０に備える停電監視回路１３１０ｅからの検出信号を伝送する各種配線パターン（停電予告信号配線パターン）と、払出制御基板６３３に備えるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号（主ＲＷＭ信号）を伝送する各種配線パターン（ＲＷＭ信号配線パターン）と、主制御基板１３１０に備える設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号を伝送する各種配線パターン（設定キー信号配線パターン）と、が相互に近くに配置して平行に走らない（並走しない）ように主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに引き回されている。
【２０００】
　また、主制御基板１３１０に備える停電監視回路１３１０ｅからの検出信号を伝送する各種配線パターン（停電予告信号配線パターン）と、払出制御基板６３３に備えるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号（主ＲＷＭ信号）を伝送する各種配線パターン（ＲＷＭ信号配線パターン）と、主制御基板１３１０に備える設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号を伝送する各種配線パターン（設定キー信号配線パターン）と、には、実装面（表面）１３１０ｘとハンダ面（裏面）１３１０ｙとの配線パターンを電気的に接続するスルーホールを介することなく、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙにのみ引き回されている。
【２００１】
　このように、遊技者に利益を付与する確率を設定変更可能な設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号を伝送する各種配線パターン（設定キー信号配線パターン）が主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成されることで、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘから見て各種配線パターン（設定キー信号配線パターン）がどの

ように引き回れているのか視認困難とすることができ、各種配線パターン（設定キー信号配線パターン）を不正改変し難くすることに寄与することができる。したがって、セキュリティ向上に寄与することができる。また、設定変更に使用する払出制御基板６３３に備えるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号（主ＲＷＭ信号）を伝送する各種配線パターン（ＲＷＭ信号配線パターン）が主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成されることで、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘから見て各種配線パターン（ＲＷＭ信号配線パターン）がどのように引き回れているのか視認困難とすることができ、各種配線パターン（ＲＷＭ信号配線パターン）を不正改変し難くすることに寄与することができる。したがって、セキュリティ向上に寄与することができる。また、主制御基板１３１０に備える停電監視回路１３１０ｅからの検出信号を伝送する各種配線パターン（停電予告信号配線パターン）が主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成されることで、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘから見て各種配線パターン（停電予告信号配線パターン）がどのように引き回れているのか視認困難とすることができ、各種配線パターン（停電予告信号配線パターン）を不正改変し難くすることに寄与することができる。したがって、セキュリティ向上に寄与することができる。

【２００２】

設定値の設定変更を行う場合には、上述したように、設定キースイッチ１３１１ａ及びＲＷＭスイッチ６３３ｄの操作が必要となる。設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号、ＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号は、遊技者に有利な遊技状態を発生する確率を設定変更することができる重要な信号であり、パチンコ機１を設置するホールにおいて、ホールの担当者が意図しない確率に不正に設定変更され難くする必要がある。

【２００３】

そこで、本実施形態では、遊技者に利益を付与する確率を設定変更することができる、設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号を伝送する各種配線パターン（設定キー信号配線パターン）と、ＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号を伝送する各種配線パターン（ＲＷＭ信号配線パターン）と、を近くに配置せず、平行に走らない（並走しない）ように主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに引き回されている。これにより、設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号を伝送する各種配線パターン（設定キー信号配線パターン）と、ＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号を伝送する各種配線パターン（ＲＷＭ信号配線パターン）と、が相互に離間して主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの所定の入力端子（ＰＡ５（設定キー信号入力端子），ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子））に入力されることとなり、設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号を伝送する各種配線パターン（設定キー信号配線パターン）と、ＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号を伝送する各種配線パターン（ＲＷＭ信号配線パターン）と、を同時に不正改変され難くすることができる。したがって、設定変更のセキュリティ向上に寄与することができる。

【２００４】

また、設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号は、各種配線パターン（設定キー信号配線パターン）を介して、設定キー信号として主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの所定の入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）に入力され、ＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号は、各種配線パターン（ＲＷＭ信号配線パターン）を介して、ＲＷＭ信号として主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの所定の入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）に入力されている。入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）は、主制御ＭＰＵ１３１０ａの下側列に配置されたリード端子のうち図中左から８番目に配置されるのに対して、入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）は、主制御ＭＰＵ１３１０ａの下側列に配置されたリード端子のうち図中左から２０番目（図中右から１３番目）に配置されている。このように、設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号が設定キー信号として入力される主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの所定の入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）と、ＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号がＲＷＭ信号として入力される主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの所定の入力

端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）と、が隣り合った配置とならないように、設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号が設定キー信号として入力される主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの所定の入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）と、ＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号がＲＷＭ信号として入力される主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの所定の入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）と、の間に他のリード端子（具体的には、主制御ＭＰＵ１３１０ａの下側列に配置されたリード端子のうち図中左から９番目～１９番目のリード端子であり、計１１本の下側列に配置されたリード端子）が介在するように配置されている。

【２００５】

主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙには、上述したように、ＺＩＰタイプの主制御ＭＰＵ１３１０ａの各リート端子が挿通されるスルーホールのうち、ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されるものを除くスルーホールの周辺、＋５Ｖ電源供給用配線パターンの周辺、信号出力用配線パターンの周辺、入力信号配線パターンの周辺、及び特定のスルーホール（例えば、実装面（表面）１３１０ｘとハンダ面（裏面）１３１０ｙとの出力信号配線パターンを電気的に接続するスルーホール）の周辺における銅箔が箔抜きされた箔抜き領域が形成されている。また、設定キースイッチ１３１１ａがＯＮ操作されているときには、上述したように、設定キー信号の論理がＬＯＷ（設定可状態を伝える論理）となって主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）に入力されるし、払出制御基板６３３に備えるＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部が操作されているときには、上述したように、ＲＷＭ信号の論理がＬＯＷ（押圧操作状態を伝える論理）となって主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）に入力されるようになっている。これにより、入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子），ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）の周囲を箔抜きすることにより、入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子），ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）とグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）とを電気的に切り替えるという不正改変を行い難くすることができ、セキュリティ向上に寄与することができる。

【２００６】

なお、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装される設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号を伝送する各種配線パターン（設定キー信号配線パターン）と電気的に接続される主制御ＭＰＵ１３１０ａの設定キー信号入力端子と、払出制御基板６３３の実装面（表面）に実装されるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号を伝送する各種配線パターン（ＲＷＭ信号配線パターン）と電気的に接続される主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＷＭ信号入力端子と、の端子間に加えて、設定キー信号入力端子の周辺端子（隣り合う他の端子）、ＲＷＭ信号入力端子の周辺端子（隣り合う端子）には、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部が操作されていない状態とするＲＷＭ信号の論理がＨＩ（押圧非操作状態を伝える論理）、設定キースイッチ１３１１ａがＯＦＦ操作されている状態とする設定キー信号の論理がＨＩ（設定不可状態を伝える論理）となるように、他の信号が入力される配線パターンや他の信号を出力する配線パターンと電気的に接続されるようにしてもよい。こうすれば、ＲＷＭ信号入力端子、設定キー信号入力端子に対する不正改変を行い難くすることができ、セキュリティ向上に寄与することができる。

【２００７】

また、設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号は、各種配線パターン（設定キー信号配線パターン）を介して、設定キー信号として主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの所定の入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）に入力され、ＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号は、各種配線パターン（ＲＷＭ信号配線パターン）を介して、ＲＷＭ信号として主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの所定の入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）に入力されることにより、設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号、ＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａの下側列に配置されたリード端子に入力されていたが、例えば、設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａの下側列に配置されたリード端子から上側列に配置されたリード端子

に入力されるようにしてもよい。設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号は、各種配線パターン（設定キー信号配線パターン）を介して、設定キー信号として主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＢの所定の入力端子ＰＢ７に入力される場合には、入力ポートＰＢの入力端子ＰＢ７は、主制御ＭＰＵ１３１０ａの上側列に配置されたリード端子のうち図中左から２２番目（図中右から１１番目）に配置される。このように、設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａの下側列に配置されたリード端子から上側列に配置されたリード端子に入力されるとともに、ＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａの下側列に配置されたリード端子に入力されることにより、２つの検出信号を上下列それぞれのリード端子に入力される構成を採用しても、設定変更のセキュリティ向上に寄与することができる。

【２００８】

主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡ，ＰＢの論理の状態は、メモリマップドＩ／Ｏ方式によるアドレス空間上のメモリ情報として扱われ、例えば入力ポートＰＡに対して、主制御ＭＰＵ１３１０ａが同一のアドレスで同時に各入力端子の論理状態を取得することができるようになっている。入力ポートＰＢについても、同様に、主制御ＭＰＵ１３１０ａが同一のアドレス（入力ポートＰＡと異なるアドレス）で同時に各入力端子の論理状態を取得することができるようになっている。主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡ，ＰＢは、８ビットを有する入力ポートであり、入力ポートＰＡ，ＰＢの各入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）～ＰＡ７，ＰＢ０～ＰＢ７は、第０ビットから第７ビットまでに亘るいずれかに予めそれぞれ割り振られている。

【２００９】

［小括Ａ］

Ａ１．設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号は、上述したように、主制御入力回路１３１０ｂを介して、主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５へ入力されるものの、設定キースイッチ１３１１ａのリード端子（ＣＯＭ１端子、ＣＯＭ２端子、Ａ端子、Ｂ端子）、主制御入力回路１３１０ｂを構成する電子部品のリード端子（抵抗ＭＲ１０～ＭＲ１３、コンデンサＭＣ１０、トランジスタＭＴＲ１０）、及び主制御ＭＰＵ１３１０ａのリード端子（入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５）をそれぞれ電気的に接続する配線パターンは、いずれも主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘと反対側の面となるハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成されている。

【２０１０】

Ａ２．設定キースイッチ１３１１ａのリード端子（ＣＯＭ１端子、ＣＯＭ２端子、Ａ端子、Ｂ端子）と主制御ＭＰＵ１３１０ａのリード端子（入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５）との信号伝送路において配線パターンを主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに引き回して形成するため、上述したように、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘとハンダ面（裏面）１３１０ｙとの配線パターンを電気的に層間接続するスルーホールが、この配線パターンに対しするスルーホールが主制御基板１３１０に形成されていない。

【２０１１】

Ａ３．設定キースイッチ１３１１ａのリード端子（ＣＯＭ１端子、ＣＯＭ２端子、Ａ端子、Ｂ端子）と主制御ＭＰＵ１３１０ａのリード端子（入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５）との信号伝送路において配線パターンを主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙのみにおいて引き回しが難しく、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘも使用せざるを得ず、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘとハンダ面（裏面）１３１０ｙとの配線パターンを電気的に層間接続するスルーホールを形成する場合には、図１９０～図１９３に示したように、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘ及び／又はハンダ面（裏面）１３１０ｙにおいてスルーホールのランドの外周や全体を絶縁被膜である緑色のレジストにより覆う。

【２０１２】

Ａ４．主制御基板１３１０は、上述したように、カバー体１３０１とベース体１３０２

とから構成される長手方向のスライド方式により開閉可能な主制御基板ボックス１３２０に収容されて封印されている。主制御基板ボックス１３２０は、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘがカバー体１３０１の内側を臨むようにカバー体１３０１の裏面側に取り付けられている。この状態でベース体１３０２をカバー体１３０１の所定位置に合わせて長手方向に移動させると、カバー体１３０１の内周面内にベース体１３０２の外周面が収まり、カバー体１３０１とベース体１３０２とにより形成される空間内に主制御基板１３１０が収容された状態となる。その後、封印部であるカシメ部１３０３のワンウェイネジ等をねじ込むことにより、カバー体１３０１とベース体１３０２とが固定され主制御基板ボックスが封印される。

【２０１３】

Ａ５．主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装される設定キースイッチ１３１１ａは、上述したように、設定キーシリンダ１３１１ａｂの前面に形成される差し込み口１３１１ａｂａに設定キーが挿入されて回動操作される。設定キーが設定キースイッチ１３１１ａの差し込み口１３１１ａｂａに挿入される際に設定キースイッチ１３１１ａが押圧されて主制御基板１３１０が湾曲してたわむと、主制御基板１３１０に形成される配線パターンが断線するおそれがある。そこで、主制御基板１３１０が湾曲するのを防止するために、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）であって、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装される設定キースイッチ１３１１ａと対応する領域には、ベース体１３０２に図１８５に示した突出部１３０２ｐが突出形成されている。

【２０１４】

なお、主制御基板１３１０が主制御基板ボックス１３２０に収容された状態において、設定キースイッチ１３１１ａが押圧されていない状態（設定キースイッチ１３１１ａの差し込み口１３１１ａｂａに設定キーが挿入されて回動操作されて設定キーによる押圧が解除された場合、設定キースイッチ１３１１ａの差し込み口１３１１ａｂａに設定キーがそもそも挿入されていない場合）では、上述したように、ベース体１３０２に形成される突出部１３０２ｐの前面と主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙとに所定のクリアランスとして距離寸法ｄ２（例えば、約１ｍｍ）が設けられており、設定キースイッチ１３１１ａが押圧されると、突出部１３０２ｐの前面が主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに当接した状態となり、主制御基板１３１０の湾曲を防止するようになっている。

【２０１５】

Ａ６．ベース体１３０２に形成される突出部１３０２ｐの前面と主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙとに所定のクリアランスとして、上述したように、距離寸法ｄ２（例えば、約１ｍｍ）が設けられており、主制御基板１３１０が主制御基板ボックス１３２０に収容された状態において、設定キースイッチ１３１１ａが押圧されていない状態（設定キースイッチ１３１１ａの差し込み口１３１１ａｂａに設定キーが挿入されて回動操作されて設定キーによる押圧が解除された場合、設定キースイッチ１３１１ａの差し込み口１３１１ａｂａに設定キーがそもそも挿入されていない場合）では、突出部１３０２ｐの前面と主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙとが接触することがないようになっている。また、主制御基板ボックス１３２０を組み立てる場合にカバー体１３０１とベース体１３０２とをスライド移動させる際に、又は、主制御基板１３１０を取り出す場合に主制御基板ボックスの封印状態を解除してカバー体１３０１とベース体１３０２とをスライド移動させる際に、突出部１３０２ｐの前面が主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに当接して主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙを傷付けないようになっている。

【２０１６】

ベース体１３０２に形成される突出部１３０２ｐの前面は、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙと当接する場合があるため、突出部１３０２ｐの前面が当接する場合がある主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙの領域及びその周囲と対応する領域には、図１８６（ｂ）に示したように、銅箔部（銅箔層、銅プレーン）が抜かれ

、この銅箔部銅箔層、銅プレーン）が抜かれた全領域が絶縁被膜である緑色のレジストで覆われており、設定キースイッチ１３１１ａが繰り返し押圧されることで突出部１３０２ｐの前面により主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成される絶縁被膜である緑色のレジストが擦れて仮に剥がれたとしても、突出部１３０２ｐの前面と銅箔部（銅箔層、銅プレーン）とが接触することがないようになっている。これにより、突出部１３０２ｐの前面が配線パターンや主制御基板１３１０のベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と接触しないようになっており、突出部１３０２ｐの前面により配線パターンが損傷したり、断線したりすることを防止すると共に、主制御基板１３１０のベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）の損傷を防止することができるようになっている。

【２０１７】

Ａ７．主制御基板１３１０は、上述したように、カバー体１３０１とベース体１３０２とから構成される長手方向のスライド方式により開閉可能な主制御基板ボックス１３２０に収容されて封印されている。主制御基板ボックス１３２０は、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘがカバー体１３０１の内側を臨むようにカバー体１３０１の裏面側に取り付けられている。この状態でベース体１３０２をカバー体１３０１の所定位置に合わせて長手方向に移動させると、カバー体１３０１の内周面内にベース体１３０２の外周面が収まり、カバー体１３０１とベース体１３０２とにより形成される空間内に主制御基板１３１０が収容された状態となる。ベース体１３０２をカバー体１３０１の所定位置に合わせて長手方向に移動させる際に、ベース体１３０２に形成される突出部１３０２ｐの前面も、長手方向に移動することとなる。突出部１３０２ｐの前面が移動する領域と対応する主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙには、配線パターンが引き回されないように形成されている。これは、突出部１３０２ｐの前面と主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙとに所定のクリアランスとして距離寸法ｄ２（例えば、約１ｍｍ）が設けられているものの、ベース体１３０２をカバー体１３０１の所定位置に合わせて長手方向に移動させる際に、ベース体１３０２に形成される突出部１３０２ｐの前面が主制御基板のハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成される絶縁被膜である緑色のレジストと擦れる場合があるため、配線パターンが損傷したり断線したりすることを防止する必要があるからである。

【２０１８】

なお、ベース体１３０２に形成される突出部１３０２ｐの前面が移動する領域と対応する主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙには、配線パターンのほかに、ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）を形成しないようにしてもよい。これは、突出部１３０２ｐの前面と主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙとに所定のクリアランスとして距離寸法ｄ２（例えば、約１ｍｍ）が設けられているものの、ベース体１３０２をカバー体１３０１の所定位置に合わせて長手方向に移動させる際に、突出部１３０２ｐの前面が主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成される絶縁被膜である緑色のレジストと擦れる場合があるため、ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）の損傷を防止する必要があるからである。

【２０１９】

Ａ８．ベース体１３０２に形成される突出部１３０２ｐは、円柱形状を有している。こうすれば、突出部１３０２ｐの前面が移動する領域として、突出部１３０２ｐである円柱の前面（円形状）が移動する領域とすることができるため、突出部１３０２ｐの前面が移動する領域は、突出部１３０２ｐが主制御基板１３１０の下辺に沿って平行に（主制御基板１３１０の長手方向に沿って）スライド移動することにより、左右方向の距離寸法が突出部１３０２ｐのスライド移動する長さとなり、上下方向の距離寸法が円柱の直径となることにより、突出部１３０２ｐの前面が移動する領域を小さくすることができる。これにより、突出部１３０２ｐの前面が移動する領域を回避して配線パターンを引き回す際に、配線パターンの引き回しの自由度を高めることに寄与することができる。

【２０２０】

また、突出部１３０２ｐが主制御基板１３１０の下辺に沿って平行に（主制御基板１３

１０の長手方向に沿って）スライド移動することにより、突出部１３０２ｐの前面が移動する領域における上下方向の距離寸法が円柱の直径となり、一定となり、ベース体１３０２をカバー体１３０１の所定位置に合わせて長手方向に移動させる際に、ベース体１３０２に形成される突出部１３０２ｐの側面と、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙにハンダ付けされる電子部品のリード端子（設定キースイッチ１３１１ａのリード端子（ＣＯＭ１端子、ＣＯＭ２端子、Ａ端子、Ｂ端子））と、の干渉を防止（抑制）することができる。

【２０２１】

Ａ９．ベース体１３０２に形成される突出部１３０２ｐは、ベース体１３０２の長手方向に沿って一定幅を有する形状（円柱形状を有する突出部１３０２ｐの外径と同一の寸法を一定幅の寸法とする形状）に形成されていてもよい。こうすれば、突出部１３０２ｐの前面が移動する領域は、突出部１３０２ｐが主制御基板１３１０の下辺に沿って平行に（主制御基板１３１０の長手方向に沿って）スライド移動することにより、左右方向の距離寸法が突出部１３０２ｐのスライド移動する長さとなり、上下方向の距離寸法が突出部１３０２ｐの一定幅とすることができる。これにより、突出部１３０２ｐが移動する領域と対応する位置近傍に配線パターンを主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに引き回す際に、突出部１３０２ｐの長手方向の形状に沿って配線パターンを主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに引き回すことで、配線パターンと突出部１３０２ｐの長手方向の形状とを平行した位置関係とすることができるため、突出部１３０２ｐの前面が主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成される絶縁被膜である緑色のレジストを擦って配線パターンを損傷したり断線したりすることを防止することができる。

【２０２２】

また、突出部１３０２ｐが主制御基板１３１０の下辺に沿って平行に（主制御基板１３１０の長手方向に沿って）スライド移動することにより、突出部１３０２ｐの前面が移動する領域における上下方向の距離寸法が突出部１３０２ｐの一定幅となり、一定となり、ベース体１３０２をカバー体１３０１の所定位置に合わせて長手方向に移動させる際に、ベース体１３０２に形成される突出部１３０２ｐの側面と、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙにハンダ付けされる電子部品のリード端子（設定キースイッチ１３１１ａのリード端子（ＣＯＭ１端子、ＣＯＭ２端子、Ａ端子、Ｂ端子））と、の干渉を防止（抑制）することができる。

【２０２３】

Ａ１０．ベース体１３０２に形成される突出部１３０２ｐは、長手方向に対して垂直方向に沿って長い形状を有して形成されていない。仮に、突出部１３０２ｐが長手方向に対して垂直方向に沿って長い形状を有して形成されると、ベース体１３０２をカバー体１３０１の所定位置に合わせて長手方向に移動させる際に、突出部１３０２ｐの側面が主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙにハンダ付けされる電子部品のリード端子（ＣＯＭ１端子、ＣＯＭ２端子、Ａ端子、Ｂ端子））と干渉することとなる。このため、突出部１３０２ｐは、長手方向に対して垂直方向に沿って長い形状を有して形成されていない。こうすれば、ベース体１３０２をカバー体１３０１の所定位置に合わせて長手方向に移動させる際に、ベース体１３０２に形成される突出部１３０２ｐの側面と、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙにハンダ付けされる電子部品のリード端子（設定キースイッチ１３１１ａのリード端子（ＣＯＭ１端子、ＣＯＭ２端子、Ａ端子、Ｂ端子））と、の干渉を防止（抑制）することができる。

【２０２４】

Ａ１１．設定キースイッチ１３１１ａは、図１８４に示したように、設定キーが挿入されて回動操作される設定キーシリンダ１３１１ａｂと、外筒１３１１ａａと接続されると共に設定キーシリンダ１３１１ａｂの回動操作により接点をＯＮ又はＯＦＦする回路が形成される直方体状のベース体１３１１ａｃと、外筒１３１１ａａと対応する位置に外筒１３１１ａａを貫通する穴が形成されてベース体１３１１ａｃの表面及び側面を覆うように

屈曲されてベース体１３１１ａｃの後方に突出する一対の突出片１３１１ａｄａ，１３１１ａｄａが両側面に形成されるフレーム板１３１１ａｄと、から構成されている。設定キーシリンダ１３１１ａｂは、非導電性を有する樹脂により成型されており、フレーム板１３１１ａｄは、導電性を有する金属により成型されている。設定キーシリンダ１３１１ａｂとフレーム板１３１１ａｄとは電気的に接続されていない非導通となっており、電気的に絶縁された状態となっている。

【２０２５】

Ａ１２．設定キースイッチ１３１１ａのリード端子（ＣＯＭ１端子、ＣＯＭ２端子、Ａ端子、Ｂ端子）は、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘからスルーホールに挿通されて主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙから突出してハンダ付けされており、設定キースイッチ１３１１ａの内部回路により、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへの信号伝送経路を形成する配線パターンと電気的に接続される。設定キースイッチ１３１１ａのフレーム板１３１１ａｄには一対の突出片１３１１ａｄａ，１３１１ａｄａが形成されており、一対の突出片１３１１ａｄａ，１３１１ａｄａは、図１８６に示したように、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０からロングスルーホールＳＬＨ１，ＳＬＨ２に挿通されて主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙから突出してハンダ付けされることにより、主制御基板１３１０のベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続され、設定キースイッチ１３１１ａのフレーム板１３１１ａｄと主制御基板１３１０のベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）とが電気的に接続された状態となっている。

【２０２６】

なお、設定キースイッチ１３１１ａのフレーム板１３１１ａｄの一対の突出片１３１１ａｄａ，１３１１ａｄａは、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘからロングスルーホールＳＬＨ１，ＳＬＨ２に挿通されて主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙから突出してハンダ付けされるものの、主制御基板１３１０のベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されず、設定キースイッチ１３１１ａのフレーム板１３１１ａｄが電気的に浮いた状態となっていてもよい。

【２０２７】

Ａ１３．外枠２と本体枠４、及び扉枠３と本体枠４の間を施錠する施錠ユニット６５０は、導電性の金属により構成されている。施錠ユニット６５０は、主制御基板１３１０のベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と異なり、図示しないアース線を介して遊技ホールの島設備にアース接地されている。

【２０２８】

Ａ１４．設定キースイッチ１３１１ａを操作する作業者は、まず本体枠４を外枠２から開放する必要があるため、施錠ユニット６５０におけるシリンダ本体１３１の前端面に形成されている鍵穴１３２に鍵（この鍵は、導電性を有する金属キーである。以下、「金属キー」と記載する場合がある。）を挿入して回動操作する必要がある。仮に作業者に電位が帯電していても、作業者が金属キーを施錠ユニット６５０におけるシリンダ本体１３１の前端面に形成されている鍵穴１３２へ挿入することにより、作業者から帯電した電位が施錠ユニット６５０、そして図示しないアース線を介して遊技ホールの島設備にアース接地されて逃がすことできるため、作業者に帯電した電位を除去することができる。

【２０２９】

作業者が設定キーを主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装される設定キースイッチ１３１１ａの差し込み口１３１１ａｂａに挿入しても、そもそも作業者に帯電した電位がすでに遊技ホールの島設備にアース接地されて除去済みであるから設定キースイッチ１３１１ａに対して作業者に帯電した電位の静電放電による電磁波ノイズによる損傷を防止することができるし、もし作業者が帯電した状態で設定キーを設定キースイッチ１３１１ａの差し込み口１３１１ａｂａに挿入しても設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂとフレーム板１３１１ａｄとが、上述したように、電気的に絶縁されているため、作業者に帯電した電位が設定キーシリンダ１３１１ａｂを介して主

制御基板１３１０のベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と接続された導電性を有する金属のフレーム板１３１１ａｄへ侵入することがなく、主制御基板１３１０の損傷を防止することができる。（当然のことながら、設定キースイッチ１３１１ａのリード端子である信号端子（ＣＯＭ１端子、ＣＯＭ２端子、Ａ端子、Ｂ端子）は、フレーム板１３１１ａｄ、設定キーシリンダ１３１１ａｂと絶縁されている。）

【２０３０】

さらに、設定キースイッチ１３１１ａのフレーム板１３１１ａｄは、主制御基板１３１０のベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されているため、設定キースイッチ１３１１ａのフレーム板１３１１ａｄが帯電した状態のままになることもない。

【２０３１】

なお、設定キースイッチ１３１１ａのフレーム板１３１１ａｄを主制御基板１３１０のベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と接続しない場合には、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂは、フレーム板１３１１ａｄと共に主制御基板１３１０のベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されていないこととなる。仮に、作業者が帯電した状態で設定キーを設定キーシリンダ１３１１ａｂの前面に形成される差し込み口１３１１ａｂａに挿入した場合でも、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂはフレーム板１３１１ａｄとも主制御基板１３１０のベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されていない（絶縁された状態である）ため、作業者に帯電した電位が設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂを介して主制御基板１３１０のベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）への侵入がなく主制御基板１３１０の損傷を防止することができる。但し、設定キースイッチ１３１１ａのフレーム板１３１１ａｄは、主制御基板１３１０のベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）との電気的な接続がないため、設定キースイッチ１３１１ａが帯電した場合、放電ができなくなる。

【２０３２】

設定キースイッチ１３１１ａのフレーム板１３１１ａｄの一対の突出片１３１１ａｄａ，１３１１ａｄａがハンダ付けされるロングスルーホールＳＬＨ１'，ＳＬＨ２'は、主制御基板１３１０のベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されず、電気的に浮いた状態となっている。設定キースイッチ１３１１ａのＣＯＭ２端子が挿通されるスルーホールＳＬＴＨ４、設定キースイッチ１３１１ａのＣＯＭ１端子が挿通されるスルーホールＳＬＴＨ３、設定キースイッチ１３１１ａのＡ端子が挿通されるスルーホールＳＬＴＨ１は配線パターンＳＰＴＮ１，ＳＰＴＮ２が電気的に接続され、スルーホールＳＬＴＨ１が配線パターンＳＰＴＮ３とされに電気的に接続され、設定キースイッチ１３１１ａのＢ端子が挿通されるスルーホールＳＬＴＨ２が主制御基板１３１０のベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）と電気的に接続されている。

【２０３３】

このように、ロングスルーホールＳＬＨ１'，ＳＬＨ２'の周囲に、配線パターンＳＰＴＮ１～ＳＰＴＮ３、スルーホールＳＬＴＨ１～ＳＬＴＨ４が存在するため、ロングスルーホールＳＬＨ１'，ＳＬＨ２'と配線パターンＳＰＴＮ１～ＳＰＴＮ３との間に主制御基板１３１０のベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）を形成するとともに、ロングスルーホールＳＬＨ１'，ＳＬＨ２'とスルーホールＳＬＴＨ１～ＳＬＴＨ４との間に主制御基板１３１０のベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）を形成することにより、設定キースイッチ１３１１ａのフレーム板１３１１ａｄが主制御基板１３１０のベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）との電気的に接続されずに設定キースイッチ１３１１ａが帯電した場合、放電ができなくなっても、この影響を受けないように、ロングスルーホールＳＬＨ１'，ＳＬＨ２'と配線パターンＳＰＴＮ１～ＳＰＴＮ３とが主制御基板１３１０のベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）が介在することなく隣り合わないようにする必要がある。また、ロングスルーホールＳＬＨ１'，ＳＬＨ２'とスルーホールＳＬＴＨ１～ＳＬＴＨ４とが主制御基板１３１０のベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）が介在することなく隣り合わないようにする必要がある。

【２０３４】
［小括Ｂ］
Ｂ１．主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装される設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号を伝送する設定キー信号配線パターンは、主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）と電気的に接続され、払出制御基板６３３の実装面（表面）に実装されるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号を伝送するＲＷＭ信号配線パターンは、主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）と異なる他のリード端子であって入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）と電気的に接続されている。
【２０３５】
なお、主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）と主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）との論理状態は、メモリマップドＩ／Ｏ方式によるアドレス空間上のメモリ情報として扱われ、主制御ＭＰＵ１３１０ａが同一のアドレスで同時に取得することができるようになっている。つまり、主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）と主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）とは、上述したように、８ビットを有する所定ポートに対して、第０ビットから第７ビットまでに亘るいずれかに予めそれぞれ割り振られている。
【２０３６】
主制御ＭＰＵ１３１０ａのＩＣパッケージは、上述したように、ＺＩＰ（Ｚｉｇｚａｇ Ｉｎ－ｌｉｎｅ Ｐａｃｋａｇｅ）であり、主制御ＭＰＵ１３１０ａの本体底面から垂直に突出するリード端子が交互に折り曲げられることにより長手方向に沿って２列に配置されて形成されたものである。入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）と入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）とは、２列のうち一の列に隣接して配置して形成されていない。
【２０３７】
例えば、２列のうち一の列に入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）と入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）とを配置する場合には、入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）と入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）とが隣り合った配置とならないように、入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）と入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）との間に他のリード端子が介在するように配置される。
【２０３８】
Ｂ２．主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装される設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号を伝送する設定キー信号配線パターンは、主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）と電気的に接続され、払出制御基板６３３の実装面（表面）に実装されるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号を伝送するＲＷＭ信号配線パターンは、主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）と異なる他のリード端子であって入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）と電気的に接続されていることにより、２列のうち一の列に入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）と入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）とが配置されていたが、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装される設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号を伝送する設定キー信号配線パターンと、払出制御基板６３３の実装面（表面）に実装されるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号を伝送するＲＷＭ信号配線パターンと、が２列のうち別々の列にそれぞれ配置されるように電気的に接続するようにしてもよい。
【２０３９】
Ｂ３．主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装される設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号を伝送する設定キー信号配線パターンは、主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）と電気的に接続され、

払出制御基板６３３の実装面（表面）に実装されるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号を伝送するＲＷＭ信号配線パターンは、主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）と異なる他のリード端子であって入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）と電気的に接続されていたが、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装される設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号を伝送する設定キー信号配線パターンが電気的に接続される設定キー信号入力端子と、払出制御基板６３３の実装面（表面）に実装されるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号を伝送するＲＷＭ信号配線パターンが電気的に接続されるＲＷＭ信号入力端子と、の論理状態を異なるアドレスでそれぞれ取得するようにしてもよい。つまり、設定キー信号入力端子とＲＷＭ信号入力端子とを異なる入力ポートによりそれぞれ別個に取得することができるに予めそれぞれ割り振られていてもよい。主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートごとに入力端子（リード端子）がまとめて配置されている場合には、アドレスが異なるなることで、設定キー信号入力端子とＲＷＭ信号入力端子とを相互に離すことができる。

【２０４０】

Ｂ４．主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）と電気的に接続される設定キー信号配線パターンを介して伝送される主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装される設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号である操作信号の論理状態は、設定不可状態を伝える論理（ＨＩ）と設定可状態を伝える論理（ＬＯＷ）とがある。設定不可状態を伝える論理（ＨＩ）は、入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）と電気的に接続される設定キー信号配線パターンの電圧が主制御基板１３１０に備える＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成された＋５Ｖの電源ライン側に引き上げられるものであるのに対して、設定可状態を伝える論理（ＬＯＷ）は、入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）と電気的に接続される設定キー信号配線パターンの電圧が主制御基板１３１０のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）側に引き下げられるものである。

【２０４１】

そこで、入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）と隣接する他の入力端子（又は入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）の周辺における他の入力端子）を主制御基板１３１０に備える＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成された＋５Ｖの電源ラインと電気的に接続されるように回路構成されている。これにより、仮に、入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）と隣接する他の入力端子を短絡させる不正な改変が行われたとしても、入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）と電気的に接続される設定キー信号配線パターンの電圧が主制御基板１３１０に備える＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成された＋５Ｖの電源ライン側に引き上げられるものとなることにより、入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）と電気的に接続される設定キー信号配線パターンを介して伝送される設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号である操作信号の論理状態として結果的に設定不可状態を伝える論理（ＨＩ）となり、設定変更を行えなくすることができる。

【２０４２】

主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）と電気的に接続されるＲＷＭ信号配線パターンを介して伝送される払出制御基板６３３の実装面（表面）に実装されるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号である操作信号の論理状態は、押圧非操作状態を伝える論理（ＨＩ）と押圧操作状態を伝える論理（ＬＯＷ）とがある。押圧非操作状態を伝える論理（ＨＩ）は、入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）と電気的に接続されるＲＷＭ信号配線パターンの電圧が主制御基板１３１０に備える＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成された＋５Ｖの電源ライン側に引き上げられるものであるのに対して、押圧操作状態を伝える論理（ＬＯＷ）は、入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）と電気的に接続されるＲＷＭ信号配線パターンの電圧が主制御基板１３１０のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）側に引き下げられるものである。

【２０４３】

そこで、入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）についても、入力端子ＰＡ５（設定キ

ー信号入力端子）と同様に、入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）と隣接する他の入力端子（又は入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）の周辺における他の入力端子）を主制御基板１３１０に備える＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成された＋５Ｖの電源ラインと電気的に接続されるように回路構成されている。これにより、仮に、入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）と隣接する他の入力端子を短絡させる不正な改変が行われたとしても、入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）と電気的に接続されるＲＷＭ信号配線パターンの電圧が主制御基板１３１０に備える＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成された＋５Ｖの電源ライン側に引き上げられるものとなることにより、入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）と電気的に接続されるＲＷＭ信号配線パターンを介して伝送されるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号である操作信号の論理状態として結果的に押圧非操作状態を伝える論理（ＨＩ）となり、設定変更を行えなくすることができる。

【２０４４】

なお、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装される設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号を伝送する各種配線パターン（設定キー信号配線パターン）と電気的に接続される主制御ＭＰＵ１３１０ａの設定キー信号入力端子と、払出制御基板６３３の実装面（表面）に実装されるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号を伝送する各種配線パターン（ＲＷＭ信号配線パターン）と電気的に接続される主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＷＭ信号入力端子と、の端子間に加えて、設定キー信号入力端子の周辺端子（隣り合う他の端子）、ＲＷＭ信号入力端子の周辺端子（隣り合う端子）には、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部が操作されていない状態とするＲＷＭ信号の論理がＨＩ（押圧非操作状態を伝える論理）、設定キースイッチ１３１１ａがＯＦＦ操作されている状態とする設定キー信号の論理がＨＩ（設定不可状態を伝える論理）となるように、他の信号が入力される配線パターンや他の信号を出力する配線パターンと電気的に接続されるようにしてもよい。こうすれば、ＲＷＭ信号入力端子、設定キー信号入力端子に対する不正改変を行い難くすることができ、セキュリティ向上に寄与することができる。

【２０４５】

Ｂ５．設定キースイッチ１３１１ａがＯＮ操作されているときには、上述したように、設定キー信号の論理がＬＯＷ（設定可状態を伝える論理）となって主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）に入力されるようになっているため、入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）の周囲と、入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）と電気的に接続される設定キー信号配線パターンの周囲と、には、入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）、設定キー信号配線パターンが不正に主制御基板１３１０のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）に短絡されないように、グランド（ＧＮＤ）（基板グランド）が形成されず箔抜き領域となっている。つまり、入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）の周囲と、入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）と電気的に接続される設定キー信号配線パターンの周囲と、には、設定キースイッチ１３１１ａがＯＮ操作されている状態とする設定キー信号の論理がＬＯＷ（設定可状態を伝える論理）となるグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）が形成されない（配置されない）ようになっている。これにより、入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）、設定キー信号配線パターンに印加される電圧が不正に主制御基板１３１０のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）に引き下げられることを防止することができる。

【２０４６】

また、払出制御基板６３３に備えるＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部が操作されているときには、上述したように、ＲＷＭ信号の論理がＬＯＷ（押圧操作状態を伝える論理）となって主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）に入力されるようになっているため、入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）の周囲と、入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）と電気的に接続されるＲＷＭ信号配線パターンの周囲と、には、入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）、ＲＷＭ信号配線パターンが不正に主制御基板１３１０のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）に短絡されないように、グランド（ＧＮＤ）（基板グランド）が形成されず箔抜き領域となっている。つまり

、入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）の周囲と、入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）と電気的に接続されるＲＷＭ信号配線パターンの周囲と、には、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部が操作されている状態とするＲＷＭ信号の論理がＬＯＷ（押圧操作状態を伝える論理）となるグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）が形成されない（配置されない）ようになっている。これにより、入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）、ＲＷＭ信号配線パターンに印加される電圧が不正に主制御基板１３１０のグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）に引き下げられることを防止することができる。

【２０４７】

Ｂ６．主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）と電気的に接続される設定キー信号配線パターンを介して伝送される主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装される設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号である操作信号の論理状態は、設定不可状態を伝える論理（ＨＩ）と設定可状態を伝える論理（ＬＯＷ）となっており、また主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）と電気的に接続されるＲＷＭ信号配線パターンを介して伝送される払出制御基板６３３の実装面（表面）に実装されるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号である操作信号の論理状態は、押圧非操作状態を伝える論理（ＨＩ）と押圧操作状態を伝える論理（ＬＯＷ）となっており、設定不可状態を伝える論理（ＨＩ）と押圧非操作状態を伝える論理（ＨＩ）とが同一の論理（ＨＩ）となっていると共に、設定可状態を伝える論理（ＬＯＷ）と押圧操作状態を伝える論理（ＬＯＷ）とが同一の論理（ＬＯＷ）となっていたが、これに代えて、設定不可状態を伝える論理と押圧操作状態を伝える論理との論理状態とを同一の論理（ＨＩ又はＬＯＷ）とすると共に、設定可状態を伝える論理と押圧非操作状態を伝える論理との論理状態とを同一の論理（ＬＯＷ又はＨＩ）とするようにしてもよい。設定可状態を伝える論理と押圧操作状態を伝える論理とを同一の論理と比べて、設定可状態を伝える論理と押圧非操作状態を伝える論理とを同一の論理とするようにした方が、入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）、設定キー信号配線パターン、入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）、ＲＷＭ信号配線パターンに対して不正改変を行うとする者は、この組み合わせの論理を理解するまでに、時間がかかり、結果的には、一方がグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）、他方が電源に短絡することとなり、手間がかかり時間を消費させることに寄与することができ、ＲＷＭ信号入力端子、設定キー信号配線パターン、設定キー信号入力端子、ＲＷＭ信号配線パターンに対する不正改変を行い難くすることができ、セキュリティ向上に寄与することができる。

【２０４８】

また、主制御基板１３１０が主制御基板ボックス１３２０に収容された状態では、上述したように、主制御基板１３１０がカバー体１３０１に複数形成されるカバー体側リブ部１３０１ｒｂとベース体１３０２に複数形成されるベース体側リブ部１３０２ｒｂにより形成される狭間（空間）に配置（挟持）された状態となる。また、ベース体１３０２には、上述したように、主制御基板１３１０の実装面（表面）に実装される設定キースイッチ１３１１ａと対応する主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）と当接可能な突出部１３０２ｐが形成されている。突出部１３０２ｐは、設定キーシリンダ１３１１ａｂの前面に形成される差し込み口１３１１ａｂａに金属製の設定キーが差し込まれた際に、この差し込まれた力により主制御基板１３１０が湾曲して撓むと、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）と当接することにより、これ以上、主制御基板１３１０が湾曲して撓むことを防止して、主制御基板１３１０に形成される配線パターンの断線やハンダの剥離を防止することができるものである。ベース体１３０２に形成される突出部１３０２ｐの前面が当接する主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙの領域及びその周囲には、図１８６（ｂ）に示したように、銅箔が抜かれた円形状を有する箔抜き領域ＳＩＮＳｙが形成されている。これにより、突出部１３０２ｐによりハンダ面側絶縁塗膜１３１０ｙｒが削られても、突出部１３０２ｐによる主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙにおけるベタグランド（基板グランド）の損傷を防止することができる。銅箔が抜かれた円形状を有する箔抜き領域ＳＩＮＳｙは、限られた基板面積を安全かつ有効に利用している。

【２０４９】
Ｂ７．設定キースイッチ１３１１ａが主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装されるとともに、ＲＷＭスイッチ６３３ｄを払出制御基板６３３の実装面（表面）に実装されることで、設定キースイッチ１３１１ａとＲＷＭスイッチ６３３ｄとが別々の制御基板にそれぞれ実装されている。これにより、遊技盤５に備える主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装される設定キースイッチ１３１１ａと、本体枠４に備える払出制御基板６３３の実装面（表面）に実装されるＲＷＭスイッチ６３３ｄとが離間して配置されることとなり、不正しようとしても、設定キースイッチ１３１１ａ側とＲＷＭスイッチ６３３ｄ側との両方を不正改変する必要があり、その作業に極めて時間が掛かるため、設定キースイッチ１３１１ａとＲＷＭスイッチ６３３ｄとの配置を見た不正行為者が不正改変しようとする気力が失われ、不正され難くすることができる。
【２０５０】
なお、実際に設定変更を行う場合には、設定キースイッチ１３１１ａを操作したのち、ＲＷＭスイッチ６３３ｄを操作しながら、パチンコ機１の電源投入するための電源スイッチ６３０ａを操作する必要がある。電源スイッチ６３０ａは、本体枠４の基板ユニット６２０に取付けられる電源ユニット６２０ｃの電源基板６３０に実装されているため、設定変更に必要となる、設定キースイッチ１３１１ａ、ＲＷＭスイッチ６３３ｄ、電源スイッチ６３０ａは、それぞれ別々の基板に実装されている。
【２０５１】
Ｂ８．主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装される設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号、払出制御基板６３３の実装面（表面）に実装されるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号は、図１７９に示したように、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装されるエラー検知機能なしの主制御入力回路１３１０ｂ（主として、抵抗、トランジスタから構成される入力回路であり、回路構成が共通する回路となっている。）を介して、主制御ＭＰＵ１３１０ａの所定の入力端子（ＰＡ５，ＰＡ０）へ入力されていたが、入力回路を備える専用ＩＣをそれぞれ介して（つまり、設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号を設定キー入力専用ＩＣを介して、ＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号をＲＷＭ入力専用ＩＣを介して）、主制御ＭＰＵ１３１０ａの所定の入力端子（ＰＡ５，ＰＡ０）へ入力されるようにしてもよい。これにより、設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号、ＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号の論理状態を不正改変し難くすることができるため、不正対策の向上に寄与することができる。
【２０５２】
また、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装されるエラー検知機能なしの主制御入力回路１３１０ｂは、主として、抵抗、トランジスタから構成される入力回路であり、回路構成が共通する回路となっているため、複数の主制御入力回路１３１０ｂのトランジスタを１つのＩＣにまとめたＤＩＰタイプのトランジスタアレイとして構成してもよい。
【２０５３】
Ｂ９．主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装される設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号、払出制御基板６３３の実装面（表面）に実装されるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号は、図１７９に示したように、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装されるエラー検知機能なしの主制御入力回路１３１０ｂ（主として、抵抗、トランジスタから構成される入力回路であり、回路構成が共通する回路となっている。）を介して、主制御ＭＰＵ１３１０ａの所定の入力端子（ＰＡ５，ＰＡ０）へ入力されていたが、入力回路を備える専用ＩＣをそれぞれ介して（つまり、設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号を設定キー入力専用ＩＣを介して、ＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号をＲＷＭ入力専用ＩＣを介して）、主制御ＭＰＵ１３１０ａの所定の入力端子（ＰＡ５，ＰＡ０）へ入力されるようにしてもよい。この場合、別々の専用ＩＣとの間に、他のエラー検知機能なしの主制御入力回路１３１０ｂを構成する抵抗、トランジスタを介在するように配置する。こうすれば、どの回路が、設定キースイッチ１３１１

ａからの検出信号、ＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号を判別することが困難となり、不正対策の向上に寄与することができる。

【２０５４】

Ｂ１０．主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装される設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号、払出制御基板６３３の実装面（表面）に実装されるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号は、図１７９に示したように、エラー検知機能なしの主制御入力回路１３１０ｂを介して、主制御ＭＰＵ１３１０ａの所定の入力端子（ＰＡ５，ＰＡ０）へ入力される。複数の主制御入力回路１３１０ｂのトランジスタを１つのＩＣにまとめたＤＩＰタイプのトランジスタアレイを使用する場合には、設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号が入力されるＤＩＰタイプのトランジスタアレイの入力端子と、ＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号が入力されるＤＩＰタイプのトランジスタアレイの入力端子と、が隣り合わせないように配置したり、又は、ＤＩＰタイプのトランジスタアレイの一方の側面から突出する複数の入力端子のうちいずれかの入力端子に設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号が入力されるように配線パターンを形成するように配置すると共に、他の側面から突出する複数の入力端子のうちいずれかの入力端子にＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号が入力されるように配線パターンを形成するように配置する。こうすれば、不正対策の向上に寄与することができる。

【２０５５】

Ｂ１１．主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装される設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号、払出制御基板６３３の実装面（表面）に実装されるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号は、図１７９に示したように、それぞれの電圧が抵抗ＭＲ１６，ＭＲ５により電源ライン側にそれぞれ引き上げられている。これらの抵抗ＭＲ１６，ＭＲ５は、プルアップ抵抗ＭＲ１６，ＭＲ５であり、設定キースイッチ１３１１ａから離して配置されている。具体的には、論理反転回路１３１０ｉｖを構成する抵抗ＭＲ１６は、一端が主制御基板１３１０に備える＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成された＋５Ｖの電源ラインと電気的に接続されると共に、その他端が主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）と電気的に接続されるものであり、設定キースイッチ１３１１ａの右方に配置されるコネクタＭＣＮ８の右方に配置されている。エラー検知機能なしの主制御入力回路１３１０ｂを構成する抵抗ＭＲ２は、その一端が主制御基板１３１０に備える＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成された＋５Ｖの電源ラインと電気的に接続されると共に、その他端が主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）と電気的に接続されるものであり、設定キースイッチ１３１１ａの上方に配置されるリードタイプの集合抵抗のさらに上方に配置されている。ＲＷＭスイッチ６３３ｄは、払出制御基板６３３の実装面（表面）に実装されているため、抵抗ＭＲ１６，ＭＲ５は、ＲＷＭスイッチ６３３ｄから離して配置されている。抵抗ＭＲ１６，ＭＲ５を不正改変されると、設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号である操作信号の論理状態、ＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号である操作信号の論理状態を不正に操作されるおそれがあるため、抵抗ＭＲ１６，ＭＲ５を設定キースイッチ１３１１ａ（ＲＷＭスイッチ６３３ｄ）から離すことで、抵抗ＭＲ１６，ＭＲ５が主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装される他の電子部品と紛れることで、重要な抵抗ＭＲ１６，ＭＲ５の存在を隠すことができる。

【２０５６】

また、抵抗ＭＲ１６，ＭＲ５を設定キースイッチ１３１１ａ（ＲＷＭスイッチ６３３ｄ）から離すことで、仮に、設定キースイッチ１３１１ａと主制御基板ボックス１３２０のカバー体１３０１とに生じたすき間から針金などの細長い不正工具を挿入する不正なアクセスがされたとしても、抵抗ＭＲ１６，ＭＲ５に対する不正改変を行い難くすることができ、セキュリティ向上に寄与することができる。

【２０５７】

Ｂ１２．論理反転回路１３１０ｉｖを構成する抵抗ＭＲ１６は、一端が主制御基板１３１０に備える＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成された＋５Ｖの電源ラインと電気的に接続

されると共に、その他端が主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ５（設定キー信号入力端子）と電気的に接続されるものであり、設定キースイッチ１３１１ａの右方に配置されるコネクタＭＣＮ８の右方に配置されている。エラー検知機能なしの主制御入力回路１３１０ｂを構成する抵抗ＭＲ２は、その一端が主制御基板１３１０に備える＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成された＋５Ｖの電源ラインと電気的に接続されると共に、その他端が主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０（ＲＷＭ信号入力端子）と電気的に接続されるものであり、設定キースイッチ１３１１ａの上方に配置されるリードタイプの集合抵抗のさらに上方に配置されている。このように、抵抗ＭＲ１６，ＭＲ５は、離間して配置されている。これにより、抵抗ＭＲ１６，ＭＲ５が主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装される他の電子部品と紛れることにより、設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号である操作信号の論理状態と、ＲＷＭスイッチ６３３ｄから検出信号である操作信号の論理状態と、に関わる重要な電子部品であることに気付き難くすることができる。

【２０５８】

また、抵抗ＭＲ１６，ＭＲ５を相互に離すことで、抵抗ＭＲ１６，ＭＲ５に対する不正改変を同時に行い難くすることができ、セキュリティ向上に寄与することができる。

【２０５９】

Ｂ１３．主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装される設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号、払出制御基板６３３の実装面（表面）に実装されるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号が入力されるエラー検知機能なしの主制御入力回路１３１０ｂと主制御ＭＰＵ１３１０ａとの間には、他の回路として、図１８７に示したように、ＤＩＰタイプの各種ＩＣ、リードタイプの抵抗、リードタイプのダイオード、リードタイプのコンデンサ、リードタイプの電解コンデンサ、ＤＩＰタイプの水晶発振器を介在するように配置する。こうすれば、主制御基板ボックス１３２０内へ針金などの細長い不正工具を侵入させて主制御ＭＰＵ１３１０ａのリード端子を短絡させようとしも、他の回路により不正工具の侵入を防止することができると共に、他の回路への短絡を誘引させて主制御基板１３１０の動作を阻止して遊技を行うことができないようにすることができる。なお、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装される設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号、払出制御基板６３３の実装面（表面）に実装されるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号が入力されるエラー検知機能なしの主制御入力回路１３１０ｂを、入力回路を備える専用ＩＣに代えた場合においても、専用ＩＣとの間には、他の回路を介在するように配置する。このように構成しても、主制御基板ボックス１３２０内へ針金などの細長い不正工具を侵入させて主制御ＭＰＵ１３１０ａのリード端子を短絡させようとしも、他の回路により不正工具の侵入を防止することができると共に、他の回路への短絡を誘引させて主制御基板１３１０の動作を阻止して遊技を行うことができないようにすることができる。

【２０６０】

Ｂ１４．払出制御基板６３３の実装面（表面）に実装されるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号は、遊技盤側ドロワコネクタと本体枠側ドロワコネクタとの結合により伝送されるように構成してもよい。この場合、遊技盤側ドロワコネクタが実装される基板からＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号を伝送する配線パターンは遊技盤側ドロワコネクタが実装される反対側の面に形成されるため（又は遊技盤側ドロワコネクタが実装される実装面に形成されてもドロワコネクタにより覆われて）視認困難となっている共に、本体枠側ドロワコネクタが実装される基板からＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号を伝送する配線パターンは本体枠側ドロワコネクタが実装される反対側の面に形成されるため（又は本体枠側ドロワコネクタが実装される実装面に形成されてもドロワコネクタにより覆われて）視認困難となっている。

【２０６１】

ここで、ドロワコネクタについて説明する。ドロワコネクタは、遊技盤５を本体枠４に装着するだけで自動的に本体枠４と遊技盤５との電気的接続を行うことができるコネクタ

であり、遊技盤５の後面の所定位置に配置される遊技盤側中継基板に遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）が設けられると共に、本体枠４の前面の所定位置に配置される本体枠側中継基板に本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）が設けられている。

【２０６２】

遊技盤５を本体枠４に装着すると、遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）が本体枠４の本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）に案内されて遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）の各端子と、本体枠４の本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）の各端子と、が電気的に接続されるようになっている。

【２０６３】

例えば、本体枠４の本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）について説明すると、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）は、非導電性を有する樹脂により形成され、正面側が矩形形状に開口されると共に左右方向に長い箱状本体を有し、箱状本体の後面側に左右方向に長い板状のベース体が一体に形成されて全体として英字Ｔ形に形成された形状となっている。

【２０６４】

箱状本体の開口部の周囲には、この開口部の前面から箱状本体の底面へ向かって所定距離までに亘って、遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）を箱状本体の底面へ向かって案内するための傾斜部がそれぞれ形成されている。箱状本体の開口部の内側上面の中央部分（１カ所）と内側上面の左右部分（左部分に１カ所、右部分に１カ所）とには、遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）が正規の向きと異なる上下方向ひっくり返して本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）に挿入されることを防止すると共に、遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）が正規の向きで本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）に挿入された際に遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）と本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）との左右方向の位置ズレを防止して遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）と本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）との嵌合を高める溝が箱状本体の開口部の前面近傍から箱状本体の底面へ向かってそれぞれ形成されている。

【２０６５】

箱状本体の底面には、この底面に対して垂直方向に、左右方向に２列に並んだピンタイプの各端子（左右方向に１列に６つのピンタイプの端子が並んでいる。）が箱状本体及びベース体を貫通している。

【２０６６】

ベース体の左側及び右側には、取付貫通穴がそれぞれ形成されている。取付貫通穴には、本体枠側中継基板に本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）を実装する場合に、まず本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）の前方からリベットがそれぞれ挿入されて本体枠側中継基板の裏面（ハンダ面）において端部がカシメられて塑性変形される。これにより、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）は、本体枠側中継基板に固定される。

【２０６７】

また、ベース体の裏面には、本体枠側中継基板に本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）を実装する際に、本体枠側中継基板に本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）の正規の向きに実装されるように円柱状の突出部が形成されている。

【２０６８】

本体枠側中継基板は、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）のほかに、この本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）と電気的に接続されるＤＩＰ（Ｄｕａｌ　Ｉｎｌｉｎｅ　Ｐａｃｋａｇｅ）タイプの小型コネクタが実装され、配線（ハーネス）を介して、払出制御基板６３３と電気的に接続されている。遊技盤５を本体枠４に装着すると、遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）が本体枠４の本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）に案内され、遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）の各端子と本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）の各端子とが電気的に接続されることにより、ＤＩＰタイプの小型コネクタ、そして配線（ハーネス）を介して、遊技盤５に備える主制御基板１３１０と本体枠４に備える払出制御基板６３３とによる各種制御信号を伝える制御信号ラインが形成されることとな

る。
【２０６９】
なお、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）は、遊技盤５に備える主制御基板１３１０と本体枠４に備える払出制御基板６３３とを電気的に接続すると共に、電源基板６３０からの各種電源を遊技盤５に備える各種基板へ供給する各種電源供給ライン（グランド（ＧＮＤ）を含む。）と電気的に接続するものであり、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）とは別にもう一つ他の本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）が本体枠側中継基板とは別の他の本体枠側中継基板に設けられている。この他の本体枠側中継基板は、他の本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）のほかに、この他の本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）と電気的に接続されるＤＩＰ（Ｄｕａｌ　Ｉｎｌｉｎｅ　Ｐａｃｋａｇｅ）タイプの小型コネクタが実装され、配線（ハーネス）を介して、扉枠３に備える各装飾基板や各種センサ等と電気的に接続されている。遊技盤５を本体枠４に装着すると、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）と電気的に接続される遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）とは別の他の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）が本体枠４の他の本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）に案内され、他の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）の各端子と他の本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）の各端子とが電気的に接続されることにより、ＤＩＰタイプの小型コネクタ、そして配線（ハーネス）を介して、遊技盤５に備える周辺制御基板１５１０と、扉枠３に備える各装飾基板、各種センサ、及び各種スピーカ等と、による各種制御信号や検出信号を伝える制御信号ラインが形成されることとなる。他の本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）の構造は、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）と同一の構造となっており、また他の本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）の他の本体枠側中継基板'への固定方法は、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）の本体枠側中継基板への固定方法（リベットを利用する固定方法）と同一となっている。
【２０７０】
また、本体枠４の本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）に案内される遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）の遊技盤側中継基板への固定方法、本体枠４の他の本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）に案内される遊技盤５の他の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）の他の遊技盤側中継基板（この他の遊技盤側中継基板は、本体枠４の本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）に案内される遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）が実装される遊技盤側中継基板と異なるものである。）への固定方法は、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）の本体枠側中継基板への固定方法（リベットを利用する固定方法）と同一となっている。
【２０７１】
本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）を本体枠側中継基板に固定する場合にリベットを用いているのは、ドロワコネクタを利用することで、遊技盤５を本体枠４に装着するだけで自動的に本体枠４と遊技盤５との電気的接続を行うことができるものの、遊技盤５を本体枠４に装着する際に、遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）から本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）の箱状本体に大きな力が付与される場合があるため、この大きな力により本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）におけるピンタイプの各端子が本体枠側中継基板の裏面（ハンダ面）においてハンダ付けされた面が剥離することを防止するためである。なお、ボルトとナットとを用いて、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）を本体枠側中継基板に固定する場合や遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）を遊技盤側中継基板に固定する場合では、遊技盤５を本体枠４に装着したり、取り外したりすることでナットが緩む場合があるという欠点がある。
【２０７２】
本実施形態では、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）の各端子としてピンタイプのものを利用しているが、ターミナル及びコンタクトを用いるベローズタイプを利用すると、次のような問題がある。例えば、遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）の各端子をターミナルとし、本体枠４の本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）の各端子をコンタクトとする場合において、パチンコ機１に電源が投入された状態で遊技盤５を本体枠４に

装着すると、ターミナルとコンタクトとの接点（具体的には、各種電源供給ライン用接点では大電流（突入電流）が流れる）が溶着することとなる。この溶着した状態のまま、遊技盤５を本体枠４に無理に押し込んで装着しようとすると、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）のコンタクトが折れ曲がって壊れたり、この遊技盤５を本体枠４から取り外すときに、コンタクトが本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）から剥がれて破損したりして、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）が使用できなくなるという問題。

【２０７３】

また、ターミナルとコンタクトとが溶着すると、コネクタの破損にともない、各種制御基板が誤動作したり、各種制御基板に実装された電子部品が破損したりするおそれもあるため、溶着を防止する専用回路を設ける必要があるという問題。

【２０７４】

本実施形態では、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）の各端子としてピンタイプのものを利用することで、上述した問題が全く発生しない。つまり、仮に作業員が誤ってパチンコ機１に電源が投入された状態で遊技盤５を本体枠４に装着したとしても、遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）の各端子と本体枠４の本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）の各端子とが溶着することがなし、溶着を防止する専用回路を設ける必要もない。

【２０７５】

Ｂ１５．主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装される設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号として、ＯＮ信号、ＯＦＦ信号とするのではなく、パスル信号やシリアル信号（コマンド送信）にしてもよい。

【２０７６】

以上説明した本実施形態のパチンコ機１によれば、発射された遊技球が流下する遊技領域５ａが区画形成される図１１の遊技盤５を備え、電子部品のリード端子が挿通されて電子部品が実装される実装面（表面）１３１０ｘと、電子部品のリード端子が挿通された電子部品のリード端子がハンダ付けされるハンダ面（裏面）１３１０ｙと、を有する図１８８の主制御基板１３１０を備えている。

【２０７７】

主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘには、遊技の進行を制御する遊技制御マイクロプロセッサとして図１８８のＺＩＰタイプの主制御ＭＰＵ１３１０ａが実装されると共に、主制御ＭＰＵ１３１０ａと電気的に接続される遊技者に利益を付与する確率を設定変更可能な状態とすることができる電子部品である操作部として図１８８の設定キースイッチ１３１１ａが実装されている。

【２０７８】

主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙには、主制御ＭＰＵ１３１０ａのリード端子がハンダ付けされると共に、設定キースイッチ１３１１ａのリード端子がハンダ付けされている。主制御ＭＰＵ１３１０ａのリード端子と設定キースイッチ１３１１ａのリード端子とを電気的に接続される配線パターンは、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙにのみ形成されている。

【２０７９】

このように、遊技者に利益を付与する確率を設定変更可能な操作部である設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号を伝送する配線パターンが主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成されることで、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘから見て配線パターンがどのように引き回れているのか視認困難とすることができ、配線パターンを不正改変し難くすることに寄与することができる。したがって、セキュリティ向上に寄与することができる。

【２０８０】

また、以上説明した本実施形態のパチンコ機１によれば、発射された遊技球が流下する遊技領域５ａが区画形成される図１１の遊技盤５を備え、遊技者に利益を付与する確率を設定変更可能な状態とすることができる第１操作部として図１８８の主制御基板１３１０

に備える設定キースイッチ１３１１ａと、遊技情報を記憶保持することができる記憶部として図１８８のＺＩＰタイプの主制御ＭＰＵ１３１０ａの主制御内蔵ＲＡＭが設けられると共に、遊技の進行を制御する遊技制御マイクロプロセッサとして図１８８のＺＩＰタイプの主制御ＭＰＵ１３１０ａが実装される制御基板として図１８８の主制御基板１３１０と、主制御内蔵ＲＡＭに記憶（保持）される遊技情報をクリア（消去）することができる第２操作部として図１８２の払出制御基板に備えるＲＷＭスイッチ６３３ｄと、を備えている。

【２０８１】

主制御ＭＰＵ１３１０ａは、設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号である操作信号とＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号である操作信号とに基づいて遊技者に利益を付与する確率を設定変更することができるものである。

【２０８２】

設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号である操作信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａに入力される第１伝送路として設定キー信号配線パターンと、ＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号である操作信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａに入力される第２伝送路としてＲＷＭ信号配線パターンと、が並走しないように主制御基板１３１０に形成されている。

【２０８３】

このように、遊技者に利益を付与する確率を設定変更することができる第１操作部である設定キースイッチ１３１１ａからの検出信号である操作信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａに入力される第１伝送路である設定キー信号配線パターンと、主制御ＭＰＵ１３１０ａに設けられる主制御内蔵ＲＡＭに保持される遊技情報をクリア（消去）することができる第２操作部であるＲＷＭスイッチ６３３ｄからの検出信号である操作信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａに入力される第２伝送路であるＲＷＭ信号配線パターンと、が並走しないように主制御基板１３１０に形成されている。これにより、第１伝送路である設定キー信号配線パターンと第２伝送路であるＲＷＭ信号配線パターンとが相互に離間して主制御ＭＰＵ１３１０ａに入力されることとなり、第１伝送路である設定キー信号配線パターンと第２伝送路であるＲＷＭ信号配線パターンとを同時に不正改変し難くすることができる。したがって、セキュリティ向上に寄与することができる。

【２０８４】

［１３．遊技内容］

本実施形態のパチンコ機１による遊技内容について、図１３７、図１４４及び図１４５等を参照して説明する。本実施形態のパチンコ機１は、扉枠３の前面右下隅に配置されたハンドルユニット１８０のハンドル１９５を遊技者が回転操作することで、皿ユニット２００の上皿２０１に貯留された遊技球Ｂが、遊技盤５における外レール１００１と内レール１００２との間を通って遊技領域５ａ内の上部へと打込まれて、遊技球Ｂによる遊技が開始される。遊技領域５ａ内の上部へ打込まれた遊技球Ｂは、その打込強さによってセンター役物２５００の左側、或いは、右側の何れかを流下する。なお、遊技球Ｂの打込強さは、ハンドル１９５の回転量によって調整することができ、時計回りの方向へ回転させるほど強く打込むことができ、連続で一分間に最大１００個の遊技球Ｂ、つまり、０．６秒間隔で遊技球Ｂを打込むことができる。

【２０８５】

また、遊技領域５ａ内には、適宜位置に所定のゲージ配列で複数の障害釘Ｎが遊技パネル１１００の前面に植設されており、遊技球Ｂが障害釘Ｎに当接することで、遊技球Ｂの流下速度が抑制されると共に、遊技球Ｂに様々な動きが付与されて、その動きを楽しませられるようになっている。また、遊技領域５ａ内には、障害釘Ｎの他に、遊技球Ｂの当接により回転する風車Ｗがサイド左上ユニット２３００の上方でセンター役物２５００の左方に設けられている。

【２０８６】

センター役物２５００の上部へ打込まれた遊技球Ｂは、センター役物２５００の外周面のうち、最も高くなった部位よりも正面視左側へ進入すると、複数の障害釘Ｎに当接しな

がら、センター役物２５００よりも左側の領域を流下することとなる。そして、センター役物２５００の左側の領域を流下する遊技球Ｂが、センター役物２５００の周壁部２５０１に開口しているワープ入口２５１１に進入すると、ワープ出口２５１２からステージ２５１３に供給される。

【２０８７】

ステージ２５１３に供給された遊技球Ｂは、ステージ２５１３上を転動して左右に行ったり来たりして、左右方向中央部分から前方へ放出される。ステージ２５１３の中央の中央放出部２５１３ａから遊技球Ｂが遊技領域５ａ内に放出されると、その中央放出部２５１３ａが第一始動口２００２の直上に位置していることから、高い確率で第一始動口２００２に受入れられる。この第一始動口２００２に遊技球Ｂが受入れられると、主制御基板１３１０及び払出制御基板６３３を介して払出装置５８０から所定数（例えば、３個）の遊技球Ｂが、上皿２０１に払出されると共に、主制御基板１３１０において、遊技者に有利な有利遊技状態（例えば、「大当り」、「中当り」、「小当り」、「役物当り」、「確率変動（確変）当り」、「時間短縮（時短）当り」、を発生させる特別抽選結果（第一特別抽選結果）の抽選が行われる。

【２０８８】

センター役物２５００のステージ２５１３から遊技領域５ａ内に放出された遊技球Ｂは、始動口ユニット２１００の第一始動口２００２に受入れられる可能性がある。

【２０８９】

ところで、センター役物２５００の左側へ流下した遊技球Ｂが、ワープ入口２５１１に進入しなかった場合、サイド左上ユニット２３００の棚部２３０１や障害釘Ｎにより左右方向中央側へ寄せられ、サイドユニット２２００の一般入賞口２００１、或いは、始動口ユニット２１００の第一始動口２００２等、に受入れられる可能性がある。そして、一般入賞口２００１に遊技球Ｂが受入れられると、主制御基板１３１０及び払出制御基板６３３を介して払出装置５８０から所定数（例えば、１０個）の遊技球Ｂが、上皿２０１に払出される。

【２０９０】

一方、遊技領域５ａ内においてセンター役物２５００の上部に打込まれた遊技球Ｂが、センター役物２５００の周壁部２５０１の最も高くなった部位よりも右側に進入すると、センター役物２５００の案内通路群２５２０の第一案内通路２５２１又は第二案内通路２５２２の何れかを通って、ゲート２００３の上方に放出され、案内通路群２５２０とゲート２００３との間に植設されている複数の障害釘Ｎに当接した上で、ある程度の確率でゲート２００３を通過する。

【２０９１】

センター役物２５００の案内通路群２５２０は、衝止部１００６の近傍に入口が開口している第一案内通路２５２１と、第一案内通路２５２１の入口から左方へ間隔をあけて入口が開口している第二案内通路２５２２と、から構成されている。これにより、衝止部１００６に当接する強さで遊技球Ｂを打込む（所謂、右打ちする）と、第一案内通路２５２１に進入し、衝止部１００６に当接しない強さ（右打ちよりもある程度弱い強さ）で遊技球Ｂを打込むと、高い確率で第二案内通路２５２２に進入する。つまり、センター役物２５００の上部の右側に打込まれた遊技球Ｂは、その打込強さに応じて、第一案内通路２５２１又は第二案内通路２５２２の何れかを流通する。

【２０９２】

本実施形態では、第一案内通路２５２１よりも第二案内通路２５２２を流通させた方が、高い確率でゲート２００３を遊技球Ｂが通過するように構成されている。また、第一案内通路２５２１よりも第二案内通路２５２２を流通させた方が、高い確率でゲート２００３及びゲート２００３の左側を通過するように構成されている。

【２０９３】

このゲート２００３を遊技球Ｂが通過してゲートセンサ２８０１により検知されると、主制御基板１３１０において普通抽選が行われ、抽選された普通抽選結果が「普通当り」

の場合、第一アタッカユニット２４００における閉鎖されている第二始動口２００４が所定時間（例えば、０．３～１０秒）の間、開状態となり、第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れが可能となる。

【２０９４】

本実施形態では、ゲート２００３を遊技球Ｂが通過することで行われる普通抽選において、普通抽選を開始してから普通抽選結果を示唆するまでにある程度の時間を設定している（例えば、０．０１～６０秒、普通変動時間とも称す）。この普通抽選結果の示唆は、遊技盤５の機能表示ユニット１４００に表示される。第二始動口２００４では、普通変動時間の経過後に開状態となる。

【２０９５】

なお、遊技球Ｂがゲート２００３を通過してから普通抽選結果が示唆されるまでの間に、遊技球Ｂがゲート２００３を通過すると、普通抽選結果の示唆を開始することができないため、普通抽選結果の示唆の開始を、先の普通抽選結果の示唆が終了するまで保留するようにしている。また、普通抽選結果の保留数は、４つまでを上限とし、それ以上については、ゲート２００３に遊技球Ｂが通過しても、保留せずに破棄している。これにより、保留が貯まることで遊技ホール側の負担の増加を抑制している。

【２０９６】

ゲート２００３及びゲート２００３の左側を通った遊技球Ｂは、ゲート２００３とサイド右中ユニット２７００との間に植設されている複数の障害釘Ｎにより、高い確率でサイド右中ユニット２７００の左側を流下し、たまにサイド右中ユニット２７００の一般入賞口２００１に受入れられたり、まれに第二サブアウト口２０２２に受入れられたりする。遊技球Ｂがサイド右中ユニット２７００の一般入賞口２００１に受入れられると、サイドユニット２２００の一般入賞口２００１と同様に、所定数の遊技球Ｂが払出される。一方、遊技球Ｂが第二サブアウト口２０２２に受入れられると、役物入賞口２００６、第二始動口２００４や大入賞口２００５に受入れられる機会もなく、遊技領域５ａ外へ排出される。

【２０９７】

また、ゲート２００３の右側を通った遊技球Ｂは、サイド右中ユニット２７００の第二サブアウト口２０２２に受入れられ、サイド右中ユニット２７００の一般入賞口２００１、役物入賞口２００６、第二始動口２００４や大入賞口２００５に受入れられる機会もなく、遊技領域５ａ外へ排出される。

【２０９８】

このように、案内通路群２５２０の下流側の第二サブアウト口２０２２に遊技球Ｂが受入れられると、当該遊技球Ｂが遊技領域５ａ外へ排出されてしまうため、遊技者に対して第二サブアウト口２０２２に遊技球Ｂが受けられないような、打込操作を促すことができる。本実施形態では、センター役物２５００の案内通路群２５２０において、第一案内通路２５２１よりも第二案内通路２５２２の方が、第二サブアウト口２０２２の遊技球Ｂの受入確率が低くなっているため、第二案内通路２５２２を狙った遊技球Ｂの打込操作を促すことができる。つまり、遊技球Ｂが衝止部１００６に当接するような「右打ち」よりも、ハンドル１８２の回転操作に微妙な調整が必要な打込操作を促すことができ、遊技球Ｂの打込操作をメインとしたパチンコ機１本来の遊技を楽しませることができる。

【２０９９】

サイド右中ユニット２７００の左側を通った遊技球Ｂは、サイド右中ユニット２７００の左側に植設されている複数の障害釘Ｎに誘導されて、第二アタッカユニット２６００における役物入賞口２００６の左方を通った後に、センター役物２５００の右下案内通路２５３０を介して第一アタッカユニット２４００側へ放出される。

【２１００】

この際に、第一始動口２００２や第二始動口２００４に遊技球Ｂが受入れられて第一特別抽選結果や第二特別抽選結果として「役物当り」が抽選されている場合、役物入賞口２００６が所定のパターンで開閉するため、サイド右中ユニット２７００の左側を流下した

遊技球Ｂが、高い確率で役物入賞口２００６に受入れられる。役物入賞口２００６が開状態の時に、役物入賞口２００６に遊技球Ｂが受入れられると、主制御基板１３１０及び払出制御基板６３３によって払出装置５８０から所定数（例えば、１０個、又は、１３個）の遊技球Ｂが、上皿２０１に払出される。

【２１０１】

役物入賞口２００６に受入れられて役物入賞口センサ２６０１に検知された遊技球Ｂは、振分通路３１５８を流通し、前後に進退するＶ入賞口扉３００６によりＶ入賞口２００７又はハズレ口２００８の何れかに振分けられる。Ｖ入賞口２００７に遊技球Ｂが振分けられると、遊技者に有利な有利遊技状態として大入賞口２００５が所定の開閉パターンで開閉する。一方、ハズレ口２００８に遊技球Ｂが振分けられると、遊技者に有利な有利遊技状態は発生しない。

【２１０２】

役物入賞口２００６の左方を通って第一アタッカユニット２４００側へ放出された遊技球Ｂは、第一棚部２４２１、第二始動口扉２４１１、及び第二棚部２４２２、上を左方へ転動した後に、左方へ放出され、更に、第三棚部２４２３、大入賞口扉２４１３、及び第四棚部２４２４、上を左方へ転動して遊技領域５ａ内へ放出される。

【２１０３】

そして、遊技球Ｂが第二始動口扉２４１１上を転動している時に、ゲート２００３での遊技球Ｂの通過により抽選された普通抽選結果が「普通当り」で、第二始動口扉２４１１が後退していると、当該遊技球Ｂが第二始動口２００４に遊技球Ｂが受入れられる。この第二始動口２００４に遊技球Ｂが受入れられると、主制御基板１３１０及び払出制御基板６３３を介して払出装置５８０から所定数（例えば、４個）の遊技球Ｂが、上皿２０１に払出されると共に、主制御基板１３１０において、遊技者に有利な有利遊技状態（例えば、「大当り」、「中当り」、「小当り」、「役物当り」、「確率変動（確変）当り」、「時間短縮（時短）当り」、を発生させる特別抽選結果（第一特別抽選結果）の抽選が行われる。

【２１０４】

また、遊技球Ｂが大入賞口扉２４１３上を転動している際に、第一始動口２００２及び第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより抽選された特別抽選結果（第一特別抽選結果及び第二特別抽選結果）が、有利遊技状態を発生させる特別抽選結果（例えば、「大当り」）の場合、特別変動時間の経過後に、大入賞口２００５が所定の開閉パターンで遊技球Ｂの受入れが可能な状態となる。大入賞口２００５が開状態の時に、大入賞口２００５に遊技球Ｂが受入れられると、主制御基板１３１０及び払出制御基板６３３によって払出装置５８０から所定数（例えば、１０個、又は、１３個）の遊技球Ｂが、上皿２０１に払出される。従って、大入賞口２００５が遊技球Ｂを受入可能としている時に、大入賞口２００５に遊技球Ｂを受入れさせることで、多くの遊技球Ｂを払出させることができ、遊技者を楽しませることができる。

【２１０５】

本実施形態のパチンコ機１は、第一始動口２００２及び第二始動口２００４に遊技球Ｂが受入れられると、主制御基板１３１０において、遊技者に有利な有利遊技状態（例えば、「大当り」、「中当り」、「小当り」、「役物当り」、「確率変動（確変）当り」、「時間短縮（時短）当り」、を発生させる特別抽選結果の抽選が行われる。そして、抽選された特別抽選結果を、所定時間（例えば、０．１～３６０秒、特別変動時間とも称す）かけて遊技者に示唆する。なお、第一始動口２００２及び第二始動口２００４に遊技球Ｂが受入れられることで抽選される特別抽選結果には、「ハズレ」、「小当り」、「２Ｒ大当り」、「５Ｒ大当り」、「１５Ｒ大当り」、「確変（確率変更）当り」、「時短（時間短縮）当り」、「確変時短当り」、「確変時短無し当り」、「第二大当り」、等がある。

【２１０６】

特別抽選結果が「役物当り」の場合、役物入賞口２００６が、所定短時間（例えば、０．２秒～０．６秒の間）の間、遊技球Ｂを受入可能な開状態となってから閉鎖する開閉パ

ターンを複数回（例えば、２回）繰返す。一方、特別抽選結果が「大当り」の場合、大入賞口２００５が、遊技球Ｂを受入可能な開状態となった後に、所定時間（例えば、約３０秒）経過、或いは、大入賞口２００５への所定個数（例えば、１０個）の遊技球Ｂの受入れ、の何れかの条件が充足すると、遊技球Ｂを受入不能な閉状態とする開閉パターン（一回の開閉パターンを１ラウンドと称す）を、所定回数（所定ラウンド数）繰返す。例えば、「２Ｒ大当り」であれば２ラウンド、「５Ｒ大当り」であれば５ラウンド、「１５Ｒ大当り」であれば１５ラウンド、夫々繰返して、遊技者に有利な有利遊技状態を発生させる。

【２１０７】

なお、「大当り」では、大当り遊技の終了後に、「大当り」等の特別抽選結果が抽選される確率を変更（「確変当り」）したり、特別抽選結果を示唆する演出画像の表示時間を変更（「時短当り」）したりする「当り」がある。

【２１０８】

特別抽選結果（例えば、第二特別抽選結果）が「第二大当り」の場合、大入賞口２００５が、所定のパターンで遊技球Ｂを受入可能とした後に、有利遊技状態としてＳＴ（スペシャル・タイム）を発生させる。このＳＴとは、予め決められた特定の変動回数の間、確変や時短の状態を維持するものである。

【２１０９】

本実施形態では、第一始動口２００２及び第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより特別抽選の開始から抽選された特別抽選結果が示唆されるまでの間に、第一始動口２００２及び第二始動口２００４に遊技球Ｂが受入れられると、特別抽選結果の示唆を開始することができないため、先に抽選された特別抽選結果の示唆が完了するまで、特別抽選結果の示唆の開始が保留される。この保留される特別抽選結果の保留数は、第一始動口２００２及び第二始動口２００４に対して、夫々４つまでを上限とし、それ以上については、第一始動口２００２及び第二始動口２００４に遊技球Ｂが受入れられても特別抽選結果を保留せずに、破棄している。これにより、保留が貯まることで遊技ホール側の負担の増加を抑制している。

【２１１０】

この特別抽選結果の示唆は、機能表示ユニット１４００と演出表示装置１６００とで行われる。機能表示ユニット１４００では、主制御基板１３１０によって直接制御されて特別抽選結果の示唆が行われる。機能表示ユニット１４００での特別抽選結果の示唆は、複数のＬＥＤを、点灯・消灯を繰返して所定時間点滅させ、その後に、点灯しているＬＥＤの組合せによって特別抽選結果を示唆する。

【２１１１】

一方、演出表示装置１６００では、主制御基板１３１０からの制御信号に基づいて、周辺制御基板１５１０によって間接的に制御され演出画像として特別抽選結果の示唆が行われる。演出表示装置１６００での特別抽選結果を示唆する演出画像は、複数の絵柄からなる絵柄列を、左右方向へ三つ並べて表示した状態で、各絵柄列を変動させ、変動表示されている絵柄列を順次停止表示させ、停止表示される三つの絵柄列の絵柄が、特別抽選結果と対応した組合せとなるように夫々の絵柄列が停止表示される。特別抽選結果が「ハズレ」以外の場合は、三つの絵柄列が停止して各絵柄が停止表示された後に、特別抽選結果を示唆する確定画像が演出表示装置１６００に表示されて、抽選された特別抽選結果に応じた有利遊技状態（例えば、「小当り」遊技、「大当り」遊技、等）が発生する。

【２１１２】

なお、機能表示ユニット１４００での特別抽選結果を示唆する時間（ＬＥＤの点滅時間（変動時間））と、演出表示装置１６００での特別抽選結果を示唆する時間（絵柄列が変動して確定画像が表示されるまでの時間）とは、異なっており、機能表示ユニット１４００の方が長い時間に設定されている。

【２１１３】

また、周辺制御基板１５１０では、演出表示装置１６００による特別抽選結果を示唆す

るための演出画像の表示の他に、抽選された特別抽選結果に応じて、扉枠３における演出操作ユニット３００における演出操作部３０１の接触操作部３０２や押圧操作部３０３を操作させる遊技者参加型演出を行うことができる。遊技者参加型演出では、操作ボタン昇降駆動モータ３６７により押圧操作部３０３を上昇させて目立たせることができ、演出操作部３０１の操作により遊技者参加型演出を楽しませることができる。

【２１１４】

また、周辺制御基板１５１０では、扉枠３に備えられている各装飾基板や、遊技盤５に備えられている各装飾基板、演出表示装置１６００、及び裏ユニット３０００の裏前演出ユニット３１００、裏後上演出ユニット３２００、及び裏後下演出ユニット３３００、等を適宜用いて、発光演出や表示演出等を行うことが可能であり、各種の演出によっても遊技者を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。

【２１１５】

更に、周辺制御基板１５１０では、接触操作部３０２や押圧操作部３０３を操作する遊技者参加型演出において、遊技者が操作すべき操作を間違えたり、行わなかったりした時に、正しい操作を行わせるように遊技者にその旨を告知する。

【２１１６】

［遊技盤に備える各装飾基板のランドへの絶縁被膜による反射率の向上］

次に、遊技盤５に備える各装飾基板に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成について図１９４～図１９７を参照して説明する。図１９４は第１実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を説明する概略図（ａ）であり、（ａ）におけるＸ－Ｘ線の断面の概略図（ｂ）であり、（ｂ）の変形例の概略図（ｃ）であり、図１９５は第２実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を説明する概略図（ａ）であり、（ａ）におけるＸ－Ｘ線の断面の概略図（ｂ）であり、（ｂ）の変形例の概略図（ｃ）であり、図１９６は第３実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を説明する概略図（ａ）であり、（ａ）におけるＸ－Ｘ線の断面の概略図（ｂ）であり、（ｂ）の変形例の概略図（ｃ）であり、図１９７は第４実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を説明する概略図（ａ）であり、（ａ）におけるＸ－Ｘ線の断面の概略図（ｂ）であり、（ｂ）の変形例の概略図（ｃ）である。また、図１９４～図１９７では、同じ機能を奏するものに対しては、同じ符号を付して表すとともに、遊技盤５に備える各装飾基板を装飾基板ＫＢとして表した。なお、以下では装飾基板ＫＢとして遊技盤５に設けられる装飾基板ついて示すが、ＬＥＤを実装する装飾基板であれば遊技盤５に設けられるものに限らず、扉枠３に設けられるものであっても装飾基板ＫＢと同様の構成を適用可能である（遊技盤５に設けられる装飾基板や扉枠３に設けられる装飾基板として装飾基板ＫＢとは異なる構成を有する装飾基板を有していてもよい）。

【２１１７】

スルーホールは、上述したように、貫通する孔の内周壁に銅メッキが施されて導電性を有しているものであり、電子部品を実装するためのスルーホールと、電子部品を実装しないスルーホールと、があり、第１乃至第４実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成は電子部品を実装しないスルーホールに対して採用している。遊技盤５に備える各装飾基板を装飾基板ＫＢには、スルーホール以外にノンスルーホールも設けられており、ノンスルーホールは、貫通する孔の内周壁に銅メッキが施されず、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）及び後面（裏実装面）にランドを有していない点で、貫通する孔の内周壁に銅メッキが施されるとともに、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）及び後面（裏実装面）にランドを有するスルーホールと大きく異なっている。ノンスルーホールは、基板を部材に取り付けるた

めに形成されたり、外力が加わる電子部品（配線の着脱が行われるコネクタ等）を基板に固定するために形成されたりするものである。なお、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を、電子部品を実装するためのスルーホールに採用することに差し支えはない。

【２１１８】

ここでは、まず、遊技盤５に備える各装飾基板について簡単に説明し、第１乃至第４実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成、そして装飾基板の後面（裏実装面）に実装されるコネクタについて順番に説明する。

【２１１９】

なお、第１乃至第４実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成は、遊技盤５に備える各装飾基板のうち、ＬＥＤドライバＩＣ（定電流駆動回路）等の熱源が実装されていない装飾基板について適用されるのに対して、ＬＥＤドライバＩＣ（定電流駆動回路）等の熱源が実装されている装飾基板について適用されない。また、第１乃至第４実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成は、電気的駆動源である始動口ソレノイド２４１２、アタッカソレノイド２４１４、役物入賞口ソレノイド２６１２、Ｖ振分ソレノイド３００７、等の駆動ソレノイドを駆動する後述する駆動ソレノイド駆動ＩＣ等の熱源が実装される主制御基板１３１０について適用されないし、電気的駆動源である後述する払出モータ５８４を駆動する払出モータ駆動ＩＣ等の熱源が実装される払出制御基板６３３について適用されないし、後述する空冷ファンＦＡＮ（図１７０、１７１を参照。）により空冷される周辺制御ＩＣ１５１０ａ（図１７０、１７１を参照。）等の熱源が実装される周辺制御基板１５１０について適用されない。

【２１２０】

これらの熱源が実装される各基板（つまり、遊技盤に備える装飾基板、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３、周辺制御基板１５１０）は、各ＩＣ（つまり、ＬＥＤドライバＩＣ（定電流駆動回路）、駆動ソレノイド駆動ＩＣ、払出モータ駆動ＩＣ）の各端子がハンダ付けされるパッド部分と電気的に接続されている配線パターン上に形成されるスルーホールのランドに対して第１乃至第４実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成が適用されないが、第１又は第２実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を各ＩＣ（つまり、ＬＥＤドライバＩＣ（定電流駆動回路）、駆動ソレノイド駆動ＩＣ、払出モータ駆動ＩＣ）の各端子がハンダ付けされるパッド部分について適用してもよい。

【２１２１】

また、第１乃至第４実施形態に係る遊技盤に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対する絶縁被膜を被せる構成は、放熱フィンが実装される後述する電源基板６３０について適用されない。遊技盤５に備える各装飾基板のうち、放熱フィンが実装されるように装飾基板を構成してよく、この場合、第１乃至第４実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成は、放熱フィンが実装される装飾基板について適用されないのに対して、放熱フィンが実装されない装飾基板について適用される。また、周辺制御基板１５１０又は液晶出力基板１５３０（図１７０、１７１を参照。）に放熱フィンが実装されるように構成してもよく、この場合、第１乃至第４実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成は、放熱フィンが実装される周辺制御基板１５１０又は液晶出力基板１５３０に適用されない。

【２１２２】

また、各種音を増幅する回路を有するアンプ基板は、後述するように、電力消費が大き

く、発熱するため、金属製のカバー体と金属製のベース体とから構成される金属製の基板ボックスに収容されたり、金属製の部分ケースに取り付けられたりする。このため、第１乃至第４実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成は、アンプ基板について適用されない。

【２１２３】

［遊技盤に備える各装飾基板］

遊技盤５に備える各装飾基板（本例では裏前左上ロゴ装飾部３１２２を発光装飾させるための裏前左上装飾基板３１２９、裏前左ロゴ装飾部３１２１、裏前左上ロゴ装飾部３１２２、及び裏前左サブ装飾部３１２３を発光装飾させるための裏前左装飾基板３１２８、裏前下ロゴ装飾体３１６７を発光装飾させるための裏前下ロゴ装飾基板３１７３、裏前下中装飾体３１６１を発光装飾させるための裏前下中装飾基板３１６８と、裏前下左内装飾体３１６３を発光装飾させるための裏前下左内装飾基板３１６９と、裏前下左外装飾体３１６４を発光装飾させるための裏前下左外装飾基板３１７０と、裏前下右内装飾体３１６５を発光装飾させるための裏前下右内装飾基板３１７１と、裏前下右外装飾体３１６６を発光装飾させるための裏前下右外装飾基板３１７２と、裏前右ロゴ装飾部３１４１を発光装飾させるための裏前右下装飾基板３１５２、裏前右上ロゴ装飾部３１４２を発光装飾させるための裏前右上装飾基板３１５１等）の前面（表実装面）及び後面（裏実装面）には、ほぼ全体に絶縁被膜として白色のレジスト液が塗布されて形成される白色絶縁膜（絶縁被膜、以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成されている。また遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）には、ベタ塗りされた白色のレジスト上に電子部品である複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）を特定可能にする、フルカラーＬＥＤの部品番号、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域等の電子部品の属性（さらに、電子部品の形状、電子部品の大きさ、電子部品の実装向き（実装方向）、電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表記部が黄色の塗料でシルク印刷により印刷されている。電子部品の属性は、実線、破線、型式の場合には文字等が用いられる。なお、遊技盤５や扉枠３に設けられる装飾基板においては、電子部品が実装されている部分（装飾基板の表面（表実装面、裏実装面）のうち電子部品によって覆われている部分）にも絶縁被膜（レジスト）が形成されている。例えば、ＬＥＤが実装される表実装面に白色のレジスト層（白色の絶縁被膜）が形成される装飾基板においては、ＬＥＤの実装されている表面部分（表面のうちＬＥＤによって覆われている部分）にも白色のレジスト層（白色の絶縁被膜）が形成されているし、ＬＥＤが実装される表実装面に黒色や緑色のレジスト層（黒色や緑色の絶縁被膜）が形成される装飾基板においては、ＬＥＤの実装されている表面部分（表面のうちＬＥＤによって覆われている部分）にも黒色や緑色のレジスト層（黒色や緑色の絶縁被膜）が形成されている。このようにＬＥＤが実装される表実装面に白色のレジスト層（白色の絶縁被膜）が形成される装飾基板においてはＬＥＤによって覆われて露出していないＬＥＤの下方部分にも白色のレジスト層（白色の絶縁被膜）を形成することでＬＥＤに最も近い部分の反射効率を高めることができるようになるし、ＬＥＤが実装される表実装面に黒色や緑色のレジスト層（黒色や緑色の絶縁被膜）が形成される装飾基板においてはＬＥＤによって覆われて露出していないＬＥＤの下方部分にも黒色や緑色のレジスト層（黒色や緑色の絶縁被膜）を形成することでＬＥＤに最も近い部分の反射効率を低下させて光の干渉を抑制することができるようになる。

【２１２４】

レジスト液の白色には、バラツキにより薄い白色となったり、濃い白色となったりする場合もあれば、暗い白色となったり、明るい白色となったりする場合がある。また、レジスト液を供給するインク会社にも白色に幅（例えば、明るい側に寄る黄色、暗い側による黄色）があるため、同一の基板製造会社や複数の基板会社に対してレジスト液として白色を指定しても、完全同一の白色とならず（完全同一の白色とすることが難しく）、白色に幅がある色となる。

【２１２５】
ここで、レジスト液の色として白色のものを採用し、シルク印刷の塗料として黄色を採用した理由について説明する。まず、反射率は、白色に近いほど高くなるのに対して、黒色に近づくと低くなる。黄色の反射率は赤色の反射率と比べると白色の反射率に非常に近く、赤色の反射率は黄色の反射率と比べて白色の反射率に非常に遠い。黄色の反射率は白色絶縁膜の白色の反射率と比べて低いものの高い反射率を有している。このため、白色と赤色との組み合わせでは、背景が白色であると赤色が目立つこととなり、表記部を赤色とする場合には白色のレジストに対して赤色の表記部が目立つのに対して、白色と黄色との組み合わせ（本実施形態の構成）では、背景が白色であると黄色が目立たず、表記部を黄色とする場合には白色のレジストに対して黄色の表記部が目立ち難い。
【２１２６】
パチンコ機１の前方に着座した遊技者が頭（顔）を動かすことで頭（顔）の方向により視線が変化して、仮に、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）を遊技者が視認することができる場合であっても、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）にベタ塗りされた白色のレジスト上には、フルカラーＬＥＤの部品番号、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域等の電子部品の属性を示す表記部が黄色の塗料でシルク印刷により印刷されているため、白色のレジストに対して黄色の表記部が目立ち難く、遊技者にとって遊技と全く関係を持たないフルカラーＬＥＤと対応する部品番号、及びフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域が遊技者に視認されることを抑止することができる。
【２１２７】
なお、電子部品である複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）を特定可能にする、フルカラーＬＥＤの部品番号、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域等の電子部品の属性を示す表記部を、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に黄色とは異なる明色（特に黄緑色、水色等の淡色）の塗料でシルク印刷により印刷するようにしてもよい。この場合、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）にベタ塗りされた白色のレジスト上には、フルカラーＬＥＤの部品番号、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域等の電子部品の属性を示す表記部が明色の塗料でシルク印刷により印刷されているため、白色のレジストに対して明色の表記部が目立ち難く、遊技者にとって遊技と全く関係を持たないフルカラーＬＥＤと対応する部品番号、及びフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域が遊技者に視認されることを抑止することができるし、黄色より劣るものの反射率が高い明色を用いることで遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）の反射効率の低下を抑制することができる。
【２１２８】
また、電子部品である複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）を特定可能にする、フルカラーＬＥＤの部品番号、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域等の電子部品の属性を示す表記部は、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に黄色の塗料でシルク印刷により印刷されていたが、これに代えて、遊技盤５に備える各装飾基板の後面（裏実装面）に、黄色の塗料でシルク印刷により印刷されるようにしてもよいし、黄色と異なる色（例えば、黒色などの明色でない色であってもよいし、青色、緑色、赤色等の色であってもよい。）の塗料でシルク印刷により印刷されるようにしてもよい。この場合、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）にはシルク印刷により印刷されるものが全く存在せず、遊技盤５に備える各装飾基板の後面（裏実装面）にのみシルク印刷により印刷されるものが存在することとなる。こうすれば、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）にベタ塗りされた白色のレジストにより複数のＬＥＤの発光による前方（つまりパチンコ機１の正面側）への反射率を高めることに寄与することができる。また、遊技者にとって遊技と全く関係を持たない電子部品の部品番号、及び電子部品の属性が遊技者に視認されることを抑止することができる。
【２１２９】
また、電子部品である複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）を特定可能にする、フルカラーＬＥＤの部品番号、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域等の電

子部品の属性を示す表記部は、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に黄色の塗料でシルク印刷により印刷されていたが、これに代えて、フルカラーＬＥＤの部品番号を箔抜き文字（つまり、配線パターンが形成される銅箔面において銅箔である配線パターンで文字を作りその周囲の銅箔を抜いて形成される抜き文字）として形成するとともに、フルカラーＬＥＤの属性を図示しない各端子及び図示しない配線パターンを除く箔抜き領域（つまり、配線パターンが形成される銅箔面において、各端子及び配線パターンを除いて、銅箔を抜いて形成される領域）として形成し、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）にベタ塗りされる白色のレジストによりその箔抜き領域とその箔抜き文字とをそれぞれ覆うようにしてもよい。具体的には、例えば、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域が箔抜き領域として遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるとともに、この箔抜き領域の近傍にフルカラーＬＥＤと対応する部品番号が抜き文字として遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成され、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）にベタ塗りされる白色のレジストによりその箔抜き領域とその箔抜き文字とが覆わる。箔抜き文字を形成する配線パターンは、電子部品と電気的に絶縁されて形成される。こうすれば、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）にベタ塗りされた白色のレジストにより複数のＬＥＤの発光による前方（つまりパチンコ機１の正面側）への反射率を高めることに寄与することができる。また、遊技者にとって遊技と全く関係を持たない電子部品の部品番号、及び電子部品の属性が遊技者に視認されることを抑止することができる。

【２１３０】

また、電子部品である複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）を特定可能にする、フルカラーＬＥＤの部品番号、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域等の電子部品の属性を示す表記部は、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に黄色の塗料でシルク印刷により印刷されていたが、これに代えて、フルカラーＬＥＤの部品番号を２度塗りの白色のレジストを利用した白色レジスト抜き文字として形成するとともに、フルカラーＬＥＤの属性を２度塗りの白色のレジストを利用した白色レジスト抜き領域として形成してもよい。具体的には、例えば、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）は、２度塗りの白色のレジストのうち１度目として、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）のほぼ全体が白色のレジストにより覆われる（つまり、２度塗りの白色のレジストのうち１度目として、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に白色のレジスト液が塗布されている）。そして、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）は、２度塗りの白色のレジストのうち２度目として、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域（所定のピン番号の配置を指示する領域（切り欠き部）を含む。）が白色レジスト抜き領域としてマスクされるとともに、これらの白色レジスト抜き領域の近傍にフルカラーＬＥＤと対応する部品番号が白色レジスト抜き文字としてマスクされる状態で、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）の全体が白色のレジストにより覆わる。これにより、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）には、２層の白色のレジストが形成されるものの、第１層目の白色のレジストにより全体が覆われるとともに、第２層目の白色のレジストによりマスクされた領域を除いて全体が覆われることにより、そのマスクされた領域が凹部として窪み、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域が白色レジスト抜き領域として形成されるとともに、フルカラーＬＥＤと対応する部品番号が白色レジスト抜き文字として形成される。第１層目の白色のレジストの透過率と、第２層目の白色のレジストの透過率と、は同一のものが採用されることにより、第１層目の白色のレジストと第２層目の白色のレジストとに濃淡が生じ、第２層目の白色のレジストを通して遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）の下地（銅箔面（銅箔部分）、及び銅箔面（銅箔部分）を除く領域、以下同じ。）を見ると、第２層目の白色のレジストと第１層目の白色のレジストとが重なる領域では第２層目の白色のレジストが濃く見えるのに対して、マスクされたことで第２層目の白色のレジストと第１層目の白色のレジストとが重ならない領域では第１層目の白色のレジストが第２層目の白色のレジストに覆われず剥き出しとなることにより第１層目の白色のレジストが淡く見えることとなる。つまり、第２

層目の白色のレジストを通して遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）の下地を見ると、第１層目の白色のレジストにおける白色レジスト抜き領域、白色レジスト抜き文字を識別することができるようになっている。こうすれば、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）にベタ塗りされた白色のレジストにより複数のＬＥＤの発光による前方（つまりパチンコ機１の正面側）への反射率を高めることに寄与することができる。また、遊技者にとって遊技と全く関係を持たない電子部品の部品番号、及び電子部品の属性が遊技者に視認されることを抑止することができる。

【２１３１】

また、電子部品である複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）を特定可能にする、フルカラーＬＥＤの部品番号、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域等の電子部品の属性を示す表記部は、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に黄色の塗料でシルク印刷により印刷されていたが、これに代えて、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）及び後面（裏実装面）には、シルク印刷により印刷される領域が全く存在しないようにしてもよい。こうすれば、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）にベタ塗りされた白色のレジストにより複数のＬＥＤの発光による前方（つまりパチンコ機１の正面側）への反射率を高めることに寄与することができる。また、遊技者にとって遊技と全く関係を持たない電子部品の部品番号、及び電子部品の属性が遊技者に視認されることを全くなくすことができる。また、シルク印刷という工程を省くことができるため、シルク印刷の版代や基板の製造工程数の削減により基板製造コストを下げることができる。

【２１３２】

装飾基板ＫＢの前面（表実装面）には複数のＬＥＤが実装され、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）には装飾基板ＫＢに電気配線を接続するためのコネクタのほかに、抵抗、コンデンサ、複数のＬＥＤの発光を制御する回路（例えば、定電流駆動回路）等の電子部品が一つ乃至複数実装されている場合がある。ＬＥＤは、そのパッケージの色が白色、又は白色に近い色（例えば、アイボリー色、ベージュ色、クリーム色）を有する電子部品であり、コネクタは、そのハウジングの色が白色、又は白色に近い色（例えば、アイボリー色、ベージュ色、クリーム色）を有する電子部品であり、定電流駆動回路は、集積化された回路として黒色を有す得るＩＣパッケージに収容され表面実装タイプ（ＳＭＤタイプ）のＬＥＤドライバＩＣである電子部品であり、抵抗は、黒色、青色、又は白色等を有する表面実装タイプ（ＳＭＤタイプ）の電子部品であり、コンデンサは、黒色、茶色、灰色、又は白色等を有する表面実装タイプ（ＳＭＤタイプ）の電子部品である。なお、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）には、ベタ塗りされた白色のレジスト上に電子部品（コネクタ、抵抗、コンデンサ、複数のＬＥＤの発光を制御する回路等）を特定可能にする、電子部品の部品番号、電子部品の属性を示す領域等の表記部が黄色の塗料でシルク印刷により印刷されるようにしてもよいし、黄色と異なる色（例えば、黒色などの明色でない色であってもよいし、青色、緑色、赤色等の色であってもよい。）の塗料でシルク印刷により印刷されるようにしてもよい。なお、ＬＥＤのパッケージの色は白色や白色に近い色（例えば、アイボリー色、ベージュ色、クリーム色）に限らず、黄色や水色、黄緑色等の白色に比べて反射効率を僅かに低下させるものであってもよい。この場合にもＬＥＤのパッケージによる装飾基板ＫＢの前面（表実装面）における反射効率の低下を抑制することができる。

【２１３３】

表面実装タイプ（ＳＭＤタイプ）の抵抗は、ＬＥＤが１つも実装されない装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）のみに配置し、複数のＬＥＤが実装される装飾基板ＫＢの前面（表実装面）に配置しない方が装飾基板ＫＢの前面（表実装面）にベタ塗りされた白色のレジストの面積を増やすことができる。これは、表面実装タイプ（ＳＭＤタイプ）の抵抗は、一般的に上面（保護膜などの名称で呼ばれることがある）が端子部を除いて黒色のものが多く、上面が黒色の抵抗を装飾基板ＫＢの前面（表実装面）に配置すると白色のレジストと反射率が違うため、明色の白色のレジストに中に暗色の黒色が存在することで装飾基板ＫＢの前面（表実装面）にベタ塗りされた白色のレジストによる反射率が低下して反射率の

均一性が損なわれることとなる。また、上面が黒色（暗色）である抵抗は、レジストの白色（明色）と組み合わせた場合に、目立つ色（視認し易い色）であるため、遊技者が必要のない黒色を目にすることにより、演出効果を低下させるおそれがある。また、表面実装タイプ（ＳＭＤタイプ）の抵抗の上面（保護膜）には、抵抗値を表記する場合があり上面（保護膜）が黒色の場合は抵抗値を表記する数字もしくは記号は白色が採用されることが多いものの、下地となる黒色の面積が抵抗値を表記する数字もしくは記号と比べると圧倒的に大きいため、抵抗値が表記されている場合でも上面（保護膜）は黒色と認識される。なお、装飾基板ＫＢの実装密度や放熱対策や装飾基板ＫＢの配置位置の関係で複数のＬＥＤが実装される装飾基板ＫＢの前面（表実装面）にも抵抗を配置する場合がある。

【２１３４】

表面実装タイプ（ＳＭＤタイプ）のコンデンサ（セラミックコンデンサ）は、ＬＥＤが１つも実装されない装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）のみに配置し、複数のＬＥＤが実装される装飾基板ＫＢの前面（表実装面）に配置しない方が装飾基板ＫＢの前面（表実装面）にベタ塗りされた白色のレジストの面積を増やすことができる。これは、表面実装タイプ（ＳＭＤタイプ）のコンデンサ（セラミックコンデンサ）は、一般的に上面（グリーンシート工法により製造されることが多く、上面は誘電体であるセラミックで構成されていることから）が端子部を除いて茶色のものが多く、上面が茶色のコンデンサ（セラミックコンデンサ）を装飾基板ＫＢの前面（表実装面）に配置すると白色のレジストと反射率が違うため、明色の白色のレジストに中に暗色の茶色が存在することで装飾基板ＫＢの前面（表実装面）にベタ塗りされた白色のレジストによる反射率が低下して反射率の均一性が損なわれることとなる。また、上面が茶色（暗色）であるコンデンサ（セラミックコンデンサ）は、レジストの白色（明色）と組み合わせた場合に。目立つ色（視認し易い色）であるため、遊技者が必要のない茶色を目にすることにより、演出効果を低下させるおそれがある。なお、装飾基板ＫＢの実装密度や放熱対策や装飾基板ＫＢの配置位置の関係で複数のＬＥＤが実装される装飾基板ＫＢの前面（表実装面）にもコンデンサ（セラミックコンデンサ）を配置する場合がある。

【２１３５】

コネクタを装飾基板ＫＢの前面（表実装面）に実装する場合は、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）にベタ塗りされた白色のレジストと同一の色、つまり白色のハウジングを有したコネクタとすることが望ましい。コネクタを装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）に実装する場合は特別な場合を除いて白、黒、青等の色を用いても差し支えない。

【２１３６】

なお、上記した例では装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）に白色とは異なる色の外装（型式等の印刷を含まない）を有する電子部品（大半が白色とは異なる色で構成されるものであれば一部に白色の外装を有していてもよい）のみを配置するものを示したが、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）に白色の外装を有する電子部品（大半が白色で構成されるものであれば一部に暗色の外装を有していてもよいし、大半が明色（特に黄色、水色、黄緑色等の淡色）で構成されるものでもよい）を配置するようにしてもよく、この場合には装飾基板ＫＢの前面（表実装面）からスルーホールを通して装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）に配置する電子部品の白色の外装（例えばコネクタの白色のハウジングやボス等））が視認できるように、白色の外装を有する電子部品によって装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）のスルーホールを塞ぐように配置するものであってもよい（スルーホールの形成されている領域に配置するようにしてもよい）。一方、黒色等の暗色の外装を有する電子部品（大半が暗色で構成されるものであれば一部に明色の外装を有していてもよい）についてはスルーホールを塞がないように配置するようにしてもよい（スルーホールの形成されていない領域に配置するようにしてもよい）。このように構成することにより、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）は白色の外装を有する電子部品でスルーホールを塞ぎ、黒色等の暗色の外装を有する電子部品はスルーホールを塞がないように設けられるため、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）から見た場合にスルーホールの内部を装飾基板ＫＢの前面（表実装面）にベタ塗りされた白色のレジストと同一の色にすることができ、装飾基板ＫＢの前面（表実

装面）における反射効率の均一化を図ることができるし、暗色の外装を有する電子部品によって装飾基板ＫＢの前面（表実装面）における反射効率が低下することを抑制できる。また、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）のスルーホールを塞ぐ電子部品として白色の外装を有する電子部品を例示したが、これに限らず明色（白色、白色に近い色（例えば、アイボリー色、ベージュ色、クリーム色）等や淡色（黄色、水色、黄緑色等））の外装を有する電子部品（大半が明色で構成されるものであれば一部に暗色の外装を有していてもよい）によって装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）のスルーホールを塞ぐようにしてもよい。この場合には装飾基板ＫＢの前面（表実装面）から見た場合にスルーホールの内部を装飾基板ＫＢの前面（表実装面）にベタ塗りされた白色のレジストと反射効率の近い明色にすることができ、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）における反射効率の均一化を図ることができるし、暗色の外装を有する電子部品によって装飾基板ＫＢの前面（表実装面）における反射効率が低下することを抑制できる。また、装飾基板ＫＢに形成されるスルーホールの全てを白色の外装を有する電子部品によって塞ぐ（装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）又は装飾基板ＫＢの前面（表実装面）から塞部）ものに限らず、装飾基板ＫＢに形成されるスルーホールのうち一部のスルーホールについては電子部品によって塞がないようにしてもよいし、一部のスルーホールについては白色以外の色の外装を有する電子部品によって塞ぐようにしてもよい。この場合であっても白色と反射効率の近い明色（黄色、水色、黄緑色等）の外装を有する電子部品で塞ぐことにより装飾基板ＫＢの前面（表実装面）における反射効率の低下を抑制することが可能である。

【２１３７】

また、シルク印刷の塗料として黄色を採用した場合には、シルク印刷により印刷された黄色が印刷機によるバラツキにより薄い黄色となったり、濃い黄色となったりする場合もあれば、橙色に見えたりする場合もある。また、シルク印刷の塗料を供給するインク会社にも黄色に幅（明るい側に寄る黄色、暗い側による黄色）があるため、同一の基板製造会社や複数の基板会社に対してシルク印刷の塗料として黄色を指定しても、完全同一の黄色とならず（完全同一の黄色とすることが難しく）、黄色に幅がある色となる。このため、表記部を黄色の塗料でシルク印刷により印刷されているが、黄色のほかにパステルカラー等の白色の明度に近い色（例えば、薄い緑色、薄い青色等）を有する塗料で表記部をシルク印刷により印刷する場合においても、上述した黄色の塗料と同様に、完全同一の白色の明度に近い色とならず（完全同一の白色の明度に近い色とすることが難しく）、白色の明度に近い色に幅がある色となる。表記部をシルク印刷の塗料として黄色と異なる色を採用した場合も、上述した黄色の塗料と同様に、幅がある色となる。

【２１３８】

また、ＬＥＤは、多色発光可能なフルカラーＬＥＤであるが、白色、赤色、緑色、黄色、橙色、青色、緑色等の単色のＬＥＤであってもよいし、表面実装タイプのトップビュータイプのものを使用したり、表面実装タイプのサイドビュータイプのものをしたりしてもよい。また、ＬＥＤとして表面実装タイプのものを使用するほかに、砲弾タイプのものを使用してもよい。

【２１３９】

また、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）には装飾基板ＫＢに電気配線を接続するためのコネクタが実装されていたが、コネクタのハウジングの色が白色、又は白色に近い色（例えば、アイボリー色、ベージュ色、クリーム色）を有する電子部品である場合には、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）に実装してもよい。これは、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）に形成される絶縁被膜である白色絶縁膜と同様の色を有する白色のコネクタ（又は白色に近い色のコネクタ）を実装することにより、このコネクタによる装飾基板ＫＢの前面（表実装面）における反射効率の低下を抑制することができるからである。なお、コネクタのハウジングの色が白色又は白色に近い色（例えば、アイボリー色、ベージュ色、クリーム色）を有する電子部品である場合に限らず、コネクタのハウジングの色が反射効率を著しく低下させる暗色（黒色、緑色、青色、紫色等）ではなく、白色に比べて反射効率を僅かに低下させる明色（黄色、水色、黄緑色等）を有する電子部品である場合（大半が明色

で構成されるものであれば一部に暗色の外装を有していてもよい）には、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）に実装してもよい。この場合にもコネクタによる装飾基板ＫＢの前面（表実装面）における反射効率の低下を抑制することができる。また、コネクタに限らず明色（白色、白色に近い色（例えば、アイボリー色、ベージュ色、クリーム色）等や淡色（黄色、水色、黄緑色等））の外装を有する電子部品（大半が明色で構成されるものであれば一部に暗色の外装を有していてもよい）であれば、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）に実装してもよい。この場合にもこの電子部品による装飾基板ＫＢの前面（表実装面）における反射効率の低下を抑制することができる。このように、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）には明色のパッケージを有するＬＥＤのみが実装されるようにしてもよいし、明色のパッケージを有するＬＥＤとは別に明色の外装を有する電子部品を実装するようにしてもよい。この場合にも装飾基板ＫＢの前面（表実装面）における反射効率の低下を抑制することができる。

【２１４０】

また、装飾基板ＫＢの前面（表実装面、ＬＥＤ実装面）と装飾基板ＫＢの後面（裏実装面、ＬＥＤ非実装面）とに形成される白色の絶縁被膜の下層には基板グランド（ベタグランド、基板ＧＮＤともいう）が形成されている。具体的には、装飾基板ＫＢの前面（表実装面、ＬＥＤ実装面）と装飾基板ＫＢの後面（裏実装面、ＬＥＤ非実装面）とのうち配線パターンの形成される領域と、箔抜き文字の形成される領域（例えば基板管理番号が形成される領域）と、チェック端子（テストポイント）の形成される領域と、等を除く領域（一部（半分未満の領域でもよい）又は全部（半分以上の領域でもよいし、略全ての領域でもよい））に基板グランドが形成され、チェック端子を除く略全ての領域が白色の絶縁被膜で覆われている。これにより、装飾基板ＫＢの前面（表実装面、ＬＥＤ実装面）に実装されるＬＥＤから照射される光が基板グランドによって装飾基板ＫＢの後面（裏実装面、ＬＥＤ非実装面）側に透過することを抑制できるため、装飾基板ＫＢの前面（表実装面、ＬＥＤ実装面）における反射率を向上させることができ、光量の低下を抑制した効率的な発光装飾を実現できるようになる。

【２１４１】

なお、上記した例では装飾基板ＫＢの前面（表実装面、ＬＥＤ実装面）と装飾基板ＫＢの後面（裏実装面、ＬＥＤ非実装面）との両方に基板グランドを形成するものを示したが、少なくとも装飾基板ＫＢの前面（表実装面、ＬＥＤ実装面）と装飾基板ＫＢの後面（裏実装面、ＬＥＤ非実装面）との一方に基板グランド（ベタグランド、基板ＧＮＤともいう）を形成するものであれば上記作用効果を奏することが可能である。また、絶縁被膜によって覆うことが不可能なチェック端子（テストポイン）は装飾基板ＫＢの前面（表実装面、ＬＥＤ実装面）に形成することなく、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面、ＬＥＤ非実装面）のみに形成するようにしてもよく、これによって装飾基板ＫＢの前面（表実装面、ＬＥＤ実装面）において白色の絶縁被膜で覆われる領域の割合を高めて装飾基板ＫＢの前面（表実装面、ＬＥＤ実装面）における反射率の均一化を図ることができるようになる。

【２１４２】

［第１実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成］

第１実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、図１９４（ａ），（ｂ）に示すように、装飾基板ＫＢの基材ＫＢｏの板厚方向（装飾基板ＫＢの基材ＫＢｏの表面垂直（裏面垂直）方向）に対して細い貫通孔が形成されるとともに、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘの銅箔面と、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙの銅箔面と、において銅箔を抜くことで外径ＫＴＨＤ１をそれぞれ有する前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１が形成されているとともに、前面（表実装面）側配線パターンや後面（裏実装面）側配線パターンが形成されている。貫通孔の内周面全体に対して導電性を有するメッキ加工が施されることでスルーホールＫＴＨ１が形成されている。装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側ランドＫＲ

Ｄｘ１の外径と装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１の外径とが外径ＫＴＨＤ１であり同一の大きさとなっている。

【２１４３】

装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側配線パターンの一端と、が電気的に接続されているとともに、前面（表実装面）側配線パターンの他端と、多色発光可能な１つのフルカラーＬＥＤ又は複数のフルカラーＬＥＤの特定の端子がハンダ付けされるパッドと、が電気的に接続されている。

【２１４４】

なお、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と電気的に接続される装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側配線パターンには、第１の前面（表実装面）側配線パターンと第２の前面（表実装面）側配線パターンとがあるものがある。この場合、第１の前面（表実装面）側配線パターンの一端は、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と電気的に接続されるとともに、第２の前面（表実装面）側配線パターンの一端は、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と電気的に接続されることとなり、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１から２本の前面（表実装面）側配線パターン（つまり、第１の前面（表実装面）側配線パターンと第２の前面（表実装面）側配線パターンと）が出ていることとなる。また、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１と電気的に接続される装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側配線パターンには、第１の後面（裏実装面）側配線パターンと第２の後面（裏実装面）側配線パターンとがあるものがある。この場合、第１の後面（裏実装面）側配線パターンの一端は、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１と電気的に接続されるとともに、第２の後面（裏実装面）側配線パターンの一端は、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１と電気的に接続されることとなり、後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１から２本の後面（裏実装面）側配線パターン（つまり、第１の後面（裏実装面）側配線パターンと第２の後面（裏実装面）側配線パターンと）が出ていることとなる。

【２１４５】

装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１と、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側配線パターンの一端とが電気的に接続されているとともに、後面（裏実装面）側配線パターンの他端と、フルカラーＬＥＤの発光を制御するＩＣの特定端子がハンダ付けられるパッド、抵抗の特定端子がハンダ付けされるパッド、コネクタの特定端子がハンダ付けされるパッド等のいずれかのパッドと、が電気的に接続されている。

【２１４６】

装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１とは、スルーホールＫＴＨ１を介して、電気的に接続された状態となっており、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側配線パターンと、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側配線パターンと、が装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１、スルーホールＫＴＨ１、そして装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１を介して、電気的に接続されている状態となっている。

【２１４７】

装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘの銅箔面の上には、絶縁被膜として白色のレジスト液が塗布されて前面（表実装面）側レジスト層ＫＢｘｒが形成されているものの、前面（表実装面）側レジスト層ＫＢｘｒのうち前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と対応

する領域には、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外径ＫＴＨＤ１より小さい開口径ＫＢｘｒＤ１を有する前面（表実装面）側レジスト開口部ＫＢｘｒａが形成されている。また、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙの銅箔面上には、絶縁被膜として白色のレジスト液が塗布されて後面（裏実装面）側レジスト層ＫＢｙｒが形成されているものの、後面（裏実装面）側レジスト層ＫＢｙｒのうち後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１と対応する領域には、後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１の外径ＫＴＨＤ１より小さい開口径ＫＢｙｒＤ１を有する後面（裏実装面）側レジスト開口部ＫＢｙｒａが形成されている。

【２１４８】

前面（表実装面）側レジスト開口部ＫＢｘｒａの開口径ＫＢｘｒＤ１と後面（裏実装面）側レジスト開口部ＫＢｙｒａの開口径ＫＢｙｒＤ１とが同一の大きさとなっている。なお、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される基板グランド（ＧＮＤ）（つまり、ベタグランド）と、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される基板グランド（ＧＮＤ）（つまり、ベタグランド）と、は図示しないスルーホールにより電気的に接続されて同一のグランド（ＧＮＤ）となっている。

【２１４９】

装飾基板ＫＢは、実際には１枚の定尺の銅張積層板（基材）から複数の基板を配置して最終的に切り出して製造されるものである。１枚の定尺の銅張積層板（基材）を製造装置に固定して塗装をする工程、乾燥する工程、孔を空ける行程、他の工程等があり、最終的に各基板が切り出される。

【２１５０】

このように、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおいて、前面（表実装面）側レジスト層ＫＢｘｒのうち前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と対応する領域には、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外径ＫＴＨＤ１より小さい開口径ＫＢｘｒＤ１を有する前面（表実装面）側レジスト開口部ＫＢｘｒａが形成されているため、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外径ＫＴＨＤ１の外周から前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の中心へ向かって前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外周部分が絶縁被膜として白色のレジストにより被さった状態となっている。これにより、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外周部分全体に絶縁被膜として白色のレジストが被さった状態とすることができるため、銅箔が剥き出しとなっている前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の面積を小さく抑えることができる。また、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外径ＫＴＨＤ１の外周から前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の中心へ向かって前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外周部分を絶縁被膜として白色のレジストで覆うことにより、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の中心から外径ＫＴＨＤ１の外周へ向かって前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の内周部分を白色のレジスト（絶縁被膜）で覆う場合に比べて後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１のうち白色のレジスト（絶縁被膜）で覆われる領域の割合を高めることができるため、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）の均一化を図ることができる。

【２１５１】

また、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１及び後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１は、共に銅箔が剥き出しとなっているため、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）側から前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１に対してコンタクトプローブの先端部を接触させて装飾基板ＫＢの電気検査（動作確認や異常電位の確認）を行うことができるし、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）側から後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１に対してコンタクトプローブの先端部を接触させて装飾基板ＫＢの電気検査（動作確認や異常電位の確認）を行うことができる。つまり、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１及び後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１を装飾基板ＫＢの電気検査を行う場合に、チェック端子として利用することができる。なお、コンタクトプローブとして、専用のプローブでもよいし、いわゆる「テスタ」の導通チェックを行うテストリードであってもよい。

【２１５２】

また、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）側から前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１に対してコンタクトプローブの先端部を接触させることができるため、例えば、パチンコ機１が遊技ホールに設置された状態においても、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）がパチンコ機１の前方を向いているため、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）側から前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１に対してコンタクトプローブの先端部を接触させることができる場合には、装飾基板ＫＢを取り出すための作業を行うことなく、装飾基板ＫＢの不具合検査として、装飾基板ＫＢの電気検査（動作確認や異常電位の確認）を行うこともできる。

【２１５３】

ところで、装飾基板ＫＢに実装される複数のＬＥＤは、照射角が小さいタイプ（照射角が狭いタイプ）のものであると点光源となって見えて点光源の集合体となって遊技者に視認されて違和感を与えるおそれがある。このため、装飾基板ＫＢに実装される複数のＬＥＤは、遊技者に点光源として視認されないように照射角が大きいタイプ（照射角が広いタイプ）のものが採用されている。

【２１５４】

ところが、ＬＥＤの照射角が大きくなると（ＬＥＤの照射角が広くなると）、ＬＥＤが照らす範囲が広くなることにより、ＬＥＤの発光面から発した光が複数の他の部材に反射して装飾基板ＫＢへ再び戻ってくるものも多くなる。そこで、装飾基板ＫＢへ戻ってきた光を装飾基板ＫＢの前方へ出射できるように反射することができれば、ＬＥＤの発光面に加えて、複数のＬＥＤが実装される装飾基板ＫＢの前面（表実装面）を反射面として利用することで、ＬＥＤの発光面から発した光を効率良く発光演出に利用することができる。

【２１５５】

装飾基板ＫＢには、上述したように、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側配線パターンと、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側配線パターンと、を電気的に接続するスルーホールＫＴＨ１に対して、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１が形成されている。装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘには、上述したように、絶縁被膜としてベタ塗りされた白色のレジストが形成されているし、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１が形成されている。前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１は、銅箔が剥き出しとなったものであるため、絶縁被膜としてベタ塗りされた白色のレジスト（白色絶縁膜）による反射率と、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１による反射率と、が異なることとなり、複数のＬＥＤが実装される装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘによる反射率を一様（均一）とすることが難しい。

【２１５６】

そこで、第１実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外周部分全体に絶縁被膜として白色のレジストが被さった状態とすることにより、銅箔が剥き出しとなっている前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の面積を小さく抑えて、複数のＬＥＤが実装される装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘによる反射率を一様（均一）とすることに寄与することができるようになっている。

【２１５７】

また、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外周部分全体に絶縁被膜として白色のレジストが被さった状態とすることにより、遊技者から視認可能とされる装飾基板ＫＢにおいて、この装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに露出する銅箔が剥き出しとなる割合を低減することができるため、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘによる反射率を一様（均一）とすることにより、銅箔の部分を目立ち難くし装飾基板ＫＢのよる発光演出効果の向上に寄与することができる。

【２１５８】

また、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘには、透光性のインナーレンズＫＡが配置されている。このインナーレンズＫＡは表面又は裏面にレンズカットが施されて（多面

体や凹凸状（微細な凹凸が複数形成されるものを含む）に形成されて）光を乱屈折することができるようになっており、またインナーレンズＫＡを通して視認される対象物を歪ませて対象物を不鮮明にすることができるようになっている。インナーレンズの一例について図２６２に示す。図２６２（Ａ）はインナーレンズＫＡの正面図であり、図２６２（Ｂ）はインナーレンズＫＡの正面斜視図であり、図２６２（Ｃ）はインナーレンズＫＡの後面斜視図である。図２６２（Ａ）～（Ｃ）に示すように、インナーレンズＫＡは表面に微細なレンズ（又はプリズム）が複数形成されており、装飾基板ＫＢからの光を広く拡散させることができるようになっている。このように、インナーレンズＫＡによって装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘの略全域（少なくともＬＥＤが実装される領域）を覆うことにより、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１やスルーホールＫＴＨ１の孔の存在を遊技者に分かり難くすることができる。

【２１５９】

なお、インナーレンズＫＡは表面側と裏面側との少なくとも一方に微細なレンズ（又はプリズム）等のレンズカットが施されるものであれば上記した作用効果を奏することが可能である。また、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘのうち少なくとも前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１やスルーホールＫＴＨ１の形成される領域をインナーレンズＫＡによって覆うものであればよく、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘの一部にインナーレンズＫＡによって覆われない領域を有していてもよい。また、第１実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を採用することにより、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１やスルーホールＫＴＨ１の孔の存在を遊技者に分かり難くすることができることに加えて、上記インナーレンズＫＡによって装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘの略全域（少なくともＬＥＤが実装される領域）を覆う構成を採用することで、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１やスルーホールＫＴＨ１の孔の存在をより一層遊技者に分かり難くすることができる。また、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される絶縁被膜としてベタ塗りされた白色のレジストの厚みや色の濃淡による反射効率に差が生じた場合に、この差をインナーレンズＫＡによりを抑制して演出効果を高めることができる。

【２１６０】

また、インナーレンズＫＡを装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに配置する場合に、表面に形成される多面体の面と面の境界部や凹部と凸部との境界部がスルーホールＫＴＨ１と表記部の一部（部品番号のみでもよいし、配置する位置を示す領域のみでもよい）との一方又は両方と重なるように（ＬＥＤ実装面と直交する直線上）配置するようにしてもよく、この場合にはインナーレンズＫＡの表面の中でも特に歪みが大きい面と面との境界部によってスルーホールＫＴＨ１と表記部とを不鮮明にしてこれらの存在を遊技者に分かり難くすることができる。また、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘを覆うインナーレンズＫＡは、レンズカットの程度の異なる複数のレンズ（多面体や凹凸の数や面の大きさ等が異なるレンズ）を重ねて構成される（例えば二重構造）ものであってもよく、これによって光の屈折をより不規則にすることができることに加えて、インナーレンズＫＡを通して視認される対象物をより強く歪ませて不鮮明にすることができるようになり、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１やスルーホールＫＴＨ１の孔の存在を遊技者に分かり難くすることができる。また、レンズカットの施されていない装飾レンズによって装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘを覆うとともに、この装飾レンズと装飾基板ＫＧの前面（表実装面）ＫＢｘとの間（装飾レンズの内側）にレンズカットが施されたインナーレンズＫＡを配置してこのインナーレンズＫＡによって装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘの一部又は全部を覆うようにしてもよいし、レンズカットの施されているインナーレンズＫＡによって装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘを覆うとともに、このインナーレンズＫＡと装飾基板ＫＧの前面（表実装面）ＫＢｘとの間（装飾レンズの内側）にレンズカットが施されていない装飾レンズを配置してこの装飾レンズによって装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘの一部又は全部を

覆うようにしてもよい。
【２１６１】
　また、レンズカットが施されていない装飾レンズは不透明（半透明を含む）かつ透光性を有するように形成してもよく、レンズカットの施されているインナーレンズＫＡとともに装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに配置することにより、不透明な装飾レンズによって装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１やスルーホールＫＴＨ１の孔の存在を遊技者に分かり難くしながらも装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに実装されるＬＥＤによる均一な発光装飾を実行することができる。なお、レンズカットの施されているインナーレンズＫＡを装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに配置することなく、不透明（半透明を含む）かつ透光性を有するように形成されてレンズカットが施されていない装飾レンズのみを装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに配置するようにしてもよく、この場合にも不透明な装飾レンズによって装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１やスルーホールＫＴＨ１の孔の存在を遊技者に分かり難くしながらも装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに実装されるＬＥＤによる発光装飾を実行することができる。
【２１６２】
　また、遊技盤５に備える演出表示装置１６００の液晶表示画面は遊技者の最大の視認対象であるため、演出表示装置１６００（液晶表示画面）の周りの装飾基板や演出表示装置１６００（液晶表示画面）の上側に被さるように配置される装飾基板、演出表示装置１６００（液晶表示画面）の上側と被さる位置に移動可能に配置される装飾基板は、第１実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成において、スルーホールのランドに対する絶縁被膜が被さっていない部分を極力少なくすることにより、複数のＬＥＤが実装される装飾基板の前面（表実装面）による反射率を一様（均一）とするという効果、銅箔の部分を目立ち難くするという効果、スルーホールの孔の存在をより遊技者に分かり難くするという効果等が高くなる。また、他の場所でも、例えば遊技者が装飾基板を、レンズカットが施されて（多面体や凹凸状に形成されて）光を乱屈折することができるようになっているインナーレンズＫＡを通して視認できる場所に配置してあるものにおいても、第１実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成により、複数のＬＥＤが実装される装飾基板の前面（表実装面）による反射率を一様（均一）とするという効果、銅箔の部分を目立ち難くするという効果、スルーホールの孔の存在をより遊技者に分かり難くするという効果等がある。なお、扉枠３に備える各装飾基板と遊技盤５に備える各装飾基板とでは、遊技盤５に備える各装飾基板の方が扉枠３に備える各装飾基板と比べると演出表示装置１６００により近い配置となっていため、第１実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成において、複数のＬＥＤが実装される装飾基板の前面（表実装面）による反射率を一様（均一）とするという効果、銅箔の部分を目立ち難くするという効果、スルーホールの孔の存在をより遊技者に分かり難くするという効果等が高いといえる。
【２１６３】
　なお、第１実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙにおいて、後面（裏実装面）側レジスト層ＫＢｙｒのうち後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１と対応する領域には、後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１の外径ＫＴＨＤ１より小さい開口径ＫＢｙｒＤ１を有する後面（裏実装面）側レジスト開口部ＫＢｙｒａが形成されることにより、後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１の外径ＫＴＨＤ１の外周から後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１の中心へ向かって後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１の外周部分が絶縁被膜として白色のレジストにより被さった状態となっていたが、図１９４（ｃ）に示すように、後面（裏実装面）側レジスト層ＫＢｙｒのうち後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１と対応する領域には、後面（裏実装面）側ランドＫＲ

Ｄｙ１の外径ＫＴＨＤ１より大きい開口径ＫＢｙｒＤ２（＞開口径ＫＢｙｒＤ１）を有する後面（裏実装面）側レジスト開口部ＫＢｙｒａが形成されるようにしてもよい。これは、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙにＬＥＤが１つも実装されていないし、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに実装される複数のＬＥＤが発した光を装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙがそもそも反射面として利用できないため、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙによる反射率を上述した一様（均一）とすることに寄与する必要が全くなく、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙがＬＥＤの発光面から発した光を効率良く発光演出に利用することができないからである。

【２１６４】

また、第１実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘ及び後面（裏実装面）ＫＢｙには、ほぼ全体に絶縁被膜として白色のレジスト液が塗布されて形成される白色絶縁膜により白色のレジスト層が形成され、フルカラーＬＥＤの部品番号、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域等の電子部品の属性を示す表記部によっても装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける反射率の均一化を図るように構成されている（装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに黄色等の明色で表記部を形成したり、箔抜き文字で表記部を形成したり、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）に所定色の塗料で表記部を形成する等）。また、第１実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、白色絶縁膜によって装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１を覆うことにより反射率の低下抑制に寄与することに加えて、上記表記部によって装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける反射率の均一化を図る構成を採用することにより、反射率の低下の抑制効果がさらに高まる。また、表記部によって装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける反射率の均一化を図る構成では表記部自体の視認を困難にすることも可能となるため、遊技者に遊技と関係のないフルカラーＬＥＤの部品番号や、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域等の電子部品の属性を示す表記部が視認され難くすることができるし、これに併せて上記第１実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を採用することでスルーホールについても視認され難くすることができ、遊技と無関係の情報やスルーホールが視認されて遊技興趣が低下することを抑止する効果が高まる。

【２１６５】

また、セキュリティ対策としてフルカラーＬＥＤの部品番号、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域等の電子部品の属性を示す表記部を表記せずに１ピンマークを箔残し等により表記するようにしてもよく、この場合にもこれらの構成に併せて上記第１実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を採用することにより、反射率の低下の抑制効果をさらに高めることができるし、遊技と無関係の情報（１ピンマーク）やスルーホールが視認されて遊技興趣が低下することを抑止する効果が高まる。

【２１６６】

なお、第１実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘ及び後面（裏実装面）ＫＢｙには、ほぼ全体に絶縁被膜として白色のレジスト液が塗布されて形成される白色絶縁膜により白色のレジスト層が形成されていたが、複数のＬＥＤが実装されている装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘには、ほぼ全体に絶縁被膜として白色のレジスト液が塗布されて形成される白色絶縁膜により白色のレジスト層が形成されるのに対して、ＬＥＤが１つも実装されていない装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙには、ほぼ全体に絶縁被膜として白色と異なる他色（例えば、緑色、黒色、黄色、赤色、青色等）のレジスト液が塗布されて形成される他色絶縁膜により他色のレジスト層が形成されるようにしてもよい。これは、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙ

にＬＥＤが１つも実装されていないし、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに実装される複数のＬＥＤが発した光を装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙがそもそも反射面として利用できないため、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙによる反射率を上述した一様（均一）とすることに寄与する必要が全くなく、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙがＬＥＤの発光面から発した光を効率良く発光演出に利用することができないからである。

【２１６７】

また、第１実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘ及び後面（裏実装面）ＫＢｙには、ほぼ全体に絶縁被膜として白色のレジスト液が塗布されて形成される白色絶縁膜により白色のレジスト層が形成されていたが、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘ及び後面（裏実装面）ＫＢｙのうち一方の面又は両方の面には、ほぼ全体に絶縁被膜として白色の塗料でシルク印刷により印刷されて形成される白色絶縁膜により白色のシルク印刷層が形成されるようにしてもよい。この場合、一方の面又は両方の面に形成される白色のシルク印刷層の上に電子部品を特定可能にする、電子部品の部品番号、電子部品の属性を示す表記部が黄色の塗料でシルク印刷により印刷される。黄色のほかにパステルカラー等の白色の明度に近い色（例えば、薄い緑色、薄い青色等）を有する塗料で表記部をシルク印刷により印刷してもよい。一方の面又は両方の面に上述した白色のシルク印刷層を形成する場合には、基材ＫＢｏや銅箔面（電子部品がハンダ付けされるパッドのほかに、所定領域を除いた銅箔面）を覆うレジスト層を形成してもよいし、レジスト層を形成しなくてもよく、レジスト層を形成する場合には、このレジスト層を覆うように、絶縁被膜として白色の塗料でシルク印刷により印刷されて形成される白色絶縁膜により白色のシルク印刷層が形成されることとなる。レジスト層は、白色のレジスト液でもよいし、白色と異なる他色（緑色、黒色、黄色、赤色、青色等）のレジスト液でもよい。

【２１６８】

また、第１実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を、遊技盤５の機能表示ユニット１４００における機能表示基板１４００ｃのスルーホールのランドに対して適用することができる。機能表示基板１４００ｃの前面（表実装面）１４００ｃｘ及び後面（裏実装面）１４００ｃｙには、上述したように、黒色のレジスト液が塗布されて形成される黒色絶縁膜により黒色のレジスト層が形成されている。黒色のレジスト液を使用すると、上述したように、機能表示基板１４００ｃの前面（表実装面）１４００ｃｘに実装される複数のＬＥＤ１４００ｃａが発した光による反射を防止することで、近傍に配置されるＬＥＤ１４００ｃａが発した光と混ざらないようにすることに寄与することができる。このため、機能表示基板１４００ｃの前面（表実装面）１４００ｃｘにおける前面（表実装面）側ランドの外周部分全体に絶縁被膜として黒色のレジストが被さった状態とすることにより、銅箔が剥き出しとなっている前面（表実装面）側ランドの面積を小さく抑えて反射率を低減させて、複数のＬＥＤ１４００ｃａが実装される機能表示基板１４００ｃの前面（表実装面）１４００ｃｘによる反射率を一様（均一）とすることに寄与することができる。

【２１６９】

また、スルーホールは、上述したように、貫通する孔の内周壁に銅メッキが施されて導電性を有しているものであり、電子部品を実装するためのスルーホールと、電子部品を実装しないスルーホールと、があり、どちらのスルーホールのランドにおいも、第１実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成が採用されていたが、電子部品を実装しないスルーホールのうち、電子部品が実装される直下に設けられるものに対しては第１実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成が採用されなくてもよい。つまり、電子部品を実装しないスルーホールのうち、電子部品が実装される直下に設けられるスルーホールのランドにおける

銅箔全体が剥き出しの状態としてもよい。この場合、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙにおける後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１と、における銅箔全体が剥き出しの状態とする。銅箔全体が剥き出しの状態となっているスルーホールのランド全体を覆うように電子部品が配置されているため、そもそも、銅箔の部分を目立ち難くする必要がないし、スルーホールの孔の存在を遊技者に分かり難くする必要もないからであるとともに、電子部品が実装されていない面からスルーホールのランドの存在やスルーホールの孔の存在を、装飾基板ＫＢの電気検査において目視にて確認することができるし、スルーホールのランドに対してコンタクトプローブの先端部を接触させて装飾基板ＫＢの電気検査（動作確認や異常電位の確認）を行うことができる。

【２１７０】

［第２実施形態に係るスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成］

第２実施形態に係るスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、図１９５（ａ），（ｂ）に示すように、装飾基板ＫＢの基材ＫＢｏの板厚方向（装飾基板ＫＢの基材ＫＢｏの表面垂直（裏面垂直）方向）に対して細い貫通孔が形成されるとともに、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘの銅箔面と、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙの銅箔面と、において銅箔を抜くことで外径ＫＴＨＤ１をそれぞれ有する前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１が形成されているとともに、前面（表実装面）側配線パターンや後面（裏実装面）側配線パターンが形成されている。貫通孔に対して導電性を有するメッキ加工が施されることでスルーホールＫＴＨ１が形成されている。装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外径と装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１の外径とが外径ＫＴＨＤ１であり同一の大きさとなっており、上述した第１実施形態に係るスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成における前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外径と後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１の外径と同一の大きさとなっている。

【２１７１】

装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側配線パターンの一端と、が電気的に接続されているとともに、前面（表実装面）側配線パターンの他端と、多色発光可能な１つのフルカラーＬＥＤ又は複数のフルカラーＬＥＤの特定の端子がハンダ付けされるパッドと、が電気的に接続されている。

【２１７２】

装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１と、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側配線パターンの一端とが電気的に接続されているとともに、後面（裏実装面）側配線パターンの他端と、フルカラーＬＥＤの発光を制御するＩＣの特定端子がハンダ付けられるパッド、抵抗の特定端子がハンダ付けされるパッド、コネクタの特定端子がハンダ付けされるパッド等のいずれかのパッドと、が電気的に接続されている。

【２１７３】

なお、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と電気的に接続される装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側配線パターンには、第１の前面（表実装面）側配線パターンと第２の前面（表実装面）側配線パターンとがあるものがある。この場合、第１の前面（表実装面）側配線パターンの一端は、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と電気的に接続されるとともに、第２の前面（表実装面）側配線パターンの一端は、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と電気的に接続されることとなり、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１から２本の前面（表実装面）側配線パターン（つまり、第１の前面（表実装面）側配線パターンと第２の前面（表実装面）側配線パターンと）が出ていることとなる。

また、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１と電気的に接続される装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側配線パターンには、第１の後面（裏実装面）側配線パターンと第２の後面（裏実装面）側配線パターンとがあるものがある。この場合、第１の後面（裏実装面）側配線パターンの一端は、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１と電気的に接続されるとともに、第２の後面（裏実装面）側配線パターンの一端は、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１と電気的に接続されることとなり、後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１から２本の後面（裏実装面）側配線パターン（つまり、第１の後面（裏実装面）側配線パターンと第２の後面（裏実装面）側配線パターンと）が出ていることとなる。

【２１７４】

装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１とは、スルーホールＫＴＨ１を介して、電気的に接続された状態となっており、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側配線パターンと、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側配線パターンと、が装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１、スルーホールＫＴＨ１、そして装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１を介して、電気的に接続されている状態となっている。

【２１７５】

装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘの銅箔面の上には、絶縁被膜として白色のレジスト液が塗布されて前面（表実装面）側レジスト層ＫＢｘｒが形成されているものの、前面（表実装面）側レジスト層ＫＢｘｒのうち前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と対応する領域には、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外径ＫＴＨＤ１より小さく、且つ、上述した第１実施形態に係るスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成における開口径ＫＢｙｒＤ１の外径よりさらに小さく、且つ、スルーホールＫＴＨ１の孔の内径より大きい開口径ＫＢｘｒＤ１を有する前面（表実装面）側レジスト開口部ＫＢｘｒａが形成されている。この開口径ＫＢｘｒＤ２の内径は、スルーホールＫＴＨ１の孔における前面（表実装面）側内周縁から同心円状に外側へ広がるレジスト液侵入防止領域が加味されたものであり、スルーホールＫＴＨ１の孔における前面（表実装面）側内周縁からレジスト液侵入防止距離寸法（レジスト液侵入防止距離寸法は、白色のレジスト液が装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔への侵入を防止するために、少なくとも、０．５ｍｍ以上の距離寸法が必要であり、第２実施形態に係るスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、０．５ｍｍが採用されている。）だけ離れた大きさとなっている。このため、開口径ＫＢｘｒＤ２の内径は、スルーホールＫＴＨ１の孔の内径に対してレジスト液侵入防止距離寸法（０．５ｍｍ）を２倍したものを加えたものとなり、スルーホールＫＴＨ１の孔の内径より１．０ｍｍだけ大きいものとなっている。

【２１７６】

これに対して、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙの銅箔面上には、絶縁被膜として白色のレジスト液が塗布されて後面（裏実装面）側レジスト層ＫＢｙｒが形成されているものの、後面（裏実装面）側レジスト層ＫＢｙｒのうち後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１と対応する領域には、後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１の外径ＫＴＨＤ１より小さい開口径ＫＢｙｒＤ１を有する後面（裏実装面）側レジスト開口部ＫＢｙｒａが形成されている。開口径ＫＢｙｒＤ１の外径は、上述した第１実施形態に係るスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成における開口径ＫＢｙｒＤ１の外径と同一の大きさとなっている。

【２１７７】

なお、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される基板グランド（ＧＮＤ）（つまり、ベタグランド）と、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される基板グ

ランド（ＧＮＤ）（つまり、ベタグランド）と、は図示しないスルーホールにより電気的に接続されて同一のグランド（ＧＮＤ）となっている。

【２１７８】

装飾基板ＫＢは、実際には１枚の定尺の銅張積層板（基材）から複数の基板を配置して最終的に切り出して製造されるものである。１枚の定尺の銅張積層板（基材）を製造装置に固定して塗装をする工程、乾燥する工程、孔を空ける行程、他の工程等があり、最終的に各基板が切り出される。

【２１７９】

このように、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおいて、前面（表実装面）側レジスト層ＫＢｘｒのうち前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と対応する領域には、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外径ＫＴＨＤ１より小さく、且つ、上述した第１実施形態に係るスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成における開口径ＫＢｙｒＤ１の外径よりさらに小さく、且つ、スルーホールＫＴＨ１の孔の内径より大きい開口径ＫＢｘｒＤ１を有する前面（表実装面）側レジスト開口部ＫＢｘｒａが形成されているため、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外径ＫＴＨＤ１の外周から前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の中心へ向かって前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１のうちレジスト液侵入防止領域（つまり、スルーホールＫＴＨ１の孔における前面（表実装面）側内周縁からレジスト液侵入防止距離寸法（０．５ｍｍ）だけ離れた位置までに亘る領域）を除いて外周部分が絶縁被膜として白色のレジストにより被さった状態となっている。これにより、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１のほぼ内側から外周部分全体に亘って（つまり、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１のうちレジスト液侵入防止領域を除いた領域に亘って）絶縁被膜として白色のレジストが被さった状態とすることができるため、銅箔が剥き出しとなっている部分がレジスト液侵入防止領域となることにより、銅箔が剥き出しとなっている前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の面積を、第１実施形態に係るスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成におけるものと比べると、極めて小さく抑えることができる。また、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外径ＫＴＨＤ１の外周から前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の中心へ向かって前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外周部分を絶縁被膜として白色のレジストで覆うことにより、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の中心から外径ＫＴＨＤ１の外周へ向かって前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の内周部分を白色のレジスト（絶縁被膜）で覆う場合に比べて後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１のうち白色のレジスト（絶縁被膜）で覆われる領域の割合を高めることができるため、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）の均一化を図ることができる。

【２１８０】

また、装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔に対してレジスト液侵入防止領域が設けられているため、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘの銅箔面の上に絶縁被膜として白色のレジスト液が塗布される場合に、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘが鉛直上向きとなるように（装飾基板ＫＢは、実際には１枚の定尺の銅張積層板（基材）から複数の基板を配置して最終的に切り出して製造されるため、１枚の定尺の銅張積層板（基材）の前面が鉛直上向きとなるように）製造装置に固定されて実際に白色のレジスト液が塗布されても、白色のレジスト液が装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔へ侵入し、この孔を塞ぐことなく乾燥されるようになっている。

【２１８１】

また、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１及び後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１は、共に銅箔が剥き出しとなっているため、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）側から前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１に対してコンタクトプローブの先端部を接触させて装飾基板ＫＢの電気検査（動作確認や異常電位の確認）を行うことができるし、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）側から後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１に対してコンタクトプローブの先端部を接触させて装飾基板ＫＢの電気検査（動作確認や異常電位の確認）を行う

ことができる。つまり、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１及び後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１を装飾基板ＫＢの電気検査を行う場合に、チェック端子として利用することができる。なお、コンタクトプローブとして、専用のプローブでもよいし、いわゆる「テスタ」の導通チェックを行うテストリードであってもよい。

【２１８２】

また、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）側から前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１に対してコンタクトプローブの先端部を接触させることができるため、例えば、パチンコ機１が遊技ホールに設置された状態においても、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）がパチンコ機１の前方を向いているため、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）側から前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１に対してコンタクトプローブの先端部を接触させることができる場合には、装飾基板ＫＢを取り出すための作業を行うことなく、装飾基板ＫＢの不具合検査として、装飾基板ＫＢの電気検査（動作確認や異常電位の確認）を行うこともできる。

【２１８３】

ところで、装飾基板ＫＢに実装される複数のＬＥＤは、照射角が小さいタイプ（照射角が狭いタイプ）のものであると点光源となって見えて点光源の集合体となって遊技者に視認されて違和感を与えるおそれがある。このため、装飾基板ＫＢに実装される複数のＬＥＤは、遊技者に点光源として視認されないように照射角が大きいタイプ（照射角が広いタイプ）のものが採用されている。

【２１８４】

ところが、ＬＥＤの照射角が大きくなると（ＬＥＤの照射角が広くなると）、ＬＥＤが照らす範囲が広くなることにより、ＬＥＤの発光面から発した光が複数の他の部材に反射して装飾基板ＫＢへ再び戻ってくるものも多くなる。そこで、装飾基板ＫＢへ戻ってきた光を装飾基板ＫＢの前方へ出射できるように反射することができれば、ＬＥＤの発光面に加えて、複数のＬＥＤが実装される装飾基板ＫＢの前面（表実装面）を反射面として利用することで、ＬＥＤの発光面から発した光を効率良く発光演出に利用することができる。

【２１８５】

装飾基板ＫＢには、上述したように、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側配線パターンと、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側配線パターンと、を電気的に接続するスルーホールＫＴＨ１に対して、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１が形成されている。装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘには、上述したように、絶縁被膜としてベタ塗りされた白色のレジストが形成されているし、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１が形成されている。前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１は、銅箔が剥き出しとなったものであるため、絶縁被膜としてベタ塗りされた白色のレジスト（白色絶縁膜）による反射率と、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１による反射率と、が異なることとなり、複数のＬＥＤが実装される装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘによる反射率を一様（均一）とすることが難しい。

【２１８６】

そこで、第２実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１のほぼ内側から外周部分全体に亘って（つまり、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１のうちレジスト液侵入防止領域を除いた領域に亘って）絶縁被膜として白色のレジストが被さった状態とすることができるため、銅箔が剥き出しとなっている部分がレジスト液侵入防止領域となることにより、銅箔が剥き出しとなっている前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の面積を、第１実施形態に係るスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成におけるものと比べると、極めて小さく抑えて、複数のＬＥＤが実装される装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘによる反射率を一様（均一）とすることに、第１実施形態に係るスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成と比べ、より寄与することができるようになっている。

【２１８７】
　また、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１のほぼ内側から外周部分全体に亘って（つまり、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１のうちレジスト液侵入防止領域を除いた領域に亘って）絶縁被膜として白色のレジストが被さった状態とすることにより、遊技者から視認可能とされる装飾基板ＫＢにおいて、この装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに露出する銅箔が剥き出しとなる割合を低減することができるため、飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘによる反射率を一様（均一）とすることにより、銅箔の部分を目立ち難くし装飾基板ＫＢのよる発光演出効果の向上に寄与することができる。
【２１８８】
　また、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘには、透光性のインナーレンズＫＡが配置されている。このインナーレンズＫＡはレンズカットが施されて（多面体に形成されて）光を乱屈折することができるようになっており、またインナーレンズＫＡを通して視認される対象物を歪ませることができるようになっている。このように、インナーレンズＫＡによって装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘの略全域（少なくともＬＥＤが実装される領域）を覆うことにより、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１やスルーホールＫＴＨ１の孔が不鮮明になり、これらの存在を遊技者に分かり難くすることができる。また、第２実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を採用することにより、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１やスルーホールＫＴＨ１の孔の存在を遊技者に分かり難くすることができることに加えて、上記インナーレンズＫＡによって装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘの略全域（少なくともＬＥＤが実装される領域）を覆う構成を採用することで、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１やスルーホールＫＴＨ１の孔の存在をより一層遊技者に分かり難くすることができる。また、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される絶縁被膜としてベタ塗りされた白色のレジストの厚みや色の濃淡による反射効率に差が生じた場合に、この差をインナーレンズＫＡによりを抑制して演出効果を高めることができる。
【２１８９】
　また、インナーレンズＫＡを装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに配置する場合に、表面に形成される多面体の面と面の境界部や凹部と凸部との境界部がスルーホールＫＴＨ１と表記部の一部（部品番号のみでもよいし、配置する位置を示す領域のみでもよい）との一方又は両方と重なるように（ＬＥＤ実装面と直交する直線上）配置するようにしてもよく、この場合にはインナーレンズＫＡの表面の中でも特に歪みが大きい面と面との境界部によってスルーホールＫＴＨ１と表記部とを不鮮明にしてこれらの存在を遊技者に分かり難くすることができる。また、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘを覆うインナーレンズＫＡは、レンズカットの程度の異なる複数のレンズ（多面体や凹凸の数や面の大きさ等が異なるレンズ）を重ねて構成される（例えば二重構造）ものであってもよく、これによって光の屈折をより不規則にすることができることに加えて、インナーレンズＫＡを通して視認される対象物をより強く歪ませて不鮮明にすることができるようになり、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１やスルーホールＫＴＨ１の孔の存在を遊技者に分かり難くすることができる。
【２１９０】
　また、遊技盤５に備える演出表示装置１６００の液晶表示画面は遊技者の最大の視認対象であるため、演出表示装置１６００（液晶表示画面）の周りの装飾基板や演出表示装置１６００（液晶表示画面）の上側に被さるように配置される装飾基板、演出表示装置１６００（液晶表示画面）の上側と被さる位置に移動可能に配置される装飾基板は、第２実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成において、第１実施形態に係るスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成と比べ、スルーホールのランドに対する絶縁被膜が被さ

っていない部分をより極力少なくすることにより、複数のＬＥＤが実装される装飾基板の前面（表実装面）による反射率を一様（均一）とするという効果、銅箔の部分を目立ち難くするという効果、スルーホールの孔の存在をより遊技者に分かり難くするという効果等が高くなる。また、他の場所でも、例えば遊技者が装飾基板を、レンズカットが施されて（多面体や凹凸状に形成されて）光を乱屈折することができるようになっているインナーレンズＫＡを通して視認できる場所に配置してあるものにおいても、第２実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成により、第１実施形態に係るスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成と比べ、複数のＬＥＤが実装される装飾基板の前面（表実装面）による反射率を一様（均一）とするという効果、銅箔の部分を目立ち難くするという効果、スルーホールの孔の存在をより遊技者に分かり難くするという効果等がある。なお、扉枠３に備える各装飾基板と遊技盤５に備える各装飾基板とでは、遊技盤５に備える各装飾基板の方が扉枠３に備える各装飾基板と比べると演出表示装置１６００により近い配置となっていため、第２実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成において、複数のＬＥＤが実装される装飾基板の前面（表実装面）による反射率を一様（均一）とするという効果、銅箔の部分を目立ち難くするという効果、スルーホールの孔の存在をより遊技者に分かり難くするという効果等が高いといえる。

【２１９１】

なお、第２実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙにおいて、後面（裏実装面）側レジスト層ＫＢｙｒのうち後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１と対応する領域には、後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１の外径ＫＴＨＤ１より小さい開口径ＫＢｙｒＤ１を有する後面（裏実装面）側レジスト開口部ＫＢｙｒａが形成されることにより、後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１の外径ＫＴＨＤ１の外周から後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１の中心へ向かって後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１の外周部分が絶縁被膜として白色のレジストにより被さった状態となっていたが、図１９５（ｃ）に示すように、後面（裏実装面）側レジスト層ＫＢｙｒのうち後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１と対応する領域には、後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１の外径ＫＴＨＤ１より大きい開口径ＫＢｙｒＤ２（＞開口径ＫＢｙｒＤ１）を有する後面（裏実装面）側レジスト開口部ＫＢｙｒａが形成されるようにしてもよい。これは、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙにＬＥＤが１つも実装されていないし、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに実装される複数のＬＥＤが発した光を装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙがそもそも反射面として利用できないため、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙによる反射率を上述した一様（均一）とすることに寄与する必要が全くなく、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙがＬＥＤの発光面から発した光を効率良く発光演出に利用することができないからである。

【２１９２】

また、第２実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘ及び後面（裏実装面）ＫＢｙには、ほぼ全体に絶縁被膜として白色のレジスト液が塗布されて形成される白色絶縁膜により白色のレジスト層が形成され、フルカラーＬＥＤの部品番号、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域等の電子部品の属性を示す表記部によっても装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける反射率の均一化を図るように構成されている（装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに黄色等の明色で表記部を形成したり、箔抜き文字で表記部を形成したり、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）に所定色の塗料で表記部を形成する等）。また、第２実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、白色絶縁膜によって装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１を覆うことにより反射率の低下抑制に寄与することに加えて

、上記表記部によって装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける反射率の均一化を図る構成を採用することにより、反射率の低下の抑制効果がさらに高まる。また、表記部によって装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける反射率の均一化を図る構成では表記部自体の視認を困難にすることも可能となるため、遊技者に遊技と関係のないフルカラーＬＥＤの部品番号や、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域等の電子部品の属性を示す表記部が視認され難くすることができるし、これに併せて上記第２実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を採用することでスルーホールについても視認され難くすることができ、遊技と無関係の情報やスルーホールが視認されて遊技興趣が低下することを抑止する効果が高まる。

【２１９３】

また、セキュリティ対策としてフルカラーＬＥＤの部品番号、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域等の電子部品の属性を示す表記部を表記せずに１ピンマークを箔残し等により表記するようにしてもよく、この場合にもこれらの構成に併せて上記第２実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を採用することにより、反射率の低下の抑制効果をさらに高めることができるし、遊技と無関係の情報（１ピンマーク）やスルーホールが視認されて遊技興趣が低下することを抑止する効果が高まる。

【２１９４】

また、第２実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘ及び後面（裏実装面）ＫＢｙには、ほぼ全体に絶縁被膜として白色のレジスト液が塗布されて形成される白色絶縁膜により白色のレジスト層が形成されていたが、複数のＬＥＤが実装されている装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘには、ほぼ全体に絶縁被膜として白色のレジスト液が塗布されて形成される白色絶縁膜により白色のレジスト層が形成されるのに対して、ＬＥＤが１つも実装されていない装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙには、ほぼ全体に絶縁被膜として白色と異なる他色（例えば、緑色、黒色、黄色、赤色、青色等）のレジスト液が塗布されて形成される他色絶縁膜により他色のレジスト層が形成されるようにしてもよい。これは、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙにＬＥＤが１つも実装されていないし、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに実装される複数のＬＥＤが発した光を装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙがそもそも反射面として利用できないため、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙによる反射率を上述した一様（均一）とすることに寄与する必要が全くなく、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙがＬＥＤの発光面から発した光を効率良く発光演出に利用することができないからである。

【２１９５】

また、第２実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘ及び後面（裏実装面）ＫＢｙには、ほぼ全体に絶縁被膜として白色のレジスト液が塗布されて形成される白色絶縁膜により白色のレジスト層が形成されていたが、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘ及び後面（裏実装面）ＫＢｙのうち一方の面又は両方の面には、ほぼ全体に絶縁被膜として白色の塗料でシルク印刷により印刷されて形成される白色絶縁膜により白色のシルク印刷層が形成されるようにしてもよい。この場合、一方の面又は両方の面に形成される白色のシルク印刷層の上に電子部品を特定可能にする、電子部品の部品番号、電子部品の属性を示す表記部が黄色の塗料でシルク印刷により印刷される。黄色のほかにパステルカラー等の白色の明度に近い色（例えば、薄い緑色、薄い青色等）を有する塗料で表記部をシルク印刷により印刷してもよい。一方の面又は両方の面に上述した白色のシルク印刷層を形成する場合には、基材ＫＢｏや銅箔面（電子部品がハンダ付けされるパッドのほかに、所定領域を除いた銅箔面）を覆うレジスト層を形成してもよいし、レジスト層を形成しなくてもよく、レジスト層を形成する場合には、このレ

ジスト層を覆うように、絶縁被膜として白色の塗料でシルク印刷により印刷されて形成される白色絶縁膜により白色のシルク印刷層が形成されることとなる。レジスト層は、白色のレジスト液でもよいし、白色と異なる他色（緑色、黒色、黄色、赤色、青色等）のレジスト液でもよい。

【２１９６】

また、第２実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を、遊技盤５の機能表示ユニット１４００における機能表示基板１４００ｃのスルーホールのランドに対して適用することができる。機能表示基板１４００ｃの前面（表実装面）１４００ｃｘ及び後面（裏実装面）１４００ｃｙには、上述したように、黒色のレジスト液が塗布されて形成される黒色絶縁膜により黒色のレジスト層が形成されている。黒色のレジスト液を使用すると、上述したように、機能表示基板１４００ｃの前面（表実装面）１４００ｃｘに実装される複数のＬＥＤ１４００ｃａが発した光による反射を防止することで、近傍に配置されるＬＥＤ１４００ｃａが発した光と混ざらないようにすることに寄与することができる。このため、機能表示基板１４００ｃの前面（表実装面）１４００ｃｘにおける前面（表実装面）側ランドのほぼ内側から外周部分全体に亘って（つまり、機能表示基板１４００ｃの前面（表実装面）１４００ｃｘにおける前面（表実装面）側ランドのうちレジスト液侵入防止領域を除いた領域に亘って）絶縁被膜として黒色のレジストが被さった状態とすることができるため、銅箔が剥き出しとなっている部分がレジスト液侵入防止領域となることにより、銅箔が剥き出しとなっている前面（表実装面）側ランドの面積を、第１実施形態に係るスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を採用する機能表示基板１４００ｃと比べると、極めて小さく抑えて反射率を低減させて、複数のＬＥＤ１４００ｃａが実装される機能表示基板１４００ｃの前面（表実装面）１４００ｃｘによる反射率を一様（均一）とすることに、第１実施形態に係るスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を採用する機能表示基板１４００ｃと比べ、より寄与することができる。

【２１９７】

また、スルーホールは、上述したように、貫通する孔の内周壁に銅メッキが施されて導電性を有しているものであり、電子部品を実装するためのスルーホールと、電子部品を実装しないスルーホールと、があり、どちらのスルーホールのランドにおいも、第２実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成が採用されていたが、電子部品を実装しないスルーホールのうち、電子部品が実装される直下に設けられるものに対しては第２実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成が採用されなくてもよい。つまり、電子部品を実装しないスルーホールのうち、電子部品が実装される直下に設けられるスルーホールのランドにおける銅箔全体が剥き出しの状態としてもよい。この場合、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙにおける後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１と、における銅箔全体が剥き出しの状態とする。銅箔全体が剥き出しの状態となっているスルーホールのランド全体を覆うように電子部品が配置されているため、そもそも、銅箔の部分を目立ち難くする必要がないし、スルーホールの孔の存在を遊技者に分かり難くする必要もないからであるとともに、電子部品が実装されていない面からスルーホールのランドの存在やスルーホールの孔の存在を、装飾基板ＫＢの電気検査において目視にて確認することができるし、スルーホールのランドに対してコンタクトプローブの先端部を接触させて装飾基板ＫＢの電気検査（動作確認や異常電位の確認）を行うことができる。

【２１９８】

［第３実施形態に係るスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成］

第３実施形態に係るスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、図１９６（ａ），（ｂ）に示すように、装飾基板ＫＢの基材ＫＢｏの板厚方向（装飾基板ＫＢの基材ＫＢｏの表面垂直（裏面垂直）方向）に対して細い貫通孔が形成されるとともに、装

飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘの銅箔面と、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙの銅箔面と、において銅箔を抜くことで外径ＫＴＨＤ１をそれぞれ有する前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１が形成されているとともに、前面（表実装面）側配線パターンや後面（裏実装面）側配線パターンが形成されている。貫通孔に対して導電性を有するメッキ加工が施されることでスルーホールＫＴＨ１が形成されている。装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外径と装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１の外径とが外径ＫＴＨＤ１であり同一の大きさとなっており、上述した第１実施形態に係るスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成における前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外径と後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１の外径と同一の大きさとなっている。

【２１９９】

装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側配線パターンの一端と、が電気的に接続されているとともに、前面（表実装面）側配線パターンの他端と、多色発光可能な１つのフルカラーＬＥＤ又は複数のフルカラーＬＥＤの特定の端子がハンダ付けされるパッドと、が電気的に接続されている。

【２２００】

なお、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と電気的に接続される装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側配線パターンには、第１の前面（表実装面）側配線パターンと第２の前面（表実装面）側配線パターンとがあるものがある。この場合、第１の前面（表実装面）側配線パターンの一端は、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と電気的に接続されるとともに、第２の前面（表実装面）側配線パターンの一端は、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と電気的に接続されることとなり、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１から２本の前面（表実装面）側配線パターン（つまり、第１の前面（表実装面）側配線パターンと第２の前面（表実装面）側配線パターンと）が出ていることとなる。また、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１と電気的に接続される装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側配線パターンには、第１の後面（裏実装面）側配線パターンと第２の後面（裏実装面）側配線パターンとがあるものがある。この場合、第１の後面（裏実装面）側配線パターンの一端は、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１と電気的に接続されるとともに、第２の後面（裏実装面）側配線パターンの一端は、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１と電気的に接続されることとなり、後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１から２本の後面（裏実装面）側配線パターン（つまり、第１の後面（裏実装面）側配線パターンと第２の後面（裏実装面）側配線パターンと）が出ていることとなる。

【２２０１】

装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１と、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側配線パターンの一端とが電気的に接続されているとともに、後面（裏実装面）側配線パターンの他端と、フルカラーＬＥＤの発光を制御するＩＣの特定端子がハンダ付けられるパッド、抵抗の特定端子がハンダ付けされるパッド、コネクタの特定端子がハンダ付けされるパッド等のいずれかのパッドと、が電気的に接続されている。

【２２０２】

装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１とは、スルーホールＫＴＨ１を介して、電気的に接続された状態となっており、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側配線パターンと

、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側配線パターンと、が装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１、スルーホールＫＴＨ１、そして装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１を介して、電気的に接続されている状態となっている。

【２２０３】

装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘの銅箔面の上には、絶縁被膜として白色のレジスト液が塗布されて前面（表実装面）側レジスト層ＫＢｘｒが形成されているため、前面（表実装面）側レジスト層ＫＢｘｒのうち前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と対応する領域も絶縁被膜として白色のレジスト液が塗布されて前面（表実装面）側レジスト層ＫＢｘｒが形成されている。

【２２０４】

装飾基板ＫＢは、実際には１枚の定尺の銅張積層板（基材）から複数の基板を配置して最終的に切り出して製造されるものである。１枚の定尺の銅張積層板（基材）を製造装置に固定して塗装をする工程、乾燥する工程、孔を空ける行程、他の工程等があり、最終的に各基板が切り出される。このため、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘの銅箔面の上に、絶縁被膜として白色のレジスト液が塗布される場合に、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘが鉛直上向きとなるように（装飾基板ＫＢは、実際には１枚の定尺の銅張積層板（基材）から複数の基板を配置して最終的に切り出して製造されるため、１枚の定尺の銅張積層板（基材）の前面が鉛直上向きとなるように）製造装置に固定され、装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔における前面（表実装面）側内周縁から白色のレジスト液が侵入し、この孔を塞ぐこととなる。装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔に侵入した白色のレジスト液は、自重により、スルーホールＫＴＨ１の孔における前面（表実装面）側内周縁から孔の中央へ向かって窪んだ状態となって乾燥することとなる。

【２２０５】

これに対して、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙの銅箔面上には、絶縁被膜として白色のレジスト液が塗布されて後面（裏実装面）側レジスト層ＫＢｙｒが形成されているものの、後面（裏実装面）側レジスト層ＫＢｙｒのうち後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１と対応する領域には、後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１の外径ＫＴＨＤ１より小さい開口径ＫＢｙｒＤ１を有する後面（裏実装面）側レジスト開口部ＫＢｙｒａが形成されている。開口径ＫＢｙｒＤ１の外径は、上述した第１実施形態に係るスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成における開口径ＫＢｙｒＤ１の外径と同一の大きさとなっている。

【２２０６】

なお、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される基板グランド（ＧＮＤ）（つまり、ベタグランド）と、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される基板グランド（ＧＮＤ）（つまり、ベタグランド）と、は図示しないスルーホールにより電気的に接続されて同一のグランド（ＧＮＤ）となっている。

【２２０７】

このように、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおいて、前面（表実装面）側レジスト層ＫＢｘｒのうち前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と対応する領域も絶縁被膜として白色のレジストにより被さった状態となっているとともに、装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔における前面（表実装面）側内周縁から白色のレジスト液が侵入し、この孔を塞いだ状態となっている。これにより、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の全体とスルーホールＫＴＨ１の孔とを絶縁被膜として白色のレジストが被さった状態とすることができるため、前面（表実装面）側ランドＫＮＤｘ１を銅箔が剥き出しとならず、且つ、スルーホールＫＴＨ１の孔の内周面全体に施された導電性を有するメッキ部分が装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘから剥き出しとならないようにすることができる。また、装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔を塞いだ状態となっているため、装飾基板ＫＢの後方からの光がスルーホールＫ

ＴＨ１の孔を通って装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘへ向かって進むことを阻止することができる。

【２２０８】

ところで、装飾基板ＫＢに実装される複数のＬＥＤは、照射角が小さいタイプ（照射角が狭いタイプ）のものであると点光源となって見えて点光源の集合体となって遊技者に視認されて違和感を与えるおそれがある。このため、装飾基板ＫＢに実装される複数のＬＥＤは、遊技者に点光源として視認されないように照射角が大きいタイプ（照射角が広いタイプ）のものが採用されている。

【２２０９】

ところが、ＬＥＤの照射角が大きくなると（ＬＥＤの照射角が広くなると）、ＬＥＤが照らす範囲が広くなることにより、ＬＥＤの発光面から発した光が複数の他の部材に反射して装飾基板ＫＢへ再び戻ってくるものも多くなる。そこで、装飾基板ＫＢへ戻ってきた光を装飾基板ＫＢの前方へ出射できるように反射することができれば、ＬＥＤの発光面に加えて、複数のＬＥＤが実装される装飾基板ＫＢの前面（表実装面）を反射面として利用することで、ＬＥＤの発光面から発した光を効率良く発光演出に利用することができる。

【２２１０】

装飾基板ＫＢには、上述したように、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側配線パターンと、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側配線パターンと、を電気的に接続するスルーホールＫＴＨ１に対して、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１が形成されている。装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘには、上述したように、絶縁被膜としてベタ塗りされた白色のレジストが形成されているし、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１が形成されている。前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１は、銅箔が剥き出しとなったものであるため、絶縁被膜としてベタ塗りされた白色のレジスト（白色絶縁膜）による反射率と、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１による反射率と、が異なることとなり、複数のＬＥＤが実装される装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘによる反射率を一様（均一）とすることが難しい。

【２２１１】

また、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）に形成される前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１やスルーホールＫＴＨ１の孔を遊技者に視認される場合には、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１やスルーホールＫＴＨ１の孔の存在が遊技者にとって目障りとなる場合もある。

【２２１２】

そこで、第３実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおいて、前面（表実装面）側レジスト層ＫＢｘｒのうち前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と対応する領域も絶縁被膜として白色のレジストにより被さった状態となっているとともに、装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔における前面（表実装面）側内周縁から白色のレジスト液が侵入し、この孔を塞いだ状態となっているため、複数のＬＥＤが実装される装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘによる反射率を一様（均一）とすることに寄与することができるようになっている。

【２２１３】

また、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおいて、前面（表実装面）側レジスト層ＫＢｘｒのうち前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と対応する領域も絶縁被膜として白色のレジストにより被さった状態となっているとともに、装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔における前面（表実装面）側内周縁から白色のレジスト液が侵入し、この孔を塞いだ状態となっていることにより、遊技者から視認可能とされる装飾基板ＫＢにおいて、この装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに露出する銅箔が剥き出しとなる割合を低減することができるため（少なくとも、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の銅箔が全く露出されないため）、飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘによる反射率を一様（均

一）とすることにより、銅箔の部分を目立ち難くし装飾基板ＫＢのよる発光演出効果の向上に寄与することができる。

【２２１４】

また、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘには、透光性のインナーレンズＫＡが配置されている。このインナーレンズＫＡはレンズカットが施されて（多面体や凹凸状（微細な凹凸が複数形成されるものを含む）に形成されて）光を乱屈折することができるようになっており、またインナーレンズＫＡを通して視認される対象物を歪ませて不鮮明にすることができるようになっている。このように、インナーレンズＫＡによって装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘの略全域（少なくともＬＥＤが実装される領域）を覆うことにより、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１やスルーホールＫＴＨ１の孔の存在を遊技者に分かり難くすることができる。また、第３実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を採用することにより、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１やスルーホールＫＴＨ１の孔の存在を遊技者に分かり難くすることができることに加えて、上記インナーレンズＫＡによって装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘの略全域（少なくともＬＥＤが実装される領域）を覆う構成を採用することで、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１やスルーホールＫＴＨ１の孔の存在をより一層遊技者に分かり難くすることができる。また、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される絶縁被膜としてベタ塗りされた白色のレジストの厚みや色の濃淡による反射効率に差が生じた場合に、この差をインナーレンズＫＡによりを抑制して演出効果を高めることができる。

【２２１５】

また、インナーレンズＫＡを装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに配置する場合に、表面に形成される多面体の面と面の境界部や凹部と凸部との境界部がスルーホールＫＴＨ１と表記部の一部（部品番号のみでもよいし、配置する位置を示す領域のみでもよい）との一方又は両方と重なるように（ＬＥＤ実装面と直交する直線上）配置するようにしてもよく、この場合にはインナーレンズＫＡの表面の中でも特に歪みが大きい面と面との境界部によってスルーホールＫＴＨ１と表記部とを不鮮明にしてこれらの存在を遊技者に分かり難くすることができる。また、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘを覆うインナーレンズＫＡは、レンズカットの程度の異なる複数のレンズ（多面体や凹凸の数や面の大きさ等が異なるレンズ）を重ねて構成される（例えば二重構造）ものであってもよく、これによって光の屈折をより不規則にすることができることに加えて、インナーレンズＫＡを通して視認される対象物をより強く歪ませて不鮮明にすることができるようになり、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１やスルーホールＫＴＨ１の孔の存在を遊技者に分かり難くすることができる。

【２２１６】

また、装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔における前面（表実装面）側内周縁から白色のレジスト液が侵入し、この孔を塞いだ状態となっているものの、装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔における後面（裏実装面）側は開放された状態となっている。つまり、装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔は、前面（表実装面）側が白色のレジスト液により塞がれているのに対して、後面（裏実装面）側が開放されている。これは、装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔における前面（表実装面）側内周縁から白色のレジスト液が侵入し、装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔の内部に空気が残った状態で装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の後面（裏実装面）側を塞いだ状態とすると、レジスト除去液等の液体がスルーホールＫＴＨ１の内部に残留するおそれがあり、この液体の影響によりスルーホールＫＴＨ１の内部の導電性を有するメッキが腐食することで接触不良が起きたり、熱が加わる半田（リフローなど）工程等においてスルーホールＫＴＨ１の内部の液体が瞬間的に気化して膨張（いわゆる、「水蒸気爆発」）することによりスルーホールＫＴＨ１の内部の導電性を有するメッキが破損することでスルーホールＫＴＨ

１の電気的な切断が起きたりするおそれがあるからである。
【２２１７】
　また、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１やスルーホールＫＴＨ１の孔は存在するものの、白色のレジストによりその存在を隠すことができるようになっているため、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにベタ塗りされた白色のレジストに対して、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１を目立たなくすることができるし、スルーホールＫＴＨ１の孔を目立たなくすることができる。これにより、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１やスルーホールＫＴＨ１の孔が遊技者にとって目障りとならないようにすることができる。また、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１やスルーホールＫＴＨ１の孔が模様や柄等に遊技者に視認されることにより演出効果が低下することを抑制することもできる。
【２２１８】
　また、遊技盤５に備える各装飾基板は、前後方向に配置される場合もあるため、一の装飾基板ＫＢの後方に配置される他の装飾基板ＫＢの前面（表実装面）に実装される複数のＬＥＤが発光しても、一の装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔が白色のレジストで塞がれている状態となっていることでスルーホールＫＴＨ１を通ることができないため、一の装飾基板ＫＢの前面（表実装面）に実装される複数のＬＥＤによる発光の色に対して、他の装飾基板ＫＢの前面（表実装面）に実装される複数のＬＥＤによる発光が一の装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１を通ることにより、他の装飾基板ＫＢの前面（表実装面）に実装される複数のＬＥＤによる発光の色が混色することを防止することができる。なお、一の装飾基板ＫＢの後方に他の装飾基板ＫＢが配置されない場合には、一の装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔が白色のレジストで塞がれていないと、スルーホールＫＴＨ１の孔が黒色の点のように見えるため、一の装飾基板ＫＢの前面（表実装面）に実装される複数のＬＥＤによる発光の色に対して、一の装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔による黒色の点、つまり黒色が混色するのに対して、一の装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔が白色のレジストで塞がれている状態となっていると、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と対応する領域も絶縁被膜として白色のレジストにより被さった状態となっているため、スルーホールＫＴＨ１の孔が装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにベタ塗りされた白色のレジストに紛れる（同化する）こととなり、一の装飾基板ＫＢの前面（表実装面）に実装される複数のＬＥＤによる発光の色に対して、一の装飾基板ＫＢの前面（表実装面）に形成されるスルーホールＫＴＨ１による混色を防止することができる。
【２２１９】
　また、遊技盤５に備える演出表示装置１６００の液晶表示画面は遊技者の最大の視認対象であるため、演出表示装置１６００（液晶表示画面）の周りの装飾基板や演出表示装置１６００（液晶表示画面）の上側に被さるように配置される装飾基板、演出表示装置１６００（液晶表示画面）の上側と被さる位置に移動可能に配置される装飾基板は、第３実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成において、装飾基板の前面（表実装面）におけるスルーホールのランドに対する絶縁被膜が被さっていない部分をなくとともに、スルーホールの孔を装飾基板の前面（表実装面）側で塞いだ状態とすることにより、複数のＬＥＤが実装される装飾基板の前面（表実装面）による反射率を一様（均一）とするという効果、銅箔の部分を目立ち難くするという効果、スルーホールの孔の存在をより遊技者に分かり難くするという効果等が高くなる。また、他の場所でも、例えば遊技者が装飾基板を、レンズカットが施されて（多面体や凹凸状に形成されて）光を乱屈折することができるようになっているインナーレンズＫＡを通して視認できる場所に配置してあるものにおいても、複数のＬＥＤが実装される装飾基板の前面（表実装面）による反射率を一様（均一）とするという効果、銅箔の部分を目立ち難くするという効果、スルーホールの孔の存在をより遊技者に分かり難くするという効果等がある。なお、扉枠３に備える各装飾基板と遊技盤５に備える各装飾基板とでは、遊技盤５に備える各装飾基板の方が扉枠３に備える各装飾基板と比べると演出表示装置１６００により近い配置となっていため、第３実施形態に

係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成において、複数のＬＥＤが実装される装飾基板の前面（表実装面）による反射率を一様（均一）とするという効果、銅箔の部分を目立ち難くするという効果、スルーホールの孔の存在をより遊技者に分かり難くするという効果等が高いといえる。

【２２２０】

なお、第３実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙにおいて、後面（裏実装面）側レジスト層ＫＢｙｒのうち後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１と対応する領域には、後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１の外径ＫＴＨＤ１より小さい開口径ＫＢｙｒＤ１を有する後面（裏実装面）側レジスト開口部ＫＢｙｒａが形成されることにより、後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１の外径ＫＴＨＤ１の外周から後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１の中心へ向かって後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１の外周部分が絶縁被膜として白色のレジストにより被さった状態となっていたが、図１９６（ｃ）に示すように、後面（裏実装面）側レジスト層ＫＢｙｒのうち後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１と対応する領域には、後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１の外径ＫＴＨＤ１より大きい開口径ＫＢｙｒＤ２（＞開口径ＫＢｙｒＤ１）を有する後面（裏実装面）側レジスト開口部ＫＢｙｒａが形成されるようにしてもよい。これは、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙにＬＥＤが１つも実装されていないし、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに実装される複数のＬＥＤが発した光を装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙがそもそも反射面として利用できないため、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙによる反射率を上述した一様（均一）とすることに寄与する必要が全くなく、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙがＬＥＤの発光面から発した光を効率良く発光演出に利用することができないからである。

【２２２１】

また、第３実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘ及び後面（裏実装面）ＫＢｙには、ほぼ全体に絶縁被膜として白色のレジスト液が塗布されて形成される白色絶縁膜により白色のレジスト層が形成され、フルカラーＬＥＤの部品番号、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域等の電子部品の属性を示す表記部によっても装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける反射率の均一化を図るように構成されている（装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに黄色等の明色で表記部を形成したり、箔抜き文字で表記部を形成したり、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）に所定色の塗料で表記部を形成する等）。また、第３実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、白色絶縁膜によって装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１を覆うことにより反射率の低下抑制に寄与することに加えて、上記表記部によって装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける反射率の均一化を図る構成を採用することにより、反射率の低下の抑制効果がさらに高まる。また、表記部によって装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける反射率の均一化を図る構成では表記部自体の視認を困難にすることも可能となるため、遊技者に遊技と関係のないフルカラーＬＥＤの部品番号や、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域等の電子部品の属性を示す表記部が視認され難くすることができるし、これに併せて上記第３実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を採用することでスルーホールについても視認され難くすることができ、遊技と無関係の情報やスルーホールが視認されて遊技興趣が低下することを抑止する効果が高まる。

【２２２２】

また、セキュリティ対策としてフルカラーＬＥＤの部品番号、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域等の電子部品の属性を示す表記部を表記せずに１ピンマークを箔残し

等により表記するようにしてもよく、この場合にもこれらの構成に併せて上記第３実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を採用することにより、反射率の低下の抑制効果をさらに高めることができるし、遊技と無関係の情報（１ピンマーク）やスルーホールが視認されて遊技興趣が低下することを抑止する効果が高まる。

【２２２３】

また、第３実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘ及び後面（裏実装面）ＫＢｙには、ほぼ全体に絶縁被膜として白色のレジスト液が塗布されて形成される白色絶縁膜により白色のレジスト層が形成されていたが、複数のＬＥＤが実装されている装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘには、ほぼ全体に絶縁被膜として白色のレジスト液が塗布されて形成される白色絶縁膜により白色のレジスト層が形成されるのに対して、ＬＥＤが１つも実装されていない装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙには、ほぼ全体に絶縁被膜として白色と異なる他色（例えば、緑色、黒色、黄色、赤色、青色等）のレジスト液が塗布されて形成される他色絶縁膜により他色のレジスト層が形成されるようにしてもよい。これは、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙにＬＥＤが１つも実装されていないし、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに実装される複数のＬＥＤが発した光を装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙがそもそも反射面として利用できないため、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙによる反射率を上述した一様（均一）とすることに寄与する必要が全くなく、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙがＬＥＤの発光面から発した光を効率良く発光演出に利用することができないからである。

【２２２４】

また、第３実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘ及び後面（裏実装面）ＫＢｙには、ほぼ全体に絶縁被膜として白色のレジスト液が塗布されて形成される白色絶縁膜により白色のレジスト層が形成されていたが、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘ及び後面（裏実装面）ＫＢｙのうち一方の面又は両方の面には、ほぼ全体に絶縁被膜として白色の塗料でシルク印刷により印刷されて形成される白色絶縁膜により白色のシルク印刷層が形成されるようにしてもよい。この場合、一方の面又は両方の面に形成される白色のシルク印刷層の上に電子部品を特定可能にする、電子部品の部品番号、電子部品の属性を示す表記部が黄色の塗料でシルク印刷により印刷される。黄色のほかにパステルカラー等の白色の明度に近い色（例えば、薄い緑色、薄い青色等）を有する塗料で表記部をシルク印刷により印刷してもよい。一方の面又は両方の面に上述した白色のシルク印刷層を形成する場合には、基材ＫＢｏや銅箔面（電子部品がハンダ付けされるパッドのほかに、所定領域を除いた銅箔面）を覆うレジスト層を形成してもよいし、レジスト層を形成しなくてもよく、レジスト層を形成する場合には、このレジスト層を覆うように、絶縁被膜として白色の塗料でシルク印刷により印刷されて形成される白色絶縁膜により白色のシルク印刷層が形成されることとなる。レジスト層は、白色のレジスト液でもよいし、白色と異なる他色（緑色、黒色、黄色、赤色、青色等）のレジスト液でもよい。

【２２２５】

また、第３実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を、遊技盤５の機能表示ユニット１４００における機能表示基板１４００ｃのスルーホールのランドに対して適用することができる。機能表示基板１４００ｃの前面（表実装面）１４００ｃｘ及び後面（裏実装面）１４００ｃｙには、上述したように、黒色のレジスト液が塗布されて形成される黒色絶縁膜により黒色のレジスト層が形成されている。黒色のレジスト液を使用すると、上述したように、機能表示基板１４００ｃの前面（表実装面）１４００ｃｘに実装される複数のＬＥＤ１４００ｃａが発した光による反射を防止することで、近傍に配置されるＬＥＤ１

４００ｃａが発した光と混ざらないようにすることに寄与することができる。このため、機能表示基板１４００ｃの前面（表実装面）１４００ｃｘにおいて、前面（表実装面）側レジスト層のうち前面（表実装面）側ランドと対応する領域も絶縁被膜として黒色のレジストにより被さった状態となっているとともに、機能表示基板１４００ｃのスルーホール１４００ｃｃの孔における前面（表実装面）側内周縁から黒色のレジスト液が侵入し、この孔を塞いだ状態となっているため、反射率を低減させて、複数のＬＥＤ１４００ｃａが実装される機能表示基板１４００ｃの前面（表実装面）１４００ｃｘによる反射率を一様（均一）とすることに寄与することができる。

【２２２６】

また、スルーホールは、上述したように、貫通する孔の内周壁に銅メッキが施されて導電性を有しているものであり、電子部品を実装するためのスルーホールと、電子部品を実装しないスルーホールと、があり、どちらのスルーホールのランドにおいも、第３実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成が採用されていたが、電子部品を実装しないスルーホールのうち、電子部品が実装される直下に設けられるものに対しては第３実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成が採用されなくてもよい。つまり、電子部品を実装しないスルーホールのうち、電子部品が実装される直下に設けられるスルーホールのランドにおける銅箔全体が剥き出しの状態としてもよい。この場合、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙにおける後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１と、における銅箔全体が剥き出しの状態とする。銅箔全体が剥き出しの状態となっているスルーホールのランド全体を覆うように電子部品が配置されているため、そもそも、銅箔の部分を目立ち難くする必要がないし、スルーホールの孔の存在を遊技者に分かり難くする必要もないからであるとともに、電子部品が実装されていない面からスルーホールのランドの存在やスルーホールの孔の存在を、装飾基板ＫＢの電気検査において目視にて確認することができるし、スルーホールのランドに対してコンタクトプローブの先端部を接触させて装飾基板ＫＢの電気検査（動作確認や異常電位の確認）を行うことができる。

【２２２７】

［第４実施形態に係るスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成］

第４実施形態に係るスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、図１９７（ａ），（ｂ）に示すように、装飾基板ＫＢの基材ＫＢｏの板厚方向（装飾基板ＫＢの基材ＫＢｏの表面垂直（裏面垂直）方向）に対して細い貫通孔が形成されるとともに、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘの銅箔面と、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙの銅箔面と、において銅箔を抜くことで外径ＫＴＨＤ１をそれぞれ有する前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１が形成されているとともに、前面（表実装面）側配線パターンや後面（裏実装面）側配線パターンが形成されている。貫通孔に対して導電性を有するメッキ加工が施されることでスルーホールＫＴＨ１が形成されている。装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外径と装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１の外径とが外径ＫＴＨＤ１であり同一の大きさとなっており、上述した第１実施形態に係るスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成における前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外径と後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１の外径と同一の大きさとなっている。

【２２２８】

装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側配線パターンの一端と、が電気的に接続されているとともに、前面（表実装面）側配線パターンの他端と、多色発光可能な１つのフルカラーＬＥＤ又は複数のフルカラーＬＥＤの特定の端子がハンダ付けされるパッドと、が電気的に接続されている。

【２２２９】
なお、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と電気的に接続される装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側配線パターンには、第１の前面（表実装面）側配線パターンと第２の前面（表実装面）側配線パターンとがあるものがある。この場合、第１の前面（表実装面）側配線パターンの一端は、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と電気的に接続されるとともに、第２の前面（表実装面）側配線パターンの一端は、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と電気的に接続されることとなり、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１から２本の前面（表実装面）側配線パターン（つまり、第１の前面（表実装面）側配線パターンと第２の前面（表実装面）側配線パターンと）が出ていることとなる。また、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１と電気的に接続される装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側配線パターンには、第１の後面（裏実装面）側配線パターンと第２の後面（裏実装面）側配線パターンとがあるものがある。この場合、第１の後面（裏実装面）側配線パターンの一端は、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１と電気的に接続されるとともに、第２の後面（裏実装面）側配線パターンの一端は、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１と電気的に接続されることとなり、後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１から２本の後面（裏実装面）側配線パターン（つまり、第１の後面（裏実装面）側配線パターンと第２の後面（裏実装面）側配線パターンと）が出ていることとなる。
【２２３０】
装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１と、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側配線パターンの一端とが電気的に接続されているとともに、後面（裏実装面）側配線パターンの他端と、フルカラーＬＥＤの発光を制御するＩＣの特定端子がハンダ付けられるパッド、抵抗の特定端子がハンダ付けされるパッド、コネクタの特定端子がハンダ付けされるパッド等のいずれかのパッドと、が電気的に接続されている。
【２２３１】
装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１とは、スルーホールＫＴＨ１を介して、電気的に接続された状態となっており、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側配線パターンと、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側配線パターンと、が装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１、スルーホールＫＴＨ１、そして装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１を介して、電気的に接続されている状態となっている。
【２２３２】
装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘの銅箔面の上には、絶縁被膜として白色のレジスト液が塗布されて前面（表実装面）側レジスト層ＫＢｘｒが形成されているものの、前面（表実装面）側レジスト層ＫＢｘｒのうち前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と対応する領域には、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外径ＫＴＨＤ１より小さい開口径ＫＢｘｒＤ１を有する前面（表実装面）側レジスト開口部ＫＢｘｒａが形成されている。開口径ＫＢｘｒＤ１の外径は、上述した第１実施形態に係るスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成における開口径ＫＢｘｒＤ１の外径と同一の大きさとなっている。
【２２３３】
これに対して、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙの銅箔面の上には、絶縁被膜として白色のレジスト液が塗布されて後面（裏実装面）側レジスト層ＫＢｙｒが形成されて

いるため、後面（裏実装面）側レジスト層ＫＢｙｒのうち後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１と対応する領域も絶縁被膜として白色のレジスト液が塗布されて後面（裏実装面）側レジスト層ＫＢｙｒが形成されている。

【２２３４】

装飾基板ＫＢは、実際には１枚の定尺の銅張積層板（基材）から複数の基板を配置して最終的に切り出して製造されるものである。１枚の定尺の銅張積層板（基材）を製造装置に固定して塗装をする工程、乾燥する工程、孔を空ける行程、他の工程等があり、最終的に各基板が切り出される。このため、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙの銅箔面の上に、絶縁被膜として白色のレジスト液が塗布される場合に、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙが鉛直上向きとなるように（装飾基板ＫＢは、実際には１枚の定尺の銅張積層板（基材）から複数の基板を配置して最終的に切り出して製造されるため、１枚の定尺の銅張積層板（基材）の後面が鉛直上向きとなるように）製造装置に固定され、装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔における後面（裏実装面）側内周縁から白色のレジスト液が侵入し、この孔を塞ぐこととなる。装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔に侵入した白色のレジスト液は、自重により、スルーホールＫＴＨ１の孔における後面（裏実装面）側内周縁から孔の中央へ向かって窪んだ状態となって乾燥することとなる。

【２２３５】

なお、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される基板グランド（ＧＮＤ）（つまり、ベタグランド）と、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される基板グランド（ＧＮＤ）（つまり、ベタグランド）と、は図示しないスルーホールにより電気的に接続されて同一のグランド（ＧＮＤ）となっている。

【２２３６】

このように、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおいて、前面（表実装面）側レジスト層ＫＢｘｒのうち前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と対応する領域には、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外径ＫＴＨＤ１より小さい開口径ＫＢｘｒＤ１を有する前面（表実装面）側レジスト開口部ＫＢｘｒａが形成されているため、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外径ＫＴＨＤ１の外周から前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の中心へ向かって前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外周部分が絶縁被膜として白色のレジストにより被さった状態となっている。また、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙにおいて、後面（裏実装面）側レジスト層ＫＢｙｒのうち後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１と対応する領域も絶縁被膜として白色のレジストにより被さった状態となっているとともに、装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔における後面（裏実装面）側内周縁から白色のレジスト液が侵入し、この孔を塞いだ状態となっている。これにより、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外周部分全体に絶縁被膜として白色のレジストが被さった状態とすることができるため、銅箔が剥き出しとなっている前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の面積を小さく抑えることができるとともに、装飾基板ＫＢの後方からの光がスルーホールＫＴＨ１の孔を通って装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘへ向かって進むことを阻止することができる。また、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外径ＫＴＨＤ１の外周から前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の中心へ向かって前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外周部分を絶縁被膜として白色のレジストで覆うことにより、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の中心から外径ＫＴＨＤ１の外周へ向かって前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の内周部分を白色のレジスト（絶縁被膜）で覆う場合に比べて後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１のうち白色のレジスト（絶縁被膜）で覆われる領域の割合を高めることができるため、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）の均一化を図ることができる。

【２２３７】

また、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１及び後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１は、共に銅箔が剥き出しとなっているため、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）側から前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１に対してコンタクトプローブの先端部を接触させて装飾基板ＫＢの電気検査（動作確認や異常電位の確認）を行うことができるし、装飾基板ＫＢ

の後面（裏実装面）側から後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１に対してコンタクトプローブの先端部を接触させて装飾基板ＫＢの電気検査（動作確認や異常電位の確認）を行うことができる。つまり、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１及び後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１を装飾基板ＫＢの電気検査を行う場合に、チェック端子として利用することができる。なお、コンタクトプローブとして、専用のプローブでもよいし、いわゆる「テスタ」の導通チェックを行うテストリードであってもよい。

【２２３８】

また、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）側から前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１に対してコンタクトプローブの先端部を接触させることができるため、例えば、パチンコ機１が遊技ホールに設置された状態においても、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）がパチンコ機１の前方を向いているため、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）側から前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１に対してコンタクトプローブの先端部を接触させることができる場合には、装飾基板ＫＢを取り出すための作業を行うことなく、装飾基板ＫＢの不具合検査として、装飾基板ＫＢの電気検査（動作確認や異常電位の確認）を行うこともできる。

【２２３９】

ところで、装飾基板ＫＢに実装される複数のＬＥＤは、照射角が小さいタイプ（照射角が狭いタイプ）のものであると点光源となって見えて点光源の集合体となって遊技者に視認されて違和感を与えるおそれがある。このため、装飾基板ＫＢに実装される複数のＬＥＤは、遊技者に点光源として視認されないように照射角が大きいタイプ（照射角が広いタイプ）のものが採用されている。

【２２４０】

ところが、ＬＥＤの照射角が大きくなると（ＬＥＤの照射角が広くなると）、ＬＥＤが照らす範囲が広くなることにより、ＬＥＤの発光面から発した光が複数の他の部材に反射して装飾基板ＫＢへ再び戻ってくるものも多くなる。そこで、装飾基板ＫＢへ戻ってきた光を装飾基板ＫＢの前方へ出射できるように反射することができれば、ＬＥＤの発光面に加えて、複数のＬＥＤが実装される装飾基板ＫＢの前面（表実装面）を反射面として利用することで、ＬＥＤの発光面から発した光を効率良く発光演出に利用することができる。

【２２４１】

装飾基板ＫＢには、上述したように、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される前面（表実装面）側配線パターンと、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙに形成される後面（裏実装面）側配線パターンと、を電気的に接続するスルーホールＫＴＨ１に対して、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１が形成されている。装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘには、上述したように、絶縁被膜としてベタ塗りされた白色のレジストが形成されているし、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１が形成されている。前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１は、銅箔が剥き出しとなったものであるため、絶縁被膜としてベタ塗りされた白色のレジスト（白色絶縁膜）による反射率と、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１による反射率と、が異なることとなり、複数のＬＥＤが実装される装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘによる反射率を一様（均一）とすることが難しい。

【２２４２】

また、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）に形成される前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１やスルーホールＫＴＨ１の孔を遊技者に視認される場合には、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１やスルーホールＫＴＨ１の孔の存在が遊技者にとって目障りとなる場合もある。

【２２４３】

そこで、第４実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外周部分全体に絶縁被膜として白色のレジストが被さった状態となっているとともに、装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔における後面（裏実装面）側内周縁から白色のレジスト液が侵入し、この

孔を塞いだ状態となっているため、複数のＬＥＤが実装される装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘによる反射率を一様（均一）とすることに寄与することができるようになっている。

【２２４４】

また、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外周部分全体に絶縁被膜として白色のレジストが被さった状態となっているとともに、装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔における後面（裏実装面）側内周縁から白色のレジスト液が侵入し、この孔を塞いだ状態となっていることにより、遊技者から視認可能とされる装飾基板ＫＢにおいて、この装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに露出する銅箔が剥き出しとなる割合を低減することができるため、飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘによる反射率を一様（均一）とすることにより、銅箔の部分を目立ち難くし装飾基板ＫＢのよる発光演出効果の向上に寄与することができる。

【２２４５】

また、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘには、透光性のインナーレンズＫＡが配置されている。このインナーレンズＫＡはレンズカットが施されて（多面体や凹凸状（微細な凹凸が複数形成されるものを含む）に形成されて）光を乱屈折することができるようになっており、またインナーレンズＫＡを通して視認される対象物を歪ませて不鮮明にすることができるようになっている。このように、インナーレンズＫＡによって装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘの略全域（少なくともＬＥＤが実装される領域）を覆うことにより、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１やスルーホールＫＴＨ１の孔の存在を遊技者に分かり難くすることができる。また、第４実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を採用することにより、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１やスルーホールＫＴＨ１の孔の存在を遊技者に分かり難くすることができることに加えて、上記インナーレンズＫＡによって装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘの略全域（少なくともＬＥＤが実装される領域）を覆う構成を採用することで、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１やスルーホールＫＴＨ１の孔の存在をより一層遊技者に分かり難くすることができる。また、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに形成される絶縁被膜としてベタ塗りされた白色のレジストの厚みや色の濃淡による反射効率に差が生じた場合に、この差をインナーレンズＫＡによりを抑制して演出効果を高めることができる。

【２２４６】

また、インナーレンズＫＡを装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに配置する場合に、表面に形成される多面体の面と面の境界部や凹部と凸部との境界部がスルーホールＫＴＨ１と表記部の一部（部品番号のみでもよいし、配置する位置を示す領域のみでもよい）との一方又は両方と重なるように（ＬＥＤ実装面と直交する直線上）配置するようにしてもよく、この場合にはインナーレンズＫＡの表面の中でも特に歪みが大きい面と面との境界部によってスルーホールＫＴＨ１と表記部とを不鮮明にしてこれらの存在を遊技者に分かり難くすることができる。また、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘを覆うインナーレンズＫＡは、レンズカットの程度の異なる複数のレンズ（多面体や凹凸の数や面の大きさ等が異なるレンズ）を重ねて構成される（例えば二重構造）ものであってもよく、これによって光の屈折をより不規則にすることができることに加えて、インナーレンズＫＡを通して視認される対象物をより強く歪ませて不鮮明にすることができるようになり、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１やスルーホールＫＴＨ１の孔の存在を遊技者に分かり難くすることができる。

【２２４７】

また、装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔における後面（裏実装面）側内周縁から白色のレジスト液が侵入し、この孔を塞いだ状態となっているものの、装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔における前面（表実装面）側は開放された状態となっている。

つまり、装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔は、後面（裏実装面）側が白色のレジスト液により塞がれているのに対して、前面（表実装面）側が開放されている。これは、装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔における後面（裏実装面）側内周縁から白色のレジスト液が侵入し、装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔の内部に空気が残った状態で装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の前面（表実装面）側を塞いだ状態とすると、レジスト除去液等の液体がスルーホールＫＴＨ１の内部に残留するおそれがあり、この液体の影響によりスルーホールＫＴＨ１の内部の導電性を有するメッキが腐食することで接触不良が起きたり、熱が加わる半田（リフローなど）工程等においてスルーホールＫＴＨ１の内部の液体が瞬間的に気化して膨張（いわゆる、「水蒸気爆発」）することによりスルーホールＫＴＨ１の内部の導電性を有するメッキが破損することでスルーホールＫＴＨ１の電気的な切断が起きたりするおそれがあるからである。

【２２４８】

また、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１やスルーホールＫＴＨ１の孔は存在するものの、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１は装飾基板ＫＢの前面（表実装面）における白色のレジストによりその存在を隠すことができ、スルーホールＫＴＨ１の孔は装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）における白色のレジストによりその存在を隠すことができるようになっているため、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにベタ塗りされた白色のレジストに対して、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１を目立たなくすることができるし、スルーホールＫＴＨ１の孔を目立たなくすることができる。これにより、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１やスルーホールＫＴＨ１の孔が遊技者にとって目障りとならないようにすることができる。また、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１やスルーホールＫＴＨ１の孔が模様や柄等に遊技者に視認されることにより演出効果が低下することを抑制することもできる。

【２２４９】

また、遊技盤５に備える各装飾基板は、前後方向に配置される場合もあるため、一の装飾基板ＫＢの後方に配置される他の装飾基板ＫＢの前面（表実装面）に実装される複数のＬＥＤが発光しても、一の装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔が白色のレジストで塞がれている状態となっていることでスルーホールＫＴＨ１を通ることができないため、一の装飾基板ＫＢの前面（表実装面）に実装される複数のＬＥＤによる発光の色に対して、他の装飾基板ＫＢの前面（表実装面）に実装される複数のＬＥＤによる発光が一の装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１を通ることにより、他の装飾基板ＫＢの前面（表実装面）に実装される複数のＬＥＤによる発光の色が混色することを防止することができる。なお、一の装飾基板ＫＢの後方に他の装飾基板ＫＢが配置されない場合には、一の装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔が白色のレジストで塞がれていないと、スルーホールＫＴＨ１の孔が黒色の点のように見えるため、一の装飾基板ＫＢの前面（表実装面）に実装される複数のＬＥＤによる発光の色に対して、一の装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔による黒色の点、つまり黒色が混色するのに対して、一の装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔が白色のレジストで塞がれている状態となっていると、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外周部分全体に絶縁被膜として白色のレジストが被さった状態となっているため、スルーホールＫＴＨ１の孔が塞がれた白色のレジストと、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外周部分全体に被さった白色のレジストと、近い配置となっていることにより、スルーホールＫＴＨ１の孔が装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにベタ塗りされた白色のレジストに紛れる（同化する）こととなり、一の装飾基板ＫＢの前面（表実装面）に実装される複数のＬＥＤによる発光の色に対して、一の装飾基板ＫＢの前面（表実装面）に形成されるスルーホールＫＴＨ１による混色を防止することができる。

【２２５０】

また、遊技盤５に備える演出表示装置１６００の液晶表示画面は遊技者の最大の視認対象であるため、演出表示装置１６００（液晶表示画面）の周りの装飾基板や演出表示装置１６００（液晶表示画面）の上側に被さるように配置される装飾基板、演出表示装置１６

００（液晶表示画面）の上側と被さる位置に移動可能に配置される装飾基板は、第４実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成において、スルーホールのランドに対する絶縁被膜が被さっていない部分をより極力少なくするとともに、スルーホールの孔を装飾基板の後面（裏実装面）側で塞いだ状態とすることにより、複数のＬＥＤが実装される装飾基板の前面（表実装面）による反射率を一様（均一）とするという効果、銅箔の部分を目立ち難くするという効果、スルーホールの孔の存在をより遊技者に分かり難くするという効果等が高くなる。また、他の場所でも、例えば遊技者が装飾基板を、レンズカットが施されて（多面体や凹凸状に形成されて）光を乱屈折することができるようになっているインナーレンズＫＡを通して視認できる場所に配置してあるものにおいても、複数のＬＥＤが実装される装飾基板の前面（表実装面）による反射率を一様（均一）とするという効果、銅箔の部分を目立ち難くするという効果、スルーホールの孔の存在をより遊技者に分かり難くするという効果等がある。なお、扉枠３に備える各装飾基板と遊技盤５に備える各装飾基板とでは、遊技盤５に備える各装飾基板の方が扉枠３に備える各装飾基板と比べると演出表示装置１６００により近い配置となっていため、第４実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成において、複数のＬＥＤが実装される装飾基板の前面（表実装面）による反射率を一様（均一）とするという効果、銅箔の部分を目立ち難くするという効果、スルーホールの孔の存在をより遊技者に分かり難くするという効果等が高いといえる。

【２２５１】

なお、第４実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおいて、前面（表実装面）側レジスト層ＫＢｘｒのうち前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と対応する領域には、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外径ＫＴＨＤ１より小さい開口径ＫＢｘｒＤ１を有する前面（表実装面）側レジスト開口部ＫＢｘｒａが形成されることにより、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外径ＫＴＨＤ１の外周から前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の中心へ向かって前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外周部分が絶縁被膜として白色のレジストにより被さった状態となっていたが、図１９７（ｂ）に示すように、前面（表実装面）側レジスト層ＫＢｘｒのうち前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と対応する領域には、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外径ＫＴＨＤ１より小さく、且つ、開口径ＫＢｙｒＤ１の外径よりさらに小さく、且つ、スルーホールＫＴＨ１の孔の内径より大きい開口径ＫＢｘｒＤ２を有する前面（表実装面）側レジスト開口部ＫＢｘｒａが形成されるようにしてもよい。この開口径ＫＢｘｒＤ２の内径は、スルーホールＫＴＨ１の孔における前面（表実装面）側内周縁から同心円状に外側へ広がるレジスト液侵入防止領域が加味されたものであり、スルーホールＫＴＨ１の孔における前面（表実装面）側内周縁からレジスト液侵入防止距離寸法（レジスト液侵入防止距離寸法は、白色のレジスト液が装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔への侵入を防止するために、少なくとも、０．５ｍｍ以上の距離寸法が必要であり、第４実施形態に係るスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、０．５ｍｍが採用されている。）だけ離れた大きさとなっている。このため、開口径ＫＢｘｒＤ２の内径は、スルーホールＫＴＨ１の孔の内径に対してレジスト液侵入防止距離寸法（０．５ｍｍ）を２倍したものを加えたものとなり、スルーホールＫＴＨ１の孔の内径より１．０ｍｍだけ大きいものとなっている。

【２２５２】

これにより、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１のほぼ内側から外周部分全体に亘って（つまり、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１のうちレジスト液侵入防止領域を除いた領域に亘って）絶縁被膜として白色のレジストが被さった状態とすることができるため、銅箔が剥き出しとなっている部分がレジスト液侵入防止領域となることにより、銅箔が剥き出しとなっている前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の面積を極めて小さ

く抑えることができる。
【２２５３】
　また、装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔に対してレジスト液侵入防止領域が設けられているため、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘの銅箔面の上に絶縁被膜として白色のレジスト液が塗布される場合に、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘが鉛直上向きとなるように（装飾基板ＫＢは、実際には１枚の定尺の銅張積層板（基材）から複数の基板を配置して最終的に切り出して製造されるため、１枚の定尺の銅張積層板（基材）の前面が鉛直上向きとなるように）製造装置に固定されて実際に白色のレジスト液が塗布されても、白色のレジスト液が装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔へ侵入し、この孔を塞ぐことなく乾燥されるようになっている。
【２２５４】
　また、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１のほぼ内側から外周部分全体に亘って（つまり、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１のうちレジスト液侵入防止領域を除いた領域に亘って）絶縁被膜として白色のレジストが被さった状態とすることで銅箔が剥き出しとなっている部分がレジスト液侵入防止領域となって小さくなっているものの、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）側から前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１に対してコンタクトプローブの先端部を接触させて装飾基板ＫＢの電気検査（動作確認や異常電位の確認）を行うことができるため、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１を装飾基板ＫＢの電気検査を行う場合に、チェック端子として利用することができるし、例えば、パチンコ機１が遊技ホールに設置された状態においても、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）がパチンコ機１の前方を向いているため、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）側から前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１に対してコンタクトプローブの先端部を接触させることができる場合には、装飾基板ＫＢを取り出すための作業を行うことなく、装飾基板ＫＢの不具合検査として、装飾基板ＫＢの電気検査（動作確認や異常電位の確認）を行うこともできる。なお、コンタクトプローブとして、専用のプローブでもよいし、いわゆる「テスタ」の導通チェックを行うテストリードであってもよい。
【２２５５】
　また、第４実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘ及び後面（裏実装面）ＫＢｙには、ほぼ全体に絶縁被膜として白色のレジスト液が塗布されて形成される白色絶縁膜により白色のレジスト層が形成され、フルカラーＬＥＤの部品番号、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域等の電子部品の属性を示す表記部によっても装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける反射率の均一化を図るように構成されている（装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘに黄色等の明色で表記部を形成したり、箔抜き文字で表記部を形成したり、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）に所定色の塗料で表記部を形成する等）。また、第４実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、白色絶縁膜によって装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１を覆うことにより反射率の低下抑制に寄与することに加えて、上記表記部によって装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける反射率の均一化を図る構成を採用することにより、反射率の低下の抑制効果がさらに高まる。また、表記部によって装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける反射率の均一化を図る構成では表記部自体の視認を困難にすることも可能となるため、遊技者に遊技と関係のないフルカラーＬＥＤの部品番号や、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域等の電子部品の属性を示す表記部が視認され難くすることができるし、これに併せて上記第４実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を採用することでスルーホールについても視認され難くすることができ、遊技と無関係の情報やスルーホールが視認されて遊技興趣が低下することを抑止する効果が高まる。

【２２５６】
　また、セキュリティ対策としてフルカラーＬＥＤの部品番号、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域等の電子部品の属性を示す表記部を表記せずに１ピンマークを箔残し等により表記するようにしてもよく、この場合にもこれらの構成に併せて上記第４実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を採用することにより、反射率の低下の抑制効果をさらに高めることができるし、遊技と無関係の情報（１ピンマーク）やスルーホールが視認されて遊技興趣が低下することを抑止する効果が高まる。
【２２５７】
　また、第４実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘ及び後面（裏実装面）ＫＢｙには、ほぼ全体に絶縁被膜として白色のレジスト液が塗布されて形成される白色絶縁膜により白色のレジスト層がそれぞれ形成されていたが、装飾基板ＫＢのランドの外周部分全体に被さるレジストの色と、装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔を塞ぐレジストの色と、を異なる色としてもよい。例えば、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘには、ほぼ全体に絶縁被膜として白色のレジスト液が塗布されて形成される白色絶縁膜により白色のレジスト層が形成されることで、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外周部分全体に絶縁被膜として白色のレジストが被さった状態とするのに対して、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙには、ほぼ全体に絶縁被膜として黒色のレジスト液が塗布されて形成される黒色絶縁膜により黒色のレジスト層が形成されることで、装飾基板ＫＢのスルーホールＫＴＨ１の孔を黒色のレジストで塞がった状態とすることができる。
【２２５８】
　また、第４実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成では、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘ及び後面（裏実装面）ＫＢｙには、ほぼ全体に絶縁被膜として白色のレジスト液が塗布されて形成される白色絶縁膜により白色のレジスト層が形成されていたが、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘ及び後面（裏実装面）ＫＢｙのうち一方の面又は両方の面には、ほぼ全体に絶縁被膜として白色の塗料でシルク印刷により印刷されて形成される白色絶縁膜により白色のシルク印刷層が形成されるようにしてもよい。この場合、一方の面又は両方の面に形成される白色のシルク印刷層の上に電子部品を特定可能にする、電子部品の部品番号、電子部品の属性を示す表記部が黄色の塗料でシルク印刷により印刷される。黄色のほかにパステルカラー等の白色の明度に近い色（例えば、薄い緑色、薄い青色等）を有する塗料で表記部をシルク印刷により印刷してもよい。一方の面又は両方の面に上述した白色のシルク印刷層を形成する場合には、基材ＫＢｏや銅箔面（電子部品がハンダ付けされるパッドのほかに、所定領域を除いた銅箔面）を覆うレジスト層を形成してもよいし、レジスト層を形成しなくてもよく、レジスト層を形成する場合には、このレジスト層を覆うように、絶縁被膜として白色の塗料でシルク印刷により印刷されて形成される白色絶縁膜により白色のシルク印刷層が形成されることとなる。レジスト層は、白色のレジスト液でもよいし、白色と異なる他色（緑色、黒色、黄色、赤色、青色等）のレジスト液でもよい。
【２２５９】
　また、第４実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を、遊技盤５の機能表示ユニット１４００における機能表示基板１４００ｃのスルーホールのランドに対して適用することができる。機能表示基板１４００ｃの前面（表実装面）１４００ｃｘ及び後面（裏実装面）１４００ｃｙには、上述したように、黒色のレジスト液が塗布されて形成される黒色絶縁膜により黒色のレジスト層が形成されている。黒色のレジスト液を使用すると、上述したように、機能表示基板１４００ｃの前面（表実装面）１４００ｃｘに実装される複数のＬＥＤ１４００ｃａが発した光による反射を防止することで、近傍に配置されるＬＥＤ１

４００ｃａが発した光と混ざらないようにすることに寄与することができる。このため、機能表示基板１４００ｃの前面（表実装面）１４００ｃｘにおける前面（表実装面）側ランドの外周部分全体に絶縁被膜として黒色のレジストが被さった状態となっているとともに、機能表示基板１４００ｃのスルーホール１４００ｃｃの孔における後面（裏実装面）側内周縁から黒色のレジスト液が侵入し、この孔を塞いだ状態となっているため、反射率を低減させて、複数のＬＥＤ１４００ｃａが実装される機能表示基板１４００ｃの前面（表実装面）１４００ｃｘによる反射率を一様（均一）とすることに寄与することができる。

【２２６０】

また、スルーホールは、上述したように、貫通する孔の内周壁に銅メッキが施されて導電性を有しているものであり、電子部品を実装するためのスルーホールと、電子部品を実装しないスルーホールと、があり、どちらのスルーホールのランドにおいも、第４実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成が採用されていたが、電子部品を実装しないスルーホールのうち、電子部品が実装される直下に設けられるものに対しては第４実施形態に係る遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成が採用されなくてもよい。つまり、電子部品を実装しないスルーホールのうち、電子部品が実装される直下に設けられるスルーホールのランドにおける銅箔全体が剥き出しの状態としてもよい。この場合、装飾基板ＫＢの前面（表実装面）ＫＢｘにおける前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１と、装飾基板ＫＢの後面（裏実装面）ＫＢｙにおける後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１と、における銅箔全体が剥き出しの状態とする。銅箔全体が剥き出しの状態となっているスルーホールのランド全体を覆うように電子部品が配置されているため、そもそも、銅箔の部分を目立ち難くする必要がないし、スルーホールの孔の存在を遊技者に分かり難くする必要もないからであるとともに、電子部品が実装されていない面からスルーホールのランドの存在やスルーホールの孔の存在を、装飾基板ＫＢの電気検査において目視にて確認することができるし、スルーホールのランドに対してコンタクトプローブの先端部を接触させて装飾基板ＫＢの電気検査（動作確認や異常電位の確認）を行うことができる。

【２２６１】

［１４．遊技盤の第二実施形態］

次に、パチンコ機１における第二実施形態の遊技盤５Ａについて、主に図１９８乃至図２００等を参照して詳細に説明する。図１９８（ａ）は第一実施形態の遊技盤の一部を拡大して示す正面図であり、（ｂ）は（ａ）と同じ部位で第二実施形態の遊技盤の一部を拡大して示す正面図である。図１９９（ａ）は第二実施形態の遊技盤の一部を拡大して示す正面図であり、（ｂ）は（ａ）において裏前演出ユニットの裏前左装飾ユニットを発光装飾させた状態で示す説明図である。図２００は、図１９９（ａ）において遊技パネルのパネル板を発光装飾させた状態で示す説明図である。

【２２６２】

第二実施形態の遊技盤５Ａは、前構成部材１０００Ａと遊技パネル１１００のパネル板１１１０Ａとが透光性を有した乳白色の合成樹脂により形成されている他は、第一実施形態の遊技盤５と同じ構成であり、同じ構成の部位については詳細な説明は省略する。

【２２６３】

第一実施形態の遊技盤５は、前構成部材１０００と遊技パネル１１００（パネル板１１１０及びパネルホルダ１１２０）とが、透明な合成樹脂で形成されているため、図１９８（ａ）に示すように、前構成部材１０００や遊技パネル１１００の後方に設けられている裏ユニット３０００を前方（遊技者側）から視認することができる。

【２２６４】

これに対して、本実施形態の遊技盤５Ａは、前構成部材１０００Ａ及びパネル板１１１０Ａが乳白色の合成樹脂により形成されているため、図１９８（ｂ）等に示すように、前構成部材１０００や遊技パネル１１００の後方に設けられている裏ユニット３０００等に

おけるパネル板１１１０Ａの開口部１１１２の内側を除いた部位を、前方（遊技者側）から視認することができない。

【２２６５】

前構成部材１０００Ａ及びパネル板１１１０Ａは、透光性を有する乳白色不透明の合成樹脂により形成されている。パネル板１１１０Ａは、乳白色の合成樹脂板を切削加工したものであっても良いし、乳白色の合成樹脂を用いて射出成型により成型したものであっても良い。

【２２６６】

本実施形態の遊技盤５Ａは、遊技パネル１１００のパネル板１１１０Ａ等が乳白色であることから、パネル板１１１０Ａ等を通して後方に設けられている裏ユニット３０００の一部（正面視において、開口部１１１２よりも外側の部位）を視認不能とすることができる。このパネル板１１１０Ａ等は、透光性を有しているため、後方に設けられている装飾体等を発光装飾させると、後方の装飾体からの光がパネル板１１１０Ａを透過し、装飾体の発光装飾を遊技者に視認させることができる。

【２２６７】

詳述すると、図１９９（ａ）に示すように、パネル板１１１０Ａ等の後方に設けられている裏ユニット３０００の裏前演出ユニット３１００における裏前左装飾ユニット３１２０では、正面視において、パネル板１１１０Ａの開口部１１１２よりも外側に位置している裏前左上ロゴ装飾部３１２２や裏前左サブ装飾部３１２３等は、前方から視認不能となっている。そして、裏前左ロゴ装飾部３１２１、裏前左上ロゴ装飾部３１２２、及び裏前左サブ装飾部３１２３、等を発光装飾させると、図１９９（ｂ）に示すように、透光性を有したパネル板１１１０Ａを通して後方に設けられている裏前左上ロゴ装飾部３１２２や裏前左サブ装飾部３１２３等の光が透過し、発光装飾されている裏前左上ロゴ装飾部３１２２や裏前左サブ装飾部３１２３等が視認可能となる。

【２２６８】

このパネル板１１１０Ａ等は、乳白色としているため、発光装飾されている裏前左上ロゴ装飾部３１２２や裏前左サブ装飾部３１２３等の発光色が、そのままの色で透過させることができ、色彩の豊かな発光演出を遊技者に見せることができる。

【２２６９】

なお、パネル板１１１０Ａにおける透光性を有した不透明としては、光の透過率が２％～８０％、ヘーズ値が８０％～１００％のものとすることが望ましい。透過率がこれよりも低いと十分な明るさで発光装飾させることが困難となるためであり、透過率がこれよりも高いと不透明な素材として入手することが困難となるためである。また、ヘーズ値がこれよりも低いと、後方に設けられている部材の形状や装飾が認識し易くなり、隠蔽による演出効果を十分に得られなくなる恐れがあるためである。

【２２７０】

また、パネル板１１１０Ａ等を乳白色（マンセル値（１０ＹＲ　９．２／０．５））としているが、「白　マンセル値（Ｎ　９．５）」、「胡粉色　マンセル値（２．５Ｙ　９．２／０．５）」、「卯花色　マンセル値（１０Ｙ　９／１）」、「生成り色　マンセル値（１０ＹＲ　９／１）」、「鉛白　マンセル値（Ｎ　９）」、「オイスターホワイト　マンセル値（５ＧＹ　８．５／０．３）」、「灰白色　マンセル値（１０ＹＲ　９／０．５）」、「白藍色　マンセル値（９．７ＢＧ　８．２／１．３）」、「秘色　マンセル値（２Ｂ　８．５／２）」、「象牙色　マンセル値（２．５Ｙ　８．５／１．５）」、「クリームイエロー　マンセル値（５Ｙ　８．５／３．５）」、「桜色　マンセル値（１０ＲＰ　９／２．５）」、等の白色系の色としても良い。

【２２７１】

ところで、パネル板１１１０Ａ等を、透光性を有した乳白色としていることから、パネル板１１１０Ａの後方に黒色、赤色、青色、のような着色された装飾体を設けるようにすると、装飾体を発光装飾させていない状態でも、装飾体の色によってはパネル板１１１０Ａを通して見えてしまう場合がある。そして、パネル板１１１０Ａを通して装飾体が透け

て見えることで、遊技者がパネル板１１１０Ａの後方の装飾体の存在に気付いてしまい、装飾体を発光装飾させた時に遊技者に与えるインパクト（驚き）が低下して所望の演出効果を得られなくなる恐れがある。

【２２７２】

これに対して、本実施形態では、パネル板１１１０Ａの後方に設けられている裏前左装飾ユニット３１２０の裏前左上ロゴ装飾部３１２２や裏前左サブ装飾部３１２３等を構成している裏前左第一装飾体３１２４、裏前左第二装飾体３１２５、裏前左第三装飾体３１２６、及び裏前左装飾体ベース３１２７を、無色透明な部材により形成しているため、透光性を有した乳白色のパネル板１１１０Ａを通して裏前左上ロゴ装飾部３１２２や裏前左サブ装飾部３１２３等が見えることはない。従って、裏前左上ロゴ装飾部３１２２や裏前左サブ装飾部３１２３等を発光装飾させていない状態では、それらが遊技者から見えないため、それらの存在を遊技者に気付かせ難くすることができる。そして、裏前左上ロゴ装飾部３１２２や裏前左サブ装飾部３１２３等を発光装飾させると、透光性を有した乳白色のパネル板１１１０Ａを通してそれらが見えるようになるため、遊技者を驚かせることができ、発光演出を楽しませることができると共に、パネル板１１１０Ａを通して発光装飾の光が見えることで遊技領域５ａ内を明るく綺麗に見せることができ、遊技者の関心を強く引付けさせることができる。

【２２７３】

また、本実施形態の遊技盤５Ａは、透光性を有した乳白色のパネル板１１１０Ａの外側に、パネル板１１１０Ａの外周面に光を照射する複数のＬＥＤ１１３０ａが実装されたパネル装飾基板１１３０が設けられている。複数のＬＥＤ１１３０ａは、フルカラーＬＥＤである。パネル装飾基板１１３０の複数のＬＥＤ１１３０ａを発光させると、図２００において網掛けで示すように、パネル板１１１０Ａを発光装飾させることができる。これにより、前方を遊技球Ｂが流通する遊技パネル１１００（パネル板１１１０Ａ）が自光している状態となるため、遊技領域５ａ内を明るくすることができ、遊技領域５ａ内を流通している遊技球Ｂを見え易くすることができると共に、遊技領域５ａ内の見栄えを良くすることができ、遊技者の関心を強く引付けさせることができる。

【２２７４】

また、遊技パネル１１００が自光することで、遊技領域５ａ内を流通している遊技球Ｂがシルエットで見えるため、遊技球Ｂを視認し易くすることができ、微妙な発射強度の調整を行い易いものとすることができる。また、パネル装飾基板１１３０を、パネル板１１１０Ａの左側と右側の両方に設けるようにすれば、遊技者に対して「右打ち」や「左打ち」のアドバイスを出すときに直感的に理解できるようになる。詳述すると、遊技の状況に応じて、左側又は右側の何れかのパネル装飾基板１１３０のＬＥＤ１１３０ａを発光させて、パネル板１１１０Ａの左部や右部を発光装飾させることで、遊技者に対して「左打ち」や「右打ち」をアドバイスしていることを直感的に理解させることができ、遊技者に遊技球Ｂの打込操作を楽しませることができると共に、これまでのパチンコ機にはない新感覚の発光演出により遊技者を楽しませることができる。

【２２７５】

詳述すると、従来のパチンコ機において、遊技パネルとして不透明なベニア板の合板を用いた遊技盤では、合板の前面に所定の絵柄等が印刷された化粧フィルムを貼り付けることにより、遊技領域内を装飾するようにしている。しかしながら、遊技パネルに合板を用いた場合、化粧フィルムによる装飾では他の遊技機と代り映えがせず、遊技者に対する訴求力を高めることは困難であった。一方、第一実施形態の遊技盤５のように、前方を遊技球Ｂが流通するパネル板１１１０を透明にした場合、後方に設けられている裏ユニット３０００の装飾や演出表示装置１６００の演出画像等が見え易く、開放感のあるパチンコ機１とすることができる一方、透明なパネル板１１１０の前方を流通する遊技球Ｂが、宙を浮いているように見え、遊技者によっては、遊技球Ｂの動きが判り辛くなる恐れがある。

【２２７６】

これに対して、本実施形態の遊技盤５Ａは、パネル装飾基板１１３０の複数のＬＥＤ１

１３０ａによって、透光性を有したパネル板１１１０Ａを発光装飾させることができるため、ＬＥＤ１１３０ａの発光色や発光パターン等を適宜組合せることにより、パネル板１１１０Ａの装飾を多彩に変化させることができ、これまでのパチンコ機にはない自光する遊技盤５Ａを遊技者に見せることができると共に、遊技者に関心を強く引付けさせることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。また、パネル装飾基板１１３０の複数のＬＥＤ１１３０ａによって、パネル板１１１０Ａが自光するため、パネル板１１１０Ａの前方を流通する遊技球Ｂを見え易くすることができ、遊技者に遊技球Ｂの動きを楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【２２７７】

本実施形態の遊技盤５Ａによれば、上記したような作用効果に加えて、パネル板１１１０Ａ等を乳白色の合成樹脂としており、透明な樹脂よりもグレードの低い樹脂を使えば事足りるので、透明な樹脂を使用した場合と比較して、パネル板１１１０Ａにかかるコストを低減させることができる。

【２２７８】

なお、上記の実施形態では、パネル板１１１０Ａの外周の外側にパネル装飾基板１１３０を設けたものを示したが、これに限定するものではなく、パネル板１１１０Ａの後方にパネル装飾基板１１３０を設けるようにしても良い。これにより、上記と同様の作用効果を奏することができる。また、パネル板を透明にした場合と比較して、後方に設けられているＬＥＤ１１３０ａ等からの点状の光を、光性を有する乳白色のパネル板１１１０Ａにより拡散させることができるため、パネル板１１１０Ａを柔らかく発光装飾させることができ、眩しさを抑制して目に優しい遊技盤５Ａとすることができる。

【２２７９】

また、本実施形態の遊技盤５Ａにおいて、図示は省略するが、パネル板１１１０Ａの前面に、所定の絵柄が施された化粧フィルム（セルとも称する）を貼り付けるようにしても良い。これにより、遊技球Ｂの流通によるパネル板１１１０Ａの摩耗を抑制させることができると共に、セルの絵柄により後方の装飾体を発光装飾させていない時の遊技領域５ａの見栄えの低下を抑制させて見栄えを良くすることができる。また、パネル板１１１０Ａの後方に設けられているＬＥＤからの光により、パネル板１１１０Ａと一緒にセルの絵柄を発光装飾させることができ、パネル板１１１０Ａの装飾をより綺麗に見せることができる。

【２２８０】

また、上記のように、パネル板１１１０Ａの前面にセルを設けるようにした場合、セルに施されている絵柄を輪郭とすることで、パネル板１１１０Ａの後方に設けられているＬＥＤによる発光装飾（電飾）をハッキリさせることができ、発光装飾による装飾効果をより高めることができる。

【２２８１】

更に、パネル板１１１０Ａの後面に、セルを設けるようにしても良い。これにより、パネル板１１１０Ａ（セル）の後方に設けられたＬＥＤ等からの光により、セル（又は、セルに施されている絵柄）の影がパネル板１１１０Ａに映ることとなるため、ＬＥＤの発光によりパネル板１１１０Ａの装飾を変化させることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。このパネル板１１１０Ａに映る影として、例えば、「右打ち」、「左打ち」、「チャンス」、等のような文字としても良く、遊技状況の変化を示唆することで、遊技者を楽しませることができる。

【２２８２】

また、上記の実施形態では、乳白色のパネル板１１１０Ａの後方に、位置が固定されている装飾体（裏前左装飾ユニット３１２０）を設けたものを示したが、これに限定するものではなく、パネル板１１１０Ａの後方に、正面視においてパネル板１１１０Ａの後方の退避位置とパネル板１１１０Ａの開口部１１１２の内側の出現位置との間で移動可能な可動装飾体を設けるようにしても良い。

【２２８３】

更に、上記の実施形態では、パネル板１１１０Ａ等の内部を含む全体が乳白色のものを示したが、これに限定するものではなく、部分的に乳白色のものや、内部が透明で少なくとも一方の面が乳白色のものであっても良い。具体的には、例えば、透明な樹脂と乳白色の樹脂とで二色成形したパネル板、透明な樹脂板と乳白色の樹脂板とを貼り合わせたパネル板、透明な樹脂板の少なくとも一方の面に乳白色のフィルム（セル）を貼り付けたパネル板、透明な樹脂板の後面に紫外線硬化インクによるチヂミ加工を施したパネル板、透明な樹脂板の後面にサンドブラスト加工を施したパネル板、等が挙げられる。

【２２８４】

また、上記の実施形態では、パネル板１１１０Ａ等を、乳白色としたものを示したが、これに限定するものではなく、赤色、青色、黄色、等のように、適宜の色のパネル板としても良い。

【２２８５】

また、上記の実施形態では、前構成部材１０００Ａを、透光性を有する乳白色としたものを示したが、これに限定するものではなく、第一実施形態の遊技盤５と同様に透明な前構成部材１０００としても良いし、パネル板１１１０Ａとは異なる色の前構成部材としても良い。

【２２８６】

［１５．遊技盤の第三実施形態］

次に、パチンコ機１における第三実施形態の遊技盤５Ｂについて、主に図２０１を参照して詳細に説明する。図２０１は、第三実施形態の遊技盤におけるパネル板とセルとを分解して前から見た分解斜視図である。第三実施形態の遊技盤５Ｂは、第一実施形態の遊技盤５において、パネル板１１１０の後方にセル１１４０を設けた構成の他は、同じ構成であり、同じ構成の部位については詳細な説明は省略する。

【２２８７】

第二実施形態の遊技盤５Ｂは、遊技パネル１１００における透明な遊技パネル１１００のパネル板１１１０の後側に、所定の絵柄が施されているフィルム状のセル１１４０が、着脱可能に設けられている。セル１１４０は、厚さが０．２ｍｍ～０．４ｍｍの合成樹脂のフィルムであり、所定の絵柄が印刷により施されている。なお、セル１１４０の材質としては、「ポリエチレンテレフタレート樹脂」、「ポリカーボネート樹脂」、「ＡＢＳ樹脂」、「ＡＥＳ樹脂」、「ＰＭＭＡ（ポリメタクリル酸メチル）樹脂」、「ポリプロピレン樹脂」、「ポリエチレン樹脂」、「ポリスチレン樹脂」、「耐衝撃性ポリスチレン樹脂」、「ポリ塩化ビニル」、等が挙げられる。

【２２８８】

このセル１１４０は、パネル板１１１０の全面に対して、一部（ここでは、センター役物２５００の左側から下側にかけた部位）のみを覆う大きさに形成されている。また、セル１１４０は、図示は省略するが、所定量のガタツキを有した状態で、ネジを用いてパネル板１１１０の後面に取付けられている。これにより、パネル板１１１０の全面に貼り付けるようにした場合と比較して、セル１１４０の取付けにかかる手間を容易なものとすることができると共に、セル１１４０の使用量を低減させることができ、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。

【２２８９】

また、セル１１４０をパネル板１１１０の一部に設けるようにしているため、パネル板に貼り付けられる従来のセルと比較して、樹脂シートから取れるセル１１４０の数を多くすることができ、パチンコ機１にかかるコストを低減させることができる。

【２２９０】

また、セル１１４０を、ガタツキを有した状態でパネル板１１１０に取付けているため、温度や湿度等の変化によってセル１１４０が伸縮しても、パネル板１１１０との伸縮差をガタツキにより吸収することができる。これにより、パネル板１１１０に対してセル１１４０が収縮しても、セル１１４０に皺が寄ったりヒビが入ったりすることを防止することができ、セル１１４０の絵柄による装飾効果を維持させることができる。

【２２９１】
更に、セル１１４０をネジによりパネル板１１１０に取付けていることから、セル１１４０をパネル板１１１０から容易に着脱させることができるため、絵柄異なるセル１１４０に取替えることで、パチンコ機１のスペック変更、機種変更、或いは、設計変更、等に対して容易に対応することができ、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができると共に、より装飾効果の高い絵柄のセル１１４０に交換することで遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。
【２２９２】
また、透明なパネル板１１１０の後側にセル１１４０を設けるようにしているため、パネル板１１１０の前面に設けるようにした場合と比較して、遊技者からセル１１４０までの距離が遠くなり、遊技者に対する圧迫感を低減させることができる。
【２２９３】
また、セル１１４０に透光性を有するようにすることが望ましく、パネル板１１１０（セル１１４０）の後方に設けられているＬＥＤからの光により、セル１１４０の絵柄を発光装飾させることができ、遊技領域５ａ内の見栄えを良くすることができると共に、セル１１４０の発光装飾により遊技者の関心を強く引付けさせることができ、パチンコ機１の訴求力を高めることができる。
【２２９４】
なお、上記の実施形態では、ネジを使用してセル１１４０をパネル板１１１０に取付けたものを示したが、これに限定するものではなく、例えば、セル１１４０を、パネル板１１１０とパネルホルダ１１２０との間に挟んで取付けるようにしても良い。
【２２９５】
また、上記の実施形態では、パネル板１１１０のセンター役物２５００が設けられる開口部１１１２を、パネル板１１１０に対して右上方向へ片寄っている（右上に偏芯させた）位置に設けたものを示したが、これに限定するものではなく、上方向へ片寄っている（上方に偏芯させる）ようにしても良いし、左右方向へ片寄っている（左右方向に偏芯させる）ようにしても良く、開口部１１１２が片寄る（偏芯する）ことにより広くなる部位の後方にセル１１４０を設けるようにすることで上記と同様の作用効果を奏することができる。
【２２９６】
また、センター役物２５００が設けられる開口部１１１２は、遊技パネル１１００（パネル板１１１０）の中心又は外縁に対して片寄っていても良いし、遊技領域５ａの中心又は外縁に対して片寄っていても良い。従って、例えば、パネル板１１１０と遊技領域５ａの中心が互いに一致していない場合、パネル板１１１０の中心に対して片寄っている開口部１１１２の中心が、遊技領域５ａの中心と一致していても良いし、遊技領域５ａの中心に対して片寄っている開口部１１１２の中心が、パネル板１１１０の中心と一致していても良い。
【２２９７】
［１６．機能表示ユニットの別の実施形態］
続いて、上記の遊技盤５等に設けられている機能表示ユニット１４００の別の実施形態について、主に図２０２乃至図２０７等を参照して詳細に説明する。図２０２（ａ）は第二実施形態の機能表示ユニットの正面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるソ－ソ線断面図であり、（ｃ）は（ａ）の機能表示ユニットを前から見た斜視図であり、（ｄ）は（ａ）の機能表示ユニットを後ろから見た斜視図である。図２０３は図２０２の機能表示ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図２０４は図２０２の機能表示ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図２０５は、図２０２の機能表示ユニットと遊技者との関係を模式的に示す説明図である。図２０６は、第三実施形態の機能表示ユニットと遊技者との関係を模式的に示す説明図である。図２０７は、第四実施形態の機能表示ユニットの断面図である。
【２２９８】

第二実施形態の機能表示ユニット１４００Ａは、上記の第一実施形態の機能表示ユニット１４００と同様に、主制御基板１３１０からの制御信号に基づいて、複数のＬＥＤ１４０１を点滅させることにより変動表示させた後に、所定の組合せとなるように夫々を点灯又は消灯させることにより、遊技状態（遊技状況）や、普通抽選結果、特別抽選結果（第一特別抽選結果、第二特別抽選結果）、普通抽選結果の保留数、特別抽選結果の保留数、「大当り」の際のラウンド数、等を表示するものである。

【２２９９】

詳述すると、第一実施形態の遊技盤５等では、例えば、第一始動口２００２や第二始動口２００４等に遊技球Ｂが受入れられると、主制御基板１３１０において、内部処理として特別抽選結果が抽選される。そして、主制御基板１３１０では、抽選された特別抽選結果を表示するための制御信号を機能表示ユニット１４００に送信し、機能表示ユニット１４００において対応するＬＥＤ１４０１を用いて抽選された特別抽選結果を表示するようにしている。

【２３００】

また、主制御基板１３１０において抽選された特別抽選結果の制御信号は、周辺制御基板１５１０にも送信され、周辺制御基板１５１０により特別抽選結果を示唆する演出として演出表示装置１６００の所定の演出画像が表示される。演出表示装置１６００に表示される演出画像は、遊技者を楽しませることに重点を置いているため、主制御基板１３１０において抽選された特別抽選結果を、大まかには認識できるものの詳細については判り難くなっている。一方、機能表示ユニット１４００では、抽選された特別抽選結果が正確に表示されるが、小さな複数のＬＥＤ１４０１の発光により表示するようにしているため、パッと見ただけでは表示されている内容が判り難くいものとなっている。

【２３０１】

そこで、機能表示ユニット１４００をデジカメ（デジタルカメラ）や携帯電話に付属のカメラ等で撮影することで、機能表示ユニット１４００におけるＬＥＤの発光状態を分析して、機能表示ユニット１４００に表示されている内容をいち早く知ろうとすることが考えられる。

【２３０２】

しかしながら、機能表示ユニット１４００におけるＬＥＤの発光により、抽選された特別抽選結果が簡単に判別できるようになった場合、機能表示ユニット１４００に表示された特別抽選結果が「ハズレ」であると、演出表示装置１６００において当該特別抽選結果を示唆するための演出画像が表示されていても、結果が判っていることで、演出画像による演出を楽しめなくなると共に、演出画像が早く終了することを望むようになり、遊技者によっては苛立ちを覚えて遊技に対する興趣を低下させてしまう恐れがある。

【２３０３】

これに対して、第二実施形態の機能表示ユニット１４００Ａは、遊技者の目には複数のＬＥＤ１４０１の発光状況を明確に視認できるものの、デジカメ等により撮影した場合は、複数のＬＥＤ１４０１の発光状況が不明確になって、表示されている内容が判別できないようにしたものである。

【２３０４】

具体的には、機能表示ユニット１４００Ａは、前面に複数のＬＥＤ１４０１が実装されている機能表示基板１４０２と、機能表示基板１４０２の前側に設けられておりＬＥＤ１４０１からの光を夫々独立して前方へ透過させるリフレクタ後１４０３と、リフレクタ後１４０３の前側に設けられている透光性を有した透光シート１４０４と、透光シート１４０４の前側に設けられておりリフレクタ後１４０３を透過したＬＥＤ１４０１からの光を夫々異なる方向へ放射させるリフレクタ前１４０５と、を備えている。

【２３０５】

機能表示基板１４０２は、図２０３に示すように、複数のＬＥＤ１４０１が、ランダムに実装されている。リフレクタ後１４０３は、機能表示基板１４０２の各ＬＥＤ１４０１に対応するように、複数の貫通孔１４０３ａが設けられている。複数の貫通孔１４０３ａ

は、機能表示基板１４０２の表実装面に対して垂直に設けられている（図２０２（ｂ）等を参照）。

【２３０６】

リフレクタ前１４０５は、リフレクタ後１４０３の各貫通孔１４０３ａと夫々対応しており前後方向に貫通している複数の表示孔１４０５ａを、有している。複数の表示孔１４０５ａは、夫々の後端側が対応しているリフレクタ後１４０３の貫通孔１４０３ａの直前に位置しており、先端側が後端側の中心を通る機能表示基板１４０２の表実装面り垂直線から区々の距離に位置している。つまり、複数の表示孔１４０５ａは、その軸方向が、機能表示基板１４０２の表実装面の垂直線に対して、区々の方向へ向けられている。

【２３０７】

また、リフレクタ前１４０５は、複数の表示孔１４０５ａを結ぶように前面から後方へ凹んでいる区別凹部１４０５ｂを、有している。区別凹部１４０５ｂによって、複数の表示孔１４０５ａを、第一特別抽選結果に関わる表示孔１４０５ａ（ＬＥＤ１４０１）と、第二特別抽選結果に関わる表示孔１４０５ａ（ＬＥＤ１４０１）との二つに分けている。

【２３０８】

このリフレクタ前１４０５の複数の表示孔１４０５ａは、図２０５に示すように、本パチンコ機１の前方の機能表示ユニット１４００Ａから５０ｃｍ～７０ｃｍ離れた位置に着座している遊技者から見た時に、ＬＥＤ１４０１からの光が、左目でのみ見えるものと、右目でのみ見えるものと、左目及び右目の何れでも見えるものと、の３種類の方向に向けられている。つまり、複数の表示孔１４０５ａは、左目用、右目用、及び両目用、の三つに分けられている。

【２３０９】

本実施形態の機能表示ユニット１４００Ａによれば、遊技者が両目で見ることで、全てのＬＥＤ１４０１からの光が見えるため、特別抽選結果等を表示させた時に、複数のＬＥＤ１４０１による発光状況を明確に視認することができ、第一実施形態の機能表示ユニット１４００と同様の機能を遜色なく発揮させることができる。

【２３１０】

また、本実施形態の機能表示ユニット１４００Ａによれば、デジカメ等で撮影した時には、デジカメ等が単眼であることから、左目用と両目用、又は、右目用と両目用、の何方かが撮影されることとなるため、全てのＬＥＤ１４０１の発光状況（発光状態）を撮影することが困難となっている。つまり、デジカメ等で撮影すると、複数のＬＥＤ１４０１による発光状況を不明確にすることができ、機能表示ユニット１４００Ａでの表示内容の判別を困難なものとすることができる。従って、撮影された写真に基づいて、機能表示ユニット１４００Ａでの表示内容が明確になり、抽選された特別抽選結果が、「ハズレ」、単なる「大当り」、「確変当り」、「時短当り」、「第二大当り（ＳＴ当り）」、等が判ることで、抽選された特別抽選結果を示唆するための演出を楽しめなくなったり、発生中の有利遊技状態（例えば、「大当り」遊技）を楽しめなくなったりすることを回避させることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【２３１１】

また、本実施形態の機能表示ユニット１４００Ａによれば、リフレクタ前１４０５の表示孔１４０５ａの向きを異ならせていると共に、本パチンコ機１の前方に着座している遊技者の位置に合わせて表示内容が良好に見えるようにしているため、着座している遊技者よりも後方からは機能表示ユニット１４００Ａの表示内容を不明確に見せることができる。従って、他の遊技者に対して、遊技状況を把握され難くすることができるため、他の遊技者から覗き込まれるようなことを低減させることができ、他の遊技者に気兼ねすることなく遊技を楽しませることができる。

【２３１２】

また、上述したように、本パチンコ機１の前方に着座している遊技者の位置に合わせて表示内容が良好に見えるようにしているため、当該遊技者よりも後方の位置からデジカメ等による機能表示ユニット１４００Ａにおける表示内容の撮影を、より困難なものとする

ことができ、上述した作用効果を確実に奏することができる。
【２３１３】
更に、機能表示ユニット１４００Ａでは、リフレクタ前１４０５の表示孔１４０５ａを、左右方向に加えて、上下方向へも向きを異ならせるようにし、本パチンコ機１の前方に着座している遊技者の目の高さから見た時に、表示内容が良好に見えるようにしている。これにより、デジカメ等により撮影しようとすると、高さ方向についても合せる必要があり、機能表示ユニット１４００Ａにおける表示内容の撮影を、より困難なものとすることができる。
【２３１４】
また、リフレクタ前１４０５の表示孔１４０５ａの向きを異ならせて左目用や右目用等としているため、機能表示基板１４０２において複数のＬＥＤ１４０１の左右方向の距離が大きくなることを抑制させることができ、機能表示ユニット１４００Ａの左右方向の幅を小さくすることができる。
【２３１５】
なお、上記の実施形態では、リフレクタ前１４０５の複数の表示孔１４０５ａを、左目用、右目用、等とするために区々の方向へ向けるようにしたものを示したが、これに限定するものではなく、図２０６に示すような構成の機能表示ユニット１４００Ｂとしても良い。
【２３１６】
機能表示ユニット１４００Ｂは、左右方向へ所定距離（遊技者の左右の瞳の間隔）離間している複数の左用ＬＥＤ１４１１ａ及び複数の右用ＬＥＤ１４１１ｂが前面に実装されている機能表示基板１４１１と、機能表示基板１４１１の前側に設けられており左用ＬＥＤ１４１１ａ及び右用ＬＥＤ１４１１ｂからの光を夫々独立して前方へ透過させるリフレクタ後１４１２と、リフレクタ後１４１２の前側に設けられている透光性を有した透光シート１４１３と、透光シート１４１３の前側に設けられておりリフレクタ後１４１２を透過した左用ＬＥＤ１４１１ａ及び右用ＬＥＤ１４１１ｂからの光を前方へ放射させるリフレクタ前１４１４と、を備えている。
【２３１７】
機能表示基板１４１１の左用ＬＥＤ１４１１ａと右用ＬＥＤ１４１１ｂは、左右方向へ４０ｍｍ～８０ｍｍ離間している。リフレクタ後１４１２は、機能表示基板１４１１の左用ＬＥＤ１４１１ａ及び右用ＬＥＤ１４１１ｂに対応するように、複数の貫通孔１４１２ａが設けられている。複数の貫通孔１４１２ａは、機能表示基板１４１１の前面に対して垂直に設けられている。リフレクタ前１４１４は、リフレクタ後１４１２の複数の貫通孔１４１２ａに対応するように、複数の表示孔１４１４ａが設けられている。複数の表示孔１４１４ａは、機能表示基板１４１１の前面に対して垂直に設けられている。
【２３１８】
この機能表示ユニット１４００Ｂは、本パチンコ機１の前方に着座している遊技者から見た時に、左用ＬＥＤ１４１１ａからの光が左目のみで、右用ＬＥＤ１４１１ｂからの光が右目のみで見えるように構成されている。従って、遊技者が両目で見ることで、左用ＬＥＤ１４１１ａ及び右用ＬＥＤ１４１１ｂの全てからの光が見えるため、第一実施形態の機能表示ユニット１４００と同様の機能を遜色なく発揮することができる。
【２３１９】
また、機能表示ユニット１４００Ｂによれば、左用ＬＥＤ１４１１ａと右用ＬＥＤ１４１１ｂとに分けて左右方向へ離間させているため、単眼のデジカメ等では、何れか一方しか撮影することができず、第二実施形態の機能表示ユニット１４００Ａと同様の作用効果を奏することができる。
【２３２０】
また、機能表示ユニット１４００Ｂによれば、リフレクタ前１４１４の複数の表示孔１４１４ａを、機能表示基板１４１１の前面に垂直な方向へ向けていることから、当該機能表示ユニット１４００Ｂの正面以外の位置からは表示内容が明確に見えないため、デジカ

メ等による表示内容の撮影を困難なものとすることができる。
【２３２１】
更に、機能表示ユニット１４００Ｂによれば、リフレクタ前１４１４の複数の表示孔１４１４ａを、機能表示基板１４１１の前面に垂直な方向へ向けており、全て同じ方向を向いているため、リフレクタ前１４１４を容易に成形することができ、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。
【２３２２】
なお、上記の実施形態では、単眼のデジカメ等では撮影し難い構成の機能表示ユニット１４００Ａや機能表示ユニット１４００Ｂを示したが、これに限定するものではなく、図２０７に示すような構成の機能表示ユニット１４００Ｃとしても良い。
【２３２３】
この機能表示ユニット１４００Ｃは、デジカメ等では撮影可能な不可視光（赤外線、紫外線、等）を発光させることで、表示内容を判別し難くしたものである。具体的には、複数のＬＥＤ１４２１ａが前面に実装されている機能表示基板１４２１と、機能表示基板１４２１の前側に設けられているリフレクタ後１４２２と、リフレクタ後１４２２の前側に設けられている平板状の導光板１４２３と、導光板１４２３の側面に不可視光を照射する不可視光ＬＥＤ１４２４ａが実装されている補助基板１４２４と、導光板１４２３の前側に設けられているリフレクタ前１４２５と、を備えている。
【２３２４】
リフレクタ後１４２２は、機能表示基板１４２１の複数のＬＥＤ１４２１ａに夫々対応している複数の貫通孔１４２２ａを有している。導光板１４２３は、側面から補助基板１４２４の不可視光ＬＥＤ１４２４ａからの光が入射されると、少なくともリフレクタ前１４２５の表示孔１４２５ａの部位が発光する。
【２３２５】
補助基板１４２４の不可視光ＬＥＤ１４２４ａは、不可視光として赤外線または紫外線の何れかを発光させるものである。この不可視光ＬＥＤ１４２４ａは、複数のＬＥＤ１４２１ａにより特別抽選結果等を表示している状態では、発光しており、導光板１４２３から不可視光を放射させている。リフレクタ前１４２５は、リフレクタ後１４２２の貫通孔１４２２ａと対応する複数の表示孔１４２５ａを有している。リフレクタ後１４２２の複数の貫通孔１４２２ａとリフレクタ前１４２５の複数の表示孔１４２５ａは、機能表示基板１４２１の前面に対して垂直に設けられている。
【２３２６】
この機能表示ユニット１４００Ｃによれば、不可視光ＬＥＤ１４２４ａにより導光板１４２３が不可視光で発光していても、当該不可視光を遊技者は見ることができないため、導光板１４２３を通して後方に設けられているＬＥＤ１４２１ａの光が見え、表示内容を良好な状態で見ることができる。
【２３２７】
一方、この機能表示ユニット１４００Ｃをデジカメ等で撮影すると、不可視光を撮影可能なものであれば、不可視光により発光している導光板によって、全ての表示孔１４２５ａが発光しているように写るため、表示内容を不明確にすることができ、上記と同様の作用効果を奏することができる。
【２３２８】
なお、上記の実施形態では、リフレクタ後１４０３（リフレクタ後１４１２）や透光シート１４０４（透光シート１４１３）を備えたものを示したが、これに限定するものではなく、機能表示基板１４０２（機能表示基板１４１１）の前面に、直にリフレクタ前１４０５（リフレクタ前１４１４）を設けた構成としても良い。
【２３２９】
また、デジカメ等により機能表示ユニットにおける表示内容を撮影し難くする構成として、例えば、デジカメ等の撮影範囲よりも広い範囲にＬＥＤを分散させて表示させるようにしても良いし、遊技者には点灯しているように見えるがデジカメ等で撮影すると消灯し

ているように写る速度でＬＥＤを点滅させて表示させるようにしても良いし、表示とは関係ないＬＥＤを遊技者には消灯しているように見えてデジカメ等で撮影すると点灯又は消灯しているように写る複数のダミーＬＥＤを併用して表示させるようにしても良いし、機能表示ユニットの近傍に高輝度のＬＥＤを配置することでデジカメ等により撮影した時にハレーションを起こさせて表示内容が写らないようにしても良い。

【２３３０】

［１７．磁気センサの取付けの第二実施形態］

次に、上記の遊技盤５等とは異なる磁気センサ１０５０の取付けの第二実施形態について、主に図２０８を参照して詳細に説明する。図２０８（ａ）は磁気センサの取付けの第二実施形態を示す断面図であり、（ｂ）は（ａ）の磁気センサの取付けを斜視図で示す説明図であり、（ｃ）は（ｂ）の磁気センサの取付けを分解して示す分解斜視図であり、（ｄ）は（ｃ）とは異なる保持部材で示す磁気センサの取付けの分解斜視図である。

【２３３１】

磁気センサ１０５０の取付けの第二実施形態は、遊技盤５の所定位置に取付けられており貫通した孔からなる一対の係止部１０７１ａを有している保持部材１０７１と、保持部材１０７１の係止部１０７１ａに係止される弾性爪１０７２ａを有しており磁気センサ１０５０を収容している保持容器１０７２と、を備えている。保持部材１０７１は、合成樹脂により形成されている。保持容器１０７２は、透明な合成樹脂に形成されており、外部から磁気センサ１０５０を視認することができる。また、保持部材１０７１及び保持容器１０７２は、非磁性体により形成されている。

【２３３２】

また、保持容器１０７２は、弾性爪１０７２ａとは反対側の面に孔を有している。この保持容器１０７２の孔を通して、保持容器１０７２内に収容された磁気センサ１０５０からの電線を外部へ引き出すことができる。

【２３３３】

この保持部材１０７１及び保持容器１０７２によれば、保持部材１０７１及び保持容器１０７２を非磁性体としているため、遊技領域５ａに磁石が近づけられた際に、保持部材１０７１等が磁石からの磁力線を引寄せてしまうことを回避させることができ、磁気センサ１０５０を通過する磁力線の減少を防止することができる。従って、遊技領域５ａに作用する磁気を検知し易くすることができ、磁石を使用した不正行為を早期に検知することができると共に、磁気センサ１０５０による不審な磁気の検知を報知することで不正行為を思い止まらせることができ、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【２３３４】

また、保持容器１０７２の弾性爪１０７２ａを弾性変形させることで、保持部材１０７１に対して磁気センサ１０５０の取付けや取外しを容易に行うことができるため、従来のパチンコ機のように、磁性体からなる金属製のネジを使用しなくても、保持容器１０７２の弾性爪１０７２ａにより磁気センサ１０５０を取付けることができると共に、パチンコ機１の組立にかかる手間を容易なものとすることができ、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。

【２３３５】

また、保持部材１０７１に貫通した係止部１０７１ａを設け、その係止部１０７１ａに、保持容器１０７２の弾性爪１０７２ａを係止させることで磁気センサ１０５０を取付けるようにしているため、磁気センサ１０５０が取付けられる保持部材１０７１の構成を簡素なものとすることができ、保持部材１０７１にかかるコストを低減させることができる。

【２３３６】

更に、保持部材１０７１の係止部１０７１ａに、保持容器１０７２の弾性爪１０７２ａを係止させるようにしているため、図２０８（ｄ）に示すように、保持部材１０７１に予め複数組の係止部１０７１ａを設けておき、任意の係止部１０７１ａに弾性爪１０７２ａ

を係止させることで、磁気センサ１０５０を取付ける位置を任意に設定することができる。或いは、保持部材１０７１に、弾性爪１０７２ａが係止されている係止部１０７１ａとは異なる位置に、別の係止部１０７１ａを設けるようにしても良い。これにより、磁気センサ１０５０の位置を変更したい時や、磁気センサ１０５０を増設したい時に、保持部材１０７１を新たなものと交換することなく対応することができ、コストを低減させることができると共に、保持部材１０７１の汎用性を高めることができる。

【２３３７】

また、磁気センサ１０５０を保持容器１０７２に収容して、弾性爪１０７２ａにより保持部材１０７１の係止部１０７１ａに係止させるようにしているため、磁気センサ１０５０の取付構造を標準化し易くすることができ、パチンコ機１にかかるコストを低減させることができる。

【２３３８】

更に、予め保持部材１０７１に複数の係止部１０７１ａを設けるようにし、磁気センサ１０５０を収容した保持容器１０７２の弾性爪１０７２ａを、適宜位置の係止部１０７１ａに係止させることで、磁気センサ１０５０を任意の位置に設けたり、位置を容易に変更したりすることができる。従って、磁気センサ１０５０の位置変更や増設を容易に行うことができるため、パチンコ機１のコストの増加を抑制しつつ設計変更や機種変更に容易に対応することが可能なパチンコ機１を提供することができる。

【２３３９】

また、保持容器１０７２の内側に、収容された磁気センサ１０５０を押圧する突起のような付勢部を設けるようにしても良い。これにより、磁気センサ１０５０が細かく振動することを抑制することができるため、当該振動により磁気センサ１０５０に接続されているコネクタが外れたり接触不良が発生したりすることを低減させることができ、磁気センサ１０５０を確実に作動させることができる。

【２３４０】

なお、上記の実施形態では、保持部材１０７１の係止部１０７１ａとして、貫通している孔を示したが、これに限定するものではなく、弾性爪１０７２ａが係止できる形状であれば良く、溝、スリット、等としても良い。

【２３４１】

また、上記の実施形態では、保持容器１０７２として、磁気センサ１０５０を縦向きに収容するものを示したが、これに限定するものではなく、磁気センサ１０５０を横向きに収容する保持容器としても良い。

【２３４２】

更に、上記の実施形態では、弾性爪１０７２ａを有した保持容器１０７２に磁気センサ１０５０を収容して保持部材１０７１に取付けるものを示したが、これに限定するものではなく、磁気センサ１０５０のセンサケース１０５３に弾性爪を形成して保持部材１０７１の係止部１０７１ａに係止させるようにしても良い。

【２３４３】

また、上記では、磁気センサ１０５０の取付けについて説明したが、この取付構造を振動センサの取付けに使用しても良い。具体的には、振動センサを、弾性爪を有した保持容器に収容し、その弾性爪を保持部材の係止部に係止させることで、振動センサを取付けるようにしても良い。振動センサは、周りの磁性体の影響を受けないが、この磁気センサ１０５０と同様の取付構造を用いれば、取付場所の変更・移動や、取付けに関するコストダウンに有効である。

【２３４４】

［１８．シール等の装飾体の取付けに関する別の実施形態］

続いて、上記の実施形態とは異なるシール等の装飾体の取付けに関する別の実施形態について、図２０９乃至図２１２等を参照して詳細に説明する。本章では、所定の装飾が施されている部材を装飾体と、装飾体が一方の面に取付けられている部材を第一部材と、第一部材の他方の面側に取付けられている部材を第二部材と、夫々称して説明する。なお、

装飾体、第一部材、及び第二部材、前後に並んでいても良いし、上下に並んでいても良いし、左右に並んでいても良い。

【２３４５】

図２０９（ａ）は装飾体を取外すための第一部材の分離孔を第二部材に対する位置決孔と兼用している例を断面で示す説明図であり、（ｂ）は装飾体を取外すための第一部材の分離孔の後方に第二部材により閉鎖空間が形成されている例を断面で示す説明図であり、（ｃ）は（ｂ）において厚さの異なる装飾体を取付けている状態を断面で示す説明図であり、（ｄ）は装飾体を取外すための第一部材の分離孔を装飾体の取付孔と兼用している例を断面で示す説明図である。図２１０（ａ）は第一部材に装飾体を取付けた状態で正面から示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）の断面図であり、（ｃ）は（ａ）とは異なる装飾体を取付けた第一部材を正面から示す説明図である。

【２３４６】

図２１１（ａ）は横長矩形状の装飾体と第一部材との関係を示す説明図であり、（ｂ）は円形の装飾体と第一部材との関係を示す説明図であり、（ｃ）は対称に設けられる装飾体及び第一部材との関係を示す説明図であり、（ｄ）は（ｃ）とは異なる形状で対称に設けられる装飾体及び第一部材との関係を示す説明図である。図２１２（ａ）は装飾体及び可動する第一部材との関係を正面から示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）においてタ－タ線で切断した断面図であり、（ｃ）は（ａ）及び（ｃ）において装飾体と第一部材との位置関係を示す説明図であり、（ｄ）は（ａ）とは異なる形態の装飾体及び可動する第一部材との関係を正面から示す説明図であり、（ｅ）は（ｄ）においてチ－チ線で切断した断面図である。

【２３４７】

まず、図２０９（ａ）に示す実施形態は、所定の装飾や文字等が印刷されておりシート状のシールからなる装飾体１８０１と、一方側に装飾体１８０１が貼り付けられる第一部材１８２１と、第一部材１８２１の他方側に取付けられる第二部材１８４１と、を備えている。

【２３４８】

第一部材１８２１は、平板状の平板部１８２１ａと、平板部１８２１ａの一方の面から凹んでおり装飾体１８０１が貼り付けられる取付凹部１８２１ｂと、平板部１８２１ａの取付凹部１８２１ｂとは反対側となる他方の面の部位から突出しているボス部１８２１ｃと、ボス部１８２１ｃ及び平板部１８２１ａを貫通している分離孔１８２１ｄと、平板部１８２１ａの他方の面からボス部１８２１ｃの先端と同じ位置まで突出しているリブ１８２１ｅと、を備えている。取付凹部１８２１ｂは、装飾体１８０１の厚さよりも深く凹んでいる。

【２３４９】

第二部材１８４１は、一方の面に第一部材１８２１のボス部１８２１ｃ及びリブ１８２１ｅの先端が当接しているベース部１８４１ａと、ベース部１８４１ａの一方の面から突出しており第一部材１８２１の分離孔１８２１ｄに挿入されている位置決突起１８４１ｂと、を備えている。第二部材１８４１の位置決突起１８４１ｂが第一部材１８２１の分離孔１８２１ｄに挿入されることで、第一部材１８２１と第二部材１８４１とが互いに位置決めされる。

【２３５０】

第一部材１８２１の分離孔１８２１ｄは、組立てた時に、一方側が取付凹部１８２１ｂに貼り付けられている装飾体１８０１により閉鎖されていると共に、他方側が第二部材１８４１の位置決突起１８４１ｂにより閉鎖されており、内部が閉鎖空間となっている。分離孔１８２１ｄは、取付凹部１８２１ｂにおける装飾体１８０１により隠れる端縁に近い位置に設けられている。この分離孔１８２１ｄは、第一部材１８２１を第二部材１８４１に位置決めするための位置決孔と兼用している。

【２３５１】

本実施形態の構成によれば、パチンコ機１の製造時において、第一部材１８２１の取付

凹部１８２１ｂに対して装飾体１８０１を正しく貼り付けることができなかった場合、第一部材１８２１の他方側から分離孔１８２１ｄに棒状部材を通し、その先端により装飾体１８０１を他方側から一方側へ押圧することで、装飾体１８０１の端縁付近が一方側へ捲れるように外すことができ、その捲れた部分を作業者が引っ張ることで装飾体１８０１を取付凹部１８２１ｂから容易に外すことができ、装飾体１８０１を貼り直すことができる。

【２３５２】

また、第一部材１８２１と第二部材１８４１とを離した状態で、第一部材１８２１の他方側から分離孔１８２１ｄに棒状部材を通し、その先端により装飾体１８０１を他方側から押圧することで、装飾体１８０１を取付凹部１８２１ｂから容易に外すことができるため、機種変更に伴う装飾体１８０１の取替作業を容易なものとすることができる。

【２３５３】

更に、上述したように、第一部材１８２１と第二部材１８４１とを離した状態では、分離孔１８２１ｄを使用して装飾体１８０１を取付凹部１８２１ｂから容易に取外すことができるため、パチンコ機１の構成部品に対して素材毎の分別作業を行い易いものとすることができ、パチンコ機１の廃棄にかかるコストを低減させることができる。

【２３５４】

また、取付凹部１８２１ｂに装飾体１８０１を貼り付けることにより一方側から分離孔１８２１ｄを隠すことができるため、分離孔１８２１ｄによる見栄えの悪化を抑制させることができると共に、遊技者に対して分離孔１８２１ｄの存在に気付かせ難くすることができ、分離孔１８２１ｄを利用した不正行為を画策させ難くすることができる。

【２３５５】

また、パチンコ機１に組立てられている状態では、装飾体１８０１が貼り付けられている第一部材１８２１の分離孔１８２１ｄに挿入されている第二部材１８４１の位置決突起１８４１ｂによって、分離孔１８２１ｄを他方側から閉鎖しており、従来のパチンコ機のように全体に亘って通るような孔を貫通させていないため、第二部材１８４１よりも他方側から当該孔を通してピアノ線のような線状の不正工具が遊技盤５内に差し込まれることを回避させることができ、不正行為が行われることを防止することができる。

【２３５６】

また、第二部材１８４１の位置決突起１８４１ｂにより分離孔１８２１ｄを他方側から閉鎖していることから、不正工具を、一方側から装飾体１８０１を貫いて分離孔１８２１ｄに挿通させても、第二部材１８４１の位置決突起１８４１ｂによりそれ以上の他方側への挿入（侵入）を阻止することができるため、分離孔１８２１ｄを通した一方側からの遊技盤５内への不正工具の侵入を阻止することができ、不正行為が行われることを防止することができると共に、不正工具が装飾体１８０１を貫くことで装飾体１８０１に痕跡が残るため、不正行為の実行を躊躇させることができ、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【２３５７】

なお、本実施形態では、例えば、第一部材１８２１を前構成部材１０００や表ユニット２０００（始動口ユニット２１００、サイドユニット２２００、サイド左上ユニット２３００、第一アタッカユニット２４００、センター役物２５００、第二アタッカユニット２６００、サイド右中ユニット２７００、ゲート部材２８００、等）とすると共に、第二部材１８４１を遊技パネル１１００（パネル板１１１０、パネルホルダ１１２０）とするようにしても良い。

【２３５８】

また、装飾体１８０１としては、ＰＥＴシール、フレックスメタルシール（商品名）、メタティックシール（商品名）、ポッティングシール、アルミシール、等が挙げられる。

【２３５９】

次に、図２０９（ｂ）に示す実施形態は、所定の装飾や文字等が印刷されておりシート状のシールからなる装飾体１８０１と、一方側に装飾体１８０１が貼り付けられる第一部

材１８２２と、第一部材１８２２の他方側に取付けられる第二部材１８４２と、を備えている。第二部材１８４２は、図示しない構成により第一部材１８２２に取付けられている。

【２３６０】

第一部材１８２２は、平板状の平板部１８２２ａと、平板部１８２２ａの一方の面から凹んでおり装飾体１８０１が貼り付けられる取付凹部１８２２ｂと、取付凹部１８２２ｂの部位において平板部１８２２ａを貫通している分離孔１８２２ｃと、平板部１８２２ａの他方の面から突出している複数のリブ１８２２ｄと、を備えている。取付凹部１８２１ｂは、装飾体１８０１の厚さよりも深く凹んでいる。また、詳細な図示は省略するが、複数のリブ１８２２ｄのうち、少なくとも一部のリブ１８２２ｄは、分離孔１８２２ｃを囲むように設けられている。

【２３６１】

第一部材１８２２の分離孔１８２２ｃは、組立てた時に、一方側が取付凹部１８２２ｂに貼り付けられている装飾体１８０１により閉鎖されていると共に、他方側が複数のリブ１８２２ｄと第二部材１８４２の一方側の面とで囲まれて閉鎖されている空間内に開放されており、全体が閉鎖空間となっている。分離孔１８２２ｃは、取付凹部１８２２ｂにおける装飾体１８０１により隠れる端縁に近い位置に設けられている。

【２３６２】

本実施形態の構成によれば、パチンコ機１の製造時において、第一部材１８２２の取付凹部１８２２ｂに対して装飾体１８０１を正しく貼り付けることができなかった場合、第一部材１８２２の他方側から分離孔１８２２ｃに棒状部材を通し、その先端により装飾体１８０１を他方側から一方側へ押圧することで、装飾体１８０１の端縁付近が一方側へ捲れるように外すことができ、その捲れた部分を作業者が引っ張ることで装飾体１８０１を取付凹部１８２２ｂから容易に外すことができ、装飾体１８０１を貼り直すことができる。

【２３６３】

また、第一部材１８２２と第二部材１８４２とを離した状態で、第一部材１８２２の他方側から分離孔１８２２ｃに棒状部材を通し、その先端により装飾体１８０１を他方側から押圧することで、装飾体１８０１を取付凹部１８２２ｂから容易に外すことができるため、機種変更に伴う装飾体１８０１の取替作業を容易なものとすることができる。

【２３６４】

更に、上述したように、第一部材１８２２と第二部材１８４２とを離した状態では、分離孔１８２２ｃを使用して装飾体１８０１を取付凹部１８２２ｂから容易に取外すことができるため、パチンコ機１の構成部品に対して素材毎の分別作業を行い易いものとすることができ、パチンコ機１の廃棄にかかるコストを低減させることができる。

【２３６５】

また、取付凹部１８２２ｂに装飾体１８０１を貼り付けることにより一方側から分離孔１８２２ｃを隠すことができるため、分離孔１８２２ｃによる見栄えの悪化を抑制させることができると共に、遊技者に対して分離孔１８２２ｃの存在に気付かせ難くすることができ、分離孔１８２２ｃを利用した不正行為を画策させ難くすることができる。

【２３６６】

また、パチンコ機１に組立てられている状態では、装飾体１８０１が貼り付けられている第一部材１８２２の他方側に取付けられている第二部材１８４２によって、分離孔１８２２ｃを他方側から閉鎖しており、従来のパチンコ機のように全体に亘って通るような孔を貫通させていないため、第二部材１８４２よりも他方側から当該孔を通してピアノ線のような線状の不正工具が遊技盤５内に差し込まれることを回避させることができ、不正行為が行われることを防止することができる。

【２３６７】

また、第二部材１８４２により分離孔１８２２ｃを他方側から閉鎖していることから、不正工具を、一方側から装飾体１８０１を貫いて分離孔１８２２ｃに挿通させても、第二

部材１８４２によりそれ以上の他方側への挿入（侵入）を阻止することができるため、分離孔１８２２ｃを通した一方側からの遊技盤５内への不正工具の侵入を阻止することができ、不正行為が行われることを防止することができると共に、不正工具が装飾体１８０１を貫くことで装飾体１８０１に痕跡が残るため、不正行為の実行を躊躇させることができ、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【２３６８】

なお、本実施形態では、例えば、第一部材１８２２を、前構成部材１０００や表ユニット２０００（始動口ユニット２１００、サイドユニット２２００、サイド左上ユニット２３００、第一アタッカユニット２４００、センター役物２５００、第二アタッカユニット２６００、サイド右中ユニット２７００、ゲート部材２８００、等）とすると共に、第二部材１８４２を遊技パネル１１００（パネル板１１１０、パネルホルダ１１２０）とするようにしても良い。

【２３６９】

また、装飾体１８０１としては、ＰＥＴシール、フレックスメタルシール（商品名）、メタティックシール（商品名）、ポッティングシール、アルミシール、等が挙げられる。

【２３７０】

次に、図２０９（ｃ）に示す実施形態は、所定の装飾が施されある程度の厚さ（例えば、０．４ｍｍ～５ｍｍ）を有するシールからなる装飾体１８０２と、一方側に装飾体１８０２が貼り付けられる第一部材１８２２と、第一部材１８２２の他方側に取付けられる第二部材１８４２と、を備えている。第二部材１８４２は、図示しない構成により第一部材１８２２に取付けられている。

【２３７１】

第一部材１８２２は、平板状の平板部１８２２ａと、平板部１８２２ａの一方の面から凹んでおり装飾体１８０２が貼り付けられる取付凹部１８２２ｂと、取付凹部１８２２ｂの部位において平板部１８２２ａを貫通している分離孔１８２２ｃと、平板部１８２２ａの他方の面から突出している複数のリブ１８２２ｄと、を備えている。取付凹部１８２１ｂは、装飾体１８０２の厚さよりも浅く凹んでいる。また、詳細な図示は省略するが、複数のリブ１８２２ｄのうち、少なくとも一部のリブ１８２２ｄは、分離孔１８２２ｃを囲むように設けられている。

【２３７２】

第一部材１８２２の分離孔１８２２ｃは、組立てた時に、一方側が取付凹部１８２２ｂに貼り付けられている装飾体１８０２により閉鎖されていると共に、他方側が複数のリブ１８２２ｄと第二部材１８４２の一方側の面とで囲まれて閉鎖されている空間内に開放されており、全体が閉鎖空間となっている。分離孔１８２２ｃは、取付凹部１８２２ｂにおける装飾体１８０２により隠れる端縁に近い位置に設けられている。

【２３７３】

本実施形態の構成によれば、パチンコ機１の製造時において、第一部材１８２２の取付凹部１８２２ｂに対して装飾体１８０２を正しく貼り付けることができなかった場合、第一部材１８２２の他方側から分離孔１８２２ｃに棒状部材を通し、その先端により装飾体１８０２を他方側から一方側へ押圧することで、装飾体１８０２の端縁付近が一方側へ捲れるように外すことができ、その捲れた部分を作業者が引っ張ることで装飾体１８０２を取付凹部１８２２ｂから容易に外すことができ、装飾体１８０２を貼り直すことができる。

【２３７４】

また、第一部材１８２２と第二部材１８４２とを離した状態で、第一部材１８２２の他方側から分離孔１８２２ｃに棒状部材を通し、その先端により装飾体１８０２を他方側から押圧することで、装飾体１８０２を取付凹部１８２２ｂから容易に外すことができるため、機種変更に伴う装飾体１８０２の取替作業を容易なものとすることができる。

【２３７５】

更に、上述したように、第一部材１８２２と第二部材１８４２とを離した状態では、分

離孔１８２２ｃを使用して装飾体１８０２を取付凹部１８２２ｂから容易に取外すことができるため、パチンコ機１の構成部品に対して素材毎の分別作業を行い易いものとすることができ、パチンコ機１の廃棄にかかるコストを低減させることができる。

【２３７６】

また、取付凹部１８２２ｂに装飾体１８０２を貼り付けることにより一方側から分離孔１８２２ｃを隠すことができるため、分離孔１８２２ｃによる見栄えの悪化を抑制させることができると共に、遊技者に対して分離孔１８２２ｃの存在に気付かせ難くすることができ、分離孔１８２２ｃを利用した不正行為を画策させ難くすることができる。

【２３７７】

また、パチンコ機１に組立てられている状態では、装飾体１８０２が貼り付けられている第一部材１８２２の他方側に取付けられている第二部材１８４２によって、分離孔１８２２ｃを他方側から閉鎖しており、従来のパチンコ機のように全体に亘って通るような孔を貫通させていないため、第二部材１８４２よりも他方側から当該孔を通してピアノ線のような線状の不正工具が遊技盤５内に差し込まれることを回避させることができ、不正行為が行われることを防止することができる。

【２３７８】

また、第二部材１８４２により分離孔１８２２ｃを他方側から閉鎖していることから、不正工具を、一方側から装飾体１８０２を貫いて分離孔１８２２ｃに挿通させても、第二部材１８４２によりそれ以上の他方側への挿入（侵入）を阻止することができるため、分離孔１８２２ｃを通した一方側からの遊技盤５内への不正工具の侵入を阻止することができ、不正行為が行われることを防止することができると共に、不正工具が装飾体１８０２を貫くことで装飾体１８０２に痕跡が残るため、不正行為の実行を躊躇させることができ、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【２３７９】

なお、本実施形態では、例えば、第一部材１８２２を、前構成部材１０００や表ユニット２０００（始動口ユニット２１００、サイドユニット２２００、サイド左上ユニット２３００、第一アタッカユニット２４００、センター役物２５００、第二アタッカユニット２６００、サイド右中ユニット２７００、ゲート部材２８００、等）とすると共に、第二部材１８４２を遊技パネル１１００（パネル板１１１０、パネルホルダ１１２０）とするようにしても良い。或いは、第一部材１８２２を装飾保持部材とすると共に、第二部材１８４２をベース部材又は装飾基板等とするようにしても良い。

【２３８０】

また、装飾体１８０２としては、ＰＥＴシール、フレックスメタルシール（商品名）、メタティックシール（商品名）、ポッティングシール、アルミシール、等が挙げられる。装飾体１８０２としては、射出成型、真空成型、圧空成型、高周波成型、等により形成されたのものを挙げることができる。

【２３８１】

次に、図２０９（ｄ）に示す実施形態は、所定の装飾が施され厚手（例えば、２ｍｍ～２０ｍｍ）で剛性を有する装飾体１８０３と、一方側に装飾体１８０３が取付けられる第一部材１８２２と、第一部材１８２２の他方側に取付けられる第二部材１８４２と、を備えている。

【２３８２】

装飾体１８０３は、他方側へ突出している取付ダボ１８０３ａを有している。この取付ダボ１８０３ａを後述する第一部材１８２２の分離孔１８２２ｃに圧入することにより、装飾体１８０３を第一部材１８２２に取付けることができる。

【２３８３】

第一部材１８２２は、平板状の平板部１８２２ａと、平板部１８２２ａの一方の面から凹んでおり装飾体１８０３が当接する取付凹部１８２２ｂと、取付凹部１８２２ｂの部位において平板部１８２２ａを貫通し取付ダボ１８０３ａが圧入される分離孔１８２２ｃと、平板部１８２２ａの他方の面から突出している複数のリブ１８２２ｄと、を備えている

。取付凹部１８２１ｂは、装飾体１８０３の厚さよりも浅く凹んでいる。また、詳細な図示は省略するが、複数のリブ１８２２ｄのうち、少なくとも一部のリブ１８２２ｄは、分離孔１８２２ｃを囲むように設けられている。

【２３８４】

第一部材１８２２の分離孔１８２２ｃは、組立てた時に、一方側が装飾体１８０３から突出している取付ダボ１８０３ａにより閉鎖されていると共に、他方側が複数のリブ１８２２ｄと第二部材１８４２の一方側の面とで囲まれて閉鎖されている空間内に開放されており、全体が閉鎖空間となっている。分離孔１８２２ｃは、取付凹部１８２２ｂにおける装飾体１８０３により隠れる端縁に近い位置に設けられている。

【２３８５】

本実施形態の構成によれば、パチンコ機１の製造時において、第一部材１８２２の取付凹部１８２２ｂに対して装飾体１８０３を正しく取付けることができなかった場合、第一部材１８２２の他方側から分離孔１８２２ｃに棒状部材を通し、その先端により装飾体１８０３の取付ダボ１８０３ａを他方側から一方側へ押圧することで、装飾体１８０３の他方側の面を取付凹部１８２２ｂの面から離して装飾体１８０３を第一部材１８２２から容易に外すことができ、装飾体１８０３を付け直すことができる。

【２３８６】

また、第一部材１８２２と第二部材１８４２とを離した状態で、第一部材１８２２の他方側から分離孔１８２２ｃに棒状部材を通し、その先端により装飾体１８０３の取付ダボ１８０３ａを他方側から押圧することで、装飾体１８０３を第一部材１８２２から容易に外すことができるため、機種変更に伴う装飾体１８０３の取替作業を容易なものとすることができる。

【２３８７】

更に、上述したように、第一部材１８２２と第二部材１８４２とを離した状態では、分離孔１８２２ｃを使用して装飾体１８０３を第一部材１８２２から容易に取外すことができるため、パチンコ機１の構成部品に対して素材毎の分別作業を行い易いものとすることができ、パチンコ機１の廃棄にかかるコストを低減させることができる。

【２３８８】

また、取付ダボ１８０３ａを分離孔１８２２ｃに圧入して第一部材１８２２に装飾体１８０３を取付けることにより、一方側から分離孔１８２２ｃを隠すことができるため、分離孔１８２２ｃによる見栄えの悪化を抑制させることができると共に、遊技者に対して分離孔１８２２ｃの存在に気付かせ難くすることができ、分離孔１８２２ｃを利用した不正行為を画策させ難くすることができる。

【２３８９】

また、パチンコ機１に組立てられている状態では、第一部材１８２２の他方側に取付けられている第二部材１８４２によって、分離孔１８２２ｃを他方側から閉鎖しており、従来のパチンコ機のように全体に亘って通るような孔を貫通させていないため、第二部材１８４２よりも他方側から当該孔を通してピアノ線のような線状の不正工具が遊技盤５内に差し込まれることを回避させることができ、不正行為が行われることを防止することができる。

【２３９０】

また、分離孔１８２２ｃに一方側から取付ダボ１８０３ａを圧入させていると共に装飾体１８０３が剛性を有しているため、不正工具を一方側から装飾体１８０３を貫いて分離孔１８２２ｃに挿通させようとしても、装飾体１８０３の剛性と取付ダボ１８０３ａとにより、貫通を阻止することができる。喩え、一方側から装飾体１８０３を貫通させて分離孔１８２２ｃに挿通させたとしても、第二部材１８４２によりそれ以上の他方側への挿入（侵入）を阻止することができるため、分離孔１８２２ｃを通した一方側からの遊技盤５内への不正工具の侵入を阻止することができ、不正行為が行われることを防止することができると共に、不正工具が装飾体１８０３を貫くことで装飾体１８０３に痕跡が残るため、不正行為の実行を躊躇させることができ、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１

を提供することができる。
【２３９１】
なお、本実施形態では、例えば、第一部材１８２２を、前構成部材１０００や表ユニット２０００（始動口ユニット２１００、サイドユニット２２００、サイド左上ユニット２３００、第一アタッカユニット２４００、センター役物２５００、第二アタッカユニット２６００、サイド右中ユニット２７００、ゲート部材２８００、等）とすると共に、第二部材１８４２を遊技パネル１１００（パネル板１１１０、パネルホルダ１１２０）とするようにしても良い。或いは、第一部材１８２２を装飾保持部材とすると共に、第二部材１８４２をベース部材又は装飾基板等とするようにしても良い。
【２３９２】
また、装飾体１８０３としては、レリーフ状の装飾が施され、射出成型により形成されたものを挙げることができる。また、装飾体１８０３の取付ダボ１８０３ａは、装飾体１８０３と一体成型されたものであっても良いし、インサート成型されたものであっても良いし、別途に組付けられたものであっても良い。
【２３９３】
次に、図２１０（ａ）及び（ｂ）に示す実施形態は、所定の装飾や文字等が印刷されておりシート状のシールからなる装飾体１８０４と、一方側に装飾体１８０４が貼り付けられる第一部材１８２３と、を備えている。なお、第一部材１８２３の他方側の構成（第二部材を含む）は、上記した何れかの構成を備えるようにしても良い。
【２３９４】
装飾体１８０４は、表面に所定の絵柄や文字等が印刷されているシールであり、透光性を有している。この装飾体１８０４は、外形が略正方形であり、三つの隅部に所定半径の面取部１８０４ａが設けられている。この装飾体１８０４は、全体形状が向きを特定し難い全体的な形状であるため、一箇所の隅部の形状を残りの隅部の形状と異ならせることにより、向きを特定できるようにしている。なお、ここでは、面取部１８０４ａをＲ面取りとしたものを示したが、Ｃ面取りとしても良い。
【２３９５】
また、装飾体１８０４は、裏面に、外周縁に沿って略一定の幅（３ｍｍ～６ｍｍの範囲内の幅）で設けられている糊面１８０４ｂ（図２１０（ａ）において網掛けで示す部位）を、有している。糊面１８０４ｂの幅は、装飾体１８０４の大きさに応じて適宜の幅に設定する。このように糊面１８０４ｂを外周縁だけに制限するのは、特に透明なシール（装飾体１８０４）で、後方にあるＬＥＤなどの電飾や意匠面を見せたい場合によく用いられる。
【２３９６】
第一部材１８２３は、平板状の平板部１８２３ａと、平板部１８２３ａの一方側の面から装飾体１８０４よりも一回り大きい大きさで装飾体１８０４の厚さよりも深く（０．４ｍｍ～１．０ｍｍ）凹んでおり装飾体１８０４が貼り付けられる取付凹部１８２３ｂと、取付凹部１８２３ｂの部位において平板部１８２３ａを貫通している分離孔１８２３ｃと、を有している。この第一部材１８２３は、透明に形成されている。
【２３９７】
分離孔１８２３ｃは、取付凹部１８２３ｂの隅部に接近し、装飾体１８０４を貼り付けたときに糊面１８０４ｂがかからない位置（糊面１８０４ｂよりも内側の位置）に設けられている。これにより、分離孔１８２３ｃに糊面１８０４ｂがかかることで、装飾体１８０４の貼付強度が低下することを回避させている。
【２３９８】
この分離孔１８２３ｃは、丸孔である。本実施形態の分離孔１８２３ｃは、内径が２ｍｍ～６ｍｍの範囲内とされている。分離孔１８２３ｃがこれ以上小さいと、分離孔１８２３ｃに挿入される分離用の棒状部材（工具）の直径が小さくなることで曲がり易くなり装飾体１８０４を十分に押圧することができなくなる恐れがあるためであり、分離孔１８２３ｃがこれ以上大きいと、装飾体１８０４における分離孔１８２３ｃの部位で撓みが発生

し、装飾体１８０４の見栄えが悪くなる恐れがあるためである。
【２３９９】
　また、第一部材１８２３は、取付凹部１８２３ｂの三つの隅部において形成されており装飾体１８０４の面取部１８０４ａよりも（半径の）大きい面取部１８２３ｄが設けられている。そして、残りの一つの隅部を誤貼付防止部１８２３ｅとしている。これにより、取付凹部１８２３ｂが装飾体１８０４と近似した形状となっている。取付凹部１８２３ｂにおける面取部１８２３ｄが設けられていない隅部を構成している二つの端辺が、装飾体１８０４を貼り付けるための基準となる当て面に設定されている。これにより、装飾体１８０４を貼り付けるためのクリアランス方向が少なくとも二方向確保されており、貼付け作業を行い易いものとしている。
【２４００】
　また、第一部材１８２３は、取付凹部１８２３ｂに当て面の部位を示す識別部１８２３ｆが設けられている。識別部１８２３ｆは、取付凹部１８２３ｂの面よりも凹んでいる。この識別部１８２３ｆを作業者が見ることで、装飾体１８０４を貼り付けるための当て面の位置を即座に認識させることができ、当て面の位置の間違いを防止することができると共に、貼付け作業を行い易いものとしている。
【２４０１】
　なお、第一部材１８２３において、平板部１８２３ａの外周縁から取付凹部１８２３ｂの外周縁までの距離を、０．５ｍｍ以上とすることが望ましい。これ以上距離が小さいと、遊技球Ｂが他の部材が衝突した時に、取付凹部１８２３ｂの外側の部位が欠け易くなるためである。
【２４０２】
　装飾体１８０４を取付凹部１８２３ｂに貼り付ける時には、まず初めに、装飾体１８０４の面取部１８０４ａが設けられていない隅部を、識別部１８２３ｆにより示されている取付凹部１８２３ｂの当て面（誤貼付防止部１８２３ｅ）に当接させ、当該部位から糊面１８０４ｂを徐々に取付凹部１８２３ｂの面に接触させて貼り付ける。なお、装飾体１８０４の面取部１８０４ａが設けられている隅部を、当て面（誤貼付防止部１８２３ｅ）に当接させようとすると、面取部１８０４ａに対して誤貼付防止部１８２３ｅの形状が異なっているため、装飾体１８０４の貼り付け向きを間違えていることに気付かせることができ、正規の向きで装飾体１８０４を貼り付けさせることができる。
【２４０３】
　本実施形態の構成によれば、第一部材１８２３の他方側から分離孔１８２３ｃに棒状部材を通し、その先端により装飾体１８０４を他方側から一方側へ押圧することで、装飾体１８０４の端縁付近が一方側へ捲れるように外すことができ、その捲れた部分を作業者が引っ張ることで装飾体１８０４を取付凹部１８２３ｂ（第一部材１８２３）から容易に外すことができ、上記した他の構成と同様の作用効果を奏することができる。
【２４０４】
　また、第一部材１８２３の分離孔１８２３ｃを、取付凹部１８２３ｂに装飾体１８０４を貼り付けた時に、糊面１８０４ｂにかからない位置に設けているため、分離孔１８２３ｃに糊面１８０４ｂがかかることで、装飾体１８０４の貼付強度が低下することを回避させることができ、装飾体１８０４を外れ難くすることができる。
【２４０５】
　更に、装飾体１８０４が貼り付けられる第一部材１８２３の取付凹部１８２３ｂに、誤貼付防止部１８２３ｅを設けているため、装飾体１８０４を正規とは異なる向きにして貼り付けようとすると、装飾体１８０４の面取部１８０４ａの形状と、誤貼付防止部１８２３ｅの形状とが異なることで、装飾体１８０４の向きの間違いに気付かせることができ、装飾体１８０４を正規の向きで第一部材１８２３に貼り付けさせることができると共に、装飾体１８０４が間違えた向きで貼り付けられたままの状態で出荷されてしまうことを防止することができる。
【２４０６】

また、第一部材１８２３の取付凹部１８２３ｂに、当て面を示す識別部１８２３ｆを設けているため、作業者に対して装飾体１８０４の貼り付け基準となる当て面の位置を即座に認識させることができ、当て面の位置の間違いを防止することができると共に、貼付け作業を行い易いものとしている。

【２４０７】

なお、本実施形態では、例えば、第一部材１８２３を、前構成部材１０００や表ユニット２０００（始動口ユニット２１００、サイドユニット２２００、サイド左上ユニット２３００、第一アタッカユニット２４００、センター役物２５００、第二アタッカユニット２６００、サイド右中ユニット２７００、ゲート部材２８００、等）とするようにしても良いし、表ユニット２０００や裏ユニット３０００に設けられる部材（装飾保持部材）とするようにしても良い。

【２４０８】

また、装飾体１８０４としては、ＰＥＴシール、フレックスメタルシール（商品名）、メタティックシール（商品名）、ポッティングシール、アルミシール、等が挙げられる。

【２４０９】

次に、図２１０（ｃ）の実施形態は、図２１０（ａ）及び（ｂ）の実施形態において、装飾体１８０４の糊面１８０４ｂを、外周縁に沿った部位に加えて、一つの対角線上の部位にも設けるようにしたものである。その他の構成については、図２１０（ａ）及び（ｂ）の実施形態と同一であり、説明は省略する。

【２４１０】

本実施形態によれば、上記と同様の作用効果を奏する他に、装飾体１８０４の裏面において対角線上にも糊面１８０４ｂを設けているため、貼り付け強度を高めて装飾体１８０４をより外れ難いものとすることができると共に、温度や湿度等の環境の変化により装飾体１８０４が第一部材１８２３とは異なる割合で収縮しても、対角線上の糊面１８０４ｂにより中央部が貼り付けられているため、装飾体１８０４が膨らんだり波打ったりすることを抑制させることができ、装飾体１８０４の見栄えが悪くなることを防止することができる。

【２４１１】

また、対角線上に糊面１８０４ｂを設けているため、装飾体１８０４の全面に糊面を設ける場合と比較して、糊面を少なくすることができ、パチンコ機１にかかるコストを低減させることができる。また、全面に糊面を設ける場合と比較して、装飾体１８０４の貼付強度が低くなるため、分離孔１８２３ｃを使用した装飾体１８０４の取外し作業を容易なものとすることができる。

【２４１２】

次に、図２１１（ａ）に示す実施形態は、所定の装飾や文字等が印刷されておりシート状のシールからなる横長矩形状の装飾体１８０５（網掛け部分）と、一方側に装飾体１８０５が貼り付けられる第一部材１８２４と、を備えている。なお、第一部材１８２４の他方側の構成（第二部材を含む）は、上記した何れかの構成を備えるようにしても良い。また、本実施形態では、第一部材１８２４における分離孔及び当て面を示す識別部の記載を省略している。

【２４１３】

装飾体１８０５は、表面に所定の絵柄や文字等が印刷されているシールである。この装飾体１８０５は、外形が横長の矩形状であり、一つの隅部（図中、左下隅部）に斜めに切欠かれたＣ面取り状の面取部１８０５ａが設けられている。この装飾体１８０５は、上下の向きを特定し難い形状であるため、一箇所の隅部の形状を残りの隅部の形状と異ならせることにより、向きを特定できるようにしている。装飾体１８０５の糊面は、図２１０（ａ）等と同様に外周縁に沿って一定の幅で設けられていても良いし、全面に設けられていても良い。

【２４１４】

第一部材１８２４は、平板状の平板部１８２４ａと、平板部１８２４ａの一方側の面か

ら装飾体１８０５よりも一回り大きい大きさで装飾体１８０５の厚さよりも深く（０．４ｍｍ～１．０ｍｍ）凹んでおり装飾体１８０５が貼り付けられる取付凹部１８２４ｂと、を有している。

【２４１５】

また、第一部材１８２４は、取付凹部１８２４ｂにおける一つの隅部（図中、左下隅部）において、取付凹部１８２４ｂ内に突出しているＣ面取り状の誤貼付防止部１８２４ｃを、有している。これにより、取付凹部１８２４ｂが装飾体１８０５と近似した形状となっている。この第一部材１８２４では、誤貼付防止部１８２４ｃの斜めに延びている端辺の部位と、誤貼付防止部１８２４ｃと接続している短辺の部位とが、装飾体１８０５を貼り付けるための基準となる当て面に設定されている。これにより、装飾体１８０５を貼り付けるためのクリアランス方向が、取付凹部１８２４ｂの短辺方向と、長辺方向と、誤貼付防止部１８２４ｃの斜辺に対する垂直方向との、三方向が確保されており、貼付け作業を行い易いものとしている。

【２４１６】

なお、第一部材１８２４において、平板部１８２４ａの外周から取付凹部１８２４ｂまでの距離を、１ｍｍ以上とすることが望ましい。これ以上距離が小さいと、遊技球Ｂが他の部材が衝突した時に、取付凹部１８２４ｂの外側の部位が欠け易くなるためである。

【２４１７】

装飾体１８０５を取付凹部１８２４ｂに貼り付ける時には、まず初めに、装飾体１８０５の面取部１８０５ａの斜辺と、面取部１８０５ａと接続されている短辺とを、取付凹部１８２４ｂの当て面（誤貼付防止部１８２４ｃの斜辺の部位と、誤貼付防止部１８２４ｃと接続されている短辺の部位）に当接させ、当該部位から裏側の糊面を徐々に取付凹部１８２４ｂの面に接触させて貼り付ける。

【２４１８】

なお、装飾体１８０５の面取部１８０５ａが設けられていない隅部を、当て面（誤貼付防止部１８２４ｃ）に当接させようとすると、面取部１８０５ａに対して誤貼付防止部１８２４ｃの形状が異なっているため、装飾体１８０５の貼り付け向きを間違えていることに気付かせることができ、正規の向きで装飾体１８０５を貼り付けさせることができる。また、装飾体１８０５を間違えた向きで取付凹部１８２４ｂに貼り付けると、誤貼付防止部１８２４ｃの部位で、装飾体１８０５の直角の隅部が取付凹部１８２４ｂからはみだした状態となり、作業者に対して装飾体１８０５の誤貼り付けに気付かせることができる。

【２４１９】

本実施形態によれば、装飾体１８０５が貼り付けられる第一部材１８２４の取付凹部１８２４ｂに、誤貼付防止部１８２４ｃを設けているため、装飾体１８０５を正規とは異なる向きにして貼り付けようとすると、装飾体１８０５の面取部１８０５ａが設けられていない隅部の形状と、誤貼付防止部１８２４ｃの形状とが異なることで、装飾体１８０５の向きの間違いに気付かせることができ、装飾体１８０５を正規の向きで第一部材１８２４に貼り付けさせることができると共に、装飾体１８０５が間違えた向きで貼り付けられたままの状態で出荷されてしまうことを防止することができる。

【２４２０】

なお、本実施形態では、例えば、第一部材１８２４を、前構成部材１０００や表ユニット２０００（始動口ユニット２１００、サイドユニット２２００、サイド左上ユニット２３００、第一アタッカユニット２４００、センター役物２５００、第二アタッカユニット２６００、サイド右中ユニット２７００、ゲート部材２８００、等）とするようにしても良いし、表ユニット２０００や裏ユニット３０００に設けられる部材（装飾保持部材）とするようにしても良い。

【２４２１】

また、装飾体１８０５としては、ＰＥＴシール、フレックスメタルシール（商品名）、メタティックシール（商品名）、ポッティングシール、アルミシール、等が挙げられる。

【２４２２】

次に、図２１１（ｂ）に示す実施形態は、所定の装飾や文字等が印刷されておりシート状のシールからなる円形状の装飾体１８０６（網掛け部分）と、一方側に装飾体１８０６が貼り付けられる第一部材１８２５と、を備えている。なお、第一部材１８２５の他方側の構成（第二部材を含む）は、上記した何れかの構成を備えるようにしても良い。また、本実施形態では、第一部材１８２５における分離孔及び当て面を示す識別部の記載を省略している。

【２４２３】

装飾体１８０６は、表面に所定の絵柄や文字等が印刷されているシールである。この装飾体１８０６は、外形が円形状であり、外側（図中、下方）から円弧状に切欠かれた切欠部１８０６ａが設けられている。この装飾体１８０６は、向きを特定し難い形状であるため、切欠部１８０６ａを設けることにより、向きを特定できるようにしている。装飾体１８０６の糊面は、図２１０（ａ）等と同様に外周縁に沿って一定の幅で設けられていても良いし、全面に設けられていても良い。

【２４２４】

第一部材１８２５は、平板状の平板部１８２５ａと、平板部１８２５ａの一方側の面から装飾体１８０６よりも一回り大きい大きさで装飾体１８０６の厚さよりも深く（０．４ｍｍ～１．０ｍｍ）凹んでおり装飾体１８０６が貼り付けられる取付凹部１８２５ｂと、を有している。

【２４２５】

また、第一部材１８２５は、取付凹部１８２５ｂの周縁（図中、周縁における下端部）において、装飾体１８０６の切欠部１８０６ａと一致する半径で円弧状に突出している誤貼付防止部１８２５ｃを、有している。これにより、取付凹部１８２５ｂが装飾体１８０６と近似した形状となっている。この第一部材１８２５では、誤貼付防止部１８２５ｃの円弧状の端辺が、装飾体１８０６を貼り付けるための基準となる当て面に設定されている。これにより、装飾体１８０６を貼り付けるためのクリアランス方向が、誤貼付防止部１８２５ｃの円弧に沿った方向と、誤貼付防止部１８２５ｃから遠ざかる方向（図中、上下方向）との、二方向が少なくとも確保されており、貼付け作業を行い易いものとしている。

【２４２６】

なお、第一部材１８２５において、平板部１８２５ａの外周から取付凹部１８２５ｂまでの距離を、１ｍｍ以上とすることが望ましい。これ以上距離が小さいと、遊技球Ｂが他の部材が衝突した時に、取付凹部１８２５ｂの外側の部位が欠け易くなるためである。

【２４２７】

装飾体１８０６を取付凹部１８２５ｂに貼り付ける時には、まず初めに、装飾体１８０６の切欠部１８０６ａを取付凹部１８２５ｂの当て面（誤貼付防止部１８２５ｃ）に当接させ、当該部位から裏側の糊面を徐々に取付凹部１８２５ｂの面に接触させて貼り付ける。

【２４２８】

なお、装飾体１８０６を、取付凹部１８２５ｂにおける当て面（誤貼付防止部１８２５ｃ）以外の周面に当てて貼り付けると、誤貼付防止部１８２５ｃの部位で、装飾体１８０６が取付凹部１８２５ｂからはみだした状態となり、作業者に対して装飾体１８０６の誤貼り付けに気付かせることができる。

【２４２９】

本実施形態によれば、装飾体１８０６が貼り付けられる第一部材１８２５の取付凹部１８２５ｂに、誤貼付防止部１８２５ｃを設けているため、装飾体１８０６を正規とは異なる向きにして貼り付けようとすると、誤貼付防止部１８２５ｃの部位で装飾体１８０６がはみだすこととなり、装飾体１８０６の向きの間違いに気付かせることができ、装飾体１８０６を正規の向きで第一部材１８２５に貼り付けさせることができると共に、装飾体１８０６が間違えた向きで貼り付けられたままの状態で出荷されてしまうことを防止することができる。

【２４３０】
なお、本実施形態では、例えば、第一部材１８２５を、前構成部材１０００や表ユニット２０００（始動口ユニット２１００、サイドユニット２２００、サイド左上ユニット２３００、第一アタッカユニット２４００、センター役物２５００、第二アタッカユニット２６００、サイド右中ユニット２７００、ゲート部材２８００、等）とするようにしても良いし、表ユニット２０００や裏ユニット３０００に設けられる部材（装飾保持部材）とするようにしても良い。
【２４３１】
また、装飾体１８０６としては、ＰＥＴシール、フレックスメタルシール（商品名）、メタティックシール（商品名）、ポッティングシール、アルミシール、等が挙げられる。
【２４３２】
次に、図２１１（ｃ）及び（ｄ）に示す実施形態は、左右対称に設けられ所定の装飾や文字等が印刷されておりシート状のシールからなる一対の装飾体左１８０７Ｌ及び装飾体右１８０７Ｒ（網掛け部分）と、一方側に装飾体左１８０７Ｌ及び装飾体右１８０７Ｒが貼り付けられる一対の第一部材左１８２６Ｌ及び第一部材右１８２６Ｒと、を備えている。なお、装飾体左１８０７Ｌ及び装飾体右１８０７Ｒの他方側の構成（第二部材を含む）は、上記した何れかの構成を備えるようにしても良い。また、本実施形態では、装飾体左１８０７Ｌ及び装飾体右１８０７Ｒにおける分離孔及び当て面を示す識別部の記載を省略している。
【２４３３】
装飾体左１８０７Ｌ及び装飾体右１８０７Ｒは、表面に所定の絵柄や文字等が印刷されているシールである。この装飾体左１８０７Ｌ及び装飾体右１８０７Ｒは、互いが左右対称形状である。装飾体左１８０７Ｌ及び装飾体右１８０７Ｒは、互いに接近している端辺が直線状に上下に延びており、当該端辺の上端と下端とを互いに遠ざかる方向へ膨出する円弧状の端辺によって接続されているような、上下に長い略半円形状に形成されている。
【２４３４】
図２１１（ｃ）の装飾体左１８０７Ｌ及び装飾体右１８０７Ｒは、長手方向の両端、つまり、半円形の上端と下端とに設けられているＲ面取りの半径を異ならせたものである。一方、図２１１（ｄ）の装飾体左１８０７Ｌ及び装飾体右１８０７Ｒは、半円形の上端側（長手方向の一端側）をＲ面取りし、下端側（長手方向の他端側）を直線的に切欠いている。何れの装飾体左１８０７Ｌ及び装飾体右１８０７Ｒも、上下を逆転させると左用と右用の特定が難しい形状であるため、上端側と下端側の形状を異ならせることで、左用か右用かを特定できるようにしている。
【２４３５】
装飾体左１８０７Ｌ及び装飾体右１８０７Ｒの糊面は、図２１０（ａ）等と同様に外周縁に沿って一定の幅で設けられていても良いし、全面に設けられていても良い。
【２４３６】
第一部材左１８２６Ｌ及び第一部材右１８２６Ｒは、互いに左右対称に形成されている。第一部材左１８２６Ｌ及び第一部材右１８２６Ｒは、平板状の平板部１８２６ａと、平板部１８２６ａの一方側の面から装飾体１８０６よりも一回り大きい大きさで装飾体左１８０７Ｌ及び装飾体右１８０７Ｒの厚さよりも深く（０．４ｍｍ～１．０ｍｍ）凹んでおり装飾体左１８０７Ｌ及び装飾体右１８０７Ｒが貼り付けられる取付凹部１８２６ｂと、取付凹部１８２６ｂの下端に誤貼付防止部１８２６ｃと、を有している。
【２４３７】
図２１１（ｃ）の第一部材左１８２６Ｌ及び第一部材右１８２６Ｒの誤貼付防止部１８２６ｃは、装飾体左１８０７Ｌ及び装飾体右１８０７Ｒの下端側のＲ面取りの半径よりも大きい半径のＲ面取り状に設けられている。一方、図２１１（ｄ）の第一部材左１８２６Ｌ及び第一部材右１８２６Ｒの誤貼付防止部１８２６ｃは、水平に延びた直線的な切欠き状に設けられている。何れの第一部材左１８２６Ｌ及び第一部材右１８２６Ｒの取付凹部１８２６ｂも、誤貼付防止部１８２６ｃの端辺が、装飾体左１８０７Ｌ及び装飾体右１８

０７Ｒを貼り付けるための基準となる当て面に設定されている。
【２４３８】
これにより、図２１１（ｃ）の実施形態では、装飾体左１８０７Ｌ及び装飾体右１８０７Ｒを貼り付けるためのクリアランス方向が、誤貼付防止部１８２６ｃの円弧を転動するような円弧方向と、誤貼付防止部１８２６ｃから遠ざかる方向（図中、上下方向）との、二方向が少なくとも確保されている。一方、図２１１（ｄ）の実施形態では、装飾体左１８０７Ｌ及び装飾体右１８０７Ｒを貼り付けるためのクリアランス方向が、誤貼付防止部１８２６ｃの直線に沿った方向（図中、左右方向）と、誤貼付防止部１８２６ｃから遠ざかる方向（図中、上下方向）との、二方向が少なくとも確保されている。このように、何れの実施形態でも、少なくとも二方向のクリアランス方向が確保されており、貼付け作業を行い易いものとしている。
【２４３９】
なお、第一部材左１８２６Ｌ及び第一部材右１８２６Ｒにおいて、平板部１８２６ａの外周から取付凹部１８２６ｂまでの距離を、１ｍｍ以上とすることが望ましい。これ以上距離が小さいと、遊技球Ｂが他の部材が衝突した時に、取付凹部１８２６ｂの外側の部位が欠け易くなるためである。
【２４４０】
装飾体左１８０７Ｌ及び装飾体右１８０７Ｒを、第一部材左１８２６Ｌ及び第一部材右１８２６Ｒの夫々の対応している取付凹部１８２６ｂに貼り付ける時には、装飾体左１８０７Ｌ及び装飾体右１８０７Ｒの長手方向の両端のうちＲ面取りの半径の大きい方又は直線的に切欠かれている方を下方へ向けた状態とし、対応している取付凹部１８２６ｂの当て面（誤貼付防止部１８２６ｃの端辺）に当接させ、当該部位から裏側の糊面を徐々に取付凹部１８２６ｂの面に接触させて貼り付ける。
【２４４１】
なお、装飾体左１８０７Ｌ及び装飾体右１８０７Ｒを、上下に逆転させた上で、左右を逆にして貼り付けようとすると、下側の端部の形状に対して、当て面（誤貼付防止部１８２６ｃ）の形状が異なっているため、装飾体左１８０７Ｌ及び装飾体右１８０７Ｒの貼り付け向きを間違えていることに気付かせることができ、正規の向きで装飾体左１８０７Ｌ及び装飾体右１８０７Ｒを貼り付けさせることができる。
【２４４２】
本実施形態によれば、装飾体左１８０７Ｌ及び装飾体右１８０７Ｒが貼り付けられる第一部材左１８２６Ｌ及び第一部材右１８２６Ｒの夫々の取付凹部１８２６ｂに、誤貼付防止部１８２６ｃを設けているため、装飾体左１８０７Ｌ及び装飾体右１８０７Ｒを正規とは異なる向きにして貼り付けようとすると、装飾体左１８０７Ｌ及び装飾体右１８０７Ｒの長手方向の端部の形状と、誤貼付防止部１８２６ｃの形状とが異なることで、装飾体左１８０７Ｌ及び装飾体右１８０７Ｒの向きの間違いに気付かせることができ、装飾体左１８０７Ｌ及び装飾体右１８０７Ｒを正規の向きで第一部材左１８２６Ｌ及び第一部材右１８２６Ｒに貼り付けさせることができると共に、装飾体左１８０７Ｌ及び装飾体右１８０７Ｒが間違えた向きで貼り付けられたままの状態で出荷されてしまうことを防止することができる。
【２４４３】
なお、本実施形態では、例えば、第一部材左１８２６Ｌ及び第一部材右１８２６Ｒを、表ユニット２０００や裏ユニット３０００に設けられる部材（装飾保持部材）とするようにしても良い。
【２４４４】
また、装飾体左１８０７Ｌ及び装飾体右１８０７Ｒとしては、ＰＥＴシール、フレックスメタルシール（商品名）、メタティックシール（商品名）、ポッティングシール、アルミシール、等が挙げられる。
【２４４５】
次に、図２１２（ａ）乃至（ｃ）に示す実施形態は、所定の絵柄や文字等が印刷されて

いるシート状のシールからなる装飾体１８０８と、一方側に装飾体１８０８が貼り付けられる可動する第一部材１８２７と、を備えている。なお、第一部材１８２７の他方側の構成（第二部材を含む）は、上記した何れかの構成を備えるようにしても良い。また、本実施形態では、第一部材１８２７における当て面を示す識別部の記載を省略している。

【２４４６】

装飾体１８０８は、表面に所定の絵柄や文字等が印刷されているシールである。この装飾体１８０８は、外形が横長の矩形状であり、上側の二つの隅部がＲ面取りされていると共に、下側の二つの隅部がＣ面取りされている。この上側と下側の面取り形状の違いにより、装飾体１８０８の向きを特定できるようにしている。装飾体１８０８の糊面は、図２１０（ａ）等と同様に外周縁に沿って一定の幅で設けられていても良いし、全面に設けられていても良い。

【２４４７】

第一部材１８２７は、横長の矩形状で平板状の平板部１８２７ａと、平板部１８２７ａの一方側の面から装飾体１８０８よりも一回り大きい大きさで装飾体１８０８の厚さよりも深く（０．４ｍｍ～１．０ｍｍ）凹んでおり装飾体１８０８が貼り付けられる取付凹部１８２７ｂと、取付凹部１８２７ｂの部位において平板部１８２７ａを貫通している分離孔１８２７ｃと、取付凹部１８２７ｂにおける下側の二つの隅部に設けられている誤貼付防止部１８２７ｄと、を備えている。

【２４４８】

また、第一部材１８２７は、平板部１８２７ａの左右両側面の下端付近から夫々左右方向へ円柱状に突出している一対の軸部１８２７ｅを、有している。軸部１８２７ｅは、図２１２（ｂ）に示すように、取付凹部１８２７ｂの面よりも他方側に位置している。第一部材１８２７は、一対の軸部１８２７ｅが、図示しない部材により回転可能に支持されている。つまり、第一部材１８２７は、一対の軸部１８２７ｅの軸芯周りに対して回転（回動）可能な、可動するものである。第一部材１８２７の軸部１８２７ｅは、平板部１８２７ａ等と一体成型されたものであっても良いし、インサート成型されたものであっても良いし、別途に組付けられたものであっても良い。

【２４４９】

分離孔１８２７ｃは、丸孔であり、取付凹部１８２７ｂ内における上側の隅部付近に設けられている。二つの分離孔１８２７ｃを、軸部１８２７ｅの軸芯から遠い位置に設けていることから、第一部材１８２７における軸部１８２７ｅの軸芯から遠い位置の重量を軽くすることができるため、第一部材１８２７を回転（回動）させた時に作用する回転モーメントを小さくすることができ、第一部材１８２７の回転駆動にかかる負荷を軽減させることができると共に、第一部材１８２７を軽快に可動させることができる。また、二つの分離孔１８２７ｃを、上側の左右の隅部付近に設けているため、左側と右側の軸部１８２７ｅにかかる力を均等なものとすることができ、第一部材１８２７のバランスをとることで偏摩耗等を低減させることができる。

【２４５０】

本実施形態の分離孔１８２７ｃは、内径が２ｍｍ～６ｍｍの範囲内とされている。分離孔１８２７ｃがこれ以上小さいと、分離孔１８２７ｃに挿入される分離用の棒状部材（工具）の直径が小さくなることで曲がり易くなり装飾体１８０８を十分に押圧することができなくなる恐れがあるためであり、分離孔１８２７ｃがこれ以上大きいと、装飾体１８０８における分離孔１８２７ｃの部位で撓みが発生し、装飾体１８０８の見栄えが悪くなる恐れがあるためである。

【２４５１】

誤貼付防止部１８２７ｄは、装飾体１８０８の下側の隅部のＣ面取りと対応した形状で取付凹部１８２７ｂに突出している。この実施形態では、誤貼付防止部１８２７ｄの斜めの端辺と、取付凹部１８２７ｂの下側の端辺とが、装飾体１８０８を貼り付けるための基準となる当て面に設定されている。

【２４５２】

誤貼付防止部１８２７ｄは、取付凹部１８２７ｂに突出していることから、第一部材１８２７の重量が増加することとなるが、誤貼付防止部１８２７ｄを、軸部１８２７ｅの軸芯に近い位置に設けていることから、誤貼付防止部１８２７ｄによって増加した回転モーメントの影響を可及的に低減させることができ、第一部材１８２７の回転駆動にかかる負荷の増加を抑制させることができる。また、誤貼付防止部１８２７ｄを、取付凹部１８２７ｂの下側の二つの隅部に夫々設けているため、第一部材１８２７のバランスをとることができ、軸部１８２７ｅの偏摩耗等を低減させることができると共に、第一部材１８２７を安定した状態で回転（回動）させることができる。

【２４５３】

なお、第一部材１８２７において、平板部１８２７ａの外周から取付凹部１８２７ｂまでの距離を、１ｍｍ以上とすることが望ましい。これ以上距離が小さいと、遊技球Ｂが他の部材が衝突した時に、取付凹部１８２７ｂの外側の部位が欠け易くなるためである。

【２４５４】

装飾体１８０８を第一部材１８２７の取付凹部１８２７ｂに貼り付ける時には、まず初めに、装飾体１８０８のＣ面取りされている隅部を、取付凹部１８２７ｂの当て面（誤貼付防止部１８２７ｄ）に当接させ、当該部位から糊面を徐々に取付凹部１８２７ｂの面に接触させて貼り付ける。なお、装飾体１８０８を上下逆にして貼り付けようとすると、装飾体１８０８の隅部のＲ面取りの形状に対して誤貼付防止部１８２７ｄの形状が異なっているため、装飾体１８０８の貼り付け向きを間違えていることに気付かせることができ、正規の向きで装飾体１８０８を貼り付けさせることができる。また、装飾体１８０８を間違えた向きで取付凹部１８２７ｂに貼り付けると、誤貼付防止部１８２７ｄの部位で、装飾体１８０８の隅部が取付凹部１８２７ｂからはみだした状態となり、作業者に対して装飾体１８０８の誤貼り付けに気付かせることができる。

【２４５５】

また、第一部材１８２７は、取付凹部１８２７ｂ内における端縁に近い部位において凹んでおり、左右方向に延びている分離溝１８２７ｆを、有している（図２１２（ｂ）を参照）。この分離溝１８２７ｆは、取付凹部１８２７ｂに装飾体１８０８が貼り付けられている状態では、装飾体１８０８が跨いでおり、装飾体１８０８との間に空間を形成している。この分離溝１８２７ｆは、取付凹部１８２７ｂに装飾体１８０８を貼り付けている状態で、外側から装飾体１８０８における分離溝１８２７ｆの部位を押圧すると、装飾体１８０８の一部が分離溝１８２７ｆ内へ陥没すると共に、装飾体１８０８の端縁側が取付凹部１８２７ｂから浮き上がった状態となり、その浮き上がった部位を引っ張ることで装飾体１８０８を取付凹部１８２７ｂから取外すことができる。

【２４５６】

本実施形態の構成によれば、第一部材１８２７の他方側から分離孔１８２７ｃに棒状部材を通し、その先端により装飾体１８０８を他方側から一方側へ押圧することで、装飾体１８０８の端縁付近が一方側へ捲れるように外すことができ、その捲れた部分を作業者が引っ張ることで装飾体１８０８を取付凹部１８２７ｂ（第一部材１８２７）から容易に外すことができ、上記した他の構成と同様の作用効果を奏することができる。

【２４５７】

また、装飾体１８０８が貼り付けられる第一部材１８２７の取付凹部１８２７ｂに、誤貼付防止部１８２７ｄを設けているため、装飾体１８０８を正規とは異なる向きにして貼り付けようとすると、装飾体１８０８の隅部の形状と、誤貼付防止部１８２７ｄの形状とが異なることで、装飾体１８０８の向きの間違いに気付かせることができ、装飾体１８０８を正規の向きで第一部材１８２７に貼り付けさせることができると共に、装飾体１８０８が間違えた向きで貼り付けられたままの状態で出荷されてしまうことを防止することができる。

【２４５８】

更に、分離孔１８２７ｃを回転の軸芯から遠い位置に設けていると共に、誤貼付防止部１８２７ｄを回転の軸芯に近い位置に設けていることから、第一部材１８２７を回転させ

た時に作用する回転モーメントによるを低減させることができるため、第一部材１８２７の回転駆動にかかる負荷を軽減させることができ、第一部材１８２７を軽快に可動（回転）させることができる。

【２４５９】

また、第一部材１８２７において分離孔１８２７ｃと誤貼付防止部１８２７ｄを、夫々二つずつ設けているため、左側と右側の軸部１８２７ｅに作用する力のバランスをとることができ、軸部１８２７ｅの偏摩耗等を低減させることができると共に、第一部材１８２７を安定した状態で回転（回動）させることができる。

【２４６０】

なお、本実施形態では、例えば、第一部材１８２７を、大入賞口や役物入賞口等の可変入賞口の扉部材とするようにしても良いし、表ユニット２０００や裏ユニット３０００に設けられる演出用の可動部材とするようにしても良い。

【２４６１】

また、装飾体１８０８としては、ＰＥＴシール、フレックスメタルシール（商品名）、メタティックシール（商品名）、ポッティングシール、アルミシール、等が挙げられる。

【２４６２】

ところで、第一部材１８２７を、大入賞口２００５や役物入賞口２００６等を開閉させるための扉部材に用いるようにした場合、装飾体１８０８に遊技球Ｂが当接するため、装飾体１８０８と第一部材１８２７とを以下のような関係とすることが望ましい。

【２４６３】

詳述すると、図２１２（ｃ）に示すように、第一部材１８２７の平板部１８２７ａの前面から装飾体１８０８の前面までの距離をｄ、第一部材１８２７の取付凹部１８２７ｂの上側の端辺から装飾体１８０８の上側の端辺までの距離をｃ、とすると共に、遊技球Ｂの半径をｒ、とした場合、距離ｄを、［０＜ｄ＜ｒ］の範囲内とした上で、距離ｃを、［０≦ｃ＜（２ｒｄ＾２－ｄ＾２）＾０．５］の範囲内とすることが望ましい。なお、前記の鍵カッコ内は、式を示している。

【２４６４】

これにより、装飾体１８０８の上端辺に遊技球Ｂが当接することを回避させることができるため、遊技球Ｂの当接により装飾体１８０８が外れることを防止することができ、不具合の発生を抑制させることができる。

【２４６５】

なお、距離ｄは、０．１ｍｍ～１ｍｍの範囲内とすることが望ましい。距離ｄがこれ以上小さいと、装飾体１８０８の公差によっては装飾体１８０８が平板部１８２７ａよりも前方へ突出してしまい上端辺に遊技球Ｂが当接可能となる恐れがあるためであり、距離ｄがこれ以上大きいと、取付凹部１８２７ｂの上側の端辺による影が装飾体１８０８に落ち易くなり、装飾体１８０８の装飾効果が低下してしまう恐れがあるためである。

【２４６６】

また、取付凹部１８２７ｂにおける当て面を、上側の端辺に設定するようにしても良い。これにより、装飾体１８０８の上端辺が、取付凹部１８２７ｂの上側の端辺に当接している状態となるため、遊技球Ｂが装飾体１８０８の上端辺に当接することはなく、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【２４６７】

次に、図２１２（ｄ）及び（ｅ）に示す実施形態は、所定の絵柄や文字等が印刷されているシート状のシールからなる装飾体１８０９と、一方側に装飾体１８０９が貼り付けられる可動する第一部材１８２８と、を備えている。なお、第一部材１８２８の他方側の構成（第二部材を含む）は、上記した何れかの構成を備えるようにしても良い。また、本実施形態では、第一部材１８２８における当て面を示す識別部の記載を省略している。

【２４６８】

装飾体１８０９は、表面に所定の絵柄や文字等が印刷されているシールである。この装飾体１８０９は、外形が横長の矩形状であり、上側の二つの隅部がＲ面取りされていると

共に、下側の二つの隅部に四角形に切取られた切欠部１８０９ａが設けられている。この切欠部１８０９ａは、第一部材１８２８の後述する誤貼付防止部１８２８ｄと対応した形状に形成されている。この上側と下側の隅部の形状の違いにより、装飾体１８０９の向きを特定できるようにしている。装飾体１８０９の糊面は、図２１０（ａ）等と同様に外周縁に沿って一定の幅で設けられていても良いし、全面に設けられていても良い。

【２４６９】

第一部材１８２８は、横長の矩形状で平板状の平板部１８２８ａと、平板部１８２８ａの一方側の面から装飾体１８０９よりも一回り大きい大きさで装飾体１８０９の厚さよりも深く（０．４ｍｍ～１．０ｍｍ）凹んでおり装飾体１８０９が貼り付けられる取付凹部１８２８ｂと、取付凹部１８２８ｂの部位において平板部１８２８ａを貫通している分離孔１８２８ｃと、取付凹部１８２８ｂにおける下側の二つの隅部に設けられている誤貼付防止部１８２８ｄと、を備えている。

【２４７０】

また、第一部材１８２８は、平板部１８２７ａの下側の左右の隅部において、軸芯にを左右方向へ向けて一方側へ膨出している半円柱状の軸支持部１８２８ｅと、軸支持部１８２８ｅの左右方向外側の夫々の端面に設けられている軸孔１８２８ｆと、軸孔１８２８ｆに挿入されている円柱状の軸部１８２８ｇと、を備えている。第一部材１８２８は、一対の軸部１８２８ｇが、図示しない部材により回転可能に支持されている。つまり、第一部材１８２８は、一対の軸部１８２８ｇの軸芯周りに対して回転（回動）可能な、可動するものである。第一部材１８２８の軸部１８２８ｇは、平板部１８２７ａ等の成型時においてインサートされたものであっても良いし、別途に組付けられたものであっても良い。

【２４７１】

軸支持部１８２８ｅは、取付凹部１８２８ｂの部位まで設けられており、軸支持部１８２８ｅの一部が誤貼付防止部１８２８ｄを構成している。この軸支持部１８２８ｅ（誤貼付防止部１８２８ｄ）により、取付凹部１８２８ｂの下側の左右の隅部が、四角く切り取られたような形状に形成されている。

【２４７２】

分離孔１８２８ｃは、丸孔であり、取付凹部１８２８ｂ内における上側の隅部付近に設けられている。二つの分離孔１８２８ｃを、軸部１８２８ｇの軸芯から遠い位置に設けていることから、第一部材１８２８における軸部１８２８ｇの軸芯から遠い位置の重量を軽くすることができるため、第一部材１８２８を回転（回動）させた時に作用する回転モーメントを小さくすることができ、第一部材１８２８の回転駆動にかかる負荷を軽減させることができると共に、第一部材１８２８を軽快に可動させることができる。また、二つの分離孔１８２８ｃを、上側の左右の隅部付近に設けているため、左側と右側の軸部１８２８ｇにかかる力を均等なものとすることができ、第一部材１８２８のバランスをとることで偏摩耗等を低減させることができる。

【２４７３】

本実施形態の分離孔１８２８ｃは、内径が２ｍｍ～６ｍｍの範囲内とされている。分離孔１８２８ｃがこれ以上小さいと、分離孔１８２８ｃに挿入される分離用の棒状部材（工具）の直径が小さくなることで曲がり易くなり装飾体１８０９を十分に押圧することができなくなる恐れがあるためであり、分離孔１８２８ｃがこれ以上大きいと、装飾体１８０９における分離孔１８２８ｃの部位で撓みが発生し、装飾体１８０９の見栄えが悪くなる恐れがあるためである。

【２４７４】

誤貼付防止部１８２８ｄは、軸支持部１８２８ｅにより取付凹部１８２８ｂの下側の隅部において四角形に突出した形態となっており、装飾体１８０９の下側の隅部の切欠部１８０９ａと対応した形状となっている。この実施形態では、誤貼付防止部１８２８ｄの上側の端辺が、装飾体１８０９を貼り付けるための基準となる当て面に設定されている。

【２４７５】

誤貼付防止部１８２８ｄは、取付凹部１８２８ｂに突出していることから、第一部材１

８２８の重量が増加することとなるが、誤貼付防止部１８２８ｄを、軸部１８２８ｇの軸芯に近い位置に設けていることから、誤貼付防止部１８２８ｄによって増加した回転モーメントの影響を可及的に低減させることができ、第一部材１８２８の回転駆動にかかる負荷の増加を抑制させることができる。また、誤貼付防止部１８２８ｄを、取付凹部１８２８ｂの下側の二つの隅部に夫々設けているため、第一部材１８２８のバランスをとることができ、軸部１８２８ｇの偏摩耗等を低減させることができると共に、第一部材１８２８を安定した状態で回転（回動）させることができる。

【２４７６】

なお、第一部材１８２８において、平板部１８２８ａの外周から取付凹部１８２８ｂまでの距離を、１ｍｍ以上とすることが望ましい。これ以上距離が小さいと、遊技球Ｂが他の部材が衝突した時に、取付凹部１８２８ｂの外側の部位が欠け易くなるためである。

【２４７７】

装飾体１８０９を第一部材１８２８の取付凹部１８２８ｂに貼り付ける時には、まず初めに、装飾体１８０９の切欠部１８０９ａを、取付凹部１８２８ｂの当て面（誤貼付防止部１８２８ｄ）に当接させ、当該部位から糊面を徐々に取付凹部１８２８ｂの面に接触させて貼り付ける。なお、装飾体１８０９を上下逆にして貼り付けようとすると、装飾体１８０９の隅部のＲ面取りの形状に対して誤貼付防止部１８２８ｄの形状が異なっているため、装飾体１８０９の貼り付け向きを間違えていることに気付かせることができ、正規の向きで装飾体１８０９を貼り付けさせることができる。また、装飾体１８０９を間違えた向きで取付凹部１８２８ｂに貼り付けると、誤貼付防止部１８２８ｄの部位で、装飾体１８０９の隅部が取付凹部１８２８ｂからはみだした状態となり、作業者に対して装飾体１８０９の誤貼り付けに気付かせることができる。

【２４７８】

本実施形態の構成によれば、第一部材１８２８の他方側から分離孔１８２８ｃに棒状部材を通し、その先端により装飾体１８０９を他方側から一方側へ押圧することで、装飾体１８０９の端縁付近が一方側へ捲れるように外すことができ、その捲れた部分を作業者が引っ張ることで装飾体１８０９を取付凹部１８２８ｂ（第一部材１８２８）から容易に外すことができ、上記した他の構成と同様の作用効果を奏することができる。

【２４７９】

また、装飾体１８０９が貼り付けられる第一部材１８２８の取付凹部１８２８ｂに、誤貼付防止部１８２８ｄを設けているため、装飾体１８０９を正規とは異なる向きにして貼り付けようとすると、装飾体１８０９の隅部の形状と、誤貼付防止部１８２８ｄの形状とが異なることで、装飾体１８０９の向きの間違いに気付かせることができ、装飾体１８０９を正規の向きで第一部材１８２８に貼り付けさせることができると共に、装飾体１８０９が間違えた向きで貼り付けられたままの状態で出荷されてしまうことを防止することができる。

【２４８０】

更に、分離孔１８２８ｃを回転の軸芯から遠い位置に設けていると共に、誤貼付防止部１８２８ｄを回転の軸芯に近い位置に設けていることから、第一部材１８２８を回転させた時に作用する回転モーメントによるを低減させることができるため、第一部材１８２８の回転駆動にかかる負荷を軽減させることができ、第一部材１８２８を軽快に可動（回転）させることができる。

【２４８１】

また、第一部材１８２８において分離孔１８２８ｃと誤貼付防止部１８２８ｄを、夫々二つずつ設けているため、左側と右側の軸部１８２８ｇに作用する力のバランスをとることができ、軸部１８２８ｇの偏摩耗等を低減させることができると共に、第一部材１８２８を安定した状態で回転（回動）させることができる。

【２４８２】

なお、本実施形態では、例えば、第一部材１８２８を、大入賞口や役物入賞口等の可変入賞口の扉部材とするようにしても良いし、表ユニット２０００や裏ユニット３０００に

設けられる演出用の可動部材とするようにしても良い。
【２４８３】
　また、装飾体１８０９としては、ＰＥＴシール、フレックスメタルシール（商品名）、メタティックシール（商品名）、ポッティングシール、アルミシール、等が挙げられる。
【２４８４】
［１９．本発明と実施形態との関係］
　本実施形態における装飾体１８０４、装飾体１８０５、装飾体１８０６、装飾体１８０７Ｌ及び装飾体１８０７Ｒ、装飾体１８０８、装飾体１８０９、ゲートシール２８１１は本発明の装飾体に、本実施形態における糊面１８０４ｂは本発明の糊面に、本実施形態における第一部材１８２３、第一部材１８２４、第一部材１８２５、第一部材左１８２６Ｌ及び第一部材右１８２６Ｒ、第一部材１８２７、第一部材１８２８、ゲート本体２８１０は本発明の台座部材に、本実施形態における平板部１８２３ａ、平板部１８２４ａ、平板部１８２５ａ、平板部１８２６ａ、平板部１８２７ａ、平板部１８２８ａ、前板部２８１０ａは本発明の平板部に、夫々相当している。
【２４８５】
　また、本実施形態における取付凹部１８２３ｂ、取付凹部１８２４ｂ、取付凹部１８２５ｂ、取付凹部１８２６ｂ、取付凹部１８２７ｂ、取付凹部１８２８ｂ、貼付凹部２８１０ｂは本発明の取付凹部に、本実施形態における分離孔１８２３ｃ、分離孔１８２７ｃ、分離孔１８２８ｃ、分離孔２８１０ｄは本発明の分離孔に、本実施形態における誤貼付防止部１８２３ｅ、誤貼付防止部１８２４ｃ、誤貼付防止部１８２５ｃ、誤貼付防止部１８２６ｃ、誤貼付防止部１８２７ｄ、誤貼付防止部１８２８ｄ、誤貼付防止部２８１０ｃは本発明の誤貼付防止部、夫々相当している。
【２４８６】
　更に、本実施形態における第一部材１８２３の当て面、第一部材１８２４の当て面、第一部材１８２５の当て面、装飾体左１８０７Ｌ及び装飾体右１８０７Ｒの当て面、第一部材１８２７の当て面、第一部材１８２８の当て面、ゲート本体２８１０の当て面は、本発明の位置決部に、相当している。
【２４８７】
［２０．本実施形態の特徴的な作用効果］
　次に、本実施形態の特徴的な作用効果について説明する。なお、ここから段落［１８３５］までは、装飾体を装飾体１８０４、台座部材を第一部材１８２３、平板部を平板部１８２３ａ、取付凹部を取付凹部１８２３ｂ、分離孔を分離孔１８２３ｃ、誤貼付防止部を誤貼付防止部１８２３ｅ、位置決部を第一部材１８２３の当て面（誤貼付防止部１８２３ｅ）、のように夫々を代表として説明し、他の本発明に対応している構成（部材）については同様の作用効果を奏することから、ここでの説明は省略する。
【２４８８】
　本実施形態のパチンコ機１によれば、第一部材１８２３には、装飾体１８０４が貼り付けられる取付凹部１８２３ｂの周壁の一部を、第一部材１８２３の当て面（誤貼付防止部１８２３ｅ）としているため、第一部材１８２３における平板部１８２３ａの取付凹部１８２３ｂに装飾体１８０４を貼り付ける際に、装飾体１８０４の隣接している二辺を、取付凹部１８２３ｂの周壁部における第一部材１８２３の当て面（誤貼付防止部１８２３ｅ）とされている部位に当接させて位置を合わせて貼り付けることにより、第一部材１８２３に対して装飾体１８０４を位置決めすることができ、装飾体１８０４の位置決め作業を容易なものとすることができると共に、装飾体１８０４を正規の位置に正確に貼り付けることができる。従って、第一部材１８２３の当て面（誤貼付防止部１８２３ｅ）により第一部材１８２３に対して装飾体１８０４が傾いたりズレたりした状態で貼り付けられることを低減させることができることから、装飾体１８０４及び第一部材１８２３の見栄えが悪くなることを抑制させることができるため、装飾体１８０４による装飾効果を確実に発揮させることができ、パチンコ機１の見栄えを良くして遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【２４８９】
　また、第一部材１８２３の当て面（誤貼付防止部１８２３ｅ）により装飾体１８０４を正規の位置に正確に貼り付けることができるため、装飾体１８０４を正しい位置に貼り付け易くすることができ、装飾体１８０４の貼り付けの失敗を低減させてパチンコ機１にかかるコストの増加を抑制することができる。
【２４９０】
　更に、装飾体１８０４を非対称形状としているため、装飾体１８０４の向きを間違え難くすることができ、第一部材１８２３の平板部１８２３ａに対して装飾体１８０４を正しい向きに貼り付けさせて、装飾体１８０４による装飾効果を確実に発揮させることができる。
【２４９１】
　また、第一部材１８２３における取付凹部１８２３ｂの周壁から突出している誤貼付防止部１８２３ｅを設けていることから、装飾体１８０４を正しくない向きで貼り付けると、誤貼付防止部１８２３ｅの部位において、装飾体１８０４が捲れ上がった状態となるため、装飾体１８０４の貼り付け向きを間違えていることを認識させることができ、装飾体１８０４を正しい向きに貼り直させて、装飾体１８０４による装飾効果を確実に発揮させることができる。
【２４９２】
　また、第一部材１８２３における装飾体１８０４が貼り付けられる取付凹部１８２３ｂにおいて平板部１８２３ａを貫通している分離孔１８２３ｃを設けているため、第一部材１８２３の裏側から分離孔１８２３ｃに棒状部材を挿入し、その先端により装飾体１８０４の裏面を押圧すると、糊面１８０４ｂの粘着力に抗して第一部材１８２３の平板部１８２３ａから装飾体１８０４の一部が表側へ持ち上がることとなり、装飾体１８０４の当該部位を引っ張ることで平板部１８２３ａから取外すことができ、装飾体１８０４を容易に剥がすことができる。
【２４９３】
　更に、本実施形態のパチンコ機１によれば、第一部材１８２３における平板部１８２３ａの取付凹部１８２３ｂに、所定の装飾が施されている装飾体１８０４を貼り付けているため、当該装飾体１８０４により第一部材１８２３の見栄えを良くすることができると共に、第一部材１８２３により装飾体１８０４を支持することができる。また、装飾体１８０４が貼り付けられる取付凹部１８２３ｂを、平板部１８２３ａの表面から凹ませていることから、取付凹部１８２３ｂに装飾体１８０４を貼り付けると、第一部材１８２３の平板部１８２３ａにおける取付凹部１８２３ｂの周囲の部分が装飾体１８０４の周囲を囲んでいる状態となるため、当該部位により縁取りされることで装飾体１８０４を引き立たせることができ、装飾体１８０４の装飾による装飾効果を発揮させ易くしてパチンコ機１の見栄えを良くすることができる。
【２４９４】
　また、平板部１８２３ａの取付凹部１８２３ｂに貼り付けている装飾体１８０４の糊面１８０４ｂが、装飾体１８０４の周縁の帯枠状の部位と帯枠状の部位を斜めに横切る帯状の部位とからなる特定部位にのみ設けられており、裏面の全面に設けられていないため、従来と比較して貼付強度が弱いものとなっている。そのため、第一部材１８２３の裏側から分離孔１８２３ｃに棒状部材を挿入し、その先端により装飾体１８０４の裏面を押圧すると、比較的に弱い力でも糊面１８０４ｂの粘着力に抗して第一部材１８２３の平板部１８２３ａから装飾体１８０４を取外すことができると共に、装飾体１８０４自体の強度が弱くても装飾体１８０４が途中で破れることなく取外すことができ、装飾体１８０４の取外作業の作業性を向上させることができる。
【２４９５】
　また、上記のようなことから、パチンコ機１の製造時において、装飾体１８０４を第一部材１８２３の平板部１８２３ａに対して正しく貼り付けることができなかった場合、第一部材１８２３の裏側から分離孔１８２３ｃに棒状部材を通し、その先端により装飾体１

８０４を裏側から押圧することで、平板部１８２３ａから装飾体１８０４を容易に取外すことができるため、装飾体１８０４を容易に貼り付け直すことができる。また、第一部材１８２３をパチンコ機１から取外した状態で、第一部材１８２３の裏側から分離孔１８２３ｃに棒状部材を通し、その先端により装飾体１８０４を裏側から押圧することで、第一部材１８２３の平板部１８２３ａから装飾体１８０４を容易に取外すことができるため、機種変更に伴う装飾体１８０４の取替作業を容易なものとすることができる。更に、上述したように、分離孔１８２３ｃを使用して装飾体１８０４を平板部１８２３ａから容易に取外すことができるため、パチンコ機１の構成部品に対して素材毎の分別作業を行い易いものとすることができ、パチンコ機１の廃棄にかかるコストを低減させることができる。

【２４９６】

更に、第一部材１８２３の分離孔１８２３ｃを、装飾体１８０４の糊面１８０４ｂと接触しない位置に設けているため、糊面１８０４ｂの全面を第一部材１８２３の平板部１８２３ａに貼り付けることができる。従って、装飾体１８０４の一部（特定部位）にのみ糊面１８０４ｂを設けることで、従来よりも貼付強度が低下することとなるが、糊面１８０４ｂの全体が平板部１８２３ａに貼り付けられるため、糊面１８０４ｂに分離孔１８２３ｃがかかることで貼付強度が必要以上に低下してしまうことを回避させることができ、装飾体１８０４の貼付強度を十分に維持して良好な状態で平板部１８２３ａに貼り付けることができる。

【２４９７】

また、装飾体１８０４の糊面１８０４ｂを、周縁の帯枠状の部位と斜めに横切る帯状の部位（対角線上の部位）とに設けているため、糊面１８０４ｂの帯枠状の部位により装飾体１８０４の周縁を平板部１８２３ａに貼り付けることができるため、装飾体１８０４の周縁を平板部１８２３ａから浮き上がらないようにすることができ、周縁を起点にして装飾体１８０４を剥がれ難くすることができる。また、糊面１８０４ｂの斜めに横切るような帯状の部位により、装飾体１８０４の中央に近い部位を平板部１８２３ａに貼り付けることができるため、温度や湿度のような環境の変化により、第一部材１８２３と装飾体１８０４との間の収縮差が大きくなっても、装飾体１８０４が膨らんだり皺が入ったりすることを低減させることができ、装飾体１８０４の見栄えの悪化を防止することができる。従って、装飾体１８０４による装飾効果を確実に発揮させることができると共に、より大きな装飾体１８０４を良好な状態で平板部１８２３ａに貼り付けることができ、遊技者の関心を強く引付けることが可能な訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【２４９８】

更に、糊面１８０４ｂを装飾体１８０４の周縁に設けていることから、装飾体１８０４及び第一部材１８２３を、透光性を有するものとすると共に、第一部材１８２３の裏側に装飾体１８０４側へ光を照射するＬＥＤのような光源を設けるようにする場合、帯枠状の糊面１８０４ｂが光源からの光の妨げとならない部位に位置することとなり、糊面１８０４ｂによる光の拡散や減衰によって装飾体１８０４の発光装飾等の見栄えの悪化を低減させることができるため、装飾体１８０４を良好な状態で発光装飾させたり、装飾体１８０４及び第一部材１８２３を通して良好な状態で光源を視認させたりすることができ、演出効果や表示効果の高いパチンコ機１を提供することができる。

【２４９９】

また、第一部材１８２３における平板部１８２３ａの取付凹部１８２３ｂに分離孔１８２３ｃを設けているため、取付凹部１８２３ｂに装飾体１８０４を貼り付けることにより表側から分離孔１８２３ｃを見え難くしたり隠したりすることができ、分離孔１８２３ｃによる見栄えの悪化を抑制させることができると共に、遊技者に対して分離孔１８２３ｃの存在に気付かせ難くすることができ、分離孔１８２３ｃを利用した不正行為を画策させ難くすることができる。

【２５００】

また、分離孔１８２３ｃを、装飾体１８０４の周縁に接近している部位に設けていることから、第一部材１８２３の裏側から分離孔１８２３ｃに棒状部材を挿入して、装飾体１

８０４の裏面を押圧すると、装飾体１８０４における棒状部材により押圧される部位が、装飾体１８０４の周縁に接近しているため、棒状部材が当接している部位から辺縁側が浮き易くなり、貼り付けられている装飾体１８０４をより取外し易くすることができる。

【２５０１】

更に、分離孔１８２３ｃを、装飾体１８０４の周縁に接近している部位に設けているため、第一部材１８２３の裏側から分離孔１８２３ｃを介して棒状部材により装飾体１８０４を押圧すると、上述したように、装飾体１８０４の棒状部材が当接している部位から辺縁側が平板部１８２３ａから浮き上がることとなるため、装飾体１８０４の浮き上がった部位を把持して引っ張ることで、平板部１８２３ａから装飾体１８０４を捲るようにして簡単に取外すことができる。

【２５０２】

また、分離孔１８２３ｃを、直径が２ｍｍ～６ｍｍの円が接することが可能な大きさに設けるようにしているため、上記と同様の作用効果に加えて、分離孔１８２３ｃの大きさの上限を設けていることから、分離孔１８２３ｃの存在により装飾体１８０４における糊面の大きさが必要よりも小さくなることを回避させることができ、平板部１８２３ａに対する所望の貼付強度を維持することができる。

【２５０３】

また、上記のように、装飾体１８０４が貼り付けられる取付凹部１８２３ｂを、平板部１８２３ａから凹ませているため、平板部１８２３ａと取付凹部１８２３ｂとの境の部位をガイドにして装飾体１８０４を貼り付けることにより、装飾体１８０４を正しい位置に貼り付け易くすることができ、装飾体１８０４の貼り付けの失敗を低減させてパチンコ機１にかかるコストの増加を抑制することができる。

【２５０４】

また、平板部から凹んだ取付凹部１８２３ｂに装飾体１８０４を貼り付けるようにしていることから、装飾体１８０４を表側から取外すために装飾体１８０４と取付凹部１８２３ｂの底面との間にマイナスドライバのような工具を挿入しようとしても、凹んでいる取付凹部１８２３ｂの周縁の壁部により工具の挿入が阻まれることとなるが、第一部材１８２３の分離孔１８２３ｃを、装飾体１８０４により被覆される部位に設けるようにしていることから、装飾体１８０４が貼り付けられる取付凹部１８２３ｂに分離孔１８２３ｃが設けられることとなるため、上述したように、棒状部材を裏側から分離孔１８２３ｃに挿入して装飾体１８０４を表側へ押圧することで、凹んでいる取付凹部１８２３ｂから装飾体１８０４を容易に取外すことができ、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【２５０５】

更に、従来の技術（パチンコ機）では、シールを剥がすための孔が、パチンコ機（遊技盤）の後側まで貫通しているため、ピアノ線のような線状の工具を、当該孔を介して遊技球Ｂの通路や信号線等に到達させることが可能となり、不正行為が行われ易くなる問題があった。そこで、第一部材１８２３の裏側に分離孔１８２３ｃを閉鎖可能な第二部材（図２０９の第二部材１８４１、第二部材１８４２、等を参照）を設けることが望ましい。これにより、パチンコ機１に組立てられている状態では、第二部材によって、分離孔１８２３ｃの裏側を外部から閉鎖しているため、従来のパチンコ機のように遊技盤の反対側まで通るような孔を貫通させておらず、当該孔を通してピアノ線のような線状の不正工具が遊技盤５内に差し込まれることを回避させることができ、不正行為が行われることを防止することができる。

【２５０６】

また、上記のように第一部材１８２３の裏側に分離孔１８２３ｃを閉鎖する第二部材（図２０９の第二部材１８４１、第二部材１８４２、等を参照）を設ける場合、不正工具を、表側から装飾体１８０４を貫いて分離孔１８２３ｃに挿通させても、不正工具の先端が第二部材に当接することとなり、第二部材の外部（遊技盤５内）への挿入（侵入）を遮断することができるため、分離孔１８２３ｃを通した表側からの遊技盤５内への不正工具の侵入を阻止することができ、不正行為が行われることを防止することができると共に、不

正工具が装飾体１８０４を貫くことで装飾体１８０４に痕跡が残るため、不正行為の実行を躊躇させることができ、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【２５０７】

更に、本実施形態のパチンコ機１によれば、本体枠４における遊技盤５の下方となる基板ユニット７００に設けられているベースユニット７１０の第一球経路７０１及び第二球経路７０２において、遊技盤５から放出された遊技球Ｂが詰まった場合、前ベース７１１の解消口７１１ｂを閉鎖している防犯カバー７１４を開き、複数の切欠部７１３ｑのうち解消口７１１ｂの上方の切欠部７１３ｑからマイナスドライバのような棒状の工具を挿入して、詰まっている遊技球Ｂを突くことで遊技球Ｂを崩して詰りを容易に解消させることができる。その後、解消口７１１ｂを防犯カバー７１４で閉鎖することにより、解消口７１１ｂ及び切欠部７１３ｑからピアノ線のような線状の不正工具が第一球経路７０１や第二球経路７０２に挿入されることを防犯カバー７１４により阻止することができる。仮に、切欠部７１３ｑ、又は第一球経路７０１や第二球経路７０２の出口から、第一球経路７０１や第二球経路７０２に不正工具が挿入された場合、その先端を第一球経路７０１及び第二球経路７０２の入口（前ベース７１１の球受口７１１ａ）から遊技盤５へ延出させるために、不正工具の先端を第一球経路７０１や第二球経路７０２の内面に接触させながら移動させようとしても、第一球経路７０１及び第二球経路７０２の天井から下方へ延出している複数の阻害リブ７１３ｏの何れかに当接すると、阻害リブ７１３ｏにより不正工具の移動を阻害することができる。このように、防犯カバー７１４や複数の阻害リブ７１３ｏにより、第一球経路７０１や第二球経路７０２を介した遊技盤５への不正行為を阻止することができ、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【２５０８】

また、ベースユニット７１０を透明に形成しているため、第一球経路７０１や第二球経路７０２において遊技球Ｂの詰りが発生した時に、外部から見るだけで、球詰りの発生している場所を簡単に認識することができ、解消作業を容易なものとして遊技ホール側のメンテナンスの負担を軽減させることができる。

【２５０９】

また、ベースユニット７１０では遊技球Ｂを排出する排出通路を独立した第一球経路７０１及び第二球経路７０２により構成していることから、遊技盤５から短時間に多くの遊技球Ｂが放出された時に、それらの遊技球Ｂを各第一球経路７０１及び第二球経路７０２に分配して排出させることが可能となるため、一つの第一球経路７０１又は第二球経路７０２に多くの遊技球Ｂが集中してしまうことを低減させることができ、遊技球Ｂの集中によって球詰りが発生し易くなることを回避させることができると共に、遊技盤５から放出された多くの遊技球Ｂを速やかに遊技ホールの島設備側（アウト受部、バケツ、等）へ排出させることができる。

【２５１０】

また、第一球センサ７０３及び第二球センサ７０４によって第一球経路７０１及び第二球経路７０２を流通している遊技球Ｂを検知することができることから、第一球経路７０１及び第二球経路７０２から排出された遊技球Ｂの数をカウントすることができるため、上流の遊技盤５においてカウントされた遊技球Ｂの数と比較することで、遊技盤５や第一球経路７０１及び第二球経路７０２に対する不正行為の有無を判定することができ、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【２５１１】

また、前後方向に独立した第一球経路７０１及び第二球経路７０２により排出通路を構成していることから、遊技盤５において、特典が付与される入賞口に受入れられた遊技球Ｂ（セーフ球）と、当該入賞口に受入れられなかった遊技球Ｂ（アウト球）とを、前後方向が異なる位置へ放出させるようにすることで、入賞口に受入れられた遊技球Ｂと、入賞口に受入れられなかった遊技球Ｂとを、互いに異なる第一球経路７０１及び第二球経路７０２を流通させて排出させることができる。そして、夫々の第一球経路７０１及び第二球

経路７０２を流通している遊技球Ｂを一つずつ検知可能な第一球センサ７０３及び第二球センサ７０４を備えていることから、遊技盤５の外部において、入賞口に受入れられた遊技球Ｂ（セーフ球）の数と、入賞口に受入れられなかった遊技球Ｂ（アウト球）の数と、をカウントすることができるため、遊技盤５においてカウントされた遊技球Ｂ（セーフ球）の数と比較することで、遊技盤５の入賞口に対する不正行為の有無を判定することができ、遊技ホール側の負担を軽減させることが可能な不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【２５１２】

更に、ベースユニット７１０（球経路部材７１３）に設けられている第一球センサ７０３及び第二球センサ７０４により、遊技盤５から放出された遊技球Ｂの数をカウントすることができるため、遊技盤５に外部へ放出（排出）する遊技球Ｂの数をカウントするためのセンサや電子回路等を設ける必要が無く、遊技盤５にかかるコストを低減させることができる。

【２５１３】

また、解消口７１１ｂを開閉する防犯カバー７１４を、前ベース７１１にヒンジ回転可能に取付けているため、防犯カバー７１４により解消口７１１ｂを開いた状態としても、ヒンジ回転のヒンジ軸により防犯カバー７１４が前ベース７１１に取付けられている状態となる。従って、第一球経路７０１及び第二球経路７０２での遊技球Ｂの詰りを解消させるために、防犯カバー７１４を開いた状態としても、防犯カバー７１４が前ベース７１１に取り付いたままの状態となっているため、防犯カバー７１４を紛失し難くすることができる。

【２５１４】

また、防犯カバー７１４をベースユニット７１０の下面に設けるようにした上で、防犯カバー７１４を、ヒンジ回転可能に前ベース７１１に取付けると共に、防犯カバー７１４のヒンジ軸を防犯カバー７１４の前端側で左右右方（水平方向）に延びるように設けているため、第一球経路７０１及び第二球経路７０２での遊技球Ｂの詰りを解消させる時には、遊技ホールの島設備に取付けられている外枠２に対して本体枠４を前方へ開いた上で、防犯カバー７１４を開いて解消口７１１ｂに所定の工具を挿入して球詰りを解消させる。その後、防犯カバー７１４を閉じた後に本体枠４を外枠２に対して閉じることとなるが、この際に、防犯カバー７１４が開いていると、防犯カバー７１４の先端が外枠２（接触危惧物）に当接して本体枠４を閉じることができなくなるため、防犯カバー７１４の閉め忘れに気付かせることができ、防犯カバー７１４を閉じて解消口７１１ｂを確実に閉鎖させることができる。また、外枠２に対して本体枠４を閉じている時に、何らかの理由で防犯カバー７１４が開いた状態となっても、本体枠４を開ける際に、防犯カバー７１４が外枠２に当接することで、防犯カバー７１４が閉まる方向へ回転することとなるため、本体枠４が開かなくなることはなく、本体枠４を良好に開くことができると共に、防犯カバー７１４等が破損してしまうことを防止することができる。

【２５１５】

更に、第一球経路７０１及び第二球経路７０２を形成している球経路部材７１３に複数の切欠部７１３ｑを設けているため、第一球経路７０１や第二球経路７０２に侵入したゴミや、遊技球Ｂに付着しているゴミを、切欠部７１３ｑを通して第一球経路７０１及び第二球経路７０２の下方へ排出させることができ、第一球経路７０１及び第二球経路７０２内のゴミを低減させることでゴミを起因とした遊技球Ｂの球詰りの発生を低減させることができ、本パチンコ機１を設置している遊技ホール側のメンテナンスの負担を軽減させることができる。

【２５１６】

また、複数の切欠部７１３ｑの一部を、球詰りを解消させる工具を挿入するための工具挿入口と兼用しているため、工具挿通口を別途に設ける必要が無く、パチンコ機１にかかる構成を簡単なものとすることができ、コストの増加を抑制させることができると共に、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【２５１７】
　また、ベースユニット７１０において、切欠部７１３ｑを通って落下してきたゴミが第一球センサ７０３や第二球センサ７０４にかからないようにしているため、ゴミの付着によって第一球センサ７０３や第二球センサ７０４に不具合が発生することを回避させることができ、第一球経路７０１や第二球経路７０２を流通している遊技球Ｂを確実に検知させることができる。
【２５１８】
　更に、本実施形態のパチンコ機１によれば、遊技盤５における遊技球Ｂが流通する通路部（遊技領域５ａ、右下案内通路２５３０、ゲート２００３、等）を形成している第一部材（前構成部材１０００、前部材２５３１、ゲート本体２８１０、第一部材１８２１、第一部材１８２２、等）と第二部材（遊技パネル１１００、センター台板２５４０、ゲートセンサ２８０１、第二部材１８４１、第二部材１８４２、等）とにおける第一部材の平板部（前構成部材１０００の前面、平板部１８２１ａ、平板部１８２２ａ、前部材２５３１の前面、前板部２８１０ａ、等）の着接部（スペックシール貼付部１０２１、貼付凹部２５３１ａ、貼付凹部２８１０ｂ、取付凹部１８２１ｂ、取付凹部１８２２ｂ、等）に、所定の装飾が施されている装飾体（スペックシール１０２０、右下案内通路装飾シール２５３２、ゲートシール２８１１、装飾体１８０１、装飾体１８０２、装飾体１８０３、等）を着接しているため、装飾体の装飾により第一部材の見栄えを良くすることができる。また、装飾体が着接される着接部を、平板部の一方側の面から凹ませていることから、着接部に装飾体を着接すると、第一部材の平板部における着接部の周囲の部分が装飾体の周囲を囲んでいる状態となるため、当該部位により縁取りされることで装飾体を引き立たせることができ、装飾体の装飾による装飾効果を発揮させ易くしてパチンコ機１の見栄えを良くすることができる。
【２５１９】
　また、装飾体（スペックシール１０２０、右下案内通路装飾シール２５３２、ゲートシール２８１１、装飾体１８０１、装飾体１８０２、装飾体１８０３、等）が着接される着接部（スペックシール貼付部１０２１、貼付凹部２５３１ａ、貼付凹部２８１０ｂ、取付凹部１８２１ｂ、取付凹部１８２２ｂ、等）を平板部（前構成部材１０００の前面、平板部１８２１ａ、平板部１８２２ａ、前部材２５３１の前面、前板部２８１０ａ、等）から凹ませているため、平板部と着接部との境の部位をガイドにして装飾体を着接することにより、装飾体を正しい位置に着接させ易くすることができ、装飾体の着接の失敗を低減させてパチンコ機１にかかるコストの増加を抑制することができる。
【２５２０】
　このパチンコ機１では、第一部材（前構成部材１０００、前部材２５３１、ゲート本体２８１０、第一部材１８２１、第一部材１８２２、等）における平板部（前構成部材１０００の前面、平板部１８２１ａ、平板部１８２２ａ、前部材２５３１の前面、前板部２８１０ａ、等）から凹んだ着接部（スペックシール貼付部１０２１、貼付凹部２５３１ａ、貼付凹部２８１０ｂ、取付凹部１８２１ｂ、取付凹部１８２２ｂ、等）に装飾体（スペックシール１０２０、右下案内通路装飾シール２５３２、ゲートシール２８１１、装飾体１８０１、装飾体１８０２、装飾体１８０３、等）を着接させるようにしていることから、装飾体を一方側から取外すために装飾体と着接部との間にマイナスドライバのような工具を挿入しようとしても、凹んでいる着接部の周縁の壁部により工具の挿入が阻まれることとなる。これに対して、第一部材の分離孔（分離孔１０２３、分離孔１８２１ｄ、分離孔１８２２ｃ、分離孔２５３１ｂ、分離孔２８１０ｄ、等）を、装飾体により一方側が閉鎖される部位に設けるようにしていることから、装飾体が着接される着接部に分離孔が設けられることとなるため、棒状部材を他方側から分離孔に挿入して装飾体を一方側へ押圧することで、着接部との着接を容易に解除することができ、凹んでいる着接部から装飾体を容易に取外すことができる。従って、パチンコ機１の製造時において、第一部材の平板部に対して正しく着接することができなかった場合、第一部材の他方側から分離孔に棒状部材を通し、その先端により装飾体を他方側から押圧することで、平板部との着接を容易に

解除することができるため、第一部材の平板部から装飾体を容易に取外すことができ、装飾体を着接し直すことができる。また、第一部材と第二部材とを離した状態で、第一部材の他方側から分離孔に棒状部材を通し、その先端により装飾体を他方側から押圧することで、第一部材の平板部との着接を容易に解除することができるため、平板部から装飾体を容易に取外すことができ、機種変更に伴う装飾体の取替作業を容易なものとすることができる。更に、上述したように、第一部材と第二部材とを離した状態では、分離孔を使用して装飾体を平板部から容易に取外すことができるため、パチンコ機１の構成部品に対して素材毎の分別作業を行い易いものとすることができ、パチンコ機１の廃棄にかかるコストを低減させることができる。

【２５２１】

また、第一部材（前構成部材１０００、前部材２５３１、ゲート本体２８１０、第一部材１８２１、第一部材１８２２、等）の平板部（前構成部材１０００の前面、平板部１８２１ａ、平板部１８２２ａ、前部材２５３１の前面、前板部２８１０ａ、等）に分離孔（分離孔１０２３、分離孔１８２１ｄ、分離孔１８２２ｃ、分離孔２５３１ｂ、分離孔２８１０ｄ、等）を設けているため、平板部に装飾体（スペックシール１０２０、右下案内通路装飾シール２５３２、ゲートシール２８１１、装飾体１８０１、装飾体１８０２、装飾体１８０３、等）を着接することにより一方側から分離孔を見え難くしたり隠したりすることができ、分離孔による見栄えの悪化を抑制させることができると共に、遊技者に対して分離孔の存在に気付かせ難くすることができ、分離孔を通した不正行為を画策させ難くすることができる。

【２５２２】

そして、パチンコ機１に組立てられている状態では、装飾体（スペックシール１０２０、装飾体１８０１、装飾体１８０２、装飾体１８０３、等）が着接されている第一部材（前構成部材１０００、第一部材１８２１、第一部材１８２２、等）の平板部（前構成部材１０００の前面、平板部１８２１ａ、平板部１８２２ａ、等）の他方側から分離孔（分離孔１０２３、分離孔１８２１ｄ、分離孔１８２２ｃ、等）を囲むように延出部（挿通ピン１０２２、ボス部１８２１ｃ、リブ１８２２ｄ、等）を第二部材（遊技パネル１１００、第二部材１８４１、第二部材１８４２、等）まで延出させて、第一部材の他方側に第二部材を取付けており、分離孔の他方側を延出部と第二部材の一方側の面とにより外部から遮断された閉鎖空間を形成しているため、延出部の外側や第二部材の他方側から分離孔へ不正工具が挿入されることを阻止することができると共に、従来のパチンコ機のように反対側まで通るような孔を貫通させておらず、当該孔を通してピアノ線のような線状の不正工具がパチンコ機１内に差し込まれることを回避させることができ、不正行為が行われることを防止することができる。

【２５２３】

また、第二部材（遊技パネル１１００、第二部材１８４１、第二部材１８４２、等）により分離孔（分離孔１０２３、分離孔１８２１ｄ、分離孔１８２２ｃ、等）の他方側を閉鎖空間としていることから、不正工具を、一方側から装飾体（スペックシール１０２０、装飾体１８０１、装飾体１８０２、装飾体１８０３、等）を貫いて分離孔に挿通させても、不正工具の先端が外部と遮断された閉鎖空間に挿入されることとなり、第一部材（前構成部材１０００、第一部材１８２１、第一部材１８２２、等）の延出部（挿通ピン１０２２、ボス部１８２１ｃ、リブ１８２２ｄ、等）や第二部材により通路部（遊技領域５ａ、等）側やパチンコ機１内への挿入（侵入）を遮断することができるため、分離孔を通した一方側からのパチンコ機１内への不正工具の侵入を阻止することができ、分離孔や通路部を介して不正行為が行われることを防止することができると共に、不正工具が装飾体を貫くことで装飾体に痕跡が残るため、不正行為の実行を躊躇させることができ、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【２５２４】

また、第一部材１８２１の他方側から第二部材１８４１の位置決突起１８４１ｂを分離孔１８２１ｄに挿入することで、第一部材１８２１と第二部材１８４１とを互いに位置決

めすることができるため、組立てにかかる手間を容易なものとすることができ、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。また、分離孔１８２１ｄに位置決突起１８４１ｂを挿入して第一部材１８２１と第二部材１８４１とを互いに位置決めすると、分離孔１８２１ｄの他方側を位置決突起１８４１ｂにより閉鎖することができるため、分離孔１８２１ｄ自体を上述した閉鎖空間とすることができ、上述と同様の作用効果を奏するパチンコ機１を提供することができる。

【２５２５】

更に、本実施形態のパチンコ機１によれば、遊技球Ｂが流通する通路部（遊技領域５ａ、右下案内通路２５３０、及びゲートセンサ２８０１の検知孔、等）を有している通路部材（遊技パネル１１００、センター台板２５４０、ゲートセンサ２８０１、等）の前側に設けられている前部材（前構成部材１０００、センター役物２５００の前部材２５３１、ゲート部材２８００のゲート本体２８１０、等）の前面となる被装飾部（スペックシール貼付部１０２１、貼付凹部２５３１ａ、貼付凹部２８１０ｂ、等）に、所定の装飾が施されている装飾体（スペックシール１０２０、右下案内通路装飾シール２５３２、ゲートシール２８１１、等）を着接しているため、装飾体の装飾により通路部材の見栄えを良くすることができる。また、装飾体が着接される被装飾部を、装飾体の前後方向の奥行きよりも後方へ凹ませていることから、被装飾部に装飾体を着接すると、前部材における被装飾部の周囲の部分が装飾体の前面よりも前方へ突出した状態となるため、前部材の前方へ突出している部位により縁取りされることで装飾体を引き立たせることができ、装飾体の装飾による装飾効果を発揮させ易くしてパチンコ機１の見栄えを良くすることができる。

【２５２６】

また、装飾体（スペックシール１０２０、右下案内通路装飾シール２５３２、ゲートシール２８１１、等）が着接される被装飾部（スペックシール貼付部１０２１、貼付凹部２５３１ａ、貼付凹部２８１０ｂ、等）を後方へ凹ませているため、前部材（前構成部材１０００、センター役物２５００の前部材２５３１、ゲート部材２８００のゲート本体２８１０、等）における被装飾部の突出している周囲をガイドにして装飾体を着接することにより、装飾体を正しい位置に着接させ易くすることができ、装飾体の着接の失敗を低減させてパチンコ機１にかかるコストの増加を抑制することができる。

【２５２７】

このパチンコ機１では、前部材（前構成部材１０００、センター役物２５００の前部材２５３１、ゲート部材２８００のゲート本体２８１０、等）の被装飾部（スペックシール貼付部１０２１、貼付凹部２５３１ａ、貼付凹部２８１０ｂ、等）を後方へ凹ませているため、装飾体（スペックシール１０２０、右下案内通路装飾シール２５３２、ゲートシール２８１１、等）を、被装飾部に着接した状態において、装飾体と被装飾部との接触面が奥まった位置にあることから、被装飾部に着接されている装飾体を外そうとしても前側からは装飾体を引掛け難く、取外す手間がかかることとなる。これに対して、被装飾部に分離孔（分離孔１０２３、分離孔２５３１ｂ、分離孔２８１０ｄ、等）を設けているため、前部材の後方から分離孔に棒状部材を通して装飾体を前方へ押圧することで、被装飾部との着接を容易に解除することができ、被装飾部から装飾体を容易に取外すことができる。従って、製造時において、前部材の被装飾部に対して装飾体を正しく着接することができなかった場合、前部材の後方から分離孔に棒状部材を通し、その先端により装飾体を後方から押圧することで、被装飾部との着接を容易に解除することができるため、被装飾部から装飾体を容易に取外すことができ、装飾体を着接し直すことができる。

【２５２８】

また、前部材（前構成部材１０００、センター役物２５００の前部材２５３１、ゲート部材２８００のゲート本体２８１０、等）と通路部材（遊技パネル１１００、センター台板２５４０、ゲートセンサ２８０１、等）とを離した状態で、前部材の後方から分離孔（分離孔１０２３、分離孔２５３１ｂ、分離孔２８１０ｄ、等）に棒状部材を通し、その先端により装飾体（スペックシール１０２０、右下案内通路装飾シール２５３２、ゲートシール２８１１、等）を後方から押圧することで、被装飾部（スペックシール貼付部１０２

１、貼付凹部２５３１ａ、貼付凹部２８１０ｂ、等）との着接を容易に解除することができるため、被装飾部から装飾体を容易に取外すことができ、機種変更に伴う装飾体の取替作業を容易なものとすることができる。更に、上述したように、前部材と通路部材とを離した状態では、分離孔を使用して装飾体を被装飾部から容易に取外すことができるため、パチンコ機１の構成部品に対して素材毎の分別作業を行い易いものとすることができ、パチンコ機１の廃棄にかかるコストを低減させることができる。

【２５２９】

また、被装飾部（スペックシール貼付部１０２１、貼付凹部２５３１ａ、貼付凹部２８１０ｂ、等）に分離孔（分離孔１０２３、分離孔２５３１ｂ、分離孔２８１０ｄ、等）を設けているため、被装飾部に装飾体（スペックシール１０２０、右下案内通路装飾シール２５３２、ゲートシール２８１１、等）を着接することにより前方から分離孔を見え難くしたり隠したりすることができ、分離孔による見栄えの悪化を抑制させることができると共に、遊技者に対して分離孔の存在に気付かせ難くすることができ、分離孔を通した不正行為を画策させ難くすることができる。

【２５３０】

そして、パチンコ機１に組立てられている状態では、装飾体（スペックシール１０２０、右下案内通路装飾シール２５３２、ゲートシール２８１１、等）が着接されている前部材（前構成部材１０００、センター役物２５００の前部材２５３１、ゲート部材２８００のゲート本体２８１０、等）の後側に組付けられている通路部材（遊技パネル１１００、センター台板２５４０、ゲートセンサ２８０１、等）によって、分離孔（分離孔１０２３、分離孔２５３１ｂ、分離孔２８１０ｄ、等）を後方から閉鎖するようにしており、従来のパチンコ機のように後側まで通るような孔を貫通させていないため、当該孔を通してピアノ線のような線状の不正工具がパチンコ機１内に差し込まれることを回避させることができ、不正行為が行われることを防止することができる。

【２５３１】

また、通路部材（遊技パネル１１００、センター台板２５４０、ゲートセンサ２８０１、等）により分離孔（分離孔１０２３、分離孔２５３１ｂ、分離孔２８１０ｄ、等）を後方から閉鎖していることから、不正工具を、前方から装飾体（スペックシール１０２０、右下案内通路装飾シール２５３２、ゲートシール２８１１、等）を貫いて分離孔に挿通させても、通路部材によりそれ以上の後方への挿入（侵入）を阻止することができるため、分離孔を通した前方からの通路部（遊技領域５ａ、右下案内通路２５３０、及びゲートセンサ２８０１の検知孔（ゲート２００３）、等）内への不正工具の侵入を阻止することができ、不正行為が行われることを防止することができると共に、不正工具が装飾体を貫くことで装飾体に痕跡が残るため、不正行為の実行を躊躇させることができ、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【２５３２】

更に、本実施形態のパチンコ機１によれば、遊技盤５における裏ユニット３０００の裏前演出ユニット３１００では、導光板３１１０及び導光板３１１０の第二絵柄３１１２を発光表示させるためのＬＥＤ３１７６が実装されている導光板下左装飾基板３１７４及び導光板下右装飾基板３１７５の前方に、裏前下演出ユニット３１６０における裏前下中装飾基板３１６８、裏前下左内装飾基板３１６９、裏前下左外装飾基板３１７０、裏前下右内装飾基板３１７１、裏前下右外装飾基板３１７２等に実装されている前方へ光を照射するＬＥＤにより発光装飾可能な裏前下中装飾体３１６１、裏前下左内装飾体３１６３、裏前下左外装飾体３１６４、裏前下右内装飾体３１６５、裏前下右外装飾体３１６６等を設けており、裏前下中装飾体３１６１等の後方に、ＬＥＤ３１７６（導光板下左装飾基板３１７４及び導光板下右装飾基板３１７５）を設けることで、裏前下中装飾体３１６１等によってＬＥＤ３１７６を遊技者から見えなくする（隠す）ことができるため、遊技者に対してＬＥＤ３１７６、つまり、導光板３１１０の存在に気付かせ難くすることができる。このような状態で、ＬＥＤ３１７６により導光板３１１０の第二絵柄３１１２を発光表示させると共に、裏前下中装飾基板３１６８等に実装されているＬＥＤの発光により裏前下

中装飾体３１６１等を発光装飾させると、ＬＥＤ３１７６からの光は導光板３１１０により前方へ反射された光であるのに対して、裏前下中装飾基板３１６８等のＬＥＤからの光は直接前方へ照射された光であるため、導光板３１１０の第二絵柄３１１２よりも発光装飾されている裏前下中装飾体３１６１等の方を明るく輝かせることができ、遊技者の関心を裏前下中装飾体３１６１等へ強く引付けさせることができる。そして、導光板３１１０の発光表示されている第二絵柄３１１２が、発光装飾されている裏前下中装飾体３１６１等と接近した所定位置（若干上方の位置）から上方へ延びていることから、遊技者に対して導光板３１１０の第二絵柄３１１２が、発光装飾されている裏前下中装飾体３１６１等からの光を光源として発光表示されているように強く誤認させることができるため、これまでのパチンコ機では見たこともないような導光板３１１０を用いた発光演出を遊技者に見せることができ、遊技者を楽しませて遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【２５３３】

また、導光板３１１０の前方に導光板下左装飾基板３１７４及び導光板下右装飾基板３１７５、及び裏前下中装飾体３１６１等を設けていることから、導光板下左装飾基板３１７４及び導光板下右装飾基板３１７５に実装されているＬＥＤからの光が導光板３１１０を照らして、透明な導光板３１１０が遊技者から見えてしまうことを回避させることができるため、導光板３１１０の第二絵柄３１１２等の発光表示による演出効果を十分に発揮させることができ、上述した作用効果を確実に奏することが可能なパチンコ機１を提供することができる。

【２５３４】

また、導光板下左装飾基板３１７４及び導光板下右装飾基板３１７５の前方に透光性を有する裏前下中装飾体３１６１等を設けていることから、導光板下左装飾基板３１７４及び導光板下右装飾基板３１７５に実装されているＬＥＤを発光させると、裏前下中装飾体３１６１等を発光装飾させることができるため、導光板３１１０の第二絵柄３１１２等の発光表示による演出に加えて、裏前下中装飾体３１６１等の発光装飾による演出も遊技者に見せることができ、多彩な演出により遊技者を飽きさせ難くして興趣の低下を抑制させることができる。

【２５３５】

更に、導光板３１１０の第二絵柄３１１２を発光表示させると共に導光板下左装飾基板３１７４及び導光板下右装飾基板３１７５に実装されているＬＥＤを発光させると、上述したように、導光板下左装飾基板３１７４及び導光板下右装飾基板３１７５に実装されているＬＥＤにより裏前下中装飾体３１６１等が明るく輝くことで、遊技者の関心を発光装飾されている裏前下中装飾体３１６１等に引付けさせることができると共に、裏前下中装飾体３１６１に接近した上方の所定位置から上方へ延びている導光板３１１０の第二絵柄３１１２により、遊技者の関心を裏前下中装飾体３１６１等から導光板３１１０の第二絵柄３１１２を介して、当該第二絵柄３１１２が延びている上方の先へ向けさせることができる。従って、第二絵柄３１１２かせ延びている上方の先には、演出表示装置１６００の表示画面の一部、裏後上演出ユニット３２００における昇降する裏後上可動装飾体３２１０等が設けられているため、導光板３１１０の第二絵柄３１１２が延びている先で、更なる演出（演出画像による演出、可動演出、等）が実行されるか否かによってワクワク・ドキドキさせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【２５３６】

また、導光板３１１０の第二絵柄３１１２は、所定位置から上方へ延出している五つのライン３１１３を一組とした複数のライン群３１１４により構成した上で、各ライン３１１３を夫々独立して発光表示可能としていると共に、各ライン３１１３に対応するようにＬＥＤ３１７６（第一ＬＥＤ３１７６ａ～第五ＬＥＤ３１７６ｅ）を設けているため、ＬＥＤ群３１７７の第一ＬＥＤ３１７６ａ～第五ＬＥＤ３１７６ｅを順番に発光させることで、発光表示されるライン３１１３が変化して疑似的なアニメーションを見せることができる。そして、複数のライン３１１３の下端の位置（所定位置）に接近した下方の位置に裏前下中装飾体３１６１等を設けているため、導光板３１１０の第二絵柄３１１２が発光

装飾されている裏前下中装飾体３１６１等からの光を光源として動いているように見せることができるため、遊技者に強いインパクトを与えることができ、何か良いことがあるのではないかと思わせることが可能となり、遊技に対する期待感を高めさせて興趣の低下を抑制させることができる。

【２５３７】

更に、本実施形態のパチンコ機１によれば、第一始動口２００２や第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れによる始動条件の成立により特別抽選の抽選結果（特別抽選結果）が抽選されると、機能表示ユニット１４００Ａや機能表示ユニット１４００Ｂにおいて、機能表示基板１４０２の複数のＬＥＤ１４０１や機能表示基板１４１１の左用ＬＥＤ１４１１ａ及び右用ＬＥＤ１４１１ｂが点灯・点滅することにより特別図柄が変動表示された後に、特別抽選結果を示唆する特別図柄が、複数のＬＥＤ１４０１や左用ＬＥＤ１４１１ａ及び右用ＬＥＤ１４１１ｂの点灯・消灯による組合せによって表示される。この際に、複数のＬＥＤ１４０１や左用ＬＥＤ１４１１ａ及び右用ＬＥＤ１４１１ｂからの光が、夫々独立して前方に放射させるリフレクタ前１４０５の複数の表示孔１４０５ａやリフレクタ前１４１４の複数の表示孔１４１４ａによって、一部を遊技者の一方の目にのみ放射するようにしていると共に、残りの少なくとも一部を遊技者の他方の目に見にのみ放射するようにしていることから、遊技者の両目で同時に見ることにより、全てのＬＥＤ１４０１や左用ＬＥＤ１４１１ａ及び右用ＬＥＤ１４１１ｂからの光を見ることができるため、複数のＬＥＤ１４０１や左用ＬＥＤ１４１１ａ及び右用ＬＥＤ１４１１ｂの点灯や消灯等を良好な状態で視認することが可能となり、複数のＬＥＤ１４０１や左用ＬＥＤ１４１１ａ及び右用ＬＥＤ１４１１ｂによる特別図柄を明確に視認させることができ、複数のＬＥＤ１４０１や左用ＬＥＤ１４１１ａ及び右用ＬＥＤ１４１１ｂによる表示機能を遜色なく発揮させることができる。

【２５３８】

そして、複数のＬＥＤ１４０１や左用ＬＥＤ１４１１ａ及び右用ＬＥＤ１４１１ｂ（機能表示ユニット１４００Ａや機能表示ユニット１４００Ｂ）をデジカメや携帯電話のカメラにより撮影すると、上述したように、遊技者の両目で見たときに全てのＬＥＤ１４０１や左用ＬＥＤ１４１１ａ及び右用ＬＥＤ１４１１ｂからの光が見えるようにしているため、単眼のカメラでは両目のうちの片方しか撮影することはできず、全てのＬＥＤ１４０１や左用ＬＥＤ１４１１ａ及び右用ＬＥＤ１４１１ｂの発光状況を正確に撮影することを困難なものとすることができる。従って、複数のＬＥＤ１４０１や左用ＬＥＤ１４１１ａ及び右用ＬＥＤ１４１１ｂの発光状況を正確に写すことができないため、遊技者が有利となる有利遊技状態（例えば、「大当り」遊技）の発生する特別図柄が表示されているか否かを簡単に判別できなくすることができ、特別抽選の抽選結果を示唆する演出を最後まで楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【２５３９】

また、機能表示ユニット１４００Ａでは、リフレクタ前１４０５の複数の表示孔１４０５ａの一部を遊技者の一方の目の位置へ向けて前後方向に対して傾斜させると共に、残りを遊技者の他方の目の位置へ向けて前後方向に対して傾斜させたものと前後方向へ真直ぐに向けるようにしている。これにより、上記と同様の作用効果に加えて、表示孔１４０５ａの傾斜により、本パチンコ機１の前方に着座している以外の遊技者からは、全てのＬＥＤ１４０１からの光を良好な状態で見え難くすることができるため、他の遊技者に対して、遊技状況を把握され難くすることが可能となり、他の遊技者から覗き込まれるようなことを低減させることができ、他の遊技者に気兼ねすることなく遊技を楽しませることができる。

【２５４０】

また、機能表示ユニット１４００Ｂでは、機能表示基板１４１１に実装されている複複数の左用ＬＥＤ１４１１ａと複数の右用ＬＥＤ１４１１ｂとを、左右方向へ所定距離（４０ｍｍ～８０ｍｍ）離間させた上で、それらの前方に複数の表示孔１４１４ａを有するリフレクタ前１４１４を設けているため、上記と同様の作用効果を奏することができる他に

、各表示孔１４１４ａを前後方向へ真直ぐに向けていることから、複数の表示孔１４１４ａを型成形する時の型抜きが容易なものとなり、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。

【２５４１】

更に、機能表示ユニット１４００Ｃでは、機能表示基板１４２１に実装されている複数のＬＥＤ１４２１ａからの光は、透明な導光板１４２３を通して遊技者側から見えるため、複数のＬＥＤ１４２１ａによる特別図柄を良好な状態で遊技者に見せることができる。この際に、不可視光ＬＥＤ１４２４ａから不可視光を導光板１４２３の側面に照射すると、側面から入射された不可視光が導光板１４２３から前方の遊技者側へ放射されることとなるが、導光板１４２３から放射される不可視光を遊技者が見ることはできないため、導光板１４２３を通して複数のＬＥＤ１４２１ａによる特別図柄を明確に視認させることができ、複数のＬＥＤ１４２１ａによる表示機能を遜色なく発揮させることができる。そして、不可視光ＬＥＤ１４２４ａを発光させている状態で、前方からデジカメ等により撮影すると、デジカメ等の機種によっては導光板１４２３から前方へ放射されている不可視光が写ることとなるため、導光板１４２３が明るく光って写ることで後方に設けられている複数のＬＥＤ１４２１ａからの光が写り難くなり、複数のＬＥＤ１４２１ａの発光状況を判別し難くすることができ、上述した作用効果を奏するパチンコ機１を確実に具現化することができる。

【２５４２】

また、機能表示ユニット１４００等において、主制御基板１３１０により、特別図柄が点灯していることを遊技者が認識可能な速度で複数のＬＥＤを点滅させるようにしても良い。これにより、主制御基板１３１０により機能表示ユニット１４００の複数のＬＥＤを所定の速度で点滅させていても遊技者からは点灯しているように見えるため、複数のＬＥＤによる特別図柄の表示を明確に見せることができ、複数のＬＥＤによる表示機能を十分に発揮させることができる。そして、主制御基板１３１０により所定の速度で点滅させているＬＥＤをデジカメ等で撮影すると、シャッタースピードによってはＬＥＤが点灯しているのに消灯しているように写ることとなるため、同じ状況（状態）に見える複数のＬＥＤを撮影しても、シャッターを切るタイミングによってＬＥＤが点灯して写っていたり消灯して写っていたりすることとなり、複数のＬＥＤの発光状況を判別し難くすることができ、上述した作用効果を奏するパチンコ機１を確実に具現化することができる。なお、主制御基板１３１０によりＬＥＤを点滅させる所定の速度としては、３０Ｈｚ～１００Ｈｚの範囲内が望ましく、これよりも点滅速度が遅いと、ＬＥＤが点灯しているように見えなくなり特別図柄が変動しているように点滅して見えてしまうためであり、これよりも点滅速度が早いと、撮影した時に点灯した状態で写るためである。

【２５４３】

また、機能表示ユニット１４００等に接近して、機能表示ユニット１４００等のＬＥＤよりも高輝度の光を前方へ照射可能な高輝度のＬＥＤを設けるようにしても良い。これにより、機能表示ユニット１４００等に接近して設けられている高輝度のＬＥＤを発光させると、そのＬＥＤからの輝度の高い光により眩しく感じるものの、遊技者（人間）の明るさを感じるダイナミックレンジが広いことから、眩しいながらも機能表示ユニット１４００等のＬＥＤからの光も見ることができるため、機能表示ユニット１４００等において表示されている特別図柄を認識させることができ、機能表示ユニット１４００等による表示機能を遜色なく発揮させることができる。そして、高輝度のＬＥＤを発光させている状態で機能表示ユニット１４００等をデジカメ等で撮影すると、デジカメ等では、明るさに対するダイナミックレンジが人間よりも狭いため、高輝度のＬＥＤからの光によりハレーションが発生し、当該ＬＥＤの付近が白飛びすることで、機能表示ユニット１４００等の一部を写らなくすることができる。従って、機能表示ユニット１４００等における複数のＬＥＤの発光状況を不明確にすることができ、上述と同様の作用効果を奏するパチンコ機１を具現化することができる。

【２５４４】

更に、本実施形態のパチンコ機１によれば、遊技盤５Ａにおいて、裏ユニット３０００の裏前演出ユニット３１００の裏前左装飾ユニット３１２０の複数の装飾体（裏前左第一装飾体３１２４、裏前左第二装飾体３１２５、裏前左第三装飾体３１２６、及び裏前左装飾体ベース３１２７）における夫々の装飾部（裏前左ロゴ装飾部３１２１、裏前左上ロゴ装飾部３１２２及び裏前左サブ装飾部３１２３）を、の発光手段（裏前左装飾基板３１２８等に実装されているＬＥＤ）により発光装飾させていない通常の状態では、裏前左装飾ユニット３１２０の前方に設けられている透光性を有する不透明で白色系のパネル板１１１０Ａによって、裏前左装飾ユニット３１２０の裏前左上ロゴ装飾部３１２２等を見えなくして認識し辛くすることができ、遊技者に対して裏前左上ロゴ装飾部３１２２等の存在に気付かせ難くすることができると共に、白色系の色により遊技パネル１１００のパネル板１１１０Ａを明るく見せることができ、本パチンコ機１を目立たせることができる。

【２５４５】

そして、遊技の進行に応じて裏前左装飾ユニット３１２０の複数のＬＥＤにより夫々の裏前左上ロゴ装飾部３１２２等を適宜発光装飾させると、発光装飾された裏前左上ロゴ装飾部３１２２等の光が、透光性を有するパネル板１１１０Ａを通して前方へ照射されることとなり、裏前左上ロゴ装飾部３１２２等の発光装飾が白色のパネル板１１１０Ａに映ることとなるため、パネル板１１１０Ａを介して裏前左上ロゴ装飾部３１２２等の発光装飾を遊技者に見せることができ、遊技者に裏前左上ロゴ装飾部３１２２等の発光装飾を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。また、裏前左装飾ユニット３１２０の裏前左上ロゴ装飾部３１２２等を発光装飾させることで、遊技者に対して存在を予見できなかった裏前左上ロゴ装飾部３１２２等の存在に気付かせることができるため、遊技者を大いに驚かせることができ、遊技者にチャンスが到来したと強く思わせることができると共に、演出効果の高い発光演出を遊技者に見せることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【２５４６】

また、透光性を有する不透明なパネル板１１１０Ａの色を白色系としているため、後方に設けられている裏前左装飾ユニット３１２０の複数の装飾体（裏前左第一装飾体３１２４、裏前左第二装飾体３１２５、裏前左第三装飾体３１２６、及び裏前左装飾体ベース３１２７）の夫々の装飾部（第一表左ロゴ装飾部３１２４ｃ、第一裏左ロゴ装飾部３１２４ｄ、第一左上ロゴ装飾部３１２４ｅ、第一左サブ装飾部３１２４ｆ、第二裏左ロゴ装飾部３１２５ｄ、第二左上ロゴ装飾部３１２５ｅ、第二左サブ装飾部３１２５ｆ、第三裏左ロゴ装飾部３１２６ｄ、第三左上ロゴ装飾部３１２６ｅ、第三左サブ装飾部３１２６ｆ、ベース左上ロゴ装飾部３１２７ｄ）において発光装飾されている発光色を、その色のままでパネル板１１１０Ａを介して遊技者に見せることができ、様々な色による発光演出を遊技者に見せることができると共に、多彩な発光演出により遊技者を飽きさせ難くすることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【２５４７】

また、互いに関連した形状の装飾部（「第一表左ロゴ装飾部３１２４ｃ、第一裏左ロゴ装飾部３１２４ｄ、第二裏左ロゴ装飾部３１２５ｄ、第三裏左ロゴ装飾部３１２６ｄ」、「第一左上ロゴ装飾部３１２４ｅ、第二左上ロゴ装飾部３１２５ｅ、第三左上ロゴ装飾部３１２６ｅ、ベース左上ロゴ装飾部３１２７ｄ」、「第一左サブ装飾部３１２４ｆ、第二左サブ装飾部３１２５ｆ、第三左サブ装飾部３１２６ｆ」）が設けられている複数の装飾体（裏前左第一装飾体３１２４、裏前左第二装飾体３１２５、裏前左第三装飾体３１２６、及び裏前左装飾体ベース３１２７）を前後方向へ重ねていると共に、発光手段（裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９、裏前左下装飾基板３１３０、のＬＥＤ）により各装飾部を夫々独立して発光装飾できるようにしていることから、夫々の装飾部の前後方向の位置が異なっているため、夫々の装飾部を発光装飾させると、奥行感のある発光演出を遊技者に見せることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【２５４８】

また、複数の装飾体（裏前左第一装飾体３１２４、裏前左第二装飾体３１２５、裏前左第三装飾体３１２６、及び裏前左装飾体ベース３１２７）の夫々に互いに関連した装飾部（「第一表左ロゴ装飾部３１２４ｃ、第一裏左ロゴ装飾部３１２４ｄ、第二裏左ロゴ装飾部３１２５ｄ、第三裏左ロゴ装飾部３１２６ｄ」、「第一左上ロゴ装飾部３１２４ｅ、第二左上ロゴ装飾部３１２５ｅ、第三左上ロゴ装飾部３１２６ｅ、ベース左上ロゴ装飾部３１２７ｄ」、「第一左サブ装飾部３１２４ｆ、第二左サブ装飾部３１２５ｆ、第三左サブ装飾部３１２６ｆ」）を設けているため、発光手段（裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９、裏前左下装飾基板３１３０、のＬＥＤ）により適宜の順番で装飾部を発光装飾させることで、動きのある発光演出を遊技者に見せることができ、遊技者の関心を強く引付けさせることができると共に、遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技に対する期待感を高めさせて興趣の低下を抑制させることができる。

【２５４９】

更に、複数の装飾体（裏前左第一装飾体３１２４、裏前左第二装飾体３１２５、裏前左第三装飾体３１２６、及び裏前左装飾体ベース３１２７）の夫々に設けられている装飾部（「第一表左ロゴ装飾部３１２４ｃ、第一裏左ロゴ装飾部３１２４ｄ、第二裏左ロゴ装飾部３１２５ｄ、第三裏左ロゴ装飾部３１２６ｄ」、「第一左上ロゴ装飾部３１２４ｅ、第二左上ロゴ装飾部３１２５ｅ、第三左上ロゴ装飾部３１２６ｅ、ベース左上ロゴ装飾部３１２７ｄ」、「第一左サブ装飾部３１２４ｆ、第二左サブ装飾部３１２５ｆ、第三左サブ装飾部３１２６ｆ」）を、発光手段（裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９、裏前左下装飾基板３１３０、のＬＥＤ）によって夫々を独立して発光装飾させることができようにしているため、発光装飾させる装飾部を適宜組合せることにより多彩な発光演出を遊技者に見せることができ、遊技者を飽きさせ難くして興趣の低下を抑制させることができる。また、夫々の装飾部を独立して発光装飾させることができるため、遊技の進行に応じて発光装飾させる装飾部の組合せにより、遊技者が有利となる有利遊技状態（例えば、「大当り」遊技状態）が発生する期待度を遊技者に示唆させることができる。

【２５５０】

また、裏前左装飾ユニット３１２０の夫々の装飾体（裏前左第一装飾体３１２４、裏前左第二装飾体３１２５、裏前左第三装飾体３１２６、及び裏前左装飾体ベース３１２７）において、互いに異なる位置に設けられている装飾部（裏前左ロゴ装飾部３１２１、裏前左上ロゴ装飾部３１２２及び裏前左サブ装飾部３１２３）同士の間に、遮光部（区切装飾部３１２４ａ、区切装飾部３１２５ｃ、区切装飾部３１２６ｃ）を設けているため、一方の装飾部を発光装飾させるための光を、遮光部により他方の装飾部へ照射されることを遮って他方の装飾部が発光装飾することを防止することができ、一方（所望）の装飾部のみを発光装飾させることができる。従って、一つの装飾体に設けられている複数の装飾部を、夫々独立して発光装飾させることができるため、遊技の進行に応じて適宜の装飾部を発光装飾させることで、多彩な発光演出を遊技者に見せることができ、遊技者を飽きさせ難くして興趣の低下を抑制させることができる。

【２５５１】

また、裏前左装飾ユニット３１２０の夫々の装飾体（裏前左第一装飾体３１２４、裏前左第二装飾体３１２５、裏前左第三装飾体３１２６、及び裏前左装飾体ベース３１２７）において、複数の装飾部（裏前左ロゴ装飾部３１２１、裏前左上ロゴ装飾部３１２２及び裏前左サブ装飾部３１２３）を互いに異なる位置に設けると共に、それらの間に遮光部（区切装飾部３１２４ａ、区切装飾部３１２５ｃ、区切装飾部３１２６ｃ）を設けることにより夫々を独立して発光装飾できるようにしているため、装飾体における夫々の装飾部を全く異なる態様の装飾とすることにより、遊技の進行に応じて異なる態様の発光装飾を遊技者に見せることができ、遊技者の関心を強く引付けさせることができると共に、発光演出によって遊技者を楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【２５５２】

更に、裏前左装飾ユニット３１２０の夫々の装飾体（裏前左第一装飾体３１２４、裏前左第二装飾体３１２５、裏前左第三装飾体３１２６、及び裏前左装飾体ベース３１２７）において、複数の装飾部（裏前左ロゴ装飾部３１２１、裏前左上ロゴ装飾部３１２２及び裏前左サブ装飾部３１２３）の間に、孔状の遮光部（区切装飾部３１２４ａ、区切装飾部３１２５ｃ、区切装飾部３１２６ｃ）を設けていることから、一方の装飾部を発光装飾させるための光が、遮光部の一部から外部へ放射されることとなるため、遮光部の一部を発光装飾させることができる。従って、遮光部を所定の形状に形成することで、装飾部の発光装飾に加えて遮光部の発光装飾も遊技者に見せることができ、より多彩な発光演出を行うことができる。

【２５５３】

また、裏前左装飾ユニット３１２０の裏前左第一装飾体３１２４において、所定の形状で前後に貫通している貫通装飾部３１２４ｂを有するようにしていることから、遊技の進行に応じて装飾部（第一表左ロゴ装飾部３１２４ｃ、第一裏左ロゴ装飾部３１２４ｄ、第一左上ロゴ装飾部３１２４ｅ、第一左サブ装飾部３１２４ｆ）を発光装飾させると、貫通装飾部３１２４ｂの周面が発光装飾することとなるため、装飾部の発光装飾に加えて貫通装飾部３１２４ｂの発光装飾も遊技者に見せることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【２５５４】

更に、本実施形態のパチンコ機１によれば、遊技盤５Ｂにおいて、温度や湿度等の環境の変化により、遊技パネル１１００の透明のパネル板１１１０の後方に設けられているセル１１４０がパネル板１１１０よりも伸縮しても、当該セル１１４０がパネル板１１１０に対して伸縮可能な状態で設けられているため、セル１１４０が自由に伸縮することができ、温度や湿度等の環境が変化してもセル１１４０に皺や亀裂が生ずることはなく、セル１１４０による装飾効果を維持させることができる。この際に、セル１１４０を、パネル板１１１０におけるセンター役物２５００が取付けられる開口部１１１２が片寄っている所定方向とは反対方向の部位の後方、つまり、パネル板１１１０における広い部位の後方に設けているため、透明なパネル板１１１０を通して見えるセル１１４０の絵柄を遊技者に見え易くすることができ、セル１１４０による装飾効果を十分に発揮させることができると共に、透明なパネル板１１１０を通して見えるセル１１４０の絵柄により遊技領域５ａ内の見栄えを良くすることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【２５５５】

また、セル１１４０を伸縮可能な状態で遊技パネル１１００のパネル板１１１０に設けており、従来のように遊技パネル（パネル板）に貼り付けていないため、透明なパネル板１１１０の装飾に対する手間を容易なものとすることができ、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。詳述すると、切削加工するパネル板１１１０では、切削加工後にセル１１４０を設けることができるため、パネル板１１１０の切削加工時にセル１１４０に傷が付くことはない。また、パネル板１１１０とセル１１４０との材質等に違いによって切削加工面が荒れることはなく、切削加工後の仕上工程を省くことができる。一方、切削加工や射出成形により開口部を有するように形成された遊技パネル（パネル板）では、セル１１４０を貼り付けていないため、貼り付けにかかる手間を無くすことができる。従って、従来の技術よりも簡単に透明なパネル板１１１０の後方にセル１１４０を設けることができ、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。

【２５５６】

更に、セル１１４０を、遊技パネル１１００のパネル板１１１０の一部の後方に設けるようにしているため、パネル板１１１０の全面にセル１１４０を設けるようにする場合と比較して、セル１１４０の使用量を低減させることができ、パチンコ機１にかかるコストを低減させることができる。

【２５５７】

また、遊技パネル１１００のパネル板１１１０に対してセル１１４０を着脱可能として

いるため、パネル板１１１０に対して、絵柄の異なるセル１１４０を取付けたり交換したりすることで、パチンコ機１（遊技盤５Ｂ）の仕様変更や機種変更に対して容易に対応することができ、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。

【２５５８】

また、裏ユニット３０００における裏前演出ユニット３１００に設けられている各種のＬＥＤの発光によりセル１１４０を発光装飾させることができるため、透明な遊技パネル１１００のパネル板１１１０を通して見えるセル１１４０の絵柄が発光装飾されることで、遊技領域５ａ内の見栄えを良くすることができ、遊技者の関心を遊技領域５ａ内へ強く引付けさせることができると共に、遊技領域５ａ内を明るくすることができ、遊技領域５ａ内を流通する遊技球Ｂを見え易くすることができる。

【２５５９】

更に、裏ユニット３０００における裏前演出ユニット３１００に設けられている各種のＬＥＤにより遊技パネル１１００の透明なパネル板１１１０の後方に設けられているセル１１４０を発光装飾させることができるため、セル１１４０の発光装飾により遊技領域５ａ内を流通している遊技球Ｂを後方から照らしてシルエットのように見せることができ、遊技球Ｂを視認し易くすることで遊技球Ｂの動きを楽しませて興趣の低下を抑制させることができると共に、遊技領域５ａ内を流通している遊技球Ｂをシルエットで見せることで視認し易くすることができるため、遊技球Ｂの打込強さの微妙な調整を行い易いものとすることができ、遊技球Ｂの打込操作を工夫するパチンコ機１本来の遊技を楽しませることができる。

【２５６０】

また、遊技パネル１１００の透明なパネル板１１１０の一部の後方にセル１１４０を設けるようにしていることから、遊技者が遊技領域５ａ内を見た時に、セル１１４０の絵柄に焦点が合い易くなるため、遊技パネル１１００（パネル板１１１０）を見るだけで自然と遊技領域５ａ内を流通している遊技球Ｂに焦点が合うこととなり、遊技領域５ａ内を流通している遊技球Ｂを視認し易くすることができ、遊技球Ｂの動きを楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【２５６１】

また、透明なパネル板１１１０の一部の後方に、所定の絵柄が施されているセル１１４０を設けるようにしているため、セル１１４０の絵柄によって後方に設けられている裏ユニット３０００の裏前演出ユニット３１００の装飾体等を遊技者側から隠すことができる。従って、セル１１４０の後方に設けられている装飾体を発光装飾させていない状態では、セル１１４０の絵柄により遊技者に対して装飾体の存在に気付かせないようにすることができる。そして、当該装飾体を遊技の進行に応じて発光装飾させると、セル１１４０が装飾体からの光により発光装飾されることとなるため、遊技者に対して存在を予見できなかった装飾体の存在に気付かせることが可能となり、遊技者を大いに驚かせることができ、遊技者にチャンスが到来したと強く思わせることができると共に、より演出効果の高い発光演出を遊技者に見せることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【２５６２】

また、上述したように、セル１１４０により後方に設けられている可動装飾体としての裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１を遊技者側から見えないように隠すことができることから、セル１１４０によって視認不能な状態から、遊技パネル１１００のパネル板１１１０の前後に貫通している開口部１１１２を通して視認可能となる状態へ、遊技の進行に応じて裏後左可動装飾体３３０１を移動させると、遊技の進行に応じて裏後左可動装飾体３３０１が出現する可動演出を見せることができる。従って、裏後左可動装飾体３３０１等が出現することにより、遊技者に対してチャンスの到来を示唆させることができるため、遊技者に対して遊技者が有利となる有利遊技状態（例えば、「大当り」の遊技状態）が発生するのではないかと強く思わせることができ、遊技に対する期待感を高めさせて興趣の低下を抑制させることができる。

【２５６３】
更に、本実施形態のパチンコ機１によれば、遊技盤５Ａにおいて、前方に遊技球Ｂが流通する遊技領域５ａが設けられる遊技パネル１１００のパネル板１１１０Ａを、透光性を有する不透明な乳白色としているため、遊技領域５ａ内を明るく見せることができ、遊技領域５ａ内を流通する遊技球Ｂを見え易くすることができると共に、本パチンコ機１に設けられているＬＥＤや演出表示装置１６００等からの光、本パチンコ機１を設置している遊技ホール内の照明等からの光、他のパチンコ機やスロットマシン等の遊技機からの光、等が遊技パネル１１００に照射されると、その光が遊技パネル１１００のパネル板１１１０Ａにおいて拡散することで、パネル板１１１０Ａが薄明るく自光しているように見せることができる。更に、パネル板１１１０Ａの周面へ光を照射可能なパネル装飾基板１１３０の複数のＬＥＤ１１３０ａを発光させると、その光が透光性を有した不透明で乳白色のパネル板１１１０Ａにより拡散されることとなるため、遊技パネル１１００のパネル板１１１０Ａをふんわりとした感じで柔らかく間接照明のような蛍光灯のように発光装飾させることができ、遊技領域５ａ内を明るくすることができると共に、ＬＥＤ１１３０ａによる眩しさを抑制させることができ、遊技者の目に優しいパチンコ機１を提供することができる。従って、遊技パネル（パネル板）として合板や透明板を用いているこれまでのパチンコ機と比較して、これまでに見たこともないような蛍光灯のように発光する遊技領域５ａを有したパチンコ機１を遊技者に見せることができるため、遊技者の関心を遊技パネル１１００（遊技領域５ａ）へ強く引付けさせることができ、何か良いことがあるのではないかと感じさせて遊技に対する期待感を高めさせることができると共に、遊技領域５ａ内を流通している遊技球Ｂが後方のパネル板１１１０Ａからの光によりシルエットのように見せることができ、遊技球Ｂを視認し易くすることで遊技球Ｂの動きを楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【２５６４】
また、遊技パネル１１００のパネル板１１１０Ａの前面に装飾シート（化粧フィルム）（図示は省略）を設けるようにすると、乳白色のパネル板１１１０Ａにより化粧フィルムに施されている絵柄の発色を良くすることができ、絵柄の装飾により遊技領域５ａ内の見栄えを良くすることができると共に、パネル装飾基板１１３０のＬＥＤ１１３０ａを発光させることで遊技パネル１１００のパネル板１１１０Ａを介して化粧フィルムの絵柄を発光装飾させることができるため、遊技領域５ａ内の見栄えを更に良くすることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる

【２５６５】
また、遊技パネル１１００のパネル板１１１０Ａの前面に化粧フィルムを設けるようにする場合、透光性を有する不透明なパネル板１１１０Ａに起因して、ＬＥＤ１１３０ａ等により発光装飾される部位が不明瞭になり易くなることを、絵柄を工夫して、発光装飾が不明瞭になる部位を化粧フィルムの絵柄の一部によって隠れるように、当該絵柄を工夫（或いは、ＬＥＤ１１３０ａ等の配置を工夫）することで、発光装飾を明瞭に見せることができ、装飾効果をより高めることができる。

【２５６６】
また、遊技パネル１１００のパネル板１１１０Ａの前面に化粧フィルムを貼り付けるようにする場合、化粧フィルムとして耐摩耗性に優れた素材を用いることで、化粧フィルムによって遊技球Ｂの流通に対してパネル板１１１０Ａの前面を保護することができる。これにより、パネル板１１１０Ａの材質として、耐摩耗性の高いものを用いる必要が無く、グレードの低い安価な材質のものを用いることができ、パチンコ機１にかかるコストを低減させることができる。

【２５６７】
更に、遊技パネル１１００のパネル板１１１０Ａの後面に化粧フィルムを設けるようにする場合、化粧フィルムの後方から前方へ照射された光により、化粧フィルムの絵柄の影がパネル板１１１０Ａに映ることで、当該絵柄を遊技者に見せることができ、軽傷フィルムの絵柄や文字等を後方からパネル板１１１０Ａに投影させる発光演出を遊技者に見せる

ことができるため、当該演出が実行されることで遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技に対する期待感を高めさせて興趣の低下を抑制させることができる。或いは、当該発光演出として、化粧フィルムにより「右打ち」、演出操作部３０１の操作、等を促すような絵柄や文字等を後方から遊技パネル１１００のパネル板１１１０Ａに投映させることで、遊技球Ｂの打込操作、遊技者参加型演出における演出操作部３０１の操作、等を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【２５６８】

また、遊技パネル１１００のパネル板１１１０Ａの前面と後面の両方に化粧フィルムを設けるようにする場合、パネル装飾基板１１３０のＬＥＤ１１３０ａ等によりパネル板１１１０Ａの側面に光を照射すると、上述したように、パネル板１１１０Ａが自光することで前面側の化粧フィルムが発光装飾され、遊技者に対して前面側の化粧フィルムの絵柄を楽しませることができる。一方、ＬＥＤ等により遊技パネル１１００の後方から前方へ光を照射すると、後面側の化粧フィルムの絵柄の影がパネル板１１１０Ａに映ると共に、当該影が前面側の化粧フィルムの絵柄と重なるため、前面側の化粧フィルムの絵柄が変化して見えることとなる。これにより、多彩な発光演出を遊技者に見せることができ、遊技者を飽きさせ難くして興趣の低下を抑制させることができる。

【２５６９】

更に、透光性を有する不透明で乳白色のパネル板１１１０Ａの後方に設けられている裏前左装飾ユニット３１２０の裏前左上ロゴ装飾部３１２２及び裏前右装飾ユニット３１４０の裏前右上ロゴ装飾部３１４２を、遊技の進行に応じて発光装飾させると、その光が遊技パネル１１００のパネル板１１１０Ａを通して前方（遊技者側）へある程度透過するため、パネル板１１１０Ａを後方に設けられている裏前左上ロゴ装飾部３１２２や裏前右上ロゴ装飾部３１４２と同じ態様で部分的に発光装飾させることができると共に、後方に設けられている裏前左上ロゴ装飾部３１２２及び裏前右上ロゴ装飾部３１４２の存在を遊技者に気付かせることができる。従って、遊技パネル１１００のパネル板１１１０Ａを介して裏前左上ロゴ装飾部３１２２及び裏前右上ロゴ装飾部３１４２の発光装飾が見えることで、遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技に対する期待感を高めさせて興趣の低下を抑制させることができる。

【２５７０】

また、遊技パネル１１００のパネル板１１１０Ａの後方に設けられている裏前左上ロゴ装飾部３１２２及び裏前右上ロゴ装飾部３１４２を、無色透明の素材により形成していることから、パネル板１１１０Ａが乳白色の白色系であるため、裏前左上ロゴ装飾部３１２２及び裏前右上ロゴ装飾部３１４２の色がパネル板１１１０Ａの色と同化して前方から見えなくすることができ、遊技者に対して裏前左上ロゴ装飾部３１２２及び裏前右上ロゴ装飾部３１４２の存在に気付かせないようにすることができる。そして、当該裏前左上ロゴ装飾部３１２２及び裏前右上ロゴ装飾部３１４２を発光装飾させると、上述したようにパネル板１１１０Ａを通して裏前左上ロゴ装飾部３１２２及び裏前右上ロゴ装飾部３１４２の発光装飾が見えるため、存在を予見できなかった裏前左上ロゴ装飾部３１２２及び裏前右上ロゴ装飾部３１４２の存在に気付くことで、遊技者を大いに驚かせることができ、遊技者にチャンスが到来したと強く思わせることができると共に、より演出効果の高い発光演出を遊技者に見せることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【２５７１】

また、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２が、通常の状態では、不透明で乳白色のパネル板１１１０Ａの後方に位置することで、前方から視認不能な状態となっており、遊技の進行に応じてパネル板１１１０Ａの開口部１１１２の後方の部位へ移動することで、開口部１１１２を通して視認可能な状態となるため、遊技者に対して裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２が出現する可動演出を見せることができる。従って、裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右

可動装飾体３３０２が出現することにより、遊技者に対してチャンスの到来を示唆させることができるため、遊技者に対して遊技者が有利となる有利遊技状態（例えば、「大当り」の遊技状態）が発生するのではないかと強く思わせることができ、遊技に対する期待感を高めさせて興趣の低下を抑制させることができる。

【２５７２】

更に、裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２を発光装飾可能とすることにより、裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２が視認不能な状態の時に、裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２（或いは、裏前左上ロゴ装飾部３１２２及び裏前右上ロゴ装飾部３１４２）の発光装飾を点灯・点滅させることで、透光性を有するパネル板１１１０Ａを通して遊技者に裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２の存在に気付かせることができると共に、裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２が視認可能となる状態に移動するか否か（裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２が出現するか否か）によって遊技者をハラハラ・ドキドキさせることができ、遊技者をより楽しませることが可能な可動演出を実行することができる。

【２５７３】

また、前方に遊技領域５ａが設けられる遊技パネル１１００のパネル板１１１０Ａを、透光性を有した不透明にしていることから、遊技者が遊技領域５ａ内を見た時に、パネル板１１１０Ａの前面に焦点が合い易くなるため、パネル板１１１０Ａを見るだけで自然と遊技領域５ａ内を流通している遊技球Ｂに焦点が合うこととなる。この際に、上述したように、外部等からの光や発光しているＬＥＤ１１３０ａ等からの光によりパネル板１１１０Ａが自光しているような状態となることから、遊技領域５ａ内を流通している遊技球Ｂが後方のパネル板１１１０Ａからの光によりシルエットのように見せることができるため、遊技領域５ａ内を流通している遊技球Ｂを視認し易くすることができ、遊技球Ｂの動きを楽しませて興趣の低下を抑制させることができると共に、遊技球Ｂの打込強さの微妙な調整を行い易いものとすることができ、遊技球Ｂの打込操作を工夫するパチンコ機１本体の遊技を楽しませることができる。

【２５７４】

更に、遊技パネル１１００のパネル板１１１０Ａを、透光性を有した不透明で乳白色のもの（合成樹脂）としているため、パネル板を透明なものとした場合と比較して、グレードの低い合成樹脂を使用することができ、パチンコ機１にかかるコストを低減させることができる。

【２５７５】

また、パネル板１１１０Ａを、透光性を有した不透明な乳白色としているため、本パチンコ機１に設けられている装飾体の色を相対的に目立たせて装飾体の装飾効果を強く発揮させることができ、遊技者の関心を強く引付けさせることが可能な訴求力の高いパチンコ機１を提供することができると共に、パネル装飾基板１１３０のＬＥＤ１１３０ａや、遊技パネル１１００の後方に設けられている装飾体等を発光装飾させた時に、その発光色のままで前方へ透過させることができ、色彩豊かな発光演出を遊技者に楽しませることができる。

【２５７６】

また、パネル板１１１０Ａを、透光性を有した不透明で乳白色としているため、遊技パネル１１００の後方に設けられた装飾体（例えば、裏前左装飾ユニット３１２０）等を前方（遊技者側）から視認不能とすることができる。そして、遊技パネル１１００の後方に設けられた装飾体を発光装飾させると、装飾体からの光が透光性を有した遊技パネル１１００（パネル板１１１０Ａ）を通して前方へ透過するため、遊技パネル１１００を部分的に発光装飾させることができると共に、後方に設けられている装飾体の存在を遊技者に気付かせることができる。また、遊技パネル１１００の後方に設けられた装飾体を、パネル板１１１０Ａを貫通している開口部１１１２の後方となる部位へ移動させると、当該開口部１１１２を通して装飾体を前方から視認可能とすることができ、装飾体が隠れたり出現

したりする可動演出を遊技者に見せることができる。このように、多彩な発光演出や可動演出を遊技者に提示することができ、遊技者を飽きさせ難くして興趣の低下を抑制させることができる。

【２５７７】

更に、透光性を有した不透明で乳白色のパネル板１１１０Ａにより、パネル装飾基板１１３０のＬＥＤ１１３０ａ等からの光を拡散させることができるため、遊技パネル１１００をふんわりとした感じで柔らかく発光装飾させることができ、間接照明のような感じで遊技領域５ａ内を明るくすることができると共に、ＬＥＤ１１３０ａによる眩しさを抑制させることができ、遊技者の目に優しいパチンコ機１を提供することができる。

【２５７８】

また、パネル装飾基板１１３０のＬＥＤ１１３０ａ等により遊技パネル１１００のパネル板１１１０Ａを発光装飾させることができるため、例えば、ＬＥＤ１１３０ａをパネル板１１１０Ａの左側と右側に設け、夫々を独立して発光させることができるようにした上で、遊技の状況（進行）に応じて右側を発光させると、パネル板１１１０Ａを介して遊技領域５ａ内の右部が明るくなるため、遊技者の関心を遊技領域５ａの右部に向けさせることができ、遊技領域５ａの右部へ遊技球Ｂを打込む（「右打ち」する）ように促すことができる。一方、左側を発光させると、パネル板１１１０Ａを介して遊技領域５ａ内の左部が明るくなるため、遊技者の関心を遊技領域５ａの左部に向けさせることができ、遊技領域５ａの左部へ遊技球Ｂを打込む（「左打ち」する）ように促すことができる。このように、適宜位置のＬＥＤ１１３０ａを発光させることで、遊技パネル１１００（パネル板１１１０Ａ）の発光装飾が、「左打ち」や「右打ち」をアドバイスしていることを直感的に理解させることができ、遊技者に遊技球Ｂの打込操作を楽しませることができると共に、これまでのパチンコ機１にはない新感覚の発光演出により遊技者を楽しませることができる。

【２５７９】

また、遊技パネル１１００を、板状のパネル板１１１０Ａ（パネル板１１１０）と、パネル板１１１０Ａよりも厚い枠状でパネル板１１１０Ａの外周を保持しているパネルホルダ１１２０とで、構成するようにしているため、パネルホルダ１１２０の厚さを従来のパチンコ機の遊技パネルと同じ厚さにした場合、前方に遊技領域５ａが設けられるパネル板１１１０Ａ（パネル板１１１０）の厚さを従来の遊技パネルよりも薄くすることができ、遊技パネル１１００（パネル板１１１０、パネル板１１１０Ａ）に使用される材料の量が少なくなることでパチンコ機１にかかるコストを低減させることができる。

【２５８０】

また、遊技パネル１１００を、パネル板１１１０又はパネル板１１１０Ａとパネルホルダ１１２０とで構成しているため、パネル板１１１０Ａとパネルホルダ１１２０とを着脱可能としてパネルホルダ１１２０を共通の汎用部品することが可能となる。これにより、パネルホルダ１１２０を量産することで、パネルホルダ１１２０のコストを低減させることができる上に、機種毎に対応したパネル板１１１０又はパネル板１１１０Ａを製造するようすることで、新規や機種変更等にかかるコストを低減させることができる。

【２５８１】

更に、本実施形態のパチンコ機１によれば、保持部材１０６０における弾性爪１０６２を有する収容部１０６１に磁気センサ１０５０を収容した状態で、その弾性爪１０６２を磁気センサ１０５０に係止させることで、保持部材１０６０を介して磁気センサ１０５０を遊技盤５に設けることができる。また、弾性爪１０７２ａを有する保持容器１０７２に磁気センサ１０５０を収容した状態で、その弾性爪１０７２ａを保持部材１０７１の係止部１０７１ａに係止させることで、保持部材１０７１及び保持容器１０７２を介して磁気センサ１０５０を遊技盤５に設けることができる。この際に、保持部材１０６０、保持部材１０７１及び保持容器１０７２を非磁性体としているため、遊技領域５ａに磁石１０５５が近づけられた際に、保持部材１０６０等が磁石１０５５からの磁力線を引寄せてしまうことを回避させることができ、磁気センサ１０５０を通過する磁力線の減少を防止する

ことができる。従って、遊技領域５ａに作用する磁気を検知し易くすることができ、磁石１０５５を使用した不正行為を早期に検知することができると共に、磁気センサ１０５０による不審な磁気の検知を報知することで不正行為を思い止まらせることができ、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【２５８２】

また、上述したように、非磁性体からなる保持部材１０６０、保持部材１０７１及び保持容器１０７２により磁石１０５５からの磁力線の引寄せを回避させて、磁気センサ１０５０を通過する磁力線の減少を防止することができるため、従来のパチンコ機よりも少ない数の磁気センサ１０５０により遊技領域５ａに作用する磁気を効果的に検知することが可能となり、従来よりも磁気センサ１０５０の数を少なくすることができ、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。

【２５８３】

また、収容部１０６１の弾性爪１０６２や保持容器１０７２の弾性爪１０７２ａを弾性変形させることで、保持部材１０６０や保持部材１０７１の係止部１０７１ａに対する磁気センサ１０５０の取付けや取外しを容易に行うことができるため、従来のパチンコ機のように、磁性体からなる金属製のネジを使用しなくても、弾性爪１０６２や弾性爪１０７２ａにより磁気センサ１０５０を取付けることができると共に、パチンコ機１の組立にかかる手間を容易なものとすることができ、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。

【２５８４】

更に、予め保持部材１０７１に複数の係止部１０７１ａを設けるようにし、磁気センサ１０５０を収容した保持容器１０７２の弾性爪１０７２ａを、適宜位置の係止部１０７１ａに係止させることで、磁気センサ１０５０を任意の位置に設けたり、位置を容易に変更したりすることができる。従って、磁気センサ１０５０の位置変更や増設を容易に行うことができるため、パチンコ機１のコストの増加を抑制しつつ設計変更や機種変更に容易に対応することが可能なパチンコ機１を提供することができる。

【２５８５】

また、保持部材１０６０における突起１０６３により磁気センサ１０５０を収容部１０６１内へ付勢していることから、突起１０６３による付勢によって磁気センサ１０５０が細かく振動することを抑制することができるため、当該振動により磁気センサ１０５０に接続されているコネクタが外れたり接触不良が発生したりすることを低減させることができ、磁気センサ１０５０を確実に作動させることができる。

【２５８６】

また、磁気センサ１０５０を保持部材１０６０や保持部材１０７１及び保持容器１０７２により視認可能に保持していると共に、磁気センサ１０５０のセンサケース１０５３を透明としているため、透明なセンサケース１０５３を通してセンサ基板１０５２に実装されているセンサ本体１０５１を遊技者に見せることができる。この際に、センサ本体１０５１が実装されているセンサ基板１０５２の表面を白色としているため、色の異なる（例えば、黒色）センサ本体１０５１を目立たせることができる。従って、遊技者に対して磁気センサ１０５０がダミーでなく本物であることを強く認識させることができ、磁気センサ１０５０が見えることで磁石１０５５を使用した不正行為を行おうとする者に対して、不正行為の実行を躊躇させることができると共に、不正行為に対する抑止力を高めることができ、本パチンコ機１を設置する遊技ホール側の負担を軽減させることができる。

【２５８７】

また、透明なセンサケース１０５３を通してセンサ本体１０５１が見えても、普通の遊技者は、磁気センサ１０５０の存在に対してさして注意を払わないため、気になることはない。これに対して、不正行為を行おうとする者は、遊技領域５ａ内を注視するため、白色のセンサ基板１０５２と黒色のセンサ本体１０５１とのコントラストにより、磁気センサ１０５０が目に付き易くなり、良く見えてしまう。従って、磁気センサ１０５０の存在に気付くことで、磁石を使用した不正行為の実行を躊躇させることができ、抑止力の高い

パチンコ機１を提供することができる。
【２５８８】
更に、磁気センサ１０５０において、センサ本体１０５１が実装されているセンサ基板１０５２の表面を白色としているため、センサ基板１０５２を目立ち難くすることができると共に、センサ基板１０５２をＬＥＤが実装されている装飾基板と誤認させることができる。従って、磁気センサ１０５０のセンサ基板１０５２が見えていても、通常の遊技者であれば気になることはなく、遊技領域５ａの見栄えが悪くなることを回避させることができる。
【２５８９】
また、磁気センサ１０５０のセンサ本体１０５１を外部から見ることができることから、センサ本体１０５１の破損の有無を外部から確認することができるため、パチンコ機１のメンテナンスにかかる手間を容易なものとすることができ、本パチンコ機１を設置している遊技ホール側の負担を軽減させることができる。
【２５９０】
また、磁気センサ１０５０を非磁性体からなる保持部材１０６０や、保持部材１０７１及び保持容器１０７２等を介して遊技盤５に設けるようにしているため、保持部材１０６０や保持部材１０７１を遊技盤５に取付ける時に、ネジのような磁性体を使用して取付けるようにする場合、保持部材１０６０や保持部材１０７１における遊技盤５に取付けられる部位を、磁気センサ１０５０から離れた位置、或いは、遊技領域５ａにおける磁気の検知範囲外の位置、に設けることが可能となる。これにより、ネジ等の磁性体による影響を可及的に低減させることができるため、磁気センサ１０５０によって遊技領域５ａに作用する磁気を確実に検知させることができ、磁石１０５５を使用した不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１を提供することができる。
【２５９１】
［２１．ベースモニタの管理］
次に、ベースモニタ１３１０ｈの変形例について説明する。上述した実施形態では、遊技盤５から排出されて第一球経路７０１を流通する遊技球が第一球センサ７０３により検知されることでアウト球カウンタによりカウントされた遊技球Ｂの球数をベースモニタ１３１０ｈ（四つの７セグメントＬＥＤ）に表示する例について説明したが、上記とは別に、または上記に加えて、遊技の進行に伴い増加する入球数や払出数（賞球個数）を計数して、ベース値（入球数に対する払出数の割合）をベースモニタ１３１０ｈに表示可能としてもよい。なお、四つの７セグメントＬＥＤを有する点等、ベースモニタ１３１０ｈに関する基本構成は他の実施形態と共通である。
【２５９２】
遊技盤５に区画形成される遊技領域５ａには、遊技球Ｂが入球しうる複数の入球口が設けられている。複数の入球口のうち、入球により賞球を払い出す（賞球個数を付与する）対象である入賞口としては、遊技領域５ａ内に打込まれた遊技球Ｂを受入可能に常時開口している複数（ここでは三つ）の一般入賞口２００１と、遊技領域５ａ内の所定位置に設けられており遊技球Ｂを受入可能に常時開口している第一始動口２００２と、遊技球Ｂがゲート２００３に受入れられることにより抽選される普通図柄の抽選結果（普通抽選結果）に応じて遊技球Ｂの受入れが可能となる第二始動口２００４と、第一始動口２００２への遊技球Ｂの受入れにより抽選される第一特別図柄の抽選結果（第一特別抽選結果）又は第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより抽選される第二特別図柄の抽選結果（第二特別抽選結果）に応じて遊技球Ｂの受入れが可能となる大入賞口２００５や役物入賞口２００６と、を備えている。なお、一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、大入賞口２００５、役物入賞口２００６に入球した遊技球Ｂは、それぞれ一般入賞口センサ３００１、第一始動口センサ３００２、第二始動口センサ２４０１、大入賞口センサ２４０２、役物入賞口センサ２６０１で検出されている。
【２５９３】
また、複数の入球口のうち、入賞口に入球しなかった遊技球Ｂを回収するアウト口とし

ては、遊技領域５ａ内における最も下流に設けられており、遊技球Ｂを受入可能に常時開口していると共に、受入れた遊技球Ｂを戻すことなく遊技領域５ａ外に排出するアウト口１００８と、遊技領域５ａ内におけるアウト口１００８よりも上流に設けられており、遊技球Ｂを受入可能に常時開口していると共に、受入れた遊技球Ｂを戻すことなく遊技領域５ａ外に排出する第一サブアウト口２０２１及び第二サブアウト口２０２２と、を備えている。

【２５９４】

そして、複数の入球口のうち、アウト口１００８や第一サブアウト口２０２１、第二サブアウト口２０２２を通って遊技パネル１１００の後側へ排出された遊技球Ｂは、第一球経路７０１を流通して第一球センサ７０３により一つずつ検知（カウント）される。一方、一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、大入賞口２００５、役物入賞口２００６のような入賞口に受入れられて表ユニット２０００及び裏ユニット３０００から下方へ排出された遊技球Ｂは、第二球経路７０２を流通して第二球センサ７０４により一つずつ検知（カウント）される。

【２５９５】

主制御ＭＰＵ１３１０ａは、遊技盤５に区画形成される遊技領域５ａに設けられる入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数（入球数）、つまり遊技領域５ａ内から排出される遊技球Ｂの球数を計数している。具体的には、入球により賞球を払い出す対象である入賞口に入球した遊技球Ｂの球数として、第二球センサ７０４で検出された遊技球Ｂの球数と、入賞口に入球しなかった遊技球Ｂを回収するアウト口に入球した遊技球Ｂの球数として、第一球センサ７０３で検出された遊技球Ｂの球数と、の合計を入球数として計数している。

【２５９６】

また、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、入賞口への入球により賞球として払い出される（付与される）遊技球Ｂの球数（以下、払出数と称す）を計数している。具体的には、入球により賞球を払い出す対象である入賞口に対応して所定数の遊技球Ｂ（例えば、第一始動口２００２や第二始動口２００４への入球に対して３個など）を払い出すことが予め決められており、入球により賞球を払い出す対象である入賞口に対応する検出センサで検出されたときに、その所定数の遊技球Ｂの球数を、払出数として計数している。例えば、一般入賞口２００１へ遊技球Ｂが入球したときには、１０個の遊技球Ｂを払い出し、第一始動口２００２や第二始動口２００４へ遊技球Ｂが入球したときには、３個の遊技球Ｂを払い出し、大入賞口２００５や役物入賞口２００６へ遊技球Ｂが入球したときには、１０個の遊技球Ｂを払い出し、それら賞球として払い出される遊技球Ｂの球数を、払出数として計数している。なお、実玉での払い出しを行わない管理遊技機においては、賞球として払い出される（付与される）遊技球Ｂの球数の分だけ、遊技者の持ち球数に加算すればよい。

【２５９７】

そして、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、入球数に対する払出数の割合を算出し、その算出結果をベース値として、内蔵されているＲＡＭの特定領域に格納するとともに、ベースモニタ１３１０ｈに表示するようにしている。なお、入球数に対する払出数の割合の算出式としては、「ベース値＝（払出数÷入球数）×１００」が挙げられる。例えば、入球数に対する払出数の割合が多くなり過ぎている場合には、入球口のうち、入球により賞球を払い出す対象である入賞口ばかりに入球している可能性があり、ベースモニタ１３１０ｈに表示される情報を監視することで、不正行為により入賞口に入球させていないかなどを把握することができる。

【２５９８】

なお、本例では、複数の遊技状態のうち、低確率非時短状態である場合のみ、入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数（入球数）と、賞球として払い出される遊技球Ｂの球数（払出数）と、を計数するようにし、ベースモニタ１３１０ｈへの表示に反映させている。ここで、低確率時短状態（時短状態）や高確率時短状態（確変状態）では、第二始動口２００４に頻繁に入球することから、賞球として払い出される遊技球Ｂの球

数も多くなり、入球数に対する払出数の割合が多くなる傾向にある。つまり、入球数に対する払出数の割合が多くなるか否かは、低確率時短状態（時短状態）や高確率時短状態（確変状態）としている期間に左右されることになるが、そのような期間を除外することで、不正行為などがなければ、入球数に対する払出数の割合を一定の範囲内に収めることができる。

【２５９９】

また、ベースモニタ１３１０ｈには、入球数に対する払出数の割合を表示しているが、入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数（入球数）と、賞球として払い出される遊技球Ｂの球数（払出数）と、をそれぞれ表示することを可能にしてもよい。

【２６００】

また、ＲＡＭの特定領域に記憶されている情報（入球数に対する払出数の割合）については、電源投入時にＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆを操作していたとしても、その情報がクリアされることがない。ただし、入球数に対する払出数の割合については、入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数（入球数）が６００００球に到達するごとに、新たに入球数に対する払出数の割合を算出するようにし、古くなった入球数に対する払出数の割合の算出結果については、所定回数の算出結果までを履歴として保存するようにしている。このようなベースモニタ１３１０ｈの仕様において、例えば、新たに入球数に対する払出数の割合を算出する時点から、少なくとも入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数（入球数）が１０００球に到達するまでの間、その新たな入球数に対する払出数の割合に関する表示の実行を制限するようにしてもよい。これは、新たに入球数に対する払出数の割合を算出する直後においては、入球により賞球を払い出す対象である入賞口に入球する状況が続いて、基準値よりも入球数に対する払出数の割合が高くなったり、入球により賞球を払い出す対象である入賞口に入球しない状況が続いて、基準値よりも入球数に対する払出数の割合が低くなったりする等、偏りが生じやすくなっている。このため、新たに入球数に対する払出数の割合を算出する直後においては、ベースモニタ情報コマンドから得られる情報が信頼性の低いものであると判断し、入球数に対する払出数の割合に関する表示を実行しないこととすればよい。

【２６０１】

また、本例では、アウト口１００８や第一サブアウト口２０２１、第二サブアウト口２０２２に回収された遊技球Ｂについては、本体枠４側に設けられた第一球センサ７０３により検知（カウント）され、一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、大入賞口２００５、役物入賞口２００６のような入賞口に入球した遊技球Ｂについては、本体枠４側に設けられた第二球センサ７０４により検知（カウント）されているが、これらのセンサについては、遊技盤５側に設けられてもよい。また、アウト口１００８や第一サブアウト口２０２１、第二サブアウト口２０２２に回収された遊技球Ｂと、各種入賞口に入球した遊技球Ｂと、が合流するように通路を形成し、その通路上に１つのセンサを設けるようにし、その１つのセンサの検知により入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数（入球数）を計数するようにしてもよい。

【２６０２】

また、本例では、ベースモニタ１３１０ｈについては、主制御基板１３１０に配置されているが、払出制御基板６３３（管理遊技機においては枠制御基板）に配置されてもよい。このような場合、入球数に対する払出数の割合については、主制御基板１３１０側で算出し、その算出結果を、払出制御基板６３３を介してベースモニタ１３１０ｈに表示しているが、別の手法を用いてもよい。例えば、所定のタイミングで、入球数や払出数に関するコマンドを主制御基板１３１０から払出制御基板６３３に向けて送信するようにし、払出制御基板６３３では、入球数に対する払出数の割合を算出し、その算出結果を、ベースモニタ１３１０ｈに表示するようにしてもよい。このように、払出制御基板６３３側でベースモニタ関連の制御の一部を担うことで、主制御基板１３１０側の制御負担を軽減することができる。

【２６０３】

また、本例では、第一球センサ７０３や第二球センサ７０４を用いて入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数（入球数）を算出しているが、別の構成により、入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数（入球数）を算出するようにしてもよい。例えば、払出制御基板６３３側で入球数に対する払出数の割合を算出する場合等は、球発射装置５４０において発射された遊技球を検知する発射センサ（図示しない）の検知結果に基づいて遊技領域５ａに発射された遊技球の数を算出し、この数値（遊技領域５ａに発射された遊技球の数）を「入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数（入球数）」に代替するようにしてもよい。なお、ここでいう「遊技領域に発射された遊技球の数」には、上述したファール球として処理された球数は除くことが好ましい。このようにした場合、払出制御基板６３３側でのベース値の演算は、「ベース値＝（払出数÷遊技領域に発射された遊技球の数）×１００）」等が例示できる。このように、払出制御基板６３３側でベースモニタ関連の制御の一部を担うことでも、主制御基板１３１０側の制御負担を軽減することができる。

【２６０４】

［２１－１．新たな態様の遊技管理］

近年では、新たな不正行為等により大量の出玉が不正行為者に付与された場合でも、当落に関する確率の偏りにより大量の出玉が遊技者に付与されてしまった場合と見分けがつかず、遊技ホール側が不正行為者に対する遊技停止を促すことが困難な場合があり、遊技機の管理がし難いという問題が生じている。また、当落に関する確率の偏りにより大量の出玉が正規の遊技者に付与されてしまう場合もあり、所謂「のめり込み」等についても問題が生じている。そこで、これら問題を解決する一実施形態として、大量の出玉を付与した遊技機の管理の適正化を図ることを目的とし、上述したベース値を演算、表示する制御とは別に、「所定期間の出玉量」を新たに抽出して遊技進行に反映させる新たな遊技制御について、以下に説明する。

【２６０５】

（所定期間の出玉量の抽出）

本例のパチンコ機１は、所定期間の出玉量（差玉量）として、以下の２種類の出玉量Ａ、出玉量Ｂを主制御基板１３１０が演算して導出可能にしている。

【２６０６】

まず、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ハンドル１６０の操作により遊技領域５ａに発射される遊技球Ｂの球数（発射数）を計数している。具体的には、ハンドル１６０を操作して遊技領域５ａに遊技球Ｂが発射されるときには、７から遊技球Ｂが発射されたことを発射センサが検知しているが、その遊技球Ｂの球数（ファール球として処理された球数を除く）を、出玉量Ａ、Ｂの演算用の「発射数」として計数している。なお、発射数の計数は、別の手法でもよく、例えば、発射センサとは別のセンサを搭載し、遊技領域５ａに進入した遊技球を検知して計数するようにしてもよい。

【２６０７】

また、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、入賞口への入球により賞球として払い出される（付与される）遊技球Ｂの球数（払出数）を計数している。具体的には、入球により賞球を払い出す（付与する）対象である入賞口に対応して所定数の遊技球Ｂ（例えば、第一始動口２００２や第二始動口２００４への入球に対して３個など）を払い出す（付与する）ことが予め決められており、入球により賞球を払い出す対象である入賞口に対応する検出センサで検出されたときに、その所定数の遊技球Ｂの球数を、出玉量Ａ、Ｂの演算用の「払出数（付与数）」として計数している。例えば、一般入賞口２００１へ遊技球Ｂが入球したときには、１５個の遊技球Ｂを払い出し、第一始動口２００２や第二始動口２００４へ遊技球Ｂが入球したときには、３個の遊技球Ｂを払い出し、大入賞口２００５や役物入賞口２００６へ遊技球Ｂが入球したときには、１５個の遊技球Ｂを払い出し、それら賞球として払い出される遊技球Ｂの球数を、出玉量Ａ、Ｂの演算用の払出数として計数している。なお、本例のパチンコ機１では、実玉での払い出しは伴わないため、賞球個数として付与される遊技球Ｂの球数が出玉量Ａ、Ｂの演算用の払出数として計数される。

【２６０８】
そして、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、後述する所定のクリア条件が成立するまでの期間内で発射数と払出数との差分を算出し、その算出結果を出玉量Ａ、Ｂを算出するための値として「打ち止め用カウンタ」に記憶保持可能になっている。打ち止め用カウンタの値は、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されているＲＡＭの特定領域に格納している。なお、発射数と払出数との差分の算出式としては、「打ち止め用カウンタの値＝払出数－発射数」が挙げられる。例えば、打ち止め用カウンタの値が多くなり過ぎている場合には、遊技者の入れ替わりの有無を問わず、パチンコ機１から大量の出玉が付与されていることを把握することができる。また、本例のパチンコ機１では、遊技球Ｂの発射により遊技者Ａの通常の持ち球数を減算するとともに、賞球の払い出しにより遊技者Ａの通常の持ち球数を加算して、遊技者Ａの通常の持ち球数（遊技者の持ち球数を表示する持ち球数表示部に表示される持ち球数）の増減を管理しているが、上述した通り、打ち止め用カウンタの値は、通常の持ち球数とは別にＲＡＭの特定領域に格納（記憶）されて主制御ＭＰＵ１３１０ａに管理されるものとなっている。この打ち止め用カウンタの値についても、遊技球Ｂの発射により減算されるとともに賞球の払い出しにより加算されるものであり、この点については、通常の持ち球数の増減を管理する処理と類似している。しかしながら、打ち止め用カウンタの値は、遊技者が精算可能なものではなく、この点で通常の持ち球数と大きく相違する。以下では、打ち止め用カウンタの値を用いて算出される出玉量Ａ、Ｂについて説明する。

【２６０９】
出玉量Ａは、後述する所定のクリア条件が成立するまでの期間内で打ち止め用カウンタがもっとも多くなった時点での値と、後述する所定のクリア条件が成立するまでの期間内で打ち止め用カウンタがもっとも少なくなった時点での値との差分である。つまり、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、このような打ち止め用カウンタの推移を記憶しておき、打ち止め用カウンタの最大値と最小値の差分を算出し、その算出結果を出玉量Ａとして随時更新し、内蔵されているＲＡＭの特定領域に格納している。そして、出玉量Ａについては、後述する所定のクリア条件が成立することでクリアし、初期値である０に戻されるものとしている。なお、遊技機の種別が前述した所謂、封入式遊技機、管理遊技機の場合には、後述するクリア条件に「持ち球の精算（例えば計数ボタンスイッチの操作）」は含まないようにしてもよく、この場合には遊技者Ａの精算後に遊技者Ｂが遊技を開始した場合にも、クリア条件が成立していない限りは、遊技者Ａと遊技者Ｂの双方の遊技進行過程における出玉量Ａが累積されるかたちで記憶保持される（維持される）ように構成すればよい。これにより、一の遊技機が一の遊技者に対して想定外に大量の出玉が付与された場合だけでなく、一の遊技機が複数の遊技者に対して想定外に大量の出玉を付与している場合も把握することができる。

【２６１０】
出玉量Ｂは、予め定められた初期値である０と、後述する所定のクリア条件が成立するまでの期間内にて打ち止め用カウンタがもっとも多くなった時点での値との差分である。つまり、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、このような打ち止め用カウンタの推移を記憶しておき、初期値である０を起点とし、打ち止め用カウンタがもっとも多くなった時点での値の差分（すなわち０以上の差分）を算出し、その算出結果を出玉量Ｂとして随時更新し、内蔵されているＲＡＭの特定領域に格納している。そして、出玉量Ｂについては、後述する所定のクリア条件が成立することでクリアし、初期値である０に戻されるものとしている。なお、遊技機の種別が前述した所謂、封入式遊技機、管理遊技機の場合には、後述するクリア条件に「持ち球の精算（計数ボタンスイッチの操作）」は含まないようにしてもよく、この場合には遊技者Ａの精算後に遊技者Ｂが遊技を開始した場合にも、クリア条件が成立していない限りは、遊技者Ａと遊技者Ｂの双方の遊技進行過程における出玉量Ｂが累積されるかたちで記憶保持される（維持される）ように構成すればよい。これにより、一の遊技機が一の遊技者に対して想定外に大量の出玉が付与された場合だけでなく、一の遊技機が複数の遊技者に対して想定外に大量の出玉を付与している場合も把握することがで

きる。
【２６１１】
図２１４は、打ち止め用カウンタの推移に対して算出される出玉量の一例を示すタイムチャートである。ここでは、打ち止め用カウンタが初期値である０からスタートし、遊技を行うことで打ち止め用カウンタが増減を繰り返す場合の具体例について説明する。
【２６１２】
図２１４に示すように、打ち止め用カウンタについては、初期値である０からスタートした後、初期値である０を起点として－２０００に減少し、３０００に増加し、－４０００に減少し、２０００に増加し、－５００に減少し、４０００に増加し、２５００に減少するように推移している。このような場合、出玉量Ａについては、打ち止め用カウンタがもっとも多くなった時点での４０００と、打ち止め用カウンタがもっとも少なくなった時点での－４０００との差分として、８０００が算出されて記憶保持される。一方、出玉量Ｂは、打ち止め用カウンタが初期値である０を起点とし、打ち止め用カウンタがもっとも多くなった時点での４０００として、４０００が算出されて記憶保持される。なお、出玉量Ａ、Ｂは、差分の最大値が記憶保持され、差分の最大値が新たに算出されることで、記憶保持される出玉量Ａ、Ｂが更新されることとなる。
【２６１３】
本例では、出玉量として、２種類の出玉量Ａ、出玉量Ｂを主制御基板１３１０が演算しているが、いずれを採用するかは、ホール側の運営スタイルに合わせてホール側が自由に選択しうるように構成している。具体的には、パチンコ機１の裏面側（例えば、主制御基板１３１０）において、ホール管理者が操作可能な操作スイッチＡが設けられており、その操作スイッチＡを操作することで、出玉量Ａ、出玉量Ｂのいずれかを選択するものとしている。一方、出玉量については、主制御基板１３１０の制御負担を考慮して、出玉量Ａ、出玉量Ｂのいずれか一方のみを採用して搭載するようにしてもよい。また、出玉量Ａ、出玉量Ｂのいずれかを選択する場合の操作スイッチＡの操作については、電源投入時のみ判定して何れが選択されているかを反映するものでもよいし、電源投入後にも随時判定して何れが選択されているかを随時（リアルタイムに）反映するものでもよい。
【２６１４】
また、上述したベース値の演算については、入球数に対する払出数の割合を算出しているのに対し、出玉量の演算については、発射数と払出数との差分を算出しているが、これらの演算プログラムについては、主制御ＭＰＵ１３１０ａにおける別プログラムで実行するようにしている。これにより、ベース値の演算が正常に行われない場合であっても、出玉量の演算に影響を与えることがなく、後述する所定のクリア条件を含め、ベース値や出玉量の初期化に係る処理等の制御も別々に行うことを容易にすることができる。また、機種ごとに、出玉量の演算プログラムを書き換えることが容易となり、例えば、出玉量Ａ、出玉量Ｂのうちいずれを採用するかを機種ごとに簡単に変更することができるようになる。
【２６１５】
また、上述したベース値については、ベースモニタ１３１０ｈに表示しているが、出玉量については、ベース値とは異なり、不正防止の観点から、常時は表示しないことが望ましい。ただし、ホール管理者が所定の操作（例えば電源投入に専用のスイッチ操作が行われたときなど）を行ったときには、出玉量を所定の表示器（例えば演出表示装置１６００や、遊技機裏面側に設けた専用の表示装置、ベースモニタ１３１０ｈ、設定表示器１３１０ｇ）に表示するようにしてもよい。
【２６１６】
また、本例では、出玉量については、主制御基板１３１０側で演算しているが、別の手法を用いてもよい。例えば、払出制御基板６３３側に打ち止め用カウンタを設け、所定のタイミングで、発射数や払出数に関するコマンドを主制御基板１３１０から払出制御基板６３３に向けて送信するようにし、払出制御基板６３３では、打ち止め用カウンタを管理し、その打ち止め用カウンタの増減から出玉量を算出するようにしてもよい。また、主制

御基板１３１０側に打ち止め用カウンタを設け、所定のタイミングで、打ち止め用カウンタに関するコマンドを主制御基板１３１０から払出制御基板６３３に向けて送信するようにし、払出制御基板６３３では、受信した打ち止め用カウンタの増減から出玉量を算出するようにしてもよい。また、制御負担を軽減する観点から、出玉量については、主制御基板１３１０側で演算しているのに対し、上述したベース値については、払出制御基板６３３側で演算するようにしてもよい。また、制御負担を軽減する観点から、通常の持ち球数と、打ち止め用カウンタの管理とを主制御基板１３１０側と払出制御基板６３３側とで別々に演算するようにしてもよい。

【２６１７】

また、出玉量の演算については、発射数と払出数との差分である打ち止め用カウンタを用いて算出しているが、これとは別に、上述したベース値で用いられた入球数を用いて、「入球数と払出数との差分」を打ち止め用カウンタに記憶保持して出玉量を演算するようにしてもよい。つまり、出玉量Ａ、Ｂの演算用の「発射数」については、「入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数（入球数）」に代替するようにしてもよい。このようにした場合、打ち止め用カウンタの値は、「打ち止め用カウンタの値＝払出数－入球数」等が例示できる。このように、打ち止め用カウンタに記憶保持する値として、上述したベース値で用いられた入球数を用い、主制御基板１３１０側でベースモニタ関連の制御の一部と共通化することでも、主制御基板１３１０側の制御負担を軽減することができる。なお、パチンコ機１では、ハンドル１６０の操作により遊技領域５ａに発射された遊技球が、入球口（入賞口、アウト口）に入球して外部に排出される構成であるところ、発射数と入球数は略同じ値を示すはずであり、結果として発射数と入球数とのいずれを用いたとしても、出玉量については略同じ値を示すこととなる。

【２６１８】

（遊技の制限）

本例のパチンコ機１は、上述した出玉量（出玉量Ａ、Ｂ）が特定値に達したときに、以下の３種類の制限パターンのいずれかを実行し、主制御基板１３１０が打ち止め状態にして遊技の制限を実行可能にしている。なお、出玉量が特定値に達したときには、以降の遊技の制限を実行しているが、遊技状態（高確率状態や時短状態、記憶されている保留数の情報、変動中の図柄に関する情報）などの遊技に関する情報については、クリアしないで保持するようにしている。そして、詳しくは後述するが、遊技に関する情報については、電源遮断後の再投入時において、維持するか又はクリアするかを選択しうるように構成している。

【２６１９】

まず、特定値については、予め定められた５００００発、８００００発、１０００００発のいずれかを選択しうるように構成している。具体的には、パチンコ機１の裏面側（例えば、主制御基板１３１０）において、ホール管理者が操作可能な操作スイッチＢが設けられており、その操作スイッチＢを操作することで、５００００発、８００００発、１０００００発のいずれかを選択するものとしている。ここでは、特定値として低い値を選択するほど、遊技の制限を実行する可能性が高いものとなり、特定値として高い値を選択するほど、遊技の制限を実行する可能性が低いものとなる。なお、特定値については、各種処理プログラムを記憶するＲＯＭの容量抑制の観点から、いずれか１つのみを採用するようにしてもよい。また、選択される特定値は、出玉量Ａ、Ｂで共通に用いられるものでもよいし、出玉量Ａ、Ｂで別々に選択可能にしても良い。また、特定値を複数のいずれかに選択する場合の操作スイッチＢの操作については、電源投入時のみ判定して何れが選択されているかを反映するものでもよいし、電源投入後にも随時判定して何れが選択されているかを随時（リアルタイムに）反映するものでもよい。

【２６２０】

また、制限パターンについては、遊技の制限内容が異なる制限パターン１～３のいずれかを選択しうるように構成している。具体的には、パチンコ機１の裏面側（例えば、主制御基板１３１０）において、ホール管理者が操作可能な操作スイッチＣが設けられており

、その操作スイッチＣを操作することで、制限パターン１～３のいずれかを選択するものとしている。なお、制限パターンについては、各種処理プログラムを記憶するＲＯＭの容量抑制の観点から、制限パターン１～３のいずれか１つのみを採用するようにしてもよい。また、制限パターンを複数のいずれかに選択する場合の操作スイッチＣの操作については、電源投入時のみ判定して何れが選択されているかを反映するものでもよいし、電源投入後にも随時判定して何れが選択されているかを随時（リアルタイムに）反映するものでもよい。

【２６２１】

制限パターン１は、出玉量が特定値に達したときに、「遊技停止」を伴う打ち止め状態を行うパターンである。「遊技停止」した場合には、遊技者がハンドル１６０を操作したときに、遊技領域５ａへ遊技球の発射ができるが、始動入賞があったとしても、遊技球の払い出しがなく、特別図柄の変動表示を開始することができず、通常の遊技を行うことができない状態としている。つまり、遊技球の発射が許可されているものの、実行中の主制御基板１３１０側での遊技（主遊技）を強制的に停止させて、主制御基板１３１０側での遊技（主遊技）を進行させることができない状態となる。

【２６２２】

制限パターン２は、出玉量が特定値に達したときに、「発射停止」を伴う打ち止め状態を行うパターンである。「発射停止」した場合には、遊技者がハンドル１６０を操作したときに、遊技領域５ａへ遊技球の発射ができない。ただし、仮に始動入賞があったときには、遊技球の払い出しがあり、特別図柄の変動表示を開始することができ、通常の遊技を行うことができる状態としている。つまり、遊技球の発射が許可されていないことから、そもそも始動入賞することがなく、実行中の主制御基板１３１０側での遊技（主遊技）の進行までは許容するものの、それ以降には主制御基板１３１０側での遊技（主遊技）を進行させることができない状態となる。なお、「発射停止」の具体的な状況としては、払出制御基板６３３が遊技球の循環を行うことができない状態、例えば、ハンドル１６０を操作しても球発射装置５４０から遊技球Ｂが発射されない状態に制御することが例示できる。

【２６２３】

制限パターン３は、出玉量が特定値に達したときに、「遊技停止」と「発射停止」の両方を伴う打ち止め状態を行うパターンである。「遊技停止」と「発射停止」した場合には、遊技者がハンドル１６０を操作したときに、遊技領域５ａへ遊技球の発射ができないだけでなく、仮に始動入賞があったとしても、遊技球の払い出しがなく、特別図柄の変動表示を開始することができず、通常の遊技を行うことができない状態としている。つまり、遊技球の発射が許可されておらず、実行中の主制御基板１３１０側での遊技（主遊技）も強制的に停止させて、主制御基板１３１０側での遊技（主遊技）を進行させることができない状態となる。

【２６２４】

また、遊技機外に実球としての賞球を払い出すことなく遊技球を循環使用するタイプの遊技機（所謂、封入式遊技機、管理遊技機）においては、制限パターン１～３のいずれにおいても、持ち球がある状態で遊技者が押圧操作することで持ち球を精算することが可能な計数ボタンスイッチの操作による精算処理は不能にせずに実行可能にする（許容する）ようにしてもよい。これにより、制限パターン１～３のいずれかによって遊技者による遊技継続が出来なくなった場合であっても、計数ボタンスイッチを操作して精算処理を実行することができるので、遊技者を混乱させることを抑止できる。ただし、不正行為等により大量の出玉が不正行為者に付与されていることを警戒することを考慮して、制限パターン１～３のいずれにおいても、計数ボタンスイッチに操作による精算処理も不能にしておくようにしてもよい。このような場合には、不正行為でないことが確認された後にホール管理者による所定の操作（例えば払出制御基板６３３に設けた予備計数ボタンスイッチの操作等）で計数ボタンスイッチの操作を有効にできるようにしておく（精算処理を実行可能にしておく）ことが考えられる。

【２６２５】
　また、上述した、制限パターン１～３のいずれかが適用されている間は「打ち止め状態」として後述するクリア条件が成立するまで強制的に継続するようになっている。後述するクリア条件は遊技者側の何らかの操作で成立するものは除外され、遊技者が解除することはできないようになっている。なお、遊技機外に実球としての賞球を払い出すことなく遊技球を循環使用するタイプの遊技機（所謂、封入式遊技機、管理遊技機）において、打ち止め状態では遊技者側で計数ボタンスイッチを操作して精算処理を実行することは許容するようにした場合であっても、計数ボタンスイッチが操作されて精算処理が実行された以後も打ち止め状態が継続するようにしてもよい。また、精算処理が実行された以後に打ち止め状態が継続する場合には、新たな遊技者が遊技を開始することができないように、新たな遊技者の通常の持ち球数の加算や、遊技球貸出装置８からのデータ転送を受付不能にしておくことが好ましい。さらに、そのような場合には、持ち球数表示部の表示態様を、例えば「ＥＥＥＥ」等の打ち止め状態に対応した受付不能態様で制御するようにし、新たな遊技者に遊技開始できないことを知らせるようにしておくことが考えられる。
【２６２６】
　本例では、出玉量が特定値に達したときに、制限パターン１～３のいずれかに基づいて遊技の制限を実行する打ち止め状態を発生させることで、不正行為等により大量の出玉が不正行為者に付与されることがなく、不正行為を防止することができる。また、当落に関する確率の偏りにより大量の出玉が正規の遊技者に付与されることがなく、所謂「のめり込み」等についての問題が生じることを防止することができる。これにより、大量の出玉を付与した遊技機の管理の適正化を図ることができる。
【２６２７】
　また、本例では、打ち止め状態にて制限する遊技の制限内容として、「遊技停止」、「発射停止」、「遊技停止」と「発射停止」の両方を行うパターンを挙げているが、出玉量が特定値に達した後に出玉を増加しにくくする制限内容であれば、これらの手法に限られない。例えば、別の制限内容として、出玉量が特定値に達した後に開始される全ての特別図柄の変動表示にかかる時間（変動時間）を長いものとし、始動入賞があったとしても、特別図柄の変動表示の結果が表示されるまでの時間がかかるものとし、遊技進行を制限するようにしてもよい。また、遊技状態として低確率状態、低確率状態よりも当選確率が高められた高確率状態のうちいずれかに制御する遊技機において、高確率状態にするべき当選になったか否かにかかわらず、出玉量が特定値に達した後は強制的に低確率状態にのみ制御するものとし、遊技進行を制限するようにしてもよい。これらの場合、遊技の制限前と比べて、当選するまでの時間がかかるものとなることから、以降は得られる出玉量が増加しにくくなり、遊技を継続しようとする意欲を減退させることができる。また、出玉量が特定値に達した後には、「遊技停止」や「発射停止」を行わないものの、出玉量が特定値に達したことに対応する特殊報知を演出表示装置１６００や他の演出装置を用いて行うようにしてもよい。このような場合、特殊報知によって演出の進行が阻害されることとなり、遊技を継続しようとする意欲を減退させることができる。また、特殊報知を行う場合には、演出表示装置１６００の全画面で特殊な画像を表示するようにし、従来の演出表示が一切視認できないようにすることが好ましく、こうした場合には、演出の進行が大きく阻害されることとなり、遊技を継続しようとする意欲をより効果的に減退させることができる。
【２６２８】
　また、本例では、上述した出玉量が特定値に達したとしても、後述するクリア条件が成立するまでは出玉量の情報を消去せずに記憶保持するようにしている。なお、出玉量が特定値に達した後は、出玉量Ａ、Ｂの更新（打ち止め用カウンタの更新）を強制的に停止させるようにしてもよいし、停止させることなく引き続き演算するようにしても良い。また、例えば、出玉量Ａ、Ｂの更新（打ち止め用カウンタの更新）を停止させることなく引き続き行う場合には、上述した「発射停止」が行われないときに何らかの不具合や不正によって遊技球が発射されて打ち止め用カウンタが減少傾向に作用してしまったことが考えら

れる。そのような場合には、打ち止め用カウンタが特定値を下回ってくる可能性があるが、それらを考慮して、一旦出玉量が特定値に達した後は、それ以降に打ち止め用カウンタの減少が生じたとしても打ち止め状態を終了させることなく継続させるようにしておくことが好ましい。

【２６２９】

（出玉量及び遊技の制限のクリア）

本例のパチンコ機１は、出玉量が特定値に達したときに打ち止め状態を発生させるようにしているが、「打ち止め状態が開始される前に算出された出玉量」及び「打ち止め状態中の遊技の制限」については、電源遮断後の再投入時において、遊技ホール側で維持するか又はクリアするかを選択可能にしている。

【２６３０】

まず、電源投入時操作の態様としては、以下の５種類の電源投入パターンが設けられている。電源投入パターン１は、電源投入時（電源スイッチ７５１の操作時）において、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆおよび設定キースイッチをＯＮ操作しない場合であり、設定値の設定変更や確認表示を行うことなく、電源遮断時の遊技状態（遊技情報）が初期化されることなく維持されている。

【２６３１】

電源投入パターン２は、電源投入時において、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆをＯＮ操作し、設定キースイッチをＯＮ操作しない場合であり、設定値の設定変更や確認表示を行うことはないが、主制御基板１３１０に内蔵されているＲＡＭを初期化するラムクリアを実行し、電源遮断時の遊技状態を初期化している。ただし、設定値に関する情報については、ラムクリアで初期化することがない。

【２６３２】

電源投入パターン３は、電源投入時において、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆをＯＮ操作し、設定キースイッチをＯＮ操作する場合であり、設定値の設定変更を行った後に、主制御基板１３１０に内蔵されているＲＡＭを初期化するラムクリアを実行し、電源遮断時の遊技状態を初期化している。ただし、設定値に関する情報については、ラムクリアで初期化することがない。

【２６３３】

電源投入パターン４は、電源投入時において、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆをＯＮ操作しないで、設定キースイッチをＯＮ操作する場合であり、設定値の確認表示を行った後に、電源遮断時の遊技状態が初期化されることなく維持されている。

【２６３４】

電源投入パターン５は、電源投入時において、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆおよび設定キースイッチをＯＮ操作しない点で、電源投入パターン１と同じであるが、遊技機の種別が前述した所謂、封入式遊技機、管理遊技機の場合において、払出制御基板６３３に設けられてパチンコ機１に封入されている遊技球Ｂを外部へ抜く際に使用する球抜スイッチをＯＮ操作する場合であり、設定値の設定変更や確認表示を行うことなく、電源遮断時の遊技状態（遊技情報）を維持している。ここで、球抜スイッチをＯＮ操作した場合には、上述した球抜処理が実行されて封入されている遊技球Ｂをパチンコ機１の外部（球受トレー７２０）へ抜くことができる。なお、電源投入時において、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆや設定キースイッチをＯＮ操作されており、且つ、球抜スイッチもＯＮ操作している場合は、設定値の設定変更や確認表示、ラムクリアが行われることなく、上述した球抜処理が優先的に実行されるものとなっている。

【２６３５】

このように、電源投入パターン１～５のうち、電源投入パターン２、３については、電源投入時にＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆをＯＮ操作することで、電源遮断時の遊技状態を初期化しているのに対し、電源投入パターン１、４、５については、電源投入時にＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆをＯＮ操作しないことで、電源遮断時の遊技状態を維持している。なお、電源遮断時の遊技状態とは、高確率状態や時短状態、当り遊技状態などの

遊技状態の他に、実行中の特別図柄の変動表示の有無、保留の有無、などが含まれる。そして、電源投入パターン２、３で電源投入した場合には、電源遮断時の遊技状態に復帰しないが、電源投入パターン１、４、５で電源投入した場合には、電源遮断時の遊技状態に復帰することとなる。

【２６３６】

図２１５は、「打ち止め状態が開始される前に算出された出玉量」及び「打ち止め状態中の遊技の制限」のクリア条件を示すテーブルである。本例では、クリア条件が異なる制限クリアパターンテーブル１～３のいずれかを選択しうるように構成している。具体的には、パチンコ機１の裏面側（例えば、主制御基板１３１０）において、ホール管理者が操作可能な制限クリアパターン選択スイッチが設けられており、その制限クリアパターン選択スイッチを操作することで、制限クリアパターンテーブル１～３のいずれかを選択するものとしている。なお、制限クリアパターンテーブルについては、各種処理プログラムを記憶するＲＯＭの容量抑制の観点から、制限クリアパターンテーブル１～３のいずれか１つのみを採用するようにしてもよい。また、制限クリアパターンテーブル１～３を選択する場合の制限クリアパターン選択スイッチの操作については、電源投入時のみ判定して何れが選択されているかを反映するものでもよいし、電源投入後にも随時判定して何れが選択されているかを随時（リアルタイムに）反映するものでもよい。また、図２１５の「出玉量」については、「打ち止め用カウンタの値」も包含するものであり、本例では、出玉量が維持される場合には、打ち止め用カウンタの値も維持され、出玉量がクリアされる場合には、打ち止め用カウンタの値もクリアされるものとなっている。

【２６３７】

図２１５（Ａ）には、制限クリアパターン選択スイッチが「１」の場合に選択される制限クリアパターンテーブル１を示している。電源投入パターン１は、電源投入時において、電源遮断時の遊技状態を維持しているが、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」及び「打ち止め状態中の遊技の制限」についても、維持している。このような打ち止め状態が維持されている場合には、主制御基板１３１０側での遊技（主遊技）を進行させることができない状態が維持されることとなる。また、外部に知らせる報知態様としては、電源投入時から所定期間が経過するまでの間、遊技盤５や扉枠３の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤを青色で発光するようにし、スピーカから「出玉量、打ち止め状態は維持されています。」という音声を出力するようにし、演出表示装置１６００にも「出玉量、打ち止め状態は維持されています」というメッセージ画像を表示するようにしている。

【２６３８】

電源投入パターン２は、電源投入時において、電源遮断時の遊技状態をクリア（初期化）しているが、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」及び「打ち止め状態中の遊技の制限」についても、クリア（初期化）している。具体的には、上述した制限パターン１で遊技が制限されている場合には、「遊技停止」しているが、打ち止め状態がクリアされることで、「遊技停止」を解除し、制限パターン２で遊技が制限されている場合には、「発射停止」しているが、打ち止め状態がクリアされることで、「発射停止」を解除し、制限パターン３で遊技が制限されている場合には、「遊技停止」および「発射停止」しているが、打ち止め状態がクリアされることで、「遊技停止」および「発射停止」を解除し、いずれの場合にも、主制御基板１３１０側での遊技（主遊技）を再開させることが可能になっている。また、外部に知らせる報知態様としては、電源投入時から所定期間が経過するまでの間、遊技盤５や扉枠３の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤを赤色で発光するようにし、スピーカから「出玉量、打ち止め状態をクリアしました。」という音声を出力するようにし、演出表示装置１６００には「出玉量、打ち止め状態をクリアしました」というメッセージ画像を表示するようにしている。

【２６３９】

電源投入パターン３は、電源投入時において、電源遮断時の遊技状態をクリア（初期化）しているが、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉

量」及び「打ち止め状態中の遊技の制限」についても、クリア（初期化）している。また、外部に知らせる報知態様としては、電源投入時から所定期間が経過するまでの間、遊技盤５や扉枠３の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤを赤色で発光するようにし、スピーカから「出玉量、打ち止め状態をクリアしました。」という音声を出力するようにし、演出表示装置１６００には「出玉量、打ち止め状態をクリアしました」というメッセージ画像を表示するようにしている。

【２６４０】

電源投入パターン４は、電源投入時において、電源遮断時の遊技状態を維持しているが、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」及び「打ち止め状態中の遊技の制限」についても、維持している。また、外部に知らせる報知態様としては、電源投入時から所定期間が経過するまでの間、遊技盤５や扉枠３の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤを青色で発光するようにし、スピーカから「出玉量、打ち止め状態をクリアしました。」という音声を出力するようにし、演出表示装置１６００には「出玉量、打ち止め状態をクリアしました」というメッセージ画像を表示するようにしている。

【２６４１】

電源投入パターン５は、電源投入時において、電源遮断時の遊技状態を維持しているが、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」及び「打ち止め状態中の遊技の制限」についても、維持している。また、外部に知らせる報知態様としては、電源投入時から所定期間が経過するまでの間、遊技盤５や扉枠３の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤを青色で発光するようにし、スピーカから「出玉量、打ち止め状態は維持されています。」という音声を出力するようにし、演出表示装置１６００には「出玉量、打ち止め状態は維持されています」というメッセージ画像を表示するようにしている。

【２６４２】

このように、制限クリアパターンテーブル１では、電源投入時において、電源投入パターン２、３のように電源遮断時の遊技状態をクリア（初期化）した場合のみ、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」及び「打ち止め状態中の遊技の制限」をクリア（初期化）している。一方、電源投入時において、電源投入パターン１、４、５のように電源遮断時の遊技状態を維持した場合には、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」及び「打ち止め状態中の遊技の制限」を維持している。これによれば、電源遮断時の遊技状態だけでなく、出玉量および打ち止め状態を一括してクリアすることから、出玉量および打ち止め状態をクリアするか否かのホール管理者の操作ミスを発生しにくくすることができる。

【２６４３】

図２１５（Ｂ）には、制限クリアパターン選択スイッチが「２」の場合に選択される制限クリアパターンテーブル２を示している。電源投入パターン１～５のうち、電源投入パターン２～５については、制限クリアパターンテーブル１と同じであるため、説明を省略する。

【２６４４】

電源投入パターン１は、電源投入時において、電源遮断時の遊技状態を維持しているが、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」及び「打ち止め状態中の遊技の制限」については、クリア（初期化）している。また、外部に知らせる報知態様としては、電源投入時から所定期間が経過するまでの間、遊技盤５や扉枠３の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤを黄色で発光するようにし、スピーカから「出玉量、打ち止め状態をクリアしました。」という音声を出力するようにし、演出表示装置１６００には「出玉量、打ち止め状態をクリアしました」というメッセージ画像を表示するようにしている。

【２６４５】

このように、電源投入パターン１は、電源投入時において、電源遮断時の遊技状態を維

持する点で、電源投入パターン４と同じであるが、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」及び「打ち止め状態中の遊技の制限」をクリア（初期化）する点で、電源投入パターン４とは異なっている。つまり、制限クリアパターンテーブル２では、電源投入時において、電源遮断時の遊技状態を維持した場合に、電源投入パターン１のように「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」及び「打ち止め状態中の遊技の制限」をクリア（初期化）するか、電源投入パターン４のように「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」及び「打ち止め状態中の遊技の制限」を維持するか、をホール管理者が選択することができる。また、電源投入パターン１は、電源投入時において、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆおよび設定キースイッチをＯＮ操作する必要がないことから、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」及び「打ち止め状態中の遊技の制限」のクリア（初期化）については、ホール管理者が簡単な作業で行うことができる。

【２６４６】

図２１５（Ｃ）には、制限クリアパターン選択スイッチが「３」の場合に選択される制限クリアパターンテーブル３を示している。電源投入パターン１～５のうち、電源投入パターン１、３～５については、制限クリアパターンテーブル１と同じであるため、説明を省略する。

【２６４７】

電源投入パターン２は、電源投入時において、電源遮断時の遊技状態をクリア（初期化）しているが、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」及び「打ち止め状態中の遊技の制限」については、維持している。また、外部に知らせる報知態様としては、電源投入時から所定期間が経過するまでの間、遊技盤５や扉枠３の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤを青色で発光するようにし、スピーカから「出玉量、打ち止め状態は維持されています。」という音声を出力するようにし、演出表示装置１６００には「出玉量、打ち止め状態は維持されています」というメッセージ画像を表示するようにしている。

【２６４８】

このように、電源投入パターン２は、電源投入時において、電源遮断時の遊技状態をクリア（初期化）する点で、電源投入パターン３と同じであるが、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」及び「打ち止め状態中の遊技の制限」を維持する点で、電源投入パターン３とは異なっている。つまり、制限クリアパターンテーブル３では、電源投入時において、電源遮断時の遊技状態をクリア（初期化）した場合に、電源投入パターン２のように「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」及び「打ち止め状態中の遊技の制限」を維持するか、電源投入パターン３のように「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」及び「打ち止め状態中の遊技の制限」をクリア（初期化）するか、をホール管理者が選択することができる。また、電源投入パターン３で電源投入した場合のみ、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」及び「打ち止め状態中の遊技の制限」をクリア（初期化）することが可能であり、電源投入パターン３については、電源投入時において、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆおよび設定キースイッチをいずれもＯＮ操作する必要があることから、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」及び「打ち止め状態中の遊技の制限」のクリア（初期化）については、ホール管理者の厳格な管理のもとで行うことができる。

【２６４９】

なお、本例では、出玉量については、所定の電源投入パターンで電源投入することで、クリア（初期化）することを可能にしているが、別例として、単位時間（例えば、３時間）ごとに、クリア（初期化）することを可能にしてもよい。これによれば、単位時間（例えば、３時間）ごとに、出玉量をクリア（初期化）しないとすると、出玉量が特定値に達するか否かの点で、前の遊技者の遊技による出玉量が、次の遊技者に影響を及ぼすことに

なるが、単位時間（例えば、３時間）ごとに、出玉量をクリア（初期化）することで、前の遊技者の遊技による出玉量が、次の遊技者に影響を及ぼしにくくすることができる。

【２６５０】

（遊技の制限の詳細）

本例のパチンコ機１は、出玉量が特定値に達したときに、主制御基板１３１０が遊技の制限を実行する打ち止め状態を開始しているが、その詳細について以下に説明する。

【２６５１】

図２１６は、出玉量が特定値に達して遊技が制限された場合におけるパチンコ機の挙動を示すタイムチャートである。ここでは、タイミングｔ１の時点で、入賞口への入球に基づく賞球の払い出しにより出玉量が特定値に達すると判断したときに、打ち止めフラグがＯＮになったと判断し、打ち止め状態に移行した場合について説明している。また、出玉量が特定値に達したときには、打ち止め状態における遊技の制限として、「遊技停止」と「発射停止」の両方を行う制限パターン３が選択されている。また、打ち止め状態に移行した後、電源遮断後の再投入時において、電源投入パターンとして、電源遮断時の遊技状態を維持するとともに、出玉量および打ち止め状態を維持することとなる電源投入パターンを選択している。

【２６５２】

図２１６に示すように、タイミングｔ１よりも前には、主制御基板１３１０側での遊技状態を通常状態（打ち止め状態でない状態）に制御し、主制御基板１３１０側での遊技（主遊技）を進行させることが可能な期間としている。つまり、打ち止め状態でない通常状態では、始動入賞があったときに、特別図柄の変動表示を開始することができ、特別図柄の変動表示が当り図柄で停止表示されたときに、大当り遊技を開始することができるという通常の遊技を行うことができる。

【２６５３】

また、演出表示装置１６００、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＣ（機能表示ユニット１４００の発光基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカ、可動体については、タイミングｔ１よりも前に、通常時の動作を実行するようにしている。なお、ランプＣは、主制御基板１３１０が制御しているのに対し、それ以外の部材は、周辺制御基板１５１０が制御している。ここで、ランプＣについては、遊技の進行に伴い、機能表示ユニット１４００における複数のＬＥＤが点灯や点滅を行うようにしている。一方、周辺制御基板１５１０が動作指示している部材については、特別図柄の変動表示が実行されていないときには、特別図柄の変動表示が開始されることを待機する状態での待機演出（例えば、デモ演出）に対応する動作を実行するようにし、特別図柄の変動表示が実行されているときには、周辺制御基板１５１０が変動パターンコマンドを受信することに基づいて、変動演出（変動パターンに基づく演出）に対応する動作を実行するようにしている。例えば、周辺制御基板１５１０が変動パターンコマンドを受信したときには、演出表示装置１６００では、装飾図柄の変動表示を含む演出表示（例えば、リーチ演出）などを実行し、ランプＡ、Ｂでは、演出表示装置１６００で実行される演出表示に連動してＬＥＤが点灯や点滅を行うようにし、スピーカからは、演出表示装置１６００で実行される演出表示に連動して音声を出力するようにし、可動体では、演出表示装置１６００で実行される演出表示に連動して所定の動作を行うようにしている。

【２６５４】

また、外部端子板からは、ホールコンピュータに対して所定の信号を出力することが可能であり、それらの信号をホールコンピュータで受信することで、ホール側でもパチンコ機１の挙動を把握できるようにしている。例えば、始動入賞があったとき、特別図柄の変動表示が当り図柄で停止表示されて大当り遊技が実行されているとき、異常が検出されたときなどに、それらの対応する信号を出力している。

【２６５５】

また、タイミングｔ１よりも前には、遊技者がハンドル１６０を操作したときに、遊技

領域５ａへ遊技球を発射することを可能にしている。
【２６５６】
　また、ベースモニタ１３１０ｈには、入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数（入球数）と、賞球として払い出される遊技球Ｂの球数（払出数）とを計数し、入球数に対する払出数の割合を算出し、その算出結果をベース値として表示しているが、タイミングｔ１よりも前には、そのような演算を行うことを可能にしている。
【２６５７】
　また、タイミングｔ１よりも前には、入賞口への入球を検出したときに、賞球として所定数の遊技球を払い出すことを可能とし、賞球として払い出される遊技球の球数の分だけ、遊技者の持ち球数が加算され、打ち止め用カウンタも更新されることを可能にしている。
【２６５８】
　次に、タイミングｔ１よりも前のタイミングｔｘの時点で、主制御基板１３１０が入賞口への入球を検出したときには、周辺制御基板１５１０が演出表示装置１６００などの一部の部材を用いて、事前告知時の動作を実行している。ここで、タイミングｔｘでの入賞口への入球については、タイミングｔ１での入賞口への入球よりも１つ前の入球であり、タイミングｔｘでの入賞口への入球に基づいて賞球を払い出した（賞球個数を付与した）としても、出玉量が特定値に達しないが、タイミングｔ１での入賞口への入球に基づいて賞球を払い出したとき（賞球個数を付与したとき）には、出玉量が特定値に達するようになっている。
【２６５９】
　事前告知時の動作については、演出表示装置１６００と、ランプＢとを用いて実行している。具体的には、演出表示装置１６００では、事前告知表示として、「遊技制限まで残り＋〇〇発」というメッセージを表示するようにし、ランプＢでは、事前告知発光として、ＬＥＤが点滅を行うようにしている。これにより、近い時期に遊技が制限される旨を遊技者が把握することができる。また、事前告知時の動作については、演出表示装置１６００などの一部の部材だけが用いられることから、当該入賞に基づく変動演出については、実行することができ、その変動演出に対する興趣が失われることがない。
【２６６０】
　なお、本例では、タイミングｔ１での入賞口への入球よりも１つ前に入球した時点で、事前告知時の動作を実行しているが、それよりも前の入球（例えば、５つ前の入球）から実行する等、特定値に達するよりも前のタイミングであれば、事前告知時の動作はどのようなタイミングで実行しても良い。また、タイミングｔ１での入賞口への入球よりも前において、所定回数の入球や特別図柄の変動表示があるごとに、事前告知時の動作を実行するようにしてもよい。また、事前告知時の動作の別例として、電源投入してから一定時間あるいは、電源投入後の常時に、その時の出玉量に基づいて「遊技制限まで残り＋〇〇発」を表示して、打ち止め状態とされるまでの目安を遊技者に認識させるようにしても良い。
【２６６１】
　次に、タイミングｔ１の時点で、入賞口への入球に基づく賞球の払い出しにより出玉量が特定値に達すると判断するが、主制御基板１３１０がその入賞口への入球を検出したときには、打ち止めフラグをＯＮとし、「遊技停止」と「発射停止」の両方を行う制限パターン３が適用された「打ち止め状態」に移行している。そして、打ち止め状態では、遊技球の発射が不能とされ、主制御基板１３１０側での遊技（主遊技）を進行させることが不能な打ち止め状態としている。つまり、打ち止め状態では、特別図柄の変動表示や大当り遊技を実行することがなく、仮に始動入賞があったとしても、特別図柄の変動表示を新たに開始することがない。
【２６６２】
　また、演出表示装置１６００、ランプＡ～Ｃ、スピーカ、可動体については、タイミングｔ１から所定時間が経過した後に、進行不能時の動作を実行している。具体的には、演

出表示装置１６００では、進行不能表示として、「遊技制限中」というメッセージを表示するようにし、ランプＡ、Ｂでは、進行不能用の発光として、単色で、ＬＥＤが点灯や点滅を行うようにし、スピーカからは、進行不能用の音として、「１日の出玉制限に達したので遊技を制限しています」という音声を出力するようにしている。

【２６６３】

また、ランプＣでは、機能表示ユニット１４００として、状態表示器、普通図柄表示器、普通保留表示器、第一特別図柄表示器、第一特別保留数表示器、第二特別図柄表示器、第二特別保留数表示器、ラウンド表示器などを備えているが、それらの全てのＬＥＤが点灯するようにしている。ただし、別例として、機能表示ユニット１４００に、打ち止め報知専用のＬＥＤを設けるようにし、打ち止め状態では、その打ち止め報知専用のＬＥＤを点灯し、それ以外のＬＥＤを消灯するようにしてもよい。

【２６６４】

また、可動体については、タイミングｔ１から所定時間が経過した後に、動作することがない動作不能状態にしている。例えば、タイミングｔ１から所定時間が経過するよりも前に、可動体が動作中である場合には、タイミングｔ１から所定時間が経過した時点で、可動体を動作途中で強制停止している。ただし、別例として、可動体については、タイミングｔ１から所定時間が経過した後に、初期位置でない可動体を初期位置に戻してから、可動体を停止するようにしてもよい。これにより、タイミングｔ１から所定時間が経過した時点で、可動体が演出表示装置１６００の表示領域の前方に位置していたとしても、タイミングｔ１から所定時間が経過した後に、可動体が初期位置に戻ることとなり、演出表示装置１６００で実行されている進行不能表示を見逃しにくくすることができる。

【２６６５】

なお、本例では、タイミングｔ１の時点で、打ち止め状態に移行しているが、演出表示装置１６００、ランプＡ～Ｃ、スピーカ、可動体については、タイミングｔ１から所定時間が経過した後に、進行不能時の動作を実行している。これは、タイミングｔ１の時点で、入賞口への入球があった場合には、その後に入賞口への入球に基づく賞球が払い出されることになるが、タイミングｔ１から所定時間が経過した後に、進行不能時の動作を実行することで、入賞口への入球に基づく賞球が払い出されるのを待って、進行不能時の動作を実行することができ、違和感が生じることを防止することができる。ただし、演出表示装置１６００、ランプＡ～Ｃ、スピーカ、可動体については、タイミングｔ１の時点から、進行不能時の動作を実行するようにしてもよい。

【２６６６】

また、外部端子板からは、タイミングｔ１の時点で、打ち止め状態に移行するとともに、セキュリティ信号を出力している。このセキュリティ信号については、異常の検出や、設定値の設定変更や設定値の確認表示中であるときに出力するものであり、打ち止め状態に移行した場合にも、同じセキュリティ信号を出力している。つまり、打ち止め状態では、異常の検出や、設定値の設定変更や設定値の確認表示中でないにもかかわらず、強制的にセキュリティ信号を出力する強制出力状態にしている。これにより、打ち止め状態では、ホールコンピュータに対してセキュリティ信号が出力されて、ホール側では、打ち止め状態に移行している旨を把握することができる。

【２６６７】

また、本例では、タイミングｔ１の時点で、打ち止め状態に移行するとともに、セキュリティ信号を出力しているが、タイミングｔ１の時点で、例えば、異常の検出に基づくセキュリティ信号が出力中である場合には、その出力中のセキュリティ信号を終了させて新たにセキュリティ信号を出力することがなく、出力中のセキュリティ信号を継続して出力するようにしている。これにより、ホール側では、異常の検出が終了したとの誤認を生じることがない。

【２６６８】

また、本例では、外部端子板から、ホールコンピュータに対してセキュリティ信号の他に、遊技状態、入賞口への入球、賞球の払い出しなどを伝える各種信号を出力している。

そして、タイミングｔ１の時点で、そのような各種信号が出力中である場合には、その出力中の各種信号を終了させてから、セキュリティ信号を出力するようにしている。これにより、ホール側では、打ち止め状態に移行している旨を確実に把握することができる。

【２６６９】

また、タイミングｔ１の時点で、打ち止め状態に移行した後には、遊技者がハンドル１６０を操作したときに、遊技領域５ａへ遊技球を発射することを不能にしている。ただし、本例では、出玉量が特定値に達したときに、「遊技停止」と「発射停止」の両方を行う制限パターン３が選択されている場合であり、出玉量が特定値に達したときに、「遊技停止」のみを行い、「発射停止」を行わない制限パターン１が選択されている場合には、打ち止め状態に移行した後において、遊技者がハンドル１６０を操作したときに、遊技領域５ａへ遊技球を発射することを可能にすることとなる。

【２６７０】

また、タイミングｔ１の時点で、打ち止め状態に移行した後には、入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数（入球数）と、賞球として払い出される遊技球Ｂの球数（払出数）とを計数の対象としていない。つまり、入球数に対する払出数の割合に関する演算を行うことを不能にし、ベースモニタ１３１０ｈに表示されているベース値に反映しないようにしている。ただし、入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数（入球数）については、計数の対象とし、入球数に対する払出数の割合に関する演算を行うことで、ベースモニタ１３１０ｈに表示されているベース値に反映するようにしてもよい。

【２６７１】

また、タイミングｔ１の時点で、打ち止め状態に移行した後には、タイミングｔ１よりも前に入賞口への入球を検出したものについては、賞球として所定数の遊技球を払い出すことを可能とし、賞球として払い出される遊技球の球数の分だけ、遊技者の持ち球数に加算することを可能にしている。これにより、出玉量が特定値になるまでの遊技球の球数の分だけは、遊技者が賞球を得ることができる。一方、タイミングｔ１の時点で、打ち止め状態に移行した後に、入賞口への入球を検出したものについては、賞球として所定数の遊技球を払い出すことがなく、遊技者の持ち球数に加算することもない。ただし、タイミングｔ１の時点で、打ち止め状態に移行した後には、入賞口への入球を検出しないように構成してもよく、そもそも入賞口への入球を検出しない場合にも同じく、入賞口への入球があったとしても、賞球として所定数の遊技球を払い出すことがなく、遊技者の持ち球数に加算することもない。

【２６７２】

なお、本例では、タイミングｔ１の時点で、入賞口への入球を検出したときに、その入賞口への入球に基づく賞球が払い出されていないものの、入賞口への入球に基づく賞球の払い出しにより出玉量が特定値に達すると判断し、打ち止め状態に移行しているが、別の手法を採用してもよい。例えば、タイミングｔ１の時点で、入賞口への入球を検出したときには、打ち止め状態に移行しないで、その入賞口への入球に基づく賞球の払い出しが完了して出玉量が特定値に達したときに、打ち止め状態に移行するようにしてもよい。これにより、入賞口への入球に基づく賞球の払い出しが完了し、出玉量が特定値に達するのを待って、打ち止め状態に移行することができ、違和感が生じることを防止することができる。

【２６７３】

また、本例では、タイミングｔ１の時点で、打ち止め状態に移行した後には、磁気や振動などの異常を検出したか否かの異常判定を行っていない。つまり、打ち止め状態に移行した後には、異常を検出したとしても、異常判定を行っていないことから、異常が発生したことを外部に伝える異常報知を実行していない。このように、打ち止め状態に移行した後には、異常報知よりも優先して、打ち止め状態に対応する進行不能時の動作を実行することで、遊技者やホール管理者に対して、打ち止め状態に移行した旨を確実に認識させることができる。ただし、タイミングｔ１の時点で、打ち止め状態に移行した後には、磁気

や振動などの異常を検出しないように構成してもよく、そもそも異常を検出しない場合にも同じく、異常が発生したとしても、その異常が発生したことを外部に伝える異常報知を実行することがない。

【２６７４】

次に、打ち止め状態に移行した後、タイミングｔ２の時点で、電源を遮断し、その後のタイミングｔ３の時点で、電源を再投入している。本例では、打ち止め状態に移行した後、電源遮断後の再投入時において、電源投入パターンとして、電源遮断時の遊技状態を維持するとともに、出玉量および打ち止め状態を維持することとなる電源投入パターンを選択している。このため、タイミングｔ３の時点で、電源を再投入した後には、通常状態（打ち止め状態でない状態）に戻すことがなく、タイミングｔ１～ｔ２と同じく、打ち止め状態を維持している。

【２６７５】

また、打ち止め状態の態様としては、タイミングｔ１～ｔ２における打ち止め状態と同じ態様を維持している。つまり、タイミングｔ３の時点で、電源を再投入した後には、打ち止め状態を維持することから、例えば、主制御基板１３１０側での遊技（主遊技）を進行させることが不能な期間とし、演出表示装置１６００、ランプＡ～Ｃ、スピーカ、可動体については、進行不能時の動作を実行している。これにより、電源遮断後の再投入時において、遊技者やホール管理者に対して、打ち止め状態に復帰した旨を認識させることができる。なお、本例では、図示は省略するが、進行不能時の動作を実行する前に、スピーカから「出玉量、打ち止め状態は維持されています。」という音声を出力するとともに、演出表示装置１６００に「出玉量、打ち止め状態は維持されています」というメッセージ画像を一時的に表示するようにしている。また、ランプＡ～Ｃについては、電源の再投入時に選択されている電源投入パターンに対応する発光色でＬＥＤが発光するようにしている。なお、スピーカから「出玉量、打ち止め状態は維持されています。」という音声を出力するとともに、演出表示装置１６００に「出玉量、打ち止め状態は維持されています」というメッセージ画像を表示する期間については省略するようにしてもよい。

【２６７６】

なお、タイミングｔ３の時点で、電源を再投入した後には、演出表示装置１６００では、進行不能表示として、「遊技制限中」というメッセージを表示しているが、タイミングｔ１～ｔ２における打ち止め状態とは、メッセージ内容を変更してもよい。また、「遊技制限中」の表示と同時、あるいはそれに先立って、「出玉量、打ち止め状態は維持されています」という表示を行うようにしており、次の営業日等に電源が投入された際に、前日からの引き続きであることをホール管理者に認識させることができ、突然に打ち止め状態となっている状況でホール管理者が混乱することを抑制できる。

【２６７７】

また、打ち止め状態における電源遮断後の再投入でなく、通常の電源投入時においては、スピーカから、通常の電源投入音を出力している。しかしながら、本例では、タイミングｔ３の時点で、電源を再投入した後において、スピーカから「出玉量、打ち止め状態は維持されています。」という音声を出力しているものの、通常の電源投入音を出力していない。このように、電源の再投入時に打ち止め状態に復帰した場合には、通常の電源投入音よりも優先して、スピーカから「出玉量、打ち止め状態は維持されています。」という音声を出力することで、遊技者やホール管理者に対して、打ち止め状態に復帰した旨を確実に認識させることができる。

【２６７８】

また、打ち止め状態における電源遮断後の再投入でなく、通常の電源投入時においては、可動体については、その可動体が正常に動作するか否かや、初期位置に合わせるための初期動作を行っている。しかしながら、本例では、タイミングｔ３の時点で、電源を再投入した後において、可動体については、動作を停止しており、初期動作を行っていない。このように、電源の再投入時に打ち止め状態に復帰した場合には、可動体が初期動作を行わないことで、通常状態（打ち止め状態でない状態）に戻されていない旨を認識させるこ

とができる。ただし、タイミングｔ３の時点で、電源を再投入した後において、可動体については、初期動作を行うようにしてもよい。

【２６７９】

図２１７は、電源遮断後の再投入時に遊技の制限を解除した場合におけるパチンコ機の挙動を示すタイムチャートである。上記の説明では、出玉量が特定値に達して打ち止め状態に移行した後、電源遮断後の再投入時において、電源遮断時の遊技状態を維持するとともに、出玉量および打ち止め状態を維持しているが、本例では、電源遮断後の再投入時において、電源遮断時の遊技状態をクリア（初期化）するとともに、出玉量および打ち止め状態をクリア（初期化）している。具体的には、打ち止め状態に移行した後、電源遮断後の再投入時において、電源投入パターンとして、電源遮断時の遊技状態をクリア（初期化）するとともに、出玉量および打ち止め状態をクリア（初期化）することとなる電源投入パターンを選択している。ここでは、タイミングｔ２の時点で、電源を遮断するまでは、上記の説明と同じであるため、タイミングｔ３の時点で、電源を再投入する以降について説明している。

【２６８０】

図２１７に示すように、打ち止め状態で電源遮断した後、タイミングｔ３の時点で、電源を再投入しているが、その電源遮断後の再投入時には、電源投入パターンとして、電源遮断時の遊技状態をクリア（初期化）するとともに、出玉量および打ち止め状態をクリア（初期化）することとなる電源投入パターンを選択している。このため、タイミングｔ３の時点で、電源を再投入した後には、打ち止めフラグがＯＦＦになり、打ち止め状態を維持しないが、通常状態（打ち止め状態でない状態）に復帰するよりも前には、通常状態（打ち止め状態でない状態）への復帰を待機する復帰待ち状態に制御している。そして、復帰待ち状態では、主制御基板１３１０側での遊技（主遊技）を進行させることが不能な期間としている。つまり、打ち止め状態では、特別図柄の変動表示や大当り遊技を実行することがなく、仮に始動入賞があったとしても、特別図柄の変動表示を新たに開始することがない。

【２６８１】

また、演出表示装置１６００、ランプＡ～Ｃ、スピーカ、可動体については、タイミングｔ３の時点で、復帰時の動作を実行している。具体的には、演出表示装置１６００では、復帰表示として、「出玉量、打ち止め状態をクリアしました」というメッセージを表示するようにし、ランプＡ～Ｃでは、復帰用発光として、電源の再投入時に選択されている電源投入パターンに対応する発光色でＬＥＤが発光するようにし、スピーカからは、復帰音として、「出玉量、打ち止め状態をクリアしました。」という音声を出力するようにしている。

【２６８２】

また、可動体については、タイミングｔ３の時点で、動作することがない動作不能状態にしている。

【２６８３】

また、外部端子板からは、打ち止め状態に移行した場合と同じく、タイミングｔ３の時点で、セキュリティ信号を出力している。つまり、復帰待ち状態では、異常の検出や、設定値の設定変更や設定値の確認表示中でないにもかかわらず、強制的にセキュリティ信号を出力する強制出力状態にしている。これにより、復帰待ち状態では、ホールコンピュータに対してセキュリティ信号が出力されて、ホール側では、打ち止め状態が解除される可能性を把握することができる。

【２６８４】

また、タイミングｔ３の時点で、復帰待ち状態に移行した後には、遊技者がハンドル１６０を操作したときに、遊技領域５ａへ遊技球を発射することを不能にしている。なお、詳しくは上記したが、出玉量が特定値に達したときに、「遊技停止」のみを行い、「発射停止」を行わない制限パターン１が選択されている場合には、打ち止め状態に移行した後において、遊技者がハンドル１６０を操作したときに、遊技領域５ａへ遊技球を発射する

ことを可能にしているが、このような場合にも、タイミングｔ３の時点で、復帰待ち状態に移行した後には、遊技者がハンドル１６０を操作したときに、遊技領域５ａへ遊技球を発射することを不能にしている。

【２６８５】

また、タイミングｔ３の時点で、復帰待ち状態に移行した後には、入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数（入球数）と、賞球として払い出される遊技球Ｂの球数（払出数）とを計数の対象としていない。つまり、入球数に対する払出数の割合に関する演算を行うことを不能にし、ベースモニタ１３１０ｈに表示されているベース値に反映しないようにしている。

【２６８６】

また、タイミングｔ３の時点で、復帰待ち状態に移行した後には、入賞口への入球を検出したとしても、賞球として所定数の遊技球を払い出すことがなく、遊技者の持ち球数に加算することもない。ただし、タイミングｔ３の時点で、復帰待ち状態に移行した後には、入賞口への入球を検出しないように構成してもよく、そもそも入賞口への入球を検出しない場合にも同じく、入賞口への入球があったとしても、賞球として所定数の遊技球を払い出すことがなく、遊技者の持ち球数に加算することもない。

【２６８７】

次に、タイミングｔ３から所定時間（例えば５秒）が経過した後のタイミングｔ４では、復帰待ち状態を終了し、主制御基板１３１０側での遊技状態を通常状態（打ち止め状態でない状態）に移行している。ここでは、通常状態（打ち止め状態でない状態）の態様として、タイミングｔ１よりも前の通常状態（打ち止め状態でない状態）と同じ態様にしており、打ち止め状態における遊技の制限が解除されている。なお、復帰待ち状態を終了させるタイミングは、タイミングｔ３から所定時間（例えば５秒）が経過することに限らず、ホール管理者が所定の再開操作を行うことを契機としてもよい。再開操作としては、例えば、タイミングｔ３における電源投入の操作が電源投入パターン３の場合、設定キースイッチを初期位置（つまり、設定キースイッチをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように反時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作することが例示できる。

【２６８８】

なお、タイミングｔ４の時点で、通常状態（打ち止め状態でない状態）に復帰した後には、ランプＡ～Ｃでは、電源投入時の初期発光を実行している。なお、打ち止め状態における電源遮断後の再投入でなく、通常の電源投入時においても同様に、ランプＡ～Ｃでは、電源投入時の初期発光を実行している。

【２６８９】

また、タイミングｔ４の時点で、通常状態（打ち止め状態でない状態）に復帰した後には、スピーカからは、通常の電源投入音を出力している。なお、打ち止め状態における電源遮断後の再投入でなく、通常の電源投入時においても同様に、スピーカからは、通常の電源投入音を出力している。

【２６９０】

また、タイミングｔ４の時点で、通常状態（打ち止め状態でない状態）に復帰した後には、可動体については、その可動体が正常に動作するか否かや、初期位置に合わせるための初期動作を行っている。なお、打ち止め状態における電源遮断後の再投入でなく、通常の電源投入時においても同様に、可動体の初期動作を行っている。ただし、可動体については、通常状態（打ち止め状態でない状態）に復帰よりも前のタイミングｔ３の時点で、初期動作を行うようにしてもよい。これにより、通常状態（打ち止め状態でない状態）に復帰するよりも前に、可動体の初期動作を完了することができ、その復帰直後から、変動演出（変動パターンに基づく演出）に対応する動作を行うことができる。

【２６９１】

また、外部端子板からは、復帰待ち状態におけるタイミングｔ３の時点で、セキュリティ信号を出力しているが、タイミングｔ４から所定時間が経過するまでの間には、通常状

態（打ち止め状態でない状態）に復帰しているものの、セキュリティ信号の出力を継続している。これにより、復帰待ち状態が短時間で終了したとしても、ホールコンピュータに対するセキュリティ信号の出力を継続することから、ホール側では、打ち止め状態が解除される可能性を把握することができる。

【２６９２】

なお、本例では、打ち止め状態で電源遮断した後、タイミングｔ３の時点で、電源を再投入しているが、その電源遮断後の再投入時には、復帰待ち状態に制御した後、通常状態（打ち止め状態でない状態）に復帰している。ただし、別例として、電源遮断後の再投入時には、復帰待ち状態に制御することなく、通常状態（打ち止め状態でない状態）に復帰するようにしてもよい。これにより、電源遮断後の再投入時には、その直後から、遊技を開始することができる。

【２６９３】

（大当り遊技中や特別図柄の変動表示中に出玉量が特定値に達する場合における演出例）

本例では、出玉量が特定値に達したときに、遊技の制限を実行している。その出玉量のうち、出玉量Ａについては、打ち止め用カウンタがもっとも多くなった時点での値と、打ち止め用カウンタがもっとも少なくなった時点での値との差分であり、出玉量Ｂについては、予め定められた初期値である０と、打ち止め用カウンタがもっとも多くなった時点での値との差分であり、いずれも、持ち球数がもっとも多くなった時点での値が関与している。そして、大当り遊技中に大入賞口２００５に遊技球が入球したときや、特別図柄の変動表示中や非変動表示中に大入賞口２００５以外の入賞口（一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４）に遊技球が入球したときには、賞球の払い出しにより払出数が増加して打ち止め用カウンタが増加することから、それらの入球したタイミングで、出玉量が特定値に達することが確定し、遊技の制限を実行することとなる。ここでは、まず、大当り遊技中に大入賞口２００５に遊技球が入球したタイミングで出玉量が特定値に達する場合における具体的な演出例について説明し、続いて、特別図柄の変動表示中に一般入賞口２００１に遊技球が入球したタイミングで出玉量が特定値に達する場合における具体的な演出例について説明する。

【２６９４】

図２１８は、大当り遊技中に大入賞口に遊技球が入球したタイミングで出玉量が特定値に達する場合における具体的な演出例である。なお、本例では、上述した「特定値」として８００００が設定され、上述した「制限パターン」として、制限パターン１あるいは制限パターン３が選択されているときの例である。すなわち、制限パターン１が設定されていれば、出玉量が特定値（８００００発）に達したときに「遊技停止」を伴う打ち止め状態となり、制限パターン３が設定されていれば、出玉量が特定値（８００００発）に達したときに「遊技停止」と「発射停止」を伴う打ち止め状態となるものである。また、本例では、特別図柄の抽選結果が大当りになった場合に、大入賞口２００５や役物入賞口２００６を開閉する１０ラウンドの大当り遊技を付与し、大当り遊技の終了後には高確率状態を付与するものとしている。

【２６９５】

図２１８（Ａ）に示すように、演出表示装置１６００では、特別図柄の変動表示に対応した変動演出（変動パターンに基づく演出）を実行し、演出表示装置１６００の中央領域において、装飾図柄の変動表示を行っている。ここでは、特別図柄の抽選結果に応じて、或いは、Ｖ入賞口２００７への遊技球Ｂの受入れ、等により高確率状態が継続する「連荘モード」中において、特別図柄の抽選結果が当りになることで、演出表示装置１６００の中央領域において、装飾図柄の停止図柄として「７７７」を表示している。また、演出表示装置１６００の右上領域では、第二装飾図柄の変動表示が行われているが、特別図柄の抽選結果が当りになることで、第二装飾図柄の停止図柄として「〇」を表示している。また、演出表示装置１６００の左下領域では、第一始動口２００２または第二始動口２００４に遊技球が入球したものの特別図柄の変動表示が待機されている分だけ保留表示を表示している。また、演出表示装置１６００の右下領域では、「連荘モード」中である旨を示

す「連荘モード」のメッセージを表示するとともに、大当り遊技中に演出表示装置１６００よりも右側の遊技領域５ａに設けられる大入賞口２００５への遊技球の入球を狙うように指示する「右打」の矢印を表示している。

【２６９６】

図２１８（Ｂ）に示すように、大当り遊技の開始時には、演出表示装置１６００の中央領域において、「スペシャルボーナス！Ｖを狙え！」のメッセージを表示し、大当り遊技中に大入賞口２００５や役物入賞口２００６の開閉を開始するとともに、大当り遊技中にＶ入賞口２００７へ遊技球が入球することを狙うべき旨を伝えている。

【２６９７】

図２１８（Ｃ）に示すように、大当り遊技の実行中には、演出表示装置１６００の左上領域において、現在のラウンド数を表示するとともに、演出表示装置１６００の中央領域において、「連荘モード」中に大入賞口２００５へ遊技球が入球することにより払い出されたトータルの賞球数を表示している。ここでは、現在のラウンド数として「３Ｒ」を表示するとともに、トータルの賞球数として「１８０００発ＧＥＴ」を表示している。

【２６９８】

本例では、主制御基板１３１０側で出玉量が特定値に達して遊技の制限を実行するよりも前に、出玉量が特定値に達するまでの残り球数を主制御基板１３１０側で監視するようにし、その残り球数が「＋１５００発」となる大入賞口２００５への遊技球の入球時に事前フラグをＯＮとして、その事前フラグのＯＮ情報を主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０側に送信するようにしている。そして、周辺制御基板１５１０側では、事前フラグのＯＮ情報を受けて、出玉量が特定値に達するまでの間（残り球数が０になるまでの間）、事前告知時の動作を継続して実行している。なお、出玉量の演算については、主制御基板１３１０側で発射数と払出数との差分である打ち止め用カウンタに基づいて算出している。つまり、出玉量が特定値に達するまでの残り球数については、発射数が多くなるほど残り球数が増加し、払出数が多くなるほど残り球数が減少することとなる。また、事前告知時の動作については、出玉量が特定値に達するよりも前の所定の数値（本例では、出玉量が特定値に達するまでの残り球数が１５００発の状態、つまり出玉量が７８５００発に達した状態）になった後、出玉量が特定値に達するまでの間、継続して実行することで、遊技者が遊技の制限に関する情報を見逃すことがない。

【２６９９】

また、本例では、一旦事前告知を行った場合には、その後に出玉量が特定値に達するまでの残り球数が所定の数値（残り１５００発）を上回った場合であっても、事前告知を終了することなく出玉量が特定値に達するまで継続することとしている。具体的に、事前フラグのＯＮ情報を主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０側に送信した後に発射数だけが増加して、出玉量が特定値に達するまでの残り球数が所定の数値（残り１５００発）を上回った場合であっても、主制御基板１３１０側では、事前フラグをＯＦＦにすることなくＯＮを維持したままにしている。これにより、出玉量が特定値に達するまでの残り球数が１５００発の状態に達した後に、残り球数が１５００発を上回り、その後に再び残り球数が１５００発の状態に達した場合等であっても、主制御基板１３１０側で事前フラグの切り替えが頻発せず、何度も事前フラグのＯＮ情報を周辺制御基板１５１０側に送信されてしまうことを抑制し、制御負担および制御複雑化を回避できる。

【２７００】

図２１８（Ｄ）に示すように、大当り遊技中に大入賞口２００５へ遊技球が入球することにより、出玉量が特定値に達するまでの残り球数が「＋１５００発」となった場合には、演出表示装置１６００の上領域において、事前告知時の動作として、出玉量が特定値に達するまでの残り球数を伝える「遊技制限まで残り＋１５００発」という事前告知表示を表示している。ここでは、現在のラウンド数として最終の「１０Ｒ」を表示するとともに、トータルの賞球数として「１８８００発ＧＥＴ」を表示している。そして、演出表示装置１６００には、事前告知表示を表示するよりも前から継続して、左上領域に現在のラウンド数、上領域に「連荘モード」中に大入賞口２００５へ遊技球が入球することにより払

い出されたトータルの賞球数、右上領域に第二装飾図柄の停止図柄、右下領域に「右打」の矢印を表示しているが、「遊技制限まで残り＋１５００発」という事前告知表示については、背景画像に重なるように表示されるものの、それら実行中の大当り遊技に関する重要な情報表示とは重ならないように表示されている。具体的に、本例では、「現在のラウンド数」、「トータルの賞球数」、「「右打」の矢印」については、遊技者に認知させるべき重要な情報表示であるため、これらの情報表示とは重ならない位置に事前告知表示が表示されるようになっている。なお、これら情報表示については、その全てが重なってしまい遊技者が視認不能になるものでなく情報表示の内容が認識できる程度であれば、情報表示の少なくとも一部に事前告知表示が重なるようにしてもよい。これにより、実行中の大当り遊技に関する情報表示を見逃すことがなく、大当り遊技中における遊技をスムーズに行うことができる。なお、可動体については、大当り遊技中に演出表示装置１６００の前面に向けて動作することが可能であるが、「遊技制限まで残り＋１５００発」という事前告知表示の表示中においては、その前面に向けて可動体を動作するようにしてもよい。これにより、大当り遊技中における遊技の興趣が低下することを防止することができる。

【２７０１】

図２１８（Ｅ）に示すように、大当り遊技の終了時には、演出表示装置１６００の中央領域において、「連荘モード継続！（１０回目）」のメッセージを表示し、大当り遊技の終了後に再び高確率状態が継続する旨（「連荘モード」が継続する旨）を伝えている。ここで、大当り遊技終了時にも、大当り遊技中と同じく「遊技制限まで残り＋１５００発」という事前告知表示を表示している。なお、この「連荘モード継続！（１０回目）」のメッセージを表示についても遊技者に認知させるべき重要な情報表示であるため、こうした情報表示とは重ならない位置に事前告知表示が表示されるようになっている。なお、これら情報表示については、その全てが重なってしまい遊技者が視認不能になるものでなく情報表示の内容が認識できる程度であれば、情報表示の少なくとも一部に事前告知表示が重なるようにしてもよい。

【２７０２】

図２１８（Ｆ）に示すように、「連荘モード」中には、再び特別図柄の変動表示に対応した変動演出（変動パターンに基づく演出）を実行すると、演出表示装置１６００の中央領域において、装飾図柄の変動表示を行っている。また、演出表示装置１６００の右上領域では、第二装飾図柄の変動表示を行っている。また、演出表示装置１６００の左下領域では、４つの保留表示が表示されているが、当りの可能性が高い保留表示に対しては、その態様を変化させることが可能になっている。また、装飾図柄の変動表示中においては、設定調節ボタン２０４の操作により音量や光量の調整を可能にしているが、音量や光量の調整中には、演出表示装置１６００の左領域において、その調整中の音量や光量に対応する画像を表示している。なお、調整中の音量や光量に対応する画像は、設定調節ボタン２０４の操作により表示が開始され、表示開始から一定時間の経過後に消去されるようになっている。

【２７０３】

また、「連荘モード」中における装飾図柄の変動表示中には、大当り遊技中と同じく「遊技制限まで残り＋１５００発」という事前告知表示を表示している。そして、演出表示装置１６００には、中央領域に装飾図柄の変動表示、右上領域に第二装飾図柄の変動表示、右下領域に「連荘モード」のメッセージおよび「右打」の矢印、左下領域に保留表示、左領域に音量や光量に対応する画像を表示しているが、「遊技制限まで残り＋１５００発」という事前告知表示については、背景画像に重なるように表示されるものの、それら実行中の変動遊技などに関する重要な情報表示とは重ならないように表示されている。具体的に、本例では、「装飾図柄の変動表示」、「第二装飾図柄の変動表示」、「「連荘モード」のメッセージ」、「「右打」の矢印」、「保留表示」、「音量や光量に対応する画像」については、遊技者に認知させるべき重要な情報表示であるため、これらの情報表示とは重ならない位置に事前告知表示が表示されるようになっている。なお、これら情報表示については、その全てが重なってしまい遊技者が視認不能になるものでなく情報表示の内

容が認識できる程度であれば、情報表示の少なくとも一部に事前告知表示が重なるようにしてもよい。これにより、実行中の変動遊技に関する情報表示を見逃すことがなく、変動遊技中における遊技をスムーズに行うことができる。なお、可動体については、変動遊技中に演出表示装置１６００の前面に向けて動作することが可能であるが、「遊技制限まで残り＋１５００発」という事前告知表示の表示中においては、その前面に向けて可動体を動作するようにしてもよい。これにより、変動遊技中における遊技の興趣が低下することを防止することができる。

【２７０４】

図２１８（Ｇ）に示すように、「連荘モード」中において、再び特別図柄の抽選結果が当りになったときには、演出表示装置１６００の中央領域において、装飾図柄の停止図柄として「７７７」を表示している。ここでも、「遊技制限まで残り＋１５００発」という事前告知表示については、背景画像に重なるように表示されるものの、装飾図柄の停止図柄である「７７７」の表示（重要な情報表示の一種）とは重ならないように表示されており、装飾図柄の停止図柄である「７７７」の表示を遊技者が視認可能にしている。

【２７０５】

図２１８（Ｈ）に示すように、再び大当り遊技を開始するときには、演出表示装置１６００の中央領域において、「スペシャルボーナス！Ｖを狙え！」のメッセージを表示し、大当り遊技中に大入賞口２００５や役物入賞口２００６の開閉を開始するとともに、大当り遊技中にＶ入賞口２００７へ遊技球が入球することを狙うべき旨を伝えている。この時点では、前回の大当り遊技中と同じく「遊技制限まで残り＋１５００発」という事前告知表示を表示している。ここでも、「遊技制限まで残り＋１５００発」という事前告知表示については、背景画像に重なるように表示されるものの、「スペシャルボーナス！Ｖを狙え！」のメッセージ（重要な情報表示の一種）とは重ならないように表示されており、「スペシャルボーナス！Ｖを狙え！」のメッセージを遊技者が視認可能にしている。

【２７０６】

図２１８（Ｉ）に示すように、大当り遊技の実行中には、演出表示装置１６００の左上領域において、現在のラウンド数を表示するとともに、演出表示装置１６００の中央領域において、「連荘モード」中に大入賞口２００５へ遊技球が入球することにより払い出されたトータルの賞球数を表示している。ここでは、現在のラウンド数として「１０Ｒ」を表示するとともに、トータルの賞球数として「１９９００発ＧＥＴ」を表示している。この時点では、大当り遊技中における賞球の払い出しにより出玉量が特定値に達するまでの残り球数が減少し、「遊技制限まで残り＋１０発」という事前告知表示を表示している。

【２７０７】

本例では、出玉量が特定値に達して遊技の制限を実行するよりも前に、出玉量が特定値に達するまでの残り球数を監視しているが、大当り遊技中に大入賞口２００５へ遊技球が入球することに基づく賞球の払い出しにより、残り球数が「＋０発」になる場合には、出玉量が特定値に達することで打ち止めフラグをＯＮとし、所定のクリア条件が成立するまでの間、打ち止め状態に移行するとともに、進行不能時の動作を実行している。そして、打ち止め状態に移行した時点で、実行中の大当り遊技を停止（中断）することで大入賞口２００５を強制的に閉鎖するようにし、それ以上に大入賞口２００５へ遊技球が入球することがなく、遊技の制限を開始している。

【２７０８】

図２１８（Ｊ）に示すように、大当り遊技中に大入賞口２００５へ遊技球が入球することに基づく賞球の払い出しにより、出玉量が特定値に達するまでの残り球数が「＋０発」になった時点（打ち止め状態への移行時）では、演出表示装置１６００の上領域において、事前告知時の動作として、出玉量が特定値に達するまでの残り球数を伝える「遊技制限まで残り＋０発」という事前告知表示を所定時間（本例では５秒）表示している。ここでは、現在のラウンド数として「１０Ｒ」を表示するとともに、トータルの賞球数として「１９９１５発ＧＥＴ」を表示している。そして、「遊技制限まで残り＋０発」という事前告知表示が表示されてから所定時間（本例では５秒）が経過すると、図２１８（Ｋ）に示

す打ち止め状態に対応する画像が表示される。
【２７０９】
本例では、大入賞口２００５へ遊技球が入球することにより払い出される賞球の分だけ、演出表示装置１６００に表示されているトータルの賞球数や事前告知表示の内容に反映されているが、トータルの賞球数や事前告知表示の内容については、出玉量が特定値に達することとなる大入賞口２００５へ遊技球が入球した時点でなく、その賞球の分がトータルの賞球数や事前告知表示の内容に反映されてから所定時間（本例では５秒）が経過するまでの間、継続して表示している。これにより、出玉量が特定値に達したか否かに関する情報を見逃すことがなくなり、その後に打ち止め状態が開始される理由を遊技者に確実に認知させることができる。また、出玉量が特定値に達するまでの残り球数が「＋０発」になる直前には、「遊技制限まで残り＋１０発」という事前告知表示を表示しているが、大入賞口２００５へ遊技球が入球することにより払い出される賞球（本例では１５個）の分については、賞球数が特定値に達するまでの残り球数を超えたとしても、その超過分の賞球（本例では５個）を払い出すようにしている。これにより、大入賞口２００５へ遊技球が入球したにもかかわらず、賞球数が特定値を超えた分だけ賞球が払い出されないといったことがなく、遊技者が不満を生じにくくすることができる。ただし、不正防止の観点で出玉量を監視することを重視する場合には、賞球数が特定値を超えた分については、超過分の賞球を払い出さないようにしてもよい。
【２７１０】
上記では、トータルの賞球数や事前告知表示の内容については、出玉量が特定値に達した時点でなく、その賞球の分がトータルの賞球数や事前告知表示の内容に反映されるまでの間、継続して表示しているが、出玉量が特定値に達した時点で、終了するようにし、打ち止め状態に対応する画像を表示してもよい。つまり、図２１８（Ｊ）に示す画像を表示せず、後述する図２１８（Ｋ）に示す画像に進行してもよい。これにより、出玉量が特定値に達した時点で、打ち止め状態に移行するが、それと同時に、打ち止め状態に対応する画像を表示することで、打ち止め状態に移行した旨を即座に把握することができる。
【２７１１】
また、出玉量が特定値に達した時点で、打ち止め状態に移行し、遊技の制限を実行することから、遊技者が誤って遊技球を発射しないように、打ち止め状態に対応する画像が表示された後には遊技球の発射を促進する「右打」の矢印については遊技者が視認できないようにすることが好ましく、本例では消去するようにしている。また、その他の状況下においても、遊技球の発射を促進する表示（例えば右打ち表示、左打表示、Ｖを狙え！の表示等）を行っているときに出玉量が特定値に達した場合には、その時点で遊技球の発射を促進する表示は遊技者が視認できないようにしている（消去している）。
【２７１２】
図２１８（Ｋ）に示すように、出玉量が特定値に達して遊技の制限を実行すると、演出表示装置１６００では、打ち止め状態に対応する画像が表示される。打ち止め状態に対応する画像としては、「遊技制限」というメッセージを表示し、それに伴い「１日の出玉制限８００００発に達したので遊技を制限しています。」、「係員をお呼び下さい。」、「精算ボタンは有効です。」というメッセージを表示している。なお、ここでの精算ボタンとは、精算処理を実行するための計数ボタンスイッチのことである。また、出玉量が特定値に達したよりも前に、演出表示装置１６００では、現在のラウンド数や第二装飾図柄の停止図柄、トータルの賞球数や事前告知表示を表示しているが、そのような遊技に関する情報については、出玉量が特定値に達した後に「遊技制限」というメッセージを表示した時点で、表示しないようにし（視認できないようにし）、暗転した画面上にメッセージを表示するようにしている。これにより、出玉量が特定値に達して遊技の制限が実行されている旨を把握することができ、ホール管理者の操作によらなければ遊技の制限を解除できない旨を把握することができる。また、計数ボタンスイッチの操作により遊技者の持ち球数を精算することが可能である旨を把握することができる。
【２７１３】

上記では、出玉量が特定値に達したよりも前に、演出表示装置１６００では、現在のラウンド数や第二装飾図柄の停止図柄、トータルの賞球数や事前告知表示を表示しているが、そのような遊技に関する情報については、出玉量が特定値に達することで、全てが認識不能となるように実行している。ただし、出玉量が特定値に達したときには、遊技に関する情報のうち、一部の情報については認識不能となるようにし、それ以外の情報については認識可能となるようにしてもよい。例えば、トータルの賞球数や事前告知表示については、遊技の制限を実行するか否かの情報であることから、認識不能となるようにし、現在のラウンド数や第二装飾図柄の停止図柄については、認識可能となるようにしてもよい。これにより、どのような状況下で出玉量が特定値に達したのかを、出玉量が特定値に達した後にも把握することができる。

【２７１４】

本例では、打ち止め状態が終了するための所定のクリア条件が成立するためには、電源遮断後に所定の電源投入パターンで再投入する必要がある。ここでは、電源投入時における電源投入パターンとして、電源遮断時の遊技状態を維持するとともに、出玉量および打ち止め状態を維持する電源投入パターンを選択した場合（本例では、制限クリアパターンテーブル１における電源投入パターン１、４、５、制限クリアパターンテーブル２における電源投入パターン４、５、制限クリアパターンテーブル３における電源投入パターン１、４、５を選択した場合）、電源遮断時の遊技状態をクリア（初期化）するとともに、出玉量および打ち止め状態をクリア（初期化）する電源投入パターンを選択した場合（本例では、制限クリアパターンテーブル１における電源投入パターン２、３、制限クリアパターンテーブル２における電源投入パターン２、３、制限クリアパターンテーブル３における電源投入パターン３を選択した場合）、電源遮断時の遊技状態を維持するとともに、出玉量および打ち止め状態をクリア（初期化）する電源投入パターンを選択した場合（本例では、制限クリアパターンテーブル２における電源投入パターン１、制限クリアパターンテーブル３における電源投入パターン２を選択した場合）について説明する。

【２７１５】

まず、打ち止め状態に移行した後、電源遮断後の再投入時において、電源遮断時の遊技状態を維持するとともに、出玉量および打ち止め状態を維持する電源投入パターンを選択した場合には、打ち止め状態としての遊技の制限が解除されておらず、演出表示装置１６００では、図２１８（Ｋ）に示す画像を再び表示するようにしている。なお、本例では、図示は省略するが、図２１８（Ｋ）に示す画像を表示する前に、スピーカから「出玉量、打ち止め状態は維持されています。」という音声を出力するとともに、演出表示装置１６００に「出玉量、打ち止め状態は維持されています」というメッセージ画像を一時的に表示するようになっている。ここで、演出表示装置１６００に「出玉量、打ち止め状態は維持されています」というメッセージ画像を表示する専用の期間は省略するようにしてもよいが、出玉量と打ち止め状態の維持をホール管理者に認識させることを重視して、専用の期間は省略しつつも、図２１８（Ｋ）に示す画像とともに演出表示装置１６００に「出玉量、打ち止め状態は維持されています」というメッセージ画像も表示するようにしてもよい。

【２７１６】

また、打ち止め状態に移行した後、電源遮断後の再投入時において、電源遮断時の遊技状態をクリア（初期化）するとともに、出玉量および打ち止め状態をクリア（初期化）する電源投入パターンを選択した場合には、出玉量および打ち止め状態がクリア（初期化）されることで、打ち止め状態としての遊技の制限が解除されている。ここで、出玉量および打ち止め状態をクリア（初期化）するときには、出玉量の演算に関与する打ち止め用カウンタ、払出数、発射数などの情報を全てクリア（初期化）している。また、打ち止め状態に移行する時点で中断した際の残りの大当り遊技に関する情報や、大当り遊技後の「連荘モード」（高確率状態）に関する情報については、打ち止め状態に移行した後や、電源遮断時に保持されているが、電源遮断後の再投入時において、そのような中断した際の残りの大当り遊技に関する情報や、大当り遊技後の「連荘モード」（高確率状態）に関する

情報が失われることで、低確率状態で開始するものとしている。このため、図２１８（Ｌ）に示すように、演出表示装置１６００では、装飾図柄が初期図柄で停止している初期画像を表示するようにしている。

【２７１７】

一方、打ち止め状態に移行した後、電源遮断後の再投入時において、電源遮断時の遊技状態を維持するとともに、出玉量および打ち止め状態をクリア（初期化）する電源投入パターンを選択した場合には、出玉量および打ち止め状態がクリア（初期化）されることで、打ち止め状態としての遊技の制限が解除されている。また、打ち止め状態に移行する時点で中断した際の残りの大当り遊技に関する情報や、大当り遊技後の「連荘モード」（高確率状態）に関する情報については、打ち止め状態に移行した後や、電源遮断時に保持されているが、電源遮断後の再投入時においても、中断した際の残りの大当り遊技に関する情報や、大当り遊技後の「連荘モード」（高確率状態）に関する情報を維持することで、中断されたときの状態で遊技を再開するものとしている。このため、図２１８（Ｌ'）に示すように、演出表示装置１６００では、大当り遊技の最終ラウンドが終了したエンディング期間である、「連荘モード」（高確率状態）に関する画像に復帰して表示するようにしている。なお、出玉量および打ち止め状態をクリア（初期化）する電源投入パターンを選択した場合には、電源遮断後の再投入後に遊技復帰させる前に、前回の遊技途中に復帰することを示す特別な復帰報知（遊技制限前の状態に復帰する旨の画像、音声）を行うようにしても良い。この特別な復帰報知は、上述した図２１５のタイミングｔ３～タイミングｔ４の復帰待ち状態における復帰表示や復帰用発光、復帰音に相当し、上述したように、スピーカから「出玉量、打ち止め状態をクリアしました。」という音声を出力することや、演出表示装置１６００には「出玉量、打ち止め状態をクリアしました」というメッセージ画像を表示すること等が例示できる。

【２７１８】

図２１９は、特別図柄の変動表示中に一般入賞口に遊技球が入球したタイミングで出玉量が特定値に達する場合における具体的な演出例である。なお、本例では、上述した「特定値」として８００００が設定され、上述した「制限パターン」として、制限パターン１あるいは制限パターン３が選択されているときの例である。すなわち、制限パターン１が設定されていれば、出玉量が特定値（８００００発）に達したときに「遊技停止」を伴う打ち止め状態となり、制限パターン３が設定されていれば、出玉量が特定値（８００００発）に達したときに「遊技停止」と「発射停止」を伴う打ち止め状態となるものである。

【２７１９】

図２１９（Ａ）に示すように、演出表示装置１６００では、特別図柄の変動表示に対応した変動演出（変動パターンに基づく演出）を実行し、演出表示装置１６００の中央領域において、装飾図柄の変動表示を行っている。ここでは、特別図柄の抽選結果に応じて、或いは、Ｖ入賞口２００７への遊技球Ｂの受入れ、等により高確率状態が継続する「連荘モード」中において、特別図柄の抽選結果が当りになることで、演出表示装置１６００の中央領域において、装飾図柄の停止図柄として「７７７」を表示している。また、演出表示装置１６００の右上領域では、第二装飾図柄の変動表示が行われているが、特別図柄の抽選結果が当りになることで、第二装飾図柄の停止図柄として「〇」を表示している。また、演出表示装置１６００の左下領域では、第一始動口２００２または第二始動口２００４に遊技球が入球したものの特別図柄の変動表示が待機されている分だけ保留表示を表示している。また、演出表示装置１６００の右下領域では、「連荘モード」中である旨を示す「連荘モード」のメッセージを表示するとともに、大当り遊技中に演出表示装置１６００よりも右側の遊技領域５ａに設けられる大入賞口２００５への遊技球の入球を狙うように指示する「右打」の矢印を表示している。

【２７２０】

図２１９（Ｂ）に示すように、大当り遊技の開始時には、演出表示装置１６００の中央領域において、「スペシャルボーナス！Ｖを狙え！」のメッセージを表示し、大当り遊技中に大入賞口２００５や役物入賞口２００６の開閉を開始するとともに、大当り遊技中に

Ｖ入賞口２００７へ遊技球が入球することを狙うべき旨を伝えている。
【２７２１】
図２１９（Ｃ）に示すように、大当り遊技の実行中には、演出表示装置１６００の左上領域において、現在のラウンド数を表示するとともに、演出表示装置１６００の中央領域において、「連荘モード」中に大入賞口２００５へ遊技球が入球することにより払い出されたトータルの賞球数を表示している。ここでは、現在のラウンド数として「３Ｒ」を表示するとともに、トータルの賞球数として「１７５００発ＧＥＴ」を表示している。
【２７２２】
本例では、主制御基板１３１０側で出玉量が特定値に達して遊技の制限を実行するよりも前に、出玉量が特定値に達するまでの残り球数を主制御基板１３１０側で監視するようにし、その残り球数が「＋１５００発」となる大入賞口２００５への遊技球の入球時に事前フラグをＯＮとして、その事前フラグのＯＮ情報を主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０側に送信するようにしている。そして、周辺制御基板１５１０側では、事前フラグのＯＮ情報を受けて、出玉量が特定値に達するまでの間、事前告知時の動作を継続して実行している。なお、出玉量の演算については、主制御基板１３１０側で発射数と払出数との差分である打ち止め用カウンタに基づいて算出している。つまり、出玉量が特定値に達するまでの残り球数については、発射数が多くなるほど残り球数が増加し、払出数が多くなるほど残り球数が減少することとなる。また、事前告知時の動作については、出玉量が特定値に達するよりも前の所定の数値（本例では、出玉量が特定値に達するまでの残り球数が１５００発の状態、つまり出玉量が７８５００発に達した状態）になった後、出玉量が特定値に達するまでの間、継続して実行することで、遊技者が遊技の制限に関する情報を見逃すことがない。
【２７２３】
また、本例では、一旦事前告知を行った場合には、その後に出玉量が特定値に達するまでの残り球数が所定の数値（残り１５００発）を下回った場合であっても、事前告知を終了することなく出玉量が特定値に達するまで継続することとしている。具体的に、事前フラグのＯＮ情報を主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０側に送信した後に発射数だけが増加して、出玉量が特定値に達するまでの残り球数が所定の数値（残り１５００発）を下回った場合であっても、主制御基板１３１０側では、事前フラグをＯＦＦにすることなくＯＮを維持したままにしている。これにより、出玉量が特定値に達するまでの残り球数が１５００発の状態に達した後に、残り球数が１５００発を下回り、その後に再び残り球数が１５００発の状態に達した場合等であっても、主制御基板１３１０側で事前フラグの切り替えが頻発せず、何度も事前フラグのＯＮ情報を周辺制御基板１５１０側に送信されてしまうことを抑制し、制御負担および制御複雑化を回避できる。
【２７２４】
図２１９（Ｄ）に示すように、大当り遊技中に大入賞口２００５へ遊技球が入球することにより、出玉量が特定値に達するまでの残り球数が「＋１５００発」となった場合には、演出表示装置１６００の上領域において、事前告知時の動作として、出玉量が特定値に達するまでの残り球数を伝える「遊技制限まで残り＋１５００発」という事前告知表示を表示している。ここでは、現在のラウンド数として最終の「１０Ｒ」を表示するとともに、トータルの賞球数として「１８８００発ＧＥＴ」を表示している。そして、演出表示装置１６００には、事前告知表示を表示するよりも前から継続して、左上領域に現在のラウンド数、上領域に「連荘モード」中に大入賞口２００５へ遊技球が入球することにより払い出されたトータルの賞球数、右上領域に第二装飾図柄の停止図柄、右下領域に「右打」の矢印を表示しているが、「遊技制限まで残り＋１５００発」という事前告知表示については、背景画像に重なるように表示されるものの、それら実行中の大当り遊技に関する重要な情報表示とは重ならないように表示されている。具体的に、本例では、「現在のラウンド数」、「トータルの賞球数」、「「右打」の矢印」については、遊技者に認知させるべき重要な情報表示であるため、これらの情報表示とは重ならない位置に事前告知表示が表示されるようになっている。なお、これら情報表示については、その全てが重なってし

まい遊技者が視認不能になるものでなく情報表示の内容が認識できる程度であれば、情報表示の少なくとも一部に事前告知表示が重なるようにしてもよい。これにより、実行中の大当り遊技に関する情報表示を見逃すことがなく、大当り遊技中における遊技をスムーズに行うことができる。なお、可動体については、大当り遊技中に演出表示装置１６００の前面に向けて動作することが可能であるが、「遊技制限まで残り＋１５００発」という事前告知表示の表示中においては、その前面に向けて可動体を動作するようにしてもよい。これにより、大当り遊技中における遊技の興趣が低下することを防止することができる。

【２７２５】

図２１９（Ｅ）に示すように、大当り遊技の終了時には、演出表示装置１６００の中央領域において、「連荘モード継続！（１０回目）」のメッセージを表示し、大当り遊技の終了後に再び高確率状態が継続する旨（「連荘モード」が継続する旨）を伝えている。ここで、大当り遊技終了時にも、大当り遊技中と同じく「遊技制限まで残り＋１５００発」という事前告知表示を表示している。なお、この「連荘モード継続！（１０回目）」のメッセージを表示についても遊技者に認知させるべき重要な情報表示であるため、こうした情報表示とは重ならない位置に事前告知表示が表示されるようになっている。なお、これら情報表示については、その全てが重なってしまい遊技者が視認不能になるものでなく情報表示の内容が認識できる程度であれば、情報表示の少なくとも一部に事前告知表示が重なるようにしてもよい。

【２７２６】

図２１９（Ｆ）に示すように、「連荘モード」中には、再び特別図柄の変動表示に対応した変動演出（変動パターンに基づく演出）を実行すると、演出表示装置１６００の中央領域において、装飾図柄の変動表示を行っている。また、演出表示装置１６００の右上領域では、第二装飾図柄の変動表示を行っている。また、演出表示装置１６００の左下領域では、４つの保留表示が表示されているが、当りの可能性が高い保留表示に対しては、その態様を変化させることが可能になっている。また、装飾図柄の変動表示中においては、設定調節ボタン２０４の操作により音量や光量の調整を可能にしているが、音量や光量の調整中には、演出表示装置１６００の左領域において、その調整中の音量や光量に対応する画像を表示している。なお、調整中の音量や光量に対応する画像は、設定調節ボタン２０４の操作により表示が開始され、表示開始から一定時間の経過後に消去されるようになっている。

【２７２７】

また、「連荘モード」中における装飾図柄の変動表示中には、大当り遊技中と同じく「遊技制限まで残り＋１０発」という事前告知表示を表示している。そして、演出表示装置１６００には、中央領域に装飾図柄の変動表示、右上領域に第二装飾図柄の変動表示、右下領域に「連荘モード」のメッセージおよび「右打」の矢印、左下領域に保留表示、左領域に音量や光量に対応する画像を表示しているが、「遊技制限まで残り＋１０発」という事前告知表示については、背景画像に重なるように表示されるものの、それら実行中の変動遊技などに関する重要な情報表示とは重ならないように表示されている。具体的に、本例では、「装飾図柄の変動表示」、「第二装飾図柄の変動表示」、「「連荘モード」のメッセージ」、「「右打」の矢印」、「保留表示」、「音量や光量に対応する画像」については、遊技者に認知させるべき重要な情報表示であるため、これらの情報表示とは重ならない位置に事前告知表示が表示されるようになっている。なお、これら情報表示については、その全てが重なってしまい遊技者が視認不能になるものでなく情報表示の内容が認識できる程度であれば、情報表示の少なくとも一部に事前告知表示が重なるようにしてもよい。これにより、実行中の変動遊技に関する情報表示を見逃すことがなく、変動遊技中における遊技をスムーズに行うことができる。なお、可動体については、変動遊技中に演出表示装置１６００の前面に向けて動作することが可能であるが、「遊技制限まで残り＋１０発」という事前告知表示の表示中においては、その前面に向けて可動体を動作するようにしてもよい。これにより、変動遊技中における遊技の興趣が低下することを防止することができる。

【２７２８】
本例では、出玉量が特定値に達して遊技の制限を実行するよりも前に、出玉量が特定値に達するまでの残り球数を監視しているが、特別図柄の変動表示中に一般入賞口２００１へ遊技球が入球することに基づく賞球の払い出しにより、残り球数が「＋０発」になる場合には、出玉量が特定値に達すること打ち止めフラグをＯＮとし、所定のクリア条件が成立するまでの間、打ち止め状態に移行するとともに、進行不能時の動作を実行している。そして、打ち止め状態に移行した時点で、実行中の特別図柄の変動表示が進行しないように変動時間の計時を停止（中断）して、遊技を強制的に停止するようにし、遊技の制限を開始している。ここで、実行中の特別図柄の変動表示が進行しないように変動時間の計時を停止（中断）した場合の機能表示ユニット１４００について説明する。機能表示ユニット１４００は、第一特別図柄表示器または第二特別図柄表示器におけるＬＥＤが点滅（変動表示中の制御態様）を継続している（変動時間は計時されないのでクリア条件が成立まで点滅し続ける）。ただし、機能表示ユニット１４００は、第一特別図柄表示器または第二特別図柄表示器におけるＬＥＤが点滅でなく、全点灯や全消灯してもよい。この場合、第一特別図柄表示器または第二特別図柄表示器のＬＥＤに限らず、機能表示ユニット１４００における他のＬＥＤ（状態表示器、普通図柄表示器、普通保留表示器、第一特別保留数表示器、第二特別保留数表示器、ラウンド表示器などのＬＥＤ）も全点灯や全点灯や全消灯するようにしている。また、機能表示ユニット１４００に打ち止め報知専用のＬＥＤを設ける場合には、その打ち止め報知専用のＬＥＤを点灯し、それ以外のＬＥＤを消灯するようにしてもよい。なお、変動時間の計時を停止（中断）した場合の残りの変動時間については、主制御基板１３１０に内蔵されているＲＡＭに記憶されている。
【２７２９】
図２１９（Ｇ）に示すように、特別図柄の変動表示中に一般入賞口２００１へ遊技球が入球することに基づく賞球の払い出しにより、出玉量が特定値に達するまでの残り球数が「＋０発」になった時点では、演出表示装置１６００の上領域において、事前告知時の動作として、出玉量が特定値に達するまでの残り球数を伝える「遊技制限まで残り＋０発」という事前告知表示を所定時間（本例では５秒）表示している。ここでは、出玉量が特定値に達するまでの残り球数が「＋０発」になる直前には、装飾図柄の変動表示や第二装飾図柄の変動表示を行っているが、出玉量が特定値に達するまでの残り球数が「＋０発」になった時点で、その装飾図柄の変動表示を所定の停止図柄（本例では、「７６７」）で強制的に停止するとともに、第二装飾図柄の変動表示を所定の停止図柄（本例では、「×」）で強制的に停止するようにしている。そして、「遊技制限まで残り＋０発」という事前告知表示が表示されてから所定時間（本例では５秒）が経過すると、図２１９（Ｈ）に示す打ち止め状態に対応する画像が表示される。
【２７３０】
本例では、一般入賞口２００１へ遊技球が入球することにより払い出される賞球の分だけ、演出表示装置１６００に表示されている事前告知表示の内容に反映されているが、事前告知表示の内容については、出玉量が特定値に達することとなる一般入賞口２００１へ遊技球が入球した時点でなく、その賞球の分が事前告知表示の内容に反映されてから所定時間（本例では５秒）が経過するまでの間、継続して表示している。これにより、出玉量が特定値に達したか否かに関する情報を見逃すことがなり、その後に打ち止め状態が開始される理由を遊技者に確実に認知させることができる。また、出玉量が特定値に達するまでの残り球数が「＋０発」になる直前には、「遊技制限まで残り＋１０発」という事前告知表示を表示しているが、一般入賞口２００１へ遊技球が入球することにより払い出される賞球（本例では１５個）の分については、賞球数が特定値に達するまでの残り球数を超えたとしても、その超過分の賞球（本例では５個）を払い出すようにしている。これにより、一般入賞口２００１へ遊技球が入球したにもかかわらず、賞球数が特定値を超えた分だけ賞球が払い出されないといったことがなく、遊技者が不満を生じにくくすることができる。ただし、不正防止の観点で出玉量を監視することを重視する場合には、賞球数が特定値を超えた分については、超過分の賞球を払い出さないようにしてもよい。

【２７３１】
上記では、事前告知表示の内容については、出玉量が特定値に達した時点でなく、その賞球の分が事前告知表示の内容に反映されるまでの間、継続して表示しているが、出玉量が特定値に達した時点で、終了するようにし、打ち止め状態に対応する画像を表示してもよい。つまり、図２１９（Ｇ）に示す画像を表示せず、後述する図２１９（Ｈ）に示す画像に進行してもよい。これにより、出玉量が特定値に達した時点で、打ち止め状態に移行するが、それと同時に、打ち止め状態に対応する画像を表示することで、打ち止め状態に移行した旨を即座に把握することができる。
【２７３２】
また、出玉量が特定値に達した時点で、打ち止め状態に移行し、遊技の制限を実行することから、遊技者が誤って遊技球を発射しないように、打ち止め状態に対応する画像が表示された後には遊技球の発射を促進する「右打」の矢印については遊技者が視認できないようにすることが好ましく、本例では消去するようにしている。また、その他の状況下においても、遊技球の発射を促進する表示（例えば右打ち表示、左打表示、Ｖを狙え！の表示等）を行っているときに出玉量が特定値に達した場合には、その時点で遊技球の発射を促進する表示は遊技者が視認できないようにしている（消去している）。
【２７３３】
図２１９（Ｈ）に示すように、出玉量が特定値に達して遊技の制限を実行すると、演出表示装置１６００では、打ち止め状態に対応する画像が表示される。打ち止め状態に対応する画像としては、「遊技制限」というメッセージを表示し、それに伴い「１日の出玉制限８００００発に達したので遊技を制限しています。」、「係員をお呼び下さい。」、「精算ボタンは有効です。」というメッセージを表示している。なお、ここでの精算ボタンとは、精算処理を実行するための計数ボタンスイッチのことである。また、出玉量が特定値に達したとき、演出表示装置１６００では、装飾図柄の停止図柄、第二装飾図柄の停止図柄、保留表示や事前告知表示を表示しているが、そのような遊技に関する情報については、出玉量が特定値に達した後に「遊技制限」というメッセージを表示した時点で、表示しないようにし（視認できないようにし）、暗転した画面上にメッセージを表示するようにしている。これにより、出玉量が特定値に達して遊技の制限が実行されている旨を把握することができ、ホール管理者の操作によらなければ遊技の制限を解除できない旨を把握することができる。また、計数ボタンスイッチの操作により遊技者の持ち球数を精算することが可能である旨を把握することができる。
【２７３４】
上記では、出玉量が特定値に達したよりも前に、演出表示装置１６００では、装飾図柄の停止図柄、第二装飾図柄の停止図柄、保留表示や事前告知表示を表示しているが、そのような遊技に関する情報については、出玉量が特定値に達することで、全てが認識不能となるように実行している。ただし、出玉量が特定値に達したときには、遊技に関する情報のうち、一部の情報については認識不能となるようにし、それ以外の情報については認識可能となるようにしてもよい。例えば、事前告知表示については、遊技の制限を実行するか否かの情報であることから、認識不能となるようにし、装飾図柄の停止図柄、第二装飾図柄の停止図柄、保留表示については、認識可能となるようにしてもよい。これにより、どのような状況下で出玉量が特定値に達したのかを、出玉量が特定値に達した後にも把握することができる。
【２７３５】
ここで、特別図柄の変動表示中に一般入賞口２００１へ遊技球が入球することにより出玉量が特定値に達した場合には、大当り遊技中に大入賞口２００５へ遊技球が入球することにより出玉量が特定値に達した場合と同じく、進行不能時の動作を実行するようにし、打ち止め状態に対応する画像を表示する等している。このように、出玉量が特定値に達して遊技の制限を実行する場合には、その契機がいずれの場合であっても、共通の報知を行うようにしており、打ち止め状態に移行した旨を確実に把握させることができる。
【２７３６】

本例では、打ち止め状態が終了するための所定のクリア条件が成立するためには、電源遮断後に所定の電源投入パターンで再投入する必要がある。ここでは、電源投入時における電源投入パターンとして、電源遮断時の遊技状態を維持するとともに、出玉量および打ち止め状態を維持する電源投入パターンを選択した場合（本例では、制限クリアパターンテーブル１における電源投入パターン１、４、５、制限クリアパターンテーブル２における電源投入パターン４、５、制限クリアパターンテーブル３における電源投入パターン１、４、５を選択した場合）、電源遮断時の遊技状態をクリア（初期化）するとともに、出玉量および打ち止め状態をクリア（初期化）する電源投入パターンを選択した場合（本例では、制限クリアパターンテーブル１における電源投入パターン２、３、制限クリアパターンテーブル２における電源投入パターン２、３、制限クリアパターンテーブル３における電源投入パターン３を選択した場合）、電源遮断時の遊技状態を維持するとともに、出玉量および打ち止め状態をクリア（初期化）する電源投入パターンを選択した場合（本例では、制限クリアパターンテーブル２における電源投入パターン１、制限クリアパターンテーブル３における電源投入パターン２を選択した場合）について説明する。

【２７３７】

まず、打ち止め状態に移行した後、電源遮断後の再投入時において、電源遮断時の遊技状態を維持するとともに、出玉量および打ち止め状態を維持する電源投入パターンを選択した場合には、打ち止め状態としての遊技の制限が解除されておらず、演出表示装置１６００では、図２１９（Ｈ）に示す画像を再び表示するようにしている。

【２７３８】

また、打ち止め状態に移行した後、電源遮断後の再投入時において、電源遮断時の遊技状態をクリア（初期化）するとともに、出玉量および打ち止め状態をクリア（初期化）する電源投入パターンを選択した場合には、出玉量および打ち止め状態がクリア（初期化）されることで、打ち止め状態としての遊技の制限が解除されている。ここで、出玉量および打ち止め状態をクリア（初期化）するときには、出玉量の演算に関与する打ち止め用カウンタ、払出数、発射数などの情報を全てクリア（初期化）している。また、打ち止め状態に移行する時点で中断した際の残りの変動時間に関する情報や、「連荘モード」（高確率状態）に関する情報、保留に関する情報については、打ち止め状態に移行した後や、電源遮断時に保持されているが、電源遮断後の再投入時において、そのような中断した際の残りの変動時間に関する情報や、「連荘モード」（高確率状態）に関する情報、保留に関する情報が失われることで、低確率状態で、保留がない状態で開始するものとしている。このため、図２１９（Ｉ）に示すように、演出表示装置１６００では、保留表示がなく、装飾図柄が初期図柄で停止している初期画像を表示するようにしている。

【２７３９】

一方、打ち止め状態に移行した後、電源遮断後の再投入時において、電源遮断時の遊技状態を維持するとともに、出玉量および打ち止め状態をクリア（初期化）する電源投入パターンを選択した場合には、出玉量および打ち止め状態がクリア（初期化）されることで、打ち止め状態としての遊技の制限が解除されている。また、打ち止め状態に移行する時点で中断した際の残りの変動時間に関する情報や、「連荘モード」（高確率状態）に関する情報、保留に関する情報については、打ち止め状態に移行した後や、電源遮断時に保持されているが、電源遮断後の再投入時においても、そのような中断した際の残りの変動時間に関する情報や、「連荘モード」（高確率状態）に関する情報、保留に関する情報を維持することで、高確率状態で、保留があり、且つ、前回の変動の途中の状態で再開するものとしている。つまり、打ち止め状態に移行する時点で、変動時間の計時を停止（中断）した場合の残りの変動時間については、主制御基板１３１０に内蔵されているＲＡＭに記憶されているが、電源の再投入後には、その残りの変動時間の分だけ、装飾図柄の変動表示や第二装飾図柄の変動表示を実行するものとしている。このため、図２１９（Ｉ'）に示すように、演出表示装置１６００では、「連荘モード」（高確率状態）に関する画像に復帰して表示し、保留に関する情報に基づいて装飾図柄の変動表示や第二装飾図柄の変動表示を再開するようにしている。なお、出玉量および打ち止め状態をクリア（初期化）す

る電源投入パターンを選択した場合には、電源遮断後の再投入後に各種演出表示を復帰させる前に、前回の遊技途中に復帰することを示す特別な復帰報知（遊技制限前の状態に復帰する旨の画像、音声）を行うようにしても良い。

【２７４０】

また、上記では、大当り遊技中に出玉量が特定値に達した場合に、直ちに打ち止め状態が発生するようにしたが、別例として、大当り遊技中に出玉量が特定値に達した場合に、打ち止め状態の開始タイミングをその大当り遊技の終了まで遅延させるようにしても良い。すなわち、大当り遊技における複数のラウンドの途中で、出玉量が特定値に達した場合には、最終のラウンドが終了するまでの間、大当り遊技を継続するようにしてもよい。このような場合、出玉量が特定値に達した後にも、賞球の払い出しにより出玉量が増加するが、そのような出玉量の増加については許容している。また、大当り遊技が終了するのを待って、「遊技停止」や「発射停止」を伴う打ち止め状態になる。これにより、大当り遊技の途中で遊技が制限されることがなく、賞球の獲得に不利益が生じないことから、遊技者が不満を生じにくくすることができる。

【２７４１】

また、上記した第四実施形態では、遊技機外に実球としての賞球を払い出すことなく遊技球を循環使用するタイプの遊技機（所謂、封入式遊技機、管理遊技機）にて説明したが、上述した「出玉量（出玉量Ａ、Ｂ）に基づき打ち止め状態を発生させる技術」は、こうしたタイプの遊技機に限らず、従来タイプの遊技機（遊技機外に実球としての賞球を払い出すタイプの遊技機）に適用するようにしてもよい。また、従来タイプの遊技機に適用する場合には、打ち止め状態の発生タイミングや打ち止め状態中の遊技制御を以下のようにしておくことか好ましい。

【２７４２】

すなわち、実玉での払い出しを行う従来タイプの遊技機では、払出制御基板６３３が遊技機裏面側の球タンクに貯留された遊技球を賞球として遊技機外に払い出す払出装置を制御可能である。そして、遊技機全面側の球受皿に払い出された賞球を実玉で遊技者に付与することになるが、このような構成の場合、各種の入賞口に遊技球が入賞して賞球が払い出されるまでの間に、遊技球を循環使用するタイプの遊技機よりも大きいタイムラグが生じてしまう。特に、大当り遊技中に大入賞口２００５に遊技球が複数入賞して多くの賞球が未払出とされて記憶されている状況も発生することが考えられ、そうした場合には、上述した打ち止め状態の開始以後にも多くの賞球が未払出とされて記憶されたままになる可能性がある。そして、このような場合には、上述した第四実施形態と同様に、打ち止め状態の開始に伴い主制御基板１３１０側での遊技（主遊技）を停止させるのと同時に払出制御基板での払出処理も停止させてしまうと、遊技者が本来得られるべき利益（未払出とされて記憶されている賞球）を遊技者が獲得できない虞がある。そこで、従来タイプの遊技機に「出玉量（出玉量Ａ、Ｂ）に基づき打ち止め状態を発生させる技術」を適用する場合には、以下２パターンの制御手法が考えらえる。

【２７４３】

まず、１つ目のパターンとしては、打ち止め用カウンタの演算対象となる「払出数」を実際に払い出された個数とする。具体的には、球受皿に向けて払出装置が送り出した遊技球の個数を検出する球センサを設け、その球センサの検知結果を「払出数」に反映させる。これにより、主制御基板１３１０での賞球情報に基づいて打ち止め用カウンタを演算するのと比べると、未払出の賞球を減らすことができる。

【２７４４】

また、２つ目のパターンとしては、打ち止め状態で遊技停止させても「未払出の賞球の払い出し」に限っては継続する。そして、未払出の賞球が無くなった時点で完全に遊技停止する。なお、２つ目のパターンについては、１つ目のパターンと併用してもよい。

【２７４５】

（制限クリアパターンテーブル４の追加）

上記では、「打ち止め状態が開始される前に算出された出玉量」及び「打ち止め状態中

の遊技の制限」のクリア条件が異なる制限クリアパターンテーブルとして、制限クリアパターンテーブル１～３が設けられているが、これとは別に、制限クリアパターンテーブル４を設けるようにしてもよい。このような場合にも、ホール管理者が操作可能な制限クリアパターン選択スイッチを操作することで、制限クリアパターンテーブル１～４のいずれかを選択するものとしている。ただし、制限クリアパターンテーブルについては、各種処理プログラムを記憶するＲＯＭの容量抑制の観点から、制限クリアパターンテーブル４のみを採用するようにしてもよい。

【２７４６】

図２２０は、制限クリアパターン選択スイッチが「４」の場合に選択される制限クリアパターンテーブル４である。この制限クリアパターンテーブル４が選択されている場合、「打ち止め状態中の遊技の制限」については、電源遮断後の再投入時において、遊技ホール側で維持するか又はクリアするかを選択可能にしているが、「打ち止め状態が開始される前に算出された出玉量」については、電源遮断後の再投入時において、必ずクリアするものとしている。

【２７４７】

電源投入パターン１は、電源投入時において、電源遮断時の遊技状態を維持しているが、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」については、クリア（初期化）し、一方で、「打ち止め状態中の遊技の制限」については、維持している。また、外部に知らせる報知態様としては、電源投入時から所定期間が経過するまでの間、遊技盤５や扉枠３の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤを緑色で発光するようにし、スピーカから「出玉量をクリアしました。打ち止め状態は維持されています。」という音声を出力するようにし、演出表示装置１６００には「出玉量をクリアしました。打ち止め状態は維持されています。」というメッセージ画像を表示するようにしている（後述するクリア通知１、進行不能通知に相当）。また、これら報知に加えて、ホール管理者向けに打ち止め状態のクリア方法を示すクリア方法通知を付加するようにしてもよい。

【２７４８】

電源投入パターン２は、電源投入時において、電源遮断時の遊技状態をクリア（初期化）しているが、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」及び「打ち止め状態中の遊技の制限」についても、クリア（初期化）している。具体的には、上述した制限パターン１で遊技が制限されている場合には、「遊技停止」しているが、打ち止め状態がクリアされることで、「遊技停止」を解除し、制限パターン２で遊技が制限されている場合には、「発射停止」しているが、打ち止め状態がクリアされることで、「発射停止」を解除し、制限パターン３で遊技が制限されている場合には、「遊技停止」および「発射停止」しているが、打ち止め状態がクリアされることで、「遊技停止」および「発射停止」を解除し、いずれの場合にも、主制御基板１３１０側での遊技（主遊技）を再開させることが可能になっている。また、外部に知らせる報知態様としては、電源投入時から所定期間が経過するまでの間、遊技盤５や扉枠３の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤを赤色で発光するようにし、スピーカから「出玉量、打ち止め状態をクリアしました。」という音声を出力するようにし、演出表示装置１６００には「出玉量、打ち止め状態をクリアしました。」というメッセージ画像を表示するようにしている（後述するクリア通知２に相当）。

【２７４９】

電源投入パターン３は、電源投入時において、電源遮断時の遊技状態をクリア（初期化）しているが、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」及び「打ち止め状態中の遊技の制限」についても、クリア（初期化）している。また、外部に知らせる報知態様としては、電源投入時から所定期間が経過するまでの間、遊技盤５や扉枠３の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤを赤色で発光するようにし、スピーカから「出玉量、打ち止め状態をクリアしました。」という音声を出力するようにし、演出表示装置１６００には「出玉量、打ち止め状態をクリアしました。」というメッセージ画像を表示するようにしている。（後述するクリア通知２に相当）。

【２７５０】
電源投入パターン４は、電源投入時において、電源遮断時の遊技状態を維持しているが、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」については、クリア（初期化）し、一方で、「打ち止め状態中の遊技の制限」については、維持している。また、外部に知らせる報知態様としては、電源投入時から所定期間が経過するまでの間、遊技盤５や扉枠３の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤを青色で発光するようにし、スピーカから「出玉量をクリアしました。打ち止め状態は維持されています。」という音声を出力するようにし、演出表示装置１６００には「出玉量をクリアしました。打ち止め状態は維持されています。」というメッセージ画像を表示するようにしている（後述するクリア通知１、遊技不能通知に相当）。また、これら報知に加えて、ホール管理者向けに打ち止め状態のクリア方法を示すクリア方法通知を付加するようにしてもよい。
【２７５１】
電源投入パターン５は、電源投入時において、電源遮断時の遊技状態を維持しているが、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」及び「打ち止め状態中の遊技の制限」についても、維持している。また、外部に知らせる報知態様としては、電源投入時から所定期間が経過するまでの間、遊技盤５や扉枠３の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤを青色で発光するようにし、スピーカから「出玉量、打ち止め状態は維持されています。」という音声を出力するようにし、演出表示装置１６００には「出玉量、打ち止め状態は維持されています。」というメッセージ画像を表示するようにしている。
【２７５２】
このように、制限クリアパターンテーブル４では、電源投入時において、電源投入パターン１、４のように電源遮断時の遊技状態を維持するか、電源投入パターン２、３のように電源遮断時の遊技状態をクリア（初期化）するか、のいずれが選択されている場合であっても、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」をクリア（初期化）している。これにより、開店時などの電源投入時において、出玉量のクリアをホール管理者がし忘れることがなく、開店直後に出玉量が特定値に達して打ち止め状態が発生するといったことを防止することができる。なお、電源投入時において、電源投入パターン５が選択されている場合には、上述した球抜処理が実行されるだけで、遊技が開始されないことから、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」をクリア（初期化）しないで維持している。
【２７５３】
また、制限クリアパターンテーブル４では、電源投入時において、電源投入パターン２、３のように電源遮断時の遊技状態をクリア（初期化）した場合のみ、「打ち止め状態中の遊技の制限」をクリア（初期化）している。一方、電源投入時において、電源投入パターン１、４のように電源遮断時の遊技状態を維持した場合には、「打ち止め状態中の遊技の制限」を維持している。つまり、「打ち止め状態中の遊技の制限」については、電源遮断後の再投入時において、遊技ホール側で維持するか又はクリアするかを選択することが可能になっている。例えば、既に打ち止め状態が発生している場合において、遊技の制限を解除したいときには、電源遮断後、「打ち止め状態中の遊技の制限」をクリアするように電源投入時操作を行えばよく、遊技の制限を維持したいときには、電源遮断後、「打ち止め状態中の遊技の制限」を維持するように電源投入時操作を行えばよいこととなる。なお、電源投入時において、電源投入パターン５が選択されている場合には、上述した球抜処理が実行されるだけで、遊技が開始されないことから、「打ち止め状態中の遊技の制限」をクリア（初期化）しないで維持している。
【２７５４】
（異常検知した場合における出玉量に関する報知）
本例では、電源投入中において、磁気や振動などの異常を検出することを可能とし、異常を検出したか否かの異常判定を行っている。また、異常の種類によっては、異常を検出したときに遊技の進行を停止し、電源を再投入しなければ、遊技を再開できないようにし

ている。しかしながら、電源を再投入した場合、例えば、制限クリアパターンテーブル４からも明らかなように、電源投入時操作の態様によっては、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」や「打ち止め状態中の遊技の制限」をクリア（初期化）することとなってしまう。このため、出玉量が特定値に近づいて打ち止め状態に移行する手前の段階や、打ち止め状態中において、わざと異常を発生させることで、ホール管理者に電源を再投入させ、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」や「打ち止め状態中の遊技の制限」をクリア（初期化）させようとする新たな不正が行われる可能性がある。本例では、このような新たな不正を防ぐため、異常を検出したときに「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」や「打ち止め状態中の遊技の制限」に関する報知を実行する場合について、以下に説明する。

【２７５５】

また、本例では、電源投入中において、異常を検出したか否かの異常判定を行っているが、異常の種類としては、軽度の異常であるか、重度の異常であるか、を検出している。また、軽度の異常の検知としては、外枠２に対する本体枠４の開放や、本体枠４に対する扉枠３の開放、枠飾り部材が取り外されている状態などが含まれている。そして、軽度の異常を検知した場合には、遊技の進行を停止していない。また、軽度の異常を検知した場合には、軽度の異常が発生したことを外部に伝える異常報知を実行しているが、所定期間（例えば、３０秒）が経過するなどのエラー終了条件が成立することで、その異常報知を終了するようにしている。つまり、軽度の異常を検知した場合には、不正な行為により外枠２に対する本体枠４の開放などが行われた可能性があるものの、外枠２に対する本体枠４の開放などが行われているか否かの確認が容易であるため、所定のタイミングで異常報知を終了するようにしている。

【２７５６】

一方、重度の異常の検知としては、パチンコ機１に対する磁気や振動、電波を検知することなどが含まれている。本例のパチンコ機１には、磁気を検知するための磁気センサや振動を検知するための振動センサ、不正な電波を検知するための電波センサが設けられており、それぞれのセンサが磁気や振動、電波を検知することを可能にしている。そして、重度の異常を検知した場合には、ホール管理者の作業ではなく、不正な行為により磁気や振動、電波が与えられた可能性が高いことから、遊技の進行を停止するようにしている。また、重度の異常を検知した場合には、重度の異常が発生したことを外部に伝える異常報知を実行しているが、所定期間（例えば、３０秒）が経過したとしても、その異常報知を終了することがない。このため、重度の異常が発生した場合には、ホール管理者が電源を遮断することで、異常報知を終了する必要があり、その後に電源を再投入することで、遊技の進行を再開できるようにしている。

【２７５７】

なお、異常報知については、演出表示装置１６００などのパチンコ機１の前面側の部材だけでなく、本体枠４の裏面側や遊技盤５の裏面側などのパチンコ機１の裏面側の部材を用いて、実行している。これにより、例えば、パチンコ機１の裏面側に対してホール管理者が作業中であっても、異常が発生したことを把握することができる。

【２７５８】

図２２１～図２２３は、軽度の異常や重度の異常が発生した場合におけるパチンコ機の挙動を示すタイムチャートである。本例では、通常状態や打ち止め状態中に軽度の異常が発生した場合におけるパチンコ機の挙動、通常状態中に重度の異常が発生した場合におけるパチンコ機の挙動、打ち止め状態中に重度の異常が発生した場合におけるパチンコ機の挙動、を順に説明する。なお、通常状態とは、出玉量が特定値に達するよりも前の打ち止め状態でない状態であり、特別図柄の変動表示中や、大当り遊技の実行中、特別図柄の変動表示や大当り遊技が実行されていない待機状態、のいずれであってもよい。

【２７５９】

また、タイミングｔ１の時点で、入賞口への入球に基づく賞球の払い出しにより出玉量

が特定値に達すると判断したときに、打ち止めフラグがＯＮになったと判断し、打ち止め状態に移行した場合については、既に図２１６を用いて説明している。つまり、出玉量が特定値に達するよりも前の打ち止め状態でない状態（通常状態）や、打ち止め状態のうち、軽度の異常や重度の異常が発生していない場合におけるパチンコ機の挙動については、既に説明していることから、ここでは、説明を省略している。ただし、図２１６では、タイミングｔ１の時点で、打ち止め状態に移行した後には、磁気や振動などの異常を検出したか否かの異常判定を行っていないが、本例では、打ち止め状態中においても異常判定を行い、異常が発生したことを外部に伝える異常報知を実行するものとしている。

【２７６０】

また、本例では、出玉量が特定値に達したときには、打ち止め状態における遊技の制限として、「遊技停止」と「発射停止」の両方を行う制限パターン３が選択されている。また、電源遮断後の再投入時においては、制限クリアパターンテーブルとして制限クリアパターンテーブル４を用いるようにし、電源投入パターンとして、出玉量はクリアするが打ち止め状態を維持することとなる電源投入パターン１、４が選択されている場合と、出玉量および打ち止め状態をクリアすることとなる電源投入パターン２、３が選択されている場合と、について説明している。

【２７６１】

図２２１は、通常状態や打ち止め状態中に軽度の異常が発生した場合におけるパチンコ機の挙動を示すタイムチャートである。

【２７６２】

まず、打ち止め状態に移行するタイミングｔ１よりも前には、通常状態（打ち止め状態でない状態）に制御している。通常状態（打ち止め状態でない状態）の挙動については、前述したとおりである。

【２７６３】

ここでは、通常状態（打ち止め状態でない状態）中におけるタイミングｔｘの時点で、軽度の異常を検知した場合について説明する。軽度の異常を検知した場合には、その異常が発生したことを外部に伝える異常報知を実行するようにし、演出表示装置１６００、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカ、外部端子板については、異常報知として、エラー発生時の動作を実行している。一方、遊技の進行など、異常報知を実行する以外の点については、タイミングｔｘよりも前における軽度の異常を検知していない状況から変化しておらず、通常状態（打ち止め状態でない状態）の挙動を維持するものとしている。

【２７６４】

具体的には、演出表示装置１６００、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、タイミングｔｘの時点で、エラー発生時の動作を実行している。例えば、軽度の異常として、外枠２に対する本体枠４の開放を検知している場合、演出表示装置１６００では、エラー表示Ａとして、「ドア開放エラー」というメッセージを表示するのに加え、現状況表示Ａとして、遊技を制限するまでの残りの出玉量（出玉量が特定値に達するまでの残りの出玉量）を示すように「遊技制限まで残り＋〇〇発」というメッセージを表示するようにしている。具体的には、出玉量が特定値に達するまでの残りの出玉量が５０００発に達した後に事前告知表示を実行するものであるが、その事前告知表示の非実行中であっても、例えば、出玉量が特定値に達するまでの出玉量が５００００発であるときに軽度の異常を検知した場合には、演出表示装置１６００では、現状況表示Ａとして、「遊技制限まで残り＋５００００発」というメッセージを表示するようにしている。なお、現況表示Ａとしては、出玉量が特定値に達するまでの残りの出玉量を示しているが、その時点での出玉量を示すようにしてもよい。

【２７６５】

上記したように、通常状態（打ち止め状態でない状態）中に軽度の異常を検知した場合

には、演出表示装置１６００では、エラー表示Ａだけでなく、現状況表示Ａを表示するようにし、遊技を制限するまでの残りの出玉量（出玉量が特定値に達するまでの残りの出玉量）を示している。このとき、電源を遮断すると、軽度の異常の検知が解消されるものの、制限クリアパターンテーブル４における電源投入パターン１～４で電源を再投入した際に、出玉量がクリアされてしまう。この点、本例では、遊技を制限するまでの残りの出玉量をホール管理者が把握したうえで、電源を再投入してよいかどうかを判断することができる。

【２７６６】

なお、打ち止め状態に移行するタイミングｔ１よりも前には、出玉量が特定値に近づいた旨を知らせるため、周辺制御基板１５１０が演出表示装置１６００などの一部の部材を用いて、事前告知時の動作を実行可能にしている。具体的には、演出表示装置１６００では、事前告知表示として、「遊技制限まで残り＋〇〇発」というメッセージを特定の表示領域に表示するようにしている。この特定の表示領域は、演出表示装置１６００における表示領域の一部に設定され、出玉量が特定値に近づいた場合の表示に用いられる表示領域であり、ホール管理者が見落とさないように如何なる遊技状態においても不変とされる固定領域とされている。そして、このような事前告知表示の実行中に軽度の異常を検知した場合には、演出表示装置１６００では、現状況表示Ａとして、事前告知表示と同じデータを流用して表示するようにしてもよい。また、事前告知表示を流用して現状況表示Ａを表示する場合には、他の演出画像を表示するレイヤよりも上位（前面側）のレイヤで表示するように構成されており、本例では現状況表示Ａを最上位レイヤとして表示するようにし、異常報知の実行中に確実に継続して認識できるように表示制御するものとしている。これにより、現状況表示Ａが認識できなくなることを防止することができる。

【２７６７】

また、本例では、事前告知時の開始動作（事前告知開始時の動作）については、演出表示装置１６００を用いた事前告知表示に加えて、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）で、事前告知発光としてＬＥＤが所定の期間（例えば２秒）点滅を行うようにしている。これにより、出玉量が特定値に近づいた旨を認識しやすくしている。

【２７６８】

また、本例では、出玉量が特定値に達するまでの残りの出玉量が５０００発に達した後に事前告知表示を実行するものであるが、その事前告知表示については、詳しくは後述するが、残りの出玉量が５０００発を上回ることで終了するものとしている。また、事前告知表示については、所定時間が経過したり、管理者操作によっては、消去することを不能にしている。一方で、軽度の異常が発生した場合や、後述する重度の異常が発生した場合には、現状況表示Ａを実行するものであるが、その現状況表示Ａについては、残りの出玉量が変化したとしても終了することがない。また、現状況表示Ａについては、例えば、エラー表示Ａを終了するまでの所定時間が経過したり、異常が解消される管理者操作によっては、消去することを可能にしている。これにより、事前告知表示であるか、現状況表示Ａであるかを判別できなくなることがない。

【２７６９】

また、本例では、演出表示装置１６００にて現状況表示Ａを実行しているが、パチンコ機１の前面側の表示部材でなく、本体枠４の裏面側や遊技盤５の裏面側などのパチンコ機１の裏面側の表示部材を用いて、出玉量が特定値に達するまでの残りの出玉量を示すようにしてもよい。また、演出表示装置１６００にて現状況表示Ａを実行する場合であっても、現状況表示Ａとして、出玉量が特定値に達するまでの残りの出玉量、あるいは、出玉量に応じて暗号化したもの（例えば、残りの出玉量が０～５０００の間ではＡの表示など）を表示するようにしてもよい。これにより、ホール管理者だけが現状況表示Ａを確認することができ、わざと異常を発生させることで出玉量を知ろうとする不正を防ぐことができる。

【２７７０】

また、本例では、軽度の異常が発生した場合や、後述する重度の異常が発生した場合には、演出表示装置１６００にて現状況表示Ａを実行しているが、例えば、従来タイプの遊技機（遊技機外に実球としての賞球を払い出すタイプの遊技機）で上皿が一杯になるなど、頻繁に生ずる作業上の異常（エラー）が発生した場合には、演出表示装置１６００にて現状況表示Ａを実行しないようにしている。これにより、現状況表示Ａが頻発して表示されるのを防止することができる。

【２７７１】

また、本例では、軽度の異常が発生した場合や、後述する重度の異常が発生した場合には、演出表示装置１６００にて現状況表示Ａを実行しているが、例えば、ラムエラーが発生した場合にも、重度の異常が発生したとして、演出表示装置１６００にて現状況表示Ａを実行している。ただし、ラムエラーが発生した場合には、出玉量に関する記憶自体が異常である可能性もあるため、演出表示装置１６００にて現状況表示Ａを実行しないようにしてもよい。

【２７７２】

また、ランプＡ、Ｂでは、タイミングｔｘの時点で、エラー発光として、単色で、ＬＥＤが点灯や点滅を行うようにし、スピーカからは、エラー音として、「ドア開放エラーです」という音声を出力するようにしている。

【２７７３】

また、外部端子板からは、タイミングｔｘの時点で、セキュリティ信号を出力している。これにより、軽度の異常を検知した場合には、ホールコンピュータに対してセキュリティ信号が出力されて、ホール側では、軽度の異常が発生している旨を把握することができる。

【２７７４】

また、本例では、タイミングｔｘの時点で、異常報知を開始しているが、所定期間（例えば、３０秒）が経過することで、異常報知を終了するものとしている。つまり、演出表示装置１６００、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカ、外部端子板については、通常時の動作に戻すようにしている。ただし、所定期間が経過するよりも前に、外枠２に対する本体枠４の閉鎖など、軽度の異常が解消したことを検知した場合には、その時点で、異常報知を終了するものとしている。

【２７７５】

次に、タイミングｔ１の時点で、入賞口への入球に基づく賞球の払い出しにより出玉量が特定値に達すると判断するが、主制御基板１３１０がその入賞口への入球を検出したときには、打ち止めフラグをＯＮとし、「遊技停止」と「発射停止」の両方を行う制限パターン３が適用された「打ち止め状態」に移行している。打ち止め状態の挙動については、前述したとおりである。

【２７７６】

ここでは、打ち止め状態中におけるタイミングｔｙの時点で、軽度の異常を検知した場合について説明する。軽度の異常を検知した場合には、その異常が発生したことを外部に伝える異常報知を実行するようにし、演出表示装置１６００については、異常報知として、エラー発生時の動作を実行している。一方、遊技の進行を不能にするなど、異常報知を実行する以外の点については、タイミングｔｙよりも前における軽度の異常を検知していない状況から変化しておらず、打ち止め状態の挙動を維持するものとしている。

【２７７７】

具体的には、演出表示装置１６００については、タイミングｔｘの時点で、エラー発生時の動作を実行している。例えば、軽度の異常として、外枠２に対する本体枠４の開放を検知している場合、演出表示装置１６００では、エラー表示Ａとして、「ドア開放エラー」というメッセージを表示するのに加え、現状況表示Ｂとして、既に打ち止め状態に移行して遊技を制限している旨（出玉量が特定値に達した後である旨）を示すように「遊技制限に達しています」というメッセージを表示するようにしている。

【２７７８】
上記したように、打ち止め状態中に軽度の異常を検知した場合には、演出表示装置１６００では、エラー表示Ａだけでなく、現状況表示Ｂを表示するようにし、既に打ち止め状態に移行して遊技を制限している旨（出玉量が特定値に達した後である旨）を示している。このとき、電源を再投入すると、軽度の異常の検知が解消されるものの、制限クリアパターンテーブル４における電源投入パターン１、４で電源を再投入した際に、打ち止め状態中の遊技の制限を維持する一方で、電源投入パターン２、３で電源を再投入した際に、打ち止め状態中の遊技の制限がクリアされてしまう。この点、本例では、既に打ち止め状態に移行して遊技を制限している旨をホール管理者が把握したうえで、いずれの電源投入パターンで電源を再投入してよいかどうかを判断することができる。

【２７７９】
なお、本例では、演出表示装置１６００のみを用いて異常報知を実行するようにし、演出表示装置１６００以外の部材については、進行不能時の動作を優先して実行するようにしている。これにより、打ち止め状態中に軽度の異常を検知した場合であっても、既に打ち止め状態に移行して遊技が制限されている旨を容易に把握することができる。

【２７８０】
また、本例では、打ち止め状態中に軽度の異常が発生した場合や、後述する重度の異常が発生した場合には、現状況表示Ｂを実行するものであるが、その現状況表示Ｂについては、その後に出玉量が変化したとしても終了することがない。また、現状況表示Ｂについては、例えば、エラー表示Ａを終了するまでの所定時間が経過したり、異常が解消される管理者操作によっては、消去することを可能にしている。これにより、現状況表示Ｂが必要以上に表示されるのを防止することができる。

【２７８１】
また、本例では、打ち止め状態中に軽度の異常が発生した場合や、後述する重度の異常が発生した場合には、演出表示装置１６００にて現状況表示Ｂを実行しているが、例えば、従来タイプの遊技機（遊技機外に実球としての賞球を払い出すタイプの遊技機）で上皿が一杯になるなど、頻繁に生ずる作業上の異常（エラー）が発生した場合には、演出表示装置１６００にて現状況表示Ｂを実行しないようにしている。これにより、現状況表示Ｂが頻発して表示されるのを防止することができる。

【２７８２】
また、本例では、打ち止め状態中に軽度の異常が発生した場合や、後述する重度の異常が発生した場合には、演出表示装置１６００にて現状況表示Ｂを実行しているが、例えば、ラムエラーが発生した場合にも、重度の異常が発生したとして、演出表示装置１６００にて現状況表示Ｂを実行している。ただし、ラムエラーが発生した場合には、打ち止め状態に関する記憶自体が異常である可能性もあるため、演出表示装置１６００にて現状況表示Ｂを実行しないようにしてもよい。

【２７８３】
また、スピーカについては、タイミングｔ１から所定時間が経過した後に、進行不能時の動作を実行しており、進行不能用の音として、「１日の出玉制限に達したので遊技を制限しています」という音声を出力している。ただし、このような進行不能用の音については、出力を開始してから所定期間（例えば、３０秒）が経過することで、終了するようにしてもよい。これにより、打ち止め状態に移行した後に、進行不能用の音を出力し続けることがなく、他のパチンコ機１で遊技する遊技者に対して妨げとなることを防止することができる。

【２７８４】
また、外部端子板からは、打ち止め状態に移行するタイミングｔ１の時点から、強制的にセキュリティ信号を出力する強制出力状態にしているが、タイミングｔｘの時点で、軽度の異常を検知した場合には、その出力中のセキュリティ信号を終了させて新たにセキュリティ信号を出力することがなく、出力中のセキュリティ信号を継続して出力するようにしている。これにより、ホール側では、打ち止め状態が終了したとの誤認を生じることが

ない。
【２７８５】
　また、本例では、タイミングｔｙの時点で、異常報知を開始しているが、所定期間（例えば、３０秒）が経過することで、異常報知を終了するものとしている。つまり、演出表示装置１６００については、進行不能時の動作に戻すようにしている。ただし、所定期間が経過するよりも前に、外枠２に対する本体枠４の閉鎖など、軽度の異常が解消したことを検知した場合には、その時点で、異常報知を終了するものとしている。
【２７８６】
　次に、打ち止め状態に移行した後、タイミングｔ２の時点で、電源を遮断し、その後のタイミングｔ３の時点で、電源を再投入している。本例では、電源の再投入時において、制限クリアパターンテーブルとして制限クリアパターンテーブル４を用いるようにしている。
【２７８７】
　まず、タイミングｔ３の時点で、電源を再投入するが、電源投入パターンとしては、出玉量および打ち止め状態をクリアすることとなる電源投入パターン２、３が選択されている場合について説明する。電源投入パターン２、３が選択されている場合には、電源遮断時の遊技状態をクリア（初期化）しているが、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」及び「打ち止め状態中の遊技の制限」についても、クリア（初期化）している。このため、電源投入パターン２、３のいずれが選択されている場合にも、「打ち止め状態中の遊技の制限」をクリアすることで、通常状態（打ち止め状態でない状態）に制御している。つまり、主制御基板１３１０側での遊技（主遊技）を再開させることが可能になっている。通常状態（打ち止め状態でない状態）の挙動については、前述したとおりである。
【２７８８】
　演出表示装置１６００、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、タイミングｔ３の時点で、クリア通知２を実行している。例えば、演出表示装置１６００では、初期表示として、予め決められている装飾図柄の組み合わせを表示するのに加え、クリア通知２として、出玉量および打ち止め状態をクリアした旨を示すように「制限クリアしました」というメッセージを表示するようにしている。これにより、電源の再投入時に出玉量および打ち止め状態をクリアした旨を、ホール管理者が確認することができる。ただし、クリア通知２については、電源遮断時に打ち止め状態でないときに、打ち止め状態をクリアした旨を通知しなくてもよいし、出玉量をクリアした旨や、クリアした時点での出玉量を通知するようにしてもよい。
【２７８９】
　また、ランプＡ、Ｂでは、タイミングｔ３の時点で、クリア通知２として、赤色で、ＬＥＤが点灯や点滅を行うようにしている。
【２７９０】
　また、スピーカからは、タイミングｔ３の時点で、クリア通知２として、出玉量および打ち止め状態をクリアした旨を示すように「制限クリアしました」という音声を出力するようにしている。
【２７９１】
　また、本例では、タイミングｔ３の時点で、クリア通知２を開始しているが、所定期間（例えば、１０秒）が経過することで、クリア通知２を終了するものとしている。つまり、演出表示装置１６００、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、通常時の動作に戻すようにしている。ただし、通常時の動作については、クリア通知２を終了するよりも前に開始してもよい。また、演出表示装置１６００に表示されているクリア通知２については、所定期間が経過した後にも、継続して表示してもよい。そして、このようなクリア通知２については、管理者操作により消去することを可能にしてもよい

。これにより、管理者操作によりクリア通知２を消去しなければ、クリア通知２が表示されたままであり、不正行為を行いにくくすることができる。

【２７９２】

次に、タイミングｔ３'の時点で、電源を再投入するが、電源投入パターンとしては、出玉量をクリアするが打ち止め状態は維持することとなる電源投入パターン１、４が選択されている場合について説明する。電源投入パターン１、４が選択されている場合には、電源遮断時の遊技状態を維持しているが、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」については、クリア（初期化）し、一方で、「打ち止め状態中の遊技の制限」については、維持している。このため、電源投入パターン１、４のいずれが選択されている場合にも、「打ち止め状態中の遊技の制限」を維持することで、打ち止め状態の挙動を維持している。つまり、主制御基板１３１０側での遊技（主遊技）を再開させることが不能になっている。打ち止め状態の挙動については、前述したとおりである。

【２７９３】

演出表示装置１６００、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、タイミングｔ３'の時点で、クリア通知１を実行している。例えば、演出表示装置１６００では、クリア通知１として、出玉量をクリアした旨を示すように「出玉量をクリアしました」というメッセージを表示するようにしている。これにより、電源の再投入時に出玉量をクリアした旨を、ホール管理者が確認することができる。ただし、クリア通知１については、電源遮断時に打ち止め状態であるときに、打ち止め状態を維持した旨を通知してもよいし、出玉量をクリアした旨だけでなく、クリアした時点での出玉量を通知するようにしてもよい。

【２７９４】

また、ランプＡ、Ｂでは、タイミングｔ３'の時点で、クリア通知１として、緑色で、ＬＥＤが点灯や点滅を行うようにしている。

【２７９５】

また、スピーカからは、タイミングｔ３'の時点で、クリア通知１として、出玉量をクリアした旨を示すように「出玉量をクリアしました」という音声を出力するようにしている。

【２７９６】

また、本例では、タイミングｔ３の時点で、クリア通知１を開始しているが、所定期間（例えば、１０秒）が経過することで、クリア通知１を終了するものとしている。つまり、演出表示装置１６００、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、進行不能時の動作に戻すようにしている。ただし、進行不能時の動作については、クリア通知１を終了するよりも前に開始してもよい。

【２７９７】

具体的には、演出表示装置１６００では、進行不能通知（進行不能表示）として、「遊技制限中」というメッセージを表示するようにしている。これに加え、演出表示装置１６００では、クリア方法通知（クリア方法表示）として、ホール管理者向けに打ち止め状態のクリア方法を示すように「ラムクリアすれば通常状態になります」というメッセージを表示するようにしている。これにより、電源の再投入時にラムクリアを伴う電源投入パターン２、３を選択しなければ、打ち止め状態をクリアできない旨を、ホール管理者が把握することができる。

【２７９８】

また、スピーカについては、進行不能時の動作を実行するときに、進行不能通知（進行不能用の音）として、「１日の出玉制限に達したので遊技を制限しています」という音声を出力している。ただし、このような進行不能用の音については、出力を開始してから所定期間（例えば、３０秒）が経過することで、終了してもよい旨を上述したが、打ち止め

状態中に進行不能用の音の出力を終了したとしても、タイミングｔ３'の時点で電源を再投入した場合には、再び進行不能用の音を出力するようにしてもよい。このような場合、タイミングｔ３'から所定時間が経過することで、進行不能用の音の出力を終了するものとなる。これにより、電源の再投入時には、再び進行不能用の音を出力することから、打ち止め状態がクリアされておらず、遊技が制限されている旨を容易に把握することができる。

【２７９９】

なお、本例では、電源の再投入時に電源投入パターン１、４が選択されている場合、出玉量をクリアするが打ち止め状態は維持するため、クリア通知１を終了した後に進行不能通知やクリア方法通知を実行しており、進行不能通知やクリア方法通知よりも優先してクリア通知１を実行している。これにより、電源の再投入時に出玉量をクリアした旨を、ホール管理者が確認することができる。また、別例として、クリア通知１と並行して進行不能通知やクリア方法通知を実行してもよいし、クリア通知１と進行不能通知やクリア方法通知を交互に切り替えて実行するようにしてもよい。また、クリア通知１と並行して進行不能通知やクリア方法通知を実行する場合、複数の部材のうちの一部の部材でクリア通知１を実行し、残りの部材で進行不能通知やクリア方法通知を実行してもよいし、同じ部材でありながらも、一部の領域でクリア通知１を実行し、残りの領域で進行不能通知やクリア方法通知を実行するようにしてもよい。また、クリア通知１と並行して進行不能通知やクリア方法通知を実行する場合であっても、クリア通知１については、所定期間（例えば、１０秒）が経過することで終了するものとしてよい。また、クリア方法通知についても、所定期間（例えば、１０秒）が経過することで終了するものとしてよい。

【２８００】

図２２２は、通常状態中に重度の異常が発生した場合におけるパチンコ機の挙動を示すタイムチャートである。

【２８０１】

まず、重度の異常を検出するタイミングｔｘよりも前には、通常状態（打ち止め状態でない状態）に制御している。通常状態（打ち止め状態でない状態）の挙動については、前述したとおりである。

【２８０２】

ここでは、通常状態（打ち止め状態でない状態）中におけるタイミングｔｘの時点で、重度の異常を検知した場合について説明する。重度の異常を検知した場合には、遊技球の発射が不能とされ、主制御基板１３１０側での遊技（主遊技）を進行させることが不能な状態としている。つまり、重度の異常が発生した場合には、特別図柄の変動表示や大当り遊技を実行することがなく、仮に始動入賞があったとしても、特別図柄の変動表示を新たに開始することがない。

【２８０３】

また、重度の異常を検知した場合には、その異常が発生したことを外部に伝える異常報知を実行するようにし、演出表示装置１６００、ランプＡ～Ｃ、スピーカ、可動体、外部端子板については、異常報知として、エラー発生時の動作を実行している。

【２８０４】

具体的には、演出表示装置１６００、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、タイミングｔｘの時点で、エラー発生時の動作を実行している。例えば、重度の異常として、磁気を検知している場合、演出表示装置１６００では、エラー表示Ｂとして、「磁気異常」というメッセージを表示するのに加え、現状況表示Ａとして、遊技を制限するまでの残りの出玉量（出玉量が特定値に達するまでの残りの出玉量）を示すように「遊技制限まで残り＋〇〇発」というメッセージを表示するようにしている。

【２８０５】

上記したように、通常状態（打ち止め状態でない状態）中に重度の異常を検知した場合には、演出表示装置１６００では、エラー表示Ｂだけでなく、現状況表示Ａを表示するよ

うにし、遊技を制限するまでの残りの出玉量（出玉量が特定値に達するまでの残りの出玉量）を示している。このとき、電源を遮断すると、重度の異常の検知が解消されるものの、制限クリアパターンテーブル４における電源投入パターン１～４で電源を再投入した際に、出玉量がクリアされてしまう。この点、本例では、遊技を制限するまでの残りの出玉量をホール管理者が把握したうえで、電源を再投入してよいかどうかを判断することができる。

【２８０６】

なお、打ち止め状態に移行するよりも前には、出玉量が特定値に近づいた旨を知らせるため、周辺制御基板１５１０が演出表示装置１６００などの一部の部材を用いて、事前告知時の動作を実行可能にしている。具体的には、演出表示装置１６００では、事前告知表示として、「遊技制限まで残り＋〇〇発」というメッセージを特定の表示領域に表示するようにしている。この特定の表示領域は、演出表示装置１６００における表示領域の一部に設定され、出玉量が特定値に近づいた場合の表示に用いられる表示領域であり、ホール管理者が見落とさないように如何なる遊技状態においても不変とされる固定領域とされている。そして、このような事前告知表示の実行中に重度の異常を検知した場合には、演出表示装置１６００では、現状況表示Ａとして、事前告知表示と同じデータを流用して表示するようにしてもよい。また、事前告知表示を流用して現状況表示Ａを表示する場合には、他の演出画像を表示するレイヤよりも上位（前面側）のレイヤで表示するように構成されており、本例では現状況表示Ａを最上位レイヤとして表示するようにし、異常報知の実行中に確実に継続して認識できるように表示制御するものとしている。これにより、現状況表示Ａが認識できなくなることを防止することができる。

【２８０７】

また、ランプＡ、Ｂでは、タイミングｔｘの時点で、エラー発光として、単色で、ＬＥＤが点灯や点滅を行うようにしている。

【２８０８】

また、ランプＣでは、機能表示ユニット１４００として、状態表示器、普通図柄表示器、普通保留表示器、第一特別図柄表示器、第一特別保留数表示器、第二特別図柄表示器、第二特別保留数表示器、ラウンド表示器などを備えているが、それらの全てのＬＥＤが点灯するようにしている。ただし、別例として、機能表示ユニット１４００に、異常報知専用のＬＥＤを設けるようにし、重度の異常を検知した場合には、その異常報知専用のＬＥＤを点灯し、それ以外のＬＥＤを消灯するようにしてもよい。

【２８０９】

また、スピーカからは、エラー音として、「磁気異常が発生しました」という音声を出力するようにしている。

【２８１０】

また、可動体については、タイミングｔｘの時点で、動作することがない動作不能状態にしている。例えば、タイミングｔｘの時点で、可動体が動作中である場合には、可動体を動作途中で強制停止している。ただし、別例として、可動体については、タイミングｔｘの後に、初期位置でない可動体を初期位置に戻してから、可動体を停止するようにしてもよい。これにより、タイミングｔｘの時点で、可動体が演出表示装置１６００の表示領域の前方に位置していたとしても、タイミングｔｘの後に、可動体が初期位置に戻ることとなり、演出表示装置１６００で実行されているエラー表示Ｂや現状況表示Ａを見逃しにくくすることができる。

【２８１１】

また、外部端子板からは、タイミングｔｘの時点で、セキュリティ信号を出力している。これにより、重度の異常を検知した場合には、ホールコンピュータに対してセキュリティ信号が出力されて、ホール側では、重度の異常が発生している旨を把握することができる。

【２８１２】

また、タイミングｔｘの時点で、重度の異常を検知した場合には、遊技者がハンドル１

６０を操作したときに、遊技領域５ａへ遊技球を発射することを不能にしている。
【２８１３】
　また、タイミングｔｘの時点で、重度の異常を検知した場合には、入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数（入球数）と、賞球として払い出される遊技球Ｂの球数（払出数）とを計数の対象としていない。つまり、入球数に対する払出数の割合に関する演算を行うことを不能にし、ベースモニタ１３１０ｈに表示されているベース値に反映しないようにしている。ただし、入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数（入球数）については、計数の対象とし、入球数に対する払出数の割合に関する演算を行うことで、ベースモニタ１３１０ｈに表示されているベース値に反映するようにしてもよい。
【２８１４】
　また、タイミングｔｘの時点で、重度の異常を検知した場合には、タイミングｔｘよりも前に入賞口への入球を検出したものについては、賞球として所定数の遊技球を払い出すことを可能とし、賞球として払い出される遊技球の球数の分だけ、遊技者の持ち球数に加算することを可能にしている。これにより、出玉量が特定値になるまでの遊技球の球数の分だけは、遊技者が賞球を得ることができる。一方、タイミングｔｘの時点で、重度の異常を検知した後に、入賞口への入球を検出したものについては、賞球として所定数の遊技球を払い出すことがなく、遊技者の持ち球数に加算することもない。ただし、タイミングｔｘの時点で、重度の異常を検知した場合には、入賞口への入球を検出しないように構成してもよく、そもそも入賞口への入球を検出しない場合にも同じく、入賞口への入球があったとしても、賞球として所定数の遊技球を払い出すことがなく、遊技者の持ち球数に加算することもない。
【２８１５】
　また、タイミングｔｘの時点で、重度の異常を検知した場合には、異常報知として、エラー発生時の動作を実行しているが、その後にタイミングｔｙの時点で、別の重度の異常を検知した場合には、そのエラー発生時の動作を変化させず、継続して実行するようにしている。ただし、タイミングｔｘの時点で、重度の異常を検知した後には、別の重度の異常を検知しないように構成してもよい。
【２８１６】
　また、本例では、タイミングｔｘの時点で、異常報知を開始しているが、所定期間（例えば、３０秒）が経過したとしても、その異常報知を終了することがない。このため、重度の異常が発生した場合には、ホール管理者が電源を遮断することで、異常報知を終了する必要があり、その後に電源を再投入することで、遊技の進行を再開できるようにしている。
【２８１７】
　次に、通常状態（打ち止め状態でない状態）中に重度の異常を検知した後、タイミングｔ２の時点で、電源を遮断して異常報知を終了するようにし、その後のタイミングｔ３の時点で、電源を再投入している。本例では、電源の再投入時において、制限クリアパターンテーブルとして制限クリアパターンテーブル４を用いるようにしている。
【２８１８】
　まず、タイミングｔ３の時点で、電源を再投入するが、電源投入パターンとしては、出玉量および打ち止め状態をクリアすることとなる電源投入パターン２、３が選択されている場合について説明する。電源投入パターン２、３が選択されている場合には、電源遮断時の遊技状態をクリア（初期化）しているが、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」及び「打ち止め状態中の遊技の制限」についても、クリア（初期化）している。本例では、タイミングｔ２での電源の遮断時に、そもそも打ち止め状態でない状態であることから、その後のタイミングｔ３の時点で、電源を再投入したときには、電源投入パターン２、３が選択されているか否かにかかわらず、通常状態（打ち止め状態でない状態）に制御している。つまり、主制御基板１３１０側での遊技（主遊技）を再開させることが可能になっている。通常状態（打ち止め状態でない状態）の挙

動については、前述したとおりである。
【２８１９】
演出表示装置１６００、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、タイミングｔ３の時点で、クリア通知２を実行している。例えば、演出表示装置１６００では、初期表示として、予め決められている装飾図柄の組み合わせを表示するのに加え、クリア通知２として、出玉量および打ち止め状態をクリアした旨を示すように「制限クリアしました」というメッセージを表示するようにしている。これにより、電源の再投入時に出玉量および打ち止め状態をクリアした旨を、ホール管理者が確認することができる。ただし、クリア通知２については、電源遮断時に打ち止め状態でないことから、打ち止め状態をクリアした旨を通知しなくてもよいし、出玉量をクリアした旨や、クリアした時点での出玉量を通知するようにしてもよい。
【２８２０】
また、ランプＡ、Ｂでは、タイミングｔ３の時点で、クリア通知２として、赤色で、ＬＥＤが点灯や点滅を行うようにしている。
【２８２１】
また、スピーカからは、タイミングｔ３の時点で、クリア通知２として、出玉量および打ち止め状態をクリアした旨を示すように「制限クリアしました」という音声を出力するようにしている。
【２８２２】
また、本例では、タイミングｔ３の時点で、クリア通知２を開始しているが、所定期間（例えば、１０秒）が経過することで、クリア通知２を終了するものとしている。つまり、演出表示装置１６００、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、通常時の動作に戻すようにしている。ただし、通常時の動作については、クリア通知２を終了するよりも前に開始してもよい。また、演出表示装置１６００に表示されているクリア通知２については、所定期間が経過した後にも、継続して表示してもよい。そして、このようなクリア通知２については、管理者操作により消去することを可能にしてもよい。これにより、管理者操作によりクリア通知２を消去しなければ、クリア通知２が表示されたままであり、不正行為を行いにくくすることができる。
【２８２３】
次に、タイミングｔ３'の時点で、電源を再投入するが、電源投入パターンとしては、出玉量をクリアするが打ち止め状態は維持することとなる電源投入パターン１、４が選択されている場合について説明する。電源投入パターン１、４が選択されている場合には、電源遮断時の遊技状態を維持しているが、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」については、クリア（初期化）し、一方で、「打ち止め状態中の遊技の制限」については、維持している。本例では、タイミングｔ２での電源の遮断時に、そもそも打ち止め状態でない状態であることから、その後のタイミングｔ３の時点で、電源を再投入したときには、電源投入パターン１、４が選択されているか否かにかかわらず、通常状態（打ち止め状態でない状態）に制御している。つまり、主制御基板１３１０側での遊技（主遊技）を再開させることが可能になっている。通常状態（打ち止め状態でない状態）の挙動については、前述したとおりである。
【２８２４】
演出表示装置１６００、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、タイミングｔ３'の時点で、クリア通知１を実行している。例えば、演出表示装置１６００では、クリア通知１として、出玉量をクリアした旨を示すように「出玉量をクリアしました」というメッセージを表示するようにしている。これにより、電源の再投入時に出玉量をクリアした旨を、ホール管理者が確認することができる。ただし、クリア通知１については、電源遮断時に打ち止め状態であるときに、打ち止め状態を維持した旨を通知し

てもよいし、出玉量をクリアした旨だけでなく、クリアした時点での出玉量を通知するようにしてもよい。

【２８２５】

また、ランプＡ、Ｂでは、タイミングｔ３'の時点で、クリア通知１として、緑色で、ＬＥＤが点灯や点滅を行うようにしている。

【２８２６】

また、スピーカからは、タイミングｔ３'の時点で、クリア通知１として、出玉量をクリアした旨を示すように「出玉量をクリアしました」という音声を出力するようにしている。

【２８２７】

また、本例では、タイミングｔ３の時点で、クリア通知１を開始しているが、所定期間（例えば、１０秒）が経過することで、クリア通知１を終了するものとしている。つまり、演出表示装置１６００、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、通常時の動作に戻すようにしている。ただし、通常時の動作については、クリア通知１を終了するよりも前に開始してもよい。

【２８２８】

図２２３は、打ち止め状態中に重度の異常が発生した場合におけるパチンコ機の挙動を示すタイムチャートである。

【２８２９】

まず、重度の異常を検出するタイミングｔｘよりも前には、打ち止め状態に制御している。打ち止め状態の挙動については、前述したとおりである。

【２８３０】

ここでは、打ち止め状態中におけるタイミングｔｘの時点で、重度の異常を検知した場合について説明する。重度の異常を検知した場合には、その異常が発生したことを外部に伝える異常報知を実行するようにし、演出表示装置１６００については、異常報知として、エラー発生時の動作を実行している。一方、遊技の進行を不能にするなど、異常報知を実行する以外の点については、タイミングｔｘよりも前における重度の異常を検知していない状況から変化しておらず、打ち止め状態の挙動を維持するものとしている。

【２８３１】

具体的には、演出表示装置１６００については、タイミングｔｘの時点で、エラー発生時の動作を実行している。例えば、重度の異常として、磁気を検知している場合、演出表示装置１６００では、エラー表示Ｂとして、「磁気異常」というメッセージを表示するのに加え、現状況表示Ｂとして、既に打ち止め状態に移行して遊技を制限している旨（出玉量が特定値に達した後である旨）を示すように「遊技制限に達しています」というメッセージを表示するようにしている。

【２８３２】

上記したように、打ち止め状態中に重度の異常を検知した場合には、演出表示装置１６００では、エラー表示Ｂだけでなく、現状況表示Ｂを表示するようにし、既に打ち止め状態に移行して遊技を制限している旨（出玉量が特定値に達した後である旨）を示している。このとき、電源を再投入すると、重度の異常の検知が解消されるものの、制限クリアパターンテーブル４における電源投入パターン１、４で電源を再投入した際に、打ち止め状態中の遊技の制限を維持する一方で、電源投入パターン２、３で電源を再投入した際に、打ち止め状態中の遊技の制限がクリアされてしまう。この点、本例では、既に打ち止め状態に移行して遊技を制限している旨をホール管理者が把握したうえで、いずれの電源投入パターンで電源を再投入してよいかどうかを判断することができる。

【２８３３】

また、本例では、演出表示装置１６００のみを用いて異常報知を実行するようにし、演出表示装置１６００以外の部材については、進行不能時の動作を優先して実行するようにしている。これにより、打ち止め状態中に重度の異常を検知した場合であっても、既に打

ち止め状態に移行して遊技が制限されている旨を容易に把握することができる。
【２８３４】
　また、外部端子板からは、打ち止め状態に移行するタイミングｔ１の時点から、強制的にセキュリティ信号を出力する強制出力状態にしているが、タイミングｔｘの時点で、重度の異常を検知した場合には、その出力中のセキュリティ信号を終了させて新たにセキュリティ信号を出力することがなく、出力中のセキュリティ信号を継続して出力するようにしている。これにより、ホール側では、打ち止め状態が終了したとの誤認を生じることがない。
【２８３５】
　また、本例では、タイミングｔｘの時点で、異常報知を開始しているが、所定期間（例えば、３０秒）が経過したとしても、その異常報知を終了することがない。このため、重度の異常が発生した場合には、ホール管理者が電源を遮断することで、異常報知を終了する必要があり、その後に電源を再投入することで、遊技の進行を再開できるようにしている。
【２８３６】
　次に、打ち止め状態中に重度の異常を検知した後、タイミングｔ２の時点で、電源を遮断して異常報知を終了するようにし、その後のタイミングｔ３の時点で、電源を再投入している。本例では、電源の再投入時において、制限クリアパターンテーブルとして制限クリアパターンテーブル４を用いるようにしている。
【２８３７】
　まず、タイミングｔ３の時点で、電源を再投入するが、電源投入パターンとしては、出玉量および打ち止め状態をクリアすることとなる電源投入パターン２、３が選択されている場合について説明する。電源投入パターン２、３が選択されている場合には、電源遮断時の遊技状態をクリア（初期化）しているが、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」及び「打ち止め状態中の遊技の制限」についても、クリア（初期化）している。このため、電源投入パターン２、３のいずれが選択されている場合にも、「打ち止め状態中の遊技の制限」をクリアすることで、通常状態（打ち止め状態でない状態）に制御している。つまり、主制御基板１３１０側での遊技（主遊技）を再開させることが可能になっている。通常状態（打ち止め状態でない状態）の挙動については、前述したとおりである。
【２８３８】
　演出表示装置１６００、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、タイミングｔ３の時点で、クリア通知２を実行している。例えば、演出表示装置１６００では、初期表示として、予め決められている装飾図柄の組み合わせを表示するのに加え、クリア通知２として、出玉量および打ち止め状態をクリアした旨を示すように「制限クリアしました」というメッセージを表示するようにしている。これにより、電源の再投入時に出玉量および打ち止め状態をクリアした旨を、ホール管理者が確認することができる。ただし、クリア通知２については、電源遮断時に打ち止め状態でないときに、打ち止め状態をクリアした旨を通知しなくてもよいし、出玉量をクリアした旨や、クリアした時点での出玉量を通知するようにしてもよい。
【２８３９】
　また、ランプＡ、Ｂでは、タイミングｔ３の時点で、クリア通知２として、赤色で、ＬＥＤが点灯や点滅を行うようにしている。
【２８４０】
　また、スピーカからは、タイミングｔ３の時点で、クリア通知２として、出玉量および打ち止め状態をクリアした旨を示すように「制限クリアしました」という音声を出力するようにしている。
【２８４１】
　また、本例では、タイミングｔ３の時点で、クリア通知２を開始しているが、所定期間

（例えば、１０秒）が経過することで、クリア通知２を終了するものとしている。つまり、演出表示装置１６００、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、通常時の動作に戻すようにしている。ただし、演出表示装置１６００に表示されているクリア通知２については、所定期間が経過した後にも、継続して表示するようにしてもよい。また、このようなクリア通知２については、管理者操作により消去することを可能にしてもよい。これにより、管理者操作によりクリア通知２を消去しなければ、クリア通知２が表示されたままであり、不正行為を行いにくくすることができる。

【２８４２】

次に、タイミングｔ３'の時点で、電源を再投入するが、電源投入パターンとしては、出玉量をクリアするが打ち止め状態は維持することとなる電源投入パターン１、４が選択されている場合について説明する。電源投入パターン１、４が選択されている場合には、電源遮断時の遊技状態を維持しているが、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」については、クリア（初期化）し、一方で、「打ち止め状態中の遊技の制限」については、維持している。このため、電源投入パターン１、４のいずれが選択されている場合にも、「打ち止め状態中の遊技の制限」を維持することで、打ち止め状態の挙動を維持している。つまり、主制御基板１３１０側での遊技（主遊技）を再開させることが不能になっている。打ち止め状態の挙動については、前述したとおりである。

【２８４３】

演出表示装置１６００、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、タイミングｔ３'の時点で、クリア通知１を実行している。例えば、演出表示装置１６００では、クリア通知１として、出玉量をクリアした旨を示すように「出玉量をクリアしました」というメッセージを表示するようにしている。これにより、電源の再投入時に出玉量をクリアした旨を、ホール管理者が確認することができる。ただし、クリア通知１については、電源遮断時に打ち止め状態であるときに、打ち止め状態を維持した旨を通知してもよいし、出玉量をクリアした旨だけでなく、クリアした時点での出玉量を通知するようにしてもよい。

【２８４４】

また、ランプＡ、Ｂでは、タイミングｔ３'の時点で、クリア通知１として、緑色で、ＬＥＤが点灯や点滅を行うようにしている。

【２８４５】

また、スピーカからは、タイミングｔ３'の時点で、クリア通知１として、出玉量をクリアした旨を示すように「出玉量をクリアしました」という音声を出力するようにしている。

【２８４６】

また、本例では、タイミングｔ３の時点で、クリア通知１を開始しているが、所定期間（例えば、１０秒）が経過することで、クリア通知１を終了するものとしている。つまり、演出表示装置１６００、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、進行不能時の動作に戻すようにしている。ただし、進行不能時の動作については、クリア通知１を終了するよりも前に開始してもよい。

【２８４７】

具体的には、演出表示装置１６００では、進行不能通知（進行不能表示）として、「遊技制限中」というメッセージを表示するようにしている。これに加え、演出表示装置１６００では、クリア方法通知（クリア方法表示）として、ホール管理者向けに打ち止め状態のクリア方法を示すように「ラムクリアすれば通常状態になります」というメッセージを表示するようにしている。これにより、電源の再投入時にラムクリアを伴う電源投入パターン２、３を選択しなければ、打ち止め状態をクリアできない旨を、ホール管理者が把握

することができる。
【２８４８】
　また、スピーカについては、進行不能時の動作を実行するときに、進行不能通知（進行不能用の音）として、「１日の出玉制限に達したので遊技を制限しています」という音声を出力している。ただし、このような進行不能用の音については、出力を開始してから所定期間（例えば、３０秒）が経過することで、終了してもよい旨を上述したが、打ち止め状態中に進行不能用の音の出力を終了したとしても、タイミングｔ３'の時点で電源を再投入した場合には、再び進行不能用の音を出力するようにしてもよい。このような場合、タイミングｔ３'から所定時間が経過することで、進行不能用の音の出力を終了するものとなる。これにより、電源の再投入時には、再び進行不能用の音を出力することから、打ち止め状態がクリアされておらず、遊技が制限されている旨を容易に把握することができる。
【２８４９】
　なお、本例では、電源の再投入時に電源投入パターン１、４が選択されている場合、出玉量をクリアするが打ち止め状態は維持するため、クリア通知１を終了した後に進行不能通知やクリア方法通知を実行しており、進行不能通知やクリア方法通知よりも優先してクリア通知１を実行している。これにより、電源の再投入時に出玉量をクリアした旨を、ホール管理者が確認することができる。また、別例として、クリア通知１と並行して進行不能通知やクリア方法通知を実行してもよいし、クリア通知１と進行不能通知やクリア方法通知を交互に切り替えて実行するようにしてもよい。また、クリア通知１と並行して進行不能通知やクリア方法通知を実行する場合、複数の部材のうちの一部の部材でクリア通知１を実行し、残りの部材で進行不能通知やクリア方法通知を実行してもよいし、同じ部材でありながらも、一部の領域でクリア通知１を実行し、残りの領域で進行不能通知やクリア方法通知を実行するようにしてもよい。また、クリア通知１と並行して進行不能通知やクリア方法通知を実行する場合であっても、クリア通知１については、所定期間（例えば、１０秒）が経過することで終了するものとしてよい。
【２８５０】
（打ち止め準備状態を設けた場合：打ち止め準備状態中に異常検知した場合における出玉量に関する報知）
　上記では、出玉量が特定値に達したときに、主制御基板１３１０が打ち止め状態にして遊技の制限を実行しているが、大当り遊技（当り遊技）中に出玉量が特定値に達したときには、大当り遊技が終了するまでの間、打ち止め状態にせず、大当り遊技が終了することで、打ち止め状態に移行するように構成してもよい。例えば、大当り遊技における途中のラウンドで出玉量が特定値に達したときには、直ぐには打ち止め状態にせず、大当り遊技における最後のラウンドが終了することで、打ち止め状態に移行している。つまり、大当り遊技中に出玉量が特定値に達したときには、特定値を超えて出玉を獲得することが可能になっている。このように、大当り遊技中に出玉量が特定値に達した時点で、大当り遊技を終了しないことで、遊技者の不満を軽減することができる。
【２８５１】
　本例では、大当り遊技中に出玉量が特定値に達したときには、打ち止め準備状態に移行し、打ち止め状態に移行することが確定しているものの、大当り遊技を継続するようにしている。そして、打ち止め準備状態については、打ち止め状態と同じく、電源遮断後の再投入時において、維持するか又はクリアするかを選択しうるように構成している。
【２８５２】
　具体的には、制限クリアパターンテーブル４では、電源投入時において、電源投入パターン２、３のように電源遮断時の遊技状態をクリア（初期化）した場合のみ、「打ち止め状態中の遊技の制限」をクリア（初期化）しているが、打ち止め準備状態についても、クリア（初期化）している。一方、電源投入時において、電源投入パターン１、４のように電源遮断時の遊技状態を維持した場合には、「打ち止め状態中の遊技の制限」を維持しているが、打ち止め準備状態についても、維持している。つまり、打ち止め準備状態につい

ては、打ち止め状態と同じく、電源遮断後の再投入時において、維持するか又はクリアするかを選択することが可能になっている。例えば、大当り遊技中に出玉量が特定値に達して打ち止め準備状態が発生している場合において、その打ち止め準備状態をクリアしたいときには、電源遮断後、打ち止め準備状態をクリアするように電源投入時操作を行えばよいが、このような電源投入時操作に伴い、実行中であった大当り遊技がクリアされることとなる。一方、打ち止め準備状態を維持したいときには、電源遮断後、打ち止め準備状態を維持するように電源投入時操作を行えばよいが、このような電源投入時操作に伴い、実行中であった大当り遊技が再開されることとなる。なお、電源投入時において、電源投入パターン５が選択されている場合には、上述した球抜処理が実行されるだけで、遊技が開始されないことから、打ち止め準備状態をクリア（初期化）しないで維持している。

【２８５３】

図２２４は、打ち止め準備状態中に軽度の異常が発生した場合におけるパチンコ機の挙動を示すタイムチャートである。

【２８５４】

まず、大当り遊技中におけるタイミングｔ１の時点で、入賞口への入球に基づく賞球の払い出しにより出玉量が特定値に達すると判断するが、主制御基板１３１０がその入賞口への入球を検出したときには、打ち止めフラグをＯＮとし、打ち止め準備状態に移行している。なお、打ち止め準備状態に移行するタイミングｔ１よりも前には、通常状態（打ち止め状態でない状態）に制御し、大当り遊技が実行されている。通常状態（打ち止め状態でない状態）の挙動については、前述したとおりである。

【２８５５】

また、打ち止め準備状態では、実行中の大当り遊技を継続している。また、打ち止め準備状態では、タイミングｔ１から所定時間が経過した後に、演出表示装置１６００を用いて、既に出玉量が特定値に達したことを外部に伝える待機報知を実行している。例えば、演出表示装置１６００では、実行中の大当り遊技に関する表示（通常表示）を表示するのに加え、待機表示として、既に出玉量が特定値に達したことを示すように「大当り終了で今日は終わりだよ」というメッセージを表示するようにしている。このように、打ち止め準備状態では、大当り遊技が終了するときに打ち止め状態に移行する旨を、予告的に案内するようにしている。

【２８５６】

一方、大当り遊技の進行など、待機報知を実行する以外の点については、タイミングｔ１よりも前の状況から変化しておらず、通常状態（打ち止め状態でない状態）の挙動を維持するものとしている。

【２８５７】

なお、本例では、演出表示装置１６００のみを用いて待機報知を実行するようにし、演出表示装置１６００以外の部材については、通常時の動作を優先して実行するようにしている。これにより、打ち止め準備状態では、実行中の大当り遊技に関する情報を容易に把握することができる。

【２８５８】

次に、打ち止め準備状態中におけるタイミングｔｘの時点で、軽度の異常を検知した場合について説明する。軽度の異常を検知した場合には、その異常が発生したことを外部に伝える異常報知を実行するようにし、演出表示装置１６００、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカ、外部端子板については、異常報知として、エラー発生時の動作を実行している。一方、大当り遊技の進行など、異常報知を実行する以外の点については、タイミングｔｘよりも前における軽度の異常を検知していない状況から変化しておらず、通常状態（打ち止め状態でない状態）の挙動を維持するものとしている。

【２８５９】

具体的には、演出表示装置１６００、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピー

カについては、タイミングｔｘの時点で、エラー発生時の動作を実行している。例えば、軽度の異常として、外枠２に対する本体枠４の開放を検知している場合、演出表示装置１６００では、エラー表示Ａとして、「ドア開放エラー」というメッセージを表示するのに加え、現状況表示Ｃとして、既に出玉量が特定値に達したことを示すように「大当り終了で今日は終わりだよ」というメッセージを表示するようにしている。

【２８６０】

上記したように、打ち止め準備状態中に軽度の異常を検知した場合には、演出表示装置１６００では、エラー表示Ａだけでなく、現状況表示Ｃを表示するようにし、既に出玉量が特定値に達したことを示している。このとき、電源を遮断すると、軽度の異常の検知が解消されるものの、制限クリアパターンテーブル４における電源投入パターン１、４で電源を再投入した際に、打ち止め準備状態を維持する一方で、電源投入パターン２、３で電源を再投入した際に、打ち止め準備状態がクリアされてしまう。この点、本例では、既に出玉量が特定値に達して打ち止め準備状態に移行している旨をホール管理者が把握したうえで、いずれの電源投入パターンで電源を再投入してよいかどうかを判断することができる。

【２８６１】

なお、打ち止め準備状態中には、演出表示装置１６００で、待機表示として、既に出玉量が特定値に達したことを示すように「大当り終了で今日は終わりだよ」というメッセージを表示しているが、このような打ち止め準備状態中に軽度の異常を検知した場合には、演出表示装置１６００では、現状況表示Ｃとして、待機表示と同じデータを流用して表示するようにしてもよい。また、待機表示を流用して現状況表示Ｃを表示する場合には、現状況表示Ｃを最上位レイヤとして表示するようにし、異常報知の実行中に継続して認識できるように表示制御するものとしている。これにより、現状況表示Ｃが認識できなくなることを防止することができる。

【２８６２】

また、本例では、打ち止め準備状態中に軽度の異常が発生した場合や、後述する重度の異常が発生した場合には、現状況表示Ｃを実行するものであるが、その現状況表示Ｃについては、その後に出玉量が変化したとしても終了することがない。また、現状況表示Ｃについては、例えば、エラー表示Ａを終了するまでの所定時間が経過したり、異常が解消される管理者操作によっては、消去することを可能にしている。これにより、現状況表示Ｃが必要以上に表示されるのを防止することができる。

【２８６３】

また、本例では、打ち止め準備状態中に軽度の異常が発生した場合や、後述する重度の異常が発生した場合には、演出表示装置１６００にて現状況表示Ｃを実行しているが、例えば、従来タイプの遊技機（遊技機外に実球としての賞球を払い出すタイプの遊技機）で上皿が一杯になるなど、頻繁に生ずる作業上の異常（エラー）が発生した場合には、演出表示装置１６００にて現状況表示Ｃを実行しないようにしている。これにより、現状況表示Ｃが頻発して表示されるのを防止することができる。

【２８６４】

また、本例では、打ち止め準備状態中に軽度の異常が発生した場合や、後述する重度の異常が発生した場合には、演出表示装置１６００にて現状況表示Ｃを実行しているが、例えば、ラムエラーが発生した場合にも、重度の異常が発生したとして、演出表示装置１６００にて現状況表示Ｃを実行している。ただし、ラムエラーが発生した場合には、打ち止め準備状態に関する記憶自体が異常である可能性もあるため、演出表示装置１６００にて現状況表示Ｃを実行しないようにしてもよい。

【２８６５】

また、ランプＡ、Ｂでは、タイミングｔｘの時点で、エラー発光として、単色で、ＬＥＤが点灯や点滅を行うようにし、スピーカからは、エラー音として、「ドア開放エラーです」という音声を出力するようにしている。

【２８６６】

また、外部端子板からは、タイミングｔｘの時点で、セキュリティ信号を出力している。これにより、軽度の異常を検知した場合には、ホールコンピュータに対してセキュリティ信号が出力されて、ホール側では、軽度の異常が発生している旨を把握することができる。

【２８６７】

また、本例では、タイミングｔｘの時点で、異常報知を開始しているが、所定期間（例えば、３０秒）が経過することで、異常報知を終了するものとしている。つまり、演出表示装置１６００、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカ、外部端子板については、通常時の動作に戻すようにしている。ただし、所定期間が経過するよりも前に、外枠２に対する本体枠４の閉鎖など、軽度の異常が解消したことを検知した場合には、その時点で、異常報知を終了するものとしている。

【２８６８】

次に、タイミングｔｚの時点で、大当り遊技が終了したと判断するが、大当り遊技状態が終了した後には、「遊技停止」と「発射停止」の両方を行う制限パターン３が適用された「打ち止め状態」に移行している。打ち止め状態の挙動については、前述したとおりである。

【２８６９】

また、打ち止め状態に移行した後、タイミングｔ２の時点で、電源を遮断し、その後のタイミングｔ３の時点で、電源を再投入している。本例では、電源の再投入時において、制限クリアパターンテーブルとして制限クリアパターンテーブル４を用いるようにしている。ここでは、タイミングｔ３の時点で、電源を再投入するが、電源投入パターンとしては、出玉量および打ち止め状態をクリアすることとなる電源投入パターン２、３が選択されている場合と、タイミングｔ３'の時点で、電源を再投入するが、電源投入パターンとしては、出玉量をクリアするが打ち止め状態は維持することとなる電源投入パターン１、４が選択されている場合と、を示しているが、これらの挙動については、図２２１で説明したとおりである。

【２８７０】

図２２５は、打ち止め準備状態中に重度の異常が発生した場合におけるパチンコ機の挙動を示すタイムチャートである。

【２８７１】

まず、重度の異常を検出するタイミングｔｘよりも前には、打ち止め準備状態に制御し、大当り遊技が実行されている。打ち止め準備状態の挙動については、前述したとおりである。

【２８７２】

ここでは、打ち止め準備状態中におけるタイミングｔｘの時点で、重度の異常を検知した場合について説明する。重度の異常を検知した場合には、遊技球の発射が不能とされ、主制御基板１３１０側での遊技（主遊技）を進行させることが不能な状態としている。つまり、重度の異常が発生した場合には、実行中の大当り遊技を停止するようにしている。

【２８７３】

また、重度の異常を検知した場合には、その異常が発生したことを外部に伝える異常報知を実行するようにし、演出表示装置１６００、ランプＡ～Ｃ、スピーカ、可動体、外部端子板については、異常報知として、エラー発生時の動作を実行している。

【２８７４】

具体的には、演出表示装置１６００、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、タイミングｔｘの時点で、エラー発生時の動作を実行している。例えば、重度の異常として、磁気を検知している場合、演出表示装置１６００では、エラー表示Ｂとして、「磁気異常」というメッセージを表示するのに加え、現状況表示Ｃとして、既に出玉量が特定値に達したことを示すように「大当り終了で今日は終わりだよ」というメッ

セージを表示するようにしている。
【２８７５】
上記したように、打ち止め準備状態中に重度の異常を検知した場合には、演出表示装置１６００では、エラー表示Ａだけでなく、現状況表示Ｃを表示するようにし、既に出玉量が特定値に達したことを示している。このとき、電源を遮断すると、重度の異常の検知が解消されるものの、制限クリアパターンテーブル４における電源投入パターン１、４で電源を再投入した際に、打ち止め準備状態を維持する一方で、電源投入パターン２、３で電源を再投入した際に、打ち止め準備状態がクリアされてしまう。この点、本例では、既に出玉量が特定値に達して打ち止め準備状態に移行している旨をホール管理者が把握したうえで、いずれの電源投入パターンで電源を再投入してよいかどうかを判断することができる。
【２８７６】
なお、打ち止め準備状態中には、演出表示装置１６００で、待機表示として、既に出玉量が特定値に達したことを示すように「大当り終了で今日は終わりだよ」というメッセージを表示しているが、このような打ち止め準備状態中に重度の異常を検知した場合には、演出表示装置１６００では、現状況表示Ｃとして、待機表示と同じデータを流用して表示するようにしてもよい。また、待機表示を流用して現状況表示Ｃを表示する場合には、現状況表示Ｃを最上位レイヤとして表示するようにし、異常報知の実行中に継続して認識できるように表示制御するものとしている。これにより、現状況表示Ｃが認識できなくなることを防止することができる。
【２８７７】
また、ランプＡ、Ｂでは、タイミングｔｘの時点で、エラー発光として、単色で、ＬＥＤが点灯や点滅を行うようにしている。
【２８７８】
また、ランプＣでは、機能表示ユニット１４００として、状態表示器、普通図柄表示器、普通保留表示器、第一特別図柄表示器、第一特別保留数表示器、第二特別図柄表示器、第二特別保留数表示器、ラウンド表示器などを備えているが、それらの全てのＬＥＤが点灯するようにしている。ただし、別例として、機能表示ユニット１４００に、異常報知専用のＬＥＤを設けるようにし、重度の異常を検知した場合には、その異常報知専用のＬＥＤを点灯し、それ以外のＬＥＤを消灯するようにしてもよい。
【２８７９】
また、スピーカからは、エラー音として、「磁気異常が発生しました」という音声を出力するようにしている。
【２８８０】
また、可動体については、タイミングｔｘの時点で、動作することがない動作不能状態にしている。例えば、タイミングｔｘの時点で、可動体が動作中である場合には、可動体を動作途中で強制停止している。ただし、別例として、可動体については、タイミングｔｘの後に、初期位置でない可動体を初期位置に戻してから、可動体を停止するようにしてもよい。これにより、タイミングｔｘの時点で、可動体が演出表示装置１６００の表示領域の前方に位置していたとしても、タイミングｔｘの後に、可動体が初期位置に戻ることとなり、演出表示装置１６００で実行されているエラー表示Ｂや現状況表示Ｃを見逃しにくくすることができる。
【２８８１】
また、外部端子板からは、タイミングｔｘの時点で、セキュリティ信号を出力している。これにより、重度の異常を検知した場合には、ホールコンピュータに対してセキュリティ信号が出力されて、ホール側では、重度の異常が発生している旨を把握することができる。
【２８８２】
また、タイミングｔｘの時点で、重度の異常を検知した場合には、遊技者がハンドル１６０を操作したときに、遊技領域５ａへ遊技球を発射することを不能にしている。

【２８８３】
　また、タイミングｔｘの時点で、重度の異常を検知した場合には、入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数（入球数）と、賞球として払い出される遊技球Ｂの球数（払出数）とを計数の対象としていない。つまり、入球数に対する払出数の割合に関する演算を行うことを不能にし、ベースモニタ１３１０ｈに表示されているベース値に反映しないようにしている。ただし、入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数（入球数）については、計数の対象とし、入球数に対する払出数の割合に関する演算を行うことで、ベースモニタ１３１０ｈに表示されているベース値に反映するようにしてもよい。
【２８８４】
　また、タイミングｔｘの時点で、重度の異常を検知した場合には、タイミングｔｘよりも前に入賞口への入球を検出したものについては、賞球として所定数の遊技球を払い出すことを可能とし、賞球として払い出される遊技球の球数の分だけ、遊技者の持ち球数に加算することを可能にしている。これにより、出玉量が特定値になるまでの遊技球の球数の分だけは、遊技者が賞球を得ることができる。一方、タイミングｔｘの時点で、重度の異常を検知した後に、入賞口への入球を検出したものについては、賞球として所定数の遊技球を払い出すことがなく、遊技者の持ち球数に加算することもない。ただし、タイミングｔｘの時点で、重度の異常を検知した場合には、入賞口への入球を検出しないように構成してもよく、そもそも入賞口への入球を検出しない場合にも同じく、入賞口への入球があったとしても、賞球として所定数の遊技球を払い出すことがなく、遊技者の持ち球数に加算することもない。
【２８８５】
　また、本例では、タイミングｔｘの時点で、異常報知を開始しているが、所定期間（例えば、３０秒）が経過したとしても、その異常報知を終了することがない。このため、重度の異常が発生した場合には、ホール管理者が電源を遮断することで、異常報知を終了する必要があり、その後に電源を再投入することで、遊技の進行を再開できるようにしている。
【２８８６】
　次に、打ち止め準備状態中に重度の異常を検知した後、タイミングｔ２の時点で、電源を遮断して異常報知を終了するようにし、その後のタイミングｔ３の時点で、電源を再投入している。本例では、電源の再投入時において、制限クリアパターンテーブルとして制限クリアパターンテーブル４を用いるようにしている。
【２８８７】
　まず、タイミングｔ３の時点で、電源を再投入するが、電源投入パターンとしては、出玉量および打ち止め状態をクリアすることとなる電源投入パターン２、３が選択されている場合について説明する。電源投入パターン２、３が選択されている場合には、電源遮断時の遊技状態をクリア（初期化）しているため、実行中であった大当り遊技に関する情報がクリアされている。また、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」及び「打ち止め状態中の遊技の制限」については、クリア（初期化）し、打ち止め準備状態についても、クリア（初期化）している。このため、電源投入パターン２、３のいずれが選択されている場合にも、打ち止め準備状態をクリアすることで、通常状態（打ち止め状態でない状態）に制御している。つまり、主制御基板１３１０側での遊技（主遊技）を再開させることが可能になっている。ただし、実行中であった大当り遊技については、再開することがない。通常状態（打ち止め状態でない状態）の挙動については、前述したとおりである。
【２８８８】
　演出表示装置１６００、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、タイミングｔ３の時点で、クリア通知２を実行している。例えば、演出表示装置１６００では、初期表示として、予め決められている装飾図柄の組み合わせを表示するのに加え

、クリア通知２として、出玉量および打ち止め準備状態をクリアした旨を示すように「制限クリアしました」というメッセージを表示するようにしている。これにより、電源の再投入時に出玉量および打ち止め準備状態をクリアした旨を、ホール管理者が確認することができる。ただし、クリア通知２については、電源遮断時に打ち止め準備状態でないときに、打ち止め準備状態をクリアした旨を通知しなくてもよいし、出玉量をクリアした旨や、クリアした時点での出玉量を通知するようにしてもよい。また、クリア通知２については、打ち止め状態をクリアした場合と、打ち止め準備状態をクリアした場合とで、共通の通知を実行しているが、別の通知を実行するようにしてもよい。

【２８８９】

また、ランプＡ、Ｂでは、タイミングｔ３の時点で、クリア通知２として、赤色で、ＬＥＤが点灯や点滅を行うようにしている。

【２８９０】

また、スピーカからは、タイミングｔ３の時点で、クリア通知２として、出玉量および打ち止め準備状態をクリアした旨を示すように「制限クリアしました」という音声を出力するようにしている。

【２８９１】

また、本例では、タイミングｔ３の時点で、クリア通知２を開始しているが、所定期間（例えば、１０秒）が経過することで、クリア通知２を終了するものとしている。つまり、演出表示装置１６００、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、通常時の動作に戻すようにしている。ただし、通常時の動作については、クリア通知２を終了するよりも前に開始してもよい。また、演出表示装置１６００に表示されているクリア通知２については、所定期間が経過した後にも、継続して表示してもよい。そして、このようなクリア通知２については、管理者操作により消去することを可能にしてもよい。これにより、管理者操作によりクリア通知２を消去しなければ、クリア通知２が表示されたままであり、不正行為を行いにくくすることができる。

【２８９２】

次に、タイミングｔ３'の時点で、電源を再投入するが、電源投入パターンとしては、出玉量をクリアするが打ち止め状態は維持することとなる電源投入パターン１、４が選択されている場合について説明する。電源投入パターン１、４が選択されている場合には、電源遮断時の遊技状態を維持しているため、実行中であった大当り遊技に関する情報が維持されている。また、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」については、クリア（初期化）し、一方で、「打ち止め状態中の遊技の制限」については、維持し、打ち止め準備状態についても、維持している。このため、電源投入パターン１、４のいずれが選択されている場合にも、打ち止め準備状態を維持している。つまり、打ち止め準備状態では、実行中であった大当り遊技が再開されることとなる。打ち止め準備状態の挙動については、前述したとおりである。

【２８９３】

演出表示装置１６００、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、タイミングｔ３'の時点で、クリア通知１を実行している。例えば、演出表示装置１６００では、クリア通知１として、出玉量をクリアした旨を示すように「出玉量をクリアしました」というメッセージを表示するようにしている。これにより、電源の再投入時に出玉量をクリアした旨を、ホール管理者が確認することができる。ただし、クリア通知１については、電源遮断時に打ち止め状態であるときに、打ち止め状態を維持した旨を通知してもよいし、出玉量をクリアした旨だけでなく、クリアした時点での出玉量を通知するようにしてもよい。

【２８９４】

また、ランプＡ、Ｂでは、タイミングｔ３'の時点で、クリア通知１として、緑色で、ＬＥＤが点灯や点滅を行うようにしている。

【２８９５】
　また、スピーカからは、タイミングｔ３'の時点で、クリア通知１として、出玉量をクリアした旨を示すように「出玉量をクリアしました」という音声を出力するようにしている。
【２８９６】
　また、本例では、タイミングｔ３の時点で、クリア通知１を開始しているが、所定期間（例えば、１０秒）が経過することで、クリア通知１を終了するものとしている。つまり、演出表示装置１６００、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、通常時の動作に戻すようにしている。ただし、通常時の動作については、クリア通知１を終了するよりも前に開始してもよい。
【２８９７】
　具体的には、演出表示装置１６００では、再開されている大当り遊技に関する表示（通常表示）を表示するのに加え、待機表示として、既に出玉量が特定値に達したことを示すように「大当り終了で今日は終わりだよ」というメッセージを表示するようにしている。これに加え、演出表示装置１６００では、クリア方法表示として、ホール管理者向けに打ち止め準備状態のクリア方法を示すように「ラムクリアすれば通常状態になります」というメッセージを表示するようにしている。これにより、電源の再投入時にラムクリアを伴う電源投入パターン２、３を選択しなければ、打ち止め準備状態をクリアできない旨を、ホール管理者が把握することができる。ただし、クリア方法通知については、打ち止め準備状態から打ち止め状態に移行するのを待って、実行するようにしてもよい。
【２８９８】
　なお、本例では、電源の再投入時に電源投入パターン１、４が選択されている場合、クリア通知１を終了した後に、演出表示装置１６００では、通常表示（再開されている大当り遊技に関する表示）や待機表示を表示しているが、通常表示や待機表示については、クリア通知１と並行して実行するようにしてもよい。これにより、大当り遊技の再開にあたって、遊技者が出玉の獲得を逃さないように防止することができる。
【２８９９】
　また、本例では、出玉量をクリアするが打ち止め準備状態は維持するため、クリア通知１を終了した後に待機表示通知やクリア方法通知を実行しており、待機表示通知やクリア方法通知よりも優先してクリア通知１を実行している。これにより、電源の再投入時に出玉量をクリアした旨を、ホール管理者が確認することができる。また、別例として、クリア通知１と並行して待機表示通知やクリア方法通知を実行してもよいし、クリア通知１と待機表示通知やクリア方法通知を交互に切り替えて実行するようにしてもよい。また、クリア通知１と並行して待機表示通知やクリア方法通知を実行する場合、複数の部材のうちの一部の部材でクリア通知１を実行し、残りの部材で待機表示通知やクリア方法通知を実行してもよいし、同じ部材でありながらも、一部の領域でクリア通知１を実行し、残りの領域で待機表示通知やクリア方法通知を実行するようにしてもよい。また、クリア通知１と並行して待機表示通知やクリア方法通知を実行する場合であっても、クリア通知１については、所定期間（例えば、１０秒）が経過することで終了するものとしてよい。また、クリア方法通知についても、所定期間（例えば、１０秒）が経過することで終了するものとしてよい。
【２９００】
　図２２６は、通常状態や打ち止め状態中に軽度の異常が発生した場合における具体的な演出例である。なお、本例では、上述した「特定値」として１０００００が設定され、上述した「制限パターン」として、制限パターン３が選択されているときの例である。すなわち、制限パターン３が設定されていれば、出玉量が特定値（１０００００発）に達したときに「遊技停止」と「発射停止」を伴う打ち止め状態となるものである。
【２９０１】
　図２２６（Ａ）に示すように、演出表示装置１６００では、特別図柄の変動表示に対応

した変動演出（変動パターンに基づく演出）を実行し、演出表示装置１６００の中央領域において、装飾図柄の変動表示を行っている。また、演出表示装置１６００の右上領域では、第二装飾図柄の変動表示が行われている。また、演出表示装置１６００の左下領域では、第一始動口２００２または第二始動口２００４に遊技球が入球したものの特別図柄の変動表示が待機されている分だけ保留表示を表示している。

【２９０２】

図２２６（Ｂ）に示すように、通常状態中に軽度の異常として、外枠２に対する本体枠４の開放を検知した場合には、装飾図柄の変動表示を継続するが、演出表示装置１６００の中央領域では、エラー表示Ａとして、本体枠４が開放している旨を示す「ドア開放エラー。係員をお呼びください」というメッセージを表示している。また、演出表示装置１６００の上領域では、現状況表示Ａとして、遊技を制限するまでの残りの出玉量（出玉量が特定値に達するまでの残りの出玉量）を示す「遊技制限まで残り＋４２０００発」というメッセージを表示している。これらのエラー表示Ａおよび現状況表示Ａについては、装飾図柄などの遊技に関する情報表示よりも上位レイヤに表示されている。また、現状況表示Ａについては、遊技に関する情報表示やエラー表示Ａとは重ならない位置に表示されている。これにより、軽度の異常が発生した時点では、遊技を制限するまでの残りの出玉量を確実に把握することができる。

【２９０３】

図２２６（Ｃ）に示すように、外枠２に対する本体枠４の閉鎖など、所定のエラー終了条件が成立すると、演出表示装置１６００では、エラー表示Ａおよび現状況表示Ａを消去している。

【２９０４】

図２２６（Ｄ）に示すように、出玉量が特定値に近づくと、例えば、出玉量が特定値に達するまでの残り球数が「＋５００発」になった時点で、演出表示装置１６００の上領域では、事前告知時の動作として、出玉量が特定値に達するまでの残り球数を示す「遊技制限まで残り＋５００発」という事前告知表示を表示している。なお、事前告知表示については、装飾図柄などの遊技に関する情報表示とは重ならない位置に表示されている。

【２９０５】

図２２６（Ｅ）に示すように、出玉量が特定値に達すると、打ち止め状態に移行して遊技の制限を実行するが、演出表示装置１６００では、打ち止め状態に対応する画像が表示される。打ち止め状態に対応する画像としては、「遊技制限」というメッセージを表示し、それに伴い「１日の出玉制限１０００００発に達したので遊技を制限しています。」、「係員をお呼び下さい。」、「精算ボタンは有効です。」というメッセージを表示している。なお、ここでの精算ボタンとは、精算処理を実行するための計数ボタンスイッチのことである。また、出玉量が特定値に達したとき、演出表示装置１６００では、装飾図柄の停止図柄、第二装飾図柄の停止図柄、保留表示や事前告知表示を表示しているが、そのような遊技に関する情報については、出玉量が特定値に達した後に「遊技制限」というメッセージを表示した時点で、表示しないようにし（視認できないようにし）、暗転した画面上にメッセージを表示するようにしている。これにより、出玉量が特定値に達して遊技の制限が実行されている旨を把握することができ、ホール管理者の操作によらなければ遊技の制限を解除できない旨を把握することができる。また、計数ボタンスイッチの操作により遊技者の持ち球数を精算することが可能である旨を把握することができる。

【２９０６】

上記では、出玉量が特定値に達したよりも前に、演出表示装置１６００では、装飾図柄の停止図柄、第二装飾図柄の停止図柄、保留表示や事前告知表示を表示しているが、そのような遊技に関する情報については、出玉量が特定値に達することで、全てが認識不能となるように実行している。ただし、出玉量が特定値に達したときには、遊技に関する情報のうち、一部の情報については認識不能となるようにし、それ以外の情報については認識可能となるようにしてもよい。例えば、事前告知表示については、遊技の制限を実行するか否かの情報であることから、認識不能となるようにし、装飾図柄の停止図柄、第二装飾

図柄の停止図柄、保留表示については、認識可能となるようにしてもよい。これにより、どのような状況下で出玉量が特定値に達したのかを、出玉量が特定値に達した後にも把握することができる。

【２９０７】

図２２６（Ｆ）に示すように、打ち止め状態中に軽度の異常として、外枠２に対する本体枠４の開放を検知した場合には、演出表示装置１６００の中央領域では、エラー表示Ａとして、本体枠４が開放している旨を示す「ドア開放エラー。係員をお呼びください」というメッセージを表示している。また、演出表示装置１６００の上領域では、現状況表示Ｂとして、既に打ち止め状態に移行して遊技を制限している旨（出玉量が特定値に達した後である旨）を示す「遊技制限に達しています」というメッセージを特定の表示領域に表示している。この特定の表示領域は、演出表示装置１６００における表示領域の一部に設定され、上述した事前告知表示や現状況表示Ａにも用いられる表示領域であり、ホール管理者が見落とさないように如何なる遊技状態においても不変とされる固定領域とされている。そして、これらのエラー表示Ａおよび現状況表示Ｂについては、打ち止め状態に対応する画像表示などの他の演出画像を表示するレイヤよりも上位（前面側）のレイヤで表示するように構成されており、本例ではエラー表示Ａおよび現状況表示Ｂを最上位レイヤとして表示している。また、現状況表示Ｂについては、打ち止め状態に対応する画像表示（メッセージ）やエラー表示Ａとは重ならない位置に表示されている。これにより、軽度の異常が発生した時点では、遊技を制限している旨を確実に把握することができる。

【２９０８】

図２２６（Ｇ）に示すように、外枠２に対する本体枠４の閉鎖など、所定のエラー終了条件が成立すると、演出表示装置１６００では、エラー表示Ａおよび現状況表示Ｂを消去している。

【２９０９】

本例では、打ち止め状態が終了するための所定のクリア条件が成立するためには、電源遮断後に所定の電源投入パターンで再投入する必要がある。ここでは、制限クリアパターンテーブル４を用い、電源投入時における電源投入パターンとして、電源遮断時の遊技状態をクリアし、出玉量および打ち止め状態をクリアする電源投入パターン２、３を選択した場合と、電源遮断時の遊技状態を維持し、出玉量をクリアするが打ち止め状態は維持する電源投入パターン１、４を選択した場合について説明する。

【２９１０】

まず、打ち止め状態に移行した後、電源遮断後の再投入時において、電源遮断時の遊技状態をクリアし、出玉量および打ち止め状態をクリアする電源投入パターン２、３を選択した場合には、打ち止め状態がクリアされることで、打ち止め状態としての遊技の制限が解除されている。また、打ち止め状態に移行する時点で中断した際の残りの変動表示に関する情報や、保留に関する情報については、打ち止め状態に移行した後や、電源遮断時に保持されているが、電源遮断後の再投入時においては、そのような中断した際の残りの変動表示に関する情報や、保留に関する情報をクリアすることで、低確率状態で、保留がない状態で開始するものとしている。このため、図２２６（Ｈ－１）に示すように、演出表示装置１６００では、保留表示がなく、装飾図柄が初期図柄で停止している初期画像を表示するようにしている。また、演出表示装置１６００の上領域では、クリア通知２として、出玉量および打ち止め状態をクリアした旨を示す「制限クリアしました」というメッセージを表示している。このクリア通知２については、装飾図柄などの遊技に関する情報表示よりも上位レイヤに表示され、遊技に関する情報表示とは重ならない位置に表示されている。これにより、電源を再投入した時点では、出玉量および打ち止め状態をクリアした旨を確実に把握することができる。

【２９１１】

一方、打ち止め状態に移行した後、電源遮断後の再投入時において、電源遮断時の遊技状態を維持し、出玉量をクリアするが打ち止め状態は維持する電源投入パターン１、４を選択した場合には、打ち止め状態としての遊技の制限が解除されていない。このため、演

出表示装置１６００では、クリア通知１として、出玉量をクリアした旨を示す「出玉量をクリアしました」というメッセージを表示した後、図２２６（Ｈ－２）に示す画像を再び表示するようにしている。また、演出表示装置１６００の上領域では、クリア方法表示として、ホール管理者向けに打ち止め状態のクリア方法を示す「ラムクリアすれば通常状態になります」というメッセージを表示している。このクリア方法表示については、打ち止め状態に対応する画像表示よりも上位レイヤに表示され、打ち止め状態に対応する画像表示（メッセージ）とは重ならない位置に表示されている。これにより、電源を再投入した時点では、遊技の制限を解除するためにラムクリアを伴う電源の再投入が必要である旨を確実に把握することができる。

【２９１２】

図２２７は、通常状態や打ち止め状態中に重度の異常が発生した場合における具体的な演出例である。なお、本例では、上述した「特定値」として１０００００が設定され、上述した「制限パターン」として、制限パターン３が選択されているときの例である。すなわち、制限パターン３が設定されていれば、出玉量が特定値（１０００００発）に達したときに「遊技停止」と「発射停止」を伴う打ち止め状態となるものである。

【２９１３】

まず、通常状態中に重度の異常が発生した場合について説明する。図２２７（Ａ）に示すように、演出表示装置１６００では、特別図柄の変動表示に対応した変動演出（変動パターンに基づく演出）を実行し、演出表示装置１６００の中央領域において、装飾図柄の変動表示を行っている。また、演出表示装置１６００の右上領域では、第二装飾図柄の変動表示が行われている。また、演出表示装置１６００の左下領域では、第一始動口２００２または第二始動口２００４に遊技球が入球したものの特別図柄の変動表示が待機されている分だけ保留表示を表示している。

【２９１４】

図２２７（Ｂ）に示すように、通常状態中に重度の異常として、磁気を検知した場合には、装飾図柄の変動表示を停止し、遊技の進行が不能とされるエラー状態が発生するが、演出表示装置１６００では、エラー表示Ｂとして、磁気を検知した旨を示す「磁気異常」というメッセージを表示し、それに伴い「係員をお呼び下さい。」、「電源再投入で復帰＆制限初期化されます。」というメッセージを表示している。また、磁気を検知したとき、演出表示装置１６００では、装飾図柄の停止図柄、第二装飾図柄の停止図柄、保留表示を表示しているが、そのような遊技に関する情報については、磁気を検知した後に「磁気異常」というメッセージを表示した時点で、表示しないようにし（視認できないようにし）、暗転した画面上にメッセージを表示するようにしている。これにより、磁気を検知してエラー状態が発生している旨を把握することができる。また、電源を再投入しなければエラー状態が解消されない旨や、電源を再投入した際には遊技の制限が解除される旨を把握することができる。

【２９１５】

また、演出表示装置１６００の上領域では、現状況表示Ａとして、遊技を制限するまでの残りの出玉量（出玉量が特定値に達するまでの残りの出玉量）を示す「遊技制限まで残り＋４２０００発」というメッセージを表示している。これらのエラー表示Ｂおよび現状況表示Ａについては、装飾図柄などの遊技に関する情報表示よりも上位レイヤに表示されている。また、現状況表示Ａについては、エラー表示Ｂ（メッセージ）とは重ならない位置に表示されている。これにより、重度の異常を検知した時点では、遊技を制限するまでの残りの出玉量を確実に把握することができる。

【２９１６】

本例では、重度の異常に関するエラー状態が終了するための所定のクリア条件が成立するためには、電源遮断後に電源を再投入する必要がある。ここでは、制限クリアパターンテーブル４を用い、電源投入時における電源投入パターンとして、電源遮断時の遊技状態をクリアし、出玉量および打ち止め状態をクリアする電源投入パターン２、３を選択した場合と、電源遮断時の遊技状態を維持し、出玉量をクリアするが打ち止め状態は維持する

電源投入パターン１、４を選択した場合について説明する。
【２９１７】
まず、エラー状態が発生した後、電源遮断後の再投入時において、電源遮断時の遊技状態をクリアし、出玉量および打ち止め状態をクリアする電源投入パターン２、３を選択した場合には、エラー状態がクリアされることで、遊技の開始が可能になっている。また、エラー状態が発生した時点で中断した際の残りの変動表示に関する情報や、保留に関する情報については、エラー状態が発生した後や、電源遮断時に保持されているが、電源遮断後の再投入時においては、そのような中断した際の残りの変動表示に関する情報や、保留に関する情報をクリアすることで、低確率状態で、保留がない状態で開始するものとしている。このため、図２２７（Ｃ－１）に示すように、演出表示装置１６００では、保留表示がなく、装飾図柄が初期図柄で停止している初期画像を表示するようにしている。また、演出表示装置１６００の上領域では、クリア通知２として、出玉量および打ち止め状態をクリアした旨を示す「制限クリアしました」というメッセージを表示している。このクリア通知２については、装飾図柄などの遊技に関する情報表示よりも上位レイヤに表示され、遊技に関する情報表示とは重ならない位置に表示されている。ただし、本例では、エラー状態が発生した時点で、打ち止め状態でないため、クリア通知２として、打ち止め状態をクリアした旨を表示しなくてもよいし、クリア通知２として、出玉量をクリアした旨や、クリアした時点での出玉量を表示するようにしてもよい。
【２９１８】
同様に、エラー状態が発生した後、電源遮断後の再投入時において、電源遮断時の遊技状態を維持し、出玉量をクリアするが打ち止め状態は維持する電源投入パターン１、４を選択した場合には、エラー状態がクリアされることで、遊技の開始が可能になっている。ただし、エラー状態が発生した時点で中断した際の残りの変動表示に関する情報や、保留に関する情報については、エラー状態が発生した後や、電源遮断時に保持されているが、電源遮断後の再投入時においても、そのような中断した際の残りの変動表示に関する情報や、保留に関する情報を維持することで、保留があり、且つ、前回の変動の途中の状態で再開するものとしている。このため、図２２７（Ｃ－２）に示すように、演出表示装置１６００では、装飾図柄の変動表示や第二装飾図柄の変動表示を再開するようにしている。また、演出表示装置１６００の上領域では、クリア通知１として、出玉量をクリアした旨を示す「出玉量クリアしました」というメッセージを表示している。このクリア通知１については、装飾図柄などの遊技に関する情報表示よりも上位レイヤに表示され、遊技に関する情報表示とは重ならない位置に表示されている。これにより、電源を再投入した時点では、出玉量をクリアした旨を確実に把握することができる。なお、本例では、クリア通知１を終了するよりも前に、装飾図柄の変動表示や第二装飾図柄の変動表示を再開しているが、クリア通知１を終了した後に、装飾図柄の変動表示や第二装飾図柄の変動表示を再開するようにしてもよい。
【２９１９】
次に、打ち止め状態中に重度の異常が発生した場合について説明する。図２２７（Ａ'）に示すように、出玉量が特定値に達すると、打ち止め状態に移行して遊技の制限を実行するが、演出表示装置１６００では、打ち止め状態に対応する画像が表示される。打ち止め状態に対応する画像としては、「遊技制限」というメッセージを表示し、それに伴い「１日の出玉制限１０００００発に達したので遊技を制限しています。」、「係員をお呼び下さい。」、「精算ボタンは有効です。」というメッセージを表示している。なお、ここでの精算ボタンとは、精算処理を実行するための計数ボタンスイッチのことである。また、出玉量が特定値に達したとき、演出表示装置１６００では、装飾図柄の停止図柄、第二装飾図柄の停止図柄、保留表示や事前告知表示を表示しているが、そのような遊技に関する情報については、出玉量が特定値に達した後に「遊技制限」というメッセージを表示した時点で、表示しないようにし（視認できないようにし）、暗転した画面上にメッセージを表示するようにしている。
【２９２０】

図２２７（Ｂ'）に示すように、打ち止め状態中に重度の異常として、磁気を検知した場合には、演出表示装置１６００では、エラー表示Ｂとして、磁気を検知した旨を示す「磁気異常」というメッセージを表示し、それに伴い「係員をお呼び下さい。」、「電源再投入で復帰＆制限初期化されます。」というメッセージを表示している。また、磁気を検知したとき、演出表示装置１６００では、打ち止め状態に対応する画像を表示しているが、そのような画像については、磁気を検知した後に「磁気異常」というメッセージを表示した時点で、表示しないようにし（視認できないようにし）、暗転した画面上にメッセージを表示するようにしている。これにより、磁気を検知してエラー状態が発生している旨を把握することができる。また、電源を再投入しなければエラー状態が解消されない旨や、電源を再投入した際には遊技の制限が解除される旨を把握することができる。

【２９２１】

また、演出表示装置１６００の上領域では、現状況表示Ｂとして、既に打ち止め状態に移行して遊技を制限している旨（出玉量が特定値に達した後である旨）を示す「遊技制限に達しています」というメッセージを特定の表示領域に表示している。この特定の表示領域は、演出表示装置１６００における表示領域の一部に設定され、上述した事前告知表示や現状況表示Ａにも用いられる表示領域であり、ホール管理者が見落とさないように如何なる遊技状態においても不変とされる固定領域とされている。そして、これらのエラー表示Ｂおよび現状況表示Ｂについては、打ち止め状態に対応する画像表示などの他の演出画像を表示するレイヤよりも上位（前面側）のレイヤで表示するように構成されており、本例ではエラー表示Ｂおよび現状況表示Ｂを最上位レイヤとして表示している。また、現状況表示Ｂについては、エラー表示Ｂ（メッセージ）とは重ならない位置に表示されている。これにより、重度の異常が発生した時点では、遊技を制限している旨を確実に把握することができる。

【２９２２】

本例では、重度の異常に関するエラー状態が終了するための所定のクリア条件が成立するためには、電源遮断後に電源を再投入する必要がある。ここでは、制限クリアパターンテーブル４を用い、電源投入時における電源投入パターンとして、電源遮断時の遊技状態をクリアし、出玉量および打ち止め状態をクリアする電源投入パターン２、３を選択した場合と、電源遮断時の遊技状態を維持し、出玉量をクリアするが打ち止め状態は維持する電源投入パターン１、４を選択した場合について説明する。

【２９２３】

まず、打ち止め状態中にエラー状態が発生した後、電源遮断後の再投入時において、電源遮断時の遊技状態をクリアし、出玉量および打ち止め状態をクリアする電源投入パターン２、３を選択した場合には、エラー状態がクリアされるとともに、打ち止め状態がクリアされることで、打ち止め状態としての遊技の制限が解除され、遊技の開始が可能になっている。また、打ち止め状態に移行する時点で中断した際の残りの変動表示に関する情報や、保留に関する情報については、打ち止め状態に移行した後や、電源遮断時に保持されているが、電源遮断後の再投入時においては、そのような中断した際の残りの変動表示に関する情報や、保留に関する情報をクリアすることで、低確率状態で、保留がない状態で開始するものとしている。このため、図２２７（Ｃ'－１）に示すように、演出表示装置１６００では、保留表示がなく、装飾図柄が初期図柄で停止している初期画像を表示するようにしている。また、演出表示装置１６００の上領域では、クリア通知２として、出玉量および打ち止め状態をクリアした旨を示す「制限クリアしました」というメッセージを表示している。このクリア通知２については、装飾図柄などの遊技に関する情報表示よりも上位レイヤに表示され、遊技に関する情報表示とは重ならない位置に表示されている。これにより、電源を再投入した時点では、出玉量および打ち止め状態をクリアした旨を確実に把握することができる。

【２９２４】

一方、打ち止め状態中にエラー状態が発生した後、電源遮断後の再投入時において、電源遮断時の遊技状態を維持し、出玉量をクリアするが打ち止め状態は維持する電源投入パ

ターン１、４を選択した場合には、エラー状態をクリアするものの、打ち止め状態としての遊技の制限が解除されていない。このため、演出表示装置１６００では、クリア通知１として、出玉量をクリアした旨を示す「出玉量をクリアしました」というメッセージを表示した後、図２２７（Ｃ'－２）に示す画像を再び表示するようにしている。また、演出表示装置１６００の上領域では、クリア方法表示として、ホール管理者向けに打ち止め状態のクリア方法を示す「ラムクリアすれば通常状態になります」というメッセージを表示している。このクリア方法表示については、打ち止め状態に対応する画像表示よりも上位レイヤに表示され、打ち止め状態に対応する画像表示（メッセージ）とは重ならない位置に表示されている。これにより、電源を再投入した時点では、遊技の制限を解除するためにラムクリアを伴う電源の再投入が必要である旨を確実に把握することができる。

【２９２５】

図２２８は、打ち止め準備状態中に軽度の異常や重度の異常が発生した場合における具体的な演出例である。なお、本例では、大当り遊技中に大入賞口に遊技球が入球したタイミングで出玉量が特定値に達することで、打ち止め準備状態に移行し、大当り遊技の終了後に、打ち止め状態に移行する。また、本例では、上述した「特定値」として１０００００が設定され、上述した「制限パターン」として、制限パターン３が選択されているときの例である。すなわち、制限パターン３が設定されていれば、出玉量が特定値（１０００００発）に達したときに「遊技停止」と「発射停止」を伴う打ち止め状態となるものである。また、本例では、特別図柄の抽選結果が大当りになった場合に、大入賞口２００５や役物入賞口２００６を開閉する１０ラウンドの大当り遊技を付与するものとしている。

【２９２６】

図２２８（Ａ）に示すように、演出表示装置１６００では、特別図柄の変動表示に対応した変動演出（変動パターンに基づく演出）を実行し、演出表示装置１６００の中央領域において、装飾図柄の変動表示を行っている。ここでは、特別図柄の抽選結果に応じて、或いは、Ｖ入賞口２００７への遊技球Ｂの受入れ、等により高確率状態が継続する「連荘モード」中において、特別図柄の抽選結果が当りになることで、演出表示装置１６００の中央領域において、装飾図柄の停止図柄として「７７７」を表示している。また、演出表示装置１６００の右上領域では、第二装飾図柄の変動表示が行われているが、特別図柄の抽選結果が当りになることで、第二装飾図柄の停止図柄として「〇」を表示している。また、演出表示装置１６００の左下領域では、第一始動口２００２または第二始動口２００４に遊技球が入球したものの特別図柄の変動表示が待機されている分だけ保留表示を表示している。また、演出表示装置１６００の右下領域では、「連荘モード」中である旨を示す「連荘モード」のメッセージを表示するとともに、大当り遊技中に演出表示装置１６００よりも右側の遊技領域５ａに設けられる大入賞口２００５への遊技球の入球を狙うように指示する「右打」の矢印を表示している。

【２９２７】

また、出玉量が特定値に近づくと、例えば、出玉量が特定値に達するまでの残り球数が「＋１４００発」になった時点で、演出表示装置１６００の上領域では、事前告知時の動作として、出玉量が特定値に達するまでの残り球数を示す「遊技制限まで残り＋１４００発」という事前告知表示を表示している。なお、事前告知表示については、実行中の大当り遊技に関する情報表示とは重ならない位置に表示されている。

【２９２８】

図２２８（Ｂ）に示すように、大当り遊技の開始時には、演出表示装置１６００の中央領域において、「スペシャルボーナス！Ｖを狙え！」のメッセージを表示し、大当り遊技中に大入賞口２００５や役物入賞口２００６の開閉を開始するとともに、大当り遊技中にＶ入賞口２００７へ遊技球が入球することを狙うべき旨を伝えている。

【２９２９】

図２２８（Ｃ）に示すように、大当り遊技中に大入賞口２００５へ遊技球が入球することに基づく賞球の払い出しにより、出玉量が特定値に達するまでの残り球数が「＋０発」になった時点（打ち止め準備状態への移行時）では、演出表示装置１６００の上領域にお

いて、事前告知時の動作として、出玉量が特定値に達するまでの残り球数を伝える「遊技制限まで残り＋０発」という事前告知表示を所定時間（本例では５秒）表示している。ここでは、現在のラウンド数として「８Ｒ」を表示するとともに、トータルの賞球数として「１９９００発ＧＥＴ」を表示している。そして、「遊技制限まで残り＋０発」という事前告知表示が表示されてから所定時間（本例では５秒）が経過すると、図２２８（Ｄ）に示す待機表示が表示される。

【２９３０】

本例では、大入賞口２００５へ遊技球が入球することにより払い出される賞球の分だけ、演出表示装置１６００に表示されているトータルの賞球数や事前告知表示の内容に反映されているが、トータルの賞球数や事前告知表示の内容については、出玉量が特定値に達することとなる大入賞口２００５へ遊技球が入球した時点でなく、その賞球の分がトータルの賞球数や事前告知表示の内容に反映されてから所定時間（本例では５秒）が経過するまでの間、継続して表示している。これにより、出玉量が特定値に達したか否かに関する情報を見逃すことがなくなり、その後に打ち止め状態が開始される理由を遊技者に確実に認知させることができる。

【２９３１】

上記では、トータルの賞球数や事前告知表示の内容については、出玉量が特定値に達した時点でなく、その賞球の分がトータルの賞球数や事前告知表示の内容に反映されるまでの間、継続して表示しているが、出玉量が特定値に達した時点で、終了するようにし、待機表示を表示してもよい。これにより、出玉量が特定値に達した時点で、打ち止め準備状態に移行するが、それと同時に、待機表示を表示することで、打ち止め準備状態に移行した旨を即座に把握することができる。

【２９３２】

また、出玉量が特定値に達した時点で、打ち止め準備状態に移行するが、実行中の大当り遊技については継続することから、遊技者が遊技球の発射を継続するように、遊技球の発射を促進する「右打」の矢印については継続して表示するようにしている。

【２９３３】

図２２８（Ｄ）に示すように、打ち止め準備状態に移行した後には、演出表示装置１６００の上領域において、待機表示を表示している。具体的には、待機表示として、既に出玉量が特定値に達したことを示す「大当り終了で今日は終わりだよ」というメッセージを表示している。これにより、打ち止め準備状態では、大当り遊技が終了するときに打ち止め状態に移行して遊技が制限される旨を把握することができる。なお、待機表示については、実行中の大当り遊技に関する情報表示とは重ならない位置に表示されている。これにより、打ち止め準備状態に移行した旨と、実行中の大当り遊技に関する情報のいずれも把握することができる。ここでは、現在のラウンド数として「９Ｒ」を表示するとともに、トータルの賞球数として「１９９１５発ＧＥＴ」を表示している。

【２９３４】

図２２８（Ｅ）に示すように、打ち止め準備状態中に軽度の異常として、外枠２に対する本体枠４の開放を検知した場合には、大当り遊技を継続するが、演出表示装置１６００の中央領域では、エラー表示Ａとして、本体枠４が開放している旨を示す「ドア開放エラー。係員をお呼びください」というメッセージを表示している。また、演出表示装置１６００の上領域では、現状況表示Ｃとして、待機表示の内容を継続し、既に出玉量が特定値に達したことを示す「大当り終了で今日は終わりだよ」というメッセージを表示している。これらのエラー表示Ａおよび現状況表示Ｃについては、大当り遊技に関する情報表示よりも上位レイヤに表示されている。また、現状況表示Ｃについては、大当り遊技に関する情報表示やエラー表示Ａ（メッセージ）とは重ならない位置に表示されている。これにより、軽度の異常が発生した時点では、既に出玉量が特定値に達して打ち止め準備状態である旨を確実に把握することができる。

【２９３５】

図２２８（Ｆ）に示すように、外枠２に対する本体枠４の閉鎖など、所定のエラー終了

条件が成立すると、演出表示装置１６００では、エラー表示Ａを消去しているが、現状況表示Ｃについては待機表示として継続して表示している。ここでは、現在のラウンド数として「１０Ｒ」を表示するとともに、トータルの賞球数として「２００２０発ＧＥＴ」を表示している。

【２９３６】

図２２８（Ｇ）に示すように、大当り遊技の終了時には、大当り遊技の終了に伴うエンディング表示を実行し、演出表示装置１６００の中央領域において、「当り終了！お疲れ様！特別特典をダウンロードしてね！」のメッセージを表示している。また、演出表示領域１６００の右下領域には、カメラで読み取りが可能なコードを表示し、そのコードを読み取ることで、特別特典をダウンロードすることが可能になっている。この特別特典については、大当り遊技中に出玉量が特定値に達した場合のみ、得られるようにすることで、打ち止め状態に移行して遊技が制限されることの遊技者の不満を軽減することができる。なお、大当り遊技の終了時には、待機表示を表示していないが、表示するようにしてもよい。

【２９３７】

図２２８（Ｈ）に示すように、大当り遊技の終了後には、打ち止め状態に移行して遊技の制限を実行するが、演出表示装置１６００では、打ち止め状態に対応する画像が表示される。打ち止め状態に対応する画像としては、「遊技制限」というメッセージを表示し、それに伴い「１日の出玉制限１０００００発に達したので遊技を制限しています。」、「係員をお呼び下さい。」、「精算ボタンは有効です。」というメッセージを表示している。なお、ここでの精算ボタンとは、精算処理を実行するための計数ボタンスイッチのことである。また、演出表示装置１６００では、「遊技制限」というメッセージを表示した時点で、大当り遊技の終了に伴うエンディング表示を表示しないようにし（視認できないようにし）、暗転した画面上にメッセージを表示するようにしている。これにより、出玉量が特定値に達して遊技の制限が実行されている旨を把握することができ、ホール管理者の操作によらなければ遊技の制限を解除できない旨を把握することができる。また、計数ボタンスイッチの操作により遊技者の持ち球数を精算することが可能である旨を把握することができる。

【２９３８】

ただし、演出表示装置１６００では、大当り遊技の終了に伴うエンディング表示中に表示されていたコードについては、打ち止め状態に対応する画像を表示した後にも、継続して表示するようにしている。また、大当り遊技の終了に伴うエンディング表示中に表示されていたコードについては、打ち止め状態に対応する画像（メッセージ）とは重ならない位置に表示されている。これにより、打ち止め状態に移行した後であっても、急がずにコードを読み取ることができ、特別特典のダウンロードをもらい損ねることがないようにすることができる。

【２９３９】

次に、打ち止め準備状態中に重度の異常が発生した場合について説明する。図２２８（Ｅ'）に示すように、打ち止め準備中に重度の異常として、磁気を検知した場合には、実行中の大当り遊技を停止し、遊技の進行が不能とされるエラー状態が発生するが、演出表示装置１６００では、エラー表示Ｂとして、磁気を検知した旨を示す「磁気異常」というメッセージを表示し、それに伴い「係員をお呼び下さい。」、「電源再投入で復帰＆制限初期化されます。」というメッセージを表示している。また、磁気を検知したとき、演出表示装置１６００では、大当り遊技に関する情報表示を表示しているが、そのような大当り遊技に関する情報表示については、磁気を検知した後に「磁気異常」というメッセージを表示した時点で、表示しないようにし（視認できないようにし）、暗転した画面上にメッセージを表示するようにしている。これにより、磁気を検知してエラー状態が発生している旨を把握することができる。また、電源を再投入しなければエラー状態が解消されない旨や、電源を再投入した際には遊技の制限が解除される旨を把握することができる。

【２９４０】

また、演出表示装置１６００の上領域では、現状況表示Ｃとして、待機表示の内容を継続し、既に出玉量が特定値に達したことを示す「大当り終了で今日は終わりだよ」というメッセージを表示している。これらのエラー表示Ｂおよび現状況表示Ｃについては、大当り遊技に関する情報表示よりも上位レイヤに表示されている。また、現状況表示Ｃについては、エラー表示Ｂ（メッセージ）とは重ならない位置に表示されている。これにより、重度の異常が発生した時点では、既に出玉量が特定値に達して打ち止め準備状態である旨を確実に把握することができる。

【２９４１】

本例では、重度の異常に関するエラー状態が終了するための所定のクリア条件が成立するためには、電源遮断後に電源を再投入する必要がある。ここでは、制限クリアパターンテーブル４を用い、電源投入時における電源投入パターンとして、電源遮断時の遊技状態をクリアし、出玉量および打ち止め状態をクリアする電源投入パターン２、３を選択した場合と、電源遮断時の遊技状態を維持し、出玉量をクリアするが打ち止め状態は維持する電源投入パターン１、４を選択した場合について説明する。

【２９４２】

まず、打ち止め準備状態中にエラー状態が発生した後、電源遮断後の再投入時において、電源遮断時の遊技状態をクリアし、出玉量および打ち止め状態をクリアする電源投入パターン２、３を選択した場合には、エラー状態がクリアされることで、遊技の開始が可能になっているが、打ち止め準備状態についてもクリアされることで、打ち止め準備状態の終了後に予定していた打ち止め状態としての遊技の制限を実行しないものとなっている。また、エラー状態が発生した時点で中断した際の残りの大当り遊技に関する情報や、保留に関する情報については、エラー状態が発生した後や、電源遮断時に保持されているが、電源遮断後の再投入時においては、そのような中断した際の残りの大当り遊技に関する情報や、保留に関する情報をクリアすることで、低確率状態で、保留がない状態で開始するものとしている。このため、図２２８（Ｆ'－１）に示すように、演出表示装置１６００では、保留表示がなく、装飾図柄が初期図柄で停止している初期画像を表示するようにしている。また、演出表示装置１６００の上領域では、クリア通知２として、出玉量および打ち止め準備状態をクリアした旨を示す「制限クリアしました」というメッセージを表示している。このクリア通知２については、装飾図柄などの遊技に関する情報表示よりも上位レイヤに表示され、遊技に関する情報表示とは重ならない位置に表示されている。これにより、電源を再投入した時点では、出玉量および打ち止め準備状態をクリアした旨を確実に把握することができる。

【２９４３】

一方、打ち止め準備状態中にエラー状態が発生した後、電源遮断後の再投入時において、電源遮断時の遊技状態を維持し、出玉量をクリアするが打ち止め状態は維持する電源投入パターン１、４を選択した場合には、エラー状態がクリアされることで、遊技の開始が可能になっているが、打ち止め準備状態についてはクリアされていない。また、エラー状態が発生した時点で中断した際の残りの大当り遊技に関する情報や、保留に関する情報については、エラー状態が発生した後や、電源遮断時に保持されているが、電源遮断後の再投入時においても、そのような中断した際の残りの大当り遊技に関する情報や、保留に関する情報を維持することで、中断した大当り遊技を再開することが可能になっている。このため、演出表示装置１６００では、クリア通知１として、出玉量をクリアした旨を示す「出玉量をクリアしました」というメッセージを表示した後、図２２８（Ｆ'－２）に示す画像を再び表示するようにしている。また、演出表示装置１６００の上領域では、待機表示として、既に出玉量が特定値に達したことを示す「大当り終了で今日は終わりだよ」というメッセージを表示するだけでなく、クリア方法表示として、ホール管理者向けに打ち止め準備状態のクリア方法を示す「ラムクリアすれば通常状態になります」というメッセージを表示している。このクリア方法表示については、大当り遊技に関する情報表示よりも上位レイヤに表示され、大当り遊技に関する情報表示とは重ならない位置に表示されている。これにより、電源を再投入した時点では、打ち止め準備状態をクリアするために

ラムクリアを伴う電源の再投入が必要である旨を確実に把握することができる。
【２９４４】
（打ち止め用カウンタの別例１）
上記では、「打ち止め用カウンタ」については、電源投入時に「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」をクリア（初期化）した場合、初期値として０を設定し、遊技球Ｂの発射により減算されるとともに賞球の払い出しにより加算されるように構成している。そして、打ち止め用カウンタが０である時点から、発射数のみが増加したときには、０からマイナス方向にカウントしている。これに対し、別例１では、「打ち止め用カウンタ」については、電源投入時に「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」をクリア（初期化）した場合、初期値として０でない規定値（例えば、１０００００）を設定するように構成している。このような場合、電源投入時に打ち止め用カウンタが初期値である１０００００からスタートし、遊技球Ｂの発射により減算されるとともに賞球の払い出しにより加算されるように構成している。
【２９４５】
具体的には、出玉量Ａについては、打ち止め用カウンタが初期値である１０００００を起点とし、所定のクリア条件が成立するまでの期間内で打ち止め用カウンタがもっとも多くなった時点での値と、所定のクリア条件が成立するまでの期間内で打ち止め用カウンタがもっとも少なくなった時点での値との差分として算出している。
【２９４６】
また、出玉量Ｂについては、打ち止め用カウンタが初期値である１０００００を起点とし、初期値である１０００００と、所定のクリア条件が成立するまでの期間内にて打ち止め用カウンタがもっとも多くなった時点での値との差分として算出している。なお、別例１では、出玉量Ａ、Ｂとして、差分の最大値が記憶保持され、差分の最大値が新たに算出されることで、記憶保持される出玉量Ａ、Ｂが更新される点で、初期値が０である場合と同じである。
【２９４７】
別例１では、出玉量（出玉量Ａ、Ｂ）が特定値に達したときに、打ち止め状態にして遊技の制限を実行しているが、例えば、特定値として１０００００発を選択している場合には、打ち止め用カウンタが初期値である１０００００を起点とし、特定値の分の＋１０００００を足して打ち止め用カウンタが２０００００になった時点で、出玉量Ｂが特定値に達したと判断している。
【２９４８】
また、別例１では、「打ち止め用カウンタ」については、初期値である１０００００を起点とするだけでなく、０を最低値とするように構成している。つまり、打ち止め用カウンタが０になった時点から、さらに発射数のみが増加したとしても、０からマイナス方向にカウントすることがなく、０の状態を維持するように構成している。これにより、出玉量Ｂについては、打ち止め用カウンタが０に達した後に発射数のみが増加したとしても、その０の時点から打ち止め用カウンタが２０００００になった時点で、出玉量Ｂが特定値に達したと判断されるため、０からマイナス方向にカウントする場合よりも早く出玉量Ｂが特定値に達することとなる。つまり、遊技の制限を実行する打ち止め状態を早期に発生可能とすることで、不正行為等により大量の出玉が不正行為者に付与されることや、当落に関する確率の偏りにより大量の出玉が正規の遊技者に付与されることがないようにすることができる。
【２９４９】
（打ち止め用カウンタの別例２）
別例２では、「打ち止め用カウンタ」については、電源投入時に「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」をクリア（初期化）した場合、初期値として０を設定し、０を最低値とするように構成している。このような場合、電源投入時に打ち止め用カウンタが初期値である０からスタートし、遊技球Ｂの発射により減算

されるとともに賞球の払い出しにより加算されるが、打ち止め用カウンタが０になった時点から、さらに発射数のみが増加したとしても、０からマイナス方向にカウントすることがなく、０の状態を維持するように構成している。

【２９５０】

また、別例２では、打ち止め用カウンタから出玉量Ｃが算出されている。出玉量Ｃについては、打ち止め用カウンタが初期値である０を起点とし、初期値である０と、所定のクリア条件が成立するまでの期間内にて打ち止め用カウンタがもっとも多くなった時点での値との差分として算出している。なお、別例２では、出玉量Ｃとして、差分の最大値が記憶保持され、差分の最大値が新たに算出されることで、記憶保持される出玉量Ｃが更新される点で、最低値＝０を設けない場合と同じである。そして、出玉量Ｃが特定値に達したときには、打ち止め状態にして遊技の制限を実行している。

【２９５１】

また、別例２では、出玉量Ｃが特定値に達したときに、打ち止め状態にして遊技の制限を実行しているが、例えば、特定値として１０００００発を選択している場合には、打ち止め用カウンタが初期値である０を起点とし、特定値の分の＋１０００００を足して打ち止め用カウンタが１０００００になった時点で、出玉量Ｃが特定値に達したと判断している。

【２９５２】

また、別例２では、「打ち止め用カウンタ」については、初期値である０を起点とするだけでなく、０を最低値とするように構成しているが、出玉量Ｃについては、打ち止め用カウンタが０に達した後に発射数のみが増加したとしても、その０の時点から打ち止め用カウンタが１０００００になった時点で、出玉量Ｃが特定値に達したと判断されるため、０からマイナス方向にカウントする場合よりも早く出玉量Ｃが特定値に達することとなる。つまり、遊技の制限を実行する打ち止め状態を早期に発生可能とすることで、不正行為等により大量の出玉が不正行為者に付与されることや、当落に関する確率の偏りにより大量の出玉が正規の遊技者に付与されることがないようにすることができる。

【２９５３】

なお、「打ち止め用カウンタ」については、遊技球Ｂの発射により減算されるとともに賞球の払い出しにより加算されるが、打ち止め状態にして遊技の制限を実行する特定値よりも初期値を大きい値とし、遊技球Ｂの発射により加算されるとともに賞球の払い出しにより減算されるように構成してもよい。このような場合、例えば、特定値として１０００００発を選択している場合には、打ち止め用カウンタが初期値である１０００００を起点とし、特定値の分の＋１０００００を減算して打ち止め用カウンタが０になった時点で、出玉量が特定値に達したと判断している。また、別例２に適用した場合には、例えば、電源投入時に打ち止め用カウンタが初期値である１０００００からスタートし、遊技球Ｂの発射により加算されるとともに賞球の払い出しにより減算されるが、打ち止め用カウンタが１０００００になった時点から、さらに発射数のみが増加したとしても、１０００００からプラス方向にカウントすることがなく、１０００００の状態を維持するように構成すればよい。

【２９５４】

（事前告知表示の推移について）

本例では、「打ち止め用カウンタ」については、電源投入時に「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」をクリア（初期化）した場合、初期値として０を設定し、遊技球Ｂの発射により減算されるとともに賞球の払い出しにより加算されるように構成している。また、特定値としては、１０００００発を選択し、打ち止め用カウンタが１０００００になった時点で、出玉量が特定値に達したと判断し、打ち止め状態にして遊技の制限を実行している。また、出玉量が特定値に達するよりも前には、所定の数値（本例では、出玉量が特定値に達するまでの残り球数が５０００発の状態、つまり出玉量が９５０００発に達した状態）になった後、出玉量が特定値に達するまでの間、事前告知時の動作として、演出表示装置１６００に事前告知表示（本例では、「遊技制

限まで残り＋〇〇発」）を表示している。また、事前告知表示が行われるときに、ランプＢでは、事前告知発光としてＬＥＤが所定の期間（例えば２秒）点滅を行う。

【２９５５】

具体的には、主制御基板１３１０側で出玉量が特定値に達して遊技の制限を実行するよりも前に、出玉量が特定値に達するまでの残り球数を主制御基板１３１０側で監視するようにし、その残り球数が「＋５０００発」となる大入賞口２００５などの入賞口への遊技球の入球時に事前フラグをＯＮとして、その事前フラグのＯＮ情報を主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０側に送信するようにしている。そして、周辺制御基板１５１０側では、事前フラグのＯＮ情報を受けると、演出表示装置１６００で事前告知表示（本例では、「遊技制限まで残り＋〇〇発」）を開始し、出玉量が特定値に達するまでの間、継続して実行している。なお、出玉量の演算については、主制御基板１３１０側で発射数と払出数との差分である打ち止め用カウンタに基づいて算出している。つまり、出玉量が特定値に達するまでの残り球数については、発射数が多くなるほど出玉量が減少して残り球数が増加し、払出数が多くなるほど出玉量が増加して残り球数が減少することとなる。

【２９５６】

そして、出玉量が特定値に達するまでの残り球数が「＋５０００発」になったときには、演出表示装置１６００で事前告知表示を開始しているが、その後に出玉量が減少して残り球数が増加することにより残り球数が「＋５０００発」を超えて事前告知表示を終了したり、再び出玉量が増加して残り球数が減少することにより残り球数が「＋５０００発」に達して事前告知表示を開始したりすると、主制御基板１３１０側で事前フラグの切り替えが頻発し、何度も事前フラグのＯＮ情報を周辺制御基板１５１０側に送信されてしまう。また、事前告知表示を表示したり表示しなかったりでは、遊技状態の把握が困難になってしまう。この点、本例では、演出表示装置１６００で事前告知表示を開始した場合、その後に出玉量が減少して残り球数が増加したとしても、残り球数が「＋５０００発」を超える所定の数値（本例では、出玉量が特定値に達するまでの残り球数が５１００発の状態、つまり出玉量が９４９００発に達した状態）に達するまでの間、その事前告知表示を終了しないようにしている。これにより、主制御基板１３１０側で事前フラグの切り替えが頻発せず、何度も事前フラグのＯＮ情報が周辺制御基板１５１０側に送信されてしまうことを抑制し、制御負担および制御複雑化を回避することができる。また、事前告知表示をなるべく継続して表示することで、遊技状態の把握が困難になることを防止することができる。本例では、事前告知表示を開始した後における事前告知表示の推移について、以下に説明する。

【２９５７】

図２２９は、事前告知表示を開始した後における事前告知表示の推移を示すタイムチャートである。本例では、出玉量が９５０００発（残り球数が５０００発）の付近を増減している状況について説明している。

【２９５８】

（Ａ）において、出玉量が増加するなかで、出玉量が９５０００発（残り球数が５０００発）に達した場合には、主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０に事前告知開始コマンドを送信し、演出表示装置１６００では、事前告知表示として「遊技制限まで残り＋５０００発」の表示を開始している。このとき、ランプＢでは、事前告知発光としてＬＥＤが所定の期間（例えば２秒）点滅を行う。

【２９５９】

そして、事前告知表示を開始した後、出玉量が増加すると、出玉量が１００発増加するごとに、主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０に事前告知更新コマンドを送信し、演出表示装置１６００では、事前告知表示の表示内容を更新している。例えば、出玉量が１００発増加したときには、演出表示装置１６００では、事前告知表示として「遊技制限まで残り＋４９００発」の表示に更新し、さらに出玉量が１００発増加したときには、演出表示装置１６００では、事前告知表示として「遊技制限まで残り＋４８００発」の表示に更新している。ここでは、出玉量が１００発増加したときに、事前告知表示の表示内

容を更新し、出玉量が１～９９発増加しただけでは、事前告知表示の表示内容を更新していない。これにより、事前告知表示の表示内容については、出玉量が増加したときにリアルタイムで更新されておらず、何度も事前告知更新コマンドが周辺制御基板１５１０側に送信されてしまうことを抑制し、制御負担および制御複雑化を回避することができる。なお、ランプＢでは、出玉量が特定値に達するまでの残り球数が５０００発の状態、つまり出玉量が９５０００発に達した状態になったときにのみ、事前告知発光としてＬＥＤが所定の期間（例えば２秒）点滅を行うこととしており、出玉量が１００発増加して事前告知表示の表示内容が更新されるときには、ランプＢではその更新に対応した何らの発光も行わないようにしている。

【２９６０】

（Ｂ）において、事前告知表示を開始した後、出玉量が減少するなかで、出玉量が９５０００発を下回った（残り球数が５０００発を超えた）場合には、主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０に事前告知終了コマンドを送信せず、演出表示装置１６００では、事前告知表示として「遊技制限まで残り＋５０００発」の表示を継続して表示している。そして、再び出玉量が増加するなかで、出玉量が９５０００発（残り球数が５０００発）を超えて、その後に出玉量が減少するなかで、出玉量が９５０００発を下回っている（残り球数が５０００発を超えている）が、その出玉量が９５０００発（残り球数が５０００発）の時点で、主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０に事前告知開始コマンドや事前告知終了コマンドを送信せず、演出表示装置１６００では、事前告知表示として「遊技制限まで残り＋５０００発」の表示を継続して表示している。これにより、事前告知表示を開始した後には、何度も事前告知開始コマンドや事前告知終了コマンドが周辺制御基板１５１０側に送信されてしまうことを抑制し、制御負担および制御複雑化を回避することができる。また、ランプＢでは、事前告知開始コマンドに応じた発光は行うものの、事前告知終了コマンドに応じた発光は行わないようにしており、遊技機に異常が生じたかのように外部に誤解させることを抑制している。

【２９６１】

（Ｃ）において、事前告知表示を開始した後、出玉量が減少するなかで、出玉量が９４９００発（残り球数が５１００発）に達した場合には、主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０に事前告知終了コマンドを送信し、演出表示装置１６００では、事前告知表示を終了している。ここでは、事前告知表示を開始した後、出玉量が１００発減少したときに、事前告知表示を終了し、出玉量が１～９９発減少しただけでは、事前告知表示を終了していない。つまり、事前告知表示を開始した後、出玉量が９９発減少するまでの間は、出玉量が９５０００発を下回ったとしても事前告知表示を終了しない終了抑制期間としている。これにより、事前告知表示を開始した後には、出玉量の多少の減少を許容してなるべく事前告知表示を継続して表示することで、遊技状態の把握が困難になることを防止することができる。なお、本例では、事前告知表示の継続表示を許容する「終了抑制期間」として「出玉量が１～９９発減少するまでの間」としているが、これに限定されるものではなく、「出玉量が１～１９９発減少するまでの間」や「出玉量が１～４９発減少するまでの間」等、遊技機の性能に応じて出玉量の減少幅を適宜設定すればよい。

【２９６２】

なお、本例では、事前告知開始時の動作については、演出表示装置１６００を用いた事前告知表示とランプＢを用いた事前告知発光を実行しているが、事前告知開始時の動作については、演出表示装置１６００を用いた事前告知表示のみとして、事前告知発光を行わないようにしてもよい。これにより、上述した終了抑制期間を超えて出玉量が増減して事前告知開始コマンドが数回送信される場合にランプＢが何度も発光して遊技機に異常が生じたかのように外部に誤解させることを抑制できる。

【２９６３】

（Ｄ）において、再び出玉量が増加するなかで、出玉量が９５０００発（残り球数が５０００発）に達した場合には、主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０に事前告知開始コマンドを送信し、演出表示装置１６００では、事前告知表示として「遊技制限まで

残り＋５０００発」の表示を開始している。
【２９６４】
（Ｅ）において、事前告知表示を開始した後、出玉量が減少するなかで、出玉量が９４９００発（残り球数が５１００発）に達した場合には、主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０に事前告知終了コマンドを送信しているが、例えば、一時的に停電が発生したり、主制御基板１３１０と周辺制御基板１５１０との接続不良等の何らかの理由で、周辺制御基板１５１０側で事前告知終了コマンドを正常に受信できない（周辺制御基板１５１０側で事前告知終了コマンドを取りこぼす）イレギュラーが発生することが考えられる。このようなイレギュラーが発生した場合には、通常であれば、出玉量が９４９００発（残り球数が５１００発）に達したことを契機とした事前告知終了コマンドの再送信等を行うことが考えられるが、本例では、この契機での再送信をあえて行わずに演出表示装置１６００では事前告知表示を終了させないようにしている。つまり、このようなイレギュラーが生じた場合、出玉量が９４９００発（残り球数が５１００発）に達して事前告知表示を終了すべきタイミングが到来しても、事前告知表示として「遊技制限まで残り＋５０００発」の表示を継続して表示するようにしている。これにより、事前告知終了コマンドが遊技進行中の予期せぬタイミング（例えば遊技球が発射されていないときや、アウト口に一切入球していないとき等）に再送信されて遊技者に違和感を与えることを抑制することとしている。
【２９６５】
（Ｆ）において、事前告知表示が終了しない上述のイレギュラーが発生している状況で、さらに出玉量が減少するなかで、出玉量が９４８００発（残り球数が５２００発）に達した場合には、主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０に事前告知終了コマンドを送信し、演出表示装置１６００では、事前告知表示を終了している。本例では、事前告知表示が終了するべきタイミングで終了しないことを想定して、出玉量が９４９００発（残り球数が５１００発）に達したタイミングだけでなく、出玉量が９４８００発（残り球数が５２００発）や出玉量が９４７００発（残り球数が５３００発）に達したタイミングでも、予備的に主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０に事前告知終了コマンドを送信するようにしている。これにより、一時的に周辺制御基板１５１０側で事前告知終了コマンドを受信できず、事前告知表示が終了しないイレギュラーが発生したとしても、違和感のない別タイミングで事前告知表示を終了させることができるとともに、事前告知表示を終了せずに表示し続けることを確実に防止することができる。
【２９６６】
なお、本例では、予備的に事前告知終了コマンドを送信する契機としては、「出玉量が９４９００発（残り球数が５１００発）に達したタイミング～出玉量が９４５００発（残り球数が５５００発）に達したタイミング」までで１００発単位のタイミングを設定しているが、他の契機で事前告知表示を終了させるようにしてもよい。例えば、ホール管理者による終了操作（例えば電源投入状態でＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆや設定キースイッチを操作したり、本体枠４や扉枠３を開放する等の操作）が行われることで事前告知終了コマンドを強制送信するようにして、本来終了しているべき時期で事前告知表示を強制的に終了させるようにしてもよい。
【２９６７】
また、本例では、一時的に停電が発生したり、主制御基板１３１０と周辺制御基板１５１０との接続不良等の何らかの理由で、周辺制御基板１５１０側で事前告知終了コマンドを正常に受信できない（周辺制御基板１５１０側で事前告知終了コマンドを取りこぼす）イレギュラーが発生した場合に、上述したように他の契機で事前告知終了コマンドを予備的に送信する処理を行うが、周辺制御基板１５１０側で事前告知更新コマンドを正常に受信できない（周辺制御基板１５１０側で事前告知更新コマンドを取りこぼす）イレギュラーが発生した場合に、他の契機で事前告知更新コマンドを予備的に送信する処理は行わないようにしている。例えば、事前告知表示を開始した後、出玉量が１００発増加して出玉量が９５１００発（残り球数が４９００発）に達した場合には、主制御基板１３１０から

周辺制御基板１５１０に事前告知更新コマンドを送信するが、この事前告知更新コマンドを周辺制御基板１５１０側で受信できないイレギュラーが発生した場合には、演出表示装置１６００では、事前告知表示として「遊技制限まで残り＋５０００発」の表示を継続し、その後に出玉量がさらに１００発増加して出玉量が９５２００発（残り球数が４８００発）に達した場合に、出玉量が９５２００発（残り球数が４８００発）に達したことに対応する事前告知更新コマンドを周辺制御基板１５１０側に送信して、事前告知表示として「遊技制限まで残り＋４８００発」の表示に更新するようにしている。これにより、出玉量が一気に増加したように遊技者に感じさせることができ、イレギュラーを利用して遊技興趣の向上を図ることができる。また、ランプＢでは、事前告知開始コマンドに応じた発光は行うものの、事前告知更新コマンドに応じた発光は行わないようにしており、遊技機に異常が生じたかのように外部に誤解させることを抑制している。

【２９６８】

なお、何らかの異常により出玉量が特定値に達するまで周辺制御基板１５１０側で事前告知表示の更新が進行しない可能性もあるため、そのような場合には、例えば、ホール管理者による更新操作（例えば電源投入状態でＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆや設定キースイッチを操作したり、本体枠４や扉枠３を開放する等の操作。上述した終了操作とは異なる契機が望ましい。）が行われることを契機に事前告知更新コマンドを強制送信するようにして、強制的に事前告知表示を更新させるようにしてもよい。

【２９６９】

（Ｇ）において、再び出玉量が増加するなかで、出玉量が９５０００発（残り球数が５０００発）に達した場合には、主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０に事前告知開始コマンドを送信し、演出表示装置１６００では、事前告知表示として「遊技制限まで残り＋５０００発」の表示を開始している。

【２９７０】

（Ｈ）において、事前告知表示を開始した後、出玉量が１００発増加して出玉量が９５１００発（残り球数が４９００発）に達した場合には、主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０に事前告知更新コマンドを送信し、演出表示装置１６００では、事前告知表示として「遊技制限まで残り＋４９００発」の表示に更新している。

【２９７１】

（Ｉ）において、事前告知表示として「遊技制限まで残り＋４９００発」の表示に更新した後、出玉量が減少するなかで、出玉量が９５１００発を下回った（残り球数が４９００発を超えた）場合には、主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０に事前告知降格コマンドを送信せず、演出表示装置１６００では、事前告知表示として「遊技制限まで残り＋４９００発」の表示を継続して表示している。これにより、事前告知表示として「遊技制限まで残り＋４９００発」の表示に更新した後には、何度も事前告知更新コマンドや事前告知降格コマンドが周辺制御基板１５１０側に送信されてしまうことを抑制し、制御負担および制御複雑化を回避することができる。なお、本例では、出玉量が増加（残り球数が減少）した場合に用いられる事前告知更新コマンドと、出玉量が減少（残り球数が増加）した場合に用いられる事前告知降格コマンドと、を別のコマンドとしているが、事前告知表示の表示内容を示すコマンドとして共通化してもよい。

【２９７２】

（Ｊ）において、事前告知表示として「遊技制限まで残り＋４９００発」の表示に更新した後、出玉量が減少するなかで、出玉量が９５０００発を下回った（残り球数が５０００発を超えた）場合には、主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０に事前告知降格コマンドを送信し、演出表示装置１６００では、事前告知表示として「遊技制限まで残り＋５０００発」の表示に更新している。ここでは、出玉量が９５１００発（残り球数が４９００発）の時点で、事前告知表示として「遊技制限まで残り＋４９００発」の表示に更新した後、出玉量が１００発減少したときに、事前告知表示の表示内容を更新し、出玉量が１～９９発減少しただけでは、事前告知表示の表示内容を更新していない。つまり、事前告知表示として「遊技制限まで残り＋４９００発」の表示に更新した後、出玉量が９９

発減少するまでの間は、事前告知表示の表示内容を更新しない降格抑制期間としている。これにより、事前告知表示として「遊技制限まで残り＋４９００発」の表示に更新した後には、なるべく継続して表示することで、遊技状態の把握が困難になることを防止することができる。

【２９７３】

本例では、（Ｇ）～（Ｈ）において、出玉量が増加するなかで、出玉量が９５０００発（残り球数が５０００発）から９５１００発（残り球数が４９００発）に移行するまでの間には、演出表示装置１６００では、事前告知表示として「遊技制限まで残り＋５０００発」を表示しているが、（Ｉ）～（Ｊ）において、出玉量が減少するなかで、出玉量が９５１００発（残り球数が４９００発）から９５０００発（残り球数が５０００発）に移行するまでの間には、演出表示装置１６００では、事前告知表示として「遊技制限まで残り＋４９００発」を表示している。このように、出玉量の区間が同じであっても、出玉量が増加する過程であるか、出玉量が減少する過程であるかによって、事前告知表示の表示内容を異ならせることで、一旦表示された事前告知表示の表示内容を、なるべく継続して表示することができる。

【２９７４】

（Ｋ）において、事前告知表示として「遊技制限まで残り＋５０００発」の表示に更新した後、出玉量が減少するなかで、出玉量が９４９００発（残り球数が５１００発）に達した場合には、主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０に事前告知終了コマンドを送信し、演出表示装置１６００では、事前告知表示を終了している。

【２９７５】

本例では、（Ｇ）～（Ｈ）において、出玉量が増加するなかで、出玉量が９５０００発（残り球数が５０００発）から９５１００発（残り球数が４９００発）に移行するまでの間には、演出表示装置１６００では、事前告知表示として「遊技制限まで残り＋５０００発」を表示しているが、（Ｊ）～（Ｋ）において、出玉量が減少するなかで、出玉量が９５０００発（残り球数が５０００発）から９４９００発（残り球数が５１００発）に移行するまでの間には、演出表示装置１６００では、事前告知表示として「遊技制限まで残り＋５０００発」を表示している。このように、出玉量の区間が異なるとしても、出玉量が増加する過程であるか、出玉量が減少する過程であるかによって、事前告知表示の表示内容を同じとすることで、一旦表示された事前告知表示の表示内容を、なるべく継続して表示することができる。

【２９７６】

なお、本例では、上述したように事前告知表示の実行中に重度の異常を検知した場合には、演出表示装置１６００では、現状況表示Ａとして、事前告知表示と同じデータを流用して表示するようにしているが、事前告知表示の終了や降格を抑制している間において重度の異常を検知した場合には、現状況表示Ａを事前告知表示と同じデータを流用しつつも、現状況表示Ａの表示内容は、ホール管理者に向けて正確な出玉量を示すかたちで表示するように制御することが望ましい。このようにすることで、イレギュラーな状況が起きていても、現状況表示Ａを通じてホール管理者が正確な出玉量を認識することができる。

【２９７７】

また、上記した各例では、遊技の進行過程で演出表示装置１６００の最上位レイヤにて事前告知表示のメッセージを特定の表示領域に表示するようにしており、他の演出画像により事前告知表示の視認性が阻害されないものとしているが、演出面に関する遊技者による調整操作を反映させる調整画像（例えば音量や光量に対応する画像、その他の調整に関する画像等）を表示する所定領域が特定の表示領域と前後方向で重なる位置に設けられる場合には、少なくとも事前告知表示が表示されている間、調整画像の視認性が事前告知表示により阻害されてしまい、遊技興趣を低下させてしまう虞がある。これを解消するため、例えば、上記した各例にて、調整画像を表示する所定領域を特定の表示領域と前後方向で一切重ならない位置に設けるようにすること等が例示できる。これにより、事前告知表示が表示されている間であっても調整画像の視認性が確保でき、遊技興趣が低下してしま

うことを回避できる。また、調整画像を表示する所定領域の一部が特定の表示領域と前後方向で重なるように設けるのであれば、少なくとも遊技者による調整操作の結果が確認できる程度に調整画像を事前告知表示からずらして表示する（例えば、調整画像がレベルゲージ方式であればレベルゲージの変化が把握できる程度に重ならないように表示し、調整画像が数値方式であればいずれの数値であるのかが把握できる程度に重ならないように表示する）ことも例示でき、この場合にも遊技興趣が低下してしまうことを回避できる。

【２９７８】

また、上記した各例では、遊技の進行過程で演出表示装置１６００の最上位レイヤにて事前告知表示のメッセージを特定の表示領域に表示するようにしており、他の演出画像により事前告知表示の視認性が阻害されないものとしているが、事前告知表示は遊技が進行していない待機状態に移行した後にも継続して表示することが望ましい。これにより、新規の遊技者が遊技開始前に出玉量等に関する情報を認識しないまま遊技を開始してしまうことを回避できる。また、事前告知表示は演出表示装置１６００の最上位レイヤにて表示されるものであるため、待機状態にて行われるデモンストレーション画像（例えば演出説明や宣伝用の画像等）の視認性を阻害してしまい、デモンストレーション画像を確認したい遊技者のニーズを満足させることができない懸念もある。これを解消するため、例えば、上記した各例にて、デモンストレーション画像が行われる全期間あるいは一部の期間で特定の表示領域における事前告知表示を視認できないように非表示にしておき、且つ、少なくとも新規の遊技者が所定の操作を行うこと（例えばハンドル１６０の操作前の接触や、調整操作あるいは他のボタン等の操作等）を契機に特定の表示領域における事前告知表示の表示を再開すること等が例示できる。これにより、デモンストレーション画像を確認したい遊技者のニーズを満足させつつ、新規の遊技者が遊技開始前に出玉量等に関する情報を認識しないまま遊技を開始してしまうことを回避できる。

【２９７９】

（制限クリアパターンテーブル４の変形例）

詳しくは上記したが、制限クリアパターンテーブル４では、電源投入時に電源投入パターン１～４のいずれが選択されている場合であっても、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」をクリア（初期化）している。具体的に、制限クリアパターンテーブル４では、電源投入時において、電源投入パターン２、３のように電源遮断時の遊技状態をクリア（初期化）した場合のみ、「打ち止め状態中の遊技の制限」をクリア（初期化）しているが、出玉量をクリアすることに伴って、打ち止め準備状態についても、クリア（初期化）している。一方、電源投入時において、電源投入パターン１、４のように電源遮断時の遊技状態を維持した場合には、「打ち止め状態中の遊技の制限」を維持しているが、出玉量をクリアすることに伴わず、打ち止め準備状態についても、維持している。つまり、打ち止め準備状態については、打ち止め状態と同じく、電源遮断後の再投入時において、維持するか又はクリアするかを選択することが可能になっている。例えば、大当り遊技中に出玉量が特定値に達して打ち止め準備状態が発生している場合において、その打ち止め準備状態をクリアしたいときには、電源遮断後、打ち止め準備状態の開始条件を満たしている出玉量をクリアするように電源投入時操作を行えばよいが、制限クリアパターンテーブル４では、このような電源投入時操作に伴い、実行中であった大当り遊技がクリアされることとなる。一方、打ち止め準備状態を維持したいときには、電源遮断後、打ち止め準備状態の開始条件を満たしている出玉量を維持するように電源投入時操作を行えばよいが、このような電源投入時操作に伴い、実行中であった大当り遊技が再開されることとなる。

【２９８０】

このように上記の制限クリアパターンテーブル４では、電源投入時操作に伴い、実行中であった大当り遊技を再開させるためには、打ち止め準備状態を維持する必要があり、電源投入時操作に伴い、実行中であった大当り遊技を再開するようにしながらも、打ち止め準備状態のみをクリアすることができなかった。このような構成の場合、例えば遊技機の開発段階での試射試験等の状況下で大当り遊技中に出玉量が特定値に達して打ち止め準備

状態が発生した場合に、打ち止め状態を開始させずに継続して試射試験を行いたい状況であっても、打ち止め準備状態のみをクリアすることができず、その後の打ち止め状態の発生によって試射試験の継続的実施が阻害されてしまう虞があった。また、打ち止め準備状態をクリアしようとしても、打ち止め準備状態と共に大当り遊技もクリアされてしまい、この場合も試射試験の継続実施が阻害されてしまう虞があった。こうした事情等を鑑み、本例では、電源投入時操作に伴い、電源遮断前に実行中であった大当り遊技を再開するようにしながらも、打ち止め準備状態のみをクリアする構成について、制限クリアパターンテーブル４の変形例として、以下に説明する。

【２９８１】

図２３０は、電源投入時における制限クリアパターンテーブル４の変形例である。本例では、制限クリアパターン選択スイッチの位置が「４」の場合に用いられる制限クリアパターンテーブル４として、制限クリアパターンテーブル４（ａ）と制限クリアパターンテーブル４（ｂ）とを設けており、打ち止め準備状態中に特殊外部信号が出力されているか否かによって、制限クリアパターンテーブル４（ａ）と制限クリアパターンテーブル４（ｂ）の何れかを用いるかを変更するように制御している。そして、打ち止め準備状態中に特殊外部信号が出力されており、電源投入時にその旨を判定した場合のみ、電源投入時操作に伴い、電源遮断前に実行中であった大当り遊技を再開するようにしながらも、打ち止め準備状態のみがクリアされることを可能にしている。ここで、「特殊外部信号」とは、主制御基板１３１０に実装される特定の回路を通じて出力されるものであり、所定の出力要件を満たすことで主制御基板１３１０から外部の試験装置等の外部機器に向けて出力される信号であればよい。本例では、主制御基板１３１０上に形成される特定の回路として空きの試験用回路を設定し、その空きの試験用回路に試験用電子部品が実装されていることを検出することを以て「特定の出力要件を満たす」こととし、空きの試験用回路に試験用電子部品が実装されている状況下であれば、外部の試験装置に向けて特殊外部信号を常時に出力する構成としている。また、特殊外部信号は、主制御基板１３１０から外部端子板を介して外部に出力するようにしてもよいし、主制御基板１３１０から外部端子板を介さずに直接に外部に出力するようにしてもよい。

【２９８２】

図２３０（Ａ）には、制限クリアパターンテーブル４の変形例として、打ち止め準備状態中に特殊外部信号が出力されている状況下で電源遮断され、その後に電源再投入された場合に選択されるテーブルである制限クリアパターンテーブル４（ａ）を示している。なお、本例では、電源投入時の処理における各種のクリア処理に先立って主制御基板１３１０からの特殊外部信号の出力有無を判定するようにしており、この判定結果に基づいて、制限クリアパターンテーブル４（ａ）と制限クリアパターンテーブル４（ｂ）を選択することとしている。

【２９８３】

制限クリアパターンテーブル４（ａ）の電源投入パターン１は、電源投入時において、電源遮断時の遊技状態を維持しているが、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」については、クリア（初期化）している。また、「打ち止め状態中の遊技の制限」については、維持しているが、打ち止め準備状態については、クリア（初期化）している。また、外部に知らせる報知態様としては、電源投入時から所定期間が経過するまでの間、遊技盤５や扉枠３の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤを緑色（打ち止め状態を維持した場合。打ち止め準備状態をクリアした場合には赤色）で発光するようにし、スピーカから「出玉量をクリアしました。打ち止め状態は維持されています（打ち止め準備状態をクリアしました）。」という音声を出力するようにし、演出表示装置１６００には「出玉量をクリアしました。打ち止め状態は維持されています（打ち止め準備状態をクリアしました）。」というメッセージ画像を表示するようにしている（クリア通知１、進行不能通知に相当）。より詳細には、打ち止め状態中に電源を遮断した場合には、電源投入時に打ち止め状態を維持した旨を報知し、打ち止め準備状態中に電源を遮断した場合には、電源投入時に打ち止め準備状態をクリアした旨を報知し、これ以外の

場合には、出玉量をクリアした旨のみを報知するようにしている。また、打ち止め状態中に電源を遮断した場合には、これら報知に加えて、上述の打ち止め状態のクリア方法を示すクリア方法通知を付加するようにしてもよい。

【２９８４】

制限クリアパターンテーブル４（ａ）の電源投入パターン２は、電源投入時において、電源遮断時の遊技状態をクリア（初期化）しているが、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」についても、クリア（初期化）している。また、「打ち止め状態中の遊技の制限」および打ち止め準備状態についても、クリア（初期化）している。具体的には、上述した制限パターン１で遊技が制限されている場合には、「遊技停止」しているが、打ち止め状態がクリアされることで、「遊技停止」を解除し、制限パターン２で遊技が制限されている場合には、「発射停止」しているが、打ち止め状態がクリアされることで、「発射停止」を解除し、制限パターン３で遊技が制限されている場合には、「遊技停止」および「発射停止」しているが、打ち止め状態がクリアされることで、「遊技停止」および「発射停止」を解除し、いずれの場合にも、主制御基板１３１０側での遊技（主遊技）を再開させることが可能になっている。また、外部に知らせる報知態様としては、電源投入時から所定期間が経過するまでの間、遊技盤５や扉枠３の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤを赤色で発光するようにし、スピーカから「出玉量、打ち止め状態（打ち止め準備状態）をクリアしました。」という音声を出力するようにし、演出表示装置１６００には「出玉量、打ち止め状態（打ち止め準備状態）をクリアしました。」というメッセージ画像を表示するようにしている（クリア通知２に相当）。より詳細には、打ち止め状態中に電源を遮断した場合には、電源投入時に打ち止め状態をクリアした旨を報知し、打ち止め準備状態中に電源を遮断した場合には、電源投入時に打ち止め準備状態をクリアした旨を報知し、これ以外の場合には、出玉量をクリアした旨のみを報知するようにしている。

【２９８５】

制限クリアパターンテーブル４（ａ）の電源投入パターン３は、電源投入時において、電源遮断時の遊技状態をクリア（初期化）しているが、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」についても、クリア（初期化）している。また、「打ち止め状態中の遊技の制限」および打ち止め準備状態についても、クリア（初期化）している。また、外部に知らせる報知態様としては、電源投入時から所定期間が経過するまでの間、遊技盤５や扉枠３の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤを赤色で発光するようにし、スピーカから「出玉量、打ち止め状態（打ち止め準備状態）をクリアしました。」という音声を出力するようにし、演出表示装置１６００には「出玉量、打ち止め状態（打ち止め準備状態）をクリアしました。」というメッセージ画像を表示するようにしている。（クリア通知２に相当）。より詳細には、打ち止め状態中に電源を遮断した場合には、電源投入時に打ち止め状態をクリアした旨を報知し、打ち止め準備状態中に電源を遮断した場合には、電源投入時に打ち止め準備状態をクリアした旨を報知し、これ以外の場合には、出玉量をクリアした旨のみを報知するようにしている。

【２９８６】

制限クリアパターンテーブル４（ａ）の電源投入パターン４は、電源投入時において、電源遮断時の遊技状態を維持しているが、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」については、クリア（初期化）している。また、「打ち止め状態中の遊技の制限」については、維持しているが、打ち止め準備状態については、クリア（初期化）している。また、外部に知らせる報知態様としては、電源投入時から所定期間が経過するまでの間、遊技盤５や扉枠３の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤを緑色（打ち止め状態を維持した場合。打ち止め準備状態をクリアした場合には赤色）で発光するようにし、スピーカから「出玉量をクリアしました。打ち止め状態は維持されています（打ち止め準備状態をクリアしました）。」という音声を出力するようにし、演出表示装置１６００には「出玉量をクリアしました。打ち止め状態は維持されています（打ち止め準備状態をクリアしました）。」というメッセージ画像を表示するようにしている（ク

リア通知１、遊技不能通知に相当）。より詳細には、打ち止め状態中に電源を遮断した場合には、電源投入時に打ち止め状態を維持した旨を報知し、打ち止め準備状態中に電源を遮断した場合には、電源投入時に打ち止め準備状態をクリアした旨を報知し、これ以外の場合には、出玉量をクリアした旨のみを報知するようにしている。また、打ち止め状態中に電源を遮断した場合には、これら報知に加えて、上述の打ち止め状態のクリア方法を示すクリア方法通知を付加するようにしてもよい。

【２９８７】

制限クリアパターンテーブル４（ａ）の電源投入パターン５は、電源投入時において、電源遮断時の遊技状態を維持しているが、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」についても、維持している。また、「打ち止め状態中の遊技の制限」および打ち止め準備状態についても、維持している。また、外部に知らせる報知態様としては、電源投入時から所定期間が経過するまでの間、遊技盤５や扉枠３の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤを青色で発光するようにし、スピーカから「出玉量、打ち止め状態（打ち止め準備状態）は維持されています。」という音声を出力するようにし、演出表示装置１６００には「出玉量、打ち止め状態（打ち止め準備状態）は維持されています。」というメッセージ画像を表示するようにしている。より詳細には、打ち止め状態中に電源を遮断した場合には、電源投入時に打ち止め状態を維持した旨を報知し、打ち止め準備状態中に電源を遮断した場合には、電源投入時に打ち止め準備状態をクリアした旨を報知し、これ以外の場合には、出玉量をクリアした旨のみを報知するようにしている。

【２９８８】

このように、特殊外部信号が出力されている状況下で用いられる制限クリアパターンテーブル４（ａ）では、電源投入時において、電源投入パターン１、４のように電源遮断時の遊技状態を維持するか、電源投入パターン２、３のように電源遮断時の遊技状態をクリア（初期化）するか、のいずれが選択されている場合であっても、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」をクリア（初期化）している。これにより、遊技機の開発段階での試射試験等の状況下における電源投入時において、打ち止め準備状態のみをクリアすることができ、その後の打ち止め状態の発生によって試射試験の継続的実施が阻害されてしまうことを回避することができる。なお、電源投入時において、電源投入パターン５が選択されている場合には、上述した球抜処理が実行されるだけで、遊技が開始されないことから、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」をクリア（初期化）しないで維持している。

【２９８９】

また、特殊外部信号が出力されている状況下で用いられる制限クリアパターンテーブル４（ａ）では、電源投入時において、電源投入パターン２、３のように電源遮断時の遊技状態をクリア（初期化）した場合のみ、「打ち止め状態中の遊技の制限」をクリア（初期化）している。一方、電源投入時において、電源投入パターン１、４のように電源遮断時の遊技状態を維持した場合には、「打ち止め状態中の遊技の制限」を維持している。つまり、「打ち止め状態中の遊技の制限」については、遊技機の開発段階での試射試験等の状況下における電源遮断後の再投入時において、開発者側で維持するか又はクリアするかを選択することが可能になっている。例えば、既に打ち止め状態が発生している場合において、遊技の制限を解除したいときには、電源遮断後、「打ち止め状態中の遊技の制限」をクリアするように電源投入時操作を行えばよく、遊技の制限を維持したいときには、電源遮断後、「打ち止め状態中の遊技の制限」を維持するように電源投入時操作を行えばよいこととなる。なお、電源投入時において、電源投入パターン５が選択されている場合には、上述した球抜処理が実行されるだけで、遊技が開始されないことから、「打ち止め状態中の遊技の制限」をクリア（初期化）しないで維持している。

【２９９０】

また、特殊外部信号が出力されている状況下で用いられる制限クリアパターンテーブル４（ａ）では、電源投入時において、電源投入パターン２、３のように電源遮断時の遊技

状態をクリア（初期化）した場合には、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」をクリア（初期化）するだけでなく、打ち止め準備状態をクリア（初期化）している。一方、電源投入時において、電源投入パターン１、４のように電源遮断時の遊技状態を維持した場合にも、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」をクリア（初期化）するだけでなく、打ち止め準備状態をクリア（初期化）している。これにより、遊技機の開発段階での試射試験等の状況下において、打ち止め準備状態をクリアする際に、遊技状態もクリアするか否か選択可能になり、試射試験ではない通常の運用時（遊技ホールでの運用時等）に適した態様にすることが可能となる。

【２９９１】

図２３０（Ｂ）には、制限クリアパターンテーブル４の変形例として、打ち止め準備状態中に特殊外部信号が出力されていない状況下で電源遮断され、その後に電源再投入された場合に選択されるテーブルである制限クリアパターンテーブル４（ｂ）を示している。なお、ここでの電源投入パターン２、３、５については、上述した制限クリアパターンテーブル４（ａ）と同じであるため、説明を省略している。

【２９９２】

制限クリアパターンテーブル４（ｂ）の電源投入パターン１は、電源投入時において、電源遮断時の遊技状態を維持しているが、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」については、クリア（初期化）している。また、「打ち止め状態中の遊技の制限」および打ち止め準備状態については、維持している。また、外部に知らせる報知態様としては、電源投入時から所定期間が経過するまでの間、遊技盤５や扉枠３の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤを緑色で発光するようにし、スピーカから「出玉量をクリアしました。打ち止め状態（打ち止め準備状態）は維持されています。」という音声を出力するようにし、演出表示装置１６００には「出玉量をクリアしました。打ち止め状態（打ち止め準備状態）は維持されています。」というメッセージ画像を表示するようにしている（クリア通知１、進行不能通知に相当）。より詳細には、打ち止め状態中に電源を遮断した場合には、電源投入時に打ち止め状態を維持した旨を報知し、打ち止め準備状態中に電源を遮断した場合には、電源投入時に打ち止め準備状態を維持した旨を報知し、これ以外の場合には、出玉量をクリアした旨のみを報知するようにしている。また、打ち止め状態中に電源を遮断した場合には、これら報知に加えて、ホール管理者向けに打ち止め状態のクリア方法を示すクリア方法通知を付加するようにしてもよい。

【２９９３】

制限クリアパターンテーブル４（ｂ）の電源投入パターン４は、電源投入時において、電源遮断時の遊技状態を維持しているが、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」については、クリア（初期化）している。また、「打ち止め状態中の遊技の制限」におよび打ち止め準備状態については、維持している。また、外部に知らせる報知態様としては、電源投入時から所定期間が経過するまでの間、遊技盤５や扉枠３の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤを緑色で発光するようにし、スピーカから「出玉量をクリアしました。打ち止め状態（打ち止め準備状態）は維持されています。」という音声を出力するようにし、演出表示装置１６００には「出玉量をクリアしました。打ち止め状態（打ち止め準備状態）は維持されています。」というメッセージ画像を表示するようにしている（クリア通知１、遊技不能通知に相当）。より詳細には、打ち止め状態中に電源を遮断した場合には、電源投入時に打ち止め状態を維持した旨を報知し、打ち止め準備状態中に電源を遮断した場合には、電源投入時に打ち止め準備状態を維持した旨を報知し、これ以外の場合には、出玉量をクリアした旨のみを報知するようにしている。また、打ち止め状態中に電源を遮断した場合には、これら報知に加えて、ホール管理者向けに打ち止め状態のクリア方法を示すクリア方法通知を付加するようにしてもよい。

【２９９４】

このように、特殊外部信号が出力されていない状況下で用いられる制限クリアパターンテーブル４（ｂ）では、電源投入時において、電源投入パターン２、３のように電源遮断

時の遊技状態をクリア（初期化）した場合には、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」をクリア（初期化）するだけでなく、打ち止め準備状態をクリア（初期化）している。一方、電源投入時において、電源投入パターン１、４のように電源遮断時の遊技状態を維持した場合には、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」をクリア（初期化）しているものの、出玉量のクリアに左右されることなく打ち止め準備状態を維持している。例えば、試射試験ではない通常の運用時（遊技ホールでの運用時等）における大当り遊技中に出玉量が特定値に達して打ち止め準備状態が発生している場合において、遊技者の不正行為により重度の異常（磁気や振動、電波の検知等）が発生し、その重度の異常を解消したいときには、電源遮断後、重度の異常を解消するように電源投入時操作を行えばよいが、このような電源投入時操作として電源投入パターン１、４を選択したとしても、打ち止め準備状態が維持されることとなる。つまり、実行中であった大当り遊技が再開されるものの、打ち止め準備状態を維持した場合には、再開した大当り遊技の終了時に打ち止め状態に移行するようになる。このように、打ち止め準備状態中において、不正行為者等がわざと重度の異常を発生させることで、ホール管理者に電源を再投入させ、打ち止め準備状態をクリア（初期化）させようとする新たな不正が行われる可能性があるが、重度の異常の解消に寄与する電源投入の場合には、打ち止め準備状態の不正なクリアを回避し、再開した大当り遊技が終了した時点で、遊技を終了させることで、そのような新たな不正を防止することができる。このように、特殊外部信号が出力されていない状況下で用いられる制限クリアパターンテーブル４（ｂ）では、制限クリアパターンテーブル４（ａ）を用いる場合とは異なり、試射試験ではない通常の運用時（遊技ホールでの運用時等）に適した態様にすることができる。

【２９９５】

なお、上述の例では、空きの試験用回路に試験用電子部品が実装されている状況下で特殊外部信号を常時に出力する構成としたが、特殊外部信号の出力時間が必要以上に長くなると主制御基板１３１０の制御負荷が大きくなってしまうという別の問題もある。こうした点を鑑み、空きの試験用回路に試験用電子部品が実装されている状況下で特殊外部信号を常時に出力する構成ではなく、予め定められた出力開始条件の成立により必要な時期に限り特殊外部信号を出力する構成としても良い。この点について図２３０（Ｃ）（Ｄ）を用いて以下に説明する。

【２９９６】

図２３１は、打ち止め準備状態および打ち止め状態の開始前に特殊外部信号の出力を開始することを示すタイムチャートである。このうち、図２３１（Ａ）は、打ち止め準備状態および打ち止め状態の開始前に電源遮断され、上述の制限クリアパターンテーブル４（ａ）における電源投入パターン１、４で電源投入された時のタイムチャートである。また、図２３１（Ｂ）は、打ち止め準備状態の開始後に電源遮断され、上述の制限クリアパターンテーブル４（ａ）における電源投入パターン１、４で電源投入された時のタイムチャートである。

【２９９７】

まず、図２３１（Ａ）について説明する。図２３１（Ａ）では、空きの試験用回路に試験用電子部品が実装されている状況でありながら常時に特殊外部信号を出力するものではなく、打ち止め準備状態および打ち止め状態の開始前の特定タイミング（ｔ１）で特殊外部信号の出力を開始するようにしている。本例の特定タイミング（ｔ１）は、上述した事前告知表示の実行条件と同じタイミングとなるように設定されている。すなわち、上述した通り、遊技進行過程での入賞に伴う出玉量が特定値に達するまでの残り球数が「＋１５００発」となった場合には、演出表示装置１６００の上領域において、事前告知時の動作として、出玉量が特定値に達するまでの残り球数を伝える「遊技制限まで残り＋１５００発」という事前告知表示を表示しているが、この事前告知表示を表示するタイミングと同じく特定値に達するまでの残り球数が「＋１５００発」となった場合に特殊外部信号を出力するようにしている。ここで、仮に事前告知表示を表示するタイミングで外部端子板を

介して所定の外部信号を出力することも考えられるため、そうした所定の外部信号と特殊外部信号との混同を避けるため、本例では、主制御基板１３１０から外部端子板を介さずに直接に外部に特殊外部信号を出力するようにすることが好ましい。

【２９９８】

特定タイミング（ｔ１）で特殊外部信号の出力が開始されると、遊技機の開発段階での試射試験等の状況下においては、特殊外部信号を受けた試験機器等の動作により、打ち止め準備状態および打ち止め状態の発生が近づいていることが把握可能になる。これにより、特殊外部信号の出力を把握した段階で電源遮断（ｔ２）し、上述の制限クリアパターンテーブル４（ａ）における電源投入パターン１、４で電源投入する（ｔ３）ことで、遊技状態をクリア（初期化）することなく、打ち止め準備状態および打ち止め状態の発生を回避することが可能になる。

【２９９９】

また、制限クリアパターンテーブル４（ａ）における電源投入パターン１、４での電源投入後（ｔ３）は、所定時間の経過で特殊外部信号の出力を終了するようにしている。本例では、電源投入時の処理における各種のクリア処理に先立って主制御基板１３１０からの特殊外部信号の出力有無を判定するようにしているため、特殊外部信号の出力終了時期は、この判定が行われた後であればいつでもよい。ただし、制限クリアパターンテーブル４（ａ）における電源投入パターン１、４での電源投入後（ｔ３）に必要以上に長い時間、特殊外部信号の出力が継続してしまうと、打ち止め準備状態および打ち止め状態の発生を誤って判断してしまう可能性があるため、電源投入後は比較的早い段階（例えば５秒以内）で特殊外部信号の出力を終了させることが望ましい。なお、特殊外部信号の出力を把握した段階で電源遮断（ｔ２）したものの、誤った電源投入パターンにより電源投入を行ってしまい出玉量が維持されてしまった場合は、引き続き継続して特殊外部信号を出力するようにしておくことが好ましい。これにより、誤った電源投入後に長期に特殊外部信号が出力されることで、出玉量のクリア（初期化）が行われていないことを把握でき、再度の電源遮断の作業に誘導することが可能になる。

【３０００】

このように、打ち止め準備状態や打ち止め状態の開始前である特定タイミング（ｔ１）で特殊外部信号を出力可能に構成しておくことで、特殊外部信号の常時出力を回避でき、主制御基板１３１０の制御負荷の抑制を図ることが可能になる。また、打ち止め準備状態や打ち止め状態の開始が近づいたことを、事前告知表示とともに特殊外部信号を通じて早期に外部から把握でき、遊技機の開発段階での試射試験等の円滑な運用を図ることが可能になる。また、主制御基板１３１０が特殊外部信号を外部に出力するようにしているため、遊技機の開発段階で事前告知表示が未完成の状態であっても特定タイミングさえ設定されていれば、打ち止め準備状態や打ち止め状態の開始が近づいたことを、特殊外部信号を通じて早期に外部から把握できるため、この点でも遊技機の開発段階での試射試験等の円滑な運用を図ることが可能になる。

【３００１】

次に、図２３１（Ｂ）について説明する。図２３１（Ｂ）では、空きの試験用回路に試験用電子部品が実装されている状況にて、打ち止め準備状態の開始前の特定タイミング（ｔ１）で特殊外部信号の出力を開始し、打ち止め準備状態の開始後に電源遮断を行っている。

【３００２】

具体的には、空きの試験用回路に試験用電子部品が実装されている状況でありながら常時に特殊外部信号を出力するものではなく、打ち止め準備状態の開始前の特定タイミング（ｔ１）で特殊外部信号の出力を開始しているが、大当り遊技中に出玉量が特定値に達して打ち止め準備状態が発生した後（ｔ２）にも、特殊外部信号の出力を継続するようにしている。ここで、打ち止め準備状態では、外部端子板を介して所定の外部信号を出力することも考えられるため、そうした所定の外部信号と特殊外部信号との混同を避けるため、本例では、主制御基板１３１０から外部端子板を介さずに直接に外部に特殊外部信号を出

力するようにすることが好ましい。なお、打ち止め準備状態では、上述した通り、演出表示装置１６００において、実行中の大当り遊技に関する表示（通常表示）を表示するのに加え、既に出玉量が特定値に達したことを示すように「大当り終了で今日は終わりだよ」という待機表示を表示するようにしている。

【３００３】

大当り遊技中に出玉量が特定値に達して打ち止め準備状態が発生した後（ｔ２）には、大当り遊技が終了した時点で、打ち止め状態に移行するが、その打ち止め準備状態中にも特殊外部信号の出力を継続することで、遊技機の開発段階での試射試験等の状況下においては、特殊外部信号を受けた試験機器等の動作により、打ち止め状態の発生が近づいていることが把握可能になる。これにより、打ち止め準備状態中に特殊外部信号の出力を把握した段階で電源遮断（ｔ３）し、上述の制限クリアパターンテーブル４（ａ）における電源投入パターン１、４で電源投入する（ｔ４）ことで、遊技状態をクリア（初期化）することなく、打ち止め準備状態をクリアし、打ち止め状態の発生を回避することが可能になる。

【３００４】

そして、打ち止め準備状態中に特殊外部信号の出力を把握した段階で電源遮断（ｔ３）し、上述の制限クリアパターンテーブル４（ａ）における電源投入パターン１、４で電源投入（ｔ４）したときには、打ち止め準備状態をクリアした際に、電源遮断前に実行中であった大当り遊技をクリアすることがなく、電源投入時の処理における各種のクリア処理の後に、電源遮断前に実行中であった大当り遊技を再開するようにしている。これにより、遊技機の開発段階での試射試験等の状況下で大当り遊技中に出玉量が特定値に達して打ち止め準備状態が発生した場合であっても、打ち止め準備状態のみのクリアを可能にすることで、試射試験の継続的実施が阻害されることがない。

【３００５】

また、制限クリアパターンテーブル４（ａ）における電源投入パターン１、４での電源投入後（ｔ４）は、上述と同じく、所定時間の経過で特殊外部信号の出力を終了するようにしているが、電源投入時の処理における各種のクリア処理に先立って主制御基板１３１０からの特殊外部信号の出力有無を判定するようにしているため、特殊外部信号の出力終了時期は、この判定が行われた後であればいつでもよい。

【３００６】

このように、打ち止め準備状態の開始前だけでなく、打ち止め準備状態の開始後にも特殊外部信号の出力を継続するように構成しておくことで、打ち止め状態の開始が近づいたことを、待機表示とともに特殊外部信号を通じて早期に外部から把握でき、遊技機の開発段階での試射試験等の円滑な運用を図ることが可能になる。

【３００７】

なお、特定タイミング（ｔ１）は、上述した事前告知表示の実行条件と同じタイミングでなくてもよく、打ち止め準備状態や打ち止め状態が開始されるよりも前であれば、事前告知表示の実行条件よりも前のタイミングであってもよいし、事前告知表示の実行条件よりも後のタイミングであってもよい。

【３００８】

また、上述の図２３１（Ａ）、（Ｂ）のような態様に限らず、例えば、空きの試験用回路に試験用電子部品が実装されているか否かを問わず、主制御基板１３１０に実装される出力開始スイッチのＯＮ操作／ＯＦＦ操作に伴い、特殊外部信号の出力／非出力を切り替えられるようにしてもよい。具体的に、打ち止め準備状態中に出力開始スイッチをＯＮ操作したときには、特定の出力要件を満たし、特殊外部信号を出力するが、打ち止め準備状態中でない状態で出力開始スイッチをＯＮ操作したときには、打ち止め準備状態の開始前の特定タイミング（ｔ１）が到来した後であれば、特定の出力要件を満たし、特殊外部信号を出力することとなる。このような場合にも、特殊外部信号の常時出力を回避でき、主制御基板１３１０の制御負荷の抑制を図ることが可能になる。

【３００９】

（出玉量の減算調整について）
詳しくは上記したが、大当り遊技（当り遊技）中に出玉量が特定値に達したときには、打ち止め準備状態に移行し、大当り遊技が終了するまでの間、打ち止め状態にせず、大当り遊技が終了することで、打ち止め状態に移行するように構成している。例えば、大当り遊技における途中のラウンドで出玉量が特定値に達したときには、直ぐには打ち止め状態にせずに打ち止め準備状態に移行し、大当り遊技における最後のラウンドが終了することで、打ち止め状態に移行している。つまり、大当り遊技中に出玉量が特定値に達したときには、特定値を超えて出玉を獲得することが可能になっている。
【３０１０】
ところで、「大当りと判定される複数の保留が記憶されていて、そのうちの先の保留消化に伴う大当り遊技終了後に後の保留消化に伴う大当り遊技の実行も確定している（期待度の高い表示態様の保留表示が複数個表示されることにより複数回の大当りの発生が遊技者に認識可能になっている）」という状況や、「大当りが確変大当りとなることで大当り遊技の終了後に高確率状態（連荘モード等）に移行することが確定している」という状況や、「大当り遊技中にＶ入賞口２００７に遊技球が入球して大当り遊技の終了後に高確率状態に移行することが確定している」という状況等の場合には、大当り遊技の実行中であっても、次回の大当りを獲得しうることが確定している。しかしながら、大当り遊技中に次回の大当りが確定しているにもかかわらず、大当り遊技中に出玉量が特定値に達して打ち止め準備状態に移行している場合には、大当り遊技が終了した時点で、打ち止め状態に移行して遊技を行うことができないため、次回の大当りに関する利益を獲得することができず、遊技者の不満が大きいものとなっていた。本例では、大当り遊技中に出玉量が特定値に達して打ち止め準備状態に移行している場合において、ホール管理者が特定の操作を行ったときには、出玉量（打ち止め用カウンタの値）を減算調整し、出玉量が特定値に達する前の状態（通常状態）に戻すことで打ち止め準備状態を解消し、大当り遊技の終了後に次回の大当りを獲得しうるようにした構成について、以下に説明する。
【３０１１】
まず、パチンコ機１の裏面側には、出玉量（打ち止め用カウンタの値）を減算調整するための出玉量減算スイッチが設けられている。この出玉量減算スイッチは、遊技者が触れることができない作業用の操作部（ＯＮ状態とＯＦＦ状態とを切り替え可能にするボタンや、キー挿入してＯＮ状態とＯＦＦ状態とを切り替え可能にするキースイッチ等）として主制御基板１３１０に設けられている。そして、出玉量減算スイッチを操作したとき（例えば、３秒以上ＯＮ状態にしてからＯＦＦ状態に切り替える操作等）には、その操作信号が主制御基板１３１０に入力され、現在の出玉量に対して所定の出玉量（例えば、１５００発）を減算することを可能にしている。つまり、打ち止め用カウンタがもっとも多くなった時点での値に対して所定の出玉量（例えば、１５００発）の分を減算することを可能にしている。
【３０１２】
本例では、大当り遊技中に出玉量が特定値に達して打ち止め準備状態に移行している場合において、その打ち止め準備状態中には、出玉量減算スイッチの操作を有効とし、ホール管理者が出玉量減算スイッチを操作すると、現在の出玉量に対して所定の出玉量（例えば、１５００発）を減算し、出玉量が特定値を下回るようにしている。このとき、打ち止め準備状態への移行時にオンとされていた打ち止めフラグをオフとし、打ち止め準備状態を解消して通常状態に戻すようにしている。例えば、「特定値」として１０００００が設定され、大当り遊技中に出玉量が特定値（１０００００発）に達したときには、打ち止め準備状態に移行するが、ホール管理者が出玉量減算スイッチを操作すると、所定の出玉量として１５００発を減算することで出玉量が９８５００発となり、特定値（１０００００発）を下回るようになっている。ここで、特定値を下回るように出玉量を減算したときに、打ち止め準備状態は解消しつつも、実行中の大当り遊技や次回の大当りを獲得するための情報は解消されないようにされている。また、特定値を下回るように出玉量を減算した後には、その減算した出玉量を起点として、出玉量のカウントを再開するようにしている

。
【３０１３】
　このように、大当り遊技中に出玉量が特定値に達して打ち止め準備状態に移行している場合であっても、ホール管理者が出玉量減算スイッチを操作することで、打ち止め準備状態を解消し、再び出玉量が特定値に達しない限りは、大当り遊技の終了後にも、遊技を継続することが可能になっている。これにより、上述したような大当り遊技中に次回の大当りが確定している場合であっても、大当り遊技の終了後に遊技を継続することができるため、次回の大当りに関する利益を獲得することができ、遊技者の不満を解消することができる。なお、大当り遊技の終了後に遊技が継続されているが、例えば、次回の大当り遊技中に再び出玉量が特定値に達したときには、打ち止め準備状態に移行するし、大当り遊技中でない状態で再び出玉量が特定値に達したときには、打ち止め状態に移行するものとなっている。
【３０１４】
　一方、打ち止め準備状態中でない状態では、出玉量減算スイッチの操作を無効とし、ホール管理者が出玉量減算スイッチを操作したとしても、現在の出玉量に対して所定の出玉量（例えば、１５００発）を減算することがない。このため、打ち止め状態中に出玉量減算スイッチを操作したとしても、現在の出玉量に対して所定の出玉量（例えば、１５００発）を減算することがなく、出玉量が特定値を下回ることがない。つまり、通常状態に戻さず、打ち止め状態を維持することから、遊技を再開することができない。このような場合には、打ち止め状態中に電源を遮断し、電源の再投入時において、出玉量をクリアするとともに、打ち止め状態をクリアする必要がある。
【３０１５】
　なお、打ち止め準備状態中に出玉量減算スイッチを操作したときには、現在の出玉量に対して所定の出玉量（例えば、１５００発）を減算しているが、減算される出玉量については、１回分の大当り遊技で獲得しうる出玉量相当としている。本例では、１回の大当り遊技で獲得しうる出玉量が１５００発程度とされており、出玉量減算スイッチを操作したときに減算される出玉量が１５００発に設定されている。これにより、大当り遊技中に出玉量が特定値に達して打ち止め準備状態に移行している場合において、打ち止め準備状態中に出玉量減算スイッチを操作すると、打ち止め準備状態を解消し、その大当り遊技中には、再び出玉量が特定値に達することがなく、打ち止め準備状態に移行しないものとなっている。つまり、上述したような大当り遊技中に次回の大当りが確定している場合であっても、大当り遊技の終了後に遊技を継続することができ、次回の大当りに関する利益を獲得することができる。また、出玉量減算スイッチを操作したときに減算される出玉量が１回分の大当り遊技で獲得しうる出玉量相当であることから、次回の大当り遊技では、再び出玉量が特定値に達して打ち止め準備状態に移行する可能性が高く、その次回の大当り遊技が終了する時点で、打ち止め状態に移行し、遊技を終了させることができる。
【３０１６】
　また、大当り遊技中に出玉量が特定値に達したときには、打ち止め準備状態に移行するが、打ち止め準備状態に移行した後には、大当り遊技中における出玉量（打ち止め用カウンタの値）をカウントしないように構成している。つまり、出玉量については、特定値を超えてカウントしないように構成している。このため、打ち止め準備状態中に出玉量減算スイッチを操作したときには、現在の出玉量である特定値に対して所定の出玉量（例えば、１５００発）を減算し、出玉量が特定値を下回るようにしている。ただし、出玉量については、打ち止め準備状態に移行した後にも、大当り遊技中における出玉量（打ち止め用カウンタの値）をカウントするように構成してもよい。つまり、出玉量については、特定値を超えてカウントするように構成してもよい。このような構成では、打ち止め準備状態中に出玉量減算スイッチを操作したときには、特定値を超えている現在の出玉量に対して所定の出玉量（例えば、１５００発）を減算し、出玉量が特定値を下回るようにしている。
【３０１７】

また、打ち止め準備状態中に出玉量減算スイッチを操作したときには、現在の出玉量に対して所定の出玉量（例えば、１５００発）を減算しているが、別例として、打ち止め準備状態中に電源を遮断した後、電源の再投入時に出玉量減算スイッチを操作したときには、現在の出玉量に対して所定の出玉量（例えば、１５００発）を減算するように構成してもよい。このような構成では、電源の再投入時において、打ち止め準備状態が維持されている場合であっても、電源の再投入時に出玉量減算スイッチを操作することで、現在の出玉量に対して所定の出玉量（例えば、１５００発）を減算し、出玉量が特定値を下回るようにしている。つまり、電源の再投入時に出玉量減算スイッチを操作したときには、打ち止め準備状態が解消されている状態で、電源遮断時に実行中であった大当り遊技を再開することができる。このように、出玉量減算スイッチの操作を有効とするためには、電源のオンオフを必要とすることで、打ち止め準備状態の解消については、ホール管理者が厳格に管理することができる。

【３０１８】

また、打ち止め準備状態中に出玉量減算スイッチを操作して次回の大当り遊技の獲得が可能になり、その次回の大当り遊技が実行された場合に、再び同様の遊技状況（その次の大当り遊技の獲得が確定しているにもかかわらず大当り遊技中に出玉量が特定値に達して打ち止め準備状態に移行してしまう状況）が発生することも考えられる。このような場合も考慮し、打ち止め準備状態中における出玉量減算スイッチの操作受付回数（減算回数）は制限しないようにして、打ち止め準備状態毎に操作受付可能にしておくことが好ましい。これにより、出玉量減算スイッチの操作後に同様の遊技状況が発生したとしても遊技者に不満を与えないように適格にホール管理者が管理することができる。ただし、一の打ち止め準備状態中に出玉量減算スイッチの操作を複数回受け付けて必要以上に出玉量の減算が行われてしまうことを防ぐため、一の打ち止め準備状態中に対して出玉量減算スイッチの操作受付回数（減算回数）は１回のみに制限することが望ましい。

【３０１９】

また、打ち止め準備状態中に出玉量減算スイッチを操作する際にはホール管理者による作業が必要になるため、一旦遊技者による遊技を止めることとなるが、その作業間にも大当り遊技は進行してしまうことから作業間の出玉獲得ができずに遊技者に損害を与えてしまう虞がある。これを回避するため、例えば、打ち止め準備状態中に出玉量減算スイッチを操作する際に、大当り遊技を含めた遊技の進行を停止する制御を行うようにしてもよい。例えば、出玉量減算スイッチに対して３秒以上ＯＮ状態にしてからＯＦＦ状態に切り替える操作が行われることで出玉量の減算が行われるものであれば、少なくとも出玉量減算スイッチをＯＮ状態にしている間は大当り遊技を含めた遊技の進行を停止するようにすることが例示できる。また、大当り遊技の解除ではないことを遊技者に認識させ得るために、出玉量減算スイッチをＯＮ状態にしている間は、当り遊技を含めた遊技の進行を一時的に停止していることに対応する固有の報知を行うようにして、外部にも認識させるようにしておくことが好ましい。

【３０２０】

なお、打ち止め準備状態中に出玉量減算スイッチを操作して減算されることとなる出玉量は、上述した「１回分の大当り遊技で獲得しうる出玉量相当」に限らず、遊技スペック等に応じて適宜設定してもよい。例えば、１回の大当り遊技後（例えば出玉量が５００発）に４回の大当り遊技の実行が確約されるような遊技性（例えば５回セットの大当り遊技等）の場合には、１回の出玉量減算スイッチの操作により、次回１回分の大当り遊技で獲得しうる出玉量（５００発）を超える値（例えば、４回分の大当り遊技で獲得しうる出玉量相当である「２０００発」）を減算するようにしても良い。これにより、遊技者の不満を解消することができる。

【３０２１】

（打ち止め状態のクリア後における打ち止め類似状態への移行について）

詳しくは上記したが、制限クリアパターンテーブル４では、電源投入時に電源投入パターン１～４のいずれが選択されている場合であっても、「打ち止め状態が開始される前や

、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」をクリア（初期化）している。また、制限クリアパターンテーブル４では、電源投入時において、電源投入パターン２、３のように電源遮断時の遊技状態をクリア（初期化）した場合のみ、「打ち止め状態中の遊技の制限」をクリア（初期化）している。一方、電源投入時において、電源投入パターン１、４のように電源遮断時の遊技状態を維持した場合には、「打ち止め状態中の遊技の制限」を維持している。つまり、「打ち止め状態中の遊技の制限」については、電源遮断後の再投入時において、維持するか又はクリアするかを選択することが可能になっている。例えば、既に打ち止め状態が発生している場合において、遊技の制限を解除したいときには、電源遮断後、「打ち止め状態中の遊技の制限」をクリアするように電源投入時操作を行えばよく、遊技の制限を維持したいときには、電源遮断後、「打ち止め状態中の遊技の制限」を維持するように電源投入時操作を行えばよいこととなる。

【３０２２】

しかしながら、既に打ち止め状態が発生していることに気付かずに、電源遮断後、ホール管理者が誤って「打ち止め状態中の遊技の制限」をクリアするように電源投入時操作を行ってしまうと、打ち止め状態については継続したいにもかかわらず、打ち止め状態が解消されて遊技の再開が可能になってしまう可能性があった。本例では、既に打ち止め状態が発生している場合において、「打ち止め状態中の遊技の制限」をクリアするように電源投入時操作を行ったときには、その時点で打ち止め状態をクリアするものの、直ぐには通常状態に戻さず、打ち止め状態と同様に遊技を制限する打ち止め類似状態に移行するようにし、ホール管理者が特定の操作を行うまでの間、打ち止め類似状態を継続するようにした構成について、以下に説明する。

【３０２３】

まず、パチンコ機１の裏面側には、打ち止め類似状態を終了するための打ち止め類似状態終了スイッチが設けられている。この打ち止め類似状態終了スイッチは、遊技者が触れることができない作業用の操作部（ＯＮ状態とＯＦＦ状態とを切り替え可能にするボタンや、キー挿入してＯＮ状態とＯＦＦ状態とを切り替え可能にするキースイッチ等）として主制御基板１３１０に設けられている。そして、打ち止め類似状態中に打ち止め類似状態終了スイッチを操作したときには、その操作信号が主制御基板１３１０に入力され、打ち止め類似状態では遊技を制限しているものの、打ち止め類似状態を解消して通常状態に戻し、遊技の再開を可能にしている。なお、打ち止め類似状態中には、打ち止め類似状態終了スイッチの操作を有効としているが、打ち止め状態中には、打ち止め類似状態終了スイッチの操作を無効とし、打ち止め状態中に打ち止め類似状態終了スイッチを操作したとしても、打ち止め状態を解消することがない。また、打ち止め類似状態終了スイッチについては、上述した出玉量減算スイッチと兼用するようにしてもよい。

【３０２４】

図２３２は、電源投入時に打ち止め状態をクリアした後に打ち止め類似状態が発生する場合におけるパチンコ機の挙動を示すタイムチャートである。

【３０２５】

まず、タイミングｔ１の時点で、入賞口への入球に基づく賞球の払い出しにより出玉量が特定値に達すると判断するが、主制御基板１３１０がその入賞口への入球を検出したときには、打ち止めフラグをＯＮとし、「遊技停止」と「発射停止」の両方を行う制限パターン３が適用された「打ち止め状態」に移行している。打ち止め状態の挙動については、前述したとおりである。

【３０２６】

具体的には、打ち止め状態では、遊技球の発射が不能とされ、主制御基板１３１０側での遊技（主遊技）を進行させることが不能になっている。つまり、打ち止め状態では、特別図柄の変動表示や大当り遊技を実行することがなく、仮に始動入賞があったとしても、特別図柄の変動表示を新たに開始することがない。

【３０２７】

次に、打ち止め状態に移行した後、タイミングｔ２の時点で、電源を遮断し、その後の

タイミングｔ３の時点で、電源を再投入している。本例では、電源の再投入時において、制限クリアパターンテーブルとして制限クリアパターンテーブル４を用いるようにし、電源投入パターンとしては、出玉量および打ち止め状態をクリアすることとなる電源投入パターン２、３が選択されている。このため、電源の再投入時には、電源遮断時の遊技状態をクリア（初期化）しているが、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」及び「打ち止め状態中の遊技の制限」についても、クリア（初期化）している。

【３０２８】

本例では、電源の再投入時において、「打ち止め状態中の遊技の制限」をクリア（初期化）しているが、直ぐには通常状態に戻さず、打ち止め状態と同様に遊技を制限する打ち止め類似状態に移行している。このような打ち止め類似状態では、打ち止め状態と同じく、遊技球の発射が不能とされ、主制御基板１３１０側での遊技（主遊技）を進行させることが不能になっている。つまり、打ち止め類似状態では、特別図柄の変動表示や大当り遊技を実行することがなく、仮に始動入賞があったとしても、特別図柄の変動表示を新たに開始することがない。このように、既に打ち止め状態が発生していることに気付かずに、電源遮断後、ホール管理者が誤って「打ち止め状態中の遊技の制限」をクリアするように電源投入時操作を行ったとしても、打ち止め類似状態に移行し、ホール管理者が打ち止め類似状態終了スイッチを操作するまでの間、打ち止め状態と同様に遊技を制限することで、遊技の再開については、ホール管理者が厳格に管理することができる。

【３０２９】

打ち止め類似状態では、外部に報知する態様として、打ち止め状態とは異なる態様で報知している。具体的には、打ち止め類似状態において、例えば、演出表示装置１６００、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、打ち止め類似状態終了スイッチを操作するまでの間、一時的に遊技を制限している旨を通知している。このように、打ち止め類似状態では、打ち止め状態とは異なる態様で報知することで、打ち止め状態中であるのか、打ち止め状態中に電源を遮断した後であるのか、を確実に認識することができる。なお、電源の再投入時には、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」及び「打ち止め状態中の遊技の制限」をクリア（初期化）していることから、出玉量および打ち止め状態をクリアした旨についても通知している。

【３０３０】

なお、打ち止め類似状態の挙動については、外部に報知する態様を除いて、打ち止め状態の挙動と略同じである。具体的には、打ち止め類似状態において、可動体については、動作することがない動作不能状態にしている。また、打ち止め類似状態において、外部端子板からは、異常の検出や、設定値の設定変更や設定値の確認表示中でないにもかかわらず、強制的にセキュリティ信号を出力する強制出力状態にしている。これにより、打ち止め類似状態では、ホールコンピュータに対してセキュリティ信号が出力されて、ホール側では、打ち止め類似状態に移行している旨を把握することができる。

【３０３１】

また、打ち止め類似状態では、入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数（入球数）と、賞球として払い出される遊技球Ｂの球数（払出数）とを計数の対象としていない。つまり、入球数に対する払出数の割合に関する演算を行うことを不能にし、ベースモニタ１３１０ｈに表示されているベース値に反映しないようにしている。

【３０３２】

また、打ち止め類似状態では、入賞口への入球を検出したとしても、賞球として所定数の遊技球を払い出すことがなく、遊技者の持ち球数に加算することもない。ただし、打ち止め類似状態では、入賞口への入球を検出しないように構成してもよく、そもそも入賞口への入球を検出しない場合にも同じく、入賞口への入球があったとしても、賞球として所定数の遊技球を払い出すことがなく、遊技者の持ち球数に加算することもない。また、打ち止め類似状態では、計数ボタンスイッチの操作により遊技者の持ち球数を精算すること

が可能な期間としている。

【３０３３】

また、打ち止め類似状態では、磁気や振動などの異常を検出したか否かの異常判定を行っていない。つまり、打ち止め類似状態では、異常を検出したとしても、異常判定を行っていないことから、異常が発生したことを外部に伝える異常報知を実行していない。このように、打ち止め類似状態では、異常報知よりも優先して、打ち止め類似状態に関する報知を実行することで、遊技者やホール管理者に対して、打ち止め類似状態に移行した旨を確実に認識させることができる。ただし、打ち止め類似状態では、磁気や振動などの異常を検出しないように構成してもよく、そもそも異常を検出しない場合にも同じく、異常が発生したとしても、その異常が発生したことを外部に伝える異常報知を実行することがない。

【３０３４】

次に、打ち止め類似状態に移行した後、タイミングｔ４の時点で、打ち止め類似状態終了スイッチを操作している。本例では、打ち止め類似状態中に打ち止め類似状態終了スイッチを操作したときに、打ち止め類似状態を解消して通常状態に戻し、打ち止め類似状態における遊技の制限を解除している。通常状態の挙動については、前述したとおりである。

【３０３５】

具体的には、通常状態では、遊技球の発射が可能とされ、主制御基板１３１０側での遊技（主遊技）を進行させることが可能な期間としている。つまり、通常状態では、打ち止め類似状態や打ち止め状態とは異なり、始動入賞があったときに、特別図柄の変動表示を開始することができ、特別図柄の変動表示が当り図柄で停止表示されたときに、大当り遊技を開始することができるという通常の遊技を行うことができる。

【３０３６】

なお、電源の再投入時には、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」及び「打ち止め状態中の遊技の制限」をクリア（初期化）していることから、出玉量および打ち止め状態をクリアした旨を通知しているが、そのような通知については、打ち止め類似状態中に打ち止め類似状態終了スイッチを操作し、通常状態に戻した時点で実行するようにしてもよい。これにより、電源の再投入時において、出玉量および打ち止め状態をクリアしているものの、打ち止め類似状態に移行し、打ち止め状態と同様に遊技を制限していることに対し、違和感が生じることを防止することができる。

【３０３７】

（事前告知表示や進行不能表示の視認性について）

上記した各例では、遊技の進行過程で演出表示装置１６００の最上位レイヤにて事前告知表示のメッセージを特定の表示領域に表示するようにしており、他の演出画像により事前告知表示の視認性が阻害されないものとしているが、演出面に関する遊技者による調整操作を反映させる調整画像（例えば音量や光量に対応する画像、その他の調整に関する画像等）を表示する所定領域が特定の表示領域と前後方向で重なる位置に設けられる場合には、少なくとも事前告知表示が表示されている間、調整画像の視認性が事前告知表示により阻害されてしまい、遊技興趣を低下させてしまう虞がある。このような場合に、特定の表示領域における事前告知表示を視認できないように非表示にしておくことを一例として上述したが、以下に記載する例では、事前告知表示のメッセージが特定の表示領域に表示されている間、調整画像などの遊技情報については、特定の表示領域外に表示されるようにした構成について説明する。

【３０３８】

図２３３は、待機状態中に事前告知表示や進行不能表示が表示されている場合におけるパチンコ機の挙動を示すタイムチャートである。

【３０３９】

まず、出玉量が特定値に達するまでの残りの出玉量が所定値（例えば、５０００発）に達した後には、事前告知表示を表示しているが、その事前告知表示については、出玉量が

特定値に達するまでの間、特別図柄の変動表示中だけでなく、待機状態である特別図柄の非変動表示中にも継続して表示している。また、詳しくは上記したが、演出表示装置１６００では、事前告知表示として、「遊技制限まで残り＋〇〇発」というメッセージを特定の表示領域に表示するようにしている。この特定の表示領域は、演出表示装置１６００における表示領域の一部に設定され、出玉量が特定値に近づいた場合の表示に用いられる表示領域であり、ホール管理者が見落とさないように如何なる遊技状態においても不変とされる固定領域とされている。

【３０４０】

また、事前告知表示や進行不能表示については、演出表示装置１６００の上位レイヤにて表示している。ここで、本例の演出表示装置１６００では、少なくとも上位レイヤ、中位レイヤ、下位レイヤを含む複数のレイヤを重ねて表示することが可能であり、「上位レイヤ＞中位レイヤ＞下位レイヤ」という関係のなかで上位のレイヤの表示物であるほど前面側に表示されるようにして、優先して視認しうるようになっている。これにより、上位レイヤに表示される事前告知表示や進行不能表示の視認性は、中位レイヤおよび下位レイヤに表示される表示物により阻害されることがない。

【３０４１】

また、特別図柄の非変動表示中には、特別図柄が確定停止してから所定時間（例えば３０秒）が経過するまでの間、待機表示１（待機演出１）として、装飾図柄の停止図柄を表示しているが、その装飾図柄の停止図柄については、演出表示装置１６００の下位レイヤにて表示している。なお、装飾図柄については、特別図柄の変動表示中であるか特別図柄の非変動中であるかにかかわらず、演出表示装置１６００の下位レイヤにて表示している。また、待機表示１のうち装飾図柄の停止図柄が表示されている所定領域については、事前告知表示が表示されている特定の表示領域に対し、特定の表示領域外とし、特定の表示領域と前後方向で一切重ならない位置に設けられている。これにより、事前告知表示が表示されている間であっても装飾図柄の停止図柄の視認性を確保でき、特別図柄の非変動表示中である旨を把握することができる。なお、待機表示１のうち装飾図柄の停止図柄が表示されている所定領域については、一部が特定の表示領域と前後方向で重なる位置に設けられてもよく、例えば、装飾図柄の停止図柄については、その装飾図柄の停止図柄が確認できる程度に事前告知表示からずらして表示するようにしてもよい。

【３０４２】

また、特別図柄の非変動表示中には、特別図柄の変動表示中と同じく、設定調節ボタン２０４の操作により音量や光量の調整を可能にし、音量や光量の調整中には、その調整中の音量や光量に対応する調整画像を表示している。なお、調整画像については、設定調節ボタン２０４の操作により表示が開始され、表示開始から一定時間（例えば３秒）の経過後に消去されるようになっている。ここでは、特別図柄の非変動表示中のタイミングｔ１で、設定調節ボタン２０４の操作があった場合には、調整画像を表示しているが、その調整画像については、演出表示装置１６００の中位レイヤにて表示している。また、調整画像が表示されている所定領域については、事前告知表示が表示されている特定の表示領域に対し、特定の表示領域外とし、特定の表示領域と前後方向で一切重ならない位置に設けられている。これにより、事前告知表示が表示されている間であっても調整画像の視認性を確保でき、遊技興趣が低下してしまうことを回避することができる。なお、調整画像が表示されている所定領域については、一部が特定の表示領域と前後方向で重なる位置に設けられてもよく、例えば、調整画像がレベルゲージ方式であればレベルゲージの変化が把握できる程度に重ならないように表示し、調整画像が数値方式であればいずれの数値であるのかが把握できる程度に重ならないように表示するなど、少なくとも遊技者による調整操作の結果が確認できる程度に事前告知表示からずらして表示するようにしてもよい。

【３０４３】

また、事前告知表示や進行不能表示は、周辺制御基板１５１０が行う画像変換処理（モザイク処理、グレースケール処理、拡大・縮小処理等）の対象外になっている。つまり、事前告知表示や進行不能表示以外の演出画像については、周辺制御基板１５１０が行う画

像変換処理の対象であり、演出の進行に伴い、演出画像の態様が変化することを許容しているが、事前告知表示や進行不能表示については、周辺制御基板１５１０が行う画像変換処理の対象外であり、演出が進行したとしても、演出画像の態様が変化することを許容していない。これにより、事前告知表示や進行不能表示が表示されている間には、その事前告知表示や進行不能表示に対する視認性が変化することがなく、出玉量等に関する情報を見落としてしまうことを回避することができる。

【３０４４】

次いで、特別図柄の変動表示の終了後であるタイミングｔ３で、特別図柄が確定停止してから所定時間（例えば３０秒）が経過したときには、デモンストレーション画像（例えば演出説明や宣伝用の画像等）を表示するデモンストレーション期間を開始している。このデモンストレーション期間については、特別図柄の変動表示を開始すると、終了するものとしている。また、デモンストレーション期間に移行した後にも、事前告知表示を継続して表示している。これにより、新規の遊技者が遊技開始前に出玉量等に関する情報を認識しないまま遊技を開始してしまうことを回避することができる。

【３０４５】

また、デモンストレーション期間中には、待機表示２（待機演出２）として、以下の内容のデモンストレーション画像を表示している。具体的には、まず、演出表示装置１６００を用いてパチンコ機１の演出説明、宣伝用の画像の表示（ムービー）を実行するようにし、その終了段階では、パチンコ機１の機種タイトルのロゴ表示を実行している。そして、機種タイトルのロゴ表示の終了後には、演出表示装置１６００において、パチンコ機１を製造したメーカーのロゴ表示を実行するようにし、その後、過度に遊技にのめり込むことを防止するための「のめり込み防止」に関する注意喚起メッセージ（例えば「パチンコは適度に楽しむものです。のめり込みに注意しましょう」の文字表示）の表示を実行している。このような注意喚起メッセージを表示することで、その後の遊技において、遊技者が過度に遊技にのめり込むことを防止することができる。

【３０４６】

本例では、上記の待機表示２については、演出表示装置１６００の下位レイヤにて表示している。そして、例えば、注意喚起メッセージが表示されている所定領域については、事前告知表示が表示されている特定の表示領域に対し、特定の表示領域外とし、特定の表示領域と前後方向で一切重ならない位置に設けられている。これにより、事前告知表示が表示されている間であっても注意喚起メッセージの視認性を確保でき、遊技者が過度に遊技にのめり込むことを確実に防止することができる。なお、注意喚起メッセージが表示されている所定領域については、その所定領域の一部が特定の表示領域と前後方向で重なる位置に設けられてもよく、例えば、注意喚起メッセージについては、所定領域と特定の表示領域とが重なっていたとしても、その注意喚起メッセージの内容が確認できる程度に事前告知表示から上下方向あるいは左右方向にずらして表示するようにしてもよい。また、例えば、注意喚起メッセージが表示されている所定領域については、後述の調整画像が表示されることとなる表示領域外としてもよい。これにより、調整画像が表示されている場合であっても注意喚起メッセージの視認性を確保でき、遊技者が過度に遊技にのめり込むことを確実に防止することができる。

【３０４７】

また、別例として、上記の待機表示２については、演出表示装置１６００の上位レイヤに表示するようにしてもよい。この場合、注意喚起メッセージが表示される所定領域と、事前告知表示が表示される特定の表示領域とが同一のレイヤに表示されることとなるが、所定領域と特定の表示領域とが一切重ならないように上下方向あるいは左右方向にずらして設けておくことが望ましい。これにより、事前告知表示が表示されている間であっても注意喚起メッセージの視認性を確保でき、遊技者が過度に遊技にのめり込むことを確実に防止することができる。なお、注意喚起メッセージが表示される所定領域の一部が特定の表示領域と重なるように設けられてもよく、例えば、注意喚起メッセージについては、所定領域と特定の表示領域と重なっていたとしても、その注意喚起メッセージの内容が確認

できる程度に事前告知表示から上下方向あるいは左右方向にずらして表示するようにしてもよい。

【３０４８】

また、デモンストレーション期間中のタイミングｔ４で、設定調節ボタン２０４の操作があった場合には、調整画像を表示しているが、その調整画像については、上述したとおり、演出表示装置１６００の中位レイヤにて表示している。また、調整画像が表示されている所定領域については、事前告知表示が表示されている特定の表示領域に対し、特定の表示領域外とし、特定の表示領域と前後方向で一切重ならない位置に設けられている。これにより、事前告知表示が表示されている間であっても調整画像の視認性を確保でき、遊技興趣が低下してしまうことを回避することができる。なお、デモンストレーション期間中に設定調節ボタン２０４の操作があった場合には、待機状態を継続しつつ、そのデモンストレーション期間を終了するようにしてもよいが、デモンストレーション期間の終了後の待機状態でも、事前告知表示については継続して表示することとなる。

【３０４９】

また、デモンストレーション期間中には、遊技盤５に設けられた可動体を初期位置から出現位置に移動し、演出表示装置１６００の画面の前方に出現するようにしてもよいが、演出表示装置１６００の画面の前方に可動体が出現したとしても、事前告知表示が表示されている特定の表示領域の前方には位置しないことが好ましい。これにより、デモンストレーション期間中に可動体が動作する場合であっても事前告知表示の視認性を確保することができる。

【３０５０】

次いで、タイミングｔ６の時点で、出玉量が特定値に達して遊技の制限を実行すると、待機状態を終了して、遊技の進行を不能とする打ち止め状態に移行する。上述した通り、各入賞口への入賞により生ずる賞球に基づく演算で出玉量が特定値に達すると、打ち止め状態になって遊技が制限されるが、本例では、こうした遊技の制限を、特別図柄の変動表示中や当り遊技中に限らず、待機状態中であっても制御するようにしている。これにより、例えば、待機状態にて発射された遊技球が一般入賞口２００１等に入賞し、該入賞により出玉量が特定値に達した場合、遊技が進行していない状態でありながらも遊技の制限を実行し、待機状態から打ち止め状態に直に移行させて、特別図柄の変動表示中や当り遊技中に打ち止め状態とされることを事前に回避することが可能になる。

【３０５１】

待機状態から打ち止め状態に直に移行した場合、演出表示装置１６００では、打ち止め状態に対応する画像として、進行不能表示を表示している。進行不能表示としては、「遊技制限」というメッセージを表示し、それに伴い「１日の出玉制限〇〇〇発に達したので遊技を制限しています。」、「係員をお呼び下さい。」、「精算ボタンは有効です。」というメッセージを表示している。また、進行不能表示については、上述の通り、演出表示装置１６００の上位レイヤにて表示している。これにより、進行不能表示の視認性が阻害されることがなく、出玉量が特定値に達して遊技の制限が実行されている旨を把握することができる。

【３０５２】

また、本例の進行不能表示については、演出表示装置１６００の上位レイヤにて、不透明の暗転表示（例えば黒色の背景画像）からなる画面上にメッセージを表示するようにしている。この暗転表示は、演出表示装置１６００の略全面で行われる。これにより、上位レイヤよりも下位のレイヤに表示される画面については、上位レイヤにおける暗転表示により視認不能となっている。具体的には、タイミングｔ６の時点で、打ち止め状態に移行した後にも、演出表示装置１６００の下位レイヤにて待機表示２としてのデモンストレーション画像を継続して表示しているが、演出表示装置１６００の上位レイヤにて演出表示装置１６００の略全面を用いて進行不能表示が表示されていることで、デモンストレーション画像については視認不能となっている。これにより、打ち止め状態に移行した後には、進行不能表示の表示中にデモンストレーション期間であることを遊技者が認識すること

がなく、出玉量が特定値に達して遊技の制限が実行されている旨を確実に把握することができる。なお、打ち止め状態に移行した後には、特別図柄を変動表示していない待機状態が所定期間（例えば３０秒）経過したか否かにかかわらず、そもそも演出表示装置１６００の下位レイヤにてデモンストレーション画像を継続して表示しないように強制終了させてもよい。

【３０５３】

また、進行不能表示の表示中のタイミングｔ７で、設定調節ボタン２０４の操作があった場合には、設定調節ボタン２０４の操作自体は受付可能であり、演出表示装置１６００の中位レイヤにて調整画像を表示しているが、演出表示装置１６００の上位レイヤにて演出表示装置１６００の略全面を用いて進行不能表示が表示されていることで、調整画像については視認不能となっている。なお、進行不能表示の表示中には、調整画像を表示しないだけで、設定調節ボタン２０４の操作により内部的に音量や光量の調整操作を受付可能にしている。ただし、進行不能表示の表示中には、音声や発光に関連する制御として打ち止め状態に基づく制御が優先して実行され、設定調節ボタン２０４の操作を受けた音量や光量の調整が反映されないようになっている。なお、別例として、進行不能表示の表示中に設定調節ボタン２０４の操作を受けた音量や光量の調整が反映されるようにしてもよく、例えば、後述する報知態様に関与する音量や光量を除いては、音量や光量の調整が反映されるようにしてもよい。

【３０５４】

また、本例では、タイミングｔ６の時点で、打ち止め状態に移行した後にも、演出表示装置１６００の下位レイヤにて待機表示２としてのデモンストレーション画像を継続して表示しているが、進行不能表示の表示中に設定調節ボタン２０４の操作があった場合に、下位レイヤにて継続しているデモンストレーション画像を終了させるようにしてもよい。これにより、周辺制御基板１５１０の制御負荷を軽減できる。なお、下位レイヤにて継続しているデモンストレーション画像を終了させる条件としては、設定調節ボタン２０４の操作に限らず、第一演出ボタン２５１や第二演出ボタン２５２の操作やハンドル１６０の操作であってもよい。また、進行不能表示の表示中に設定調節ボタン２０４、第一演出ボタン２５１や第二演出ボタン２５２の操作やハンドル１６０の操作が行われた場合（下位レイヤにて継続しているデモンストレーション画像を終了させる条件である所定の操作が行われた場合）には、それに応じて専用の音声や発光、表示等の報知を何ら行わないようにすることが望ましい。すなわち、各操作に応じた専用の音声や発光、表示等の報知を行うようにすると、遊技者が「遊技を行うことができるのか」と誤解してしまう虞があるが、この点で各操作に応じた専用の音声や発光、表示等の報知を一切行わないようにしておくことで、そうした誤解を招く恐れを防ぐことができる。なお、遊技機の種別が前述した所謂、封入式遊技機、管理遊技機の場合には、設定調節ボタン２０４、第一演出ボタン２５１や第二演出ボタン２５２の操作やハンドル１６０の操作に応じた専用の音声や発光、表示等の報知は行わないものの、計数ボタンスイッチの操作に限っては、正常な遊技終了に関する案内を明確にする点からも、その操作に応じた専用の音声や発光、表示等の報知を実行するようにしてもよい。

【３０５５】

次に、打ち止め状態の実行中における発光や音声に関する報知態様について、図２３３を用いて説明する。本例では、打ち止め状態へ移行したとき、演出表示装置１６００だけでなく、演出表示装置１６００以外の報知部材も用いて、打ち止め状態に移行した旨を外部に積極的に知らせるように強調態様で報知しているが、打ち止め状態を解消しない限り、その強調態様で報知し続けると、周囲の遊技者に対して遊技の妨げとなる虞がある。ここでは、こうした懸念を解消するために、打ち止め状態の実行中における発光や音声に関する報知を特異な態様で変化させるように制御する構成について、以下に説明する。

【３０５６】

まず、タイミングｔ６の時点で、出玉量が特定値に達して遊技の制限を実行すると、遊技の進行を不能とする打ち止め状態に移行し、演出表示装置１６００では、打ち止め状態

に対応する画像として、演出表示装置１６００の略全面を用いて進行不能表示を表示している。このとき、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、進行不能時の動作を実行するのに伴い、報知態様Ａとして、予め定められた特定の光量（例えば最大光量）と予め定められた特定の音量（例えば最大音量）とからなる強調態様での報知を、設定調節ボタン２０４の操作による設定状況に拘らず強制的に実行している。より具体的には、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）については、白色単色発光で、ＬＥＤが点滅や点灯を特定の光量（例えば最大光量）で行うようにし、スピーカからは、「１日の出玉制限に達したので遊技を制限しています」という音声を特定の音量（例えば最大音量）で出力している。これにより、ホール管理者に向けて、打ち止め状態に移行した旨を明確に知らせることができる。なお、打ち止め状態に関連する強調態様での報知は、異常等の他のエラー時に行われる報知の態様とは異なる態様としておくことが好ましい。

【３０５７】

そして、報知態様Ａとしての強調態様での報知を開始した後、所定期間（例えば、１５秒）が経過したタイミングｔ８の時点で、演出表示装置１６００については、演出表示装置１６００の略全面を用いて進行不能表示を維持するものの、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、報知態様Ｂとして、光量や音量を抑制した抑制態様での報知に移行している。具体的には、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）については、ＬＥＤが白色単色発光を継続しつつも、特定の光量（例えば最大光量）での点滅や点灯を行わないようにし（特定の光量よりも小さい光量で点滅や点灯を行うようにし）、さらに、スピーカからは、「１日の出玉制限に達したので遊技を制限しています」という音声自体を出力しないようにして、何らの音も聞こえない無音状態（非可聴状態）にしている。これにより、打ち止め状態中であっても、強調態様での報知を終了し、周囲の遊技者に対して遊技の妨げとなることを防止することができる。また、打ち止め状態となって遊技されなくなった遊技機が過剰に電力を消費してしまうことも回避できる。

【３０５８】

なお、抑制態様については、強調態様よりも光量や音量を抑制したものであればよく、例えば、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）については、強調態様とは発光色のパターンを変更して複数色発光でＬＥＤが点滅や点灯を行うようにしたり、スピーカからは、特定の音量よりも小さい音量で、「１日の出玉制限に達したので遊技を制限しています」という音声や所定のＢＧＭを出力するようにしてもよい。このようにしておくことで、打ち止め状態となって遊技されなくなった遊技機であっても、装飾効果を保つことができ、遊技ホール全体の活気づけの役割を担わせることができる。なお、打ち止め状態となって遊技されなくなった遊技機での装飾効果は不要であり、一層の省エネ効果を求めるのであれば、抑制態様については、光量や音量を完全に抑制してもよく、例えば、演出表示装置１６００については、演出表示装置１６００の略全面を用いて進行不能表示を維持するものの、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）については消灯状態にし、さらに、スピーカからは何らの音も聞けない無音状態（非可聴状態）にしてもよい。また、所定の抑制態様選択スイッチを設け、管理者による抑制態様選択スイッチの操作によって、抑制態様としてどのような設定にするかを変更（選択）できるようにしてもよい。

【３０５９】

また、報知態様Ｂとしての抑制態様での報知を開始した後のタイミングｔ９で、設定調節ボタン２０４の操作があった場合には、演出表示装置１６００については、進行不能表示を維持したままで、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、報

知態様Ａとして、光量や音量を強調した強調態様での報知を再び実行するように移行している。また、ハンドル１６０への接触があり、ハンドルタッチセンサ１６２が遊技者の接触を検知した場合にも同様に、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、報知態様Ａとして、光量や音量を強調した強調態様での報知を再び実行するように移行している。これにより、新規の遊技者が打ち止め状態である旨を認識しないまま遊技を開始しようとしても、強調態様での報知に移行し、打ち止め状態である旨に気付かせることができる。なお、ハンドル１６０へ接触しながら回転操作したとしても、上述の制限パターン３で遊技が制限されている場合には、打ち止め状態中に「遊技停止」および「発射停止」しているため、遊技領域５ａに向けて遊技球を発射することがない。

【３０６０】

また、報知態様Ａとしての強調態様での報知を再び開始した後、所定期間（例えば、１５秒）が経過したタイミングｔ１０の時点で、演出表示装置１６００については、進行不能表示を維持するものの、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、報知態様Ｂとして、光量や音量を抑制した抑制態様での報知を再び実行するように移行している。これにより、誤って設定調節ボタン２０４の操作や、ハンドル１６０への接触があったとしても、強調態様での報知を終了し、周囲の遊技者に対して遊技の妨げとなることを防止することができる。なお、本例では、報知態様Ａ（強調態様）から報知態様Ｂ（抑制態様）に移行させるまでの時間を、タイミングｔ６～タイミングｔ８までの時間と、タイミングｔ９～タイミングｔ１０までの時間で同じ所定時間（１５秒）としたが、タイミングｔ６～タイミングｔ８までの時間と、タイミングｔ９～タイミングｔ１０までの時間とを異なる時間としても良い。例えば、タイミングｔ６～タイミングｔ８までの時間は、周囲への周知化を目的としていることから比較的長い時間（１５秒）に設定することが望ましい一方で、タイミングｔ９～タイミングｔ１０までの時間は、新規の遊技者が打ち止め状態であること及び省エネ期間の拡大を目的に、タイミングｔ６～タイミングｔ８よりも短時間（例えば５秒）に設定すること等が例示できる。

【３０６１】

また、報知態様Ａ（強調態様）から報知態様Ｂ（抑制態様）に移行させる所定条件は、上述した所定時間の経過に限らず、管理者による操作等を条件にしても良い。例えば、所定の抑制態様設定スイッチを設け、報知態様Ａ（強調態様）中における管理者による抑制態様設定スイッチの操作によって、報知態様Ｂ（抑制態様）に強制的に変更できるようにしてもよい。

【３０６２】

上記のように、打ち止め状態の実行中には、所定期間が経過するなどの所定条件が成立すると、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、報知態様が変化するようにしている。これに対し、ランプＣでは、機能表示ユニット１４００として、状態表示器、普通図柄表示器、普通保留表示器、第一特別図柄表示器、第一特別保留数表示器、第二特別図柄表示器、第二特別保留数表示器、ラウンド表示器などを備えているが、打ち止め状態中にそれらの全てのＬＥＤが点灯するようにし、所定条件が成立したとしても、報知態様が変化しないようにしている。これにより、報知態様が変化した部材があったとしても、ランプＣを用いた報知により、打ち止め状態が解消されていない旨を把握することができる。

【３０６３】

また、タイミングｔ６の時点で、打ち止め状態への移行直後に報知態様Ａを実行する場合と、タイミングｔ１０の時点で、設定調節ボタン２０４の操作や、ハンドル１６０への接触があることにより報知態様Ａを実行する場合とで、いずれも強調態様で、共通の報知を実行している。これにより、制御プログラムの共通化を図ることができる。

【３０６４】

なお、別例として、タイミングｔ１０の時点で、設定調節ボタン２０４の操作や、ハンドル１６０への接触があった場合には、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、報知態様Ｃとして、報知態様Ａや報知態様Ｂとは別の態様での報知に移行するようにしてもよい。このような構成であっても、新規の遊技者が打ち止め状態である旨を認識しないまま遊技を開始しようとしたときに、報知態様Ａや報知態様Ｂとは別の態様での報知に移行し、打ち止め状態である旨に気付かせることができる。

【３０６５】

次に、特別図柄の非変動表示中（待機状態中）におけるハンドル接触演出の実行可否について、図２３３を用いて説明する。本例では、特別図柄の非変動表示中に新たにハンドル１６０への接触があった場合に、ハンドル接触演出を実行可能とし、遊技開始の興趣を高めるようにしている。

【３０６６】

まず、打ち止め状態でない状態における特別図柄の非変動表示中（待機状態中）については、デモンストレーション期間中であるか否かにかかわらず、新たにハンドル１６０への接触があった場合に、ハンドル接触演出を実行可能な期間として設定されている。例えば、事前告知表示の表示中のタイミングｔ１で、新たにハンドル１６０への接触があった場合には、ハンドル接触演出を開始し、所定期間（例えば、５秒）にわたって、ハンドル接触演出を実行している。このハンドル接触演出では、演出表示装置１６００を用いて、ハンドル１６０への接触に対応する接触時専用画像（例えば、遊技開始を印象付ける特定キャラクタの動画表示等）を表示しているが、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについてもハンドル１６０への接触に対応する特定の演出処理（例えば、遊技開始を印象付ける音声や発光等）を実行可能にしている。なお、ハンドル１６０への接触に対応する接触時専用画像については、事前告知表示が表示されている特定の表示領域外であり、且つ、上述した下位レイヤに表示されている。

【３０６７】

一方、打ち止め状態における進行不能表示の表示中については、新たにハンドル１６０への接触があった場合に、ハンドル接触演出を実行不能な期間として設定されている。つまり、進行不能表示の表示中に新たにハンドル１６０への接触があったとしても、演出表示装置１６００では、ハンドル１６０への接触に対応する接触時専用画像を表示することがなく、ハンドル接触演出の実行を制限している。これにより、新規の遊技者が打ち止め状態である旨を認識しないまま遊技を開始しようとしても、通常時のハンドル接触演出が実行されない。すなわち、通常時のハンドル接触演出が行われないことを以て打ち止め状態である旨に気付かせることができる。なお、上述したように、接触時専用画像は、下位レイヤに表示されるようにしているため、接触時専用画像の表示有無による制御複雑化を回避することを目的として、進行不能表示の表示中に新たにハンドル１６０への接触があった場合に、接触時専用画像を下位レイヤに表示するようにしても良い。接触時専用画像を下位レイヤに表示したとしても、演出表示装置１６００の上位レイヤにて演出表示装置１６００の略全面を用いて進行不能表示が表示されている場合、遊技者は接触時専用画像を視認できず、通常時のハンドル接触演出が行われないことを以て打ち止め状態である旨に気付かせることができる。なお、ハンドル１６０へ接触しながら回転操作したとしても、上述の制限パターン３で遊技が制限されている場合には、打ち止め状態中に「遊技停止」および「発射停止」しているため、遊技領域５ａに向けて遊技球を発射することがない。

【３０６８】

また、詳しくは上記したが、進行不能表示の表示中に新たにハンドル１６０への接触があった場合には、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、報知態様Ｂから報知態様Ａ（別例として報知態様Ｃ）へ変化させることが可能であり、強調態様

での報知に移行している。これにより、新規の遊技者が打ち止め状態である旨を認識しないまま遊技を開始しようとしても、強調態様での報知を実行し、打ち止め状態である旨に気付かせることができる。

【３０６９】

また、事前告知表示の表示中のタイミングｔ５で、新たにハンドル１６０への接触があった場合には、ハンドル接触演出を開始しているが、ハンドル接触演出が終了するよりも前のタイミングｔ６の時点で、出玉量が特定値に達して打ち止め状態に移行すると、ハンドル接触演出の実行途中で終了し、演出の最後まで実行しないようにしている。つまり、打ち止め状態に移行した後には、ハンドル１６０への接触に対応する接触時専用画像を視認困難にしている。これにより、ハンドル接触演出に注目していたとしても、打ち止め状態に移行し、遊技を継続することができない旨に気付かせることができる。

【３０７０】

なお、本例では、打ち止め状態中において、遊技機側から遊技球貸出装置８へのデータ転送は受付可能であるが、新たな遊技者の通常の持ち球数の加算や、遊技球貸出装置８から遊技機側へのデータ転送を受付不能にしており、新たな遊技者が遊技を開始することができないようにしている。そして、新たな遊技者が通常の持ち球数を加算しようとする行為（球貸し操作）があった場合には、所定の報知態様で報知している。例えば、進行不能表示の表示中に新たにハンドル１６０への接触があった場合と同じく、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、報知態様Ｂから報知態様Ａ（別例として報知態様Ｃ）へ変化させるようにし、強調態様での報知に移行している。これにより、新規の遊技者が打ち止め状態である旨を認識しないまま遊技を開始しようとしても、球貸し操作時に通常の持ち球数が加算されないことで、遊技を開始することができず、加えて強調態様での報知を実行することで、打ち止め状態である旨に気付かせることができる。なお、打ち止め状態中において、新たな遊技者の通常の持ち球数の加算や、遊技球貸出装置８からのデータ転送を受付不能にする場合には、持ち球数表示部の表示態様を、例えば「ＥＥＥ」等の打ち止め状態に対応した受付不能態様で制御するようにし、事前にその旨を知らせるようにすることが好ましい。

【３０７１】

また、別例としては、打ち止め状態中において、新たな遊技者の通常の持ち球数の加算や、遊技球貸出装置８から遊技機側へのデータ転送を受付可能にしてもよい。このような場合にも、新たな遊技者が通常の持ち球数を加算しようとする行為（球貸し操作）があった場合には、所定の報知態様で報知している。例えば、進行不能表示の表示中に新たにハンドル１６０への接触があった場合と同じく、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、報知態様Ｂから報知態様Ａ（別例として報知態様Ｃ）へ変化させるようにし、強調態様での報知に移行している。これにより、新規の遊技者が打ち止め状態である旨を認識しないまま遊技を開始しようとしたとき、球貸し操作時に通常の持ち球数が加算されるものの、強調態様での報知を実行することで、打ち止め状態である旨に気付かせることができる。

【３０７２】

また、別例として、特別図柄の非変動表示中（待機状態中）に、デモンストレーション期間内の所定時期に遊技盤５に設けられた可動体を初期位置から出現位置に移動し、演出表示装置１６００の画面の前方で所定の動作期間に亘って待機させる（動作期間の経過後は可動体を出現位置から初期位置に戻す）ようにして、所謂「客寄せ動作」等を行うようにしてもよいが、こうした客寄せ動作についても上述したハンドル接触演出と同様に一部を制限するようにしてもよい。例えば、事前告知表示の表示中のタイミングｔ５で、遊技盤５に設けられた可動体を初期位置から出現位置に移動させる動作（客寄せ動作）を行うように予め設定されている場合には、タイミングｔ５から所定の動作期間に亘って客寄せ動作を行うが、動作期間が経過するよりも前のタイミングｔ６の時点で、出玉量が特定値

に達して打ち止め状態に移行すると、動作期間の途中で終了し、可動体を出現位置から初期位置に強制的に戻して、客寄せ動作を短縮するようにしている。つまり、打ち止め状態に移行した後には、客寄せ動作を実行しないようにしている。これにより、客寄せ動作を実行していたとしても、打ち止め状態に移行し、遊技を継続することができない旨に気付かせることができる。

【３０７３】

次に、演出変更操作の受付可否について、図２３３を用いて説明する。本例では、特別図柄の変動表示中と、特別図柄の非変動表示中と、当り遊技中（大当り遊技中）とのいずれにおいても、設定調節ボタン２０４の長押し操作があった場合に、「以降の演出において第一演出ボタン２５１や第二演出ボタン２５２の操作が要求されたときに第一演出ボタン２５１や第二演出ボタン２５２が操作されずとも操作したものとみなすオートボタン機能を有効にするオートボタンモード」への変更や、「演出表示装置１６００での３Ｄ画像表示を有効にする３Ｄ表示モード」への変更を可能とし、遊技者のニーズに合った遊技環境を提供するようにしている。なお、オートボタンモードへの変更や３Ｄ表示モードへの変更があった後、再び設定調節ボタン２０４の長押し操作があった場合には、その変更を解除して通常モードに変更するようにしている。

【３０７４】

まず、一例として、打ち止め状態でない状態における特別図柄の非変動表示中に設定調節ボタン２０４の長押し操作があった場合について説明する。打ち止め状態でない状態における特別図柄の非変動表示中については、デモンストレーション期間中であるか否かにかかわらず、設定調節ボタン２０４の長押し操作に対する受付を有効とし、オートボタンモードへの変更や３Ｄ表示モードへの変更を可能にしている。例えば、事前告知表示の表示中のタイミングｔ１で、設定調節ボタン２０４の長押し操作を開始した場合には、演出表示装置１６００では、長押し操作の受付中に対応する画像や音声からなる受付中演出（例えば、「５秒間押し続ければオートボタンモードと３Ｄ表示モードに変更します」等の表示や音声）を実行している。そして、タイミングｔ２の時点で、設定調節ボタン２０４の長押し操作の期間が所定期間（例えば、５秒）に達すると、オートボタンモードへの変更や３Ｄ表示モードへの変更を行い、演出表示装置１６００では、長押し操作の受付済に対応する画像や音声からなる受付済演出（例えば、「オートボタンモードと３Ｄ表示モードに変更しました」等の表示や音声）を実行している。なお、受付中演出や受付済演出の画像表示については、事前告知表示が表示されている特定の表示領域外であり、且つ、演出表示装置１６００の中位レイヤに表示されている。

【３０７５】

また、図示していないが、打ち止め状態でない状態における特別図柄の変動表示中や当り遊技中（大当り遊技中）に設定調節ボタン２０４の長押し操作があった場合についても、特別図柄の非変動表示中と同様の態様で設定調節ボタン２０４の長押し操作に対する受付を有効とし、オートボタンモードへの変更や３Ｄ表示モードへの変更を可能にしており、受付中演出や受付済演出も実行するように制御している。なお、特別図柄の変動表示中に設定調節ボタン２０４の長押し操作があった場合には、その特別図柄の変動表示中に限らず、その特別図柄の変動表示終了後や次回の特別図柄の変動表示開始後に跨がって長押し操作の継続受付を可能にしており、特別図柄の変動表示終了に伴って長押し操作が中途で強制解除されないようにしている。

【３０７６】

また、特別図柄の変動表示中や特別図柄の非変動表示中、当り遊技中（大当り遊技中）において、オートボタンモードへの変更や３Ｄ表示モードへの変更を行った後には、以降の演出においてオートボタンモードや３Ｄ表示モードに対応するように変更するとともに、オートボタンモードや３Ｄ表示モードが設定されていることを示す設定中演出（設定中画像）を実行しているが、その状態で出玉量が特定値に達して打ち止め状態に移行すると、オートボタンモードへの変更や３Ｄ表示モードへの変更を強制解除し、以降の設定中演出（設定中画像）の実行を制限している。つまり、出玉量が特定値に達して打ち止め状態

に移行すると、設定調節ボタン２０４に対する何らの操作も伴うことなく設定済のオートボタンモードや３Ｄ表示モードを強制的に解除し、いずれのモードにも対応しない通常の態様で上述した進行不能表示等が実行されることとなる。また、設定中演出（設定中画像）については、受付中演出や受付済演出の画像と同様に、遊技不能表示が表示されている特定の表示領域外であり、且つ、演出表示装置１６００の中位レイヤに表示されている。これにより、３Ｄ表示等で進行不能表示が行われてしまうことを回避し、且つ、設定中演出（設定中画像）で遊技不能表示が視認困難となることを回避でき、遊技者に不快感や嫌悪感を与えることなく打ち止め状態の報知を適切に実行することができる。

【３０７７】

次に、特別図柄の変動表示中や特別図柄の非変動表示中、当り遊技中（大当り遊技中）において、オートボタンモードへの変更や３Ｄ表示モードへの変更のために設定調節ボタン２０４の長押し操作を行っている途中の状態で出玉量が特定値に達した場合について説明する。図２３３を用いて打ち止め状態でない状態における特別図柄の非変動表示中を例に説明すると、オートボタンモードへの変更や３Ｄ表示モードへの変更のために設定調節ボタン２０４の長押し操作を行っている途中であるタイミングｔ６の時点（例えば設定調節ボタン２０４の長押し操作を３秒間行った状態）で、出玉量が特定値に達して打ち止め状態に移行する場合、タイミングｔ６の時点で設定調節ボタン２０４の長押し操作の継続受付を遮断して、以降の操作受付を強制的に不能にしている。また、受付中演出や受付済演出は、その実行途中で、出玉量が特定値に達して打ち止め状態に移行する場合、打ち止め状態に移行した時点で演出を強制的に終了するようにしている。つまり、それ以降に設定調節ボタン２０４の長押し操作が行われて５秒間以上に達したとしても、オートボタンモードへの変更や３Ｄ表示モードへの変更が行われないように制限している。これにより、打ち止め状態に移行するよりも前に設定調節ボタン２０４の長押し操作があったとしても、その長押し操作の途中で打ち止め状態に移行した場合には、打ち止め状態に移行した後において受付中演出、受付済演出、および設定中演出のいずれも実行せず、遊技者に不快感や嫌悪感を与えることなく打ち止め状態の報知を適切に実行することができる。

【３０７８】

一方、打ち止め状態における進行不能表示の表示中については、設定調節ボタン２０４の長押し操作に対する受付を無効とし、オートボタンモードへの変更や３Ｄ表示モードへの変更を行わないように制限している。つまり、進行不能表示の表示中に設定調節ボタン２０４の長押し操作があったとしても、演出表示装置１６００では、受付中演出、受付済演出、および設定中演出を実行しないように制限している。これにより、新規の遊技者が打ち止め状態である旨を認識しないまま設定調節ボタン２０４の長押し操作があったとしても、オートボタンモードへの変更や３Ｄ表示モードへの変更に関する報知は実行せず、遊技可能であると誤解させることを回避することができる。

【３０７９】

また、特別図柄の変動表示中や特別図柄の非変動表示中、当り遊技中（大当り遊技中）において、既に設定されているオートボタンモードの解除や３Ｄ表示モードの解除のために設定調節ボタン２０４の長押し操作を行っている途中の状態で出玉量が特定値に達した場合においては、次のように制御することとしている。すなわち、オートボタンモードの解除や３Ｄ表示モードの解除のために設定調節ボタン２０４の長押し操作を行っている途中であるタイミングｔ６の時点（例えば設定調節ボタン２０４の長押し操作を３秒間行った状態）で、出玉量が特定値に達して打ち止め状態に移行する場合、タイミングｔ６の時点で設定調節ボタン２０４の長押し操作の継続受付を遮断して、上記と同様に以降の操作受付を強制的に不能にしている。また、受付中演出や受付済演出も、その実行途中で、出玉量が特定値に達して打ち止め状態に移行する場合、上記と同様に打ち止め状態に移行した時点で演出を強制的に終了するようにしている。ただし、既に設定されているオートボタンモードの解除や３Ｄ表示モードの解除のために設定調節ボタン２０４の長押し操作を行っている途中の状態で出玉量が特定値に達した場合においては、設定調節ボタン２０４の長押し操作の継続受付が遮断されたとしても、出玉量が特定値に達することに基づいて

オートボタンモードの解除や３Ｄ表示モードの解除を行うように制御している。つまり、打ち止め状態に移行するよりも前に設定調節ボタン２０４の長押し操作（解除のための操作）があった場合には、その長押し操作の途中で打ち止め状態に移行することで、打ち止め状態に移行した後において受付中演出、受付済演出、および設定中演出のいずれも実行されることはないが、オートボタンモードの解除や３Ｄ表示モードの解除は強制的に実行されることとなる。これにより、打ち止め状態の報知が特殊なモードを反映した歪な態様になることを防止し、遊技者に不快感や嫌悪感を与えることを回避することができる。

【３０８０】

また、詳しくは上記したが、進行不能表示の表示中に設定調節ボタン２０４の操作（長押し操作）があった場合には、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、報知態様Ｂから報知態様Ａ（別例として報知態様Ｃ）へ変化させることが可能であり、強調態様での報知に移行している。これにより、新規の遊技者が打ち止め状態である旨を認識しないまま設定調節ボタン２０４の長押し操作があったとしても、強調態様での報知を実行し、打ち止め状態である旨に気付かせることができる。

【３０８１】

また、事前告知表示の表示中のタイミングｔ５で、設定調節ボタン２０４の長押し操作を開始した場合には、演出表示装置１６００では、受付中演出の画像を表示しているが、設定調節ボタン２０４の長押し操作の期間が所定期間（例えば、５秒）に達するよりも前のタイミングｔ６の時点で、出玉量が特定値に達して打ち止め状態に移行すると、受付中演出の画像の表示を途中で終了し、受付中演出の画像の表示が最後まで実行されないようにしている。つまり、打ち止め状態に移行した後には、受付中演出の画像の表示を視認できないようにしている。また、打ち止め状態に移行した後には、設定調節ボタン２０４の長押し操作に対する受付を無効とすることから、打ち止め状態に移行する前から長押し操作を継続していたとしても、長押し操作の期間が所定期間（例えば、５秒）に達したタイミングｔ７の時点で、オートボタンモードへの変更や３Ｄ表示モードへの変更を行うことがなく、演出表示装置１６００では、受付済演出の画像を表示することがない。これにより、設定調節ボタン２０４の長押し操作を継続していたとしても、打ち止め状態に移行し、遊技を継続することができない旨に気付かせることができる。

【３０８２】

なお、大当り遊技中に出玉量が特定値に達して打ち止め準備状態に移行したときには、打ち止め状態における進行不能表示の表示中とは異なり、設定調節ボタン２０４の長押し操作に対する受付を有効とし、オートボタンモードへの変更や３Ｄ表示モードへの変更を可能にしている。このため、事前告知表示の表示中に設定調節ボタン２０４の長押し操作を開始し、長押し操作の期間が所定期間（例えば、５秒）に達するよりも前に打ち止め準備状態に移行した場合には、受付中演出を実行途中で終了することがなく、打ち止め準備状態に移行した後に長押し操作の期間が所定期間（例えば、５秒）に達することで、オートボタンへの変更や３Ｄ表示への変更を行い、演出表示装置１６００では、受付済演出の画像を表示している。これにより、設定調節ボタン２０４の長押し操作中に出玉量が特定値に達したときに、打ち止め状態または打ち止め準備状態のいずれに移行したかを把握することができ、打ち止め準備状態に移行した後には、対応演出の実行により、遊技者のニーズに合わせた遊技を行うことができる。

【３０８３】

なお、上述では、設定調節ボタン２０４の長押し操作によってオートボタンモードや３Ｄ表示モードへの他モードへの変更を例示したが、設定調節ボタン２０４の長押し操作によって変更可能な他モードはこれらのモードに限定されるものではない。例えば、他モードとしては「予告演出やリーチ演出が異なる態様で実行される別演出モード」への変更等であってもよい。また、設定調節ボタン２０４の長押し操作によって他モードに変更することを例示したが、他モードへの変更の契機となる遊技者操作は設定調節ボタン２０４への長押し操作に限らず、「設定調節ボタン２０４や他のボタンへの短押し操作」であって

もよい。

【３０８４】

また、オートボタンモードや３Ｄ表示モードへの他モードへの変更を反映するタイミングは、上記した例に限らず、例えば次回の特別図柄の変動開始まで変更を保留しておき、次回の特別図柄の変動開始を契機に他モードへの変更を反映するようにしてもよい。このような場合、他モードへの変更が保留されてから次回の特別図柄の変動開始までの間に出玉量が特定値に達して打ち止め状態となることで、次回の特別図柄の変動開始自体が実行されないことから他モードへの変更の反映を不能にでき、上述と同等の効果を得ることができる。また、こうした場合は、出玉量が特定値に達して打ち止め状態となることで他モードへの変更を保留していることに関する情報も消去するようにすれば、周辺制御基板１５１０の制御負荷を軽減できる。

【３０８５】

（打ち止め状態への移行後における可動体の動作について）

詳しくは上記したが、特別図柄の変動表示中に一般入賞口２００１などに遊技球が入球したタイミングで、賞球の払い出しにより出玉量が特定値に達すると、打ち止め状態に移行し、遊技の制限を実行している。そして、打ち止め状態に移行した場合には、演出表示装置１６００では、打ち止め状態に対応する画像として、「遊技制限」というメッセージを表示することで、出玉量が特定値に達して遊技の制限が実行されている旨を報知している。しかしながら、特別図柄の変動表示中には、変動演出の一環として、特別図柄の変動表示の開始時に決められた演出パターンで、裏前昇降装飾体ユニット３３１０や裏後昇降装飾体３４１０などの可動体を待機位置にある状態から、演出表示装置１６００の表示画面の前方に位置する演出位置に移動させることを可能にしている。このため、特別図柄の変動表示中に打ち止め状態に移行した時点で、特別図柄の変動表示を停止するのに対し、打ち止め状態に移行した後において、特別図柄の変動表示の開始時に決められた演出パターンで可動体が動作するようにすると、その可動体によって演出表示装置１６００に表示されている表示内容（打ち止め状態に対応する画像）が隠されてしまい視認することができず、遊技の制限が実行されている旨が把握し難いものとなってしまう。また、特別図柄の変動表示中に打ち止め状態に移行した時点で、特別図柄の変動表示を停止するだけでなく、可動体を強制的に停止するようにした場合には、可動体が演出位置にある状態で停止してしまったときに、その可動体によって演出表示装置１６００に表示されている表示内容（打ち止め状態に対応する画像）が隠されてしまい視認することができず、遊技の制限が実行されている旨が把握し難いものとなってしまう。そこで、本例では、打ち止め状態に移行した後において、可動体が演出位置にある状態で停止することがなく、新たに可動体が演出位置に移動することがないようにした構成について、以下に説明する。

【３０８６】

本例の遊技盤５には、演出表示装置１６００の表示画面の前方に出現可能な可動体として、裏前昇降装飾体ユニット３３１０と裏後昇降装飾体３４１０が設けられている。そして、裏前昇降装飾体ユニット３３１０や裏後昇降装飾体３４１０は、通常の状態では、演出表示装置１６００の表示画面の上側に位置する待機位置で待機しているが、特別図柄の変動表示中における所定のタイミングで、それぞれの可動体が待機位置と、演出表示装置１６００の表示画面の前方に位置する演出位置との間で演出動作を実行することが可能になっている。

【３０８７】

まず、特別図柄の変動表示中に打ち止め状態に移行しない場合における可動体の動作について説明する。図２３４は、特別図柄の変動表示中に打ち止め状態に移行しない場合における可動体の動作を示すタイムチャートである。

【３０８８】

主制御基板１３１０は、各種始動口への入球を検出し、その各種始動口への入球に基づいて特別図柄の変動表示を開始するときには、抽選結果に基づいて複数の変動パターンから１つの変動パターンを決定し、機能表示ユニット１４００における第一特別図柄表示器

または第二特別図柄表示器において、その変動パターンに基づいて特別図柄の変動表示を実行している。また、変動パターンを決定したときには、変動パターンコマンドとして主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０に送信し、周辺制御基板１５１０では、変動パターンに対応する演出パターンを決定している。演出パターンについては、特別図柄の変動表示中に実行される変動演出の内容が設定されており、変動演出としては、演出表示装置１６００を用いての装飾図柄の変動表示や、リーチ演出などの演出、ランプを用いての発光、スピーカからの音声出力などを実行するものとなっている。また、変動演出としては、裏前昇降装飾体ユニット３３１０や裏後昇降装飾体３４１０などの可動体の動作についても実行可能であり、可動体の動作タイミングや動作内容が設定されている動作スケジュールを実行するように指示している。この動作スケジュールについては、可動体の動作タイミングが到来すると、周辺制御基板１５１０側で可動体を動作する可動処理を実行し、所定の動作内容を開始するものとなっている。なお、動作スケジュールとしては、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）の動作タイミングや動作内容が設定されている動作スケジュールＸと、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）の動作タイミングや動作内容が設定されている動作スケジュールＹと、が設定されている。また、変動パターンや演出パターン、動作スケジュールについては、特別図柄の変動表示の開始時に決定されるものであり、特別図柄の変動表示の開始後には、その変動パターンや演出パターン、動作スケジュールに従って実行するものとなっている。また、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）は、特別図柄の抽選結果が当りの場合に選択される変動パターン（演出パターン）と、特別図柄の抽選結果が外れの場合の一部で選択される変動パターン（演出パターン）が決定されたときに動作可能とされ、該動作によって遊技者に当りに関する期待感を与えることが可能なものとなっている。

【３０８９】

図２３４に示すように、特別図柄の変動表示の開始時において、変動パターン１を決定した場合には、その変動パターン１に基づいて特別図柄の変動表示を実行している。また、特別図柄の変動表示の開始時において、周辺制御基板１５１０では、変動パターン１に対応する演出パターン１を決定し、特別図柄の変動表示中には、その演出パターン１に基づいて変動演出を実行している。また、演出パターン１を決定した場合には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して動作スケジュールＸ１を実行し、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して動作スケジュールＹ１を実行するように指示しているが、それらの動作スケジュールには、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が動作するように設定されておらず、特別図柄の変動表示中において、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が動作待機するものとなっている。

【３０９０】

そして、タイミングｔ１で、特別図柄の変動表示を終了し、次の特別図柄の変動表示の開始時において、変動パターン２を決定した場合には、その変動パターン２に基づいて特別図柄の変動表示を実行している。また、タイミングｔ１で、周辺制御基板１５１０では、変動パターン２に対応する演出パターン２を決定し、特別図柄の変動表示中には、その演出パターン２に基づいて変動演出を実行している。また、タイミングｔ１で、演出パターン２を決定した場合には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して動作スケジュールＸ２を実行し、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して動作スケジュールＹ２を実行するように指示している。これらの動作スケジュールのうち、動作スケジュールＸ２には、変動表示の開始から所定期間（例えば、２０秒）が経過したタイミングｔｘで、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が演出動作を実行するように設定されているのに対し、動作スケジュールＹ２には、変動表示の開始から所定期間（例えば、２５秒）が経過したタイミングｔｙで、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が演出動作を実行するように設定されている。なお、タイミングｔｙは、タイミングｔｘよりも遅いタイミングであり、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）の演出動作が完了した後に到来するようにしている。そして、特別図柄の変動表示中に打ち止め状態に移行し

ない場合には、タイミングｔｘで、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が演出動作を実行し、タイミングｔｙで、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が演出動作を実行している。

【３０９１】

次に、特別図柄の変動表示中における可動体の動作タイミングよりも前に打ち止め状態に移行し、以降に可動体を動作しない場合について説明する。図２３５は、特別図柄の変動表示中における可動体の動作タイミングよりも前に打ち止め状態に移行し、以降に可動体を動作しない場合を示すタイムチャートである。

【３０９２】

図２３５に示すように、タイミングｔ１で、特別図柄の変動表示の開始時において、変動パターン２を決定した場合には、その変動パターン２に基づいて特別図柄の変動表示を実行している。また、タイミングｔ１で、周辺制御基板１５１０では、変動パターン２に対応する演出パターン２を決定し、特別図柄の変動表示中には、その演出パターン２に基づいて変動演出を実行している。また、タイミングｔ１で、演出パターン２を決定した場合には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して動作スケジュールＸ２を実行し、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して動作スケジュールＹ２を実行するように指示している。

【３０９３】

そして、タイミングｔｘが到来するよりも前のタイミングｔ２で、特別図柄の変動表示中に一般入賞口２００１に遊技球が入球するなどし、打ち止め状態に移行した場合には、打ち止め状態フラグをＯＮとし、変動パターン２に基づいて実行中の特別図柄の変動表示を強制停止している。また、タイミングｔ２で、周辺制御基板１５１０では、演出パターン２に基づいて実行中の変動演出を強制停止している。このとき、演出表示装置１６００では、変動演出に対応する画像を打ち止め状態に対応する画像に強制変更している。また、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して実行中の動作スケジュールＸ２や、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して実行中の動作スケジュールＹ２についても、強制停止し、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）を動作禁止の状態としている。このため、タイミングｔ２で、打ち止め状態に移行した後、タイミングｔｘが到来したとしても、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して予め決められていた演出動作を実行することがなく、タイミングｔｙが到来したとしても、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して予め決められていた演出動作を実行することがないものとなっている。

【３０９４】

このように、特別図柄の変動表示の開始時において、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）の演出動作を実行するタイミングｔｘや、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）の演出動作を実行するタイミングｔｙを決定しながらも、タイミングｔｘが到来するよりも前のタイミングｔ２で、打ち止め状態に移行した場合には、タイミングｔｘが到来したときに、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して予め決められていた演出動作を実行することがなく、タイミングｔｙが到来したときに、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して予め決められていた演出動作を実行することがない。これにより、打ち止め状態に移行した場合には、演出表示装置１６００では、打ち止め状態に対応する画像として、「遊技制限」というメッセージを表示しているが、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）の演出動作によって演出表示装置１６００に表示されている表示内容（打ち止め状態に対応する画像）が隠されることがなく、遊技の制限が実行されている旨が把握できなくなることを防止することができる。

【３０９５】

なお、上述した実施例では、打ち止め状態に移行したタイミングｔ２の時点で、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して実行中の動作スケジュールＸ２や、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して実行中の動作スケジュールＹ２を強制停止して

いるが、別例として、それらの動作スケジュール自体は強制停止しないで継続するようにしつつ、動作スケジュールとは独立した制御によって可動体Ｘ、Ｙの動作を停止させるようにしてもよい。例えば、打ち止め状態に移行したタイミングｔ２の時点で、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）を強制的に動作禁止の状態とするため、動作禁止フラグをオンとし、この動作禁止フラグの状態に応じて可動体Ｘ、Ｙを動作させるか否かを決定するようにしても良い。このような場合には、打ち止め状態への移行後にも進行する動作スケジュールにてタイミングｔｘが到来したとしても、動作禁止フラグがオンであることに基づいて裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して予め決められていた演出動作を実行することを禁止し、タイミングｔｙが到来したとしても、動作禁止フラグがオンであることに基づいて裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して予め決められていた演出動作を実行することを禁止することができ、打ち止め状態への移行に伴い動作スケジュールを変更することが不要になり、遊技設計が複雑化することを回避することが可能になる。

【３０９６】

また、上述した実施例では、打ち止め状態に移行したタイミングｔ２の時点で、変動演出に対応する画像を打ち止め状態に対応する画像に強制変更しているが、変動演出に対応する画像を強制停止しないで継続するようにしつつ、演出表示装置１６００における上位レイヤ（変動演出に対応する画像を表示するレイヤよりも上位のレイヤ）に打ち止め状態に対応する画像を表示することで、演出表示装置１６００では、打ち止め状態に対応する画像のみが視認しうるようにしてもよい。

【３０９７】

また、上述した実施例では、遊技の制限が実行されている旨が把握できなくなることを懸念して、打ち止め状態に移行したタイミングｔ２の時点で、演出パターン２に基づいて実行中の変動演出の全てを強制停止しているが、別例として、演出パターン２に基づいて実行中の変動演出の全てを強制停止しないで、実行中の変動演出の一部を継続するようにしてもよい。すなわち、「音、光、画像、可動体」からなる変動演出を構成する演出要素のうちの一部の演出要素のみ通常通りの制御を実行するようにしてもよい。例えば、変動演出を構成する演出要素の「音、光、画像、可動体」のうちの「音、光、画像」のみを強制停止する場合について例示すると、打ち止め状態に移行したタイミングｔ２の時点で、演出パターンに基づいた変動演出のうちの可動体Ｘ、Ｙでの演出を継続するようにしながらも、その変動演出に対応する画像については打ち止め状態に対応する画像に強制的に変更することで、演出表示装置１６００では、打ち止め状態に対応する画像のみが視認しうるようになる。この場合、上記したように遊技の制限が実行されている旨が可動体Ｘ、Ｙでの演出動作によって把握できなくなる可能性があるが、本別例では、可動体Ｘ、Ｙでの演出動作によって阻害されることのない「音」あるいは「光」といった演出要素により遊技の制限が実行されている旨を予備的に報知するようしている。具体的に、打ち止め状態に移行したタイミングｔ２の時点で、変動演出に対応する音とは異なる警告音を出力するように制御変更して「音」による警告を行ったり、変動演出に対応する光とは異なる警告発光を実行するように制御変更して「光」による警告を行うことが例示できる。これにより、実行中の変動演出の全てを強制停止しない場合であっても、遊技の制限が実行されている旨が把握できなくなることを回避できる。

【３０９８】

また、上述した実施例では、特別図柄の変動表示中における可動体の動作タイミングよりも前に打ち止め状態に移行し、以降に可動体を動作しない場合について説明しているが、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）とは別の可動体として、動作可能な第一演出ボタン２５１を設ける場合は次のような構成を採用してもよい。すなわち、第一演出ボタン２５１の内部あるいは外部に設けられるバイブレータ装置（振動モータ等）によって第一演出ボタン２５１に対するバイブレーション動作（振動）を可能にした場合、周辺制御基板１５１０では、特別図柄の抽選結果が当りの場合に選択される変動パターン（演出パターン）と、特別図柄の抽選結果が外れの場

合の一部で選択される変動パターンが決定されたときに、該変動パターンに対応して設定された演出パターンに応じて第一演出ボタン２５１（可動体）に対応する動作スケジュールを実行し、当り時および外れ時の一部で特別図柄の変動表示中における予め決められた所定の振動タイミングで第一演出ボタン２５１（可動体）をバイブレーション動作（振動）させて遊技者に当りに関する期待感を与えることが例示できる。このような構成で特別図柄の変動表示中における第一演出ボタン２５１の振動タイミングよりも前に打ち止め状態に移行した場合には、以降に演出パターンや動作スケジュールを継続して実行しているか否かに拘わらず、第一演出ボタン２５１を振動しないようにしている。これにより、打ち止め状態に移行した後に演出表示装置１６００に打ち止め状態に対応する画像が表示されているなかでバイブレータ装置（振動モータ等）が作動してしまい遊技者に違和感を与えることを抑止することができる。

【３０９９】

また、上述した実施例では、特別図柄の変動表示中における可動体の動作タイミングよりも前に打ち止め状態に移行し、以降に可動体を動作しない場合について説明しているが、大当り遊技中等における可動体の動作タイミングよりも前に打ち止め状態に移行した場合にも、以降に可動体を動作しないようにしてもよい。具体的には、大当り遊技中の演出パターンに応じて可動体の動作スケジュールを実行し、大当り遊技中における予め決められた所定の動作タイミングで可動体を動作させている。このような構成で大当り遊技中における可動体の動作タイミングよりも前に打ち止め状態に移行した場合には、以降に演出パターンや動作スケジュールを継続して実行しているか否かに拘わらず、可動体が動作しないようにしている。これにより、打ち止め状態に移行した後に演出表示装置１６００に打ち止め状態に対応する画像が表示されているなかで可動体が動作してしまい遊技者に違和感を与えることを抑止することができる。

【３１００】

次いで、打ち止め状態の発生中において、タイミングｔ３で、電源を遮断した後、タイミングｔ４で、電源を再投入した場合について説明する。ここでは、電源遮断後の再投入時において、制限クリアパターンテーブルとして制限クリアパターンテーブル４を用いるようにし、電源投入パターンとして、出玉量はクリアするが打ち止め状態を維持することとなる電源投入パターン１、４が選択されている場合について説明している。

【３１０１】

タイミングｔ４で、電源の再投入時に電源投入パターン１、４が選択されている場合には、出玉量はクリアするが打ち止め状態を維持している。また、打ち止め状態を維持した状況において、変動パターンに基づく特別図柄の変動表示については、強制停止を維持している。また、周辺制御基板１５１０では、打ち止め状態を維持した状況において、演出パターンに基づく変動演出については、強制停止を維持し、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対する動作スケジュールについても、強制停止を維持している。ただし、タイミングｔ４で、電源の再投入時には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対し、特別図柄の変動に関与しない動作スケジュールＺを実行するように指示し、少なくとも電源の再投入時のタイミングｔ４でそれらの可動体が初期動作を実行するようにしている。

【３１０２】

また、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）の初期動作では、それぞれの可動体が待機位置から演出位置に正常に移動するか否かや、待機位置に正常に復帰するか否かの動作を実行している。具体的には、動作スケジュールＺには、電源の再投入から所定期間（例えば、５秒）が経過したときに、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が初期動作を実行するように設定されているのに対し、電源の再投入から所定期間（例えば、１０秒）が経過したときに、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が初期動作を実行するように設定されている。なお、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）の初期動作は、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）の初

期動作が完了した後に実行するようにしている。
【３１０３】
このように、電源の再投入時に打ち止め状態を維持し、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）の強制停止を維持する場合であっても、それらの可動体の初期動作については、実行するように許容している。これにより、電源の再投入前の打ち止め状態の前後で、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が待機位置にない不具合が発生していたとしても、それらの可動体が初期動作により待機位置に復帰するようになり、それらの可動体が待機位置にない不具合の発生によって演出表示装置１６００に表示されている表示内容（打ち止め状態に対応する画像）が隠されたままとなることがなく、遊技の制限が実行されている旨が把握できなくなることを防止することができる。
【３１０４】
一方、タイミングｔ４で、電源の再投入時に電源投入パターン２、３が選択されている場合には、出玉量および打ち止め状態をクリアしている。このような場合にも、電源の再投入時において、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して動作スケジュールＺを実行するように指示し、それらの可動体が初期動作を実行するようにしている。そして、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）の初期動作の完了後には、変動パターンに基づく特別図柄の変動表示について、強制停止を解除し、実行待機するものとしている。また、周辺制御基板１５１０では、演出パターンに基づく変動演出について、強制停止を解除し、実行待機するものとし、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対する動作スケジュールについても、強制停止を解除し、動作待機するものとしている。
【３１０５】
なお、上述した実施例では、電源の再投入時に打ち止め状態を維持し、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）の強制停止を維持する場合には、それらの可動体の初期動作を実行するようにしているが、可動体が待機位置に位置する場合には制御負荷を重視して可動体の初期動作を実行しないように制限してもよい。また、可動体が待機位置に位置しない場合でも以下の理由から可動体の初期動作を実行しないように制限してもよい。すなわち、可動体が待機位置に位置しないにもかかわらず可動体の初期動作を実行しない場合は、電源の再投入前に、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が待機位置にない不具合が発生したときに、電源の再投入後に、それらの可動体が待機位置にない状態を保持することができ、それらの可動体に対して不具合が発生している旨をホール管理者に把握させることができる。ただし、この場合は、可動体が待機位置にない不具合の発生によって演出表示装置１６００に表示されている表示内容（打ち止め状態に対応する画像）が隠されたままとなる懸念が生ずるため、演出表示装置１６００における表示領域のうちの可動体が阻害することのない表示領域に打ち止め状態に対応する画像を表示するようにしたり、演出表示装置１６００以外の別の装置を用いて打ち止め状態に対応する報知を行うようにすることが望ましい。
【３１０６】
次に、特別図柄の変動表示中における可動体の動作中に打ち止め状態に移行し、以降に可動体を動作しない場合について説明する。図２３６は、特別図柄の変動表示中における可動体の動作中に打ち止め状態に移行し、以降に可動体を動作しない場合を示すタイムチャートである。
【３１０７】
図２３６に示すように、タイミングｔ１で、特別図柄の変動表示の開始時において、変動パターン２を決定した場合には、その変動パターン２に基づいて特別図柄の変動表示を実行している。また、タイミングｔ１で、周辺制御基板１５１０では、変動パターン２に対応する演出パターン２を決定し、特別図柄の変動表示中には、その演出パターン２に基

づいて変動演出を実行している。また、タイミングｔ１で、演出パターン２を決定した場合には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して動作スケジュールＸ２を実行し、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して動作スケジュールＹ２を実行するように指示している。

【３１０８】

また、特別図柄の変動表示中において、タイミングｔｘが到来したときには、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して実行中の動作スケジュールＸ２に基づいて、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して予め決められていた演出動作を実行している。そして、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対する演出動作の実行中において、タイミングｔ２で、特別図柄の変動表示中に一般入賞口２００１に遊技球が入球するなどし、打ち止め状態に移行した場合には、打ち止め状態フラグをＯＮとし、変動パターン２に基づいて実行中の特別図柄の変動表示を強制停止している。また、タイミングｔ２で、周辺制御基板１５１０では、演出パターン２に基づいて実行中の変動演出を強制停止している。このとき、演出表示装置１６００では、変動演出に対応する画像を打ち止め状態に対応する画像に強制変更している。また、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して実行中の動作スケジュールＸ２や、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して実行中の動作スケジュールＹ２についても、強制停止している。しかしながら、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して実行中の演出動作については、タイミングｔ２で、予め決められていた演出動作の途中で終了することがなく、予め決められていた演出動作が完了するまで実行を継続している。そして、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して予め決められていた演出動作が完了し、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）を待機位置に復帰させるのを待って、動作禁止の状態としている。

【３１０９】

一方、打ち止め状態に移行するタイミングｔ２の時点では、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して予め決められていた演出動作を開始しておらず、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）を動作禁止の状態とし、その後にタイミングｔｙが到来したとしても、図２３５で示したように裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して予め決められていた演出動作を実行することがないものとなっている。

【３１１０】

このように、タイミングｔｘで、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して予め決められていた演出動作を開始した後、その演出動作の実行中のタイミングｔ２で、打ち止め状態に移行した場合には、予め決められていた演出動作の途中で終了することがなく、予め決められていた演出動作が完了するまで実行を継続している。これにより、打ち止め状態に移行した場合には、演出表示装置１６００では、打ち止め状態に対応する画像として、「遊技制限」というメッセージを表示しているが、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が待機位置でない位置で強制停止することがなく、演出表示装置１６００に表示されている表示内容（打ち止め状態に対応する画像）が継続して隠されることがなく、遊技の制限が実行されている旨が把握できなくなることを防止することができる。また、特別図柄の変動表示の開始時において、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）の演出動作を実行するタイミングｔｙを決定しながらも、打ち止め状態に移行するタイミングｔ２の時点で、タイミングｔｙが到来していない場合には、タイミングｔｙが到来したときに、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して予め決められていた演出動作を実行することがない。これにより、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）の演出動作によって演出表示装置１６００に表示されている表示内容（打ち止め状態に対応する画像）が隠されることがなく、遊技の制限が実行されている旨が把握できなくなることを防止することができる。

【３１１１】

そして、打ち止め状態の発生中において、タイミングｔ３で、電源を遮断した後、タイミングｔ４で、電源を再投入した場合の挙動については、前述したとおりである。

【３１１２】
なお、上述した実施例では、打ち止め状態に移行するタイミングｔ２の時点で、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して実行中の演出動作を途中で終了することがなく、予め決められていた演出動作が完了するまで実行を継続することで、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が待機位置に復帰するようにしているが、待機位置に復帰させる方法については、これに限られない。例えば、別例として、打ち止め状態に移行するタイミングｔ２の時点で、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して実行中の演出動作を完了するまで動作させずに、実行中の動作途中で強制的に終了するようにし、強制的に終了して裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が待機位置にない状況において、待機位置に復帰するための専用の動作スケジュールを別途実行することで、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が待機位置に復帰するようにしてもよい。
【３１１３】
また、上述した実施例では、打ち止め状態に移行したタイミングｔ２の時点で、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して実行中の動作スケジュールＸ２や、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して実行中の動作スケジュールＹ２を強制停止しているが、別例として、それらの動作スケジュール自体は強制停止しないで継続するようにしつつ、動作スケジュールとは独立した制御によって可動体Ｘ、Ｙの動作を停止させるようにしてもよい。例えば、打ち止め状態に移行したタイミングｔ２の時点で、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）を強制的に動作禁止の状態とするため、動作禁止フラグをオンとし、可動体Ｘに対して実行中の演出動作を除いては、この動作禁止フラグの状態に応じて可動体Ｘ、Ｙを動作させるか否かを決定するようにしても良い。このような場合には、打ち止め状態への移行後にも進行する動作スケジュールにてタイミングｔｙが到来したとしても、動作禁止フラグがオンであることに基づいて裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して予め決められていた演出動作を実行することを禁止することができ、打ち止め状態への移行に伴い動作スケジュールを変更することが不要になり、遊技設計が複雑化することを回避することが可能になる。
【３１１４】
また、上述した実施例では、打ち止め状態に移行したタイミングｔ２の時点で、変動演出に対応する画像を打ち止め状態に対応する画像に強制変更しているが、変動演出に対応する画像を強制停止しないで継続するようにしつつ、演出表示装置１６００における上位レイヤ（変動演出に対応する画像を表示するレイヤよりも上位のレイヤ）に打ち止め状態に対応する画像を表示することで、演出表示装置１６００では、打ち止め状態に対応する画像のみが視認しうるようにしてもよい。
【３１１５】
また、上述した実施例では、遊技の制限が実行されている旨が把握できなくなることを懸念して、打ち止め状態に移行したタイミングｔ２の時点で、可動体Ｘに対して実行中の演出動作を除いては、演出パターン２に基づいて実行中の変動演出を強制停止している。つまり、変動演出を構成する演出要素の「音、光、画像、可動体」のうちの「音、光、画像」のみを強制停止している。このため、打ち止め状態に移行したタイミングｔ２の時点で、演出パターンに基づいた変動演出のうちの可動体Ｘで実行中の演出を継続するようにしながらも、その変動演出に対応する画像については打ち止め状態に対応する画像に強制的に変更することで、演出表示装置１６００では、打ち止め状態に対応する画像のみが視認しうるようになる。この場合、上記したように遊技の制限が実行されている旨が可動体Ｘで実行中の演出動作によって把握できなくなる可能性があるが、本例では、可動体Ｘで実行中の演出動作によって阻害されることのない「音」あるいは「光」といった演出要素により遊技の制限が実行されている旨を予備的に報知するようしている。具体的に、打ち止め状態に移行したタイミングｔ２の時点で、変動演出に対応する音とは異なる警告音を出力するように制御変更して「音」による警告を行ったり、変動演出に対応する光とは異なる警告発光を実行するように制御変更して「光」による警告を行うことが例示できる。

これにより、可動体Ｘに対して実行中の演出動作が完了まで継続する場合であっても、遊技の制限が実行されている旨が把握できなくなることを回避できる。

【３１１６】

また、上述した実施例では、特別図柄の変動表示中における可動体の動作中に打ち止め状態に移行し、その動作中の可動体については動作が完了するまで実行を継続し、以降に可動体を動作しない場合について説明しているが、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）とは別の可動体として、動作可能な第一演出ボタン２５１を設ける場合は次のような構成を採用してもよい。すなわち、第一演出ボタン２５１の内部あるいは外部に設けられるバイブレータ装置（振動モータ等）によって第一演出ボタン２５１に対するバイブレーション動作（振動）を可能にした場合、周辺制御基板１５１０では、特別図柄の抽選結果が当りの場合に選択される変動パターン（演出パターン）と、特別図柄の抽選結果が外れの場合の一部で選択される変動パターンが決定されたときに、該変動パターンに対応して設定された演出パターンに応じて第一演出ボタン２５１（可動体）に対応する動作スケジュールを実行し、当り時および外れ時の一部で特別図柄の変動表示中における予め決められた所定の振動タイミングで第一演出ボタン２５１（可動体）をバイブレーション動作（振動）させて遊技者に当りに関する期待感を与えることが例示できる。このような構成で特別図柄の変動表示中における第一演出ボタン２５１の振動中に打ち止め状態に移行した場合には、以降に演出パターンや動作スケジュールを継続して実行しているか否かに拘わらず、その振動中の第一演出ボタン２５１については動作が完了するまで実行を継続し、新たに第一演出ボタン２５１が振動しないようにしている。これにより、打ち止め状態に移行した後に演出表示装置１６００に打ち止め状態に対応する画像が表示されているなかでバイブレータ装置（振動モータ等）が継続して作動してしまい遊技者に違和感を与えることを抑止することができる。

【３１１７】

また、上述した実施例では、特別図柄の変動表示中における可動体の動作中に打ち止め状態に移行し、その動作中の可動体については動作が完了するまで実行を継続し、以降に可動体を動作しない場合について説明しているが、大当り遊技中等における可動体の動作中に打ち止め状態に移行した場合にも、その動作中の可動体については動作が完了するまで実行を継続し、以降に可動体を動作しないようにしてもよい。具体的には、大当り遊技中の演出パターンに応じて可動体の動作スケジュールを実行し、大当り遊技中における予め決められた所定の動作タイミングで可動体を動作させている。このような構成で大当り遊技中における可動体の動作中に打ち止め状態に移行した場合には、以降に演出パターンや動作スケジュールを継続して実行しているか否かに拘わらず、その動作中の可動体については動作が継続するまで継続し、新たに可動体が動作しないようにしている。これにより、打ち止め状態に移行した後に演出表示装置１６００に打ち止め状態に対応する画像が表示されているなかで可動体が継続して動作してしまい遊技者に違和感を与えることを抑止することができる。

【３１１８】

次に、特別図柄の変動表示中における可動体の動作タイミングよりも前に打ち止め状態に移行し、以降に可動体を動作する場合について説明する。上記では、特別図柄の変動表示中における可動体の動作タイミングよりも前に打ち止め状態に移行した場合には、演出パターンに基づく変動演出を強制停止するとともに、可動体の動作タイミングが到来したとしても、可動体に対して予め決められていた演出動作を実行しないようにしている。しかしながら、このような場合には、実行中の変動演出が途中で終了してしまい、可動体の演出動作を心待ちにしていた遊技者の落胆が大きいという欠点があった。図２３７は、特別図柄の変動表示中における可動体の動作タイミングよりも前に打ち止め状態に移行し、以降に可動体を動作する場合を示すタイムチャートである。

【３１１９】

図２３７に示すように、タイミングｔ１で、特別図柄の変動表示の開始時において、変動パターン２を決定した場合には、その変動パターン２に基づいて特別図柄の変動表示を

実行している。また、タイミングｔ１で、周辺制御基板１５１０では、変動パターン２に対応する演出パターン２を決定し、特別図柄の変動表示中には、その演出パターン２に基づいて変動演出を実行している。また、タイミングｔ１で、演出パターン２を決定した場合には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して動作スケジュールＸ２を実行し、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して動作スケジュールＹ２を実行するように指示している。

【３１２０】

そして、タイミングｔｘが到来するよりも前のタイミングｔ２で、特別図柄の変動表示中に一般入賞口２００１に遊技球が入球するなどし、打ち止め状態に移行した場合には、打ち止め状態フラグをＯＮとし、変動パターン２に基づいて実行中の特別図柄の変動表示を強制停止している。しかしながら、タイミングｔ２で、周辺制御基板１５１０では、演出パターン２に基づいて実行中の変動演出を強制停止せず、変動演出が完了するまで実行を継続している。つまり、演出表示装置１６００では、打ち止め状態に対応する画像に変更せず、変動演出に対応する画像を継続している。また、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して実行中の動作スケジュールＸ２や、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して実行中の動作スケジュールＹ２についても、強制停止せず、それらの動作スケジュールが完了するまで実行を継続している。このため、タイミングｔ２で、打ち止め状態に移行した後、タイミングｔｘが到来したときに、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して予め決められていた演出動作を実行し、タイミングｔｙが到来したときに、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して予め決められていた演出動作を実行するものとなっている。

【３１２１】

そして、タイミングｔ２で、打ち止め状態に移行した後、演出パターン２に基づいて実行中の変動演出が完了したときには、強制停止とし、新たに変動演出を実行することがない。このとき、演出表示装置１６００では、打ち止め状態に対応する画像の表示を開始している。また、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して実行中の動作スケジュールＸ２や、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して実行中の動作スケジュールＹ２が完了したときには、強制停止とし、それらの可動体が動作することがないように動作禁止の状態としている。

【３１２２】

このように、特別図柄の変動表示の開始時において、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）の演出動作を実行するタイミングｔｘや、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）の演出動作を実行するタイミングｔｙを決定した場合には、タイミングｔｘが到来するよりも前のタイミングｔ２で、打ち止め状態に移行したとしても、タイミングｔｘが到来したときに、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して予め決められていた演出動作を実行し、タイミングｔｙが到来したときに、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して予め決められていた演出動作を実行するようにしている。これにより、変動演出の開始後において、可動体の演出動作を心待ちにしていた遊技者にとっては、変動演出の実行中に打ち止め状態に移行したとしても、少なくとも可動体の演出動作を最後まで楽しむことができ、遊技者の落胆を抑制することができる。

【３１２３】

そして、打ち止め状態の発生中において、タイミングｔ３で、電源を遮断した後、タイミングｔ４で、電源を再投入した場合の挙動については、前述したとおりである。

【３１２４】

なお、上述した実施例では、タイミングｔ２で、打ち止め状態に移行した後、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して実行中の動作スケジュールＸ２が完了したときに、強制停止とし、その可動体が動作することがないように動作禁止の状態としているが、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して実行中の動作スケジュールＸ２が完了するよりも前に、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して予め決められていた演出動作の実行が完了した時点で、動作スケジュールＸ２を強制停止とし

、その可動体が動作することがないように動作禁止の状態としてもよい。同様に、タイミングｔ２で、打ち止め状態に移行した後、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して実行中の動作スケジュールＹ２が完了したときに、強制停止とし、その可動体が動作することがないように動作禁止の状態としているが、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して実行中の動作スケジュールＹ２が完了するよりも前に、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して予め決められていた演出動作の実行が完了した時点で、動作スケジュールＹ２を強制停止とし、その可動体が動作することがないように動作禁止の状態としてもよい。

【３１２５】

また、上述した実施例では、特別図柄の変動表示中における可動体の動作タイミングよりも前に打ち止め状態に移行し、以降に可動体を動作する場合について説明しているが、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）とは別の可動体として、動作可能な第一演出ボタン２５１を設ける場合は次のような構成を採用してもよい。すなわち、第一演出ボタン２５１の内部あるいは外部に設けられるバイブレータ装置（振動モータ等）によって第一演出ボタン２５１に対するバイブレーション動作（振動）を可能にした場合、周辺制御基板１５１０では、特別図柄の抽選結果が当りの場合に選択される変動パターン（演出パターン）と、特別図柄の抽選結果が外れの場合の一部で選択される変動パターンが決定されたときに、該変動パターンに対応して設定された演出パターンに応じて第一演出ボタン２５１（可動体）に対応する動作スケジュールを実行し、当り時および外れ時の一部で特別図柄の変動表示中における予め決められた所定の振動タイミングで第一演出ボタン２５１（可動体）をバイブレーション動作（振動）させて遊技者に当りに関する期待感を与えることが例示できる。このような構成で特別図柄の変動表示中における第一演出ボタン２５１の振動タイミングよりも前に打ち止め状態に移行した場合には、以降に演出パターンや動作スケジュールを継続し、予め決められた所定の振動タイミングで第一演出ボタン２５１を振動するようにしている。これにより、打ち止め状態に移行した後に演出表示装置１６００に打ち止め状態に対応する画像が表示されているなかで、バイブレータ装置（振動モータ等）の作動については最後まで楽しむことができ、遊技者の落胆を抑制することができる。

【３１２６】

また、上述した実施例では、特別図柄の変動表示中における可動体の動作タイミングよりも前に打ち止め状態に移行し、以降に可動体を動作する場合について説明しているが、大当り遊技中等における可動体の動作タイミングよりも前に打ち止め状態に移行した場合にも、以降に可動体を動作するようにしてもよい。具体的には、大当り遊技中の演出パターンに応じて可動体の動作スケジュールを実行し、大当り遊技中における予め決められた所定の動作タイミングで可動体を動作させている。このような構成で大当り遊技中における可動体の動作タイミングよりも前に打ち止め状態に移行した場合には、以降に演出パターンや動作スケジュールを継続し、予め決められた所定の動作タイミングで可動体を動作するようにしている。これにより、打ち止め状態に移行した後に演出表示装置１６００に打ち止め状態に対応する画像が表示されているなかで、可動体の動作については最後まで楽しむことができ、遊技者の落胆を抑制することができる。

【３１２７】

次に、特別図柄の変動表示中における可動体の動作中に打ち止め状態に移行し、以降に可動体を動作しない場合については、上記で説明したが、ここでは、そのような場合における演出表示装置１６００の表示画面と可動体の動作との関係について説明する。図２３８は、特別図柄の変動表示中における可動体の動作中に打ち止め状態に移行し、以降に可動体を動作しない場合における具体的な演出例である。

【３１２８】

図２３８（Ａ）に示すように、特別図柄の変動表示を実行するときには、演出パターンに基づいて変動演出を実行し、演出表示装置１６００の中央領域において、装飾図柄の変動表示を行っている。また、演出表示装置１６００の右上領域では、第二装飾図柄の変動

表示を行っている。また、演出表示装置１６００の左下領域では、第一始動口２００２または第二始動口２００４に遊技球が入球したものの特別図柄の変動表示が待機されている分だけ保留表示を表示しているが、当りの可能性が高い保留表示に対しては、その態様を変化させることが可能になっている。ここでは、特別図柄の抽選結果に応じて、或いは、Ｖ入賞口２００７への遊技球Ｂの受入れ、等により高確率状態が継続する「連荘モード」中であり、演出表示装置１６００の右下領域では、「連荘モード」中である旨を示す「連荘モード」のメッセージを表示するとともに、「連荘モード」中に演出表示装置１６００よりも右側の遊技領域５ａに設けられる第二始動口２００４への遊技球の入球を狙うように指示する「右打」の矢印を表示している。なお、装飾図柄の変動表示中においては、設定調節ボタン２０４の操作により音量や光量の調整を可能にしているが、音量や光量の調整中には、演出表示装置１６００の左領域において、その調整中の音量や光量に対応する画像を表示可能にしている。そして、調整中の音量や光量に対応する画像は、設定調節ボタン２０４の操作により表示が開始され、表示開始から一定時間の経過後に消去されるようになっている。

【３１２９】

また、「連荘モード」中における装飾図柄の変動表示中には、「遊技制限まで残り＋１０発」という事前告知表示を表示している。そして、演出表示装置１６００には、中央領域に装飾図柄の変動表示、右上領域に第二装飾図柄の変動表示、右下領域に「連荘モード」のメッセージおよび「右打」の矢印、左下領域に保留表示を表示しているが、「遊技制限まで残り＋１０発」という事前告知表示については、背景画像に重なるように表示されるものの、それら実行中の変動遊技などに関する重要な情報表示とは重ならないように表示されている。具体的に、本例では、「装飾図柄の変動表示」、「第二装飾図柄の変動表示」、「「連荘モード」のメッセージ」、「「右打」の矢印」、「保留表示」、「音量や光量に対応する画像」については、遊技者に認知させるべき重要な情報表示であるため、これらの情報表示とは重ならない位置に事前告知表示が表示されるようになっている。なお、これら情報表示については、その全てが重なってしまい遊技者が視認不能になるものでなく情報表示の内容が認識できる程度であれば、情報表示の少なくとも一部に事前告知表示が重なるようにしてもよい。これにより、実行中の変動遊技に関する情報表示を見逃すことがなく、変動遊技中における遊技をスムーズに行うことができる。

【３１３０】

図２３８（Ｂ）に示すように、特別図柄の変動表示中において、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して予め決められていた演出動作を実行すると、その可動体が待機位置から演出位置に移動し、演出表示装置１６００の表示画面の前方に位置するようにしている。また、演出表示装置１６００には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に重ならない領域において、エフェクトを表示するようにし、その可動体が演出動作を実行している旨を効果的にアピールしている。また、「遊技制限まで残り＋１０発」という事前告知表示や、第二装飾図柄の変動表示については、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に重ならない領域に表示するようにし、その可動体に対する演出動作の実行中に出玉量が特定値に達して打ち止め状態に移行するかどうかを分かりやすいものとしている。なお、事前告知表示については、その全てが重なってしまい遊技者が視認不能になるものでなく事前告知表示の内容が認識できる程度であれば、事前告知表示の少なくとも一部に裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が重なるようにしてもよい。

【３１３１】

図２３８（Ｃ）に示すように、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対する演出動作の実行中において、一般入賞口２００１へ遊技球が入球することに基づく賞球の払い出しにより、出玉量が特定値に達するまでの残り球数が「＋０発」になった時点で、打ち止め状態に移行し、演出表示装置１６００の上領域において、事前告知時の動作として、出玉量が特定値に達するまでの残り球数を伝える「遊技制限まで残り＋０発」という事前告知表示を所定時間（本例では５秒）表示している。ここでは、出玉量が特定値に達

するまでの残り球数が「＋０発」になる直前には、装飾図柄の変動表示や第二装飾図柄の変動表示を行っているが、出玉量が特定値に達するまでの残り球数が「＋０発」になった時点で、その装飾図柄の変動表示を所定の停止図柄（本例では、「７６７」）で強制的に停止するとともに、第二装飾図柄の変動表示を所定の停止図柄（本例では、「×」）で強制的に停止するようにしている。ただし、装飾図柄の変動表示や第二装飾図柄の変動表示については、強制的に停止しないようにしてもよい。

【３１３２】

なお、打ち止め状態に移行した後には、遊技者が誤って遊技球を発射しないように、遊技球の発射を促進する「右打」の矢印については遊技者が視認できないようにすることが好ましく、本例では消去するようにしている。そして、「遊技制限まで残り＋０発」という事前告知表示が表示されてから所定時間（本例では５秒）が経過すると、図２３８（Ｄ）に示す打ち止め状態に対応する画像を表示している。

【３１３３】

図２３８（Ｄ）に示すように、打ち止め状態に移行した時点で、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して実行中の演出動作については、予め決められていた演出動作の途中で終了することがなく、予め決められていた演出動作が完了するまで実行を継続している。ただし、打ち止め状態に移行した時点で、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に設けられる発光体については、変動演出に対応する発光の途中で終了し、消灯、または、打ち止め状態に対応する発光のいずれかを実行するように制御している。これにより、打ち止め状態に移行した時点では、演出表示装置１６００の表示画面の前方に裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が位置することで、打ち止め状態に対応する画像の一部しか視認することができないが、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）の発光が変化することで、遊技の制限が実行されている旨が把握できなくなることを回避することができる。なお、本例では、打ち止め状態に移行した時点で、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に設けられる発光体については、変動演出に対応する発光の途中で終了しているが、予め決められていた演出動作が完了するまでの間、変動演出に対応する発光を継続するようにしてもよい。このような場合には、打ち止め状態への移行に伴い発光パターンを変更することが不要になり、遊技設計が複雑化することを回避することが可能になる。

【３１３４】

図２３８（Ｅ）に示すように、予め決められていた演出動作が完了したときには、その可動体が待機位置に復帰し、演出表示装置１６００の表示画面の前方に位置しておらず、打ち止め状態に対応する画像の全部を視認することができるようになる。ここでは、打ち止め状態に対応する画像としては、「遊技制限」というメッセージを表示し、それに伴い「１日の出玉制限８００００発に達したので遊技を制限しています。」、「係員をお呼び下さい。」、「精算ボタンは有効です。」というメッセージを表示している。なお、ここでの精算ボタンとは、精算処理を実行するための計数ボタンスイッチのことである。また、出玉量が特定値に達したとき、演出表示装置１６００では、装飾図柄の停止図柄、第二装飾図柄の停止図柄、保留表示や事前告知表示を表示しているが、そのような遊技に関する情報については、出玉量が特定値に達した後に「遊技制限」というメッセージを表示した時点で、表示しないようにし（視認できないようにし）、暗転した画面上にメッセージを表示するようにしている。これにより、出玉量が特定値に達して遊技の制限が実行されている旨を把握することができ、ホール管理者の操作によらなければ遊技の制限を解除できない旨を把握することができる。また、計数ボタンスイッチの操作により遊技者の持ち球数を精算することが可能である旨を把握することができる。

【３１３５】

また、打ち止め状態に移行した後、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対する演出動作の実行中において、「遊技制限」というメッセージについては、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に重ならない領域に表示するようにし、その可動体に対する演出動作の実行中に少なくとも打ち止め状態に移行した旨を認識しうるものとして

いる。なお、「遊技制限」というメッセージについては、その全てが重なってしまい遊技者が視認不能になるものでなく打ち止め状態に移行した旨を認識できる程度であれば、「遊技制限」というメッセージの少なくとも一部に裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が重なるようにしてもよい。

【３１３６】

また、上記では、打ち止め状態に移行するよりも前に、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して演出動作を実行しているときには、演出表示装置１６００のうち、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に重ならない領域において、エフェクトを表示していたが、打ち止め状態に移行した後に、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して演出動作を実行しているときには、演出表示装置１６００のうち、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に重ならない領域において、エフェクトを表示していない。これにより、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して演出動作を実行しているときに、打ち止め状態に対応する画像が視認できない状況であったとしても、エフェクトが表示されているかどうかによって、打ち止め状態に移行する前の演出動作であるか、打ち止め状態に移行した後の演出動作であるかを把握することができる。

【３１３７】

また、上記では、装飾図柄の変動表示中においては、設定調節ボタン２０４の操作により音量や光量の調整を可能にしていたが、特別図柄の変動表示中に打ち止め状態に移行した後においても、設定調節ボタン２０４の操作により音量や光量の調整を可能にし、音量や光量の調整中には、演出表示装置１６００において、その調整中の音量や光量に対応する画像を表示可能にしている。ただし、打ち止め状態に移行した後には、設定調節ボタン２０４の操作により音量や光量の調整を可能にしながらも、調整中の音量や光量に対応する画像を表示しないようにしてもよい。これにより、打ち止め状態に移行した後において、打ち止め状態に対応する画像が視認しがたくなることを防止することができる。また、打ち止め状態に移行した後には、設定調節ボタン２０４の操作により音量や光量の調整を不能にし、音量や光量に対応する画像を表示しないようにしてもよい。これにより、打ち止め状態に移行した後において、音量や光量が変化することがなく、打ち止め状態に対応する画像が視認しがたくなることや、打ち止め状態に対応する音声が認識しがたくなることを防止することができる。

【３１３８】

また、打ち止め状態に移行するよりも前に、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して演出動作を実行するように決定していたとしても、打ち止め状態に移行した時点で、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して演出動作を開始していなければ、打ち止め状態に移行した後において、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して予め決められていた演出動作を実行することがない。これにより、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）の演出動作によって演出表示装置１６００に表示されている表示内容（打ち止め状態に対応する画像）が隠されることがなく、遊技の制限が実行されている旨が把握できなくなることを防止することができる。

【３１３９】

次に、特別図柄の変動表示中における可動体の動作タイミングよりも前に打ち止め状態に移行し、以降に可動体を動作する場合については、上記で説明したが、ここでは、そのような場合における演出表示装置１６００の表示画面と可動体の動作との関係について説明する。図２３９は、特別図柄の変動表示中における可動体の動作タイミングよりも前に打ち止め状態に移行し、以降に可動体を動作する場合における具体的な演出例である。

【３１４０】

図２３９（Ａ）に示すように、特別図柄の変動表示を実行するときには、演出パターンに基づいて変動演出を実行し、演出表示装置１６００の中央領域において、装飾図柄の変動表示を行っている。また、演出表示装置１６００の右上領域では、第二装飾図柄の変動表示を行っている。また、演出表示装置１６００の左下領域では、第一始動口２００２または第二始動口２００４に遊技球が入球したものの特別図柄の変動表示が待機されている

分だけ保留表示を表示しているが、当りの可能性が高い保留表示に対しては、その態様を変化させることが可能になっている。ここでは、特別図柄の抽選結果に応じて、或いは、Ｖ入賞口２００７への遊技球Ｂの受入れ、等により高確率状態が継続する「連荘モード」中であり、演出表示装置１６００の右下領域では、「連荘モード」中である旨を示す「連荘モード」のメッセージを表示するとともに、「連荘モード」中に演出表示装置１６００よりも右側の遊技領域５ａに設けられる第二始動口２００４への遊技球の入球を狙うように指示する「右打」の矢印を表示している。なお、装飾図柄の変動表示中においては、設定調節ボタン２０４の操作により音量や光量の調整を可能にしているが、音量や光量の調整中には、演出表示装置１６００の左領域において、その調整中の音量や光量に対応する画像を表示可能にしている。そして、調整中の音量や光量に対応する画像は、設定調節ボタン２０４の操作により表示が開始され、表示開始から一定時間の経過後に消去されるようになっている。

【３１４１】

また、「連荘モード」中における装飾図柄の変動表示中には、「遊技制限まで残り＋１０発」という事前告知表示を表示している。そして、演出表示装置１６００には、中央領域に装飾図柄の変動表示、右上領域に第二装飾図柄の変動表示、右下領域に「連荘モード」のメッセージおよび「右打」の矢印、左下領域に保留表示を表示しているが、「遊技制限まで残り＋１０発」という事前告知表示については、背景画像に重なるように表示されるものの、それら実行中の変動遊技などに関する重要な情報表示とは重ならないように表示されている。具体的に、本例では、「装飾図柄の変動表示」、「第二装飾図柄の変動表示」、「「連荘モード」のメッセージ」、「「右打」の矢印」、「保留表示」、「音量や光量に対応する画像」については、遊技者に認知させるべき重要な情報表示であるため、これらの情報表示とは重ならない位置に事前告知表示が表示されるようになっている。なお、これら情報表示については、その全てが重なってしまい遊技者が視認不能になるものでなく情報表示の内容が認識できる程度であれば、情報表示の少なくとも一部に事前告知表示が重なるようにしてもよい。これにより、実行中の変動遊技に関する情報表示を見逃すことがなく、変動遊技中における遊技をスムーズに行うことができる。

【３１４２】

図２３９（Ｂ）に示すように、特別図柄の変動表示中において、一般入賞口２００１へ遊技球が入球することに基づく賞球の払い出しにより、出玉量が特定値に達するまでの残り球数が「＋０発」になった時点で、打ち止め状態に移行し、演出表示装置１６００の上領域において、事前告知時の動作として、出玉量が特定値に達するまでの残り球数を伝える「遊技制限まで残り＋０発」という事前告知表示を表示している。ここでは、出玉量が特定値に達するまでの残り球数が「＋０発」になる直前には、装飾図柄の変動表示や第二装飾図柄の変動表示を行っているが、出玉量が特定値に達するまでの残り球数が「＋０発」になった時点で、そのうち第二装飾図柄の変動表示を所定の停止図柄（本例では、「×」）で強制的に停止するようにしている。一方、出玉量が特定値に達するまでの残り球数が「＋０発」になった時点で、演出パターンに基づいた変動演出を継続するようにし、装飾図柄の変動表示については、強制的に停止しないで継続するようにしている。ただし、第二装飾図柄の変動表示についても、強制的に停止しないで継続してもよく、このような場合には、装飾図柄の変動表示が停止するときに、第二装飾図柄の変動表示が停止するようにしている。

【３１４３】

なお、打ち止め状態に移行した後には、遊技者が誤って遊技球を発射しないように、遊技球の発射を促進する「右打」の矢印については遊技者が視認できないようにすることが好ましく、本例では消去するようにしている。

【３１４４】

図２３９（Ｃ）に示すように、打ち止め状態に移行した後において、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して予め決められていた演出動作を実行すると、その可動体が待機位置から演出位置に移動し、演出表示装置１６００の表示画面の前方に位置す

るようにしている。また、演出表示装置１６００には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に重ならない領域において、エフェクトを表示するようにし、その可動体が演出動作を実行している旨を効果的にアピールしている。また、「遊技制限まで残り＋０発」という事前告知表示や、第二装飾図柄の変動表示については、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に重ならない領域に表示するようにし、既に打ち止め状態に移行している旨を把握できるようにしている。なお、事前告知表示については、その全てが重なってしまい遊技者が視認不能になるものでなく事前告知表示の内容が認識できる程度であれば、事前告知表示の少なくとも一部に裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が重なるようにしてもよい。

【３１４５】

図２３９（Ｄ）に示すように、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に続いて、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して予め決められていた演出動作を実行すると、その可動体が待機位置から演出位置に移動し、演出表示装置１６００の表示画面の前方に位置するようにしている。また、演出表示装置１６００には、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に重ならない領域において、エフェクトを表示するようにし、その可動体が演出動作を実行している旨を効果的にアピールしている。また、「遊技制限まで残り＋０発」という事前告知表示や、第二装飾図柄の変動表示については、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に重ならない領域に表示するようにし、既に打ち止め状態に移行している旨を把握できるようにしている。なお、事前告知表示については、その全てが重なってしまい遊技者が視認不能になるものでなく事前告知表示の内容が認識できる程度であれば、事前告知表示の少なくとも一部に裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が重なるようにしてもよい。

【３１４６】

図２３９（Ｅ）に示すように、演出パターンに基づいた変動演出の実行が完了した時点で、装飾図柄の変動表示については、所定の停止図柄（本例では、「７６７」）で停止するようにしている。そして、装飾図柄の変動表示が停止されてから所定時間（本例では５秒）が経過すると、図２３９（Ｆ）に示す打ち止め状態に対応する画像を表示している。打ち止め状態に対応する画像については、前述したとおりである。本例では、打ち止め状態に移行した時点で、演出パターンに基づいた変動演出を継続するようにし、直ぐには打ち止め状態に対応する画像を表示していないが、そのような期間には、「遊技制限まで残り＋０発」という事前告知表示や、強制的に停止した第二装飾図柄の変動表示を表示しているため、既に打ち止め状態に移行している旨を把握することができる。

【３１４７】

上記したように、本例では、打ち止め状態に移行した時点で、演出パターンに基づいた変動演出を継続するようにし、演出表示装置１６００では、打ち止め状態に対応する画像を表示しておらず、「遊技制限まで残り＋０発」という事前告知表示や、強制的に停止した第二装飾図柄の変動表示によって、遊技の制限が実行されている旨を報知している。この場合、遊技の制限が実行されている旨が可動体Ｘ、Ｙでの演出動作によって把握できなくなる可能性があるため、例えば、可動体Ｘ、Ｙでの演出動作によって阻害されることのない「音」あるいは「光」といった演出要素により遊技の制限が実行されている旨を予備的に報知するようにしてもよい。具体的に、打ち止め状態に移行した時点で、変動演出に対応する音とは異なる警告音を出力するように制御変更して「音」による警告を行ったり、変動演出に対応する光とは異なる警告発光を実行するように制御変更して「光」による警告を行うことが例示できる。これにより、打ち止め状態に移行した後において、可動体Ｘ、Ｙに対して予め決められていた演出動作を実行する場合であっても、遊技の制限が実行されている旨が把握できなくなることを回避できる。

【３１４８】

次に、上記では、打ち止め状態に移行した時点で、演出パターンに基づいた変動演出を継続するようにし、演出パターンに基づいた変動演出の実行が完了した時点で、打ち止め状態に対応する画像を表示しているが、別例として、打ち止め状態に移行した時点で、演

出パターンに基づいた変動演出を継続するようにしながらも、その変動演出に対応する画像よりも上位レイヤに、打ち止め状態に対応する画像を表示するようにしてもよい。図２４０は、特別図柄の変動表示中における可動体の動作タイミングよりも前に打ち止め状態に移行し、以降に可動体を動作する場合における具体的な演出の別例である。

【３１４９】

図２４０（Ａ）に示すように、特別図柄の変動表示を実行するときには、演出パターンに基づいて変動演出を実行し、演出表示装置１６００の中央領域において、装飾図柄の変動表示を行っている。また、演出表示装置１６００の右上領域では、第二装飾図柄の変動表示を行っている。また、演出表示装置１６００の左下領域では、第一始動口２００２または第二始動口２００４に遊技球が入球したものの特別図柄の変動表示が待機されている分だけ保留表示を表示しているが、当りの可能性が高い保留表示に対しては、その態様を変化させることが可能になっている。ここでは、特別図柄の抽選結果に応じて、或いは、Ｖ入賞口２００７への遊技球Ｂの受入れ、等により高確率状態が継続する「連荘モード」中であり、演出表示装置１６００の右下領域では、「連荘モード」中である旨を示す「連荘モード」のメッセージを表示するとともに、「連荘モード」中に演出表示装置１６００よりも右側の遊技領域５ａに設けられる第二始動口２００４への遊技球の入球を狙うように指示する「右打」の矢印を表示している。なお、装飾図柄の変動表示中においては、設定調節ボタン２０４の操作により音量や光量の調整を可能にしているが、音量や光量の調整中には、演出表示装置１６００の左領域において、その調整中の音量や光量に対応する画像を表示可能にしている。そして、調整中の音量や光量に対応する画像は、設定調節ボタン２０４の操作により表示が開始され、表示開始から一定時間の経過後に消去されるようになっている。

【３１５０】

また、「連荘モード」中における装飾図柄の変動表示中には、「遊技制限まで残り＋１０発」という事前告知表示を表示している。そして、演出表示装置１６００には、中央領域に装飾図柄の変動表示、右上領域に第二装飾図柄の変動表示、右下領域に「連荘モード」のメッセージおよび「右打」の矢印、左下領域に保留表示を表示しているが、「遊技制限まで残り＋１０発」という事前告知表示については、背景画像に重なるように表示されるものの、それら実行中の変動遊技などに関する重要な情報表示とは重ならないように表示されている。具体的に、本例では、「装飾図柄の変動表示」、「第二装飾図柄の変動表示」、「「連荘モード」のメッセージ」、「「右打」の矢印」、「保留表示」、「音量や光量に対応する画像」については、遊技者に認知させるべき重要な情報表示であるため、これらの情報表示とは重ならない位置に事前告知表示が表示されるようになっている。なお、これら情報表示については、その全てが重なってしまい遊技者が視認不能になるものでなく情報表示の内容が認識できる程度であれば、情報表示の少なくとも一部に事前告知表示が重なるようにしてもよい。これにより、実行中の変動遊技に関する情報表示を見逃すことがなく、変動遊技中における遊技をスムーズに行うことができる。

【３１５１】

図２４０（Ｂ）に示すように、特別図柄の変動表示中において、一般入賞口２００１へ遊技球が入球することに基づく賞球の払い出しにより、出玉量が特定値に達するまでの残り球数が「＋０発」になった時点で、打ち止め状態に移行し、演出表示装置１６００の上領域において、事前告知時の動作として、出玉量が特定値に達するまでの残り球数を伝える「遊技制限まで残り＋０発」という事前告知表示を表示している。ここでは、出玉量が特定値に達するまでの残り球数が「＋０発」になる直前には、装飾図柄の変動表示や第二装飾図柄の変動表示を行っているが、出玉量が特定値に達するまでの残り球数が「＋０発」になった時点で、そのうち第二装飾図柄の変動表示を所定の停止図柄（本例では、「×」）で強制的に停止するようにしている。一方、出玉量が特定値に達するまでの残り球数が「＋０発」になった時点で、演出パターンに基づいた変動演出を継続するようにし、装飾図柄の変動表示については、強制的に停止しないで継続するようにしている。ただし、第二装飾図柄の変動表示についても、強制的に停止しないで継続してもよく、このような

場合には、装飾図柄の変動表示が停止するときに、第二装飾図柄の変動表示が停止するようにしている。

【３１５２】

なお、打ち止め状態に移行した後には、遊技者が誤って遊技球を発射しないように、遊技球の発射を促進する「右打」の矢印については遊技者が視認できないようにすることが好ましく、本例では消去するようにしている。そして、「遊技制限まで残り＋０発」という事前告知表示が表示されてから所定時間（本例では５秒）が経過すると、変動演出に対応する画像よりも上位レイヤに、図２４０（Ｃ）に示す打ち止め状態に対応する画像を表示している。打ち止め状態に対応する画像については、前述したとおりである。

【３１５３】

図２４０（Ｄ）に示すように、打ち止め状態に移行した後において、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して予め決められていた演出動作を実行すると、その可動体が待機位置から演出位置に移動し、演出表示装置１６００の表示画面の前方に位置するようにしている。また、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対する演出動作の実行中において、「遊技制限」というメッセージについては、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に重ならない領域に表示するようにし、その可動体に対する演出動作の実行中に少なくとも打ち止め状態に移行した旨を認識しうるものとしている。なお、「遊技制限」というメッセージについては、その全てが重なってしまい遊技者が視認不能になるものでなく打ち止め状態に移行した旨を認識できる程度であれば、「遊技制限」というメッセージの少なくとも一部に裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が重なるようにしてもよい。

【３１５４】

図２４０（Ｅ）に示すように、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に続いて、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して予め決められていた演出動作を実行すると、その可動体が待機位置から演出位置に移動し、演出表示装置１６００の表示画面の前方に位置するようにしている。また、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対する演出動作の実行中において、「遊技制限」というメッセージについては、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に重ならない領域に表示するようにし、その可動体に対する演出動作の実行中に少なくとも打ち止め状態に移行した旨を認識しうるものとしている。なお、「遊技制限」というメッセージについては、その全てが重なってしまい遊技者が視認不能になるものでなく打ち止め状態に移行した旨を認識できる程度であれば、「遊技制限」というメッセージの少なくとも一部に裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が重なるようにしてもよい。

【３１５５】

なお、打ち止め状態に移行した後において、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に設けられる発光体については、変動演出に対応する発光の途中で終了し、消灯、または、打ち止め状態に対応する発光のいずれかを実行するように制御している。これにより、打ち止め状態に移行した後には、演出表示装置１６００の表示画面の前方に裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が位置したときに、打ち止め状態に対応する画像の一部しか視認することができないが、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）の発光が変化することで、遊技の制限が実行されている旨が把握できなくなることを回避することができる。なお、本例では、打ち止め状態に移行した後において、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に設けられる発光体については、変動演出に対応する発光の途中で終了しているが、予め決められていた演出動作が完了するまでの間、変動演出に対応する発光を継続するようにしてもよい。このような場合には、打ち止め状態への移行に伴い発光パターンを変更することが不要になり、遊技設計が複雑化することを回避することが可能になる。

【３１５６】

また、本例では、打ち止め状態に移行した時点で、演出パターンに基づいた変動演出を

継続しているが、演出表示装置１６００では、変動演出に対応する画像よりも上位レイヤに打ち止め状態に対応する画像を表示し、遊技の制限が実行されている旨を報知している。この場合、遊技の制限が実行されている旨が可動体Ｘ、Ｙでの演出動作によって把握できなくなる可能性があるため、例えば、可動体Ｘ、Ｙでの演出動作によって阻害されることのない「音」あるいは「光」といった演出要素により遊技の制限が実行されている旨を予備的に報知するようしてもよい。具体的に、打ち止め状態に移行した時点で、変動演出に対応する音とは異なる警告音を出力するように制御変更して「音」による警告を行ったり、変動演出に対応する光とは異なる警告発光を実行するように制御変更して「光」による警告を行うことが例示できる。これにより、打ち止め状態に移行した後において、可動体Ｘ、Ｙに対して予め決められていた演出動作を実行する場合であっても、遊技の制限が実行されている旨が把握できなくなることを回避できる。

【３１５７】

図２４０（Ｆ）に示すように、演出パターンに基づいた変動演出の実行が完了した時点で、装飾図柄の変動表示については、所定の停止図柄（本例では、「７６７」）で停止するようにしているが、その変動演出に対応する画像よりも上位レイヤに、打ち止め状態に対応する画像を表示しているため、装飾図柄の変動表示が停止した旨を認識することがない。

【３１５８】

なお、打ち止め状態に移行するよりも前に、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して演出動作を実行しているときには、演出表示装置１６００のうち、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に重ならない領域において、エフェクトを表示しているが、打ち止め状態に移行した後に、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して演出動作を実行しているときには、演出表示装置１６００のうち、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に重ならない領域において、エフェクトを表示していない。これにより、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して演出動作を実行しているときに、打ち止め状態に対応する画像が視認できない状況であったとしても、エフェクトが表示されているかどうかによって、打ち止め状態に移行する前の演出動作であるか、打ち止め状態に移行した後の演出動作であるかを把握することができる。

【３１５９】

（打ち止め状態への移行後における可動体を用いた祝い動作について）

上記では、打ち止め状態に移行した時点で、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して実行中の動作スケジュールＸ２や、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して実行中の動作スケジュールＹ２を強制停止し、打ち止め状態に移行した後において、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）の演出動作を実行しない構成について説明している。このような構成では、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が演出動作を実行しないことで、演出表示装置１６００に表示されている表示内容（打ち止め状態に対応する画像）が視認しやすくなる反面、出玉量が特定値に達したにもかかわらず、何らの特別な演出動作も実行されないことで、今後の遊技で出玉量が特定値に達することを目指そうとする意欲が生じるものではなかった。そこで、本例では、打ち止め状態に移行した後に、打ち止め状態に達した遊技者に対する特別な通知の役割として所定の祝い動作を実行するようにし、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対しては、特別図柄の変動表示中とは異なる演出パターンで動作するようにした構成について、以下に説明する。

【３１６０】

本例では、打ち止め状態に移行する直前において、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が演出動作を実行しているか否かにか

かわらず、打ち止め状態に移行した時点で、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）の演出動作を強制停止するものとしている。そして、打ち止め状態に移行した後には、可動裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）と裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）の両方を用いて、打ち止め状態に移行したことを祝うための祝い動作を実行するようにしている。なお、祝い動作に用いられる可動体は、遊技盤５に設けられる可動体（主に装飾に用いられる可動装飾体）の一部を適用しても良いし、全ての可動体（主に装飾に用いられる可動装飾体）を適用するようにしてもよい。仮に遊技盤５に設けられる全ての可動体を適用するようにした場合には、遊技者が打ち止め状態への移行前に動作態様を認識できていない可動体があった場合であっても、その動作態様を認識させることが可能になり、未体験の可動演出があるままで打ち止め状態になってしまうことを回避して遊技興趣の低下を抑制することができる。

【３１６１】

まず、特別図柄の変動表示中における可動体の非動作中（初期位置に位置する状態）に打ち止め状態に移行し、以降に可動体の祝い動作を実行する場合について説明する。図２４１は、特別図柄の変動表示中における可動体の非動作中に打ち止め状態に移行し、以降に可動体の祝い動作を実行する場合を示すタイムチャートである。なお、本例では、特別図柄の変動表示中に可動体が非動作中である場合について説明するが、打ち止め状態に移行する時点（直前）で可動体が非動作中であればよく、特別図柄の非変動表示中に可動体が非動作中である場合にも、打ち止め状態に移行した後において、同じ挙動を示すように制御されるものとなっている。

【３１６２】

図２４１に示すように、タイミングｔ１で、特別図柄の変動表示の開始時において、変動パターン２を決定した場合には、その変動パターン２に基づいて特別図柄の変動表示を実行している。また、タイミングｔ１で、周辺制御基板１５１０では、変動パターン２に対応する演出パターン２を決定し、特別図柄の変動表示中には、その演出パターン２に基づいて変動演出を実行している。また、タイミングｔ１で、演出パターン２を決定した場合には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して動作スケジュールＸ２を実行し、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して動作スケジュールＹ２を実行するように指示している。

【３１６３】

そして、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が非動作中であるタイミングｔ２で、特別図柄の変動表示中に一般入賞口２００１に遊技球が入球するなどして賞球が付与されて打ち止め状態に移行した場合には、打ち止め状態フラグをＯＮとし、変動パターン２に基づいて実行中の特別図柄の変動表示を強制停止している。また、タイミングｔ２で、周辺制御基板１５１０では、打ち止め状態フラグがＯＮになったことを受けて所定の演出禁止フラグをＯＮにし、演出パターン２に基づいて実行中の変動演出を強制停止している。具体的には、演出禁止フラグがＯＮになることを契機にして、演出表示装置１６００では、変動演出に対応する画像を打ち止め状態に対応する画像に強制変更している。また、タイミングｔ２で演出禁止フラグがＯＮになることを契機にして、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して実行中の動作スケジュールＸ２や、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して実行中の動作スケジュールＹ２についても強制停止し、打ち止め状態に移行した後には、動作スケジュールＸ２や動作スケジュールＹ２に基づく演出動作を実行しないようにしている。

【３１６４】

また、打ち止め状態に移行したタイミングｔ２で裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して実行中の動作スケジュールＸ２や、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して実行中の動作スケジュールＹ２についても強制停止した後には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）と裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）の両方を用いて、打ち止め状態に達した遊技者に対する特別な通知である祝い動作の実行を開始している。すなわち、タイミングｔ２で裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降

装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対する演出動作を禁止して打ち止め状態に移行した場合には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して特別な動作スケジュールＸ３を実行し、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して特別な動作スケジュールＹ３を実行するように指示している。これらの特別な動作スケジュールＸ３や動作スケジュールＹ３については、打ち止め状態に移行するよりも前における特別図柄の変動表示の開始時に設定されることはなく、特別図柄の変動表示中に実行されることのないものとなっている。

【３１６５】

具体的には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して動作スケジュールＸ３を実行したときには、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が初期位置（待機位置）にあるか否かを確認する初期位置確認を実行し、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が初期位置にある場合には、タイミングｔＡで、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が初期位置（待機位置）と、演出表示装置１６００の表示画面の前方に位置する演出位置との間で第１の祝い動作（祝い動作の前半）を実行するものとなっている。同様に、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して動作スケジュールＹ３を実行したときには、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が初期位置（待機位置）にあるか否かを確認する初期位置確認を実行し、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が初期位置にある場合には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対する第１の祝い動作が完了した後のタイミングｔＢで、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が初期位置（待機位置）と、演出表示装置１６００の表示画面の前方に位置する演出位置との間で第２の祝い動作（祝い動作の後半）を実行するものとなっている。

【３１６６】

このように、打ち止め状態に移行した後には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して祝い動作を実行することで、出玉量が特定値に達したことに対して満足感を得ることができ、今後の遊技においても出玉量が特定値に達することを目指そうとする意欲を生じさせることができる。また、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対する第１の祝い動作が完了した後に、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対する第２の祝い動作を連続して実行することで、長期の動作を楽しませるとともに、遊技者が打ち止め状態への移行前に動作態様を認識できていない可動体があった場合であっても、その動作態様を認識させることが可能になり、未体験の可動演出があるままで打ち止め状態になってしまうことを回避して遊技興趣の低下を抑制することができる。なお、打ち止め状態に移行した後には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対する祝い動作を除いて、打ち止め状態に対応する動作を実行するようにし、例えば、演出表示装置１６００では、打ち止め状態に対応する画像として、「遊技制限」というメッセージを表示していることから、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対する祝い動作を実行したとしても、遊技の制限が実行されている旨が把握できなくなることを防止することができる。

【３１６７】

また、本例では、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対する第１の祝い動作の動作時間と、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対する第２の祝い動作時間とをそれぞれ「５秒間」に設定（初期位置確認の時間は除いた最短時間）しており、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）と裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）とによる一連の祝い動作として最短で１０秒間を確保するようにしている。これにより、打ち止め状態への移行後において、遊技者が遊技盤５に着目する所定の期間（本例では１０秒）を確保でき、打ち止め状態の直後に持ち球の精算操作に伴う精算処理期間内で遊技者が退屈となる時間を与えることを回避し、好適に遊技者をその場に滞在させることができる。なお、本例では、遊技機外に実球としての賞球を払い出すことなく遊技球を循環使用するタイプの遊技機（所謂、封入式遊技機、管理遊技機）にて説明したが、上述した「出玉量（出玉量Ａ、Ｂ）に基づき打ち止め状態を発生させる技術」は、こうしたタイプの遊技機に限

らず、従来タイプの遊技機（遊技機外に実球としての賞球を払い出すタイプの遊技機）に適用するようにしてもよい。すなわち、従来タイプの遊技機は、払出制御基板６３３に代えて払出制御基板を有しており、その払い出し制御基板は、遊技機裏面側の球タンクに貯留された遊技球を賞球として遊技機外に払い出す払出装置を制御可能であるのが一般である。そして、遊技機全面側の球受皿に払い出された賞球を実玉で遊技者に付与することになるが、このような構成の場合、各種の入賞口に遊技球が入賞して賞球が払い出されるまでの間に、遊技球を循環使用するタイプの遊技機よりも大きいタイムラグが生じてしまう。特に、大当り遊技中に大入賞口２００５に遊技球が複数入賞して多くの賞球が未払出とされて記憶されている状況も発生することが考えられ、そうした場合には、上述した打ち止め状態の開始時点で多くの賞球が未払出で、打ち止め状態の開始以後に多くの未払出の賞球が払い出される可能性がある。この点、本例では、打ち止め状態への移行後において、遊技者が遊技盤５に着目する所定の期間（本例では１０秒）を確保でき、打ち止め状態の直後に未払出の賞球を払い出す期間内で遊技者が退屈となる時間を与えることを回避し、好適に遊技者をその場に滞在させることができる。

【３１６８】

なお、初期位置確認については、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対する第１の祝い動作よりも前に実行するようにし、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）の初期位置確認を完了した後に、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）の初期位置確認を実行している。なお、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）の初期位置確認については、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対する第１の祝い動作が完了した後、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対する第２の祝い動作よりも前に２回目の初期位置確認を実行するようにしてもよい。また、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）の初期位置確認については、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対する第１の祝い動作よりも前に実行せず、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対する第１の祝い動作が完了した後にのみ実行するようにしてもよい。

【３１６９】

また、初期位置確認では、それぞれの可動体が初期位置（待機位置）にあるか否かを確認しているが、可動体が初期位置にない場合には、可動体を初期位置に戻すための復帰処理（複数回のリトライ動作）を実行している。この復帰処理（複数回のリトライ動作）については、可動体が初期位置に戻るまでの間、複数回実行するようにし、可動体が初期位置に戻った時点で、その後に可動体に対して祝い動作を実行するようにしている。一方、復帰処理（複数回のリトライ動作）を複数回実行したにもかかわらず、可動体が初期位置に戻らなかった場合には、その後に可動体に対して祝い動作を実行しないようにしている。また、例えば、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が初期位置に戻らなかった場合には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対する第１の祝い動作だけでなく、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対する第２の祝い動作についても実行しないようにしている。これにより、打ち止め状態に移行した後における祝い動作が不完全なかたちで実行されることを防止することができる。

【３１７０】

また、打ち止め状態に移行した後には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して祝い動作を実行しているが、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に搭載されているＬＥＤについては、祝い動作に対応する動作ではなく、打ち止め状態に対応する動作を実行している。例えば、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に搭載されているＬＥＤについては、打ち止め状態に対応する動作として、遊技盤５に設けられている他のＬＥＤと協調して発光するようにしたり、消灯するようにしたりしてもよい。一方、特別図柄の変動表示中における可動体の動作時においては、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に搭載されているＬＥＤが、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対する演出動作と協調して発光するようにし、外部に

向けて可動体の演出動作中である旨を報知している。このように、打ち止め状態に移行した後には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して祝い動作を実行するものの、それらの可動体の祝い動作と協調して発光しないことで、遠方からは祝い動作中である旨を把握することが困難であり、遊技者のみが祝い動作を楽しむことができる。

【３１７１】

また、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に搭載されているＬＥＤについては、初期位置確認による動作中も打ち止め状態に対応する動作（遊技盤５に設けられている他のＬＥＤとの協調した発光あるいは消灯）を実行するようにしている。また、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が初期位置に戻らなかった場合には、前述したように第１の祝い動作や第２の祝い動作は実行しないものの、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に搭載されているＬＥＤについては、打ち止め状態に対応する動作を継続して実行するようにしている。これにより、仮に不具合により祝い動作が実行できなかった場合であっても、外部からは祝い動作が非実行となっていることを分かり難くでき、遊技者に嫌悪感に与えることを回避することができる。

【３１７２】

また、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に搭載されているＬＥＤについては、特別図柄の変動表示中に裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対する演出動作と協調して発光している場合に、設定調節ボタン２０４の操作によってＬＥＤの光量を変更可能であるが、打ち止め状態に移行した後には設定調節ボタン２０４の操作の受け付けを不能とし、打ち止め状態に対応する動作中のＬＥＤの光量を変更不能にしている。これにより、打ち止め状態にあるなかで設定調節ボタン２０４の操作と称してパチンコ機１を殴打する悪質な行為が行われることを未然に回避することができる。

【３１７３】

また、別例として、遊技盤５（遊技領域５ａ）の外側の領域である扉枠３に特別図柄の抽選結果が当りである場合に特別図柄の変動表示中に動作可能な特殊可動体（例えば、当り変動中にのみ突出動作する一発告知用の可動体など）が設けられている場合、打ち止め状態に移行した後において、扉枠３に設けられている特殊可動体に対しては祝い動作を実行しないようにしている（特殊可動体を祝い動作の対象外にしている）。つまり、打ち止め状態に移行した後において、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対しては、祝い動作を実行しているのに対し、扉枠３に設けられている特殊可動体に対しては、祝い動作を実行しないようにしている。一方、特別図柄の変動表示中における可動体の動作時においては、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）だけでなく、扉枠３に設けられている特殊可動体に対しても演出動作を実行可能としている。このように、打ち止め状態に移行した後には、遊技盤５に設けられている可動体に対して祝い動作を実行するものの、遊技盤５（遊技領域５ａ）の外側の領域である扉枠３に設けられている特殊可動体に対して祝い動作を実行しないことで、遠方からは祝い動作中である旨を把握することが困難であり、遊技者のみが祝い動作を楽しむことができるようにするとともに、当り時を告知する特殊可動体が動作して遊技者に不信感を与えることを回避することができる。また、扉枠３に設けられる特殊可動体が外部から接触可能な態様で設けられている場合には、上述したように特殊可動体を祝い動作の対象外にしておくことで、打ち止め状態であるにもかかわらず特殊可動体が動作してしまい、遊技者が特殊可動体に接触してしまう危険性を回避することができる。

【３１７４】

また、扉枠３に設けられている可動体として、上述の特殊可動体とは別に遊技者が操作可能な第一演出ボタン２５１を設ける場合は次のような構成を採用してもよい。すなわち、第一演出ボタン２５１の内部あるいは外部に設けられるバイブレータ装置（振動モータ

等）によって第一演出ボタン２５１に対するバイブレーション動作（振動）を可能にした場合、周辺制御基板１５１０では、特別図柄の抽選結果が当りの場合に選択される変動パターン（演出パターン）と、特別図柄の抽選結果が外れの場合の一部で選択される変動パターンが決定されたときに、該変動パターンに対応して設定された演出パターンに応じて第一演出ボタン２５１（可動体）に対応する動作スケジュールを実行し、当り時および外れ時の一部で特別図柄の変動表示中における予め決められた所定の振動タイミングで第一演出ボタン２５１（可動体）をバイブレーション動作（振動）させて遊技者に当りに関する期待感を与えることが例示できる。このような構成で特別図柄の変動表示中における第一演出ボタン２５１の非動作中に打ち止め状態に移行した場合には、演出パターンや動作スケジュールを強制停止し、以降に第一演出ボタン２５１を振動しないようにしている。また、特別図柄の変動表示中における第一演出ボタン２５１のバイブレーション動作中に打ち止め状態に移行した場合には、実行中のバイブレーション動作を強制停止し、以降に第一演出ボタン２５１を振動しないようにしている。このように、打ち止め状態に移行した後には、祝い動作として、第一演出ボタン２５１（可動体）をバイブレーション動作（振動）しないことで、遊技盤５に設けられている可動体の祝い動作のみに注目させることができる。

【３１７５】

また、本例では、打ち止め状態に移行した後において、実行中の動作スケジュールＸ３や動作スケジュールＹ３が終了し、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して祝い動作が完了した後にも、上述した動作禁止フラグをＯＮのままとし、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が動作禁止の状態を継続することとしている。これにより、例えば、打ち止め状態ではない遊技進行過程における待機状態中にデモンストレーション演出の一環として裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）をデモンストレーション動作させる仕様の場合等に、打ち止め状態中にあるなかで周辺制御基板１５１０が誤って待機状態中の制御を行い、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）をデモンストレーション動作させてしまうことを事前に回避することができる。

【３１７６】

また、前述した初期位置確認の動作に類似して、特別図柄の変動表示中や非変動表示中に何からの要因で裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に位置ズレが生じる等して初期位置に戻っていない場合には、通常時の復帰条件（始動口への入賞や、特別図柄の変動停止から所定時間の経過等）の成立に基づいて、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）を初期位置に戻す復帰処理（複数回のリトライ動作）を行うようにしているが、本例では、打ち止め状態中においては復帰処理（複数回のリトライ動作）を実行しないこととしている。すなわち、祝い動作が正常に完了した後の打ち止め状態中に何からの要因で裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に位置ズレが生じる等して初期位置に戻っていない場合には、その後に上記の復帰条件を満たす事象が生じた（始動口への入賞や、特別図柄の変動停止から所定時間の経過等）としても、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）を初期位置に戻す復帰処理（複数回のリトライ動作）を行わず、それら可動体が初期位置にない状態を維持するようにしている。これにより、打ち止め状態中に可動体が動作（復元動作）し続けて遊技者の離席を躊躇させてしまうような状況になることを回避することができる。ただし、可動体の祝い動作が完了した後、打ち止め状態中に所定時間（例えば、数分）が経過したときには、可動体が初期位置（待機位置）にあるか否かを再び確認する初期位置確認を実行するようにし、祝い動作の直後を除く期間に可動体が初期位置に戻っていない場合には、上述の復帰処理（複数回のリトライ動作）を実行し、遊技者が既に離席したと思われる打ち止め状態中のタイミングで可動体を初期位置に戻すようにしてもよい。これにより、打ち止め状態中に可動体が動作（復元動作）し続けて遊技者の離席を

躊躇させてしまうような状況になることを回避するとともに、打ち止め状態の解消後の遊技再開時に各種制御をスムーズに行うことができる。

【３１７７】

次いで、打ち止め状態の発生中において、タイミングｔ３で、電源を遮断した後、タイミングｔ４で、電源を再投入した場合について説明する。ここでは、電源遮断後の再投入時において、制限クリアパターンテーブルとして制限クリアパターンテーブル４を用いるようにし、電源投入パターンとして、出玉量はクリアするが打ち止め状態を維持することとなる電源投入パターン１、４が選択されている場合について説明している。

【３１７８】

タイミングｔ４で、電源の再投入時に電源投入パターン１、４が選択されている場合には、出玉量はクリアするが打ち止め状態を維持している。また、打ち止め状態を維持した状況において、変動パターンに基づく特別図柄の変動表示については、強制停止を維持している。また、周辺制御基板１５１０では、打ち止め状態を維持した状況において、演出パターンに基づく変動演出については、強制停止を維持し、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対する動作スケジュールについても、強制停止を維持している。ただし、タイミングｔ４で、電源の再投入時には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対し、特別図柄の変動に関与しない動作スケジュールＺを実行するように指示し、少なくとも電源の再投入時のタイミングｔ４でそれらの可動体が初期動作を実行するようにしている。

【３１７９】

また、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が初期動作を実行する前には、まず、それらの可動体が初期位置（待機位置）にあるか否かを確認する上述の初期位置確認を実行している。そして、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が初期位置にある場合には、初期動作として、それぞれの可動体が待機位置から演出位置に正常に移動するか否かや、待機位置に正常に復帰するか否かの動作を実行している。具体的には、動作スケジュールＺには、電源の再投入から所定期間（例えば、５秒）が経過したときに、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が初期動作を実行するように設定されているのに対し、電源の再投入から所定期間（例えば、１０秒）が経過したときに、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が初期動作を実行するように設定されている。なお、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）の初期動作は、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）の初期動作が完了した後に実行するようにしている。

【３１８０】

このように、電源の再投入時に打ち止め状態を維持し、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）の強制停止を維持する場合であっても、それらの可動体の初期位置確認や初期動作については、実行するように許容している。これにより、電源の再投入前の打ち止め状態の前後で、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が待機位置にない不具合が発生していたとしても、それらの可動体が初期位置確認により待機位置に復帰させた後に可動体の動作確認を実行することができ、それらの可動体が待機位置にない不具合の発生によって演出表示装置１６００に表示されている表示内容（打ち止め状態に対応する画像）が隠されたままとなることがなく、遊技の制限が実行されている旨が把握できなくなることを防止することができる。

【３１８１】

一方、タイミングｔ４で、電源の再投入時に電源投入パターン２、３が選択されている場合には、出玉量および打ち止め状態をクリアしている。このような場合にも、電源の再投入時において、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して動作スケジュールＺを実行するように指示し、それらの可動体が初期動作を実行するようにしている。そして、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体

Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）の初期動作の完了後には、変動パターンに基づく特別図柄の変動表示について、強制停止を解除し、実行待機するものとしている。また、周辺制御基板１５１０では、演出パターンに基づく変動演出について、強制停止を解除し、実行待機するものとし、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対する動作スケジュールについても、強制停止を解除し、動作待機するものとしている。

【３１８２】

なお、上述した実施例では、電源の再投入時に打ち止め状態を維持し、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）の強制停止を維持する場合には、それらの可動体の初期動作を実行するようにしているが、可動体が待機位置に位置する場合には制御負荷を重視して可動体の初期動作を実行しないように制限してもよい。また、可動体が待機位置に位置しない場合でも以下の理由から可動体の初期動作を実行しないように制限してもよい。すなわち、可動体が待機位置に位置しないにもかかわらず可動体の初期動作を実行しない場合は、電源の再投入前に、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が待機位置にない不具合が発生したときに、電源の再投入後に、それらの可動体が待機位置にない状態を保持することができ、それらの可動体に対して不具合が発生している旨をホール管理者に把握させることができる。ただし、この場合は、可動体が待機位置にない不具合の発生によって演出表示装置１６００に表示されている表示内容（打ち止め状態に対応する画像）が隠されたままとなる懸念が生ずるため、演出表示装置１６００における表示領域のうちの可動体が阻害することのない表示領域に打ち止め状態に対応する画像を表示するようにしたり、演出表示装置１６００以外の別の装置を用いて打ち止め状態に対応する報知を行うようにすることが望ましい。

【３１８３】

また、上述した実施例では、打ち止め状態に移行した後において、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して祝い動作を実行しているが、それらの祝い動作については、可動体の初期動作における動作処理（動作スケジュール）と同じ動作処理（動作スケジュール）を実行するようにしてもよい。このように、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対する動作処理（動作スケジュール）を共通化することで、可動体の演出動作に必要となる記憶容量が増加することを回避することができる。ただし、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に搭載されているＬＥＤについて、打ち止め状態に移行した後における可動体の祝い動作時には、打ち止め状態に対応する動作（遊技盤５に設けられている他のＬＥＤとの協調した発光あるいは消灯）を実行するのに対し、電源の再投入時における可動体の初期動作時には、初期動作に対応する動作（例えば、初期動作と協調して発光）を実行している。これにより、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して、打ち止め状態に移行した後における可動体の祝い動作時であるのか、電源の再投入時における可動体の初期動作時であるのかが把握できなくなることを防止することができる。

【３１８４】

次に、特別図柄の変動表示中における可動体の動作中に打ち止め状態に移行し、以降に可動体の祝い動作を実行する場合について説明する。図２４２は、特別図柄の変動表示中における可動体の動作中に打ち止め状態に移行し、以降に可動体の祝い動作を実行する場合を示すタイムチャートである。なお、本例では、特別図柄の変動表示中に可動体が動作中である場合について説明するが、打ち止め状態に移行する時点（直前）で可動体が動作中であればよく、特別図柄の非変動表示中に可動体が動作中である場合、例えば、デモンストレーション演出の実行中に可動体がデモンストレーション動作している場合などにも、打ち止め状態に移行した後において、同じ挙動を示すように制御されるものとなっている。

【３１８５】

図２４２に示すように、タイミングｔ１で、特別図柄の変動表示の開始時において、変動パターン２を決定した場合には、その変動パターン２に基づいて特別図柄の変動表示を実行している。また、タイミングｔ１で、周辺制御基板１５１０では、変動パターン２に対応する演出パターン２を決定し、特別図柄の変動表示中には、その演出パターン２に基づいて変動演出を実行している。また、タイミングｔ１で、演出パターン２を決定した場合には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して動作スケジュールＸ２を実行し、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して動作スケジュールＹ２を実行するように指示している。そして、特別図柄の変動表示中において、タイミングｔｘが到来したときには、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して実行中の動作スケジュールＸ２に基づいて、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して予め決められていた演出動作を実行している。

【３１８６】

そして、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が動作中であるタイミングｔ２で、特別図柄の変動表示中に一般入賞口２００１に遊技球が入球するなどして賞球が付与されて打ち止め状態に移行した場合には、打ち止め状態フラグをＯＮとし、変動パターン２に基づいて実行中の特別図柄の変動表示を強制停止している。また、タイミングｔ２で、周辺制御基板１５１０では、打ち止め状態フラグがＯＮになったことを受けて上述した演出禁止フラグをＯＮにし、演出パターン２に基づいて実行中の変動演出を強制停止している。具体的には、演出禁止フラグがＯＮになることを契機にして、演出表示装置１６００では、変動演出に対応する画像を打ち止め状態に対応する画像に強制変更している。また、タイミングｔ２で演出禁止フラグがＯＮになることを契機にして、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して実行中の動作スケジュールＸ２や、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して実行中の動作スケジュールＹ２についても強制停止し、打ち止め状態に移行した後には、動作スケジュールＸ２や動作スケジュールＹ２に基づく演出動作を実行しないようにしている。このとき、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）については、動作中に強制停止しているため、初期位置でない位置（演出位置）で動作停止している。

【３１８７】

そして、打ち止め状態に移行したタイミングｔ２で裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して実行中の動作スケジュールＸ２や、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して実行中の動作スケジュールＹ２についても強制停止した後には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）と裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）の両方を用いて、祝い動作の実行を開始している。すなわち、タイミングｔ２で裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対する演出動作を禁止して打ち止め状態に移行した場合には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して特別な動作スケジュールＸ３を実行し、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して特別な動作スケジュールＹ３を実行するように指示している。これらの特別な動作スケジュールＸ３や動作スケジュールＹ３については、打ち止め状態に移行するよりも前における特別図柄の変動表示の開始時に設定されることはなく、特別図柄の変動表示中に実行されることのないものとなっている。

【３１８８】

具体的には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して動作スケジュールＸ３を実行したときには、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対する第１の祝い動作に先行して先ず裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が初期位置（待機位置）にあるか否かを確認する初期位置確認を実行しているが、打ち止め状態に移行したタイミングｔ２で、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が動作中に強制停止している場合には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が初期位置でない位置（演出位置）であると判断し、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）を初期位置に戻すための復帰処理（複数回のリトライ動作）を実行している。そして、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が初期位置に戻った場合には、タイミングｔＡで、裏前昇

降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が初期位置（待機位置）と、演出表示装置１６００の表示画面の前方に位置する演出位置との間で第１の祝い動作（祝い動作の前半）を実行するものとなっている。一方、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して動作スケジュールＹ３を実行したときには、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が初期位置（待機位置）にあるか否かを確認する初期位置確認を実行し、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が初期位置にある場合には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対する第１の祝い動作が完了した後のタイミングｔＢで、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が初期位置（待機位置）と、演出表示装置１６００の表示画面の前方に位置する演出位置との間で第２の祝い動作（祝い動作の後半）を実行するものとなっている。

【３１８９】

ところで、図２３６の説明では、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が動作中であるタイミングｔ２で、打ち止め状態に移行した場合には、予め決められていた演出動作の途中で終了することがなく、予め決められていた演出動作が完了するまで実行を継続している。このような構成で祝い動作を実行する場合には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して予め決められていた演出動作が完了した後に、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して特別な動作スケジュールＸ３を実行し、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が初期位置（待機位置）と、演出表示装置１６００の表示画面の前方に位置する演出位置との間で第１の祝い動作を実行することも可能である。しかしながら、このような構成では、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して予め決められていた演出動作が完了するまでの間、打ち止め状態への移行後における祝い動作が遅延することとなり、打ち止め状態への移行後に直ぐには、祝い動作を楽しむことができない。この点、本例では、打ち止め状態に移行したタイミングｔ２で、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が動作中に強制停止するようにしたため、打ち止め状態への移行後に直ぐに、祝い動作を楽しむことができる。

【３１９０】

なお、上述の別例のように、扉枠３に上述の特殊可動体（例えば、当り変動中にのみ突出動作する一発告知用の可動体など）が設けられている場合、打ち止め状態に移行した後において、扉枠３に設けられている特殊可動体に対しては祝い動作を実行しないようにしている（特殊可動体を祝い動作の対象外にしている）が、打ち止め状態に移行した時点で、扉枠３に設けられている特殊可動体が動作中である場合にも、その扉枠３に設けられている特殊可動体を強制停止するようにしている。なお、扉枠３に設けられている特殊可動体の動作中に強制停止した場合には、特殊可動体が初期位置でない位置（演出位置）のままであると、遊技者が特殊可動体に接触してしまう危険性があるため、打ち止め状態に移行した後において、特殊可動体を初期位置に戻すための復帰処理を実行することが望ましい。

【３１９１】

また、扉枠３に設けられている可動体として、上述の特殊可動体とは別に遊技者が操作可能な第一演出ボタン２５１を設ける場合は次のような構成を採用してもよい。すなわち、第一演出ボタン２５１の内部あるいは外部に設けられるバイブレータ装置（振動モータ等）によって第一演出ボタン２５１に対するバイブレーション動作（振動）を可能にした場合、周辺制御基板１５１０では、特別図柄の抽選結果が当りの場合に選択される変動パターン（演出パターン）と、特別図柄の抽選結果が外れの場合の一部で選択される変動パターンが決定されたときに、該変動パターンに対応して設定された演出パターンに応じて第一演出ボタン２５１（可動体）に対応する動作スケジュールを実行し、当り時および外れ時の一部で特別図柄の変動表示中における予め決められた所定の振動タイミングで第一演出ボタン２５１（可動体）をバイブレーション動作（振動）させて遊技者に当りに関する期待感を与えることが例示できる。このような構成で特別図柄の変動表示中における第一演出ボタン２５１のバイブレーション動作中に打ち止め状態に移行した場合には、実行中のバイブレーション動作を強制停止し、以降に第一演出ボタン２５１を振動しないようにしている。このように、打ち止め状態に移行した後には、祝い動作として、第一演出ボ

タン２５１（可動体）をバイブレーション動作（振動）しないことで、遊技盤５に設けられている可動体の祝い動作のみに注目させることができる。

【３１９２】

また、打ち止め状態に移行した後において、実行中の動作スケジュールＸ３や動作スケジュールＹ３が終了し、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して祝い動作が完了した後にも、上述した動作禁止フラグをＯＮのままとし、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が動作禁止の状態を継続することとしている。そして、打ち止め状態の発生中において、タイミングｔ３で、電源を遮断した後、タイミングｔ４で、電源を再投入した場合の挙動については、前述したとおりである。

【３１９３】

次に、打ち止め状態に移行する以前に可動体が初期位置ではない位置で異常停止し、その可動体の異常停止中に打ち止め状態に移行し、可動体が初期位置に戻るか否かに応じて以降に可動体の祝い動作を実行する場合について説明する。図２４３は、可動体の異常停止中に打ち止め状態に移行し、可動体が初期位置に戻った時点で可動体の祝い動作を実行する場合を示すタイムチャートであり、図２４４は、可動体の異常停止中に打ち止め状態に移行し、可動体が初期位置に戻らなかった場合を示すタイムチャートである。なお、本例では、特別図柄の変動表示中に可動体が異常停止中である場合について説明するが、打ち止め状態に移行する時点（直前）で可動体が異常停止中であればよく、特別図柄の非変動表示中に可動体が異常停止中である場合にも、打ち止め状態に移行した後において、同じ挙動を示すように制御されるものとなっている。

【３１９４】

まず、打ち止め状態ではない状況下における裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）の基本的な動作について説明する。裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）については、可動体の初期動作時や、可動体の演出動作時において、初期位置（待機位置）と、演出表示装置１６００の表示画面の前方に位置する演出位置との間で動作するものであるが、その動作終了時において、初期位置に戻らず、初期位置でない位置で異常停止してしまう場合がある。また、特別図柄の変動表示中や非変動表示中に何からの要因で裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に位置ズレが生じる等して初期位置に戻らず異常停止している場合がある。これらの場合、前述した演出禁止フラグがＯＮ状態となって演出動作が禁止されるが、通常時の復帰条件（始動口への入賞や、特別図柄の変動停止から所定時間の経過等）の成立に基づいて、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）を初期位置に戻す復帰処理（複数回のリトライ動作）を行い、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が初期位置に戻ったことが検出されることで演出禁止フラグがＯＦＦ状態になるようにしている。しかしながら、そのような復帰処理（複数回のリトライ動作）が行われても裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が依然として初期位置に戻らない場合もあり、そうした場合は、復帰処理（複数回のリトライ動作）を終了して異常停止したままの状態（演出禁止フラグはＯＮ状態）とし、以後は復帰条件が再度成立したとしても再度の復帰処理（複数回のリトライ動作）は行わないこととしている。以下では、打ち止め状態に移行する時点（直前）で、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）の一方あるいは両方が異常停止している場合について説明する。

【３１９５】

まず、打ち止め状態に移行する時点（直前）で、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）だけが異常停止している場合について説明する。図２４３に示すように、タイミングｔ１で、特別図柄の変動表示の開始時において、変動パターン２を決定した場合には、その変動パターン２に基づいて特別図柄の変動表示を実行している。また、タイミングｔ１で、周辺制御基板１５１０では、変動パターン２に対応する演出パターン２を決定し

、特別図柄の変動表示中には、その演出パターン２に基づいて変動演出を実行している。また、タイミングｔ１で、演出パターン２を決定した場合には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して動作スケジュールＸ２を実行し、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して動作スケジュールＹ２を実行するように指示している。ただし、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）については、異常停止しているため、前述した演出禁止フラグがＯＮになっており、動作スケジュールＸ２や動作スケジュールＹ２に基づく演出動作を実行しないようにしている。

【３１９６】

そして、打ち止め状態に移行したタイミングｔ２で裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して実行中の動作スケジュールＸ２や、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して実行中の動作スケジュールＹ２についても強制停止した後には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して特別な動作スケジュールＸ３を実行し、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して特別な動作スケジュールＹ３を実行するように指示している。これらの特別な動作スケジュールＸ３や動作スケジュールＹ３については、打ち止め状態に移行するよりも前における特別図柄の開始時に設定されることはなく、特別図柄の変動表示中に実行されることのないものとなっている。

【３１９７】

具体的には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して動作スケジュールＸ３を実行したときには、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対する第１の祝い動作に先行して先ず裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が初期位置（待機位置）にあるか否かを確認する初期位置確認を実行しているが、打ち止め状態に移行したタイミングｔ２で裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が異常停止している場合には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が初期位置でない位置（演出位置）であると判断し、通常時の復帰条件が成立しているか否かに拘わらず、タイミングｔ２（打ち止め状態の開始）を条件にした特殊契機の復帰処理（複数回のリトライ動作）を実行するようにしている。そして、特殊契機の復帰処理（複数回のリトライ動作）によって裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が初期位置に戻った場合には、タイミングｔＡで、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が初期位置（待機位置）と、演出表示装置１６００の表示画面の前方に位置する演出位置との間で第１の祝い動作（祝い動作の前半）を実行するものとなっている。一方、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対して動作スケジュールＹ３を実行したときには、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が初期位置（待機位置）にあるか否かを確認する初期位置確認を実行し、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が初期位置にある場合には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対する第１の祝い動作が完了した後のタイミングｔＢで、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が初期位置（待機位置）と、演出表示装置１６００の表示画面の前方に位置する演出位置との間で第２の祝い動作（祝い動作の後半）を実行するものとなっている。

【３１９８】

一方、図２４４に示すように、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して特殊契機の復帰処理（複数回のリトライ動作）を実行したにもかかわらず、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が初期位置に戻らなかった場合には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が第１の祝い動作を実行しないようにしている。また、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が初期位置に戻らなかった場合には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対する第１の祝い動作だけでなく、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対する第２の祝い動作についても実行しないようにしている。すなわち、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が初期位置に戻らなかった場合には、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が正常であるか否かに拘わらず、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対する第２の祝い動作が実行不能とされることとなる。これにより、打ち止め状態に移行した後における祝い動作が不完全なかたちで実行されることを防止することができる。

【３１９９】
次に、打ち止め状態に移行する時点（直前）で、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）だけが異常停止している場合について説明する。図２４３を用いた実施形態に類似するため図示は省略するが、具体的には、裏前昇降装飾体ユニット３４１０（可動体Ｙ）に対して動作スケジュールＹ３を実行したときには、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対する第１の祝い動作に先行して先ず裏前昇降装飾体ユニット３４１０（可動体Ｙ）が初期位置（待機位置）にあるか否かを確認する初期位置確認を実行しているが、打ち止め状態に移行したタイミングで裏前昇降装飾体ユニット３４１０（可動体Ｙ）が異常停止している場合には、裏前昇降装飾体ユニット３４１０（可動体Ｙ）が初期位置でない位置（演出位置）であると判断し、通常時の復帰条件が成立しているか否かに拘わらず、打ち止め状態の開始を条件にした特殊契機の復帰処理（複数回のリトライ動作）を実行するようにしている。そして、特殊契機の復帰処理（複数回のリトライ動作）によって裏前昇降装飾体ユニット３４１０（可動体Ｙ）が初期位置に戻った場合には、正常な状態で待機していた裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が初期位置（待機位置）と、演出表示装置１６００の表示画面の前方に位置する演出位置との間で第１の祝い動作（祝い動作の前半）を実行し、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対する第１の祝い動作が完了した後のタイミングで、裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が初期位置（待機位置）と、演出表示装置１６００の表示画面の前方に位置する演出位置との間で第２の祝い動作（祝い動作の後半）を実行するものとなっている。

【３２００】
一方、裏前昇降装飾体ユニット３４１０（可動体Ｙ）に対して特殊契機の復帰処理（複数回のリトライ動作）を実行したにもかかわらず、裏前昇降装飾体ユニット３４１０（可動体Ｙ）が初期位置に戻らなかった場合には、裏前昇降装飾体ユニット３４１０（可動体Ｙ）に対する第２の祝い動作だけでなく、それに先行する裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対する第１の祝い動作も実行しないようにしている。すなわち、裏前昇降装飾体ユニット３４１０（可動体Ｙ）が初期位置に戻らなかった場合には、裏後昇降装飾体３３１０（可動体Ｘ）が正常であるか否かに拘わらず、裏後昇降装飾体３３１０（可動体Ｘ）に対する第１の祝い動作すらも実行不能とされることとなる。これにより、打ち止め状態に移行した後における祝い動作が不完全なかたちで実行されることを防止することができる。

【３２０１】
次に、打ち止め状態に移行する時点（直前）で、裏後昇降装飾体３３１０（可動体Ｘ）と裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）の両方が異常停止している場合について説明する。図２４３を用いた実施形態に類似するため図示は省略するが、具体的には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対する動作スケジュールＸ３と裏前昇降装飾体ユニット３４１０（可動体Ｙ）に対する動作スケジュールＹ３とを実行したときには、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対する第１の祝い動作に先行して先ず裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）、裏前昇降装飾体ユニット３４１０（可動体Ｙ）の順に初期位置（待機位置）にあるか否かを確認する初期位置確認を実行しているが、打ち止め状態に移行したタイミングで両方の可動体が異常停止している場合には、先に裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が初期位置でない位置（演出位置）であると判断し、通常時の復帰条件が成立しているか否かに拘わらず、打ち止め状態の開始を条件にした特殊契機の復帰処理（複数回のリトライ動作）を裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対して実行するようにしている。そして、特殊契機の復帰処理（複数回のリトライ動作）によって裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が初期位置に戻った場合には、次に裏前昇降装飾体ユニット３４１０（可動体Ｙ）が初期位置でない位置（演出位置）であると判断し、裏前昇降装飾体ユニット３４１０（可動体Ｙ）に対して特殊契機の復帰処理（複数回のリトライ動作）を実行するようにしている。そして、いずれの可動体も初期位置に復帰した場合には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）に対する第１の祝い動作を実行し、それが完了した後のタイミングで、裏後昇降装飾体３４１０

（可動体Ｙ）が初期位置（待機位置）と、演出表示装置１６００の表示画面の前方に位置する演出位置との間で第２の祝い動作を実行するものとなっている。

【３２０２】

一方、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）と裏前昇降装飾体ユニット３４１０（可動体Ｙ）に対して特殊契機の復帰処理（複数回のリトライ動作）を実行したにもかかわらず、いずれかの可動体が初期位置に戻らなかった場合には、復帰できなかった可動体の祝い動作だけでなく、復帰できた可動体の祝い動作も含めて、一連の祝い動作を実行しないようにしている。すなわち、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）と裏前昇降装飾体ユニット３４１０（可動体Ｙ）のいずれかが初期位置に戻らなかった場合、あるいは、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）と裏前昇降装飾体ユニット３４１０（可動体Ｙ）の両方が初期位置に戻らなかった場合には、一部の可動体が正常であるか否かに拘わらず、一連の祝い動作が実行不能とされることとなる。これにより、打ち止め状態に移行した後における祝い動作が不完全なかたちで実行されることを防止することができる。

【３２０３】

また、打ち止め状態に移行した後において、特殊契機の復帰処理（複数回のリトライ動作）によって裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）が初期位置に戻ったか否かにかかわらず、実行中の動作スケジュールＸ３や動作スケジュールＹ３が終了したときにも、上述した動作禁止フラグをＯＮのままとし、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が動作禁止の状態を継続することとしている。そして、打ち止め状態の発生中において、タイミングｔ３で、電源を遮断した後、タイミングｔ４で、電源を再投入した場合の挙動については、前述したとおりである。

【３２０４】

また、本例では、打ち止め状態に移行する時点（直前）で、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が異常停止している場合には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に搭載されているＬＥＤについては、異常発光ではなく正常な発光（特別図柄の変動表示中に裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対する演出動作と協調する発光）を可能にしている。そして、その状態で打ち止め状態に移行した後には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に搭載されているＬＥＤについては、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が異常停止しているか否かに拘わらず、打ち止め状態に対応する動作（遊技盤５に設けられている他のＬＥＤとの協調した発光あるいは消灯）を実行可能にしている。これにより、仮に不具合により祝い動作が実行できなかった場合であっても、外部からは祝い動作が非実行となっていることを分かり難くでき、遊技者に嫌悪感に与えることを回避することができる。

【３２０５】

また、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に搭載されているＬＥＤについては、前述した通り、特別図柄の変動表示中に裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に対する演出動作と協調して発光している場合に、設定調節ボタン２０４の操作によってＬＥＤの光量を変更可能であるが、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が異常停止している場合にも、設定調節ボタン２０４の操作によってＬＥＤの光量を変更可能とされている。また、打ち止め状態に移行した後には、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）に搭載されているＬＥＤについては、裏前昇降装飾体ユニット３３１０（可動体Ｘ）や裏後昇降装飾体３４１０（可動体Ｙ）が異常停止しているか否かに拘わらず、打ち止め状態に対応する動作（遊技盤５に設けられている他のＬＥＤとの協調した発光あるいは消灯）を実行している。ただし、前述と同様に、打ち止め状態に移行した後には設定調節ボタン２０４の操作の受け付けを不能とし、打ち止め状態に対応する動作中のＬＥＤの光量を変更不

能にしている。これにより、打ち止め状態にあるなかで設定調節ボタン２０４の操作と称してパチンコ機１を殴打する悪質な行為が行われることを未然に回避することができる。
【３２０６】
（打ち止め状態の発生前後における遊技盤の着脱について）
次に、本体枠４に対して、遊技盤５のうち、打ち止め状態が発生していない遊技盤Ａや、打ち止め状態が発生している遊技盤Ｂを着脱して交換した場合について説明する。なお、上述した他の実施形態では、出玉量については、主制御基板１３１０において、出玉量を演算するものとして説明しているが、本例では、払出制御基板６３３側に打ち止め用カウンタを設け、所定のタイミングで、発射数や払出数に関するコマンドを主制御基板１３１０から払出制御基板６３３に向けて送信するようにし、払出制御基板６３３では、打ち止め用カウンタを管理し、その打ち止め用カウンタの増減から出玉量を算出するものとしている。
【３２０７】
本例では、主制御基板１３１０でなく払出制御基板６３３において、打ち止め用カウンタから算出される出玉量を管理（算出や保持）している。具体的には、払出制御基板６３３は、所定のクリア条件が成立するまでの期間内で発射数と払出数との差分を算出し、その算出結果を出玉量（出玉量Ａ、Ｂ）を算出するための値として「打ち止め用カウンタ」に記憶保持可能になっている。打ち止め用カウンタの値は、内蔵されているＲＡＭの特定領域に格納している。なお、発射数と払出数との差分の算出式としては、「打ち止め用カウンタの値＝払出数－発射数」が挙げられる。例えば、打ち止め用カウンタの値が多くなり過ぎている場合には、遊技者の入れ替わりの有無を問わず、パチンコ機１から大量の出玉が付与されていることを把握することができる。
【３２０８】
また、本例では、払出制御基板６３３において、打ち止め用カウンタから算出される出玉量を管理（算出や保持）しているが、所定のタイミングで、出玉量に関するコマンドを払出制御基板６３３から主制御基板１３１０に向けて送信するようにし、主制御基板１３１０では、出玉量が特定値になった場合に、打ち止め状態に移行して遊技を制限するようにしている。また、主制御基板１３１０は、打ち止め状態が発生したときに、打ち止め状態フラグのオン情報を記憶保持可能になっている。打ち止め状態フラグのオンオフは、内蔵されているＲＡＭの特定領域に格納している。このため、打ち止め状態が発生していない遊技盤Ａは、電源の遮断時において、打ち止め状態フラグのオフ情報を記憶保持するようにし、本体枠４に対して遊技盤Ａを取り外した後に別の本体枠４に対して遊技盤Ａを取り付けたとしても、「打ち止め状態中の遊技の制限」をクリア（初期化）しない電源投入時においては、打ち止め状態でない状態（通常状態）を維持するようにしている。一方、打ち止め状態が発生している遊技盤Ｂは、電源の遮断時において、打ち止め状態フラグのオン情報を記憶保持するようにし、本体枠４に対して遊技盤Ｂを取り外した後に別の本体枠４に対して遊技盤Ｂを取り付けたとしても、「打ち止め状態中の遊技の制限」をクリア（初期化）しない電源投入時においては、打ち止め状態を維持するようにしている。
【３２０９】
ところで、出玉量が払出制御基板６３３で管理されている場合には、本体枠４に対して遊技盤５を交換したとしても、本体枠４に設けられている払出制御基板６３３は交換されないことから、遊技盤５を交換したにも拘わらず交換前の遊技盤５の出玉量に関する情報が交換後の遊技盤５に反映されてしまう可能性があり、遊技盤５の交換時における信頼性や利便性が低下してしまう、という問題があった。例えば、払出制御基板６３３で管理されている交換前の遊技盤５の出玉量を交換後の遊技盤５に伝達してしまうと、交換後の遊技盤５の出玉量に関する情報の信頼性が損なわれてしまう。本例では、出玉量が払出制御基板６３３で管理されている場合において、遊技盤５の交換時における信頼性や利便性の低下を回避する手法について、以下に説明する。
【３２１０】
図２４５は、電源の遮断時に遊技盤５を交換した場合におけるパチンコ機１の挙動を示

すタイムチャートである。なお、本例では、特定値として１００００が設定されており、出玉量が１００００になった場合に、打ち止め状態に移行して遊技を制限するようにしている。なお、交換前の遊技盤５と交換後の遊技盤５は、同一の遊技盤５（同一のスペックおよび同一の演出からなる同一シリーズの遊技盤）であることを前提とする。

【３２１１】

また、本例では、電源遮断後の再投入時において、制限クリアパターンテーブルとして制限クリアパターンテーブル４を用いるようにし、電源投入パターンとして電源投入パターン１が選択されている場合について説明している。詳しくは上述したが、電源投入パターン１では、電源投入時において、電源遮断時の遊技状態を維持しているが、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」については、クリア（初期化）し、一方で、「打ち止め状態中の遊技の制限」については、維持するものとしている。ただし、電源投入パターン１～４のいずれであっても、「打ち止め状態が開始される前や、打ち止め状態が開始された以降の出玉量」については、電源遮断後の再投入時において、必ずクリアするものとしている。

【３２１２】

また、本例では、主制御基板１３１０において、ＣＰＵ（主制御ＭＰＵ１３１０ａ）に固有のＣＰＵ番号（固有情報）が予め記憶されている。このＣＰＵ番号は、同一の遊技盤５であっても主制御基板１３１０ごとに固有のＣＰＵ番号が付されており、外部装置を用いても書き換えることができない。また、払出制御基板６３３は、主制御基板１３１０からＣＰＵ番号を受信し、払出制御基板６３３に内蔵されているＲＡＭに記憶するようにしている。この払出制御基板６３３に記憶されているＣＰＵ番号については、電源のオンオフや、電源投入時にＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの操作があったとしても、クリア（初期化）せずに保持するようにしている。そして、払出制御基板６３３において、主制御基板１３１０から受信したＣＰＵ番号と、払出制御基板６３３に記憶されているＣＰＵ番号と、が一致していると判定した場合には、本体枠４に対して遊技盤５が交換されていないと判断している。一方、払出制御基板６３３において、主制御基板１３１０から受信したＣＰＵ番号と、払出制御基板６３３に記憶されているＣＰＵ番号と、が一致していると判定した場合には、本体枠４に対して遊技盤５が交換されていないと判断している。

【３２１３】

まず、電源の遮断時において、本体枠４に対して、打ち止め状態が発生していない遊技盤Ａ１を取り外し、打ち止め状態が発生していない遊技盤Ａ２に交換した場合について、図２４５（Ａ）を参照して説明する。まず、タイミングｔ１から、電源を遮断するタイミングｔ２までの間には、本体枠４に対して、打ち止め状態が発生していない遊技盤Ａ１が取り付けられているが、電源がオンであることで、遊技盤Ａ１や本体枠４のいずれにも通電した状態になっている。また、払出制御基板６３３で管理されている出玉量が１０００００未満であり、遊技盤Ａ１の主制御基板１３１０では、打ち止め状態が発生しておらず、遊技の進行が可能になっている。

【３２１４】

そして、タイミングｔ２で電源を遮断し、打ち止め状態が発生していない遊技盤Ａ１を取り外し、遊技盤Ａ１とは別の、打ち止め状態が発生していない遊技盤Ａ２を取り付けているが、タイミングｔ３で電源をオンにすることで、遊技盤Ａ２や本体枠４のいずれにも通電した状態になっている。また、タイミングｔ３で、電源のオン時に電源投入パターン１を選択している場合、主制御基板１３１０では、遊技盤Ａ２の交換前（取り付け前）の遊技状態として、打ち止め状態が発生していない状態（通常状態）を維持し、遊技の進行が可能になっている。また、タイミングｔ３で、払出制御基板６３３で管理されている出玉量については、クリア（初期化）し、交換後の遊技盤Ａ２に対しては、出玉量が０から開始されるものとなっている。つまり、電源のオン時に、払出制御基板６３３で管理されている出玉量をクリアし、交換前の遊技盤Ａ１の出玉量に関する情報を引き継がないようにしている。

【３２１５】

次いで、電源の遮断時において、本体枠４に対して、打ち止め状態が発生していない遊技盤Ａを取り外し、打ち止め状態が発生している遊技盤Ｂに交換した場合について、図２４５（Ｂ）を参照して説明する。まず、タイミングｔ１から、電源を遮断するタイミングｔ２までの間には、本体枠４に対して、打ち止め状態が発生していない遊技盤Ａが取り付けられているが、電源がオンであることで、遊技盤Ａや本体枠４のいずれにも通電した状態になっている。また、払出制御基板６３３で管理されている出玉量が１０００００未満であり、遊技盤Ａの主制御基板１３１０では、打ち止め状態が発生しておらず、遊技の進行が可能になっている。

【３２１６】

そして、タイミングｔ２で電源を遮断し、打ち止め状態が発生していない遊技盤Ａを取り外し、遊技盤Ａとは別の、打ち止め状態が発生している遊技盤Ｂを取り付けているが、タイミングｔ３で電源をオンにすることで、遊技盤Ｂや本体枠４のいずれにも通電した状態になっている。また、タイミングｔ３で、電源のオン時に電源投入パターン１を選択している場合、主制御基板１３１０では、遊技盤Ａ２の交換前（取り付け前）の遊技状態として、打ち止め状態が発生している状態を維持し、遊技の進行が制限されている。また、タイミングｔ３で、払出制御基板６３３で管理されている出玉量については、クリア（初期化）し、交換後の遊技盤Ｂに対しては、出玉量が０から開始されるものとなっている。つまり、電源のオン時に、払出制御基板６３３で管理されている出玉量をクリアしているが、主制御基板１３１０で管理されている打ち止め状態に関する情報については、クリアしないようにし、交換時に打ち止め状態がクリアされることを防止することができる。

【３２１７】

次いで、電源の遮断時において、本体枠４に対して、打ち止め状態が発生している遊技盤Ｂを取り外し、打ち止め状態が発生していない遊技盤Ａに交換した場合について、図２４５（Ｃ）を参照して説明する。まず、タイミングｔ１から、電源を遮断するタイミングｔ２までの間には、本体枠４に対して、打ち止め状態が発生している遊技盤Ｂが取り付けられているが、電源がオンであることで、遊技盤Ｂや本体枠４のいずれにも通電した状態になっている。また、払出制御基板６３３で管理されている出玉量が１０００００に到達しており、遊技盤Ｂの主制御基板１３１０では、打ち止め状態が発生し、遊技の進行が制限されている。

【３２１８】

そして、タイミングｔ２で電源を遮断し、打ち止め状態が発生している遊技盤Ｂを取り外し、遊技盤Ｂとは別の、打ち止め状態が発生していない遊技盤Ａを取り付けているが、タイミングｔ３で電源をオンにすることで、遊技盤Ａや本体枠４のいずれにも通電した状態になっている。また、タイミングｔ３で、電源のオン時に電源投入パターン１を選択している場合、主制御基板１３１０では、遊技盤Ａ２の交換前（取り付け前）の遊技状態として、打ち止め状態が発生していない状態（通常状態）を維持し、遊技の進行が可能になっている。また、タイミングｔ３で、払出制御基板６３３で管理されている出玉量については、クリア（初期化）し、交換後の遊技盤Ａに対しては、出玉量が０から開始されるものとなっている。つまり、電源のオン時に、払出制御基板６３３で管理されている出玉量をクリアし、交換前の遊技盤Ｂの出玉量に関する情報を引き継ぐことがなく、交換時に打ち止め状態が発生することを防止することができる。

【３２１９】

次いで、電源の遮断時において、本体枠４に対して、打ち止め状態が発生している遊技盤Ｂ１を取り外し、打ち止め状態が発生している遊技盤Ｂ２に交換した場合について、図２４５（Ｄ）を参照して説明する。まず、タイミングｔ１から、電源を遮断するタイミングｔ２までの間には、本体枠４に対して、打ち止め状態が発生している遊技盤Ｂ１が取り付けられているが、電源がオンであることで、遊技盤Ｂ１や本体枠４のいずれにも通電した状態になっている。また、払出制御基板６３３で管理されている出玉量が１０００００に到達しており、遊技盤Ｂ１の主制御基板１３１０では、打ち止め状態が発生し、遊技の進行が制限されている。

【３２２０】
そして、タイミングｔ２で電源を遮断し、打ち止め状態が発生している遊技盤Ｂ１を取り外し、遊技盤Ａとは別の、打ち止め状態が発生している遊技盤Ｂ２を取り付けているが、タイミングｔ３で電源をオンにすることで、遊技盤Ｂ２や本体枠４のいずれにも通電した状態になっている。また、タイミングｔ３で、電源のオン時に電源投入パターン１を選択している場合、主制御基板１３１０では、遊技盤Ａ２の交換前（取り付け前）の遊技状態として、打ち止め状態が発生している状態を維持し、遊技の進行が制限されている。また、タイミングｔ３で、払出制御基板６３３で管理されている出玉量については、クリア（初期化）し、交換後の遊技盤Ｂ２に対しては、出玉量が０から開始されるものとなっている。つまり、電源のオン時に、払出制御基板６３３で管理されている出玉量をクリアしているが、主制御基板１３１０で管理されている打ち止め状態に関する情報については、クリアしないようにし、交換時に打ち止め状態がクリアされることを防止することができる。
【３２２１】
図２４６は、電源の遮断前に遊技盤５を交換した場合におけるパチンコ機１の挙動を示すタイムチャートである。なお、本例では、特定値として１０００００が設定されており、出玉量が１０００００になった場合に、打ち止め状態に移行して遊技を制限するようにしている。
【３２２２】
まず、電源の遮断前において、本体枠４に対して、打ち止め状態が発生していない遊技盤Ａ１を取り外し、打ち止め状態が発生していない遊技盤Ａ２に交換した場合について、図２４６（Ａ）を参照して説明する。まず、タイミングｔ１で、本体枠４に対して、打ち止め状態が発生していない遊技盤Ａ１が取り付けられているが、電源がオンであることで、遊技盤Ａ１や本体枠４のいずれにも通電した状態になっている。また、払出制御基板６３３で管理されている出玉量が１０００００未満であり、遊技盤Ａ１の主制御基板１３１０では、打ち止め状態が発生しておらず、遊技の進行が可能になっている。
【３２２３】
そして、電源を遮断するタイミングｔ２よりも前に、本体枠４に対して、打ち止め状態が発生していない遊技盤Ａ１を取り外しているが、電源がオンのままであることで、本体枠４のみ通電した状態であり、払出制御基板６３３で管理されている出玉量に関する情報を維持している。そしてその後、本体枠４に対して、打ち止め状態が発生していない遊技盤Ａ２を取り付けているが、電源がオンのままであることで、遊技盤Ａ２や本体枠４のいずれにも通電した状態になっている。このとき、遊技盤Ａ２の交換前（取り付け前）の遊技状態としては、打ち止め状態が発生していない状態（通常状態）であるが、電源がオンのままで遊技盤Ａ２を取り付けることで、主制御基板１３１０では、特殊打ち止め状態を発生させ、遊技の進行が制限されている。なお、特殊打ち止め状態は、遊技の進行が制限される点で、打ち止め状態と同じであり、電源のオンオフ（電源投入パターン１）により特殊打ち止め状態が解消される点で、打ち止め状態とは異なる。つまり、遊技盤Ａ２の交換時に、払出制御基板６３３で管理されている出玉量をクリアしておらず、交換前の遊技盤Ａ１の出玉量に関する情報を引き継いでしまうが、特殊打ち止め状態を発生させることで、その誤った情報を引き継いで遊技が進行することを防止することができる。
【３２２４】
そして、タイミングｔ２で電源を遮断し、打ち止め状態が発生していない遊技盤Ａ２を取り付けたままで、タイミングｔ３で電源をオンにすることで、遊技盤Ａ２や本体枠４のいずれにも通電した状態になっている。このとき、遊技盤Ａ２の交換時において、電源のオンオフを伴わない場合には、特殊打ち止め状態が発生しているが、電源のオンオフを伴う場合には、特殊打ち止め状態が発生していない。また、タイミングｔ３で、電源のオン時に電源投入パターン１を選択している場合、主制御基板１３１０では、遊技盤Ａ２の交換前（取り付け前）の遊技状態として、打ち止め状態が発生していない状態（通常状態）を維持し、遊技の進行が可能になっている。また、タイミングｔ３で、払出制御基板６３

３で管理されている出玉量については、クリア（初期化）し、交換後の遊技盤Ａ２に対しては、出玉量が０から開始されるものとなっている。つまり、電源のオン時に、払出制御基板６３３で管理されている出玉量をクリアし、交換前の遊技盤Ａ１の出玉量に関する情報を引き継がないようにしている。

【３２２５】

次いで、電源の遮断前において、本体枠４に対して、打ち止め状態が発生していない遊技盤Ａを取り外し、打ち止め状態が発生している遊技盤Ｂに交換した場合について、図２４６（Ｂ）を参照して説明する。まず、タイミングｔ１で、本体枠４に対して、打ち止め状態が発生していない遊技盤Ａが取り付けられているが、電源がオンであることで、遊技盤Ａや本体枠４のいずれにも通電した状態になっている。また、払出制御基板６３３で管理されている出玉量が１０００００未満であり、遊技盤Ａの主制御基板１３１０では、打ち止め状態が発生しておらず、遊技の進行が可能になっている。

【３２２６】

そして、電源を遮断するタイミングｔ２よりも前に、本体枠４に対して、打ち止め状態が発生していない遊技盤Ａを取り外しているが、電源がオンのままであることで、本体枠４のみ通電した状態であり、払出制御基板６３３で管理されている出玉量に関する情報を維持している。そしてその後、本体枠４に対して、打ち止め状態が発生している遊技盤Ｂを取り付けているが、電源がオンのままであることで、遊技盤Ｂや本体枠４のいずれにも通電した状態になっている。このとき、遊技盤Ｂの交換前（取り付け前）の遊技状態としては、打ち止め状態が発生している状態であるが、電源がオンのままで遊技盤Ｂを取り付けることで、主制御基板１３１０では、特殊打ち止め状態を発生させ、遊技の進行が制限されている。なお、特殊打ち止め状態は、遊技の進行が制限される点で、打ち止め状態と同じであり、電源のオンオフ（電源投入パターン１）により特殊打ち止め状態が解消される点で、打ち止め状態とは異なる。つまり、遊技盤Ｂの交換時に、払出制御基板６３３で管理されている出玉量をクリアしておらず、交換前の遊技盤Ａの出玉量に関する情報を引き継いでしまうが、特殊打ち止め状態を発生させることで、その誤った情報を引き継いで遊技が進行することを防止することができる。

【３２２７】

そして、タイミングｔ２で電源を遮断し、打ち止め状態が発生している遊技盤Ｂを取り付けたままで、タイミングｔ３で電源をオンにすることで、遊技盤Ｂや本体枠４のいずれにも通電した状態になっている。このとき、遊技盤Ｂの交換時において、電源のオンオフを伴わない場合には、特殊打ち止め状態が発生しているが、電源のオンオフを伴う場合には、特殊打ち止め状態が発生していない。また、タイミングｔ３で、電源のオン時に電源投入パターン１を選択している場合、主制御基板１３１０では、遊技盤Ｂの交換前（取り付け前）の遊技状態として、打ち止め状態が発生している状態を維持し、遊技の進行が制限されている。また、タイミングｔ３で、払出制御基板６３３で管理されている出玉量については、クリア（初期化）し、交換後の遊技盤Ｂに対しては、出玉量が０から開始されるものとなっている。つまり、電源のオン時に、払出制御基板６３３で管理されている出玉量をクリアしているが、主制御基板１３１０で管理されている打ち止め状態に関する情報については、クリアしないようにし、交換時に打ち止め状態がクリアされることを防止することができる。

【３２２８】

次いで、電源の遮断前において、本体枠４に対して、打ち止め状態が発生している遊技盤Ｂを取り外し、打ち止め状態が発生していない遊技盤Ａに交換した場合について、図２４６（Ｃ）を参照して説明する。まず、タイミングｔ１で、本体枠４に対して、打ち止め状態が発生している遊技盤Ｂが取り付けられているが、電源がオンであることで、遊技盤Ｂや本体枠４のいずれにも通電した状態になっている。また、払出制御基板６３３で管理されている出玉量が１０００００に到達しており、遊技盤Ｂの主制御基板１３１０では、打ち止め状態が発生し、遊技の進行が制限されている。

【３２２９】

そして、電源を遮断するタイミングｔ２よりも前に、本体枠４に対して、打ち止め状態が発生している遊技盤Ｂを取り外しているが、電源がオンのままであることで、本体枠４のみ通電した状態であり、払出制御基板６３３で管理されている出玉量に関する情報を維持している。そしてその後、本体枠４に対して、打ち止め状態が発生していない遊技盤Ａを取り付けているが、電源がオンのままであることで、遊技盤Ｂや本体枠４のいずれにも通電した状態になっている。このとき、遊技盤Ａの交換前（取り付け前）の遊技状態としては、打ち止め状態が発生していない状態（通常状態）であるが、電源がオンのままで遊技盤Ａを取り付けることで、主制御基板１３１０では、特殊打ち止め状態を発生させ、遊技の進行が制限されている。なお、特殊打ち止め状態は、遊技の進行が制限される点で、打ち止め状態と同じであり、電源のオンオフ（電源投入パターン１）により特殊打ち止め状態が解消される点で、打ち止め状態とは異なる。つまり、遊技盤Ａの交換時に、払出制御基板６３３で管理されている出玉量をクリアしておらず、交換前の遊技盤Ｂの出玉量に関する情報を引き継いでしまうが、特殊打ち止め状態を発生させることで、その誤った情報を引き継いで遊技が進行することを防止することができる。

【３２３０】

そして、タイミングｔ２で電源を遮断し、打ち止め状態が発生していない遊技盤Ａを取り付けたままで、タイミングｔ３で電源をオンにすることで、遊技盤Ａや本体枠４のいずれにも通電した状態になっている。このとき、遊技盤Ａの交換時において、電源のオンオフを伴わない場合には、特殊打ち止め状態が発生しているが、電源のオンオフを伴う場合には、特殊打ち止め状態が発生していない。また、タイミングｔ３で、電源のオン時に電源投入パターン１を選択している場合、主制御基板１３１０では、遊技盤Ａの交換前（取り付け前）の遊技状態として、打ち止め状態が発生していない状態（通常状態）を維持し、遊技の進行が可能になっている。また、タイミングｔ３で、払出制御基板６３３で管理されている出玉量については、クリア（初期化）し、交換後の遊技盤Ａに対しては、出玉量が０から開始されるものとなっている。つまり、電源のオン時に、払出制御基板６３３で管理されている出玉量をクリアし、交換前の遊技盤Ｂの出玉量に関する情報を引き継ぐことがなく、交換時に打ち止め状態が発生することを防止することができる。

【３２３１】

次いで、電源の遮断前において、本体枠４に対して、打ち止め状態が発生している遊技盤Ｂ１を取り外し、打ち止め状態が発生している遊技盤Ｂ２に交換した場合について、図２４６（Ｄ）を参照して説明する。まず、タイミングｔ１で、本体枠４に対して、打ち止め状態が発生している遊技盤Ｂ１が取り付けられているが、電源がオンであることで、遊技盤Ｂ１や本体枠４のいずれにも通電した状態になっている。また、払出制御基板６３３で管理されている出玉量が１０００００に到達しており、遊技盤Ｂ１の主制御基板１３１０では、打ち止め状態が発生し、遊技の進行が制限されている。

【３２３２】

そして、電源を遮断するタイミングｔ２よりも前に、本体枠４に対して、打ち止め状態が発生している遊技盤Ｂ１を取り外しているが、電源がオンのままであることで、本体枠４のみ通電した状態であり、払出制御基板６３３で管理されている出玉量に関する情報を維持している。そしてその後、本体枠４に対して、打ち止め状態が発生している遊技盤Ｂ２を取り付けているが、電源がオンのままであることで、遊技盤Ｂ２や本体枠４のいずれにも通電した状態になっている。このとき、遊技盤Ｂ２の交換前（取り付け前）の遊技状態としては、打ち止め状態が発生している状態であるが、電源がオンのままで遊技盤Ｂ２を取り付けることで、主制御基板１３１０では、特殊打ち止め状態を発生させ、遊技の進行が制限されている。なお、特殊打ち止め状態は、遊技の進行が制限される点、各種の調整操作（音量や光量の調整等）が不能とされる点、外部端子板によりホールコンピュータへ情報が外部出力される点で、打ち止め状態と同じであり、電源のオンオフ（電源投入パターン１）により特殊打ち止め状態が解消される点で、打ち止め状態とは異なる。つまり、遊技盤Ｂ２の交換時に、払出制御基板６３３で管理されている出玉量をクリアしておらず、交換前の遊技盤Ｂ２の出玉量に関する情報を引き継いでしまうが、特殊打ち止め状態

を発生させることで、その誤った情報を引き継いで遊技が進行することを防止することができる。

【３２３３】

そして、タイミングｔ２で電源を遮断し、打ち止め状態が発生している遊技盤Ｂ２を取り付けてたままで、タイミングｔ３で電源をオンにすることで、遊技盤Ｂ２や本体枠４のいずれにも通電した状態になっている。このとき、遊技盤Ｂ２の交換時において、電源のオンオフを伴わない場合には、特殊打ち止め状態が発生しているが、電源のオンオフを伴う場合には、特殊打ち止め状態が発生していない。また、タイミングｔ３で、電源のオン時に電源投入パターン１を選択している場合、主制御基板１３１０では、遊技盤Ｂ２の交換前（取り付け前）の遊技状態として、打ち止め状態が発生している状態を維持し、遊技の進行が制限されている。また、タイミングｔ３で、払出制御基板６３３で管理されている出玉量については、クリア（初期化）し、交換後の遊技盤Ｂ２に対しては、出玉量が０から開始されるものとなっている。つまり、電源のオン時に、払出制御基板６３３で管理されている出玉量をクリアしているが、主制御基板１３１０で管理されている打ち止め状態に関する情報については、クリアしないようにし、交換時に打ち止め状態がクリアされることを防止することができる。

【３２３４】

以上に示したように、上述した実施形態では、出玉量が払出制御基板６３３で管理されている場合に本体枠４に対して遊技盤５を交換したとしても、交換前の遊技盤５の出玉量に関する情報が交換後の遊技盤５に反映されてしまうことを回避し、遊技盤５の交換時における信頼性や利便性の低下を回避することができる。

【３２３５】

また、上述では電源の遮断前において、本体枠４に対して各種の遊技盤の着脱を行った場合に特殊打ち止め状態が発生する点について説明したが、特殊打ち止め状態中は以下に例示するような動作で制御するようにしてもよい。例えば、出玉量が１０００００に達することで生ずる打ち止め状態中には、図２１８（Ｋ）等で前述したように、演出表示装置１６００で打ち止め状態に対応する画像（「遊技制限」、「１日の出玉制限〇〇発に達したので遊技を制限しています。」、「係員をお呼び下さい。」、「精算ボタンは有効です。」というメッセージ）を表示するようにしているが、特殊打ち止め状態では、出玉量が１０００００に達していない状況も考えられるため、誤認を防止することを目的としてこれらの表示のうちの少なくとも一部を実行しないように抑制するようにしてもよい。特に、前述した画像のうちの「遊技制限」および「１日の出玉制限〇〇発に達したので遊技を制限しています。」の表示は実行しないようにし、それとは異なる表示として「仮遊技制限」、「出玉制限ではありませんが、念のため遊技を制限しています。」という代替メッセージの表示を行うようにしてもい。また、特殊打ち止め状態においても遊技者による遊技中に何らかの要因で起こり得ることは考えられるため、「係員をお呼び下さい。」、「精算ボタンは有効です。」というメッセージは、出玉量が１０００００に達することで生ずる打ち止め状態中と共通して実行可能にしておいてもよい。

【３２３６】

また、出玉量が１００００に達することで生ずる打ち止め状態中と特殊打ち止め状態中の何れにおいても遊技の進行を制限するようにしているが、その制限内容を以下のようにしても良い。具体的には、出玉量が１０００００に達することで生ずる打ち止め状態と特殊打ち止め状態中の何れにおいても、その開始時に実行中の特別図柄の変動表示があったとしても、特別図柄の変動表示を進行しないように変動時間の計時を停止（中断）して、遊技を強制的に停止するようにし、遊技の制限を開始している。ここで、少なくとも特殊打ち止め状態については、遊技の制限が開始され後にも特別図柄の変動表示に係る各種の遊技情報（中断させた残りの変動時間等）を記憶するようにしておき、電源のオンオフ（電源投入パターン１）により特殊打ち止め状態が解消された場合に、特別図柄の変動表示を再開できるようにすれば、遊技盤５の交換時における信頼性や利便性の低下を一層好適に回避することができる。また、出玉量が１００００に達することで生ずる打ち止め状態

と特殊打ち止め状態は、特別図柄の変動表示中だけでなく、普通図柄の変動表示中や大当り遊技の進行中にも生じうるものであり、そうした場合に打ち止め状態と特殊打ち止め状態中の何れが生じたとしても、普通図柄の変動表示や大当り遊技の進行状態（現在のラウント数や大入賞口２００５の開放時間）の計時を停止（中断）して、遊技を強制的に停止するようにし、遊技の制限を開始している。これについても、少なくとも特殊打ち止め状態については、遊技の制限が開始され後にも普通図柄の変動表示に係る各種の遊技情報（中断させた残りの変動時間等）や大当り遊技に係る各種の遊技情報（中断させた残りの開放時間等）を記憶するようにしておき、電源のオンオフ（電源投入パターン１）により特殊打ち止め状態が解消された場合に、普通図柄の変動表示や大当り遊技を再開できるようにすれば、遊技盤５の交換時における信頼性や利便性の低下を一層好適に回避することができる。

【３２３７】

また、上述した特殊打ち止め状態中には、遊技進行を制限するとともに、払出制御基板６３３での出玉量の管理も停止するようにすることが好ましい。すなわち、特殊打ち止め状態中に出玉量を変動しないようにしておくことで、特殊打ち止め状態中に出玉量が１００００に達して別の打ち止め状態が発生したり、特殊打ち止め状態中に出玉量が９５０００を下回って事前の報知（事前告知表示など）が解消されてしまったりすることを回避できる。

【３２３８】

また、出玉量が１００００に達することで生ずる打ち止め状態中と特殊打ち止め状態中の何れにおいても機能表示ユニット１４００の表示態様を通常の遊技中とは異なるように制御するようにしてもよい。具体的には、出玉量が１００００に達することで生ずる打ち止め状態中には、機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器、第二特別図柄表示器、状態表示器、普通図柄表示器、普通保留表示器、第一特別保留数表示器、第二特別保留数表示器、ラウンド表示器などの全てのＬＥＤを全点灯させる場合には、特殊打ち止め状態中には、機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器、第二特別図柄表示器、状態表示器、普通図柄表示器、普通保留表示器、第一特別保留数表示器、第二特別保留数表示器、ラウンド表示器などの全てのＬＥＤを全消灯するようにすること等が例示できる。また、機能表示ユニット１４００に打ち止め報知専用のＬＥＤを設ける場合には、出玉量が１００００に達することで生ずる打ち止め状態中には、その打ち止め報知専用のＬＥＤを点灯し、それ以外のＬＥＤを消灯するようにするが、特殊打ち止め状態中には、その打ち止め報知専用のＬＥＤも含めて全てのＬＥＤを消灯するようにすること等が例示できる。これにより、機能表示ユニット１４００を確認することでも、出玉量が１００００に達することで生ずる打ち止め状態と特殊打ち止め状態のいずれが発生しているのかを区別可能になり、遊技盤５の交換時における信頼性や利便性の低下を一層好適に回避することができる。

【３２３９】

（打ち止め状態への移行後における省エネモードについて）

本例では、特別図柄が確定停止してから新たな特別図柄の変動表示が開始されることなく所定時間（例えば３０秒）が経過したときには、所定のデモンストレーション演出（例えば演出説明や宣伝用の画像等の表示）を開始しているが、デモンストレーション演出を開始してから更に一定の時間が経過した後（例えば、デモンストレーション演出が２回繰り返された後）には、待機電力の省電力化を図るための省エネモードに移行することを可能にしている。このような省エネモードでは、デモンストレーション演出を実行しないだけでなく、音声の出力停止や一部のランプの消灯などを行うようにし、演出表示装置１６００では、省エネモードが実行されている旨を報知している。しかしながら、省エネモードについては、通常の待機状態（打ち止め状態でない待機状態）だけでなく、出玉量が特定値に達して打ち止め状態に移行した後にも同じ態様で実行可能にすると、省エネモード中の状態が打ち止め状態であるかどうかが分からなくなり、遊技の制限が実行されている旨が把握し難いものとなってしまう。そこで、本例では、通常の待機状態中および打ち止

め状態中に省エネモードに移行することを可能にしながらも、通常の待機状態であるか打ち止め状態であるかによって省エネモード中の態様を異ならせるようにした構成について、以下に説明する。

【３２４０】

まず、省エネモードについて説明する。本例では、特別図柄の非変動表示中（遊技が実行されていない状態）の状態を省エネモードにするか否かは、遊技ホールの営業形態に応じて管理者側で任意に設定可能とされている。具体的には、周辺制御基板１５１０に設けられる省エネモード設定スイッチがＯＮ操作された状態で特別図柄の非変動表示中に省エネモードが開始可能とされており、省エネモード設定スイッチがＯＦＦ操作された状態では、特別図柄の非変動表示中に省エネモードが開始不能とされている。なお、本例では、後述するように、省エネモード設定スイッチがＯＮ操作された状態にてデモンストレーション演出が実行された後に省エネモードに移行することとしているが、これに限定されるものではなく、別例として、省エネモード設定スイッチを設けずにデモンストレーション演出が実行された後に必ず省エネモードに移行するにしてもよい。

【３２４１】

次に、本例におけるデモンストレーション演出と省エネモードの関係について説明する。本例では、省エネモード設定スイッチがＯＮ操作された状態での特別図柄の非変動表示中には、通常の待機状態を経て省エネモードを開始するようにしている。ここで、本例の「通常の待機状態」としては、打ち止め状態でない待機状態であって、演出表示装置１６００にて装飾図柄の停止図柄が表示される期間と、演出表示装置１６００や他の装置が所定のデモンストレーション演出に対応する動作（例えば演出説明や宣伝用の画像等の表示や発光）を行う期間を包含した状態である。デモンストレーション演出の詳細については後述する。本例では、省エネモード設定スイッチがＯＮ操作された状態の場合には、予め定められた複数回のデモンストレーション演出が終了することに基づいて省エネモードに移行するようにしている。なお、省エネモードでは、デモンストレーション演出を実行することがなく、演出表示装置１６００や他の装置は、省エネモードに対応する動作で制御されることとなる。

【３２４２】

また、遊技の進行に伴い、出玉量が特定値に達した場合には、遊技の進行を不能とする打ち止め状態に移行している。このような打ち止め状態では、デモンストレーション演出に対応する動作よりも優先して、打ち止め状態に対応する動作を実行し、打ち止め状態が実行されている旨を確実に報知している。また、省エネモード設定スイッチがＯＮ操作された状態では、打ち止め状態中であっても省エネモードを開始可能であるが、打ち止め状態ではないときに省エネモードを開始するタイミングとは別のタイミングで省エネモードを開始するようにしている。すなわち、打ち止め状態中に省エネモードを開始する場合には、後述する打ち止め状態の報知態様が報知態様Ｂに移行してから所定時間（例えば５分）が経過したときに、省エネモードに移行するようにしている。そして、打ち止め状態中に省エネモードに移行した場合には、演出表示装置１６００や他の装置に対して、通常の待機状態を経て省エネモードに移行した場合とは異なる態様で省エネモードに対応する動作を実行するものとしている。

【３２４３】

図２４７は、通常の待機状態、省エネモード、打ち止め状態における発光や音声に関する報知態様を比較するテーブルである。本例では、打ち止め状態中に省エネモードに移行することを可能とし、省エネモードへの移行前には、打ち止め状態中に省エネモードが併発していないが、省エネモードへの移行後には、打ち止め状態中に省エネモードが併発するものとしている。

【３２４４】

まず、通常の待機状態としては、デモンストレーション演出の非実行時（待機演出１の実行時）と、デモンストレーション演出の実行時（待機演出２の実行時）とがある。具体的には、通常の待機状態では、特別図柄が確定停止してから所定時間（例えば３０秒）が

経過するまでの間、デモンストレーション演出を実行しないで装飾図柄の停止図柄が表示されたままとされる待機演出１を実行し、特別図柄が確定停止してから所定時間（例えば３０秒）が経過したときには、装飾図柄の停止図柄を消去して１回目のデモンストレーション演出（待機演出２）を開始している。そして、１回目のデモンストレーション演出が終了した後、再び所定時間（例えば３０秒）が経過するまでの間、デモンストレーション演出を実行しないで装飾図柄の停止図柄が表示されたままとされる待機演出１を実行し、所定時間（例えば３０秒）が経過したときには、２回目のデモンストレーション演出（待機演出２）を開始している。なお、省エネモード設定スイッチがＯＮ操作された状態では、２回目のデモンストレーション演出が終了した後に省エネモードに移行する。また、省エネモード設定スイッチがＯＦＦ操作された状態では、２回目のデモンストレーション演出が終了した後に再び待機演出１を経て３回目のデモンストレーション演出を行うようにしており、以後、待機演出１とデモンストレーション演出が繰り返し行われるようになっている。

【３２４５】

上述したように、デモンストレーション演出の非実行時には、待機表示１（待機演出１）として、装飾図柄の停止図柄を表示しているが、待機表示１については、演出表示装置１６００の下位レイヤにて表示している。ここで、本例の演出表示装置１６００では、少なくとも上位レイヤ、中位レイヤ、下位レイヤを含む複数のレイヤを重ねて表示することが可能であり、「上位レイヤ＞中位レイヤ＞下位レイヤ」という関係のなかで上位のレイヤの表示物であるほど前面側に表示されるようにして、優先して視認しうるようになっている。

【３２４６】

一方、デモンストレーション演出の実行時には、待機表示２（待機演出２）として、以下の内容のデモンストレーション画像を表示している。具体的には、まず、演出表示装置１６００を用いてパチンコ機１の演出説明、宣伝用の画像の表示（ムービー）を実行するようにし、その終了段階では、パチンコ機１の機種タイトルのロゴ表示を実行している。そして、機種タイトルのロゴ表示の終了後には、演出表示装置１６００において、パチンコ機１を製造したメーカーのロゴ表示を実行するようにし、その後、過度に遊技にのめり込むことを防止するための「のめり込み防止」に関する注意喚起メッセージ（例えば「パチンコは適度に楽しむものです。のめり込みに注意しましょう」の文字表示）の表示を実行している。このような注意喚起メッセージを表示することで、その後の遊技において、遊技者が過度に遊技にのめり込むことを防止することができる。なお、待機表示２については、演出表示装置１６００の下位レイヤにて表示している。

【３２４７】

また、通常の待機状態のうち待機表示１（待機演出１）が行われる期間には、スピーカから所定の音声が出力されるが、待機表示１（待機演出１）が終了した後には、スピーカから音声を非出力とし、消音している。つまり、待機表示１（待機演出１）が行われる期間には、待機表示１（待機演出１）に対応するＢＧＭ等の音声が出力されているが、待機表示１（待機演出１）が終了して待機表示２（待機演出２）が行われる期間には、無音とされている。

【３２４８】

また、通常の待機状態では、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）やランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）については、通常報知態様でＬＥＤが点灯や点滅を行うようにしている。具体的には、デモンストレーション演出の非実行時には、通常報知態様として、待機演出１に対応する報知態様でＬＥＤが点滅や点灯を行うのに対し、デモンストレーション演出の実行時には、通常報知態様として、デモンストレーション演出（待機演出２）に対応する報知態様でＬＥＤが点滅や点灯を行うようにしている。また、ランプＣについては、ランプＡ，Ｂの輝度との比較において、予め定められた特定の輝度で発光することで基準となる輝度を確認することができる基準輝度確認用態様でＬＥＤが発光を行うようにしている。つまり、ランプＡ，Ｂについ

ては、設定調節ボタン２０４の操作による設定状況によって、輝度が変化するのに対し、ランプＣについては、設定調節ボタン２０４の操作による設定状況にかかわらず、輝度が変化しないことで、ランプＡ，Ｂの輝度が変化しているのかどうかを判断しやすいものとなっている。また、ランプＣについては、デモンストレーション演出を実行していないときにも基準輝度確認用態様でＬＥＤが発光を行うようにしてもよいが、常に発光させることによる負荷を考慮して、特定の発光開始操作が行われた場合に基準輝度確認用態様での発光を開始可能にしてもよい。例えば、特定の発光開始条件が満たされた場合（例えば設定調節ボタン２０４の操作やその他の操作を受け付けた場合等）に基準輝度確認用態様の発光を開始するようにし、所定時間の経過で基準輝度確認用態様の発光を終了して消灯するようにしてもよい。また、ランプＣを構成するＬＥＤを複数設けるようにしておき、ランプＣを構成するＬＥＤの一部が故障しても、ランプＣを構成する他のＬＥＤによって、ランプＡ，Ｂの輝度が変化しているのかどうかを判断する役割を担保できるようにしてもよい。

【３２４９】

次に、省エネモードでは、省エネモードに対応する画像として、省エネ表示を表示しているが、省エネ表示については、演出表示装置１６００の上位レイヤにて表示している。このとき、スピーカからは、音声を非出力とし、消音している。また、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）やランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）については、ＬＥＤが消灯するようにしている。なお、ランプＣについては、通常の待機状態と同じく、基準輝度確認用態様でＬＥＤが発光可能にしている。

【３２５０】

次に、打ち止め状態中に省エネモードが併発していない場合には、打ち止め状態に対応する画像として、進行不能表示を表示しているが、進行不能表示については、演出表示装置１６００の上位レイヤにて表示している。また、打ち止め状態に移行した時点では、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、報知態様Ａとして、予め定められた特定の光量（例えば最大光量）と予め定められた特定の音量（例えば最大音量）とからなる強調態様での報知を実行しているが、所定期間（例えば、１５秒）が経過した時点で、報知態様Ｂとして、光量や音量を抑制した抑制態様での報知に移行するようにしている。具体的には、所定期間（例えば、１５秒）が経過した時点で、スピーカからは、音声を非出力とし、消音している。なお、ランプＣについては、通常の待機状態と同じく、基準輝度確認用態様でＬＥＤを発光可能にしてもよいが、打ち止め状態という性質上、設定調節ボタン２０４の操作がされないことを考慮して、特定の発光開始条件が満たされるか否かに拘わらず、ランプＣは消灯状態を継続するようにしてもよい。

【３２５１】

次に、打ち止め状態中に省エネモードが併発している場合には、打ち止め状態に対応する画像として、進行不能表示を表示するのに加えて、省エネモードに対応する画像として、省エネ表示を表示しているが、進行不能表示および省エネ表示については、いずれも演出表示装置１６００の上位レイヤにて表示しており、いずれの表示も視認可能になっている。このとき、スピーカからは、音声を非出力とし、消音している。また、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）やランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）については、ＬＥＤが消灯するようにしている。なお、ランプＣについては、通常の待機状態と同じく、基準輝度確認用態様でＬＥＤを発光可能にしてもよいが、打ち止め状態という性質上、設定調節ボタン２０４の操作がされないことを考慮して、特定の発光開始条件が満たされるか否かに拘わらず、ランプＣは消灯状態を継続するようにしてもよい。

【３２５２】

図２４８は、打ち止め状態中に省エネモードに移行する場合におけるパチンコ機の挙動を示すタイムチャートである。以下では、省エネモード設定スイッチがＯＮ操作された状

態を前提として説明する。
【３２５３】
まず、出玉量が特定値に達するまでの残りの出玉量が所定値（例えば、５０００発）に達した後には、事前告知表示を表示しているが、その事前告知表示については、出玉量が特定値に達するまでの間、特別図柄の変動表示中だけでなく、特別図柄の非変動表示中にも継続して表示している。また、特別図柄の非変動表示中のうち通常の待機状態中だけでなく、省エネモード中にも継続して表示している。また、詳しくは上記したが、演出表示装置１６００では、事前告知表示として、「遊技制限まで残り＋〇〇発」というメッセージを特定の表示領域１に表示するようにしている。この特定の表示領域１は、演出表示装置１６００における表示領域の一部に設定され、出玉量が特定値に近づいた場合の表示に用いられる表示領域であり、ホール管理者が見落とさないように如何なる遊技状態においても不変とされる固定領域とされている。
【３２５４】
また、事前告知表示や進行不能表示については、演出表示装置１６００の上位レイヤにて表示している。ここで、本例の演出表示装置１６００では、少なくとも上位レイヤ、中位レイヤ、下位レイヤを含む複数のレイヤを重ねて表示することが可能であり、「上位レイヤ＞中位レイヤ＞下位レイヤ」という関係のなかで上位のレイヤの表示物であるほど前面側に表示されるようにして、優先して視認しうるようになっている。これにより、上位レイヤに表示される事前告知表示や進行不能表示の視認性は、中位レイヤおよび下位レイヤに表示される表示物により阻害されることがない。
【３２５５】
また、事前告知表示や進行不能表示については、周辺制御基板１５１０が行う画像変換処理（モザイク処理、グレースケール処理、拡大・縮小処理等）の対象外になっている。つまり、事前告知表示や進行不能表示以外の演出画像については、周辺制御基板１５１０が行う画像変換処理の対象であり、演出の進行に伴い、演出画像の態様が変化することを許容しているが、事前告知表示や進行不能表示については、周辺制御基板１５１０が行う画像変換処理の対象外であり、演出が進行したとしても、演出画像の態様が変化することを許容していない。これにより、事前告知表示や進行不能表示が表示されている間には、その事前告知表示や進行不能表示に対する視認性が変化することがなく、出玉量等に関する情報を見落としてしまうことを回避することができる。
【３２５６】
次いで、特別図柄が確定停止した後には、通常の待機状態にしているが、タイミングｔ１の時点で、特別図柄が確定停止してから新たに特別図柄が変動表示されずに所定時間（例えば３０秒）が経過したときには、待機表示２（待機演出２）として、デモンストレーション画像（例えば演出説明や宣伝用の画像等）を表示するデモンストレーション期間（デモンストレーション演出が実行される期間）を開始している。このデモンストレーション期間については、特別図柄の変動表示等を開始すると（第一始動口２００２や第二始動口２００４、大入賞口２００５への入賞が生ずると）、デモンストレーション期間を終了して変動演出や当り中の演出等を開始するものとしている。一方、遊技者が操作部（ハンドル１６０や演出操作ユニット２５０等）を操作することによっても、デモンストレーション期間を終了して待機表示１（待機演出１）に移行するものとしている。また、デモンストレーション期間に移行した後にも、事前告知表示を継続して表示している。これにより、新規の遊技者が遊技開始前に出玉量等に関する情報を認識しないまま遊技を開始してしまうことを回避することができる。
【３２５７】
本例では、待機表示２については、演出表示装置１６００の下位レイヤにて表示している。そして、例えば、注意喚起メッセージが表示されている所定領域については、事前告知表示が表示されている特定の表示領域１に対し、特定の表示領域１外とし、特定の表示領域１と前後方向で一切重ならない位置に設けられている。これにより、事前告知表示が表示されている間であっても注意喚起メッセージの視認性を確保でき、遊技者が過度に遊

技にのめり込むことを確実に防止することができる。なお、注意喚起メッセージが表示されている所定領域については、その所定領域の一部が特定の表示領域１と前後方向で重なる位置に設けられてもよく、例えば、注意喚起メッセージについては、所定領域と特定の表示領域１とが重なっていたとしても、その注意喚起メッセージの内容が確認できる程度に事前告知表示から上下方向あるいは左右方向にずらして表示するようにしてもよい。

【３２５８】

また、デモンストレーション期間においては、スピーカからの音声が出力されずに無音とされている。また、デモンストレーション期間において、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）やランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）については、通常報知態様として、待機表示２（待機演出２）に対応する報知態様でＬＥＤが点灯や点滅を行うようにしている。また、デモンストレーション期間において、ランプＣについては、待機表示２（待機演出２）に関係なく、基準輝度確認用態様として、特定の輝度でＬＥＤを発光可能にしている。

【３２５９】

次いで、タイミングｔ２の時点で、デモンストレーション期間（２回目のデモンストレーション演出）が終了したときには、音声およびランプの省電力化を強める省エネモードに移行するようにし、演出表示装置１６００では、省エネモードに対応する画像として、省エネ表示を表示している。省エネ表示としては、「省エネモード中」というメッセージを表示している。この省エネモードについては、特別図柄の変動表示を開始すると、省エネモードを終了して変動演出を開始するものとしている。一方、遊技者が操作部（ハンドル１６０や演出操作ユニット２５０等）を操作することによっても、省エネモードを終了して通常の待機状態に移行するものとしている。なお、省エネモード中に特別図柄の変動表示が行われない一般入賞口２００１等への入賞があった場合には、賞球の付与は行われるものの、通常の待機状態に移行しないようになっている。また、省エネモードに移行した後にも、事前告知表示を継続して表示している。これにより、新規の遊技者が遊技開始前に出玉量等に関する情報を認識しないまま遊技を開始してしまうことを回避することができる。

【３２６０】

本例では、省エネ表示については、事前告知表示と同じく、演出表示装置１６００の上位レイヤにて表示している。ただし、省エネ表示が表示されている特定領域２については、事前告知表示が表示されている特定の表示領域１に対し、特定の表示領域１外とし、特定の表示領域１とは異なる位置に設けられている。これにより、演出表示装置１６００の上位レイヤにて事前告知表示が表示されている間であっても省エネ表示の視認性を確保でき、省エネモードが実行されている旨を確実に知らせることができる。

【３２６１】

また、本例では、デモンストレーション期間に実行されていた待機表示２については、省エネモードに移行した時点で、終了するようにしている。待機表示２については、演出表示装置１６００の下位レイヤに表示しているため、例えば、省エネモードに移行した後に継続して表示するようにしても、上位レイヤに表示されている省エネ表示が視認できなくなることがないが、省エネモードに移行した時点で終了することで、周辺制御基板１５１０の制御負担を軽減することができる。

【３２６２】

また、省エネモード中において、スピーカからは、音声を非出力とし、消音している。つまり、スピーカからは、何らの音も聞こえない無音状態（非可聴状態）にしている。また、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）やランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）については、ＬＥＤが消灯するようにしている。これにより、所定時間にわたって遊技されていない遊技機が過剰に電力を消費してしまうことを回避することができる。なお、ランプＣについては、通常の待機状態と同じく、基準輝度確認用態様でＬＥＤを発光可能にしている。これにより、ランプＣについては、ランプＡ，ＢのようにＬＥＤが消灯しておらず、遊技機が正常に稼働している旨を把握

することができる。
【３２６３】
　また、本例では、省エネモードが開始されるよりも前（タイミングｔ１～ｔ２の期間）に遊技者が操作部（ハンドル１６０や演出操作ユニット２５０等）を操作したときには、省エネモードの実行を制限することが可能になっている。具体的には、２回目のデモンストレーションが終了することで省エネモードの開始条件が成立し、省エネモードに移行するようにしているが、省エネモードが開始されるよりも前のデモンストレーション期間に遊技者が操作部を操作したときには、そのデモンストレーション期間が強制的に終了となることで省エネモードの開始条件が成立せず、省エネモードに移行することがない。これにより、通常の待機状態において、省エネモードに移行したくない場合には、省エネモードが開始されるよりも前に操作部を操作すればよく、省エネモードが望まずに実行されることを防止することができる。
【３２６４】
　次いで、省エネモード中のタイミングｔ３の時点で、第一始動口２００２や第二始動口２００４に入賞して特別図柄の変動表示を開始すると、省エネモードを終了し、特別図柄の変動表示に対応した変動演出（変動パターンに基づく演出）を実行している。この変動演出では、装飾図柄の変動表示を表示しているが、装飾図柄の変動表示については、演出表示装置１６００の下位レイヤにて表示している。また、変動演出を開始した後にも、事前告知表示を継続して表示している。これにより、近い時期に遊技が制限される旨を遊技者が把握することができる。
【３２６５】
　また、特別図柄の変動表示中において、スピーカからは、所定のＢＧＭとして、変動演出に対応する音声が出力されている。また、特別図柄の変動表示中において、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）やランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）については、通常報知態様として、変動演出に対応する報知態様でＬＥＤが点灯や点滅を行うようにしている。また、特別図柄の変動表示中において、ランプＣについては、変動演出に関係なく、基準輝度確認用態様として、特定の輝度でＬＥＤを発光可能にしている。
【３２６６】
　次いで、特別図柄の変動表示中のタイミングｔ４の時点で、第一始動口２００２や第二始動口２００４等の入賞口への入賞により出玉量が特定値に達して遊技の制限を実行すると、特別図柄の変動表示や変動演出を終了して、遊技の進行を不能とする打ち止め状態に移行する。上述した通り、各入賞口への入賞により生ずる賞球に基づく演算で出玉量が特定値に達すると、打ち止め状態になって遊技が制限されるが、本例では、こうした遊技の制限を、特別図柄の変動表示中に制御するようにしている。
【３２６７】
　そして、タイミングｔ４の時点で、打ち止め状態に移行した場合、演出表示装置１６００では、打ち止め状態に対応する画像として、進行不能表示を表示している。進行不能表示としては、「遊技制限」というメッセージを表示し、それに伴い「１日の出玉制限〇〇〇発に達したので遊技を制限しています。」、「係員をお呼び下さい。」、「精算ボタンは有効です。」というメッセージを表示している。また、進行不能表示については、上述の通り、演出表示装置１６００の上位レイヤにて表示している。これにより、進行不能表示の視認性が阻害されることがなく、出玉量が特定値に達して遊技の制限が実行されている旨を把握することができる。
【３２６８】
　また、本例の進行不能表示については、演出表示装置１６００の上位レイヤにて、不透明の暗転表示（例えば黒色の背景画像）からなる画面上にメッセージを表示するようにしている。この暗転表示は、演出表示装置１６００の略全面で行われる。これにより、上位レイヤよりも下位のレイヤに表示される画面については、上位レイヤにおける暗転表示により視認不能となっている。具体的には、タイミングｔ４の時点で、打ち止め状態に移行

した後にも、演出表示装置１６００の下位レイヤにて待機表示２としてのデモンストレーション画像を表示可能としているが、演出表示装置１６００の上位レイヤにて演出表示装置１６００の略全面を用いて進行不能表示が表示されていることで、デモンストレーション画像については視認不能となっている。これにより、打ち止め状態に移行した後には、進行不能表示の表示中にデモンストレーション期間であることを遊技者が認識することがなく、出玉量が特定値に達して遊技の制限が実行されている旨を確実に把握することができる。なお、打ち止め状態に移行した後には、特別図柄を変動表示していない通常の待機状態が所定期間（例えば３０秒）経過したか否かにかかわらず、そもそも演出表示装置１６００の下位レイヤにてデモンストレーション画像を表示しないように制限してもよい。

【３２６９】

また、打ち止め状態に移行した後には、演出表示装置１６００では、打ち止め状態に対応する画像として、演出表示装置１６００の略全面を用いて進行不能表示を表示している。このとき、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、進行不能時の動作を実行するのに伴い、報知態様Ａとして、予め定められた特定の光量（例えば最大光量）と予め定められた特定の音量（例えば最大音量）とからなる強調態様での報知を、設定調節ボタン２０４の操作による設定状況に拘らず強制的に実行している。具体的には、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）については、白色単色発光で、ＬＥＤが点滅や点灯を特定の光量（例えば最大光量）で行うようにし、スピーカからは、「１日の出玉制限に達したので遊技を制限しています」という音声を特定の音量（例えば最大音量）で出力している。これにより、ホール管理者に向けて、打ち止め状態に移行した旨を明確に知らせることができる。なお、打ち止め状態に関連する強調態様での報知は、異常等の他のエラー時に行われる報知の態様とは異なる態様としておくことが好ましい。

【３２７０】

そして、報知態様Ａとしての強調態様での報知を開始した後、所定期間（例えば、１５秒）が経過したタイミングｔ５の時点で、演出表示装置１６００については、演出表示装置１６００の略全面を用いて進行不能表示を維持するものの、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）については、報知態様Ｂとして、光量を抑制した抑制態様での報知に移行している。具体的には、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）については、ＬＥＤが白色単色発光を継続しつつも、特定の光量（例えば最大光量）での点滅や点灯を行わないようにしている（特定の光量よりも小さい光量で点滅や点灯を行うようにしている）。また、スピーカからは、「１日の出玉制限に達したので遊技を制限しています」という音声自体を出力しないようにして、何らの音も聞こえない無音状態（非可聴状態）にしている。これにより、打ち止め状態中であっても、強調態様での報知を終了し、周囲の遊技者に対して遊技の妨げとなることを防止することができる。

【３２７１】

なお、本例の抑制態様については、強調態様よりも光量を抑制したものであればよく、例えば、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）については、強調態様とは発光色のパターンを変更して複数色発光でＬＥＤが点滅や点灯を行うようにしてもよい。これにより、打ち止め状態となって遊技されなくなった遊技機であっても、装飾効果を保つことができ、遊技ホール全体の活気づけの役割を担わせることができる。

【３２７２】

また、打ち止め状態に移行した後、ランプＣについては、ランプＡ，Ｂが報知態様Ａとしての強調態様であるか、報知態様Ｂとしての抑制態様であるかにかかわらず、基準輝度確認用態様として、特定の輝度でＬＥＤを発光可能にしている。これにより、ランプＡ，Ｂについては、特定の輝度であるランプＣと比較して、報知態様Ａとしての強調態様であ

るか、報知態様Ｂとしての抑制態様であるかを判断しやすいものとなっている。
【３２７３】
次いで、タイミングｔ６の時点で、ランプＡ，Ｂが報知態様Ｂとしての抑制態様に移行してから所定時間（例えば５分）が経過したときには、音声およびランプの省電力化を強める省エネモードを打ち止め状態中に併発させるようにし、演出表示装置１６００では、省エネモードに対応する画像として、省エネ表示を表示している。省エネ表示としては、「省エネモード中」というメッセージを表示している。打ち止め状態中に省エネモードを併発させた後には、打ち止め状態中であるために特別図柄の変動表示を開始することができず、始動入賞があったとしても省エネモードを終了させることができないが、遊技者が操作部（ハンドル１６０や演出操作ユニット２５０等）を操作することによっても、省エネモードを終了することができないようにしている。ただし、省エネモードに移行した後にも、進行不能表示を継続して表示するようにしておくことで、省エネモードが発生していたとしても、新規の遊技者が打ち止め状態である旨を認識しないまま遊技を開始してしまうことを回避することができる。
【３２７４】
本例では、省エネ表示については、進行不能表示と同じく、演出表示装置１６００の上位レイヤにて表示している。ただし、省エネ表示が表示されている特定領域２については、進行不能表示が表示されている特定の表示領域１に対し、特定の表示領域１外とし、特定の表示領域１とは異なる位置に設けられている。これにより、演出表示装置１６００の上位レイヤにて進行不能表示が表示されている間であっても省エネ表示の視認性を確保でき、省エネモードが実行されている旨を確実に知らせることができる。
【３２７５】
なお、本例の省エネ表示については、進行不能表示と同じく、演出表示装置１６００の上位レイヤにて表示しているが、「上位レイヤ＞中位レイヤ＞下位レイヤ」という関係のなかで中位レイヤにて表示するようにしてもよい。このような場合、本例の進行不能表示については、演出表示装置１６００の上位レイヤにて、不透明の暗転表示（例えば黒色の背景画像）からなる画面上にメッセージを表示するようにしているため、中位レイヤに表示されている省エネ表示については、上位レイヤにおける暗転表示により視認することが不能になっている。
【３２７６】
また、本例の省エネ表示については、進行不能表示と同じく、演出表示装置１６００の上位レイヤにて表示しているが、省エネ表示については、演出表示装置１６００の上位レイヤにて表示するのに対し、進行不能表示については、「上位レイヤ＞中位レイヤ＞下位レイヤ」という関係のなかで中位レイヤにて表示するようにしてもよい。これにより、演出表示装置１６００の中位レイヤにて進行不能表示が表示されている間であっても省エネ表示の視認性を確保でき、省エネモードが実行されている旨を確実に知らせることができる。なお、演出表示装置１６００の中位レイヤにて進行不能表示が表示されている特定の表示領域１については、演出表示装置１６００の上位レイヤにて省エネ表示が表示されている特定の表示領域２に対し、特定の表示領域２外とし、特定の表示領域２と前後方向で一切重ならない位置に設けられることが好ましい。これにより、演出表示装置１６００の上位レイヤにて省エネ表示が表示されている間であっても進行不能表示の視認性を確保でき、遊技が制限されている旨を確実に知らせることができる。また、演出表示装置１６００の中位レイヤにて進行不能表示が表示されている特定の表示領域１については、その特定の表示領域１の一部が特定の表示領域２と前後方向で重なる位置に設けられてもよく、例えば、進行不能表示については、特定の表示領域１と特定の表示領域２とが重なっていたとしても、その進行不能表示の内容が確認できる程度に省エネ表示から上下方向あるいは左右方向にずらして表示するようにしてもよい。
【３２７７】
また、本例では、デモンストレーション期間に実行されていた待機表示２については、省エネモードに移行した時点で、終了するようにしている。待機表示２については、演出

表示装置１６００の下位レイヤに表示しているため、例えば、省エネモードに移行した後に継続して表示するようにしても、上位レイヤに表示されている省エネ表示が視認できなくなることがないが、省エネモードに移行した時点で終了することで、周辺制御基板１５１０の制御負担を軽減することができる。

【３２７８】

また、本例の進行不能表示については、演出表示装置１６００の上位レイヤにて、不透明の暗転表示（例えば黒色の背景画像）からなる画面上にメッセージを表示するようにしている。この暗転表示は、演出表示装置１６００の略全面で行われる。これにより、上位レイヤよりも下位のレイヤに表示される画面については、上位レイヤにおける暗転表示により視認不能となっている。具体的には、タイミングｔ４の時点で、打ち止め状態に移行した後にも、演出表示装置１６００の下位レイヤにて待機表示２としてのデモンストレーション画像を継続して表示しているが、演出表示装置１６００の上位レイヤにて演出表示装置１６００の略全面を用いて進行不能表示が表示されていることで、デモンストレーション画像については視認不能となっている。これにより、打ち止め状態に移行した後には、進行不能表示の表示中にデモンストレーション期間であることを遊技者が認識することがなく、出玉量が特定値に達して遊技の制限が実行されている旨を確実に把握することができる。なお、打ち止め状態に移行した後には、特別図柄を変動表示していない通常の待機状態が所定期間（例えば３０秒）経過したか否かにかかわらず、そもそも演出表示装置１６００の下位レイヤにてデモンストレーション画像を継続して表示しないように強制終了させてもよい。

【３２７９】

また、省エネモード中において、スピーカからは、音声を非出力とし、消音している。つまり、スピーカからは、何らの音も聞こえない無音状態（非可聴状態）にしている。また、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）やランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）については、ＬＥＤが消灯するようにしている。これにより、打ち止め状態にあって遊技することができない遊技機が過剰に電力を消費してしまうことを回避することができる。なお、ランプＣについては、通常の待機状態と同じく、基準輝度確認用態様でＬＥＤを発光可能にしている。これにより、ランプＣについては、ランプＡ，ＢのようにＬＥＤが消灯しておらず、遊技機が正常に稼働している旨を把握することができる。

【３２８０】

このように、打ち止め状態中に省エネモードに移行した場合には、通常の待機状態中に省エネモードに移行した場合と同じく、スピーカからは、音声を非出力として消音し、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）やランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）については、ＬＥＤが消灯するようにし、省電力化している。一方、通常の待機状態中に省エネモードに移行した場合には、演出表示装置１６００に省エネ表示が表示されているが、打ち止め状態中に省エネモードに移行した場合には、演出表示装置１６００に省エネ表示だけでなく、省エネ表示とは異なる領域（特定の表示領域１）に進行不能表示が表示されている。これにより、省エネモード中において、通常の待機状態で遊技の開始が可能であるか、打ち止め状態で遊技が制限されているかを判別することができ、新規の遊技者が打ち止め状態である旨を認識しないまま遊技を開始してしまうことを回避することができる。

【３２８１】

また、本例では、打ち止め状態中において、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）については、報知態様Ａ（強調態様）から報知態様Ｂ（抑制態様）に移行し、打ち止め状態中に省エネモードを併発させた後にＬＥＤが消灯するようにしている。また、打ち止め状態中において、スピーカからは、報知態様Ａ（強調態様）から消音し、打ち止め状態中に省エネモードを併発させた後に消音を継続するようにしている。このように、打ち止め状態中には、段階的に各種演出部材の省電力化を実行することで、省電力化の際に打ち止め

状態の終了時であるとの勘違いを防止しながらも、打ち止め状態にあって遊技することができない遊技機が過剰に電力を消費してしまうことを回避することができる。

【３２８２】

また、本例では、打ち止め状態中に省エネモードを併発させた後には、打ち止め状態中であるために特別図柄の変動表示を開始することができず、始動入賞があったとしても省エネモードを終了させることができないものであり、遊技者が操作部（ハンドル１６０や演出操作ユニット２５０等）を操作することによっても、省エネモードを終了することができないようにしている。つまり、打ち止め状態中に省エネモード（省電力化状態）を併発して省電力化した後には、省エネモードを併発するよりも前の省電力化していない状態への復帰が不能とされている。これにより、省電力化していない状態へ復帰して打ち止め状態が終了したかのように思わせることがなく、打ち止め状態中であるかどうかについて、遊技者が把握しがたくなることを防止することができる。

【３２８３】

また、本例では、打ち止め状態中に省エネモードが開始されるよりも前（タイミングｔ４～ｔ６の期間）に遊技者が操作部（ハンドル１６０や演出操作ユニット２５０等）を操作したとしても、省エネモードの実行を制限することが不能になっている。具体的には、ランプＡ，Ｂが報知態様Ｂとしての抑制態様に移行してから所定時間（例えば５分）が経過することで打ち止め状態中に省エネモードの開始条件が成立し、打ち止め状態中に省エネモードに移行するようにしているが、打ち止め状態中に省エネモードが開始されるよりも前に遊技者が操作部を操作したとしても、打ち止め状態中における省エネモードの開始条件の成立には関係がなく、打ち止め状態中に省エネモードに移行するものとしている。なお、詳しくは上記したが、通常の待機状態においては、省エネモードが開始されるよりも前（タイミングｔ１～ｔ２の期間）に遊技者が操作部（ハンドル１６０や演出操作ユニット２５０等）を操作したときに、省エネモードの実行を制限することが可能になっている。このように、打ち止め状態中には、省エネモードの実行を制限しないで必ず実行することで、打ち止め状態にあって遊技することができない遊技機が過剰に電力を消費してしまうことを回避することができる。

【３２８４】

また、上述した例では、打ち止め状態中に省エネモードを併発させた後には、打ち止め状態中であるために特別図柄の変動表示を開始することができず、始動入賞があったとしても省エネモードを終了させることができないものであり、遊技者が操作部（ハンドル１６０や演出操作ユニット２５０等）を操作することによっても、省エネモードを終了することができないようにしている。つまり、打ち止め状態中に省エネモード（省電力化状態）を併発して省電力化した後には、省エネモードを併発するよりも前の省電力化していない状態への復帰が不能とされているが、これに代えて以下のように省エネモードを併発するよりも前の省電力化していない状態への復帰を抑制するようにしても良い。すなわち、打ち止め状態中に省エネモードを併発させた後には、打ち止め状態中であるために特別図柄の変動表示を開始することはできず、始動入賞があったとしても省エネモードを終了させることができないものの、遊技者が操作部（ハンドル１６０や演出操作ユニット２５０等）を操作したことに応じて省エネモードのみを終了できるようにしてもよい。ここで、遊技者が操作部（ハンドル１６０や演出操作ユニット２５０等）を操作したことに応じて打ち止め状態中に併発していた省エネモードを終了させた場合は、打ち止め状態における報知態様Ａを改めて実行するようにしても良く、これにより新規の遊技者に対して打ち止め状態である旨を確実に認識させることができる。また、打ち止め状態中に併発していた省エネモードを終了した後にも、進行不能表示は継続して表示されるため、省エネモードが終了したとしても、新規の遊技者が打ち止め状態である旨を認識しないまま遊技を開始してしまうことを回避することができる。

【３２８５】

上記した例では、省エネモード設定スイッチがＯＮ操作された状態にて、打ち止め状態中に省エネモードに移行することで、待機電力の省電力化を強めるようにしているが、別

例として、省エネモード設定スイッチがＯＮ操作された状態でありながらも、打ち止め状態中に省エネモードに移行させず、別の制御により音声およびランプの省電力化を強めるようにし、待機電力の省電力化を図るようにしてもよい。このような別例について、以下に説明する。

【３２８６】

図２４９は、打ち止め状態中に報知態様Ｃに移行する場合における発光や音声に関する報知態様を比較するテーブルである。別例では、打ち止め状態中に省エネモードを併発することがないものの、打ち止め状態中に省エネモードに類似した態様に報知態様が変化するものとしている。なお、通常の待機状態や省エネモードについては、打ち止め状態中に省エネモードに移行する場合と同じであるため、説明を省略している。

【３２８７】

別例の打ち止め状態中では、打ち止め状態に対応する画像として、進行不能表示を表示しているが、進行不能表示については、演出表示装置１６００の上位レイヤにて表示している。また、打ち止め状態に移行した時点では、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、報知態様Ａとして、予め定められた特定の光量（例えば最大光量）と予め定められた特定の音量（例えば最大音量）とからなる強調態様での報知を実行しているが、所定期間（例えば、１５秒）が経過した時点で、報知態様Ｂとして、光量や音量を抑制した抑制態様での報知に移行するようにしている。具体的には、所定期間（例えば、１５秒）が経過した時点で、スピーカからは、音声を非出力とし、消音している。

【３２８８】

そして、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）については、報知態様Ｂに移行してから所定時間（例えば、５分）が経過した時点で、報知態様Ｂよりもさらに光量を抑制した報知態様Ｃに移行し、ＬＥＤが消灯するようにしている。このとき、スピーカからは、音声を非出力とし、消音した状態を継続している。なお、ランプＣについては、通常の待機状態と同じく、基準輝度確認用態様でＬＥＤを発光可能にしてもよいが、打ち止め状態という性質上、設定調節ボタン２０４の操作がされないことを考慮して、特定の発光開始条件が満たされるか否かに拘わらず、ランプＣは消灯状態を継続するようにしてもよい。

【３２８９】

図２５０は、打ち止め状態中に報知態様Ｃに移行する場合におけるパチンコ機の挙動を示すタイムチャートである。以下では、省エネモード設定スイッチがＯＮ操作された状態を前提として説明する。なお、タイミングｔ４の時点で、出玉量が特定値に達して遊技の制限を実行するまでの挙動については、打ち止め状態中に省エネモードに移行する場合と同じであるため、説明を省略している。

【３２９０】

まず、タイミングｔ４の時点で、打ち止め状態に移行した後には、特別図柄を変動表示していない通常の待機状態が所定期間（例えば３０秒）経過したか否かにかかわらず、そもそも演出表示装置１６００の下位レイヤにてデモンストレーション画像を表示しないように制限している。デモンストレーション画像（待機表示１）については、演出表示装置１６００の下位レイヤに表示しているため、例えば、打ち止め状態に移行した後に表示可能にしても、上位レイヤに表示されている進行不能表示が視認できなくなることがないが、打ち止め状態に移行した時点で制限することで、周辺制御基板１５１０の制御負担を軽減することができる。

【３２９１】

また、打ち止め状態に移行した後には、演出表示装置１６００では、打ち止め状態に対応する画像として、演出表示装置１６００の略全面を用いて進行不能表示を表示している。このとき、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、スピーカについては、進行不能時の動作を実行するのに伴い、報知態様Ａとして、予め定められた特定の光量（例えば最大

光量）と予め定められた特定の音量（例えば最大音量）とからなる強調態様での報知を、設定調節ボタン２０４の操作による設定状況に拘らず強制的に実行している。具体的には、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）については、白色単色発光で、ＬＥＤが点滅や点灯を特定の光量（例えば最大光量）で行うようにし、スピーカからは、「１日の出玉制限に達したので遊技を制限しています」という音声を特定の音量（例えば最大音量）で出力している。これにより、ホール管理者に向けて、打ち止め状態に移行した旨を明確に知らせることができる。なお、打ち止め状態に関連する強調態様での報知は、異常等の他のエラー時に行われる報知の態様とは異なる態様としておくことが好ましい。

【３２９２】

そして、報知態様Ａとしての強調態様での報知を開始した後、所定期間（例えば、１５秒）が経過したタイミングｔ５の時点で、演出表示装置１６００については、演出表示装置１６００の略全面を用いて進行不能表示を維持するものの、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）については、報知態様Ｂとして、光量を抑制した抑制態様での報知に移行している。具体的には、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）については、ＬＥＤが白色単色発光を継続しつつも、特定の光量（例えば最大光量）での点滅や点灯を行わないようにしている（特定の光量よりも小さい光量で点滅や点灯を行うようにしている）。また、スピーカからは、「１日の出玉制限に達したので遊技を制限しています」という音声自体を出力しないようにして、何らの音も聞こえない無音状態（非可聴状態）にしている。これにより、打ち止め状態中であっても、強調態様での報知を終了し、周囲の遊技者に対して遊技の妨げとなることを防止することができる。

【３２９３】

なお、本例の抑制態様については、強調態様よりも光量を抑制したものであればよく、例えば、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）については、強調態様とは発光色のパターンを変更して複数色発光でＬＥＤが点滅や点灯を行うようにしてもよい。これにより、打ち止め状態となって遊技されなくなった遊技機であっても、装飾効果を保つことができ、遊技ホール全体の活気づけの役割を担わせることができる。

【３２９４】

また、打ち止め状態に移行した後、ランプＣについては、ランプＡ，Ｂが報知態様Ａとしての強調態様であるか、報知態様Ｂとしての抑制態様であるかにかかわらず、基準輝度確認用態様として、特定の輝度でＬＥＤを発光可能にしている。これにより、ランプＡ，Ｂについては、特定の輝度であるランプＣと比較して、報知態様Ａとしての強調態様であるか、報知態様Ｂとしての抑制態様であるかを判断しやすいものとなっている。

【３２９５】

次いで、タイミングｔ６の時点で、ランプＡ，Ｂが報知態様Ｂとしての抑制態様に移行してから所定時間（例えば５分）が経過したときには、演出表示装置１６００については、演出表示装置１６００の略全面を用いて進行不能表示を維持するものの、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）については、報知態様Ｃとして、報知態様Ｂよりもさらに光量を抑制し、ＬＥＤが消灯するようにしている。これにより、打ち止め状態にあって遊技することができない遊技機が過剰に電力を消費してしまうことを回避することができる。また、スピーカからは、「１日の出玉制限に達したので遊技を制限しています」という音声自体を出力しないようにして、何らの音も聞こえない無音状態（非可聴状態）を継続している。なお、ランプＣについては、通常の待機状態と同じく、基準輝度確認用態様として、特定の輝度でＬＥＤを発光可能にしている。これにより、ランプＣについては、ランプＡ，ＢのようにＬＥＤが消灯しておらず、遊技機が正常に稼働している旨を把握することができる。

【３２９６】
このように、打ち止め状態中に報知態様Ｃに移行した場合には、通常の待機状態中に省エネモードに移行した場合と同じく、スピーカからは、音声を非出力として消音し、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）やランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）については、ＬＥＤが消灯するようにし、省電力化している。一方、通常の待機状態中に省エネモードに移行した場合には、演出表示装置１６００に省エネ表示が表示されているが、打ち止め状態中に報知態様Ｃに移行した場合には、演出表示装置１６００に進行不能表示が表示されている。これにより、音声の出力停止やランプの消灯などが行われている期間において、通常の待機状態で遊技の開始が可能であるか、打ち止め状態で遊技が制限されているかを判別することができ、新規の遊技者が打ち止め状態である旨を認識しないまま遊技を開始してしまうことを回避することができる。

【３２９７】
また、本例では、打ち止め状態中において、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）、ランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）については、報知態様Ａ（強調態様）から報知態様Ｂ（抑制態様）に移行し、さらに報知態様Ｃ（消灯）に移行するようにしている。また、打ち止め状態中において、スピーカからは、報知態様Ａ（強調態様）から消音するようにしている。このように、打ち止め状態中には、段階的に各種演出部材の省電力化を実行することで、省電力化の際に打ち止め状態の終了時であるとの勘違いを防止しながらも、打ち止め状態にあって遊技することができない遊技機が過剰に電力を消費してしまうことを回避することができる。

【３２９８】
また、本例では、打ち止め状態中に報知態様Ｃに移行した後には、打ち止め状態中であるために特別図柄の変動表示を開始することができず、始動入賞があったとしても報知態様Ｃを終了させることができないものであり、遊技者が操作部（ハンドル１６０や演出操作ユニット２５０等）を操作することによっても、報知態様Ｃを終了することができないようにしている。つまり、打ち止め状態中に報知態様Ｃ（省電力化状態）に移行して省電力化した後には、報知態様Ｃに移行するよりも前の省電力化していない状態（報知態様Ａや報知態様Ｂ）への復帰が不能とされている。これにより、省電力化していない状態へ復帰して打ち止め状態が終了したかのように思わせることがなく、打ち止め状態中であるかどうかについて、遊技者が把握しがたくなることを防止することができる。

【３２９９】
また、本例では、打ち止め状態中に報知態様Ｃに移行するよりも前（タイミングｔ４～ｔ６の期間）に遊技者が操作部（ハンドル１６０や演出操作ユニット２５０等）を操作したとしても、報知態様Ｃへの移行を制限することが不能になっている。具体的には、ランプＡ，Ｂが報知態様Ｂとしての抑制態様に移行してから所定時間（例えば５分）が経過することで打ち止め状態中に報知態様Ｃの開始条件が成立し、打ち止め状態中に報知態様Ｃに移行するようにしているが、打ち止め状態中に報知態様Ｃに移行するよりも前に遊技者が操作部を操作したとしても、打ち止め状態中における報知態様Ｃの開始条件の成立には関係がなく、打ち止め状態中に報知態様Ｃに移行するものとしている。なお、詳しくは上記したが、通常の待機状態においては、省エネモードが開始されるよりも前（タイミングｔ１～ｔ２の期間）に遊技者が操作部（ハンドル１６０や演出操作ユニット２５０等）を操作したときに、省エネモードの実行を制限することが可能になっている。このように、打ち止め状態中には、報知態様Ｃへの移行を制限しないで必ず実行することで、打ち止め状態にあって遊技することができない遊技機が過剰に電力を消費してしまうことを回避することができる。

【３３００】
また、上述した例では、打ち止め状態中に報知態様Ｃに移行した後には、打ち止め状態中であるために特別図柄の変動表示を開始することができず、始動入賞があったとしても報知態様Ｃを終了させることができないものであり、遊技者が操作部（ハンドル１６０や

演出操作ユニット２５０等）を操作することによっても、報知態様Ｃを終了することができないようにしている。つまり、打ち止め状態中に報知態様Ｃ（省電力化状態）を併発して省電力化した後には、報知態様Ｃに移行するよりも前の省電力化していない状態（報知態様Ａや報知態様Ｂ）への復帰が不能とされているが、これに代えて以下のように報知態様Ｃに移行するよりも前の省電力化していない状態への復帰を抑制するようにしても良い。すなわち、打ち止め状態中に報知態様Ｃに移行した後には、打ち止め状態中であるために特別図柄の変動表示を開始することはできず、始動入賞があったとしても報知態様Ｃを終了させることができないものの、遊技者が操作部（ハンドル１６０や演出操作ユニット２５０等）を操作したことに応じて報知態様Ｃのみを終了できるようにしてもよい。ここで、遊技者が操作部（ハンドル１６０や演出操作ユニット２５０等）を操作したことに応じて打ち止め状態中に報知態様Ｃを終了させた場合は、打ち止め状態における報知態様Ａを改めて実行するようにしても良く、これにより新規の遊技者に対して打ち止め状態である旨を確実に認識させることができる。また、打ち止め状態中に報知態様Ｃを終了した後にも、進行不能表示は継続して表示されるため、報知態様Ｃが終了したとしても、新規の遊技者が打ち止め状態である旨を認識しないまま遊技を開始してしまうことを回避することができる。

【３３０１】

（打ち止め状態への強制的な移行について）

上述した通り、各入賞口への入賞により生ずる賞球に基づく演算で出玉量が特定値に達すると、打ち止め状態になって遊技が制限されるが、出玉量が特定値に達する直前の状況（例えば、出玉量が特定値に達するまでの残り個数が、１回の当り遊技の出玉量（１５００個等）に満たない個数の場合など）にある遊技機については、新規の遊技者が遊技を開始すると、早々に打ち止め状態に移行してしまう可能性がある。このため、出玉量が特定値に達する直前の状況にある遊技機については、管理者が意図的に打ち止め状態へ移行させるようにし、新規の遊技者が遊技開始早々に打ち止め状態に移行してしまうことを回避することが考えられる。ただし、管理者が意図的に打ち止め状態へ移行させるには、遊技球を入賞させ、該入賞により出玉量が特定値に達するようにすることが必要になるが、各入賞口への入賞により特別図柄の変動表示や当り遊技を発生させると各種の演出（変動演出や当り遊技中の入賞に伴う演出など）の発生により周囲に目立ってしまい他の遊技者に不信感を与えてしまう虞がある。また、そうした作業は管理者への負担が大きいものとなってしまう。そこで、本例では、出玉量が特定値に達する直前の状況にある場合に、他の遊技者に不信感を与えることを抑制するとともに管理者の負担を軽減する態様で容易に打ち止め状態を発生させることを可能にした構成について、以下に説明する。

【３３０２】

本例では、上述したように容易に打ち止め状態を発生させる管理者作業として、遊技盤５に設けられた賞球追加スイッチを操作する第１の管理者作業と、遊技盤５に設けられた賞球追加口に遊技球を入球させる第２の管理者作業の２パターンの管理者作業が設けられている。いずれの作業も当該遊技機の電源が投入されている状態であれば常時実行可能としている。以下、各作業について説明する。

【３３０３】

まず、第１の管理者作業について説明する。本例では、上記の遊技盤５の主制御基板１３１０に押下可能な賞球追加スイッチ（図示せず）が実装されており、本体枠４を開放することで操作可能になる。本体枠４が開放された状態でこの賞球追加スイッチが所定時間（本例では３秒）に亘って長押しされると、払出制御基板６３３（あるいは払出制御基板）側の制御を介さずに主制御基板１３１０側の制御により所定個数の賞球を強制的に付与して、出玉量の演算に反映させることとしている。この賞球数については、１００個が設定されている。つまり、第一始動口２００２や第二始動口２００４に遊技球が受入れられたときには、賞球数が１個であり、当り遊技中に大入賞口２００５に遊技球が受入れられたときには、賞球数が１０個または１３個であるのに対し、賞球追加スイッチが操作されたときには、賞球数が１００個であり、第一始動口２００２や第二始動口２００４、大入

賞口２００５よりも多くの賞球数が設定されている。これにより、出玉量が特定値に達する直前の状況にある場合に、管理者が賞球追加スイッチを１回操作することで、出玉量を一気に増大させることが可能であり、出玉量が特定値に達するまでの差分に対応する必要回数を操作することにより出玉量が特定値に達して打ち止め状態に早々に移行させることができる。なお、賞球追加スイッチは、遊技盤５の主制御基板１３１０に実装されるものに限らず、払出制御基板６３３（あるいは払出制御基板）に実装されるようにしてもよく、その場合には、払出制御基板６３３（あるいは払出制御基板）側から主制御基板１３１０側に操作情報および所定個数の賞球付与に関する情報を伝達して、出玉量の演算に反映させることとすればよい。

【３３０４】

次に、第２の管理者作業について説明する。上記した遊技盤５については、遊技領域５ａ内に打込まれた遊技球を受け入れた際に賞球を付与可能な各種の入賞口（第一始動口２００２や第二始動口２００４、大入賞口２００５など）が備えられているが、本例では、これらの入賞口とは別に、打ち止め状態の発生を容易化するための賞球追加口（図示せず）が設けられている。この賞球追加口については、他の入賞口と同様に遊技領域５ａ内に設けられており、大入賞口２００５等のような可変式ではなく常時開口しているものとされ、上方の入口部分からの入球が可能な構成（所謂ポケット式）とされている。ただし、賞球追加口は、その入口部分が所定部材によって閉鎖された態様（例えば、障害釘や樹脂壁が配置されて入球が阻害された態様）とされており、これにより、遊技者の発射操作を伴う通常の遊技で遊技領域５ａ内に打込まれた遊技球は賞球追加口に受入不能または受入困難としている。つまり、賞球追加口は他の入賞口に比べて入球可能性が低いものであり、遊技者の発射操作を伴う通常の遊技では、遊技球が賞球追加口に入賞する可能性が極めて低く、通常の遊技中に賞球追加口に遊技球が入賞してしまうことを抑制している。また、上述したように賞球追加口の入口部分は所定部材（障害釘や樹脂壁など）によって閉鎖されているものの、その所定部材は、賞球追加口の入口部分の上方に１．５個分の遊技球が位置できるスペースを空けて配置されており、遊技球の流下方向に対する入球は阻害するものの、賞球追加口の前方からの入球は阻害しないよう構成されている。これにより、賞球追加口には、扉枠３を開放した状態で管理者による手入れによって入球させることが可能とされる。

【３３０５】

第２の管理者作業として、扉枠３を開放した状態で管理者が賞球追加口に遊技球を１個入球させると、第１の管理者作業と同様に所定個数（１００個）の賞球が付与されるように設定されている。なお、賞球追加口への入球時は、通常の賞球処理と同様に、払出制御基板６３３（あるいは払出制御基板）側から主制御基板１３１０側へ所定個数の賞球付与に関する情報を伝達して、出玉量の演算に反映させることとしている。また、第１の管理者作業で上述したときと同様に、第一始動口２００２や第二始動口２００４に遊技球が受入れられたときには、賞球数が１個であり、当り遊技中に大入賞口２００５に遊技球が受入れられたときには、賞球数が１０個または１３個であるのに対し、賞球追加口に遊技球が受入れられたときには、賞球数が１００個であり、第一始動口２００２や第二始動口２００４、大入賞口２００５よりも多くの賞球数が設定されている。これにより、出玉量が特定値に達する直前の状況にある場合に、管理者が賞球追加口に遊技球を１個入球させることで、出玉量を一気に増大させることが可能であり、出玉量が特定値に達するまでの差分に対応する必要個数を入球させることにより出玉量が特定値に達して打ち止め状態に早々に移行させることができる。

【３３０６】

本例では、第１の管理者操作（賞球追加スイッチの操作）や第２の管理者操作（賞球追加口への入球）に伴い付与される特別な賞球は、プログラム変更等の制御複雑化を回避するために、できるだけ通常の賞球処理内で制御するようにしている。すなわち、本例では、この特別な賞球を通常の賞球処理内で制御するため、前述した主制御基板１３１０や払出制御基板６３３を用いたベース値に関する演算にもそのまま反映されることとなる。こ

のため、第１の管理者操作（賞球追加スイッチの操作）や第２の管理者操作（賞球追加口への入球）に伴い付与される特別な賞球の個数（所定個数）は、前述した１００個に限らず、１０００個あるいは１００００個といった個数にしてもよいが、出玉量が特定値に達するまでに必要となる個数以上の賞球付与によりベース値が異常値になってしまう影響を考慮して、本例では前述した「１００個」としており、ベース値が異常値になってしまう影響をできるだけ抑制することとしている。なお、ベース値が異常値になってしまう影響を抑制するのであれば、特別な賞球の個数を１００個よりも少ない個数に減少させてもよいが、特別な賞球を付与する際の作業性（作業回数）を考慮して、少なくとも第一始動口２００２や第二始動口２００４に遊技球が受入れられたときに付与される賞球数よりも多い個数にしておくことが好ましい。

【３３０７】

また、第１の管理者操作（賞球追加スイッチの操作）や第２の管理者操作（賞球追加口への入球）を用いた打ち止め状態への移行については、特別図柄の変動表示中や当り遊技中に限らず、特別図柄の変動表示が行われていない非遊技中における遊技待機状態中（通常の待機状態中や省エネモード中）であっても制御するようにしている。これにより、出玉量が特定値に達する直前の状況にある場合に、通常の待機状態中や省エネモード中において、管理者が賞球追加スイッチを操作したり賞球追加口に遊技球を入賞させたりすることで、特別な賞球により出玉量を増加させて特定値に達するようにすることができ、このような場合、特別図柄の変動表示や当り遊技を発生させることなく通常の待機状態や省エネモードから直接的に打ち止め状態に移行して遊技の制限を実行することが可能になる。このように、通常の待機状態中や省エネモード中に第１の管理者操作（賞球追加スイッチの操作）や第２の管理者操作（賞球追加口への入球）を行い、特別な賞球により出玉量を増加させて打ち止め状態に移行させることが可能であることから、打ち止め状態に移行する際に特別図柄の変動表示や当り遊技を発生させる必要がなく、管理者の作業にかかる負担を小さくすることができる。また、出玉量が特定値に達する直前の状況にある遊技機については、このような管理者操作により打ち止め状態に移行させることで、新規の遊技者が遊技して早々に打ち止め状態に移行してしまう、といった事態を事前に回避することができる。

【３３０８】

また、賞球追加口への入賞時には、該入賞を報知しないようにしている。例えば、第一始動口２００２や第二始動口２００４、大入賞口２００５への入賞時には、スピーカから入球音を出力し、該入賞を報知しているが、賞球追加口への入賞時には、スピーカから入球音を出力することがなく、該入賞を報知しないようにしている。また、賞球追加口への入賞時には、賞球の付与以外は何らの演出も行われないようにしている。例えば、第一始動口２００２や第二始動口２００４への入賞時には、演出表示装置１６００やランプ、スピーカ等を用いて装飾図柄の変動表示に関する変動演出が行われ、大入賞口２００５への入賞時には、演出表示装置１６００やランプ、スピーカ等を用いて当り中の演出が行われているが、賞球追加口への入賞時には、変動演出や当り中の演出等が行われることがなく、何らの演出も行われないようにしている。これにより、出玉量が特定値に達する直前の状況にある場合に、管理者が賞球追加口に遊技球を入賞させたとしても、周囲に目立つことなく管理者が打ち止め状態の発生に係る作業を行うことが可能になる。

【３３０９】

また、本例では、前述した待機演出２（デモンストレーション期間）や省エネモードを実行しているときに、第一始動口２００２や第二始動口２００４、大入賞口２００５への入賞が生ずると、待機演出２や省エネモードを終了して変動演出や当り中の演出等を開始するものとしている。しかしながら、待機演出２（デモンストレーション期間）や省エネモードを実行しているときに、賞球追加口への入賞が生じた場合には、待機演出２や省エネモードを終了させないようにするとともに、上述のように賞球追加口への入賞に伴う報知を行うことなく各制御を継続するようにしている。これにより、待機演出２や省エネモードを実行している状態において、管理者が賞球追加口に遊技球を入賞させたとしても、

出玉量が特定値に達しなかった場合には、待機演出２や省エネモードを終了させずに待機演出２や省エネモードの動作が継続することとなり、この点でも周囲に目立つことなく管理者が打ち止め状態の発生に係る作業を行うことが可能になる。

【３３１０】

なお、上述したように、いずれの作業も当該遊技機の電源が投入されている状態であれば常時実行可能としているが、不正に第１の管理者作業あるいは第２の管理者作業行為が行われた場合を想定して、第１の管理者作業と第２の管理者作業のいずれも無効化する所定の状態（作業無効化状態）を発生可能としても良い。作業無効化状態は、電源投入時操作の態様として所定の態様で電源投入が行われた場合に発生することを可能にしている。本例では、上記の遊技盤５の主制御基板１３１０に、賞球追加スイッチとは別に押下可能な作業無効化スイッチが実装されており、所定の態様での電源投入として、作業無効化スイッチが押下された状態での電源投入が設定されることで作業無効化状態が発生可能とされる。そして、作業無効化状態が発生した後には、電源が投入されている状態で所定の解除操作（本例では作業無効化スイッチの再度の押下操作）、あるいは電源の再投入が行われなければ、第１の管理者作業あるいは第２の管理者作業を有効にせず無効化することを可能にしている。このように作業無効化状態を発生させることで、不正に第１の管理者作業あるいは第２の管理者作業行為が行われても賞球の追加がされることを防止し、不正に賞球を増加させる不正行為を抑制することができる。

【３３１１】

また、賞球追加口に対して不正入賞が疑われる場合には、エラー報知を行うようにしている。具体的には、本例では、賞球追加口に対する入賞時は、上述したように何らの演出も行わないようにしているが、明らかに不正と疑われるような特定の状況下（例えば、出玉量が特定値に達するまで残り個数が１５００個以上の場合等）にて、賞球追加口に対して短期間に多数（本例では１分間以内に１５個）の遊技球が入賞したことを検知した場合には、１回の当り遊技の出玉量に匹敵する程度の追加賞球が行われることを異常とみなし、演出表示装置１６００やランプ、スピーカ等を用いて不正な賞球増を通知するエラー報知を行うようにしている。上述したように、賞球追加口については、遊技領域５ａ内に打込まれた遊技球を受入不能または受入困難としているため、通常の遊技では、賞球追加口に対して短期間に多数の遊技球が入賞するはずがない。この点、出玉量が特定値に達する直前の状況にある場合に、管理者が賞球追加口に５～１０個の遊技球を入賞させただけでは、不正な賞球増を通知するエラー報知を行うことがないのに対し、通常の遊技において、賞球追加口に対して短期間に多数の遊技球が入賞したときには、不正な賞球増を通知するエラー報知を行うことで、不正入賞により利益を得ようとする行為を防止することができる。なお、賞球追加スイッチに対して不正操作が疑われる場合にも、上述と同様に不正な賞球増を通知するエラー報知を行うようにしてもよい。

【３３１２】

また、本例では、打ち止め状態への移行については、本体枠４や扉枠３の閉鎖中に限らず、本体枠４や扉枠３の開放中であっても制御するようにしている。例えば、通常の遊技では、本体枠４の閉鎖中において、第一始動口２００２や第二始動口２００４、大入賞口２００５に遊技球を入賞させ、該入賞により出玉量が特定値に達するようにすることができるのに対し、本例の第１の管理者作業においては、出玉量が特定値に達する直前の状況にある場合には、本体枠４を開放したうえで、管理者が賞球追加スイッチを操作し、該操作に係る賞球追加により出玉量が特定値に達するようにすることができる。また、通常の遊技では、扉枠３の閉鎖中において、第一始動口２００２や第二始動口２００４、大入賞口２００５に遊技球を入賞させ、該入賞により出玉量が特定値に達するようにすることができるのに対し、本例の第２の管理者作業においては、出玉量が特定値に達する直前の状況にある場合には、扉枠３を開放したうえで、管理者が賞球追加口に遊技球を入賞させ、該入賞に係る賞球追加により出玉量が特定値に達するようにすることができる。このような場合、本体枠４や扉枠３を閉鎖することなく打ち止め状態に移行して遊技の制限を実行することが可能になる。このように本体枠４や扉枠３の開放中であっても打ち止め状態に

移行させることで、第１の管理者作業や第２の管理者作業を行っている管理者に打ち止め状態への移行を把握させ易くすることが可能になり、管理者の作業にかかる負担を小さくすることができる。

【３３１３】

ここで、通常の遊技中には、本体枠４や扉枠３が開放状態（特定状態）とされると、音、光、映像を用いて本体枠４や扉枠３の開放に関する通知（通常報知態様での特定報知）を行い、外部に伝えている。しかしながら、上述したように周囲に目立つことなく管理者が打ち止め状態の発生に係る作業（第１の管理者作業や第２の管理者作業）を行うことを考慮し、本例では、少なくとも前述した待機演出２（デモンストレーション期間）や省エネモードを実行しているときに、第１の管理者作業や第２の管理者作業が行われる場合には、本体枠４や扉枠３の開放に関する通知に関し、通常の遊技中よりも抑制された態様にする特殊な処理を行うようにしている。具体的には待機演出２（デモンストレーション期間）や省エネモードを実行しているときに、本体枠４や扉枠３が開放状態とされても、待機演出２や省エネモードを終了させないようにするとともに、通常の遊技中に行う本体枠４や扉枠３の開放に関する通知（音、光、映像を用いるもの全て。通常報知態様での特定報知）は一切行わずに各制御を継続するようにしている。これにより、待機演出２や省エネモードを実行している状態において、管理者が第１の管理者作業や第２の管理者作業を行ったとしても、出玉量が特定値に達しなかった場合には、待機演出２や省エネモードを終了させずに待機演出２や省エネモードの動作が継続することとなり、周囲に目立つことなく管理者が打ち止め状態の発生に係る作業を行うことが可能になる。また、待機演出２や省エネモード中に管理者が第１の管理者作業や第２の管理者作業を行ったとしても、本体枠４や扉枠３の開放に関する通知が行われず、周囲に目立つことなく管理者が打ち止め状態の発生に係る作業を行うことが可能になる。

【３３１４】

また、通常の遊技中に打ち止め状態へ移行した場合、その打ち止め状態への移行後には、本体枠４や扉枠３が開放状態（特定状態）とされていたとしても、本体枠４や扉枠３の開放に関する通知を通常の遊技中よりも抑制された態様にする特殊な処理を行うようにしている。具体的には、通常の遊技中に本体枠４や扉枠３が開放状態とされて打ち止め状態に移行した場合、通常の遊技に関する変動演出等が終了して打ち止め状態に関する報知が行われるものの、その打ち止め状態への移行後には、通常の遊技中に行う本体枠４や扉枠３の開放に関する通知（音、光、映像を用いるもの全て。通常報知態様での特定報知）は一切行わないようにしている。これにより、通常の遊技中に本体枠４や扉枠３が開放状態とされて管理者が第１の管理者作業や第２の管理者作業を行ったとしても、打ち止め状態への移行後には、本体枠４や扉枠３の開放に関する通知が行われず、周囲に目立つことなく管理者が打ち止め状態の発生後に係る作業を行うことが可能になる。

【３３１５】

同様に、待機演出２や省エネモードから打ち止め状態へ移行した場合、その打ち止め状態への移行後には、本体枠４や扉枠３が開放状態（特定状態）とされていたとしても、本体枠４や扉枠３の開放に関する通知を通常の遊技中よりも抑制された態様にする特殊な処理を、打ち止め状態中に引き続き行うようにしている。具体的には、待機演出２（デモンストレーション期間）や省エネモードを実行しているときに、本体枠４や扉枠３が開放状態とされて打ち止め状態に移行した場合、待機演出２や省エネモードが終了して打ち止め状態に関する報知が行われるものの、その打ち止め状態への移行前後の期間には、通常の遊技中に行う本体枠４や扉枠３の開放に関する通知（音、光、映像を用いるもの全て。通常報知態様での特定報知）は一切行わないようにしている。これにより、待機演出２や省エネモードから打ち止め状態に移行する過程において、管理者が第１の管理者作業や第２の管理者作業を行ったとしても、本体枠４や扉枠３の開放に関する通知が行われず、周囲に目立つことなく管理者が打ち止め状態の発生に係る作業を行うことが可能になる。

【３３１６】

また、本体枠４や扉枠３の閉鎖中に打ち止め状態に移行した後には、音、光、映像を用

いて打ち止め状態に関する通知（抑制後報知）を実行しているが、本体枠４や扉枠３の開放中に打ち止め状態に移行した場合や、打ち止め状態中に閉鎖している本体枠４や扉枠３を開放した場合には、通常の遊技中に行う本体枠４や扉枠３の開放に関する通知（音、光、映像を用いるもの全て。通常報知態様での特定報知）は一切行わないものの、本体枠４や扉枠３の閉鎖中と同じく、打ち止め状態に関する通知（抑制後報知）は実行するようにしている。このように打ち止め状態中でありながらも本体枠４や扉枠３の開放中である場合には、打ち止め状態に関する通知のみが実行されることで、本体枠４や扉枠３が開放中に第１の管理者作業や第２の管理者作業を行っている管理者に打ち止め状態への移行を把握させ易くすることが可能になり、管理者の作業にかかる負担を小さくすることができる。

【３３１７】

なお、上記では、待機演出２（デモンストレーション期間）や省エネモード、打ち止め状態中に、本体枠４や扉枠３の開放に関する通知を一切行わないようにするものを例示したが、これとは別に、周囲に目立たない態様で本体枠４や扉枠３の開放に関する通知を行うようにしてもよい。例えば、別例では、管理者が第１の管理者作業や第２の管理者作業を行う際に、待機演出２（デモンストレーション期間）や省エネモード、打ち止め状態に関する動作中でありながらも、本体枠４や扉枠３の開放中に関する動作（本体枠４や扉枠３の開放に関する通知）を実行するようにしてもよい。また、通常の遊技中であれば、打ち止め状態に移行した後には、音、光、映像を用いて打ち止め状態に関する動作を実行しているが、打ち止め状態中でありながらも本体枠４や扉枠３の開放中である場合には、上記の演出要素の一部の演出要素については本体枠４や扉枠３の開放中に関する動作にも並行して用いるようにしてもよい。例えば、打ち止め状態中でありながらも本体枠４や扉枠３の開放中である場合には、上記の演出要素のうち外部からの目立ち度合が低い演出要素である演出表示装置１６００（映像）に限っては、打ち止め状態に対応する画像（進行不能表示）を行いつつも、本体枠４や扉枠３の開放中に対応する画像（開放通知表示）を、進行不能表示が表示されている領域とは異なる領域に表示するようにしてもよい。そして、開放中の本体枠４や扉枠３を閉鎖した場合には、演出表示装置１６００における開放通知表示を終了させて、打ち止め状態に関する動作（進行不能表示）のみが行われるようにすればよい。このような場合、演出表示装置１６００に限っては、打ち止め状態に関する動作スケジュールに並行して本体枠４や扉枠３の開放中に対応する画像制御が実行されるようにでき、扉枠３を閉鎖した時点で、打ち止め状態に関する動作のみを実行することとなる。このようにすることで、本体枠４や扉枠３の開放に関する通知が行われたとしても、周囲に目立つことなく管理者が打ち止め状態の発生に係る作業を行うことが可能になる。

【３３１８】

また、上記では、待機演出２（デモンストレーション期間）や省エネモード、打ち止め状態中に、本体枠４や扉枠３の開放に関する通知を一切行わないようにするものを例示したが、磁石を用いたり振動を与えたりして各種入賞口に遊技球を入賞させる等の不正防止の観点や、遊技機を叩いて衝撃を与えたりして一部の部材に不具合を生じさせる等の不具合防止の観点から、不正な磁気や振動等を検出した特定状態であることに関する通知については、通常の遊技と同様に待機演出２（デモンストレーション期間）や省エネモード、打ち止め状態中に周囲に目立つように行うようにしている。なお、本例では、通知の優先度は「本体枠４や扉枠３の開放に関する通知＞特定状態であることに関する報知」にしているため、通知の優先度に従うならば、本体枠４や扉枠３の開放に関する通知を行わない場合に、上記した特定状態であることに関する報知も行わないように構成されるが、待機演出２（デモンストレーション期間）や省エネモード、打ち止め状態中は、通知の優先度に従わない制御を行うことにより、本体枠４や扉枠３の開放に関する通知を行わないものの、通常の遊技と同様に上記した特定状態であることに関する通知を行うようにしている。以上のようにすることで、待機演出２（デモンストレーション期間）や省エネモード、打ち止め状態中であっても不正や不具合を外部に通知し、不正や不具合を発生させる行為

の抑制を図ることができる。

【３３１９】

また、上記では、待機演出２（デモンストレーション期間）や省エネモード、打ち止め状態中に、本体枠４や扉枠３の開放に関する通知を一切行わないようにするものを例示したが、開放に関する通知に限らず、第１の管理者作業や第２の管理者作業に伴い発生する可能性のある通知については、周囲に目立たないようにすることを目的に、開放に関する通知と同様に待機演出２（デモンストレーション期間）や省エネモード、打ち止め状態中に抑制するようにしておいても良い。例えば、通常の遊技中に遊技球の払い出し関連のエラー報知（皿満タンエラーなど）を行うものの場合、第１の管理者作業や第２の管理者作業による賞球追加に伴い生ずる遊技球の払い出し関連のエラー報知（皿満タンエラーなど）については、上記した開放に関する通知と同様に、待機演出２（デモンストレーション期間）や省エネモード、打ち止め状態中に不実行、あるいは抑制して実行するようにしてもよい。

【３３２０】

図２５１は、省エネモード中に第１の管理者作業や第２の管理者作業が行われて打ち止め状態に移行する場合におけるパチンコ機の挙動を示すタイムチャートである。以下では、省エネモード設定スイッチがＯＮ操作された状態を前提として説明する。なお、タイミングｔ２～ｔ３の時点で、省エネモード中に賞球追加スイッチの操作または賞球追加口への入賞が生じて打ち止め状態に移行する点を除いては、図２４８に示した特別図柄の変動表示中に各入賞口に入賞して打ち止め状態に移行する場合と同じであるため、説明を省略している。

【３３２１】

まず、省エネモード中のタイミングｔ３の時点で、賞球追加スイッチの操作または賞球追加口への入賞が生じたとしても、出玉量が特定値に達しなかった場合には、何らの演出も行うことなく、省エネモードに関する動作を継続している。このように、賞球追加スイッチの操作時または賞球追加口への入賞時には、賞球の付与以外は何らの演出も行われないようにすることで、周囲に目立つことなく出玉量を増加させることができる。

【３３２２】

また、図示していないが、仮にタイミングｔ３の時点で省エネモードが発生しておらず、通常の待機状態中であっても同じである。つまり、通常の待機状態中において、賞球追加スイッチの操作または賞球追加口への入賞が生じたとしても、出玉量が特定値に達しなかった場合には、何らの演出も行うことなく、通常の待機状態に関する動作を継続している。このように、賞球追加スイッチの操作時または賞球追加口への入賞時には、賞球の付与以外は何らの演出も行われないようにすることで、周囲に目立つことなく出玉量を増加させることができる。

【３３２３】

詳しくは上記したが、省エネモード中において、演出表示装置１６００には、上位レイヤの特定領域２に省エネ表示を表示し、出玉量が特定値に達するまでの残りの出玉量が所定値（例えば、５０００発）に達した後である場合に上位レイヤの特定領域１に事前告知表示を表示している。また、省エネモード中において、スピーカからは、音声を非出力とし、消音している。つまり、スピーカからは、何らの音も聞こえない無音状態（非可聴状態）にしている。また、ランプＡ（枠飾り部材の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）やランプＢ（遊技盤５の各種装飾基板に搭載されているＬＥＤ）については、ＬＥＤが消灯するようにしている。なお、ランプＣについては、通常の待機状態と同じく、基準輝度確認用態様でＬＥＤを発光可能にしている。これにより、ランプＣについては、ランプＡ，ＢのようにＬＥＤが消灯しておらず、遊技機が正常に稼働している旨を把握することができる。

【３３２４】

次いで、省エネモード中のタイミングｔ４の時点で、賞球追加スイッチの操作または賞球追加口への入賞が生じ、出玉量が特定値に達した場合には、遊技の制限を実行すること

となるが、この場合には、省エネモードに関する動作を終了させて、遊技の進行を不能とする打ち止め状態に移行する。上述した通り、各入賞口への入賞により生ずる賞球に基づく演算で出玉量が特定値に達すると、打ち止め状態になって遊技が制限されるが、本例では、こうした遊技の制限を、特別図柄の変動表示中や当り遊技中に限らず、省エネモード中であっても制御するようにしている。これにより、例えば、出玉量が特定値に達する直前の状況にある場合等に、省エネモードの終了条件とされていない賞球追加スイッチの操作または賞球追加口への入賞が生じ、これらによる賞球追加により出玉量が特定値に達するようにすることもでき、このような場合、特別図柄の変動表示を発生させることなく省エネモードから直接的に遊技の制限を実行することが可能になる。このように省エネモードから打ち止め状態に直接的に移行させることで、出玉量が特定値に達する直前の状況にある遊技機を遊技者が遊技して早々に打ち止め状態に移行してしまう、といった事態を事前に回避することができる。

【３３２５】

また、図示していないが、仮にタイミングｔ４の時点で省エネモードが発生しておらず、通常の待機状態中であっても同じである。つまり、通常の待機状態中において、賞球追加スイッチの操作または賞球追加口への入賞が生じたとしても、出玉量が特定値に達した場合には、遊技の制限を実行することとなるが、この場合には、通常の待機状態に関する動作を終了させて、遊技の進行を不能とする打ち止め状態に移行する。上述した通り、各入賞口への入賞により生ずる賞球に基づく演算で出玉量が特定値に達すると、打ち止め状態になって遊技が制限されるが、本例では、こうした遊技の制限を、特別図柄の変動表示中や当り遊技中に限らず、通常の待機状態中であっても制御するようにしている。これにより、例えば、出玉量が特定値に達する直前の状況にある場合等に、通常の待機状態の終了条件とされていない賞球追加スイッチの操作または賞球追加口への入賞が生じ、これらによる賞球追加により出玉量が特定値に達するようにすることもでき、このような場合、特別図柄の変動表示等の各種演出を発生させることなく通常の待機状態から直接的に遊技の制限を実行することが可能になる。このように通常の待機状態から打ち止め状態に直接的に移行させることで、出玉量が特定値に達する直前の状況にある遊技機を遊技者が遊技して早々に打ち止め状態に移行してしまう、といった事態を事前に回避することができる。

【３３２６】

また、打ち止め状態に移行した後については、図２４８に示した特別図柄の変動表示中に各入賞口に入賞して打ち止め状態に移行する場合と同じであるため、説明を省略している。なお、打ち止め状態に移行した後については、図２５０に示した特別図柄の変動表示中に各入賞口に入賞して打ち止め状態に移行する場合のように、打ち止め状態中に省エネモードに移行させず、別の制御により音声およびランプの省電力化を強めるようにしてもよい。また、打ち止め状態に移行した後については、賞球追加スイッチの操作または賞球追加口への入賞が生じたとしても、賞球を付与することがない。

【３３２７】

また、本体枠４に対して扉枠３を閉鎖したままで、管理者が賞球追加口に遊技球を入賞可能にしてもよい。具体的には、扉枠３において、賞球追加口にアクセス可能な開口部を設けるようにし、通常時には開口部を所定の閉鎖部材（本例では透明な板状の平板部材）によって外部から視認可能な状態で閉鎖し、第２の管理者作業時には閉鎖部材を開放状態にして開口部を開放して管理者が開口部を介して賞球追加口に遊技球を入賞させることを可能にしている。また、閉鎖部材を開放状態にして開口部を開放する際には、管理者が所有する鍵が必要とされており、その鍵を鍵穴に挿入して回動させることで、閉鎖部材を開放部から離脱させるようにすることを可能にしている。これにより、第２の管理者作業時に扉枠３を開放する必要がなく、周囲に目立つことなく管理者が作業を行うことが可能になる。

【３３２８】

また、賞球追加口は管理者作業を行う対象とされる点を鑑みれば、遊技盤５における外

部から把握できる位置にしておくことが好ましいが、不正対策の観点を鑑みれば、外部から分かり難い位置にしておくことが好ましい。そこで、例えば、賞球追加口を配置する箇所としては、他の入球口が設けられる部材に一体化しておくとともに、他の入球口の前面側にのみ所定のシンボルやマーキング等の特殊な表記（たとえばＩＮ等の入球が可能であることを示す文字等）を記しておく一方で、賞球追加口の前面側には特殊な表記を何ら記さないようにしておくことが好ましい。これにより、賞球追加口を外部から把握できるものの、分かり難い位置にしておくことが可能になり、管理者作業及び不正対策の両面で効果的に作用させることができる。また、賞球追加口を外部（特に遊技者）から分かり難い位置にしておく際には、賞球追加口の配置する部材を、ＬＥＤ等の発光部を有さずに発光装飾を受けない非発光装飾部材として設けておくことが好ましい。

【３３２９】

また、上記では、賞球追加口を遊技盤５に１つ設ける構成を例示したが、遊技球入球させる管理者作業をより迅速（円滑に）行う点を鑑みて、賞球追加口を遊技盤５に複数設ける構成としてもよい。また、賞球追加口を遊技盤５に複数設ける構成とする場合、上記した特殊な表記は、複数の賞球追加口の各々のいずれにも記さないようにしておけばよい。また、賞球追加口を遊技盤５に複数設ける構成とする場合は、複数の賞球追加口を一の部材に纏めて配置しユニット化し、且つ、隣接させる等して比較的近い位置関係にしておくようにすれば、管理者作業の利便性を一層高めることが可能になる。

【３３３０】

［２１－２．各種当り遊技中に出玉量が特定値に達した場合について］

上記では、大当り遊技中に出玉量が特定値に達した場合に、直ぐには打ち止め状態へ移行せず、大当り遊技の終了後に打ち止め状態へ移行するようにしてもよい旨を記載している。すなわち、大当り遊技における複数のラウンドの途中で、出玉量が特定値に達した場合には、最終のラウンドが終了するまでの間、大当り遊技を継続することが可能であり、出玉量が特定値に達した後にも遊技を継続してその大当り遊技で付与される賞球を遊技者に獲得させることが可能になっている。ところで、パチンコ機１には、賞球を付与する当り遊技として、様々な種類の当り遊技を搭載することが可能であるが、当り遊技の種類によって、その当り遊技中に出玉量が特定値に達した場合における打ち止め状態の発生タイミングを異なるものとすることが可能になっている。本例では、各種当り遊技中に出玉量が特定値に達した場合に、打ち止め状態がどのタイミングで発生するのかについて、以下に説明する。

【３３３１】

本例では、上述した遊技盤５において、以下の遊技仕様を用いている。まず、第一始動口２００２に遊技球が受け入れられると、第一特別図柄の抽選が実行される。第一特別図柄の抽選では、第一始動口２００２への入球時に取得した第一特別乱数と所定の小当り判定値とが１／１５０の確率で一致するようにし、所定の当落判定処理にて第一特別乱数と所定の小当り判定値とが一致したことが判定されることを条件に、「小当り」（上述の「役物当り」に相当）に当選するものとしている。また、第一特別図柄の抽選では、第一始動口２００２への入球時に取得した第一特別乱数と所定の大当り判定値とが１／３００の確率で一致するようにし、所定の当落判定処理にて第一特別乱数と所定の大当り判定値とが一致したことが判定されることを条件に、「大当りＢ」に当選するものとしている。

【３３３２】

具体的には、「小当り」に当選した場合に、役物入賞口２００６を所定の小当り開閉パターン（例えば０．３秒の開放と１秒の閉鎖を５回ずつ繰り返す開閉パターン）で開閉させて遊技球が役物入賞口２００６に入球可能（容易）な小当り遊技に制御し、役物入賞口２００６に入球した遊技球がＶ入賞口２００７に入球した場合には、引き続き「大当りＡ」を付与するものとしている。一方、小当り遊技において、遊技球がＶ入賞口２００７に入球せずに上述の小当り開閉パターンを終了した場合には、「大当りＡ」を付与することがなく、大当り遊技を開始することがない。そして、Ｖ入賞口２００７に入球して「大当りＡ」を付与した場合には、大入賞口２００５を長時間（例えば２９秒）に亘って継続し

て開放した後又は大入賞口２００５に遊技球が１０個入賞することで閉鎖させる大当り開閉パターンを１０回繰り返すことで遊技球が大入賞口２００５に入球可能（容易）な１０ラウンドの大当り遊技に制御し、大当り遊技の終了後に特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示が５０回実行されるまでの間、当該変動表示の実行期間を通常よりも短縮させる時短状態（低確率時短状態）に制御している。なお、１個の遊技球が大入賞口２００５に入球した場合には、１５個の遊技球を付与する（払い出す）仕様とし、１回の「小当り」および「大当りＡ」の大当り遊技においては、大入賞口２００５への入球とその他の入賞口への入球による約１５００発の遊技球が付与される（払い出される）見込みとなっている。

【３３３３】

また、「大当りＢ」に当選した場合には、大入賞口２００５を長時間（例えば２９秒）に亘って継続して開放した後又は大入賞口２００５に遊技球が１０個入賞することで閉鎖させる大当り開閉パターンを２０回繰り返すことで遊技球が大入賞口２００５に入球可能（容易）な２０ラウンドの特殊大当り遊技に制御し、特殊大当り遊技状態の終了後に特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示が５０回実行されるまでの間、当該変動表示の実行期間を通常よりも短縮させる時短状態（低確率時短状態）に制御している。ただし、２０ラウンドの特殊大当り遊技については、前半の１０ラウンドを実行した後に、大入賞口２００５が他のラウンド間よりも長時間（本例では１０秒間）閉鎖された状態とされる所定のブレイク期間が経過することで、後半の１０ラウンドを実行するものとしている。なお、１個の遊技球が大入賞口２００５に入球した場合には、１５個の遊技球を付与する（払い出す）仕様とし、「大当りＢ」の特殊大当り遊技状態においては、大入賞口２００５への入球とその他の入賞口への入球による前半の１０ラウンドにおける約１５００発と、後半の１０ラウンドにおける約１５００発による合計で約３０００発の遊技球が付与される（払い出される）見込みとなっている。

【３３３４】

一方、第二始動口２００４に遊技球が受け入れられると、第二特別図柄の抽選が実行される。第二特別図柄の抽選では、第二始動口２００４への入球時に取得した第二特別乱数と所定の大当り判定値とが１／３００の確率で一致するようにし、所定の当落判定処理にて第二特別乱数と所定の大当り判定値とが一致したことが判定されることを条件に、「大当りＣ」に当選するものとしている。

【３３３５】

具体的には、「大当りＣ」に当選した場合に、大入賞口２００５を長時間（例えば２９秒）に亘って継続して開放した後又は大入賞口２００５に遊技球が１０個入賞することで閉鎖させる開閉パターンを１０回繰り返すことで遊技球が大入賞口２００５に入球可能（容易）な１０ラウンドの大当り遊技に制御し、大当り遊技の終了後に特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示が１００回実行されるまでの間、当該変動表示の実行期間を通常よりも短縮させる時短状態（低確率時短状態）に制御している。なお、１個の遊技球が大入賞口２００５に入球した場合には、１５個の遊技球を付与する（払い出す）仕様とし、「大当りＣ」の大当り遊技状態においては、大入賞口２００５への入球とその他の入賞口への入球による１５００発の遊技球が付与される見込みとなっている。

【３３３６】

（小当り遊技中に出玉量が特定値に達した場合について）

まず、小当り遊技中に出玉量が特定値に達した場合について説明する。図２５２は、小当り遊技中に出玉量が特定値に達した場合を示すタイムチャートである。なお、本例では、小当り遊技中に出玉量が特定値（本例では１０００００）に達した場合に、小当たり遊技中のいずれのタイミングで特定値に達したか否かに拘わらず、その小当り遊技が完了するまでの間、小当り開閉パターンを継続して行い、役物入賞口２００６に入球した遊技球がＶ入賞口２００７に入球するか否かの遊技が継続するようにし、上述の小当り開閉パターンの実行中に役物入賞口２００６に入球した遊技球がＶ入賞口２００７に入球した場合には、引き続き大当り遊技に制御することが可能になっている。

【３３３７】
図２５２（Ａ）は、小当り遊技中に出玉量が特定値に達した後、役物入賞口２００６に入球した遊技球がＶ入賞口２００７に入球して大当り遊技に制御する場合を示すタイムチャートである。図２５２（Ａ）に示すように、タイミングｔ１で、特別図柄の変動表示の開始時において、「小当り」に当選したことを決定している場合には、「小当り」時の変動パターンに基づいて特別図柄の変動表示を実行している。また、特別図柄の変動表示中には、「小当り」時の演出パターンに基づいて変動演出を実行するようにし、変動演出では、抽選の結果が大当りや小当りになるか否かを示す演出を実行している。なお、特別図柄の変動表示中には、出玉量が１０００００未満であり、この段階では、主制御基板１３１０で打ち止めフラグがＯＮになっていないことから、打ち止め状態が発生しておらず、通常通りの遊技の進行が可能になっている。

【３３３８】
そして、特別図柄の変動表示の結果として、「小当り」を示す停止図柄を表示した後には、遊技球が役物入賞口２００６に入球可能（容易）な小当り遊技に制御し、役物入賞口２００６に入球した遊技球がＶ入賞口２００７に入球した場合には、「大当りＡ」を付与するものとしている。また、小当り遊技中には、通常の遊技中の演出とは異なる小当り演出を実行するようにし、小当り演出では、役物入賞口２００６への入球を狙うように音声および演出画像で指示し、役物入賞口２００６に入球した遊技球がＶ入賞口２００７に入球した場合に、「大当りＡ」を付与する旨を示す演出（音声および演出画像）を実行している。また、小当り遊技中には、役物入賞口２００６あるいは他の入賞口に入球して出玉量を増加させることが可能であり、役物入賞口２００６あるいは他の入賞口に入球して出玉量が１０００００に到達すると、主制御基板１３１０で打ち止めフラグＯＮにする制御が行われる。ただし、本例では、小当り遊技中に出玉量が１０００００に到達して打ち止めフラグがＯＮになったとしても直ちに打ち止め状態を発生しないように打ち止め状態の発生タイミングを遅延させるように制御し、少なくとも実行中の小当り遊技を中途で終了させずに継続して進行することが可能になっている。このように、本例では、小当り遊技中に出玉量が特定値に達した場合に、打ち止め状態の発生タイミングを遅延させて小当り遊技の継続を可能にすることで、小当り遊技の結果（Ｖ入賞口２００７に入球して「大当りＡ」を付与するか否か）を含め、賞球の獲得に不利益が生じることがなく、遊技者に不満を与え難くすることができる。

【３３３９】
そして、小当り遊技中であるタイミングｔＬ１で、役物入賞口２００６に入球した遊技球がＶ入賞口２００７に入球することで、「大当りＡ」を付与する場合には、遊技球が大入賞口２００５に入球可能（容易）な１０ラウンドの大当り遊技が引き続き行われるように制御している。また、大当り遊技中には、通常の遊技中の演出および小当り演出とは異なる大当り演出を実行するようにし、大当り演出では、大賞口２００５への入球を狙うように音声および演出画像で指示し、大当り遊技中にしか表示されない特別な映像を表示する等の特別な演出（音声および演出画像）を実行している。なお、既に小当り遊技中において、出玉量が１０００００に到達し、主制御基板１３１０で打ち止めフラグをＯＮにしているが、本例では、小当り遊技中に遊技球がＶ入賞口２００７に入球した場合には、小当り遊技の終了時点で打ち止め状態を発生させず、且つ、その後の大当り遊技中にも打ち止め状態を発生させないように打ち止め状態の発生タイミングをさらに遅延させるように制御し、小当り遊技から引き続き行われる大当り遊技の進行が可能になっている。このように、小当り遊技中に出玉量が１０００００に到達したときには、その小当り遊技中に遊技球がＶ入賞口２００７に入球した場合には、打ち止め状態の発生をさらに遅延させて大当り遊技の実行も可能にすることで、小当り遊技から大当り遊技に亘る一連の遊技の結果を含め、賞球の獲得に不利益が生じることがなく、遊技者に不満を与え難くすることができる。

【３３４０】
そして、タイミングｔＮで、大当り遊技が完了した後には、所定のエンディング期間を

発生させ、大当りエンディング演出を実行するようにし、大当りエンディング演出では、大当り遊技の終了を示すとともに、大賞口２００５への入球によって大当り遊技中に付与された出玉量を示す演出表示（今回の当り遊技での出玉量画像）と後述の注意喚起メッセージとを演出表示装置１６００にて実行している。本例では、上述した通り、「大当りＡ」の大当り遊技において、約１５００発程度の遊技球を付与することが可能であり、大当り遊技中に上限に達するまで大賞口２００５への入球があった場合には、大当り遊技中に付与された出玉量として、約１５００程度の出玉量が示されることとなる。なお、既に小当り遊技中において、出玉量が１０００００に到達し、主制御基板１３１０で打ち止めフラグをＯＮにしているものの、上述の通り、小当り遊技の終了時点および大当り遊技中に打ち止め状態を発生しないように打ち止め状態の発生タイミングを遅延させているが、本例では、大当り遊技における最終ラウンド（１０ラウンド目）の大賞口２００５の開放の終了とともに大当り演出が終了するタイミングｔＮが到来しても直ちに打ち止め状態を発生させておらず、その後のエンディング期間が経過したタイミングｔＬ２で、打ち止め状態を発生するようにしている。このように、打ち止め状態の発生タイミングをエンディング期間の終了後まで遅延させ、大当りエンディング演出を打ち止め状態が発生するよりも前に実行可能に制御することで、大賞口２００５の開放の終了後にも遊技者をその場に滞在させ、遊技者に大当りエンディング演出を認知させることができる。

【３３４１】

また、エンディング期間に行われる大当りエンディング演出中には、演出表示装置１６００にて今回の当り遊技での出玉量を示す演出表示（出玉量画像）の終了後に、「のめり込み防止表示Ａ」として、過度に遊技にのめり込むことを防止するための「のめり込み防止」に関する注意喚起メッセージ（例えば「パチンコは適度に楽しむものです。のめり込みに注意しましょう」の文字表示）の表示を実行している。本例では、「大当りＡ」の大当り遊技において、約１５００発程度の遊技球を付与するものの、その大当り遊技後に打ち止め状態に移行するため、その後に別のパチンコ機に移動して遊技者が過度に遊技にのめり込みかねないが、打ち止め状態に移行する前に「のめり込み防止表示Ａ」を表示することで、打ち止め状態に移行した後に遊技者が他のパチンコ機で過度に遊技にのめり込むことがないように注意喚起することができる。このように、注意喚起メッセージの実行期間を含めた大当りエンディング演出については、打ち止め状態が発生するよりも前に実行するように制御することで、「のめり込み防止表示Ａ」を確認する機会を確保することができ、好適に遊技者が過度に遊技にのめり込むことを防止することができる。

【３３４２】

なお、タイミングｔＬ２で、打ち止め状態に移行した後には、周辺制御基板１５１０で所定の演出禁止フラグをＯＮにし、実行中の演出（大当りエンディング演出等）を強制停止するようにしている。例えば、演出禁止フラグがＯＮになることを契機にして、演出表示装置１６００では、のめり込み防止表示Ａから上述した打ち止め状態に対応する各種画像に強制変更している。

【３３４３】

図２５２（Ｂ）は、小当り遊技中に出玉量が特定値に達した後、役物入賞口２００６に入球するか否かにかかわらず、遊技球がＶ入賞口２００７に入球しないで小当り開閉パターンが終了して小当り遊技を完了し、その後に大当り遊技に制御することがない場合を示すタイムチャートである。図２５２（Ｂ）に示すように、タイミングｔ１で、特別図柄の変動表示の開始時において、「小当り」に当選したことを決定している場合には、「小当り」時の変動パターンに基づいて特別図柄の変動表示を実行している。また、特別図柄の変動表示中には、「小当り」時の演出パターンに基づいて変動演出を実行するようにし、変動演出では、抽選の結果が大当りや小当りになるか否かを示す演出を実行している。なお、特別図柄の変動表示中には、出玉量が１０００００未満であり、この段階では、主制御基板１３１０で打ち止めフラグがＯＮになっていないことから、打ち止め状態が発生しておらず、通常通りの遊技の進行が可能になっている。

【３３４４】

そして、特別図柄の変動表示の結果として、「小当り」を示す停止図柄を表示した後には、遊技球が役物入賞口２００６に入球可能（容易）な小当り遊技に制御し、役物入賞口２００６に入球した遊技球がＶ入賞口２００７に入球した場合には、「大当りＡ」を付与するものとしている。また、小当り遊技中には、通常の遊技中の演出とは異なる小当り演出を実行するようにし、小当り演出では、役物入賞口２００６への入球を狙うように音声および演出画像で指示し、役物入賞口２００６に入球した遊技球がＶ入賞口２００７に入球した場合に、「大当りＡ」を付与する旨を示す演出（音声および演出画像）を実行している。また、小当り遊技中には、役物入賞口２００６あるいは他の入賞口に入球して出玉量を増加させることが可能であり、役物入賞口２００６あるいは他の入賞口に入球して出玉量が１０００００に到達すると、主制御基板１３１０で打ち止めフラグＯＮにする制御が行われる。ただし、本例では、小当り遊技中に出玉量が１０００００に到達して打ち止めフラグがＯＮになったとしても直ちに打ち止め状態を発生しないように打ち止め状態の発生タイミングを遅延させるように制御し、少なくとも実行中の小当り遊技を中途で終了させずに継続して進行することが可能になっている。このように、本例では、小当り遊技中に出玉量が特定値に達した場合に、打ち止め状態の発生タイミングを遅延させて小当り遊技の継続を可能にすることで、小当り遊技の結果（Ｖ入賞口２００７に入球して「大当りＡ」に移行するか否か）を含め、賞球の獲得に不利益が生じることがなく、遊技者に不満を与え難くすることができる。

【３３４５】

そして、タイミングｔＮで、小当り遊技が完了するまでの間に、役物入賞口２００６に入球するか否かにかかわらず、遊技球がＶ入賞口２００７に入球せずに小当り開閉パターンが終了した場合には、「大当りＡ」を付与することがなく、大当り遊技を開始することがない。また、小当り遊技が完了した後には、所定のエンディング期間を発生させ、小当りエンディング演出を実行するようにし、小当りエンディング演出では、小当り遊技の終了を示すとともに、遊技球がＶ入賞口２００７に入球しなかった旨を示す演出を実行している。なお、既に小当り遊技中において、出玉量が１０００００に到達し、主制御基板１３１０で打ち止めフラグをＯＮにしているが、小当り遊技中に打ち止め状態を発生しないようにし、その後のエンディング期間が経過した後のタイミングｔＬ３で、打ち止め状態を発生するようにしている。このように、打ち止め状態の発生タイミングをエンディング期間の終了後まで遅延させ、小当りエンディング演出を打ち止め状態が発生するよりも前に実行可能に制御することで、役物入賞口２００６の開放の終了後にも遊技者をその場に滞在させ、遊技者に小当りエンディング演出を認知させることができる。

【３３４６】

また、大当りエンディング演出中には、演出表示装置１６００にて今回の当り遊技での出玉量を示す演出表示（出玉量画像）と「のめり込み防止表示Ａ」を表示しているが、本例では、小当りエンディング演出中には、そのような出玉量を示す演出表示（出玉量画像）と「のめり込み防止」に関する注意喚起メッセージの表示を実行しておらず、小当り遊技の終了を示す終了画像（「残念・・・」の画像表示）を行うこととしている。本例では、小当り遊技中に遊技球がＶ入賞口２００７に入球した場合には、「大当りＡ」の大当り遊技を実行し、約１５００発程度の遊技球を付与することが可能であるが、小当り遊技中に遊技球がＶ入賞口２００７に入球しなかった場合には、「大当りＡ」の大当り遊技を実行せず、約１５００発程度の遊技球を付与することがない。このように、小当り遊技中に遊技球がＶ入賞口２００７に入球しなかった場合には、賞球も少ない状況下であることから、打ち止め状態に移行した後に他のパチンコ機で引き続き遊技にのめり込むことがなく、注意喚起を行っていない。また、本例では、大当りエンディング演出の実行時間（例えば１０秒）に比べて小当りエンディング演出の実行時間（例えば５秒）を短く設定しており、小当り遊技後には大当り遊技後に比べて早期に打ち止め状態に移行することを可能にしている。

【３３４７】

なお、タイミングｔＬ３で、打ち止め状態に移行した後には、周辺制御基板１５１０で

所定の演出禁止フラグをＯＮにし、実行中の演出（小当たりエンディング演出等）を強制停止するようにしている。例えば、演出禁止フラグがＯＮになることを契機にして、演出表示装置１６００では、終了画像から上述した打ち止め状態に対応する各種画像に強制変更している。

【３３４８】

また、本例では、タイミングｔＮで、小当り遊技が完了するまでの間に、役物入賞口２００６に入球するか否かにかかわらず、遊技球がＶ入賞口２００７に入球せずに小当り開閉パターンが終了して「大当りＡ」を付与しない場合に、小当り遊技が完了した後に所定のエンディング期間を発生させて小当りエンディング演出を実行しているが、別例として、小当り遊技が完了した後に所定のエンディング期間を発生させないように制御し、小当りエンディング演出そのものを不実行にし、小当り遊技の終了後に直ちに打ち止め状態を発生させるようにしてもよい。このような実施態様でも、上述と同等の効果を発揮できる。

【３３４９】

また、本例では、大当り遊技が完了した後の大当りエンディング演出中に、演出表示装置１６００にて「のめり込み防止」に関する注意喚起メッセージを表示しているが、演出表示装置１６００に表示される注意喚起メッセージについては、打ち止め状態への移行前の関連表示とは重ならない位置に表示するようにしている。具体的には、出玉量が特定値に達するよりも前には、上述した事前告知表示のように、出玉量が特定値に達するまでの残り球数を伝える「遊技制限まで残り＋〇〇発」というメッセージを表示している。また、出玉量が特定値に達しながらも実行中の小当り遊技や大当り遊技を継続している状態では、上述した打ち止め準備状態での待機報知のように、既に出玉量が特定値に達したことを示すように「大当り終了で今日は終わりだよ」というメッセージを表示している。そして、演出表示装置１６００では、「のめり込み防止」に関する注意喚起メッセージを表示する際に、打ち止め状態への移行前の関連表示として表示されている事前告知表示や、打ち止め準備状態での待機報知とは重ならない位置に表示するようにしている。これにより、「のめり込み防止」に関する注意喚起メッセージの表示タイミングで、打ち止め状態への移行前の関連表示を見逃すことがなくなり、打ち止め状態への移行前の関連表示として表示されている事前告知表示や、打ち止め準備状態での待機報知の内容を遊技者に確実に認知させることができる。

【３３５０】

また、本例では、出玉量が特定値に達して打ち止め状態に移行した場合には、遊技を制限しているが、打ち止め状態とは別の要因によっても、遊技を制限する場合がある。打ち止め状態とは別の要因としては、例えば、詳しくは上述したが、本体枠５に通電している状態で遊技盤５を交換した場合には、特殊打ち止め状態に移行して遊技を制限している。そして、小当り遊技中に、打ち止め状態とは別の要因によって遊技を制限した場合には、電源をオンオフする必要があるが、電源をオンオフ（電源パターン１）した場合には、遊技の制限を解消し、実行中の小当り遊技を再開することが可能になっている。また、小当り遊技中に既に出玉量が特定値に達して打ち止めフラグをＯＮにした後、打ち止め状態とは別の要因によって遊技を制限した場合には、電源をオンオフ（電源パターン１）した後にも打ち止めフラグをＯＮにした状態を維持したままで、実行中の小当り遊技を再開するようにしている。このため、再開された小当り遊技の終了後、あるいは、再開された小当り遊技中にＶ入賞口２００７に入球したときには小当り遊技に引き続いて行われる大当り遊技の終了後に、打ち止め状態に移行することが可能になっている。これにより、小当り遊技中に、打ち止め状態とは別の要因によって遊技を制限した場合であっても、電源をオンオフ（電源パターン１）した後に、賞球の獲得に不利益が生じることがなく、遊技者に不満を与え難くすることができる。

【３３５１】

同様に、詳しくは後述するが、例えば、払出制御基板６３３は、ＲＡＭに正常でない値が含まれる等のＲＡＭエラーを検知した場合や、「発射球切れ」、「揚上入口球切れ」、

「揚上球ガミエラー」、「遊技球過少」、「遊技球過多」等のＲＡＭエラー以外のエラーを検知した場合に、遊技を停止している。このうち、小当り遊技中に、打ち止め状態とは別の要因として、払出制御基板６３３で「発射球切れ」、「揚上入口球切れ」、「揚上球ガミエラー」、「遊技球過少」、「遊技球過多」等のＲＡＭエラー以外のエラーを検知することによって遊技を制限した場合には、エラーの原因を解消した後に電源をオンオフする必要があるが、エラーの原因を解消した後に電源をオンオフ（電源パターン１）した場合には、遊技の制限を解消し、実行中の小当り遊技を再開することが可能になっている。また、小当り遊技中に既に出玉量が特定値に達して打ち止めフラグをＯＮにした後、打ち止め状態とは別の要因として、払出制御基板６３３で「発射球切れ」、「揚上入口球切れ」、「揚上球ガミエラー」、「遊技球過少」、「遊技球過多」等のＲＡＭエラー以外のエラーを検知することによって遊技を制限した場合には、エラーの原因を解消して電源をオンオフ（電源パターン１）した後にも打ち止めフラグをＯＮにした状態を維持したままで、実行中の小当り遊技を再開するようにしている。このため、再開された小当り遊技の終了後、あるいは、再開された小当り遊技中にＶ入賞口２００７に入球したときには小当り遊技に引き続いて行われる大当り遊技の終了後に、打ち止め状態に移行することが可能になっている。これにより、小当り遊技中に、打ち止め状態とは別の要因として、払出制御基板６３３で「発射球切れ」、「揚上入口球切れ」、「揚上球ガミエラー」、「遊技球過少」、「遊技球過多」等のＲＡＭエラー以外のエラーを検知することによって遊技を制限した場合であっても、エラーの原因を解消して電源をオンオフ（電源パターン１）した後に、賞球の獲得に不利益が生じることがなく、遊技者に不満を与え難くすることができる。

【３３５２】

また、大当り遊技が完了した後の大当りエンディング演出中に、演出表示装置１６００にて「のめり込み防止」に関する注意喚起メッセージを表示しているが、大当り遊技が終了した後の所定期間内（例えば、３０変動以内の連荘など）に再度、大当り遊技を発生させた場合には、その再度の大当り遊技が完了した後の大当りエンディング演出中には、演出表示装置１６００にて今回の当り遊技での出玉量を示す演出表示（出玉量画像）を表示するものの、「のめり込み防止」に関する注意喚起メッセージについては表示しないように制限している。例えば、大当り遊技が終了した後の所定期間として、短い期間で「のめり込み防止」に関する注意喚起メッセージが繰り返されると、注意喚起に慣れてしまい、今後の遊技で遊技者ののめり込みを防止する効果が得られなくなってしまう可能性があるが、大当り遊技が終了した後の所定期間内の再度の大当り遊技では、「のめり込み防止」に関する注意喚起メッセージを表示しないことで、そのような効果を維持することができる。また、本例では、大当り遊技が完了した後に所定のエンディング期間を発生させて大当りエンディング演出を実行しているが、別例として、大当り遊技が終了した後の所定期間内（例えば、３０変動以内の連荘など）に再度、大当り遊技を発生させた場合には、大当り遊技が完了した後に所定のエンディング期間を発生させないように制御し、大当りエンディング演出そのものを不実行にし、「のめり込み防止」に関する注意喚起メッセージを表示しないようにしてもよい。このような実施態様でも、上述と同等の効果を発揮できる。

【３３５３】

（特殊大当り遊技中に出玉量が特定値に達した場合について）

次いで、「大当りＢ」の特殊大当り遊技中に出玉量が特定値に達した場合について説明する。図２５３は、特殊大当り遊技中に出玉量が特定値に達しない場合を示すタイムチャートであり、図２５４は、特殊大当り遊技中に出玉量が特定値に達した場合を示すタイムチャートである。なお、本例では、２０ラウンドの特殊大当り遊技については、前半の１０ラウンドを実行した後に、所定のブレイク期間（大入賞口２００５が他のラウンド間よりも長時間（本例では１０秒間）閉鎖された状態の期間）が経過することで、後半の１０ラウンドを実行するものとしている。そして、２０ラウンドの特殊大当り遊技のうち、前半の１０ラウンド中に出玉量が特定値に達した場合には、前半の１０ラウンドの終了後に

打ち止め状態に移行して後半の１０ラウンドを実行しないが、後半の１０ラウンド中に出玉量が特定値に達した場合には、後半の１０ラウンドの終了後に打ち止め状態に移行することが可能になっている。

【３３５４】

図２５３は、特殊大当り遊技中に出玉量が特定値に達しない場合を示すタイムチャートである。図２５３に示すように、タイミングｔ１で、特別図柄の変動表示の開始時において、「大当りＢ」に当選したことを決定している場合には、「大当りＢ」時の変動パターンに基づいて特別図柄の変動表示を実行している。また、特別図柄の変動表示中には、「大当りＢ」時の演出パターンに基づいて変動演出を実行するようにし、変動演出では、抽選の結果が大当りや小当りになるか否かを示す演出を実行している。

【３３５５】

そして、特別図柄の変動表示の結果として、「大当りＢ」を示す停止図柄を表示した後には、遊技球が大入賞口２００５に入球可能（容易）な２０ラウンドの特殊大当り遊技に制御している。まず、２０ラウンドの特殊大当り遊技のうち、前半の１０ラウンド（前半の特殊大当り遊技）を実行するが、前半の特殊大当り遊技中には、通常の遊技中の演出とは異なる特殊大当り演出を実行するようにし、特殊大当り演出では、大賞口２００５への入球を狙うように音声および演出画像で指示し、特殊大当り遊技中の前半にしか表示されない特別な映像を演出表示装置１６００に表示する等の特別な演出（音声および演出画像）を実行している。

【３３５６】

そして、タイミングｔＬ１で、前半の１０ラウンドが終了して前半の特殊大当り遊技が完了した後には、所定のブレイク期間を発生させ、休憩演出を実行するようにし、休憩演出では、前半の特殊大当り遊技の終了を示すとともに、後半の特殊大当り遊技を開始するまでの待機状態であることを示す演出（例えば「前半終了！１０秒後に後半再開！」というメッセージ画像を演出表示装置１６００に表示する演出等）を実行している。なお、本例では、前半の１０ラウンドと、後半の１０ラウンドとの間で、ブレイク期間を発生させるようにしているが、２０ラウンドを連続して実行するようにすると、大入賞口２００５への入球を狙い続けることで遊技者が疲れてしまう可能性があり、そのようなブレイク期間を発生させることとしている。また、特殊大当り遊技の途中にブレイク期間が発生する場合であっても一の大当り遊技であることを明確にするために以下のように構成するようにしても良い。例えば、特殊大当り演出中の演出音として、特殊大当り演出用の特殊ＢＧＭを出力するようにし、この特殊ＢＧＭの出力を、特殊大当り遊技の前半、ブレイク期間、特殊大当り遊技の後半に亘って継続して出力することが例示できる。これにより、長期の特殊当り遊技がブレイク期間を挟んで実行される場合であっても、一連の当り遊技である印象が低減することを回避することができる。

【３３５７】

そして、所定のブレイク期間が経過した後には、２０ラウンドの特殊大当り遊技のうち、後半の１０ラウンド（後半の特殊大当り遊技）を実行するが、後半の特殊大当り遊技中には、通常の遊技中の演出とは異なる特殊大当り演出を実行するようにし、特殊大当り演出では、大賞口２００５への入球を狙うように音声および演出画像で指示し、特殊大当り遊技中の後半にしか表示されない特別な映像を演出表示装置１６００に表示する等の特別な演出（音声および演出画像）を実行している。なお、本例では、特殊大当り遊技中の前半に表示される映像と特殊大当り遊技中の後半に表示される映像は、一の大当り遊技であることを明確にするために互いに関連する映像にしており、特殊大当り遊技中の後半に表示される映像は、特殊大当り遊技中の前半に表示される映像の続きの映像としている。具体的には、特殊大当り遊技中の前後半で同一のキャラクタを登場させる紹介ムービーを表示するとともに、特殊大当り遊技中の前後半で出玉量画像の継続表示を行うようにしている。

【３３５８】

そして、後半の１０ラウンドが終了して後半の特殊大当り遊技が完了した後には、所定

のエンディング期間を発生させ、特殊大当りエンディング演出を実行するようにし、特殊大当りエンディング演出では、特殊大当り遊技の終了を示すとともに、大賞口２００５への入球によって特殊大当り遊技中に付与された出玉量を示す獲得出玉表示（今回の当り遊技での出玉量画像）と後述の注意喚起メッセージとを演出表示装置１６００にて実行している。本例では、上述した通り、「大当りＢ」の特殊大当り遊技において、前半の１０ラウンドにおける約１５００発と、後半の１０ラウンドにおける約１５００発による合計で約３０００発の遊技球を付与することが可能であり、特殊大当り遊技中に上限に達するまで大賞口２００５への入球があった場合には、「３０００ＧＥＴ！！」という獲得出玉表示が演出表示装置１６００で実行されることとなる。

【３３５９】

また、特殊大当りエンディング演出中における獲得出玉表示の終了後には、演出表示装置１６００に「のめり込み防止表示Ｂ」として、過度に遊技にのめり込むことを防止するための「のめり込み防止」に関する注意喚起メッセージ（例えば「パチンコは適度に楽しむものです。のめり込むなよ！」の文字表示）の表示等を含む注意喚起報知を実行している。本例では、「大当りＢ」の特殊大当り遊技において、約３０００発の遊技球を付与することが可能であり、特殊大当り遊技中に上限に達するまで大賞口２００５への入球があった場合には、遊技者が過度に遊技にのめり込みかねないが、特殊大当りエンディング演出中に「のめり込み防止表示Ｂ」を表示することで、遊技者が過度に遊技にのめり込むことを防止することができる。また、「大当りＡ」の大当り遊技に制御した場合には、大当りエンディング演出中に「のめり込み防止表示Ａ」を表示しているが、特殊大当りエンディング演出中における「のめり込み防止表示Ｂ」は、「のめり込み防止表示Ａ」とは異なる態様で実行することとしている。すなわち、「大当りＢ」の特殊大当り遊技に制御した場合には、「大当りＡ」の大当り遊技に制御した場合よりも出玉量が多くなり、遊技者が過度に遊技にのめり込んでいる可能性が高くなっている。このため、「のめり込み防止表示Ｂ」としては、「のめり込み防止表示Ａ」よりも強い注意喚起態様にすることが好ましく、本例では、メッセージの表示内容を「のめり込み防止表示Ａ」とは異なる命令口調の態様にするとともに、メッセージの表示箇所を「のめり込み防止表示Ａ」の表示箇所（例えば演出表示装置１４００の下部）よりも目立つ位置（演出表示装置１４００の中央）にし、さらに、メッセージの表示時間を「のめり込み防止表示Ａ」よりも長い時間にしておくことで、好適に遊技者が過度に遊技にのめり込むことを防止することができる。なお、「のめり込み防止表示Ａ」と「のめり込み防止表示Ｂ」を相違させる態様は上記に限定されるものではなく、メッセージの表示内容、メッセージの表示箇所、メッセージの表示時間のうちの一部のみを相違させる態様としてもよい。

【３３６０】

なお、タイミングｔＬ２でエンディング期間が経過すると、特殊大当りエンディング演出が終了し、時短状態に対応する画像に切り替わって特別図柄の変動表示を実行することが可能になっている。

【３３６１】

図２５４（Ａ）は、前半の特殊大当り遊技中に出玉量が特定値に達した場合を示すタイムチャートである。図２５４（Ａ）に示すように、タイミングｔ１で、特別図柄の変動表示の開始時において、「大当りＢ」に当選したことを決定している場合には、「大当りＢ」時の変動パターンに基づいて特別図柄の変動表示を実行している。また、特別図柄の変動表示中には、「大当りＢ」時の演出パターンに基づいて変動演出を実行するようにし、変動演出では、抽選の結果が大当りや小当りになるか否かを示す演出を実行している。なお、特別図柄の変動表示中には、出玉量が１０００００未満であり、この段階では、主制御基板１３１０で打ち止めフラグがＯＮになっていないことから、打ち止め状態が発生しておらず、通常通りの遊技の進行が可能になっている。

【３３６２】

そして、特別図柄の変動表示の結果として、「大当りＢ」を示す停止図柄を表示した後には、遊技球が大入賞口２００５に入球可能（容易）な２０ラウンドの特殊大当り遊技に

制御している。まず、２０ラウンドの特殊大当り遊技のうち、前半の１０ラウンド（前半の特殊大当り遊技）を実行するが、前半の特殊大当り遊技中に実行される特殊大当り演出では、大賞口２００５への入球を狙うように音声および演出画像で指示し、特殊大当り遊技中の前半にしか表示されない特別な映像を演出表示装置１６００に表示する等の特別な演出（音声および演出画像）を実行している。また、前半の特殊大当り遊技中には、大入賞口２００５あるいは他の入賞口に入球して出玉量を増加させることが可能であり、大入賞口２００５あるいは他の入賞口に入球して出玉量が１０００００に到達すると、主制御基板１３１０で打ち止めフラグＯＮにする制御が行われる。ただし、本例では、前半の特殊大当り遊技中に出玉量が１０００００に到達して打ち止めフラグがＯＮになったとしても直ちに打ち止め状態を発生しないように打ち止め状態の発生タイミングを遅延させるように制御し、少なくとも特殊大当り遊技の前半終了時までは遊技の進行が継続可能になっている。このように、本例では、前半の特殊大当り遊技中に出玉量が特定値に達した場合に、打ち止め状態の発生タイミングを遅延させて前半の特殊大当り遊技の継続を可能にすることで、賞球の獲得に不利益が生じることを抑制し、遊技者に不満を与え難くすることができる。

【３３６３】

そして、前半の特殊大当り遊技中であるタイミングｔ２で、出玉量が特定値に達した場合には、前半の特殊大当り遊技の終了時点であるタイミングｔＬ１まで打ち止め状態の発生タイミングを遅延させるように制御し、その遅延させている間に遊技の進行が継続可能になるものの、その後には、ブレイク期間を発生させず、後半の特殊大当り遊技を開始することがない。また、既に前半の特殊大当り遊技中において、出玉量が１０００００に到達し、主制御基板１３１０で打ち止めフラグをＯＮにしているが、前半の特殊大当り遊技の終了時点であるタイミングｔＬ１で、打ち止め状態を発生するようにしており、これはタイミングｔ２からタイミングｔＬ１までの間の出玉量の多少に影響を受けることなく強制的に制御することとしている。このように、前半の特殊大当り遊技中に出玉量が特定値に達した場合には、その後の出玉量に拘わらず予め定められた発生タイミングで打ち止め状態に移行して後半の特殊大当り遊技を実行しないことで、出玉量が特定値から大きく乖離することを防止することができる。

【３３６４】

また、前半の特殊大当り遊技の終了前には、演出表示装置１６００に「のめり込み防止表示Ａ」として、過度に遊技にのめり込むことを防止するための「のめり込み防止」に関する注意喚起メッセージ（例えば「パチンコは適度に楽しむものです。のめり込みに注意しましょう」の文字表示）の表示を強制的に差し込んで実行している。上述したように、前半の特殊大当り遊技中に出玉量が特定値に達していない場合には、前半の特殊大当り遊技の終了後にブレイク期間を挟んで後半の特殊大当り遊技を開始するため、演出表示装置１６００に「のめり込み防止表示Ａ」を表示していないが、前半の特殊大当り遊技中に出玉量が特定値に達した場合には、前半の特殊大当り遊技の終了後にブレイク期間を挟むことなく後半の特殊大当り遊技を開始しないで打ち止め状態に移行するため、打ち止め状態に移行するよりも前に、演出表示装置１６００に「のめり込み防止表示Ａ」を表示することとしている。本例では、「大当りＢ」の前半の特殊大当り遊技において、「大当りＡ」の大当り遊技と同程度に、約１５００発程度の遊技球を付与するものの、その前半の特殊大当り遊技後に打ち止め状態に移行するため、その後に別のパチンコ機に移動して遊技者が過度に遊技にのめり込みかねないが、打ち止め状態に移行する前に「のめり込み防止表示Ａ」を表示することで、打ち止め状態に移行した後に遊技者が他のパチンコ機で過度に遊技にのめり込むことがないように注意喚起することができる。このように、注意喚起メッセージについては、打ち止め状態が発生するよりも前に実行するように制御することで、「のめり込み防止表示Ａ」を確認する機会を確保することができ、好適に遊技者が過度に遊技にのめり込むことを防止することができる。

【３３６５】

なお、タイミングｔＬ１で、打ち止め状態に移行した後には、周辺制御基板１５１０で

所定の演出禁止フラグをＯＮにし、実行中の演出（前半の特殊大当り遊技中に実行される特殊大当り演出や「のめり込み防止表示Ａ」）を終了させるように強制停止するようにしている。例えば、演出禁止フラグがＯＮになることを契機にして、演出表示装置１６００では、のめり込み防止表示Ａから上述した打ち止め状態に対応する各種画像に強制変更している。

【３３６６】

図２５４（Ｂ）は、前半の特殊大当り遊技の終了後のブレイク期間中に出玉量が特定値に達した場合を示すタイムチャートである。図２５４（Ｂ）に示すように、前半の１０ラウンドが終了して前半の特殊大当り遊技が完了するまでの間に、出玉量が特定値に達していない場合には、前半の特殊大当り遊技の終了後に大入賞口２００５を閉鎖した状態にして、大入賞口２００５へ入球することがないブレイク期間を発生させているが、本例では、ブレイク期間中に出玉量が特定値の間近である場合（例えば、９９９００を超えている場合）には、ブレイク期間中に大入賞口２００５以外の入賞口に入球して出玉量が増加することで、出玉量が特定値に達する可能性がある。

【３３６７】

そして、前半の特殊大当り遊技の終了後のブレイク期間中であるタイミングｔ２で、出玉量が特定値に達した場合には、その時点で打ち止め状態を発生させ、後半の特殊大当り遊技を開始することがない。具体的には、ブレイク期間において、大入賞口２００５以外の入賞口に入球して出玉量を増加させることが可能であり、大入賞口２００５以外の入賞口に入球して出玉量が１０００００に到達すると、主制御基板１３１０で打ち止めフラグをＯＮにしているが、この場合では、ブレイク期間の中途であっても出玉量が１０００００に到達した時点で打ち止め状態を発生するようにしている。このように、ブレイク期間中に出玉量が特定値に達した場合には、その時点で打ち止め状態に移行して後半の特殊大当り遊技を実行しないことで、出玉量が特定値から大きく乖離することを防止することができる。

【３３６８】

また、上述したように、前半の特殊大当り遊技中に出玉量が特定値に達した場合には、打ち止め状態に移行するよりも前に、演出表示装置１６００に「のめり込み防止表示Ａ」の表示を強制的に差し込んで実行しているが、前半の特殊大当り遊技の終了後のブレイク期間中に出玉量が特定値に達した場合には、打ち止め状態に移行するよりも前に、演出表示装置１６００に「のめり込み防止表示Ａ」の表示を実行していない。本例では、「大当りＢ」の前半の特殊大当り遊技において、「大当りＡ」の大当り遊技と同程度に、約１５００発程度の遊技球を付与するものの、後半の特殊大当り遊技が実行されずに打ち止め状態に移行するため、その後に別のパチンコ機に移動して遊技者が過度に遊技にのめり込みかねないが、前半の特殊大当り遊技の終了後においては、大入賞口２００５へ入球することがないブレイク期間を発生させることで、打ち止め状態に移行した後に遊技者が他のパチンコ機で過度に遊技にのめり込むことを防止することが可能になっている。このように、ブレイク期間中に出玉量が特定値に達した場合には、打ち止め状態に移行するよりも前に、演出表示装置１６００に「のめり込み防止表示Ａ」の表示を実行しないとしても、遊技者が過度に遊技にのめり込むことを防止することができる。

【３３６９】

なお、本例では、前半の特殊大当り遊技中に出玉量が特定値に達していない場合には、前半の特殊大当り遊技の終了前に「のめり込み防止表示Ａ」を表示していないが、「のめり込み防止表示Ａ」を表示するかどうかのタイミングで、出玉量が特定値の間近である場合（例えば、９９９００を超えている場合）には、出玉量が特定値に達していないとしても、前半の特殊大当り遊技の終了前に「のめり込み防止表示Ａ」を表示するようにしてもよい。例えば、「のめり込み防止表示Ａ」を表示するかどうかのタイミングで、出玉量が特定値の間近である場合（例えば、９９９００を超えている場合）には、前半の特殊大当り遊技の終了前に「のめり込み防止表示Ａ」を表示している期間中において、出玉量が特定値に達して前半の特殊大当り遊技の終了後に打ち止め状態が発生する可能性がある。し

かしながら、このような場合にも、前半の特殊大当り遊技の終了前に「のめり込み防止表示Ａ」を表示することで、遊技者が過度に遊技にのめり込むことを防止することができる。

【３３７０】

また、本例では、ブレイク期間中に出玉量が特定値の間近である場合（例えば、９９９００を超えている場合）には、ブレイク期間中に大入賞口２００５以外の入賞口に入球して出玉量が増加することで、出玉量が特定値に達する可能性があるが、このような場合には、ブレイク期間中に大入賞口２００５以外の入賞口に入球しないように、遊技者に遊技球の発射を抑制させることを目的として発射指示の態様を変更する（例えば、前半の特殊大当り遊技中に実行した発射指示の映像や音声等をブレイク期間中は実行しないようにする）ようにしてもよい。これにより、ブレイク期間中に出玉量が特定値の間近である場合（例えば、９９９００を超えている場合）であっても、そのブレイク期間中に出玉量が特定値に達することがなく、ブレイク期間が経過した後に後半の特殊大当り遊技を開始することで、賞球の獲得に不利益が生じることを抑制し、遊技者に不満を与え難くすることができる。なお、後半の特殊大当り遊技が開始された際には、遊技者に遊技球の発射を促進させることを目的として再度発射指示の態様を変更する（例えば、前半の特殊大当り遊技中に実行した発射指示の映像や音声等を再度出力する）ようにすることが好ましい。

【３３７１】

また、図示は省略するが、前半の特殊大当り遊技の終了後に大入賞口２００５を閉鎖した状態にして、大入賞口２００５へ入球することがないブレイク期間を発生させているにもかかわらず、大入賞口２００５を不正に開放させてブレイク期間中に大入賞口２００５へ不正に遊技球を入球させた場合には、以下のように構成するようにしても良い。例えば、ブレイク期間中に大入賞口２００５への不正な遊技球入球を検出した場合には、その入球を無効なものとして賞球の付与を行わず、且つ、「ブレイク期間中エラー」を発生させて特殊なエラー報知を行うとともに遊技の進行（ブレイク期間の進行）を停止させるように制御するように構成し、ブレイク期間中における大入賞口２００５への不正入球を抑止できるようにしてもよい。また、「ブレイク期間中エラー」は、電源をオンオフ（電源パターン１）することで解消可能にしておくことで、電源のオンオフに伴い出玉量がクリアされてしまうことを回避することができる。

【３３７２】

なお、タイミングｔ２で、打ち止め状態に移行した後には、周辺制御基板１５１０で所定の演出禁止フラグをＯＮにし、実行中の演出（休憩演出）を終了させるように強制停止するようにしている。例えば、演出禁止フラグがＯＮになることを契機にして、演出表示装置１６００では、休憩演出から上述した打ち止め状態に対応する各種画像に強制変更している。

【３３７３】

図２５４（Ｃ）は、後半の特殊大当り遊技中に出玉量が特定値に達した場合を示すタイムチャートである。図２５４（Ｃ）に示すように、前半の１０ラウンドが終了して前半の特殊大当り遊技が完了するまでの間や、ブレイク期間に、出玉量が特定値に達していない場合には、ブレイク期間の経過後に後半の１０ラウンド（後半の特殊大当り遊技）を実行するが、後半の特殊大当り遊技中に実行される特殊大当り演出では、大賞口２００５への入球を狙うように音声および演出画像で指示し、特殊大当り遊技中の後半にしか表示されない特別な映像を演出表示装置１６００に表示する等の特別な演出（音声および演出画像）を実行している。また、後半の特殊大当り遊技中には、大入賞口２００５あるいは他の入賞口に入球して出玉量を増加させることが可能であり、大入賞口２００５あるいは他の入賞口に入球して出玉量が１０００００に到達すると、主制御基板１３１０で打ち止めフラグをＯＮにする制御が行われる。ただし、本例では、後半の特殊大当り遊技中に出玉量が１０００００に到達して打ち止めフラグがＯＮになったとしても直ちに打ち止め状態を発生しないように打ち止め状態の発生タイミングを遅延させるように制御し、少なくとも特殊大当り遊技の後半終了時までは遊技の進行が継続可能になっている。このように、後

半の特殊大当り遊技中に出玉量が特定値に達した場合に、打ち止め状態の発生タイミングを遅延させて後半の特殊大当り遊技の継続を可能にすることで、賞球の獲得に不利益が生じることを抑制し、遊技者に不満を与え難くすることができる。

【３３７４】

そして、後半の特殊大当り遊技中であるタイミングｔ２で、出玉量が特定値に達した場合には、後半の特殊大当り遊技の終了時点であるタイミングｔＬ２まで打ち止め状態の発生タイミングを遅延させるように制御し、その遅延させている間に遊技の進行が継続可能になるものの、その後には、エンディング期間を発生させず、特殊大当りエンディング演出を実行することがない。また、既に後半の特殊大当り遊技中において、出玉量が１００００００に到達し、主制御基板１３１０で打ち止めフラグをＯＮにしているが、後半の特殊大当り遊技の終了時点であるタイミングｔＬ２で、打ち止め状態を発生するようにしており、これはタイミングｔ２からタイミングｔＬ１までの間の出玉量の多少に影響を受けることなく強制的に制御することとしている。このように、後半の特殊大当り遊技中に出玉量が特定値に達した場合には、その後の出玉量に拘わらず予め定められた発生タイミングで打ち止め状態に移行して特殊大当りエンディング演出を実行しないものとしている。

【３３７５】

また、上述したように、後半の特殊大当り遊技中に出玉量が特定値に達していない場合には、後半の特殊大当り遊技が完了した後に、エンディング期間を発生させ、そのエンディング期間内における特殊大当りエンディング演出の実行後に「のめり込み防止表示Ｂ」の表示を実行しているが、後半の特殊大当り遊技中に出玉量が特定値に達した場合には、後半の特殊大当り遊技が完了した後に、エンディング期間そのものを発生させず、特殊大当りエンディング演出を実行していないことから、演出表示装置１６００に「のめり込み防止表示Ｂ」の表示を実行していない。本例では、「大当りＡ」の大当り遊技において、約１５００発程度の遊技球を付与することが可能であるが、「大当りＢ」の前半および後半の特殊大当り遊技中の出玉量と比較すると、遊技者が満足感を得ることができない。また、「大当りＢ」の前半の特殊大当り遊技中に出玉量が特定値に達して後半の特殊大当り遊技を実行していない場合にも、前半の特殊大当り遊技において、約１５００発程度の遊技球を付与することが可能であるが、前半および後半の特殊大当り遊技中の出玉量と比較すると、遊技者が満足感を得ることができない。このように、「大当りＡ」の大当り遊技の終了後に打ち止め状態に移行する場合や、「大当りＢ」の前半の特殊大当り遊技の終了後に打ち止め状態に移行する場合には、大当り遊技中の出玉量に遊技者が満足できないため、打ち止め状態に移行した後に別のパチンコ機に移動して遊技者が過度に遊技にのめり込む恐れがあり、打ち止め状態に移行するよりも前に、演出表示装置１６００に「のめり込み防止表示Ａ」の表示を実行するものとしている。一方、「大当りＢ」の前半の特殊大当り遊技中に出玉量が特定値に達しないで、後半の特殊大当り遊技中に出玉量が特定値に達した場合、前半および後半の特殊大当り遊技において、約３０００発程度の遊技球を付与することが可能であるため、後半の特殊大当り遊技の終了後に打ち止め状態に移行したとしても、遊技者が満足感を得ることができる。このように、後半の特殊大当り遊技の終了後に打ち止め状態に移行する場合には、打ち止め状態に移行するよりも前に、演出表示装置１６００に「のめり込み防止表示Ｂ」の表示を実行しないとしても、遊技者が過度に遊技にのめり込むことがなく、遊技者が満足感を得た状態で打ち止め状態を受け入れることができる。

【３３７６】

なお、タイミングｔＬ２で、打ち止め状態に移行した後には、周辺制御基板１５１０で所定の演出禁止フラグをＯＮにし、実行中の演出（後半の特殊大当り遊技中に実行される特殊大当り演出）を終了させるように強制停止するようにしている。例えば、演出禁止フラグがＯＮになることを契機にして、演出表示装置１６００では、後半の特殊大当り遊技中に実行される特殊大当り演出から上述した打ち止め状態に対応する各種画像に強制変更している。

【３３７７】

なお、別例として、後半の特殊大当り遊技中に出玉量が特定値に達する場合における特殊大当り遊技の完了後にも上述のエンディング期間を発生させるようにし、後半の特殊大当り遊技中に出玉量が特定値に達する場合のエンディング期間では特殊大当りエンディング演出だけを実行し、「のめり込み防止表示Ｂ」の実行期間を削除して「のめり込み防止表示Ｂ」を実行しないようにしてもよい。このような態様でも上述と同様の効果を奏することができる。

【３３７８】

また、上述の例では、ブレイク期間中であるタイミングｔ２で、出玉量が特定値に達した場合には、ブレイク期間の中途であっても出玉量が１０００００に到達した時点で打ち止め状態を発生するようにしていたが、仮に、ブレイク期間が開始された直後（遊技者がブレイク期間の開始を認識していないタイミング等）で出玉量が特定値に達した場合等は、突然に打ち止め状態に移行すると「前半の特殊大当り遊技の途中で打ち止め状態になってしまった」と遊技者に誤認させる恐れがある。こうした事象を考慮し、別例として、ブレイク期間中に出玉量が特定値に達した場合には、所定の待機時間（例えば３秒）が経過した後に打ち止め状態に移行させ、遊技者にブレイク期間の開始（前半の特殊大当り遊技の終了）を確実に認識させるようにしておくこととしてもよい。なお、所定の待機時間としては、ブレイク期間が無意味に長期化することを回避するために、ブレイク期間の最大時間（上記の例では１０秒）よりも短い時間としておくことが好ましい。

【３３７９】

また、上述の例では、ブレイク期間の終了条件を所定期間（１０秒）の経過とする例を示したが、別例として、ブレイク期間の終了時期を遊技者が任意に決定できるようにしてもよい。例えば、ブレイク期間終了用の所定動作（例えばブレイク期間中に遊技球を発射するためのハンドル１６０から一旦手を離して再度発射ハンドル１６０に接触する動作の検出、あるいは、大賞口２００５とは別に設けた当り再開用入球口へ遊技球を入球させる動作）が行われるまではブレイク期間を継続させることとし、ブレイク期間終了用の所定動作が行われたことを検出することに基づいてブレイク期間を終了させるようにしてもよい。この場合、個々の遊技者に合わせた十分な休息期間を確保でき、長期の特殊大当り遊技の進行を適切に実行することが可能になる。

【３３８０】

また、上述の例では、ブレイク期間において、大入賞口２００５以外の入賞口に入球して出玉量が増加することで、出玉量が特定値に達する可能性があるが、別例として、遊技盤５において、大入賞口２００５以外の入賞口として、各種始動口よりも入球することで多くの賞球を付与することが可能な特別入賞口を設けるようにし、ブレイク期間内に遊技進行をさせることなく出玉量を特定値に達することができるようにしてもよい。例えば、特別入賞口については、各種始動口とは異なり、入球したとしても特別図柄や普通図柄の変動表示を実行することがなく、入球することで賞球として１００個の遊技球を付与するものとしている。これにより、ブレイク期間中に出玉量が特定値の間近である場合（例えば、９９９００を超えている場合）には、ブレイク期間中に特別入賞口に入球させることで出玉量が特定値に達するように狙うことができ、何らかの事情で早々に打ち止め状態に移行して特殊大当り遊技を終了させたい場合など、遊技者のニーズに合わせることができる。なお、特別入賞口は、遊技盤５を流下した遊技球がブレイク期間中にのみ入球可能になるように特別入賞口に開閉可能な特別開閉部材を設けておく構成しておくことが好ましい。ただし、特別開閉部材等の追加で制御が複雑化することを鑑み、特別入賞口に特別開閉部材を設けず、ブレイク期間中以外にも特別入賞口に入球可能に常時開放させておくこととしてもよく、この場合は、各種始動口への入球頻度よりも特別入賞口への入球頻度の方が低くなるように構成しておくことが好ましい。また、ブレイク期間以外でも遊技盤５を流下した遊技球が特別入賞口に入球すること自体を懸念するのであれば、遊技盤５を流下した遊技球が特別入賞口に入球することを著しく困難にするように特別入賞口の入球入口部分に多数の遊技釘等を配置しておき、特別入賞口への入球は遊技者の依頼に基づきホール管理者による手入れで実施できるように特別入賞口の入球入口は常時開放させておく

ようにしてもよい。
【３３８１】
　また、上述した例において、各大当り遊技の終了後には、所定回数の時短状態に制御するようにしており、一般的には、大当り遊技中に大当り遊技終了後の状態を遊技者に通知する状態通知演出（例えば「時短〇〇回ＧＥＴ！」の表示等）を行うことが知られている。しかしながら、上記したように大当り遊技中に出玉量が特定値に達すると打ち止め状態に移行し、その大当り遊技を以て遊技が終了になってしまうこととなり、状態通知演出を実行してしまうと遊技者に残念感を与えてしまう虞がある。こうした事象を考慮し、大当り遊技中に出玉量が特定値に達した場合には、その大当り遊技中に状態通知演出を遊技者が認識できないものとしている。具体的には、大当り遊技中に出玉量が特定値に達した場合には、大当り遊技中に状態通知演出そのものを不実行にし、大当り遊技終了後の状態を遊技者に通知しない演出に変更するように制御するものとしている。また、この演出変更によっては制御が複雑になってしまうことを考慮し、別例として、大当り遊技中に状態通知演出を実行するが、演出表示装置１６００では、所定の表示物によって状態通知演出の表示の全部あるいは一部を隠すようにし、遊技者に視認不能あるいは視認困難となるようにしてもよい。詳しくは上記したが、出玉量が特定値に達しながらも実行中の大当り遊技を継続している状態（打ち止め準備状態）では、既に出玉量が特定値に達したことを外部に伝える待機報知を実行しており、例えば、演出表示装置１６００では、実行中の大当り遊技に関する表示（通常表示）を表示するのに加え、待機表示として、既に出玉量が特定値に達したことを示すように「大当り終了で今日は終わりだよ」というメッセージを表示するようにしている。そして、このような待機表示によって状態通知演出の表示を隠すようにしてもよく、具体的には、状態通知演出の表示よりも上位レイヤにて待機表示を表示するとともに、状態通知演出の表示と重なる位置に待機表示を表示することで、状態通知演出の表示を隠すことが可能になっている。このように、大当り遊技中に出玉量が特定値に達した場合には、大当り遊技中に状態通知演出の実行を抑制して大当り遊技終了後の状態を遊技者に明確に知らせないことで、遊技者に残念感を与えることを抑制することができる。
【３３８２】
［２２．主制御基板の各種制御処理］
　次に、パチンコ機１の遊技の進行に応じて、主制御基板１３１０が行う各種制御処理について、図２５５～図２６０を参照して説明する。図２５５は主制御側電源投入時処理の一例を示すフローチャートであり、図２５６は図２５５の主制御側電源投入時処理のつづきを示すフローチャートであり、図２５７は主制御側タイマ割り込み処理の一例を示すフローチャートであり、図２５８は設定変更処理の一例を示すフローチャートであり、図２５９は設定値確認表示処理の一例を示すフローチャートであり、図２６０はエラー表示処理の一例を示すフローチャートである。まず、遊技制御に用いられる各種乱数について説明し、続いて初期値更新型のカウンタの動き、主制御側電源投入時処理、主制御側タイマ割り込み処理、設定変更処理、設定値確認表示処理、エラー表示処理について説明する。
【３３８３】
［２２－１．各種乱数］
　遊技制御に用いられる各種乱数として、大当り遊技状態や小当り遊技状態を発生させるか否かの決定に用いるための特別乱数と、この特別乱数の初期値の決定に用いるための当り判定用初期値決定乱数と、大当り遊技状態を発生させないときにリーチ（リーチはずれ）を発生させるか否かの決定に用いるためのリーチ判定用乱数と、機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器及び第二特別図柄表示器で変動表示される特別図柄の変動表示パターンの決定に用いるための変動表示パターン用乱数と、大当り遊技状態を発生させるときに機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器及び第二特別図柄表示器で導出表示される大当り図柄や小当り図柄の決定（当り種別の決定）に用いるための図柄乱数と、この図柄乱数の初期値の決定に用いるための大当り図柄用初期値決定用乱数等が用意されている。またこれらの乱数に加えて、第二始動口２００４へ遊技球Ｂを誘導可能な第二始

動口扉２４１１を開閉動作させるか否かの決定に用いるための普通図柄当り判定用乱数と、この普通図柄当り判定用乱数の初期値の決定に用いるための普通図柄当り判定用初期値決定乱数と、機能表示ユニット１４００の普通図柄表示器で変動表示される普通図柄の変動表示パターンの決定に用いるための普通図柄変動表示パターン用乱数等が用意されている。

【３３８４】

このような遊技制御に用いられる各種乱数のうち、特別乱数はハードウェアにより更新されるのに対して、他の各種乱数はソフトウェアにより更新されるようになっている。

【３３８５】

［２２－２．初期値更新型のカウンタの動き］

例えば、特別乱数は、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵される主制御内蔵ハード乱数回路によりハードウェアにより直接更新されるようになっている。この主制御内蔵ハード乱数回路は、主制御ＭＰＵ１３１０ａがリセットされると、まず、予め定めた数値範囲内における一の値を初期値として、主制御ＭＰＵ１３１０ａに入力されるクロック信号に基づいて高速に予め定めた数値範囲内における他の値を次々に抽出し、予め定めた数値範囲内におけるすべての値を抽出し終えると、再び、予め定めた数値範囲内における一の値を抽出して、主制御ＭＰＵ１３１０ａに入力されるクロック信号に基づいて高速に予め定めた数値範囲内における他の値を次々に抽出する。このような高速な抽選を主制御内蔵ハード乱数回路が繰り返し行い、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、主制御内蔵ハード乱数回路から値を取得する時点における主制御内蔵ハード乱数回路が抽出した値を特別乱数としてセットするようになっている。

【３３８６】

これに対して、普通図柄当り判定用乱数を更新するカウンタは、最小値から最大値までに亘る予め定めた固定数値範囲内において更新され、この最小値から最大値までに亘る範囲を、後述する主制御側タイマ割り込み処理が行われるごとに値１ずつ加算されることでカウントアップする。このカウンタは、普通図柄当り判定用初期値決定乱数から最大値に向かってカウントアップし、続いて最小値から普通図柄当り判定用初期値決定乱数に向かってカウントアップする。普通図柄当り判定用乱数の最小値から最大値までに亘る範囲をカウンタがカウントアップし終えると、普通図柄当り判定用初期値決定乱数は更新される。このようなカウンタの更新方法を「初期値更新型のカウンタ」という。普通図柄当り判定用初期値決定乱数は、普通図柄当り判定用乱数を更新するカウンタの固定数値範囲から一の値を抽選する初期値抽選処理を実行して得ることができるようになっている。

【３３８７】

なお、本実施形態では、払出制御基板６３３のＲＡＭクリアスイッチ（ＲＷＭスイッチ６３３ｄ）が電源投入時に操作された場合や、後述する、主制御側電源投入時処理において主制御ＭＰＵ１３１０ａの主制御内蔵ＲＡＭに記憶されている各種情報を数値とみなしてその合計を算出して得たチェックサムの値（サム値）が主制御側電源断時処理（電源断時）において記憶されているチェックサムの値（サム値）と一致していない場合など、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてをクリアする場合には、普通図柄当り判定用初期値決定乱数は、主制御ＭＰＵ１３１０ａがその内蔵する不揮発性のＲＡＭからＩＤコードを取り出し、この取り出したＩＤコードに基づいて普通図柄当り判定用乱数を更新するカウンタの固定数値範囲から常に同一の固定値を導出する初期値導出処理を実行し、この導出した固定値がセットされる仕組みとなっている。つまり、普通図柄当り判定用初期値決定乱数は、初期値導出処理の実行によりＩＤコードに基づいて導出された同一の固定値が常に上書き更新されるようになっている。このように、普通図柄当り判定用初期値決定乱数にセットされる値は、ＩＤコードを利用して導出されており、主制御ＭＰＵ１３１０ａを製造したメーカーによって主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵する不揮発性のＲＡＭにＩＤコードを記憶させるとＩＤコードが外部装置を用いても書き換えられないという第１のセキュリティ対策と、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてをクリアする場合に初期値導出処理を実行することによってＩＤコードに基づいて同一の固定値を

導出するという第２のセキュリティ対策と、による２段階のセキュリティ対策が講じられることよって解析されるのを防止している。
【３３８８】
ここで、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵する不揮発性のＲＡＭからＩＤコードを取り出し、この取り出したＩＤコードを普通図柄当り判定用初期値決定乱数として用いる利点について説明する。例えば、賞球として払い出される遊技球を不正に獲得しようとする者が何らかの方法で遊技盤５を入手して分解し、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵する不揮発性のＲＡＭに予め記憶されているＩＤコードを不正に取得し、普通図柄当り判定用乱数を更新するカウンタの値と普通図柄当り判定値とが一致するタイミングを把握することができたとしても、そのＩＤコードが個体を識別するためのユニークな符号が付されたものであるため、他の遊技盤５'に備える主制御ＭＰＵ１３１０ａ'に内蔵する不揮発性のＲＡＭに予め記憶されているＩＤコードとまったく異なるものとなる。つまり他の遊技盤５'においては、普通図柄当り判定用乱数を更新するカウンタの値と普通図柄当り判定値とが一致するタイミングも、入手した遊技盤５のものとまったく異なる。換言すると、入手した遊技盤５を分解して解析して得たＩＤコードは、他の遊技盤５'、つまり他のパチンコ機１'において、まったく役に立たないものであるため、分解して解析した得た所定間隔ごとに瞬停を発生させ、その所定間隔ごとに、ゲート２００３に遊技球を通過させたとしても、第二始動口扉２４１１を開閉動作させて第二始動口２００４へ遊技球Ｂを誘導可能な状態を発生させることができない。
【３３８９】
［２２－３．主制御側電源投入時処理］
まず、パチンコ機１に電源が投入されると、デフォルトとして予め定めたアドレスにスタックポインタが設定されるように主制御ＭＰＵ１３１０ａが回路構成されている。このスタックポインタは、例えば、使用中の記憶素子（レジスタ）の内容を一時記憶するためにスタックに積んだアドレスを示したり、サブルーチンを終了して本ルーチンに復帰するときの本ルーチンの復帰アドレスを一時記憶するためにスタックに積んだアドレスを示したりするものであり、スタックが積まれるごとにスタックポインタが進む。
【３３９０】
主制御ＭＰＵ１３１０ａによる制御の下、図２５５及び図２５６に示すように、主制御側電源投入時処理を行う。この主制御側電源投入時処理が開始されると、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ＲＡＭアクセス許可の設定を行う（ステップＳ１０）。このＲＡＭアクセス許可の設定により主制御内蔵ＲＡＭに対する更新を行うことができる。
【３３９１】
ステップＳ１０に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、停電クリア処理を行う（ステップＳ１２）。この停電クリア処理では、ウェイトタイマ処理を行い、停電監視回路からの停電予告信号が入力されているか否かを判定する。電源投入時から所定電圧となるまでの間では電圧がすぐに上がらない。一方、停電又は瞬停（電力の供給が一時停止する現象）となるときでは電圧が下がり、停電予告電圧より小さくなると、停電監視回路から停電予告として停電予告信号が入力される。電源投入時から所定電圧に上がるまでの間では同様に電圧が停電予告電圧より小さくなると、停電監視回路から停電予告信号が入力される。そこで、ウェイトタイマ処理では、電源投入後、電圧が停電予告電圧より大きくなって安定するまで待つための処理であり、本実施形態では、待ち時間（ウェイトタイマ）として２００ミリ秒（ｍｓ）が設定されている。
【３３９２】
ステップＳ１２に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ＲＡＭクリアスイッチが操作されているか否かを判定する（ステップＳ１４）。ＲＡＭクリアスイッチは、３つの機能を兼用する機能（ＲＡＭクリアスイッチ、設定切替ボタン、及びエラー解除スイッチ）を有し、ここでは、主制御内蔵ＲＡＭの所定領域に記憶された情報を完全に消去するためのＲＡＭクリアスイッチの機能として作動する。この判定では、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ＲＡＭクリアスイッチからの操作信号（ＲＡＭクリア信号）の論理がＨＩであるときには

ＲＡＭクリアを行うと判断してＲＡＭクリアスイッチが操作されていないと判定する一方、ＲＡＭクリアスイッチからの操作信号（ＲＡＭクリア信号）の論理がＬＯＷであるときにはＲＡＭクリアを行うと判断してＲＡＭクリアスイッチが操作されていると判定する。なお、本ルーチンである主制御側電源投入時処理が開始されてからステップＳ１４の判定までに亘る期間内において、極めて短時間であるため、実際には、ＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部を押圧操作する者は、ＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部を押圧操作しながらパチンコ機１の電源投入を行うこととなる。

【３３９３】

ステップＳ１４の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ＲＡＭクリアスイッチが操作されていると判定したときには、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧに値１をセットする（ステップＳ１６Ａ）。一方、ステップＳ１４の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ＲＡＭクリアスイッチが操作されていないと判定したときには、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧに値０をセットする（ステップＳ１６Ｂ）。つまり、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、電源投入時から所定時間に亘って、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されたＲＡＭ（つまり、主制御内蔵ＲＡＭ）の初期化を行うＲＡＭクリア処理（ステップＳ３８）を実行可能な状態とする。上述したＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧは、主制御ＭＰＵ１３１０ａの主制御内蔵ＲＡＭに記憶されている、確率変動、未払い出し賞球等の遊技に関する遊技情報、及びその他の情報（例えば、メイン賞球数情報出力判定用カウンタの値を示す情報等）を含む各種情報を消去するか否かを示すフラグであり、各種情報を消去するとき値１、各種情報を消去しないとき値０にそれぞれ設定される。なお、ステップＳ１６Ａ及びステップＳ１６Ｂでセットされたクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧの値は、主制御ＭＰＵ１３１０ａの汎用記憶素子（汎用レジスタ）に記憶される。このように主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されたＲＡＭ（つまり、主制御内蔵ＲＡＭ）の初期化を行うＲＡＭクリア処理（ステップＳ３８）を実行する場合には、パチンコ機１の電源投入時や停電後の電力回復時における復電時において、ＲＡＭクリアスイッチが操作され、かつ設定キースイッチ１３１１ａが設定キーＯＮされていないという「予め定めた初期化処理実行条件」が成立している必要がある。

【３３９４】

ステップＳ１６Ａ又はステップＳ１６Ｂに続いて、本体枠４の開放及び設定キーのＯＮ操作があるか否かを判定する（ステップＳ１８）。この判定では、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、外枠２に対する本体枠４の開放を検出するための本体枠開放スイッチ４ｂからの検出信号と、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの差し込み口に設定キーが差し込まれ、設定キーシリンダが初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）から時計方向へ向かって６０度回動操作されてＯＮ操作されることで設定キースイッチ１３１１ａが設定キーＯＮされ、設定キースイッチ１３１１ａからの設定キーＯＮの信号と、に基づいて行う。なお、本ルーチンである主制御側電源投入時処理が開始されてからステップＳ１８の判定までに亘る期間内において、極めて短時間であるため、実際には、設定キースイッチ１３１１ａをＯＮ操作する者は、設定キースイッチ１３１１ａをＯＮ操作したのちにパチンコ機１の電源投入を行うこととなる。

【３３９５】

ステップＳ１８の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、本体枠開放スイッチ４ｂからの検出信号により外枠２に対して本体枠４が開放されていると判定し、かつ、設定キーＯＮの信号により設定キースイッチ１３１１ａが設定キーＯＮされていると判定したときには、設定キーＯＮフラグＣＳ－ＦＬＧに値１をセットする（ステップＳ２０Ａ）。一方、ステップＳ１８の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、本体枠開放スイッチ４ｂからの検出信号により外枠２に対して本体枠４が開放されていないと判定し、及び／又は、設定キーＯＮの信号により設定キースイッチ１３１１ａが設定キーＯＮされていないと判定したときには、設定キーＯＮフラグＣＳ－ＦＬＧに値０をセットする（ステップＳ２０Ｂ）。設定キーＯＮフラグＣＳ－ＦＬＧは、主制御ＭＰＵ１３１０ａの主制御内蔵Ｒ

ＡＭの所定領域（後述する、特定領域における設定値専用領域）に格納されている現状の設定値（設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダがＯＮ操作された時点における設定値１～設定値６のうち設定されている値）の設定変更や確認表示を行うことを許可するか否かを示すフラグであり、設定値の設定変更や確認表示を行うことを許可するとき値１、設定値の設定変更や確認表示を行うことを許可しないとき値０にそれぞれ設定される。なお、ステップＳ２０Ａ及びステップＳ２０Ｂでセットされた設定キーＯＮフラグＣＳ－ＦＬＧの値は、主制御ＭＰＵ１３１０ａの汎用記憶素子（汎用レジスタ）に記憶される。

【３３９６】

ステップＳ２０Ａ又はステップＳ２０Ｂに続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ウェイト時間待機処理を行う（ステップＳ２２）。このウェイト時間待機処理では、周辺制御基板１５１０の描画制御を行うシステムが起動する（ブートする）まで待っている。本実施形態では、ブートするまでの待機時間（ブートタイマ）として２．５秒（ｓ）が設定されている。周辺制御基板１５１０は、主制御ＭＰＵ１３１０ａがウェイト時間待機処理を完了する時点において、主制御基板１３１０（主制御ＭＰＵ１３１０ａ）からの各種コマンドを受信することができる状態となっている。なお、主制御ＭＰＵ１３１０ａがウェイト時間待機処理を完了する時点において、払出制御基板６３３が周辺制御基板１５１０と比べて短時間でブート完了するため、払出制御基板６３３は、主制御基板１３１０（主制御ＭＰＵ１３１０ａ）からの各種コマンドを受信することができる状態となっている。

【３３９７】

ステップＳ２２に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、停電予告信号が入力されているか否かを判定する（ステップＳ２４）。上述したように、パチンコ機１の電源を遮断したり、停電又は瞬停したりするときには、電圧が停電予告電圧以下となると、停電予告として停電予告信号が停電監視回路から入力される。ステップＳ２４の判定は、この停電予告信号に基づいて行う。ステップＳ２４の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、停電予告信号の入力があると判定したときには、ステップＳ２４の判定に再び戻り、停電予告信号の入力があり続ける限り、ステップＳ２４の判定を繰り返し行う。なお、ステップＳ２４の判定がステップＳ２２のウェイト時間待機処理に続いて行われる点についての詳細な説明を後述する。

【３３９８】

ステップＳ２４の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、停電予告信号の入力がないと判定したときには、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧが値１、且つ、設定キーＯＮフラグＣＳ－ＦＬＧが値１であるか否かを判定する（ステップＳ２５）。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧが値１、且つ、設定キーＯＮフラグＣＳ－ＦＬＧが値１であると判定したことによって、予め定めた設定値変更許可条件が成立していると判定する。

【３３９９】

ステップＳ２５の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧが値１、且つ、設定キーＯＮフラグＣＳ－ＦＬＧが値１でないと判定したときには、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧが値１、且つ、設定キーＯＮフラグＣＳ－ＦＬＧが値０であるか否かを判定する（ステップＳ２６）。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧが値１、且つ、設定キーＯＮフラグＣＳ－ＦＬＧが値０であると判定したことによって、予め定めた設定値変更許可条件が成立していないが、予め定めた設定値変更許可条件が成立した場合と同様に各種情報を消去すると判定する。

【３４００】

ステップＳ２６の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧが値１、且つ、設定キーＯＮフラグＣＳ－ＦＬＧが値０でないと判定したときには、チェックサムの算出を行う（ステップＳ２９）。このチェックサムは、主制御内蔵ＲＡＭに記憶されている各種情報を数値とみなしてその合計を算出するものである。

【３４０１】
ステップＳ２９に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、算出したチェックサムの値（サム値）が後述する主制御側電源断時処理（電源断時）において記憶されているチェックサムの値（サム値）と一致しているか否かを判定する（ステップＳ３０）。ステップＳ３０において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、一致していると判定したときには、バックアップフラグＢＫ－ＦＬＧが値１であるか否かを判定する（ステップＳ３２）。このバックアップフラグＢＫ－ＦＬＧは、各種情報、チェックサムの値（サム値）及びバックアップフラグＢＫ－ＦＬＧの値等の遊技バックアップ情報を後述する主制御側電源断時処理において主制御内蔵ＲＡＭに記憶保持したか否かを示すフラグであり、主制御側電源断時処理を正常に終了したとき値１、主制御側電源断時処理を正常に終了していないとき値０にそれぞれ設定される。なお、主制御基板１３１０の製造ラインの検査工程において、検査のために製造してから最初に主制御基板１３１０が電源投入される際における、ステップＳ２９のチェックサムの算出と、ステップＳ３０の判定と、についての詳細な説明を後述する。
【３４０２】
ステップＳ３０の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、チェックサムの値（サム値）が一致していないと判定したときには、又はステップＳ３２の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、バックアップフラグＢＫ－ＦＬＧが値１でない（値０である）とき、つまり主制御側電源断時処理を正常に終了していないと判定したときには、エラー表示処理を行い（ステップＳ３３）、無限ループに入る。この無限ループにより、エラー表示処理が終了した状態を維持することとなり、遊技を進行することが全くできない状態となり、パチンコ機１の電源を遮断して、再び電源を投入することとなる。このエラー表示処理では、その詳細な説明を後述するが、主制御内蔵ＲＡＭの内容に異常があると判定した場合、又は、電源遮断時に主制御側電源断時処理が正常に終了していないと判定した場合には、主制御内蔵ＲＡＭに格納されている内容に異常がある（又は信用することができないものである）として、その旨を伝えるエラー表示を行う。本実施形態では、主制御ＭＰＵ１３１０ａがエラー表示として英字Ｅを設定表示器１３１０ｇに表示するようになっている。
【３４０３】
なお、パチンコ機１の電源遮断を行い、外枠２に対して本体枠４が開放し、かつ、設定キーシリンダが初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）から時計方向へ向かって６０度回動操作してＯＮ操作したのちに、払出制御基板６３３のＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部を操作しながらパチンコ機１の電源投入を行うことにより、再び本ルーチンである主制御側電源投入時処理が開始される。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、上述したステップＳ１４の判定において、ＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部が操作されていると判定して、上述したステップＳ１６Ａにおいて、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧに値１をセットするとともに、上述したステップＳ１８の判定において、本体枠開放スイッチ４ｂからの検出信号により外枠２に対して本体枠４が開放されていると判定し、かつ、設定キーＯＮの信号により設定キースイッチ１３１１ａが設定キーＯＮされていると判定して、上述したステップＳ２０Ａにおいて、設定キーＯＮフラグＣＳ－ＦＬＧに値１をセットするため、上述したステップＳ２５の判定において、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧが値１、且つ、設定キーＯＮフラグＣＳ－ＦＬＧが値１であるとして、予め定めた設定値変更許可条件が成立していると判定して、後述するステップＳ３７の設定変更処理に続いて、後述するステップＳ３８の処理において、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアすることによりＲＡＭエラーを解除して遊技を進行することができるようになっている（以下、「第１のＲＡＭエラー解除方法」と記載する）。
【３４０４】
この第１のＲＡＭエラー解除方法とは別の方法として、パチンコ機１の電源遮断を行い、設定キーシリンダが初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）のままで、払出制御基板６３３のＲＡＭクリアスイッチの押圧

操作部を押圧操作しながらパチンコ機１の電源投入を行うことにより、再び本ルーチンである主制御側電源投入時処理が開始される。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、上述したステップＳ１４の判定において、ＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部が操作されていると判定して、上述したステップＳ１６Ａにおいて、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧに値１をセットするのに対し、上述したステップＳ１８において、本体枠開放スイッチ４ｂからの検出信号により外枠２に対して本体枠４が開放されていないと判定し、及び／又は、設定キーＯＮの信号により設定キースイッチ１３１１ａが設定キーＯＮされていないと判定して、上述したステップＳ２０Ｂにおいて、設定キーＯＮフラグＣＳ－ＦＬＧに値０をセットするため、上述したステップＳ２６の判定において、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧが値１、且つ、設定キーＯＮフラグＣＳ－ＦＬＧが値０であるとして、つまり予め定めた設定値変更許可条件が成立していないが、予め定めた設定値変更許可条件が成立した場合と同様に各種情報を消去すると判定して、後述するステップＳ３８の処理において、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアすることによりＲＡＭエラーを解除して遊技を進行することができるようになっている（以下、「第２のＲＡＭエラー解除方法」と記載する）。

【３４０５】

このように、本実施形態では、ステップＳ３０の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、チェックサムの値（サム値）が一致していないと判定したときには、又はステップＳ３２の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、バックアップフラグＢＫ－ＦＬＧが値１でない（値０である）とき、つまり主制御側電源断時処理を正常に終了していないと判定したときには、ステップＳ３３のエラー表示を行って、主制御内蔵ＲＡＭに格納されている内容に異常がある（又は信用することができないものである）の旨を伝える場合には、第１のＲＡＭエラー解除方法と第２のＲＡＭエラー解除方法との２つの解除方法により行うことができるようになっている。これにより、設定値の設定変更を全く行う必要がない場合には、ＲＡＭクリアスイッチによる第２のＲＡＭエラー解除方法を行うことによりＲＡＭエラーを解除することができるようになっている。

【３４０６】

一方、ステップＳ３２の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、バックアップフラグＢＫ－ＦＬＧが値１であるとき、つまり主制御側電源断時処理を正常に終了したと判定したときには、復電時として主制御内蔵ＲＡＭの作業領域を設定する（ステップＳ３４）。この設定は、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されたＲＯＭ（つまり、主制御内蔵ＲＯＭ）から復電時情報を読み出し、この復電時情報を主制御内蔵ＲＡＭの作業領域にセットする。これにより、遊技バックアップ情報から各種情報を読み出してこの各種情報に応じた各種コマンドを主制御内蔵ＲＡＭの所定記憶領域に記憶する。また、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されている設定値に基づいて遊技を進行することとなる。なお、「復電」とは、電源を遮断した状態から電源を投入した状態のほかに、停電又は瞬停からその後の電力の復旧した状態、不正手段（例えば、不正行為者が腕の裾に隠した高周波出力装置）からの高周波が主制御基板１３１０に照射されて主制御ＭＰＵ１３１０ａ自体がリセットし、その後に復帰した状態も含める。

【３４０７】

ステップＳ３４に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、バックアップフラグＢＫ－ＦＬＧに値０をセットする（ステップＳ３６）。これにより、これ以後の各種処理が行われることにより各種情報、チェックサムの値（サム値）等が変更されるため、後述する主制御側電源断時処理を正常に終了してバックアップフラグＢＫ－ＦＬＧに値１がセットされないと、後述するように、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてがクリアされることとなる。

【３４０８】

ステップＳ３６の判定に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧが値０、且つ、設定キーＯＮフラグＣＳ－ＦＬＧが値１であるか否かを判

定する（ステップＳ２７）。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧが値０、且つ、設定キーＯＮフラグＣＳ－ＦＬＧが値１であると判定したことによって、予め定めた設定値表示許可条件が成立していると判定する。

【３４０９】

ステップＳ２７の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧが値０、且つ、設定キーＯＮフラグＣＳ－ＦＬＧが値１であるとして、予め定めた設定値表示許可条件が成立していると判定したときには、設定値確認表示処理を行う（ステップＳ２８）。この設定値確認表示処理では、その詳細な説明を後述するが、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されている設定値を設定表示器１３１０ｇに表示する。

【３４１０】

一方、ステップＳ２５の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧが値１、且つ、設定キーＯＮフラグＣＳ－ＦＬＧが値１であると判定したとき、つまり予め定めた設定値変更許可条件が成立していると判定したときには、設定変更処理を行う（ステップＳ３７）。この設定変更処理では、その詳細な説明を後述するが、払出制御基板６３３のＲＡＭクリアスイッチからの信号に基づいてい行う。ＲＡＭクリアスイッチは、上述したように、３つの機能を兼用する機能（ＲＡＭクリアスイッチ、設定切替ボタン、及びエラー解除スイッチ）を有し、ここでは、設定値を選択して切り替えるための設定切替ボタンの機能として作動する。ＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部が操作されるごとにその旨を伝える信号（設定値の選択切替信号）が入力されて、設定値を変更して設定表示器１３１０ｇに表示し、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダがＯＮ操作からＯＦＦ操作されたことで設定キースイッチ１３１１ａからのＯＦＦの信号に基づいて、変更した設定値を決定し、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されているＲＡＭの所定領域に格納する。

【３４１１】

ステップＳ３７の処理、又はステップＳ２６の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧが値１、且つ、設定キーＯＮフラグＣＳ－ＦＬＧが値０であると判定したとき、つまり予め定めた設定値変更許可条件が成立していないが、予め定めた設定値変更許可条件が成立した場合と同様に各種情報を消去すると判定したときには、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする（ステップＳ３８）。ここでは、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、値０を主制御内蔵ＲＡＭの所定領域（主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除く領域。）に書き込むことよって行う。本実施形態では、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧが値０でない（値１である）とき、つまり各種情報を消去すると判定したときに加えて、設定変更処理を終了すると、必ず、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いて（主制御内蔵ＲＡＭの所定領域（主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除く領域。）を）クリアするようになっている。ここで、「特定領域」とは、設定値が格納される設定値専用領域と、遊技盤５に区画形成される遊技領域５ａに設けられるアウト口１００８、第一サブアウト口２０２１及び第二サブアウト口２０２２により回収された遊技球の球数の計数結果（総数）が格納されるアウト球計数専用領域と、から構成されている。設定値専用領域は、後述する設定変更処理において設定変更される設定値が格納され、アウト球計数専用領域は、後述する球数計数処理において計数されるアウト口１００８、第一サブアウト口２０２１及び第二サブアウト口２０２２により回収された遊技球の球数の計数結果（総数）が格納される。

【３４１２】

なお、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、初期値として主制御内蔵ＲＯＭから所定値を読み出して、セットしてもよい。また、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、払出制御基板６３３のＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部が操作された旨を伝える信号（ＲＡＭクリア信号）の論理がＲＡＭクリアを指示するもので各種情報を消去するとき、サム値が一致していないとき、又は主制御側電源断時処理を正常に終了していないときには、主制御ＭＰＵ１３１０ａの不揮発性のＲＡＭに予め記憶された固有のＩＤコードを取り出し、この取り出したＩＤ

コードに基づいて普通図柄当り判定用乱数を更新するカウンタの固定数値範囲から常に同一の固定値を導出する初期値導出処理を行い、この固定値を、上述した普通図柄当り判定用乱数の初期値の決定に用いるための普通図柄当り判定用初期値決定乱数にセットする。

【３４１３】

ステップＳ３８に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、初期設定として主制御内蔵ＲＡＭの作業領域を設定する（ステップＳ４０）。この設定は、主制御内蔵ＲＯＭから初期情報を読み出してこの初期情報を主制御内蔵ＲＡＭの作業領域にセットされることにより実施される。これにより、遊技バックアップ情報が初期化され、例えばメイン賞球数情報出力判定用カウンタの値は、初期値である値０に設定（セット）される。また、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されている設定値に基づいて遊技を進行することとなる。

【３４１４】

ステップＳ３６，Ｓ２８又はステップＳ４０に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、主制御内蔵ＷＤＴの初期値設定及び起動設定を行う（ステップＳ４１）。ここでは、主制御ＭＰＵ１３１０ａの動作（システム）が正常動作しているか否かを監視する主制御内蔵ＷＤＴに初期値を設定するために主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されるウォッチドックタイマコントロールレジスタ（以下、「ＷＤＴコントロールレジスタ」と記載する。）にタイマ設定値を設定して主制御内蔵ＷＤＴを起動させて主制御ＭＰＵ１３１０ａをリセットするまでの計時を開始する。主制御内蔵ＷＤＴが起動すると、主制御内蔵ＷＤＴによる計時が開始され、この計時された時間がタイマ設定値で設定された時間に達するまでに、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されるウォッチドックタイマクリアレジスタ（以下、「ＷＤＴクリアレジスタ」と記載する。）にタイマクリア設定値をセットしないと、主制御内蔵ＷＤＴにより主制御ＭＰＵ１３１０ａが強制的にリセットされるようになっている。これに対して、主制御内蔵ＷＤＴが起動して計時が開始されると、この計時された時間がタイマ設定値で設定された時間に達するまでにＷＤＴクリアレジスタにタイマクリア設定値をセットすると、主制御内蔵ＷＤＴによる計時がクリアされて、再び計時が開始されるようになっている。このように、主制御内蔵ＷＤＴによる計時をタイマ設定値で設定された時間に達するまでにクリアして再び計時を開始するという処理を繰り返し行うことにより主制御ＭＰＵ１３１０ａの動作（システム）が正常動作しているか否かを監視することができる。

【３４１５】

ステップＳ４１に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、割り込み初期設定を行う（ステップＳ４２）。この設定は、後述する主制御側タイマ割り込み処理が行われるときの割り込み周期を設定するものである。本実施形態では、４ミリ秒（ｍｓ）に設定されている。

【３４１６】

ステップＳ４２に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、シリアル通信初期設定を行う（ステップＳ４４）。ここでは、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵される各種シリアル入出力ポート（例えば、払出制御基板６３３に対するシリアル入出力ポート（受信チャンネル及び送信チャンネル）、周辺制御基板１５１０に対するシリアル入出力ポート（受信チャンネル及び送信チャンネル）に対応する、送信シリアルポートプリスケーラに通信速度の設定やパリティ有無の設定等を行うとともに、送信シリアルポートコントロールレジスタに送信回路の初期化の設定や送信許可の設定等を行う。

【３４１７】

ステップＳ４４に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、試験信号出力ポート初期化設定を行う（ステップＳ４６）。ここでは、遊技機の試験機関において、各種検査情報を出力するための図示しない試験信号出力ポートを、電源投入時に初期化設定（ＯＦＦデータ出力に設定）等を行う。

【３４１８】

ステップＳ４６に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、主制御内蔵ハード乱数回路の起動設定を行う（ステップＳ４８）。ここでは、遊技に関する各種乱数のうち、大当り遊技

状態を発生させるか否かの決定に用いるための特別乱数を、ハードウェアにより更新するために主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されるハード乱数コントロールレジスタに乱数をラッチして取得するという設定等を行うとともに、ハード乱数設定レジスタに主制御内蔵ハード乱数回路の起動等を設定する。これらの設定により主制御内蔵ハード乱数回路が起動すると、主制御ＭＰＵ１３１０ａに入力されるクロック信号に基づいて高速に予め定めた数値範囲内における他の値を重複することなく次々に抽出し、予め定めた数値範囲内におけるすべての値を抽出し終えると、再び、予め定めた数値範囲内における一の値を抽出して、主制御ＭＰＵ１３１０ａに入力されるクロック信号に基づいて高速に予め定めた数値範囲内における他の値を重複することなく次々に抽出する。なお、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、主制御内蔵ハード乱数回路から乱数（乱数値）を取得するときには、主制御内蔵ハード乱数回路にラッチ信号を出力し、このラッチ信号が入力された際における主制御内蔵ハード乱数回路が抽出した乱数（乱数値）を、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されるハード乱数ラッチレジスタから取得するようになっている。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、この取得した乱数値を特別乱数としてセットする。

【３４１９】

ステップＳ４８に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、電源投入時に送信するコマンドの予約設定を行う（ステップＳ５０）。ここでは、ステップＳ３４の主制御内蔵ＲＡＭの作業領域の設定において主制御内蔵ＲＡＭの作業領域にセットされた復電時情報に基づいて、電源投入（復電）した旨を伝えるために、電源投入に区分される電源投入時状態コマンド、電源投入時主制御復帰先コマンド、そして電源投入時メイン賞球数情報出力判定用カウンタ通知コマンドを作成して送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶する。主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域には、ステップＳ３４の主制御内蔵ＲＡＭの作業領域の設定において、遊技バックアップ情報から各種情報を読み出してこの各種情報に応じた各種コマンドが記憶されている場合もある。このような場合には、まず各種情報のうち遊技情報に応じた各種コマンドの送信完了後に、続いて電源投入時状態コマンド、電源投入時主制御復帰先コマンド、そして電源投入時メイン賞球数情報出力判定用カウンタ通知コマンドが送信されることとなる。これらのコマンドは、後述する主制御側タイマ割り込み処理において送信されるようになっている。なお、ステップＳ５０において電源投入時に送信するコマンドの予約設定が行われる点についての詳細な説明を後述する。

【３４２０】

ステップＳ５０に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、割り込み許可設定を行う（ステップＳ５２）。この設定によりステップＳ４２で設定した割り込み周期、つまり４ｍｓごとに後述する主制御側タイマ割り込み処理が繰り返し行われる。

【３４２１】

ステップＳ５２に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、停電予告信号が入力されているか否かを判定する（ステップＳ５４）。パチンコ機１の電源を遮断したり、停電又は瞬停したりするときには、上述したように、電圧が停電予告電圧以下となると、停電予告として停電予告信号が停電監視回路から主制御ＭＰＵ１３１０ａに入力される。ステップＳ５４の判定は、この停電予告信号に基づいて行う。

【３４２２】

ステップＳ５４の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、停電予告信号の入力がないと判定したときには、非当落乱数更新処理を行う（ステップＳ５６）。この非当落乱数更新処理では、上述した、リーチ判定用乱数、変動表示パターン用乱数、大当り図柄用初期値決定用乱数、及び小当り図柄用初期値決定用乱数等を更新する。このように、非当落乱数更新処理では、当落判定（大当り判定）にかかわらない乱数をソフトウェアにより更新する。なお、上述した、普通図柄当り判定用乱数、普通図柄当り判定用初期値決定乱数及び普通図柄変動表示パターン用乱数等もこの非当落乱数更新処理により更新される。

【３４２３】

ステップＳ５６に続いて、再びステップＳ５４に戻り、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、停

電予告信号の入力があるか否かを判定し、この停電予告信号の入力がなければ、ステップＳ５６で非当落乱数更新処理を行い、ステップＳ５４～ステップＳ５６を繰り返し行う。なお、このステップＳ５４～ステップＳ５６の処理を「主制御側メイン処理」という。

【３４２４】

一方、ステップＳ５４の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、停電予告信号の入力があったと判定したときには、割り込み禁止設定を行う（ステップＳ５８）。この設定により後述する主制御側タイマ割り込み処理が行われなくなり、主制御内蔵ＲＡＭへの書き込みを防ぎ、上述した、遊技情報、及びその他の情報を含む各種情報の書き換えを保護している。

【３４２５】

ステップＳ５８に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、停電クリア信号を出力開始する（ステップＳ６０）。ここでは、ステップＳ１２の停電クリア処理において停電クリア信号を出力開始した処理と同一の処理を行う。

【３４２６】

ステップＳ６０に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、例えば、機能表示ユニット１４００の各種表示器、始動口ソレノイド２４１２、アタッカソレノイド２４１４、役物入賞口ソレノイド２６１２、Ｖ振分ソレノイド３００７、特殊モニタ等に出力している駆動信号を停止する（ステップＳ６２）。

【３４２７】

ステップＳ６２に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、チェックサムの算出を行ってこの算出した値を記憶する（ステップＳ６４）。このチェックサムは、上述したチェックサムの値（サム値）及びバックアップフラグＢＫ－ＦＬＧの値の記憶領域を除く、主制御内蔵ＲＡＭの作業領域の遊技情報を数値とみなしてその合計を算出する。

【３４２８】

ステップＳ６４に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、バックアップフラグＢＫ－ＦＬＧに値１をセットする（ステップＳ６６）。これにより、遊技バックアップ情報の記憶が完了する。

【３４２９】

ステップＳ６６に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ＲＡＭアクセス禁止の設定を行う（ステップＳ６８）。このＲＡＭアクセス禁止の設定により主制御内蔵ＲＡＭに対するアクセスが行うことができなくなることよって主制御内蔵ＲＡＭの内容の更新を防止することができる。

【３４３０】

ステップＳ６８に続いて、無限ループに入る。この無限ループでは、ステップＳ４１において起動した主制御内蔵ＷＤＴに対して主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されるＷＤＴクリアレジスタにタイマクリア設定値をセットし、主制御内蔵ＷＤＴによる計時をクリアして再び計時を開始させることができなくなることによって、主制御内蔵ＷＤＴにより主制御ＭＰＵ１３１０ａが強制的にリセットされることとなる。その後、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、この主制御側電源投入時処理を再び行う。なお、ステップＳ５８～ステップＳ６８の処理及び無限ループを「主制御側電源断時処理」という。

【３４３１】

主制御ＭＰＵ１３１０ａは、上述したように、電気的なノイズの影響を受けると、内蔵リセット回路による強制リセットがかかる。この場合、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ５４の判定を行うことができず、主制御側電源断時処理を行うことができない。このため、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、内蔵リセット回路による強制リセットがかかると、主制御側電源断時処理を実行することなく、リセットがかかり、再び、主制御側電源投入時処理を実行することとなる。つまり、主制御側電源断時処理が実行されないことにより、内蔵リセット回路による強制リセットがかかる直前に基づく主制御側電源断時処理におけるチェックサムの値（サム値）が記憶されていないため、前回電源遮断時において主制御側電源断時処理が実行されて記憶されたチェックサムの値（サム値）と、内蔵リセット

回路による強制リセットがかかって再起動するときにステップＳ２９で算出したチェックサムの値（サム値）と、が一致するはずがなく、必ず主制御内蔵ＲＡＭのチェックサム（サム値）エラーとなって、ステップＳ３８の処理において主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いて完全に消去（クリア）されることとなる。

【３４３２】

パチンコ機１（主制御ＭＰＵ１３１０ａ）は、停電したとき又は瞬停したときにはリセットがかかり、その後の電力の復旧により、この主制御側電源投入時処理を行う。

【３４３３】

なお、ステップＳ３０では主制御内蔵ＲＡＭに記憶されている遊技バックアップ情報が正常なものであるか否かを検査し、続いてステップＳ３２では主制御側電源断時処理が正常に終了された否かを検査している。このように、主制御内蔵ＲＡＭに記憶されている遊技バックアップ情報を２重にチェックすることにより遊技バックアップ情報が不正行為により記憶されたものであるか否かを検査している。

【３４３４】

また、ステップＳ２５の判定において、設定変更許可フラグＣＳ－ＦＬＧが値０でない（値１である）とき、つまり設定値の設定変更を行うことを許可するときには、ステップＳ３７の設定変更処理を行い、ステップＳ３８の処理において主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いて完全に消去（クリア）し、ステップＳ２６の判定において、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧが値０でない（値１である）とき、つまり各種情報を消去すると判定したときには、ステップＳ３８の処理において主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いて完全に消去（クリア）する。このように、復電時に押圧操作部が操作されている場合（正確には、ＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部を押圧操作しながらパチンコ機１の電源投入を行う場合）、設定値を変更決定することができる設定変更を行う場合（主制御ＭＰＵ１３１０ａが設定変更処理を行った場合）には、主制御ＭＰＵ１３１０ａが主制御内蔵ＲＡＭの所定領域を必ずクリアする。これは、ＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部が押圧操作される場合には、例えば、遊技ホールの営業が終了した際に、パチンコ機１が遊技者にとって有利な状態（例えば、確率変動（確変）当りとなっている状態等）である場合には、次の営業開始までに、上述した遊技バックアップ情報を消去（クリア）する必要があるため、遊技ホールの店員等の係員は、ＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部を押圧操作しながらパチンコ機１の電源投入する必要がある。また、設定値を変更決定する場合には、設定変更処理が行われると、（結果的に現状の設定値が維持される場合であっても、設定変更処理が行われる前の設定値により得た遊技情報等の各種情報を含む遊技バックアップ情報を主制御内蔵ＲＡＭから消去（クリア）する必要がある。設定キーは、上述したように、設定値の変更のほかに、設定されている現状の設定値の確認等を行うことができる重要なキーであるため、遊技ホールの店長を含め限られた者のみ所持が許可され、２～３人に限定されている。本実施形態では、設定値が変更決定されなくても、つまり限定された特定の者だけが所持する設定キーがなくても、遊技ホールの店員等の係員は、遊技バックアップ情報を消去（クリア）する必要があるときにＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部を押圧操作しながらパチンコ機１の電源投入を行うことにより、遊技バックアップ情報を主制御内蔵ＲＡＭから消去（クリア）することができるようになっている。

【３４３５】

ここで、ステップＳ２４の停電予告信号の有無の判定をステップＳ２２のウェイト時間待機処理に続いて行う点について説明する。まず、ステップＳ２４の停電予告信号の有無の判定がない場合における問題点について、つまりステップＳ２２のウェイト時間待機処理の後に、ステップＳ２６のＲＡＭクリアフラグの値の判定を行ってその後の処理をすすめる場合における問題点について説明する。

【３４３６】

主制御ＭＰＵ１３１０ａの電源端子であるＶＤＤ端子には、上述したように、停電又は瞬停が発生して遊技ホールの島設備からの電源が遮断された場合に、電解コンデンサＭＣ

２に充電された電荷が停電又は瞬停が発生してから約７ミリ秒（ｍｓ）という期間に亘って＋５Ｖとして印加されるようになっている。つまり、瞬停や停電により遊技ホールの島設備からの電源が遮断された状態であっても、電解コンデンサＭＣ２というハードウェアに充電された電荷が＋５Ｖとして印加されることにより、遊技ホールの島設備からの電源が遮断されてから約７ｍｓという時間が経過するまでの期間内に、主制御側電源断時処理を完了することができるようになっている。これは、遊技者が遊技を行っている際に、つまり、主制御側メイン処理又は後述する主制御側タイマ割り込み処理を行っている際に、停電又は瞬停が発生して遊技ホールの島設備からの電源が遮断された場合において、主制御側電源断時処理を確実に完了することができるようになっている。

【３４３７】

ところが、極めて稀な現象として、復電時にステップＳ２２のウェイト時間待機処理において、周辺制御基板１５１０の描画制御を行うシステムが起動する（ブートする）までの待機時間（ブートタイマ：本実施形態では、２．５秒が設定されている。）を計時開始し、その待機時間に達する直前で、仮に瞬停又は停電が発生すると、主制御ＭＰＵ１３１０ａの電源端子であるＶＤＤ端子に電解コンデンサＭＣ２というハードウェアに充電された電荷が＋５Ｖとして印加されるものの、約７ｍｓという期間内に、ステップＳ４２で割り込み初期設定が行われ、その後、ステップＳ５２で割り込み許可設定が行われることにより、後述する主制御側タイマ割り込み処理が行われて、主制御内蔵ＲＡＭの内容が更新されても、主制御側電源投入時処理における主制御側電源断時処理を完了することができなくなる場合がある。このため、主制御内蔵ＲＡＭの内容に基づく、チェックサムを算出した値が記憶されることなく再び復電時に主制御側電源投入時処理を開始することとなる。

【３４３８】

そうすると、今回の復電時において主制御側電源投入時処理を開始して、瞬停や停電が発生することなく、ステップＳ２２のウェイト時間待機処理を完了し、その後、ステップＳ２９で主制御内蔵ＲＡＭの内容に基づくチェックサムを算出した値と、瞬停又は停電が発生した直前における主制御内蔵ＲＡＭに記憶されている値と、をステップＳ３０で比較判定すると、チェックサムの値が一致するはずがなく、ステップＳ３８で主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアすることなる。換言すると、復電時にＲＡＭクリアスイッチが遊技ホールの店員等の係員により操作されてＲＡＭクリアという遊技ホールの店員等の係員による意思表示がなくても、強制的に主制御内蔵ＲＡＭに記憶されている上述した遊技バックアップ情報を消去（クリア）することとなるという問題がある。

【３４３９】

そこで、本実施形態では、ステップＳ２２のウェイト時間待機処理の直後に、停電予告信号が入力されているか否かの判定を行う処理をステップＳ２４として設けて、停電予告信号が入力されているときには、ステップＳ２４の判定に再び戻り、停電予告信号の入力があり続ける限り、ステップＳ２４の判定を繰り返し行うようになっている。これにより、遊技の進行を行うことができないようになっている。ステップＳ２２のウェイト時間待機処理を行う前に、ステップＳ１６Ａ又はステップＳ１６ＢにおいてＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧに値が設定されるものの、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧの値は、上述したように、主制御ＭＰＵ１３１０ａの汎用記憶素子（汎用レジスタ）に記憶されるため、ステップＳ１０でＲＡＭアクセス許可の設定が行われていても、主制御内蔵ＲＡＭの内容（遊技情報）が全く変更されない。

【３４４０】

このように、ステップＳ２２のウェイト時間待機処理の直後に、停電予告信号が入力されているか否かの判定を行う処理をステップＳ２４として設けて、停電予告信号が入力されているときには（つまり、ステップＳ２２のウェイト時間待機処理で待機した後にパチンコ機１への電源が遮断されるとステップＳ２４の判定により判定されたときには）、ステップＳ２４の判定に再び戻り、停電予告信号の入力があり続ける限り、ステップＳ２４の判定を繰り返し行うことにより、遊技の進行を行うことができず、遊技情報、及びその

他の情報（例えば、メイン賞球数情報出力判定用カウンタの値を示す情報等）を含む各種情報が更新されることを防止することができ、チェックサムの算出結果に変動が生ずることがないようになっている。これにより、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、再起動した際に、ステップＳ２９のチェックサムの算出結果と、ステップＳ６４のチェックサムの算出記憶した値と、が一致していると判定することとなるため、主制御内蔵ＲＡＭに記憶保持される瞬停や停電が発生する直前の遊技情報を初期化することがない。したがって、復電時において、瞬停や停電が発生する直前の遊技情報が初期化されることを防止することができる。

【３４４１】

また、ステップＳ２２のウェイト時間待機処理の直後に、停電予告信号が入力されているか否かの判定を行う処理をステップＳ２４として設けて、停電予告信号が入力されていないときには（つまり、ステップＳ２２のウェイト時間待機処理で待機した後にパチンコ機１への電源が遮断されないとステップＳ２４の判定により判別されたときには）、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが遊技の進行を行っている際に、パチンコ機１への電源が遮断されても、主制御ＭＰＵ１３１０ａの電源端子であるＶＤＤ端子に、電解コンデンサＭＣ２による電源の供給により、この遊技の進行による遊技情報、及びその他の情報（例えば、メイン賞球数情報出力判定用カウンタの値を示す情報等）を含む各種情報を記憶するためのバックアップ処理であるステップＳ５８～ステップＳ６８の処理及び無限ループにより構成される主制御側電源断時処理を主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが完了することができるようになっているため、主制御ＭＰＵ１３１０ａの主制御ＭＰＵ１３１０ａは、再起動した際に、ステップＳ２９のチェックサムの算出結果と、バックアップ処理においてチェックサムの算出結果（つまり、ステップＳ６４のチェックサムの算出記憶した値）と、が一致していると判定することとなるため、主制御内蔵ＲＡＭに記憶保持される瞬停や停電が発生する直前の遊技情報を初期化することがない。つまり、瞬停や停電が発生する直前の遊技情報に復元されて主制御基板１３１０を起動することができるようになっている。

【３４４２】

更に、ステップＳ２２のウェイト時間待機処理の直後に、ステップＳ２４で停電予告信号が入力されていると判定したときには主制御内蔵ＷＤＴにより主制御ＭＰＵ１３１０ａが強制的にリセットさせることで主制御内蔵ＲＡＭの内容を全く更新することなく再び主制御側電源断時処理を開始することができる一方、ステップＳ２２のウェイト時間待機処理の直後に、ステップＳ２４で停電予告信号が入力されていないと判定したときにはこれまで通りハードウェアによる約７ｍｓという「瞬停又は停電時電源確保期間」以内に主制御側電源断時処理を確実に完了することができるようになっている。つまり、本実施形態では、復電時に主制御側電源投入時処理を行っている際に瞬停や停電が発生して遊技ホールの島設備からの電源が遮断された場合であって、主制御ＭＰＵ１３１０ａの電源端子であるＶＤＤ端子に、電解コンデンサＭＣ２に充電された電荷が停電又は瞬停が発生してから約７ミリ秒（ｍｓ）という期間に亘って＋５Ｖとして印加されるようになっているため、電解コンデンサＭＣ２というハードウェアによる約７ｍｓという「瞬停又は電源確保期間」内において主制御側電源断時処理を完了することができない場合においては、ステップＳ２２のウェイト時間待機処理の直後におけるステップＳ２４で停電予告信号が入力されているか否かの判定を行い、停電予告信号が入力されているときには、ステップＳ２４の判定に再び戻り、停電予告信号の入力があり続ける限り、ステップＳ２４の判定を繰り返し行うことにより、遊技の進行を行うことができないようになっている。

【３４４３】

このようなソフトウェアにより遊技の進行が行うことができないようにされることでステップＳ２４より後のステップ（具体的には、ステップＳ４２で割り込み初期設定を行って、その後に、ステップＳ５２で割り込み許可を設定して後述する主制御側タイマ割り込み処理を開始するという制御フロー）への進行を阻止することで主制御内蔵ＲＡＭの内容（遊技情報、及びその他の情報（例えば、メイン賞球数情報出力判定用カウンタの値を示

す情報等）を含む各種情報）が更新されることを回避することができるという仕組みを採用した。このように停電又は瞬停が発生して遊技ホールの島設備からの電源が遮断された際に、主制御内蔵ＲＡＭの内容（遊技情報、及びその他の情報（例えば、メイン賞球数情報出力判定用カウンタの値を示す情報等）を含む各種情報）が全く変更されないようにソフトウェアで賄う部分と、主制御側電源断時処理を確実に完了して主制御内蔵ＲＡＭの内容（遊技情報、及びその他の情報（例えば、メイン賞球数情報出力判定用カウンタの値を示す情報等）を含む各種情報）が全く変更されないようにハードウェアで賄う部分と、に２つに分けて構成することにより、主制御内蔵ＲＡＭの内容（遊技情報、及びその他の情報（例えば、メイン賞球数情報出力判定用カウンタの値を示す情報等）を含む各種情報）が変更されることを確実に防止することができるようになっている。

【３４４４】

次に、ステップＳ５０において電源投入時に送信するコマンドの予約設定が行われる点について説明する。ステップＳ５０では、上述したように、ステップＳ３４の主制御内蔵ＲＡＭの作業領域の設定において主制御内蔵ＲＡＭの作業領域にセットされた復電時情報に基づいて、電源投入（復電）した旨を伝えるために、電源投入に区分される電源投入時状態コマンド、電源投入時主制御復帰先コマンド、そして電源投入時メイン賞球数情報出力判定用カウンタ通知コマンドを作成して送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶する。この電源投入時主制御復帰先コマンドは、始動口ソレノイド２４１２の駆動状態を指示する情報と、アタッカソレノイド２４１４の駆動状態を指示する情報と、から主として構成されている。ここでは、まず電源投入時主制御復帰先コマンドに、始動口ソレノイド２４１２の駆動状態を指示する情報と、アタッカソレノイド２４１４の駆動状態を指示する情報と、が含まれていない場合における問題点、つまり、ステップＳ５０において電源投入時主制御復帰先コマンドが電源投入時に送信するコマンドの予約設定が行われない場合における問題点について説明する。

【３４４５】

例えば、周辺制御基板１５１０が大当り遊技状態の画面（例えば、大当り遊技演出の画面）を演出表示装置１６００の表示領域に表示制御している際に、主制御基板１３１０がアタッカソレノイド２４１４を駆動して大入賞口２００５が開閉部材により開放されているときに瞬停や停電が発生して、その後に復電すると、主制御基板１３１０は、ステップＳ３４の主制御内蔵ＲＡＭの作業領域の設定において主制御内蔵ＲＡＭの作業領域にセットされた復電時情報に基づいて、瞬停又は停電が発生する直前の遊技状態に復元されることにより、アタッカソレノイド２４１４の駆動を開始して大入賞口２００５が開閉部材により閉鎖されている状態から開放されている状態へ移行することとなる。

【３４４６】

ところが、瞬停や停電が発生すると、周辺制御基板１５１０は、復電時において、主制御基板１３１０からの各種コマンドを受信して復帰するようになっているため、瞬停や停電が発生して、その後に復電すると、周辺制御基板１５１０は、復電時において主制御基板１３１０から受信した電源投入時状態コマンドが指示する確率及び時短状態に基づいて復帰することができる。しかし、主制御基板１３１０が遊技状態として大当り遊技状態を発生させているときに、瞬停や停電が発生して、その後に復電すると、周辺制御基板１５１０は、復電時において主制御基板１３１０から受信した電源投入時状態コマンドが指示する確率及び時短状態に基づいて、確率及び時短状態に応じて画面を演出表示装置１６００の表示領域に表示して復帰することができても、大当り遊技状態のどのラウンドであるか全く表示することができない。つまり、例えば大入賞口２００５に遊技球が入球して大入賞口センサ２４０２によって検出され、大入賞口２００５に入球した遊技球の球数を伝える大入賞口１カウント表示コマンドを主制御基板１３１０が周辺制御基板１５１０に送信して周辺制御基板１５１０が受信したとしても、周辺制御基板１５１０は、確率及び時短状態に応じて画面に大入賞口２００５に入球した遊技球の球数が演出表示装置１６００の表示領域に表示することができても、大当り遊技状態のどのラウンド（つまり、何回目のラウンド）であるか全く表示することができない。

【３４４７】
このような状況において、主制御基板１３１０は、例えば大当り遊技状態の４ラウンド（４回目のラウンド）を終了するときには、アタッカソレノイド２４１４の駆動を停止して大入賞口２００５が開閉部材により開放されている状態から閉鎖されている状態へ移行する旨（つまり、第一アタッカユニット２４００の大入賞口２００５のラウンド間の閉鎖開始）を指示する大入賞口１閉鎖表示コマンドを主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０に送信し、主制御基板１３１０が大当り遊技状態の５ラウンド（５回目のラウンド）を開始するときには、アタッカソレノイド２４１４の駆動を開始して大入賞口２００５が開閉部材により閉鎖されている状態から開放されている状態へ移行する旨（つまり、大入賞口２００５の５回目のラウンドの開放開始）を指示する大入賞口開放５回目表示コマンドを主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０へ送信する。これにより、周辺制御基板１５１０は、大当り遊技状態の５ラウンドの開始という画面を、上述した確率及び時短状態に応じた画面からようやく切り替えて演出表示装置１６００の表示領域に表示することとなる。
【３４４８】
また、例えば、第二始動口２００４へ遊技球が受入可能となる遊技状態となって遊技者に有利な遊技状態となっている旨を伝える画面（例えば、第二始動口扉２４１１が開いている旨を遊技者に伝える画面）を周辺制御基板１５１０が演出表示装置１６００の表示領域に表示制御している際に、主制御基板１３１０が始動口ソレノイド２４１２を駆動して第二始動口扉２４１１を開動作させて第二始動口２００４へ遊技球Ｂを誘導可能な状態となっているときに瞬停や停電が発生して、その後に復電すると、主制御基板１３１０は、ステップＳ３４の主制御内蔵ＲＡＭの作業領域の設定において主制御内蔵ＲＡＭの作業領域にセットされた復電時情報に基づいて、瞬停又は停電が発生する直前の遊技状態に復元されることにより、始動口ソレノイド２４１２の駆動を開始して第二始動口扉２４１１を閉動作させて第二始動口２００４を閉鎖する状態へ移行することとなる。
【３４４９】
ところが、瞬停や停電が発生すると、周辺制御基板１５１０は、復電時において、主制御基板１３１０からの各種コマンドを受信して復帰するようになっているため、瞬停や停電が発生して、その後に復電すると、周辺制御基板１５１０は、復電時において主制御基板１３１０から受信した電源投入時状態コマンドに基づいて復帰することができる。しかし、主制御基板１３１０が遊技状態として第二始動口２００４へ遊技球が受入可能となる遊技状態となって遊技者に有利な遊技状態を発生させているときに、瞬停や停電が発生して、その後に復電すると、周辺制御基板１５１０は、復電時において主制御基板１３１０から受信した電源投入時状態コマンドが指示する確率及び時短状態に基づいて、確率及び時短状態に応じて画面を演出表示装置１６００の表示領域に表示して復帰することができても、第二始動口２００４へ遊技球が受入可能となる遊技状態となって遊技者に有利な遊技状態となっている旨を伝える画面を周辺制御基板１５１０が演出表示装置１６００の表示領域に全く表示することができない。このため、パチンコ機の前面に着座する遊技者は、瞬停や停電が発生したことに驚いて、復電時において、瞬停や停電が発生する直前における第二始動口２００４へ遊技球が受入可能となる遊技状態であることを忘れている場合もあり、このような場合には、復電時における遊技状態として第二始動口２００４へ遊技球が受入可能となる遊技状態に復帰されているにもかかわらず、復電時に演出表示装置１６００の表示領域に遊技を指示する画面（つまり、第二始動口２００４へ遊技球を入球させるという遊技を指示する画面）が表示されないことにより、遊技者がどのような遊技を行えば分からなくなるという問題もあった。
【３４５０】
このように、上述した２つの例においては、瞬停又は停電直前における遊技状態に、復電後、速やかに復帰することができないという問題があった。換言すると、パチンコ機の前面に着座する遊技者は、瞬停や停電が発生して、その後に復電すると、パチンコ機のシステムがかたまった状態、いわゆるフリーズした状態に見えて故障したと勘違いするとい

う問題があった。
【３４５１】
そこで、本実施形態では、主制御基板１３１０が電源投入時（電源投入する場合のほかに、停電や瞬停が発生して電力が回復する復電時も含む。）において、電源投入時状態コマンドと電源投入時主制御復帰先コマンドとを周辺制御基板１５１０に送信するために、ステップＳ５０において、電源投入に区分される電源投入時状態コマンド、電源投入時主制御復帰先コマンド、そして電源投入時メイン賞球数情報出力判定用カウンタ通知コマンドを作成して送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶するようになっている。そして、これらのコマンドは、後述する主制御側タイマ割り込み処理において送信されるようになっている。
【３４５２】
これにより、周辺制御基板１５１０は、主制御基板１３１０から受信した電源投入時状態コマンドと電源投入時主制御復帰先コマンドとに基づいて、例えば、上述した例では、大当り遊技状態の４ラウンドにおいて、瞬停や停電が発して、その後に復電すると、主制御基板１３１０の復帰先として、アタッカソレノイド２４１４の駆動を開始して大入賞口２００５が開閉部材により閉鎖されている状態から開放されている状態へ移行する旨を周辺制御基板１５１０に伝えることができるため、周辺制御基板１５１０は、大当り遊技状態の４ラウンドである旨を特定した画面（つまり、何回目のラウンドであるかを示す画面）を演出表示装置１６００の表示領域に表示することができないものの、大当り遊技状態であってアタッカソレノイド２４１４の駆動を開始して大入賞口２００５が開閉部材により開放されている状態である旨を伝える画面（例えば、「大当りです。大入賞口が開放されています。大入賞口に遊技球を入球させるように遊技を行ってください。」というメッセージを遊技者に伝える画面）を演出表示装置１６００の表示領域に表示してパチンコ機の前面に着座する遊技者に復電後において大入賞口２００５に遊技球を入球させるという遊技を指示することができるし、また例えば、上述した例では、第二始動口２００４へ遊技球が受入可能となる遊技状態となって遊技者に有利な遊技状態となっている状態において、瞬停や停電が発して、その後に復電すると、主制御基板１３１０の復帰先として、始動口ソレノイド２４１２の駆動を開始して第二始動口扉２４１１を開動作させて第二始動口２００４へ遊技球Ｂを誘導可能な状態となっている旨を伝える画面（例えば、「第二始動口扉２４１１が開いています。第二始動口に遊技球を入球させるように遊技を行ってください。」というメッセージを遊技者に伝える画面）を周辺制御基板１５１０が演出表示装置１６００の表示領域に表示してパチンコ機の前面に着座する遊技者に復電後において第二始動口２００４へ遊技球を入球させるという遊技を指示することができる。
【３４５３】
これにより、瞬停や停電が発して、その後に復電する際に、周辺制御基板１５１０の復帰先を主制御基板１３１０側で細かく指示することができる。したがって、瞬停又は停電直前における遊技状態に、復電後、速やかに復帰することができる。換言すると、パチンコ機の前面に着座する遊技者は、瞬停や停電が発生して、その後に復電すると、パチンコ機のシステムがかたまった状態、いわゆるフリーズした状態に見えて故障したと勘違いすることを防止することができる。
【３４５４】
次に、主制御基板１３１０の製造ラインの検査工程である主制御基板検査工程において、検査のために製造してから最初に主制御基板１３１０が電源投入される際における、ステップＳ２９のチェックサムの算出と、ステップＳ３０の判定と、について説明する。主制御基板検査工程において、検査のために製造してから最初に主制御基板１３１０が電源投入されると、上述した、バックアップ処理であるステップＳ５８～ステップＳ６８の処理及び無限ループにより構成される主制御側電源断時処理を主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、一度も実行していない状態であるため、ステップＳ２９で主制御内蔵ＲＡＭの内容に基づくチェックサムを算出しても、ステップＳ３０で比較判定において、チェックサムの値が一致するはずがなく、ステップＳ３８で主制御内蔵ＲＡＭの全領域

のうち特定領域を除いて必ずクリアすることなる。

【３４５５】

これにより、ステップＳ５０において電源投入時に送信するコマンドの予約設定が行われると、電源投入に区分される電源投入時状態コマンド、電源投入時主制御復帰先コマンド、そして電源投入時メイン賞球数情報出力判定用カウンタ通知コマンドを作成して送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶することにより、電源投入時状態コマンド、電源投入時主制御復帰先コマンド、そして電源投入時メイン賞球数情報出力判定用カウンタ通知コマンドという３つのコマンドのみが送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶される状態となる。そして、これらのコマンドは、後述する主制御側タイマ割り込み処理において、まず電源投入時状態コマンドが送信され、続いて電源投入時主制御復帰先コマンドが送信され、続いて電源投入時メイン賞球数情報出力判定用カウンタ通知コマンドが送信されるようになっている。これを利用して、主制御基板検査工程においては、検査のために製造してから最初に主制御基板１３１０が電源投入されると、主制御基板１３１０から最初のコマンドとして電源投入時状態コマンドが主制御基板検査工程の検査装置へ送信されることとなる。

【３４５６】

ところで、電源投入時状態コマンドは、電源投入時（電源投入する場合のほかに、停電や瞬停が発生して電力が回復する復電時も含む。）に、ＲＡＭクリアスイッチが操作されてＲＡＭクリアを行う場合にその旨を指示する情報と、電源投入時（電源投入する場合のほかに、停電や瞬停が発生して電力が回復する復電時も含む。）に、上述した、低確率時短状態、高確率時短状態、低確率非時短状態、及び高確率非時短状態のうち、いずれの状態（確率及び時短状態）で復帰するかを指示する情報と、パチンコ機の機種コードを示す情報と、から構成されている。ここでは、電源投入時状態コマンドにパチンコ機の機種コードを示す情報が含まれていない場合における問題点について説明する。

【３４５７】

パチンコ機の機種コードは、パチンコ機１（正確には、主制御基板１３１０）として、いわゆる、マックスタイプ、ミドルタイプ、甘デジタイプをそれぞれ作成するときに、どの作品の版権に対するものであるのか、どのような遊技仕様（例えば、確率変動が生ずると、次回大当り遊技状態が発生するまでその状態が継続されるという遊技仕様のほかに、特別図柄の変動回数が限定（例えば、３０回や７０回）された状態で確率変動が生ずるという遊技仕様（いわゆる、ＳＴ機）など））であるのか、を特定することができるものである。

【３４５８】

パチンコ機１を製造するメーカーの製造ラインにおいては、主制御基板１３１０を製造する際に、複数種類の作品の版権に対する主制御基板１３１０が混在する場合がある。そうすると、製造ラインの作業者は、複数種類の作品の版権（例えば、映画Ａ、映画Ｂ、ドラマＣ、映画Ｄ、漫画Ｅ、及び漫画Ｆという作品の版権）のうち、どの作品の版権に対する主制御基板１３１０を製造するために主制御基板１３１０が製造ラインに流れているのか分からなくなったり、複数種類の作品の版権のうち、一の版権（例えば、映画Ｄという作品の版権）に対する主制御基板１３１０を製造するために主制御基板１３１０が製造ラインに流れているにもかかわらず、他の版権（例えば、漫画Ｆという作品の版権）に対する主制御基板１３１０を製造するために主制御基板１３１０が製造ラインに流れているという思い込みや勘違いもある。

【３４５９】

このため、パチンコ機１を製造するメーカーの製造ラインにおいて、主制御基板１３１０を製造する際に、複数種類の作品の版権に対する主制御基板１３１０が混在すると、製造ラインの作業者は、製造ラインで製造した主制御基板１３１０がどの作品の版権に対するものなのかを確認することができないし、同一作品の版権に対しても、どの機種タイプ（マックスタイプ、ミドルタイプ、甘デジタイプのうち、いずれのタイプ）であるのか、そしてどのような遊技仕様（確率変動が生ずると、次回大当り遊技状態が発生するまでそ

の状態が継続されるという遊技仕様やＳＴ機）であるのかを確認することもできない。
【３４６０】
これにより、パチンコ機１を製造するメーカーの製造ラインにおいて、主制御基板１３１０を製造する際に、複数種類の作品の版権に対する主制御基板１３１０が混在すると、複数種類の作品の版権に対する主制御基板１３１０が混在したまま、遊技盤５に主制御基板１３１０を取り付けるための遊技盤組立ラインへ送られることとなる。このため、遊技盤組立ラインの作業者は、作品の版権に対する遊技盤５と対応しない主制御基板１３１０を遊技盤５に取り付ける場合もあった。これにより、結果として、遊技盤５の生産効率が低下するという問題があった。
【３４６１】
そこで、本実施形態では、主制御基板１３１０が電源投入時（電源投入する場合のほかに、停電や瞬停が発生して電力が回復する復電時も含む。）において、パチンコ機の機種コードを示す情報を含む電源投入時状態コマンドを周辺制御基板１５１０に送信するために、ステップＳ５０において、電源投入に区分される電源投入時状態コマンド、電源投入時主制御復帰先コマンド、そして電源投入時メイン賞球数情報出力判定用カウンタ通知コマンドを作成して送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶するようになっている。そして、これらのコマンドは、後述する主制御側タイマ割り込み処理において送信されるようになっている。
【３４６２】
これにより、パチンコ機１を製造するメーカーの製造ラインの作業者は、製造ラインの検査工程である主制御基板検査工程において、主制御基板１３１０を電源投入することにより、検査装置が主制御基板１３１０から受信した電源投入時状態コマンドに含まれるパチンコ機の機種コードを示す情報に基づいて、つまり、パチンコ機の機種コードを示す情報を構成する、上述した、機種タイプを示すマックスタイプ、ミドルタイプ、及び甘デジタイプのうち、いずれのタイプであるかを特定するためのシリーズコードと、作品の版権を特定するための版権コードと、遊技仕様（例えば、確率変動が生ずると、次回大当り遊技状態が発生するまでその状態が継続されるという遊技仕様のほかに、特別図柄の変動回数が限定された状態で確率変動が生ずるという遊技仕様（ＳＴ機）など）を特定するための遊技仕様コードと、に基づいて、検査モニタに表示する詳細な機種情報を目視することにより、主制御基板１３１０がどの作品の版権に対するものなのかを判別することができるとともに、同一作品の版権に対しても、どの機種タイプ（マックスタイプ、ミドルタイプ、及び甘デジタイプのうち、いずれのタイプ）であるのか、そしてどのような遊技仕様（確率変動が生ずると、次回大当り遊技状態が発生するまでその状態が継続されるという遊技仕様やＳＴ機）であるのかを判別することもできるようになっている。
【３４６３】
これにより、パチンコ機１を製造するメーカーの製造ラインにおいて、主制御基板１３１０を製造する際に、複数種類の作品の版権に対する主制御基板１３１０が混在しても、製造ラインの主制御基板検査工程の作業者は、検査モニタを目視して主制御基板１３１０の機種タイプ、作品の版権、及び遊技仕様を正確に判別することができることによって、作品の版権に対する主制御基板１３１０ごとに分別して後続の遊技盤組立ラインへ送ることができる。そして、遊技盤組立ラインの作業者は、作品の版権に対する遊技盤５と対応する主制御基板１３１０を遊技盤５に確実に取り付けることができ、作品の版権に対する遊技盤５と対応しない主制御基板１３１０を遊技盤５に取り付けるという作業によって生ずる遊技盤５の生産効率の低下を防止することができる。したがって、遊技盤５の生産効率の向上に寄与することができる。
【３４６４】
［２２－４．主制御側タイマ割り込み処理］
次に、主制御側タイマ割り込み処理について説明する。この主制御側タイマ割り込み処理は、図２５５及び図２５６に示した主制御側電源投入時処理において設定された割り込み周期（本実施形態では、４ｍｓ）ごとに繰り返し行われる。

【３４６５】
主制御側タイマ割り込み処理が開始されると、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、図２５７に示すように、レジスタバンクの切替を行う（ステップＳ１００）。主制御ＭＰＵ１３１０ａの汎用記憶素子（汎用レジスタ）には、第１のレジスタバンクと第２のレジスタバンクとから構成される２つのレジスタバンクがある。第１のレジスタバンクは上述した主制御側電源投入時処理における主制御メイン処理において使用される一方、第２のレジスタバンクは本ルーチンである主制御側タイマ割り込み処理において使用される。ステップＳ１００では、本ルーチンである主制御側タイマ割り込み処理において第２のレジスタバンクを使用するため、主制御側電源投入時処理における主制御メイン処理において使用されている第１のレジスタバンクから第２のレジスタタンクへのレジスタバンクの切り替えを行う。なお、本実施形態では、本ルーチンである主制御側タイマ割り込み処理が開始されるときに、各レジスタをスタックに退避する処理は必要ないようになっている。

【３４６６】
ステップＳ１００に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、タイマ減算処理を行う（ステップＳ１０２）。このタイマ減算処理では、例えば、後述する特別図柄及び特別電動役物制御処理で決定される変動表示パターンに従って機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器及び第二特別図柄表示器が点灯する時間、後述する普通図柄及び普通電動役物制御処理で決定される普通図柄変動表示パターンに従って機能表示ユニット１４００の普通図柄表示器が点灯する時間のほかに、主制御基板１３１０（主制御ＭＰＵ１３１０ａ）が送信した各種コマンドを払出制御基板６３３が正常に受信した旨を伝える払主ＡＣＫ信号が入力されているか否かを判定する際にその判定条件として設定されているＡＣＫ信号入力判定時間等の時間管理を行う。具体的には、変動表示パターン又は普通図柄変動表示パターンの変動時間が５秒間であるときには、タイマ割り込み周期が４ｍｓに設定されているので、このタイマ減算処理を行うごとに変動時間を４ｍｓずつ減算し、その減算結果が値０になることで変動表示パターン又は普通図柄変動表示パターンの変動時間を正確に計っている。

【３４６７】
本実施形態では、ＡＣＫ信号入力判定時間が１００ｍｓに設定されている。このタイマ減算処理を行うごとにＡＣＫ信号入力判定時間が４ｍｓずつ減算し、その減算結果が値０になることでＡＣＫ信号入力判定時間を正確に計っている。なお、これらの各種時間及びＡＣＫ信号入力判定時間は、時間管理情報として主制御内蔵ＲＡＭの時間管理情報記憶領域に記憶される。

【３４６８】
ステップＳ１０２に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、スイッチ入力処理を行う（ステップＳ１０４）。このスイッチ入力処理では、主制御ＭＰＵ１３１０ａの各種入力ポートの入力端子に入力されている各種信号を読み取り、入力情報として主制御内蔵ＲＡＭの入力情報記憶領域に記憶する。具体的には、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、例えば、ゲートセンサ２８０１からの検出信号、一般入賞口センサ３００１からの検出信号、第一始動口センサ３００２からの検出信号、第二始動口センサ２４０１からの検出信号、大入賞口センサ２４０２からの検出信号、アウトセンサ６６４からの検出信号、第一球センサ７０３、及び第二球センサ７０４からの検出信号、磁気センサ１０５０からの検出信号、ＲＡＭクリアスイッチからの操作信号（ＲＡＭクリア信号）、扉枠開放スイッチからの検出信号、本体枠開放スイッチ４ｂからの検出信号、設定キースイッチ１３１１ａからの信号、設定切替ボタンからの信号、後述する賞球制御処理で送信した賞球コマンドを払出制御基板６３３が正常に受信した旨を伝える払出制御基板６３３からの払主ＡＣＫ信号、をそれぞれ読み取り、入力情報として主制御内蔵ＲＡＭの入力情報記憶領域に記憶する。また、第一始動口センサ３００２からの検出信号、第二始動口センサ２４０１からの検出信号をそれぞれ読み取ると、これと対応するその他に区分される始動口入賞コマンドを送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶する。つまり、第一始動口センサ３００２からの検出信号があると、これと対応する始動口入賞コマンドが送信情報として主制御

内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶されるし、第二始動口センサ２４０１からの検出信号があると、これと対応する始動口入賞コマンドが送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶されるようになっている。

【３４６９】

なお、本実施形態では、主制御ＭＰＵ１３１０ａの各種入力ポートのすべての入力端子に入力されている状態（空き端子処理が施されているものも含める。）は、このスイッチ入力処理が開始されると、まず１回目としてそれぞれ読み取られ、所定時間（例えば、１０μｓ）経過した後、２回目としてそれぞれ再び読み取られる。そして、この２回目に読み取られた結果と、１回目に読み取られた結果と、を比較する。この比較結果のうち、同結果となっているものがあるか否かを判定する。同結果でないものについては、さらに、３回目として再び読み取られ、この３回目に読み取られた結果と、２回目に読み取られた結果と、を比較する。この比較結果のうち、同結果となっているものがあるか否かを再び判定する。同結果でないものについては、さらに、４回目として再び読み取られ、この４回目に読み取られた結果と、３回目に読み取られた結果と、を比較する。この比較結果のうち、同結果となっているものがあるか否かを再び判定する。同結果とならいものについては、遊技球の入球がないものとして、又は入力を無視するものとして扱う。

【３４７０】

このように、スイッチ入力処理では、主制御ＭＰＵ１３１０ａの各種入力ポートのすべての入力端子に入力されている状態（空き端子処理が施されているものも含める。）を、１回目～３回目に亘って比較する２度読み取りと、２回目～４回目に亘って比較する２度読み込みと、による計２回の２度読み取りを行うことによって、チャタリングやノイズ等の影響による誤検出を回避することができるようになっているため、ゲートセンサ２８０１からの検出信号、一般入賞口センサ３００１からの検出信号、第一始動口センサ３００２からの検出信号、第二始動口センサ２４０１からの検出信号、大入賞口センサ２４０２からの検出信号、アウトセンサ６６４、第一球センサ７０３、及び第二球センサ７０４からの検出信号、磁気センサ１０５０からの検出信号、ＲＡＭクリアスイッチからの操作信号（ＲＡＭクリア信号）、扉枠開放スイッチからの検出信号、本体枠開放スイッチ４ｂからの検出信号、設定キースイッチ１３１１ａからの信号、設定切替ボタンからの信号、後述する賞球制御処理で送信した賞球コマンドを払出制御基板６３３が正常に受信した旨を伝える払出制御基板６３３からの払主ＡＣＫ信号の信頼性を高めることができる。

【３４７１】

ステップＳ１０４に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、入力端子不具合監視処理を行う（ステップＳ１０５）。この入力端子不具合監視処理では、主制御ＭＰＵ１３１０ａの各種入力ポートの入力端子のうち、空き端子処理が施されているものの状態を、ステップＳ１０４のスイッチ入力処理において取得した情報に基づいて行う。具体的には、例えば、主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ７は、空き端子処理としてグランド（ＧＮＤ）に接地されているため、常に論理状態がＬＯＷとなっている。そこで、入力端子不具合監視処理では、各種入力ポートの入力端子のうち、空き端子処理が施されている入力端子の論理状態がＬＯＷとなっているか否かをステップＳ１０４のスイッチ入力処理において取得した情報に基づいて行う。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、空き端子処理が施されている入力端子の論理状態がＬＯＷとなっていないと判定したときには、主制御ＭＰＵ１３１０ａの周辺回路に不具合が発生している旨を伝える報知表示に区分される不具合コマンドを送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶する。

【３４７２】

ステップＳ１０５に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、当落乱数更新処理を行う（ステップＳ１０６）。この当落乱数更新処理では、上述した、図柄乱数を更新する。またこれらの乱数に加えて、図２５６に示した主制御側電源投入時処理（主制御側メイン処理）におけるステップＳ５６の非当落乱数更新処理で更新される、大当り図柄用初期値決定用乱数、及び小当り図柄用初期値決定用乱数も更新する。これらの大当り図柄用初期値決定用乱数、及び小当り図柄用初期値決定用乱数は、主制御側メイン処理及びこの主制御側タ

イマ割り込み処理においてそれぞれ更新されることでランダム性をより高めている。これに対して、図柄乱数は、当落判定（当り判定）にかかわる乱数であるためこの当落乱数更新処理が行われるごとにのみ、それぞれのカウンタがカウントアップする。なお、上述した、普通図柄当り判定用乱数、普通図柄当り判定用初期値決定乱数もこの当落乱数更新処理により更新される。

【３４７３】

例えば、普通図柄当り判定用乱数を更新するカウンタは、上述したように、初期値更新型のカウンタであり、最小値から最大値までに亘る予め定めた固定数値範囲内において更新され、この最小値から最大値までに亘る範囲を、この主制御側タイマ割り込み処理が行われるごとに値１ずつ加算されることでカウントアップする。普通図柄当り判定用初期値決定乱数から最大値に向かってカウントアップし、続いて最小値から普通図柄当り判定用初期値決定乱数に向かってカウントアップする。普通図柄当り判定用乱数の最小値から最大値までに亘る範囲をカウンタがカウントアップし終えると、この当落乱数更新処理により当り判定用初期値決定乱数は更新される。普通図柄当り判定用初期値決定乱数は、普通図柄当り判定用乱数を更新するカウンタの固定数値範囲から一の値を抽選する初期値抽選処理を実行して得ることができるようになっている。

【３４７４】

本実施形態では、大当り図柄用初期値決定用乱数、及び小当り図柄用初期値決定用乱数を、図２５６に示した主制御側電源投入時処理（主制御側メイン処理）におけるステップＳ５６の非当落乱数更新処理、及び本ルーチンである主制御側タイマ割り込み処理におけるステップＳ１０６の当落乱数更新処理でそれぞれ更新しているが、割り込みタイマが発生するごとに本ルーチンの処理時間にムラが生じて次の割り込みタイマが発生するまでの残り時間内において主制御側メイン処理を繰り返し実行することによりステップＳ５６の非当落乱数更新処理の実行回数がランダムとなる場合には、大当り図柄用初期値決定用乱数、及び小当り図柄用初期値決定用乱数をステップＳ５６の非当落乱数更新処理においてのみ更新する仕組みとしてもよい。

【３４７５】

ステップＳ１０６に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、球数計数処理を行う（ステップＳ１０７）。この球数計数処理では、上述した入力情報記憶領域から入力情報を読み出してこの入力情報に基づいて、アウトセンサ６６４からの検出信号が入力されて遊技盤５から排出されてアウト球通路６６３を流通する遊技球（遊技領域５ａ内に打込まれて一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、大入賞口２００５、役物入賞口２００６、等の入賞口に受入れられて遊技盤５から排出された遊技球と、遊技領域５ａ内に打込まれた後に何れの入賞口に受入れられることなくアウト口１００８、第一サブアウト口２０２１及び第二サブアウト口２０２２のいずれかに受入れられて遊技盤５から排出された遊技球）をアウトセンサ６６４が検出した場合には総回収球カウンタの値に値１を加算する（インクリメントする）演算を行い、第一球センサ７０３からの検出信号が入力されてアウト口１００８、第一サブアウト口２０２１及び第二サブアウト口２０２２に受入れられて第一球経路７０１を流通する遊技球を第一球センサ７０３が検出した場合には、アウト口１００８、第一サブアウト口２０２１及び第二サブアウト口２０２２により回収された遊技球、いわゆるアウト球の球数の計数をカウントするアウト球カウンタの値に値１を加算する（インクリメントする）演算を行い、第二球センサ７０４からの検出信号が入力されて遊技領域５ａ内に打込まれて一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、大入賞口２００５、役物入賞口２００６、等の入賞口に受け入れられて第二球経路７０２を流通する遊技球を第二球センサ７０４が検出した場合には、一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、大入賞口２００５、役物入賞口２００６、等の入賞口に受入れられた遊技球、いわゆるセーフ球の球数の計数をカウントするセーフ球カウンタの値に値１を加算する（インクリメントする）演算を行う。つまり、球数計数処理では、アウトセンサ６６４が一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、大入賞口２００５、役物入賞口２００６、等の入賞口に受け

入れられた遊技球とアウト口１００８、第一サブアウト口２０２１及び第二サブアウト口２０２２に受け入れられた遊技球との両方を検出し、第一球センサ７０３がアウト口１００８、第一サブアウト口２０２１及び第二サブアウト口２０２２により回収された遊技球を検出し、第二球センサ７０４が一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、大入賞口２００５、役物入賞口２００６、等の入賞口に受け入れられた遊技球を検出する。

【３４７６】

そして、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、演算結果である総回収球カウンタの値を一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、大入賞口２００５、役物入賞口２００６、等の入賞口に受け入れられた遊技球とアウト口１００８、第一サブアウト口２０２１及び第二サブアウト口２０２２に受け入れられた遊技球との総数として主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における総回収球計数専用領域に格納し、アウト球カウンタの値をアウト口１００８、第一サブアウト口２０２１及び第二サブアウト口２０２２により回収されたアウト球の総数として主制御内蔵ＲＡＭの特定領域におけるアウト球計数専用領域に格納し、セーフ球カウンタの値を一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、大入賞口２００５、役物入賞口２００６、等の入賞口に受け入れられたセーフ球の総数として主制御内蔵ＲＡＭの特定領域におけるセーフ球計数専用領域に格納する。また、総回収球カウンタの値に対する払出数（払い出された賞球の総数）の割合、つまり打ち込まれた遊技球の総数に対する払出数（払い出された賞球の総数）の割合を算出し、その算出結果を主制御内蔵ＲＡＭの特定領域におけるベース算出領域に格納するとともに、特殊モニタに表示する点灯信号の出力を設定し、出力情報として出力情報記憶領域に記憶する。

【３４７７】

また、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、総回収球カウンタの値が値１０で割り切れる場合、つまり、一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、大入賞口２００５、役物入賞口２００６、等の入賞口やアウト口１００８、第一サブアウト口２０２１及び第二サブアウト口２０２２で回収される遊技球の総数が１０球に達するごとに、その旨を伝える球回収コマンドを作成し、送信情報として出力情報記憶領域に記憶する。なお、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、演算結果である回収球カウンタの値や、アウト球カウンタの値、セーフ球カウンタの値のそれぞれが最大値（本実施形態では、値６５５３５）に達して、さらに回収球カウンタやアウト球カウンタ、セーフ球カウンタの値に値１だけ加算（インクリメント）すると、回収球カウンタやアウト球カウンタ、セーフ球カウンタの値がオーバーフローして値０となり、この値０から加算する演算を行う。

【３４７８】

ステップＳ１０７に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、賞球制御処理を行う（ステップＳ１０８）。この賞球制御処理では、上述した入力情報記憶領域から入力情報を読み出してこの入力情報に基づいて遊技球を払い出すための賞球コマンドを作成したり、主制御基板１３１０と払出制御基板６３３との基板間の接続状態を確認するためのセルフチェックコマンドを作成したりする。そして作成した賞球コマンドやセルフチェックコマンドを主払シリアルデータとして払出制御基板６３３に送信する。例えば、大入賞口２００５に遊技球が１球、入球すると、賞球として１５球を払い出す賞球コマンドを作成するとともに、賞球として払い出す予定の遊技球の球数が１０球に達しているため、その旨を伝えるためにメイン賞球数情報出力信号の出力を設定し、出力情報として出力情報記憶領域に記憶し、賞球コマンドを払出制御基板６３３に送信したり、この賞球コマンドを払出制御基板６３３が正常に受信完了した旨を伝える払主ＡＣＫ信号が所定時間内に入力されないときには主制御基板１３１０と払出制御基板６３３との基板間の接続状態を確認するセルフチェックコマンドを作成して払出制御基板６３３に送信したりする。

【３４７９】

また、ステップＳ１０８の賞球制御処理では、上述した入力情報記憶領域から入力情報を読み出してこの入力情報に基づいて、賞球として払い出す予定の遊技球の球数が１０球

に達している場合には、その旨を伝えるためにその他に区分されるメイン賞球数情報出力コマンドを作成し、送信情報として送信情報記憶領域に記憶する。メイン賞球数情報出力コマンドは、メイン賞球数情報出力判定用カウンタの値に基づいて作成されるようになっている。このメイン賞球数情報出力判定用カウンタの値は、上述した入力情報記憶領域から入力情報を読み出してこの入力情報に基づいて、つまり遊技盤５に設けられる一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、大入賞口２００５、役物入賞口２００６、等の各種入賞口（以下、「遊技盤５に設けられる各種入賞口」と記載する。）に入球した遊技球に基づいて、賞球として払い出す予定の遊技球の球数をカウントするものであり、ステップＳ１０８の賞球制御処理において、主制御内蔵ＲＡＭの賞球予定情報記憶領域に記憶更新されるようになっている。ステップＳ１０８の賞球制御処理では、主制御内蔵ＲＡＭの賞球予定情報記憶領域に記憶されるメイン賞球数情報出力判定用カウンタの値を読み出し、この読み出したメイン賞球数情報出力判定用カウンタの値に、上述した入力情報記憶領域から入力情報を読み出してこの入力情報に基づいて、賞球として払い出す予定の遊技球の球数を加算し、この加算した球数を示す値が値１０を超えているときには（つまり、賞球として払い出す予定の遊技球の球数が１０球に達しているときには）、その旨を伝えるためにメイン賞球数情報出力コマンドを作成し、送信情報として出力情報記憶領域に記憶するとともに、その超えた球数を示す値を、メイン賞球数情報出力判定用カウンタの値として、上述した主制御内蔵ＲＡＭの賞球予定情報記憶領域に記憶更新するようになっている。

【３４８０】

ステップＳ１０８に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、枠コマンド受信処理を行う（ステップＳ１１０）。払出制御基板６３３は、状態表示に区分される１バイト（８ビット）の各種コマンド（例えば、枠状態１コマンド、エラー解除ナビコマンド、及び枠状態２コマンド）を送信する。枠コマンド受信処理では、各種コマンドを払主シリアルデータとして正常に受信すると、その旨を払出制御基板６３３に伝える情報を、出力情報として主制御内蔵ＲＡＭの出力情報記憶領域に記憶する。また、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、その正常に払主シリアルデータとして受信したコマンドを２バイト（１６ビット）のコマンドに整形し（状態表示に区分される各種コマンド（枠状態１コマンド、エラー解除ナビコマンド、及び枠状態２コマンド））、送信情報として上述した送信情報記憶領域に記憶する。

【３４８１】

ステップＳ１１０に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、不正行為検出処理を行う（ステップＳ１１２）。この不正行為検出処理では、賞球に関する異常状態を確認する。電波照射による不正行為（以下、「電波照射ゴト」と記載する。）が行われていると判断すると、電波照射ゴトカウンタの値を値１だけ加算（インクリメント）する。この電波ゴトカウンタの値は、不正行為検出処理において電波照射ゴトが行われると判断されるごとに、インクリメントされるものであり、ＲＡＭクリアされると、初期値として値０（ゼロ）がセットされるようになっている。電波照射ゴトカウンタの値が上限値に達すると（本実施形態では、不正行為検出処理が主制御側タイマ割り込み処理が行われる割り込み周期である４ｍｓに基づいて、上限値として値２５０が設定されている。）、電波照射ゴトが行われている旨を伝える報知表示に区分される電波照射ゴト報知コマンドを作成し、送信情報として上述した送信情報記憶領域に記憶する。

【３４８２】

また、ステップＳ１１２の不正行為検出処理では、上述した入力情報記憶領域から入力情報を読み出し、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されているときには、磁石を用いた不正行為（以下、「磁石ゴト」と記載する。）が行われていると判断し、磁石ゴトカウンタの値を値１だけ加算（インクリメント）する。この磁石ゴトカウンタの値は、不正行為検出処理において電波照射ゴトが行われると判断されるごとに、インクリメントされるものであり、遊技バックアップ情報に含まれるものであり、ＲＡＭクリアされると、初期値として値０（ゼロ）がセットされ

るようになっている。磁石ゴトカウンタの値が上限値に達すると（本実施形態では、不正行為検出処理が主制御側タイマ割り込み処理が行われる割り込み周期である４ｍｓに基づいて、上限値として値２５０が設定されている。）、電波照射ゴトが行われている旨を伝える報知表示に区分される磁石ゴト報知コマンドを作成し、送信情報として上述した送信情報記憶領域に記憶する。本実施形態では、このような仕組みによって磁石ゴトを確実に検出して報知することにより、遊技ホールの店員等の係員が磁石ゴトを早い段階で発見することができることに寄与することができるようになっている。

【３４８３】

また、ステップＳ１１２の不正行為検出処理では、例えば、上述した入力情報記憶領域から入力情報を読み出し、大当り遊技状態でない場合に大入賞口センサ２４０２からの検出信号が入力されているとき（大入賞口２００５に遊技球が入球するとき）等の大入賞口異常入賞発生には、異常状態として報知表示に区分される入賞異常表示コマンドを作成し、送信情報として上述した送信情報記憶領域に記憶したり、セーフ球計数専用領域に格納されているセーフ球カウンタの値が、一般入賞口センサ３００１、第一始動口センサ３００２、第二始動口センサ２４０１、大入賞口センサ２４０２、及び役物入賞口センサ２６０１で検出した遊技球の総数、つまり実際に一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、大入賞口２００５、役物入賞口２００６、等の入賞口に受け入れられた遊技球の総数、と異なる場合に、異常状態として報知表示に区分される入賞異常表示コマンドを作成し、送信情報として上述した送信情報記憶領域に記憶するようになっている。

【３４８４】

なお、ステップＳ１１２の不正行為検出処理では、電波照射ゴト及び／又は、磁石ゴトを検出したときには、不正行為の検出として不正行為検出フラグＦＤ－ＦＬＧに値１をセットする一方、電波照射ゴト及び磁石ゴトを検出していないときには、不正行為の未検出として不正行為検出フラグＦＤ－ＦＬＧに値０をセットする。この不正行為検出フラグＦＤ－ＦＬＧは、遊技バックアップ情報に含まれるものであり、ＲＡＭクリアされると、初期値として値０（ゼロ）がセットされるようになっている。また、大入賞口異常入賞発生を検出したときにも、不正行為の検出として、不正行為検出フラグＦＤ－ＦＬＧに値１をセットするようにしてもよい。

【３４８５】

ステップＳ１１２に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、発射許可信号設定処理を行う（ステップＳ１１３）。この発射許可信号設定処理では、遊技球Ｂの発射を払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂに対して許可する旨を伝える発射許可信号の論理を設定する。具体的には、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、上述した不正行為検出フラグＦＤ－ＦＬＧの値に基づいて、不正行為検出フラグＦＤ－ＦＬＧが値０であるとき、つまり不正行為の未検出であると判定したときには発射許可信号の論理として発射許可論理に設定し、出力情報として上述した出力情報記憶領域に記憶する一方、不正行為検出フラグＦＤ－ＦＬＧが値０でない（値１である）とき、つまり不正行為の検出であると判定したときには発射許可信号の論理として発射許可論理を反転させた発射停止論理（発射非許可論理）に設定し、出力情報として上述した出力情報記憶領域に記憶する。なお、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、上述した入力情報記憶領域から入力情報を読み出してこの入力情報に基づいて、扉枠開放スイッチからの検出信号が入力されて本体枠４に対して扉枠３が開放されていると扉枠開放スイッチが検出した場合、本体枠開放スイッチ４ｂからの検出信号が入力されて外枠２に対して本体枠４が開放されていると本体枠開放スイッチ４ｂが検出した場合には、発射許可信号の論理として発射許可論理を反転させた発射停止論理（発射非許可論理）に設定し、出力情報として上述した出力情報記憶領域に記憶する。発射許可信号の論理は、初期値（デフォルト）として、パチンコ機１が電源投入されてから（復電してから）本ルーチンである主制御側タイマ割り込み処理におけるステップＳ１１３の発射許可信号設定処理が開始されるまでに亘って、発射許可論理を反転させた発射停止論理（発射非許可論理）に設定されるようにリセット機能付き主制御出力回路を含むハードウェアにより構成

されている。
【３４８６】
ステップＳ１１３に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、特別図柄及び特別電動役物制御処理を行う（ステップＳ１１４）。この特別図柄及び特別電動役物制御処理では、主制御内蔵ハード乱数回路にラッチ信号を出力し、ラッチ信号が入力された際における主制御内蔵ハード乱数回路が抽出した乱数（乱数値）を、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されるハード乱数ラッチレジスタから取得し、この取得した乱数値を特別乱数としてセットする。そして特別乱数（つまり、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されるハード乱数ラッチレジスタから取得した乱数値）と、主制御内蔵ＲＯＭに予め記憶されている大当り判定値と、が一致するか否かを判定（大当り遊技状態を発生させるか否かを判定（「特別抽選」という。））したり、図柄乱数を更新するカウンタの値を取り出して主制御内蔵ＲＯＭに大当り種別や小当り種別に応じて予め記憶されている当り種別判定値のいずれと一致するか否かを判定（当り種別を決定）したりする。
【３４８７】
これらの判定結果（抽選結果）が第一始動口センサ３００２によるものである場合には特図１同調演出関連の各種コマンドを作成する一方、その判定結果（抽選結果）が第二始動口センサ２４０１によるものである場合には特図２同調演出関連の各種コマンドを作成し、送信情報として送信情報記憶領域に記憶するとともに、特別図柄の変動表示パターンを上述した変動表示パターン用乱数に基づいて決定し、その決定した特別図柄の変動表示パターンに従って機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器又は第二特別図柄表示器を点灯させるよう機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器又は第二特別図柄表示器への点灯信号の出力を設定し、出力情報として上述した出力情報記憶領域に記憶する。また、発生させる遊技状態に応じて、例えば大当り遊技状態となるときには、大当り関連に区分される各種コマンド（大当りオープニングコマンド、大入賞口１開放Ｎ回目表示コマンド、大入賞口１閉鎖表示コマンド、大入賞口１カウント表示コマンド、大当りエンディングコマンド、及び大当り図柄表示コマンド）を作成し、送信情報として送信情報記憶領域に記憶したり、例えば、開閉部材を開閉動作させるようアタッカソレノイド２４１４への駆動信号の出力を設定し、出力情報として出力情報記憶領域に記憶したり、大入賞口２００５が閉鎖状態から開放状態となる回数（ラウンド）が２回であるときには、機能表示ユニット１４００のラウンド表示器の２ラウンド表示ランプを点灯させるよう２ラウンド表示ランプへの点灯信号の出力を設定し、出力情報として出力情報記憶領域に記憶したり、ラウンドが１５回であるときには、機能表示ユニット１４００のラウンド表示器の１５ラウンド表示ランプを点灯させるよう１５ラウンド表示ランプへの点灯信号の出力を設定し、出力情報として出力情報記憶領域に記憶したり、時短発生の有無を所定の色で点灯させるよう機能表示ユニット１４００の状態表示器への点灯信号の出力を設定し、出力情報として出力情報記憶領域に記憶したりする。
【３４８８】
ステップＳ１１４に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、普通図柄及び普通電動役物制御処理を行う（ステップＳ１１６）。この普通図柄及び普通電動役物制御処理では、上述した入力情報記憶領域から入力情報を読み出してこの入力情報に基づいて普通入賞口入賞処理を行う。この普通入賞口入賞処理では、入力情報からゲートセンサ２８０１からの検出信号が入力ポートの入力端子に入力されていたか否かを判定する。この判定結果に基づいて、検出信号が入力ポートの入力端子に入力されていたときには、上述した普通図柄当り判定用乱数を更新するカウンタの値等を抽出して普通入賞口入賞情報として主制御内蔵ＲＡＭの普通入賞口入賞情報記憶領域に記憶する。
【３４８９】
この普通入賞口入賞情報記憶領域には、第０区画～第３区画（４つの区画）が設けられており、第０区画、第１区画、第２区画、そして第３区画の順に普通入賞口入賞情報が格納されるようになっている。例えば普通入賞口入賞情報が普通入賞口入賞情報記憶の第０区画～第２区画に格納されている場合、ゲートセンサ２８０１からの検出信号が入力ポー

トの入力端子に入力されていたときには普通入賞口入賞情報を普通入賞口入賞情報記憶の第３区画に格納する。

【３４９０】

普通入賞口入賞情報は普通入賞口入賞情報記憶の第０区画に格納されているものが主制御内蔵ＲＡＭの作業領域にセットされる。この普通入賞口入賞情報がセットされると、普通入賞口入賞情報記憶の第１区画の普通入賞口入賞情報が普通入賞口入賞情報記憶の第０区画に、普通入賞口入賞情報記憶の第２区画の普通入賞口入賞情報が普通入賞口入賞情報記憶の第１区画に、普通入賞口入賞情報記憶の第３区画の普通入賞口入賞情報が普通入賞口入賞情報記憶の第２区画に、それぞれシフトされて普通入賞口入賞情報記憶の第３区画が空き領域となる。例えば、普通入賞口入賞情報記憶の第１区画～第２区画に普通入賞口入賞情報が記憶されている場合には、普通入賞口入賞情報記憶の第１区画の普通入賞口入賞情報が普通入賞口入賞情報記憶の第０区画に、普通入賞口入賞情報記憶の第２区画の普通入賞口入賞情報が普通入賞口入賞情報記憶の第１区画にそれぞれシフトされて普通入賞口入賞情報記憶の第２区画及び普通入賞口入賞情報記憶の第３区画が空き領域となる。ここで、普通入賞口入賞情報記憶の第１区画～第３区画に普通入賞口入賞情報が格納されていると、格納された普通入賞口入賞情報の総数を保留球として機能表示ユニット１４００の普通保留表示器を点灯させるよう、上述した普通入賞口入賞情報に基づいて機能表示ユニット１４００の普通保留表示器の点灯信号の出力を設定し、出力情報として上述した出力情報記憶領域に記憶する。

【３４９１】

普通入賞口入賞処理に続いて、主制御内蔵ＲＡＭの作業領域にセットされた普通入賞口入賞情報を読み出し、この読み出した普通入賞口入賞情報から普通図柄当り判定用乱数の値を取り出して主制御内蔵ＲＯＭに予め記憶されている普通図柄当り判定値と一致するか否かを判定する（「普通抽選」という）。この判定結果（普通抽選による抽選結果）により第二始動口扉２４１１を開閉動作させるか否かが決定する。この決定で開閉動作をさせる場合には、第二始動口扉２４１１が開動作した状態となることで第二始動口２００４へ遊技球が受入可能となる遊技状態となって遊技者に有利な遊技状態なる。この決定と対応する普通図柄の変動表示パターンを上述した普通図柄変動表示パターン用乱数に基づいて決定し、普図同調演出関連に区分される各種コマンドを作成し、送信情報として上述した送信情報記憶領域に記憶するとともに、その決定した普通図柄の変動表示パターンに従って機能表示ユニット１４００の普通図柄表示器を点灯させるよう機能表示ユニット１４００の普通図柄表示器への点灯信号の出力を設定し、出力情報として上述した出力情報記憶領域に記憶する。

【３４９２】

また、例えばその取り出した普通図柄当り判定用乱数の値が主制御内蔵ＲＯＭに予め記憶されている普通図柄当り判定値と一致しているときには、普通電役演出関連の各種コマンドを作成し、送信情報として送信情報記憶領域に記憶するとともに、第二始動口扉２４１１を開閉動作させるよう始動口ソレノイド２４１２への駆動信号の出力を設定し、出力情報として上述した出力情報記憶領域に記憶する一方、その取り出した普通図柄当り判定用乱数の値が主制御内蔵ＲＯＭに予め記憶されている普通図柄当り判定値と一致していないときには、上述した普通図柄変動表示パターン用乱数に基づいて普通図柄変動表示パターンを決定し、普図同調演出関連に区分される各種コマンドを作成し、送信情報として上述した送信情報記憶領域に記憶するとともに、その決定した普通図柄変動表示パターンに従って機能表示ユニット１４００の普通図柄表示器を点灯させるよう機能表示ユニット１４００の普通図柄表示器への点灯信号の出力を設定し、出力情報として上述した出力情報記憶領域に記憶する。なお、本例では普通抽選の当選確率（普通当りとなる確率）は２分の１となっている。

【３４９３】

ステップＳ１１６に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ポート出力処理を行う（ステップＳ１１８）。このポート出力処理では、主制御ＭＰＵ１３１０ａの各種出力ポートの

出力端子から、上述した出力情報記憶領域から出力情報を読み出してこの出力情報に基づいて各種信号を出力する。この主制御ＭＰＵ１３１０ａは、例えば、出力情報に基づいて主制御ＭＰＵ１３１０ａの所定の出力ポートの出力端子から、払出制御基板６３３からの各種コマンドを正常に受信完了したときには主払ＡＣＫ信号を払出制御基板６３３に出力したり、大当り遊技状態であるときには大入賞口２００５の開閉部材の開閉動作を行うアタッカソレノイド２４１４に駆動信号を出力したり、第二始動口２００４を開閉させるための第二始動口扉２４１１の開閉動作を行う始動口ソレノイド２４１２に駆動信号を出力したりするほかに、１５ラウンド大当り情報出力信号、２ラウンド大当り情報出力信号、小当り情報出力信号、特別図柄表示情報出力信号、普通図柄表示情報出力信号、時短中情報出力信号、始動口入賞情報出力信号等の遊技に関する各種情報（遊技情報）信号を払出制御基板６３３に出力したり、発射許可論理又は発射停止論理（発射非許可論理）に設定された発射許可信号を払出制御基板６３３に出力したり、打ち込まれた遊技球の総数に対する払出数（払い出された賞球の総数）の割合を表示する特殊モニタに表示信号を出力したり、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されている設定値を設定表示器１３１０ｇに表示するための点灯信号を出力したりする。

【３４９４】

ステップＳ１１８に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、周辺制御基板コマンド送信処理を行う（ステップＳ１２０）。この周辺制御基板コマンド送信処理では、上述した送信情報記憶領域から送信情報を読み出してこの送信情報を主周シリアルデータとして周辺制御基板１５１０に送信する。この送信情報には、本ルーチンである主制御側タイマ割り込み処理で作成した、特図１同調演出関連に区分される各種コマンド、特図２同調演出関連に区分される各種コマンド、大当り関連に区分される各種コマンド（例えば、大入賞口２００５に入球した遊技球を検出した際に大入賞口センサ２４０２からの検出信号に基づいて大入賞口カウントコマンドに相当する大入賞口１カウント表示コマンド）、電源投入に区分される各種コマンド、普図同調演出関連に区分される各種コマンド、普通電役演出関連に区分される各種コマンド、報知表示に区分される各種コマンド、状態表示に区分される各種コマンド、テスト関連に区分される各種コマンド及びその他に区分される各種コマンド（例えば、主制御基板１３１０が遊技盤５に設けられる各種入賞口に入球した遊技球に基づいて賞球として払い出す予定の遊技球の球数が１０球に達するごとにその旨をメイン賞球数情報としてメイン賞球数情報出力信号を、外部端子板５５８を介して、ホールコンピュータへ伝えることを指示するメイン賞球数情報出力コマンドなど）、及び特定履歴に区分される各種コマンド（例えば、一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、大入賞口２００５、役物入賞口２００６、等の入賞口やアウト口１００８、第一サブアウト口２０２１及び第二サブアウト口２０２２で回収される遊技球の球数が１０球に達するごとにその旨を伝える球回収コマンド、設定値が設定変更された旨を伝える設定変更コマンド、主制御内蔵ＲＡＭに格納されている内容に異常がある（又は信用することができないものである）旨を伝えるエラー表示コマンド、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における後述する設定値専用領域に格納されている設定値を確認する旨を伝える設定キーのＯＮ操作コマンド等）が記憶されている。主周シリアルデータは、１パケットが３バイトに構成されている。具体的には、主周シリアルデータは、１バイト（８ビット）の記憶容量を有するコマンドの種類を示すステータスと、１バイト（８ビット）の記憶容量を有する演出のバリエーションを示すモードと、ステータス及びモードを数値とみなしてその合計を算出したサム値と、から構成されており、このサム値は、送信時に作成されている。

【３４９５】

この周辺制御基板コマンド送信処理では、主周シリアルデータとして各種コマンドを構成する、ステータス、モード、そしてサム値という順番で周辺制御基板１５１０に送信する。主制御ＭＰＵ１３１０ａの電源端子であるＶＤＤ端子には、上述したように、停電又は瞬停が発生した場合に、電解コンデンサＭＣ２に充電された電荷が＋５Ｖとして印加されるようになっているため、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵される主周シリアル送信ポー

トは、少なくとも、その送信バッファレジスタにセットされたコマンドをシリアル管理部により送信シフトレジスタに転送して送信シフトレジスタから主周シリアルデータとして送信完了することができるようになっている。パチンコ機１への電源投入するときや、電源投入後に停電又は瞬停が発生して電力が回復する復電時には、図２５６に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ５０の電源投入時に送信するコマンドの予約設定において、復電した旨を伝えるために、電源投入に区分される電源投入時状態コマンド、電源投入時主制御復帰先コマンド、そして電源投入時メイン賞球数情報出力判定用カウンタ通知コマンドを作成して送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶しているため、主周シリアルデータとして、電源投入時状態コマンドを構成する、ステータス、モード、そしてサム値という順番で周辺制御基板１５１０に送信し、続いて電源投入時主制御復帰先コマンドを構成する、ステータス、モード、そしてサム値という順番で周辺制御基板１５１０に送信し、続いて電源投入時メイン賞球数情報出力判定用カウンタ通知コマンドを構成する、ステータス、モード、そしてサム値という順番で周辺制御基板１５１０に送信する。なお、主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域には、主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３４の主制御内蔵ＲＡＭの作業領域の設定において、遊技バックアップ情報から各種情報を読み出してこの各種情報に応じた各種コマンドが記憶されている場合もある。このような場合には、まず各種情報のうち遊技情報に応じた各種コマンドの送信完了後に、続いて電源投入時状態コマンド、電源投入時主制御復帰先コマンド、そして電源投入時メイン賞球数情報出力判定用カウンタ通知コマンドが送信されることとなる。

【３４９６】

なお、一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、大入賞口２００５、役物入賞口２００６、等の入賞口やアウト口１００８、第一サブアウト口２０２１及び第二サブアウト口２０２２で回収される遊技球の球数が１０球に達するごとにその旨を伝える球回収コマンドを周辺制御基板１５１０へ送信すると、周辺制御基板１５１０における周辺制御ＩＣのＣＰＵは、受信した球回収コマンドごとに、一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、大入賞口２００５、役物入賞口２００６、等の入賞口やアウト口１００８、第一サブアウト口２０２１及び第二サブアウト口２０２２で回収される遊技球の球数を計数して、図示しないリアルタイムクロックＩＣの内蔵ＲＡＭに記憶保持される球回収情報（計数した値（つまり一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、大入賞口２００５、役物入賞口２００６、等の入賞口やアウト口１００８、第一サブアウト口２０２１及び第二サブアウト口２０２２で回収される遊技球の球数の総数）と更新した日時とを対応付けた情報）を更新する。なお、球回収コマンドを受信できずに、遊技ホールの営業時間が終了してパチンコ機１が電源遮断されると、結果的に、最後に計数した値（つまり一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、大入賞口２００５、役物入賞口２００６、等の入賞口やアウト口１００８、第一サブアウト口２０２１及び第二サブアウト口２０２２で回収される遊技球の球数の総数）と更新した日時とを対応付けた球回収情報が図示しないリアルタイムクロックＩＣの内蔵ＲＡＭに記憶保持される。遊技ホールの営業を開始するときにパチンコ機１が電源投入されると、周辺制御基板１５１０における周辺制御ＩＣのＣＰＵは、図示しないリアルタイムクロックＩＣの内蔵ＲＡＭに記憶保持される球回収情報を、営業開始した日から再び球回収情報を作成するようになっており、図示しないリアルタイムクロックＩＣの内蔵ＲＡＭに球回収情報が球回収履歴情報として記憶保持されるようになっている。なお、図示しないリアルタイムクロックＩＣの内蔵ＲＡＭに球回収情報として記憶保持される計数した値は、その日に値０（ゼロ）から計数した値を用いてもよいし、その日に値０（ゼロ）から計数した値とこれまでの計数した値の総和との両方を用いてもよい。

【３４９７】

ステップＳ１２０に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、主制御内蔵ＷＤＴのクリアを行い（ステップＳ１２２）、このルーチンを終了する。ステップＳ１２２の主制御内蔵ＷＤＴのクリアは、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されるＷＤＴクリアレジスタにタイマク

リア設定値をセットすることにより行う。これにより、主制御内蔵ＷＤＴによる計時がクリアされる。そして、主制御内蔵ＷＤＴによる計時が再び開始されることによって、主制御内蔵ＷＤＴにより主制御ＭＰＵ１３１０ａが強制的にリセットされずに済む。

【３４９８】

なお、主制御基板１３１０は、上述したように、遊技の進行を行っている際に、パチンコ機１への電源が遮断される前に、遊技の進行による遊技情報を記憶するための上述したバックアップ処理を実行して完了することができるとともに、復電時において、主制御基板１３１０による遊技の進行の復帰先として、バックアップ処理を実行した遊技情報に基づいて、パチンコ機１への電源が遮断される際における、本ルーチンにおけるステップＳ１１８のポート出力処理による電気的駆動源である始動口ソレノイド２４１２やアタッカソレノイド２４１４の駆動状態を指示する電源投入時主制御復帰先コマンドを周辺制御基板１５１０へ出力することができるようになっている。つまり、主制御基板１３１０は、図２５６に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ５０の電源投入時に送信するコマンドの予約設定において、図２５５に示した同処理におけるステップＳ３４の主制御内蔵ＲＡＭの作業領域の設定において主制御内蔵ＲＡＭの作業領域にセットされた復電時情報に基づいて、電源投入（復電）した旨を伝えるために、電源投入に区分される電源投入時状態コマンド、電源投入時主制御復帰先コマンド、そして電源投入時メイン賞球数情報出力判定用カウンタ通知コマンドを作成して送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶し、本ルーチンにおけるステップＳ１２０の周辺制御基板コマンド送信処理において、主周シリアルデータとして、電源投入時状態コマンドを構成する、ステータス、モード、そしてサム値という順番で周辺制御基板１５１０に送信し、続いて電源投入時主制御復帰先コマンドを構成する、ステータス、モード、そしてサム値という順番で周辺制御基板１５１０に送信し、続いて電源投入時メイン賞球数情報出力判定用カウンタ通知コマンドを構成する、ステータス、モード、そしてサム値という順番で周辺制御基板１５１０に送信する。

【３４９９】

このため、周辺制御基板１５１０は、主制御基板１３１０からの電源投入時主制御復帰先コマンドに基づいて、復電時における主制御基板１３１０による遊技の進行の復帰先を演出表示装置１６００の表示領域において演出表示することができる。これにより、遊技者が遊技を行っている際に、瞬停や停電が発生して、その後に復電するときに、瞬停又は停電直前における遊技状態に、復電後、速やかに復帰することができるとともに、主制御基板１３１０による遊技の進行の復帰先を演出表示装置１６００の表示領域において演出表示して報知することができるため、パチンコ機１のシステムがかたまった状態、いわゆるフリーズした状態に遊技者に見えて故障したと勘違いされることを防止することができる。したがって、瞬停又は停電直前における遊技状態に、復電後、速やかに復帰することにより、遊技者に故障したと勘違いされることを防止することができる。

【３５００】

また、主制御基板１３１０の製造ラインの検査工程である主制御基板検査工程において、検査のために製造してから最初に主制御基板１３１０が電源投入されると、上述したように、図２５５に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３８で主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いて必ずクリアすることなる。これにより、図２５６に示した同処理におけるステップＳ５０の電源投入時に送信するコマンドの予約設定において、電源投入時に送信するコマンドの予約設定が行われると、電源投入に区分される電源投入時状態コマンド、電源投入時主制御復帰先コマンド、そして電源投入時メイン賞球数情報出力判定用カウンタ通知コマンドを作成して送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶することにより、電源投入時状態コマンド、電源投入時主制御復帰先コマンド、そして電源投入時メイン賞球数情報出力判定用カウンタ通知コマンドという３つのコマンドのみが送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶される状態となり、本ルーチンにおけるステップＳ１２０の周辺制御基板コマンド送信処理において、主周シリアルデータとして、電源投入時状態コマンドを構成する、ステータス、モー

ド、そしてサム値という順番で主制御基板検査工程の検査装置に送信し、続いて電源投入時主制御復帰先コマンドを構成する、ステータス、モード、そしてサム値という順番で主制御基板検査工程の検査装置に送信し、続いて電源投入時メイン賞球数情報出力判定用カウンタ通知コマンドを構成する、ステータス、モード、そしてサム値という順番で主制御基板検査工程の検査装置に送信する。主制御基板検査工程の検査装置は、主制御基板１３１０から受信した電源投入時状態コマンドに含まれるパチンコ機の機種コードを示す情報に基づいて、つまり、パチンコ機の機種コードを示す情報を構成する、上述した、機種タイプを示すマックスタイプ、ミドルタイプ、及び甘デジタイプのうち、いずれのタイプであるかを特定するためのシリーズコードと、作品の版権を特定するための版権コードと、遊技仕様（例えば、確率変動が生ずると、次回大当り遊技状態が発生するまでその状態が継続されるという遊技仕様のほかに、特別図柄の変動回数が限定された状態で確率変動が生ずるという遊技仕様（ＳＴ機）など）を特定するための遊技仕様コードと、に基づいて、主制御基板検査工程の検査モニタに詳細な機種情報を表示するようになっている。

【３５０１】

［２２－５．設定変更処理］

次に、設定変更処理について説明する。この設定変更処理は、図２５５に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３７において行われる処理である。

【３５０２】

設定変更処理が開始されると、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、図２５８に示すように、現状の設置値を取得する（ステップＳ２００）。ここでは、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されている設定値を取得する。この設定値を取得するときには、読み出してもよいし、取り出してもよいが、設定値を取り出す場合には、取り出した設定値を所定領域にセットする。

【３５０３】

ステップＳ２００に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、チェックサムの算出を行う（ステップＳ２０２）。このチェックサムは、主制御内蔵ＲＡＭに記憶されている各種情報を数値とみなしてその合計を算出するものであり、図２５５に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ２９において行われるチェックサムの算出と同一の処理である。

【３５０４】

ステップＳ２０２に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、算出したチェックサムの値（サム値）が図２５６に示した主制御側電源投入時処理における主制御側電源断時処理（電源断時）において記憶されているチェックサムの値（サム値）と一致しているか否かを判定する（ステップＳ２０４）。ステップＳ２０４において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、一致していると判定したときには、バックアップフラグＢＫ－ＦＬＧが値１であるか否かを判定する（ステップＳ２０６）。ステップＳ２０４の判定、及びステップＳ２０６の判定は、図２５５に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３０の判定、及びステップＳ３２の判定とそれぞれ同一の判定である。バックアップフラグＢＫ－ＦＬＧは、上述したように、各種情報、チェックサムの値（サム値）及びバックアップフラグＢＫ－ＦＬＧの値等の遊技バックアップ情報を後述する主制御側電源断時処理において主制御内蔵ＲＡＭに記憶保持したか否かを示すフラグであり、主制御側電源断時処理を正常に終了したとき値１、主制御側電源断時処理を正常に終了していないとき値０にそれぞれ設定される。

【３５０５】

ステップＳ２０４の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、チェックサムの値（サム値）が一致していないと判定したときには、又はステップＳ２０６の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、バックアップフラグＢＫ－ＦＬＧが値１でない（値０である）とき、つまり主制御側電源断時処理を正常に終了していないと判定したときには、ステップＳ２００で取得した設定値が正常範囲であるか否かを判定する（ステップＳ２０８）。ここで、「正常範囲」とは、設定値が設定変更することができる値であり、本実施形態では、設定値１、設定値２、設定値３、設定値４、設定値５、及び設定値６までの値に予め

設定されている。ステップＳ２０８の判定へフローチャートがすすむことにより、主制御内蔵ＲＡＭの内容に異常があると判定した場合、又は、電源遮断時に主制御側電源断時処理が正常に終了していないと判定した場合となっているため、主制御内蔵ＲＡＭに格納されている内容に異常がある（又は信用することができないものである）。そこで、ステップＳ２０８の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ２００で取得した、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されている設定値が正常範囲である設定値１～設定値６のうちいずれかの値となっているか否かを判定し、正常範囲であると判定したときにはその設定値をそのまま使用する。

【３５０６】

一方、ステップＳ２０８の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、正常範囲でないと判定したときにはステップＳ２００で取得した設定値に対して初期値である設定値１を設定する（ステップＳ２１０）。なお、ステップＳ２０８の判定では、ステップＳ２００で取得した、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されている設定値が正常範囲である設定値１～設定値６のうちいずれかの値となっているか否かを判定しているが、このステップＳ２０８の判定を行わずに、ステップＳ２０４の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、チェックサムの値（サム値）が一致していないと判定したときには、又はステップＳ２０６の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、バックアップフラグＢＫ－ＦＬＧが値１でない（値０である）とき、つまり主制御側電源断時処理を正常に終了していないと判定したときには、ステップＳ２１０の処理にすすみ、ステップＳ２００で取得した設定値に対して初期値である設定値１を設定するようにしてもよい。

【３５０７】

ステップＳ２０６の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、バックアップフラグＢＫ－ＦＬＧが値１であるとき、つまり主制御側電源断時処理を正常に終了したと判定したときには、又はステップＳ２０８の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、正常範囲であると判定したときには、又はステップＳ２１０に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、設定変更許可ランプ１３１０ｚに点灯信号を出力して設定変更許可ランプ１３１０ｚを点灯する（ステップＳ２１２）。

【３５０８】

ステップＳ２１２に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、設定値を設定表示器１３１０ｇに表示するための点灯信号を設定表示器１３１０ｇに出力して設定表示器１３１０ｇに対して設定値を表示する（ステップＳ２１４）。

【３５０９】

ステップＳ２１４に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、設定切替ボタンが操作されているか否かを判定する（ステップＳ２１６）。この判定は、設定切替ボタンからの検出信号を読み取り、設定切替ボタンからの検出信号が入力されているか否かを判定する。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、設定切替ボタンからの検出信号が入力されているときには設定切替ボタンが操作されていると判定する一方、設定切替ボタンからの検出信号が入力されていないときには設定切替ボタンが操作されていないと判定する。

【３５１０】

ステップＳ２１６の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、設定切替ボタンが操作されていると判定したときには、設定値に値１を加算する（インクリメントする）演算を行って更新する（ステップＳ２１８）。このとき、ステップＳ２００で設定値を取得するときにおいて、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されている設定値を取り出して所定領域にセットしている場合には、この所定領域にセットした設定値に値１を加算する（インクリメントする）こととなる。

【３５１１】

ステップＳ２１８に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ２１６で更新した設定値を設定表示器１３１０ｇに表示するための点灯信号を設定表示器１３１０ｇに出力して設定表示器１３１０ｇに対して更新した設定値を表示する（ステップＳ２２０）。

【３５１２】

ステップＳ２２０に続いて、又はステップＳ２１６の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、設定切替ボタンが操作されていないと判定したときには、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、決定キーが操作されたか否かを判定する（ステップＳ２２２）。この判定では、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの差し込み口に設定キーが差し込まれ、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から反時計方向へ向かって設定キーシリンダが１２０度回動操作されて（つまり、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように反時計方向へ向かって６０度回転操作されてＯＦＦ操作し、さらに反時計方向へ向かって６０度回転操作されて）第２のＯＮ操作することによりことで設定キースイッチ１３１１ａが決定キーＯＮされ、設定キースイッチ１３１１ａからの決定キーＯＮの信号に基づいて行い、設定キースイッチ１３１１ａからの決定キーＯＮの信号が入力されているときには決定キーが操作されたと判定する一方、設定キースイッチ１３１１ａからの決定キーＯＮの信号が入力されていないときには決定キーが操作されていないと判定する。

【３５１３】

ステップＳ２２２の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、決定キーが操作されていないと判定したときには、ステップＳ２１６の判定に再び戻り、設定切替ボタンが操作されているか否かを判定する。ステップＳ２１６の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、設定切替ボタンが操作されていると判定したときには、ステップＳ２１８、そしてステップＳ２２０の処理を再び行い、ステップＳ２２２の判定を行い、決定キーが操作されていないと判定したときには、ステップＳ２１６の判定に再び戻り、決定キーが操作されるまで、設定切替ボタンが操作されると、操作されるごとに設定値が値１ずつ加算され更新されて設定表示器１３１０ｇに表示され、設定切替ボタンが操作されないと、直前に設定切替ボタンが操作され更新された設定値が設定表示器１３１０ｇに表示される。なお、ステップＳ２２２の判定で決定キーが操作されたと判定されるまでに、仮に停電や瞬停が発生して復電しても、停電や瞬停が発生する直前に更新した設定値が主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されないため、破棄され、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納される設定値が変更されない。

【３５１４】

一方、ステップＳ２２２の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、決定キーが操作されたと判定したときには、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に更新した設定値を格納する（ステップＳ２２４）。このとき、ステップＳ２００で設定値を取得するときにおいて、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されている設定値を取り出して所定領域にセットしている場合には、この所定領域にセットした設定値に対して更新されるため、この更新された設定値を、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域へ戻すこととなる。このステップＳ２２４の処理完了の後に、仮に停電や瞬停が発生して復電しても、停電や瞬停が発生する前に決定キーが操作されたときにおける更新した設定値が主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されている。

【３５１５】

ステップＳ２２４に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、設定キーのＯＦＦ操作があるか否かを判定する（ステップＳ２２６）。この判定では、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの差し込み口に設定キーが差し込まれ、設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように設定キーシリンダが時計方向へ向かって６０度回転操作されてしてＯＦＦ操作することで設定キースイッチ１３１１ａがＯＦＦされ、設定キースイッチ１３１１ａからのＯＦＦの信号に基づいて行い、設定キースイッチ１３１１ａからのＯＦＦの信号が入力されているときには設定キーがＯＦＦ操作されたと判定する一方、設定キースイッチ１３１

１ａからのＯＦＦの信号が入力されていないときには設定キーがＯＦＦ操作されていないと判定する。
【３５１６】
ステップＳ２２６の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、設定キーがＯＦＦ操作されていないと判定したときには、ステップＳ２２６の判定に再び戻り、設定キーがＯＦＦ操作されるまで、ステップＳ２２６の判定を繰り返し行う。
【３５１７】
一方、ステップＳ２２６の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、設定キーがＯＦＦ操作されたと判定したときには、更新した設定値を設定表示器１３１０ｇに表示するための点灯信号の設定表示器１３１０ｇへの出力を停止して設定表示器１３１０ｇに対して更新した設定値を非表示とする（ステップＳ２２８）。
【３５１８】
ステップＳ２２８に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、設定変更許可ランプ１３１０ｚへの点灯信号を停止して設定変更許可ランプ１３１０ｚを消灯する（ステップＳ２３０）。
【３５１９】
ステップＳ２３０に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、設定変更許可フラグＣＳ－ＦＬＧに値０をセットする（ステップＳ２３２）。この設定変更許可フラグＣＳ－ＦＬＧは、上述したように、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されている現状の設定値（設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダが第１のＯＮ操作された時点における設定値１～設定値６のうち設定されている値）の設定変更を行うことを許可するか否かを示すフラグであり、設定値の設定変更を行うことを許可するとき値１、設定値の設定変更を行うことを許可しないとき値０にそれぞれ設定される。ステップＳ２３２の処理では、設定変更許可フラグＣＳ－ＦＬＧに値０をセットすることにより、これより以後、設定値の設定変更を行うことを許可しない。
【３５２０】
ステップＳ２３２に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ２２４で格納した設定値が正常範囲であるか否かを判定する（ステップＳ２３３）。「正常範囲」とは、ステップＳ２０８の判定のものと同一であり、上述したように、本実施形態では、設定値１、設定値２、設定値３、設定値４、設定値５、及び設定値６までの値に予め設定されている。ステップＳ２３３の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、設定値が異常な値となっていないか再確認するために、ステップＳ２２４で主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納した設定値が正常範囲である設定値１～設定値６のうちいずれかの値となっているか否かを判定し、正常範囲であると判定したときにはその設定値をそのまま使用する。
【３５２１】
ステップＳ２３３の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、正常範囲であると判定したときにはシリアル通信初期設定を行い（ステップＳ２３４）、続いて、設定変更コマンドを作成して送信情報を設定し（ステップＳ２３６）、続いて、ステップＳ２３６で設定した送信情報（設定変更コマンド）を主周シリアルデータとして周辺制御基板１５１０に送信する周辺制御基板送信コマンド送信処理を行い（ステップＳ２３８）、本ルーチンを終了する。ステップＳ２３４のシリアル通信初期設定は、図２５６に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ４４のシリアル通信初期設定と同一の処理であり、ステップＳ２３８の周辺制御基板送信コマンド送信処理は、図２５７に示した主制御側タイマ割り込み処理におけるステップＳ１２０の周辺制御基板送信コマンド送信処理と同一の処理である。ここで、ステップＳ２３４のシリアル通信初期設では、ステップＳ４４のシリアル通信初期設より先に行って、ステップＳ２３８の周辺制御基板送信コマンド送信処理においてステップＳ２３６で設定した送信情報（設定変更コマンド）を主周シリアルデータとして周辺制御基板１５１０に送信しているが、これは、図２５６に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ５０において電源投入時に送信するコマンドの予約設定

される前に、優先して、設定値が設定変更された旨を設定変更コマンドにより周辺制御基板１５１０へ伝えるためである。なお、設定変更コマンドは、設定変更された設定値と設定値格納完了とを伝えるコマンドである。周辺制御基板１５１０における周辺制御ＩＣのＣＰＵは、設定変更コマンドを受信すると、図示しないリアルタイムクロックＩＣの内蔵ＲＡＭに記憶保持される設定値履歴情報（設定値と日時とを対応付けた情報）を更新する。

【３５２２】

一方、ステップＳ２３３の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、正常範囲でないと判定したときにはエラー表示処理を行い（ステップＳ２４０）、無限ループに入る。この無限ループにより、エラー表示処理が終了した状態を維持することとなり、遊技を進行することが全くできない状態となり、パチンコ機１の電源を遮断して、再び電源を投入することとなる。このエラー表示処理では、その詳細な説明を後述するが、主制御内蔵ＲＡＭの内容に異常があると判定した場合、又は、電源遮断時に主制御側電源断時処理が正常に終了していないと判定した場合には、主制御内蔵ＲＡＭに格納されている内容に異常がある（又は信用することができないものである）として、その旨を伝えるエラー表示を行う。本実施形態では、主制御ＭＰＵ１３１０ａがエラー表示として英字Ｅを設定表示器１３１０ｇに表示するようになっている。

【３５２３】

なお、上記した例では設定変更処理において設定値１～設定値６の複数の設定値のうちいずれかの設定値に設定するものを示したが、複数の設定値のうちのいずれかに設定するものに限らず、設定値を１つだけ有して設定変更処理においてこの１つの設定値に設定する処理を実行するようにしてもよいし、また複数の設定値を有するものの設定変更処理において予め決められている１つの設定値のみに設定する処理（予め決められている１つの設定値にだけ設定することが可能とされて他の設定値には設定することが不可能とされる。）を実行するようにしてもよい。この場合には設定変更処理において設定値は変更されることはなく、設定変更処理の前後で同一の設定値に設定されるようになる。

【３５２４】

［２２－６．設定値確認表示処理］

次に、設定値確認表示処理について説明する。この設定値確認表示処理は、図２５５及び図２５６に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ２８において行われる処理である。

【３５２５】

設定値確認表示処理が開始されると、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、図２５９に示すように、確認表示フラグＤＣＳ－ＦＬＧが値０であるか否かを判定する（ステップＳ３５０）。この確認表示フラグＤＣＳ－ＦＬＧは、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されている設定値を確認するためのフラグであり、設定値を確認表示しているとき値１、設定値を確認表示していないとき値０にそれぞれ設定される。また、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、パチンコ機１が電源投入されると、起動態様として、例えば、演出表示装置１６００に黒色の背景に「電源復旧中」を表示する。なお、主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３７の設定値確認表示処理を開始したときに主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａにより設定値の確認表示を開始する旨を伝える設定値確認表示開始コマンドを主周シリアルデータとして周辺制御基板１５１０に送信し、設定値確認表示処理を終了するときに設定値確認表示終了コマンドを主周シリアルデータとして周辺制御基板１５１０に送信することにより、「電源復旧中」に続いて「設定確認中」を表示してもよいし、「電源復旧中」に代えて「設定確認中」を表示してもよい。

【３５２６】

ステップＳ３５０の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、確認表示フラグＤＣＳ－ＦＬＧが値０であるとき、つまり設定値を確認表示していないときには、本体枠４の開放及び設定キーのＯＮ操作があるか否かを判定する（ステップＳ３５２）。この判定では

、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、上述した入力情報記憶領域から入力情報を読み出してこの入力情報に基づいて、外枠２に対する本体枠４の開放を検出するための本体枠開放スイッチ４ｂからの検出信号と、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの差し込み口に設定キーが差し込まれ、設定キーシリンダが初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）から時計方向へ向かって６０度回動操作されて第１のＯＮ操作されることで設定キースイッチ１３１１ａが設定キーＯＮされ、設定キースイッチ１３１１ａからの設定キーＯＮの信号と、により、外枠２に対して本体枠４が開放されていると判定し、かつ、設定キーＯＮの信号により設定キースイッチ１３１１ａが設定キーＯＮされていると判定したことによって、予め定めた設定値表示許可条件が成立していると判定する一方、本体枠開放スイッチ４ｂからの検出信号により外枠２に対して本体枠４が開放されていないと判定し、及び／又は、設定キーＯＮの信号により設定キースイッチ１３１１ａが設定キーＯＮされていないと判定したことによって、予め定めた設定値表示許可条件が成立していないと判定する。

【３５２７】

ステップＳ３５２の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、予め定めた設定値表示許可条件が成立していないと判定したときには、そのまま本ルーチンを終了する一方、予め定めた設定値表示許可条件が成立していると判定したときには、設定値を確認表示するとして確認表示フラグＤＣＳ－ＦＬＧに値１をセットし（ステップＳ３５４）、続いて、現状の設置値を取得する（ステップＳ３５６）。ここでは、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されている設定値を取得する。

【３５２８】

ステップＳ３５６に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ３５６で取得した設定値が正常範囲であるか否かを判定する（ステップＳ３５７）。「正常範囲」とは、図２５８の設定変更処理におけるステップＳ２０８の判定、及びステップＳ２３３の判定のものと同一であり、上述したように、本実施形態では、設定値１、設定値２、設定値３、設定値４、設定値５、及び設定値６までの値に予め設定されている。ステップＳ３５７の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、設定値が異常な値となっていないか再確認するために、ステップＳ３５６で取得した設定値（つまり、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されている設定値）が正常範囲である設定値１～設定値６のうちいずれかの値となっているか否かを判定し、正常範囲であると判定したときにはその設定値をそのまま使用する。

【３５２９】

ステップＳ３５７の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、正常範囲であると判定したときにはステップＳ３５６で取得した設定値を設定表示器１３１０ｇに表示するための点灯信号を設定表示器１３１０ｇに出力して設定表示器１３１０ｇに対して設定値を表示する（ステップＳ３５８）。

【３５３０】

ステップＳ３６０に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、設定キーのＯＮ操作コマンドを作成して送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶し、設定キーのＯＮ操作コマンドの設定を行い（ステップＳ３６０）、本ルーチンを終了する。この設定キーのＯＮ操作コマンドは、図２５７に示した主制御側タイマ割り込み処理におけるステップＳ１２０の周辺制御基板コマンド送信処理において送信されるようになっている。設定キーのＯＮ操作コマンドは、本ルーチンである設定値確認表示処理が開始された旨（つまり、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されている設定値を確認する旨）を伝えるコマンドである。

【３５３１】

なお、周辺制御基板１５１０における周辺制御ＩＣのＣＰＵは、設定キーのＯＮ操作コマンドを受信すると、図示しないリアルタイムクロックＩＣの内蔵ＲＡＭに記憶保持される設定キーのＯＮ操作履歴情報（設定値を確認した旨と日時とを対応付けた情報）を更新

する。
【３５３２】
　また、周辺制御基板１５１０における周辺制御ＩＣのＣＰＵは、設定キーのＯＮ操作コマンドを受信すると、上述した、球回収履歴情報、設定値履歴情報、エラー表示履歴情報、及び設定キーのＯＮ操作履歴情報等の特定履歴情報を表示許可することができるという予め定めた特定履歴情報表示許可条件が成立する状態となる。周辺制御基板１５１０における周辺制御ＩＣのＣＰＵは、この予め定めた特定履歴情報表示許可条件が成立する状態において特定履歴情報を確認する者が接触操作部３０２の回転操作及び押圧操作部３０３の押圧操作を行うことにより、これまで表示していた画像から特定履歴情報を選択表示する特定履歴情報表示画像へ切り替えて演出表示装置１６００の表示領域に表示する制御を行う。
【３５３３】
　一方、ステップＳ３５０の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、確認表示フラグＤＣＳ－ＦＬＧが値０でない（値１である）とき、つまり設定値を確認表示しているときには、設定キーのＯＦＦ操作があるか否かを判定する（ステップＳ３６２）。この判定では、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、上述した入力情報記憶領域から入力情報を読み出してこの入力情報に基づいて、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの差し込み口に設定キーが差し込まれ、設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように設定キーシリンダが時計方向へ向かって６０度回転操作されてしてＯＦＦ操作することで設定キースイッチ１３１１ａがＯＦＦされ、設定キースイッチ１３１１ａからのＯＦＦの信号により行い、設定キースイッチ１３１１ａからのＯＦＦの信号が入力されているときには設定キーがＯＦＦ操作されたと判定する一方、設定キースイッチ１３１１ａからのＯＦＦの信号が入力されていないときには設定キーがＯＦＦ操作されていないと判定する。
【３５３４】
　ステップＳ３６２の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、設定キーがＯＦＦ操作されていないと判定したときには、そのまま本ルーチンを終了する一方、設定キーがＯＦＦ操作されたと判定したときには、設定値を確認表示しないとして確認表示フラグＤＣＳ－ＦＬＧに値０をセットし（ステップＳ３６４）、続いて、ステップＳ３５６で取得した設定値を設定表示器１３１０ｇに表示するための点灯信号の設定表示器１３１０ｇへの出力を停止して設定表示器１３１０ｇに対してその取得した設定値を非表示とし（ステップＳ３６６）、続いて、設定キーのＯＦＦ操作コマンドを作成して送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶し、設定キーのＯＦＦ操作コマンドの設定を行い（ステップＳ３６８）、本ルーチンを終了する。この設定キーのＯＦＦ操作コマンドは、図２５７に示した主制御側タイマ割り込み処理におけるステップＳ１２０の周辺制御基板コマンド送信処理において送信されるようになっている。設定キーのＯＦＦ操作コマンドは、本ルーチンである設定値確認表示処理が終了された旨（つまり、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されている設定値を確認完了した旨）を伝えるコマンドである。
【３５３５】
　なお、周辺制御基板１５１０における周辺制御ＩＣのＣＰＵは、設定キーのＯＦＦ操作コマンドを受信すると、上述した予め定めた特定履歴情報表示許可条件が成立しない状態となる。このとき、周辺制御基板１５１０における周辺制御ＩＣのＣＰＵは、上述した特定履歴情報表示画像を演出表示装置１６００の表示領域に表示する制御を行っていた場合には、特定履歴情報表示画像に切り替える直前まで演出表示装置１６００の表示領域に表示されていた画像へ切り替えて元へ戻す制御を行う。
【３５３６】
　一方、ステップＳ３５７の判定において、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、正常範囲でないと判定したときには割り込み非許可設定を行う（ステップＳ３７０）。この設定により、

４ｍｓごとに繰り返し行われていた図２５７に示した主制御側タイマ割り込み処理が停止されることとなる。

【３５３７】

ステップＳ３７０に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、エラー表示処理を行い（ステップＳ３７２）、続いて、主制御内蔵ＷＤＴのクリアを行い続ける無限ループに入る（ステップＳ３７４）。この無限ループにより、主制御内蔵ＷＤＴのクリアを行い続けることとなるが、これは、主制御内蔵ＷＤＴを一度起動すると停止することができないため、主制御内蔵ＷＤＴのクリアを行い続けることにより、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されるＷＤＴクリアレジスタにタイマクリア設定値をセットすることで主制御内蔵ＷＤＴによる計時がクリアされ、主制御内蔵ＷＤＴによる計時が再び開始されることによって、主制御内蔵ＷＤＴにより主制御ＭＰＵ１３１０ａが強制的にリセットされずに済む。また、この無限ループにより、エラー表示処理が終了した状態を維持することとなり、遊技を進行することが全くできない状態となり、パチンコ機１の電源を遮断して、再び電源を投入することとなる。このエラー表示処理では、その詳細な説明を後述するが、主制御内蔵ＲＡＭの内容に異常があると判定した場合、又は、電源遮断時に主制御側電源断時処理が正常に終了していないと判定した場合には、主制御内蔵ＲＡＭに格納されている内容に異常がある（又は信用することができないものである）として、その旨を伝えるエラー表示を行う。本実施形態では、主制御ＭＰＵ１３１０ａがエラー表示として英字Ｅを設定表示器１３１０ｇに表示するようになっている。

【３５３８】

なお、上記したように設定値を１つだけ有して設定変更処理においてこの１つの設定値に設定する処理を実行するように構成したり、複数の設定値を有するものの設定変更処理において予め決められている１つの設定値のみに設定する処理（予め決められている１つの設定値にだけ設定することが可能とされて他の設定値には設定することが不可能とされる。）を実行するようにした場合には、設定値確認表示処理を実行したときに設定されている１つの設定値だけが表示されるようにしてもよい。

【３５３９】

［２２－７．エラー表示処理］

次に、エラー表示処理について説明する。このエラー表示処理は、図２５５に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３３において行われる処理であり、図２５５に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３７において行われる処理（図２５８に示した設定変更処理におけるステップＳ２４０において行われる処理）であり、図２５９に示した設定値確認表示処理におけるステップＳ３７２において行われる処理である。

【３５４０】

エラー表示処理が開始されると、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、図２６０に示すように、発射許可信号の停止を行う（ステップＳ４００）。発射許可信号は、上述したように、遊技球Ｂの発射を払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂに対して許可する旨を伝えるものであり、その論理が発射許可論理に設定されると、発射を許可する旨を伝えることができる一方、その論理が発射許可論理を反転させた発射停止論理（発射非許可論理）に設定されると、発射を停止（非許可）する旨を伝えることができる。

【３５４１】

本ルーチンであるエラー表示処理が図２５５に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３３において行われる処理又は図２５５に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３７において行われる処理の一処理（具体的には、図２５８に示した設定変更処理におけるステップＳ２４０において行われる処理）として開始されると、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、図２５６に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ５２の割り込み許可設定を行うことができないため、図２５７に示した主制御側タイマ割り込み処理を行うことができず、同処理におけるステップＳ１１３の発射許可信号設定処理を行うことができない。発射許可信号は、主制御ＭＰＵ１３１０ａの所定の出力ポートの出力端子からリセット機能付き主制御出力回路を介して払出制御基板６３３の発射制御部６

３３ｂに出力されるため、復電時において、リセット機能付き主制御出力回路がリセットされ、その論理は、発射許可論理を反転させた発射停止論理（発射非許可論理）となっている。

【３５４２】

そこで、本ルーチンであるエラー表示処理が図２５５に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３３において行われる処理又は図２５５に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３７において行われる処理の一処理（具体的には、図２５８に示した設定変更処理におけるステップＳ２４０において行われる処理）として開始されると、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ４００において、復電してから本ルーチンであるエラー表示処理が開始された後においても、遊技球Ｂが発射されることを確実に防止するために、発射許可信号の論理を発射停止論理（発射非許可論理）に設定して、その所定の出力ポートの出力端子からリセット機能付き主制御出力回路を介して払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂに出力する。

【３５４３】

本ルーチンであるエラー表示処理が図２５９に示した設定値確認表示処理におけるステップＳ３７２において行われる処理として開始されると、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、図２５９に示した設定値確認表示処理におけるステップＳ３５７の判定において主制御内蔵ＲＡＭの内容に異常があると判定している。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、図２５６に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ５２の割り込み許可設定をすでに行っているものの、本ルーチンであるエラー表示処理が開始される前にすでに図２５９に示した設定値確認表示処理におけるステップＳ３７０において割り込み非許可設定が行われているため、本ルーチンであるエラー表示処理を終了すると、上述したように、無限ループに入るため、図２５７に示した主制御側タイマ割り込み処理を行うことができず、同処理におけるステップＳ１１３の発射許可信号設定処理を行うことができない。

【３５４４】

そこで、本ルーチンであるエラー表示処理が図２５９に示した設定値確認表示処理におけるステップＳ３７２において行われる処理として開始されると、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ４００において、主制御内蔵ＲＡＭの内容に異常がある状態で遊技球Ｂが発射されることを確実に防止するために、発射許可信号の論理を発射停止論理（発射非許可論理）に設定して、その所定の出力ポートの出力端子からリセット機能付き主制御出力回路を介して払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂに出力する。

【３５４５】

ステップＳ４００に続いて、エラー表示として英字Ｅを設定表示器１３１０ｇに表示するための点灯信号を設定表示器１３１０ｇに出力して設定表示器１３１０ｇに対してエラー表示する（ステップＳ４０２）。

【３５４６】

ステップＳ４０２に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、機能表示ユニット１４００に対してエラー表示を行う（ステップＳ４０４）。このステップＳ４０４では、機能表示ユニット１４００のの各種表示器をすべて点灯するための点灯信号を機能表示ユニット１４００に出力して、機能表示ユニット１４００に対してエラー表示する。

【３５４７】

ステップＳ４０４に続いて、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、シリアル通信初期設定を行い（ステップＳ４０６）、続いて、エラー表示コマンドを作成して送信情報を設定し（ステップＳ４０８）、続いて、ステップＳ４０６で設定した送信情報（エラー表示コマンド）を主周シリアルデータとして周辺制御基板１５１０に送信する周辺制御基板送信コマンド送信処理を行い（ステップＳ４１０）、本ルーチンを終了する。

【３５４８】

ステップＳ４０６のシリアル通信初期設定は、図２５８に示した設定変更処理におけるステップＳ２３４のシリアル通信初期設定と、図２５６に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ４４のシリアル通信初期設定と、同一の処理であり、ステップＳ４１

０の周辺制御基板送信コマンド送信処理は、図２５８に示した設定変更処理におけるステップＳ２３８の周辺制御基板送信コマンド送信処理と、図２５７に示した主制御側タイマ割り込み処理におけるステップＳ１２０の周辺制御基板送信コマンド送信処理と同一の処理である。本ルーチンであるエラー表示処理が図２５５に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３３において行われる処理、図２５５に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３７において行われる処理（図２５８に示した設定変更処理におけるステップＳ２４０において行われる処理）、及び図２５９に示した設定値確認表示処理におけるステップＳ３７２において行われる処理としてそれぞれ開始されて終了すると、上述したように、無限ループに入り、この無限ループにより、エラー表示処理が終了した状態を維持することとなり、遊技を進行することが全くできない状態となる。

【３５４９】

そこで、本実施形態では、ステップＳ４０６のシリアル通信初期設を行って、ステップＳ４１０の周辺制御基板送信コマンド送信処理においてステップＳ４０８で設定した送信情報（エラー表示コマンド）を主周シリアルデータとして周辺制御基板１５１０に送信している。

【３５５０】

なお、エラー表示コマンドは、主制御内蔵ＲＡＭに格納されている内容に異常がある（又は信用することができないものである）旨を伝えるコマンドである。周辺制御基板１５１０における周辺制御ＩＣのＣＰＵは、エラー表示コマンドを受信すると、図示しないリアルタイムクロックＩＣの内蔵ＲＡＭに記憶保持されるエラー表示履歴情報（エラー表示コマンドと受信した日時とを対応付けた情報）を更新する。

【３５５１】

また、周辺制御基板１５１０における周辺制御ＩＣのＣＰＵは、エラー表示コマンドを受信すると、演出表示装置１６００の表示領域に、青色の背景画像に「ＲＡＭエラーが発生しました。係員をお呼びください。」という白色の文字のメッセージ画像を表示する制御を行うとともに、「ＲＡＭエラーが発生しました。係員をお呼びください。」というアナウンスを、周辺制御基板１５１０に備える音量調整スイッチが回転操作されることにより調整された音量に依存されず、最大音量となるように強制的に設定して各種スピーカ（トップ中央スピーカ、トップサイドスピーカや、本体枠４の本体枠スピーカ等）から流す制御を行う。エラー表示コマンドによるＲＡＭエラー報知を行う処理は、優先順位が最も高い処理であり、周辺制御基板１５１０における周辺制御ＩＣのＣＰＵが他のエラーを伝えるコマンドを受信した後にエラー表示コマンドを受信すると、ＲＡＭエラー報知を最優先で行う。

【３５５２】

［２３．払出制御基板の各種制御処理］

次に、払出制御基板６３３が行う各種制御処理について、図２６１～図２６４を参照して説明する。図２６１は払出制御部電源投入時処理の一例を示すフローチャートであり、図２６２は図２６１の払出制御部電源投入時処理のつづきを示すフローチャートであり、図２６３は図２６２に続いて払出制御部電源投入時処理のつづきを示すフローチャートであり、図２６４は払出制御部タイマ割り込み処理の一例を示すフローチャートである。まず、払出制御部電源投入時処理について説明し、続いて払出制御部タイマ割り込み処理について説明する。

【３５５３】

［２３－１．払出制御部電源投入時処理］

まず、パチンコ機１に電源が投入されると、払出制御基板６３３における払出制御部６３３ａの払出制御ＭＰＵによる制御の下、図２６１～図２６３に示すように、払出制御部電源投入時処理を行う。この払出制御部電源投入時処理が開始されると、払出制御ＭＰＵは、割り込みモードの設定を行う（ステップＳ５００）。この割り込みモードは、払出制御ＭＰＵの割り込みの優先順位を設定するものである。本実施形態では、後述する払出制御部タイマ割り込み処理が優先順位として最も高く設定されており、この払出制御部タイ

マ割り込み処理の割り込みが発生すると、優先的にその処理を行う。
【３５５４】
ステップＳ５００に続いて、払出制御ＭＰＵは、入出力設定（Ｉ／Ｏの入出力設定）を行う（ステップＳ５０２）。このＩ／Ｏの入出力設定では、払出制御ＭＰＵの各種入力ポート及び各種出力ポートの設定等を行う。
【３５５５】
ステップＳ５０２に続いて、払出制御ＭＰＵは、ウェイトタイマ処理１を行い（ステップＳ５０６）、停電予告信号が入力されているか否かを判定する（ステップＳ５０８）。電源投入時から所定電圧となるまでの間では電圧がすぐに上がらない。一方、停電又は瞬停（電力の供給が一時停止する現象）となるときでは電圧が下がり、停電予告電圧より小さくなると、主制御基板１３１０の停電監視回路から停電予告として停電予告信号が入力される。電源投入時から所定電圧に上がるまでの間では同様に電圧が停電予告電圧より小さくなると主制御基板１３１０の停電監視回路から停電予告信号が入力される。そこで、ステップＳ５０６のウェイトタイマ処理１は、電源投入後、電圧が停電予告電圧より大きくなって安定するまで待つための処理であり、本実施形態では、待ち時間（ウェイトタイマ）として２００ミリ秒（ｍｓ）が設定されている。ステップＳ５０８の判定では、主制御基板１３１０の停電監視回路からの停電予告信号に基づいて行う。
【３５５６】
ステップＳ５０８に続いて、払出制御ＭＰＵは、払出制御基板６３３のＲＡＭクリアスイッチが操作されているか否かを判定する（ステップＳ５１２）。この判定は、ＲＡＭクリアスイッチからの操作信号の論理に基づいて、ＲＡＭクリアスイッチからの操作信号（ＲＡＭクリア信号）の論理がＨＩであるときにはＲＡＭクリアを行うことを指示するものではないと判断してＲＡＭクリアスイッチが操作されていないと判定する一方、ＲＡＭクリアスイッチからの操作信号（ＲＡＭクリア信号）の論理がＬＯＷであるときにはＲＡＭクリアを行うことを指示するものであると判断してＲＡＭクリアスイッチが操作されていると判定する。
【３５５７】
ステップＳ５１２の判定において、払出制御ＭＰＵは、ＲＡＭクリアスイッチが操作されていると判定したときには、払出ＲＡＭクリア報知フラグＨＲＣＬ－ＦＬＧに値１をセットする（ステップＳ５１４）。つまり、払出制御ＭＰＵは、電源投入時から所定時間に亘って、払出制御ＭＰＵに内蔵されたＲＡＭ（つまり、払出制御内蔵ＲＡＭ）の初期化を行うＲＡＭクリア処理（ステップＳ３８）を実行可能な状態とする。
【３５５８】
一方、ステップＳ５１２の判定において、払出制御ＭＰＵは、ＲＡＭクリアスイッチが操作されていないと判定したときには、払出ＲＡＭクリア報知フラグＨＲＣＬ－ＦＬＧに値０をセットする（ステップＳ５１６）。この払出ＲＡＭクリア報知フラグＨＲＣＬ－ＦＬＧは、払出制御ＭＰＵの払出制御内蔵ＲＡＭに記憶されている、例えば、各種フラグ、各種情報記憶領域に記憶されている各種情報等（例えば、賞球情報記憶領域に記憶されている、賞球ストック数ＰＢＳ、実球計数ＰＢ、駆動指令数ＤＲＶ、不整合カウンタＩＮＣＣ等や、ＣＲ通信情報記憶領域に記憶されている、ＰＲＤＹ信号の論理の状態が設定されているＰＲＤＹ信号出力設定情報等）の払い出しに関する払出情報を消去するか否かを示すフラグであり、払出情報を消去するとき値１、払出情報を消去しないとき値０にそれぞれ設定される。なお、ステップＳ５１４及びステップＳ５１６でセットされた払出ＲＡＭクリア報知フラグＨＲＣＬ－ＦＬＧは、払出制御ＭＰＵの汎用記憶素子（汎用レジスタ）に記憶される。
【３５５９】
ステップＳ５１４又はステップＳ５１６に続いて、払出制御ＭＰＵは、払出制御内蔵ＲＡＭへのアクセスを許可する設定を行う（ステップＳ５１８）。この設定により払出制御内蔵ＲＡＭへのアクセスができ、例えば払出情報の書き込み（記憶）又は読み出しを行うことができる。

【３５６０】
ステップＳ５１８に続いて、払出制御ＭＰＵは、スタックポインタの設定を行う（ステップＳ５２０）。スタックポインタは、例えば、使用中の記憶素子（レジスタ）の内容を一時記憶するためにスタックに積んだアドレスを示したり、サブルーチンを終了して本ルーチンに復帰するときの本ルーチンの復帰アドレスを一時記憶するためにスタックに積んだアドレスを示したりするものであり、スタックが積まれるごとにスタックポインタが進む。ステップＳ５２０では、スタックポインタに初期アドレスをセットし、この初期アドレスから、レジスタの内容、復帰アドレス等をスタックに積んで行く。そして最後に積まれたスタックから最初に積まれたスタックまで、順に読み出すことによりスタックポインタが初期アドレスに戻る。
【３５６１】
ステップＳ５２０に続いて、払出制御ＭＰＵは、払出ＲＡＭクリア報知フラグＨＲＣＬ－ＦＬＧが値０である否かを判定する（ステップＳ５２２）。払出ＲＡＭクリア報知フラグＨＲＣＬ－ＦＬＧは、上述したように、払出情報を消去するとき値１、払出情報を消去しないとき値０にそれぞれ設定される。
【３５６２】
ステップＳ５２２の判定において、払出制御ＭＰＵは、払出ＲＡＭクリア報知フラグＨＲＣＬ－ＦＬＧが値０であるとき、つまり払出情報を消去しないと判定したときには、チェックサムの算出を行う（ステップＳ５２４）。このチェックサムは、払出制御内蔵ＲＡＭに記憶されている払出情報を数値とみなしてその合計を算出するものである。
【３５６３】
ステップＳ５２４に続いて、払出制御ＭＰＵは、算出したチェックサムの値が後述する払出制御部電源断時処理（電源断時）において記憶されているチェックサムの値と一致しているか否かを判定する（ステップＳ５２６）。ステップＳ５２６において、払出制御ＭＰＵは、一致していると判定したときには、払出バックアップフラグＨＢＫ－ＦＬＧが値１であるか否かを判定する（ステップＳ５２８）。この払出バックアップフラグＨＢＫ－ＦＬＧは、払出情報、チェックサムの値等の払出バックアップ情報を後述する払出制御部電源断時処理において払出制御内蔵ＲＡＭに記憶保持したか否かを示すフラグであり、払出制御部電源断時処理を正常に終了したとき値１、払出制御部電源断時処理を正常に終了していないとき値０にそれぞれ設定される。
【３５６４】
ステップＳ５２８の判定において、払出制御ＭＰＵは、払出バックアップフラグＨＢＫ－ＦＬＧが値１であるとき、つまり払出制御部電源断時処理を正常に終了したと判定したときには、復電時として払出制御内蔵ＲＡＭの作業領域を設定する（ステップＳ５３０）。この設定では、払出バックアップフラグＨＢＫ－ＦＬＧに値０がセットされるほかに、払出制御ＭＰＵに内蔵されたＲＯＭ（つまり、払出制御内蔵ＲＯＭ）から復電時情報が読み出され、この復電時情報が払出制御内蔵ＲＡＭの作業領域にセットされる。これにより、払出制御内蔵ＲＡＭに記憶されている上述した払出バックアップ情報である、各種フラグ、各種情報記憶領域に記憶されている各種情報等（例えば、賞球情報記憶領域に記憶されている、賞球ストック数ＰＢＳ、実球計数ＰＢ、駆動指令数ＤＲＶ、不整合カウンタＩＮＣＣ等や、ＣＲ通信情報記憶領域に記憶されている、ＰＲＤＹ信号の論理の状態が設定されているＰＲＤＹ信号出力設定情報、時間管理情報記憶領域に記憶されている不整合カウンタリセット判定時間等）の払い出しに関する払出情報に基づいて各種処理に使用する情報が設定される。なお、「復電」とは、電源を遮断した状態から電源を投入した状態のほかに、停電又は瞬停からその後の電力の復旧した状態も含める。
【３５６５】
一方、ステップＳ５２２の判定において、払出制御ＭＰＵは、払出ＲＡＭクリア報知フラグＨＲＣＬ－ＦＬＧが値０でない（値１である）とき、つまり払出情報を消去すると判定したときには、又はステップＳ５２６の判定において、払出制御ＭＰＵは、チェックサムの値が一致していないと判定したときには、又はステップＳ５２８の判定において、払

出制御ＭＰＵは、払出バックアップフラグＨＢＫ－ＦＬＧが値１でない（値０である）とき、つまり払出制御部電源断時処理を正常に終了していないと判定したときには、払出制御内蔵ＲＡＭの全領域をクリアする（ステップＳ５３２）。これにより、払出制御内蔵ＲＡＭに記憶されている払出バックアップ情報がクリアされる。

【３５６６】

ステップＳ５３２に続いて、払出制御ＭＰＵは、初期設定として払出制御内蔵ＲＡＭの作業領域を設定する（ステップＳ５３４）。この設定は、払出制御内蔵ＲＯＭから初期情報を読み出してこの初期情報を払出制御内蔵ＲＡＭの作業領域にセットする。

【３５６７】

ステップＳ５３０又はステップＳ５３４に続いて、払出制御ＭＰＵは、割り込み初期設定を行う（ステップＳ５３６）。この設定は、後述する払出制御部タイマ割り込み処理が行われるときの割り込み周期を設定するものである。本実施形態では、２ｍｓに設定されている。

【３５６８】

ステップＳ５３６に続いて、払出制御ＭＰＵは、割り込み許可設定を行う（ステップＳ５３８）。この設定によりステップＳ５３６で設定した割り込み周期、つまり２ｍｓごとに払出制御部タイマ割り込み処理が繰り返し行われる。

【３５６９】

ステップＳ５３８に続いて、払出制御ＭＰＵは、ウォッチドックタイマクリアレジスタＨＷＣＬに値Ａをセットする（ステップＳ５３９）。このウォッチドックタイマクリアレジスタＨＷＣＬに、値Ａ、値Ｂそして値Ｃを順にセットすることによりウォッチドックタイマがクリア設定される。

【３５７０】

ステップＳ５３９に続いて、払出制御ＭＰＵは、停電予告信号が入力されているか否かを判定する（ステップＳ５４０）。パチンコ機１の電源を遮断したり、停電又は瞬停したりするときには、上述したように、電圧が停電予告電圧以下となると、停電予告として停電予告信号が主制御基板１３１０の停電監視回路から入力される。ステップＳ５４０の判定は、この停電予告信号に基づいて行う。

【３５７１】

ステップＳ５４０の判定において、払出制御ＭＰＵは、停電予告信号の入力がないと判定したときには、２ｍｓ経過フラグＨＴ－ＦＬＧが値１であるか否かを判定する（ステップＳ５４２）。この２ｍｓ経過フラグＨＴ－ＦＬＧは、後述する、２ｍｓごとに処理される払出制御部タイマ割り込み処理で２ｍｓを計時するフラグであり、２ｍｓ経過したとき値１、２ｍｓ経過していないとき値０にそれぞれ設定される。

【３５７２】

ステップＳ５４２の判定において、払出制御ＭＰＵは、２ｍｓ経過フラグＨＴ－ＦＬＧが値０であるとき、つまり２ｍｓ経過していないと判定したときには、ステップＳ５４０に戻り、払出制御ＭＰＵは、停電予告信号が入力されているか否かを判定する。

【３５７３】

一方、ステップＳ５４２の判定において、払出制御ＭＰＵは、２ｍｓ経過フラグＨＴ－ＦＬＧが値１であるとき、つまり２ｍｓ経過したと判定したときには、２ｍｓ経過フラグＨＴ－ＦＬＧに値０をセットする（ステップＳ５４４）。

【３５７４】

ステップＳ５４４に続いて、払出制御ＭＰＵは、ウォッチドックタイマクリアレジスタＨＷＣＬに値Ｂをセットする（ステップＳ５４６）。このとき、ウォッチドックタイマクリアレジスタＨＷＣＬには、ステップＳ５３９においてセットされた値Ａに続いて値Ｂがセットされる。

【３５７５】

ステップＳ５４６に続いて、払出制御ＭＰＵは、ポート出力処理を行う（ステップＳ５４８）。このポート出力処理では、払出制御内蔵ＲＡＭの出力情報記憶領域から各種情報

を読み出してこの各種情報に基づいて各種信号を払出制御ＭＰＵの各種出力ポートの出力端子から出力する。出力情報記憶領域には、例えば、主制御基板１３１０からの払い出しに関する各種コマンド（賞球コマンドやセルフチェックコマンド）を正常に受信した旨を伝える払主ＡＣＫ情報、払出モータ５８４への駆動制御を行う駆動情報、払出モータ５８４が実際に遊技球を払い出した球数の賞球数情報、エラーＬＥＤ表示器に表示するＬＥＤ表示情報等の各種情報が記憶されており、この出力情報に基づいて払出制御ＭＰＵの所定の出力ポートの出力端子から、主制御基板１３１０からの払い出しに関する各種コマンドを正常に受信したときには払主ＡＣＫ信号を主制御基板１３１０に出力したり、払出モータ５８４に駆動信号を出力したり、払出モータ５８４が実際に遊技球を払い出した球数を賞球数情報出力信号として外部端子板５５８に出力したり（本実施形態では、払出モータ５８４が実際に１０個の遊技球を払い出すごとに外部端子板５５８に賞球数情報出力信号を出力している。

【３５７６】

具体的には、賞球数情報を出力するか否かを判定するための賞球数情報出力判定用カウンタが設けられており、この賞球数情報出力判定用カウンタは、払出モータ５８４が実際に払い出した遊技球の球数を、後述するステップＳ５５０のポート入力処理で払出検知センサ５９１からの検出信号に基づいて、カウントするものであり、払出モータ５８４が実際に払い出した遊技球の球数を監視するための図示しない処理（プログラム）により払出制御内蔵ＲＡＭの賞球情報記憶領域に記憶更新されるようになっている。

【３５７７】

この払出モータ５８４が実際に払い出した遊技球の球数を監視するための図示しない処理（プログラム）では、払出制御内蔵ＲＡＭの賞球情報記憶領域に記憶される賞球数情報出力判定用カウンタの値に、後述するステップＳ５５０のポート入力処理で払出検知センサ５９１からの検出信号に基づいて、払出モータ５８４が実際に払い出した遊技球の球数を加算して記憶更新する。

【３５７８】

ステップＳ５４８のポート出力処理では、この賞球情報記憶領域から賞球数情報出力判定用カウンタの値を読み出し、この読み出した賞球数情報出力判定用カウンタの値が値１０を超えているときには（つまり、払出モータ５８４が実際に払い出した遊技球の球数が１０球に達しているときには）外部端子板５５８に賞球数情報出力信号を出力するとともに（このとき、その超えた球数を示す値を、賞球数情報出力判定用カウンタの値として上述した払出制御内蔵ＲＡＭの賞球情報記憶領域に記憶更新する。）、エラーＬＥＤ表示器に表示信号を出力する。

【３５７９】

ステップＳ５４８に続いて、払出制御ＭＰＵは、ポート入力処理を行う（ステップＳ５５０）。このポート入力処理では、払出制御ＭＰＵの各種入力ポートの入力端子に入力されている各種信号を読み取り、入力情報として払出制御内蔵ＲＡＭの入力情報記憶領域に記憶する。例えば、ＲＡＭクリアスイッチの操作信号（ＲＡＭクリア信号）、羽根回転検知センサ５９０からの検出信号、払出検知センサ５９１からの検出信号、満タン検知センサ１５４からの検出信号、ＣＲユニットからのＢＲＱ信号、ＢＲＤＹ信号及びＣＲ接続信号、後述するコマンド送信処理で送信した各種コマンドを主制御基板１３１０が正常に受信した旨を伝える主制御基板１３１０からの主払ＡＣＫ信号等、をそれぞれ読み取り、入力情報として入力情報記憶領域に記憶する。

【３５８０】

ステップＳ５５０に続いて、払出制御ＭＰＵは、タイマ更新処理を行う（ステップＳ５５２）。このタイマ更新処理では、払出モータ５８４の回転軸の回転が伝達される払出羽根５８９による球ガミ状態が生じているか否かの判定を行う際にその判定条件として設定されている球ガミ判定時間、払出羽根５８９の定位置判定を行わない際に設定されているスキップ判定時間、下皿２０２が貯留された遊技球で満タンであるか否かの判定を行う際にその判定条件として設定されている満タン判定時間、球切検知センサ５７４からの検出

信号により球誘導ユニット５７０の誘導通路５７０ａ内に取り込まれた遊技球の球数が所定数以上となっているか否かの判定を行う際にその判定条件として設定されている球切れ判定時間等の時間管理を行うほかに、払出羽根５８９の球収容部５８９ｂに受け止められて払い出された遊技球の球数と、実際に払出検知センサ５９１で検出された球数と、の不一致によるつじつまの合わない遊技球の払い出しを、繰り返し行っているか否かを監視するための不整合カウンタＩＮＣＣをリセットするか否かの判定を行う際にその判定条件と設定されている不整合カウンタリセット判定時間の時間管理を行う。例えば、球ガミ判定時間が５００５ｍｓに設定されているときには、タイマ割り込み周期が２ｍｓに設定されているので、このタイマ更新処理を行うごとに球ガミ判定時間を２ｍｓずつ減算し、その減算結果が値０になることで球ガミ判定時間を正確に計っている。なお、これらの各種判定時間は、時間管理情報として払出制御内蔵ＲＡＭの時間管理情報記憶領域に記憶される。

【３５８１】

ステップＳ５５２に続いて、払出制御ＭＰＵは、ＣＲ通信処理を行う（ステップＳ５５４）。このＣＲ通信処理では、上述した入力情報記憶領域から入力情報を読み出してこの入力情報に基づいて、ＣＲユニットからの各種信号（ＢＲＱ信号、ＢＲＤＹ信号及びＣＲ接続信号）が入力されているか否かを判定する。ＣＲユニットからの各種信号に基づいて、払出制御ＭＰＵは、ＣＲユニットと各種信号のやり取りを行う。ステップＳ５３０の払出制御内蔵ＲＡＭの作業領域を設定する処理において、上述したように、払出制御内蔵ＲＡＭに記憶されている払出バックアップ情報である、各種フラグ、各種情報記憶領域に記憶されている各種情報等（例えば、賞球情報記憶領域に記憶されている、賞球ストック数ＰＢＳ、実球計数ＰＢ、駆動指令数ＤＲＶ、不整合カウンタＩＮＣＣ等や、ＣＲ通信情報記憶領域に記憶されている、ＰＲＤＹ信号の論理の状態が設定されているＰＲＤＹ信号出力設定情報等）の払い出しに関する払出情報に基づいて各種処理に使用する情報が設定される。

【３５８２】

この処理によって、例えば、瞬停又は停電しても、復電時における、賞球ストック数ＰＢＳ、実球計数ＰＢ、駆動指令数ＤＲＶ、不整合カウンタＩＮＣＣ等の値を、払出バックアップ情報として記憶した、瞬停又は停電する直前における、賞球ストック数ＰＢＳ、実球計数ＰＢ、駆動指令数ＤＲＶ、不整合カウンタＩＮＣＣ等の値に復元することができる。これにより、払出装置５８０による遊技球の払出動作を実行している際に、瞬停又は停電して払出動作を続行することができなくなっても、復電時に、その払出動作を続行することができるため、過不足なく遊技球を上皿２０１や下皿２０２に払い出すことができる。換言すれば、払出制御ＭＰＵは、ＣＲ通信処理において、ＣＲユニットと各種信号のやり取りを行いながら、遊技球を上皿２０１や下皿２０２に払い出している際に、瞬停又は停電してＣＲユニットと各種信号のやり取りが遮断され、遊技球の払い出しを続行することができなくなっても、復電時における、賞球ストック数ＰＢＳ、実球計数ＰＢ、駆動指令数ＤＲＶ、不整合カウンタＩＮＣＣ等の値が、払出バックアップ情報として記憶された、瞬停又は停電する直前における、賞球ストック数ＰＢＳ、実球計数ＰＢ、駆動指令数ＤＲＶ、不整合カウンタＩＮＣＣ等の値に復元されることによって、瞬停又は停電する直前における、パチンコ機１（払出制御ＭＰＵ）とＣＲユニットとによる各種信号のやり取りを、復電時から継続することができるとともに、遊技球の払い出しを引き続き行うことができるようになっている。

【３５８３】

このように、パチンコ機１（払出制御ＭＰＵ）とＣＲユニットとによる各種信号のやり取りは、瞬停又は停止しても、復電時に、瞬停又は停止する直前の状態に復元されるようになっており、瞬停又は停止による影響によってパチンコ機１（払出制御ＭＰＵ）とＣＲユニットとによる各種信号が変化しないようになっている。したがって、パチンコ機１（払出制御ＭＰＵ）とＣＲユニットとによる各種信号のやり取りの信頼性を高めることができる。

【３５８４】
　また、ＣＲ通信情報記憶領域に記憶される各種情報は、払出バックアップ情報に含まれている。ＣＲ通信処理では、復電時に、ステップＳ５３０の払出制御内蔵ＲＡＭの作業領域を設定する処理において設定された、払出制御内蔵ＲＡＭに記憶されているＣＲ通信情報記憶領域からＰＲＤＹ信号出力設定情報を読み出してこの読み出したＰＲＤＹ信号出力設定情報が、例えば貸球を払い出すための払出動作が不可能である旨を伝えるＰＲＤＹ信号の論理の状態に設定されている場合には、そのＰＲＤＹ信号を払出制御ＭＰＵの所定の出力ポートの出力端子からＣＲユニットへ出力する。そして、主要動作設定処理の一処理として行われる、例えばリトライ動作監視処理において、払出バックアップ情報に含まれている、払出制御内蔵ＲＡＭに記憶されている賞球情報記憶領域の不整合カウンタＩＮＣＣの値に基づいて、この不整合カウンタＩＮＣＣの値が不整合しきい値ＩＮＣＴＨより小さいか否かを判定し、不整合カウンタＩＮＣＣの値が不整合しきい値ＩＮＣＴＨより小さくないときには、リトライ動作が異常動作していると判断して、つまり払出装置５８０による遊技球の払出動作が異常状態であると判断して、リトライエラーフラグＲＴＥＲＲ－ＦＬＧに値１をセットし、払出球ガミ動作判定設定処理において、ＣＲユニットへのエラー状態の出力の設定として、例えばＣＲユニットと通信中でないときには貸球を払い出すための払出動作が不可能である旨を伝えるＰＲＤＹ信号の論理の状態（ＬＯＷ）をＰＲＤＹ信号出力設定情報に設定してＣＲ通信情報記憶領域に記憶する。
【３５８５】
　これにより、ＣＲ通信処理では、復電時から次のタイマ割り込みで、このＰＲＤＹ信号の論理の状態を、ＣＲ通信情報記憶領域から読み出してそのＰＲＤＹ信号を払出制御ＭＰＵの所定の出力ポートの出力端子からＣＲユニットへ出力する。このように、例えば、瞬停する直前において、払出装置５８０による遊技球の払出動作が異常状態であった場合には、復電時に、その状態が復元されるため、復電してから極めて早い段階で、貸球を払い出すための払出動作が不可能である旨を伝えるＰＲＤＹ信号を払出制御ＭＰＵの所定の出力ポートの出力端子からＣＲユニットへ出力することができ、ＣＲユニットに払出装置５８０による遊技球の払出動作が異常状態である旨を伝えることができる。これにより、復電時から極めて早い段階で、ＣＲユニットからの無駄な貸球要求信号であるＢＲＤＹが出力されるのを防止することができる。
【３５８６】
　また、ＣＲ通信処理では、ステップＳ５５０のポート入力処理で、払出制御内蔵ＲＡＭの入力情報記憶領域からＣＲ接続信号を読み出してこのＣＲ接続信号に基づいて、その論理がＨＩであるとき、つまりパチンコ機１が電源投入されているときであって、払出制御基板６３３とＣＲユニットとが電気的に接続されているときには、貸球を払い出すための払出動作が可能である旨を伝えるために、ＰＲＤＹ信号の論理の状態をＨＩとして払出制御ＭＰＵの所定の出力ポートの出力端子からＣＲユニットへ出力する一方、その論理がＬＯＷであるとき、つまりパチンコ機１が電源投入されているときであって、払出制御基板６３３とＣＲユニットとが電気的に接続されていないときには、貸球を払い出すための払出動作が不可能である旨を伝えるために、ＰＲＤＹ信号の論理の状態をＬＯＷとして払出制御ＭＰＵの所定の出力ポートの出力端子からＣＲユニットへ出力する。なお、１回の払出動作を開始した旨又は終了した旨を伝えるＥＸＳ信号の論理の状態は、ＥＸＳ信号出力設定情報として払出制御内蔵ＲＡＭのＣＲ通信情報記憶領域に記憶され、払出制御基板６３３とＣＲユニットとが電気的に接続されているか否かを伝えるＣＲ接続信号は、ＣＲ接続情報として状態情報記憶領域に記憶されるようになっている。
【３５８７】
　ステップＳ５５４に続いて、払出制御ＭＰＵは、満タン及び球切れチェック処理を行う（ステップＳ５５６）。この満タン及び球切れチェック処理では、上述した入力情報記憶領域から入力情報を読み出してこの入力情報に基づいて、満タン検知センサ１５４からの検出信号により上述した下皿２０２が貯留された遊技球で満タンとなっているか否かを判定したり、球切検知センサ５７４からの検出信号により上述した球誘導ユニット５７０の

誘導通路５７０ａ内に取り込まれた遊技球の球数が所定数以上となっているか否かを判定したりする。例えば、下皿２０２が貯留された遊技球で満タンとなっているか否かの判定は、タイマ割り込み周期２ｍｓを利用して、今回の満タン及び球切れチェック処理で満タン検知センサ１５４からの検出信号がＯＮ、前回（２ｍｓ前）の満タン及び球切れチェック処理で満タン検知センサ１５４からの検出信号がＯＦＦとなったとき、つまり満タン検知センサ１５４からの検出信号がＯＦＦからＯＮに遷移したときには、ステップＳ５５２のタイマ更新処理で上述した満タン判定時間の計時を開始する。そしてタイマ更新処理で満タン判定時間が値０となったとき、つまり満タン判定時間となったときには、この満タン及び球切れチェック処理で満タン検知センサ１５４からの検出信号がＯＮであるか否かを判定する。この判定では、満タン検知センサ１５４からの検出信号がＯＮであるときには、下皿２０２が貯留された遊技球で満タンであるとしてその旨を伝える満タン情報を上述した状態情報記憶領域に記憶する。一方、満タン検知センサ１５４からの検出信号がＯＦＦであるときには、下皿２０２が貯留された遊技球で満タンでないとしてその旨を伝える満タン情報を状態情報記憶領域域に記憶する。

【３５８８】

球誘導ユニット５７０の誘導通路５７０ａ内に取り込まれた遊技球の球数が所定数以上となっているか否かの判定も、タイマ割り込み周期２ｍｓを利用して、今回の満タン及び球切れチェック処理で球切れスイッチからの検出信号がＯＮ、前回（２ｍｓ前）の満タン及び球切れチェック処理で球切れスイッチからの検出信号がＯＦＦとなったとき、つまり球切検知センサ５７４からの検出信号がＯＦＦからＯＮに遷移したときには、ステップＳ５５２のタイマ更新処理で上述した球切れ判定時間の計時を開始する。そしてタイマ更新処理で球切れ判定時間が値０となったとき、つまり球切れ判定時間となったときには、この満タン及び球切れチェック処理で球切検知センサ５７４からの検出信号がＯＮであるか否かを判定する。この判定では、球切検知センサ５７４からの検出信号がＯＮであるときには、球誘導ユニット５７０の誘導通路５７０ａ内に取り込まれた遊技球の球数が所定数以上であるとしてその旨を伝える球切れ情報を状態情報記憶領域に記憶する一方、球切検知センサ５７４からの検出信号がＯＦＦであるときには、球誘導ユニット５７０の誘導通路５７０ａ内に取り込まれた遊技球の球数が所定数以上でないとしてその旨を伝える球切れ情報を状態情報記憶領域に記憶する。

【３５８９】

ステップＳ５５６に続いて、払出制御ＭＰＵは、コマンド受信処理を行う（ステップＳ５５８）。このコマンド受信処理では、主制御基板１３１０からの払い出しに関する各種コマンド（賞球コマンドやセルフチェックコマンド）を受信する。この各種コマンドを正常に受信したときには、その旨を伝える払主ＡＣＫ情報を上述した出力情報記憶領域に記憶する。一方、各種コマンドを正常に受信できなかったときには、主制御基板１３１０と払出制御基板６３３との基板間の接続に異常が生じている（各種コマンド信号に異常が生じている）旨を伝える接続異常情報を上述した状態情報記憶領域に記憶する。

【３５９０】

ステップＳ５５８に続いて、払出制御ＭＰＵは、コマンド解析処理を行う（ステップＳ５６０）。このコマンド解析処理では、ステップＳ５５８で受信したコマンドの解析を行い、その解析したコマンドを受信コマンド情報として払出制御内蔵ＲＡＭの受信コマンド情報記憶領域に記憶する。

【３５９１】

ステップＳ５６０に続いて、払出制御ＭＰＵは、主要動作設定処理を行う（ステップＳ５６２）。この主要動作設定処理では、賞球、貸球、球抜き及び球ガミ等の動作設定を行ったり、リトライ動作の判定を行ったり、未払い出しの球数（賞球ストック数）を監視したりする。

【３５９２】

ステップＳ５６２に続いて、払出制御ＭＰＵは、ＬＥＤ表示データ作成処理を行う（ステップＳ５６４）。このＬＥＤ表示データ作成処理では、上述した状態情報記憶領域から

各種情報を読み出し、払出制御基板６３３のエラーＬＥＤ表示器に表示する表示データを作成してＬＥＤ表示情報として上述した出力情報記憶領域に記憶する。例えば、状態情報記憶領域から上述した球切れ情報を読み出し、この球切れ情報に基づいて、球誘導ユニット５７０の誘導通路５７０ａ内に取り込まれた遊技球の球数が所定数以上でないときには、対応する表示データ（本実施形態では、表示値１（数字「１」））を作成してＬＥＤ表示情報を出力情報記憶領域に記憶する。

【３５９３】

ステップＳ５６４に続いて、払出制御ＭＰＵは、コマンド送信処理を行う（ステップＳ５６６）。このコマンド送信処理では、上述した状態情報記憶領域から各種情報を読み出し、この各種情報に基づいて状態表示に区分される各種コマンド（枠状態１コマンド、エラー解除ナビコマンド及び枠状態２コマンド）を作成して主制御基板１３１０に送信する。例えば、状態情報記憶領域から球切れ情報を読み出すと、この球切れ情報に基づいて、球誘導ユニット５７０の誘導通路５７０ａ内に取り込まれた遊技球の球数が所定数以上でないときには、枠状態１コマンドを作成して主制御基板１３１０に送信したりする。

【３５９４】

ステップＳ５６６に続いて、払出制御ＭＰＵは、ウォッチドックタイマクリアレジスタＨＷＣＬに値Ｃをセットする（ステップＳ５６８）。ステップＳ５６８でウォッチドックタイマクリアレジスタＨＷＣＬに値Ｃがセットされることにより、ウォッチドックタイマクリアレジスタＨＷＣＬには、ステップＳ５４６においてセットされた値Ｂに続いて値Ｃがセットされる。これにより、ウォッチドックタイマクリアレジスタＨＷＣＬには、値Ａ、値Ｂそして値Ｃが順にセットされ、ウォッチドックタイマがクリア設定される。

【３５９５】

ステップＳ５６８に続いて、再びステップＳ５３９に戻り、払出制御ＭＰＵは、ウォッチドックタイマクリアレジスタＨＷＣＬに値Ａをセットし、ステップＳ５４０で停電予告信号が入力されているか否かを判定し、この停電予告信号の入力がなければ、ステップＳ５４２で２ｍｓ経過フラグＨＴ－ＦＬＧが値１であるか否かを判定し、この２ｍｓ経過フラグＨＴ－ＦＬＧが値１であるとき、つまり２ｍｓ経過したときには、ステップＳ５４４で２ｍｓ経過フラグＨＴ－ＦＬＧに値０をセットし、ステップＳ５４６でウォッチドックタイマクリアレジスタＨＷＣＬに値Ｂをセットし、ステップＳ５４８でポート出力処理を行い、ステップＳ５５０でポート入力処理を行い、ステップＳ５５２でタイマ更新処理を行い、ステップＳ５５４でＣＲ通信処理を行い、ステップＳ５５６で満タン及び球切れチェック処理を行い、ステップＳ５５８でコマンド受信処理を行い、ステップＳ５６０でコマンド解析処理を行い、ステップＳ５６２で主要動作設定処理を行い、ステップＳ５６４でＬＥＤ表示データ作成処理を行い、ステップＳ５６６でコマンド送信処理を行い、ステップＳ５６８でウォッチドックタイマクリアレジスタＨＷＣＬに値Ｃをセットし、ステップＳ５３９～ステップＳ５６８を繰り返し行う。なお、このステップＳ５３９～ステップＳ５６８の処理を「払出制御部メイン処理」という。

【３５９６】

主制御基板１３１０による遊技の進行に応じて払出制御部メイン処理の処理内容が異なってくる。このため、払出制御ＭＰＵの処理に要する時間が変動することとなる。そこで、払出制御ＭＰＵは、ステップＳ５４８のポート出力処理において、主制御基板１３１０からの払い出しに関する各種コマンドを正常に受信した旨を伝える払主ＡＣＫ信号を、優先して主制御基板１３１０に出力している。これにより、払出制御ＭＰＵは、変動する他の処理を十分に行えるよう、その処理時間を確保している。

【３５９７】

一方、ステップＳ５４０の判定において、払出制御ＭＰＵは、停電予告信号の入力があったと判定したときには、割り込み禁止設定を行う（ステップＳ５７０）。この設定により後述する払出制御部タイマ割り込み処理が行われなくなり、払出制御内蔵ＲＡＭへの書き込みを防ぎ、上述した払出情報の書き換えを保護している。

【３５９８】

ステップＳ５７０に続いて、払出制御ＭＰＵは、払出モータ５８４への駆動信号の出力を停止する（ステップＳ５７４）。これにより、遊技球の払い出しを停止する。

【３５９９】

ステップＳ５７４に続いて、払出制御ＭＰＵは、ウォッチドックタイマのクリア設定を行う（ステップＳ５７６）。このクリア設定は、上述したように、ウォッチドックタイマクリアレジスタＨＷＣＬに値Ａ、値Ｂそして値Ｃを順にセットすることにより行われる。

【３６００】

ステップＳ５７６に続いて、払出制御ＭＰＵは、チェックサムの算出を行ってこの算出した値を記憶する（ステップＳ５７８）。このチェックサムは、ステップＳ５２４で算出したチェックサムの値及び払出バックアップフラグＨＢＫ－ＦＬＧの値の記憶領域を除く、払出制御内蔵ＲＡＭの作業領域の払出情報を数値とみなしてその合計を算出する。

【３６０１】

ステップＳ５７８に続いて、払出制御ＭＰＵは、払出バックアップフラグＨＢＫ－ＦＬＧに値１をセットする（ステップＳ５８０）。これにより、払出バックアップ情報の記憶が完了する。

【３６０２】

ステップＳ５８０に続いて、払出制御ＭＰＵは、払出制御内蔵ＲＡＭへのアクセスの禁止設定を行う（ステップＳ５８２）。この設定により払出制御内蔵ＲＡＭへのアクセスが禁止され書き込み及び読み出しができなくなり、払出制御内蔵ＲＡＭに記憶されている払出バックアップ情報が保護される。

【３６０３】

ステップＳ５８２に続いて、払出制御ＭＰＵは、無限ループに入る。この無限ループでは、ウォッチドックタイマクリアレジスタＨＷＣＬに値Ａ、値Ｂそして値Ｃを順にセットしないためウォッチドックタイマがクリア設定されなくなる。このため、払出制御ＭＰＵにリセットがかかり、その後、この払出制御部電源投入時処理を再び行う。なお、ステップＳ５７０～ステップＳ５８２の処理及び無限ループを「払出制御部電源断時処理」という。

【３６０４】

パチンコ機１（払出制御ＭＰＵ）は、停電したとき又は瞬停したときにはリセットがかかり、その後の電力の復旧により払出制御部電源投入時処理を行う。

【３６０５】

なお、ステップＳ５２６では払出制御内蔵ＲＡＭに記憶されている払出バックアップ情報が正常なものであるか否かを検査し、続いてステップＳ５２８では払出制御部電源断時処理が正常に終了されたか否かを検査している。このように、払出制御内蔵ＲＡＭに記憶されている払出バックアップ情報を２重にチェックすることにより払出バックアップ情報が不正行為により記憶されたものであるか否かを検査している。

【３６０６】

［２３－２．払出制御部タイマ割り込み処理］

次に、払出制御部タイマ割り込み処理について説明する。この払出制御部タイマ割り込み処理は、図２６１～図２６３に示した払出制御部電源投入時処理において設定された割り込み周期（本実施形態では、２ｍｓ）ごとに繰り返し行われる。

【３６０７】

払出制御部タイマ割り込み処理が開始されると、払出制御ＭＰＵは、図２６４に示すように、タイマ割り込みを禁止に設定してレジスタの切替（退避）を行う（ステップＳ５９０）。ここでは、上述した払出制御部メイン処理で使用していた汎用記憶素子（汎用レジスタ）から補助レジスタに切り替える。この補助レジスタを払出制御部タイマ割り込み処理で使用することにより汎用レジスタの値が上書きされなくなる。これにより、払出制御部メイン処理で使用していた汎用レジスタの内容の破壊を防いでいる。

【３６０８】

ステップＳ５９０に続いて、払出制御ＭＰＵは、２ｍｓ経過フラグＨＴ－ＦＬＧに値１

をセットする（ステップＳ５９２）。この２ｍｓ経過フラグＨＴ－ＦＬＧは、この払出制御部タイマ割り込み処理が行われるごとに、つまり２ｍｓごとに２ｍｓを計時するフラグであり、２ｍｓ経過したとき値１、２ｍｓ経過していないとき値０にそれぞれ設定される。

【３６０９】

ステップＳ５９２に続いて、払出制御ＭＰＵは、レジスタの切替（復帰）を行う（ステップＳ５９４）。この復帰は、払出制御部タイマ割り込み処理で使用していた補助レジスタから汎用記憶素子（汎用レジスタ）に切り替える。この汎用レジスタを払出制御部メイン処理で使用することにより補助レジスタの値が上書きされなくなる。これにより、払出制御部タイマ割り込み処理で使用していた補助レジスタの内容の破壊を防いでいる。

【３６１０】

ステップＳ５９４に続いて、払出制御ＭＰＵは、割り込み許可の設定を行い（ステップＳ５９６）、このルーチンを終了する。

【３６１１】

［２４．周辺制御基板の各種制御処理］

次に、主制御基板１３１０（主制御ＭＰＵ１３１０ａ）から各種コマンドを受信する周辺制御基板１５１０の各種処理について、図２６５～図２６９を参照して説明する。図２６５は周辺制御部電源投入時処理の一例を示すフローチャートであり、図２６６は周辺制御部Ｖブランク割り込み処理の一例を示すフローチャートであり、図２６７は周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の一例を示すフローチャートであり、図２６８は周辺制御部コマンド受信割り込み処理の一例を示すフローチャートであり、図２６９は周辺制御部停電予告信号割り込み処理の一例を示すフローチャートである。まず、周辺制御部電源投入時処理について説明し、続いて周辺制御部Ｖブランク割り込み処理、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理、周辺制御部コマンド受信割り込み処理、周辺制御部停電予告信号割り込み処理について説明する。なお、本実施形態では、割り込み処理の優先順位として、周辺制御部停電予告信号割り込み処理が最も高く設定され、続いて周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理、周辺制御部コマンド受信割り込み処理、そして周辺制御部Ｖブランク割り込み処理という順番に設定されている。

【３６１２】

周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａ（以下、「周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ」と記載する場合がある。）は、上述したように、ＣＰＵ、ＲＡＭ、ＶＤＰ、ＶＲＡＭ、音源、ＳＡＴＡコントローラ、そして各種Ｉ／Ｏインターフェイス等が１つの半導体チップ上に集積されている。

【３６１３】

［２４－１．周辺制御部電源投入時処理］

まず、周辺制御部電源投入時処理について、図２６５を参照して説明する。パチンコ機１に電源が投入されると、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣのＣＰＵによる制御の下、図２６５に示すように、周辺制御部電源投入時処理を行う。この周辺制御部電源投入時処理が開始されると、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、初期設定処理を行う（ステップＳ１０００）。この初期設定処理では、周辺制御ＩＣ自身を初期化する処理と、ホットスタート／コールドスタートの判定処理と、リセット後のウェイトタイマを設定する処理、各種の制御情報（周辺データ）を転送する処理等を行う。周辺制御ＩＣのＣＰＵは、まず周辺制御ＩＣ自身を初期化する処理を行うが、周辺制御ＩＣを初期化する処理にかかる時間は、マイクロ秒（μｓ）オーダーであり、極めて短い時間で周辺制御ＩＣを初期化することができる。これにより、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、割り込み許可が設定された状態となることによって、例えば、後述する周辺制御部コマンド受信割り込み処理において、主制御基板１３１０から出力される、遊技演出の制御に関するコマンドやパチンコ機１の状態に関するコマンド等の各種コマンドを受信することができる状態となる。

【３６１４】

ステップＳ１０００に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、現在時刻情報取得処理を行う

（ステップＳ１００２）。この現在時刻情報取得処理では、図示しないリアルタイムクロックＩＣの内蔵ＲＡＭから、年月日を特定するカレンダー情報と時分秒を特定する時刻情報とを取得して、周辺制御ＩＣのＲＡＭに、現在のカレンダー情報、現在の時刻情報をセットする。

【３６１５】

本実施形態では、周辺制御ＩＣのＣＰＵがリアルタイムクロックＩＣの内蔵ＲＡＭからカレンダー情報と時刻情報とを取得するのは、電源投入時の１回のみとなっている。また周辺制御ＩＣのＣＰＵは、この現在時刻情報取得処理を行った後に、図示しない外部ＷＤＴにクリア信号を出力して周辺制御ＩＣのＣＰＵにリセットがかからないようにしている。

【３６１６】

ステップＳ１００２に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、Ｖブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧに値０をセットする（ステップＳ１００４）。このＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧは、後述する周辺制御部定常処理を実行するか否かを決定するためのフラグであり、周辺制御部定常処理を実行するとき値１、周辺制御部定常処理を実行しないとき値０にそれぞれ設定される。Ｖブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧは、周辺制御ＩＣのＣＰＵからの画面データ（画面の構成を規定する情報）を受け入れることができる状態である旨を伝えるＶブランク信号が周辺制御ＩＣのＶＤＰから入力されたことを契機として実行される後述する周辺制御部Ｖブランク信号割り込み処理において値１がセットされるようになっている。このステップＳ１００４では、Ｖブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧに値０をセットすることによりＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧを一度初期化している。また周辺制御ＩＣのＣＰＵは、このＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧに値０をセットした後に、外部ＷＤＴにクリア信号を出力して周辺制御ＩＣのＣＰＵにリセットがかからないようにしている。

【３６１７】

ステップＳ１００４に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、Ｖブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧが値１であるか否かを判定する（ステップＳ１００６）。周辺制御ＩＣのＣＰＵは、Ｖブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧが値１でない（値０である）と判定したときには、再びステップＳ１００６に戻ってＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧが値１であるか否かを繰り返し判定する。このような判定を繰り返すことにより、周辺制御部定常処理を実行するまで待機する状態となる。また周辺制御ＩＣのＣＰＵは、このＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧが値１であるか否かを判定した後に、外部ＷＤＴにクリア信号を出力して周辺制御ＩＣのＣＰＵにリセットがかからないようにしている。

【３６１８】

ステップＳ１００６の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、Ｖブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧが値１であるとき、つまり周辺制御部定常処理を実行すると判定したときには、まず定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧに値１をセットする（ステップＳ１００８）。この定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧは、周辺制御部定常処理を実行中であるとき値１、周辺制御部定常処理を実行完了したとき値０にそれぞれセットされる。

【３６１９】

ステップＳ１００８に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、１ｍｓ割り込みタイマ起動処理を行う（ステップＳ１０１０）。この１ｍｓ割り込みタイマ起動処理では、後述する周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理を実行するための１ｍｓ割り込みタイマを起動するとともに、この１ｍｓ割り込みタイマが起動して周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行された回数をカウントするための１ｍｓタイマ割り込み実行回数ＳＴＮに値１をセットして１ｍｓタイマ割り込み実行回数ＳＴＮの初期化も行う。この１ｍｓタイマ割り込み実行回数ＳＴＮは周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理で更新される。

【３６２０】

ステップＳ１０１０に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、演出操作ユニット監視処理を行う（ステップＳ１０１４）。この演出操作ユニット監視処理では、後述する周辺制御部

１ｍｓタイマ割り込み処理における演出操作ユニット情報取得処理において、演出操作ユニット３００に設けられた第一回転検知センサ３４７、第二回転検知センサ３４８、押圧検知センサ３８１、昇降検知センサ３８２等の各種検知センサ（以下、「演出操作ユニット３００に設けられた各種センサ」と記載する。）からの検出信号に基づいて接触操作部３０２の回転（回転方向）及び押圧操作部３０３の操作等を取得した各種情報（例えば、演出操作ユニット３００に設けられた各種センサからの検出信号に基づいて作成する接触操作部３０２の回転（回転方向）履歴情報、及び押圧操作部３０３の操作履歴情報など。）がセットされる周辺制御ＩＣのＲＡＭに基づいて、接触操作部３０２の回転方向や押圧操作部３０３の操作有無を監視し、接触操作部３０２の回転方向や押圧操作部３０３の操作の状態を遊技演出に反映するか否かを適宜決定する。具体的には、演出操作ユニット情報取得処理で音量が調節されていれば調節後の音量に応じて音生成用スケジュールデータを書き換え、輝度が調節されていれば調節後の輝度に応じて発光態様生成用スケジュールデータを書き換える。これにより、音量や輝度の調節がリアルタイムに反映されて調節後の音量や輝度で演出が進行するようになる。

【３６２１】

なお、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、演出操作ユニット監視処理の一処理としてランプパレット設定処理も行う。ランプパレット設定処理では、輝度指定値、通常パレット値、及び特殊パレット値から構成されるランプパレット設定テーブルに基づいて、直接光として用いられるＬＥＤの輝度と、間接光として用いられるＬＥＤの輝度と、をそれぞれ設定する。演出の進行中において、ランプパレット設定処理を実行して、遊技者（又は遊技ホールの店員等の係員）が演出操作部３０１（接触操作部３０２、押圧操作部３０３）を操作して、第１輝度指定値から最大輝度となる第３１輝度指定値までに亘る一の輝度指定値を設定した場合には、その設定した輝度指定値となるように、周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットした上述した階調情報を更新することができるようになっている。

【３６２２】

ここで、ランプパレット設定テーブルを構成する輝度指定値、通常パレット値、及び特殊パレット値について簡単に説明する。輝度指定値は、最小輝度（消灯）となる第０（ゼロ）輝度指定値から最大輝度となる第３１輝度指定値までに亘る３２段階の範囲のうち、一の輝度指定値を設定することができる値であり、第０（ゼロ）輝度指定値～第３１輝度指定値と対応して後述する通常パレット値、及び特殊パレット値がそれぞれ予め設定されている。遊技者（又は遊技ホールの店員等の係員）は、操作可能な演出操作部３０１（接触操作部３０２、押圧操作部３０３）を操作して、第１輝度指定値から最大輝度となる第３１輝度指定値までに亘る一の輝度指定値を設定することができる。

【３６２３】

例えば、遊技者（又は遊技ホールの店員等の係員）は、接触操作部３０２を時計回りに回転操作する場合であって現状の輝度が仮に最小輝度（消灯）となる第０（ゼロ）輝度指定値の次に輝度が高い段階となる第１輝度指定値に設定されているときには、第１輝度指定値から最大輝度である第３１輝度指定値へ向かって予め定めた数式（例えば、直線的なトーンカーブ、又はスプライン曲線的なトーンカーブ）に沿って、間接光として用いられるＬＥＤの輝度と、直接光として用いられるＬＥＤの輝度と、を高くするように変化する一方、接触操作部３０２を反時計回りに回転操作する場合であって現状の輝度が最大輝度に設定されているときには、最大輝度である第３１輝度指定値から第１輝度指定値へ向かって予め定めた数式（例えば、直線的なトーンカーブ、又はスプライン曲線的なトーンカーブ）に沿って、間接光として用いられるＬＥＤの輝度と、直接光として用いられるＬＥＤの輝度と、を低くするように変化する。遊技者（又は遊技ホールの店員等の係員）が接触操作部３０２を回転操作して所望の輝度を選択して押圧操作部３０３を押圧操作すると、選択した所望の輝度が確定する。なお、本実施形態では、演出の進行中において、遊技者（又は遊技ホールの店員等の係員）が輝度を設定できる場合が予め用意されており、このときに、遊技者（又は遊技ホールの店員等の係員）が接触操作部３０２、及び押圧操作部３０３の操作により所望の輝度に設定することができるようになっている。また、演出

の進行中における演出表示装置１６００の表示領域の所定位置には、遊技者（又は遊技ホールの店員等の係員）が接触操作部３０２を操作すると、第１輝度指定値～第３１輝度指定値までの位置を示す棒状のインジケータが表示されることで、遊技者（又は遊技ホールの店員等の係員）の所望の輝度がどの程度のものであるかを画像として視覚的に示すことができるようになっている。また、本実施形態では、初期値（デフォルト）として第１４輝度指定値が設定されるようになっている。

【３６２４】

通常パレット値は、直接光として照射される遊技盤側に設けられる各種装飾基板や扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの輝度が上述した階調情報として設定されるものである。通常パレット値は、最小値である最小パレット値（２０％）から最大値である最大パレット値（１００％）へ向かって５％刻みで１７段階のうち、一の段階が選択され、上述した輝度指定値である第０（ゼロ）輝度指定値～第３１輝度指定値までに亘る３２段階の範囲のうち、一の輝度指定と対応するパレット値が予め定めた数式（例えば、直線的なトーンカーブ、又はスプライン曲線的なトーンカーブ）に沿ってそれぞれ設定されている。

【３６２５】

最小パレット値（２０％）は、上述した輝度指定値である第０（ゼロ）輝度指定値～第３１輝度指定値までに亘る３２段階の範囲のうち、一の輝度指定と対応する最大パレット値（１００％）に対して２０％の値であり、他のパレット値も同様に、括弧書きに記載される値（％）が、上述した輝度指定値である第０（ゼロ）輝度指定値～第３１輝度指定値までに亘る３２段階の範囲のうち、一の輝度指定と対応する最大パレット値（１００％）に対しての値となる。

【３６２６】

本実施形態では、通常パレット値は、直接光として照射される遊技盤側に設けられる各種装飾基板や扉枠側に設けられる各種装飾基板に対して、最大パレット値（１００％）が予め選択され上述した階調情報として設定されていると共に、直接光として照射される遊技盤側に設けられる各種装飾基板のうち、図示しない特定の装飾基板（遊技者に眩しく感じられるＬＥＤ）に対して、パレット値（５０％）が予め選択され上述した階調情報として設定されている。

【３６２７】

特殊パレット値は、間接光として照射される導光板に利用される各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの輝度が上述した階調情報として設定されるものである。特殊パレット値は、通常パレット値と異なり、１段階のみ存在し、上述した輝度指定値である第０（ゼロ）輝度指定値～第３１輝度指定値までに亘る３２段階の範囲のうち、一の輝度指定と対応するパレット値が予め定めた数式（例えば、直線的なトーンカーブ、又はスプライン曲線的なトーンカーブ）に沿って上述した階調情報として設定されている。

【３６２８】

間接光として用いられるＬＥＤの輝度は、上述したように、直接光として用いられるＬＥＤの輝度と同一のものとすると、導光板による間接光が直接光と比べて暗くなる。そこで、本実施形態では、間接光として用いられるＬＥＤの輝度は、直接光として用いられるＬＥＤの輝度に対して設定される通常パレット値を用いず、特殊パレット値を用いて設定されるようになっており、最小輝度（消灯）となる第０（ゼロ）輝度指定値の次に輝度が高い段階となる第１輝度指定値を、導光板が間接光により発光している状態を視認することができる最低の輝度として、通常パレット値が最大パレット値（１００％）に設定された場合における第１８輝度指定値とほぼ等しい値に設定され、第１輝度指定値から第３１輝度指定値までの範囲のうち、一の輝度指定値と対応するパレット値が予め定めた数式（例えば、直線的なトーンカーブ、又はスプライン曲線的なトーンカーブ）に沿って設定されるようになっている。

【３６２９】

このように、ランプパレット設定処理では、輝度指定値、通常パレット値、及び特殊パ

レット値から構成されるランプパレット設定テーブルに基づいて、直接光として用いられるＬＥＤの輝度と、間接光として用いられるＬＥＤの輝度と、をそれぞれ設定する際に、直接光として用いられるＬＥＤの輝度に対して、遊技者（又は遊技ホールの店員等の係員）が接触操作部３０２、及び押圧操作部３０３の操作による輝度指定値と対応する通常パレット値に沿って設定される一方、間接光として用いられるＬＥＤの輝度に対して、遊技者（又は遊技ホールの店員等の係員）が接触操作部３０２、及び押圧操作部３０３の操作による輝度指定値と対応する特殊パレット値に沿って設定されるようになっている。これにより、直接光として用いられるＬＥＤの輝度が眩しいと感じて、その輝度を小さくするために、遊技者が接触操作部３０２、及び押圧操作部３０３を操作して設定する場合において、直接光として用いられるＬＥＤの輝度を最も小さい輝度（つまり、最小輝度（消灯）となる第０（ゼロ）輝度指定値の次に輝度が高い段階となる第１輝度指定値）に設定し、これに連動して、間接光として用いられるＬＥＤの輝度も最も小さい輝度（つまり、最小輝度（消灯）となる第０（ゼロ）輝度指定値の次に輝度が高い段階となる第１輝度指定値）に設定したとしても、間接光として用いられるＬＥＤの輝度は、通常パレット値が最大パレット値（１００％）に設定された場合における第１８輝度指定値とほぼ等しい値に設定されるようになっているため、導光板が間接光により発光している状態を視認することができる最低の輝度が設定される。

【３６３０】

また、発光態様を設計するプログラマーは、直接光として用いられるＬＥＤに対して、遊技盤側に設けられる各種装飾基板や扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの輝度を個別に設定しなくても、演出の流れに伴う発光態様を設定して、遊技盤側に設けられる各種装飾基板や扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの発光態様による演出の流れを見てから、眩しすぎる（又は、少し暗い輝度の方が演出効果をより発揮できる）特定の装飾基板に対して通常パレット値を小さいパレット値（例えば、５０％）に設定するとともに、他の装飾基板に対して通常パレット値を最大パレット値（１００％）に設定することで、全体の発光態様のバランスを極めて簡単に変更することができる。つまり、遊技者（又は遊技ホールの店員等の係員）は、操作可能な演出操作部３０１（接触操作部３０２、押圧操作部３０３）を操作して第１輝度指定値から最大輝度となる第３１輝度指定値までに亘る一の輝度指定値を設定したとしても、特定の装飾基板に対しては一の輝度指定値と対応する小さいパレット値（例えば、５０％）が設定されるのに対して、他の装飾基板に対しては一の輝度指定値と対応する最大パレット値（１００％）がそれぞれ設定されるようになっているため、相互に設定された発光態様の関係（明るい、又は暗いという関係）を崩すことなく、極めて簡単に輝度調節を行うことができる。

【３６３１】

更に、導光板による間接光は、直接光と比べて輝度の調整が難しいものの、間接光として用いられるＬＥＤに対しては、通常パレット値と異なる（つまり、通常パレット値と独立した）特殊パレット値により輝度を設定することができるようになっている。これにより、間接光として用いられるＬＥＤの輝度は特殊パレット値により管理されるとともに、直接光として用いられるＬＥＤの輝度は通常パレット値により管理されるようになっているため、間接光として用いられるＬＥＤの輝度と、直接光として用いられるＬＥＤの輝度と、を容易にそれぞれ調整することができる。

【３６３２】

ステップＳ１０１４に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、表示データ出力処理を行う（ステップＳ１０１６）。この表示データ出力処理では、後述する表示データ作成処理において、周辺制御ＩＣのＶＤＰが周辺制御ＩＣのＣＰＵからの指示に基づいてＳＤＲＡＭから画像データを読み出して周辺制御ＩＣのＶＲＡＭ上に生成した１画面分（１フレーム分）の描画データを液晶出力基板１５３０に出力する。これにより、演出表示装置１６００にさまざまな画面（画像）が描画（表示）される。なお、表示データ出力処理では、周辺制御ＩＣのＶＤＰの描画能力を超える描画を行った場合には、生成した１画面分（１フレ

ーム分）の描画データを出力することをキャンセルするようになっている。これにより、処理時間の遅れを防止することができるが、いわゆるコマ落ちが発生することとなるものの、後述する音データ出力処理による、トップ中央スピーカ、トップサイドスピーカや、本体枠４の本体枠スピーカ６２２等の各種スピーカ（以下、「各種スピーカ」と記載する。）から各種演出に合わせた音楽や効果音等の演出音による演出を優先することができる仕組みとなっている。

【３６３３】

ステップＳ１０１６に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、音データ出力処理を行う（ステップＳ１０１８）。この音データ出力処理では、後述する音データ作成処理において、周辺制御ＩＣの音源が周辺制御ＩＣのＣＰＵからの指示に基づいてＳＤＲＡＭから音データを読み出し、設定される出力チャンネルから各種スピーカに出力する。これにより、各種スピーカから各種演出に合せた音楽及び効果音等のサウンドが流れる。

【３６３４】

ステップＳ１０１８に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、スケジューラ更新処理を行う（ステップＳ１０２０）。このスケジューラ更新処理では、周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットされた各種スケジュールデータを更新する。例えば、スケジューラ更新処理では、画面生成用スケジュールデータを構成する時系列に配列された画面データのうち、先頭の画面データから何番目の画面データを周辺制御ＩＣのＶＤＰに出力するのかを指示するために、ポインタを更新する。

【３６３５】

またスケジューラ更新処理では、発光態様生成用スケジュールデータを構成する時系列に配列された発光データのうち、先頭の発光データから何番目の発光データを出力対象とするのかを指示するために、ポインタを更新する。

【３６３６】

またスケジューラ更新処理では、音生成用スケジュールデータを構成する時系列に配列された、音楽や効果音等の演出音の音データ、報知音や告知音の音データを指示する音指令データのうち、先頭の音指令データから何番目の音指令データを周辺制御ＩＣの音源に出力するのかを指示するために、ポインタを更新する。

【３６３７】

またスケジューラ更新処理では、電気的駆動源スケジュールデータを構成する時系列に配列されたモータやソレノイド等の電気的駆動源の駆動データのうち、先頭の駆動データから何番目の駆動データを出力対象とするのかを指示するために、ポインタを更新する。電気的駆動源スケジュールデータを構成する時系列に配列されたモータやソレノイド等の電気的駆動源の駆動データは、後述する、１ｍｓタイマ割り込みが発生するごとに繰り返し実行される周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理におけるモータ及びソレノイド駆動処理で更新される。この１ｍｓタイマ割り込みが発生するごとに繰り返し実行されるモータ及びソレノイド駆動処理では、ポインタが指示する駆動データに従ってモータやソレノイド等の電気的駆動源を駆動するとともに、時系列に規定された次の駆動データにポインタを更新し、自身の処理を実行するごとに、ポインタを更新する。つまり、モータ及びソレノイド駆動処理において更新したポインタの指示する駆動データは、スケジューラ更新処理において強制的に更新される仕組みとなっているため、仮に、モータ及びソレノイド駆動処理においてポインタが何らかの原因で本来指示するはずの駆動データから他の駆動データを指示することとなっても、スケジューラ更新処理において本来指示するはずの駆動データに指示するように強制的に更新されるようになっている。

【３６３８】

ステップＳ１０２０に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、受信コマンド解析処理を行う（ステップＳ１０２２）。この受信コマンド解析処理では、主制御基板１３１０から送信された各種コマンドを、後述する周辺制御部コマンド受信割り込み処理において受信してその受信した各種コマンドの解析を行うとともに、演出の各種設定に用いられる乱数（例えば保留先読み関連の演出に用いられる乱数）の更新を行う。主制御基板１３１０からの

各種コマンドは、周辺制御部コマンド受信割り込み処理で受信されて周辺制御ＩＣのＲＡＭに記憶されるようになっており、この受信コマンド解析処理では、周辺制御ＩＣのＲＡＭに記憶された各種コマンドの解析を行う。周辺制御ＩＣのＣＰＵは、解析した各種コマンドに基づいて、画面生成用スケジュールデータ、発光態様生成用スケジュールデータ、音生成用スケジュールデータ、及び電気的駆動源スケジュールデータ等を、周辺制御ＲＯＭから読み出して（抽出して）周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットする。

【３６３９】

なお、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、受信コマンド解析処理の一処理としてランプパレット設定処理も行う。ランプパレット設定処理では、上述した輝度指定値、通常パレット値、及び特殊パレット値から構成されるランプパレット設定テーブルに基づいて、直接光として用いられるＬＥＤの輝度と、間接光として用いられるＬＥＤの輝度と、をそれぞれ設定する。周辺制御ＩＣは、主制御基板１３１０からの各種コマンドを解析し、この解析した各種コマンドに基づいて、発光態様生成用スケジュールデータを周辺制御ＲＯＭから読み出して（抽出して）、ランプパレット設定処理を実行して、遊技者（又は遊技ホールの店員等の係員）が演出操作部３０１（接触操作部３０２、押圧操作部３０３）を操作して、上述した、第１輝度指定値から最大輝度となる第３１輝度指定値までに亘る一の輝度指定値を設定した場合には、その設定した輝度指定値となるように、上述した階調情報を更新して周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットすることができるようになっている。

【３６４０】

また、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、この周辺制御部コマンド割り込み処理で受信された主制御基板１３１０からのコマンドが、例えば、始動口入賞演出の開始を指示するための始動口入賞コマンド、普通図柄の保留数（０～４個）を識別するための普通図柄記憶コマンド、特別図柄の変動表示に同期して演出表示装置１６００において装飾図柄の変動表示等の変動演出の開始を指示するための変動パターンコマンド、始動保留数が変化すると出力される図柄記憶コマンド、大入賞口２００５に遊技球が受け入れられる度に出力された大入賞口１カウント表示コマンドであるか否かを解析し、現在、どの遊技状態であるかを認識する。

【３６４１】

主制御基板１３１０からの各種コマンドは、周辺制御部コマンド受信割り込み処理で受信されて周辺制御ＩＣのＲＡＭに記憶されるようになっており、受信コマンド解析処理では、周辺制御ＩＣのＲＡＭに記憶された各種コマンドの解析を行う。各種コマンドには、特図１同調演出関連に区分される各種コマンド、特図２同調演出関連に区分される各種コマンド、大当り関連に区分される各種コマンド、電源投入に区分される各種コマンド、普図同調演出関連に区分される各種コマンド、普通電役演出関連に区分される各種コマンド、報知表示に区分される各種コマンド、状態表示に区分される各種コマンド、テスト関連に区分される各種コマンド及びその他に区分される各種コマンドがある。また、周辺制御基板１５１０は受信したコマンドに基づいて予告等に関する抽選処理を実行し、該抽選結果に基づいて画面生成用スケジュールデータ、発光態様生成用スケジュールデータ、音生成用スケジュールデータ、及び電気的駆動源スケジュールデータ等を、周辺制御ＲＯＭから読み出して（抽出して）周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットする。これにより周辺制御基板１５１０の抽選結果に応じた演出が実行されるようになる。

【３６４２】

なお、周辺制御ＲＯＭには、周辺制御部１５１１、周辺制御部１５１１等を制御する各種制御プログラム、各種データ、各種制御データ、及び各種スケジュールデータが予め記憶されている。各種スケジュールデータには、演出表示装置１６００に描画する画面を生成する画面生成用スケジュールデータ、各種ＬＥＤの発光態様を生成する発光態様生成用スケジュールデータ、音楽や効果音等の演出音を生成する音生成用スケジュールデータ、及びモータやソレノイド等の電気的駆動源の駆動態様を生成する電気的駆動源スケジュールデータ等がある。画面生成用スケジュールデータは、画面の構成を規定する画面データが時系列に配列されて構成されており、演出表示装置１６００に描画する画面の順序が規

定されている。発光態様生成用スケジュールデータは、各種ＬＥＤの発光態様を規定する発光態様データが時系列に配列されて構成されている。音生成用スケジュールデータは、音指令データが時系列に配列されて構成されており、音楽や効果音が流れる順番が規定されている。この音指令データには、周辺制御ＩＣの内蔵音源における複数の出力チャンネルのうち、どの出力チャンネルを使用するのかを指示するための出力チャンネル番号と、周辺制御ＩＣの内蔵音源における複数のトラックのうち、どのトラックに音楽及び効果音等の音データを組み込むのかを指示するためのトラック番号と、が規定されている。電気的駆動源スケジュールデータは、モータやソレノイド等の電気的駆動源の駆動データが時系列に配列されて構成されており、モータやソレノイド等の電気的駆動源の動作が規定されている。

【３６４３】

ステップＳ１０２２に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、警告処理を行う（ステップＳ１０２４）。この警告処理では、ステップＳ１０２２の受信コマンド解析処理で解析したコマンドに、報知表示に区分される各種コマンドが含まれているときには、各種異常報知を実行するための異常表示態様に設定されている、画面生成用スケジュールデータ、発光態様生成用スケジュールデータ、音生成用スケジュールデータ、及び電気的駆動源スケジュールデータ等を、周辺制御ＲＯＭから読み出して（抽出して）周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットする。なお、警告処理では、複数の異常が同時に発生した場合には、予め登録した優先度の高い順から異常報知から行われ、その異常が解決して残っている他の異常報知に自動的に遷移するようになっている。これにより、一の異常が発生した後であってその異常を解決する前に他の異常が発生して一の異常が発生しているという情報を失うことなく、複数の異常を同時に監視することができる。

【３６４４】

ステップＳ１０２４に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、ＲＣＴ取得情報更新処理を行う（ステップＳ１０２６）。このＲＴＣ取得情報更新処理では、ステップＳ１００２の現在時刻情報取得処理で取得して周辺制御ＩＣのＲＡＭに記憶されたカレンダー情報と時刻情報とを更新する。このＲＣＴ取得情報更新処理により、周辺制御ＩＣのＲＡＭに記憶される時刻情報である時分秒が更新され、この更新される時刻情報に基づいて周辺制御ＩＣのＲＡＭに記憶されるカレンダー情報である年月日が更新される。

【３６４５】

ステップＳ１０２６に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、表示データ作成処理を行う（ステップＳ１０３０）。この表示データ作成処理では、ステップＳ１０２０のスケジューラ更新処理においてポインタが更新されて、画面生成用スケジュールデータを構成する時系列に配列された画面データのうち、そのポインタが示す画面データを、周辺制御ＲＯＭから読み出して（抽出して）周辺制御ＩＣのＶＤＰに出力する。

【３６４６】

周辺制御ＩＣのＶＤＰは、周辺制御ＩＣのＣＰＵから画面データが入力されると、この入力された画面データに基づいて、ＳＤＲＡＭから画像データを読み出して演出表示装置１６００に描画（表示）する１画面分（１フレーム分）の描画データを内蔵ＶＲＡＭに生成する。

【３６４７】

ステップＳ１０３０に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、音データ作成処理を行う（ステップＳ１０３２）。この音データ作成処理では、ステップＳ１０２０のスケジューラ更新処理においてポインタが更新されて、音生成用スケジュールデータを構成する時系列に配列された音指令データのうち、そのポインタが指示する音指令データを、周辺制御ＲＯＭから読み出して（抽出して）周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットする。周辺制御ＩＣの音源は、周辺制御ＩＣのＣＰＵから音指令データが入力されると、ＳＤＲＡＭから音データを読み出して音指令データに規定されたトラック番号に従って音楽及び効果音等の音データを組み込むとともに、出力チャンネル番号に従って使用する出力チャンネルを設定する。

【３６４８】

なお、音データ作成処理では、この音データ作成処理を行うごとに（つまり、周辺制御部定常処理を行うごとに）、音量調整スイッチからの音量調整操作信号に基づいて、音量調整スイッチの回転位置を特定している。周辺制御ＩＣのＣＰＵは、音量調整スイッチの回転位置と対応する音量となるように、周辺制御ＩＣの音源を制御して、ステップＳ１０１８の音データ出力処理において、この音データ作成処理で設定した出力チャンネルから音データを各種スピーカに出力する。これにより、各種スピーカから各種演出に合せた音楽及び効果音等のサウンドが流れるようになっている。

【３６４９】

具体的には、音量調整スイッチを回動操作することにより抵抗値が可変し、音量調整スイッチの回転位置における抵抗値により分圧された電圧を、アナログ値からデジタル値に変換して、値０～値１０２３までの１０２４段階の値に変換している。本実施形態では、１０２４段階の値を７つに分割して基板ボリューム０～６として管理している。基板ボリューム０では消音、基板ボリューム６では最大音量に設定されており、基板ボリューム０から基板ボリューム６に向かって音量が大きくなるようにそれぞれ設定されている。基板ボリューム０～６に設定された音量となるように周辺制御ＩＣの音源を制御して扉枠３側のトップ中央スピーカ、トップサイドスピーカと、本体枠４の低音用の本体枠スピーカから音楽や効果音が流れるようになっている。このように、音量調整スイッチの回動操作に基づく音量調整により扉枠３側のトップ中央スピーカ、トップサイドスピーカと、本体枠４の低音用の本体枠スピーカから音楽や効果音が流れるようになっている。

【３６５０】

なお、音指令データには、音データを組み込むトラックの音量を調節するためのサブボリューム値も含まれており、周辺制御ＩＣの内蔵音源における複数のトラックには、音楽や効果音等の演出音の音データとその音量を調節するサブボリューム値のほかに、パチンコ機１の不具合の発生やパチンコ機１に対する不正行為をホールの店員等に報知するための報知音の音データとその音量を調節するサブボリューム値が組み込まれる。

【３６５１】

具体的には、演出音に対しては、上述した、音量調整スイッチが回動操作されて調節された基板ボリュームがサブボリューム値として設定され、報知音に対しては、音量調整スイッチの回動操作に基づく音量調整に全く依存されず最大音量がサブボリューム値として設定されるようになっている。演出音のサブボリューム値は、電源投入後の所定期間（具体的には周辺制御部が初期設定処理（ステップＳ１０００）及び現在時刻設定処理（ステップＳ１００２）を終了するまでの期間）や特別図柄表示器（第一特別図柄表示器、第二特別図柄表示器）において特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示を開始又は停止するときの一定期間（この例では周辺制御部にて変動パターンコマンドを受信してから装飾図柄の変動表示開始後に０．５秒経過するまでや、周辺制御部にて停止表示コマンドを受信してから装飾図柄の確定表示後に０．５秒経過するまで）を除き、演出操作ユニット３００の接触操作部３０２や押圧操作部３０３を操作することで調節することができるようになっている。

【３６５２】

このように、本例のパチンコ機１では電源投入後の所定期間（具体的には周辺制御部が初期設定処理（ステップＳ１０００）及び現在時刻設定処理（ステップＳ１００２）を終了するまでの期間）や特別図柄表示器（第一特別図柄表示器、第二特別図柄表示器）において特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示を開始又は停止するときの一定期間（この例では周辺制御部にて変動パターンコマンドを受信してから装飾図柄の変動表示開始後に０．５秒経過するまでや、周辺制御部にて停止表示コマンドを受信してから装飾図柄の確定表示後に０．５秒経過するまで）を除き、演出操作ユニット３００の接触操作部３０２や押圧操作部３０３を操作することで、音データ作成処理において音量調整スイッチの回転位置における抵抗値により分圧された電圧を基板ボリューム０～６の７段階の値に変換し、さらに音量調整スイッチの回転位置における抵抗値により分圧された電圧に対して、演出操作ユニット３００の接触操作部３０２や押圧操作部３０３の操作に応じ

て所定値を加算又は減算することによって、基板ボリュームの値を増やしたり、又は減らしたりして基板ボリュームを設定することで演出音のサブボリューム値を調節できるようになっている。

【３６５３】

また、音指定データには、出力するチャンネルの音量を調節するためのマスターボリューム値も含まれており、周辺制御ＩＣの内蔵音源における複数の出力チャンネルには、周辺制御ＩＣの内蔵音源における複数のトラックうち、使用するトラックに組み込まれた演出音の音データと、使用するトラックに組み込まれた演出音の音量を調節するサブボリューム値と、を合成して、この合成した演出音の音量を、実際に、扉枠３側のトップ中央スピーカ、トップサイドスピーカと、本体枠４の低音用の本体枠スピーカから流れる音量となるマスターボリューム値まで増幅し、この増幅した演出音をシリアル化してオーディオデータとして出力するようになっている。

【３６５４】

本実施形態では、マスターボリューム値は一定値に設定されており、合成した演出音の音量が最大音量であるときに、マスターボリューム値まで増幅されることにより、扉枠３側のトップ中央スピーカ、トップサイドスピーカと、本体枠４の低音用の本体枠スピーカから流れる音量が許容最大音量となるように設定されている。具体的には、演出音に対しては、周辺制御ＩＣの内蔵音源における複数のトラックのうち、使用するトラックに組み込まれた演出音の音データと、使用するトラックに組み込まれた演出音の音量を調節するサブボリューム値として設定された音量調整スイッチが回動操作されて調節された基板ボリュームと、を合成して、この合成した演出音の音量を、実際に、扉枠３側のトップ中央スピーカ、トップサイドスピーカと、本体枠４の低音用の本体枠スピーカから流れる音量となるマスターボリューム値まで増幅し、この増幅した演出音をシリアル化してオーディオデータとして出力し、報知音に対しては、使用するトラックに組み込まれた報知音の音データと、使用するトラックに組み込まれた報知音の音量を調節するサブボリューム値として設定された音量調整スイッチの回動操作に基づく音量調整に全く依存されず最大音量と、を合成して、この合成した報知音の音量を、実際に、扉枠３側のトップ中央スピーカ、トップサイドスピーカと、本体枠４の低音用の本体枠スピーカから流れる音量となるマスターボリューム値まで増幅し、この増幅した報知音をシリアル化してオーディオデータとして出力する。

【３６５５】

ここで、演出音が扉枠３側のトップ中央スピーカ、トップサイドスピーカと、本体枠４の低音用の本体枠スピーカから流れている場合に、パチンコ機１の不具合の発生やパチンコ機１に対する不正行為をホールの店員等に報知するため報知音を流す制御について簡単に説明すると、まず演出音が組み込まれているトラックのサブボリューム値を強制的に消音に設定し、この演出音が組み込まれたトラックの音データと、その消音に設定したサブボリューム値と、報知音が組み込まれたトラックの音データと、報知音の音量が最大音量に設定されたサブボリューム値と、を合成し、この合成した演出音の音量と報知音の音量とを、実際に、扉枠３側のトップ中央スピーカ、トップサイドスピーカと、本体枠４の低音用の本体枠スピーカから流れる音量となるマスターボリューム値まで増幅し、この増幅した演出音及び報知音をシリアル化してオーディオデータとして出力する。つまり、実際に、扉枠３側のトップ中央スピーカ、トップサイドスピーカと、本体枠４の低音用の本体枠スピーカから流れる音は、最大音量の報知音だけが流れることとなる。このとき、演出音は消音となっているため、扉枠３側のトップ中央スピーカ、トップサイドスピーカと、本体枠４の低音用の本体枠スピーカから流れないものの、演出音は、上述した音生成用スケジュールデータに従って進行している。

【３６５６】

本実施形態では、報知音は所定期間（例えば、９０秒）だけ扉枠３側のトップ中央スピーカ、トップサイドスピーカと、本体枠４の低音用の本体枠スピーカから流れるようになっており、この所定期間経過すると、これまで消音に強制的に設定された音生成用スケジ

ュールデータに従って進行している演出音の音量が、音量調整スイッチが回動操作されて調節された基板ボリュームがサブボリューム値として再び設定され（このとき、演出操作ユニット３００の接触操作部３０２や押圧操作部３０３を操作することで演出音の音量が調節されている場合には、その調節された演出音のサブボリューム値に設定され）、扉枠３側のトップ中央スピーカ、トップサイドスピーカと、本体枠４の低音用の本体枠スピーカから流れるようになっている。

【３６５７】

このように、演出音が扉枠３側のトップ中央スピーカ、トップサイドスピーカと、本体枠４の低音用の本体枠スピーカから流れている場合に、パチンコ機１の不具合の発生やパチンコ機１に対する不正行為をホールの店員等に報知するため報知音が流れるときには、演出音の音量が消音になって報知音が扉枠３側のトップ中央スピーカ、トップサイドスピーカと、本体枠４の低音用の本体枠スピーカから流れるものの、この消音となった演出音は、音生成用スケジュールデータに従って進行しているため、報知音が所定期間経過して扉枠３側のトップ中央スピーカ、トップサイドスピーカと、本体枠４の低音用の本体枠スピーカから流れなくなると、演出音は、報知音が流れ始めたところから再び流れ始めるのではなく、報知音が流れ始めて所定期間経過した時点まで音生成用スケジュールデータに従って進行したところから再び流れ始めるようになっている。

【３６５８】

また、報知音や告知音は、音量調整スイッチの回転操作に基づく音量調整に全く依存されずに流れる仕組みとなっており、消音から最大音量までの音量をプログラムにより周辺制御ＩＣのＣＰＵが周辺制御ＩＣの音源を制御して調整することができるようになっている。このプログラムにより調整される音量は、消音から最大音量までを滑らかに変化させることができるようになっている。例えば、遊技ホールの店員等の係員が音量調整スイッチを回転操作して音量を小さく設定した場合であっても、各種スピーカから流れる音楽や効果音等の演出音が小さくなるものの、パチンコ機１に不具合が発生しているときや遊技者が不正行為を行っているときには大音量（本実施形態では、最大音量）に設定した報知音を流すことができる。したがって、演出音の音量を小さくしても、報知音により遊技ホールの店員等の係員が不具合の発生や遊技者の不正行為を気付き難くなることを防止することができる。

【３６５９】

ステップＳ１０３２に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、バックアップ処理を行う（ステップＳ１０３４）。このバックアップ処理では、周辺制御ＩＣのＲＡＭに記憶されている内容を周辺制御ＩＣのＲＡＭに設けられる定常処理用バックアップ領域にコピーしてバックアップするとともに、ＳＤＲＡＭに記憶されている内容をＳＤＲＡＭに設けられる定常処理用バックアップ領域にコピーしてバックアップする。

【３６６０】

ステップＳ１０３４に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、ＷＤＴクリア処理を行う（ステップＳ１０３６）。このＷＤＴクリア処理では、外部ＷＤＴにクリア信号を出力して周辺制御ＩＣのＣＰＵにリセットがかからないようにしている。

【３６６１】

ステップＳ１０３６に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、周辺制御部定常処理の実行完了として定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧに値０をセットし（ステップＳ１０３８）、再びステップＳ１００４に戻り、Ｖブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧに値０をセットして初期化し、後述する周辺制御部Ｖブランク信号割り込み処理においてＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧに値１がセットされるまで、ステップＳ１００６の判定を繰り返し行う。つまりステップＳ１００６では、Ｖブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧに値１がセットされるまで待機し、ステップＳ１００６でＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧが値１であると判定されると、ステップＳ１００８～ステップＳ１０３８の処理を行い、再びステップＳ１００４に戻る。このように、ステップＳ１００６でＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧが値１であると判定されると、ステップＳ１００８～ステップＳ１０３

８の処理を行うようになっている。ステップＳ１００８～ステップＳ１０３８の処理を「周辺制御部定常処理」という。

【３６６２】

この周辺制御部定常処理では、まずステップＳ１００８で周辺制御部定常処理を実行中であるとして定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧに値１をセットすることから開始し、ステップＳ１０１０で１ｍｓ割り込みタイマ起動処理を行い、ステップＳ１０１４、・・・、そしてステップＳ１０３６の各処理を行って最後にステップＳ１０３８において周辺制御部定常処理の実行完了として定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧに値０をセットすると、完了することとなる。周辺制御部定常処理は、ステップＳ１００６でＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧが値１であるときに実行される。このＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧは、上述したように、周辺制御ＩＣのＣＰＵからの画面データを受け入れることができる状態である旨を伝えるＶブランク信号が周辺制御ＩＣのＶＤＰから周辺制御ＩＣのＣＰＵに入力されたことを契機として実行される後述する周辺制御部Ｖブランク信号割り込み処理において値１がセットされるようになっている。本実施形態では、演出表示装置１６００のフレーム周波数（１秒間あたりの画面更新回数）として、上述したように、概ね秒間３０ｆｐｓに設定しているため、Ｖブランク信号が入力される間隔は、約３３．３ｍｓ（＝１０００ｍｓ÷３０ｆｐｓ）となっている。つまり、周辺制御部定常処理は、約３３．３ｍｓごとに繰り返し実行されるようになっている。

【３６６３】

［２４－２．周辺制御部Ｖブランク信号割り込み処理］

次に、周辺制御ＩＣのＣＰＵからの画面データを受け入れることができる状態である旨を伝えるＶブランク信号が周辺制御ＩＣのＶＤＰから入力されたことを契機として実行する周辺制御部Ｖブランク信号割り込み処理について説明する。この周辺制御部Ｖブランク信号割り込み処理が開始されると、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、図２６６に示すように、定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧが値０であるかを判定する（ステップＳ１０４５）。この定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧは、上述したように、図２６５の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００８～ステップＳ１０３８の周辺制御部定常処理を実行中であるとき値１、周辺制御部定常処理を実行完了したとき値０にそれぞれセットされる。

【３６６４】

ステップＳ１０４５の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧが値０でない（値１である）とき、つまり周辺制御部定常処理を実行中であると判定したときには、そのままこのルーチンを終了する。一方、ステップＳ１０４５の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧが値０であるとき、つまり周辺制御部定常処理を実行完了したと判定したときには、Ｖブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧに値１をセットし（ステップＳ１０５０）、このルーチンを終了する。このＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧは、上述したように、周辺制御部定常処理を実行するか否かを決定するためのフラグであり、周辺制御部定常処理を実行するとき値１、周辺制御部定常処理を実行しないとき値０にそれぞれ設定される。

【３６６５】

本実施形態では、ステップＳ１０４５の判定で定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧが値０であるか否か、つまり周辺制御部定常処理を実行完了したか否かを判定し、周辺制御部定常処理を実行完了したときにはステップＳ１０５０でＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧに値１をセットするようになっているが、これは、周辺制御部定常処理を実行中であるときに、Ｖブランク信号が入力されてＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧに値１をセットすると、図２６５の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００６の判定で周辺制御部定常処理を実行するものとして、現在実行中の周辺制御部定常処理を途中で強制的にキャンセルして周辺制御部定常処理を最初から実行開始するため、これを防止する目的で、図２６５の周辺制御部電源投入時処理（周辺制御部定常処理）におけるステップＳ１００８で定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧに値１をセットすることで周辺制御部定常処理を実行中である旨を、本ルーチンである周辺制御部Ｖブランク信号割り込み処理に伝え

るとともに、図２６５の周辺制御部電源投入時処理（周辺制御部定常処理）におけるステップＳ１０３８で定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧに値０をセットすることで周辺制御部定常処理を実行完了した旨を、本ルーチンである周辺制御部Ｖブランク信号割り込み処理に伝えることにより、本ルーチンである周辺制御部Ｖブランク信号割り込み処理におけるステップＳ１０４５の判定で定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧが値０であるか否か、つまり周辺制御部定常処理を実行完了したか否かを判定するようになっている。換言すると、Ｖブランク信号が入力されて次のＶブランク信号が入力されるまでに周辺制御部定常処理を実行完了することができず、いわゆる処理落ちした場合の処置である。

【３６６６】

これにより、今回の周辺制御部定常処理においては、約３３．３ｍｓという時間でその処理を完了できず処理落ちした場合には、図２６５の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００６の判定で次回のＶブランク信号が入力されるまで待機する状態となる。つまり、処理落ちした今回の周辺制御部定常処理を実行するための時間が約６６．６ｍｓとなる。通常、図２６５の周辺制御部電源投入時処理（周辺制御部定常処理）におけるステップＳ１０１０で１ｍｓ割り込みタイマの起動により１ｍｓ割り込みタイマが発生するごとに繰り返し実行する、後述する周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理は１回の周辺制御部定常処理に対して３２回だけ実行されるものの、上述した処理落ちした今回の周辺制御部定常処理が存在する場合には、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が６４回ではなく、３２回だけ実行されるようになっている。つまり、周辺制御部定常処理が処理落ちした場合であっても、周辺制御部定常処理による演出の進行状態とタイマ割り込み制御である周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理による演出の進行状態との整合性が崩れないようになっている。したがって、周辺制御部定常処理が処理落ちした場合であっても演出の進行状態を確実に整合させることができる。

【３６６７】

［２４－３．周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理］

次に、図２６５の周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０１０で１ｍｓ割り込みタイマの起動により１ｍｓ割り込みタイマが発生するごとに繰り返し実行する周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理について説明する。この周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が開始されると、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、図２６７に示すように、１ｍｓタイマ割り込み実行回数ＳＴＮが３３回より小さいか否かを判定する（ステップＳ１１００）。この１ｍｓタイマ割り込み実行回数ＳＴＮは、上述したように、図２６５の周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０１０の１ｍｓ割り込みタイマ起動処理で１ｍｓ割り込みタイマが起動して本ルーチンである周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行された回数をカウントするカウンタである。本実施形態では、演出表示装置１６００のフレーム周波数（１秒間あたりの画面更新回数）として、上述したように、概ね秒間３０ｆｐｓに設定しているため、Ｖブランク信号が入力される間隔は、約３３．３ｍｓ（＝１０００ｍｓ÷３０ｆｐｓ）となっている。つまり、周辺制御部定常処理は、約３３．３ｍｓごとに繰り返し実行されるようになっているため、周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０１０で１ｍｓ割り込みタイマを起動した後、次の周辺制御部定常処理が実行されるまでに、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が３２回だけ実行されるようになっている。具体的には、周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０１０で１ｍｓ割り込みタイマが起動されると、まず１回目の１ｍｓタイマ割り込みが発生し、２回目、・・・、そして３２回目の１ｍｓタイマ割り込みが順次発生することとなる。

【３６６８】

ステップＳ１１００の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、１ｍｓタイマ割り込み実行回数ＳＴＮが３３回より小さくないとき、つまり３３回目の１ｍｓタイマ割り込みが発生してこの周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が開始されたと判定したときには、そのままこのルーチンを終了する。３３回目の１ｍｓタイマ割り込みの発生が次回のＶブランク信号の発生よりたまたま先行した場合には、本実施形態では、割り込み処理の優先順

位として、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の方が周辺制御部Ｖブランク割り込み処理と比べて高く設定されているものの、この３３回目の１ｍｓタイマ割り込みによる周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の開始を強制的にキャンセルするようになっている。換言すると、本実施形態では、Ｖブランク信号が周辺制御基板１５１０のシステム全体を支配する信号であるため、３３回目の１ｍｓタイマ割り込みの発生が次回のＶブランク信号の発生よりたまたま先行した場合には、周辺制御部Ｖブランク割り込み処理を実行するために３３回目の１ｍｓタイマ割り込みによる周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の開始が強制的にキャンセルさせられている。そして、Ｖブランク信号の発生により周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０１０で１ｍｓ割り込みタイマを再び起動した後、新たに１回目の１ｍｓタイマ割り込みの発生による周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理を開始するようになっている。

【３６６９】

一方、ステップＳ１１００の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、１ｍｓタイマ割り込み実行回数ＳＴＮが３３回より小さいと判定したときには、１ｍｓタイマ割り込み実行回数ＳＴＮに値１だけ足す（インクリメントする、ステップＳ１１０２）。この１ｍｓタイマ割り込み実行回数ＳＴＮに値１が足されることにより、図２６５の周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０１０の１ｍｓ割り込みタイマ起動処理で１ｍｓ割り込みタイマが起動して本ルーチンである周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行された回数が１回分だけ増えることとなる。

【３６７０】

ステップＳ１１０２に続いて、モータ及びソレノイド駆動処理を行う（ステップＳ１１０４）。このモータ及びソレノイド駆動処理では、周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットされた電気的駆動源スケジュールデータを構成する時系列に配列されたモータやソレノイド等の電気的駆動源の駆動データのうち、ポインタが指示する駆動データに従って、モータやソレノイド等の電気的駆動源を駆動するとともに、時系列に規定された次の駆動データにポインタを更新し、このモータ及びソレノイド駆動処理を実行するごとに、ポインタを更新する。これにより、周辺制御ＩＣのＣＰＵが管理するモータやソレノイド等の電気的駆動源（例えば、扉枠３に設けられる電気的駆動源や遊技盤５に設けられる各種演出ユニットに備える電気的駆動源等）は、電気的駆動源スケジュールデータに従って駆動される。

【３６７１】

ステップＳ１１０４に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、可動体情報取得処理を行う（ステップＳ１１０６）。この可動体情報取得処理では、遊技盤５に設けられる各種演出ユニットに備える各種センサからの検出信号が入力されているか否かを判定することにより各種センサからの検出信号の履歴情報（例えば、原位置履歴情報、可動位置履歴情報など。）を作成し、周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットする。周辺制御ＩＣのＣＰＵは、周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットされる各種センサからの検出信号の履歴情報に基づいて、遊技盤５に設けられる各種演出ユニットに備える各種可動体の原位置（待機位置）を設定したり、可動位置を取得したりすることにより、可動位置を把握する。

【３６７２】

ステップＳ１１０６に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、演出操作ユニット情報取得処理を行う（ステップＳ１１０８）。この演出操作ユニット情報取得処理では、演出操作ユニット３００に設けられた各種センサからの検出信号が入力されているか否かを判定することにより各種センサからの検出信号の履歴情報（例えば、接触操作部３０２の回転（回転方向）履歴情報、及び押圧操作部３０３の操作履歴情報など。）を作成し、周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットする。周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットされる各種センサからの検出信号の履歴情報から接触操作部３０２や押圧操作部３０３の操作有無を取得することができる。本実施形態のパチンコ機１では、演出操作部３０１を操作することにより、トップ中央スピーカ、トップサイドスピーカや、本体枠４の本体枠スピーカから出力される演出音の音量を調節したり、扉枠３や遊技盤５に備える各種装飾基板に複数実装される各種ＬＥＤの輝度を調節したりすることができるようになっている。

【３６７３】
ステップＳ１１０８に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、バックアップ処理を行い（ステップＳ１１１０）、このルーチンを終了する。このバックアップ処理では、周辺制御ＩＣのＲＡＭに記憶されている内容を周辺制御ＩＣのＲＡＭに設けられる１ｍｓタイマ割り込み処理用バックアップ領域にコピーしてバックアップするとともに、ＳＤＲＡＭに記憶されている内容をＳＤＲＡＭに設けられる１ｍｓタイマ割り込み処理用バックアップ領域にコピーしてバックアップする。なお、本実施形態では、周辺制御ＩＣのＲＡＭに設けられる１ｍｓタイマ割り込み処理用バックアップ領域と、周辺制御ＩＣのＲＡＭに設けられる定常処理用バックアップ領域と、は異なる領域に設定されているとともに、ＳＤＲＡＭに設けられる１ｍｓタイマ割り込み処理用バックアップ領域と、ＳＤＲＡＭに設けられる定常処理用バックアップ領域と、は異なる領域に設定されている。
【３６７４】
このように、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理では、１ｍｓという期間内において、演出の進行としてステップＳ１１０４～ステップＳ１１０８の演出に関する各種処理を実行している。これに対して、図２６５の周辺制御部電源投入時処理における周辺制御部定常処理では、約３３．３ｍｓという期間内において、演出の進行としてステップＳ１０１４～ステップＳ１０３２の演出に関する各種処理を実行している。周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理では、ステップＳ１１００で１ｍｓタイマ割り込み実行回数ＳＴＮが値３３より小さくないとき、つまり３３回目の１ｍｓタイマ割り込みが発生してこの周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が開始されたときには、そのままこのルーチンを終了するようになっているため、仮に、３３回目の１ｍｓタイマ割り込みの発生が次回のＶブランク信号の発生よりたまたま先行した場合でも、この３３回目の１ｍｓタイマ割り込みによる周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の開始を強制的にキャンセルし、Ｖブランク信号の発生により周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０１０で１ｍｓ割り込みタイマを再び起動した後、新たに１回目の１ｍｓタイマ割り込みの発生による周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理を開始するようになっている。つまり、周辺制御部定常処理による演出の進行状態とタイマ割り込み制御である周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理による演出の進行状態との整合性が崩れないようになっている。したがって、演出の進行状態を確実に整合させることができる。
【３６７５】
また、上述したように、Ｖブランク信号が出力される間隔は、演出表示装置１６００の液晶サイズによって多少変化するし、周辺制御ＩＣが実装された周辺制御基板１５１０の製造ロットにおいてもＶブランク信号が出力される間隔が多少変化する場合もある。本実施形態では、Ｖブランク信号が周辺制御基板１５１０のシステム全体を支配する信号であるため、３３回目の１ｍｓタイマ割り込みの発生が次回のＶブランク信号の発生よりたまたま先行した場合には、周辺制御部Ｖブランク割り込み処理を実行するために３３回目の１ｍｓタイマ割り込みによる周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の開始が強制的にキャンセルさせられている。つまり本実施形態では、Ｖブランク信号が出力される間隔が多少変化する場合であっても、３３回目の１ｍｓタイマ割り込みによる周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の開始を強制的にキャンセルすることによって、このＶブランク信号が出力される間隔が多少変化することによる時間ズレを吸収することができるようになっている。
【３６７６】
［２４－４．周辺制御部コマンド受信割り込み処理］
次に、主制御基板１３１０からの各種コマンドを受信する周辺制御部コマンド受信割り込み処理について説明する。周辺制御ＩＣのＣＰＵは、主制御基板１３１０からの各種コマンドがシリアルデータとして送信開始されると、これを契機として、主周シリアルデータを周辺制御ＩＣのシリアルＩ／Ｏポートで１バイト（８ビット）の情報を受信バッファに取り込み、この取り込みが完了すると、これを契機として割り込みが発生し、周辺制御部コマンド受信割り込み処理を行う。主周シリアルデータは、１パケットが３バイトに構

成されており、１バイト目としてステータスが割り振られ、２バイト目としてモードが割り振られ、３バイト目としてステータスとモードとを数値とみなしてその合計を算出したサム値が割り振られている。

【３６７７】

周辺制御部コマンド受信割り込み処理が開始されると、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、図２６８に示すように、１バイト受信期間タイマがタイムアウトしたか否かを判定する（ステップＳ１２００）。この１バイト受信期間タイマは、主制御基板１３１０から送信される主周シリアルデータのうち、１バイト（８ビット）の情報を受信し得る期間を設定するものである。

【３６７８】

ステップＳ１２００の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、１バイト受信期間タイマがタイムアウトしていないとき、つまり主制御基板１３１０から送信される主周シリアルデータのうち、１バイト（８ビット）の情報を受信し得る期間内であると判定したときには、周辺制御ＩＣのシリアルＩ／Ｏポートの受信バッファから受信した１バイトの情報を取り込み（ステップＳ１２０２）、受信カウンタＳＲＸＣに値１を加える（インクリメントする、ステップＳ１２０４）。この受信カウンタＳＲＸＣは、受信バッファから取り出した回数を示すカウンタであり、主周シリアルデータの１バイト目であるステータスを受信バッファから取り出すと値１、主周シリアルデータの２バイト目であるモードを受信バッファから取り出すと値２、主周シリアルデータの３バイト目であるサム値を受信バッファから取り出すと値３となる。なお、受信カウンタＳＲＸＣは、電源投入時等に初期値０がセットされる。

【３６７９】

ステップＳ１２０４に続いて、受信カウンタＳＲＸＣが値３であるか否か、つまり主周シリアルデータの３バイト目であるサム値を受信バッファから取り出したか否かを判定する（ステップＳ１２０６）。この判定では、主周シリアルデータの１バイト目であるステータスに続いて、主周シリアルデータの２バイト目であるモード、そして主周シリアルデータの３バイト目であるサム値を、順に受信バッファから取り出したか否かを判定している。

【３６８０】

ステップＳ１２０６の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、受信カウンタＳＲＸＣが値３でないとき、つまり主周シリアルデータの１バイト目であるステータスに続いて、まだ主周シリアルデータの２バイト目であるモード、そして主周シリアルデータの３バイト目であるサム値を、順に受信バッファから取り出していないと判定したときには、１バイト受信期間タイマのセットを行い（ステップＳ１２０８）、このルーチンを終了する。ステップＳ１２０８で１バイト受信期間タイマがセットされることで、主周シリアルデータの２バイト目であるモード又は主周シリアルデータの３バイト目であるサム値を受信し得る期間が設定される。

【３６８１】

一方、ステップＳ１２０６の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、受信カウンタＳＲＸＣが値３であるとき、つまり主周シリアルデータの１バイト目であるステータスに続いて、主周シリアルデータの２バイト目であるモード、そして主周シリアルデータの３バイト目であるサム値を、順に受信バッファから取り出したと判定したときには、受信カウンタＳＲＸＣに初期値０をセットし（ステップＳ１２１０）、サム値を算出する（ステップＳ１２１２）。この算出は、ステップＳ１２０２で受信バッファからすでに取り出した、主周シリアルデータの１バイト目であるステータスと、主周シリアルデータの２バイト目であるモードと、を数値とみなしてその合計（サム値）を算出する。

【３６８２】

ステップＳ１２１２に続いて、ステップＳ１２０２で受信バッファからすでに取り出した主周シリアルデータの３バイト目であるサム値と、ステップＳ１２１２で算出したサム値と、が一致しているか否かを判定する（ステップＳ１２１４）。ステップＳ１２０２で

受信バッファからすでに取り出した主周シリアルデータの３バイト目であるサム値は、主制御基板１３１０からの主周シリアルデータのうち、主周シリアルデータの３バイト目として割り振られたサム値であるため、ステップＳ１２１２で算出したサム値と一致しているはずである。ところが、パチンコ機１は、遊技ホールの島設備から遊技球が供給されており、遊技球は、互いにこすれ合って帯電すると、静電放電してノイズを発生するため、パチンコ機１はノイズの影響を受けやすり環境下にある。

【３６８３】

そこで、本実施形態では、周辺制御基板１５１０側において、受信した主周シリアルデータの１バイト目として割り振られたステータスと、主周シリアルデータの２バイト目として割り振られたモードと、を数値とみなしてその合計（サム値）を算出し、この算出したサム値が、主制御基板１３１０からの主周シリアルデータのうち、主周シリアルデータの３バイト目として割り振られたサム値と一致しているか否かを判定している。これにより、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、主制御基板１３１０と周辺制御基板１５１０との基板間において、主周シリアルデータがノイズの影響を受けて正規と異なる主周シリアルデータに変化したか否かを判定することができる。

【３６８４】

ステップＳ１２１４の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、ステップＳ１２０２で受信バッファからすでに取り出した主周シリアルデータの３バイト目であるサム値と、ステップＳ１２１２で算出したサム値と、が一致していると判定したときには、受信した、主周シリアルデータの１バイト目として割り振られたステータスと、主周シリアルデータの２バイト目として割り振られたモードとを、周辺制御ＩＣのＲＡＭに記憶し（ステップＳ１２１６）、このルーチンを終了する。

【３６８５】

一方、ステップＳ１２００の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、１バイト受信期間タイマがタイムアウトしていないとき、つまり主制御基板１３１０から送信される主周シリアルデータのうち、１バイト（８ビット）の情報を受信し得る期間を超えていると判定したときには、又はステップＳ１２１４の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、ステップＳ１２０２で受信バッファからすでに取り出した主周シリアルデータの３バイト目であるサム値と、ステップＳ１２１２で算出したサム値と、が一致していないと判定したときには、そのままこのルーチンを終了する。

【３６８６】

［２４－５．周辺制御部停電予告信号割り込み処理］

次に、主制御基板１３１０の停電監視回路からの停電予告信号が主制御基板１３１０から入力されたことを契機として実行する周辺制御部停電予告信号割り込み処理について説明する。この周辺制御部停電予告信号割り込み処理が開始されると周辺制御ＩＣのＣＰＵは、図２６９に示すように、まず２マイクロ秒タイマを起動し（ステップＳ１３００）、停電予告信号が入力されているか否かを判定する（ステップＳ１３０２）。ステップＳ１３０２の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、停電予告信号が入力されていないと判定したときには、そのままこのルーチンを終了する。

【３６８７】

一方、ステップＳ１３０２の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、停電予告信号が入力されていると判定したときには、２マイクロ秒経過したか否かを判定する（ステップＳ１３０４）。この判定では、ステップＳ１３００で起動したタイマが２マイクロ秒経過した否かを判定している。ステップＳ１３０４の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、２マクロ秒経過していないときには、ステップＳ１３０２に戻り、停電予告信号が入力されているか否かを判定し、停電予告信号が入力されていないと判定したときにはそのままこのルーチンを終了する一方、停電予告信号が入力されていると判定したときには、再びステップＳ１３０４で２マイクロ秒経過したか否かを判定する。つまりステップＳ１３０４の判定では、本ルーチンである周辺制御部停電予告信号割り込み処理が開始されて２マイクロ秒間、停電予告信号が入力され続けているか否かを判定している。

【３６８８】
ステップＳ１３０４の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、本ルーチンである周辺制御部停電予告信号割り込み処理が開始されて２マイクロ秒間、停電予告信号が入力され続けていると判定したときには、節電処理を行う（ステップＳ１３０６）。この節電処理では、演出表示装置１６００のバックライトの消灯、遊技盤５に設けられるモータやソレノイドへの励磁ＯＦＦ、各種ＬＥＤの消灯等を順次実行することによりパチンコ機１のシステム全体の消費電力を抑えることによって、パチンコ機１の電力が遮断されても周辺制御ＩＣのＣＰＵが動作可能な時間である２０ミリ秒の期間だけ安定動作を確保している。
【３６８９】
ステップＳ１３０６に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、コマンド受信待機処理を行う（ステップＳ１３０８）。このコマンド受信待機処理では、主制御基板１３１０が送信中の各種コマンドがある場合を想定して、送信中のコマンドを周辺制御ＩＣが受信することができるように、少なくとも、１７ミリ秒の期間だけ待機するようになっている。コマンドを受信すると、上述した、周辺制御部コマンド受信割り込み処理が開始されて周辺制御ＩＣのＲＡＭに受信したコマンドが記憶される。
【３６９０】
ステップＳ１３０８に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、コマンドのバックアップ処理を行う（ステップＳ１３１０）。このコマンドのバックアップ処理では、周辺制御ＩＣのＲＡＭに記憶されているコマンドを周辺制御ＩＣのＲＡＭに設けられる定常処理用バックアップ領域にコピーしてバックアップする。
【３６９１】
ステップＳ１３１０に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、停電予告信号が入力されているか否かを判定する（ステップＳ１３１２）。ステップＳ１３１２の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、停電予告信号が入力されていると判定したときには、ＷＤＴクリア処理を行う（ステップＳ１３１４）。このＷＤＴクリア処理では、外部ＷＤＴにクリア信号を出力して周辺制御ＩＣのＣＰＵにリセットがかからないようにする。
【３６９２】
一方、ステップＳ１３１２の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、停電予告信号が入力されていないと判定したとき、又はステップＳ１３１４に続いて、再びステップＳ１３１２に戻り、停電予告信号が入力されているか否かを判定する。つまり、停電予告信号が入力されているか否かを無限に判定し続けることとなる。このように無限に判定し続けることにより、ステップＳ１３１２の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、停電予告信号が入力されていないと判定したときには、外部ＷＤＴにクリア信号を出力することができなくなり、周辺制御ＩＣのＣＰＵにリセットがかかる一方、ステップＳ１３１２の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、停電予告信号が入力されていると判定したときには、ステップＳ１３１４でＷＤＴクリア処理を行い、周辺制御ＩＣのＣＰＵにリセットがかからない。なお、周辺制御ＩＣのＣＰＵにリセットがかかると、図２６５に示した周辺制御部電源投入時処理が再び開始されることとなる。
【３６９３】
このように、ステップＳ１３１２による判定で無限ループにおいて停電予告信号の入力が継続する場合には、ステップＳ１３１４でＷＤＴクリア処理が実行されることによって停電状態になる直前で周辺制御ＩＣのＣＰＵにリセットがかからないようになっている。これに対して、ステップＳ１３１２による判定で無限ループにおいて停電予告信号の入力が継続されず解除された場合には、ＷＤＴクリア処理が実行されないため、外部ＷＤＴにクリア信号を出力が中断されるようになっている。これにより、ノイズなどで本ルーチンである周辺制御部停電予告信号割り込み処理が誤って開始され、そのノイズが２マイクロ秒の期間を超えて発生することでステップＳ１３０２の判定を通過したとしても、ステップＳ１３１２による判定で無限ループにおいて停電予告信号の入力が継続されず解除された場合には、ステップＳ１３１４のＷＤＴクリア処理が実行されないことにより周辺制御ＩＣのＣＰＵにリセットがかかるようになっているため、そのようなノイズに対して自動

的にリセット復帰することで対応することができるようになっている。
【３６９４】
［主制御基板の制御処理］
次に、主制御基板１３１０（特に主制御ＭＰＵ１３１０ａ）で実行される制御処理の例について説明する。図２７０は、上記特別図柄及び特別電動役物制御処理（ステップＳ１１４）についてその手順を示すフローチャートである。
【３６９５】
いま、各種の抽選処理に供される乱数が更新されたとすると（ステップＳ１０６）、同図２７０に示されるように、この主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａはまず、上記第一始動口センサ３００２による検出信号がオン状態（第一始動口２００２への入球あり）にあることを条件に（ステップＳ２３１）、第一特別図柄の第一特別乱数を上記乱数カウンタから取得してこれをＲＡＭの第一特別図柄保留記憶領域に格納するなどの第一始動口通過処理を実行する（ステップＳ２３２）。また、上記第二始動口センサ２４０１による検出信号がオン状態（第二始動口２００４への入球あり）にあることを条件に（ステップＳ２３３）、第二特別図柄の第二特別乱数を上記乱数カウンタから取得してこれをＲＡＭの第二特別図柄保留記憶領域に格納するなどの第二始動口通過処理を実行する（ステップＳ２３４）。
【３６９６】
次いで、大当り遊技状態に制御している旨を示す大当り実行中フラグがセットされているか否かを判別し（ステップＳ２３５）、大当り実行中フラグがセットされていれば、大当り遊技状態の制御を行う大当り制御処理（ステップＳ２３５Ａ）を実行する。なお、大当り制御処理では、特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示停止時における表示態様についての抽選処理の結果が「１５Ｒ大当り」を示唆する態様となったときに、１５Ｒ大当り遊技状態に応じて大入賞口２００５を開閉制御する処理を実行する。また、「５Ｒ大当り」を示唆する態様となったときに、５Ｒ大当り遊技状態に応じて大入賞口２００５を開閉制御する処理を実行し、「２Ｒ大当り」を示唆する態様となったときに、２Ｒ大当り遊技状態に応じて大入賞口２００５を開閉制御する処理を実行する。
【３６９７】
また、大当り制御処理（ステップＳ２３５Ａ）では、大入賞口２００５の開放制御を行った後、時短フラグ、及び時短回数カウンタの各セット処理を実行する。時短フラグは、時短状態であることを示すフラグであり、時短状態中に第一特別図柄の変動停止時における抽選処理の結果が「２Ｒ大当り」を示唆する態様となったことに基づく２Ｒ大当り遊技状態を終了するとき、「５Ｒ大当り」を示唆する態様となったことに基づく５Ｒ大当り遊技状態を終了するとき、時短状態中及び非時短状態中に１５Ｒ大当り遊技状態を終了するときにセットされる。そして、時短フラグは、次に大当りとなったとき、又は時短回数カウンタのカウンタ値が「０」になったときに後述する図２８１に示す第一特別図柄停止処理又は図示しない第二特別図柄停止処理でリセットされる。
【３６９８】
また、時短回数カウンタは、時短状態の継続回数としての特別図柄（第一特別図柄及び第二特別図柄）の変動表示の残り回数を示すカウンタであり、大当り遊技状態の終了後に時短状態に制御する場合には当該大当り遊技状態を終了するときに、その時短状態の継続回数がセットされる。そして、時短回数カウンタは、そのカウンタ値が「０」になるまで特別図柄の変動表示を実行するごとにカウントダウンされるが、カウンタ値が「０」になるよりも前に次の大当りとなったときには、後述する図２８１に示す第一特別図柄停止処理又は図示しない第二特別図柄停止処理でリセットされる（カウンタ値を「０」に戻す）。
【３６９９】
また、大当り実行中フラグがセットされていなければ、第二特別図柄保留記憶領域に記憶される第二特別乱数の個数を示す第二特別保留数カウンタの値が「０」であることを条件に（ステップＳ２３７）、第一特別図柄の変動表示停止時における表示態様にかかる抽

選処理を含む第一特別図柄プロセス処理を実行し（ステップＳ２３８）、第二特別図柄保留記憶領域に記憶される第二特別乱数の個数を示す第二特別保留数カウンタの値が「０」でないことを条件に（ステップＳ２３７）、第二特別図柄の変動表示停止時における表示態様にかかる抽選処理を含む第二特別図柄プロセス処理を実行する（ステップＳ２３９）。このようにこの例では、第二特別保留数カウンタの値が「０」でないときには第二特別図柄の変動表示を優先的に実行するように構成されている。

【３７００】

図２７１は、上記第一始動口通過処理（ステップＳ２３２）についてその手順を示すフローチャートである。

【３７０１】

いま、上記ステップＳ２３１の処理において、上記第一始動口センサ３００２がオン状態にあり、上記第一始動口２００２への遊技球の入球があったと判断されたとすると、同図２７１に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ２４１の処理として、まず、上記第一特別乱数、上記リーチ乱数、上記第一図柄乱数、上記変動乱数を上記乱数カウンタから取得する。

【３７０２】

次いで上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、第一特別図柄保留記憶領域に記憶される第一特別乱数の個数を示す第一特別保留数カウンタによるカウンタ値を主制御内蔵ＲＡＭから取得し、このカウンタ値に基づいて上記第一保留記憶数がその最大値（上限値）である「４」であるか否かの判断を行う（ステップＳ２４２）。このステップＳ２４２の処理において、上記第一保留記憶数がその最大値でないと判断された場合には、上記第一特別図柄の変動表示制御を新たに保留の状態とすべく、以下のステップＳ２４３～Ｓ２４５の処理を行うこととなる。すなわち、まず、上記ステップＳ２４３の処理として、上記第一特別保留数カウンタをカウントアップ（１加算）する。次いで、ステップＳ２４４の処理として、上記ステップＳ２４１で取得された各乱数を、上記主制御内蔵ＲＡＭの記憶領域のうちの上記第一特別保留数カウンタによるカウンタ値に対応する第一特別図柄保留記憶領域に格納する。

【３７０３】

また、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ２４１で取得した上記第一特別乱数、上記リーチ乱数、上記第一図柄乱数、上記変動乱数に基づいて、第一特別図柄の変動表示の表示結果を大当りとするか否か、大当りとなる場合には大当りの種類、大当りとならない場合には演出表示装置１６００で実行される遊技演出としてリーチ演出を実行するか、実行する遊技演出の態様種別（変動パターンの種別）などの事前判定情報を、当該始動入賞に応じた変動表示を開始する以前に判定する演出事前判定処理を実行した後（ステップＳ２４５）、処理を終了する。

【３７０４】

ただし、上記ステップＳ２４２の処理において、上記第一保留記憶数がその最大値であると判断された場合には、上記第一特別図柄の変動表示制御は新たに保留されない。すなわち、ステップＳ２４３～ステップＳ２４５の処理を実行することなく処理を終了することで、上記第一特別図柄の変動表示制御を新たに保留の状態としない。

【３７０５】

また、第一始動口２００２へ遊技球が入球したことに基づいて第一保留記憶数が変化すると機能表示ユニット１４００における第一特別保留数表示器の二つのＬＥＤの点灯状態を第一保留記憶数に対応するように更新するとともに、上記周辺制御基板コマンド送信処理（ステップＳ１２０）にて第一保留記憶数を指示するコマンド（第一保留数指定コマンド０～４（特別図柄１記憶コマンド０～４））をセットして周辺制御基板１５１０に送信するようになっている。なお、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣは第一保留数指定コマンド０～４（特別図柄１記憶コマンド０～４）を受信したことに基づいて第一保留記憶数を演出表示装置１６００に表示するようになっている。

【３７０６】

図２７２は、上記演出事前判定処理（ステップＳ２４５）についてその手順を示すフローチャートである。主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、演出事前判定処理を開始すると、図示しない事前判定テーブルと上記ステップＳ２４１で取得した乱数、具体的には第一特別乱数、第一図柄乱数、リーチ乱数、変動乱数とを比較することにより大当りとなるか否か、大当りとなる場合には大当りの種類、大当りとならない場合には演出表示装置１６００で実行される遊技演出としてリーチ演出を実行するか、実行する遊技演出の態様種別、を特定する（ステップＳ２６１）。

【３７０７】

そして、特定した事前判定情報（大当りとなるか否か、大当りとなる場合には大当りの種類、大当りとならない場合には演出表示装置１６００で実行される遊技演出としてリーチ演出を実行するか、実行する遊技演出の態様種別など）と、取得した特別乱数の種別（第一特別乱数）と、取得した特別乱数に対応して記憶される保留記憶数（保留数カウンタの値）と、に応じた事前判定コマンドをセットする。例えば、第一始動口通過処理のステップＳ２４５で実行される第一特別図柄に関する演出事前判定処理では、特定した事前判定情報と、第一特別乱数を取得したことと、第一保留記憶数（第一特別保留数カウンタの値）と、に応じた第一特別図柄事前判定コマンドをセットする（ステップＳ２６２）。

【３７０８】

そして、上記周辺制御基板コマンド送信処理（ステップＳ１２０）で主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０に事前判定コマンドが送信されることにより、始動入賞が発生した第一始動口２００２に対応して記憶される保留記憶数に加え、発生した始動入賞に基づく特別図柄の変動表示の表示結果を大当りとするか否か、大当りとなる場合には大当りの種類、大当りとならない場合には演出表示装置１６００で実行される遊技演出としてリーチ演出を実行するか、実行する遊技演出の態様種別などの事前判定情報を、当該始動入賞に応じた変動表示を開始する以前に周辺制御基板１５１０に搭載される周辺制御ＩＣが把握できるようになる。

【３７０９】

なお、周辺制御基板１５１０に搭載される周辺制御ＩＣは主制御基板１３１０から事前判定コマンドを受信すると、受信した事前判定コマンドによって示される事前判定情報を記憶するようになっている。具体的には、周辺制御ＩＣのＲＡＭには、第一特別図柄の変動表示に関する事前判定情報を記憶する第一保留記憶領域が設けられている。

【３７１０】

また、第一保留記憶領域は保留記憶数に対応する１～４の記憶領域を有しており、周辺制御ＩＣは受信した事前判定コマンドによって示される事前判定情報を１番目（最先）の記憶領域から順に格納する。そして、ｎ番目（ｎ＝１～３）の記憶領域に事前判定情報が格納されている場合に事前判定コマンドを受信するとｎ＋１番目（ｎ＝１～３）の記憶領域に通知された事前判定情報を格納し、第一特別図柄の変動表示開始を通知する第一変動パターンコマンドを受信すると受信した第一変動パターンコマンドに応じて第一保留記憶領域の１番目の記憶領域に格納されている事前判定情報を破棄してＮ番目（Ｎ＝２～４）の記憶領域に格納されている事前判定情報をＮ－１番目（Ｎ＝２～４）番目の記憶領域に移動させる（保留記憶領域に格納されている事前判定情報をシフトする）。これにより、上記第一特別図柄の事前判定情報が、変動表示開始の保留が発生した順序を特定可能に記憶されるとともに最先の事前判定情報から順に破棄されるようになる。

【３７１１】

このように変動表示制御が保留の状態とされた時点では、その変動表示制御を未実行の状態（保留状態）にて維持するにもかかわらず、その変動表示制御の大当り期待度（疑似当選確率）についてはこれを先行して、例えば、その保留表示の新規出力時や保留消化に応じた保留表示のシフト表示時などの予め定められたタイミングにて報知することが可能とされるようになる。

【３７１２】

図２７３は、上記第二始動口通過処理（ステップＳ２３４）についてその手順を示すフ

ローチャートである。
【３７１３】
いま、上記ステップＳ２３３の処理において、上記第二始動口センサ２４０１がオン状態にあり、上記第二始動口２００４への遊技球の入球があったと判断されたとすると、同図２７３に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ２５１の処理として、まず、上記第二特別乱数、上記リーチ乱数、上記第二図柄乱数、上記変動乱数を上記乱数カウンタから取得する。
【３７１４】
次いで上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、上記第二特別保留数カウンタによるカウンタ値を主制御内蔵ＲＡＭから取得し、このカウンタ値に基づいて上記第二保留記憶数がその最大値（上限値）である「１」であるか否かの判断を行う（ステップＳ２５２）。このステップＳ２５２の処理において、上記第二保留記憶数がその最大値でないと判断された場合には、上記第二特別図柄の変動表示制御を新たに保留の状態とすべく、以下のステップＳ２５３～Ｓ２５４の処理を行うこととなる。すなわち、まず、上記ステップＳ２５３の処理として、上記第二特別保留数カウンタをカウントアップ（１加算）する。次いで、ステップＳ２５４の処理として、上記ステップＳ２５１で取得された各乱数を、上記主制御内蔵ＲＡＭの記憶領域のうちの上記第二特別保留数カウンタによるカウンタ値に対応する第二特別図柄保留記憶領域に格納する。
【３７１５】
ただし、上記ステップＳ２５２の処理において、上記第二保留記憶数がその最大値であると判断された場合には、上記第二特別図柄の変動表示制御は新たに保留されない。すなわち、ステップＳ２５３～ステップＳ２５４の処理を実行することなく処理を終了することで、上記第二特別図柄の変動表示制御を新たに保留の状態としない。
【３７１６】
また、第二始動口２００４へ遊技球が入球したことに基づいて第二保留記憶数が変化すると機能表示ユニット１４００における第二特別保留数表示器の二つのＬＥＤの点灯状態を第二保留記憶数に対応するように更新するとともに、上記周辺制御基板コマンド送信処理（ステップＳ１２０）にて第二保留記憶数を指示するコマンド（第二保留数指定コマンド０～１（特別図柄２記憶コマンド０～１））をセットして周辺制御基板１５１０に送信するようになっている。なお、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣは第二保留数指定コマンド０～１（特別図柄２記憶コマンド０～１）を受信したことに基づいて第二保留記憶数を演出表示装置１６００に表示するようになっている。
【３７１７】
このように、本例のパチンコ機１では第一始動口２００２へ遊技球が入球したことに基づく第一保留記憶数の上限は「４」にされる一方、第二始動口２００４へ遊技球が入球したことに基づく第二保留記憶数の上限は「１」にされている。なお、第二始動口２００４は時短状態中に多数の遊技球が入球可能になるものであり、第二特別図柄の変動時間が通常状態時よりも短縮されるため、第二保留記憶数の上限が「１」とされていても第二特別図柄の変動表示が行われない期間が長く続いたり、第二保留記憶数が上限となっている期間が長く続くことで第二始動口２００４に遊技球が入球しても大当りの抽選の機会が得られなかったりという遊技者に不利な状態となることは抑制されている。
【３７１８】
図２７４は、第一特別図柄プロセス処理（ステップＳ２３８）についてその手順を示すフローチャートである。なお、特別図柄プロセス処理のステップＳ２３８で実行される第一特別図柄プロセス処理と特別図柄プロセス処理のステップＳ２３９で実行される第二特別図柄プロセス処理とは同様のプログラムモジュールであり、判定に用いる乱数やテーブルが異なるだけであるため、ここでは特別図柄プロセス処理のステップＳ２３８で実行される第一特別図柄プロセス処理についてのみ説明する。第一特別図柄プロセス処理では、上述の第一特別図柄プロセスフラグに応じて、以下の５つのプロセス処理の１つを選択的に実行することとなる。

【３７１９】
１．主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭに格納されている第一特別乱数を読み出し、読み出した第一特別乱数に基づいて上記第一特別図柄の変動制御停止時における表示態様についての抽選処理などが行われる第一特別図柄通常処理（ステップＳ２８０）
２．第一特別図柄の変動制御停止時における表示態様についての抽選処理の結果に基づいて第一特別図柄の変動制御停止時の態様の決定処理などが行われる第一特別図柄停止図柄設定処理（ステップＳ２８１）
３．変動乱数に基づいて上記機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器に表示される第一特別図柄の変動態様や、上記演出表示装置１６００に特別図柄に対応して実行される演出表示の変動態様についての抽選処理などが行われる第一変動パターン設定処理（ステップＳ２８２）
４．機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器における上記第一特別図柄の変動表示が停止されるまで待機する第一特別図柄変動処理（ステップＳ２８３）
５．第一特別図柄の変動制御停止時における表示態様についての抽選処理の結果に基づいて決定された第一特別図柄の変動制御停止時の態様が上記機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器に表示されるように上記第一特別図柄の変動表示を停止させる第一特別図柄停止処理（ステップＳ２８４）
【３７２０】
なお、上記第一特別図柄プロセスフラグは、上記主制御側電源投入時処理（図２５５参照）において、上記第一特別図柄通常処理（ステップＳ２８０）を行うべき旨を示すよう操作されている。
【３７２１】
図２７５は、上記第一特別図柄通常処理（ステップＳ２８０）についてその手順を示すフローチャートである。
【３７２２】
上記第一特別図柄プロセスフラグが当該第一特別図柄通常処理を行うべき旨を示しているときは、同図２７５に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、まず、ステップＳ３０１の処理として、上記第一特別保留数カウンタによるカウンタ値に基づいて保留の状態にある第一特別図柄の変動表示制御があるか否かの判断を行う。この結果、保留の状態にある第一特別図柄の変動表示制御があると判断された場合には、次にステップＳ３０２の処理として、上記主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭの第一特別図柄保留記憶領域に格納されている第一特別図柄の表示態様に関わる乱数（例えば、第一特別乱数、第一図柄乱数、リーチ乱数、変動乱数）のうちの最先の記憶領域に格納された乱数を同ＲＡＭから読み出す。そして次に、ステップＳ３０３及びＳ３０４の処理として、上記第一特別保留数カウンタをカウントダウンするとともに、上記主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭの第一特別図柄保留記憶領域の各記憶領域に格納されている上記第一特別図柄の変動表示停止時における表示態様に関わる乱数（第一特別乱数、第一図柄乱数、リーチ乱数、変動乱数）を先入れ先出し（Ｆｉｒｓｔ－Ｉｎ　Ｆｉｒｓｔ－Ｏｕｔ）の態様にてシフト操作する。
【３７２３】
具体的には、第一特別図柄保留記憶領域は１～４の４つの記憶領域を有し、始動入賞の発生に応じて抽出した乱数を１番目（最先）の領域から順に記憶する。そして、ｎ番目（ｎ＝１～３）の記憶領域に乱数が記憶されている場合に始動入賞が発生するとｎ＋１番目（ｎ＝１～３）の記憶領域に抽出した乱数を記憶し、１番目の記憶領域に格納された乱数に基づく変動表示の開始条件が成立すると１番目の記憶領域に記憶されている各種乱数を読み出すとともにＮ番目（Ｎ＝２～４）の記憶領域に記憶されている各種乱数をＮ－１番目（Ｎ＝２～４）番目の記憶領域に移動させる。これにより、上記第一特別図柄の変動表示制御の保留が発生した順序を特定可能に記憶されるとともに最先の保留（最も先に発生した保留）から順に変動表示制御の保留が解除されるようになる。
【３７２４】

そしてその後、ステップＳ３０５の処理として、上記読み出された第一特別図柄の第一特別乱数に基づいて上記大当りの当落についての抽選処理である当り判定処理を行う。その後、上記第一特別図柄停止図柄設定処理（ステップＳ２８１）にプロセス移行されるよう上述の第一特別図柄プロセスフラグが更新された時点で（ステップＳ３０６）、この処理を終了する。

【３７２５】

図２７６は、上記当り判定処理（ステップＳ３０５）についてその手順を示すフローチャートである。

【３７２６】

上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、図２７７（Ａ）に示す当り判定テーブルと特別乱数（第一特別図柄通常処理を実行している場合にはステップＳ３０２で読み出した第一特別乱数、第二特別図柄通常処理を実行している場合には当該第二特別図柄通常処理で読みだした第二特別乱数）とを比較する（ステップＳ３１１）。

【３７２７】

図２７７（Ａ）に示す当り判定テーブルは、特別乱数の種類毎（第一特別乱数、第二特別乱数）に、遊技状態が低確率時（通常状態（低確率非時短状態）及び時短状態（低確率時短状態））の場合に使用する低確率時の大当り判定テーブルと、遊技状態が高確率時（高確率時短状態）の場合に使用する高確率時の大当り判定テーブルと、を備えている。そして、第一特別乱数と比較するために参照される低確率時の当り判定テーブルでは、設定値１である場合に１／３１９、設定値２である場合に１／３０９、設定値３である場合に１／２９９、設定値４である場合に１／２８９、設定値５である場合に１／２７９、設定値６である場合に１／２６９の大当り確率で第一特別乱数が大当りに当選したことを示す大当り判定値と一致し、３／３１９の小当り確率で第一特別乱数が小当りに当選したことを示す大当り判定値と一致し、それ以外の第一特別乱数が上記ハズレであることを示すハズレ判定値と一致するように上記第一特別乱数がそれぞれ関連付けされている。また、本例では第二特別図柄プロセス処理内において、第二特別乱数と比較するために参照される低確率時の当り判定テーブルでは、設定値１である場合に１／３１９、設定値２である場合に１／３０９、設定値３である場合に１／２９９、設定値４である場合に１／２８９、設定値５である場合に１／２７９、設定値６である場合に１／２６９の大当り確率で第二特別乱数が大当りに当選したことを示す大当り判定値と一致し、１４４／３１９の小当り確率で第二特別乱数が小当りに当選したことを示す小当り判定値と一致し、それ以外の第二特別乱数が上記ハズレであることを示すハズレ判定値と一致するように上記第二特別乱数がそれぞれ関連付けされている。即ち、第一特別乱数と比較するために参照される当り判定テーブルに比べて第二特別乱数と比較するために参照される当り判定テーブルでは、小当りと判定される確率が高くなるように構成され、第一始動口２００２への始動入賞に基づく第一特別図柄の変動表示が実行された場合よりも第二始動口２００４への始動入賞に基づく第二特別図柄の変動表示が実行された場合の方が遊技者に有利な状態とされるようになっている。また、高確率時の当り判定テーブルでは、低確率時の当り判定テーブルに比べて設定値毎の大当り確率が１０倍に高められるように構成されている。

【３７２８】

上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、上記当り判定テーブルと特別乱数（第一特別図柄通常処理のステップＳ３０２で読み出した第一特別乱数、または第二特別図柄通常処理で読みだした第二特別乱数）との比較の結果、大当りとすると判定した場合には（ステップＳ３１２）、当該変動が大当りに当選していることを示す大当りフラグをセットし（ステップＳ３１３）、当り判定処理を終了する。

【３７２９】

また、選択した当り判定テーブルと特別乱数（第一特別図柄通常処理のステップＳ３０２で読み出した第一特別乱数、または第二特別図柄通常処理で読みだした第二特別乱数）との比較の結果、小当りとすると判定した場合には（ステップＳ３１４）、当該変動が小当りに当選していることを示す小当りフラグをセットし（ステップＳ３１５）、当り判定

処理を終了する。
【３７３０】
一方、大当りと小当りとのいずれにも当選していない場合、即ちハズレとすると判定した場合には、リーチ判定テーブルとステップＳ３０２で読み出したリーチ乱数とを比較する（ステップＳ３１６）。
【３７３１】
図示しないリーチ判定テーブルは、上記主制御内蔵ＲＯＭに記憶され、遊技状態が時短状態時の場合に使用する時短状態時のリーチ判定テーブルと、遊技状態が非時短状態時の場合に使用する非時短状態時のリーチ判定テーブルと、を備えている。そして、時短状態時のリーチ判定テーブルでは、１種類のリーチ乱数がリーチすることを示すリーチ判定値と一致し、７１種類のリーチ乱数がリーチしないことを示すリーチ判定値と一致するように上記リーチ乱数がそれぞれ関連付けされている。
【３７３２】
また、非時短状態時のリーチ判定テーブルでは、時短状態時のリーチ判定テーブルに設定されるリーチ乱数と同一のリーチ乱数を含む５種類のリーチ乱数がリーチすることを示すリーチ判定値と一致し、６７種類のリーチ乱数がリーチしないことを示すリーチ判定値と一致するように上記リーチ乱数がそれぞれ関連付けされている。このように、この実施の形態では、非時短状態時では、リーチすることを示すリーチ判定値が時短状態時よりも高められる。
【３７３３】
上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、選択したリーチ判定テーブルとステップＳ３０２で読み出したリーチ乱数との比較の結果（ステップＳ３１６）、リーチハズレとすると判定した場合には（ステップＳ３１７）、当該変動がリーチとなることを示すリーチフラグをセットして処理を終了する（ステップＳ３１８）。
【３７３４】
図２７８は、上記第一特別図柄停止図柄設定処理（ステップＳ２８１）についてその手順を示すフローチャートである。
【３７３５】
上記第一特別図柄プロセスフラグが当該第一特別図柄停止図柄設定処理を行うべき旨を示しているときは、同図２７８に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、まず、第一特別図柄の変動表示停止時における表示態様の抽選処理の結果、すなわち上記当り判定処理（ステップＳ３０５）の結果を判別する。抽選処理結果の判別は、大当りフラグがセットされているか否か（ステップＳ３２１）や小当りフラグがセットされているか否か（ステップＳ３２４）を判別することにより行う。
【３７３６】
主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ３２１で大当りフラグがセットされていれば、第一特別図柄通常処理のステップＳ３０２で読み出した第一図柄乱数と図２７７（Ｂ）に示す大当り図柄決定テーブルとを比較することにより大当りの種類を決定し、該決定した大当りの種類に対応する第一特別図柄の変動制御停止時の態様（第一特別図柄の停止図柄）を決定する（ステップＳ３２２）。
【３７３７】
具体的には、
１．大入賞口２００５を長時間開放（例えば２９秒）した後又は大入賞口２００５に遊技球．が１０個入賞したことが上記大入賞口センサ２４０２で検出されたときに閉鎖させる開閉パターンを１５回（１５ラウンド）繰り返すことで遊技球が大入賞口２００５に入球可能（容易）な１５Ｒ大当り遊技状態に制御し、大当り遊技状態の終了後に特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示が７７回実行されるまで、当該変動表示の実行期間を通常よりも短縮させるとともに、通常よりも高い確率で特別抽選結果の抽選を行う高確率時短状態に制御する１５Ｒ確変大当り
２．大入賞口２００５を長時間開放（例えば２９秒）した後又は大入賞口２００５に遊

技球が１０個入賞したことが上記大入賞口センサ２４０２で検出されたときに閉鎖させる開閉パターンを５回（５ラウンド）繰り返すことで遊技球が大入賞口２００５に入球可能（容易）な５Ｒ大当り遊技状態に制御し、大当り遊技状態の終了後に特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示が７７回実行されるまで、当該変動表示の実行期間を通常よりも短縮させる５Ｒ時短大当り、
３．大入賞口２００５を長時間開放（例えば２９秒）した後又は大入賞口２００５に遊技球が１０個入賞したことが上記大入賞口センサ２４０２で検出されたときに閉鎖させる開閉パターンを２回（２ラウンド）繰り返すことで遊技球が大入賞口２００５に入球可能（容易）な２Ｒ大当り遊技状態に制御し、２Ｒ大当り遊技状態の開始前に時短状態に制御されていれば大当り遊技状態の終了後に特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示が７７回実行されるまでの間に大当りとならなければ終了される時短状態に制御し、２Ｒ大当り遊技状態の開始前に非時短状態に制御されていれば大当り遊技状態の終了後に通常状態に制御する２Ｒ大当り、
の３種類の大当りの中からいずれかの大当りに決定する。

【３７３８】

また、第二特別図柄停止図柄設定処理で大当りフラグがセットされていれば、第二特別図柄通常処理で読み出した第二図柄乱数と図２７７（Ｂ）に示す大当り図柄決定テーブルとを比較することにより大当りの種類を決定し、該決定した大当りの種類に対応する第二特別図柄の変動制御停止時の態様（第二特別図柄の停止図柄）を決定する。
具体的には、
１．大入賞口２００５を長時間開放（例えば２９秒）した後又は大入賞口２００５に遊技球．が１０個入賞したことが上記大入賞口センサ２４０２で検出されたときに閉鎖させる開閉パターンを１５回（１５ラウンド）繰り返すことで遊技球が大入賞口２００５に入球可能（容易）な１５Ｒ大当り遊技状態に制御し、大当り遊技状態の終了後に特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示が７７回実行されるまで、当該変動表示の実行期間を通常よりも短縮させるとともに、通常よりも高い確率で特別抽選結果の抽選を行う高確率時短状態に制御する１５Ｒ確変大当り
２．大入賞口２００５を長時間開放（例えば２９秒）した後又は大入賞口２００５に遊技球が１０個入賞したことが上記大入賞口センサ２４０２で検出されたときに閉鎖させる開閉パターンを５回（５ラウンド）繰り返すことで遊技球が大入賞口２００５に入球可能（容易）な５Ｒ大当り遊技状態に制御し、大当り遊技状態の終了後に特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示が７７回実行されるまで、当該変動表示の実行期間を通常よりも短縮させる５Ｒ時短大当り、
３．大入賞口２００５を長時間開放（例えば２９秒）した後又は大入賞口２００５に遊技球が１０個入賞したことが上記大入賞口センサ２４０２で検出されたときに閉鎖させる開閉パターンを２回（２ラウンド）繰り返すことで遊技球が大入賞口２００５に入球可能（容易）な２Ｒ大当り遊技状態に制御し、２Ｒ大当り遊技状態の開始前に時短状態に制御されていれば大当り遊技状態の終了後に特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示が７７回実行されるまでの間に大当りとならなければ終了される時短状態に制御し、２Ｒ大当り遊技状態の開始前に非時短状態に制御されていれば大当り遊技状態の終了後に通常状態に制御する２Ｒ大当り、
の３種類の大当りの中からいずれかの大当りに決定する。

【３７３９】

なお、第一図柄乱数と比較される大当り図柄決定テーブルは、１５Ｒ確変大当りとなる場合に８個の判定値が振り分けられ、５Ｒ時短大当りとなる場合に１００個の判定値が振り分けられ、２Ｒ大当りとなる場合に９２個の判定値が振り分けられている。即ち、第一特別乱数に基づく抽選により大当りとする抽選結果が得られた場合には４％の確率で１５Ｒ大当りとなり、５０％の確率で５Ｒ大当りとなり、４６％の確率で２Ｒ大当りとなる。同様に、第二図柄乱数と比較される大当り図柄決定テーブルは、１５Ｒ確変大当りとなる場合に９２個の判定値が振り分けられ、５Ｒ時短大当りとなる場合に１００個の判定値が

振り分けられ、２Ｒ大当りとなる場合に８個の判定値が振り分けられている。即ち、第二特別乱数に基づく抽選により大当りとする抽選結果が得られた場合には４６％の確率で１５Ｒ確変大当りとなり、５０％の確率で５Ｒ大当りとなり、４％の確率で２Ｒ大当りとなる。このように、本例のパチンコ機１では第一図柄乱数と比較される大当り図柄決定テーブルに比べて第二図柄乱数と比較される大当り図柄決定テーブルでは、１５Ｒ確変大当りと判定される確率が高くなるように構成され、第一始動口２００２への始動入賞に基づく第一特別図柄の変動表示よりも第二始動口２００４への始動入賞に基づく第二特別図柄の変動表示が実行された場合に遊技者に有利な状態となるようになっている。

【３７４０】

また、大当りの種類を決定すると大当りの種類に応じた停止図柄を第一特別図柄の停止時の態様として決定する。具体的には、２Ｒ大当りに決定した場合には大当り図柄として２Ｒ大当り図柄に決定し、５Ｒ大当りに決定した場合には大当り図柄として５Ｒ大当り図柄に決定し、１５Ｒ大当りに決定した場合には大当り図柄として１５Ｒ大当り図柄に決定する。

【３７４１】

また、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ１３１で大当りフラグがセットされていない場合に、小当りフラグがセットされていれば（ステップＳ３２４）、第一特別図柄通常処理のステップＳ３０２で読み出した第一図柄乱数と図２７７（Ｃ）に示す小当り図柄決定テーブルとを比較することにより小当りの種類を決定し、該決定した大当りの種類に対応する第一特別図柄の変動制御停止時の態様（第一特別図柄の停止図柄）を決定する（ステップＳ３２５）。

【３７４２】

具体的には、

１．役物入賞口２００を短時間開放（例えば８０ｍｓ）した後に閉鎖させる開閉パターンを２回実行して遊技球が役物入賞口２００に入球可能（容易）な小当り遊技状態に制御し、役物入賞口２００６に受入れられた遊技球が役物入賞口２００６に受入れられた遊技球がＶ入賞口２００７に振分けられてＶ入賞口センサ３００３によって検知された場合に大入賞口２００５を長時間開放（例えば２９秒）した後又は大入賞口２００５に遊技球．が１０個入賞したことが上記大入賞口センサ２４０２で検出されたときに閉鎖させる開閉パターンを１４回繰り返すことで遊技球が大入賞口２００５に入球可能（容易）な１５Ｒ大当り遊技状態に制御し、大当り遊技状態の終了後に特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示が７７回実行されるまで、当該変動表示の実行期間を通常よりも短縮させるとともに、通常よりも高い確率で特別抽選結果の抽選を行う高確率時短状態に制御する第一小当り

２．役物入賞口２００を短時間開放（例えば８０ｍｓ）した後に閉鎖させる開閉パターンを２回実行して遊技球が役物入賞口２００に入球可能（容易）な小当り遊技状態に制御し、役物入賞口２００６に受入れられた遊技球がＶ入賞口２００７に振分けられてＶ入賞口センサ３００３によって検知された場合に大入賞口２００５を長時間開放（例えば２９秒）した後又は大入賞口２００５に遊技球．が１０個入賞したことが上記大入賞口センサ２４０２で検出されたときに閉鎖させる開閉パターンを１４回繰り返すことで遊技球が大入賞口２００５に入球可能（容易）な１５Ｒ大当り遊技状態に制御し、１５Ｒ大当り遊技状態の開始前に時短状態に制御されていれば大当り遊技状態の終了後に特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示が７７回実行されるまでの間に大当りとならなければ終了される時短状態に制御し、１５Ｒ大当り遊技状態の開始前に非時短状態に制御されていれば大当り遊技状態の終了後に通常状態に制御する第二小当り

の２種類の小当りの中からいずれかの小当りに決定する。

【３７４３】

なお、第一図柄乱数と比較される小当り図柄決定テーブルは、第一小当りとなる場合に２００個の判定値が振り分けらている。即ち、第一特別乱数に基づく抽選により小当りとする抽選結果が得られた場合には１００％の確率で第一小当りとなり、第二小当りには当

選しない。一方、第二図柄乱数と比較される小当り図柄決定テーブルは、第一小当りとなる場合に２０個の判定値が振り分けられ、第二小当りとなる場合に１８０個の判定値が振り分けられている。即ち、第二特別乱数に基づく抽選により小当りとする抽選結果が得られた場合には、１０％の確率で第一小当りとなり、９０％の確率で第二小当りとなる。

【３７４４】

また、小当りの種類を決定すると小当りの種類に応じた停止図柄を第一特別図柄の停止時の態様として決定する。具体的には、第一小当りに決定した場合には小当り図柄として第一小当り図柄に決定し、第二小当りに決定した場合には小当り図柄として第二小当り図柄に決定する。

【３７４５】

主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、大当りフラグと小当りフラグとのいずれもセットされていない場合には、はずれ図柄に決定する（ステップＳ３２７）。そして、こうして停止図柄についての決定処理が行われた後は、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ３２８の処理として、上記抽選結果（大当りの種類、小当り、リーチはずれ、はずれのいずれかを指示（第一特別図柄の停止図柄の態様を指示するものであってもよい））が上記周辺制御基板１５１０に送信されるよう抽選結果それぞれに応じた判定結果通知コマンドをセットする（ステップＳ３２８）。そしてその後は、ステップＳ３２９の処理として、上記第一変動パターン設定処理（ステップＳ２８２）にプロセス移行されるよう上記第一特別図柄プロセスフラグを更新した時点で、この処理を終了する。

【３７４６】

周辺制御部１５１１は、受信した判定結果通知コマンド及び変動パターンコマンドに基づいて演出表示装置１６００を表示制御する（左・中・右の装飾図柄を変動表示して左装飾図柄→右装飾図柄→中装飾図柄の順序で停止表示させる（なお左・中・右の装飾図柄を同一図柄で同期して変動表示し同時に停止表示する場合もある））。具体的には、周辺制御部１５１１は、演出表示装置１６００に表示される装飾図柄の変動停止時の態様（停止図柄）として、受信した判定結果通知コマンドから小当り又は２Ｒ大当りを特定した場合には小当り図柄（「最終決戦」）に決定し、５Ｒ時短大当りを特定した場合には５Ｒ時短大当り図柄（左・中・右の装飾図柄が「０」～「９」の図柄のうち同一の偶数図柄となる組合せ）に決定し、１５Ｒ確変大当りを特定した場合には１５Ｒ確変大当り図柄（左・中・右の装飾図柄が「０」～「９」の図柄のうち同一の奇数図柄となる組合せ）に決定する。また、リーチはずれを特定した場合にはリーチを伴ったはずれ図柄（左・右の装飾図柄が「０」～「９」の同一の図柄の組み合わせであって中装飾図柄が異なる図柄の組み合わせ；リーチハズレ図柄）に決定し、はずれを特定した場合には、リーチを伴わないはずれ図柄（左・中・右の装飾図柄のうち少なくとも左・右の装飾図柄が異なる図柄となる組合せ）に決定し、変動パターンコマンドから特定される変動時間の経過時（遊技演出の終了時）においてその決定された停止図柄を演出表示装置１６００に表示制御する。

【３７４７】

なお、本例のパチンコ機１では大当り遊技状態後に特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示が最大で７７回実行されるまで時短状態に制御可能とされるが、時短状態に移行制御された後に所定回数の大当りが発生したことに基づいて時短状態を終了させるようにしてもよい。具体的には、大当り遊技状態後に時短状態に制御し、その後に所定回数（例えば２回）の大当りが発生した場合には、所定回数目の大当り遊技状態の終了後に時短状態に制御することなく、通常状態に制御するようにしてもよい。また、大当りの発生回数が所定回数未満の場合であっても大当り遊技状態中は非時短状態に制御し、大当り遊技状態後に再び時短状態の制御を行うようにしてもよい。

【３７４８】

図２７９は、上記第一変動パターン設定処理（ステップＳ２８２）についてその手順を示すフローチャートである。

【３７４９】

上記第一特別図柄プロセスフラグが当該第一変動パターン設定処理を行うべき旨を示しているときは、同図２７９に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、大当りフラグがセットされていれば（ステップＳ３４１）、第一特別図柄停止図柄設定処理のステップＳ３２３で決定した大当りの種類に応じた大当り時の変動パターンテーブル（図示しない）を選択し（ステップＳ３４２）、小当りフラグがセットされて入れば（ステップＳ３４３）、第一特別図柄停止図柄設定処理のステップＳ３２５で決定した小当りの種類に応じた小当り時の変動パターンテーブル（図示しない）を選択し（ステップＳ３４４）、リーチフラグがセットされていれば（ステップＳ３４５）、リーチ時の変動パターンテーブル（図示しない）を選択し（ステップＳ３４６）、大当りフラグとリーチフラグとのいずれもセットされていない場合、すなわち通常のハズレ（リーチ演出を実行しないハズレ）となる場合には、ハズレ時の変動パターンテーブル（図示しない）を選択する（ステップＳ３４７）。

【３７５０】

そして、選択した変動パターンテーブルと第一特別図柄通常処理のステップＳ３０２で読み出した変動乱数とを比較することにより実行する変動パターンを決定し（ステップＳ３４８）、決定した変動パターンを開始することを周辺制御基板１５１０に通知する変動パターンコマンドをセットして機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器に表示される第一特別図柄の変動表示を開始する（ステップＳ３４９）。また、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、変動パターンを決定すると決定した変動パターンに対応して設定されている変動時間を変動タイマに設定する（ステップＳ３５０）。これにより、こうして決定された変動時間だけ機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器及び上記演出表示装置１６００にて演出制御が行われるようになる。

【３７５１】

なお、本例の変動パターンテーブルは、特別乱数（第一特別乱数、第二特別乱数）及び図柄乱数（第一図柄乱数、第二図柄乱数）に基づく判定結果毎に複数種類設けられている。また、各変動パターンテーブルに設定される変動パターンには上記特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示制御に要する所定の時間（変動時間）を示す複数の変動時間情報が上記変動乱数にそれぞれ対応して関連付けされるかたちで記憶されている。しかして、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、特別乱数及び図柄乱数に基づく判定結果に応じた複数種類の変動パターンテーブルのうち、選択した変動パターンテーブルと第一特別図柄通常処理のステップＳ３０２で読み出した変動乱数とを比較し、上記読み出した変動乱数に関連付けされている変動時間情報をこのテーブルから取得することで、上記特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動パターンを決定する。これにより、上記特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動パターンについての抽選処理が行われるようになる。なお、上記変動パターンテーブルは、上記主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＯＭに記憶されている。

【３７５２】

また、本例のリーチ時の変動パターンテーブルでは、いずれのリーチ演出を実行するかを示す判定値と変動乱数とを比較することにより実行するリーチ演出の態様種別を決定するように設定されている。例えば、リーチ演出のうちスーパーリーチ演出は、ノーマルリーチ演出よりも大当り期待度が高く、スーパーリーチ演出が実行されたときには、大当り遊技状態に対する遊技者の期待度が高まるようになっている。

【３７５３】

また、第一特別図柄の変動表示制御が開始されると、次にステップＳ３５１の処理として、時短状態の継続回数がセットされる時短回数カウンタのカウンタ値が「０」であるか否かを判断する。そして、このカウンタ値が「０」でなければ、該時短回数カウンタをカウントダウンした後（ステップＳ３５２）、同時短回数カウンタのカウンタ値が「０」であるか否かをさらに判断する（ステップＳ３５３）。そしてこの結果、同カウンタ値が「０」であれば、上記時短状態の制御（時短制御）を終了することを示す時短終了フラグをセットする（ステップＳ３５４）。

【３７５４】
上記ステップＳ３５１の処理にて時短回数カウンタのカウンタ値が「０」であると判断された場合、上記ステップＳ３５３の処理にて時短回数カウンタが「０」でないと判断された場合には、その時点でステップＳ３５５の処理に移行する。そして、上記第一特別図柄変動処理（ステップＳ２８３）にプロセス移行されるよう上述の第一特別図柄プロセスフラグを更新した時点で、この処理を終了する。
【３７５５】
本例では、はずれ時の変動パターンテーブルにおいて、時短状態時には１秒程度に設定された特別図柄の変動時間情報が上記特別図柄乱数（第一特別図柄、第二特別図柄）に関連付けされる一方、非時短状態時には１２秒程度に設定された特別図柄の変動時間情報が上記特別図柄乱数（第一特別図柄、第二特別図柄）に関連付けされるかたちで、特別図柄の変動パターンが設定されている。すなわち、時短状態時に選択されるはずれ時の変動パターンには、非時短状態時に選択されるはずれ時の変動パターンと比べると、上記特別図柄の変動表示制御に要する時間が極めて短時間となるよう、上記特別図柄の変動時間情報が設定されている。
【３７５６】
図２８０は、上記第一特別図柄変動処理（ステップＳ２８３）についてその手順を示すフローチャートである。
【３７５７】
上記第一特別図柄プロセスフラグが当該第一特別図柄変動処理を行うべき旨を示しているときは、同図２８０に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、まず、ステップＳ３７１の処理として、上記変動パターンについての抽選処理（ステップＳ２８２）で決定した変動パターンに応じた変動時間が設定される変動タイマを１減算する。そして、変動時間タイマが０、すなわち、上記抽選された変動時間が経過したと判断されると（ステップＳ３７２）、次にステップＳ３７３の処理に移行する。すなわち、このステップＳ３７３の処理において、上記第一特別図柄停止処理（ステップＳ２８４）にプロセス移行されるよう上述の第一特別図柄プロセスフラグを更新した時点で、この処理を終了する。
【３７５８】
図２８１は、上記第一特別図柄停止処理（ステップＳ２８４）についてその手順を示すフローチャートである。
【３７５９】
上記第一特別図柄プロセスフラグが当該第一特別図柄停止処理を行うべき旨を示しているときは、同図２８１に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、まず、ステップＳ３８１の処理として、上記第一特別図柄停止図柄設定処理にて決定された停止図柄を上記機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器に表示させるための表示制御を行うとともに、上記演出表示装置１６００に第一特別図柄の停止図柄に応じた装飾図柄の表示結果の導出表示を指示する停止表示コマンドを上記周辺制御基板１５１０へのコマンドとしてセットする（ステップＳ３８２）。
【３７６０】
次いで、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、上記時短終了フラグがセットされているときには（ステップＳ３８３）、時短終了フラグをリセットするとともに（ステップＳ３８４）、時短フラグをリセットする（ステップＳ３８５）。これにより特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の所定回数（本例では、７７回）の変動表示が実行されたときに時短制御（時短状態の制御）を終了させて非時短制御（通常状態の制御）を開始するようになる。
【３７６１】
また、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、上記大当りフラグがセットされているときは（ステップＳ３８６）、大当り遊技を開始することを示す大当り開始コマンドをセットし（ステップＳ３８７）、大当り遊技の開始までの待機時間（大当り遊

技を開始する旨の表示等を行う時間）をインターバルタイマにセットする（ステップＳ３８８）。なお、図示しないがステップＳ３８８では大当りの種類に応じたラウンド数を、ラウンドの残り回数を示す大当り回数カウンタにセットする処理も実行される。大当り回数カウンタは後述する大当り制御処理においてラウンドの実行毎に１ずつ減算され、大当り回数カウンタが「０」になったときに主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが規定ラウンド数を実行したと判断して大当り遊技を終了させるように制御する。具体的には後述する大当り制御処理において大当り回数カウンタが「０」になるまでは大入賞口開放前処理（ステップＳ４０１）と大入賞口開放中処理（ステップＳ４０２）とを繰り返し実行し、大入賞口開放中処理（ステップＳ４０２）でラウンドを終了するときに大当り回数カウンタを１減算して「０」なったことに基づいて大入賞口開放後処理（ステップＳ４０３）に移行して大当り遊技を終了させる制御を実行する。

【３７６２】

そして、大当り遊技の実行中であることを示す大当り実行中フラグをセットする（ステップＳ３８９）。なお、大当り開始コマンドは、周辺制御基板１５１０に送信されるコマンドであり、大当りの種類に応じて個々に用意されている。ステップＳ３８７では、大当りの種類（１５Ｒ確変大当り、５Ｒ時短大当り、２Ｒ大当り）に応じた大当り開始コマンド（１５Ｒ確変大当り開始コマンド、５Ｒ時短大当り開始コマンド、２Ｒ大当り開始コマンド）をセットする。これにより、大当り開始コマンドによって指示された大当りの種類に応じた大当り遊技の演出が演出表示装置１６００、ランプ・ＬＥＤ及びスピーカ等により実行される。また、第二特別図柄プロセス処理の第二特別図柄停止処理でも同様に、大当りの種類（１５Ｒ確変大当り、５Ｒ時短大当り、２Ｒ大当り）に応じた大当り開始コマンド（１５Ｒ確変大当り開始コマンド、５Ｒ時短大当り開始コマンド、２Ｒ大当り開始コマンド）をセットするようになっている。

【３７６３】

また、大当り遊技の実行中であることを示す大当り実行中フラグは、大当り遊技を終了するとき、具体的には大当り制御処理（ステップＳ２３５Ａ）の大入賞口開放後処理（ステップＳ４０３）で大当りの種類に応じた大入賞口２００５の開閉制御（例えば大入賞口２００５を長時間開放（例えば２９秒）した後又は大入賞口２００５に遊技球が１０個入賞したことが上記大入賞口センサ２４０２で検出されたときに閉鎖させる開閉パターンを２回、５回、又は１５回繰り返す開閉制御）を終了したとき（大当り遊技で実行可能な全てのラウンド）にリセットされる。大当り実行中フラグがリセットされることにより特別図柄及び特別電動役物制御処理（ステップＳ１１４）のステップＳ２３５で大当り制御処理（ステップＳ２３５Ａ）を実行しないようにされる一方、機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器における第一特別図柄の変動表示及び機能表示ユニット１４００の第二特別図柄表示器における第二特別図柄の変動表示を実行可能な状態になる。

【３７６４】

また、大当りフラグがセットされていない場合に（ステップＳ３８６）、上記小当りフラグがセットされていれば（ステップＳ３９０）、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、小当り遊技を開始することを示す小当り開始コマンドをセットし（ステップＳ３９１）、小当り遊技の開始までの待機時間（小当り遊技を開始する旨の表示等を行う時間）をインターバルタイマにセットする（ステップＳ３９２）。そして、小当り遊技の実行中であることを示す小当り実行中フラグをセットする（ステップＳ３９３）。なお、小当り開始コマンドは、周辺制御基板１５１０に送信されるコマンドであり、小当りの種類に応じて個々に用意されている。ステップＳ３９１では、小当りの種類（第一小当り、第二小当り）に応じた小当り開始コマンド（第一小当り開始コマンド、第二小当り開始コマンド）をセットする。これにより、小当り開始コマンドによって指示された小当りの種類に応じた小当り遊技の演出が演出表示装置１６００、ランプ・ＬＥＤ及びスピーカ等により実行される。また、第二特別図柄プロセス処理の第二特別図柄停止処理でも同様に、小当りの種類（第一小当り、第二小当り）に応じた小当り開始コマンド（第一小当り開始コマンド、第二小当り開始コマンド）をセットするようになっている。

【３７６５】
　また、小当り遊技の実行中であることを示す小当り実行中フラグは、小当り遊技を終了するとき、具体的には後述する小当り制御処理（ステップＳ２３６Ａ）の小当り中処理（ステップＳ４１１）で小当りの種類に応じた役物入賞口２００の開閉制御（例えば役物入賞口２００を短時間開放（例えば８０ｍｓ）した後に閉鎖させる開閉パターンを２回繰り返す開閉制御）を終了したときにリセットされる。小当り実行中フラグがリセットされることにより特別図柄及び特別電動役物制御処理（ステップＳ１１４）のステップＳ２３６で小当り制御処理（ステップＳ２３６Ａ）を実行しないようにされる一方、機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器における第一特別図柄の変動表示及び機能表示ユニット１４００の第二特別図柄表示器における第二特別図柄の変動表示を実行可能な状態になる。
【３７６６】
　また、小当りフラグがセットされていない場合、即ちハズレとなるときには次回の特別図柄の変動表示を開始するまでの待機時間（特別図柄の停止図柄を表示している時間）をインターバルタイマにセットし（ステップＳ３９４）、ステップＳ３９５に移行する。
【３７６７】
　上記ステップＳ３８６～ステップＳ３９４の処理を実行すると、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、第一特別図柄プロセスフラグを初期値である第一特別図柄通常処理にプロセス移行されるように更新した時点で（ステップＳ３９５）、この処理を終了する。
【３７６８】
　図２８２は、上記大当り制御処理（ステップＳ２３５Ａ）についてその手順を示すフローチャートである。大当り制御処理では、大当りプロセスフラグに応じて、以下の３つのプロセス処理のうち１つを選択的に実行することとなる。
【３７６９】
　１．特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示停止時の態様が大当り図柄となったことに基づいて上記大当り遊技状態に移行する旨などの遊技者への報知が上記周辺制御基板１５１０によって行われるまで待機したり、次のラウンドが開始されるまで待機する大入賞口開放前処理（ステップＳ４０１）
　２．特別図柄の変動表示停止時の態様が大当り図柄となったことに基づいて大入賞口２００５を開放状態に制御したり、次のラウンドが開始されることに基づいて大入賞口２００５を開放状態に制御し、大入賞口２００５を長時間開放（例えば２９秒）した後又は大入賞口２００５に遊技球が１０個入賞したことが上記大入賞口センサ２４０２で検出されたときに閉鎖させる大入賞口開放中処理（ステップＳ４０２）
　３．全てのラウンドを終了するときに大当り遊技状態が終了する旨の遊技者への報知が上記周辺制御基板１５１０によって行われるまで待機する大入賞口開放後処理（ステップＳ４０３）
【３７７０】
　なお、上記大当りプロセスフラグは、上記ステップＳ４２の処理において、上記大入賞口開放前処理（ステップＳ４０１）を行うべき旨を示すよう操作されている。また、上記大入賞口開放中処理（ステップＳ４０２）では、大入賞口２００５を開放状態に制御するラウンドの開始時に、そのラウンド数に応じた大当りラウンド開始コマンドをセットし、大入賞口２００５を閉鎖状態に制御するラウンドの終了時に、そのラウンド数に応じた大当りラウンド終了コマンドをセットする。なお、大当りラウンド開始コマンド及び大当りラウンド終了コマンドは、周辺制御基板１５１０に送信されるコマンドであり、大当りラウンド開始コマンド及び大当りラウンド終了コマンドによって指示されたラウンド数に応じた大当り遊技の演出が演出表示装置１６００、ランプ・ＬＥＤ及びスピーカ等により実行される。
【３７７１】
［虹色演出］

次に大当りとなる蓋然性が高い場合（例えば大当りとなる場合（大当り確定演出）や装飾図柄がリーチになる場合（リーチ予告）等）に実行される虹色演出について説明する。本例の虹色演出とは演出表示装置１６００に複数の色を用いて所定の形態（模様、キャラクタ、文字等）を表示した後、演出表示装置１６００の任意の表示領域における表示色を短時間で遷移させるとともに、演出表示装置１６００における表示色の遷移に連動して、扉枠３や遊技盤５に設けられている各種の装飾基板（例えば後述する特定装飾基板（扉枠トップユニット４５０の扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、扉枠トップ右装飾基板４５７、扉枠左サイドユニット４２０の扉枠左サイド上装飾基板４２２、扉枠左サイドユニット４２０の扉枠左サイド下装飾基板４２３、皿左装飾レンズ２７２の後側に設けられる皿左装飾基板２７３、扉枠右サイドユニット４３０の扉枠右サイド下装飾基板４３３、皿右装飾レンズ２７７の後側に設けられる皿右装飾基板２７８、扉枠右サイドユニット４３０の扉枠右サイド上装飾基板４３２、裏前左上ロゴ装飾部３１２２を発光装飾させるための裏前左上装飾基板３１２９、裏前左ロゴ装飾部３１２１、裏前左上ロゴ装飾部３１２２、及び裏前左サブ装飾部３１２３を発光装飾させるための裏前左装飾基板３１２８、裏前下ロゴ装飾体３１６７を発光装飾させるための裏前下ロゴ装飾基板３１７３、裏前下中装飾体３１６１を発光装飾させるための裏前下中装飾基板３１６８と、裏前下左内装飾体３１６３を発光装飾させるための裏前下左内装飾基板３１６９と、裏前下左外装飾体３１６４を発光装飾させるための裏前下左外装飾基板３１７０と、裏前下右内装飾体３１６５を発光装飾させるための裏前下右内装飾基板３１７１と、裏前下右外装飾体３１６６を発光装飾させるための裏前下右外装飾基板３１７２と、裏前右ロゴ装飾部３１４１を発光装飾させるための裏前右下装飾基板３１５２、裏前右上ロゴ装飾部３１４２を発光装飾させるための裏前右上装飾基板３１５１等））のＬＥＤを複数の発光色（少なくとも２色以上の発光色）で発光し、該発光色を短時間で遷移させる演出である。以下では演出表示装置１６００と扉枠３や遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤとの全てを連動させて虹色演出を実行し、演出表示装置１６００に表示する所定の形態の表示色や扉枠３や遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤの発光色を短時間で遷移させるものを示すが、演出表示装置１６００と扉枠３に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤと遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤとのうちのいずれか一つ、または任意の組み合わせにおいて表示色や発光色を短時間で遷移させるものであってもよい。なお、虹色演出において発光制御される扉枠３や遊技盤５に設けられてＬＥＤが実装されている各種の装飾基板の一部または全部について上記遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を適用して絶縁被膜による反射率の向上を図るようにしてもよい。

【３７７２】

また、図２８３（Ａ）に示すように本例では虹色演出を実行すると演出表示装置１６００の表示領域を第１表示領域ａ～第５表示領域ｅの５つの領域に区分し、各領域の色を異ならせた虹色演出表示態様を表示する。そして、変動時間の経過に伴って演出表示装置１６００の第１表示領域ａ～第５表示領域ｅの表示色や演出表示装置１６００の第１表示領域ａ～第５表示領域ｅの大きさ、及び形状を短時間で変化させる。

【３７７３】

なお、演出表示装置１６００に表示される虹色演出の態様としては、演出表示装置１６００の全域にキャラクタや文字などによる情報を有しない形態、例えば図２８３（Ａ）に示すように複数の縞状の線によって演出表示装置１６００の表示領域を複数の領域（図２８３（Ａ）に示す例では第１表示領域ａ～第５表示領域ｅの５つの表示領域）に区分したり、図２８３（Ｂ）に示すように放射状の複数の線によって演出表示装置１６００の表示領域を複数の領域（図２８３（Ｂ）に示す例では第１表示領域ａ～第６表示領域ｆの５つの表示領域）に区分して第１表示領域ａ～第５表示領域を領域毎に異なる色で彩色し、これら複数の領域の一部又は全ての色を短時間で変化させるものであってもよいし、複数のキャラクタ（人物、植物、動物、物、風景等）や文字等をキャラクタ毎及び／又は文字毎（キャラクタ、文字、一単語、等の一つの意味を有する塊（構成物）毎に）異なる色で彩

色したり（例えば「ＣＨＡＮＣＥ」の文字を、先頭の「Ｃ」を「白色」、「Ｈ」を「黄色」、「Ａ」を「緑色」、「Ｎ」を「青色」、二つ目の「Ｃ」を紫色、「Ｅ」を赤色で表示する。）、一のキャラクタや文字を複数の領域に区分して領域毎に異なる色で彩色し（例えば花びらの一枚一枚を異なる色で表示したり、人物の肌を複数の色で縞模様に表示したり、図２８３（Ｃ）に示すように線１～線７の７本の仮想線によって「ＣＨＡＮＣＥ」の文字を第１領域ａ（「ＣＨＡＮＣＥ」の文字のうち線１と線２によって囲われる領域）～第６領域ｆ（「ＣＨＡＮＣＥ」の文字のうち線６と線７によって囲われる領域）の６つの領域に区分し、それぞれの領域を異なる色で表示することで「ＣＨＡＮＣＥ」の文字それぞれを複数の色で縞模様に表示する（例えば第１領域ａ（「ＣＨＡＮＣＥ」の文字のうち線１と線２によって囲われる領域）を「白色」、第２領域ｂ（「ＣＨＡＮＣＥ」の文字のうち線２と線３によって囲われる領域）を「黄色」、第３領域ｃ（「ＣＨＡＮＣＥ」の文字のうち線３と線４によって囲われる領域）を「緑色」、第４領域ｄ（「ＣＨＡＮＣＥ」の文字のうち線４と線５によって囲われる領域）を「青色」、第５領域ｅ（「ＣＨＡＮＣＥ」の文字のうち線５と線６によって囲われる領域）を紫色、第６領域ｆ（「ＣＨＡＮＣＥ」の文字のうち線６と線７によって囲われる領域）を赤色で表示する）等）、これらの形態の色又は形状、若しくは形態の色と形状との両方を短時間で変化させるものであってもよいし、所定の色で表示される複数の領域それぞれの大きさや形状等を変化させたり、表示位置を変更（移動）したりして演出表示装置１６００の任意の表示領域における表示色を変化させるようにしてもよい（「ＣＨＡＮＣＥ」の文字以外の背景が表示される領域は「ＣＨＡＮＣＥ」の文字と同様の（表示を短時間で変化させる等の）表示を行わないようにしてもよい）。

【３７７４】

また、図２８４及び図２８５に示すように扉枠３や遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤは複数のグループに分けられてグループ毎に発光制御することが可能とされており、虹色演出を実行すると扉枠３や遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤをグループ毎に所定の発光色で発光させる。そして、変動時間の経過に伴って各グループの発光色を短時間で変化させるようになっている。

【３７７５】

本例では、図２８４に示されるように遊技盤５に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤは、裏前左上ロゴ装飾部３１２２を発光装飾させるための裏前左上装飾基板３１２９に実装される複数のＬＥＤが第１盤発光グループ、裏前左ロゴ装飾部３１２１、裏前左上ロゴ装飾部３１２２、及び裏前左サブ装飾部３１２３を発光装飾させるための裏前左装飾基板３１２８に実装される複数のＬＥＤが第２盤発光グループ、裏前下ロゴ装飾体３１６７を発光装飾させるための裏前下ロゴ装飾基板３１７３に実装される複数のＬＥＤが第３盤発光グループ、裏前下中装飾体３１６１を発光装飾させるための裏前下中装飾基板３１６８と、裏前下左内装飾体３１６３を発光装飾させるための裏前下左内装飾基板３１６９と、裏前下左外装飾体３１６４を発光装飾させるための裏前下左外装飾基板３１７０と、裏前下右内装飾体３１６５を発光装飾させるための裏前下右内装飾基板３１７１と、裏前下右外装飾体３１６６を発光装飾させるための裏前下右外装飾基板３１７２と、に実装される複数のＬＥＤが第４盤発光グループ、裏前右ロゴ装飾部３１４１を発光装飾させるための裏前右下装飾基板３１５２に実装される複数のＬＥＤが第５盤発光グループ、裏前右上ロゴ装飾部３１４２を発光装飾させるための裏前右上装飾基板３１５１に実装される複数のＬＥＤが第６盤発光グループに分けられて、虹色演出が実行されるとグループ毎にＬＥＤを発光制御して同一グループのＬＥＤを同一色に発光制御し、異なるグループのＬＥＤの発光色とは異なる発光色となるように発光制御するようになっている。

【３７７６】

なお、虹色演出として遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のうち同一基板に実装される複数のＬＥＤを同一のグループに分けてグループ毎に発光制御するものに限らず、同一基板に実装されるＬＥＤであっても異なるグループに分けてグループ毎に発光制御す

るようにしてもよい。例えば、「Ｑｕｅｅｎ」の文字が施されている裏前下ロゴ装飾体３１６７を発光装飾させるための裏前下ロゴ装飾基板３１７３に実装される複数のＬＥＤを、各文字毎に異なるグループに分けてグループ毎に発光制御するようにしてもよいし、各文字を所定の仮想線で複数の領域に分けてグループ化して各グループ毎に発光制御するようにしてもよい（例えば「Ｑｕｅｅｎ」の文字それぞれを上・中・下の３つの領域に分けて、裏前下ロゴ装飾基板３１７３に実装される複数のＬＥＤのうち上の領域に所属するＬＥＤを上グループとしてまとめて発光制御し、裏前下ロゴ装飾基板３１７３に実装される複数のＬＥＤのうち中の領域に所属するＬＥＤを中グループとしてまとめて発光制御し、裏前下ロゴ装飾基板３１７３に実装される複数のＬＥＤのうち下の領域に所属するＬＥＤを下グループとしてまとめて発光制御して、「Ｑｕｅｅｎ」の文字を縞模様に発光制御する等）。

【３７７７】

また、本例では図２８５に示されるように扉枠３に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤは、扉枠トップユニット４５０の扉枠トップ中央装飾基板４５５と、扉枠トップ左装飾基板４５６と、扉枠トップ右装飾基板４５７と、に実装される複数のＬＥＤが枠発光グループＡ、扉枠左サイドユニット４２０の扉枠左サイド上装飾基板４２２に実装される複数のＬＥＤが枠発光グループＢ、扉枠左サイドユニット４２０の扉枠左サイド下装飾基板４２３、及び皿左装飾レンズ２７２の後側に設けられる皿左装飾基板２７３に実装される複数のＬＥＤが枠発光グループＣ、演出操作ユニット３００の演出操作部外周装飾基板３２０に実装されている複数のＬＥＤ３２０ａ、円環状のボタン外装飾基板３５５に実装されている複数のＬＥＤ３５５ａ、ボタン中装飾基板３６４のＬＥＤ３６４ａが枠発光グループＤ、扉枠右サイドユニット４３０の扉枠右サイド下装飾基板４３３、及び皿右装飾レンズ２７７の後側に設けられる皿右装飾基板２７８に実装される複数のＬＥＤが枠発光グループＥ、扉枠右サイドユニット４３０の扉枠右サイド上装飾基板４３２に実装される複数のＬＥＤが枠発光グループＦ、に分けられて、虹色演出が実行されるとグループ毎にＬＥＤを発光制御して同一グループのＬＥＤを同一色に発光制御し、異なるグループのＬＥＤの発光色とは異なる発光色となるように発光制御するようになっている。

【３７７８】

図２８６は虹色演出の一例を示すタイミング図である。上記したように、周辺制御基板１５１０における周辺制御ＩＣのＣＰＵは主制御基板１３１０から変動パターンコマンドを受信すると、特別図柄の変動表示に同期して演出表示装置１６００において装飾図柄の変動表示等の変動演出の開始し、演出表示装置１６００の表示に連動して扉枠３や遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤを発光制御する（タイミングｔ０）。

【３７７９】

主制御基板１３１０から受信した変動パターンコマンドが虹色演出を実行する変動パターンである場合に、装飾図柄の変動表示を開始してからの経過時間が予め決められている所定のタイミングｔ１に達すると、扉枠３や遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤのうち少なくとも演出操作ユニット３００の演出操作部外周装飾基板３２０に実装されている複数のＬＥＤ３２０ａ、円環状のボタン外装飾基板３５５に実装されている複数のＬＥＤ３５５ａ、ボタン中装飾基板３６４のＬＥＤ３６４ａ、と裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部が左右に並んでいる裏後上第一装飾部３２１１を発光装飾するＬＥＤと、を除いて消灯し、演出表示装置１６００にて演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を促す表示（例えば「ボタンを押せ！」）を行うボタン操作促進演出を実行するとともに、演出操作ユニット３００の演出操作部外周装飾基板３２０に実装されている複数のＬＥＤ３２０ａ、円環状のボタン外装飾基板３５５に実装されている複数のＬＥＤ３５５ａ、ボタン中装飾基板３６４のＬＥＤ３６４ａを発光制御する。

【３７８０】

そして、タイミングｔ２で演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が遊技者によって押圧操作されるか又は演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されることなくボタン有効期間（例えば５秒）が経過すると（タイミングｔ２）、演出表示装置１

６００の表示領域を第１表示領域ａ～第５表示領域ｅに分けて第１表示領域ａ～第５表示領域ｅそれぞれを異なる表示色で表示する虹色演出表示態様を表示し、扉枠３に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤを上記した枠発光グループＡ～枠発光グループＦに分けて、枠発光グループＡ～枠発光グループＦの各グループに含まれているＬＥＤをグループ毎に異なる発光色で発光させるとともに、遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤを上記した第１盤発光グループ～第６盤発光グループに分けて、各グループに含まれているＬＥＤをグループ毎に異なる発光色で発光させる。

【３７８１】

また、変動時間の経過に応じて演出表示装置１６００の第１表示領域ａ～第５表示領域ｅそれぞれの表示色と、枠発光グループＡ～枠発光グループＦの各グループの発光色と、第１盤発光グループ～第６盤発光グループの各グループの発光色と、を所定期間（例えば０．１秒）毎に変更する（タイミングｔ２～ｔ１００）。

【３７８２】

本例では、上記タイミングｔ２で演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が遊技者によって押圧操作されると、演出表示装置１６００で実行しているボタン操作促進演出（本例では「ボタンを押せ！」を表示する演出）を終了し、変動表示している装飾図柄を縮小して演出表示装置１６００の右上部に表示するとともに、演出表示装置１６００の第１表示領域ａに「白色」、第２表示領域ｂに「黄色」、第３表示領域ｃに「緑色」、第４表示領域ｄに「青色」、第５表示領域ｅに「紫色」をそれぞれ表示し、所定期間（例えば０．１秒）毎に「白色」の表示を行っている表示領域を「黄色」に変更し、「黄色」の表示を行っている表示領域を「緑色」に変更し、「緑色」の表示を行っている表示領域を「青色」に変更し、「青色」の表示を行っている表示領域を「紫色」に変更し、「紫色」の表示を行っている表示領域を「赤色」に変更し、「赤色」の表示を行っている表示領域を「白色」に変更する。

【３７８３】

また、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が遊技者によって押圧操作されると、遊技盤５に設けられている第１盤発光グループを「白色」、第２盤発光グループを「黄色」、第３盤発光グループを「緑色」、第４盤発光グループを「青色」、第５盤発光グループを「紫色」、第６盤発光グループを「赤色」、に発光させ、所定期間（例えば０．１秒）毎に「白色」で発光しているグループに属しているＬＥＤの発光色を「黄色」に変更し、「黄色」で発光しているグループに属しているＬＥＤの発光色を「緑色」に変更し、「緑色」で発光しているグループに属しているＬＥＤの発光色を「青色」に変更し、「青色」で発光しているグループに属しているＬＥＤの発光色を「紫色」に変更し、「紫色」で発光しているグループに属しているＬＥＤの発光色を「赤色」に変更し、「赤色」で発光しているグループに属しているＬＥＤの発光色を「白色」に変更する。

【３７８４】

同様に、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が遊技者によって押圧操作されると、扉枠３に設けられている枠発光グループＡを「白色」、枠発光グループＢを「黄色」、枠発光グループＣを「緑色」、枠発光グループＤを「青色」、枠発光グループＥを「紫色」、枠発光グループＦを「赤色」、に発光させ、所定期間（例えば０．１秒）毎に「白色」で発光しているグループに属しているＬＥＤの発光色を「黄色」に変更し、「黄色」で発光しているグループに属しているＬＥＤの発光色を「緑色」に変更し、「緑色」で発光しているグループに属しているＬＥＤの発光色を「青色」に変更し、「青色」で発光しているグループに属しているＬＥＤの発光色を「紫色」に変更し、「紫色」で発光しているグループに属しているＬＥＤの発光色を「赤色」に変更し、「赤色」で発光しているグループに属しているＬＥＤの発光色を「白色」に変更する。

【３７８５】

このように、扉枠３や遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤの発光色を短い単位発光時間で複数の発光色に順番に切り替えるように制御することで視覚的に虹色の発光がなされているかのように視認させることができるようになり、インパクトのある発

光演出を実行できる。また、演出表示装置１６００の表示と遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤと扉枠３に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤとを連動させて制御し、演出表示装置１６００に複数の色の表示を行ったり、遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤや扉枠３に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤを複数の色で発光させ、さらに短時間で表示色や発光色を切り換えることで通常よりもインパクトのある演出を実行できる。

【３７８６】

なお、本例では演出表示装置１６００の第１表示領域ａ～第５表示領域ｅの表示色と、扉枠３に設けられている枠発光グループＡ～枠発光グループＦに属しているＬＥＤの発光色と、遊技盤５に設けられている第１盤発光グループ～第６盤発光グループに属しているＬＥＤの発光色と、を表示領域毎又はグループ毎に予め決められている順序で規則的に変化させるものを示したが、演出表示装置１６００の第１表示領域ａ～第５表示領域ｅの表示色と、扉枠３に設けられている枠発光グループＡ～枠発光グループＦに属しているＬＥＤの発光色と、遊技盤５に設けられている第１盤発光グループ～第６盤発光グループに属しているＬＥＤの発光色と、のいずれか一つ又は二つ以上の任意の組み合わせ（全てでもよい）について表示色や発光色を不規則に変化させ、残りについては規則的に変化させるようにしてもよい。

【３７８７】

また、演出表示装置１６００の第１表示領域ａ～第５表示領域ｅの表示色と、枠発光グループＡ～枠発光グループＦに属しているＬＥＤの発光色と、第１盤発光グループ～第６盤発光グループに属しているＬＥＤの発光色と、同一の順序で変更するものに限らず、演出表示装置１６００の第１表示領域ａ～第５表示領域ｅの表示色と、枠発光グループＡ～枠発光グループＦに属しているＬＥＤの発光色と、第１盤発光グループ～第６盤発光グループに属しているＬＥＤの発光色と、のいずれか一つ又は二つ以上の任意の組み合わせ（全てでもよい）については異なる順序（例えば、枠発光グループＡ～枠発光グループＦに属しているＬＥＤの発光色を「白色→黄色→緑色→青色→紫色→赤色→白色→黄色→→・・・」の順序で変更し、第１盤発光グループ～第６盤発光グループに属しているＬＥＤの発光色を「赤色→紫色→青色→緑色→黄色→白色→赤色→紫色→→・・・」の順序で変更する等）で変更するようにしてもよい。

【３７８８】

また、演出表示装置１６００の第１表示領域ａ～第５表示領域ｅの表示色と、枠発光グループＡ～枠発光グループＦに属しているＬＥＤの発光色と、第１盤発光グループ～第６盤発光グループに属しているＬＥＤの発光色と、のいずれか一つ又は二つ以上の任意の組み合わせ（全てでもよい）については少なくとも一部の色が異なる複数の色の組み合わせ（例えば、枠発光グループＡ～枠発光グループＦに属しているＬＥＤを「白色」、「黄色」、「緑色」、「青色」、「紫色」、「赤色」のいずれかの発光色で発光制御し、第１盤発光グループ～第６盤発光グループに属しているＬＥＤを「白色」、「橙色」、「黄緑色」、「青色」、「桃色」、「赤色」のいずれかの発光色で発光制御する等）としてもよい。

【３７８９】

また、演出表示装置１６００の第１表示領域ａ～第５表示領域ｅの表示色と、扉枠３に設けられている枠発光グループＡ～枠発光グループＦに属しているＬＥＤの発光色と、遊技盤５に設けられている第１盤発光グループ～第６盤発光グループに属しているＬＥＤの発光色と、を同一のタイミングで変化させる（色を変化させるタイミングを一致させる）ものに限らず、演出表示装置１６００の表示色を変化させるタイミングと、扉枠３に設けられている枠発光グループＡ～枠発光グループＦに属しているＬＥＤの発光色を変化させるタイミングと、遊技盤５に設けられている第１盤発光グループ～第６盤発光グループに属しているＬＥＤの発光色を変化させるタイミングと、のいずれか一つ又は二つ以上の任意の組み合わせ（全てでもよい）について、同一のタイミング（例えば１秒後と）で変化させ、残りについては異なるタイミング（例えば１．５秒毎）で変化させるようにしても

よい。
【３７９０】
　また、演出表示装置１６００の第１表示領域ａ～第５表示領域ｅの表示色と、扉枠３に設けられている枠発光グループＡ～枠発光グループＦに属しているＬＥＤの発光色と、遊技盤５に設けられている第１盤発光グループ～第６盤発光グループに属しているＬＥＤの発光色と、を変化させた後、再び変化させるまでの期間（所定期間）は常に一定とされるものに限らず、一部又は全ての期間を異ならせるようにしてもよい。例えばタイミングｔ２～ｔ１００のうち奇数タイミング（ｔ１、ｔ３、ｔ５、ｔ７、ｔ９、ｔ１１、ｔ９９）では１秒毎に表示色や発光色を変化させ、偶数タイミング（ｔ２、ｔ４、ｔ６、ｔ８、ｔ１０、ｔ９８、ｔ１００）では２秒毎に表示色や発光色を変化させるようにしてもよい。
【３７９１】
　なお、本例では虹色演出に先行して裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部が左右に並んでいる裏後上第一装飾部３２１１を発光装飾するＬＥＤを発光制御する。具体的には、図２８６に示すように周辺制御基板１５１０における周辺制御ＩＣのＣＰＵは主制御基板１３１０から変動パターンコマンドを受信して演出表示装置１６００において装飾図柄の変動表示等の変動演出を開始してからボタン促進演出を実行するまでのタイミングｔ０～タイミングｔ１の期間は裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部が左右に並んでいる裏後上第一装飾部３２１１を消灯状態に制御し、タイミングｔ１でボタン促進演出を実行するときに裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部が左右に並んでいる裏後上第一装飾部３２１１を虹色演出に応じた発光態様で発光制御するようになっている。本例ではボタン操作促進演出が開始されると（タイミングｔ１～タイミングｔ２）、裏後上第一装飾部３２１１の五つの７セグメント表示部を赤色の発光色で発光制御して該裏後上第一装飾部３２１１の五つの７セグメント表示部の右から左に「アツイ！」という文字が繰り返し流れるように発光制御する。
【３７９２】
　また、ボタン操作促進演出の実行中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が遊技者によって押圧操作されるか又は演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されることなくボタン有効期間（例えば５秒）が経過してボタン操作促進演出が終了し、次いで虹色演出が開始されると（タイミングｔ２）、裏後上第一装飾部３２１１の五つの７セグメント表示部の発光色を変更することなしに赤色の発光色を維持した状態で虹色演出が終了するまで（タイミングｔ２～タイミングｔ１００）、該裏後上第一装飾部３２１１の五つの７セグメント表示部の右から左に「レインボーチャンス！」という文字が繰り返し流れるように発光制御する。上記したように、本例では裏後上第一装飾部３２１１の五つの７セグメント表示部を赤色に発光制御する。また、虹色演出では枠発光グループＡ～枠発光グループＦに属しているＬＥＤと、第１盤発光グループ～第６盤発光グループに属しているＬＥＤと、のいずれかについても裏後上第一装飾部３２１１の五つの７セグメント表示部と同様の赤色で発光制御する。このため、裏後上第一装飾部３２１１の五つの７セグメント表示部については発光色を変更しないものの、虹色演出に関連した発光制御が行われているものと遊技者に認識させることができる。
【３７９３】
　また、裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部が左右に並んでいる裏後上第一装飾部３２１１の周囲に、扉枠３に設けられている枠発光グループＡ～枠発光グループＦに属しているＬＥＤ（ＬＥＤを実装する装飾基板）と、遊技盤５に設けられている第１盤発光グループ～第６盤発光グループに属しているＬＥＤ（ＬＥＤを実装する装飾基板）と、が設けられ、ボタン操作促進演出が終了すると赤色で発光装飾される裏後上第一装飾部３２１１の五つの７セグメント表示部の周囲に発光装飾が広がるような印象を与えることができるため、演出効果が高まり遊技興趣を向上させることができる。
【３７９４】
　また、本例では虹色演出の終了後（タイミングｔ１００～タイミングｔ１０１）にも裏後上第一装飾部３２１１の五つの７セグメント表示部の発光色を変更することなしに発光

制御を継続するようになっている。具体的には、虹色演出が終了した後（タイミングｔ１００）、例えば装飾図柄のリーチの発生に応じて裏後上第一装飾部３２１１の五つの７セグメント表示部の右から左に「リーチ！」という文字が繰り返し流れるように発光制御したり、装飾図柄のリーチが発生してリーチ演出の実行中に裏後上第一装飾部３２１１の五つの７セグメント表示部の右から左に「ゲキアツ！」という文字が繰り返し流れるように発光制御したり、するようになっている。また、本例では装飾図柄の変動表示が停止したことに基づいて裏後上第一装飾部３２１１の五つの７セグメント表示部を消灯状態に制御する。これにより遊技者は変動演出が終了したことを認識できるようになっている。なお、装飾図柄の変動表示が停止した後、所定期間が経過したときに裏後上第一装飾部３２１１の五つの７セグメント表示部を消灯状態に制御するようにしてもよく、この場合には装飾図柄の変動表示が停止したときに裏後上第一装飾部３２１１の五つの７セグメント表示部における文字の移動表示を停止するようにしてもよい。この場合にも遊技者は裏後上第一装飾部３２１１の五つの７セグメント表示部における文字の移動表示が停止したことによって変動演出が終了したことを認識できる。

【３７９５】

このように、虹色演出に先行して裏後上第一装飾部３２１１の五つの７セグメント表示部を発光制御し、虹色演出の終了後にも裏後上第一装飾部３２１１の五つの７セグメント表示部を継続して発光制御するため、先行して実行される裏後上第一装飾部３２１１の五つの７セグメント表示部の発光制御によって虹色演出の開始に対する期待を高めることができるとともに、虹色演出の終了後にも裏後上第一装飾部３２１１の五つの７セグメント表示部の発光制御によって大当りに対する期待を高めることができる。

【３７９６】

なお、裏後上第一装飾部３２１１の五つの７セグメント表示部の発光制御は、少なくとも虹色演出に先行して開始されるとともに、虹色演出の終了後にも継続して実行されるものであればよく、装飾図柄の変動表示を開始するタイミングｔ０から虹色演出を開始するタイミングｔ２の間のいずれのタイミング（タイミングｔ０で発光制御を開始するものを含む）で開始するようにしてもよいし、虹色演出を終了するタイミングｔ１００から装飾図柄の変動表示を停止するタイミングｔ１０１の間のいずれのタイミング（タイミングｔ１０１で発光制御を停止するものを含む）で終了するようにしてもよい。また、装飾図柄の変動表示が停止しても、所定期間が経過する以前に再び装飾図柄の変動表示が開始された場合には裏後上第一装飾部３２１１の五つの７セグメント表示部を消灯状態に制御しないようにしてもよく、この場合には装飾図柄の変動表示が停止したときに裏後上第一装飾部３２１１の五つの７セグメント表示部における文字の移動表示を停止し（タイミングｔ１０１）、装飾図柄の変動表示を開始するときときに裏後上第一装飾部３２１１の五つの７セグメント表示部に表示する文字を更新して裏後上第一装飾部３２１１の五つの７セグメント表示部の右から左に当該文字の移動表示を再開させるようにしてもよい（タイミングｔ０）。この場合であっても裏後上第一装飾部３２１１の五つの７セグメント表示部における文字の移動表示の有無によって装飾図柄の変動表示の有無を判別することができる。

【３７９７】

また、虹色演出の実行中に裏後上第一装飾部３２１１に表示される態様は、上記したものに限られるものでなく、例えば虹色演出の実行によって視認し難い状態となる演出表示装置１６００で実行されている装飾図柄の変動演出を補足する表示として、図柄の変動表示する態様を表示したり、所定の点灯パターンで複数のＬＥＤを点滅制御したりして、虹色演出の実行後（例えば装飾図柄を停止表示するとき）に特別抽選結果に応じた態様を導出するようにしてもよいし、変動演出の実行中に遊技者によって演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が操作される等の所定の増加条件や減少条件が成立した場合に点灯するＬＥＤの数を変化させるようにしてもよい。これにより、虹色演出の実行によって装飾図柄の変動表示が視認困難となって装飾図柄の変動表示が実行されていないのではないかという不安や、特別抽選結果が導出されないのではないかという不安を与えないようにす

ることが可能である。また、虹色演出の実行中には演出表示装置１６００における装飾図柄の表示を非表示とするようにしてもよく、この場合にも上記した不安を与えないようにすることができる。

【３７９８】

また、上記した例ではボタン操作促進演出の終了（ボタン操作促進演出の実行中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が遊技者によって押圧操作されるか又は演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されることなくボタン有効期間（例えば５秒）が経過すること）を契機として虹色演出を開始するものを示したが、ボタン操作促進演出の実行を伴うことなく、所定の実行条件が成立した場合に虹色演出の実行を開始するようにしてもよい。例えば変動演出の開始後の経過時間や変動演出の終了後に変動演出が実行されていない無変動演出期間が予め決められた所定期間となった場合等に虹色演出の実行を開始するようにしてもよい。

【３７９９】

また、本例では虹色演出を終了するときに高い割合（リーチ状態とならないもの（いわゆるガセを含む））で装飾図柄をリーチ状態で表示する（タイミングｔ１００）。そして虹色演出を終了すると、演出表示装置１６００の虹色演出表示態様を消失させてリーチ演出を実行するとともに、遊技盤５に設けられている第１盤発光グループ～第６盤発光グループに属しているＬＥＤと扉枠３に設けられている枠発光グループＡ～枠発光グループＦに属しているＬＥＤとの虹色演出の発光制御を終了して、演出表示装置１６００に表示されるリーチ演出に応じた発光態様で発光制御する。

【３８００】

このように本例では装飾図柄の変動表示を開始してからリーチ状態を表示するまでの期間に実行されるリーチ予告として虹色演出を行うようになっている。なお、装飾図柄がリーチとならない場合（装飾図柄がリーチとならずに大当りとなるものでもよいし装飾図柄がリーチとならずにはずれとなるものでもよい）や装飾図柄がリーチとなっても大当りとならない場合にも所定の割合で虹色演出を実行するようにしてもよいし、必ず大当りとなる場合にのみ（大当り確定演出として）虹色演出を実行するようにしてもよい。また実行されるタイミングもリーチ予告に限らず装飾図柄のリーチ状態を表示してから装飾図柄を停止表示するまでの期間に実行されるリーチ演出として虹色演出を行うようにしてもよいし、装飾図柄の変動開始前に先読み予告等の演出として実行してもよいし、装飾図柄の変動表示とは無関係に（例えば所定期間に亘って装飾図柄の変動表示が開始されない場合に実行される客待ちデモ演出として）虹色演出を実行するようにしてもよい。

【３８０１】

また上記したように、虹色演出は大当りとなる蓋然性が高い場合に実行され、遊技者の期待を向上させる重要な演出である。そのため、本例では虹色演出において発光制御されるＬＥＤの発色を鮮やかとなるように当該ＬＥＤを実装する装飾基板のＬＥＤ実装面に特徴を有するようになっている。具体的には、遊技盤５に設けられて虹色演出で発光制御されるＬＥＤを実装する複数の装飾基板、すなわち、裏前左上ロゴ装飾部３１２２を発光装飾させるための裏前左上装飾基板３１２９と、裏前左ロゴ装飾部３１２１、裏前左上ロゴ装飾部３１２２、及び裏前左サブ装飾部３１２３を発光装飾させるための裏前左装飾基板３１２８と、裏前下ロゴ装飾体３１６７を発光装飾させるための裏前下ロゴ装飾基板３１７３と、裏前下中装飾体３１６１を発光装飾させるための裏前下中装飾基板３１６８と、裏前下左内装飾体３１６３を発光装飾させるための裏前下左内装飾基板３１６９と、裏前下左外装飾体３１６４を発光装飾させるための裏前下左外装飾基板３１７０と、裏前下右内装飾体３１６５を発光装飾させるための裏前下右内装飾基板３１７１と、裏前下右外装飾体３１６６を発光装飾させるための裏前下右外装飾基板３１７２と、裏前右ロゴ装飾部３１４１を発光装飾させるための裏前右下装飾基板３１５２と、裏前右上ロゴ装飾部３１４２を発光装飾させるための裏前右上装飾基板３１５１と、には、表面に、白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされるとともに、実装されるＬＥＤ等の電子部品や他の装飾基板との混同を避けるための文字や記号が、明度や彩度の高い色（例えば、黄色

）のインクを用いてスクリーン印刷により施されている。換言すると、遊技盤５に設けられて虹色演出で発光制御されるＬＥＤを実装する複数の装飾基板には表面に、反射効率の最も高い色である白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされるとともに、実装されるＬＥＤ等の電子部品や他の装飾基板との混同を避けるための文字や記号が、明度や彩度の高い色（例えば、黄色）のインクを用いてスクリーン印刷により施されている。

【３８０２】

また、扉枠３に設けられて虹色演出で発光制御されるＬＥＤを実装する複数の装飾基板、すなわち、扉枠トップユニット４５０の扉枠トップ中央装飾基板４５５と、扉枠トップ左装飾基板４５６と、扉枠トップ右装飾基板４５７と、扉枠左サイドユニット４２０の扉枠左サイド上装飾基板４２２と、扉枠左サイドユニット４２０の扉枠左サイド下装飾基板４２３と、皿左装飾レンズ２７２の後側に設けられる皿左装飾基板２７３と、扉枠右サイドユニット４３０の扉枠右サイド下装飾基板４３３と、皿右装飾レンズ２７７の後側に設けられる皿右装飾基板２７８と、扉枠右サイドユニット４３０の扉枠右サイド上装飾基板４３２と、には、表面に、白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされるとともに、実装されるＬＥＤ等の電子部品や他の装飾基板との混同を避けるための文字や記号が、明度や彩度の高い色（例えば、黄色）のインクを用いてスクリーン印刷により施されている。換言すると、扉枠３に設けられて虹色演出で発光制御されるＬＥＤを実装する複数の装飾基板には表面に、反射効率の最も高い色である白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされるとともに、実装されるＬＥＤ等の電子部品や他の装飾基板との混同を避けるための文字や記号が、明度や彩度の高い色（例えば、黄色）のインクを用いてスクリーン印刷により施されている。

【３８０３】

また、裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部が左右に並んでいる裏後上第一装飾部３２１１を発光装飾させるためのＬＥＤが実装される裏後上第一装飾基板（図示しない）にも、表面に、白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされるとともに、実装されるＬＥＤ等の電子部品や他の装飾基板との混同を避けるための文字や記号が、明度や彩度の高い色（例えば、黄色）のインクを用いてスクリーン印刷により施されている。ただし、上記遊技盤５や扉枠３に設けられて虹色演出で発光制御されるＬＥＤを実装する複数の装飾基板には、フルカラーＬＥＤが実装されているのに対し、裏後上第一装飾基板には単色発光（この例では赤色）のＬＥＤが実装されている。そのため、遊技盤５や扉枠３に設けられる基板に実装されるＬＥＤを発光装飾して虹色演出が実行されても、裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部では発光色を変更されずに、同一（本例では赤色）の発光色で五つの７セグメント表示部に文字や数字、絵柄、等を表示させる演出を実行するだけとなっている。つまり、文字や数字、絵柄、等を表示させる裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部においては虹色演出が実行されても発光色を変更しないことで表示される文字や数字、絵柄、等の情報を遊技者が見やすい状態で表示するようになっており、遊技者に誤った情報が伝わることが抑制される。

【３８０４】

このように、本例ではＬＥＤの実装されている装飾基板のＬＥＤ実装面に白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされて反射効率を高めるように構成されているため、複数のフルカラーで発光可能なＬＥＤを多種多様な色で発光させた場合でも全ての光を均一に反射させて鮮やかに発色させることが可能になり、遊技盤５に設けられる裏前左上ロゴ装飾部３１２２と、裏前左ロゴ装飾部３１２１と、裏前左上ロゴ装飾部３１２２と、裏前左サブ装飾部３１２３と、裏前下ロゴ装飾体３１６７と、裏前下中装飾体３１６１と、裏前下左内装飾体３１６３と、裏前下左外装飾体３１６４と、裏前下右内装飾体３１６５と、裏前下右外装飾体３１６６と、裏前右ロゴ装飾部３１４１と、裏前右上ロゴ装飾部３１４２と、のそれぞれをより明るく発光装飾させることができるとともに、扉枠３に設けられる扉枠トップユニット４５０と、扉枠左サイドユニット４２０と、扉枠左サイドユニット４２０と、皿左装飾レンズ２７２と、扉枠右サイドユニット４３０と、皿右装飾レンズ２７７と、扉枠右サイドユニット４３０と、のそれぞれをより明るく、そして鮮やか

に（クリアに）発光装飾することができ、演出効果が高まる。また、単色（本例では赤色）でのみ発光する裏後上第一装飾部３２１１の五つの７セグメント表示部についても、より明るく、そして鮮やかに発光装飾することができ、演出効果が高まる。

【３８０５】

また、実装されるＬＥＤ等の電子部品や他の装飾基板との混同を避けるための文字や記号が、明度や彩度の高い色（例えば、黄色）のインクを用いてスクリーン印刷により施されることにより、白色のソルダーレジスト（保護材）とスクリーン印刷される文字や記号との反射効率を近づけて基板表面における反射効率を均一に近い状態にすることが可能であるため、複数のフルカラーで発光可能なＬＥＤを多種多様な色で発光させた場合でも全ての光を均一に反射させることができ、発光装飾における発光ムラの発生が抑制されて演出効果が高まる。また、白色のソルダーレジスト（保護材）とスクリーン印刷される文字や記号とのコントラストを小さくすることができるため、ＬＥＤが発光しているか否かを問わず装飾基板を覆うレンズを通して見た場合に装飾基板の表面にスクリーン印刷される文字や記号が目立ち難くなり、遊技者がこれらの装飾基板のＬＥＤ実装面を直視するような状況となった場合に遊技と無関係の情報を視認して遊技興趣が低下することを抑制できる。また、文字や記号が黒色等の明度や彩度の低い色（暗色）のインクを用いてスクリーン印刷により施される従来の装飾基板では装飾基板を覆うレンズを通して見た場合に文字や記号をはっきりと見えなくてもレンズ自体が黒ずんで見えることで見栄えが悪くなるおそれがあるが、明度や彩度の高い色のインクを用いて文字や記号をスクリーン印刷により施すことでレンズが明るく見えるようになり、見栄えを低下させないという効果も奏する。なお、明度や彩度の高い色としては白色と最も反射効率が近い黄色を用いることが望ましいが、黄緑色や、水色等、明度や彩度の低い色（暗色、黒色や茶色等）以外であれば上記した効果を奏することが可能である。

【３８０６】

なお、上記した例では虹色演出で発光制御されるＬＥＤを実装する複数の装飾基板全てが、表面に白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされるものを示したが、これに限られるものではなく、虹色演出で発光制御されるＬＥＤを実装する複数の装飾基板のうちの一部の装飾基板については表面に白色以外（例えば緑色や黒色）のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされるものであってもよいし、虹色演出で発光制御されるＬＥＤを実装する複数の装飾基板のうちの全て若しくは一部の装飾基板についてはＬＥＤを実装している表面にのみ白色のソルダーレジスト（保護材）でコーティングし、ＬＥＤを実装していない裏面には白色以外（例えば緑色や黒色等）のソルダーレジスト（保護材）でコーティングするようにしてもよい。

【３８０７】

また、実装されるＬＥＤ等の電子部品や他の装飾基板との混同を避けるための文字や記号についても明度や彩度の高い色（例えば、黄色）のインクを用いてスクリーン印刷によりＬＥＤ実装面に施されるものに限らず、虹色演出で発光制御されるＬＥＤを実装する複数の装飾基板のうちの一部の装飾基板については明度や彩度の低い色（例えば、黒色等）のインクを用いてＬＥＤ実装面にスクリーン印刷により施すようにしてもよいし、虹色演出で発光制御されるＬＥＤを実装する複数の装飾基板のうちの全て若しくは一部の装飾基板については実装されるＬＥＤ等の電子部品や他の装飾基板との混同を避けるための文字や記号を箔抜き文字（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで文字を作りその周囲の銅箔を抜いて形成される抜き文字）で形成してこの箔抜き文字の表面をＬＥＤの実装面にコーティングされる白色のソルダーレジスト（保護材）でコーティングするようにしてもよいし、虹色演出で発光制御されるＬＥＤを実装する複数の装飾基板のうちの一部の装飾基板については２度塗りの白色のレジストを利用した白色レジスト抜き文字として形成する（ＬＥＤ実装面の全体を白色のソルダーレジストでコーティングした後（第１層）、実装されるＬＥＤ等の電子部品や他の装飾基板との混同を避けるための文字や記号をマスク処理してこれらを除く領域の全体を白色のソルダーレジストで再びコーティングする（第２層）ことで、マスク処理した領域、すなわ

ち文字や記号を白色レジスト抜き文字として形成する）ようにしてもよいし、虹色演出で発光制御されるＬＥＤを実装する複数の装飾基板のうちの全て若しくは一部の装飾基板についてはＬＥＤを実装している表面に明度や彩度の高い色（例えば、黄色）のインクを用いて文字や記号をスクリーン印刷する以外の手段、例えばＬＥＤを実装していない裏面に、所定色（明度や彩度の高い色に限らず明度や彩度の低い色も含む）のインクを用いてスクリーン印刷により施したり、箔抜き文字で形成したり、２度塗りの白色のレジストを利用した白色レジスト抜き文字として形成したりすること等によって装飾基板に実装されるＬＥＤ等の電子部品や他の装飾基板との混同を避けるようにしてもよい。これらの場合にもＬＥＤを実装している表面における反射効率の低下を抑制でき、さらにＬＥＤ実装面における反射効率を略均一にして均一な発光を実現できるため、演出効果を高めることが可能である。

【３８０８】

上記装飾基板に実装されるＬＥＤは、そのパッケージの色が白色、又は白色に近い色（例えば、アイボリー色、ベージュ色、クリーム色）を有する電子部品であり、これら装飾基板のＬＥＤ実装面にはパッケージ化されたＬＥＤのみが実装され、他の電子部品は実装されないようになっている。このように本例のパチンコ機１ではＬＥＤのパッケージによっても反射効率の低下を抑止してＬＥＤ実装面における均一な発光を実現できるようになっている。また、ＬＥＤ非実装面には装飾基板に電気配線を接続するためのコネクタのほかに、抵抗、コンデンサ、複数のＬＥＤの発光を制御する回路（例えば、定電流駆動回路）等の電子部品が一つ乃至複数実装されている場合がある。また、コネクタは、そのハウジングの色が白色、又は白色に近い色（例えば、アイボリー色、ベージュ色、クリーム色）を有する電子部品であり、定電流駆動回路は、集積化された回路として黒色を有す得るＩＣパッケージに収容され表面実装タイプ（ＳＭＤタイプ）のＬＥＤドライバＩＣである電子部品であり、抵抗は、黒色、青色、又は白色等を有する表面実装タイプ（ＳＭＤタイプ）の電子部品（チップ部品、ＳＭＤ（Ｓｕｒｆａｃｅ　Ｍｏｕｎｔ　ＤｅｖＩＣｅ））であり、コンデンサは、黒色、茶色、灰色、又は白色等を有する表面実装タイプ（ＳＭＤタイプ）の電子部品である。なお、上記した装飾基板においては少なくとも黒色、茶色、灰色等の明度や彩度の低い色を有する電子部品についてＬＥＤ実装面に実装することなくＬＥＤ非実装面に実装するものであればよく、白色、又は白色に近い色（例えば、アイボリー色、ベージュ色、クリーム色）等の明度や彩度の高い色を有する電子部品についてはＬＥＤ実装面に実装してもよい。これにより、装飾基板を覆うレンズを通して見た場合に装飾基板の表面に実装される電子部品が目立ちくくなるし、ＬＥＤ実装面における反射効率の低下を抑制して反射効率を略均一にすることができるため、高効率で均一な発光を実現して演出効果を高めることができる。

【３８０９】

本例では変動演出として虹色演出を実行する場合にも光量調節ボタン２２８の操作を受け付けるとともに、光量調節ボタン２２８が操作されたタイミングで扉枠３や遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤの光量を変更（調節）することができるようになっている。具体的には、光量調節ボタン２２８の二つのボタンのうち「＋」の文字が付されたボタンを押圧すると即座に扉枠３や遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤが明るく（光量を強める）なり、「－」の文字が付されたボタンを押圧すると即座に扉枠３や遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤが暗く（光量を弱める）なるようになっている。

【３８１０】

図２８６に示すように虹色演出を実行する変動演出の実行中に光量調節ボタン２２８が操作されると、ＬＥＤが消灯状態にあるか否かにかかわらず第１盤発光グループ～第６盤発光グループの複数のＬＥＤと、枠発光グループＡ～枠発光グループＦの複数のＬＥＤと、の虹色演出の発光装飾（虹色発光ともいう）を行うＬＥＤの光量を直ぐに変更し、変更後の光量で第１盤発光グループ～第６盤発光グループの複数のＬＥＤと、枠発光グループＡ～枠発光グループＦの複数のＬＥＤと、を発光制御する。本例ではボタン操作促進演出

の実行中に第１盤発光グループ～第６盤発光グループの複数のＬＥＤと、枠発光グループＡ～枠発光グループＣ、及び枠発光グループＥ～枠発光グループＦの複数のＬＥＤと、を消灯状態に制御するものの、枠発光グループＤの複数のＬＥＤ（演出操作ユニット３００の演出操作部外周装飾基板３２０に実装されている複数のＬＥＤ３２０ａ、円環状のボタン外装飾基板３５５に実装されている複数のＬＥＤ３５５ａ、ボタン中装飾基板３６４のＬＥＤ３６４ａ）については点灯状態とされて、遊技者が光量調節ボタン２２８を操作した場合に演出操作ユニット３００の演出操作部外周装飾基板３２０に実装されている複数のＬＥＤ３２０ａ、円環状のボタン外装飾基板３５５に実装されている複数のＬＥＤ３５５ａ、ボタン中装飾基板３６４のＬＥＤ３６４ａが変更後の光量で直ぐに発光制御されるため、演出操作ユニット３００の演出操作部外周装飾基板３２０に実装されている複数のＬＥＤ３２０ａ、円環状のボタン外装飾基板３５５に実装されている複数のＬＥＤ３５５ａ、ボタン中装飾基板３６４のＬＥＤ３６４ａの光量の変化を見ながら第１盤発光グループ～第６盤発光グループの複数のＬＥＤと、枠発光グループＡ～枠発光グループＦの複数のＬＥＤと、の全てのＬＥＤの光量を調節することができる。

【３８１１】

一方、遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のうち裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部が左右に並んでいる裏後上第一装飾部３２１１に設けられる裏後上第一装飾基板に実装されて虹色演出の発光装飾を行わないＬＥＤについては、虹色演出を実行する変動演出の実行中に光量調節ボタン２２８を操作しても光量が変更（調節）されないようになっている（光量が固定されている）。このように、虹色演出を実行する変動演出の実行中に裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部が左右に並んでいる裏後上第一装飾部３２１１に設けられる裏後上第一装飾基板に実装されるＬＥＤの光量（輝度）を変更（調節）不可能とされて光量調節ボタン２２８の操作の有無に関わらず光量（輝度）が一定となっているため、第１盤発光グループ～第６盤発光グループの複数のＬＥＤと、枠発光グループＡ～枠発光グループＦの複数のＬＥＤと、の光量を変更する際の基準として用いることができ、これらのＬＥＤの輝度と裏後上第一装飾部３２１１に設けられる裏後上第一装飾基板に実装されるＬＥＤの輝度との差が明確になり、遊技者好みの輝度に調節することが容易になる。なお、裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部が左右に並んでいる裏後上第一装飾部３２１１に設けられる裏後上第一装飾基板に実装されるＬＥＤについては虹色演出を実行する変動演出の実行中であるか否かにかかわらず、光量調節ボタン２２８を操作しても常に光量を変更（調節）不可能としてもよい。

【３８１２】

また、本例では光量（輝度）の調節が不可能とされて虹色演出の発光装飾を行わないＬＥＤが実装される裏後上第一装飾基板が設けられる裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部が左右に並んでいる裏後上第一装飾部３２１１の周囲に、扉枠３に設けられている枠発光グループＡ～枠発光グループＦに属しているＬＥＤ（ＬＥＤを実装する装飾基板）と、遊技盤５に設けられている第１盤発光グループ～第６盤発光グループに属しているＬＥＤ（ＬＥＤを実装する装飾基板）と、の光量（輝度）の調節が可能とされているＬＥＤが設けられている。このように、光量（輝度）調節の基準となるＬＥＤと光量（輝度）を変更するＬＥＤとが近くに配置されているため、光量（輝度）の対比が容易となり、遊技者の好みの光量（輝度）に調節し易くなる。

【３８１３】

上記したように、本例のパチンコ機１は大当りとなる蓋然性が高い場合に虹色演出を実行するものであるが、遊技機の状態によっては虹色演出を適正に実施できない状況もある。このような場合では虹色演出による興趣向上効果を見込めないばかりか、却って遊技興趣を低下させるおそれがある。

【３８１４】

例えば、演出表示装置１６００における虹色演出表示態様の表示が困難とされる異常（演出表示装置１６００のバックライトのＬＥＤ（一部でも全部でもよい）が発光されない

異常やノイズ等により表示が乱れる異常等）が発生している場合や、扉枠３や遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤの虹色演出の発光制御が困難とされる異常（扉枠３や遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤ（一部でも全部でもよい）が発光されない異常やノイズ等により発光態様が乱れる異常等）が発生している場合等では、演出表示装置１６００による表示と扉枠３や遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤによる発光とを用いた設計通りの完全な形で虹色演出を実現できず、演出表示装置１６００による表示と扉枠３や遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤによる発光とのうちの一部が欠けた不完全な虹色演出が実行されることになる。

【３８１５】

このような不完全な虹色演出が実行されることにより、本来の虹色演出による興趣向上効果が望めないばかりか、虹色演出とは異なる演出が実行されていると遊技者に認識されてしまい、誤解を招くおそれもある。本例ではこのような誤解を遊技者に極力与えないようになっている。図２８７を参照して説明する。

【３８１６】

本例のパチンコ機１では虹色演出を実行中のタイミングｔ６で演出表示装置１６００における虹色演出表示態様の表示が困難とされる異常と扉枠３に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤの虹色演出の発光制御が困難とされる異常と遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤの虹色演出の発光制御が困難とされる異常とのいずれかの異常が発生した異常状態となった場合に、遊技盤５に設けられる第１盤発光グループ～第６盤発光グループの複数のＬＥＤと、扉枠３に設けられる枠発光グループＡ～枠発光グループＦの複数のＬＥＤと、による虹色演出の発光装飾を終了し、第１盤発光グループ～第６盤発光グループの複数のＬＥＤを消灯状態に発光制御し、枠発光グループＡ～枠発光グループＦの複数のＬＥＤを異常の発生を報知するための異常報知発光態様（本例では最大輝度（光量）で赤色に点滅発光する態様）で発光制御する。

【３８１７】

図２８７に示すように虹色演出を実行する変動演出における虹色演出の開始前のタイミングｔ０～タイミングｔ２のうちの任意のタイミングで演出表示装置１６００における虹色演出表示態様の表示が困難とされる異常と扉枠３に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤの虹色演出の発光制御が困難とされる異常と遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤの虹色演出の発光制御が困難とされる異常とのいずれかの異常が発生した異常状態となった場合には、本来であれば虹色演出を開始するタイミングｔ２になっても遊技盤５に設けられる第１盤発光グループ～第６盤発光グループの複数のＬＥＤと、扉枠３に設けられる枠発光グループＡ～枠発光グループＦの複数のＬＥＤと、による虹色演出の発光装飾を開始することなく、第１盤発光グループ～第６盤発光グループの複数のＬＥＤを消灯状態に発光制御し、枠発光グループＡ～枠発光グループＦの複数のＬＥＤを異常の発生を報知するための異常報知発光態様（本例では最大輝度（光量）で赤色に点滅発光する態様）で発光制御する。

【３８１８】

また、虹色演出を実行する変動演出の実行中のタイミングｔ６で上記した異常が発生した場合には、演出表示装置１６００における虹色演出表示態様の表示を消失させて当該異常が発生したことを通知する表示を行う。同様に、虹色演出を実行する変動演出における虹色演出の開始前のタイミングｔ０～タイミングｔ２のうちの任意のタイミングで上記した異常が発生した場合には、演出表示装置１６００における虹色演出表示態様の表示を開始することなく当該異常が発生したことを通知する表示を行う。なお、虹色演出表示態様の一部について実行しないようにしてもよく、この場合であっても異常が発生したことを通知する表示によって異常が発生したことを認識させることができる。

【３８１９】

このように、本例のパチンコ機１では演出表示装置１６００による表示と扉枠３や遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤによる発光とを用いた設計通りの完全な形で虹色演出を実現できない場合には虹色演出を中断又は開始しないように制御するため、

不完全な形で虹色演出が実行されないようにすることが可能になり、遊技者に誤解を与えることを抑止できる。

【３８２０】

なお、裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部が左右に並んでいる裏後上第一装飾部３２１１に設けられる裏後上第一装飾基板に実装されるＬＥＤについては虹色演出を実行する変動演出の実行中に異常状態が発生しても、消灯状態や異常報知発光態様に制御することなく当該虹色演出を実行する変動演出に対応する発光制御を継続するようにしてもよい。この場合には、異常状態の発生によって遊技盤５に設けられる第１盤発光グループ～第６盤発光グループの複数のＬＥＤと、扉枠３に設けられる枠発光グループＡ～枠発光グループＦの複数のＬＥＤと、による虹色演出の発光装飾が終了又は開始されなかったり、枠発光グループＡ～枠発光グループＦの複数のＬＥＤが異常報知発光態様で発光制御されていても、変動演出が継続していることを遊技者に認識させることができ、遊技者に変動演出が終了したという誤解を与えない。

【３８２１】

また、異常状態の種類（緊急性の度合い）に応じて裏後上第一装飾部３２１１を消灯するか否かを異ならせるようにしてもよく、例えば遊技や虹色演出の実行に対する影響が小さいエラー（軽微なエラー：本体枠４に対する扉枠３の開放を検出した場合（扉枠３の開放によって扉枠３に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤによる発光を視認し難い状態となった場合）、図示しない振動センサが所定期間（例えば３０秒）継続して遊技盤５の振動を検出した場合（パチンコ機１を叩く等の行為が行われていることを検出した場合、パチンコ機１が振動することによって扉枠３や遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤによる発光や演出表示装置１６００の表示がぶれて視認し難い状態となっている場合）、満タン検知センサ１５４からの検出信号が入力された場合（下皿２０２が遊技球で満タンになっていることを検出した場合）、球切検知センサ５７４からの検出信号が入力された場合（誘導通路５７０ａ内に遊技球が存在していないことを検出した場合等のゴト行為が行われている可能性の低いエラー）については裏後上第一装飾部３２１１に設けられる裏後上第一装飾基板に実装されるＬＥＤを消灯することなく発光制御する一方、遊技や虹色演出の実行に重大な影響を与えるエラー（重大なエラー：電波照射ゴトを検出したとき（電磁波等によって扉枠３や遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤによる発光にノイズが入ったり演出表示装置１６００の表示にノイズが入っている場合）、磁石ゴトを検出したとき、第二始動口２００４が開放していない場合に第二始動口センサ２４０１からの検出信号が入力されたとき、大当り遊技状態や小当り遊技状態でない場合に大入賞口センサ２４０２からの検出信号が入力されたとき等のゴト行為の行われている可能性の高いエラー）については裏後上第一装飾部３２１１を消灯させるように制御することで、変動演出の実行中であっても当該変動演出を中断又は終了させるようにしてもよい。これにより、エラーの程度に応じて裏後上第一装飾部３２１１の制御状態を異ならせることができ、異常の発生の判別が可能になる。

【３８２２】

また、異常状態の種類（緊急性の度合い）に応じて演出表示装置１６００における虹色演出表示態様の表示を消失させるか否かを異ならせるようにしてもよく、例えば上記した遊技や虹色演出の実行に対する影響が小さいエラーについては演出表示装置１６００における虹色演出表示態様の表示を消失させることなく、当該虹色演出表示態様に一部が重なるように警告表示（例えば「扉開放中」等）を行う一方、上記した遊技や虹色演出の実行に重大な影響を与えるエラーについては演出表示装置１６００における虹色演出表示態様の表示を消失させて警告表示（例えば「不正入賞発生！」等）のみを行うことで、虹色演出の実行中であっても当該虹色演出の表示（虹色演出表示態様）を中断又は終了させるようにしてもよい。これにより、エラーの程度に応じて演出表示装置１６００の表示態様を異ならせることができ、異常の発生の判別が可能になる。なお、上記した遊技や虹色演出の実行に重大な影響を与えるエラーについて裏後上第一装飾部３２１１を消灯させるように制御するとともに演出表示装置１６００における虹色演出表示態様の表示を消失させる

ように制御する場合には、裏後上第一装飾部３２１１を消灯させるタイミングよりも所定期間遅れたタイミングで演出表示装置１６００における虹色演出表示態様等の演出表示を終了するようにしてもよい。この場合には、演出表示装置１６００において表示内容が急に切り替えられることを抑止して、虹色演出表示態様等の演出表示の余韻を残した状態で表示内容を切り替えることができる。

【３８２３】

また異常状態となった場合に異常状態（緊急性の度合い）の種類に応じて、演出表示装置１６００での異常状態となっていることを通知する表示と、扉枠３に設けられているＬＥＤをエラー時の態様で発光制御することによる通知と、音声出力による異常状態が発生していることの通知と、のうちいずれか１つ若しくは、２つ以上（全部を含む）の任意の組合せを実行するようにしてもよい。例えば遊技に対する影響が小さい軽微なエラーが発生した場合には演出表示装置１６００での異常状態となっていることを通知する表示と、扉枠３に設けられているＬＥＤをエラー時の態様で発光制御することによる通知と、音声出力による異常状態が発生していることの通知と、のうちいずれか１つ又は任意の２つの組合せを実行し、遊技に重大な影響を与える重大なエラーが発生した場合には演出表示装置１６００での異常状態となっていることを通知する表示と、扉枠３に設けられているＬＥＤをエラー時の態様で発光制御することによる通知と、音声出力による異常状態が発生していることの通知と、の全てを実行するようにしてもよい。

【３８２４】

また、本例では虹色演出を実行する変動演出において虹色演出の実行中（タイミングｔ６）や虹色演出の開始前（タイミングｔ０～タイミングｔ２のうちの任意のタイミング）に異常が発生し、当該虹色演出の実行中（当該虹色演出が終了する以前）に異常が解消して異常状態から正常状態に復帰した場合に、枠発光グループＡ～枠発光グループＦの複数のＬＥＤによる異常報知発光態様を終了するものの、遊技盤５に設けられる第１盤発光グループ～第６盤発光グループの複数のＬＥＤと、扉枠３に設けられる枠発光グループＡ～枠発光グループＦの複数のＬＥＤと、による虹色演出の発光装飾を実行しない（虹色演出の発光装飾を再開しない（虹色演出の発光装飾に復帰しない））。

【３８２５】

すなわち、扉枠３や遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤがノイズ等により発光態様が乱れる異常が発生したことで虹色演出の発光装飾を終了したり、虹色演出の発光装飾を開始しなかった場合に、一旦異常が解消したと判断した場合であっても再びノイズが発生する場合も考えられる。このような場合に異常の解消に応じて虹色演出の発光装飾を再開するように制御すると、虹色演出の発光装飾の実行と終了とが繰り返し行われてしまうおそれがあり、遊技者を混乱させるおそれがある。そのため、本例では異常が発生したことに基づいて虹色演出を終了したり、虹色演出を開始しなかった場合には、虹色演出の実行期間中に当該異常が解消されても虹色演出の発光装飾を実行又は再開しないようにしている。

【３８２６】

例えば、図２８７に示すように虹色演出を実行する変動演出において虹色演出の実行中のタイミングｔ６においてノイズ等により遊技盤５に設けられる第１盤発光グループ～第６盤発光グループの複数のＬＥＤのうちいずれかのＬＥＤによる虹色演出の発光制御が困難な異常が発生した場合に（タイミングｔ６）、遊技盤５に設けられる第１盤発光グループ～第６盤発光グループの複数のＬＥＤと、扉枠３に設けられる枠発光グループＡ～枠発光グループＦの複数のＬＥＤと、による虹色演出の発光装飾を終了し、第１盤発光グループ～第６盤発光グループの複数のＬＥＤを消灯状態に発光制御し、枠発光グループＡ～枠発光グループＦの複数のＬＥＤを最大輝度（光量）で赤色に点滅発光させる異常報知発光態様で発光制御する。

【３８２７】

このとき、演出表示装置１６００では虹色演出表示態様の表示を消失させて警告表示（「異常発生」等）を行うものの、当該虹色演出表示態様の制御データはスケジューラに沿

って更新されるようになっている。また、裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部が左右に並んでいる裏後上第一装飾部３２１１に設けられる裏後上第一装飾基板に実装されるＬＥＤは虹色演出の発光装飾を実行しないものの、虹色演出を実行する変動演出に対応する発光制御を継続するようになっており、演出表示装置１６００における虹色演出表示態様の表示が消失されても変動演出が継続していることを遊技者に認識させることができるようになっている。また、上記した異常状態では警告音が出力されるようになっており、遊技者や遊技店員が警告音を聴取することで異常状態が発生していることを認識できるようになっている。

【３８２８】

また、異常状態となった後のタイミングｔ１０においてノイズ等が解消されて遊技盤５に設けられる第１盤発光グループ～第６盤発光グループの複数のＬＥＤの虹色演出の発光制御が可能な状態に復帰すると（タイミングｔ１０）、演出表示装置１６００では警告表示を終了して虹色演出表示態様の表示を再開させる。上記したように、異常状態の発生中にも虹色演出表示態様の制御データがスケジューラに沿って更新されるようになっており、変動演出開始後の経過時間に応じた態様で演出表示装置１６００における虹色演出表示態様を表示するようになっており、ノイズ等により遊技盤５に設けられる第１盤発光グループ～第６盤発光グループの複数のＬＥＤのうちいずれかのＬＥＤによる虹色演出の発光制御が困難な異常が発生したタイミングｔ６で表示していた虹色演出表示態様ではなく、ノイズ等が解消されて異常状態から復帰したタイミングｔ１０に応じた虹色演出表示態様を表示させる。

【３８２９】

また、本例ではタイミングｔ１０において異常が解消しても一定期間（例えば３０秒）は枠発光グループＡ～枠発光グループＦの複数のＬＥＤを最大輝度（光量）で赤色に点滅発光させる異常報知発光態様を継続するようになっている（タイミングｔ１０～タイミングｔ１１）。つまり、異常が解消した後（タイミングｔ１０）、一定期間が経過する以前に再び異常が発生すると、一定期間が経過したタイミングで異常報知発光態様を終了させることなく一定期間が経過した後にも異常報知発光態様を継続するようになっている。これにより、異常の発生と解消とが頻発する場合にその都度異常報知発光態様での発光制御の終了と再開とを繰り返すことなく、連続して異常報知発光態様に発光制御することで遊技店員等が気づきやすくなる。

【３８３０】

また、タイミングｔ６で異常が発生した場合に遊技盤５に設けられる第１盤発光グループ～第６盤発光グループの複数のＬＥＤを消灯した後（タイミングｔ６）、タイミングｔ１０で異常が解消しても遊技盤５に設けられる第１盤発光グループ～第６盤発光グループの複数のＬＥＤについては消灯した状態を継続し、虹色演出の発光装飾に復帰しない（タイミングｔ１０～タイミングｔ１００）。

【３８３１】

同様に、タイミングｔ６で異常が発生した場合に扉枠３に設けられる枠発光グループＡ～枠発光グループＦの複数のＬＥＤを異常報知発光態様で発光制御した後（タイミングｔ６）、タイミングｔ１０で異常が解消して再び異常が発生することなく一定期間が経過した場合には、扉枠３に設けられる枠発光グループＡ～枠発光グループＦの複数のＬＥＤを消灯状態に制御し、虹色演出の発光装飾に復帰しない（タイミングｔ１０～タイミングｔ１００）。

【３８３２】

そして、タイミングｔ１００で虹色演出が終了するとともにリーチ演出が開始されると、遊技盤５に設けられる第１盤発光グループ～第６盤発光グループの複数のＬＥＤと、扉枠３に設けられる枠発光グループＡ～枠発光グループＦの複数のＬＥＤと、の発光制御を実行してリーチ演出に応じた態様で発光させる。このように、本例のパチンコ機１では虹色演出の実行中に異常が解消されても虹色演出の発光装飾に復帰させないため、虹色演出の実行中に異常が発生したか否かを判別可能である。なお、虹色演出の開始以前に異常が

発生して当該異常が虹色演出の開始以前に解消された場合には、虹色演出を開始させるタイミングｔ２で虹色演出の発光装飾を開始するようにしてもよい。

【３８３３】

また、異常が解消されたタイミングｔ１０ではなく、虹色演出の終了したタイミングｔ１００（虹色演出の次に実行される演出（本例ではリーチ演出）を開始するタイミング）で遊技盤５に設けられる第１盤発光グループ～第６盤発光グループの複数のＬＥＤと扉枠３に設けられる枠発光グループＡ～枠発光グループＦの複数のＬＥＤとの発光制御を開始するものに限らず（タイミングｔ１００で発光制御を開始するものに限らず）、虹色演出を実行する変動演出を終了した場合や、虹色演出を実行する変動演出を終了して次の変動演出が開始される場合、虹色演出を実行する変動演出が終了した後に次の変動演出が開始されることなくデモ演出が開始される場合、等であってもよい。この場合でも虹色演出の実行中や当該変動演出の実行中に異常が発生したことを判別できる。

【３８３４】

また、虹色演出を実行する変動演出の終了後に異常が解消された場合に当該異常が解消されたタイミングで遊技盤５に設けられる第１盤発光グループ～第６盤発光グループの複数のＬＥＤと扉枠３に設けられる枠発光グループＡ～枠発光グループＦの複数のＬＥＤとのうち少なくとも遊技盤５に設けられる第１盤発光グループ～第６盤発光グループの複数のＬＥＤの発光制御を開始するようにしてもよく、この場合には異常が発生した変動演出とは異なる変動演出の実行中に異常が解消され、当該異常が解消されたタイミングで虹色演出を実行していれば当該タイミングにおける虹色演出の発光態様に制御するようにしてもよい。

【３８３５】

また、異常が解消された場合に一部のＬＥＤについては虹色演出の発光装飾に復帰させるようにしてもよい。例えば、異常が解消された場合に遊技盤５に設けられる第１盤発光グループ～第６盤発光グループの複数のＬＥＤのうち第４盤発光グループの複数のＬＥＤを虹色演出の発光装飾に復帰させ、異常が解消されて一定期間が経過した場合に扉枠３に設けられる枠発光グループＡ～枠発光グループＦの複数のＬＥＤのうち枠発光グループＡを虹色演出の発光装飾に復帰させるようにしてもよい。この場合には、異常状態の発生中に発光制御されないものの発光制御パターンのスケジュールデータを進行させ、異常が発生したタイミングでの発光態様ではなく、異常が解消されたタイミングでの発光態様から再開されるようになる。このように、異常が解消された場合に一部のＬＥＤについては虹色演出の発光装飾に復帰させ、他のＬＥＤについては消灯状態とした場合には、一部のＬＥＤについてしか虹色演出の発光装飾が行われていないことにより虹色演出の実行中に異常が発生したことを判別可能になる。

【３８３６】

また、本例では異常状態中でも光量調節ボタン２２８の操作を受け付けて第１盤発光グループ～第６盤発光グループの複数のＬＥＤと、枠発光グループＡ～枠発光グループＦの複数のＬＥＤと、の光量（輝度）の設定値を変更することができるようになっている。

【３８３７】

ただし、異常が発生していない正常な状態では光量調節ボタン２２８の操作を受け付けたタイミングで第１盤発光グループ～第６盤発光グループの複数のＬＥＤと、枠発光グループＡ～枠発光グループＦの複数のＬＥＤと、の光量（輝度）を直ぐに変更し、変更後の光量（輝度）で第１盤発光グループ～第６盤発光グループの複数のＬＥＤと、枠発光グループＡ～枠発光グループＦの複数のＬＥＤと、を発光制御するのに対し、異常が発生している状態では光量調節ボタン２２８の操作を受け付けたタイミングで第１盤発光グループ～第６盤発光グループの複数のＬＥＤと、枠発光グループＡ～枠発光グループＦの複数のＬＥＤと、の光量（輝度）の設定値を変更するものの、当該操作を受け付けたタイミングで第１盤発光グループ～第６盤発光グループの複数のＬＥＤと、枠発光グループＡ～枠発光グループＦの複数のＬＥＤと、を変更後の光量（輝度）に発光されることなく、異常の解消後、具体的には第１盤発光グループ～第６盤発光グループの複数のＬＥＤについては

扉枠３が閉鎖されて異常が解消されたタイミングｔ１０以降に変更後の光量（輝度）で発光できるように発光制御され、枠発光グループＡ～枠発光グループＦの複数のＬＥＤについては扉枠３が閉鎖されて異常が解消されて一定期間が経過したタイミングｔ１１以降に変更後の光量（輝度）で発光できるように発光制御される。

【３８３８】

このように、異常が発生している状態では光量調節ボタン２２８を操作しても第１盤発光グループ～第６盤発光グループの複数のＬＥＤと、枠発光グループＡ～枠発光グループＦの複数のＬＥＤと、の光量（輝度）が変更されないことで異常報知発光態様が気づかれ難くなることを抑制できる。また、異常が発生している状態であっても光量調節ボタン２２８の操作を受け付けて光量（輝度）の設定値を変更して、異常の解消後に実際のＬＥＤの発光状態に反映させるため、異常の発生している状態であっても遊技者の光量（輝度）調節の機会を奪うことがない。

【３８３９】

なお、本例では遊技盤５に設けられている第１盤発光グループ～第６盤発光グループに属して光量調節が可能な複数のＬＥＤ（以下調光ＬＥＤ群と記載）が実装される複数の装飾基板とは別個に上記７セグメント表示部を発光装飾させる光量調節が不可能な複数のＬＥＤ（以下非調光ＬＥＤ群と記載）が実装される裏後上第一装飾基板を設けるように構成したが、これに限らず第１盤発光グループ～第６盤発光グループに属している複数のＬＥＤが実装される複数の装飾基板のうちいずれかの装飾基板の一部に７セグメント表示部を発光装飾させるためのＬＥＤを実装するようにしてもよい。すなわち、光量調節が可能な複数のＬＥＤ（調光ＬＥＤ群）と光量調節が不可能な複数のＬＥＤ（非調光ＬＥＤ群）とを一枚の装飾基板に実装するようにしてもよい。

【３８４０】

例えば、光量調節が可能な複数のＬＥＤからなる調光ＬＥＤ群と光量調節が不可能な複数のＬＥＤからなる非調光ＬＥＤ群とは、所定の間隔を空けて配置するようにしてもよく、この場合には、調光ＬＥＤ群のうちの隣接するＬＥＤ同士の距離や、非調光ＬＥＤ群のうちの隣接するＬＥＤ同士の距離を、調光ＬＥＤ群と非調光ＬＥＤ群との距離よりも近くなるように配置してもよい。このように構成することで調光ＬＥＤ群と非調光ＬＥＤ群との識別が容易となり、光量調節が可能なＬＥＤと光量調節が不可能なＬＥＤとの輝度の対比が容易となる。

【３８４１】

また、光量調節が可能なＬＥＤ（以下調光ＬＥＤと記載）と光量調節が不可能なＬＥＤ（以下非調光ＬＥＤと記載）とに同一又は酷似する色（本例では白色）の樹脂製のパッケージを採用したり、これに加えて同一種類のパッケージを採用するようにしてもよく、これにより調光ＬＥＤと非調光ＬＥＤとを同様の条件で発光させることができるため、調光ＬＥＤと非調光ＬＥＤとの輝度の対比によって輝度調節後の調光ＬＥＤの輝度と非調光ＬＥＤの輝度との差が明確になり、遊技者好みの輝度に調節することが容易になる。

【３８４２】

また、調光ＬＥＤ群と非調光ＬＥＤ群との間に複数のスルーホールを形成するようにしてもよい。装飾基板の表面のうちスルーホールが形成される領域ではＬＥＤから照射される光が反射されずに装飾基板の裏面（ＬＥＤ非実装面）側に漏れるようになるため、調光ＬＥＤ群と非調光ＬＥＤ群との間にスルーホールを形成することにより、調光ＬＥＤからの光と非調光ＬＥＤからの光との干渉が抑制されてそれぞれのＬＥＤからの光を個別に視認することができるようになり、調光ＬＥＤ群のみからの光に基づいて輝度を調節することができるし、非調光ＬＥＤ群のみによる光を輝度調節の指標として利用することが可能になるため、対比の精度が高まり、遊技者好みの輝度に調節することが容易となる。また、調光ＬＥＤ及び非調光ＬＥＤの外径よりも小さい外径でスルーホールを形成（装飾基板のＬＥＤ実装面（表面、前面）において１つのスルーホールが占める割合（面積）≦１つの調光ＬＥＤ又は１つの非調光ＬＥＤが占める割合（面積））することで、調光ＬＥＤ及び非調光ＬＥＤの光を必要以上にスルーホールから装飾基板の裏面（ＬＥＤ非実装面）に

漏れさせることを抑止するようにしてもよい。この場合には調光ＬＥＤと非調光ＬＥＤとの間に形成されるスルーホールの個数を、当該スルーホールの側方に実装されている調光ＬＥＤの数や非調光ＬＥＤの数よりも多くすることで、調光ＬＥＤと非調光ＬＥＤとのそれぞれから照射される光の反射や干渉の抑制を実現しながらも、必要以上に調光ＬＥＤ及び非調光ＬＥＤの輝度を低下させないようにするようにしてもよい。

【３８４３】

また、装飾基板のＬＥＤ実装面（前面、表面）において、調光ＬＥＤ群と非調光ＬＥＤ群との一部又は全部を隔てるような立体物（所定の厚みを有する電子部品や構造体等）を設けることで調光ＬＥＤと非調光ＬＥＤとのそれぞれから照射される光の反射や干渉の抑制を実現するようにしてもよい。例えば、装飾基板のＬＥＤ実装面（前面、表面）において調光ＬＥＤと非調光ＬＥＤとの間に抵抗や、コンデンサや、ダイオード、ＩＣ、ＬＥＤドライバ等の回路基板に実装される電子部品を実装するようにしてもよい。このように所定の厚みを有して、装飾基板のＬＥＤ実装面（前面、表面）から突出するように実装される電子部品を調光ＬＥＤと非調光ＬＥＤと間に設けることで、調光ＬＥＤと非調光ＬＥＤとの一部又は全部を隔てて、調光ＬＥＤと非調光ＬＥＤとのそれぞれから照射される光の反射や干渉を抑制するようにしてもよい。

【３８４４】

また、調光ＬＥＤと非調光ＬＥＤとの間に設けられる電子部品は反射効率の低い暗色（黒色や、灰色、緑色、青色、茶色等）の外観を有するもの（一部に暗色とは異なる部分（例えば銀色等の金属色や透明部分等）を有するものであってもよい）としてもよい。これにより、調光ＬＥＤと非調光ＬＥＤとのそれぞれから照射される光の反射や干渉の抑制効果をさらに高めることができる。

【３８４５】

また、上記した例では非調光ＬＥＤが実装される裏後上第一装飾基板が設けられる裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部が左右に並んでいる裏後上第一装飾部３２１１を、演出表示装置１６００の左右方向の端部に亘る大きさで形成して裏後上第一装飾部３２１１の７セグメント表示部によって表示される文字や数字、絵柄、等を遊技者が気付きやすいものを示したが、裏後上第一装飾部３２１１を例えば一つの７セグメント表示部で形成したり、ＬＥＤが実装される他の装飾基板に比べて小さい装飾基板が設けられるようにする等により、遊技者が気づき難いような演出を実行するようにしてもよい。この場合には７セグメント表示部の存在に気づいた遊技者には演出表示装置１６００等による演出に加えて７セグメント表示部で実行される演出によってさらなる楽しみを与えることができる。また、複数のＬＥＤが実装される一枚の装飾基板の表面を、当該装飾基板を覆う装飾体を発光装飾する複数のＬＥＤが実装される領域と、当該装飾体の一部に設けられる７セグメント表示部を発光装飾する複数のＬＥＤが実装される領域と、に分けて配置するように構成した場合には、装飾基板を覆う装飾体を発光装飾する複数のＬＥＤが実装される領域よりも装飾体の一部に設けられる７セグメント表示部を発光装飾する複数のＬＥＤが実装される領域を狭くするようにしてもよい。

【３８４６】

このように、輝度調節の基準となる非調光ＬＥＤと輝度を変更する調光ＬＥＤとが一枚の装飾基板に実装されて近くに配置されているため、調光ＬＥＤと非調光ＬＥＤと異なる基板に実装する場合に比べて調光ＬＥＤと非調光ＬＥＤとをより近くに配置することが可能になり、調光ＬＥＤと非調光ＬＥＤとの輝度の対比が容易である。

【３８４７】

また、上記した例では虹色演出の発光装飾を行うＬＥＤ、具体的には第１盤発光グループ～第６盤発光グループに含まれるＬＥＤと枠発光グループＡ～枠発光グループＦに含まれるＬＥＤとについて輝度調節を可能とされ、虹色演出の発光装飾を行わないＬＥＤ、具体的には裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部が左右に並んでいる裏後上第一装飾部３２１１を発光装飾するＬＥＤについて輝度調節を不可能とされるものを示したが、扉枠３や遊技盤５に裏後上第一装飾部３２１１を発光装飾するＬＥＤ以外にも虹

色演出の発光装飾を行わない非虹色発光ＬＥＤを１つないし複数設けるようにしてもよい。この非虹色発光ＬＥＤは虹色演出が実行されると消灯された状態に制御されたり、虹色演出の発光装飾とは異なる発光装飾を行うように制御されたりするものであって、虹色演出の発光装飾を行わないが、裏後上第一装飾部３２１１を発光装飾するＬＥＤとは異なり、輝度調節を可能とされている。このように虹色演出の発光装飾を行わない非虹色発光ＬＥＤについても虹色演出の実行中における輝度調節の結果を反映させることができるため、この非虹色発光ＬＥＤについても虹色演出後に実行される発光装飾で遊技者の好みの輝度（光量）で発光させることができる。

【３８４８】

また、上記した調光ＬＥＤが虹色演出の発光装飾を実行している場合には短時間で発光色が切り替わる（チカチカする）ため、これら調光ＬＥＤの光に基づいて正確な光量（輝度）を判別することが困難である。そのため、遊技者の好みの光量（輝度）に調節したつもりでも実際には遊技者の好みの光量（輝度）とは異なる光量（輝度）に設定されてしまうという問題がある。上記したように虹色演出の実行中にも虹色演出の発光装飾を実行しない非虹色発光ＬＥＤを設けて虹色演出の発光装飾とは異なる発光装飾を実行する場合には、扉枠３や遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤの光量（輝度）を調節する場合に非虹色発光ＬＥＤからの光に基づいて正確に光量（輝度）を判別することができるようになり、遊技者の好みの光量（輝度）に容易に調節することができるようになる。

【３８４９】

なお、非虹色発光ＬＥＤの虹色演出の実行中における発光装飾として、少なくとも虹色演出の発光装飾を行うＬＥＤ、具体的には第１盤発光グループ～第６盤発光グループに含まれるＬＥＤと枠発光グループＡ～枠発光グループＦに含まれるＬＥＤ、よりも長い単位発光時間で発光色を切り替えるものや、発光色を切り替えることなく同一の発光色で発光装飾を行うものであればよい。

【３８５０】

また、上記した光量（輝度）の調節が不可能とされて虹色演出の発光装飾を行わない非調光ＬＥＤが実装される裏後上第一装飾基板が設けられる裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部の発光色とは異なる発光色で非虹色発光ＬＥＤ（フルカラーＬＥＤを裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部の発光色とは異なる発光色で発光制御するものであってもよいし、裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部の発光色とは異なる発光色で発光する単色発光のＬＥＤを発光制御するものであってもよい）を発光制御するようにしてもよく、この場合には非虹色発光ＬＥＤと非調光ＬＥＤとのそれぞれの判別が容易となり、光量（輝度）の調節に際して光量（輝度）の比較が容易になるため、遊技者の好みの光量（輝度）に容易に調節することができる。

【３８５１】

なお、上記した例では虹色演出の発光装飾、即ち短時間で発光色を変更する発光装飾、を行わない裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部が左右に並んでいる裏後上第一装飾部３２１１を発光装飾する単色発光のＬＥＤ（非調光ＬＥＤ）が実装される裏後上第一装飾基板の表面にも、最も反射効率の高い白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされるとともに、実装されるＬＥＤ等の電子部品や他の装飾基板との混同を避けるための文字や記号が、明度や彩度の高い色（例えば、黄色などの白色と反射効率の近い色）のインクを用いてスクリーン印刷により施して裏後上第一装飾基板のＬＥＤが実装される表面の反射効率を高めるものを示したが、これに加えて、又はこれに替えてＬＥＤが実装される裏後上第一装飾基板の表面における光の干渉を抑制してＬＥＤ個々の発光を明瞭にしてセグメント表示部に表示される文字や数字、絵柄、等をより明瞭に表示できるようにしてもよい。

【３８５２】

具体的には、図２８８（Ａ）に示すように、裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部が左右に並んでいる裏後上第一装飾部３２１１を発光装飾するＬＥＤが実装される裏後上第一装飾基板と、裏後上第一装飾部３２１１の裏側に設けられており所定の

文字（ここでは、「ＪＡＣＫＰＯＴ」）が列設されている裏後上第二装飾部３２１２を発光装飾するＬＥＤが実装される裏後上第二装飾基板と、を内包する裏後上可動装飾体３２１０を、裏後上第一装飾部３２１１の五つの７セグメント表示部と裏後上第二装飾部３２１２の所定の文字とを除いて透光性を有しない不透明（本例では白色）の樹脂等によって所定の厚み（本例では約１０ｍｍ）で形成する。

【３８５３】

また、図２８８（Ｂ）に示すように、裏後上第一装飾部３２１１の７セグメント表示部には夫々のセグメントに対応する筒状の貫通部が形成され、この貫通部内に１個又は複数個のＬＥＤが配置されるように裏後上第一装飾基板の複数のＬＥＤが実装される表面を区画する。また裏後上第二装飾部３２１２には所定の文字（ここでは、「ＪＡＣＫＰＯＴ」）それぞれに対応する筒状の貫通部が形成され、この貫通部内に１個又は複数個のＬＥＤが配置されるように裏後上第二装飾基板の複数のＬＥＤが実装される表面を区画する。

【３８５４】

また、裏後上可動装飾体３２１０は前後二つの装飾体に分割するように形成され、一方の装飾体の内側を裏後上第一装飾基板の複数のＬＥＤが実装される表面に密着させるとともに他方の装飾体の内側を裏後上第二装飾基板の複数のＬＥＤが実装される表面に密着させた状態で、前後二つに分割されている装飾体を組み付ける（固着する）ことで裏後上可動装飾体３２１０を構成するようになっている。

【３８５５】

これにより、裏後上第一装飾部３２１１の７セグメント表示部における夫々のセグメントに対応する貫通部内に配置するＬＥＤから照射される光が他のセグメントに対応する貫通部内に漏れることを抑制して、７セグメント表示部の複数のセグメントそれぞれから照射される光の干渉を抑制できるため、裏後上第一装飾部３２１１の７セグメント表示部の複数のセグメントそれぞれによって示される情報（文字や数字、絵柄、等）を個々に識別し易くすることができる。また、貫通部内に配置されるＬＥＤからの光を当該貫通部外に漏らすことなく裏後上第一装飾部３２１１の７セグメント表示部における夫々のセグメントから放射させることができるため、貫通部内の光量（輝度）の低下を抑制できる。

【３８５６】

同様に、裏後上第二装飾部３２１２の所定の文字（ここでは、「ＪＡＣＫＰＯＴ」）夫々に対応する貫通部内に配置するＬＥＤから照射される光が他の文字に対応する貫通部内に漏れることを抑制して、所定の文字それぞれから照射される光の干渉を抑制できるため、裏後上第二装飾部３２１２の所定の文字それぞれを個々に識別し易くすることができる。また、貫通部内に配置されるＬＥＤからの光を当該貫通部外に漏らすことなく裏後上第二装飾部３２１２の所定の文字（ここでは、「ＪＡＣＫＰＯＴ」）それぞれから放射させることができるため、貫通部内の光量（輝度）の低下を抑制できる。

【３８５７】

また、上記した裏後上可動装飾体３２１０の構造に加えて、又は上記した裏後上可動装飾体３２１０の構造とは別に（裏後上可動装飾体３２１０の構造を採用することなく）、裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部が左右に並んでいる裏後上第一装飾部３２１１を発光装飾するＬＥＤが実装される裏後上第一装飾基板と、所定の文字（ここでは、「ＪＡＣＫＰＯＴ」）が列設されている裏後上第二装飾部３２１２を発光装飾するＬＥＤが実装される裏後上第二装飾基板と、の複数のＬＥＤが実装される表面に、白色のソルダーレジスト（保護材）に替えて反射効率の低い暗色（黒色や紫色、濃紺色、深緑色等）のソルダーレジスト（保護材）をコーティングするようにしてもよい。この場合、裏後上第一装飾部３２１１を発光装飾するＬＥＤが実装される裏後上第一装飾基板のＬＥＤ実装面と、裏後上第二装飾部３２１２を発光装飾するＬＥＤが実装される裏後上第二装飾基板のＬＥＤ実装面と、における反射効率は低下するものの、それぞれの貫通部の光が干渉することなくそれぞれ独立して発光させることが可能になるため、裏後上第一装飾部３２１１の五つの７セグメント表示部によって示される文字や数字、絵柄、等や、裏後上第二装飾部３２１２の所定の文字を明瞭に表示することができ、これらの情報を遊技者に

正確に伝えることができる。
【３８５８】
なお、裏後上第一装飾部３２１１を発光装飾するＬＥＤが実装される裏後上第一装飾基板のＬＥＤ実装面と、裏後上第二装飾部３２１２を発光装飾するＬＥＤが実装される裏後上第二装飾基板のＬＥＤ実装面と、に暗色のソルダーレジスト（保護材）をコーティングした場合でも、裏後上第一装飾部３２１１を発光装飾するＬＥＤが実装されない裏後上第一装飾基板のＬＥＤ非実装面と、裏後上第二装飾部３２１２を発光装飾するＬＥＤが実装される裏後上第二装飾基板のＬＥＤ非実装面と、には暗色以外（例えば白色や緑色等）のソルダーレジスト（保護材）をコーティングするようにしてもよい。また、裏後上第一装飾部３２１１を発光装飾するＬＥＤが実装される裏後上第一装飾基板のＬＥＤ実装面と、裏後上第二装飾部３２１２を発光装飾するＬＥＤが実装される裏後上第二装飾基板のＬＥＤ実装面と、のうち貫通部の内側領域にのみ白色のソルダーレジスト（保護材）をコーティングしたり、シルク印刷等によって白色塗膜を形成し、貫通部の外側領域に暗色のソルダーレジスト（保護材）をコーティングしたり、シルク印刷等によって暗色塗膜を形成するようにしてもよく、この場合には基板表面の反射効率を低下させて貫通部それぞれからの光の干渉を抑制しつつ、貫通部内に配置されるＬＥＤから照射される光を高い割合で反射させて裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部のそれぞれのセグメントや裏後上第二装飾部３２１２の所定の文字（ここでは、「ＪＡＣＫＰＯＴ」）それぞれを明るく発光装飾させることができる。
【３８５９】
また、裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部のそれぞれのセグメントや裏後上第二装飾部３２１２の所定の文字（ここでは、「ＪＡＣＫＰＯＴ」）それぞれに対応する裏後上可動装飾体３２１０の表面（貫通部の形成される部分）には、透光性を有する半透明（本例では白濁した摺りガラス状）のフィルムや透光性を有する半透明（本例では赤色等）の樹脂等で形成されるカバー体が設けるようにしてもよい。これにより、裏後上第一装飾部３２１１を発光装飾するＬＥＤや裏後上第二装飾部３２１２を発光装飾するＬＥＤからの光が直視されることを抑止し、遊技者に眩しく感じさせないようにすることができる。また、上記フィルムやカバー体を面発光させることで、裏後上第一装飾部３２１１を発光装飾するＬＥＤや裏後上第二装飾部３２１２を発光装飾するＬＥＤが発光したときに光源を目立ち難くすることができる。
【３８６０】
また、裏後上第一装飾部３２１１を発光装飾するＬＥＤが実装される裏後上第一装飾基板のＬＥＤ実装面と、裏後上第二装飾部３２１２を発光装飾するＬＥＤが実装される裏後上第二装飾基板のＬＥＤ実装面と、にも実装されるＬＥＤ等の電子部品や他の装飾基板との混同を避けるための文字や記号が明度や彩度の高い色（例えば、黄色）のインクを用いてスクリーン印刷により施されている。なお、裏後上第一装飾部３２１１を発光装飾するＬＥＤが実装される裏後上第一装飾基板のＬＥＤ実装面と、裏後上第二装飾部３２１２を発光装飾するＬＥＤが実装される裏後上第二装飾基板のＬＥＤ実装面と、の一方又は両方については明度や彩度の低い色（例えば、緑色等）のインクを用いてＬＥＤ実装面にスクリーン印刷により施すようにしてもよいし、実装されるＬＥＤ等の電子部品や他の装飾基板との混同を避けるための文字や記号を箔抜き文字（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで文字を作りその周囲の銅箔を抜いて形成される抜き文字）で形成してこの箔抜き文字の表面をＬＥＤの実装面にコーティングされる暗色のソルダーレジスト（保護材）でコーティングするようにしてもよいし、ＬＥＤ非実装面（裏面）に所定色（明度や彩度の高い色に限らず明度や彩度の低い色も含む）のインクを用いてスクリーン印刷により施すようにしてもよい。この場合にも裏後上第一装飾部３２１１を発光装飾するＬＥＤが実装される裏後上第一装飾基板のＬＥＤ実装面と、裏後上第二装飾部３２１２を発光装飾するＬＥＤが実装される裏後上第二装飾基板のＬＥＤ実装面と、の光の干渉を抑制することができる。
【３８６１】

また、裏後上第一装飾部３２１１を発光装飾するＬＥＤが実装される裏後上第一装飾基板と、裏後上第二装飾部３２１２を発光装飾するＬＥＤが実装される裏後上第二装飾基板と、を裏後上可動装飾体３２１０に強固（取外し困難、溶着等により裏後上可動装飾体３２１０や裏後上第一装飾基板、又は裏後上第二装飾基板の少なくとも一部を破壊しなければ取外しできない不可逆的な取付状態等）に取り付けるようにしてもよく、これにより裏後上第一装飾基板及び裏後上第二装飾基板のＬＥＤ実装面を裏後上可動装飾体３２１０によって保護することができるため、いたずら等によって裏後上第一装飾基板や裏後上第二装飾基板に実装されるＬＥＤに不具合が生じることを抑制できる。

【３８６２】

なお、第１盤発光グループ～第６盤発光グループに属している複数のＬＥＤが実装される複数の装飾基板のうちいずれかの装飾基板の一部に７セグメント表示部を発光装飾させるためのＬＥＤを実装する場合、すなわち、光量調節が可能な複数のＬＥＤ（調光ＬＥＤ群）と光量調節が不可能な複数のＬＥＤ（非調光ＬＥＤ群）とを一枚の装飾基板に実装する場合には、非調光ＬＥＤ群のＬＥＤ実装面に上記貫通部が形成される装飾体を設けるようにしてもよい。この場合には調光ＬＥＤと非調光ＬＥＤとのそれぞれから照射される光の反射や干渉の抑制効果がさらに高まる。

【３８６３】

上記したように裏後上第一装飾部３２１１や裏後上第二装飾部３２１２には文字や数字、絵柄、等の情報が表示されるものであり、遊技演出において重要な情報が表示される等の重要な役割を果たし得るものである。なお、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによって裏後上第一装飾部３２１１を発光装飾させるためのＬＥＤが実装される裏後上第一装飾基板や裏後上第二装飾部３２１２を発光装飾するＬＥＤが実装される裏後上第二装飾基板（一方のみでもよい）を直接制御するようにしてもよく、この場合には主制御基板１３１０からの制御信号に基づいて周辺制御基板１５１０の周辺制御部１５１１が裏後上第一装飾部３２１１や裏後上第二装飾部３２１２を制御する場合に比べて不具合（本来表示する内容とは異なる内容が表示される等）の発生を抑制でき、遊技者等に不利益を与えないようにすることができる。

【３８６４】

また、周辺制御基板１５１０の周辺制御部１５１１では約３３．３ｍｓごとに周辺制御部定常処理を行うのに対し、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵでは４ｍｓごとに主制御側タイマ割り込み処理を行うため、主制御基板１３１０からの制御信号に基づいて周辺制御基板１５１０の周辺制御部１５１１が裏後上第一装飾部３２１１や裏後上第二装飾部３２１２を制御する場合に比べて短い周期で裏後上第一装飾部３２１１や裏後上第二装飾部３２１２の表示内容を更新することができ、仮に不具合が発生して裏後上第一装飾部３２１１や裏後上第二装飾部３２１２に本来表示する内容とは異なる内容が表示された場合であっても直ぐ（４ｍｓ後）に表示内容を更新して本来の表示内容に変更することができ、遊技者等に不利益を与えない。すなわち、重要な情報を表示する（重要度の高い）裏後上第一装飾部３２１１や裏後上第二装飾部３２１２については重要な情報を表示しない（重要度の低い）発光装飾体よりも短い周期で制御信号を出力して発光手段（ＬＥＤ）の発光態様を更新するため、重要な情報を表示する裏後上第一装飾部３２１１や裏後上第二装飾部３２１２の表示内容に不具合が生じた場合であっても直ぐに正常な表示内容に変更することができ、本来とは異なる内容が表示されて遊技者に不利益を与えることを抑制できる。また、主制御基板１３１０からの制御信号に基づいて周辺制御基板１５１０の周辺制御部１５１１が裏後上第一装飾部３２１１や裏後上第二装飾部３２１２を制御するように構成した場合には主制御基板１３１０と周辺制御基板１５１０との間で通信エラーが生じて裏後上第一装飾部３２１１や裏後上第二装飾部３２１２によって示される情報に不具合が発生するおそれがあるが、本例では主制御基板１３１０が裏後上第一装飾部３２１１や裏後上第二装飾部３２１２を直接制御することで、周辺制御基板１５１０の周辺制御部１５１１が裏後上第一装飾部３２１１や裏後上第二装飾部３２１２を制御する場合に比べて裏後上第一装飾部３２１１や裏後上第二装飾部３２１２によって示される情報に不具合が発

生し難くなり、遊技者に不利益を与えることを抑制できる。
【３８６５】
［虹色演出の変形例１］
次に上記した虹色演出の変形例について説明する。本例では虹色演出の実行中に遊技者が演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を押圧操作することにより大当り期待度を判別できるようになっている。なお、変形例１では上記実施形態と異なる部分についてのみ説明し、重複した説明を行わない。
【３８６６】
具体的には、図２８９に示すように虹色演出が実行されている場合に、当該虹色演出後に装飾図柄がリーチとなる等の大当り期待度の高い変動表示の実行中であれば、当該虹色演出の実行中のタイミングｔ６で演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されても、虹色演出を終了することなしにタイミングｔ１００まで当該虹色演出を継続して実行する。
【３８６７】
一方、図２９０に示すように虹色演出が実行されている場合に、当該虹色演出後に装飾図柄がリーチとならない等の大当り期待度の高い変動表示の実行中でなければ、当該虹色演出の実行中のタイミングｔ６で演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されると、この演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されたタイミングｔ６で実行中の虹色演出を終了して、演出表示装置１６００に所定の演出態様（例えば装飾図柄の変動表示等）を表示し、遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤや扉枠３に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤを所定の発光態様（一部又は全部を消灯させるものでもよい）で発光制御するようになっている。
【３８６８】
これにより、虹色演出が実行されている場合に大当りとなる可能性を判別することができ、虹色演出が実行されているタイミングｔ２～タイミングｔ１００の期間では遊技者が演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を積極的に押圧操作するように仕向けることができる。また、虹色演出が実行されているタイミングｔ２～タイミングｔ１００の期間に遊技者が演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を押圧操作して大当り期待度が高いと判別した場合には遊技興趣を向上させることができる。
【３８６９】
なお、虹色演出の実行中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を押圧操作したことに基づいて実行中の虹色演出が終了した後、演出表示装置１６００にて虹色演出とは無関係の演出表示を実行するようにしてもよい。これによって虹色演出が終了していることを遊技者に気づかせて大当り期待度が低いことを確実に認識させることができる。また、演出表示装置１６００にて虹色演出とは無関係の演出表示を実行した場合に、当該虹色演出とは無関係の演出表示についても演出操作ユニット３００の操作に応じて終了させることができるようにしてもよいし、当該虹色演出とは無関係の演出表示の実行中に所定期間に亘って演出操作ユニット３００が操作されなかった場合に当該虹色演出とは無関係の演出表示を終了するようにしてもよい。また、演出表示装置１６００にて実行している虹色演出とは無関係の演出表示を終了した後、所定の開始条件が成立した場合に（例えば所定期間に亘って演出操作ユニット３００が操作されなかった場合や、変動演出が実行されていない無変動演出期間が予め決められた所定期間となった場合等）、虹色演出を再び開始するようにしてもよい。これにより、虹色演出の発光態様や表示態様を遊技者の脳裏に刷り込み、以後に実行される変動演出において虹色演出が実行された場合に大当り期待度の高い変動演出が実行されているという期待を抱かせて演出操作ユニット３００を操作させることができる。
【３８７０】
また、図２９０において虹色演出の実行中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作された場合には、遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤや扉枠３に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤにおける虹色演出の発光装飾を終了した後、

この虹色演出の発光装飾を終了したタイミングよりも所定期間遅れたタイミングで演出表示装置１６００における虹色演出表示態様等の演出表示を終了する。これにより、演出表示装置１６００において表示内容が急に切り替えられることを抑止して、虹色演出表示態様等の演出表示の余韻を残した状態で表示内容を切り替えることができる。

【３８７１】

また、虹色演出の実行中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作された場合に所定の音を出力するようにしてもよく、この場合には演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されたことに基づいて所定の音を出力した後、この所定の音を出力したタイミング（虹色演出の発光装飾を終了したタイミングと同じタイミングでもよいし異なるタイミングでもよい）よりも所定期間（虹色演出の発光装飾を終了したタイミングと同じタイミングで所定の音を出力する場合には虹色演出の発光装飾を終了したタイミングからの所定期間と同一の期間、虹色演出の発光装飾を終了したタイミングと異なるタイミングで所定の音を出力する場合には虹色演出の発光装飾を終了したタイミングからの所定期間と異なる期間）遅れたタイミングで演出表示装置１６００における虹色演出表示態様等の演出表示を終了するようにしてもよい。この場合にも演出表示装置１６００において表示内容が急に切り替えられることを抑止して、虹色演出表示態様等の演出表示の余韻を残した状態で表示内容を切り替えることができる。

【３８７２】

また、虹色演出の実行中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作された場合に、遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤや扉枠３に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤにおける虹色演出の発光装飾を終了した後、再び遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤや扉枠３に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤにおける虹色演出の発光装飾を開始するようにしてもよい。この場合には遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤや扉枠３に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤにおける虹色演出の発光装飾を終了してから、演出表示装置１６００における虹色演出表示態様等の演出表示を終了する以前に（演出表示装置１６００における虹色演出表示態様等の演出表示を継続した状態で）再び遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤや扉枠３に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤにおける虹色演出の発光装飾を開始するようにしてもよい。これにより、虹色演出の発光装飾が終了したことで大当り期待度が低いと判断して落胆している遊技者の興趣を向上させて、再び虹色演出に注目させることができる。

【３８７３】

また、上記した例に加えて虹色演出の実行中における音出力態様を異ならせることで大当り期待度を判別できるようにしてもよい。例えば、上記した虹色演出が実行されている場合に当該虹色演出後に装飾図柄がリーチとなる等の大当り期待度の高い変動表示の実行中であれば、当該虹色演出に応じた態様の音出力を実行する一方、虹色演出が実行されている場合に当該虹色演出後に装飾図柄がリーチとならない等の大当り期待度の高い変動表示の実行中でなければ、当該虹色演出に応じた態様の音出力を実行することなく、他の態様の音出力を実行したり、音出力を実行しないようにしてもよい。この場合にも虹色演出の実行と音出力の態様とによって大当り期待度を判別することができ、大当り期待度が高いと判別した場合には遊技興趣を向上させることができる。

【３８７４】

［虹色演出の変形例２］

上記した虹色演出では可動体の動作を伴わないものを示したが、上記した虹色演出で発光装飾される可動体について当該虹色演出での発光装飾に加えて必ず、又は所定の割合で虹色演出に連動した動作を行うようにしてもよい。以下、変形例２として示す。なお、変形例２では上記実施形態と異なる部分についてのみ説明し、重複した説明を行わない。

【３８７５】

図２９１に示すようにタイミングｔ２で演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が遊技者によって押圧操作されるか又は演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧

操作されることなくボタン有効期間（例えば５秒）が経過したことに応じて虹色演出を開始すると（タイミングｔ２）、第４盤発光グループに属する裏前下中装飾基板３１６８に実装される複数のＬＥＤを所定の発光色（この例では青色）に発光させた後、所定期間（例えば０．１秒）毎に発光色を変更するように制御する（この例では「青色」→「紫色」→「赤色」→「白色」→「黄色」→「緑色」→「青色」→「紫色」→・・・）。

【３８７６】

また、タイミングｔ２で演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が遊技者によって押圧操作されるか又は演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されることなくボタン有効期間（例えば５秒）が経過したことに応じて虹色演出を開始すると裏前下中装飾基板３１６８が設けられる裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１は、図１６４に示されるように通常の待機位置から上昇して演出表示装置１６００の前方の上昇位置（本例では裏前下中装飾体３１６１の一部が演出表示装置１６００の前方に重なるように上昇する。なお、演出表示装置１６００の中央付近に上昇する等により裏前下中装飾体３１６１の全体が演出表示装置１６００の前方に重なるように上昇するようにしてもよい。）で停止し、前後方向の軸周りに対して回転する。

【３８７７】

これにより、虹色演出の実行中には演出表示装置１６００の前方でＬＥＤによる発光装飾と可動体（裏前下中装飾基板３１６８）による動作とが実行され、しかも裏前下中装飾体３１６１を発光装飾する裏前下中装飾基板３１６８に実装される複数のＬＥＤが所定期間（例えば０．１秒）毎に発光色を変化させるため、注目度の高い演出を実行することができる。また、演出表示装置１６００の前方に裏前下中装飾体３１６１が表出して、演出表示装置１６００と一部が重なった状態で裏前下中装飾体３１６１が回転するため、遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技に対する期待感を高めさせることができる。

【３８７８】

また、虹色演出を終了する場合には（タイミングｔ９９）、裏前下中装飾体３１６１の前後方向の軸周りに対する回転を停止して演出表示装置１６００の前方から下降し、通常の待機位置で停止する。本例では、裏前下中装飾体３１６１の通常の待機位置への移動に同期して演出表示装置１６００に装飾図柄のリーチを発生させる。このように、演出表示装置１６００の前方に表出する裏前下中装飾体３１６１を発光装飾させつつ回転させることで演出表示装置１６００の一部を覆い隠すとともに、裏前下中装飾体３１６１に注目させるため、裏前下中装飾体３１６１の通常の待機位置への移動に同期して演出表示装置１６００に装飾図柄のリーチが発生したときに遊技者を驚かせ、大当りに対する期待を高めることができる。

【３８７９】

なお、上記したように虹色演出を実行する変動演出の実行中に異常状態が発生した場合には、裏前下中装飾体３１６１を発光装飾する裏前下中装飾基板３１６８に実装される複数のＬＥＤによる虹色演出の発光装飾を終了する。これにより、不完全な形で虹色演出が行われないようになっている。

【３８８０】

一方、裏前下中装飾体３１６１は虹色演出の実行中に異常状態が発生しても動作を停止することなく、異常状態が発生していない状態と同様の動作を行うようになっている。また、虹色演出を実行する変動演出において虹色演出の開始前に異常状態が発生しても異常状態が発生していない状態と同様に本来の虹色演出を開始するタイミングで動作を行うようになっている。すなわち、虹色演出の発光制御を設計通りの完全な形で実現できない場合には裏前下中装飾基板３１６８に実装される複数のＬＥＤによる発光装飾を中止又は実行しないようにするものの、虹色演出の発光装飾に影響を与えない動作については中止することなく予定通り（設計されている通り）に実行するようにしている。これにより、変動演出が継続していることを遊技者に認識させることができ、虹色演出が中止されたことで変動演出が終了したという誤解を遊技者に与えないようにすることができる。

【３８８１】
具体的には、図２９２に示すように虹色演出の実行中のタイミングｔ６で異常が発生した場合に、裏前下中装飾体３１６１を発光装飾する裏前下中装飾基板３１６８に実装される複数のＬＥＤを含む遊技盤５に設けられる第１盤発光グループ～第６盤発光グループの複数のＬＥＤによる虹色演出の発光装飾を終了させて消灯状態に制御する。そして、虹色演出の実行中に扉枠３が閉鎖されて異常が解消された場合であっても虹色演出の発光装飾に復帰しない（虹色演出の発光装飾を再開しない）ようになっている。
【３８８２】
一方、裏前下中装飾体３１６１が虹色演出に連動して動作しているタイミングｔ６で異常が発生しても（タイミングｔ６）、裏前下中装飾体３１６１の虹色演出に連動する動作を停止させることなく、予め決められている虹色演出に連動した動作を継続して実行する（タイミングｔ６～タイミングｔ１００）。このように、虹色演出の実行中に異常が発生した場合に、虹色演出の発光装飾を終了させる一方で裏前下中装飾体３１６１の動作を継続させるため、裏前下中装飾体３１６１の動作が継続していることによって変動演出が継続していることを遊技者に認識させることができ、不安を与えないようにすることができる。
【３８８３】
また、虹色演出を実行する変動演出において異常が発生し、虹色演出の終了以前に異常が解消して異常状態から正常状態に復帰しても、裏前下中装飾体３１６１を発光装飾する裏前下中装飾基板３１６８に実装される複数のＬＥＤによる虹色演出の発光装飾を再開しない。つまり、虹色演出を実行する変動演出において虹色演出の実行中に異常が発生し、当該虹色演出が終了する以前に異常が解消して異常状態から正常状態に復帰した場合には、裏前下中装飾体３１６１が発光装飾されない消灯状態で虹色演出に連動した動作を行う。これにより、演出表示装置１６００に虹色演出表示態様が表示されている場合に、裏前下中装飾体３１６１が発光装飾されているか否かによって虹色演出を実行する変動演出において異常状態が発生したことを判別することができ、不正行為等の発生を抑制することができる。
【３８８４】
なお、異常状態の種類（緊急性の度合い）に応じて裏前下中装飾体３１６１の虹色演出に連動した動作を継続又は開始するか否かを異ならせるようにしてもよく、例えば上記した遊技に対する影響が小さいエラーについては裏前下中装飾体３１６１の虹色演出に連動した動作を継続する又は虹色演出に連動した動作を予定通り（スケジューラに設定されているタイミングで動作させる）実行する一方、遊技に重大な影響を与えるエラーについては裏前下中装飾体３１６１の虹色演出に連動した動作を停止させる（虹色演出に連動した動作を停止させた後に通常の待機位置に戻して停止させるようにしてもよい）又は予め予定されている（スケジューラに設定されている）虹色演出に連動した動作を行わないように制御することで、変動演出の実行中であっても当該変動演出を中断又は終了させるようにしてもよい。これにより、エラーの程度に応じて裏前下中装飾体３１６１の動作状態を異ならせることができ、異常の発生の判別が可能になる。
【３８８５】
また、異常状態の種類（緊急性の度合い）に応じて演出表示装置１６００における虹色演出表示態様の表示を消失させるか否かを異ならせるようにしてもよく、例えば上記した遊技に対する影響が小さいエラーについては演出表示装置１６００における虹色演出表示態様の表示を消失させることなく、当該虹色演出表示態様に一部が重なるように警告表示（例えば「扉開放中」等）を行う一方、遊技に重大な影響を与えるエラーについては演出表示装置１６００における虹色演出表示態様の表示を消失させて警告表示（例えば「不正入賞発生！」等）のみを行うことで、虹色演出の実行中であっても当該虹色演出の表示（虹色演出表示態様）を中断又は終了させるようにしてもよい。これにより、エラーの程度に応じて演出表示装置１６００における表示態様を異ならせることができ、異常の発生の判別が可能になる。

【３８８６】
　また、上記虹色演出の変形例１に示されるように、虹色演出後に装飾図柄がリーチとなる等の大当り期待度の高い変動表示を実行している場合には、必ず又は所定の割合で裏前下中装飾体３１６１を虹色演出に連動して動作させるようにし、虹色演出後に装飾図柄がリーチとならない等の大当り期待度の高い変動表示を実行していない場合には、裏前下中装飾体３１６１を虹色演出に連動して動作させないようにしてもよい。これにより、裏前下中装飾体３１６１が虹色演出に連動して動作していれば大当りに対する期待を向上させることができるし、裏前下中装飾体３１６１が虹色演出に連動して動作していない場合であっても大当り期待度の高い変動表示を実行している可能性もあることで大当りに対する期待を失わせないようにすることができる。
【３８８７】
　また、上記実施形態（変形例１、２を含む全ての実施形態）では虹色演出に関連するものを示したが、本技術思想は虹色演出以外の演出においても適用可能である。例えば、変形例２においては裏前下中装飾体３１６１を虹色演出に連動して動作させる場合に限らず、他の演出に連動して動作させる場合にも適用可能である。
【３８８８】
　以上、本発明について好適な実施形態を挙げて説明したが、本発明はこれらの実施形態に限定されるものではなく、以下に示すように、本発明の要旨を逸脱しない範囲において、種々の改良及び設計の変更が可能である。
【３８８９】
　例えば、上記の実施形態では、シール等の装飾体を分離可能とする分離孔（分離孔１０２３、分離孔１８２２ｃ、分離孔２５３１ｂ、分離孔２８１０ｄ、分離孔１８２３ｃ、分離孔１８２７ｃ、分離孔１８２８ｃ、等）として貫通している孔状のものを示したが、これに限定するものではなく、スリット状、切欠き状、のものとしても良い。
【３８９０】
　例えば、上述した実施形態では、遊技機としてパチンコ機を例示したが、雀球機、アレンジボール機等の他の遊技機にも適用可能であり、さらには、遊技メダルを用いて複数のドラム（回胴又はリール）を回転させるスロットマシンにも適用可能である。ここで、スロットマシンについて図２１３を参照して説明する。図２１３はスロットマシンの概略斜視図である。
【３８９１】
　スロットマシン６０００は、図２１３に示すように、前面扉（前面枠）６００２、本体部分（箱体）６００４を備えて構成されている。前面扉（前面枠）６００２と本体部分（箱体）６００４とは、図示しない蝶番を介して相互に連結されている。この蝶番を回転中心として、前面扉（前面枠）６００２の右側端に設けた金属製の施錠装置の鍵穴６００５に鍵を挿入して時計回りに回すことで、前面扉（前面枠）６００２を本体部分（箱体）６００４から開放することができるようになっている。
【３８９２】
　金属製の施錠装置は、前面扉（前面枠）６００２の図示しない金属製の扉枠補強ユニットのシリンダ取付フレームに取付けられ、図示しない施錠ユニットと協働して、本体部分（箱体）６００４と前面扉（前面枠）６００２との開閉施錠に使用されるものである。金属製の施錠装置は、前後に延びた図示しない金属製の円柱状のシリンダ本体と、シリンダ本体の前端面に形成されている金属製の鍵穴６００５と、シリンダ本体の後側に取付けられており鍵穴６００５に挿入され正規の金属製の鍵を回転させると一緒に回転する図示しない金属製の回転伝達部材と、を備えている。金属製の施錠装置のシリンダ本体は、扉枠補強ユニットのシリンダ取付フレームの前片部を後方から貫通して後端が前片部に取付けられている。回転伝達部材は、後方が開放された円筒状（詳しくは、後方へ向かうに従って直径が大きくなる円錐筒状）に形成されており、中心軸を挟んで対向した位置に後端から前方へ向かって切欠かれた一対の切欠部を有している。回転伝達部材は、前面扉（前面枠）６００２が本体部分（箱体）６００４に対して閉鎖されると、図示しない金属製の施

錠ユニットの金属製の伝達シリンダが後方から挿入されるように形成されており、伝達シリンダの一対の突起が一対の切欠部内に挿入されることで、回転伝達部材（鍵穴６００５に挿入された鍵）の回転を、伝達シリンダに伝達させて回転させることができる。前面扉（前面枠）６００２が本体部分（箱体）６００４に対して閉鎖された状態において金属製の施錠装置の回転伝達部材と施錠ユニットの伝達シリンダとが接触している場合には、金属製の施錠装置と施錠ユニットとが電気的に接続された状態となる。

【３８９３】

扉枠補強ユニットは、前面扉（前面枠）６００２を補強して剛性を付与することができる機能に加えて扉枠金属アースとしても機能し、図示しない扉枠金属アース線を介して本体部分（箱体）６００４の内部に設けられるアース基板と電気的に接続されている。つまり、金属製の扉枠補強ユニットが扉枠側のフレームグランドとなっている。この図示しないアース基板は、各所で生じた電磁波ノイズを一旦集約して遊技ホールの島設備に接地（アース）することができるものであり、図示しない島設備アース線を介して、遊技ホールの島設備のアースと電気的に接続されている。

【３８９４】

本体部分（箱体）６００４に対して前面扉（前面枠）６００２の開放を検知することができる図示しない開放スイッチは、本体部分（箱体）６００４又は前面扉（前面枠）６００２に配置されている。この開放スイッチは、金属製の施錠装置による開閉操作による電気的な信号が入力されたことに起因して、本体部分（箱体）６００４に対して前面扉（前面枠）６００２の開放を検出するものではなく、金属製の施錠装置による開閉操作と別個独立して、本体部分（箱体）６００４に対して前面扉（前面枠）６００２の開放を検出している。また、開放スイッチは、金属製の施錠装置の近傍周辺に配置されず、金属製の施錠装置へ侵入した電磁波ノイズの影響を受けないように、金属製の施錠装置の下方の位置であって本体部分（箱体）６００４又は前面扉（前面枠）６００２に開放スイッチが配置されている。このように、仮に金属製の施錠装置に電磁波ノイズが侵入したとしても、この電磁波ノイズの影響を、開放スイッチからの信号伝送ラインが受けないようになっている。

【３８９５】

前面扉（前面枠）６００２は、スロットマシン６０００の前面全体を装飾するものであり、各種装飾部を備えている。この各種装飾部には、装飾メッキが全く施されていないものもあれば、表裏全面に装飾メッキが施されているものもある。この装飾メッキは、クロムメッキや硬質金メッキ等の貴金属メッキであり、導電性を有しているため、電磁波ノイズが侵入する場合がある。各種装飾部のうち、表裏全面に装飾メッキが施されているものについては、図示しない配線を介して、前面扉６００２を構成する扉枠ベースユニットにおける金属製の扉枠補強ユニットと電気的に接続されている（各種装飾部には、図示しない配線を介して金属製の扉枠補強ユニットと電気的に接続されているものもあれば、導電性部材が直接金属製の扉枠補強ユニットに取り付けられて電気的に接続されているものもある）。これにより、各種装飾部へ侵入した電磁波ノイズを金属製の扉枠補強ユニットへ伝えることで各種装飾部に備える各種装飾基板の基板グランドへの侵入を防止することができるようになっている。また、各種装飾部のうち、表裏全面に装飾メッキが施されているものへ侵入した電磁波ノイズは、図示しない配線を介して、金属製の扉枠補強ユニットへ伝わると、扉枠金属アース線を介して、本体部分（箱体）６００４の内部に設けられるアース基板へ伝わり、そしてアース基板から島設備アース線を介して遊技ホールの島設備のアースへ伝わり、スロットマシン６０００から除去される。つまり、金属製の扉枠補強ユニットが上述したように扉枠側のフレームグランドとなっている。

【３８９６】

なお、前面扉（前面枠）６００２の前面の所定箇所に除電部として静電除去パッドを設けてもよいし、前面扉（前面枠）６００２を本体部分（箱体）６００４から開放する場合に、蝶番が配置される側（閉鎖側）と反対側となる開放側となる部分に除電部として静電除去パッドを設けてもよい。静電除去パッドは、静電気放電により生ずるノイズ（電磁波

ノイズ）を除去することができるものである。

【３８９７】

また、前面扉（前面枠）６００２はスロットマシン６０００の前面全体を装飾するものであり、各種装飾部を備え、この各種装飾部には、装飾メッキが全く施されていないものもあれば、表裏全面に装飾メッキが施されているものもあり、各種装飾部のうち、表裏全面に装飾メッキが施されているものについては、図示しない配線を介して、金属製の扉枠補強ユニットと電気的に接続され、本体部分（箱体）６００４の内部に設けられるアース基板が島設備アース線を介して、遊技ホールの島設備のアースと電気的に接続されていたが、扉枠金属アース線をアース基板に電気的に接続せず、本体部分（箱体）６００４の内部に設けられる図示しない電源ユニットの電源基板の端子に電気的に接続して、金属製の扉枠補強ユニットと電源基板とを電気的に接続するようにしてもよい。電源基板は、遊技ホールの島設備から交流２４Ｖが供給されている。この交流２４ＶはＬ（ライブ）、Ｎ（ニュートラル）があり、Ｌ（ライブ）が入力される電源基板のＬ端子は、非接地側と接続されるものであり、Ｎ（ニュートラル）が入力される電源基板のＮ端子は、接地側と接続されるものである。そこで、過渡的に過大電圧から保護するサージ保護素子（サージアブソーバ）を電源基板に設ける。このサージ保護素子（サージアブソーバ）は、通常は抵抗値が高く電流をほとんど流さないものの、過大電圧（異常電圧）が侵入すると、瞬時に抵抗値が低くなって電流を流し、過大電圧がなくなると、元の通常の抵抗値（高い抵抗値）に戻る性能を有するものである。これにより、金属製の扉枠補強ユニットから伝わる電磁波ノイズは、電源基板の端子からサージ保護素子（サージアブソーバ）により電源基板のＮ端子から接地側（アース）へ伝わってスロットマシン６０００から除去される。

【３８９８】

前面扉（前面枠）６００２の上半分は遊技パネル６００６が設けられており、前面扉（前面枠）６００２の下半分は遊技パネル６００６から前方に突出した突出部が形成されている。この突出部にはメダル投入口６００８やベットボタン６０１０，６０１２、始動レバー６０１４、左停止ボタン６０１６、中停止ボタン６０１８、右停止ボタン６０２０等が遊技パネル６００６の下縁に沿って配置されている。また前面扉（前面枠）６００２の下半分には貯留精算ボタン６０２２や化粧板６０２４が配置されており、化粧板６０２４の下方には受け皿６０２６が設けられている。これらのベットボタン６０１０，６０１２、始動レバー６０１４、左停止ボタン６０１６、中停止ボタン６０１８、右停止ボタン６０２０、そして貯留精算ボタン６０２２等は、遊技の進行を制御する主制御基板１３１０に電気的に接続されている。主制御基板１３１０は、主制御ユニット１３００の主制御基板ボックス１３２０に収容されて本体部分（箱体）６００４の内部に設けられる図示しない基板ホルダに取り付けて固定されている。

【３８９９】

この主制御基板ボックス１３２０には、主制御基板１３１０と共に、設定値の変更を行うことができる設定キースイッチ１３１１ａが実装される設定変更基板１３１１も収容されている。つまり、主制御基板１３１０は、主制御ユニット１３００の主制御基板ボックス１３２０に収容されて本体部分（箱体）６００４の内部に設けられる図示しない基板ホルダに取り付けて固定されているため、設定キースイッチ１３１１ａが本体部分（箱体）６００４の内部に配置されている。なお、設定変更基板１３１１は、主制御基板ボックス１３２０と別体の基板ボックスに収容されて本体部分（箱体）６００４の内部に設けられる図示しない基板ホルダに取り付けて固定されてもよいし、本体部分（箱体）６００４の内部に設けられる図示しない電源ユニットの筐体に取り付けて固定されてもよい。また、設定変更基板１３１１の表面（実装面）には、設定キースイッチ１３１１ａの他に、設定値を選択して切り替えるための設定切替ボタン、小数点付き（いわゆる、ドット付き）７セグメントＬＥＤ表示器単体で構成される設定表示器１３１０ｇ、及び上述した設定変更許可ランプ１３１０ｚ等を実装してもよい。

【３９００】

遊技パネル６００６のほぼ中央位置には図示しない矩形の表示窓が形成されており、こ

の表示窓を通してスロットマシン６０００の内部に設置された、図示しない３つの可変回転体と、図示しない演出装置等を透視することができるようになっている。図示しない３つの可変回転体は、本体部分（箱体）６００４の内部に設けられる図示しない本体側取付部材に取り付けられて固定されている。これに対して、図示しない演出装置は、前面扉（前面枠）６００２の裏面側に設けられる図示しない扉側取付部材に取り付けられて固定されている。

【３９０１】

これらの可変回転体には、図柄情報として複数種類の図柄（例えば、ベル、スイカ、チェリー、７、Ｖ等）が印刷された透光性を有する図柄帯がそれぞれの筒型の骨組みに貼られている。このような筒型の可変回転体は、スロットマシン等の遊技機においてリール又はドラムと呼ばれており、図示しないステッピングモータの出力軸と、各可変回転体と、が接続されている。これらのステッピングモータは、主制御基板１３１０により駆動制御されており、ステッピングモータの出力軸が回転することにより、上述した表示窓から複数種類の図柄が上から下に向かって連続的に変化するように見えるようになっている。

【３９０２】

演出装置は、図示しない複数の可動演出体と、上述した演出表示装置１６００と、図示しない複数のＬＥＤが実装された各種装飾基板と、上述した周辺制御ユニット１５００と、を備えている。周辺制御ユニット１５００は、主制御基板１３１０からの各種コマンドに基づいて、複数の可動演出体の作動制御、演出表示装置１６００の描画制御、各種装飾基板に実装される複数のＬＥＤの発光制御等の各種制御を行うことにより、演出の進行を制御している。周辺制御ユニット１５００は、上述した、周辺制御基板１５１０を備えている。

【３９０３】

主制御基板１３１０は、遊技媒体として所定数のメダルがメダル投入口６００８に投入され、始動レバー６０１４の操作に基づいて図柄情報の変動表示を開始し、左停止ボタン６０１６、中停止ボタン６０１８、右停止ボタン６０２０の操作あるいは所定時間の経過に基づいて図柄情報の変動表示を停止させる。そして、主制御基板１３１０は、図柄情報が予め定めた特定表示態様となることを条件として利益付与状態（大当り遊技状態）を発生させて遊技媒体としてのメダルを受け皿６０２６に多量に払い出す。

【３９０４】

なお、融合遊技機においては、メダル投入口６００８が球投入口６００８'となり、主制御基板１３１０は、遊技媒体として所定数の遊技球が球投入口６００８'に投入され、始動レバー６０１４の操作に基づいて図柄情報の変動表示を開始し、左停止ボタン６０１６、中停止ボタン６０１８、右停止ボタン６０２０の操作あるいは所定時間の経過に基づいて図柄情報の変動表示を停止させる。そして、主制御基板１３１０は、図柄情報が予め定めた特定表示態様となることを条件として利益付与状態（大当り遊技状態）を発生させて遊技媒体としての遊技球を受け皿６０２６に多量に払い出す。

【３９０５】

（解決手段１）

遊技球が流下可能な遊技領域が形成された遊技盤を有し、始動条件の成立に基づいて抽選を行い、該抽選の結果に基づいて利益を付与する遊技機であって、複数の発光体が実装されるとともに、その実装面に白色塗膜が形成される特定実装領域と、画像を表示可能な演出表示手段と、演出に関する制御を行なう演出制御手段と、を備え、演出制御手段は、演出表示手段に特定演出画像を表示させる制御を行うとともに、特定実装領域に実装される複数の発光体を異なる発光色で同時に発光させる多色発光制御を行うことが可能であり、多色発光制御による発光中に所定の調節手段が操作された場合には、当該多色発光制御による発光を継続しつつ、特定実装領域に実装される複数の発光体の輝度を変更可能とされる、ことを特徴とする。解決手段１記載の遊技機によれば、複数の発光体が実装される実装面に白色塗膜を形成するようにしたため、発光体の光に対する実装面での反射効率を向上させて、照度ムラ等が発生することを抑制できる。これにより、特定実装領域に実装

される複数の発光体を異なる発光色で同時に発光させることの演出効果が低下してしまうことを回避することができる。また、白色塗膜によって反射効率が向上された状態で実行される多色発光制御中に、当該多色発光制御での発光に係る輝度を遊技者が変更できるようにしたため、遊技者の好みの輝度で多色発光制御での発光を実行することができるようになり、多色発光制御での発光に対しての煩わしさや見難さを改善することができる。これにより、多色発光制御での発光に関する興趣低下要因が排除され、遊技興趣の低下を抑制することができる。

【３９０６】

（解決手段２）

解決手段１記載の遊技機において、特定実装領域とは別に、複数の発光体が実装される実装面に白色塗膜が形成された特別実装領域が設けられ、演出制御手段は、演出表示手段に特定演出画像を表示させる制御を行うとともに、特定実装領域に実装される複数の発光体を異なる発光色で同時に発光させる多色発光制御を行うときに、特別実装領域に実装される複数の発光体に対して多色発光制御とは別の制御を行うことが可能であり、多色発光制御による発光中に所定の調節手段が操作された場合には、当該多色発光制御による発光を継続しつつ、特定実装領域に実装される複数の発光体の輝度を変更可能であり、さらに、特定実装領域に実装される複数の発光体の輝度が調整部に対する操作を受けて調整されるなかで、特別実装領域に実装された複数の発光体については、輝度調節の対象にせず、予め定められた一定の輝度で多色発光制御とは別の制御を継続させることを特徴とする。解決手段２記載の遊技機によれば、特別実装領域に実装される複数の発光体による発光を輝度調節の指標として利用することが可能になるため、特定実装領域に実装される複数の発光体による発光と特別実装領域に実装される複数の発光体による発光との対比の精度が高まり、遊技者好みの輝度に調節することが容易になる。

【３９０７】

（解決手段３）

解決手段１記載の遊技機において、特別実装領域として、多色発光制御とは別の制御が行われる複数の特別実装領域を有し、複数の特別実装領域のうちの第１の特別実装領域については、多色発光制御で発光している複数の発光体の輝度が調整部に対する操作を受けて調整されるなかで、第１の特別実装領域に実装された複数の発光体については、輝度調節の対象にせず、予め定められた一定の輝度で多色発光制御とは別の第１制御を継続させるようにし、複数の特別発光領域部のうちの第２の特別実装領域については、多色発光制御で発光している複数の発光体の輝度が調整部に対する操作を受けて調整されるなかで、第２の特別実装領域に実装された複数の発光体の輝度も同期して調整されるようにし、多色発光制御とは別の第２制御を継続させるようにしたことを特徴とする。解決手段３記載の遊技機によれば、特別実装領域に実装される複数の発光体による発光を輝度調節の指標として利用することが可能になるため、特定実装領域に実装される複数の発光体による発光と特別実装領域に実装される複数の発光体による発光との対比の精度が高まり、遊技者好みの輝度に調節することが容易になる。

【３９０８】

（解決手段４）

遊技球が流下可能な遊技領域が形成された遊技盤を有し、始動条件の成立に基づいて抽選を行い、該抽選の結果に基づいて利益を付与する遊技機であって、複数の発光体が実装されるとともに、その実装面に白色塗膜が形成される特定実装領域と、画像を表示可能な演出表示手段と、演出に関する制御を行なう演出制御手段と、遊技機の状態を検出する状態検出手段と、を備え、演出制御手段は、演出表示手段に特定演出画像を表示させる制御を行うとともに、特定実装領域に実装される複数の発光体を異なる発光色で同時に発光させる多色発光制御を行うことが可能であり、多色発光制御による発光中に状態検出手段が特定状態であることを検出した場合に、多色発光制御で発光している複数の発光体の一部あるいは全部を消灯する、ことを特徴とする。解決手段４記載の遊技機によれば、複数の発光体が実装される実装面に白色塗膜を形成するようにしたため、発光体の光に対する実

装面での反射効率を向上させて、照度ムラ等が発生することを抑制できる。これにより、特定実装領域に実装される複数の発光体を異なる発光色で同時に発光させることの演出効果が低下してしまうことを回避することができる。また、多色発光制御による発光中に状態検出手段が特定状態であることを検出した場合に多色発光制御で発光している複数の発光体の一部あるいは全部を消灯するため、例えば遊技機の状態が多色発光制御による発光演出を適正に実施できないような場合に不完全な発光演出が実行されて遊技興趣が低下することを抑制することができる。（例えば、段落２８６９～段落２８９１、図２８３～図２８７等を参照）。

【３９０９】

（解決手段５）

解決手段４記載の遊技機において、発光領域部として、特定発光領域部とは別に、発光体が実装される実装面に白色塗膜が設けられた特別発光領域部が設けられ、演出制御手段は、演出表示装置に表示される特定演出画像に関連して、特定発光領域部に実装される発光体を予め定められた虹色態様で発光させる制御を行う一方で、特別発光領域部に実装される発光体を虹色態様とは別の態様で発光させる制御を行うことが可能であり、さらに、特定発光領域部に実装される発光体を虹色態様で発光させる特定発光期間内に状態検出手段が特定状態であることを検出した場合に、特定発光期間が残存しているか否かにかかわらず、虹色態様での発光を終了させる制御を行う一方で、特別発光領域部に実装される発光体は、特定発光期間内に状態検出手段が特定状態であることを検出した場合であっても別の態様での発光を終了させることなく、特定発光期間が経過するまで別の態様での発光を継続させる制御を行うことを特徴とする。解決手段５記載の遊技機によれば、遊技機の状態が特定状態となったことで複数の発光体の一部あるいは全部が消灯された場合であっても特定発光期間が残存していることを特別発光領域部に実装される発光体による発光が継続されることで判別することができ、特定発光期間が終了したという誤解を遊技者に与えない。

【３９１０】

（解決手段６）

解決手段４又は解決手段５記載の遊技機において、特別発光領域部として、虹色態様とは別の態様で発光体が発光する複数の特別発光領域部を有し、複数の特別発光領域部のうちの第１の特別発光領域部については、特定発光期間内に特別態様での発光が可能であり、該特定発光期間内に状態検出手段が特定状態であることを検出した場合であっても特別態様での発光を終了させることなく、特定発光期間が経過するまで特別態様での発光を継続させる制御を行うようにし、複数の特別発光領域部のうちの第２の特別発光領域部については、特定発光期間内に特別態様とは異なる特殊態様での発光が可能であり、特定発光期間内に状態検出手段が特定状態であることを検出した場合に、虹色態様での発光の終了とともに、第２の特別発光領域部に実装された発光体に対して、特殊態様での発光を終了させる制御を行うようにした、ことを特徴とする。解決手段６記載の遊技機によれば、遊技機の状態が特定状態となったことで複数の発光体の一部あるいは全部が消灯された場合であっても特定発光期間が残存していることを特別発光領域部に実装される発光体による発光が継続されることで判別することができ、特定発光期間が終了したという誤解を遊技者に与えない。

【３９１１】

（解決手段７）

遊技球が流下可能な遊技領域が形成された遊技盤を有し、始動条件の成立に基づいて抽選を行い、該抽選の結果に基づいて利益を付与する遊技機であって、複数の発光体が実装されるとともに、その実装面に白色塗膜が形成される特定実装領域と、画像を表示可能な演出表示手段と、演出に関する制御を行なう演出制御手段と、遊技機の状態を検出する状態検出手段と、を備え、演出制御手段は、演出表示手段に特定演出画像を表示させる制御を行うとともに、特定実装領域に実装される複数の発光体を異なる発光色で同時に発光させる多色発光制御を行う特定期間を発生させることが可能であり、特定期間中に状態検出

手段が特定状態であることを検出した場合に、特定期間が残存しているか否かにかかわらず多色発光制御を終了させ、当該特定期間内に特定状態から正常状態になった場合であっても多色発光制御による発光を再開しない、ことを特徴とする。解決手段７記載の遊技機によれば、複数の発光体が実装される実装面に白色塗膜を形成するようにしたため、発光体の光に対する実装面での反射効率を向上させて、照度ムラ等が発生することを抑制できる。これにより、特定実装領域に実装される複数の発光体を異なる発光色で同時に発光させることの演出効果が低下してしまうことを回避することができる。また、多色発光制御による発光中に状態検出手段が特定状態であることを検出した場合に多色発光制御を終了させ、特定期間内に特定状態から正常状態になった場合であっても多色発光制御による発光を再開しないため、例えば遊技機の状態が多色発光制御による発光演出を適正に実施できないような場合に不完全な発光演出が実行されて遊技興趣が低下することを抑制することができるし、正常状態になった場合でも特定期間が経過するまでは当該特定期間内に特定状態が発生したことを判別できるようになる。（例えば、段落２８６９～段落２８９１、図２８３～図２８７等を参照）。

【３９１２】

（解決手段８）

解決手段７記載の遊技機において、発光領域部として、特定発光領域部とは別に、発光体が実装される実装面に白色塗膜が設けられた特別発光領域部が設けられ、演出制御手段は、演出表示装置に表示される特定演出画像に関連して、特定発光領域部に実装される発光体を予め定められた虹色態様で発光させる制御を行う一方で、特別発光領域部に実装される発光体を虹色態様とは別の態様で発光させる制御を行うことが可能であり、さらに、特定発光領域部に実装される発光体を虹色態様で発光させる特定期間内に状態検出手段が特定状態であることを検出した場合に、特定期間が残存しているか否かにかかわらず、虹色態様での発光を終了させる制御を行い、該特定期間内に特定状態から正常状態になった場合であっても虹色態様での発光に復帰させないように制御する一方で、特別発光領域部に実装される発光体は、特定期間内に状態検出手段が特定状態であることを検出した場合であっても別の態様での発光を終了させることなく継続させ、且つ、該特定期間内に特定状態から正常状態になった以降も別の態様での発光を継続させる制御を行うことを特徴とする。解決手段８記載の遊技機によれば、遊技機の状態が特定状態となったことで複数の発光体の一部あるいは全部が消灯された場合であっても特定期間が残存していることを特別発光領域部に実装される発光体による虹色態様とは別の態様での発光が継続されることで判別することができ、特定期間が終了したという誤解を遊技者に与えない。

【３９１３】

（解決手段９）

解決手段８記載の遊技機において、演出制御手段は、特定期間の経過後に特定状態から正常状態になった場合に演出表示装置に表示される特定演出画像に関連して、特定発光領域部に実装される発光体を予め定められた虹色態様で発光させる制御を行い得ることを特徴とする。解決手段９記載の遊技機によれば、特定期間の経過後に特定状態から正常状態になった場合に演出表示装置に表示される特定演出画像に関連して、発光体を予め定められた虹色態様で発光させる制御を行うことができるため、虹色態様での発光制御によって遊技興趣の低下を抑制できる。

【３９１４】

（解決手段１０）

遊技球が流下可能な遊技領域が形成された遊技盤を有し、始動条件の成立に基づいて抽選を行い、該抽選の結果に基づいて当り遊技を実行する遊技機であって、複数の発光体が実装されるとともに、その実装面に白色塗膜が形成される特定実装領域と、演出に関する制御を行なう演出制御手段と、を備え、演出制御手段は、当り遊技の実行可能性を遊技者に通知する制御として、特定実装領域に実装される複数の発光体を同一色で同時に発光させる第１発光制御と、特定実装領域に実装される複数の発光体を異なる色で同時に発光させる第２発光制御と、を行うことが可能であり、第２発光制御は、第１発光制御よりも当

り遊技の実行可能性が高いことを通知するものであり、さらに、第２発光制御とは別に、特定実装領域に実装される複数の発光体を異なる発光色で同時に発光させる第３発光制御を行うことが可能であり、第３発光制御は、当り遊技の実行可能性が無いときに行われる制御であることを特徴とする。解決手段１０記載の遊技機によれば、複数の発光体が実装される実装面に白色塗膜を形成するようにしたため、発光体の光に対する実装面での反射効率を向上させて、照度ムラ等が発生することを抑制できる。これにより、特定実装領域に実装される複数の発光体を異なる発光色で同時に発光させることの演出効果が低下してしまうことを回避することができる。また、特定実装領域に実装される複数の発光体を同一色で同時に発光させる第１発光制御よりも特定実装領域に実装される複数の発光体を異なる色で同時に発光させる第２発光制御が実行された場合に当り遊技の実行可能性が高いことを通知するものの、第２発光制御と同様に特定実装領域に実装される複数の発光体を異なる発光色で同時に発光させる第３発光制御が実行された場合には当り遊技の実行可能性が無いため、第２発光制御が実行された場合に当り遊技に対する期待を高めることができる一方で、第３発光制御が実行されているかもしれないという不安を与えて注目させることができ、遊技興趣を向上させることが可能である。（例えば、段落２９２１～段落２９２９、図２８９～図２９０等を参照）。

【３９１５】

（解決手段１１）

解決手段１０記載の遊技機において、第３制御によって特定発光領域部に実装される発光体が予め定められた虹色態様で発光する場合には、遊技者による所定の演出操作部の操作を受けて、該虹色態様での発光を終了させることができるものの、第２制御によって特定発光領域部に実装される発光体が予め定められた虹色態様で発光する場合には、遊技者による所定の演出操作部の操作を受けたとしても、該虹色態様での発光を終了させることができないようにしたことを特徴とする。解決手段１１記載の遊技機によれば、特定発光領域部に実装される発光体が予め定められた虹色態様で発光する場合に演出操作部を操作させるように仕向けることができ、演出操作部の操作にあたって遊技興趣を向上させることができる。

【３９１６】

（解決手段１２）

解決手段１１記載の遊技機において、第３制御の実行中に遊技者による所定の演出操作部の操作を受けて虹色態様での発光を終了させた後、特定期間が経過するまでは虹色態様での発光を不能とし、該特定期間の経過後に虹色態様での発光を可能とすることを特徴とする。解決手段１１記載の遊技機によれば、第３制御の実行中に遊技者による所定の演出操作部の操作を受けて虹色態様での発光を終了させた場合には特定期間が経過するまでは虹色態様での発光が不能となるため、遊技者が虹色態様での発光の終了を見逃すことを抑止できる。

【３９１７】

（解決手段１３）

遊技球が流下可能な遊技領域が形成された遊技盤を有し、始動条件の成立に基づいて抽選を行い、該抽選の結果に基づいて利益を付与する遊技機であって、複数の発光体が実装されるとともに、その実装面に白色塗膜が形成される第１特定実装領域と、複数の発光体が実装されるとともに、その実装面に暗色塗膜が形成される第２特定実装領域と、画像を表示可能な演出表示手段と、を備え、演出表示手段に特定演出画像が表示される場合に、第１特定実装領域に実装される複数の発光体を異なる発光色で同時に発光させる多色発光が可能であり、第２特定実装領域に実装される複数の発光体は、第１特定実装領域に実装される複数の発光体によって多色発光が実行されている場合であっても、当該多色発光とは異なる単色発光が可能とされる、ことを特徴とする。解決手段１３記載の遊技機によれば、複数の発光体が実装される実装面に白色塗膜を形成するようにしたため、発光体の光に対する実装面での反射効率を向上させて、照度ムラ等が発生することを抑制できる。これにより、実装面に白色塗膜が形成される第１特定実装領域に実装される複数の発光体を

異なる発光色で同時に発光させることの演出効果が低下してしまうことを回避することができる。また、第１特定実装領域に実装される複数の発光体によって多色発光が実行されている場合であっても多色発光とは異なる単色発光が可能とされる第２特定実装領域の実装面に暗色塗膜が形成されるため、第２特定実装領域の実装面においては実装される複数の発光体それぞれの発光による干渉を抑制でき、複数の発光体それぞれの発光を明瞭にすることが可能になる。（例えば、段落２９１３～段落２９１６、図２８８等を参照）。

【３９１８】

（解決手段１４）

遊技球が流下可能な遊技領域が形成された遊技盤を有し、始動条件の成立に基づいて抽選を行い、該抽選の結果に基づいて利益を付与する遊技機であって、演出に関する制御を行う演出制御手段と、所定の動作態様で動作可能な可動体と、複数の発光体が実装されるとともに、その実装面に白色塗膜が形成される複数の特定装飾基板と、遊技機の状態を検出する状態検出手段と、を備え、特定装飾基板は、可動体にも設けられており、演出制御手段は、可動体の所定の動作態様で動作させるとともに、複数の特定装飾基板に実装される複数の発光体を異なる発光色で同時に発光させる多色発光制御を行うことが可能であり、該多色発光制御の実行中に状態検出手段が特定状態であることを検出した場合に、複数の特定装飾基板に実装される複数の発光体の一部あるいは全部を消灯させる一方、可動体の所定の動作態様での動作は継続させる、ことを特徴とする。解決手段１４記載の遊技機によれば、複数の発光体が実装される複数の特定装飾基板の実装面に白色塗膜を形成するようにしたため、特定装飾基板の実装面における発光体の光に対する反射効率を向上させて、照度ムラ等が発生することを抑制できる。これにより、実装面に白色塗膜が形成される特定実装基板に実装される複数の発光体を異なる発光色で同時に発光させることの演出効果が低下してしまうことを回避することができる。また、多色発光制御の実行中に状態検出手段が特定状態であることを検出した場合に、複数の特定装飾基板に実装される複数の発光体の一部あるいは全部を消灯させる一方、可動体の所定の動作態様での動作は継続させるため、遊技機の状態が特定状態となったことで複数の発光体の一部あるいは全部が消灯された場合であっても多色発光制御が本来であれば継続していることを可動体の所定の動作態様での動作が継続されることで判別することができ、遊技者に誤解や不安を与えない。（例えば、段落２９３０～段落２９４２、図２９１～図２９２等を参照）。

【３９１９】

［金色演出］

次に金色演出について説明する。本例の金色演出とは演出表示装置１６００に表示されるキャラクタや文字、模様等の一部又は全部を金色又は金色に近い色（金色に類似する色（本例では黄色））で表示する金色表示を行うと共に、演出表示装置１６００の金色表示に連動して、扉枠３や遊技盤５に設けられている複数の特定装飾基板（例えば扉枠トップユニット４５０の扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、扉枠トップ右装飾基板４５７、扉枠左サイドユニット４２０の扉枠左サイド上装飾基板４２２、扉枠左サイドユニット４２０の扉枠左サイド下装飾基板４２３、皿左装飾レンズ２７２の後側に設けられる皿左装飾基板２７３、扉枠右サイドユニット４３０の扉枠右サイド下装飾基板４３３、皿右装飾レンズ２７７の後側に設けられる皿右装飾基板２７８、扉枠右サイドユニット４３０の扉枠右サイド上装飾基板４３２、裏前左上ロゴ装飾部３１２２を発光装飾させるための裏前左上装飾基板３１２９、裏前左ロゴ装飾部３１２１、裏前左上ロゴ装飾部３１２２、及び裏前左サブ装飾部３１２３を発光装飾させるための裏前左装飾基板３１２８、裏前下ロゴ装飾体３１６７を発光装飾させるための裏前下ロゴ装飾基板３１７３、裏前下中装飾体３１６１を発光装飾させるための裏前下中装飾基板３１６８と、裏前下左内装飾体３１６３を発光装飾させるための裏前下左内装飾基板３１６９と、裏前下左外装飾体３１６４を発光装飾させるための裏前下左外装飾基板３１７０と、裏前下右内装飾体３１６５を発光装飾させるための裏前下右内装飾基板３１７１と、裏前下右外装飾体３１６６を発光装飾させるための裏前下右外装飾基板３１７２と、裏前右ロゴ装飾部３１４１を発光装飾させるための裏前右下装飾基板３１５２、裏前右上ロゴ装飾部３１４２

を発光装飾させるための裏前右上装飾基板３１５１等）それぞれに実装されるＬＥＤの一部又は全部を金色又は金色に近い色（金色に類似する色（本例では黄色））で発光させる金色発光を行うものであり、金色演出が実行された場合には大当りとなる蓋然性が高い（例えば大当りとなる場合（大当り確定演出）や大当りとなる確率が高い場合（大当り予告）、装飾図柄がリーチになる場合（リーチ予告）、リーチ発生後のリーチ演出として実行して大当りとなる確率が高いことを示唆する等）ことを示唆するものである。なお、金色演出において発光制御される扉枠３や遊技盤５に設けられてＬＥＤが実装されている各種の装飾基板の一部または全部について、上記遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を適用して絶縁被膜による反射率の向上を図るようにしてもよい。

【３９２０】

なお、金色演出が実行された場合に必ず大当りとなる（大当り期待度が１００％）とするものであってもよいし、大当りとなる場合とはずれとなる場合との両方で実行されるものの大当り期待度が２番目に高いものであってもよい（例えば虹色演出や、背景・キャラクタ等を通常とは異なるキリン柄、ゼブラ柄、てんとう虫柄等で表示する演出等の金色演出よりも大当り期待度が高い演出（例えば大当り期待度８０～１００％）を１つ含むようにしてもよい。（金色演出の大当り期待度として例えば６０％等にするものでもよい））。即ち、大当り期待度に応じた複数の演出として金色演出よりも大当り期待度の低い演出を含むものであって、金色演出よりも大当り期待度の高い演出を含むものであってもよいし、金色演出よりも大当り期待度の高い演出を含まないものであってもよい。このように、金色演出は高い大当り期待度に応じた演出であり、金色演出が実行された場合に遊技者に大当りとなることを期待させることができるものである。

【３９２１】

以下では金色演出として、演出表示装置１６００における金色表示と、扉枠３に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤによる金色発光と、遊技盤５に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤによる金色発光と、の全てを連動させるものを示すが、演出表示装置１６００における金色表示と、扉枠３に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤによる金色発光と、遊技盤５に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤによる金色発光と、のうちのいずれか一つ、または任意の組み合わせを実行するものであってもよい。

【３９２２】

例えば図２９３に示すように、主制御基板１３１０から装飾図柄の変動表示等の変動演出（この例では金色演出を実行する変動演出）の開始を指示するための変動パターンコマンドを受信すると（図２９３（Ａ））、左中右の装飾図柄の変動表示を開始して装飾図柄を半透明表示し、予め決められている予告タイミングで演出表示装置１６００にキャラクタとして宝箱を表示するとともに文字（この例では「宝箱発見！」）を表示する（図２９３（Ｂ））。このとき、装飾図柄はこれらキャラクタや文字の上層（上部レイヤ）に表示されるが、キャラクタや文字を不透明に表示するのに対し、装飾図柄は半透明に表示されて高速変動しているため、キャラクタや文字の視認を妨げないようになっている。

【３９２３】

そして、演出表示装置１６００に宝箱を表示してから所定期間が経過したことに基づいて宝箱を開ける態様を表示する（図２９３（Ｃ））。このとき、演出表示装置１６００には宝箱から金色の光（金色に類似する色の光）が放たれる態様が表示され（金色表示）、扉枠３や遊技盤５に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤのうち、演出表示装置１６００に表示される宝箱から放たれる光に対応する領域に配置するＬＥＤを金色に類似する色で発光させる（金色発光）。本例では演出表示装置１６００に表示される宝箱の上蓋を徐々に回動し、宝箱の開状態の程度に応じて宝箱から漏れる光の量を変化させる態様を表示するとともに、扉枠３や遊技盤５に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤのうち宝箱から漏れる光に対応する領域に配置するＬＥＤを金色に類似する色で発光させる（金色発光）。図２９３（Ｃ）では宝箱の上蓋の回

動に同期して、上皿２０１よりも上方に配置されるＬＥＤ（上皿２０１よりも上方に配置される全てのＬＥＤに限らず上皿２０１よりも上方に配置される複数のＬＥＤのうち一部のＬＥＤ（例えば裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部が左右に並んでいる裏後上第一装飾部３２１１を発光装飾させるためのＬＥＤ（裏後上第一装飾基板に実装されるＬＥＤ））については金色発光させないものでもよい）のうち、扉枠左サイドユニット４２０及び扉枠右サイドユニット４３０を下方から徐々に金色に類似する色で発光させ、その後、宝箱の上蓋の回動の程度に応じて裏前左装飾ユニット３１２０及び裏前右装飾ユニット３１４０、裏前右上ロゴ装飾部３１４２、扉枠トップユニット４５０の順に金色に類似する色で発光させる。

【３９２４】

図２９３（Ｃ）では宝箱を開ける動作に連動して金色表示と金色発光とを実行して、演出表示装置１６００に表示される宝箱から漏れる光（放たれる光）が演出表示装置１６００の外側に徐々に広がっていくような印象を与えることが可能であるため、演出表示装置１６００の金色表示と扉枠３や遊技盤５に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤによる金色発光との関連性を容易に認識させることができ、金色表示によって演出表示装置１６００に表示される色と金色発光によるＬＥＤの発光色とが類似するものの同一色でないような場合にも金色表示と金色発光とが同一色を表しているものと認識させることができる。

【３９２５】

次いで図２９３（Ｄ）に示すように、演出表示装置１６００に表示されている宝箱の中から金塊を取り出し、金塊の表面で光が反射して金塊から金色の光（金色に類似する色の光）が放たれる態様を表示する（金色表示）。また、演出表示装置１６００に金塊を表示する金塊から放たれる金色の光に対応して演出表示装置１６００の周囲に配置する扉枠３や遊技盤５に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤを金色に類似する色で発光させる（金色発光）。図２９３（Ｄ）では扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、裏前左装飾ユニット３１２０、裏前右装飾ユニット３１４０、裏前右上ロゴ装飾部３１４２、及び扉枠トップユニット４５０に加えて、上皿２０１よりも下方に配置されるボタン本体３５１の上面の周縁付近と外周面、ユニット上カバー３１２、皿左装飾体２７１、皿右装飾体２７６、ハンドル前レンズ１８５に設けられるＬＥＤ（上皿２０１よりも下方に配置される全てのＬＥＤに限らず上皿２０１よりも下方に配置される複数のＬＥＤのうち一部のＬＥＤ（例えばハンドル前レンズ１８５を発光させるためのハンドル装飾基板１８４に実装される複数のＬＥＤ）については金色発光させないものでもよい）を金色に類似する色で発光させる。

【３９２６】

なお、上記金色発光としてさらに導光板３１１０を金色発光するようにしてもよく、例えば図２９３（Ｃ）で宝箱を開ける動作に連動して金色表示と金色発光とを実行し、図２９３（Ｄ）で宝箱の中から金塊を取り出す表示を行うときに例えば裏前左装飾ユニット３１２０における裏前左装飾基板３１２８の複数の導光板用ＬＥＤ３１２８ｇと、裏前右装飾ユニット３１４０における裏前右第一装飾基板３１４８、裏前右第二装飾基板３１４９、及び裏前右導光板用装飾基板３１５０の複数の導光板用ＬＥＤと、を発光させて第一絵柄３１１１を金色又は金色に近い色（金色に類似する色（本例では黄色））で発光表示させるようにしてもよい。これにより、演出表示装置１６００の金色表示と扉枠３や遊技盤５に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤの金色発光との左右方向の広がりに加えて、演出表示装置１６００の前方に配置される導光板３１１０による前後方向の広がりを表示することができるようになり、金色演出における演出効果を向上させることができる。

【３９２７】

このように金色演出を実行すると、演出表示装置１６００における金色表示と扉枠３に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤ及び遊技盤５に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤによる金色発光（扉枠３に設けら

れている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤと遊技盤５に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤとの一方のみを金色発光するものでもよい）とを連動して実行するため、演出表示装置１６００における金色表示とＬＥＤによる金色発光との関係性を即座に認識させることができ、パチンコ機１の全体で統一感のある演出を実行することができる。また、上記したように金色演出は大当りとなる蓋然性が高いことを示唆するものであるため、パチンコ機１の全体で金色演出が実行されることにより、遊技者の大当りに対する期待を向上させることができ、遊技興趣の低下を抑止可能である。

【３９２８】

なお、図２９３（Ｂ）で宝箱を表示した後、遊技者の操作（演出操作部３０１の接触操作部３０２を接触操作した場合や押圧操作部３０３を押圧操作した場合など）に基づいて宝箱を開けた態様を表示するようにしてもよく、この場合に遊技者が操作しなければ宝箱を開けた態様を表示しないようにしてもよいし、遊技者が操作しない場合でも操作有効期間が経過したときに宝箱を開けた態様を表示するようにしてもよい。つまり、宝箱を表示した後、遊技者の操作に応じて金色演出を開始するようにしてもよく、遊技者が操作しなければ金色演出を実行しないようにしてもよいし、遊技者が操作しない場合でも操作有効期間が経過したときに金色演出を開始するようにしてもよい。

【３９２９】

また、本例では金色演出の実行中に遊技者が演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３等の操作部を操作することにより大当りとなる可能性の有無を判別できるようになっている。具体的には、図２９４（Ａ）に示すように装飾図柄がリーチとなる等の大当り期待度の高い変動表示における変動演出として金色演出が実行されている場合には、当該金色演出の実行中のタイミングｔ３で演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されても、金色演出を終了することなしにタイミングｔ４まで当該金色演出を継続して実行する。

【３９３０】

一方、図２９４（Ｂ）に示すように装飾図柄がリーチとなる等の大当り期待度の高い変動表示として金色演出が実行されていない場合には、当該金色演出の実行中のタイミングｔ３で演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されると、この演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されたタイミングｔ３で金色演出を終了して、演出表示装置１６００に所定の演出態様（例えば装飾図柄の変動表示等）を表示し、遊技盤５に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤや扉枠３に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤを所定の発光態様（本例では白色に発光させるものであるが、一部又は全部を消灯させるものでもよい）で発光制御するようになっている。

【３９３１】

これにより、金色演出が実行されている場合に演出操作ユニット３００を操作することで大当りとなる可能性を判別することができ、金色演出が実行されているタイミングｔ２～タイミングｔ４の期間では遊技者が演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３等の操作部を積極的に押圧操作するように仕向けることができる。また、金色演出が実行されているタイミングｔ２～タイミングｔ４の期間に遊技者が押圧操作部３０３等の操作部を操作して大当り期待度が高いと判別した場合には遊技興趣を向上させることができる。なお、押圧操作部３０３等の操作部を操作した場合に上記金色演出が終了するか又は継続するかに応じて大当りとなる可能性を判別可能になるものに限らず、パチンコ機１に設けられる複数の操作部のうち特定操作部（例えば接触操作部３０２、音量調節ボタン２２７、光量調節ボタン２２８、ハンドル１９５等）を操作した場合に上記金色演出が終了するか又は継続するかに応じて大当りとなる可能性の有無を判別できるようにしてもよい。例えば、接触操作部３０２を接触操作した場合に上記金色演出が終了するか又は継続するかに応じて大当りとなる可能性の有無を判別可能になるものや、音量調節ボタン２２７を押圧操作した場合に上記金色演出が終了するか又は継続するかに応じて大当りとなる可能性の有

無を判別可能になるもの、光量調節ボタン２２８を押圧操作した場合に上記金色演出が終了するか又は継続するかに応じて大当りとなる可能性の有無を判別可能になるもの、ハンドル１９５が回転操作されて遊技球が打ち込まれた場合に上記金色演出が終了するか又は継続するかに応じて大当りとなる可能性の有無を判別可能になるもの、等であってもよい。

【３９３２】

また、上記した特定操作部を操作した場合に上記金色演出が終了するか又は継続するかに応じて大当りとなる可能性を判別可能になるものに限らず、パチンコ機１に設けられる複数の検出手段のうち特定検出手段（例えば第一始動口センサ３００２、第二始動口センサ２４０１、ハンドルタッチセンサ１９２等）による検出がなされた場合に上記金色演出が終了するか又は継続するかに応じて大当りとなる可能性の有無を判別できるようにしてもよい。例えば、始動口（第一始動口２００２及び第二始動口２００４）へ入球した遊技球を始動口センサ（第一始動口センサ３００２及び第二始動口センサ２４０１）で検出した場合に上記金色演出が終了するか又は継続するかに応じて大当りとなる可能性の有無を判別可能になるもの、ハンドルタッチセンサ１９２によって手のひらや指等が触れていることを検出した場合に上記金色演出が終了するか又は継続するかに応じて大当りとなる可能性の有無を判別可能になるもの、等であってもよい。この場合にも金色演出が実行されているタイミングｔ２～タイミングｔ４の期間では特定検出手段による検出が行われるように遊技者に遊技するように仕向けることができる。また、金色演出が実行されているタイミングｔ２～タイミングｔ４の期間に特定検出手段による検出が行われて大当り期待度が高いと判別した場合には遊技興趣を向上させることができる。

【３９３３】

また、金色演出の実行中に押圧操作部３０３等の操作部を操作したことに基づいて金色演出を終了させた後、演出表示装置１６００にて金色演出とは無関係の演出情報を表示するようにしてもよい。これによって金色演出が終了したことを遊技者に認識させて大当り期待度が低いことや大当りとなる可能性がないことを把握させることができる。また、押圧操作部３０３等の操作部を操作したことに基づいて金色演出を終了させた後に演出表示装置１６００にて金色演出とは無関係の演出情報を表示した場合に、当該金色演出とは無関係の演出情報の表示についても押圧操作部３０３等の操作部の操作に応じて終了させることができるようにしてもよいし、当該金色演出とは無関係の演出情報の表示の実行中に所定期間に亘って押圧操作部３０３等の操作部が操作されなかった場合に当該金色演出とは無関係の演出情報の表示を終了するようにしてもよい。また、演出表示装置１６００にて実行している金色演出とは無関係の演出情報の表示を終了した後、所定の開始条件が成立した場合に（例えば所定期間に亘って押圧操作部３０３等の操作部が操作されなかった場合や、変動演出が実行されていない無変動演出期間が予め決められた所定期間となった場合等）、金色演出を再び開始するようにしてもよい。これにより、金色演出の発光態様や表示態様を遊技者の脳裏に刷り込み、以後に実行される変動演出において金色演出が実行された場合に大当り期待度の高い変動演出が実行されているという期待を抱かせて押圧操作部３０３等の操作部を操作させることができる。また、演出表示装置１６００にて実行している金色演出とは無関係の演出情報の表示の実行中に所定期間に亘って押圧操作部３０３等の操作部が操作されなかったことを条件に当該金色演出とは無関係の演出情報の表示を終了するように構成した場合には、所定期間が経過する以前に押圧操作部３０３等の操作部が操作されたことに基づいて当該所定期間を再設定（所定期間をリセットして再び０から計測する）するようにしてもよい。この場合には、金色演出とは無関係の演出情報の表示を実行可能な所定期間の再設定と、該所定期間内での押圧操作部３０３等の操作部の操作と、を繰り返し行うことにより、金色演出の再開時期を遅延させたり、金色演出が実行されないようにすることができる。これにより、金色演出の実行を望まない遊技者に対して金色演出が行われることを防止でき、遊技興趣の低下を抑止できる。

【３９３４】

また、図２９４（Ｂ）において金色演出の実行中に演出操作ユニット３００の押圧操作

部３０３が押圧操作された場合には、遊技盤５に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤや扉枠３に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤにおける金色演出の発光装飾を終了した後、この金色演出の発光装飾を終了したタイミングよりも所定期間遅れたタイミングで演出表示装置１６００における金色演出表示態様等の演出表示を終了する。これにより、演出表示装置１６００において表示内容が急に切り替えられることを抑止して、金色演出表示態様等の演出表示の余韻を残した状態で表示内容を切り替えることができる。

【３９３５】

また、金色演出の実行中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作された場合に所定音を出力するようにしてもよく、この場合には演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されたことに基づいて所定音を出力した後、この所定音を出力したタイミング（金色演出の発光装飾を終了したタイミングと同じタイミングでもよいし異なるタイミングでもよい）よりも所定期間（金色演出の発光装飾を終了したタイミングと同じタイミングで所定音を出力する場合には金色演出の発光装飾を終了したタイミングからの所定期間と同一の期間、金色演出の発光装飾を終了したタイミングと異なるタイミングで所定音を出力する場合には金色演出の発光装飾を終了したタイミングからの所定期間と異なる期間）遅れたタイミングで演出表示装置１６００における金色演出表示態様等の演出表示を終了するようにしてもよい。この場合にも所定音が出力された場合に演出表示装置１６００の表示内容が急に切り替えられることを抑止して、金色演出表示態様等の演出表示の余韻を残した状態で表示内容を切り替えることができる。

【３９３６】

また、金色演出の実行中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作された場合に、遊技盤５に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤや扉枠３に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤにおける金色演出の発光装飾を終了した後、再び遊技盤５に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤや扉枠３に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤにおける金色演出の発光装飾を開始するようにしてもよい。この場合には遊技盤５に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤや扉枠３に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤにおける金色演出の発光装飾を終了してから、演出表示装置１６００における金色演出表示態様等の演出表示を終了する以前に（演出表示装置１６００における金色演出表示態様等の演出表示を継続した状態で）再び遊技盤５に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤや扉枠３に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤにおける金色演出の発光装飾を開始するようにしてもよい。これにより、金色演出の発光装飾が終了したことで大当り期待度が低いことや大当りとなる可能性がないことを把握して落胆している遊技者の興趣を向上させて、再び金色演出に注目させることができる。

【３９３７】

また、上記したように金色発光としてさらに導光板３１１０を金色発光するように構成した場合や虹色演出の発光態様としてさらに導光板３１１０を発光するように構成した場合には、特定操作部（押圧操作部３０３）を操作した場合に導光板３１１０の発光装飾が終了するか又は継続するかに応じて大当りとなる可能性を判別可能になる。なお、金色演出や虹色演出として導光板３１１０を発光装飾されている場合に特定操作部を操作することで大当りとなる可能性を判別可能なものに限らず、装飾図柄がリーチとなる等の大当り期待度の高い変動表示中の演出として導光板３１１０が発光装飾されている場合には特定操作部を操作（押圧操作部３０３を押圧操作）されても導光板３１１０の発光装飾を継続する一方で、装飾図柄がリーチとなる等の大当り期待度の高い変動表示中の演出として導光板３１１０が発光装飾されていない場合には特定操作部を操作（押圧操作部３０３を押圧操作）されたことに基づいて導光板３１１０の発光装飾を終了するようにしてもよい。すなわち、金色演出や虹色演出に限らず特定操作部（押圧操作部３０３）を操作した場合に導光板３１１０による発光装飾が終了するか又は継続するかに応じて大当り期待度を判

別可能となるものであってもよく、この場合にも上記したような金色演出中や虹色演出中に特定操作部（押圧操作部３０３）を操作した場合に大当り期待度を判別可能となる構成と同様の構成（例えば導光板３１１０の発光装飾を終了したタイミングよりも所定期間遅れたタイミングで演出表示装置１６００の演出表示を終了させる構成や、実行されていた演出とは無関係の演出情報を表示させる構成等）を採用するようにしてもよい。これにより、遊技者が注目する演出表示装置１６００の表示領域と重複して設けられる導光板３１１０の発光装飾によって大当り期待度を判別することができるようになり、遊技者に大当り期待度を容易に判別させることができるようになる。また、上記したように導光板３１１０を発光装飾するための裏前左装飾基板３１２８、裏前右第一装飾基板３１４８、裏前右第二装飾基板３１４９、及び裏前右導光板用装飾基板３１５０、導光板下左装飾基板３１７４、及び導光板下右装飾基板３１７５のそれぞれには上記装飾基板ＫＢと同様の構成が適用されている。そのため、それぞれの基板のＬＥＤ実装面において反射率の低下が抑制されて導光板３１１０の輝度を高めることができるため、導光板３１１０の発光装飾による態様を遊技者にはっきりと見せることが可能である。

【３９３８】

また、金色演出中に導光板３１１０を金色発光させない場合や虹色演出の発光態様として導光板３１１０を発光させない場合に、特定操作部（押圧操作部３０３）を操作したことに基づいて導光板３１１０が発光装飾されるか否かに応じて大当りとなる可能性を判別可能となるようにしてもよい。例えば、装飾図柄がリーチとなる等の大当り期待度の高い変動表示における変動演出として金色演出や虹色演出が実行されている場合には、当該金色演出や虹色演出の実行中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されても導光板３１１０を発光装飾させない一方、装飾図柄がリーチとなる等の大当り期待度の高い変動表示として金色演出が実行されていない場合には、当該金色演出や虹色演出の実行中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されると、この演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されたタイミングで演出表示装置１６００の前方に配置する導光板３１１０を金色演出や虹色演出の発光態様とは異なる態様で発光装飾して演出表示装置１６００の表示を邪魔する（導光板３１１０が発光装飾されていない場合に比べて視認困難にする）ようにしてもよい。これにより、金色演出や虹色演出が実行されている場合に演出操作ユニット３００を操作することで大当りとなる可能性を判別することができ、金色演出や虹色演出が実行されている場合には遊技者が演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３等の操作部を積極的に押圧操作するように仕向けることができる。また、金色演出や虹色演出が実行されている場合に遊技者が押圧操作部３０３等の操作部を操作して大当り期待度が高いと判別した場合には遊技興趣を向上させることができる。なお、装飾図柄がリーチとなる等の大当り期待度の高い変動表示として金色演出が実行されていない場合に遊技者が演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３等の操作部を操作したことに基づいて、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３等の操作部が操作されたタイミングで金色演出や虹色演出を終了するようにしてもよいし、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３等の操作部が操作されたタイミングで終了させることなく継続させるようにしてもよい。装飾図柄がリーチとなる等の大当り期待度の高い変動表示として金色演出が実行されていない場合には、当該金色演出や虹色演出の実行中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されると、この演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されたタイミングで演出表示装置１６００の前方に配置する導光板３１１０を発光装飾して演出表示装置１６００の表示を邪魔するだけでなく、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３等の操作部が操作されたタイミングで金色演出や虹色演出を終了することにより、遊技者に確実に気づかせることができるようになる。

【３９３９】

また、特定操作部（押圧操作部３０３）を操作したことに基づいて裏前下中装飾体３１６１が動作するか否かに応じて大当りとなる可能性を判別可能となるようにしてもよい。例えば、装飾図柄がリーチとなる等の大当り期待度の高い変動表示における変動演出とし

て金色演出や虹色演出が実行されている場合には、当該金色演出や虹色演出の実行中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されても裏前下中装飾体３１６１を動作させない一方、装飾図柄がリーチとなる等の大当り期待度の高い変動表示として金色演出が実行されていない場合には、当該金色演出や虹色演出の実行中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されると、この演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されたタイミングで裏前下中装飾体３１６１を演出表示装置１６００の前方に表出させて演出表示装置１６００の表示（一部でもよいし、全部でもよい）を邪魔する（裏前下中装飾体３１６１が動作していない場合に比べて視認困難にする）ようにしてもよい。これにより、金色演出や虹色演出が実行されている場合に演出操作ユニット３００を操作することで大当りとなる可能性を判別することができ、金色演出や虹色演出が実行されている場合には遊技者が演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３等の操作部を積極的に押圧操作するように仕向けることができる。また、金色演出や虹色演出が実行されている場合に遊技者が押圧操作部３０３等の操作部を操作して大当り期待度が高いと判別した場合には遊技興趣を向上させることができる。なお、装飾図柄がリーチとなる等の大当り期待度の高い変動表示として金色演出が実行されていない場合に遊技者が演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３等の操作部を操作した場合には、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３等の操作部が操作されたタイミングで金色演出や虹色演出を終了するようにしてもよいし、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３等の操作部が操作されたタイミングで終了させることなく継続させるようにしてもよい。装飾図柄がリーチとなる等の大当り期待度の高い変動表示として金色演出が実行されていない場合には、当該金色演出や虹色演出の実行中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されると、この演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されたタイミングで裏前下中装飾体３１６１を演出表示装置１６００の前方に表出させて演出表示装置１６００の表示を邪魔するだけでなく、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３等の操作部が操作されたタイミングで金色演出や虹色演出を終了することにより、遊技者に確実に気づかせることができるようになる。また、装飾図柄がリーチとなる等の大当り期待度の高い変動表示として金色演出が実行されていない場合に遊技者が演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３等の操作部を操作したことに基づいて裏前下中装飾体３１６１に搭載される裏前下中装飾基板３１６８に実装されるＬＥＤを発光装飾するようにしてもよく、この場合には金色演出や虹色演出の発光態様とは異なる態様で発光装飾するようにしてもよい。これにより、演出表示装置１６００の前方に裏前下中装飾体３１６１を表出させることに加えて、裏前下中装飾体３１６１を金色演出や虹色演出の発光態様とは異なる態様で発光装飾するため、遊技者に確実に気づかせることができるようになる。

【３９４０】

また、上記した例に加えて金色演出の実行中における音出力態様を異ならせることで大当りとなる可能性の有無を判別できるようにしてもよい。例えば、装飾図柄がリーチとなる等の大当り期待度の高い変動表示として金色演出が実行されていれば、当該金色演出に応じた態様の音出力を実行する一方、装飾図柄がリーチとなる等の大当り期待度の高い変動表示として金色演出が実行されていなければ、当該金色演出に応じた態様の音出力を実行することなく、他の態様の音出力を実行したり、音出力を実行しないようにしてもよい。この場合にも金色演出の実行と音出力の態様とによって大当りとなる可能性の有無を判別することができ、大当り期待度が高いと判別した場合には遊技興趣を向上させることができる。

【３９４１】

なお、本例では金色演出に先行して裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部が左右に並んでいる裏後上第一装飾部３２１１を発光装飾するＬＥＤを発光制御する。具体的には、図２９４（Ａ）、（Ｂ）に示すように周辺制御基板１５１０における周辺制御ＩＣのＣＰＵはタイミングｔ０で主制御基板１３１０から変動パターンコマンドを受信して演出表示装置１６００において装飾図柄の変動表示等の変動演出を開始してからタイミングｔ１の期間は裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部が左右に並

んでいる裏後上第一装飾部３２１１を消灯状態に制御し、金色演出を開始する以前のタイミングｔ１となった場合に金色演出に先行して裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部が左右に並んでいる裏後上第一装飾部３２１１を赤色に発光制御し、タイミングｔ２となった場合に金色演出を開始するようになっている。金色演出に先行して行われる裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部の発光制御として、例えば金色演出の開始タイミングをカウントダウンしたり、点滅表示させて所定の発光態様（大当りとなる確率を示す数値等）で停止するようにしてもよい。また、裏後上第一装飾部３２１１としてドットマトリクス表示部を設けるようにしてもよく、この場合には金色演出に先行して行われる表示として所定の文字（アツイ！等）を表示したり、ドットマトリクス表示部の右から左に所定の文字が繰り返し流れるように移動表示するようにしてもよい。

【３９４２】

また、裏後上可動装飾体３２１０の裏後上第一装飾部３２１１の赤色での発光制御は、金色演出の終了後にも継続して行われる。これにより、金色演出の終了後に実行されるリーチ演出等での大当り期待度を高めることができるようになっている。このように、金色演出に先行して裏後上第一装飾部３２１１を発光制御し、金色演出の終了後にも裏後上第一装飾部３２１１を継続して発光制御するため、先行して実行される裏後上第一装飾部３２１１の発光制御によって金色演出の開始に対する期待を高めることができるとともに、金色演出の終了後にも裏後上第一装飾部３２１１の発光制御によって大当りに対する期待を高めることができる。

【３９４３】

なお、裏後上第一装飾部３２１１の発光制御は少なくとも金色演出に先行して開始されるとともに、金色演出の終了後にも継続して行われるものであればよく、装飾図柄の変動表示を開始するタイミングｔ０から金色演出を開始するタイミングｔ２の間のいずれのタイミング（タイミングｔ０で発光制御を開始するものを含む）で開始するようにしてもよいし、金色演出を終了するタイミングｔ４から装飾図柄の変動表示を停止するタイミングｔ５の間のいずれのタイミング（タイミングｔ５で発光制御を停止するものを含む）で終了するようにしてもよい。これにより、装飾図柄の変動表示の実行の有無を裏後上第一装飾部３２１１の発光状態によって判別することができる。また、装飾図柄の変動表示が停止しても（タイミングｔ５）、所定期間が経過する以前に再び装飾図柄の変動表示が開始された場合には裏後上第一装飾部３２１１を消灯状態に制御することなく継続して発光状態に制御するようにしてもよい。この場合には、装飾図柄の変動表示が連続して行われていることを裏後上第一装飾部３２１１の発光状態によって判別することができる。また、裏後上第一装飾部３２１１を点滅表示したり、移動表示する場合には、金色演出に先行するタイミングｔ１で裏後上第一装飾部３２１１を点滅表示したり、移動表示した後、金色演出の開始後のタイミングｔ２から装飾図柄の変動表示を停止するタイミングｔ５（タイミングｔ５を含む）のいずれかのタイミングで点滅表示や移動表示を停止させ、再び装飾図柄の変動表示を開始するときに裏後上第一装飾部３２１１の表示内容を更新して点滅表示や移動表示を再開させるようにしてもよい（タイミングｔ０）。この場合であっても裏後上第一装飾部３２１１における点滅表示や移動表示の有無によって装飾図柄の変動表示の有無を判別することができる。

【３９４４】

このように、本例では大当りとなる蓋然性が高い又は大当りとなる可能性のある高期待金色演出と、大当りとなる蓋然性が低い又は大当りとなる可能性がない低期待金色演出と、を実行するようになっている。なお、上記したように金色演出として金色表示と金色発光との両方を連動して実行するものに限らず、金色表示と金色発光との一方のみを実行するものであってもよく、この場合には高期待金色演出として金色表示と金色発光との一方を実行している場合には当該高期待度金色演出の実行中に遊技者による操作部の操作等を検出しても当該高期待度金色演出を継続して実行する（金色表示と金色発光とのうち遊技者が操作等する以前から実行していたものを操作後にも継続する）一方、低期待度金色演出が実行されている場合には当該低期待度金色演出の実行中に遊技者による操作部の操作

等を検出すると当該低期待度金色演出を終了する（金色表示と金色発光とのうち遊技者が操作する以前に実行していたものを終了させる）ようにしてもよい。このように構成することにより、遊技者による操作部等の操作を促し、遊技へ積極的に参加させることが可能になるため、遊技興趣の低下を抑止できる。

【３９４５】

また、上記高期待金色演出と低期待金色演出との実行中には金色演出に応じた態様の演出音が出力される。そして、低期待金色演出の実行中には操作部等を操作した場合に当該低期待金色演出を終了するとともに当該演出音の出力を終了する。一方、高期待金色演出の実行中には操作部等を操作した場合であっても当該高期待金色演出を終了しないため、高期待金色演出が終了するまでは演出音の出力を継続するようになっている。なお、高期待金色演出の実行中に出力される演出音の態様と、低期待金色演出の実行中に出力される演出音の態様と、のうちの少なくとも一部の態様を異ならせるようにしてもよく（例えば高期待金色演出では特定金色音態様の演出音を出力し、低期待金色演出では特定金色音態様とは異なる非特定金色音態様（特定金色音態様と一部のみが異なることで全体として類似するものであってもよいし、特定金色音態様とは全く異なるものであってもよい）で演出音を出力するものや、高期待金色演出では演出音を出力し、低期待金色演出では演出音を出力しないものなどであってもよい。この場合には演出音の態様によって高期待金色演出が実行されているか又は低期待金色演出が実行されているかを判別することができる可能性があるものの、操作部等を操作した場合に金色演出が終了するか又は継続するかに応じて高期待金色演出が実行されているか又は低期待金色演出が実行されているかを確実に判別することができるようになる。

【３９４６】

なお、遊技者の操作を検出したことに基づいて演出表示装置１６００に特定画像情報を表示するか否かに応じて高期待金色演出と低期待金色演出とのいずれかが実行されているかを判別可能となるようにしてもよい。例えば、図２９５に示すように上記低期待金色演出の実行中に押圧操作部３０３等の操作部が操作された場合に（図２９５（Ｂ））、一定期間（例えば５秒）に亘って特定画像情報１６００ａを表示する一方（図２９５（Ｄ））、高期待金色演出の実行中に押圧操作部３０３等の操作部が操作された場合には特定画像情報１６００ａを表示しないようにしてもよい。このように構成することにより、特定画像情報１６００ａが表示されるか否かによって低期待金色演出が実行されているか、又は高期待金色演出が実行されているかを判別することができるようになるため、遊技者の操作を促し、遊技へ積極的に参加させて遊技興趣の低下を抑止できる。

【３９４７】

また、特定画像情報１６００ａの表示中に再び押圧操作部３０３等の操作部が操作された場合に特定画像情報１６００ａを表示可能な一定期間を再設定するようにしてもよい（特定画像情報１６０００ａの表示期間をリセットして再び０から計測するようにしてもよい）。例えば、押圧操作部３０３等の操作部が操作されたことに基づいて５秒間に亘って特定画像情報１６００ａを表示する場合には、特定画像情報１６００ａの表示期間内（特定画像情報１６００ａが表示されてから５秒以内）に再び押圧操作部３０３等の操作部が操作された場合には、再び押圧操作部３０３等の操作部が操作されたタイミングから５秒間に亘って特定画像情報１６００ａを表示することで特定画像情報１６００ａの表示期間を延長するようにしてもよい。これにより、遊技者が演出表示装置１６００に表示されている特定画像情報１６００ａを見逃すことを防止できる。また、特定画像情報１６００ａの表示期間が上記した一定期間（例えば５秒）に達していない場合でも所定条件が成立した場合（例えば始動口（第一始動口２００２及び第二始動口２００４のいずれか）に遊技球が入球した場合や上記した異常状態が発生した場合等）に特定画像情報１６００ａの表示を終了するようにしてもよく、この場合には特定画像情報１６００ａの表示が上記した一定期間に達する以前に終了したことで所定条件が成立したことを把握することができるようになる。

【３９４８】

また、図２９５（Ｄ）に示すように特定画像情報１６００ａは低期待金色演出の終了後にも上記した一定期間（例えば５秒）が経過するまで表示可能とされている。これにより、低期待金色演出の終了間際に押圧操作部３０３等の操作部を操作した場合であっても特定画像情報１６００ａを表示させることができるようになるため、特定画像情報１６００ａが表示されていること、換言すると低期待金色演出が実行されていたことを遊技者に確実に認識させることができるようになる。

【３９４９】

また、上記した例では低期待金色演出の実行中に押圧操作部３０３等の操作部を操作した場合に特定画像情報１６００ａを表示するものを示したが、特定画像情報１６００ａを表示した後、さらに押圧操作部３０３等の操作部が操作されたことに基づいて特定画像情報１６００ａを変化させるようにしてもよい。例えば低期待金色演出の実行中に押圧操作部３０３等の操作部が操作されたことに基づいて演出表示装置１６００に特定画像情報１６００ａとしてキャラクタを表示する（図２９５（Ｂ））。その後にさらに押圧操作部３０３等の操作部が操作されると特定画像情報１６００ａとしてのキャラクタが膨らんでいく態様（太っていく）へと変化させ（図２９５（Ｃ））、押圧操作部３０３等の操作部の操作に応じて徐々に特定画像情報１６００ａとしてのキャラクタの体型を段階的（例えば最小が体型１で最大が体型６の６段階）に変化させる（図２９５（Ｂ）～図２９５（Ｄ））ようにしてもよい。このように、押圧操作部３０３等の操作部の操作に応じて特定画像情報１６００ａが表示されるか否かだけでなく、特定画像情報１６００ａを押圧操作部３０３等の操作部の操作に応じて段階的に変化させるようにしてもよい。これにより、低期待金色演出の実行中に特定画像情報１６００ａが演出表示装置１６００に表示されていることを確実に気づかせることができることに加えて、低期待金色演出が実行されていることを認識した場合であっても特定画像情報１６００ａとしてのキャラクタの変化によって落胆を緩和することができるようになっている。

【３９５０】

また、複数の操作部のうちいずれかを操作した場合に特定画像情報１６００ａとしてのキャラクタを表示するようにしてもよく、この場合には複数の操作部のうち第１操作部を操作したことに基づいて特定画像情報１６００ａとしてのキャラクタが膨らんでいく態様（太っていく）へと変化させ（図２９５（Ｃ））、複数の操作部のうち第２操作部を操作したことに基づいて特定画像情報１６００ａとしてのキャラクタが萎んでいく態様（痩せていく）へと変化させるようにしてもよい（図２９５（Ｃ））。これにより、低期待金色演出の実行中に特定画像情報１６００ａが演出表示装置１６００に表示されていることを確実に気づかせることができることに加えて、低期待金色演出が実行されていることを認識した場合であっても特定画像情報１６００ａとしてのキャラクタの変化によって落胆を緩和することができるようになっている。また、複数の操作部のうち第１操作部と第２操作部との一方を操作することによって特定画像情報１６００ａとしてのキャラクタの体型が最大値（体型６）又は最小値（体型１）に変化しても、複数の操作部のうち第１操作部と第２操作部との他方を操作することで特定画像情報１６００ａとしてのキャラクタの体型を最大値（体型６）から最小値（体型１）に向けてさらに変化させたり、最小値（体型１）から最大値（体型６）に向けてさらに変化させたりすることができる。

【３９５１】

また、演出表示装置１６００で高期待金色演出を実行する変動表示を開始した場合には、高期待金色演出の実行以前であっても押圧操作部３０３等の操作部の操作に基づいて特定画像情報１６００ａを表示しないようにしてもよい。これにより、高期待金色演出の実行以前から遊技者の大当りに対する期待を高めて高期待金色演出に注目させることができ、遊技興趣が向上する。

【３９５２】

また、低期待金色演出が実行されている場合に押圧操作部３０３等の操作部の操作に応じて特定音（例えば押圧操作部３０３等の操作部を操作したときに出力される「ピッ」等の電子音や特定画像情報１６００ａの動作に応じた音（例えば図２９５（Ｂ）～図２９５

（Ｄ）において特定画像情報１６００ａが太ったり痩せたりする変化に応じて「ピッ」等の音））を出力するようにしてもよい。これにより、低期待金色演出が実行されている場合には特定画像情報１６００ａの表示に関連して特定音を出力して特定画像情報１６００ａの表示の変化に気付かせることができるため、遊技者の落胆を緩和することができる。また、高期待金色演出が実行されている場合にも押圧操作部３０３等の操作部の操作に応じて上記した特定音を出力するようにしてもよく、この場合には、押圧操作部３０３等の操作部を操作しても演出表示装置１６００に特定画像情報１６００ａが表示されないものの、押圧操作部３０３等の操作部の操作に応じて特定音が出力されることで押圧操作部３０３等の操作部の操作が確実に受け付けられていることを認識させることができるようになり、高期待金色演出が実行されていることを認識した遊技者の遊技興趣を向上させることができる。

【３９５３】

また、押圧操作部３０３等の操作部の操作に応じて特定音（例えば押圧操作部３０３等の操作部を操作したときに出力される「ピッ」等の電子音や特定画像情報１６００ａの動作に応じた音（例えば図２９５（Ｂ）～図２９５（Ｄ）において特定画像情報１６００ａが太ったり痩せたりする変化に応じて「ピッ」等の音））を出力する場合には、特定画像情報１６００ａの表示の変化に先んじて特定音を出力し、その後に演出表示措置１６００に表示されている特定画像情報１６００ａの表示を変化させるようにしてもよい。このように構成することにより、特定画像情報１６００ａの表示が変化することを特定音によって通知し、事前に遊技者に認識させた上で特定画像情報１６００ａの表示を変化させることができ、特定画像情報１６００ａの表示の変化を見逃さないようにすることが可能である。

【３９５４】

また、低期待金色演出が実行されている場合に押圧操作部３０３等の操作部の操作に応じて扉枠３や遊技盤５に設けられる複数の装飾基板のうち上記金色発光を実行可能な特定装飾基板に実装されるＬＥＤの発光態様を変更する（例えば発光色の変更、発光パターン（点滅の間隔等）の変更、輝度の変更等）ようにしてもよい。この場合にも、低期待金色演出が実行されている場合には特定画像情報１６００ａの表示に関連して特定装飾基板に実装されるＬＥＤの発光態様が変更されるため、特定画像情報１６００ａの表示の変化に気付かせることができ、遊技者の落胆を緩和させることが可能である。またこの場合にも特定画像情報１６００ａの表示の変化に先んじて特定装飾基板に実装されるＬＥＤの発光態様を変更する（例えば発光色の変更、発光パターン（点滅の間隔等）の変更、輝度の変更等）ようにしてもよい。このように構成することにより、特定画像情報１６００ａの表示が変化することを特定装飾基板に実装されるＬＥＤの発光態様の変更によって通知し、事前に遊技者に認識させた上で特定画像情報１６００ａの表示を変化させることができ、特定画像情報１６００ａの表示の変化を見逃さないようにすることが可能である。

【３９５５】

また、低期待金色演出の実行中に押圧操作部３０３等の操作部を操作したことに基づいて特定画像情報１６００ａを表示する場合には、押圧操作部３０３等の操作部の操作に基づいて実行中の低期待金色演出を終了した後に特定画像情報１６００ａを表示するようにしてもよい。このように構成することにより、特定画像情報１６００ａの表示だけでなく、低期待金色演出の終了によっても低期待金色演出が実行されていたことを認識させることができるし、大当りの期待が低い低期待金色演出が延々と実行されて遊技興趣を低下されることを抑止できる。

【３９５６】

また、上記した例では高期待金色演出の実行中に押圧操作部３０３等の操作部が操作された場合には特定画像情報１６００ａを表示しないものを示したが、高期待金色演出を行う変動表示の実行中であってもパチンコ機１に異常が発生した場合等（本体枠４に対する扉枠３の開放を検出した場合（扉枠３の開放によって扉枠３に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤによる発光を視認し難い状態となった場合）、図示

しない振動センサが所定期間（例えば３０秒）継続して遊技盤５の振動を検出した場合（パチンコ機１を叩く等の行為が行われていることを検出した場合、パチンコ機１が振動することによって扉枠３や遊技盤５に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤによる発光や演出表示装置１６００の表示がぶれて視認し難い状態となっている場合）、満タン検知センサ１５４からの検出信号が入力された場合（下皿２０２が遊技球で満タンになっていることを検出した場合）、球切検知センサ５７４からの検出信号が入力された場合（誘導通路５７０ａ内に遊技球が存在していないことを検出した場合等のゴト行為が行われている可能性の低いエラー）などの軽微なエラーが発生した場合、電波照射ゴトを検出した場合（電磁波等によって扉枠３や遊技盤５に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤによる発光にノイズが入ったり演出表示装置１６００の表示にノイズが入っている場合）、磁石ゴトを検出した場合、第二始動口２００４が開放していない場合に第二始動口センサ２４０１からの検出信号が入力された場合、大当り遊技状態や小当り遊技状態でない場合に大入賞口センサ２４０２からの検出信号が入力されたとき等のゴト行為の行われている可能性の高いエラー）などの重大なエラーが発生した場合、等）の特定条件が成立した場合には、特定画像情報１６００ａを表示するようにしてもよいし、特定画像情報１６００ａを表示した後、さらに押圧操作部３０３等の操作部が操作されたことに基づいて特定画像情報１６００ａの表示態様を変化させるようにしてもよい。このように構成することにより、特定音が聞こえにくい状況でも特定画像情報１６００ａの表示や特定画像情報１６００ａの表示態様の変化によって押圧操作部３０３等の操作部の操作が確実に受け付けられていることを認識させることができるようになり、高期待金色演出が実行されていることを認識した遊技者の遊技興趣を向上させることができる。

【３９５７】

ここで、金色等の金属光沢は演出表示装置１６００等の表示装置において表示素子単体（一つの表示素子のみ）では金色を表示することはできない。そのため、本例では演出表示装置１６００に金色に近い色である黄色をエフェクト処理した画像を表示することで金色を表現している。具体的には図２９６（Ａ）に示すように、本例では演出表示装置１６００にてグラフィック処理で金色等の金属光沢を表す金色表示を行う場合に、黄色のキャラクタや文字、模様等を、段階的に明暗を異ならせて表示したり（グラデーション）、星型やダイヤ型、放射状等の光彩（光沢を表すもので周囲に比べて色が薄い部分（白っぽい部分））を表示したり、陰影（黒っぽい影）を表示したり、すること等により、金属の光沢を表現して、演出表示装置１６００の金色表示のみによっても金色の表示が行われていると認識させることができるようになっている。

【３９５８】

同様に、ランプやＬＥＤ等の発光体においても発光素子単体（一つの発光素子のみ）では金色を再現することはできないため、金色に近い色である黄色をエフェクト処理して発光することで金色を表現するようになっている。例えば、図２９６（Ｂ）に示すように、複数のＬＥＤを共通の黄色に発光するものの所定数のＬＥＤ毎に段階的に明暗を異ならせた黄色に発光させたり（グラデーション）、複数のＬＥＤ全てを共通の色（黄色）で発光させることなく一部のＬＥＤについては白色に発光させて光彩を表したり、演出表示装置１６００に表示される放射状の光彩の延長上に配置するＬＥＤを金色に近い色の黄色等の発光色で発光させてそれ以外を消灯したり、演出表示装置１６００に表示される放射状の光彩の延長上に配置するＬＥＤの発光色を明度を高めて（薄黄色等の明るい黄色）発光させる一方放射状の光彩の延長上に配置しないＬＥＤを明度を低下させて（黒っぽい黄色等の暗い黄色）発光させること等により、金属の光沢を表現したり、演出表示装置１６００に表示される金色表示と関連して金色の発光が行われていると認識させることができるようになっている。また、これらに加えて、又はこれらに替えてＬＥＤが実装される基板の表実装面をレンズカット（多面形状を有するもの）された部材（レンズ部材等、外側の部材と内側の部材との２つの部材からなる二重レンズ部材等でもよいし、この場合には外側の部材と内側の部材とのレンズカットの程度（面の数や大きさ等）を異ならせるようにし

てもよい。二重レンズ部材としたり、レンズカットの程度の異なる二重レンズとすることで光の屈折が不規則になり、キラキラ感を向上させることができる。）で覆って、光の屈折率を異ならせることによりＬＥＤからの光を拡散させたり、光が集められて輝度が高い領域と光が避けられて輝度が低い領域とが生じるようにしてキラキラ感を作り出して金色や金属などの光沢感を表現することも可能であり、このようなレンズカットされた部材を配置することによっても金色の発光が行われていると認識させることができるし、レンズカットされた部材によって該部材の背後の視認性を悪化させて基板の表実装面や、該表実装面に実装される電子部品、表面側表記部等を視認され難くすることができ、これら遊技と無関係な情報が視認されることによる遊技興趣の低下を抑止できる。また多面形状にレンズカットされた部材の一の面と他の面との境界部が表面側表記部と重なるように配置するようにしてもよく、これによりレンズカットされた部材を通して視認される映像を歪ませることができるようになり、表面側表記部が視認され難くなる。さらに、本例では、演出表示装置１６００における金色表示に連動して、扉枠３や遊技盤５に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤを金色発光することにより、金色表示と金色発光とによる相乗効果を生じさせて、遊技者に高い割合で金色の表示や発光が行われていると認識させることができるようになっている。

【３９５９】

また、上記したように本例では遊技盤５に設けられて複数のＬＥＤを実装する複数の装飾基板のうち金色発光を実行可能な特定装飾基板、すなわち、裏前左上ロゴ装飾部３１２２を発光装飾させるための裏前左上装飾基板３１２９と、裏前左ロゴ装飾部３１２１、裏前左上ロゴ装飾部３１２２、及び裏前左サブ装飾部３１２３を発光装飾させるための裏前左装飾基板３１２８と、裏前下ロゴ装飾体３１６７を発光装飾させるための裏前下ロゴ装飾基板３１７３と、裏前下中装飾体３１６１を発光装飾させるための裏前下中装飾基板３１６８と、裏前下左内装飾体３１６３を発光装飾させるための裏前下左内装飾基板３１６９と、裏前下左外装飾体３１６４を発光装飾させるための裏前下左外装飾基板３１７０と、裏前下右内装飾体３１６５を発光装飾させるための裏前下右内装飾基板３１７１と、裏前下右外装飾体３１６６を発光装飾させるための裏前下右外装飾基板３１７２と、裏前右ロゴ装飾部３１４１を発光装飾させるための裏前右下装飾基板３１５２と、裏前右上ロゴ装飾部３１４２を発光装飾させるための裏前右上装飾基板３１５１と、裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部が左右に並んでいる裏後上第一装飾部３２１１を発光装飾させるためのＬＥＤが実装される裏後上第一装飾基板（図示しない）と、には、複数のＬＥＤを実装する表面（ＬＥＤ実装面）に、白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされる。

【３９６０】

また、扉枠３に設けられて複数のＬＥＤを実装する複数の装飾基板のうち上記金色発光を実行可能な特定装飾基板、すなわち、扉枠トップユニット４５０の扉枠トップ中央装飾基板４５５と、扉枠トップ左装飾基板４５６と、扉枠トップ右装飾基板４５７と、扉枠左サイドユニット４２０の扉枠左サイド上装飾基板４２２と、扉枠左サイドユニット４２０の扉枠左サイド下装飾基板４２３と、皿左装飾レンズ２７２の後側に設けられる皿左装飾基板２７３と、扉枠右サイドユニット４３０の扉枠右サイド下装飾基板４３３と、皿右装飾レンズ２７７の後側に設けられる皿右装飾基板２７８と、扉枠右サイドユニット４３０の扉枠右サイド上装飾基板４３２と、等には、複数のＬＥＤを実装する表面（ＬＥＤ実装面）に、白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされる。

【３９６１】

遊技盤５や扉枠３に設けられる特定装飾基板において、複数のＬＥＤを実装する表面（ＬＥＤ実装面）にコーティングされる白色のソルダーレジスト（保護材）上には、実装されるＬＥＤ等の電子部品や他の装飾基板との混同を避けるための文字や記号（電子部品の部品番号）、電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が明度や彩度の高い色

（例えば、黄色や黄緑色等の明色等）のインクを用いてスクリーン印刷により施されている。換言すると、遊技盤５や扉枠３に設けられて複数のＬＥＤを実装する複数の装飾基板のうち特定装飾基板におけるＬＥＤ実装面には、反射率の最も高い色である白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされるとともに、実装されるＬＥＤ等の電子部品や他の装飾基板との混同を避けるための文字や記号（電子部品の部品番号）、電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が、明度や彩度の高い色（例えば、黄色や黄緑色等の明色）のインクを用いてスクリーン印刷により施されている。

【３９６２】

上記したように、金色演出ではこれら特定装飾基板に実装されるＬＥＤを表面側表記部と同様の黄色をエフェクト処理して発光させる金色発光を行う。特定装飾基板の表面に白色のソルダーレジスト（保護材）をコーティングして、この特定装飾基板に実装される複数のＬＥＤをＬＥＤ実装面に形成される表面側表記部と同様の色で発光させることで、ＬＥＤ実装面における反射効率を高めることができるだけでなく、これら複数のＬＥＤから照射される光が表面側表記部によって減衰することを抑制できるため、金色発光を高い輝度で明瞭に実行することができるし、白色と反射率の近い黄色を用いて表面側表記部を形成することでＬＥＤ実装面における反射率を均一に近い状態とすることができ、ＬＥＤから照射される光を特定装飾基板のＬＥＤ実装面で均一に反射させて照度ムラの発生を抑制して金色演出における演出効果を高めることができ、遊技興趣の低下を抑止できる。

【３９６３】

また、上記遊技盤５や扉枠３に設けられる特定装飾基板のうち裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部が左右に並んでいる裏後上第一装飾基板以外の装飾基板にはフルカラーＬＥＤが実装され、上記した金色演出が実行される場合には金色発光するようになっている。一方、特定装飾基板のうち裏後上第一装飾基板（図示しない）には単色発光（この例では赤色）のＬＥＤのみが実装され、金色演出が実行される場合であっても、裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部では金色発光することなしに金色演出が実行されていない場合と同一（本例では赤色）の発光色で文字や数字、絵柄、等が表示されるだけであり、金色演出とは異なる演出が実行される。つまり、文字や数字、絵柄、等を表示させる裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部においては金色演出が実行されても発光色を変更しないことで表示される文字や数字、絵柄、等の情報を遊技者が見やすい状態で表示するようになっており、遊技者に誤った情報が伝わることが抑制される。なお、金色演出の実行中には特定装飾基板のうち裏後上第一装飾基板に実装される単色発光のＬＥＤを発光制御しないようにしてもよく、この場合には遊技盤５や扉枠３に設けられる特定装飾基板のうち裏後上第一装飾基板以外の装飾基板に実装されるフルカラーＬＥＤを発光制御して、パチンコ機１の全体を統一された発光色（金色発光）で発光させて演出効果を高めることが可能になる。

【３９６４】

また、裏後上第一装飾基板に単色発光のＬＥＤとフルカラーＬＥＤとの両方を実装するようにしてもよく、この場合には裏後上第一装飾基板に実装される複数のＬＥＤのうちの単色発光のＬＥＤについては金色演出の実行中であっても金色発光することなしに金色演出が実行されていない場合と同一の発光色で発光させたり、金色演出の実行中には消灯させたりする一方で、裏後上第一装飾基板に実装される複数のＬＥＤのうちのフルカラーＬＥＤについては金色発光させるようにしてもよい。

【３９６５】

本例では遊技盤５や扉枠３に設けられる特定装飾基板のＬＥＤが実装されている表実装面（ＬＥＤ実装面）には白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされ、特定装飾基板のＬＥＤが実装されている表実装面（ＬＥＤ実装面）には実装される電子部品や他の装飾基板との混同を避けるための文字や記号（電子部品の部品番号）、電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側

電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が、明度や彩度の高い色（例えば、黄色や黄緑色等の明色）のインクを用いてスクリーン印刷により施されている。また、本例では遊技盤５や扉枠３に設けられる特定装飾基板のＬＥＤが実装されていない裏実装面（ＬＥＤ非実装面）にも白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされ、さらに特定装飾基板のＬＥＤが実装されていない裏実装面（ＬＥＤ非実装面）にも上記した裏面側表記部が、明度や彩度の高い色（例えば、黄色や黄緑色等の明色）のインクを用いてスクリーン印刷により施されている。そのため、特定装飾基板のＬＥＤ非実装面に他の装飾基板（特定装飾基板以外の装飾基板でもよいし、複数の特定装飾基板のうち他の特定装飾基板であってもよい）に実装される複数のＬＥＤから光が照射された場合にこの照射された光を高効率で反射させて効率よく使用することができ、光量の低下が抑制される。なお、特定装飾基板のＬＥＤが実装されていない裏実装面（ＬＥＤ非実装面）にＬＥＤが実装される表実装面（ＬＥＤ実装面）とは異なる色（例えば緑や黒等の暗色）のソルダーレジスト（保護材）をコーティングするようにしてもよいし、明度や彩度の低い色（例えば黒色や緑色等）のインクを用いて裏面側表記部をスクリーン印刷するようにしてもよい。

【３９６６】

また、遊技盤５の遊技パネル１１００は、上記したように、外周が枠状の前構成部材１０００の内周よりもやや大きく形成されていると共に透明な平板状のパネル板１１１０と、パネル板１１１０の外周を保持しており前構成部材１０００の後側に取付けられると共に後面に裏ユニット３０００が取付けられる枠状のパネルホルダ１１２０と、を備えている。前構成部材１０００は、上記したように、遊技パネル１１００とともに透明に形成されている。これにより、前構成部材１０００の前方（つまり、遊技盤５の前方）から遊技パネル１１００を通して遊技パネル１１００の後方に配置される各種部材の存在を視認することができるようになっている（以下、「透明な遊技パネル１１００」と記載する場合がある）。

【３９６７】

また、遊技パネル１１００の前面に取付けられる表ユニット２０００は、上記したように、遊技領域５ａの外周を区画している前構成部材１０００、遊技領域５ａの後端側を区画している遊技パネル１１００、始動口ユニット２１００、サイドユニット２２００、サイド左上ユニット２３００、第一アタッカユニット２４００、センター役物２５００、第二アタッカユニット２６００、サイド右中ユニット２７００、及びゲート部材２８００が、略全体的に透明に形成されている。このため、例えば、図１３４に示すように、通常の状態では、それらを通して、遊技パネル１１００の後方に配置されている裏ユニット３０００における裏前演出ユニット３１００の裏前左装飾ユニット３１２０、裏前右装飾ユニット３１４０、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１、裏前下左内装飾体３１６３、裏前下左外装飾体３１６４、裏前下右内装飾体３１６５、裏前下右外装飾体３１６６、裏前下ロゴ装飾体３１６７、裏後上演出ユッニト３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後左サイド装飾体３２２０、及び裏後右サイド装飾体３２３０、等を良好に視認することができると共に、センター役物２５００の枠内を通して、演出表示装置１６００に表示されている演出画像を、良好に視認することができる。

【３９６８】

例えば、裏前左装飾ユニット３１２０では、透明な遊技パネル１１００の後方には、裏前下中装飾体３１６１、裏前下左内装飾体３１６３、裏前下左外装飾体３１６４、裏前下右内装飾体３１６５、及び裏前下右外装飾体３１６６という透明な装飾体が配置され、この透明な装飾体の後方に、裏前左装飾基板３１２８が配置されることとなる。裏前左装飾基板３１２８の前面（表実装面）には、多色発光可能な複数のフルカラーＬＥＤが実装されている。このように、透明な遊技パネル１１００の後方には、裏前下中装飾体３１６１、裏前下左内装飾体３１６３、裏前下左外装飾体３１６４、裏前下右内装飾体３１６５、及び裏前下右外装飾体３１６６という透明な装飾体、そして裏前左装飾基板３１２８という順番で配置されている。裏前左装飾基板３１２８の前面（表実装面）には、白色のレジ

スト液が塗布されて形成される白色絶縁膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成されている。裏前左装飾基板３１２８の前面（表実装面）にベタ塗りされた白色のレジスト上に、複数のフルカラーＬＥＤ等の表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が黄色（複数の障害釘Ｎ（本実施形態では、真ちゅうを使用している。）が有する金色と類似する色）でシルク印刷により印刷されている。

【３９６９】

また、図１３７に示したように遊技盤５の遊技領域５ａ内には、遊技球と当接し所定のゲージ配列で金色を有する複数の障害釘Ｎ（本実施形態では、真ちゅうを使用している。）が透明な遊技パネル１１００に植設されているため、金色を有する複数の障害釘Ｎによる誘目性を利用することができる。つまり、透明な遊技パネル１１００の前面に金色を有する複数の障害釘Ｎが植設されているため、金色を有する複数の障害釘Ｎによる誘目性によって、透明な遊技パネル１１００の後方に配置される裏前下中装飾体３１６１、裏前下左内装飾体３１６３、裏前下左外装飾体３１６４、裏前下右内装飾体３１６５、及び裏前下右外装飾体３１６６という透明な装飾体を通して、裏前左装飾基板３１２８の前面（表実装面）を視認することできる場合であっても、裏前左装飾基板３１２８にベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷される黄色（複数の障害釘Ｎが有する金色と類似する色）の表面側表記部の存在を分かり難くすることに寄与している。

【３９７０】

裏前左装飾ユニット３１２０と同様に、裏前右装飾ユニット３１４０についても、表面側表記部の存在を分かり難くすることに寄与しているという点が成り立つ。つまり、透明な遊技パネル１１００の前面に金色を有する複数の障害釘Ｎが植設されているため、金色を有する複数の障害釘Ｎによる誘目性によって、透明な遊技パネル１１００の後方に配置される裏前右装飾ユニット３１４０の裏前右ロゴ装飾部３１４１及び裏前右上ロゴ装飾部３１４２という透明な装飾体を通して、裏前右装飾ユニット３１４０の裏前右上装飾基板３１５１や裏前右下装飾基板３１５２の前面（表実装面）を視認することできる場合であっても、裏前右装飾ユニット３１４０の裏前右上装飾基板３１５１や裏前右下装飾基板３１５２にベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷される黄色（複数の障害釘Ｎが有する金色と類似する色）の表面側表記部の存在を分かり難くすることに寄与している。

【３９７１】

また、例えば、裏前左装飾ユニット３１２０の裏前左装飾基板３１２８の前面（表実装面）に実装される多色発光可能な複数のフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、裏前左装飾基板３１２８の表面に形成される白色絶縁膜上に金色と類似する黄色に形成される表面側表記部を、裏前左装飾ユニット３１２０の裏前下中装飾体３１６１、裏前下左内装飾体３１６３、裏前下左外装飾体３１６４、裏前下右内装飾体３１６５、及び裏前下右外装飾体３１６６という透明な装飾体、そして透明な遊技パネル１１００を通して、視認可能となるものの、裏前左装飾基板３１２８の表面に形成される白色絶縁膜が白色の背景となることで、裏前左装飾基板３１２８の表面の前方に配置される透明な遊技パネル１１００の表面に植設される金色を有する障害釘Ｎによる誘目性によって裏前左装飾基板３１２８の表面から金色を有する障害釘Ｎへ視線が自然と誘導されることとなる。これにより、裏前左装飾基板３１２８を遊技者に視認可能な装飾の一種として用いた場合であっても、金色を有する障害釘Ｎに目が引きつけられることで、裏前左装飾基板３１２８の表面に形成される白色絶縁膜を視認し難くすることができるため、遊技機の世界観が崩れ難い。したがって、装飾性の低下を抑制することができる。

【３９７２】

また裏前左装飾ユニット３１２０と同様に、裏前右装飾ユニット３１４０についても、装飾性の低下を抑制することができるという点が成り立つ。つまり、裏前右装飾ユニット３１４０の裏前右上装飾基板３１５１や裏前右下装飾基板３１５２の前面（表実装面）に

実装される多色発光可能な複数のフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、裏前右上装飾基板３１５１や裏前右下装飾基板３１５２の表面に形成される白色絶縁膜上に金色と類似する黄色に形成される表面側表記部を、裏前右装飾ユニット３１４０の裏前右ロゴ装飾部３１４１及び裏前右上ロゴ装飾部３１４２という透明な装飾体、そして透明な遊技パネル１１００を通して、視認可能となるものの、裏前右上装飾基板３１５１や裏前右下装飾基板３１５２の表面に形成される白色絶縁膜が白色の背景となることで、裏前右上装飾基板３１５１や裏前右下装飾基板３１５２の表面の前方に配置される透明な遊技パネル１１００の表面に植設される金色を有する障害釘Ｎによる誘目性によって裏前右上装飾基板３１５１や裏前右下装飾基板３１５２の表面から金色を有する障害釘Ｎへ視線が自然と誘導されることとなる。これにより、裏前右上装飾基板３１５１や裏前右下装飾基板３１５２を遊技者に視認可能な装飾の一種として用いた場合であっても、金色を有する障害釘Ｎに目が引きつけられることで、裏前右上装飾基板３１５１や裏前右下装飾基板３１５２の表面に形成される白色絶縁膜を視認し難くすることができるため、遊技機の世界観が崩れ難い。したがって、装飾性の低下を抑制することができる。

【３９７３】

なお、本例では透明な遊技パネル１１００の前面に金色を有する複数の障害釘Ｎを植設したが、これに代えて、遊技パネル１１００の前面に、所定形状を有する透明なセルシートを貼着し、このセルシートの一部に金色（複数の障害釘Ｎが有する金色と同一の色または、この金色に近い色）のデザインを施すこと等により、この金色のデザインが施された部分による誘目性によって、例えば、この金色のデザインが施された部分の後方に配置される裏前左装飾ユニット３１２０における裏前下中装飾体３１６１、裏前下左内装飾体３１６３、裏前下左外装飾体３１６４、裏前下右内装飾体３１６５、及び裏前下右外装飾体３１６６という透明な装飾体を通して、裏前左装飾ユニット３１２０における裏前左装飾基板３１２８の前面（表実装面）を視認することできる場合や、この金色のデザインが施された部分の後方に配置される裏前右装飾ユニット３１４０における裏前右ロゴ装飾部３１４１及び裏前右上ロゴ装飾部３１４２という透明な装飾体を通して、裏前右装飾ユニット３１４０における裏前右上装飾基板３１５１や裏前右下装飾基板３１５２の前面（表実装面）を視認することができる場合であっても、裏前左装飾ユニット３１２０における裏前左装飾基板３１２８や裏前右装飾ユニット３１４０における裏前右上装飾基板３１５１や裏前右下装飾基板３１５２にベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷される黄色（セルシートにデザインされた部分が有する金色と類似する色）の表面側表記部の存在を分かり難くするようにしてもよい。

【３９７４】

このように構成した場合にも、裏前左装飾ユニット３１２０の裏前左装飾基板３１２８の前面（表実装面）や裏前右装飾ユニット３１４０における裏前右上装飾基板３１５１、裏前右下装飾基板３１５２に実装される多色発光可能な複数のフルカラーＬＥＤが消灯する状態において、裏前左装飾基板３１２８や裏前右上装飾基板３１５１、裏前右下装飾基板３１５２の表面に形成される白色絶縁膜上に金色と類似する黄色に形成される表面側表記部を、裏前左装飾ユニット３１２０の裏前下中装飾体３１６１、裏前下左内装飾体３１６３、裏前下左外装飾体３１６４、裏前下右内装飾体３１６５、及び裏前下右外装飾体３１６６という透明な装飾体や、裏前右ロゴ装飾部３１４１及び裏前右上ロゴ装飾部３１４２という透明な装飾体、そして透明な遊技パネル１１００を通して、視認可能となるものの、裏前左装飾基板３１２８や裏前右上装飾基板３１５１、裏前右下装飾基板３１５２の表面に形成される白色絶縁膜が白色の背景となることで、裏前左装飾基板３１２８や裏前右上装飾基板３１５１、裏前右下装飾基板３１５２の表面の前方に配置される透明な遊技パネル１１００の表面に貼着されるセルシートにおける金色のデザインが施された部分による誘目性によって裏前左装飾基板３１２８や裏前右上装飾基板３１５１、裏前右下装飾基板３１５２の表面からセルシートにおける金色にデザインされた部分へ視線が自然と誘導されることが可能である。これにより、裏前左装飾基板３１２８、裏前右上装飾基板３１５１、裏前右下装飾基板３１５２を遊技者に視認可能な装飾の一種として用いた場合で

あっても、セルシートに施される金色のデザイン部分に目を引きつけさせて、裏前左装飾基板３１２８、裏前右上装飾基板３１５１、裏前右下装飾基板３１５２の表面に形成される白色絶縁膜を視認し難くすることができるため、遊技機の世界観が崩れ難い。したがって、装飾性の低下を抑制することができる。

【３９７５】

また、裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部が左右に並んでいる裏後上第一装飾部３２１１のうち少なくとも７セグメント表示部の表面（裏後上第一装飾部３２１１表面の全部でもよい）の前方の遊技パネル１１００には障害釘を植設しないようにしてもよい。このように構成することにより、裏後上第一装飾部３２１１の７セグメント表示部の視認が障害釘Ｎによって阻害されることを抑制でき、裏後上第一装飾部３２１１の７セグメント表示部に表示される文字や数字、絵柄、等の情報を遊技者が見やすくすることができるため、７セグメント表示部に表示される情報を遊技者に確実に伝えることができる。また、これに加えて、裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部が左右に並んでいる裏後上第一装飾部３２１１を発光装飾させるためのＬＥＤが実装される裏後上第一装飾基板については、少なくとも複数のＬＥＤを実装する表面（ＬＥＤ実装面）に暗色（黒色や緑色、紫色等）のソルダーレジスト（保護剤）をコーティングするようにしてもよく（ＬＥＤを実装しない裏面（ＬＥＤ非実装面）にも同様のソルダーレジストをコーティングするようにしてもよい）、これにより裏後上第一装飾基板の複数のＬＥＤを実装する表面（ＬＥＤ実装面）において光の干渉を抑制して複数のＬＥＤそれぞれから照射される光を個別に識別できるようになるため、７セグメント表示部に文字や数字、絵柄、等の情報を明瞭に表示させることができる。なお、裏後上第一装飾基板の複数のＬＥＤを実装する表面（ＬＥＤ実装面）に複数のＬＥＤそれぞれを区画して光の干渉を抑制する不透光性の区画部（裏後上第一装飾部３２１１と一体的に形成されるものでもよいし、裏後上第一装飾部３２１１と別体で形成されるものでもよい）を設けるようにしてもよく、この場合には複数のＬＥＤそれぞれから照射される光がより明確に識別できるようになるため、７セグメント表示部に文字や数字、絵柄、等の情報を明瞭に表示させることができる。また、この場合にはＬＥＤ実装面に設けられるＬＥＤ以外の電子部品として暗色（黒色や緑色、紫色等）の外装（ケースやパッケージ、ハウジング等）を有する電子部品（例えば、緑色のハウジングを有するコネクタ等）のみを実装するようにしてもよいし、ＬＥＤ素子のパッケージを含む所定数の電子部品全てについて暗色（黒色や緑色、紫色等）の外装（ケースやパッケージ、ハウジング等）を有する電子部品（例えば、黒色のパッケージを有するＬＥＤ素子や緑色のハウジングを有するコネクタ等のうちいずれか一つ又は複数（任意の組み合わせ））のみを実装するようにし、白色や明色の外装を有する電子部品についてはＬＥＤ非実装面に実装するようにしてもよい。この場合にはＬＥＤ実装面に実装される電子部品によってＬＥＤ実装面の反射率が向上することを抑制できるとともに、ＬＥＤ実装面での光の干渉を抑制できるため、７セグメント表示部に表示される文字や数字絵柄等の情報を明瞭に表示することができ、遊技者にこれらの情報を確実に伝えることができるようになる。

【３９７６】

また、裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００における裏後上第一装飾部３２１１には、７セグメント表示部の周囲を囲むように金色の金属光沢を持った金属装飾部３２１１ａ（図２９７の網掛け部分）が形成されている。この金属装飾部３２１１ａの金色の金属光沢によって高級感を付与することができると共に、裏後上第一装飾部３２１１の周囲に設けられるランプやＬＥＤから照射される光を反射して輝度を高めることができるようになっている。

【３９７７】

また、上記したように金色演出が実行された場合であっても裏後上可動装飾体３２１０における裏後上第一装飾部３２１１の五つの７セグメント表示部では金色発光することなしに金色演出とは異なる演出（金色演出が実行されていない場合と同一（本例では赤色）の発光色で文字や数字、絵柄、等を表示する）を実行するようになっている。このように

裏後上可動装飾体３２１０における裏後上第一装飾部３２１１の五つの７セグメント表示部では金色演出が実行されても金色発光しないものの、７セグメント表示部の周囲を囲むように形成されて金色の金属光沢を持った金属装飾部３２１１ａによって、裏後上第一装飾部３２１１の周囲に設けられるランプやＬＥＤから照射される金色に類似する色の光（本例では黄色）を反射することができるように構成されており、この裏後上第一装飾部３２１１の周囲に設けられるランプやＬＥＤから照射される金色に類似する色の光（本例では黄色）を金色の金属光沢を持った金属装飾部３２１１ａに反射させることで遊技者に金色の発光が行われていると認識させ易くなる。

【３９７８】

この金属装飾部３２１１ａは、所定色（本実施形態では金色）の金属箔を、ホットスタンピングによる箔押しによって形成したものである。詳述すると、まず、合成樹脂の射出成形により裏後上第一装飾部３２１１の完成前の中間品を成形する。形成した裏後上第一装飾部３２１１の中間品を、ホットスタンプ装置の所定位置に装着する。この際に、裏後上第一装飾部３２１１の中間品の上方には、所望の金属箔を有した転写シートと、下面側が弾性を有し所定の温度に加熱された平板状のホットプレートとが配置されている。そして、ホットプレートを、裏後上第一装飾部３２１１の中間品の上端から下方へ所定距離の位置まで下降させて、ホットプレートの熱により転写シートの金属箔を転写（箔押し）する。これにより、裏後上第一装飾部３２１１に、金属装飾部３２１１ａが形成された状態となる。

【３９７９】

本実施形態の金属装飾部３２１１ａの形成に用いるホットスタンプ装置のホットプレートは、転写シートの金属箔の転写先となる裏後上第一装飾部３２１１と当接する部位が、弾性を有しているため、転写先（裏後上第一装飾部３２１１の前面）が、平坦でなく湾曲していても、その面に沿って弾性変形することができ、湾曲面等の立体的な形状の部位にも金属箔を良好な状態で転写させる（箔押しさせる）ことができる。これにより、金属装飾部３２１１ａを、メッキや蒸着により形成する場合と比較して、大がかりな設備を必要とせず、容易に形成することができ、コストの増加を抑制させることができる。なお、裏後上第一装飾部３２１１の完成前の中間品の表面に、メッキや蒸着により金属膜を形成するようにしても良い。

【３９８０】

また、本例では金色演出の実行中に金色演出を実行しない単色発光のＬＥＤを備える装飾体（裏後上第一装飾部３２１１）に金色の金属光沢を持った金属装飾部（金属装飾部３２１１ａ）を形成したが、単色発光のＬＥＤに限らずフルカラーＬＥＤを備える装飾体に金色の金属光沢を持った金属装飾部を形成するようにしてもよいし、金色演出の実行中に金色発光を実行するフルカラーＬＥＤを備える複数の装飾体のうち一部の装飾体に金色の金属光沢を持った金属装飾部を形成するようにしてもよい。フルカラーＬＥＤを備える装飾体に金色の金属光沢を持った金属装飾部を形成することにより、金色演出においては金色発光しないものの、他の演出が実行されたときに金色の金属光沢を持った金属装飾部が形成される装飾体に設けられたフルカラーＬＥＤを発光させたときにこのＬＥＤの周囲に形成される金属装飾部によって反射させて金色の発光に認識させることができるようになるため、金色演出が実行されていると認識した遊技者に対しては大当りに対しての期待を向上させて遊技興趣を向上させることができる。また、金色演出を実行するフルカラーＬＥＤを備える複数の装飾体のうち一部の装飾体に金色の金属光沢を持った金属装飾部を形成した場合には、金色の金属光沢を持った金属装飾部が形成される装飾体の周囲に設けられるランプやＬＥＤから照射される金色に類似する色の光（本例では黄色）を金色の金属光沢を持った金属装飾部に反射させることで遊技者に金色の発光が行われていると認識させ易くなるだけでなく、金色の金属光沢を持った金属装飾部が形成される装飾体に設けられたフルカラーＬＥＤから照射される金色に類似する色の光（本例では黄色）をこのＬＥＤの周囲に形成される金属装飾部によって反射させて金色の発光に認識させることができるため、遊技者に金色の発光が行われていると認識させ易くなる。

【３９８１】
　また、上記した例では金色演出の実行中に金色に類似する色（本例では黄色）の発光演出を実行するものであって、この発光色と対応する色である金色の金属光沢を持った金属装飾部を装飾体に形成するものを示したが、特定発光色で発光制御する特定演出を実行可能な遊技機において、特定発光色と対応する色（同一と認識され得る色や、類似する色（例えば灰色と銀色等））の光沢を有する装飾部を装飾体に形成するものであってもよい。このように構成することにより、遊技機で実行される複数種類の演出のうち、特定発光色と装飾体の装飾部に形成される光沢を有する特定色とを対応させた特別な価値を有する演出を実行することができ、特定発光色で発光制御する特定演出が実行された場合に大当りの期待が高いことを推測させて遊技興趣を高めることができる。また上記したように特定演出が実行される場合には、特定発光色で複数の発光手段（ランプ、ＬＥＤ等）を発光制御するだけでなく、演出表示装置１６００に表示されるキャラクタや文字、模様等の一部又は全部を特定色で表示するため、演出表示装置１６００に特定色で表示されるキャラクタや文字、模様等と特定発光色で発光する複数の発光手段（ランプ、ＬＥＤ等）とを連動させてパチンコ機１の全体（一部が異なる色であってもよい）で特定色を表す演出を実行することができ、演出表示装置１６００で表される特定色と発光手段の発光色で表される特定色とが同一でなくても関連性を容易に認識させることができ、大当り期待度が高いことを認識させて遊技興趣を向上させることができる。
【３９８２】
　また、裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００における裏後上第一装飾部３２１１に７セグメント表示部の周囲を囲むように金色の金属光沢を持った金属装飾部３２１１ａ（図２９７の網掛け部分）が形成されているため、金色を有する金属装飾部３２１１ａによる誘目性によって、裏後上第一装飾部３２１１を通して、裏後上第一装飾基板の前面（表実装面）を視認することできる場合であっても、裏後上第一装飾基板にベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷される黄色（複数の障害釘Ｎが有する金色と類似する色）の表面側表記部の存在を分かり難くすることに寄与している。
【３９８３】
　また、裏後上第一装飾基板の前面（表実装面）には、スルーホール、ランド等が形成されている。スルーホール、ランド等は、銅箔が剥き出しとなっているため、白色絶縁膜から目立つ存在となっているものの、金属装飾部３２１１ａが有する色（金色）による誘目性によって裏後上第一装飾基板の前面（表実装面）から裏後上第一装飾基板に設けられる（形成される）金属装飾部３２１１ａに視線が自然に誘導されるため、裏後上第一装飾基板に設けられる（形成される）金属装飾部３２１１ａに目が引きつけられることで、スルーホール、ランド等の存在を分かり難くすることができるため、裏後上第一装飾基板の配線パターンを引き回すアートワークの作業を行う際に、スルーホールやランドの位置、大きさ、数に拘束されずに済み、裏後上第一装飾基板の配線パターンの引き回しの自由度を高めることができると共に、アートワークの作業に要する時間を短縮することに寄与することもできる。
【３９８４】
　また、裏前下演出ユニット３１６０に備える裏前下中装飾体３１６１の前面（表実装面）は、図２９７に示すように金属光沢を持った金属装飾部３１６１ａが形成されるとともに、金属装飾部３１６１ａを除いた全体が、透明に形成されている。金属装飾部３１６１ａは、所定色（本実施形態では金色）を有しており、裏前下中装飾基板３１６８の前面（表実装面）にベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷される多色発光可能なフルカラーＬＥＤを特定可能にする表面側表記部が黄色を有しているため、表面側表記部が有する色（黄色）が金属装飾部３１６１ａが有する色（金色）と類似する色となっている。
【３９８５】
　なお、裏前下中装飾体３１６１の金属装飾部３１６１ａと対応する裏前下中装飾基板３１６８の前面（表実装面）には、多色発光可能なフルカラーＬＥＤが実装されていない一方、金属装飾部３１６１ａを除いた裏前下中装飾体３１６１の透明な領域と対応する裏前

下中装飾基板３１６８の前面（表実装面）には、多色発光可能なフルカラーＬＥＤが実装されている。

【３９８６】

そして、多色発光可能なフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、裏前下中装飾基板３１６８の前面（表実装面）に形成される白色絶縁膜を、裏前下中装飾体３１６１のうち金属光沢を持った金属装飾部３１６１ａを除く透明となっている領域を通して、視認することができるものの、裏前下中装飾基板３１６８の前面（表実装面）に形成される白色絶縁膜が白色の背景となることで、金属装飾部３１６１ａが有する色（金色）による誘目性によって裏前下中装飾基板３１６８の前面（表実装面）から裏前下中装飾体３１６１に設けられる（形成される）金属装飾部３１６１ａへ視線が自然に誘導されることとなる。これにより、裏前下中装飾体３１６１に設けられる（形成される）金属装飾部３１６１ａに目が引きつけられることで、裏前下中装飾基板３１６８の前面（表実装面）に形成される白色絶縁膜や表面側表記部を視認し難くすることができる。このため、パチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）が崩れ難い。したがって、遊技興趣の低下を抑制することができる。

【３９８７】

また、裏前下中装飾基板３１６８の前面（表実装面）には、スルーホール、ランド等が形成されている。スルーホール、ランド等は、銅箔が剥き出しとなっているため、白色絶縁膜から目立つ存在となっているものの、金属装飾部３１６１ａが有する色（金色）による誘目性によって裏前下中装飾基板３１６８の前面（表実装面）から裏前下中装飾体３１６１に設けられる（形成される）金属装飾部３１６１ａに視線が自然に誘導されるため、裏前下中装飾基板３１６８の前面に形成されるスルーホール、ランド等の存在を分かり難くすることができ、裏前下中装飾基板３１６８の配線パターンを引き回すアートワークの作業を行う際に、スルーホールやランドの位置、大きさ、数に拘束されずに済み、裏前下中装飾基板３１６８の配線パターンの引き回しの自由度を高めることができると共に、アートワークの作業に要する時間を短縮することに寄与することもできる。

【３９８８】

また、金色演出の実行中にパチンコ機１に異常が発生した場合には（本体枠４に対する扉枠３の開放を検出した場合（扉枠３の開放によって扉枠３に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤによる発光を視認し難い状態となった場合）、図示しない振動センサが所定期間（例えば３０秒）継続して遊技盤５の振動を検出した場合（パチンコ機１を叩く等の行為が行われていることを検出した場合、パチンコ機１が振動することによって扉枠３や遊技盤５に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤによる発光や演出表示装置１６００の表示がぶれて視認し難い状態となっている場合）、満タン検知センサ１５４からの検出信号が入力された場合（下皿２０２が遊技球で満タンになっていることを検出した場合）、球切検知センサ５７４からの検出信号が入力された場合（誘導通路５７０ａ内に遊技球が存在していないことを検出した場合等のゴト行為が行われている可能性の低いエラー）などの軽微なエラーが発生した場合、電波照射ゴトを検出した場合（電磁波等によって扉枠３や遊技盤５に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤによる発光にノイズが入ったり演出表示装置１６００の表示にノイズが入っている場合）、磁石ゴトを検出した場合、第二始動口２００４が開放していない場合に第二始動口センサ２４０１からの検出信号が入力された場合、大当り遊技状態や小当り遊技状態でない場合に大入賞口センサ２４０２からの検出信号が入力されたとき等のゴト行為の行われている可能性の高いエラー）などの重大なエラーが発生した場合、等）、金色演出の実行時に金色発光するＬＥＤを実装する特定装飾基板のうち遊技盤５に設けられる特定装飾基板（裏前左上ロゴ装飾部３１２２を発光装飾させるための裏前左上装飾基板３１２９と、裏前左ロゴ装飾部３１２１、裏前左上ロゴ装飾部３１２２、及び裏前左サブ装飾部３１２３を発光装飾させるための裏前左装飾基板３１２８と、裏前下ロゴ装飾体３１６７を発光装飾させるための裏前下ロゴ装飾基板３１７３と、裏前下中装飾体３１６１を発光装飾させるための裏前下中装飾基板３１６８と、裏前下左内

装飾体３１６３を発光装飾させるための裏前下左内装飾基板３１６９と、裏前下左外装飾体３１６４を発光装飾させるための裏前下左外装飾基板３１７０と、裏前下右内装飾体３１６５を発光装飾させるための裏前下右内装飾基板３１７１と、裏前下右外装飾体３１６６を発光装飾させるための裏前下右外装飾基板３１７２と、裏前右ロゴ装飾部３１４１を発光装飾させるための裏前右下装飾基板３１５２と、裏前右上ロゴ装飾部３１４２を発光装飾させるための裏前右上装飾基板３１５１と、）に実装される複数のＬＥＤを消灯状態にし、扉枠３に設けられる特定装飾基板（扉枠トップユニット４５０の扉枠トップ中央装飾基板４５５と、扉枠トップ左装飾基板４５６と、扉枠トップ右装飾基板４５７と、扉枠左サイドユニット４２０の扉枠左サイド上装飾基板４２２と、扉枠左サイドユニット４２０の扉枠左サイド下装飾基板４２３と、皿左装飾レンズ２７２の後側に設けられる皿左装飾基板２７３と、扉枠右サイドユニット４３０の扉枠右サイド下装飾基板４３３と、皿右装飾レンズ２７７の後側に設けられる皿右装飾基板２７８と、扉枠右サイドユニット４３０の扉枠右サイド上装飾基板４３２等）に実装される複数のＬＥＤを異常報知発光態様（最大輝度（光量）の赤色で点滅発光）で発光制御するようになっている。

【３９８９】

一方、遊技盤５に設けられる特定装飾基板のうち裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部が左右に並んでいる裏後上第一装飾部３２１１に設けられる裏後上第一装飾基板（図示しない）に実装される複数のＬＥＤについては、金色演出の実行中に異常が発生した場合であっても消灯させることなく表示（予め決められている点灯パターンを継続するものであってもよいし、異常が発生したことに基づいて点灯パターンを変更する（例えば異常の種類を示す表示を行う等）ものであってもよい）を継続するようになっている。このように遊技盤５や扉枠３に設けられて白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされるとともに、特定装飾基板のＬＥＤが実装されている表実装面（ＬＥＤ実装面）には実装される電子部品や他の装飾基板との混同を避けるための文字や記号（電子部品の部品番号）、電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が、明度や彩度の高い色（例えば、黄色や黄緑色等の明色）のインクを用いてスクリーン印刷されている特定装飾基板のうち、金色演出の実行時に金色発光するＬＥＤを実装する特定装飾基板については金色発光を終了して消灯又は異常時の態様で発光制御するものの、裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部が左右に並んでいる裏後上第一装飾部３２１１に設けられる裏後上第一装飾基板については表示を継続する（変動時間が経過するまで予め決められている点灯パターンを継続する）ようになっている。これにより、異常の発生時にも遊技に関する情報を表示してこれらの情報を知ることができるようになる。なお、上記した重大なエラーのうち主制御基板１３１０の異常が発生する等によって遊技を継続し難い極めて重大なエラーが発生した場合には裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部が左右に並んでいる裏後上第一装飾部３２１１に設けられる裏後上第一装飾基板に実装される複数のＬＥＤの点灯パターンを変更して異常の種類に応じた表示を行ったり、裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部が左右に並んでいる裏後上第一装飾部３２１１に設けられる裏後上第一装飾基板に実装される複数のＬＥＤを消灯させるようにしてもよく、この場合には異常の程度を即座に判断することができるようになる。

【３９９０】

また、本例では上記金色演出の実行中にも光量調節ボタン２２８の操作を受け付けるとともに、光量調節ボタン２２８が操作されたタイミングで扉枠３や遊技盤５に設けられる複数の装飾基板のうち特定装飾基板に実装されるＬＥＤの光量を変更（調節）することができるようになっている。具体的には、光量調節ボタン２２８の二つのボタンのうち「＋」の文字が付されたボタンを押圧すると即座に扉枠３や遊技盤５に設けられる複数の装飾基板のうち特定装飾基板のＬＥＤが明るく（光量を強める）なり、「－」の文字が付されたボタンを押圧すると即座に扉枠３や遊技盤５に設けられる複数の装飾基板のうち特定装

飾基板のＬＥＤが暗く（光量を弱める）なるようになっている。
【３９９１】
なお、特定条件下で光量調節ボタン２２８が操作された場合に、光量調節ボタン２２８が操作されたタイミングよりも遅延したタイミングで光量調節の結果を反映させるようにしてもよい。例えば、図２９８（Ａ）に示すように装飾図柄がリーチとなる等の大当り期待度の高い変動表示における変動演出として金色演出が実行されている場合に（高期待金色演出が実行されている場合に）、当該金色演出の実行中のタイミングｔ'３で光量調節ボタン２２８が輝度３から輝度４に変更するように操作されたときには、光量調節ボタン２２８が操作されたタイミングｔ'３で扉枠３や遊技盤５に設けられる複数の装飾基板のうち特定装飾基板に実装されるＬＥＤの光量を変更（調節）することなく、金色演出が終了したタイミングｔ'４で輝度４に変更するようにしてもよい。
【３９９２】
一方、図２９８（Ｂ）に示すように、装飾図柄がリーチとなる等の大当り期待度の高い変動表示における変動演出として金色演出が実行されていない場合に（低期待金色演出が実行されている場合には）、当該金色演出の実行中のタイミングｔ'３で光量調節ボタン２２８が輝度３から輝度４に変更するように操作されたときには、光量調節ボタン２２８が操作されたタイミングｔ'３で扉枠３や遊技盤５に設けられる複数の装飾基板のうち特定装飾基板に実装されるＬＥＤの光量を輝度４に変更するようにしてもよい。
【３９９３】
このように、特定条件下で光量調節ボタン２２８が操作された場合に、光量調節ボタン２２８が操作されたタイミングよりも遅延したタイミングで光量調節の結果を反映させることにより、遊技機の状態や大当りの可能性の有無などを判別することができるようになるため、遊技興趣の低下を抑止することができる。
【３９９４】
なお、図２９８（Ｂ）で光量調節ボタン２２８が操作されたタイミングｔ'３で扉枠３や遊技盤５に設けられる複数の装飾基板のうち特定装飾基板に実装されるＬＥＤの光量を変更する場合には、光量調節ボタン２２８が操作されたタイミングｔ'３で低期待金色演出を終了して、扉枠３や遊技盤５に設けられる複数の装飾基板のいずれか（扉枠３や遊技盤５に設けられる複数の装飾基板の全部でも良いし、扉枠３や遊技盤５に設けられる複数の装飾基板のうち所定数の装飾基板でもよい）に実装されるＬＥＤの発光態様を変更する（例えば一定輝度で白色に点灯させたり、金色発光とは異なる発光態様で発光させたり、点滅の間隔を変更（長くする）する等）ようにしてもよい。これにより、光量調節を容易に行うことができるようになる。すなわち、扉枠３や遊技盤５に設けられる複数の装飾基板のうち特定装飾基板に実装されるＬＥＤが金色発光している状態では特定装飾基板に実装されるＬＥＤの光量が時間の経過に伴って変化して現在の光量を把握し難くなっているため、光量調節に適した状態とは言えない。光量調節ボタン２２８が操作されたタイミングｔ'３で低期待金色演出を終了して、扉枠３や遊技盤５に設けられる複数の装飾基板のいずれかに実装されるＬＥＤを例えば一定輝度で白色に発光させることにより、現在の光量が把握し易くなるとともに遊技者の好みの光量に調節し易くなる。また、光量調節ボタン２２８が操作されたタイミングｔ'３で低期待金色演出を終了して扉枠３や遊技盤５に設けられる複数の装飾基板のいずれか（扉枠３や遊技盤５に設けられる複数の装飾基板の全部でも良いし、扉枠３や遊技盤５に設けられる複数の装飾基板のうち所定数の装飾基板でもよい）に実装されるＬＥＤの発光態様を変更する場合には、光量調節ボタン２２８の操作に応じて調節後の輝度で扉枠３や遊技盤５に設けられる複数の装飾基板のいずれか（扉枠３や遊技盤５に設けられる複数の装飾基板の全部でも良いし、扉枠３や遊技盤５に設けられる複数の装飾基板のうち所定数の装飾基板でもよい）に実装されるＬＥＤを発光させるようにしてもよく、この場合には扉枠３や遊技盤５に設けられる複数の装飾基板のいずれかに実装されるＬＥＤの発光によって調節後の輝度を確認して遊技者好みの輝度に調節し易くなる。
【３９９５】

また、上記したような光量調節ボタン２２８が操作されたタイミングよりも遅延したタイミングで光量調節の結果が反映される特定条件として、高期待金色演出の実行中に光量調節ボタン２２８が操作された場合又は低期待度演出の実行中に光量調節ボタン２２８が操作された場合に高期待金色演出又は低期待金色演出の終了後に光量調節の結果を反映させるものや、特定リーチ演出の実行中に光量調節ボタン２２８が操作された場合に特定リーチ演出の終了後に光量調節の結果を反映させるもの、上記した異常状態（全ての異常状態に限らず特定異常状態（例えば本体枠４に対する扉枠３の開放を検出した場合等）のみとしてもよい）の発生中に光量調節ボタン２２８が操作された場合に異常状態の終了後に光量調節の結果を反映させるもの、設定変更処理の実行中に光量調節ボタン２２８が操作された場合に設定変更処理の終了後に光量調節の結果を反映させるもの、等のうちいずれか一つ又は任意の組み合わせとしてもよい。この場合にも光量調節の結果を反映させるタイミングによって遊技機の状態や大当りの可能性の有無等を判別することができるようになるため、遊技興趣の低下を抑止することができる。

【３９９６】

また、本例では上記金色演出の実行中にも音量調節ボタン２２７の操作を受け付けるとともに、音量調節ボタン２２７が操作されたタイミングで扉枠３のトップ中央スピーカ及びトップサイドスピーカと、本体枠４の低音用の本体枠スピーカ６２２から出力される音楽、音声、効果音、等の演出用のサウンドの音量を変更（調節）することができるようになっている。具体的には、音量調節ボタン２２７の二つのボタンのうち「＋」の文字が付されたボタンを押圧すると即座に扉枠３のトップ中央スピーカ及びトップサイドスピーカと、本体枠４の低音用の本体枠スピーカ６２２から出力される音楽、音声、効果音、等の演出用のサウンドの音量が大きくなり、「－」の文字が付されたボタンを押圧すると即座に扉枠３のトップ中央スピーカ及びトップサイドスピーカと、本体枠４の低音用の本体枠スピーカ６２２から出力される音楽、音声、効果音、等の演出用のサウンドの音量が小さくなるようになっている。

【３９９７】

なお、特定条件下で音量調節ボタン２２７が操作された場合に、音量調節ボタン２２７が操作されたタイミングよりも遅延したタイミングで音量調節の結果を反映させるようにしてもよい。例えば、図２９９（Ａ）に示すように装飾図柄がリーチとなる等の大当り期待度の高い変動表示における変動演出として金色演出が実行されている場合に（高期待金色演出が実行されている場合には）、当該金色演出の実行中のタイミングｔ"３で音量調節ボタン２２７が音量３から音量４に変更するように操作されたときには、音量調節ボタン２２７が操作されたタイミングｔ"３で扉枠３のトップ中央スピーカ及びトップサイドスピーカと、本体枠４の低音用の本体枠スピーカ６２２から出力される音楽、音声、効果音等の演出用のサウンドの音量を変更（調節）することなく、金色演出が終了したタイミングｔ"４で音量４に変更するようにしてもよいし、変動演出が終了したタイミングｔ"５で音量４に変更するようにしてもよい。

【３９９８】

一方、図２９９（Ｂ）に示すように、装飾図柄がリーチとなる等の大当り期待度の高い変動表示における変動演出として金色演出が実行されていない場合に（低期待金色演出が実行されている場合には）、当該金色演出の実行中のタイミングｔ"３で音量調節ボタン２２７が音量３から音量４に変更するように操作されたときには、音量調節ボタン２２７が操作されたタイミングｔ"３で扉枠３のトップ中央スピーカ及びトップサイドスピーカと、本体枠４の低音用の本体枠スピーカ６２２から出力される音楽、音声、効果音等の演出用のサウンドの音量を音量４に変更するようにしてもよい。

【３９９９】

このように、特定条件下で音量調節ボタン２２７が操作された場合に、音量調節ボタン２２７が操作されたタイミングよりも遅延したタイミングで音量調節の結果を反映させることにより、遊技機の状態や大当りの可能性の有無などを判別することができるようになるため、遊技興趣の低下を抑止することができる。

【４０００】
なお、図２９９（Ｂ）で音量調節ボタン２２７が操作されたタイミングｔ"３で扉枠３のトップ中央スピーカ及びトップサイドスピーカと、本体枠４の低音用の本体枠スピーカ６２２から出力される音楽、音声、効果音等の演出用のサウンドの音量を変更する場合には、音量調節ボタン２２７が操作されたタイミングｔ"３で低期待金色演出を終了するようにしてもよい。これにより、音量調節を容易に行うことができるようになる。すなわち、扉枠３や遊技盤５に設けられる複数の装飾基板のうち特定装飾基板に実装されるＬＥＤが金色発光している状態では遊技者が音量調節に集中できずに遊技者好みの音量に調節することが困難であったり、演出用のサウンドが時間の経過に伴って変化することで現在の音量を把握し難くなったりするため、音量調節に適した状態とは言えない。音量調節ボタン２２７が操作されたタイミングｔ"３で低期待金色演出を終了して、扉枠３や遊技盤５に設けられる複数の装飾基板のいずれかに実装されるＬＥＤを例えば一定輝度で白色に発光させたり、演出用のサウンドが出力されない状態にすることにより、音量調節に集中し易くさせて遊技者の好みの音量に調節し易くなる。また、音量調節ボタン２２７が操作されたタイミングｔ"３で低期待金色演出を終了して演出用のサウンドが出力されない状態にする場合には、音量調節ボタン２２７の操作に応じて調節後の音量で確認音を出力するようにしてもよく、この場合には確認音によって調節後の音量を確認して遊技者好みの音量に調節し易くなる。

【４００１】
また、上記したような音量調節ボタン２２７が操作されたタイミングよりも遅延したタイミングで音量調節の結果が反映される特定条件として、高期待金色演出の実行中に音量調節ボタン２２７が操作された場合又は低期待度演出の実行中に音量調節ボタン２２７が操作された場合に高期待金色演出又は低期待金色演出の終了後に音量調節の結果を反映させるものや、特定リーチ演出の実行中に音量調節ボタン２２７が操作された場合に特定リーチ演出の終了後に音量調節の結果を反映させるもの、上記した異常状態（全ての異常状態に限らず特定異常状態（例えば本体枠４に対する扉枠３の開放を検出した場合等）のみとしてもよい）の発生中に音量調節ボタン２２７が操作された場合に異常状態の終了後に音量調節の結果を反映させるもの、設定変更処理の実行中に音量調節ボタン２２７が操作された場合に設定変更処理の終了後に音量調節の結果を反映させるもの、等のうちいずれか一つ又は任意の組み合わせとしてもよい。この場合にも音量調節の結果を反映させるタイミングによって遊技機の状態や大当りの可能性の有無等を判別することができるようになるため、遊技興趣の低下を抑止することができる。

【４００２】
また、上記した例ではパチンコ機１に設けられる複数の操作部のうち特定操作部（例えば押圧操作部３０３、接触操作部３０２、音量調節ボタン２２７、光量調節ボタン２２８、ハンドル１９５等）を操作した場合やパチンコ機１に設けられる複数の検出手段のうち特定検出手段（例えば第一始動口センサ３００２、第二始動口センサ２４０１、ハンドルタッチセンサ１９２等）による検出がなされた場合に上記金色演出が終了するか又は継続するかに応じて大当りとなる可能性の有無を判別できるものを示したが、演出表示装置１６００で実行される装飾図柄の変動表示等の変動演出において演出操作部ユニット３５０の操作を促す表示（操作促進表示、例えば「ボタンを押せ！」等）が行われ、該表示が行われた後の所定の有効期間内に演出操作部ユニット３５０が操作された場合に演出表示装置１６００の表示内容（表示態様（キャラクタの出現、背景色の変更、表示色の変更等））を変化させるボタン演出が実行されていない期間に、パチンコ機１に設けられる複数の操作部のうち第１特定操作部（例えば押圧操作部３０３、接触操作部３０２等）を操作した場合やパチンコ機１に設けられる複数の検出手段のうち第１特定検出手段（例えば第一始動口センサ３００２、第二始動口センサ２４０１、ハンドルタッチセンサ１９２等）による検出がなされた場合に、パチンコ機１に設けられる第１特定発光手段（例えばボタン中装飾基板３６４のＬＥＤ３６４ａ）の発光態様（発光色、輝度、発光パターン、点滅間隔、点灯状態と消灯状態との切り替え等のうちのいずれか一つ又は複数）が変化するか否

かや、パチンコ機１に設けられる複数の操作部のうち第２特定操作部（例えば音量調節ボタン２２７、光量調節ボタン２２８、ハンドル１９５等）を操作した場合やパチンコ機１に設けられる複数の検出手段のうち第２特定検出手段（例えば一般入賞口センサ３００１、ゲートセンサ２８０１等）による検出がなされた場合にパチンコ機１に設けられる第１特定発光手段（例えば遊技盤５に設けられる裏前左上装飾基板３１２９のＬＥＤや、扉枠３に設けられる扉枠トップ中央装飾基板４５５のＬＥＤ等）の発光態様（発光色、輝度、発光パターン、点滅間隔、点灯状態と消灯状態との切り替え等のうちのいずれか一つ又は複数）が変化するか否か等に応じて大当りとなる可能性の有無を判別できるようにしてもよい。

【４００３】

例えば、上記した高期待金色演出の実行中に押圧操作部３０３等の操作部を押圧操作した場合にはボタン中装飾基板３６４のＬＥＤ３６４ａの発光態様を変化させない（発光態様の変化を許容しない）一方、低期待金色演出の実行中に押圧操作部３０３等の操作部を所定回数（１回でも良いし、複数回でもよい）押圧操作した場合にはボタン中装飾基板３６４のＬＥＤ３６４ａを点灯状態から消灯状態又は消灯状態から点灯状態へと変化させて（発光態様の変化を許容して）ボタン本体３５１の上面部３５１ａの中央部分、すなわち押圧操作部３０３を点灯状態から消灯状態又は消灯状態から点灯状態へと変化させるようにしてもよいし（発光色、輝度、発光パターン、点滅間隔、点灯状態と消灯状態との切り替え等のうちのいずれか一つ又は複数でもよい）、上記した高期待金色演出の実行中に光量調節ボタン２２８を操作した場合には扉枠３や遊技盤５に設けられる複数の装飾基板のうち特定装飾基板に実装されて金色発光するＬＥＤの発光態様を変化させない（発光態様の変化を許容しない）一方、低期待金色演出の実行中に光量調節ボタン２２８を操作した場合には操作前よりも扉枠３や遊技盤５に設けられる複数の装飾基板のうち特定装飾基板に実装されて金色発光するＬＥＤの輝度を変化させる（発光態様の変化を許容する）ようにしてもよい（発光色、輝度、発光パターン、点滅間隔、点灯状態と消灯状態との切り替え等のうちのいずれか一つ又は複数でもよい）。また、この場合には低期待金色演出の実行中に押圧操作部３０３を所定回数（１回でも良いし、複数回でもよい）押圧操作してボタン中装飾基板３６４のＬＥＤ３６４ａを点灯状態から消灯状態へ変化させた後、再び押圧操作部３０３を所定回数（１回でも良いし、複数回でもよい）押圧操作した場合にボタン中装飾基板３６４のＬＥＤ３６４ａを消灯状態から点灯状態へ変化させるようにしてもよいし、押圧操作部３０３を所定回数（１回でも良いし、複数回でもよい）押圧操作する毎にボタン中装飾基板３６４のＬＥＤ３６４ａを点灯状態と消灯状態とに交互に変化させるようにしてもよいし、ボタン中装飾基板３６４のＬＥＤ３６４ａを点灯状態から消灯状態に変化させた後に所定期間に亘って押圧操作部３０３が押圧操作されなかった場合にボタン中装飾基板３６４のＬＥＤ３６４ａを点灯状態に戻すようにしてもよいし、光量調節ボタン２２８の操作に応じて段階的に輝度を変化（「＋」側を押圧すると輝度６に向けて変化させ、「－」側を押圧すると輝度１に向けて変化させる）させるようにしてもよい。

【４００４】

また、押圧操作部３０３等の操作部を操作した場合に押圧操作部３０３に設けられているＬＥＤ等の発光体の発光態様を変化させるものに限らず、押圧操作部３０３等の操作部の周辺に配置するＬＥＤ等の発光体の発光態様を変化させるものであってもよい。このように操作部の周辺に配置する発光体の発光態様を変化させるように構成した場合には、操作部が手で覆われている場合であっても発光体の発光態様の変化を視認することができるようになる。また、操作部は遊技者によって操作可能なものであれば押圧操作されるものや回転操作されるものに限られるものではなく、例えば、レバー状の操作部やトリガー状のもの、タッチパネル等タッチすることで操作したこととなるものであってもよい。

【４００５】

なお、押圧操作部３０３等の操作部を押圧操作するタイミングで上記高期待金色演出及び上記低期待金色演出等の発光演出が実行されているものであればよく、押圧操作部３０３等の操作部を押圧操作した場合に上記低期待金色演出の終了後に、扉枠３や遊技盤５に

設けられる複数の装飾基板のうち特定装飾基板に実装されて金色発光するＬＥＤの輝度を変化させるようにしてもよい。すなわち、低期待金色演出では押圧操作部３０３等の操作部の操作がなされた場合に扉枠３や遊技盤５に設けられる複数の装飾基板のうち特定装飾基板に実装されるＬＥＤの発光態様の変化を許容するものの、扉枠３や遊技盤５に設けられる複数の装飾基板のうち特定装飾基板に実装されるＬＥＤの発光態様の変化は低期待金色演出の実行中に行われるものに限らず、低期待金色演出の終了後に行われるものであってもよいであってもよい。

【４００６】

また、演出操作部ユニット３５０に設けられる演出操作部外周装飾基板３２０と、円環状のボタン外装飾基板３５５と、ボタン中装飾基板３６４と、は表実装面（複数のＬＥＤを実装する表面、ＬＥＤ実装面）に、白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされるとともに、表実装面にコーティングされる白色のソルダーレジスト上には、実装されるＬＥＤ等の電子部品や他の装飾基板との混同を避けるための文字や記号（電子部品の部品番号）、電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が明度や彩度の高い色（例えば、黄色や黄緑色等や黄緑色等）のインクを用いてスクリーン印刷により施されている。

【４００７】

一方、音量調節ボタン２２７及び光量調節ボタン２２８が設けられる基板は、表実装面（音量調節ボタン２２７及び光量調節ボタン２２８が設けられる表面）に、暗色（緑色や黒色等）のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされるとともに、表実装面にコーティングされる暗色のソルダーレジスト上には実装される電子部品や他の装飾基板との混同を避けるための文字や記号（電子部品の部品番号）、電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が白色のインクを用いてスクリーン印刷により施されている。このように、本例では第１特定操作部に設けられて該第１特定操作部が操作された場合に発光態様を変化させる第１特定発光手段が実装される基板と、第２特定操作部が設けられる基板と、のソルダーレジスト及び表面側表記部の色を異ならせるため、操作時に発光態様が変化する第１特定発光手段が実装される基板であるか、又は操作時に第２特定操作部が設けられない特定の基板に実装されるＬＥＤの発光態様を変化させる第２特定操作部が実装される基板であるかの判別が容易となる。なお、音量調節ボタン２２７及び光量調節ボタン２２８が設けられる基板の表実装面に複数のＬＥＤを実装するようにしてもよく、この場合には光量調節ボタン２２８が操作された場合であっても音量調節ボタン２２７及び光量調節ボタン２２８が設けられる基板の表実装面に実装される複数のＬＥＤの輝度を変化させることなく、常に一定輝度で発光させるようにしてもよい。

【４００８】

また、演出操作部ユニット３５０に設けられる演出操作部外周装飾基板３２０と、円環状のボタン外装飾基板３５５と、ボタン中装飾基板３６４と、のＬＥＤが実装される前面（表実装面）において、スルーホールの一部を含む略全域に反射率の最も高い白色の絶縁膜を形成するようにしてもよい。具体的には上記した前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外径ＫＴＨＤ１の外周から前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の中心へ向かって前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外周部分が絶縁被膜として白色のレジストにより被さった状態とするようにしてもよい。この場合には、演出操作部ユニット３５０に設けられる演出操作部外周装飾基板３２０と、円環状のボタン外装飾基板３５５と、ボタン中装飾基板３６４と、のＬＥＤが実装される前面（表実装面）において銅箔が剥き出しとなっている前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の面積を小さく抑えることができ、演出操作部外周装飾基板３２０と、円環状のボタン外装飾基板３５５と、ボタン中装飾基板３６４と、のＬＥＤが実装される前面（表実装面）ＫＢｘの反射率の均一化が図られて発光ムラ

の発生を抑制することができるとともに、演出操作部ユニット３５０に設けられる演出操作部外周装飾基板３２０と、円環状のボタン外装飾基板３５５と、ボタン中装飾基板３６４と、のＬＥＤを効率良く発光させて金色演出の発光装飾を実行できることに加えて、演出操作部外周装飾基板３２０と、円環状のボタン外装飾基板３５５と、ボタン中装飾基板３６４と、のＬＥＤが実装される前面（表実装面）に形成される白色の絶縁膜によって設計通りに発色させることができるため、金色演出の実行中に演出操作ユニット３００を操作したことに基づいて金色演出が終了したか否かを確実に判別することができるようになる。すなわち、発光演出の切り替え（終了、開始）や発光演出が継続していることを確実に判別できるようになる。これにより、大当り期待度の高い演出が実行されているか否かを確実に判別することができるようになる。また、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外径ＫＴＨＤ１の外周から前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の中心へ向かって前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の外周部分を絶縁被膜として白色のレジストで覆うことにより、前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の中心から外径ＫＴＨＤ１の外周へ向かって前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の内周部分を白色のレジスト（絶縁被膜）で覆う場合に比べて後面（裏実装面）側ランドＫＲＤｙ１のうち白色のレジスト（絶縁被膜）で覆われる領域の割合を高めることができるため、第１装飾基板の後面（裏実装面）の均一化を図ることができる。なお、本例では上記した第１実施形態に係るスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を採用したものを例示したが、これに限らず第１実施形態～第４実施形態に係るスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成のうちのいずれかを採用するものであれば上記した作用及び効果を奏することが可能である。

【４００９】

また、可動装飾体を動作させる可動演出の実行中にパチンコ機１に設けられる複数の操作部のうち特定操作部（例えば押圧操作部３０３、接触操作部３０２、音量調節ボタン２２７、光量調節ボタン２２８、ハンドル１９５等）を操作した場合やパチンコ機１に設けられる複数の検出手段のうち特定検出手段（例えば第一始動口センサ３００２、第二始動口センサ２４０１、ハンドルタッチセンサ１９２等）による検出がなされた場合に、当該可動演出が終了するか又は継続するかに応じて大当りとなる可能性の有無を判別できるようにしてもよい。例えば、大当りとなる蓋然性が高い又は大当りとなる可能性のある高期待可動演出の実行中（例えば裏後上可動装飾体３２１０が上昇位置から演出表示装置１６００の前方の一部を覆う下降位置へ移動した状態）にパチンコ機１に設けられる複数の操作部のうち特定操作部（例えば押圧操作部３０３、接触操作部３０２、音量調節ボタン２２７、光量調節ボタン２２８、ハンドル１９５等）を操作した場合やパチンコ機１に設けられる複数の検出手段のうち特定検出手段（例えば第一始動口センサ３００２、第二始動口センサ２４０１、ハンドルタッチセンサ１９２等）による検出がなされた場合には当該高期待可動演出を終了させない一方、大当りとなる蓋然性が低い又は大当りとなる可能性がない低期待可動演出の実行中（例えば裏後上可動装飾体３２１０が上昇位置から演出表示装置１６００の前方の一部を覆う下降位置へ移動した状態）にパチンコ機１に設けられる複数の操作部のうち特定操作部（例えば押圧操作部３０３、接触操作部３０２、音量調節ボタン２２７、光量調節ボタン２２８、ハンドル１９５等）を操作した場合やパチンコ機１に設けられる複数の検出手段のうち特定検出手段（例えば第一始動口センサ３００２、第二始動口センサ２４０１、ハンドルタッチセンサ１９２等）による検出がなされた場合には当該低期待可動演出を終了させるようにしてもよい。この場合には低期待可動演出が実行されていれば演出表示装置１６００の前方の一部を覆う状態で特定操作部を操作したり特定検出手段による検出がなされた場合に演出表示装置１６００の前方を開放する状態へと変化するため、低期待可動演出が実行されていることを確実に認識させることができる。

【４０１０】

また、上記した例ではパチンコ機１に設けられる複数の操作部のうち特定操作部（例えば押圧操作部３０３、接触操作部３０２、音量調節ボタン２２７、光量調節ボタン２２８、ハンドル１９５等）として押圧操作部３０３を押圧操作した場合に押圧操作部３０３の

内部に設けられるボタン中装飾基板３６４のＬＥＤ３６４ａの発光態様を変化させるものを示したが、これに限らず特定操作部（例えば押圧操作部３０３、接触操作部３０２、音量調節ボタン２２７、光量調節ボタン２２８、ハンドル１９５等）を備える操作ユニット（例えば押圧操作部３０３を備える演出操作ユニット３００）に設けられている発光体（例えば演出操作部外周装飾基板３２０、ボタン外装飾基板３５５、ボタン中装飾基板３６４、等のうちのいずれかに実装されるＬＥＤ）や、特定操作部の近傍に設けられている発光体（皿左装飾基板２７３、皿右装飾基板２７８、ハンドル装飾基板１８４、裏前下中装飾基板３１６８、等のうちのいずれかに実装されるＬＥＤ）の発光態様（発光色、輝度、発光パターン、点滅間隔、点灯状態と消灯状態との切り替え等のうちのいずれか一つ又は複数でもよい）を変化させるものであってもよい。具体的には、高期待金色演出の実行中に押圧操作部３０３を押圧操作した場合には押圧操作部３０３を備える演出操作ユニット３００に設けられている演出操作部外周装飾基板３２０と、ボタン外装飾基板３５５と、ボタン中装飾基板３６４と、に実装されるＬＥＤの発光態様を変化させない一方、低期待金色演出の実行中に押圧操作部３０３を所定回数（１回でも良いし、複数回でもよい）押圧操作した場合に押圧操作部３０３を備える演出操作ユニット３００に設けられている演出操作部外周装飾基板３２０と、ボタン外装飾基板３５５と、ボタン中装飾基板３６４と、のうちのいずれかに実装されるＬＥＤを点灯状態から消灯状態へ変化させる等の発光態様（発光色、輝度、発光パターン、点滅間隔、点灯状態と消灯状態との切り替え等のうちのいずれか一つ又は複数でもよい）を変化させるようにしてもよい。すなわち、特定操作部を操作した場合に該特定操作部の近くに配置するＬＥＤの発光態様を変化させることにより大当りとなる可能性の有無を判別することができるようにしてもよい。

【４０１１】

また、上記した例では金色演出について説明したが本技術思想はこれに限られるものではなく、表実装面に発光体を実装する基板において該表実装面を白色のソルダーレジスト（保護材）でコーティングし、該白色のソルダーレジスト上に明色（黄色、黄緑色、水色等）の表面側表記部を形成し、表実装面に実装する発光体を表面側表記部の色と同一又は類似する発光色（例えば黄色の表面側表記部に対して黄色の発光色、黄色の表面側表記部に対して金色の発光色、黄色の表面側表記部に対して黄緑色の発光色、黄緑色の表面側表記部に対して黄緑色の発光色、黄緑色の表面側表記部に対して黄色の発光色、黄緑色の表面側表記部に対して金色の発光色）で発光させる演出の実行中にパチンコ機１に設けられる複数の操作部のうち特定操作部（例えば押圧操作部３０３、接触操作部３０２、音量調節ボタン２２７、光量調節ボタン２２８、ハンドル１９５等）を操作した場合に、発光体の発光態様が変化するか否かによって大当りとなる可能性の有無を判別できるようにするものを含む概念である。すなわち、発光体が実装される表実装面に白色のソルダーレジストをコーティングすることで表実装面の反射効率を高く維持することができるだけでなく、発光体の発光色と同一又は類似する色のインクで表面側表記部を形成することで表面側表記部自体の反射率を高めて表実装面における反射効率の低下を抑制できるし、発光体の発光時に表面側表記部が発光色と馴染んで目立ち難くなり、遊技者から表面側表記部を視認され難くすることができるという効果を奏するものであり、表実装面の反射効率を高めるとともに、遊技者から表面側表記部を視認され難い状態で大当りの可能性の有無を判別できるようにするため、不要な情報を遊技者に視認させることなく大当りの可能性の有無を判別させることができる。

【４０１２】

また、金色演出として高期待金色演出と低期待金色演出とを例示したが、高期待金色演出が実行された場合に演出表示装置１６００に表示される金色表示（高期待金色表示）及び扉枠３や遊技盤５に設けられる複数の装飾基板のうち特定装飾基板に実装されるＬＥＤを発光させる金色発光（高期待金色発光）と、低期待金色演出が実行された場合に演出表示装置１６００に表示される金色表示（低期待金色表示）及び扉枠３や遊技盤５に設けられる複数の装飾基板のうち特定装飾基板に実装されるＬＥＤを発光させる金色発光（低期待金色発光）と、は、表示態様と発光態様との一方又は両方が同一とされるものに限らず

、表示態様と発光態様との一方又は両方の一部が同一とされる（共通する）ものであってもよいし、表示態様と発光態様との一方又は両方の色（表示色、発光色）が同一又は類似する（共通する）ものであってもよい。例えば高期待金色表示と低期待金色表示とで表示内容を異ならせるものの少なくとも表示内容の一部に高期待金色表示と低期待金色表示との両方に共通する金色を表示するものであってもよいし、高期待金色発光と低期待金色発光とで発光パターンを異ならせるものの少なくとも一部に高期待金色発光と低期待金色発光との両方に共通する黄色の発光を含むものであってもよい。すなわち、高期待金色演出と低期待金色演出とは少なくとも一部に共通する態様を有するものであれば本技術思想は適用可能である。

【４０１３】

また、上記した金色演出の実行時に金色発光する複数のＬＥＤそれぞれが実装される複数の特定装飾基板と、上記した虹色演出の実行時に所定の発光色で発光される複数のＬＥＤそれぞれが実装される複数の特定装飾基板と、を同一（金色演出の実行時に金色発光する複数のＬＥＤが実装される複数の特定装飾基板が虹色演出の実行時に所定の発光色で発光する）の装飾基板によって構成するようにしてもよいし、一部又は全部が異なる複数の装飾基板によって構成するようにしてもよい。特定装飾基板として金色演出と虹色演出とのいずれも実行する装飾基板を含む場合には、この装飾基板に実装されるＬＥＤによる発光演出が多彩になり、遊技興趣を向上させることができるようになる。

【４０１４】

［インフォメーション表示器］

次にインフォメーション表示器を用いた変形例について説明する。近年では遊技人口の減少が著しくなっており、新規の遊技者の取り込みが急務とされているが、従来に比べて遊技自体が複雑化しており、新規の遊技者には遊技を敬遠されるおそれがある。以下では遊技に関する情報を表示するインフォメーション表示器を設ける変形例について説明する。

【４０１５】

本例では演出操作部３０１等の操作部を操作することで上記した裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部に替えてドットマトリクス表示部を用いたインフォメーション表示器を設けている。そして裏後上可動装飾体３２１０のインフォメーション表示器の表示内容として遊技に関する情報を表示する状態（遊技情報表示モード）と、遊技演出を実行する状態（遊技演出モード）と、に切り替えることが可能とされている。また、本例では特定期間に操作手段を操作した場合に裏後上可動装飾体３２１０のインフォメーション表示器の表示内容を切り替え可能とされる。例えば、客待ちデモ演出の実行中に演出操作部３０１等の操作部を操作した場合に表示内容を切り替える制御と、遊技店員のみが操作可能な操作手段を操作したこと（例えばパチンコ機１の裏面側に設けられるＲＡＭクリアスイッチを押圧した場合や設定キースイッチ１３１１ａを操作（例えば設定キーシリンダが初期位置から回動操作されるＯＮ操作した場合や、設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から初期位置へ戻すように設定キーシリンダが反時計方向へ向かって回転操作されるＯＦＦ操作した場合等）したことに基づいて裏後上可動装飾体３２１０のインフォメーション表示器の表示を切り替えて遊技に関する情報を表示（開始）する制御と、演出表示装置１６００にて変動演出の実行中に演出操作部３０１等の操作部を操作した場合に裏後上可動装飾体３２１０のインフォメーション表示器の表示を非表示として演出操作部３０１等の操作部を操作した変動演出の終了後に表示内容を切り替える制御と、演出表示装置１６００にて変動演出の実行中に演出操作部３０１等の操作部を操作した場合に当該変動演出中は表示内容の切り替えを行うことなく、実行中のモード（遊技情報表示モード、遊技演出モード）を継続して各モードに応じた表示を行い、演出操作部３０１等の操作部を操作した変動演出の終了後に表示内容を切り替える制御と、のうちの１つ乃至任意の組み合わせを実行するようにしてもよい。

【４０１６】

また、図３００（Ａ）～（Ｃ）に示すように遊技に関する情報を表示する状態（遊技情

報表示モード）では、裏後上可動装飾体３２１０のインフォメーション表示器に「大当り」、「左打ち←」、「右打ち→」などの遊技に関する情報を表示するようになっている。上記したように本例のパチンコ機１では時短時（低確率時短状態（時短状態ともいう）、高確率時短状態（確変状態ともいう））に第二始動口２００４への遊技球の入球を狙った遊技（いわゆる「右打ち」）が行われるようになっている。また、時短時には第二始動口２００４が頻繁に開状態とされて、通常時（低確率非時短状態（通常状態ともいう）、高確率非時短状態）よりも始動入賞（第一始動口２００２への遊技球の入賞、第二始動口２００４への遊技球の入賞）し易くなるため、遊技者に有利な状態となる。しかし、時短時に遊技者が第二始動口２００４への遊技球の入球を狙った遊技（いわゆる「右打ち」）を行わない場合にはこの有利な状態を享受できない。そのため、本例のパチンコ機１では図３００（Ｃ）に示すように時短時には遊技者が第二始動口２００４への遊技球の入球を狙った遊技（いわゆる「右打ち」）を行うように指示する表示として裏後上可動装飾体３２１０のインフォメーション表示器に「右打ち→」を表示するようになっている。これにより時短時であるにもかかわらず遊技者が有利な状態を享受できないことを防止し、遊技者に不利益を与えないようにすることができる。

【４０１７】

一方、通常時（低確率非時短状態（通常状態ともいう）、高確率非時短状態）には第一始動口２００１への遊技球の入賞を狙った遊技（いわゆる「左打ち」）が行われるようになっている。また、通常時には第二始動口２００４が滅多に開状態とされないことに加えて、開状態となる期間が時短時に比べて極めて短くされているため、通常時に遊技者が第二始動口２００４への遊技球の入球を狙った遊技を行うことで不利益を与えるおそれがある。そのため、本例のパチンコ機１では図３００（Ｂ）に示すように通常時には遊技者が第一始動口２００１への遊技球の入球を狙った遊技を行うように指示する表示として裏後上可動装飾体３２１０のインフォメーション表示器に「左打ち←」を表示するようになっている。これにより通常時に遊技者に不利益を与えないようにすることができる。

【４０１８】

このように、本変形例のパチンコ機１では裏後上可動装飾体３２１０のドットマトリクスに表示される情報によって、左打ち（センター役物２５００の左側への遊技球の打込操作）や右打ち（遊技領域５ａの周縁の一部を構成する外レール１００１から内方へ突出している衝止部１００６に当接する強さで打込む）を指示したり、大当りとなった場合にその旨を通知して大入賞口２００５への入球を狙った遊技を行うように指示したりすることで、熟練した遊技者だけでなく経験の浅い遊技者にも不利益を与えないようにしている。

【４０１９】

なお、インフォメーション表示器を遊技に関する情報を表示する専用の表示器としてもよく、この場合には特定期間に操作手段が操作された場合に表示する情報を切り替えるようにしてもよい。また遊技に関する情報としては、上記図３００（Ｂ）、（Ｃ）に示すような遊技を案内するための情報（右打ち、左打ち等）と、図３００（Ａ）に示すような変動演出の抽選結果（第一特別抽選結果、第二特別抽選結果）に関する情報（大当り、はずれ、確変大当り、時短大当り等）と、当落の抽選確率に関わる設定情報（設定変更処理で設定されるパチンコ機１の設定値や実際に実行された変動演出の回数に対する大当りの発生確率等）と、アウト口１００８により回収された遊技球の球数（遊技領域５ａに発射された遊技球のうちアウト口１００８により回収された遊技球の球数）と、特定入賞装置（第一始動口２００２、第二始動口２００４、大入賞口２００５、一般入賞口２００１等のうち一つ又は任意の複数の組み合わせ（全部でもよい）、例えば第一始動口２００２及び第二始動口２００４に入賞した遊技球の球数等）に入賞した遊技球の球数（遊技領域５ａに発射された遊技球のうち特定入賞装置に入賞した遊技球の球数）と、のうち任意の複数の組み合わせとしてもよい。

【４０２０】

なお、本例ではインフォメーション表示器を外レール１００１及び内レール１００２の内側に設けるように構成したが、外レール１００１及び内レール１００２の外側に設ける

ようにしてもよい。これにより外レール１００１及び内レール１００２の内側の領域での設計の自由度が増し、構造物や可動物を設けて装飾性や演出効果を高めることができる。また、上記した変形例ではドットマトリクス表示部を用いる例について説明したが、ドットマトリクス表示部に限らず７セグメント表示部を用いて遊技に関する情報を表示するようにしてもよい。また、新規の遊技者を対象とするインフォメーション表示器に限らず遊技店員を対象とするインフォメーション表示器を設けるようにしてもよく、この場合にはインフォメーション表示器をパチンコ機１の裏面側に配置するようにしてもよい。

【４０２１】

また、インフォメーション表示器の裏後上第一装飾基板に単色発光のＬＥＤを実装して、上記した金色演出や虹色演出の実行中にも裏後上可動装飾体３２１０のインフォメーション表示器については金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾を行わずに金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾とは異なる色（本例では赤色。なお、金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾の実行中であっても金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾と区別可能であってインフォメーション表示器の表示内容を識別可能な発光色であれば他の色（青色等）で発光させるものであってもよい）で発光させるようにしてもよい。これにより、金色発光や虹色演出の実行中であってもインフォメーション表示器に表示される情報を遊技者に確実に伝えることができるようになる。

【４０２２】

また本例のインフォメーション表示器は、上記したような遊技に関わる重要な情報を表示するものであるため、表示内容を明瞭にするためにインフォメーション表示器に設けられる裏後上第一装飾基板の表面（ＬＥＤが実装されていない裏実装面にも同一色の絶縁膜を形成するようにしてもよいし、表面とは異なる色の絶縁膜を裏面に形成するようにしてもよい）には暗色（例えば緑、黒、紫、紺等）の絶縁膜が形成（レジスト処理）されている。これにより、裏後上第一装飾基板のＬＥＤが実装される表実装面において光の干渉を抑制して、複数のＬＥＤそれぞれからの光を独立して視認することができるようになり、インフォメーション表示器において様々な情報を明瞭に表示することができる。また、金色演出や虹色演出の実行時に金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾を行うＬＥＤが設けられる基板の表面には明色（本例では白色）の絶縁膜が形成されているのに対し、遊技者や遊技店員にとって重要な情報を表示する裏後上可動装飾体３２１０のインフォメーション表示器に設けられる裏後上第一装飾基板の表面（ＬＥＤが実装されていない裏実装面にも同一の絶縁膜を形成するようにしてもよいし、表面とは異なる色の絶縁膜を裏面に形成するようにしてもよい）には暗色（例えば緑色、黒色、紫色、紺色等）の絶縁膜が形成されるため、ＬＥＤの発光に不具合が生じた場合に基板の表面に形成される絶縁膜の色によって重要な役割を担うＬＥＤであるか否かの判別が容易となる。

【４０２３】

また、裏後上第一装飾基板のＬＥＤが実装される前面（表実装面）には各ＬＥＤと対応する部品番号と、ＬＥＤを配置する位置を示す領域等の電子部品の属性（さらに、電子部品の形状、電子部品の大きさ、電子部品の実装向き（実装方向）、電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が白色（白色に限らず、黄色や黒色等でもよい）の塗料でシルク印刷されている。裏後上第一装飾基板のＬＥＤが実装される前面（表実装面）に占める領域のうち表面側表記部（白色（白色に限らず、黄色や黒色等でもよい）の塗料でシルク印刷される領域）が占める領域は、レジスト（暗色（例えば緑、黒、紫、紺等）の絶縁膜）が占める領域よりも少なくされている。そのため、裏後上第一装飾基板のＬＥＤが実装される前面（表実装面）おける反射効率を、裏後上第一装飾基板のＬＥＤが実装される前面（表実装面）にレジストのみが形成される場合と同様に略均一化することが可能になるため、発光ムラの発生を抑制できるし、実装される複数のＬＥＤそれぞれから放出される光の干渉を抑制する効果の低下を抑制できる。

【４０２４】

なお、裏後上第一装飾基板のＬＥＤが実装される前面（表実装面）にシルク印刷される

表面側表記部については同一種類の電子部品を所定のグループ毎に纏めて表示するようにしてもよい。例えば、裏後上第一装飾基板の前面（表実装面）に実装される５個のＬＥＤに対して「ＬＥＤ１～５」などのように１つの表面側表記部を設けるようにしてもよい。この場合には電子部品のそれぞれに表面側表記部を設ける場合に比べて表面側表記部の裏後上第一装飾基板のＬＥＤが実装される前面（表実装面）に占める割合を低減することが可能であるため、裏後上第一装飾基板のＬＥＤが実装される前面（表実装面）における反射効率をより均一にすることができるようになる。また、裏後上第一装飾基板のＬＥＤが実装される前面（表実装面）には表面側表記部をシルク印刷しないようにしてもよく、この場合にはＬＥＤが実装されない裏実装面に裏面側表記部をシルク印刷や、箔抜き文字、レジスト抜き文字、等によって形成するようにしてもよいし、裏後上第一装飾基板のＬＥＤが実装される前面（表実装面）に表面側表記部を箔抜き文字や、レジスト抜き文字、等によって形成するようにしてもよい。

【４０２５】

また、裏後上第一装飾基板のＬＥＤ実装面に設けられるＬＥＤ以外の電子部品として暗色（黒色や緑色、紫色等）の外装（ケースやパッケージ、ハウジング等）を有する電子部品（例えば、緑色のハウジングを有するコネクタ等）のみを実装するようにしてもよいし、ＬＥＤ素子のパッケージを含む所定数の電子部品全てについて暗色（黒色や緑色、紫色等）の外装（ケースやパッケージ、ハウジング等）を有する電子部品（例えば、黒色のパッケージを有するＬＥＤ素子や緑色のハウジングを有するコネクタ等のうちいずれか一つ又は複数（任意の組み合わせ））のみを実装するようにし、白色や明色の外装を有する電子部品についてはＬＥＤ非実装面に実装するようにしてもよい。これにより、裏後上第一装飾基板のＬＥＤ実装面に実装される電子部品によってＬＥＤ実装面の反射率が向上することを抑制できるとともに、ＬＥＤ実装面での光の干渉を抑制できるため、裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部に表示される文字や数字絵柄等の情報を明瞭に表示することができ、遊技者にこれらの情報を確実に伝えることができるようになる。

【４０２６】

また、上記したように金色演出や虹色演出の実行中にパチンコ機１に異常が発生した場合（本体枠４に対する扉枠３の開放を検出した場合（扉枠３の開放によって扉枠３に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤによる発光を視認し難い状態となった場合）、図示しない振動センサが所定期間（例えば３０秒）継続して遊技盤５の振動を検出した場合（パチンコ機１を叩く等の行為が行われていることを検出した場合、パチンコ機１が振動することによって扉枠３や遊技盤５に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤによる発光や演出表示装置１６００の表示がぶれて視認し難い状態となっている場合）、満タン検知センサ１５４からの検出信号が入力された場合（下皿２０２が遊技球で満タンになっていることを検出した場合）、球切検知センサ５７４からの検出信号が入力された場合（誘導通路５７０ａ内に遊技球が存在していないことを検出した場合等のゴト行為が行われている可能性の低いエラー）などの軽微なエラーが発生した場合、電波照射ゴトを検出した場合（電磁波等によって扉枠３や遊技盤５に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤによる発光にノイズが入ったり演出表示装置１６００の表示にノイズが入っている場合）、磁石ゴトを検出した場合、第二始動口２００４が開放していない場合に第二始動口センサ２４０１からの検出信号が入力された場合、大当り遊技状態や小当り遊技状態でない場合に大入賞口センサ２４０２からの検出信号が入力されたとき等のゴト行為の行われている可能性の高いエラー）などの重大なエラーが発生した場合、等）には、上記した金色演出や虹色演出の実行時に金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾を行うＬＥＤのうち遊技盤５に設けられる複数のＬＥＤを消灯状態にし、扉枠３に設けられているＬＥＤを異常報知発光態様（最大輝度（光量）の赤色で点滅発光）で発光制御するようになっている。

【４０２７】

一方、裏後上可動装飾体３２１０のインフォメーション表示器の表示については金色演出や虹色演出の実行中に異常が発生した場合であっても消灯させることなく継続するよう

になっている。このように遊技盤５や扉枠３に設けられて金色演出や虹色演出の実行中に金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾を行う特定装飾基板（白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされ、特定装飾基板のＬＥＤが実装されている表実装面（ＬＥＤ実装面）には実装される電子部品や他の装飾基板との混同を避けるための文字や記号（電子部品の部品番号）、電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が、明度や彩度の高い色（例えば、黄色や黄緑色等の明色）のインクを用いてスクリーン印刷により施されている）に実装されるＬＥＤは異常が発生した場合に金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾を終了するものの、裏後上可動装飾体３２１０のインフォメーション表示器（暗色（例えば緑、黒、紫、紺等）の絶縁膜が形成される裏後上第一装飾基板に実装されるＬＥＤ）は異常が発生しても表示を継続する（変動時間が経過するまで予め決められている点灯パターンを継続する）ようになっている。これにより、異常の発生時にも遊技に関する情報を表示してこれらの情報を知ることができるようになる。なお、上記した重大なエラーのうち主制御基板１３１０の異常が発生する等によって遊技を継続し難い極めて重大なエラーが発生した場合には裏後上可動装飾体３２１０のインフォメーション表示器に設けられる裏後上第一装飾基板に実装される複数のＬＥＤの点灯パターンを変更して異常の種類に応じた表示を行ったり、裏後上可動装飾体３２１０のインフォメーション表示器に設けられる裏後上第一装飾基板に実装される複数のＬＥＤを消灯させるようにしてもよく、この場合には異常の程度を即座に判断することができるようになる。

【４０２８】

また、異常の種類に応じて裏後上可動装飾体３２１０のインフォメーション表示器の表示を継続するか又はインフォメーション表示器を消灯させて非表示にするかを変更するようにしてもよく、例えば上記した軽微なエラーが発生した場合には裏後上可動装飾体３２１０のインフォメーション表示器の表示を継続し、上記した重大なエラーが発生した場合にはインフォメーション表示器を消灯して非表示にするようにしてもよい。これにより、異常の程度を判別することが可能になる。

【４０２９】

また、上記したように金色演出や虹色演出の実行時に金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾を行うＬＥＤは周辺制御基板１５１０の周辺制御部１５１１によって約３３．３ｍｓごとに行われる周辺制御部定常処理で制御されるのに対し、裏後上可動装飾体３２１０のインフォメーション表示器に設けられる裏後上第一装飾基板のＬＥＤは主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵによって約４ｍｓごとに行われる主制御側タイマ割込処理で制御されるようになっている。このように、主制御基板１３１０からの制御信号に基づいて周辺制御基板１５１０の周辺制御部１５１１が金色発光を実行するＬＥＤを制御する場合に比べて短い周期で裏後上可動装飾体３２１０のインフォメーション表示器の表示内容を更新することができ、仮に不具合が発生して裏後上可動装飾体３２１０のインフォメーション表示器に本来表示する内容とは異なる内容が表示された場合であっても直ぐ（４ｍｓ後）に表示内容を更新して本来の表示内容に変更することができ、遊技者等に不利益を与えない。すなわち、遊技に関する重要な（重要度の高い）情報を表示する裏後上可動装飾体３２１０のインフォメーション表示器については、金色演出や虹色演出などの変動演出に応じて発光制御されて金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾を行うＬＥＤよりも短い周期で制御信号を出力してＬＥＤの発光態様を更新するため、裏後上可動装飾体３２１０のインフォメーション表示器の表示内容に不具合が生じた場合であっても直ぐに正常な表示内容に変更することができ、本来とは異なる内容が表示されて遊技者に不利益を与えることを抑制できる。また、主制御基板１３１０からの制御信号に基づいて周辺制御基板１５１０の周辺制御部１５１１が裏後上可動装飾体３２１０のインフォメーション表示器を制御するように構成した場合には主制御基板１３１０と周辺制御基板１５１０との間で通信エラーが生じて裏後上可動装飾体３２１０のインフォメーショ

ン表示器によって示される情報に不具合が発生するおそれがあるが、本例では主制御基板１３１０が裏後上可動装飾体３２１０のインフォメーション表示器を直接制御することで、周辺制御基板１５１０の周辺制御部１５１１が裏後上可動装飾体３２１０のインフォメーション表示器を制御する場合に比べて裏後上可動装飾体３２１０のインフォメーション表示器によって示される情報に不具合が発生し難くなり、遊技者に不利益を与えることを抑制できる。

【４０３０】

また、扉枠３や遊技盤５に設けられて金色演出や虹色演出の実行時に金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾を行う各種の装飾基板を、透光性を有する材料によって形成される装飾体等（ケースやカバーなどでもよい）に設ける一方で、金色発光や虹色演出の実行時に金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾を行わないインフォメーション表示器に設けられる裏後上第一装飾基板が設けられる裏後上可動装飾体３２１０（ケースやカバーなどでもよい）を、透光性を有しない材料によって形成するようにしてもよく、この場合には基板の設けられている装飾体（ケースやカバーなどでもよい）が透光性を有するか否かによっても重要な役割を担うＬＥＤが実装されているか否かの判別が可能となる。

【４０３１】

また、図３０１に示すように金色発光の実行時に金色発光しないインフォメーション表示器に設けられる裏後上第一装飾基板が設けられる裏後上可動装飾体３２１０（ケースやカバーなどでもよい）によって、裏後上第一装飾基板を強固に収容するようにしてもよい。例えば、裏後上可動装飾体３２１０（ケースやカバーなどでもよい）の裏後上第一装飾基板の表面（ＬＥＤ実装面）を覆う裏後上可動装飾体３２１０ａと裏後上第一装飾基板の裏面（ＬＥＤ非実装面）を覆う裏後上可動装飾体３２１０ｂとを溶着等によって強固に接着して、裏後上可動装飾体３２１０の一部を破壊しなければ裏後上第一装飾基板を脱離可能とならないように構成してもよい。一方、扉枠３や遊技盤５に設けられて金色演出や虹色演出の実行時に金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾を行う各種の装飾基板が設けられる装飾体等（ケースやカバーなどでもよい）は、該装飾体の一部を破壊することなく装飾基板を脱離可能な状態となるようにしてもよい。このように重要な情報を表示するインフォメーション表示器では裏後上可動装飾体３２１０（ケースやカバーなどでもよい）の一部を破壊しなければ裏後上第一装飾基板を脱離できないようにされるため、重要な役割を担うＬＥＤ等の発光手段が物理的に破壊されることを抑制できる。一方、扉枠３や遊技盤５に設けられて重要な情報を表示することなく金色演出や虹色演出の実行時に金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾を行うＬＥＤ等の発光手段（インフォメーション表示器に比べて重要度の低い発光手段）については装飾体等（ケースやカバーなどでもよい）を破壊することなく発光手段を交換することができるため、メンテナンスが容易となる。

【４０３２】

また、本例では裏後上第一装飾基板の表面（ＬＥＤ実装面）は裏後上可動装飾体３２１０ａのみによって覆われ、裏後上第一装飾基板の表面（ＬＥＤ実装面）を覆う裏後上可動装飾体３２１０ａと裏後上第一装飾基板の裏面（ＬＥＤ非実装面）を覆う裏後上可動装飾体３２１０ｂとは裏後上第一装飾基板の裏面側で当接するようになっている。換言すると、裏後上可動装飾体３２１０ａと裏後上可動装飾体３２１０ｂとの合わせ部が裏後上第一装飾基板の裏面側となるように構成されている。そのため、裏後上可動装飾体３２１０ａと裏後上可動装飾体３２１０ｂとの合わせ部分から光が進入しても裏後上第一装飾基板の表面に光が進入することが抑制される。なお、少なくとも裏後上可動装飾体３２１０ａと裏後上可動装飾体３２１０ｂとの合わせ部が裏後上第一装飾基板の前面側とならないように構成されるものであればよく、裏後上第一装飾基板の表面と裏面との間で裏後上可動装飾体３２１０ａと裏後上可動装飾体３２１０ｂとが当接する（裏後上可動装飾体３２１０ａと裏後上可動装飾体３２１０ｂとの合わせ部が裏後上第一装飾基板の側面に位置する）ように構成した場合にも上記した作用効果を奏することが可能である。

【４０３３】
　また、インフォメーション表示器に設けられる裏後上第一装飾基板が設けられる裏後上可動装飾体３２１０（ケースやカバーなどでもよい）の内部に裏後上第一装飾基板に実装される複数のＬＥＤそれぞれによって照射される光の干渉を抑制する干渉抑制手段を形成するようにしてもよい。例えば、図３０１（Ｂ）に示すように、裏後上第一装飾基板の表面（ＬＥＤ実装面）に当接する裏後上可動装飾体３２１０ａの内側に複数の貫通部を形成して、この複数の貫通部それぞれの内側に１個のＬＥＤが配置するように裏後上第一装飾基板の表面（ＬＥＤ実装面）を区画するようにしてもよい。これにより、裏後上第一装飾基板に実装される複数のＬＥＤそれぞれから照射される光の進行方向を規制して、裏後上第一装飾基板の表面（ＬＥＤ実装面）に隣接して実装されるＬＥＤから照射される光と干渉することが抑制されて複数の発光手段の発光色を個々に識別しやすくなる。また、インフォメーション表示器において点灯しているＬＥＤと消灯しているＬＥＤとを明確に区別することができるため、インフォメーション表示器に明瞭に情報を表示させることができるようになる。
【４０３４】
　また、裏後上可動装飾体３２１０の裏後上第一装飾基板の裏面（ＬＥＤ非実装面）を覆う裏後上可動装飾体３２１０ｂは最低限の開口のみを有するように形成されるものであってもよい。例えば図３０１（Ｂ）に示すように裏後上第一装飾基板の裏面（ＬＥＤ非実装面）を覆う裏後上可動装飾体３２１０ｂに裏後上第一装飾基板に電気配線を接続するためのコネクタ用の開口のみを形成するようにしてもよい。これにより、裏後上可動装飾体３２１０の裏面側から裏後上可動装飾体３２１０ａに形成される貫通部内に光が進入することを抑制して、インフォメーション表示器で誤った情報が表示されることを抑制できるため、インフォメーション表示器に表示される情報の信頼度が向上する。
【４０３５】
　また、上記したように異常が発生した場合には特定装飾基板に実装されて金色演出や虹色演出の実行時に金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾を行うＬＥＤのうち遊技盤５に設けられる複数のＬＥＤを消灯させる一方、インフォメーション表示器については通常の輝度を維持した状態で発光させるため、異常時に遊技窓部内の明るさを低下させてインフォメーション表示器による発光を際立たせることができるため、インフォメーション表示器に表示される情報を視認し易い。また、異常が発生した場合には特定装飾基板に実装されて金色演出や虹色演出の実行時に金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾を行うＬＥＤのうち扉枠３に設けられているＬＥＤを異常報知発光態様（最大輝度（光量）の赤色で点滅発光）で発光制御するが、裏後上可動装飾体３２１０（ケースやカバーなどでもよい）の内部に裏後上第一装飾基板に実装される複数のＬＥＤそれぞれによって照射される光の干渉を抑制する干渉抑制手段を有するため、扉枠３に設けられているＬＥＤを異常報知発光態様（最大輝度（光量）の赤色で点滅発光）で発光制御している状況でも裏後上第一装飾基板に実装される複数のＬＥＤそれぞれの発光状態を判別し易い。
【４０３６】
　また、本例では裏後上第一装飾基板のＬＥＤが実装される表実装面には暗色のソルダーレジストがコーティングされているため（暗色の絶縁被膜が形成されているため）、貫通部内に設けられるＬＥＤから照射される光が貫通部外に漏れた場合であっても光の拡散を抑制することができる。
【４０３７】
　なお、上記実施形態（変形例を含む全ての実施形態）では特定装飾基板の複数のＬＥＤを実装する表面（ＬＥＤ実装面）に白色のソルダーレジスト（保護材）をコーティングし、この白色のソルダーレジスト（保護材）上に、実装されるＬＥＤ等の電子部品や他の装飾基板との混同を避けるための文字や記号（電子部品の部品番号）、電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場

合がある。）を示す表面側表記部を黄色のインクを用いてスクリーン印刷し、特定装飾基板に実装される複数のＬＥＤを表面側表記部の黄色に類似する色で発光させる金色演出（金色発光）を実行するものを示したが、本技術思想は他の演出であっても適用可能である。例えば、表面側表記部を黄緑色のインクを用いてスクリーン印刷し、特定装飾基板に実装される複数のＬＥＤを表面側表記部の黄緑色に類似する色で発光させる演出を実行するようにしてもよい。即ち、特定装飾基板に実装される複数のＬＥＤの発光色と、表面側表記部の色と類似する色で発光させる演出であれば本技術思想を適用可能である。

【４０３８】

また、特定装飾基板に実装されるＬＥＤ以外の電子部品については表面側表記部を設けないようにしてもよいし、ＬＥＤが実装されない裏実装面に裏面側表記部を設けるようにしてもよい。また、特定装飾基板の複数のＬＥＤが実装される表実装面には白色（ベージュ色、アイボリー色、クリーム色、生成り、オフホワイト等の白色と認められる（類似する）色を含む）や明色の外装（ケースやパッケージ、ハウジング等）を有する電子部品（例えば、白色のパッケージを有するＬＥＤ素子や白色のハウジングを有するコネクタ等のうちいずれか一つ又は複数（任意の組み合わせ））のみを実装するようにする一方（白色のパッケージを有するＬＥＤ素子のみを実装して他の電子部品を実装しないものを含む）、複数のＬＥＤが実装されない裏実装面に少なくとも白色や明色の外装を有しない電子部品（例えば黒色の外装を有する抵抗や複数のＬＥＤの発光を制御する回路（例えば、定電流駆動回路）、茶色の外装を有するコンデンサ、白色とは異なる色（水色や黄色等）のハウジングを有するコネクタ等）を実装するようにしてもよい（裏面に白色や明色の外装を有しない電子部品のみを配置するものに限らず、白色や明色の外装を有しない電子部品と白色や明色の外装を有する電子部品と、の一方または両方を配置するものでもよい）。これにより、ＬＥＤが実装される表実装面における反射効率の低下が抑制されて特定装飾基板の光量を高めることができるため、上記した金色演出や虹色演出などで実行される金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾を発光ムラのない状態で実行することができるとともにインパクトのある演出を実行することができ、遊技興趣が向上する。

【４０３９】

また、特定装飾基板に実装される複数のＬＥＤのパッケージの色を白色（ベージュ色、アイボリー色、クリーム色、生成り、オフホワイト等の白色と認められる（類似する）色を含む）としてもよく、この場合には特定装飾基板に実装されるＬＥＤ自体の外装色によっても反射効率が低下することを抑制できるため、特定装飾基板の光量を高めることができる。また、特定装飾基板として一方の表面に白色のパッケージを有する複数のＬＥＤと白色のハウジングを有するコネクタとの両方を実装する第１特定装飾基板と、一方の表面に白色のパッケージを有する複数のＬＥＤを実装すると共に他方の表面に白色とは異なる色（例えば水色や黄色等）のハウジングを有するコネクタを実装する第２特定装飾基板と、を備えるようにしてもよい。この場合には反射率の低下を抑制する効果が高い（反射率の高い）白色のハウジングを有するコネクタについてはＬＥＤの実装される表実装面と同一の表面（ＬＥＤ実装面（表実装面ともいう））に実装する一方で、反射率の低下を抑制する効果が低い（反射率を低下させるおそれのある、反射率が低い）白色以外のハウジングを有するコネクタ（白色だけでなく反射率が高い（白色に近い）明色以外のハウジングを有するコネクタとしてもよい）についてはＬＥＤの実装される表実装面とは異なる表面（ＬＥＤ非実装面（裏実装面ともいう））に実装してＬＥＤの実装される表実装面における反射効率を高く維持することが可能になる。なお、本技術思想は白色のハウジングの有するコネクタ等の白色の外装を有する電子部品についてＬＥＤ非実装面に実装することを除外するものではなく、白色の外装を有する電子部品についてもＬＥＤ非実装面に実装することでＬＥＤ実装面においてＬＥＤ以外の電子部品によって反射効率が低下することを抑止できるため、ＬＥＤ実装面における反射効率を高く維持してＬＥＤの発光を効率よく使用して光量の低下を抑制することができる。

【４０４０】

また、上記した例では金色演出や虹色演出の実行時に金色演出の発光装飾（金色発光）

や虹色演出の発光装飾を行うＬＥＤを実装する特定装飾基板全ての、表面に白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされるものを示したが、これに限られるものではなく、金色演出や虹色演出の実行時に金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾を行うＬＥＤを実装する特定装飾基板のうちの一部の装飾基板については表面に白色以外（例えば緑色や黒色）のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされるものであってもよいし、金色演出や虹色演出の実行時に金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾を行うＬＥＤを実装する特定装飾基板のうちの全て若しくは一部の装飾基板についてはＬＥＤを実装している表面にのみ白色のソルダーレジスト（保護材）でコーティングし（白色の絶縁被膜を形成し）、ＬＥＤを実装していない裏面には白色以外（例えば緑色や黒色等の暗色）のソルダーレジスト（保護材）でコーティングするものであってもよい（白色以外の絶縁被膜を形成する）。また、特定装飾基板とハーネスで接続される基板（中継基板やドライバ基板、ＬＥＤを実装する装飾基板等の他の基板）についても接続されている特定装飾基板と同様の構成、すなわち特定装飾基板の表面に白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされるとともに、実装されている電子部品や他の装飾基板との混同を避けるための文字や記号（電子部品の部品番号）、電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が明度や彩度の高い色（例えば、黄色や黄緑色等の明色等）のインクを用いてスクリーン印刷されていれば、特定装飾基板とハーネスで接続される基板（中継基板やドライバ基板、ＬＥＤを実装する装飾基板等の他の基板）についても表面に白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされるとともに表面側表記部が明度や彩度の高い色（例えば、黄色や黄緑色等の明色等）のインクを用いてスクリーン印刷されるようにしてもよい。即ち、遊技盤５には、白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされている基板と緑色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされている基板とが混載しているため、例えば特定装飾基板に不具合が発生して特定装飾基板のハーネスを確認したり、接続を確認したりする場合、特定装飾基板と接続されている基板が特定装飾基板と同じ色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされていたり、表面側表記部が同じ色のインクを用いてスクリーン印刷されていることにより特定装飾基板と接続されている基板を素早く発見することと他の基板（緑色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされている基板）と間違うことなく確認できる。

【４０４１】

また、特定装飾基板とハーネスで接続されている基板とのそれぞれについて同一色の外装を有するコネクタを用いるようにしてもよく、この場合にはコネクタの外装色によっても特定装飾基板と接続されている基板を判別することができるようになるため、特定装飾基板と接続されている基板を素早く発見することができる。また、特定装飾基板とハーネスで接続される基板（中継基板やドライバ基板、ＬＥＤを実装する装飾基板等の他の基板）の表実装面（遊技機の前方に向けられる面）に実装されるコネクタについても白色の外装を有するコネクタとし、白色とは異なる色の外装を有するコネクタについては特定装飾基板とハーネスで接続される基板の裏実装面（遊技機の後方に向けられる面）に実装するようにしてもよい（ＬＥＤ非実装面に白色の外装を有するコネクタを実装するものを除外しない）。これにより、特定装飾基板と接続されている基板をより的確に素早く見つけることができるし、特定装飾基板とハーネスで接続される基板の表実装面についても反射効率の低下を抑制することができ、遊技機に設けられているＬＥＤ等の発光体による発光を効率よく使用して光量の低下を抑制することができる。

【４０４２】

なお、上記した例ではパチンコ機１の前面側から視認可能なインフォメーション表示器を示したが、これに限らずパチンコ機１の背面側にパチンコ機１の背面側からのみ視認可能なインフォメーション表示器を配置するようにしてもよく、この場合にはインフォメーション表示器に遊技機に関する遊技店員等に向けた情報（大当りの回数、エラーの発生状況、賞球払出数、打ち込み数、所定の入賞口（全ての入賞口の入球数をまとめて表示する

ものでもよいし、複数の入賞口それぞれを別個に表示するものでもよいし、所定数（１個を含む）毎にまとめて表示するものでもよい）への入球数、等）を表示するようにしてもよい。また、パチンコ機１の背面側にインフォメーション表示器を配置した場合にも上記したようなパチンコ機１の前面側から視認可能なインフォメーション表示器と同様の制御（例えば異常発生時にも消灯することなく継続して発光する等）を実行するようにしてもよい。

【４０４３】

また、パチンコ機１の背面側には発光演出を実行する発光体が設けられていないか、パチンコ機１の前面側に比べて発光演出を実行する発光体の設けられる個数が少ないため、パチンコ機１の背面側にインフォメーション表示器を配置した場合にはインフォメーション表示器の視認を他の発光体によって妨げられ難いし、島設備内が暗くなっていることでインフォメーション表示器がパチンコ機１の前面側に設けられた場合に比べてインフォメーション表示器の表示内容を視認し易い。

【４０４４】

また、パチンコ機１の背面側にインフォメーション表示器を配置した場合には、このインフォメーション表示器では発光演出を行わず、遊技者とは別の遊技店員等に情報を表示するだけであるため、発光色は然程重要ではないし、光量も然程高くなくても遊技店員等に情報を認識させることが可能である。そのため、上記した虹色演出や金色演出を実行する複数の特定装飾基板のＬＥＤ実装面には白色の絶縁被膜が形成されるとともに、ＬＥＤ実装面の前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の一部又は全部が白色の絶縁被膜により覆われた状態となっているのに対し、パチンコ機１の背面側に配置されるインフォメーション表示器の裏後上第一装飾基板のＬＥＤ実装面には緑色や黒色等の暗色の絶縁被膜が形成されるようにしてもよいし、これに加えて又はこれと別にＬＥＤ実装面の前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の全部が絶縁被膜により覆われない状態とされるようにしてもよい。これにより、暗色の絶縁被膜が形成された裏後上第一装飾基板に実装されるＬＥＤを暗い島設備内で発光させた場合にＬＥＤの発光が際立つし、反射率が高過ぎないことで眩しく感じさせないようにすることができるため、インフォメーション表示器に表示される情報を確実に伝えることができるようになる。また、裏後上第一装飾基板に暗色の絶縁被膜が形成されることで暗い島設備内に配置する裏後上第一装飾基板に形成される配線パターンを識別し難くすることができ、セキュリティを向上することができる。

【４０４５】

また、上記した例ではインフォメーション表示器に設けられる裏後上第一装飾基板の表面に暗色（例えば緑、黒、紫、紺等）の絶縁膜を形成するものを示したが、裏後上第一装飾基板の表面の一部（ＬＥＤ実装面とＬＥＤが実装されていない裏実装面との一方でも良いし、ＬＥＤ実装面の一部や裏実装面の一部でもよい）や全部（ＬＥＤ実装面と裏実装面との両方）に明色（白色、黄色等）の絶縁膜を形成するようにしてもよい。

【４０４６】

また、インフォメーション表示器を複数設けるものであってもよく、この場合にはインフォメーション表示器に設けられる裏後上第一装飾基板それぞれの構成を全て同一にしてもよいし、一部のインフォメーション表示器については設けられている裏後上第一装飾基板の構成を異ならせるようにしてもよい。例えば第１インフォメーション表示器に設けられる第１裏後上第一装飾基板の表面の一部又は全部に暗色（例えば緑、黒、紫、紺等）の絶縁膜を形成し、第２インフォメーション表示器に設けられる第２裏後上第一装飾基板の表面の一部又は全部に明色（例えば白、黄色等）の絶縁膜を形成することでインフォメーション表示器に設けられる裏後上第一装飾基板の構成を異ならせるようにしてもよい。この場合にはインフォメーション表示器の用途や機能に応じて設けられている裏後上第一装飾基板の構成を異ならせることができ、用途や機能に応じた効果的な発光を実現できる。

【４０４７】

また、インフォメーション表示器を複数設ける場合に、実装される電子部品や他の装飾基板との混同を避けるための文字や記号（電子部品の部品番号）、電子部品を配置する位

置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表記部に関する構成を全て同一としてもよいし、一部のインフォメーション表示器については表記部に関する構成を異ならせるようにしてもよい。例えば、ＬＥＤ実装面と裏実装面とのいずれにも形成されていない裏後上第一装飾基板を備えるインフォメーション表示器と、少なくともＬＥＤ実装面と裏実装面との一方に表記部が形成されている裏後上第一装飾基板を備えるインフォメーション表示器と、の複数のインフォメーション表示器を備えるものであってもよい。この場合にもインフォメーション表示器の用途や機能に応じて設けられている裏後上第一装飾基板の構成を異ならせることができ、用途や機能に応じた効果的な発光を実現できる。

【４０４８】

また、インフォメーション表示器に設けられる裏後上第一装飾基板のＬＥＤ実装面と裏実装面とのいずれかに基板管理番号を形成するようにしてもよいし、裏後上第一装飾基板のＬＥＤ実装面と裏実装面とのいずれにも基板管理番号を形成しないようにしてもよい。基板管理番号を形成する場合には製造時等においてインフォメーション表示器に設けられる裏後上第一装飾基板であることを把握できるようになり、部品実装時のミスを抑制できるし、基板管理番号を形成しない場合には裏後上第一装飾基板であることを悟られにくくなる。なお、基板管理番号を形成しない場合には裏後上第一装飾基板を収容するケースとしての裏後上可動装飾体３２１０の内側や外側の一方又は両方に製品管理番号を刻印などにより設けるようにしてもよく、この場合には裏後上第一装飾基板の基板面を視認された場合であってもどのような機能を有する基板であるかを特定されることを困難にできる一方で、裏後上第一装飾基板を収容する裏後上可動装飾体３２１０に製品管理番号が刻印されていることで、例えば製造工程において該刻印を確認して裏後上第一装飾基板が収容されていることを判別でき、取り付け時のミスを防止できる。

【４０４９】

また、インフォメーション表示器を複数設ける場合には、基板管理番号に関する構成（裏後上第一装飾基板に関する構成や裏後上可動装飾体３２１０に関する構成など）を全て同一としてもよいし、一部のインフォメーション表示器については基板管理番号に関する構成を異ならせるようにしてもよい。例えば、基板管理番号が裏後上第一装飾基板のＬＥＤ実装面と裏実装面とのいずれか一方又は両方に形成される第１裏後上第一装飾基板を備える第１インフォメーション表示器と、基板管理番号が裏後上第一装飾基板のＬＥＤ実装面と裏実装面とのいずれにも形成されていない第２裏後上第一装飾基板を備える第２インフォメーション表示器と、を備えるようにしてもよい。

【４０５０】

また、上記打ち止め状態ではインフォメーション表示器の裏後上第一装飾基板に実装される全てのＬＥＤを消灯状態に制御してもよいし、一部または全部のＬＥＤを点灯（一部を点灯させて残りを点滅させるものでもよいし、一部を点滅させて残りを消灯させるものでもよいし、一部を点灯させて残りを消灯させるものでもよい）させるようにしてもよい。また、インフォメーション表示器を複数設ける場合には、打ち止め状態中におけるインフォメーション表示器の制御状態を全て同一としてもよいし、一部のインフォメーション表示器については制御状態を異ならせるようにしてもよい。例えば、打ち止め状態中には実装されている全てのＬＥＤが消灯状態に制御される第１裏後上第一装飾基板を備える第１インフォメーション表示器と、打ち止め状態中には実装されている一部または全部のＬＥＤが点灯状態に制御される第２裏後上第一装飾基板を備える第２インフォメーション表示器と、を備えるようにしてもよい。

【４０５１】

［分割遊技盤］

パチンコ機１は、扉枠３及び本体枠４から構成される枠体のうち、本体枠４に装着されている遊技盤５を取り外して新規の遊技盤５を本体枠４に装着して交換することにより異なる仕様のパチンコ機１に変更することができるようになっている。また、本体枠４に装

着されている遊技盤５は、上述したように、遊技領域５ａの後端を区画する板状の遊技パネル１１００等を備えており、この板状の遊技パネル１１００の前後に各種ユニットや各種部材が取り付けられている。板状の遊技パネル１１００を分割して各種ユニットや各種部材をそれぞれ取り付けることにより、開発段階において、意匠の組み合わせや見栄えの検討を容易に行うことができるし、遊技盤５に設けられる各種入賞口の数や配置、装飾部材の形状、遊技領域５ａの形状等の変更にも対応することができる。

【４０５２】

板状の遊技パネル１１００を分割して各種ユニットや各種部材をそれぞれ取り付けるという従来にない全く新しい遊技盤５Ａ（以下、単に「分割遊技盤５Ａ」と記載する場合がある。この「Ａ」は、Ａ仕様を表す。）について、図３０２～図３０４を参考にして説明する。図３０２は分割遊技盤の概略正面図（ａ）であり、分割遊技盤の概略背面図（ｂ）である。図３０３は分割遊技盤を構成する右側遊技盤と左側遊技盤とを合体する前における分割遊技盤の左下後方から見た背面斜視図（ａ）であり、分割遊技盤を左下後方から見た背面斜視図（ｂ）である。図３０４は図３０２（ａ）における分割遊技盤の飾り換えを行った分割遊技盤の概略正面図である。なお、図３０２～図３０４には、図１２９等においてすでに説明した遊技盤５に取り付けられる各種ユニットや各種部材に相当する各種ユニットや各種部材を省略している。

【４０５３】

分割遊技盤５Ａは、遊技領域５ａの外周を区画し外形が正面視略四角形状とされた上述した前構成部材１０００と、前構成部材１０００の後側に取付けられており遊技領域５ａの後端を区画する上述した板状の遊技パネル１１００と、を左右方向に２つに分割して左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとから構成されている。左側遊技盤５ＡＬは、分割遊技盤５Ａの左右方向の距離寸法として約４分の３の長さを有るのに対して、右側遊技盤５ＡＲは、分割遊技盤の左右方向の距離寸法として約４分の１の長さを有している。左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとが合体する左側遊技盤５ＡＬの右側面と右側遊技盤５ＡＲの左側面は、インロー構造となっており、左側遊技盤５ＡＬの右側面が凸状に形成され、右側遊技盤５ＡＲが凹状に形成されている。左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとを合体したのちに左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとにそれぞれ設けた図示しない連結部材の一方から他方へ向かって図示しないボルトを通して締め付けることにより、左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとの連結部分であって遊技球が転動する遊技領域５ａの表面が自動的に面一となって（つまり、段差が生じないように）左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとが固定されるようになっている。

【４０５４】

なお、分割遊技盤５Ａは、左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとを合体したのちに左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとにそれぞれ設けた図示しない連結部材の一方から他方へ向かって図示しないボルトを通して締め付けることにより、左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとが固定され、分割遊技盤５Ａを本体枠４に装着するようになっているが、左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとは、それぞれ個別に本体枠４に固定されるように構成してもよい。この場合でも、左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとの連結部分であって遊技球が転動する遊技領域５ａの表面が自動的に面一となって（つまり、段差が生じないように）左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとが本体枠４に固定される。

【４０５５】

左側遊技盤５ＡＬは、主制御基板１３１０からの制御信号に基づいて遊技状況をＬＥＤにより表示することができる機能表示ユニット１４００が前構成部材１０００の左上側領域の前面（表面）に配置されている。これに対して、左側遊技盤５ＡＬは、周辺制御基板１５１０からの制御信号に基づいて遊技状況をＬＥＤにより表示することができるサブ機能表示ユニット２２５０（「サブ機能表示ユニット」を「第４図柄」という。）が前構成部材１０００の内レール１００２の左下側であって遊技領域５ａへ向かって突出して配置されている。なお、サブ機能表示ユニット２２５０は、前構成部材１０００の内レール１００２の左下側であって遊技領域５ａへ向かって突出して配置されていたが、これに代え

て、上述した表ユニット２０００を構成するいずれかのユニットや部材に配置されるようにしてもよい。また、サブ機能表示ユニット２２５０に表示される遊技状況は、少なくとも機能表示ユニット１４００に表示される第一特別図柄表示器又は／及び第二特別図柄表示器を含み、機能表示ユニット１４００に表示される遊技情報を所定の発光態様で表示されるようにしてもよいし、機能表示ユニット１４００に表示される遊技情報と同様な発光態様で表示されるようにしてもよい。

【４０５６】

左側遊技盤５ＡＬは、板状の前構成部材１０００（以下、「左側前構成部材１０００Ｌ」と記載する場合がある。）、左側前構成部材１０００Ｌの背面側に板状の遊技パネル１１００（以下、「左側遊技パネル１１００Ｌ」と記載する場合がある。）が配置されている。右側遊技盤５ＡＲは、板状の前構成部材１０００（以下、「左側前構成部材１０００Ｒ」と記載する場合がある。）、右側前構成部材１０００Ｒの背面側に板状の遊技パネル１１００（以下、「右側遊技パネル１１００Ｒ」と記載する場合がある。）が配置されている。分割遊技盤５Ａの背面側、つまり左側遊技パネル１１００Ｌ及び右側遊技パネル１１００Ｒの背面側には、上述した裏ユニット３０００が配置されている。分割遊技盤５Ａを正面から見ると、左側遊技盤５ＡＬにおける左側遊技パネル１１００Ｌの後方に配置される裏ユニット３０００の裏箱３０１０（以下、「左側裏箱３０１０Ｌ」と記載する場合がある。）の右側（右側遊技パネル１１００Ｒを臨む側）が開口（以下、「左側裏箱３０１０Ｌの右側開口」と記載する場合がある。）され、右側遊技盤５ＡＲにおける右側遊技パネル１１００Ｒの後方に配置される裏ユニット３０００の裏箱３０１０（以下、「右側裏箱３０１０Ｒ」と記載する場合がある。）の左側（左側遊技パネル１１００Ｌを臨む側）が開口（以下、「右側裏箱３０１０Ｒの左側開口」と記載する場合がある。）されている。

【４０５７】

左側裏箱３０１０Ｌの後方には、着脱可能に取り付けられる上述した演出表示装置１６００と、上述した周辺制御基板１５１０等が収容される周辺制御ユニット１５００と、上述した主制御基板１３１０が収容される主制御ユニット１３００と、他の各種基板（例えば、各種中継基板、左側裏箱３０１０Ｌに収容される各種演出ユニットに取り付けられる、各種ＬＥＤが実装される装飾基板、駆動モータ及び駆動ソレノイド等を駆動する駆動基板など）が収容される左側の駆動基板ユニット１７００Ｌ（以下、「左側駆動基板ユニット１７００Ｌ」と記載する場合がある。）と、が配置されている。なお、主制御基板１３１０には、パチンコ機１の設定値の切り替えと設定値の確認とを行うことができる上述した設定キースイッチ１３１１ａが実装されている。

【４０５８】

右側裏箱３０１０Ｒの後方には、各種基板（例えば、各種中継基板、右側裏箱３０１０Ｒに収容される各種演出ユニットに取り付けられる、各種ＬＥＤが実装される装飾基板、駆動モータ及び駆動ソレノイド等を駆動する駆動基板など）が収容される右側の駆動基板ユニット１７００Ｒ（以下、「右側駆動基板ユニット１７００Ｒ」と記載する場合がある。）と、が配置されている。

【４０５９】

このように、分割遊技盤５Ａは、左側遊技盤５ＡＬの後方には主制御基板１３１０や周辺制御基板１５１０というマイクロプロセッサが実装される基板が配置されるのに対して、右側遊技盤５ＡＲの後方には右側裏箱３０１０Ｒに収容される各種演出ユニットにおける、各種ＬＥＤが実装される装飾基板、駆動モータ及び駆動ソレノイド等を駆動する駆動基板が配置されている。つまり、分割遊技盤５Ａは、マイクロプロセッサが実装される基板が左側遊技盤５ＡＬと、マイクロプロセッサが実装されない基板が右側遊技盤５ＡＲと、から構成されている。また、右側遊技盤５ＡＲの前方には周辺制御基板１５１０の制御対象（例えば遊技盤側可動体等）のみが設けられて遊技演出を実行するのに対して、左側遊技盤５ＡＬの前方には周辺制御基板１５１０の制御対象（サブ機能表示ユニット２２５０等）に限らず主制御基板１３１０の制御対象（機能表示ユニット１４００）も設けられ

て遊技の進行に直接的に関わる情報（当落に関する情報や大当りの種類に関する情報等）を表示するようになっている。このように、右側遊技盤５ＡＲについては後方にマイクロプロセッサが実装されない基板のみを設けるとともに、前方に周辺制御基板１５１０の制御対象のみを設けるように構成したため、意匠や仕様等の変更等に伴う右側遊技盤５ＡＲの変更が容易になる。

【４０６０】

また、左側遊技盤５ＡＬには上記した主制御基板１３１０や周辺制御基板１５１０に加えて、パネル中継基板１７１０、一般入賞口センサ３００１、第一始動口センサ３００２、第二始動口センサ２４０１、ゲートセンサ２８０１、大入賞口センサ２４０２、役物入賞口センサ２６０１、Ｖ入賞口センサ３００３、ハズレ口センサ３００４、始動口ソレノイド２４１２、アタッカソレノイド２４１４、役物入賞口ソレノイド２６１２、Ｖ振分ソレノイド３００７、磁気センサ１０５０、ベースモニタ１３１０ｈ等が設けられている。すなわち、本例では左側遊技盤５ＡＬに右側遊技盤５ＡＲが接続されていない場合や左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとの組み合わせが不適合とされる場合であっても、左側遊技盤５ＡＬ単独で遊技を実行することが可能とされている。

【４０６１】

［ドロワコネクタ］

左側裏箱３０１０Ｌの後方に配置される左側駆動基板ユニット１７００Ｌには、上述したように、各種中継基板が収容されている。これらの各種中継基板のうち、左側裏箱３０１０Ｌの後方上側であって左側裏箱３０１０Ｌの右側開口寄りに上下方向に２つの左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷが実装される左側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＤＲＷが配置されている。２つの左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ，ＬＤＲＷは、凸タイプのものである。左側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＤＲＷは、各種中継基板を介して、又は直接に、周辺制御基板１５１０と電気的に接続されている。なお、周辺制御基板１５１０は、さらに、各種中継基板と電気的に接続され、各種中継基板を介して、又は直接に、左側駆動基板ユニット１７００Ｌにおける各種演出ユニットに取り付けられる、各種ＬＥＤが実装される装飾基板、駆動モータ及び駆動ソレノイド等を駆動する駆動基板と電気的に接続されるとともに、サブ機能表示ユニット２２５０と電気的に接続されている。

【４０６２】

また、右側裏箱３０１０Ｒの後方に配置される右側駆動基板ユニット１７００Ｒには、上述したように、各種中継基板が収容されている。これらの各種中継基板のうち、右側裏箱３０１０Ｒの後方上側であって右側裏箱３０１０Ｒの左側開口寄りに、左側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＤＲＷに配置される２つの左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ，ＬＤＲＷと対応する位置に右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ，ＲＤＲＷが実装される右側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＲＤＲＷが配置されている。２つの右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ，ＲＤＲＷは、凹タイプのものである。右側駆動基板ユニット１７００Ｒにおける各種演出ユニットに取り付けられる、各種ＬＥＤが実装される装飾基板、駆動モータ及び駆動ソレノイド等を駆動する駆動基板は、右側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＲＤＲＷから各種中継基板を介して、又は直接に、電気的に接続されている。

【４０６３】

左側遊技盤５ＡＬの左側裏箱３０１０Ｌの下側であって、左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとを合体した分割遊技盤５Ａの下辺中央部には、左右方向に２つの下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷが実装される下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷが配置されている。２つの下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷは、凸タイプのものである。下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷは、各種中継基板を介して、又は直接に、周辺制御基板１５１０と電気的に接続されている。本体枠４の前面であって左側遊技盤５ＡＬにおける左側裏箱３０１０Ｌに設けられる２つの下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷと対応する位置には、図示しない本体枠側中継基板

に、図示しない２つの本体枠側ドロワコネクタが設けられている。２つの本体枠側ドロワコネクタは、凹タイプのものである。扉枠３に設けられる各種基板（皿ユニット２００、扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、扉枠トップユニット４５０に備える装飾基板や各種中継基板。各種中継基板には、皿ユニット２００の演出操作ユニット３００の各種センサからの検出信号を中継するものが含まれている。）は、本体枠側ドロワコネクタと電気的に接続されている。

【４０６４】

ここで、左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ（凸タイプ）、右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ（凹タイプ）、下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ（凸タイプ）、及び本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）等のドロワコネクタについて説明する。左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ（凸タイプ）及び右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ（凹タイプ）は、左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとを合体するだけで、自動的に左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとの電気的に接続を行うことができるコネクタである。下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ（凸タイプ）及び本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）は、分割遊技盤５Ａを本体枠４に装着するだけで自動的に本体枠４と分割遊技盤５Ａとの電気的に接続を行うことができるコネクタである。

【４０６５】

［左側遊技盤用ドロワコネクタ、右側遊技盤用ドロワコネクタ］

左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとを合体すると、凸タイプである左側遊技盤５ＡＬの左側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＤＲＷに実装される左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ，ＬＤＲＷが、凹タイプである右側遊技盤５ＡＲの右側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＲＤＲＷに実装される右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ，ＲＤＲＷに案内されて嵌め合い、左側遊技盤５ＡＬの左側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＤＲＷに実装される左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ，ＬＤＲＷの各端子と、右側遊技盤５ＡＲの右側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＲＤＲＷに実装される右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ，ＲＤＲＷの各端子と、が電気的に接続されるようになっている。

【４０６６】

左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとが合体して左側遊技盤５ＡＬの左側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＤＲＷに実装される左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ，ＬＤＲＷの各端子と、右側遊技盤５ＡＲの右側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＲＤＲＷに実装される右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ，ＲＤＲＷの各端子と、が電気的に接続されることにより、左側遊技盤５ＡＬにおける左側裏箱３０１０Ｌの後方に配置される周辺制御基板１５１０と右側遊技盤５ＡＲにおける右側裏箱３０１０Ｒの後方に配置される各種基板との各種制御信号を伝える制御信号ラインが形成され、また、左側遊技盤５ＡＬにおける左側裏箱３０１０Ｌの後方に配置される各種制御基板や他の各種基板のグランド（ＧＮＤ、回路グランド）と、右側遊技盤５ＡＲにおける右側裏箱３０１０Ｒの後方に配置される各種基板のグランド（ＧＮＤ、回路グランド）と、が電気的に接続されるグランド（ＧＮＤ）ラインが形成され、また、左側遊技盤５ＡＬにおける左側裏箱３０１０Ｌの後方に配置される各種制御基板又は／及び他の各種基板を介して右側遊技盤５ＡＲにおける右側裏箱３０１０Ｒの後方に配置される各種基板へ各種電源（＋５Ｖ、＋１２Ｖ、＋２４Ｖ等の直流電源）を供給する各種電源ラインが形成される。

【４０６７】

なお、左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ，ＬＤＲＷの絶縁性の外装部分、右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ，ＲＤＲＷの絶縁性の外装部分には、取付貫通穴がそれぞれ形成されている。左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ，ＬＤＲＷが実装される左側遊技盤５ＡＬの左側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＤＲＷには、左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ，ＬＤＲＷの絶縁性の取付貫通孔と対応する位置に貫通孔が設けられている。また、右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ，ＲＤＲＷが実装される右側遊技盤５ＡＲの右側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＲＤＲＷには、右側遊技盤用ドロワコネ

クタＲＤＲＷ，ＲＤＲＷの絶縁性の取付貫通孔と対応する位置に貫通孔が設けられている。

【４０６８】

左側遊技盤５ＡＬの左側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＤＲＷに左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ，ＬＤＲＷを実装する場合には、まず左側遊技盤５ＡＬの左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ，ＬＤＲＷの各端子を、左側遊技盤５ＡＬの左側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＤＲＷに形成される端子用のスルーホールに対して、左側遊技盤５ＡＬの左側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＤＲＷの実装面から左側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＤＲＷのハンダ付け面へ向かって挿入してハンダ付け面から突出する左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ，ＬＤＲＷの各端子を端子用のスルーホールのランド部分とハンダ付けする。そして、左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ，ＬＤＲＷの絶縁性の外装部分に形成される取付貫通孔にリベットをそれぞれ挿入してリベットの端部をカシメてリベットが塑性変形する。これにより、左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ，ＬＤＲＷは、左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ，ＬＤＲＷの各端子がハンダ付けされることにより端子用のスルーホールのランド部分に固定され、さらに、左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ，ＬＤＲＷの絶縁性の外装部分がリベットカシメにより左側遊技盤５ＡＬの左側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＤＲＷに固定される。

【４０６９】

このように固定されることによって、左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとを合体する際に、左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ（凸タイプ）が右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ（凹タイプ）に案内されて嵌め合うときに生ずる負荷に対して、左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ，ＬＤＲＷの各端子がハンダ付けされた端子用のスルーホールのランド部分が左側遊技盤５ＡＬの左側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＤＲＷの基材から剥離することを防止することができるようになっている。

【４０７０】

右側遊技盤５ＡＲの右側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＲＤＲＷに右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ，ＲＤＲＷを実装する場合には、左側遊技盤５ＡＬの左側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＤＲＷに左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ，ＬＤＲＷを実装する場合と同様に、まず右側遊技盤５ＡＲの右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ，ＲＤＲＷの各端子を、右側遊技盤５ＡＲの右側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＲＤＲＷに形成される端子用のスルーホールに対して、右側遊技盤５ＡＲの右側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＲＤＲＷの実装面から右側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＲＤＲＷのハンダ付け面へ向かって挿入してハンダ付け面から突出する右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ，ＲＤＲＷの各端子を端子用のスルーホールのランド部分とハンダ付けする。そして、右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ，ＲＤＲＷの絶縁性の外装部分に形成される取付貫通孔にリベットをそれぞれ挿入してリベットの端部をカシメてリベットが塑性変形する。これにより、右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ，ＲＤＲＷは、右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ，ＲＤＲＷの各端子がハンダ付けされることにより端子用のスルーホールのランド部分に固定され、さらに、右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ，ＲＤＲＷの絶縁性の外装部分がリベットカシメにより右側遊技盤５ＡＲの右側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＲＤＲＷに固定される。

【４０７１】

このように固定されることによって、左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとを合体する際に、左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ（凸タイプ）が右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ（凹タイプ）に案内されて嵌め合うときに生ずる負荷に対して、右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ，ＲＤＲＷの各端子がハンダ付けされた端子用のスルーホールのランド部分が右側遊技盤５ＡＲの右側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＲＤＲＷの基材から剥離することを防止することができるようになっている。

【４０７２】

［下側遊技盤用ドロワコネクタ、本体枠側ドロワコネクタ］

分割遊技盤５Ａを本体枠４に装着すると、凸タイプである左側遊技盤５ＡＬの下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷに実装される下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷが、凹タイプである本体枠４の図示しない本体枠側中継基板に実装される図示しない２つの本体枠側ドロワコネクタに案内されて嵌め合い、左側遊技盤５ＡＬの下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷに実装される下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの各端子と、本体枠４の図示しない本体枠側中継基板に実装される図示しない２つの本体枠側ドロワコネクタの各端子と、が電気的に接続されるようになっている。

【４０７３】

分割遊技盤５Ａを本体枠４に装着して左側遊技盤５ＡＬの下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷに実装される下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの各端子と、本体枠４の図示しない本体枠側中継基板に実装される図示しない２つの本体枠側ドロワコネクタの各端子と、が電気的に接続されることにより、左側遊技盤５ＡＬにおける左側裏箱３０１０Ｌの後方に配置される周辺制御基板１５１０と扉枠３に設けられる各種基板（皿ユニット２００、扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、扉枠トップユニット４５０に備える装飾基板や各種中継基板。各種中継基板には、皿ユニット２００の演出操作ユニット３００の各種センサからの検出信号や各種情報を伝送する制御信号を中継するものが含まれている。）との各種制御信号を伝える制御信号ラインが形成され、また、左側遊技盤５ＡＬにおける左側裏箱３０１０Ｌの後方に配置される各種制御基板や他の各種基板のグランド（ＧＮＤ、回路グランド）と、本体枠４に設けられる電源基板６３０のグランド（ＧＮＤ、回路グランド）と、が電気的に接続されるグランド（ＧＮＤ）ラインが形成され、また、左側遊技盤５ＡＬにおける左側裏箱３０１０Ｌの後方に配置される各種制御基板や他の各種基板に対して、本体枠４に設けられる電源基板６３０で作成される各種電源（＋５Ｖ、＋１２Ｖ、＋２４Ｖ等の直流電源）を供給する各種電源ラインが形成される。

【４０７４】

また、分割遊技盤５Ａを本体枠４に装着して左側遊技盤５ＡＬの下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷに実装される下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの各端子と、本体枠４の図示しない本体枠側中継基板に実装される図示しない２つの本体枠側ドロワコネクタの各端子と、が電気的に接続されることにより、左側遊技盤５ＡＬにおける左側裏箱３０１０Ｌの後方に配置される主制御基板１３１０と本体枠４に設けられる払出制御基板６３３との各種制御信号を伝送する制御信号ラインが形成される。

【４０７５】

なお、下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの絶縁性の外装部分、本体枠側ドロワコネクタの絶縁性の外装部分には、取付貫通穴がそれぞれ形成されている。下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷが実装される左側遊技盤５ＡＬの下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷには、下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの絶縁性の取付貫通孔と対応する位置に貫通孔が設けられている。また、本体枠側ドロワコネクタが実装される図示しない本体枠側中継基板には、本体枠側ドロワコネクタの絶縁性の取付貫通孔と対応する位置に貫通孔が設けられている。

【４０７６】

ここで、例えば、左側遊技盤５ＡＬの下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷに下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷを実装する場合には、まず下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの各端子を、左側遊技盤５ＡＬの下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷに形成される端子用のスルーホールに対して、左側遊技盤５ＡＬの下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷの実装面から左側遊技盤５ＡＬの下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷのハンダ付け面へ向かって挿入してハンダ付け面から突出する下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの各端子を端子用のスルーホールのランド部分とハンダ付けする。そして、下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの絶縁性の外装部分に形成される取付貫通孔にリベ

ットをそれぞれ挿入してリベットの端部をカシメてリベットが塑性変形する。これにより、下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷは、下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの各端子がハンダ付けされることにより端子用のスルーホールのランド部分に固定され、さらに、下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの絶縁性の外装部分がリベットカシメにより左側遊技盤５ＡＬの下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷに固定される。

【４０７７】

このように固定されることによって、分割遊技盤５Ａを本体枠４に装着する際に、下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ（凸タイプ）が本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）に案内されて嵌め合うときに生ずる負荷に対して、下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの各端子がハンダ付けされた端子用のスルーホールのランド部分が左側遊技盤５ＡＬの下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷの基材から剥離することを防止することができるようになっている。

【４０７８】

本実施形態において、マイクロプロセッサである主制御ＭＰＵ１３１０ａを備える主制御基板１３１０は、マイクロプロセッサを備える制御基板への各種コマンドに対して、自身を識別することができる自己識別符号（以下、「ＩＤ」と記載する場合がある。）を含めて送信する。つまり、主制御基板１３１０からの各種コマンドにはＩＤが含まれて構成されている。換言すると、本実施形態では、主制御ＭＰＵ１３１０ａの主制御ＭＰＵ１３１０ａは、マイクロプロセッサを備える制御基板へ対してＩＤが含まれる各種コマンドを送信することにより、受信側の制御基板のマイクロプロセッサが主制御基板１３１０と受信側の制御基板との組み合わせの適合性（整合性）を判断することができるようになっている。

【４０７９】

主制御基板１３１０と周辺制御基板１５１０とにおける基板間は、両端にコネクタが設けられる電気配線（ハーネス）を介して、電気的に接続され、主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０へ向かう単一方向による各種コマンドが送信される。周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、受信した各種コマンドからＩＤを抽出して主制御基板１３１０と周辺制御基板１５１０との組み合わせが適合（整合）するか否かを判定する。この判定は、図２６５に示した周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０２２の受信コマンド解析処理において行われる。

【４０８０】

周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、ステップＳ１０２２の受信コマンド解析処理において、主制御基板１３１０と周辺制御基板１５１０との組み合わせが不適合（不整合）であると判定したときには、受信したコマンドを報知表示に区分されるコマンドとして、図２６５に示した周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０２４の警告処理へ渡す。周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、ステップＳ１０２４の警告処理において、不適合（不整合）である旨の態様として、画面生成用スケジュールデータ、発光態様生成用スケジュールデータ、音生成用スケジュールデータ、及び電気的駆動源スケジュールデータ等を、周辺制御ＲＯＭから読み出して（抽出して）周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットすることにより、演出の進行を停止する処理を設定する。

【４０８１】

主制御基板１３１０は、上述したように、主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０へ単一方向による送信しかできないため、周辺制御基板１５１０による主制御基板１３１０と周辺制御基板１５１０との組み合わせの適合性（整合性）についての判定結果を得ることができず、遊技を進行することとなる。

【４０８２】

これに対して、主制御基板１３１０と払出制御基板６３３とにおける基板間は、分割遊技盤５Ａを本体枠４に装着して左側遊技盤５ＡＬの下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板

５ＡＬＵＤＲＷに実装される下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの各端子と、本体枠４の図示しない本体枠側中継基板に実装される図示しない２つの本体枠側ドロワコネクタの各端子と、が電気的に接続されることにより、このドロワコネクタを介して、主制御基板１３１０と払出制御基板６３３とを双方向による各種コマンドが送信される。払出制御基板６３３の払出制御ＭＰＵは、受信した各種コマンドからＩＤを抽出して主制御基板１３１０と払出制御基板６３３との組み合わせが適合（整合）するか否かを判定する。この判定は、図２６３に示した払出制御部電源投入時処理の払出制御部メイン処理におけるステップＳ５６０のコマンド解析処理において行われる。

【４０８３】

払出制御基板６３３の払出制御ＭＰＵは、ステップＳ５６０のコマンド解析処理において、主制御基板１３１０と払出制御基板６３３との組み合わせが不適合（不整合）であると判定したときには、主制御基板１３１０と払出制御基板６３３との組み合わせが不適合（不整合）となっている状態を示す情報を払出制御内蔵ＲＡＭの状態情報記憶領域にセットするとともに、払出動作を停止する情報を払出制御内蔵ＲＡＭの出力情報記憶領域にセットし、図２６３に示した払出制御部電源投入時処理の払出制御部メイン処理におけるステップＳ５６４のＬＥＤ表示データ作成処理、図２６３に示した払出制御部電源投入時処理の払出制御部メイン処理におけるステップＳ５６６のコマンド送信処理へ渡す。払出制御基板６３３の払出制御ＭＰＵは、ステップＳ５６４のＬＥＤ表示データ作成処理において、不適合（不整合）である旨の態様として、払出制御基板６３３のエラーＬＥＤ表示器に表示する表示データ（例えば、英字「Ｈ」を表示する表示データ）を作成してＬＥＤ表示情報として払出制御内蔵ＲＡＭの出力情報記憶領域にセットし、ステップＳ５６６のコマンド送信処理において、不適合（不整合）である旨を伝える不適合コマンド（不整合コマンド）を作成して主制御基板１３１０へ送信する。また、払出制御基板６３３の払出制御ＭＰＵは、図２６３に示した払出制御部電源投入時処理の払出制御部メイン処理におけるステップＳ５４８のポート出力処理において、払出制御内蔵ＲＡＭの出力情報記憶領域に記憶される出力情報に基づいて、払出モータ５８４の払出動作を停止するとともに、エラーＬＥＤ表示器に表示する表示データ（例えば、英字「Ｈ」）を出力する。

【４０８４】

主制御基板１３１０は、上述したように、主制御基板１３１０と払出制御基板６３３とを双方向による各種コマンドが送信されるため、払出制御基板６３３による主制御基板１３１０と払出制御基板６３３との組み合わせの適合性（整合性）についての判定結果を得ることができ、この判定結果をコマンドとして周辺制御基板１５１０へ送信する。周辺制御基板１５１０は、主制御基板１３１０と払出制御基板６３３との組み合わせの適合性（整合性）についての判定結果を、図２６５に示した周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０２２の受信コマンド解析処理において行い、この判定結果が不適合（不整合）であるときには、図２６５に示した周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０２４の警告処理においてその旨を報知する処理を設定する。このとき、演出の進行をそのまま継続してもよいし、演出の進行を停止する処理を設定してもよい。

【４０８５】

また、主制御基板１３１０は、払出制御基板６３３による主制御基板１３１０と払出制御基板６３３との組み合わせの適合性（整合性）についての判定結果を受信し、受信した判定結果が不適合（不整合）であるときには、遊技の進行をそのまま継続してもよいし、遊技の進行を停止してもよい。

【４０８６】

図３０２及び図３０３に示した遊技盤５Ａでは、Ａ仕様を構成する、左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとから構成されている。ここで、分割遊技盤５ＡのＡ仕様からＡ２仕様（ここでは、右側遊技盤における装飾部材の形状、遊技領域５ａの形状がＡ仕様のものと異なるものの、主制御基板１３１０、周辺制御基板１５１０に必要な各種データや各種プログラムは、各種ＲＯＭの内容と同一であり、単に右側遊技盤の飾り換えを行う。）に

変更して遊技盤５Ａ２とする場合には、図３０４に示すように、遊技盤５Ａ２では、左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５Ａ２Ｒとから構成される。Ａ２仕様は、Ａ仕様における右側遊技盤の飾り換えを行うものであり、Ａ仕様における左側遊技盤５ＡＬを共通して使用することができ、Ａ仕様の右側遊技盤５ＡＲからＡ２仕様の右側遊技盤５Ａ２Ｒへ交換（つまり右側遊技盤のみを交換）すればよい。

【４０８７】

なお、各種仕様において共通して使用することができる各種部材、主制御基板１３１０、周辺制御基板１５１０、他の各種基板（例えば、各種中継基板、左側裏箱３０１０Ｌに収容される各種演出ユニットに取り付けられる、各種ＬＥＤが実装される装飾基板、駆動モータ及び駆動ソレノイド等を駆動する駆動基板など）等については、左側遊技盤５ＡＬに配置されるようにしてもよい。具体的には、主制御基板１３１０、周辺制御基板１５１０に必要な各種データや各種プログラムは、各種ＲＯＭの内容を変更すればよいため左側遊技盤５ＡＬに配置される。また各種入賞口のうち仕様に依存されずに配置や数が決まっている入賞口については左側遊技盤５ＡＬに配置される。また装飾部材の形状、遊技領域５ａの形状のうち仕様に依存されずに共通して使用することができるものについては左側遊技盤５ＡＬに配置される。また仕様に依存されずに共通して使用することができる他の各種基板（例えば、各種中継基板、左側裏箱３０１０Ｌに収容される各種演出ユニットに取り付けられる、各種ＬＥＤが実装される装飾基板、駆動モータ及び駆動ソレノイド等を駆動する駆動基板など）については左側遊技盤５ＡＬに配置される。

【４０８８】

これに対して、仕様に依存する部分については、右側遊技盤５ＡＲに配置されるようにしてもよい。具体的には、各種入賞口のうち仕様に依存される入賞口については右側遊技盤５ＡＲに配置される。また装飾部材の形状、遊技領域５ａの形状のうち仕様に依存されるものについては右側遊技盤５ＡＲに配置される。

【４０８９】

［分割遊技盤における右側遊技盤の自己識別符号］

分割遊技盤では、上述したように、左側遊技盤と右側遊技盤とを合体するという構成を採用するとともに、左側遊技盤に対してはマイクロプロセッサが搭載されるのに対して、右側遊技盤に対してはマイクロプロセッサが搭載されないという構成を採用した。

【４０９０】

ところが、このような分割遊技盤では、左側遊技盤と右側遊技盤とを単純に合体させることができる一方、分割遊技盤を組み立てる作業者が誤って左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせとして正しくないもの（不適合（不整合）な組み合わせとなるもの）を組み立てることができるという人為的なミスが生ずる場合もある。このような不適合（不整合）な組み合わせとなった分割遊技盤を遊技ホールの島設備のパチンコ機１の本体枠４に装着して遊技者が遊技を行うと、例えば、パチンコ機全体での意匠の統一感が失われ遊技者の遊技興趣を低下させるおそれがあるし、そもそも仕様内容を申請機関へ提出して許可を得たものと異なるパチンコ機が遊技ホールに設置されることとなり好ましくない。そして、人為的なミスによって新規な遊技盤に対応する装飾部材に交換されずに古い遊技盤に対応する装飾部材が残ってしまっていた場合には、遊技機全体での統一感が失われてしまい、遊技興趣を低下させるおそれがある。

【４０９１】

［ＩＤ出力回路］

そこで、本実施形態では、右側遊技盤５ＡＲ（右側遊技盤５Ａ２Ｒ）には、自身を識別することができる自己識別符号（ＩＤ）を左側遊技盤５ＡＬに対して出力することができるＩＤ出力回路を備えている。ここでは、ＩＤ出力回路について図３０５を参照して説明する。図３０５はＩＤ出力回路の一例を示す回路図である。

【４０９２】

右側遊技盤５ＡＲには、自身を識別することができるＩＤ出力回路ＩＤＣが設けられている。このＩＤ出力回路ＩＤＣは、自身のみ実装される専用基板を右側遊技盤５ＡＲの後

方に配置するようにしてもよいし、各種中継基板のうち一の中継基板に実装してもよいし、装飾基板に実装されるＬＥＤと同居して実装してもよいし、他の基板に実装される電子部品と同居して実装されるようにしてもよい。

【４０９３】

ＩＤ出力回路ＩＤＣは、パラレルシリアル変換回路ＩＤＣａを主として構成されている。パラレルシリアル変換回路ＩＤＣａは、主に複数のフリップフロップ回路（８個のフリップフロップ回路）から構成されチップ化されてデイジーチェーン接続することができる電子部品であり、ＩＤを設定することができるＡ端子、Ｂ端子、Ｃ端子、Ｄ端子、Ｅ端子、Ｆ端子、Ｇ端子、及びＨ端子という８本のＩＤ設定端子（つまり、８ビット幅でＩＤを設定することができるパラレル入力の端子が８本ある。）と、ＩＤ取得用クロック信号が入力されるＣＫ端子と、Ａ端子～Ｈ端子の８本のＩＤ設定端子に設定される情報を取り込んで反転することなくシリアルデータとしてシリアル出力する非反転ＱＨ端子と、Ａ端子～Ｈ端子の８本のＩＤ設定端子に設定される情報を取り込んで反転してシリアルデータとしてシリアル出力する反転ＱＨ端子（図中、英字「Ｑ」の上に実線で表示。）と、クロック信号の入力を禁止するＣＫ　ＩＮＨ端子と、ＣＫ端子に入力されたＩＤ取得用クロック信号に基づくシフト動作と各フリップフロップ回路がＡ端子～Ｈ端子の８本のＩＤ設定端子に設定される情報を取り込むパラレル動作とを切り替えるＳ／反転Ｌ端子（図中、英字「Ｌ」の上に実線で表示。）と、シリアルデータが入力されるＳＩ端子と、制御電源が供給される電源端子Ｖｃｃと、グランド（ＧＮＤ、回路グランド）と電気的に接続されるＧＮＤ端子と、から主として構成されている。

【４０９４】

パラレルシリアル変換回路ＩＤＣａは、電源端子Ｖｃｃが＋５Ｖと電気的に接続され、ＧＮＤ端子、ＣＫ　ＩＮＴ端子、及びＳＩ端子がグランド（ＧＮＤ、回路グランド）と電気的に接続されている。非反転ＱＨ端子は、未接続された状態となっており、反転ＱＨ端子は、８本のＩＤ設定端子に設定されるパラレルデータであるＩＤからシリアル変換されたシリアルデータをＩＤコード信号として出力する。

【４０９５】

Ｓ／反転Ｌ端子は、パラレルシリアル変換回路ＩＤＣａの外部からＳＨ／ＬＤ切替信号が入力されている。パラレルシリアル変換回路ＩＤＣａの各フリップフロップ回路は、ＳＨ／ＬＤ切替信号の論理がパラレル動作論理（グランド（ＧＮＤ、回路グランド）と電気的に接続される論理：ＬＯＷ）であるときには、この時点におけるＡ端子～Ｈ端子の８本のＩＤ設定端子に設定される情報を取り込んで蓄える（保持する）一方、ＳＨ／ＬＤ切替信号の論理がパラレル動作論理を反転させたシフト動作論理（＋５Ｖと電気的に接続される論理：ＨＩ）であり、かつ、ＣＫ　ＩＮＴ端子がグランド（ＧＮＤ、回路グランド）と電気的に接続されているときには、取り込んだ情報に対してＣＫ端子に入力されたＩＤ取得用クロック信号の立ち上がりで順次シフト動作を行う。

【４０９６】

Ｓ／反転Ｌ端子に入力されるＳＨ／ＬＤ切替信号は、周辺制御基板１５１０から出力されるものでよいし、パラレルシリアル変換回路ＩＤＣａとともに設けた遅延回路から出力されるものでもよい。この遅延回路は、パラレルシリアル変換回路ＩＤＣａと同居して基板にＩＤ出力回路ＩＤＣを構成する回路として実装されるものであり、パチンコ機の電源投入後から予め定めた時間だけ、ＳＨ／ＬＤ切替信号の論理をパラレル動作論理とし、この予め定めた時間が経過すると、パラレル動作論理からシフト動作論理に切り替えることができる回路となっている。

【４０９７】

「予め定めた時間」として、本実施形態では、例えば、３０ミリ秒に設定されている。パチンコ機が電源投入され、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａが図２６５に示した周辺制御部電源投入時処理を開始すると、この予め定めた時間内に、ステップＳ１０００の初期設定処理、続いてステップＳ１００２の現在時刻情報取得処理を終了する。これは、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａが後述するＩＤ判定処理にお

いてＩＤ取得用クロック信号の出力によるＩＤコード信号を取得して左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとの適合性（整合性）について判定する必要があるからである。

【４０９８】

Ｓ／反転Ｌ端子に入力されるＳＨ／ＬＤ切替信号を周辺制御基板１５１０から出力するように構成する場合には、周辺制御基板１５１０は、Ａ端子～Ｈ端子の８本のＩＤ設定端子に設定される情報を取り込み開始する時期を調整することができるため、パラレルシリアル変換回路ＩＤＣａのパラレル動作の確認（不具合検査）を行うことができる一方、周辺制御基板１５１０からパラレルシリアル変換回路ＩＤＣａのＳ／反転Ｌ端子までに亘るＳＨ／ＬＤ切替信号を伝送する経路を設ける必要がある。

【４０９９】

これに対して、Ｓ／反転Ｌ端子に入力されるＳＨ／ＬＤ切替信号を遅延回路から出力するように構成する場合には、パラレルシリアル変換回路ＩＤＣａの各フリップフロップ回路がＡ端子～Ｈ端子の８本のＩＤ設定端子に設定される情報を取り込み開始する期間がパチンコ機の電源投入後から予め定めた時間（例えば、３０ミリ秒）までに亘る期間と限定され、周辺制御基板１５１０は、パラレルシリアル変換回路ＩＤＣａのパラレル動作の確認（不具合検査）を行うことができない一方、周辺制御基板１５１０からパラレルシリアル変換回路ＩＤＣａのＳ／反転Ｌ端子までに亘るＳＨ／ＬＤ切替信号を伝送する経路を設ける必要がない。ドロワコネクタを介して各種制御信号を伝送する場合にはドロワコネクタの端子数に限りがあるため、制御信号の本数をできる限り減らす必要がある。Ｓ／反転Ｌ端子に入力されるＳＨ／ＬＤ切替信号を遅延回路から出力するように構成する場合では、周辺制御基板１５１０からパラレルシリアル変換回路ＩＤＣａのＳ／反転Ｌ端子までに亘るＳＨ／ＬＤ切替信号を伝送する経路を設ける必要がないため、ドロワコネクタを介して伝送する制御信号の本数を減らすことに寄与することができる。

【４１００】

本実施形態では、右側遊技盤５ＡＲにおける８本のＩＤ設定端子には、Ａ端子、Ｂ端子、Ｃ端子、及びＤ端子が＋５Ｖと電気的に接続されるとともに、Ｅ端子、Ｆ端子、Ｇ端子、及びＨ端子がグランド（ＧＮＤ、回路グランド）と電気的に接続されている。つまり、右側遊技盤５ＡＲのＩＤは、Ａ端子を最上位ビット、Ｈ端子を最下位ビットとする８ビット幅で表すと、１１１１０００００Ｂ（英字「Ｂ」は２進数を表す。）となり、１６進数で表すと、Ｆ０Ｈ（英字「Ｈ」は１６進数を表す。）となる。これに対して、図３０４に示した右側遊技盤５Ａ２Ｒにおける８本のＩＤ設定端子には、Ａ端子、Ｂ端子、Ｃ端子、Ｄ端子、及びＨ端子が＋５Ｖと電気的に接続されるとともに、Ｅ端子、Ｆ端子、及びＧ端子がグランド（ＧＮＤ、回路グランド）と電気的に接続されている。つまり、右側遊技盤５Ａ２ＲのＩＤは、Ａ端子を最上位ビット、Ｈ端子を最下位ビットとする８ビット幅で表すと、１１１１０００１Ｂ（英字「Ｂ」は２進数を表す。）となり、１６進数で表すと、Ｆ１Ｈ（英字「Ｈ」は１６進数を表す。）となる。このように、右側遊技盤５ＡＲのＩＤと右側遊技盤５Ａ２ＲのＩＤとが異なるように予め設定されている。本実施形態では、分割遊技盤５ＡのＡ仕様とＡ２仕様とは、上述したように、右側遊技盤における装飾部材の形状、遊技領域５ａの形状が異なるものの、主制御基板１３１０、周辺制御基板１５１０に必要な各種データや各種プログラムは、各種ＲＯＭの内容と同一であり、右側遊技盤の飾り換えを行うことができるようになっているため、左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとの組み合わせは適合（整合）するものであり、左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５Ａ２Ｒとの組み合わせも適合（整合）するものである。

【４１０１】

また本実施形態では、Ｓ／反転Ｌ端子が＋５Ｖと電気的に接続されている状態において、パラレルシリアル変換回路ＩＤＣａは、各フリップフロップ回路がＣＫ端子に入力されたＩＤ取得用クロック信号の立ち上がりで順次シフト動作するため（つまり、Ａ端子に入力されている情報→Ｂ端子に入力されている情報→Ｃ端子に入力されている情報→Ｄ端子に入力されている情報→Ｅ端子に入力されている情報→Ｆ端子に入力されている情報→Ｇ端子に入力されている情報→Ｈ端子に入力されている情報→非反転ＱＨ端子及び反転ＱＨ

端子から１ビットずつシフト動作してシリアルデータとしてＩＤコード信号を出力するため）、パラレルシリアル変換回路ＩＤＣａが８ビットのシフトレジスタとして動作することとなる。

【４１０２】

左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとを合体することにより、上述したように、左側遊技盤５ＡＬの左側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＤＲＷに実装される左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ，ＬＤＲＷの各端子と、右側遊技盤５ＡＲの右側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＲＤＲＷに実装される右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ，ＲＤＲＷの各端子と、が電気的に接続されることにより、左側遊技盤５ＡＬにおける左側裏箱３０１０Ｌの後方に配置される周辺制御基板１５１０と右側遊技盤５ＡＲにおける右側裏箱３０１０Ｒの後方に配置される各種基板との各種制御信号を伝える制御信号ラインが形成される。これにより、右側遊技盤５ＡＲに設けられるＩＤ出力回路ＩＤＣは、パチンコ機１が電源投入され、右側遊技盤５ＡＲの右側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＲＤＲＷに実装される右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ，ＲＤＲＷの各端子と、左側遊技盤５ＡＬの左側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＤＲＷに実装される左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ，ＬＤＲＷの各端子と、を介して、左側遊技盤５ＡＬの周辺制御基板１５１０からのＩＤ取得用クロック信号が入力されると、この入力されたＩＤ取得用クロック信号に基づいて自身を識別することができるＩＤコード信号を左側遊技盤５ＡＬの周辺制御基板１５１０に伝送することができる。左側遊技盤５ＡＬの周辺制御基板１５１０は、所定のタイミングでＩＤ取得用クロック信号の出力によるＩＤコード信号を取得して左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとの適合性（整合性）について判定することができる。したがって、パチンコ機全体での意匠の統一感が失われ遊技者の遊技興趣の低下を抑制することができる。なお、この判定についての説明を後述する。

【４１０３】

なお、右側遊技盤５ＡＲに設けられるＩＤ出力回路ＩＤＣは、右側遊技盤５ＡＲの右側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＲＤＲＷに実装される右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ，ＲＤＲＷの各端子と、左側遊技盤５ＡＬの左側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＤＲＷに実装される左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ，ＬＤＲＷの各端子と、によるドロワコネクタを介して、ＩＤコード信号を左側遊技盤５ＡＬの周辺制御基板１５１０に伝送することができるようになっているが、これに代えて、右側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＲＤＲＷと左側遊技盤５ＡＬの左側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＤＲＷとを、両端にコネクタが設けられる電気配線（ハーネス）を介して、電気的に接続し、右側遊技盤５ＡＲに設けられるＩＤ出力回路ＩＤＣからのＩＤコード信号を左側遊技盤５ＡＬの周辺制御基板１５１０に伝送するようにしもよいし、ＩＤ出力回路ＩＤＣを実装する基板と左側遊技盤５ＡＬの周辺制御基板１５１０とを、両端にコネクタが設けられる電気配線（ハーネス）を介して、直接電気的に接続し、右側遊技盤５ＡＲに設けられるＩＤ出力回路ＩＤＣからのＩＤコード信号を左側遊技盤５ＡＬの周辺制御基板１５１０に伝送することができるようにしてもよい。

【４１０４】

なお、右側遊技盤５ＡＲに設けられるＩＤ出力回路ＩＤＣへのＩＤ取得用クロック信号、ＳＨ／ＬＤ切替信号と、右側遊技盤５ＡＲに設けられるＩＤ出力回路ＩＤＣからのＩＤコード信号と、は、２つのドロワコネクタのうち、一方のドロワコネクタを介して伝送されるようにしてもよいし、２つのドロワコネクタに分散して伝送されるようにしてもよい。

【４１０５】

［右側遊技盤に備える各種可動体の位置を検出するフォトセンサからの検出信号］

次に、右側遊技盤５ＡＲに各種可動体を備える場合に各種可動体の位置（原位置や作動位置）を検出するフォトセンサからの検出信号について図３０６を参照して説明する。図３０６はフォトセンサ情報シリアル出力回路の一例を示す回路図である。

【４１０６】

右側遊技盤５ＡＲに備える各種可動体の位置（原位置や作動位置）を検出するフォトセンサからの検出信号は、図３０６に示すように、フォトセンサ情報シリアル出力回路ＰＳＯに集約されるようになっている。フォトセンサ情報シリアル出力回路ＰＳＯは、パラレルシリアル変換回路ＰＳＯａを主として構成されている。このフォトセンサ情報シリアル出力回路ＰＳＯにおけるパラレルシリアル変換回路ＰＳＯａは、上述したＩＤ出力回路ＩＤＣにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣａと同一の回路であり、ここでは、各端子の説明、回路構成が同一の部分、及び動作についての説明を省略する。

【４１０７】

右側遊技盤５ＡＲに備える各種可動体の位置（原位置や作動位置）を検出するフォトセンサからの検出信号は、Ａ端子、Ｂ端子、Ｃ端子、Ｄ端子、Ｅ端子、Ｆ端子、Ｇ端子、及びＨ端子という８本の入力端子（つまり、８ビット幅でＩＤを設定することができるパラレル入力の端子が８本ある）に対応する信号がそれぞれ入力される。なお、右側遊技盤５ＡＲに備える各種可動体の位置（原位置や作動位置）を検出するフォトセンサの数が８個に満たない場合には、８本の入力端子のうち、この満たない本数と対応する入力端子が＋５Ｖまたはグランド（ＧＮＤ、回路グランド）と電気的に接続される。

【４１０８】

反転ＱＨ端子（図中、英字「Ｑ」の上に実線で表示。）は、Ａ端子～Ｈ端子の８本の入力端子に設定される情報を取り込んで反転してシリアルデータとしてシリアル出力し、上述したＩＤ出力回路ＩＤＣのシリアルパラレル変換回路ＩＤＣａのＳＩ端子と電気的に接続されている。つまり、パラレルシリアル変換回路ＰＳＯａとＩＤ出力回路ＩＤＣのシリアルパラレル変換回路ＩＤＣａとがデイジーチェーン接続されている。

【４１０９】

Ｓ／反転Ｌ端子（図中、英字「Ｌ」の上に実線で表示。）は、ＣＫ端子に入力されたＩＤ取得用クロック信号に基づくシフト動作と各フリップフロップ回路がＡ端子～Ｈ端子の８本の入力端子に設定される情報を取り込むパラレル動作とを切り替え、周辺制御基板１５１０からのＳＨ／ＬＤ切替信号が入力される。なお、ＳＨ／ＬＤ切替信号は、フォトセンサ情報シリアル出力回路ＰＳＯのシリアルパラレル変換回路ＰＳＯａのＳ／反転Ｌ端子のほかに、ＩＤ出力回路ＩＤＣのシリアルパラレル変換回路ＩＤＣａのＳ／反転Ｌ端子に入力される。

【４１１０】

右側遊技盤５ＡＲにおけるフォトセンサ情報シリアル出力回路ＰＳＯのシリアルパラレル変換回路ＰＳＯａのＳ／反転Ｌ端子とＩＤ出力回路ＩＤＣのシリアルパラレル変換回路ＩＤＣａのＳ／反転Ｌ端子とが＋５Ｖと電気的に接続されている状態において、フォトセンサ情報シリアル出力回路ＰＳＯのシリアルパラレル変換回路ＰＳＯａ及びＩＤ出力回路ＩＤＣのシリアルパラレル変換回路ＩＤＣａは、フォトセンサ情報シリアル出力回路ＰＳＯのシリアルパラレル変換回路ＰＳＯａ及びＩＤ出力回路ＩＤＣのシリアルパラレル変換回路ＩＤＣａの各フリップフロップ回路がＣＫ端子に入力されたＩＤ取得用クロック信号の立ち上がりで順次シフト動作するため（つまり、Ａ端子に入力されている情報→Ｂ端子に入力されている情報→Ｃ端子に入力されている情報→Ｄ端子に入力されている情報→Ｅ端子に入力されている情報→Ｆ端子に入力されている情報→Ｇ端子に入力されている情報→Ｈ端子に入力されている情報→非反転ＱＨ端子及び反転ＱＨ端子から１ビットずつシフト動作してシリアルデータとしてＩＤコード信号を出力するため）、フォトセンサ情報シリアル出力回路ＰＳＯのシリアルパラレル変換回路ＰＳＯａによる８ビットのシフトレジスタと、ＩＤ出力回路ＩＤＣのシリアルパラレル変換回路ＩＤＣａによる８ビットのシフトレジスタと、による１６ビットのシフトレジスタとして動作することとなる。

【４１１１】

左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとを合体することにより、上述したように、左側遊技盤５ＡＬの左側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＤＲＷに実装される左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ，ＬＤＲＷの各端子と、右側遊技盤５ＡＲの右側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＲＤＲＷに実装される右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ，

ＲＤＲＷの各端子と、が電気的に接続されることにより、左側遊技盤５ＡＬにおける左側裏箱３０１０Ｌの後方に配置される周辺制御基板１５１０と右側遊技盤５ＡＲにおける各種基板との各種制御信号を伝える制御信号ラインが形成される。これにより、左側遊技盤５ＡＬにおける左側裏箱３０１０Ｌの後方に配置される周辺制御基板１５１０から見ると、右側遊技盤５ＡＲにおけるＩＤ出力回路ＩＤＣのシリアルパラレル変換回路ＩＤＣａが前段の８ビットのシフトレジスタとなり、右側遊技盤５ＡＲにおけるフォトセンサ情報シリアル出力回路ＰＳＯのシリアルパラレル変換回路ＰＳＯａが後段の８ビットのシフトレジスタとなる。つまり、周辺制御基板１５１０には、前段の８ビットのシフトレジスタとなる右側遊技盤５ＡＲにおけるＩＤ出力回路ＩＤＣのシリアルパラレル変換回路ＩＤＣａの各フリップフロップが保持する内容に続いて、後段の８ビットのシフトレジスタとなる右側遊技盤５ＡＲにおけるフォトセンサ情報シリアル出力回路ＰＳＯのシリアルパラレル変換回路ＰＳＯａの各フリップフロップが保持する内容が１ビットずつ順番にシリアルデータとして入力されることとなる。

【４１１２】

右側遊技盤５ＡＲに設けられるＩＤ出力回路ＩＤＣと右側遊技盤５ＡＲに設けられるフォトセンサ情報シリアル出力回路ＰＳＯとは、パチンコ機１が電源投入され、右側遊技盤５ＡＲの右側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＲＤＲＷに実装される右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ，ＲＤＲＷの各端子と、左側遊技盤５ＡＬの左側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＤＲＷに実装される左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ，ＬＤＲＷの各端子と、によるドロワコネクタを介して、左側遊技盤５ＡＬの周辺制御基板１５１０からのＩＤ取得用クロック信号が入力されると、この入力されたＩＤ取得用クロック信号に基づいて自身を識別することができるＩＤコード信号と右側遊技盤５ＡＲに備える各種可動体の位置を検出する検出信号とを１つのシリアル信号であるフォト及びＩＤコード信号として左側遊技盤５ＡＬの周辺制御基板１５１０に伝送することができる。左側遊技盤５ＡＬの周辺制御基板１５１０は、所定のタイミングでＩＤ取得用クロック信号の出力によるフォト及びＩＤコード信号を取得して左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとの適合性（整合性）について判定したり、各種可動体の位置を把握することができる。周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、例えば、所定のタイミングとして、図２６７に示した周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理におけるステップＳ１１０６の可動体情報取得処理において、ＳＨ／ＬＤ切替信号の論理を設定して出力することでパラレル動作、そしてシリアル動作とした後に、ＩＤ取得用クロック信号を出力することにより、フォト及びＩＤコード信号を取得して左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとの適合性（整合性）について判定したり、各種可動体の位置を把握することができる。

【４１１３】

なお、右側遊技盤５ＡＲに設けられるＩＤ出力回路ＩＤＣは、右側遊技盤５ＡＲの右側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＲＤＲＷに実装される右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ，ＲＤＲＷの各端子と、左側遊技盤５ＡＬの左側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＤＲＷに実装される左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ，ＬＤＲＷの各端子と、によるドロワコネクタを介して、フォト及びＩＤコード信号を左側遊技盤５ＡＬの周辺制御基板１５１０に伝送することができるようになっているが、これに代えて、右側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＲＤＲＷと左側遊技盤５ＡＬの左側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＤＲＷとを、両端にコネクタが設けられる電気配線（ハーネス）を介して、電気的に接続し、フォト及びＩＤコード信号を左側遊技盤５ＡＬの周辺制御基板１５１０に伝送するようにしもよいし、右側遊技盤５ＡＲに設けられるＩＤ出力回路ＩＤＣを実装する基板と左側遊技盤５ＡＬの周辺制御基板１５１０とを、両端にコネクタが設けられる電気配線（ハーネス）を介して、直接電気的に接続し、フォト及びＩＤコード信号を左側遊技盤５ＡＬの周辺制御基板１５１０に伝送することができるようにしてもよい。

【４１１４】

また、右側遊技盤５ＡＲにおけるフォトセンサ情報シリアル出力回路ＰＳＯのシリアルパラレル変換回路ＰＳＯａの反転ＱＨ端子と、ＩＤ出力回路ＩＤＣのシリアルパラレル変

換回路ＩＤＣａのＳＩ端子と、を電気的に接続することにより、上述したように、１６ビットのシフトレジスタとして動作するとともに、フォト及びＩＤコード信号は、右側遊技盤５ＡＲに備える各種可動体の位置（原位置や作動位置）を検出するフォトセンサからの検出信号の情報と、右側遊技盤５ＡＲのＩＤの情報と、が含まれたシリアル信号として構成され、右側遊技盤５ＡＲの右側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＲＤＲＷに実装される右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ，ＲＤＲＷの各端子と、左側遊技盤５ＡＬの左側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＤＲＷに実装される左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ，ＬＤＲＷの各端子と、によるドロワコネクタを介して、左側遊技盤５ＡＬの周辺制御基板１５１０に伝送されていたが、これに代えて、右側遊技盤５ＡＲにおけるフォトセンサ情報シリアル出力回路ＰＳＯのシリアルパラレル変換回路ＰＳＯａの反転ＱＨ端子と、ＩＤ出力回路ＩＤＣのシリアルパラレル変換回路ＩＤＣａのＳＩ端子と、をそれぞれ別個のシリアル系統として、右側遊技盤５ＡＲの右側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＲＤＲＷに実装される右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ，ＲＤＲＷの各端子と、左側遊技盤５ＡＬの左側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＤＲＷに実装される左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ，ＬＤＲＷの各端子と、によるドロワコネクタを介して、左側遊技盤５ＡＬの周辺制御基板１５１０に伝送することができるようにしてもよい。

【４１１５】

［右側遊技盤がさらに分割された場合における自己識別符号］

ここで、右側遊技盤５ＡＲがさらに上側と下側とに分割される、右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとから構成される場合におけるＩＤ出力回路について図３０７を参照して説明する。図３０７は複数のＩＤ出力回路の一例を示す回路図である。

【４１１６】

右側遊技盤５ＡＲは、右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとを合体して組み立てることができる。右側遊技盤５ＡＲは、右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとを合体したのちに右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとにそれぞれ設けた図示しない連結部材の一方から他方へ向かって図示しないボルトを通して締め付けることにより、右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとの連結部分であって遊技球が転動する遊技領域５ａの表面が自動的に面一となって（つまり、段差が生じないように）右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとが固定されるようになっている。

【４１１７】

なお、右側遊技盤５ＡＲは、右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとを合体したのちに右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとにそれぞれ設けた図示しない連結部材の一方から他方へ向かって図示しないボルトを通して締め付けることにより、右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとが固定され、さらに、左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとを合体したのちに左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとにそれぞれ設けた図示しない連結部材の一方から他方へ向かって図示しないボルトを通して締め付けることにより、左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとが固定され、分割遊技盤５Ａを本体枠４に装着するようになっているが、左側遊技盤５ＡＬと右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとは、それぞれ個別に本体枠４に固定されるように構成してもよい。この場合でも、左側遊技盤５ＡＬと右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとの連結部分であって遊技球が転動する遊技領域５ａの表面が自動的に面一となって（つまり、段差が生じないように）左側遊技盤５ＡＬと右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとが本体枠４に固定される。

【４１１８】

右上側遊技盤５ＡＲＴには、上述した、右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ，ＲＤＲＷが実装される右側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＲＤＲＷが配置されている。２つの右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ，ＲＤＲＷは、凹タイプのものである。また、右上側遊技盤５ＡＲＴには、図示しない２つの右上側遊技盤用ドロワコネクタが実装される右上側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板が配置されている。２つの右上側遊技盤用ドロ

ワコネクタは、凸タイプのものである。右上側遊技盤５ＡＲＴにおける各種演出ユニットに取り付けられる、各種ＬＥＤが実装される装飾基板、駆動モータ及び駆動ソレノイド等を駆動する駆動基板は、右側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＲＤＲＷから各種中継基板を介して、又は直接に、電気的に接続されている。

【４１１９】

右下側遊技盤５ＡＲＵには、図示しない右上側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板に配置される２つの右上側遊技盤用ドロワコネクタと対応する位置に図示しない２つの右下側遊技盤用ドロワコネクタが実装される右下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板が配置されている。２つの右下側遊技盤用ドロワコネクタは、凹タイプのものである。右下側遊技盤５ＡＲＵにおける各種演出ユニットに取り付けられる、各種ＬＥＤが実装される装飾基板、駆動モータ及び駆動ソレノイド等を駆動する駆動基板は、図示しない右下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板から各種中継基板を介して、又は直接に、電気的に接続されている。

【４１２０】

図示しない２つの右上側遊技盤用ドロワコネクタ（凸タイプ）及び図示しない２つの右下側遊技盤用ドロワコネクタ（凹タイプ）は、右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとを合体するだけで、自動的に右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとを電気的に接続を行うことができるコネクタである。

【４１２１】

右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとを合体すると、凸タイプである右上側遊技盤５ＡＲＴの右上側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板に実装される２つの右上側遊技盤用ドロワコネクタが、凹タイプである右下側遊技盤５ＡＲＵの右下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板に実装される２つの右下側遊技盤用ドロワコネクタに案内されて嵌め合い、右上側遊技盤５ＡＲＴの右上側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板に実装される２つの右上側遊技盤用ドロワコネクタの各端子と、右下側遊技盤５ＡＲＵの右下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板に実装される２つの右下側遊技盤用ドロワコネクタの各端子と、が電気的に接続されるようになっている。この電気的な接続により、右上側遊技盤５ＡＲＴにおける各種基板と右下側遊技盤５ＡＲＵにおける各種基板との各種制御信号を伝える制御信号ラインが形成され、また、右上側遊技盤５ＡＲＴにおける各種基板のグランド（ＧＮＤ、回路グランド）と、右下側遊技盤５ＡＲＵにおける各種基板のグランド（ＧＮＤ、回路グランド）と、が電気的に接続されるグランド（ＧＮＤ）ラインが形成され、また、右上側遊技盤５ＡＲＴにおける各種基板を介して右下側遊技盤５ＡＲＵにおける各種基板へ各種電源（＋５Ｖ、＋１２Ｖ、＋２４Ｖ等の直流電源）を供給する各種電源ラインが形成される。

【４１２２】

２つの右上側遊技盤用ドロワコネクタの絶縁性の外装部分、及び２つの右下側遊技盤用ドロワコネクタの絶縁性の外装部分は、上述した右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ，ＲＤＲＷと同様に、取付貫通穴がそれぞれ形成されており、取付貫通穴にリベットをそれぞれ挿入してリベットの端部をカシメてリベットが塑性変形することにより、２つの右上側遊技盤用ドロワコネクタを右上側遊技盤５ＡＲＴの右上側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板に固定され、２つの右下側遊技盤用ドロワコネクタを右下側遊技盤５ＡＲＵの右下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板に固定される。

【４１２３】

このように固定されることによって、右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとを合体する際に、右上側遊技盤用ドロワコネクタ（凸タイプ）が右下側遊技盤用ドロワコネクタ（凹タイプ）に案内されて嵌め合うときに生ずる負荷に対して、右上側遊技盤用ドロワコネクタの各端子がハンダ付けされた端子用のスルーホールのランド部分が右上側遊技盤５ＡＲＴの右上側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板の基材から剥離することを防止することができるようになっているとともに、右下側遊技盤用ドロワコネクタの各端子がハンダ付けされた端子用のスルーホールのランド部分が右下側遊技盤５ＡＲＵの右下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板の基材から剥離することを防止することができるようになっ

ている。
【４１２４】
右上側遊技盤５ＡＲＴには、自身を識別することができるＩＤ出力回路ＩＤＣＴが設けられ、右下側遊技盤５ＡＲＵには、自身を識別することができるＩＤ出力回路ＩＤＣＵが設けられている。右上側遊技盤５ＡＲＴのＩＤ出力回路ＩＤＣＴは、自身のみ実装される専用基板を右上側遊技盤５ＡＲＴの後方に配置するようにしてもよいし、右上側遊技盤５ＡＲＴの各種中継基板のうち一の中継基板に実装してもよいし、右上側遊技盤５ＡＲＴの装飾基板に実装されるＬＥＤと同居して実装してもよいし、右上側遊技盤５ＡＲＴの他の基板に実装される電子部品と同居して実装されるようにしてもよい。右下側遊技盤５ＡＲＵのＩＤ出力回路ＩＤＣＵは、自身のみ実装される専用基板を右下側遊技盤５ＡＲＵの後方に配置するようにしてもよいし、右下側遊技盤５ＡＲＵの各種中継基板のうち一の中継基板に実装してもよいし、右下側遊技盤５ＡＲＵの装飾基板に実装されるＬＥＤと同居して実装してもよいし、右下側遊技盤５ＡＲＵの他の基板に実装される電子部品と同居して実装されるようにしてもよい。
【４１２５】
ＩＤ出力回路ＩＤＣＴ，ＩＤＣＵは、上述したＩＤ出力回路ＩＤＣと同一の回路構成であり、その詳細な説明を省略するが、パラレルシリアル変換回路ＩＤＣＴａ，ＩＤＣＵａを主としてそれぞれ構成されている。右上側遊技盤５ＡＲＴのＩＤ出力回路ＩＤＣＴは、上述したＩＤ出力回路ＩＤＣであり、右上側遊技盤５ＡＲＴのＩＤは、Ａ端子を最上位ビット、Ｈ端子を最下位ビットとする８ビット幅で表すと、１１１１０００００Ｂ（英字「Ｂ」は２進数を表す。）となり、１６進数で表すと、Ｆ０Ｈ（英字「Ｈ」は１６進数を表す。）となっている。これに対して、右下側遊技盤５ＡＲＵのＩＤは、Ａ端子を最上位ビット、Ｈ端子を最下位ビットとする８ビット幅で表すと、１１１１１０００Ｂ（英字「Ｂ」は２進数を表す。）となり、１６進数で表すと、Ｆ８Ｈ（英字「Ｈ」は１６進数を表す。）となっている。
【４１２６】
右上側遊技盤５ＡＲＴにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＴａは、ＳＩ端子がグランド（ＧＮＤ、回路グランド）と電気的に接続されていない他、上述したＩＤ出力回路ＩＤＣのパラレルシリアル変換回路ＩＤＣａと同一であり、その詳細な説明を省略する。右下側遊技盤５ＡＲＵにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＵａのＣＫ端子は、右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとが合体されると、上述したように、右上側遊技盤５ＡＲＴにおける図示しない２つの右上側遊技盤用ドロワコネクタ（凸タイプ）と、右下側遊技盤５ＡＲＵにおける図示しない２つの右下側遊技盤用ドロワコネクタ（凹タイプ）と、によるドロワコネクタにより自動的に電気的に接続されるため、このドロワコネクタを介して、右上側遊技盤５ＡＲＴにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＴａのＣＫ端子、Ｓ／反転Ｌ端子とそれぞれ電気的に接続され、周辺制御基板１５１０からのＩＤ取得用クロック信号が入力される。
【４１２７】
右下側遊技盤５ＡＲＵにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＵａのＳ／反転Ｌ端子は、右下側遊技盤５ＡＲＵにおける遅延回路からのＳＨ／ＬＤ切替信号が入力される。つまり、右上側遊技盤５ＡＲＴにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＴａのＳ／反転Ｌ端子には、右上側遊技盤５ＡＲＴにおける遅延回路からのＳＨ／ＬＤ切替信号が入力されるのに対して、右下側遊技盤５ＡＲＵにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＵａのＳ／反転Ｌ端子は、右下側遊技盤５ＡＲＵにおける遅延回路からのＳＨ／ＬＤ切替信号が入力され、パラレルシリアル変換回路ＩＤＣＴａ，ＩＤＣＵａのＳ／反転Ｌ端子には、それぞれ別々の遅延回路からのＳＨ／ＬＤ切替信号が入力される。右上側遊技盤５ＡＲＴにおける遅延回路と右下側遊技盤５ＡＲＵにおける遅延回路とは、上述しようたに、パチンコ機の電源投入後から予め定めた時間だけ、ＳＨ／ＬＤ切替信号の論理をパラレル動作論理とし、この予め定めた時間が経過すると、パラレル動作論理からシフト動作論理に切り替えることができる回路となっている。

【４１２８】
なお、これに代えて、右上側遊技盤５ＡＲＴにおける遅延回路からのＳＨ／ＬＤ切替信号が右上側遊技盤５ＡＲＴにおける図示しない２つの右上側遊技盤用ドロワコネクタ（凸タイプ）と、右下側遊技盤５ＡＲＵにおける図示しない２つの右下側遊技盤用ドロワコネクタ（凹タイプ）と、によるドロワコネクタを介して、右下側遊技盤５ＡＲＵにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＵａのＳ／反転Ｌ端子に入力されるようにしてもよい。また、左側遊技盤５ＡＬの周辺制御基板１５１０からのＳＨ／ＬＤ切替信号が左側遊技盤５ＡＬの左側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＤＲＷに実装される左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ，ＬＤＲＷの各端子と、右側遊技盤５ＡＲの右側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＲＤＲＷに実装される右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ，ＲＤＲＷの各端子と、によるドロワ回路を介して、右上側遊技盤５ＡＲＴにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＴａのＳ／反転Ｌ端子に入力され、さらに、右上側遊技盤５ＡＲＴにおける図示しない２つの右上側遊技盤用ドロワコネクタ（凸タイプ）と、右下側遊技盤５ＡＲＵにおける図示しない２つの右下側遊技盤用ドロワコネクタ（凹タイプ）と、によるドロワコネクタを介して、右下側遊技盤５ＡＲＵにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＵａのＳ／反転Ｌ端子に入力されるようにしてもよい。

【４１２９】
右下側遊技盤５ＡＲＵにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＵａは、そのＳＩ端子がグランド（ＧＮＤ、回路グランド）と電気的に接続され、その反転ＱＨ端子が、右上側遊技盤５ＡＲＴにおける図示しない２つの右上側遊技盤用ドロワコネクタ（凸タイプ）と、右下側遊技盤５ＡＲＵにおける図示しない２つの右下側遊技盤用ドロワコネクタ（凹タイプ）と、によるドロワコネクタを介して、右上側遊技盤５ＡＲＴにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＴａのＳＩ端子と電気的に接続されている。つまり、右下側遊技盤５ＡＲＵにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＵａと右上側遊技盤５ＡＲＴにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＴａとがデイジーチェーン接続されている。

【４１３０】
Ｓ／反転Ｌ端子が＋５Ｖと電気的に接続されている状態において、右上側遊技盤５ＡＲＴにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＴａ及び右下側遊技盤５ＡＲＵにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＵａは、右上側遊技盤５ＡＲＴにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＴａ及び右下側遊技盤５ＡＲＵにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＵａの各フリップフロップ回路がＣＫ端子に入力されたＩＤ取得用クロック信号の立ち上がりで順次シフト動作するため（つまり、Ａ端子に入力されている情報→Ｂ端子に入力されている情報→Ｃ端子に入力されている情報→Ｄ端子に入力されている情報→Ｅ端子に入力されている情報→Ｆ端子に入力されている情報→Ｇ端子に入力されている情報→Ｈ端子に入力されている情報→非反転ＱＨ端子及び反転ＱＨ端子から１ビットずつシフト動作してシリアルデータとしてＩＤコード信号を出力するため）、右上側遊技盤５ＡＲＴにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＴａによる８ビットのシフトレジスタと、右下側遊技盤５ＡＲＵにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＵａによる８ビットのシフトレジスタと、による１６ビットのシフトレジスタとして動作することとなる。

【４１３１】
左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとを合体（つまり、左側遊技盤５ＡＬと右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとを合体）することにより、上述したように、左側遊技盤５ＡＬの左側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＤＲＷに実装される左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ，ＬＤＲＷの各端子と、右上側遊技盤５ＡＲＴの右側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＲＤＲＷに実装される右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ，ＲＤＲＷの各端子と、が電気的に接続されることにより、左側遊技盤５ＡＬにおける左側裏箱３０１０Ｌの後方に配置される周辺制御基板１５１０と右上側遊技盤５ＡＲＴにおける各種基板と右下側遊技盤５ＡＲＵにおける各種基板との各種制御信号を伝える制御信号ラインが形成される。これにより、左側遊技盤５ＡＬにおける左側裏箱３０１０Ｌの後方に配置される周辺制御基板１５１０から見ると、右上側遊技盤５ＡＲＴにおけるパラ

レルシリアル変換回路ＩＤＣＴａが前段の８ビットのシフトレジスタとなり、右下側遊技盤５ＡＲＵにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＵａが後段の８ビットのシフトレジスタとなる。つまり、周辺制御基板１５１０には、前段の８ビットのシフトレジスタとなる右上側遊技盤５ＡＲＴにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＴａの各フリップフロップが保持する内容に続いて、後段の８ビットのシフトレジスタとなる右下側遊技盤５ＡＲＵにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＵａの各フリップフロップが保持する内容が１ビットずつ順番にシリアルデータとして入力されることとなる。

【４１３２】

右上側遊技盤５ＡＲＴに設けられるＩＤ出力回路ＩＤＣＴと右下側遊技盤５ＡＲＵに設けられるＩＤ出力回路ＩＤＣＵとは、パチンコ機１が電源投入され、右上側遊技盤５ＡＲＴの右側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＲＤＲＷに実装される右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ，ＲＤＲＷの各端子と、左側遊技盤５ＡＬの左側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＤＲＷに実装される左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ，ＬＤＲＷの各端子と、を介して、左側遊技盤５ＡＬの周辺制御基板１５１０からのＩＤ取得用クロック信号が入力されると、この入力されたＩＤ取得用クロック信号に基づいて自身を識別することができるＩＤコード信号を左側遊技盤５ＡＬの周辺制御基板１５１０に伝送することができる。左側遊技盤５ＡＬの周辺制御基板１５１０は、所定のタイミングでＩＤ取得用クロック信号の出力によるＩＤコード信号を取得して左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとの適合性（整合性）について判定することができる。

【４１３３】

なお、右上側遊技盤５ＡＲＴに設けられるＩＤ出力回路ＩＤＣＴは、右側遊技盤５ＡＲの右側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＲＤＲＷに実装される右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ，ＲＤＲＷの各端子と、左側遊技盤５ＡＬの左側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＤＲＷに実装される左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ，ＬＤＲＷの各端子と、によるドロワコネクタを介して、ＩＤコード信号を左側遊技盤５ＡＬの周辺制御基板１５１０に伝送することができるようになっているが、これに代えて、右側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＲＤＲＷと左側遊技盤５ＡＬの左側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＤＲＷとを、両端にコネクタが設けられる電気配線（ハーネス）を介して、電気的に接続し、右上側遊技盤５ＡＲＴに設けられるＩＤ出力回路ＩＤＣＴからＩＤコード信号を左側遊技盤５ＡＬの周辺制御基板１５１０に伝送するようにしもよいし、右上側遊技盤５ＡＲＴに設けられるＩＤ出力回路ＩＤＣＴを実装する基板と左側遊技盤５ＡＬの周辺制御基板１５１０とを、両端にコネクタが設けられる電気配線（ハーネス）を介して、直接電気的に接続し、右上側遊技盤５ＡＲＴに設けられるＩＤ出力回路ＩＤＣＴからＩＤコード信号を左側遊技盤５ＡＬの周辺制御基板１５１０に伝送することができるようにしてもよい。

【４１３４】

また、右下側遊技盤５ＡＲＵに設けられるＩＤ出力回路ＩＤＣＵは、右下側遊技盤５ＡＲＵの右下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板に実装される２つの右下側遊技盤用ドロワコネクタの各端子と、右上側遊技盤５ＡＲＴの右上側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板に実装される２つの右上側遊技盤用ドロワコネクタの各端子と、による第１ドロワコネクタを介して、そして、右側遊技盤５ＡＲの右側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＲＤＲＷに実装される右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ，ＲＤＲＷの各端子と、左側遊技盤５ＡＬの左側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＤＲＷに実装される左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ，ＬＤＲＷの各端子と、による第２ドロワコネクタを介して、ＩＤコード信号を左側遊技盤５ＡＬの周辺制御基板１５１０に伝送することができるようになっているが、これに代えて、右下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板と左側遊技盤５ＡＬの左側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＤＲＷとを、両端にコネクタが設けられる電気配線（ハーネス）を介して、右下側遊技盤５ＡＲＵに設けられるＩＤ出力回路ＩＤＣＵからＩＤコード信号を左側遊技盤５ＡＬの周辺制御基板１５１０に伝送するようにしもよいし、右下側遊技盤５ＡＲＵに設けられるＩＤ出力回路ＩＤＣＵを実装する基板と左側

遊技盤５ＡＬの周辺制御基板１５１０を、両端にコネクタが設けられる電気配線（ハーネス）を介して、直接電気的に接続し、右下側遊技盤５ＡＲＵに設けられるＩＤ出力回路ＩＤＣＵからＩＤコード信号を左側遊技盤５ＡＬの周辺制御基板１５１０に伝送することができるようにしてもよい。

【４１３５】

なお、第１ドロワコネクタ及び第２ドロワコネクタには、それぞれ２つのドロワコネクタから構成されているが、右上側遊技盤５ＡＲＴに設けられるＩＤ出力回路ＩＤＣＴ及び右下側遊技盤５ＡＲＵに設けられるＩＤ出力回路ＩＤＣＵへのＩＤ取得用クロック信号、ＳＨ／ＬＤ切替信号と、右上側遊技盤５ＡＲＴに設けられるＩＤ出力回路ＩＤＣＴ及び右下側遊技盤５ＡＲＵに設けられるＩＤ出力回路ＩＤＣＵからのＩＤコード信号と、は、第１ドロワコネクタにおける２つのドロワコネクタのうち、一方のドロワコネクタを介して伝送されるようにしてもよいし、２つのドロワコネクタに分散して伝送されるようにしてもよし、第２ドロワコネクタにおける２つのドロワコネクタのうち、一方のドロワコネクタを介して伝送されるようにしてもよいし、２つのドロワコネクタに分散して伝送されるようにしてもよい。

【４１３６】

右上側遊技盤と右下側遊技盤との組み合わせで、右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとを組み合わすはずが、右上側遊技盤５ＡＲＴと適合（整合）しない他の右下側遊技盤とを組み合わせた場合には、左側遊技盤５ＡＬと右上側遊技盤５ＡＲＴとが適合（整合）しているため、右上側遊技盤５ＡＲＴに設けられる各種ＬＥＤが演出の進行により発光態様が変化するものの、右上側遊技盤５ＡＲＴと適合（整合）しない他の右下側遊技盤に設けられる各種ＬＥＤは消灯する（全消灯）状態となる。なお、これに代えて、右上側遊技盤と右下側遊技盤との組み合わせで、右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとを組み合わすはずが、右上側遊技盤５ＡＲＴと適合（整合）しない他の右下側遊技盤とを組み合わせた場合には、左側遊技盤５ＡＬと右上側遊技盤５ＡＲＴとが適合（整合）している場合であっても、右上側遊技盤５ＡＲＴに設けられる各種ＬＥＤ、及び右上側遊技盤５ＡＲＴと適合（整合）しない他の右下側遊技盤に設けられる各種ＬＥＤは、消灯する（全消灯）状態としてもよい。

【４１３７】

［ＩＤ判定処理］

本実施形態における扉枠３に設けられる演出操作ユニット３００は、分割遊技盤の仕様に合わせて交換することができるようにしてもよい。この場合、演出操作ユニット３００が遊技盤５の構成部材として取り扱われる場合がある。つまり、外枠２と、扉枠３と本体枠４とから構成される遊技枠側構成部には、マイクロプロセッサが搭載される遊技盤５と、マイクロプロセッサが搭載されない演出操作ユニット３００と、から構成される遊技盤側構成部が着脱容易な状態（例えばドライバなどの工具を用いることなしに着脱することが可能な状態）で設けられている。遊技盤５や演出操作ユニット３００には、各種ＬＥＤが設けられ、各種ＬＥＤドライバにより駆動されている。

【４１３８】

これに対して、扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等の扉枠ユニット（以下、「扉枠ユニット」と記載する場合がある。）は、着脱困難な状態（例えばネジ等により螺着されてドライバなどの工具を用いることなしには着脱することが困難な状態）で設けられて分割遊技盤の仕様に合わせて交換されない（交換できないものとしてもよい）ものとなっており、分割遊技盤の仕様に依存することなく、どの分割遊技盤の仕様においても共通に使用されるものとなっている。分割遊技盤や扉枠ユニットには、各種ＬＥＤが設けられ、各種ＬＥＤドライバにより駆動されている。ここでは、扉枠３に設けられる演出操作ユニットと分割遊技盤との組み合わせとしてパチンコ機Ａとして適合（整合）する組み合わせとパチンコ機Ｂとして適合（整合）する組み合わせとについて図３０８及び図３０９を参照して説明する。図３０８は組み合わせの適合（整合）／不適合（不整合）テーブルを

示す一覧表であり、図３０９はＩＤ判定を行うことができる周辺制御部電源投入時処理の一例を示すフローチャートである。図３０９の周辺制御部電源投入時処理は、図２６５に示した周辺制御部電源投入時処理とほぼ同一の処理を行うものであり、図３０９では、同一の処理を行うステップについて同一の名称及びステップ番号で示した。なお、同一の名称及びステップ番号についての詳細な説明を省略する。また、以下では扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等の扉枠ユニットを分割遊技盤の仕様に合わせて交換されない（交換できないものとしてもよい）ものとして示すが、上記演出操作ユニット３００に替えて又は演出操作ユニット３００に加えて、扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等の扉枠ユニットのうちの特定の扉枠ユニット（扉枠ユニットのうちの１つ又は複数）を遊技盤５の構成部材として取り扱うようにしてもよい。つまり、マイクロプロセッサが搭載される遊技盤５と、マイクロプロセッサが搭載されない演出操作ユニット３００及び／又は特定の扉枠ユニットと、から遊技盤側構成部を構成するようにしてもよい。

【４１３９】

ここでは、分割遊技盤の仕様に合わせて交換することができる演出操作ユニット３００として自身を識別することができる上述したＩＤ出力回路が設けられており、パチンコ機Ａに使用されるＩＤとしては、２進数で表すと、００１１００００Ｂ（英字「Ｂ」は２進数を表す。）となり、１６進数で表すと、３０Ｈ（英字「Ｈ」は１６進数を表す。）が設定され（以下、パチンコ機Ａに使用される演出操作ユニットを「演出操作ユニット３００Ａ」と記載する。）、パチンコ機Ｂに使用されるＩＤとしては、２進数で表すと、００１１０００１Ｂ（英字「Ｂ」は２進数を表す。）となり、１６進数で表すと、３１Ｈ（英字「Ｈ」は１６進数を表す。）が設定されているとする（以下、パチンコ機Ｂに使用される演出操作ユニットを「演出操作ユニット３００Ｂ」と記載する）。

【４１４０】

パチンコ機Ａにおける分割遊技盤の組み合わせでは、Ａ仕様（例えば、設定キー付きタイプのものや、いわゆる甘デジタイプでないものなど）として設定されるものであり、上述した左側遊技盤５ＡＬと上述した右側遊技盤５ＡＲとが適合（整合）するものであり、パチンコ機Ｂにおける分割遊技盤の組み合わせでは、Ａ仕様と異なるＢ仕様（例えば、設定キー付きのものでないものや、いわゆる甘デジタイプであるものなど）として設定されるものであり、新たな左側遊技盤５ＢＬと上述した右側遊技盤５ＡＲとが適合（整合）するものとする。

【４１４１】

そうすると、パチンコ機Ａにおける扉枠３に設けられる演出操作ユニットと分割遊技盤との組み合わせとして、左側遊技盤５ＡＬは、図３０８（ａ）に示すように、右側遊技盤５ＡＲと演出操作ユニット３００Ａとの組み合わせが適合（整合）する。また、パチンコ機Ｂにおける扉枠３に設けられる演出操作ユニットと分割遊技盤との組み合わせとして、左側遊技盤５ＢＬは、図３０８（ｂ）に示すように、右側遊技盤５ＡＲと演出操作ユニット３００Ｂとの組み合わせが適合（整合）する。なお、扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等の扉枠ユニットは、上述したように、分割遊技盤の仕様に合わせて交換されないものとなっており、分割遊技盤の仕様に依存することなく、どの分割遊技盤の仕様においても共通に使用されるものとなっているため、図３０８（ａ），（ｂ）に示すように、Ａ仕様において左側遊技盤５ＡＬと扉枠ユニットとの組み合わせの適合（整合）の対象とされていないし、Ｂ仕様において左側遊技盤５ＢＬと扉枠ユニットとの組み合わせの適合（整合）の対象とされていない。

【４１４２】

左側遊技盤５ＡＬの周辺制御基板１５１０は、電源投入後に所定のタイミングで、それぞれのＩＤ出力回路から伝送されるＩＤコード信号からＩＤを取得して扉枠３に設けられる演出操作ユニットと分割遊技盤との組み合わせが適合（整合）するか否かを判定する。

具体的には、パチンコ機１が電源投入されて、周辺制御部電源投入時処理が開始されると、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９に示すように、ステップＳ１０００の初期設定処理、続いてステップＳ１００２の現在時刻情報取得処理を行う。続いて、周辺制御ＩＣ１５１０ａは、ステップＳ１００３のＩＤ判定処理を行う。このＩＤ判定処理では、右側遊技盤のＩＤ、演出操作ユニットのＩＤを取得するために、右側遊技盤に対してＩＤ取得用クロック信号（右側遊技盤専用のＩＤ取得用クロック信号）と、演出操作ユニットに対してＩＤ取得用クロック信号（演出操作ユニット専用のＩＤ取得用クロック信号）と、をそれぞれ出力する。そして、周辺制御ＩＣ１５１０ａは、右側遊技盤からのＩＤコード信号（右側遊技盤専用のＩＤコード信号）と、演出操作ユニットからのＩＤコード信号（演出操作ユニット専用のＩＤコード信号）と、をそれぞれ別々のシリアル系統により取得して、分割遊技盤の組み合わせ（つまり右側遊技盤（マイクロプロセッサが搭載されていない基板）と左側遊技盤（マイクロプロセッサが搭載された周辺制御基板１５１０や主制御基板１３１０）との組み合わせ）について周辺制御ＲＯＭに予め記憶される組み合わせテーブル（図３０８）を参照して判定（比較）するとともに、演出操作ユニットと分割遊技盤との組み合わせについて周辺制御ＲＯＭに予め記憶される組み合わせテーブル（図３０８）を参照して判定（比較）する。

【４１４３】

なお、このＩＤ判定処理では、上述した、分割遊技盤の組み合わせ（つまり右側遊技盤（マイクロプロセッサが搭載されていない基板）と左側遊技盤（マイクロプロセッサが搭載された周辺制御基板１５１０や主制御基板１３１０）との組み合わせ）について判定（比較）と、演出操作ユニットと分割遊技盤との組み合わせについて判定（比較）と、複数回（例えば、５回）行うようにしてもよい。この場合、判定結果として続けて適合（整合）を３回得ることができた場合には、適合（整合）としてその後の処理へすすむ一方、判定結果として続けて適合（整合）を３回得ることができなかった場合には、不適合（不整合）としてその後の処理へすすむ。

【４１４４】

周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、ステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、分割遊技盤の組み合わせについて行った判定結果が不適合（不整合）であるとき、つまり右側遊技盤（マイクロプロセッサが搭載されていない基板）と左側遊技盤（マイクロプロセッサが搭載された周辺制御基板１５１０や主制御基板１３１０）との組み合わせについて行った判定結果が不適合（不整合）であるときには、報知表示に区分されるコマンドを、周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０２４の警告処理へ渡す。周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、ステップＳ１０２４の警告処理において、不適合（不整合）である旨の態様として、画面生成用スケジュールデータ、発光態様生成用スケジュールデータ、音生成用スケジュールデータ、及び電気的駆動源スケジュールデータ等を、周辺制御ＲＯＭから読み出して（抽出して）周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットすることにより、演出に関する各種処理を設定する。

【４１４５】

また、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、ステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、演出操作ユニットと分割遊技盤との組み合わせについて行った判定結果が不適合（不整合）であるときには、報知表示に区分されるコマンドを、周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０２４の警告処理へ渡す。周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、ステップＳ１０２４の警告処理において、不適合（不整合）である旨の態様として、画面生成用スケジュールデータ、発光態様生成用スケジュールデータ、音生成用スケジュールデータ、及び電気的駆動源スケジュールデータ等を、周辺制御ＲＯＭから読み出して（抽出して）周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットすることにより、演出に関する各種処理を設定する。

【４１４６】

周辺制御基板１５１０は、主制御基板１３１０からの各種コマンドを受信する必要があるため、パチンコ機が電源投入されると、主制御基板１３１０のシステムが起動するまえ

に、システムが起動完了するようになっている。このため、演出操作ユニットと分割遊技盤との組み合わせに不適合（不整合）である場合には、主制御基板１３１０と払出制御基板６３３との組み合わせが不適合（不整合）であってもその旨を伝えるコマンドを受信するまで、演出操作ユニットと分割遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）である態様が先行することとなる。その後に、周辺制御基板１５１０は、主制御基板１３１０と払出制御基板６３３との組み合わせが不適合（不整合）である旨のコマンドを受信すると、演出操作ユニットと分割遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）である態様から主制御基板１３１０と払出制御基板６３３との組み合わせが不適合（不整合）である態様を優先することとなる。主制御基板１３１０と払出制御基板６３３との組み合わせは、主制御基板１３１０が分割遊技盤に配置されるのに対して、払出制御基板６３３が本体枠４に配置され、分割遊技盤が本体枠４に装着されるため、換言すると、分割遊技盤と本体枠との組み合わせとなる。

【４１４７】

なお、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、ＩＤ判定処理を、周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理が開始される前であって電源投入（停電により電力が回復した場合や、瞬間的な停電（瞬停）により電力が回復した場合も含む。）されると、一回限り行われていたが、任意の時期にＩＤ判定処理を行うことができるように、周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理の一処理として行う（例えば、ステップＳ１０１０の１ｍｓ割り込みタイマ起動処理に続いて、ステップＳ１０１２の処理としてＩＤ判定処理を行い、続いてステップＳ１０１４の演出操作ユニット監視処理を行う。）ようにしてもよい。こうすれば、周辺制御ＩＣ１５１０ａは、演出操作ユニットと分割遊技盤との組み合わせを任意の時期に、さらに複数回確認することができる。

【４１４８】

また、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、右側遊技盤と演出操作ユニットとに対してＳＨ／ＬＤ切替信号（右側遊技盤専用のＳＨ／ＬＤ切替信号と演出操作ユニット専用のＳＨ／ＬＤ切替信号とにより構成してもよいし、１つのＳＨ／ＬＤ切替信号を２つの信号に分岐して右側遊技盤と演出操作ユニットとにそれぞれ入力されるように構成してもよい。）と、をそれぞれ出力場合には、ＩＤ判定処理において、まず、予め定めた時間（右側遊技盤におけるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路と演出操作ユニットにおけるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路とがパラレル動作により８本のＩＤ設定端子に設定される情報を取り込んで蓄える（保持する）ことができる十分な時間であり、例えば、２ミリ秒）だけＳＨ／ＬＤ切替信号の論理をパラレル動作論理とし、この予め定めた時間が経過すると、パラレル動作論理からシフト動作論理に切り替えた後に、右側遊技盤に対してＩＤ取得用クロック信号（右側遊技盤専用のＩＤ取得用クロック信号）と、演出操作ユニットに対してＩＤ取得用クロック信号（演出操作ユニット専用のＩＤ取得用クロック信号）と、をそれぞれ出力し、右側遊技盤からのＩＤコード信号（右側遊技盤専用のＩＤコード信号）と、演出操作ユニットからのＩＤコード信号（演出操作ユニット専用のＩＤコード信号）と、をそれぞれ別々のシリアル系統により取得して、分割遊技盤の組み合わせ（つまり右側遊技盤（マイクロプロセッサが搭載されていない基板）と左側遊技盤（マイクロプロセッサが搭載された周辺制御基板１５１０や主制御基板１３１０）との組み合わせ）について判定するとともに、演出操作ユニットと分割遊技盤との組み合わせについて判定する。

【４１４９】

次に、図３０８に戻り、演出操作ユニットと分割遊技盤との組み合わせ、及び分割遊技盤と本体枠との組み合わせによる適合（整合）／不適合（不整合）によるパチンコ機の状態、挙動、対処法について説明する。扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等の扉枠ユニットは、上述したように、分割遊技盤の仕様に合わせて交換されないものとなっており、分割遊技盤の仕様に依存することなく、どの分割遊技盤の仕様においても共通に使用されるものとなっているため、演出操作ユニットと分割遊技盤との組み合わせ、及び分割

遊技盤と本体枠との組み合わせによる適合（整合）／不適合（不整合）に対して何ら影響を与えない。

【４１５０】

ここでは、パチンコ機Ａに関する内容説明し、パチンコ機Ｂに関する内容は、パチンコ機Ａと同一であるため、一部を除いて省略する（図３０８（ｃ）には、パチンコ機Ａの符号に続いてパチンコ機Ｂに関する符号を括弧書きで示したものもある）。

【４１５１】

パチンコ機Ａにおける分割遊技盤の組み合わせ、及びパチンコ機Ａにおける分割遊技盤と演出操作ユニットとの組み合わせについては、図３０９に示した周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理で行われ、分割遊技盤５Ａと本体枠との組み合わせについては、図２６３に示した払出制御部電源投入時処理の払出制御部メイン処理におけるステップＳ５６０のコマンド解析処理において行われる。つまり、パチンコ機Ａにおける分割遊技盤の組み合わせ、及びパチンコ機Ａにおける分割遊技盤と演出操作ユニットとの組み合わせについては分割遊技盤に配置される周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａにより行われるのに対して、分割遊技盤５Ａと本体枠との組み合わせについては分割遊技盤が装着される本体枠４に備える払出制御基板６３３の払出制御ＭＰＵにより行われる。払出制御基板６３３の払出制御ＭＰＵにより行われた判定結果は、コマンドとして主制御基板１３１０を介して、周辺制御基板１５１０へ伝わる。このため、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、パチンコ機Ａにおける分割遊技盤の組み合わせ、及びパチンコ機Ａにおける分割遊技盤と演出操作ユニットとの組み合わせが適合（整合）しているか否かの情報と、分割遊技盤５Ａと本体枠との組み合わせが適合（整合）しているか否かの情報と、を保持することなる。

【４１５２】

パチンコ機Ａにおける分割遊技盤と演出操作ユニットとの組み合わせでは、Ａ仕様（例えば、設定キー付きタイプのものや、いわゆる甘デジタイプでないものなど）として設定されるものであり、分割遊技盤の組み合わせとして左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとから構成される分割遊技盤５Ａが適合（整合）するものであり、パチンコ機Ａにおける分割遊技盤と演出操作ユニットとの組み合わせとして分割遊技盤５Ａと演出操作ユニット３００Ａとから構成されるものが適合（整合）する。なお、パチンコ機Ｂにおける分割遊技盤の組み合わせ、及びパチンコ機Ｂにおける分割遊技盤と演出操作ユニットとの組み合わせでは、Ｂ仕様（例えば、設定キー付きのものでないものや、いわゆる甘デジタイプであるものなど）として設定されるものであり、分割遊技盤の組み合わせとして左側遊技盤５ＢＬと右側遊技盤５ＡＲとから構成される分割遊技盤５Ｂが適合（整合）するものであり、パチンコ機Ｂにおける分割遊技盤と演出操作ユニットとの組み合わせとして分割遊技盤５Ｂと演出操作ユニット３００Ｂとから構成されるものが適合（整合）する。

【４１５３】

演出操作ユニット３００Ａと分割遊技盤５Ａとの組み合わせ、及び分割遊技盤５Ａと本体枠との組み合わせによる適合（整合）／不適合（不整合）によるパチンコ機の状態は、図３０８（ｃ）に示すように、状態１～状態１０までの１０通りが存在する。

【４１５４】

状態１：正常

分割遊技盤の組み合わせ：左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとから構成され適合（整合）している状態。

分割遊技盤と演出操作ユニットとの組み合わせ：分割遊技盤５Ａと演出操作ユニット３００Ａとから構成され適合（整合）している状態。

分割遊技盤と本体枠との組み合わせ：主制御基板１３１０と払出制御基板６３３との組み合わせが適合（整合）している状態。

エラー中のパチンコ機の挙動：正常動作（エラー対応なし）。

対処法：正常動作しているため、なし。

【４１５５】

状態２：ＩＤエラー１（右側遊技盤の不適合（不整合））
分割遊技盤の組み合わせ：左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとから構成されず不適合（不整合）となっている状態。
分割遊技盤と演出操作ユニットとの組み合わせ：分割遊技盤５Ａと演出操作ユニット３００Ａとから構成され適合（整合）している状態。
分割遊技盤と本体枠との組み合わせ：主制御基板１３１０と払出制御基板６３３との組み合わせが適合（整合）している状態。
エラー中のパチンコ機の挙動：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）。
対処法：電源遮断後に適合ＩＤ品（整合ＩＤ品）に交換する。

【４１５６】

状態３：ＩＤエラー２（演出操作ユニットの不適合（不整合））
分割遊技盤の組み合わせ：左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとから構成され適合（整合）している状態。
分割遊技盤と演出操作ユニットとの組み合わせ：分割遊技盤５Ａと演出操作ユニット３００Ａとから構成されず不適合（不整合）となっている状態。
分割遊技盤と本体枠との組み合わせ：主制御基板１３１０と払出制御基板６３３との組み合わせが適合（整合）している状態。
エラー中のパチンコ機の挙動：エラー対応２（ＩＤエラー２対応）。
対処法：適合ＩＤ品（整合ＩＤ品）に交換する（電源投入した状態でも交換可能）。

【４１５７】

状態４：ＩＤエラー３（主制御基板と払出制御基板との不適合（不整合））
分割遊技盤の組み合わせ：左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとから構成されて適合（整合）している状態。
分割遊技盤と演出操作ユニットとの組み合わせ：分割遊技盤５Ａと演出操作ユニット３００Ａとから構成され適合（整合）している状態。
分割遊技盤と本体枠との組み合わせ：主制御基板１３１０と払出制御基板６３３との組み合わせが不適合（不整合）となっている状態。
エラー中のパチンコ機の挙動：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）。
対処法：電源遮断後に適合ＩＤ品（整合ＩＤ品）に交換する。

【４１５８】

状態５：ＩＤエラー４（右側遊技盤の不適合（不整合）＋演出操作ユニットの不適合（不整合））
分割遊技盤の組み合わせ：左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとから構成されず不適合（不整合）となっている状態。
分割遊技盤と演出操作ユニットとの組み合わせ：分割遊技盤５Ａと演出操作ユニット３００Ａとから構成されず不適合（不整合）となっている状態。
分割遊技盤と本体枠との組み合わせ：主制御基板１３１０と払出制御基板６３３との組み合わせが適合（整合）している状態。
エラー中のパチンコ機の挙動：エラー対応４。
対処法：電源遮断後に適合ＩＤ品（整合ＩＤ品）に交換する。

【４１５９】

状態６：ＩＤエラー１，３（右側遊技盤の不適合（不整合）＋主制御基板と払出制御基板との不適合（不整合））
分割遊技盤の組み合わせ：左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとから構成されず不適合（不整合）となっている状態。
分割遊技盤と演出操作ユニットとの組み合わせ：分割遊技盤５Ａと演出操作ユニット３００Ａとから構成され適合（整合）している状態。
分割遊技盤と本体枠との組み合わせ：主制御基板１３１０と払出制御基板６３３との組み合わせが不適合（不整合）となっている状態。
エラー中のパチンコ機の挙動：エラー対応５。

対処法：電源遮断後に適合ＩＤ品（整合ＩＤ品）に交換する。
【４１６０】
状態７：ＩＤエラー２，３（演出操作ユニットの不適合（不整合）＋主制御基板と払出制御基板との不適合（不整合））
分割遊技盤の組み合わせ：左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとから構成され適合（整合）している状態。
分割遊技盤と演出操作ユニットとの組み合わせ：分割遊技盤５Ａと演出操作ユニット３００Ａとから構成されず不適合（不整合）となっている状態。
分割遊技盤と本体枠との組み合わせ：主制御基板１３１０と払出制御基板６３３との組み合わせが不適合（不整合）となっている状態。
エラー中のパチンコ機の挙動：エラー対応６。
対処法：電源遮断後に適合ＩＤ品（整合ＩＤ品）に交換する。
【４１６１】
状態８：未接続エラー１（右側遊技盤との接続確認不可）
分割遊技盤の組み合わせ：右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がなく（右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力を確認することができず）各種信号を伝送する伝送経路に短絡や断線などの不具合が発生し接続確認することができない状態。
分割遊技盤と演出操作ユニットとの組み合わせ：分割遊技盤５Ａと演出操作ユニット３００Ａとから構成され適合（整合）している状態。
分割遊技盤と本体枠との組み合わせ：主制御基板１３１０と払出制御基板６３３との組み合わせが適合（整合）している状態。
エラー中のパチンコ機の挙動：エラー対応７。
対処法：電源遮断後に接続を確認する。
【４１６２】
状態９：未接続エラー２（演出操作ユニットとの接続確認不可）
分割遊技盤の組み合わせ：左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとから構成され適合（整合）している状態。
分割遊技盤と演出操作ユニットとの組み合わせ：演出操作ユニット３００ＡからのＩＤコード信号の入力がなく（演出操作ユニット３００ＡからのＩＤコード信号の入力を確認することができず）各種信号を伝送する伝送経路に短絡や断線などの不具合が発生し接続確認することができない状態。
分割遊技盤と本体枠との組み合わせ：主制御基板１３１０と払出制御基板６３３との組み合わせが適合（整合）している状態。
エラー中のパチンコ機の挙動：エラー対応８。
対処法：電源遮断後に接続を確認する。
【４１６３】
状態１０：未接続エラー３（右側遊技盤との接続確認不可＋演出操作ユニットとの接続確認不可）
分割遊技盤の組み合わせ：右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がなく（右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力を確認することができず）各種信号を伝送する伝送経路に短絡や断線などの不具合が発生し接続確認することができない状態。
分割遊技盤と演出操作ユニットとの組み合わせ：演出操作ユニット３００ＡからのＩＤコード信号の入力がなく（演出操作ユニット３００ＡからのＩＤコード信号の入力を確認することができず）各種信号を伝送する伝送経路に短絡や断線などの不具合が発生し接続確認することができない状態。
分割遊技盤と本体枠との組み合わせ：主制御基板１３１０と払出制御基板６３３との組み合わせが適合（整合）している状態。
エラー中のパチンコ機の挙動：エラー対応９。
対処法：電源遮断後に接続を確認する。
【４１６４】

次に、図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動としてエラー対応１～エラー対応９について、電源投入時（停電からの復旧、瞬停からの復旧を含む。以下、同じ。）、電源投入後の演出の進行時（例えば、各種入賞口へ遊技球が入球したことに基づいて演出が進行する場合など）または客待ち時（例えば、デモンストレーションが行われている場合や停止画像となっている場合など）における磁気検知（いわゆる、磁石ゴト）を伴わない場合、電源投入後における演出の進行時（例えば、各種入賞口へ遊技球が入球したことに基づいて演出が進行する場合など）または客待ち時（例えば、デモンストレーションが行われている場合や停止画像となっている場合など）における磁気検知（磁石ゴト）を伴う場合にわけて、具体例１として図３１０～図３１２を参照して説明し、具体例２として図３１３～図３１５を参照して説明する。図３１０は電源投入時における各種エラー対応（具体例１）を示すテーブルであり、図３１１は電源投入後の演出の進行時または客待ち時における磁気検出を伴わない各種エラー対応（具体例１）を示すテーブルであり、図３１２は電源投入後の演出の進行時または客待ち時における磁気検出を伴う各種エラー対応（具体例１）を示すテーブルである。また、図３１３は電源投入時における各種エラー対応（具体例２）を示すテーブルであり、図３１４は電源投入後の演出の進行時または客待ち時における磁気検出を伴わない各種エラー対応（具体例２）を示すテーブルであり、図３１５は電源投入後の演出の進行時または客待ち時における磁気検出を伴う各種エラー対応（具体例２）を示すテーブルである。各種ＩＤエラー（図３０８（ｃ）に示したＩＤエラー１、ＩＤエラー２、ＩＤエラー３という単体のＩＤエラーのほかに、これらの組み合わせたＩＤエラーも含む。）は、各種未接続エラー（図３０８（ｃ）に示した未接続エラー１、未接続エラー２、未接続エラー３）よりも遊技の阻害度が高い。さらに、磁気検出は、一定時間経過後に解消されるものの、ＩＤエラーと未接続エラーとは、一定時間経過しても解消されない。

【４１６５】

なお、図３１０～図３１５のテーブルの上段に記載される項目として、「エラー対応の番号」については、図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動としてエラー対応１～エラー対応９と対応するものであり、「音声」は、パチンコ機に備える各種スピーカから流れる音声態様を示すものであり、「扉枠ユニットの各種ＬＥＤ（演出に関する各種ＬＥＤ（装飾用各種ＬＥＤ））」は、扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等の扉枠ユニットに設けられる各種ＬＥＤ（演出に関する各種ＬＥＤ（装飾用各種ＬＥＤ））の発光態様を示すものであり、「遊技盤の各種ＬＥＤ（演出に関する各種ＬＥＤ（装飾用各種ＬＥＤ））」は、遊技盤（分割遊技盤）に設けられる各種ＬＥＤ（演出に関する各種ＬＥＤ（装飾用各種ＬＥＤ））の発光態様を示すものであり、「演出表示装置」は、遊技盤（分割遊技盤）に設けられる演出表示装置１６００の表示態様を示すものであり、「サブ演出表示装置」は、遊技盤（分割遊技盤）に設けられる演出表示装置１６００と別体に遊技盤（分割遊技盤）又は扉枠ユニットに設けられるものであって、サブ演出表示装置の表示態様を示すものであり、「機能表示ユニット」は、遊技盤（分割遊技盤）に設けられる機能表示ユニット１４００の表示態様を示すものであり、「サブ機能表示ユニット」は、遊技盤（分割遊技盤）に設けられるサブ機能表示ユニット２２５０の表示態様を示すものであり、「遊技盤側可動体（演出に関する可動体）」は、遊技盤（分割遊技盤）に設けられる各種可動体（演出に関する可動体）の動作を示すものであり、「扉枠側」は、扉枠ユニットに設けられる各種可動体の動作を示すものである。

【４１６６】

上述した項目のうち、「音声」、「扉枠ユニットの各種ＬＥＤ（演出に関する各種ＬＥＤ（装飾用各種ＬＥＤ））」、「遊技盤の各種ＬＥＤ（演出に関する各種ＬＥＤ（装飾用各種ＬＥＤ））」、「演出表示装置」、「サブ演出表示装置」、「サブ機能表示ユニット」、「遊技盤側可動体（演出に関する可動体）」、及び「遊技枠側可動体」については、遊技盤（分割遊技盤）に備える周辺制御基板１５１０の制御対象となっているのに対して、「機能表示ユニット」については、遊技盤（分割遊技盤）に備える主制御基板１３１０

の制御対象となっている。なお、パチンコ機にサブ演出表示装置が設けられない場合には、サブ演出表示装置に表示される内容が遊技盤（分割遊技盤）に設けられる演出表示装置１６００に表示される。

【４１６７】

また、扉枠ユニットには、上述したように、皿ユニット２００に演出操作ユニット３００が備えられている。演出操作ユニット３００には、上述したＩＤ出力回路が設けられていないもの、つまり演出操作ユニット３００に自己を識別するためのＩＤが全く設けられず演出操作ユニット３００がどの仕様においても共通して使用するものも存在する。このような場合において、演出操作ユニット３００に演出操作部３０１のような可動体が設けられているときには、演出操作ユニット３００に備える可動体を「遊技枠側可動体」に含まれるものとして扱うとともに、演出操作ユニット３００に設けられる各種装飾基板（例えば、演出操作部外周装飾基板３２０、ボタン外装飾基板３５５、ボタン中装飾基板３６４など）に実装される各種ＬＥＤ（例えば、複数のＬＥＤ３２０ａ、ＬＥＤ３５５ａ、ＬＥＤ３６４ａなど）を「扉枠ユニットの各種ＬＥＤ」に含まれるものとして扱う。

【４１６８】

「遊技盤側可動体」には、エラー対応１（ＩＤエラー１対応）及びエラー対応７では左側遊技盤に備える各種可動体を意味し、エラー対応２（ＩＤエラー２対応）及びエラー対応８では左側遊技盤に備える各種可動体及び／又は右側遊技盤に備える各種可動体を意味するものとして扱う。

【４１６９】

図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動としてエラー対応１～エラー対応９が発生した状態においては、これらの各種エラーに対処するために、本体枠４を外枠２から開放したり、扉枠３を本体枠４から開放する必要がある。このとき、パチンコ機１は、扉開放中であるという状態となっているものの、エラー対応１～エラー対応９を優先して報知するために、扉開放中であるという報知を行わないようになっている。

【４１７０】

また、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、パチンコ機１に電源が投入され、図２５５に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３０のチェックサムの値が一致していないと判定したときには、主制御内蔵ＲＡＭにおけるＲＡＭエラーとして同処理におけるステップＳ３３のエラー表示処理を行い、その後、再起動する。再起動しても、主制御内蔵ＲＡＭの内容が全く更新されず、再びステップＳ３０の判定によりステップＳ３３のエラー表示処理へ進み、再起動を繰り返し、遊技を停止する状態となる。

【４１７１】

このようなＲＡＭエラーが発生している状態において、図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動としてエラー対応１～エラー対応９が発生しても、ＲＡＭエラーが発生している旨を伝える報知（エラー表示）のみ行われるのに対して、図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動としてエラー対応１～エラー対応９が発生している旨を伝える報知が行われないようになっている。

【４１７２】

なお、繰り返す再起動を阻止するためには、主制御基板１３１０に備える設定キースイッチ１３１１ａに設定キーを挿入してＯＮ操作した後に、払出制御基板６３３に備えるＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部を押圧操作しながら、電源基板６３０に備える電源スイッチ６３０ａを操作してパチンコ機１の電源投入を行う必要がある。この操作により、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３７の設定変更処理を行い、ステップＳ３８のＲＡＭの全領域クリアとし、その後、図２５７に示した主制御側タイマ割り込み処理等により遊技を進行する。設定キーは、重要なキーであるため、遊技ホールの店長を含め限られた者のみ所持が許可され、２～３人に限定されている。

【４１７３】

周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、パチンコ機１が電源投入されると

、起動態様として、例えば、演出表示装置１６００に黒色の背景に「電源復旧中」を表示する。このとき、「電源復旧中」に続いて「設定中」を表示してもよいし、「電源復旧中」に代えて「設定中」を表示してもよい。この場合、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３７の設定変更処理を開始すると、設定変更を開始する旨を伝える設定変更開始コマンドを主周シリアルデータとして周辺制御基板１５１０に送信する必要がある。

【４１７４】

周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３７の設定変更処理が終了した後、つまり主制御基板１３１０からの設定変更コマンドを受信すると、これを契機として、図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動としてエラー対応１～エラー対応９が発生している場合には、その旨を伝える報知を行う。つまり、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動としてエラー対応１～エラー対応９が発生している場合であっても、主制御基板１３１０に備える設定キースイッチ１３１１ａに設定キーを挿入してＯＮ操作されたことにより主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３７の設定変更処理を行っている場合には（この設定変更処理を完了するまでの所定期間が経過するまで、換言すると、主制御基板１３１０からの設定変更コマンドを受信（解析）するまで、エラー対応１～エラー対応９におけるＩＤエラーや未接続エラーが発生していても、その旨を報知するエラー報知開始時期を遊技ホールの限られた者が所持する設定キーによる操作によって変更することできるようになっている。

【４１７５】

［具体例１：電源投入時］

まず、電源投入時における図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動としてエラー対応１～エラー対応９について、図３１０を参照して説明する。

［エラー対応１（ＩＤエラー１対応）］

音声：起動音楽の終了後に「係員をお呼びください」というアナウンス音を流し所定のエラー報知音を７回流す。このような音声態様を繰り返し流す。

扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：消灯する（全消灯）。

遊技盤の各種ＬＥＤ：消灯する（全消灯）。

演出表示装置：黒色の背景に「電源復旧中」、「しばらくお待ちください」という報知文字を表示し、起動音楽が終了すると演出時の画像を表示する。

サブ演出表示装置：起動音楽の開始と同時に所定の背景画像に「遊技盤ＩＤエラー」という報知文字を表示する。

機能表示ユニット：所定のＬＥＤが点灯する。

サブ機能表示ユニット：消灯する（全消灯）。

遊技盤側可動体：原位置復帰などの動作なし（未動作）。

遊技枠側可動体：原位置復帰などの動作なし（未動作）。

【４１７６】

［エラー対応２（ＩＤエラー２対応）］

音声：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。

扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。

遊技盤の各種ＬＥＤ：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。

演出表示装置：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。

サブ演出表示装置：起動音楽の開始と同時に所定の背景画像に「演出操作ボタンＩＤエラー」という報知文字を表示する。

機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。

サブ機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。

遊技盤側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。

遊技枠側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。

【４１７７】
［エラー対応３（ＩＤエラー３対応）］
音声：起動音楽の終了後に「係員をお呼びください」というアナウンス音を流し所定のエラー報知音を２回流す。このような音声態様を繰り返し流す。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技盤の各種ＬＥＤ：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
演出表示装置：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
サブ演出表示装置：起動音楽の開始と同時に所定の背景画像に、遊技盤（分割遊技盤）に備える主制御基板と、遊技盤（分割遊技盤）が装着される本体枠４に備える払出制御基板と、の組み合わせが不整合であるとして「主払ＩＤエラー」という報知文字を表示する。
機能表示ユニット：所定のＬＥＤが点灯する。
サブ機能表示ユニット：所定のＬＥＤが点灯する。
遊技盤側可動体：原位置復帰などの動作あり（動作）。
遊技枠側可動体：原位置復帰などの動作あり（動作）。
【４１７８】
［エラー対応４］
音声：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技盤の各種ＬＥＤ：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
演出表示装置：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
サブ演出表示装置：起動音楽の開始と同時に所定の背景画像に「遊技盤ＩＤエラー」及び「演出操作ボタンＩＤエラー」という報知文字を表示する（エラー対応１（ＩＤエラー１対応）の内容とエラー対応２（ＩＤエラー２対応）の内容とを合わせてものとなる（エラー対応１（ＩＤエラー１対応）＋エラー対応２（ＩＤエラー２対応））。
機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
サブ機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技盤側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技枠側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
【４１７９】
［エラー対応５］
音声：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
遊技盤の各種ＬＥＤ：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
演出表示装置：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
サブ演出表示装置：起動音楽の開始と同時に所定の背景画像に「主払ＩＤエラー」及び「遊技盤ＩＤエラー」という報知文字を表示する（エラー対応３（ＩＤエラー３対応）の内容とエラー対応１（ＩＤエラー１対応）の内容とを合わせてものとなる（エラー対応３（ＩＤエラー３対応）＋エラー対応１（ＩＤエラー１対応））。
機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
サブ機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技盤側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技枠側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
【４１８０】
［エラー対応６］
音声：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
遊技盤の各種ＬＥＤ：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
演出表示装置：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
サブ演出表示装置：起動音楽の開始と同時に所定の背景画像に「主払ＩＤエラー」及び

「演出操作ボタンＩＤエラー」という報知文字を表示する（エラー対応３（ＩＤエラー３対応）の内容とエラー対応２（ＩＤエラー２対応）の内容とを合わせてものとなる（エラー対応３（ＩＤエラー３対応）＋エラー対応２（ＩＤエラー２対応））。
機能表示ユニット：エラー対応２（ＩＤエラー２対応）と同一。
サブ機能表示ユニット：エラー対応２（ＩＤエラー２対応）と同一。
遊技盤側可動体：エラー対応２（ＩＤエラー２対応）と同一。
遊技枠側可動体：エラー対応２（ＩＤエラー２対応）と同一。
【４１８１】
［エラー対応７］
音声：起動音楽の終了後に「遊技盤の未接続です」というアナウンス音を流し所定のエラー報知音を４回流す。このような音声態様を繰り返し流す。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：赤色に点滅する。
遊技盤の各種ＬＥＤ：赤色に点滅する。
演出表示装置：黒色の背景に「電源復旧中」、「しばらくお待ちください」という報知文字を表示し、「遊技盤のケーブルの未挿入を検知しました」、「電源を遮断してからケーブルを挿入してください」という報知文字を表示し、起動音楽が終了すると演出時の画像を表示する。
サブ演出表示装置：起動音楽の開始と同時に所定の背景画像に「遊技盤の未接続」という報知文字を表示する。
機能表示ユニット：所定のＬＥＤが点灯する。
サブ機能表示ユニット：消灯する（全消灯）。
遊技盤側可動体：原位置復帰などの動作なし（未動作）。
遊技枠側可動体：原位置復帰などの動作なし（未動作）。
【４１８２】
［エラー対応８］
音声：起動音楽の終了後に「演出操作ユニットの未接続です」というアナウンス音を流し所定のエラー報知音を４回流す。このような音声態様を繰り返し流す。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：赤色に点滅する。
遊技盤の各種ＬＥＤ：赤色に点滅する。
演出表示装置：黒色の背景に「電源復旧中」、「しばらくお待ちください」という報知文字を表示し、「演出操作ユニットのケーブルの未挿入を検知しました」、「電源を遮断してからケーブルを挿入してください」という報知文字を表示し、起動音楽が終了すると演出時の画像を表示する。
サブ演出表示装置：起動音楽の開始と同時に所定の背景画像に「演出操作ユニットの未接続」という報知文字を表示する。
機能表示ユニット：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
サブ機能表示ユニット：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
遊技盤側可動体：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
遊技枠側可動体：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
【４１８３】
［エラー対応９］
音声：起動音楽の終了後に「遊技盤の未接続です」という第１アナウンス音を流し所定のエラー報知音を４回流し、続いて「演出操作ユニットの未接続です」という第２アナウンス音を流し所定のエラー報知音を４回流す。このような音声態様を繰り返し流す（エラー対応７の内容とエラー対応８の内容とを合わせてものとなる（エラー対応７＋エラー対応８））。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：赤色に点滅する（エラー対応７やエラー対応８と同一（エラー対応７＋エラー対応８））。
遊技盤の各種ＬＥＤ：赤色に点滅する（エラー対応７やエラー対応８と同一（エラー対応７＋エラー対応８））。

演出表示装置：黒色の背景に「電源復旧中」、「しばらくお待ちください」という報知文字を表示し、「遊技盤のケーブルの未挿入を検知しました」、「演出操作ユニットのケーブルの未挿入を検知しました」、「電源を遮断してからケーブルを挿入してください」という報知文字を表示し、起動音楽が終了すると演出時の画像を表示する（エラー対応７の内容とエラー対応８の内容とを合わせてものとなる（エラー対応７＋エラー対応８））。

サブ演出表示装置：起動音楽の開始と同時に所定の背景画像に「遊技盤の未接続」、「演出操作ユニットの未接続」という報知文字を表示する（エラー対応７の内容とエラー対応８の内容とを合わせてものとなる（エラー対応７＋エラー対応８））。

機能表示ユニット：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。

サブ機能表示ユニット：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。

遊技盤側可動体：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。

遊技枠側可動体：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。

【４１８４】

［具体例１：電源投入後の演出の進行時または客待ち時における磁気検知（いわゆる、磁石ゴト）を伴わない場合］

次に、電源投入後の演出の進行時（例えば、各種入賞口へ遊技球が入球したことに基づいて演出が進行する場合など）または客待ち時（例えば、デモンストレーションが行われている場合や停止画像となっている場合など）における磁気検知（いわゆる、磁石ゴト）を伴わない場合における図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動としてエラー対応１～エラー対応９について、図３１１を参照して説明する。

【４１８５】

［エラー対応１（ＩＤエラー１対応）］

音声：「係員をお呼びください」というアナウンス音を流し所定のエラー報知音を７回流す。このような音声態様を繰り返し流す。

扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：消灯する（全消灯）。

遊技盤の各種ＬＥＤ：消灯する（全消灯）。

演出表示装置：演出時の画像（演出の進行に表示される画像など、以下、同じ。）または客待ち時の画像（デモンストレーションの進行に表示される画像など、以下、同じ。）に「しばらくお待ちください」という報知文字を表示する。

サブ演出表示装置：演出時の画像または客待ち時の画像に「遊技盤ＩＤエラー」という報知文字を表示する。

機能表示ユニット：所定のＬＥＤが点灯する。

サブ機能表示ユニット：消灯する（全消灯）。

遊技盤側可動体：原位置復帰などの動作なし（未動作）。なお、演出の進行のほかに、客待ち時におけるデモンストレーションの進行にあわせて動作している場合には、このエラー発生時点で停止してもよいし、原位置へ復帰してもよい。

遊技枠側可動体：原位置復帰などの動作なし（未動作）。なお、演出の進行のほかに、客待ち時におけるデモンストレーションの進行にあわせて動作している場合には、このエラー発生時点で停止してもよいし、原位置へ復帰してもよい。

【４１８６】

［エラー対応２（ＩＤエラー２対応）］

音声：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。

扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。

遊技盤の各種ＬＥＤ：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。

演出表示装置：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。

サブ演出表示装置：演出時の画像または客待ち時の画像に「演出操作ボタンＩＤエラー」という報知文字を表示する。

機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。

サブ機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。

遊技盤側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技枠側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
【４１８７】
［エラー対応３（ＩＤエラー３対応）］
音声：「係員をお呼びください」というアナウンス音を流し所定のエラー報知音を２回流す。このような音声態様を繰り返し流す。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技盤の各種ＬＥＤ：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
演出表示装置：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
サブ演出表示装置：演出時の画像または客待ち時の画像に、遊技盤（分割遊技盤）に備える主制御基板と、遊技盤（分割遊技盤）が装着される本体枠４に備える払出制御基板と、の組み合わせが不整合であるとして「主払ＩＤエラー」という報知文字を表示する。
機能表示ユニット：所定のＬＥＤが点灯する。
サブ機能表示ユニット：所定のＬＥＤが点灯する（客待ち時：消灯（全消灯））。
遊技盤側可動体：演出の進行のほかに、客待ち時におけるデモンストレーションの進行にあわせて動作したり、原位置復帰として動作したりする（動作）。
遊技枠側可動体：演出の進行のほかに、客待ち時におけるデモンストレーションの進行にあわせて動作したり、原位置復帰として動作したりする（動作）。
【４１８８】
［エラー対応４］
音声：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技盤の各種ＬＥＤ：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
演出表示装置：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
サブ演出表示装置：演出時の画像または客待ち時の画像に「遊技盤ＩＤエラー」及び「演出操作ボタンＩＤエラー」という報知文字を表示する（エラー対応１（ＩＤエラー１対応）の内容とエラー対応２（ＩＤエラー２対応）の内容とを合わせてものとなる（エラー対応１（ＩＤエラー１対応）＋エラー対応２（ＩＤエラー２対応））。
機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
サブ機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技盤側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技枠側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
【４１８９】
［エラー対応５］
音声：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
遊技盤の各種ＬＥＤ：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
演出表示装置：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
サブ演出表示装置：演出時の画像または客待ち時の画像に「主払ＩＤエラー」及び「遊技盤ＩＤエラー」という報知文字を表示する（エラー対応３（ＩＤエラー３対応）の内容とエラー対応１（ＩＤエラー１対応）の内容とを合わせてものとなる（エラー対応３（ＩＤエラー３対応）＋エラー対応１（ＩＤエラー１対応））。
機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
サブ機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技盤側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技枠側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
【４１９０】
［エラー対応６］
音声：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。

遊技盤の各種ＬＥＤ：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
演出表示装置：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
サブ演出表示装置：演出時の画像または客待ち時の画像に「主払ＩＤエラー」及び「演出操作ボタンＩＤエラー」という報知文字を表示する（エラー対応３（ＩＤエラー３対応）の内容とエラー対応２（ＩＤエラー２対応）の内容とを合わせてものとなる（エラー対応３（ＩＤエラー３対応）＋エラー対応２（ＩＤエラー２対応））。
機能表示ユニット：エラー対応２（ＩＤエラー２対応）と同一。
サブ機能表示ユニット：エラー対応２（ＩＤエラー２対応）と同一。
遊技盤側可動体：エラー対応２（ＩＤエラー２対応）と同一。
遊技枠側可動体：エラー対応２（ＩＤエラー２対応）と同一。

【４１９１】
［エラー対応７］
音声：「遊技盤の未接続です」というアナウンス音を流し所定のエラー報知音を４回流す。このような音声態様を繰り返し流す。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：赤色に点滅する。
遊技盤の各種ＬＥＤ：赤色に点滅する。
演出表示装置：演出時の画像または客待ち時の画像に「遊技盤のケーブルの未挿入を検知しました」、「電源を遮断してからケーブルを挿入してください」という報知文字を表示する。
サブ演出表示装置：演出時の画像または客待ち時の画像に「遊技盤の未接続」という報知文字を表示する。
機能表示ユニット：所定のＬＥＤが点灯する。
サブ機能表示ユニット：所定のＬＥＤが点灯する。
遊技盤側可動体：原位置復帰などの動作なし（未動作）。なお、演出の進行のほかに、客待ち時におけるデモンストレーションの進行にあわせて動作している場合には、このエラー発生時点で停止してもよいし、原位置へ復帰してもよい。
遊技枠側可動体：原位置復帰などの動作なし（未動作）。なお、演出の進行のほかに、客待ち時におけるデモンストレーションの進行にあわせて動作している場合には、このエラー発生時点で停止してもよいし、原位置へ復帰してもよい。

【４１９２】
［エラー対応８］
音声：「演出操作ユニットの未接続です」というアナウンス音を流し所定のエラー報知音を４回流す。このような音声態様を繰り返し流す。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：赤色に点滅する。
遊技盤の各種ＬＥＤ：赤色に点滅する。
演出表示装置：演出時の画像または客待ち時の画像に「演出操作ユニットのケーブルの未挿入を検知しました」、「電源を遮断してからケーブルを挿入してください」という報知文字を表示する。
サブ演出表示装置：演出時の画像または客待ち時の画像に「演出操作ユニットの未接続」という報知文字を表示する。
機能表示ユニット：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
サブ機能表示ユニット：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
遊技盤側可動体：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
遊技枠側可動体：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。

【４１９３】
［エラー対応９］
音声：「遊技盤の未接続です」という第１アナウンス音を流し所定のエラー報知音を４回流し、続いて「演出操作ユニットの未接続です」という第２アナウンス音を流し所定のエラー報知音を４回流す。このような音声態様を繰り返し流す（エラー対応７の内容とエラー対応８の内容とを合わせてものとなる（エラー対応７＋エラー対応８））。

扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：（エラー対応７やエラー対応８と同一（エラー対応７＋エラー対応８））。
遊技盤の各種ＬＥＤ：（エラー対応７やエラー対応８と同一（エラー対応７＋エラー対応８））。
演出表示装置：演出時の画像または客待ち時の画像に「遊技盤のケーブルの未挿入を検知しました」、「演出操作ユニットのケーブルの未挿入を検知しました」、「電源を遮断してからケーブルを挿入してください」という報知文字を表示する（エラー対応７の内容とエラー対応８の内容とを合わせてものとなる（エラー対応７＋エラー対応８））。
サブ演出表示装置：演出時の画像または客待ち時の画像に「遊技盤の未接続」、「演出操作ユニットの未接続」という報知文字を表示する（エラー対応７の内容とエラー対応８の内容とを合わせてものとなる（エラー対応７＋エラー対応８））。
機能表示ユニット：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
サブ機能表示ユニット：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
遊技盤側可動体：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
遊技枠側可動体：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
【４１９４】
［具体例１：電源投入後における演出の進行時または客待ち時における磁気検知（磁石ゴト）を伴う場合］
【４１９５】
次に、電源投入後における演出の進行時（例えば、各種入賞口へ遊技球が入球したことに基づいて演出が進行する場合など）または客待ち時（例えば、デモンストレーションが行われている場合や停止画像となっている場合など）における磁気検知（磁石ゴト）を伴う場合における図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動としてエラー対応１～エラー対応９について、図３１２を参照して説明する。なお、磁気検知（磁石ゴトの行為）がなくなると、図３１１に示した電源投入後における演出の進行時（例えば、各種入賞口へ遊技球が入球したことに基づいて演出が進行する場合など）または客待ち時（例えば、デモンストレーションが行われている場合や停止画像となっている場合など）における磁気検知（磁石ゴト）を伴わない場合におけるエラー中のパチンコ機の挙動（エラー対応１～エラー対応９）となる。
【４１９６】
［エラー対応１（ＩＤエラー１対応）］
音声：「係員をお呼びください」というアナウンス音を流し所定のエラー報知音を３回流す。このような音声態様を繰り返し流す。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：消灯する（全消灯）。
遊技盤の各種ＬＥＤ：消灯する（全消灯）。
演出表示装置：演出時の画像（演出の進行に表示される画像など、以下、同じ。）または客待ち時の画像（デモンストレーションの進行に表示される画像など、以下、同じ。）を表示する。
サブ演出表示装置：演出時の画像または客待ち時の画像に「磁石検知」、「遊技盤ＩＤエラー」という報知文字を表示する。
機能表示ユニット：所定のＬＥＤが点灯する。
サブ機能表示ユニット：消灯する（全消灯）。
遊技盤側可動体：原位置復帰などの動作なし（未動作）。なお、演出の進行のほかに、客待ち時におけるデモンストレーションの進行にあわせて動作している場合には、このエラー発生時点で停止してもよいし、原位置へ復帰してもよい。
遊技枠側可動体：原位置復帰などの動作なし（未動作）。なお、演出の進行のほかに、客待ち時におけるデモンストレーションの進行にあわせて動作している場合には、このエラー発生時点で停止してもよいし、原位置へ復帰してもよい。
【４１９７】
［エラー対応２（ＩＤエラー２対応）］

音声：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技盤の各種ＬＥＤ：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
演出表示装置：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
サブ演出表示装置：演出時の画像または客待ち時の画像に「磁石検知」、「演出操作ボタンＩＤエラー」という報知文字を表示する。
機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
サブ機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技盤側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技枠側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。

【４１９８】
［エラー対応３（ＩＤエラー３対応）］
音声：「係員をお呼びください」というアナウンス音を流し所定のエラー報知音を２回流す。このような音声態様を繰り返し流す。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技盤の各種ＬＥＤ：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
演出表示装置：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
サブ演出表示装置：演出時の画像または客待ち時の画像に、遊技盤（分割遊技盤）に備える主制御基板と、遊技盤（分割遊技盤）が装着される本体枠４に備える払出制御基板と、の組み合わせが不整合であるとして「主払ＩＤエラー」、さらに「磁石検知」という報知文字を表示する。
機能表示ユニット：所定のＬＥＤが点灯する。
サブ機能表示ユニット：所定のＬＥＤが点灯する（客待ち時：消灯（全消灯））。
遊技盤側可動体：演出の進行のほかに、客待ち時におけるデモンストレーションの進行にあわせて動作したり、原位置復帰として動作したりする（動作）。
遊技枠側可動体：演出の進行のほかに、客待ち時におけるデモンストレーションの進行にあわせて動作したり、原位置復帰として動作したりする（動作）。

【４１９９】
［エラー対応４］
音声：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技盤の各種ＬＥＤ：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
演出表示装置：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
サブ演出表示装置：演出時の画像または客待ち時の画像に「磁石検知」、「遊技盤ＩＤエラー」、「演出操作ボタンＩＤエラー」という報知文字を表示する（エラー対応１（ＩＤエラー１対応）の内容とエラー対応２（ＩＤエラー２対応）の内容とを合わせてものとなる（エラー対応１（ＩＤエラー１対応）＋エラー対応２（ＩＤエラー２対応））。
機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
サブ機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技盤側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技枠側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。

【４２００】
［エラー対応５］
音声：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
遊技盤の各種ＬＥＤ：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
演出表示装置：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
サブ演出表示装置：演出時の画像または客待ち時の画像に「主払ＩＤエラー」、「遊技盤ＩＤエラー」及び「磁石検知」という報知文字を表示する（エラー対応３（ＩＤエラー３対応）の内容とエラー対応１（ＩＤエラー１対応）の内容とを合わせてものとなる（エ

ラー対応３（ＩＤエラー３対応）＋エラー対応１（ＩＤエラー１対応））。
機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
サブ機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技盤側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技枠側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
【４２０１】
［エラー対応６］
音声：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
遊技盤の各種ＬＥＤ：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
演出表示装置：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
サブ演出表示装置：演出時の画像または客待ち時の画像に「主払ＩＤエラー」、「演出操作ボタンＩＤエラー」及び「磁石検知」という報知文字を表示する（エラー対応３（ＩＤエラー３対応）の内容とエラー対応２（ＩＤエラー２対応）の内容とを合わせてものとなる（エラー対応３（ＩＤエラー３対応）＋エラー対応２（ＩＤエラー２対応））。
機能表示ユニット：エラー対応２（ＩＤエラー２対応）と同一。
サブ機能表示ユニット：エラー対応２（ＩＤエラー２対応）と同一。
遊技盤側可動体：エラー対応２（ＩＤエラー２対応）と同一。
遊技枠側可動体：エラー対応２（ＩＤエラー２対応）と同一。
【４２０２】
［エラー対応７］
音声：「遊技盤の未接続です」というアナウンス音を流し所定のエラー報知音を４回流す。このような音声態様を繰り返し流す。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：赤色に点滅する。
遊技盤の各種ＬＥＤ：赤色に点滅する。
演出表示装置：演出時の画像または客待ち時の画像に「遊技盤のケーブルの未挿入を検知しました」、「電源を遮断してからケーブルを挿入してください」という報知文字を表示する。
サブ演出表示装置：演出時の画像または客待ち時の画像に「磁石検知」、「遊技盤の未接続」という報知文字を表示する。
機能表示ユニット：所定のＬＥＤが点灯する。
サブ機能表示ユニット：所定のＬＥＤが点灯する。
遊技盤側可動体：原位置復帰などの動作なし（未動作）。なお、演出の進行のほかに、客待ち時におけるデモンストレーションの進行にあわせて動作している場合には、このエラー発生時点で停止してもよいし、原位置へ復帰してもよい。
遊技枠側可動体：原位置復帰などの動作なし（未動作）。なお、演出の進行のほかに、客待ち時におけるデモンストレーションの進行にあわせて動作している場合には、このエラー発生時点で停止してもよいし、原位置へ復帰してもよい。
【４２０３】
［エラー対応８］
音声：「演出操作ユニットの未接続です」というアナウンス音を流し所定のエラー報知音を４回流す。このような音声態様を繰り返し流す。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：赤色に点滅する。
遊技盤の各種ＬＥＤ：赤色に点滅する。
演出表示装置：演出時の画像または客待ち時の画像に「演出操作ユニットのケーブルの未挿入を検知しました」、「電源を遮断してからケーブルを挿入してください」という報知文字を表示する。
サブ演出表示装置：演出時の画像または客待ち時の画像に「磁石検知」、「演出操作ユニットの未接続」という報知文字を表示する。
機能表示ユニット：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。

サブ機能表示ユニット：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
遊技盤側可動体：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
遊技枠側可動体：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
【４２０４】
［エラー対応９］
音声：「遊技盤の未接続です」というアナウンス音を流し所定のエラー報知音を４回流し、続いて「演出操作ユニットの未接続です」というアナウンス音を流し所定のエラー報知音を４回流す。このような音声態様を繰り返し流す（エラー対応７の内容とエラー対応８の内容とを合わせてものとなる（エラー対応７＋エラー対応８））。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：（エラー対応７やエラー対応８と同一（エラー対応７＋エラー対応８））。
遊技盤の各種ＬＥＤ：（エラー対応７やエラー対応８と同一（エラー対応７＋エラー対応８））。
演出表示装置：演出時の画像または客待ち時の画像に「遊技盤のケーブルの未挿入を検知しました」、「演出操作ユニットのケーブルの未挿入を検知しました」、「電源を遮断してからケーブルを挿入してください」という報知文字を表示する（エラー対応７の内容とエラー対応８の内容とを合わせてものとなる（エラー対応７＋エラー対応８））。
サブ演出表示装置：演出時の画像または客待ち時の画像に「磁石検知」、「遊技盤の未接続」、「演出操作ユニットの未接続」という報知文字を表示する（エラー対応７の内容とエラー対応８の内容とを合わせてものとなる（エラー対応７＋エラー対応８））。
機能表示ユニット：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
サブ機能表示ユニット：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
遊技盤側可動体：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
遊技枠側可動体：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
【４２０５】
［具体例２：電源投入時］
次に、電源投入時における図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動としてエラー対応１～エラー対応９について、図３１３を参照して説明する。
［エラー対応１（ＩＤエラー１対応）］
音声：電源投入時における起動音楽がなく消音状態とし、その後、所定のエラー報知音を１回流し、「遊技盤の接続エラーが発生しました。電源を切ってから遊技盤を確認してください」というアナウンス音を流す。このような音声態様を繰り返し流す。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：赤色に点滅する。
遊技盤の各種ＬＥＤ：消灯する（全消灯）。
演出表示装置：黒色の背景に「電源復旧中」を表示後に、「遊技盤エラー発生」、「エラー番号：」、「遊技盤の接続エラー」、「電源を切ってから遊技盤を確認してください」という報知文字を表示し、パチンコ機の遊技盤接続エラー部分を点灯させた画像を表示する。
サブ演出表示装置：黒色の背景を表示する。
機能表示ユニット：所定のＬＥＤが点灯する。
サブ機能表示ユニット：消灯する（全消灯）。
遊技盤側可動体：原位置復帰や演出の進行などの動作あり（動作）。
遊技枠側可動体：原位置復帰などの動作なし（未動作）。
【４２０６】
［エラー対応２（ＩＤエラー２対応）］
音声：電源投入時における起動音楽がなく消音状態とし、その後、所定のエラー報知音を１回流し、「演出操作ユニットの接続エラーが発生しました。電源を切ってから演出操作ユニットを確認してください」というアナウンス音を流す。このような音声態様を繰り返し流す。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：赤色に点滅する。

遊技盤の各種ＬＥＤ：消灯する（全消灯）。
演出表示装置：黒色の背景に「電源復旧中」を表示後に、「演出操作ユニットエラー発生」、「エラー番号：」、「演出操作ユニットの接続エラー」、「電源を切ってから演出操作ユニットを確認してください」という報知文字を表示し、パチンコ機の演出操作ユニット接続エラー部分を点灯させた画像を表示する。
サブ演出表示装置：起動音楽の開始と同時に所定の背景画像に「演出操作ボタンＩＤエラー」という報知文字を表示する。
機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
サブ機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技盤側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技枠側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。

【４２０７】

[エラー対応３（ＩＤエラー３対応）]

音声：電源投入時における起動音楽がなく消音状態とし、その後、所定のエラー報知音を１回流し、「係員をお呼びください」というアナウンス音を流す。このような音声態様を繰り返し流す。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：赤色に点滅する。
遊技盤の各種ＬＥＤ：消灯する（全消灯）。
演出表示装置：黒色の背景に「電源復旧中」を表示後に、遊技盤（分割遊技盤）に備える主制御基板と、遊技盤（分割遊技盤）が装着される本体枠４に備える払出制御基板と、の組み合わせが不整合であるとして「主払エラー発生」、「エラー番号：」、「主払の接続エラー」、「電源を切ってから主制御及び払出制御を確認してください」という報知文字を表示、遊技盤と枠との組み合わせ不可の画像を表示する。
サブ演出表示装置：黒色の背景を表示する。
機能表示ユニット：所定のＬＥＤが点灯する。
サブ機能表示ユニット：所定のＬＥＤが点灯する。
遊技盤側可動体：原位置復帰などの動作あり（動作）。
遊技枠側可動体：原位置復帰などの動作あり（動作）。

【４２０８】

[エラー対応４]

音声：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技盤の各種ＬＥＤ：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
演出表示装置：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
サブ演出表示装置：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
サブ機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技盤側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技枠側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。

【４２０９】

[エラー対応５]

音声：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
遊技盤の各種ＬＥＤ：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
演出表示装置：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
サブ演出表示装置：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
サブ機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技盤側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技枠側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。

【４２１０】
［エラー対応６］
音声：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
遊技盤の各種ＬＥＤ：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
演出表示装置：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
サブ演出表示装置：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
機能表示ユニット：エラー対応２（ＩＤエラー２対応）と同一。
サブ機能表示ユニット：エラー対応２（ＩＤエラー２対応）と同一。
遊技盤側可動体：エラー対応２（ＩＤエラー２対応）と同一。
遊技枠側可動体：エラー対応２（ＩＤエラー２対応）と同一。
【４２１１】
［エラー対応７］
音声：電源投入時における起動音楽がなく消音状態とし、その後、所定のエラー報知音を１回流し、「遊技盤が接続されていません」というアナウンス音を流す。このような音声態様を繰り返し流す。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：白色に点滅する。
遊技盤の各種ＬＥＤ：消灯する（全消灯）。
演出表示装置：黒色の背景に「電源復旧中」を表示後に演出時の画像（演出の進行に表示される画像など、以下、同じ。）に切り替えて表示し、「エラー番号：」、「遊技盤の未接続エラー」という報知文字を表示する。
サブ演出表示装置：演出時の画像を表示する。
機能表示ユニット：所定のＬＥＤが点灯する。
サブ機能表示ユニット：消灯する（全消灯）。
遊技盤側可動体：原位置復帰などの動作あり（動作）。
遊技枠側可動体：原位置復帰などの動作なし（未動作）。
【４２１２】
［エラー対応８］
音声：電源投入時における起動音楽がなく消音状態とし、その後、所定のエラー報知音を１回流し、「演出操作ユニットが接続されていません」というアナウンス音を流す。このような音声態様を繰り返し流す。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：白色に点滅する。
遊技盤の各種ＬＥＤ：消灯する（全消灯）。
演出表示装置：黒色の背景に「電源復旧中」を表示後に演出時の画像に切り替えて表示し、「エラー番号：」、「演出操作ユニットの未接続エラー」という報知文字を表示する。
サブ演出表示装置：演出時の画像を表示する。
機能表示ユニット：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
サブ機能表示ユニット：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
遊技盤側可動体：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
遊技枠側可動体：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
【４２１３】
［エラー対応９］
音声：電源投入時における起動音楽がなく消音状態とし、その後、所定のエラー報知音を１回流し、「遊技盤が接続されていません」というアナウンス音を流し、続いて所定のエラー報知音を１回流し、「演出操作ユニットが接続されていません」というアナウンス音を流す（エラー対応７の内容とエラー対応８の内容とを合わせてものとなる（エラー対応７＋エラー対応８））。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：白色に点滅する（エラー対応７やエラー対応８と同一（エラー対応７＋エラー対応８））。

遊技盤の各種ＬＥＤ：消灯する（全消灯）（エラー対応７やエラー対応８と同一（エラー対応７＋エラー対応８））。
演出表示装置：黒色の背景に「電源復旧中」を表示後に演出時の画像に切り替えて表示し、「エラー番号：」、「遊技盤の未接続エラー」という報知文字を表示し、「エラー番号：」、「演出操作ユニットの未接続エラー」という報知文字を表示する（エラー対応７の内容とエラー対応８の内容とを合わせてものとなる（エラー対応７＋エラー対応８））。
サブ演出表示装置：演出時の画像を表示する（エラー対応７の内容とエラー対応８の内容とを合わせてものとなる（エラー対応７＋エラー対応８））。
機能表示ユニット：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
サブ機能表示ユニット：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
遊技盤側可動体：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
遊技枠側可動体：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。

【４２１４】

なお、演出操作ユニット３００に自己を識別するためのＩＤが全く設けられず演出操作ユニット３００がどの仕様においても共通して使用することができるものである場合には、具体例２：電源投入時におけるエラー対応１～エラー対応６において、扉枠ユニットの各種ＬＥＤは、赤色に点滅しているため、演出操作ユニットにおける各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤも赤色に点滅するが、演出操作ユニットにおける各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの一部（各種装飾基板のうち一の装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、又は各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤのうち特定のＬＥＤ）のみ消灯（全消灯）するようにしてもよいし、演出操作ユニットにおける各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤすべて消灯（全消灯）するようにしてもよい。また、具体例２：電源投入時におけるエラー対応７～エラー対応９において、扉枠ユニットの各種ＬＥＤは、白色に点滅しているため、演出操作ユニットにおける各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤも白色に点滅するが、演出操作ユニットにおける各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの一部（各種装飾基板のうち一の装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、又は各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤのうち特定のＬＥＤ）のみ消灯（全消灯）するようにしてもよいし、演出操作ユニットにおける各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤすべて消灯（全消灯）するようにしてもよい。つまり、演出操作ユニットにおける各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの一部（各種装飾基板のうち一の装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、又は各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤのうち特定のＬＥＤ）のみが消灯（全消灯）する場合には、演出操作ユニットにおける各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの一部（各種装飾基板のうち一の装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、又は各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤのうち特定のＬＥＤ）を除く他の各種ＬＥＤに対して消灯（全消灯）という制限がかからない。

【４２１５】

［具体例２：電源投入後の演出の進行時または客待ち時における磁気検知（いわゆる、磁石ゴト）を伴わない場合］

次に、電源投入後の演出の進行時（例えば、各種入賞口へ遊技球が入球したことに基づいて演出が進行する場合など）または客待ち時（例えば、デモンストレーションが行われている場合や停止画像となっている場合など）における磁気検知（いわゆる、磁石ゴト）を伴わない場合における図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動としてエラー対応１～エラー対応９について、図３１４を参照して説明する。

【４２１６】

［エラー対応１（ＩＤエラー１対応）］

音声：所定のエラー報知音を１回流し、「遊技盤の接続エラーが発生しました。電源を切ってから遊技盤を確認してください」というアナウンス音を流す。このような音声態様を繰り返し流す。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：赤色に点滅する。
遊技盤の各種ＬＥＤ：消灯する（全消灯）。

演出表示装置：黒色の背景に「遊技盤エラー発生」、「エラー番号：」、「遊技盤の接続エラー」、「電源を切ってから遊技盤を確認してください」という報知文字を表示し、パチンコ機の遊技盤接続エラー部分を点灯させた画像を表示する。
サブ演出表示装置：黒色の背景を表示する。
機能表示ユニット：所定のＬＥＤが点灯する。
サブ機能表示ユニット：所定のＬＥＤが点灯する（客待ち時：消灯（全消灯））。
遊技盤側可動体：演出の進行のほかに、客待ち時におけるデモンストレーションの進行にあわせて動作したり、原位置復帰として動作したりする（動作）。
遊技枠側可動体：原位置復帰などの動作なし（未動作）。なお、演出の進行のほかに、客待ち時におけるデモンストレーションの進行にあわせて動作している場合には、このエラー発生時点で停止してもよいし、原位置へ復帰してもよい。

【４２１７】

[エラー対応２（ＩＤエラー２対応）]
音声：所定のエラー報知音を１回流し、「演出操作ユニットの接続エラーが発生しました。電源を切ってから演出操作ユニットを確認してください」というアナウンス音を流す。このような音声態様を繰り返し流す。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：赤色に点滅する。
遊技盤の各種ＬＥＤ：消灯する（全消灯）。
演出表示装置：黒色の背景に「演出操作ユニットエラー発生」、「エラー番号：」、「演出操作ユニットの接続エラー」、「電源を切ってから演出操作ユニットを確認してください」という報知文字を表示し、パチンコ機の演出操作ユニット接続エラー部分を点灯させた画像を表示する。
サブ演出表示装置：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
サブ機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技盤側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技枠側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。

【４２１８】

[エラー対応３（ＩＤエラー３対応）]
音声：所定のエラー報知音を１回流し、「係員をお呼びください」というアナウンス音を流す。このような音声態様を繰り返し流す。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：赤色に点滅する。
遊技盤の各種ＬＥＤ：消灯する（全消灯）。
演出表示装置：黒色の背景に、遊技盤（分割遊技盤）に備える主制御基板と、遊技盤（分割遊技盤）が装着される本体枠４に備える払出制御基板と、の組み合わせが不整合であるとして「主払エラー発生」、「エラー番号：」、「主払の接続エラー」、「電源を切ってから主制御及び払出制御を確認してください」という報知文字を表示、遊技盤と枠との組み合わせ不可の画像を表示する。
サブ演出表示装置：黒色の背景を表示する。
機能表示ユニット：所定のＬＥＤが点灯する。
サブ機能表示ユニット：所定のＬＥＤが点灯する（客待ち時：消灯（全消灯））。
遊技盤側可動体：演出の進行のほかに、客待ち時におけるデモンストレーションの進行にあわせて動作したり、原位置復帰として動作したりする（動作）。
遊技枠側可動体：演出の進行のほかに、客待ち時におけるデモンストレーションの進行にあわせて動作したり、原位置復帰として動作したりする（動作）。

【４２１９】

[エラー対応４]
音声：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技盤の各種ＬＥＤ：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。

演出表示装置：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
サブ演出表示装置：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
サブ機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技盤側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技枠側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
【４２２０】
［エラー対応５］
音声：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
遊技盤の各種ＬＥＤ：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
演出表示装置：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
サブ演出表示装置：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
サブ機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技盤側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技枠側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
【４２２１】
［エラー対応６］
音声：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
遊技盤の各種ＬＥＤ：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
演出表示装置：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
サブ演出表示装置：エラー対応２（ＩＤエラー２対応）と同一。
機能表示ユニット：エラー対応２（ＩＤエラー２対応）と同一。
サブ機能表示ユニット：エラー対応２（ＩＤエラー２対応）と同一。
遊技盤側可動体：エラー対応２（ＩＤエラー２対応）と同一。
遊技枠側可動体：エラー対応２（ＩＤエラー２対応）と同一。
【４２２２】
［エラー対応７］
音声：演出音を流すとともに、所定のエラー報知音を１回流し、「遊技盤が接続されていません」というアナウンス音を流す。演出音とともに、このような音声態様を繰り返し流す。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：白色に点滅する。
遊技盤の各種ＬＥＤ：消灯する（全消灯）。
演出表示装置：演出時の画像（演出の進行に表示される画像など、以下、同じ。）または客待ち時の画像（デモンストレーションの進行に表示される画像など、以下、同じ。）を表示する。
サブ演出表示装置：演出時の画像または客待ち時の画像を表示する。
機能表示ユニット：所定のＬＥＤが点灯する。
サブ機能表示ユニット：所定のＬＥＤが点灯する（客待ち時：消灯（全消灯））。
遊技盤側可動体：演出の進行のほかに、客待ち時におけるデモンストレーションの進行にあわせて動作したり、原位置復帰として動作したりする（動作）。
遊技枠側可動体：演出の進行のほかに、客待ち時におけるデモンストレーションの進行にあわせて動作したり、原位置復帰として動作したりする（動作）。
【４２２３】
［エラー対応８］
音声：演出音を流すとともに、所定のエラー報知音を１回流し、「演出操作ユニットが接続されていません」というアナウンス音を流す。演出音とともに、このような音声態様を繰り返し流す。

扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：白色に点滅する。
遊技盤の各種ＬＥＤ：消灯する（全消灯）。
演出表示装置：演出時の画像または客待ち時の画像を表示する。
サブ演出表示装置：演出時の画像または客待ち時の画像を表示する。
機能表示ユニット：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
サブ機能表示ユニット：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
遊技盤側可動体：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
遊技枠側可動体：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
【４２２４】
［エラー対応９］
音声：演出音を流すとともに、所定のエラー報知音を１回流し、「遊技盤が接続されていません」というアナウンス音を流し、続いて所定のエラー報知音を１回流し、「演出操作ユニットが接続されていません」というアナウンス音を流す。演出音とともに、このような音声態様を繰り返し流す（エラー対応７の内容とエラー対応８の内容とを合わせてものとなる（エラー対応７＋エラー対応８））。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：（エラー対応７やエラー対応８と同一（エラー対応７＋エラー対応８））。
遊技盤の各種ＬＥＤ：（エラー対応７やエラー対応８と同一（エラー対応７＋エラー対応８））。
演出表示装置：（エラー対応７やエラー対応８と同一（エラー対応７＋エラー対応８））。
サブ演出表示装置：（エラー対応７やエラー対応８と同一（エラー対応７＋エラー対応８））。
機能表示ユニット：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
サブ機能表示ユニット：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
遊技盤側可動体：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
遊技枠側可動体：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
【４２２５】
なお、演出操作ユニット３００に自己を識別するためのＩＤが全く設けられず演出操作ユニット３００がどの仕様においても共通して使用することができるものである場合には、具体例２：電源投入後（磁石ゴト）を伴わない場合におけるエラー対応１～エラー対応６において、扉枠ユニットの各種ＬＥＤは、赤色に点滅しているため、演出操作ユニットにおける各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤも赤色に点滅するが、演出操作ユニットにおける各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの一部（各種装飾基板のうち一の装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、又は各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤのうち特定のＬＥＤ）のみ消灯（全消灯）するようにしてもよいし、演出操作ユニットにおける各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤすべて消灯（全消灯）するようにしてもよい。また、具体例２：電源投入後（磁石ゴト）を伴わない場合におけるエラー対応７～エラー対応９において、扉枠ユニットの各種ＬＥＤは、白色に点滅しているため、演出操作ユニットにおける各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤも白色に点滅するが、演出操作ユニットにおける各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの一部（各種装飾基板のうち一の装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、又は各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤのうち特定のＬＥＤ）のみ消灯（全消灯）するようにしてもよいし、演出操作ユニットにおける各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤすべて消灯（全消灯）するようにしてもよい。つまり、演出操作ユニットにおける各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの一部（各種装飾基板のうち一の装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、又は各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤのうち特定のＬＥＤ）のみが消灯（全消灯）する場合には、演出操作ユニットにおける各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの一部（各種装飾基板のうち一の装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、又は各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤのうち特定のＬＥＤ）を除く他の各種ＬＥＤに対して消灯（全消灯）という制限がかからない。

【４２２６】
［具体例２：電源投入後における演出の進行時または客待ち時における磁気検知（磁石ゴト）を伴う場合］
【４２２７】
次に、電源投入後における演出の進行時（例えば、各種入賞口へ遊技球が入球したことに基づいて演出が進行する場合など）または客待ち時（例えば、デモンストレーションが行われている場合や停止画像となっている場合など）における磁気検知（磁石ゴト）を伴う場合における図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動としてエラー対応１～エラー対応９について、図３１５を参照して説明する。なお、磁気検知（磁石ゴトの行為）がなくなると、図３１４に示した電源投入後における演出の進行時（例えば、各種入賞口へ遊技球が入球したことに基づいて演出が進行する場合など）または客待ち時（例えば、デモンストレーションが行われている場合や停止画像となっている場合など）における磁気検知（磁石ゴト）を伴わない場合におけるエラー中のパチンコ機の挙動（エラー対応１～エラー対応９）となる。
【４２２８】
［エラー対応１（ＩＤエラー１対応）］
音声：所定のエラー報知音を１回流し、「遊技盤の接続エラーが発生しました。電源を切ってから遊技盤を確認してください」というアナウンス音を流す。このような音声態様を繰り返し流す。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：赤色に点滅する。
遊技盤の各種ＬＥＤ：消灯する（全消灯）。
演出表示装置：黒色の背景に「遊技盤エラー発生」、「エラー番号：」、「遊技盤の接続エラー」、「電源を切ってから遊技盤を確認してください」という報知文字を表示し、パチンコ機の遊技盤接続エラー部分を点灯させた画像を表示する。
サブ演出表示装置：黒色の背景を表示する。
機能表示ユニット：所定のＬＥＤが点灯する。
サブ機能表示ユニット：所定のＬＥＤが点灯する（客待ち時：消灯（全消灯））。
遊技盤側可動体：演出の進行のほかに、客待ち時におけるデモンストレーションの進行にあわせて動作したり、原位置復帰として動作したりする（動作）。
遊技枠側可動体：原位置復帰などの動作なし（未動作）。なお、演出の進行のほかに、客待ち時におけるデモンストレーションの進行にあわせて動作している場合には、このエラー発生時点で停止してもよいし、原位置へ復帰してもよい。
【４２２９】
［エラー対応２（ＩＤエラー２対応）］
音声：所定のエラー報知音を１回流し、「演出操作ユニットの接続エラーが発生しました。電源を切ってから演出操作ユニットを確認してください」というアナウンス音を流す。このような音声態様を繰り返し流す。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：赤色に点滅する。
遊技盤の各種ＬＥＤ：消灯する（全消灯）。
演出表示装置：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
サブ演出表示装置：黒色の背景に「演出操作ユニットエラー発生」、「エラー番号：」、「演出操作ユニットの接続エラー」、「電源を切ってから演出操作ユニットを確認してください」という報知文字を表示し、パチンコ機の演出操作ユニット接続エラー部分を点灯させた画像を表示する。
機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
サブ機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技盤側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技枠側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
【４２３０】
［エラー対応３（ＩＤエラー３対応）］

音声：所定のエラー報知音を１回流し、「係員をお呼びください」というアナウンス音を流す。このような音声態様を繰り返し流す。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：赤色に点滅する。
遊技盤の各種ＬＥＤ：消灯する（全消灯）。
演出表示装置：黒色の背景に、遊技盤（分割遊技盤）に備える主制御基板と、遊技盤（分割遊技盤）が装着される本体枠４に備える払出制御基板と、の組み合わせが不整合であるとして「主払エラー発生」、「エラー番号：」、「主払の接続エラー」、「電源を切ってから主制御及び払出制御を確認してください」という報知文字を表示、遊技盤と枠との組み合わせ不可の画像を表示する。
サブ演出表示装置：黒色の背景を表示する。
機能表示ユニット：所定のＬＥＤが点灯する。
サブ機能表示ユニット：所定のＬＥＤが点灯する（客待ち時：消灯（全消灯））。
遊技盤側可動体：演出の進行のほかに、客待ち時におけるデモンストレーションの進行にあわせて動作したり、原位置復帰として動作したりする（動作）。
遊技枠側可動体：演出の進行のほかに、客待ち時におけるデモンストレーションの進行にあわせて動作したり、原位置復帰として動作したりする（動作）。
【４２３１】
[エラー対応４]
音声：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技盤の各種ＬＥＤ：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
演出表示装置：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
サブ演出表示装置：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
サブ機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技盤側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技枠側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
【４２３２】
[エラー対応５]
音声：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
遊技盤の各種ＬＥＤ：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
演出表示装置：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
サブ演出表示装置：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
サブ機能表示ユニット：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技盤側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
遊技枠側可動体：エラー対応１（ＩＤエラー１対応）と同一。
【４２３３】
[エラー対応６]
音声：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
遊技盤の各種ＬＥＤ：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
演出表示装置：エラー対応３（ＩＤエラー３対応）と同一。
サブ演出表示装置：エラー対応２（ＩＤエラー２対応）と同一。
機能表示ユニット：エラー対応２（ＩＤエラー２対応）と同一。
サブ機能表示ユニット：エラー対応２（ＩＤエラー２対応）と同一。
遊技盤側可動体：エラー対応２（ＩＤエラー２対応）と同一。
遊技枠側可動体：エラー対応２（ＩＤエラー２対応）と同一。
【４２３４】

［エラー対応７］
音声：所定のエラー報知音を１回流し、「磁気センサーエラーです」というアナウンス音を流す。このような音声態様を繰り返し流す。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：赤色に点滅する。
遊技盤の各種ＬＥＤ：消灯する（全消灯）。
演出表示装置：演出時の画像（演出の進行に表示される画像など、以下、同じ。）または客待ち時の画像（デモンストレーションの進行に表示される画像など、以下、同じ。）を進行し、「エラー番号：」、「磁気センサーエラー」という報知文字を表示する。
サブ演出表示装置：演出時の画像または客待ち時の画像を表示する。
機能表示ユニット：所定のＬＥＤが点灯する。
サブ機能表示ユニット：所定のＬＥＤが点灯する（客待ち時：消灯（全消灯））。
遊技盤側可動体：演出の進行のほかに、客待ち時におけるデモンストレーションの進行にあわせて動作したり、原位置復帰として動作したりする（動作）。
遊技枠側可動体：演出の進行のほかに、客待ち時におけるデモンストレーションの進行にあわせて動作したり、原位置復帰として動作したりする（動作）。
【４２３５】
［エラー対応８］
音声：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
遊技盤の各種ＬＥＤ：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
演出表示装置：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
サブ演出表示装置：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
機能表示ユニット：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
サブ機能表示ユニット：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
遊技盤側可動体：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
遊技枠側可動体：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
【４２３６】
［エラー対応９］
音声：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
扉枠ユニットの各種ＬＥＤ：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
遊技盤の各種ＬＥＤ：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
演出表示装置：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
サブ演出表示装置：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
機能表示ユニット：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
サブ機能表示ユニット：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
遊技盤側可動体：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
遊技枠側可動体：エラー対応７（ＩＤエラー７対応）と同一。
【４２３７】
なお、演出操作ユニット３００に自己を識別するためのＩＤが全く設けられず演出操作ユニット３００がどの仕様においても共通して使用することができるものである場合には、具体例２：電源投入後（磁石ゴト）を伴わない場合におけるエラー対応１～エラー対応９において、扉枠ユニットの各種ＬＥＤは、赤色に点滅しているため、演出操作ユニットにおける各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤも赤色に点滅するが、演出操作ユニットにおける各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの一部（各種装飾基板のうち一の装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、又は各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤのうち特定のＬＥＤ）のみ消灯（全消灯）するようにしてもよいし、演出操作ユニットにおける各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤすべて消灯（全消灯）するようにしてもよい。つまり、演出操作ユニットにおける各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの一部（各種装飾基板のうち一の装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、又は各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤのうち特定のＬＥＤ）のみが消灯（全消灯）する場合には、演出操作ユニットにおける各種装飾基板に

実装される各種ＬＥＤの一部（各種装飾基板のうち一の装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、又は各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤのうち特定のＬＥＤ）を除く他の各種ＬＥＤに対して消灯（全消灯）という制限がかからない。

【４２３８】

また、図３０８（ｃ）の状態８：未接続エラー１、状態９：未接続エラー２、及び状態１０：未接続エラー３とそれぞれ対応する図３１０～図３１５のエラー対応７、エラー対応８、及びエラー対応９において、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、他の例として、右側遊技盤５ＡＲと演出操作ユニット３００Ａ（３００Ｂ）とのうち、接続確認ができない対象に設けられる各種ＬＥＤを駆動する各種ＬＥＤドライバや各種電気的駆動源を駆動する各種電気的駆動源ドライバ（例えば、ソレノイド駆動回路やモータ駆動回路など。）に対して、毎回、無動作データ（各種ＬＥＤに対して消灯するデータ、電気的駆動源に対して停止するデータ）を送るようにしてもよいし、未接続エラーとなったときに１回だけ無動作データ（各種ＬＥＤに対して消灯するデータ、電気的駆動源に対して停止するデータ）を送るようにしてもよいし、送信データにリセットデータ（各種ＬＥＤドライバをリセットするデータ、各種電気的駆動源ドライバ（例えば、ソレノイド駆動回路やモータ駆動回路など。）をリセットするデータ）を含めて各種ＬＥＤドライバ、各種電気的駆動源ドライバをリセット状態にするようにしてもよい。

【４２３９】

［遊技盤と扉枠との組み合わせ］

扉枠３には、上述したように、扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等の扉枠ユニット（以下、「扉枠ユニット」と記載する場合がある。）が装着されるようになっている。扉枠ユニットは、統一されたコンセプトにより造形されている。遊技盤５と扉枠３との関係は、申請機関へ提出して許可を得たものである必要がある。ところが、遊技盤５を本体枠４に装着した際に、人為的なミスにより遊技盤５と扉枠３との関係（組み合わせ）が申請機関へ提出して許可を得たものと異なるものとなる場合があり、そもそも仕様内容を申請機関へ提出して許可を得たものと異なるパチンコ機が遊技ホールに設置されることとなり好ましくない。

【４２４０】

そこで、本実施形態では、扉枠ユニットに備える装飾基板のうちいずれか１つの装飾基板（以下、「枠側装飾基板」と記載する。）に自身を識別することができる自己識別符号（ＩＤ）を持たせ、遊技盤５と扉枠ユニットとの組み合わせの適合（整合）について判定して判定結果を出力することができるＩＤ比較回路を備えている。ここでは、ＩＤ比較回路について図３１６を参照して説明する。図３１６はＩＤ比較回路の一例を示す回路図である。なお、遊技盤５と扉枠ユニットとの組み合わせには適合（整合）／不適合（不整合）があるため、扉枠ユニットのうちの特定の扉枠ユニット（扉枠ユニットのうちの１つ又は複数）が遊技盤５の構成部材として取り扱われる場合がある。つまり、本体枠４に設けられる遊技盤側構成部としては、マイクロプロセッサが搭載される遊技盤５と、マイクロプロセッサが搭載されない扉枠ユニットのうちの特定の扉枠ユニット（扉枠ユニットのうちの１つ又は複数）と、から構成され、遊技盤５が本体枠４に装着されているとともに、扉枠ユニットのうちの特定の扉枠ユニット（扉枠ユニットのうちの１つ又は複数）が本体枠４に開閉可能に支持される扉枠３に装着されている。換言すると、外枠２と扉枠３と本体枠４とから構成される遊技枠側構成部は、マイクロプロセッサが搭載される遊技盤５と、マイクロプロセッサが搭載されない扉枠ユニットのうちの特定の扉枠ユニット（扉枠ユニットのうちの１つ又は複数）と、が設けられている。遊技盤５や扉枠ユニットのうちの特定の扉枠ユニット（扉枠ユニットのうちの１つ又は複数）には、各種ＬＥＤが設けられ、各種ＬＥＤドライバにより駆動されている。

【４２４１】

［遊技盤と扉枠との間に形成される各種ライン］

まず、遊技盤５と扉枠３との間に形成される各種ラインについて簡単に説明すると、図１３２等に示した遊技盤５の裏箱３０１０の下側中央部には、図示しないが、左右方向に

２つの下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷが実装される下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷが配置されている。２つの下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷは、凸タイプのものである。下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷは、各種中継基板を介して、又は直接に、周辺制御基板１５１０と電気的に接続されている。本体枠４の前面であって遊技盤５における裏箱３０１０に設けられる２つの下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷと対応する位置には、図示しない本体枠側中継基板に、図示しない２つの本体枠側ドロワコネクタが設けられている。２つの本体枠側ドロワコネクタは、凹タイプのものである。扉枠３に設けられる各種基板（皿ユニット２００、扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、扉枠トップユニット４５０に備える装飾基板や各種中継基板。各種中継基板には、皿ユニット２００の演出操作ユニット３００の各種センサからの検出信号を中継するものが含まれている。）は、本体枠側ドロワコネクタと電気的に接続されている。

【４２４２】

遊技盤５を本体枠４に装着すると、凸タイプである遊技盤５の下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷに実装される下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷが、凹タイプである本体枠４の図示しない本体枠側中継基板に実装される図示しない２つの本体枠側ドロワコネクタに案内されて嵌め合い、遊技盤５の下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷに実装される下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの各端子と、本体枠４の図示しない本体枠側中継基板に実装される図示しない２つの本体枠側ドロワコネクタの各端子と、が電気的に接続されるようになっている。

【４２４３】

遊技盤５を本体枠４に装着して遊技盤５の下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷに実装される下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの各端子と、本体枠４の図示しない本体枠側中継基板に実装される図示しない２つの本体枠側ドロワコネクタの各端子と、が電気的に接続されることにより、このドロワコネクタを介して、遊技盤５における裏箱３０１０の後方に配置される周辺制御基板１５１０と扉枠３に設けられる各種基板（皿ユニット２００、扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、扉枠トップユニット４５０に備える装飾基板や各種中継基板。各種中継基板には、皿ユニット２００の演出操作ユニット３００の各種センサからの検出信号や各種情報を伝送する制御信号を中継するものが含まれている。）との各種制御信号を伝える制御信号ラインが形成され、また、遊技盤５における裏箱３０１０の後方に配置される各種制御基板や他の各種基板のグランド（ＧＮＤ、回路グランド）と、本体枠４に設けられる電源基板６３０のグランド（ＧＮＤ、回路グランド）と、が電気的に接続されるグランド（ＧＮＤ）ラインが形成され、また、遊技盤５における裏箱３０１０の後方に配置される各種制御基板や他の各種基板に対して、本体枠４に設けられる電源基板６３０で作成される各種電源（＋５Ｖ、＋１２Ｖ、＋２４Ｖ等の直流電源）を供給する各種電源ラインが形成される。なお、扉枠３に設けられる各種基板（皿ユニット２００、扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、扉枠トップユニット４５０に備える装飾基板や各種中継基板。各種中継基板には、皿ユニット２００の演出操作ユニット３００の各種センサからの検出信号や各種情報を伝送する制御信号を中継するものが含まれている。）に対して、電気配線を介して、本体枠４に設けられる電源基板６３０で作成される各種電源（＋５Ｖ、＋１２Ｖ、＋２４Ｖ等の直流電源）を供給する各種電源ラインや電源基板６３０のグランド（ＧＮＤ、回路グランド）と電気的に接続するグランド（ＧＮＤ）ラインが形成されている。

【４２４４】

また、遊技盤５を本体枠４に装着して遊技盤５の下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷに実装される下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの各端子と、本体枠４の図示しない本体枠側中継基板に実装される図示しない２つの本体枠側ドロワコネクタの各端子と、が電気的に接続されることにより、このドロワコネクタを介して、遊技盤５における裏箱３０１０の後方に配置される主制御基板１３１０と本体枠４に設け

られる払出制御基板６３３との各種制御信号を伝送する制御信号ラインが形成される。
【４２４５】
なお、下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの絶縁性の外装部分、本体枠側ドロワコネクタの絶縁性の外装部分には、取付貫通穴がそれぞれ形成されている。下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷが実装される遊技盤５の下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷには、下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの絶縁性の取付貫通孔と対応する位置に貫通孔が設けられている。また、本体枠側ドロワコネクタが実装される図示しない本体枠側中継基板には、本体枠側ドロワコネクタの絶縁性の取付貫通孔と対応する位置に貫通孔が設けられている。
【４２４６】
［ＩＤ比較回路］
扉枠ユニットのうちの特定の扉枠ユニット（扉枠ユニットのうちの１つ又は複数）に備える装飾基板のうちいずれか１つの装飾基板として枠側装飾基板ＷＫＢに備えるＩＤ比較回路ＷＩＤＣは、図３１６に示すように、ＬＥＤドライバＷＩＤＣａ、８ビットデジタルコンパレータ回路ＷＩＤＣｂ（以下、「コンパレータ回路ＷＩＤＣｂ」と記載する。）を主として構成されている。
【４２４７】
ＬＥＤドライバＷＩＤＣａは、ＬＥＤ素子と電気的に接続される出力チャンネルが２４本あり、チャンネルごとに、定電流を流すことができるシンク（吸い込み）タイプの定電流駆動回路である。この出力電流は、ＬＥＤドライバＷＩＤＣａの外部に設けられる出力電流設定回路ＷＩＤＣｃにより最大電流が設定されるようになっている。ＬＥＤドライバＷＩＤＣａは、自身を識別することができる自己識別符号（ＩＤ）が付されるものであり、ＬＥＤドライバＷＩＤＣａの外部に設けられるアドレス設定回路ＷＩＤＣｄによりＩＤが設定値１～設定値６４までのいずれかの設定値が設定されるようになっている。
【４２４８】
出力電流設定回路ＷＩＤＣｃは、ＬＥＤドライバＷＩＤＣａの最大出力電流設定端子であるＲｘ１端子，Ｒｘ２端子，Ｒｘ３端子と電気的に接続され、それぞれに所定の抵抗を電気的に接続することにより、出力チャンネルの最大出力電流をそれぞれ設定することができるようになっている。つまり、本実施形態では、ハードウェアによる構成により最大出力電流を設定し、ソフトウェア（プログラム）により最大出力電流を変更することができないようになっている。
【４２４９】
アドレス設定回路ＷＩＤＣｄは、ＬＥＤドライバＷＩＤＣａのＩＤ設定端子であるＩＤ１端子，ＩＤ２端子，ＩＤ３端子と電気的に接続され、それぞれに印加される電圧により設定値１～設定値６４までのいずれかの設定値が設定される。つまり、本実施形態では、ハードウェアによる構成によりＬＥＤドライバＷＩＤＣａのＩＤを設定し、ソフトウェア（プログラム）によりＬＥＤドライバＷＩＤＣａのＩＤを変更することができないようになっている。
【４２５０】
なお、本実施形態では、ＬＥＤドライバＷＩＤＣａのＩＤとして設定値６４が設定されている。これは、ＬＥＤドライバは、扉枠ユニットのほかに、遊技盤５に備える各種装飾基板や各種基板にも実装され機種に応じてＬＥＤドライバの数が変更されるため、プログラムの開発において、ＩＤ比較回路ＷＩＤＣのＬＥＤドライバＷＩＤＣａと他のＬＥＤドライバとの混同を防止する必要がある。そこで、ＩＤ比較回路ＷＩＤＣが設けられる枠側装飾基板ＷＫＢに対しては、ＬＥＤドライバＷＩＤＣａのＩＤが設定値６４に常に固定されている。
【４２５１】
ＬＥＤドライバＷＩＤＣａのリセット端子であるＲＳＴ端子、グランド端子であるＧＮＤ端子は、枠側装飾基板ＷＫＢのグランド（ＧＮＤ、回路グランド）と電気的に接続され、電源端子であるＶｃｃ端子は＋５Ｖと電気的に接続されている。ＬＥＤドライバＷＩＤ

Ｃａの２４本の出力端子であるＯＵＴ０端子～ＯＵＴ２３端子のうち、８本の出力端子であるＯＵＴ０端子～ＯＵＴ７端子は、コンパレータ回路ＷＩＤＣｂに対して出力し、残り１６本の出力端子であるＯＵＴ８端子～ＯＵＴ２３端子は未接続またはＬＥＤ素子と電気的に接続されている。単色のＬＥＤであれば１つのＬＥＤ素子がパッケージされてカソード端子が１つの出力端子と電気的に接続され、フルカラーＬＥＤであれば３つのＬＥＤ素子（赤色のＬＥＤ素子、緑色のＬＥＤ素子、青色のＬＥＤ素子）がパッケージされてそれぞれのカソード端子と対応する３つの出力端子と電気的に接続されることとなる。ＬＥＤ素子のアノード端子には、＋１２Ｖが電気的に接続されている。なお、ＬＥＤ素子のカソード端子とＬＥＤドライバＷＩＤＣａの出力端子との間に抵抗を挿入して（つまり、ＬＥＤ素子のカソード端子と抵抗の一端とを電気的に接続し、この抵抗の他端とＬＥＤドライバＷＩＤＣａの出力端子とを電気的に接続して）ＬＥＤ素子の発熱を抑制するようにしてもよい。

【４２５２】

ＬＥＤドライバＷＩＤＣａのシリアルデータ入力端子であるＳＤＡ端子には、遊技盤５に備える周辺制御基板１５１０からのシリアルデータである発光情報信号が、遊技盤５を本体枠４に装着して遊技盤５の下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷに実装される下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの各端子と、本体枠４の図示しない本体枠側中継基板に実装される図示しない２つの本体枠側ドロワコネクタの各端子と、が電気的に接続されることにより、このドロワコネクタを介して、入力される。周辺制御基板１５１０と電気的に接続されるシリアル通信ラインは、複数ある。つまり周辺制御基板１５１０は、遊技盤５内への各種基板や扉ユニットに対して各種シリアルデータを送信又は受信するための複数のシリアル通信ラインと電気的に接続されている。

【４２５３】

ＬＥＤドライバＷＩＤＣａのクロック信号入力端子であるＳＣＬＫ端子には、遊技盤５に備える周辺制御基板１５１０からの発光情報信号を伝送するためのクロック信号である発光情報用クロック信号が、遊技盤５を本体枠４に装着して遊技盤５の下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷに実装される下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの各端子と、本体枠４の図示しない本体枠側中継基板に実装される図示しない２つの本体枠側ドロワコネクタの各端子と、が電気的に接続されることにより、このドロワコネクタを介して、入力される。

【４２５４】

ＬＥＤドライバＷＩＤＣａのＳＣＬＫ端子に入力される発光情報用クロック信号に基づいてＬＥＤドライバＷＩＤＣａのＳＤＡ端子に入力される発光情報信号は、発光情報信号がどのＬＥＤドライバに対するものであるのかを指示するＩＤコードと、ＬＥＤの発光態様を指示する発光データと、から構成されている。ＬＥＤドライバは、発光情報信号に含まれるＩＤコードがアドレス設定回路ＷＩＤＣｄにより設定されたＩＤと一致しているときには発光情報信号に含まれる発光データを取り込んで、この取り込んだ発光データに基づいて２４本の出力端子であるＯＵＴ０端子～ＯＵＴ２３端子と電気的に接続される各種ＬＥＤの発光態様を制御する一方、発光情報信号に含まれるＩＤコードがアドレス設定回路ＷＩＤＣｄにより設定されたＩＤと一致していないときには発光情報信号に含まれる発光データを取り込まず、破棄し、前回取り込んだ発光データに基づいて２４本の出力端子であるＯＵＴ０端子～ＯＵＴ２３端子と電気的に接続される各種ＬＥＤの発光態様を維持する制御を行う。

【４２５５】

ＬＥＤドライバＷＩＤＣａに対する発光情報信号は、上述したように、ＩＤコードと発光データとから構成されており、発光データには、枠側装飾基板ＷＫＢのＩＤが含まれて構成されている。つまり、発光データは、８本の出力端子であるＯＵＴ０端子～ＯＵＴ７端子から出力される信号によりコンパレータ回路ＷＩＤＣｂで比較される情報と、１６本の出力端子であるＯＵＴ８端子～ＯＵＴ２３端子から出力される情報と、から構成されている。

【４２５６】
ＬＥＤドライバＷＩＤＣａの８本の出力端子であるＯＵＴ０端子～ＯＵＴ７端子から出力される信号は、コンパレータ回路ＷＩＤＣｂの８本の入力端子であるＰ０端子～Ｐ７端子にそれぞれ入力される。コンパレータ回路ＷＩＤＣｂの８本の設定端子であるＱ０端子～Ｑ７端子は、コンパレータ回路ＷＩＤＣｂの８本の入力端子であるＰ０端子～Ｐ７端子と一対一に対応し参照される大元となるものである。
【４２５７】
本実施形態では、参照元となる８本の設定端子であるＱ０端子～Ｑ７端子として、Ｑ０端子を最上位ビット、Ｑ７端子を最下位ビットとする８ビット幅で表すと、１１１１００００Ｂ（英字「Ｂ」は２進数を表す。）となり、１６進数で表すと、Ｆ０Ｈ（英字「Ｈ」は１６進数を表す。）となる。
【４２５８】
コンパレータ回路ＷＩＤＣｂのイネーブル端子である反転Ｇ端子（図中、英字「Ｇ」の上に実線で表示。）、コンパレータ回路ＷＩＤＣｂのグランド端子であるＧＮＤ端子は、枠側装飾基板ＷＫＢのグランド（ＧＮＤ、回路グランド）と電気的に接続されている。コンパレータ回路ＷＩＤＣｂの電源端子であるＶｃｃ端子は、＋５Ｖと電気的に接続されている。
【４２５９】
コンパレータ回路ＷＩＤＣｂは、比較対象となる８本の入力端子であるＰ０端子～Ｐ７端子に入力されるそれぞれ信号の論理と、参照元となる８本の設定端子であるＱ０端子～Ｑ７端子に設定される論理と、が一致しているときには出力端子である反転Ｐ＝Ｑ端子（図中、英字記号「Ｐ＝Ｑ」の上に実線で表示。）からＩＤ有効信号の論理を有効論理（論理ＬＯＷ）に設定して出力する一方、比較対象となる８本の入力端子であるＰ０端子～Ｐ７端子に入力されるそれぞれ信号の論理と、参照元となる８本の設定端子であるＱ０端子～Ｑ７端子に設定される論理と、が一致していないときには出力端子である反転Ｐ＝Ｑ端子からＩＤ有効信号の論理を有効論理（論理ＬＯＷ）を反転した無効論理（論理ＨＩ）に設定して出力する。
【４２６０】
このように、ＩＤ有効信号の論理が有効論理に設定されている場合には、遊技盤５と扉枠ユニットのうちの特定の扉枠ユニット（扉枠ユニットのうちの１つ又は複数）との組み合わせが適合（整合）しているという判定結果を伝えることができる一方、ＩＤ有効信号の論理が無効論理に設定されている場合には、遊技盤５と扉枠ユニットのうちの特定の扉枠ユニット（扉枠ユニットのうちの１つ又は複数）との組み合わせが適合（整合）していないという判定結果を伝えることができる。
【４２６１】
コンパレータ回路ＷＩＤＣｂの反転Ｐ＝Ｑ端子から出力されるＩＤ有効信号は、枠側装飾基板ＷＫＢから電気配線（ハーネス）を介して扉枠３の皿ユニット２００に設けられる中継基板ＴＫＢへ伝送される。なお、枠側装飾基板ＷＫＢに入力された周辺制御基板１５１０からの発光情報信号及び発光情報用クロック信号は、電気配線（ハーネス）を介して、他の枠側装飾基板へ伝送される。
【４２６２】
［皿ユニットに設けられる中継基板］
次に、枠側装飾基板ＷＫＢにおけるコンパレータ回路ＷＩＤＣｂの反転Ｐ＝Ｑ端子から出力されるＩＤ有効信号が電気配線（ハーネス）を介して入力される扉枠３の皿ユニット２００に設けられる中継基板ＴＫＢについて図３１７を参照して説明する。図３１７は皿ユニットに設けられる中継基板の回路の一例を示す回路図である。
【４２６３】
扉枠３の皿ユニット２００に設けられる中継基板ＴＫＢは、扉枠３の皿ユニット２００に装着される演出操作ユニット３００に設けられる各種センサからの検出信号、扉枠３の他のユニットに設けられる各種センサからの検出信号（例えば、扉枠３に可動体を設ける

場合には、可動体の原位置や移動位置を検出するフォトセンサからの検出信号や扉枠３に遊技者の動作（手をかざす、手を振るなど）を検出する測距センサからの検出信号）が入力される扉枠側情報出力回路ＴＯＣを備えている。

【４２６４】

扉枠側情報出力回路ＴＯＣは、２つのパラレルシリアル変換回路ＴＯＣａ，ＴＯＣｂを主として構成されている。パラレルシリアル変換回路ＩＤＣａ，ＴＯＣｂは、主に複数のフリップフロップ回路（８個のフリップフロップ回路）から構成されチップ化された電子部品であり、図３０５等に示したＩＤ出力回路ＩＤＣのパラレルシリアル変換回路ＩＤＣａと同一の電子部品である。

【４２６５】

扉枠側情報出力回路ＴＯＣａ，ＴＯＣｂは、８本の入力端子であるＡ端子、Ｂ端子、Ｃ端子、Ｄ端子、Ｅ端子、Ｆ端子、Ｇ端子、及びＨ端子（つまり、８ビット幅のパラレル入力の端子が８本ある。）と、情報取得用クロック信号が入力されるＣＫ端子と、Ａ端子～Ｈ端子の８本の入力端子に入力される情報を取り込んで反転することなくシリアルデータとしてシリアル出力する非反転ＱＨ端子と、Ａ端子～Ｈ端子の８本の入力端子に設定される情報を取り込んで反転してシリアルデータとしてシリアル出力する反転ＱＨ端子（図中、英字「Ｑ」の上に実線で表示。）と、クロック信号の入力を禁止するＣＫ　ＩＮＨ端子と、ＣＫ端子に入力された情報取得用クロック信号に基づくシフト動作と各フリップフロップ回路がＡ端子～Ｈ端子の８本の入力端子に設定される情報を取り込むパラレル動作とを切り替えるＳ／反転Ｌ端子（図中、英字「Ｌ」の上に実線で表示。）と、シリアルデータが入力されるＳＩ端子と、制御電源が供給される電源端子Ｖｃｃと、グランド（ＧＮＤ、回路グランド）と電気的に接続されるＧＮＤ端子と、から主として構成されている。

【４２６６】

パラレルシリアル変換回路ＩＤＣａの８本の入力端子であるＡ端子～Ｈ端子、及びパラレルシリアル変換回路ＩＤＣｂの８本の入力端子のうち４本の入力端子であるＡ端子～Ｄ端子は、扉枠３の皿ユニット２００に装着される演出操作ユニット３００に設けられる各種センサからの検出信号、扉枠３の他のユニットに設けられる各種センサからの検出信号がそれぞれ入力され、パラレルシリアル変換回路ＩＤＣｂの８本の入力端子のうち３本のＥ端子～Ｇ端子は、あまりの端子となっており、グランド（ＧＮＤ、回路グランド）と電気的に接続されている（パラレルシリアル変換回路ＩＤＣｂの８本の入力端子のうち３本のＥ端子～Ｇ端子は、＋５Ｖと電気的に接続してもよい）。パラレルシリアル変換回路ＩＤＣｂの８本の入力端子のうち残りの入力端子であるＨ端子は、枠側装飾基板ＷＫＢからのＩＤ有効信号が入力されている。

【４２６７】

パラレルシリアル変換回路ＩＤＣａ，ＩＤＣｂは、電源端子Ｖｃｃが＋５Ｖと電気的に接続され、ＧＮＤ端子、及びＣＫ　ＩＮＴ端子がグランド（ＧＮＤ、回路グランド）と電気的に接続され、非反転ＱＨ端子が未接続された状態となっている。

【４２６８】

パラレルシリアル変換回路ＩＤＣａは、ＳＩ端子がグランド（ＧＮＤ、回路グランド）と電気的に接続され、８本の入力端子に入力されるパラレルデータからシリアル変換されたシリアルデータを反転ＱＨ端子から出力する。

【４２６９】

パラレルシリアル変換回路ＩＤＣｂは、ＳＩ端子がパラレルシリアル変換回路ＩＤＣａの反転ＱＨ端子と電気的に接続され、８本の入力端子に入力されるパラレルデータからシリアル変換されたシリアルデータを反転ＱＨ端子から出力する。

【４２７０】

Ｓ／反転Ｌ端子は、パラレルシリアル変換回路ＩＤＣａ，ＩＤＣｂの外部から情報取得用切替信号が入力されている。パラレルシリアル変換回路ＩＤＣａ，ＩＤＣｂの各フリップフロップ回路は、情報取得用切替信号の論理がパラレル動作論理（グランド（ＧＮＤ、回路グランド）と電気的に接続される論理：ＬＯＷ）であるときには、この時点における

Ａ端子～Ｈ端子の８本の入力端子に入力される情報を取り込んで蓄える（保持する）一方、情報取得用切替信号の論理がパラレル動作論理を反転させたシフト動作論理（＋５Ｖと電気的に接続される論理：ＨＩ）であり、かつ、ＣＫ　ＩＮＴ端子がグランド（ＧＮＤ、回路グランド）と電気的に接続されているときには、取り込んだ情報に対してＣＫ端子に入力された情報取得用クロック信号の立ち上がりで順次シフト動作を行う。

【４２７１】

２つのパラレルシリアル変換回路ＴＯＣａ，ＴＯＣｂは、パラレルシリアル変換回路ＴＯＣａの反転ＱＨ端子とパラレルシリアル変換回路ＴＯＣｂのＳＩ端子とが電気的に接続されていることにより、２つのパラレルシリアル変換回路ＩＤＣａ，ＩＤＣｂの各フリップフロップ回路がＣＫ端子に入力された情報取得用クロック信号の立ち上がりで順次シフト動作するため（つまり、Ａ端子に入力されている情報→Ｂ端子に入力されている情報→Ｃ端子に入力されている情報→Ｄ端子に入力されている情報→Ｅ端子に入力されている情報→Ｆ端子に入力されている情報→Ｇ端子に入力されている情報→Ｈ端子に入力されている情報→非反転ＱＨ端子及び反転ＱＨ端子から１ビットずつシフト動作してシリアルデータを出力するため）、パラレルシリアル変換回路ＴＯＣａによる８ビットのシフトレジスタと、パラレルシリアル変換回路ＴＯＣｂによる８ビットのシフトレジスタと、による１６ビットのシフトレジスタとして動作することとなり、パラレルシリアル変換回路ＴＯＣｂの反転ＱＨ端子からシリアルデータとして扉枠側情報信号が周辺制御基板１５１０へ出力される。

【４２７２】

遊技盤５に備える周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａからの情報取得用クロック信号及び情報取得用切替信号は、遊技盤５を本体枠４に装着して遊技盤５の下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷに実装される下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの各端子と、本体枠４の図示しない本体枠側中継基板に実装される図示しない２つの本体枠側ドロワコネクタの各端子と、が電気的に接続されることにより、このドロワコネクタを介して、扉枠３の皿ユニット２００に設けられる中継基板ＴＫＢへ伝送される。また、扉枠３の皿ユニット２００に設けられる中継基板ＴＫＢの扉枠側情報出力回路ＴＯＣからの扉枠側情報信号は、遊技盤５を本体枠４に装着して遊技盤５の下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷに実装される下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの各端子と、本体枠４の図示しない本体枠側中継基板に実装される図示しない２つの本体枠側ドロワコネクタの各端子と、が電気的に接続されることにより、このドロワコネクタを介して、遊技盤５に備える周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａへ伝送される。

【４２７３】

周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図２６７に示した周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理におけるステップＳ１１０８の演出操作ユニット情報取得処理において、Ｓ／反転Ｌ端子に入力される情報取得用切替信号の論理を設定して出力することでパラレル動作、そしてシリアル動作とした後に、情報取得用クロック信号を出力することにより、扉枠側情報信号を取得し、扉枠３の皿ユニット２００に装着される演出操作ユニット３００への遊技者の操作や可動体（演出体）の動作を把握したり、扉枠３の他のユニットに設けられる可動体（演出体）や遊技者の動作を把握したり、遊技盤５と扉枠ユニットのうちの特定の扉枠ユニット（扉枠ユニットのうちの１つ又は複数）との組み合わせの適合性（整合性）についての判定結果を得ることができる。

【４２７４】

遊技盤５と扉枠ユニットのうちの特定の扉枠ユニット（扉枠ユニットのうちの１つ又は複数）との組み合わせの適合性（整合性）についての判定結果を得るタイミングとしては、電源投入後の初回にのみ、上述した演出操作ユニット情報取得処理において行ってもよいし、電源投入後に上述した演出操作ユニット情報取得処理において常に又は間欠的に行ってもよい。遊技盤５と扉枠ユニットのうちの特定の扉枠ユニット（扉枠ユニットのうちの１つ又は複数）との組み合わせの適合性（整合性）についての判定結果を、電源投入後

に上述した演出操作ユニット情報取得処理において常に畑は間欠的に取得することにより、判定結果が異なることによって、周辺制御基板１５１０から枠側装飾基板ＷＫＢまでに亘る伝送経路においてノイズの影響を受けているか否かを確認することもできる。

【４２７５】

また、遊技盤５と扉枠ユニットのうちの特定の扉枠ユニット（扉枠ユニットのうちの１つ又は複数）との組み合わせの適合性（整合性）についての判定結果を得るタイミングとして、電源投入後の初回にのみ、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９に示した周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において行ってもよい。

【４２７６】

なお、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、遊技盤５と扉枠ユニットのうちの特定の扉枠ユニット（扉枠ユニットのうちの１つ又は複数）との組み合わせの適合性（整合性）についての判定結果から遊技盤５と扉枠ユニットのうちの特定の扉枠ユニット（扉枠ユニットのうちの１つ又は複数）との組み合わせが適合（整合）していない場合には、図３１０～図３１２、又は図３１３～図３１５に示したエラー対応１（ＩＤエラー１対応）を行うこととなる。

【４２７７】

このように、遊技盤５と扉枠ユニットのうちの特定の扉枠ユニット（扉枠ユニットのうちの１つ又は複数）との組み合わせの適合性（整合性）についてＬＥＤの発光態様を指示する発光データに枠側装飾基板ＷＫＢのＩＤを含ませて構成しているため、遊技盤５の下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷに実装される下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの各端子と、本体枠４の図示しない本体枠側中継基板に実装される図示しない２つの本体枠側ドロワコネクタの各端子と、に対して、枠側装飾基板ＷＫＢのＩＤを伝送する専用端子をわざわざ設ける必要がなくなる。

【４２７８】

また、遊技盤５の下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷに実装される下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの各端子と、本体枠４の図示しない本体枠側中継基板に実装される図示しない２つの本体枠側ドロワコネクタの各端子と、は、遊技盤５の仕様に対応することができるように、未使用の端子を余分に設けられている。ところが、遊技盤５の一の仕様では、未使用の端子であっても、遊技盤５の他の仕様ではすべての端子を使用する場合もある。このような場合には、遊技盤５の下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷに実装される下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの各端子を増加させると、これに伴い本体枠４の図示しない本体枠側中継基板に実装される図示しない２つの本体枠側ドロワコネクタの各端子も増加させる必要があり、これでは、本体枠４（実際には、外枠２、扉枠３、及び本体枠４の枠全体）も交換する必要となりコスト高となり、遊技盤５の仕様に依存されずに遊技盤５を本体枠４に装着することによって、遊技盤５の下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷに実装される下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの各端子と、本体枠４の図示しない本体枠側中継基板に実装される図示しない２つの本体枠側ドロワコネクタの各端子と、を電気的に接続するという利便性が失われることとなる。

【４２７９】

そこで、本実施形態では、遊技盤５と扉枠ユニットのうちの特定の扉枠ユニット（扉枠ユニットのうちの１つ又は複数）との組み合わせの適合性（整合性）についてＬＥＤの発光態様を指示する発光データに枠側装飾基板ＷＫＢのＩＤを含ませて構成しているため、遊技盤５の下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷに実装される下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの各端子と、本体枠４の図示しない本体枠側中継基板に実装される図示しない２つの本体枠側ドロワコネクタの各端子と、を増加させずに済む。

【４２８０】

なお、情報取得用クロック信号と発光情報用クロック信号とを、遊技盤５の下側遊技盤

用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷに実装される下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの各端子と、本体枠４の図示しない本体枠側中継基板に実装される図示しない２つの本体枠側ドロワコネクタの各端子と、が電気的に接続される各伝送ラインのうち、共通の伝送ライン（扉枠側クロック信号用伝送ライン）を利用して伝送するようにしてもよい。この場合、周辺制御ＩＣ１５１０ａは、下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷ側又は周辺制御基板１５１０においてハードウェアによるクロック信号切替回路に対して制御信号を出力して情報取得用クロック信号と発光情報用クロック信号とのうち、いずれかを共通の伝送ライン（扉枠側クロック信号用伝送ライン）に伝送する。これにより、遊技盤５の下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷに実装される下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの各端子と、本体枠４の図示しない本体枠側中継基板に実装される図示しない２つの本体枠側ドロワコネクタの各端子と、の端子数の増加を抑制することに寄与することができる。

【４２８１】

図３０８に示した、分割遊技盤の組み合わせの適合性（整合性）、及び分割遊技盤と演出操作ボタンとの組み合わせの適合性（整合性）については、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａに送られてくる８ビット幅を有するＩＤに基づいて周辺制御ＩＣ１５１０ａというマイクロプロセッサがそれぞれの適合性（整合性）について判定しているのに対して、図３１６に示した遊技盤５と扉枠ユニットのうちの特定の扉枠ユニット（扉枠ユニットのうちの１つ又は複数）との組み合わせの適合性（整合性）については、枠側装飾基板ＷＫＢにおけるＬＥＤドライバＷＩＤＣａとコンパレータ回路ＷＩＤＣｂとから構成されるＩＤ比較回路ＷＩＤＣというマイクロプロセッサが実装されない回路が適合性（整合性）について判定している。

【４２８２】

［遊技盤と扉枠ユニットとの組み合わせの適合性（整合性）を周辺制御基板へ伝えない構成］

遊技盤５と扉枠ユニットのうちの特定の扉枠ユニット（扉枠ユニットのうちの１つ又は複数）との組み合わせの適合性（整合性）については、上述したように、枠側装飾基板ＷＫＢにおけるＬＥＤドライバＷＩＤＣａとコンパレータ回路ＷＩＤＣｂとから構成されるＩＤ比較回路ＷＩＤＣというマイクロプロセッサが実装されない回路が適合性（整合性）について判定し、判定結果をＩＤ有効信号として、扉枠３の皿ユニット２００に設けられる中継基板ＴＫＢに出力し、この中継基板ＴＫＢにおいて他の情報とともに扉枠側情報信号としてシリアル化される。この扉枠側情報信号は、遊技盤５を本体枠４に装着して遊技盤５の下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷに実装される下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの各端子と、本体枠４の図示しない本体枠側中継基板に実装される図示しない２つの本体枠側ドロワコネクタの各端子と、が電気的に接続されることにより、このドロワコネクタを介して、遊技盤５に備える周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａへ伝送されるようになっていたが、これに代えて、ＩＤ有効信号を扉枠３の皿ユニット２００に設けられる中継基板ＴＫＢに出力せずに、他の枠側装飾基板へ出力するようにしてもよい。つまり、遊技盤５と扉枠ユニットのうちの特定の扉枠ユニット（扉枠ユニットのうちの１つ又は複数）との組み合わせの適合性（整合性）を周辺制御基板１５１０へ伝えないように構成しても良い。図３１８は図３１６の変形例の一例を示す回路である。図３１８は、基本的には図３１６の回路と同一であり、アドレス設定回路及び出力電流設定回路が外部に設けられるＬＥＤドライバが複数実装されている点と、ＩＤ有効信号の出力先が異なる点と、において相違している。ここでは、相違する点について説明する。なお、図３１８には、図３１６と同一部分については同一の符号を付した。

【４２８３】

枠側装飾基板ＷＫＢは、ＬＥＤドライバＷＩＤＣａの他に、ＬＥＤドライバＷＩＤＣａａ～ＬＥＤドライバＷＩＤＣａｎ（複数のＬＥＤドライバ）を有している。周辺制御基板１５１０からの発光情報信号、発光情報用クロック信号は、上述したように、遊技盤５を

本体枠４に装着して遊技盤５の下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷに実装される下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの各端子と、本体枠４の図示しない本体枠側中継基板に実装される図示しない２つの本体枠側ドロワコネクタの各端子と、が電気的に接続されることにより、このドロワコネクタを介して、枠側装飾基板ＷＫＢに入力されている。枠側装飾基板ＷＫＢに入力される周辺制御基板１５１０からの発光情報信号、発光情報用クロック信号は、ＬＥＤドライバＷＩＤＣａ、及びＬＥＤドライバＷＩＤＣａａ～ＬＥＤドライバＷＩＤＣａｎ（複数のＬＥＤドライバ）の各ＬＥＤドライバのＳＤＡ端子、ＳＣＬＫ端子に入力され、さらに、後続の他の枠側装飾基板へ伝送されている。ＬＥＤドライバＷＩＤＣａ、及びＬＥＤドライバＷＩＤＣａａ～ＬＥＤドライバＷＩＤＣａｎ（複数のＬＥＤドライバ）には、それぞれ固有の自己識別符号（ＩＤ）が重複されることなく設定されている。

【４２８４】

ＬＥＤドライバＷＩＤＣａのＲＳＴ端子は、上述したように、枠側装飾基板ＷＫＢのグランド（ＧＮＤ、回路グランド）と電気的に接続されている。これに対して、ＬＥＤドライバＷＩＤＣａａ～ＬＥＤドライバＷＩＤＣａｎ（複数のＬＥＤドライバ）のＲＳＴ端子は、コンパレータ回路ＷＩＤＣｂの反転Ｐ＝Ｑ端子からのＩＤ有効信号が入力され、さらに、後続の他の枠側装飾基板へ伝送されている。ＩＤ有効信号の論理が有効論理（論理ＬＯＷ）に設定されている場合には、上述したように、遊技盤５と扉枠ユニットのうちの特定の扉枠ユニット（扉枠ユニットのうちの１つ又は複数）との組み合わせが適合（整合）しているという判定結果を伝える一方、ＩＤ有効信号の論理が無効論理（論理ＨＩ）に設定されている場合には、上述したように、遊技盤５と扉枠ユニットのうちの特定の扉枠ユニット（扉枠ユニットのうちの１つ又は複数）との組み合わせが適合（整合）していないという判定結果を伝える。

【４２８５】

つまり、遊技盤５と扉枠ユニットのうちの特定の扉枠ユニット（扉枠ユニットのうちの１つ又は複数）との組み合わせが適合（整合）せずＩＤ有効信号の論理が無効論理（論理ＨＩ）に設定されている場合には、ＬＥＤドライバＷＩＤＣａａ～ＬＥＤドライバＷＩＤＣａｎ（複数のＬＥＤドライバ）のＲＳＴ端子に印加される電圧が論理ＨＩ側へ引き上げられてＬＥＤドライバＷＩＤＣａａ～ＬＥＤドライバＷＩＤＣａｎ（複数のＬＥＤドライバ）がリセットされた状態となるとともに後続の枠側装飾基板に設けられるＬＥＤドライバもリセットされた状態となる。これに対して、遊技盤５と扉枠ユニットのうちの特定の扉枠ユニット（扉枠ユニットのうちの１つ又は複数）との組み合わせが適合（整合）しＩＤ有効信号の論理が有効論理（論理ＬＯＷ）に設定されている場合には、ＬＥＤドライバＷＩＤＣａａ～ＬＥＤドライバＷＩＤＣａｎ（複数のＬＥＤドライバ）のＲＳＴ端子に印加される電圧が論理ＬＯＷ側へ引き下げられてＬＥＤドライバＷＩＤＣａａ～ＬＥＤドライバＷＩＤＣａｎ（複数のＬＥＤドライバ）がリセットされた状態が解除される状態となるとともに後続の枠側装飾基板に設けられるＬＥＤドライバもリセットされた状態が解除される状態となる。

【４２８６】

これにより、遊技盤５と扉枠ユニットのうちの特定の扉枠ユニット（扉枠ユニットのうちの１つ又は複数）との組み合わせが適合（整合）しない場合には、ＬＥＤドライバＷＩＤＣａａ～ＬＥＤドライバＷＩＤＣａｎ（複数のＬＥＤドライバ）がリセットされた状態となるとともに後続の枠側装飾基板に設けられるＬＥＤドライバもリセットされた状態となることにより、各ＬＥＤドライバにより制御されるＬＥＤ素子は消灯した状態とすることができる。周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、遊技盤５と扉枠ユニットのうちの特定の扉枠ユニット（扉枠ユニットのうちの１つ又は複数）との組み合わせの適合性（整合性）についての判定結果を得ることができないものの、演出の進行を行っても扉枠ユニット側において扉枠ユニットによる電飾演出の進行を阻止することができるようになっている。なお、遊技盤５と扉枠ユニットのうちの特定の扉枠ユニット（扉枠ユニットのうちの１つ又は複数）との組み合わせが適合（整合）しない場合には扉枠ユニット

が消灯する状態となることにより、遊技ホールの店員等の係員のほかに、遊技盤５を本体枠４に装着する作業を行う作業者に対して、遊技盤５と扉枠ユニットのうちの特定の扉枠ユニット（扉枠ユニットのうちの１つ又は複数）との組み合わせが適合（整合）しているか否かを報知することができる。

【４２８７】

［ＬＥＤドライバからシリアルパラレル変換回路へ代替］

次に、図３１６に示した枠側装飾基板ＷＫＢに備えるＩＤ比較回路ＷＩＤＣを構成するＬＥＤドライバＷＩＤＣａからシリアルパラレル変換回路へ代替した場合について図３１９を参照して説明する。図３１９は図３１６に示した枠側装飾基板に備えるＩＤ比較回路を構成するＬＥＤドライバからシリアルパラレル変換回路へ代替した場合の一例を示す回路図である。図３１９では、シリアルパラレル変換回路ＷＩＤＣａ'の各種端子については、図３１６におけるＬＥＤドライバＷＩＤＣａと同一の機能を有する各種端子については同符号で示した。ここでは、シリアルパラレル変換回路について主に説明し、ＬＥＤドライバＷＩＤＣａと同符号の部分については一部説明を省略する。なお、図３１６における、ＬＥＤドライバＷＩＤＣａにおける２４本の出力端子であるＯＵＴ０～ＯＵＴ２３は、出力電流設定回路ＷＩＤＣｃにより最大電流が設定される定電流出力であるのに対して、シリアルパラレル変換回路ＷＩＤＣａ'における８本の出力端子であるＯＵＴ０～ＯＵＴ７は、出力電流設定回路ＷＩＤＣｃにより最大電流が設定される定電流出力ではなく、ロジックＩＣの絶対最大定格の出力電流で規定される。

【４２８８】

シリアルパラレル変換回路ＷＩＤＣａ'は、主に複数のフリップフロップ回路（８個のフリップフロップ回路）から構成されチップ化されてデイジーチェーン接続することができる電子部品であり、外部から入力されるシリアルデータをパラレルデータに変換（復元）して８本の出力端子であるＯＵ０端子～ＯＵＴ７端子から出力することができる回路である。

【４２８９】

シリアルパラレル変換回路ＷＩＤＣａ'のシリアルデータ入力端子であるＳＤＡ端子には、遊技盤５に備える周辺制御基板１５１０からのシリアルデータである発光情報信号が、遊技盤５を本体枠４に装着して遊技盤５の下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷに実装される下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの各端子と、本体枠４の図示しない本体枠側中継基板に実装される図示しない２つの本体枠側ドロワコネクタの各端子と、が電気的に接続されることにより、このドロワコネクタを介して、入力される。

【４２９０】

シリアルパラレル変換回路ＷＩＤＣａ'のクロック信号入力端子であるＳＣＬＫ端子には、遊技盤５に備える周辺制御基板１５１０からの発光情報信号を伝送するためのクロック信号である発光情報用クロック信号が、遊技盤５を本体枠４に装着して遊技盤５の下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷに実装される下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの各端子と、本体枠４の図示しない本体枠側中継基板に実装される図示しない２つの本体枠側ドロワコネクタの各端子と、が電気的に接続されることにより、このドロワコネクタを介して、入力される。

【４２９１】

シリアルパラレル変換回路ＷＩＤＣａ'のラッチ信号入力端子であるＬＡＴ端子には、遊技盤５に備える周辺制御基板１５１０からのラッチ信号が遊技盤５を本体枠４に装着して遊技盤５の下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷに実装される下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの各端子と、本体枠４の図示しない本体枠側中継基板に実装される図示しない２つの本体枠側ドロワコネクタの各端子と、が電気的に接続されることにより、このドロワコネクタを介して、入力される。シリアルパラレル変換回路ＷＩＤＣａ'の各フリップフロップ回路は、ラッチ信号の論理がパラレル動作論理（グランド（ＧＮＤ、回路グランド）と電気的に接続される論理：ＬＯＷ）であるときには、

ＳＤＡ端子から取り込んだ情報（シリアルデータ）に対してＳＣＬＫ端子に入力された発光情報用クロック信号の立ち上がりで順次シフト動作を行い、このシリアルパラレル変換回路ＷＩＤＣａ'とデイジーチェーン接続される後続の複数のシリアルパラレル変換回路（例えば、シリアルパラレル変換回路ＷＩＤＣａ'に備える他のシリアルパラレル変換回路や、他の枠側装飾基板に備えるデイジーチェーン接続される後続の複数のシリアルパラレル変換回路）に対してシリアルデータ出力端子であるＳＯ端子から出力する一方、ラッチ信号の論理がパラレル動作論理を反転させたシフト動作論理（＋５Ｖと電気的に接続される論理：ＨＩ）であるときには、この時点において取り込んだ情報（コンパレータ回路ＷＩＤＣｂで比較される情報）をパラレルデータに変換して８本の出力端子であるＯＵＴ０端子～ＯＵＴ７端子からそれぞれ出力する。

【４２９２】

シリアルパラレル変換回路ＷＩＤＣａ'のイネーブル端子である反転Ｇ端子（図中、英字「Ｇ」の上に実線で表示。）は、枠側装飾基板ＷＫＢのグランド（ＧＮＤ、回路グランド）と電気的に接続されている。シリアルパラレル変換回路ＷＩＤＣａ'のリセット端子である反転ＣＬＲ端子（図中、英字「ＣＬＲ」の上に実線で表示。）は、＋５Ｖと電気的に接続されている。

【４２９３】

シリアルパラレル変換回路ＷＩＤＣａ'のＳＣＬＫ端子に入力される発光情報用クロック信号に基づいてシリアルパラレル変換回路ＷＩＤＣａ'のＳＤＡ端子に入力される発光情報信号は、発光データから構成されている。シリアルパラレル変換回路ＷＩＤＣａ'に対する発光データについては、コンパレータ回路ＷＩＤＣｂで比較される情報が発光データとして周辺制御基板１５１０から出力されるようになっている。シリアルパラレル変換回路ＷＩＤＣａ'に対する発光データは、シリアルパラレル変換回路ＷＩＤＣａ'とデイジーチェーン接続される後続の複数のシリアルパラレル変換回路に対する発光データに続いて、周辺制御基板１５１０から出力されるようになっている。なお、シリアルパラレル変換回路ＷＩＤＣａ'とデイジーチェーン接続される後続の複数のシリアルパラレル変換回路が各種ＬＥＤを発光するほかに、電気的駆動源（ソレノイド、ステッピングモータ）を駆動する場合には、電気的駆動源に対する駆動データを発光データとして周辺制御基板１５１０から出力されるようになっている。つまり、周辺制御基板１５１０から出力される発光情報信号には、各種ＬＥＤに対する発光データのほかに、コンパレータ回路ＷＩＤＣｂで比較される情報が含まれるとともに、さらに電気的駆動源に対する駆動データも含まれる場合がある。

【４２９４】

ラッチ信号、発光情報用クロック信号、及びシリアルパラレル変換回路ＷＩＤＣａ'のデイジーチェーン接続端子であるＳＯ端子からの発光情報信号は、この枠側装飾基板ＷＫＢから他の枠側装飾基板へ伝送される。なお、この枠側装飾基板ＷＫＢにシリアルパラレル変換回路ＷＩＤＣａ'とデイジーチェーン接続される後続のシリアルパラレル変換回路が存在する場合には、シリアルパラレル変換回路ＷＩＤＣａ'とともにラッチ信号、発光情報用クロック信号が入力され、シリアルパラレル変換回路ＷＩＤＣａ'のデイジーチェーン接続端子であるＳＯ端子からの発光情報信号が後続のシリアルパラレル変換回路のシリアルデータ入力端子であるＳＤＡ端子に入力される。この後続のシリアルパラレル変換回路のＳＯ端子からの発光情報信号が他の枠側装飾基板へ出力される。

【４２９５】

このように、枠側装飾基板ＷＫＢに備えるＩＤ比較回路ＷＩＤＣを構成するＬＥＤドライバＷＩＤＣａからシリアルパラレル変換回路へ代替したことにより、どのＬＥＤドライバに対するものであるのかを指示するＩＤコードを発光情報信号に含ませる必要がなる。

【４２９６】

［扉枠ユニットの各ユニットに自己識別符号を持たせる構成］

図３１６及び図３１７では、扉枠３には、上述したように、扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等の

扉枠ユニット（以下、「扉枠ユニット」と記載する場合がある。）が装着されるようになっており、扉枠ユニットのうちの特定の扉枠ユニット（扉枠ユニットのうちの１つ又は複数）に備える装飾基板のうちいずれか１つの装飾基板（以下、「枠側装飾基板」と記載する。）に自身を識別することができる自己識別符号（ＩＤ）を持たせ、遊技盤５と扉枠ユニットのうちの特定の扉枠ユニット（扉枠ユニットのうちの１つ又は複数）との組み合わせの適合（整合）について判定して判定結果を出力することができるＩＤ比較回路ＷＩＤＣを備えていた。つまり、扉枠ユニットのうちの特定の扉枠ユニット（扉枠ユニットのうちの１つ又は複数）に対して１つのＩＤ比較回路ＷＩＤＣを備えていた。ここでは、遊技盤５との組み合わせの適合（整合）についての判定対象となる扉枠ユニットの各ユニットに対して自己識別符号（ＩＤ）をそれぞれ持たせる構成について図３２０及び図３２１を参照して説明する。図３２０は各ユニットの割り振りの概略を示す概略図であり、図３２１は各ユニットにおけるＩＤ出力回路の一例を示す回路図である。なお、以下では扉枠ユニットの全てを遊技盤５との組み合わせの適合（整合）についての判定対象として扉枠ユニットの全て（本例では扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０の全て）に対して自己識別符号（ＩＤ）をそれぞれ持たせるものについて説明するが、扉枠ユニットの一部（例えば扉枠左サイドユニット４２０及び皿ユニット２００）については遊技盤５との組み合わせの適合についての判定対象としないようにしてもよく、この場合には扉枠ユニットのうち遊技盤５との組み合わせの適合についての判定対象とされない扉枠ユニットの一部（例えば扉枠左サイドユニット４２０及び皿ユニット２００）については自己識別符号（ＩＤ）を持たせることなく、扉枠ユニットのうち遊技盤５との組み合わせの適合についての判定対象とされる扉枠ユニット（例えば扉枠右サイドユニット４３０及び扉枠トップユニット４５０）についてのみ自己識別符号（ＩＤ）をそれぞれ持たせるようにすればよい。

【４２９７】

扉枠ユニットは、扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０から構成されており、各ユニットのそれぞれが扉枠３に着脱されることで、意匠替えや遊技仕様に対応するものが装着することができるようになっている。遊技盤５と扉枠３との関係は、上述したように、申請機関へ提出して許可を得たものである必要がある。ところが、扉枠ユニットの交換時における人為的なミスにより遊技盤５と扉枠３との関係（組み合わせ）が申請機関へ提出して許可を得たものと異なるものとなる場合があり、そもそも仕様内容を申請機関へ提出して許可を得たものと異なるパチンコ機が遊技ホールに設置されることとなり好ましくない。

【４２９８】

そこで、扉枠ユニットの各ユニットに備える装飾基板のうちいずれか１つの装飾基板に自身を識別することができる自己識別符号（ＩＤ）をそれぞれ持たせ、遊技盤５と扉枠ユニットとの組み合わせの適合（整合）について判定して判定結果を出力することができるＩＤ比較回路を備える構成を考えることができる。

【４２９９】

ここでは、扉枠ユニットは、図３２０に示すように、皿ユニット２００をＵｎｉｔＡとし、扉枠右サイドユニット４３０をＵｎｉｔＢとし、扉枠トップユニット４５０をＵｎｉｔＣとし、扉枠左サイドユニット４２０をＵｎｉｔＤとし、４つのユニットであるＵｎｉｔＡ～ＵｎｉｔＤとして割り振られている。

【４３００】

ＵｎｉｔＡに備える装飾基板のうちいずれか１つの装飾基板（以下、「枠側装飾基板Ａ」と記載する。）には、自身を識別することができるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＡａを備えている。

【４３０１】

ＵｎｉｔＢに備える装飾基板のうちいずれか１つの装飾基板（以下、「枠側装飾基板Ｂ」と記載する。）には、自身を識別することができるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＢａを備えている。

【４３０２】
ＵｎｉｔＣに備える装飾基板のうちいずれか１つの装飾基板（以下、「枠側装飾基板Ｃ」と記載する。）には、自身を識別することができるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＣａを備えている。
【４３０３】
ＵｎｉｔＤに備える装飾基板のうちいずれか１つの装飾基板（以下、「枠側装飾基板Ｄ」と記載する。）には、自身を識別することができるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＤａを備えている。
【４３０４】
枠側装飾基板Ａ～枠側装飾基板Ｄにそれぞれに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＡａ～ＵＤａは、図３０５に示したＩＤ出力回路ＩＤＣにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣａと同一の回路であり、ここでは、各端子の説明、回路構成が同一の部分、及び動作についての説明を省略する。
【４３０５】
枠側装飾基板Ａに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＡａのＩＤ設定端子には、Ａ端子、Ｂ端子、Ｃ端子、Ｄ端子、Ｅ端子、Ｆ端子、及びＧ端子が＋５Ｖと電気的に接続されるとともに、Ｈ端子がグランド（ＧＮＤ、回路グランド）と電気的に接続されている。つまり、枠側装飾基板ＡのＩＤ（つまり、皿ユニット２００であるＵｎｉｔＡのＩＤ）は、Ａ端子を最上位ビット、Ｈ端子を最下位ビットとする８ビット幅で表すと、１１１１１１１０Ｂ（英字「Ｂ」は２進数を表す。）となり、１６進数で表すと、ＦＥＨ（英字「Ｈ」は１６進数を表す。）となる。
【４３０６】
枠側装飾基板Ｂに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＢａのＩＤ設定端子には、Ａ端子、Ｂ端子、Ｃ端子、Ｄ端子、Ｅ端子、及びＦ端子が＋５Ｖと電気的に接続されるとともに、Ｇ端子、及びＨ端子がグランド（ＧＮＤ、回路グランド）と電気的に接続されている。つまり、枠側装飾基板ＢのＩＤ（つまり、扉枠右サイドユニット４３０であるＵｎｉｔＢのＩＤ）は、Ａ端子を最上位ビット、Ｈ端子を最下位ビットとする８ビット幅で表すと、１１１１１１００Ｂ（英字「Ｂ」は２進数を表す。）となり、１６進数で表すと、ＦＣＨ（英字「Ｈ」は１６進数を表す。）となる。
【４３０７】
枠側装飾基板Ｃに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＣａのＩＤ設定端子には、Ａ端子、Ｂ端子、Ｃ端子、Ｄ端子、及びＥ端子が＋５Ｖと電気的に接続されるとともに、Ｆ端子、Ｇ端子、及びＨ端子がグランド（ＧＮＤ、回路グランド）と電気的に接続されている。つまり、枠側装飾基板ＣのＩＤ（つまり、扉枠トップユニット４５０であるＵｎｉｔＣのＩＤ）は、Ａ端子を最上位ビット、Ｈ端子を最下位ビットとする８ビット幅で表すと、１１１１１０００Ｂ（英字「Ｂ」は２進数を表す。）となり、１６進数で表すと、Ｆ８Ｈ（英字「Ｈ」は１６進数を表す。）となる。
【４３０８】
枠側装飾基板Ｄに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＤａのＩＤ設定端子には、Ａ端子、Ｂ端子、Ｃ端子、及びＤ端子が＋５Ｖと電気的に接続されるとともに、Ｅ端子、Ｆ端子、Ｇ端子、及びＨ端子がグランド（ＧＮＤ、回路グランド）と電気的に接続されている。つまり、枠側装飾基板ＤのＩＤ（つまり、扉枠左サイドユニット４２０であるＵｎｉｔＤのＩＤ）は、Ａ端子を最上位ビット、Ｈ端子を最下位ビットとする８ビット幅で表すと、１１１１０００Ｂ（英字「Ｂ」は２進数を表す。）となり、１６進数で表すと、Ｆ０Ｈ（英字「Ｈ」は１６進数を表す。）となる。
【４３０９】
枠側装飾基板Ａ～Ｄに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＡａ～ＵＤａのＳ／反転Ｌ端子（図中、英字「Ｌ」の上に実線で表示。）は、枠側装飾基板Ａ～Ｄに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＡａ～ＵＤａのＣＫ端子に入力された適合判定用クロック信号に基づくシフト動作と枠側装飾基板Ａ～Ｄに備えるＩＤ出力回路の

パラレルシリアル変換回路ＵＡａ～ＵＤａの各フリップフロップ回路がＡ端子～Ｈ端子の８本の入力端子に設定される情報を取り込むパラレル動作とを切り替え、周辺制御基板１５１０からの適合判定用切替信号が、遊技盤５を本体枠４に装着して遊技盤５の下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷに実装される下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの各端子と、本体枠４の図示しない本体枠側中継基板に実装される図示しない２つの本体枠側ドロワコネクタの各端子と、が電気的に接続されることにより、このドロワコネクタを介して、入力される。

【４３１０】

扉枠左サイドユニット４２０であるＵｎｉｔＤに備える枠側装飾基板Ｄに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＤａのＳＩ端子が枠側装飾基板Ｄのグランド（ＧＮＤ、回路グランド）と電気的に接続され、扉枠左サイドユニット４２０であるＵｎｉｔＤに備える枠側装飾基板Ｄに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＤａの反転ＱＨ端子と、扉枠トップユニット４５０であるＵｎｉｔＣに備える枠側装飾基板Ｃに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＣａのＳＩ端子と、が電気的に接続されている（電気配線（ハーネス）を介して電気的に接続でもよいし、ドロワコネクタを介して電気的に接続でもよい）。これにより、扉枠左サイドユニット４２０であるＵｎｉｔＤに備える枠側装飾基板Ｄに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＤａと、扉枠トップユニット４５０であるＵｎｉｔＣに備える枠側装飾基板Ｃに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＣａと、がデイジーチェーン接続されている。

【４３１１】

扉枠トップユニット４５０であるＵｎｉｔＣに備える枠側装飾基板Ｃに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＣａの反転ＱＨ端子と、扉枠右サイドユニット４３０であるＵｎｉｔＢに備える枠側装飾基板Ｂに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＢａのＳＩ端子と、が電気的に接続されている（電気配線（ハーネス）を介して電気的に接続でもよいし、ドロワコネクタを介して電気的に接続でもよい）。これにより、扉枠トップユニット４５０であるＵｎｉｔＣに備える枠側装飾基板Ｃに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＣａと、扉枠右サイドユニット４３０であるＵｎｉｔＢに備える枠側装飾基板Ｂに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＢａと、がデイジーチェーン接続されている。

【４３１２】

扉枠右サイドユニット４３０であるＵｎｉｔＢに備える枠側装飾基板Ｂに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＢａの反転ＱＨ端子と、皿ユニット２００であるＵｎｉｔＡに備える枠側装飾基板Ａに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＡａのＳＩ端子と、が電気的に接続されている（電気配線（ハーネス）を介して電気的に接続でもよいし、ドロワコネクタを介して電気的に接続でもよい）。これにより、扉枠右サイドユニット４３０であるＵｎｉｔＢに備える枠側装飾基板Ｂに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＢａと、皿ユニット２００であるＵｎｉｔＡに備える枠側装飾基板Ａに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＡａと、がデイジーチェーン接続されている。

【４３１３】

このように、扉枠左サイドユニット４２０であるＵｎｉｔＤに備える枠側装飾基板Ｄに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＤａから、扉枠トップユニット４５０であるＵｎｉｔＣに備える枠側装飾基板Ｃに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＣａ、枠右サイドユニット４３０であるＵｎｉｔＢに備える枠側装飾基板Ｂに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＢａ、そして皿ユニット２００であるＵｎｉｔＡに備える枠側装飾基板Ａに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＡａまで、がデイジーチェーン接続されている。

【４３１４】

合計４つのパラレルシリアル変換回路ＵＡａ～ＵＤａの各フリップフロップ回路がＣＫ端子に入力された適合判定用クロック信号の立ち上がりで順次シフト動作するため（つま

り、Ａ端子に入力されている情報→Ｂ端子に入力されている情報→Ｃ端子に入力されている情報→Ｄ端子に入力されている情報→Ｅ端子に入力されている情報→Ｆ端子に入力されている情報→Ｇ端子に入力されている情報→Ｈ端子に入力されている情報→非反転ＱＨ端子及び反転ＱＨ端子から１ビットずつシフト動作してシリアルデータを出力するため）、パラレルシリアル変換回路ＵＡａによる８ビットのシフトレジスタと、パラレルシリアル変換回路ＵＢａによる８ビットのシフトレジスタと、パラレルシリアル変換回路ＵＣａによる８ビットのシフトレジスタと、パラレルシリアル変換回路ＵＤａによる８ビットのシフトレジスタと、による３２ビットのシフトレジスタとして動作することとなり、パラレルシリアル変換回路ＵＡａの反転ＱＨ端子からシリアルデータとしてＩＤコード信号が、遊技盤５を本体枠４に装着して遊技盤５の下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷに実装される下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの各端子と、本体枠４の図示しない本体枠側中継基板に実装される図示しない２つの本体枠側ドロワコネクタの各端子と、が電気的に接続されることにより、このドロワコネクタを介して、周辺制御基板１５１０へ出力される。

【４３１５】

皿ユニット２００には、上述したように、演出操作ユニット３００が装着されているため、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図２６７に示した周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理におけるステップＳ１１０８の演出操作ユニット情報取得処理において、Ｓ／反転Ｌ端子に入力される適合判定用切替信号の論理を設定して出力することでパラレル動作、そしてシリアル動作とした後に、適合判定用クロック信号を出力することにより、ＩＤコード信号を取得し、遊技盤５と扉枠ユニットとの組み合わせの適合性（整合性）についての判定結果を得ることができる。

【４３１６】

遊技盤５と扉枠ユニットとの組み合わせの適合性（整合性）についての判定結果を得るタイミングとしては、電源投入後の初回にのみ、上述した演出操作ユニット情報取得処理において行ってもよいし、電源投入後に上述した演出操作ユニット情報取得処理において常に又は間欠的に行ってもよい。遊技盤５と扉枠ユニットとの組み合わせの適合性（整合性）についての判定結果を、電源投入後に上述した演出操作ユニット情報取得処理において常に又は間欠的に取得することにより、判定結果が異なることによって、周辺制御基板１５１０から枠側装飾基板ＷＫＢまでに亘る伝送経路においてノイズの影響を受けているか否かを確認することもできる。

【４３１７】

また、遊技盤５と扉枠ユニットとの組み合わせの適合性（整合性）についての判定結果を得るタイミングとして、電源投入後の初回にのみ、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９に示した周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において行ってもよい。

【４３１８】

なお、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、遊技盤５と扉枠ユニットとの組み合わせの適合性（整合性）についての判定結果から遊技盤５と扉枠ユニットとの組み合わせが適合（整合）していない場合には、扉枠ユニット全体に対して、図３１０～図３１２、又は図３１３～図３１５に示したエラー対応１（ＩＤエラー１対応）を行ってもよいし、扉枠ユニットのうち適合（整合）しないユニット（例えば、ＵｎｉｔＡ～ＵｎｉｔＤのち、ＵｎｉｔＣ（扉枠トップユニット４５０）に対して、図３１０～図３１２、又は図３１３～図３１５に示したエラー対応１（ＩＤエラー１対応）を行ってもよい。

【４３１９】

［扉枠ユニットの各ユニットに自己識別符号とともに製造元識別符号を持たせる構成］

なお、扉枠３を複数の製造元（メーカー）で共通に使用することができるように構成することができる。この場合、一の製造元（メーカー）が扉枠ユニットの各ユニットに持たせた自己識別符号（ＩＤ）と、他の製造元（メーカー）が扉枠ユニットの各ユニットに持たせた自己識別符号（ＩＤ）と、がたまたま一致する状態においては、遊技盤５を本体枠

４に装着した際に、遊技盤５と扉枠３との関係（組み合わせ）が申請機関へ提出して許可を得たものと異なるにもかかわらず、遊技盤５と扉枠３との関係（組み合わせ）が申請機関へ提出して許可を得たものとして制御基板に判定される場合があり、そもそも仕様内容を申請機関へ提出して許可を得たものと異なるパチンコ機が遊技ホールに設置されることとなり好ましくない。

【４３２０】

そこで、扉枠ユニットの各ユニットに自己識別符号（ＩＤ）に加えて、さらに製造元識別符号（製造元識別値）を持たせ、遊技盤５と扉枠ユニットとの組み合わせの適合（整合）について判定して判定結果を出力することができるＩＤ比較回路を備える構成を考えることができる。ここでは、扉枠ユニットの各ユニットに対して製造元識別符号（製造元識別値）及び自己識別符号（ＩＤ）をそれぞれ持たせる構成について図３２２を参照して説明する。図３２２は図３２１の各ユニットにおけるＩＤ出力回路に製造元識別符号（製造元識別値）をさらに含ませる回路の一例を示す回路図である。図３２２は、図３２１の枠側装飾基板Ａ～枠側装飾基板Ｄにそれぞれに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＡａ～ＵＤａと基本的に同一の回路であり、ここでは、各端子の説明、回路構成が同一の部分、及び動作についての説明を省略する。

【４３２１】

枠側装飾基板Ａ～枠側装飾基板Ｄにそれぞれに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＡａ～ＵＤａの後段には、パラレルシリアル変換回路ＵＡａｐ～ＵＤａｐが設けられている。パラレルシリアル変換回路ＵＡａｐ～ＵＤａｐは、製造元識別符号（製造元識別値）が設定されている。

【４３２２】

具体的には、枠側装飾基板Ａ～枠側装飾基板Ｄにそれぞれに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＡａ～ＵＤａの後段のパラレルシリアル変換回路ＵＡａｐ～ＵＤａｐのＩＤ設定端子には、Ａ端子、Ｂ端子、Ｃ端子、及びＥ端子＋５Ｖと電気的に接続されるとともに、Ｄ端子、Ｆ端子、Ｇ端子、及びＨ端子がグランド（ＧＮＤ、回路グランド）と電気的に接続されている。つまり、枠側装飾基板Ａ～Ｄの製造元識別符号（つまり、ＵｎｉｔＡ～ＵｎｉｔＤの製造元識別符号（製造元識別値））は、Ａ端子を最上位ビット、Ｈ端子を最下位ビットとする８ビット幅で表すと、１１１０１０００Ｂ（英字「Ｂ」は２進数を表す。）となり、１６進数で表すと、Ｅ８Ｈ（英字「Ｈ」は１６進数を表す。）となる。

【４３２３】

枠側装飾基板Ａ～Ｄに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＡａ～ＵＤａ及び後段のパラレルシリアル変換回路ＵＡａｐ～ＵＤａｐのＳ／反転Ｌ端子（図中、英字「Ｌ」の上に実線で表示。）は、枠側装飾基板Ａ～Ｄに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＡａ～ＵＤａ及び後段のパラレルシリアル変換回路ＵＡａｐ～ＵＤａｐのＣＫ端子に入力された適合判定用クロック信号に基づくシフト動作と枠側装飾基板Ａ～Ｄに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＡａ～ＵＤａ及び後段のパラレルシリアル変換回路ＵＡａｐ～ＵＤａｐの各フリップフロップ回路がＡ端子～Ｈ端子の８本の入力端子に設定される情報を取り込むパラレル動作とを切り替え、周辺制御基板１５１０からの適合判定用切替信号が、遊技盤５を本体枠４に装着して遊技盤５の下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷに実装される下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの各端子と、本体枠４の図示しない本体枠側中継基板に実装される図示しない２つの本体枠側ドロワコネクタの各端子と、が電気的に接続されることにより、このドロワコネクタを介して、入力される。

【４３２４】

扉枠左サイドユニット４２０であるＵｎｉｔＤに備える枠側装飾基板Ｄに備えるＩＤ出力回路の後段のパラレルシリアル変換回路ＵＤａｐのＳＩ端子が枠側装飾基板Ｄのグランド（ＧＮＤ、回路グランド）と電気的に接続され、この後段のパラレルシリアル変換回路ＵＤａｐの反転ＱＨ端子と、前段となるパラレルシリアル変換回路ＵＤａのＳＩ端子と、

が電気的に接続されている。この前段となるパラレルシリアル変換回路ＵＤａの反転ＱＨ端子と、扉枠トップユニット４５０であるＵｎｉｔＣに備える枠側装飾基板Ｃに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＣａの後段のパラレルシリアル変換回路ＵＣａｐのＳＩ端子と、が電気的に接続されている（電気配線（ハーネス）を介して電気的に接続でもよいし、ドロワコネクタを介して電気的に接続でもよい）。これにより、扉枠左サイドユニット４２０であるＵｎｉｔＤに備える枠側装飾基板Ｄに備えるＩＤ出力回路の後段のパラレルシリアル変換回路ＵＤａｐから、扉枠左サイドユニット４２０であるＵｎｉｔＤに備える枠側装飾基板Ｄに備えるＩＤ出力回路の前段のパラレルシリアル変換回路ＵＤａ、そして扉枠トップユニット４５０であるＵｎｉｔＣに備える枠側装飾基板Ｃに備えるＩＤ出力回路の後段のパラレルシリアル変換回路ＵＣａｐまで、がデイジーチェーン接続されている。

【４３２５】

扉枠トップユニット４５０であるＵｎｉｔＣに備える枠側装飾基板Ｃに備えるＩＤ出力回路の後段のパラレルシリアル変換回路ＵＣａｐの反転ＱＨ端子と、前段となるパラレルシリアル変換回路ＵＣａのＳＩ端子と、が電気的に接続されている。この前段となるパラレルシリアル変換回路ＵＣａの反転ＱＨ端子と、扉枠右サイドユニット４３０であるＵｎｉｔＢに備える枠側装飾基板Ｂに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＢａの後段のパラレルシリアル変換回路ＵＢａｐのＳＩ端子と、が電気的に接続されている（電気配線（ハーネス）を介して電気的に接続でもよいし、ドロワコネクタを介して電気的に接続でもよい）。これにより、扉枠トップユニット４５０であるＵｎｉｔＣに備える枠側装飾基板Ｃに備えるＩＤ出力回路の後段のパラレルシリアル変換回路ＵＣａｐから、扉枠トップユニット４５０であるＵｎｉｔＣに備える枠側装飾基板Ｃに備えるＩＤ出力回路の前段のパラレルシリアル変換回路ＵＣａ、そして扉枠右サイドユニット４３０であるＵｎｉｔＢに備える枠側装飾基板Ｂに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＢａの後段のパラレルシリアル変換回路ＵＢａｐまで、がデイジーチェーン接続されている。

【４３２６】

扉枠右サイドユニット４３０であるＵｎｉｔＢに備える枠側装飾基板Ｂに備えるＩＤ出力回路の後段のパラレルシリアル変換回路ＵＢａｐの反転ＱＨ端子と、前段となるパラレルシリアル変換回路ＵＢａのＳＩ端子と、が電気的に接続されている。この前段となるパラレルシリアル変換回路ＵＢａの反転ＱＨ端子と、皿ユニット２００であるＵｎｉｔＡに備える枠側装飾基板Ａに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＡａの後段のパラレルシリアル変換回路ＵＡａｐのＳＩ端子と、が電気的に接続されている（電気配線（ハーネス）を介して電気的に接続でもよいし、ドロワコネクタを介して電気的に接続でもよい）。これにより、扉枠右サイドユニット４３０であるＵｎｉｔＢに備える枠側装飾基板Ｂに備えるＩＤ出力回路の後段のパラレルシリアル変換回路ＵＢａｐから、扉枠右サイドユニット４３０であるＵｎｉｔＢに備える枠側装飾基板Ｂに備えるＩＤ出力回路の前段のパラレルシリアル変換回路ＵＢａ、そして皿ユニット２００であるＵｎｉｔＡに備える枠側装飾基板Ａに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＡａの後段のパラレルシリアル変換回路ＵＡａｐまで、がデイジーチェーン接続されている。

【４３２７】

皿ユニット２００であるＵｎｉｔＡに備える枠側装飾基板Ａに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＡａの後段のパラレルシリアル変換回路ＵＡａｐの反転ＱＨ端子と、前段となるパラレルシリアル変換回路ＵＡａのＳＩ端子と、が電気的に接続されている。これにより、皿ユニット２００であるＵｎｉｔＡに備える枠側装飾基板Ａに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＡａの後段のパラレルシリアル変換回路ＵＡａｐと、皿ユニット２００であるＵｎｉｔＡに備える枠側装飾基板Ａに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＡａの前段のパラレルシリアル変換回路ＵＡａと、がデイジーチェーン接続されている。

【４３２８】

このように、扉枠左サイドユニット４２０であるＵｎｉｔＤに備える枠側装飾基板Ｄに備えるＩＤ出力回路の後段のパラレルシリアル変換回路ＵＤａｐから、扉枠左サイドユニット４２０であるＵｎｉｔＤに備える枠側装飾基板Ｄに備えるＩＤ出力回路の前段のパラレルシリアル変換回路ＵＤａ、扉枠トップユニット４５０であるＵｎｉｔＣに備える枠側装飾基板Ｃに備えるＩＤ出力回路の後段のパラレルシリアル変換回路ＵＣａｐ、扉枠トップユニット４５０であるＵｎｉｔＣに備える枠側装飾基板Ｃに備えるＩＤ出力回路の前段のパラレルシリアル変換回路ＵＣａ、扉枠右サイドユニット４３０であるＵｎｉｔＢに備える枠側装飾基板Ｂに備えるＩＤ出力回路の後段のパラレルシリアル変換回路ＵＢａｐ、扉枠右サイドユニット４３０であるＵｎｉｔＢに備える枠側装飾基板Ｂに備えるＩＤ出力回路の前段のパラレルシリアル変換回路ＵＢａ、皿ユニット２００であるＵｎｉｔＡに備える枠側装飾基板Ａに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＡａの後段のパラレルシリアル変換回路ＵＡａｐ、そして皿ユニット２００であるＵｎｉｔＡに備える枠側装飾基板Ａに備えるＩＤ出力回路のパラレルシリアル変換回路ＵＡａの前段のパラレルシリアル変換回路ＵＡａまで、がデイジーチェーン接続されている。

【４３２９】

合計８つのパラレルシリアル変換回路ＵＡａｐ，ＵＡａ，ＵＢａｐ，ＵＢａ，ＵＣａｐ，ＵＣａ，ＵＤａｐ，ＵＤａの各フリップフロップ回路がＣＫ端子に入力された適合判定用クロック信号の立ち上がりで順次シフト動作するため（つまり、Ａ端子に入力されている情報→Ｂ端子に入力されている情報→Ｃ端子に入力されている情報→Ｄ端子に入力されている情報→Ｅ端子に入力されている情報→Ｆ端子に入力されている情報→Ｇ端子に入力されている情報→Ｈ端子に入力されている情報→非反転ＱＨ端子及び反転ＱＨ端子から１ビットずつシフト動作してシリアルデータを出力するため）、パラレルシリアル変換回路ＵＡａｐによる８ビットのシフトレジスタと、パラレルシリアル変換回路ＵＡａによる８ビットのシフトレジスタと、パラレルシリアル変換回路ＵＢａｐによる８ビットのシフトレジスタと、パラレルシリアル変換回路ＵＢａによる８ビットのシフトレジスタと、パラレルシリアル変換回路ＵＣａｐによる８ビットのシフトレジスタと、パラレルシリアル変換回路ＵＣａによる８ビットのシフトレジスタと、パラレルシリアル変換回路ＵＤａｐによる８ビットのシフトレジスタと、パラレルシリアル変換回路ＵＤａによる８ビットのシフトレジスタと、による６４ビットのシフトレジスタとして動作することとなり、パラレルシリアル変換回路ＵＡａの反転ＱＨ端子からシリアルデータとしてＩＤコード信号が、遊技盤５を本体枠４に装着して遊技盤５の下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷに実装される下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの各端子と、本体枠４の図示しない本体枠側中継基板に実装される図示しない２つの本体枠側ドロワコネクタの各端子と、が電気的に接続されることにより、このドロワコネクタを介して、周辺制御基板１５１０へ出力される。

【４３３０】

［ＩＤエラー判定スイッチ］

図３０２に示した分割遊技盤５Ａを構成する左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとのうち、左側遊技盤５ＡＬの周辺制御基板１５１０は、電源投入後に所定のタイミングで、それぞれのＩＤ出力回路から伝送されるＩＤコード信号からＩＤを取得して扉枠３に設けられる演出操作ユニットと分割遊技盤との組み合わせが適合（整合）するか否かを判定する。この判定結果は、ＩＤエラー判定スイッチの押圧操作部が押圧操作されたことを契機とすることができる。図３２３はＩＤエラー判定スイッチが設けられる分割遊技盤の概略正面図（ａ）であり、ＩＤエラー判定スイッチが設けられる分割遊技盤の概略背面図（ｂ）である。なお、図３２３（ａ），（ｂ）では、図３０２（ａ），（ｂ）と同様の構成については同一の符号を付し、詳細な説明は省略する。

【４３３１】

また、図３０２（ｂ）の主制御基板１３１０には設定スイッチ１３１１ａが設けられているのに対して、図３２３（ｂ）の主制御基板１３１０には設定スイッチが設けられていないという点で相違し、図３０２（ｂ）の主制御基板１３１０にはＩＤエラー判定スイッ

チが設けられていないのに対して、図３２３（ｂ）の主制御基板１３１０にはＩＤエラー判定スイッチ１３１０ｖが設けられているという点で相違する。

【４３３２】

主制御基板１３１０に設けられるＩＤエラー判定スイッチ１３１０ｖは、その押圧操作部が上述した主制御基板ボックス１３２０のカバー体から露出した状態（図示しない）となっており、遊技ホールの店員等の係員がＩＤエラー判定スイッチ１３１０ｖの押圧操作部を押圧操作すると、ＩＤエラー判定スイッチ１３１０ｖからの検出信号が主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに入力される。

【４３３３】

主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、パチンコ機１が電源投入されて主制御基板１３１０のシステムを起動して図２５６に示した主制御側電源投入時処理における主制御側メイン処理、図２５７に示した主制御側タイマ割り込み処理を繰り返し行う。

【４３３４】

主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、図２５７に示した主制御側タイマ割り込み処理におけるステップＳ１０４のスイッチ入力処理においてＩＤエラー判定スイッチ１３１０ｖからの検出信号（具体的には、ＩＤエラー判定スイッチ１３１０ｖからの検出信号の論理には、操作論理と非操作論理とがあり、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、操作論理が入力されるとＩＤエラー判定スイッチ１３１０ｖの押圧操作部が押圧操作されたと判定し、操作論理が反転された非操作論理が入力されるとＩＤエラー判定スイッチ１３１０ｖの押圧操作部が押圧操作されていないと判定する。）に基づいて、ＩＤエラー判定スイッチ１３１０ｖの押圧操作部が押圧操作されたと判定したときには、ＩＤエラー判定結果の報知を開始するＩＤエラー判定結果報知開始コマンドを図２５７に示した主制御側タイマ割り込み処理におけるステップＳ１２０の周辺制御基板コマンド送信処理で周辺制御基板１５１０へ送信する。

【４３３５】

周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、パチンコ機１が電源投入されて周辺制御基板１５１０のシステムを起動して図３０９に示した周辺制御部電源投入時処理における周辺制御部定常処理、図２６６に示した周辺制御部Ｖブランク信号割り込み処理、図２６７に示した周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理を繰り返し行う（主制御基板１３１０からのコマンドがあれば図２６８に示した周辺制御部コマンド受信割り込み処理も行う）。

【４３３６】

周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９に示した周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理を行う。このＩＤ判定処理では、右側遊技盤のＩＤ、演出操作ユニットのＩＤを取得するために、右側遊技盤に対してＩＤ取得用クロック信号（右側遊技盤専用のＩＤ取得用クロック信号）と、演出操作ユニットに対してＩＤ取得用クロック信号（演出操作ユニット専用のＩＤ取得用クロック信号）と、をそれぞれ出力する。そして、周辺制御ＩＣ１５１０ａは、右側遊技盤からのＩＤコード信号（右側遊技盤専用のＩＤコード信号）と、演出操作ユニットからのＩＤコード信号（演出操作ユニット専用のＩＤコード信号）と、をそれぞれ別々のシリアル系統により取得して、分割遊技盤の組み合わせ（つまり右側遊技盤（マイクロプロセッサが搭載されていない基板）と左側遊技盤（マイクロプロセッサが搭載された周辺制御基板１５１０や主制御基板１３１０）との組み合わせ）について周辺制御ＲＯＭに予め記憶される組み合わせテーブル（図３０８）を参照して判定（比較）するとともに、演出操作ユニットと分割遊技盤との組み合わせについて周辺制御ＲＯＭに予め記憶される組み合わせテーブル（図３０８）を参照して判定（比較）する。

【４３３７】

周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、主制御基板１３１０からのＩＤエラー判定結果報知開始コマンドを図２６８に示した周辺制御部コマンド受信割り込み処理で受信し、図３０９に示した周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１０２２の受

信コマンド解析処理で解析すると、これを契機として、ＩＤエラー判定結果の報知を開始するために、ステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、分割遊技盤の組み合わせについて行った判定結果が不適合（不整合）であるとき、つまり右側遊技盤（マイクロプロセッサが搭載されていない基板）と左側遊技盤（マイクロプロセッサが搭載された周辺制御基板１５１０や主制御基板１３１０）との組み合わせについて行った判定結果が不適合（不整合）であるときには、報知表示に区分されるコマンドを、周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０２４の警告処理へ渡す。これにより、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、ステップＳ１０２４の警告処理において、不適合（不整合）である旨の態様として、画面生成用スケジュールデータ、発光態様生成用スケジュールデータ、音生成用スケジュールデータ、及び電気的駆動源スケジュールデータ等を、周辺制御ＲＯＭから読み出して（抽出して）周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットすることにより、演出に関する各種処理を設定し、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動としてエラー対応１～エラー対応９のうち、対応するエラーが発生している旨を報知することとなる。なお、分割遊技盤の組み合わせについて行った判定結果が適合（整合）であるときには、図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動として正常動作（エラー対応なし）であり、対処法により「なし」であるため、正常動作（エラー対応なし）における特別な報知態様がない。換言すると、正常動作（エラー対応なし）場合には、その旨を報知せず、専用の報知音がスピーカから流れないようになっている。

【４３３８】

このように、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、分割遊技盤の組み合わせについて行った判定結果を、図３０９に示した周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において行っても、主制御基板１３１０からのＩＤエラー判定結果報知開始コマンドを図２６８に示した周辺制御部コマンド受信割り込み処理で受信し、図３０９に示した周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１０２２の受信コマンド解析処理で解析しなければ、これを契機として、報知表示に区分されるコマンドを、周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０２４の警告処理へ渡すことができず、ＩＤエラー判定結果の報知を開始することできない。つまり、主制御基板１３１０からのＩＤエラー判定結果報知開始コマンドを受信（解析）するまで、エラー対応１～エラー対応９が発生していても、その旨を報知するエラー報知開始時期を、遊技ホールの店員等の係員によるＩＤエラー判定スイッチ１３１０ｖの押圧操作部の押圧操作によって変更することできるようになっている。

【４３３９】

また、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、主制御基板１３１０からのＩＤエラー判定結果報知開始コマンドを図２６８に示した周辺制御部コマンド受信割り込み処理で受信し、図３０９に示した周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１０２２の受信コマンド解析処理で解析すると、これを契機として、ＩＤエラー判定結果の報知を開始するために、ステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、演出操作ユニットと分割遊技盤との組み合わせについて行った判定結果が不適合（不整合）であるときには、報知表示に区分されるコマンドを、周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０２４の警告処理へ渡す。これにより、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、ステップＳ１０２４の警告処理において、不適合（不整合）である旨の態様として、画面生成用スケジュールデータ、発光態様生成用スケジュールデータ、音生成用スケジュールデータ、及び電気的駆動源スケジュールデータ等を、周辺制御ＲＯＭから読み出して（抽出して）周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットすることにより、演出に関する各種処理を設定し、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動としてエラー対応１～エラー対応９のうち、対応するエラーが発生している旨を報知することとなる。なお、演出操作ユニットと分割遊技盤との組み合わせについて行った判定結果が適合（整合）であるときには、図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動として正常動作（エラー対応なし）であり、対処

法により「なし」であるため、正常動作（エラー対応なし）における特別な報知態様がない。換言すると、正常動作（エラー対応なし）場合には、その旨を報知せず、専用の報知音がスピーカから流れないようになっている。

【４３４０】

このように、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、演出操作ユニットと分割遊技盤との組み合わせについて行った判定結果を、図３０９に示した周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において行っても、主制御基板１３１０からのＩＤエラー判定結果報知開始コマンドを図２６８に示した周辺制御部コマンド受信割り込み処理で受信し、図３０９に示した周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１０２２の受信コマンド解析処理で解析しなければ、これを契機として、報知表示に区分されるコマンドを、周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０２４の警告処理へ渡すことができず、ＩＤエラー判定結果の報知を開始することできない。

【４３４１】

なお、主制御基板１３１０にはＩＤエラー判定スイッチ１３１０ｖが設けられているが、ＩＤエラー判定スイッチ１３１０ｖは、パチンコ機１の設定値の切り替えと設定値の確認とを行うことができる設定キースイッチ１３１１ａによって代用可能である。この場合、図３０２（ｂ）の設定キースイッチ１３１１ａが設けられ、主制御基板１３１０からのＩＤエラー判定結果報知開始コマンドが周辺制御基板１５１０へ送信されないが、主制御基板１３１０に備える設定キースイッチ１３１１ａに設定キーを挿入してＯＮ操作した後に、払出制御基板６３３に備えるＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部を押圧操作しながら、電源基板６３０に備える電源スイッチ６３０ａを操作してパチンコ機１の電源投入を行うことで主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３７の設定変更処理を開始し、設定キースイッチ１３１１ａに挿入される設定キーをＯＦＦ操作したことに基づいて設定変更処理におけるステップＳ２３８の周辺制御基板送信コマンド送信処理においてステップＳ２３６で設定した送信情報（設定変更コマンド）を主周シリアルデータとして周辺制御基板１５１０に送信する。周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、主制御基板１３１０からの設定変更コマンドを受信すると、これを契機として、図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動としてエラー対応１～エラー対応９が発生している場合には、その旨を伝える報知を行う。設定キーは、重要なキーであるため、遊技ホールの店長を含め限られた者のみ所持が許可され、２～３人に限定されている。

【４３４２】

具体的には、図３０２（ｂ）の主制御基板１３１０に備える設定キースイッチ１３１１ａに設定キーを挿入してＯＮ操作した後に、払出制御基板６３３に備えるＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部を押圧操作しながら、電源基板６３０に備える電源スイッチ６３０ａを操作してパチンコ機１の電源投入を行うと、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、図２５８に示した設定変更処理におけるステップＳ２３８の周辺制御基板送信コマンド送信処理においてステップＳ２３６で設定した送信情報（設定変更コマンド）を主周シリアルデータとして周辺制御基板１５１０に送信する。この設定変更コマンドは、設定変更された設定値と設定値格納完了とを伝えるコマンドである。周辺制御基板１５１０における周辺制御ＩＣ１５１０ａは、設定変更コマンドを受信すると、ＩＤエラー判定結果報知開始コマンドの受信とし、これを契機として、ＩＤエラー判定結果の報知を開始する処理をすすめる。

【４３４３】

主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３７の設定変更処理を行うと、続いてステップＳ３８のＲＡＭの全領域クリアとし、その後、主制御側メイン処理や図２５７の主制御側タイマ割り込み処理を行う。

【４３４４】

周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、パチンコ機１が電源投入されると、起動態様として、例えば、演出表示装置１６００に黒色の背景に「電源復旧中」を表示

する。このとき、「電源復旧中」に続いて「設定中」を表示してもよいし、「電源復旧中」に代えて「設定中」を表示してもよい。この場合、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３７の設定変更処理を開始すると、設定変更を開始する旨を伝える設定変更開始コマンドを主周シリアルデータとして周辺制御基板１５１０に送信する必要がある。

【４３４５】

周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３７の設定変更処理が終了した後、つまり主制御基板１３１０からの設定変更コマンドを受信すると、ＩＤエラー判定結果報知開始コマンドの受信とし、これを契機として、図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動としてエラー対応１～エラー対応９が発生している場合には、その旨を伝える報知を行う。つまり、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動としてエラー対応１～エラー対応９が発生している場合であっても、主制御基板１３１０に備える設定キースイッチ１３１１ａに設定キーを挿入してＯＮ操作されたことにより主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３７の設定変更処理を行っている場合には（この設定変更処理を完了するまでの所定期間が経過するまで、換言すると、主制御基板１３１０からの設定変更コマンドを受信（解析）するまで）、エラー対応１～エラー対応９が発生していても、その旨の報知を行うことができないようになっている。つまり、主制御基板１３１０からの設定変更コマンドを受信（解析）するまで、エラー対応１～エラー対応９が発生していても、その旨を報知するエラー報知開始時期を遊技ホールの限られた者が所持する設定キーによる操作によって変更することできるようになっている。

【４３４６】

これに対して、主制御基板１３１０に備える設定キースイッチ１３１１ａに設定キーを挿入してＯＮ操作した後に、払出制御基板６３３に備えるＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部を押圧操作せずに、電源基板６３０に備える電源スイッチ６３０ａを操作してパチンコ機１の電源投入を行うと、主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３７の設定変更処理を行うことなく、ステップＳ３８のＲＡＭの全領域クリアすることなく、その後、主制御側メイン処理や図２５７の主制御側タイマ割り込み処理を行う。周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、パチンコ機１が電源投入されると、起動態様として、例えば、演出表示装置１６００に黒色の背景に「電源復旧中」を表示し、図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動としてエラー対応１～エラー対応９が発生している場合には、その旨を伝える報知を行う。つまり、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、主制御基板１３１０に備える設定キースイッチ１３１１ａに設定キーが挿入されてＯＮ操作されても主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３７の設定変更処理を行わない場合には図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動としてエラー対応１～エラー対応９が発生していると、その旨の報知を行うことができるようになっている。

【４３４７】

換言すると、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、主制御基板１３１０に備える設定キースイッチ１３１１ａに設定キーが挿入されてＯＮ操作されても主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３７の設定変更処理を行わない場合には図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動としてエラー対応１～エラー対応９が発生していると、その旨の報知を所定期間が経過するまで（主制御基板１３１０からの設定変更コマンドを受信（解析）するまで）行うことができないときと、その旨の報知を所定期間に関係なく行うことができるときと、がある。

【４３４８】

このように、操作部である主制御基板１３１０に備える設定キースイッチ１３１１ａを操作した場合に、左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとの整合を判別した判別結果に応

じた報知を実行することができるようになっている。これにより、左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとが不整合となったことを直ぐに判別することができるようになり、左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとが不整合の状態で不完全な演出が実行されることを抑止できる。したがって、遊技興趣の低下を抑制することができる。

【４３４９】

［小括Ａ］

Ａ０：

外枠と、該外枠に開閉可能に設けられる本体枠と、該本体枠に開閉可能に設けられる扉枠と、を有する遊技枠側構成部と、該遊技枠側構成部に着脱可能に設けられる遊技盤側構成部と、を備えた遊技機であって、遊技盤側構成部は、第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とから構成されている。第１遊技盤側構成部は、遊技の演出を実行するマイクロプロセッサを搭載した演出制御基板を含む複数の基板で構成されている。第２遊技盤側構成部は、マイクロプロセッサを搭載していない特定基板を備えている。特定基板は、第２遊技盤側構成部であることを識別可能な固有値と、固有値を演出制御基板と信号伝達する固有値伝達手段と、を備えている。演出制御基板は、固有値伝達手段から伝達される固有値と、自己が保有する固有値と、を比較することができるものである。第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とは、それぞれ個別に遊技枠側構成部に固定されている。

【４３５０】

具体的には、例えば、パチンコ機１は、遊技枠側構成部である外枠２と外枠２の前面を開閉可能に閉鎖する扉枠３と扉枠３を開閉可能に支持しているとともに外枠２に開閉可能に取付けられている本体枠４と、遊技盤側構成部である図３０２の分割遊技盤５Ａとを備えている。分割遊技盤５Ａは、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとから構成されている。第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬは、遊技の演出を実行することができるマイクロプロセッサである周辺制御ＩＣ１５１０ａを搭載した演出制御基板である周辺制御基板１５１０を含む複数の基板（主制御基板１３１０が収容される主制御ユニット１３００、他の各種基板（例えば、各種中継基板、左側裏箱３０１０Ｌに収容される各種演出ユニットに取り付けられる、各種ＬＥＤが実装される装飾基板、駆動モータ及び駆動ソレノイド等を駆動する駆動基板など）が収容される左側の駆動基板ユニット１７００Ｌ（以下、「左側駆動基板ユニット１７００Ｌ」と記載する場合がある。））で構成されている。第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲは、マイクロプロセッサを搭載していない特定基板（各種基板（例えば、各種中継基板、右側裏箱３０１０Ｒに収容される各種演出ユニットに取り付けられる、各種ＬＥＤが実装される装飾基板、駆動モータ及び駆動ソレノイド等を駆動する駆動基板など）が収容される右側の駆動基板ユニット１７００Ｒ（以下、「右側駆動基板ユニット１７００Ｒ」と記載する場合がある。）のうち一の基板）を備えている。特定基板である各種基板のうち一の基板は、第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲであることを識別可能な固有値である自己識別符号（ＩＤ）と、固有値である自己識別符号（ＩＤ）を演出制御基板である周辺制御基板１５１０と信号伝達する固有値伝達手段である図３０５のＩＤ出力回路ＩＤＣと、を備えている。

【４３５１】

演出制御基板である周辺制御基板１５１０は、固有値伝達手段であるＩＤ出力回路ＩＤＣから伝達される固有値である自己識別符号（ＩＤ）と、自己が保有する固有値（周辺制御ＲＯＭに予め記憶される組み合わせテーブル（図３０８））と、を図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において比較することができるようになっている。

【４３５２】

第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとは、それぞれ個別に遊技枠側構成部である本体枠４に着脱可能に取付けられている。

【４３５３】

このように、第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲに備える固有値伝達手段であるＩＤ出力回路ＩＤＣから第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲであることを識別可能な固有値である自己識別符号（ＩＤ）が第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬに備える演出制御基板である周辺制御基板１５１０へ信号伝達されるようになっているため、演出制御基板である周辺制御基板１５１０は、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとの組み合わせの適合（整合）について判定することができる。これにより、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが不整合となったことを直ぐに判別することができるようになり、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが不整合の状態で不完全な演出が実行されることを抑止できる。したがって、遊技者の遊技興趣の低下を抑制することができる。

【４３５４】

Ａ１：

外枠と、該外枠に開閉可能に設けられる本体枠と、該本体枠に開閉可能に設けられる扉枠と、を有する遊技枠側構成部と、該遊技枠側構成部に着脱可能に設けられる遊技盤側構成部と、を備えている。遊技盤側構成部は、第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とから構成されている。第１遊技盤側構成部は、遊技の演出を実行することができるマイクロプロセッサを搭載したサブ制御基板を含む複数の基板を備えている。第２遊技盤側構成部は、マイクロプロセッサを搭載していない基板と、第２遊技盤側構成部であることを知らしめる固有値と、固有値を送信する固有値送信手段と、を備えている。さらに、第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とは、電気的に接続されて遊技枠側構成部に固定されている。固有値送信手段は、サブ制御基板にシリアル通信を使用して送信することができるものである。固有値送信手段は、第１遊技盤側構成部のサブ制御基板と電気的に接続されている。サブ制御基板は、固有値送信手段からの固有値と、自己が保有する固有値と、を比較することができる。

【４３５５】

具体的には、例えば、遊技枠側構成部である本体枠４と遊技盤側構成部である図３０２の分割遊技盤５Ａとを備えている。分割遊技盤５Ａは、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとから構成されている。第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬは、遊技の演出を実行することができるマイクロプロセッサである周辺制御ＩＣ１５１０ａを搭載したサブ制御基板である周辺制御基板１５１０を含む複数の基板（主制御基板１３１０が収容される主制御ユニット１３００、他の各種基板（例えば、各種中継基板、左側裏箱３０１０Ｌに収容される各種演出ユニットに取り付けられる、各種ＬＥＤが実装される装飾基板、駆動モータ及び駆動ソレノイド等を駆動する駆動基板など）が収容される左側の駆動基板ユニット１７００Ｌ（以下、「左側駆動基板ユニット１７００Ｌ」と記載する場合がある。））を備えている。第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲは、マイクロプロセッサを搭載していない基板（各種基板（例えば、各種中継基板、右側裏箱３０１０Ｒに収容される各種演出ユニットに取り付けられる、各種ＬＥＤが実装される装飾基板、駆動モータ及び駆動ソレノイド等を駆動する駆動基板など）が収容される右側の駆動基板ユニット１７００Ｒ（以下、「右側駆動基板ユニット１７００Ｒ」と記載する場合がある。））と、第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲであることを知らしめる固有値である自己識別符号（ＩＤ）と、固有値である自己識別符号（ＩＤ）を送信する固有値送信手段である図３０５のＩＤ出力回路ＩＤＣと、を備えている。

【４３５６】

さらに、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとは、電気的に接続されて遊技枠側構成部である本体枠４に固定されている。

【４３５７】

固有値送信手段であるＩＤ出力回路ＩＤＣは、サブ制御基板である周辺制御基板１５１

０にシリアル通信を使用して送信することができるものである。固有値送信手段であるＩＤ出力回路ＩＤＣは、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬのサブ制御基板である周辺制御基板１５１０と電気的に接続されている。サブ制御基板である周辺制御基板１５１０は、固有値送信手段であるＩＤ出力回路ＩＤＣからの固有値である自己識別符号（ＩＤ）と、自己が保有する固有値（周辺制御ＲＯＭに予め記憶される組み合わせテーブル（図３０８））と、を図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において比較することができるようになっている。

【４３５８】

このように、第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲに備える固有値送信手段であるＩＤ出力回路ＩＤＣから第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲであることを知らしめる固有値である自己識別符号（ＩＤ）が第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬに備えるサブ制御基板である周辺制御基板１５１０へシリアル通信を使用して送信されるようになっているため、サブ制御基板である周辺制御基板１５１０は、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとの組み合わせの適合（整合）について判定することができる。これにより、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが不整合となったことを直ぐに判別することができるようになり、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが不整合の状態で不完全な演出が実行されることを抑止できる。したがって、遊技者の遊技興趣の低下を抑制することができる。

【４３５９】

Ａ２：

さらに、シリアル通信の信号は、固有値と第２遊技盤側構成部で発生する遊技演出に係る信号とが含まれており、さらに、主制御基板と払出制御基板との信号の送受信を行うための第１シリアル通信手段と、第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部との信号の送受信を行うための第２シリアル通信手段と、を備え、第１シリアル通信手段での比較判定で偽となった場合は、球の払出しが行われなくなり、第２シリアル通信手段での比較判定で偽となった場合は、第２遊技盤側構成部の装飾演出が行われなくなる。

【４３６０】

具体的には、例えば、シリアル通信の信号である図３０６のフォト及びＩＤコード信号は、固有値である自己識別符号（ＩＤ）と、第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲで発生する遊技演出に係る信号（図３０６のフォトセンサ情報シリアル出力回路ＰＳＯに入力される各種可動体の位置を検出するフォトセンサからの検出信号）と、が含まれており、さらに、主制御基板１３１０と払出制御基板６３３との信号の送受信を行うための第１シリアル通信手段と、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとの信号の送受信を行うための第２シリアル通信手段と、を備えている。

【４３６１】

第１シリアル通信手段での比較判定で偽となった場合には、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、マイクロプロセッサを備える制御基板への各種コマンドに対して、自身を識別することができる自己識別符号（ＩＤ）を含めて送信するようになっているため、払出制御基板６３３の払出制御ＭＰＵは、図２６３に示した払出制御部電源投入時処理の払出制御部メイン処理におけるステップＳ５６０のコマンド解析処理において、主制御基板１３１０と払出制御基板６３３との組み合わせが不適合（不整合）であると判定したときには、主制御基板１３１０と払出制御基板６３３との組み合わせが不適合（不整合）となっている状態を示す情報を払出制御内蔵ＲＡＭの状態情報記憶領域にセットするとともに、払出動作を停止する情報を払出制御内蔵ＲＡＭの出力情報記憶領域にセットする。これにより、遊技球の払い出しが行われなくなる。つまり、主制御基板１３１０と払出制御基板６３３との組み合わせが作業者の作業ミスにより不適合（不整合）となっている場合において、仮に遊技者が遊技を行って遊技を進行することができても払出動作が停止した状態となっていることにより遊技者に遊技球が払い出されないようになっているた

め、遊技者にパチンコ機に何らかの不具合が発生している旨を伝えることができるし、遊技球が払い出されないパチンコ機の状態を遊技者が遊技ホールの店員等の係員へ伝えることができる。主制御基板１３１０と払出制御基板６３３との組み合わせが不適合（不整合）となっている状態を早期発見に寄与することができる。

【４３６２】

第２シリアル通信手段での比較判定で偽となった場合には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、右側遊技盤からのＩＤコード信号（右側遊技盤専用のＩＤコード信号）を取得して、分割遊技盤の組み合わせ（つまり右側遊技盤（マイクロプロセッサが搭載されていない基板）と左側遊技盤（マイクロプロセッサが搭載された周辺制御基板１５１０や主制御基板１３１０）との組み合わせ）について周辺制御ＲＯＭに予め記憶される組み合わせテーブル（図３０８）を参照して判定（比較）して不適合（不整合）であると判定したときには、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１となる図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応）として、報知表示に区分されるコマンドを、周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０２４の警告処理へ渡す。周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、ステップＳ１０２４の警告処理において、不適合（不整合）である旨の態様として、画面生成用スケジュールデータ、発光態様生成用スケジュールデータ、音生成用スケジュールデータ、及び電気的駆動源スケジュールデータ等を、周辺制御ＲＯＭから読み出して（抽出して）周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットすることにより、演出に関する各種処理を設定する。これにより、分割遊技盤５Ａの各種ＬＥＤ（遊技盤の各種ＬＥＤ）が消灯して第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲの装飾演出が行われなくなる。つまり、分割遊技盤５Ａを構成する左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが作業者の作業ミスにより不適合（不整合）となっている場合において、パチンコ機が電源投入されると、分割遊技盤５Ａの各種ＬＥＤ（遊技盤の各種ＬＥＤ）が消灯して第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲの装飾演出が行われなくなるため、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）となっている状態を早期発見に寄与することができる。

【４３６３】

Ａ３：

さらに、ＲＡＭエラーとＩＤエラーが同時に発生した場合は、ＲＡＭエラーだけの報知を行い、ＩＤエラーの報知を行わない。また、装飾ユニットでのＬＥＤのエラー報知を行わない。具体的には、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａの主制御内蔵ＲＡＭにおけるＲＡＭエラーと、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１（図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応））と、が同時に発生した場合には、ＲＡＭエラーが発生している旨を伝える報知のみ行われるのに対して、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１（図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応））が発生している旨を伝える報知が行われないようになっている。これは、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａの主制御内蔵ＲＡＭにおけるＲＡＭエラーが発生すると、主制御ＭＰＵ１３１０ａによる遊技の進行が強制的に停止される状態となるため、これを報知するため、仮に、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１（図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応））が発生していても、最重要エラーである主制御内蔵ＲＡＭにおけるＲＡＭエラーを、他のエラーの発生にかかわらず、最優先して報知するようになっている。

【４３６４】

電源投入時の所定期間内に正常ＩＤと判断した場合には、報知を行わないが、電源投入時の所定期間内に異常ＩＤと判断した場合には、状態が変更された場合に報知態様を変更し得る。異常の場合には、正常になると報知態様を変更する。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、図３０８（ｃ）の状態１：正常、つまり正常ＩＤと判断した場合には、報知を行わない（同図の対象法：なし）のに対して、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１（図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応

））、つまり、異常ＩＤと判断した場合には、このエラー対応１（ＩＤエラー１対応）の報知が維持され、同図（ｃ）の対処法：電源遮断後に適合ＩＤ品に交換後に、図３０８（ｃ）の状態１：正常、つまり正常ＩＤと判断した場合に報知が行われなくなる。つまり、電源投入時の所定期間内に左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが正常であるとして正常ＩＤと判断した場合には、その後、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせの状態を全く判定しないようになっており、仮に、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）となるようになったとしても、不適合（不整合）であるとして異常ＩＤである旨を伝える報知態様とならない。これにより、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせの判定を電源投入時の所定期間内に限定することにより、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる演出の進行への処理負荷の低減に寄与することができる。

【４３６５】

一部の報知以外は報知を終了する。具体的には、例えば、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１（図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応））、つまり、異常ＩＤと判断した場合には、周辺制御基板１５１０に実装される図示しないリアルタイムクロックＩＣの内蔵ＲＡＭに履歴情報として保存する。この場合、日時と紐付けて保存される。そして、パチンコ機１の電源を遮断して左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが正しいものを本体枠３に装着し、再びパチンコ機１が電源投入されると、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、図３０８（ｃ）の状態１：正常、つまり正常ＩＤと判断した場合には、例えば、演出表示装置又はサブ演出表示装置に「ＩＤ異常」という履歴を表示してもよいし、この履歴を所定期間又はパチンコ機１の電源が遮断されるまで表示してもよい。履歴を表示されながら、演出の進行を行うこととなる。

【４３６６】

一度でも正常に戻った場合には、再び異常になっても報知態様を変更しない。具体的には、例えば、異常な状態から正常な状態に戻すには、遊技盤を外して修正する行為が発生するため、このときにパチンコ機の電源を遮断し（落とし）周辺制御基板への電源供給が遮断され、再び遊技盤を装着して再度パチンコ機の電源を投入する必要がある。パチンコ機が電源投入され周辺制御基板への電源が供給されると、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理により演出操作ユニットのＩＤ等の確認（以下、「ＩＤ確認」と記載する場合がある）を行うことができるため、パチンコ機の電源投入時において図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理によるＩＤ確認と、パチンコ機の電源遮断時まで続く報知処理を行えば、それ以後についてはＩＤ確認や報知処理の制御をしなくても良い。

【４３６７】

つまり、パチンコ機１が電源投入されたまま任意のタイミングにおいて（パチンコ機１のシステムが起動完了して遊技の進行及び演出の進行を行うことができるようになっている状態において）、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理を、図２６７に示した周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の一処理として繰り返し行われるようにするとともに、演出操作ユニットを扉枠４の皿ユニット２００に脱着する場合には、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の一処理として繰り返し行われるＩＤ判定処理において一度でも正常ＩＤとして判断された演出操作ユニットを異常ＩＤとなる他の演出操作ユニットへ交換したとき（または、異常ＩＤの演出操作ユニットから正常ＩＤの演出操作ユニットへ交換し、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の一処理として繰り返し行われるＩＤ判定処理において一度正常ＩＤとして判断され再び異常ＩＤの演出操作ユニットへ戻したとき）には、結果的に、実際には演出操作ユニットと分割遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）となっていても、演出の進行が継続され、演出操作ユニットが異常ＩＤであるという報知が行われない。したがって、一度でも正常に戻った場合には、再び異常になっても報知態様を変更しない。

【４３６８】
Ａ４：
第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とは、コネクタ同士の接続により電気的に接続されている。具体的には、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとは、コネクタ同士である、右側遊技盤５ＡＲの右側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＲＤＲＷに実装される右側遊技盤用ドロワコネクタＲＤＲＷ，ＲＤＲＷの各端子と、左側遊技盤５ＡＬの左側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＤＲＷに実装される左側遊技盤用ドロワコネクタＬＤＲＷ，ＬＤＲＷの各端子と、によるドロワコネクタを介して、電気的に接続されている。このドロワコネクタにより、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとを合体するだけで、自動的に第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとの電気的に接続を行うことができる。
【４３６９】
［小括Ｂ］
Ｂ０：
外枠と、該外枠に開閉可能に設けられる本体枠と、該本体枠に開閉可能に設けられる扉枠と、を有する遊技枠側構成部と、該遊技枠側構成部に着脱可能に設けられる遊技盤側構成部と、を備えた遊技機であって、遊技盤側構成部は、第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とから構成されて遊技枠側構成部に固定されている。第１遊技盤側構成部は、遊技の演出を実行するマイクロプロセッサを搭載した演出制御基板を含む複数の基板で構成されている。第２遊技盤側構成部は、マイクロプロセッサを搭載していない特定基板を備えている。特定基板は、第２遊技盤側構成部であることを識別可能な固有値と、固有値を演出制御基板と信号伝達する固有値伝達手段と、を備えている。演出制御基板は、予め定めた時間内で第２遊技盤側構成部から固有値を受け取れない場合に発生する第１のエラーと、第２遊技盤側構成部から伝達される固有値が予め定めた値でない場合に発生する第２のエラーと、を報知することができるようになっている。
【４３７０】
具体的には、例えば、パチンコ機１は、遊技枠側構成部である本体枠４と遊技盤側構成部である図３０２の分割遊技盤５Ａとを備えている。分割遊技盤５Ａは、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとから構成されて遊技枠側構成部である本体枠４に固定されている。第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬは、遊技の演出を実行することができるマイクロプロセッサである周辺制御ＩＣ１５１０ａを搭載した演出制御基板である周辺制御基板１５１０を含む複数の基板（主制御基板１３１０が収容される主制御ユニット１３００、他の各種基板（例えば、各種中継基板、左側裏箱３０１０Ｌに収容される各種演出ユニットに取り付けられる、各種ＬＥＤが実装される装飾基板、駆動モータ及び駆動ソレノイド等を駆動する駆動基板など）が収容される左側の駆動基板ユニット１７００Ｌ（以下、「左側駆動基板ユニット１７００Ｌ」と記載する場合がある。））で構成されている。第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲは、マイクロプロセッサを搭載していない特定基板（各種基板（例えば、各種中継基板、右側裏箱３０１０Ｒに収容される各種演出ユニットに取り付けられる、各種ＬＥＤが実装される装飾基板、駆動モータ及び駆動ソレノイド等を駆動する駆動基板など）が収容される右側の駆動基板ユニット１７００Ｒ（以下、「右側駆動基板ユニット１７００Ｒ」と記載する場合がある。））のうち一の基板）を備えている。特定基板である各種基板のうち一の基板は、第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲであることを識別可能な固有値である自己識別符号（ＩＤ）と、固有値である自己識別符号（ＩＤ）を演出制御基板である周辺制御基板１５１０と信号伝達する固有値伝達手段である図３０５のＩＤ出力回路ＩＤＣと、を備えている。
【４３７１】
演出制御基板である周辺制御基板１５１０は、予め定めた時間内（周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップ

Ｓ１００３のＩＤ判定処理）で第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲからの固有値である自己識別符号（ＩＤ）を受け取れない場合に発生する第１のエラーである図３０８（ｃ）の状態８：未接続エラー１となる図３１０～図３１５のエラー対応７と、第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲからの固有値である自己識別符号（ＩＤ）を受け取り予め定めた値でない場合に発生する第２のエラーである図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１となる図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応）と、を報知するようになっている。

【４３７２】

つまり周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、第１のエラーである図３０８（ｃ）の状態８：未接続エラー１となる図３１０～図３１５のエラー対応７として、報知表示に区分されるコマンドを、周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０２４の警告処理へ渡す。周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、ステップＳ１０２４の警告処理において、未接続である旨の態様として、画面生成用スケジュールデータ、発光態様生成用スケジュールデータ、音生成用スケジュールデータ、及び電気的駆動源スケジュールデータ等を、周辺制御ＲＯＭから読み出して（抽出して）周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットすることにより、演出に関する各種処理を設定する。

【４３７３】

第２のエラーである図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１となる図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応）として報知表示に区分されるコマンドを、周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０２４の警告処理へ渡す。周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、ステップＳ１０２４の警告処理において、不適合（不整合）である旨の態様として、画面生成用スケジュールデータ、発光態様生成用スケジュールデータ、音生成用スケジュールデータ、及び電気的駆動源スケジュールデータ等を、周辺制御ＲＯＭから読み出して（抽出して）周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットすることにより、演出に関する各種処理を設定する。

【４３７４】

このように、第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲに備える固有値伝達手段であるＩＤ出力回路ＩＤＣから第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲであることを識別可能な固有値である自己識別符号（ＩＤ）が第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬに備える演出制御基板である周辺制御基板１５１０へ信号伝達されるようになっているため、演出制御基板である周辺制御基板１５１０は、予め定めた時間内（周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理）で固有値である自己識別符号（ＩＤ）を受け取れない場合に第１のエラーである図３０８（ｃ）の状態８：未接続エラー１となる図３１０～図３１５のエラー対応７を発生することができるし、予め定めた時間内に固有値である自己識別符号（ＩＤ）を受け取り予め定めた値でない場合に第２のエラーである図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１となる図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応）を発生することができる。これにより、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが不整合となったことを直ぐに判別することができるようになり、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが不整合の状態で不完全な演出が実行されることを抑止できる。したがって、遊技者の遊技興趣の低下を抑制することができる。

【４３７５】

Ｂ１：

遊技枠側構成部と遊技盤側構成部とを備えている。遊技盤側構成部は、第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とから構成されている。第１遊技盤側構成部は、遊技の演出を実行することができるマイクロプロセッサを搭載したサブ制御基板を含む複数の基板を備えている。第２遊技盤側構成部は、マイクロプロセッサを搭載していない基板と、第２遊技盤側構成部であることを知らしめる固有値と、固有値を送信する固有値送信手段と、を備えている。さらに、第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とは、電気的に接続され

て遊技枠側構成部に固定されている。第１遊技盤側構成部は、予め定めた時間内で第２遊技盤側構成部からの固有値を受け取れなかった場合に発生する第１のエラーと、第２遊技盤側構成部からの固有値を受け取り予め定めた値でなかった場合に発生する第２のエラーと、を備えている。

【４３７６】

具体的には、例えば、遊技枠側構成部である本体枠４と遊技盤側構成部である図３０２の分割遊技盤５Ａとを備えている。分割遊技盤５Ａは、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとから構成されている。第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬは、遊技の演出を実行することができるマイクロプロセッサである周辺制御ＩＣ１５１０ａを搭載したサブ制御基板である周辺制御基板１５１０を含む複数の基板（主制御基板１３１０が収容される主制御ユニット１３００、他の各種基板（例えば、各種中継基板、左側裏箱３０１０Ｌに収容される各種演出ユニットに取り付けられる、各種ＬＥＤが実装される装飾基板、駆動モータ及び駆動ソレノイド等を駆動する駆動基板など）が収容される左側の駆動基板ユニット１７００Ｌ（以下、「左側駆動基板ユニット１７００Ｌ」と記載する場合がある。））を備えている。第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲは、マイクロプロセッサを搭載していない基板（各種基板（例えば、各種中継基板、右側裏箱３０１０Ｒに収容される各種演出ユニットに取り付けられる、各種ＬＥＤが実装される装飾基板、駆動モータ及び駆動ソレノイド等を駆動する駆動基板など）が収容される右側の駆動基板ユニット１７００Ｒ（以下、「右側駆動基板ユニット１７００Ｒ」と記載する場合がある。））と、第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲであることを知らしめる固有値である自己識別符号（ＩＤ）と、固有値である自己識別符号（ＩＤ）を送信する固有値送信手段である図３０５のＩＤ出力回路ＩＤＣと、を備えている。

【４３７７】

さらに、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとは、電気的に接続されて遊技枠側構成部の本体枠４に固定されている。遊技盤５を本体枠４に装着する作業と、扉枠ユニットを本体枠４に開閉可能に支持される扉枠３に装着する作業と、が別々の作業となる。このため、遊技盤５を本体枠４に装着した際に、人為的なミスにより遊技盤５と扉枠ユニットとの関係（組み合わせ）が適合（整合）しない場合が起こり得る。

【４３７８】

第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬは、予め定めた時間内（周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理）で第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲからの固有値である自己識別符号（ＩＤ）を受け取れなかった場合に発生する第１のエラーである図３０８（ｃ）の状態８：未接続エラー１となる図３１０～図３１５のエラー対応７と、第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲからの固有値である自己識別符号（ＩＤ）を受け取り予め定めた値でなかった場合に発生する第２のエラーである図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１となる図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応）と、を備えている。

【４３７９】

第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬ、つまり周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、第１のエラーである図３０８（ｃ）の状態８：未接続エラー１となる図３１０～図３１５のエラー対応７として、報知表示に区分されるコマンドを、周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０２４の警告処理へ渡す。周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、ステップＳ１０２４の警告処理において、未接続である旨の態様として、画面生成用スケジュールデータ、発光態様生成用スケジュールデータ、音生成用スケジュールデータ、及び電気的駆動源スケジュールデータ等を、周辺制御ＲＯＭから読み出して（抽出して）周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットすることにより、演出に関する各種処理を設定する。

【４３８０】
第２のエラーである図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１となる図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応）として報知表示に区分されるコマンドを、周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０２４の警告処理へ渡す。周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、ステップＳ１０２４の警告処理において、不適合（不整合）である旨の態様として、画面生成用スケジュールデータ、発光態様生成用スケジュールデータ、音生成用スケジュールデータ、及び電気的駆動源スケジュールデータ等を、周辺制御ＲＯＭから読み出して（抽出して）周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットすることにより、演出に関する各種処理を設定する。
【４３８１】
このように、第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲに備える固有値送信手段であるＩＤ出力回路ＩＤＣから第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲであることを知らしめる固有値である自己識別符号（ＩＤ）が第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬへ送信されるようになっているため、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬは、予め定めた時間内（周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理）で固有値である自己識別符号（ＩＤ）を受け取れなかった場合に第１のエラーである図３０８（ｃ）の状態８：未接続エラー１となる図３１０～図３１５のエラー対応７を発生することができるし、予め定めた時間内に受け取った固有値である自己識別符号（ＩＤ）が予め定めた値でなかった場合に第２のエラーである図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１となる図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応）を発生することができる。これにより、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが不整合となったことを直ぐに判別することができるようになり、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが不整合の状態で不完全な演出が実行されることを抑止できる。したがって、遊技者の遊技興趣の低下を抑制することができる。
【４３８２】
Ｂ２：
さらに、第２のエラー（ＩＤエラー）である各種ＩＤエラー（図３０８（ｃ）に示したＩＤエラー１、ＩＤエラー２、ＩＤエラー３という単体のＩＤエラーのほかに、これらの組み合わせたＩＤエラーも含む。）は、第１のエラー（未接続エラー）である、各種未接続エラー（図３０８（ｃ）に示した未接続エラー１、未接続エラー２、未接続エラー３）よりも遊技の阻害度が高くなる。
【４３８３】
さらに、第３のエラー（磁気検出）は、一定時間後に解消されるが、第１のエラー（未接続エラー）と第２のエラー（ＩＤエラー）とは、一定時間経過してもそれぞれ解消されない。このような各種エラー報知において、第３のエラー（磁気検出）は、いわゆる磁石ゴトの行為を検出してその行為を報知するものであるため、その行為を検出して一定時間経過後に解消するのに対して、第１のエラー（未接続エラー）と第２のエラー（ＩＤエラー）とは、作業者による作業ミスであり、第１のエラー（未接続エラー）であれば電源遮断後に構造部材同士の嵌め合わせやドロワコネクタの接続をしっかり確認しなければならないし、また第２のエラー（ＩＤエラー）であれば電源遮断後に適合ＩＤ品に交換しなければならいため、一定時間経過してもそれぞれ解消されないようになっている。
【４３８４】
さらに、第２のエラー（ＩＤエラー）発生時は、第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲの装飾演出を行わない。これは、第２のエラー（ＩＤエラー）は、作業者による作業ミスであり、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとの組み合わせが不適合（不整合）となっているため、この状態で第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲの装飾演出を行うと、右側遊技盤５ＡＲが電気的に故障するおそれがあるためである。

【４３８５】
さらに、第２のエラー（ＩＤエラー）発生時に、第３のエラー（磁気検出）が発生した場合でも、第２のエラー（ＩＤエラー）発生警告音のままである。つまり、第２のエラー（ＩＤエラー）発生時に、第３のエラー（磁気検出）が発生した場合でも、図３１２や図３１５に示したように、エラー対応１（ＩＤエラー１対応）における音声では、エラー報知音とアナウンス音が繰り返し流すようになっている。これは、第３のエラー（磁気検出）は、いわゆる磁石ゴトの行為を検出してその行為を報知するものであるため、その行為を検出して一定時間経過後に解消するのに対して、第２のエラー（ＩＤエラー）は、作業者による作業ミスであり、第２のエラー（ＩＤエラー）であれば電源遮断後に適合ＩＤ品に交換しなければならいため、一定時間経過しても第２のエラー（ＩＤエラー）発生警告音のままとなる。
【４３８６】
Ｂ３：
さらに、ＲＡＭエラーとＩＤエラーが同時に発生した場合は、ＲＡＭエラーだけの報知を行い、ＩＤエラーの報知を行わない。また、装飾ユニットでのＬＥＤのエラー報知を行わない。具体的には、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａの主制御内蔵ＲＡＭにおけるＲＡＭエラーと、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１（図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応））と、が同時に発生した場合には、ＲＡＭエラーが発生している旨を伝える報知のみ行われるのに対して、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１（図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応））が発生している旨を伝える報知が行われないようになっている。これは、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａの主制御内蔵ＲＡＭにおけるＲＡＭエラーが発生すると、主制御ＭＰＵ１３１０ａによる遊技の進行が強制的に停止される状態となるため、これを報知するため、仮に、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１（図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応））が発生していても、最重要エラーである主制御内蔵ＲＡＭにおけるＲＡＭエラーを、他のエラーの発生にかかわらず、最優先して報知するようになっている。
【４３８７】
電源投入時の所定期間内に正常ＩＤと判断した場合には、報知を行わないが、電源投入時の所定期間内に異常ＩＤと判断した場合には、状態が変更された場合に報知態様を変更し得る。異常の場合には、正常になると報知態様を変更する。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、図３０８（ｃ）の状態１：正常、つまり正常ＩＤと判断した場合には、報知を行わない（同図の対象法：なし）のに対して、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１（図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応））、つまり、異常ＩＤと判断した場合には、このエラー対応１（ＩＤエラー１対応）の報知が維持され、同図（ｃ）の対処法：電源遮断後に適合ＩＤ品に交換後に、図３０８（ｃ）の状態１：正常、つまり正常ＩＤと判断した場合に報知が行われなくなる。つまり、電源投入時の所定期間内に左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが正常であるとして正常ＩＤと判断した場合には、その後、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせの状態を全く判定しないようになっており、仮に、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）となるようになったとしても、不適合（不整合）であるとして異常ＩＤである旨を伝える報知態様とならない。これにより、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせの判定を電源投入時の所定期間内に限定することにより、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる演出の進行への処理負荷の低減に寄与することができる。
【４３８８】
一部の報知以外は報知を終了する。具体的には、例えば、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１（図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応））、つまり、異常ＩＤと判断した場合には、周辺制御基板１５１０に実装される図示しないリアルタイムクロックＩＣの内蔵ＲＡＭに履歴

情報として保存する。この場合、日時と紐付けて保存される。そして、パチンコ機１の電源を遮断して左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが正しいものを本体枠３に装着し、再びパチンコ機１が電源投入されると、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、図３０８（ｃ）の状態１：正常、つまり正常ＩＤと判断した場合には、例えば、演出表示装置又はサブ演出表示装置に「ＩＤ異常」という履歴を表示してもよいし、この履歴を所定期間又はパチンコ機１の電源が遮断されるまで表示してもよい。履歴を表示されながら、演出の進行を行うこととなる。

【４３８９】

一度でも正常に戻った場合には、再び異常になっても報知態様を変更しない。具体的には、例えば、異常な状態から正常な状態に戻すには、遊技盤を外して修正する行為が発生するため、このときにパチンコ機の電源を遮断し（落とし）周辺制御基板への電源供給が遮断され、再び遊技盤を装着して再度パチンコ機の電源を投入する必要がある。パチンコ機が電源投入され周辺制御基板への電源が供給されると、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理により演出操作ユニットのＩＤ等の確認（以下、「ＩＤ確認」と記載する場合がある）を行うことができるため、パチンコ機の電源投入時において図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理によるＩＤ確認と、パチンコ機の電源遮断時まで続く報知処理を行えば、それ以後についてはＩＤ確認や報知処理の制御をしなくても良い。

【４３９０】

つまり、パチンコ機１が電源投入されたまま任意のタイミングにおいて（パチンコ機１のシステムが起動完了して遊技の進行及び演出の進行を行うことができるようになっている状態において）、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理を、図２６７に示した周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の一処理として繰り返し行われるようにするとともに、演出操作ユニットを扉枠４の皿ユニット２００に脱着する場合には、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の一処理として繰り返し行われるＩＤ判定処理において一度でも正常ＩＤとして判断された演出操作ユニットを異常ＩＤとなる他の演出操作ユニットへ交換したとき（または、異常ＩＤの演出操作ユニットから正常ＩＤの演出操作ユニットへ交換し、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の一処理として繰り返し行われるＩＤ判定処理において一度正常ＩＤとして判断され再び異常ＩＤの演出操作ユニットへ戻したとき）には、結果的に、実際には演出操作ユニットと分割遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）となっていても、演出の進行が継続され、演出操作ユニットが異常ＩＤであるという報知が行われない。したがって、一度でも正常に戻った場合には、再び異常になっても報知態様を変更しない。

【４３９１】

Ｂ４：

第３のエラー（磁気検出）時、第４図柄であるサブ機能表示ユニット２２５０は、所定のＬＥＤが点灯して変動する。具体的には、第３のエラー（磁気検出）時、各種ＩＤエラー（図３０８（ｃ）に示したＩＤエラー１、ＩＤエラー２、ＩＤエラー３という単体のＩＤエラーのほかに、これらの組み合わせたＩＤエラーも含む。）が発生した状態においては、図３１２や図３１５に示したように、第４図柄であるサブ機能表示ユニット２２５０は、所定のＬＥＤが点灯して変動する。つまり、第３のエラー（磁気検出）時、各種ＩＤエラー（図３０８（ｃ）に示したＩＤエラー１、ＩＤエラー２、ＩＤエラー３という単体のＩＤエラーのほかに、これらの組み合わせたＩＤエラーも含む。）が発生した状態においても、サブ機能表示ユニット２２５０の所定のＬＥＤが点灯して変動することにより、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる演出の進行が継続されるようになっている。

【４３９２】

第２のエラー（ＩＤエラー）時、変動させても変動装飾音は鳴らない。具体的には、第２のエラー（ＩＤエラー）である各種ＩＤエラー（図３０８（ｃ）に示したＩＤエラー１

、ＩＤエラー２、ＩＤエラー３という単体のＩＤエラーのほかに、これらの組み合わせたＩＤエラーも含む。）が発生した時、図３１１や図３１４に示したように、遊技が進行して機能表示ユニット１４００による図柄が変動されても、エラー報知音やアナウンス音が繰り返し流れ、演出による変動装飾音は流れない。これは、第２のエラー（ＩＤエラー）は、作業者による作業ミスであり、第２のエラー（ＩＤエラー）であれば電源遮断後に適合ＩＤ品に交換しなければならいため、変動装飾音を流さずに第２のエラー（ＩＤエラー）発生警告音のままとなる。

【４３９３】

磁気センサーエラーである第３のエラー（磁気検出）は、一定時間経過すると解消されるが、装飾ユニットとしての右側遊技盤５ＡＲの未実装エラー（つまり未接続エラー）と、装飾ユニットとしての右側遊技盤５ＡＲのＩＤエラーと、は一定時間経過しても解消されない。これらのエラー報知は、磁気センサーエラーは、いわゆる磁石ゴトの行為を検出してその行為を報知するものであるため、その行為を検出して一定時間経過後に解消するのに対して、未接続エラーとＩＤエラーとは、作業者による作業ミスであり、未接続エラーであれば電源遮断後に構造部材同士の嵌め合わせやドロワコネクタの接続をしっかり確認しなければならないし、またＩＤエラーであれば電源遮断後に適合ＩＤ品に交換しなければならいため、一定時間経過してもそれぞれ解消されないようになっている。

【４３９４】

［小括Ｃ］

Ｃ０：

外枠と、該外枠に開閉可能に設けられる本体枠と、該本体枠に開閉可能に設けられる扉枠と、を有する遊技枠側構成部と、該遊技枠側構成部に着脱可能に設けられる遊技盤側構成部と、を備えた遊技機であって、遊技盤側構成部は、第１遊技盤側構成部と複数の第２遊技盤側構成部とから構成されて遊技枠側構成部に固定されている。第１遊技盤側構成部は、遊技の演出を実行するマイクロプロセッサを搭載した演出制御基板を含む複数の基板で構成されている。第２遊技盤側構成部は、マイクロプロセッサを搭載していない特定基板を備えている。特定基板は、第２遊技盤側構成部であることを識別可能な固有値と、固有値を前記演出制御基板と信号伝達する固有値伝達手段と、を備えている。複数の第２遊技盤側構成部は、それぞれ異なった固有値を持っており、少なくとも一の第２遊技盤側構成部の固有値が予め定められた値ではないと判断された場合には複数の第２遊技盤側構成部の電源投入動作は正常時動作と異なる態様となるようになっている。

【４３９５】

具体的には、例えば、パチンコ機１は、遊技枠側構成部である本体枠４と遊技盤側構成部である図３０２の分割遊技盤５Ａとを備えている。分割遊技盤５Ａは、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと複数の第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲ（図３０７の右上側遊技盤５ＡＲＴ及び図３０７の右下側遊技盤５ＡＲＵ）とから構成されて遊技枠側構成部である本体枠４に固定されている。第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬは、遊技の演出を実行することができるマイクロプロセッサである周辺制御ＩＣ１５１０ａを搭載した演出制御基板である周辺制御基板１５１０を含む複数の基板（主制御基板１３１０が収容される主制御ユニット１３００、他の各種基板（例えば、各種中継基板、左側裏箱３０１０Ｌに収容される各種演出ユニットに取り付けられる、各種ＬＥＤが実装される装飾基板、駆動モータ及び駆動ソレノイド等を駆動する駆動基板など）が収容される左側の駆動基板ユニット１７００Ｌ（以下、「左側駆動基板ユニット１７００Ｌ」と記載する場合がある。））で構成されている。第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲは、マイクロプロセッサを搭載していない特定基板（各種基板（例えば、各種中継基板、右側裏箱３０１０Ｒに収容される各種演出ユニットに取り付けられる、各種ＬＥＤが実装される装飾基板、駆動モータ及び駆動ソレノイド等を駆動する駆動基板など）が収容される右側の駆動基板ユニット１７００Ｒ（以下、「右側駆動基板ユニット１７００Ｒ」と記載する場合がある。））のうち特定の基板）を備えている。特定基板である各種基板のうち特定の基板は、第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲであることを識別可能な

固有値である自己識別符号（ＩＤ）と、固有値である自己識別符号（ＩＤ）を演出制御基板である周辺制御基板１５１０と信号伝達する固有値伝達手段である図３０７の右側遊技盤５ＡＲを構成する右上側遊技盤５ＡＲＴのＩＤ出力回路ＩＤＣＴ及び右側遊技盤５ＡＲを構成する右下側遊技盤５ＡＲＵのＩＤ出力回路ＩＤＣＵを備えている。

【４３９６】

本体枠４に開閉可能に支持される扉枠３には、扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等の扉枠ユニット（以下、「扉枠ユニット」と記載する場合がある。）が装着されている。

【４３９７】

さらに、複数の第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲは、図３０７に示したように、右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとから構成されて複数あり、それぞれ異なった固有値を持っている。周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａにより、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理）において、右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとのうち、少なくとも一方の固有値である自己識別符号（右上側遊技盤５ＡＲＴのＩＤ：１１１１００００Ｂ、右下側遊技盤５ＡＲＵのＩＤ：１１１１１０００Ｂ）が予め定められた値ではないと判断された場合には、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１となる図３１０や図３１３のエラー対応１（ＩＤエラー１対応）となり、複数の第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲの電源投入動作は正常時動作（点灯、点滅、階調点灯など）と異なる態様となり、分割遊技盤５ＡＲの各種ＬＥＤ（遊技盤の各種ＬＥＤ）が消灯するため、第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲが消灯する。

【４３９８】

このように、複数の第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲを構成する右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとにそれぞれ備える固有値伝達手段であるＩＤ出力回路ＩＤＣＴとＩＤ出力回路ＩＤＣＵとから第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲであることを識別可能な固有値である自己識別符号（ＩＤ）が第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬに備える演出制御基板である周辺制御基板１５１０へ信号伝達されるようになっている。複数の第２遊技盤側構成部のうち、少なくとも一の第２遊技盤側構成部の固有値である自己識別符号（右上側遊技盤５ＡＲＴのＩＤ：１１１１００００Ｂ、右下側遊技盤５ＡＲＵのＩＤ：１１１１１０００Ｂ）が予め定められた値ではないと判断された場合には、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１となる図３１０や図３１３のエラー対応１（ＩＤエラー１対応）となり、複数の第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲの電源投入動作が正常時動作（点灯、点滅、階調点灯など）と異なる態様（消灯）となる。これにより、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと複数の第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが不整合となったこと（右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとの組み合わせが不整合となったことも含む。）を直ぐに判別することができるようになり、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと複数の第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが不整合の状態（右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとの組み合わせが不整合となったことも含む。）で不完全な演出が実行されることを抑止できる。したがって、遊技者の遊技興趣の低下を抑制することができる。

【４３９９】

Ｃ１：

外枠と、該外枠に開閉可能に設けられる本体枠と、該本体枠に開閉可能に設けられる扉枠と、を有する遊技枠側構成部と、該遊技枠側構成部に着脱可能に設けられる遊技盤側構成部と、を備えている。遊技盤側構成部は、第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とから構成されている。第１遊技盤側構成部は、遊技の演出を実行することができるマイクロプロセッサを搭載したサブ制御基板を含む複数の基板を備えている。第２遊技盤側構成部は、マイクロプロセッサを搭載していない基板と、第２遊技盤側構成部であることを知らしめる固有値と、固有値を送信する固有値送信手段と、を備えている。さらに、第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とは、電気的に接続されて遊技枠に固定されている。

第２遊技盤側構成部は、複数あり、それぞれ異なった固有値を持っており、少なくとも一の第２遊技盤側構成部の固有値が予め定められた値ではないと判断された場合には第２遊技盤側構成部の電源投入動作は正常時動作と異なる態様となる。

【４４００】

具体的には、例えば、遊技枠側構成部である本体枠４と遊技盤側構成部である図３０２の分割遊技盤５Ａとを備えている。分割遊技盤５Ａは、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとから構成されている。第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬは、遊技の演出を実行することができるマイクロプロセッサである周辺制御ＩＣ１５１０ａを搭載したサブ制御基板である周辺制御基板１５１０を含む複数の基板（主制御基板１３１０が収容される主制御ユニット１３００、他の各種基板（例えば、各種中継基板、左側裏箱３０１０Ｌに収容される各種演出ユニットに取り付けられる、各種ＬＥＤが実装される装飾基板、駆動モータ及び駆動ソレノイド等を駆動する駆動基板など）が収容される左側の駆動基板ユニット１７００Ｌ（以下、「左側駆動基板ユニット１７００Ｌ」と記載する場合がある。））を備えている。第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲは、マイクロプロセッサを搭載していない基板（各種基板（例えば、各種中継基板、右側裏箱３０１０Ｒに収容される各種演出ユニットに取り付けられる、各種ＬＥＤが実装される装飾基板、駆動モータ及び駆動ソレノイド等を駆動する駆動基板など）が収容される右側の駆動基板ユニット１７００Ｒ（以下、「右側駆動基板ユニット１７００Ｒ」と記載する場合がある。））と、第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲであることを知らしめる固有値である自己識別符号（ＩＤ）と、固有値である自己識別符号（ＩＤ）を送信する固有値送信手段である図３０７の右側遊技盤５ＡＲを構成する右上側遊技盤５ＡＲＴのＩＤ出力回路ＩＤＣＴ及び右側遊技盤５ＡＲを構成する右下側遊技盤５ＡＲＵのＩＤ出力回路ＩＤＣＵを備えている。

【４４０１】

さらに、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとは、電気的に接続されて遊技枠である本体枠４に固定されている。本体枠４に開閉可能に支持される扉枠３には、扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等の扉枠ユニット（以下、「扉枠ユニット」と記載する場合がある。）が装着されている。遊技盤５を本体枠４に装着する作業と、扉枠ユニットを本体枠４に開閉可能に支持される扉枠３に装着する作業と、が別々の作業となる。このため、遊技盤５を本体枠４に装着した際に、人為的なミスにより遊技盤５と扉枠ユニットとの関係（組み合わせ）が適合（整合）しない場合が起こり得る。

【４４０２】

さらに、第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲは、図３０７に示したように、右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとから構成されて複数あり、それぞれ異なった固有値を持っている。周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａにより、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理）において、右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとのうち、少なくとも一方の固有値である自己識別符号（右上側遊技盤５ＡＲＴのＩＤ：１１１１００００Ｂ、右下側遊技盤５ＡＲＵのＩＤ：１１１１１０００Ｂ）が予め定められた値ではないと判断された場合には、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１となる図３１０や図３１３のエラー対応１（ＩＤエラー１対応）となり、第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲの電源投入動作は正常時動作（点灯、点滅、階調点灯など）と異なる態様となり、分割遊技盤５ＡＲの各種ＬＥＤ（遊技盤の各種ＬＥＤ）が消灯するため、第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲが消灯する。

【４４０３】

このように、複数の第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲを構成する右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとにそれぞれ備える固有値送信手段であるＩＤ出力回路ＩＤＣＴとＩＤ出力回路ＩＤＣＵとから第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲで

あることを知らしめる固有値である自己識別符号（ＩＤ）が第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬへそれぞれ送信されるようになっている。複数の第２遊技盤側構成部のうち、少なくとも一の第２遊技盤側構成部の固有値である自己識別符号（右上側遊技盤５ＡＲＴのＩＤ：１１１１０００００Ｂ、右下側遊技盤５ＡＲＵのＩＤ：１１１１１０００Ｂ）が予め定められた値ではないと判断された場合には、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１となる図３１０や図３１３のエラー対応１（ＩＤエラー１対応）となり、複数の第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲの電源投入動作が正常時動作（点灯、点滅、階調点灯など）と異なる態様（消灯）となる。これにより、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと複数の第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが不整合となったこと（右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとの組み合わせが不整合となったことも含む。）を直ぐに判別することができるようになり、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと複数の第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが不整合の状態（右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとの組み合わせが不整合となったことも含む。）で不完全な演出が実行されることを抑止できる。したがって、遊技者の遊技興趣の低下を抑制することができる。

【４４０４】

Ｃ２：

さらに、少なくとも一の第２遊技盤側構成部の固有値が予め定められたもの（予め定めた値）ではないと判断された場合には、固有値が正常と判断された他の第２遊技盤側構成部においても電源投入動作は正常時動作と異なる態様となる。具体的には、右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとのうち、例えば、右上側遊技盤５ＡＲＴの自己識別符号（ＩＤ）が右上側遊技盤５ＡＲＴに対する値（右上側遊技盤用判定値）と一致していない場合には、右下側遊技盤５ＡＲＵの自己識別符号（ＩＤ）が右下側遊技盤５ＡＲＵに対する値（右下側遊技盤用判定値）と一致している場合であっても、右上側遊技盤５ＡＲＴの電源投入動作として正常時動作（点灯、点滅、階調点灯など）と異なる右上側遊技盤５ＡＲＴの各種ＬＥＤを消灯するとともに、右下側遊技盤５ＡＲＵの電源投入動作として正常時動作（点灯、点滅、階調点灯など）と異なる右下側遊技盤５ＡＲＵの各種ＬＥＤを消灯する。また、例えば、右下側遊技盤５ＡＲＵの自己識別符号（ＩＤ）が右下側遊技盤５ＡＲＵに対する値（右下側遊技盤用判定値）と一致していない場合には、右上遊技盤５ＡＲＴの自己識別符号（ＩＤ）が右上側遊技盤５ＡＲＴに対する値（右上側遊技盤用判定値）と一致している場合であっても、右下側遊技盤５ＡＲＵの電源投入動作として正常時動作（点灯、点滅、階調点灯など）と異なる右下側遊技盤５ＡＲＵの各種ＬＥＤを消灯するとともに、右上側遊技盤５ＡＲＴの電源投入動作として正常時動作（点灯、点滅、階調点灯など）と異なる右上側遊技盤５ＡＲＴの各種ＬＥＤを消灯する。

【４４０５】

つまり、右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとのうち、一方の自己識別符号（ＩＤ）が予め定められたもの（予め定めた値：右上側遊技盤用判定又は右下側遊技盤用判定）と一致していない場合には、左側遊技盤５ＡＬとの組み合わせとして右上側遊技盤又は右下側遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）となっているという作業者による作業ミスであり、電源遮断後に適合ＩＤ品に交換しなければならいため、正常時動作と異なる態様としている。

【４４０６】

なお、右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとのうち、少なくとも一方の固有値である自己識別符号（右上側遊技盤５ＡＲＴのＩＤ：１１１１０００００Ｂ、右下側遊技盤５ＡＲＵのＩＤ：１１１１１０００Ｂ）が予め定められた値ではないと判断された場合には、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１となる図３１０や図３１３のエラー対応１（ＩＤエラー１対応）となり、第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲの電源投入動作は正常時動作（点灯、点滅、階調点灯など）と異なる態様となり、分割遊技盤５ＡＲの各種ＬＥＤ（遊技盤の各種ＬＥＤ）が消灯するようになっていたが、右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとのうち、例えば、右上側遊技盤５ＡＲＴの自己識別符号（Ｉ

Ｄ）が右上側遊技盤５ＡＲＴに対する値（右上側遊技盤用判定値）と一致していない場合には、右上側遊技盤５ＡＲＴの電源投入動作として正常時動作（点灯、点滅、階調点灯など）と異なる右上側遊技盤５ＡＲＴの各種ＬＥＤを消灯する一方、右下側遊技盤５ＡＲＴの電源投入動作として正常時動作（点灯、点滅、階調点灯など）とし、右下側遊技盤５ＡＲＵの自己識別符号（ＩＤ）が右下側遊技盤５ＡＲＵに対する値（右下側遊技盤用判定値）と一致していない場合には、右下側遊技盤５ＡＲＵの電源投入動作として正常時動作（点灯、点滅、階調点灯など）と異なる右下側遊技盤５ＡＲＵの各種ＬＥＤを消灯する一方、右上側遊技盤５ＡＲＵの電源投入動作として正常時動作（点灯、点滅、階調点灯など）としてもよい。こうすれば、不適合（不整合）となっている部分と、適合（整合）となっている部分と、を伝えることができる。

【４４０７】

第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬは、予め定めた時間内（周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理）で第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲからの固有値である自己識別符号（ＩＤ）を受け取れなかった場合に発生する第１のエラーである図３０８（ｃ）の状態８：未接続エラー１となる図３１０～図３１５のエラー対応７と、第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲからの固有値である自己識別符号（ＩＤ）を受け取り予め定めた値でなかった場合に発生する第２のエラーである図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１となる図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応）と、を備えている。

【４４０８】

第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬ、つまり周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、第１のエラーである図３０８（ｃ）の状態８：未接続エラー１となる図３１０～図３１５のエラー対応７として、報知表示に区分されるコマンドを、周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０２４の警告処理へ渡す。周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、ステップＳ１０２４の警告処理において、未接続である旨の態様として、画面生成用スケジュールデータ、発光態様生成用スケジュールデータ、音生成用スケジュールデータ、及び電気的駆動源スケジュールデータ等を、周辺制御ＲＯＭから読み出して（抽出して）周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットすることにより、演出に関する各種処理を設定する。

【４４０９】

第２のエラーである図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１となる図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応）として報知表示に区分されるコマンドを、周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０２４の警告処理へ渡す。周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、ステップＳ１０２４の警告処理において、不適合（不整合）である旨の態様として、画面生成用スケジュールデータ、発光態様生成用スケジュールデータ、音生成用スケジュールデータ、及び電気的駆動源スケジュールデータ等を、周辺制御ＲＯＭから読み出して（抽出して）周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットすることにより、演出に関する各種処理を設定する。

【４４１０】

このように、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬは、予め定めた時間内（周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理）で固有値である自己識別符号（ＩＤ）を受け取れなかった場合に第１のエラーである図３０８（ｃ）の状態８：未接続エラー１となる図３１０～図３１５のエラー対応７を発生することができるし、予め定めた時間内に受け取った固有値である自己識別符号（ＩＤ）が予め定めた値でなかった場合に第２のエラーである図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１となる図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応）を発生することができる。

【４４１１】

さらに、第２のエラー（ＩＤエラー）である各種ＩＤエラー（図３０８（ｃ）に示した

ＩＤエラー１、ＩＤエラー２、ＩＤエラー３という単体のＩＤエラーのほかに、これらの組み合わせたＩＤエラーも含む。）は、第１のエラー（未接続エラー）である、各種未接続エラー（図３０８（ｃ）に示した未接続エラー１、未接続エラー２、未接続エラー３）よりも遊技の阻害度が高くなる。

【４４１２】

さらに、第３のエラー（磁気検出）は、一定時間後に解消されるが、第１のエラー（未接続エラー）と第２のエラー（ＩＤエラー）とは、一定時間経過してもそれぞれ解消されない。このような各種エラー報知において、第３のエラー（磁気検出）は、いわゆる磁石ゴトの行為を検出してその行為を報知するものであるため、その行為を検出して一定時間経過後に解消するのに対して、第１のエラー（未接続エラー）と第２のエラー（ＩＤエラー）とは、作業者による作業ミスであり、第１のエラー（未接続エラー）であれば電源遮断後に構造部材同士の嵌め合わせやドロワコネクタの接続をしっかり確認しなければならないし、また第２のエラー（ＩＤエラー）であれば電源遮断後に適合ＩＤ品に交換しなければならいため、一定時間経過してもそれぞれ解消されないようになっている。

【４４１３】

さらに、第２のエラー（ＩＤエラー）発生時は、第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲの装飾演出を行わない。これは、第２のエラー（ＩＤエラー）は、作業者による作業ミスであり、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとの組み合わせが不適合（不整合）となっているため、この状態で第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲの装飾演出を行うと、右側遊技盤５ＡＲが電気的に故障するおそれがあるためである。

【４４１４】

さらに、第２のエラー（ＩＤエラー）発生時に、第３のエラー（磁気検出）が発生した場合でも第２のエラー（ＩＤエラー）発生警告音のままである。つまり、第２のエラー（ＩＤエラー）発生時に、第３のエラー（磁気検出）が発生した場合でも、図３１２や図３１５に示したように、エラー対応１（ＩＤエラー１対応）における音声では、エラー報知音とアナウンス音が繰り返し流すようになっている。これは、第３のエラー（磁気検出）は、いわゆる磁石ゴトの行為を検出してその行為を報知するものであるため、その行為を検出して一定時間経過後に解消するのに対して、第２のエラー（ＩＤエラー）は、作業者による作業ミスであり、第２のエラー（ＩＤエラー）であれば電源遮断後に適合ＩＤ品に交換しなければならいため、一定時間経過しても第２のエラー（ＩＤエラー）発生警告音のままとなる。

【４４１５】

Ｃ３：

さらに、ＲＡＭエラーとＩＤエラーが同時に発生した場合は、ＲＡＭエラーだけの報知を行い、ＩＤエラーの報知を行わない。また、装飾ユニットでのＬＥＤのエラー報知を行わない。具体的には、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａの主制御内蔵ＲＡＭにおけるＲＡＭエラーと、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１（図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応））と、が同時に発生した場合には、ＲＡＭエラーが発生している旨を伝える報知のみ行われるのに対して、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１（図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応））が発生している旨を伝える報知が行われないようになっている。これは、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａの主制御内蔵ＲＡＭにおけるＲＡＭエラーが発生すると、主制御ＭＰＵ１３１０ａによる遊技の進行が強制的に停止される状態となるため、これを報知するため、仮に、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１（図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応））が発生していても、最重要エラーである主制御内蔵ＲＡＭにおけるＲＡＭエラーを、他のエラーの発生にかかわらず、最優先して報知するようになっている。

【４４１６】

電源投入時の所定期間内に正常ＩＤと判断した場合には、報知を行わないが、電源投入時の所定期間内に異常ＩＤと判断した場合には、状態が変更された場合に報知態様を変更

し得る。異常の場合には、正常になると報知態様を変更する。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、図３０８（ｃ）の状態１：正常、つまり正常ＩＤと判断した場合には、報知を行わない（同図の対象法：なし）のに対して、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１（図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応））、つまり、異常ＩＤと判断した場合には、このエラー対応１（ＩＤエラー１対応）の報知が維持され、同図（ｃ）の対処法：電源遮断後に適合ＩＤ品に交換後に、図３０８（ｃ）の状態１：正常、つまり正常ＩＤと判断した場合に報知が行われなくなる。つまり、電源投入時の所定期間内に左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが正常であるとして正常ＩＤと判断した場合には、その後、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせの状態を全く判定しないようになっており、仮に、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）となるようになったとしても、不適合（不整合）であるとして異常ＩＤである旨を伝える報知態様とならない。これにより、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせの判定を電源投入時の所定期間内に限定することにより、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる演出の進行への処理負荷の低減に寄与することができる。

【４４１７】

一部の報知以外は報知を終了する。具体的には、例えば、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１（図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応））、つまり、異常ＩＤと判断した場合には、周辺制御基板１５１０に実装される図示しないリアルタイムクロックＩＣの内蔵ＲＡＭに履歴情報として保存する。この場合、日時と紐付けて保存される。そして、パチンコ機１の電源を遮断して左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが正しいものを本体枠３に装着し、再びパチンコ機１が電源投入されると、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、図３０８（ｃ）の状態１：正常、つまり正常ＩＤと判断した場合には、例えば、演出表示装置又はサブ演出表示装置に「ＩＤ異常」という履歴を表示してもよいし、この履歴を所定期間又はパチンコ機１の電源が遮断されるまで表示してもよい。履歴を表示されながら、演出の進行を行うこととなる。

【４４１８】

一度でも正常に戻った場合には、再び異常になっても報知態様を変更しない。具体的には、例えば、異常な状態から正常な状態に戻すには、遊技盤を外して修正する行為が発生するため、このときにパチンコ機の電源を遮断し（落とし）周辺制御基板への電源供給が遮断され、再び遊技盤を装着して再度パチンコ機の電源を投入する必要がある。パチンコ機が電源投入され周辺制御基板への電源が供給されると、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理により演出操作ユニットのＩＤ等の確認（以下、「ＩＤ確認」と記載する場合がある）を行うことができるため、パチンコ機の電源投入時において図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理によるＩＤ確認と、パチンコ機の電源遮断時まで続く報知処理を行えば、それ以後についてはＩＤ確認や報知処理の制御をしなくても良い。

【４４１９】

つまり、パチンコ機１が電源投入されたまま任意のタイミングにおいて（パチンコ機１のシステムが起動完了して遊技の進行及び演出の進行を行うことができるようになっている状態において）、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理を、図２６７に示した周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の一処理として繰り返し行われるようにするとともに、演出操作ユニットを扉枠４の皿ユニット２００に脱着する場合には、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の一処理として繰り返し行われるＩＤ判定処理において一度でも正常ＩＤとして判断された演出操作ユニットを異常ＩＤとなる他の演出操作ユニットへ交換したとき（または、異常ＩＤの演出操作ユニットから正常ＩＤの演出操作ユニットへ交換し、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の一処理と

して繰り返し行われるＩＤ判定処理において一度正常ＩＤとして判断され再び異常ＩＤの演出操作ユニットへ戻したとき）には、結果的に、実際には演出操作ユニットと分割遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）となっていても、演出の進行が継続され、演出操作ユニットが異常ＩＤであるという報知が行われない。したがって、一度でも正常に戻った場合には、再び異常になっても報知態様を変更しない。

【４４２０】

［小括Ｄ］

Ｄ０：

外枠と、該外枠に開閉可能に設けられる本体枠と、該本体枠に開閉可能に設けられる扉枠と、を有する遊技枠側構成部と、該遊技枠側構成部に着脱可能に設けられる遊技盤側構成部と、を備えた遊技機であって、遊技盤側構成部は、第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とから構成されている。第１遊技盤側構成部は、遊技の演出を実行するとともに外部との信号の送受信を行うためのシリアル通信を実行可能な演出制御基板を備えている。第２遊技盤側構成部は、発光体と、発光体を駆動すると共にシリアル通信から装飾データを受信可能な装飾駆動手段と、装飾駆動手段に対し固有に割り振られた第２ＩＤコードと、固有に割り振られた第１ＩＤコードと、を有している。演出制御基板と接続されるシリアル通信ラインの少なくとも一つは、シリアル通信データ内に、第１ＩＤコードと第２ＩＤコードとが含まれるようになっている。

【４４２１】

具体的には、例えば、遊技枠側構成部としての本体枠４と遊技盤側構成部である遊技盤５とを備えている。本体枠４に開閉可能に支持される扉枠３には、扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等の扉枠ユニット（以下、「扉枠ユニット」と記載する場合がある。）が装着されている。遊技盤５と扉枠ユニットとの組み合わせには適合（整合）／不適合（不整合）があるため、扉枠ユニットが遊技盤５の構成部材として取り扱われる場合がある。つまり、本体枠４に設けられる遊技盤側構成部としては、マイクロプロセッサが搭載される第１遊技盤側構成部である遊技盤５と、マイクロプロセッサが搭載されない第２遊技盤側構成部である特定の扉枠ユニット（扉枠ユニットのうちの１つ又は複数（全部でもよい）の組み合わせ）と、から構成され、遊技盤５が本体枠４に装着されているとともに、扉枠ユニットが本体枠４に開閉可能に支持される扉枠３に装着されている。ここでは、扉枠ユニットが遊技盤５の構成部材として取り扱われる場合として遊技盤５としては、第１遊技盤側構成部である遊技盤５と第２遊技盤側構成部である特定の扉ユニットとから構成されている。第１遊技盤側構成部である遊技盤５は、遊技の演出を実行するとともに外部との信号の送受信を行うためのシリアル通信を実行可能な演出制御基板である周辺制御基板１５１０を備えている。第２遊技盤側構成部である特定の扉ユニットは、発光体である各種ＬＥＤと、発光体である各種ＬＥＤを駆動すると共にシリアル通信から装飾データを受信可能な装飾駆動手段である図３１６の枠側装飾基板ＷＫＢに実装されるＬＥＤドライバＷＩＤＣａと、固有に割り振られた第１ＩＤコードと、装飾駆動手段である図３１６の枠側装飾基板ＷＫＢに実装されるＬＥＤドライバＷＩＤＣａに対し固有に割り振られた第２ＩＤコードと、を有している。

【４４２２】

装飾駆動手段である枠側装飾基板ＷＫＢに実装されるＬＥＤドライバＷＩＤＣａは、固有に割り振られた第１ＩＤコードである図３１６の枠側装飾基板ＷＫＢに実装されるアドレス設定回路ＷＩＤＣｄにより設定される設定値６４を持っている。第２遊技盤側構成部である特定の扉ユニットは、固有に割り振られた第２ＩＤコードである図３１６の枠側装飾基板ＷＫＢに実装されるコンパレータ回路ＷＩＤＣｂの８本の設定端子であるＱ０端子～Ｑ７端子が＋５Ｖまたはグランド（ＧＮＤ、回路グランド）にそれぞれ電気的に接続された８ビットの情報：１１１１０００００Ｂを持っている。演出制御基板である周辺制御基板１５１０と接続されるシリアル通信ラインは、複数ある（例えば、周辺制御基板１５１０と遊技盤５内の各種基板や周辺制御基板１５１０と扉枠ユニットなど）。演出制御基板

である周辺制御基板１５１０と接続されるシリアル通信ラインの少なくとも一つは、シリアル通信データ内に、第１ＩＤコードである枠側装飾基板ＷＫＢに実装されるアドレス設定回路ＷＩＤＣｄにより設定される設定値６４（ＬＥＤドライバＷＩＤＣａに対する発光情報信号に含まれるＬＥＤドライバＷＩＤＣａを指示するＩＤコード）と、第２ＩＤコードである枠側装飾基板ＷＫＢに実装されるコンパレータ回路ＷＩＤＣｂの８本の設定端子であるＱ０端子～Ｑ７端子が＋５Ｖまたはグランド（ＧＮＤ、回路グランド）にそれぞれ電気的に接続された８ビットの情報（ＬＥＤドライバＷＩＤＣａに対する発光情報信号に含まれるＬＥＤドライバＷＩＤＣａの８本の出力端子であるＯＵＴ０端子～ＯＵＴ７端子から出力される信号によりコンパレータ回路ＷＩＤＣｂで比較される情報）と、が含まれている。換言すると、第２遊技盤側構成部である特定の扉枠ユニットに対する装飾データであるＬＥＤの発光態様を指示する発光データを伝送するシリアル通信ライン内（つまりシリアル通信データ内）には、第１ＩＤコードとしてＬＥＤドライバＷＩＤＣａのＩＤ（ＬＥＤドライバＷＩＤＣａを指示するＩＤコード：設定値６４）と、第２ＩＤコードとして枠側装飾基板ＷＫＢのＩＤ（コンパレータ回路ＷＩＤＣｂの８本の設定端子であるＱ０端子～Ｑ７端子が＋５Ｖまたはグランド（ＧＮＤ、回路グランド）にそれぞれ電気的に接続された８ビットの情報：１１１１０００００Ｂ）と、が含まれている。

【４４２３】

このように、演出制御基板である周辺制御基板１５１０と接続されるシリアル通信ラインの少なくとも一つのシリアル通信ライン内であって、シリアル通信データ内には、ＬＥＤドライバＷＩＤＣａに固有に割り振られた第１ＩＤコードである設定値６４と、第２遊技盤側構成部である扉ユニットに固有に割り振られた第２ＩＤコードである１１１１００００Ｂと、が含まれるようになっているため、装飾データである各種ＬＥＤの発光態様を指示する発光データを伝送するシリアル通信ラインのほかに、ＬＥＤドライバＷＩＤＣａに固有に割り振られた第１ＩＤコードである設定値６４や第２遊技盤側構成部である特定の扉枠ユニットに固有に割り振られた第２ＩＤコードである１１１１００００Ｂを専用に伝送するためのシリアル通信ラインを演出制御基板である周辺制御基板１５１０と接続されるシリアル通信ラインとしてそれぞれ設ける必要がなくなり、第１遊技盤側構成部である遊技盤５と第２遊技盤側構成部である特定の扉枠ユニットとの組み合わせの適合性（整合性）を、第２遊技盤側構成部である特定の扉枠ユニットにおいて行うことができる。これにより、第１遊技盤側構成部である遊技盤５と第２遊技盤側構成部である特定の扉枠ユニットとが不整合となったことを直ぐに判別することができるようになり、第１遊技盤側構成部である遊技盤５と第２遊技盤側構成部である特定の扉枠ユニットとが不整合の状態で不完全な演出が実行されることを抑止できる。したがって、遊技者の遊技興趣の低下を抑制することができる。

【４４２４】

Ｄ１：

外枠と、該外枠に開閉可能に設けられる本体枠と、該本体枠に開閉可能に設けられる扉枠と、を有する遊技枠側構成部と、該遊技枠側構成部に着脱可能に設けられる遊技盤側構成部と、を備えている。遊技盤側構成部は、発光体と、発光体を駆動する装飾ドライバと、を備えている。遊技盤側構成部は、第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とから構成されている。第１遊技盤側構成部は、遊技の演出を実行するとともに外部との信号の送受信を行うためのシリアル通信を実行可能なサブ制御基板を備えている。第２遊技盤側構成部は、シリアル通信から装飾データを受信する装飾ドライバを備えている。装飾ドライバは、固有に割り振られた第１ＩＤコードを持っている。第２遊技盤側構成部は、固有に割り振られた第２ＩＤコードを持っている。サブ制御基板と接続されるシリアル通信ラインは、複数ある。第２遊技盤側構成部に対する装飾データを伝送するシリアル通信ライン内には、第１ＩＤコードと第２ＩＤコードとが含まれている。

【４４２５】

具体的には、例えば、遊技枠側構成部である本体枠４と遊技盤側構成部である遊技盤５とを備えている。本体枠４に開閉可能に支持される扉枠３には、扉枠左サイドユニット４

２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等の扉枠ユニット（以下、「扉枠ユニット」と記載する場合がある。）が装着されている。遊技盤５と特定の扉枠ユニット（扉枠ユニットのうちの１つ又は複数（全部でもよい）の組み合わせ）との組み合わせには適合（整合）／不適合（不整合）があるため、特定の扉枠ユニットが遊技盤５の構成部材として取り扱われる場合がある。つまり、本体枠４に設けられる遊技盤側構成部としては、マイクロプロセッサが搭載される第１遊技盤側構成部である遊技盤５と、マイクロプロセッサが搭載されない第２遊技盤側構成部である特定の扉枠ユニットと、から構成され、遊技盤５が本体枠４に装着されているとともに、特定の扉枠ユニットが本体枠４に開閉可能に支持される扉枠３に装着されている。ここでは、特定の扉枠ユニットが遊技盤５の構成部材として取り扱われる場合として遊技盤５としては、第１遊技盤側構成部である遊技盤５と第２遊技盤側構成部である扉ユニットとから構成されている。遊技盤５及び特定の扉枠ユニットは、発光体である各種ＬＥＤと、発光体である各種ＬＥＤを駆動する装飾ドライバであるＬＥＤドライバと、を備えている。第１遊技盤側構成部である遊技盤５は、遊技の演出を実行するとともに外部との信号の送受信を行うためのシリアル通信を実行可能なサブ制御基板である周辺制御基板１５１０を備えている。第２遊技盤側構成部である扉ユニットは、シリアル通信から装飾データであるＬＥＤの発光態様を指示する発光データを受信する装飾ドライバである図３１６の枠側装飾基板ＷＫＢに実装されるＬＥＤドライバＷＩＤＣａを備えている。装飾ドライバである枠側装飾基板ＷＫＢに実装されるＬＥＤドライバＷＩＤＣａは、固有に割り振られた第１ＩＤコードである図３１６の枠側装飾基板ＷＫＢに実装されるアドレス設定回路ＷＩＤＣｄにより設定される設定値６４を持っている。第２遊技盤側構成部である扉ユニットは、固有に割り振られた第２ＩＤコードである図３１６の枠側装飾基板ＷＫＢに実装されるコンパレータ回路ＷＩＤＣｂの８本の設定端子であるＱ０端子～Ｑ７端子が＋５Ｖまたはグランド（ＧＮＤ、回路グランド）にそれぞれ電気的に接続された８ビットの情報：１１１１００００Ｂを持っている。サブ制御基板である周辺制御基板１５１０と接続されるシリアル通信ラインは、複数ある（例えば、周辺制御基板１５１０と遊技盤５内の各種基板や周辺制御基板１５１０と扉枠ユニットなど）。第２遊技盤側構成部である特定の扉枠ユニットに対する装飾データであるＬＥＤの発光態様を指示する発光データを伝送するシリアル通信ライン内には、第１ＩＤコードである枠側装飾基板ＷＫＢに実装されるアドレス設定回路ＷＩＤＣｄにより設定される設定値６４（ＬＥＤドライバＷＩＤＣａに対する発光情報信号に含まれるＬＥＤドライバＷＩＤＣａを指示するＩＤコード）と、第２ＩＤコードである枠側装飾基板ＷＫＢに実装されるコンパレータ回路ＷＩＤＣｂの８本の設定端子であるＱ０端子～Ｑ７端子が＋５Ｖまたはグランド（ＧＮＤ、回路グランド）にそれぞれ電気的に接続された８ビットの情報（ＬＥＤドライバＷＩＤＣａに対する発光情報信号に含まれるＬＥＤドライバＷＩＤＣａの８本の出力端子であるＯＵＴ０端子～ＯＵＴ７端子から出力される信号によりコンパレータ回路ＷＩＤＣｂで比較される情報）と、が含まれている。換言すると、第２遊技盤側構成部である特定の扉枠ユニットに対する装飾データであるＬＥＤの発光態様を指示する発光データを伝送するシリアル通信ライン内には、第１ＩＤコードとしてＬＥＤドライバＷＩＤＣａのＩＤ（ＬＥＤドライバＷＩＤＣａを指示するＩＤコード：設定値６４）と、第２ＩＤコードとして枠側装飾基板ＷＫＢのＩＤ（コンパレータ回路ＷＩＤＣｂの８本の設定端子であるＱ０端子～Ｑ７端子が＋５Ｖまたはグランド（ＧＮＤ、回路グランド）にそれぞれ電気的に接続された８ビットの情報：１１１１０００Ｂ）と、が含まれている。

【４４２６】

このように、第２遊技盤側構成部である扉ユニットにおける発光体である各種ＬＥＤを駆動する装飾ドライバであるＬＥＤドライバＷＩＤＣａに対して、装飾ドライバであるＬＥＤドライバＷＩＤＣａに固有に割り振られた第１ＩＤコードである設定値６４と、第２遊技盤側構成部である扉ユニットに固有に割り振られた第２ＩＤコードである１１１１００００Ｂと、が第２遊技盤側構成部である扉ユニットに対する装飾データである各種ＬＥＤの発光態様を指示する発光データを伝送するシリアル通信ライン内に含まれるようにな

っているため、装飾データである各種ＬＥＤの発光態様を指示する発光データを伝送するシリアル通信ラインのほかに、装飾ドライバであるＬＥＤドライバＷＩＤＣａに固有に割り振られた第１ＩＤコードである設定値６４や第２遊技盤側構成部である特定の扉枠ユニットに固有に割り振られた第２ＩＤコードである１１１１００００Ｂを専用に伝送するためのシリアル通信ラインをサブ制御基板である周辺制御基板１５１０と接続されるシリアル通信ラインとしてそれぞれ設ける必要がなくなり、第１遊技盤側構成部である遊技盤５と第２遊技盤側構成部である特定の扉枠ユニットとの組み合わせの適合性（整合性）を、第２遊技盤側構成部である特定の扉枠ユニットにおいて行うことができる。これにより、第１遊技盤側構成部である遊技盤５と第２遊技盤側構成部である特定の扉枠ユニットとが不整合となったことを直ぐに判別することができるようになり、第１遊技盤側構成部である遊技盤５と第２遊技盤側構成部である特定の扉枠ユニットとが不整合の状態で不完全な演出が実行されることを抑止できる。したがって、遊技者の遊技興趣の低下を抑制することができる。

【４４２７】

Ｄ２：

さらに、第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とのシリアル通信において、発光体を装飾するデータ領域内に第２ＩＤコードを備え（含み）、シリアル信号から第２ＩＤコードをパラレル信号に展開（復元）する第２ＩＤコード展開手段として装飾ドライバを使用する。具体的には、第１遊技盤側構成部である遊技盤５と第２遊技盤側構成部である特定の扉枠ユニットとのシリアル通信において、発光体である各種ＬＥＤを装飾するデータ領域であるＬＥＤの発光態様を指示する発光データ内に第２ＩＤコードとして枠側装飾基板ＷＫＢのＩＤ（コンパレータ回路ＷＩＤＣｂの８本の設定端子であるＱ０端子～Ｑ７端子が＋５Ｖまたはグランド（ＧＮＤ、回路グランド）にそれぞれ電気的に接続された８ビットの情報：１１１１００００Ｂ）を備え（含ませ）、シリアル信号から第２ＩＤコードである１１１１００００Ｂをパラレル信号に展開（復元）する第２ＩＤコード展開手段として装飾ドライバである枠側装飾基板ＷＫＢに実装されるＬＥＤドライバＷＩＤＣａを使用する。これにより、第２ＩＤコードである１１１１００００Ｂをパラレル信号に展開（復元）する専用の第２ＩＤコード展開手段を枠側装飾基板ＷＫＢに設ける必要なく、各種ＬＥＤを駆動するＬＥＤドライバＷＩＤＣａをそのまま第２ＩＤコード展開手段として利用してコンパレータ回路ＷＩＤＣｂへ出力することができる。

【４４２８】

さらに、第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とは、電気的に接続されているものの、それぞれ独立して遊技枠側構成部に固定されている。具体的には、第１遊技盤側構成部である遊技盤５と第２遊技盤側構成部である特定の扉枠ユニットとは、電気的に接続されているものの、それぞれ独立して遊技枠側構成部である本体枠４に固定されている。つまり、遊技盤５を本体枠４に装着する作業と、特定の扉枠ユニットを本体枠４に開閉可能に支持される扉枠３に装着する作業と、が別々の作業となる。このため、遊技盤５を本体枠４に装着した際に、人為的なミスにより遊技盤５と特定の扉枠ユニットとの関係（組み合わせ）が適合（整合）しない場合が起こり得る。

【４４２９】

Ｄ３：

さらに、サブ制御基板からのシリアル信号とサブ制御基板へのシリアル信号は遊技の演出に関する各種データとが同じ領域を使用して通信される。具体的には、サブ制御基板である周辺制御基板１５１０から図３１６の特定の扉枠ユニットにおける枠側装飾基板ＷＫＢへのシリアル信号である発光情報信号、図３１７の特定の扉枠ユニットにおける皿ユニット２００に設けられる中継基板ＴＫＢからサブ制御基板である周辺制御基板１５１０へのシリアル信号である扉枠側情報信号は、遊技演出に関する各種データとが同じ領域として、遊技盤５を本体枠４に装着して遊技盤５の下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷに実装される下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの各端子と、本体枠４の図示しない本体枠側中継基板に実装される図示しない２つの本体枠側ドロワコネ

クタの各端子と、が電気的に接続されることにより、このドロワコネクタを介して、やり取り（通信）されるようになっている。これにより、ドロワコネクタに既存のシリアル線をそのまま使用することができるため、ドロアコネクタの本数を増やすことなく、サブ制御基板である周辺制御基板１５１０から遊技盤５と特定の扉枠ユニットとの組み合わせの真偽判定用ＩＤを送信することできるとともに、特定の扉枠ユニットにおける判定結果を受信することができる。

【４４３０】

図３１６及び図３１７による遊技盤５と特定の扉枠ユニットとの組み合わせの適合（整合）を判定することができるシステムにおいて、電源投入時の所定期間内に正常ＩＤと判断した場合には、報知を行わないが、電源投入時の所定期間内に異常ＩＤと判断した場合には、状態が変更された場合に報知態様を変更し得る。異常の場合には、正常になると報知態様を変更する。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図２６７に示した周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理におけるステップＳ１１０８の演出操作ユニット情報取得処理（電源投入後の初回にのみ）、または、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、図３０８（ｃ）の状態１：正常、つまり正常ＩＤと判断した場合には、報知を行わない（同図の対象法：なし）のに対して、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１（図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応））、つまり、異常ＩＤと判断した場合には、このエラー対応１（ＩＤエラー１対応）の報知が維持され、同図（ｃ）の対処法：電源遮断後に適合ＩＤ品に交換後に、図３０８（ｃ）の状態１：正常、つまり正常ＩＤと判断した場合に報知が行われなくなる。つまり、電源投入時の所定期間内に遊技盤５と特定の扉枠ユニットとの組み合わせが正常であるとして正常ＩＤと判断した場合には、その後、遊技盤５と特定の扉枠ユニットとの組み合わせの状態を全く判定しないようになっており、仮に、遊技盤５と特定の扉枠ユニットとの組み合わせが不適合（不整合）となるようになったとしても、不適合（不整合）であるとして異常ＩＤである旨を伝える報知態様とならない。これにより、遊技盤５と特定の扉枠ユニットとの組み合わせの判定を電源投入時の所定期間内に限定することにより、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる演出の進行への処理負荷の低減に寄与することができる。

【４４３１】

一部の報知以外は報知を終了する。具体的には、例えば、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１（図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応））、つまり、異常ＩＤと判断した場合には、周辺制御基板１５１０に実装される図示しないリアルタイムクロックＩＣの内蔵ＲＡＭに履歴情報として保存する。この場合、日時と紐付けて保存される。そして、パチンコ機１の電源を遮断して左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが正しいものを本体枠３に装着し、再びパチンコ機１が電源投入されると、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、図３０８（ｃ）の状態１：正常、つまり正常ＩＤと判断した場合には、例えば、演出表示装置又はサブ演出表示装置に「ＩＤ異常」という履歴を表示してもよいし、この履歴を所定期間又はパチンコ機１の電源が遮断されるまで表示してもよい。履歴を表示されながら、演出の進行を行うこととなる。

【４４３２】

一度でも正常に戻った場合には、再び異常になっても報知態様を変更しない。具体的には、例えば、異常な状態から正常な状態に戻すには、遊技盤を外して修正する行為が発生するため、このときにパチンコ機の電源を遮断し（落とし）周辺制御基板への電源供給が遮断され、再び遊技盤を装着して再度パチンコ機の電源を投入する必要がある。パチンコ機が電源投入され周辺制御基板への電源が供給されると、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理により演出操作ユニットのＩＤ等の確認（以下、「ＩＤ確認」と記載する場合がある）を行うことができるため、パチンコ機の

電源投入時において図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理によるＩＤ確認と、パチンコ機の電源遮断時まで続く報知処理を行えば、それ以後についてはＩＤ確認や報知処理の制御をしなくても良い。

【４４３３】

つまり、パチンコ機１が電源投入されたまま任意のタイミングにおいて（パチンコ機１のシステムが起動完了して遊技の進行及び演出の進行を行うことができるようになっている状態において）、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理を、図２６７に示した周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の一処理として繰り返し行われるようにするとともに、演出操作ユニットを扉枠４の皿ユニット２００に脱着する場合には、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の一処理として繰り返し行われるＩＤ判定処理において一度でも正常ＩＤとして判断された演出操作ユニットを異常ＩＤとなる他の演出操作ユニットへ交換したとき（または、異常ＩＤの演出操作ユニットから正常ＩＤの演出操作ユニットへ交換し、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の一処理として繰り返し行われるＩＤ判定処理において一度正常ＩＤとして判断され再び異常ＩＤの演出操作ユニットへ戻したとき）には、結果的に、実際には演出操作ユニットと分割遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）となっていても、演出の進行が継続され、演出操作ユニットが異常ＩＤであるという報知が行われない。したがって、一度でも正常に戻った場合には、再び異常になっても報知態様を変更しない。

【４４３４】

Ｄ４：

真偽判定された結果を送信するのは別のシリアル通信手段である。具体的には、扉ユニットにおける枠側装飾基板ＷＫＢのＬＥＤドライバＷＩＤＣａに対して、ＬＥＤの発光態様を指示する発光データを発光情報信号として伝送するシリアル通信ライン（発光情報信号用シリアル通信ライン）内に周辺制御基板１５１０から枠側装飾基板ＷＫＢへ対して出力されるのに対して、枠側装飾基板ＷＫＢのコンパレータ回路ＷＩＤＣｂからのＩＤ有効信号が扉枠４の皿ユニット２００に設けられる中継基板ＴＫＢの扉枠側情報出力回路ＴＯＣに入力されて、演出操作ユニット３００等の各種センサからの検出信号と共にシリアル化された扉枠側情報信号として伝送するシリアル通信ライン（発光情報信号用シリアル通信ラインと異なる系統となる扉枠側情報信号用シリアル通信ライン））内に扉枠側情報出力回路ＴＯＣから周辺制御基板１５１０へ対して出力される。つまり、真偽判定された結果である枠側装飾基板ＷＫＢのコンパレータ回路ＷＩＤＣｂからのＩＤ有効信号は、発光情報信号用シリアル通信ラインと異なる別のシリアル通信手段である扉枠側情報信号用シリアル通信ラインによる伝送される。

【４４３５】

第１ＩＤコードは設定できる最終番号を使用する。具体的には、扉ユニットにおける枠側装飾基板ＷＫＢのＬＥＤドライバＷＩＤＣａのＩＤとして設定値６４が設定されている。これは、ＬＥＤドライバは、特定の扉枠ユニットのほかに、遊技盤５に備える各種装飾基板や各種基板にも実装され機種に応じてＬＥＤドライバの数が変更されるため、プログラムの開発において、ＩＤ比較回路ＷＩＤＣのＬＥＤドライバＷＩＤＣａと他のＬＥＤドライバとの混同を防止する必要がある。そこで、ＩＤ比較回路ＷＩＤＣが設けられる枠側装飾基板ＷＫＢに対しては、ＬＥＤドライバＷＩＤＣａのＩＤが設定値６４に常に固定されている。

【４４３６】

第２ＩＤコード展開手段について使用する装飾ドライバでＬＥＤを駆動する。具体的には、第１遊技盤側構成部である遊技盤５と第２遊技盤側構成部である特定の扉枠ユニットとのシリアル通信において、発光体である各種ＬＥＤを装飾するデータ領域であるＬＥＤの発光態様を指示する発光データ内に第２ＩＤコードとして枠側装飾基板ＷＫＢのＩＤ（コンパレータ回路ＷＩＤＣｂの８本の設定端子であるＱ０端子～Ｑ７端子が＋５Ｖまたはグランド（ＧＮＤ、回路グランド）にそれぞれ電気的に接続された８ビットの情報：１１１１００００Ｂ）を備え（含ませ）、シリアル信号から第２ＩＤコードである１１１１０

０００Ｂをパラレル信号に展開（復元）する第２ＩＤコード展開手段として装飾ドライバである枠側装飾基板ＷＫＢに実装されるＬＥＤドライバＷＩＤＣａを使用する。これにより、第２ＩＤコードである１１１１００００Ｂをパラレル信号に展開（復元）する専用の第２ＩＤコード展開手段を枠側装飾基板ＷＫＢに設ける必要なく、各種ＬＥＤを駆動するＬＥＤドライバＷＩＤＣａをそのまま第２ＩＤコード展開手段として利用してコンパレータ回路ＷＩＤＣｂへ出力することができる。さらに、ＬＥＤドライバＷＩＤＣａは、コンパレータ回路ＷＩＤＣｂの８本の入力端子と電気的に接続されていない他の出力端子（１６本の出力端子）と電気的に接続される各種ＬＥＤを発光データに基づいて発光制御することができる。

【４４３７】

ドロアコネクタは、主側コネクタとサブ側コネクタに分かれている。具体的には、遊技盤５に備える周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａからの情報取得用クロック信号及び情報取得用切替信号は、遊技盤５を本体枠４に装着して遊技盤５の下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷに実装される下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの各端子（主側コネクタ又はサブ側コネクタ）と、本体枠４の図示しない本体枠側中継基板に実装される図示しない２つの本体枠側ドロワコネクタの各端子（サブ側コネクタ又は主側コネクタ）と、が電気的に接続されることにより、このドロワコネクタを介して、扉枠３の皿ユニット２００に設けられる中継基板ＴＫＢへ伝送される。また、扉枠３の皿ユニット２００に設けられる中継基板ＴＫＢの扉枠側情報出力回路ＴＯＣからの扉枠側情報信号は、遊技盤５を本体枠４に装着して遊技盤５の下側遊技盤用ドロワコネクタ中継基板５ＡＬＵＤＲＷに実装される下側遊技盤用ドロワコネクタＵＤＲＷ，ＵＤＲＷの各端子（主側コネクタ又はサブ側コネクタ）と、本体枠４の図示しない本体枠側中継基板に実装される図示しない２つの本体枠側ドロワコネクタの各端子（サブ側コネクタ又は主側コネクタ）と、が電気的に接続されることにより、このドロワコネクタを介して、遊技盤５に備える周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａへ伝送される。

【４４３８】

偽である不適合（不整合）→真である適合（整合）となった場合は、遊技可能状態となる（ノイズ対策）。具体的には、例えば、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図２６７に示した周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理におけるステップＳ１１０８の演出操作ユニット情報取得処理において、Ｓ／反転Ｌ端子に入力される情報取得用切替信号の論理を設定して出力することでパラレル動作、そしてシリアル動作とした後に、情報取得用クロック信号を出力することにより、扉枠側情報信号を取得し、扉枠３の皿ユニット２００に装着される演出操作ユニット３００への遊技者の操作や可動体（演出体）の動作を把握したり、扉枠３の他のユニットに設けられる可動体（演出体）や遊技者の動作を把握したり、遊技盤５と特定の扉枠ユニットとの組み合わせの適合性（整合性）についての判定結果を得ることができる。このように、遊技盤５と特定の扉枠ユニットとの組み合わせの適合性（整合性）についての判定結果が偽である不適合（不整合）→真である適合（整合）となった場合、つまり、変定結果が逆転するような場合には、遊技盤５と特定の扉枠ユニットとの組み合わせが適合（整合）しているものの、ノイズの影響を受けて扉枠側情報信号の一部（遊技盤５と特定の扉枠ユニットとの組み合わせの適合性（整合性）の部分）が化けたものとし、遊技盤５と特定の扉枠ユニットとの組み合わせが適合（整合）しているものとして演出の進行を行う。

【４４３９】

偽である不適合（不整合）となっている間は、装飾ユニットにＬＥＤ不点灯のデータが送信される。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、遊技盤（分割遊技盤）の各種ＬＥＤ（演出に関する各種ＬＥＤ（装飾用各種ＬＥＤ））及び／または特定の扉枠ユニットの各種ＬＥＤ（演出に関する各種ＬＥＤ（装飾用各種ＬＥＤ））が消灯（全消灯）する発光データを各種ＬＥＤドライバへ送信する。

【４４４０】

偽である不適合（不整合）が解除された場合は、装飾ユニットにＬＥＤ点灯のデータが

送信される。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、遊技盤（分割遊技盤）の各種ＬＥＤ（演出に関する各種ＬＥＤ（装飾用各種ＬＥＤ））及び／または特定の扉枠ユニットの各種ＬＥＤ（演出に関する各種ＬＥＤ（装飾用各種ＬＥＤ））が演出の進行に沿った発光態様となる発光データを各種ＬＥＤドライバへ送信する。

【４４４１】

［小括Ｅ］

Ｅ１：

外枠と、該外枠に開閉可能に設けられる本体枠と、該本体枠に開閉可能に設けられる扉枠と、を有する遊技枠側構成部と、該遊技枠側構成部に設けられる遊技盤側構成部とを備え、遊技盤側構成部は、第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とから構成されており、第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部との整合を判別する整合判別手段と、第１遊技盤側構成部に設けられる操作部と、をさらに備え、操作部を操作した場合に、整合判別手段の判別結果に応じた報知を実行し得る。

【４４４２】

具体的には、例えば、遊技枠側構成部である本体枠４と、遊技枠側構成部である本体枠４に設けられる遊技盤側構成部である図３０２の分割遊技盤５Ａとを備えている。遊技盤側構成部である分割遊技盤５Ａは、第１遊技盤側構成部である図３０２の左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である図３０２の右側遊技盤５ＡＲとから構成されている。第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとの整合を判別する整合判別手段である図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理と、図３２３の第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬに設けられる操作部である主制御基板１３１０のＩＤエラー判定スイッチ１３１０ｖと、をさらに備えている。操作部である主制御基板１３１０のＩＤエラー判定スイッチ１３１０ｖを操作した場合に、整合判別手段である図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理の判別結果に応じた報知を実行し得る。

【４４４３】

パチンコ機１が電源投後に、遊技ホールの店員等の係員が主制御基板１３１０に備えるＩＤエラー判定スイッチ１３１０ｖの押圧操作部を押圧操作すると、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、図２５７に示した主制御側タイマ割り込み処理におけるステップＳ１０４のスイッチ入力処理においてＩＤエラー判定スイッチ１３１０ｖからの検出信号（具体的には、ＩＤエラー判定スイッチ１３１０ｖからの検出信号の論理には、操作論理と非操作論理とがあり、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、操作論理が入力されるとＩＤエラー判定スイッチ１３１０ｖの押圧操作部が押圧操作されたと判定し、操作論理が反転された非操作論理が入力されるとＩＤエラー判定スイッチ１３１０ｖの押圧操作部が押圧操作されていないと判定する。）に基づいて、ＩＤエラー判定スイッチ１３１０ｖの押圧操作部が押圧操作されたと判定したときには、ＩＤエラー判定結果の報知を開始するＩＤエラー判定結果報知開始コマンドを図２５７に示した主制御側タイマ割り込み処理におけるステップＳ１２０の周辺制御基板コマンド送信処理で周辺制御基板１５１０へ送信する。

【４４４４】

周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、パチンコ機１が電源投入されると、図３０９に示した周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理を行う。このＩＤ判定処理では、右側遊技盤のＩＤ、演出操作ユニットのＩＤを取得するために、右側遊技盤に対してＩＤ取得用クロック信号（右側遊技盤専用のＩＤ取得用クロック信号）と、演出操作ユニットに対してＩＤ取得用クロック信号（演出操作ユニット専用のＩＤ取得用クロック信号）と、をそれぞれ出力する。そして、周辺制御ＩＣ１５１０ａは、右側遊技盤からのＩＤコード信号（右側遊技盤専用のＩＤコード信号）と、演出操作ユニットからのＩＤコード信号（演出操作ユニット専用のＩＤコード信号）と、をそれぞれ別々のシリアル系統により取得して、分割遊技盤の組み合わせ（つまり右側遊技盤（マイクロプロセッサが搭載されていない基板）と左側遊技盤（マイクロプロセッサが搭

載された周辺制御基板１５１０や主制御基板１３１０）との組み合わせ）について周辺制御ＲＯＭに予め記憶される組み合わせテーブル（図３０８）を参照して判定（比較）するとともに、演出操作ユニットと分割遊技盤との組み合わせについて周辺制御ＲＯＭに予め記憶される組み合わせテーブル（図３０８）を参照して判定（比較）する。

【４４４５】

周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、主制御基板１３１０からのＩＤエラー判定結果報知開始コマンドを図２６８に示した周辺制御部コマンド受信割り込み処理で受信し、図３０９に示した周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１０２２の受信コマンド解析処理で解析すると、これを契機として、ＩＤエラー判定結果の報知を開始するために、ステップＳ１００３のＩＤ判定処理において判定した判定結果が不適合（不整合）であるときには、報知表示に区分されるコマンドを、周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０２４の警告処理へ渡す。これにより、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、ステップＳ１０２４の警告処理において、不適合（不整合）である旨の態様として、画面生成用スケジュールデータ、発光態様生成用スケジュールデータ、音生成用スケジュールデータ、及び電気的駆動源スケジュールデータ等を、周辺制御ＲＯＭから読み出して（抽出して）周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットすることにより、演出に関する各種処理を設定し、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動としてエラー対応１～エラー対応９のうち、対応するエラーが発生している旨を報知することとなる。

【４４４６】

このように、操作部である主制御基板１３１０に備えるＩＤエラー判定スイッチ１３１０ｖの押圧操作部を押圧操作した場合に、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとの整合を判別した判別結果に応じた報知を実行することができるようになっている。これにより、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが不整合となったことを直ぐに判別することができるようになり、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが不整合の状態で不完全な演出が実行されることを抑止できる。したがって、遊技興趣の低下を抑制することができる。

【４４４７】

Ｅ２：

ＩＤエラーや未接続エラーの場合にエラー報知開始時期をＩＤエラー判定スイッチ１３１０ｖの押圧操作部による押圧操作によって変更可能にする。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、分割遊技盤の組み合わせについて行った判定結果を、図３０９に示した周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において行っても、主制御基板１３１０からのＩＤエラー判定結果報知開始コマンドを図２６８に示した周辺制御部コマンド受信割り込み処理で受信し、図３０９に示した周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１０２２の受信コマンド解析処理で解析しなければ、これを契機として、報知表示に区分されるコマンドを、周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０２４の警告処理へ渡すことができず、ＩＤエラー判定結果の報知を開始することできない。つまり、主制御基板１３１０からのＩＤエラー判定結果報知開始コマンドを受信（解析）するまで、エラー対応１～エラー対応９が発生していても、その旨を報知するエラー報知開始時期を、遊技ホールの店員等の係員によるＩＤエラー判定スイッチ１３１０ｖの押圧操作部の押圧操作によって変更することできるようになっている。

【４４４８】

ＩＤエラーや未接続エラーを電源投入後の任意のタイミングで知ることができる。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、分割遊技盤等の組み合わせについて行った判定結果を、図３０９に示した周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において行っても、遊技オールの店員等の係員によるＩＤエラー判定スイッチ１３１０ｖの押圧操作部への押圧操作により主制御基板１３１０からの

ＩＤエラー判定結果報知開始コマンドを図２６８に示した周辺制御部コマンド受信割り込み処理で受信し、図３０９に示した周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１０２２の受信コマンド解析処理で解析しなければ、これを契機として、報知表示に区分されるコマンドを、周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０２４の警告処理へ渡すことができず、ＩＤエラー判定結果の報知を開始することできない。換言すると、遊技ホールの店員等の係員は、パチンコ機１を電源投入後に、任意のタイミング（パチンコ機１のシステムが起動完了後における任意のタイミング）でＩＤエラーや未接続エラーを知ることができるようになっている。

【４４４９】

周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動としてエラー対応１～エラー対応９が発生していない場合、つまり図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動として正常動作（エラー対応なし）である場合には、対処法により「なし」であるため、正常動作（エラー対応なし）における特別な報知態様がない。換言すると、正常動作（エラー対応なし）場合には、その旨を報知せず、専用の報知音がスピーカから流れないようになっている。

【４４５０】

パチンコ機１が電源投入されて、主制御基板１３１０に備えるＩＤエラー判定スイッチ１３１０ｖの押圧操作部が押圧操作されると、これを契機として、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる制御により報知音（例えば、「ピー」）がスピーカから流れるようにしてもよい。

【４４５１】

また、パチンコ機１が電源投入されて、主制御基板１３１０に備える設定キースイッチ１３１１ａに設定キーを挿入してＯＮ操作されると、これを契機として、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる制御により報知音（例えば、「ピッピー」）がスピーカから流れるようにしてもよい。なお、払出制御基板６３３に備えるＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部を押圧操作することで設定変更を行っている場合には、ＲＷＭスイッチ６３３ｄの押圧操作部を押圧操作するごとに周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる制御により報知音（例えば、「ピコ」、設定キースイッチ１３１１ａに設定キーを挿入してＯＮ操作された際に流れる報知音と同一音であってもよい。）がスピーカから流れるようにしてもよい。

【４４５２】

Ｅ３：

右側遊技盤５ＡＲに予め決めた自己識別符号（ＩＤ）をハード的に（ハードウェアによる回路により）割り付ける。具体的には、右側遊技盤５ＡＲに備える図３０５のＩＤ出力回路ＩＤＣにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣａの８本のＩＤ設定端子を＋５Ｖまたはグランド（ＧＮＤ、回路グランド）と電気的に接続してＩＤ設定値（１１１１０００００Ｂ）を割り付ける。

【４４５３】

右側遊技盤５ＡＲにハード的に（ハードウェアによる回路により）割り付けたＩＤと判定用ＩＤコードとを比較して同じであれば有効信号を出力する。具体的には、右側遊技盤５ＡＲに備える図３０５のＩＤ出力回路ＩＤＣにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣａの反転ＱＨ端子から出力されるＩＤコード信号が図３０３の左側遊技盤５ＡＬに備える周辺制御基板１５１０に入力され、周辺制御基板１５１０は、この入力されたＩＤコード信号から右側遊技盤５ＡＲのＩＤを取得し、判定用ＩＤコードである周辺制御ＲＯＭに予め記憶される組み合わせテーブル（図３０８）を参照して判定（比較）する。分割遊技盤の組み合わせは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理で行われる。分割遊技盤の組み合わせが適合（整合）している場合には、図３０８（ｃ）に示した他のＩＤが適合していることを条件として、状態１：正常となり、扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等の扉枠ユニット（以下、「扉枠ユニット」と記

載する場合がある。）、及び分割遊技盤５Ａによる演出が進行される。周辺制御基板１５１０は、例えば、分割遊技盤５Ａのサブ機能表示ユニット２２５０における所定のＬＥＤを点灯する制御信号を、演出を進行する有効信号として、出力している。

【４４５４】

右側遊技盤５ＡＲにハード的に（ハードウェアによる回路により）割り付けたＩＤと判定用ＩＤコードとを比較して同じでなければ有効信号を出力しない。具体的には、右側遊技盤５ＡＲに備える図３０５のＩＤ出力回路ＩＤＣにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣａの反転ＱＨ端子から出力されるＩＤコード信号が図３０３の左側遊技盤５ＡＬに備える周辺制御基板１５１０に入力され、周辺制御基板１５１０は、この入力されたＩＤコード信号から右側遊技盤５ＡＲのＩＤを取得し、判定用ＩＤコードである周辺制御ＲＯＭに予め記憶される組み合わせテーブル（図３０８）を参照して判定（比較）する。分割遊技盤の組み合わせは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理で行われる。分割遊技盤の組み合わせが適合（整合）していない場合には、周辺制御基板１５１０は、例えば、図３０８（ｃ）に示した状態２：ＩＤエラー１となると、図３１１の電源投入後におけるエラー対応１（ＩＤエラー１対応）において、分割遊技盤５Ａのサブ機能表示ユニット２２５０における所定のＬＥＤを点灯する制御信号を、演出を進行する有効信号として、出力せず、サブ機能表示ユニット２２５０を消灯（全消灯）する。

【４４５５】

電源投入後の任意のタイミングで操作部を操作しても報知しない場合がある（正規ＩＤである場合）。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動としてエラー対応１～エラー対応９が発生していない場合、つまり図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動として正常動作（エラー対応なし）である場合、主制御基板１３１０に備える設定キースイッチ１３１１ａに設定キーを挿入してＯＮ操作されたことにより主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３７の設定変更処理を行っている場合には（この設定変更処理を完了するまでの所定期間が経過するまで）、正常動作（エラー対応なし）である旨の報知を行うことができないようになっている。また、図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動として正常動作（エラー対応なし）である場合には、対処法により「なし」であるため、正常動作（エラー対応なし）における特別な報知態様がない。換言すると、正常動作（エラー対応なし）場合には、その旨を報知しない。

【４４５６】

なお、正規ＩＤ、ＩＤエラー、未接続エラーを電源投入後の任意のタイミングで知るようにする場合、つまり図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動として正常動作（エラー対応なし）、エラー対応１～エラー対応９等のＩＤエラーや未接続エラーは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理という電源投入後に予め定められた期間により判定されていたが、電源投入後の任意のタイミングで知るようにしてもよい。具体的には、正規ＩＤ、ＩＤエラーや未接続エラーは、図２６７に示した周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理において、ＩＤ判定処理を行って判定してもよい。演出操作ユニットに関する正規ＩＤ、ＩＤエラーや未接続エラーは、図２６７に示した周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理におけるステップＳ演出操作ユニット情報取得処理において判定してもよい。いずれの場合であっても、図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動として正常動作（エラー対応なし）である場合には、対処法により「なし」であるため、正常動作（エラー対応なし）における特別な報知態様がない。換言すると、正常動作（エラー対応なし）である場合には、その旨を報知しない。

【４４５７】

正規ＩＤであると判別された場合にはその後に操作部を操作しても報知はされない。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、図３０８（ｃ）の状

態１：正常、つまり正常ＩＤと判断した場合には、報知を行わない（同図の対象法：なし）。つまり、電源投入時の所定期間内に左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが正常であるとして正常ＩＤと判断した場合には、その後、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせの状態を全く判定しないようになっており、仮に、このタイミングにおいて、主制御基板１３１０に備える設定キースイッチ１３１１ａに設定キーを挿入してＯＮ操作したとしても、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、図２５６の主制御側電源投入時処理における主制御側メイン処理や図２５７の主制御側タイマ割り込み処理を行っており、主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３７の設定変更処理を行うことができないため、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、正常動作（エラー対応なし）であるの旨の報知を行うことができないようになっている。

【４４５８】

正常ＩＤでない（異常ＩＤ）と判別された場合には少なくとも正常ＩＤとなるまで報知を継続する。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１（図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応））、つまり、正常ＩＤでない（異常ＩＤ）と判断した場合には、同図（ｃ）の対処法：電源遮断後に適合ＩＤ品に交換されるまで、このエラー対応１（ＩＤエラー１対応）の報知が維持されるようになっている。このような報知により、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）である状態のまま遊技を行い難くすることができる。

【４４５９】

電源投入時の所定期間内に正常ＩＤと判断した場合には、報知を行わないが、電源投入時の所定期間内に異常ＩＤと判断した場合には、状態が変更された場合に報知態様を変更し得る。異常の場合には、正常になると報知態様を変更する。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、図３０８（ｃ）の状態１：正常、つまり正常ＩＤと判断した場合には、報知を行わない（同図の対象法：なし）のに対して、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１（図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応））、つまり、異常ＩＤと判断した場合には、このエラー対応１（ＩＤエラー１対応）の報知が維持され、同図（ｃ）の対処法：電源遮断後に適合ＩＤ品に交換後に、図３０８（ｃ）の状態１：正常、つまり正常ＩＤと判断した場合に報知が行われなくなる。つまり、電源投入時の所定期間内に左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが正常であるとして正常ＩＤと判断した場合には、その後、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせの状態を全く判定しないようになっており、仮に、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）となるようになったとしても、不適合（不整合）であるとして異常ＩＤである旨を伝える報知態様とならない。これにより、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせの判定を電源投入時の所定期間内に限定することにより、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる演出の進行への処理負荷の低減に寄与することができる。

【４４６０】

一部の報知以外は報知を終了する。具体的には、例えば、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１（図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応））、つまり、異常ＩＤと判断した場合には、周辺制御基板１５１０に実装される図示しないリアルタイムクロックＩＣの内蔵ＲＡＭに履歴情報として保存する。この場合、日時と紐付けて保存される。そして、パチンコ機１の電源を遮断して左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが正しいものを本体枠３に装着し、再びパチンコ機１が電源投入されると、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、図３０８（ｃ）の状態１：正常、つまり正常ＩＤと判断した場合には、例えば、演出表示装置又はサブ演出表示装置に「ＩＤ異常」という履歴を表示してもよいし、この履歴を所定期間又はパチンコ機１の電源が遮断されるまで表示してもよい。履歴を表示さ

れながら、演出の進行を行うこととなる。
【４４６１】
一度でも正常に戻った場合には、再び異常になっても報知態様を変更しない。具体的には、例えば、異常な状態から正常な状態に戻すには、遊技盤を外して修正する行為が発生するため、このときにパチンコ機の電源を遮断し（落とし）周辺制御基板への電源供給が遮断され、再び遊技盤を装着して再度パチンコ機の電源を投入する必要がある。パチンコ機が電源投入され周辺制御基板への電源が供給されると、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理により演出操作ユニットのＩＤ等の確認（以下、「ＩＤ確認」と記載する場合がある）を行うことができるため、パチンコ機の電源投入時において図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理によるＩＤ確認と、パチンコ機の電源遮断時まで続く報知処理を行えば、それ以後についてはＩＤ確認や報知処理の制御をしなくても良い。
【４４６２】
つまり、パチンコ機１が電源投入されたまま任意のタイミングにおいて（パチンコ機１のシステムが起動完了して遊技の進行及び演出の進行を行うことができるようになっている状態において）、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理を、図２６７に示した周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の一処理として繰り返し行われるようにするとともに、演出操作ユニットを扉枠４の皿ユニット２００に脱着する場合には、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の一処理として繰り返し行われるＩＤ判定処理において一度でも正常ＩＤとして判断された演出操作ユニットを異常ＩＤとなる他の演出操作ユニットへ交換したとき（または、異常ＩＤの演出操作ユニットから正常ＩＤの演出操作ユニットへ交換し、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の一処理として繰り返し行われるＩＤ判定処理において一度正常ＩＤとして判断され再び異常ＩＤの演出操作ユニットへ戻したとき）には、結果的に、実際には演出操作ユニットと分割遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）となっていても、演出の進行が継続され、演出操作ユニットが異常ＩＤであるという報知が行われない。したがって、一度でも正常に戻った場合には、再び異常になっても報知態様を変更しない。
【４４６３】
Ｅ４：
不整合の場合は液晶で異常報知する。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）であると判断した場合は、例えば、図３１０の電源投入時におけるエラー対応１（ＩＤエラー１対応）においては、演出表示装置１６００に、黒色の背景に「電源復旧中」、「しばらくお待ちください」という報知文字を表示し、起動音楽が終了すると演出時の画像（例えば、各種入賞口へ遊技球が入球したことに基づいて演出が進行する場合など）を表示する。そして、図３１１の電源投入後におけるエラー対応１（ＩＤエラー１対応）においては、演出表示装置１６００に、演出時（例えば、各種入賞口へ遊技球が入球したことに基づいて演出が進行する場合など）の画像または客待ち時（例えば、デモンストレーションが行われている場合や停止画像となっている場合など）の画像に「しばらくお待ちください」という報知文字を表示する。
【４４６４】
不整合の場合は演出制御手段による制御を行わない。具体的には、例えば、演出制御手段である周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）であると判断した場合は、例えば、図３１１の電源投入後におけるエラー対応１（ＩＤエラー１対応）においては、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａの制御対象となっている特定の扉枠ユニットの各種ＬＥＤ、及び遊技盤の各種ＬＥＤは消灯（全消灯）するとともに、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａの制御対象となっている遊技盤側可動体、及び遊技枠側可動体は原位置復帰

などの動作なし（未動作）とする。
【４４６５】
不整合の場合は音声で異常報知する。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）であると判断した場合は、例えば、図３１０の電源投入時におけるエラー対応１（ＩＤエラー１対応）においては、起動音楽の終了後に「係員をお呼びください」というアナウンス音を流し所定のエラー報知音を７回流す。このような音声態様を繰り返し流す。そして、図３１１の電源投入後におけるエラー対応１（ＩＤエラー１対応）においては、「係員をお呼びください」というアナウンス音を流し所定のエラー報知音を７回流す。このような音声態様を繰り返し流す。
【４４６６】
不整合の場合は扉枠のランプ（着脱可能とされる装飾部材に設けられるランプでもよいし、着脱不可能とされる装飾部材に設けられるランプでもよい）を異常時の態様で点灯する。具体的には、まず本体枠４に開閉可能に支持される扉枠３には、扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等の扉枠ユニット（以下、「扉枠ユニット」と記載する場合がある。）が装着されている。周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）であると判断した場合は、例えば、図３１３の電源投入後におけるエラー対応１（ＩＤエラー１対応）においては、扉枠ユニットの各種ＬＥＤを異常時の態様として赤色に点滅する。なお、扉枠ユニットの各種ＬＥＤは、扉枠３に着脱可能とされる各種ユニット（各種装飾部材）に設けられるもののほかに、扉枠３に取り付けられて固定される各種装飾部材に設けられるものでもよい。
【４４６７】
第２遊技盤側構成部が複数ある場合には一つでも正規ＩＤでなければ複数の第２遊技盤側構成部全てを駆動しない。具体的には、第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲがさらに上側と下側とに分割される、図３０７に示した右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとから構成される場合には、右上側遊技盤５ＡＲＴには自身を識別することができるＩＤ出力回路ＩＤＣＴが設けられ、右下側遊技盤５ＡＲＵには自身を識別することができるＩＤ出力回路ＩＤＣＵが設けられている。右上側遊技盤５ＡＲＴにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＴａと右下側遊技盤５ＡＲＵにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＵａとデイジーチェーン接続され、右上側遊技盤５ＡＲＴにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＴａによる８ビットのシフトレジスタと、右下側遊技盤５ＡＲＵにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＵａによる８ビットのシフトレジスタと、による１６ビットのシフトレジスタとして動作することとなる。周辺制御基板１５１０には、前段の８ビットのシフトレジスタとなる右上側遊技盤５ＡＲＴにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＴａの各フリップフロップが保持する内容に続いて、後段の８ビットのシフトレジスタとなる右下側遊技盤５ＡＲＵにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＵａの各フリップフロップが保持する内容が１ビットずつ順番にシリアルデータとして入力される。周辺制御基板１５１０は、ＩＤコード信号を取得して左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとの適合性（整合性）について判定することができる。右上側遊技盤と右下側遊技盤との組み合わせで、右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとを組み合わすはずが、右上側遊技盤５ＡＲＴと適合（整合）しない他の右下側遊技盤とを組み合わせた場合には、左側遊技盤５ＡＬと右上側遊技盤５ＡＲＴとが適合（整合）している場合であっても、右上側遊技盤５ＡＲＴに設けられる各種ＬＥＤ、及び右上側遊技盤５ＡＲＴと適合（整合）しない他の右下側遊技盤に設けられる各種ＬＥＤは、消灯する（全消灯）状態とする。
【４４６８】
［小括Ｆ］

Ｆ１：
外枠と、該外枠に開閉可能に設けられる本体枠と、該本体枠に開閉可能に設けられる扉枠と、を有する遊技枠側構成部と、該遊技枠側構成部に設けられて第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とを有する遊技盤側構成部と、第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部との整合を判別する整合判別手段と、抽選条件の成立に基づいて抽選処理を実行する抽選手段と、抽選手段の抽選結果を表示する複数の表示部と、を備えている。整合判別手段によって不整合と判別された場合に、複数の表示部のうち一部の表示部における抽選結果の表示を規制する。

【４４６９】
具体的には、例えば、遊技枠側構成部である本体枠４と、遊技枠側構成部である本体枠４に設けられて第１遊技盤側構成部である図３０２の左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である図３０２の右側遊技盤５ＡＲとを有する遊技盤側構成部である図３０２の分割遊技盤５Ａと、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとの整合を判別する整合判別手段である図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理と、抽選条件の成立に基づいて抽選処理を実行する抽選手段である図２５７の主制御側タイマ割り込み処理におけるステップＳ１１４の特別図柄及び特別電動役物制御処理と、抽選手段である特別図柄及び特別電動役物制御処理の抽選結果を表示する複数の表示部である、主制御基板１３１０により制御される図３０２の機能表示ユニット１４００と周辺制御基板１５１０により制御される図３０２のサブ機能表示ユニット２２５０と、を備えている。整合判別手段である図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理によって不整合と判別された場合に、複数の表示部である、主制御基板１３１０により制御される機能表示ユニット１４００と周辺制御基板１５１０により制御されるサブ機能表示ユニット２２５０とのうち一部の表示部である周辺制御基板１５１０により制御されるサブ機能表示ユニット２２５０における抽選結果の表示を規制する。例えば、図３１１の電源投入後におけるエラー対応１（ＩＤエラー１対応）においては、主制御基板１３１０により制御される機能表示ユニット１４００は所定のＬＥＤが点灯するのに対して、周辺制御基板１５１０により制御されるサブ機能表示ユニット２２５０は消灯（全消灯）する。なお、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが不整合であると判別した場合に、周辺制御基板１５１０により制御されるサブ機能表示ユニット２２５０と演出表示装置１６００との一方又は両方における抽選結果の表示を規制するようにしてもよく、この場合にはサブ機能表示ユニット２２５０を消灯したり、点滅発光を停止して所定の発光態様（例えば全点灯）で発光させたり、演出表示装置１６００を消灯したり、演出表示装置１６００に報知文字等（「係員をお呼び下さい」等）を表示して装飾図柄の変動表示を覆い隠すこと等、により抽選結果の表示を規制するようにしてもよい。

【４４７０】
このように、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが不整合である場合には、抽選手段である図２５７の主制御側タイマ割り込み処理におけるステップＳ１１４の特別図柄及び特別電動役物制御処理の抽選結果を表示する複数の表示部である、主制御基板１３１０により制御される機能表示ユニット１４００と周辺制御基板１５１０により制御されるサブ機能表示ユニット２２５０とのうち一部の表示部である周辺制御基板１５１０により制御されるサブ機能表示ユニット２２５０における抽選結果の表示が規制されるようになっている。これにより、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが不整合となったことを直ぐに判別することができるようになり、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが不整合の状態で不完全な演出が実行されることを抑止できる。したがって、遊技興趣の低下を抑制することができる。

【４４７１】

Ｆ２：
第２遊技盤側構成部の接続状態を判別する接続判別手段をさらに備え、接続判別手段によって第２遊技盤側構成部が未接続状態であると判別された場合であっても複数の表示部における抽選結果の表示を規制しない。
【４４７２】
具体的には、第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲの接続状態を判別する接続判別手段である図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理をさらに備え（換言すると、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理は、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとの整合を判別する整合判別手段としての機能と、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとの接続状態を判別する接続判別手段としての機能と、を有している。）、接続判別手段である周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理によって第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲが未接続状態であると判別された場合であっても複数の表示部である、主制御基板１３１０により制御される機能表示ユニット１４００と周辺制御基板１５１０により制御されるサブ機能表示ユニット２２５０とにおける抽選結果の表示を規制しない。例えば、図３１１の電源投入後におけるエラー対応７（図３０８（ｃ）における状態８：未接続エラー、右側遊技盤５ＡＲとの接続確認不可）においては、主制御基板１３１０により制御される機能表示ユニット１４００は所定のＬＥＤが点灯するとともに、周辺制御基板１５１０により制御されるサブ機能表示ユニット２２５０は所定のＬＥＤが点灯する。
【４４７３】
第１遊技盤側構成部は、遊技の進行を制御する遊技制御手段と、遊技制御手段からの信号に基づいて演出を制御する演出制御手段と、を備え、遊技制御手段は、複数の表示部のうち第１表示部を制御して抽選結果を表示させ、演出制御手段は、複数の表示部のうち第２表示部を制御して抽選結果を表示させるものであり、整合判別手段によって不整合と判別された場合に、演出制御手段によって制御される第２表示部における抽選結果の表示を規制する一方で、遊技制御手段によって制御される第１表示部における抽選結果の表示を規制しない。
【４４７４】
具体的には、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬは、遊技の進行を制御する遊技制御手段である主制御基板１３１０と、遊技制御手段である主制御基板１３１０からの信号（各種コマンド）に基づいて演出を制御する演出制御手段である周辺制御基板１５１０と、を備え、遊技制御手段である主制御基板１３１０は、複数の表示部である、主制御基板１３１０により制御される機能表示ユニット１４００と周辺制御基板１５１０により制御されるサブ機能表示ユニット２２５０とのうち一部の表示部である周辺制御基板１５１０により制御されるサブ機能表示ユニット２２５０のうち第１表示部である機能表示ユニット１４００を制御して図２５７の主制御側タイマ割り込み処理におけるステップＳ１１４の特別図柄及び特別電動役物制御処理の抽選結果を表示させ、演出制御手段である周辺制御基板１５１０は、複数の表示部である、主制御基板１３１０により制御される機能表示ユニット１４００と周辺制御基板１５１０により制御されるサブ機能表示ユニット２２５０とのうち一部の表示部である周辺制御基板１５１０により制御されるサブ機能表示ユニット２２５０のうち第２表示部であるサブ機能表示ユニット２２５０を制御して図２５７の主制御側タイマ割り込み処理におけるステップＳ１１４の特別図柄及び特別電動役物制御処理の抽選結果を図２５７の主制御側タイマ割り込み処理におけるステップＳ１２０の周辺制御基板コマンド送信処理において送信されたコマンドを受信し、この受信したコマンドに基づいて抽選結果を表示させるものであり、整合判別手段である図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理によって不整合と判別された場合に、演出制御手段である周辺制御基板１５１０によって制御される第２表示部であるサブ機能表示ユニット２２５０における抽選結果の表示を規制する一方で、遊技

制御手段である主制御基板１３１０によって制御される第１表示部である機能表示ユニット１４００における抽選結果の表示を規制しない。例えば、図３１１の電源投入後におけるエラー対応１（ＩＤエラー１対応）においては、周辺制御基板１５１０により制御されるサブ機能表示ユニット２２５０は消灯（全消灯）するのに対して、主制御基板１３１０により制御される機能表示ユニット１４００は所定のＬＥＤが点灯する。

【４４７５】

Ｆ３：

右側遊技盤５ＡＲに予め決めた自己識別符号（ＩＤ）をハード的に（ハードウェアによる回路により）割り付ける。具体的には、右側遊技盤５ＡＲに備える図３０５のＩＤ出力回路ＩＤＣにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣａの８本のＩＤ設定端子を＋５Ｖまたはグランド（ＧＮＤ、回路グランド）と電気的に接続してＩＤ設定値（１１１１０００００Ｂ）を割り付ける。

【４４７６】

右側遊技盤５ＡＲにハード的に（ハードウェアによる回路により）割り付けたＩＤと判定用ＩＤコードとを比較して同じであれば有効信号を出力する。具体的には、右側遊技盤５ＡＲに備える図３０５のＩＤ出力回路ＩＤＣにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣａの反転ＱＨ端子から出力されるＩＤコード信号が図３０３の左側遊技盤５ＡＬに備える周辺制御基板１５１０に入力され、周辺制御基板１５１０は、この入力されたＩＤコード信号から右側遊技盤５ＡＲのＩＤを取得し、判定用ＩＤコードである周辺制御ＲＯＭに予め記憶される組み合わせテーブル（図３０８）を参照して判定（比較）する。分割遊技盤の組み合わせは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理で行われる。分割遊技盤の組み合わせが適合（整合）している場合には、図３０８（ｃ）に示した他のＩＤが適合していることを条件として、状態１：正常となり、扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等の扉枠ユニット（以下、「扉枠ユニット」と記載する場合がある。）、及び分割遊技盤５Ａによる演出が進行される。周辺制御基板１５１０は、例えば、分割遊技盤５Ａのサブ機能表示ユニット２２５０における所定のＬＥＤを点灯する制御信号を、演出を進行する有効信号として、出力している。

【４４７７】

右側遊技盤５ＡＲにハード的に（ハードウェアによる回路により）割り付けたＩＤと判定用ＩＤコードとを比較して同じでなければ有効信号を出力しない。具体的には、右側遊技盤５ＡＲに備える図３０５のＩＤ出力回路ＩＤＣにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣａの反転ＱＨ端子から出力されるＩＤコード信号が図３０３の左側遊技盤５ＡＬに備える周辺制御基板１５１０に入力され、周辺制御基板１５１０は、この入力されたＩＤコード信号から右側遊技盤５ＡＲのＩＤを取得し、判定用ＩＤコードである周辺制御ＲＯＭに予め記憶される組み合わせテーブル（図３０８）を参照して判定（比較）する。分割遊技盤の組み合わせは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理で行われる。分割遊技盤の組み合わせが適合（整合）していない場合には、周辺制御基板１５１０は、例えば、図３０８（ｃ）に示した状態２：ＩＤエラー１となると、図３１１の電源投入後におけるエラー対応１（ＩＤエラー１対応）において、分割遊技盤５Ａのサブ機能表示ユニット２２５０における所定のＬＥＤを点灯する制御信号を、演出を進行する有効信号として、出力せず、サブ機能表示ユニット２２５０を消灯（全消灯）する。

【４４７８】

電源投入後の任意のタイミングで操作部を操作しても報知しない場合がある（正規ＩＤである場合）。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動としてエラー対応１～エラー対応９が発生していない場合、つまり図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動として正常動作（エラー対応なし）である場合、主制御基板１３１０に備える設定キースイッチ１３１１ａに設定キーを挿入してＯＮ操作されたことにより主制御基板１３１０の主制御ＭＰ

Ｕ１３１０ａが主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３７の設定変更処理を行っている場合には（この設定変更処理を完了するまでの所定期間が経過するまで）、正常動作（エラー対応なし）である旨の報知を行うことができないようになっている。また、図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動として正常動作（エラー対応なし）である場合には、対処法により「なし」であるため、正常動作（エラー対応なし）における特別な報知態様がない。換言すると、正常動作（エラー対応なし）場合には、その旨を報知しない。

【４４７９】

なお、正規ＩＤ、ＩＤエラー、未接続エラーを電源投入後の任意のタイミングで知るようにする場合、つまり図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動として正常動作（エラー対応なし）、エラー対応１～エラー対応９等のＩＤエラーや未接続エラーは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理という電源投入後に予め定められた期間により判定されていたが、電源投入後の任意のタイミングで知るようにしてもよい。具体的には、正規ＩＤ、ＩＤエラーや未接続エラーは、図２６７に示した周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理において、ＩＤ判定処理を行って判定してもよい。演出操作ユニットに関する正規ＩＤ、ＩＤエラーや未接続エラーは、図２６７に示した周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理におけるステップＳ演出操作ユニット情報取得処理において判定してもよい。いずれの場合であっても、図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動として正常動作（エラー対応なし）である場合には、対処法により「なし」であるため、正常動作（エラー対応なし）における特別な報知態様がない。換言すると、正常動作（エラー対応なし）である場合には、その旨を報知しない。

【４４８０】

正規ＩＤであると判別された場合にはその後に操作部を操作しても報知はされない。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、図３０８（ｃ）の状態１：正常、つまり正常ＩＤと判断した場合には、報知を行わない（同図の対象法：なし）。つまり、電源投入時の所定期間内に左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが正常であるとして正常ＩＤと判断した場合には、その後、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせの状態を全く判定しないようになっており、仮に、このタイミングにおいて、主制御基板１３１０に備える設定キースイッチ１３１１ａに設定キーを挿入してＯＮ操作したとしても、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、図２５６の主制御側電源投入時処理における主制御側メイン処理や図２５７の主制御側タイマ割り込み処理を行っており、主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３７の設定変更処理を行うことができないため、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、正常動作（エラー対応なし）であるの旨の報知を行うことができないようになっている。

【４４８１】

正常ＩＤでない（異常ＩＤ）と判別された場合には少なくとも正常ＩＤとなるまで報知を継続する。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１（図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応））、つまり、正常ＩＤでない（異常ＩＤ）と判断した場合には、同図（ｃ）の対処法：電源遮断後に適合ＩＤ品に交換されるまで、このエラー対応１（ＩＤエラー１対応）の報知が維持されるようになっている。このような報知により、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）である状態のまま遊技を行い難くすることができる。

【４４８２】

電源投入時の所定期間内に正常ＩＤと判断した場合には、報知を行わないが、電源投入時の所定期間内に異常ＩＤと判断した場合には、状態が変更された場合に報知態様を変更し得る。異常の場合には、正常になると報知態様を変更する。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、図３０８（ｃ）の状態１：正常、つまり正常

ＩＤと判断した場合には、報知を行わない（同図の対象法：なし）のに対して、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１（図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応））、つまり、異常ＩＤと判断した場合には、このエラー対応１（ＩＤエラー１対応）の報知が維持され、同図（ｃ）の対処法：電源遮断後に適合ＩＤ品に交換後に、図３０８（ｃ）の状態１：正常、つまり正常ＩＤと判断した場合に報知が行われなくなる。つまり、電源投入時の所定期間内に左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが正常であるとして正常ＩＤと判断した場合には、その後、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせの状態を全く判定しないようになっており、仮に、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）となるようになったとしても、不適合（不整合）であるとして異常ＩＤである旨を伝える報知態様とならない。これにより、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせの判定を電源投入時の所定期間内に限定することにより、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる演出の進行への処理負荷の低減に寄与することができる。

【４４８３】

一部の報知以外は報知を終了する。具体的には、例えば、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１（図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応））、つまり、異常ＩＤと判断した場合には、周辺制御基板１５１０に実装される図示しないリアルタイムクロックＩＣの内蔵ＲＡＭに履歴情報として保存する。この場合、日時と紐付けて保存される。そして、パチンコ機１の電源を遮断して左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが正しいものを本体枠３に装着し、再びパチンコ機１が電源投入されると、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、図３０８（ｃ）の状態１：正常、つまり正常ＩＤと判断した場合には、例えば、演出表示装置又はサブ演出表示装置に「ＩＤ異常」という履歴を表示してもよいし、この履歴を所定期間又はパチンコ機１の電源が遮断されるまで表示してもよい。履歴を表示されながら、演出の進行を行うこととなる。

【４４８４】

一度でも正常に戻った場合には、再び異常になっても報知態様を変更しない。具体的には、例えば、異常な状態から正常な状態に戻すには、遊技盤を外して修正する行為が発生するため、このときにパチンコ機の電源を遮断し（落とし）周辺制御基板への電源供給が遮断され、再び遊技盤を装着して再度パチンコ機の電源を投入する必要がある。パチンコ機が電源投入され周辺制御基板への電源が供給されると、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理により演出操作ユニットのＩＤ等の確認（以下、「ＩＤ確認」と記載する場合がある）を行うことができるため、パチンコ機の電源投入時において図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理によるＩＤ確認と、パチンコ機の電源遮断時まで続く報知処理を行えば、それ以後についてはＩＤ確認や報知処理の制御をしなくても良い。

【４４８５】

つまり、パチンコ機１が電源投入されたまま任意のタイミングにおいて（パチンコ機１のシステムが起動完了して遊技の進行及び演出の進行を行うことができるようになっている状態において）、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理を、図２６７に示した周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の一処理として繰り返し行われるようにするとともに、演出操作ユニットを扉枠４の皿ユニット２００に脱着する場合には、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の一処理として繰り返し行われるＩＤ判定処理において一度でも正常ＩＤとして判断された演出操作ユニットを異常ＩＤとなる他の演出操作ユニットへ交換したとき（または、異常ＩＤの演出操作ユニットから正常ＩＤの演出操作ユニットへ交換し、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の一処理として繰り返し行われるＩＤ判定処理において一度正常ＩＤとして判断され再び異常ＩＤの演出操作ユニットへ戻したとき）には、結果的に、実際には演出操作ユニットと分割遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）となっていても、演出の進行が継続され、演出操作

ユニットが異常ＩＤであるという報知が行われない。したがって、一度でも正常に戻った場合には、再び異常になっても報知態様を変更しない。

【４４８６】

Ｆ４：

不整合の場合は液晶で異常報知する。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）であると判断した場合は、例えば、図３１０の電源投入時におけるエラー対応１（ＩＤエラー１対応）においては、演出表示装置１６００に、黒色の背景に「電源復旧中」、「しばらくお待ちください」という報知文字を表示し、起動音楽が終了すると演出時の画像（例えば、各種入賞口へ遊技球が入球したことに基づいて演出が進行する場合など）を表示する。そして、図３１１の電源投入後におけるエラー対応１（ＩＤエラー１対応）においては、演出表示装置１６００に、演出時（例えば、各種入賞口へ遊技球が入球したことに基づいて演出が進行する場合など）の画像または客待ち時（例えば、デモンストレーションが行われている場合や停止画像となっている場合など）の画像に「しばらくお待ちください」という報知文字を表示する。

【４４８７】

不整合の場合は演出制御手段による制御を行わない。具体的には、例えば、演出制御手段である周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）であると判断した場合は、例えば、図３１１の電源投入後におけるエラー対応１（ＩＤエラー１対応）においては、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａの制御対象となっている扉枠ユニットの各種ＬＥＤ、及び遊技盤の各種ＬＥＤは消灯（全消灯）するとともに、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａの制御対象となっている遊技盤側可動体、及び遊技枠側可動体は原位置復帰などの動作なし（未動作）とする。

【４４８８】

不整合の場合は音声で異常報知する。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）であると判断した場合は、例えば、図３１０の電源投入時におけるエラー対応１（ＩＤエラー１対応）においては、起動音楽の終了後に「係員をお呼びください」というアナウンス音を流し所定のエラー報知音を７回流す。このような音声態様を繰り返し流す。そして、図３１１の電源投入後におけるエラー対応１（ＩＤエラー１対応）においては、「係員をお呼びください」というアナウンス音を流し所定のエラー報知音を７回流す。このような音声態様を繰り返し流す。

【４４８９】

不整合の場合は扉枠のランプ（着脱可能とされる装飾部材に設けられるランプでもよいし、着脱不可能とされる装飾部材に設けられるランプでもよい）を異常時の態様で点灯する。具体的には、まず本体枠４に開閉可能に支持される扉枠３には、扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等の扉枠ユニット（以下、「扉枠ユニット」と記載する場合がある。）が装着されている。周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）であると判断した場合は、例えば、図３１３の電源投入後におけるエラー対応１（ＩＤエラー１対応）においては、扉枠ユニットの各種ＬＥＤを異常時の態様として赤色に点滅する。なお、扉枠ユニットの各種ＬＥＤは、扉枠３に着脱可能とされる各種ユニット（各種装飾部材）に設けられるもののほかに、扉枠３に取り付けられて固定される各種装飾部材に設けられるものでもよい。

【４４９０】

第２遊技盤側構成部が複数ある場合には一つでも正規ＩＤでなければ複数の第２遊技盤側構成部全てを駆動しない。具体的には、第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲがさらに上側と下側とに分割される、図３０７に示した右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとから構成される場合には、右上側遊技盤５ＡＲＴには自身を識別することができるＩＤ出力回路ＩＤＣＴが設けられ、右下側遊技盤５ＡＲＵには自身を識別することができるＩＤ出力回路ＩＤＣＵが設けられている。右上側遊技盤５ＡＲＴにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＴａと右下側遊技盤５ＡＲＵにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＵａとデイジーチェーン接続され、右上側遊技盤５ＡＲＴにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＴａによる８ビットのシフトレジスタと、右下側遊技盤５ＡＲＵにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＵａによる８ビットのシフトレジスタと、による１６ビットのシフトレジスタとして動作することとなる。周辺制御基板１５１０には、前段の８ビットのシフトレジスタとなる右上側遊技盤５ＡＲＴにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＴａの各フリップフロップが保持する内容に続いて、後段の８ビットのシフトレジスタとなる右下側遊技盤５ＡＲＵにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＵａの各フリップフロップが保持する内容が１ビットずつ順番にシリアルデータとして入力される。周辺制御基板１５１０は、ＩＤコード信号を取得して左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとの適合性（整合性）について判定することができる。右上側遊技盤と右下側遊技盤との組み合わせで、右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとを組み合わすはずが、右上側遊技盤５ＡＲＴと適合（整合）しない他の右下側遊技盤とを組み合わせた場合には、左側遊技盤５ＡＬと右上側遊技盤５ＡＲＴとが適合（整合）している場合であっても、右上側遊技盤５ＡＲＴに設けられる各種ＬＥＤ、及び右上側遊技盤５ＡＲＴと適合（整合）しない他の右下側遊技盤に設けられる各種ＬＥＤは、消灯する（全消灯）状態とする。

【４４９１】

［小括Ｇ］

Ｇ１：

所定の動作態様で駆動する可動装飾体を有する遊技枠側構成部と、遊技枠側構成部に設けられて第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とを有する遊技盤側構成部と、第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部との整合を判別する整合判別手段と、第２遊技盤側構成部に設けられる複数の発光体と、を備え、整合判別手段によって不整合と判別された場合に、第２遊技盤側構成部に設けられる複数の発光体の発光を規制するものであって、遊技枠側構成部に設けられる可動装飾体は、整合判別手段による判別の対象とされていないものの、第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とが不整合であると判別した場合には駆動が規制される。

【４４９２】

具体的には、例えば、本体枠４に遊技盤が装着され、本体枠４に開閉可能に支持される扉枠３には、扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等の扉枠ユニット（以下、「扉枠ユニット」と記載する場合がある。）が装着されている。皿ユニット２００には、演出操作ユニット３００が備えられている。演出操作ユニット３００は、図５２に示した演出操作部３０１を備えており、所定の動作態様で駆動する可動装飾体となっている。扉枠３と本体枠４とから構成される遊技枠側構成部には、遊技盤側構成部として、遊技盤と、所定の動作態様で駆動する可動装飾体である演出操作部３０１を備える演出操作ユニット３００と、が設けられている。

【４４９３】

また、遊技枠側構成部である本体枠４に設けられて第１遊技盤側構成部である図３０２の左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である図３０２の右側遊技盤５ＡＲとを有する遊技盤側構成部である図３０２の分割遊技盤５Ａと、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとの整合を判別する整合判別手段である図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理

と、第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲに設けられる複数の発光体である各種ＬＥＤと、を備えている。

【４４９４】

この演出操作ユニット３００には、自己を識別するためのＩＤが全く設けられず演出操作ユニット３００がどの仕様においても共通して使用することができるものであり、図５２に示した演出操作部３０１のような可動体が設けられている。演出操作ユニット３００に設けられる演出操作部３０１のような可動体は、図３１０～図３１５に示した「遊技枠側可動体」に含まれるものとして扱われるようになっている。

【４４９５】

整合判別手段である周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理によって不整合と判別された場合に、第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲに設けられる複数の発光体である各種ＬＥＤの発光を規制するものであって、遊技枠側構成部である扉枠３に設けられる可動装飾体である演出操作ユニット３００は、整合判別手段である周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理による判別の対象とされていないものの、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが不整合であると判別した場合には駆動が規制される。例えば、図３１０の電源投入時におけるエラー対応１（ＩＤエラー１対応）においては、遊技枠側可動体が原位置復帰などの動作なし（未動作）となる。なお、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが不整合であると判別した場合に、遊技枠側構成部である扉枠３に設けられる可動装飾体（この例では演出操作ユニット３００）の駆動を規制する態様として、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが整合であると判別した場合とは異なる態様に制御するものであればよい。例えば、遊技枠側構成部である扉枠３に設けられる可動装飾体のうちの一部又は全部を特定の駆動態様（一定速度で回転駆動する等）で駆動させたり、遊技枠側構成部である扉枠３に設けられる可動装飾体のうちの一部又は全部を駆動されないように制御するものであってもよい。

【４４９６】

このように、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが不整合である場合には、整合判別手段である周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理による判別の対象とされていない遊技枠側構成部である扉枠３に設けられる可動装飾体である演出操作ユニット３００の駆動が規制されるようになっている。これにより、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが不整合となったことを直ぐに判別することができるようになり、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが不整合の状態で不完全な演出が実行されることを抑止できる。したがって、遊技興趣の低下を抑制することができる。

【４４９７】

Ｇ２：

電源投入からの所定期間内に整合判別手段が整合と判別した場合には、その後に不整合となっても可動装飾体の駆動を規制しない。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとの整合性を判定して、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが適合（整合）していると判別すると、その後、左側遊技盤と右側遊技盤との適合性（整合性）を全く判定しないようになっており、仮に、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）となるようになったとしても、可動装飾体である演出操作ユニット３００の駆動が規制されずに作動する。つまり、演出操作部３０１が所定の動作態様で（演出の進行に沿って）駆動されて作動することとなる。

【４４９８】

電源投入からの所定期間内に整合判別手段が不整合と判別した場合には、整合となった

ことに基づいて可動装飾体に関する規制を解除する。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１（図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応））、つまり、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとの整合性を判定して、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）していると判別すると、このエラー対応１（ＩＤエラー１対応）の報知が維持され、同図（ｃ）の対処法：電源遮断後に適合ＩＤ品に交換後に、図３０８（ｃ）の状態１：正常、つまり第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとの整合性を判定して、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが適合（整合）していると判別すると、報知が解除されるようになっている。

【４４９９】

Ｇ３：

右側遊技盤５ＡＲに予め決めた自己識別符号（ＩＤ）をハード的に（ハードウェアによる回路により）割り付ける。具体的には、右側遊技盤５ＡＲに備える図３０５のＩＤ出力回路ＩＤＣにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣａの８本のＩＤ設定端子を＋５Ｖまたはグランド（ＧＮＤ、回路グランド）と電気的に接続してＩＤ設定値（１１１１０００００Ｂ）を割り付ける。

【４５００】

右側遊技盤５ＡＲにハード的に（ハードウェアによる回路により）割り付けたＩＤと判定用ＩＤコードとを比較して同じであれば有効信号を出力する。具体的には、右側遊技盤５ＡＲに備える図３０５のＩＤ出力回路ＩＤＣにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣａの反転ＱＨ端子から出力されるＩＤコード信号が図３０３の左側遊技盤５ＡＬに備える周辺制御基板１５１０に入力され、周辺制御基板１５１０は、この入力されたＩＤコード信号から右側遊技盤５ＡＲのＩＤを取得し、判定用ＩＤコードである周辺制御ＲＯＭに予め記憶される組み合わせテーブル（図３０８）を参照して判定（比較）する。分割遊技盤の組み合わせは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理で行われる。分割遊技盤の組み合わせが適合（整合）している場合には、図３０８（ｃ）に示した他のＩＤが適合していることを条件として、状態１：正常となり、扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等の扉枠ユニット（以下、「扉枠ユニット」と記載する場合がある。）、及び分割遊技盤５Ａによる演出が進行される。周辺制御基板１５１０は、例えば、演出操作ユニット３００に対して、演出操作部３０１が所定の動作態様で駆動されて作動する制御信号を、演出を進行する有効信号として、出力している。

【４５０１】

右側遊技盤５ＡＲにハード的に（ハードウェアによる回路により）割り付けたＩＤと判定用ＩＤコードとを比較して同じでなければ有効信号を出力しない。具体的には、右側遊技盤５ＡＲに備える図３０５のＩＤ出力回路ＩＤＣにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣａの反転ＱＨ端子から出力されるＩＤコード信号が図３０３の左側遊技盤５ＡＬに備える周辺制御基板１５１０に入力され、周辺制御基板１５１０は、この入力されたＩＤコード信号から右側遊技盤５ＡＲのＩＤを取得し、判定用ＩＤコードである周辺制御ＲＯＭに予め記憶される組み合わせテーブル（図３０８）を参照して判定（比較）する。分割遊技盤の組み合わせは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理で行われる。分割遊技盤の組み合わせが適合（整合）していない場合には、周辺制御基板１５１０は、例えば、図３０８（ｃ）に示した状態２：ＩＤエラー１となると、図３１０の電源投入後におけるエラー対応１（ＩＤエラー１対応）において、遊技枠側可動体が所定の動作態様で駆動されて作動する制御信号を、演出を進行する有効信号として、出力せず、遊技枠側可動体を原位置復帰などの動作なし（未動作）とする。

【４５０２】

電源投入後の任意のタイミングで操作部を操作しても報知しない場合がある（正規ＩＤ

である場合）。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動としてエラー対応１～エラー対応９が発生していない場合、つまり図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動として正常動作（エラー対応なし）である場合、主制御基板１３１０に備える設定キースイッチ１３１１ａに設定キーを挿入してＯＮ操作されたことにより主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３７の設定変更処理を行っている場合には（この設定変更処理を完了するまでの所定期間が経過するまで）、正常動作（エラー対応なし）である旨の報知を行うことができないようになっている。また、図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動として正常動作（エラー対応なし）である場合には、対処法により「なし」であるため、正常動作（エラー対応なし）における特別な報知態様がない。換言すると、正常動作（エラー対応なし）場合には、その旨を報知しない。

【４５０３】

なお、正規ＩＤ、ＩＤエラー、未接続エラーを電源投入後の任意のタイミングで知るようにする場合、つまり図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動として正常動作（エラー対応なし）、エラー対応１～エラー対応９等のＩＤエラーや未接続エラーは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理という電源投入後に予め定められた期間により判定されていたが、電源投入後の任意のタイミングで知るようにしてもよい。具体的には、正規ＩＤ、ＩＤエラーや未接続エラーは、図２６７に示した周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理において、ＩＤ判定処理を行って判定してもよい。演出操作ユニットに関する正規ＩＤ、ＩＤエラーや未接続エラーは、図２６７に示した周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理におけるステップＳ演出操作ユニット情報取得処理において判定してもよい。いずれの場合であっても、図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動として正常動作（エラー対応なし）である場合には、対処法により「なし」であるため、正常動作（エラー対応なし）における特別な報知態様がない。換言すると、正常動作（エラー対応なし）である場合には、その旨を報知しない。

【４５０４】

正規ＩＤであると判別された場合にはその後に操作部を操作しても報知はされない。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、図３０８（ｃ）の状態１：正常、つまり正常ＩＤと判断した場合には、報知を行わない（同図の対象法：なし）。つまり、電源投入時の所定期間内に左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが正常であるとして正常ＩＤと判断した場合には、その後、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせの状態を全く判定しないようになっており、仮に、このタイミングにおいて、主制御基板１３１０に備える設定キースイッチ１３１１ａに設定キーを挿入してＯＮ操作したとしても、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、図２５６の主制御側電源投入時処理における主制御側メイン処理や図２５７の主制御側タイマ割り込み処理を行っており、主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３７の設定変更処理を行うことができないため、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、正常動作（エラー対応なし）であるの旨の報知を行うことができないようになっている。

【４５０５】

正常ＩＤでない（異常ＩＤ）と判別された場合には少なくとも正常ＩＤとなるまで報知を継続する。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１（図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応））、つまり、正常ＩＤでない（異常ＩＤ）と判断した場合には、同図（ｃ）の対処法：電源遮断後に適合ＩＤ品に交換されるまで、このエラー対応１（ＩＤエラー１対応）の報知が維持されるようになっている。このような報知により、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）である状態のまま遊技を行い難くすることができる。

【４５０６】

電源投入時の所定期間内に正常ＩＤと判断した場合には、報知を行わないが、電源投入時の所定期間内に異常ＩＤと判断した場合には、状態が変更された場合に報知態様を変更し得る。異常の場合には、正常になると報知態様を変更する。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、図３０８（ｃ）の状態１：正常、つまり正常ＩＤと判断した場合には、報知を行わない（同図の対象法：なし）のに対して、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１（図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応））、つまり、異常ＩＤと判断した場合には、このエラー対応１（ＩＤエラー１対応）の報知が維持され、同図（ｃ）の対処法：電源遮断後に適合ＩＤ品に交換後に、図３０８（ｃ）の状態１：正常、つまり正常ＩＤと判断した場合に報知が行われなくなる。つまり、電源投入時の所定期間内に左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが正常であるとして正常ＩＤと判断した場合には、その後、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせの状態を全く判定しないようになっており、仮に、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）となるようになったとしても、不適合（不整合）であるとして異常ＩＤである旨を伝える報知態様とならない。これにより、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせの判定を電源投入時の所定期間内に限定することにより、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる演出の進行への処理負荷の低減に寄与することができる。

【４５０７】

一部の報知以外は報知を終了する。具体的には、例えば、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１（図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応））、つまり、異常ＩＤと判断した場合には、周辺制御基板１５１０に実装される図示しないリアルタイムクロックＩＣの内蔵ＲＡＭに履歴情報として保存する。この場合、日時と紐付けて保存される。そして、パチンコ機１の電源を遮断して左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが正しいものを本体枠３に装着し、再びパチンコ機１の電源が投入されると、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、図３０８（ｃ）の状態１：正常、つまり正常ＩＤと判断した場合には、例えば、演出表示装置又はサブ演出表示装置に「ＩＤ異常」という履歴を表示してもよいし、この履歴を所定期間又はパチンコ機１の電源が遮断されるまで表示してもよい。履歴を表示されながら、演出の進行を行うこととなる。

【４５０８】

一度でも正常に戻った場合には、再び異常になっても報知態様を変更しない。具体的には、例えば、異常な状態から正常な状態に戻すには、遊技盤を外して修正する行為が発生するため、このときにパチンコ機の電源を遮断し（落とし）周辺制御基板への電源供給が遮断され、再び遊技盤を装着して再度パチンコ機の電源を投入する必要がある。パチンコ機が電源投入され周辺制御基板への電源が供給されると、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理により演出操作ユニットのＩＤ等の確認（以下、「ＩＤ確認」と記載する場合がある）を行うことができるため、パチンコ機の電源投入時において図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理によるＩＤ確認と、パチンコ機の電源遮断時まで続く報知処理を行えば、それ以後についてはＩＤ確認や報知処理の制御をしなくても良い。

【４５０９】

つまり、パチンコ機１が電源投入されたまま任意のタイミングにおいて（パチンコ機１のシステムが起動完了して遊技の進行及び演出の進行を行うことができるようになっている状態において）、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理を、図２６７に示した周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の一処理として繰り返し行われるようにするとともに、演出操作ユニットを扉枠４の皿ユニット２００に脱着する場合には、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の一処理として繰り返し行われるＩＤ判定処理において一度でも正常ＩＤとして判断された演出操作ユニットを異常ＩＤ

となる他の演出操作ユニットへ交換したとき（または、異常ＩＤの演出操作ユニットから正常ＩＤの演出操作ユニットへ交換し、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の一処理として繰り返し行われるＩＤ判定処理において一度正常ＩＤとして判断され再び異常ＩＤの演出操作ユニットへ戻したとき）には、結果的に、実際には演出操作ユニットと分割遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）となっていても、演出の進行が継続され、演出操作ユニットが異常ＩＤであるという報知が行われない。したがって、一度でも正常に戻った場合には、再び異常になっても報知態様を変更しない。

【４５１０】

Ｇ４：

不整合の場合は液晶で異常報知する。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）であると判断した場合は、例えば、図３１０の電源投入時におけるエラー対応１（ＩＤエラー１対応）においては、演出表示装置１６００に、黒色の背景に「電源復旧中」、「しばらくお待ちください」という報知文字を表示し、起動音楽が終了すると演出時の画像（例えば、各種入賞口へ遊技球が入球したことに基づいて演出が進行する場合など）を表示する。そして、図３１１の電源投入後におけるエラー対応１（ＩＤエラー１対応）においては、演出表示装置１６００に、演出時（例えば、各種入賞口へ遊技球が入球したことに基づいて演出が進行する場合など）の画像または客待ち時（例えば、デモンストレーションが行われている場合や停止画像となっている場合など）の画像に「しばらくお待ちください」という報知文字を表示する。

【４５１１】

不整合の場合は演出制御手段による制御を行わない。具体的には、例えば、演出制御手段である周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）であると判断した場合は、例えば、図３１１の電源投入後におけるエラー対応１（ＩＤエラー１対応）においては、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａの制御対象となっている扉枠ユニットの各種ＬＥＤ、及び遊技盤の各種ＬＥＤは消灯（全消灯）するとともに、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａの制御対象となっている遊技盤側可動体、及び遊技枠側可動体は原位置復帰などの動作なし（未動作）とする。

【４５１２】

不整合の場合は音声で異常報知する。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）であると判断した場合は、例えば、図３１０の電源投入時におけるエラー対応１（ＩＤエラー１対応）においては、起動音楽の終了後に「係員をお呼びください」というアナウンス音を流し所定のエラー報知音を７回流す。このような音声態様を繰り返し流す。そして、図３１１の電源投入後におけるエラー対応１（ＩＤエラー１対応）においては、「係員をお呼びください」というアナウンス音を流し所定のエラー報知音を７回流す。このような音声態様を繰り返し流す。

【４５１３】

不整合の場合は扉枠のランプ（着脱可能とされる装飾部材に設けられるランプでもよいし、着脱不可能とされる装飾部材に設けられるランプでもよい）を異常時の態様で点灯する。具体的には、まず本体枠４に開閉可能に支持される扉枠３には、扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等の扉枠ユニット（以下、「扉枠ユニット」と記載する場合がある。）が装着されている。周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）であると判断した場合は、例えば、図３１３の電源投入

後におけるエラー対応１（ＩＤエラー１対応）においては、扉枠ユニットの各種ＬＥＤを異常時の態様として赤色に点滅する。なお、扉枠ユニットの各種ＬＥＤは、扉枠３に着脱可能とされる各種ユニット（各種装飾部材）に設けられるもののほかに、扉枠３に取り付けられて固定される各種装飾部材に設けられるものでもよい。

【４５１４】

第２遊技盤側構成部が複数ある場合には一つでも正規ＩＤでなければ複数の第２遊技盤側構成部全てを駆動しない。具体的には、第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲがさらに上側と下側とに分割される、図３０７に示した右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとから構成される場合には、右上側遊技盤５ＡＲＴには自身を識別することができるＩＤ出力回路ＩＤＣＴが設けられ、右下側遊技盤５ＡＲＵには自身を識別することができるＩＤ出力回路ＩＤＣＵが設けられている。右上側遊技盤５ＡＲＴにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＴａと右下側遊技盤５ＡＲＵにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＵａとデイジーチェーン接続され、右上側遊技盤５ＡＲＴにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＴａによる８ビットのシフトレジスタと、右下側遊技盤５ＡＲＵにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＵａによる８ビットのシフトレジスタと、による１６ビットのシフトレジスタとして動作することとなる。周辺制御基板１５１０には、前段の８ビットのシフトレジスタとなる右上側遊技盤５ＡＲＴにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＴａの各フリップフロップが保持する内容に続いて、後段の８ビットのシフトレジスタとなる右下側遊技盤５ＡＲＵにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＵａの各フリップフロップが保持する内容が１ビットずつ順番にシリアルデータとして入力される。周辺制御基板１５１０は、ＩＤコード信号を取得して左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとの適合性（整合性）について判定することができる。右上側遊技盤と右下側遊技盤との組み合わせで、右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとを組み合わすはずが、右上側遊技盤５ＡＲＴと適合（整合）しない他の右下側遊技盤とを組み合わせた場合には、左側遊技盤５ＡＬと右上側遊技盤５ＡＲＴとが適合（整合）している場合であっても、右上側遊技盤５ＡＲＴに設けられる各種ＬＥＤ、及び右上側遊技盤５ＡＲＴと適合（整合）しない他の右下側遊技盤に設けられる各種ＬＥＤは、消灯する（全消灯）状態とする。

【４５１５】

［小括Ｈ］

Ｈ１：

複数の枠発光手段を有する遊技盤側構成部と、遊技盤側構成部に設けられて第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とを有する遊技盤側構成部と、第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部との整合を判別する整合判別手段と、第２遊技盤側構成部に設けられる複数の盤発光手段と、を備え、整合判別手段によって不整合と判別された場合に、第２遊技盤側構成部に設けられる複数の盤発光手段の発光を規制するものであって、遊技盤側構成部に設けられる複数の枠発光手段は、整合判別手段による判別の対象とされていないものの、第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とが不整合であると判別した場合には少なくとも一部の発光が規制される。

【４５１６】

具体的には、例えば、本体枠４に遊技盤が装着され、本体枠４に開閉可能に支持される扉枠３には、扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等の扉枠ユニット（以下、「扉枠ユニット」と記載する場合がある。）が装着されている。皿ユニット２００には、演出操作ユニット３００が備えられている。演出操作ユニット３００には、図５３に示した各種ＬＥＤ（例えば、複数のＬＥＤ３２０ａ、ＬＥＤ３５５ａ、ＬＥＤ３６４ａなど）が実装される各種装飾基板（例えば、演出操作部外周装飾基板３２０、ボタン外装飾基板３５５、ボタン中装飾基板３６４など）が設けられている。扉枠３と本体枠４とから構成される遊技枠側構成部には、遊技盤側構成部として、遊技盤と、複数の枠発光手段である各種ＬＥＤ（例えば、複数のＬＥＤ３２０ａ、ＬＥＤ３５５ａ、ＬＥＤ３６４ａなど）を有する演出操作ユニット３

００と、が設けられている。
【４５１７】
　また、遊技枠側構成部である本体枠４に設けられて第１遊技盤側構成部である図３０２の左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である図３０２の右側遊技盤５ＡＲとを有する遊技盤側構成部である図３０２の分割遊技盤５Ａと、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとの整合を判別する整合判別手段である図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理と、第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲに設けられる複数の盤発光手段である各種ＬＥＤ（例えば、右側遊技盤５ＡＲの後方に配置される右側裏箱３０１０Ｒに収容される各種演出ユニットにおける装飾基板に実装される各種ＬＥＤ）と、を備えている。
【４５１８】
　この演出操作ユニット３００には、自己を識別するためのＩＤが全く設けられず演出操作ユニット３００がどの仕様においても共通して使用することができるものであり、図５３に示した各種ＬＥＤ（例えば、複数のＬＥＤ３２０ａ、ＬＥＤ３５５ａ、ＬＥＤ３６４ａなど）が実装される各種装飾基板（例えば、演出操作部外周装飾基板３２０、ボタン外装飾基板３５５、ボタン中装飾基板３６４など）が設けられている。演出操作ユニット３００に設けられる各種装飾基板（例えば、演出操作部外周装飾基板３２０、ボタン外装飾基板３５５、ボタン中装飾基板３６４など）に実装される各種ＬＥＤ（例えば、複数のＬＥＤ３２０ａ、ＬＥＤ３５５ａ、ＬＥＤ３６４ａなど）は、図３１０～図３１５に示した「扉枠ユニットの各種ＬＥＤ」に含まれるものとして扱われるようになっている。
【４５１９】
　整合判別手段である周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理によって不整合と判別された場合に、第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲに設けられる複数の盤発光手段である右側遊技盤５ＡＲの後方に配置される右側裏箱３０１０Ｒに収容される各種演出ユニットにおける装飾基板に実装される各種ＬＥＤの発光を規制するものであって、遊技枠側構成部である扉枠３に設けられる複数の枠発光手段である演出操作ユニット３００における各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤ（例えば、複数のＬＥＤ３２０ａ、ＬＥＤ３５５ａ、ＬＥＤ３６４ａなど）は、整合判別手段である周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理による判別の対象とされていないものの、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが不整合であると判別した場合には少なくとも一部（例えば、ＬＥＤ３６４ａ）の発光が規制される。例えば、図３１３の電源投入時におけるエラー対応１（ＩＤエラー１対応）においては、扉枠ユニットの各種ＬＥＤは、赤色に点滅するものの、演出操作ユニット３００における各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤ（例えば、複数のＬＥＤ３２０ａ、ＬＥＤ３５５ａ、ＬＥＤ３６４ａなど）のうち一部のＬＥＤ（例えば、ＬＥＤ３６４ａ）のみ消灯（全消灯）する。なお、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが不整合であると判別した場合に、遊技枠側構成部である扉枠３に設けられる複数の枠発光手段である演出操作ユニット３００における各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤ（例えば、複数のＬＥＤ３２０ａ、ＬＥＤ３５５ａ、ＬＥＤ３６４ａなど）の発光を規制する態様として、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが整合であると判別した場合とは異なる態様に制御するものであればよい。例えば、遊技枠側構成部である扉枠３に設けられる複数の枠発光手段である演出操作ユニット３００における各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤ（例えば、複数のＬＥＤ３２０ａ、ＬＥＤ３５５ａ、ＬＥＤ３６４ａなど）のうちの一部又は全部のＬＥＤを消灯したり、遊技枠側構成部である扉枠３に設けられる複数の枠発光手段である演出操作ユニット３００における各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤ（例えば、複数のＬＥＤ３２０ａ、ＬＥＤ３５５ａ、ＬＥＤ３６４ａなど）のうちの一部又は全部のＬＥＤを特定の発光態様（赤色の点滅等）で発光させたりするようにしてもよい。
【４５２０】

このように、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが不整合である場合には、整合判別手段である周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理による判別の対象とされていない枠発光手段である演出操作ユニット３００における各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤ（例えば、複数のＬＥＤ３２０ａ、ＬＥＤ３５５ａ、ＬＥＤ３６４ａなど）のうち一部（例えば、ＬＥＤ３６４ａ）の発光が規制されるようになっている。これにより、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが不整合となったことを直ぐに判別することができるようになり、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが不整合の状態で不完全な演出が実行されることを抑止できる。したがって、遊技興趣の低下を抑制することができる。

【４５２１】

Ｈ２：

電源投入からの所定期間内に整合判別手段が整合と判別した場合には、その後に不整合となっても枠発光手段の発光を規制しない。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとの整合性を判定して、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが適合（整合）していると判別すると、その後、左側遊技盤と右側遊技盤との適合性（整合性）を全く判定しないようになっており、仮に、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）となるようになったとしても、枠発光手段である演出操作ユニット３００における各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤ（例えば、複数のＬＥＤ３２０ａ、ＬＥＤ３５５ａ、ＬＥＤ３６４ａなど）の発光が規制されない。つまり、枠発光手段である演出操作ユニット３００における各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤが所定の発光態様で（演出の進行に沿って）発光することとなる。

【４５２２】

電源投入からの所定期間内に整合判別手段が不整合と判別した場合には、整合となったことに基づいて盤発光手段及び枠発光手段に関する規制を解除する。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１（図３１３～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応））、つまり、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとの整合性を判定して、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）していると判別すると、このエラー対応１（ＩＤエラー１対応）の報知（盤発光手段である右側遊技盤５ＡＲの後方に配置される右側裏箱３０１０Ｒに収容される各種演出ユニットにおける装飾基板に実装される各種ＬＥＤが遊技盤の各種ＬＥＤとして消灯（全消灯）するとともに、枠発光手段である演出操作ユニット３００における各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤ（例えば、複数のＬＥＤ３２０ａ、ＬＥＤ３５５ａ、ＬＥＤ３６４ａなど）のうち一部のＬＥＤ（例えば、ＬＥＤ３６４ａ）のみ消灯（全消灯）する。）が維持され、同図（ｃ）の対処法：電源遮断後に適合ＩＤ品に交換後に、図３０８（ｃ）の状態１：正常、つまり第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとの整合性を判定して、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが適合（整合）していると判別すると、報知が解除されるようになっている。

【４５２３】

一度でも整合状態となった場合には、電源が遮断されるまでの間に再び不整合状態となっても盤発光手段と枠発光手段の発光を規制しない。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとの整合性を判定して、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが適合（整合）していると判別すると、その後、左側遊技盤と右側遊技盤と

の適合性（整合性）を全く判定しないようになっており、仮に、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）となるようになったとしても、盤発光手段である右側遊技盤５ＡＲの後方に配置される右側裏箱３０１０Ｒに収容される各種演出ユニットにおける装飾基板に実装される各種ＬＥＤが遊技盤の各種ＬＥＤとして発光が規制されないとともに、枠発光手段である演出操作ユニット３００における各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤ（例えば、複数のＬＥＤ３２０ａ、ＬＥＤ３５５ａ、ＬＥＤ３６４ａなど）の発光が規制されない。つまり、盤発光手段である右側遊技盤５ＡＲの後方に配置される右側裏箱３０１０Ｒに収容される各種演出ユニットにおける装飾基板に実装される各種ＬＥＤが遊技盤の各種ＬＥＤとして所定の発光態様で（演出の進行に沿って）発光するとともに、枠発光手段である演出操作ユニット３００における各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤが所定の発光態様で（演出の進行に沿って）発光することとなる。

【４５２４】

Ｈ３：

右側遊技盤５ＡＲに予め決めた自己識別符号（ＩＤ）をハード的に（ハードウェアによる回路により）割り付ける。具体的には、右側遊技盤５ＡＲに備える図３０５のＩＤ出力回路ＩＤＣにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣａの８本のＩＤ設定端子を＋５Ｖまたはグランド（ＧＮＤ、回路グランド）と電気的に接続してＩＤ設定値（１１１１０００００Ｂ）を割り付ける。

【４５２５】

右側遊技盤５ＡＲにハード的に（ハードウェアによる回路により）割り付けたＩＤと判定用ＩＤコードとを比較して同じであれば有効信号を出力する。具体的には、右側遊技盤５ＡＲに備える図３０５のＩＤ出力回路ＩＤＣにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣａの反転ＱＨ端子から出力されるＩＤコード信号が図３０３の左側遊技盤５ＡＬに備える周辺制御基板１５１０に入力され、周辺制御基板１５１０は、この入力されたＩＤコード信号から右側遊技盤５ＡＲのＩＤを取得し、判定用ＩＤコードである周辺制御ＲＯＭに予め記憶される組み合わせテーブル（図３０８）を参照して判定（比較）する。分割遊技盤の組み合わせは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理で行われる。分割遊技盤の組み合わせが適合（整合）している場合には、図３０８（ｃ）に示した他のＩＤが適合していることを条件として、状態１：正常となり、扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等の扉枠ユニット（以下、「扉枠ユニット」と記載する場合がある。）、及び分割遊技盤５Ａによる演出が進行される。周辺制御基板１５１０は、例えば、演出操作ユニット３００に対して、演出操作ユニット３００における各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤ（例えば、複数のＬＥＤ３２０ａ、ＬＥＤ３５５ａ、ＬＥＤ３６４ａなど）を所定の発光態様で発光する制御信号を、演出を進行する有効信号として、出力している。

【４５２６】

右側遊技盤５ＡＲにハード的に（ハードウェアによる回路により）割り付けたＩＤと判定用ＩＤコードとを比較して同じでなければ有効信号を出力しない。具体的には、右側遊技盤５ＡＲに備える図３０５のＩＤ出力回路ＩＤＣにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣａの反転ＱＨ端子から出力されるＩＤコード信号が図３０３の左側遊技盤５ＡＬに備える周辺制御基板１５１０に入力され、周辺制御基板１５１０は、この入力されたＩＤコード信号から右側遊技盤５ＡＲのＩＤを取得し、判定用ＩＤコードである周辺制御ＲＯＭに予め記憶される組み合わせテーブル（図３０８）を参照して判定（比較）する。分割遊技盤の組み合わせは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理で行われる。分割遊技盤の組み合わせが適合（整合）していない場合には、周辺制御基板１５１０は、例えば、図３１３（ｃ）に示した状態２：ＩＤエラー１となると、図３１３の電源投入後におけるエラー対応１（ＩＤエラー１対応）において、演出操作ユニット３００に対して、演出操作ユニット３００における各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤ（例えば、複数のＬＥＤ３２０ａ、ＬＥＤ３５５ａ、ＬＥＤ３６４ａなど）

のうち一部の発光に対する制御信号を、演出を進行する有効信号として、出力せず、この一部（例えば、ＬＥＤ３６４ａ）の発光を消灯（全消灯）とする。

【４５２７】

電源投入後の任意のタイミングで操作部を操作しても報知しない場合がある（正規ＩＤである場合）。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動としてエラー対応１～エラー対応９が発生していない場合、つまり図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動として正常動作（エラー対応なし）である場合、主制御基板１３１０に備える設定キースイッチ１３１１ａに設定キーを挿入してＯＮ操作されたことにより主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３７の設定変更処理を行っている場合には（この設定変更処理を完了するまでの所定期間が経過するまで）、正常動作（エラー対応なし）である旨の報知を行うことができないようになっている。また、図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動として正常動作（エラー対応なし）である場合には、対処法により「なし」であるため、正常動作（エラー対応なし）における特別な報知態様がない。換言すると、正常動作（エラー対応なし）場合には、その旨を報知しない。

【４５２８】

なお、正規ＩＤ、ＩＤエラー、未接続エラーを電源投入後の任意のタイミングで知るようにする場合、つまり図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動として正常動作（エラー対応なし）、エラー対応１～エラー対応９等のＩＤエラーや未接続エラーは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理という電源投入後に予め定められた期間により判定されていたが、電源投入後の任意のタイミングで知るようにしてもよい。具体的には、正規ＩＤ、ＩＤエラーや未接続エラーは、図２６７に示した周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理において、ＩＤ判定処理を行って判定してもよい。演出操作ユニットに関する正規ＩＤ、ＩＤエラーや未接続エラーは、図２６７に示した周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理におけるステップＳ演出操作ユニット情報取得処理において判定してもよい。いずれの場合であっても、図３０８（ｃ）に示したエラー中のパチンコ機の挙動として正常動作（エラー対応なし）である場合には、対処法により「なし」であるため、正常動作（エラー対応なし）における特別な報知態様がない。換言すると、正常動作（エラー対応なし）である場合には、その旨を報知しない。

【４５２９】

正規ＩＤであると判別された場合にはその後に操作部を操作しても報知はされない。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、図３０８（ｃ）の状態１：正常、つまり正常ＩＤと判断した場合には、報知を行わない（同図の対象法：なし）。つまり、電源投入時の所定期間内に左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが正常であるとして正常ＩＤと判断した場合には、その後、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせの状態を全く判定しないようになっており、仮に、このタイミングにおいて、主制御基板１３１０に備える設定キースイッチ１３１１ａに設定キーを挿入してＯＮ操作したとしても、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、図２５６の主制御側電源投入時処理における主制御側メイン処理や図２５７の主制御側タイマ割り込み処理を行っており、主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３７の設定変更処理を行うことができないため、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、正常動作（エラー対応なし）であるの旨の報知を行うことができないようになっている。

【４５３０】

正常ＩＤでない（異常ＩＤ）と判別された場合には少なくとも正常ＩＤとなるまで報知を継続する。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１（図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応））、つまり、正常ＩＤでない（異常ＩＤ）と判断した場合には、同図（ｃ）の対処

法：電源遮断後に適合ＩＤ品に交換されるまで、このエラー対応１（ＩＤエラー１対応）の報知が維持されるようになっている。このような報知により、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）である状態のまま遊技を行い難くすることができる。

【４５３１】

電源投入時の所定期間内に正常ＩＤと判断した場合には、報知を行わないが、電源投入時の所定期間内に異常ＩＤと判断した場合には、状態が変更された場合に報知態様を変更し得る。異常の場合には、正常になると報知態様を変更する。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、図３０８（ｃ）の状態１：正常、つまり正常ＩＤと判断した場合には、報知を行わない（同図の対象法：なし）のに対して、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１（図３１３～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応））、つまり、異常ＩＤと判断した場合には、このエラー対応１（ＩＤエラー１対応）の報知が維持され、同図（ｃ）の対処法：電源遮断後に適合ＩＤ品に交換後に、図３０８（ｃ）の状態１：正常、つまり正常ＩＤと判断した場合に報知が行われなくなる。つまり、電源投入時の所定期間内に左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが正常であるとして正常ＩＤと判断した場合には、その後、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせの状態を全く判定しないようになっており、仮に、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）となるようになったとしても、不適合（不整合）であるとして異常ＩＤである旨を伝える報知態様とならない。これにより、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせの判定を電源投入時の所定期間内に限定することにより、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる演出の進行への処理負荷の低減に寄与することができる。

【４５３２】

一部の報知以外は報知を終了する。具体的には、例えば、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、図３０８（ｃ）の状態２：ＩＤエラー１（図３１０～図３１５のエラー対応１（ＩＤエラー１対応））、つまり、異常ＩＤと判断した場合には、周辺制御基板１５１０に実装される図示しないリアルタイムクロックＩＣの内蔵ＲＡＭに履歴情報として保存する。この場合、日時と紐付けて保存される。そして、パチンコ機１の電源を遮断して左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが正しいものを本体枠３に装着し、再びパチンコ機１が電源投入されると、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、図３０８（ｃ）の状態１：正常、つまり正常ＩＤと判断した場合には、例えば、演出表示装置又はサブ演出表示装置に「ＩＤ異常」という履歴を表示してもよいし、この履歴を所定期間又はパチンコ機１の電源が遮断されるまで表示してもよい。履歴を表示されながら、演出の進行を行うこととなる。

【４５３３】

一度でも正常に戻った場合には、再び異常になっても報知態様を変更しない。具体的には、例えば、異常な状態から正常な状態に戻すには、遊技盤を外して修正する行為が発生するため、このときにパチンコ機の電源を遮断し（落とし）周辺制御基板への電源供給が遮断され、再び遊技盤を装着して再度パチンコ機の電源を投入する必要がある。パチンコ機が電源投入され周辺制御基板への電源が供給されると、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理により演出操作ユニットのＩＤ等の確認（以下、「ＩＤ確認」と記載する場合がある）を行うことができるため、パチンコ機の電源投入時において図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理によるＩＤ確認と、パチンコ機の電源遮断時まで続く報知処理を行えば、それ以後についてはＩＤ確認や報知処理の制御をしなくても良い。

【４５３４】

つまり、パチンコ機１が電源投入されたまま任意のタイミングにおいて（パチンコ機１のシステムが起動完了して遊技の進行及び演出の進行を行うことができるようになっている状態において）、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３の

ＩＤ判定処理を、図２６７に示した周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の一処理として繰り返し行われるようにするとともに、演出操作ユニットを扉枠４の皿ユニット２００に脱着する場合には、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の一処理として繰り返し行われるＩＤ判定処理において一度でも正常ＩＤとして判断された演出操作ユニットを異常ＩＤとなる他の演出操作ユニットへ交換したとき（または、異常ＩＤの演出操作ユニットから正常ＩＤの演出操作ユニットへ交換し、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の一処理として繰り返し行われるＩＤ判定処理において一度正常ＩＤとして判断され再び異常ＩＤの演出操作ユニットへ戻したとき）には、結果的に、実際には演出操作ユニットと分割遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）となっていても、演出の進行が継続され、演出操作ユニットが異常ＩＤであるという報知が行われない。したがって、一度でも正常に戻った場合には、再び異常になっても報知態様を変更しない。

【４５３５】

Ｈ４：

不整合の場合は液晶で異常報知する。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）であると判断した場合は、例えば、図３１３の電源投入時におけるエラー対応１（ＩＤエラー１対応）においては、演出表示装置１６００に、黒色の背景に「電源復旧中」を表示後に、「遊技盤エラー発生」、「エラー番号：」、「遊技盤の接続エラー」、「電源を切ってから遊技盤を確認してください」という報知文字を表示し、パチンコ機の遊技盤接続エラー部分を点灯させた画像を表示する。そして、図３１４の電源投入後におけるエラー対応１（ＩＤエラー１対応）においては、演出表示装置１６００に、黒色の背景に「遊技盤エラー発生」、「エラー番号：」、「遊技盤の接続エラー」、「電源を切ってから遊技盤を確認してください」という報知文字を表示し、パチンコ機の遊技盤接続エラー部分を点灯させた画像を表示する。

【４５３６】

不整合の場合は演出制御手段による制御を行わない。具体的には、例えば、演出制御手段である周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）であると判断した場合は、例えば、図３１４の電源投入後におけるエラー対応１（ＩＤエラー１対応）においては、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａの制御対象となっている扉枠ユニットの各種ＬＥＤは赤色に点滅し遊技盤の各種ＬＥＤは消灯（全消灯）するとともに、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａの制御対象となっている遊技枠側可動体は原位置復帰などの動作なし（未動作）とする。

【４５３７】

不整合の場合は音声で異常報知する。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）であると判断した場合は、例えば、図３１３の電源投入時におけるエラー対応１（ＩＤエラー１対応）においては、電源投入時における起動音楽がなく消音状態とし、その後、所定のエラー報知音を１回流し、「遊技盤の接続エラーが発生しました。電源を切ってから遊技盤を確認してください」というアナウンス音を流す。このような音声態様を繰り返し流す。そして、図３１４の電源投入後におけるエラー対応１（ＩＤエラー１対応）においては、所定のエラー報知音を１回流し、「遊技盤の接続エラーが発生しました。電源を切ってから遊技盤を確認してください」というアナウンス音を流す。このような音声態様を繰り返し流す。

【４５３８】

不整合の場合は扉枠のランプ（着脱可能とされる装飾部材に設けられるランプでもよいし、着脱不可能とされる装飾部材に設けられるランプでもよい）を異常時の態様で点灯す

る。具体的には、まず本体枠４に開閉可能に支持される扉枠３には、扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等の扉枠ユニット（以下、「扉枠ユニット」と記載する場合がある。）が装着されている。周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、図３０９の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００３のＩＤ判定処理において、左側遊技盤と右側遊技盤との組み合わせが不適合（不整合）であると判断した場合は、例えば、図３１３の電源投入後におけるエラー対応１（ＩＤエラー１対応）においては、扉枠ユニットの各種ＬＥＤを異常時の態様として赤色に点滅する。なお、扉枠ユニットの各種ＬＥＤは、扉枠３に着脱可能とされる各種ユニット（各種装飾部材）に設けられるもののほかに、扉枠３に取り付けられて固定される各種装飾部材に設けられるものでもよい。

【４５３９】

第２遊技盤側構成部が複数ある場合には一つでも正規ＩＤでなければ複数の第２遊技盤側構成部全てを駆動しない。具体的には、第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲがさらに上側と下側とに分割される、図３０７に示した右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとから構成される場合には、右上側遊技盤５ＡＲＴには自身を識別することができるＩＤ出力回路ＩＤＣＴが設けられ、右下側遊技盤５ＡＲＵには自身を識別することができるＩＤ出力回路ＩＤＣＵが設けられている。右上側遊技盤５ＡＲＴにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＴａと右下側遊技盤５ＡＲＵにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＵａとデイジーチェーン接続され、右上側遊技盤５ＡＲＴにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＴａによる８ビットのシフトレジスタと、右下側遊技盤５ＡＲＵにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＵａによる８ビットのシフトレジスタと、による１６ビットのシフトレジスタとして動作することとなる。周辺制御基板１５１０には、前段の８ビットのシフトレジスタとなる右上側遊技盤５ＡＲＴにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＴａの各フリップフロップが保持する内容に続いて、後段の８ビットのシフトレジスタとなる右下側遊技盤５ＡＲＵにおけるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣＵａの各フリップフロップが保持する内容が１ビットずつ順番にシリアルデータとして入力される。周辺制御基板１５１０は、ＩＤコード信号を取得して左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとの適合性（整合性）について判定することができる。右上側遊技盤と右下側遊技盤との組み合わせで、右上側遊技盤５ＡＲＴと右下側遊技盤５ＡＲＵとを組み合わすはずが、右上側遊技盤５ＡＲＴと適合（整合）しない他の右下側遊技盤とを組み合わせた場合には、左側遊技盤５ＡＬと右上側遊技盤５ＡＲＴとが適合（整合）している場合であっても、右上側遊技盤５ＡＲＴに設けられる各種ＬＥＤ、及び右上側遊技盤５ＡＲＴと適合（整合）しない他の右下側遊技盤に設けられる各種ＬＥＤは、消灯する（全消灯）状態とする。

【４５４０】

［ＩＤ出力回路ＩＤＣが実装された基板の配置］

上記実施形態においては、自己識別符号（ＩＤ）を発生させる８つのフリップフロップ回路を有するパラレルシリアル変換回路ＩＤＣａを主とするＩＤ出力回路ＩＤＣは、ＩＤ出力回路ＩＤＣのみ実装される専用基板を右側遊技盤５ＡＲの後方に配置するようにしてもよいし、各種中継基板のうち一の中継基板に実装してもよいし、装飾基板に実装されるＬＥＤと同居して実装してもよいし、他の基板に実装される電子部品と同居して実装されるようにしてもよい態様について説明したが、裏ユニット３０００の右側裏箱３０１０Ｒに収容される装飾基板に実装されるものであってもよいし、扉枠ユニットに備える装飾基板に実装されるものであってもよい。以下、各種ＬＥＤ等が実装される装飾基板にＩＤ出力回路ＩＤＣが実装され、該装飾基板が裏ユニット３０００の右側裏箱３０１０Ｒに収容され、ＩＤ出力回路ＩＤＣが右側遊技パネル１１００Ｒの後方に位置する態様について説明する。なお、扉枠ユニットに備える装飾基板にＩＤ出力回路ＩＤＣを実装する場合には、上述した複数の装飾基板（扉枠左サイドユニット４２０の扉枠左サイド上装飾基板４２２及び扉枠左サイド下装飾基板４２３、扉枠右サイドユニット４３０の扉枠右サイド上装飾基板４３２及び扉枠右サイド下装飾基板４３３）のいずれかに実装するようにしてもよ

い。
【４５４１】
図３２４は、右側遊技盤５ＡＲを右側遊技パネル１１００Ｒと、裏ユニット３０００の右側裏箱３０１０Ｒとに分解して前方（右側遊技盤５ＡＲが本体枠４に固定された状態でパチンコ機１の正面側）から見た概略分解斜視図である。図３２４に示すように、ＩＤ出力回路ＩＤＣが実装された装飾基板４１００が裏ユニット３０００の裏箱３０１０に収容されて、ＩＤ出力回路ＩＤＣが右側遊技パネル１１００Ｒの後方に取り付けられる態様では、表面（前面、表実装面）に実装された自己識別符号（ＩＤ）を発生させるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣａを含むＩＤ出力回路ＩＤＣと各種ＬＥＤ４１２０とがパチンコ機１の前方を向くように、装飾基板４１００が右側裏箱３０１０Ｒに取り付けられている。装飾基板４１００は、例えば、ネジやピン等の固定部材を介して右側裏箱３０１０Ｒ内において右側遊技パネル１１００Ｒの後方に取り付けられる態様、又は装飾基板４１００及び右側裏箱３０１０Ｒに形成された係合部を介して右側裏箱３０１０Ｒ内において右側遊技パネル１１００Ｒの後方に取り付けられる態様であってもよい。
【４５４２】
また、上記したように右側遊技盤５ＡＲの右側遊技パネル１１００Ｒ及び右側前構成部材１０００Ｒは透明に形成されており、右側遊技盤５ＡＲが本体枠に固定された状態でパチンコ機１の正面側から装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）を視認することができるようになっている。なお、右側遊技パネル１１００Ｒと装飾基板４１００との間に少なくとも一部が不透明や半透明に形成されるカバー（シールを貼着することで不透明や半透明に形成されるものや、不透明樹脂や半透明樹脂などの樹脂材料によって不透明や半透明に形成されるものや、着色や塗装、印刷等により不透明や半透明に形成されるものであってもよい）を設けるようにしてもよく、この場合には遊技者に装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）に実装されるＩＤ出力回路ＩＤＣやＬＥＤ等の電子部品が視認されることを抑制でき、パチンコ機１の世界観が崩れて遊技興趣が低下することを抑止できる。また、扉枠ユニットに備える装飾基板にＩＤ出力回路ＩＤＣを実装する場合にも同様に装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）の前方に少なくとも一部が不透明や半透明に形成されるカバー（シールを貼着することで不透明や半透明に形成されるものや、不透明樹脂や半透明樹脂な樹脂材料によって不透明や半透明に形成されるものや、着色や塗装、印刷等により不透明や半透明に形成されるものであってもよい）を設けるようにしてもよく、この場合にも遊技者に装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）に実装されるＩＤ出力回路ＩＤＣやＬＥＤ等の電子部品が視認されることを抑制でき、パチンコ機１の世界観が崩れて遊技興趣が低下することを抑止できるようになる。
【４５４３】
装飾基板４１００の少なくとも表面（前面、表実装面）（装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）及び裏面（後面）の両面であってもよい）には、ＩＤ出力回路ＩＤＣ、各ＬＥＤ４１２０、及びコネクタ等の電子部品がハンダ付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において明色塗膜により明色のレジストが形成されている。本実施形態において、明色のレジストは白色のレジストであり、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジストが形成されている。明色のレジストは、黄色、又はピンク色などのレジストであってもよい。なお、装飾基板４１００の少なくとも表面（前面、表実装面）のランド等の銅箔が露出する部分の一部にも明色のレジストを形成するようにしてもよく、この場合にはランド等の銅箔が目立ち難くなるため、ランド等の銅箔が視認されることによってパチンコ機１の世界観が崩れて遊技興趣が低下することを抑止できるようになるし、装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）における反射率の均一化を図ることができ、発光ムラの発生を抑制して演出効果を向上させることができる。また、装飾基板４１００の裏面（後面）側のランド等の銅箔が露出する部分の一部にも明色のレジストを形成するようにしてもよく、この場合には装飾基板４１００の裏面（後面）における反射率の均一化を図ることができ、装飾基板４１００をＬＥＤを実装する他の装飾基板の反

射板として機能させる場合に均一な反射を実現することができるようになる。
【４５４４】
更に、装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）には、実装されているＩＤ出力回路ＩＤＣ、及び各種ＬＥＤ４１２０等の表面側の電子部品の近傍に、表面側の電子部品の部品番号、表面側の電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側の電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が、白色に対して目立ち難い明色である黄色の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。なお、明色のレジストが黄色、又はピンク色である場合に、表面側表記部は、レジストとは異なる色の白色、黄色又はピンク色の塗料でシルク印刷により印刷されるようにしてもよい。
【４５４５】
ここで、レジスト液の色として白色のものを採用し、シルク印刷の塗料として黄色を採用した理由について説明する。まず、色の反射率は、白色に近いほど高くなるのに対して黒色に近づくと低くなる。黄色の反射率は、例えば、赤色の反射率と比べると白色の反射率に非常に近く、赤色の反射率は黄色の反射率と比べて白色の反射率に非常に遠い。黄色の反射率は、白色の反射率と比べて低いものの高い反射率を有している。このため、白色と赤色との組み合わせでは、背景が白色であると赤色が目立つこととなり、表面側表記部（裏面側表記部）を赤色とする場合には白色のレジストに対して赤色の表面側表記部（白色のレジストに対して赤色の裏面側表記部）が目立つのに対して、白色と黄色との組み合わせ（本実施形態の構成）では、背景が白色であると黄色が目立たず、表面側表記部（裏面側表記部）を黄色とする場合には白色のレジストに対して黄色の表面側表記部（白色のレジストに対して黄色の裏面側表記部）が目立ち難い。
【４５４６】
また、パチンコ機１は各装飾基板に実装される複数のＬＥＤ等の発光部による電飾により煌びやかに発光演出が行われるため、装飾基板４１００の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４１２０は、例えば、多色発光可能なフルカラーＬＥＤであり、点灯（発光）及び消灯によって発光態様がさまざまに変化する。このため、上述したように装飾基板４１００の前面（表面）には、複数のＬＥＤがハンダ付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジストが形成され、さらに、このベタ塗りされた白色のレジスト上に多色発光可能なフルカラーＬＥＤを特定可能にする表面側表記部が黄色の塗料でシルク印刷により印刷されることにより、多色発光可能なフルカラーＬＥＤの消灯時において白色のレジストに対して黄色の表面側表記部を目立たないようにすることができ、遊技と無関係な情報が遊技者に視認されることによりパチンコ機１の世界観が崩れて遊技興趣が低下することを抑止することができることに加えて、多色発光可能なフルカラーＬＥＤの点灯時（発光時）において、反射率の高いベタ塗りされた白色のレジストと、白色の反射率に非常に近い黄色の塗料でシルク印刷により印刷される表面側表記部と、による組み合わせによって装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）の反射率を高く維持することができるし、レジストと表面側表記部とを反射率の近い組み合わせとすることで装飾基板４１００の前面（表面）における反射率の均一化を図ることができ、発光ムラの発生を抑制して演出効果を向上させることができるようになる。
【４５４７】
装飾基板４１００の裏面（後面）には、図示は省略するが、コネクタ等の裏面側の電子部品の近傍に、裏面側の電子部品の部品番号、裏面側の電子部品を配置する位置を示す領域等の裏面側の電子部品の属性（さらに、裏面側電子部品の形状、裏面側電子部品の大きさ、裏面側電子部品の実装向き（実装方向）、裏面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す裏面側表記部が、白色に対して目立ち難い明色である黄色の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。なお、明色のレジストが黄色

、又はピンク色である場合に、裏面側表記部は、レジストとは異なる色の白色、黄色又はピンク色の塗料で印刷されるようにしてもよい。

【４５４８】

なお、装飾基板４１００の前面（表面）に形成される表面側表記部は、明度や彩度の高い色（例えば、黄色）のインクを用いてスクリーン印刷によりＬＥＤ実装面に施されるものに限らず、箔抜き文字（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで文字を作りその周囲の銅箔を抜いて形成される抜き文字）で形成してこの箔抜き文字の表面をＬＥＤの実装面にコーティングされる白色のソルダーレジスト（保護材）でコーティングすることで表記部を形成するようにしてもよいし、２度塗りの白色のレジストを利用した白色レジスト抜き文字として形成する（ＬＥＤ実装面の全体を白色のソルダーレジストでコーティングした後（第１層）、実装されるＬＥＤ等の電子部品や他の装飾基板との混同を避けるための文字や記号をマスク処理してこれらを除く領域の全体を白色のソルダーレジストで再びコーティングする（第２層）ことで、マスク処理した領域、すなわち文字や記号を白色レジスト抜き文字として形成する）ことで表記部を形成するようにしてもよいし、装飾基板４１００の前面（表面）に実装されるＬＥＤ等の電子部品の部品番号や、これらの電子部品を配置する位置を示す領域等の電子部品の属性（さらに、電子部品の形状、電子部品の大きさ、電子部品の実装向き（実装方向）、電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表記部を、ＬＥＤを実装していない裏面に、所定色（明度や彩度の高い色に限らず明度や彩度の低い色も含む）のインクを用いてスクリーン印刷や、箔抜き文字、２度塗りの白色のレジストを利用した白色レジスト抜き文字等で形成するようにしてもよく、これらの場合にも表面側表記部が目立ち難くなったり、パチンコ機１の正面側から表面側表記部が視認されないようになるため、遊技と無関係な情報が遊技者に視認されることによりパチンコ機１の世界観が崩れて遊技興趣が低下することを抑制することができるし、ＬＥＤを実装している装飾基板４１００の前面（表面）における反射率の低下を抑制し、且つＬＥＤが実装される装飾基板４１００の前面（表面）における反射率の均一化を図ることができるため、発光ムラの発生を抑制して演出効果を向上させることができる。

【４５４９】

装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）には、区画カバー４１３０が取り付けられている。区画カバー４１３０は、装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）を複数の領域に区画するものであり、図３２４に示すようにＩＤ出力回路ＩＤＣと各種ＬＥＤ４１２０などの電子部品とを隔てるように複数の開口が形成されている。すなわち、区画カバー４１３０によって区画される装飾基板４１００の特定領域にはＩＤ出力回路ＩＤＣのみが実装され、他の電子部品は区画カバー４１３０によって区画される装飾基板４１００の特定領域以外の領域に実装されている。なお、図３２４に示す例では区画カバー４１３０によって装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）を３つの領域に区画し、この３つの領域のうちの特定領域（図３２４の中央の領域）にＩＤ出力回路ＩＤＣが実装され、他の２つの領域のそれぞれに複数のＬＥＤ４１２０が実装されるように構成したが、少なくとも装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）を区画カバー４１３０によってＩＤ出力回路ＩＤＣのみが実装される領域と、他の電子部品が実装される領域と、に区画するものであれば区画する領域の数は上記したものに限られない。

【４５５０】

ここで、ＩＤ出力回路ＩＤＣを実装する装飾基板４１００に不正なアクセスがあった場合には、該装飾基板４１００による演出を正常に実行できないおそれがあり、装飾基板４１００による演出を正常に実行できないことで遊技興趣を低下させるおそれがある。本実施形態の区画カバー４１３０は、装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）を覆うとともに、自己識別符号（ＩＤ）を発生させるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣａを含むＩＤ出力回路ＩＤＣと他の電子部品（各種ＬＥＤ４１２０など）とを隔てることでパチンコ機１の電源が投入されている状態で装飾基板４１００に不正なアクセスがなされて装飾基板４１００による正常な演出を実行できない場合や、パチンコ機１の電源が遮断された状態

で不正があったか否かを調べる場合に、確認すべき電子部品（この場合にはＩＤ出力回路ＩＣＤ）を見つけ易くなるため、装飾基板４１００に実装されるＩＤ出力回路ＩＤＣを直ぐに特定して、ＩＤ出力回路ＩＤＣによって発生される自己識別符号（ＩＤ）を正常な状態に戻して装飾基板４１００による正常な演出を実行できるようにしたり、ＩＤ出力回路ＩＤＣに不正があったか否かを判定したりすることが可能になり、セキュリティ向上に寄与することができる。このように、不正があったか否かを調べる場合に確認すべき電子部品（この場合にはＩＤ出力回路ＩＣＤ）を見つけ易くすることが可能であるため、パチンコ機１の電源を投入する以前に装飾基板４１００に不正なアクセスがなされて装飾基板４１００による演出を正常に実行できないおそれがあるか否かを判定してＩＤ出力回路ＩＤＣによって発生される自己識別符号（ＩＤ）を正常な状態に戻したり、パチンコ機１の電源が投入されている状態で装飾基板４１００に不正なアクセスがなされて装飾基板４１００による演出が正常に実行されない状態となっている場合にＩＤ出力回路ＩＤＣによって発生される自己識別符号（ＩＤ）を直ぐに正常な状態に戻したりすることができるようになる。また、周辺制御基板１５１０に実装される周辺制御ＩＣ１５１０ａのＣＰＵがＩＤ出力回路ＩＤＣによって発生される自己識別符号（ＩＤ）が正常か否かを常時（例えば周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行される毎にＩＤ判定処理を実行する）判定するように構成している場合には、パチンコ機１の電源が投入されている状態で装飾基板４１００に不正なアクセスがなされて装飾基板４１００による正常な演出を実行できないときにＩＤ出力回路ＩＤＣによって発生される自己識別符号（ＩＤ）を正常な状態に戻すことにより直ぐに装飾基板４１００による演出を正常に実行できる状態に復帰させることができるようになるため、装飾基板４１００による演出を正常に実行できないことによる遊技興趣の低下を抑止することができる。

【４５５１】

また、本例の区画カバー４１３０には、装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）に実装されたＩＤ出力回路ＩＤＣが露出する開口が形成されている。そのため、装飾基板４１００の前方に設けられる右側遊技パネル１１００Ｒ及び右側前構成部材１０００Ｒと右側裏箱３０１０Ｒとの装着状態を解除した場合に、区画カバー４１３０を装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）から取り外すことなしにＩＤ出力回路ＩＤＣを操作して自己識別符号（ＩＤ）を設定することができるし、装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）において、ＩＤ出力回路ＩＤＣが他の電子部品（各種ＬＥＤ４１２０など）と隔てられて配置されることで、装飾基板４１００を表面（前面、表実装面）側から目視した場合にＩＤ出力回路ＩＤＣを容易に特定することができるようになっている。なお、少なくとも装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）に実装されたＩＤ出力回路ＩＤＣの一部（自己識別符号（ＩＤ）を設定するスイッチ等）を露出させる開口を区画カバー４１３０に形成するものであればよく、他の電子部品等（この例ではＬＥＤ４１２０）については区画カバー４１３０によって覆われるようにしてもよいし、他の電子部品等（この例ではＬＥＤ４１２０）についても少なくとも一部（例えばＬＥＤ４１２０の発光素子）のみを露出させる開口を区画カバー４１３０に形成するようにしてもよい。また、他の電子部品としてＬＥＤ４１２０を配置する場合には区画カバー４１３０にＬＥＤ４１２０の一部（例えばＬＥＤ４１２０の発光素子）を露出させる開口を形成することによりＬＥＤ４１２０から照射される光を区画カバー４１３０によって低下させることなくパチンコ機１の前方に照射することができるため光量を高めた演出の実行が可能になる。

【４５５２】

また、本例の区画カバー４１３０は不透明部材（例えばＰＰ等、不透明、半透明）によって形成され、区画カバー４１３０を通して装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）を視認することはできないものの、区画カバーに形成される開口を介してＩＤ出力回路ＩＤＣや各種ＬＥＤ４１２０などの電子部品を目視することができるようになっている。

【４５５３】

なお、区画カバー４１３０を透明部材（例えばＰＳ、ＰＥＴ等の無色透明や有色透明の部材）によって形成することで、区画カバー４１３０を通して装飾基板４１００の表面（

前面、表実装面）を視認可能となるようにしてもよい。この場合にも、少なくとも装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）に実装されたＩＤ出力回路ＩＤＣの一部（自己識別符号（ＩＤ）を設定するスイッチ等）を露出させてこの一部以外を覆うような開口を区画カバー４１３０に形成するようにしてもよく、他の電子部品等（この例ではＬＥＤ４１２０）については区画カバー４１３０によって覆われるようにしてもよいし、他の電子部品等（この例ではＬＥＤ４１２０）についても少なくとも一部（例えばＬＥＤ４１２０の発光素子）のみを露出させる開口を区画カバー４１３０に形成するようにしてもよい。これにより区画カバー４１３０によってＩＤ出力回路ＩＤＣ及び各種ＬＥＤ４１２０等の電子部品を保護して不正なアクセスを防いでセキュリティを強化することができるし、区画カバー４１３０が透明部材によって形成されることでＬＥＤ４１２０から照射される光を区画カバー４１３０によって極力低下させることなくパチンコ機１の前方に照射することができるため、光量を高めた演出の実行が可能になる。また、区画カバー４１３０を透明部材で形成する場合には区画カバー４１３０の裏面から装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）に向かう隔離壁をＩＤ出力回路ＩＤＣの周囲の全部又は一部に形成することで装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）のうちＩＤ出力回路ＩＤＣが実装される領域と、他の領域と、を区画するようにしてもよいし、区画カバー４１３０の表面にＩＤ出力回路ＩＤＣが実装される領域の全部又は一部を囲う印刷、シールの貼着等を行うようにしてもよい。また区画カバー４１３０を有色透明に形成する場合であっても上記効果を奏することが可能であるが、無色透明に形成することで有色透明に形成する場合に比べて各種ＬＥＤ４１２０が発する光の透光性及びＩＤ出力回路ＩＤＣの可視性を向上させることができるし、区画カバー４１３０によって特定の色（区画カバー４１３０と同じ色）の光が強調されることを抑制して全ての発光色を同一の条件で発光させてムラのない均一な発光を実現できるようになる。

【４５５４】

また、各種ＬＥＤ４１２０が表面（前面、表実装面）に実装される装飾基板４１００は、右側遊技盤５ＡＲが本体枠４に固定された状態で表面（前面、表実装面）がパチンコ機１の前方（パチンコ機１の正面側）を向くように（表面（前面、表実装面）が遊技者に対向するように）配置され、装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）に実装されるＩＤ出力回路ＩＤＣや各種ＬＥＤ４１２０もパチンコ機１の前方（遊技者に対向する方向）を向くように配置されている。

【４５５５】

上述したように、新規な右側遊技盤５ＡＲに対応する装飾基板４１００に不正なアクセスがあった場合、該装飾基板４１００による演出を正常に実行できないおそれがあり、装飾基板４１００による演出を正常に実行できないことで遊技興趣を低下させるおそれがある。本実施形態の装飾基板４１００は、表面（前面、表実装面）がパチンコ機１の前方（遊技者に対向する方向）を向くように配置され、装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）に実装されるＩＤ出力回路ＩＤＣや各種ＬＥＤ４１２０もパチンコ機１の前方（遊技者に対向する方向）を向くように配置されるため、装飾基板４１００（ＩＤ出力回路ＩＤＣや各種ＬＥＤ等）へ不正なアクセスを実行する者はパチンコ機１の正面側からアクセスすることになり、不正なアクセスの実行中に遊技ホールの島設備及び遊技ホールの従業員の目に付きやすくなることで不正なアクセスの発覚が容易になる。これにより、外部からＩＤ出力回路ＩＤＣへの不正なアクセスを抑制することができ、外部からＩＤ出力回路ＩＤＣへの不正なアクセスが行われることにより装飾基板４１００による演出が正常に実行できない状態となることを抑止でき、装飾基板４１００による演出を正常に実行できないことによる遊技興趣の低下を抑制することができる。

【４５５６】

なお、本例ではパチンコ機１の裏面側からの装飾基板４１００へのアクセスが困難となるように構成されている。具体的には、装飾基板４１００が設けられる右側遊技盤５ＡＲには装飾基板４１００の後方に板状部材が配置されている。右側遊技盤５ＡＲの板状部材は、装飾基板４１００が収容される裏ユニット３０００の裏箱３０１０の裏面部材（背面

部材）の外面の一部又は全部に沿って取り付けられる。右側遊技盤５ＡＲの板状部材は、外部からの衝撃に対する裏箱３０１０の強度を高めるとともに、裏箱３０１０の裏面部材（背面部材）に開口を形成する等の裏箱３０１０の加工性を低下させ、例えば、裏箱３０１０の裏面部材（背面部材）に開口を形成し、該開口を介して裏箱３０１０内に収容される装飾基板４１００に不正なアクセスが行われることを抑制することができる。これにより、外部からＩＤ出力回路ＩＤＣへの不正なアクセスが行われることにより装飾基板４１００による演出が正常に実行できない状態となることを抑止でき、装飾基板４１００による演出を正常に実行できないことによる遊技興趣の低下を抑制することができる。また右側遊技盤５ＡＲの板状部材は、外部からの衝撃に対する裏箱３０１０の強度を高めるとともに、裏箱３０１０の裏面部材（背面部材）に開口を形成する等の裏箱３０１０の加工性を低下させるとの観点から、金属製であるのが望ましく、例えば、アルミや鉄等の合金から形成される。

【４５５７】

また、右側遊技盤５ＡＲの金属製の板状部材は、装飾基板４１００の後方であって装飾基板４１００に少なくとも一部が重なるように配置されるものであればよく、装飾基板４１００が収容される裏ユニット３０００の裏箱３０１０の裏面部材（背面部材）の内面の一部又は全部に沿って取り付けられてもよいし、裏ユニット３０００の裏箱３０１０の裏面部材（背面部材）の一部又は全部が金属製であってもよく、裏ユニット３０００の裏箱３０１０の裏面部材（背面部材）の外面の一部又は全部に沿って取り付けられるものと同様に、外部からの衝撃に対する裏箱３０１０の強度を高めるとともに、裏箱３０１０の裏面部材（背面部材）に開口を形成する等の裏箱３０１０の加工性を低下させ、外部からＩＤ出力回路ＩＤＣへの不正なアクセスが行われることにより装飾基板４１００による演出が正常に実行できない状態となることを抑止でき、装飾基板４１００による演出を正常に実行できないことによる遊技興趣の低下を抑制することができる。

【４５５８】

また、上記したように装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）には、白色のレジストが形成されている。また、装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）に実装されるＬＥＤ４１２０は白色（白色に限らずオフホワイトやベージュなどの白色と類似する色を含む）のパッケージを有する。さらに、装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）には、実装されているＩＤ出力回路ＩＤＣ、及び各種ＬＥＤ４１２０等の表面側の電子部品の近傍に、表面側の電子部品の部品番号、表面側の電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側の電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が、白色に対して目立ち難い明色である黄色の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。これに対して、ＩＤ出力回路ＩＤＣは、暗色（本実施形態では黒色、なお黒色に限らず紺色や紫色等の白色とのコントラストが大きい色としてもよい）の外装（大部分が暗色を有していればよく、一部に明色の外装を有するものや外装の一部に明色の文字（型式番号等）が表記されているものであってもよい）を有している。また、装飾基板４１００に実装される複数の電子部品のうちＩＤ出力回路ＩＤＣを除く暗色の外装を有する電子部品、例えば抵抗やコンデンサ等は装飾基板４１００の裏実装面に実装されるようになっている。

【４５５９】

そのため、白色のレジストが形成された装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）において、コントラスト（明暗）が高い暗色の外装を有するＩＤ出力回路ＩＤＣは、例えば、目視により容易に特定することができる。すなわち、装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）において、ＩＤ出力回路ＩＤＣを除いてコントラストが低い組み合わせを採用するように構成されているため、装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）を目視した場合にＩＤ出力回路ＩＤＣが目立つようになり、装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）を目視した場合にＩＤ出力回路ＩＤＣに注目させるように仕向けることができ、ＩＤ出力回路ＩＤＣの特定が容易となるため、外部からＩＤ出力回路ＩＤＣへの不正なアクセ

スがあり、不正なアクセスによって装飾基板４１００による演出を正常に実行できない場合に、遊技ホールの従業員の目視により装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）から暗色のＩＤ出力回路ＩＤＣを容易に特定してＩＤ出力回路ＩＤＣに不正なアクセスがあったか否かを直ぐに判定できるようになるため、ＩＤ出力回路ＩＤＣに不正なアクセスがあった場合にＩＤ出力回路ＩＤＣを修正して装飾基板４１００による正常な演出が実行できないことによる遊技興趣の低下を抑制することができる。

【４５６０】

なお、装飾基板４１００に実装される複数の電子部品のうちＩＤ出力回路ＩＤＣを除く暗色の外装を有する電子部品（例えば抵抗やコンデンサ等）について装飾基板４１００の裏面（後面、裏実装面）に実装されるように構成したが、少なくとも区画カバー４１３０で区画される装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）の各領域のうちＩＤ出力回路ＩＤＣが配置される領域にＩＤ出力回路ＩＤＣとは異なる暗色の外装を有する電子部品を配置しないように構成するものであればよく、ＩＤ出力回路ＩＤＣが配置されていない領域にＩＤ出力回路ＩＤＣとは別に暗色の外装を有する電子部品を配置するようにしてもよい。また、区画カバー４１３０によって区画される装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）の各領域として、ＩＤ出力回路ＩＤＣのみが配置される領域と、ＩＤ出力回路ＩＤＣが配置されない領域と、に区画するものを示したが、区画カバー４１３０によって区画される装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）のうちＩＤ出力回路ＩＤＣが実装される領域にＩＤ出力回路ＩＤＣとは別に装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）とのコントラストが低い色の外装を有する電子部品を配置するものであってもよい。この場合にもＩＤ出力回路ＩＤＣを目立たせることができる。また、区画カバー４１３０によって区画される装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）の各領域として、ＩＤ出力回路ＩＤＣのみが配置される領域と、ＩＤ出力回路ＩＤＣ以外の複数種類の電子部品が配置される領域と、に区画するようにしてもよく、この場合にもＩＤ出力回路ＩＤＣのみが配置されることで他の領域と差別化が図られ、ＩＤ出力回路ＩＤＣが配置される領域とＩＤ出力回路ＩＤＣとを特定することが容易になる。

【４５６１】

また、本実施形態では、区画カバー４１３０を装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）に形成されるレジストと同様に白色に形成されている。そのため、装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）に形成されるレジストや表面側表記部及び装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）に実装されるＬＥＤ４１２０に加えて、区画カバー４１３０についても装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）とのコントラストが低くなり、ＩＤ出力回路ＩＤＣだけが装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）とのコントラストが高くなるため、装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）を目視した場合にＩＤ出力回路ＩＤＣが目立つようになり、ＩＤ出力回路ＩＤＣの特定が容易となる。なお、区画カバー４１３０の全体が装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）とコントラストの低い色（白色や黄色、オフホワイト、ベージュなど）とされるものに限らず、装飾基板４１００の表面（パチンコ機１の前方を向く面）が装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）とコントラストの低い色とされていればよく、区画カバー４１３０の表面に白色とコントラストの低い色（白色や黄色、オフホワイト、ベージュなど）の着色や塗装、印刷等がなされるものや、白色とコントラストの低い色（白色や黄色、オフホワイト、ベージュなど）を有するシールの貼着等がなされるものであってもよい。また、区画カバー４１３０を無色透明に形成する場合にも装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）の色が視認可能となるため、区画カバー４１３０を含む装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）のうちＩＤ出力回路ＩＤＣを除く領域をコントラストの低い組み合わせとすることができる。

【４５６２】

ここで、ＩＤ出力回路ＩＤＣを除く領域が明色のコントラストが低い組み合わせとなっている装飾基板４１００の表面（前面、実装面）において、外装が黒色であり装飾基板４１００の表面（前面、実装面）でのコントラストが高いＩＤ出力回路ＩＤＣが遊技者に視認されることにより、パチンコ機１の世界観が崩れて遊技興趣が低下するおそれがある。

本実施形態ではＩＤ出力回路ＩＤＣを装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）において、各種ＬＥＤ４１２０と同一面に実装することにより、各種ＬＥＤ４１２０による発光により装飾基板４１００の表面（前面、表実装面）を直視し難くなるため、ＩＤ出力回路ＩＤＣが目立ち難くすることができ、遊技と無関係な情報が遊技者に視認されることによりパチンコ機１の世界観が崩れて遊技興趣が低下することを抑制することができる。

【４５６３】

［自己識別符号（ＩＤ）を発生させるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣａの他の態様］

上記実施形態では、右側遊技盤５ＡＲであることを識別可能な固有値を発生させる固有値発生部としてパラレルシリアル変換回路ＩＤＣａを例示し、パラレルシリアル変換回路ＩＤＣａに予め設定される自己識別符号（ＩＤ）をＩＤ出力回路ＩＤＣから周辺制御基板１５１０に信号伝達することについて説明したが、本発明の固有値発生部は、パラレルシリアル変換回路ＩＤＣａの態様に限定されることなく、例えば、右側遊技盤５ＡＲに取り付けられた装飾基板４１００に実装される少なくとも１つのディップスイッチを用いたスイッチ機構から構成される態様や、右側遊技盤５ＡＲが組み立てられた際に自己識別符号（ＩＤ）が機械的に設定されるフォトセンサ機構から構成される態様であってもよい。

【４５６４】

図３２５は、右側遊技盤５ＡＲの裏ユニット３０００の右側裏箱３０１０Ｒの一部を前から見た概略斜視図である。図３２５に示すように、上記スイッチ機構は、右側遊技盤５ＡＲの装飾基板４１００に実装された少なくとも１つのディップスイッチを有する。本実施形態において、上記スイッチ機構は、２つのディップスイッチ４１１０Ａ、４１１０Ｂを有する。ディップスイッチ４１１０Ａは、操作部を回転させて２進数の値を設定可能なロータリスイッチであり、本実施形態のディップスイッチ４１１０Ａは、０～１５までの値が設定可能である。また、ディップスイッチ４１１０Ｂは、操作部を操作してオンオフの切り替えが可能なオンオフスイッチである。本実施形態のスイッチ機構は、０～１５までの値が設定可能なディップスイッチ４１１０Ａとオンオフが可能なディップスイッチ４１１０Ｂとを有し、各ディップスイッチ４１１０Ａ、４１１０Ｂの操作部を操作することにより、３２通りの自己識別符号（ＩＤ）を発生させることができる。自己識別符号（ＩＤ）は、各ディップスイッチ４１１０Ａ、４１１０Ｂの操作部が操作されることによって予め設定される。

【４５６５】

上記スイッチ機構が発生させた自己識別符号（ＩＤ）は、ＩＤ出力回路ＩＤＣを介して周辺制御基板１５１０との間で信号伝達される。よって、上記スイッチ機構を用いた態様では、上記本実施形態のパラレルシリアル変換回路ＩＤＣａに予め設定された自己識別符号（ＩＤ）を伝達する態様と同様に、新規な左側遊技盤５ＡＬに対応する右側遊技盤５ＡＲに交換されずに古い左側遊技盤５ＡＬに対応する右側遊技盤が残ってしまう等の人為的なミスが抑制され、人為的なミスが起こった場合の遊技機全体での統一感の喪失を抑制でき、遊技興趣の低下を抑制することができる。また、上記スイッチ機構を用いた態様では、各ディップスイッチ４１１０Ａ、４１１０Ｂの操作部を操作することにより、自己識別符号（ＩＤ）を容易に設定することができる。

【４５６６】

図３２６は、右側遊技盤５ＡＲの一部を右側遊技パネル１１００Ｒと右側裏箱３０１０Ｒとに分解して前から見た概略分解斜視図である。図３２６に示すように、上記フォトセンサ機構は、右側遊技盤５ＡＲの装飾基板４１００に実装された少なくとも１つのフォトセンサ４１１０Ｃと、右側遊技盤５ＡＲの右側遊技パネル１１００Ｒに取り付けられてフォトセンサ４１１０Ｃの導光を遮蔽可能な遮蔽部４１１０Ｃ４とを有する。本実施形態のフォトセンサ機構は、３つのフォトセンサ４１１０Ｃと、２つの遮蔽部４１１０Ｃ４とを有する。フォトセンサ４１１０Ｃは、例えば、光を照射する発光部４１１０Ｃ２と発光部４１１０Ｃ２から照射される光を受光する受光部４１１０Ｃ３とを有し、発光部４１１０Ｃ２から照射される光を受光部４１１０Ｃ３が受光するか否かによってオンオフが切り替えられる。本実施形態のフォトセンサ機構では、右側遊技盤５ＡＲの装飾基板４１００の

表面（前面、表実装面）に３つのフォトセンサ４１１０Ｃが並べて実装され、各フォトセンサ４１１０Ｃの受光部４１１０Ｃ３が受光中は、各フォトセンサ４１１０Ｃがオンとなる。本実施形態のフォトセンサ機構では、３つのフォトセンサ４１１０Ｃのオンオフを切り替えることによって８通りの自己識別符号（ＩＤ）を発生させることができる。

【４５６７】

遮蔽部４１１０Ｃ４は、右側遊技パネル１１００Ｒの裏面において、各フォトセンサ４１１０Ｃに対向する位置に取り付け可能であり、右側遊技パネル１１００Ｒの裏面から対向するフォトセンサ４１１０Ｃの発光部４１１０Ｃ２と受光部４１１０Ｃ３との間に延び、発光部４１１０Ｃ２から照射される光を受光部４１１０Ｃ３が受光することを遮蔽する遮蔽部材を有する。本実施形態の遮蔽部４１１０Ｃ４は、右側遊技盤５ＡＲの装飾基板４１００に３つ並べて実装されたフォトセンサ４１１０Ｃのうち、中央を除く両側のフォトセンサ４１１０Ｃに対向する位置に取り付けられる。なお、遮蔽部４１１０Ｃ４を設けない場合には、３つのフォトセンサ４１１０Ｃが全てオンとなる自己識別符号（ＩＤ）が発生するが、右側遊技パネル１１００Ｒが右側遊技盤５ＡＲに取り付けられていない場合にも３つのフォトセンサ４１１０Ｃが全てオンとなるため、３つのフォトセンサ４１１０Ｃが全てオンとなる自己識別符号（ＩＤ）は用いないのが望ましい。

【４５６８】

上記フォトセンサ機構が発生させた自己識別符号（ＩＤ）は、ＩＤ出力回路ＩＤＣを介して周辺制御基板１５１０との間で信号伝達される。よって、上記フォトセンサ機構を用いた態様では、上記本実施形態のパラレルシリアル変換回路ＩＤＣａに予め設定された自己識別符号（ＩＤ）を伝達する態様と同様に、新規な左側遊技盤５ＡＬに対応する右側遊技盤５ＡＲに交換されずに古い左側遊技盤５ＡＬに対応する右側遊技盤が残ってしまう等の人為的なミスが抑制され、人為的なミスが起こった場合の遊技機全体での統一感の喪失を抑制でき、遊技興趣の低下を抑制することができる。また、上記フォトセンサ機構を用いた態様では、右側遊技パネル１１００Ｒに取り付けられる遮蔽部４１１０Ｃ４の取り付け位置を変更することが困難であるため、自己識別符号（ＩＤ）の設定を容易に変更し難く、自己識別符号（ＩＤ）が不正に変更されることを抑制することができる。

【４５６９】

［小括Ａ１］

外枠と、該外枠に開閉可能に設けられる本体枠と、該本体枠に開閉可能に設けられる扉枠と、を有する遊技枠側構成部と、該遊技枠側構成部に設けられて第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とを有する遊技盤側構成部と、を備える遊技機であって、遊技盤側構成部は、第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とから構成されている。第１遊技盤側構成部は、遊技演出を実行するマイクロプロセッサを搭載した演出制御基板を備えている。第２遊技盤側構成部は、第２遊技盤側構成部であることを識別可能な固有値を発生させることが可能な固有値発生手段と、固有値発生手段が発生させた固有値を演出制御基板との間で信号伝達する固有値伝達部と、複数の電子部品が設けられる特定基板と、を備える。固有値発生手段は、前記特定基板の第１基板面側に設けられ、演出制御基板は、固有値伝達部から固有値の入力がない場合に未接続状態であることを報知する未接続報知処理を実行可能である。第２遊技盤側構成部は、特定基板の第１基板面を、固有値発生手段が設けられる領域を含む特定領域と、固有値発生手段が設けられる領域を含まない非特定領域と、に区画する区画部を有する。

【４５７０】

具体的には、例えば、パチンコ機１は、遊技枠側構成部である本体枠４と遊技盤側構成部である図３０２の本体枠４に固定された分割遊技盤５Ａと、を備えている。分割遊技盤５Ａは、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとから構成されている。左側遊技盤５ＡＬは、ＣＰＵ、ＲＡＭ、ＶＤＰ、音源、シリアルＡＴＡコントローラ、そして各種Ｉ／Ｏインターフェイス等が１つの半導体チップ上に集積されたマイクロプロセッサとしての周辺制御ＩＣ１５１０ａを搭載して遊技演出を実行する演出制御基板である周辺制御基板１５１０を含む複数の基板（例えば、主

制御ユニット１３００に収容された主制御基板１３１０など）で構成されている。右側遊技盤５ＡＲは、右側遊技盤５ＡＲであることを識別可能な固有値である自己識別符号（ＩＤ）を発生させる固有値発生手段であるパラレルシリアル変換回路ＩＤＣａと、パラレルシリアル変換回路ＩＤＣａが発生させた自己識別符号（ＩＤ）を周辺制御基板１５１０との間で信号伝達する固有値伝達部であるＩＤ出力回路ＩＤＣと、パラレルシリアル変換回路ＩＤＣａを主とするＩＤＣ出力回路ＩＤＣを含む複数の電子部品（各種ＬＥＤ４１２０など）が第１基板面に実装された特定基板（各種ＬＥＤ４１２０などの電子部品が実装される装飾基板４１００）と、を備えている。

【４５７１】

周辺制御基板１５１０は、ＩＤ出力回路ＩＤＣから自己識別符号（ＩＤ）の入力がない場合（例えば、上述した電源投入時の未接続エラー１の場合）に未接続状態（例えば、上述した電源投入時の状態８）であることを報知する未接続報知処理（例えば、上述した電源投入時のエラー対応７）を実行可能である。右側遊技盤５ＡＲは、装飾基板４１００の第１基板面に実装された複数の電子部品のうちＩＤ出力回路ＩＤＣと他の電子部品（各種ＬＥＤ４１２０など）とを隔てる区画部である区画カバー４１３０を有する。

【４５７２】

このように、ＩＤ出力回路ＩＤＣから自己識別符号（ＩＤ）の入力がない場合（例えば、上述した電源投入時の未接続エラー１の場合）に未接続状態（例えば、上述した電源投入時の状態８）であることを報知する未接続報知処理（例えば、上述した電源投入時のエラー対応７）を実行可能であるため、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが未接続の状態で不完全な演出が実行されることを抑止でき、遊技者の遊技興趣の低下を抑制することができる。区画カバー４１３０は、装飾基板４１００の第１基板面を覆うとともに、自己識別符号（ＩＤ）を発生させるＩＤ出力回路ＩＤＣと他の電子部品（各種ＬＥＤ４１２０など）とを隔てているため、外部からＩＤ出力回路ＩＤＣへの不正なアクセスを抑制して不正な演出が実行されることを抑止でき、遊技者の遊技興趣の低下を抑制することができる。また、区画カバー４１３０には開口が形成されているため、右側遊技パネル１１００Ｒと右側前構成部材１０００Ｒとが右側裏箱３０１０Ｒから分解された場合には、区画カバー４１３０が右側遊技パネル１１００Ｒの前面に取り付けられた状態であっても、ＩＤ出力回路ＩＤＣと各種ＬＥＤ４１２０などの電子部品が開口を介して目視可能であり、加えて、ＩＤ出力回路ＩＤＣが他の電子部品（各種ＬＥＤ４１２０など）と隔てられているためＩＤ出力回路ＩＤＣを容易に特定することができる。

【４５７３】

［小括Ａ２］

外枠と、該外枠に開閉可能に設けられる本体枠と、該本体枠に開閉可能に設けられる扉枠と、を有する遊技枠側構成部と、該遊技枠側構成部に設けられて第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とを有する遊技盤側構成部と、を備える遊技機であって、遊技盤側構成部は、第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とから構成されている。第１遊技盤側構成部は、遊技演出を実行するマイクロプロセッサを搭載した演出制御基板を備えている。第２遊技盤側構成部は、第２遊技盤側構成部であることを識別可能な固有値を発生させることが可能な固有値発生手段と、固有値発生手段が発生させた固有値を演出制御基板との間で信号伝達する固有値伝達部と、複数の電子部品が設けられる特定基板と、を備える。固有値発生手段は、特定基板の第１基板面側に設けられ、演出制御基板は、固有値伝達部から固有値の入力がない場合に未接続状態であることを報知する未接続報知処理を実行可能である。特定基板は、第１基板面が遊技機の前方を向くように配置される。

【４５７４】

具体的には、例えば、パチンコ機１は、遊技枠側構成部である本体枠４と遊技盤側構成部である図３０２の本体枠４に固定された分割遊技盤５Ａと、を備えている。分割遊技盤５Ａは、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとから構成されている。左側遊技盤５ＡＬは、ＣＰＵ、ＲＡＭ、ＶＤＰ、音源

、シリアルＡＴＡコントローラ、そして各種Ｉ／Ｏインターフェイス等が１つの半導体チップ上に集積されたマイクロプロセッサとしての周辺制御ＩＣ１５１０ａを搭載して遊技演出を実行する演出制御基板である周辺制御基板１５１０を含む複数の基板（例えば、主制御ユニット１３００に収容された主制御基板１３１０等）で構成されている。右側遊技盤５ＡＲは、右側遊技盤５ＡＲであることを識別可能な固有値である自己識別符号（ＩＤ）を発生させる固有値発生手段であるパラレルシリアル回路ＩＤＣａと、パラレルシリアル回路ＩＤＣａが発生させた自己識別符号（ＩＤ）を周辺制御基板１５１０との間で信号伝達する固有値伝達部である図３０５のＩＤ出力回路ＩＤＣと、ＩＤ出力回路ＩＤＣを含む複数の電子部品（各種ＬＥＤ４１２０など）が第１基板面に実装された特定基板（各種ＬＥＤ４１２０が実装される装飾基板４１００）と、を備えている。

【４５７５】

周辺制御基板１５１０は、ＩＤ出力回路ＩＤＣから自己識別符号（ＩＤ）の入力がない場合（例えば、上述した電源投入時の未接続エラー１の場合）に未接続状態（例えば、上述した電源投入時の状態８）であることを報知する未接続報知処理（例えば、上述した電源投入時のエラー対応７）を実行可能である。各種ＬＥＤ４１２０が実装される装飾基板４１００は、第１基板面がパチンコ機１の前方を向くように配置される。

【４５７６】

このように、ＩＤ出力回路ＩＤＣから自己識別符号（ＩＤ）の入力がない場合（例えば、上述した電源投入時の未接続エラー１の場合）に未接続状態（例えば、上述した電源投入時の状態８）であることを報知する未接続報知処理（例えば、上述した電源投入時のエラー対応７）を実行可能であるため、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが未接続の状態で不完全な演出が実行されることを抑止でき、遊技者の遊技興趣の低下を抑制することができる。また、各種ＬＥＤ４１２０が実装される装飾基板４１００は、第１基板面がパチンコ機１の前方を向くように配置されるため、外部からＩＤ出力回路ＩＤＣへの不正なアクセスを実行しようとした際に、遊技ホールの島設備及び従業員の目視による不正の発覚を容易にし、外部からＩＤ出力回路ＩＤＣへの不正なアクセスを抑制でき、外部からＩＤ出力回路ＩＤＣへの不正なアクセスにより不正な演出が実行されることを抑止でき、遊技者の遊技興趣の低下を抑制することができる。

【４５７７】

［小括Ａ３］

外枠と、該外枠に開閉可能に設けられる本体枠と、該本体枠に開閉可能に設けられる扉枠と、を有する遊技枠側構成部と、該遊技枠側構成部に設けられて第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とを有する遊技盤側構成部と、を備える遊技機であって、遊技盤側構成部は、第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とから構成されている。第１遊技盤側構成部は、遊技演出を実行するマイクロプロセッサを搭載した演出制御基板を備えている。第２遊技盤側構成部は、第２遊技盤側構成部であることを識別可能な固有値を発生させることが可能な固有値発生手段と、固有値発生手段が発生させた固有値を演出制御基板との間で信号伝達する固有値伝達部と、複数の電子部品が設けられる特定基板と、を備える。固有値発生手段は、特定基板の第１基板面側に設けられ、演出制御基板は、固有値伝達部から固有値の入力がない場合に未接続状態であることを報知する未接続報知処理を実行可能である。特定基板の第１基板面には、明色である白色のレジストが形成され、該白色のレジストが形成される第１基板面側に設けられる固有値発生手段は暗色の外装を有する。

【４５７８】

具体的には、例えば、パチンコ機１は、遊技枠側構成部である本体枠４と遊技盤側構成部である図３０２の本体枠４に固定された分割遊技盤５Ａと、を備えている。分割遊技盤５Ａは、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとから構成されている。左側遊技盤５ＡＬは、ＣＰＵ、ＲＡＭ、ＶＤＰ、音源、シリアルＡＴＡコントローラ、そして各種Ｉ／Ｏインターフェイス等が１つの半導体チ

ップ上に集積されたマイクロプロセッサとしての周辺制御ＩＣ１５１０ａを搭載して遊技演出を実行する演出制御基板である周辺制御基板１５１０を含む複数の基板（例えば、主制御ユニット１３００に収容された主制御基板１３１０等）で構成されている。右側遊技盤５ＡＲは、右側遊技盤５ＡＲであることを識別可能な固有値である自己識別符号（ＩＤ）を発生させる固有値発生手段であるパラレルシリアル回路ＩＤＣａと、パラレルシリアル回路ＩＤＣａが発生させた自己識別符号（ＩＤ）を周辺制御基板１５１０との間で信号伝達する固有値伝達部である図３０５のＩＤ出力回路ＩＤＣと、ＩＤ出力回路ＩＤＣを含む複数の電子部品（各種ＬＥＤ４１２０など）が第１基板面に実装された特定基板（各種ＬＥＤ４１２０が実装される装飾基板４１００）と、を備えている。

【４５７９】

周辺制御基板１５１０は、ＩＤ出力回路ＩＤＣから自己識別符号（ＩＤ）の入力がない場合（例えば、上述した電源投入時の未接続エラー１の場合）に未接続状態（例えば、上述した電源投入時の状態８）であることを報知する未接続報知処理（例えば、上述した電源投入時のエラー対応７）を実行可能である。各種ＬＥＤ４２１０が実装される装飾基板４１００の第１基板面には、明色として白色のレジストが形成され、ＩＤ出力回路ＩＤＣは暗色として黒色の外装を有する。

【４５８０】

このように、ＩＤ出力回路ＩＤＣから自己識別符号（ＩＤ）の入力がない場合（例えば、上述した電源投入時の未接続エラー１の場合）に未接続状態（例えば、上述した電源投入時の状態８）であることを報知する未接続報知処理（例えば、上述した電源投入時のエラー対応７）を実行可能であるため、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが未接続の状態で不完全な演出が実行されることを抑止でき、遊技者の遊技興趣の低下を抑制することができる。また、装飾基板４１００の第１基板面には白色のレジストが形成され、ＩＤ出力回路ＩＤＣの外装は黒色であるため、外部からＩＤ出力回路ＩＤＣへの不正なアクセスがあり、不正なアクセスによって不正な演出等が実行された場合であっても、白色の装飾基板４１００に対して黒色のＩＤ出力回路ＩＤＣは、例えば、遊技ホールの従業員の目視により容易に特定することができ、ＩＤ出力回路ＩＤＣが修正されることによって不正な演出が実行されることを抑止でき、遊技者の遊技興趣の低下を抑制することができる。

【４５８１】

［小括Ｂ１］

外枠と、該外枠に開閉可能に設けられる本体枠と、該本体枠に開閉可能に設けられる扉枠と、を有する遊技枠側構成部と、該遊技枠側構成部に設けられて第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とを有する遊技盤側構成部と、を備える遊技機であって、遊技盤側構成部は、第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とから構成されている。第１遊技盤側構成部は、遊技演出を実行するマイクロプロセッサを搭載した演出制御基板を備えている。第２遊技盤側構成部は、第２遊技盤側構成部であることを識別可能な固有値を発生させることが可能な固有値発生手段と、固有値発生手段が発生させた固有値を演出制御基板との間で信号伝達する固有値伝達部と、複数の電子部品が設けられる特定基板と、を備える。固有値発生手段は、前記特定基板の第１基板面側に設けられ、演出制御基板は、固有値伝達部から入力される固有値が予め設定された値でない場合に異常接続状態であることを報知する異常接続報知処理を実行可能である。第２遊技盤側構成部は、特定基板の第１基板面を、固有値発生手段が設けられる領域を含む特定領域と、固有値発生手段が設けられる領域を含まない非特定領域と、に区画する区画部を有する。

【４５８２】

具体的には、例えば、パチンコ機１は、遊技枠側構成部である本体枠４と遊技盤側構成部である図３０２の本体枠４に固定された分割遊技盤５Ａと、を備えている。分割遊技盤５Ａは、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとから構成されている。左側遊技盤５ＡＬは、ＣＰＵ、ＲＡＭ、ＶＤＰ、音源、シリアルＡＴＡコントローラ、そして各種Ｉ／Ｏインターフェイス等が１つの半導体チ

ップ上に集積されたマイクロプロセッサとしての周辺制御ＩＣ１５１０ａを搭載して遊技演出を実行する演出制御基板である周辺制御基板１５１０を含む複数の基板（例えば、主制御ユニット１３００に収容された主制御基板１３１０等）で構成されている。右側遊技盤５ＡＲは、右側遊技盤５ＡＲであることを識別可能な固有値である自己識別符号（ＩＤ）を発生させる固有値発生手段であるパラレルシリアル回路ＩＤＣａと、パラレルシリアル回路ＩＤＣａが発生させた自己識別符号（ＩＤ）を周辺制御基板１５１０との間で信号伝達する固有値伝達部である図３０５のＩＤ出力回路ＩＤＣと、ＩＤ出力回路ＩＤＣを含む複数の電子部品（各種ＬＥＤ４１２０など）が第１基板面に実装された特定基板（各種ＬＥＤ４１２０が実装される装飾基板４１００）と、を備えている。

【４５８３】

周辺制御基板１５１０は、ＩＤ出力回路ＩＤＣから入力される自己識別符号（ＩＤ）が予め設定された値でない場合（例えば、上述した電源投入時のＩＤエラー１の場合）に異常接続状態（例えば、上述した電源投入時の状態２）であることを報知する異常接続報知処理（例えば、上述した電源投入時のエラー対応１）を実行可能である。右側遊技盤５ＡＲは、装飾基板４１００の第１基板面に実装された複数の電子部品のうちＩＤ出力回路ＩＤＣと他の電子部品（各種ＬＥＤ４１２０など）とを隔てる区画部である区画カバー４１３０を有する。

【４５８４】

このように、ＩＤ出力回路ＩＤＣから入力される自己識別符号（ＩＤ）が予め設定された値でない場合（例えば、上述した電源投入時のＩＤエラー１の場合）に異常接続状態（例えば、上述した電源投入時の状態２）であることを報知する異常接続報知処理（例えば、上述した電源投入時のエラー対応１）を実行可能であるため、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが異常接続の状態で不完全な演出が実行されることを抑止でき、遊技者の遊技興趣の低下を抑制することができる。区画カバー４１３０は、装飾基板４１００の第１基板面を覆うとともに、自己識別符号（ＩＤ）を発生させるパラレルシリアル回路ＩＤＣａを含むＩＤ出力回路ＩＤＣと他の電子部品（各種ＬＥＤ４１２０など）とを隔てているため、外部からＩＤ出力回路ＩＤＣへの不正なアクセスを抑制して不正な演出が実行されることを抑止でき、遊技者の遊技興趣の低下を抑制することができる。また、区画カバー４１３０には開口が形成されているため、右側遊技パネル１１００Ｒと右側前構成部材１０００Ｒとが右側裏箱３０１０Ｒから分解された場合には、区画カバー４１３０が右側遊技パネル１１００Ｒの前面に取り付けられた状態であっても、ＩＤ出力回路ＩＤＣと各種ＬＥＤ４１２０などの電子部品が開口を介して目視可能であり、加えて、ＩＤ出力回路ＩＤＣが他の電子部品（各種ＬＥＤ４１２０など）と隔てられているためＩＤ出力回路ＩＤＣを容易に特定することができる。

【４５８５】

［小括Ｂ２］

外枠と、該外枠に開閉可能に設けられる本体枠と、該本体枠に開閉可能に設けられる扉枠と、を有する遊技枠側構成部と、該遊技枠側構成部に設けられて第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とを有する遊技盤側構成部と、を備える遊技機であって、遊技盤側構成部は、第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とから構成されている。第１遊技盤側構成部は、遊技演出を実行するマイクロプロセッサを搭載した演出制御基板を備えている。第２遊技盤側構成部は、第２遊技盤側構成部であることを識別可能な固有値を発生させることが可能な固有値発生手段と、固有値発生手段が発生させた固有値を演出制御基板との間で信号伝達する固有値伝達部と、複数の電子部品が設けられる特定基板と、を備える。固有値発生手段は、特定基板の第１基板面側に設けられ、演出制御基板は、固有値伝達部から入力される固有値が予め設定された値でない場合に異常接続状態であることを報知する異常接続報知処理を実行可能である。特定基板は、第１基板面が遊技機の前方を向くように配置される。

【４５８６】

具体的には、例えば、パチンコ機１は、遊技枠側構成部である本体枠４と遊技盤側構成部である図３０２の本体枠４に固定された分割遊技盤５Ａと、を備えている。分割遊技盤５Ａは、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとから構成されている。左側遊技盤５ＡＬは、ＣＰＵ、ＲＡＭ、ＶＤＰ、音源、シリアルＡＴＡコントローラ、そして各種Ｉ／Ｏインターフェイス等が１つの半導体チップ上に集積されたマイクロプロセッサとしての周辺制御ＩＣ１５１０ａを搭載して遊技演出を実行する演出制御基板である周辺制御基板１５１０を含む複数の基板（例えば、主制御ユニット１３００に収容された主制御基板１３１０等）で構成されている。右側遊技盤５ＡＲは、右側遊技盤５ＡＲであることを識別可能な固有値である自己識別符号（ＩＤ）を発生させる固有値発生手段であるパラレルシリアル回路ＩＤＣａと、パラレルシリアル回路ＩＤＣａが発生させた自己識別符号（ＩＤ）を周辺制御基板１５１０との間で信号伝達する固有値伝達部である図３０５のＩＤ出力回路ＩＤＣと、ＩＤ出力回路ＩＤＣを含む複数の電子部品（各種ＬＥＤ４１２０など）が第１基板面に実装された特定基板（各種ＬＥＤ４１２０が実装される装飾基板４１００）と、を備えている。

【４５８７】

周辺制御基板１５１０は、ＩＤ出力回路ＩＤＣから入力される自己識別符号（ＩＤ）が予め設定された値でない場合（例えば、上述した電源投入時のＩＤエラー１の場合）に異常接続状態（例えば、上述した電源投入時の状態２）であることを報知する異常接続報知処理（例えば、上述した電源投入時のエラー対応１）を実行可能である。各種ＬＥＤ４１２０が実装される装飾基板４１００は、第１基板面がパチンコ機１の前方を向くように配置される。

【４５８８】

このように、ＩＤ出力回路ＩＤＣから入力される自己識別符号（ＩＤ）が予め設定された値でない場合（例えば、上述した電源投入時のＩＤエラー１の場合）に異常接続状態（例えば、上述した電源投入時の状態２）であることを報知する異常接続報知処理（例えば、上述した電源投入時のエラー対応１）を実行可能であるため、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが異常接続の状態で不完全な演出が実行されることを抑止でき、遊技者の遊技興趣の低下を抑制することができる。また、各種ＬＥＤ４１２０が実装される装飾基板４１００は、第１基板面がパチンコ機１の前方を向くように配置されるため、外部からＩＤ出力回路ＩＤＣへの不正なアクセスを実行しようとした際に、遊技ホールの島設備及び従業員の目視による不正の発覚を容易にし、外部からＩＤ出力回路ＩＤＣへの不正なアクセスを抑制でき、外部からＩＤ出力回路ＩＤＣへの不正なアクセスにより不正な演出が実行されることを抑止でき、遊技者の遊技興趣の低下を抑制することができる。

【４５８９】

［小括Ｂ３］

外枠と、該外枠に開閉可能に設けられる本体枠と、該本体枠に開閉可能に設けられる扉枠と、を有する遊技枠側構成部と、該遊技枠側構成部に設けられて第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とを有する遊技盤側構成部と、を備える遊技機であって、遊技盤側構成部は、第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とから構成されている。第１遊技盤側構成部は、遊技演出を実行するマイクロプロセッサを搭載した演出制御基板を備えている。第２遊技盤側構成部は、第２遊技盤側構成部であることを識別可能な固有値を発生させることが可能な固有値発生手段と、固有値発生手段が発生させた固有値を演出制御基板との間で信号伝達する固有値伝達部と、複数の電子部品が設けられる特定基板と、を備える。固有値発生手段は、特定基板の第１基板面側に設けられ、演出制御基板は、固有値伝達部から入力される固有値が予め設定された値でない場合に異常接続状態であることを報知する異常接続報知処理を実行可能である。特定基板の第１基板面には、明色である白色のレジストが形成され、該白色のレジストが形成される第１基板面側に設けられる固有値発生手段は暗色の外装を有する。

【４５９０】

具体的には、例えば、パチンコ機１は、遊技枠側構成部である本体枠４と遊技盤側構成部である図３０２の本体枠４に固定された分割遊技盤５Ａと、を備えている。分割遊技盤５Ａは、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとから構成されている。左側遊技盤５ＡＬは、ＣＰＵ、ＲＡＭ、ＶＤＰ、音源、シリアルＡＴＡコントローラ、そして各種Ｉ／Ｏインターフェイス等が１つの半導体チップ上に集積されたマイクロプロセッサとしての周辺制御ＩＣ１５１０ａを搭載して遊技演出を実行する演出制御基板である周辺制御基板１５１０を含む複数の基板（例えば、主制御ユニット１３００に収容された主制御基板１３１０等）で構成されている。右側遊技盤５ＡＲは、右側遊技盤５ＡＲであることを識別可能な固有値である自己識別符号（ＩＤ）を発生させる固有値発生手段であるパラレルシリアル回路ＩＤＣａと、パラレルシリアル回路ＩＤＣａが発生させた自己識別符号（ＩＤ）を周辺制御基板１５１０との間で信号伝達する固有値伝達部である図３０５のＩＤ出力回路ＩＤＣと、ＩＤ出力回路ＩＤＣを含む複数の電子部品（各種ＬＥＤ４１２０など）が第１基板面に実装された特定基板（各種ＬＥＤ４１２０が実装される装飾基板４１００）と、を備えている。

【４５９１】

周辺制御基板１５１０は、ＩＤ出力回路ＩＤＣから入力される自己識別符号（ＩＤ）が予め設定された値でない場合（例えば、上述した電源投入時のＩＤエラー１の場合）に異常接続状態（例えば、上述した電源投入時の状態２）であることを報知する異常接続報知処理（例えば、上述した電源投入時のエラー対応１）を実行可能である。各種ＬＥＤ４１２０が実装される装飾基板４１００の第１基板面には、明色として白色のレジストが形成され、ＩＤ出力回路ＩＤＣは暗色として黒色の外装を有する。

【４５９２】

このように、ＩＤ出力回路ＩＤＣから入力される自己識別符号（ＩＤ）が予め設定された値でない場合（例えば、上述した電源投入時のＩＤエラー１の場合）に異常接続状態（例えば、上述した電源投入時の状態２）であることを報知する異常接続報知処理（例えば、上述した電源投入時のエラー対応１）を実行可能であるため、第１遊技盤側構成部である左側遊技盤５ＡＬと第２遊技盤側構成部である右側遊技盤５ＡＲとが異常接続の状態で不完全な演出が実行されることを抑止でき、遊技者の遊技興趣の低下を抑制することができる。また、装飾基板４１００の第１基板面には白色のレジストが形成され、ＩＤ出力回路ＩＤＣの外装は黒色であるため、外部からＩＤ出力回路ＩＤＣへの不正なアクセスがあり、不正なアクセスによって不正な演出等が実行された場合であっても、白色の装飾基板４１００に対して黒色のＩＤ出力回路ＩＤＣは、例えば、遊技ホールの従業員の目視により容易に特定することができ、ＩＤ出力回路ＩＤＣが修正されることによって不正な演出が実行されることを抑止でき、遊技者の遊技興趣の低下を抑制することができる。

【４５９３】

［設定変更と分割遊技盤のＩＤエラー］

次に、分割遊技盤５Ａの組み合わせ（つまり右側遊技盤５ＡＲ（マイクロプロセッサが搭載されていない基板のみを有する。）と左側遊技盤５ＡＬ（マイクロプロセッサが搭載された周辺制御基板１５１０や主制御基板１３１０と、マイクロプロセッサが搭載されていない基板と、を有する。）との組み合わせ）が不適合（不整合）の状態（不適合状態又は不整合状態。本例では正規のＩＤとは異なるＩＤを有する右側遊技盤５ＡＲと正規のＩＤを有する左側遊技盤５ＡＬとが接続されている状態。）や右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がなく（右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力を確認することができず）各種信号を伝送する伝送経路に短絡や断線などの不具合が発生するといった左側遊技盤５ＡＬに対して右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていない未接続の状態（未接続状態。本例では右側遊技盤５ＡＲが正規のＩＤを有するか否かにかかわらず正規のＩＤを有する左側遊技盤５ＡＬに対して右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていない状態。）で設定値の設定変更を行う場合の挙動例について説明する。なお、比較のために分割遊技盤５Ａの組み合わせ（つまり右側遊技盤５ＡＲ（マイクロプロセッサが搭載されていない基板）と左側遊技盤５ＡＬ（マイクロプロセッサが搭載された周辺制御基板１５１０

や主制御基板１３１０）との組み合わせ）が適合（整合）の状態（整合状態）で設定値の設定変更を行う場合の挙動例についても説明する。図３２７は分割遊技盤５Ａの組み合わせとして左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとから構成される分割遊技盤５Ａが適合（整合）する状態で設定値の設定変更を行う場合の挙動例であり、図３２８は分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態で設定値の設定変更を行う場合の挙動例であり、図３３１は右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態で設定値の設定変更を行う場合の挙動例である。

【４５９４】

［適合時における設定値の設定変更］

図３２７に示すように、パチンコ機１への電源供給が開始されると、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは所定期間に亘って演出表示装置１６００に「ｐｏｗｅｒｏｎ」と表示させてパチンコ機１への電源が投入されたことを報知する。一方、左側遊技盤５ＡＬに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される装飾基板に実装される各種ＬＥＤやサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤ、右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、さらに左側遊技盤５ＡＬに設けられて主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによって制御される機能表示ユニット１４００のＬＥＤ、は消灯状態とされる。また、上記したようにパチンコ機１への電源供給開始時に予め定めた設定値変更許可条件が成立する場合（この例では主制御基板１３１０に備える設定キースイッチ１３１１ａに設定キーを挿入してＯＮ操作した後に、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの押圧操作部を押圧操作しながら、電源基板６３０に備える電源スイッチ６３０ａを操作してパチンコ機１の電源投入を行う場合）には、所定期間経過後に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａにより設定変更処理（ステップＳ３７）が実行されて設定値を選択決定することが可能になっている。なお、左側遊技盤５ＡＬに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される装飾基板に実装される各種ＬＥＤやサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤ、右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、さらに左側遊技盤５ＡＬに設けられて主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによって制御される機能表示ユニット１４００のＬＥＤの一部又は全部についても所定の態様で点灯させるようにしてもよく、これによりパチンコ機１への電源供給が開始されたことを判定し易くなる。

【４５９５】

また、設定変更処理が開始されると設定値の設定変更を開始する旨を伝える設定変更開始コマンドが周辺制御基板１５１０に送信され、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは設定変更開始コマンドを受信すると、演出表示装置１６００に設定変更中報知態様（本例では「設定変更中」）を表示させる（設定変更処理を終了するまで表示させるものであってもよいし、一定期間表示させた後に表示を終了させるものであってもよい。）とともに、設定変更報知音（「設定変更中」というアナウンス音声及び「キンコーン」等の警告音）を予め決められている音量（設定可能な最大の音量でもよいし、周辺制御基板１５１０に備える音量調整スイッチにより調整されるデフォルト音量でもよい。）で各種スピーカから繰り返し出力させる（設定変更処理を終了するまで繰り返し出力させるものであってもよいし、一定回数（例えば５回）又は一定期間（例えば３０秒）繰り返し出力した後に出力を停止させるものであってもよい。）。

【４５９６】

また、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）及び右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）を設定変更時に応じた設定変更報知発光態様（この例では扉枠ユニットの各種ＬＥＤと右側遊技盤５ＡＲとを同一色で点灯させ、短時間で発光色を切り替える態様）で点灯させる（設定変更処理を終了するまで設定変更報知発光態様で点灯させるものであってもよいし、一定期間設定変更報知発光態様で発光させた後に設定変更報知発光態様を

終了して消灯又は別の発光態様で点灯させるものであってもよい。）。これにより設定値の変更処理が実行されていることを報知し、不正に設定値が変更されている場合に直ぐに発見できるようになる。

【４５９７】

なお、設定変更処理の実行中に各種スピーカから出力される設定変更報知音は音量調節ボタン２２７による音量の調節が不可能とされている。上記したように遊技者は音量調節ボタン２２７を操作することにより各種スピーカから出力される音量を調節することが可能であるが、設定変更処理の実行中に出力される設定変更報知音の音量は遊技者が音量調節ボタン２２７を操作しても調節することができないようになっている。そのため、設定変更処理の実行中には予め決められた音量で設定変更報知音を出力させることができるようになり、各種スピーカから出力される音声によって設定変更が行われていることを確実に伝えることができるため、不正に設定変更が行われている場合には直ぐに発見できるようになり、不正に設定値が変更されることを抑制できる。

【４５９８】

また、設定変更処理の実行中に行われる設定変更報知発光態様も光量調節ボタン２２８による光量の調節が不可能とされている。上記したように遊技者は光量調節ボタン２２８を操作することにより扉枠３や分割遊技盤５Ａに設けられている各種の装飾基板に実装されるＬＥＤのうちの一部のＬＥＤについて光量（輝度）を調節することが可能であるが、設定変更処理の実行中に行われる設定変更報知発光態様は遊技者が光量調節ボタン２２８を操作しても調節することができないようになっている。そのため、設定変更処理の実行中には予め決められた光量（輝度）で扉枠３や分割遊技盤５Ａに設けられている各種の装飾基板のＬＥＤが発光制御されて設定変更報知発光態様を行うことができるようになり、設定変更報知発光態様によって設定変更が行われていることを確実に伝えることができるため、不正に設定変更が行われている場合には直ぐに発見できるようになり、不正に設定値が変更されることを抑制できる。

【４５９９】

また、扉枠３や分割遊技盤５Ａに設けられている各種の装飾基板に実装されるＬＥＤには通常時（遊技モード時）に光量調節ボタン２２８を操作した場合に光量調節の対象となるＬＥＤ（調光ＬＥＤ）と通常時（遊技モード時）に限らず光量調節ボタン２２８を操作しても常に光量調節の対象とならないＬＥＤ（非調光ＬＥＤ）とに分けられている。例えば左側遊技盤５ＡＬに設けられる機能表示ユニット１４００のＬＥＤやサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤ等の当落に関する情報を表示するＬＥＤについては非調光ＬＥＤとされ、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される各種ＬＥＤについてはサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤを除き、ほとんどが調光ＬＥＤとされている。なお、右側遊技盤５ＡＲに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される各種ＬＥＤのうち一部について非調光ＬＥＤとしてもよく、この場合には非調光ＬＥＤを基準として輝度の調節を行うことができるようになり、所望の輝度に調節することが容易になる。

【４６００】

また、本例のパチンコ機１では通常時（遊技モード時）に音量調節ボタン２２７を操作した場合には演出表示装置１６００に現在の音量に応じた目盛が表示されるとともに、音量調節ボタン２２７の操作に応じた確認音（例えば「音量を変更しました。」等）が音量調節ボタン２２７の操作に応じて設定されている音量で各種スピーカから出力され、通常時（遊技モード時）に光量調節ボタン２２２を操作した場合には演出表示装置１６００に現在の光量（輝度）に応じた目盛が表示されるとともに、光量調節ボタン２２２の操作に応じた確認音（例えば「明るさを変更しました。」等）が音量調節ボタン２２７の操作に応じて設定されている音量で各種スピーカから出力されるようになっている。また、演出表示装置１６００に表示される目盛は音量調節ボタン２２７及び光量調節ボタン２２２のそれぞれに対応して設けられ、現在の音量や光量（輝度）に応じた目盛が表示されている状態で音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２２を操作することにより目盛を変化さ

せるようになっている。
【４６０１】
一方、設定変更処理の実行中には音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８を操作しても演出表示装置１６００に現在の音量や光量（輝度）に応じた目盛が表示されず、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８の操作に応じた確認音も出力されないし、演出表示装置１６００に現在の音量や光量（輝度）に応じた目盛が表示されないため音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８を複数回操作しても目盛が変化することもない。そのため、演出表示装置１６００における設定変更中報知態様の表示の視認が現在の音量や光量（輝度）に応じた目盛によって妨げられることを抑制できるし、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８の操作に応じた確認音によって設定変更報知音が聞き取りにくくなることを抑制でき、不正に設定変更が行われている場合には直ぐに発見できるようになる。
【４６０２】
なお、音量調節ボタン２２７及び光量調節ボタン２２２の操作に応じて演出表示装置１６００に現在（音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２２が操作されたことに基づいて調節された音量や光量）の音量又は光量（輝度）に応じた目盛を表示するものを示したが、音量調節ボタン２２７及び光量調節ボタン２２２の操作に応じて調節された音量又は光量の度合い（程度）を示すものであれば上記したものに限られるものではなく、例えば色の変化やキャラクタの変化（装備の強化、身長の変化、体形の変化等）により音量調節ボタン２２７及び光量調節ボタン２２２の操作に応じて調節された音量又は光量の度合い（程度）を示すようにしてもよい。
【４６０３】
また、設定変更処理の実行中には、左側遊技盤５ＡＬに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される装飾基板に実装される各種ＬＥＤやサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤ、さらに左側遊技盤５ＡＬに設けられて主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによって制御される機能表示ユニット１４００のＬＥＤ、は消灯状態とされる。すなわち、本例のパチンコ機１では左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとによって分割遊技盤５Ａを構成するものでありながらも、設定変更中に左側遊技盤５ＡＬに設けられる各種ＬＥＤについては主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによって制御されるか周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御されるかにかかわらず全て消灯され、右側遊技盤５ＡＲに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される各種ＬＥＤについてのみ点灯されるようになっている。このように、設定変更処理の実行中には分割遊技盤５Ａに設けられる各種ＬＥＤのうち、左側遊技盤５ＡＬに設けられる各種ＬＥＤと右側遊技盤５ＡＲに設けられる各種ＬＥＤとの発光態様を異ならせるため、パチンコ機１を視認した者に違和感を与えて設定変更処理が実行されていることを直ぐに気付かせることができる。なお、左側遊技盤５ＡＬに実装される装飾基板や、機能表示ユニット１４００、サブ機能表示ユニット２２５０のそれぞれに実装される各種ＬＥＤのうち左側遊技盤５ＡＬに実装される装飾基板に実装される各種ＬＥＤについても扉枠ユニットの各種ＬＥＤや右側遊技盤５ＡＲとは異なる設定変更時の報知発光態様（例えば赤色の点滅発光）で点灯させるようにしてもよいし、当落に関する情報を表示する機能表示ユニット１４００のＬＥＤとサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤとの一方又は両方を設定変更時の報知発光態様で点灯させるようにしてもよく、この場合にも右側遊技盤５ＡＲに設けられるＬＥＤの発光態様と左側遊技盤５ＡＬに設けられるＬＥＤの発光態様とを異ならせることができるため、設定変更処理が実行されていることを直ぐに気付かせることが可能である。
【４６０４】
また、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは設定値の決定操作（この例では主制御基板１３１０に備える設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダを初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すＯＦＦ操作）が行われたことに基づいて決定した設定値を主制御ＭＰＵ１３１０ａに内

蔵されているＲＡＭの特定領域に格納するとともに設定変更処理を終了する旨を通知する設定変更コマンドを周辺制御基板１５１０に送信する。

【４６０５】

また、設定値の決定操作が行われると、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって電源投入時動作確認が所定期間（例えば６０秒）に亘って行われる。具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される各種ＬＥＤのうちの当落に関する情報を表示するサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤを除くＬＥＤ（左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤや右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ等）を所定の発光態様（電源投入時動作確認時の発光態様）で点灯させる制御や、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等を駆動して可動体を所定の動作態様（電源投入時動作確認時の動作態様）で動作させる制御を実行して、正常にＬＥＤを点灯させることが可能であるか否かや駆動モータや駆動ソレノイド等を駆動して可動体を正常に動作させることが可能であるか否かを確認する電源投入時動作確認を実行する。

【４６０６】

本例では、演出制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって駆動モータや駆動ソレノイド等を駆動することにより動作する可動体として、例えば分割遊技盤５Ａに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１や、扉枠３に設けられる演出操作ユニット３００の演出操作部３０１等を有している。上記電源投入時動作確認では、周辺制御ＩＣ１５１０ａによって駆動モータや駆動ソレノイド等を駆動して、裏後上第一装飾部３２１１を前方へ向けたままの状態で裏後上可動装飾体３２１０を上昇位置から下降位置へ移動させた後に左右方向の軸周りに回動させ、その後に裏後上第一装飾部３２１１を前方へ向けた状態で裏後上可動装飾体３２１０を下降位置から上昇位置へ移動させる確認動作と、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２を演出表示装置１６００の前方を覆わない退避位置から演出表示装置１６００の前方を覆う出現位置へ移動させた後、退避位置へ移動させる確認動作と、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１を通常の待機位置から演出表示装置１６００の前方の上昇位置へ移動させた後、前後方向の軸周りに対して回転させ、その後に待機位置へ移動させる確認動作と、振動モータ３５６を駆動して演出操作部３０１を振動させた後に停止させる動作確認と、操作ボタン昇降駆動モータ３６７を駆動して演出操作部３０１を演出操作部カバーユニット３１０に対して昇降させる確認動作と、を実行するようになっている。また、このとき裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０を発光装飾するＬＥＤと、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１を発光装飾するＬＥＤ（裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の表実装面に実装されるＬＥＤ３３１１ａ～３３１４ａ）及び裏後右可動装飾体３３０２（裏後右可動装飾基板３３２１～３３２４の表実装面に実装されるＬＥＤ３３２１ａ～３３２４ａ）を発光装飾するＬＥＤ、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１を発光装飾するＬＥＤや、扉枠３に設けられる演出操作ユニット３００の演出操作部３０１の演出操作部カバーユニット３１０の上部（ユニット上カバー３１２）を発光装飾させるための複数のＬＥＤ３２０ａ等をそれぞれ所定の発光態様で制御するようになっている。

【４６０７】

また、本例では電源投入時動作確認において、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される各種ＬＥＤのうちの当落に関する情報を表示するサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤを除く全てのＬＥＤを所定の発光態様（電源投入時動作確認時の発光態様）で点灯させる。なお、電源投入時動作確認において、サブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤについても点灯させることで異常の有無を確認するようにしてもよい

し、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される各種ＬＥＤのうちのサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤを除くＬＥＤについても全部を点灯させるものに限らず、一部のＬＥＤについては点灯させないものであってもよいし、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータ及び駆動ソレノイド等についても全部を駆動させるものに限らず一部については駆動させないものであってもよい。また、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を実行する場合には周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される各種ＬＥＤのうちの当落に関する情報を表示するサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤを除くＬＥＤ（左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤや右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ等）の一部又は全部については所定の発光態様（電源投入時動作確認時の発光態様）で点灯させることなく、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアすることを報知する発光態様（例えばＲＡＭクリア報知発光態様）で点灯させるようにしてもよい。また、本例では電源投入時動作確認において、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータ及び駆動ソレノイド等のすべてを駆動するように構成されるが、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータ及び駆動ソレノイド等の一部については駆動させないようにしてもよい。

【４６０８】

主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、設定変更処理を終了すると周辺制御基板１５１０に設定変更コマンドを送信するとともに主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を開始する。また、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、主制御ＭＰＵ１３１０ａから設定変更コマンドを受信すると、つまり主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａにより主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）が開始されると、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される各種ＬＥＤのうちの当落に関する情報を表示するサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤを除くＬＥＤ（左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤや右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ等）を所定の発光態様（電源投入時動作確認時の発光態様、この例では白紫色に点灯）で点灯させるとともに周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等を駆動して可動体を所定の動作態様（電源投入時動作確認時の動作態様）で動作させる電源投入時動作確認を実行し、且つＲＡＭクリア報知音（「メモリがクリアされました。」というアナウンス音声及び「キンコーン」等の警告音）を予め決められている音量（設定可能な最大の音量でもよいし、周辺制御基板１５１０に備える音量調整スイッチにより調整されるデフォルト音量でもよい。）で各種スピーカから繰り返し出力させる（主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理及び電源投入時動作確認を終了するまで繰り返し出力させるものであってもよいし、一定回数（例えば５回）又は一定期間（例えば３０秒）繰り返し出力した後に出力を停止させるものであってもよい。）。一方、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは演出表示装置１６００に演出時の態様、すなわち装飾図柄や通常時（遊技モード時）の背景画像等を表示して、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアすることを報知しないようになっている。なお、外枠２に対して本体枠４が開放されている場合には本体枠４を閉じるまでその旨を報知する扉開放異常報知表示態様としての「扉開放中」を表示するようにしてもよい。また扉開放異常報知表示態様はエラー内容に応じたものであればよく、文字、数字（例えばエラーコード）、マーク等のうち一つ又は任意の複数の組み合わせとしてもよい。

【４６０９】

また、演出表示装置１６００においても主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアすることを報知するようにしてもよく、この場合には装飾図柄や通常時（遊技可能状態時）の背景画像等の表示を行うことなしに主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアすることを報知する表示のみを実行するようにしてもよいし、演出時の態様（装飾図柄や通常時（遊技可能状態時）の背景画像等）の表示と主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアすることを報知する表示との両方を実行するようにしてもよく、演出時の態様（装飾図柄や通常時（遊技可能状態時）の背景画像等）の表示と主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアすることを報知する表示との両方を実行する場合には演出時の態様（装飾図柄や通常時（遊技可能状態時）の背景画像等）の表示に重なる上位レイヤに主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアすることを報知する表示を行うようにしてもよい。また、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される各種ＬＥＤのうちの当落に関する情報を表示するサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤや主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによって制御される機能表示ユニット１４００のＬＥＤの一方又は両方についても主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアすることを報知する発光態様や電源投入時動作確認時の発光態様で発光させるようにしてもよい。

【４６１０】

また、本例のパチンコ機１では設定変更処理の終了後に電源投入時動作確認を実行した場合、すなわち主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を伴う電源投入時動作確認を実行した場合には、電源投入時動作確認が終了するまで（周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される各種ＬＥＤのうちの当落に関する情報を表示するサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤを除くＬＥＤ（左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤや右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ等）を所定の発光態様（電源投入時動作確認時の発光態様、この例では白紫色に点灯）で点灯させるとともに周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等を駆動して可動体を所定の動作態様（電源投入時動作確認時の動作態様）で動作させる電源投入時動作確認を実行し、所定の発光態様での点灯及び所定の態様での動作を終了するまで。）は音量調節ボタン２２７によって音量を調節できないようになっている。上記したように本例のパチンコ機１では音量調節ボタン２２７を操作することにより各種スピーカから出力される音量を調節することが可能であるが、設定変更処理の終了後に実行される主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理において出力されるＲＡＭクリア報知音の音量は音量調節ボタン２２７を操作しても調節することができないようになっている。そのため、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理が開始された場合には予め決められた音量でＲＡＭクリア報知音を出力させることができるようになり、各種スピーカから出力される音声によって主制御内蔵ＲＡＭがクリアされたことを確実に伝えることができるため、不正に主制御内蔵ＲＡＭがクリアされた場合に直ぐに発見できるようになる。また、不正に設定値が変更されたことに気付かなかった場合であっても、その後に実行される主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理において不正に主制御内蔵ＲＡＭがクリアされたこと、ひいては不正に設定変更が行われた可能性があることを認識させることができるため、設定値が不正に変更されることを抑制することができる。

【４６１１】

同様に、設定変更処理の終了後に電源投入時動作確認を実行した場合、すなわち主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を伴う電源投入時動作確認を実行した場合には、設定変更処理の終了後に電源投入時動作確認が終了するまで（周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される各種ＬＥＤのうちの当落に関する情報を表示するサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤを除く

ＬＥＤ（左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤや右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ等）を所定の発光態様（電源投入時動作確認時の発光態様、この例では白紫色に点灯）で点灯させるとともに周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等を駆動して可動体を所定の動作態様（電源投入時動作確認時の動作態様）で動作させる電源投入時動作確認を実行し、所定の発光態様での点灯及び所定の態様での動作を終了するまで。）は光量調節ボタン２２８によって光量（輝度）を調節できないようになっている。上記したように本例のパチンコ機１では光量調節ボタン２２８を操作することにより扉枠３や分割遊技盤５Ａに設けられている各種の装飾基板のＬＥＤの光量（輝度）を調節することが可能であるが、設定変更処理の終了後に実行される電源投入時動作確認において発光制御される発光態様は光量調節ボタン２２８を操作しても調節することができないようになっている。そのため、電源投入時動作確認が開始された場合には予め決められた光量（輝度）で扉枠３や分割遊技盤５Ａに設けられている各種の装飾基板のＬＥＤを発光制御させることができるようになり、パチンコ機１への電源供給が開始されたことを確実に伝えることができるため、例えば設定値を変更するためにパチンコ機１への電源が遮断された後に電源供給を再開させるような不正が行われた場合に直ぐに発見できるようになる。また、不正に設定値が変更されたことに気付かなかった場合であっても、その後に実行される電源投入時動作においてパチンコ機１への電源供給が不正に開始されたこと、ひいては付勢に設定変更が行われた可能性があることを認識させることができるため、設定値が不正に変更されることを抑制することができる。

【４６１２】

また、設定変更処理の終了後に電源投入時動作確認を実行した場合、すなわち主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を伴う電源投入時動作確認を実行した場合には、設定変更処理の終了後に電源投入時動作確認が終了するまでは音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８を操作しても演出表示装置１６００に現在の音量や光量（輝度）に応じた目盛が表示されないようになっている。また、演出表示装置１６００に現在の音量や光量（輝度）に応じた目盛が表示されないため音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８を複数回操作しても目盛が変化することもない。また、設定変更処理の終了後に電源投入時動作確認を実行している場合であっても、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）が終了して割り込み許可設定（ステップＳ５２）が行われた後には球発射装置５４０による遊技球の発射が可能とされるとともに、各種受入口（第一始動口２００２、第一始動口２００２、大入賞口２００５、一般入賞口２００１、ゲート２００３）での遊技球の検出が有効とされて遊技を実行可能な状態となっている。本例では電源投入時動作確認が終了するまでは演出表示装置１６００に現在の音量や光量（輝度）に応じた目盛を表示させないし、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８を複数回操作しても目盛を変化させないため、演出表示装置１６００における演出時の態様（装飾図柄や通常時（遊技可能状態時）の背景画像等）の表示の一部又は全部の視認が現在の音量や光量（輝度）に応じた目盛によって妨げられることを抑制でき、電源投入時動作確認として演出表示装置１６００が正常であるか否かの判定が容易となる。すなわち、通常時（遊技可能状態）には音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８を操作した場合に演出表示装置１６００に現在の音量や光量（輝度）に応じた目盛を演出時の態様（装飾図柄や通常時（遊技可能状態時）の背景画像等）の表示の上層に重なるように表示させるとともに、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８を複数回操作して目盛を変化させるようにするものの、演出表示装置１６００の表示が正常であるか否かを確認する電源投入時動作確認中には演出表示装置１６００に現在の音量や光量（輝度）に応じた目盛を表示させないことで演出時の態様（装飾図柄や通常時（遊技可能状態時）の背景画像等）が正常に表示されているか否かの確認の妨げとならないようにしている。

【４６１３】
一方、設定変更処理の終了後に電源投入時動作確認を実行した場合、すなわち主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を伴う電源投入時動作確認を実行した場合には、設定変更処理の終了後に電源投入時動作確認が終了するまでは音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８の操作に応じた確認音として通常時とは異なる専用の確認音（例えば「ピコーン」等）が予め決められている音量（音量調節ボタン２２７の操作に応じて設定されている音量とは異なる音量）で出力されるようになっている。ただし、通常時の確認音は音量調節ボタン２２７によって変更された音量で出力される（音量調節ボタン２２７を操作することで確認音の音量が変化する。）ものの、電源投入時動作確認中に出力される専用の確認音は予め決められている音量で出力される（音量調節ボタン２２７を操作しても音量が変化しない。）ようになっている。これにより、電源投入時動作確認として音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８が正常であるか否かの判定が容易となるし、専用の確認音が出力されることによって主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）が実行されていることを容易に把握させることができる。
【４６１４】
主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによる主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）が終了し、割り込み許可設定（ステップＳ５２）が行われることにより球発射装置５４０により遊技球の発射が可能となり、当落に関する情報を表示する機能表示ユニット１４００のＬＥＤ及びサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤの発光制御が開始される。このように、本例のパチンコ機１では設定値変更処理（ステップＳ３７）の実行中に球発射装置５４０によって遊技球が発射されないようになっている。なお、機能表示ユニット１４００のＬＥＤ及びサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤを発光制御可能な状態とするものであればよく、球発射装置５４０により遊技球の発射が可能となったことに基づいて直ぐに機能表示ユニット１４００のＬＥＤやサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤの一方又は両方を所定の態様で点灯させるものに限らず、機能表示ユニット１４００のＬＥＤやサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤの一方又は両方を変動表示の開始条件が成立（始動口（第一始動口２００２又は第一始動口２００２と第二始動口２００４との一方へ遊技球が入球）したことに基づいて特別図柄の変動表示時の発光態様や変動演出時の発光態様で点灯させるものであってもよいし、異常状態等を報知する発光態様の終了後に特別図柄の変動表示時の発光態様や変動演出時の発光態様で点灯させたり特別図柄の変動表示時の発光態様や演出時の発光態様に発光制御可能な状態とするものであってもよい。
【４６１５】
また、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ、右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、及び左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤは、設定変更処理の終了後に本体枠４を閉じた場合であってその後に本体枠４が継続して閉じた状態とされているときには主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによる主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）及び電源投入時動作確認が終了して電源投入時動作確認時の発光態様と電源投入時動作確認時の動作態様とを終了したことに基づいて（電源投入時動作確認時の発光態様よりも電源投入時動作確認時の動作態様の方が早いタイミングで終了するように構成した場合には電源投入時動作確認時の発光態様を終了したことに基づくものとしてもよいし、電源投入時動作確認時の発光態様よりも電源投入時動作確認時の動作態様の方が遅いタイミングで終了するように構成した場合には電源投入時動作確認時の動作態様が終了したことに基づくものとしてもよい。）、扉枠ユニットの各種ＬＥＤ及び右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤを重大異常報知発光態様で発光制御する一方、左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤを消灯状態に制御する。そして、本体枠４を閉じてから所定期間（例えば６０秒、

本例では周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる電源投入時動作確認を開始してから電源投入時動作確認を終了するまでの期間よりも長くされている。）が経過したときに扉枠ユニットの各種ＬＥＤ及び右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤの重大異常報知発光態様の発光制御と左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤの消灯制御とを終了して、遊技モード中と同様に遊技状態に応じた発光態様（演出時の発光態様）で発光制御可能となる。なお、本体枠４を閉じてから所定期間が経過したときに扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ、右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、及び左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤを発光制御可能な状態とするものであればよく、本体枠４を閉じてから所定期間が経過したことに基づいて直ぐに扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ、右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、及び左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤの一部又は全部を点灯させるものに限らず、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ、右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、及び左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤの一部又は全部について変動表示の開始条件が成立（始動口（第一始動口２００２又は第一始動口２００２と第二始動口２００４との一方へ遊技球が入球）したことに基づいて変動演出時の発光態様で点灯させるものであってもよいし、異常状態等を報知する発光態様の終了後に変動演出時の発光態様で点灯させたり演出時の発光態様に発光制御可能な状態とするものであってもよい。

【４６１６】

上記したように、本例ではパチンコ機１の電源投入時に外枠２に対して本体枠４が開放され、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの差し込み口に設定キーが差し込まれて第１のＯＮ操作され、さらにＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの押圧操作部が押圧操作されている場合に予め定めた設定値変更許可条件が成立する。すなわち、設定変更処理は外枠２に対して本体枠４が開放された状態で実行され、設定変更処理を終了するときに外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じるようになっている。

【４６１７】

また、本例では通常時（遊技モード時）に外枠２に対して本体枠４が開放された状態となると、扉開放報知音（「扉が開いています。」というアナウンス音声及び「キンコーン」等の警告音）を予め決められている音量（設定可能な最大の音量でもよいし、周辺制御基板１５１０に備える音量調整スイッチにより調整されるデフォルト音量でもよい。）で各種スピーカから繰り返し出力させ、所定期間（例えば３０秒。なお本例では電源投入時動作確認に要する時間よりも短くされる。）に亘って出力するか、又は外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じると出力を停止させる（なお、外枠２に対して本体枠４を継続して開放させていている場合に、一定回数（例えば５回）繰り返し出力した後に出力を停止させるものであってもよいし、外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じた状態となると出力を停止させるものであってもよいし、外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じてから所定期間（例えば３０秒。なお主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）と周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる電源投入時動作確認とを開始してから主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）と電源投入時動作確認との両方が終了するまでの期間よりも短くされるものであってもよい。）が経過したときに出力を停止させるものであってもよい。）とともに、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ及び右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤを重大異常報知発光態様（本例では最大輝度の赤色の点灯と消灯とに短時間（例えば

０．５秒）で切り替える態様（高速点滅態様））に繰り返し発光制御して外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じてから所定期間（例えば６０秒、本例では主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）と周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる電源投入時動作確認とを開始してから主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）と電源投入時動作確認との両方が終了するまでの期間よりも長くされている。）が経過したときに重大異常報知発光態様を終了し（外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じたときに重大異常報知発光態様を終了するものであってもよいし、外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じてから一定回数（例えば５回）又は一定期間（例えば３０秒）繰り返し実行したときに重大異常報知発光態様を終了するものであってもよいし、外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じたときに重大異常報知発光態様を終了して準重大異常報知発光態様（最大輝度の赤色の点灯と消灯とに長時間（例えば２秒）で切り替える態様（低速点滅態様））に繰り返し発光制御し、準重大異常報知発光態様の発光制御を開始してから所定期間（例えば６０秒間）が経過したとき又は所定回数（例えば１０回）繰り返し実行したときに準重大異常報知発光態様を終了するものであってもよい。）、かつ左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤを消灯状態に制御して重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）が終了すると（外枠２に対して開放されていた本体枠４が閉じた状態となると）左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤを遊技状況に応じた発光態様で発光制御する。

【４６１８】

一方、設定変更処理の実行中には外枠２に対して本体枠４が開放された状態で設定変更処理が実行されるものの、外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因して行われる各種スピーカからの扉開放報知音の出力及び重大異常報知発光態様の発光制御は実行されないようになっている。すなわち、パチンコ機１への電源供給開始時に予め定めた設定値変更許可条件が成立している場合には、外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する各種スピーカからの扉開放報知音の出力及び重大異常報知発光態様の発光制御を行うことなく各種スピーカから設定変更報知音の出力が行われるとともに設定変更報知発光態様の発光制御を行うようになっている。また、本例では設定変更処理の終了後に実行される主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによる主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）と周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる電源投入時動作確認の実行中にも外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する各種スピーカからの扉開放報知音の出力及び重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様を含む）の発光制御が行われないようになっている。そのため、設定変更処理を実行した場合には主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによる主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）と周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる電源投入時動作確認の終了後に、外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する各種スピーカからの扉開放報知音の出力及び重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様を含む）の発光制御を実行可能とされる。

【４６１９】

なお、外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じた後に設定変更処理を終了させた場合、すなわち設定変更処理の実行中に本体枠４を閉じた場合であってその後に本体枠４が継続して閉じた状態とされているときには、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによる主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）と周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる電源投入時動作確認の終了後にも外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する各種スピーカからの扉開放報知音の出力及び重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様を含む）を実行しないようにな

っている。ただし、通常は設定値を変更決定する場合に遊技ホールの店長等がパチンコ機１の正面側から外枠２に対して本体枠４を開放させた状態で設定値を変更決定するための操作を行うため、設定変更処理の終了後に外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じる操作がなされる。

【４６２０】

また、外枠２に対して本体枠４を開放させてからの経過時間が所定期間（例えば３０秒。なお本例では電源投入時動作確認に要する時間よりも短くされる。）に達するか又は外枠２に対して開放されている本体枠４を閉じると各種スピーカからの扉開放報知音の出力が停止され、演出時の音出力（変動表示の開始条件が成立（始動口（第一始動口２００２又は第一始動口２００２と第二始動口２００４との一方へ遊技球が入球）したことに基づいて行われる演出音の出力）を実行可能な状態とされる。そのため、通常は設定変更処理を実行した場合に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによる主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）と周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる電源投入時動作確認の終了後に、外枠２に対して本体枠４を開放している状態であって外枠２に対して本体枠４を開放させてからの経過時間が所定期間に達していない場合には外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する各種スピーカからの扉開放報知音の出力と重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様を含む）の発光制御との両方が実行され、外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じた場合か又は外枠２に対して本体枠４を開放している状態であって外枠２に対して本体枠４を開放させてからの経過時間が所定期間に達していない場合には、外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する重大異常報知発光態様の発光制御のみが実行されるようになっている。

【４６２１】

また、本例では分割遊技盤５Ａのうちの右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤを重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様を含む）で発光させる場合に、左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤを消灯状態としている。そのため、視認した者に異常が発生していること（この場合には外枠２に対して本体枠４が開放されていること）を容易に気付かせることができるようになっている。なお、右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤの重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様を含むものであってもよいし、準重大異常報知発光態様を含まないものであってもよい。つまり、重大異常報知発光態様に発光制御する場合には左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤのうち周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって発光制御されるＬＥＤについても所定の発光態様で発光させ、準重大異常報知発光態様で発光制御する場合にも所定の発光態様での発光を継続させるようにしてもよいし、準重大異常報知発光態様で発光制御する場合には左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤのうち周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって発光制御されるＬＥＤについては所定の発光態様での発光を終了して通常時（遊技可能状態時）と同様に遊技状況に応じた発光態様（演出時の発光態様）で発光制御させるようにしてもよい。）での発光に同期して、左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤのうち周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって発光制御されるＬＥＤについても所定の発光態様で発光させるようにしてもよく、この場合には重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様を含む）とは異なる発光態様（例えば予め定められている輝度（最大輝度でも良いし、最大輝度よりも低下させた輝度でもよく、光量調節ボタン２２８による光量の調節が不可能とされるものであってもよい。）の赤色に点灯させる（点滅させない）態様）で発光させるようにしてもよい。この場合にも視認した者に異常が発生していることを容易に気付かせることができる。

【４６２２】
なお、外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因して各種スピーカから出力される扉開放報知音は音量調節ボタン２２７による音量の調節が不可能とされている。上記したように遊技者は音量調節ボタン２２７を操作することにより各種スピーカから出力される音量を調節することが可能であるが、外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因して各種スピーカから出力される扉開放報知音の音量は遊技者が音量調節ボタン２２７を操作しても調節することができないようになっている。そのため、外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因して予め決められた音量で扉開放報知音を出力させることができるようになり、パチンコ機１を視認していなくても各種スピーカから出力される音声によって外枠２に対して本体枠４が開放されていることに気付かせることができるため、外枠２に対して本体枠４が開放されている場合には直ぐに気付かせて、不正に入球口（（始動口（第一始動口２００２、第二始動口２００４）、大入賞口２００５、一般入賞口２００１等）に遊技球を入球させたり不正な基板に交換されるなどの不正行為の発生を抑制することができる。

【４６２３】
また、外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因して発光制御される重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様を含む）も光量調節ボタン２２８による光量の調節が不可能とされている。上記したように遊技者は音量調節ボタンを操作することにより扉枠３や分割遊技盤５Ａに設けられている各種の装飾基板のＬＥＤの光量（輝度）を調節することが可能であるが、外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様を含む）は遊技者が光量調節ボタン２２８を操作しても調節することができないようになっている。そのため、外枠２に対して本体枠４が開放されているときには予め決められた光量（輝度）で扉枠３や分割遊技盤５Ａに設けられている各種の装飾基板のＬＥＤが発光制御されて重大異常報知発光態様を行うことができるようになるし、外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じても所定期間（例えば６０秒）が経過するまでは予め決められた光量（輝度）で扉枠３や分割遊技盤５Ａに設けられている各種の装飾基板のＬＥＤが発光制御されて重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）を行うことができるようになり、重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様を含む）によって外枠２に対して異常が発生していること（この場合には本体枠４が開放されていること、または本体枠４が開放されていたこと）を確実に伝えることができるため、外枠２に対して本体枠４が開放されている場合には直ぐに気付かせて、不正に入球口（（始動口（第一始動口２００２、第二始動口２００４）、大入賞口２００５、一般入賞口２００１等）に遊技球を入球させたり不正な基板に交換されるなどの不正行為の発生を抑制することができるし、外枠２に対して本体枠４が開放されていることに気付かなくても外枠２に対して本体枠４が開放されていたことに気付かせて、不正行為が行われていた可能性があることを認識させることができる。

【４６２４】
また、外枠２に対して本体枠４が開放されているときには音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８を操作したことに基づいて演出表示装置１６００に現在の音量や光量（輝度）に応じた目盛を表示させるものの、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８の操作に応じた確認音は出力されないようになっている。そのため、外枠２に対して本体枠４が開放されているときに音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８を操作した場合には外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因して実行される重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）の終了後に光量調節ボタン２２８の操作に応じた光量（輝度）で発光制御され、本体枠４が開放されたことに起因して実行される扉開放報知音の出力停止後

に音量調節ボタン２２７の操作に応じた音量で出力されるようになる。これにより外枠２に対して本体枠４が開放されている場合であっても音量や光量（輝度）の調節機会を奪うことなく、変動演出における音量や光量（輝度）を事前に調節することができるし、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８の操作に応じた確認音によって扉開放報知音が聞き取りにくくなることを抑制でき、外枠２に対して本体枠４が開放されている場合には直ぐに気付かせて、不正に入球口（（始動口（第一始動口２００２、第二始動口２００４）、大入賞口２００５、一般入賞口２００１等）に遊技球を入球させたり不正な基板に交換されるなどの不正行為の発生を抑制することができる。ようになる。なお、外枠２に対して本体枠４が開放されているときには音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８を操作したことに基づいて演出表示装置１６００に現在の音量や光量（輝度）に応じた目盛を表示させないようにしてもよく、この場合には現在の音量や光量（輝度）に応じた目盛によって演出表示装置１６００の表示が覆われて視認が妨げられることを抑制できる。

【４６２５】

一方、設定変更処理が実行されている期間や主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理と周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる電源投入時動作確認が実行されている期間には本体枠４が開放されたことに起因する扉開放報知音の出力と重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様を含む）での発光制御を実行しないようになっている。これにより、不正に設定変更処理が実行されている場合や不正に設定値が変更されて主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理が実行された場合に直ぐに気付かせるができるようになり、セキュリティが向上する。

【４６２６】

また、本例では外枠２に対して本体枠４が開放されたことに基づいて重大異常報知発光態様の発光制御を開始し、外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じてから重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）を終了するまでの期間は、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理と周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる電源投入時動作確認が実行されている期間よりも長くなっている。そのため、設定変更処理を終了するときに外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じてから、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理と周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる電源投入時動作確認が実行されている期間が終了すると、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ及び右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤはＲＡＭクリア報知態様から重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）に切り替えて発光制御され、その後、外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じてからの期間が予め決められている所定期間に達すると重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）を終了させて遊技モード（演出時の発光態様）における発光制御を開始する。このように、設定変更処理を実行した場合に遊技モードとなった以降にも重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）での発光制御を継続させることで本体枠４が外枠２に対して不正に開放されていた場合に重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）を見逃さないようにすることができるようになり、セキュリティが向上する。なお、この場合には遊技モードとなっても重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）での発光制御が行われない機能表示ユニット１４００のＬＥＤ及びサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤについては発光制御可能な状態とされるが、遊技モードとなったときに機能表示ユニット１４００のＬＥＤとサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤとの一方又は両方、若しくは一

部又は全部を点灯させるものに限らず、変動表示の開始条件が成立（始動口（第一始動口２００２又は第一始動口２００２と第二始動口２００４との一方へ遊技球が入球）するまでは消灯状態若しくは予め決められている点灯態様を維持し、変動表示の開始条件が成立したことに基づいて機能表示ユニット１４００のＬＥＤ及びサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤを所定の発光態様で発光制御するものであってもよい。

【４６２７】

［不適合時における設定値の設定変更］

次に、分割遊技盤５Ａの組み合わせ（つまり右側遊技盤５ＡＲ（マイクロプロセッサが搭載されていない基板）と左側遊技盤５ＡＬ（マイクロプロセッサが搭載された周辺制御基板１５１０や主制御基板１３１０）との組み合わせ）が不適合（不整合）の状態（不整合状態）で設定値の設定変更を行う場合の挙動例について図３２８を参照して説明する。なお、以下では適合時と異なる部分についてのみ説明し、重複した説明を行わない。

【４６２８】

図３２８に示すように、パチンコ機１への電源供給が開始されたときに周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって実行されるＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａから右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ等の電子部品に制御信号が出力されないようになっており、右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される電子部品は設定変更中であるか否かにかかわらず非駆動状態（例えば各種ＬＥＤは消灯された状態）とされる。

【４６２９】

また、本例では周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定されても設定変更処理を終了するまで（主制御ＭＰＵ１３１０ａから設定変更コマンドを受信するまで）は分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知しないようになっている。即ち、設定変更処理の実行中には演出表示装置１６００や各種スピーカ、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）を適合時に設定変更処理が実行されたときと同様（完全同一でも良いし、略全てが同一とされて一部のみ異なるものでもよい）の態様で制御するようになっている。

【４６３０】

そして、設定変更処理が終了すると主制御ＭＰＵ１３１０ａは設定変更コマンドを周辺制御基板１５１０に送信するとととともに主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を開始する。周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、設定変更コマンドを受信すると、つまり主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａにより主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）が開始されると、各種スピーカ、及び扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）を適合時に主制御内蔵ＲＡＭをクリアする処理（ステップＳ３８）が実行されたときと同様（完全同一でも良いし、略全てが同一とされて一部のみ異なるものでもよい）の態様で制御する一方、演出表示装置１６００については装飾図柄や通常時（遊技可能状態時）の背景画像等を表示することなく全面に異常時の背景画像（例えば黒色）と演出表示装置１６００に不適合エラー報知表示態様としての「右側遊技盤不適合エラー発生」を表示して分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知する。

【４６３１】

なお、演出表示装置１６００における不適合エラー報知表示態様は時間の経過に応じて表示の変化を伴わない静止画像とされて、パチンコ機１への電源供給が遮断されるまで継続し、変動表示の開始条件が成立（始動口（第一始動口２００２又は第一始動口２００２と第二始動口２００４との一方へ遊技球が入球）したことに基づいて機能表示ユニット１

４００において特別図柄の変動表示が開始されたりサブ機能表示ユニット２２５０において第４図柄の変動表示が開始された場合であっても演出表示装置１６００では不適合エラー報知表示態様の表示を継続して装飾図柄の変動表示等の変動演出を行わないようになっている。また、演出表示装置１６００における不適合エラー報知表示態様はエラー内容に応じたものであればよく、文字、数字（例えばエラーコード）、マーク等のうち一つ又は任意の複数の組み合わせとしてもよい。このように設定変更処理後の主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を伴う電源投入時動作確認の実行中には演出表示装置１６００において時間の経過に関わらず表示が変化しない静的態様で分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知するようになっている。これにより、電源投入時動作確認時における確認作業を邪魔することなく、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知することができるようになる。

【４６３２】

また、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）と並行して行われる電源投入時動作確認では、不適合と判定された右側遊技盤５ＡＲに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等についての電源投入時動作確認を行わないだけに限らず、電源投入時動作確認を実行する可動体（分割遊技盤５Ａに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１や、扉枠３に設けられる演出操作ユニット３００の演出操作部３０１等）のうちの扉枠ユニットに設けられてＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）においてＩＤ判定の対象とされていない演出操作部３０１を駆動させる駆動モータや駆動ソレノイドについても電源投入時動作確認を行わないようになっている。

【４６３３】

具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定されている場合には、電源投入時動作確認を開始しても不適合と判定された右側遊技盤５ＡＲに設けられているＬＥＤを電源投入時動作確認時の発光態様で点灯させる制御や可動体を電源投入時動作確認時の動作態様で動作させる制御を行わない（右側遊技盤５ＡＲに制御信号を出力しない。）か又は行えない（制御信号を出力するものの右側遊技盤５ＡＲに制御信号が入力されない。）ことに加えて、扉枠３に設けられるとともにＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）においてＩＤ判定の対象とされていない皿ユニット２００（この例では演出操作ユニット３００）に設けられる駆動モータや駆動ソレノイドを駆動させて演出操作ユニット３００に設けられる演出操作部３０１を動作させる制御を行わない。

【４６３４】

すなわち右側遊技盤５ＡＲが不適合状態である場合にはＩＤ判定の対象とされていない扉枠ユニットに設けられる可動体の一部または全部についても不適合とされているおそれがあり、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａから制御信号が入力された場合に、本来とは異なる動作態様で可動体が動作するおそれがあるため、不適合と判定された右側遊技盤５ＡＲやＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）におけるＩＤ判定の対象とされていない扉枠ユニットに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等によって動作される可動体の一部又は全部についても駆動させないようにし、これにより可動体が本来とは異なる動作態様で動作して可動体や扉枠ユニットが破損することや可動体を動作させる駆動モータや駆動ソレノイド等が故障することを抑制できるようにしている。ただし、この場合にも扉枠ユニットに設けられてＩＤ判定の対象とされていないＬＥＤ（例えば扉枠３に設けられる演出操作ユニット３００の演出操作部３０１の演出操作部カバーユニット３１０の上部（ユニット上カバー３１２）を発光装飾させるための複数のＬＥＤ３２０ａ）については適合時と同様に所定の発光態様で制御されるようになっている。これにより電源投入時動作確認が正常に実行されていることを判別できるようになる。

【４６３５】
なお、上記したように遊技盤側構成部として遊技盤５と扉枠ユニットのうちの特定の扉枠ユニットとを備えるように構成してもよく、この場合には特定の扉枠ユニットがＩＤ判定の対象とされ、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において不適合と判定された場合にＩＤ判定の対象とされていない扉枠ユニット（非特定の扉枠ユニット）に設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等によって動作される可動体の一部又は全部についても駆動させないようにしてもよいし、これに加えて、又はこれとは別に、特定の扉枠ユニットが複数（例えば扉枠右サイドユニット４３０と扉枠トップユニット４５０）ある場合には一部（例えば扉枠右サイドユニット４３０と扉枠トップユニット４５０との一方）について不適合と判定された場合には特定の扉枠ユニットに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等によって動作される可動体の全てを駆動させないようにしてもよいし、特定の扉枠ユニットを含む全ての扉枠ユニットに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等によって動作される可動体の全てを駆動させないようにしてもよい。
【４６３６】
一方、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）を実行する周辺制御ＩＣ１５１０ａが実装される周辺制御基板１５１０を備える左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体（分割遊技盤５Ａのうちの左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１等）は、電源投入時動作確認を開始すると、通常（分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であると判定された場合）と同様に動作される。なお、左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体（分割遊技盤５Ａのうちの左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１等）に設けられる基板に実装されるＬＥＤは電源投入時動作確認時の発光態様に発光制御される。すなわち、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）で右側遊技盤５ＡＲが不適合状態であると判定された場合には、通常（分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であると判定された場合）と同様に、左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体（分割遊技盤５Ａのうちの左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１等）を電源投入時動作確認時の動作態様で動作させるとともに、左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体に設けられるＬＥＤは電源投入時動作確認時の発光態様に発光制御されるようになっている。これにより、分割遊技盤５Ａのうちの周辺制御基板１５１０が設けられている遊技盤（この場合には左側遊技盤５ＡＬ）であることを容易に特定できるようになる。なお、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）で右側遊技盤５ＡＲが不適合状態であると判定された場合には、左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体（分割遊技盤５Ａのうちの左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１等）に設けられる基板に実装されるＬＥＤは電源投入時動作確認時の発光態様に発光制御されないようにし、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）で右側遊技盤５ＡＲが未接続状態であると判定された場合には左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体（分割遊技盤５Ａのうちの左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１等）に設けられる基板に実装されるＬＥＤは電源投入時動作確認時の発光態様に発光制御されるようにして、右側遊技盤５ＡＲが不適合状態であるか右側遊技盤５

ＡＲが未接続であるかを判別可能にしてもよい。
【４６３７】
　また、本例では周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定されている場合に、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）においてＩＤ判定の対象とされていない扉枠ユニット（この例では皿ユニット２００）の演出操作ユニット３００に設けられる基板に実装される駆動モータや駆動ソレノイドを駆動させて演出操作部３０１を動作させる制御を行わないが、演出操作ユニット３００に設けられる基板に実装される各種ＬＥＤについては電源投入時動作確認の実行中に通常（分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であると判定された場合）と同様に制御されるようになっている。すなわち、設定変更処理後に電源投入時動作確認が実行された場合に周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定されていても、演出操作ユニット３００に設けられる基板に実装される各種ＬＥＤについては分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であると判定されている場合と同様に電源投入時動作確認時の発光態様に発光制御される。なお、演出操作ユニット３００をＩＤ判定の対象とされる特定の扉枠ユニットとしてもよく、この場合であってもＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において演出操作ユニット３００以外の特定の扉枠ユニットや分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定されていれば演出操作ユニット３００に設けられる基板に実装される駆動モータや駆動ソレノイドを駆動させて演出操作部３０１を動作させる制御を行わない一方で演出操作ユニット３００に設けられる基板に実装される各種ＬＥＤについては電源投入時動作確認時の発光態様に発光制御するようにしてもよい。
【４６３８】
　なお、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定されている場合に、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）においてＩＤ判定の対象とされていない扉枠ユニットに設けられる複数の基板に実装される複数のＬＥＤのうちの一部の基板に実装されるＬＥＤ又は一の基板に実装される複数のＬＥＤのうちの一部については電源投入時動作確認時の発光態様に発光制御しないようにしてもよいし、一部の可動体については電源投入時動作確認時の動作態様で動作させないようにしてもよい（例えば扉枠ユニットに設けられている装飾基板に設けられるＬＥＤと扉枠ユニットに設けられている可動体に設けられている駆動モータ、駆動ソレノイド、ＬＥＤ等との一部又は全部についての電源投入時動作確認を行わないようにしてもよい）。
【４６３９】
　また、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合と判定された場合には、電源投入時動作確認に限らずパチンコ機１の電源が遮断されるまで、又は分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合と判定されるまでは、不適合と判定された右側遊技盤５ＡＲと、ＩＤ判定の対象とされていない扉枠ユニットに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等によって動作される可動体の一部又は全部と、を駆動させないようにしてもよく、この場合には可動体が本来とは異なる動作態様で動作して可動体や扉枠ユニットが破損することや可動体を動作させる駆動モータや駆動ソレノイド等が故障することを抑制できるようにしている。
【４６４０】
　また、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａにより主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）と周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる電源投入時動作確認が終了し（ＬＥＤによる電源投入時動作確認時の発光態様が終了して消灯又は所定の発光態様での点灯した状態とされるとともに可動体の電源投入時動作確認時の動作態様が終了して待機状態（予め決められている待機位置に停止している（収容されている）状態）とされることにより電源投入時動作確認が

終了する。なお、電源投入時動作確認時の発光態様よりも電源投入時動作確認時の動作態様の方が早いタイミングで終了するように構成した場合には電源投入時動作確認時の発光態様の終了により電源投入時動作確認が終了し、電源投入時動作確認時の発光態様よりも電源投入時動作確認時の動作態様の方が遅いタイミングで終了するように構成した場合には電源投入時動作確認時の動作態様の終了（可動体が電源投入時動作確認時の動作態様で動作した後に待機位置に停止される（収容される）こと。）により電源投入時動作確認が終了する。

【４６４１】

そして、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を伴う電源投入時動作確認が終了して遊技モードになると、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、演出表示装置１６００における不適合エラー報知表示態様の表示に加えて、遊技盤不適合報知音（「右側遊技盤不適合エラーが発生しました。電源を切って確認してください。」というアナウンス音声及び「キンコーン」等の警告音）を予め決められている音量（設定可能な最大の音量でもよいし、周辺制御基板１５１０に備える音量調整スイッチにより調整されるデフォルト音量でもよい。）でパチンコ機１への電源供給が遮断されるまで各種スピーカから繰り返し出力させる（一定回数（例えば５回）又は一定期間（例えば３０秒）繰り返し出力した後に出力を停止させるものであってもよい）とともに、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）を重大異常報知発光態様（本例では最大輝度の赤色の点灯と消灯とに短時間（例えば０．５秒）で切り替える態様（高速点滅態様））に繰り返し発光制御し、且つ左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤを消灯状態に制御する一方、左側遊技盤５ＡＬに設けられて主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによって制御される機能表示ユニット１４００のＬＥＤと左側遊技盤５ＡＬに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御されるサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤとを適合時と同様に発光制御可能な状態とする（所定の態様で点灯させるものでもよい）。

【４６４２】

なお、遊技盤不適合報知音は同一の報知音（例えば「ピー」等）が断続的に出力されるものではなく、音階が異なる複数の音によって構成されるものであり、さらに消音状態と出力状態とに繰り返し制御される。また、重大異常報知発光態様は点灯状態が固定されるものではなく、点灯状態と消灯状態とに繰り返し制御されて光量を変化させるものである。つまり、各種スピーカ及び各種ＬＥＤにおいては時間の経過に応じて音階や音量、光量等の変化を伴う動的態様で分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知するようになっている。これにより、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を伴う電源投入時動作確認が終了して確認作業の必要がない遊技モードが開始されると、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを気付かせ易くなる。

【４６４３】

このように、本例では分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合に、設定値の設定変更を行うときには設定変更処理の終了後の主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を伴う電源投入時動作確認が終了すると外枠２に対して本体枠４が開放されたことに応じた異常報知を行うことなしに、直ぐに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知するようになっている。すなわち、設定変更処理が終了して遊技モードとなった場合には、外枠２に対して本体枠４が開放された状態であって外枠２に対して本体枠４が開放されてからの経過時間が所定期間に達しているか否かに関わらず扉開放報知音を出力させることなしに遊技盤不適合報知音を出力させる。また、設定変更処理が終了して遊技モードとなった場合には重大異常報知発光態様

に発光制御するものの、外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因するものではなく、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることに起因して実行されるようになっている。そのため、設定変更処理が終了して遊技モードとなった場合に、本体枠４を閉じてから所定期間（例えば６０秒）が経過しているか否かに関わらず常に重大異常報知発光態様に発光制御される。

【４６４４】

また、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態では変動表示の開始条件が成立（始動口（第一始動口２００２又は第一始動口２００２と第二始動口２００４との一方へ遊技球が入球）した場合であっても演出表示装置１６００や各種スピーカ、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ、及び左側遊技盤５ＡＬに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される装飾基板に実装される各種ＬＥＤによる変動演出を実行することなく、異常が発生していることを報知するようになっている。一方、機能表示ユニット１４００のＬＥＤとサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤとは、設定変更処理（ステップＳ３７）の終了後に割り込み許可設定（ステップＳ５２）されると変動表示の開始条件が成立（始動口（第一始動口２００２又は第一始動口２００２と第二始動口２００４との一方へ遊技球が入球）ことに基づいて所定の発光態様に発光制御されて当落に関する情報を表示することが可能になっている。

【４６４５】

また、各種スピーカから出力される遊技盤不適合報知音は音量調節ボタン２２７による音量の調節が不可能とされている。上記したように遊技者は音量調節ボタン２２７を操作することにより各種スピーカから出力される音量を調節することが可能であるが、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の場合に出力される遊技盤不適合報知音の音量は遊技者が音量調節ボタン２２７を操作しても調節することができないようになっている。そのため、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の場合には予め決められた音量で遊技盤不適合報知音を出力させることができるようになり、各種スピーカから出力される音声によって分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）であることを確実に伝えることができるため、遊技者に不利益を与えたり、設計者の意図しない挙動で遊技が進行してしまうことを抑止することができる。

【４６４６】

また、遊技盤不適合報知音が出力されている場合には、光量調節ボタン２２８による光量（輝度）の調節も不可能とされている。上記したように遊技者は光量調節ボタン２２８を操作することにより扉枠３や分割遊技盤５Ａに設けられている各種の装飾基板のＬＥＤの光量を調節することが可能であるが、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の場合に発光制御される重大異常報知発光態様の光量（輝度）は遊技者が光量調節ボタン２２８を操作しても調節することができないようになっている。そのため、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の場合には予め決められた光量（輝度）で重大異常報知発光態様に発光制御させることができるようになり、重大異常報知発光態様によって分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）であることを確実に伝えることができるため、遊技者に不利益を与えたり、設計者の意図しない挙動で遊技が進行してしまうことを抑止することができる。

【４６４７】

また、遊技盤不適合報知音が出力されている場合には、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８を操作しても演出表示装置１６００に現在の音量や光量（輝度）に応じた目盛が表示されないようになっている。また、演出表示装置１６００に現在の音量や光量（輝度）に応じた目盛が表示されないため音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８を複数回操作しても目盛が変化することもない。そのため、演出表示装置１６００に表示される不適合エラー報知表示態様の一部又は全部の視認が現在の音量や光量（輝度）に応じた目盛によって妨げられることを抑制でき、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不

整合）であることを確実に伝えることができる。
【４６４８】
　また、遊技盤不適合報知音が出力されている場合には、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８の操作に応じた確認音も出力されないようになっている。そのため、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８の操作に応じた確認音によって遊技盤不適合報知音が聞き取りにくくなることを抑制でき、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）であることを確実に伝えることができる。
【４６４９】
　また、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合であっても左側遊技盤５ＡＬに設けられて主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによって制御される機能表示ユニット１４００のＬＥＤ及び左側遊技盤５ＡＬに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御されるサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤの当落に関する情報を表示するＬＥＤについては消灯状態とすることなく、通常時（遊技可能状態時）と同様に発光制御するようになっている。すなわち、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態では遊技が開始されないように報知することにより遊技者に不利益を与えたり、設計者の意図しない挙動で遊技が進行してしまうことを抑止する一方で、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態で遊技が開始されてしまった場合には当落に関する情報を表示するＬＥＤについては発光制御して遊技の進行を可能にして遊技者に不利益を与えないようになっている。
【４６５０】
　なお、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合には、左側遊技盤５ＡＬに設けられて主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによって制御される機能表示ユニット１４００のＬＥＤ及び左側遊技盤５ＡＬに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御されるサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤの当落に関する情報を表示するＬＥＤのうち少なくとも一方についてのみ通常時（遊技可能状態時）と同様に発光制御されるものであればよく、例えば左側遊技盤５ＡＬに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御されるサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤについては開始条件が成立（始動口（第一始動口２００２又は第一始動口２００２と第二始動口２００４との一方へ遊技球が入球）した場合であっても発光制御させることなく消灯又は開始条件の成立とは無関係の発光態様で点灯させるようにしてもよい。
【４６５１】
　また、本例ではパチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合であっても、設定値の設定変更を行うか否かや、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いて（主制御内蔵ＲＡＭの所定領域（主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除く領域。）を）クリアするか否かによって、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態となっていることに応じた重大異常報知発光態様での発光制御タイミングや遊技盤不適合報知音の出力タイミングが異なるようになっている。
【４６５２】
　具体的には、設定値の設定変更と主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いて（主制御内蔵ＲＡＭの所定領域（主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除く領域。）を）クリアする処理とのいずれも実行しない場合に、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）であれば、パチンコ機１への電力供給が開始されたことに基づいて所定期間

に亘って演出表示装置１６００に「ｐｏｗｅｒ　ｏｎ」を表示させた後、電源投入時動作確認を開始するときに、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）による重大異常報知発光態様での発光制御と、各種スピーカによる遊技盤不適合報知音の出力と、を開始する。

【４６５３】

一方、設定値の設定変更と主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いて（主制御内蔵ＲＡＭの所定領域（主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除く領域。）を）クリアする処理とのいずれかを実行する場合に、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）であれば、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａにより主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）と周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる電源投入時動作確認の実行中には扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）による重大異常報知発光態様での発光制御や各種スピーカによる遊技盤不適合報知音の出力を開始することなく、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａにより主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）と周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる電源投入時動作確認の終了後に扉枠ユニットの各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）による右側遊技盤５ＡＲが不適合の状態となっていることに応じた重大異常報知発光態様での発光制御及び各種スピーカによる遊技盤不適合報知音の出力を開始する。

【４６５４】

このように、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合であっても、設定値の設定変更を行うか否かや、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いて（主制御内蔵ＲＡＭの所定領域（主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除く領域。）を）クリアするか否かによって、右側遊技盤５ＡＲが不適合の状態となっていることに応じた重大異常報知発光態様での発光制御タイミング及び遊技盤不適合報知音の出力タイミングを異ならせることにより、重要度の高い情報を優先的に報知して不具合や不正行為が発生することを抑制できる。すなわち、不正に設定値の設定変更や主制御内蔵ＲＡＭがクリアされた場合には遊技店に被害が生じるおそれがあるため、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態であることの報知よりも優先して不正に設定値の設定変更が行われたことや主制御内蔵ＲＡＭがクリアされたことを報知することにより被害の拡大を防ぐことができるようになっている。

【４６５５】

なお、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合に、演出表示装置１６００において異常時の背景画像（例えば黒色）と演出表示装置１６００に不適合エラー報知表示態様を表示するタイミングは、設定値の設定変更を行うか否か、及び主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いて（主制御内蔵ＲＡＭの所定領域（主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除く領域。）を）クリアするか否かに関わらず同一とされている。すなわち、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａにより主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）や周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる電源投入時動作確認を開始するタイミングで演出表示装置１６００に異常時の背景画像（例えば黒色）と演出表示装置１６００に不適合エラー報知表示態様を表示するようになっている。これにより、重要度の高い報知を優先して実行しつつも、他の報知についても演出表示装置１６００で報知して対処させることができるようになる。また、演出表示装置１６００にお

ける異常時の背景画像（例えば黒色）と演出表示装置１６００に不適合エラー報知表示態様の表示タイミングについても設定値の設定変更を行うか否かや、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いて（主制御内蔵ＲＡＭの所定領域（主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除く領域。）を）クリアするか否かによって異ならせるようにしてもよく、この場合には重要度の高い情報を順に報知して順次対処させることができるため、それぞれの情報を確実に伝えて対処させることができるようになる。

【４６５６】

また、本例ではパチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合（整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であると判定された後には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）を実行しないようになっているため、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）の実行後に分割遊技盤５ＡＲの組み合わせが不適合（不整合）の状態となっても右側遊技盤５ＡＲが不適合の状態となっていることに応じた報知（遊技盤不適合報知音、不適合エラー報知表示態様、重大異常報知発光態様等）は実行されない。そのため、少なくとも右側遊技盤５ＡＲを除く部位に設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御されるＬＥＤ（扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤや左側遊技盤５ＡＬに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される装飾基板に実装される各種ＬＥＤやサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤ等）や周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータ及び駆動ソレノイド、演出表示装置１６００、各種スピーカ等は、右側遊技盤５ＡＲの適合時と同様の態様に制御される。また、周辺制御基板１５１０からは正規なＩＤを有する右側遊技盤５ＡＲが設けられているものとして制御信号が出力され、該制御信号に基づいて分割遊技盤５ＡＲに設けられるＬＥＤや駆動モータ、駆動ソレノイド等が駆動される。ただし、不適合な分割遊技盤５ＡＲと適合する右側遊技盤５ＡＲとの配置構成が異なる場合には不適合な分割遊技盤５ＡＲに設けられるＬＥＤや駆動モータ、駆動ソレノイド等が設計とは異なる態様（正規なＩＤを有する右側遊技盤５ＡＲや装飾基板、装飾体等に設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等とは異なる態様）で動作する場合がある。

【４６５７】

なお、本例のパチンコ機１ではパチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合には、設定変更処理の実行中に異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）による検出があっても当該検出は無効（検出があるか否かを確認する処理を実行しないものでもよいし、検出があるか否かを確認する処理を実行するものの検出に基づく処理（報知等）を実行しないものであってもよい。）とされるようになっている。

【４６５８】

具体的には、図３２９に示すように設定変更処理の実行中に不正な磁気が発生して主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されても不正な磁気を検出したことに基づく異常報知を実行することなく、検出信号を破棄するようになっている。すなわち、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合であって、設定変更処理の実行中に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力された

ときには、磁気センサ１０５０からの検出信号を無視し（検出信号の入力を確認しないものであってもよいし、検出信号の入力を確認しても当該入力に基づく処理を実行しないものであってもよい。）、設定変更処理の終了後に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されていないものとして制御を実行する。

【４６５９】

また、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合であって、設定変更処理の終了後に実行される電源投入時動作確認の実行中に異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）により異常が検出されたとき、すなわち主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を伴う電源投入時動作確認の実行中に異常検出手段により異常が検出されたとき、にも異常検出手段の検出は無効（検出があるか否かを確認する処理を実行しないものでもよいし、検出があるか否かを確認する処理を実行するものの検出に基づく処理（報知等）を実行しないものであってもよい。）とされるようになっている。

【４６６０】

具体的には、図３３０に示すようにパチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合であって、設定変更処理の終了後に実行される電源投入時動作確認の実行中に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されたときには、不正な磁気を検出したことに基づく異常報知を実行することなく、検出信号を破棄するようになっている。すなわち、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合であって、設定変更処理の終了後に実行される電源投入時動作確認の実行中に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されたときには、磁気センサ１０５０からの検出信号を無視し、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されていないものとして制御を継続する。

【４６６１】

また、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合であって、電源投入時動作確認の終了後の遊技モード中に異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）により異常が検出されたときにも異常検出手段の検出は無効（検出があるか否かを確認する処理を実行しないものでもよいし、検出があるか否かを確認する処理を実行するものの検出に基づく処理（報知等）を実行しないものであってもよい。）とされるようになっている。

【４６６２】

具体的には、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合であって、電源投入時動作確認の終了後の遊技モード中に主制御

基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されたときには、不正な磁気を検出したことに基づく異常報知を実行することなく、検出信号を破棄するようになっている。すなわち、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合であって、電源投入時動作確認の終了後の遊技モード中に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されたときには、磁気センサ１０５０からの検出信号を無視し、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されていないものとして制御を継続する。

【４６６３】

このように、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合には、異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）により異常が検出されても異常報知をおこなわないようになっている。

【４６６４】

すなわち、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合の状態とされている場合には設計者の意図しない挙動で遊技が進行してしまい、遊技店や遊技者に不利益を与えるおそれがあるし、そもそも本来の仕様とは異なるものとなるものとなることで遊技者の信頼を失うおそれがあるため、遊技を確実にやめさせる必要がある。そのため、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合の状態とされている場合には、異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）による異常の検出に起因する報知よりも優先して報知することにより、遊技を回避させて遊技店や遊技者への不利益の発生を抑制するようになっている。

【４６６５】

なお、一部のＬＥＤについては異常検出手段の種類に応じて異なる発光態様に制御するようにしてもよく、例えば上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力された場合に機能表示ユニット１４００のＬＥＤとサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤとの一方又は両方を消灯させる（発光制御不可能な状態とする）ようにしてもよい。

【４６６６】

また、パチンコ機１への電力供給が開始されるときにのみ分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するものに限らず、パチンコ機１への電力供給開始後に周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって定期的（例えば周辺制御部定常処理が実行される毎、常時判定）に分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するように構成してもよい。この場合にはパチンコ機１への電力供給が開始された後に分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合となったことに基づいてその旨を報知することができるようになるため、不利益の発生を抑制することができる。

【４６６７】

なお、定期的に分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するＩＤ判定処理を実行する場合であっても設定変更処理の実行中にＩＤ判定処理を実行しないようにしてもよいし、設定変更処理の実行中にＩＤ判定処理を実行して分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定した場合であっても設定変更処理の実行中には右側遊技盤５ＡＲが不適合の状態となっていることに応じた報知を行わないようにしてもよい。

【４６６８】

さらに、定期的に分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するＩＤ判定

処理を実行する場合には、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定されたことに基づいて右側遊技盤５ＡＲが不適合の状態となっていることに応じた報知（遊技盤不適合報知音、不適合エラー報知表示態様、重大異常報知発光態様等）を開始した後に分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であると判定されたことに基づいて右側遊技盤５ＡＲが不適合の状態となっていることに応じた報知を終了したり、ＩＤ判定処理において分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であると判定された後に分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定されたことに基づいて右側遊技盤５ＡＲが不適合の状態となっていることに応じた報知を開始するようにしてもよい。

【４６６９】

また、定期的に分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するように構成した場合に、設定変更処理後の電源投入時動作確認中や設定変更処理を開始する以前にＩＤ判定処理を実行して分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定されたときには、パチンコ機１への電力供給が開始されるときにのみ分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定する場合と同様に、電源投入時動作確認中には演出表示装置１６００において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知する表示を行う一方、各種スピーカ、及び扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤについては分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知する遊技盤不適合報知音の出力及び重大異常報知発光態様の点灯を行うことなく、電源投入時動作確認が終了して遊技モードとなったときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知する遊技盤不適合報知音の出力及び重大異常報知発光態様の点灯を行うようにしてもよい。

【４６７０】

また、定期的に分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するように構成した場合にも、設定変更処理の実行中に異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）による検出があっても当該検出は無効（検出があるか否かを確認する処理を実行しないものでもよいし、検出があるか否かを確認する処理を実行するものの検出に基づく処理（報知等）を実行しないものであってもよい。）として設定変更処理後にも異常検出手段による設定変更処理中の検出に基づく異常報知を実行しないようにしてもよい。

【４６７１】

また、定期的に分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するように構成した場合に、設定変更処理後の電源投入時動作確認中に分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合とされている場合であって、且つ異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）による検出があったときには、演出表示装置１６００と、各種スピーカと、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤと、による分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることの報知を、異常検出手段による検出があったことの報知よりも優先して実行し、分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合と判定された場合に異常検出手段による検出があったことの報知を行うようにしてもよい。

【４６７２】

［未接続時における設定値の設定変更］

次に、右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がなく（右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力を確認することができず）各種信号を伝送する伝送経路に短絡や断線などの不具合が発生するといった左側遊技盤５ＡＬに対して右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていない未接続の状態（未接続状態）で設定値の設定変更を行う場合の挙動例について図３３１を参照して説明する。なお、以下では適合時や不適合時と異なる部分に

ついてのみ説明し、重複した説明を行わない。

【４６７３】

図３３１に示すように、パチンコ機１への電源供給が開始されたときに周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって実行されるＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない場合には、すなわち右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていない場合には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａからの制御信号が右側遊技盤５ＡＲ装飾基板に実装される各種ＬＥＤ等の電子部品に入力されないため、右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される電子部品は設定変更中であるか否かにかかわらず非駆動状態（例えば各種ＬＥＤは消灯された状態）となる。なお、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がないと判定された場合には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａから右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ等の電子部品に制御信号を出力しないようにしてもよい。

【４６７４】

また、本例では周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がないと判定しても設定変更処理を終了するまでは右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことを報知しないようになっている。即ち、設定変更処理の実行中には演出表示装置１６００や各種スピーカ、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）を適合時に設定変更処理が実行されたときと同様（完全同一でも良いし、略全てが同一とされて一部のみ異なるものでもよい）の態様で制御するようになっている。

【４６７５】

そして、設定変更処理が終了して主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａにより主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）が開始されると、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは各種スピーカ、及び扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）を適合時に主制御内蔵ＲＡＭをクリアする処理（ステップＳ３８）が実行されたときと同様（完全同一でも良いし、略全てが同一とされて一部のみ異なるものでもよい）の態様で制御する。また、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは適合時と同様に演出表示装置１６００に演出時（通常時）の態様（装飾図柄や通常時（遊技可能状態時）の背景画像等）を表示することに加え、演出表示装置１６００に未接続エラー報知表示態様としての「右側遊技盤未接続エラー発生」を表示して左側遊技盤５ＡＬに対して右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことを報知する。

【４６７６】

このように、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないと判定されている場合に、設定変更処理（ステップＳ３７）の終了後に電源投入時動作確認が実行されると、扉枠３に設けられるトップ中央スピーカ、トップサイドスピーカや、扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等の各種ＬＥＤ、及び本体枠４に設けられる本体枠スピーカ６２２については、上記適合時に主制御内蔵ＲＡＭをクリアする処理（ステップＳ３８）が実行されたときと同様（完全同一でも良いし、略全てが同一とされて一部のみ異なるものでもよい）の態様で制御されて、右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことを報知しないようになっている。

【４６７７】

一方、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないと判定されている場

合に、設定変更処理（ステップＳ３７）の終了後に電源投入時動作確認が実行されると、左側遊技盤５ＡＬに設けられる演出表示装置１６００に未接続エラー報知表示態様としての「右側遊技盤未接続エラー発生」を表示して右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことを報知するようになっている。

【４６７８】

つまり、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによる主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）の実行を伴う電源投入時動作確認の実行中には、扉枠３及び本体枠４に設けられる枠側演出手段としての各種スピーカや各種ＬＥＤについては右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことを報知しない一方、左側遊技盤５ＡＬに設けられる遊技盤側演出手段としての演出表示装置１６００については右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことを報知するようになっている。このとき、扉枠３及び本体枠４に設けられる各種スピーカや各種ＬＥＤについては主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａにより主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を実行していることを報知するようになっている。なお、遊技盤側演出手段として演出表示装置１６００のみを示したが、遊技盤側演出手段は左側遊技盤５ＡＬに設けられる各種ＬＥＤも含まれるものである。また、左側遊技盤５ＡＬに設けられる各種ＬＥＤについては主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによる主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）の実行を伴う電源投入時動作確認の実行中に右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことを報知しないものの、演出表示装置１６００については右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことを報知するようになっており、演出表示装置１６００を含む左側遊技盤５ＡＬの全体（遊技盤側演出手段）としては右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことを報知するようになっている。つまり、遊技盤側演出手段の一部については右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことを報知するようになっている。

【４６７９】

ここで、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａにより主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）が行われた場合には、不正に設定変更処理（ステップＳ３７）が実行されたり、不正に復電以前の遊技状態がリセットされたりして遊技者や遊技店に不利益を与えるおそれがある。また、扉枠３や本体枠４は分割遊技盤５Ａの周囲に配置しているため、パチンコ機１と離れた位置でも容易に視認できる。そのため、本例のパチンコ機１では設定変更処理（ステップＳ３８）が実行されたか否かに関わらず、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａにより主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）が行われた場合には、扉枠３及び本体枠４に設けられる各種スピーカや各種ＬＥＤにより主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａにより主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を実行していることを報知して、遊技店員に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａにより主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）が行われたこと、つまり不正に設定変更処理（ステップＳ３７）が行われたり復電以前の遊技状態がリセットされたりすることを通知し、これによって不正行為の発生を抑制するようになっている。なお、盤側演出手段として上記した各種スピーカや各種ＬＥＤ以外の演出手段を備えるようにしてもよく、例えば扉枠３及び本体枠４に表示装置を設けるように構成してもよく、この場合には主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによる主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）の実行を伴う電源投入時動作確認の実行中に扉枠３及び本体枠４に設けられる表示装置についても右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことを報知することなしに主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａにより主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を実行していることを報知するようにしてもよいし、右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことと主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａにより主制御内蔵ＲＡＭの全領

域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を実行していることとのいずれも報知しないようにしてもよい。

【４６８０】

一方、左側遊技盤５ＡＬには遊技中に遊技者から注目される演出表示装置１６００や各種可動体、各種ＬＥＤ等の遊技盤側演出手段が設けられており、電源投入時動作確認では遊技盤側演出手段について正常に駆動させることができるか否かの確認が行われるようになっている。つまり、パチンコ機１に近い位置で遊技盤側演出手段の動作を確認している場合には演出表示装置１６００だけでしか右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことを報知していなくても作業者に右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことを容易に気付かせることができる。また、演出表示装置１６００以外の遊技盤側演出手段については右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことを報知することなく上記適合時に主制御内蔵ＲＡＭをクリアする処理（ステップＳ３８）が実行されたときと同様（完全同一でも良いし、略全てが同一とされて一部のみ異なるものでもよい）の態様で制御することで正常に駆動させることができるか否かの確認を行えるようにし、遊技が行われた場合に不具合なく演出を実行できるようにしている。

【４６８１】

なお、演出表示装置１６００における未接続エラー報知表示態様は時間の経過に応じて表示の変化を伴わない静止画像とされて、パチンコ機１への電源供給が遮断されるまで継続するものの、変動表示の開始条件が成立（始動口（第一始動口２００２又は第一始動口２００２と第二始動口２００４との一方へ遊技球が入球）したことに基づいて機能表示ユニット１４００において特別図柄の変動表示が開始されたりサブ機能表示ユニット２２５０において第４図柄の変動表示が開始された場合には演出表示装置１６００に未接続エラー報知表示態様を表示させた状態で装飾図柄の変動表示等の変動演出を行うようになっている。なお、演出表示装置１６００における未接続エラー報知表示態様はエラー内容に応じたものであればよく、文字と数字の組み合わせ（例えばエラーコード）やマーク等であってもよい。このように設定変更処理後の主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を伴う電源投入時動作確認の実行中には演出表示装置１６００において時間の経過に関わらず表示が変化しない静的態様で左側遊技盤５ＡＬに対して右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことを報知するようになっている。これにより、電源投入時動作確認時における確認作業を邪魔することなく、左側遊技盤５ＡＬに対して右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことを報知することができるようになる。

【４６８２】

また、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）と並行して行われる電源投入時動作確認において、未接続状態であると判定された右側遊技盤５ＡＲに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等についての電源投入時動作確認を行わないだけに限らず、電源投入時動作確認を実行する可動体（分割遊技盤５Ａに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１や、扉枠３に設けられる演出操作ユニット３００の演出操作部３０１等）のうちの扉枠ユニットに設けられてＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）においてＩＤ判定の対象とされていない演出操作部３０１を駆動させる駆動モータや駆動ソレノイドについても電源投入時動作確認を行わないようになっている。

【４６８３】

なお、上記したように遊技盤側構成部として遊技盤５と扉枠ユニットのうちの特定の扉枠ユニットとを備えるように構成してもよく、この場合には特定の扉枠ユニットがＩＤ判定の対象とされ、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において未接続状態であると判定された場合にＩＤ判定の対象とされていない扉枠ユニット（非特定の扉枠ユニット）に設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータ

や駆動ソレノイド等によって動作される可動体の一部又は全部についても駆動させないようにしてもよいし、これに加えて、又はこれとは別に、特定の扉枠ユニットが複数（例えば扉枠右サイドユニット４３０と扉枠トップユニット４５０）ある場合には一部（例えば扉枠右サイドユニット４３０と扉枠トップユニット４５０との一方）について未接続状態であると判定された場合には特定の扉枠ユニットに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等によって動作される可動体の全てを駆動させないようにしてもよいし、特定の扉枠ユニットを含む全ての扉枠ユニットに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等によって動作される可動体の全てを駆動させないようにしてもよい。

【４６８４】

具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないと判定されている場合には、電源投入時動作確認を開始しても接続されていないと判定された右側遊技盤５ＡＲに設けられているＬＥＤを電源投入時動作確認時の発光態様で点灯させる制御や可動体を電源投入時動作確認時の動作態様で動作させる制御を行わない（右側遊技盤５ＡＲに制御信号を出力しない。）か又は行えない（制御信号を出力するものの右側遊技盤５ＡＲに制御信号が入力されない。）ことに加えて、扉枠３に設けられるとともにＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）においてＩＤ判定の対象とされていない皿ユニット２００（この例では演出操作ユニット３００）に設けられる駆動モータや駆動ソレノイドを駆動させて演出操作ユニット３００に設けられる演出操作部３０１を動作させる制御を行わない。

【４６８５】

すなわち右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態である場合には、ＩＤ判定の対象とされていない扉枠ユニットに設けられる可動体の一部または全部についても接続状態が不良となっているおそれがあり、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａから出力された制御信号がノイズ等で本来とは異なる信号に変化して入力されて、可動体が異常な態様で動作するおそれがあるため、扉枠ユニットに設けられてＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）においてＩＤ判定の対象とされていない周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等によって動作される可動体の一部又は全部についても駆動させないようにし、これにより、可動体が本来とは異なる動作態様で動作して可動体や扉枠ユニットが破損することや可動体を動作させる駆動モータや駆動ソレノイド等が故障することを抑制できるようにしている。ただし、この場合にも扉枠ユニットに設けられてＩＤ判定の対象とされていないＬＥＤ（例えば扉枠３に設けられる演出操作ユニット３００の演出操作部３０１の演出操作部カバーユニット３１０の上部（ユニット上カバー３１２）を発光装飾させるための複数のＬＥＤ３２０ａ）については適合時と同様に所定の発光態様で制御されるようになっている。これにより電源投入時動作確認が正常に実行されていることを判別できるようになる。

【４６８６】

一方、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）を実行する周辺制御ＩＣ１５１０ａが実装される周辺制御基板１５１０を備える左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体（分割遊技盤５Ａのうちの左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１等）は、電源投入時動作確認を開始すると、通常（分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であると判定された場合）と同様に動作される。また、左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体（分割遊技盤５Ａのうちの左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１等）に設けられる基板に実装されるＬＥＤは電源投入時動作

確認時の発光態様に発光制御される。すなわち、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）で右側遊技盤５ＡＲが未接続状態であると判定された場合には、通常（分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であると判定された場合）と同様に、左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体（分割遊技盤５Ａのうちの左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１等）を電源投入時動作確認時の動作態様で動作させるとともに、左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体に設けられるＬＥＤを電源投入時動作確認時の発光態様に発光制御するようになっている。これにより、分割遊技盤５Ａのうちの周辺制御基板１５１０が設けられている遊技盤（この場合には左側遊技盤５ＡＬ）であることを容易に特定できるようになる。

【４６８７】

また、本例では周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないと判定されている場合に、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）においてＩＤ判定の対象とされていない扉枠ユニット（この例では皿ユニット２００）の演出操作ユニット３００に設けられる基板に実装される駆動モータや駆動ソレノイドを駆動させて演出操作部３０１を動作させる制御を行わないが、演出操作ユニット３００に設けられる基板に実装される各種ＬＥＤについては電源投入時動作確認の実行中に通常（分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であると判定された場合）と同様に制御されるようになっている。すなわち、設定変更処理後に電源投入時動作確認が実行された場合に周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないと判定されていても、演出操作ユニット３００に設けられる基板に実装される各種ＬＥＤについては分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であると判定されている場合と同様に電源投入時動作確認時の発光態様に発光制御される。

【４６８８】

なお、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないと判定されている場合に、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）においてＩＤ判定の対象とされていない扉枠ユニットに設けられる複数の基板に実装される複数のＬＥＤのうちの一部の基板に実装されるＬＥＤ又は一の基板に実装される複数のＬＥＤのうちの一部については電源投入時動作確認時の発光態様に発光制御しないようにしてもよいし、一部の可動体については電源投入時動作確認時の動作態様で動作させないようにしてもよい（例えば扉枠ユニットに設けられている装飾基板に設けられるＬＥＤと扉枠ユニットに設けられている可動体に設けられている駆動モータ、駆動ソレノイド、ＬＥＤ等との一部又は全部についての電源投入時動作確認を行わないようにしてもよい）。

【４６８９】

また、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａが接続されていないと判定された場合には、電源投入時動作確認に限らずパチンコ機１の電源が遮断されるまで、又は分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合と判定されるまでは、接続されていないと判定された右側遊技盤５ＡＲと、ＩＤ判定の対象とされていない扉枠ユニットに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等によって動作される可動体の一部又は全部と、を駆動させないようにしてもよく、この場合には可動体が本来とは異なる動作態様で動作して可動体や扉枠ユニットが破損することや可動体を動作させる駆動モータや駆動ソレノイド等が故障することを抑制できるようにしている。

【４６９０】

また、設定変更処理の終了後に本体枠４を閉じた場合であってその後に本体枠４が継続して閉じた状態とされている場合には、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａにより主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８

）と周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる電源投入時動作確認が終了すると（ＬＥＤによる電源投入時動作確認時の発光態様が終了して消灯又は所定の発光態様での点灯した状態とされるとともに可動体の電源投入時動作確認時の動作態様が終了して待機状態（予め決められている待機位置に停止している（収容されている）状態）とされることにより電源投入時動作確認が終了する。なお、電源投入時動作確認時の発光態様よりも電源投入時動作確認時の動作態様の方が早いタイミングで終了するように構成した場合には電源投入時動作確認時の発光態様の終了により電源投入時動作確認が終了し、電源投入時動作確認時の発光態様よりも電源投入時動作確認時の動作態様の方が遅いタイミングで終了するように構成した場合には電源投入時動作確認時の動作態様の終了（可動体が電源投入時動作確認時の動作態様で動作した後に待機位置に停止される（収容される）こと。）により電源投入時動作確認が終了する。

【４６９１】

そして、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を伴う電源投入時動作確認が終了して遊技モードになると、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、演出表示装置１６００における未接続エラー報知表示態様の表示に加えて、遊技盤未接続報知音（「右側遊技盤が接続されていません。」というアナウンス音声及び「キンコーン」等の警告音）を音量調節ボタン２２７によって調節された音量でパチンコ機１への電源供給が遮断されるまで各種スピーカから繰り返し出力させる（一定回数（例えば５回）又は一定期間（例えば３０秒）繰り返し出力した後に出力を停止させるものであってもよい）とともに、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）を重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）に繰り返し発光制御し、且つ左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤを消灯状態に制御する一方、左側遊技盤５ＡＬに設けられて主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによって制御される機能表示ユニット１４００のＬＥＤと左側遊技盤５ＡＬに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御されるサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤとを適合時と同様に発光制御可能な状態とする（所定の態様で点灯させるものでもよい）。

【４６９２】

なお、遊技盤未接続報知音は同一の報知音（例えば「ビー」等）が断続的に出力されるものではなく、音階が異なる複数の音によって構成されるものであり、さらに消音状態と出力状態とに繰り返し制御される。また、重大異常報知発光態様は点灯状態が固定されるものではなく、点灯状態と消灯状態とに繰り返し制御されて光量を変化させるものである。つまり、各種スピーカ及び各種ＬＥＤにおいては時間の経過に応じて音階や音量、光量等の変化を伴う動的態様で左側遊技盤５ＡＬに対して右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことを報知するようになっている。これにより、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を伴う電源投入時動作確認が終了して確認作業の必要がない遊技モードが開始されたときに左側遊技盤５ＡＬに対して右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことを気付かせ易くなる。

【４６９３】

また、外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因して発光制御される扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）の重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）は、外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じてから所定期間（例えば６０秒）が経過するまで継続する。また本例では外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じてから重大異常報知発光態様の発光制御を終了するまでの期間は、電源投入時動作確認の実行に要する期間よりも長い期間とされているため、設定変更処理の終了後に本体枠４を閉じた場合にはその後に本体枠４が継続

して閉じた状態とされているか否かに関わらず主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を伴う電源投入時動作確認が終了して遊技モードが開始されると右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことに起因する軽微異常報知発光態様（最大輝度の白色の点灯と消灯とに短時間（例えば０．５秒）で切り替える態様（高速点滅態様））に発光制御されることなしに外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する重大異常報知発光態様に発光制御される。また、外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じてから所定期間（例えば６０秒）が経過すると、右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことに起因する軽微異常報知発光態様に変更して発光制御され、パチンコ機１への電源供給が遮断されるまで軽微異常報知発光態様に継続して発光制御される。

【４６９４】

なお、外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じてから重大異常報知発光態様の発光制御を終了するまでの期間を電源投入時動作確認の実行に要する期間よりも短い期間としてもよく、この場合には設定変更処理の終了後に本体枠４を閉じた場合であってその後に本体枠４が継続して閉じた状態とされている場合には主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を伴う電源投入時動作確認が終了して遊技モードが開始されたときに外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する重大異常報知発光態様に発光制御することなく、右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことに起因する軽微異常報知発光態様に発光制御させることができる。この場合であっても、設定変更処理の終了後に本体枠４を閉じた後に再び本体枠４を開放させて主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を伴う電源投入時動作確認が終了して遊技モードが開始されたときに外枠２に対して本体枠４を開放させてからの経過時間が所定期間に達していなければ右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことに起因する軽微異常報知発光態様に発光制御されることなしに外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する重大異常報知発光態様に発光制御され、外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じてから所定期間（例えば６０秒）が経過したときに右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことに起因する軽微異常報知発光態様に変更して発光制御される。

【４６９５】

また、本例では右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことに起因する軽微異常報知発光態様の発光制御及び遊技盤未接続報知音の出力を実行している場合であっても外枠２に対して閉じていた本体枠４を開放した場合には右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことに起因する報知（軽微異常報知発光態様の発光制御及び遊技盤未接続報知音の出力）を終了して外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する報知（重大異常報知発光態様の発光制御及び扉開放報知音の出力）を行い、外枠２に対して本体枠４を開放させてから所定期間（例えば３０秒）が経過したときに扉開放報知音の出力を停止して再び遊技盤未接続報知音の出力を開始し、外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じてから所定期間（例えば６０秒）が経過したときに重大異常報知発光態様の発光制御を終了して再び軽微異常報知発光態様の発光制御を開始するようになっている。このように、右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことの報知よりも優先して本体枠４が開放されたことを報知するため、不正行為の発生を抑止できる。

【４６９６】

また、本例では扉開放報知音の出力期間は、電源投入時動作確認に要する期間よりも短くされているため、設定変更処理の開始時に本体枠４を開放して設定変更処理の終了時に本体枠４を閉じた場合であってその後に本体枠４が継続して閉じた状態とされている場合には扉開放報知音を出力させることなく、遊技盤未接続報知音が出力される。なお、扉開放報知音の出力期間を電源投入時動作確認に要する時間よりも長くしてもよく、設定変更処理の終了後に本体枠４を閉じた場合であってその後に本体枠４が継続して閉じた状態とされている場合や、扉開放報知音の出力期間を電源投入時動作確認に要する時間よりも短くされていても設定変更処理の終了後に本体枠４を閉じた後に再び本体枠４を開放させた

場合に、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を伴う電源投入時動作確認が終了して遊技モードが開始されたときに外枠２に対して本体枠４を開放させてからの経過時間が所定期間に達していなければ扉開放報知音を出力させ、外枠２に対して本体枠４を開放させてからの経過時間が所定期間に達したことに基づいて遊技盤未接続報知音を出力させるようにしてもよいし、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を伴う電源投入時動作確認が終了して遊技モードが開始されたときに外枠２に対して本体枠４が開放されている場合であって外枠２に対して本体枠４を開放させてからの経過時間が所定期間に達しているか否かに関わらず扉開放報知音を出力させることなく、遊技盤未接続報知音を出力させるようにしてもよい。また、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を伴う電源投入時動作確認が終了して遊技モードが開始されたときに外枠２に対して本体枠４が開放されている場合や外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じてからの経過時間が所定期間（例えば６０秒）に達していない場合には外枠２に対して本体枠４を開放させてからの経過時間が所定期間（例えば３０秒）に達している場合であっても本体枠４を閉じるまで又は外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する重大異常報知発光態様の発光制御を終了するまでは遊技盤未接続報知音を出力しないようにしてもよい。

【４６９７】

このように、本例では右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態で設定値の設定変更を行い、設定変更処理の終了後に本体枠４を閉じた場合であってその後に本体枠４が継続して閉じた状態とされている場合には、各種スピーカからは右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態となっていることに応じた異常報知を行う一方で、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）については外枠２に対して本体枠４が開放されたことに応じた異常報知を行うようになっている。すなわち、各種スピーカと扉枠ユニットの各種ＬＥＤ及び右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤとのそれぞれにおいて異常報知を実行するものの、起因となる異常（各種スピーカについては未接続を起因として異常報知を実行し、扉枠ユニットの各種ＬＥＤ及び右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤについては外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因して異常報知を実行する。）は異なるようになっている。

【４６９８】

なお、右側遊技盤５ＡＲが未接続の場合に各種スピーカから出力される遊技盤未接続報知音は、設定変更報知音やＲＡＭクリア報知音、扉開放報知音、遊技盤不適合報知音とは異なり、音量調節ボタン２２７によって音量を調節することができるようになっている。すなわち、右側遊技盤５ＡＲが未接続の場合には遊技者や遊技店に不利益を与えるおそれが少なく、緊急性を要するものではないため、音量調節ボタン２２７による音量の調節を可能にしている。なお、右側遊技盤５ＡＲが未接続の場合に各種スピーカから出力される遊技盤未接続報知音についても音量調節ボタン２２７による調節を不可能としてもよく、この場合には予め決められていた音量で遊技盤未接続報知音を出力させることができるようなり、右側遊技盤５ＡＲが未接続であることを確実に伝えることができるため、遊技者に不利益を与えてしまうことを抑止できる。

【４６９９】

また、右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態となっていることに起因して軽微異常報知発光態様に発光制御している期間は、光量調節ボタン２２８による光量（輝度）の調節が不可能とされている。上記したように遊技者は光量調節ボタン２２８を操作することにより扉枠３や分割遊技盤５Ａに設けられている各種の装飾基板に実装されるＬＥＤのうちの一部のＬＥＤについて光量（輝度）を調節することが可能であるが、右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態となっていることに起因して行われる軽微異常報知発光態様は遊技者が光量調節ボタン２２８を操作しても調節することができないようになっている。そのため、右側遊

技盤５ＡＲが未接続の状態となっているときには予め決められた光量（輝度）で扉枠３や分割遊技盤５Ａに設けられている各種の装飾基板のＬＥＤが発光制御されて軽微異常報知発光態様を行うことができるようになり、軽微異常報知発光態様によって何らかの異常が発生したことを伝えることができるため、分割遊技盤５Ａを視認させて右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態となっていることに気付かせることができるようになり、遊技者に不利益を与えないようにすることができる。

【４７００】

また、遊技盤未接続報知音が出力されている場合には、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８を操作に応じて演出表示装置１６００に現在の音量や光量（輝度）に応じた目盛が表示される。そのため、音量調節ボタン２２７の操作や光量調節ボタン２２８の操作が有効であることを認識させることができるし、表示される目盛によって音量や光量（輝度）の程度を知ることができるようになる。また、上記したように軽微異常報知発光態様は光量調節ボタン２２８による光量（輝度）の調節が不可能とされるが、警備上報知発光態様に発光制御されている場合であっても光量（輝度）の調節機会を奪わないようにすることができる。なお、遊技盤未接続報知音が出力されている場合に音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８が操作されても演出表示装置１６００に現在の音量や光量（輝度）に応じた目盛を表示しないようにしてもよい。

【４７０１】

また、遊技盤未接続報知音が出力されている場合には、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８の操作に応じた確認音も出力される。そのため、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８の操作に応じた確認音によって音量調節ボタン２２７の操作や光量調節ボタン２２８の操作が有効であることを認識させることができるし、確認音の音量によって音量調節ボタン２２７の操作後の音量を把握することができるようになる。なお、遊技盤未接続報知音が出力されている場合に音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８が操作されても音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８の操作に応じた確認音を出力しないようにしてもよい。

【４７０２】

上記したように外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因して発光制御される重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様を含む）は光量調節ボタン２２８による光量の調節が不可能とされている。また、本例では外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じてから重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）の発光制御を終了するするまでの期間は、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）と周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる電源投入時動作確認とを開始してから主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）と電源投入時動作確認との両方が終了するまでの期間よりも長くされているため、設定変更処理を実行する場合には主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによる主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）と周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる電源投入時動作確認の終了後に、外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）の発光制御が実行される。

【４７０３】

すなわち、右側遊技盤５ＡＲが未接続であり、かつ設定変更処理を実行する場合には、外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じた後に、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによる主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）と周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる電源投入時動作確認が終了すると、各種スピーカから遊技盤未接続報知音が出力されるとともに、外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する重大異常報知発光態様（重大異常報知発

光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）の発光制御が実行され、各種スピーカから出力される遊技盤未接続報知音については音量調節ボタン２２７によって音量を調節することができるものの、外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因して発光制御される重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様を含む）については光量調節ボタン２２８による光量の調節が不可能とされている。

【４７０４】

そのため、右側遊技盤５ＡＲが未接続であり、かつ設定変更処理を実行する場合に、外枠２対して開放されていた本体枠４を閉じた後に、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによる主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）と周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる電源投入時動作確認とが終了したときに、予め定められている輝度で重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）に発光制御することができ、設定変更処理の実行中に設定変更報知発光態様を見逃したり、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）と電源投入時動作確認との実行中にＲＡＭクリア報知態様を見逃した場合であっても、その後に重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）を視認できるようにすることにより、設定変更処理や主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）が行われた可能性があることに気付かせることができる一方で、遊技者や遊技店に不利益を与えるおそれの低い右側遊技盤５ＡＲが未接続であることについては音量調節ボタン２２７による音量の調節を可能にして遊技者に不快感を与えないようにしている。

【４７０５】

なお、外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因して重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様を含む）に発光制御している場合に、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８が操作されたことに基づいて演出表示装置１６００に音量や光量（輝度）に応じた目盛を表示し、目盛が表示されている状態で音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２２を操作されたことにより目盛を変化させるようにしてもよいし、外枠２に対して本体枠４が開放されている状態で重大異常報知発光態様に発光制御している場合には音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８が操作されても演出表示装置１６００に音量や光量（輝度）に応じた目盛を表示することなく、外枠２に対して本体枠４が閉じた状態で重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）に発光制御している場合には音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８が操作されたことに基づいて演出表示装置１６００に音量や光量（輝度）に応じた目盛を表示し、目盛が表示されている状態で音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２２を操作されたことにより目盛を変化させるようにしてもよい。また、この場合には重大異常報知発光態様の発光制御や扉開放報知音の出力の終了後に音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２２の操作に基づいて変化させた後の目盛に応じた音量や光量（輝度）で演出音の出力や発光演出を実行するようにしてもよい。

【４７０６】

また、外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因して重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様を含む）に発光制御している場合に、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８が操作されたことに基づく確認音を音量調節ボタン２２７の操作に応じて設定されている音量で出力するようにしてもよいし、外枠２に対して本体枠４が開放されている状態で重大異常報知発光態様に発光制御している場合には音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８が操作されても確認音を出力することなく、外枠２に対して本体枠４が閉じた状態で重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に

発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）に発光制御している場合には音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８が操作されたことに基づいて確認音を出力するようにしてもよい。また、外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因して重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様を含む）に発光制御している場合に、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８が操作されたことに基づいて、演出表示装置１６００における音量や光量（輝度）に応じた目盛の表示と、確認音の出力と、の両方を実行するものであってもよいし、一方のみを実行するものでもよい。

【４７０７】

この場合、光量調節ボタン２２８が操作されたことに基づいて演出表示装置１６００に光量（輝度）に応じた目盛を表示し、さらに光量調節ボタン２２８を操作することで目盛を変化させても重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様を含む）の光量（輝度）は変化しない。一方、重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様を含む）の発光制御が終了した後に実行される右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態となっていることに応じた軽微異常発光態様は光量調節ボタン２２８の操作に応じて変化された光量（輝度）で発光制御される。このように本例では右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態で設定変更処理が実行された場合に、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を伴う電源投入時動作確認が終了して遊技モードが開始されたときに外枠２に対して本体枠４が閉じた状態で重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）に発光制御されていれば、重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）の発光制御中に、重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）の終了後に発光制御される発光態様の光量（輝度）を調節することができるようになっている。これにより重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）に発光制御していても遊技を開始できる状況では遊技者の光量（輝度）調節機会を奪わないようにすることができるため、遊技興趣の低下を抑止可能である。

【４７０８】

また、右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態では変動表示の開始条件が成立（始動口（第一始動口２００２又は第一始動口２００２と第二始動口２００４との一方へ遊技球が入球）した場合であっても各種スピーカ、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ、及び左側遊技盤５ＡＬに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される装飾基板に実装される各種ＬＥＤによる変動演出を実行することなく、異常が発生していることを報知するようになっている。

【４７０９】

なお、外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じてから重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）を終了するまでの期間を、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）と周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる電源投入時動作確認とを開始してから主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）と電源投入時動作確認との両方が終了するまでの期間よりも短くされている場合には、設定変更処理の終了後に本体枠４を閉じた場合であってその後に本体枠４が継続して閉じた状態とされていれば、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）

を外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する重大異常報知発光態様に発光制御させることなく、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を伴う電源投入時動作確認が終了して遊技モードが開始されると直ぐに右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態となっていることに応じた軽微異常報知発光態様に発光制御され、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を伴う電源投入時動作確認が終了して遊技モードが開始されたときにＬＥＤの発光態様によってすぐに右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態となっていることを報知することができるようになる。

【４７１０】

また、右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であっても電源投入時動作確認の実行後には、左側遊技盤５ＡＬに設けられて主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによって制御される機能表示ユニット１４００のＬＥＤ及び左側遊技盤５ＡＬに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御されるサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤの当落に関する情報を表示するＬＥＤについては消灯状態とすることなしに、通常時（遊技可能状態時）と同様に発光制御するようになっている。すなわち、右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態では右側遊技盤５ＡＲが未接続であることを報知することにより遊技者に不利益を与えたり、設計者の意図しない挙動で遊技が進行してしまうことを抑止する一方で、仮に右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態で遊技が開始されてしまっても当落に関する情報を表示するＬＥＤについては発光制御して遊技が通常と同様に進行することができるようにすることで遊技者に不利益を与えないようになっている。

【４７１１】

また、本例では右側遊技盤５ＡＲには入球口（（始動口（第一始動口２００２、第二始動口２００４）、大入賞口２００５、一般入賞口２００１等）やゲート２００３等が設けられず、左側遊技盤５ＡＬにのみ設けられるように構成されており、右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態で遊技が行われても遊技者に不利益を与えるおそれは低い。すなわち分割遊技盤５Ａが右側遊技盤５ＡＲを有さずに左側遊技盤５ＡＬのみを有する場合には右側遊技盤５ＡＲに対応する部位に何も設けられないため、遊技を行うことにより遊技者に不利益を与えるおそれがあるものの、視覚によって容易に異常が発生していることを認識することができるため異常を察知した遊技者は遊技を避けるはずである。一方、分割遊技盤５Ａが右側遊技盤５ＡＲと左側遊技盤５ＡＬとの両方を有するものの接続不良等により右側遊技盤５ＡＲが未接続とされている場合には、視覚によって異常が発生していることを認識することは困難であるため、遊技者は遊技を行うものの、右側遊技盤５ＡＲには遊技者の利益に関わる入球口やゲート等が設けられないため、遊技者に不利益を与えるおそれは低い。このように、右側遊技盤５ＡＲが未接続とされる状態は不適合とされる状態に比べて遊技者に不利益を与えるおそれは低いため、未接続であることを報知するものの適合時と同様に遊技を進行させることができるようになっている。

【４７１２】

また、右側遊技盤５ＡＲには入球口やゲート２００３に限らず不正行為を検知する磁気センサ１０５０等の検知手段も設けられておらず、これらは全て左側遊技盤５ＡＬに設けられるようになっている。すなわち遊技者や遊技店の利益に関わる電子部品（一般入賞口センサ３００１、第一始動口センサ３００２、第二始動口センサ２４０１、ゲートセンサ２８０１、大入賞口センサ２４０２、役物入賞口センサ２６０１、Ｖ入賞口センサ３００３、ハズレ口センサ３００４、磁気センサ１０５０、始動口ソレノイド２４１２、アタッカソレノイド２４１４、役物入賞口ソレノイド２６１２、Ｖ振分ソレノイド３００７等）や入球口（一般入賞口２００１、第一始動口２００２、ゲート２００３、第二始動口２００４、大入賞口２００５等）、ゲート２００３、等は全て左側遊技盤５ＡＬに設けられるようになっている。そのため、右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態で不正行為が行われても左側遊技盤５ＡＬに設けられる検知手段によって不正行

為を検知することができ、遊技店に不利益を与えない。
【４７１３】
なお、右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態では、左側遊技盤５ＡＬに設けられて主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによって制御される機能表示ユニット１４００のＬＥＤ及び左側遊技盤５ＡＬに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御されるサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤの当落に関する情報を表示するＬＥＤのうち少なくとも一方についてのみ通常時（遊技可能状態時）と同様に発光制御されるものであればよく、例えば左側遊技盤５ＡＬに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御されるサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤについては開始条件が成立（始動口（第一始動口２００２又は第一始動口２００２と第二始動口２００４との一方へ遊技球が入球）した場合であっても発光制御させることなく消灯又は開始条件の成立とは無関係の発光態様で点灯させるようにしてもよい。
【４７１４】
また、本例ではパチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定された場合に、設定値の設定変更を行うか否かや、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いて（主制御内蔵ＲＡＭの所定領域（主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除く領域。）を）クリアするか否かによって、右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態となっていることに応じた軽微異常報知発光態様での発光制御タイミング及び遊技盤未接続報知音の出力タイミングが異なるようになっている。
【４７１５】
具体的には、右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であって、設定値の設定変更と主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いて（主制御内蔵ＲＡＭの所定領域（主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除く領域。）を）クリアする処理とのいずれも実行しない場合には、パチンコ機１への電力供給が開始されたことに基づいて所定期間に亘って演出表示装置１６００に「ｐｏｗｅｒ　ｏｎ」を表示させた後、電源投入時動作確認を開始し、該電源投入時動作確認の実行中に扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）による軽微異常報知発光態様での発光制御を開始するとともに各種スピーカによる遊技盤未接続報知音の出力を開始する。つまり、電源投入時動作確認を開始するタイミングで右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされていることに起因する軽微異常報知発光態様での発光制御と各種スピーカによる遊技盤未接続報知音の出力とを開始する。
【４７１６】
一方、右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であって、設定値の設定変更と主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いて（主制御内蔵ＲＡＭの所定領域（主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除く領域。）を）クリアする処理とのいずれかを実行する場合には、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａにより主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）と周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる電源投入時動作確認の実行中には右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされていることに起因する軽微異常報知発光態様での発光制御と各種スピーカによる遊技盤未接続報知音の出力とを開始することなく、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａにより主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）と周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる電源投入時動作確認の終了後のタイミング（本例では遊技モードを開始するタイミングで右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされていることに起因する遊技盤未接続報知音が出力され、

遊技モードの開始後に軽微異常報知発光態様の発光制御が開始される。）で右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされていることに起因する軽微異常報知発光態様での発光制御と各種スピーカによる遊技盤未接続報知音の出力とを開始する。

【４７１７】

このように、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であっても設定値の設定変更を行うか否かや、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いて（主制御内蔵ＲＡＭの所定領域（主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除く領域。）を）クリアするか否かによって、軽微異常報知発光態様での発光制御タイミング及び遊技盤未接続報知音の出力タイミングを異ならせることにより、重要度の高い情報を優先的に報知して不具合や不正行為が発生することを抑制できる。すなわち、不正に設定値の設定変更や主制御内蔵ＲＡＭがクリアされた場合には遊技店に被害が生じるおそれがあるため、右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることの報知よりも優先して不正に設定値の設定変更が行われたことや主制御内蔵ＲＡＭがクリアされたことを報知することにより被害の拡大を防ぐことができるようになっている。

【４７１８】

なお、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態となっている場合に、演出表示装置１６００において未接続エラー報知表示態様としての「右側遊技盤未接続エラー発生」を表示するタイミングは、設定値の設定変更を行うか否か、及び主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いて（主制御内蔵ＲＡＭの所定領域（主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除く領域。）を）クリアするか否かに関わらず同一とされている。すなわち、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａにより主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）や周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる電源投入時動作確認を開始するタイミングで演出表示装置１６００に未接続エラー報知表示態様としての「右側遊技盤未接続エラー発生」を表示するようになっている。これにより、重要度の高い報知を優先して実行しつつも、他の報知についても演出表示装置１６００で報知して対処させることができるようになる。また、演出表示装置１６００における未接続エラー報知表示態様としての「右側遊技盤未接続エラー発生」の表示タイミングについても設定値の設定変更を行うか否かや、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いて（主制御内蔵ＲＡＭの所定領域（主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除く領域。）を）クリアするか否かによって異ならせるようにしてもよく、この場合には重要度の高い情報を順に報知して順次対処させることができるため、それぞれの情報を確実に伝えて対処させることができるようになる。

【４７１９】

上記したように本例ではパチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合（整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であると判定された後には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）を実行しないようになっているため、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）の実行後に分割遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態となっても上記した報知（遊技盤未接続報知音、未接続エラー報知表示態様、軽微異常報知発光態様等）等は実行されない。そのため、少なくとも右側遊技盤５ＡＲを除く部位に設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御されるＬＥＤ（扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤや左側遊技盤５ＡＬに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される装飾基板に実装される各種ＬＥＤやサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤ等）や周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータ及び駆動ソレノイド、演出

表示装置１６００、各種スピーカ等は、右側遊技盤５ＡＲの適合時と同様の態様に制御される。

【４７２０】

なお、本例のパチンコ機１ではパチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定された場合には、設定変更処理の実行中に異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）による検出があっても当該検出は無効（検出があるか否かを確認する処理を実行しないものでもよいし、検出があるか否かを確認する処理を実行するものの検出に基づく処理（報知等）を実行しないものであってもよい。）とされるようになっている。

【４７２１】

具体的には、図３３２に示すように設定変更処理の実行中に不正な磁気が発生して主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されても不正な磁気を検出したことに基づく異常報知を実行することなく、検出信号を破棄するようになっている。すなわち、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定された場合であって、設定変更処理の実行中に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されたときには、磁気センサ１０５０からの検出信号を無視し、設定変更処理の終了後に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されていないものとして制御を実行する。

【４７２２】

このように、本例ではパチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定された場合であって、設定変更処理の実行中に異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）による検出がなされたときには、設定変更処理の終了後に、異常検出手段による検出に起因する異常報知よりも右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることに起因する報知を優先して実行するようになっている。すなわち、設定変更処理の実行中などの遊技を開始できる状態となる以前の遊技不可能状態で不正行為が行われても遊技モードとなったときに不利益が発生するおそれは低いものの、右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態となっている場合には遊技モードとなったときに遊技が実行されると不利益が発生するおそれがある。そのため、設定変更処理の実行中に異常検出手段による検出と右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態との両方が発生した場合には、設定変更処理の終了後に右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることに起因する報知を優先して実行することにより不利益の発生を抑止している。

【４７２３】

一方、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定された場合であって、設定変更処理の終了後に実行される電源投入時動作確認の実行中に異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰ

Ｕ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）により異常が検出されたとき、すなわち主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を伴う電源投入時動作確認の実行中に異常検出手段により異常が検出されたとき、には異常検出手段の検出は有効とされているものの、異常報知の一部については電源投入動作確認の実行中には異常報知が行われることなく、電源投入時動作確認の終了後に異常報知が行われるようになっている。

【４７２４】

具体的には、図３３３に示すようにパチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定された場合であって、設定変更処理の終了後に実行される電源投入時動作確認の実行中に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されたときには、当該電源投入時動作確認の実行中には扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤを不正な磁気を検出したことに起因する重大異常報知発光態様に発光制御されず、各種スピーカから磁気検知報知音（例えば、「磁気検知エラー発生。」）を繰り返し出力されることもない。

【４７２５】

そして、電源投入時動作確認が終了すると、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤが不正な磁気を検出したことに起因する重大異常報知発光態様で発光制御されるとともに各種スピーカから磁気検知報知音が出力されるようになっている。なお、不正な磁気を検出したことに起因する異常報知は不正な磁気を検出してから所定期間が経過したことに基づいて終了するようになっている。そして、不正な磁気を検出したことに起因する異常報知が終了ときに、他の異常が検出していなければ扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤが右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であることに起因する軽微異常報知発光態様に発光制御されるとともに、各種スピーカから遊技盤未接続報知音が繰り返し出力される。

【４７２６】

このように、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定された場合であって、設定変更処理の終了後に実行される電源投入時動作確認の実行中に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されたときには、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤと各種スピーカとについては主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されていないものとして制御を継続し、電源投入時動作確認が終了したことに基づいて不正な磁気を検出したことに起因する異常報知が実行されるようになっている。

【４７２７】

換言すると、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定された場合であって、設定変更処理の終了後に実行される電源投入時動作確認の実行中に異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）による検出がなされた

ときには、電源投入時動作確認の終了後に右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることに起因する報知よりも異常検出手段による検出に起因する異常報知を優先して実行するようになっている。

【４７２８】

すなわち、電源投入時動作確認の終了後には直ぐに遊技モードが開始されるため、遊技モードでも同様の不正行為が行われる可能性がある。一方、右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態となっている場合には不正行為に比べて不利益が生じる可能性は低い。そのため、電源投入時動作確認の実行中に異常検出手段による検出と右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態との両方が発生した場合には、電源投入時動作確認の終了後（一部については電源投入時動作確認の実行中）に異常検出手段による検出がなされたことに起因する報知を優先して実行することにより不利益の発生を抑制している。

【４７２９】

また、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定された場合であって、電源投入時動作確認の実行中に異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）による検出がなされたときには、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤと各種スピーカとについては電源投入時動作確認が終了したタイミングで異常報知が行われるものの、演出表示装置１６００については異常検出手段による検出がなされたタイミングで異常報知（例えば、磁気検出エラー報知態様として「磁気エラー発生」を表示する。）が行われるようになっている。すなわち、異常検出手段の検出信号が主制御基板１３１０に入力されたタイミング（磁石ゴトカウンタの値が上限値に達したタイミングでもよい。）で主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから異常報知の開始を指示するコマンド（例えば電波照射ゴトが行われている旨を伝える報知表示に区分される磁石ゴト報知コマンド。）を周辺制御基板１５１０に送信し、この異常報知の開始を指示するコマンド（磁石ゴト報知コマンド）を受信したタイミングで周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣが異常報知に関する制御を開始するようになっている。また、異常検出手段による検出がなされたことに起因する異常報知が演出表示装置１６００に表示されている場合であっても右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であることに起因する異常報知（未接続エラー報知表示態様）が演出表示装置１６００に表示される。すなわち、異常検出手段による検出と右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態との両方が同時に発生している場合には演出表示装置１６００にてそれぞれの異常を報知する異常報知が表示されるようになっている。

【４７３０】

なお、異常検出手段として磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチを示したが、一部のセンサやスイッチについては電源投入時動作確認の実行中又は設定変更処理の終了後（電源投入時動作確認の実行中と遊技モード中とを含む）に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されても演出表示装置１６００に異常報知を行わないようにしてもよいし、全てのセンサやスイッチについて電源投入時動作確認の実行中又は設定変更処理の終了後（電源投入時動作確認の実行中と遊技モード中とを含む）に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されても演出表示装置１６００に異常報知を行わないようにしてもよい。

【４７３１】

また、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコー

ド信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定された場合であって、電源投入時動作確認の終了後の遊技モード中に異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）により異常が検出されたとき、すなわち遊技モード中に異常検出手段により異常が検出されたとき、にも異常検出手段の検出は有効とされているものの、電源投入時動作確認の実行中に異常検出手段により異常が検出された場合とは異なり、異常検出手段により異常が検出されたタイミングで異常報知が行われるようになっている。

【４７３２】

具体的には、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定された場合であって、電源投入時動作確認の終了後の遊技モード中に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されたときには、磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されたタイミングで、異常検出手段による検出に起因する異常報知が演出表示装置１６００と扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤと各種スピーカとのそれぞれで行われる。

【４７３３】

すなわち、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定された場合であって、電源投入時動作確認の終了後の遊技モード中に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）からの検出信号が入力されたときには、右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることに起因する報知よりも異常検出手段による検出に起因する異常報知を優先して実行するようになっている。

【４７３４】

そのため、不正行為が行われた場合に不利益が発生するおそれが高い遊技モード中に、異常検出手段による検出と右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態との両方が発生した場合には、異常検出手段による検出がなされたことに起因する報知を優先して実行することにより不利益の発生を抑制することができるようになる。

【４７３５】

また、パチンコ機１への電力供給が開始されるときにのみ分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するものに限らず、パチンコ機１への電力供給開始後に周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって定期的（例えば周辺制御部定常処理が実行される毎）に分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するＩＤ判定処理を実行するようにしてもよい。この場合にはパチンコ機１への電力供給が開始された後に右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態となったことに基づいてその旨を報知することができるようになるため、不利益の発生を抑制することができる。

【４７３６】

なお、定期的に分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するＩＤ判定処理を実行する場合であっても設定変更処理の実行中にＩＤ判定処理を実行しないようにしてもよいし、設定変更処理の実行中にＩＤ判定処理を実行して右側遊技盤５ＡＲからのＩ

Ｄコード信号の入力がない未接続の状態であると判定した場合であっても設定変更処理の実行中には右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態となっていることに応じた報知を行わないようにしてもよい。

【４７３７】

さらに、定期的に分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するＩＤ判定処理を実行する場合には、右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であると判定されたことに基づいて右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態となっていることに応じた報知（遊技盤未接続報知音、未接続エラー報知表示態様、軽微異常報知発光態様等）を開始した後に分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であると判定されたことに基づいて右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態となっていることに応じた報知を終了したり、ＩＤ判定処理において分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であると判定された後に右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であると判定されたことに基づいて右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態となっていることに応じた報知を開始するようにしてもよい。

【４７３８】

また、定期的に分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するように構成した場合に、設定変更処理後の電源投入時動作確認中や設定変更処理を開始する以前にＩＤ判定処理を実行して右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であると判定されたときには、パチンコ機１への電力供給が開始されるときにのみ分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定する場合と同様に、電源投入時動作確認中には演出表示装置１６００において右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることを報知する表示を行う一方、各種スピーカ、及び扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤについては右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることを報知する遊技盤未接続報知音の出力及び軽微異常報知発光態様の点灯を行うことなく、電源投入時動作確認が終了して遊技可能状態が開始されたときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることを報知する遊技盤未接続報知音の出力及び軽微異常報知発光態様の点灯を行うようにしてもよい。

【４７３９】

また、定期的に分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するように構成した場合にも、設定変更処理の実行中に異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）による検出があっても当該検出は無効（検出があるか否かを確認する処理を実行しないものでもよいし、検出があるか否かを確認する処理を実行するものの検出に基づく処理（報知等）を実行しないものであってもよい。）として設定変更処理後にも異常検出手段による設定変更処理中の検出に基づく異常報知を実行しないようにしてもよい。

【４７４０】

また、定期的に分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するように構成した場合に、設定変更処理後の電源投入時動作確認中に右側遊技盤５ＡＲが未接続とされている場合であって、且つ異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）による検出があったときには、電源投入時動作確認中には演出表示装置１６００において右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることと異常検出手段による検出があったこととの両方を報知する表示を行う一方、各種スピーカ、及び扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤについては右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることの報知と異常検出手段による検

出があったことの報知とを行うことなく、電源投入時動作確認が終了して遊技モードが開始されたときに各種スピーカ及び扉枠ユニットにおいて異常検出手段による検出があったことの報知を右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることの報知よりも優先して実行するようにしてもよい。

【４７４１】

このように、本例では設定変更処理を実行する場合にパチンコ機１の電源投入後に、設定変更処理実行中の第１の遊技状態と、電源投入時動作確認実行中の第２の遊技状態と、電源投入時動作確認終了後の遊技モードとしての第３の遊技状態と、の３つの遊技状態に制御されるようになっている。また、第１の遊技状態では右側遊技盤５ＡＲが未接続とされていたり、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合とされていても右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることや分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知しないようになっている。つまり、第１の遊技状態中には演出表示装置１６００や各種スピーカ、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）を右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることや分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知する態様で制御しないようになっている。

【４７４２】

また、第１の遊技状態後の第２の遊技状態中には各種スピーカや、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）を右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることや分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知する態様で制御しない一方、演出表示装置１６００については右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることや分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知する態様で制御するようになっている。なお、第２の遊技状態中に右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態である場合には演出表示装置１６００に文字情報を表示することのみによって右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることを報知し、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合である場合には演出表示装置１６００に文字情報と画像情報とを表示することによって分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知する。このように、第２の遊技状態では演出表示装置１６００の表示だけで右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることや分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知するものの、不利益の発生度合いに応じて報知の強度を異ならせるようになっている。これにより、右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態である場合に比べて不利益の発生度合いが高い分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合である場合に気付かせ易くなる。

【４７４３】

また、第１の遊技状態及び第２の遊技状態の終了後の第３の遊技状態中には、演出表示装置１６００に加えて、各種スピーカや、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）についても右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることや分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知する態様で制御するようになっている。

【４７４４】

すなわち、第１の遊技状態は設定値を設定変更するための作業を行う期間であり、遊技性能（当選し易さ等）を決定することから作業者が集中して慎重に作業を行う必要があるため、右側遊技盤５ＡＲが未接続とされていたり、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合とされていても設定値を設定変更するための作業を邪魔しないように右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることや分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知しないようになっている。なお、第１の遊技状態では右側遊技

盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることや分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知しないだけでなく、他の異常（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチによる検出があった場合や実際には検出されていないが検出され得る状況となった場合（例えば振動が発生しているが振動センサが無効とされていて振動を検出していない場合等））についても報知しないようになっている。

【４７４５】

また、第１の遊技状態後の第２の遊技状態では、正常にＬＥＤを点灯させることが可能であるか否かや駆動モータや駆動ソレノイド等を駆動して可動体を正常に動作させることが可能であるか否かを確認する期間であり、確認作業を伴うことから集中する必要が生じるものの遊技性能を決定するものではないため、確認作業の邪魔にならない程度の報知（本例のように演出表示装置１６００上に報知する程度）のみを行い、ＬＥＤを点滅させたり、報知音を各種スピーカから出力させるような注意を引きつけるような報知は行わないようになっている。なお、第２の遊技状態では扉枠３や分割遊技盤５Ａに備える各種装飾基板に複数実装される各種ＬＥＤを第２の遊技状態でのみ実行される特別な発光態様に繰り返し発光制御することで各種ＬＥＤが正常に発光可能であるか否かを確認できるようになっている。また、第２の遊技状態では右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることや分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを演出表示装置１６００でのみ報知して各種スピーカや、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）については報知しないだけでなく、他の異常（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチによる検出があった場合や実際には検出されていないが検出され得る状況となった場合（例えば振動が発生しているが振動センサが無効とされていて振動を検出していない場合等））についても演出表示装置１６００でのみ報知して各種スピーカや、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）については報知しないようになっている。

【４７４６】

さらに、第１の遊技状態及び第２の遊技状態の終了後の第３の遊技状態では確認作業や遊技性能を決定する作業を伴うものではないため、作業者が右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることや分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを見逃さないように演出表示装置１６００と各種スピーカと扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）との全てを用いて報知するようになっている。

【４７４７】

つまり、本例のパチンコ機１では、第１の遊技状態から第２の遊技状態、さらに第３の遊技状態へと遊技状態が変化すると、右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることや分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知するレベルを変化させるようになっており、第１の遊技状態では全く報知することなく、第２の遊技状態では弱い報知を行い、第３の遊技状態では強い報知を行うようになっている。これにより遊技状態や作業の状況に応じて適切な報知を実行することができるようになる。

【４７４８】

また、第２の遊技状態では、上記したようにパチンコ機１の前面側に配置される操作手段としての演出操作ユニット３００の演出操作部３０１や音量調節スイッチ、光量調節ス

イッチ等が操作されることにより、第１の遊技状態及び第３の遊技状態では実行されない特別な態様を出力するようになっている。具体的には、音量調節スイッチ又は光量調節スイッチが操作されたことに基づいて各種スピーカから特別音を出力させたり、演出操作ユニット３００の演出操作部３０１や音量調節スイッチ又は光量調節スイッチが操作されたことに基づいて各種ＬＥＤの発光色を変化させたり、演出操作ユニット３００の演出操作部３０１や音量調節スイッチ又は光量調節スイッチに対して特定の操作（例えば音量調節スイッチ及び光量調節スイッチを同時に所定期間に亘って押圧する）がなされたことに基づいて演出表示装置１６００に特定の表示を行うようになっている。これにより、パチンコ機１の前面側に配置される操作手段としての演出操作ユニット３００の演出操作部３０１や音量調節スイッチ、光量調節スイッチ等が正常に操作を受け付け可能か否かを確認することができるようになる。

【４７４９】

［設定値の確認表示と分割遊技盤のＩＤエラー］

次に、分割遊技盤５Ａの組み合わせ（つまり右側遊技盤５ＡＲ（マイクロプロセッサが搭載されていない基板）と左側遊技盤５ＡＬ（マイクロプロセッサが搭載された周辺制御基板１５１０や主制御基板１３１０）との組み合わせ）が不適合（不整合）の状態（不適合状態、不整合状態）や右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がなく（右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力を確認することができず）各種信号を伝送する伝送経路に短絡や断線などの不具合が発生するといった左側遊技盤５ＡＬに対して右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていない未接続の状態（未接続状態）で設定値の確認表示を行う場合の挙動例について説明する。なお、比較のために分割遊技盤５Ａの組み合わせ（つまり右側遊技盤５ＡＲ（マイクロプロセッサが搭載されていない基板）と左側遊技盤５ＡＬ（マイクロプロセッサが搭載された周辺制御基板１５１０や主制御基板１３１０）との組み合わせ）が適合（整合）の状態（整合状態）で設定値の確認表示を行う場合の挙動例についても説明する。図３３４は分割遊技盤５Ａの組み合わせとして左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとから構成される分割遊技盤５Ａが適合（整合）する状態で設定値の確認表示を行う場合の挙動例であり、図３３５は分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態で設定値の確認表示を行う場合の挙動例であり、図３３８は右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態で設定値の確認表示を行う場合の挙動例である。以下では設定変更処理を実行する場合と異なる部分についてのみ説明し、重複した説明を行わない。

【４７５０】

［適合時における設定値の確認表示］

図３３４に示すように、パチンコ機１への電源供給が開始されると、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは所定期間に亘って演出表示装置１６００に「ｐｏｗｅｒｏｎ」と表示させてパチンコ機１への電源が投入されたことを報知する。一方、左側遊技盤５ＡＬに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される装飾基板に実装される各種ＬＥＤやサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤ、右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、さらに左側遊技盤５ＡＬに設けられて主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによって制御される機能表示ユニット１４００のＬＥＤ、は消灯状態とされる。また、上記したようにパチンコ機１への電源供給開始時に予め定めた設定値表示許可条件が成立する場合（この例では主制御基板１３１０に備える設定キースイッチ１３１１ａに設定キーを挿入してＯＮ操作した後に、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの押圧操作部を押圧操作することなしに、電源基板６３０に備える電源スイッチ６３０ａを操作してパチンコ機１の電源投入を行う場合）には、所定期間経過後に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａにより設定値確認表示処理（ステップＳ２８）が実行されて主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されているＲＡＭの特定領域に格納されている現状の設定値（設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダが第１のＯＮ操作された時点における設定値１～設定値６のうち設定されている値）を設定表示器１３１０ｇ（又は設定表示器としての機能を兼ねるベースモニタ１３１０ｈ）に表示させることが可能になっている。

【４７５１】
また、設定値確認表示処理が開始されると設定値の確認表示を開始する旨を伝える設定値確認表示開始コマンドが周辺制御基板１５１０に送信され、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは設定値確認表示開始コマンドを受信すると、演出表示装置１６００に設定確認中報知態様（本例では「設定確認中」）を表示させる（設定値確認表示処理を終了するまで表示させるものであってもよいし、一定期間表示させた後に表示を終了させるものであってもよい。）とともに、設定値確認表示報知音（「設定確認中」というアナウンス音声及び「キンコーン」等の警告音）を予め決められている音量（設定可能な最大の音量でもよいし、周辺制御基板１５１０に備える音量調整スイッチにより調整されるデフォルト音量でもよい。）で各種スピーカから繰り返し出力させる（設定値確認表示処理を終了するまで繰り返し出力させるものであってもよいし、一定回数（例えば５回）又は一定期間（例えば３０秒）繰り返し出力した後に出力を停止させるものであってもよい。）。
【４７５２】
また、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）及び右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）を設定値の確認表示時の設定確認報知発光態様（この例では扉枠ユニットの各種ＬＥＤと右側遊技盤５ＡＲとを短時間で青色の発光色と白色の発光色とに切り替える態様）に発光制御させる（設定値確認表示処理を終了するまで設定確認報知発光態様で点灯させるものであってもよいし、一定期間設定確認報知発光態様で発光させた後に設定確認報知発光態様を終了して消灯又は別の発光態様で点灯させるものであってもよい。）。これにより設定値の確認表示が実行されていることを報知し、不正に設定値が確認されている場合に直ぐに発見できるようになる。
【４７５３】
上記したように、本例では主制御基板１３１０に備える設定キースイッチ１３１１ａに設定キーを挿入してＯＮ操作した後に、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの押圧操作部を押圧操作することなしに、電源基板６３０に備える電源スイッチ６３０ａを操作してパチンコ機１の電源投入を行う場合に予め定めた設定値表示許可条件が成立する。すなわち、設定値確認表示処理は外枠２に対して本体枠４が開放された状態で実行されて、設定値確認表示処理を終了するときに外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じるようになっている。
【４７５４】
ところが、本例のパチンコ機１では設定値確認表示処理の実行中には外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する各種スピーカからの扉開放報知音の出力及び重大異常報知発光態様の発光制御は実行されないようになっている。つまり、パチンコ機１への電源供給開始時に予め定めた設定値表示許可条件が成立している場合には、外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する各種スピーカからの扉開放報知音の出力及び重大異常報知発光態様の発光制御を行うことなく各種スピーカから設定値確認表示報知音の出力が行われるとともに設定確認報知発光態様の発光制御を行うようになっている。そのため、設定値確認表示処理を実行した場合には設定値確認表示処理の終了後に、外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する各種スピーカからの扉開放報知音の出力及び重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様を含む）の発光制御を実行可能とされる。
【４７５５】
なお、外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じた後に設定値確認表示処理を終了させた場合、すなわち設定値確認表示処理の実行中に本体枠４を閉じた場合であってその後に本体枠４が継続して閉じた状態とされているときには、設定値確認表示処理の終了後にも外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する各種スピーカからの扉開放報知

音の出力及び重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様を含む）は実行されない。ただし、通常は設定値を確認表示する場合に遊技ホールの店長等がパチンコ機１の正面側から外枠２に対して本体枠４を開放させた状態で設定値を確認表示するための操作を行うため、設定値確認表示処理の終了後に外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じる操作がなされる。また、上記したように外枠２に対して開放されている本体枠４を閉じるか又は外枠２に対して本体枠４を開放している状態であって外枠２に対して本体枠４を開放させてからの経過時間が所定期間（例えば３０秒。なお本例では電源投入時動作確認に要する時間よりも短くされる。）に達している場合には扉開放報知音の出力を停止させて、消音状態とされる。そのため、通常は設定値確認表示処理を実行した場合に設定値確認表示処理の終了後に、外枠２に対して本体枠４を開放させてからの経過時間が所定期間に達していなければ外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する各種スピーカからの扉開放報知音の出力と重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様を含む）の発光制御との両方が実行され、外枠２に対して本体枠４を開放させてからの経過時間が所定期間に達していれば外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する重大異常報知発光態様の発光制御のみが実行されるようになっている。

【４７５６】

また、設定値確認表示処理の実行中に各種スピーカから出力される設定値確認表示報知音は音量調節ボタン２２７による音量の調節が不可能とされている。上記したように遊技者は音量調節ボタン２２７を操作することにより各種スピーカから出力される音量を調節することが可能であるが、設定値確認表示処理の実行中に出力される設定値確認表示報知音の音量は遊技者が音量調節ボタン２２７を操作しても調節することができないようになっている。そのため、設定値確認表示処理の実行中には予め決められた音量で設定値確認表示報知音を出力させることができるようになり、各種スピーカから出力される音声によって設定値の確認表示が行われていることを確実に伝えることができるため、設定値の確認表示が行われている場合には直ぐに発見できるようになり、不正に設定値が確認されることを抑制できる。

【４７５７】

また、設定値確認表示処理の実行中に行われる設定確認報知発光態様も光量調節ボタン２２８による光量の調節が不可能とされている。上記したように遊技者は光量調節ボタン２２８を操作することにより扉枠３や分割遊技盤５Ａに設けられている各種の装飾基板に実装されるＬＥＤのうちの一部のＬＥＤについて光量（輝度）を調節することが可能であるが、設定値確認表示処理の実行中に行われる設定確認報知発光態様は遊技者が光量調節ボタン２２８を操作しても調節することができないようになっている。そのため、設定値確認表示処理の実行中には予め決められた光量（輝度）で扉枠３や分割遊技盤５Ａに設けられている各種の装飾基板のＬＥＤが発光制御されて設定確認報知発光態様を行うことができるようになり、設定確認報知発光態様によって設定値の確認表示が行われていることを確実に伝えることができるため、不正に設定値の確認表示が行われている場合には直ぐに発見できるようになり、不正に設定値が確認されることを抑制できる。

【４７５８】

また、設定値確認表示処理の実行中には音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８を操作しても演出表示装置１６００に現在の音量や光量（輝度）に応じた目盛が表示されず、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８の操作に応じた確認音も出力されないし、演出表示装置１６００に現在の音量や光量（輝度）に応じた目盛が表示されないため音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８を複数回操作しても目盛が変化することもない。そのため、演出表示装置１６００における設定確認中報知態様の視認が現在の音量や光量（輝度）に応じた目盛によって妨げられることを抑制できるし、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８の操作に応じた確認音によって設定値確認表示報知音が聞き取りにくくなることを抑制でき、不正に設定値の確認表示が行われている場合には直ぐに

発見できるようになる。

【４７５９】

また、設定値確認表示処理の実行中には、左側遊技盤５ＡＬに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される装飾基板に実装される各種ＬＥＤやサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤ、さらに左側遊技盤５ＡＬに設けられて主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによって制御される機能表示ユニット１４００のＬＥＤ、は消灯状態とされる。すなわち、本例のパチンコ機１では左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとによって分割遊技盤５Ａを構成するものでありながらも、設定確認中に左側遊技盤５ＡＬに設けられる各種ＬＥＤについては主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによって制御されるか周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御されるかにかかわらず全て消灯され、右側遊技盤５ＡＲに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される各種ＬＥＤについてのみ点灯されるようになっている。

【４７６０】

このように、設定値確認表示処理の実行中には分割遊技盤５Ａに設けられる各種ＬＥＤのうち、左側遊技盤５ＡＬに設けられる各種ＬＥＤと右側遊技盤５ＡＲに設けられる各種ＬＥＤとの発光態様を異ならせるため、パチンコ機１を視認した者に違和感を与えて設定値確認表示処理が実行されていることを直ぐに気付かせることができる。なお、左側遊技盤５ＡＬに実装される装飾基板や、機能表示ユニット１４００、サブ機能表示ユニット２２５０のそれぞれに実装される各種ＬＥＤのうち左側遊技盤５ＡＬに実装される装飾基板に実装される各種ＬＥＤについても扉枠ユニットの各種ＬＥＤや右側遊技盤５ＡＲとは異なる発光態様（例えば予め定められている輝度（最大輝度でも良いし、最大輝度よりも低下させた輝度でもよく、光量調節ボタン２２８による光量の調節が不可能とされるものであってもよい。）の赤色に点灯させる（点滅させない）態様）で点灯させるようにしてもよいし、当落に関する情報を表示する機能表示ユニット１４００のＬＥＤとサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤとの一方又は両方を設定確認報知発光態様で点灯させるようにしてもよく、この場合にも右側遊技盤５ＡＲに設けられるＬＥＤの発光態様と左側遊技盤５ＡＬに設けられるＬＥＤの発光態様とを異ならせることができるため、設定値確認表示処理が実行されていることを直ぐに気付かせることが可能である。

【４７６１】

また、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは設定値の確認表示の終了操作（この例では主制御基板１３１０に備える設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダを初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すＯＦＦ操作）が行われたことに基づいて設定表示器１３１０ｇ（又は設定表示器としての機能を兼ねるベースモニタ１３１０ｈ）に表示している主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されている設定値を非表示にするとともに設定値確認表示処理を終了する旨を通知する設定値確認表示終了コマンドを周辺制御基板１５１０に送信する。

【４７６２】

また、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、主制御ＭＰＵ１３１０ａから設定値確認表示終了コマンドを受信すると、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータ及び駆動ソレノイド等を所定の態様で駆動させて正常に点灯や動作を実行可能であるか否かを確認する電源投入時動作確認を行う。なお、電源投入時動作確認では周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される各種ＬＥＤのうちの当落に関する情報を表示するサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤを除くＬＥＤ（左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤや右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ等）を所定の発光態様（電源投入時動作確認時の発光態様）で点灯させるようになっているが、設定値確認表示処理を実行した場

合には外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する重大異常報知発光態様の発光制御を行わない場合にのみ周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される各種ＬＥＤのうちの当落に関する情報を表示するサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤを除くＬＥＤを所定の発光態様（電源投入時動作確認時の発光態様）で点灯させるようになっている。

【４７６３】

上記したように外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する重大異常報知発光態様の発光制御は、設定値確認表示処理の実行中に本体枠４を閉じた場合であってその後に本体枠４が継続して閉じた状態とされているときには設定値確認表示処理の終了後にも実行されない。すなわち、設定値確認表示処理の実行中に本体枠４を閉じた場合であってその後に本体枠４が継続して閉じた状態とされているときには電源投入時動作確認として周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される各種ＬＥＤのうちの当落に関する情報を表示するサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤを除くＬＥＤ（左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤや右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、扉枠ユニットを所定の発光態様（電源投入時動作確認時の発光態様）で点灯させる。一方、設定値確認表示処理の終了後に本体枠４を閉じた場合には外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する重大異常報知発光態様に発光制御し、本体枠４を閉じてから所定期間（例えば６０秒、本例では周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる電源投入時動作確認を開始してから電源投入時動作確認を終了するまでの期間よりも長くされている。）が経過したときに重大異常報知発光態様の発光制御を終了して、通常時（遊技可能状態時）と同様に遊技状態に応じた発光態様（演出時の発光態様）の発光制御を開始するようになっている。

【４７６４】

また、設定値確認表示処理の終了後には、演出表示装置１６００に演出時の態様（装飾図柄や通常時（遊技可能状態時）の背景画像等）が表示され、電源投入時動作確認が終了すると当落に関する情報を表示する機能表示ユニット１４００のＬＥＤとサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤとが所定の発光態様で点灯されたり、変動表示の開始条件が成立（始動口（第一始動口２００２又は第一始動口２００２と第二始動口２００４との一方へ遊技球が入球）したことに基づいて所定の発光態様（変動演出時の発光態様（所定期間に亘って点滅したのち所定の発光態様で点灯））で発光制御されるようになっている。また、上記したように本例では扉開放報知音の出力期間が電源投入時動作確認に要する期間よりも短くされているため、設定値確認表示処理を開始するときに外枠２に対して本体枠４を開放して設定値確認表示処理が終了したときにも外枠２に対して本体枠４が継続して開放されている場合には既に本体枠４を開放してからの経過時間が所定時間（例えば３０秒）に達している。そのため、設定値確認表示処理が終了したときに外枠２に対して本体枠４が開放されている場合であっても各種スピーカから扉開放報知音が出力されることはなく、演出時の音出力（変動表示の開始条件が成立（始動口（第一始動口２００２又は第一始動口２００２と第二始動口２００４との一方へ遊技球が入球）したことに基づいて行われる演出音の出力）を実行可能な状態とされる。

【４７６５】

また、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａにより設定値確認表示処理（ステップＳ２８）が終了し、割り込み許可設定（ステップＳ５２）が行われることにより球発射装置５４０により遊技球の発射が可能となり、当落に関する情報を表示する機能表示ユニット１４００のＬＥＤ及びサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤの発光制御が開始される。このように、本例のパチンコ機１では設定値確認表示処理（ステップＳ２８）の実行中に球発射装置５４０によって遊技球が発射されないようになっている。なお、機能表示ユニット１４００のＬＥＤ及びサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤを発光制御可能な状態とするものであればよく、球発射装置５４０により遊技球の発射が可能となったことに基づいて直ぐに機能表示ユニット１４００のＬＥＤやサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤの一方又は両方を所定の態様で点灯させるものに限らず、機能表示ユニット１４

００のＬＥＤやサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤの一方又は両方を変動表示の開始条件が成立（始動口（第一始動口２００２又は第一始動口２００２と第二始動口２００４との一方へ遊技球が入球）したことに基づいて特別図柄の変動表示時の発光態様や変動演出時の発光態様で点灯させるものであってもよいし、異常状態等を報知する発光態様の終了後に特別図柄の変動表示時の発光態様や変動演出時の発光態様で点灯させたり特別図柄の変動表示時の発光態様や演出時の発光態様に発光制御可能な状態とするものであってもよい。

【４７６６】

［不適合時における設定値の確認表示］

次に、分割遊技盤５Ａの組み合わせ（つまり右側遊技盤５ＡＲ（マイクロプロセッサが搭載されていない基板）と左側遊技盤５ＡＬ（マイクロプロセッサが搭載された周辺制御基板１５１０や主制御基板１３１０）との組み合わせ）が不適合（不整合）の状態（不整合状態）で設定値の確認表示を行う場合の挙動例について図３３５を参照して説明する。なお、以下では設定変更処理を実行する場合や適合時に設定値確認表示処理を実行する場合と異なる部分についてのみ説明し、重複した説明を行わない。

【４７６７】

図３３５に示すように、パチンコ機１への電源供給が開始されたときに周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって実行されるＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａから右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ等の電子部品に制御信号が出力されないようになっており、右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される電子部品は設定値の確認表示中であるか否かにかかわらず非駆動状態（例えば各種ＬＥＤは消灯された状態）とされる。また、本例ではパチンコ機１への電源供給が開始されたときに周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって実行されるＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合には、左遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤも設定値の確認表示中か否かに関わらず消灯状態とされるようになっている。

【４７６８】

また、本例では周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定されても設定値確認表示処理を終了するまで（主制御ＭＰＵ１３１０ａから設定値確認表示終了コマンドを受信するまで）は分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知することなく、設定値確認表示処理を実行していることの報知を行うようになっている。即ち、設定値確認表示処理の実行中には演出表示装置１６００に設定確認中報知態様（本例では「設定確認中」）を表示させ（設定値確認表示処理を終了するまで表示させるものであってもよいし、一定期間表示させた後に表示を終了させるものであってもよい。）、設定値確認表示報知音（「設定確認中」というアナウンス音声及び「キンコーン」等の警告音）を予め決められている音量（設定可能な最大の音量でもよいし、周辺制御基板１５１０に備える音量調整スイッチにより調整されるデフォルト音量でもよい。）で各種スピーカから繰り返し出力させる（設定値確認表示処理を終了するまで繰り返し出力させるものであってもよいし、一定回数（例えば５回）又は一定期間（例えば３０秒）繰り返し出力した後に出力を停止させるものであってもよい。）、扉枠ユニットの各種ＬＥＤを設定値の確認表示時の設定確認報知発光態様に発光制御させる一方、右側遊技盤５ＡＲ及び左遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、機能表示ユニット１４００のＬＥＤ、及びサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤは消灯状態とされる。

【４７６９】

そして、設定値確認表示処理が終了すると主制御ＭＰＵ１３１０ａは設定値確認表示終了コマンドを周辺制御基板１５１０に送信する。周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、設定値確認表示終了コマンドを受信すると、遊技盤不適合報知音（「右側遊

技盤不適合エラーが発生しました。電源を切って確認してください。」というアナウンス音声及び「キンコーン」等の警告音）を予め決められている音量（設定可能な最大の音量でもよいし、周辺制御基板１５１０に備える音量調整スイッチにより調整されるデフォルト音量でもよい。）でパチンコ機１への電源供給が遮断されるまで各種スピーカから繰り返し出力させる（一定回数（例えば５回）又は一定期間（例えば３０秒）繰り返し出力した後に出力を停止させるものであってもよい）とともに、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）を重大異常報知発光態様（本例では最大輝度の赤色の点灯と消灯とに短時間（例えば０．５秒）で切り替える態様（高速点滅態様））に繰り返し発光制御する。また、演出表示装置１６００については装飾図柄や通常時（遊技可能状態時）の背景画像等を表示することなく異常時の背景画像（例えば黒色）と演出表示装置１６００に不適合エラー報知表示態様としての「右側遊技盤不適合エラー発生」を表示して分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知する。一方、右側遊技盤５ＡＲ及び左遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、機能表示ユニット１４００のＬＥＤ、及びサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤは継続して消灯状態に制御される。

【４７７０】

なお、遊技盤不適合報知音は同一の報知音（例えば「ビー」等）が断続的に出力されるものではなく、音階が異なる複数の音によって構成されるものであり、さらに消音状態と出力状態とに繰り返し制御される。また、重大異常報知発光態様は点灯状態が固定されるものではなく、点灯状態と消灯状態とに繰り返し制御されて光量を変化させるものである。つまり、各種スピーカ及び各種ＬＥＤにおいては時間の経過に応じて音階や音量、光量等の変化を伴う動的態様で分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知するようになっている。これにより、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を伴う電源投入時動作確認が終了して確認作業の必要がない遊技モードが開始されたときに、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを気付かせ易くなる。

【４７７１】

また、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる電源投入時動作確認が終了し、遊技モードが開始された場合には、遊技盤不適合報知音の出力と、扉枠ユニットの重大異常報知発光態様の発光制御と、演出表示装置１６００の不適合エラー報知表示態様の表示と、を継続しつつ、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、左側遊技盤５ＡＬに設けられて主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによって制御される機能表示ユニット１４００のＬＥＤと左側遊技盤５ＡＬに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御されるサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤとを適合時と同様に発光制御可能な状態とする（所定の態様で点灯させるものでもよい）。すなわち、変動表示の開始条件が成立（始動口（第一始動口２００２又は第一始動口２００２と第二始動口２００４との一方へ遊技球が入球）したことに基づいて機能表示ユニット１４００のＬＥＤとサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤとを所定の態様で点滅させた後、所定の発光態様で点灯させて当落に関する情報を表示することが可能な状態となる。

【４７７２】

なお、演出表示装置１６００における不適合エラー報知表示態様は時間の経過に応じて表示の変化を伴わない静止画像とされて、パチンコ機１への電源供給が遮断されるまで継続し、変動表示の開始条件が成立（始動口（第一始動口２００２又は第一始動口２００２と第二始動口２００４との一方へ遊技球が入球）したことに基づいて機能表示ユニット１４００において特別図柄の変動表示が開始されたりサブ機能表示ユニット２２５０において第４図柄の変動表示が開始された場合であっても演出表示装置１６００では不適合エラー報知表示態様の表示を継続して装飾図柄の変動表示等の変動演出を行わないようになっている。また、演出表示装置１６００における不適合エラー報知表示態様はエラー内容に

応じたものであればよく、文字と数字の組み合わせ（例えばエラーコード）やマーク等であってもよい。このように設定値確認表示処理後の主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を伴わない電源投入時動作確認の実行中には演出表示装置１６００において時間の経過に関わらず表示が変化しない静的態様で分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知するようになっている。これにより、電源投入時動作確認時における確認作業を邪魔することなく、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知することができるようになる。

【４７７３】

このように、本例では分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合には、設定値確認表示処理の終了後に外枠２に対して本体枠４が開放されたことに応じた異常報知を行うことなしに、直ぐに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知するようになっている。すなわち、設定値確認表示処理の終了後には、外枠２に対して本体枠４が開放されてからの経過時間が所定期間に達しているか否かに関わらず扉開放報知音を出力させることなしに遊技盤不適合報知音を出力させる。また、設定値確認表示処理の終了後には重大異常報知発光態様に発光制御するものの、外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因するものではなく、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることに起因して実行されるようになっている。そのため、設定値確認表示処理の終了後に、本体枠４を閉じてから所定期間（例えば６０秒）が経過しているか否かに関わらず常に重大異常報知発光態様に発光制御される。

【４７７４】

また、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態では変動表示の開始条件が成立（始動口（第一始動口２００２又は第一始動口２００２と第二始動口２００４との一方へ遊技球が入球）した場合であっても演出表示装置１６００や各種スピーカ、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ、及び左側遊技盤５ＡＬに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される装飾基板に実装される各種ＬＥＤによる変動演出を実行することなく、異常が発生していることを報知するようになっている。一方、機能表示ユニット１４００のＬＥＤとサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤとは、設定変更処理（ステップＳ３７）の終了後に割り込み許可設定（ステップＳ５２）されると変動表示の開始条件が成立（始動口（第一始動口２００２又は第一始動口２００２と第二始動口２００４との一方へ遊技球が入球）ことに基づいて所定の発光態様に発光制御されて当落に関する情報を表示することが可能になっている。

【４７７５】

また、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合には、設定値の確認表示を行うか否かに関わらず分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）であることを同一のタイミングで報知するようになっている。具体的には、設定値の確認表示を行うか否かに関わらず電源投入時動作確認を実行するときに扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）による重大異常報知発光態様での発光制御と各種スピーカによる遊技盤不適合報知音の出力と演出表示装置１６００に異常時の背景画像（例えば黒色）及び不適合エラー報知表示態様を表示するタイミングと、を開始するようになっている。これにより、重要度の高い情報（この場合には設定値の確認表示を実行していることの報知）を順次に報知して対処させることができるため、それぞれの情報を確実に伝えて対処させることができるようになる。なお、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイ

ドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）による重大異常報知発光態様での発光制御と各種スピーカによる遊技盤不適合報知音の出力と演出表示装置１６００に異常時の背景画像（例えば黒色）及び不適合エラー報知表示態様を表示するタイミングと、の一部又は全部について、設定値の確認表示を行うか否かによって開始するタイミングを異ならせるようにしてもよい。

【４７７６】

また、本例のパチンコ機１では周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって実行されるＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合には、設定値確認表示処理の終了後に電源投入時動作確認を実行しているとき、すなわち主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を伴うことなく電源投入時動作確認のみを実行しているときには、音量調節ボタン２２７によって音量を調節できないようになっている。上記したように、本例のパチンコ機１では音量調節ボタン２２７を操作することにより各種スピーカから出力される音量を調節することが可能であるが、設定変更処理の終了後に出力される遊技盤不適合報知音の音量は音量調節ボタン２２７を操作しても調節することができないようになっている。そのため、設定値確認表示処理が終了した場合には予め決められた音量で遊技盤不適合報知音を出力させることができるようになり、各種スピーカから出力される音声によって分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを確実に伝えることができるため、遊技者や遊技店に不利益を与えないようにすることができる。

【４７７７】

同様に、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって実行されるＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合には、設定値確認表示処理の終了後に電源投入時動作確認を実行しているとき、すなわち主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を伴うことなく電源投入時動作確認のみを実行しているときには、光量調節ボタン２２８によって光量（輝度）を調節できないようになっている。上記したように本例のパチンコ機１では光量調節ボタン２２８を操作することにより扉枠３や分割遊技盤５Ａに設けられている各種の装飾基板のＬＥＤの光量（輝度）を調節することが可能であるが、設定値確認表示処理の終了後に発光制御される重大異常報知発光態様は光量調節ボタン２２８を操作しても調節することができないようになっている。そのため、設定値確認表示処理が終了した場合には予め決められた光量（輝度）で扉枠３や分割遊技盤５Ａに設けられている各種の装飾基板のＬＥＤを発光制御させることができるようになり、発光態様によって分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを確実に伝えることができるため、遊技者や遊技店に不利益を与えないようにすることができる。

【４７７８】

また、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって実行されるＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合には、設定値確認表示処理の終了後に電源投入時動作確認を実行しているとき、すなわち主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を伴うことなく電源投入時動作確認のみを実行しているときには、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８を操作しても演出表示装置１６００に現在の音量や光量（輝度）に応じた目盛が表示されないようになっている。また、演出表示装置１６００に現在の音量や光量（輝度）に応じた目盛が表示されないため音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８を複数回操作しても目盛が変化することもない。そのため、演出表示装置１６００における不適合エラー報知表示態様の一部又は全部の視認が現在の音量や光量（輝度）に応じた目盛によって妨げられることを抑制でき、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを確実に伝えることができる。

【４７７９】

また、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって実行されるＩＤ判定処

理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合には、設定値確認表示処理の終了後に電源投入時動作確認を実行しているとき、すなわち主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を伴うことなく電源投入時動作確認のみを実行しているときには、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８の操作に応じた確認音が出力されないようになっている。そのため、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８の操作に応じた確認音によって遊技盤不適合報知音が聞き取りにくくなることを抑制でき、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを確実に伝えることができるようになる。

【４７８０】

なお、本例のパチンコ機１ではパチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合には、設定値確認表示処理の実行中に異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）による検出があっても当該検出は無効（検出があるか否かを確認する処理を実行しないものでもよいし、検出があるか否かを確認する処理を実行するものの検出に基づく処理（報知等）を実行しないものであってもよい。）とされるようになっている。

【４７８１】

具体的には、図３３６に示すように設定値確認表示処理の実行中に不正な磁気が発生して主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されても不正な磁気を検出したことに基づく異常報知を実行することなく、検出信号を破棄するようになっている。すなわち、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合であって、設定値確認表示処理の実行中に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されたときには、磁気センサ１０５０からの検出信号を無視し、設定値確認表示処理の終了後に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されていないものとして制御を実行する。

【４７８２】

また、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合であって、設定値確認表示処理の終了後に実行される電源投入時動作確認の実行中に異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）により異常が検出されたとき、すなわち主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を伴わない電源投入時動作確認の実行中に異常検出手段により異常が検出されたとき、にも異常検出手段の検出は無効（検出があるか否かを確認する処理を実行しないものでもよいし、検出があるか否かを確認する処理を実行するものの検出に基づく処理（報知等）を実行しないものであってもよい。）とされるようになっている。

【４７８３】

具体的には、図３３７に示すようにパチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合であって、設定値確認表示処理の終了後に実行される電源投入時動作確認の実行中に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａ

に磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されたときには、不正な磁気を検出したことに基づく異常報知を実行することなく、検出信号を破棄するようになっている。すなわち、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合であって、設定値確認表示処理の終了後に実行される電源投入時動作確認の実行中に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されたときには、磁気センサ１０５０からの検出信号を無視し、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されていないものとして制御を継続する。

【４７８４】

また、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合であって、電源投入時動作確認の終了後の遊技モード中に異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）により異常が検出されたときにも異常検出手段の検出は無効（検出があるか否かを確認する処理を実行しないものでもよいし、検出があるか否かを確認する処理を実行するものの検出に基づく処理（報知等）を実行しないものであってもよい。）とされるようになっている。

【４７８５】

具体的には、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合であって、電源投入時動作確認の終了後の遊技モード中に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されたときには、不正な磁気を検出したことに基づく異常報知を実行することなく、検出信号を破棄するようになっている。すなわち、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合であって、電源投入時動作確認の終了後の遊技モード中に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されたときには、磁気センサ１０５０からの検出信号を無視し、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されていないものとして制御を継続する。

【４７８６】

このように、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合には、異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）により異常が検出されても異常報知をおこなわないようになっている。

【４７８７】

すなわち、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合の状態とされている場合には設計者の意図しない挙動で遊技が進行してしまい、遊技店や遊技者に不利益を与えるおそれがあるし、そもそも本来の仕様とは異なるものとなるものとなることで遊技者の信頼を失うおそれがあるため、遊技を確実にやめさせる必要がある。そのため、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合の状態とされている場合には、異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、

振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）による異常の検出に起因する報知よりも優先して報知することにより、遊技を回避させて遊技店や遊技者への不利益の発生を抑制するようになっている。

【４７８８】

なお、一部のＬＥＤについては異常検出手段の種類に応じて異なる発光態様に制御するようにしてもよく、例えば上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力された場合に機能表示ユニット１４００のＬＥＤとサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤとの一方又は両方を消灯させる（発光制御不可能な状態とする）ようにしてもよい。

【４７８９】

また、上記したように本例ではパチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合（整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であると判定された場合には、その後に分割遊技盤５ＡＲの組み合わせが不適合（不整合）の状態となっても右側遊技盤５ＡＲが不適合の状態となっていることに応じた報知（遊技盤不適合報知音、不適合エラー報知表示態様、重大異常報知発光態様等）は実行されないが、このようなパチンコ機１への電力供給が開始されるときにのみ分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するものに限らず、パチンコ機１への電力供給開始後に周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって定期的（例えば周辺制御部定常処理が実行される毎、常時判定）に分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するＩＤ判定処理を実行するようにしてもよい。この場合にはパチンコ機１への電力供給が開始された後に分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合となったことに基づいてその旨を報知することができるようになるため、不利益の発生を抑制することができる。

【４７９０】

なお、定期的に分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するＩＤ判定処理を実行する場合であっても設定値確認表示処理の実行中にＩＤ判定処理を実行しないようにしてもよいし、設定値確認表示処理の実行中にＩＤ判定処理を実行して分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定した場合であっても設定値確認表示処理の実行中には右側遊技盤５ＡＲが不適合の状態となっていることに応じた報知を行わないようにしてもよい。

【４７９１】

また、定期的に分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するように構成した場合に、設定値確認表示処理後の電源投入時動作確認中や設定値確認表示処理を開始する以前にＩＤ判定処理を実行して分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定されたときには、パチンコ機１への電力供給が開始されるときにのみ分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定する場合と同様に、電源投入時動作確認中に演出表示装置１６００と、各種スピーカと、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤと、について分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知するようにしてもよい。

【４７９２】

また、定期的に分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するように構成した場合にも、設定値確認表示処理の実行中に異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）による検出があっても当該検出は無効（検出があるか否かを確認する処理を実行しないものでもよいし、検出があるか否かを確認する処理を実行するものの検出に基づく処理（報知等）を実行しないものであってもよい。）として設定値確認表示処理後にも異常検

出手段による設定値確認表示処理中の検出に基づく異常報知を実行しないようにしてもよい。

【４７９３】

また、定期的に分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するように構成した場合に、設定値確認表示処理後の電源投入時動作確認中に分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合とされている場合であって、且つ異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）による検出があったときには、演出表示装置１６００と、各種スピーカと、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤと、による分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることの報知を、異常検出手段による検出があったことの報知よりも優先して実行し、分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合と判定された場合に異常検出手段による検出があったことの報知を行うようにしてもよい。

【４７９４】

また、設定値確認表示処理の終了後（主制御ＭＰＵ１３１０ａから設定値確認表示終了コマンドを受信した後）に行われる電源投入時動作確認では、不適合と判定された右側遊技盤５ＡＲに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等についての電源投入時動作確認を行わないだけに限らず、電源投入時動作確認を実行する可動体（分割遊技盤５Ａに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１や、扉枠３に設けられる演出操作ユニット３００の演出操作部３０１等）のうちの扉枠ユニットに設けられてＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）においてＩＤ判定の対象とされていない演出操作部３０１を駆動させる駆動モータや駆動ソレノイドについても電源投入時動作確認を行わないようになっている。

【４７９５】

具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定されている場合には、電源投入時動作確認を開始しても不適合と判定された右側遊技盤５ＡＲに設けられているＬＥＤを電源投入時動作確認時の発光態様で点灯させる制御や可動体を電源投入時動作確認時の動作態様で動作させる制御を行わない（右側遊技盤５ＡＲに制御信号を出力しない。）か又は行えない（制御信号を出力するものの右側遊技盤５ＡＲに制御信号が入力されない。）ことに加えて、扉枠３に設けられるとともにＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）においてＩＤ判定の対象とされていない皿ユニット２００（この例では演出操作ユニット３００）に設けられる駆動モータや駆動ソレノイドを駆動させて演出操作ユニット３００に設けられる演出操作部３０１を動作させる制御を行わない。

【４７９６】

すなわち右側遊技盤５ＡＲが不適合状態である場合にはＩＤ判定の対象とされていない扉枠ユニットに設けられる可動体の一部または全部についても不適合とされているおそれがあり、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａから制御信号が入力された場合に、本来とは異なる動作態様で可動体が動作するおそれがあるため、不適合と判定された右側遊技盤５ＡＲやＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）におけるＩＤ判定の対象とされていない扉枠ユニットに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等によって動作される可動体の一部又は全部についても駆動させないようにし、これにより可動体が本来とは異なる動作態様で動作して可動体や扉枠ユニットが破損することや可動体を動作させる駆動モータや駆動ソレノイド等が故障することを抑制できるようにしている。

【４７９７】

なお、上記したように遊技盤側構成部として遊技盤５と扉枠ユニットのうちの特定の扉

枠ユニットとを備えるように構成してもよく、この場合には特定の扉枠ユニットがＩＤ判定の対象とされ、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において不適合と判定された場合にＩＤ判定の対象とされていない扉枠ユニット（非特定の扉枠ユニット）に設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等によって動作される可動体の一部又は全部についても駆動させないようにしてもよいし、これに加えて、又はこれとは別に、特定の扉枠ユニットが複数（例えば扉枠右サイドユニット４３０と扉枠トップユニット４５０）ある場合には一部（例えば扉枠右サイドユニット４３０と扉枠トップユニット４５０との一方）について不適合と判定された場合には特定の扉枠ユニットに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等によって動作される可動体の全てを駆動させないようにしてもよいし、特定の扉枠ユニットを含む全ての扉枠ユニットに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等によって動作される可動体の全てを駆動させないようにしてもよい。

【４７９８】

一方、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）を実行する周辺制御ＩＣ１５１０ａが実装される周辺制御基板１５１０を備える左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体（分割遊技盤５Ａのうちの左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１等）は、電源投入時動作確認を開始すると、通常（分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であると判定された場合）と同様に動作される。なお、左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体（分割遊技盤５Ａのうちの左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１等）に設けられる基板に実装されるＬＥＤは電源投入時動作確認時の発光態様に発光制御されないようになっている。すなわち、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）で右側遊技盤５ＡＲが不適合状態であると判定された場合には、左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体（分割遊技盤５Ａのうちの左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１等）を電源投入時動作確認時の動作態様で動作させるものの、左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体に設けられるＬＥＤは電源投入時動作確認時の発光態様に発光制御されず、消灯されている状態で電源投入時動作確認時の動作態様に動作されるようになっている。これにより、分割遊技盤５Ａのうちの周辺制御基板１５１０が設けられている遊技盤（この場合には左側遊技盤５ＡＬ）であることを容易に特定できるようになる。

【４７９９】

また、本例では周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定されている場合に、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）においてＩＤ判定の対象とされていない扉枠ユニット（この例では皿ユニット２００）の演出操作ユニット３００に設けられる基板に実装される駆動モータや駆動ソレノイドを駆動させて演出操作部３０１を動作させる制御を行わないだけでなく、演出操作ユニット３００に設けられる基板に実装される各種ＬＥＤについても電源投入時動作確認時の発光態様に発光制御されないようになっている。すなわち、設定確認表示処理の終了後に電源投入時動作確認が実行された場合に周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定されている場合には、演出操作ユニット３００に設けられる基板に実装される各種ＬＥＤについては分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることに起因する重大異常報知発光態様に発光制御される。なお、演出操作ユニット３００をＩＤ判定の対象とされる特定の扉枠ユニットとしてもよく、

この場合であってもＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において演出操作ユニット３００以外の特定の扉枠ユニットや分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定されていれば演出操作ユニット３００に設けられる基板に実装される駆動モータや駆動ソレノイドを駆動させて演出操作部３０１を動作させる制御を行わないとともに、演出操作ユニット３００に設けられる基板に実装される各種ＬＥＤについて電源投入時動作確認時の発光態様に発光制御することなく、重大異常報知発光態様に発光制御するようにしてもよい。

【４８００】

また、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合と判定された場合には、電源投入時動作確認に限らずパチンコ機１の電源が遮断されるまで、又は分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合と判定されるまでは、不適合と判定された右側遊技盤５ＡＲと、ＩＤ判定の対象とされていない扉枠ユニットに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等によって動作される可動体の一部又は全部と、を駆動させないようにしてもよく、この場合には可動体が本来とは異なる動作態様で動作して可動体や扉枠ユニットが破損することや可動体を動作させる駆動モータや駆動ソレノイド等が故障することを抑制できるようにしている。

【４８０１】

［未接続時における設定値の確認表示］

次に、右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がなく（右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力を確認することができず）各種信号を伝送する伝送経路に短絡や断線などの不具合が発生するといった左側遊技盤５ＡＬに対して右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていない未接続の状態（未接続状態）で設定値の確認表示を行う場合の挙動例について図３３８を参照して説明する。なお、以下では設定変更処理を実行する場合や適合時や不適合時に設定値確認表示処理を実行する場合と異なる部分についてのみ説明し、重複した説明を行わない。

【４８０２】

図３３８に示すように、パチンコ機１への電源供給が開始されたときに周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって実行されるＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない場合には、すなわち右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていない場合には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａからの制御信号が右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ等の電子部品に入力されないため、右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される電子部品は設定値の確認表示中であるか否かにかかわらず非駆動状態（例えば各種ＬＥＤは消灯された状態）となる。なお、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がないと判定された場合には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａから右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ等の電子部品に制御信号を出力しないようにしてもよい。また、本例ではパチンコ機１への電源供給が開始されたときに周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって実行されるＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がないと判定された場合には、左遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤも設定値の確認表示中か否かに関わらず消灯状態とされるようになっている。

【４８０３】

また、本例では周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がないと判定しても設定値確認表示処理を終了するまで（主制御ＭＰＵ１３１０ａから設定値確認表示終了コマンドを受信するまで）は右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことを報知することなく、設定値確認表示処理を実行していることの報知を行うようになっている。即ち、設定値確認表示処理の実行中には演出表示装置１６００に設定確認中報知態様（本例では「設定確認中」）を表示させ（設定値確認表示処理を終了するまで表示させる

ものであってもよいし、一定期間表示させた後に表示を終了させるものであってもよい。）、設定値確認表示報知音（「設定確認中」というアナウンス音声及び「キンコーン」等の警告音）を予め決められている音量（設定可能な最大の音量でもよいし、周辺制御基板１５１０に備える音量調整スイッチにより調整されるデフォルト音量でもよい。）で各種スピーカから繰り返し出力させる（設定値確認表示処理を終了するまで繰り返し出力させるものであってもよいし、一定回数（例えば５回）又は一定期間（例えば３０秒）繰り返し出力した後に出力を停止させるものであってもよい。）、扉枠ユニットの各種ＬＥＤを設定値の確認表示時の設定確認報知発光態様に発光制御させる一方、右側遊技盤５ＡＲ及び左遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、機能表示ユニット１４００のＬＥＤ、及びサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤは消灯状態とされる。

【４８０４】

そして、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、主制御ＭＰＵ１３１０ａから設定値確認表示処理が終了したことを示す設定値確認表示終了コマンドを受信すると、右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことに起因する遊技盤未接続報知音（「右側遊技盤が接続されていません。」というアナウンス音声及び「キンコーン」等の警告音）を音量調節ボタン２２７によって調節された音量でパチンコ機１への電源供給が遮断されるまで各種スピーカから繰り返し出力させる（一定回数（例えば５回）又は一定期間（例えば３０秒）繰り返し出力した後に出力を停止させるものであってもよい）一方、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）を外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）に繰り返し発光制御し、外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じてから所定期間（例えば６０秒）が経過すると、右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことに起因して発光制御される軽微異常報知発光態様（最大輝度の白色の点灯と消灯とに短時間（例えば０．５秒）で切り替える態様（高速点滅態様））に発光制御するようになっている。また、演出表示装置については適合時と同様に演出表示装置１６００に演出時（通常時）の態様（装飾図柄や通常時（遊技可能状態時）の背景画像等）を表示することに加え、演出表示装置１６００に未接続エラー報知表示態様としての「右側遊技盤未接続エラー発生」を表示して左側遊技盤５ＡＬに対して右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことを報知する。右側遊技盤５ＡＲ及び左遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、機能表示ユニット１４００のＬＥＤ、及びサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤは継続して消灯状態に制御される。

【４８０５】

なお、遊技盤未接続報知音は同一の報知音（例えば「ビー」等）が断続的に出力されるものではなく、音階が異なる複数の音によって構成されるものであり、さらに消音状態と出力状態とに繰り返し制御される。また、重大異常報知発光態様は点灯状態が固定されるものではなく、点灯状態と消灯状態とに繰り返し制御されて光量を変化させるものである。つまり、各種スピーカ及び各種ＬＥＤにおいては時間の経過に応じて音階や音量、光量等の変化を伴う動的態様で左側遊技盤５ＡＬに対して右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことを報知するようになっている。これにより、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を伴う電源投入時動作確認が終了して確認作業の必要がない遊技モードが開始されたときに、左側遊技盤５ＡＬに対して右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことを気付かせ易くなる。

【４８０６】

また、演出表示装置１６００における未接続エラー報知表示態様は時間の経過に応じて表示の変化を伴わない静止画像とされて、パチンコ機１への電源供給が遮断されるまで継続するものの、変動表示の開始条件が成立（始動口（第一始動口２００２又は第一始動口２００２と第二始動口２００４との一方へ遊技球が入球）したことに基づいて機能表示ユニット１４００において特別図柄の変動表示が開始されたりサブ機能表示ユニット２２５

０において第４図柄の変動表示が開始された場合には演出表示装置１６００に未接続エラー報知表示態を表示させた状態で装飾図柄の変動表示等の変動演出を行うようになっている。なお、演出表示装置１６００における未接続エラー報知表示態様はエラー内容に応じたものであればよく、文字と数字の組み合わせ（例えばエラーコード）やマーク等であってもよい。このように設定値確認表示処理後の主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を伴わない電源投入時動作確認の実行中には演出表示装置１６００において時間の経過に関わらず表示が変化しない静的態様で左側遊技盤５ＡＬに対して右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことを報知するようになっている。これにより、電源投入時動作確認時における確認作業を邪魔することなく、左側遊技盤５ＡＬに対して右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことを報知することができるようになる。

【４８０７】

また、上記したように外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じてから重大異常報知発光態様の発光制御を終了するまでの期間は、電源投入時動作確認の実行に要する期間よりも長い期間とされているため、設定値確認表示処理の終了後に本体枠４を閉じた場合にはその後に本体枠４が継続して閉じた状態とされているか否かに関わらず遊技モードが開始された後にも重大異常報知発光態様に継続して発光制御され、外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じてから所定期間（例えば６０秒）が経過すると重大異常報知発光態様の発光制御を終了して軽微異常報知発光態様に発光制御する。

【４８０８】

上記したように外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因して発光制御される重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様を含む）と、右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことに起因する軽微異常報知発光態様と、いずれも光量調節ボタン２２８による光量の調節が不可能とされている。そのため、設定値確認表示処理が終了して遊技モードが開始されても光量調節ボタン２２８による光量の調節が不可能とされる。

【４８０９】

すなわち、右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態で設定値確認表示処理を実行する場合には、設定値確認表示処理の終了後に、各種スピーカから遊技盤未接続報知音が出力されるとともに、外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）の発光制御が実行され、各種スピーカから出力される遊技盤未接続報知音については音量調節ボタン２２７によって音量を調節することができるものの、外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因して発光制御される重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様を含む）や外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する重大異常報知発光態様の終了後に発光制御される右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことに起因する軽微異常報知発光態様については光量調節ボタン２２８による光量の調節が不可能とされる。

【４８１０】

そのため、右側遊技盤５ＡＲが未接続であって設定値確認表示処理を実行する場合には、設定値確認表示処理の終了後に予め定められている輝度で重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）に発光制御することができ、設定値確認表示処理の実行中に設定確認報知発光態様を見逃した場合であっても、設定値確認表示処理の終了後に重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）を視認できるようになり、設定値確認表示処理が行われた可能性があることに気付かせることができる一方で、遊技者や遊技店に不利益を与えるおそれの低い右側遊技盤５ＡＲが未接続であることについては音量調節ボタン２２７による音量の調節を可能にして遊技者に不快感を与えないようにしている。

【４８１１】
なお、軽微異常報知発光態様の発光制御中に音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８が操作されたことに基づいて、演出表示装置１６００に現在の音量や光量（輝度）に応じた目盛の表示と、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８の操作に基づく確認音の出力と、の一方または両方を実行するようにしてもよい。
【４８１２】
また、図３３８に示す例では設定値確認表示処理を終了する以前に扉開放報知音の出力期間（本例では３０秒）が経過するものを示したが、扉開放報知音の出力期間の経過前に設定値確認表示処理を終了する場合には、設定値確認表示処理の終了後に扉開放報知音の出力期間に達するまで扉開放報知音が出力される。そして、扉開放報知音の出力期間が経過すると遊技盤未接続報知音を出力させる。また、設定値確認表示処理の終了後に外枠２に対して本体枠４が開放されている場合や外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じてからの経過時間が所定期間（例えば６０秒）に達していない場合には外枠２に対して本体枠４を開放させてからの経過時間が所定期間（例えば３０秒）に達している場合であっても本体枠４を閉じるまで又は外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する重大異常報知発光態様の発光制御を終了するまでは遊技盤未接続報知音を出力しないようにしてもよい。
【４８１３】
このように、本例では右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態で設定値の確認表示を行う場合に、設定値確認表示処理の終了後に本体枠４を閉じた場合であってその後に本体枠４が継続して閉じた状態とされていれば、外枠２に対して本体枠４を開放させてからの経過時間に応じて各種スピーカから異なる報知音を出力させる一方で、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）については右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態となっていることに応じた異常報知よりも優先して外枠２に対して本体枠４が開放されたことに応じた異常報知を行うようになっている。
【４８１４】
すなわち、各種スピーカと扉枠ユニットの各種ＬＥＤ及び右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤとのそれぞれにおいて異常報知を実行するものの、外枠２に対して本体枠４を開放させてからの経過時間に応じて共通の異常（外枠２に対して本体枠４が開放された異常）を報知する場合と、異なる異常（各種スピーカについては未接続を起因とする異常、扉枠ユニットの各種ＬＥＤ及び右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤについては外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する異常）を報知する場合と、がある。そのため、例えば不正行為によって短時間で設定値の確認表示が行われるなどの外枠２に対して本体枠４を開放させてからの比較的早い段階で設定値確認処理が終了された場合には、扉枠ユニットの各種ＬＥＤを重大異常報知発光態様で発光制御させることに加えて、各種スピーカから扉開放報知音を出力させることにより外枠２に対して本体枠４が開放されたことや設定値が不正に確認表示された可能性があることを確実に伝えることができる一方で、遊技ホールの店長などによって正規に設定値が確認表示された場合には扉枠ユニットの各種ＬＥＤを重大異常報知発光態様で発光制御させることのみにより外枠２に対して本体枠４が開放されたことを報知することができるようになる。
【４８１５】
また、右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であっても電源投入時動作確認の実行後には、左側遊技盤５ＡＬに設けられて主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによって制御される機能表示ユニット１４００のＬＥＤ及び左側遊技盤５ＡＬに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御されるサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤの当落に関する情報を表示するＬＥＤについては消灯状態とすることなしに、通常時（遊技可能状態時）と同様に発光制御するように

なっている。すなわち、右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態では右側遊技盤５ＡＲが未接続であることを報知することにより遊技者に不利益を与えたり、設計者の意図しない挙動で遊技が進行してしまうことを抑止する一方で、仮に右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態で遊技が開始されてしまっても当落に関する情報を表示するＬＥＤについては発光制御して遊技が通常と同様に進行することができるようにすることで遊技者に不利益を与えないようになっている。

【４８１６】

また、本例ではパチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定された場合に、設定値の確認表示を行うか否かによって、右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態となっていることに応じた軽微異常報知発光態様での発光制御タイミング及び遊技盤未接続報知音の出力タイミングが異なるようになっている。

【４８１７】

具体的には、右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であって設定値の確認表示を実行しない場合には、パチンコ機１への電力供給が開始されたことに基づいて所定期間に亘って演出表示装置１６００に「ｐｏｗｅｒ　ｏｎ」を表示させた後、電源投入時動作確認を開始し、該電源投入時動作確認の実行中に右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされていることに起因する軽微異常報知発光態様での発光制御と各種スピーカによる遊技盤未接続報知音の出力とを開始する。つまり、電源投入時動作確認を開始するタイミングで右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされていることに起因する軽微異常報知発光態様での発光制御と各種スピーカによる遊技盤未接続報知音の出力とを開始する。

【４８１８】

一方、右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であって設定値の確認表示を実行する場合には、電源投入時動作確認を開始するタイミングでは右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされていることに起因する軽微異常報知発光態様での発光制御と各種スピーカによる遊技盤未接続報知音の出力とを開始することなく、電源投入時動作確認の開始後のタイミング（本例では電源投入時動作確認の開始後であって遊技モードが開始される以前に遊技盤未接続報知音が出力され、電源投入時動作確認が終了して遊技モードが開始されたときに軽微異常報知発光態様の発光制御が開始される。）で右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされていることに起因する軽微異常報知発光態様での発光制御と各種スピーカによる遊技盤未接続報知音の出力とを開始する。

【４８１９】

このように、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であっても設定値の確認表示を行うか否かによって、軽微異常報知発光態様での発光制御タイミング及び遊技盤未接続報知音の出力タイミングが異なるため、重要度の高い情報を優先的に報知して不具合や不正行為が発生することを抑制できる。すなわち、不正に設定値の確認表示が行われた場合には遊技店に被害が生じるおそれがあるため、右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることの報知よりも優先して不正に設定値の確認表示が行われたことによる被害の拡大を防ぐことができるようになっている。

【４８２０】

なお、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態となっている場合に、演出表示装置１６００において未接続エラー報知表示態様としての「右側遊技盤未接続エラー発生」を表示するタイミングは、設定値の確認表示を行うか否かに関わらず同一とされている。すなわち、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによる電源投入時動作確認を開始するタイミングで演出表示装置１６００に未接続エラー報知表示態様としての「右側遊技盤未接続エラー発

生」を表示するようになっている。これにより、重要度の高い報知を優先して実行しつつも、他の報知についても演出表示装置１６００で報知して対処させることができるようになる。また、演出表示装置１６００における未接続エラー報知表示態様としての「右側遊技盤未接続エラー発生」の表示タイミングについても設定値の確認表示を行うか否かによって異ならせるようにしてもよく、この場合には重要度の高い情報を順に報知して順次対処させることができるため、それぞれの情報を確実に伝えて対処させることができるようになる。

【４８２１】

また、本例のパチンコ機１では周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって実行されるＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であると判定された場合には、設定値確認表示処理の終了後に音量調節ボタン２２７による音量の調節が可能とされる。ただし、設定値確認表示処理の終了後に扉開放報知音が出力される場合には扉開放報知音の出力停止後に音量調節ボタン２２７による音量の調節が可能とされる。すなわち、設定値確認表示処理の終了後に扉開放報知音が出力される場合には扉開放報知音が出力されている期間は音量調節ボタン２２７により音量を調節することができないものの、扉開放報知音の出力が停止した後の遊技盤未接続報知音が出力されている期間には音量調節ボタン２２７により音量を調節することができるようになっている。これにより変動演出時に出力される演出音の音量を事前に調節することができるようになる。

【４８２２】

また、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって実行されるＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であると判定された場合には、設定値確認表示処理の終了後に電源投入時動作確認を実行しているとき、すなわち主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を伴うことなく電源投入時動作確認のみを実行しているときには、光量調節ボタン２２８によって光量（輝度）を調節できないようになっている。上記したように本例のパチンコ機１では光量調節ボタン２２８を操作することにより扉枠３や分割遊技盤５Ａに設けられている各種の装飾基板のＬＥＤの光量（輝度）を調節することが可能であるが、設定値確認表示処理の終了後に外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因して発光制御される重大異常報知発光態様は光量調節ボタン２２８を操作しても調節することができないようになっている。そのため、設定値確認表示処理が終了した場合には予め決められた光量（輝度）で扉枠３や分割遊技盤５Ａに設けられている各種の装飾基板のＬＥＤを発光制御させることができるようになり、発光態様によって右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることを確実に伝えることができるため、遊技者や遊技店に不利益を与えないようにすることができる。なお、設定値確認表示処理の終了後に外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する重大異常報知発光態様に発光制御されないか、又は電源投入時動作確認の実行中に外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する重大異常報知発光態様の発光制御が終了した場合には、電源投入時動作確認の実行中であっても光量調節ボタン２２８によって光量（輝度）を調節することができるようになる。すなわち、外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する重大異常報知発光態様の発光制御の終了後に軽微異常報知発光態様に発光制御される場合には軽微異常報知発光態様については光量調節ボタン２２８によって光量（輝度）を調節することができるようになっている。

【４８２３】

また、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって実行されるＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であると判定された場合には、設定値確認表示処理の終了後に電源投入時動作確認を実行しているとき、すなわち主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を伴うことなく電源投入時動作確認のみを実行しているときに、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８を操作すると演出表示装置１６

００に現在の音量や光量（輝度）に応じた目盛が表示されるとともに、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８の操作に応じた確認音が出力される。そのため、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８の操作に応じた目盛の表示や確認音の出力によって音量や光量（輝度）が変更されていることを認識させることができる。なお、外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する重大異常報知発光態様の発光制御と扉開放報知音の出力との一方又は両方が終了した後に現在の音量や光量（輝度）に応じた目盛の表示と、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８の操作に応じた確認音の出力と、の一方又は両方を実行可能とするものであってもよい。

【４８２４】

なお、本例のパチンコ機１ではパチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定された場合には、設定値確認表示処理の実行中に異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）による検出があっても当該検出は無効（検出があるか否かを確認する処理を実行しないものでもよいし、検出があるか否かを確認する処理を実行するものの検出に基づく処理（報知等）を実行しないものであってもよい。）とされるようになっている。

【４８２５】

具体的には、図３３９に示すように設定値確認表示処理の実行中に不正な磁気が発生して主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されても不正な磁気を検出したことに基づく異常報知を実行することなく、検出信号を破棄するようになっている。すなわち、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定された場合であって、設定値確認表示処理の実行中に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されたときには、磁気センサ１０５０からの検出信号を無視し、設定値確認表示処理の終了後に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されていないものとして制御を実行する。

【４８２６】

このように、本例ではパチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定された場合であって、設定値確認表示処理の実行中に異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）による検出がなされたときには、設定値確認表示処理の終了後に、異常検出手段による検出に起因する異常報知よりも右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることに起因する報知を優先して実行するようになっている。すなわち、設定値確認表示処理の実行中などの遊技を開始できる状態となる以前の遊技不可能状態で不正行為が行われても遊技モードが開始された後に不利益が発生する蓋然性は低いものの、右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態となっている場合には遊技モードが開始された後に遊技が実行されると不利益が発生する蓋然性が高い。そのため、設定値確認表示処理の実行中に異常検出手段による検出と右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態との両方が発生した場合には、設定値確認表示処理の終了後に右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることに起因する報知を優先して実行することにより不利益の発生を抑止している。

【４８２７】
一方、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定された場合であって、設定値確認表示処理の終了後に実行される電源投入時動作確認の実行中に異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）により異常が検出されたとき、すなわち主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を伴わない電源投入時動作確認の実行中に異常検出手段により異常が検出されたとき、には異常検出手段の検出は有効とされ、異常検出手段により異常が検出されたタイミングで異常報知が行われるようになっている。
【４８２８】
具体的には、図３４０に示すようにパチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定された場合であって、設定値確認表示処理の終了後に実行される電源投入時動作確認の実行中に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されたときには、磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されたタイミングで、異常検出手段による検出に起因する異常報知が演出表示装置１６００と扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤと各種スピーカとのそれぞれで行われる。
【４８２９】
そして、磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されたことに起因する異常報知が終了したときに、他の異常が検出されていなければ扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤが右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であることに起因する軽微異常報知発光態様に発光制御されるとともに、各種スピーカから遊技盤未接続報知音が繰り返し出力される。
【４８３０】
このように、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定された場合であって、設定値確認表示処理の終了後に実行される電源投入時動作確認の実行中に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されたときには、磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されたタイミングで、磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されたことに起因する異常報知が扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤと、各種スピーカと、演出表示措置１６００と、のそれぞれで行われるようになっている。
【４８３１】
換言すると、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定された場合であって、設定値確認表示処理の終了後に実行される電源投入時動作確認の実行中に異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）による検出がなされたときには、右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であ

ることに起因する報知よりも異常検出手段による検出に起因する異常報知を優先して実行するようになっている。

【４８３２】

すなわち、電源投入時動作確認では不正行為が行われても不利益が発生する蓋然性は低いものの、電源投入時動作確認の終了後には直ぐに遊技モードが開始されるため、遊技モードでも同様の不正行為が行われる蓋然性が高い。一方、右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態となっている場合には、不正行為が行われた場合に比べて不利益が生じる蓋然性は低い。そのため、電源投入時動作確認の実行中に異常検出手段による検出と右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態との両方が発生した場合には、直ぐに異常検出手段による検出がなされたことに起因する報知を優先して実行することにより不利益の発生を抑制している。

【４８３３】

なお、異常検出手段として磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチを示したが、一部のセンサやスイッチについては電源投入時動作確認の実行中又は設定値確認表示処理の終了後（電源投入時動作確認の実行中と遊技モード中とを含む）に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されても演出表示装置１６００に異常報知を行わないようにしてもよいし、全てのセンサやスイッチについて電源投入時動作確認の実行中又は設定値確認表示処理の終了後（電源投入時動作確認の実行中と遊技モード中とを含む）に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されても演出表示装置１６００に異常報知を行わないようにしてもよい。

【４８３４】

また、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定された場合であって、電源投入時動作確認の終了後の遊技モード中に異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）により異常が検出されたとき、すなわち遊技モード中に異常検出手段により異常が検出されたとき、にも異常検出手段の検出は有効とされ、電源投入時動作確認の実行中に異常検出手段により異常が検出された場合と同様に、異常検出手段により異常が検出されたタイミングで異常報知が行われるようになっている。

【４８３５】

具体的には、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定された場合であって、電源投入時動作確認の終了後の遊技モード中に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されたときには、磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されたタイミングで、異常検出手段による検出に起因する異常報知が演出表示装置１６００と扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤと各種スピーカとのそれぞれで行われる。

【４８３６】

すなわち、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定された場合であって、電源投入時動作確認の終了後の遊技モード中に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０

、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）からの検出信号が入力されたときには、右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることに起因する報知よりも異常検出手段による検出に起因する異常報知を優先して実行するようになっている。

【４８３７】

そのため、不正行為が行われた場合に不利益が発生する蓋然性が高い遊技モード中には、異常検出手段による検出と右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態との両方が発生した場合には、異常検出手段による検出がなされたことに起因する報知を優先して実行することにより不利益の発生を抑制することができるようになる。

【４８３８】

上記したように本例ではパチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合（整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であると判定された後には、その後に分割遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態となっても分割遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態となっていることに応じた報知（遊技盤未接続報知音、未接続エラー報知表示態様、軽微異常報知発光態様等）等は実行されないが、このようなパチンコ機１への電力供給が開始されるときにのみ分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するものに限らず、パチンコ機１への電力供給開始後に周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって定期的（例えば周辺制御部定常処理が実行される毎）に分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するＩＤ判定処理を実行するようにしてもよい。この場合にはパチンコ機１への電力供給が開始された後に右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態となったことに基づいてその旨を報知することができるようになるため、不利益の発生を抑制することができる。

【４８３９】

なお、定期的に分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するＩＤ判定処理を実行する場合であっても設定値確認表示処理の実行中にＩＤ判定処理を実行しないようにしてもよいし、設定値確認表示処理の実行中にＩＤ判定処理を実行して右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であると判定した場合であっても設定値確認表示処理の実行中には右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態となっていることに応じた報知を行わないようにしてもよい。

【４８４０】

また、定期的に分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するように構成した場合に、設定値確認表示処理後の電源投入時動作確認中や設定値確認表示処理を開始する以前にＩＤ判定処理を実行して右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であると判定されたときには、パチンコ機１への電力供給が開始されるときにのみ分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定する場合と同様に、演出表示装置１６００と、各種スピーカと、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤと、による異常検出手段による検出があったことの報知を、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることの報知よりも優先して実行し、異常検出手段による検出があったことの報知が終了した場合に分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることの報知を行うようにしてもよい。

【４８４１】

また、定期的に分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するように構成した場合にも、設定値確認表示処理の実行中に異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）による検出があっても当該検出は無効（検出があるか否かを確認する処理を実行しな

いものでもよいし、検出があるか否かを確認する処理を実行するものの検出に基づく処理（報知等）を実行しないものであってもよい。）として設定値確認表示処理後にも異常検出手段による設定値確認表示処理中の検出に基づく異常報知を実行しないようにしてもよい。

【４８４２】

また、定期的に分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するように構成した場合に、設定値確認表示処理後の電源投入時動作確認中に右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていない場合であって、且つ異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）による検出があったときには、演出表示装置１６００と、各種スピーカと、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤと、による異常検出手段による検出があったことの報知を、右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことの報知よりも優先して実行し、異常検出手段による検出があったことの報知が終了した場合に分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることの報知を行うようにしてもよい。

【４８４３】

また、設定値確認表示処理の終了後（主制御ＭＰＵ１３１０ａから設定値確認表示終了コマンドを受信した後）に行われる電源投入時動作確認では、未接続状態であると判定された右側遊技盤５ＡＲに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等についての電源投入時動作確認を行わないだけに限らず、電源投入時動作確認を実行する可動体（分割遊技盤５Ａに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１や、扉枠３に設けられる演出操作ユニット３００の演出操作部３０１等）のうちの扉枠ユニットに設けられてＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）においてＩＤ判定の対象とされていない演出操作部３０１を駆動させる駆動モータや駆動ソレノイドについても電源投入時動作確認を行わないようになっている。

【４８４４】

具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定されている場合には、電源投入時動作確認を開始しても未接続状態であると判定された右側遊技盤５ＡＲに設けられているＬＥＤを電源投入時動作確認時の発光態様で点灯させる制御や可動体を電源投入時動作確認時の動作態様で動作させる制御を行わない（右側遊技盤５ＡＲに制御信号を出力しない。）か又は行えない（制御信号を出力するものの右側遊技盤５ＡＲに制御信号が入力されない。）ことに加えて、扉枠３に設けられるとともにＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）においてＩＤ判定の対象とされていない皿ユニット２００（この例では演出操作ユニット３００）に設けられる駆動モータや駆動ソレノイドを駆動させて演出操作ユニット３００に設けられる演出操作部３０１を動作させる制御を行わない。

【４８４５】

すなわち右側遊技盤５ＡＲが未接続状態である場合にはＩＤ判定の対象とされていない扉枠ユニットに設けられる可動体の一部または全部についても接続状態が不良となっているおそれがあり、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａから出力された制御信号がノイズ等で本来とは異なる信号に変化して入力されて、可動体が異常な態様で動作するおそれがあるため、未接続状態であると判定された右側遊技盤５ＡＲやＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）におけるＩＤ判定の対象とされていない扉枠ユニットに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等によって動作される可動体の一部又は全部についても駆動させないようにし、これにより可動体が本来とは異なる動作態様で動作して可動体や扉枠ユニットが破損することや可動体を動作させる駆動モータや駆動ソレノイド等が故障することを抑制できるよ

うにしている。
【４８４６】
なお、上記したように遊技盤側構成部として遊技盤５と扉枠ユニットのうちの特定の扉枠ユニットとを備えるように構成してもよく、この場合には特定の扉枠ユニットがＩＤ判定の対象とされ、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において未接続状態であると判定された場合にＩＤ判定の対象とされていない扉枠ユニット（非特定の扉枠ユニット）に設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等によって動作される可動体の一部又は全部についても駆動させないようにしてもよいし、これに加えて、又はこれとは別に、特定の扉枠ユニットが複数（例えば扉枠右サイドユニット４３０と扉枠トップユニット４５０）ある場合には一部（例えば扉枠右サイドユニット４３０と扉枠トップユニット４５０との一方）について未接続状態であると判定された場合には特定の扉枠ユニットに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等によって動作される可動体の全てを駆動させないようにしてもよいし、特定の扉枠ユニットを含む全ての扉枠ユニットに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等によって動作される可動体の全てを駆動させないようにしてもよい。
【４８４７】
一方、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）を実行する周辺制御ＩＣ１５１０ａが実装される周辺制御基板１５１０を備える左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体（分割遊技盤５Ａのうちの左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１等）は、電源投入時動作確認を開始すると、通常（分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であると判定された場合）と同様に動作される。なお、左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体（分割遊技盤５Ａのうちの左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１等）に設けられる基板に実装されるＬＥＤは電源投入時動作確認時の発光態様に発光制御されないようになっている。すなわち、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）で右側遊技盤５ＡＲが未接続状態であると判定された場合には、左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体（分割遊技盤５Ａのうちの左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１等）を電源投入時動作確認時の動作態様で動作させるものの、左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体に設けられるＬＥＤは電源投入時動作確認時の発光態様に発光制御されず、消灯されている状態で電源投入時動作確認時の動作態様に動作されるようになっている。これにより、分割遊技盤５Ａのうちの周辺制御基板１５１０が設けられている遊技盤（この場合には左側遊技盤５ＡＬ）であることを容易に特定できるようになる。
【４８４８】
また、本例では周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続であると判定されている場合に、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）においてＩＤ判定の対象とされていない扉枠ユニット（この例では皿ユニット２００）の演出操作ユニット３００に設けられる基板に実装される駆動モータや駆動ソレノイドを駆動させて演出操作部３０１を動作させる制御を行わないだけでなく、演出操作ユニット３００に設けられる基板に実装される各種ＬＥＤについても電源投入時動作確認時の発光態様に発光制御されないようになっている。すなわち、設定確認表示処理の終了後に電源投入時動作確認が実行された場合に周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右

側遊技盤５ＡＲが未接続であると判定されている場合には、演出操作ユニット３００に設けられる基板に実装される各種ＬＥＤについては外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する重大異常報知発光態様または右側遊技盤５ＡＲが未接続であることに起因する軽微異常報知発光態様に発光制御される。なお、演出操作ユニット３００をＩＤ判定の対象とされる特定の扉枠ユニットとしてもよく、この場合であってもＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において演出操作ユニット３００以外の特定の扉枠ユニットや右側遊技盤５ＡＲが未接続であると判定されていれば演出操作ユニット３００に設けられる基板に実装される駆動モータや駆動ソレノイドを駆動させて演出操作部３０１を動作させる制御を行わないとともに、演出操作ユニット３００に設けられる基板に実装される各種ＬＥＤについて電源投入時動作確認時の発光態様に発光制御することなく、外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する重大異常報知発光態様または右側遊技盤５ＡＲが未接続であることに起因する軽微異常報知発光態様に発光制御するようにしてもよい。

【４８４９】

また、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続状態であると判定された場合には、電源投入時動作確認に限らずパチンコ機１の電源が遮断されるまで、又は分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合と判定されるまでは、未接続状態であると判定された右側遊技盤５ＡＲと、ＩＤ判定の対象とされていない扉枠ユニットに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等によって動作される可動体の一部又は全部と、を駆動させないようにしてもよく、この場合には可動体が本来とは異なる動作態様で動作して可動体や扉枠ユニットが破損することや可動体を動作させる駆動モータや駆動ソレノイド等が故障することを抑制できるようにしている。

【４８５０】

なお、上記した設定変更と分割遊技盤のＩＤエラーの例では主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理として設定変更処理を伴うもの、つまりパチンコ機１の電源投入時に設定値変更許可条件が成立していることに応じて設定変更処理後に主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理を実行するものを示したが、これに限られるものではなく、パチンコ機１の電源投入時に設定値変更許可条件が成立していない場合に行われる主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理、つまりパチンコ機１の電源投入時に設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの差し込み口に設定キーが差し込まれて第１のＯＮ操作されることなく、ＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆの押圧操作部のみが押圧操作されている場合に行われる主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理においても上記した例と同様の状態に制御されるものであってもよい。

【４８５１】

［小括Ａ］

外枠と、該外枠に開閉可能に設けられる本体枠と、該本体枠に開閉可能に設けられる扉枠と、を有する遊技枠側構成部と、該遊技枠側構成部に着脱可能に設けられる遊技盤側構成部と、抽選条件の成立に基づいて抽選を行う抽選手段と、該抽選手段の前記抽選に関する設定情報を決定可能な設定決定可能状態に制御する設定決定可能状態制御手段と、遊技の演出を制御する演出制御基板と、磁気を検出可能な磁気検出センサと、を備える遊技機であって、前記遊技盤側構成部は、第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とから構成され、前記演出制御基板は、前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていない場合に報知可能な未接続報知手段と、前記磁気検出センサが磁気を検出している場合に報知可能な磁気検出異常報知手段と、を有し、前記遊技機への電力供給開始後の所定期間内に前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていないとともに、前記磁気検出センサが磁気を検出している場合であっても、前記設定決定可能状態中に前記未接続報知手段と前記磁気検出異常報知手段とによる報知を行わない。

【４８５２】

具体的には、例えば、本実施形態のパチンコ機１は、遊技ホールの島設備（図示しない）に設置される枠状の外枠２と、外枠２の前面を開閉可能に閉鎖する扉枠３と、扉枠３を開閉可能に支持していると共に外枠２に開閉可能に取付けられている本体枠４と、から構成される遊技枠側構成部には、遊技盤側構成部として、左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとから構成される分割遊技盤５Ａが着脱可能に設けられている。

【４８５３】

また、左側遊技盤５ＡＬには、遊技領域５ａ内において不正に作用する磁気を検知する複数の磁気センサ１０５０を備えている。また、第一始動口２００２又は第二始動口２００４への遊技球の入球に基づいて当り判定処理（ステップＳ３０５）を実行する抽選手段及び該抽選に関する設定値を決定可能な設定決定可能状態（設定値変更許可条件が成立してから設定値変更終了条件が成立するまでの状態）に制御するための設定変更処理を実行する設定決定可能状態制御手段としての主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａを備えている。

【４８５４】

また、演出表示装置１６００、各種スピーカ（トップ中央スピーカ、トップサイドスピーカや、本体枠４の本体枠スピーカ等）、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ、左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、及び右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、を制御して遊技の演出を実行する機能と、未接続報知手段としてＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続状態であると判定した場合に演出表示装置１６００に未接続エラー報知表示態様を表示させたり、各種スピーカから遊技盤未接続報知音を出力させたり、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤを軽微異常報知発光態様に発光制御したりする機能と、磁気検出異常報知手段として主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから電波照射ゴトが行われている旨を伝える報知表示に区分される磁石ゴト報知コマンドを受信したことに基づいて演出表示装置１６００に磁気検出エラー報知態様を表示させたり、各種スピーカから磁気検知報知音を出力させたり、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤを重大異常報知発光態様に発光制御したりする機能と、を有する周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａを備えている。

【４８５５】

そして、パチンコ機１への電力供給開始後の所定期間内（例えばパチンコ機１への電源供給が開始されてから設定変更処理を開始するまでの期間やパチンコ機１への電源供給が開始されてから設定変更処理を終了するまでの期間、設定変更処理が開始されてから設定変更処理を終了するまでの期間等）において左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとが接続されておらず、かつ磁気センサ１０５０が磁気を検出している場合であっても、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが設定変更処理を実行している期間には周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａの未接続報知手段と磁気検出異常報知手段とによる報知を行わないようになっている。

【４８５６】

すなわち、設定変更処理を開始する以前の状態や設定値変更処理の実行中には磁気センサ１０５０が磁気を検出したり、左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとが電気的に接続されていない状態となっていても遊技を開始できる状況ではないために遊技店に不利益の発生するおそれは低い。また、設定変更処理は遊技店員の操作に基づいて行われるものであり、設定変更処理が開始されて設定値を決定するための操作を実行しているときに未接続報知手段や磁気検出異常報知手段による報知が行われることにより該報知に意識が向いて設定値の決定操作を誤るおそれがある。設定値の決定操作を誤って意図しない設定値に決定された場合には遊技店や遊技者に不利益を与えるおそれがある。上記発明によれば、

設定値変更処理が実行されている場合には設定値の決定操作に集中させることができ、誤って意図しない設定値に決定されることを抑止することができ、遊技店や遊技者に不利益を与えない。

【４８５７】

なお、設定値変更処理を開始する以前や設定値変更処理の実行中に磁気センサ１０５０が磁気を検出した場合であっても設定値変更処理を終了する以前に磁気が検出されなくなった場合には遊技を開始できる状況ではない状態でのみ磁気が検出されたものであって遊技店に不利益を与えるおそれは低い一方で、設定値変更処理を開始する以前や設定値変更処理の実行中に左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとが電気的に接続されていない場合には設定値変更処理の実行後にも接続されていない状態が継続する可能性が高いものであり、このような状態で遊技が開始されると設計者の意図しない挙動で遊技が進行してしまい、遊技店や遊技者に不利益を与えるおそれがある。そのため、パチンコ機１への電力供給開始後の所定期間内（例えばパチンコ機１への電源供給が開始されてから設定変更処理を開始するまでの期間やパチンコ機１への電源供給が開始されてから設定変更処理を終了するまでの期間、設定変更処理が開始されてから設定変更処理を終了するまでの期間等）において左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとが接続されておらず、かつ磁気センサ１０５０が磁気を検出している場合には、設定変更処理の終了後に未接続報知手段による報知のみを実行するか、又は未接続報知手段による報知を磁気検出異常報知手段による報知よりも優先して実行するようにしてもよい。

【４８５８】

［小括Ｂ］

外枠と、該外枠に開閉可能に設けられる本体枠と、該本体枠に開閉可能に設けられる扉枠と、を有する遊技枠側構成部と、該遊技枠側構成部に着脱可能に設けられる遊技盤側構成部と、抽選条件の成立に基づいて抽選を行う抽選手段と、該抽選手段の前記抽選に関する設定情報を決定可能な設定決定可能状態に制御する設定決定可能状態制御手段と、遊技の演出を制御する演出制御基板と、磁気を検出可能な磁気検出センサと、を備える遊技機であって、前記遊技盤側構成部は、第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とから構成され、前記演出制御基板は、前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが接続されているか否かの判定を行う接続判定手段と、該接続判定手段が前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていないと判定した場合に報知可能な未接続報知手段と、前記磁気検出センサが磁気を検出している場合に報知可能な磁気検出異常報知手段と、を有し、前記接続判定手段が前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていないと判定した場合であって、前記設定決定可能状態終了後の特定期間内に、前記磁気検出センサが磁気を検出している場合には、前記未接続報知手段と前記磁気検出異常報知手段とのいずれも機能を制限して報知させる。

【４８５９】

具体的には、例えば、本実施形態のパチンコ機１は、遊技ホールの島設備（図示しない）に設置される枠状の外枠２と、外枠２の前面を開閉可能に閉鎖する扉枠３と、扉枠３を開閉可能に支持していると共に外枠２に開閉可能に取付けられている本体枠４と、から構成される遊技枠側構成部には、遊技盤側構成部として、左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとから構成される分割遊技盤５Ａが着脱可能に設けられている。

【４８６０】

また、左側遊技盤５ＡＬには、遊技領域５ａ内において不正に作用する磁気を検知する複数の磁気センサ１０５０を備えている。また、第一始動口２００２又は第二始動口２００４への遊技球の入球に基づいて当り判定処理（ステップＳ３０５）を実行する抽選手段及び該抽選に関する設定値を決定可能な設定決定可能状態（設定値変更許可条件が成立してから設定値変更終了条件が成立するまでの状態）に制御するための設定変更処理を実行する設定決定可能状態制御手段としての主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａを備えている。

【４８６１】

また、演出表示装置１６００、各種スピーカ（トップ中央スピーカ、トップサイドスピーカや、本体枠４の本体枠スピーカ等）、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ、左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、及び右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、を制御して遊技の演出を実行する機能と、接続判定手段としてＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）を実行する機能と、未接続報知手段としてＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続状態であると判定した場合に演出表示装置１６００に未接続エラー報知表示態様を表示させたり、各種スピーカから遊技盤未接続報知音を出力させたり、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤを軽微異常報知発光態様に発光制御したりする機能と、磁気検出異常報知手段として主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから電波照射ゴトが行われている旨を伝える報知表示に区分される磁石ゴト報知コマンドを受信したことに基づいて演出表示装置１６００に磁気検出エラー報知態様を表示させたり、各種スピーカから磁気検知報知音を出力させたり、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤを重大異常報知発光態様に発光制御したりする機能と、を有する周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａを備えている。

【４８６２】

そして、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）で右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていない未接続の状態であると判定した場合であって、設定変更処理後の特定期間内（例えば電源投入時動作確認の実行期間内）に、磁気センサ１０５０から検出信号が入力されたことに基づいて主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから電波照射ゴトが行われている旨を伝える報知表示に区分される磁石ゴト報知コマンドを周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａが受信した場合には、演出表示装置１６００に未接続エラー報知表示態様と磁気検出エラー報知態様とを表示する一方、各種スピーカから遊技盤未接続報知音や磁気検知報知音を出力しないとともに扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤを軽微異常報知発光態様や重大異常報知発光態様に発光制御しない。換言すると、未接続報知手段と磁気検出異常報知手段との機能の一部を制限して報知する。

【４８６３】

すなわち、設定変更処理の終了後の特定期間内（例えば電源投入時動作確認の実行期間内）に磁気センサ１０５０が磁気を検出した場合や、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）で左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとが電気的に接続されていない未接続の状態であると判定されている場合には、遊技を開始できる状況ではないために遊技店に不利益の発生するおそれは低いものの、遊技を開始できる状況とされるまでの残り期間が短い状態であるため、演出表示装置１６００においてのみ注意喚起を促し、各種スピーカや扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤについては注意喚起を行わないようにしている。また、電源投入時動作確認はパチンコ機１が設計者の意図した挙動で動作するか否かの確認を行う上で重要なものであり、この電源投入時動作確認の実行中に未接続報知手段や磁気検出異常報知手段による報知が行われることにより該報知に意識が向いて通常とは異なる異常な挙動が行われた場合に異常な挙動を見逃すおそれがある。通常とは異なる挙動を見逃した場合には遊技店や遊技者に不利益を与えるおそれがある。上記発明によれば、電源投入時動作確認に集中させることができ、異常な挙動を見逃すことを抑止することができ、遊技店や遊技者に不利益を与えない。

【４８６４】

なお、設定変更処理の終了後の特定期間（例えば電源投入時動作確認の実行期間）が経

過した後に磁気検出異常報知手段の報知期間が残っている場合には、制限されている機能を解除して報知を行うようにしてもよい。また、磁気センサ１０５０が磁気を検出した場合には遊技球の賞球に直接的に関わる不正行為が行われている可能性がある一方、左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとが電気的に接続されていない未接続の状態である場合には遊技球の賞球に直接的に関わる不正行為が行われている可能性は低い。そのため、この場合には磁気検出異常報知手段については制限されている機能を解除して報知を行う一方で、未接続報知手段については機能が制限される状態を継続し、磁気検出異常報知手段の報知期間が経過した後に未接続報知手段について制限されている機能を解除して報知するようにしてもよい。つまり、磁気検出異常報知手段による報知を未接続報知手段による報知よりも優先して実行するようにしてもよい。

【４８６５】

［小括Ｃ］

外枠と、該外枠に開閉可能に設けられる本体枠と、該本体枠に開閉可能に設けられる扉枠と、を有する遊技枠側構成部と、該遊技枠側構成部に着脱可能に設けられる遊技盤側構成部と、抽選条件の成立に基づいて抽選を行う抽選手段と、該抽選手段の前記抽選に関する設定情報を確認可能な設定確認状態に制御する設定確認状態制御手段と、遊技の演出を制御する演出制御基板と、磁気を検出可能な磁気検出センサと、を備える遊技機であって、前記遊技盤側構成部は、第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とから構成され、前記演出制御基板は、前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていない場合に報知可能な未接続報知手段と、前記磁気検出センサが磁気を検出している場合に報知可能な磁気検出異常報知手段と、を有し、電力供給開始後の所定期間内に前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていないとともに、前記磁気センサが磁気を検出している場合であっても、前記設定確認状態中に前記未接続報知手段と前記磁気検出異常報知手段とによる報知を行わない。

【４８６６】

具体的には、例えば、本実施形態のパチンコ機１は、遊技ホールの島設備（図示しない）に設置される枠状の外枠２と、外枠２の前面を開閉可能に閉鎖する扉枠３と、扉枠３を開閉可能に支持していると共に外枠２に開閉可能に取付けられている本体枠４と、から構成される遊技枠側構成部には、遊技盤側構成部として、左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとから構成される分割遊技盤５Ａが着脱可能に設けられている。

【４８６７】

また、左側遊技盤５ＡＬには、遊技領域５ａ内において不正に作用する磁気を検知する複数の磁気センサ１０５０を備えている。また、第一始動口２００２又は第二始動口２００４への遊技球の入球に基づいて当り判定処理（ステップＳ３０５）を実行する抽選手段及び該抽選に関する設定値を確認可能な設定確認状態（設定値表示許可条件が成立してから設定値表示終了条件が成立するまでの状態）に制御するための設定値確認表示処理を実行する設定確認状態制御手段としての主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａを備えている。

【４８６８】

また、演出表示装置１６００、各種スピーカ（トップ中央スピーカ、トップサイドスピーカや、本体枠４の本体枠スピーカ等）、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ、左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、及び右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、を制御して遊技の演出を実行する機能と、未接続報知手段としてＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続状態であると判定した場合に演出表示装置１６００に未接続エラー報知表示態様を表示させたり、各種スピーカから遊技盤未接続報知音を出力させたり、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤを軽微異常報知発光態様に発光制御したりする機能と、磁気検出異常報知手段として主

制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから電波照射ゴトが行われている旨を伝える報知表示に区分される磁石ゴト報知コマンドを受信したことに基づいて演出表示装置１６００に磁気検出エラー報知態様を表示させたり、各種スピーカから磁気検知報知音を出力させたり、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤを重大異常報知発光態様に発光制御したりする機能と、を有する周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａを備えている。

【４８６９】

そして、パチンコ機１への電力供給開始後の所定期間内（例えばパチンコ機１への電源供給が開始されてから設定値確認表示処理を開始するまでの期間やパチンコ機１への電源供給が開始されてから設定値確認表示処理を終了するまでの期間、設定値確認表示処理が開始されてから設定値確認表示処理を終了するまでの期間等）において左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとが接続されておらず、かつ磁気センサ１０５０が磁気を検出している場合であっても、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが設定値確認表示処理を実行している期間には周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａの未接続報知手段と磁気検出異常報知手段とによる報知を行わないようになっている。

【４８７０】

すなわち、設定値確認表示処理を開始する以前の状態や設定値確認表示処理の実行中には磁気センサ１０５０が磁気を検出したり、左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとが電気的に接続されていない状態となっていても遊技を開始できる状況ではないために遊技店に不利益の発生するおそれは低い。また、設定値確認表示処理は遊技店員の操作に基づいて行われるものであり、設定値確認表示処理が開始されて設定値を決定するための操作を実行しているときに未接続報知手段や磁気検出異常報知手段による報知が行われることにより該報知に意識が向いて設定値の確認を誤るおそれがある。設定値の確認を誤って本来とは異なる設定値を認識した場合には遊技店や遊技者に不利益を与えるおそれがある。上記発明によれば、設定値確認表示処理が実行されている場合には設定値の確認に集中させることができ、誤って本来とは異なる設定値に認識されることを抑止することができ、遊技店や遊技者に不利益を与えない。

【４８７１】

なお、設定値確認表示処理を開始する以前や設定値確認表示処理の実行中に磁気センサ１０５０が磁気を検出した場合であっても設定値確認表示処理を終了する以前に磁気が検出されなくなった場合には遊技を開始できる状況ではない状態でのみ磁気が検出されたものであって遊技店に不利益を与えるおそれは低い一方で、設定値確認表示処理を開始する以前や設定値確認表示処理の実行中に左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとが電気的に接続されていない場合には設定値確認表示処理の実行後にも接続されていない状態が継続する可能性が高いものであり、このような状態で遊技が開始されると設計者の意図しない挙動で遊技が進行してしまい、遊技店や遊技者に不利益を与えるおそれがある。そのため、パチンコ機１への電力供給開始後の所定期間内（例えばパチンコ機１への電源供給が開始されてから設定値確認表示処理を開始するまでの期間やパチンコ機１への電源供給が開始されてから設定値確認表示処理を終了するまでの期間、設定値確認表示処理が開始されてから設定値確認表示処理を終了するまでの期間等）において左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとが接続されておらず、かつ磁気センサ１０５０が磁気を検出している場合には、設定値確認表示処理の終了後に未接続報知手段による報知のみを実行するか、又は未接続報知手段による報知を磁気検出異常報知手段による報知よりも優先して実行するようにしてもよい。

【４８７２】

［小括Ｄ］

外枠と、該外枠に開閉可能に設けられる本体枠と、該本体枠に開閉可能に設けられる扉枠と、を有する遊技枠側構成部と、該遊技枠側構成部に着脱可能に設けられる遊技盤側構成部と、抽選条件の成立に基づいて抽選を行う抽選手段と、該抽選手段の前記抽選に関す

る設定情報を確認可能な設定確認状態に制御する設定確認状態制御手段と、遊技の演出を制御する演出制御基板と、磁気を検出可能な磁気検出センサと、を備える遊技機であって、前記遊技盤側構成部は、第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とから構成され、前記演出制御基板は、前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが接続されているか否かの判定を行う接続判定手段と、該接続判定手段が前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていないと判定した場合に報知可能な未接続報知手段と、前記磁気検出センサが磁気を検出している場合に報知可能な磁気検出異常報知手段と、を有し、前記接続判定手段が前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていないと判定した場合であって、前記設定確認状態終了後の特定期間内に、前記磁気検出センサが磁気を検出している場合には、前記未接続報知手段の機能を制限して報知させる一方、前記磁気異常報知手段の機能を制限することなく報知させる。

【４８７３】

具体的には、例えば、本実施形態のパチンコ機１は、遊技ホールの島設備（図示しない）に設置される枠状の外枠２と、外枠２の前面を開閉可能に閉鎖する扉枠３と、扉枠３を開閉可能に支持していると共に外枠２に開閉可能に取付けられている本体枠４と、から構成される遊技枠側構成部には、遊技盤側構成部として、左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとから構成される分割遊技盤５Ａが着脱可能に設けられている。

【４８７４】

また、左側遊技盤５ＡＬには、遊技領域５ａ内において不正に作用する磁気を検知する複数の磁気センサ１０５０を備えている。また、第一始動口２００２又は第二始動口２００４への遊技球の入球に基づいて当り判定処理（ステップＳ３０５）を実行する抽選手段及び該抽選に関する設定値を確認可能な設定確認状態（設定値表示許可条件が成立してから設定値表示終了条件が成立するまでの状態）に制御するための設定値確認表示処理を実行する設定確認状態制御手段としての主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａを備えている。

【４８７５】

また、演出表示装置１６００、各種スピーカ（トップ中央スピーカ、トップサイドスピーカや、本体枠４の本体枠スピーカ等）、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ、左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、及び右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、を制御して遊技の演出を実行する機能と、接続判定手段としてＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）を実行する機能と、未接続報知手段としてＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続状態であると判定した場合に演出表示装置１６００に未接続エラー報知表示態様を表示させたり、各種スピーカから遊技盤未接続報知音を出力させたり、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤを軽微異常報知発光態様に発光制御したりする機能と、磁気検出異常報知手段として主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから電波照射ゴトが行われている旨を伝える報知表示に区分される磁石ゴト報知コマンドを受信したことに基づいて演出表示装置１６００に磁気検出エラー報知態様を表示させたり、各種スピーカから磁気検知報知音を出力させたり、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤを重大異常報知発光態様に発光制御したりする機能と、を有する周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａを備えている。

【４８７６】

そして、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）で右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていない未接続の状態であると判定した場合であって、設定値確認表示処理後の特定期間内（例えば電源投入時動作確認の実行期間内）に、磁気センサ１０５０から検出信号が入

力されたことに基づいて主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから電波照射ゴトが行われている旨を伝える報知表示に区分される磁石ゴト報知コマンドを周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａが受信した場合には、演出表示装置１６００に未接続エラー報知表示態様と磁気検出エラー報知態様とを表示するものの、各種スピーカからは遊技盤未接続報知音を出力することなしに磁気検知報知音のみを出力し、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤを軽微異常報知発光態様で発光制御することなしに重大異常報知発光態様のみに発光制御する。換言すると、未接続報知手段については機能の一部を制限して報知する一方、磁気検出異常報知手段については機能を制限することなしに報知する。

【４８７７】

すなわち、設定値確認表示処理の終了後の特定期間内（例えば電源投入時動作確認の実行期間内）に磁気センサ１０５０が磁気を検出した場合や、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）で左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとが電気的に接続されていない未接続の状態であると判定されている場合には、遊技を開始できる状況ではないために遊技店に不利益の発生するおそれは低いものの、遊技を開始できる状況とされるまでの残り期間が短い状態であり、さらに磁気センサ１０５０が磁気を検出した場合には遊技球の賞球に直接的に関わる不正行為が行われている可能性がある一方、左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとが電気的に接続されていない未接続の状態である場合には遊技球の賞球に直接的に関わる不正行為が行われている可能性は低いため、未接続報知手段と磁気検出異常報知手段との両方において注意喚起しつつも、遊技球の賞球に直接的に関わる不正行為が行われている可能性があることを報知する磁気検出異常報知手段については機能を制限することなく、換言すると磁気検出異常報知手段による報知を未接続報知手段による報知よりも優先して実行するようにしている。

【４８７８】

なお、電源投入時動作確認はパチンコ機１が設計者の意図した挙動で動作するか否かの確認を行う上で重要なものであるため、磁気検出異常報知手段による報知が行われている場合にも一部の機能を制限して電源投入時動作確認を実行するようにしてもよい。例えば、ＬＥＤを電源投入時動作確認時の発光態様で発光制御する一方で、可動体を電源投入時動作確認時の動作態様で動作させないようにしてもよいし、可動体を電源投入時動作確認時の動作態様で動作させる一方で、ＬＥＤを電源投入時動作確認時の発光態様で発光制御させないようにしてもよい。これにより、一部の機能を制限した状態とされるものの電源投入時動作確認を実行して挙動を確認することができるようになるため、異常な挙動を見逃すことが抑止されて、遊技店や遊技者に不利益を与えない。

【４８７９】

［小括Ｅ］

外枠と、該外枠に開閉可能に設けられる本体枠と、該本体枠に開閉可能に設けられる扉枠と、を有する遊技枠側構成部と、該遊技枠側構成部に着脱可能に設けられる遊技盤側構成部と、所定の発光態様で発光可能な発光部と、所定の音出力が可能な音出力部と、遊技の演出を制御する演出制御基板と、を備える遊技機であって、前記遊技盤側構成部は、第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とから構成され、前記演出制御基板は、前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていない場合に前記発光部のうちの特定発光部を未接続報知態様で発光可能であるとともに前記音出力部から未接続報知音を出力可能な未接続報知手段と、第１の操作に応じて前記音出力部の音量を変更可能な音量変更手段と、第２の操作に応じて前記特定発光部の輝度を変更可能な輝度変更手段と、を備え、前記未接続報知手段から前記未接続報知音が出力されている場合には、前記第１の操作に応じて当該未接続報知音の音量を変更可能とされる一方、前記特定発光部が前記未接続報知態様で発光されている場合には、前記第２の操作がなされても当該未接続報知態様の輝度が変更されることなく一定の輝度で発光される。

【４８８０】

具体的には、例えば、本実施形態のパチンコ機１は、遊技ホールの島設備（図示しない）に設置される枠状の外枠２と、外枠２の前面を開閉可能に閉鎖する扉枠３と、扉枠３を開閉可能に支持していると共に外枠２に開閉可能に取付けられている本体枠４と、から構成される遊技枠側構成部には、遊技盤側構成部として、左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとから構成される分割遊技盤５Ａが着脱可能に設けられている。

【４８８１】

また、左側遊技盤５ＡＬには、遊技領域５ａ内において不正に作用する磁気を検知する複数の磁気センサ１０５０を備えている。また、発光部として扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ、左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、及び右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤと、を備え、音出力部として各種スピーカ（トップ中央スピーカ、トップサイドスピーカや、本体枠４の本体枠スピーカ等）を備えている。

【４８８２】

また、演出表示装置１６００、各種スピーカ（トップ中央スピーカ、トップサイドスピーカや、本体枠４の本体枠スピーカ等）、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ、左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、及び右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、を制御して遊技の演出を実行する機能と、未接続報知手段としてＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続状態であると判定した場合に演出表示装置１６００に未接続エラー報知表示態様を表示させたり、各種スピーカから遊技盤未接続報知音を出力させたり、特定発光部としての扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤを軽微異常報知発光態様に発光制御したりする機能と、音量変更手段として音量調節ボタン２２７の操作に応じて各種スピーカ（トップ中央スピーカ、トップサイドスピーカや、本体枠４の本体枠スピーカ等）の音量を調節する機能と、輝度変更手段として光量調節ボタン２２８の操作に応じて扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ、左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、及び右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤと、の輝度を調節する機能と、を有する周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａを備えている。

【４８８３】

そして、各種スピーカから遊技盤未接続報知音が出力されている場合には、音量調節ボタン２２７の操作に応じて当該遊技盤未接続報知音の音量を変更可能とされる一方、特定発光部としての扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユ６ニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤが軽微異常報知発光態様に発光制御されている場合には光量調節ボタン２２８が操作されても扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の輝度を変更することなしに予め決められている一定の輝度で発光させるようになっている。

【４８８４】

すなわち、左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとが電気的に接続されていない状態であっても各種スピーカから出力される遊技盤未接続報知音については音量を変更可能にする一方で特定発光部としての扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユ６ニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤの軽微異常報知発光態様については輝度を変更できないようにするため、遊技者に過度に不快感を与えないようにしつつ、特定発光部としての扉枠ユニットの各種ＬＥＤの軽微異常報知発光態様の発光制御によって左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５Ａ

Ｒとが電気的に接続されていない状態であることを気付かせることができるようになる。
【４８８５】
［小括Ｆ］
外枠と、該外枠に開閉可能に設けられる本体枠と、該本体枠に開閉可能に設けられる扉枠と、を有する遊技枠側構成部と、該遊技枠側構成部に着脱可能に設けられる遊技盤側構成部と、抽選条件の成立に基づいて抽選を行う抽選手段と、該抽選手段の前記抽選に関する設定情報を決定可能な設定決定可能状態に制御する設定決定可能状態制御手段と、遊技の演出を制御する演出制御基板と、を備える遊技機であって、前記遊技盤側構成部は、第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とから構成され、前記演出制御基板は、前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが接続されているか否かの判定を行う接続判定手段と、該接続判定手段が前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていないと判定した場合に報知可能な未接続報知手段と、を有し、前記未接続報知手段は、前記接続判定手段が前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていないと判定した場合に、前記設定決定可能状態終了後の第１のタイミングで第１報知し、前記第１のタイミングよりも後の第２のタイミングで前記第１報知よりも強い第２報知し得る。
【４８８６】
具体的には、例えば、本実施形態のパチンコ機１は、遊技ホールの島設備（図示しない）に設置される枠状の外枠２と、外枠２の前面を開閉可能に閉鎖する扉枠３と、扉枠３を開閉可能に支持していると共に外枠２に開閉可能に取付けられている本体枠４と、から構成される遊技枠側構成部には、遊技盤側構成部として、左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとから構成される分割遊技盤５Ａが着脱可能に設けられている。
【４８８７】
また、第一始動口２００２又は第二始動口２００４への遊技球の入球に基づいて当り判定処理（ステップＳ３０５）を実行する抽選手段及び該抽選に関する設定値を決定可能な設定決定可能状態（設定値変更許可条件が成立してから設定値変更終了条件が成立するまでの状態）に制御するための設定変更処理を実行する設定決定可能状態制御手段としての主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａを備えている。
【４８８８】
また、演出表示装置１６００、各種スピーカ（トップ中央スピーカ、トップサイドスピーカや、本体枠４の本体枠スピーカ等）、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ、左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、及び右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、を制御して遊技の演出を実行する機能と、接続判定手段としてＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）を実行する機能と、未接続報知手段としてＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続状態であると判定した場合に演出表示装置１６００に未接続エラー報知表示態様を表示させたり、各種スピーカから遊技盤未接続報知音を出力させたり、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤを軽微異常報知発光態様に発光制御したりする機能と、を有する周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａを備えている。
【４８８９】
そして、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）で右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていない未接続の状態であると判定した場合に、設定変更処理後の第１のタイミング（例えば電源投入時動作確認を開始するとき）に、演出表示装置１６００に未接続エラー報知表示態様を表示する一方、各種スピーカから遊技盤未接続報知音を出力しないとともに扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤを軽微異常報知発光態様に発光制御することなく、設定変更処理後の第２のタイミング（例えば電源投入

動作確認を終了したとき）に、演出表示装置１６００に未接続エラー報知表示態様を表示し、各種スピーカから遊技盤未接続報知音を出力し、かつ扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤを軽微異常報知発光態様に発光制御する。

【４８９０】

すなわち、設定変更処理の終了後に左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとが電気的に接続されていない未接続の状態であると判定されている場合には、遊技を開始できる状況ではないために遊技店に不利益の発生するおそれは低いものの、遊技を開始できる状況とされるまでの残り期間が短い状態であるため、第１のタイミングで演出表示装置１６００においてのみ注意喚起を促す第１報知し、各種スピーカや扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤについては注意喚起を行わないようにしている。また、電源投入時動作確認はパチンコ機１が設計者の意図した挙動で動作するか否かの確認を行う上で重要なものであり、この電源投入時動作確認の実行中に未接続報知手段による報知が行われることにより該報知に意識が向いて通常とは異なる異常な挙動が行われた場合に異常な挙動を見逃すおそれがある。通常とは異なる挙動を見逃した場合には遊技店や遊技者に不利益を与えるおそれがある。上記発明によれば、電源投入時動作確認に集中させることができ、異常な挙動を見逃すことを抑止することができ、遊技店や遊技者に不利益を与えない。

【４８９１】

また、第１のタイミングで演出表示装置１６００の表示を用いて注意喚起を行った後に接続状態が改善されなければ、第２のタイミングで演出表示装置１６００の表示に加えて各種スピーカの出力と扉枠ユニットの各種ＬＥＤによる発光によって注意喚起を行う第２報知することにより、不利益の発生するおそれの度合いに応じて段階的に報知を強めることができ、不利益の発生が抑制される。つまり、電源投入時動作確認の実行中等の遊技を開始できる状況ではない場合には遊技店に不利益の発生するおそれは低いため、演出表示装置１６００のみで注意喚起を行う第１報知し、電源投入時動作確認の終了後等の遊技を開始できる状況であれば遊技店に不利益の発生するおそれが高いため、演出表示装置１６００の表示に加えて各種スピーカの出力と扉枠ユニットの各種ＬＥＤによる発光との複数の報知手段（演出手段）によって注意喚起する第２報知することにより、段階的に報知を強めて注意喚起することができ、不利益の発生が抑制される。

【４８９２】

［小括Ｇ］

外枠と、該外枠に開閉可能に設けられる本体枠と、該本体枠に開閉可能に設けられる扉枠と、を有する遊技枠側構成部と、該遊技枠側構成部に着脱可能に設けられる遊技盤側構成部と、抽選条件の成立に基づいて抽選を行う抽選手段と、該抽選手段の前記抽選に関する設定情報を決定可能な設定決定可能状態に制御する設定決定可能状態制御手段と、所定の発光態様で発光可能な発光部と、画像を表示可能な表示部と、所定の態様で動作される可動部と、前記発光部と前記表示部と前記可動部とを制御する演出制御基板と、を備える遊技機であって、前記遊技盤側構成部は、第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とから構成され、前記演出制御基板は、前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが接続されているか否かの判定を行う接続判定手段と、該接続判定手段が前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていないと判定した場合に前記表示部に報知表示態様を表示可能であるとともに、前記発光部のうちの特定発光部を報知発光態様で発光可能な未接続報知手段と、前記設定決定可能状態の終了後に前記可動部を特定態様で動作させることが可能な駆動制御手段と、を有し、前記接続判定手段が前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていないと判定した場合には、前記可動部の前記特定態様での動作中に前記報知表示態様が表示される一方、前記可動部の前記特定態様での動作中に前記報知発光態様で発光されない。

【４８９３】

具体的には、例えば、本実施形態のパチンコ機１は、遊技ホールの島設備（図示しない）に設置される枠状の外枠２と、外枠２の前面を開閉可能に閉鎖する扉枠３と、扉枠３を開閉可能に支持していると共に外枠２に開閉可能に取付けられている本体枠４と、から構成される遊技枠側構成部には、遊技盤側構成部として、左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとから構成される分割遊技盤５Ａが着脱可能に設けられている。

【４８９４】

また、第一始動口２００２又は第二始動口２００４への遊技球の入球に基づいて当り判定処理（ステップＳ３０５）を実行する抽選手段及び該抽選に関する設定値を決定可能な設定決定可能状態（設定値変更許可条件が成立してから設定値変更終了条件が成立するまでの状態）に制御するための設定変更処理を実行する設定決定可能状態制御手段としての主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａを備えている。また、発光部として扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ、左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、及び右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤと、を備え、表示部として演出表示装置を備え、可動部として左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体（分割遊技盤５Ａのうちの左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１等）を備えている。

【４８９５】

また、演出表示装置１６００、各種スピーカ（トップ中央スピーカ、トップサイドスピーカや、本体枠４の本体枠スピーカ等）、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ、左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、及び右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体（分割遊技盤５Ａのうちの左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１等）を制御して遊技の演出を実行する機能と、接続判定手段としてＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）を実行する機能と、未接続報知手段としてＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続状態であると判定した場合に演出表示装置１６００に未接続エラー報知表示態様を表示させたり、各種スピーカから遊技盤未接続報知音を出力させたり、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤを軽微異常報知発光態様に発光制御したりする機能と、設定変更処理の終了後に電源投入時動作確認時の動作態様で左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体（分割遊技盤５Ａのうちの左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１等）を動作させる機能と、を有する周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａを備えている。

【４８９６】

そして、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）で右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていない未接続の状態であると判定した場合には、左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体（分割遊技盤５Ａのうちの左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１等）を電源投入時動作確認時の動作態様で動作させている期間に演出表示装置１６００に未接続エラー報知表示態様を表示させる一方、当該期間には扉枠ユニットの各種ＬＥＤを軽微異常報知発光態様に発光制御しないようになっている。

【４８９７】
すなわち、電源投入時動作確認はパチンコ機１が設計者の意図した挙動で動作するか否かの確認を行う上で重要なものであり、この電源投入時動作確認の実行中に未接続報知手段による報知が行われることにより該報知に意識が向いて通常とは異なる異常な挙動が行われた場合に異常な挙動を見逃すおそれがある。通常とは異なる挙動を見逃した場合には遊技店や遊技者に不利益を与えるおそれがある。上記発明によれば、電源投入時動作確認に集中させることができ、異常な挙動を見逃すことを抑止することができ、遊技店や遊技者に不利益を与えない。
【４８９８】
なお、電源投入時動作確認時の動作態様として左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体（分割遊技盤５Ａのうちの左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１等）の一部又は全部を演出表示装置１６００の前方に表出させるようにしてもよく、この場合には演出表示装置１６００に表示される未接続エラー報知表示態様に気付かせ易くなる。
【４８９９】
［小括Ｈ］
外枠（例えば外枠２）と、該外枠に開閉可能に設けられる本体枠（例えば本体枠４）と、該本体枠に開閉可能に設けられる扉枠（例えば扉枠３）と、を有する遊技枠側構成部と、
該遊技枠側構成部に着脱可能に設けられる遊技盤側構成部（例えば分割遊技盤５Ａ）と、
所定の特別操作（初期化処理実行条件を成立させる操作）に基づいて特別状態（ＲＡＭクリア処理（ステップＳ３８）と電源投入時動作確認とを実行する状態）を発生させることが可能な特別状態発生手段（主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭクリア処理（ステップＳ３８）を実行する部分）と、
を備える遊技機であって、
前記遊技盤側構成部は、それぞれ個別に前記遊技枠側構成部に固定される第１遊技盤側構成部（例えば左側遊技盤５ＡＬ）と第２遊技盤側構成部（例えば右側遊技盤５ＡＲ）とを有しており、
前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていない場合に報知可能な報知手段（例えば各種スピーカ、演出表示装置１６００、各種ＬＥＤ等のうちのいずれか一つ又は任意の複数（全部でもよい）の組み合わせ）を備え、
該報知手段は、
報知態様が時間の経過に伴って変化しない静的報知（例えば各種スピーカからの音程や音量が一定とされる出力音、演出表示装置１６００における固定された報知表示、各種ＬＥＤからの光量や発光色が一定とされる発光等）と、
報知態様が時間の経過に伴って変化する動的報知（例えば各種スピーカからの音階や音量が変化する出力音、演出表示装置１６００における表示内容が変化する報知表示、各種ＬＥＤからの光量や発光色が変化する発光等）と、を実行可能であり、
前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていない場合に、前記特別状態中には前記静的報知を行い、前記特別状態後には前記静的報知と動的報知とを行い得る、
ことを特徴とする。
このように構成することにより、特別状態中には静的報知が行われて特別状態での作業等の妨げとなることを抑止し、特別状態後には動的報知が行われて第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていないことを容易に気づかせることができるようになる。
【４９００】

また、表示手段（例えば演出表示装置１６００）と音出力手段（例えば各種スピーカ）又は発光手段（例えば各種ＬＥＤ）とをさらに備え、
前記報知手段は、前記表示手段に静止画像情報を表示することで前記静的報知を行い、前記音出力手段から少なくとも音量の変化を伴う報知音を出力するか又は前記発光手段を少なくとも光量の変化を伴う報知発光することで前記動的報知を行い得る、ようにしてもよい。
このように構成することにより、特別状態での作業などの妨げとならないように静止画像情報を表示し、特別状態後には音出力手段から出力される報知音や発光手段の発光によって第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていないことを容易に気づかせることができる。
【４９０１】
また、前記特別状態は、一定期間経過後に自動で（特に操作をすることなしに）終了する、ようにしてもよい。このように構成することにより、特別状態の終了操作等の無駄な操作を行う必要がなくなり、複数のパチンコ機１が設置される遊技場において特別状態時の手間を省き、特別状態における作業等の時間を短縮させることができる。
【４９０２】
また、パチンコ機１の後面側に設けられて所定の操作を受け付け可能な操作部（動作確認スイッチ１３１０ｊ）をさらに有し、該操作部に対する操作に応じて前記特別状態を発生させ得るようにしてもよい。このように構成することにより、遊技者が操作困難なパチンコ機１の後面側に設けられる操作部が操作されたときに特別状態を発生させ得るため、不必要に特別状態が発生することを抑制できる。
【４９０３】
［小括Ｉ］
外枠（例えば外枠２）と、該外枠に開閉可能に設けられる本体枠（例えば本体枠４）と、該本体枠に開閉可能に設けられる扉枠（例えば扉枠３）と、を有する遊技枠側構成部と、
該遊技枠側構成部に着脱可能に設けられる遊技盤側構成部（例えば分割遊技盤５Ａ）と、
前記遊技枠側構成部に設けられる遊技枠側演出手段（例えば各種スピーカ（トップ中央スピーカ、トップサイドスピーカや、本体枠４の本体枠スピーカ等）、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ等）と、
前記遊技盤側構成部に設けられる遊技盤側演出手段（例えば演出表示装置１６００、左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ等）と、
前記遊技枠側演出手段及び前記遊技盤側演出手段を制御する演出制御手段（例えば周辺制御ＩＣ１５１０ａ）と、
所定の特別操作に基づいて特別状態（ＲＡＭクリア処理（ステップＳ３８）と電源投入時動作確認とを実行する状態）を発生させることが可能な特別状態発生手段（主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭクリア処理（ステップＳ３８）を実行する部分）と、
を備える遊技機であって、
前記遊技盤側構成部は、それぞれ個別に前記遊技枠側構成部に固定される第１遊技盤側構成部（例えば左側遊技盤５ＡＬ）と第２遊技盤側構成部（例えば右側遊技盤５ＡＲ）とを有しており、
前記演出制御手段は、
前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていない場合に前記遊技枠側演出手段に遊技枠側報知態様（例えば軽微異常報知発光態様）を出力させ、前記遊技盤側演出手段に遊技盤側報知態様（例えば演出表示装置１６００における未接続エラー報知表示態様）を出力させるものであり、
前記特別状態中に前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていない場合には、前記遊技盤側演出手段に遊技盤側報知態様を出力させるものの、

前記遊技枠側演出手段には遊技枠側報知態様を出力させない、
ことを特徴とする。
このように構成することにより、特別状態中には遊技盤側演出手段に遊技盤側報知態様を出力させるものの、遊技枠側演出手段に遊技枠側報知態様を出力させないことで特別状態での作業等の妨げとなることを抑止できるようになる。
【４９０４】
また、前記演出制御手段は、前記特別状態後に前記遊技枠側演出手段に遊技枠側報知態様を出力させ得る、ことを特徴とする。
このように構成することにより、特別状態後には遊技枠側演出手段に遊技枠側報知態様を出力させて第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていないことを容易に気づかせることができるようになる。
【４９０５】
また、前記遊技盤側演出手段は、表示手段（例えば演出表示装置１６００）を有し、
前記遊技枠側演出手段は、音出力手段（例えば各種スピーカ）又は発光手段（例えば各種ＬＥＤ）を有し、
前記演出制御手段は、前記特別状態中に前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていない場合には、前記表示手段に遊技盤側報知態様を表示させるものの、前記音出力手段及び前記発光手段に前記遊技枠側報知態様を出力させない、ようにしてもよい。
このように構成することにより、特別状態での作業などの妨げとならないように表示手段に遊技盤側報知態様を表示し、特別状態後には音出力手段や発光手段から遊技枠側報知態様を出力させることによって第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていないことを容易に気づかせることができる。
【４９０６】
また、前記特別状態は、一定期間経過後に自動で（特に操作をすることなしに）終了する、ようにしてもよい。このように構成することにより、特別状態の終了操作等の無駄な操作を行う必要がなくなり、複数のパチンコ機１が設置される遊技場において特別状態時の手間を省き、特別状態における作業等の時間を短縮させることができる。
【４９０７】
また、パチンコ機１の後面側に設けられて所定の操作を受け付け可能な操作部（動作確認スイッチ１３１０ｊ）をさらに有し、該操作部に対する操作に応じて前記特別状態を発生させ得るようにしてもよい。このように構成することにより、遊技者が操作困難なパチンコ機１の後面側に設けられる操作部が操作されたときに特別状態を発生させ得るため、不必要に特別状態が発生することを抑制できる。
【４９０８】
［小括Ｊ］
遊技枠（例えば本体枠４）と遊技盤（例えば分割遊技盤５Ａ）とを備えた遊技機であって、
前記遊技機は、遊技機の遊技性能を決定可能な第１の遊技機状態（例えば設定変更処理（ステップＳ３７）を実行する状態）と、
遊技を行うことが可能であり、且つ、音報知手段（例えば各種スピーカ（トップ中央スピーカ、トップサイドスピーカや、本体枠４の本体枠スピーカ等））により特定音（例えばＲＡＭクリア報知音）を出力可能な第２の遊技機状態（例えばＲＡＭクリア処理（ステップＳ３８）と電源投入時動作確認とを実行する状態）と、
遊技を行うことが可能である第３の遊技機状態（例えばＲＡＭクリア処理（ステップＳ３８）と電源投入時動作確認との終了後の遊技モードを実行する状態）と、を有し、
前記遊技盤は、第１遊技盤側構成部（例えば左側遊技盤５ＡＬ）と、第２遊技盤側構成部（例えば右側遊技盤５ＡＲ）と、を有し、
前記第１の遊技機状態から前記第２の遊技機状態に移行可能であり、さらに当該第２の遊技機状態から前記第３の遊技機状態に移行可能であり、且つそれぞれの遊技機状態は逆

行せず、
前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部は、それぞれ個別に前記遊技枠に固定されており、
前記第１遊技盤側構成部は、遊技の演出を実行するマイクロプロセッサ（例えば周辺制御ＩＣ１５１０ａ）を搭載した演出制御基板（例えば演出制御基板１５１０）を含む複数の基板で構成され、
前記第２遊技盤側構成部は、マイクロプロセッサを搭載していない特定基板（例えばＩＤ出力回路ＩＤＣを実装する基板）を備え、
前記特定基板は、第２遊技盤側構成部であることを識別可能な固有値（例えば右側遊技盤５ＡＲであることを識別可能な固有値）を備え、
前記第１遊技盤側構成部が前記第２遊技盤側構成部から伝達される前記固有値を受け取れない場合に発生する固有値エラー状態となった場合に、
前記第１の遊技機状態では、前記固有値エラー状態に対応するエラー報知をせず、
前記第２の遊技機状態では、前記固有値エラー状態に対応するエラー報知を行うが、前記音報知手段によるエラー報知を行わず、
前記第３の遊技機状態では、前記固有値エラー状態に対応するエラー報知を前記音報知手段によるエラー報知を含めて行う、
ことを特徴とする。
このように構成することにより、遊技機の遊技性能を決定可能な第１の遊技機状態中には固有値エラー状態に対応するエラー報知しないことで決定作業の妨げとならないようにし、音報知手段による特定音の出力を伴う第２の遊技状態中には音報知手段によるエラー報知を行わないことで音報知手段が正常であるか否かの確認作業の妨げとならないようにし、遊技機の遊技性能の決定作業や音報知手段の確認作業を伴わない第３の遊技状態中には音報知手段によるエラー報知を含めて固有値エラー状態に対応するエラー報知することで固有値エラー状態であることを見逃さないようにすることができる。
【４９０９】
また、前記演出制御基板は、前記固有値を前記特定基板から信号伝達する固有値伝達手段を備え、該固有値伝達手段から伝達される固有値と、自己が保有する固有値と、を比較可能である、ものであってもよい。
このように構成することにより、演出制御基板で固有値エラー状態であるか否かを判別してエラー報知することができる。
【４９１０】
［パチンコ機の確認モード］
次に、パチンコ機１の様々な機能や動作が正常であるか可能か否かを確認するための確認モードに移行制御する変形例について説明する。図３４１は変形例における主制御基板１３１０の概略図であり、図３４２は分割遊技盤５Ａの組み合わせとして左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとから構成される分割遊技盤５Ａが適合（整合）する状態で確認モードに移行制御する場合の挙動例である。なお、以下では上記実施形態と異なる部分についてのみ説明し、重複した説明を行わない。
【４９１１】
本例のパチンコ機１では、図３４１に示すようにパチンコ機１の背面側に設けられる主制御基板１３１０の下辺の中央寄りに押圧操作部を有する動作確認スイッチ１３１０ｊが配置され、遊技ホールの店員等のみが操作できるようになっている。そして、パチンコ機１の電源投入時や停電後の電力回復時における復電時において、「確認モード移行条件」が成立する場合には、確認モードに移行制御するようになっている。なお、上記した「確認モード移行条件」として、動作確認スイッチ１３１０ｊの押圧操作部が操作されていることを条件としてもよいし、動作確認スイッチ１３１０ｊの押圧操作部が操作されていることに加えてさらに外枠２に対して本体枠４が開放されていることを条件としてもよいし、動作確認スイッチ１３１０ｊの押圧操作部が操作されていること及び外枠２に対して本体枠４が開放されていることに加えてさらに外枠２に対して本体枠４が開放され、かつ設

定キースイッチ１３１１ａが設定キーＯＮされていることを条件としてもよい。即ち、パチンコ機１の電源投入時や停電後の電力回復時における復電時において、動作確認スイッチ１３１０ｊの押圧操作部が操作されているという「確認モード移行条件」が成立する場合に確認モードに移行制御可能としてもよいし、外枠２に対して本体枠４が開放され、かつ動作確認スイッチ１３１０ｊの押圧操作部が操作されているという「確認モード移行条件」が成立する場合に確認モードに移行制御可能としてもよいし、外枠２に対して本体枠４が開放され、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの差し込み口に設定キーが差し込まれ、設定キーシリンダが時計方向へ向かって６０度回動操作されて第１のＯＮ操作されることで設定キースイッチ１３１１ａが設定キーＯＮされ、かつ動作確認スイッチ１３１０ｊの押圧操作部が操作されているという「確認モード移行条件」が成立する場合に確認モードに移行制御可能としてもよい。

【４９１２】

また、本例では確認モードとして外部端子板５５８への出力が正常であるか否かを確認するための外部端子板出力確認モードと、パチンコ機１の前面側に設けられる各種の操作部（演出操作ユニット３００の演出操作部３０１等の操作部、音量調節ボタン２２７、光量調節ボタン２２８等）や、左側遊技盤５ＡＬや右側遊技盤５ＡＲに設けられる各種ＬＥＤ、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ、各種スピーカ、左側遊技盤５ＡＬに設けられる各種可動体（裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１）や、扉枠３に設けられる各種可動体（演出操作ユニット３００の演出操作部３０１）、等の一部又は全部について正常に動作可能か否かを確認するための動作確認モードと、に移行制御可能となっている。

【４９１３】

なお、本例では外部端子板出力確認モードと動作確認モードとの移行条件が異なるようになっている。具体的には、パチンコ機１の電源投入時や停電後の電力回復時における復電時において、外枠２に対して本体枠４が開放された状態で、設定キースイッチ１３１１ａが設定キーＯＮされ、かつ動作確認スイッチ１３１０ｊの押圧操作部が操作されているという「第１確認モード移行条件」が成立している場合に外部端子板出力確認モードに移行制御し、パチンコ機１の電源投入時や停電後の電力回復時における復電時において、外枠２に対して本体枠４が開放された状態で、動作確認スイッチ１３１０ｊの押圧操作部が操作されているという「第２確認モード移行条件」が成立している場合に動作確認モードに移行制御するようになっている。また、本例では外部端子板出力確認モードに移行制御した後に必ず動作確認モードに移行制御するようになっている。すなわち、「第１確認モード移行条件」が成立している場合には外部端子板出力確認モードと動作確認モードとに順次移行制御し、「第２確認モード移行条件」が成立している場合には動作確認モードのみに移行制御するようになっている。そのため、外部端子板出力確認モード後にパチンコ機１の電源を遮断し、「第２確認モード移行条件」が成立している状態で復電させる必要がなくなり、作業性の悪化を抑止できるし、動作確認モードは一定期間で自動的に終了するため動作確認モードに移行制御する必要がなくても動作確認モードの終了操作等の無駄な操作を行う必要がない。

【４９１４】

また、パチンコ機１の電源投入時や停電後の電力回復時における復電時において、外枠２に対して本体枠４が開放された状態で、設定キースイッチ１３１１ａが設定キーＯＮされ、かつ動作確認スイッチ１３１０ｊの押圧操作部が操作されているという上記「第１確認モード移行条件」が成立することにより外部端子板出力確認モードに移行制御した後、設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように設定キーシリンダが時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作するこ

とにより設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦとするという「外部端子板出力確認モード終了条件」が成立することにより、外部端子板出力確認モードを終了させる。つまり、遊技ホールの店長等の管理者による操作に応じて外部端子板出力確認モードに移行制御させ、外部端子板出力確認モード中における遊技ホールの店長等の管理者による操作に応じて外部端子板出力確認モードを終了させて、動作確認モードを開始させるようになっている。

【４９１５】

ここで、パチンコ機１の設置場所とホールコンピュータの設置場所とは遊技ホール毎に異なるものであり、パチンコ機１とホールコンピュータとが離れた位置に設置されていたり、パチンコ機１の設置場所からホールコンピュータの設置場所に向かう場合に狭い通路を通るような場合もある。また、複数台のパチンコ機１において外部端子板５５８への出力が正常であるか否かを確認するような場合には最初に第１確認モード移行条件を成立させてからホールコンピュータの設置場所に到着するまでの時間が長くなる。そのため、外部端子板出力確認モードが一定期間で終了するように構成すると、ホールコンピュータにおいて外部端子板５５８への出力が正常であるか否かを確認する以前に外部端子板出力確認モードが終了してしまうおそれがあるし、外部端子板出力確認モードの期間を長くすると作業に時間がかかることになる。そのため、本例のパチンコ機１では遊技ホールの店長等の管理者による操作に応じて外部端子板出力確認モードを終了させるように構成し、ホールコンピュータにおいて外部端子板５５８への出力を確実に確認できるようにするとともに、管理者の作業を滞らせないようになっている。

【４９１６】

図３４２に示すように外部端子板出力確認モードでは、外部端子板５５８から遊技ホールに設置されたホールコンピュータへ出力確認信号が出力される。そして、遊技ホールに設置されたホールコンピュータにおいて出力確認信号が入力されたことを確認することにより、外部端子板５５８から遊技ホールに設置されたホールコンピュータへの信号出力が正常であることを確認することができるようになっている。なお、出力確認信号は外部端子板出力確認モード中にのみを出力されるものである。そのため、外部端子板５５８から出力される他の信号と間違えることなく出力確認信号が出力されたことを確認することができる。

【４９１７】

また、外部端子板５５８から遊技ホールに設置されたホールコンピュータへ出力される出力確認信号は、外部端子板出力確認モードに移行制御するときにオン（出力状態）とされ、外部端子板出力確認モードの終了後に一定期間が経過したときにオフ（出力停止状態）とされる。換言すると、外部端子板出力確認モードの制御中に出力確認信号がオン（出力状態）とされるだけでなく、外部端子板出力確認モードの終了後の一定期間においても出力確認信号がオン（出力状態）とされるようになっている。

【４９１８】

上記したように、外部端子板出力確認モードは遊技ホールの店長等の管理者による操作に応じて終了されるため、管理者が操作を誤って外部端子板出力確認モードを短時間で終了させてしまった場合に出力確認信号の出力期間が短くなり、遊技ホールに設置されたホールコンピュータにおいて出力確認信号が入力されたことを確認できないおそれがある。このような場合には、パチンコ機１の電源を遮断した後に復電させて「第１確認モード移行条件」を成立させる必要が生じるため、作業負担が増大することになる。本例では、外部端子板出力確認モードの終了後に一定期間が経過するまでは出力確認信号の出力を継続させるため、管理者が誤って外部端子板出力確認モードを短時間で終了させてしまった場合であっても遊技ホールに設置されたホールコンピュータにおいて出力確認信号が入力されたことを確実に確認することができるようになっている。

【４９１９】

また、外部端子板出力確認モード中は払出制御基板６３３に対して遊技球Ｂの発射を許可する旨を伝える発射許可信号が発射停止論理（発射非許可論理）に設定され、球発射装

置５４０による遊技球の発射が禁止された状態となっている。そして、外部端子板出力確認モードが終了した後に払出制御基板６３３に対して遊技球Ｂの発射を許可する旨を伝える発射許可信号が発射許可論理に設定され、球発射装置５４０による遊技球の発射が許可された状態となる。なお、外部端子板出力確認モードの終了後に主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を実行する場合には、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによる主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）が終了し、割り込み許可設定（ステップＳ５２）が行われた場合に払出制御基板６３３に対して遊技球Ｂの発射を許可する旨を伝える発射許可信号が発射許可論理に設定されて、球発射装置５４０による遊技球の発射が許可された状態となる。

【４９２０】

このように、外部端子板出力確認モード中は球発射装置５４０による遊技球の発射が禁止された状態とされて遊技の進行を停止させるため、外部端子板５５８から出力確認信号とは異なる信号（パチンコ機１の状態を示すためのコマンド）が遊技ホールに設置されたホールコンピュータに送信されて信号確認出力の確認作業の妨げとなることを抑制できる。

【４９２１】

なお、外部端子板出力確認モード中に球発射装置５４０による遊技球の発射を禁止された状態とすることで遊技の進行を停止させるものに限らず、外部端子板出力確認モード中に球発射装置５４０による遊技球の発射を禁止された状態とすることなしに、又は外部端子板出力確認モード中に球発射装置５４０による遊技球の発射を禁止された状態とすることに加えて、第一始動口センサ３００２及び第二始動口センサ２４０１による検出を無効にする（第一始動口センサ３００２及び第二始動口センサ２４０１による検出を行わない状態とすること、第一始動口センサ３００２及び第二始動口センサ２４０１による検出が行われても該検出に応じた処理を実行することなく無効とすること等のいずれかの処理を行う）ようにしてもよい。この場合にも特別図柄の変動表示が開始させないようにすることができるため、遊技の進行を停止させることができ、外部端子板５５８から出力確認信号とは異なる信号（パチンコ機１の状態を示すためのコマンド）が遊技ホールに設置されたホールコンピュータに送信されて信号確認出力の確認作業の妨げとなることを抑制できる。

【４９２２】

また、外部端子板出力確認モードが開始されると外部端子板出力確認モードを開始する旨を伝える外部端子板出力確認モード開始コマンドが周辺制御基板１５１０に送信され、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは出力確認モード開始コマンドを受信すると、演出表示装置１６００に出力確認モード報知態様（本例では「出力確認中」）を表示させる（出力確認モードを終了するまで表示させるものであってもよいし、一定期間表示させた後に表示を終了させるものであってもよい。）とともに、出力確認モード報知音（「出力確認中」というアナウンス音声及び「キンコーン」等の警告音）を予め決められている音量（設定可能な最大の音量でもよいし、周辺制御基板１５１０に備える音量調整スイッチにより調整されるデフォルト音量でもよい。）で各種スピーカから繰り返し出力させる（出力確認モードを終了するまで繰り返し出力させるものであってもよいし、一定回数（例えば５回）又は一定期間（例えば３０秒）繰り返し出力した後に出力を停止させるものであってもよい。）。

【４９２３】

また、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）及び右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）を出力確認モード時に応じた出力確認モード報知発光態様（この例では扉枠ユニットの各種ＬＥＤと右側遊技盤５ＡＲとを同一色で点灯させ、短時間で発光色を切り

替える態様）で点灯させる（出力確認モードを終了するまで出力確認モード報知発光態様で点灯させるものであってもよいし、一定期間出力確認モード報知発光態様で発光させた後に出力確認モード報知発光態様を終了して消灯又は別の発光態様で点灯させるものであってもよい。）。これにより外部端子板５５８の出力確認が実行されていることを報知し、外部端子板５５８から遊技ホールに設置されたホールコンピュータへの出力信号が正常であるか否かを確認することができるようになる。

【４９２４】

なお、外部端子板出力確認モード中に各種スピーカから出力される出力確認モード報知音は音量調節ボタン２２７による音量の調節が不可能とされている。上記したように遊技者は音量調節ボタン２２７を操作することにより各種スピーカから出力される音量を調節することが可能であるが、外部端子板出力確認モード中に出力される出力確認モード報知音の音量は遊技者が音量調節ボタン２２７を操作しても調節することができないようになっている。そのため、外部端子板出力確認モード中には予め決められた音量で出力確認モード報知音を出力させることができるようになり、各種スピーカから出力される音声によって外部端子板５５８から出力確認信号が出力されていることを確実に伝えることができるため、出力信号が正常であるか否かを確認することができるようになる。

【４９２５】

また、外部端子板出力確認モード中に行われる出力確認モード報知発光態様も光量調節ボタン２２８による光量の調節が不可能とされている。上記したように遊技者は光量調節ボタン２２８を操作することにより扉枠３や分割遊技盤５Ａに設けられている各種の装飾基板に実装されるＬＥＤのうちの一部のＬＥＤについて光量（輝度）を調節することが可能であるが、外部端子板出力確認モード中に行われる出力確認モード報知発光態様は遊技者が光量調節ボタン２２８を操作しても調節することができないようになっている。そのため、外部端子板出力確認モード中には予め決められた光量（輝度）で扉枠３や分割遊技盤５Ａに設けられている各種の装飾基板のＬＥＤが発光制御されて出力確認モード報知発光態様を行うことができるようになり、出力確認モード報知発光態様によって外部端子板５５８から出力確認信号が出力されていることを確実に伝えることができるため、出力信号が正常であるか否かを確認することができるようになる。

【４９２６】

また、外部端子板出力確認モード中には音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８を操作しても演出表示装置１６００に現在の音量や光量（輝度）に応じた目盛が表示されず、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８の操作に応じた確認音も出力されないし、演出表示装置１６００に現在の音量や光量（輝度）に応じた目盛が表示されないため音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８を複数回操作しても目盛が変化することもない。そのため、演出表示装置１６００における出力確認モード報知態様の表示の視認が現在の音量や光量（輝度）に応じた目盛によって妨げられることを抑制できるし、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８の操作に応じた確認音によって出力確認モード報知音が聞き取りにくくなることを抑制でき、外部端子板５５８から出力確認信号が出力されていることを確実に伝えることができる。

【４９２７】

また、外部端子板出力確認モード中には、左側遊技盤５ＡＬに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される装飾基板に実装される各種ＬＥＤやサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤ、さらに左側遊技盤５ＡＬに設けられて主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによって制御される機能表示ユニット１４００のＬＥＤ、は消灯状態とされる。すなわち、本例のパチンコ機１では左側遊技盤５ＡＬと右側遊技盤５ＡＲとによって分割遊技盤５Ａを構成するものでありながらも、出力確認中に左側遊技盤５ＡＬに設けられる各種ＬＥＤについては主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによって制御されるか周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御されるかにかかわらず全て消灯され、右側遊技盤５ＡＲに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される各種ＬＥＤについてのみ点灯され

るようになっている。このように、外部端子板出力確認モード中には分割遊技盤５Ａに設けられる各種ＬＥＤのうち、左側遊技盤５ＡＬに設けられる各種ＬＥＤと右側遊技盤５ＡＲに設けられる各種ＬＥＤとの発光態様を異ならせるため、パチンコ機１を視認した者に違和感を与えて外部端子板出力確認モードが実行されていることを直ぐに気付かせることができる。なお、左側遊技盤５ＡＬに実装される装飾基板や、機能表示ユニット１４００、サブ機能表示ユニット２２５０のそれぞれに実装される各種ＬＥＤのうち左側遊技盤５ＡＬに実装される装飾基板に実装される各種ＬＥＤについても扉枠ユニットの各種ＬＥＤや右側遊技盤５ＡＲとは異なる設定変更時の報知発光態様（例えば赤色の点滅発光）で点灯させるようにしてもよいし、当落に関する情報を表示する機能表示ユニット１４００のＬＥＤとサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤとの一方又は両方を設定変更時の報知発光態様で点灯させるようにしてもよく、この場合にも右側遊技盤５ＡＲに設けられるＬＥＤの発光態様と左側遊技盤５ＡＬに設けられるＬＥＤの発光態様とを異ならせることができるため、外部端子板５５８から出力確認信号が出力されていることを確実に伝えることができる。

【４９２８】

また、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは外部端子板出力確認モードの終了操作（この例では主制御基板１３１０に備える設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダを初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すＯＦＦ操作）が行われたことに基づいて外部端子板出力確認モードを終了する旨を通知する出力確認モード終了コマンドを周辺制御基板１５１０に送信する。

【４９２９】

また、本例では通常時（遊技可能状態）に外枠２に対して本体枠４が開放された状態となると、扉開放報知音（「扉が開いています。」というアナウンス音声及び「キンコーン」等の警告音）を予め決められている音量（設定可能な最大の音量でもよいし、周辺制御基板１５１０に備える音量調整スイッチにより調整されるデフォルト音量でもよい。）で各種スピーカから繰り返し出力させ、所定期間（例えば３０秒。なお本例では動作確認モードに要する時間よりも短くされる。）に亘って出力するか、又は外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じると出力を停止させる（なお、外枠２に対して本体枠４を継続して開放させていている場合に、一定回数（例えば５回）繰り返し出力した後に出力を停止させるものであってもよいし、外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じた状態となると出力を停止させるものであってもよいし、外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じてから所定期間（例えば３０秒。なお動作確認モードを開始してから動作確認モードを終了するまでの期間よりも短くされるものであってもよい。）が経過したときに出力を停止させるものであってもよい。）とともに、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ及び右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤを重大異常報知発光態様（本例では最大輝度の赤色の点灯と消灯とに短時間（例えば０．５秒）で切り替える態様（高速点滅態様））に繰り返し発光制御して外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じてから所定期間（例えば６０秒、本例では動作確認モードを開始してから動作確認モードを終了するまでの期間よりも長くされている。）が経過したときに重大異常報知発光態様を終了し（外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じたときに重大異常報知発光態様を終了するものであってもよいし、外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じてから一定回数（例えば５回）又は一定期間（例えば３０秒）繰り返し実行したときに重大異常報知発光態様を終了するものであってもよいし、外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じたときに重大異常報知発光態様を終了して準重大異常報知発光態様（最大輝度の赤色の点灯と消灯とに長時間（例えば２秒）で切り替える態様（低速点滅態様））に繰り返し発光制御し、準重大異常報知発光態様の発光制御を開始してから所定期間（例えば６０秒間）が経過したとき又は所定回数（例えば１０回）繰り返し実行したときに準重大異常報知発光態様を終了するものであってもよい。）

、かつ左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤを消灯状態に制御して重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）が終了すると（外枠２に対して開放されていた本体枠４が閉じた状態となると）左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤを遊技状況に応じた発光態様で発光制御する。

【４９３０】

一方、外部端子板出力確認モード中には外枠２に対して本体枠４が開放された状態であっても、外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因して行われる各種スピーカからの扉開放報知音の出力及び重大異常報知発光態様の発光制御は実行されないようになっている。すなわち、パチンコ機１への電源供給開始時に予め定めた「第１確認モード移行条件」が成立している場合には、外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する各種スピーカからの扉開放報知音の出力及び重大異常報知発光態様の発光制御を行うことなく各種スピーカから出力確認モード報知音の出力が行われるとともに出力確認モード報知発光態様の発光制御が行われるようになっている。また、本例では外部端子板出力確認モード後に実行される動作確認モード中にも外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する各種スピーカからの扉開放報知音の出力及び重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様を含む）の発光制御が行われないようになっている。そのため、外部端子板出力確認モードを実行した場合には動作確認モード後に、外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する各種スピーカからの扉開放報知音の出力及び重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様を含む）の発光制御を実行可能とされる。これにより、外部端子板出力確認モード中の外部端子板５５８の出力信号の確認作業や動作確認モード中の動作確認において注意が逸れて異常を見逃すというミスが生じ難くなる。

【４９３１】

また、外部端子板出力確認モードの終了操作が行われるか又は外部端子板出力確認モードが実行されない場合であってパチンコ機１の電源投入時や停電後の電力回復時における復電時において、外枠２に対して本体枠４が開放された状態で、動作確認スイッチ１３１０ｊの押圧操作部が操作されているという「第２確認モード移行条件」が成立している場合には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって動作確認モードが所定期間（例えば６０秒）に亘って行われる。

【４９３２】

具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される各種ＬＥＤのうちの当落に関する情報を表示するサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤを除くＬＥＤ（左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤや右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ等）を所定の発光態様（本例では動作確認モードでのみ行われて遊技演出で行われることのない動作確認発光態様）で点灯させる制御と、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等を駆動して可動体（左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１や、扉枠３に設けられる演出操作ユニット３００の演出操作部３０１等）を所定の動作態様（動作確認時動作態様）で動作させる制御と、各種スピーカから動作確認報知音（本例では動作確認モードでのみ出力されて遊技演出で出力されることのない報知音）を出力させる制御と、を実行する。

【４９３３】

動作確認モードにおいて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される各種ＬＥＤのうちの当落に関する情報を表示するサブ機能表示ユニット２２５０の

ＬＥＤを除くＬＥＤ（左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤや右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ等）を所定の発光態様（動作確認発光態様）で点灯させる制御を実行することにより、左側遊技盤５ＡＬや右側遊技盤５ＡＲ、扉枠ユニットに設けられる各種ＬＥＤが正常に発光可能であるか否かを確認することができ、異常（正常に発光されないこと）を発見した場合には修理等を行って正常な状態に戻すことで設計通りに各種ＬＥＤによる発光演出を実行できるようになるため、演出効果が低下することを抑制できる。なお、動作確認モードにおいて、サブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤについても点灯させることで異常の有無を確認するようにしてもよいし、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される各種ＬＥＤのうちのサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤを除くＬＥＤについても全部を点灯させるものに限らず、一部のＬＥＤについては点灯させないものであってもよい。

【４９３４】

また、動作確認モードにおいて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等を駆動して可動体（左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１や、扉枠３に設けられる演出操作ユニット３００の演出操作部３０１等）を所定の動作態様（動作確認時動作態様）で動作させる制御を実行することにより、左側遊技盤５ＡＬや扉枠３に設けられる可動体が正常に動作可能であるか否かを確認することができ、異常（正常に動作されないこと）を発見した場合には修理等を行って正常な状態に戻すことで設計通りに可動体による可動演出を実行できるようになるため、演出効果が低下することを抑制できる。なお、動作確認モードにおいては左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体と扉枠３に設けられる可動体との少なくとも一方の一部について所定の動作態様（動作確認時動作態様）で動作させるものであればよい。また、動作確認時動作態様は動作確認モード中にのみ実行可能としてもよく、この場合には動作確認時動作態様が実行されたときに特別図柄の変動表示に関連して実行される変動演出において実行される動作態様と間違えることなしに動作確認時動作態様を見つけることができるため、可動部が正常に稼働可能であるか否かを容易に判別することができるようになる。

【４９３５】

また、動作確認モードにおいて可動体を動作させるときには裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０を発光装飾するＬＥＤと、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１を発光装飾するＬＥＤ（裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の表実装面に実装されるＬＥＤ３３１１ａ～３３１４ａ）及び裏後右可動装飾体３３０２（裏後右可動装飾基板３３２１～３３２４の表実装面に実装されるＬＥＤ３３２１ａ～３３２４ａ）を発光装飾するＬＥＤ、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１を発光装飾するＬＥＤや、扉枠３に設けられる演出操作ユニット３００の演出操作部３０１の演出操作部カバーユニット３１０の上部（ユニット上カバー３１２）を発光装飾させるための複数のＬＥＤ３２０ａ等を動作確認発光態様で発光制御するようになっており、可動体の動作だけでなく、可動体に搭載されているＬＥＤについても正常に発光可能であるか否かを確認できるようになっている。

【４９３６】

また、動作確認モードにおいて各種スピーカから動作確認報知音を予め決められている音量（設定可能な最大の音量でもよいし、周辺制御基板１５１０に備える音量調整スイッチにより調整されるデフォルト音量でもよい。）で出力させる制御を実行することにより、各種スピーカが音を正常に出力可能であるか否かを確認することができ、異常（正常に音が出力されないこと）を発見した場合には修理等を行って正常な状態に戻すことで設計通りに各種スピーカから音を出力させることができるようになるため、演出効果が低下す

ることを抑制できる。なお、本例では扉枠トップベース４５１の前面に設けられている一対のトップ中央スピーカから「トップ中央スピーカーです。」と出力させる制御と、トップ中央スピーカの左外側に設けられている左トップサイドスピーカから「トップ左スピーカーです。」と出力させる制御と、トップ中央スピーカの右外側に設けられている右トップサイドスピーカから「トップ右スピーカーです。」と出力させる制御と、本体枠スピーカ６２２から「下スピーカーです。」と出力させる制御と、を順に実行することで異常となっているスピーカを直ぐに特定できるようになっている。

【４９３７】

また、動作確認モード中に音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８を操作した場合には、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８の操作に応じて特別音（例えば「ピコーン」等）が予め決められている音量（音量調節ボタン２２７の操作に応じて設定されている音量とは異なる音量であって音量調節ボタン２２７を操作しても音量が変化しない。）で出力されるようになっている。これにより、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８が操作を正常に受け付け可能であるか否かを確認することができ、異常（特別音が出力されないこと）を発見した場合には修理等を行って正常な状態に戻すことで遊技者の好みの音量で各種スピーカから音を出力させることができるようになるため、遊技者が不快に感じる音量で各種スピーカから音が出力されることによる遊技興趣の低下を抑制できる。

【４９３８】

なお本例では動作確認モードが終了するまでは音量調節ボタン２２７によって音量を調節できないようになっている。上記したように本例のパチンコ機１では音量調節ボタン２２７を操作することにより各種スピーカから出力される音量を調節することが可能であるが、動作確認モード中に出力される動作確認報知音の音量は音量調節ボタン２２７を操作しても調節することができないようになっている。そのため、動作確認モードが開始された場合には予め決められた音量で動作確認報知音を出力させることができるようになり、各種スピーカから出力される動作確認報知音によって各種スピーカが音を正常に出力可能であるか否かを確認することができ、直ぐに異常（正常に音が出力されないこと）を発見することができるようになる。

【４９３９】

また、動作確認モードが終了するまでは光量調節ボタン２２８によって光量（輝度）を調節できないようになっている。上記したように本例のパチンコ機１では光量調節ボタン２２８を操作することにより扉枠３や分割遊技盤５Ａに設けられている各種の装飾基板のＬＥＤの光量（輝度）を調節することが可能であるが、動作確認モードにおいて発光制御される発光態様は光量調節ボタン２２８を操作しても調節することができないようになっている。そのため、動作確認モードが開始された場合には予め決められた光量（輝度）で扉枠３や分割遊技盤５Ａに設けられている各種の装飾基板のＬＥＤを発光制御させることができるようになり、各種ＬＥＤが正常に発光可能であるか否かを確認することができるため、直ぐに異常（正常に発光されないこと）を発見することができるようになる。

【４９４０】

また、動作確認モードが開始されると演出表示装置１６００では演出時の態様、すなわち装飾図柄や通常時（遊技可能状態時）の背景画像等が表示される。これにより、演出表示装置１６００においても正常に画像表示可能であるか否かを確認することができ、異常（正常に画像が表示されないこと）を発見した場合には修理等を行って正常な状態に戻すことで設計通りに演出表示装置１６００に画像を表示させることができるようになるため、演出効果が低下することを抑制できる。

【４９４１】

また、演出表示装置１６００では動作確認モードが終了するまでは音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８を操作しても現在の音量や光量（輝度）に応じた目盛が表示されないようになっている。また、演出表示装置１６００に現在の音量や光量（輝度）に応じた目盛が表示されないため音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８を複数回操作

しても目盛が変化することもない。なお、動作確認モード中に音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８が操作された場合に、演出表示装置１６００に動作確認モード中にのみ表示される特別な表示を実行するようにしてもよい。例えば動作確認モード中に音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８が操作された場合に、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８の操作を正常に受け付けていることを示す特別態様を表示するようにしてもよく、これにより、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８が操作を正常に受け付け可能であるか否かを確認することができるようになるため、異常（特別態様が表示されないこと）を発見した場合には修理等を行って正常な状態に戻すことで遊技者の好みの音量で各種スピーカから音を出力させたり遊技者の好みの光量で各種ＬＥＤを発光させることができるようになり、遊技者が不快に感じる音量で各種スピーカから音が出力されたり遊技者が不快に感じる光量で各種ＬＥＤが発光されることによる遊技興趣の低下を抑制できる。

【４９４２】

また、動作確認モード中に音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８等のパチンコ機１の前側に設けられる操作部が操作された場合に、動作確認時発光態様で発光制御される周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される各種ＬＥＤのうちの当落に関する情報を表示するサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤを除くＬＥＤ（左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤや右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ等）の発光色を変化させるようにしてもよい。例えば、音量調節ボタン２２７の「＋」の文字が付されたボタンを操作した場合に動作確認時発光態様で発光制御される各種ＬＥＤを「赤色」に変化させ、音量調節ボタン２２７の「－」の文字が付されたボタンを操作した場合に動作確認時発光態様で発光制御される各種ＬＥＤを「緑色」に変化させ、光量調節ボタン２２８の「＋」の文字が付されたボタンを操作した場合に動作確認時発光態様で発光制御される各種ＬＥＤを「青色」に変化させ、光量調節ボタン２２８の「－」の文字が付されたボタンを操作した場合に動作確認時発光態様で発光制御される各種ＬＥＤを「白色」に変化させるようにしてもよい。これにより、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８が操作を正常に受け付け可能であるか否かを確認することができるようになるため、異常（特別態様が表示されないこと）を発見した場合には修理等を行って正常な状態に戻すことで遊技者の好みの音量で各種スピーカから音を出力させたり遊技者の好みの光量で各種ＬＥＤを発光させることができるようになり、遊技者が不快に感じる音量で各種スピーカから音が出力されたり遊技者が不快に感じる光量で各種ＬＥＤが発光されることによる遊技興趣の低下を抑制できるし、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８の操作に応じた発光色の点灯状態が正常であるか否かを確認することができるようになる。

【４９４３】

また、動作確認モード中に演出操作ユニット３００の演出操作部３０１が操作された場合に演出操作部ユニット３５０を振動させたり、演出操作部ユニット３５０を通常の状態から上方へ移動させるようにしてもよい。この場合にも演出操作ユニット３００の演出操作部３０１の操作が正常に受け付けられていることを確認することができるため、演出操作ユニット３００の演出操作部３０１の操作が受付けられずに演出操作ユニット３００の演出操作部３０１の操作に応じた演出が実行されないことで演出効果が低下することを抑止できる。

【４９４４】

なお、動作確認モードは管理者の操作に応じて移行制御されるとともに、上記外部端子板出力確認モードとは異なりパチンコ機１の近傍でパチンコ機１に設けられる装置等の一部又は全部について正常に動作可能か否かの確認が行われるため、管理者がパチンコ機１に設けられる装置等の動作を見逃すおそれは低い。また、動作確認モードが管理者の操作に応じて終了するように構成すると、動作確認後に操作が必要となり作業に時間がかかる

ことになる。そのため、本例のパチンコ機１では一定期間が経過したときに動作確認モードを自動で終了させるように構成し、管理者の作業を滞らせないようになっている。

【４９４５】

［不適合時におけるパチンコ機の確認モード］

次に、分割遊技盤５Ａの組み合わせ（つまり右側遊技盤５ＡＲ（マイクロプロセッサが搭載されていない基板）と左側遊技盤５ＡＬ（マイクロプロセッサが搭載された周辺制御基板１５１０や主制御基板１３１０）との組み合わせ）が不適合（不整合）の状態（不整合状態）でパチンコ機１の確認モード（外部端子板出力確認モード、動作確認モード）に移行制御する場合の挙動例について図３４３を参照して説明する。なお、以下では適合時や上記した実施形態と異なる部分についてのみ説明し、重複した説明を行わない。

【４９４６】

図３４３に示すように、パチンコ機１への電源供給が開始されたときに周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって実行されるＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａから右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ等の電子部品に制御信号が出力されないようになっており、右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される電子部品は外部端子板出力確認モード中であるか否かにかかわらず非駆動状態（例えば各種ＬＥＤは消灯された状態）とされる。

【４９４７】

また、本例では周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定されていても外部端子板出力確認モードの実行中や外部端子板出力確認モード後の一定期間には外部端子板５５８から遊技ホールに設置されたホールコンピュータへ分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを示す不適合エラー信号を出力することなしに出力確認信号を出力するようになっている。即ち、外部端子板出力確認モード中や外部端子板出力確認モード後の一定期間には適合時と同様に外部端子板５５８から出力確認信号を出力する。そのため、外部端子板出力確認モード中に外部端子板５５８から不適合エラー信号が遊技ホールに設置されたホールコンピュータに送信されて出力確認信号の確認作業の妨げとなることを抑制できる。

【４９４８】

また、本例では周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合に、動作確認モード中にも外部端子板５５８から遊技ホールに設置されたホールコンピュータへ分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを示す不適合エラー信号を出力しないようになっている。すなわち、外部端子板出力確認モードの開始に応じて外部端子板５５８から遊技ホールに設置されたホールコンピュータへ出力される出力確認信号は外部端子板出力確認モード後の一定期間、つまり動作確認モード中の一定期間にも出力されるため、動作確認モード中に不適合エラー信号が出力されることで不適合エラー信号と出力確認信号とが重複して外部端子板５５８から遊技ホールに設置されたホールコンピュータへ出力されてしまう。この場合には、ホールコンピュータに入力された信号が不適合エラー信号と出力確認信号とのいずれであるかの判別が困難になり、外部端子板５５８への出力が正常であるか否かの判別が困難になるおそれがある。そのため、本例では動作確認モード中にも外部端子板５５８から遊技ホールに設置されたホールコンピュータへ不適合エラー信号を出力しないようにし、動作確認モード後に不適合エラー信号を出力可能としている。なお、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合である場合には動作確認モード中であるか否かに関わらず不適合エラー信号を外部端子板５５８から遊技ホールに設置されたホールコンピュータへ出力しないようにしてもよく、この場合にはパチンコ機１で行われる報知により分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを把握させるようにしてもよい。

【４９４９】

また、本例では周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定されていても外部端子板出力確認モードを終了するまで（主制御ＭＰＵ１３１０ａから出力確認モード終了コマンドを受信するまで）は、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知しないようになっている。即ち、外部端子板出力確認モードの実行中には、演出表示装置１６００や各種スピーカ、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）を適合時に外部端子板出力確認モードが実行されたときと同様（完全同一でも良いし、略全てが同一とされて一部のみ異なるものでもよい）の態様で制御するようになっている。

【４９５０】

そして、外部端子板出力確認モードが終了すると主制御ＭＰＵ１３１０ａは出力確認モード終了コマンドを周辺制御基板１５１０に送信するとともに動作確認モードを開始する。周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、出力確認モード終了コマンドを受信すると、各種スピーカ、及び扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）を適合時に動作確認モードが実行されたときと同様（完全同一でも良いし、略全てが同一とされて一部のみ異なるものでもよい）の態様で制御する一方、演出表示装置１６００については装飾図柄や通常時（遊技可能状態時）の背景画像等を表示することなく全面に異常時の背景画像（例えば黒色）と演出表示装置１６００に不適合エラー報知表示態様としての「右側遊技盤不適合エラー発生」を表示して分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知する。

【４９５１】

すなわち、動作確認モードを開始すると、適合時に動作確認モードが実行されたときと同様（完全同一でも良いし、略全てが同一とされて一部のみ異なるものでもよい）に、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される各種ＬＥＤのうちの当落に関する情報を表示するサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤを除くＬＥＤ（左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤや右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ等）を所定の発光態様（本例では動作確認モードでのみ行われて遊技演出で行われることのない動作確認発光態様）で点灯させる制御と、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等を駆動して可動体（左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１や、扉枠３に設けられる演出操作ユニット３００の演出操作部３０１等）を所定の動作態様（動作確認時動作態様）で動作させる制御と、各種スピーカから動作確認報知音（本例では動作確認モードでのみ出力されて遊技演出で出力されることのない報知音）を出力させる制御と、を実行する。

【４９５２】

また、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合であっても、動作確認モード中に音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８を操作した場合には、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８の操作に応じて特別音（例えば「ピコーン」等）が予め決められている音量（音量調節ボタン２２７の操作に応じて設定されている音量とは異なる音量であって音量調節ボタン２２７を操作しても音量が変化しない。）で出力されるようになっている。

【４９５３】

一方、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される各種ＬＥＤ

のうちの当落に関する情報を表示するサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤを除くＬＥＤ（左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤや右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ等）と、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等を駆動して可動体（左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１等）と、各種スピーカと、音量調節ボタン２２７と、光量調節ボタン２２８と、の動作確認に支障が生じない演出表示装置１６００には、不適合エラー報知表示態様としての「右側遊技盤不適合エラー発生」を表示することで分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知するようになっている。これにより、動作確認モードでの確認作業に支障を来すことなく分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知することができるようになる。

【４９５４】

このように、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合であっても、動作確認モード中には演出表示装置１６００の一部に不適合エラー報知表示態様としての「右側遊技盤不適合エラー発生」を表示するだけで、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される各種ＬＥＤのうちの当落に関する情報を表示するサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤを除くＬＥＤ（左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤや右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ等）や、左側遊技盤５ＡＬに設けられる各種可動体（左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１等）、及び各種スピーカについては、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知する態様で制御されることなく、適合時に動作確認モードが実行されたときと同様（完全同一でも良いし、略全てが同一とされて一部のみ異なるものでもよい）の態様で制御されるようになっている。

【４９５５】

そのため、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合であっても、左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体が正常に動作可能であるか否かを確認することができ、異常（正常に動作されないこと）を発見した場合には修理等を行って正常な状態に戻すことで設計通りに可動体による可動演出を実行できるようになるため、演出効果が低下することを抑制できるし、可動体に搭載されているＬＥＤについても消灯状態に制御されることなしに動作確認発光態様で発光制御されるため、可動体に搭載されているＬＥＤが正常に発光可能であるか否かの確認ができなくなることを防止し、正常に発光可能であるか否かの確認を行って異常（正常に発光されないこと）を発見した場合には修理等を行って正常な状態に戻すことで設計通りに発光できるようになるため、演出効果が低下することを抑制できる。

【４９５６】

また、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合であっても、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される各種ＬＥＤのうちの当落に関する情報を表示するサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤを除くＬＥＤが分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知する重大異常報知発光態様で発光制御されることなく、動作確認発光態様で発光制御されるため、周辺制御基板１５１

０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される各種ＬＥＤのうちの当落に関する情報を表示するサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤを除くＬＥＤが正常に発光可能であるか否かの確認ができなくなることを防止し、正常に発光可能であるか否かの確認を行って異常（正常に発光されないこと）を発見した場合には修理等を行って正常な状態に戻すことで設計通りに発光できるようになるため、演出効果が低下することを抑制できるし、高輝度で点灯される重大異常報知発光態様によって左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体の動作が視認し難くなることや可動体に搭載されているＬＥＤによる発光が視認し難くなるなどの確認作業の妨げとなることを防止できる。

【４９５７】

さらに、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合であっても、遊技盤不適合報知音を出力することなしに動作確認報知音を出力させるため、各種スピーカが音を正常に出力可能であるか否かの確認ができなくなることを防止し、正常に出力可能か否かの確認を行って異常（正常に音が出力されないこと）を発見した場合には修理等を行って正常な状態に戻すことで設計通りに各種スピーカから音を出力させることができるようになるため、演出効果が低下することを抑制できる。また、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合であっても、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８が操作されたときには特別音を出力させるため、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８が操作を正常に受け付け可能であるか否かの確認ができなくなることを防止し、正常に操作を受け付け可能であるか否かの確認を行って異常（特別音が出力されないこと）を発見した場合には修理等を行って正常な状態に戻すことで遊技者の好みの音量で各種スピーカから音を出力させることができるようになるため、遊技者が不快に感じる音量で各種スピーカから音が出力されることによる遊技興趣の低下を抑制できる。

【４９５８】

なお、動作確認モードでは、不適合と判定された右側遊技盤５ＡＲに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等について所定の動作態様（動作確認時動作態様）で動作させないだけに限らず、分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合している状態で行われる動作確認モードにおいて所定の動作態様（動作確認時動作態様）で動作される可動体（分割遊技盤５Ａに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１や、扉枠３に設けられる演出操作ユニット３００の演出操作部３０１等）のうちの扉枠ユニットに設けられてＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）においてＩＤ判定の対象とされていない演出操作部３０１を駆動させる駆動モータや駆動ソレノイドについても所定の動作態様（動作確認時動作態様）で動作させないようになっている。

【４９５９】

具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定されている場合には、動作確認モードを開始しても不適合と判定された右側遊技盤５ＡＲに設けられているＬＥＤを動作確認発光態様で点灯させる制御や可動体を動作確認時動作態様で動作させる制御を行わない（右側遊技盤５ＡＲに制御信号を出力しない。）か又は行えない（制御信号を出力するものの右側遊技盤５ＡＲに制御信号が入力されない。）ことに加えて、扉枠３に設けられるとともにＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）においてＩＤ判定の対象とされていない皿ユニット２００（この例では演出操作ユニット３００）に設けられる駆動モータや駆動ソレノイドを駆動させて演出操作ユニット３００に設けられる演出操作部３０１を動作させる制御を行わない。これにより可動体が本来とは異なる動作態様で動作して可動体や扉枠ユニットが破損することや可動体を動作させる駆動モータや駆動

ソレノイド等が故障することを抑制できるようにしている。ただし、この場合にも扉枠ユニットに設けられてＩＤ判定の対象とされていないＬＥＤ（例えば扉枠３に設けられる演出操作ユニット３００の演出操作部３０１の演出操作部カバーユニット３１０の上部（ユニット上カバー３１２）を発光装飾させるための複数のＬＥＤ３２０ａ）については適合時と同様に所定の発光態様で制御されるようになっている。これにより動作確認モードが正常に実行されていることを判別できるようになる。

【４９６０】

一方、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）を実行する周辺制御ＩＣ１５１０ａが実装されている周辺制御基板１５１０が配置する左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体（分割遊技盤５Ａのうちの左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１等）は、動作確認モードが開始されると、通常（分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であると判定された場合）と同様に動作される。また、左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体（分割遊技盤５Ａのうちの左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１等）に設けられる基板に実装されるＬＥＤは動作確認発光態様に発光制御される。すなわち、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）で右側遊技盤５ＡＲが不適合状態であると判定された場合には、通常（分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であると判定された場合）と同様に、左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体（分割遊技盤５Ａのうちの左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１等）を動作確認時動作態様で動作させるとともに、左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体に設けられるＬＥＤを動作確認発光態様に発光制御するようになっている。これにより、分割遊技盤５Ａのうちの周辺制御基板１５１０が設けられている遊技盤（この場合には左側遊技盤５ＡＬ）であることを容易に特定できるようになる。なお、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）で右側遊技盤５ＡＲが不適合状態であると判定された場合に左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体（分割遊技盤５Ａのうちの左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１等）に設けられる基板に実装されるＬＥＤは動作確認発光態様に発光制御しないようにし、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）で右側遊技盤５ＡＲが未接続状態であると判定された場合には左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体（分割遊技盤５Ａのうちの左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１等）に設けられる基板に実装されるＬＥＤは動作確認発光態様に発光制御されるようにして、不適合状態であるか未接続状態であるかを判別できるようにしてもよい。

【４９６１】

また、本例では周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定されている場合に、動作確認モードが開始されたときにはＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）においてＩＤ判定の対象とされていない扉枠ユニット（この例では皿ユニット２００）の演出操作ユニット３００に設けられる基板に実装される駆動モータや駆動ソレノイドを駆動させて演出操作部３０１を動作させる制御を行わないが、演出操作ユニット３００に設けられる基板に実装される各種ＬＥＤについては動作確認モード中に通常（分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であると判定された場合）と同様に制御されるようになっている。

すなわち、動作確認モードが実行された場合に周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定されていても、演出操作ユニット３００に設けられる基板に実装される各種ＬＥＤについては分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であると判定されている場合と同様に動作確認発光態様に発光制御される。なお、演出操作ユニット３００をＩＤ判定の対象とされる特定の扉枠ユニットとしてもよく、この場合であってもＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において演出操作ユニット３００以外の特定の扉枠ユニットや分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定されていれば演出操作ユニット３００に設けられる基板に実装される駆動モータや駆動ソレノイドを駆動させて演出操作部３０１を動作させる制御を行わない一方で演出操作ユニット３００に設けられる基板に実装される各種ＬＥＤについては動作確認発光態様に発光制御するようにしてもよい。

【４９６２】

なお、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定されている場合に、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）においてＩＤ判定の対象とされていない扉枠ユニットに設けられる複数の基板に実装される複数のＬＥＤのうちの一部の基板に実装されるＬＥＤ又は一の基板に実装される複数のＬＥＤのうちの一部については動作確認発光態様に発光制御しないようにしてもよいし、一部の可動体については動作確認時動作態様で動作させないようにしてもよい（例えば扉枠ユニットに設けられている装飾基板に設けられるＬＥＤと扉枠ユニットに設けられている可動体に設けられている駆動モータ、駆動ソレノイド、ＬＥＤ等との一部又は全部については動作確認モードでの動作や駆動を行わないようにしてもよい）。

【４９６３】

また、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合と判定された場合には、動作確認モードに限らずパチンコ機１の電源が遮断されるまで、又は分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合と判定されるまでは不適合と判定された右側遊技盤５ＡＲと、ＩＤ判定の対象とされていない扉枠ユニットに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等によって動作される可動体の一部又は全部と、を駆動させないようにしてもよく、この場合には可動体が本来とは異なる動作態様で動作して可動体や扉枠ユニットが破損することや可動体を動作させる駆動モータや駆動ソレノイド等が故障することを抑制できるようにしている。

【４９６４】

また、動作確認モードが終了し（ＬＥＤによる動作確認発光態様が終了して消灯又は所定の発光態様での点灯した状態とされるとともに可動体の動作確認時動作態様が終了して待機状態（予め決められている待機位置に停止している（収容されている）状態）とされること）、遊技モードが開始されると、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、演出表示装置１６００における不適合エラー報知表示態様の表示に加えて、遊技盤不適合報知音（「右側遊技盤不適合エラーが発生しました。電源を切って確認してください。」というアナウンス音声及び「キンコーン」等の警告音）を予め決められている音量（設定可能な最大の音量でもよいし、周辺制御基板１５１０に備える音量調整スイッチにより調整されるデフォルト音量でもよい。）でパチンコ機１への電源供給が遮断されるまで各種スピーカから繰り返し出力させる（一定回数（例えば５回）又は一定期間（例えば３０秒）繰り返し出力した後に出力を停止させるものであってもよい）とともに、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）を重大異常報知発光態様（本例では最大輝度の赤色の点灯と消灯とに短時間（例えば０．５秒）で切り替える態様（高速点滅態様））に繰り返し発光制御し、且つ左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤを消灯状態に制御する一方、左側遊技盤５ＡＬに設けられて主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによっ

て制御される機能表示ユニット１４００のＬＥＤと左側遊技盤５ＡＬに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御されるサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤとを適合時と同様に発光制御可能な状態とする（所定の態様で点灯させるものでもよい）。

【４９６５】

なお、遊技盤不適合報知音は同一の報知音（例えば「ビー」等）が断続的に出力されるものではなく、音階が異なる複数の音によって構成されるものであり、さらに消音状態と出力状態とに繰り返し制御される。また、重大異常報知発光態様は点灯状態が固定されるものではなく、点灯状態と消灯状態とに繰り返し制御されて光量を変化させるものである。つまり、各種スピーカ及び各種ＬＥＤにおいては時間の経過に応じて音階や音量、光量等の変化を伴う動的態様で分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知するようになっている。これにより、動作確認モードが終了して確認作業の必要がない遊技モードが開始されたときに、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを気付かせ易くなる。

【４９６６】

このように、本例では分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合に、動作確認モードに移行制御するときには動作確認モード後に外枠２に対して本体枠４が開放されたことに応じた異常報知を行うことなしに、直ぐに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知するようになっている。すなわち、動作確認モードが終了して遊技モードが開始された場合には、外枠２に対して本体枠４が開放された状態であって外枠２に対して本体枠４が開放されてからの経過時間が所定期間に達しているか否かに関わらず扉開放報知音を出力させることなしに遊技盤不適合報知音を出力させる。また、動作確認モードが終了して遊技モードが開始された場合には重大異常報知発光態様に発光制御するものの、外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因するものではなく、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることに起因して実行されるようになっている。そのため、動作確認モードが終了して遊技モードが開始された場合に、本体枠４を閉じてから所定期間（例えば６０秒）が経過しているか否かに関わらず常に重大異常報知発光態様に発光制御される。

【４９６７】

また、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態では変動表示の開始条件が成立（始動口（第一始動口２００２又は第一始動口２００２と第二始動口２００４との一方へ遊技球が入球）した場合であっても演出表示装置１６００や各種スピーカ、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ、及び左側遊技盤５ＡＬに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される装飾基板に実装される各種ＬＥＤによる変動演出を実行することなく、異常が発生していることを報知するようになっている。一方、機能表示ユニット１４００のＬＥＤとサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤとは、外部端子板出力確認モードの終了後に割り込み許可設定（ステップＳ５２）されると変動表示の開始条件が成立（始動口（第一始動口２００２又は第一始動口２００２と第二始動口２００４との一方へ遊技球が入球）ことに基づいて所定の発光態様に発光制御されて当落に関する情報を表示することが可能になっている。

【４９６８】

また、本例ではパチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合であっても、外部端子板出力確認モードに移行制御するか否かや、動作確認モードに移行制御するか否かによって、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適

合（不整合）の状態となっていることに応じた重大異常報知発光態様での発光制御タイミングや遊技盤不適合報知音の出力タイミングが異なるようになっている。

【４９６９】

具体的には、外部端子板出力確認モードと動作確認モードとのいずれにも移行制御しない場合に、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）であれば、パチンコ機１への電力供給が開始されたことに基づいて所定期間に亘って演出表示装置１６００に「ｐｏｗｅｒ　ｏｎ」を表示させた後、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）による重大異常報知発光態様での発光制御と、各種スピーカによる遊技盤不適合報知音の出力と、を開始する。

【４９７０】

一方、外部端子板出力確認モードと動作確認モードとのいずれかを実行する場合に、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）であれば、外部端子板出力確認モード及び動作確認モード中には扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）による重大異常報知発光態様での発光制御や各種スピーカによる遊技盤不適合報知音の出力を開始することなく、動作確認モード後に扉枠ユニットの各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）による右側遊技盤５ＡＲが不適合の状態となっていることに応じた重大異常報知発光態様での発光制御及び各種スピーカによる遊技盤不適合報知音の出力を開始する。

【４９７１】

このように、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合であっても、外部端子板出力確認モードに移行制御するか否かや、動作確認モードに移行制御するか否かによって、右側遊技盤５ＡＲが不適合の状態となっていることに応じた重大異常報知発光態様での発光制御タイミング及び遊技盤不適合報知音の出力タイミングを異ならせることにより、重要度の高い情報を優先的に報知して不具合や不正行為が発生することを抑制できる。すなわち、外部端子板５５８への出力が正常でない場合には不正行為が行われていてもホールコンピュータで不正行為を発見できずに遊技店に被害が生じるおそれがあるし、パチンコ機１に設けられる装置に異常がある場合にはパチンコ機１を破損させるおそれがあるため、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態であることよりも優先して報知することにより被害の拡大やパチンコ機１の破損を防ぐことができるようになっている。

【４９７２】

なお、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合に、演出表示装置１６００において異常時の背景画像（例えば黒色）と演出表示装置１６００に不適合エラー報知表示態様を表示するタイミングは、外部端子板出力確認モードに移行制御するか否か、及び動作確認モードに移行制御するか否かに関わらず同一とされている。すなわち、動作確認モードを開始するタイミングで演出表示装置１６００に異常時の背景画像（例えば黒色）と演出表示装置１６００に不適合エラー報知表示態様を表示するようになっている。これにより、重要度の高い報知を優先して実行しつつも、他の報知についても演出表示装置１６００で報知して対処させることができるようになる。また、演出表示装置１６００における異常時の背景画像（例えば黒色）と演出表示装置１６００に不適合エラー報知表示態様の表示タイミングについても外部端子板出力確認モードに移行制御するか否かや、動作確認モードに移行制御するか否かによって異ならせるようにしてもよく、この場合には重要度の高い情報を順に報知して順次対処させることができるため、それぞれの情報を確実に伝えて対処させることができるようになる

。
【４９７３】
　また、本例のパチンコ機１ではパチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合には、外部端子板出力確認モードの実行中に異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）による検出があっても当該検出は無効（検出があるか否かを確認する処理を実行しないものでもよいし、検出があるか否かを確認する処理を実行するものの検出に基づく処理（報知等）を実行しないものであってもよい。）とされるようになっている。
【４９７４】
　具体的には、外部端子板出力確認モードの実行中に不正な磁気が発生して主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されても不正な磁気を検出したことに基づく異常報知を実行することなく、検出信号を破棄するようになっている。すなわち、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合であって、外部端子板出力確認モードの実行中に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されたときには、磁気センサ１０５０からの検出信号を無視し（検出信号の入力を確認しないものであってもよいし、検出信号の入力を確認しても当該入力に基づく処理を実行しないものであってもよい。）、外部端子板出力確認モードの終了後に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されていないものとして動作確認モードの制御を実行する。
【４９７５】
　また、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合であって、動作確認モード中に異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）により異常が検出されたとき、すなわち動作確認モード中に異常検出手段により異常が検出されたとき、にも異常検出手段の検出は無効（検出があるか否かを確認する処理を実行しないものでもよいし、検出があるか否かを確認する処理を実行するものの検出に基づく処理（報知等）を実行しないものであってもよい。）とされるようになっている。
【４９７６】
　具体的には、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合であって、動作確認モード中に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されたときには、不正な磁気を検出したことに基づく異常報知を実行することなく、検出信号を破棄するようになっている。すなわち、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合であって、動作確認モード中に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されたときには、磁気センサ１０５０からの検出信号を無視し、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気セ

ンサ１０５０からの検出信号が入力されていないものとして動作確認モードの制御を継続する。

【４９７７】

また、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合であって、動作確認モード終了後の遊技モード中に異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）により異常が検出されたときにも異常検出手段の検出は無効（検出があるか否かを確認する処理を実行しないものでもよいし、検出があるか否かを確認する処理を実行するものの検出に基づく処理（報知等）を実行しないものであってもよい。）とされるようになっている。

【４９７８】

具体的には、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合であって、動作確認モード終了後の遊技モード中に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されたときには、不正な磁気を検出したことに基づく異常報知を実行することなく、検出信号を破棄するようになっている。すなわち、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合であって、動作確認モード終了後の遊技モード中に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されたときには、磁気センサ１０５０からの検出信号を無視し、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されていないものとして制御を継続する。

【４９７９】

このように、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定された場合には、外部端子板出力確認モードに制御しているか、及び動作確認モードに制御しているかに関わらず、異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）により異常が検出されても異常報知をおこなわないようになっている。

【４９８０】

すなわち、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合の状態とされている場合には設計者の意図しない挙動で遊技が進行してしまい、遊技店や遊技者に不利益を与えるおそれがあるし、そもそも本来の仕様とは異なるものとなるものとなることで遊技者の信頼を失うおそれがあるため、遊技を確実にやめさせる必要がある。そのため、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合の状態とされている場合には、外部端子板出力確認モードに制御しているか、及び動作確認モードに制御しているかに関わらず、異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）による異常の検出に起因する報知よりも優先して報知することにより、遊技を回避させて遊技店や遊技者への不利益の発生を抑制するようになっている。

【４９８１】

なお、一部のＬＥＤについては外部端子板出力確認モードに制御しているか、及び動作

確認モードに制御しているかに関わらず、異常検出手段の種類等に応じて異なる発光態様に制御するようにしてもよく、例えば上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力された場合に機能表示ユニット１４００のＬＥＤとサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤとの一方又は両方を消灯させる（発光制御不可能な状態とする）ようにしてもよい。

【４９８２】

また、パチンコ機１への電力供給開始後に周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって定期的（例えば周辺制御部定常処理が実行される毎、常時判定）に分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するように構成した場合であっても外部端子板出力確認モードの実行中にＩＤ判定処理を実行しないようにしてもよいし、外部端子板出力確認モードの実行中にＩＤ判定処理を実行して分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定した場合であっても外部端子板出力確認モードの実行中には右側遊技盤５ＡＲが不適合の状態となっていることに応じた報知を行わないようにしてもよい。

【４９８３】

また、定期的に分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するように構成した場合に、外部端子板出力確認モードを開始する以前や動作確認モード中にＩＤ判定処理を実行して分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であると判定されたときには、パチンコ機１への電力供給が開始されるときにのみ分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定する場合と同様に、動作確認モード中には演出表示装置１６００において分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知する表示を行う一方、各種スピーカ、及び扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤについては分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知する遊技盤不適合報知音の出力及び重大異常報知発光態様の点灯を行うことなく、動作確認モードが終了して遊技モードとなったときに分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることを報知する遊技盤不適合報知音の出力及び重大異常報知発光態様の点灯を行うようにしてもよい。

【４９８４】

また、定期的に分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するように構成した場合にも、外部端子板出力確認モードの実行中に異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）による検出があっても当該検出は無効（検出があるか否かを確認する処理を実行しないものでもよいし、検出があるか否かを確認する処理を実行するものの検出に基づく処理（報知等）を実行しないものであってもよい。）として外部端子板出力確認モード後にも異常検出手段による外部端子板出力確認モード中の検出に基づく異常報知を実行しないようにしてもよい。

【４９８５】

また、定期的に分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するように構成した場合に、動作確認モード中に分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合とされている場合であって、且つ異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）による検出があったときには、演出表示装置１６００と、各種スピーカと、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤと、による分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合であることの報知を、異常検出手段による検出があったことの報知よりも優先して実行し、分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合と判定された場合に異常検出手段による検出があったことの報知を行うようにしてもよい。

【４９８６】

［未接続時におけるパチンコ機の確認モード］

次に、右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がなく（右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力を確認することができず）各種信号を伝送する伝送経路に短絡や断線などの不具合が発生するといった左側遊技盤５ＡＬに対して右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていない未接続の状態（未接続状態）でパチンコ機１の確認モード（外部端子板出力確認モード、動作確認モード）に移行制御する場合の挙動例について図３４４を参照して説明する。なお、以下では適合時や不適合時、上記した実施形態と異なる部分についてのみ説明し、重複した説明を行わない。

【４９８７】

図３４４に示すように、パチンコ機１への電源供給が開始されたときに周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって実行されるＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない場合、すなわち右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていない場合には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａからの制御信号が右側遊技盤５ＡＲ装飾基板に実装される各種ＬＥＤ等の電子部品に入力されないため、右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される電子部品は外部端子板出力確認モード中であるか否かにかかわらず非駆動状態（例えば各種ＬＥＤは消灯された状態）となる。なお、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がないと判定された場合には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａから右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ等の電子部品に制御信号を出力しないようにしてもよい。

【４９８８】

また、本例では周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないと判定されていても外部端子板出力確認モードの実行中や外部端子板出力確認モード後の一定期間には外部端子板５５８から遊技ホールに設置されたホールコンピュータへ右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことを示す未接続エラー信号を出力することなしに出力確認信号を出力するようになっている。即ち、外部端子板出力確認モード中や外部端子板出力確認モード後の一定期間には適合時と同様に外部端子板５５８から出力確認信号を出力する。そのため、外部端子板出力確認モード中に外部端子板５５８から未接続エラー信号が遊技ホールに設置されたホールコンピュータに送信されて出力確認信号の確認作業の妨げとなることを抑制できる。

【４９８９】

また、本例では周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないと判定された場合に、動作確認モード中にも外部端子板５５８から遊技ホールに設置されたホールコンピュータへ右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことを示す未接続エラー信号を出力しないようになっている。すなわち、外部端子板出力確認モードの開始に応じて外部端子板５５８から遊技ホールに設置されたホールコンピュータへ出力される出力確認信号は外部端子板出力確認モード後の一定期間、つまり動作確認モード中の一定期間にも出力されるため、動作確認モード中に未接続エラー信号が出力されることで未接続エラー信号と出力確認信号とが重複して外部端子板５５８から遊技ホールに設置されたホールコンピュータへ出力されてしまう。この場合には、ホールコンピュータに入力された信号が未接続エラー信号と出力確認信号とのいずれであるかの判別が困難になり、外部端子板５５８への出力が正常であるか否かの判別が困難になるおそれがある。そのため、本例では動作確認モード中にも外部端子板５５８から遊技ホールに設置されたホールコンピュータへ未接続エラー信号を出力しないようにし、動作確認モード後に未接続エラー信号を出力可能としている。なお、右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていない場合には動作確認モード中であるか否かに関わらず未接続エラー信号を外部端子板５５８から遊技ホールに設置されたホールコンピュータへ出力しないようにしてもよく、この場合にはパチンコ機１で行われる報知により右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことを把握させるようにしてもよい。

【４９９０】
　また、本例では周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がないと判定されていても外部端子板出力確認モードを終了するまでは右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことを報知しないようになっている。即ち、外部端子板出力確認モードの実行中には演出表示装置１６００や各種スピーカ、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）を適合時に外部端子板出力確認モードが実行されたときと同様（完全同一でも良いし、略全てが同一とされて一部のみ異なるものでもよい）の態様で制御するようになっている。
【４９９１】
　そして、外部端子板出力確認モードが終了すると、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは各種スピーカ、及び扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）を適合時に動作確認モードが実行されたときと同様（完全同一でも良いし、略全てが同一とされて一部のみ異なるものでもよい）の態様で制御する。また、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは適合時と同様に演出表示装置１６００に演出時（通常時）の態様（装飾図柄や通常時（遊技可能状態時）の背景画像等）を表示することに加え、演出表示装置１６００に未接続エラー報知表示態様としての「右側遊技盤未接続エラー発生」を表示して左側遊技盤５ＡＬに対して右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことができないことを報知する。
【４９９２】
　すなわち、動作確認モードを開始すると、適合時に動作確認モードが実行されたときと同様（完全同一でも良いし、略全てが同一とされて一部のみ異なるものでもよい）に、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される各種ＬＥＤのうちの当落に関する情報を表示するサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤを除くＬＥＤ（左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤや右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ等）を所定の発光態様（本例では動作確認モードでのみ行われて遊技演出で行われることのない動作確認発光態様）で点灯させる制御と、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等を駆動して可動体（左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１や、扉枠３に設けられる演出操作ユニット３００の演出操作部３０１等）を所定の動作態様（動作確認時動作態様）で動作させる制御と、各種スピーカから動作確認報知音（本例では動作確認モードでのみ出力されて遊技演出で出力されることのない報知音）を出力させる制御と、を実行する。
【４９９３】
　また、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないと判定された場合であっても、動作確認モード中に音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８を操作した場合には、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８の操作に応じて特別音（例えば「ピコーン」等）が予め決められている音量（音量調節ボタン２２７の操作に応じて設定されている音量とは異なる音量であって音量調節ボタン２２７を操作しても音量が変化しない。）で出力されるようになっている。
【４９９４】
　一方、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される各種ＬＥＤのうちの当落に関する情報を表示するサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤを除くＬＥ

Ｄ（左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤや右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ等）と、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等を駆動して可動体（左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１等）と、各種スピーカと、音量調節ボタン２２７と、光量調節ボタン２２８と、の動作確認に支障が生じない演出表示装置１６００には、未接続エラー報知表示態様としての「右側遊技盤未接続エラー発生」を表示することで右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことを報知するようになっている。これにより、動作確認モードでの確認作業に支障を来すことなく右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことを報知することができるようになる。

【４９９５】

このように、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないと判定された場合であっても、動作確認モード中には演出表示装置１６００の一部に未接続エラー報知表示態様としての「右側遊技盤未接続エラー発生」を表示するだけで、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される各種ＬＥＤのうちの当落に関する情報を表示するサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤを除くＬＥＤ（左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤや右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤ、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ等）や、左側遊技盤５ＡＬに設けられる各種可動体（左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１等）、及び各種スピーカについては、右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことを報知する態様で制御されることなく、適合時に動作確認モードが実行されたときと同様（完全同一でも良いし、略全てが同一とされて一部のみ異なるものでもよい）の態様で制御されるようになっている。

【４９９６】

そのため、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないと判定された場合であっても、左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体が正常に動作可能であるか否かを確認することができ、異常（正常に動作されないこと）を発見した場合には修理等を行って正常な状態に戻すことで設計通りに可動体による可動演出を実行できるようになるため、演出効果が低下することを抑制できるし、可動体に搭載されているＬＥＤについても消灯状態に制御されることなしに動作確認発光態様で発光制御されるため、可動体に搭載されているＬＥＤが正常に発光可能であるか否かの確認ができなくなることを防止し、正常に発光可能であるか否かの確認を行って異常（正常に発光されないこと）を発見した場合には修理等を行って正常な状態に戻すことで設計通りに発光できるようになるため、演出効果が低下することを抑制できる。

【４９９７】

また、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないと判定された場合であっても、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される各種ＬＥＤのうちの当落に関する情報を表示するサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤを除くＬＥＤが右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことを報知する軽微異常報知発光態様で発光制御されることなく、動作確認発光態様で発光制御されるため、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される各種ＬＥＤのうちの当落に関する情

報を表示するサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤを除くＬＥＤが正常に発光可能であるか否かの確認ができなくなることを防止し、正常に発光可能であるか否かの確認を行って異常（正常に発光されないこと）を発見した場合には修理等を行って正常な状態に戻すことで設計通りに発光できるようになるため、演出効果が低下することを抑制できるし、高輝度で点灯される軽微異常報知発光態様によって左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体の動作が視認し難くなることや可動体に搭載されているＬＥＤによる発光が視認し難くなるなどの確認作業の妨げとなることを防止できる。

【４９９８】

さらに、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないと判定された場合であっても、遊技盤未接続報知音を出力することなしに動作確認報知音を出力させるため、各種スピーカが音を正常に出力可能であるか否かの確認ができなくなることを防止し、正常に出力可能か否かの確認を行って異常（正常に音が出力されないこと）を発見した場合には修理等を行って正常な状態に戻すことで設計通りに各種スピーカから音を出力させることができるようになるため、演出効果が低下することを抑制できる。また、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないと判定された場合であっても、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８が操作されたときには特別音を出力させるため、音量調節ボタン２２７や光量調節ボタン２２８が操作を正常に受け付け可能であるか否かの確認ができなくなることを防止し、正常に操作を受け付け可能であるか否かの確認を行って異常（特別音が出力されないこと）を発見した場合には修理等を行って正常な状態に戻すことで遊技者の好みの音量で各種スピーカから音を出力させることができるようになるため、遊技者が不快に感じる音量で各種スピーカから音が出力されることによる遊技興趣の低下を抑制できる。

【４９９９】

なお、動作確認モードでは、未接続状態であると判定された右側遊技盤５ＡＲに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等についての動作確認モードを行わないだけに限らず、動作確認モードを実行する可動体（分割遊技盤５Ａに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１や、扉枠３に設けられる演出操作ユニット３００の演出操作部３０１等）のうちの扉枠ユニットに設けられてＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）においてＩＤ判定の対象とされていない演出操作部３０１を駆動させる駆動モータや駆動ソレノイドについても動作確認モードを行わないようになっている。

【５０００】

具体的には、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないと判定されている場合には、動作確認モードを開始しても右側遊技盤５ＡＲに設けられているＬＥＤを動作確認発光態様で点灯させる制御や可動体を動作確認時動作態様で動作させる制御を行わない（右側遊技盤５ＡＲに制御信号を出力しない。）か又は行えない（制御信号を出力するものの右側遊技盤５ＡＲに制御信号が入力されない。）ことに加えて、扉枠３に設けられるとともにＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）においてＩＤ判定の対象とされていない皿ユニット２００（この例では演出操作ユニット３００）に設けられる駆動モータや駆動ソレノイドを駆動させて演出操作ユニット３００に設けられる演出操作部３０１を動作させる制御を行わない。

【５００１】

すなわち右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態である場合には、ＩＤ判定の対象とされていない扉枠ユニットに設けられる可動体の一部または全部についても接続状態が不良となっているおそれがあり、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａから出力された制

御信号がノイズ等で本来とは異なる信号に変化して入力されて、可動体が異常な態様で動作するおそれがあるため、扉枠ユニットに設けられてＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）においてＩＤ判定の対象とされていない周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等によって動作される可動体の一部又は全部についても駆動させないようにし、これにより、可動体が本来とは異なる動作態様で動作して可動体や扉枠ユニットが破損することや可動体を動作させる駆動モータや駆動ソレノイド等が故障することを抑制できるようにしている。ただし、この場合にも扉枠ユニットに設けられてＩＤ判定の対象とされていないＬＥＤ（例えば扉枠３に設けられる演出操作ユニット３００の演出操作部３０１の演出操作部カバーユニット３１０の上部（ユニット上カバー３１２）を発光装飾させるための複数のＬＥＤ３２０ａ）については適合時と同様に所定の発光態様で制御されるようになっている。これにより動作確認モードが正常に実行されていることを判別できるようになる。

【５００２】

一方、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）を実行する周辺制御ＩＣ１５１０ａが実装されている周辺制御基板１５１０が配置する左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体（分割遊技盤５Ａのうちの左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１等）は、動作確認モードが開始されると、通常（分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であると判定された場合）と同様に動作される。また、左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体（分割遊技盤５Ａのうちの左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１等）に設けられる基板に実装されるＬＥＤは動作確認発光態様に発光制御される。すなわち、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）で右側遊技盤５ＡＲが未接続状態であると判定された場合には、通常（分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であると判定された場合）と同様に、左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体（分割遊技盤５Ａのうちの左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１等）を動作確認時動作態様で動作させるとともに、左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体に設けられるＬＥＤを動作確認発光態様に発光制御するようになっている。これにより、分割遊技盤５Ａのうちの周辺制御基板１５１０が設けられている遊技盤（この場合には左側遊技盤５ＡＬ）であることを容易に特定できるようになる。

【５００３】

また、本例では周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないと判定されている場合に、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）においてＩＤ判定の対象とされていない扉枠ユニット（この例では皿ユニット２００）の演出操作ユニット３００に設けられる基板に実装される駆動モータや駆動ソレノイドを駆動させて演出操作部３０１を動作させる制御を行わないが、演出操作ユニット３００に設けられる基板に実装される各種ＬＥＤについては動作確認モード中に通常（分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であると判定された場合）と同様に制御されるようになっている。すなわち、動作確認モードが実行された場合に周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないと判定されていても、演出操作ユニット３００に設けられる基板に実装される各種ＬＥＤについては分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であると判定されている場合と同様に動作確認発光態様に発光制御される。

【５００４】

なお、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップ

Ｓ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないと判定されている場合に、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）においてＩＤ判定の対象とされていない扉枠ユニットに設けられる複数の基板に実装される複数のＬＥＤのうちの一部の基板に実装されるＬＥＤ又は一の基板に実装される複数のＬＥＤのうちの一部については動作確認発光態様に発光制御しないようにしてもよいし、一部の可動体については動作確認時動作態様で動作させないようにしてもよい（例えば扉枠ユニットに設けられている装飾基板に設けられるＬＥＤと扉枠ユニットに設けられている可動体に設けられている駆動モータ、駆動ソレノイド、ＬＥＤ等との一部又は全部については動作確認モードでの動作や駆動を行わないようにしてもよい）。

【５００５】

また、ＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において分割遊技盤５Ａが接続されていないと判定された場合には、動作確認モードに限らずパチンコ機１の電源が遮断されるまで、又は分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合と判定されるまでは、接続されていないと判定された右側遊技盤５ＡＲと、ＩＤ判定の対象とされていない扉枠ユニットに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御される駆動モータや駆動ソレノイド等によって動作される可動体の一部又は全部と、を駆動させないようにしてもよく、この場合には可動体が本来とは異なる動作態様で動作して可動体や扉枠ユニットが破損することや可動体を動作させる駆動モータや駆動ソレノイド等が故障することを抑制できるようにしている。

【５００６】

また、外部端子板出力確認モードが終了し（ＬＥＤによる動作確認発光態様が終了して消灯又は所定の発光態様での点灯した状態とされるとともに可動体の動作確認時動作態様が終了して待機状態（予め決められている待機位置に停止している（収容されている）状態）とされること）、遊技モードが開始されると、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａは、演出表示装置１６００における未接続エラー報知表示態様の表示に加えて、遊技盤未接続報知音（「右側遊技盤が接続されていません。」というアナウンス音声及び「キンコーン」等の警告音）を音量調節ボタン２２７によって調節された音量でパチンコ機１への電源供給が遮断されるまで各種スピーカから繰り返し出力させる（一定回数（例えば５回）又は一定期間（例えば３０秒）繰り返し出力した後に出力を停止させるものであってもよい）とともに、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）を重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）に繰り返し発光制御し、且つ左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤを消灯状態に制御する一方、左側遊技盤５ＡＬに設けられて主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによって制御される機能表示ユニット１４００のＬＥＤと左側遊技盤５ＡＬに設けられて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって制御されるサブ機能表示ユニット２２５０のＬＥＤとを適合時と同様に発光制御可能な状態とする（所定の態様で点灯させるものでもよい）。

【５００７】

なお、遊技盤未接続報知音は同一の報知音（例えば「ビー」等）が断続的に出力されるものではなく、音階が異なる複数の音によって構成されるものであり、さらに消音状態と出力状態とに繰り返し制御される。また、重大異常報知発光態様は点灯状態が固定されるものではなく、点灯状態と消灯状態とに繰り返し制御されて光量を変化させるものである。つまり、各種スピーカ及び各種ＬＥＤにおいては時間の経過に応じて音階や音量、光量等の変化を伴う動的態様で左側遊技盤５ＡＬに対して右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことを報知するようになっている。これにより、動作確認モードが終了して確認作業の必要がない遊技モードが開始されたときに、左側遊技盤５ＡＬに対して右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていないことを気付かせ易くなる。

【５００８】

このように、本例では右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態で動作確認モードに移行制御する場合には、各種スピーカからは右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態となっていることに応じた異常報知を行う一方で、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）については外枠２に対して本体枠４が開放されたことに応じた異常報知を行うようになっている。すなわち、各種スピーカと扉枠ユニットの各種ＬＥＤ及び右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤとのそれぞれにおいて異常報知を実行するものの、起因となる異常（各種スピーカについては未接続を起因として異常報知を実行し、扉枠ユニットの各種ＬＥＤ及び右側遊技盤５ＡＲに設けられる装飾基板に実装される各種ＬＥＤについては外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因して異常報知を実行する。）は異なるようになっている。

【５００９】

すなわち、右側遊技盤５ＡＲが未接続であり、且つ動作確認モード中に外枠２に対して本体枠４を閉じた状態とされていれば、各種スピーカから遊技盤未接続報知音が出力されるとともに、外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）の発光制御が実行され、各種スピーカから出力される遊技盤未接続報知音については音量調節ボタン２２７によって音量を調節することができるものの、外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因して発光制御される重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様を含む）については光量調節ボタン２２８による光量の調節が不可能とされている。

【５０１０】

この場合、光量調節ボタン２２８が操作されたことに基づいて演出表示装置１６００に光量（輝度）に応じた目盛を表示し、さらに光量調節ボタン２２８を操作することで目盛を変化させても重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様を含む）の光量（輝度）は変化しない。一方、重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様を含む）の発光制御が終了した後に実行される右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態となっていることに応じた軽微異常発光態様は光量調節ボタン２２８の操作に応じて変化された光量（輝度）で発光制御される。このように本例では右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態で動作確認モードが実行された場合に、動作確認モードが終了して遊技モードが開始されたときに外枠２に対して本体枠４が閉じた状態で重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）に発光制御されていれば、重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）の発光制御中に、重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）の終了後に発光制御される発光態様の光量（輝度）を調節することができるようになっている。これにより重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）に発光制御していても遊技を開始できる状況では遊技者の光量（輝度）調節機会を奪わないようにすることができるため、遊技興趣の低下を抑止可能である。

【５０１１】

なお、外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じてから重大異常報知発光態様（重大異常報知発光態様の後に準重大異常報知発光態様に発光制御する場合には準重大異常報知発光態様）を終了するまでの期間を、動作確認モードを開始してから動作確認モードが終了するまでの期間よりも短くされている場合には、外部端子板出力確認モードの終了後に本体枠４を閉じた場合であってその後に本体枠４が継続して閉じた状態とされていれば

、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）を外枠２に対して本体枠４が開放されたことに起因する重大異常報知発光態様に発光制御させることなく、動作確認モードが終了して遊技モードが開始されたときに直ぐに右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態となっていることに応じた軽微異常報知発光態様に発光制御され、動作確認モードが終了して遊技モードが開始されたときにＬＥＤの発光態様によってすぐに右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態となっていることを報知することができるようになる。

【５０１２】

また、本例ではパチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定された場合に、外部端子板出力確認モードに移行制御するか否かや、動作確認モードに移行制御するか否かによって、右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態となっていることに応じた軽微異常報知発光態様での発光制御タイミング及び遊技盤未接続報知音の出力タイミングが異なるようになっている。

【５０１３】

具体的には、外部端子板出力確認モードと動作確認モードとのいずれにも移行制御しない場合に、右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であれば、パチンコ機１への電力供給が開始されたことに基づいて所定期間に亘って演出表示装置１６００に「ｐｏｗｅｒ　ｏｎ」を表示させた後、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤ（一部のみでもよいし全部でもよい）による軽微異常報知発光態様での発光制御を開始するとともに各種スピーカによる遊技盤未接続報知音の出力を開始する。

【５０１４】

一方、外部端子板出力確認モードと動作確認モードとのいずれかを実行する場合に、右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であれば、外部端子板出力確認モード及び動作確認モード中には右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされていることに起因する軽微異常報知発光態様での発光制御と各種スピーカによる遊技盤未接続報知音の出力とを開始することなく、動作確認モード後に右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされていることに起因する軽微異常報知発光態様での発光制御と各種スピーカによる遊技盤未接続報知音の出力とを開始する。

【５０１５】

このように、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であると判定された場合であっても、外部端子板出力確認モードに移行制御するか否かや、動作確認モードに移行制御するか否かによって、軽微異常報知発光態様での発光制御タイミング及び遊技盤未接続報知音の出力タイミングを異ならせることにより、重要度の高い情報を優先的に報知して不具合や不正行為が発生することを抑制できる。すなわち、外部端子板５５８への出力が正常でない場合には不正行為が行われていてもホールコンピュータで不正行為を発見できずに遊技店に被害が生じるおそれがあるし、パチンコ機１に設けられる装置に異常がある場合にはパチンコ機１を破損させるおそれがあるため、分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合（不整合）の状態であることよりも優先して報知することにより被害の拡大やパチンコ機１の破損を防ぐことができるようになっている。

【５０１６】

なお、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコー

ド信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であると判定された場合に、演出表示装置１６００において未接続エラー報知表示態様としての「右側遊技盤未接続エラー発生」を表示するタイミングは、外部端子板出力確認モードに移行制御するか否か、及び動作確認モードに移行制御するか否かに関わらず同一とされている。すなわち、動作確認モードを開始するタイミングで演出表示装置１６００に未接続エラー報知表示態様としての「右側遊技盤未接続エラー発生」を表示するようになっている。これにより、重要度の高い報知を優先して実行しつつも、他の報知についても演出表示装置１６００で報知して対処させることができるようになる。また、演出表示装置１６００における未接続エラー報知表示態様としての「右側遊技盤未接続エラー発生」の表示タイミングについても外部端子板出力確認モードに移行制御するか否かや、動作確認モードに移行制御するか否かによって異ならせるようにしてもよく、この場合には重要度の高い情報を順に報知して順次対処させることができるため、それぞれの情報を確実に伝えて対処させることができるようになる。

【５０１７】

また、本例のパチンコ機１ではパチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定された場合には、外部端子板出力確認モードの実行中に異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）による検出があっても当該検出は無効（検出があるか否かを確認する処理を実行しないものでもよいし、検出があるか否かを確認する処理を実行するものの検出に基づく処理（報知等）を実行しないものであってもよい。）とされるようになっている。

【５０１８】

具体的には、外部端子板出力確認モードの実行中に不正な磁気が発生して主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されても不正な磁気を検出したことに基づく異常報知を実行することなく、検出信号を破棄するようになっている。すなわち、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定された場合であって、外部端子板出力確認モードの実行中に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されたときには、磁気センサ１０５０からの検出信号を無視し、外部端子板出力確認モードの終了後に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されていないものとして制御を実行する。

【５０１９】

また、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定された場合であって、動作確認モード中に異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）により異常が検出されたとき、すなわち動作確認モード中に異常検出手段により異常が検出されたとき、には異常検出手段の検出は有効とされているものの、異常報知の一部については電源投入動作確認の実行中には異常報知が行われることなく、動作確認モード終了後に異常報知が行われるようになっている。

【５０２０】

具体的には、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩ

Ｄコード信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定された場合であって、動作確認モード中に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されたときには、当該動作確認モード中には扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤを不正な磁気を検出したことに起因する重大異常報知発光態様に発光制御されず、各種スピーカから磁気検知報知音（例えば、「磁気検知エラー発生。」）を繰り返し出力されることもない。

【５０２１】

そして、動作確認モードが終了すると、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤが不正な磁気を検出したことに起因する重大異常報知発光態様で発光制御されるとともに各種スピーカから磁気検知報知音が出力されるようになっている。なお、不正な磁気を検出したことに起因する異常報知は不正な磁気を検出してから所定期間が経過したことに基づいて終了するようになっている。そして、不正な磁気を検出したことに起因する異常報知が終了ときに、他の異常が検出していなければ扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤが右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であることに起因する軽微異常報知発光態様に発光制御されるとともに、各種スピーカから遊技盤未接続報知音が繰り返し出力される。

【５０２２】

このように、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定された場合であって、動作確認モード中に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されたときには、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤと各種スピーカについては主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されていないものとして制御を継続し、動作確認モードが終了したことに基づいて不正な磁気を検出したことに起因する異常報知が実行されるようになっている。

【５０２３】

換言すると、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定された場合であって、動作確認モード中に異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）による検出がなされたときには、動作確認モード終了後に右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることに起因する報知よりも異常検出手段による検出に起因する異常報知を優先して実行するようになっている。

【５０２４】

すなわち、動作確認モードでは不正行為が行われても不利益が発生するおそれは低いものの、動作確認モード終了後には直ぐに遊技モードが開始されるため、遊技モードでも同様の不正行為が行われる可能性がある。一方、右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態となっている場合には不正行為に比べて不利益が生じる可能性は低い。そのため、動作確認モード中に異常検出手段による検出と右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態との両方が発生した場合には、動作確認モード終了後（一部については動作確認モード中）に異常検出手段による検出がなされたことに

起因する報知を優先して実行することにより不利益の発生を抑制している。
【５０２５】
　また、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定された場合であって、動作確認モード中に異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）による検出がなされたときには、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤと各種スピーカとについては動作確認モードが終了したタイミングで異常報知が行われるものの、演出表示装置１６００については異常検出手段による検出がなされたタイミングで異常報知（例えば、磁気検出エラー報知態様として「磁気エラー発生」を表示する。）が行われるようになっている。
【５０２６】
　すなわち、異常検出手段の検出信号が主制御基板１３１０に入力されたタイミング（磁石ゴトカウンタの値が上限値に達したタイミングでもよい。）で主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから異常報知の開始を指示するコマンド（例えば電波照射ゴトが行われている旨を伝える報知表示に区分される磁石ゴト報知コマンド。）を周辺制御基板１５１０に送信し、この異常報知の開始を指示するコマンド（磁石ゴト報知コマンド）を受信したタイミングで周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣが異常報知に関する制御を開始するようになっている。また、異常検出手段による検出がなされたことに起因する異常報知が演出表示装置１６００に表示されている場合であっても右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であることに起因する異常報知（未接続エラー報知表示態様）が演出表示装置１６００に表示される。すなわち、異常検出手段による検出と右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態との両方が同時に発生している場合には演出表示装置１６００にてそれぞれの異常を報知する異常報知が表示されるようになっている。
【５０２７】
　なお、異常検出手段として磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチを示したが、一部のセンサやスイッチについては動作確認モード中又は外部端子板出力確認モードの終了後（動作確認モード中と遊技モード中とを含む）に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されても演出表示装置１６００に異常報知を行わないようにしてもよいし、全てのセンサやスイッチについて動作確認モード中又は外部端子板出力確認モードの終了後（動作確認モード中と遊技モード中とを含む）に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されても演出表示装置１６００に異常報知を行わないようにしてもよい。
【５０２８】
　また、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定された場合であって、動作確認モード終了後の遊技モード中に異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）により異常が検出されたとき、すなわち遊技モード中に異常検出手段により異常が検出されたとき、にも異常検出手段の検出は有効とされているものの、動作確認モード中に異常検出手段により異常が検出された場合とは異なり、異常検出手段により異常が検出されたタイミングで異常報知が行われるようになっている。
【５０２９】
　具体的には、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩ

Ｄコード信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定された場合であって、動作確認モード終了後の遊技モード中に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されたときには、磁気センサ１０５０からの検出信号が入力されたタイミングで、異常検出手段による検出に起因する異常報知が演出表示装置１６００と扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤと各種スピーカとのそれぞれで行われる。

【５０３０】

すなわち、パチンコ機１への電力供給が開始されるときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態とされて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによりＩＤ判定処理（ステップＳ１００３）において右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態であると判定された場合であって、動作確認モード終了後の遊技モード中に主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）からの検出信号が入力されたときには、右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることに起因する報知よりも異常検出手段による検出に起因する異常報知を優先して実行するようになっている。

【５０３１】

そのため、不正行為が行われた場合に不利益が発生する蓋然性が高い遊技モードで、異常検出手段による検出と右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態との両方が発生した場合には、異常検出手段による検出がなされたことに起因する報知を優先して実行することにより不利益の発生を抑制することができるようになる。

【５０３２】

また、パチンコ機１への電力供給開始後に周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａによって定期的（例えば周辺制御部定常処理が実行される毎）に分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するＩＤ判定処理を実行するように構成した場合であっても外部端子板出力確認モードの実行中にＩＤ判定処理を実行しないようにしてもよいし、外部端子板出力確認モードの実行中にＩＤ判定処理を実行して右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であると判定した場合であっても外部端子板出力確認モードの実行中には右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態となっていることに応じた報知を行わないようにしてもよい。

【５０３３】

また、定期的に分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するＩＤ判定処理を実行する場合には、右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であると判定されたことに基づいて右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態となっていることに応じた報知（遊技盤未接続報知音、未接続エラー報知表示態様、軽微異常報知発光態様等）を開始した後に分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であると判定されたことに基づいて右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態となっていることに応じた報知を終了したり、ＩＤ判定処理において分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であると判定された後に右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であると判定されたことに基づいて右側遊技盤５ＡＲが未接続の状態となっていることに応じた報知を開始するようにしてもよい。

【５０３４】

また、定期的に分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するように構成した場合に、外部端子板出力確認モードを開始する以前や動作確認モード中にＩＤ判定処理を実行して右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であると判定されたときには、パチンコ機１への電力供給が開始されるときにのみ分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定する場合と同様に、動作確認モード中には演出表

示装置１６００において右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることを報知する表示を行う一方、各種スピーカ、及び扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤについては右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることを報知する遊技盤未接続報知音の出力及び軽微異常報知発光態様の点灯を行うことなく、動作確認モードが終了して遊技モードとなったときに右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることを報知する遊技盤未接続報知音の出力及び軽微異常報知発光態様の点灯を行うようにしてもよい。

【５０３５】

また、定期的に分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するように構成した場合にも、外部端子板出力確認モードの実行中に異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）による検出があっても当該検出は無効（検出があるか否かを確認する処理を実行しないものでもよいし、検出があるか否かを確認する処理を実行するものの検出に基づく処理（報知等）を実行しないものであってもよい。）として外部端子板出力確認モード後にも異常検出手段による外部端子板出力確認モード中の検出に基づく異常報知を実行しないようにしてもよい。

【５０３６】

また、定期的に分割遊技盤５Ａの組み合わせが適合であるか否かを判定するように構成した場合に、動作確認モード中に右側遊技盤５ＡＲが未接続とされている場合であって、且つ異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ。）による検出があったときには、動作確認モード中には演出表示装置１６００において右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることと異常検出手段による検出があったこととの両方を報知する表示を行う一方、各種スピーカ、及び扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤについては右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることの報知と異常検出手段による検出があったことの報知とを行うことなく、動作確認モードが終了して遊技モードとなったときに各種スピーカ及び扉枠ユニットにおいて異常検出手段による検出があったことの報知を右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がない未接続の状態であることの報知よりも優先して実行するようにしてもよい。

【５０３７】

なお、上記した例ではパチンコ機１への電力供給開始時の所定期間内に「第１確認モード移行条件」が成立している場合に外部端子板出力確認モードに移行制御し、パチンコ機１への電力供給開始時の所定期間内に「第２確認モード移行条件」が成立している場合には動作確認モードに移行制御するように構成したが、例えば機能表示ユニット１４００において特別図柄の変動表示が所定期間に亘って実行されていない待機中（デモ中）等のパチンコ機１への電力供給開始後の所定期間内に「第１確認モード移行条件」が成立している場合に外部端子板出力確認モードに移行制御し、パチンコ機１への電力供給開始後の所定期間内に「第２確認モード移行条件」が成立している場合には動作確認モードに移行制御するようにしてもよい。

【５０３８】

また、上記した例では動作確認スイッチ１３１０ｊを新たに設けて、「第１確認モード移行条件」や「第２確認モード移行条件」として動作確認スイッチ１３１０ｊの操作を要するものを示したが、動作確認スイッチ１３１０ｊを設けることなくＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆを代用するようにしてもよい。また、この場合にはＲＡＭクリアスイッチ１

３１０ｆを主制御基板１３１０に配置するようにしてもよいし、払出制御基板６３３や電源基板６３０に配置するようにしてもよい。また、動作確認スイッチ１３１０ｊを設けることなくＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆを代用するように構成した場合には、「設定値変更許可条件」と「第１確認モード移行条件」とが同一の条件とされ、「主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）の実行条件」と「第２確認モード移行条件」が同一の条件とされるが、この場合には設定変更処理を実行する場合に外部端子板出力確認モードも実行し、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）を実行する場合に動作確認モードも実行するようにしてもよい。さらに、この場合には上記分割遊技盤５Ａの組み合わせが不適合の状態や、右側遊技盤５ＡＲからのＩＤコード信号の入力がなく各種信号を伝送する伝送経路に短絡や断線などの不具合が発生するといった左側遊技盤５ＡＬに対して右側遊技盤５ＡＲが電気的に接続されていない未接続の状態で設定値の設定変更を行う場合の挙動例と同様の制御を上記外部端子板出力確認モードにおいても実行するようにしてもよいし、上記設定変更処理後の主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする処理（ステップＳ３８）及び電源投入時動作確認を行う場合の挙動例と同様の制御を上記動作確認モードにおいても実行するようにしてもよい。

【５０３９】

また、上記した複数の実施形態に示す出力信号や発光態様、表示態様、音出力態様等は一例であり、本技術思想を逸脱しないもの（例えば出力される期間や出力されるタイミング等が同様のもの）であれば出力信号や発光態様、表示態様、音出力態様等は上記したものに限られない。例えば、上記した例では外部端子板出力確認モードが開始されたときに出力確認信号を出力するものを示したが、他の信号を出力するものであってもよく、例えば設定変更処理を実行する場合に外部端子板出力確認モードも実行する場合には設定変更処理が実行されたことを示す信号を出力するものであってもよい。

【５０４０】

［小括１］

外枠（例えば外枠２）と、該外枠に開閉可能に設けられる本体枠（例えば本体枠４）と、該本体枠に開閉可能に設けられる扉枠（例えば扉枠３）と、を有する遊技枠側構成部と、

該遊技枠側構成部に着脱可能に設けられる遊技盤側構成部（例えば分割遊技盤５Ａ）と、

所定態様を出力可能な態様出力手段（例えば各種スピーカ、演出表示装置１６００、各種ＬＥＤ等のうちのいずれか一つ又は任意の複数（全部でもよい）の組み合わせ）と、

該態様出力手段を制御する態様制御手段（例えば周辺制御ＩＣ１５１０ａ）と、

遊技機の後面側に設けられて遊技者が操作不能な第１操作手段（例えば動作確認スイッチ１３１０ｊ）と、

遊技機の前面側に設けられて遊技者が操作可能な第２操作手段（例えば演出操作ユニット３００の演出操作部３０１や音量調節スイッチ、光量調節スイッチ等）と、

を備える遊技機であって、

前記第１操作手段に対する特別操作に応じて所定の特別状態を発生させることが可能な特別状態発生手段（周辺制御ＩＣ１５１０ａによって動作確認モードの制御を実行する部分）をさらに備え、

前記遊技盤側構成部は、それぞれ個別に前記遊技枠側構成部に固定される第１遊技盤側構成部（例えば左側遊技盤５ＡＬ）と第２遊技盤側構成部（例えば右側遊技盤５ＡＲ）とを有しており、

前記態様制御手段は、

前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていない場合に前記態様出力手段に報知態様を出力させることが可能であり、

前記特別状態中に前記第２操作手段が操作されたことに応じて特別態様を出力させ、

前記特別状態中に前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが電気的に接続

されていない場合には、前記態様出力手段により前記報知態様を抑制して出力させる、
ことを特徴とする。
このように構成することにより、特別状態中に第２操作手段の操作が有効であるか否かを確認することができるし、第２操作手段の操作が有効であるか否かの確認作業の邪魔をすることなく第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていないことを報知することを判別することができるようになるため、不具合なく遊技を実行させることができるようになって遊技興趣の低下を抑止できるとともに遊技者や遊技店に不利益を与えないようにすることができる。
【５０４１】
また、前記態様制御手段は、前記特別状態中にのみ前記特別態様（各種スピーカからの特別音や、演出表示装置１６００の特別態様、各種ＬＥＤの発光色を変化させる等）を出力可能とされる、ものであってもよい。このように構成することにより、特別状態中に特別態様が出力された場合に第２操作手段の操作が有効であることを容易に判別できるようになる。すなわち、変動演出時等に実行される他の態様と間違えることなく、特別態様を見つけることができるため、第２操作手段の操作が有効であることを容易に判別できるようになる。
【５０４２】
また、前記態様出力手段として表示手段（例えば演出表示装置１６００）と音出力手段（例えば各種スピーカ）又は発光手段（例えば各種ＬＥＤ）とを含み、前記特別状態中に前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていない場合には、表示手段に報知態様を表示する一方、音出力手段及び発光手段については報知態様を出力することなく特別態様を出力するようにしてもよい。このように構成することにより、特別状態での確認作業の妨げとなる各種音出力手段や発光手段については報知態様を出力させることなく特別態様を出力させ、特別状態での確認作業の妨げとならない表示手段にのみ報知態様を表示させるため、確認作業のミスを低減することができる。
【５０４３】
また、前記特別状態は、一定期間経過後に自動で（特に操作をすることなしに）終了する、ようにしてもよい。このように構成することにより、特別状態の終了操作等の無駄な操作を行う必要がなくなり、複数の遊技機が設置される遊技場において確認作業時の手間を省き、確認作業の時間を短縮させることができる。
【５０４４】
［小括２］
外枠（例えば外枠２）と、該外枠に開閉可能に設けられる本体枠（例えば本体枠４）と、該本体枠に開閉可能に設けられる扉枠（例えば扉枠３）と、を有する遊技枠側構成部と、
該遊技枠側構成部に着脱可能に設けられる遊技盤側構成部（例えば分割遊技盤５Ａ）と、
所定の発光態様で発光可能な発光部（例えば各種ＬＥＤ）と、
該発光部を発光制御する発光制御手段（例えば周辺制御ＩＣ１５１０ａ）と、
所定の特別操作に基づいて特別発光状態を発生させることが可能な特別発光状態発生手段（例えば周辺制御ＩＣ１５１０ａによって動作確認モードの制御を実行する部分）と、
を備える遊技機であって、
前記遊技盤側構成部は、それぞれ個別に前記遊技枠側構成部に固定される第１遊技盤側構成部（例えば左側遊技盤５ＡＬ）と第２遊技盤側構成部（例えば右側遊技盤５ＡＲ）とを有しており、
前記発光制御手段は、
前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていない場合に前記発光部を報知発光態様（例えば軽微異常報知発光態様）で発光させることが可能であり、
前記特別発光状態中に前記発光部を特別態様（例えば動作確認発光態様）で発光させ、

前記特別発光状態中には、前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていない場合であっても、前記発光部を前記報知発光態様で発光させることなく、前記特別態様で発光させ得る、
ことを特徴とする。
このように構成することにより、特別発光状態中に発光部が正常に点灯可能であるか否かを確認することができるため、不具合なく遊技を実行させることができるようになって遊技興趣の低下を抑止できる。
【５０４５】
また、前記発光制御手段は、前記特別発光状態中にのみ前記特別態様に発光し得る、ものであってもよい。このように構成することにより、特別発光状態中に特別態様に発光された場合に発光部が正常に点灯可能であることを容易に判別できるようになる。すなわち、変動演出時等に実行される他の発光態様と間違えることなく、特別態様を見つけることができるため、発光部が正常に点灯可能であることを容易に判別できるようになる。
【５０４６】
また、表示手段（例えば演出表示装置１６００）をさらに備え、前記特別発光状態中に前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていない場合には、表示手段に報知態様を表示させ、特別発光状態後に前記発光部を報知発光態様で発光させるようにしてもよい。このように構成することにより、特別発光状態での確認作業の妨げとなる発光部の発光については報知発光態様で発光させることなく特別態様で発光させ、特別発光状態での確認作業の妨げとならない表示手段の表示でのみ報知態様を表示させるため、確認作業のミスを低減することができるし、特別発光状態後には表示手段に報知態様を表示することに加えて、発光部を報知発光態様で発光させることで第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていないことを容易に認識させることができるようになる。
【５０４７】
また、前記特別発光状態は、一定期間経過後に自動で（特に操作をすることなしに）終了する、ようにしてもよい。このように構成することにより、特別発光状態の終了操作等の無駄な操作を行う必要がなくなり、複数のパチンコ機１が設置される遊技場において確認作業時の手間を省き、確認作業の時間を短縮させることができる。
【５０４８】
また、パチンコ機１の後面側に設けられて所定の操作を受け付け可能な操作部（動作確認スイッチ１３１０ｊ）をさらに有し、該操作部に対する操作に応じて前記特別発光状態を発生させ得るようにしてもよい。このように構成することにより、遊技者が操作困難なパチンコ機１の後面側に設けられる操作部が操作されたときに特別発光状態を発生させ得るため、不必要に特別発光状態が発生することを抑制できる。
【５０４９】
［小括３］
外枠（例えば外枠２）と、該外枠に開閉可能に設けられる本体枠（例えば本体枠４）と、該本体枠に開閉可能に設けられる扉枠（例えば扉枠３）と、を有する遊技枠側構成部と、
該遊技枠側構成部に着脱可能に設けられる遊技盤側構成部（例えば分割遊技盤５Ａ）と、
所定の音態様を出力可能な音出力部（例えば各種スピーカ）と、
該音出力部を音出力制御する音出力制御手段（例えば周辺制御ＩＣ１５１０ａ）と、
所定の特別操作に基づいて特別音出力状態を発生させることが可能な特別音出力状態発生手段（例えば周辺制御ＩＣ１５１０ａによって動作確認モードの制御を実行する部分）と、
を備える遊技機であって、
前記遊技盤側構成部は、それぞれ個別に前記遊技枠側構成部に固定される第１遊技盤側構成部（例えば左側遊技盤５ＡＬ）と第２遊技盤側構成部（例えば右側遊技盤５ＡＲ）と

を有しており、
前記音出力制御手段は、
前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていない場合に前記音出力部から報知音出力態様（例えば遊技盤未接続報知音）を出力させることが可能であり、
前記特別音出力状態中に前記音出力部から特別音（例えば特別音）を出力させ、
前記特別音出力状態中には、前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていない場合であっても、前記音出力部から前記報知音出力態様を出力させることなく、前記特別音を出力させ得る、
ことを特徴とする
このように構成することにより、特別音出力状態中に音出力部が正常に音出力可能であるか否かを確認することができるため、不具合なく遊技を実行させることができるようになって遊技興趣の低下を抑止できる。
【５０５０】
また、前記音出力制御手段は、前記特別音出力状態中にのみ前記特別音を出力し得る、ものであってもよい。このように構成することにより、特別音出力状態中に特別音が出力された場合に音出力部が正常に音出力可能であることを容易に判別できるようになる。すなわち、変動演出時等に実行される他の音出力態様と間違えることなく、特別音を聞き分けることができるため、音出力部が正常に音出力可能であることを容易に判別できるようになる。
【５０５１】
また、表示手段（例えば演出表示装置１６００）をさらに備え、前記特別音出力状態中に前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていない場合には、表示手段に報知態様を表示させ、特別音出力状態後に前記音出力部から報知音出力態様を出力させるようにしてもよい。このように構成することにより、特別音出力状態での確認作業の妨げとなる音出力部の出力については報知音出力態様で出力させることなく特別音で出力させ、特別音出力状態での確認作業の妨げとならない表示手段の表示でのみ報知態様を表示させるため、確認作業のミスを低減することができるし、特別音出力状態後には表示手段に報知態様を表示することに加えて、音出力部を報知音出力態様で出力させることで第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていないことを容易に認識させることができるようになる。
【５０５２】
また、前記特別音出力状態は、一定期間経過後に自動で（特に操作をすることなしに）終了する、ようにしてもよい。このように構成することにより、特別音出力状態の終了操作等の無駄な操作を行う必要がなくなり、複数のパチンコ機１が設置される遊技場において確認作業時の手間を省き、確認作業の時間を短縮させることができる。
【５０５３】
また、パチンコ機１の後面側に設けられて所定の操作を受け付け可能な操作部（動作確認スイッチ１３１０ｊ）をさらに有し、該操作部に対する操作に応じて前記特別音出力状態を発生させ得るようにしてもよい。このように構成することにより、遊技者が操作困難なパチンコ機１の後面側に設けられる操作部が操作されたときに特別音出力状態を発生させ得るため、不必要に特別音出力状態が発生することを抑制できる。
【５０５４】
［小括４］
外枠（例えば外枠２）と、該外枠に開閉可能に設けられる本体枠（例えば本体枠４）と、該本体枠に開閉可能に設けられる扉枠（例えば扉枠３）と、を有する遊技枠側構成部と、
該遊技枠側構成部に着脱可能に設けられる遊技盤側構成部（例えば分割遊技盤５Ａ）と、
所定の動作態様で動作可能な可動部（例えば左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体（分

割遊技盤５Ａのうちの左側遊技盤５ＡＬに設けられる裏ユニット３０００の裏後上演出ユニット３２００の裏後上可動装飾体３２１０、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２、裏前下演出ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６１等））と、
該可動部を可動制御する可動制御手段（例えば周辺制御ＩＣ１５１０ａの左側遊技盤５ＡＬに設けられる可動体を可動制御する部分）と、
所定の発光態様で発光可能な発光部（例えば各種ＬＥＤ）と、
該発光部を発光制御する発光制御手段（例えば周辺制御ＩＣ１５１０ａの各種ＬＥＤを発光制御する部分）と、
所定の特別操作に基づいて特別可動状態を発生させることが可能な特別可動状態発生手段（例えば周辺制御ＩＣ１５１０ａによって動作確認モードの制御を実行する部分）と、
を備える遊技機であって、
前記遊技盤側構成部は、それぞれ個別に前記遊技枠側構成部に固定される第１遊技盤側構成部（例えば左側遊技盤５ＡＬ）と第２遊技盤側構成部（例えば右側遊技盤５ＡＲ）とを有しており、
前記発光制御手段は、
前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていない場合に前記発光部を報知発光態様（例えば軽微異常報知発光態様）で発光させることが可能であり、
前記可動制御手段は、
前記特別可動状態中に前記可動部を特別可動態様（例えば動作確認時動作態様）で動作させ、
前記特別可動状態中には、前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていない場合であっても、前記発光部を前記報知発光態様で発光させない、
ことを特徴とする。
このように構成することにより、特別可動状態中に可動部が正常に可動可能であるか否かを確認することができるため、不具合なく遊技を実行させることができるようになって遊技興趣の低下を抑止できる。
【５０５５】
また、前記可動制御手段は、前記特別可動状態中にのみ前記可動部を特別可動態様で動作し得る、ものであってもよい。このように構成することにより、特別可動状態中に可動部が特別可動態様で動作した場合に可動部が正常に可動可能であることを容易に判別できるようになる。すなわち、変動演出時等に実行される他の可動態様と間違えることなく、特別可動態様を見つけることができるため、可動部が正常に可動可能であることを容易に判別できるようになる。
【５０５６】
また、表示手段（例えば演出表示装置１６００）をさらに備え、前記特別可動状態中に前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていない場合には、表示手段に報知態様を表示させ、特別可動状態後に前記発光部を報知発光態様に発光させるようにしてもよい。このように構成することにより、特別可動状態での確認作業の妨げとなる発光部の発光については報知発光態様で出力させることなく、特別可動状態での確認作業の妨げとならない表示手段の表示でのみ報知態様を表示させて特別可動状態後に発光部を報知発光態様で発光させるため、確認作業のミスを低減することができるし、特別可動状態後には表示手段に報知態様を表示することに加えて、発光部を報知発光態様で発光させることで第１遊技盤側構成部と第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていないことを容易に認識させることができるようになる。
【５０５７】
また、前記特別可動状態は、一定期間経過後に自動で（特に操作をすることなしに）終了する、ようにしてもよい。このように構成することにより、特別可動状態の終了操作等の無駄な操作を行う必要がなくなり、複数のパチンコ機１が設置される遊技場において確

認作業時の手間を省き、確認作業の時間を短縮させることができる。
【５０５８】
　また、パチンコ機１の後面側に設けられて所定の操作を受け付け可能な操作部（動作確認スイッチ１３１０ｊ）をさらに有し、該操作部に対する操作に応じて前記特別可動状態を発生させ得るようにしてもよい。このように構成することにより、遊技者が操作困難なパチンコ機１の後面側に設けられる操作部が操作されたときに特別可動状態を発生させ得るため、不必要に特別可動状態が発生することを抑制できる。
【５０５９】
［小括５］
　外枠（例えば外枠２）と、該外枠に開閉可能に設けられる本体枠（例えば本体枠４）と、該本体枠に開閉可能に設けられる扉枠（例えば扉枠３）と、を有する遊技枠側構成部と、
　該遊技枠側構成部に着脱可能に設けられる遊技盤側構成部（例えば分割遊技盤５Ａ）と、
　遊技機に関する情報を遊技機外部に出力可能な情報出力手段（例えば払出制御ＭＰＵの実際に払出した遊技球Ｂの球数などの遊技機に関する情報を外部端子板５５８から遊技ホール側に設置されたホールコンピュータに出力する部分）と、
　所定の特別操作に基づいて特別状態を発生させることが可能な特別状態発生手段（例えば払出制御ＭＰＵの外部端子板出力確認モードの制御を実行する部分）と、
　を備える遊技機であって、
　前記遊技盤側構成部は、それぞれ個別に前記遊技枠側構成部に固定される第１遊技盤側構成部（例えば左側遊技盤５ＡＬ）と第２遊技盤側構成部（例えば右側遊技盤５ＡＲ）とを有しており、
　前記情報出力手段は、
　前記特別状態中に特別情報（例えば出力確認信号）を出力させることが可能であり、
　少なくとも前記特別状態中には、前記第１遊技盤側構成部と前記第２遊技盤側構成部とが電気的に接続されていない未接続となっている場合であっても、当該未接続であることを示す情報を遊技機外部に出力することなく、前記特別情報を出力する、
　ことを特徴とする。
　このように構成することにより、特別状態中に情報出力手段から正常に遊技機に関する情報が出力可能であるか否かを確認することができるため、不正行為等の遊技機に関する情報をホールコンピュータ等において収集することができるため、パチンコ機１のセキュリティを向上させることができ、不正行為の抑止力が高まる。
【５０６０】
　また、前記情報出力手段は、前記特別状態中にのみ前記特別情報を出力し得る、ものであってもよい。
　このように構成することにより、特別状態中に特別情報が出力された場合に情報出力手段が正常に遊技機に関する情報を出力可能であることを容易に判別できるようになる。すなわち、変動演出時等に実行される他の情報と間違えることなく、特別情報を確認することができるため、情報出力手段が正常に遊技機に関する情報を出力可能であることを容易に判別できるようになる。
【５０６１】
　また、前記情報出力手段は、前記特別状態が終了した場合であっても前記未接続であることを示す情報を遊技機外部に出力することなく、所定期間に亘って前記特別情報の出力を継続し得る、ようにしてもよい。このように構成することにより、特別状態が短期間で終了した場合であっても特別情報を確認することができるようになる。
【５０６２】
　所定の操作に基づいて遊技球を発射可能な発射手段（例えば球発射装置５４０）と、
　該発射手段を制御する発射制御手段（例えば払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂ）と、をさらに備え、

該発射制御手段は、前記特別状態中には前記操作がなされた場合であっても遊技球の発射を行わない、
ことを特徴とする。
このように構成することにより、特別状態中に遊技球が発射されたことによる遊技機に関する情報が情報出力手段から出力されて、特別情報が出力されているか否かが判別困難となることを抑止できる。
【５０６３】
遊技球を受け入れ可能な入球口（例えば第一始動口２００２、第二始動口２００４等）と、
該入球口に遊技球が受け入れられたことに基づいて抽選を行う抽選手段（主制御ＭＰＵ１３１０ａの当り判定処理（ステップＳ３０５）を実行する部分）と、
該抽選手段の抽選結果に基づいて遊技の進行を制御する遊技制御手段（主制御ＭＰＵ１３１０ａの特別図柄プロセス処理等を実行する部分）と、をさらに備え、
該遊技制御手段は、前記特別状態中には前記入球口に遊技球が受け入れられたか否かに関わらず遊技の進行を停止させる、
ことを特徴とする。
このように構成することにより、特別状態中に入球口に遊技球が入球しても遊技が進行しないため、特別状態中に特別情報とは異なる情報が出力されることを抑制でき、特別情報が出力された場合に情報出力手段が正常に遊技機に関する情報を出力可能であることを容易に判別できるようになる。
【５０６４】
また、パチンコ機１の後面側に設けられて所定の操作を受け付け可能な操作部（動作確認スイッチ１３１０ｊ）をさらに有し、該操作部に対する操作に応じて前記特別状態を発生させ得るようにしてもよい。このように構成することにより、遊技者が操作困難なパチンコ機１の後面側に設けられる操作部が操作されたときに特別状態を発生させ得るため、不必要に特別状態が発生することを抑制できる。
【５０６５】
［特定演出の開始遅延］
次に、演出表示装置１６００等で行われる特定演出の開始タイミングが遊技者操作によって遅延可能とされる変形例について説明する。図３４５は、特定演出の開始タイミングを示すタイムチャートである。なお、以下では上記実施形態と異なる部分についてのみ説明し、重複した説明を行わない。
【５０６６】
本例のパチンコ機１は図３４５（Ａ）に示すように図柄の変動表示の開始後に予め設定された期間Ｔ１が経過した場合に特定演出の開始条件が成立し、この特定演出の開始条件が成立したことに基づいて特定演出が開始される。つまり、図柄の変動表示の開始を指示する変動パターンコマンドを受信したときにタイマをスタートして変動パターンコマンドを受信してからの期間を計測し、この計測した期間が予め設定された期間Ｔ１に達したとき等に特定演出の開始条件が成立したと判断して特定演出を開始する。例えば図３４５（Ａ）に示すように、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから変動演出の開始を指示するための変動パターンコマンドを周辺制御基板１５１０が受信したことに基づいて演出表示装置１６００にて装飾図柄の変動表示等の変動演出を開始した後（ｔ１）、タイマによる計測を開始して予め設定された期間Ｔ１が経過すると（ｔ２）、一定期間Ｔ２に亘って特定演出を実行する。
【５０６７】
また、特定演出は一定期間Ｔ２に亘って行われると終了する（ｔ３）。なお、特定演出の実行後にタイマによる計測を開始してこの計測した期間が予め設定された期間Ｔ１に達したことに基づいて再び特定演出を開始するようにしてもよい。また、タイマの値は期間Ｔに達するとリセットされ、特定演出の終了後に再び初期値（例えば「０」）から計測を開始するようになっている。なお、タイマによる計測を開始してから中断するまでの期間

を個々に計測できるものであれば、タイマの値が期間Ｔに達する毎にリセットすることなく累積的に加算するようにしてもよい。また、特定演出の開始条件としての期間Ｔ１は一つのみ設定されるもの（特定演出が開始されるまでの期間が常に一定とされる（例えば常に１０秒が経過したときに特定演出を開始する）もの）であってもよいし、複数の期間が設定されるもの（特定演出が開始されるまでの期間が変化する（例えば５秒、１０秒、１５秒の中からいずれかの期間を決定してこの決定した期間が経過したときに特定演出を開始したり、これら複数の期間を所定の順序で切り替えたりして特定演出が開始されるまでの期間が常に一定とされない）ものであってもよい。

【５０６８】

また、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから変動パターンコマンドを受信してからの経過期間に応じて特定演出の開始条件の成立の有無を判断するもの、つまり主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから変動パターンコマンドを受信してからの経過期間をタイマによって計測して特定演出の開始条件の成立の有無を判定するものに限らず、これに加えて、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから変動パターンコマンドを受信してから、始動口入賞コマンドを受信するまでの期間（始動入賞コマンドを受信したことに基づいてタイマの値をリセットするもの）、ハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を検知するまでの期間（ハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を検知したことに基づいてタイマの値をリセットするもの）、ハンドル回転検知センサ１８９による回転を検知するまでの期間（ハンドル回転検知センサ１８９による回転を検知したことに基づいてタイマの値をリセットするもの）、演出操作ユニット３００の接触操作部３０２の接触操作を検知するまでの期間（演出操作ユニット３００の接触操作部３０２の接触操作を検知したことに基づいてタイマの値をリセットするもの）、音量調節ボタン２２７の操作を検知するまでの期間（音量調節ボタン２２７の操作を検知したことに基づいてタイマの値をリセットするもの）、光量調節ボタン２２８の操作を検知するまでの期間（光量調節ボタン２２８の操作を検知したことに基づいてタイマの値をリセットするもの）、等のいずれか又は任意の複数の組み合わせに応じても特定演出の開始条件の成立の有無を判断するようにしてもよい。つまり、変動パターンコマンドを受信してからの経過時間がＴ１に達するか、又は／及び経過時間がＴ１に達するよりも先に始動口入賞コマンドを受信しているかや、ハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を検知しているか、ハンドル回転検知センサ１８９により回転を検知しているか、演出操作ユニット３００の接触操作部３０２の接触操作を検知しているか、音量調節ボタン２２７の操作を検知しているか、光量調節ボタン２２８の操作を検知しているか、等により特定演出の開始条件の成立の有無を判断するようにしてもよい。

【５０６９】

主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから変動パターンコマンドを受信してから、始動口入賞コマンドを受信するまでの期間、ハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を検知するまでの期間、ハンドル回転検知センサ１８９による回転を検知するまでの期間、のいずれか又は任意の複数の組み合わせに応じて特定演出の開始条件の成立の有無を判断するように構成した場合には、遊技球の発射を停止させる所謂止め打ちを防止することができ、遊技機の稼働率を向上させることができる。

【５０７０】

なお、本例では主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから変動パターンコマンドを受信したことを契機として特定演出の開始条件の成立の有無を判断するように構成したが、これに限らず主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから送信される特定の制御コマンドを受信したことを契機として特定演出の開始条件の成立の有無を判断するようにしてもよい。例えば主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから始動口入賞コマンドを受信してからの経過期間（主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから始動口入賞コマンドを受信してからの経過期間をタイマによって計測する）や、停止表示コマンドを受信してからの経過期間（主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから停止表示コマンドを受信してからの経過期間をタイマによって計測する）等に応じて特定演

出の開始条件の成立の有無を判断するようにしてもよい。この場合には特定演出の開始タイミングを変化させることができ、遊技者を飽きさせないようにすることができる。

【５０７１】

ここで、本例では特定演出としてキャラクタ等を表出させて所定の動作を行う等の時間の経過に応じてキャラクタ等の態様を変化させる動的態様を表示する。例えば、特定演出として大当り期待度に応じたキャラクタ等を表出させる演出を行い、表出されるキャラクタによって大当り期待度を示唆するようになっている。ところが、特定演出は変動演出の開始後の比較的早いタイミングで行われるものであるため、遊技者が大当りとならないことや大当り期待度が低いことを変動演出の開始後の早いタイミングで把握してしまった場合には実行中の変動演出に対する興味を失うおそれがある。そこで、本例のパチンコ機では、特定演出の開始タイミングを遊技者操作によって遅延させることを可能にし、遊技者自らが変動演出の開始後の早いタイミングで大当り期待度を把握困難にして変動演出に対する興味を早い段階で失うことを抑止できるようになっている。

【５０７２】

具体的には、図３４５（Ｂ）に示すように、図柄の変動表示を開始してから予め設定された期間Ｔ１が経過する以前、すなわち主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから変動パターンコマンドを受信したことに基づいてタイマによる計測を開始し、特定演出の開始条件が成立する期間Ｔ１が経過する以前に、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作（例えば特定演出の開始タイミングを遅延させることが可能な特別期間を開始させる操作（本例では押圧操作））された場合には（ｔ２'）、演出操作ユニット３００（演出操作部３０１（接触操作部３０２、押圧操作部３０３））の操作に応じて特定演出の開始タイミングを遅延させることが可能な特別期間を開始し、図柄の変動表示を開始してから予め設定された期間Ｔ１が経過しても特定演出を開始しないようになっている（ｔ２）。なお、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作された場合には、演出表示装置１６００に異常情報（異常の内容を示す文字情報（例えば「扉開放エラー」等）など）とは異なる文字情報（例えば「特定演出遅延中」等）を静止状態で表示する。これにより特定演出の開始タイミングを遅延させていることを容易に認識できるようになる。

【５０７３】

また、特別期間は演出操作ユニット３００の特別操作（例えば特別期間を終了させる操作（終了操作））に応じて終了し（ｔ２"）、演出操作ユニット３００の特別操作に応じて特別期間を終了してから予め設定された期間Ｔ１が経過した場合に特定演出の開始条件が成立して特定演出を開始する（ｔ３'）。つまり、遊技者操作によって特別期間を開始させ、遊技者自身の操作によって特別期間を終了させることで、特別期間に亘って特定演出の開始タイミングを遅延させることができるようになっている。また、タイマの値は特別期間を開始した場合にリセットされるとともに特別期間中にはタイマによる計測を中断し、特別期間の終了後に再び初期値（例えば「０」）から計測を開始するようになっている。このように、特別期間中には特定演出が実行されないだけでなく、特定演出の開始条件の成立の有無についても特別期間の終了時から起算した期間に応じて判断するようになっている。つまり、特別期間が開始された場合にタイマの値をリセットし、特別期間が終了するまではタイマによる計測を開始することなく、特別期間が終了したことに基づいてタイマによる計測を初期値から開始するようになっている。そのため、遊技者が任意に決定した期間に亘って特定演出の開始タイミングを遅延させて遊技者自らが決定したタイミングで特定演出を開始させることができるようになり、遊技者の意図しないタイミングで特定演出が実行されて遊技興趣が低下することを抑止できる。また、特別期間中に演出操作ユニット３００が特別操作された場合、つまり特別期間が終了する場合には、上記した文字情報（例えば「特定演出遅延中」等）の表示を終了する。これにより特別期間が終了したことを容易に認識できるようになる。

【５０７４】

なお、特別期間中は、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特別操作されるま

では演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３とは異なる操作手段（例えば演出操作ユニット３００の接触操作部３０２や音量調節ボタン２２７、光量調節ボタン２２８等）を操作しても特別期間を終了しないようになっている。これにより遊技者の意図しないタイミングで特別期間が終了することを抑止できる。これにより遊技者の意図しないタイミングで特別期間が終了することを抑止できる。また、特別期間中には変動演出とは異なる所定の表示を実行するようにしてもよい。これにより特別期間が開始されていること、換言すると特定演出の開始タイミングが遅延されていることを容易に認識させることができる。また、特別期間中に所定の表示を実行する場合には所定の表示が実行されている状態で演出操作ユニット３００等を操作することで当該所定の表示を変化させるようにしてもよい。例えば特別期間中にキャラクタ等を表示し、演出操作ユニット３００等の操作に応じてキャラクタ等の一部を変化させるようにしてもよい。これにより開始タイミングを延長させている特別期間において手持ち無沙汰となることを抑制できる。

【５０７５】

なお、本例では主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから変動パターンコマンドを受信（図柄の変動表示を開始）してから特定演出の開始条件が成立する以前に演出操作ユニット３００の接触操作部３０２を操作しても特別期間を開始しない。ただし、演出操作ユニット３００の接触操作部３０２が操作された場合には、図柄の変動表示の開始時（主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから特定の制御コマンド（この例では変動パターンコマンド）を受信）から起算した期間ではなく、接触操作部３０２の操作終了時から起算した期間に応じて特定演出の開始条件の成立の有無を判断するようになっている。つまり、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから変動パターンコマンドを受信（図柄の変動表示を開始）してから特定演出の開始条件が成立する以前に演出操作ユニット３００の接触操作部３０２を操作した場合には、タイマの値をリセットするものの、タイマによる計測を中断することなく初期値から計測を開始するようになっている。

【５０７６】

具体的には、図３４５（Ｃ）に示すように、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから特定の制御コマンド（この例では変動パターンコマンド）を受信してから期間Ｔ１が経過する以前、すなわち主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから特定の制御コマンド（この例では変動パターンコマンド）を受信したことに基づいてタイマによる計測を開始し、特定演出の開始条件が成立する期間Ｔ１が経過する以前、に演出操作ユニット３００の接触操作部３０２が操作された場合には（ｔ２'）、特定の制御コマンド（この例では変動パターンコマンド）を受信してから予め設定された期間Ｔ１が経過しても特定演出を実行することなしに、接触操作部３０２の操作を終了してから予め設定された期間Ｔ１が経過したことに基づいて特定演出を開始する（ｔ３'）。

【５０７７】

この場合には予め設定された期間Ｔ１の範囲内で特定演出の開始タイミングを遅延させることができるようになる。これにより、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を特定操作（本例では押圧操作）して特定演出の開始タイミングを遅延させようとしている遊技者が誤って接触操作部３０２を操作してしまった場合や期間Ｔの範囲内の短時間だけ特定演出の開始タイミングを遅延させたいような場合でも特定演出の開始タイミングを遅延させて遊技興趣の低下を抑止できるようになる。

【５０７８】

なお、演出操作ユニット３００の接触操作部３０２に加えて、又は演出操作ユニット３００の接触操作部３０２とは別に、ハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を検知している場合に図柄の変動表示を開始してから起算した期間ではなく、ハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を検知しなくなった時から起算した期間に応じて特定演出の開始条件の成立の有無を判断するようにしてもよい。つまり、ハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を検知したことに基づいてタイマの値をリセットするとともに、ハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を検知している期間はタイマによる計測を中断し、ハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を検知しなくなったときに

初期値から計測を開始するようにしてもよい。この場合には、遊技球の発射を停止させる所謂止め打ちを防止することができ、遊技機の稼働率を向上させることができる。

【５０７９】

また、上記した例では特別期間を遊技者操作で終了させるものを示したが、演出操作ユニット３００が一定期間に亘って操作されなかった場合にも特別期間を終了させるようにしてもよい。つまり特別期間の終了条件として上記した遊技者操作に加えて、特別期間を開始した時又は演出操作ユニット３００の操作を終了した時のいずれか遅いタイミングとなったときに初期値からタイマの計測を開始し、タイマによって計測した期間に応じて特別期間の終了条件の成立の有無を判断するようにしてもよい。この場合には、特別期間の終了条件が成立すると判断する期間として、特定演出の開始条件が成立すると判断する期間Ｔ１よりも長い期間を設定するようにしてもよい。これにより、押圧操作部３０３とは異なる操作手段（例えば接触操作部３０２やハンドルタッチセンサ１９２等）の操作に応じた期間よりも長い期間に亘って特定演出の開始タイミングを遅延させることができるようになる。なお、上記したように本例では特別期間が終了してから予め設定された期間Ｔ１が経過した場合に特定演出の開始条件が成立して特定演出が開始されるため、特別期間を開始した時又は演出操作ユニット３００の操作を終了した時のいずれか遅い方から起算した期間が予め決められている期間に達するなどの遊技者操作とは異なる終了条件が成立したことに基づいて特別期間が終了した場合であっても直ぐには特定演出が開始されないため、特定演出の開始タイミングを大まかに把握できるものの、正確なタイミングを特定することが困難になり、特定演出の実行に興味を抱かせることができるようになる。

【５０８０】

また、特別期間の終了条件として上記した遊技者操作に加えて、ハンドルタッチセンサ１９２が接触を検知した場合や入球口（例えば一般入賞口２００１、第一始動口２００２、ゲート２００３、第二始動口２００４、及び大入賞口２００５のうちの全て又は特定の入球口（例えば第一始動口２００２、及び第二始動口２００４））への入球を検出した場合に特別期間の終了条件を成立させて特別期間を終了し、初期値からタイマの計測を開始するようにしてもよい。この場合には、特別期間を終了させる操作が不要となり、遊技者に煩わしさを与えないようにすることができるし、遊技の参加を促して遊技機の稼働率低下を抑止できるようになる。

【５０８１】

また、特定演出の実行中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作された場合に実行中の特定演出を終了するようにしてもよい。また、この場合には特定演出の終了後に特別期間を開始する（押圧操作部３０３が特定操作されたことに基づいてタイマの値をリセットし、特別期間が終了するまでタイマによる計測を中断する）ようにしてもよいし、特定演出を終了した後に特別期間を実行しないようにしてもよい。

【５０８２】

具体的には、図３４６（Ａ）に示すように、図柄の変動表示を開始してから予め設定された期間Ｔ１が経過すると、特定演出が開始される（ｔ２）。そして特定演出の実行中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作されると（ｔ３'）、特定演出の実行途中であっても実行中の特定演出を終了するようにしてもよい。つまり、特定演出として予め設定されている演出を全て実行する以前に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作された場合に、実行中の特定演出を途中で終了させるようにしてもよい。

【５０８３】

この場合には、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を特定操作（本例では押圧操作）していないことで特定演出が開始されてしまった場合に、遊技者が演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を特定操作（本例では押圧操作）するだけで特定演出を終了させることができるようになる。また、特別期間を開始した時又は演出操作ユニット３００の操作を終了した時のいずれか遅い方から起算した期間が予め決められている期間に達するなどの遊技者操作とは異なる終了条件が成立したことに基づいて特別期間が終了した

場合に、遊技者が意図しないタイミングで特定演出が開始されてしまっても遊技者が演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を特定操作（本例では押圧操作）するだけで特定演出を終了させることができるようになり、遊技者に煩わしさを与えない。

【５０８４】

なお、上記に加えてハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を検知した場合や、ハンドル回転検知センサ１８９による回転を検知した場合、演出操作ユニット３００の接触操作部３０２の接触操作を検知した場合、音量調節ボタン２２７の操作を検知した場合、光量調節ボタン２２８の操作を検知した場合、音量調節ボタン２２７が操作されて音量が変更された場合、光量調節ボタン２２８が操作されて光量（輝度）が変更された場合、などのうち一つ又は任意の組み合わせのうちのいずれかを検出した場合にも特定演出を終了させるようにしてもよい。ハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を検知した場合や、ハンドル回転検知センサ１８９による回転を検知した場合に特定演出を終了させるように構成した場合には特別な操作をすることなく、遊技を行うためにハンドル１９５に触れたり、ハンドル１９５を回転させるだけで特定演出を終了させることができ、遊技者に煩わしさを与えないようにすることができるし、演出操作ユニット３００の接触操作部３０２の接触操作を検知した場合や、音量調節ボタン２２７の操作を検知した場合、光量調節ボタン２２８の操作を検知した場合に特定演出を終了させるように構成した場合には、接触操作部３０２や音量調節ボタン２２７、光量調節ボタン２２８を操作するという簡単な操作だけで特定演出を終了させることができるようになるし、遊技の参加を促して遊技機の稼働率低下を抑止できるようになる。

【５０８５】

また、特別期間の終了後に特定演出の開始条件が成立したことに基づいて特定演出を開始させる場合には特定演出を中断した演出からではなく、特定演出の最初の演出から開始するようにしてもよい。すなわち、特定演出の開始条件が成立した場合には常に特定演出を最初から実行するようにしてもよい。この場合には、特定演出を中断したタイミングに関わらず特定演出の内容を全て実行して大当り期待度を示唆することができるようになる。

【５０８６】

また、図３４６（Ｂ）に示すように、図柄の変動表示を開始してから予め設定された期間Ｔ１が経過すると、特定演出が開始される（ｔ２）。そして特定演出の実行中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作されると（ｔ３'）、特定演出の実行途中であっても実行中の特定演出を終了して特別期間を開始するようにしてもよい。つまり、特定演出として予め設定されている演出を全て実行する以前に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作された場合に、実行中の特定演出を途中で終了させて特別期間を開始するようにしてもよい。

【５０８７】

この場合には、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を特定操作（本例では押圧操作）していないことで特定演出が開始されてしまった場合に、遊技者が演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を特定操作（本例では押圧操作）するだけで特定演出を終了させて特別期間を開始させることができるようになり、遊技者に煩わしさを与えることなく特別期間を実行させることができるし、遊技者が任意に決定した期間に亘って特定演出の開始タイミングを遅延させて遊技者自らが決定したタイミングで特定演出を開始させることができるようになる。また、特別期間を開始した時又は演出操作ユニット３００の操作を終了した時のいずれか遅い方から起算した期間が予め決められている期間に達するなどの遊技者操作とは異なる終了条件が成立したことに基づいて特別期間が終了した場合に、遊技者が意図しないタイミングで特定演出が開始されてしまっても遊技者が演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を特定操作（本例では押圧操作）するだけで特定演出を終了させて特別期間を開始させることができるようになり、遊技者に煩わしさを与えることなく特別期間を実行させて特定演出の開始タイミングを遅延させることができるようになる。

【５０８８】
　また、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を断続的に特定操作（本例では押圧操作）している場合には特定演出を開始させないようにしてもよいし、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を断続的に特定操作（本例では押圧操作）している場合であっても演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作（本例では押圧操作）されたタイミングで特別期間を開始し、該特別期間を開始してから一定期間が経過したとき（押圧操作部３０３が特定操作（本例では押圧操作）されてから一定期間が経過したとき）に特別期間を終了させて特定演出を開始され得るようにしてもよい。つまり、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を断続的に特定操作（本例では押圧操作）している場合にタイマの値をリセットし、特定操作（本例では押圧操作）を終了するまではタイマによる計測を中断するようにしてもよいし、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を断続的に特定操作（本例では押圧操作）している場合にタイマの値をリセットするものの、タイマによる計測を中断することなしに初期値から計測を開始するようにしてもよい。演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を断続的に特定操作（本例では押圧操作）している場合に特定演出を開始させないように構成した場合には、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作（本例では押圧操作）されたタイミングで特別期間を開始し、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３の特定操作（本例では押圧操作）を終了した後に特別操作して特別期間を終了させ、特別期間を終了してから起算した期間に応じて特定演出の開始条件を判断するようにしてもよい。
【５０８９】
　また、上記に加え、または上記とは別に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３とは別の特別の操作手段を断続的に操作している場合には特定演出が開始されないようにしてもよいし、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３とは別の特別の操作手段を断続的に操作している場合であっても特別の操作手段の操作を開始してから一定期間が経過したときに特定演出が開始されるようにしてもよい。つまり、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３とは別の特別の操作手段が操作された場合にタイマの値をリセットし、当該操作が断続的に行われている場合にはタイマによる計測を開始しないようにしてもよいし、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３とは別の特別の操作手段が操作された場合にタイマの値をリセットするものの、当該操作が断続的に行われていてもタイマの値をリセットしたりタイマによる計測を中断したりすることなしに当該操作が最初になされたときからの経過期間をタイマにより計測するようにしてもよい。
【５０９０】
　演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３とは別の特別の操作手段を断続的に操作している場合に特定演出が開始されないように構成した場合には、特別の操作手段の操作をやめたときから起算した期間に応じて特定演出の開始条件の成立の有無を判断するようにしてもよいし、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３とは別の特別の操作手段を断続的に操作している場合であっても特定演出が開始されるように構成した場合には、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３とは別の特別の操作手段の操作を開始したときから起算した期間に応じて特定演出の開始条件の成立の有無を判断するようにしてもよい。つまり、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３とは別の特別の操作手段が操作された場合にタイマの値をリセットし、該操作が継続している期間はタイマによる計測を中断して当該操作が終了してからの経過期間をタイマにより計測して特定演出の開始条件の成立の有無を判断するようにしてもよいし、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３とは別の特別の操作手段が操作された場合にタイマの値をリセットするものの、当該操作が継続していてもタイマの値をリセットしたりタイマによる計測を中断したりすることなしに当該操作が最初になされたときからの経過期間をタイマにより計測して特定演出の開始条件の成立の有無を判断するようにしてもよい。
【５０９１】
　また、特別の操作手段として複数の特別の操作手段を備えるようにしてもよく、例えば第１特別の操作手段と第２特別の操作手段とを備えるように構成し、第１特別の操作手段

を断続的に操作している場合には特定演出が開始されないようにする一方、第２特別の操作手段を断続的に操作している場合であっても特定演出が開始されるようにしてもよいし、第１特別の操作手段と第２特別の操作手段とのいずれかを断続的に操作している場合には特定演出が開始されないように構成するようにしてもよいし、第１特別の操作手段と第２特別の操作手段とのいずれかを断続的に操作している場合であっても特定演出が開始されるようにしてもよい。つまり、第１特別の操作手段が操作された場合にタイマの値をリセットし、該操作が継続している期間はタイマによる計測を中断して当該操作が終了してからの経過期間をタイマにより計測して特定演出の開始条件の成立の有無を判断する一方、第２特別の操作手段が操作された場合にタイマの値をリセットするものの、当該操作が継続していてもタイマの値をリセットしたりタイマによる計測を中断したりすることなしに当該操作が最初になされたときからの経過期間をタイマにより計測して特定演出の開始条件の成立の有無を判断するようにしてもよいし、第１特別の操作手段と第２特別の操作手段との一方が操作された場合にタイマの値をリセットし、該操作が継続している期間はタイマによる計測を中断して当該操作が終了してからの経過期間をタイマにより計測して特定演出の開始条件の成立の有無を判断するようにしてもよいし、第１特別の操作手段と第２特別の操作手段とのいずれかが操作された場合にタイマの値をリセットするものの、当該操作が継続していてもタイマの値をリセットしたりタイマによる計測を中断したりすることなしに当該操作が最初になされたときからの経過期間をタイマにより計測して特定演出の開始条件の成立の有無を判断するようにしてもよい。

【５０９２】

また、上記に加え、又は上記と別に上記した演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３と上記した特別の操作手段とは異なる非特別の操作手段を操作した場合には当該操作が断続的であるか否かにかかわらず、特定演出の開始タイミングを遅延させることなく、該非特別の操作手段を操作してから予め設定された期間Ｔが経過する以前であっても特定演出を開始するようにしてもよい。つまり、非特別の操作手段が操作されてもタイマの値をリセットすることなしにタイマによる計測を継続するようにしてもよい。このように、少なくとも特定演出の開始タイミングを第１期間に亘って遅延させることが可能な特定の操作手段（この例では演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３）と、特定演出の開始タイミングを第１の期間よりも短い第２の期間に亘って遅延させることが可能な特別の操作手段と、特定演出の開始タイミングを遅延させることが不可能な非特別の操作手段と、のうち一つ又は任意の組み合わせ（全部でもよい）を備えるようにしてもよい。

【５０９３】

なお、特別の操作手段としては、ハンドル１９５（ハンドルタッチセンサ１９２、ハンドル回転検知センサ１８９）、演出操作ユニット３００の接触操作部３０２、音量調節ボタン２２７、光量調節ボタン２２８等のうちのいずれか又は任意の組み合わせとしてもよい。また、ハンドル１９５に触れてハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を断続的に検知している場合や、ハンドル１９５を回転させてハンドル回転検知センサ１８９による回転を断続的に検知している場合に特定演出を開始させないように構成した場合には、特別な操作をすることなく、遊技するためにハンドル１９５に触れたり回転させるだけで特定演出が開始されないようにすることができ、遊技者に煩わしさを与えない。また、演出操作ユニット３００の接触操作部３０２を断続的に接触操作している場合や、音量調節ボタン２２７を断続的に操作している場合、光量調節ボタン２２８を断続的に操作している場合に特定演出を開始させないように構成した場合には、簡単な操作だけで特定演出を開始させないようにすることができる。

【５０９４】

また、大当りの可能性の有無に応じて特定演出の開始タイミングの遅延の可否を異ならせるようにしてもよい。例えば、大当りの可能性が全くない非当選演出実行状態では上記したように演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を押圧操作すること等によって特定演出の開始タイミングを遅延させることを可能にする一方、非当選演出実行状態よりも大当りの可能性が高い（大当り期待度が高い）当選可能演出実行状態では演出操作ユニッ

ト３００の押圧操作部３０３を押圧操作すること等によって特定演出の開始タイミングを遅延させることを不可能にしてもよい。このように構成することにより、大当りの可能性が全くない場合には遊技者にとって不快で無駄な演出（特定演出）が直ぐに実行されないようにする一方で、大当りの可能性がある場合には設計者の意図した遊技が実現可能になる。

【５０９５】

また、特定演出が実行されている場合に大当りの可能性の有無に応じて実行中の特定演出を終了させるか否かを異ならせるようにしてもよい。例えば大当りの可能性が全くない非当選演出実行状態では上記したように特定演出の実行中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を特定操作（本例では押圧操作）すること等によって特定演出を実行途中で終了させることを可能にする一方、非当選演出実行状態よりも大当りの可能性が高い（大当り期待度が高い）当選可能演出実行状態では演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を特定操作（本例では押圧操作）すること等によって特定演出を実行途中で終了させることを不可能にしてもよい。

【５０９６】

具体的には、図３４６（Ｃ）に示すように、非当選演出実行状態よりも大当りの可能性が高い（大当り期待度が高い）当選可能演出実行状態で図柄の変動表示を開始してから（主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから変動パターンコマンドを受信してから）予め設定された期間Ｔ１が経過すると、特定演出が開始される（ｔ２）。また、当選可能演出実行状態で特定演出が開始された後、特定演出の実行期間Ｔ２が経過する以前に（特定演出が終了する以前）に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作された場合には（ｔ３'）、非当選演出実行状態とは異なり、実行中の特定演出を終了することなく継続する。つまり、非当選演出実行状態よりも大当りの可能性が高い（大当り期待度が高い）当選可能演出実行状態では特定演出として予め設定されている演出を全て実行するまでは演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作されても実行中の特定演出を終了させないようになっている。このように構成することにより、大当りの可能性が全くない場合には遊技者にとって不快で無駄な演出（特定演出）を直ぐに終わせて遊技興趣の低下を抑止する一方で、大当りの可能性がある場合には設計者の意図した遊技が実現可能になる。

【５０９７】

なお、上記した特定演出及び特別期間での演出例（文字情報の表示）は一例であり、特定演出及び特別期間の態様は上記したものに限定されるものではない。例えば特定演出として遊技機やキャラクタの紹介等を行うもの等の大当り期待度とは無関係の演出を実行するものであってもよいし、特別期間として特定期間の開始タイミングを遅延させていることを通知する文字情報（例えば「特定演出遅延中」等）を表示するものに限らず、遊技モードを選択する期間や遊技に関わる設定を決定するための期間に制御するものであってもよい。

【５０９８】

また上記した非当選演出実行状態で行われる特定演出と当選可能演出実行状態で行われる特定演出とは同一ものに限らず、一部の表示や音、発光等の態様が同一又は類似するものであってもよいし、非当選演出実行状態で行われる特定演出の態様と当選可能演出実行状態で行われる特定演出の態様とを異ならせるようにしてもよい。また、特定演出は変動演出が行われている期間に行われるものに限らず、変動演出が行われていない期間に行われるものであってもよく、この場合には主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから停止表示コマンドを受信してから、変動パターンコマンドを受信するまでの期間や始動入賞コマンドを受信するまでの期間、ハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を検知するまでの期間、ハンドル回転検知センサ１８９による回転を検知するまでの期間、音量調節ボタン２２７の操作を検知するまでの期間、光量調節ボタン２２８の操作を検知するまでの期間、等のいずれか又は任意の組み合わせに応じて特定演出の開始条件の成立の有無を判断するようにしてもよい。すなわち、変動演出が行われている期間であるか変

動演出が行われていない期間であるかに関わらず、特定演出の開始タイミングを遅延させることを可能にするものや、特定演出が実行されている場合に実行中の特定演出を途中で終了させることが可能なものであれば実施される形態は問わない。また、異常状態の発生中に行われる特定演出の態様と、異常状態の発生していない状態で行われる特定演出の態様と、を異ならせるようにしてもよい。

【５０９９】

また上記した非当選演出実行状態で行われる特別期間と当選可能演出実行状態で行われる特別期間とは同一ものに限らず、一部の表示や音、発光等の態様が同一又は類似するものであってもよいし、非当選演出実行状態で行われる特別期間の態様と当選可能演出実行状態で行われる特別期間の態様とを異ならせるようにしてもよい。また、特別期間は変動演出が行われている期間に行われるものに限らず、変動演出が行われていない期間に行われるものであってもよい。すなわち、変動演出が行われている期間であるか変動演出が行われていない期間であるかに関わらず、特別期間の開始タイミングを遅延させることを可能にするものであれば実施される形態は問わない。また、非当選演出実行状態で行われる特別期間の態様と、当選可能演出実行状態で行われる特別期間の態様と、を異ならせるようにしてもよい。

【５１００】

また、上記した例では特定演出の開始タイミングを遅延させるものや特定演出が実行されている場合に実行中の特定演出を終了させるものを示したが、特定演出として演出表示装置１６００と遊技盤５に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤと扉枠に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤとを特定演出態様で制御する場合に、これらの演出表示装置１６００と遊技盤５に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤと扉枠に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤとのうちの一部について特定演出の開始タイミングを遅延させるものや実行中の特定演出の一部を終了（中断）させるものであってもよい。

【５１０１】

また、演出表示装置１６００に加えて演出表示装置１６００とは異なる補助表示装置を備える遊技機において、特定演出として演出表示装置１６００に加えて補助表示装置についても特定演出態様で制御するように構成している場合には、補助表示装置についてのみ特定演出の開始タイミングを遅延させたり、補助表示装置で実行中の特定演出のみを終了させるようにしてもよい。

【５１０２】

また、演出表示装置１６００と補助表示装置と遊技盤５に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤと扉枠に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤとのうちの一部について特定演出の開始タイミングを遅延させるものや特定演出の一部を終了（中断）させるように構成した場合には、この一部についての特定演出を開始又は再開するときには、特定演出の開始タイミングの遅延や実行中の特定演出が途中で終了（中断）されていない電子部品（演出表示装置１６００と補助表示装置と遊技盤５に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤと扉枠に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤと）において実行されている特定演出態様と同期する特定演出態様で制御される。これにより、演出表示装置１６００と補助表示装置と遊技盤５に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤと扉枠に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤとの一部について特定演出の開始タイミングを遅延させたり、実行中の特定演出を一部だけ終了（中断）させた場合であっても、演出表示装置１６００と補助表示装置と遊技盤５に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤと扉枠に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤとの全体で統一された特定演出を実行することができるようになる。

【５１０３】

［異常発生時の特定演出］

次に、異常状態が発生したときに所定の操作によって上記した特定演出の開始タイミン

グが遅延可能とされる変形例について説明する。図３４７は、異常状態の一例として磁気センサ１０５０が磁気を検出した場合の例を示すタイムチャートである。なお、以下では上記実施形態と異なる部分についてのみ説明し、重複した説明を行わない。

【５１０４】

上記したように本例のパチンコ機１は、異常状態（扉枠開放スイッチや本体枠開放スイッチが本体枠４に対して扉枠３が開放されたことや外枠２に対して本体枠４が開放されたことを検出した扉開放異常状態、振動センサが所定期間（例えば３０秒）継続して遊技盤５の振動を検出した振動検知異常状態、満タン検知センサ１５４からの検出信号が入力された下皿満タン異常状態、球切検知センサ５７４からの検出信号が入力された球切異常状態、電波センサが不正な電波を検出した電波検出異常状態、磁気センサ１０５０が遊技領域５ａ内において不正に作用する磁気を検出した磁気検出異常状態、第二始動口２００４が開放していない場合に第二始動口センサ２４０１からの検出信号が入力されたり、大当り遊技状態や小当り遊技状態でない場合に大入賞口センサ２４０２からの検出信号が入力された不正入賞検出異常状態など）が発生すると、演出表示装置１６００や各種スピーカ、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤにて異常報知（例えば、演出表示装置１６００の一部領域に異常情報（異常の内容を示す文字情報（例えば「扉開放エラー」等）など）を静止状態で表示、各種スピーカから報知音を出力、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤを異常報知発光態様（軽微異常報知発光態様、重大異常報知発光態様）で発光制御、等）を行う。

【５１０５】

また特定演出は、上記した複数の異常状態のうちの特定の異常状態（例えば扉開放異常状態や磁気検出異常状態等であって、上記複数の異常状態の全てでもよいし、上記複数の異常状態のうちの１つまたは任意の複数の組み合わせであってもよい）となっている場合にも実行可能とされている。

【５１０６】

また、演出表示装置１６００のうち、特定演出が実行されたときにキャラクタ等が表出される領域と、異常状態が発生したときに異常情報が表示される領域と、は重複し、異常情報が特定演出で表示されるキャラクタ等よりも上位のレイヤに表示される（特定演出で表示されるキャラクタ等の上に異常情報が重ねて表示される）ようになっている。つまり、演出表示装置１６００で上記特定演出の実行中に異常状態が発生した場合には異常情報の背景画像（図柄の背景に表示される画像等）として特定演出でのキャラクタ等が表示された状態となっている。

【５１０７】

また、上記したように本例の特定演出は演出表示装置１６００にキャラクタ等を表出させて所定の動作を行う等の時間の経過に応じてキャラクタ等の態様を変化させる動的態様を表示するものである。そのため、演出表示装置１６００で上記特定演出の実行中に異常状態が発生して演出表示装置１６００の一部領域に異常情報が表示された場合に、異常情報の背景画像としてキャラクタ等が動作する態様が表示されることにより異常情報の視認が困難になり、演出表示装置１６００に表示されている異常情報の内容を把握することが困難になるおそれがある。この場合には不正行為が行われていても不正行為の内容を演出表示装置１６００に表示される異常情報から特定することが困難になったり、遊技の進行に不具合が生じたことに気付かずに遊技者に不利益を与えるおそれがある。そこで、本例のパチンコ機１では特定演出が行われているときに演出表示装置１６００の一部領域に異常情報が表示された場合に異常情報を視認容易となるように特定演出を終了させたり、異常情報が表示されているときに異常情報が視認困難とならないように特定演出の開始タイミングを遅延させることを可能にしている。

【５１０８】

具体的には、図３４７（Ａ）に示すように図柄の変動表示を開始してから（主制御基板

１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから変動パターンコマンドを受信してから）予め設定された期間Ｔ１が経過する以前、すなわち主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから変動パターンコマンドを受信したことに基づいてタイマによる計測を開始し、特定演出の開始条件が成立する期間Ｔ１が経過する以前に、異常状態となると（ｔ１'）、演出表示装置１６００に異常情報を表示する。図３４７（Ａ）に示す例では異常状態として磁気センサ１０５０が遊技領域５ａ内において不正に作用する磁気を検出した磁気検出異常状態となった例を示している。

【５１０９】

また、図柄の変動表示を開始してから（主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから変動パターンコマンドを受信してから）予め設定された期間Ｔ１が経過する以前（特定演出が開始される以前）、すなわち主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから変動パターンコマンドを受信したことに基づいてタイマによる計測を開始し、特定演出の開始条件が成立する期間Ｔ１が経過する以前、に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作された場合には（ｔ２'）、特定演出の開始タイミングを遅延させることが可能な特別期間を開始し、図柄の変動表示を開始してから予め設定された期間Ｔ１が経過しても特定演出を開始しないようになっている（ｔ２）。

【５１１０】

また、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作（例えば特定演出の開始タイミングを遅延させることが可能な特別期間を開始させる操作（押圧操作））された後に、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特別操作（例えば特別期間を終了させる操作（終了操作））された場合には（ｔ２"）、特別期間を終了し、特別操作されてから予め設定された期間Ｔ１が経過したときに特定演出が開始される（ｔ３'）。なお、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作された場合、つまり特別期間を開始する場合には、演出表示装置１６００に異常情報とは異なる文字情報（例えば「特定演出遅延中」等）を静止状態で表示し、特別期間中に演出操作ユニット３００が特別操作された場合、つまり特別期間が終了する場合には、上記した文字情報の表示を終了する。これにより特定演出の開始タイミングを遅延させていることや特別期間が終了したことを容易に認識できるようになる。

【５１１１】

なお、通常時（特定演出やリーチ演出等が実行されていない状態、変動開始待ち状態）に演出表示装置１６００に表示される背景画像は一部について変化を伴うものの、特定演出の表示態様と比べて変化が小さい。また、通常時に演出表示装置１６００に表示される背景画像のうち、演出表示装置１６００に表示される異常情報の周囲（接する部分、境界部）は態様の変化がない（又は態様の変化が極めて小さい）静的態様となっている。そのため、通常時の背景画像が表示されている場合には背景画像として特定演出が実行されている場合よりも演出表示装置１６００に表示される異常情報を視認することが容易となる。

【５１１２】

このように、本例のパチンコ機１では異常状態が発生している場合に特定演出の開始タイミングを遅延させることができるとともに、遅延期間についても特別操作（終了操作）のタイミングによって遊技者や遊技店員が適宜設定できるようになっている。つまり、異常状態が発生している場合にも特別期間を開始するとタイマの値をリセットするとともに特別期間中にはタイマによる計測を中断し、特別期間の終了後に再び初期値（例えば「０」）から計測を開始するようになっている。そして、特別期間中には特定演出が実行されないだけでなく、特定演出の開始条件の成立の有無についても特別期間の終了時から起算した期間に応じて判断するようになっている。つまり、異常状態が発生している場合にも特別期間が開始された場合にタイマの値をリセットし、特別期間が終了するまではタイマによる計測を開始することなく、特別期間が終了したことに基づいてタイマによる計測を初期値から開始するようになっている。そのため、特定演出を遊技者や遊技店員が任意に決定した期間に亘って遅延させることができるようになり、異常状態となった場合に演出

表示装置１６００に表示される異常情報の背景画像として通常時の背景画像を表示させることにより、特別期間が実行されている場合に比べて異常情報を視認容易にして演出表示装置１６００に表示される異常情報によって異常状態の内容を容易に認識させることができる。これにより、不正行為などの発生を容易に把握させることができるし、遊技者に不利益となる異常が発生したことを容易に把握させて遊技者に不利益を与えないようにすることが可能になる。

【５１１３】

また、特別期間中は、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特別操作されるまでは演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３とは異なる操作手段（例えば演出操作ユニット３００の接触操作部３０２や音量調節ボタン２２７、光量調節ボタン２２８等）を操作しても特別期間を終了しないようになっている。これにより異常状態において遊技者や遊技店員の意図しないタイミングで特別期間が終了することを抑止でき、異常情報を確実に認識できるようになる。また、特別期間中には変動演出とは異なる所定の表示を実行するようにしてもよい。これにより特別期間が開始されていること、換言すると特定演出の開始タイミングが遅延されていることを容易に認識させることができる。また、特別期間中に所定の表示を実行する場合には所定の表示が実行されている状態で演出操作ユニット３００等を操作することで当該所定の表示を変化させるようにしてもよい。例えば特別期間中にキャラクタ等を表示し、演出操作ユニット３００等の操作に応じてキャラクタ等の一部を変化させるようにしてもよい。

【５１１４】

また、異常状態においても主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから変動パターンコマンドを受信（図柄の変動表示を開始）してから特定演出の開始条件が成立する以前に演出操作ユニット３００の接触操作部３０２を操作しても特別期間を開始しない。ただし、演出操作ユニット３００の接触操作部３０２が操作された場合には、図柄の変動表示の開始時（主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから特定の制御コマンド（この例では変動パターンコマンド）を受信）から起算した期間ではなく、接触操作部３０２の操作終了時から起算した期間に応じて特定演出の開始条件の成立の有無を判断するようになっている。つまり、異常状態においても主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから変動パターンコマンドを受信（図柄の変動表示を開始）してから特定演出の開始条件が成立する以前に演出操作ユニット３００の接触操作部３０２を操作した場合には、タイマの値をリセットするものの、タイマによる計測を中断することなく初期値から計測を開始するようになっている。

【５１１５】

具体的には、異常状態で主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから特定の制御コマンド（この例では変動パターンコマンド）を受信してから期間Ｔ１が経過する以前、すなわち主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから特定の制御コマンド（この例では変動パターンコマンド）を受信したことに基づいてタイマによる計測を開始し、特定演出の開始条件が成立する期間Ｔ１が経過する以前、に演出操作ユニット３００の接触操作部３０２が操作された場合には、特定の制御コマンド（この例では変動パターンコマンド）を受信してから予め設定された期間Ｔ１が経過しても特定演出を実行することなしに、接触操作部３０２の操作を終了してから予め設定された期間Ｔ１が経過したことに基づいて特定演出を開始するようになっている。

【５１１６】

この場合には予め設定された期間Ｔ１の範囲内で特定演出の開始タイミングを遅延させることができるようになる。これにより、異常状態で演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を特定操作（本例では押圧操作）して特定演出の開始タイミングを遅延させようとしている遊技者や遊技店員が誤って接触操作部３０２を操作してしまった場合や期間Ｔの範囲内の短時間だけ特定演出の開始タイミングを遅延させたいような場合でも特定演出の開始タイミングを遅延させることが可能になり、異常状態となった場合に演出表示装置１６００に表示される異常情報を視認容易にして演出表示装置１６００に表示される異常

情報によって異常状態の内容を容易に認識させることができる。
【５１１７】
なお、演出操作ユニット３００の接触操作部３０２に加えて、又は演出操作ユニット３００の接触操作部３０２とは別に、異常状態でハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を検知している場合に図柄の変動表示を開始してから起算した期間ではなく、ハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を検知しなくなった時から起算した期間に応じて特定演出の開始条件の成立の有無を判断するようにしてもよい。つまり、異常状態でハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を検知したことに基づいてタイマの値をリセットするとともに、ハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を検知している期間はタイマによる計測を中断し、ハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を検知しなくなったときに初期値から計測を開始するようにしてもよい。この場合には、異常状態が発生してもハンドルタッチセンサ１９２に接触するという通常の遊技を行うだけで特定演出の開始タイミングを遅延させて演出表示装置１６００に表示される異常情報を視認容易にすることができ、演出表示装置１６００に表示される異常情報によって異常状態の内容を容易に認識させることができる。
【５１１８】
また、上記した例では異常状態で開始された特別期間を遊技者操作で終了させるものを示したが、演出操作ユニット３００が一定期間に亘って操作されなかった場合にも特別期間を終了させるようにしてもよい。つまり特別期間の終了条件として上記した遊技者操作に加えて、特別期間を開始した時又は演出操作ユニット３００の操作を終了した時のいずれか遅いタイミングとなったときに初期値からタイマの計測を開始し、タイマによって計測した期間に応じて特別期間の終了条件の成立の有無を判断するようにしてもよい。この場合には、特別期間の終了条件が成立すると判断する期間として、特定演出の開始条件が成立すると判断する期間Ｔ１よりも長い期間を設定するようにしてもよい。これにより、押圧操作部３０３とは異なる操作部（例えば接触操作部３０２やハンドルタッチセンサ１９２等）の操作に応じた期間よりも長い期間に亘って特定演出の開始タイミングを遅延させて演出表示装置１６００に表示される異常情報を視認容易にすることができ、演出表示装置１６００に表示される異常情報によって異常状態の内容を容易に認識させることができる。なお、異常状態においても特別期間が終了してから予め設定された期間Ｔ１が経過した場合に特定演出の開始条件が成立して特定演出が開始される。そのため、異常状態で特別期間を開始した時又は演出操作ユニット３００の操作を終了した時のいずれか遅い方から起算した期間が予め決められている期間に達するなどの遊技者や遊技店員の特別操作（終了操作）とは異なる終了条件が成立したことに基づいて特別期間が終了した場合であっても、直ぐには特定演出が開始されないようにすることが可能になり、異常状態となった場合に特定演出が開始されるまで演出表示装置１６００に表示される異常情報を視認容易にして演出表示装置１６００に表示される異常情報によって異常状態の内容を容易に認識させることができる。
【５１１９】
また、特別期間の終了条件として上記した遊技者操作に加えて、ハンドルタッチセンサ１９２が接触を検知した場合や入球口（例えば一般入賞口２００１、第一始動口２００２、ゲート２００３、第二始動口２００４、及び大入賞口２００５のうちの全て又は特定の入球口（例えば第一始動口２００２、及び第二始動口２００４））への入球を検出した場合に特別期間の終了条件を成立させて特別期間を終了し、初期値からタイマの計測を開始するようにしてもよい。この場合には、異常状態で開始された特別期間を終了させる特別操作が不要となり、演出表示装置１６００に表示される異常情報によって異常状態の内容を認識した後に遊技者に煩わしさを与えることなく遊技を再開させることが可能になる。
【５１２０】
また、異常状態においても特定演出の実行中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作された場合に実行中の特定演出を終了するようにしてもよい。また、この場合には特定演出の終了後に特別期間を開始する（押圧操作部３０３が特定操作されたこ

とに基づいてタイマの値をリセットし、特別期間が終了するまでタイマによる計測を中断する）ようにしてもよいし、特定演出を終了した後に特別期間を開始しないようにしてもよい。

【５１２１】

具体的には、図３４７（Ｂ）に示すように、図柄の変動表示を開始してから（主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから変動パターンコマンドを受信してから）予め設定された期間Ｔ１が経過すると、特定演出が開始される（ｔ２）。そして特定演出の実行中に異常状態となると（ｔ１'）、演出表示装置１６００に異常情報を表示する。

【５１２２】

また、異常状態においても特定演出の実行期間Ｔ２が経過する以前に（特定演出が終了する以前）に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作された場合には（ｔ３'）、特定演出の実行途中であっても実行中の特定演出を終了するようにしてもよい。つまり、異常状態において特定演出として予め設定されている演出を全て実行する以前に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作された場合に、実行中の特定演出を途中で終了させるようにしてもよい。

【５１２３】

この場合には、異常状態が発生した場合に遊技者や遊技店員が演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を特定操作するだけで特定演出を終了させて異常情報の背景画像を特定演出でのキャラクタ等の動的態様から通常時の静的態様に変化させることができるため、演出表示装置１６００に表示される異常情報を視認容易にすることができ、演出表示装置１６００に表示される異常情報によって異常状態の内容を容易に認識させることができるようになる。また、異常状態において特別期間が開始した時又は演出操作ユニット３００の操作を終了した時のいずれか遅い方から起算した期間が予め決められている期間に達するなどの遊技者又は遊技店員の終了操作とは異なる終了条件が成立したことに基づいて遊技者や遊技店員が意図しないタイミングで特別期間が終了した場合に、特別期間の終了後に特定演出が開始されても遊技者や遊技店員の特定操作によって特定演出を終了させて異常情報の背景画像を特定演出でのキャラクタ等の動的態様から通常時の静的態様に変化させることができるため、演出表示装置１６００に表示される異常情報を視認容易にすることができ、演出表示装置１６００に表示される異常情報によって異常状態の内容を容易に認識させることができるようになる。

【５１２４】

なお、上記に加えてハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を検知した場合や、ハンドル回転検知センサ１８９による回転を検知した場合、演出操作ユニット３００の接触操作部３０２の接触操作を検知した場合、音量調節ボタン２２７の操作を検知した場合、光量調節ボタン２２８の操作を検知した場合、音量調節ボタン２２７が操作されて音量が変更された場合、光量調節ボタン２２８が操作されて光量（輝度）が変更された場合、などのうち一つ又は任意の組み合わせのうちのいずれかを検出した場合にも特定演出を終了させるようにしてもよい。ハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を検知した場合や、ハンドル回転検知センサ１８９による回転を検知した場合に特定演出を終了させるように構成した場合には特別な操作をすることなく、遊技を行うためにハンドル１９５に触れたり、ハンドル１９５を回転させるだけで特定演出を終了させることができ、異常状態が発生した場合でも遊技を実行することで特定演出を終了させて異常情報の背景画像を特定演出でのキャラクタ等の動的態様から通常時の静的態様に変化させて演出表示装置１６００に表示される異常情報を視認容易にすることができ、演出表示装置１６００に表示される異常情報によって異常状態の内容を容易に認識させることができるし、演出操作ユニット３００の接触操作部３０２の接触操作を検知した場合や、音量調節ボタン２２７の操作を検知した場合、光量調節ボタン２２８の操作を検知した場合に特定演出を終了させるように構成した場合には、異常状態が発生した場合に接触操作部３０２や音量調節ボタン２２７、光量調節ボタン２２８を操作するという簡単な操作だけで特定演出を終了させて異常情報の背景画像を特定演出でのキャラクタ等の動的態様から通常時の静的態様

に変化させて演出表示装置１６００に表示される異常情報を視認容易にすることができ、演出表示装置１６００に表示される異常情報によって異常状態の内容を容易に認識させることができる。

【５１２５】

また、特別期間の終了後に特定演出の開始条件が成立したことに基づいて特定演出を開始させる場合には特定演出を中断した演出からではなく、特定演出の最初の演出から開始するようにしてもよい。すなわち、特定演出の開始条件が成立した場合には常に特定演出を最初から実行するようにしてもよい。この場合には、特定演出を中断したタイミングに関わらず特定演出の内容を全て実行することができるようになるため、特定演出の内容（この例では大当り期待度の示唆）を確実に認識させることができ、異常状態が発生したときに特定演出の内容に注目している遊技者に対しても異常情報を視認容易にするために特定演出を終了させることに対する協力を得やすい。

【５１２６】

また、異常状態において特定演出の実行中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作されたことに基づいて実行中の特定演出を終了した場合にも特別期間を開始して遊技者や遊技店員が任意に決定した期間に亘って特定演出の開始タイミングを遅延させることができるようにしてもよい。この場合には、異常状態で特定演出を途中で終了させた場合にも遊技者や遊技店員が任意に決定した期間に亘って特定演出の開始タイミングを遅延させて演出表示装置１６００に表示される異常情報を視認容易にすることができ、演出表示装置１６００に表示される異常情報によって異常状態の内容を容易に認識させることができる。

【５１２７】

また、異常状態において演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を断続的に特定操作（本例では押圧操作）している場合には特定演出を開始させないようにしてもよいし、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を断続的に特定操作（本例では押圧操作）している場合であっても演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作（本例では押圧操作）されたタイミングで特別期間を開始し、該特別期間を開始してから一定期間が経過したとき（押圧操作部３０３が特定操作（本例では押圧操作）されてから一定期間が経過したとき）に特別期間を終了させて特定演出を開始され得るようにしてもよい。つまり、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を断続的に特定操作（本例では押圧操作）している場合にタイマの値をリセットし、特定操作（本例では押圧操作）を終了するまではタイマによる計測を中断するようにしてもよいし、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を断続的に特定操作（本例では押圧操作）している場合にタイマの値をリセットするものの、タイマによる計測を中断することなしに初期値から計測を開始するようにしてもよい。演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を断続的に特定操作（本例では押圧操作）している場合に特定演出を開始させないように構成した場合には、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作（本例では押圧操作）されたタイミングで特別期間を開始し、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を特定操作（本例では押圧操作）を終了した後に特別操作して特別期間を終了させ、特別期間を終了してから起算した期間に応じて特定演出の開始条件を判断するようにしてもよい。

【５１２８】

また、上記に加え、または上記とは別に異常状態において演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３とは別の特別の操作手段を断続的に操作している場合には特定演出が開始されないようにしてもよいし、異常状態において演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３とは別の特別の操作手段を断続的に操作している場合であっても特別の操作手段の操作を開始してから一定期間が経過したときに特定演出が開始されるようにしてもよい。つまり、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３とは別の特別の操作手段が操作された場合にタイマの値をリセットし、当該操作が断続的に行われている場合にはタイマによる計測を開始しないようにしてもよいし、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３とは別の特別の操作手段が操作された場合にタイマの値をリセットするものの、当該操作が断

続的に行われていてもタイマの値をリセットしたりタイマによる計測を中断したりすることなしに当該操作が最初になされたときからの経過期間をタイマにより計測するようにしてもよい。

【５１２９】

異常状態において演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３とは別の特別の操作手段を断続的に操作している場合に特定演出が開始されないように構成した場合には、特別の操作手段の操作をやめたときから起算した期間に応じて特定演出の開始条件の成立の有無を判断するようにしてもよいし、異常状態において演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３とは別の特別の操作手段を断続的に操作している場合であっても特定演出が開始されるように構成した場合には、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３とは別の特別の操作手段の操作を開始したときから起算した期間に応じて特定演出の開始条件の成立の有無を判断するようにしてもよい。つまり、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３とは別の特別の操作手段が操作された場合にタイマの値をリセットし、該操作が継続している期間はタイマによる計測を中断して当該操作が終了してからの経過期間をタイマにより計測して特定演出の開始条件の成立の有無を判断するようにしてもよいし、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３とは別の特別の操作手段が操作された場合にタイマの値をリセットするものの、当該操作が継続していてもタイマの値をリセットしたりタイマによる計測を中断したりすることなしに当該操作が最初になされたときからの経過期間をタイマにより計測して特定演出の開始条件の成立の有無を判断するようにしてもよい。

【５１３０】

また、特別の操作手段として複数の特別の操作手段を備えるようにしてもよく、例えば第１特別の操作手段と第２特別の操作手段とを備えるように構成し、異常状態において第１特別の操作手段を断続的に操作している場合には特定演出が開始されないようにする一方、異常状態において第２特別の操作手段を断続的に操作している場合であっても特定演出が開始されるようにしてもよいし、異常状態において第１特別の操作手段と第２特別の操作手段とのいずれかを断続的に操作している場合には特定演出が開始されないように構成するようにしてもよいし、異常状態において第１特別の操作手段と第２特別の操作手段とのいずれかを断続的に操作している場合であっても特定演出が開始されるようにしてもよい。つまり、異常状態において第１特別の操作手段が操作された場合にタイマの値をリセットし、該操作が継続している期間はタイマによる計測を中断して当該操作が終了してからの経過期間をタイマにより計測して特定演出の開始条件の成立の有無を判断する一方、異常状態において第２特別の操作手段が操作された場合にタイマの値をリセットするものの、当該操作が継続していてもタイマの値をリセットしたりタイマによる計測を中断したりすることなしに当該操作が最初になされたときからの経過期間をタイマにより計測して特定演出の開始条件の成立の有無を判断するようにしてもよいし、異常状態において第１特別の操作手段と第２特別の操作手段との一方が操作された場合にタイマの値をリセットし、該操作が継続している期間はタイマによる計測を中断して当該操作が終了してからの経過期間をタイマにより計測して特定演出の開始条件の成立の有無を判断するようにしてもよいし、異常状態において第１特別の操作手段と第２特別の操作手段とのいずれかが操作された場合にタイマの値をリセットするものの、当該操作が継続していてもタイマの値をリセットしたりタイマによる計測を中断したりすることなしに当該操作が最初になされたときからの経過期間をタイマにより計測して特定演出の開始条件の成立の有無を判断するようにしてもよい。

【５１３１】

また、上記に加え、又は上記と別に上記した演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３と上記した特別の操作手段とは異なる非特別の操作手段を操作した場合には当該操作が断続的であるか否かにかかわらず、特定演出の開始タイミングを遅延させることなく、該非特別の操作手段を操作してから予め設定された期間Ｔが経過する以前であっても特定演出を開始するようにしてもよい。つまり、非特別の操作手段が操作されてもタイマの値をリセットすることなしにタイマによる計測を継続するようにしてもよい。このように、少

なくとも特定演出の開始タイミングを第１期間に亘って遅延させることが可能な特定の操作手段（この例では演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３）と、特定演出の開始タイミングを第１の期間よりも短い第２の期間に亘って遅延させることが可能な特別の操作手段と、特定演出の開始タイミングを遅延させることが不可能な非特別の操作手段と、のうち一つ又は任意の組み合わせ（全部でもよい）を備えるようにしてもよい。

【５１３２】

なお、特別の操作手段としては、ハンドル１９５（ハンドルタッチセンサ１９２、ハンドル回転検知センサ１８９）、演出操作ユニット３００の接触操作部３０２、音量調節ボタン２２７、光量調節ボタン２２８等のうちのいずれか又は任意の組み合わせとしてもよい。また、異常状態においてハンドル１９５に触れてハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を断続的に検知している場合や、異常状態においてハンドル１９５を回転させてハンドル回転検知センサ１８９による回転を断続的に検知している場合に特定演出を開始させないように構成した場合には、特別な操作をすることなく、遊技を実行するためにハンドル１９５に触れたり回転させるだけで特定演出が開始されないようにすることができ、静的態様の背景画像を継続させて演出表示装置１６００に表示される異常情報を視認容易にし、演出表示装置１６００に表示される異常情報によって異常状態の内容を容易に認識させることができる。また、演出操作ユニット３００の接触操作部３０２を断続的に接触操作している場合や、音量調節ボタン２２７を断続的に操作している場合、光量調節ボタン２２８を断続的に操作している場合に特定演出を開始させないように構成した場合には、簡単な操作だけで特定演出を開始させないようにすることができ、静的態様の背景画像を継続させて演出表示装置１６００に表示される異常情報を視認容易にし、演出表示装置１６００に表示される異常情報を視認容易にして演出表示装置１６００に表示される異常情報によって異常状態の内容を容易に認識させることができる。

【５１３３】

また、異常状態においても大当りの可能性の有無に応じて特定演出の開始タイミングの遅延の可否を異ならせるようにしてもよい。例えば、大当りの可能性が全くない非当選演出実行状態で異常状態が発生している場合には、上記したように演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を特定操作（本例では押圧操作）すること等によって特定演出の開始タイミングを遅延させることを可能にする一方、非当選演出実行状態よりも大当りの可能性が高い（大当り期待度が高い）当選可能演出実行状態で異常状態が発生している場合には、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を特定操作（本例では押圧操作）すること等によって特定演出の開始タイミングを遅延させることを不可能にしてもよい。このように構成することにより、大当りの可能性が全くない場合に異常状態が発生していれば遊技者にとって不快で無駄な演出（特定演出）が直ぐに実行されないようにしてより優先度の高い異常情報を視認し易くする一方で、大当りの可能性がある場合には設計者の意図した遊技を実現可能にして遊技者に不利益を与えないようにすることができる。

【５１３４】

また、異常状態において特定演出が実行されている場合に大当りの可能性の有無に応じて実行中の特定演出を終了させるか否かを異ならせるようにしてもよい。例えば、大当りの可能性が全くない非当選演出実行状態で異常状態が発生している場合には、上記したように特定演出の実行中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を特定操作（本例では押圧操作）すること等によって特定演出を実行途中で終了させることを可能にする一方、非当選演出実行状態よりも大当りの可能性が高い（大当り期待度が高い）当選可能演出実行状態で異常態様が発生している場合には、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を特定操作（本例では押圧操作）すること等によって特定演出を実行途中で終了させることを不可能にしてもよい。このように構成することにより、大当りの可能性が全くない非当選演出実行状態で異常状態が発生している場合には、遊技者にとって不快で無駄な演出（特定演出）を直ぐに終わせてより優先度の高い異常情報を通知する一方で、大当りの可能性がある場合には設計者の意図した遊技が実現可能になる。

【５１３５】

具体的には、図３４７（Ｃ）に示すように、当選可能演出実行状態で図柄の変動表示を開始してから（主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから変動パターンコマンドを受信してから）予め設定された期間Ｔ１が経過すると、すなわち主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから変動パターンコマンドを受信したことに基づいてタイマによる計測を開始し、特定演出の開始条件が成立する期間Ｔ１が経過すると特定演出が開始される（ｔ２）。そして特定演出の実行中に異常状態となると（ｔ１'）、演出表示装置１６００に異常情報を表示する。

【５１３６】

また、異常状態における当選可能演出実行状態で特定演出の実行期間Ｔ２が経過する以前に（特定演出が終了する以前）に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作された場合には（ｔ３'）、非当選演出実行状態とは異なり、実行中の特定演出を終了することなく継続する。つまり、非当選演出実行状態よりも大当りの可能性が高い（大当り期待度が高い）当選可能演出実行状態では特定演出として予め設定されている演出を全て実行するまでは演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作されても実行中の特定演出を継続して異常情報の背景画像を動的態様から静的態様に変化させないようになっている。

【５１３７】

なお、上記した特定演出及び特別期間での演出例（文字情報の表示）は一例であり、特定演出及び特別期間の態様は上記したものに限定されるものではない。例えば特定演出として遊技機やキャラクタの紹介等を行うもの等の大当り期待度とは無関係の演出を実行するものであってもよいし、特別期間として特定期間の開始タイミングを遅延させていることを通知する文字情報（例えば「特定演出遅延中」等）を表示するものに限らず、遊技モードを選択する期間や遊技に関わる設定を決定するための期間に制御するものであってもよい。

【５１３８】

また上記した非当選演出実行状態で行われる特定演出と当選可能演出実行状態で行われる特定演出とは同一ものに限らず、一部の表示や音、発光等の態様が同一又は類似するものであってもよいし、非当選演出実行状態で行われる特定演出の態様と当選可能演出実行状態で行われる特定演出の態様とを異ならせるようにしてもよい。また、特定演出は変動演出が行われている期間に行われるものに限らず、変動演出が行われていない期間に行われるものであってもよく、この場合には主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから停止表示コマンドを受信してから変動パターンコマンドを受信するまでの期間や始動入賞コマンドを受信するまでの期間、ハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を検知するまでの期間、ハンドル回転検知センサ１８９による回転を検知するまでの期間、音量調節ボタン２２７の操作を検知するまでの期間、光量調節ボタン２２８の操作を検知するまでの期間、等のいずれか又は任意の組み合わせに応じて特定演出の開始条件の成立の有無を判断するようにしてもよい。すなわち、変動演出が行われている期間であるか変動演出が行われていない期間であるかに関わらず、異常状態中に特定演出の開始タイミングを遅延させることを可能にするものや、異常状態中に特定演出が実行されている場合に実行中の特定演出を途中で終了させることが可能なものであれば実施される形態は問わない。また、非当選演出実行状態で行われる特別期間の態様と、当選可能演出実行状態で行われる特別期間の態様と、を異ならせるようにしてもよい。また、異常状態の発生中に行われる特定演出の態様と、異常状態の発生していない状態で行われる特定演出の態様と、を異ならせるようにしてもよい。

【５１３９】

また上記した非当選演出実行状態で行われる特別期間と当選可能演出実行状態で行われる特別期間とは同一ものに限らず、一部の表示や音、発光等の態様が同一又は類似するものであってもよいし、非当選演出実行状態で行われる特別期間の態様と当選可能演出実行状態で行われる特別期間の態様とを異ならせるようにしてもよい。また、特別期間は変動演出が行われている期間に行われるものに限らず、変動演出が行われていない期間に行わ

れるものであってもよい。すなわち、変動演出が行われている期間であるか変動演出が行われていない期間であるかに関わらず、異常状態中に特別期間の開始タイミングを遅延させることを可能にするものであれば実施される形態は問わない。また、非当選演出実行状態で行われる特別期間の態様と、当選可能演出実行状態で行われる特別期間の態様と、を異ならせるようにしてもよい。また、異常状態の発生中に行われる特別期間の態様と、異常状態の発生していない状態で行われる特別期間の態様と、を異ならせるようにしてもよい。

【５１４０】

また、上記した例では異常状態中に特定演出の開始タイミングを遅延させるものや異常状態中に特定演出が実行されている場合に実行中の特定演出を終了させるものを示したが、特定演出として演出表示装置１６００と遊技盤５に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤと扉枠に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤとを特定演出態様で制御する場合に、これらの演出表示装置１６００と遊技盤５に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤと扉枠に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤとのうちの一部について異常状態中に特定演出の開始タイミングを遅延させるものや異常状態中に実行中の特定演出の一部を終了（中断）させるものであってもよい。また、演出表示装置１６００に加えて演出表示装置１６００とは異なる補助表示装置を備える遊技機において、特定演出として演出表示装置１６００に加えて補助表示装置についても特定演出態様で制御するように構成している場合には、異常状態中に補助表示装置についてのみ特定演出の開始タイミングを遅延させたり、異常状態中に補助表示装置で実行中の特定演出のみを終了させるようにしてもよい。

【５１４１】

また、上記したように異常状態中には演出表示装置１６００や各種スピーカ、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤにて異常報知（例えば、演出表示装置１６００の一部領域に異常情報（異常の内容を示す文字情報（例えば「扉開放エラー」等）など）を静止状態で表示、各種スピーカから報知音を出力、扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種ＬＥＤを異常報知発光態様（軽微異常報知発光態様、重大異常報知発光態様）で発光制御、等）を行う。また、演出表示装置１６００と補助表示装置と遊技盤５に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤと扉枠に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤとのうちの一部について特定演出の開始タイミングを遅延させたり、特定演出を終了（中断）させたりするように構成した場合であっても、異常報知を優先して実行するようになっている。つまり、遊技盤５に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤと扉枠に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤとを異常報知発光態様で発光させている場合に特定演出の開始タイミングが遅延されたときには特定演出を開始するタイミングで遊技盤５に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤと扉枠に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤとについて特定演出の発光態様を実行することなく、少なくとも所定期間に亘って異常報知発光態様を継続させたり、遊技盤５に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤと扉枠に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤとを異常報知発光態様で発光させている場合に特定演出を終了（中断）させたときには遊技盤５に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤと扉枠に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤとについては少なくとも所定期間に亘って異常報知発光態様を継続させるようになっている。ただし、演出表示装置１６００と補助表示装置と遊技盤５に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤと扉枠に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤとのうち、異常報知を行わないか又は一部でのみ異常報知を行う電子部品について特定演出の遅延又は終了（中断）させることが可能な場合に、特定演出を開始又は再開するときには、特定演出を遅延や終了（中断）されていない場合と同様の態様（例えば特定

演出の開始タイミングの遅延や実行中の特定演出が途中で終了（中断）されていない電子部品（演出表示装置１６００と補助表示装置と遊技盤５に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤと扉枠に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤと）において実行されている特定演出態様と同期する特定演出態様）で制御するようにしてもよいし、特定演出を継続している電子部品がない場合には特定演出を最初から行うようにしてもよい。

【５１４２】

［文字情報を視認容易とする特定演出の遅延］

次に、演出表示装置１６００の表示領域に略単一色を表示する特定演出の開始タイミングが遅延可能とされる変形例について説明する。図３４８は、予告表示が実行される場合の例を示すタイムチャートである。なお、以下では上記実施形態と異なる部分についてのみ説明し、重複した説明を行わない。

【５１４３】

本例では、特定演出として演出表示装置１６００の表示領域の略全域を白色にするホワイトアウト態様や、演出表示装置１６００の表示領域の略全域を黒色にするブラックアウト態様を表示する。

【５１４４】

また、本例のパチンコ機１では数値やキャラクタのセリフ等の文字情報を演出表示装置１６００の一部の表示領域に表示することにより大当り期待度を示唆する予告表示を実行可能となっている。また、予告表示の背景画像として特定演出における演出表示装置１６００の表示領域の略全域を白色にするホワイトアウト態様や黒色にするブラックアウト態様が表示される場合があり、予告表示の背景画像がホワイトアウト態様やブラックアウト態様として略単一色になることで予告表示としての文字情報を視認し易くなっている。

【５１４５】

ところが、予告表示は変動演出の開始後の比較的早いタイミングで行われるものであるため、予告表示で示唆された大当り期待度によって変動演出の開始後の早いタイミングで大当りとならないことや大当り期待度が低いことを把握してしまった場合には実行中の変動演出に対する興味を失うおそれがある。そこで、本例のパチンコ機では、特定演出の開始タイミングを遊技者操作によって遅延させることを可能にし、予告表示の背景画像として特定演出ではなく通常の背景画像が行われるようにすることで予告表示の背景画像として特定演出が実行されている場合に比べて予告表示としての文字情報の視認を困難にして、変動演出の開始後の早いタイミングで大当り期待度を把握困難にして変動演出に対する興味が早い段階で失われることを抑止できるようにしている。

【５１４６】

具体的には、図３４８（Ａ）に示すように図柄の変動表示を開始してから（主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから変動パターンコマンドを受信してから）予め設定された期間Ｔ１が経過する以前、すなわち主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから変動パターンコマンドを受信したことに基づいてタイマによる計測を開始し、特定演出の開始条件が成立する期間Ｔ１が経過する以前に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作（例えば特定演出の開始タイミングを遅延させることが可能な特別期間を開始させる操作（本例では押圧操作））されると（ｔ１'）、演出操作ユニット３００（演出操作部３０１（接触操作部３０２、押圧操作部３０３））の操作に応じて特定演出の開始タイミングを遅延させることが可能な特別期間を開始する。なお、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作された場合には、演出表示装置１６００に予告表示とは異なる文字情報（例えば「特定演出遅延中」等）を静止状態で表示する。これにより特定演出の開始タイミングを遅延させていることを容易に認識できるようになる。

【５１４７】

また、図柄の変動表示を開始してから（主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから変動パターンコマンドを受信してから）予め設定された期間Ｔ１が経過する以前（特定演出が開始される以前）、すなわち主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから

変動パターンコマンドを受信したことに基づいてタイマによる計測を開始し、特定演出の開始条件が成立する期間Ｔ１が経過する以前、に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作された場合には（ｔ２'）、特定演出の開始タイミングを遅延させることが可能な特別期間を開始し、図柄の変動表示を開始してから予め設定された期間Ｔ１が経過しても特定演出を開始しないようになっている。

【５１４８】

具体的には、図３４８（Ａ）に示すように本例では図柄の変動表示を開始してから（主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから変動パターンコマンドを受信してから）、すなわち主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから変動パターンコマンドを受信したことに基づいてタイマによる計測を開始してから、予め設定された期間Ｔ１が経過すると、演出表示装置１６１０に予告表示を行い、大当り期待度を示唆する文字情報（例えば「３０％」、「０％」、「５０％」、等や「激アツ！」、「当り確定！」、「ハズレ確定・・・」等）を静止状態で表示する（ｔ２'）。

【５１４９】

また、図柄の変動表示を開始してから（主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから変動パターンコマンドを受信してから）予め設定された期間Ｔ１が経過する以前、すなわち特定演出が開始される以前に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作された場合には（ｔ１'）、特定演出の開始タイミングを遅延させることが可能な特別期間を開始し、図柄の変動表示を開始してから予め設定された期間Ｔ１が経過しても特定演出を開始しないようになっている。

【５１５０】

また、上記したように演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作された場合、つまり特別期間が開始される場合には、演出表示装置１６００の一部の表示領域（予告表示としての文字情報が表示される領域とは異なるようにしてもよいし、一部の領域が重複するようにしてもよい）に予告表示とは異なる文字情報（例えば「特定演出遅延中」等）が静止状態で表示され、特別期間中に演出操作ユニット３００が特別操作された場合、つまり特別期間が終了する場合には、上記した文字情報の表示を終了する。これにより特定演出の開始タイミングを遅延させていることや特別期間が終了したことを容易に認識できるようになる。

【５１５１】

また、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作（例えば特定演出の開始タイミングを遅延させることが可能な特別期間を開始させる操作（押圧操作））された後に、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特別操作（例えば特別期間を終了させる操作（終了操作））されると（ｔ２"）、特別期間を終了し、特別操作されてから予め設定された期間Ｔ１が経過したときに特定演出が開始される（ｔ３'）。

【５１５２】

上記したように、特定演出ではホワイトアウト態様やブラックアウト態様が表示され、演出表示装置１６００の表示領域にキャラクタや風景等の態様が表示されない略均一な単一色態様（演出表示装置１６００に保留数を表示する場合にはこの保留数については特定演出中にも表示していてもよいし、演出表示装置１６００の中央に表示される装飾図柄とは別に演出表示装置１６００の周縁部等に装飾図柄よりも小さい対応装飾図柄を表示する場合にはこの対応装飾図柄については特定演出中にも表示していてもよい。すなわち、文字情報と重複する領域や文字情報を含む所定範囲がキャラクタや風景等の態様が表示されない略均一な単一色態様とされるものであればよい。）が表示されるため、予告表示として演出表示装置１６００の一部の表示領域に表示される文字情報の背景画像とされた場合に、この文字情報だけが別の色で演出表示装置１６００に表示されるようになり、文字情報を容易に視認できるようになる。一方、通常時（特定演出やリーチ演出等が実行されていない状態、変動開始待ち状態）に演出表示装置１６００に表示される背景画像はキャラクタや風景等の態様が様々な色（多色態様）で表示されている。また、予告表示としての文字情報の態様は特定演出の実行中と、特別期間中と、で変化しない。つまり、文字情報

の背景に表示される画像が文字情報の視認性に与える影響が大きくなっている。そのため、特定演出の実行中と、特定演出が終了して特別期間が開始されている場合と、で文字情報の背景画像が略均一な単一色態様が表示された状態と、キャラクタや風景等の態様が様々な色（多色態様）で表示された状態と、に変化させることで、特別期間中には特定演出の実行中の予告表示の文字情報の背景画像として特定演出が表示されている場合に比べて文字情報を視認が困難になる。

【５１５３】

すなわち、予告表示として演出表示装置１６００に表示される大当り期待度を示唆する文字情報を視認したい遊技者に対しては、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を特定操作することなく、予告表示として演出表示装置１６００の一部の表示領域に表示される文字情報の背景画像として特定演出を実行させることにより文字情報を認識し易くする一方、予告表示として演出表示装置１６００に表示される大当り期待度を示唆する文字情報を視認したくない遊技者に対しては、特定演出が開始される以前に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を特定操作することで、特定演出の開始タイミングを遅延させて予告表示として演出表示装置１６００の一部の表示領域に表示される文字情報の背景画像として特定演出を実行されないようにし、予告表示として演出表示装置１６００の一部の表示領域に表示される文字情報の背景画像として通常時の背景画像を表示させることにより特定演出実行時に比べて文字情報を視認困難にすることができるようになっている。これにより、遊技者の趣向に合わせた遊技を実現でき、遊技興趣の低下を抑止可能になる。

【５１５４】

なお、本例では特定演出として演出表示装置１６００の表示領域の全域にホワイトアウト態様やブラックアウト態様を表示するものを示したが、少なくとも演出表示装置１６００の一部の表示領域に表示される文字情報の周囲（接する部分、境界部）にキャラクタや風景等の態様が表示されない略均一な単一色が表示されるものであればよく、演出表示装置１６００の一部にキャラクタや風景等の態様がホワイトアウト態様やブラックアウト態様とは異なる色で表示されていてもよい。また、特定演出としてホワイトアウト態様やブラックアウト態様のみを実行するものに限らず、特定演出の一部の演出としてホワイトアウト態様やブラックアウト態様を表示する期間を有するものであればホワイトアウト態様やブラックアウト態様以外の態様を表示する期間を有していてもよい。

【５１５５】

また、本例の特別期間においても、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特別操作されるまでは演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３とは異なる操作手段（例えば演出操作ユニット３００の接触操作部３０２や音量調節ボタン２２７、光量調節ボタン２２８等）が操作された場合に特別期間を終了しないようになっている。これにより予告表示が実行されている期間に遊技者や遊技店員の意図しないタイミングで特別期間が終了することを抑止でき、予告表示としての文字情報を確実に視認困難にさせることができる。

【５１５６】

また、本例の特別期間においても、図柄の変動表示を開始してから特定演出の開始条件が成立する以前に演出操作ユニット３００の接触操作部３０２を操作した場合には、特定演出を遊技者等が任意に決定した期間に亘って遅延させることは困難であるものの、図柄の変動表示の開始時から起算した期間ではなく、接触操作部３０２の操作終了時から起算した期間に応じて特定演出の開始条件の成立の有無を判断するようになっている。

【５１５７】

具体的には、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから変動パターンコマンドを受信してから期間Ｔ１が経過する以前、すなわち図柄の変動表示を開始してから特定演出の開始条件が成立する以前に演出操作ユニット３００の接触操作部３０２が操作された場合には、図柄の変動表示を開始してから予め設定された期間Ｔ１が経過しても特定演出を実行することなしに、接触操作部３０２の操作を終了してから予め設定された期間Ｔ１

が経過したことに基づいて特定演出を開始するようになっている。
【５１５８】
この場合には予め設定された期間Ｔ１の範囲内で特定演出の開始タイミングを遅延させることができるようになる。これにより、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を特定操作（本例では押圧操作）して特定演出の開始タイミングを遅延させようとしている遊技者等が誤って接触操作部３０２を操作してしまった場合や期間Ｔの範囲内の短時間だけ特定演出の開始タイミングを遅延させたいような場合でも特定演出の開始タイミングを遅延させることが可能になり、予告表示が実行された場合に通常時の背景画像を表示させて特定演出が実行されている場合に比べて予告表示としての文字情報を視認困難にさせることができる。
【５１５９】
なお、演出操作ユニット３００の接触操作部３０２に加えて、又は演出操作ユニット３００の接触操作部３０２とは別に、ハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を検知している場合に図柄の変動表示を開始してから起算した期間ではなく、ハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を検知しなくなった時から起算した期間に応じて特定演出の開始条件の成立の有無を判断するようにしてもよい。この場合には、ハンドルタッチセンサ１９２に接触するという通常の遊技を行うだけで特定演出の開始タイミングを遅延させて予告表示が実行された場合に通常時の背景画像を表示させて予告表示としての文字情報を視認困難にさせることができる。
【５１６０】
また、上記した例では特別期間を遊技者操作で終了させるものを示したが、演出操作ユニット３００が一定期間に亘って操作されなかった場合にも特別期間を終了させるようにしてもよい。つまり特別期間の終了条件として上記した遊技者操作に加えて、特別期間を開始した時又は演出操作ユニット３００の操作を終了した時のいずれか遅い方から起算した期間に応じて特別期間の終了条件の成立の有無を判断するようにしてもよい。この場合には、特別期間の終了条件が成立すると判断する期間として、特定演出の開始条件が成立すると判断する期間Ｔ１よりも長い期間を設定するようにしてもよい。これにより、押圧操作部３０３とは異なる操作部（例えば接触操作部３０２やハンドルタッチセンサ１９２等）の操作に応じた期間よりも長い期間に亘って特定演出の開始タイミングを遅延させて予告表示が実行された場合に特定演出が背景画像として確実に表示されないようにすることができ、予告表示としての文字情報を視認困難にさせることができる。また、特別期間が終了してから予め設定された期間Ｔ１が経過した場合に特定演出の開始条件が成立して特定演出が開始されるため、特別期間を開始した時又は演出操作ユニット３００の操作を終了した時のいずれか遅い方から起算した期間が予め決められている期間に達するなどの遊技者の特別操作（終了操作）とは異なる終了条件が成立したことに基づいて特別期間が終了した場合であっても、直ぐには特定演出が開始されないようにすることが可能になり、特定演出が背景画像として確実に表示されないようにすることができるため、予告表示としての文字情報を視認困難にさせることができる。
【５１６１】
また、特別期間の終了条件として上記した遊技者操作に加えて、ハンドルタッチセンサ１９２が接触を検知した場合や入球口（例えば一般入賞口２００１、第一始動口２００２、ゲート２００３、第二始動口２００４、及び大入賞口２００５のうちの全て又は特定の入球口（例えば第一始動口２００２、及び第二始動口２００４））への入球を検出した場合に特別期間の終了条件を成立させて特別期間を終了し、初期値からタイマの計測を開始するようにしてもよい。この場合には、特別期間を終了させる特別操作が不要となり、予告表示の終了後に遊技者に煩わしさを与えることなく特別期間を終了させることが可能になる。
【５１６２】
また、特定演出の実行中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作された場合に実行中の特定演出を終了するようにしてもよい。また、この場合には特定演出の

終了後に特別期間を開始する（押圧操作部３０３が特定操作されたことに基づいてタイマの値をリセットし、特別期間が終了するまでタイマによる計測を中断する）ようにしてもよいし、特定演出を終了した後に特別期間を開始しないようにしてもよい。

【５１６３】

具体的には、図３４８（Ｂ）に示すように、図柄の変動表示を開始してから（主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから変動パターンコマンドを受信してから）予め設定された期間Ｔ１が経過すると、特定演出が開始される（ｔ２）。また、本例では特定演出が開始されるときに予告表示も開始され、演出表示装置１６００に大当り期待度を示唆する文字情報が表示される。

【５１６４】

そして、この特定演出の実行期間Ｔ２が経過する以前に（特定演出が終了する以前）に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作された場合には（ｔ３'）、特定演出の実行途中であっても実行中の特定演出を終了するようにしてもよい。つまり、特定演出として予め設定されている演出を全て実行する以前に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作された場合に、実行中の特定演出を途中で終了させて予告表示の背景画像を特定演出から通常時の背景画像に変化させるようにしてもよい。

【５１６５】

この場合には、予告表示と特定演出とが同時期に実行されている場合に遊技者等が演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を特定操作するだけで特定演出を終了させて予告表示の背景画像を特定演出でのキャラクタや風景等の態様が表示されない略均一な単一色が表示された状態から通常時のキャラクタ等の態様が様々な色で表示された状態に変化させることができるため、特定演出が実行されている場合に比べて演出表示装置１６００に表示される予告表示としての文字情報を視認困難にさせることができる。また、特別期間が開始した時又は演出操作ユニット３００の操作を終了した時のいずれか遅い方から起算した期間が予め決められている期間に達するなどの遊技者の終了操作とは異なる終了条件が成立したことに基づいて遊技者等が意図しないタイミングで特別期間が終了した場合に、特別期間の終了後に特定演出が開始されても遊技者の特定操作によって特定演出を終了させて予告表示の背景画像を特定演出でのキャラクタや風景等の態様が表示されない略均一な単一色が表示された状態から通常時のキャラクタ等の態様が様々な色で表示された状態に変化させることができるため、特定演出が実行されている場合に比べて演出表示装置１６００に表示される予告表示としての文字情報を視認困難にさせることができる。

【５１６６】

なお、上記に加えてハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を検知した場合や、ハンドル回転検知センサ１８９による回転を検知した場合、演出操作ユニット３００の接触操作部３０２の接触操作を検知した場合、音量調節ボタン２２７の操作を検知した場合、光量調節ボタン２２８の操作を検知した場合、音量調節ボタン２２７が操作されて音量が変更された場合、光量調節ボタン２２８が操作されて光量（輝度）が変更された場合、などのうち一つ又は任意の組み合わせのうちのいずれかを検出した場合にも特定演出を終了させるようにしてもよい。ハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を検知した場合や、ハンドル回転検知センサ１８９による回転を検知した場合に特定演出を終了させるように構成した場合には特別な操作をすることなく、遊技を行うためにハンドル１９５に触れたり、ハンドル１９５を回転させるだけで特定演出を終了させて予告表示の背景画像を特定演出でのキャラクタや風景等の態様が表示されない略均一な単一色が表示された状態から通常時のキャラクタ等の態様が様々な色で表示された状態に変化させることができるため、特定演出が実行されている場合に比べて演出表示装置１６００に表示される予告表示としての文字情報を視認困難にさせることができるし、演出操作ユニット３００の接触操作部３０２の接触操作を検知した場合や、音量調節ボタン２２７の操作を検知した場合、光量調節ボタン２２８の操作を検知した場合に特定演出を終了させるように構成した場合には、予告表示と特定演出とが同時期に実行されている場合に接触操作部３０２や音量調節ボタン２２７、光量調節ボタン２２８を操作するという簡単な操作だけで特定

演出を終了させて予告表示の背景画像を特定演出でのキャラクタや風景等の態様が表示されない略均一な単一色が表示された状態から通常時のキャラクタ等の態様が様々な色で表示された状態に変化させることができるため、特定演出が実行されている場合に比べて演出表示装置１６００に表示される予告表示としての文字情報を視認困難にさせることができる。

【５１６７】

また、特別期間の終了後に特定演出の開始条件が成立したことに基づいて特定演出を開始させる場合には特定演出を中断した演出からではなく、特定演出の最初の演出から開始するようにしてもよい。すなわち、特定演出の開始条件が成立した場合には常に特定演出を最初から実行するようにしてもよい。この場合には、特定演出を中断したタイミングに関わらず特定演出の内容を全て実行することができるようになるため、特定演出が行われることによる効果（注目させる等）を設計通りに得ることが可能になる。

【５１６８】

また、特定演出の実行中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作されたことに基づいて実行中の特定演出を終了した場合にも特別期間を開始して遊技者等が任意に決定した期間に亘って特定演出の開始タイミングを遅延させることができるようにしてもよい。この場合には、特定演出を途中で終了させた場合にも遊技者等が任意に決定した期間に亘って特定演出の開始タイミングを遅延させて特定演出が実行されている場合に比べて演出表示装置１６００に表示される予告表示としての文字情報を視認困難にすることができ、遊技者の趣向に合わせた遊技を確実に実現できる。

【５１６９】

また、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を断続的に特定操作（本例では押圧操作）している場合には特定演出を開始させないようにしてもよいし、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を断続的に特定操作（本例では押圧操作）している場合であっても演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作（本例では押圧操作）されたタイミングで特別期間を開始し、該特別期間を開始してから一定期間が経過したとき（押圧操作部３０３が特定操作（本例では押圧操作）されてから一定期間が経過したとき）に特別期間を終了させて特定演出を開始され得るようにしてもよい。つまり、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を断続的に特定操作（本例では押圧操作）している場合にタイマの値をリセットし、特定操作（本例では押圧操作）を終了するまではタイマによる計測を中断するようにしてもよいし、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を断続的に特定操作（本例では押圧操作）している場合にタイマの値をリセットするものの、タイマによる計測を中断することなしに初期値から計測を開始するようにしてもよい。演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を断続的に特定操作（本例では押圧操作）している場合に特定演出を開始させないように構成した場合には、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作（本例では押圧操作）されたタイミングで特別期間を開始し、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を特定操作（本例では押圧操作）を終了した後に特別操作して特別期間を終了させ、特別期間を終了してから起算した期間に応じて特定演出の開始条件を判断するようにしてもよい。

【５１７０】

また、上記に加え、または上記とは別に予告表示としての文字情報が表示されている場合に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３とは別の特別の操作手段を断続的に操作しているときには特定演出が開始されないようにしてもよいし、予告表示としての文字情報が表示されている場合に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３とは別の特別の操作手段を断続的に操作しているときであっても特別の操作手段の操作を開始してから一定期間が経過したときに特定演出が開始されるようにしてもよい。つまり、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３とは別の特別の操作手段が操作された場合にタイマの値をリセットし、当該操作が断続的に行われている場合にはタイマによる計測を開始しないようにしてもよいし、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３とは別の特別の操作手段が操作された場合にタイマの値をリセットするものの、当該操作が断続的に行われていても

タイマの値をリセットしたりタイマによる計測を中断したりすることなしに当該操作が最初になされたときからの経過期間をタイマにより計測するようにしてもよい。

【５１７１】

予告表示としての文字情報が表示されている場合に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３とは別の特別の操作手段を断続的に操作していれば特定演出が開始されないように構成した場合には、特別の操作手段の操作をやめたときから起算した期間に応じて特定演出の開始条件の成立の有無を判断するようにしてもよいし、予告表示としての文字情報が表示されている場合に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３とは別の特別の操作手段を断続的に操作していても特定演出が開始されるように構成した場合には、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３とは別の特別の操作手段の操作を開始したときから起算した期間に応じて特定演出の開始条件の成立の有無を判断するようにしてもよい。つまり、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３とは別の特別の操作手段が操作された場合にタイマの値をリセットし、該操作が継続している期間はタイマによる計測を中断して当該操作が終了してからの経過期間をタイマにより計測して特定演出の開始条件の成立の有無を判断するようにしてもよいし、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３とは別の特別の操作手段が操作された場合にタイマの値をリセットするものの、当該操作が継続していてもタイマの値をリセットしたりタイマによる計測を中断したりすることなしに当該操作が最初になされたときからの経過期間をタイマにより計測して特定演出の開始条件の成立の有無を判断するようにしてもよい。

【５１７２】

また、特別の操作手段として複数の特別の操作手段を備えるようにしてもよく、例えば第１特別の操作手段と第２特別の操作手段とを備えるように構成し、予告表示としての文字情報が表示されている場合に第１特別の操作手段を断続的に操作していれば特定演出が開始されないようにする一方、予告表示としての文字情報が表示されている場合に第２特別の操作手段を断続的に操作していても特定演出が開始されるようにしてもよいし、予告表示としての文字情報が表示されている場合に第１特別の操作手段と第２特別の操作手段とのいずれかを断続的に操作していれば特定演出が開始されないように構成するようにしてもよいし、予告表示としての文字情報が表示されている場合に第１特別の操作手段と第２特別の操作手段とのいずれかを断続的に操作していても特定演出が開始されるようにしてもよい。つまり、第１特別の操作手段が操作された場合にタイマの値をリセットし、該操作が継続している期間はタイマによる計測を中断して当該操作が終了してからの経過期間をタイマにより計測して特定演出の開始条件の成立の有無を判断する一方、第２特別の操作手段が操作された場合にタイマの値をリセットするものの、当該操作が継続していてもタイマの値をリセットしたりタイマによる計測を中断したりすることなしに当該操作が最初になされたときからの経過期間をタイマにより計測して特定演出の開始条件の成立の有無を判断するようにしてもよいし、第１特別の操作手段と第２特別の操作手段との一方が操作された場合にタイマの値をリセットし、該操作が継続している期間はタイマによる計測を中断して当該操作が終了してからの経過期間をタイマにより計測して特定演出の開始条件の成立の有無を判断するようにしてもよいし、第１特別の操作手段と第２特別の操作手段とのいずれかが操作された場合にタイマの値をリセットするものの、当該操作が継続していてもタイマの値をリセットしたりタイマによる計測を中断したりすることなしに当該操作が最初になされたときからの経過期間をタイマにより計測して特定演出の開始条件の成立の有無を判断するようにしてもよい。

【５１７３】

また、上記に加え、又は上記と別に上記した演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３と上記した特別の操作手段とは異なる非特別の操作手段を操作した場合には当該操作が断続的であるか否かにかかわらず、特定演出の開始タイミングを遅延させることなく、該非特別の操作手段を操作してから予め設定された期間Ｔが経過する以前であっても特定演出を開始するようにしてもよい。つまり、非特別の操作手段が操作されてもタイマの値をリセットすることなしにタイマによる計測を継続するようにしてもよい。このように、少

なくとも特定演出の開始タイミングを第１期間に亘って遅延させることが可能な特定の操作手段（この例では演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３）と、特定演出の開始タイミングを第１の期間よりも短い第２の期間に亘って遅延させることが可能な特別の操作手段と、特定演出の開始タイミングを遅延させることが不可能な非特別の操作手段と、のうち一つ又は任意の組み合わせ（全部でもよい）を備えるようにしてもよい。

【５１７４】

なお、特別の操作手段としては、ハンドル１９５（ハンドルタッチセンサ１９２、ハンドル回転検知センサ１８９）、演出操作ユニット３００の接触操作部３０２、音量調節ボタン２２７、光量調節ボタン２２８等のうちのいずれか又は任意の組み合わせとしてもよい。また、予告表示としての文字情報が表示されている場合にハンドル１９５に触れてハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を断続的に検知しているときや、予告表示としての文字情報が表示されている場合にハンドル１９５を回転させてハンドル回転検知センサ１８９による回転を断続的に検知しているときに特定演出を開始させないように構成した場合には、特別な操作をすることなく、遊技を実行するためにハンドル１９５に触れたり回転させるだけで特定演出が開始されないようにすることができ、特定演出が実行されている場合に比べて予告表示としての文字情報を視認困難にさせることができる。また、予告表示としての文字情報が表示されている場合に演出操作ユニット３００の接触操作部３０２を断続的に接触操作しているときや、予告表示としての文字情報が表示されている場合に音量調節ボタン２２７を断続的に操作しているとき、予告表示としての文字情報が表示されている場合に光量調節ボタン２２８を断続的に操作しているときに特定演出を開始させないように構成した場合には、簡単な操作だけで特定演出を開始させないようにすることができ、特定演出が実行されている場合に比べて予告表示としての文字情報を視認困難にさせることができる。

【５１７５】

また、大当りの可能性の有無に応じて特定演出の開始タイミングの遅延の可否を異ならせるようにしてもよい。例えば、大当りの可能性が全くない非当選演出実行状態で予告表示としての文字情報が表示される場合には、上記したように演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を特定操作（本例では押圧操作）すること等によって特定演出の開始タイミングを遅延させることを可能にする一方、非当選演出実行状態よりも大当りの可能性が高い（大当り期待度が高い）当選可能演出実行状態で予告表示としての文字情報が表示される場合には、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を特定操作（本例では押圧操作）すること等によって特定演出の開始タイミングを遅延させることを不可能にしてもよい。このように構成することにより、大当りの可能性が全くない場合に予告表示としての文字情報が表示されても遊技者にとって不快で無駄な演出でしかないため、特定演出の開始タイミングを遅延させることにより特定演出が実行されている場合に比べて予告表示としての文字情報を視認困難にする一方で、大当りの可能性がある場合に予告表示としての文字情報が表示されたときには設計者の意図した遊技を実現可能にして実行される演出に注目させることができる。

【５１７６】

また、大当りの可能性の有無に応じて実行中の特定演出を終了させるか否かを異ならせるようにしてもよい。例えば、大当りの可能性が全くない非当選演出実行状態で予告表示としての文字情報が表示される場合には、上記したように演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を特定操作（本例では押圧操作）すること等によって特定演出を実行途中で終了させることを可能にする一方、非当選演出実行状態よりも大当りの可能性が高い（大当り期待度が高い）当選可能演出実行状態で予告表示としての文字情報が表示される場合には、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を特定操作（本例では押圧操作）すること等によって特定演出を実行途中で終了させることを不可能にしてもよい。このように構成することにより、大当りの可能性が全くない場合に予告表示としての文字情報が表示されても遊技者にとって不快で無駄な演出でしかないため、特定演出を中断させることにより特定演出が実行されている場合に比べて予告表示としての文字情報を視認困難にする

一方で、大当りの可能性がある場合に予告表示としての文字情報が表示されたときには設計者の意図した遊技を実現可能にして実行される演出に注目させることができる。

【５１７７】

具体的には、図３４８（Ｃ）に示すように、当選可能演出実行状態で図柄の変動表示を開始してから（主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから変動パターンコマンドを受信してから）予め設定された期間Ｔ１が経過すると、すなわち主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから変動パターンコマンドを受信したことに基づいてタイマによる計測を開始し、特定演出の開始条件が成立する期間Ｔ１が経過すると特定演出が開始される（ｔ２）。また、特定演出が開始されるときに予告表示も開始され、演出表示装置１６００に大当り期待度を示唆する文字情報が表示される。

【５１７８】

そして、この当選可能演出実行状態での特定演出の実行期間Ｔ２が経過する以前に（特定演出が終了する以前）に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作された場合には（ｔ３'）、非当選演出実行状態とは異なり、実行中の特定演出を終了することなく継続する。つまり、非当選演出実行状態よりも大当りの可能性が高い（大当り期待度が高い）当選可能演出実行状態では特定演出として予め設定されている演出を全て実行するまでは演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作されても実行中の特定演出を継続して予告演出の背景画像として特定演出を表示し、通常時の背景画像に変更しないようになっている。

【５１７９】

なお、上記した特定演出及び特別期間での演出例（文字情報の表示）は一例であり、特定演出及び特別期間の態様は上記したものに限定されるものではない。例えば特定演出の一部の演出としてホワイトアウト態様やブラックアウト態様を表示する期間を有するものであれば遊技機やキャラクタの紹介等を行う演出を実行するものであってもよいし、特別期間として特定期間の開始タイミングを遅延させていることを通知する文字情報（例えば「特定演出遅延中」等）を表示するものに限らず、遊技モードを選択する期間や遊技に関わる設定を決定するための期間に制御するものであってもよい。

【５１８０】

また上記した非当選演出実行状態で行われる特定演出と当選可能演出実行状態で行われる特定演出とは同一ものに限らず、一部の表示や音、発光等の態様が同一又は類似するものであってもよいし、非当選演出実行状態で行われる特定演出の態様と当選可能演出実行状態で行われる特定演出の態様とを異ならせるようにしてもよい。また、特定演出は変動演出が行われている期間に行われるものに限らず、変動演出が行われていない期間に行われるものであってもよく、この場合には主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから停止表示コマンドを受信してから変動パターンコマンドを受信するまでの期間や始動入賞コマンドを受信するまでの期間、ハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を検知するまでの期間、ハンドル回転検知センサ１８９による回転を検知するまでの期間、音量調節ボタン２２７の操作を検知するまでの期間、光量調節ボタン２２８の操作を検知するまでの期間、等のいずれか又は任意の組み合わせに応じて特定演出の開始条件の成立の有無を判断するようにしてもよい。すなわち、変動演出が行われている期間であるか変動演出が行われていない期間であるかに関わらず、予告表示が開始される場合に特定演出の開始タイミングを遅延させることを可能にするものや、特定演出と予告表示と同時に実行されている場合に実行中の特定演出を途中で終了させることが可能なものであれば実施される形態は問わない。また、非当選演出実行状態で行われる特別期間の態様と、当選可能演出実行状態で行われる特別期間の態様と、を異ならせるようにしてもよい。

【５１８１】

また上記した非当選演出実行状態で行われる特別期間と当選可能演出実行状態で行われる特別期間とは同一ものに限らず、一部の表示や音、発光等の態様が同一又は類似するものであってもよいし、非当選演出実行状態で行われる特別期間の態様と当選可能演出実行状態で行われる特別期間の態様とを異ならせるようにしてもよい。また、特別期間は変動

演出が行われている期間に行われるものに限らず、変動演出が行われていない期間に行われるものであってもよい。すなわち、変動演出が行われている期間であるか変動演出が行われていない期間であるかに関わらず、予告表示が開始される場合に特別期間の開始タイミングを遅延させることを可能にするものであれば実施される形態は問わない。また、非当選演出実行状態で行われる特別期間の態様と、当選可能演出実行状態で行われる特別期間の態様と、を異ならせるように してもよい。

【５１８２】

また、上記した例では予告表示が開始される場合に特定演出の開始タイミングを遅延させるものや特定演出と予告表示とが同時に実行されている場合に実行中の特定演出を終了させるものを示したが、特定演出として演出表示装置１６００と遊技盤５に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤと扉枠に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤとを特定演出態様で制御する場合に、これらの演出表示装置１６００と遊技盤５に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤと扉枠に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤとのうちの一部について予告表示が開始される場合に特定演出の開始タイミングを遅延させるものや特定演出と予告表示とが同時に実行されている場合に特定演出の一部を終了（中断）させるものであってもよい。また、演出表示装置１６００に加えて演出表示装置１６００とは異なる補助表示装置を備える遊技機において、特定演出として演出表示装置１６００に加えて補助表示装置についても特定演出態様で制御するように構成している場合には、予告表示が開始される場合に補助表示装置についてのみ特定演出の開始タイミングを遅延させたり、特定演出と予告表示とが同時に実行されている場合に補助表示装置で実行中の特定演出のみを終了させるようにしてもよい。

【５１８３】

また、予告表示が開始される場合に演出表示装置１６００と補助表示装置と遊技盤５に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤと扉枠に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤとのうちの一部について特定演出の開始タイミングを遅延させるものや特定演出と予告表示とが同時に実行されている場合に特定演出の一部を終了（中断）させるように構成した場合には、この一部についての特定演出を開始又は再開するときには、特定演出の開始タイミングの遅延や実行中の特定演出が途中で終了（中断）されていない電子部品（演出表示装置１６００と補助表示装置と遊技盤５に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤと扉枠に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤと）において実行されている特定演出態様と同期する特定演出態様で制御される。これにより、予告表示が開始される場合に演出表示装置１６００と補助表示装置と遊技盤５に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤと扉枠に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤとの一部について特定演出の開始タイミングを遅延させたり、特定演出と予告表示とが同時に実行されている場合に実行中の特定演出を一部だけ終了（中断）させた場合であっても、演出表示装置１６００と補助表示装置と遊技盤５に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤと扉枠に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤとの全体で統一された特定演出を実行することができるようになる。

【５１８４】

また、特定演出の実行中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が特定操作された場合に、少なくとも特定演出として演出表示装置１６００に表示される態様（ホワイトアウト態様、ブラックアウト態様）を終了させるものであってもよく、遊技盤５に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤと扉枠に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤとについては特定演出中に実行されている発光態様（特定演出として演出表示装置１６００に表示される態様の終了後に少なくとも一定期間に亘って特定演出として実行される発光態様を継続するものや、異常状態が発生している場合に特定演出として演出表示装置１６００に表示される態様の終了後に少なくとも一定期間に亘って異常報知発光態様を継続するものであってもよい）を継続するようにしてもよい。

【５１８５】
　また、上記した例では予告表示としての文字情報と特定演出とが同時に演出表示装置１６００に表示される場合に、特定演出の開始タイミングを遅延させたり、特定演出を終了させるものを示したが、背景画像として特定演出が表示されている状態に比べて演出が実行されていない通常時の背景画像が表示されている方が視認困難となるものであれば演出表示装置１６００に表示される文字情報は予告表示に応じたものに限定されない。例えば、演出表示装置１６００に表示される文字情報として異常状態の発生時に異常情報（異常の内容を示す文字情報（例えば「扉開放エラー」等）など）を静止状態で表示する場合に、この異常情報が通常時の背景画像が行われている場合に特定演出が実行されている場合よりも視認困難にされるものであってもよい。
【５１８６】
［ボタンの操作態様と表示態様］
　次に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３の操作態様に応じて演出表示装置１６００の表示態様を異ならせる変形例について説明する。図３４９は、演出表示装置１６００の表示態様の一例を示すタイミングチャートであり、図３５０は、演出表示装置１６００の表示態様の一例を示す説明図である。なお、以下では上記実施形態と異なる部分についてのみ説明し、重複した説明を行わない。また、以下の変形例は上記した実施例と組み合わせて実行されるものであってもよく、例えば上記実施例において大当りの可能性を有する特定演出を以下の第１特定演出とし、上記実施例において大当りの可能性を有しない特定演出を以下の第２特定演出として実行するものであってもよいし、上記実施例の特定演出とは別の演出として実行されるものであってもよい。
【５１８７】
　本例のパチンコ機１は大当りの可能性を有する第１特定演出と、大当りの可能性を有しない第２特定演出と、を実行可能とされている。そして、大当りの可能性を有する第１特定演出であるか大当りの可能性を有しない第２特定演出であるかを演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を押圧操作することにより判別可能になっている。具体的には、図３４９（Ａ）に示すように大当りの可能性を有しない第２特定演出を開始してから（ｔｓ）、第２特定演出を終了するまで（ｔｅ）の期間に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作された場合には（ｔ１）、押圧操作部３０３が押圧操作されてから期間Ｔ１が経過するまで演出表示装置１６００に非当選時態様を表示する（ｔ２）。このように、本例では押圧操作部３０３を押圧操作した場合に非当選時態様が表示されることにより遊技者は大当りの可能性を有しない第２特定演出が実行されていることを認識できるようになっている。
【５１８８】
　また、本例では大当りの可能性を有しない第２特定演出中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されたことに基づいて演出表示装置１６００に非当選時態様を表示し（ｔ１）、その後に押圧操作部３０３の押圧操作が解除されることなく一定期間（例えば期間Ｔ１よりも長い期間）に亘って継続して押圧操作されている場合には、押圧操作部３０３の押圧操作中であっても押圧操作部３０３の押圧操作が開始されてから、予め設定されている期間Ｔ１が経過したことに基づいて演出表示装置１６００に表示されている非当選時態様を非表示にする（非当選時態様の表示を消失させる）ようになっている（ｔ２）。つまり、押圧操作部３０３の押圧操作が解除されるタイミング（ｔ３）よりも前のタイミング（ｔ２）で演出表示装置１６００に表示されている非当選時態様を非表示にする。
【５１８９】
　本例では、図３５０（Ａ）～（Ｄ）に示すように、第２特定演出が開始された後（Ａ）、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作された場合には（Ｂ）、演出表示装置１６００に非当選時態様１６００ａとして泣き顔のキャラクタと文字「残念！はずれ」を表示する。また、押圧操作部３０３が押圧操作された状態で予め設定されている期間Ｔ１が経過すると演出表示装置１６００に表示されている非当選時態様１６００ａを非

表示にし（Ｃ）、第２特定演出を終了するようになっている（Ｄ）。このように、第２特定演出中に押圧操作部３０３が押圧操作された場合には非当選時態様１６００ａを表示するため、大当りの可能性を有していないことを遊技者に容易に認識させることができる。また、押圧操作部３０３が押圧操作された状態で予め設定されている期間Ｔ１が経過したときに演出表示装置１６００から非当選時態様１６００ａの表示を消失させるため、押圧操作部３０３を押圧操作したことに基づいて非当選時態様１６００ａが表示されたことで落胆し、押圧操作部３０３の押圧操作を解除できない遊技者に配慮した演出を実行することができ、遊技興趣を過度に低下させない。なお、演出表示装置１６００から非当選時態様１６００ａの表示を消失させた後、第２特定演出の実行中に再び押圧操作部３０３が押圧操作された場合には再び演出表示装置１６００に非当選時態様１６００ａを表示するようにしてもよく、これにより再び表示される非当選時態様１６００ａを視認させて大当りの可能性を有していないことを再確認させることができるようになる。

【５１９０】

また、図３４９（Ｂ）に示すように大当りの可能性を有しない第２特定演出中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されたことに基づいて演出表示装置１６００に非当選時態様を表示し（ｔ１）、その後に押圧操作部３０３の押圧操作が解除された状態と押圧操作された状態とに短期間（少なくともＴ１よりも短い期間）で繰り返し変化している場合には（ｔ１～ｔ３'）、押圧操作部３０３の押圧操作が開始されてから予め設定されている期間Ｔ１が経過したときに押圧操作部３０３の押圧操作が解除されている場合であっても演出表示装置１６００に表示される非当選時態様を非表示にすることなく、継続して表示するようになっている（ｔ２）。つまり、押圧操作部３０３の押圧操作が開始されてから（ｔ１）、期間Ｔ１が経過しても演出表示装置１６００に表示される非当選時態様を非表示にすることなく表示を継続し（ｔ２）、押圧操作部３０３が押圧操作されてから（ｔ３'）、予め設定されている期間Ｔ１が経過したことに基づいて演出表示装置１６００に表示されている非当選時態様を非表示にする（非当選時態様の表示を消失させる）ようになっている（ｔ４）。

【５１９１】

つまり、図３５０（Ｂ）で押圧操作部３０３が押圧操作されたことに基づいて演出表示装置１６００に非当選時態様１６００ａを表示し、その後に押圧操作部３０３が連打された場合等の押圧操作部３０３の押圧操作が解除された状態と押圧操作された状態とに短期間（少なくともＴ１よりも短い期間）で繰り返し変化している場合には、図３５０（Ｃ）で押圧操作部３０３の押圧操作が解除されていても演出表示装置１６００に表示されている非当選時態様１６００ａを非表示にすることなく表示を継続し、押圧操作部３０３が押圧操作されてから予め設定されている期間Ｔ１が経過するまでに再び押圧操作部３０３が押圧操作されなければ演出表示装置１６００に表示されている非当選時態様１６００ａを非表示にする（非当選時態様の表示を消失させる）。このように、第２特定演出中に押圧操作部３０３が押圧操作された場合に非当選時態様１６００ａを表示し、その後に押圧操作部３０３が連打されている場合等には押圧操作部３０３が連打されている期間が予め設定されている期間Ｔ１よりも長い場合であっても演出表示装置１６００に表示されている非当選時態様１６００ａを非表示にすることなく表示を継続するため、非当選時態様１６００ａが表示されたことで憤慨して押圧操作部３０３を殴打している遊技者に対して警告を与えることができ、押圧操作部３００を保護して故障や破壊されることを抑制できる。

【５１９２】

また、第２特定演出中に押圧操作部３０３が押圧操作されたことに基づいて演出表示装置１６００に非当選時態様１６００ａを表示し、その後に押圧操作部３０３が連打された場合等の押圧操作部３０３の押圧操作が解除された状態と押圧操作された状態とに短期間（少なくともＴ１よりも短い期間）で繰り返し変化している場合には、演出表示装置１６００に表示される非当選時態様１６００ａを変化させる。例えば、押圧操作部３０３を所定回数（１回でもよいし２回以上でもよい）押圧操作する毎に非当選時態様１６００ａとして表示されるキャラクタの顔を変化させたり（例えば泣いた顔から徐々に怒った顔に変

化させたり）、非当選時態様１６００ａとして表示される文字を変化させたり（例えば「残念！はずれ」から「はずれだって」、「叩いても変わらないよ」等と変化させたり）、押圧操作部３０３を所定回数（１回でもよいし、複数回でもよい）押圧操作する毎に非当選時態様１６００ａを演出表示装置１６００に表示される状態と演出表示装置１６００から非表示とされる状態とに切り替えたり（演出表示装置１６００に非当選時態様１６００ａが表示される状態から非表示とされる状態に切り替える場合の押圧操作部３０３の操作回数Ａと、演出表示装置１６００から非当選時態様１６００ａが非表示とされる状態から表示される状態に切り替える場合の押圧操作部３０３の操作回数Ｂと、を異ならせるようにしてもよい（例えばＡは１回、Ｂは２回）。）、押圧操作部３０３を所定回数（１回でもよいし、複数回でもよい）押圧操作する毎に非当選時態様１６００ａが演出表示装置１６００に表示される状態と非当選時態様１６００ａとは異なる非当選時特別態様（例えばキャラクタ等の表示）が演出表示装置１６００に表示される状態とに切り替えるようにしてもよい（演出表示装置１６００に非当選時態様１６００ａが表示される状態から非当選時特別態様が表示とされる状態に切り替える場合の押圧操作部３０３の操作回数Ａ'と、演出表示装置１６００から非当選時特別態様が表示される状態から非当選時態様１６００ａが表示される状態に切り替える場合の押圧操作部３０３の操作回数Ｂと、を異ならせるようにしてもよい（例えばＡは１回、Ｂは２回）。）。これにより、押圧操作部３０３を連打している回数に応じて警告の度合いを変化させたり、非当選時態様１６００を表示させたり消失させたりして非当選時態様１６００ａを強調することで遊技者に警告を与えることができるため、押圧操作部３０３を保護して故障や破壊されることを抑制できる。なお、演出表示装置１６００から非当選時態様１６００ａの表示を消失させた後、第２特定演出の実行中に再び押圧操作部３０３が押圧操作された場合には再び演出表示装置１６００に非当選時態様１６００ａを表示するようにしてもよく、これにより大当りの可能性を有していないことを再確認させることができるようになるし、非当選時態様１６００ａの表示が消失した後に再び押圧操作部３０３を連打している遊技者に対して警告を行うことができるようになり、押圧操作部３０３を保護して故障や破壊されることを抑制できる。

【５１９３】

一方、第２特定演出中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されたことに基づいて演出表示装置１６００に非当選時態様を表示し（ｔ１）、その後に押圧操作部３０３の押圧操作が解除されることなく一定期間（例えば期間Ｔ１よりも長い期間）に亘って継続して押圧操作されている場合には、演出表示装置１６００に表示される非当選時態様１６００ａを変化させることなしに、押圧操作部３０３の押圧操作が開始されてから予め設定されている期間Ｔ１が経過したことに基づいて演出表示装置１６００に表示されている非当選時態様を非表示にする（非当選時態様の表示を消失させる）。このように、押圧操作部３０３の故障や破壊のおそれがない場合には遊技者に警告を与えないようにして遊技者に不快感を与えたり、落胆している遊技者にさらなるダメージを与えたりすることを抑制できるようになっている。

【５１９４】

また、図３４９（Ｃ）に示すように大当りの可能性を有する第１特定演出中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作された場合には（ｔ１）、押圧操作部３０３の押圧操作タイミングにかかわらず演出表示装置１６００に非当選時態様を表示しないようになっている。そのため、非当選時態様が表示されないことにより遊技者は大当りの可能性を有する第１特定演出が実行されていることを認識できるようになり、大当りに期待させて第１特定演出に注目させることができ、遊技興趣の低下を抑止可能である。

【５１９５】

つまり、図３５０（Ａ'）～（Ｄ'）に示すように大当りの可能性を有する第１特定演出中には（Ａ'）、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作された場合であっても演出表示装置１６００に非当選時態様を表示しないようになっている（Ｂ'）～（Ｄ'）。また、押圧操作部３０３の押圧操作タイミングにかかわらず演出表示装置１６００に非当選時態様を表示しないため、大当りの可能性を有する第１特定演出が実行されて

いることを確実に認識させることができ、大当りに期待させて演出表示装置１６００に表示される第１特定演出に注目させることができ、遊技興趣の低下を抑止可能である。なお、第１特定演出の実行中の予め設定されている期間に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作された場合に非当選時態様とは異なる当選示唆態様（当りであること又は当りである可能性を有することを示唆する態様）を表示するようにしてもよい。これにより、当選示唆態様を視認させて大当りの可能性を有する第１特定演出が実行されていることを認識させることができるため、大当りに期待させて演出表示装置１６００に表示される第１特定演出に注目させることができ、遊技興趣の低下を抑止可能である。

【５１９６】

また、図３５０（Ａ'）～（Ｄ'）には第１特定演出を実行して大当りとなる例を示したが、はずれとなる場合にも第１特定演出は実行されるものである。つまり、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作された場合に演出表示装置１６００に非当選時態様が表示されないことで大当たりの可能性を有する第１特定演出が実行されていても、大当りとなるかはずれとなるかの判別はできない。そのため、第１特定演出が実行されていることを認識した遊技者が実行中の第１特定演出に対する興味を失うことを抑止でき、結果（大当り図柄の停止、又ははずれ図柄の停止）が導出されるまで演出表示装置１６００に表示される第１特定演出に注目させて遊技興趣の低下を抑止できる。

【５１９７】

また、本例では主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから変動パターンコマンドを受信したことを契機として第１特定演出や第２特定演出を実行するように構成したが、これに限らず主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから送信される特定の制御コマンドを受信したことを契機として第１特定演出や第２特定演出（一方のみでもよい）を実行するようにしてもよい。例えば主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから始動口入賞コマンドを受信してからの経過期間（主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから始動口入賞コマンドを受信してからの経過期間をタイマによって計測する）や、停止表示コマンドを受信してからの経過期間（主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから停止表示コマンドを受信してからの経過期間をタイマによって計測する）等に応じて第１特定演出や第２特定演出（一方のみでもよい）を実行するか否かを判断するようにしてもよい。この場合には第１特定演出や第２特定演出（一方のみでもよい）の開始タイミングを変化させることができ、遊技者を飽きさせないようにすることができる。

【５１９８】

また、演出表示装置１６００に非当選時態様が表示されている場合に、上記した押圧操作部３０３の押圧操作とは別の操作を行うことにより演出表示装置１６００に表示されている非当選時態様を非表示にする（非当選時態様の表示を消失させる）ようにしてもよい。すなわち、上記第２特定演出中に演出操作ユニット３００に対して第１操作（本例では押圧操作部３０３の押圧操作）が行われたことに基づいて演出表示装置１６００に非当選時態様を表示し、演出表示装置１６００に非当選時態様が表示されている状態で演出操作ユニット３００に対して第２操作（例えば接触操作部３０２に対する所定操作や、接触操作部３０２に対する第１終了操作と押圧操作部３０３に対する第２終了操作等）が行われたことに基づいて演出表示装置１６００に表示されている非当選時態様を非表示にする（非当選時態様の表示を消失させる）ようにしてもよい。これにより、非当選時態様が表示されたことにより不快に感じている遊技者に配慮した演出を実行することが可能になり、遊技興趣を過度に低下させない。

【５１９９】

なお、演出操作ユニット３００とは異なる所定の操作部（例えばハンドル１９５、音量調節ボタン２２７、光量調節ボタン２２８等のいずれか１つ又は任意の複数（全部でもよい）の組み合わせ）が操作された場合には、第２特定演出中だけでなく第１特定演出中にも演出表示装置１６００に非当選時態様とは異なる態様であって大当りの可能性の有無を判別困難な特殊態様を表示するようにしてもよい。この場合には、第１特定演出が実行されているにもかかわらず演出表示装置１６００に特殊態様が表示されたことによって遊技

者を落胆させるものの、非当選時態様ではないことに気付いた場合には大当りに対する期待を一気に高めることができるし、非当選時態様ではないことに気付かずに大当りとなった場合には予期しないことが突然起こったことにより遊技興趣を向上させることができるようになる。また、この場合には所定の操作部の操作に応じて特殊態様を変化させるようにしてもよく、特殊態様の変化によって非当選時態様とは異なることを示唆するようにしてもよい。

【５２００】

また、上記した第２特定演出は大当りの可能性を有しない演出であるため、実行された場合に遊技者を落胆させて遊技興趣を低下させるおそれがある。そのため、本例では所定の条件が成立した場合にのみ第２特定演出を実行するようにし、遊技興趣が過度に低下することを抑制するようになっている。具体的には、大当りとならない場合であってハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を検知しなくなってからの期間が所定期間（例えば３０秒）に達しているときに第２特定演出を実行可能になっている。これにより遊技球の発射を停止させる所謂止め打ちを防止でき、遊技機の稼働率を向上させることができる。なお、上記した条件に替えて、又は上記した条件と別に、大当りとならない場合であってハンドル回転検知センサ１８９による回転を検知しなくなってからの期間が所定期間に達しているときや、大当りとならない場合であって停止表示コマンドを受信してからの期間が所定期間に達しているとき、第一特別図柄及び第二特別図柄の保留数（第一保留記憶数、第二保留記憶数）が０のとき、等に第２特定演出を実行するようにしてもよい。この場合にも止め打ちを防止でき、遊技機の稼働率を向上させることができる。

【５２０１】

なお、上記した第２特定演出及び非当選時態様は一例であり、上記したものに限定されるものではない。例えば第２特定演出として遊技機やキャラクタの紹介等を行うもの等の図柄の変動表示とは無関係の態様を表示するものであってもよいし、非当選時態様として大当りとならないことを通知するものに限らず、図柄の変動表示とは無関係の態様（例えば設定用の表示等）を演出表示装置１６００に表示するものであってもよい。

【５２０２】

また上記した大当りの可能性を有する第１特定演出と大当りの可能性を有しない第２特定演出とは、演出表示装置１６００の表示態様やスピーカ１２２の音出力態様、遊技盤５や扉枠３に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤの発光態様等のうちの一部又は全部の態様（例えば虹色発光、虹色演出表示態様、等）が同一又は類似するものであってもよいし、第１特定演出と第２特定演出とを異なる態様とするものであってもよい。また、第１特定演出と第２特定演出との一方又は両方は、変動演出が行われている期間に行われるものに限らず、変動演出が行われていない期間に行われるものであってもよく、例えば上記した先読み予告等の演出として実行するものであってもよい。これにより演出のバリエーションが増大し、遊技興趣を向上させることができるようになる。

【５２０３】

また、演出表示装置１６００とは別に画像を表示可能な補助表示装置を備える遊技機においては、第２特定演出中に押圧操作部３０３が押圧操作されたことに基づいて補助表示装置に非当選時態様を表示するようにしてもよいし、演出操作ユニット３００とは異なる所定の操作部が操作されたことに基づいて補助表示装置に特殊態様を表示するようにしてもよい。この場合には、演出表示装置１６００で実行される第２特定演出の視認を妨げることなしに非当選時態様や特殊態様を表示することが可能になる。

【５２０４】

また、第２特定演出中に押圧操作部３０３が押圧操作されたことに基づいて演出表示装置１６００に非当選時態様を表示する場合には、第２特定演出を中断（実行途中で終了させる）するようにしてもよい。この場合には演出表示装置１６００に表示されている第２特定演出に替えて非当選時態様を表示させることができるようになるため、演出表示装置１６００に表示される非当選時態様の視認が容易になり、非当選時態様が表示された場合に直ぐに気付かせることができるようになる。また、非当選時態様を表示するときに特定

演出を中断させた後（ｔ１）、非当選時態様の表示を消失させたことに基づいて第２特定演出を開始するようにしてもよいし（図３４９（Ａ）のｔ２、図３４９（Ｂ）のｔ４）、非当選時態様を表示するときに特定演出を中断させた後（ｔ１）、非当選時態様の表示を消失させた後には第２特定演出とは別の演出（変動開始待ち表示と同様に特別な演出を実行しないものであってもよい）を行い、非当選時態様の表示を消失させてから又は押圧操作部３０３を最後に操作してから所定期間が経過したときに第２特定演出を開始するようにしてもよい（例えば図３４９（Ａ）のｔ２＋ｎ秒（例えばｎ＝３０）又は図３４９（Ａ）のｔ１＋Ｔ１＋ｎ秒（例えばＴ１＋ｎ＝３０）、図３４９（Ｂ）のｔ４＋ｎ秒（例えばｎ＝３０）又は図３４９（Ｂ）のｔ３'＋Ｔ１＋ｎ秒（例えばｎ＝３０））。なお、第２特定演出中に演出操作ユニット３００とは異なる所定の操作部が操作されたことに基づいて演出表示装置１６００に特殊態様を表示する場合には、第２特定演出を中断することなしに継続するようにしてもよい。これにより、特殊態様が表示されたこと、つまり非当選時態様ではないことを遊技者に気付かせることができるようになる。

【５２０５】

また、演出表示装置１６００に表示される第１特定演出及び第２特定演出では図柄の変動表示等が行われ、時間の経過に伴って表示態様を変化させる。一方、演出表示装置１６００に表示される非当選時態様は時間の経過に伴って表示態様を変化させるものではなく、演出操作ユニット３００の操作に応じて表示態様を変化させるものである。つまり、第１特定演出及び第２特定演出として動画を表示し、非当選時態様として静止画を表示するようになっている。そのため、第２特定演出中に押圧操作部３０３が押圧操作されたことに基づいて演出表示装置１６００に表示されている第２特定演出に替えて非当選時態様を表示させる場合には、演出表示装置１６００に動画を表示している状態から静止画を表示する状態へとする。このように演出表示装置１６００に動画を表示している状態から静止画を表示する状態へと表示態様を大きく変化させることにより当選時態様が表示されたことを気付かせやすくなる。なお、非当選時態様を終了させて演出表示装置１６００に非当選時態様を表示している状態において、少なくとも非当選時態様が静止画として表示されるものであればよく、非当選時態様の下位レイヤに表示される背景表示等の一部については時間の経過に伴って表示態様を変化させるものであってもよい。

【５２０６】

また、上記した例では第２特定演出中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３００が押圧操作された場合に演出表示装置１６００に非当選時態様１６００ａを表示し、押圧操作部３０３が一定期間に亘って継続して押圧操作された場合には押圧操作部３０３の押圧操作部３０３の押圧操作中であっても押圧操作部３０３が操作されてから予め設定されている期間Ｔ１が経過したことに基づいて非当選時態様を非表示にし、押圧操作部３０３が押圧操作された状態と押圧操作が解除された状態とに繰り返し変化されている場合には押圧操作部３０３が押圧操作されてから予め設定されている期間Ｔ１が経過するまでに再び押圧操作部３０３が押圧操作されなければ（押圧操作部３０３が最後に操作されてから予め設定されている期間Ｔ１が経過したことに基づいて）非当選時態様を非表示にするものを示したが、演出表示装置１６００に非当選時態様１６００ａを表示した後に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が一定期間に亘って継続して押圧操作されている場合には、非当選時態様１６００ａを継続して表示するものの押圧操作部３０３が操作されてから予め設定されている期間Ｔ１が経過したことに基づいて所定の表示や所定の演出を実行し、演出表示装置１６００に非当選時態様１６００ａを表示した後に押圧操作部３０３が押圧操作された状態と押圧操作が解除された状態とに繰り返し変化されている場合には押圧操作部３０３が押圧操作されてから予め設定されている期間Ｔ１が経過するまでに再び押圧操作部３０３が押圧操作されなければ所定の表示や所定の演出を実行するものであってもよい。

【５２０７】

例えば、上記特定演出の開始遅延と同様に、所定の表示演出中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３００が押圧操作された場合に所定の表示演出を継続して第２特定演出の

開始を遅延させるものの、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が一定期間に亘って継続して押圧操作されている場合には押圧操作部３０３の押圧操作中であっても押圧操作部３０３が操作されてから予め設定されている期間Ｔ１が経過したことに基づいて所定の表示演出を終了して特定演出を開始させ、押圧操作部３０３が押圧操作された状態と押圧操作が解除された状態とに繰り返し変化している場合には押圧操作部３０３が押圧操作されてから予め設定されている期間Ｔ１が経過するまでに再び押圧操作部３０３が押圧操作されなければ所定の表示演出を終了して特定演出を開始させるようにしてもよい。この場合には、演出操作ユニット３００の押圧操作部３００が押圧操作された場合に演出表示装置１６００に上記非当選時態様１６００ａを表示するようにしてもよいし、これに加えてさらに上記［ボタンの操作態様と表示態様］において説明した、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を一定期間に亘って継続して押圧操作させた場合と、短時間で押圧操作させた状態と押圧操作されていない状態とに変化させる場合と、によって非当選時態様１６００ａの表示終了時期を異ならせる制御や、該制御に関連した制御（例えば押圧操作部３０３等の操作によって非当選時態様１６００ａの態様を変化させる制御等）を実行するようにしてもよい。また、所定の表示演出として図柄の変動演出に限らず、変動表示開始待ちの待機表示等の表示であってもよい。

【５２０８】

また、上記した例では演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を一定期間に亘って継続して押圧操作させた場合と、短時間で押圧操作させた状態と押圧操作されていない状態とに変化させる場合と、によって所定の表示（例えば非当選時態様１６００ａ）や所定の演出（例えば第２特定演出）の終了時期や開始時期を異ならせるものを示したが、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を押圧操作した場合に限らず、演出操作ユニット３００の接触操作部３０２を一定期間に亘って継続して接触操作した場合と、短時間で接触操作された状態と接触操作されていない状態とに変化させる場合と、で所定の表示（例えば非当選時態様１６００ａ）や所定の演出（例えば第２特定演出）の終了時期や開始時期を異ならせるようにしてもよいし、ハンドルタッチセンサ１９２に一定期間に亘って継続して接触している場合と、短時間で接触している状態と接触していない状態とに変化させる場合と、で所定の表示（例えば非当選時態様１６００ａ）や所定の演出（例えば第２特定演出）の終了時期や開始時期を異ならせるようにしてもよい。

【５２０９】

［特定の異常状態］

次に大当りの可能性を有する第１特定演出や大当りの可能性を有しない第２特定演出の実行中に特定の異常状態が発生した場合の変形例について説明する。図３５１（Ａ）は、第２特定演出中の演出態様の一例を示すタイミングチャートであり、図３５１（Ｂ）は、第１特定演出中の演出態様の一例を示すタイミングチャートであり、図３５２（Ｃ）は、第２特定演出中の演出態様の変形例の一例を示すタイミングチャートである。なお、以下では上記実施形態と異なる部分についてのみ説明し、重複した説明を行わない。また、以下の変形例は上記した実施例と組み合わせて実行されるものであってもよく、例えば上記実施例において大当りの可能性を有する特定演出を以下の第１特定演出とし、上記実施例において大当りの可能性を有しない特定演出を以下の第２特定演出として実行するものであってもよいし、上記実施例の特定演出とは別の演出として実行されるものであってもよい。

【５２１０】

上記したように本例のパチンコ機１は、異常状態（扉枠開放スイッチが本体枠４に対して扉枠３が開放されたことや本体枠開放スイッチが外枠２に対して本体枠４が開放されたことを検出した扉開放異常状態、振動センサが所定期間（例えば３０秒）継続して遊技盤５の振動を検出した振動検知異常状態、満タン検知センサ１５４からの検出信号が入力された下皿満タン異常状態、球切検知センサ５７４からの検出信号が入力された球切異常状態、電波センサが不正な電波を検出した電波検出異常状態、磁気センサ１０５０が遊技領域５ａ内において不正に作用する磁気を検出した磁気検出異常状態、第二始動口２００４

が開放していない場合に第二始動口センサ２４０１からの検出信号が入力されたり、大当り遊技状態や小当り遊技状態でない場合に大入賞口センサ２４０２からの検出信号が入力された不正入賞検出異常状態など）が発生すると、演出表示装置１６００に異常報知表示態様（異常の内容を示す文字情報（例えば「扉開放中」等）など）を表示したり、各種スピーカ６２２から報知音を出力したり、扉枠側に設けられる各種装飾基板（本例では扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）、分割遊技盤５Ａの場合には右側遊技盤５ＡＲに設けられる各種装飾基板を含む）に実装される各種ＬＥＤを異常報知発光態様で発光したり、遊技盤側に設けられる各種装飾基板（本例では遊技盤５に設けられる装飾基板（機能表示基板１４０２は装飾を行うものではないため装飾基板には含まれない）のうちの裏後上第一装飾部３２１１を発光装飾させるためのＬＥＤが実装される裏後上第一装飾基板や裏後上第二装飾部３２１２を発光装飾するＬＥＤが実装される裏後上第二装飾基板（一方のみでもよい）を除く装飾基板、分割遊技盤５Ａの場合には左側遊技盤５ＡＬに設けられる装飾基板のうちの裏後上第一装飾部３２１１を発光装飾させるためのＬＥＤが実装される裏後上第一装飾基板や裏後上第二装飾部３２１２を発光装飾するＬＥＤが実装される裏後上第二装飾基板（一方のみでもよい）を除く装飾基板）に実装される各種ＬＥＤを消灯させたりすることにより、異常状態の発生を報知するようになっている。なお、遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤについても異常報知発光態様で発光させるものであってもよい。つまり、異常状態が発生した場合には、扉枠側に設けられる各種装飾基板と遊技盤側に設けられる各種装飾基板とに実装される各種ＬＥＤを、異常時の発光態様（異常報知発光態様）として消灯を含む発光態様のうち予め設定されている発光態様に制御するものであればよい。

【５２１１】

また、第２特定演出は上記した異常状態のうちの特定の異常状態（本例では扉開放異常状態を示すが、上記複数の異常状態の全てでもよいし、上記複数の異常状態のうちの１つまたは任意の複数の組み合わせであってもよい）が発生している場合には一部の機能を制限した状態で実行可能とされ、例えば演出表示装置１６００において第２特定演出の実行中に特定の異常状態が発生すると演出表示装置１６００の最上位レイヤ（トップレイヤ）に異常報知表示態様が表示されるものの、演出表示装置１６００における異常報知表示態様の下位レイヤには第２特定演出が継続して表示されるようになっている。つまり、演出表示装置１６００において第２特定演出を表示する領域と特定の異常状態が発生したことに基づいて異常報知表示態様を表示する領域とは重複し、異常報知表示態様を最上位レイヤに表示して第２特定演出を異常報知表示態様よりも下位のレイヤに表示することにより第２特定演出の表示と異常報知表示態様の表示とを同時に行うようになっている。

【５２１２】

本例では第１特定演出や第２特定演出の実行中に上記特定の異常状態が発生した場合には、扉枠側に設けられる各種装飾基板と遊技盤側に設けられる各種装飾基板とに実装される各種ＬＥＤに実装される各種ＬＥＤと（全部でもよいし一部でもよい）を第１特定演出に応じた発光態様（第１特定発光態様）や第２特定演出に応じた発光態様（第２特定発光態様）を中断し、扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤを異常報知発光態様で発光させ、遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤを消灯させる。そして、異常状態が解消したこと（本例では扉枠開放スイッチが本体枠４に対して扉枠３が閉鎖されたことや本体枠開放スイッチが外枠２に対して本体枠４が閉鎖されたことを検出したこと）に基づいて扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの異常報知発光態様での発光を終了させるとともに、遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの消灯を終了させ、第１特定演出の実行中であれば第１特定演出に応じた発光態様（第１特定発光態様）での発光を再開させ、第２特定演出の実行中であれば第２特定演出に応じた発光態様（第２特定発光態様）での発光を再開させる。

【５２１３】

なお、異常状態が解消したことに基づいて第１特定演出に応じた発光態様（第１特定発

光態様）や第２特定演出に応じた発光態様（第２特定発光態様）での発光を再開させる場合には中断時の発光態様からではなく、第１特定演出及び第２特定演出を開始してからの経過時間に応じた発光態様で発光させるようになっている。つまり、第１特定演出に応じた発光態様（第１特定発光態様）や第２特定演出に応じた発光態様（第２特定発光態様）を開始するときにタイマの計測を開始してタイマに応じた発光態様で発光させ、第１特定演出に応じた発光態様（第１特定発光態様）や第２特定演出に応じた発光態様（第２特定発光態様）での発光を中断してから再開するまでの間にもタイマの計測を中断することなしに継続し、第１特定演出に応じた発光態様（第１特定発光態様）や第２特定演出に応じた発光態様（第２特定発光態様）を開始するときにはタイマに応じた発光態様で発光を再開させるようになっている。

【５２１４】

また、本例では上記特定の異常状態の解消後にも一定期間（例えば３０秒）は、扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤを異常報知発光態様で発光させ、遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤを消灯させる。つまり、上記特定の異常状態が解消してから一定期間が経過すると第１特定演出の実行中であれば第１特定演出に応じた発光態様（第１特定発光態様）での発光を再開させ、第２特定演出の実行中であれば第２特定演出に応じた発光態様（第２特定発光態様）での発光を再開させるようになっている。一方、演出表示装置１６００に表示される異常報知表示態様は上記特定の異常状態が解消したときに非表示とされる。これにより、演出表示装置１６００に表示される異常報知表示態様によって特定の異常状態の発生状況をリアルタイムに把握することができることに加え、特定の異常状態が解消した後にも扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの異常報知発光態様によって一定期間に亘って特定の異常状態が発生していたことを把握することができるようになり、不正行為が行われている場合や不正行為が行われていた場合にその発見を容易にして不正行為の発生を抑止することができるようになる。

【５２１５】

また、本例では大当りの可能性を有しない第２特定演出中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作された場合に、第２特定演出に応じた発光態様（第２特定発光態様）で発光される扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとの発光態様を変更するようになっている。具体的には、第２特定演出中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作された場合には、扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとによる第２特定演出に応じた発光態様（第２特定発光態様）を終了し、第２特定演出に応じた発光態様（第２特定発光態様）とは異なる特別発光態様に発光させる。本例では、特別発光態様として扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとを白色に発光させる。

【５２１６】

ここで扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとによる発光は遊技者の目に入りやすくパチンコ機１の広範囲で行われて目立つものである。そのため、大当りの可能性を有しない第２特定演出に応じた発光態様（第２特定発光態様）で扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとが発光されている場合には遊技者の目に入り、不快に感じるおそれがある。そこで、本例のパチンコ機１では第２特定演出に応じた発光態様（第２特定発光態様）で扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとが発光されている場合には遊技者の操作に応じて終了させることを可能にして不快な発光が継続されることを抑止し、遊技興趣の低下を抑止できるようになっている。

【５２１７】

なお、特別発光態様は第２特定発光態様と異なる発光態様であれば上記したものに限定されるものではないし、また扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとを異なる発光色とするものであってもよいし、扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとの一方を所定色で発光させて他方を消灯させるものであってもよい。

【５２１８】

また、本例では大当りの可能性を有しない第２特定演出中に発生した特定の異常状態としての扉開放異常状態中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作された場合にも扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとの発光態様を変更することが可能になっている。具体的には、図３５１（Ａ）に示すように、大当りの可能性を有しない第２特定演出を開始してから（ｔｓ）、第２特定演出を終了するまで（ｔｅ）の所定のタイミング（ｔ１）で扉枠開放スイッチが本体枠４に対して扉枠３が開放されたことや本体枠開放スイッチが外枠２に対して本体枠４が開放されたことを検出した扉開放異常状態が発生すると、演出表示装置１６００に表示されている第２特定演出を継続しつつ扉開放異常報知表示態様としての「扉開放中」を表示し、扉枠側に設けられる各種装飾基板と遊技盤側に設けられる各種装飾基板とに実装される各種ＬＥＤによる第２特定演出に応じた発光態様（第２特定発光態様）での発光を終了させて（ｔ１）、扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤを異常報知発光態様で発光させ、遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤを消灯させる。

【５２１９】

また、図示しないが扉開放異常状態では扉開放報知音（「扉が開いています。」というアナウンス音声及び「キンコーン」等の警告音）を予め決められている音量（設定可能な最大の音量でもよいし、周辺制御基板１５１０に備える音量調整スイッチにより調整されるデフォルト音量でもよい。）で各種スピーカから繰り返し出力させ、所定期間（例えば３０秒）に亘って出力するか、又は外枠２に対して開放されていた本体枠４を閉じると出力を停止させる（なお、外枠２に対して本体枠４を継続して開放させていたり本体枠４に対して扉枠３を継続して開放させていても一定回数（例えば５回）繰り返し出力したときに出力を停止するものであってもよいし、外枠２に対して開放されている本体枠４や本体枠４に対して開放されている扉枠３を閉じるまで出力を継続させるものであってもよいし、外枠２に対して開放されている本体枠４や本体枠４に対して開放されている扉枠３を閉じてから所定期間（例えば３０秒）が経過するまで出力を継続させるものであってもよい。）するようになっている。

【５２２０】

そして、扉開放異常状態中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作された場合には（ｔ２）、扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとの発光態様を変更しないものの、扉開放異常状態が解消したことに基づいて扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤによる異常報知発光態様での発光と遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤによる消灯とを終了させた後には（ｔ４）、第２特定演出に応じた発光態様（第２特定発光態様）とは異なる特別発光態様に発光させるようになっている。

【５２２１】

このように、本例では大当りの可能性を有しない第２特定演出中に特定の異常状態としての扉開放異常状態が発生して扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤを異常報知発光態様で発光させるとともに遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤを消灯させている場合に、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を押圧操作することにより、扉開放異常状態が解消して扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの異常報知発光態様での発光と遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの消灯とを終了させた後に第２特定演出に応じた発光態様（第２特

定発光態様）で発光させずに特別発光態様で発光させるようになっている。そのため、大当りの可能性を有しない第２特定演出に応じた発光態様（第２特定発光態様）での発光が継続されることを望まない遊技者に対して特定の異常状態としての扉開放異常状態中であっても演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を押圧操作して発光態様を変更させることを可能にし、第２特定演出に応じた発光態様（第２特定発光態様）での発光を終了させることができる期間を制限しないようにできるため、遊技者に不安を与えたり、不快に感じさせることを抑制することができる。

【５２２２】

また、図３５２（Ｃ）に示すように、第２特定演出中に発生した上記特定の異常状態中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作された場合には（ｔ２）、演出表示装置１６００で実行されている第２特定演出の表示を終了し、特別演出の表示を開始するようにしてもよい。この場合には、扉開放異常状態が解消して扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの異常報知発光態様での発光と遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの消灯とを終了させるときに特別演出の表示を実行していれば、扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとを特別発光態様で発光させ、第２特定演出の表示を実行していれば扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとを第２特定演出に応じた発光態様（第２特定発光態様）で発光させ、第１特定演出の表示を実行していれば扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとを第１特定演出に応じた発光態様（第１特定発光態様）で発光させ、待機中等のその他の表示を実行していればその他の状態に応じた発光態様（消灯でもよい）で発光させるようにしてもよい。

【５２２３】

なお、特別演出は演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されてから所定期間（例えば３０秒）が経過したときに終了するようにしてもよく、この場合には特別演出の終了後に再び第２特定演出を実行するようにしてもよいし、特別演出の終了後に他の演出（変動開始待ち表示と同様に特別な演出を実行しないものであってもよい）を実行しその後に所定の演出条件が成立したことに基づいて第２特定演出を再び実行するようにしてもよい。つまり、特別演出の実行中には第２特定演出が実行されないようにし、特別演出の終了後に第２特定演出を実行し得るようにしてもよいし、特別演出の終了後に所定の演出条件が成立したことに基づいて第２特定演出を再び実行するようにしてもよい。また、第２特定演出の実行中に再び押圧操作部３０３が押圧操作された場合には再び特別演出を実行して扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとを特別発光態様で発光させるようにしてもよく、これにより第２特定演出の継続を望まない遊技者や第２特定演出に応じた発光態様（第２特定発光態様）での発光の継続を望まない遊技者に演出の変更や発光態様の変更する機会を与えて遊技興趣の低下を抑止できるようになる。また、扉開放異常状態が解消して扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの異常報知発光態様での発光と遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの消灯とを終了させるときに特別演出の表示を実行していることに基づいて扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとを特別発光態様で発光させた後、特別演出が終了して第２特定演出が開始された場合には扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとを第２特定演出に応じた発光態様（第２特定発光態様）で発光させるようにしてもよいし、扉開放異常状態が解消して扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの異常報知発光態様での発光と遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの消灯とを終了させるときに第２特定演出が実行されている場合には扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとを第２特定演出に応じた発光態様（第２特定発光

態様）で発光させるようにしてもよい。この場合にも再び押圧操作部３０３を押圧操作することにより第２特定演出を終了させて特別演出を実行可能にし、扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとの第２特定演出に応じた発光態様（第２特定発光態様）を終了して特別発光態様で発光させるようにしてもよい。また、特別演出中に演出操作ユニット３００が終了操作された場合に特別演出を終了させることを可能にし、演出操作ユニット３００を終了操作とは異なる態様で操作した場合には特別演出を終了させるまでの期間の延長、換言すると第２特定演出が開始される時期を遅延させるようにしてもよく、この場合には特別演出中に演出操作ユニット３００を終了操作とは異なる態様で操作することにより第２特定演出に応じた発光態様（第２特定発光態様）での発光が開始される時期を遅延させることができるようになる。

【５２２４】

また、第２特定演出中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作された場合には演出表示装置１６００に文字や記号などの文字情報を表示するようにしてもよい。例えば、上記した大当りの可能性を有しない非当選時態様や、演出表示装置１６００に特別表示態様として第２特定演出を継続していること、押圧操作部３０３の押圧操作に基づいて第２特定演出を終了させる場合には第２特定演出を終了させたこと、第２特定演出に替えて特別演出を実行していること、等を表示するようにしてもよい。これにより、第２特定演出を実行していること、大当りの可能性を有しないこと、第２特定演出を終了させたこと、等を遊技者に容易に認識させることができるようになる。また、演出操作ユニット３００の操作に応じて演出表示装置１６００に表示されている文字情報の一部を変化させるようにしてもよい。これにより、第２特定演出が終了するまでの暇つぶしが可能になるし、演出操作ユニット３００を終了操作とは異なる態様で操作したことに基づいて特別演出を終了させるまでの期間を延長させる場合には特別演出を終了させるまでの期間を延長させたこと、換言すると第２特定演出が開始される時期が確実に遅延されていることを認識できるようになり、遊技者に安心感を与えて遊技興趣の低下を抑止できるようになる。

【５２２５】

また、特別演出として遊技者に有益な演出を実行するようにしてもよい。すなわち、第２特定演出は大当りの可能性を有しないことで遊技者にとって無益な演出であり、遊技者を落胆させたり不快にさせるものでしかないため、押圧操作部３０３が押圧操作された場合に終了させることを可能にする一方で、押圧操作部３０３が押圧操作された場合に第２特定演出に替えて実行される特別演出では、遊技者好みに遊技をカスタマイズしたり、遊技を楽しむことができるような遊技者にとって有益な演出を実行するようにしてもよい。例えば、特別演出としてキャラクタの紹介や、リーチ演出の紹介、当選確率の報知、音量の設定、光量の設定、演出モードの選択等の演出を実行するようにしてもよい。これにより、大当りの可能性を有しない第２特定演出を終了させて特別演出が開始された場合に遊技者の不快感を軽減でき、遊技興趣の過度な低下を抑止できるようになる。

【５２２６】

また、本例では大当りの可能性を有する第１特定演出中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作された場合には、第１特定演出に応じた発光態様（第１特定発光態様）で発光される扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとの発光態様を変更しないし、大当りの可能性を有する第１特定演出中に発生した特定の異常状態としての扉開放異常状態中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作された場合にも扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとの発光態様を変更しないようになっている。なお、第１特定演出の実行中の予め設定されている期間に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作された場合に特別演出を実行することなく第１特定演出を継続しつつも、演出表示装置１６００の表示態様を変化させたり（例えば当りであること又は当りである可能性を有するこ

とを示唆する当選示唆態様を表示する）、扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとによる第１特定演出に応じた発光態様（第１特定発光態様）を示す発光態様生成用スケジュールデータを構成する時系列に配列された発光データを指示するポインタを更新させて発光データを変更して扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとの発光態様を変更したり（第１特定発光態様を継続するものの第１特定発光態様としての発光態様生成用スケジュールデータの中から他の発光データに変更する）、演出表示装置１６００に特別演出の表示とは異なる当選示唆態様（当りであること又は当りである可能性を有することを示唆する態様）を表示するようにしてもよい。これにより、当選示唆態様を視認させて大当りの可能性を有する第１特定演出が実行されていることを認識させることができるため、大当りに期待させて演出表示装置１６００に表示される第１特定演出に注目させることができ、遊技興趣の低下を抑止可能である。また、第２特定演出中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作された場合に第２特定演出を終了させて特別演出を実行するように構成した場合であっても、大当りの可能性を有する第１特定演出中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作された場合には、第１特定演出を終了させることがなく特別演出を開始させることもないし、大当りの可能性を有する第１特定演出中に発生した特定の異常状態としての扉開放異常状態中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作された場合にも第１特定演出を終了させることがなく特別演出を開始させることもないようにしてもよい。

【５２２７】

具体的には、図３５１（Ｂ）に示すように、大当りの可能性を有する第１特定演出を開始してから（ｔｓ）、第１特定演出を終了するまで（ｔｅ）の所定のタイミング（ｔ１）で扉枠開放スイッチが本体枠４に対して扉枠３が開放されたことや本体枠開放スイッチが外枠２に対して本体枠４が開放されたことを検出した扉開放異常状態が発生すると、演出表示装置１６００に表示されている第１特定演出を継続しつつ扉開放異常報知表示態様としての「扉開放中」を表示し、扉枠側に設けられる各種装飾基板と遊技盤側に設けられる各種装飾基板とに実装される各種ＬＥＤによる第１特定演出に応じた発光態様（第１特定発光態様）での発光を終了させて（ｔ１）、扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤを異常報知発光態様で発光させ、遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤを消灯させる。

【５２２８】

そして、扉開放異常状態中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作された場合には（ｔ２）、扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとの発光態様を変更することなく扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの異常報知発光態様の発光と遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの発光とを継続するとともに、演出表示装置１６００に表示している第１特定演出を終了させることなく継続し、扉開放異常状態が解消したことに基づいて扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤによる異常報知発光態様での発光と遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤによる消灯とを終了させた後にも第１特定演出を実行していれば（ｔ４）、再び第１特定演出に応じた発光態様（第１特定発光態様）に発光させるようになっている。

【５２２９】

このように、本例では大当りの可能性を有する第１特定演出中に特定の異常状態としての扉開放異常状態が発生して扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤを異常報知発光態様で発光させるとともに遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤを消灯させている場合に、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されても扉開放異常状態が解消して扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの異常報知発光態様での発光と遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの消灯とを終了させた後には再び第１特定演出に応じた発光態様（第１特定発

光態様）で発光させるようになっている。また、大当りの可能性を有する第１特定演出中に発生した特定の異常状態としての扉開放異常状態中に、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されても演出表示装置１６００に表示している第１特定演出を終了させることなしに継続させるようになっている。そのため、異常報知発光態様での発光の終了後に第１特定演出に応じた発光態様（第１特定発光態様）での発光が継続されて遊技者に第１特定演出が実行されているという安心感を与えることができ、演出表示装置１６００で実行される第１特定演出の表示に注目させて遊技興趣の低下を抑止できる。

【５２３０】

なお、扉開放異常状態が解消して扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの異常報知発光態様での発光と遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの消灯とを終了させるときに第１特定演出が実行されていない場合には扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとを第１特定演出とは異なる発光態様（変動開始待ち表示と同様に特別な演出を実行しないときに実行される発光態様（消灯を含む）であってもよい）で発光させるようにしてもよい。すなわち、第１特定演出が既に終了している場合には特別抽選結果が表示されて図柄の変動表示が終了してる状態であるため、不必要に第１特定演出に応じた発光態様（第１特定発光態様）での発光が行われることを抑制し、扉開放異常状態が解消して扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの異常報知発光態様での発光と遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの消灯とを終了させるときの遊技の状態に応じた発光態様で発光させるようにすればよい。

【５２３１】

また、本例では大当りの可能性を有する第１特定演出中や大当りの可能性を有しない第２特定演出中に特定の異常状態としての扉開放異常状態が発生しても遊技盤側に設けられる各種装飾基板のうちの裏後上第一装飾部３２１１を発光装飾させるためのＬＥＤが実装される裏後上第一装飾基板や裏後上第二装飾部３２１２を発光装飾するＬＥＤが実装される裏後上第二装飾基板（一方のみでもよい）については少なくとも第１特定演出や第２特定演出を終了するまでの期間に亘って第１特定演出中や第２特定演出中の発光態様を継続するようになっている。これにより、第１特定演出や第２特定演出が継続して実行されていることを遊技者に認識させることができ、遊技者に不安感や不信感を与えないようにすることができる。

【５２３２】

また、第２特定演出中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作された場合に演出表示装置１６００に文字や記号などの文字情報を表示するように構成した場合であっても、第１特定演出中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されたことに基づいて演出表示装置１６００に文字や記号などの文字情報を表示しないようにしてもよい。これにより、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作された場合に演出表示装置１６００に表示される文字や記号などの文字情報を視認することにより第２特定演出を実行していること、ひいては大当りの可能性を有しないことを認識できるようになるし、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作された場合でも演出表示装置１６００に文字や記号などの文字情報が表示されない場合には大当りに対する期待を高めることができるようになり、演出表示装置１６００で実行される第１特定演出に注目させて遊技興趣の低下を抑止できるようになる。

【５２３３】

なお、演出操作ユニット３００とは異なる所定の操作部（例えばハンドル１９５、音量調節ボタン２２７、光量調節ボタン２２８等のいずれか１つ又は任意の複数（全部でもよい）の組み合わせ）が操作された場合には、第２特定演出中であるか第１特定演出中であるかに関わらず演出表示装置１６００に表示される文字や記号などの文字情報とは異なる文字や記号などの特殊文字情報を表示するようにしてもよい。この場合には、第１特定演出中に演出表示装置１６００に特殊文字情報が表示されたことによって第２特定演出が実行されていると誤解させるおそれがあるものの、第２特定演出が実行されていると誤解し

た遊技者が（特定の異常状態の終了後に）第１特定演出が実行されていることに気付いた場合には大当りに対する期待を一気に高めることができるし、第１特定演出が実行されていることに気付くことなしに第１特定演出を終了するときに大当りの特別抽選結果が表示された場合には遊技者が予期していない大当りが突然発生したことにより遊技興趣を向上させることができるようになる。また、この場合には所定の操作部の操作に応じて演出表示装置１６００に表示される特殊文字情報の表示態様を変化させるようにしてもよく、第１特定演出が実行されていることに気付いた遊技者には大当りの期待を込めて所定の操作部を操作させて特殊文字情報の変化を楽しませることができるし、第２特定演出中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されたことに基づいて表示される文字や記号などの文字情報とは異なる態様で特殊文字情報の表示態様を変化させることによって第２特定演出中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されたことに基づいて表示される文字や記号などの文字情報と視覚上の区別が容易となるようにしてもよい。

【５２３４】

また、上記した第２特定演出は大当りの可能性を有しない演出であるため、実行された場合に遊技者を落胆させて遊技興趣を低下させるおそれがある。そのため、本例では所定の条件が成立した場合にのみ第２特定演出を実行するようにし、遊技興趣が過度に低下することを抑制するようになっている。具体的には、大当りとならない場合であってハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を検知しなくなってからの期間が所定期間（例えば３０秒）に達しているときに第２特定演出を実行可能になっている。これにより遊技球の発射を停止させる所謂止め打ちを防止でき、遊技機の稼働率を向上させることができる。なお、上記した条件に替えて、又は上記した条件と別に、大当りとならない場合であってハンドル回転検知センサ１８９による回転を検知しなくなってからの期間が所定期間に達しているときや、大当りとならない場合であって停止表示コマンドを受信してからの期間が所定期間に達しているとき、第一特別図柄及び第二特別図柄の保留数（第一保留記憶数、第二保留記憶数）が０のとき、等に第２特定演出を実行するようにしてもよい。この場合にも止め打ちを防止でき、遊技機の稼働率を向上させることができる。

【５２３５】

また上記した大当りの可能性を有する第１特定演出と大当りの可能性を有しない第２特定演出とは、演出表示装置１６００の表示態様やスピーカ１２２の音出力態様、遊技盤５や扉枠３に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤの発光態様等のうちの一部又は全部の態様（例えば虹色発光、虹色演出表示態様、等）が同一又は類似するものであってもよいし、第１特定演出と第２特定演出とを異なる態様とするものであってもよい。また、第１特定演出と第２特定演出との一方又は両方は、変動演出が行われている期間に行われるものに限らず、変動演出が行われていない期間に行われるものであってもよく、例えば上記した先読み予告等の演出として実行するものであってもよい。これにより演出のバリエーションが増大し、遊技興趣を向上させることができるようになる。

【５２３６】

また、上記したように本例のパチンコ機１では周辺制御基板１５１０から扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとのそれぞれの発光態様を指示する発光データ群はシリアルデータとしてシリアル通信ラインからシリアル出力される。また、発光態様生成用スケジュールデータを構成する時系列に配列された発光データ群のうち、スケジューラ更新処理で更新された先頭の発光データ群から何番目の発光データ群を出力対象とするのかを指示するポインタによって指示される発光データ群は、周辺制御部定常処理を実行する毎（本例では約３３．３ｍｓ毎）に扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとにシリアル出力される。このように、発光データ群を一定期間毎に出力するため、ノイズ等により異常な発光が行われた場合であっても直ぐに正常な発光に戻すことができるようになり、パチンコ機１の信頼性を向上させることができる。なお、ポインタの更新後にポインタによって指示される発光データ

群とポインタの更新前にポインタによって指示されていた発光データ群とが異なる場合にはもちろん、同一である場合にも出力される。そのため、一定期間に亘って所定の発光態様で発光することを示す発光データ群をポインタが指示している場合に、ノイズ等によって異なる発光態様で発光されてしまっても、直ぐに所定の発光態様に戻すことができるようになり、パチンコ機１の信頼性を向上させることができる。ちなみに、シリアルデータの１ビットずつの送信については、ＬＥＤドライバのＳＣＬＫ端子に入力されるクロックに同期して一定間隔で送信される。

【５２３７】

［代替演出］

次に上記した大当りの可能性を有する第１特定演出と大当りの可能性を有しない第２特定演出とにおいて、第１特定演出中にはパチンコ機１に設けられるスピーカ（スピーカ６２２）から第１特定演出に応じた演出音の出力を行い、第２特定演出中にはパチンコ機１に設けられるスピーカ（スピーカ６２２）から第２特定演出に応じた演出音の出力を行わない変形例について説明する。図３５３（Ａ）は、第２特定演出中の演出態様の一例を示すタイミングチャートであり、図３５３（Ｂ）は、第１特定演出中の演出態様の一例を示すタイミングチャートであり、図３５４（Ａ）～（Ｄ）は、第２特定演出中の演出表示装置１６００の表示態様の一例を示す説明図であり、図３５４（Ａ'）～（Ｄ'）は、第１特定演出中の演出表示装置１６００の表示態様の一例を示す説明図である。なお、以下では上記実施形態と異なる部分についてのみ説明し、重複した説明を行わない。また、以下の変形例は上記した実施例と組み合わせて実行されるものであってもよく、例えば上記実施例において大当りの可能性を有する特定演出を以下の第１特定演出とし、上記実施例において大当りの可能性を有しない特定演出を以下の第２特定演出として実行するものであってもよいし、上記実施例の特定演出とは別の演出として実行されるものであってもよい。

【５２３８】

上記したように、本例のパチンコ機１は大当りの可能性を有する第１特定演出中には扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとを第１特定演出に応じた発光態様（第１特定発光態様）で発光制御し、パチンコ機１に設けられるスピーカ（スピーカ６２２）から第１特定演出に応じた演出音の出力を行う一方で、大当りの可能性を有しない第２特定演出中には扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとを第２特定演出に応じた発光態様（第２特定発光態様）で発光制御し、パチンコ機１に設けられるスピーカ（スピーカ６２２）から第２特定演出に応じた演出音の出力を行わないようになっている。そして、大当りの可能性を有しない第２特定演出の実行中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３００が押圧操作された場合には第２特定演出を終了させるようになっている。具体的には、図３５３（Ａ）に示すように大当りの可能性を有しない第２特定演出を開始して扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとを第２特定演出に応じた発光態様（第２特定発光態様）で発光制御するとともにパチンコ機１に設けられるスピーカ（スピーカ６２２）から演出音の出力を行わない状態に制御し（ｔｓ）、第２特定演出を終了するまで（ｔｅ）の期間に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作された場合には（ｔ１）、パチンコ機１に設けられるスピーカ（スピーカ６２２）から演出音の出力を伴わない第２特定演出を終了させて扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとによる第２特定演出に応じた発光態様（第２特定発光態様）を終了する。これにより、パチンコ機１に設けられるスピーカ（スピーカ６２２）から演出音の出力を伴わないことで盛り上がりに欠ける第２特定演出を終了させることができるようになることに加えて、大当りの可能性を有しない第２特定演出という遊技者にとって無益な演出を終了させることができ、第２特定演出が実行されることによる遊技興趣の低下を抑止できるようになっている。

【５２３９】

また、本例では演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されたことに基づいて第２特定演出を終了させた後に、上記した特別演出と同様の演出を実行して扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとを特別演出に応じた発光態様（特別発光態様）で発光制御し、該特別演出の実行中には第２特定演出を実行しないようになっている（ｔ１）。また上記したように特別演出では遊技者に有益な演出を実行するようにしてもよく、この場合にはパチンコ機１に設けられるスピーカ（スピーカ６２２）から演出音の出力を伴わないことで盛り上がりに欠けるばかりか大当りの可能性を有しないことで遊技者にとって無益な第２特定演出に替えて特別演出を実行するため、遊技者にとって無益な第２特定演出が長期に亘って実行されて遊技興趣が低下することを抑制できるし、第２特定演出が実行されたことによる遊技者の不快感を軽減して遊技興趣の低下を抑止できるようになる。

【５２４０】

また、本例では第２特定演出の終了後に実行される特別演出ではパチンコ機１に設けられるスピーカ（スピーカ６２２）から特別演出に応じた演出音を出力するようになっている。具体的には、図３５３（Ａ）のタイミングｔ１で第２特定演出を終了して特別演出を開始する場合に、パチンコ機１に設けられるスピーカ（スピーカ６２２）から演出音の出力を伴う特別演出を実行する。これにより、演出表示装置１６００で実行される特別演出の表示に加えて、パチンコ機１に設けられるスピーカ（スピーカ６２２）からの演出音の出力によって盛り上がりのある演出を実行することができ、遊技興趣の低下を抑止できるようになる。

【５２４１】

本例では、図３５４（Ａ）～（Ｄ）に示すように、第２特定演出が開始された後（Ａ）、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作された場合には（Ｂ）、演出表示装置１６００に非当選時態様１６００ａとして泣き顔のキャラクタと文字「残念！はずれ」を表示するとともに、装飾図柄の停止図柄を表示して第２特定演出を終了させて扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとによる第２特定演出に応じた発光態様（第２特定発光態様）を終了させる。その後、第２特定演出に替えて特別演出を実行し、パチンコ機１に設けられるスピーカ（スピーカ６２２）から特別演出に応じた演出音を出力するとともに扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとを特別演出に応じた発光態様（特別発光態様）で発光制御するようになっている（（Ｃ）、（Ｄ））。このように、第２特定演出中に押圧操作部３０３が押圧操作された場合には非当選時態様１６００ａを表示して大当りの可能性を有していないことを遊技者に通知した後、第２特定演出を終了させ、その後に第２特定演出に替えて特別演出を実行するようになっているため、遊技者にとって無益な特定演出が実行されていたことによる不快感を軽減して遊技興趣の低下を抑止できるようになる。また、演出表示装置１６００に表示される非当選時態様１６００ａは所定期間経過後に消失されるため、遊技者に配慮した演出を実行することができ、遊技興趣を過度に低下させない。

【５２４２】

また、上記特別演出として遊技者好みに遊技をカスタイマイズしたり、遊技を楽しむことができるような遊技者にとって有益な演出を実行した場合に、パチンコ機１に設けられるスピーカ（スピーカ６２２）からの演出音の出力によってさらに特別演出を盛り上げることができるため、演出音の出力を伴わないだけでなく大当りとなる可能性を有しないことで遊技者にとって無益な第２特定演出が実行されていたことの不快感を軽減することができ、遊技興趣の低下を抑止できる。

【５２４３】

なお、上記した例では演出音の出力を伴わない第２特定演出中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されたことに基づいて第２特定演出を終了した場合にパチンコ機１に設けられるスピーカ（スピーカ６２２）からの演出音の出力を伴う特別演出を実行するものを示したが、本技術思想はパチンコ機１に設けられるスピーカ（スピーカ

６２２）からの演出音の出力を伴わない第２特定演出中に所定の条件が成立したことに基づいて第２特定演出を終了するものであれば上記したものに限られない。例えば、パチンコ機１に設けられるスピーカ（スピーカ６２２）からの演出音の出力を伴わない第２特定演出中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されたことに基づいて第２特定演出を終了した場合に、第２特定演出に替えて特別演出を実行するものの、特別演出においてはパチンコ機１に設けられるスピーカ（スピーカ６２２）から該特別演出に応じた演出音の出力を行わないようにしてもよい。また、パチンコ機１に設けられるスピーカ（スピーカ６２２）からの演出音の出力を伴わない第２特定演出中にハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を検知した場合に第２特定演出に替えて（第２特定演出を終了して）特別演出を実行してパチンコ機１に設けられるスピーカ（スピーカ６２２）から該特別演出に応じた演出音を出力するようにしてもよいし、パチンコ機１に設けられるスピーカ（スピーカ６２２）からの演出音の出力を伴わない第２特定演出中に第一始動口２００２又は第二始動口２００４に遊技球が入球した場合（始動入賞した場合）に第２特定演出に替えて（第２特定演出を終了して）特別演出を実行してパチンコ機１に設けられるスピーカ（スピーカ６２２）から該特別演出に応じた演出音を出力するようにしてもよいし、第一始動口２００２又は第二始動口２００４への遊技球の受け入れにより抽選される特別抽選結果に基づいて大当りの可能性を有する第１特定演出を実行してパチンコ機１に設けられるスピーカ（スピーカ６２２）から第１特定演出に応じた演出音を出力するようにしてもよい。これにより、止め打ちを防止して遊技機の稼働率を向上させることができる。

【５２４４】

また、特別演出は上記したように所定期間（例えば３０秒）に亘って実行されるようにしてもよく、特別演出の終了後に再び第２特定演出を実行するようにしてもよいし、特別演出の終了後に他の演出（変動開始待ち表示と同様に特別な演出を実行しないものであってもよい）を実行しその後に所定の演出条件が成立したことに基づいて第２特定演出を再び実行するようにしてもよい。つまり、特別演出の実行中には第２特定演出が実行されないようにし、特別演出の終了後に第２特定演出を実行し得るようにしてもよいし、特別演出の終了後に所定の演出条件が成立したことに基づいて第２特定演出を再び実行するようにしてもよい。また、第２特定演出の実行中に再び押圧操作部３０３が押圧操作された場合には再び特別演出を実行するようにしてもよく、これにより遊技者にとって無益な特定演出が実行されていたことによる不快感を軽減して遊技興趣の低下を抑止できるようになる。また、特別演出中に演出操作ユニット３００が終了操作された場合に特別演出を終了させることを可能にし、演出操作ユニット３００が終了操作とは異なる態様で操作された場合には特別演出を終了させるまでの期間の延長、換言すると第２特定演出が開始される時期を遅延させるようにしてもよく、この場合には特別演出中に演出操作ユニット３００を終了操作とは異なる態様で操作することにより第２特定演出に応じた発光態様（第２特定発光態様）での発光が開始される時期を遅延させることができるようになる。

【５２４５】

また、第２特定演出中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作されたことに基づいて実行される特別演出では、演出表示装置１６００に文字や記号などの文字情報を表示するようにしてもよい。例えば、上記した大当りの可能性を有しない非当選時態様や、演出表示装置１６００に特別表示態様として第２特定演出を終了させたこと、第２特定演出に替えて特別演出を実行していること、等を表示するようにしてもよい。これにより、大当りの可能性を有しないことや、第２特定演出を終了させたこと、等を遊技者に容易に認識させることができるようになる。また、演出操作ユニット３００の操作（例えば接触操作部３０２の接触操作）に応じて演出表示装置１６００に表示されている文字情報の一部を変化させるようにしてもよいし、演出操作ユニット３００の操作（例えば押圧操作部３０３の押圧操作）に応じて文字情報が演出表示装置１６００に表示される状態と表示されない状態とに切り替えるようにしてもよい。これにより、特別演出中の暇つぶしが可能になるし、演出操作ユニット３００を終了操作とは異なる態様で操作したことに

基づいて特別演出を終了させるまでの期間を延長させる場合には特別演出を終了させるまでの期間を延長させたこと、換言すると第２特定演出が開始される時期が確実に遅延されていることを認識できるようになり、遊技者に安心感を与えて遊技興趣の低下を抑止できるようになる。

【５２４６】

また、本例では大当りの可能性を有する第１特定演出中には扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとを第１特定演出に応じた発光態様（第１特定発光態様）で発光制御するとともにパチンコ機１に設けられるスピーカ（スピーカ６２２）から第１特定演出に応じた演出音の出力を行い、この第１特定演出中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作された場合には、第１特定演出を終了させることなく継続させて扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとによる第１特定演出に応じた発光態様（第１特定発光態様）での発光制御を継続させるとともにパチンコ機１に設けられるスピーカ（スピーカ６２２）からの第１特定演出に応じた演出音の出力を継続させるようになっている。同様に、パチンコ機１に設けられるスピーカ（スピーカ６２２）から第１特定演出に応じた演出音を出力させる第１特定演出中にハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を検知した場合であっても第１特定演出を終了させることなく継続させ、さらにパチンコ機１に設けられるスピーカ（スピーカ６２２）から第１特定演出に応じた演出音を出力させる第１特定演出中に第一始動口２００２又は第二始動口２００４に遊技球が入球した場合（始動入賞した場合）にも第１特定演出を終了させることなく継続させるようになっている。

【５２４７】

具体的には、図３５３（Ｂ）に示すように、スピーカ（スピーカ６２２）から第１特定演出に応じた演出音の出力を伴うとともに大当りの可能性を有する第１特定演出を開始して扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとを第１特定演出に応じた発光態様（第１特定発光態様）で発光制御するとともにパチンコ機１に設けられるスピーカ（スピーカ６２２）から第１特定演出に応じた演出音を出力する状態に制御し（ｔｓ）、第１特定演出を終了するまで（ｔｅ）の所定のタイミング（ｔ１）で演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作された場合であっても、パチンコ機１に設けられるスピーカ（スピーカ６２２）から第１特定演出に応じた演出音の出力を伴う第１特定演出を継続させ、扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤと遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤとによる第１特定演出に応じた発光態様（第１特定発光態様）の発光制御を継続させるとともにパチンコ機１に設けられるスピーカ（スピーカ６２２）からの第１特定演出に応じた演出音の出力を継続させる。

【５２４８】

本例では、図３５４（Ａ'）～（Ｄ'）に示すように、第１特定演出が開始された後（Ａ'）、演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作された場合に（Ｂ'）、演出表示装置１６００に変動表示される装飾図柄を停止させることなく継続させ（（Ｂ'）～（Ｃ'））、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａから停止表示コマンドを受信したことに基づいて装飾図柄を停止表示させる（Ｄ'）。このように、第１特定演出中には押圧操作部３０３が押圧操作されても装飾図柄の変動表示を継続させるため、大当りの可能性を有することを認識した遊技者に大当りへの期待を向上させて第１特定演出に注目させることができるようになっている。

【５２４９】

なお、第１特定演出の一部の期間のみ演出音を出力しない期間を有するものであってもよいし、第２特定演出の一部の期間のみ演出音を出力する期間を有するものであってもよいし、第２特定演出は全期間に亘ってスピーカ（スピーカ６２２）から演出音を出力しない一方、第１特定演出は少なくとも一部の期間にはスピーカ（スピーカ６２２）から演出音を出力するものであってもよい。すなわち、第１特定演出中における第１特定演出に応

じた演出音が出力されている期間に押圧操作部３０３が押圧操作された場合や、ハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触が検知された場合、第一始動口２００２又は第二始動口２００４に遊技球が入球した場合（始動入賞した場合）には第１特定演出を終了させることなく継続し、第２特定演出中における演出音が出力されていない期間に押圧操作部３０３が押圧操作された場合や、ハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触が検知された場合、第一始動口２００２又は第二始動口２００４に遊技球が入球した場合（始動入賞した場合）に第２特定演出を終了させるようなもの（これらに限定されるものではない）であれば本技術思想は適用可能である。

【５２５０】

また、第１特定演出中に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作された場合であっても非当選時態様１６００ａは表示されない。そのため、第１特定演出中に演出音が出力されない期間があっても、該期間に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３を押圧操作することで、第１特定演出が実行されているか第２特定演出が実行されているかを判別できるようになり、第１特定演出が実行されていることを判別した場合には、大当りに対する期待が高まり、演出表示装置１６００で実行される第１特定演出に注目させて遊技興趣の低下を抑止できるようになる。第１特定演出の実行中の予め設定されている期間に演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３が押圧操作された場合に非当選時態様１６００ａとは異なる当選示唆態様（当りであること又は当りである可能性を有することを示唆する態様）を表示するようにしてもよい。これにより、当選示唆態様を視認させて大当りの可能性を有する第１特定演出が実行されていることを認識させることができるため、大当りに期待させて演出表示装置１６００に表示される第１特定演出に注目させることができ、遊技興趣の低下を抑止可能である。

【５２５１】

また、演出操作ユニット３００とは異なる所定の操作部（例えばハンドル１９５、音量調節ボタン２２７、光量調節ボタン２２８等のいずれか１つ又は任意の複数（全部でもよい）の組み合わせ）が操作された場合には、第１特定演出中であるか第２特定演出中であるか特別演出中であるかに関わらず演出表示装置１６００に表示される文字や記号などの文字情報とは異なる文字や記号などの特殊文字情報を表示可能にしてもよい。この場合にも演出表示装置１６００に特殊文字情報が表示されたことによって第２特定演出が実行されていると誤解させるおそれがあるものの、大当りの特別抽選結果が表示された場合には遊技者が予期していない大当りが突然発生したことにより遊技興趣を向上させることができるようになる。また、所定の操作部の操作に応じて演出表示装置１６００に表示される特殊文字情報の表示態様を変化させるようにしてもよく、第１特定演出が実行されていることに気付いた遊技者には大当りの期待を込めて所定の操作部を操作させて特殊文字情報の変化を楽しませることができるし、第２特定演出中に押圧操作部が操作されたことに基づいて表示される文字や記号などの文字情報とは異なる態様で特殊文字情報の表示態様を変化させることによって第２特定演出中に押圧操作部が操作されたことに基づいて表示される文字や記号などの文字情報と視覚上の区別が容易となるようにしてもよい。また、上記所定の操作部が操作されたときに常に特殊文字情報を表示するものに限らず、第１特定演出と第２特定演出と特別演出とのいずれか又は任意の複数の組み合わせ（全部でもよい）の実行中の任意の期間に上記所定の操作部が操作されたときに特殊文字情報を表示するものであってもよい。すなわち、第１特定演出と第２特定演出と特別演出との実行中に上記所定の操作部が操作された場合であっても特殊文字情報を表示させない期間を有するようにしてもよい。

【５２５２】

また、上記した第２特定演出は大当りの可能性を有しない演出であるため、実行された場合に遊技者を落胆させて遊技興趣を低下させるおそれがある。そのため、本例では所定の条件が成立した場合にのみ第２特定演出を実行するようにし、遊技興趣が過度に低下することを抑制するようになっている。具体的には、大当りとならない場合であってハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を検知しなくなってからの期間が所定期間（例

えば３０秒）に達しているときに第２特定演出を実行可能になっている。これにより遊技球の発射を停止させる所謂止め打ちを防止でき、遊技機の稼働率を向上させることができる。なお、上記した条件に替えて、又は上記した条件と別に、大当りとならない場合であってハンドル回転検知センサ１８９による回転を検知しなくなってからの期間が所定期間に達しているときや、大当りとならない場合であって停止表示コマンドを受信してからの期間が所定期間に達しているとき、第一特別図柄及び第二特別図柄の保留数（第一保留記憶数、第二保留記憶数）が０のとき、等に第２特定演出を実行するようにしてもよい。この場合にも止め打ちを防止でき、遊技機の稼働率を向上させることができる。

【５２５３】

また上記した大当りの可能性を有するとともに演出音の出力を伴う第１特定演出と大当りの可能性を有しないとともに演出音の出力を伴わない第２特定演出とは、演出表示装置１６００の表示態様（例えば上記した実施形態における演出表示装置１６００の表示領域のうち３つ以上の複数の領域それぞれを互いに異なる色で表示して３色以上の表示を実現するものであって複数の領域の表示色を順次切り替える虹色演出表示態様（図２８３参照））や遊技盤５や扉枠３に設けられている各種の装飾基板に実装される複数のＬＥＤの発光態様（例えば複数のＬＥＤ群を互いに異なる発光色に発光させて複数のＬＥＤ群によって３色以上の発光を実現するものであって複数のＬＥＤ群の発光色を順次切り替える多色発光制御を行う虹色発光（図２８６参照））等のうちの一部又は全部の態様が同一又は類似するものであってもよいし、第１特定演出と第２特定演出とを異なる態様（例えば虹色発光と虹色発光とは異なる発光、虹色演出表示態様と虹色演出表示態様とは異なる表示態様）とするものであってもよい。また、第１特定演出と第２特定演出との一方又は両方は、変動演出が行われている期間に行われるものに限らず、変動演出が行われていない期間に行われるものであってもよく、例えば上記した先読み予告等の演出として実行するものであってもよい。これにより演出のバリエーションが増大し、遊技興趣を向上させることができるようになる。

【５２５４】

また、上記したパチンコ機１において、規定値（プラスマイナス０、払い出し数－打ち込み数（アウト数）の下限値、等）から払い出し数－打ち込み数（アウト数）の上限値までの出玉量（差玉ともいう）が予め設定されている上限数に達した場合に遊技の一部又は全部を制限する遊技制限状態に移行させるようにしてもよい。例えば、遊技制限状態では、球発射装置５４０による遊技球の発射を禁止したり、第一始動口センサ３００２及び第二始動口センサ２４０１による検出を無効にしたり、特別図柄の変動表示に関わる処理（本例では特別図柄プロセス処理等）を開始させないようにしたり、機能表示ユニット１４００の特別図柄表示器（第一特別図柄表示器、第二特別図柄表示器）等の抽選処理に関わるＬＥＤを消灯又は遊技制限状態に応じた態様で発光させたり、演出表示装置１６００において装飾図柄を非表示にして遊技制限状態に応じた態様を表示したり、すること等のうち一つ又は任意の複数の組み合わせを行うようにしてもよい。また、遊技制限状態は所定の操作（電源をＯＦＦにした後にＯＮ＋ＲＡＭクリア、電源をＯＦＦにした後にＯＮ等）によって解除されるようにしてもよい。

【５２５５】

また、遊技制限状態においても上記した実施形態における制御、例えば特定演出や第１特定演出、第２特定演出、特別演出に関する制御は実行可能とされるものであってもよい。即ち、遊技制限状態において特定演出の開始タイミングを遊技者操作によって遅延させる変形例に関する制御や、遊技制限状態において異常状態が発生したときに所定の操作によって特定演出の開始タイミングが遅延させる変形例に関する制御、遊技制限状態において演出表示装置１６００の表示領域に略単一色を表示する特定演出の開始タイミングを遅延させる変形例に関する制御、遊技制限状態において演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３の操作態様に応じて演出表示装置１６００の表示態様を異ならせる変形例に関する制御、遊技制限状態において大当りの可能性を有する第１特定演出や大当りの可能性を有しない第２特定演出の実行中に特定の異常状態が発生した場合の変形例に関する制御、

遊技制限状態において第２特定演出に替えて特別演出を実行する変形例に関する制御、遊技制限状態において第１特定演出中にパチンコ機１に設けられるスピーカ（スピーカ６２２）から第１特定演出に応じた演出音の出力を行わないとともに第２特定演出中にパチンコ機１に設けられるスピーカ（スピーカ６２２）第２特定演出に応じた演出音の出力を行わない変形例に関する制御、等上記した実施形態における制御を遊技制限状態においても実行可能にしてもよい。また、遊技制限状態においては大当りの可能性を有する特定演出や第１特定演出については実行不能とされる一方で、大当りの可能性を有しない特定演出や、第２特定演出、特別演出については実行可能とされるようにしてもよいし、遊技制限状態においては大当りの可能性を有する特定演出や第１特定演出と同様に、大当りの可能性を有しない特定演出や第２特定演出についても実行不能とし、特別演出についてのみ遊技制限状態において実行可能とされるようにしてもよい。

【５２５６】

また、上記した特定演出や第１特定演出、第２特定演出、特別演出の実行中に遊技制限状態となった場合には、演出表示装置１６００に遊技制限状態に応じた特殊表示（遊技制限状態となったことを報知する表示「遊技制限状態中」）を表示したり、スピーカ（スピーカ６２２）から遊技制限状態に応じた特殊報知音（遊技制限状態となったことを報知する音「遊技制限状態となりました」）を出力したり、扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤや遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤを遊技制限状態に応じた特殊発光態様（例えば扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤを赤色点滅発光し、遊技盤側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤを消灯する等）で発光するようにしてもよい。また、大当りの可能性を有する特定演出や第１特定演出の実行中に遊技制限状態となった場合には大当りの可能性を有する特定演出や第１特定演出を中断するようにしてもよいし、大当りの可能性を有しない特定演出や、第２特定演出、特別演出の実行中に遊技制限状態となった場合に大当りの可能性を有しない特定演出、第２特定演出、特別演出を中断するようにしてもよいし、大当りの可能性を有する特定演出や第１特定演出の実行中に遊技制限状態となった場合には大当りの可能性を有する特定演出や第１特定演出を中断する一方、大当りの可能性を有しない特定演出、第２特定演出、特別演出の実行中に遊技制限状態となった場合には大当りの可能性を有しない特定演出、第２特定演出、特別演出を中断しないようにしてもよいし、大当りの可能性を有しない特定演出、第２特定演出、特別演出の実行中に遊技制限状態となった場合には大当りの可能性を有しない特定演出、第２特定演出、特別演出を中断する一方、大当りの可能性を有する特定演出や第１特定演出の実行中に遊技制限状態となった場合には大当りの可能性を有する特定演出や第１特定演出を中断しないようにしてもよい。

【５２５７】

［裏後下演出ユニットに設けられる装飾基板］

次に、裏ユニット３０００における裏後下演出ユニット３３００に設けられる装飾基板について、図３５５～図３５７を参照して説明する。

【５２５８】

上記したように裏後下演出ユニット３３００は、互いに左右に隣接している基端側が夫々前後方向の軸周りに回動可能に支持されていると共に昇降可能に支持されている裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２を、有している。そして、裏後左可動装飾体３３０１には、裏後左可動装飾体３３０１を発光装飾するＬＥＤ３３１１ａ～３３１４ａが実装される裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４が設けられ、裏後右可動装飾体３３０２には、裏後右可動装飾体３３０２を発光装飾するＬＥＤ３３２１ａ～３３２４ａが実装される裏後右可動装飾基板３３２１～３３２４が設けられている。

【５２５９】

なお、裏後左可動装飾体３３０１に設けられる裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４と、裏後右可動装飾体３３０２に設けられる裏後右可動装飾基板３３２１～３３２４と、は同一の構成を有するため、以下では裏後左可動装飾体３３０１に設けられる裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４についてのみ説明する。

【５２６０】
図３５５に示すように、裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４は、表面に白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされ、遊技者に対峙する表実装面に複数のフルカラーＬＥＤ３３１１ａ～３３１４ａが実装されている。また、本例では裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４に実装される複数のＬＥＤ３３１１ａ～３３１４ａは前面に対して垂直方向の光軸を中心として１３０度の角度の範囲で光を照射可能な広角のトップビュータイプのＬＥＤとなっている。なお、裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４に実装される複数のＬＥＤ３３１１ａ～３３１４ａの一部（いずれかの基板においてトップビュータイプのＬＥＤとサイドビュータイプのＬＥＤとの両方が実装されるものであってもよいし、トップビュータイプのＬＥＤのみが実装される基板とサイドビュータイプのＬＥＤのみが実装される基板とを有するものであってもよい）又は全部を水平方向の光軸を中心として１３０度の角度の範囲で光を照射可能な広角のサイドビュータイプのＬＥＤとしてもよいし、広角のトップビュータイプのＬＥＤや広角のサイドビュータイプのＬＥＤに限らず、トップビュータイプのＬＥＤやサイドビュータイプのＬＥＤであれば何でもよい。
【５２６１】
そして、裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４それぞれの表実装面に実装される複数のフルカラーＬＥＤ３３１１ａ～３３１４ａを発光させると、裏後左可動装飾体３３０１を発光装飾させることができるようになっている。なお、裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の表面にコーティングされる白色のソルダーレジストにより、裏後左可動装飾体３３０１の発光装飾部を通して裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４を見え辛くすることができると共に、表実装面に実装されているＬＥＤからの光を裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の表面で反射させることができ、裏後左可動装飾体３３０１をより明るく発光装飾させることができる。
【５２６２】
また、裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の表実装面には、電子部品を配置する位置を示す表実装面側表記部３３１１ｂ～３３１４ｂと、ＬＥＤの向きを示すダイオードマーク３３１１ｃ～３３１４ｃと、が白色に対して目立ち難い明色である黄色の塗料で白色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。さらに、裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４には、各基板を管理するための固有の識別番号である基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄが箔抜き文字（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで文字を作りその周囲の銅箔を抜いて形成される抜き文字）で形成されている。
【５２６３】
なお、ソルダーレジストの色は白色に限らず、緑色や黒色、銀色等であってもよいし、表実装面側表記部３３１１ｂ～３３１４ｂ及びダイオードマーク３３１１ｃ～３３１４ｃは、黄色に限られるものではなく、白色や水色、黄緑色、黒色等の塗料で印刷されるものであってもよい。また、基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄは、箔抜き文字で形成されるものに限らず、箔残し文字（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において文字に対応する部分の銅箔を抜いて形成される文字）で形成されるものや、表実装面側表記部３３１１ｂ～３３１４ｂやダイオードマーク３３１１ｃ～３３１４ｃと同様にシルク印刷によりレジスト上に印刷されるものであってもよい。また、ＬＥＤが実装される装飾基板（例えば裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４）の表実装面の表面をソルダーレジストでコーティングすることなしに、ＬＥＤが実装される装飾基板の表実装面の略全面をハンダによる鏡面状のメッキでコーティングするようにしてもよい。ＬＥＤが実装される装飾基板の表実装面の表面を銀色のソルダーレジストでコーティングしたり、ハンダによる鏡面状のメッキでコーティングした場合には、ＬＥＤが実装される装飾基板の表実装面における反射率を向上させることができ、各基板に実装されるＬＥＤそれぞれの輝度の低下を抑制したり、他の基板に実装されるＬＥＤからの光をＬＥＤが実装される装飾基板の表実装面で反射させる反射板としても用いることができるようになる。また、ＬＥＤが実装される装飾基板の表実装面が銀色のソルダーレジストやハンダでコーティングされ

た鏡面を遊技者から視認可能に配置してパチンコ機１の意匠の一部として用いるようにしてもよい。また、ＬＥＤが実装される装飾基板の表実装面の略全面をハンダによる鏡面状のメッキでコーティングする場合には、ＬＥＤが実装される装飾基板の表実装面にはＬＥＤ以外の電子部品を配置しないとともに最小限の配線パターンのみを設け、ＬＥＤ以外の電子部品や最小限の配線パターン以外の配線パターンについては裏実装面に設けるようにしてもよい。

【５２６４】

また、本例では裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の表実装面と裏実装面との両方に基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄが形成されている。なお、裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４のＬＥＤが実装されない裏実装面にのみ基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄを形成するようにしてもよい。この場合には、裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４のＬＥＤが実装される表実装面の反射率の均一化を図ることができ、発光ムラを抑制して演出効果を高めることができるようになる。

【５２６５】

なお、図示しないが裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の表実装面には、配線パターンやスルーホール等も形成されている。また、配線パターンは白色のレジストにより覆われている。また、第１実施形態～第４実施形態に係る入力信号配線パターン用スルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成を裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４及び裏後右可動装飾基板３３２１～３３２４に適用してもよい。すなわち、裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４及び裏後右可動装飾基板３３２１～３３２４に形成されるランドの少なくとも一部を白色のレジストにより覆うように構成してもよい。

【５２６６】

また、裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の表実装面に実装されるＬＥＤ３３１１ａ～３３１４ａ及び裏後右可動装飾基板３３２１～３３２４の表実装面に実装されるＬＥＤ３３２１ａ～３３２４ａは、上記光量調節ボタン２２８の操作に応じて光量（輝度）を調節できるようになっている。そのため、遊技者好みの光量（輝度）で裏後下演出ユニット３３００（裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２）による発光演出を実行させることができ、遊技者に不快感を与えないようにすることができる。

【５２６７】

また、図３５５に示すように基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄはその構成文字が一列（本例では横一列）に直線的に並んだ文字列によって形成されている。本例では裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４に電子部品を実装するときの基板流し方向（リフロー方向）と同一方向（水平方向）に一列に直線的に並んだ文字列（この例ではアルファベット３文字＋４桁のアラビア数字）によって基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄが形成されている。また、裏後左可動装飾基板３３１１～３３１３の表実装面に実装されるＬＥＤ３３１１ａ～３３１３ａ、表実装面側表記部３３１１ｂ～３３１３ｂ、ダイオードマーク３３１１ｃ～３３１３ｃ、は、上記した基板管理番号３３１１ｄ～３３１３ｄの表記に対して水平又は垂直に設けられている。すなわち、裏後左可動装飾基板３３１１～３３１３の表実装面に実装される表面実装タイプの電子部品（チップ部品、ＳＭＤ（Ｓｕｒｆａｃｅ Ｍｏｕｎｔ ＤｅｖＩＣｅ）、表面実装電子部品）であるＬＥＤ３３１１ａ～３３１３ａと、表実装面側表記部３３１１ｂ～３３１３ｂと、ダイオードマーク３３１１ｃ～３３１３ｃとは、電子部品を実装するときの基板流し方向（リフロー方向）に対して水平又は垂直に設けられている。さらに、図示していないが裏後左可動装飾基板３３１１～３３１３の表実装面の配線パターンは、基板管理番号３３１１ｄ～３３１３ｄの表記に対して、水平又は垂直に設けられる部分が最も多くなるように形成されている。つまり、裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の表実装面の配線パターンは、配線パターンの方向を９０度変更させる場合に基板流し方向（リフロー方向）に対して水平な配線パターンと垂直な配線パターンとを基板流し方向（リフロー方向）に対して４５度の配線パターンで接続するように形成されるものの、電子部品を実装するときの基板流し方向（リフロー方向）に対して水平又は垂直に設けられている部分が最も多くなるように形成されている。

【５２６８】
上記したように裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の表実装面の配線パターンは、配線パターンの方向を９０度変更させる場合に基板流し方向（リフロー方向）に対して水平な配線パターンと垂直な配線パターンとを基板流し方向（リフロー方向）に対して４５度の配線パターンで接続するように形成される。つまり、基板のパターンを直角に曲げた場合には曲げた部分のパターン幅が広くなり、この広くなった部分でインピーダンスが変化して反射が起こることでリンギングやノイズが生じるが、４５度の配線パターンで接続することによりパターン幅の広がりを抑えてインピーダンスの変化を抑制し、リンギングやノイズの発生を抑制している。また、基板の製造時においては、基板をエッチング液で基板の余分な銅箔を溶かす場合であっても、配線パターンの９０度変更された直角部分の内側に溶解液が溜まり易くなって直角部分の内側が綺麗にエッチング出来ないおそれがあるが、配線パターンを４５度に変更するように構成することで溶解液が溜まり難くなり、４５度の内側部分をきれいにエッチングすることができるようになる。なお、基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄの構成文字は、裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４に電子部品を実装するときの基板流し方向（リフロー方向）と同一方向（水平方向）に一列に直線的に並んだ文字列によって形成されるものに限らず、裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４に電子部品を実装するときの基板流し方向（リフロー方向）と垂直方向に一列（横一列でもよいし縦一列でもよい）に直線的に並んだ文字列によって形成されるものであってもよい。
【５２６９】
一方、裏後左可動装飾基板３３１４の表実装面に実装されるＬＥＤ３３１４ａと、表実装面側表記部３３１４ｂと、ダイオードマーク３３１４ｃと、は、基板管理番号３３１４ｄの表記に対して水平又は垂直に設けられる第１ＬＥＤ群と、基板管理番号３３１４ｄの表記に対して傾斜して設けられる第２ＬＥＤ群と、を有している。すなわち、裏後左可動装飾基板３３１４の表実装面に実装される表面実装タイプの電子部品（チップ部品、ＳＭＤ（Ｓｕｒｆａｃｅ　Ｍｏｕｎｔ　ＤｅｖＩＣｅ））であるＬＥＤ３３１４ａと、表実装面側表記部３３１４ｂと、ダイオードマーク３３１４ｃと、は、電子部品を実装するときの基板流し方向（リフロー方向）に対して水平又は垂直に設けられている。なお、図示していないが裏後左可動装飾基板３３１４の表実装面の配線パターンは、基板管理番号３３１４ｄの表記に対して、水平又は垂直に設けられる部分が最も多くなるように形成されている。つまり、裏後左可動装飾基板３３１４の表実装面の配線パターンは、電子部品を実装するときの基板流し方向（リフロー方向）に対して水平又は垂直に設けられている部分が最も多くなるように形成されている。
【５２７０】
具体的には、裏後左可動装飾基板３３１４の上部に配置する３つのＬＥＤ３３１４ａ１と、表実装面側表記部３３１４ｂ１と、ダイオードマーク３３１４ｃ１と、から構成されて、基板管理番号３３１４ｄの表記に対して水平又は垂直に設けられる第１ＬＥＤ群と、裏後左可動装飾基板３３１４の下部に裏後左可動装飾基板３３１４の外形に沿って（裏後左可動装飾基板３３１４の外形に対して４つのＬＥＤ３３１４ａ２それぞれが略水平となるように配置される）一列に配置される４つのＬＥＤ３３１４ａ２と、表実装面側表記部３３１４ｂ２と、ダイオードマーク３３１４ｃ２と、から構成されて、基板管理番号３３１４ｄの表記に対して傾斜する第２ＬＥＤ群と、を備えている。
【５２７１】
このように図３５５の例では、裏後左可動装飾基板３３１４の表実装面には、基板管理番号３３１４ｄの表記に対して水平又は垂直なＬＥＤ３３１４ａ１と、基板管理番号３３１４ｄの表記に対して傾斜するＬＥＤ３３１４ａ２と、が実装されている。なお、一枚の基板の表実装面に、基板管理番号の表記に対して水平又は垂直なＬＥＤと、基板管理番号の表記に対して傾斜するＬＥＤと、を実装するものに限らず、一枚の基板の表実装面に基板管理番号の表記に対して水平又は垂直なＬＥＤと、基板管理番号の表記に対して傾斜するＬＥＤと、の一方のＬＥＤを実装し、当該基板の裏実装面に他方のＬＥＤを実装するよ

うにしてもよいし、一枚の基板の表実装面に基板管理番号の表記に対して水平又は垂直なＬＥＤと、基板管理番号の表記に対して傾斜するＬＥＤと、の一方のＬＥＤを実装し、当該基板とは別の基板に他方のＬＥＤを実装するようにしてもよい。

【５２７２】

また、上記した例では電子部品の向きとして、表面実装タイプの電子部品（チップ部品、ＳＭＤ（Ｓｕｒｆａｃｅ　Ｍｏｕｎｔ　ＤｅｖＩＣｅ））の場合には一の電子部品をハンダ付けするために対向又は隣り合うように基板に形成されている２つのパッドの中心点を結んだ直線の方向と規定する。つまり、基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄとして一列に直線的に並んだ文字列に対して上記パッドの中心点を結んだ直線が水平又は垂直とされる電子部品を基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄに対して水平又は垂直に設けられる電子部品と規定し、基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄとして一列に直線的に並んだ文字列に対して上記パッドの中心点を結んだ直線が傾斜する電子部品を基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄに対して傾斜するように設けられる電子部品と規定する。なお、基板に形成されるパッドは長方形状を有し、基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄに対して水平又は垂直に設けられる電子部品では、該電子部品をハンダ付けするために基板に形成されるパッドの４辺も基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄに対して水平又は垂直とされ、基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄに対して傾斜するように設けられる電子部品では、該電子部品をハンダ付けするために基板に形成されるパッドの４辺も基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄに対して傾斜する。すなわち、基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄと電子部品との位置関係（水平又は垂直に設けられるか傾斜するように設けられるかや、基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄと電子部品との角度）が、基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄとパッドの４辺との位置関係（水平又は垂直に設けられるか傾斜するように設けられるかや、基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄとパッドの４辺との角度）と一致するようになっている。

【５２７３】

また、電子部品の外形の任意の一辺が基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄに対して水平又は垂直に設けられるか否かによって基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄに対して水平又は垂直に設けられる電子部品であるか基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄに対して傾斜するように設けられる電子部品であるかを規定するようにしてもよいし、一の電子部品をハンダ付けするために隣り合う２つのパッドと該２つのパッドに対向する１つのパッドとの３つのパッドが基板に形成されている場合には、隣り合う２つのパッドの中心点を結んだ直線に対してこの２つのパッドと対向する１つのパッドの中心点からの垂線が基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄに対して水平又は垂直に設けられるか否かによって基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄに対して水平又は垂直に設けられる電子部品であるか基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄに対して傾斜するように設けられる電子部品であるかを規定するようにしてもよい。

【５２７４】

また、リードタイプの電子部品（リード部品、挿入実装電子部品、ディップ部品）の場合には、一の電子部品を実装するために対向又は隣り合うように形成されているスルーホールの中心点を結んだ直線の方向と規定するようにしてもよい。つまり、基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄとして一列に直線的に並んだ文字列に対して上記スルーホールの中心点を結んだ直線が水平又は垂直とされる電子部品を基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄに対して水平又は垂直に設けられる電子部品と規定し、基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄとして一列に直線的に並んだ文字列に対して上記パッドの中心点を結んだ直線が傾斜する電子部品を基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄに対して傾斜するように設けられる電子部品と規定するようにしてもよい。

【５２７５】

また、フルカラーＬＥＤ３３１１ａ～３３１４ａは、直線状に一列に並んで配置される赤色（Ｒｅｄ）発光素子と、緑色（Ｇｒｅｅｎ）発光素子と、青色（Ｂｌｕｅ）発光素子と、が封止樹脂によって固定されたパッケージＬＥＤ（パッケージ化されたＬＥＤ）であ

り、ＲＧＢ発光により全発光色を表示可能（フルカラー表示可能）に構成されている。なお、本例では封止樹脂として硬度が高く透光性を有するエポキシ樹脂が用いられ、赤色（Ｒｅｄ）発光素子と、緑色（Ｇｒｅｅｎ）発光素子と、青色（Ｂｌｕｅ）発光素子と、を湿気や衝撃から保護するとともに、ドーム型の形状を有してレンズとして作用し、赤色（Ｒｅｄ）発光素子と、緑色（Ｇｒｅｅｎ）発光素子と、青色（Ｂｌｕｅ）発光素子と、から発せられた光を集光するようになっている。また、封止樹脂に各散剤を混合することで配光性を制御するようにしてもよいし、蛍光剤を配合することで発光素子からの光を任意の波長に変換させるようにしてもよい（例えば単色ＬＥＤで任意の色（白色等）に発光させる）。また、基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄとして一列に直線的に並んだ文字列に対してＬＥＤ３３１１ａ～３３１４ａが水平又は垂直に設けられる場合には、各ＬＥＤ３３１１ａ～３３１４ａの赤色（Ｒｅｄ）発光素子と、緑色（Ｇｒｅｅｎ）発光素子と、青色（Ｂｌｕｅ）発光素子と、の表面に設けられるレンズとしての封止樹脂が基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄに対して水平又は垂直になる。一方、基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄとして一列に直線的に並んだ文字列に対してＬＥＤ３３１１ａ～３３１４ａが傾斜するように設けられる場合には、各ＬＥＤ３３１１ａ～３３１４ａの赤色（Ｒｅｄ）発光素子と、緑色（Ｇｒｅｅｎ）発光素子と、青色（Ｂｌｕｅ）発光素子と、の表面に設けられるレンズとしての封止樹脂が基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄに対して傾斜する。すなわち、赤色（Ｒｅｄ）発光素子と、緑色（Ｇｒｅｅｎ）発光素子と、青色（Ｂｌｕｅ）発光素子と、が直線状に一列に並んで配置されて表面にレンズとしての封止樹脂を有するパッケージＬＥＤの場合には、赤色（Ｒｅｄ）発光素子と、緑色（Ｇｒｅｅｎ）発光素子と、青色（Ｂｌｕｅ）発光素子と、の表面に設けられるレンズとしての封止樹脂が基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄに対して水平又は垂直である場合に基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄに対して水平又は垂直に設けられるＬＥＤと規定し、赤色（Ｒｅｄ）発光素子と、緑色（Ｇｒｅｅｎ）発光素子と、青色（Ｂｌｕｅ）発光素子と、の表面に設けられるレンズとしての封止樹脂が基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄに対して傾斜している場合に基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄに対して傾斜するＬＥＤと規定してもよい。

【５２７６】

また、裏後左可動装飾基板３３１４の第２ＬＥＤ群に接続される配線パターンは、第２ＬＥＤ群の各ＬＥＤ３３１４ａ２のパッドに対して垂直に接続されるため、第２ＬＥＤ群の各ＬＥＤ３３１４ａ２の近傍では基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するようになっている。ただし、第２ＬＥＤ群の各ＬＥＤ３３１４ａ２に接続される配線パターンが、基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直に設けられる電子部品（例えばＩＣ３３１４ｅ）に接続される場合には、該電子部品のパッドに対して垂直に接続されるため、この電子部品の近傍では基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となる。すなわち、基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するように設けられる電子部品に接続される配線パターンであっても、この電子部品の近傍において基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するように形成されるものの、この電子部品から離れた位置においては配線パターンの方向を変更する場合を除いて基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直に形成されるようになっている。つまり、裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の各基板において基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となる部分が最も多くなるように配線パターンが形成されている。

【５２７７】

また、図１６７及び図３５５に示すように、裏後左可動装飾体３３０１の裏後左可動装飾基板３３１４の上部に対応する部分は、一定以上の幅を有して屈曲することなく略直線的な形状を有している一方、裏後左可動装飾体３３０１の裏後左可動装飾基板３３１４の下部に対応する部分は、先細り状に幅が変化しつつ屈曲するような形状を有し、裏後左可動装飾基板３３１４が裏後左可動装飾体３３０１の外形に沿った形状を有している。すなわち、裏後左可動装飾基板３３１４の表実装面に実装される第２ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａ２は裏後左可動装飾基板３３１４の外形に沿って配置されるとともに裏後左可動装飾

体３３０１の外形に沿って配置される。例えば、図３５５の例では基板の一側辺に対して水平又は垂直に近い状態となるように第２ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａそれぞれが設けられるようになっている。このように構成することにより、裏後左可動装飾体３３０１の屈曲して幅が狭くなっている部分に対して裏後左可動装飾基板３３１４に実装されるＬＥＤ３３１４ａからの光が無駄なく照射されるようにして発光装飾させることができ、発光ムラの発生を抑制することができる。換言すると、裏後左可動装飾体３３０１の意匠に合わせてＬＥＤ３３１４ａの向きを配置して適切に発光させることができるようになるため、効率的な発光を実現してＬＥＤ３３１４ａによる発光効果（高輝度の発光を実現して迫力のある発光演出を実行する等）を高めることができ、遊技興趣の低下を抑止可能である。

【５２７８】

つまり、裏後左可動装飾体３３０１の屈曲して幅が狭くなっている部分において、裏後左可動装飾体３３０１の傾斜に合わせてＬＥＤ３３１４ａを傾斜させてパッケージＬＥＤの赤色（Ｒｅｄ）発光素子と、緑色（Ｇｒｅｅｎ）発光素子と、青色（Ｂｌｕｅ）発光素子と、のそれぞれから裏後左可動装飾体３３０１の屈曲して幅が狭くなっている部分までの距離を均等に近い状態にしてＬＥＤ３３１４ａから裏後左可動装飾体３３０１の内側面に対してパッケージＬＥＤの赤色（Ｒｅｄ）発光素子と、緑色（Ｇｒｅｅｎ）発光素子と、青色（Ｂｌｕｅ）発光素子と、のそれぞれからレンズとしての封止樹脂を介して略垂直に光を照射させることにより、裏後左可動装飾体３３０１に対して最適な状態でＬＥＤ３３１４ａから光が照射されてパッケージＬＥＤの赤色（Ｒｅｄ）発光素子と、緑色（Ｇｒｅｅｎ）発光素子と、青色（Ｂｌｕｅ）発光素子と、から照射される光のうちの一部の光が強くなることを抑制でき、裏後左可動装飾体３３０１の隅々までＬＥＤ３３１４ａの赤色（Ｒｅｄ）発光素子と、緑色（Ｇｒｅｅｎ）発光素子と、青色（Ｂｌｕｅ）発光素子と、のそれぞれから光を均一に照射させて発光ムラの発生を抑制することができるようになっている。なお、裏後左可動装飾体３３０１の形状に合わせて第２ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａそれぞれを傾斜させるものであれば、上記した効果を奏するため、必ずしも基板の一側辺に対して水平又は垂直に近い状態とするものに限られるものではない。

【５２７９】

上記したように裏後左可動装飾体３３０１は、遊技者と対向している装飾部であり、所定の意匠（本例では「Ａ」の文字を図案化した意匠）を有するとともに透光性樹脂により形成される発光装飾部を有し、裏後左可動装飾基板３３１４に実装されるＬＥＤ３３１４ａにより発光装飾されるものである。そして、裏後左可動装飾体３３０１の傾斜に合わせてＬＥＤ３３１４ａを傾斜させてパッケージＬＥＤの赤色（Ｒｅｄ）発光素子と、緑色（Ｇｒｅｅｎ）発光素子と、青色（Ｂｌｕｅ）発光素子と、のそれぞれからレンズとしての封止樹脂を介して裏後左可動装飾体３３０１の発光装飾部に対して略垂直に光を照射させることにより、裏後左可動装飾体３３０１の発光装飾部をムラなく発光装飾させるとともに発光効果を高めて遊技興趣の低下を抑止できるようになっている。なお、裏後左可動装飾体３３０１のうちの裏後左可動装飾基板３３１４の前方に設けられてＬＥＤ３３１４ａから光が照射される部分は、全体が光を透過可能とされるもの（発光装飾部）であってもよいし、光を透過可能な部分（発光装飾部）と光を透過不可能な部分とが混在するものであってもよい。また、光を透過不可能な部分には、メッキ、絵柄、などの加工が施されており、裏後左可動装飾体３３０１として文字やキャラクター等の意匠（本例では「Ａ」の文字を図案化した意匠）を表現するようになっている。また、光を透過可能な発光装飾部は、無色透明であってもよいし、有色透明であってもよい。また、光を透過可能な発光装飾部は、レンズカット等の光を拡散させる加工が施されたものであってもよいし、光を拡散させる加工が施されていないものであってもよい。また、光を透過可能な発光装飾部と裏後左可動装飾基板３３１４との間に透光性の部材（例えば拡散レンズ等）をさらに備えるようにしてもよく、透光性の部材と発光装飾部とを一体で形成することで発光装飾部を二重構造としてもよいし、透光性の部材と発光装飾部とを別体で形成するようにしてもよい。

【５２８０】

また、図３５５に示すように第２ＬＥＤ群のＬＥＤの各ＬＥＤ３３１４ａ２と、該ＬＥＤ３３１４ａ２それぞれに対して略水平の位置関係にある裏後左可動装飾基板３３１４の端部と、の間には他の電子部品が実装されないようになっている。これにより、ＬＥＤ３３１４ａ２から照射される光が他の電子部品によって遮られてしまうことを抑制でき、ＬＥＤ３３１４ａ２から裏後左可動装飾体３３０１に光を均一に照射して発光ムラを抑制することができるようになる。また、４つのＬＥＤ３３１４ａ２が裏後左可動装飾基板３３１４の外形に沿って一列に配置されることにより、４つのＬＥＤ３３１４ａ２それぞれから該ＬＥＤ３３１４ａ２それぞれに対して略水平の位置関係にある裏後左可動装飾基板３３１４の端部までの距離を略均一にすることができ、ＬＥＤ３３１４ａ２それぞれから裏後左可動装飾体３３０１に光を均一に照射して発光ムラを抑制することができるようになる。なお、図３５５に示す例では基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直に設けられる第１ＬＥＤ群の３つのＬＥＤ３３１４ａ１についても裏後左可動装飾基板３３１４の外形に沿って一列に配置されるものを示したが、基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直に設けられる第１ＬＥＤ群の３つのＬＥＤ３３１４ａ１については裏後左可動装飾基板３３１４の外形とは無関係に配置するものであってもよい。

【５２８１】

また、基板の外形が曲線的な傾斜を有する部分においては、基板管理番号に対して傾斜するように設けられる複数のＬＥＤそれぞれは、互いに傾斜するように配置される（基板管理番号に対してそれぞれ異なる角度で傾斜するように配置される）。一方、基板の外形が直線的な傾斜を有するものである部分においては、基板管理番号に対して傾斜するように設けられる複数のＬＥＤそれぞれは、互いに水平又は垂直となるように配置される（基板管理番号に対して同一角度で傾斜するように配置される）。このように、基板の外形に沿って複数のＬＥＤを傾斜させて配置することにより、基板の外形（本例では裏後左可動装飾基板３３１４の外形）や基板の表面側に設けられる装飾体（本例では裏後左可動装飾体３３０１）に光を均一に照射して発光ムラを抑制することができるようになる。

【５２８２】

また、図３５５に示すように第２ＬＥＤ群の表実装面側表記部３３１４ｂ及びダイオードマーク３３１４ｃについても第２ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａの傾斜に合わせて表記されている。そのため、第２ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａの実装時にＬＥＤ向きや配置の見間違えが抑制され、不良の発生を抑制できるようになる。なお、裏後左可動装飾基板３３１４の表実装面に実装される電子部品の部品番号についても表実装面側表記部としてシルク印刷される場合には、第１ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａの部品番号の表実装面側表記部については基板管理番号３３１４ｄの表記に対して水平又は垂直に設け、第２ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａの部品番号の表実装面側表記部については第２ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａの傾斜に合わせて傾斜するように設けるようにしてもよいし、第１ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａの部品番号の表実装面側表記部と第２ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａの部品番号の表実装面側表記部とのいずれも基板管理番号３３１４ｄの表記に対して水平又は垂直に設けるようにしてもよい。第２ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａの部品番号の表実装面側表記部について第２ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａの傾斜に合わせて傾斜するように設けた場合には、部品番号とＬＥＤとの関係が明確になって第２ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａの実装間違いを防止できるし、第２ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａの部品番号の表実装面側表記部について基板管理番号３３１４ｄの表記に対して水平又は垂直に設けた場合には第２ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａの実装時に裏後左可動装飾基板３３１４を回転させて部品番号を確認し易くする作業が不要になり、第２ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａの実装時の作業性を向上させることができるようになる。

【５２８３】

また、裏後左可動装飾体３３０１の裏後左可動装飾基板３３１４の表実装面には、ＬＥＤ３３１４ａ以外にも電子部品が実装される場合がある。本例では、図３５５に示すように裏後左可動装飾基板３３１４の表実装面には、ＩＣ３３１４ｅが実装されている。また、裏後左可動装飾基板３３１４の表実装面に実装されるＩＣ３３１４ｅは、基板管理番号

３３１４ｄの表記に対して水平又は垂直に設けられるようになっている。このように、裏後左可動装飾基板３３１４の表実装面に実装される電子部品のうち、裏後左可動装飾体３３０１の屈曲して幅が狭くなっている部分に対して光を照射させるものではない電子部品については裏後左可動装飾体３３０１の屈曲形状に合わせて傾斜されることなく、基板管理番号３３１４ｄの表記に対して水平又は垂直に設けられるようになっている。そのため、ＬＥＤ３３１４ａ以外の電子部品の実装時に実装方向や第１端子の配置位置等の見間違えが抑制され、不良の発生を抑制できるようになる。なお、裏後左可動装飾体３３０１の裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の表実装面にはＬＥＤ３３１１ａ～３３１４ａ以外の電子部品を実装しないようにしてもよい。また、裏後左可動装飾体３３０１の裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の表実装面にＬＥＤ３３１１ａ～３３１４ａ以外の電子部品を実装する場合には、白色や黄色等の明色の外装を有する電子部品（例えば白色の外装を有するコネクタ等）のみを実装し、黒色等の暗色の外装を有する電子部品（例えば黒色の外装を有する抵抗や茶色の外装を有するコンデンサ等）は裏実装面に実装するようにしてもよい。これにより、裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の表実装面における反射率の均一化を図ることができ、発光ムラの発生を抑制することが可能になる。

【５２８４】

なお、裏後左可動装飾体３３０１の裏後左可動装飾基板３３１４の表実装面に実装される電子部品は、ＩＣ３３１４ｅに限られるものではなく、コンデンサや、抵抗、コネクタ等であってもよい。また、裏後左可動装飾基板３３１４の表実装面には暗色の外装を有する電子部品を配置することなく、明色（例えば白色、黄色、水色、黄緑色等）の外装を有する電子部品のみを配置するようにしてもよく、この場合にはコンデンサや抵抗を裏後左可動装飾基板３３１４の裏実装面にのみ配置するようにしてもよい。これにより、裏後左可動装飾基板３３１４の表実装面における反射率の低下を抑止できるし、反射率の均一化を図ることができ、発光ムラの発生を抑止できる。

【５２８５】

また、上記した例では基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直に設けられる第１ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａと、基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するように設けられる第２ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａと、を備える裏後左可動装飾基板３３１４を示したが、裏後左可動装飾基板３３１４に実装されるＬＥＤ３３１４ａについては全て基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するように設けるとともにＬＥＤ３３１４ａに対応する表実装面側表記部３３１４ｂ及びダイオードマーク３３１４ｃについても基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するように設けるようにし、ＬＥＤ３３１４ａ以外の電子部品（この例ではＩＣ３３１４ｅ）については基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直に設けるとともにＬＥＤ３３１４ａ以外の電子部品に対応する表実装面側表記部３３１４ｂや電子部品の実装向き（実装方向、第１端子の配置位置）を示す１ピンマーク３３１４ｅ１についても基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直に設けるようになっている。本例では、電子部品の実装向き（実装方向、第１端子の配置位置）を示す１ピンマーク３３１４ｅ１として数字の１を丸で囲んだ記号を上記したシルク印刷によりレジスト上に印刷されている。また、電子部品の実装向き（実装方向、第１端子の配置位置）を示す１ピンマーク３３１４ｅ１は上記したものに限らず、三角記号（△）や丸などであってもよい。

【５２８６】

また、上記した例では裏後左可動装飾基板３３１４の表実装面を、基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直に設けられる第１ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａが実装される領域と、基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するように設けられる第２ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａが実装される領域と、に区分けするものを示したが、裏後左可動装飾基板３３１４の表実装面において第１ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａが実装される領域と、第２ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａが実装される領域と、を分けることなく第１ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａと第２ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａとが混在して配置されるものであってもよい。

【５２８７】

また、ＬＥＤの外径形状によって第１ＬＥＤ群と第２ＬＥＤ群とに区分けし、第１ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａについては基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装し、第２ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａについては基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するように裏後左可動装飾基板３３１４に実装するようにしてもよい。

【５２８８】

例えば、図３５６に示すように、正方形に近い外径形状を有する第１ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａ１と、長方形に近い外径形状を有する第２ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａ２と、を裏後左可動装飾基板３３１４に実装し、正方形に近い外径形状を有する第１ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａ１については基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように設け、長方形に近い外径形状を有する第２ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａ２については基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するように設けるようにしてもよい。これにより、裏後左可動装飾体３３０１の形状に合わせてパッケージＬＥＤの赤色（Ｒｅｄ）発光素子と、緑色（Ｇｒｅｅｎ）発光素子と、青色（Ｂｌｕｅ）発光素子と、のそれぞれから裏後左可動装飾体３３０１の内側面までの距離を均等に近い状態にすることができるようになり、裏後左可動装飾体３３０１の隅々までＬＥＤの赤色（Ｒｅｄ）発光素子と、緑色（Ｇｒｅｅｎ）発光素子と、青色（Ｂｌｕｅ）発光素子と、のそれぞれから光を均一に照射させて発光ムラの発生を抑制することができる。

【５２８９】

なお、上記した例では長方形に近い外径形状を有するＬＥＤとして赤色（Ｒｅｄ）発光素子と、緑色（Ｇｒｅｅｎ）発光素子と、青色（Ｂｌｕｅ）発光素子と、を有してパッケージ化されたフルカラーＬＥＤを示したが、長方形に近い外径形状を有して表面に長方形のレンズとしての封止樹脂を有するものであれば赤色（Ｒｅｄ）発光素子と、緑色（Ｇｒｅｅｎ）発光素子と、青色（Ｂｌｕｅ）発光素子と、のうちのいずれか１つのみを有してパッケージ化された単色ＬＥＤであっても、裏後左可動装飾体３３０１の形状に沿って傾斜（基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜）するように配置することで長方形のレンズとしての封止樹脂の長手方向端部から裏後左可動装飾体３３０１の内側面までの距離を均等に近い状態にすることができるようになるため、裏後左可動装飾体３３０１の一部の光が強くなることや一部の光が弱くなることを防止でき、発光ムラの発生が抑制される。

【５２９０】

また、上記した例では正方形に近い外径形状を有する第１ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａ１については基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装し、長方形に近い外径形状を有する第２ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａ２については基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するように裏後左可動装飾基板３３１４に実装したが、第１ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａ１として長方形に近い外径形状を有するＬＥＤとし、第２ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａ２として正方形に近い外径形状を有するＬＥＤとしてもよい。この場合にもパッケージＬＥＤの赤色（Ｒｅｄ）発光素子と、緑色（Ｇｒｅｅｎ）発光素子と、青色（Ｂｌｕｅ）発光素子と、のそれぞれから裏後左可動装飾体３３０１の内側面までの距離を均等に近い状態にすることができるようになり、裏後左可動装飾体３３０１の隅々までＬＥＤの赤色（Ｒｅｄ）発光素子と、緑色（Ｇｒｅｅｎ）発光素子と、青色（Ｂｌｕｅ）発光素子と、のそれぞれから光を均一に照射させて発光ムラの発生を抑制することができる。また、少なくとも正方形に近い外径形状を有するＬＥＤと長方形に近い外径形状を有するＬＥＤとのうちの一方については基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するように配置されるもののみで構成する一方で、他方については基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直に配置されるものと基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するように配置されるものとを含むように構成するようにしてもよいし、少なくとも正方形に近い外径形状を有するＬＥＤと長方形に近い外径形状を有するＬＥＤとのうちの一方については基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直に配置されるもののみで構成する一方で、他方については基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直に配置されるものと基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するように配置されるものとを含

むように構成するようにしてもよい。
【５２９１】
　また、上記した例では基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装されるＬＥＤと、基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するように裏後左可動装飾基板３３１４に実装されるＬＥＤと、をＬＥＤの外径形状に応じて異ならせるものを示したが、少なくとも一方の外径形状を有するＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装されるものであればよく、他方の外径形状を有するＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装されるものと基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するように裏後左可動装飾基板３３１４に実装されるものとを含むようにしてもよい。すなわち、基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装される第１ＬＥＤ群のＬＥＤとして外径形状の異なる複数種類のＬＥＤを含み、基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するように裏後左可動装飾基板３３１４に実装される第２ＬＥＤ群のＬＥＤとして外径形状が共通するＬＥＤのみを含むものとしてもよい。
【５２９２】
　また、上記した例では正方形に近い外径形状を有するＬＥＤと、長方形に近い（細長い）外径形状を有するＬＥＤと、を異なる外径形状を有するものとして区分けしたが、外径形状が異なるＬＥＤであっても外径形状が類似するＬＥＤであれば同一のグループ（例えば第１ＬＥＤ群）としてもよい。例えば、正方形ではないが正方形に近い外径形状を有するＬＥＤと、正方形のＬＥＤと、を同一のグループとして区分けするようにしてもよいし、左右又は上下が対称とされるＬＥＤと非対称とされるＬＥＤとを異なる外径形状を有するものとして第１ＬＥＤ群と第２ＬＥＤ群とに区分けするようにしてもよい。
【５２９３】
　また、ＬＥＤの種類に応じて区分けするようにしてもよい。例えば、単色ＬＥＤとフルカラーＬＥＤとを区分けし、単色ＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装し、フルカラーＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するように裏後左可動装飾基板３３１４に実装するようにしてもよいし、フルカラーＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装し、単色ＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するように裏後左可動装飾基板３３１４に実装するようにしてもよいし、単色ＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装し、フルカラーＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するように裏後左可動装飾基板３３１４に実装するものと基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装するものとを含むようにしてもよいし、フルカラーＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装し、単色ＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するように裏後左可動装飾基板３３１４に実装するものと基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装するものとを含むようにしてもよい。また、単色ＬＥＤとフルカラーＬＥＤとは、同一の基板に実装されるものであってもよいし、別々の基板に実装されるものであってもよい。すなわち、単色ＬＥＤを実装する基板と、フルカラーＬＥＤを実装する基板と、を異ならせるようにしてもよいし、同一の基板に単色ＬＥＤとフルカラーＬＥＤとの両方を実装するようにしてもよい。
【５２９４】
　また、トップビュータイプのＬＥＤとサイドビュータイプのＬＥＤとを区分けし、トップビュータイプのＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装し、サイドビュータイプのＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するように裏後左可動装飾基板３３１４に実装するようにしてもよいし、サイドビュータイプのＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対

して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装し、トップビュータイプのＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するように裏後左可動装飾基板３３１４に実装するようにしてもよいし、トップビュータイプのＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装し、サイドビュータイプのＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するように裏後左可動装飾基板３３１４に実装するものと基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装するものとを含むようにしてもよいし、サイドビュータイプのＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装し、トップビュータイプのＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するように裏後左可動装飾基板３３１４に実装するものと基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装するものとを含むようにしてもよい。また、トップビュータイプのＬＥＤとサイドビュータイプのＬＥＤとは、同一の基板に実装されるものであってもよいし、別々の基板に実装されるものであってもよい。すなわち、トップビュータイプのＬＥＤを実装する基板と、サイドビュータイプのＬＥＤを実装する基板と、を異ならせるようにしてもよいし、同一の基板にトップビュータイプのＬＥＤとサイドビュータイプのＬＥＤとの両方を実装するようにしてもよい。また、サイドビュータイプのＬＥＤを実装する場合にはサイドビュータイプのＬＥＤからの光を偏光板に入射させてサイドビュータイプのＬＥＤが実装される実装面の前方に光を照射するようにしてもよい。

【５２９５】

また、ハンダ付けされて配線パターンと電気的に接続されるパッケージＬＥＤ（パッケージ化されたＬＥＤ）とボンディングワイヤによって配線パターンと電気的に接続されるベアチップＬＥＤ（パッケージ化されていないＬＥＤ）とを区分けし、パッケージＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装し、ベアチップＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するように裏後左可動装飾基板３３１４に実装するようにしてもよいし、ベアチップＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装し、パッケージＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するように裏後左可動装飾基板３３１４に実装するようにしてもよいし、パッケージＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装し、ベアチップＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するように裏後左可動装飾基板３３１４に実装するものと基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装するものとを含むようにしてもよいし、ベアチップＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装し、パッケージＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するように裏後左可動装飾基板３３１４に実装するものと基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装するものとを含むようにしてもよい。また、パッケージＬＥＤとベアチップＬＥＤとは、同一の基板に実装されるものであってもよいし、別々の基板に実装されるものであってもよい。すなわち、パッケージＬＥＤを実装する基板と、ベアチップＬＥＤを実装する基板と、を異ならせるようにしてもよいし、同一の基板にパッケージＬＥＤとベアチップＬＥＤとの両方を実装するようにしてもよい。

【５２９６】

また、配置される位置に応じてＬＥＤを区分けするようにしてもよく、例えば裏後左可動装飾基板３３１４の中央部に配置する中央ＬＥＤと裏後左可動装飾基板３３１４の端部に配置する端部ＬＥＤとを区分けし、中央ＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装し、端部ＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するように裏後左可動装飾基板３３１４に実装するようにしてもよいし、端部ＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装し、中央ＬＥＤについては基板管

理番号３３１４ｄに対して傾斜するように裏後左可動装飾基板３３１４に実装するようにしてもよいし、中央ＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装し、端部ＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するように裏後左可動装飾基板３３１４に実装するものと基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装するものとを含むようにしてもよいし、端部ＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装し、中央ＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するように裏後左可動装飾基板３３１４に実装するものと基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装するものとを含むようにしてもよい。

【５２９７】

また、ＬＥＤのパッケージの大きさやＬＥＤ素子の大きさに応じてＬＥＤを区分けするようにしてもよく、例えば所定の基準サイズよりも大きい大型ＬＥＤと所定の基準サイズよりも小さい小型ＬＥＤとを区分けし、大型ＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装し、小型ＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するように裏後左可動装飾基板３３１４に実装するようにしてもよいし、小型ＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装し、大型ＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するように裏後左可動装飾基板３３１４に実装するようにしてもよいし、大型ＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装し、小型ＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するように裏後左可動装飾基板３３１４に実装するものと基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装するものとを含むようにしてもよいし、小型ＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装し、大型ＬＥＤについては基板管理番号３３１４ｄに対して傾斜するように裏後左可動装飾基板３３１４に実装するものと基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように裏後左可動装飾基板３３１４に実装するものとを含むようにしてもよい。

【５２９８】

また、上記した例では裏後左可動装飾基板３３１４が裏後左可動装飾体３３０１の外形に沿った形状を有するものを示したが、裏後左可動装飾基板３３１４が裏後左可動装飾体３３０１の外形に沿った形状を有しない場合には裏後左可動装飾基板３３１４の表実装面に実装される第２ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａ２を裏後左可動装飾基板３３１４の外形に沿って配置することなく、裏後左可動装飾体３３０１の外形に沿って配置するようにしてもよい。この場合にも裏後左可動装飾体３３０１に対して裏後左可動装飾基板３３１４に実装されるＬＥＤ３３１４ａからの光が無駄なく照射されるようにして発光装飾させることができ、発光ムラの発生を抑制するともに発光効果を高めて遊技興趣の低下を抑止できる。

【５２９９】

また、図３５５及び図３５６において裏後左可動装飾基板３３１４の略直線的な外形を有する幹部（本例では裏後左可動装飾基板３３１４の第１ＬＥＤ群の３つのＬＥＤ３３１４ａ１が実装される部分）には、ＬＥＤ３３１４ａ以外にも電子部品（この例ではＩＣ３３１４ｅ）が実装されるのに対し、裏後左可動装飾基板３３１４の屈曲した外径を有する枝部（本例では裏後左可動装飾基板３３１４の第２ＬＥＤ群の４つのＬＥＤ３３１４ａ２が実装される部分）には、ＬＥＤ３３１４ａ以外には電子部品が実装されないようになっている。すなわち、幹部に対して枝部は幅が狭く、ＬＥＤ３３１４ａからの光が照射され難い形状であるため、ＬＥＤ３３１４ａ以外の電子部品を実装した場合にはＬＥＤ３３１４ａからの光がこの電子部品によって遮られてしまい、裏後左可動装飾体３３０１に照射される光が弱くなるおそれがある。本例では、裏後左可動装飾基板３３１４の枝部にはＬＥＤ３３１４ａ以外の電子部品を配置しないことにより、裏後左可動装飾体３３０１に照

射される光が弱くなることを防止し、発光ムラの発生を抑止している。
【５３００】
なお、上記した例では裏後左可動装飾基板３３１４の略直線的な外形を有する幹部と、裏後左可動装飾基板３３１４の屈曲した外径を有する枝部と、を示したが、ＬＥＤが実装される基板において幹部の一部（幹部の辺の一部）から突出して形成される部分を枝部とし、枝部に第２ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａ２を実装するようにしてもよい。なお、第２ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａ２は枝部にのみ実装されるものに限らず、幹部の一部や全部に実装されるものであってもよい。
【５３０１】
また、上記した例では基板管理番号に対して傾斜するように設けられる複数のＬＥＤ（この例では第２ＬＥＤ群のＬＥＤの各ＬＥＤ３３１４ａ２）を基板（この例では裏後左可動装飾基板３３１４）の外形に沿って一列に配置されるものを示したが、基板の外形に沿わないように配置する場合にも複数のＬＥＤを基板管理番号に対して傾斜するように設けてもよく、この場合には、基板管理番号に対して傾斜するように配置される複数のＬＥＤについては一列に並べて配置しないようにしてもよいし、基板管理番号に対して傾斜するように配置される複数のＬＥＤそれぞれが互いに水平又は垂直とならないように配置してもよい（基板管理番号に対して傾斜するように配置される複数のＬＥＤのうちの一部のＬＥＤはそれぞれが互いに水平又は垂直となるように配置されていてもよいが、基板管理番号に対して傾斜するように配置される複数のＬＥＤのうちの少なくとも半数以上のＬＥＤについてはそれぞれが互いに水平又は垂直となるように配置されるようにすればよい）。すなわち、裏後左可動装飾体３３０１の形状に合わせて複数のＬＥＤを配置する場合には基板の外形に沿わない場合もあるが、この場合には裏後左可動装飾体３３０１の形状に合わせて複数のＬＥＤをそれぞれ基板管理番号に対して傾斜するように配置することで裏後左可動装飾体３３０１の形状に最適な状態で光が照射されるようにＬＥＤそれぞれを配置することができるようになり、発光ムラの発生を抑制するとともに発光効果を高めて遊技興趣の低下を抑止できるようになっている。
【５３０２】
また、裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４のＬＥＤ３３１４ａが実装されない裏実装面には、ＬＥＤ３３１４ａ以外の電子部品が実装される場合がある。図３５７に示すように本例では、裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の裏実装面にも、表実装面と同様に白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされ、裏後左可動装飾基板３３１１の裏実装面には、ＩＣ３３１１ｅとコンデンサ３３１１ｆとコネクタ３３１１ｇとが実装され、裏後左可動装飾基板３３１２の裏実装面には、コネクタ３３１２ｇと抵抗３３１２ｆとが実装され、裏後左可動装飾基板３３１３の裏実装面には、コネクタ３３１３ｇが実装され、裏後左可動装飾基板３３１４の裏実装面には、コネクタ３３１４ｇが実装されている。また、本例では裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の裏実装面にはＬＥＤが実装されないようになっている。
【５３０３】
なお、裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４のＬＥＤ３３１４ａが実装されない裏実装面には表実装面とは異なる色のソルダーレジスト（保護材）をコーティングするようにしてもよい。すなわち、ＬＥＤが実装されない裏実装面においてはＬＥＤからの光の反射率を高める色のソルダーレジスト（保護材）をコーティングする必要がないため、表実装面とは異なる色のソルダーレジスト（保護材）として例えば緑色や黒色等の暗色のソルダーレジスト（保護材）をコーティングするようにしてもよい。ただし、本例のようにＬＥＤ３３１４ａが実装されない裏実装面についてもＬＥＤからの光の反射率を高める色のソルダーレジスト（保護材）をコーティングすることにより、他の基板に実装されるＬＥＤからの光を反射させる反射板として機能させることが可能である。
【５３０４】
また、裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の裏実装面には、スルーホール３３１１ｈ～３３１４ｈが形成されるとともに、電子部品を配置する位置を示す裏実装面側表記部

３３１１ｂ～３３１４ｂが白色に対して目立ち難い明色である黄色の塗料で白色のレジスト上にシルク印刷により印刷され、裏後左可動装飾基板３３１１にはＩＣ３３１１ｅの実装向き（実装方向、第１端子の配置位置）を示す１ピンマーク３３１４ｅ１が白色に対して目立ち難い明色である黄色の塗料で白色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。また、裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の表実装面と同様に各基板を管理するための固有の識別番号である基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄが箔抜き文字（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで文字を作りその周囲の銅箔を抜いて形成される抜き文字）で形成されている。なお、基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄは、同一の基板であれば表実装面と裏実装面とで同一とされ、一列に直線的に並んだ文字列の方向も同一とされている（表実装面の基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄと裏実装面の基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄとが水平とされている）。すなわち裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の裏実装面に形成される基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄも、裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の表実装面に形成される基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄと同様に裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４に電子部品を実装するときの基板流し方向（リフロー方向）と同一方向に一列に直線的に並んだ文字列（この例ではアルファベット３文字＋４桁のアラビア数字）によって形成されている。なお、基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄは、裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４に電子部品を実装するときの基板流し方向（リフロー方向）と同一方向（水平方向）に一列に直線的に並んだ文字列によって形成されるものに限らず、裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４に電子部品を実装するときの基板流し方向（リフロー方向）と垂直方向に一列（横一列でもよいし縦一列でもよい）に直線的に並んだ文字列によって形成されるものであってもよい。また、裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の表実装面に形成される基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄと裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の裏実装面に形成される基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄとは、同一方向（水平方向）に形成されるものに限らず、垂直方向に形成されるものであってもよい。

【５３０５】

また、図３５７には裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の裏実装面における配線パターンについても表示している。そして、裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の裏実装面の配線パターンについても、基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄの表記に対して、水平又は垂直に設けられる部分が最も多くなるように形成されている。つまり、裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の裏実装面の配線パターンは、配線パターンの方向を９０度変更させる場合に基板流し方向（リフロー方向）に対して水平な配線パターンと垂直な配線パターンとを基板流し方向（リフロー方向）に対して４５度の配線パターンで接続するように形成されるものの、電子部品を実装するときの基板流し方向（リフロー方向）に対して水平又は垂直に設けられている部分が最も多くなるように形成されている。

【５３０６】

図３５７に示すように、裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の裏実装面に実装される電子部品は、基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄの表記に対して水平又は垂直となるように設けられている。また、裏実装面側表記部３３１１ｂ～３３１４ｂや１ピンマーク３３１４ｅ１も裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の裏実装面及び表実装面に設けられる基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄの表記に対して水平又は垂直となるように表記される。さらに、裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の裏実装面における配線パターンの殆どが裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の裏実装面及び表実装面に設けられる基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄの表記に対して水平又は垂直となるように設けられる。すなわち、裏後左可動装飾基板３３１１～３３１３の裏実装面に実装される表面実装タイプの電子部品（チップ部品、ＳＭＤ（Ｓｕｒｆａｃｅ　Ｍｏｕｎｔ　ＤｅｖＩＣｅ））であるＩＣ３３１１ｅとコネクタ３３１１ｇ～３３１４ｇと抵抗３３１２ｆや、裏実装面側表記部３３１１ｂ～３３１４ｂと、１ピンマーク３３１４ｅ１と、は、電子部品を実装するときの基板流し方向（リフロー方向）に対して水平又は垂直に設けられている。

【５３０７】

上記したように、裏後左可動装飾基板３３１４の表実装面に実装される第２ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａ２は、裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の表実装面に設けられる基板管理番号３３１４ｄの表記に対して傾斜するように設けられる。また、基板管理番号３３１４ｄの表記は裏後左可動装飾基板３３１４の表実装面と裏実装面とで水平とされているため、裏後左可動装飾基板３３１４の表実装面に実装される第２ＬＥＤ群のＬＥＤ３３１４ａ２は、裏後左可動装飾基板３３１４の裏実装面に設けられる基板管理番号３３１４ｄに対しても傾斜するように設けられ、さらに裏後左可動装飾基板３３１４の裏実装面において裏後左可動装飾基板３３１４の裏実装面に設けられる基板管理番号３３１４ｄに対して水平又は垂直となるように実装される電子部品（ＩＣ３３１１ｅと、コネクタ３３１１ｇ～３３１４ｇと、抵抗３３１２ｆ）や裏実装面側表記部３３１１ｂ～３３１４ｂ、裏後左可動装飾基板３３１４の裏実装面に表記される１ピンマーク３３１４ｅ１、に対しても傾斜するように設けられる。

【５３０８】

このように、本例では裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の表実装面に実装される電子部品には、基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄの表記に対して水平又は垂直となるように設けられるＬＥＤの他に、基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄの表記に対して傾斜するように設けられるＬＥＤを含む一方、裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の裏実装面に実装される電子部品には、基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄの表記に対して水平又は垂直となるように設けられる電子部品のみを含むようになっている。すなわち、遊技者に対峙する裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の表実装面側は遊技者から注目され易いため、裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の表実装面に実装されるＬＥＤについては裏後左可動装飾体３３０１の形状に合わせてＬＥＤ３３１４ａを傾斜させて配置することにより裏後左可動装飾体３３０１の隅々までＬＥＤ３３１４ａからの光を均一に届けて発光ムラの発生を抑制するともに発光効果を高めて遊技興趣の低下を抑止できるようになっている。一方、遊技者に対峙しない裏後左可動装飾基板３３１１～３３１４の裏実装面側に配置される電子部品については基板管理番号３３１１ｄ～３３１４ｄの表記に対して水平又は垂直となるように配置することで、電子部品の確認作業や実装時の作業性を向上させることができるようになる。

【５３０９】

［主基板の別例］

次に、リードタイプ（スルーホール実装タイプ、挿入実装タイプ）の電子部品（リード部品、挿入実装電子部品、ディップ部品）と、表面実装タイプの電子部品（チップ部品、ＳＭＤ（Ｓｕｒｆａｃｅ　Ｍｏｕｎｔ　ＤｅｖＩＣｅ））と、の両方が実装される基板について、図３５８～図３５９を参照して説明する。図３５８及び図３５９は別例における主制御基板１３１０の一部を示す概略図であり、図３５８（Ａ）は主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおける電子部品の実装状態を示す概略図、図３５８（Ｂ）は主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおけるスルーホール及びパッドを示す概略図であり、図３５９（Ａ）は主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘの配線パターンを示す概略図、図３５９（Ｂ）は主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙの配線パターンを示す概略図である。なお、以下では上記した実施形態と異なる部分についてのみ説明し、重複した説明を行わない。

【５３１０】

本例の主制御基板１３１０には、基板表面に設けられたスルーホールにリード端子を挿入してハンダ付けされるリードタイプ（スルーホール実装タイプ、挿入実装タイプ）の電子部品と、スルーホールを用いることなしに基板表面に設けられたパッドに電極がハンダ付けされる表面実装タイプの電子部品と、の両方が混載実装されるようになっている。

【５３１１】

表面実装タイプの電子部品は、基板の両面を利用できることに加え、同一種類の電子部品であってもリードタイプの電子部品に比べて電子部品を小型化することで実装密度を高めることができる。そのため、基板上の配線長を短くすることが可能であり、回路の高速

化を図ることができる。しかしながら、遊技機に用いられる電子部品においてはリードタイプでのみ製造されていて表面実装タイプでは製造されていない電子部品もあることから、一の基板にリードタイプの電子部品と表面実装タイプの電子部品との両方が実装されるようになっている。ただし、大半の電子部品は表面実装タイプで製造されているため、一の基板においてはリードタイプの電子部品の実装されている数よりも表面実装タイプの電子部品の実装されている数の方が多くなっている。

【５３１２】

また、図３５８（Ａ）には図示を省略するが、表面（実装面１３１０ｘ）に実装される電子部品（以下表面側電子部品と記載）の部品番号や、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）等の一部又は全部を示す表面側表記部が、主制御基板１３１０のレジストに対して目立ちやすい色、具体的には主制御基板１３１０の緑色のレジストに対して目立ち易い白色の塗料でシルク印刷により実装面（表面）１３１０ｘに形成されている。

【５３１３】

このように、表面側表記部は表面側電子部品が実装されるために設けられるものであるが、本例では表面側電子部品が実装されるために設けられるものではないものの、実装される表面側電子部品の部品番号や、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す特別表記部（表面側特別表記部）が、表面側表記部とは別に実装面（表面）１３１０ｘに形成されている。

【５３１４】

なお、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘとハンダ面（裏面）１３１０ｙとの一方に情報領域として部品リスト領域を備えて、表面実装タイプの電子部品の識別子と対応する情報を表記するようにしてもよい。部品リスト領域に表記される情報としては、表面実装タイプの電子部品の製造会社名（略称や記号を含む。）、表面実装タイプの電子部品の品番等を挙げることができる。

【５３１５】

具体的には、部品リスト領域には、部品番号と品番（カタログに掲載される番号）とを整列した態様で構成される電子部品の部品リストがシルク印刷として白色（又は、黒色）で印刷するようにしてもよい。部品番号及び品番の大きさは、部品配置領域にシルク印刷として白色（又は、黒色）で印刷されている部品番号の大きさと比べて大きく（例えば、３倍～５倍程度大きく）シルク印刷として白色（又は、黒色）で印刷されるようにしてもよい。部品番号と品番（カタログに掲載される番号）との間に区切り記号「：」が設けられ、部品番号と品番（カタログに掲載される番号）とが連続したものとして識別されないようにしてもよい。この区切り記号により、部品番号と品番（カタログに掲載される番号）とを区別して識別することができる。なお、品番（カタログに掲載される番号）とともに、製造会社名（略称や記号も含む。）をシルク印刷として白色（又は、黒色）で印刷されていてもよい。これにより、主制御基板１３１０に実装される表面実装タイプの電子部品に付された識別子の表示態様が視認し難い場合であっても、主制御基板１３１０に備える部品リスト領域に表示される識別子と対応する情報（製造会社名、品番等）により表面実装タイプの電子部品の識別子を確実に視認することができる。

【５３１６】

また、部品リスト領域として主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおける電子部品の配置を縮小して表示するようにしてもよいし、電子部品の実装方向を表す記号や枠線等を表面側表記部とは別に電子部品の近傍に表示するようにしてもよい。これにより、実装時の不具合を防止でき、遊技機の信頼性を向上させることができる。

【５３１７】

ここで、表面実装タイプの電子部品は一般的に外径が小さく、主制御基板１３１０の実

装面（表面）１３１０ｘからの突出量も少ない（背が低い）。一方、リードタイプの電子部品は一般的に外形が大きく、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘからの突出量も多い（背が高い）。そのため、リードタイプの電子部品と表面実装タイプの電子部品とが混在する基板においては、表面実装タイプの電子部品や表面実装タイプの電子部品に対応して形成される表面側表記部がリードタイプの電子部品によって目視が困難になるおそれがある。

【５３１８】

本例の主制御基板１３１０では、表面実装タイプの電子部品とリードタイプの電子部品とが混在して実装されるものの、表面側電子部品が実装されることのない特別表記部を表面側表記部とは別に実装面（表面）１３１０ｘに形成して、実装される表面側電子部品の部品番号や、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）等の一部又は全部を表記するようになっている。そのため、例えばリードタイプの電子部品によって目視を妨げられない位置に特別表記部を形成することで、表面側電子部品に関わる情報を確認することができるようになり、電子部品の実装後における検査（正しい電子部品が正しい状態（向きなど）で実装されているか否かや不正な電子部品が実装されているか否かの検査）において実装されている電子部品に関する情報の読み間違えを防止して遊技機の信頼性を向上させることができるし、不正な電子部品の発見が容易となって不正行為の発生を抑制することができ、さらに表面側電子部品に関わる情報を容易に目視できることで検査時における作業負担を軽減できる。

【５３１９】

なお、特別表記部は実装される電子部品毎に形成される（一対一対応）ものであってもよいし、同一種類の電子部品に対応して一つ形成される（まとめて一つ）ものであってもよい。また、特別表記部についても主制御基板１３１０のレジストに対して目立ちやすい色、具体的には主制御基板１３１０の緑色のレジストに対して目立ち易い白色の塗料でシルク印刷により実装面（表面）１３１０ｘに形成されるものであってもよいし、表面側表記部と同じ色の塗料でシルク印刷により実装面（表面）１３１０ｘに形成されるものであってもよいし、表面側表記部とは異なる色の塗料でシルク印刷により実装面（表面）１３１０ｘに形成されるものであってもよい。また、表面（主制御基板１３１０の場合には実装面（表面）１３１０ｘ）と裏面（主制御基板１３１０の場合にはハンダ面（裏面）１３１０ｙ）とに電子部品が実装される場合（両面実装）には、裏面にも裏面側電子部品の部品番号、裏面側電子部品を配置する位置を示す領域等の裏面側電子部品の属性（さらに、裏面側電子部品の形状、裏面側電子部品の大きさ、裏面側電子部品の実装向き（実装方向）、裏面側電子部品の型式を含む場合がある。）等の一部又は全部を示す裏面側表記部とは別に、裏面側電子部品が実装されることのない特別表記部（裏面側特別表記部）を裏面（主制御基板１３１０の場合にはハンダ面（裏面）１３１０ｙ）に形成して、実装される表面側電子部品の部品番号や、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）等の一部又は全部を表記するようにしてもよい。この場合にも例えばリードタイプの電子部品によって目視を妨げられない位置に特別表記部を形成することで、裏面側電子部品に関わる情報を確認することができるようになり、電子部品の実装後における検査（正しい電子部品が正しい状態（向きなど）で実装されているか否かや不正な電子部品が実装されているか否かの検査）において実装されている電子部品に関する情報の読み間違えを防止して遊技機の信頼性を向上させることができるし、不正な電子部品の発見が容易となって不正行為の発生を抑制することができ、さらに裏面側電子部品に関わる情報を容易に目視できることで検査時における作業負担を軽減できる。

【５３２０】

また、本例の主制御基板１３１０では、表面（実装面１３１０ｘ）にのみ電子部品が実

装され、裏面（ハンダ面（裏面）１３１０ｙ）には、電子部品が実装されないようになっている（片面実装）。そして、図３５８（Ａ）において、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘには矩形状の主制御基板１３１０の短手方向（図３５８（Ａ）において図示垂直方向）の中心線より上方であって矩形状の主制御基板１３１０の短手方向の端部の近傍に小数点付き（いわゆる、ドット付き）７セグメントＬＥＤ表示器単体で構成されるリードタイプの電子部品（挿入実装電子部品）としての設定表示器１３１０ｇが配置されている。

【５３２１】

なお、以下では主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘのうち設定表示器１３１０ｇの周囲の領域や設定表示器１３１０ｇの任意の部位を通る基準線によって区画される領域について説明するが、これに限らず、７セグメントＬＥＤが６つ（６つ以外の個数でもよい）一列になって構成されるベースモニタ１３１０ｈの周囲の領域やベースモニタ１３１０ｈの任意の部位を通る基準線によって区画される領域についても同様の構成を採用するようにしてもよいし、設定表示器１３１０ｇとベースモニタ１３１０ｈとを一体化して設定変更中や設定確認中には７セグメントＬＥＤが６つ（６つ以外の個数でもよい）一列になって構成されるベースモニタ１３１０ｈに設定値を表示するように構成した場合にも、ベースモニタ１３１０ｈの周囲の領域やベースモニタ１３１０ｈの任意の部位を通る基準線によって区画される領域について下記に説明する設定表示器１３１０ｇの周囲の領域や設定表示器１３１０ｇの任意の部位を通る基準線によって区画される領域と同様の構成を採用するようにしてもよい。

【５３２２】

また、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘについて以下の構成を採用するものに限らず、主制御基板１３１０とは別の基板（例えば電源基板６３０や払出制御基板６３３）について下記の構成を採用するものであってもよい。すなわち、特定の基板の実装領域のうちの遊技に関する重要な表示（例えば賞球数やベース値等）を行う表示器が実装される領域や特定の実装領域（例えば主制御ＭＰＵ１３１０ａが実装される領域や、基板管理番号が表記される領域等）について、下記の構成を採用して表示器や特定の実装領域の視界を良好にするものであればよい。

【５３２３】

そして、本例の主制御基板１３１０では、図３５８（Ａ）において実装面（表面）１３１０ｘのうちの設定表示器１３１０ｇの実装されている領域から設定表示器１３１０ｇの上方の主制御基板１３１０の長手方向（図３５８（Ａ）において図示左右方向）端部までの領域にはリードタイプの電子部品が全く実装されないようになっている。具体的には、図３５８（Ａ）に示すように実装面（表面）１３１０ｘのうちの設定表示器１３１０ｇの幅Ａの範囲内において、設定表示器１３１０ｇの図示上方には試験用の電子部品が実装される領域であって、試験を行わない通常時には電子部品が実装されていない未実装領域１３１０ｍ、１３１０ｎが設けられ、リードタイプの電子部品（この例では表面実装タイプの電子部品も実装されていないが、表面実装タイプの電子部品については実装されていてもよいし、表面実装タイプの電子部品についても全く実装されないようにしてもよい）は全く実装されないようになっている。なお、本例では未実装領域１３１０ｍには試験用の電子部品のうちのコネクタ以外の電子部品が実装され、未実装領域１３１０ｎには試験用の電子部品のうちのコネクタが実装されるようになっている。

【５３２４】

一方、図３５８（Ａ）において主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘのうちの設定表示器１３１０ｇの幅Ａの範囲内において、設定表示器１３１０ｇの下方にはリードタイプの電子部品として３つのコンデンサＭＣ２が設けられている。このように、本例では図３５８（Ａ）において主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘのうちの設定表示器１３１０ｇの幅Ａの範囲内において、設定表示器１３１０ｇの上方よりも設定表示器１３１０ｇの下方の方がリードタイプの電子部品が多く実装されるようになっている。なお、図３５８（Ａ）において主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘのうち

の設定表示器１３１０ｇの幅Ａの範囲内には設定表示器１３１０ｇの上方であるか下方であるかにかかわらずリードタイプの電子部品を実装しないようにし、表面実装タイプの電子部品だけが実装されるようにしてもよいし、設定表示器１３１０ｇから所定間隔（例えば設定表示器１３１０ｇの短手方向（図３５８（Ａ）において図示左右方向）の幅寸法以上の間隔）を空けてリードタイプの電子部品を実装するようにしてもよい。

【５３２５】

ここで、一般的に表面実装タイプの電子部品は、リードタイプの電子部品に比べて主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘからの突出量が少なくなる。また、上記したように表面実装タイプの電子部品は、リードタイプの電子部品に比べて小型となっている。本例の主制御基板１３１０では、実装面（表面）１３１０ｘのうちの設定表示器１３１０ｇの幅Ａの範囲内において、図３５８（Ａ）の設定表示器１３１０ｇの図示上方にはリードタイプの電子部品が全く実装されないようにし、設定表示器１３１０ｇの図示下方にリードタイプの電子部品を実装したため、主制御基板１３１０がパチンコ機１に取り付けられた状態で主制御基板１３１０の上方側から設定表示器１３１０ｇを視認する場合に、リードタイプの電子部品によって設定表示器１３１０ｇ（設定表示器１３１０ｇに表示される情報（設定値等））の視認が妨げられることを抑制できるようになり、作業性が向上する。また、図３５８（Ａ）の設定表示器１３１０ｇの図示下方において少なくとも設定表示器１３１０ｇから所定範囲（例えば設定表示器１３１０ｇの短手方向（図３５８（Ａ）において図示左右方向）の幅寸法の範囲）にはリードタイプの電子部品を実装しないように構成した場合には、主制御基板１３１０がパチンコ機１に取り付けられた状態で、主制御基板１３１０の上方側からだけでなく、下方側からも設定表示器１３１０ｇの視認が妨げられることを抑制できるようになり、作業性がさらに向上する。

【５３２６】

なお、上記した例では、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘのうちの設定表示器１３１０ｇの幅Ａの範囲内において、図３５８（Ａ）の設定表示器１３１０ｇの図示上方にはリードタイプの電子部品が全く実装されないように構成したが、少なくとも主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘのうちの設定表示器１３１０ｇの幅Ａの範囲内において、図３５８（Ａ）の設定表示器１３１０ｇの図示上方よりも設定表示器１３１０ｇの図示下方の方がリードタイプの電子部品を多く実装するものであってもよいし、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘのうちの設定表示器１３１０ｇの幅Ａの範囲内において、図３５８（Ａ）の設定表示器１３１０ｇの図示上方の少なくとも設定表示器１３１０ｇから所定範囲（例えば設定表示器１３１０ｇの短手方向（図３５８（Ａ）において図示左右方向）の幅寸法の範囲）にはリードタイプの電子部品を実装しないようにしてもよいし、図３５８（Ａ）の設定表示器１３１０ｇの図示下方の少なくとも特定範囲（例えば設定表示器１３１０ｇの短手方向（図３５８（Ａ）において図示左右方向）の幅寸法の範囲）にはリードタイプの電子部品を実装しないようにする一方、図３５８（Ａ）の設定表示器１３１０ｇの図示上方には少なくとも上記した特定範囲よりも広範囲の特別範囲（例えば設定表示器１３１０ｇの長手方向（図３５８（Ａ）において図示上下方向）の幅寸法の範囲）にはリードタイプの電子部品を実装しないようにしてもよい。つまり、図３５８において、設定表示器１３１０ｇの上方には設定表示器１３１０ｇの下方よりも広範囲に亘ってリードタイプの電子部品が実装されない領域を有するようにしてもよいし、設定表示器１３１０ｇに隣接する図示上方と図示左方と図示右方との少なくともいずれかにリードタイプの電子部品が実装されない領域（特定領域）を有するようにしてもよい。これにより、主制御基板１３１０がパチンコ機１に取り付けられた状態で、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装されるリードタイプの電子部品によって視認を妨げられることなしに主制御基板１３１０の上方側から設定表示器１３１０ｇを視認できるようになり、作業性が向上する。

【５３２７】

また、設定表示器１３１０ｇに隣接する図示上方と図示左方と図示右方との少なくともいずれかに設けられる特定領域には、表面実装タイプの電子部品や、上記した試験用の電

子部品が実装される領域であって、試験を行わない通常時には電子部品が実装されていない未実装領域１３１０ｍ、１３１０ｎや、基板（実装）認識マーク（フィデューシャルマークともいう）、二次元バーコードなどのマークが印刷されたトレイサビリティ用のシール、チェック端子としてのテストポイント等が設けられるようにしてもよい。また、設定表示器１３１０ｇの図示上方と図示左方と図示右方のうちの特定領域以外の領域にはリードタイプの電子部品が実装されていてもよいし、リードタイプの電子部品が実装されないものであってもよい。すなわち、設定表示器１３１０ｇの少なくとも図示上方と図示左方と図示右方とのいずれかにおいて、リードタイプの電子部品の実装領域（リードタイプの電子部品が実装されていなくてもよい）よりも設定表示器１３１０ｇに近い領域に表面実装タイプの電子部品や、上記した試験用の電子部品が実装される領域であって、試験を行わない通常時には電子部品が実装されていない未実装領域１３１０ｍ、１３１０ｎや、基板（実装）認識マーク（フィデューシャルマークともいう）、二次元バーコードなどのマークが印刷されたトレイサビリティ用のシール、チェック端子としてのテストポイント等が設けられるものであればよい。この場合には、設定表示器１３１０ｇの近傍の図示上方と図示左方と図示右方とのいずれかには主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘからの突出量が多いリードタイプの電子部品が実装されずに、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘからの突出量が少ない表面実装タイプの電子部品や、上記した試験用の電子部品が実装される領域であって、試験を行わない通常時には電子部品が実装されていない未実装領域１３１０ｍ、１３１０ｎや、基板（実装）認識マーク（フィデューシャルマークともいう）、二次元バーコードなどのマークが印刷されたトレイサビリティ用のシール、チェック端子としてのテストポイント等が設けられるため、設定表示器１３１０ｇの視認が妨げられないようにすることが可能になる。

【５３２８】

また、本例の主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘは、設定表示器１３１０ｇの近傍だけに限らず、全ての領域において、図３５８（Ａ）のＸ－Ｘ線の図示下方側には、図３５８（Ａ）のＸ－Ｘ線の図示上方側よりもリードタイプの電子部品が多く実装されるようになっている。つまり、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおける設定表示器１３１０ｇの図示上方側の領域には、設定表示器１３１０ｇの図示下方側の領域よりも少ない個数のリードタイプの電子部品しか実装されないようになっている。これにより、主制御基板１３１０ｘがパチンコ機１に取り付けられた状態で主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装されている電子部品（例えば設定表示器１３１０ｇ等）を確認する場合や、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘや電子部品の表面等に印字される部品番号や電子部品の型番等をする場合に、リードタイプの電子部品によって視認が妨げられることを抑制できるようになる。そのため、遊技者の利益に関わる重要な処理を実行する主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに不正な電子部品が実装されるなどの不正改変が行われた場合に、その発見が容易になり、不正行為の発生を抑止できる。

【５３２９】

なお、図３５８（Ａ）のＸ－Ｘ線は、設定表示器１３１０ｇの図示上端を通るように設けたが、設定表示器１３１０ｇの図示上端から図示下端までの間の任意の箇所を通る基準線の図示上方側の領域と図示下方側の領域とで基準線の上方側の領域よりも下方側の領域の方がリードタイプの電子部品を多く実装されるものであってもよい。例えば、図３５８（Ａ）において設定表示器１３１０ｇの図示下端を通るように基準線としてＹ－Ｙ線を設け、このＹ－Ｙ線の下方側の領域にはＹ－Ｙ線の上方側の領域よりもリードタイプの電子部品を多く実装するようにしてもよい。この場合には、図３５８（Ａ）において設定表示器１３１０ｇの図示上方側の領域だけでなく図示左右側の領域を含む領域よりも、設定表示器１３１０ｇの図示下方側の領域の方がリードタイプの電子部品が多く実装されるようになるため、主制御基板１３１０がパチンコ機１に取り付けられた状態で、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装されるリードタイプの電子部品によって視認を妨げられることなしに主制御基板１３１０の上方側と主制御基板１３１０の左右方側とか

ら設定表示器１３１０ｇを視認できるようになり、作業性が向上する。
【５３３０】
　また、図３５８（Ａ）において、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘのうちの設定表示器１３１０ｇの左右方向には、幅Ｂの範囲内において、設定表示器１３１０ｇから少なくとも所定の範囲（例えば設定表示器１３１０ｇの短手方向（図３５８（Ａ）において図示左右方向）の幅寸法の範囲）にはリードタイプの電子部品が実装されないようになっている。これにより、主制御基板１３１０がパチンコ機１に取り付けられた状態で、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装されるリードタイプの電子部品によって視認を妨げられることなしに主制御基板１３１０の左右方側から設定表示器１３１０ｇを視認できるようになり、作業性が向上する。なお、図３５８（Ａ）において、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘのうちの設定表示器１３１０ｇの図示右方側（主制御基板１３１０の長手方向端部に近い側）の領域の方が、設定表示器１３１０ｇの図示左方側（主制御基板１３１０の長手方向端部から遠い側）の領域よりも、リードタイプの電子部品が実装されない領域の範囲が広くなっている。そのため、主制御基板１３１０がパチンコ機１に取り付けられた状態で、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装されるリードタイプの電子部品によって視認を妨げられることなしに主制御基板１３１０の長手方向端部側（図示右端部側）から設定表示器１３１０ｇを視認できるようになり、作業性が向上する。
【５３３１】
　なお、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘのうちの設定表示器１３１０ｇの設置される領域の周囲の領域Ｚ（例えば設定表示器１３１０ｇの上下左右の辺から設定表示器１３１０ｇの短手方向の幅と同程度拡張された領域Ｚ；一点鎖線で囲まれる領域Ｚ）には、表面実装タイプの電子部品を実装するものに限らず、上記した試験用の電子部品が実装される領域であって、試験を行わない通常時には電子部品が実装されていない未実装領域１３１０ｍ、１３１０ｎや、基板（実装）認識マーク（フィデューシャルマークともいう）、二次元バーコードなどのマークが印刷されたトレイサビリティ用のシール、チェック端子としてのテストポイント等が設けられるようにしてもよい。つまり、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘのうちの設定表示器１３１０ｇの設置される領域の周囲の領域Ｚには、リードタイプの電子部品等の背の高い電子部品（実装時に主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘからの突出量が多い電子部品）を配置することなく、表面実装タイプの電子部品等の背の低い電子部品（実装時に主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘからの突出量が少ない電子部品）や、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘからの突出量が殆どないか又は極めて少ない、未実装領域１３１０ｍ、１３１０ｎや、基板（実装）認識マーク（フィデューシャルマークともいう）、二次元バーコードなどのマークが印刷されたトレイサビリティ用のシール、テストポイント等を設けるようにしてもよい。これにより、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装される設定表示器１３１０ｇの視認性を向上させることができ、作業性が向上する。なお、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘのうちの設定表示器１３１０ｇの設置される領域の周囲の領域Ｚと、表面実装タイプの電子部品等の背の低い電子部品（実装時に主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘからの突出量が少ない電子部品）の実装領域や、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘからの突出量が殆どないか又は極めて少ない、未実装領域１３１０ｍ、１３１０ｎ、基板（実装）認識マーク（フィデューシャルマークともいう）、二次元バーコードなどのマークが印刷されたトレイサビリティ用のシール、テストポイント等と、の形成される領域と、の少なくとも一部が重複するものであればよく、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘのうちの設定表示器１３１０ｇの設置される領域の周囲の領域Ｚと該領域Ｚの外側の領域とに亘って表面実装タイプの電子部品を実装したり、未実装領域１３１０ｍ、１３１０ｎ、基板（実装）認識マーク（フィデューシャルマークともいう）、二次元バーコードなどのマークが印刷されたトレイサビリティ用のシール、テストポイント等を形成するようにしてもよい。

【５３３２】
　また、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘのうちの少なくとも設定表示器１３１０ｇの表面の４辺のうち少なくとも特定の１辺から主制御基板１３１０の端部方向への所定範囲（例えば図３５８（Ａ）において設定表示器１３１０ｇの表面の４辺のうちの上側の辺から主制御基板１３１０の上側の端部方向への所定範囲）には、表面実装タイプの電子部品や、試験用の電子部品が実装される領域であって試験を行わない通常時には電子部品が実装されていない未実装領域１３１０ｍ、１３１０ｎ、基板（実装）認識マーク（フィデューシャルマークともいう）、二次元バーコードなどのマークが印刷されたトレイサビリティ用のシール、テストポイント等を設けるようにしてもよい。これにより、設定表示器１３１０ｇの表面の４辺のうち少なくとも特定の１辺から主制御基板１３１０の端部方向への所定範囲（例えば図３５８（Ａ）において設定表示器１３１０ｇの表面の４辺のうちの上側の辺から主制御基板１３１０の上側の端部方向への所定範囲）には、リードタイプの電子部品等の背の高い電子部品が実装されないため、この特定の１辺側からの主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装される設定表示器１３１０ｇの視認性を向上させることができ、作業性が向上する。なお、この場合においても主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘのうちの設定表示器１３１０ｇの表面の４辺のうち特定の１辺から主制御基板１３１０の端部方向への所定範囲と、表面実装タイプの電子部品等の背の低い電子部品（実装時に主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘからの突出量が少ない電子部品）の実装領域や、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘからの突出量が殆どないか又は極めて少ない、未実装領域１３１０ｍ、１３１０ｎ、基板（実装）認識マーク（フィデューシャルマークともいう）、二次元バーコードなどのマークが印刷されたトレイサビリティ用のシール、テストポイント等と、の形成される領域と、の少なくとも一部が重複するものであればよく、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘのうちの設定表示器１３１０ｇの表面の４辺のうち特定の１辺から主制御基板１３１０の端部方向への所定範囲と該所定範囲の外側の領域とに亘って表面実装タイプの電子部品を実装したり、未実装領域１３１０ｍ、１３１０ｎ、基板（実装）認識マーク（フィデューシャルマークともいう）、二次元バーコードなどのマークが印刷されたトレイサビリティ用のシール、テストポイント等を形成するようにしてもよい。
【５３３３】
　なお、基板の電気検査を行う場合にチェック端子として利用されるテストポイントはランド形状のものとビアホール形状のものとがあるが、本例では主制御基板１３１０に形成されるテストポイントのうち、少なくともグランド（ＧＮＤ）ライン及び電源ラインには、ランド形状のものではなく、ビアホール形状のテストポイントが形成されるようになっている。グランド（ＧＮＤ）ラインのテストポイントと電源ラインのテストポイントとを同一形状とすることで、グランド（ＧＮＤ）ラインのテストポイントであるか電源ラインのテストポイントであるかを容易に判別され難くすることができ、セキュリティが向上する。また、ビアホール形状のテストポイントとすることで電気検査を行う場合にチェック端子としてのビアホール形状のテストポイントに当接されたコンタクトプローブの先端部が滑り難くなり、短絡を防止できる。
【５３３４】
　また、本例ではビアホール形状のテストポイントにおいて穴径を同一としている。そのため、グランド（ＧＮＤ）ラインのテストポイントであるか電源ラインのテストポイントであるかの判別がさらに困難となり、セキュリティが向上することに加えて、主制御基板１３１０のグランド（ＧＮＤ）ライン及び電源ラインに形成されるテストポイントに対して共通のコンタクトプローブを使用して電気検査を行うことが可能になり、作業性が向上する。また、ビアホール形状のテストポイントにおいて穴径を同一とする場合には、回路（グランド（ＧＮＤ）ラインや電源ライン）に流れる電流の大きさに応じて（比例して）所定数のテストポイントを形成するようにしてもよく、例えば大電流が流れる回路には複数個のテストポイントを形成してもよい。このように構成することにより、主制御基板１３１０の電気検査において電圧や波形、論理を確認する場合、特にグランドについてはど

のテストポイントＴＰを基準に検査しても、同じ安定した測定結果が得られるようになる。

【５３３５】

また、主制御基板１３１０のグランド（ＧＮＤ）ラインと電源ラインとのうちの少なくとも一方に形成されるテストポイントの一部又は全部は、制御信号ラインに形成されるチャックポイントよりも主制御基板１３１０に電源を供給するコネクタの近くに配置される。このように構成することにより、主制御基板１３１０の電気検査において電圧や波形、論理を確認する場合に、グランド（ＧＮＤ）ラインや電源ラインのインピーダンスを極力低下させた状態で測定したり検査することが可能になり、安定した測定や検査が可能になる。

【５３３６】

また、本例では主制御基板１３１０のグランド（ＧＮＤ）ラインに形成されるテストポイントと電源ラインに形成されるテストポイントとが、制御信号ラインに形成されるテストポイントの近隣に配置されないようになっている。これにより、例えば主制御基板１３１０の電気検査を手動で行う場合に、誤ってグランド（ＧＮＤ）ラインや電源ラインと制御信号ラインとが短絡されてしまうことを抑制し、グランド（ＧＮＤ）ラインや電源ラインと制御信号ラインとが短絡することにより主制御基板１３１０に実装される電子部品が故障することが防止される。

【５３３７】

また、制御信号ラインについてもグランド（ＧＮＤ）ライン及び電源ラインと同様にビアホール形状のテストポイントを形成するようにしてもよいし、さらにビアホール形状のテストポイントとの穴径ついても同一としてもよい。これにより、グランド（ＧＮＤ）ラインのテストポイントであるか電源ラインのテストポイントであるか制御信号ラインのテストポイントであるかの判別が困難になり、セキュリティが向上する。

【５３３８】

なお、少なくともグランド（ＧＮＤ）ラインのテストポイントと電源ラインのテストポイントとを同一のテストポイントとするものであればランド形状のテストポイントであってもよく、さらにこのテストポイントのランド形状の外形（大きさ）についても同一としてもよい。この場合にも、グランド（ＧＮＤ）ラインのテストポイントであるか電源ラインのテストポイントであるかの判別が困難になり、セキュリティが向上する。また、制御信号ラインについてもランド形状のテストポイントとしてもよいし、さらにランド形状の外形（大きさ）についても同一としてもよい。これにより、グランド（ＧＮＤ）ラインのテストポイントであるか電源ラインのテストポイントであるか制御信号ラインのテストポイントであるかの判別が困難になり、セキュリティが向上する。

【５３３９】

また、主制御基板１３１０に形成されるテストポイントとしてビアホール形状とランド形状との一方の形状のテストポイントのみを形成するようにしてもよいし、ビアホール形状のテストポイントとランド形状のテストポイントとの両方を形成するようにしてもよい。また、グランド（ＧＮＤ）ラインと電源ラインと制御信号ラインとのいずれか１つ又は複数（全部でもよい）のラインにビアホール形状のテストポイントと、ランド形状のテストポイントと、を形成するようにしてもよいし、グランド（ＧＮＤ）ラインと電源ラインと制御信号ラインとのいずれか１つ又は２つのラインにビアホール形状のテストポイントと、ランド形状のテストポイントと、を形成し、他の１つのラインにはビアホール形状のテストポイントと、ランド形状のテストポイントと、の一方を形成するようにしてもよい。この場合には、ビアホール形状の穴径とランド形状の外形（大きさ）との一方（例えばビアホール形状のテストポイントと、ランド形状のテストポイントと、の一方のみが形成されるラインと同様の形状について同一とする等）又は両方を同一とするようにしてもよい。これによりグランド（ＧＮＤ）ラインのテストポイントであるか電源ラインのテストポイントであるかの判別が困難になり、セキュリティが向上する。また、ビアホール形状のテストポイントと、ランド形状のテストポイントと、のうち大半（例えば８割以上）を

ビアホール形状のテストポイントとすることで短絡を防止できるようになる。
【５３４０】
なお、図３５８（Ｂ）に示すように、本例の主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘでは、表面実装タイプの電子部品実装用のパッド１３１０ｐよりもリードタイプの電子部品実装用のスルーホール１３１０ｒの方が基板の端部（端面（この例では主制御基板１３１０の右端部））に近い側に形成されている。つまり、リードタイプの電子部品の方が表面実装タイプの電子部品よりも基板の端部側に配置されるようになっている。なお、リードタイプの電子部品はスルーホール１３１０ｒ内にリード端子を挿入してハンダ付けされて固定されることで特に横からの衝撃（圧力）に強いのに対し、表面実装タイプの電子部品はパッド１３１０に接続端子をハンダ付けして固定されることで横からの衝撃に弱く、表面実装タイプの電子部品はリードタイプの電子部品よりも剥がれ落ちやすくなっている（実装強度が弱くなっている）。本例では、リードタイプの電子部品の方が表面実装タイプの電子部品よりも基板端面側に配置されて、基板の製造時に基板側面をぶつけた場合には基板端面側に実装されて横からの衝撃に強いリードタイプの電子部品に対して横から衝撃が加えられる一方で、横からの衝撃に弱い表面実装タイプの電子部品には横からの衝撃が加えられないようにすることができるため、基板に実装される電子部品（特に表面実装タイプの電子部品）が剥がれ落ちること（実装剥がれ）を防止できる。
【５３４１】
また、本例の主制御基板１３１０は、実装面（表面）１３１０ｘとハンダ面（裏面）１３１０ｙとにおいて形成される配線パターンの特徴を異ならせることにより、実装されている電子部品に対するセキュリティ向上に寄与ようになっている。図３５９（Ａ）は、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される配線パターンの一部を示す説明図であり、図３５９（Ｂ）は、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成される配線パターンの一部を示す説明図である。
【５３４２】
図３５９（Ａ）、（Ｂ）に示すように、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘには図示横方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で水平方向）の配線パターンよりも図示縦方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で垂直方向）の配線パターンの方が多く形成されるのに対し、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙには図示縦方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で垂直方向）の配線パターンよりも図示横方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で水平方向）の配線パターンの方が多く形成されている。
【５３４３】
また、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される配線パターンは、殆どが図示縦方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で垂直方向）の配線パターンと２つの図示縦方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で垂直方向）の配線パターンを繋ぐ斜めの配線パターンとによって形成されており、図示横方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で水平方向）の配線パターンについては一部に形成されるものの、その割合は低くなっている。
【５３４４】
一方、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成される配線パターンは、殆どが図示横方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で水平方向）の配線パターンと２つの図示横方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で水平方向）の配線パターンを繋ぐ斜めの配線パターンとによって形成されており、図示縦方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で垂直方向）の配線パターンについては一部に形成されるものの、その割合は低くなっている。
【５３４５】
上記した主制御基板１３１０では、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される配線パターンのうちの少なくとも半分以上が図示縦方向（パチンコ機１に主制

御基板１３１０が取り付けられた状態で垂直方向）の配線パターンと２つの図示縦方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で垂直方向）の配線パターンを繋ぐ斜めの配線パターンとによって形成され、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成される配線パターンのうちの少なくとも半分以上が図示横方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で水平方向）の配線パターンと２つの図示横方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で水平方向）の配線パターンを繋ぐ斜めの配線パターンとによって形成されている。なお、少なくとも主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙよりも実装面（表面）１３１０ｘの方が図示縦方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で垂直方向）の配線パターンと２つの図示縦方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で垂直方向）の配線パターンを繋ぐ斜めの配線パターンとが多く形成され、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘよりもハンダ面（裏面）１３１０ｙの方が図示横方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で水平方向）の配線パターンと２つの図示横方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で水平方向）の配線パターンを繋ぐ斜めの配線パターンとが多く形成されるものであればよい。

【５３４６】

なお、上記した例では図示縦方向の配線パターンと図示横方向の配線パターンとの割合を実装面によって異ならせるものを示したが、少なくともデータバスラインの殆どを主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成するものであればよい。この場合には、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘ側からデータバスラインの視認が困難になるため、データバスラインに対する不正行為が困難になり、セキュリティを向上させることができる。また、本例では図示縦方向の配線パターンは主に回路ブロック内における信号ラインや電源ラインであり、図示横方向の配線パターンによって複数の回路ブロックが接続されるようになっている。そして、図示横方向の配線パターンが主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成されることで、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘ側から複数の回路ブロックの接続を把握することが困難になるため、不正行為が困難になり、セキュリティを向上させることができる。

【５３４７】

また、主制御基板１３１０は横長矩形状に形成されるため、図示横方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で水平方向）には、図示縦方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で垂直方向）よりも実装される電子部品の数が多くなっている。そのため、図示横方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で水平方向）の配線パターンについてはその多くを主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成することで、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される配線パターンから図示縦方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で垂直方向）の電子部品の接続については推測し得る一方で、図示横方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で水平方向）の電子部品の接続については推測し難くすることができ、セキュリティを向上させることができる。つまり、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおいて、図示縦方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で垂直方向）に配置される複数の電子部品のグループ（例えば同一の処理を実行する回路を構成する電子部品等）については、配線パターンから接続を推測することが可能であるものの、図示横方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で水平方向）に配置する複数の電子部品のグループそれぞれの接続については配線パターンから接続を推測することが困難となっている。これにより、セキュリティを向上させて、主制御基板１３１０に対する不正行為が抑制される。

【５３４８】

上記したように主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙには、電子部品が実装されていない。つまり、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙには、配線パターンや、スルーホール、ビアホール、パッド等が形成されているものの、主制御基板

１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに実装される電子部品のパッドと主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに実装される電子部品のパッドとを接続する配線パターンや、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに実装される電子部品のパッドとスルーホールやビアホールとを接続する配線パターンは形成されず、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙからはスルーホールや、ビアホール、パッド等のそれぞれを接続する配線パターンしか確認できないようになっている。そのため、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成される図示横方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で水平方向）の配線パターンから電子部品の接続について推測されることを困難にでき、セキュリティを向上させることができる。

【５３４９】

なお、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに試験用の電子部品が実装される領域であって試験を行わない通常時には電子部品が実装されていない未実装領域１３１０ｍ、１３１０ｎの一部（例えばコネクタ実装領域１３１０ｎ）又は全部を形成するようにしてもよく、この場合には、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに電子部品を実装して試験用の回路が形成された状態で試験が行われるため、試験時には主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに実装される電子部品のパッドと主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに実装される電子部品のパッドとを接続する配線パターンや、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに実装される電子部品のパッドとスルーホールやビアホールとを接続する配線パターンを確認することができるようになる一方で、試験を行わない通常時（遊技場に設置された状態や遊技が実行される状態等）には主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに電子部品が全く実装されていない状態とすることができ、セキュリティの向上と試験時の作業性の向上とを両立させることができる。

【５３５０】

また、本例では主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装されるリードタイプの電子部品（例えば主制御ＭＰＵ１３１０ａ等）の各端子（ピン）は、主に主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙにおいて配線パターンと接続されていることが確認できるようになっている。すなわち、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される配線パターンの殆どはリードタイプの電子部品（例えば主制御ＭＰＵ１３１０ａ等）の各端子（ピン）と直接的に接続されずに、ハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成される配線パターンをリードタイプの電子部品（例えば主制御ＭＰＵ１３１０ａ等）の各端子（ピン）と直接的に接続させ、スルーホールやビアホール等を介して間接的に接続されるようになっている。このように、本例では主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装されるリードタイプの電子部品（例えば主制御ＭＰＵ１３１０ａ等）の各端子（ピン）と直接的に接続される配線パターンは、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙの方が実装面（表面）１３１０ｘよりも多くなっている。これにより、リードタイプの電子部品として例えば遊技の進行や遊技者の利益にかかわる処理を実行する重要な電子部品である主制御ＭＰＵ１３１０ａ等に接続される配線パターンについて推測され難くすることができ、セキュリティを向上させることができる。

【５３５１】

また本例では、リードタイプの電子部品のリード端子を挿入して固定する用途とは異なる用途で設けられるビアホールやスルーホールとして、配線パターンが障害物を避けるために層間接続されるものと、障害物の存在とは無関係に（障害物が存在していなくても）層間接続されるものと、が形成されている。そして、障害物の存在とは無関係に層間接続されるビアホールやスルーホールをテストポイント（チェック端子）として利用することで、主制御基板１３１０の電気検査において実装面（表面）１３１０ｘとハンダ面（裏面）１３１０ｙとのいずれの面からでもコンタクトプローブの先端部を当接させて電気検査を行うことが可能になる。上記したように、主制御基板１３１０は試験を行わない通常時には実装面（表面）１３１０ｘにのみ電子部品が実装され、ハンダ面（裏面）１３１０ｙには電子部品が実装されていないため、実装面（表面）１３１０ｘには多数の電子部品が

実装されてスペースが狭く、実装面（表面）１３１０ｘだけにテストポイント（チェック端子）を形成すると、複数のコンタクトプローブの先端部が接触して短絡するおそれがある。本例では、電気検査を行う際にテストポイント（チェック端子）として利用されるビアホールやスルーホールを実装面（表面）１３１０ｘとハンダ面（裏面）１３１０ｙとに分散して形成することにより、電気検査時に複数のコンタクトプローブの先端部が接触することによる短絡等の不良を防止することができる。

【５３５２】

また、上記に加えて、又は上記とは別に、主制御基板１３１０や電源基板６３０、払出制御基板６３３などにおいて、表面実装タイプの電子部品のみが実装される領域と、表面実装タイプの電子部品とリードタイプの電子部品との両方が実装される領域と、を区画するようにしてもよい。例えば、本例では重要な表面実装タイプの電子部品を特定の領域に固めて実装し、表面実装タイプの電子部品とリードタイプの電子部品との両方が実装される領域と区画して配置することにより、特定の領域に注目させてこの特定の領域に実装される表面実装タイプの電子部品に触れられ難くすることができ、重要な表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ちること（実装剥がれ）やいたずら、不正行為等を防止することを可能にしている。以下に説明する。

【５３５３】

図３６０に示すように、本例の主制御基板１３１０では表面実装タイプの電子部品を実装面（表面）１３１０ｘのうちの特定の領域１３１０ｔに実装し、該特定の領域１３１０ｔを囲うようにテストポイントとしてのスルーホール（ビアホールでもよい）が形成され、他の領域と区画するようになっている。これにより、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおける特定の領域１３１０ｔに注目させることができるようになり、これによって特定の領域１３１０ｔに実装される表面実装タイプの電子部品に触れられ難くすることができるため、例えば特定の実装領域に実装される表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ちたり、いたずらや不正行為等を防止できるようになる。

【５３５４】

また、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおける特定の領域１３１０ｔ以外の領域には、表面実装タイプの電子部品とリードタイプの電子部品とが実装されている。なお、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおける特定の領域１３１０ｔ以外の領域にはリードタイプの電子部品のみを実装するようにしてもよい。

【５３５５】

また、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘのうちの特定の領域１３１０ｔをスルーホールで囲うものに限らず、特定の領域１３１０ｔを囲うスルーホールにリード端子を挿入してハンダ付けすることで特定の領域１３１０ｔをリードタイプの電子部品を実装し、この実装されたリードタイプの電子部品で囲うことにより特定の領域１３１０ｔを区画するようにしてもよいし、電子部品とは別の構造物（例えば特定の領域１３１０ｔを覆うカバー（ケース）や特定の領域１３１０ｔを囲うように主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘから立設される構造物等、なお、特定の領域１３１０ｔを覆うカバーやケースはカシメ部などの封印機構を有するものであってもよい）によって特定の領域１３１０ｔを区画するようにしてもよいし、主制御基板ボックス１３２０に特定の領域１３１０ｔを区画する部位（例えば特定の領域１３１０ｔを囲うように立設する部位等）を設けることにより特定の部位を区画するようにしてもよいし、特定の領域１３１０ｔに対応する主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに表面実装タイプの電子部品を実装すること、つまり特定の領域１３１０ｔについては主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘとハンダ面（裏面）１３１０ｙとの両方に表面実装タイプの電子部品が実装される両面実装領域とし、特定の領域１３１０ｔ以外の領域については主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにのみ電子部品（表面実装タイプの電子部品とリードタイプの電子部品との両方でもよいし、リードタイプの電子部品のみを実装するものであってもよい）が実装される片面実装領域とすることにより特定の領域１３１０ｔを区画するようにしてもよいし、特定の領域１３１０ｔと他の領域（特定の領域１３１０ｔ以外の領

域）との実装位置の高さを異ならせること、例えば主制御基板１３１０を複数（例えば２枚）の基板で構成し、第１基板には電子部品として表面実装タイプの電子部品とリードタイプの電子部品との両方又はリードタイプの電子部品のみを実装し、表面実装タイプの電子部品が実装される特定の領域１３１０ｔとしての第２基板を第１基板に実装することで第１基板に実装される電子部品（特に表面実装タイプの電子部品）とは実装位置の高さを異ならせることにより特定の領域１３１０ｔを区画するようにしてもよいし、この第２基板をカバー体（金属や樹脂（導電性樹脂でもよい）等）で覆ったり、収容したものを、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに挿入実装したり、表面実装したりするようにしてもよい。

【５３５６】

［主制御手段に対する不正等の対応について］

パチンコ機１における主側基板は、遊技盤５に設けられた第一始動口２００２又は第二始動口２００４への遊技球Ｂの入球に基づいて当たりか否かの抽選を行い、抽選の結果が当たりである場合に、遊技者にとって有利な特別遊技状態に制御するものであり、上述された主制御基板１３１０と、上述された周辺制御基板１５１０を介さずに主制御基板１３１０に直接的又は間接的に接続された複数の基板（周辺制御基板１５１０は含まない。）と、から構成されている。すなわち、本実施形態の主側基板は、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３、機能表示基板１４０２、磁気センサ１０５０の磁気センサ基板、第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等、から構成されている。

【５３５７】

主制御基板１３１０、払出制御基板６３３、機能表示基板１４０２、磁気センサ１０５０の磁気センサ基板、第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等は、パチンコ機１の制御に関して重要な基板であるため、各基板に実装された電子部品が改変される等の不正が行われるおそれがある。以下、このような不正に対して、本実施形態のパチンコ機１における対応について説明する。

【５３５８】

まず、本実施形態の主側基板において、主制御基板１３１０及び払出制御基板６３３は、マイクロプロセッサが実装され、遊技盤５の裏側に設けられるとともに、表実装面（主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘ、払出制御基板６３３の実装面（表面））が遊技者とは反対側の裏側に向けられており、遊技者側から目視不可能とされている。これに対し、機能表示基板１４０２が設けられる機能表示ユニット１４００や、磁気センサ１０５０の磁気センサ基板、第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等は、マイクロプロセッサが実装されておらず、実装面（主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘ、払出制御基板６３３の実装面（表面））が遊技者とは反対側の裏側に向けられた（マイクロプロセッサが実装される）基板（主制御基板１３１０、払出制御基板６３３）よりも遊技者側である表側に設けられている。ここで、機能表示ユニット１４００や磁気センサ１０５０、第一始動口２００２、第二始動口２００４等の装置や機器等は、少なくとも一部が遊技者側から目視可能とされるものであってもよく、この場合には例えば、遊技盤５の内側に設けられて目視可能とされるものや、遊技盤５のパネル板１１１０に設けられて目視可能とされるものや、不透明な遊技盤５に形成された孔等を介して目視可能とされるものであってもよい。また、機能表示ユニット１４００や磁気センサ１０５０、第一始動口２００２、第二始動口２００４等の装置や機器等に設けられる基板は、実装面（表面））が遊技者側を向くものであってもよいし、遊技者側以外の方向（例えばパチンコ機１の左右又は上下方向等）を向くものであってもよい。

【５３５９】

遊技者側から目視可能な機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口

センサ２４０１のセンサ基板等と、遊技者側から目視不可能ではあるがパチンコ機１に関する制御を行う主制御基板１３１０、払出制御基板６３３とでは、上記のような不正等に対する対応が異なる。このため、以下、主制御基板１３１０と機能表示基板１４０２とを対比しながら、不正等に対する対応に係る構成について詳細に説明する。なお、以下では上記した実施形態と重複する部分についての説明を行わない。

【５３６０】

［主制御基板の構成と機能表示基板の構成との対比］

上記したように、主制御基板１３１０は、各種電子部品が実装される実装面１３１０ｘと、電子部品が実装されないハンダ面１３１０ｙと、を有し（片面実装）、基板表面に設けられたスルーホールにリード端子を挿入してハンダ付けされるリードタイプ（スルーホール実装タイプ、挿入実装タイプ）の電子部品と、スルーホールを用いることなしに基板表面に設けられたパッドに電極（接続端子）がハンダ付けされる表面実装タイプの電子部品（チップ部品、ＳＭＤ（Ｓｕｒｆａｃｅ　Ｍｏｕｎｔ　ＤｅｖＩＣｅ））と、の両方が実装された混載基板である。表面実装タイプの電子部品は、基板の両面を利用できることに加え、同一種類の電子部品であってもリードタイプの電子部品に比べて電子部品を小型化することで実装密度を高めることができる。そのため、基板上の配線長（パターンの長さ）を短くすることが可能であり、回路の高速化を図ることができるし、さらに実装密度を高めることで基板の小型化（基板面積を小さくする）が可能になるため、基板の剛性が高まり、基板の反り等の変形を抑制でき、これによって実装される電子部品が剥がれ落ちることを抑制できる。

【５３６１】

主制御基板１３１０は、リードタイプの電子部品及び表面実装タイプの電子部品が主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにのみ実装される片面実装基板である。このため、主制御基板１３１０では、実装面（表面）１３１０ｘが表実装面である。

【５３６２】

また、主制御基板１３１０は、透明な透明カバー体１３０１と透明なベース体１３０２とから構成される主制御基板ボックス１３２０に収容されており、主制御基板１３１０は、実装面１３１０ｘがカバー体１３０１の内面に対面するようにカバー体１３０１の内側にビス止めされ、実装面１３１０ｘがカバー体１３０１に覆い隠され、さらにカバー体１３０１とベース体１３０２とが封印機構であるカシメ部１３０３のワンウェイネジ等によりカシメられている。また、カシメ部１３０３は、主制御基板ボックス１３２０に複数備えられ、一つの封印機構を用いてカバー体１３０１とベース体１３０２とがカシメ部１３０３のワンウェイネジ等によりカシメられることで主制御基板ボックス１３２０を閉じることができ、次に、主制御基板ボックス１３２０を開けるためにはその封印機構を破壊しない限り、カバー体１３０１をベース体１３０２から取り外すことができないものである。このため、主制御基板ボックス１３２０に備えられるカシメ部１３０３の状態や個数を確認することにより、主制御基板１３１０が不正に改変されているか否かを判別することができるようになっている。このように、主制御基板ボックス１３２０のカシメ部１３０３を破壊して主制御基板ボックス１３２０を開けることによってのみ主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装される電子部品を操作（修理、改変等）可能とされるため、主制御基板１３１０に実装される電子部品が不正に改変されることを抑制でき、パチンコ機１のセキュリティの向上を図ることができる。

【５３６３】

また、主制御基板１３１０は、本体枠４を外枠２に対して開放することによってのみ目視可能とされるため、主制御基板１３１０を収容する主制御基板ボックス１３２０が透明な透明カバー体１３０１と透明なベース体１３０２とから構成されていてもパチンコ機１を遊技する遊技者側からは主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘを目視することができない。一方、主制御基板１３１０は、リードタイプの電子部品及び表面実装タイプの電子部品が主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにのみ実装されるとともに、主制御基板１３１０が透明カバー体１３０１と透明なベース体１３０２とから構成さ

れる主制御基板ボックス１３２０に収容されているため、遊技ホールの管理者等が、本体枠４を外枠２に対して開放し、透明な主制御基板ボックス１３２０を介して主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘを目視することにより、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装される電子部品が不正に改変されているか否かを容易に判別することができる。よって、本実施形態のパチンコ機１では、主制御基板１３１０に実装される電子部品が不正に改変されることを抑制でき、パチンコ機１のセキュリティの向上を図ることができる。

【５３６４】

また、主制御基板１３１０は、実装面（表面）１３１０ｘに実装される電子部品の部品番号や、電子部品を配置する位置を示す領域等の電子部品の属性（さらに、電子部品の形状、電子部品の大きさ、電子部品の実装向き（実装方向）、電子部品の型式、電子部品を製造した会社名）等の一部又は全部を示す表面側表記部を有している。主制御基板１３１０の表面側表記部は、主制御基板１３１０のレジストに対して目立ちやすい色、具体的には主制御基板１３１０の緑色や黒色等の暗色のレジストに対して目立ち易い白色や黄色等の明色の塗料でシルク印刷により実装面（表面）１３１０ｘに形成されている。なお、主制御基板１３１０の表面側表記部は、各々対応する電子部品の近傍に形成されてもよいし、部品番号がどの電子部品に対応するものであるかを目視にて判別可能に形成されてもよく、例えば、部品番号と電子部品が実装される位置とが引き出し線等を介して接続されてもよい。また、表面側表記部のような表記部は、実装面（表面）１３１０ｘだけでなく主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙにも形成されてよい。また、本実施形態において、主制御基板１３１０は、上述のように複数の情報を有する表面側表記部を有するものではなく、電子部品を特定可能な部品番号のみが表記された部品番号表記部を有する態様であってもよい。

【５３６５】

主制御基板１３１０の表面側表記部は、主制御基板１３１０に実装された電子部品の目視による特定を容易にするものである。しかしながら、上記したようにパチンコ機１を遊技する遊技者側からは主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘを目視することができないように構成されているため、遊技者は、主制御基板１３１０の表面側表記部を確認して主制御基板１３１０に実装された電子部品を特定することが困難である。一方、遊技ホールの管理者は、本体枠４を外枠２に対して開放し、透明な主制御基板ボックス１３２０を介して主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘを目視することで、主制御基板１３１０に電子部品が不正に改変されるような不正が行われたか否かを容易に判別することができる。よって、本実施形態のパチンコ機１では、主制御基板１３１０に実装される電子部品が不正に改変されることを抑制でき、パチンコ機１のセキュリティの向上を図ることができる。

【５３６６】

また、主制御基板１３１０に実装される電子部品のうちの少なくとも表面実装タイプの電子部品は、その表面に捺印部が形成されている。具体的には、主制御基板１３１０に実装される表面実装タイプの電子部品の表面には、少なくとも電子部品の部品番号等の一部又は全部を示す捺印部が形成されている。なお、捺印部は、電子部品の型式の他、電子部品を製造した会社名、電子部品の実装方向、及び電子部品の形状等の情報を含んでもよい。また、捺印部は、表面実装タイプの電子部品の表面に限ることなく、主制御基板１３１０に実装されるリードタイプの電子部品の表面にも形成されるのが望ましい。

【５３６７】

主制御基板１３１０に実装される電子部品の捺印部は、主制御基板１３１０のレジスト及び電子部品の表面に対して目立ちやすい色で形成されている。具体的には、捺印部は、主制御基板１３１０の緑色や黒色等の暗色のレジスト及び電子部品の黒色の表面色に対して目立ち易い白色や黄色の明色であればよく、白色や黄色の塗料でシルク印刷やレーザー印刷等により電子部品の表面に形成されている。

【５３６８】

主制御基板１３１０に実装される電子部品の捺印部は、主制御基板１３１０に実装された電子部品の目視による特定を容易にすることができる。しかしながら、上記したようにパチンコ機１を遊技する遊技者側からは主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘを目視することができないように構成されているため、遊技者は、主制御基板１３１０の電子部品の捺印部を確認して主制御基板１３１０に実装された電子部品を特定することが困難である。一方、遊技ホールの管理者は、本体枠４を外枠２に対して開放し、透明な主制御基板ボックス１３２０を介して主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘを目視することで、主制御基板１３１０に電子部品が不正に改変されるような不正が行われたか否かを容易に判別することができる。よって、本実施形態のパチンコ機１では、遊技盤５の裏側に設けられた主制御基板１３１０に実装される電子部品が不正に改変されることを抑制でき、パチンコ機１のセキュリティの向上を図ることができる。

【５３６９】

また、主制御基板１３１０では、実装面（表面）１３１０ｘとハンダ面（裏面）１３１０ｙとに形成される配線パターンの特徴を異ならせている。具体的には、図３５９（Ａ）及び図３５９（Ｂ）に示すように、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘには図示横方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で水平方向）の配線パターンよりも図示縦方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で垂直方向）の配線パターンの方が多く形成されるのに対し、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙには図示縦方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で垂直方向）の配線パターンよりも図示横方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で水平方向）の配線パターンの方が多く形成されている。

【５３７０】

また、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される配線パターンは、殆どが図示縦方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で垂直方向）の配線パターンと、２つの図示縦方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で垂直方向）の配線パターンを繋ぐ斜めの配線パターンと、によって形成されている。このため、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘでは、図示横方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で水平方向）の配線パターンについては一部に形成されるものの、その割合が低くなっている。

【５３７１】

主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成される配線パターンは、殆どが図示横方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で水平方向）の配線パターンと、２つの図示横方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で水平方向）の配線パターンを繋ぐ斜めの配線パターンと、によって形成されている。このため、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙでは、図示縦方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で垂直方向）の配線パターンについては一部に形成されるものの、その割合が低くなっている。

【５３７２】

本実施形態の主制御基板１３１０では、実装面（表面）１３１０ｘにおいて、横方向の配線パターンよりも縦方向の配線パターンが形成される割合が高くなっているため、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘが透明カバー体１３０１を介して目視された場合であっても、実装面（表面）１３１０ｘに縦方向に実装される電子部品の接続については特定容易であるものの、実装面（表面）１３１０ｘに横方向に実装される電子部品の接続については特定困難にすることが可能である。よって、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装される電子部品全ての接続が把握困難になり、主制御基板１３１０に実装される電子部品が不正に改変されることを抑制でき、パチンコ機１のセキュリティの向上を図ることができる。

【５３７３】

なお、上記した例では図示縦方向の配線パターンと図示横方向の配線パターンとの割合を実装面によって異ならせるものを示したが、より詳しくは、主制御基板１３１０の実装

面（表面）１３１０ｘには遊技の進行を司るＣＰＵ（主制御ＭＰＵ１３１０ａ）や主制御ＭＰＵ１３１０ａに接続される入力回路や出力回路、および入力回路や出力回路に接続される入力コネクタ、出力コネクタ等が実装されており、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、入力回路に直接つながるデータバスラインから入力される入力信号を受信し、主制御ＭＰＵ１３１０ａは受信した入力信号から遊技の進行状況を解析し、解析結果に基づく適切な出力信号を出力回路に直接つながるデータバスラインから出力回路に向けて出力する。つまり、データバスラインは、主制御基板ボックス１３２０外部に露出するように設けられた入力コネクタや出力コネクタとの間に、入力回路や出力回路が介在して直接外部には露出しない信号ラインであり、回路全体のつながりを把握するうえでも主制御基板１３１０に形成される配線の中で最も重要な配線パターンであると言える。

【５３７４】

また、実装面（表面）１３１０ｘに形成される縦方向の配線パターンであっても、特に縦方向の配線パターンが複数並行して形成されている箇所については、最終的に主制御ＭＰＵ１３１０ａのデータバスに接続されている可能性がある。そのため、その周辺に配置される電子部品の部品番号、あるいは配線途中に検査用のパッドを形成するにあたり印刷する検査パッド番号を、複数並行して形成されている箇所を積極的に隠すように印刷して、配線パータンの存在、形成方向がわかり難くなるようにしている。具体的には、配線パターンのうちの少なくともデータバスラインの殆どを主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成するものである。この場合には、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘ側からデータバスラインの殆どの視認が困難になるため、関連する電子部品の接続について特定困難にすることができ、データバスラインに対する不正行為が困難になり、パチンコ機１のセキュリティを向上させることができる。

【５３７５】

また本例では、図示縦方向の配線パターンは、主に回路ブロック（抵抗、コンデンサ、ダイオード、トランジスタや、集積回路（コンパレータＩＣ、各種汎用ロジックＩＣ等）、各種複数の電子部品から構成された入力回路や出力回路）内における信号ラインや電源ラインであり、図示横方向の配線パターンは、複数の回路ブロック間を接続するデータバスラインである。そして、図示縦方向の配線パターンの殆どが主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成されるとともに、図示横方向の配線パターンが主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成されることで、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘ側が目視された場合に、各回路ブロック内の接続を把握されるおそれはあるが、複数の回路ブロック間の接続を把握することを困難にでき、パチンコ機１のセキュリティを向上させることができる。

【５３７６】

また、主制御基板１３１０は横長矩形状に形成されるため、図示横方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で水平方向）には、図示縦方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で垂直方向）よりも実装される電子部品の数が多くなっている。そのため、図示横方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で水平方向）の配線パターンについてはその多くを主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成することで、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される配線パターンから図示縦方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で垂直方向）の電子部品の接続については推測し得る一方で、図示横方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で水平方向）の電子部品の接続については推測し難くすることができ、セキュリティを向上させることができる。つまり、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおいて、図示縦方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で垂直方向）に配置される複数の電子部品のグループ（例えば同一の処理を実行する回路を構成する電子部品等）については、配線パターンから接続を推測することが可能であるものの、図示横方向（パチンコ機１に主制御基板１３１０が取り付けられた状態で水平方向）に配置する複数の電子部品のグループそれぞれの接続については配線パターンから接続を推測することが困難となってい

る。これにより、主制御基板１３１０に対する不正行為を抑制でき、パチンコ機１のセキュリティを向上させることができる。

【５３７７】

また、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘとハンダ面（裏面）１３１０ｙとで配線パターンの特徴が異なる態様は、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘの配線パターンの平均長さ（実装面（表面）１３１０ｘに形成された全ての配線パターンの長さを合算し、合算した値を配線パターンの数で除した長さ）が、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙの配線パターンの平均長さ（ハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成された全ての配線パターンの長さを合算し、合算した値を配線パターンの数で除した長さ）よりも小さい態様である。このような態様では、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおいて、ハンダ面（裏面）１３１０ｙよりも配線パターンを複雑化し易く、実装面（表面）１３１０ｘが目視されても配線パターンから電子部品間の接続を推測することを困難にできる。これにより、主制御基板１３１０に対する不正行為を抑制でき、パチンコ機１のセキュリティを向上させることができる。

【５３７８】

上記したように主制御基板１３１０では、遊技者から目視困難とされていることを前提としてセキュリティ対策が施されている。これに対し、機能表示基板１４０２では、遊技者から目視されるおそれがあることを前提としてセキュリティ対策が施されており、該対策について図３６１を参照して以下に説明する。図３６１は、別例における機能表示ユニット１４００を示す概略図であり、（Ａ）機能表示ユニット１４００の側面図、（Ｂ）機能表示ユニット１４００の正面図、（Ｃ）機能表示ユニット１４００の背面図、（Ｄ）機能表示ユニット１４００の透光シート１４０４を外した状態の正面図、（Ｅ）機能表示ユニット１４００の内側を示す断面図である。

【５３７９】

図３６１に示すように、機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２は、表実装面と裏実装面とを備え、表実装面にはＬＥＤ１４０１が実装され、裏実装面にはＬＥＤ１４０１とは別の電子部品が実装される両面実装基板である。また、本例の機能表示基板１４０２には表面実装タイプの電子部品（チップ部品、ＳＭＤ（Ｓｕｒｆａｃｅ Ｍｏｕｎｔ ＤｅｖＩＣｅ））のみが実装されている。

【５３８０】

なお、機能表示基板１４０２は上記したものに限らず、主基板１３１０と同様に表実装面にのみ電子部品が実装される片面実装基板としてもよいし、主制御基板１３１０と同様に基板表面に設けられたスルーホールにリード端子を挿入してハンダ付けされるリードタイプ（スルーホール実装タイプ、挿入実装タイプ）の電子部品と、スルーホールを用いることなしに基板表面に設けられたパッドに電極（接続端子）がハンダ付けされる表面実装タイプの電子部品（チップ部品、ＳＭＤ（Ｓｕｒｆａｃｅ Ｍｏｕｎｔ ＤｅｖＩＣｅ））と、の両方を実装する混載基板としてもよい。この場合には、機能表示基板１４０２の表実装面には表面実装タイプの電子部品のみ実装し、裏実装面にリードタイプの電子部品のみを実装するか、又は表面実装タイプの電子部品とリードタイプの電子部品とを実装するようにしてもよい。

【５３８１】

表面実装タイプの電子部品は、基板の両面を利用できることに加え、同一種類の電子部品であってもリードタイプの電子部品に比べて電子部品を小型化することで実装密度を高めることができる。そのため、基板上の配線長（配線長（パターンの長さ）の合計や、電子部品間または電子部品とスルーホール等の間の配線長（パターンの長さ）の平均）を短くすることが可能であり、回路の高速化を図るとともに、基板の小型化も図ることができる。さらに基板の小型化（基板面積を小さくする）によって基板の剛性を高めることができ、これによって基板の反り等の変形が抑制されて、実装される電子部品の基板からの剥がれ落ちが抑制される。

【５３８２】

また、本例の機能表示基板１４０２は、少なくとも表面実装タイプの電子部品が表実装面に実装されているものであればよく、例えば、表面実装タイプの電子部品とリードタイプの電子部品との両方が機能表示基板１４０２の表実装面と裏実装面とに実装されてもよいし、機能表示基板１４０２の表実装面に表面実装タイプの電子部品とリードタイプの電子部品との両方が実装されるとともに機能表示基板１４０２の裏実装面に表面実装タイプの電子部品とリードタイプの電子部品との一方が実装されてもよいし、機能表示基板１４０２の表実装面に表面実装タイプの電子部品のみが実装されるとともに機能表示基板１４０２の裏実装面に表面実装タイプの電子部品とリードタイプの電子部品との両方が実装されてもよいし、機能表示基板１４０２の表実装面と裏実装面とに表面実装タイプの電子部品のみが実装されてもよい。

【５３８３】

透明なカバー体１３０１と透明なベース体１３０２とから構成される主制御基板ボックス１３２０に収容される主制御基板１３１０に対し、機能表示基板１４０２は、不透明な表面カバー部１４１１と不透明な裏面カバー部１４１２とから構成されるケース１４１０に収容され、実装面（表実装面、裏実装面）が機能表示ユニット１４００の不透明なケース１４１０に覆われている。なお、機能表示基板１４００の不透明なケース１４１０は、例えば、遊技者側に複数の貫通部１４１０ａが形成されて機能表示基板１４００の表実装面を覆う不透明なカバー体であってもよい。

【５３８４】

機能表示ユニット１４００は、遊技盤５の表側に設けられているため、パチンコ機１を遊技する遊技者側からは少なくとも一部が目視可能ではあるものの、機能表示基板１４０２は、表実装面が不透明な表面カバー部１４１１によって覆われているため、機能表示基板１４０２の表実装面を視認することは困難である。また、表面カバー部１４１１には上記した貫通部１４１０ａが複数形成されており、この貫通部１４１０ａを通して機能表示基板１４０２の表実装面が目視された場合であっても、表実装面の一部のみが視認可能とされるだけであり、表実装面の全体に実装される電子部品や配線パターンを把握することは困難であるし、両面実装基板である機能表示基板１４０２の裏実装面については貫通部１４１０ａを通して視認することができず、裏実装面に実装された電子部品や裏実装面の配線パターンを把握することは困難である。よって、本実施形態のパチンコ機１では、機能表示基板１４０２に実装される電子部品が不正に改変されることを抑制でき、パチンコ機１のセキュリティの向上を図ることができる。

【５３８５】

また、本例の機能表示基板１４０２は、主制御基板１３１０の表面側表記部のような表記部を有していない。一方、主制御基板１３１０は、遊技盤５の裏側に設けられ、本体枠４を外枠２に対して開放することによってのみ目視可能とされるため、表面側表記部を有している。つまり、機能表示基板１４０２は、機能表示ユニット１４００の表面カバー部１４１１によって表実装面が覆われるものの、遊技盤５の表側に設けられることで遊技者から目視されるおそれや針金等を遊技盤５の隙間から挿入して機能表示ユニット１４００にいたずらや不正行為等が行われるおそれがあり、仮に機能表示基板１４０２が主制御基板１３１０の表面側表記部のような表記部を有するように構成した場合には、表面カバー部１４１１に形成された貫通部１４１０ａを介して機能表示基板１４０２が目視された場合や、機能表示ユニット１４００の表面カバー部１４１１が破損して機能表示基板１４０２の表実装面の一部又は全部が露出した場合に、表記部が視認されて機能表示基板１４０２に実装された電子部品が目視によって容易に特定されるおそれがある。本実施形態の機能表示基板１４０２は、主制御基板１３１０の表面側表記部のような表記部を有していないため、表面カバー部１４１１に形成された貫通部１４１０ａを介して機能表示基板１４０２の表実装面が目視された場合や機能表示ユニット１４００の表面カバー部１４１１が破損して機能表示基板１４０２の表実装面の一部又は全部が露出した場合であっても、機能表示基板１４０２の表実装面に実装された電子部品が目視によって特定されることを困難にでき、遊技盤５の表側に設けられた機能表示基板１４０２に実装される電子部品が不

正に改変されることを抑制でき、パチンコ機１のセキュリティの向上を図ることができる。

【５３８６】

なお、本実施形態において、機能表示基板１４０２は、上述のように主制御基板１３１０の表面側表記部のような表記部を有していないが、電子部品を特定可能な部品番号を除く電子部品を配置する位置を示す領域等の電子部品（表面側電子部品）の属性（さらに、電子部品の形状、電子部品の大きさ、電子部品の実装向き（実装方向）、電子部品の型式、のいずれかを含む場合がある。）が表記された表記部を有するようにしてもよい。

【５３８７】

すなわち、本技術思想は少なくとも機能表示基板１４０２に対して電子部品を特定可能な情報（例えば電子部品の型式（部品番号）等）を示す表記部を少なくとも表実装面に設けないものであればよく、電子部品を特定不可能な情報については表実装面と裏実装面との一方又は両方に設けてもよいし、裏実装面には電子部品を特定可能な情報（例えば電子部品の型式（部品番号）等）を示す表記部設けてもよい。例えば、機能表示基板１４０２の表実装面又は裏実装面に、電子部品を配置する位置や電子部品の外形を表す外形記号（例えば、電子部品の配置される領域の四隅を示すＬ字状の記号や、電子部品の配置される領域を矩形状に囲う枠線等）や、実装の方向によって特性が変わる電子部品について電子部品の実装方向を示す記号（例えば１ピンマーク）等が形成されてもよい。

【５３８８】

具体的には、機能表示基板１４０２の前面（表面、表実装面）において、実装される前面側電子部品（表面側電子部品）と対応する位置近傍（外径記号によって囲われる領域の外側又は内側）に丸や三角、四角等の記号や数字（例えばピン番号等）等の目印（マーク）を作り、この目印の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き基準端子記号や目印の銅箔を抜いて形成される箔残し基準端子記号を形成して、機能表示基板１４０２の前面（表面）にそれぞれ形成され、機能表示基板１４０２の前面（表面、表実装面）にベタ塗りされる緑色のレジスト液により箔抜き基準端子記号や箔残し基準端子記号がそれぞれ覆われるように構成することもできるし、機能表示基板１４０２の前面（表面、表実装面）に実装される前面側電子部品（表面側電子部品）と対応する箔抜き基準端子記号や箔残し基準端子記号を機能表示基板１４０２の裏面（後面、裏実装面）に形成して、機能表示基板１４０２の裏面（後面、裏実装面）にベタ塗りされる緑色のレジスト液により箔抜き基準端子記号や箔残し基準端子記号がそれぞれ覆われるように構成することもできる。

【５３８９】

また、機能表示基板１４０２の前面（表面、表実装面）において、実装される前面側電子部品（表面側電子部品）と対応する位置近傍（外径の外側又は内側）に丸や三角、四角等の記号や数字（例えばピン番号等）等の目印（マーク）をシルク印刷により印刷するようにしてもよいし、機能表示基板１４０２の前面（表面、表実装面）に実装される前面側電子部品（表面側電子部品）と対応する丸や三角、四角等の記号や数字（例えばピン番号等）等の目印（マーク）を機能表示基板１４０２の裏面（後面、裏実装面）にシルク印刷により印刷するようにしてもよい。

【５３９０】

また、機能表示基板１４０２の前面（表面、表実装面）において、実装される前面側電子部品（表面側電子部品）と対応する位置近傍（外径の外側又は内側）に、前面側電子部品の外形上の特徴（凹み、切り欠き、突起等のうち少なくとも一部）を含む外形記号をシルク印刷により印刷したシルク外形記号を形成したり、外形記号の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き外形記号や外形記号の銅箔を抜いて形成される箔残し外形記号を形成して機能表示基板１４０２の前面（表面、表実装面）にベタ塗りされる白色のレジスト液により箔抜き外形記号や箔残し外形記号がそれぞれ覆われるように構成するようにしてもよいし、前面側電子部品の外形上の特徴（凹み、切り欠き、突起等のうち少なくとも一部）を含む外形記号を機能表示基板１４０２の裏面（後面、裏実装面）にシルク印刷により印刷したシルク外形記号を形成したり、機能表示基板１４０２の前面（表面、表実装面）に実

装される前面側電子部品（表面側電子部品）と対応する箔抜き外形記号や箔残し外形記号を機能表示基板１４０２の裏面（後面、裏実装面）に形成して、機能表示基板１４０２の裏面（後面、裏実装面）にベタ塗りされる白色のレジスト液により箔抜き外形記号や箔残し外形記号がそれぞれ覆われるように構成するようにしてもよい。

【５３９１】

また、前面側電子部品の外形上の特徴（凹み、切り欠き、突起等のうち少なくとも一部）を含む外形記号と丸や三角、四角等の記号や数字（例えばピン番号等）等の目印との一方のみをシルク印刷や箔抜き、箔残し等により機能表示基板１４０２の前面（表面、表実装面）又は裏面（後面、裏実装面）に形成するものでもよいし、両方を形成するものでもよい。また、前面側電子部品の外形上の特徴（凹み、切り欠き、突起等のうち少なくとも一部）を含む外形記号としては、電子部品の外形に合わせて電子部品の配置される領域の四隅のうち１つの隅に切欠部（面取りや角を含む領域を塗り潰したり、角を含む領域を囲む等）を有するものや、電子部品の外形に合わせて電子部品の配置される領域を囲う矩形状の枠線の一辺の一部に切欠部を有するもの等でもよい。

【５３９２】

また外形記号として電子部品の外形上の特徴を含むものに限らず、電子部品の向きを特定可能であればよく、例えば電子部品の配置される領域を囲う矩形状の枠線の一辺の太さを他の辺と比べて太く又は細くするもの等でもよい。これらの記号は電子部品を特定するものではないため、遊技者に視認された場合であっても実装される電子部品を特定可能な情報や回路情報を読み取られるおそれが低い。

【５３９３】

また、本例の機能表示基板１４０２に実装される表面実装タイプの電子部品は、その表面に主制御基板１３１０に実装される電子部品の表面に形成されるような捺印部を有していない。一方、主制御基板１３１０は、遊技盤５の裏側に設けられることに加え、本体枠４を外枠２に対して開放することによってのみ目視可能とされており、主制御基板１３１０の電子部品の表面に捺印部を有する。つまり、機能表示基板１４０２は、機能表示ユニット１４００の表面カバー部１４１１によって表実装面が覆われるものの、遊技盤５の表側に設けられることで遊技者から目視されるおそれや針金等を遊技盤５の隙間から挿入して機能表示ユニット１４００にいたずらや不正行為等が行われるおそれがあるため、仮に機能表示基板１４０２に実装される電子部品に主制御基板１３１０の電子部品の捺印部が形成されるように構成した場合には、表面カバー部１４１１に形成された貫通部１４１０ａを介して機能表示基板１４０２に実装される電子部品が目視された場合や、機能表示ユニット１４００の表面カバー部１４１１が破損して機能表示基板１４０２の表実装面の一部又は全部が露出した場合に、電子部品の捺印部が視認されて機能表示基板１４０２に実装された電子部品を容易に特定されるおそれがある。本実施形態の機能表示基板１４０２は、主制御基板１３１０の電子部品の表面の捺印部を有していないため、表面カバー部１４１１に形成された貫通部１４１０ａを介して機能表示基板１４０２に実装される電子部品が目視された場合や機能表示ユニット１４００の表面カバー部１４１１が破損して機能表示基板１４０２の表実装面の一部又は全部が露出した場合であっても、機能表示基板１４０２の表実装面に実装された電子部品を目視により特定することを困難にでき、遊技盤５の表側に設けられた機能表示基板１４０２に実装される電子部品が不正に改変されることを抑制でき、パチンコ機１のセキュリティの向上を図ることができる。なお、機能表示基板１４０２の表実装面に実装される電子部品の表面に、主制御基板１３１０に実装される電子部品の表面に形成される捺印部が形成されないものであればよく、機能表示基板１４０２の裏実装面に実装される電子部品の表面には、主制御基板１３１０に実装される電子部品の表面に形成される捺印部が形成されてもよい。

【５３９４】

機能表示基板１４０２では、表実装面と裏実装面とに形成される配線パターンの特徴を異ならせていない替わりに以下に説明する方法で不正行為が行われることを抑制している。具体的には、主制御基板１３１０には主制御ＭＰＵ１３１０ａ等の制御手段が実装され

ているのに対し、機能表示基板１４０２には制御手段が実装されていない。このため、機能表示基板１４０２に形成される配線パターンの殆どが信号ライン又は電源ラインであり、機能表示基板１４０２に対して不正行為が行われることを抑制している。また、機能表示基板１４０２の表実装面及び裏実装面に形成される配線パターンは、例えば、表実装面及び裏実装面において、電子部品間の配線パターンの長さが最も短くなるように形成されている。このような機能表示基板１４０２では、目視によって電子部品間の接続の特定は容易となるが、回路の高速化を図るとともに、基板の小型化も図ることができる。さらに基板の小型化（基板面積を小さくする）によって基板の剛性を高めることができ、これによって基板の反り等の変形が抑制されて、実装される電子部品の基板からの剥がれ落ちが抑制される。なお、機能表示基板１４０２では、主制御基板１３１０と同様に、表実装面と裏実装面とに形成される配線パターンの特徴を異ならせる態様であってもよく、機能表示基板１４０２に実装される電子部品が不正に改変されることを抑制でき、パチンコ機１のセキュリティの向上を図ることができる。

【５３９５】

上記した実施形態では、遊技盤５の裏側に設けられるとともに、表実装面（主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘ、払出制御基板６３３の実装面（表面））が遊技者とは反対側の裏側に向けられる主側基板として、主制御基板１３１０について説明したが、これに限られるものではなく、マイクロプロセッサが実装される払出制御基板６３３等の他の主側基板であってもよい。すなわち、上記した実施形態において主制御基板１３１０と記載するものは、払出制御基板６３３等の他の主側基板と読み替えるとともに各主側基板に対応するものに適用することが可能である。

【５３９６】

上記した実施形態では、実装面（主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘ、払出制御基板６３３の実装面（表面））が遊技者とは反対側の裏側に向けられた基板（主制御基板１３１０、払出制御基板６３３）よりも遊技者側である表側に設けられる主側基板として、機能表示基板１４０２について説明したが、これに限られるものではなく、磁気センサ１０５０の磁気センサ基板、第一始動口センサ３００２のセンサ基板や第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等の他の主側基板であってもよい。すなわち、上記した実施形態において機能表示基板１４０２と記載するものは、磁気センサ１０５０の磁気センサ基板、第一始動口センサ３００２のセンサ基板や第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等の他の主側基板と読み替えるとともに各主側基板に対応するものに適用することが可能である。

【５３９７】

［磁気センサ基板の構成］

磁気センサ１０５０は、一方の面が開口された矩形状の開口部を有する箱体及び開口部を塞ぐ平板状のカバー体からなるケースと、開口部を介して箱体に収容される磁気センサ基板１０５０ｂと、を備えている。磁気センサ１０５０は、箱体の前面側が他の部材に面接触（当接）するように取り付けられるようになっており、本実施形態では、箱体の前面側が遊技盤５の遊技パネル１１００における透明な平板状のパネル板１１１０の裏面側に面接触（当接）した状態で取り付けられている。

【５３９８】

磁気センサ基板１０５０ｂを収容するケースは、ビスやネジ等を用いることなしに箱体とカバー体とが係止されるようになっている。本例ではカバー体の対向する１組の辺に係止片が１つずつ形成されており、この係止片が箱体の底面に係止される。そして、カバー体の係止片と箱体の底面との係止状態を解除することでケースを破損させることなく、収容される磁気センサ基板１０５０ｂを取り出すことができるようになっている。

【５３９９】

磁気センサ１０５０の箱体は、無色透明な樹脂により成型されている点で、不透明な機能表示ユニット１４００の表面カバー部１４１１とは異なる。また、箱体には、開口部が形成される面とは異なる面に、後述する磁気センサ基板１０５０ｂの後面（裏面）に実装

されるコネクタハウジングＭＣＮのソケット挿入口の一部が露出するように矩形状のコネクタハウジング挿通穴が形成されている。箱体の外形は、磁気センサ基板１０５０ｂの外形と比べて大きく、磁気センサ基板１０５０ｂを箱体に収容した状態では、磁気センサ基板１０５０ｂの外周と開口部の内周との距離寸法（クリアランス）が約０．５ｍｍ～０．７ｍｍ程度となっている。なお、本技術思想は磁気センサ１０５０の箱体を有色透明な樹脂によって成型するものであっても適用可能である。すなわち、磁気センサ１０５０の箱体は無色透明な樹脂により成型されているものに限らず有色透明の樹脂により成型されていてもよい。

【５４００】

図３６２（ａ）は、磁気センサ１０５０の磁気センサ基板１０５０ｂの前面（表面）を示す斜視図であり、図３６２（ｂ）は、磁気センサ１０５０の磁気センサ基板１０５０ｂを後面（裏面）を示す斜視図である。以下、磁気センサ基板１０５０ｂの構成について、図３６２（ａ）及び図３６２（ｂ）を参照して詳細に説明する。

【５４０１】

図３６２（ａ）及び図３６２（ｂ）に示すように、磁気センサ基板１０５０ｂは、前面（表面）に実装された、磁気を検出することができる磁気検出素子ＭＳＤと、磁気検出素子ＭＳＤからの検出信号に基づいて磁気検出判定結果を外部へ出力することができるコントローラＣＴＲと、各種抵抗と、各種コンデンサ等とを有している。また、磁気センサ基板１０５０ｂの前面（表面）には、磁気検出素子ＭＳＤ、コントローラＣＴＲ、各種抵抗、及び各種コンデンサ等の前面側電子部品（表面側電子部品）の電極（接続端子）がハンダ付けされるパッド、スルーホール、ランド等と、パッド、スルーホール、ランド等を除いた全域に白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）からなる白色のレジスト層と、が形成されている。なお、ランドそれぞれの一部領域又は全領域に白色のレジスト層が形成されていてもよい。また、磁気センサ基板１０５０ｂの前面（表面）に形成されるレジスト層の色は白色に限らず、緑色などの他の色であってもよい。

【５４０２】

本実施形態の磁気センサ基板１０５０ｂは、主制御基板１３１０の表面側表記部のような表記部を有していない。磁気センサ基板１０５０ｂの前面（表面）には、白色のレジスト層が形成されるが、該レジスト層上には、前面側電子部品（表面側電子部品）の部品番号、前面側電子部品（表面側電子部品）を配置する位置を示す領域等の前面側電子部品（表面側電子部品）の属性（さらに、前面側電子部品（表面側電子部品）の形状、前面側電子部品（表面側電子部品）の大きさ、前面側電子部品（表面側電子部品）の実装向き（実装方向）、前面側電子部品（表面側電子部品）の型式を含む場合がある。）を示す前面側表記部（表面側表記部）が全く形成されていない。なお、本実施形態において、磁気センサ基板１０５０ｂは、前面（表面）に上述のように主制御基板１３１０のような複数の情報を有する表面側表記部を有するものではないが、電子部品を特定可能な部品番号を除く前面側電子部品（表面側電子部品）を配置する位置を示す領域等の前面側電子部品（表面側電子部品）の属性（さらに、前面側電子部品（表面側電子部品）の形状、前面側電子部品（表面側電子部品）の大きさ、前面側電子部品（表面側電子部品）の実装向き（実装方向）、前面側電子部品（表面側電子部品）の型式を含む場合がある。）が表記された表記部を有する態様であってもよい。

【５４０３】

また、磁気センサ基板１０５０ｂは、後面（裏面）に実装された、電気配線が接続されるコネクタハウジングＭＣＮと、各種ＩＣと、各種抵抗と、各種コンデンサ等と、を有している。磁気センサ基板１０５０ｂの後面（裏面）には、コネクタハウジングＭＣＮ、各種ＩＣ、各種抵抗、及び各種コンデンサ等の後面側電子部品（裏面側電子部品）の電極（接続端子）がハンダ付けされるパッド、スルーホール、ランド等と、パッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）からなる白色

のレジスト層と、が形成されている。なお、ランドそれぞれの一部領域又は全領域に白色のレジスト層が形成されていてもよい。また、磁気センサ基板１０５０ｂの後面（裏面）に形成されるレジスト層の色は白色に限らず、緑色などの他の色であってもよい。

【５４０４】

本実施形態では、磁気センサ基板１０５０ｂの後面（裏面）には、白色のレジスト層が形成されるが、該レジスト層上には、後面側電子部品（裏面側電子部品）の部品番号、後面側電子部品（裏面側電子部品）を配置する位置を示す領域等の後面側電子部品（裏面側電子部品）の属性（さらに、後面側電子部品（裏面側電子部品）の形状、後面側電子部品（裏面側電子部品）の大きさ、後面側電子部品（裏面側電子部品）の実装向き（実装方向）、後面側電子部品（裏面側電子部品）の型式を含む場合がある。）を示す後面側表記部（裏面側表記部）が全く形成されていない。なお、磁気センサ基板１０５０ｂの後面（裏面）には、レジスト層上に後面側表記部（裏面側表記部）が形成される態様であってもよい。なお、本実施形態において、磁気センサ基板１０５０ｂは、後面（裏面）に上述のように主制御基板１３１０のような複数の情報を有する表面側表記部を有するものではないが、電子部品を特定可能な部品番号を除く前面側電子部品（表面側電子部品）を配置する位置を示す領域等の前面側電子部品（表面側電子部品）の属性（さらに、前面側電子部品（表面側電子部品）の形状、前面側電子部品（表面側電子部品）の大きさ、前面側電子部品（表面側電子部品）の実装向き（実装方向）、前面側電子部品（表面側電子部品）の型式を含む場合がある。）が表記された表記部を有する態様であってもよい。

【５４０５】

また、本実施形態の磁気センサ基板１０５０ｂに実装される表面実装タイプの電子部品は、その表面に主制御基板１３１０に実装される電子部品の表面に形成されるような捺印部を有していない。具体的には、磁気センサ基板１０５０ｂの前面（表面）に実装される磁気検出素子ＭＳＤ及びコントローラＣＴＲと、磁気センサ基板１０５０ｂの後面（裏面）に実装された各種ＩＣの表面には、主制御基板１３１０に実装される電子部品の表面に形成されるような捺印部が形成されていない。なお、磁気センサ基板１０５０ｂの表実装面に実装される電子部品のうちの少なくとも一部の電子部品の表面に、主制御基板１３１０に実装される電子部品の表面に形成されるような捺印部が形成されないものであればよく、磁気センサ基板１０５０ｂの表実装面に主制御基板１３１０に実装される電子部品の表面に形成されるような捺印部が表面に形成された電子部品が実装されていてもよいし、磁気センサ基板１０５０ｂの裏実装面に主制御基板１３１０に実装される電子部品の表面に形成されるような捺印部が表面に形成された電子部品が実装されていてもよい。

【５４０６】

また、磁気センサ基板１０５０ｂでは、表実装面と裏実装面とに形成される配線パターンの特徴を異ならせていない。主制御基板１３１０には主制御ＭＰＵ１３１０ａ等の複雑な制御手段が実装されているのに対し、磁気センサ基板１０５０ｂにはコントローラＣＴＲ等の単純な制御手段しか実装されておらず、磁気センサ基板１０５０ｂに形成される配線パターンの殆どが信号ライン又は電源ラインであり、磁気センサ基板１０５０ｂに対する不正行為が行われることを抑制している。また、磁気センサ基板１０５０ｂの表実装面及び裏実装面に形成される配線パターンは、例えば、表実装面及び裏実装面において、電子部品間の配線パターンの長さが最も短くなるように形成されている。

【５４０７】

コネクタハウジングＭＣＮのソケット挿入口には、磁気センサ基板１０５０ｂの後面（裏面）に対して平行となるように、４本の端子が一列に配置されている。つまり、コネクタハウジングＭＣＮのソケット挿入口に挿入される電気配線（ハーネス）の先端に接続されるコネクタソケットは、磁気センサ基板１０５０ｂの後面（裏面）と平行となる。これにより、磁気センサ基板１０５０ｂが箱体に収容されて箱体の開口部がカバー体により塞がれた状態において、コネクタハウジングＭＣＮのソケット挿入口に挿入されたコネクタソケットに接続される電気配線（ハーネス）と、磁気センサ基板１０５０ｂの後面（裏面）及び前面（表面）とが被らないようにすることできる。

【５４０８】
なお、コントローラＣＴＲは、磁気センサ基板１０５０ｂに形成された配線パターンを介してコネクタハウジングＭＣＮと電気的に接続されており、コネクタハウジングＭＣＮが電気配線（ハーネス）を介して主制御基板１３１０と電気的に接続されることによって、主制御基板１３１０と電気的に接続されている。コネクタハウジングＭＣＮの４本の各種端子は、電源線（例えば、直流＋５Ｖ）、グランド（ＧＮＤ）線、信号線１、及び信号線２により構成されている。コントローラＣＴＲは、信号線１及び／又は信号線２を介して磁気の検出結果（磁石の接近の有無）を検出信号として主制御基板１３１０へ出力することができる。
【５４０９】
ところで、磁気センサ１０５０は、不正な磁気を検知するものであり、不正に改変された場合に、磁石の接近を主制御基板１３１０へ伝えることができないおそれがあり、この場合には、磁石により遊技球を始動口ユニット２１００の第一始動口２００２に導いて入球させて少ない球数で抽選の機会を多く獲得する磁石ゴトが行われても、この磁石ゴトによる不正行為を主制御基板１３１０が発見することができないおそれがある。磁気センサ１０５０は、箱体が透明樹脂により成型されているため、磁気センサ基板１０５０ｂが箱体に収容されて箱体の開口部がカバー体により塞がれた状態で、遊技盤５の遊技パネル１１００における透明な平板状のパネル板１１１０の裏面側に取り付けられると、遊技ホールの管理者や遊技者は、パチンコ機１の前面から磁気センサ１０５０の磁気センサ基板１０５０ｂの前面（表面）の状態を視認することができる。
【５４１０】
ところが、不正行為を行おうとする者は、磁気センサ基板１０５０ｂの前面（表面）の状態から、特に、シルク印刷により印刷された前面側電子部品（表面側電子部品）の部品番号、前面側電子部品（表面側電子部品）を配置する位置を示す領域等の前面側電子部品（表面側電子部品）の属性（さらに、前面側電子部品（表面側電子部品）の形状、前面側電子部品（表面側電子部品）の大きさ、前面側電子部品（表面側電子部品）の実装向き（実装方向）、前面側電子部品（表面側電子部品）の型式を含む場合がある。）を示す前面側表記部（表面側表記部）から、実装されている電子部品を特定し、磁気センサ基板１０５０ｂの前面（表面）及び後面（裏面）に形成された配線パターンから回路構成を把握して回路改変を行う情報源とするおそれがある。
【５４１１】
本実施形態では、磁気センサ基板１０５０ｂの前面（表面）及び後面（裏面）において、白色のレジスト層上に前面側表記部（表面側表記部）及び後面側表記部（裏面側表記部）が全く存在していない。また、本実施形態では、磁気センサ基板１０５０ｂの前面（表面）には、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで前面側電子部品（表面側電子部品）がどのような電子部品であるかをそれぞれ特定するための情報がその情報の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き箔残しにより形成されてもいないし、磁気センサ基板１０５０ｂの後面（裏面）には、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで後面側電子部品（裏面側電子部品）がどのような電子部品であるかをそれぞれ特定するための情報がその情報の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き箔残しにより形成されてもいない。つまり、本実施形態では、磁気センサ基板１０５０ｂの前面（表面）に実装される前面側電子部品（表面側電子部品）がどのような電子部品であるかを特定するための情報が磁気センサ基板１０５０ｂの前面（表面）に何ら表記されていないと共に、磁気センサ基板１０５０ｂの後面（裏面）に実装される後面側電子部品（裏面側電子部品）がどのような電子部品であるかを特定するための情報が磁気センサ基板１０５０ｂの後面（裏面）に何ら表記されていない。よって、磁気センサ基板１０５０ｂに実装されている電子部品が目視によって特定されることを抑制でき、磁気センサ基板１０５０ｂの回路構成を把握することを困難にでき、パチンコ機１のセキュリティの向上を図ることができる。
【５４１２】

本実施形態の磁気センサ基板１０５０ｂに実装される表面実装タイプの電子部品うちの少なくとも一部の電子部品は、その表面に主制御基板１３１０に実装される電子部品の表面に形成されるような捺印部を有していない。よって、磁気センサ基板１０５０ｂに実装されている電子部品のうちの少なくとも一部の電子部品については目視によって特定されることを抑制でき、磁気センサ基板１０５０ｂの回路構成の全体が把握されることを困難にでき、パチンコ機１のセキュリティの向上を図ることができる。

【５４１３】

本実施形態の磁気センサ基板１０５０ｂでは、表実装面と裏実装面とに形成される配線パターンの特徴を異ならせていない。このような磁気センサ基板１０５０ｂでは、目視によって電子部品間の接続の特定は容易となるが、回路の高速化を図るとともに、基板の小型化も図ることができる。さらに基板の小型化（基板面積を小さくする）によって基板の剛性を高めることができ、これによって基板の反り等の変形が抑制されて、実装される電子部品の基板からの剥がれ落ちが抑制される。なお、磁気センサ基板１０５０ｂでは、主制御基板１３１０と同様に、表実装面と裏実装面とに形成される配線パターンの特徴を異ならせる態様であってもよく、磁気センサ基板１０５０ｂに実装される電子部品が不正に改変されることを抑制でき、パチンコ機１のセキュリティの向上を図ることができる。

【５４１４】

また、磁気センサ基板１０５０ｂの表実装面にのみ配線パターンを形成し、裏実装面には配線パターンを形成しないようにしてもよい。このように構成することにより、磁気センサ基板１０５０ｂにおいて表実装面の配線パターンと裏実装面の配線パターンとを接続するスルーホールを形成する必要がなくなり、強度が弱くなる要因であるスルーホールによる基板の欠損箇所をなくすことができるため、表実装面と裏実装面との両方に配線パターンを形成する場合に比べて、磁気センサ基板１０５０ｂ全体の剛性を高めることができる。なお、表実装面の配線パターンと裏実装面の配線パターンとを接続するスルーホールが形成されないものであればよく、貫通部（磁気センサ基板１０５０ｂを収容するための位置決め用の貫通部や取り付け用の貫通部等）は形成されていてもよい。

【５４１５】

また、本実施形態では、磁気センサ１０５０は、透明樹脂により成型された箱体及びカバー体に収納されているため、遊技盤５の遊技パネル１１００における透明なパネル板１１１０の裏面側に取り付けられると、遊技ホールの管理者は、パチンコ機１の前面から磁気センサ１０５０の磁気センサ基板１０５０ｂの前面（表面）の状態を視認することができるようになる。これにより、遊技ホールの管理者は、パチンコ機１の前面から磁気センサ１０５０の磁気センサ基板１０５０ｂの前面（表面）の状態を目視することにより磁気センサ基板１０５０ｂに対して不正の有無を確認することできる。なお、遊技ホールの管理者は、本体枠４を外枠２に対して開放すると、遊技盤５を構成する各種部材が透明な樹脂により成型（形成）されていることにより、磁気センサ基板１０５０ｂの後面（裏面）の状態を視認することができるようになる。これにより、遊技ホールの管理者は、パチンコ機１の前面から磁気センサ１０５０の磁気センサ基板１０５０ｂの後面（裏面）の状態を目視することにより磁気センサ基板１０５０ｂに対して不正の有無を確認することできる。

【５４１６】

また、磁気センサ基板１０５０ｂを収容するケースには、磁気センサ１０５０の製品管理番号（例えば、ＦＤＵＦＰＡ０３Ａ）が刻印されている。上記したように、本例の磁気センサ基板１０５０ｂには表記部が形成されていないが、磁気センサ基板１０５０ｂを収容するケースに製品管理番号が刻印されている。また、磁気センサ基板１０５０ｂには、基板管理番号が磁気センサ基板１０５０ｂの前面（表面）と後面（裏面）とのいずれにも形成されていない。そのため、磁気センサ基板１０５０ｂのみを目視してもどのような機能を有する基板であるかを特定することが困難とされるが、磁気センサ基板１０５０ｂを収容するケースに製品管理番号が刻印されていることで、例えば製造工程において該刻印を確認して磁気センサ１０５０が収容されていることを判別でき、取り付け時のミスを防

止できる。
【５４１７】
なお、磁気センサ１０５０の製品管理番号は、ケースの箱体とカバー体との少なくとも一方に形成されるものであればよく、またケースの外部から視認可能な位置（例えばカバー体の表面）に形成されるものであってもよい。ケースの外部から視認可能な位置に磁気センサ１０５０の製品管理番号が形成された場合には製造工程において製品管理番号の確認が容易となり、磁気センサ１０５０が収容されていることを直ぐに判別できるため、作業効率が向上する。
【５４１８】
また、磁気センサ基板１０５０は、ＣＰＵが実装されていないことに加え、パチンコ機１の裏面側に設けられる主制御基板１３１０に実装される主制御ＭＰＵ１３１０ａからの信号に基づいて処理を実行するものであり、遊技の進行や遊技者の利益に与える影響は小さく、安定動作を図る必要性は低いため、本例の磁気センサ基板１０５０ではベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））が形成されていない。これにより、磁気センサ基板１０５０にベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））が形成される場合に比べて電子部品の実装密度を高めることができ、基板の小型化して基板の剛性を高めることができるため、反りなどの変形が抑制されて実装される電子部品が剥がれ落ちることを抑制できるし、小型化が可能となることで磁気センサ基板１０５０などの存在を隠匿したい基板について遊技者から気付かれ難くできるし、存在を隠匿することによって基板に実装される電子部品や回路情報を読み取られるおそれを低くでき、いたずらなどの抑止効果が高まる。
【５４１９】
［不正の判別容易性の向上１］
次に、表面実装タイプの電子部品が実装される基板において、電子部品が改変される等の基板に対する不正を目視によって判別する際の判別容易性を向上する構成について説明する。
【５４２０】
主制御基板１３１０では、遊技機の管理者等が、本体枠４を外枠２に対して開放し、透明カバー体１３０１を介して主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘを目視することにより、主制御基板１３１０に電子部品が不正に改変されるような不正が行われたか否かを判別することが可能である。詳しくは、主制御基板１３１０に対する不正を目視によって判別する場合、例えば、パチンコ機１の制御に関してより重要な表面実装タイプの電子部品について改変の形跡の有無が目視によって判別され、重要な表面実装タイプの電子部品に改変の形跡が確認されると、主制御基板１３１０に不正が有ると判定される。しかしながら、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘには複数の電子部品が実装されているため、該複数の電子部品の中から目視によって重要な表面実装タイプの電子部品を特定することは困難である。
【５４２１】
本例の主制御基板１３１０では上記した事情に鑑み、複数の電子部品の中から目視によって重要な表面実装タイプの電子部品を容易に特定できるように対策がなされている。図３６３は、上記した別例の主制御基板１３１０における電子部品の実装状態の一例を示す説明図である。
【５４２２】
図３６３に示すように、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘには、複数の表面実装タイプの電子部品、及び複数のリードタイプの電子部品が実装されている。ここで、表面実装タイプの電子部品は、例えば、基板表面に形成されるパッド１３１０ｋに接続端子ＩＣ１ａをハンダ付けすることによって基板に固定される集積回路（以下、単にチップ部品と記載する）ＩＣ１であり、リードタイプ（挿入実装タイプ）の電子部品は、例えば、スルーホール１３１０ｒ内にリード端子を挿入してこのリード端子をスルーホール１３１０ｒやランドにハンダ付けすることで基板に固定されるコンデンサＭＣ１である。

【５４２３】
主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装される表面実装タイプの電子部品であるチップ部品ＩＣ１（例えば、抽選契機となる始動入賞信号や異常を検出する磁器センサ検知信号が入力されるセキュリティ上重要な電子部品）の近傍には、リードタイプの電子部品であるコンデンサＭＣ１が実装されている。コンデンサＭＣ１は、チップ部品ＩＣ１の駆動に必要な電源を安定して供給することができ、１つのチップ部品ＩＣ１に対し１つのコンデンサＭＣ１が対となるように実装されている。詳しくは、チップ部品ＩＣ１とコンデンサＭＣ１とが、互いに実装することができない電子部品実装不可領域Ａ（図３６４（Ａ）参照）を避けた位置に隣接して（電子部品実装不可領域Ａを挟んで）実装されている。

【５４２４】
本実施形態の主制御基板１３０１は、表面実装部品を表面実装してリフロー処理を行った後に、挿入部品を挿入実装してフロー処理を行うものである。表面実装部品は、実装装置のピックアップに吸着されて実装位置まで運ばれて主制御基板１３０１に実装されるため、表面実装部品を実装する実装装置のピックアップはノズル型をしている。一方、挿入部品を実装する実装装置のピックアップは、リードを外側からガードするガイド部を有しており、挿入部品は、ガイド部でガードされた状態で実装位置まで搬送されて実装される。このため、すでに表面実装部品が実装されている状態で表面実装部品の近傍に挿入部品を実装する場合には、ガイド部が表面実装部品に干渉しないように挿入部品の実装位置を決定する必要があり、本実施形態のコンデンサＭＣ１はチップ部品ＩＣ１との間で、実装装置のピックアップの形状に基づいて定められる電子部品実装不可領域Ａを避けた位置に隣接して（電子部品実装不可領域Ａを挟んで）実装されている。なお、電子部品実装不可領域Ａには、ビアや配線パターンが形成されていてもよいが、チップ部品ＩＣ１とコンデンサＭＣ１との間に、他の電子部品を実装しないよう規制し、最も隣接する位置に実装している。これによりチップ部品ＩＣ１が重要な電子部品であることを容易に特定することができる。

【５４２５】
また、コンデンサＭＣ１は、上述したように、チップ部品ＩＣ１の駆動に必要な電源を安定して供給する電子部品であるため、主制御基板１３０１に形成される表面側表記部の記載（コンデンサＭＣ１の部品番号及びチップ部品ＩＣ１の部品番号）は、電子部品実装不可領域Ａを避けて形成されている。すなわち、電子部品実装不可領域Ａは、ビアや配線パターンが形成されてもよいが、他の電子部品が実装されない領域であって、視標となるコンデンサＭＣ１の表面側表記部が形成されない領域である。これにより、チップ部品ＩＣ１が重要な電子部品であることを容易に特定することができる。

【５４２６】
なお、コンデンサＭＣ１には、青色の外装に部品番号が表記されるが、部品番号は、コンデンサＭＣ１の外装とコントラストを高める色であるのが望ましく、具体的には、コンデンサＭＣ１の外装が青色である場合に、白色、黒色、黄色、赤色、橙色、緑色、紫色等、又はこれらの色の組み合わせで表記されるのが望ましい。

【５４２７】
また、チップ部品ＩＣ１が主制御基板１３０１の外周側に実装される場合に、チップ部品ＩＣ１の外側に電子部品実装不可領域Ａを設けて、該電子部品実装不可領域Ａをチップ部品ＩＣ１とコンデンサＭＣ１とで挟むように、チップ部品ＩＣ１の外側にコンデンサＭＣ１が実装される。これにより、例えば基板ボックス１３２０のカバー体１３０１内への基板の組付け作業等、基板に直接触れるような場合であっても、視標となるコンデンサＭＣ１の内側に電子部品実装不可領域Ａを挟んで重要なチップ部品ＩＣ１が実装されているため、作業者がチップ部品ＩＣ１に接触することを抑制でき、基板を安全に取り扱うことができる。

【５４２８】
本実施形態のパチンコ機１では、管理者が本体枠４を外枠２に対して開放して透明カバ

ー体１３０１を介して主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘを目視する際に、表面実装タイプの電子部品であるチップ部品ＩＣ１の近傍に実装されたリードタイプの電子部品であるコンデンサＭＣ１は、主制御基板１３１０において表面実装タイプの電子部品であるチップ部品ＩＣ１が実装された位置を示す視標のように作用する。このため、管理者は、主制御基板１３１０においてチップ部品ＩＣ１が改変されるような不正が行われた場合であっても、複数の電子部品の中からコンデンサＭＣ１を視標としてチップ部品ＩＣ１を容易に特定することができ、主制御基板１３１０に対する不正を容易に判別することができる。よって、本実施形態のパチンコ機１では、主制御基板１３１０に実装される電子部品が改変されるような不正を抑制でき、パチンコ機１のセキュリティの向上を図ることができる。

【５４２９】

また、コンデンサＭＣ１は、挿入部品であり、図３６７に示すように２か所以上の折り曲げ部を有するようにフォーミングされたリード（本例では２か所の折り曲げ部を有するようにフォーミングされたリード）を基板に挿入してハンダ付けされるため、ハンダで基板に取り付けられる表面実装部品に比べて基板への取付け強度が各段に高いし、折り曲げ部を有していないか又は１か所の折り曲げ部を有するようにフォーミングされたリードに比べて強度が高く、視標としての信頼性を高めることができる。また、コンデンサＭＣ１は、チップ部品ＩＣ１の駆動に必要な電源を安定して供給することができ、１つのチップ部品ＩＣ１に対し１つのコンデンサＭＣ１が対となって設けられるため、コンデンサＭＣ１を重要な表面実装部品であるチップ部品ＩＣ１の視標とすることが望ましい。

【５４３０】

主制御基板１３０１では、電源や信号のための配線パターン以外のグランドをいわゆるベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））で基板の両面に形成し、各種電子部品で構成される電子回路の安定動作が図られている。このためリードタイプのコンデンサＭＣ１を主制御基板１３０１に実装する際に、特にグランド側のランドについてはハンダ乗りが悪くなるおそれがある。本実施形態では、図３５９（Ａ）及び図３５９（Ｂ）に示すように、主制御基板１３０１の実装面（表面）１３１０ｘ及びハンダ面（裏面）１３１０ｙに形成されるリードタイプのコンデンサＭＣ１実装用のスルーホールの両端に設けた領域に、電源側のランドとは異なる形状の特殊ランド（ランドと、ランドの外周を囲むベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））の内周との間に隙間を設け、ランド中央から放射状に４方向、それぞれ４５度の角度の方向の４か所だけが結ばれているサーマルパターンを有するランド、いわゆるサーマルランド）が採用されており、コンデンサＭＣ１を主制御基板１３０１に実装する際にハンダ乗りが悪くなることが抑制されている。なお、スルーホールの実装面（表面）１３１０ｘ側とハンダ面（裏面）１３１０ｙ側とに特殊ランドを採用するものに限らず、スルーホールの実装面（表面）１３１０ｘ側とハンダ面（裏面）１３１０ｙ側と一方にのみ特殊ランドを採用するようにしてもよい。

【５４３１】

また、主制御基板１３１０には、遊技の進行を司るＣＰＵ（主制御ＭＰＵ１３１０ａ）や主制御ＭＰＵ１３１０ａに接続される入力回路や出力回路、および入力回路や出力回路に接続される入力コネクタ、出力コネクタ等が実装されており、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、入力回路に直接つながるデータバスラインから入力される入力信号を受信し、主制御ＭＰＵ１３１０ａは受信した入力信号から遊技の進行状況を解析し、解析結果に基づく適切な出力信号を出力回路に直接つながるデータバスラインから出力回路に向けて出力する。このため、データバスラインは、主制御基板１３１０に形成される配線パターンの中で最も重要な配線パターンであり、入力回路や出力回路を構成し、少なくともデータバスラインに直接接続されるチップ部品ＩＣ１等は、重要な表面実装タイプの電子部品である。

【５４３２】

また、リードタイプの電子部品であるコンデンサＭＣ１は、主制御基板１３１０のレジスト、表面実装タイプの電子部品であるチップ部品ＩＣ１の表面、表面側表記部及び捺印

部と異なる目立ちやすい色の表面を有している。このため、管理者は、主制御基板１３１０においてチップ部品ＩＣ１が改変されるような不正が行われた場合であっても、複数の電子部品の中から主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘで目立ちやすいコンデンサＭＣ１を視標として、表面実装タイプの電子部品であるチップ部品ＩＣ１をより一層容易に特定することができ、主制御基板１３１０に対する不正を容易に判別することができる。

【５４３３】

リードタイプの電子部品であるコンデンサＭＣ１は、具体的には、主制御基板１３１０の緑色や黒色の暗色のレジスト、表面実装タイプの電子部品であるチップ部品ＩＣ１の黒色の表面色と異なり、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘで目立ちやすい青色の表面を有している。また、コンデンサＭＣ１は、目立ちやすい色であっても、表面側表記部及び捺印部の白色や黄色の明色とは異なる色であることが望ましい。なお、コンデンサＭＣ１の表面の色は、青色に限定されることなく、主制御基板１３１０のレジストやチップ部品ＩＣ１の表面の暗色に対して目立ちやすい明色であればよく、例えば、赤色、桃色、橙色、紫色等の単色、又はこれらの色の少なくとも２色以上を用いた多色であってもよく、２色以上を用いる場合は、例えば、黄緑色の下地に茶色や黒色の模様を形成する等、コンデンサＭＣ１を目立ちやすくする色の組み合わせであればよい。すなわち、重要な電子部品の色に対するコントラスト、又は視標となる電子部品そのものの色のコントラストを高める色の組み合わせであればよい。

【５４３４】

また、リードタイプの電子部品であるコンデンサＭＣ１は、表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１の特定方向に隣接している。このため、管理者は、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘでコンデンサＭＣ１を視標とし、該コンデンサＭＣ１の特定方向とは逆の方向に隣接する表面実装タイプの電子部品であるチップ部品ＩＣ１をより一層容易に特定することができ、主制御基板１３１０に対する不正を容易に判別することができる。なお、特定方向は、例えば、表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１の長手方向である。

【５４３５】

また、リードタイプの電子部品であるコンデンサＭＣ１は、表面実装タイプの電子部品よりも背の高い電子部品（実装時に主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘからの突出量が多い電子部品）である。このため、管理者は、主制御基板１３１０においてチップ部品ＩＣ１が改変されるような不正が行われた場合であっても、複数の電子部品の中から主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘで目立ちやすいコンデンサＭＣ１を視標として、表面実装タイプの電子部品であるチップ部品ＩＣ１をより一層容易に特定することができ、主制御基板１３１０に対する不正を容易に判別することができる。

【５４３６】

また、主制御基板１３１０の青色の表面の電子部品は、全ての表面実装タイプの電子部品の近傍に実装されてもよいし、全ての表面実装タイプの電子部品を除く少なくとも１つの表面実装タイプの電子部品の近傍に実装されてもよい。主制御基板１３１０において、青色の表面の電子部品が全ての表面実装タイプの電子部品の近傍に実装される態様では、主制御基板１３１０に電子部品が不正に改変されるような不正が行われた場合であっても、管理者が青色の表面の電子部品を視標とすることで不正をより確実に判別することができる。これに対して、主制御基板１３１０において、青色の表面の電子部品が全ての表面実装タイプの電子部品を除く少なくとも１つの表面実装タイプの電子部品の近傍に実装される態様では、より重要度の高い表面実装タイプの電子部品（例えば、主制御ＭＰＵ１３１０ａや主制御ＭＰＵ１３１０ａの動作に係る電子部品（発信器等））の近傍に青色の表面の電子部品を実装することにより、青色の表面の電子部品を視標として主制御基板１３１０の表実装面１３１０ｘを目視する管理者の負担を軽減することができるとともに、管理者が青色の表面の電子部品を視標とすることで不正を判別することができる。

【５４３７】

また、上記した例では表面実装タイプの電子部品とリードタイプの電子部品としてチップ部品ＩＣ１とチップ部品ＩＣ１の機能を安定的に確保するために設けられるコンデンサＭＣ１とを例示したが、特定の表面実装タイプの電子部品の機能を安定的に確保するために設けられるリードタイプの電子部品に限らず、特定の表面実装タイプの電子部品とは異なる特別の表面実装タイプの電子部品の機能を安定的に確保するために設けられるリードタイプの電子部品を特定の表面実装タイプの電子部品に隣接して配置するものであってもよいし、特定の表面実装タイプの電子部品の機能を安定的に確保するために設けられるリードタイプの電子部品と、特別の表面実装タイプの電子部品の機能を安定的に確保するために設けられるリードタイプの電子部品と、の両方を特定の表面実装タイプの電子部品に隣接して配置するものであってもよい。

【５４３８】

また、上記した例では表面実装タイプの電子部品としてチップ部品ＩＣ１を例示し、リードタイプの電子部品としてコンデンサＭＣ１を例示したが、これに限られるものではない。すなわち、本技術思想は表面実装タイプの電子部品に隣接して配置される電子部品として少なくとも１つの表面実装タイプの電子部品を設けるものであれば電子部品の種類は問わない。特定の電子部品の外装を特定色とすることで、特定の電子部品そのものではなく、特定の電子部品に隣接して実装された電子部品（例えば、重要な電子部品であるチップ部品等）の実装された位置を特定することを容易にし、管理者が基板に対する不正を確認する作業の作業性を向上させることができる。

【５４３９】

具体的には、コンデンサＭＣ１に替わるリードタイプの電子部品として、ダイオードや抵抗があげられる。特に、ダイオードについては、ガラス管といったように、コンデンサや抵抗には見られない外観を有するものがある。例えば、ソレノイドを駆動する際に発生する逆起電力を打ち消すために回路に組み込まれるダイオードは、複数のソレノイドの駆動が可能な集積回路であるドライバＩＣにおいて複数組み込まれており、これらのダイオードのうち最も重要なソレノイドを駆動する１回路のダイオードのみをリードタイプのダイオードにしてもよく、全ての回路に組み込まれるダイオードをリードタイプのダイオードとしてもよい。また、ダイオードは、ドライバＩＣとの間で互いに実装することができない電子部品実装不可領域Ａを避けた位置に隣接して実装されてもよい。

【５４４０】

なお、コンデンサＭＣ１は、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘで目立ちやすい色（青色）の表面を有しており、コンデンサＭＣ１が不正の対象となるおそれもあるが、コンデンサＭＣ１がリードタイプの電子部品であるため、表面実装タイプの電子部品に比べて主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘから取り外すことが困難であり、主制御基板１３１０に対する不正を抑制することができる。

【５４４１】

これに対し、上記のような機能表示基板１４０２及び磁気センサ基板１０５０ｂの表実装面及び裏実装面には、表面実装タイプの電子部品の近傍にリードタイプの電子部品が実装されていない。替わりに、以下に説明する方法で不正行為が行われることを抑制している。

【５４４２】

仮に、機能表示基板１４０２の表面実装タイプの電子部品の近傍に、リードタイプの電子部品を実装する場合であっても、機能表示ユニット１４００の不透明な裏面カバー部１４１２によって機能表示基板１４０２に対する不正を管理者が目視により判別することが困難であるとともに、機能表示基板１４０２に対して不正を行おうとする者が、機能表示ユニット１４００の不透明な裏面カバー部１４１２から機能表示基板１４０２を取り出した際に、リードタイプの電子部品を視標に機能表示基板１４０２に実装される重要な表面実装タイプの電子部品を特定されるおそれがある。よって、本実施形態のパチンコ機１では、機能表示基板１４０２の表面実装タイプの電子部品の近傍にリードタイプの電子部品を実装しないようにすることで、機能表示基板１４０２に実装される電子部品が不正に改

変されることを抑制でき、パチンコ機１のセキュリティの向上を図ることができる。
【５４４３】
　また、磁気センサ基板１０５０ｂの表面実装タイプの電子部品の近傍に、リードタイプの電子部品を実装する場合であっても、磁気センサ基板１０５０ｂに対して不正を行おうとする者が、磁気センサ１０５０の透明なカバー体を介して磁気センサ基板１０５０ｂを目視した際に、リードタイプの電子部品を視標に磁気センサ基板１０５０ｂに実装される重要な表面実装タイプの電子部品を特定されるおそれがある。よって、本実施形態のパチンコ機１では、磁気センサ基板１０５０ｂの表面実装タイプの電子部品の近傍にリードタイプの電子部品を実装しないようにすることで、磁気センサ基板１０５０ｂに実装される電子部品が不正に改変されることを抑制でき、パチンコ機１のセキュリティの向上を図ることができる。
【５４４４】
　なお、機能表示基板１４０２及び磁気センサ基板１０５０ｂの表面実装タイプの電子部品の近傍には、明色のリードタイプの電子部品のうち、コネクタは実装されてもよい。このようなコネクタは、機能表示基板１４０２及び磁気センサ基板１０５０ｂ上で目立つため、コネクタに配線を接続する作業者が目視によって容易にコネクタを特定でき、作業者の作業性を向上させることができる。
【５４４５】
　上記した実施形態では、遊技盤５の裏側に設けられるとともに、表実装面（主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘ、払出制御基板６３３の実装面（表面））が遊技者とは反対側の裏側に向けられる基板として主制御基板１３１０について説明したが、これに限られるものではなく、マイクロプロセッサが実装される払出制御基板６３３等の他の基板であってもよい。すなわち、上記した実施形態において主制御基板１３１０と記載するものは、払出制御基板６３３等の他の基板と読み替えるとともに各基板に対応するものに適用することが可能である。
【５４４６】
　上記した実施形態では、遊技盤５を構成し、各種演出装置や遊技球を取り込む回収ルートおよび大入賞口の開閉装置等が収納され、これらが遊技者側に面するよう遊技盤５の裏側から取り付けられる裏箱３０１０の裏側に位置する主制御基板１３１０に対し、裏箱３０１０の表側に位置して、実装面（主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘ、払出制御基板６３３の実装面（表面））が遊技者とは反対側の裏側に向けられた基板（主制御基板１３１０、払出制御基板６３３）よりも遊技者側である表側に設けられる基板として機能表示基板１４０２について説明したが、これに限られるものではなく、第一始動口センサ３００２のセンサ基板や第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等の他の基板であってもよい。すなわち、上記した実施形態において機能表示基板１４０２と記載するものは、第一始動口センサ３００２のセンサ基板や第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等の他の基板と読み替えるとともに各基板に対応するものに適用することが可能である。
【５４４７】
［不正の判別容易性の向上２］
　上記した不正の判別容易性の向上１では、リードタイプの電子部品を、電子部品実装不可領域Ａを挟んでチップ部品ＩＣ１等の重要な電子部品に隣接配置することにより、リードタイプの電子部品を視標としてチップ部品ＩＣ１等の重要な電子部品を特定するものを示したが、特定の表面実装タイプの電子部品（チップ部品）を指標として表面実装タイプの電子部品であるチップ部品ＩＣ１等の重要な電子部品を特定可能にして主制御基板１３１０に対する不正を容易に判別することができるようにしてもよい。以下この点について説明する。なお、以下では上記した実施形態と重複する部分についての説明を行わない。
【５４４８】
　上記した不正の判別容易性の向上１では、主制御基板１３１０のレジスト、表面実装タイプの電子部品であるチップ部品ＩＣ１の表面、表面側表記部及び捺印部と異なる目立ちやすい色の表面を有するリードタイプの電子部品であるコンデンサＭＣ１をチップ部品Ｉ

ＩＣ１等の重要な表面実装タイプ電子部品に対して、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接して実装し、複数の電子部品の中から主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘで目立ちやすいコンデンサＭＣ１を視標として、表面実装タイプの電子部品であるチップ部品ＩＣ１をより一層容易に特定可能にするものを示したが、本例では、リードタイプの電子部品ではなく、表面実装タイプの電子部品（チップ部品）であるチップコンデンサＭＣ１'の電極を除く部分の外装色をチップ部品ＩＣ１の表面、表面側表記部及び捺印部と異なる目立ちやすい色とし、チップ部品ＩＣ１等の重要な表面実装タイプ電子部品に対して、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接して実装することにより、複数の電子部品の中から主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘで目立ちやすい表面実装タイプの電子部品（チップ部品）であるチップコンデンサＭＣ１'を視標として、表面実装タイプの電子部品であるチップ部品ＩＣ１を容易に特定可能となるようにしている。

【５４４９】

図３６８は、特定の表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'を、チップ部品ＩＣ１等の重要な表面実装タイプ電子部品に対して、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接して実装する例を示すものである。

【５４５０】

図３６８に示すように、特定の表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'は、電子部品実装不可領域Ａを挟んでチップ部品ＩＣ１等の重要な電子部品に隣接配置される。図３６８（Ａ）は、チップ部品ＩＣ１の短手辺側にパッド１３１０ｋａがチップ部品ＩＣ１の短手辺と略平行となるように２つ設けられ、特定の表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'の２つの電極ＭＣ１ａ'を２つのパッド１３１０ｋａそれぞれにハンダ付けすることでチップコンデンサＭＣ１'とチップ部品ＩＣ１とを同一の向きに配置した例である。

【５４５１】

図３６８に示すように、主制御基板１３１０のレジスト、表面実装タイプの電子部品であるチップ部品ＩＣ１の表面、表面側表記部及び捺印部と異なる目立ちやすい色の表面を有するリードタイプの電子部品であるコンデンサＭＣ１をチップ部品ＩＣ１等の重要な表面実装タイプ電子部品に対して、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接して実装することにより、表面実装タイプの電子部品（チップ部品）であるチップコンデンサＭＣ１'を視標として、表面実装タイプの電子部品であるチップ部品ＩＣ１を容易に特定することができるようになる。

【５４５２】

なお、図３６８（Ａ）に示す配置は一例であり、主制御基板１３１０のレジスト、表面実装タイプの電子部品であるチップ部品ＩＣ１の表面、表面側表記部及び捺印部と異なる目立ちやすい色の表面を有するリードタイプの電子部品であるコンデンサＭＣ１をチップ部品ＩＣ１等の重要な表面実装タイプ電子部品に対して、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接して実装するものであれば、上記した配置に限られない。

【５４５３】

例えば、チップ部品ＩＣ１等の重要な表面実装タイプ電子部品に対して、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接して実装するものであって、チップ部品ＩＣ１の長手辺側にパッド１３１０ｋａがチップ部品ＩＣ１の長手辺と略平行となるように２つ設けられ、特定の表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'の２つの電極ＭＣ１ａ'を２つのパッド１３１０ｋａそれぞれにハンダ付けすることでチップコンデンサＭＣ１'とチップ部品ＩＣ１とを９０°異なる向きに配置してもよいし、チップ部品ＩＣ１の短手辺の両側にそれぞれ

チップ部品ＩＣ１の短手辺と略平行となるようにパッド１３１０ｋａを２つ設け、チップ部品ＩＣ１の短手辺の両側に設けられる２つのパッド１３１０ｋａそれぞれに特定の表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'の２つの電極ＭＣ１ａ'をハンダ付けすることでチップ部品ＩＣ１と同一の向きに配置されるチップコンデンサＭＣ１'によってチップ部品ＩＣ１を挟むようにしてもよいし、チップ部品ＩＣ１の長手辺の両側にそれぞれチップ部品ＩＣ１の長手辺と略平行となるようにパッド１３１０ｋａを２つ設け、チップ部品ＩＣ１の長手辺の両側に設けられる２つのパッド１３１０ｋａそれぞれに特定の表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'の２つの電極ＭＣ１ａ'をハンダ付けすることでチップ部品ＩＣ１と９０°異なる向きに配置されるチップコンデンサＭＣ１'によってチップ部品ＩＣ１を挟むようにしてもよいし、チップ部品ＩＣ１の短手辺側にパッド１３１０ｋａがチップ部品ＩＣ１の長手辺と略平行となるように２つ設けられ、特定の表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'の２つの電極ＭＣ１ａ'を２つのパッド１３１０ｋａそれぞれにハンダ付けすることでチップコンデンサＭＣ１'とチップ部品ＩＣ１とを９０°異なる向きに配置してもよい。

【５４５４】

汎用部品である表面実装タイプのチップコンデンサＭＣ１'は、少なくとも基板に対して水平に設けられる最も広い面を含み電極ＭＣ１ａ'を除く外装が主制御基板１３１０のレジストやチップ部品ＩＣ１の外装色とは異なる薄茶色を有している。表面実装タイプのチップコンデンサＭＣ１'が主制御基板１３１０のレジストやチップ部品ＩＣ１の外装色とは異なる外装色を有することで、主制御基板１３１０に実装された場合に発見し易くなる。

【５４５５】

また、特定の表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'は、少なくとも基板に対して水平に設けられる最も広い面のうちの電極ＭＣ１ａ'を除く部分、換言すると表面実装タイプの電子部品の天面（最表面）のうちの電極ＭＣ１ａ'を除く外装部分が、図３６８（Ａ）に示す本来の薄茶色から、図３６８（Ｂ）に示すように主制御基板１３１０の緑色や黒色の暗色のレジスト、表面実装タイプの電子部品であるチップ部品ＩＣ１の黒色の表面色とは異なる色であって、薄茶色とは別の青色に着色などによって変更されるようにしてもよい。このように、表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'について、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘで目立ちやすい外装色に変更することで、主制御基板１３１０に実装された場合にさらに発見が容易となる。

【５４５６】

なお、チップコンデンサＭＣ１'の少なくとも電極ＭＣ１ａ'を除く外装部分の外装色を青色に変更するものに限らず、主制御基板１３１０のレジストやチップ部品ＩＣ１の表面の暗色に対して目立ちやすい明色、すなわち主制御基板１３１０のレジストやチップ部品ＩＣ１の表面の暗色に対してコントラストの高くなるような色（本例では明色）としてもよく、例えば、赤色、桃色、橙色、紫色等の単色、又はこれらの色の少なくとも２色以上を用いた多色に変更するものであってもよいし、２色以上を用いる場合は、例えば、黄緑色の下地に茶色や黒色の模様を形成する等、チップコンデンサＭＣ１'を目立ちやすくする色の組み合わせに変更するようにしてもよい。すなわち、重要な電子部品の色に対するコントラスト、又は視標となる電子部品そのものの色のコントラストを高める色の組み合わせに変更するものであってもよい。また、チップコンデンサＭＣ１'の少なくとも電極ＭＣ１ａ'を除く外装部分の変更後の外装色は、主制御基板１３１０のレジストやチップ部品ＩＣ１の表面の暗色に対してコントラストが高く、目立ちやすい色であっても、表面側表記部及び捺印部の白色や黄色の明色とは異なる色であることが望ましい。表面側表記部及び捺印部の白色や黄色の明色とは異なる色とすることでチップコンデンサＭＣ１'の発見がより容易になる。

【５４５７】

また、不正の判別容易性の向上２は、上記した不正の判別容易性の向上１と組み合わせ

て実行することも可能であるし、上記した不正の判別容易性の向上１と同一条件で実行することにより同一の作用効果を奏することも可能である。すなわち、不正の判別容易性の向上１においてリードタイプのコンデンサＭＣ１とされる部分を表面実装タイプのチップコンデンサＭＣ１'と読み替えることが可能である。

【５４５８】

［不正の判別容易性の向上３］

上記した不正の判別容易性の向上２では、特定の表面実装タイプの電子部品（チップ部品）を指標として表面実装タイプの電子部品であるチップ部品ＩＣ１等の重要な電子部品を特定するものを示したが、特定の表面実装タイプの電子部品（チップ部品）を通常とは異なる方法で基板に実装することにより、特定の表面実装タイプの電子部品（チップ部品）を見つけやすくするようにしてもよい。以下この点について説明する。なお、以下では上記した実施形態と重複する部分についての説明を行わない。

【５４５９】

図３６９（Ａ），（Ｂ）は、特定の表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'の実装状態を示す説明図である。本例では主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに複数のピン１３１５が立てられている。このピン１３１５は、コの字形状を有しており、ピン１３１５の２つの端部それぞれを主制御基板１３１０のスルーホール１３１０ｒに挿入し、ハンダ等によって溶着される。

【５４６０】

そして、図３６９に示すように、本例では主制御基板１３１０のスルーホール１３１０ｒに挿入された状態でハンダ等によって溶着されて主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに立設する２つのピン１３１５それぞれにチップコンデンサＭＣ１'の電極ＭＣ１ａ'をハンダ付けすることにより、チップコンデンサＭＣ１'を主制御基板１３１０に実装するようになっている。なお、ピン１３１５は導電性を有する物質（本例では鉄や銅またはそれらの合金などの金属）で構成され、２つのピン１３１５それぞれにチップコンデンサＭＣ１'の２つの電極ＭＣ１ａ'それぞれがハンダ付けされ、２つのピン１３１５が接続端子として機能する。

【５４６１】

このように、本例では特定の表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'の２つの電極ＭＣ１ａ'を、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される２つのパッド１３１０ｋａにそれぞれハンダ付けすることでチップコンデンサＭＣ１'を主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装するのではなく、主制御基板１３１０のスルーホール１３１０ｒに挿入された状態でハンダ等によって溶着されて主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに立設する２本のピン１３１５それぞれにチップコンデンサＭＣ１'の２つの電極ＭＣ１ａ'それぞれをハンダ付けすることによりチップコンデンサＭＣ１'を主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘから離れた位置（上方位置）に実装するようになっている。

【５４６２】

これにより、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに設けられた２つのパッド１３１０ｋａそれぞれに特定の表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'の２つの電極ＭＣ１ａ'それぞれをハンダ付けすることによって特定の表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'を主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに直接実装する場合に比べて、特定の表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'の実装位置を高くすることができ、これによって主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装される複数の電子部品の中から特定の表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'を見つけ出しやすくなり、特定の表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'を視標として、該チップコンデンサＭＣ１'と電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接して実装される表面実装タイプの電子部品であるチップ部品ＩＣ１を容易に特定しやすくすることができる。そのため、管理者が本体枠４を外枠２に対して開放して透明カバー体

１３０１を介して主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘを目視する際に、チップコンデンサＭＣ１'の存在や実装される位置にすぐに気付かせることができ、主制御基板１３１０に対する不正を容易に判別することができる。

【５４６３】

すなわち、不正の判別容易性の向上２において上記したように特定の表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'は、表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１の特定方向に隣接して配置される（図３６８参照）。そして、表面実装タイプの電子部品であるチップ部品ＩＣ１の近傍に実装された特定の表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'が、主制御基板１３１０において表面実装タイプの電子部品であるチップ部品ＩＣ１が実装された位置を示す視標のように作用することにより、管理者は、主制御基板１３１０においてチップ部品ＩＣ１が改変されるような不正が行われた場合であっても、複数の電子部品の中からチップコンデンサＭＣ１'を視標としてチップ部品ＩＣ１を容易に特定することが可能になり、主制御基板１３１０に対する不正を容易に判別することができる。よって、本実施形態のパチンコ機１では、主制御基板１３１０に実装される電子部品が改変されるような不正を抑制でき、パチンコ機１のセキュリティの向上を図ることができる。

【５４６４】

また、主制御基板１３１０のスルーホール１３１０ｒに挿入された状態でハンダ等によって溶着されて主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに立設する２本のピン１３１５それぞれにチップコンデンサＭＣ１'の２つの電極ＭＣ１ａ'それぞれをハンダ付けすることによりチップコンデンサＭＣ１'を主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装するため、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに設けられた２つのパッド１３１０ｋａそれぞれに特定の表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'の２つの電極ＭＣ１ａ'それぞれをハンダ付けすることによって特定の表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'を主制御基板１３１０に実装する場合に比べて、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘのうちのチップコンデンサＭＣ１'によって覆われる領域を低減することができ、チップコンデンサＭＣ１'の下方の主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘのうちの２本のピン１３１５が挿入される２つのスルーホール１３１０ｒそれぞれのランド１３１０ｓの間の領域に配線パターンを形成することが可能になる。これにより、遊技機設計の自由度が向上する。

【５４６５】

なお、図３６９（Ａ），（Ｂ）に示すように、本例ではピン１３１５をコの字形状とし、２本のピン１３１５のそれぞれに特定の表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'の２つの電極ＭＣ１ａ'それぞれをハンダ付けするものを示したが、特定の表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'を主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに直接実装する場合に比べて高い位置に実装可能とするものであればピン１３１５の形状およびピン１３１５に対する電極ＭＣ１ａ'の溶着形態（溶着する位置、溶着の態様（ハンダ付けか否か）など）は上記したものに限られない。

【５４６６】

例えば、ピン１３１５を直線形状やＬ字形状、クランク形状（２か所以上の折り曲げ部を有する形状）とし、一方の端部側（第３接続部）を主制御基板１３１０のスルーホール１３１０ｒに挿入してハンダ等によって溶着し、他方の端部側（第４接続部）を特定の表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'の２つの電極ＭＣ１ａ'に溶着するようにしてもよいし、ピン１３１５を図３６９に示すような平板形状としてもよいし、通常のリード線と同様の円柱形状としてもよい。

【５４６７】

また、この場合には特定の表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'の電極ＭＣ１ａ'のうち、チップコンデンサＭＣ１'の最も広い面の一部を構成する部分（図３６９（Ａ）において右側面、図３６９（Ｂ）において裏面）に沿うように設けられた状態でピン１３１５の上記他方の端部付近をハンダ等により溶着するようにしてもよい

し、特定の表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'の電極ＭＣ１ａ'のうち、チップコンデンサＭＣ１'の最も広い面に隣接して主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに対して垂直に設けられる最も狭い面の一部を構成する部分（図３６９（Ｂ）においてチップコンデンサＭＣ１'の左右側面）に沿うように設けられた状態でピン１３１５の上記他方の端部付近をハンダ等により溶着するものであってもよい。この場合には、特定の表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'の電極ＭＣ１ａ'のうち、チップコンデンサＭＣ１'の最も広い面の一部を構成する部分に沿うように設けられた状態でピン１３１５の上記他方の端部付近がハンダ等により溶着される場合に比べて、ピン１３１５が挿入される２つのスルーホール１３１０ｒそれぞれのランド１３１０ｓの間隔を広げることができるため、チップコンデンサＭＣ１'の下の主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにより広いスペースを生じさせることが可能になり、このスペースに配線パターンを形成することが可能になることで片面実装の主制御基板１３１０において遊技機設計の自由度を向上させることができるようになる。また、チップコンデンサＭＣ１'の電極ＭＣ１ａ'に沿うように設けられた状態でピン１３１５の上記他方の端部付近がハンダ等により溶着されるため、ピン１３１５とチップコンデンサＭＣ１'の電極ＭＣ１ａ'との接触面積が増加し、ピン１３１５とチップコンデンサＭＣ１'の電極ＭＣ１ａ'との溶着が強固になり、ピン１３１５がチップコンデンサＭＣ１'の電極ＭＣ１ａ'から外れ難くなる。これにより、基板の剛性をさらに高めることができる。

【５４６８】

また、クランク形状（２か所以上の折り曲げ部を有する形状）を有するピン１３１５を用いて特定の表面実装タイプの電子部品（本例ではチップコンデンサＭＣ１'）を主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装する場合には、折り曲げ部を有しないピン１３１５を用いて特定の表面実装タイプの電子部品（本例ではチップコンデンサＭＣ１'）を主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装する場合に比べて、ピン１３１５の上記一方の端部が挿入される２つのスルーホール１３１０ｒそれぞれのランド１３１０ｓの間隔を広げることができるため、チップコンデンサＭＣ１'の下の主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにより広いスペースを生じさせることが可能になり、このスペースに配線パターンを形成することが可能になることで片面実装の主制御基板１３１０において遊技機設計の自由度を向上させることができるようになる。また、ピン１３１５の上記一方の端部が挿入される２つのスルーホール１３１０ｒの間隔は、少なくとも特定の表面実装タイプの電子部品（本例ではチップコンデンサＭＣ１'）の幅よりも広くするものであればよく、例えばチップコンデンサＭＣ１'と電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接して実装される表面実装タイプの電子部品であるチップ部品ＩＣ１の幅と同じ程度の間隔であってもよいし、チップ部品ＩＣ１の幅よりも広い間隔であってもよい。

【５４６９】

また、不正の判別容易性の向上２において上記したように汎用部品である表面実装タイプのチップコンデンサＭＣ１'は、少なくとも基板に対して垂直に設けられる最も広い面を含み電極ＭＣ１ａ'を除く外装が主制御基板１３１０のレジストやチップ部品ＩＣ１の外装色とは異なる薄茶色を有している（図３６９（Ｂ）において塗りつぶしされる部分）。表面実装タイプのチップコンデンサＭＣ１'が主制御基板１３１０のレジストやチップ部品ＩＣ１の外装色とは異なる外装色を有することに加えて、実装位置が高くされることにより、主制御基板１３１０に実装された場合にチップコンデンサＭＣ１'を発見し易くなり、特定の表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'を視標として、該チップコンデンサＭＣ１'と電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接して実装される表面実装タイプの電子部品であるチップ部品ＩＣ１を容易に特定しやすくすることができる。そのため、管理者が本体枠４を外枠２に対して開放して透明カバー体１３０１を介して主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘを目視する際に、チップコンデンサＭＣ１'の存在や実装される位置にすぐに気付かせることができ、主制御基板１３１０に対する不正を容易に判別することができる。

【５４７０】
なお、不正の判別容易性の向上２と同様に、特定の表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'の電極ＭＣ１ａ'を除く外装部分について、本来の薄茶色から主制御基板１３１０の緑色や黒色の暗色のレジスト、表面実装タイプの電子部品であるチップ部品ＩＣ１の黒色の表面色とは異なる色であって、薄茶色とは別の色に変更するようにしてもよい（図３６９（Ｂ）において塗りつぶしされる部分）。
【５４７１】
例えば、チップコンデンサＭＣ１'の少なくとも電極ＭＣ１ａ'を除く外装部分の外装色を、主制御基板１３１０のレジストやチップ部品ＩＣ１の表面の暗色に対して目立ちやすい明色、すなわち主制御基板１３１０のレジストやチップ部品ＩＣ１の表面の暗色に対してコントラストの高くなるような色（本例では明色）としてもよく、例えば、青色、水色、赤色、桃色、橙色、紫色等の単色、又はこれらの色の少なくとも２色以上を用いた多色に着色等により変更するものであってもよいし、２色以上を用いる場合は、例えば、黄緑色の下地に茶色や黒色の模様を形成する等、チップコンデンサＭＣ１'を目立ちやすくする色の組み合わせに変更するようにしてもよい。すなわち、重要な電子部品の色に対するコントラスト、又は視標となる電子部品そのものの色のコントラストを高める色の組み合わせに変更するものであってもよい。また、チップコンデンサＭＣ１'の少なくとも電極ＭＣ１ａ'を除く外装部分の変更後の外装色は、主制御基板１３１０のレジストやチップ部品ＩＣ１の表面の暗色に対してコントラストが高く、目立ちやすい色であっても、表面側表記部及び捺印部の白色や黄色の明色とは異なる色であることが望ましい。表面側表記部及び捺印部の白色や黄色の明色とは異なる色とすることでチップコンデンサＭＣ１'の発見がより容易になる。
【５４７２】
なお、チップコンデンサＭＣ１'の外装色を変更する方法として、チップコンデンサＭＣ１'の外装色を本来の薄茶色とは別の色に着色する方法の他、チップコンデンサＭＣ１'本来の薄茶色とは別の色の樹脂（エポキシ樹脂等）等によりモールディング（ 樹脂によってチップコンデンサＭＣ１'と外部を電気的に絶縁して封止）する方法を採用するようにしてもよい。表面実装タイプのチップコンデンサＭＣ１'は主制御基板１３１０に実装される表面実装タイプの電子部品の中で最も小さいサイズ（体積、容積、表面積のうちのいずれか）とされるものである。このようなサイズの小さい電子部品を樹脂（エポキシ樹脂等）等によりモールディングすることにより、表面実装タイプのチップコンデンサＭＣ１'を剥き出し状態で設ける場合に比べてサイズを大きくすることができ、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装される複数の電子部品の中からチップコンデンサＭＣ１'を見つけ出しやすくなる。これに加えて、モールディングする樹脂の色を本来の薄茶色とは別の、主制御基板１３１０のレジストやチップ部品ＩＣ１の表面の暗色の表面の暗色に対して目立ちやすい明色、すなわち主制御基板１３１０のレジストやチップ部品ＩＣ１の表面の暗色に対してコントラストが高く、目立ちやすい色とすることにより、チップコンデンサＭＣ１'の発見がより容易になる。
【５４７３】
また、チップコンデンサＭＣ１'をチップコンデンサＭＣ１'本来の薄茶色とは別の色の樹脂（エポキシ樹脂等）等によりモールディングすることにより、チップコンデンサＭＣ１'が不正の対象となるおそれもあるが、チップコンデンサＭＣ１'の電極ＭＣ１ａ'がピン１３１５にハンダ付けされている部分を樹脂等によって覆うことによって保護するとともにチップコンデンサＭＣ１'の電極ＭＣ１ａ'とピン１３１５との溶着を補強し、さらにピン１３１５が主制御基板１３１０のスルーホール１３１０ｒに挿入された状態でハンダ等によって溶着されるため、チップコンデンサＭＣ１'の２つの電極ＭＣ１ａ'を、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される２つのパッド１３１０ｋａにそれぞれハンダ付けする場合に比べて、チップコンデンサＭＣ１'を主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘから取り外すことが困難となり、主制御基板１３１０に対する不正を抑制することができる。

【５４７４】
　また、表面実装タイプのチップコンデンサＭＣ１'は表面積が小さく、本例のチップコンデンサＭＣ１'は、その表面に捺印部が形成されていない。そして、捺印部が形成されないことにより、正規の電子部品が実装されているかの確認が困難になる。上記したように、樹脂（エポキシ樹脂等）等により表面実装タイプのチップコンデンサＭＣ１'をモールディングすることで、表面実装タイプのチップコンデンサＭＣ１'の周囲を覆う樹脂（エポキシ樹脂等）等によりラグビーボールのような曲面形状が形成されるため、チップコンデンサＭＣ１'が剥き出しとされる状態に比べて表面積が大きくなり、このモールディングされたチップコンデンサＭＣ１'の樹脂の表面に捺印部を形成することが可能になる。これにより、捺印部を参照して正規の電子部品が実装されているかの確認が容易になる。
【５４７５】
　また、図３６９（Ａ），（Ｂ）に示すように、チップコンデンサＭＣ１'は、最も広い面が基板に対して垂直となるように設けられている。また、モールディングされたチップコンデンサＭＣ１'の樹脂の表面に形成される捺印部は、チップコンデンサＭＣ１'の最も広い面に対応する樹脂部分の表面、すなわち基板に対して垂直となる面（図３６９（Ｂ）におけるチップコンデンサＭＣ１'の表面）に対応する樹脂部分の表面に形成される。そのため、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘを真上から視認（正面視）した場合に、捺印部を視認され難くなり、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに対して水平方向から視認した場合に捺印部を視認できるようになるため、捺印部を参照して電子部品を特定することが困難になり、いたずらなどの抑止効果が高まる。
【５４７６】
　すなわち、表面実装タイプの電子部品は、通常、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに設けられたパッドに電極をハンダ付けされ、電子部品の表面のうちの最も広い面が基板に対して水平となるように設けられる。そして、表面実装タイプの電子部品は、基板に対して水平に設けられる最も広い面、換言すると表面実装タイプの電子部品の天面（最表面）に捺印部が形成される。そのため、通常は、基板を正面視することにより捺印部を容易に視認でき、電子部品の特定が容易とされる。ところが本例では、チップコンデンサＭＣ１'の表面のうちの最も広い面が基板に対して垂直となるように実装し、この基板に対して垂直に設けられる最も広い面、換言するとモールディングされるチップコンデンサＭＣ１'の側面部分に捺印部が形成されるため、基板を正面視しても捺印部を視認することが困難となり、これによって電子部品の特定を困難にしていたずらなどの抑止効果を高めるようになっている。
【５４７７】
　また、表面実装タイプの電子部品を主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに直接実装する場合にも、最も広い面が基板に対して垂直となるように設けることは可能とされるが、この場合には主制御基板１３１０のパッドと表面実装タイプの電子部品の電極との溶着が弱く、さらに主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘから突出するように表面実装タイプの電子部品が実装されるため、接触等が生じた場合には表面実装タイプの電子部品が主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘから剥がれ落ちやすい。一方、本例ではピン１３１５を表面実装タイプの電子部品の電極に強固に溶着することが可能であり、表面実装タイプの電子部品の主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに対向する面をより面積の小さい面に変更することが可能となるため、実装密度を高めて配線パターンを短くすることができ、これによって回路の高速化を図ることができる。
【５４７８】
　なお、上記した例では捺印部が形成されていない表面実装タイプの電子部品やサイズが小さくて捺印部を形成することが困難な表面実装タイプの電子部品をモールディングし、モールディングの樹脂の表面に捺印部を形成するものを示したが、これに限らず、捺印部が形成されている表面実装タイプの電子部品をモールディングし、モールディングの樹脂の表面にも捺印部を形成するようにしてもよく、この場合にも基板に対して垂直となるよ

うに設けられる最も広い面に対応する部位に捺印部を形成するようにしてもよい。すなわち、捺印部を表記する向き（基板面に対して垂直方向から基板面に対して水平方向）を変更するようにしてもよく、表面実装タイプの電子部品の電極を基板面に形成されるパッドにハンダ付けする場合に対して、ピンに表面実装タイプの電子部品の電極をハンダ付けすることにより基板に実装する場合には表面実装タイプの電子部品の向き（電子部品の表面のうちの最も広い面の向き）を異ならせて捺印部を表記する向きを変更したり、この変更された表面実装タイプの電子部品の表面のうちの最も広い面に対応するモールディングの樹脂の表面に捺印部を形成したりすることで、基板を正面視した場合に捺印部を読み取られ難くなり、電子部品の特定を困難にしていたずらなどの抑止効果が高まる。

【５４７９】

また、チップコンデンサＭＣ１'に形成される捺印部の色は、チップコンデンサＭＣ１'をモールディングする樹脂の色とコントラストを高める色であることが望ましく、具体的には、チップコンデンサＭＣ１'をモールディングする樹脂の色が青色である場合に、白色、黒色、黄色、赤色、橙色、緑色、紫色等、又はこれらの色の組み合わせで表記されるのが望ましい。

【５４８０】

なお、不正の判別容易性の向上３は、上記した不正の判別容易性の向上１と不正の判別容易性の向上２との一方又は両方と組み合わせて使用することも可能であるし、上記した不正の判別容易性の向上１と不正の判別容易性の向上２との一方又は両方と同一条件で使用することにより同一の作用効果を奏することも可能である。すなわち、不正の判別容易性の向上１においてコンデンサＭＣ１とされる部分をチップコンデンサＭＣ１'と読み替えることや、不正の判別容易性の向上２においてチップコンデンサＭＣ１'とされる部分を主制御基板１３１０のスルーホール１３１０ｒに挿入された状態でハンダ等によって溶着されて主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに立設するピン１３１５にチップコンデンサＭＣ１'の電極ＭＣ１ａ'をハンダ付けすることにより、主制御基板１３１０に実装されるチップコンデンサＭＣ１'と読み替えることが可能である。

【５４８１】

［表面実装タイプの電子部品の剥離防止１］

次に、表面実装タイプの電子部品が実装される基板において、表面実装タイプの電子部品の剥がれ落ち（実装剥がれ）を防止する方法について説明する。なお、以下では上記した実施形態と重複する部分についての説明を行わない。

【５４８２】

上記したように、表面実装タイプの電子部品は基板表面に形成されるパッド１３１０ｋに接続端子ＩＣ１ａをハンダ付けすることによって基板に固定されるものであり、スルーホール１３１０ｒ内にリード端子ＭＣ１ａを挿入してこのリード端子ＭＣ１ａをスルーホール１３１０ｒやランド１３１０ｓにハンダ付けすることで基板に固定されるリードタイプ（挿入実装タイプ、スルーホール実装タイプ）の電子部品に比べて横からの衝撃や基板の反りなどの変形に弱く、表面実装タイプの電子部品に対して横からの衝撃が加わった場合や基板に力が加わって反りが発生した場合には基板表面から剥がれ落ち（実装剥がれ）、遊技に関する制御に不具合が生じるおそれがある。

【５４８３】

本例の主制御基板１３１０では上記した事情に鑑み、表面実装タイプの電子部品の剥がれ落ち（実装剥がれ）を抑制するように対策がなされている。図３６４（Ａ）は、上記した別例の主制御基板１３１０における電子部品の実装状態の一例を示す説明図であり、上記図３５８において表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１の実装状態を示す拡大図である。

【５４８４】

図３６４（Ａ）に示すように、主制御基板１３１０に実装される表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１は、接続端子ＩＣ１ａが主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに形成されるパッド１３１０ｋ（図３６４（Ａ）のハッチング部分）にハンダ付け

され、表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１に対して、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接（他の電子部品をはさむことなしに隣り合うように配置されるものであればよく、電子部品以外のスルーホールやランド１３１０ｓ、ビア、テストポイント等については設けられていてもよい）してコンデンサＭＣ１が配置し、チップ部品ＩＣ１の駆動に必要な電源を安定して供給することができるようになっている。本例では複数のパッド１３１０ｋが主制御基板１３１０の長手方向（主制御基板１３１０がパチンコ機１に設置された状態では水平方向）の辺と平行となるように形成され、チップ部品ＩＣ１の複数の接続端子ＩＣ１ａそれぞれを対応するパッド１３１０ｋにハンダ付けすることによりチップ部品ＩＣ１の接続端子ＩＣ１ａが主制御基板１３１０の長手方向（主制御基板１３１０がパチンコ機１に設置された状態では水平方向）の辺と平行となるように実装される。

【５４８５】

また、本例では表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１に対して、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接して配置するコンデンサＭＣ１として、スルーホール１３１０ｒ内に２か所以上の折り曲げ部を有するようにフォーミングされたリード端子ＭＣ１ａ（本例では２か所の折り曲げ部を有するようにフォーミングされたリード端子ＭＣ１ａ）を挿入してこのリード端子ＭＣ１ａをスルーホール１３１０ｒやランド１３１０ｓにハンダ付けすることで基板に固定されるリードタイプ（挿入実装タイプ）の電子部品を用いるようになっている。リード端子ＭＣ１ａは、鉄や銅またはそれらの合金からなり（銅メッキされた鉄線をさらに錫メッキしたＣＰ線や、錫メッキされたＣｕ線等）、所定の曲げ強度を有していることに加え、２か所以上の折り曲げ部を有するようにフォーミングされたリード端子ＭＣ１ａを用いることで、折り曲げ部を有していないか又は１か所の折り曲げ部を有するようにフォーミングされたリード端子に比べて強度が高くなっている。すなわち、リードタイプ（挿入実装タイプ）の電子部品としてのコンデンサＭＣ１をスルーホール１３１０ｒ内にリード端子ＭＣ１ａを挿入してこのリード端子ＭＣ１ａをスルーホール１３１０ｒやランド１３１０ｓにハンダ付けして主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに固定する（挿入実装する）ことにより、主制御基板１３１０の剛性を高め、反りなどの変形を抑制できる。なお、鉄は銅よりも曲げ強度が高いため、鉄又は鉄合金からなるリード端子ＭＣ１ａ（ＣＰ線）を有するコンデンサＭＣ１を用いることが望ましい。

【５４８６】

このように、本例では表面実装タイプの電子部品に対して、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）特定方向に隣接して、表面実装タイプよりも強固な実装手段であるリードタイプ（挿入実装タイプ）の電子部品を実装することで主制御基板１３１０の剛性を部分的に高めることができ、主制御基板１３１０のうちの表面実装タイプの電子部品が実装される領域の反りなどの変形を抑制し、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制できるようになっている。

【５４８７】

また、本例では表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１に対して、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）特定方向（例えばチップ部品ＩＣ１よりも主制御基板１３１０の上辺や、左辺、下辺、右辺に近い側）に隣接するリードタイプ（挿入実装タイプ）の電子部品として、表面実装タイプの電子部品よりも背の高い電子部品（実装時に主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘからの突出量が多い電子部品）であるコンデンサＭＣ１を実装している。そのため、表面実装タイプの電子部品であるチップ部品ＩＣ１に対して特定方向からの衝撃が加わることを抑制でき、表面実装タイプの電子部品であるチップ部品ＩＣ１が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることが抑制される。

【５４８８】

また、上記したように表面実装タイプの電子部品であるチップ部品ＩＣ１はリードタイ

プの電子部品に比べて小型化が可能である。そのため、主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘにおいて、表面実装タイプの電子部品であるチップ部品ＩＣ１を使用して電子部品の密度と体積を削減して実装密度を高めることができることに加えて、リードタイプの電子部品であるコンデンサＭＣ１に対して、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）特定方向に隣接して配置することで表面実装タイプの電子部品であるチップ部品ＩＣ１が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制でき、パチンコ機１の信頼性を向上させることができるようになっている。

【５４８９】

本例では主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに実装される表面実装タイプの電子部品のうちの特定の電子部品（例えばＩＣ）について、特定方向に電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接して配置される電子部品としてリードタイプの電子部品を用いるように構成している。そのため、主制御基板１３１０の剛性を部分的に高めることができ、表面実装タイプの電子部品として遊技の進行に関わる重要な電子部品（例えばＩＣ）等の特定の電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制でき、パチンコ機１の信頼性が向上する。なお、主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに実装される表面実装タイプの電子部品全てに対してリードタイプの電子部品を特定方向に電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接して配置するようにしてもよく、この場合には主制御基板１３１０の表面実装タイプの電子部品が実装される領域の剛性を高めることができ、主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに実装される表面実装タイプの電子部品全ての剥がれ落ち（実装剥がれ）を抑制できるため、パチンコ機１の信頼性をさらに向上させることが可能である。

【５４９０】

また、図３６４（Ａ）に示すように本例では表面実装タイプの電子部品の外形よりも特定方向に電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接するリードタイプの電子部品を実装するための２つのスルーホール１３１０ｒ（ランド１３１０ｓを含む）の間隔（ランド１３１０ｓの最も外側の縁の間隔でも良いし、スルーホール１３１０ｒの中心の間隔でも良い）が広くされている。換言すると、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接するリードタイプの電子部品を実装するための２つのスルーホール１３１０ｒ（ランド１３１０ｓを含む）の間に表面実装タイプの電子部品が収まるように構成されている。

【５４９１】

そのため、主制御基板１３１０のうちの表面実装タイプの電子部品が実装される領域（表面実装タイプの電子部品が載置されている領域）全てに対して反りなどの変形を抑制でき、さらには特定方向からの衝撃が加わることを抑制でき、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制できる。

【５４９２】

また、表面実装タイプの電子部品の特定方向に、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接するリードタイプの電子部品を実装するための２つのスルーホール１３１０ｒ（ランド１３１０ｓを含む）の間隔として、表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１に形成される接続端子ＩＣ１ａを含む外形よりも広い間隔となっている。そのため、この２つのスルーホール１３１０ｒ（ランド１３１０ｓを含む）に挿入実装されるリードタイプの電子部品によってチップ部品ＩＣ１の接続端子ＩＣ１ａよりも広い間隔に亘って主制御基板１３１０の剛性が高められて主制御基板１３１０の反りなどの変形を抑制できるし、さらには表面実装タイプの電子部品に対して特定方向からの衝撃が加わることを抑制して、表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１に形成される接続端子ＩＣ１ａが主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘのパッド１３１０ｋから剥がれることを抑制できる。

【５４９３】

なお、表面実装タイプの電子部品に対して、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接するリードタイプの電子部品を実装するための２つのスルーホール１３１０ｒ（ランド１３１０ｓを含む）の間隔として、少なくとも表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１に形成される接続端子ＩＣ１ａを除いた本体部の外形と同等又は表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１に形成される接続端子ＩＣ１ａを除いた本体部の外形よりも広い間隔とするものであればよく、この場合であっても表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１の本体部の外形よりも広い間隔に亘って主制御基板１３１０の剛性が高められて主制御基板１３１０の反りなどの変形を抑制できるし、さらには表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１に形成される接続端子ＩＣ１ａを除いた本体部に対して特定方向からの衝撃が加わることを抑制して、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制できる。

【５４９４】

図３６４（Ａ）に示すように表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１は本体部の４つの側面のうちの対向する２つの側面に接続端子ＩＣ１ａが設けられている。そして本例では表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１の特定方向として、表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１の本体部の４つの側面のうちの接続端子ＩＣ１ａが形成されていない２つの対向する側面のうちのいずれか一方の側面側にリードタイプの電子部品としてのコンデンサＭＣ１が配置されている。そのため、表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１の本体部の対向する２つの側面に形成される接続端子ＩＣ１ａの両方をリードタイプの電子部品としてのコンデンサＭＣ１を１つ設けることによって表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１の本体部に対向する２つの側面に形成される接続端子ＩＣ１ａの両方を含む領域についての主制御基板１３１０の剛性を高め、これによって接続端子ＩＣ１ａを保護して表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１に形成される接続端子ＩＣ１ａが主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘのパッド１３１０ｋから剥がれることを抑制できる。

【５４９５】

また、本例ではリードタイプの電子部品を実装するために形成される２つのスルーホール１３１０ｒを結んだ直線が、主制御基板１３１０の短手方向（主制御基板１３１０がパチンコ機１に設置された状態では垂直方向）と略平行となるように形成されて、リードタイプの電子部品が主制御基板１３１０の短手方向の辺と略平行となるように配置される。そのため、このスルーホール１３１０ｒに挿入実装されるリードタイプの電子部品によって主制御基板１３１０の長手方向の辺（主制御基板１３１０の４辺のうち長さが長い組み合わせの辺）に平行な直線（主制御基板１３１０がパチンコ機１に設置された状態では水平方向）を軸とする曲げや反りを抑制することができることに加え、特定方向としてリードタイプの電子部品が実装された主制御基板１３１０の短手方向の辺（主制御基板１３１０の４辺のうち長さが短い組み合わせの辺）の側方からの衝撃が直接表面実装タイプの電子部品に加わることを抑制でき、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制してパチンコ機１の信頼性を向上させることができる。

【５４９６】

また、本例ではチップ部品ＩＣ１の上下に形成されている複数の接続端子ＩＣ１ａをハンダ付けするパッド１３１０ｋそれぞれの略延長線上に２つのスルーホール１３１０ｒが形成されるようになっている。そのため、主制御基板１３１０の長手方向の辺に平行な直線を軸とする曲げや反りをリードタイプの電子部品によって抑制する際に、チップ部品ＩＣ１の接続端子ＩＣ１ａにかかる力をリードタイプの電子部品によって抑制でき、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制して、遊技機の信頼性を向上させることができるようになっている。なお、パッド１３１０ｋそれぞれの略延長線上に２つのスルーホール１３１０ｒのランド１３１０ｓの一部が重なるようにスルーホール１３１０ｒが形成されるか、または２つのスルーホール１３１０の間隔内に上下のパッド１３１０ｋが収まる（パッド１３１０ｋそれぞれの略延長線の外側に２つのスルーホール

１３１０が形成される）ように形成されるようにしてもよく、この場合にもチップ部品ＩＣ１の接続端子ＩＣ１ａにかかる力をリードタイプの電子部品によって抑制でき、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制して、パチンコ機１の信頼性を向上させることができる。

【５４９７】

また、表面実装タイプの電子部品を実装するために形成される２つのスルーホール１３１０ｒを結んだ直線が、主制御基板１３１０の長手方向（主制御基板１３１０がパチンコ機１に設置された状態では水平方向）の辺と略平行となるように形成されてリードタイプの電子部品が主制御基板１３１０の長手方向の辺と略平行となるように配置されるとともに、複数のパッド１３１０ｋが主制御基板１３１０の短手方向（主制御基板１３１０がパチンコ機１に設置された状態では垂直方向）の辺と平行となるように形成され、チップ部品ＩＣ１の複数の接続端子ＩＣ１ａそれぞれを対応するパッド１３１０ｋにハンダ付けすることによりチップ部品ＩＣ１の接続端子ＩＣ１ａが主制御基板１３１０の短手方向（主制御基板１３１０がパチンコ機１に設置された状態では垂直方向）の辺と平行となるように実装されるようにしてもよく、この場合にはこのスルーホール１３１０ｒに挿入実装されるリードタイプの電子部品によって主制御基板１３１０の短手方向の辺に平行な直線（主制御基板１３１０がパチンコ機１に設置された状態では垂直方向）を軸とする曲げや反りを抑制することができることに加え、特定方向としてリードタイプの電子部品が実装された主制御基板１３１０の長手方向の辺の側方からの衝撃が直接表面実装タイプの電子部品に加わることを抑制でき、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制できる。

【５４９８】

また、２つのスルーホール１３１０ｒを結んだ直線が主制御基板１３１０の短手方向（主制御基板１３１０がパチンコ機１に設置された状態では垂直方向）の辺と略平行となるように形成されて主制御基板１３１０の長手方向の辺と略平行となるように配置される表面実装タイプの電子部品Ａと、２つのスルーホール１３１０ｒを結んだ直線が主制御基板１３１０の長手方向（主制御基板１３１０がパチンコ機１に設置された状態では水平方向）の辺と略平行となるように形成されて主制御基板１３１０の短手方向の辺と略平行となるように配置される表面実装タイプの電子部品Ｂと、の両方を実装するようにしてもよく、この場合にはこのスルーホール１３１０ｒに挿入実装されるリードタイプの電子部品によって主制御基板１３１０の長手方向（主制御基板１３１０がパチンコ機１に設置された状態では水平方向）の辺を軸とする曲げや反りを抑制することができることに加えて、主制御基板１３１０の短手方向（主制御基板１３１０がパチンコ機１に設置された状態では垂直方向）の辺を軸とする曲げや反りを抑制することができ、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることをさらに抑制できる。

【５４９９】

なお、上記した例では表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１の４つの側面のうち接続端子ＩＣ１ａが形成されていない２つの対向する側面の一方の側面側にリードタイプの電子部品としてのコンデンサＭＣ１を配置したが、これに限られるものではなく例えば図３６４（Ｂ）に示すように表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１の４つの側面のうち接続端子ＩＣ１ａが形成されている２つの対向する側面の一方の側面側にリードタイプの電子部品としてのコンデンサＭＣ１を配置するようにしてもよいし、図３６４（Ｃ）に示すように表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１の４つの側面のうち接続端子ＩＣ１ａが形成されていない２つの対向する側面側にリードタイプの電子部品としてのコンデンサＭＣ１をそれぞれ配置するようにしてもよいし、図３６４（Ｄ）に示すように表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１の４つの側面のうち接続端子ＩＣ１ａが形成されている２つの対向する側面側にリードタイプの電子部品としてのコンデンサＭＣ１をそれぞれ配置するようにしてもよいし、図３６４（Ｅ）に示すように表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１の４つの側面のうち接続端子ＩＣ１ａが形成されていない２つの対向する側面の一方の側面側にリードタイプの電

子部品としてのコンデンサＭＣ１を一方の接続端子ＩＣ１ａの延長上に配置するようにしてもよいし、図示しないが表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１の４つの側面のうち接続端子ＩＣ１ａが形成されていない２つの対向する側面の一方の側面側にリードタイプの電子部品としてのコンデンサＭＣ１を接続端子ＩＣ１ａそれぞれの延長上に１つずつ配置するようにしてもよいし、図示しないが表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１の４つの側面のうち接続端子ＩＣ１ａが形成されていない２つの対向する側面側にリードタイプの電子部品としてのコンデンサＭＣ１を接続端子ＩＣ１ａそれぞれの延長上に１つずつ配置するようにしてもよいし、図示しないが表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１の４つの側面のうち接続端子ＩＣ１ａが形成されていない２つの対向する側面側にリードタイプの電子部品としてのコンデンサＭＣ１を接続端子ＩＣ１ａそれぞれの延長上に２つずつ配置するようにしてもよい。これらの場合にも主制御基板１３１０の曲げや反りを抑制することができることに加え、特定方向からの衝撃が表面実装タイプの電子部品に加わることを抑制でき、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制できる。また、表面実装タイプの電子部品の側面の対向する２つの側面側にリードタイプの電子部品をそれぞれ配置した場合には、１つの側面側にのみリードタイプの電子部品を配置した場合よりも主制御基板１３１０の曲げや反りを抑制することができ、さらに２方向から表面実装タイプの電子部品を保護して衝撃が加わることを抑制でき、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることをより強く抑制することが可能になる。

【５５００】

また、図３６４（Ａ）に示すものと、図３６４（Ｂ）に示すものと、図３６４（Ｃ）に示すものと、図３６４（Ｄ）に示すものと、図３６４（Ｅ）に示すものと、図示しないが表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１の４つの側面のうち接続端子ＩＣ１ａが形成されていない２つの対向する側面の一方の側面側にリードタイプの電子部品としてのコンデンサＭＣ１を接続端子ＩＣ１ａそれぞれの延長上に１つずつ配置するものとのうちの１つ又は２つ以上の複数の組み合わせを含むものであってもよい。この場合には実装される表面実装タイプの電子部品の重要度や剥がれ落ち（実装剥がれ）易さ、基板の反り易さ等によって適宜選択して配置して主制御基板１３１０の剛性を部分的に高めることができ、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることが抑制される。

【５５０１】

また、上記した例では表面実装タイプの電子部品とリードタイプの電子部品としてチップ部品ＩＣ１とチップ部品ＩＣ１の機能を安定的に確保するために設けられるコンデンサＭＣ１とを例示したが、表面実装タイプの第１電子部品の機能を安定的に確保するために設けられるリードタイプの電子部品に限らず、表面実装タイプの第１電子部品とは異なる表面実装タイプの第２電子部品の機能を安定的に確保するために設けられるリードタイプの電子部品（第１電子部品とは別の回路（第２電子部品の回路）に設けられるリードタイプの電子部品）を表面実装タイプの第１電子部品に対して、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接して配置するものであってもよいし、表面実装タイプの第１電子部品の機能を安定的に確保するために設けられるリードタイプの電子部品（第１電子部品の回路に設けられるリードタイプの電子部品）と、表面実装タイプの第２電子部品の機能を安定的に確保するために設けられるリードタイプの電子部品と、の両方を表面実装タイプの第１電子部品に対して、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接して配置するものであってもよい。

【５５０２】

また、上記した例では表面実装タイプの電子部品としてチップ部品ＩＣ１を例示し、リードタイプの電子部品としてコンデンサＭＣ１を例示したが、これに限られるものではない。例えば、ダイオードや抵抗などを用いるものであってもよい。すなわち、本技術思想は表面実装タイプの電子部品に対して、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接（他の電子部品をはさむこ

となしに隣り合うように配置されるものであればよく、電子部品以外のスルーホールやランド、ビア、テストポイント等については設けられていてもよい）して配置される電子部品として少なくともリードタイプの電子部品を１つ設けるものであれば電子部品の種類は問わない。

【５５０３】

また、表面実装タイプの特定の電子部品（例えばＩＣ）とリードタイプの電子部品との組み合わせを主制御基板１３１０における実装面１３１０ｘの一部に配置するものに限らず、特定の電子部品（例えばＩＣ）とリードタイプの電子部品との組み合わせを主制御基板１３１０における実装面１３１０ｘの略全域に亘って配置する（規則的に配置されるものに限らず、不規則に配置されるものであってもよい）ようにしてもよい。例えば、主制御基板１３１０の長手方向の辺をｎ等分（ｎ＝２～８程度）することによって区画された実装面１３１０ｘそれぞれの領域（例えば図３６５の垂直分割線Ｙ－Ｙによって二等分される主制御基板１３１０の左側領域と右側領域）に対して特定の電子部品（例えばＩＣ）とリードタイプの電子部品との組み合わせを少なくとも１組配置したり、主制御基板１３１０の長手方向の辺をｎ等分（ｎ＝２～８程度）するとともに短手方向の辺をｍ等分（ｍ＝２～４程度）することによって区画された実装面１３１０ｘそれぞれの領域（例えば図３６５の垂直分割線Ｙ－Ｙと水平分割線Ｘ－Ｘによって四等分される主制御基板１３１０の各領域）に対して特定の電子部品（例えばＩＣ）とリードタイプの電子部品との組み合わせを少なくとも１組配置することにより、主制御基板１３１０における実装面１３１０ｘの略全域に亘って特定の電子部品（例えばＩＣ）とリードタイプの電子部品との組み合わせを配置するようにしてもよい。これにより、特定の電子部品（例えばＩＣ）の剥がれ落ち（実装剥がれ）を抑制できることに加えて、主制御基板１３１０の略全域に亘って反りなどの変形を抑制でき、特定の電子部品（例えばＩＣ）以外の表面実装タイプの電子部品についても剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制できるようになり、パチンコ機１の信頼性がさらに向上する。また、本例の主制御基板１３１０は横長矩形状を有するものであるため、主制御基板１３１０の長手方向の辺を分割する分割線と短手方向の辺を分割する分割線とは直交し、分割線によって主制御基板１３１０は複数の矩形状の領域に区画される。

【５５０４】

また、リードタイプの電子部品を実装するために形成される２つのスルーホール１３１０ｒを結んだ直線が、主制御基板１３１０の短手方向（主制御基板１３１０がパチンコ機１に設置された状態では垂直方向）の辺と略平行となるように形成されて主制御基板１３１０の短手方向の辺と略平行となるように配置されるリードタイプの電子部品と、表面実装タイプの電子部品を実装するために形成される２つのスルーホール１３１０ｒを結んだ直線が、主制御基板１３１０の長手方向（主制御基板１３１０がパチンコ機１に設置された状態では水平方向）の辺と略平行となるように形成されてリードタイプの電子部品が主制御基板１３１０の長手方向の辺と略平行となるように配置されるリードタイプの電子部品と、の一方又は両方と、複数のパッド１３１０ｋが主制御基板１３１０の短手方向（主制御基板１３１０がパチンコ機１に設置された状態では垂直方向）の辺と平行となるように形成されてチップ部品ＩＣ１の複数の接続端子ＩＣ１ａそれぞれを対応するパッド１３１０ｋにハンダ付けすることによりチップ部品ＩＣ１の接続端子ＩＣ１ａが主制御基板１３１０の短手方向（主制御基板１３１０がパチンコ機１に設置された状態では垂直方向）と平行となるように実装される特定の電子部品（例えばＩＣ）と、複数のパッド１３１０ｋが主制御基板１３１０の長手方向（主制御基板１３１０がパチンコ機１に設置された状態では水平方向）の辺と平行となるように形成されてチップ部品ＩＣ１の複数の接続端子ＩＣ１ａそれぞれを対応するパッド１３１０ｋにハンダ付けすることによりチップ部品ＩＣ１の接続端子ＩＣ１ａが主制御基板１３１０の長手方向（主制御基板１３１０がパチンコ機１に設置された状態では水平方向）の辺と平行となるように実装される特定の電子部品（例えばＩＣ）と、の一方又は両方と、の組み合わせを遊技制御基板１３１０における実装面１３１０ｘの略全域に亘って配置する（規則的に配置されるものに限らず、不規則

に配置されるものであってもよい）ようにしてもよく、これにより遊技制御基板１３１０の略全域に亘って主制御基板１３１０の長手方向の辺に平行な直線（主制御基板１３１０がパチンコ機１に設置された状態では水平方向）を軸とする曲げや反りと、主制御基板１３１０の短手方向の辺に平行な直線（主制御基板１３１０がパチンコ機１に設置された状態では垂直方向）を軸とする曲げや反りと、の一方又は両方を抑制することができ、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）が抑制されてパチンコ機１の信頼性が向上する。

【５５０５】

また、上記した例では表面実装タイプの特定の電子部品（例えばＩＣ）に対して、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接してリードタイプの電子部品を実装することにより、表面実装タイプの特定の電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑止するものを示したが、特定の電子部品（例えばＩＣ）に対して、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接するようにリードタイプの電子部品を配置するものに限らず、リードタイプの電子部品を単体で主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘの略全域に亘って配置するようにしてもよいし、特定の電子部品に対して、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接するように配置されるリードタイプの電子部品と、単体で配置されるリードタイプの電子部品と、を主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘの略全域に亘って配置するようにしてもよい。例えば、主制御基板１３１０の長手方向の辺をｎ等分（ｎ＝２～８程度）することによって区画された実装面１３１０ｘそれぞれの領域（例えば図３６５の垂直分割線Ｙ－Ｙによって二等分される主制御基板１３１０の左側領域と右側領域）に対してリードタイプの電子部品を少なくとも１つ配置したり、主制御基板１３１０の長手方向の辺をｎ等分（ｎ＝２～８程度）するとともに短手方向の辺をｍ等分（ｍ＝２～４程度）することによって区画された実装面１３１０ｘそれぞれの領域（例えば図３６５の垂直分割線Ｙ－Ｙと水平分割線Ｘ－Ｘによって四等分される主制御基板１３１０の各領域）に対してリードタイプの電子部品を少なくとも１つ配置することにより、主制御基板１３１０における実装面１３１０ｘの略全域に亘ってリードタイプの電子部品を配置するようにしてもよい。本例では、図３６５に示すように垂直分割線Ｙ－Ｙと水平分割線Ｘ－Ｘによって四等分される主制御基板１３１０の各領域にリードタイプの電子部品としてのコンデンサＭＣ１を複数（２以上）配置している。このように、リードタイプの電子部品が主制御基板１３１０の略全域に亘って配置されることにより、主制御基板１３１０の剛性が高まるため、曲げや反り等の基板の変形が抑制され、表面実装タイプの特定の電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑止することができる。

【５５０６】

また、この場合には区画された実装面１３１０ｘそれぞれの領域における表面実装タイプの電子部品又は表面実装タイプの特定の電子部品の実装数に応じて、各領域におけるリードタイプの電子部品の実装数を異ならせるようにしてもよい。例えば、主制御基板１３１０の区画された実装面１３１０ｘそれぞれの領域（例えば図３６５の垂直分割線Ｙ－Ｙと水平分割線Ｘ－Ｘによって四等分される主制御基板１３１０の各領域）のうち、表面実装タイプの電子部品又は表面実装タイプの特定の電子部品の実装数が多い領域には、表面実装タイプの電子部品又は表面実装タイプの特定の電子部品の実装数が少ない領域よりも、リードタイプの電子部品を多く実装するようにしてもよい。このように構成することにより主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘの中でも表面実装タイプの電子部品又は表面実装タイプの特定の電子部品が多く実装される領域における剛性をより高めて表面実装タイプの電子部品又は表面実装タイプの特定の電子部品が剥がれ落ちることを抑制できるし、表面実装タイプの電子部品又は表面実装タイプの特定の電子部品の実装数に応じて（過剰スペックとならずに）剛性を最適な状態にすることができる。

【５５０７】

なお、主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘの略全域に亘って配置する場合であって

も、区画された実装面１３１０ｘそれぞれの領域のうちの表面実装タイプの電子部品が全く実装されない領域についてはリードタイプの電子部品を実装しないようにしてもよい。

【５５０８】

［表面実装タイプの電子部品の剥離防止２］

上記した表面実装タイプの電子部品の剥離防止１では、リードタイプの電子部品を表面実装タイプの電子部品に対して、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接して実装したり、リードタイプの電子部品を主制御基板１３１０の略全域に配置することにより主制御基板１３１０の曲げや反りを抑制して表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制するものを示したが、基板端部（上辺や、左辺、下辺、右辺の近傍）で変形を抑制することにより基板全体の変形を抑制するように構成してもよい。以下この点について説明する。なお、以下では上記した実施形態と重複する部分についての説明を行わない。

【５５０９】

図３６３に示すように、本例の主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘには、表面実装タイプの電子部品とリードタイプの電子部品との両方が実装される。

【５５１０】

また、本例では主制御基板１３１０に実装されて主制御基板１３１０と他の基板（例えば払出制御基板６３３、周辺制御基板１５１０等）や各種センサ（例えば第一始動口センサ３００２、第二始動口センサ２４０１等）等とを電気的に接続させる複数のコネクタとしてリードタイプ（挿入実装タイプ）の電子部品を用いている。

【５５１１】

そして、リードタイプの電子部品である複数のコネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６は、主制御基板１３１０の上辺近傍において左辺近傍から右辺方向に向かって、換言すると主制御基板１３１０の上辺近傍において主制御基板１３１０の長手方向（主制御基板１３１０がパチンコ機１に設置された状態では水平方向）の辺に沿って列設される。主制御基板１３１０の上辺近傍において主制御基板１３１０の長手方向（主制御基板１３１０がパチンコ機１に設置された状態では水平方向）の辺に沿ってリードタイプの電子部品である複数のコネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６が列設されるため、複数のコネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６が配置される領域において主制御基板１３１０の剛性を高めることができ、主制御基板１３１０の短手方向の辺と平行な直線を軸とする曲げや反りが抑制され、これによって表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることが抑制されるためパチンコ機１の信頼性が向上する。

【５５１２】

また、複数のコネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６の大多数は、コネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６の本体の長手方向の辺が主制御基板１３１０の長手方向の辺である上辺と略平行となるように配置されている。具体的には、コネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６のうちのコネクタＭＣＮ３を除いて本体の長手方向の辺が主制御基板１３１０の長手方向の辺である上辺と略平行となるように配置されている。つまり、コネクタＭＣＮ１、コネクタＭＣＮ２、コネクタＭＣＮ４～コネクタＭＣＮ６それぞれにおいてコネクタＭＣＮ１、コネクタＭＣＮ２、コネクタＭＣＮ４～コネクタＭＣＮ６それぞれの本体が主制御基板１３１０の長手方向の辺に対してより広範囲に亘って設けられるように配置されるようになっている。

【５５１３】

このように、コネクタＭＣＮ１、コネクタＭＣＮ２、コネクタＭＣＮ４～コネクタＭＣＮ６それぞれの本体の長手方向の辺が主制御基板１３１０の長手方向の辺（この例では上辺と下辺）と略平行となるように配置されることにより、制御基板１３１０の長手方向の辺である上辺の広範囲に亘って主制御基板１３１０の剛性を高めることができ、主制御基板１３１０の短手方向の辺と平行な直線を軸とする曲げや反りが抑制され、これによって表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることが抑制されるため遊技機の信頼性が向上する。

【５５１４】

なお、主制御基板１３１０の任意の辺（例えば上辺）の近傍にリードタイプの複数のコネクタを並べて配置するものであればよく、主制御基板１３１０の任意の辺に沿って配置するものには、複数のコネクタの長手方向の辺が主制御基板１３１０の任意の辺と略平行に設けられていないものの並べて配置されるものであってもよいし、過半数未満の一部のコネクタのみが当該コネクタの長手方向の辺と主制御基板１３１０の任意の辺と略平行となるように設けられるものであってもよい。

【５５１５】

また、主制御基板１３１０の任意の辺（例えば上辺）の近傍に並べて配置されるリードタイプの複数のコネクタは主制御基板１３１０の任意の辺に沿って直線状に配置されるものに限らず、主制御基板１３１０の任意の辺（例えば上辺）から任意の辺に対向する辺（例えば下辺）方向への所定の幅内に収まるように、任意の辺（例えば上辺）に隣接する特定の辺（例えば左辺）から特定の辺に対向する辺（例えば右辺）方向に向けて配置されるものであればよい。

【５５１６】

また、リードタイプの複数のコネクタのうちの所定数のコネクタについては、一のコネクタ本体の一部と他のコネクタ本体（１つでもよいし、２つ以上の複数でもよい）の一部とが主制御基板１３１０の任意の辺（例えば上辺）から任意の辺に対向する辺（例えば下辺）方向（例えば単手方向）に重なるように配置されるものであってもよい。この場合には、一のコネクタ本体の一部と他のコネクタ本体の一部とが重なる領域の近傍を含む所定範囲（例えば主制御基板１３１０の任意の辺（例えば上辺）から任意の辺に対向する辺（例えば下辺）に亘る範囲）において、主制御基板１３１０の剛性を一層高めることができ、一のコネクタ本体の一部と他のコネクタ本体の一部とが重なる領域の近傍を含む所定範囲に実装される表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制できる。

【５５１７】

なお、主制御基板１３１０の任意の辺（例えば上辺）の近傍に並べて配置されるリードタイプの複数のコネクタに対して、主制御基板１３１０の任意の辺（例えば上辺）から任意の辺に対向する辺（例えば下辺）方向（例えば単手方向）に一部が重なるように、コネクタとは別のリードタイプの電子部品を配置するようにしてもよく、この重なる領域の近傍を含む所定範囲（例えば主制御基板１３１０の任意の辺（例えば上辺）から任意の辺に対向する辺（例えば下辺）に亘る範囲）において主制御基板１３１０の剛性を一層高めることができ、コネクタとコネクタとは別のリードタイプの電子部品とが重なる領域の近傍を含む所定範囲に実装される表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制することができる。

【５５１８】

具体的には、本例ではリードタイプのＩＣ２がコネクタＭＣＮ５、コネクタＭＣＮ６と主制御基板１３１０の単手方向に重なるように配置され、リードタイプのＩＣ２の下辺側には表面実装タイプのチップ部品ＩＣ１が配置されるようになっている。これにより、コネクタＭＣＮ５、コネクタＭＣＮ６とリードタイプのＩＣ２とが重なる領域の近傍を含む所定範囲において主制御基板１３１０の剛性を高めて反りなどの変形を抑制することができ、この剛性が高められた領域に表面実装タイプのチップ部品ＩＣ１を配置することで、表面実装タイプのチップ部品ＩＣ１が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制できる。

【５５１９】

また、本例ではコネクタＭＣＮ５、コネクタＭＣＮ６とリードタイプのＩＣ２とが重なる領域の近傍を含む所定範囲に表面実装タイプのチップ部品ＩＣ１を配置することに加え、表面実装タイプのチップ部品ＩＣ１の下辺側にリードタイプの設定キースイッチ１３１１ａが配置される。このように、表面実装タイプのチップ部品ＩＣ１の上辺側だけでなく下辺側にもリードタイプの電子部品を配置することにより、主制御基板１３１０の上辺側と下辺側とで挟み込むようにリードタイプの電子部品を配置して主制御基板１３１０の特定領域における剛性を高めてこの特定領域における反りなどの変形が抑制されるため、特

定領域に実装される表面実装タイプのチップ部品ＩＣ１が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを一層抑制できる。

【５５２０】

また、主制御基板１３１０の上辺に沿って列設されるリードタイプのコネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６それぞれは、図３６３に示すように所定間隔（少なくとも電子部品実装不可領域Ａを含む間隔）を空けて配置する。そして、主制御基板１３１０の下辺近傍に配置されるリードタイプの設定キースイッチ１３１１ａは、コネクタＭＣＮ５とコネクタＭＣＮ６との隙間を含むように配置する。具体的には、コネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６本体それぞれの外形左右両端から主制御基板１３１０の内側（主制御基板１３１０の上辺に対向する下辺）に向けて延びる仮想区画線ａ～ｌによって区画される帯状の領域のうち、コネクタＭＣＮ５本体とＭＣＮ６本体とが配置されていない領域（仮想区画線ｊ－ｊと仮想区画線ｋ－ｋとによって区画される領域）を含むようにリードタイプの設定キースイッチ１３１１ａを配置する。換言すると、主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘのうちのコネクタＭＣＮ５とコネクタＭＣＮ６との下方側の領域に比べて剛性が低い領域についてリードタイプの設定キースイッチ１３１１ａを配置することで補完するようになっている。これにより、主制御基板１３１０のコネクタＭＣＮ５からコネクタＭＣＮ６の実装されている範囲でコネクタＭＣＮ５からコネクタＭＣＮ６の下方に剛性を高めた領域を形成することができ、反りなどの変形を抑制して実装される表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制できる。

【５５２１】

なお、リードタイプの電子部品であれば設定キースイッチ１３１１ａに限られるものではなく、コネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６本体それぞれの外形左右両端から主制御基板１３１０の内側（主制御基板１３１０の上辺に対向する下辺）に向けて延びる仮想区画線ａ～ｌによって区画される帯状の領域のうち、コネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６本体が配置されていない５つの非特定領域（仮想区画線ｂ－ｂと仮想区画線ｃ－ｃとによって区画される領域と、仮想区画線ｄ－ｄと仮想区画線ｅ－ｅとによって区画される領域と、仮想区画線ｆ－ｆと仮想区画線ｇ－ｇとによって区画される領域と、仮想区画線ｈ－ｈと仮想区画線ｉ－ｉとによって区画される領域と、仮想区画線ｊ－ｊと仮想区画線ｋ－ｋとによって区画される領域）の全てに対してリードタイプの電子部品を配置するものに限らず、５つの非特定領域のうちの一部（例えば仮想区画線ｊ－ｊと仮想区画線ｋ－ｋとによって区画される領域）についてリードタイプの電子部品を配置し、他の領域にはリードタイプの電子部品を配置しないようにしてもよい。

【５５２２】

また、５つの非特定領域それぞれにおいて、非特定領域全てを含むようにリードタイプの電子部品を配置（例えば仮想区画線ｂ－ｂと仮想区画線ｃ－ｃとによって区画される領域の全てを含むようにリードタイプの電子部品を配置）するものに限らず、少なくとも非特定領域の一部と重なるようにリードタイプの電子部品を配置（例えば仮想区画線ｂ－ｂと仮想区画線ｃ－ｃとによって区画される領域の一部を含むようにリードタイプの電子部品を配置）するものであってもよい。また、また、補完するリードタイプの電子部品はコネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６の設置される辺（この例では上辺）から該辺と対向する辺（この例では下辺）の間に配置されるものであればよい。この場合にも主制御基板１３１０に剛性を高めた領域を形成することができ、反りなどの変形を抑制して実装される表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制できる。

【５５２３】

また、主制御基板１３１０の上辺に沿って列設されるリードタイプのコネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６の隙間を補完するリードタイプの電子部品を実装することで主制御基板１３１０の剛性を高めるものに限らず、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接して配置するリードタイプの電子部品（例えばＩＣ２）の隙間の一部を含むようにリードタイプの電子部品（例えばコンデンサＭＣ１）を配置するものであってもよい。この場合にも主制御基板１３１０に剛性を

高めた領域を形成することができ、反りなどの変形を抑制して実装される表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制できる。

【５５２４】

また、この例ではリードタイプの電子部品がＺＩＰタイプの主制御ＭＰＵ１３１０ａと主制御基板１３１０の単手方向に重なるように複数実装されている。具体的には、主制御ＭＰＵ１３１０ａの上辺側にはリードタイプのコネクタＭＣＮ６と、リードタイプのコンデンサＭＣ１と、リードタイプのＩＣ２と、が配置し、主制御ＭＰＵ１３１０ａの下辺側にはリードタイプのコンデンサＭＣ１と、リードタイプのＩＣ２と、が配置される。これにより、遊技の進行を制御する重要な電子部品である主制御ＭＰＵ１３１０ａが配置される主制御基板１３１０の領域の剛性を一層高めて反りなどを変形を抑制するため、主制御ＭＰＵ１３１０ａが主制御基板１３１０から脱落することを抑制でき、遊技機の信頼性を向上させて遊技者に不利益を与えないようにすることができる。

【５５２５】

すなわち、主制御ＭＰＵ１３１０ａは遊技に関する制御を実行する最も重要な電子部品であるため、ＺＩＰタイプの電子部品を採用することで基板の反りや曲げなどの変形に強くされるだけでなく、主制御ＭＰＵ１３１０ａの近傍にリードタイプの電子部品を複数配置することで主制御基板１３１０の剛性を一層高めて主制御ＭＰＵ１３１０ａが主制御基板１３１９から脱落したり、接触不良などの不具合が生じることを抑制するようになっている。これにより、パチンコ機１の信頼性が向上する。

【５５２６】

また、本例では主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘのうち、コネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６が実装されることにより剛性を高められた領域、具体的にはコネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６が実装される主制御基板１３１０の左側の領域（コネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６から下辺方向の領域）には、コネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６が実装されていない主制御基板１３１０の右側の領域よりも表面実装タイプの電子部品（例えばチップ部品ＩＣ１、抵抗ＭＲ等）が多く実装されるようになっている。

【５５２７】

なお、表面実装タイプの電子部品についてコネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６が実装されていない主制御基板１３１０の右側の領域よりもコネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６が実装されることにより剛性を高められた主制御基板１３１０の左側の領域に多く配置するものに限らず、少なくとも表面実装タイプの電子部品のうちの特定の電子部品（例えばチップ部品ＩＣ１等の重要な電子部品）について、コネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６が実装されていない主制御基板１３１０の右側の領域よりもコネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６が実装されることにより剛性を高められた主制御基板１３１０の左側の領域に多く配置されるものであればよい。このように、表面実装タイプの電子部品や表面実装タイプの電子部品のうちの特定の電子部品について、コネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６が実装されていない範囲の下辺側の領域よりもコネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６が実装されることにより剛性を高められた領域に多く配置することにより、表面実装タイプの電子部品や表面実装タイプの電子部品のうちの特定の電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制できるためパチンコ機１の信頼性が向上する。

【５５２８】

また、主制御基板１３１０の上辺に設けられるコネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６本体それぞれの外形左右両端から主制御基板１３１０の内側（主制御基板１３１０の上辺に対向する下辺）に向けて延びる仮想区画線ａ～ｌによって区画される帯状の領域のうち、コネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６本体が配置されている６つの特定領域（コネクタＭＣＮ１本体の外形左右両端から伸びる仮想区画線ａ－ａと仮想区画線ｂ－ｂとによって囲まれる領域と、コネクタＭＣＮ２本体の外形左右両端から伸びる仮想区画線ｃ－ｃと仮想区画線ｄ－ｄとによって囲まれる領域と、コネクタＭＣＮ３本体の外形左右両端から伸びる仮想区画線ｅ－ｅと仮想区画線ｆ－ｆとによって囲まれる領域と、コネクタＭＣＮ４本体の外形左右両端から伸びる仮想区画線ｇ－ｇと仮想区画線ｈ－ｈとによって囲まれる領域と、コネクタＭ

ＣＮ５本体の外形左右両端から伸びる仮想区画線ｉ－ｉと仮想区画線ｊ－ｊとによって囲まれる領域と、コネクタＭＣＮ６本体の外形左右両端から伸びる仮想区画線ｋ－ｋと仮想区画線ｌ－ｌとによって囲まれる領域）それぞれには電子部品の接続端子を含む外形の少なくとも一部が重なるように特定の表面実装タイプの電子部品（この例ではＩＣ１）が設けられている。

【５５２９】

６つの特定領域それぞれは、剛性が高められ、反りなどが抑制される。また、特定領域に、電子部品の接続端子を含む外形の少なくとも一部が重なるように特定の表面実装タイプの電子部品を配置することで、この特定の表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制できるためパチンコ機１の信頼性が向上する。

【５５３０】

なお、特定領域に特定の表面実装タイプの電子部品（接続端子を含むものであってもよいし、接続端子を除く本体部分の外形のみであってもよい）の外形全てが重なるように配置してもよく、この場合には特定領域に特定の表面実装タイプの電子部品を配置することができるため、特定の表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制でき、パチンコ機１の信頼性が向上する。また、特定の表面実装タイプの電子部品は特定種類の電子部品全てに限らず、特定種類の電子部品のうちの一部の電子部品であってもよい。例えば、表面実装タイプのＩＣ１（チップＩＣともいう）のうちの特定の表面実装タイプのＩＣ１を特定の表面実装タイプの電子部品としてもよい。すなわち、複数の表面実装タイプのＩＣ１のうちの特定の表面実装タイプのＩＣ１について、特定領域に外形全てが重なるように配置してもよい。

【５５３１】

また、６つの特定領域の全てに対して、特定の表面実装タイプの電子部品の外形の一部又は全部が重なるように配置するものに限らず、６つの特定領域のうちの一部（例えば仮想区画線ｉ－ｉと仮想区画線ｊ－ｊとによって区画される領域）にのみ特定の表面実装タイプの電子部品を配置し、他の領域には特定の表面実装タイプの電子部品を配置しないようにしてもよい。

【５５３２】

さらに、本例の主制御基板１３１０では、コネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６が実装される上辺に対向する下辺近傍において左辺近傍から右辺方向に向かって、換言すると主制御基板１３１０のコネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６が実装される上辺に対向する下辺近傍において主制御基板１３１０の長手方向（主制御基板１３１０がパチンコ機１に設置された状態では水平方向）の辺に沿ってリードタイプのコネクタＭＣＮ７、リードタイプの設定キースイッチ１３１１ａ、リードタイプのコネクタＭＣＮ８が列設される。

【５５３３】

すなわち、主制御基板１３１０の一部の領域（本例では主制御基板１３１０の中央から左辺側の領域）を挟み込むように主制御基板１３１０の上辺近傍に列設されるリードタイプのコネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６と、下辺近傍に列設されるリードタイプのコネクタＭＣＮ７、リードタイプの設定キースイッチ１３１１ａ、リードタイプのコネクタＭＣＮ８、とを配置することにより、主制御基板１３１０の一部の領域の剛性を高めている。これにより、剛性が高められた主制御基板１３１０の一部の領域について反りなどの変形が抑制されるようになり、この剛性が高められた領域に他の領域よりも多くの表面実装タイプの電子部品を実装することで表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制できるため、遊技機の信頼性を向上させることができる。

【５５３４】

なお、表面実装タイプの電子部品について主制御基板１３１０の上辺近傍に列設されるリードタイプのコネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６と、下辺近傍に列設されるリードタイプのコネクタＭＣＮ７、リードタイプの設定キースイッチ１３１１ａ、リードタイプのコネクタＭＣＮ８、とによって剛性が高められた領域に他の領域よりも多く配置するものに限らず、少なくとも表面実装タイプの電子部品のうちの特定の電子部品（例えばチップ部品ＩＣ

１等の重要な電子部品）について、主制御基板１３１０の上辺近傍に列設されるリードタイプのコネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６と、下辺近傍に列設されるリードタイプのコネクタＭＣＮ７、リードタイプの設定キースイッチ１３１１ａ、リードタイプのコネクタＭＣＮ８、とによって剛性が高められた領域に他の領域よりも多く配置するものであればよい。このように、表面実装タイプの電子部品や表面実装タイプの電子部品のうちの特定の電子部品について、上辺近傍や下辺近傍にコネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６やコネクタＭＣＮ７、設定キースイッチ１３１１ａ、コネクタＭＣＮ８が実装されていない領域よりも、主制御基板１３１０の上辺近傍に列設されるリードタイプのコネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６と、下辺近傍に列設されるリードタイプのコネクタＭＣＮ７、リードタイプの設定キースイッチ１３１１ａ、リードタイプのコネクタＭＣＮ８、とによって剛性が高められた領域に多く配置することにより、表面実装タイプの電子部品や表面実装タイプの電子部品のうちの特定の電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制できるためパチンコ機１の信頼性が向上する。

【５５３５】

［表面実装タイプの電子部品の剥離防止３］

上記した表面実装タイプの電子部品の剥離防止１及び表面実装タイプの電子部品の剥離防止２では、リードタイプの電子部品によって主制御基板１３１０の曲げや反りを抑制して表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制するものを示したが、スルーホール１３１０ｒを設けスルーホール１３１０ｒにハンダを充填することにより主制御基板１３１０の剛性を高めて反りなどの基板の変形を抑制し、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制するように構成してもよい。以下この点について説明する。なお、以下では上記した実施形態と重複する部分についての説明を行わない。

【５５３６】

図３６５は、上記した別例の主制御基板１３１０におけるスルーホール１３１０ｒとスルーホール１３１０ｒの周囲に形成されるランドの一例を示す説明図である。なお、図３６５において一部のスルーホールやランド、配線パターン、表面実装タイプの電子部品の接続端子がハンダ付けされるパッド等は省略する。図３６５に示すように、本例の主制御基板１３１０には、リードタイプの電子部品のリード端子が挿入されるスルーホール以外にも複数のスルーホールが全域に亘って形成されている。

【５５３７】

また、主制御基板１３１０に形成されるスルーホール１３１０ｒには、通常のランドと、十字形状のパターンによりベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））に接続されるサーマルランドと、を有するものが設けられている。

【５５３８】

そして、図３６５に示すように本例の主制御基板１３１０では実装面１３１０ｘに実装される複数の表面実装タイプの電子部品のうちの特定の表面実装タイプの電子部品（本例ではチップ部品ＩＣ１）の近傍にはサーマルランドを有するスルーホール１３１０ｒが形成される。この例では特定の表面実装タイプの電子部品との間に他の電子部品が配置されることなしにサーマルランドを有するスルーホール１３１０ｒが形成されるようになっている。なお、スルーホール１３１０ｒの実装面（表面）１３１０ｘ側とハンダ面（裏面）１３１０ｙ側との両方のランドにサーマルランドを採用するものに限らず、スルーホール１３１０ｒの実装面（表面）１３１０ｘ側とハンダ面（裏面）１３１０ｙ側と一方のランドにのみサーマルランドを採用し、他方のランドには採用しない（通常のランドを採用する）ようにしてもよい。また、本例ではリードタイプのコンデンサＭＣ１実装用のスルーホール１３１０ｒのランドに対してサーマルランドを採用するように構成したが、リードタイプの電子部品実装用のスルーホール１３１０ｒに限らず、リードタイプの電子部品が実装されないスルーホール１３１０ｒの実装面（表面）１３１０ｘ側とハンダ面（裏面）１３１０ｙ側とのランドのうちの少なくとも一方にサーマルランドを採用するように構成してもよい。

【５５３９】
ここで、サーマルランドとはベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））に設けられるランドに対して、ランドの周囲の銅箔の一部を抜いて十字形状のサーマルパターンを形成し、ベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））とランドとの接触面積を通常のランドよりも小さくした状態で電気的に接続させるランドである。サーマルランドでは通常のランドと比べてベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））に熱が伝わり難くなるため、電子部品をハンダ付けする際の温度低下が抑制され（放熱が抑制されて）、スルーホール１３１０ｒによって主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）に付けられたハンダを主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘ側まで確実に吸い上げることができる。

【５５４０】
すなわち、上記したリフロー処理やフロー処理においてサーマルランドを有するスルーホール１３１０ｒによって主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）に付けられたハンダを主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘ側まで吸い上げることにより、スルーホール１３１０ｒ内に充填されたハンダによって主制御基板１３１０の剛性を高めることができるため、主制御基板１３１０の曲げや反りが抑制されて表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制でき、パチンコ機１の信頼性が向上する。一方、機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２や、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等の主制御基板１３１０よりも遊技者側に設けられる主側基板はサーマルランドを有するスルーホールが形成されていない。なお、サーマルランドを有しないスルーホール、すなわちサーマルパターンを有しない通常のランドを採用するスルーホールについては、機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２や、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等の主制御基板１３１０よりも遊技者側に設けられる主側基板の一部又は全部に形成するようにしてもよいし、通常のランドを採用するスルーホールについても機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２や、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等の主制御基板１３１０よりも遊技者側に設けられる主側基板の一部又は全部に形成しないようにしてもよい。

【５５４１】
また、上記したリフロー処理やフロー処理において主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘ側まで吸い上げられたハンダが冷却されて主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに形成されるサーマルランドの銅箔に溶着することによりスルーホール１３１０ｒ内に溶着しているハンダが銅箔から剥離したりずれたりすることが抑制されるため、主制御基板１３１０の剛性が一層高まり、主制御基板１３１０の曲げや反りが抑制されて表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制することにより、パチンコ機１の信頼性を向上させることが可能である。

【５５４２】
本例ではサーマルランドを有するスルーホール１３１０ｒを、特定の表面実装タイプの電子部品の近傍として特定の表面実装タイプの電子部品との間に他の電子部品を配置することなしに形成し、これによって主制御基板１３１０の特定の表面実装タイプの電子部品が実装される領域を含む特定領域の剛性を高めることができるため、主制御基板１３１０の特定領域における曲げや反りが抑制されて特定の表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることが抑制され、パチンコ機１の信頼性が向上する。

【５５４３】
また、本例では特定の表面実装タイプの電子部品の近傍以外の領域にもサーマルランド

を有するスルーホール１３１０ｒが形成される。具体的には、リードタイプの電子部品が実装される領域の近傍（リードタイプの電子部品との間に他の電子部品を配置することなしに）や、リードタイプの電子部品と表面実装タイプの電子部品とのいずれも近傍に設けられていない領域（非実装領域、未実装領域）にもサーマルランドを有するスルーホール１３１０ｒが形成されている。リードタイプの電子部品の近傍としてリードタイプの電子部品との間に他の電子部品を配置することなしにサーマルランドを有するスルーホール１３１０ｒを形成することにより、リードタイプの電子部品とサーマルランドとの両方によって主制御基板１３１０の一部の領域における剛性を一層高めることができ、主制御基板１３１０の特定領域における曲げや反りが抑制される。

【５５４４】

また、リードタイプの電子部品と表面実装タイプの電子部品とのいずれも近傍に設けられていない領域（非実装領域、未実装領域）にサーマルランドを有するスルーホール１３１０ｒを形成することにより、主制御基板１３１０の電子部品が全く実装されていないことで補強されていない領域について剛性を高めることができ、曲げや反りが抑制される。

【５５４５】

また、本例ではサーマルランドを有するスルーホール１３１０ｒを主制御基板１３１０の略全域に亘って配置する。具体的には、矩形状の主制御基板１３１０の長手方向の辺を二等分する垂直分割線（図３６５の垂直分割線Ｙ－Ｙ）と、短手方向の辺を二等分する水平分割線（図３６５の水平分割線Ｘ－Ｘ）と、によって四等分される主制御基板１３１０の各領域に少なくとも１つのサーマルランドが形成されるようになっている。これにより、主制御基板１３１０の略全域に亘って剛性を高めることができ、曲げや反りが抑制されて表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制できる。

【５５４６】

なお、表面実装タイプの電子部品又は表面実装タイプの特定の電子部品の実装数に応じてサーマルランドを有するスルーホール１３１０ｒの数を異ならせるようにしてもよい。例えば、主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘのうち、表面実装タイプの電子部品又は表面実装タイプの特定の電子部品の実装数が多い領域には、表面実装タイプの電子部品又は表面実装タイプの特定の電子部品の実装数が少ない領域よりもサーマルランドを有するスルーホール１３１０ｒを多く形成することにより主制御基板１３１０の剛性を高めるようにしてもよい。

【５５４７】

また、リードタイプの電子部品とサーマルランドを有するスルーホール１３１０ｒとの両方を表面実装タイプの電子部品に近接（例えばリードタイプの電子部品とサーマルランドを有するスルーホール１３１０ｒとの間に配置する等）するように設けてもよい。

【５５４８】

具体的には図３６５に示すように、リードタイプの電子部品としてのコンデンサＭＣ１を特定の表面実装タイプの電子部品（この例ではチップ部品ＩＣ１）との間に他の電子部品を配置することなしに実装するとともに、サーマルランドを有するスルーホール１３１０ｒを特定の表面実装タイプの電子部品との間に他の電子部品を配置することなしに形成し、かつリードタイプの電子部品としてのコンデンサＭＣ１とサーマルランドを有するスルーホール１３１０ｒとの間に特定の表面実装タイプの電子部品（この例ではチップ部品ＩＣ１）を配置してもよい。

【５５４９】

この場合には、リードタイプの電子部品とサーマルランドを有するスルーホール１３１０ｒとによって剛性が一層高められた領域に特定の表面実装タイプの電子部品を配置することで特定の表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制できる。

【５５５０】

なお、サーマルランドを有するスルーホール１３１０ｒはリードタイプの電子部品（例えばコンデンサＭＣ１）を実装するため、すなわちリードタイプの電子部品の実装用（実

際にリードタイプの電子部品が実装されているものでもよいし、リードタイプの電子部品が実装されていない未実装領域に設けられるものであってもよい）に設けられるものであってもよいし、リードタイプの電子部品を実装用には設けられていないもの（リードタイプの電子部品が実装されていないもので実装される可能性もないもの）であってもよい。

【５５５１】

リードタイプの電子部品の実装用に設けられて実際にリードタイプの電子部品が実装されている場合には、リードタイプの電子部品が銅箔に対してより強固に溶着されるため、主制御基板１３１０の剛性を高めることができ、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制して、パチンコ機１の信頼性を向上させることができる。

【５５５２】

また、１つのリードタイプの電子部品（例えばコンデンサＭＣ１）を実装するための所定数（コンデンサＭＣ１では２つ）のスルーホール１３１０ｒのうち、一部（コンデンサＭＣ１では２つのうちの１つ）のみサーマルランドを有するスルーホール１３１０ｒとしてもよいし、全て（コンデンサＭＣ１では２つ全て）を、サーマルランドを有するスルーホール１３１０ｒとしてもよい。

【５５５３】

また、主制御基板１３１０に実装されるリードタイプの電子部品のうちの一部のリードタイプの電子部品を実装するために設けられるスルーホール１３１０ｒについて、１つのリードタイプの電子部品（例えばコンデンサＭＣ１）を実装するための所定数（コンデンサＭＣ１では２つ）のスルーホール１３１０ｒのうち、一部（コンデンサＭＣ１では２つのうちの１つ）のみサーマルランドを有するスルーホール１３１０ｒとしてもよいし、全て（コンデンサＭＣ１では２つ全て）がサーマルランドを有するスルーホール１３１０ｒとしてもよい。

【５５５４】

［表面実装タイプの電子部品の剥離防止４］

上記した表面実装タイプの電子部品の剥離防止１～表面実装タイプの電子部品の剥離防止３では、表面実装タイプの電子部品と、リードタイプの電子部品と、の両方を実装することによって主制御基板１３１０などの曲げや反りを抑制して表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制するものを示したが、リードタイプの電子部品に替えて、補強部材を設けることにより、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制するようにしてもよい。以下この点について説明する。なお、以下では上記した実施形態と重複する部分についての説明を行わない。

【５５５５】

図３７０は、表面実装タイプの電子部品の剥がれ落ち（実装剥がれ）を抑制する補強部材１３１６を示す説明図である。図３７０に示すように、本例の主制御基板１３１０では重要な電子部品としてのチップ部品ＩＣ１と電子部品実装不可領域Ａを挟んで補強部材１３１６が隣接配置される。補強部材１３１６は導電性を有する金属や合金等（本例では鉄や銅またはそれらの合金などの金属）で構成され、所定の曲げ強度を有するものである。なお、補強部材１３１６は、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）重要な電子部品（この例ではチップ部品ＩＣ１）に隣接して配置されるものであればよく、補強部材１３１６と重要な電子部品とを他の電子部品をはさむことなしに隣り合うように配置されるものであれば、電子部品以外のスルーホールやランド、ビア、テストポイント等については設けられていてもよい。

【５５５６】

補強部材１３１６は、コの字形状を有し、２本の脚部分が主制御基板１３１０などの基板に形成されるスルーホールに挿入されてハンダ付けされる。補強部材１３１６が主制御基板１３１０に強固に溶着されることにより、主制御基板１３１０などの基板の剛性が高まり、主制御基板１３１０などの基板の反りなどの変形を抑制できるようになり、パチンコ機１の信頼性が向上する。また、表面実装タイプの電子部品を実装する場合には、基板上の電子部品の実装密度を高めて基板上の配線長（パターンの長さ）を短くして回路の高

速化を図ることができるというメリットを有する一方で、基板の変形に弱く、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）るおそれを有するが、表面実装タイプの電子部品が実装される基板において、補強部材１３１６によって基板の剛性の向上を図ることにより、基板上の電子部品の実装密度を高めて基板上の配線長（パターンの長さ）を短くして回路の高速化を図りつつも、基板の変形を抑制して表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制でき、パチンコ機１の信頼性が向上するという効果を有する。

【５５５７】

なお、補強部材１３１６の一方の端部が挿入される２つのスルーホールのうち少なくとも１つについては、十字形状のパターンによりベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））に接続されるサーマルランドとしてもよい。上記したようにサーマルランドでは通常のランドと比べてベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））に熱が伝わり難くなり、電子部品をハンダ付けする際の温度低下が抑制され（放熱が抑制されて）、スルーホールによって主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）に付けられたハンダを主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘ側まで確実に吸い上げることができるため、補強部材１３１６の溶着を強固にすることができる。また、補強部材１３１６の２つの端部が挿入される２つのスルーホールの両方ともにサーマルランドを有するものとしてもよいし、一方のスルーホールのみサーマルランドを有するものとし、他方のスルーホールについては通常のランドを有するものとしてもよい。

【５５５８】

また、図３７１（Ａ）に示すように、主制御基板１３１０に実装される表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１は、接続端子ＩＣ１ａが主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに形成されるパッド１３１０ｋ（図３６４（Ａ）のハッチング部分）にハンダ付けされ、表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１に対して、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接（他の電子部品をはさむことなしに隣り合うように配置されるものであればよく、電子部品以外のスルーホールやランド１３１０ｓ、ビア、テストポイント等については設けられていてもよい）して補強部材１３１６が配置するようになっている。本例では複数のパッド１３１０ｋが主制御基板１３１０の長手方向（主制御基板１３１０がパチンコ機１に設置された状態では水平方向）の辺と平行となるように形成され、チップ部品ＩＣ１の複数の接続端子ＩＣ１ａそれぞれを対応するパッド１３１０ｋにハンダ付けすることによりチップ部品ＩＣ１の接続端子ＩＣ１ａが主制御基板１３１０の長手方向（主制御基板１３１０がパチンコ機１に設置された状態では水平方向）の辺と平行となるように実装される。

【５５５９】

そして、表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１に対して、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接して配置する補強部材１３１６は、鉄や銅またはそれらの合金からなり（銅メッキされた鉄線をさらに錫メッキしたＣＰ線や、錫メッキされたＣｕ線等）、所定の曲げ強度を有している。すなわち、補強部材１３１６の２本の脚部分をスルーホール１３１０ｒ内に挿入して補強部材１３１６をスルーホール１３１０ｒやランド１３１０ｓにハンダ付けして主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに固定することにより、主制御基板１３１０の剛性を高め、反りなどの変形を抑制できる。なお、鉄は銅よりも曲げ強度が高いため、鉄又は鉄合金からなる補強部材１３１６を用いることが望ましい。

【５５６０】

このように、本例では表面実装タイプの電子部品に対して、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）特定方向に隣接して、補強部材１３１６を実装することで主制御基板１３１０の剛性を部分的に高めることができ、主制御基板１３１０のうちの表面実装タイプの電子部品が実装される領域の反りなどの変形を抑制し、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）る

ことを抑制できるようになっている。
【５５６１】
　また、本例では表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１に対して、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）特定方向（例えばチップ部品ＩＣ１よりも主制御基板１３１０の上辺や、左辺、下辺、右辺に近い側）に隣接する補強部材１３１６は、表面実装タイプの電子部品よりも背が高くされる（主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘからの突出量が大きい）。そのため、表面実装タイプの電子部品であるチップ部品ＩＣ１に対して特定方向からの衝撃が加わることを抑制でき、表面実装タイプの電子部品であるチップ部品ＩＣ１が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることが抑制される。
【５５６２】
　また、本例では補強部材１３１６を実装するために形成される２つのスルーホール１３１０ｒの中心を結んだ直線が、主制御基板１３１０の短手方向（主制御基板１３１０がパチンコ機１に設置された状態では垂直方向）と略平行となるように形成されて、補強部材１３１６が主制御基板１３１０の短手方向の辺と略平行となるように配置される。そのため、このスルーホール１３１０ｒに挿入されて主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに溶着される補強部材１３１６によって主制御基板１３１０の長手方向の辺（主制御基板１３１０の４辺のうち長さが長い組み合わせの辺）に平行な直線（主制御基板１３１０がパチンコ機１に設置された状態では水平方向）を軸とする曲げや反りを抑制することができることに加え、特定方向として補強部材１３１６が実装された主制御基板１３１０の短手方向の辺（主制御基板１３１０の４辺のうち長さが短い組み合わせの辺）の側方からの衝撃が直接表面実装タイプの電子部品に加わることを抑制でき、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制してパチンコ機１の信頼性を向上させることができる。
【５５６３】
　従来、主制御基板１３１０にはリードタイプの電子部品のみが実装されていたが、近年ではリードタイプの電子部品に対する需要が激減し、廃盤となるものが多数ある。また、リードタイプの電子部品のみが実装される従来の主制御基板１３１０においては、電子部品の大きさが表面実装タイプの電子部品と比べて大きいため、電子部品の実装密度を高めることが困難であり、基板上の配線長（パターンの長さ）を短くすることが困難であることから回路の高速化を図ることが難しいという問題もあった。
【５５６４】
　上記の問題は、従来の主制御基板１３１０において実装されていたリードタイプの電子部品を全て表面実装タイプの電子部品と入れ替えることによって解決可能である。しかしながら、主制御基板１３１０に実装される電子部品を全て表面実装タイプの電子部品に変更した場合には、基板の反りなどの変形に弱く、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）るおそれがあり、このような電子部品の剥がれ落ち（実装剥がれ）が生じた場合にはパチンコ機１の信頼性を低下させるおそれがある。
【５５６５】
　主制御基板１３１０は、賞球に関わる抽選（当り判定処理（ステップＳ３０５）等）等の遊技の進行を制御する重要な基板であるため、電子部品が剥がれ落ちてしまった場合には遊技者や遊技店に不利益を与えるおそれがあり、表面実装タイプの電子部品による実装密度の向上との両立が困難であった。
【５５６６】
　そこで、本例のパチンコ機１では従来主制御基板１３１０に実装されていたリードタイプの電子部品を表面実装タイプの電子部品に変更しつつも、補強部材１３１６を主制御基板１３１０に溶着することによって補強することで、主制御基板１３１０の剛性を高めて反りなどの基板の変形を抑制し、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制するようになっている。
【５５６７】

なお、主制御基板１３１０などの基板に実装される電子部品として表面実装タイプの電子部品（表面実装電子部品）と、補強部材１３１６と、を含むものであればよく、これらに加えて、リードタイプの電子部品（リードタイプのコネクタ、設定キースイッチ１３１１ａ、等）が実装されていてもよい。この場合には補強部材１３１６による基板の剛性向上に加えて、さらにリードタイプの電子部品による基板の剛性向上を図ることができ、パチンコ機１の信頼性が向上する。また、この場合には補強部材１３１６としてリード線を用いるようにしてもよい。

【５５６８】

また、上記した例では表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１の４つの側面のうち接続端子ＩＣ１ａが形成されていない２つの対向する側面の一方の側面側に補強部材１３１６を配置したが、これに限られるものではなく例えば図３７１（Ｂ）に示すように表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１の４つの側面のうち接続端子ＩＣ１ａが形成されている２つの対向する側面の一方の側面側に補強部材１３１６を配置するようにしてもよいし、図３７１（Ｃ）に示すように表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１の４つの側面のうち接続端子ＩＣ１ａが形成されていない２つの対向する側面側に補強部材１３１６をそれぞれ配置するようにしてもよいし、図３７１（Ｄ）に示すように表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１の４つの側面のうち接続端子ＩＣ１ａが形成されている２つの対向する側面側に補強部材１３１６をそれぞれ配置するようにしてもよいし、図３７１（Ｅ）に示すように表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１の４つの側面のうち接続端子ＩＣ１ａが形成されていない２つの対向する側面の一方の側面側に補強部材１３１６を配置するようにしてもよいし、図示しないが表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１の４つの側面のうち接続端子ＩＣ１ａが形成されていない２つの対向する側面の一方の側面側に補強部材１３１６を１つずつ配置するようにしてもよいし、図示しないが表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１の４つの側面のうち接続端子ＩＣ１ａが形成されていない２つの対向する側面側に補強部材１３１６を１つずつ配置するようにしてもよいし、図示しないが表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１の４つの側面のうち接続端子ＩＣ１ａが形成されていない２つの対向する側面側に補強部材１３１６を２つずつ配置するようにしてもよい。これらの場合にも主制御基板１３１０の曲げや反りを抑制することができることに加え、特定方向からの衝撃が表面実装タイプの電子部品に加わることを抑制でき、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制できる。また、表面実装タイプの電子部品の側面の対向する２つの側面側にリードタイプの電子部品をそれぞれ配置した場合には、１つの側面側にのみリードタイプの電子部品を配置した場合よりも主制御基板１３１０の曲げや反りを抑制することができ、さらに２方向から表面実装タイプの電子部品を保護して衝撃が加わることを抑制でき、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることをより強く抑制することが可能になる。

【５５６９】

また、図３７１（Ａ）に示すものと、図３７１（Ｂ）に示すものと、図３７１（Ｃ）に示すものと、図３７１（Ｄ）に示すものと、図３７１（Ｅ）に示すものと、図示しないが表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１の４つの側面のうち接続端子ＩＣ１ａが形成されていない２つの対向する側面の一方の側面側に補強部材１３１６を１つずつ配置するものとのうちの１つ又は２つ以上の複数の組み合わせを含むものであってもよい。この場合には実装される表面実装タイプの電子部品の重要度や剥がれ落ち（実装剥がれ）易さ、基板の反り易さ等によって適宜選択して配置して主制御基板１３１０の剛性を部分的に高めることができ、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることが抑制される。

【５５７０】

また、重要な電子部品としての特定の表面実装電子部品（例えばＩＣ）と補強部材１３１６との組み合わせを主制御基板１３１０の略全域に配置してもよく、この場合には主制御基板１３１０の略全域に亘って曲げや反りを抑制することが可能になり、表面実装タイ

プの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制することができる。すなわち、重要な電子部品としての特定の表面実装電子部品（例えばＩＣ）と補強部材１３１６との組み合わせを主制御基板１３１０における実装面１３１０ｘの一部に配置するものに限らず、特定の表面実装電子部品（例えばＩＣ）と補強部材１３１６との組み合わせを主制御基板１３１０における実装面１３１０ｘの略全域に亘って配置する（規則的に配置されるものに限らず、不規則に配置されるものであってもよい）ようにしてもよい。例えば、主制御基板１３１０の長手方向の辺をｎ等分（ｎ＝２～８程度）することによって区画された実装面１３１０ｘそれぞれの領域（例えば図３６５の垂直分割線Ｙ－Ｙによって二等分される主制御基板１３１０の左側領域と右側領域）に対して特定の表面実装電子部品（例えばＩＣ）と補強部材１３１６との組み合わせを少なくとも１組配置したり、主制御基板１３１０の長手方向の辺をｎ等分（ｎ＝２～８程度）するとともに短手方向の辺をｍ等分（ｍ＝２～４程度）することによって区画された実装面１３１０ｘそれぞれの領域（例えば図３６５の垂直分割線Ｙ－Ｙと水平分割線Ｘ－Ｘによって四等分される主制御基板１３１０の各領域）に対して特定の表面実装電子部品（例えばＩＣ）と補強部材１３１６との組み合わせを少なくとも１組配置することにより、主制御基板１３１０における実装面１３１０ｘの略全域に亘って特定の表面実装電子部品（例えばＩＣ）と補強部材１３１６との組み合わせを配置するようにしてもよい。これにより、特定の表面実装電子部品（例えばＩＣ）の剥がれ落ち（実装剥がれ）を抑制できることに加えて、主制御基板１３１０の略全域に亘って反りなどの変形を抑制でき、特定の表面実装電子部品（例えばＩＣ）以外の表面実装タイプの電子部品についても剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制できるようになり、パチンコ機１の信頼性がさらに向上する。また、本例の主制御基板１３１０は横長矩形状を有するものであるため、主制御基板１３１０の長手方向の辺を分割する分割線と短手方向の辺を分割する分割線とは直交し、分割線によって主制御基板１３１０は複数の矩形状の領域に区画される。

【５５７１】

また、補強部材１３１６を主制御基板１３１０の略全域に配置してもよく、この場合には主制御基板１３１０の略全域に亘って曲げや反りを抑制することが可能になり、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制することができる。すなわち、重要な電子部品としての特定の表面実装電子部品（例えばＩＣ）に対して、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接するように補強部材１３１６を配置するものに限らず、補強部材１３１６を単体で主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘの略全域に亘って配置するようにしてもよいし、特定の表面実装電子部品に対して、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接するように配置される補強部材１３１６と、単体で配置される補強部材１３１６と、を主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘの略全域に亘って配置するようにしてもよい。例えば、主制御基板１３１０の長手方向の辺をｎ等分（ｎ＝２～８程度）することによって区画された実装面１３１０ｘそれぞれの領域（例えば図３６５の垂直分割線Ｙ－Ｙによって二等分される主制御基板１３１０の左側領域と右側領域）に対して補強部材１３１６を少なくとも１つ配置したり、主制御基板１３１０の長手方向の辺をｎ等分（ｎ＝２～８程度）するとともに短手方向の辺をｍ等分（ｍ＝２～４程度）することによって区画された実装面１３１０ｘそれぞれの領域（例えば図３６５の垂直分割線Ｙ－Ｙと水平分割線Ｘ－Ｘによって四等分される主制御基板１３１０の各領域）に対して補強部材１３１６を少なくとも１つ配置することにより、主制御基板１３１０における実装面１３１０ｘの略全域に亘って補強部材１３１６を配置するようにしてもよい。このように、補強部材１３１６が主制御基板１３１０の略全域に亘って配置されることにより、主制御基板１３１０の剛性が高まるため、曲げや反り等の基板の変形が抑制され、表面実装タイプの特定の表面実装電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑止することができる。

【５５７２】

なお、主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘの略全域に亘って補強部材１３１６又は

重要な電子部品としての特定の表面実装電子部品（例えばＩＣ）と補強部材１３１６との組み合わせを配置する場合であっても、区画された実装面１３１０ｘそれぞれの領域のうちの表面実装タイプの電子部品が全く実装されない領域については補強部材１３１６又は重要な電子部品としての特定の表面実装電子部品（例えばＩＣ）と補強部材１３１６との組み合わせを実装しないようにしてもよい。

【５５７３】

また、図３７１に示す例では、補強部材１３１６の２本の脚部それぞれが挿入される２つのスルーホール１３１０ｒ（ランド１３１０ｓを含む）の間隔（ランド１３１０ｓの最も外側の縁の間隔でも良いし、スルーホール１３１０ｒの中心の間隔でも良い）を、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接する表面実装タイプの電子部品が収まる程度（表面実装タイプの電子部品の接続端子ＩＣ１ａを除いた本体部の外形（短手辺の幅）と同程度もしくは接続端子ＩＣ１ａを除いた本体部の外形（短手辺の幅）よりも広い間隔）としている。そのため、補強部材１３１６によって剛性が高められている領域内に表面実装タイプの電子部品全てが配置するようになり、主制御基板１３１０のうちの表面実装タイプの電子部品が実装される領域（表面実装タイプの電子部品が載置されている領域）全てに対して反りなどの変形を抑制できるし、特定方向からの衝撃を補強部材１３１６で防ぎ、表面実装タイプの電子部品に衝撃が加わることを抑制できるため、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制できる。

【５５７４】

またこの場合には、チップ部品ＩＣ１の向かい合う長手方向の辺に沿って形成される１組の接続端子ＩＣ１ａそれぞれがハンダ付けされるパッド１３１０ｋそれぞれの略延長線上に２つのスルーホール１３１０ｒを形成してこの２つのスルーホール１３１０ｒそれぞれに補強部材１３１６の脚部を挿入して主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに溶着するようにしてもよい。この場合には、主制御基板１３１０の長手方向の辺に平行な直線を軸とする曲げや反りを補強部材１３１６によって抑制する際に、チップ部品ＩＣ１の接続端子ＩＣ１ａにかかる力を補強部材１３１６によって抑制でき、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制して、遊技機の信頼性を向上させることができるようになっている。なお、パッド１３１０ｋそれぞれの略延長線上に２つのスルーホール１３１０ｒのランド１３１０ｓの一部が重なるようにスルーホール１３１０ｒが形成されるか、または２つのスルーホール１３１０の間隔内に上下のパッド１３１０ｋが収まる（パッド１３１０ｋそれぞれの略延長線の外側に２つのスルーホール１３１０が形成される）ように形成されるようにしてもよく、この場合にもチップ部品ＩＣ１の接続端子ＩＣ１ａにかかる力を補強部材１３１６によって抑制でき、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制して、パチンコ機１の信頼性を向上させることができる。

【５５７５】

また、補強部材１３１６の２本の脚部それぞれが挿入される２つのスルーホール１３１０ｒ（ランド１３１０ｓを含む）の間隔（ランド１３１０ｓの最も外側の縁の間隔でも良いし、スルーホール１３１０ｒの中心の間隔でも良い）と、チップ部品ＩＣ１の本体を挟んで向かい合う１組の長手辺それぞれに沿って設けられる１組の接続端子ＩＣ１ａのＩＣ１本体を挟んだ短手方向の間隔と、を同程度とするものであってもよい。また、チップ部品ＩＣ１の向かい合う１組の長手辺それぞれに沿って設けられる１組の接続端子ＩＣ１ａのＩＣ１本体を挟んだ短手方向の間隔は、チップ部品ＩＣ１の本体を挟んで向かい合う１組の長手辺それぞれに沿って設けられる１組の接続端子ＩＣ１ａが接続される１組のパッド１３１０ｋのチップ部品ＩＣ１の本体に近い側の端部（１組のパッド１３１０ｋの内側）の間隔としても良いし、１組のパッド１３１０ｋのチップ部品ＩＣ１の本体から遠い側の端部（１組のパッド１３１０ｋの外側）の間隔としても良い。つまり１組のパッド１３１０ｋのチップ部品ＩＣ１の本体に近い側の端部（１組のパッド１３１０ｋの内側）とチップ部品ＩＣ１の本体から遠い側の端部（１組のパッド１３１０ｋの外側）との間のうち

の任意の位置の間隔としてもよい。
【５５７６】
　また、補強部材１３１６の２本の脚部それぞれについて、２か所以上の折り曲げ部を有するクランク形状とすることにより、補強部材１３１６が挿入される２つのスルーホール１３１０ｒそれぞれのランド１３１０ｓの間隔を、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接する表面実装タイプの電子部品が収まる程度（表面実装タイプの電子部品の接続端子ＩＣ１ａを除いた本体部の外形（短手辺の幅）と同程度もしくは接続端子ＩＣ１ａを除いた本体部の外形（短手辺の幅）よりも広い間隔）としてもよい。また、補強部材１３１６の２本の脚部それぞれについて、２か所以上の折り曲げ部を有するように構成することにより、補強部材１３１６の曲げ強度が高まるため、主制御基板１３１０などの基板の剛性をさらに高めることができ、反りなどの変形が抑制されてパチンコ機１の信頼性がさらに向上する。
【５５７７】
　また、上記した例では２本の脚部を有する補強部材１３１６が一体形成されるものを示したが、補強部材１３１６を、分離した２本の脚部と、別部品（例えば表面実装タイプの電子部品（チップ部品）等）と、により構成し、２本の脚部それぞれについて一方の端部側をハンダ等により別部品に溶着することにより構成するようにしてもよい。鉄や銅またはそれらの合金（銅メッキされた鉄線をさらに錫メッキしたＣＰ線や、錫メッキされたＣｕ線等）からなる２本の脚部と、この脚部よりも曲げ強度が高い部品と、から補強部材１３１６を構成することにより、鉄や銅またはそれらの合金（銅メッキされた鉄線をさらに錫メッキしたＣＰ線や、錫メッキされたＣｕ線等）で構成される補強部材１３１６のみを設ける場合に比べて、補強部材１３１６の曲げ強度を高めることでき、チップ部品ＩＣ１の接続端子ＩＣ１ａにかかる力を補強部材１３１６によって抑制して、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制することができる。これによりパチンコ機１の信頼性が向上する。
【５５７８】
　また、補強部材１３１６を、分離した２本の脚部と、別部品（例えば表面実装タイプの電子部品（チップ部品）等）と、により構成し、２本の脚部それぞれについて一方の端部側をハンダ等により別部品に溶着することにより構成する場合に、分離した２本の脚部それぞれについて２か所以上の折り曲げ部を有するクランク形状としてもよい。補強部材１３１６の２本の脚部それぞれについて、２か所以上の折り曲げ部を有するように構成することにより、鉄や銅またはそれらの合金（銅メッキされた鉄線をさらに錫メッキしたＣＰ線や、錫メッキされたＣｕ線等）からなる２本の脚部についての曲げ強度が高まることに加えて、鉄や銅またはそれらの合金（銅メッキされた鉄線をさらに錫メッキしたＣＰ線や、錫メッキされたＣｕ線等）で構成される補強部材１３１６のみを設ける場合に比べて、脚部よりも曲げ強度が高い部品によって補強部材１３１６の曲げ強度を高めることでき、チップ部品ＩＣ１の接続端子ＩＣ１ａにかかる力を補強部材１３１６によって抑制して、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制することができる。これによりパチンコ機１の信頼性が向上する。
【５５７９】
　なお、補強部材１３１６を、分離した２本の脚部と、別部品（例えば表面実装タイプの電子部品（チップ部品）等）と、により構成し、２本の脚部のそれぞれについて一方の端部側をハンダ等により別部品に溶着することにより構成する場合に、別部品として表面実装タイプの電子部品（チップ部品）を用いてもよく、この場合には、鉄や銅またはそれらの合金（銅メッキされた鉄線をさらに錫メッキしたＣＰ線や、錫メッキされたＣｕ線等）で構成されて補強部材１３１６の分離した２本の脚部について導電性を有するものとし、補強部材１３１６の分離した２本の脚部をリード端子として機能させるようにしてもよい。また、この場合には、別部品の表面実装タイプの電子部品（チップ部品）として例えば上記した表面実装タイプのチップコンデンサＭＣ１'を用いるようにしてもよいしダイオードや抵抗などを用いるようにしてもよい。また、この場合には補強部材１３１６の２本

の脚部がハンダ付けされるチップコンデンサＭＣ１'の電極ＭＣ１ａ'の部位等について不正の判別容易性の向上３と同様の構成を採用するようにしてもよい。例えば、表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'の電極ＭＣ１ａ'のうち、チップコンデンサＭＣ１'の最も広い面の一部を構成する部分に沿うように補強部材１３１６の２本の脚部を設けた状態で補強部材１３１６の２本の脚部のそれぞれについて一方の端部側をハンダ等により電極ＭＣ１ａ'に溶着するように構成してもよいし、表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'の電極ＭＣ１ａ'のうち、チップコンデンサＭＣ１'の最も広い面に隣接し、かつ主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに対して垂直に設けられる最も狭い面の一部を構成する部分に沿うように補強部材１３１６の２本の脚部を設けた状態で補強部材１３１６の２本の脚部のそれぞれについて一方の端部側をハンダ等により電極ＭＣ１ａ'に溶着するものであってもよい。また、チップコンデンサＭＣ１'の電極ＭＣ１ａ'に沿うように補強部材１３１６の２本の脚部を設けた状態で補強部材１３１６の２本の脚部のそれぞれについて一方の端部側をハンダ等により電極ＭＣ１ａ'に溶着することにより、補強部材１３１６の脚部とチップコンデンサＭＣ１'の電極ＭＣ１ａ'との接触面積が増加し、補強部材１３１６の脚部とチップコンデンサＭＣ１'の電極ＭＣ１ａ'との溶着を強固にすることができるため補強部材１３１６の脚部がチップコンデンサＭＣ１'の電極ＭＣ１ａ'から外れ難くなる。これにより、基板の剛性をさらに高めることができる。

【５５８０】

また、表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'の２つの電極ＭＣ１ａ'それぞれに補強部材１３１６の２本の脚部を溶着して補強部材１３１６をスルーホール１３１０ｒに半田付けすることにより、チップコンデンサＭＣ１'の２つの電極ＭＣ１ａ'よりも補強部材１３１６の２本の脚部の間隔を広げるようにしてもよく、例えば、表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'の電極ＭＣ１ａ'のうち、チップコンデンサＭＣ１'の最も広い面に隣接し、かつ主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに対して垂直に設けられる最も狭い面の一部を構成する部分に沿うように補強部材１３１６の２本の脚部を設けた状態で補強部材１３１６の２本の脚部のそれぞれについて一方の端部側をハンダ等により電極ＭＣ１ａ'に溶着し、重要な電子部品としての特定の表面実装電子部品（例えばＩＣ）に対して、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接して配置するようにしてもよい。

【５５８１】

この場合には、図３７１（Ａ）と同様に重要な電子部品としての特定の表面実装電子部品（例えばＩＣ１）の短手辺と表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'の長手辺とが略平行となるようにチップコンデンサＭＣ１'の２つの電極ＭＣ１ａ'それぞれに補強部材１３１６の２本の脚部を溶着して補強部材１３１６をスルーホール１３１０ｒに半田付けするようにしてもよいし、図３７１（Ｂ）と同様に重要な電子部品としての特定の表面実装電子部品（例えばＩＣ１）の長手辺と表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'の長手辺とが略平行となるようにチップコンデンサＭＣ１'の２つの電極ＭＣ１ａ'それぞれに補強部材１３１６の２本の脚部を溶着して補強部材１３１６をスルーホール１３１０ｒに半田付けするようにしてもよい

【５５８２】

これにより、主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘのうちの補強部材１３１６の２本の脚部によって挟まれる領域を、チップコンデンサＭＣ１'単体で主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに実装する場合に比べて広げることができ、この補強部材１３１６の２本の脚部によって挟まれた領域と該領域の周囲の領域について剛性を強化することが可能になるため、主制御基板１３１０の反りなどの変形を抑制して、補強部材１３１６の２本の脚部によって挟まれた領域に隣接して配置する重要な電子部品としての特定の表面実装電子部品（例えばＩＣ１）が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制できるようになり、パチンコ機１の信頼性がさらに向上する

【５５８３】
なお、チップコンデンサＭＣ１'の２つの電極ＭＣ１ａ'よりも補強部材１３１６の２本の脚部の間隔を広げる場合には、表面実装タイプの電子部品としてのチップコンデンサＭＣ１'の電極ＭＣ１ａ'のうち、チップコンデンサＭＣ１'の最も広い面に隣接し、かつ主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに対して垂直に設けられる最も狭い面の一部を構成する部分に沿うように補強部材１３１６の２本の脚部を設けた状態で補強部材１３１６の２本の脚部のそれぞれについて一方の端部側をハンダ等により電極ＭＣ１ａ'に溶着することに加えて、又はこれとは別に、補強部材１３１６の２本の脚部それぞれについて、２か所以上の折り曲げ部を有するクランク形状とすることにより、補強部材１３１６の２本の脚部の間隔を広げるようにしてもよい。この場合には、補強部材１３１６の２本の脚部の間隔を広げることができることに加えて、補強部材１３１６の曲げ強度が高まるため、主制御基板１３１０などの基板の剛性をさらに高めることができ、反りなどの変形が抑制されてパチンコ機１の信頼性がさらに向上する。
【５５８４】
また、補強部材１３１６を構成する別部品の表面実装タイプの電子部品（チップ部品）として、主制御基板１３１０に実装されるリードタイプの電子部品を表面実装タイプに変更した場合に、主制御基板１３１０に実装される表面実装タイプの電子部品の中で最も小さくなる電子部品（例えばコンデンサや抵抗など）や、主制御基板１３１０に実装される表面実装タイプの電子部品の中で相対的に小さいサイズの電子部品（主制御基板１３１０に実装される表面実装タイプの電子部品の平均よりも小さいサイズの電子部品）、接続端子の数が少ない電子部品（例えばＩＣ１の接続端子ＩＣ１ａよりも少ない電極ＭＣ１ａ'を有するチップコンデンサＭＣ１'や抵抗等）等を用いるようにしてもよい。すなわち、表面実装タイプの電子部品はそのサイズ（体積、容積、表面積のうちのいずれか）が小さいほど、基板にハンダ付けされる電極（パッド）の面積が小さくなるため、反りなどの基板の変形が生じた場合には最も剥がれ落ち（実装剥がれ）し易いものであるため、最もサイズの小さい電子部品や主制御基板１３１０に実装される表面実装タイプの電子部品の中で相対的に小さいサイズの電子部品（主制御基板１３１０に実装される表面実装タイプの電子部品の平均よりも小さいサイズの電子部品）を補強部材１３１６の一部として用いることにより、反りなどの基板の変形を抑制できることに加えて、基板の変形が生じた場合に剥がれ落ち（実装剥がれ）易い電子部品を保護することができる。
【５５８５】
また、上記したように表面実装タイプの電子部品は、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに設けられたパッドに電極をハンダ付けすることで、電子部品の表面のうちの最も広い面が基板に対して水平となるように設けられるが、補強部材１３１６を構成する別部品として表面実装タイプの電子部品（チップ部品）を用いる場合には、補強部材１３１６の取り付け状態で表面実装タイプの電子部品の最も広い面が基板に対して垂直となるように設けるようにしてもよい。このように構成することにより、補強部材１３１６の脚部と表面実装タイプの電子部品の電極との接触面積が増加し、補強部材１３１６の脚部と表面実装タイプの電子部品の電極との溶着を強固にすることができるし、表面実装タイプの電子部品の主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに対向する面をより面積の小さい面に変更することが可能となるため、実装密度を高めて配線パターンを短くすることができ、これによって回路の高速化を図ることができる。
【５５８６】
また、補強部材１３１６を、分離した２本の脚部と、別部品（例えば表面実装タイプの電子部品（チップ部品）等）と、により構成し、２本の脚部のそれぞれについて一方の端部側をハンダ等により別部品に溶着することにより構成する場合には、少なくとも別部品と、補強部材１３１６の２本の脚部のうちの別部品と溶着される一方の端部側部分と、を樹脂（エポキシ樹脂等）等によりモールディング（ 樹脂によってチップコンデンサＭＣ１'と外部を電気的に絶縁して封止）するようにしてもよい。補強部材１３１６の２本の脚部のうちの別部品と溶着される一方の端部側部分を樹脂等によって覆うことによって、

補強部材１３１６の２本の脚部のうちの別部品と溶着される部分を保護して溶着部分にいたずらや不正等がされることを抑制できるし、別部品と補強部材１３１６の２本の脚部との溶着を樹脂等によって補強することができる。また、モールディングによって表面実装タイプの電子部品（チップ部品）等の別部品を完全に覆すことにより、リードタイプの電子部品との区別を困難にし、いたずらや不正行為により表面実装タイプの電子部品（チップ部品）等の別部品が物理的な破壊され難くすることができる。

【５５８７】

また、補強部材１３１６を構成する別部品の表面実装タイプの電子部品（チップ部品）はその表面に捺印部が形成されていないものであってもよい。すなわち、表面積が小さい表面実装タイプの電子部品を、補強部材１３１６を構成する別部品として用いた場合には捺印部を形成することが困難である。この場合には、少なくとも別部品と、補強部材１３１６の２本の脚部のうちの別部品と溶着される部分と、を樹脂（エポキシ樹脂等）等によりモールディングし、別部品の周囲を覆う樹脂（エポキシ樹脂等）等により形成されるラグビーボールのような曲面形状の表面に捺印部を形成するようにしてもよい。また、この場合には表面実装タイプの電子部品（チップ部品）の基板に対して垂直となる面に対応する樹脂部分の表面に捺印部を形成するようにしてもよい。この場合に、補強部材１３１６の取り付け状態で表面実装タイプの電子部品の最も広い面が基板に対して垂直となるように設けることにより、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘを真上から視認（正面視）しても捺印部を視認され難くさせることができ、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに対して垂直方向から目視した場合には捺印部が視認困難になり、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに対して水平方向から視認した場合に捺印部を視認容易にすることができるため、不正行為を行う者が捺印部を参照することが困難になり、電子部品を特定できないことでいたずらなどの抑止効果が高まる。

【５５８８】

また、主制御基板１３１０などの基板に表面実装タイプの電子部品（表面実装電子部品）と、補強部材１３１６と、を実装するものであればよく、これらに加えて、リードタイプの電子部品（リードタイプのコネクタ、設定キースイッチ１３１１ａ、等）が実装されていてもよい。この場合には補強部材１３１６による基板の剛性向上に加えて、さらにリードタイプの電子部品による基板の剛性向上を図ることができ、パチンコ機１の信頼性がさらに向上する。

【５５８９】

例えば、基板の一辺に対する垂線に、補強部材１３１６とリードタイプの電子部品（リードタイプのコネクタ、設定キー設定キースイッチ１３１１ａ、等）とを重なるように設けるとともに、この補強部材１３１６とリードタイプの電子部品との間であって、該垂線が重なるように表面実装タイプの電子部品が設けられるようにしてもよい。この場合には、補強部材１３１６とリードタイプの電子部品との間における基板の剛性を高めて曲げや反りを抑制することができ、この剛性が高められた領域に位置する表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制できる。

【５５９０】

また、表面実装タイプの電子部品の剥離防止１と同様に、補強部材１３１６を主制御基板１３１０の略全域に配置してもよく、この場合には主制御基板１３１０の略全域に亘って曲げや反りを抑制することが可能になり、これによって表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制することができる。

【５５９１】

なお、表面実装タイプの電子部品の剥離防止４は、上記した表面実装タイプの電子部品の剥離防止１～表面実装タイプの電子部品の剥離防止３と組み合わせて使用することも可能であるし、上記した表面実装タイプの電子部品の剥離防止１と同一条件で使用することにより同一の作用効果を奏することも可能である。すなわち、表面実装タイプの電子部品の剥離防止１～表面実装タイプの電子部品の剥離防止３においてコンデンサＭＣ１とされる部分を補強部材１３１６と読み替えることが可能である。

【５５９２】
　また、上記した表面実装タイプの電子部品の剥離防止１～表面実装タイプの電子部品の剥離防止４では主に主制御基板１３１０に実装される電子部品について説明したが、主制御基板１３１０に限らず、払出制御基板６３３や周辺制御基板１５１０等、表面実装タイプの電子部品が実装される基板であれば適用可能である。
【５５９３】
［主側基板］
　次に主側基板（本例では主制御基板１３１０、払出制御基板６３３であるが、遊技機の機能等に応じて他の基板を追加したり、一部（例えば払出制御基板６３３）を他の基板に変更してもよい。）や、主側基板が出力する信号によって直接制御されるＬＥＤを備える基板（例えば機能表示基板１４０２等）、主側基板に検出信号を出力するセンサ等が搭載される基板（例えば磁気センサ１０５０に内蔵される磁気センサ基板１０５０、振動センサに内蔵される振動センサ基板等）等の遊技の進行に関わる重要な制御を実行する主側基板について説明する。なお、以下では上記した実施形態と重複する部分についての説明を行わない。
【５５９４】
　本実施形態の主側基板において、主制御基板１３１０や払出制御基板６３３等は、表実装面（主制御基板１３１０の電子部品が実装される実装面（表面）１３１０ｘ、払出制御基板６３３の電子部品が実装される実装面（表面））が遊技者とは反対側に向けられた状態でパチンコ機１の裏面側に設けられて遊技者側からは目視不可能とされているのに対し（パチンコ機１の裏面側からアクセス可能とされてパチンコ機１の表面側からアクセス不能に設けられている）、これらの基板よりも遊技者側に設けられる主側基板、例えば機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２や、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等は（パチンコ機１の表面側からアクセス可能とされてパチンコ機１の裏面側からアクセス不能に設けられている）、遊技者側から目視されるおそれがある。なお、表実装面とは装置や機器に設けられる基板の面のうち、予め決められている機能を実現するための電子部品が実装される面を示すものであり、例えば機能表示基板１４０２ではＬＥＤ１４０１の実装される面、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板ではＩＣ等の実装される面、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板ではＩＣ等の実装される面、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板ではＩＣ等の実装される面、を示すものである。
【５５９５】
　また、機能表示ユニット１４００や磁気センサ１０５０、第一始動口２００２、第二始動口２００４等の装置や機器等は、一部が遊技者側から目視可能とされるものであってもよいし、透明な遊技盤５に埋設されて目視可能とされるものや、透明な遊技盤５の後面側に設けられるもの、不透明な遊技盤５に形成された孔等を介して目視可能とされるものであってもよいし、不透明な遊技盤５の後面側に設けられて遊技者側から視認が困難にされるものであってもよい。
【５５９６】
　また、遊技盤５の表側に設けられる機能表示ユニット１４００（表実装面が遊技者とは反対側には向けられていない）に設けられる機能表示基板１４０２や、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等は、実装面（表面）が遊技者側を向けられるものに限らず、遊技者とは反対側以外の方向（例えばパチンコ機１の左右又は上下方向のいずれか等）に向けられるものであってもよい。
【５５９７】
　例えば、表実装面と裏実装面とは異なる端面部（表実装面と裏実装面との間の基材部分

の面）が遊技者側を向くように基板をパチンコ機１に設けることにより、基板の表実装面と裏実装面とのいずれもが遊技者側を向かないようにして基板に実装される電子部品や回路情報を読み取られ難くするようにしてもよい。また、基板の端面部は基板の厚みに相当する部分であり、一般的な基板の厚みは１．６ｍｍ程度であるため、基板の端面部が遊技者側を向くように配置することにより、基板そのものの存在に気づかれ難くなる。

【５５９８】

具体的には、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板の表実装面と裏実装面とがそれぞれパチンコ機１の左方向と右方向とを向くように垂直方向に配置して端面部が遊技者側を向くように配置したり、磁気センサ基板の表実装面と裏実装面とがそれぞれパチンコ機１の上方向と下方向とを向くように水平方向に配置して端面部が遊技者側を向くように配置した場合には、遊技者からは磁気センサ基板の表実装面と裏実装面とを視認困難にすることができ、磁気センサ基板の端面部については容易に視認できる状態であったとしても１．６ｍｍ程度と極めて薄いものであることから磁気センサ基板そのものの存在を気付かれ難い。

【５５９９】

このように、遊技盤５の表側に設けられる機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２や、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板において、基板の端面部が遊技者側を向くように基板を配置することにより、基板そのものの存在を隠匿するようにしてもよく、このように構成することによりいたずらや不正対策を図ることができる。

【５６００】

また、上記したように本例では表実装面（主制御基板１３１０の電子部品が実装される実装面（表面）１３１０ｘ）が遊技者とは反対側に向けられた状態でパチンコ機１の裏面側に設けられて表面実装タイプの電子部品が実装される主制御基板１３１０は、上記表面実装タイプの電子部品の剥離防止１～３の構成のうちの一つ乃至複数（全部でも良い）の構成を採用することや複数の封印機構を有する主制御基板ボックス１３２０に収容されて封印機構を解除しなければ主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装される電子部品に触れることができないように構成されることにより主制御基板１３１０の剛性を高めて表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制するようになっている。主制御基板１３１０はパチンコ機１の裏面側に設けられて本体枠４を外枠２に対して開放することによってのみ主制御基板１３１０が収容される主制御基板ボックス１３２０に触れることが可能とされるため、経年劣化等による主制御基板１３１０の反りなどの変形を抑止できる程度の補強がなされる。

【５６０１】

一方、主制御基板１３１０や払出制御基板６３３等よりも遊技者側に設けられる主側基板、例えば機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２や、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等については、パチンコ機１の表面側に設けられることで基板の表実装面へのいたずら等が行われる可能性があることから主制御基板１３１０に比べて基板の反りなどの変形に対する補強が強固とされている。以下、機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２を例に説明する。なお、以下では上記した実施形態と重複する部分についての説明を行わない。

【５６０２】

［機能表示基板］

機能表示基板１４０２は、主制御基板１３１０や払出制御基板６３３等よりも遊技者側に設けられる主側基板であって重要な機能を有するものである。なお、本例において主制御基板１３１０や払出制御基板６３３等よりも遊技者側に設けられる主側基板であって重要な機能を有するものとは、遊技者の利益に関わる情報（例えば特別抽選結果、大当りや

小当りの種類、特定の大当り（確変大当りや１５Ｒ大当り等）か否か、高確率状態の制御を実行しているか否か、時短制御を実行しているか否か等）を表示するものや、遊技者や遊技店の利益に関わる情報を表示したり、遊技の進行に関わる重要な情報を表示したり、不正行為を検出したり、入賞口への入賞やゲート２００３の通過等を検出したり、するもの等である。

【５６０３】

機能表示基板１４０２を有する機能表示ユニット１４００は、遊技盤５の遊技領域５ａ外（外レール１００１の外側）に設けられている（本例では遊技盤５の左上部）。また、機能表示基板１４０２の表実装面には、単色発光（この例では赤色）のＬＥＤ１４０１が複数実装されている。また、このＬＥＤ１４０１は、ＬＥＤパッケージに封入されるＬＥＤベアチップであり、機能表示基板１４０２の表実装面（ＬＥＤ実装面）に直接実装されている。そのため、遊技盤５に針金等を挿入した場合に遊技領域５ａの外側に位置する機能表示基板１４０２に届きやすく、この針金等によって機能表示基板１４０２の表実装面に実装されている複数のＬＥＤ１４０１に対していたずら等が行われた場合や、機能表示基板１４０２に圧力が加えられて反りなどの変形が発生した場合にはＬＥＤ１４０１が機能表示基板１４０２の表実装面から剥がれ落ち、遊技者の利益に関わる情報を適切に表示することができないおそれがある。本例の機能表示ユニット１４００ではＬＥＤ１４０１の剥がれ落ちを抑制するような対策がなされている。

【５６０４】

具体的には、図３６１に示すようにこの例では、透光性を有しない有色不透明（本例では白色）の樹脂等によって形成されるケース１４１０内に機能表示基板１４０２を収容し、ケース１４１０に形成される貫通部１４１０ａやコネクタ１４０２の一部を露出させるための開口部以外からは機能表示基板１４０２の実装面を視認できないようになっている。ケース１４１０は機能表示基板１４０２の表実装面側の表面カバー部１４１１と機能表示基板１４０２の裏実装面側の裏面カバー部１４１２とから構成され、表面カバー部１４１１によって機能表示基板１４０２の表実装面を覆い、裏面カバー部１４１２によって機能表示基板１４０２の裏実装面を覆い、表面カバー部１４１１と裏面カバー部１４１２とによって機能表示基板１４０２を挟み込むように（挟持）してケース１４１０の内部に収容するようになっている。なお、ケース１４１０の外部から少なくとも機能表示基板１４０２の表実装面を視認できないように構成するものであればよく、ケース１４１０によって機能表示基板１４０２の表実装面のみを覆うように構成し、機能表示基板１４０２の裏実装面についてはケース１４１０の外部から視認可能となるようにしてもよい。

【５６０５】

上記表面カバー部１４１１は、所定の厚み（本例では約５ｍｍ）を有するとともに、内側にハチの巣状の複数の貫通部１４１０ａを有するように複数のリブが形成されている。また、複数のリブにより形成される貫通部１４１０ａは機能表示基板１４０２に実装されるＬＥＤ１４０１それぞれに対応するようになっている。そして、機能表示ユニット１４００の製造時には、表面カバー部１４１１に形成される貫通部１４１０ａそれぞれに機能表示基板１４０２に実装される複数のＬＥＤ１４０１のうちの１個のＬＥＤ（１個のＬＥＤ素子）だけが位置するように表面カバー部１４１１を機能表示基板１４０２の表実装面に密着させ、表面カバー部１４１１と裏面カバー部１４１２とをビスやネジ等を用いることなしに固着させるようになっている。

【５６０６】

このように、本例では表面カバー部１４１１を機能表示基板１４０２の表実装面に密着させて表面カバー部１４１１と裏面カバー部１４１２とをビスやネジ等を用いることなしに固着させるため、機能表示基板１４０２の反りなどの変形が表面カバー部１４１１と裏面カバー部１４１２とによって抑制され、機能表示基板１４０２の表実装面からＬＥＤ１４０１が剥がれ落ちることを抑制できる。また、本例ではさらに表面カバー部１４１１の内側に複数のリブを形成し、このリブを機能表示基板１４０２の表実装面に近接させた状態（一部または全部が当接するようにしてもよい）で表面カバー部１４１１と裏面カバー

部１４１２とをビスやネジ等を用いることなしに固着させるため、機能表示基板１４０２の反りなどの変形が抑制され、機能表示基板１４０２の表実装面からＬＥＤ１４０１が剥がれ落ちることを抑制できる。

【５６０７】

また、機能表示基板１４０２のＬＥＤ１４０１が実装されない裏実装面を覆う裏面カバー部１４１２の一部には、コネクタ１４０２を露出させる開口部が形成されている。コネクタ１４０２は機能表示基板１４０２と外部の基板とを接続する配線を接続するものであるため、ケース１４１０からコネクタ１４０２を露出させる必要があり、コネクタ１４０２を露出させることにより機能表示基板１４０２の一部が露出していたずら等がなされるおそれがある。本例では、遊技者とは反対の方向を向くように配置されてＬＥＤ１４０１が実装されていない機能表示基板１４０２の裏実装面にコネクタ１４０２を実装するため、遊技盤５に針金等を挿入しても機能表示基板１４０２の裏実装面に接触させることが困難となり、機能表示基板１４０２の各ＬＥＤ１４０１に対する電力の供給や主制御基板１３１０からの制御信号が遮断されることを抑制でき、遊技者の利益に関わる重要情報が表示されなくなるという不具合の発生を抑制できる。

【５６０８】

また、本例ではケース１４１０の表面カバー部１４１１と裏面カバー部１４１２とを溶着等により強固に固着し、少なくともケース１４１０の一部を破壊しなければ機能表示基板１４０２をケース１４１０内から取り出すことができないようになっている。なお、上記したように主制御基板ボックス１３２０は複数の封印機構を備えており、複数の封印機構のうち一つの封印機構を破壊して主制御基板ボックス１３２０を開けた後、破壊した封印機構とは異なる一つの封印機構を用いて主制御基板ボックス１３２０を閉じることができる。一方、機能表示ユニット１４００のケース１４１０ではこのような封印機構を備えておらず、一度でもケース１４１０の一部を破壊してケース１４１０を取り出すとケース１４１０を元の状態に戻すことができないようになっている。このように、機能表示基板１４０２は少なくとも一部を破壊しなければ機能表示基板１４０２を取り出す（露出させる）ことができないケース１４１０に封入されて保護されるため、重要な機能を有するＬＥＤ１４０１がいたずら等により物理的に破壊されることを抑制できるし、いたずら等に関連してケース１４１０が破壊された場合にはケース１４１０が破壊されていることによっていたずら等が行われたことを容易に発見することができる。これに加えて、さらに、ケース１４１０によって機能表示基板１４０２を保護することで反りなどの変形が抑止されて機能表示基板１４０２の表実装面からＬＥＤ１４０１が剥がれ落ちることを抑制できる。

【５６０９】

また、本例ではケース１４１０の前面側に透光シート１４０４を貼着することにより貫通部１４１０ａによる開口を塞ぐようになっている。透光シート１４０４は、少なくとも一部（貫通部１４１０ａの開口に対応する部分：表示部１４０４ａ）が半透明（本例では白濁した摺りガラス状）とされ、ＬＥＤ１４０１の点灯状態を透光シート１４０４の表示部１４０４ａを介して視認できるようになっている。このように、本例の機能表示ユニット１４００ではケース１４１０の前面側に透光シート１４０４を設けて貫通部１４１０ａの開口を塞ぐことで機能表示基板１４０２の表実装面に実装されているＬＥＤ１４０１が露出することを抑止するため、貫通部１４１０ａを通してケース１４１０の内側に針金等を侵入させて機能表示基板１４０２の表実装面や表実装面に実装されるＬＥＤ１４０１に対していたずら等が行われることを抑制できる。また、透光シート１４０２が破られてケース１４１０の内側に針金を侵入された場合であっても、表面カバー部１４１１の内側に複数のリブが形成されることで機能表示基板１４０２の表実装面の全体に対して損傷を与えることができず、被害の拡大を抑制できる。

【５６１０】

さらに、本例では機能表示基板１４０２のＬＥＤ１４０１が実装されない裏実装面にコネクタ１４０２を実装するように構成している。そのため、透光シート１４０２が破られ

てケース１４１０の内側に針金を侵入された場合であっても、コネクタ１４０２が損傷することが抑制されて、機能表示基板１４０２の各ＬＥＤ１４０１に対する電力の供給や主制御基板１３１０からの制御信号が遮断されることを抑制でき、遊技者の利益に関わる重要情報が表示されなくなるという不具合の発生を抑制できる。

【５６１１】

上記したように、本例では機能表示基板１４０２を有色不透明な樹脂等によって形成されるケース１４１０に収容し、ケース１４１０に形成される貫通部１４１０ａやコネクタ１４０２の一部を露出させるための開口部以外からは機能表示基板１４０２の実装面を視認できないようになっている。これにより機能表示基板１４０２に実装される電子部品や回路情報を読み取られるおそれを低くでき、いたずらなどの抑止効果が高まる。

【５６１２】

なお、本例では機能表示基板１４０２を収容するケース１４１０を有色不透明な白色の樹脂等によって形成したが、有色不透明として、白色のほかに、黒色、灰色、赤色、桃色、水色、青色、緑色、黄色等であってもよいし、主制御基板１３１０や払出制御基板６３３等よりも遊技者側に設けられる主側基板のうちの機能表示基板１４０２以外の主側基板については有色不透明な樹脂等によって形成されるケースに限らず、無色透明な樹脂等によって形成されるケースに収容されるようにしてもよい。

【５６１３】

また、本例の機能表示基板１４０２では上記したケース１４１０によって反り等の変形が抑制されることに加えて、電子部品の実装密度を高めて基板を小型化することによって基板の剛性を高め、これによって反りなどの変形を抑制して実装される電子部品の剥がれ落ちを抑制するようになっている。具体的には、本例の機能表示基板１４０２は主制御基板１３１０や払出制御基板６３３等よりも少なくとも４分の１以下の大きさとされ、主制御基板１３１０や払出制御基板６３３等よりも剛性が高くなっている。

【５６１４】

また本例の機能表示基板１４０２では、電源用のパターンと信号用のパターンとの一方又は両方に特徴的な構成を採用することなどにより電子部品の実装密度を高め、これによって基板の小型化を実現している。図３６６を参照して以下に説明する。図３６６（Ａ）は機能表示基板１４０２のＬＥＤ１４０１が実装される表実装面を示す説明図であり、図３６６（Ｂ）は機能表示基板１４０２のＬＥＤ１４０１が実装されていない裏実装面を示す説明図であり、図３６６（Ｃ）及び図３６６（Ｄ）は機能表示基板１４０２の裏実装面の一部を拡大した拡大図である。なお、図３６６（Ａ）では機能表示基板１４０２の表実装面に形成されるパターンの表示を省略しているが、機能表示基板１４０２の表実装面にも複数のパターンが形成されている。

【５６１５】

図３６６に示すように、本例の機能表示基板１４０２はＬＥＤ１４０１が実装される表実装面と、ＬＥＤが実装されていない裏実装面と、を有し、表実装面にはＬＥＤベアチップのＬＥＤ１４０１が複数実装され、裏実装面には、表面実装タイプ（いわゆる、ＳＭＤタイプ）のコネクタ１４２０と、表面実装タイプ（いわゆる、ＳＭＤタイプ）のＩＣ１４３０と、表面実装タイプ（いわゆる、ＳＭＤタイプ）の抵抗１４４０と、が実装されている。また、機能表示基板１４０２の表実装面及び裏実装面には複数のパターン１４０２ａが形成されるとともに、複数のスルーホール１４０２ｂが形成されている。なお、本例の機能表示基板１４０２は、表面実装タイプの電子部品だけが実装されるものに限らず、表面実装タイプの電子部品と挿入実装タイプの電子部品との両方が実装されるものであってもよい。

【５６１６】

また、上記したように本例の機能表示基板１４０２は、主制御基板１３１０の表面側表記部のような表記部が設けられていないことにより、機能表示基板１４０２に実装される電子部品を特定可能な情報や回路情報を読み取られ難くなっている。なお、上記したように少なくとも電子部品を特定可能な情報（例えば電子部品の型式（部品番号）等）を示す

表記部を設けないものであればよく、上記したような電子部品を特定不可能な情報については設けられていてもよい。

【５６１７】

また、表面実装タイプ（いわゆる、ＳＭＤタイプ）の電子部品には、接続端子が所定間隔をあけて複数設けられ、機能表示基板１４０２には電子部品の接続端子がハンダ付けされるパッド１４０２ｃが接続端子それぞれに対応して（１つの接続端子に対して１つのパッド１４０２ｃが設けられる）設けられている。そして、本例の機能表示基板１４０２では表面実装タイプ（いわゆる、ＳＭＤタイプ）の電子部品の接続端子それぞれに対応して設けられる複数のパッド１４０２ｃの間隔よりも、短いパターン１４０２ａを一部に形成することによりパターン１４０２ａの平均長さ（一の電子部品から他の電子部品やスルーホール等までの長さの平均）を短くし、これによって電子部品の実装密度を高めて基板の小型化を実現可能にしている。

【５６１８】

本例では、図３６６（Ｃ）に示すように、ＩＣ１４３０の接続端子１４３０ａに対応して設けられる複数のパッド１４０２ｃそれぞれの間隔Ｘ１、Ｘ２よりも、パッド１４０２ｃとスルーホール１４０２ｂとを接続するパターン１４０２ａが短くされている。これにより、機能表示基板１４０２に形成されるパターン１４０２ａの平均の長さを従来の基板よりも短くして電子部品の実装密度を高めることができ、基板が小型化されて基板の剛性が高まるため、反りなどの変形が抑制されて実装される電子部品が剥がれ落ちることを抑制できるし、存在を隠匿したい基板（例えば磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等）について気付かれ難くしたり、存在を隠匿することによって基板に実装される電子部品や回路情報を読み取られるおそれを低くでき、いたずらなどの抑止効果が高まる。

【５６１９】

なお、本例では表実装面が遊技者とは反対側に向けられた状態でパチンコ機１の裏面側に設けられる主制御基板１３１０等の主側基板に形成されるパターンよりも、表実装面が遊技者とは反対側に向けられた状態でパチンコ機１の裏面側に設けられる主側基板よりも遊技者側に設けられる機能表示基板１４０２等の主側基板に形成されるパターンの方が、電子部品間または電子部品とスルーホール等までに形成されるパターンの長さの平均が短くされている。すなわち、表実装面が遊技者とは反対側に向けられた状態でパチンコ機１の裏面側に設けられる主制御基板１３１０等の主側基板に比べて、表実装面が遊技者とは反対側に向けられた状態でパチンコ機１の裏面側に設けられる主側基板よりも遊技者側に設けられる機能表示基板１４０２等の主側基板の方が、電子部品の実装密度を高めて小型化を実現可能とされる。そして、基板の小型化を実現することにより基板の剛性を高めることができ、これによって反りなどの変形が抑制されて実装される電子部品が剥がれ落ちることを抑制できるし、存在を隠匿したい基板（例えば磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等）について気付かれ難くしたり、存在を隠匿することによって基板に実装される電子部品や回路情報を読み取られるおそれを低くでき、いたずらなどの抑止効果が高まる。

【５６２０】

また、本例の機能表示基板１４０２では実装される複数の表面実装タイプの電子部品のうちの一部の表面実装タイプ（いわゆる、ＳＭＤタイプ）の電子部品について、該表面実装タイプ（いわゆる、ＳＭＤタイプ）の電子部品の接続端子に対応して設けられるパッドと他の表面実装タイプ（いわゆる、ＳＭＤタイプ）の電子部品とを接続するパターン１４０２ａを形成することなしに一方の電子部品の接続端子に対応して設けられるパッドと他方の電子部品の接続端子に対応して設けられるパッドとをパターン１４０２ａを介することなしに直接接続することによっても基板の小型化を実現可能にしている。

【５６２１】

図３６６（Ｃ）ではＩＣ１４３０と抵抗１４４０と、ＩＣ１４３０の接続端子１４３０ａに対応して設けられるパッド１４０２ｃと抵抗１４４０の接続端子に対応して設けられるパッドとをパターン１４０２ａを介することなしに直接接続する。これにより、主制御基板１３１０等に比べて、パターン１４０２ａの平均の長さを短くして電子部品の実装密度を高めることができ、これによって機能表示基板１４０２の小型化を実現して基板の剛性を高めることができるため、反りなどの変形が抑制されて実装される電子部品が剥がれ落ちることを抑制できるし、存在を隠匿したい基板（例えば磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等）について気付かれ難くしたり、存在を隠匿することによって基板に実装される電子部品や回路情報を読み取られるおそれを低くでき、いたずらなどの抑止効果が高まる。

【５６２２】

なお、実装される複数の表面実装タイプの電子部品のうちの一部の表面実装タイプ（いわゆる、ＳＭＤタイプ）の電子部品と形成される複数のスルーホール１４０２ｂのうちの一部のスルーホール１４０２ｂのランドについて、該表面実装タイプ（いわゆる、ＳＭＤタイプ）の電子部品の接続端子に対応して設けられるパッドとスルーホール１４０２のランドとをパターン１４０２ａを介することなしに直接接続するようにしてもよい。この場合にも機能表示基板１４０２に形成されるパターン１４０２ａの平均の長さを短くして電子部品の実装密度を高めることができ、これによって基板の小型化を実現して基板の剛性が高まるため、反りなどの変形が抑制されて実装される電子部品が剥がれ落ちることを抑制できるし、存在を隠匿したい基板（例えば磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等）について気付かれ難くしたり、存在を隠匿することによって基板に実装される電子部品や回路情報を読み取られるおそれを低くでき、いたずらなどの抑止効果が高まる。

【５６２３】

また、表面実装タイプ（いわゆる、ＳＭＤタイプ）の電子部品の接続端子１４３０ａに対応して設けられるパッド１４０２ｃを除く電子部品本体（例えばＩＣ１４３０の）が実装領域にもパターン１４０２ａを形成するようにしてもよい。この場合にも機能表示基板１４０２に形成されるパターン１４０２ａの平均の長さを短くして電子部品の実装密度を高めることができ、これによって基板の小型化を実現して基板の剛性が高まるため、反りなどの変形が抑制されて実装される電子部品が剥がれ落ちることを抑制できるし、存在を隠匿したい基板（例えば磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等）について気付かれ難くしたり、存在を隠匿することによって基板に実装される電子部品や回路情報を読み取られるおそれを低くでき、いたずらなどの抑止効果が高まる。

【５６２４】

通常、パッド１４０２ｃに接続されるパターン１４０２ａは、図３６６（Ｃ）のＩＣ１４３０の接続端子１４３０ａに対応して設けられるパッド１４０２ｃに接続されるパターン１４０２ａのようにパッド１４０２ｃの先端部に接続されて縦方向に形成される。この場合、パッド１４０２ｃの先端部にパターン１４０２ａを形成するための領域が必要となり、基板の小型化を阻害することになる。本例では図３６６（Ｄ）に示すように、表面実装タイプの電子部品としてのコネクタ１４２０の接続端子１４２０ａに対応して設けられるパッド１４０２ｃのうちの一部のパッド１４０２ｃに接続されるパターン１４０２ａについては、パッド１４０２ｃの先端部ではなく側部に接続されて横方向に形成される。そのため、パッド１４０２ｃの先端部にパターン１４０２ａを形成するための領域が不要となって電子部品の実装密度を高めることができ、これによって基板の小型化を実現して基板の剛性が高まるため、反りなどの変形が抑制されて実装される電子部品が剥がれ落ちることを抑制できるし、存在を隠匿したい基板（例えば磁気センサ１０５０に設けられる磁

気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等）について気付かれ難くしたり、存在を隠匿することによって基板に実装される電子部品や回路情報を読み取られるおそれを低くでき、いたずらなどの抑止効果が高まる。

【５６２５】

またコネクタ１４２０の接続端子１４２０ａに対応して設けられるパッド１４０２ｃに示すように、通常は、１つのパッド１４０２ｃから１つのパターン１４０２ａだけが延出するように形成される。本例では、パターン１４０２ａと１つのパッド１４０２ｃとが共通化されて、この１つのパッド１４０２ｃから複数方向に向けて延出するようにパターン１４０２ａが形成されている。

【５６２６】

具体的には図３６６（Ｄ）に示すように、コネクタ１４２０接続端子１４２０ａに対応して設けられるパッド１４０２ｃとスルーホール１４０２ｂとを接続するパターン１４０２ａの途中にパッド１４０２ｃがパターン１４０２ａと同一の幅で形成され、このパッド１４０２ｃに抵抗１４４０がハンダ付けされている。すなわち、パッド１４０２ｃとパターン１４０２ａとを共通化し、パターン１４０２ａの一部についてレジスト層を形成することなしに銅箔を剥き出しにすることでパッド１４０２ｃを形成してこのパッド１４０２ｃに抵抗１４４０をハンダ付けするようになっている。

【５６２７】

これにより、パターン１４０２ａと別にパッド１４０２ｃを形成することなしに表面実装タイプの電子部品を実装することが可能になるため、パッド１４０２ｃを形成するための領域が不要となって電子部品の実装密度を高めることができ、基板の小型化を実現して基板の剛性が高まるため、反りなどの変形が抑制されて実装される電子部品が剥がれ落ちることを抑制できるし、存在を隠匿したい基板（例えば磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等）について気付かれ難くしたり、存在を隠匿することによって基板に実装される電子部品や回路情報を読み取られるおそれを低くでき、いたずらなどの抑止効果が高まる。また、パターン１４０２ａに対してレジスト層を形成しないという簡単な方法で表面実装タイプの電子部品を実装することが可能になるため、設計の自由度が増し、回路設計が容易となる。

【５６２８】

上記した主制御基板１３１０や機能表示基板１４０２、磁気センサ基板１０５０ｂなどの電子部品が実装される基板の基板端辺は、レジスト層が形成されずに基材が剥き出しとなっている。例えば、主制御基板１３１０では、表実装面や裏実装面の基板端辺に沿って０．１ｍｍ程の幅にはレジスト層が形成されずに基材が剥き出しとなっている。一方、本例の機能表示基板１４０２は主制御基板１３１０よりもレジスト層が形成されずに基材が剥き出しとなる領域が少なくなっている。具体的には、機能表示基板１４０２のレジスト層が形成されずに基材が剥き出しとなっている領域は、表実装面や裏実装面の基板端辺に沿って０．０５ｍｍ以下の幅とされる。

【５６２９】

これにより、主制御基板１３１０よりも機能表示基板１４０２や磁気センサ基板１０５０ｂの方が電子部品の実装密度を高めて小型化することが可能になり、これによって機能表示基板１４０２の剛性を高めることができるため、反りなどの変形が抑制されて実装される電子部品が剥がれ落ちることを抑制できるし、存在を隠匿したい基板（例えば磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等）について気付かれ難くしたり、存在を隠匿することによって基板に実装される電子部品や回路情報を読み取られるおそれを低くでき、いたずらなどの抑止効果が高まる。

【５６３０】

なお、機能表示基板１４０２や磁気センサ基板１０５０ｂにおいて、表実装面や裏実装面の基板端辺全てにレジスト層を形成して基材が剥き出しとなる領域を設けないようにしてもよく、この場合には機能表示基板１４０２における電子部品の実装密度を高めて小型化をさらに可能にできるため、機能表示基板１４０２の剛性をさらに高めることができ、反りなどの変形を抑制して実装される電子部品が剥がれ落ちることを抑制できるし、存在を隠匿したい基板（例えば磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等）について気付かれ難くしたり、存在を隠匿することによって基板に実装される電子部品や回路情報を読み取られるおそれを低くでき、いたずらなどの抑止効果が高まる。

【５６３１】

上記したように主制御基板１３１０にはビスを挿入するための開口部が形成され、この開口部にビスを挿入してカバー体１３０１の内側にビス止めされることにより、主制御基板ボックス１３２０内に収容される。一方、本例の機能表示基板１４０２にはビスを挿入するための開口部が形成されず、ケース１４１０の表面カバー部１４１１と裏面カバー部１４１２とによって挟持されて、この状態でビスやネジ等を用いることなしに表面カバー部１４１１と裏面カバー部１４１２とを固着することによりケース１４１０内に収容されるようになっている。つまり、主制御基板１３１０ではパターン等が形成される領域や電子部品が実装される領域に加えてビスを挿入するための開口部が形成される領域も設けられるのに対し、機能表示基板１４０２ではビスを挿入するための開口部が形成される領域は設けられていない。

【５６３２】

このように、本例の機能表示基板１４０２ではビスを挿入するための開口部が形成される領域を設けないことによって電子部品の実装密度を高めることができ、これによって基板の小型化が可能になって機能表示基板１４０２の剛性が高まるため、反りなどの変形が抑制されて実装される電子部品が剥がれ落ちることを抑制できるし、存在を隠匿したい基板（例えば磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等）について気付かれ難くしたり、存在を隠匿することによって基板に実装される電子部品や回路情報を読み取られるおそれを低くでき、いたずらなどの抑止効果が高まる。

【５６３３】

なお、ケース１４１０の表面カバー部１４１１と裏面カバー部１４１２とに位置決め用のボスとボス孔とを形成してもよく、この場合にはボスが挿入される開口部を機能表示基板１４０２に形成するようにしてもよい。またこの場合には、ビスやネジなどと比べて細くなるようにボスを形成することにより、機能表示基板１４０２におけるボスを挿入するための開口部の領域を狭くして基板の小型化を阻害しないようにすることができるため、電子部品の実装密度を高めて基板の小型化を実現することが可能になり、これによって機能表示基板１４０２の剛性が高まって反りなどの変形が抑制されて実装される電子部品が剥がれ落ちることを抑制できるし、存在を隠匿したい基板（例えば磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等）について気付かれ難くしたり、存在を隠匿することによって基板に実装される電子部品や回路情報を読み取られるおそれを低くでき、いたずらなどの抑止効果が高まる。

【５６３４】

上記したように、表実装面が遊技者とは反対側に向けられた状態でパチンコ機１の裏面側に設けられる主側基板は、ＣＰＵ（主制御ＭＰＵ１３１０ａ、払出制御ＭＰＵ）が実装されて遊技の進行に関わる重要な処理（例えば主制御側メイン処理や主制御側タイマ割込処理、又は主制御側メイン処理及び主制御側タイマ割込処理に関連して払出制御基板６３３にて実行される処理等）を実行するものである。そして、このような遊技の進行に関わ

る重要な処理を安定して実行するために電源や信号のための配線パターン以外のグランドをいわゆるベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））で基板の両面に形成している。これにより、各種電子部品で構成される電子回路の安定動作が図られ、遊技の進行に関わる重要な処理を安定して実行可能になるため、遊技者に不利益を与えることを抑制し、遊技機の信頼性が高まる。つまり、表実装面が遊技者とは反対側に向けられた状態でパチンコ機１の裏面側に設けられる主側基板は、電源や信号のための配線パターン以外にベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））を形成するための領域が設けられ、基板の小型化が難しい。

【５６３５】

一方、表実装面が遊技者とは反対側に向けられた状態でパチンコ機１の裏面側に設けられる主側基板よりも遊技者側に設けられる機能表示基板１４０２や磁気センサ基板１０５０等の主側基板は、ＣＰＵが実装されていないことに加え、パチンコ機１の裏面側に設けられる主制御基板１３１０に実装される主制御ＭＰＵ１３１０ａからの信号に基づいて処理を実行するものであり、遊技の進行や遊技者の利益に与える影響は小さく、安定動作を図る必要性は低い。そのため、本例の機能表示基板１４０２や磁気センサ基板１０５０ではベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））を形成しないようになっている。これにより、ベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））が形成される場合に比べて電子部品の実装密度を高めることができ、基板の小型化して基板の剛性を高めることができるため、反りなどの変形が抑制されて実装される電子部品が剥がれ落ちることを抑制できるし、存在を隠匿したい基板（例えば磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等）について気付かれ難くしたり、存在を隠匿することによって基板に実装される電子部品や回路情報を読み取られるおそれを低くでき、いたずらなどの抑止効果が高まる。

【５６３６】

なお、上記した例では電子部品の実装密度を高めて小型化することで剛性を高めて反りや変形を抑止する基板として機能表示基板１４０２について説明したが、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等であっても機能表示基板１４０２と同様の構成を採用して電子部品の実装密度を高めて基板の小型化を実現可能であるし、これによって基板の剛性を高めて反りや変形を抑止して実装される電子部品の剥がれ落ちを防止することが可能である。つまり、機能表示基板１４０２において基板の小型化を実現可能にするための上記した構成を磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等に適用してもよく、上記した実施形態において機能表示基板１４０２と記載するものは、第一始動口センサ３００２のセンサ基板や第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等の他の基板と読み替えるとともに各基板に対応するものに適用することが可能である。この場合には、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等の反りや変形を抑制することが可能になる。

【５６３７】

このように、遊技の進行に関わる重要な制御を実行する主側基板において、表実装面が遊技者とは反対側に向けられた状態でパチンコ機１の裏面側に設けられる主制御基板１３１０や払出制御基板６３３等、換言すると、表実装面が遊技者とは反対側に向けられて表実装面に対してパチンコ機１の裏面側からアクセス可能とされてパチンコ機１の表面側からアクセス不能に設けられている主制御基板１３１０や払出制御基板６３３等と、これらの基板よりも遊技者側に設けられる機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２や、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設

けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等、換言すると表実装面が遊技者側に向けられて表実装面に対してパチンコ機１の表面側からアクセス可能とされてパチンコ機１の裏面側からアクセス不能に設けられている機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２や、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等と、は基板の保護態様が異なるようにされる。そして、これらの保護態様により配置される位置や表実装面の向き、アクセス可能とされるパチンコ機１の面、等に応じた適切な保護が可能になっている。

【５６３８】

上記した実施形態では、表面実装タイプの電子部品（チップ部品、ＳＭＤ（Ｓｕｒｆａｃｅ　Ｍｏｕｎｔ　ＤｅｖＩＣｅ））と、リードタイプ（スルーホール実装タイプ、挿入実装タイプ）の電子部品（リード部品、ディップ部品、挿入部品）と、の両方が実装される基板として主制御基板１３１０について説明したが、これに限られるものではなく、マイクロプロセッサが搭載される払出制御基板６３３等の他の基板であってもよい。すなわち、上記した実施形態において主制御基板１３１０と記載するものは、払出制御基板６３３等の他の基板と読み替えるとともに各基板に対応するものに適用することが可能である。

【５６３９】

［不正対策を施す変形例１］

上記した主側基板は遊技の進行にかかわる重要な処理を行ったり、不正行為を検出する電子部品が実装されていたりするものである。また、主側基板の中でも主制御基板１３１０や払出制御基板６３３などはパチンコ機１の裏面側に設けられて表面（表実装面）が遊技者とは反対側に向けられてパチンコ機１の裏面側からアクセス可能とされるのに対し、これらの基板よりも遊技者側に設けられる主側基板である、磁気センサ１０５０に設けられるセンサ基板１０５２や機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等は、表面（表実装面）が遊技者とは反対側に向けられていないため、パチンコ機１の表面側からアクセス可能とされ、不正改造のターゲットとなりやすい。以下、不正対策を施す変形例１について図３７２を参照して詳細に説明する。また不正対策を施す変形例１では上記実施形態（特にセンサ基板１０５２および磁気センサ基板１０５０ｂ）と異なる部分についてのみ説明し、重複した説明を行わない。

【５６４０】

なお、以下では主制御基板１３１０や払出制御基板６３３などよりも遊技者側に設けられる主側基板として磁気センサ１０５０に設けられるセンサ基板１０５２Ａについて説明するが、主制御基板１３１０や払出制御基板６３３などよりも遊技者側に設けられる基板であれば、センサ基板１０５２Ａ以外の主側基板であっても本技術思想は適用可能であるし、主側基板とは異なるサブ側基板（例えば遊技盤５に設けられてＬＥＤが実装される装飾基板）であっても本技術思想は適用可能である。また、上記した実施形態と組み合わせて実行することも可能である。例えば、不正の判別容易性の向上１～不正の判別容易性の向上３や表面実装タイプの電子部品の剥離防止１～表面実装タイプの電子部品の剥離防止４のいずれか１つまたは複数と組み合わせて実行することが可能である。

【５６４１】

図３７２は、不正対策を施す変形例における磁気センサ１０５０Ａのセンサケース１０５３Ａ内に収納されたセンサ基板１０５２Ａの部品実装面を示す説明図である。本例の磁気センサ１０５０Ａの表面（表基板面）には、磁気を検知するためのセンサ本体１０５１Ａと、センサ本体１０５１Ａが実装されている表面（表基板面）と電子部品が実装されていない裏面（裏基板面）とに緑色のソルダーレジスト（保護剤）がコーティングされるセンサ基板１０５２Ａと、センサ基板１０５２Ａ及びセンサ本体１０５１Ａを覆っている不

透明なセンサケース１０５３Ａ（図示しない）と、コンデンサ１０５３ａと、トランジスタ１０５３ｂと、接続用コネクタ１０５３ｃと、が表面実装されている。

【５６４２】

なお、本例ではセンサ基板１０５２Ａのセンサ本体１０５１Ａが実装されている表面（表基板面）と電子部品が実装されていない裏面（裏基板面）とに緑色のソルダーレジスト（保護剤）がコーティングされるが、ソルダーレジストの色は緑色に限らず白色などの他の色であってもよい。また、センサ基板１０５２Ａ及びセンサ本体１０５１Ａを不透明なセンサケース１０５３Ａで覆うものに限らず、透明なセンサケース１０５３Ａで覆うことによりセンサ基板１０５２Ａやセンサ本体１０５１Ａをセンサケース１０５３の外部から視認可能となるように構成してもよい。

【５６４３】

また、本例のセンサ基板１０５２Ａは、表面（表基板面）にのみ電子部品が実装されるとともに、表面（表基板面）にのみ配線パターンが形成され、裏面（裏基板面）には電子部品が実装されず、配線パターンも形成されていない。さらに本例のセンサ基板１０５２Ａには表面実装タイプの電子部品のみが実装されている。そのため、センサ基板１０５２Ａには、表面（表基板面）に形成される配線パターンと裏面（裏基板面）に形成される配線パターンとを接続するスルーホールが形成されていないが、表面（表基板面）と裏面（裏基板面）との両方に電子部品を実装して表面（表基板面）に形成される配線パターンと裏面（裏基板面）に形成される配線パターンとを接続するスルーホールを形成するようにしてもよいし、少なくとも一部の電子部品にリードタイプの電子部品を用いてセンサ基板１０５２Ａの表面（表基板面）または裏面（裏基板面）に実装することで表面（表基板面）に形成される配線パターンと裏面（裏基板面）に形成される配線パターンとを接続するスルーホールを形成するようにしてもよい。

【５６４４】

図３７２に示すように、本例のセンサ基板１０５２Ａの表面（表基板面）には、電源基板６３０で作成される各種電源（＋５Ｖ、＋１２Ｖ、＋２４Ｖ等の直流電源）を供給する配線パターン（電源ライン）１０５２Ａ１と、グランド接続用の配線パターン（ＧＮＤライン）１０５２Ａ２と、センサ本体１０５１Ａからの検出信号が伝送される配線パターン（信号ライン）１０５２Ａ３と、が形成され、センサ基板１０５２Ａの表面（表基板面）に実装されるセンサ本体１０５１Ａや、コンデンサ１０５３ａ、トランジスタ１０５３ｂ、接続用コネクタ１０５３ｃの各端子部１０５３ｃ１に接続されて主制御基板１３１０と電気的に接続する。そして、センサ基板１０５２Ａに実装されるコンデンサ１０５３ａ及びトランジスタ１０５３ｂは、グランド接続用の配線パターン（ＧＮＤライン）１０５２Ａ２を介して主制御基板１３１０に形成されるベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））１３１２と電気的に接続されるようになっている（中継基板を介して主制御基板１３１０と電気的に接続するものであってもよいし、中継基板を介することなしに主制御基板１３１０と電気的に接続するものであってもよい）。

【５６４５】

表面実装されている各種電子部品のうち、接続用コネクタ１０５３ｃの各端子部は、図面上から１番端子（ＶＤＤ端子）、２番端子（ＧＮＤ端子）、３番端子（ＯＵＴ端子）であり、接続用コネクタ１０５３ｃのＶＤＤ端子、およびＧＮＤ端子からそれぞれ延びる、電源を供給する配線パターン（電源ライン）１０５２Ａ１およびグランド接続用の配線パターン（ＧＮＤライン）１０５２Ａ２は、磁気を検出するＩＣ（センサ本体１０５１Ａ）のＧＮＤ端子と電源端子とにそれぞれ接続されており、ＧＮＤラインと電源ラインとの途中にはそれぞれ接続パッド１０５２Ａｂが形成され、コンデンサ１０５３ａの接続端子１０５３ａ１がハンダ付けされている。

【５６４６】

また、ＯＵＴ端子から延びる検出信号が伝送される配線パターン（信号ライン）１０５２Ａ３は、センサ本体１０５１Ａの出力端子から出力される信号をベース端子で受け、コレクタ端子の状態をベース端子で受けた信号に応じて切り換える、オープンコレクタータ

イプのトランジスタ１０５３ｂのコレクタ端子に接続されている。そして、エミッタ端子についてはセンサ本体１０５１ＡのＧＮＤ端子と、センサ本体１０５１Ａの裏側の基板表面にＧＮＤライン１０５２Ａ２と同一の線幅の配線パターンを形成して接続している。なお、センサ本体１０５１Ａが信号を出力する出力端子とトランジスタ１０５３ｂのベース端子とを接続するために形成されている配線パターンについては、信号ライン１０５２Ａ３と同一の線幅の配線パターンになっている。

【５６４７】

一方、接続用コネクタ１０５３ｃに接続されるハーネスは、パネル中継基板１７１０に接続され、さらにパネル中継基板１７１０と主制御基板１３１０とがハーネスで接続されている。ＯＵＴ端子については、主制御基板１３１０が備える主制御入力回路と電気的に接続されるとともに、中継基板１７１０または主制御基板１３１０の中で、主制御基板が備える＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成された＋５Ｖ電源に抵抗を介して接続されている。

【５６４８】

センサ本体１０５１Ａから出力される信号は、センサ本体１０５１Ａが磁気を検出していない状態では、トランジスタ１０５３ｂをＯＮする信号を出力するため、コレクタ端子、すなわちＯＵＴ端子と主制御基板１３１０が備える入力回路との接続状態が接続状態を維持した状態となり、センサ本体１０５１Ａが磁気を検出している状態では、トランジスタ１０５３ｂをＯＦＦする信号を出力するため、コレクタ端子、すなわちＯＵＴ端子と入力回路との接続状態が開放された状態になる。

【５６４９】

そのため、センサ本体１０５１Ａが磁気を検出した場合には、抵抗を介してＯＵＴ端子に流れ込んでいた電流が流れ込まなくなり、ＯＵＴ端子、すなわち入力回路に入力されていた信号の電位が、＋５Ｖ電源より低い電位から＋５Ｖ電源に等しい電位となり、これをもって主制御基板１３１０に実装されている主制御ＭＰＵ１３１０ａが磁気検出異常と判断するようになっている。そして、主制御基板１３１０からは周辺制御基板１５１０に向けて磁気検出異常である旨のコマンドが送信され、周辺制御基板１５１０が演出表示装置１６００やスピーカ、各種ランプ・ＬＥＤを使って異常を報知する。

【５６５０】

したがって、ＯＵＴ端子が開放された状態は、信号ライン１０５２Ａ３が剥離した状態に等しく、剥離して回路が破壊された場合には、磁気検出異常として報知されてしまうようになっている。なお、電源ライン１０５２Ａ１やＧＮＤライン１０５２Ａ２が剥離した状態では、センサ本体１０５１Ａへ電源が供給されなくなるため、トランジスタ１０５３ｂをＯＮする信号を出力することができなくなり、ＯＵＴ端子が開放された状態が維持されてしまい、磁気検出異常と判断され報知されることになる。

【５６５１】

さらに、センサ本体１０５１Ａの出力端子とトランジスタ１０５３ｂのベース端子とを接続する配線パターンや、ＧＮＤライン１０５２Ａ２とトランジスタ１０５３ｂのエミッタ端子とを接続する配線パターンについて、いずれも剥離して回路が破壊された場合も、磁気検出異常と判断され報知されることになる。このように、磁気センサ１０５０を破壊して磁気の検出を不能にして不正を行おうとしても、結果、報知されるため、未然に不正を防止、抑制することができるようになっている。

【５６５２】

また、本例のセンサ基板１０５２Ａではベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））が形成されていないことに加え、ＧＮＤ端子を有する特定の電子部品（例えばコンデンサ１０５３ａやトランジスタ１０５３ｂ、センサ本体１０５１Ａを含むＩＣなど）の接続端子（例えばコンデンサ１０５３ａの接続端子１０５３ａ１、トランジスタ１０５３ｂの接続端子１０５３ｂ１、センサ本体１０５１Ａの接続端子１０５１Ａ１、接続用コネクタ１０５３ｃの端子部１０５３ｃ１）それぞれがハンダ付けされるパッド（例えばコンデンサ１０５３ａの接続端子１０５３ａ１それぞれがハンダ付けされるパッド１０

５２Ａｂ、トランジスタ１０５３ｂの接続端子１０５３ｂ１それぞれがハンダ付けされるパッド１０５２Ａｄ、センサ本体１０５１Ａの接続端子１０５１Ａ１それぞれがハンダ付けされるパッド１０５２Ａｃ、接続用コネクタ１０５３ｃの端子部１０５３ｃ１それぞれがハンダ付けされるパッド１０５２Ａａ）がいずれも通常のパッドとして形成され、ベタパターン（ベタグランドともいう）とパッドとを電気的かつ物理的に接続するサーマルパターン（十字形状（一部が欠けているものでもよい）や×形状（一部が欠けているものでもよい）を有するパターン）を有するサーマルパッドが形成されていないし、サーマルランドも形成されていない。そして、センサ基板１０５２Ａに実装される各種電子部品は、グランド接続用の配線パターン１０５２を介してグランドに接続されるようになっている。

【５６５３】

また主制御基板１３１０や払出制御基板６３３、周辺制御基板１５１０、遊技盤５に設けられてＬＥＤが実装される装飾基板など、一般的な回路基板では、グランド接続用の配線パターンの線幅を、信号伝送用の配線パターンの線幅よりも太い線幅で形成するが、本例のセンサ基板１０５２Ａではグランド接続用の配線パターン１０５２Ａ２の線幅を、センサ本体１０５１Ａからの検出信号が伝送される配線パターン１０５２Ａ３の線幅と、を同一（略同一（±１０％程度の範囲）を含む）の細い線幅で形成している。これにより、センサ基板１０５２Ａの表面（表基板面）に実装される特定の電子部品を取り外すような力が加えられて、特定の電子部品の接続端子がハンダ付けされているパッドやグランド接続用の配線パターン１０５２Ａ、センサ本体からの検出信号が伝送される配線パターン１０５２Ａ３を剥す方向の力が加わった場合に、パッドやグランド接続用の配線パターン１０５２Ａ２、センサ本体からの検出信号が伝送される配線パターン１０５２Ａ３などが剥がれやすくなるため、パッドやグランド接続用の配線パターン１０５２Ａ２、センサ本体からの検出信号が伝送される配線パターン１０５２Ａ３が剥がれて回路が破壊されるようになり、センサ基板１０５２Ａの不正改造を抑止でき、セキュリティを向上させることが可能となる。

【５６５４】

また、主制御基板１３１０や払出制御基板６３３、周辺制御基板１５１０、遊技盤５に設けられてＬＥＤが実装される装飾基板など、一般的な回路基板では、電源基板６３０で作成される各種電源（＋５Ｖ、＋１２Ｖ、＋２４Ｖ等の直流電源）を供給する配線パターン（電源ライン）の線幅を、各電流に応じた線幅（電流が多いほど太い線幅で形成）で形成するが、本例のセンサ基板１０５２Ａではグランド接続用の配線パターン１０５２Ａ２の線幅とセンサ本体１０５１Ａからの検出信号が伝送される配線パターン１０５２Ａ３の線幅とを同一の線幅で形成するだけでなく、電源基板６３０で作成される各種電源（＋５Ｖ、＋１２Ｖ、＋２４Ｖ等の直流電源）を供給する配線パターン（電源ライン）１０５２Ａ１の線幅についてもグランド接続用の配線パターン１０５２Ａ２の線幅およびセンサ本体１０５１Ａからの検出信号が伝送される配線パターン１０５２Ａ３の線幅と同一（略同一（±１０％程度の範囲）を含む）の線幅で形成することで、センサ基板１０５２Ａに形成される全ての配線パターン１０５２Ａ１、１０５２Ａ２、１０５２Ａ３の線幅を同一（略同一（±１０％程度の範囲）を含む）の線幅で形成するようになっている。

【５６５５】

これにより、配線パターン１０５２Ａ１、１０５２Ａ２、１０５２Ａ３の用途（電源基板６３０で作成される各種電源（＋５Ｖ、＋１２Ｖ、＋２４Ｖ等の直流電源）を供給する配線パターン（電源ライン）１０５２Ａ１と、グランド接続用の配線パターン（ＧＮＤライン）１０５２Ａ２と、センサ本体１０５１Ａからの検出信号が伝送される配線パターン（信号ライン）１０５２Ａ３と、のいずれであるか）を特定することが困難になり、センサ基板１０５２Ａの回路を読み取られにくくなるため、不正改造を抑制でき、セキュリティを向上させることが可能となる。また、センサ基板１０５２Ａの表面（表基板面）に実装される特定の電子部品を取り外すような力が加えられて、特定の電子部品の接続端子がハンダ付けされているパッドやグランド接続用の配線パターン１０５２Ａ、センサ本体か

らの検出信号が伝送される配線パターン１０５２Ａ３を剥す方向の力が加わった場合に、パッドやグランド接続用の配線パターン１０５２Ａ２、センサ本体からの検出信号が伝送される配線パターン１０５２Ａ３、電源基板６３０で作成される各種電源（＋５Ｖ、＋１２Ｖ、＋２４Ｖ等の直流電源）を供給する配線パターン（電源ライン）１０５２Ａ１が剥がれやすくなるため、パッドやグランド接続用の配線パターン１０５２Ａ２、センサ本体からの検出信号が伝送される配線パターン１０５２Ａ３が剥がれて回路が破壊されるようになり、センサ基板１０５２Ａの不正改造を抑止でき、セキュリティを向上させることが可能となる。

【５６５６】

なお、グランド接続用の配線パターン１０５２Ａ２の線幅と、センサ本体１０５１Ａからの検出信号が伝送される配線パターン１０５２Ａ３の線幅と、電源基板６３０で作成される各種電源（＋５Ｖ、＋１２Ｖ、＋２４Ｖ等の直流電源）を供給する配線パターン（電源ライン）１０５２Ａ１の線幅と、を同一（略同一（±１０％程度の範囲）を含む）の線幅で形成するものであればよく、グランド接続用の配線パターン１０５２Ａ２の線幅を通常よりも細い線幅で形成することなく、センサ本体１０５１Ａからの検出信号が伝送される配線パターン１０５２Ａ３の線幅と、電源基板６３０で作成される各種電源（＋５Ｖ、＋１２Ｖ、＋２４Ｖ等の直流電源）を供給する配線パターン（電源ライン）１０５２Ａ１の線幅と、をグランド接続用の配線パターン１０５２Ａ２の線幅と同一（略同一（±１０％程度の範囲）を含む）の線幅で形成するようにしてもよい。

【５６５７】

すなわち、グランド接続用の配線パターン１０５２Ａ２の線幅と、センサ本体１０５１Ａからの検出信号が伝送される配線パターン１０５２Ａ３の線幅と、電源基板６３０で作成される各種電源（＋５Ｖ、＋１２Ｖ、＋２４Ｖ等の直流電源）を供給する配線パターン（電源ライン）１０５２Ａ１の線幅と、のうちのいずれかの線幅に統一するように構成してもよいし、グランド接続用の配線パターン１０５２Ａ２の線幅と、センサ本体１０５１Ａからの検出信号が伝送される配線パターン１０５２Ａ３の線幅と、電源基板６３０で作成される各種電源（＋５Ｖ、＋１２Ｖ、＋２４Ｖ等の直流電源）を供給する配線パターン（電源ライン）１０５２Ａ１の線幅と、のそれぞれの通常の線幅とは異なる任意の線幅に統一するようにしてもよい。

【５６５８】

また、本例のセンサ基板１０５２Ａでは、上記したようにベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））が形成されていないことに加え、特定の電子部品の接続端子それぞれがハンダ付けされるパッド（例えばコンデンサ１０５３ａの接続端子１０５３ａ１それぞれがハンダ付けされるパッド１０５２Ａｂ）がサーマルパッドとして形成されないため、ベタパターンやサーマルパッドからグランド接続用の配線パターン１０５２Ａ２を特定されることを抑制でき、これによってセンサ基板１０５２Ａの回路を読み取られにくくして不正改造を抑制できるため、セキュリティが向上する。

【５６５９】

また、本例のセンサ基板１０５２Ａはベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））が形成されず、グランド接続用の配線パターン１０５２Ａ２がセンサ基板１０５２Ａのベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））に接続されていないのに対し、主制御基板１３１０や払出制御基板６３３、周辺制御基板１５１０などのベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））が形成されている基板は、グランド接続用の配線パターンが各基板に形成されているベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））に接続されている。例えば、パッドやランドとベタパターンとを電気的かつ物理的に接続するサーマルパターンは実装不可領域を挟んで隣接する電子部品の間隔よりも短く形成されているのに対し、センサ基板１０５２Ａではグランド接続用の配線パターン１０５２Ａ２が実装不可領域を挟んで隣接する電子部品の間隔よりも長く形成されている。そのため本例では、ベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））が形成されている主制御基板１３１０や払出制御基板６３３、周辺制御基板１５１０

などの基板を、センサ基板１０５２Ａに比べて基板面積が大きく形成している（１０倍以上）が、主制御基板１３１０や払出制御基板６３３、周辺制御基板１５１０などに形成されるグランド接続用の配線パターン（サーマルパターン）は、センサ基板１０５２Ａのグランド接続用の配線パターン１０５２Ａ２よりも短くされる。

【５６６０】

このように、主制御基板１３１０や払出制御基板６３３、周辺制御基板１５１０などのベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））が形成されている基板においては、ベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））に接続するまでのグランド接続用の配線パターン（サーマルパターン）の長さが短くなるように構成される。また、主制御基板１３１０や払出制御基板６３３、周辺制御基板１５１０、遊技盤５に設けられてＬＥＤが実装される装飾基板など、一般的な回路基板では、電源基板６３０で作成される各種電源（＋５Ｖ、＋１２Ｖ、＋２４Ｖ等の直流電源）を供給する配線パターン（電源ライン）の線幅を、各電流に応じた線幅（電流が多いほど太い線幅で形成）で形成し、電源基板６３０で作成される各種電源（＋５Ｖ、＋１２Ｖ、＋２４Ｖ等の直流電源）を供給する配線パターン（電源ライン）の線幅を、各電流に応じた線幅（電流が多いほど太い線幅で形成）で形成するが、ベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））に接続するまでのグランド接続用の配線パターン（サーマルパターン）の長さが短くなるように構成されることで、主制御基板１３１０や払出制御基板６３３、周辺制御基板１５１０などに実装されてＧＮＤ端子を有する特定の電子部品（例えばＩＣ、コンデンサ、トランジスタなど）を取り外すような力が加えられて、特定の電子部品の接続端子がハンダ付けされているスルーホールやパッド、グランド接続用の配線パターン（サーマルパターン）を剥す方向の力が加わった場合に、特定の電子部品の接続端子がハンダ付けされているスルーホールやパッド、グランド接続用の配線パターン（サーマルパターン）が接続されるベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））によってグランド接続用の配線パターン（サーマルパターン）が剥離したり、特定の電子部品が剥がれ落ちたりすることを抑止できる。

【５６６１】

なお、主制御基板１３１０や払出制御基板６３３、周辺制御基板１５１０などのベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））が形成されている基板において、特定の電子部品（例えばＩＣ、コンデンサ、トランジスタなど）の接続端子それぞれがハンダ付けされるパッドやスルーホールのランドうち少なくとも一つをサーマルパッドやサーマルランドで形成し、各基板に形成されるベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））にサーマルパターンを介してパッドやランドを物理的に接続させるようにしてもよい。例えば、主制御基板１３１０や払出制御基板６３３において、特定の電子部品としてリードタイプのコンデンサ（リードタイプの抵抗などでもよい）のリード端子それぞれがハンダ付けされるスルーホールのうちの少なくとも一つをサーマルパッドやサーマルランドで形成し、主制御基板１３１０および払出制御基板６３３それぞれに形成されるベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））にサーマルパターンを介してパッドやランドを物理的に接続させるようにしてもよいし、周辺制御基板１５１０において、特定の電子部品として表面実装タイプのコンデンサ（チップコンデンサともいう、なお表面実装タイプの抵抗（チップ抵抗ともいう）などでもよい）の接続端子それぞれがハンダ付けされるパッドのうちの少なくとも一つをサーマルパッドで形成し、周辺制御基板１５１０に形成されるベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））にサーマルパターンを介してパッドを物理的に接続させるようにしてもよい。

【５６６２】

上記したようにサーマルパターンを有するサーマルパッドやサーマルランドは、サーマルパターンを有しない通常のパッドやランドと比べてベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））に熱が伝わり難くするものである。そのため、特定の電子部品の接続端子それぞれがハンダ付けされるパッドやスルーホールのランドのうち少なくとも一つをサーマルパッドやサーマルランドで形成することにより、特定の電子部品をハンダ付

けする際の温度低下が抑制されて（放熱が抑制されて）、パッド上のハンダを確実に溶融させることや、裏面に付けられたハンダをスルーホールによって表面側まで確実に吸い上げることが可能になるため、特定の電子部品の溶着が強固になるとともに基板の剛性が向上する。すなわち、主制御基板１３１０や払出制御基板６３３、周辺制御基板１５１０などのベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））が形成されている基板において、特定の電子部品の接続端子それぞれがハンダ付けされるパッドやランドのうち少なくとも一つをサーマルパッドやサーマルランドで形成することにより、特定の電子部品としてのコンデンサの溶着が強固になることに加え、基板の剛性が高まり、さらに上記したようにベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））に接続するまでのグランド接続用の配線パターン（サーマルパターン）の長さが短くなるため、特定の電子部品を取り外すような力が加えられた場合であってもスルーホールやパッド、グランド接続用の配線パターン（サーマルパターン）が接続されるベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））によってグランド接続用の配線パターン（サーマルパターン）が剥離したり、電子部品が剥がれ落ちたりすることを抑止できる。

【５６６３】

また、サーマルパターンそれぞれの長さ（パッドやランドからベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）までの長さ）、換言すると特定の電子部品の接続端子がハンダ付けされるサーマルパッドやサーマルランドにおいて、ベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド）に物理的に接続されるまでのグランド接続用の配線パターン（サーマルパターン）それぞれの長さは均一とされ、かつそれぞれが予め設定されている一定の長さを有するように形成されている。一方、本例のセンサ基板１０５２Ａではベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））が形成されず、グランド接続用の配線パターン１０５２Ａ２の長さは一定とされていない。そのため、特定の電子部品を取り外すような力が加えられた場合にサーマルパターンそれぞれに対して均一に力が加わるようになり、サーマルパターンの一部が剥がれることを抑制できる。一方、本例のセンサ基板１０５２Ａでは特定の電子部品を取り外すような力が加えられた場合にグランド接続用の配線パターン１０５２Ａ２のうちの脆弱な部分（例えばより長い配線パターン１０５２Ａ２）に力が集中的に加わって剥離しやすくなる。

【５６６４】

上記したように、主側基板のうちのパチンコ機１の裏側に設けられて表面（実装面１３１０ｘ、６３３ｘ）がパチンコ機１の後方側を向くように配置される主制御基板１３１０や払出制御基板６３３などにおいては、パチンコ機１の裏面側からアクセス可能とされてパチンコ機１の表面側からアクセス不能である。一方、これらの基板よりも遊技者側に設けられる主側基板である、磁気センサ１０５０に設けられるセンサ基板１０５２や機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等、は表面（表実装面）が遊技者とは反対側に向けられていないため、パチンコ機１の表面側からアクセス可能である。本例では、パチンコ機１の表面側からアクセス不能な主側基板（主制御基板１３１０や払出制御基板６３３など）と、パチンコ機１の表面側からアクセス可能な主側基板（磁気センサ１０５０に設けられるセンサ基板１０５２Ａ等）と、について不正対策の構成を異ならせることで、各々の配置や機能などに応じた効果的な不正対策を施すことが可能になる。

【５６６５】

［不正対策を施す変形例２］

上記不正対策を施す変形例１では、パチンコ機１の表面側からアクセス不能な主側基板（主制御基板１３１０や払出制御基板６３３など）と、パチンコ機１の表面側からアクセス可能な主側基板（磁気センサ１０５０に設けられるセンサ基板１０５２Ａ等）と、について不正対策の構成を異ならせたものを示したが、パチンコ機１の表面側からアクセス可能な主側基板（磁気センサ１０５０に設けられるセンサ基板１０５２Ａ等）と、パチンコ機１の表面側からアクセス可能なサブ側基板であって表面（表基板面）にＬＥＤが実装さ

れ、該ＬＥＤを駆動するドライバが表面（表基板面）または裏面（裏基板面）に実装される装飾基板と、について不正対策の構成を異ならせるものであってもよい。以下、不正対策を施す変形例２について図３７３を参照して詳細に説明する。なおパチンコ機１の表面側からアクセス可能なサブ側基板として裏後左可動装飾基板３３１１Ａについて説明する。また、裏後左可動装飾基板３３１１Ａは上記裏後左可動装飾基板３３１１と同一の基板であり、不正対策を施す変形例２では上記実施形態（特に裏後左可動装飾基板３３１１）と異なる部分についてのみ説明し、重複した説明を行わない。

【５６６６】

図３７３は、本例における裏後左可動装飾基板３３１１ＡのＬＥＤ３３１４ａが実装されていない裏面（裏基板面）を示す説明図である。図３７３に示すように本例では、裏後左可動装飾基板３３１１Ａの裏実装面には、表実装面と同様に白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされ、ＩＣ３３１１ｅとコンデンサ３３１１ｆとコネクタ３３１１ｇとが実装されている。また、ＩＣ３３１１ｅの複数の接続端子３３１１ｅａがハンダ付けされる複数のパッド３３１１Ａ１ａのうちの第１端子３３１１ｅａがハンダ付けされるパッド３３１１Ａ１ａ（ＩＣ３３１１ｅの図示左下部）の側方には電子部品の実装向き（実装方向、第１端子の配置位置）を示す１ピンマーク３３１１ｅ１として数字の１を丸で囲んだ記号をシルク印刷によりレジスト上に形成している。なお、電子部品の実装向き（実装方向、第１端子の配置位置）を示す１ピンマーク３３１１ｅ１は上記したものに限らず、三角記号（△）や丸などであってもよい。

【５６６７】

また、図示右下部には各基板を管理するための固有の識別番号である基板管理番号３３１１Ａ３が箔抜き文字（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで文字を作りその周囲の銅箔を抜いて形成される抜き文字）で形成されている。なお、基板管理番号３３１１Ａ３は、箔抜き文字で形成されるものに限らず、箔残し文字（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において文字に対応する部分の銅箔を抜いて形成される文字）で形成されるものや、シルク印刷によりレジスト上に印刷されるものであってもよい。

【５６６８】

また、裏後左可動装飾基板３３１１Ａの裏面（裏基板面）には、略全域にベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））３３１１Ａ１が形成され、裏後左可動装飾基板３３１１Ａの裏面（裏基板面）に実装されるＩＣ３３１１ｅの複数の接続端子３３１１ｅａのうちの一つとコンデンサ３３１１ｆの複数の接続端子３３１１ｆａのうちの一方とコネクタ３３１１ｇの複数の接続端子３３１１ｇａのうちの一つとが接続され、電源基板６３０で作成される各種電源（＋５Ｖ、＋１２Ｖ、＋２４Ｖ等の直流電源）を供給する電源ラインを構成している。

【５６６９】

本例では、図３７３に示すようにＩＣ３３１１ｅとコンデンサ３３１１ｆとコネクタ３３１１ｇとのそれぞれ複数の接続端子３３１１Ａ１ａ、３３１１Ａ１ｂ、３３１１Ａ１ｃのうち、ベタパターンと接続される接続端子（ＧＮＤ端子ともいう）がハンダ付けされるパッド３３１１Ａ１ａ、３３１１Ａ１ｂ、３３１１Ａ１ｃは、サーマルパターンを有するサーマルパッド３３１１Ａ１ａ、３３１１Ａ１ｂ、３３１１Ａ１ｃとして形成されている。そのため、裏後左可動装飾基板３３１１Ａの裏面（裏基板面）においてＩＣ３３１１ｅとコンデンサ３３１１ｆとコネクタ３３１１ｇとのそれぞれを強固に溶着することが可能になる。

【５６７０】

また、図３７３に示すようにＩＣ３３１１ｅとコンデンサ３３１１ｆとコネクタ３３１１ｇとのそれぞれに形成されるサーマルパッド３３１１Ａ１ａ、３３１１Ａ１ｂ、３３１１Ａ１ｃは、パッド３３１１Ａ１ａ、３３１１Ａ１ｂ、３３１１Ａ１ｃとベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））３３１１Ａ１とを物理的に接続するサーマルパターンそれぞれの長さが均一とされ、かつそれぞれが予め設定されている一定の長さを

有するように形成されている。また、サーマルパターンそれぞれの長さは実装不可領域を挟んで隣接する電子部品の間隔よりも短く形成されている。つまり、裏後左可動装飾基板３３１１Ａの裏面（裏基板面）に実装されるＩＣ３３１１ｅとコンデンサ３３１１ｆとコネクタ３３１１ｇとのそれぞれは、グランド接続用の配線パターン（サーマルパターン）が短く形成され、かつベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））３３１１Ａ１に接続するまでのグランド接続用の配線パターン（サーマルパターン）の長さが略均一とされている。そのため、裏後左可動装飾基板３３１１Ａの裏面（裏基板面）においてＩＣ３３１１ｅとコンデンサ３３１１ｆとコネクタ３３１１ｇとのいずれかを取り外すような力が加えられた場合に、サーマルパターンそれぞれに対して均一に力を分散させるとともに、各パッド３３１１Ａ１ａ、３３１１Ａ１ｂ、３３１１Ａ１ｃと極めて短い距離で物理的に接続されるベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））３３１１Ａ１によってグランド接続用の配線パターン（サーマルパターン）が剥離したり、電子部品が剥がれ落ちたりすることを抑止できるようになる。

【５６７１】

このように、パチンコ機１の表面側からアクセス可能なサブ側基板であって表面（表基板面）にＬＥＤが実装され、該ＬＥＤを駆動するドライバが表面（表基板面）または裏面（裏基板面）に実装される装飾基板では、電子部品の溶着を強固にして電子部品が剥がれ落ちることや配線パターンが剥離することを抑止するように構成される。

【５６７２】

一方、上記不正対策を施す変形例１に示すように、パチンコ機１の表面側からアクセス可能とされるメイン側基板である磁気センサ１０５０に設けられるセンサ基板１０５２Ａ等は、ベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））及びサーマルパッド、サーマルランドが全く形成されず、グランド接続用の配線パターンの長さが実装不可領域を挟んで隣接する電子部品の間隔よりも長く、さらにグランド接続用の配線パターンの長さが不均一とされているため、センサ基板１０５２Ａに実装される電子部品を取り外すような力が加えられた場合にはパッドやグランド接続用の配線パターン１０５２Ａ２、センサ本体からの検出信号が伝送される配線パターン１０５２Ａ３、電源基板６３０で作成される各種電源（＋５Ｖ、＋１２Ｖ、＋２４Ｖ等の直流電源）を供給する配線パターン（電源ライン）１０５２Ａ１のうちの脆弱な部分（例えばより長い配線パターン１０５２Ａ２）に力が集中的に加わって剥離し、回路が破壊されるように構成している。

【５６７３】

すなわち、パチンコ機１の表面側からアクセス可能なサブ側基板は、遊技の演出にかかわる処理を実行するものであるのに対し、パチンコ機１の表面側からアクセス可能な主側基板は、遊技の制御にかかわる処理を実行するものであり、遊技者や遊技場の利益にかかわる重要な基板であって、不正改造等がされた場合に遊技者や遊技場に不利益を与えるおそれがある。一方、サブ側基板は不正改造等がされた場合であっても遊技者や遊技場に不利益を与えるおそれが低い。

【５６７４】

そのため、パチンコ機１の表面側からアクセス可能な基板のうち、サブ側基板については電子部品の溶着を強固にしたり、配線パターンの剥離を抑制したりすることで回路を破壊されにくくすることで基板を保護し、主側基板についてはあえて回路を破壊されやすくすることで不正改造等が行われるような場合には回路自体を破壊させて不正改造を抑制し、遊技者や遊技場に不利益を与えないようにしている。

【５６７５】

なお、パチンコ機１の表面側からアクセス可能なサブ側基板のうち特別なサブ側基板については、上記不正対策を施す変形例１と同様にあえて回路を破壊されやすい構成を採用するように構成してもよい。例えば、パチンコ機１の表面側からアクセス可能なサブ側基板のうち遊技盤５に設けられてＬＥＤが実装される装飾基板であって、該ＬＥＤを駆動するドライバが実装されない基板（例えば裏後左可動装飾基板３３１４）については上記不正対策を施す変形例１と同様にあえて回路を破壊されやすい構成を採用するように構成し

てもよく、この場合にはこの装飾基板にベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））を形成しないようにしてもよい。これにより、特別なサブ側基板についてあえて回路を破壊されやすくし、ドライバが実装されていないことでより重要度の低い基板に対していたずらなどが行われた場合には、あえて回路を破壊させることでいたずら行為を行う行為者を満足させて、ドライバが実装される基板やセンサ基板１０５２Ａなどの他の基板に対するいたずらを抑止させることが可能である。

【５６７６】

［基板の強度を高める変形例１］

上記した主側基板は遊技の進行にかかわる重要な処理を行ったり、不正行為を検出する電子部品が実装されていたりするものであり、主側基板の中でも特に主制御基板１３１０や払出制御基板６３３などは遊技の進行にかかわる重要な処理を実行したり、遊技者の利益（賞球）にかかわる重要な処理を実行したりするものである。本例ではこのような重要な処理を実行する基板に対して、強度（曲げ強度、剛性）を高めて実装されている電子部品が剥がれ落ちることを抑制するようになっている。以下、基板の強度を高める変形例１について図３７４（Ａ）を参照して説明する。また基板の強度を高める変形例１では上記実施形態（特に図３６４に示す主制御基板１３１０）と異なる部分についてのみ説明し、重複した説明を行わない。

【５６７７】

なお、以下では主制御基板１３１０について説明するが、払出制御基板６３３や周辺制御基板１５１０であっても本技術思想は適用可能である。すなわち、特定の電子部品（例えばＩＣ）と特定の電子部品と実装不可領域を挟んで隣接配置する電子部品（例えばコンデンサ）とが実装される基板であれば本技術思想は適用可能である。また、上記した実施形態と組み合わせて実行することも可能である。例えば、不正の判別容易性の向上１～不正の判別容易性の向上３や表面実装タイプの電子部品の剥離防止１～表面実装タイプの電子部品の剥離防止４のいずれか１つまたは複数と組み合わせて実行することも可能である。

【５６７８】

図３７４（Ａ）は、基板の強度を高める変形例における主制御基板１３１０の実装状態のうち特定の電子部品としての表面実装タイプ（チップ部品、ＳＭＤタイプ）のＩＣおよび該ＩＣに実装不可領域を挟んで隣接配置する挿入実装タイプ（ディップ部品）のコンデンサとの実装状態を示す説明図である。

【５６７９】

本例の主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘには、基端部の１ｍｍほどを除いて略全域にベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））１３１２が形成され、基板表面に形成されるパッド１３１０ｋに接続端子ＩＣ１ａをハンダ付けすることによって基板に固定される複数の表面実装タイプのＩＣ１や、スルーホール１３１０ｒ内にリード端子を挿入してこのリード端子をスルーホール１３１０ｒやランドにハンダ付けすることで基板に固定される複数のリードタイプのコンデンサＭＣ１を含む複数の電子部品が実装されている。

【５６８０】

また、上記したように本例では表面実装タイプのＩＣ１に隣接して（実装不可能領域を挟んで）リードタイプのコンデンサＭＣ１が配置され、このコンデンサＭＣ１のリード端子ＭＣ１ａが挿入される２つのスルーホール１３１０ｒのランド１３１０ｓ、１３１０ｒのうち一方を、ベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））１３１２とランドとを電気的かつ物理的に接続するサーマルパターン１３１０ｖ（図３７４（Ａ）のハッチング部分）を有するサーマルランド１３１０ｓ'として形成する。

【５６８１】

このように、コンデンサＭＣ１のリード端子が挿入される２つのスルーホールのうちの一方に設けられるランドを、サーマルパターン１３１０ｖを有するサーマルランド１３１０ｓ'として形成することにより、サーマルパターン１３１０ｖを有さずにその周囲がベ

タパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））１３１２に直接接続される（ベタパターン１３１２と一体的に形成される）通常のランド１３１０ｓと比べてベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））１３１２に熱が伝わり難くなるため、リードタイプのコンデンサＭＣ１をハンダ付けする際の温度低下が抑制され（放熱が抑制されて）、スルーホール１３１０ｒによって主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）に付けられたハンダを主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘ側まで確実に吸い上げることができ、通常のランド１３１０ｓに比べてコンデンサＭＣ１を主制御基板１３１０に強固に溶着させることが可能になるし、コンデンサＭＣ１と主制御基板１３１０との溶着が強固になることで主制御基板１３１０の曲げや反りが抑制されて表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制できるため、パチンコ機１の信頼性が向上する。

【５６８２】

本例では、リードタイプのコンデンサＭＣ１に隣接して（実装不可能領域を挟んで）配置する表面実装タイプのＩＣ１についても剥がれ落ちを抑制するように構成されている。具体的には、図３７４（Ａ）に示すように、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおいてＩＣ１の接続端子ＩＣ１ａがハンダ付けされる複数のパッド１３１０ｋ、１３１０ｋ'のうちの一つを、ベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））１３１２とパッドとを電気的かつ物理的に接続するサーマルパターン１３１０ｖ（図３７４（Ａ）のハッチング部分）を有するサーマルパッド１３１０ｋ'として形成する。

【５６８３】

このように、表面実装タイプのＩＣ１の接続端子ＩＣ１ａがハンダ付けされるパッド１３１０ｋ、１３１０ｋ'のうちの１つをサーマルパッド１３１０ｋ'として形成することにより、サーマルパターン１３１０ｖを有さずにその周囲がベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））１３１２に直接接続される（ベタパターン１３１２と一体的に形成される）通常のパッド１３１０ｋと比べてベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））１３１２に熱が伝わり難くなるため、表面実装タイプのＩＣ１をハンダ付けする際の温度低下が抑制され（放熱が抑制されて）、サーマルパッド１３１０ｋ'上のハンダを確実に溶解させることができ、通常のパッド１３１０ｋに比べてＩＣ１を主制御基板１３１０に強固に溶着させることが可能になるし、ＩＣ１と主制御基板１３１０との溶着が強固になることで主制御基板１３１０に曲げや反りが発生しても剥がれ落ち（実装剥がれ）にくくすることができるため、パチンコ機１の信頼性が向上する。

【５６８４】

なお、本例ではＩＣ１の接続端子ＩＣ１ａがハンダ付けされる複数のパッド１３１０ｋのうち、当該ＩＣ１を安定駆動するために隣接配置するコンデンサＭＣ１から離れた位置に設けられるパッド１３１０ｋ'を、サーマルパターン１３１０ｖを有するサーマルパッド１３１０ｋ'として形成している。具体的には、ＩＣ１の長手辺に沿って設けられる複数の接続端子ＩＣ１ａに対応して設けられる複数のパッド１３１０ｋ、１３１０ｋ'のうち、コンデンサＭＣ１が設けられていない図示左側の短手辺に最も近い位置に設けられる接続端子ＩＣ１ａに対応して設けられるパッドをサーマルパッド１３１０ｋ'として形成している。

【５６８５】

上記したように、リードタイプのコンデンサＭＣ１が実装されることにより主制御基板１３１０におけるコンデンサＭＣ１の周囲の領域は、曲げ強度や剛性が高まり、曲げや反りなどが抑制される。また、曲げ強度や剛性はコンデンサＭＣ１に近いほど高くなるため、ＩＣ１のコンデンサＭＣ１に近い位置に設けられている接続端子ＩＣ１ａほどパッド１３１０ｋから剥がれにくくなる。一方で、コンデンサＭＣ１から離れるほど曲げ強度や剛性が低下するため、コンデンサＭＣ１から離れるほど主制御基板１３１０の曲げや反りなどが発生しやすくなり、ＩＣ１のコンデンサＭＣ１から遠い位置に設けられている接続端子ＩＣ１ａほどパッド１３１０ｋから剥がれやすくなる。そのため本例では、表面実装タイプのＩＣ１の接続端子ＩＣ１ａがハンダ付けされるパッド１３１０ｋのうち、当該ＩＣ１を安定駆動するために隣接配置するコンデンサＭＣ１から離れた位置にサーマルパッド

１３１０ｋ'を形成している。これにより、コンデンサＭＣ１から離れることで曲げ強度や剛性が低下し、ＩＣ１の接続端子ＩＣ１ａとパッド１３１０ｋとの溶着が剥がれやすい部分について、サーマルパッド１３１０ｋ'として形成し、ＩＣ１の接続端子ＩＣ１ａとの溶着を他のパッド１３１０ｋよりも強固にするとともに、これによって主制御基板１３１０の曲げ強度や剛性を高めることが可能であるため、ＩＣ１の接続端子ＩＣ１ａがサーマルパッド１３１０ｋ'から剥がれにくくなる。

【５６８６】

また、コンデンサＭＣ１のリード端子ＭＣ１ａが挿入される２つのスルーホール１３１０ｒのうちの一方に設けられるランドを、サーマルパターン１３１０ｖを有するサーマルランド１３１０ｓ'として形成するだけでなく、表面実装タイプのＩＣ１の接続端子ＩＣ１ａがハンダ付けされるパッド１３１０ｋのうち、当該ＩＣ１を安定駆動するために隣接配置するコンデンサＭＣ１から離れた位置に、サーマルパターン１３１０ｖを有するサーマルパッド１３１０ｋ'が形成されることにより、コンデンサＭＣ１に対して設けられるサーマルランド１３１０ｓ'とＩＣ１に対して設けられるサーマルパッド１３１０ｋ'によってＩＣ１が実装される領域の略全域を挟み込み、ＩＣ１が実装される領域の略全域の剛性を高めることができるため、ＩＣ１が実装される領域の曲げや反りの発生を抑制でき、表面実装タイプのＩＣ１の接続端子ＩＣ１ａがハンダ付けされるパッド１３１０ｋ、１３１０ｋ'のすべてを、サーマルパターン１３１０ｖを有しない通常のパッドで形成する場合に比べて、ＩＣ１の剥がれ落ちの抑制効果を向上させることができ、パチンコ機１の信頼性が向上する。

【５６８７】

このように、主側基板の中でも特に主制御基板１３１０や払出制御基板６３３などは遊技の進行にかかわる重要な処理を実行したり、遊技者の利益（賞球）にかかわる重要な処理を実行する基板については、サーマルパッドとサーマルランドとの両方を備えるように構成することで基板の剛性を高めるようになっている。一方、主側基板のうちのパチンコ機１の表面側からアクセス可能な基板な基板であって、主制御基板１３１０や払出制御基板６３３よりも重要度の低い基板、例えば磁気センサ１０５０に設けられるセンサ基板１０５２や機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等には、サーマルパッドとサーマルランドとのいずれも形成されていない。

【５６８８】

なお、主制御基板１３１０に形成されてベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））１３１２と電気的かつ物理的に接続されるランドとパッドとの全てをサーマルランドやサーマルパッドで形成するものに限らず、ベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））１３１２と電気的かつ物理的に接続されるランドとパッドとのうちの一部のランドとパッドとをサーマルランドやサーマルパッドとして形成し、他のランドやパッドはサーマルパターンを有しない通常のランドやパッドとして形成してもよい。例えば、サーマルランドやサーマルパッドの周囲に形成されてベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））１３１２と電気的かつ物理的に接続されるランド（ビア）やパッドであって、電子部品が実装されないランド（ビア）やパッドについてはサーマルパターンを有しない通常のランド（ビア）やパッドとして形成するようにしてもよい。

【５６８９】

また、本例ではコンデンサＭＣ１に対して設けられるサーマルランド１３１０ｓ'が有するサーマルパターン１３１０ｖと、ＩＣ１に対して設けられるサーマルパッド１３１０ｋ'が有するサーマルパターン１３１０ｖと、の形成される向きを異ならせている。具体的には、図３７４（Ａ）のコンデンサＭＣ１に対して設けられるサーマルランド１３１０ｓ'が有するサーマルパターン１３１０ｖは、基端部の辺に対して４５度傾いて交わるような向きに形成されてベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））１３１２と電気的かつ物理的に接続し、ＩＣ１に対して設けられるサーマルパッド１３１０ｋ'

が有するサーマルパターン１３１０ｖは、基端部に対して垂直または水平に交わるような向きに形成されてベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））１３１２と電気的かつ物理的に接続する。なお、図３７４（Ａ）において図示上下方向は主制御基板１３１０の長手辺の基端部、図示左右方向は主制御基板１３１０の短手辺の基端部、に対応している。

【５６９０】

このように、実装不可能領域を挟んで隣接配置するリードタイプのコンデンサＭＣ１に対して設けられるサーマルランド１３１０ｓ'のサーマルパターン１３１０ｖと、表面実装タイプのＩＣ１に対して設けられるサーマルパッド１３１０ｋ'のサーマルパターン１３１０ｖと、を異なる向きに形成するため、特定の方向（例えば長手辺に沿った方向や短手辺に沿った方向）に対する曲げ強度を高めることに加えて、特定の方向から４５度傾いた方向に対する曲げ強度も高めることができ、実装不可能領域を挟んで隣接配置するリードタイプのコンデンサＭＣ１に対して設けられるサーマルランド１３１０ｓ'のサーマルパターン１３１０ｖと、表面実装タイプのＩＣ１に対して設けられるサーマルパッド１３１０ｋ'のサーマルパターン１３１０ｖと、を同じ向きに形成する場合に比べて、表面実装タイプのＩＣ１などの特定の電子部品が剥がれ落ちを抑制できる。

【５６９１】

ここで、一般的に基板サイズが小さいほど、反りや曲げなどの変形が生じにくい。そのため、本例では磁気センサ１０５０に設けられるセンサ基板１０５２や機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板を、主制御基板１３１０や払出制御基板６３３、さらに周辺制御基板１５１０に比べて小さい基板サイズで形成している。これにより、磁気センサ１０５０に設けられるセンサ基板１０５２や機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板については反りや曲げなどの変形を抑制するようになっている。

【５６９２】

また、上記したように磁気センサ１０５０に設けられるセンサ基板１０５２や機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板は、ケースなどの収容部内に固定されて収容される。このように、ケースに固定されることによっても反りや曲げなどの変形が抑制されるようになっている。

【５６９３】

なお、サブ側基板のうちのパチンコ機１の表面側からアクセス可能な基板（例えば遊技盤５に設けられる各種装飾基板（裏後左可動装飾基板３３１１Ａなど））は、主制御基板１３１０や払出制御基板６３３、さらに周辺制御基板１５１０に比べて小さい基板サイズで形成されるが、主側基板のうちのパチンコ機１の表面側からアクセス可能な基板な基板であって、主制御基板１３１０や払出制御基板６３３よりも重要度の低い基板、例えば磁気センサ１０５０に設けられるセンサ基板１０５２や機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等に比べて大きい基板サイズで形成される。

【５６９４】

また、上記したように主制御基板１３１０や払出制御基板６３３には、表面実装タイプの電子部品と挿入実装タイプの電子部品との両方が実装され、電子部品の部品番号、電子部品を配置する位置を示す領域等の電子部品の属性（さらに、電子部品の形状、電子部品の大きさ、電子部品の実装向き（実装方向）、電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表記部が、緑色に対して目立ち易い白色の塗料で、主制御基板１３１０や払出制御基板

６３３にベタ塗りされた緑色のレジスト上にシルク印刷されている。また、周辺制御基板１５１０には、表面実装タイプの電子部品のみが実装され、電子部品の部品番号、電子部品を配置する位置を示す領域等の電子部品の属性（さらに、電子部品の形状、電子部品の大きさ、電子部品の実装向き（実装方向）、電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表記部が、緑色に対して目立ち易い白色の塗料で、周辺制御基板１５１０にベタ塗りされた緑色のレジスト上にシルク印刷されている。

【５６９５】

また、サブ側基板のうちのパチンコ機１の表面側からアクセス可能な基板（例えば遊技盤５に設けられる各種装飾基板（裏後左可動装飾基板３３１１Ａなど））には、表面実装タイプの電子部品のみが実装され、電子部品の部品番号、電子部品を配置する位置を示す領域等の電子部品の属性（さらに、電子部品の形状、電子部品の大きさ、電子部品の実装向き（実装方向）、電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表記部が、白色に対して目立ち難く反射率の近い黄色の塗料で、サブ側基板のうちのパチンコ機１の表面側からアクセス可能な基板（例えば遊技盤５に設けられる各種装飾基板（裏後左可動装飾基板３３１１Ａなど））にベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷されている。

【５６９６】

また、主制御基板１３１０や払出制御基板６３３よりも重要度の低い基板、例えば磁気センサ１０５０に設けられるセンサ基板１０５２や機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等には、表面実装タイプの電子部品のみが実装され、白色または緑色、若しくは黒色などのレジストがベタ塗されているものの、電子部品の部品番号、電子部品を配置する位置を示す領域等の電子部品の属性（さらに、電子部品の形状、電子部品の大きさ、電子部品の実装向き（実装方向）、電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表記部が、一切シルク印刷されていない。

【５６９７】

また、上記したようにサブ側基板のうちのパチンコ機１の表面側からアクセス可能な基板（例えば遊技盤５に設けられる各種装飾基板（裏後左可動装飾基板３３１１Ａなど））は、主制御基板１３１０や払出制御基板６３３、さらに周辺制御基板１５１０に比べて小さく、主側基板のうちのパチンコ機１の表面側からアクセス可能な基板な基板であって、主制御基板１３１０や払出制御基板６３３よりも重要度の低い基板、例えば磁気センサ１０５０に設けられるセンサ基板１０５２や機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等に比べて大きい基板サイズで形成される。そして、パターンの数は主制御基板１３１０や払出制御基板６３３、さらに周辺制御基板１５１０が最も多く、次いでサブ側基板のうちのパチンコ機１の表面側からアクセス可能な基板（例えば遊技盤５に設けられる各種装飾基板（裏後左可動装飾基板３３１１Ａなど））となり、主側基板のうちのパチンコ機１の表面側からアクセス可能な基板な基板であって、主制御基板１３１０や払出制御基板６３３よりも重要度の低い基板、例えば磁気センサ１０５０に設けられるセンサ基板１０５２や機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等に形成されるパターンの数が最も少なくされている。

【５６９８】

そのため、サブ側基板のうちのパチンコ機１の表面側からアクセス可能な基板（例えば遊技盤５に設けられる各種装飾基板（裏後左可動装飾基板３３１１Ａなど））は、主側基板のうちのパチンコ機１の表面側からアクセス可能な基板な基板であって、主制御基板１３１０や払出制御基板６３３よりも重要度の低い基板、例えば磁気センサ１０５０に設けられるセンサ基板１０５２や機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動

口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等に比べて反りや曲げなどの変形が生じやすい。

【５６９９】

本例では、サブ側基板のうちのパチンコ機１の表面側からアクセス可能な基板（例えば遊技盤５に設けられる各種装飾基板（裏後左可動装飾基板３３１１Ａなど））については、略全域にベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））を形成し、実装される電子部品のＧＮＤ端子が接続されるパッドを、サーマルパターンを有するサーマルパッドとして形成する。

【５７００】

具体的には、図３７３に示すように裏後左可動装飾基板３３１１Ａの裏面（裏基板面）に実装されるＩＣ３３１１ｅとコンデンサ３３１１ｆとコネクタ３３１１ｇとのそれぞれのＧＮＤ端子が接続されるパッドを、サーマルパターンを有するサーマルパッド３３１１Ａ１ａ、３３１１Ａ１ｂ、３３１１Ａ１ｃとして形成する。上記したように、サーマルパターンを有するサーマルパッドとして形成することにより、サーマルパターンを有しない通常のパッドと比べてベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））に熱が伝わり難くなって、表面実装タイプの電子部品をハンダ付けする際の温度低下が抑制され（放熱が抑制されて）、サーマルパッド上のハンダを確実に溶解させることができるため、通常のパッドに比べて表面実装タイプの電子部品を強固に溶着させることが可能になる。

【５７０１】

本例では、裏後左可動装飾基板３３１１Ａに表面実装タイプ（チップ部品）の電子部品のみを実装するものの、これら表面実装タイプの電子部品のＧＮＤ端子が接続されるパッド３３１１Ａ１ａ、３３１１Ａ１ｂ、３３１１Ａ１ｃを、サーマルパターンを有するサーマルパッドとして形成することにより、サーマルパターンを有しない通常のパッドと比べてベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））３３１１Ａ１に熱が伝わり難くなり、表面実装タイプの電子部品をハンダ付けする際の温度低下が抑制され（放熱が抑制されて）、サーマルパッド上のハンダを確実に溶解させることができるため、通常のパッドに比べて表面実装タイプの電子部品を裏後左可動装飾基板３３１１Ａに強固に溶着させることが可能になって、裏後左可動装飾基板３３１１Ａに曲げや反りが発生しても剥がれ落ち（実装剥がれ）にくくすることができる。

【５７０２】

なお、図３７４に示すようにサーマルランドは、最大で４本のサーマルパターンを有するように形成され、それぞれがベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））に接続（電気的、かつ物理的に接続）されている。これに対し、サーマルパッドは、最大で３本のサーマルパターンを有するように形成され、それぞれがベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））に接続（電気的、かつ物理的に接続）される。このように、サーマルランドは最大で４本のサーマルパターンでベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））に接続され、サーマルパッドは最大で３本のサーマルパターンでベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））に接続される。

【５７０３】

また、サーマルランドおよびサーマルパッドからベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））に接続するまでのサーマルパターンは実装不可領域よりも短くされている。そして、上記したようにサーマルランドはサーマルパッドよりも多くのサーマルパターンによってベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））に接続され、サーマルパッドよりもベタパターンとの接続が強固とされているため、剥離しにくい。

【５７０４】

このように、主側基板の中でも特に遊技の進行にかかわる重要な処理や、遊技者の利益（賞球）にかかわる重要な処理を実行する主制御基板１３１０や払出制御基板６３３については、サーマルパッドよりも剥離強度が高い（剥離しにくい）サーマルランドを形成するとともにサーマルパッドを形成することで曲げや反りなどを抑制することに加えて、配

線パターンの剥離を抑制できるため、基板の剛性を高めて遊技機の信頼性を向上させることができる。

【５７０５】

また、磁気センサ１０５０に設けられるセンサ基板１０５２や機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板は、サーマルランドやサーマルパッドを形成することなく、主制御基板１３１０や払出制御基板６３３の１０分の１以下の基板サイズで形成し、ケースに固定して収容することにより、反りや曲げなどの変形を抑制できるように構成している。

【５７０６】

さらに、主制御基板１３１０や払出制御基板６３３よりも基板サイズが小さく、磁気センサ１０５０に設けられるセンサ基板１０５２や機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板よりも大きい基板サイズで形成される、サブ側基板のうちのパチンコ機１の表面側からアクセス可能な基板（例えば遊技盤５に設けられる各種装飾基板（裏後左可動装飾基板３３１１Ａなど））については、主制御基板１３１０や払出制御基板６３３よりも基板サイズが小さいことで主制御基板１３１０や払出制御基板６３３よりも曲げや反りなどの変形が生じにくいものの、磁気センサ１０５０に設けられるセンサ基板１０５２や機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板よりも基板サイズが大きいため、これら基板よりも曲げや反りなどの変形が生じやすい。そのため、サブ側基板のうちのパチンコ機１の表面側からアクセス可能な基板（例えば遊技盤５に設けられる各種装飾基板（裏後左可動装飾基板３３１１Ａなど））については、サーマルパッドを形成することで曲げや反りなどを抑制できるように構成している。

【５７０７】

すなわち、本例では基板の重要度や基板サイズに応じて、基板の強度を高める技術を異ならせ、それぞれに最適な強度を付与するようになっている。これにより、重要度の低い基板に対して過剰に強度を向上させたり（オーバースペック）、重要な基板に対して強度が不足したりすることを抑制でき（強度不足を抑制）、それぞれに最適な強度を付与して遊技機の信頼性を向上させることができる。

【５７０８】

なお、主制御基板１３１０や払出制御基板６３３と略同等の基板サイズを有する周辺制御基板１５１０については、主制御基板１３１０や払出制御基板６３３よりも重要度が低い基板であるため、主制御基板１３１０や払出制御基板６３３よりも基板サイズが小さく、磁気センサ１０５０に設けられるセンサ基板１０５２や機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板よりも大きい基板サイズで形成される、サブ側基板のうちのパチンコ機１の表面側からアクセス可能な基板（例えば遊技盤５に設けられる各種装飾基板（裏後左可動装飾基板３３１１Ａなど））と同様の構成を採用するようにしてもよい。すなわち、周辺制御基板１５１０に表面実装タイプ（チップ部品）の電子部品のみを実装し、これら表面実装タイプの電子部品のＧＮＤ端子が接続されるパッドを、サーマルパターンを有するサーマルパッドとして形成することにより、通常のパッドと比べてベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））に熱が伝わり難くして、表面実装タイプの電子部品をハンダ付けする際の温度低下を抑制し（放熱を抑制し）、サーマルパッド上のハンダを確実に溶解させて、通常のパッドに比べて表面実装タイプの電子部品を周辺制御基板１５１０に強固に溶着させて、周辺制御基板１５１０に曲げや反りが発生しても剥がれ落ち（実装剥がれ）にくくするようにしてもよい。

【５７０９】
　また、周辺制御基板１５１０に実装されるコネクタについては、リードタイプの電子部品（リード部品ともいう）を用いて周辺制御基板１５１０に形成されるスルーホールに挿入実装するように構成してもよく、この場合には、コネクタのＧＮＤ端子がハンダ付けされるスルーホールのランドをサーマルランドとして形成するように構成してもよい。この場合には、コネクタと周辺制御基板１５１０との溶着が強固になり、コネクタが抜き差しされた場合に配線パターンやランドが剥離することを抑制できる。また、図１７０に示すように周辺制御基板１５１０においてコネクタは長手辺に沿って列設配置する。コネクタと周辺制御基板１５１０との溶着が強固になることで、周辺制御基板１５１０の長手辺の曲げや反りが抑制できることに加え、サーマルパッドを採用することで通常のパッドに比べて表面実装タイプの電子部品を周辺制御基板１５１０に強固に溶着させて、周辺制御基板１５１０に曲げや反りが発生しても剥がれ落ち（実装剥がれ）にくくなる。
【５７１０】
［基板の強度を高める変形例２］
　上記したように、本例では遊技の進行にかかわる重要な処理を実行する主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘには、表面実装タイプのＩＣ１に隣接して（実装不可能領域を挟んで）リードタイプのコンデンサＭＣ１が配置され、このコンデンサＭＣ１のリード端子ＭＣ１ａが挿入される２つのスルーホール１３１０ｒのうちベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））１３１２に接続されるスルーホール１３０１ｒを、サーマルパターン１３１０ｖを有するサーマルランド１３１０ｓ'として形成し、さらに、ＩＣ１の接続端子ＩＣ１ａがハンダ付けされるパッド１３１０ｋのうちベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））１３１２に接続されるパッド１３１０ｋを、サーマルパターン１３１０ｖを有するサーマルパッド１３１０ｋ'として形成することにより、主制御基板１３１０の強度を高めて曲げや反りが抑制し、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制するように構成する。
【５７１１】
　一方、周辺制御基板１５１０は、遊技の進行や遊技者の利益（賞球）に関わる重要な処理を実行しないが、遊技の演出に関わる重要な処理を実行するものである。そのため、本例では、周辺制御基板１５１０に対して、強度（曲げ強度、剛性）を高めて実装されている電子部品が剥がれ落ちることを抑制するようになっている。以下、基板の強度を高める変形例２について図３７４（Ｂ）を参照して説明する。また基板の強度を高める変形例２では上記実施形態と異なる部分についてのみ説明し、重複した説明を行わない。
【５７１２】
　なお、以下では周辺制御基板１５１０について説明するが、特定の電子部品（例えばＩＣ）と特定の電子部品と実装不可領域を挟んで隣接配置する電子部品（例えばコンデンサ）とが実装される基板であれば本技術思想は適用可能である。また、上記した実施形態と組み合わせて実行することも可能である。例えば、不正の判別容易性の向上１～不正の判別容易性の向上３や表面実装タイプの電子部品の剥離防止１～表面実装タイプの電子部品の剥離防止４、基板の強度を高める変形例１のいずれか１つまたは複数と組み合わせて実行することも可能である。
【５７１３】
　図３７４（Ｂ）は、基板の強度を高める周辺制御基板１５１０の実装状態のうち特定の電子部品としての表面実装タイプ（チップ部品、ＳＭＤタイプ）のＩＣおよび該ＩＣに実装不可領域を挟んで隣接配置する表面実装タイプ（チップ部品、ＳＭＤタイプ）のコンデンサとの実装状態を示す説明図である。
【５７１４】
　本例の周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘおよび裏面（ハンダ面）１５１０ｙには、基端部の１ｍｍほどを除いて略全域にベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））１５１３が形成され、基板表面に形成されるパッド１５１０ｋ、１５１０ｋ'に接続端子ＩＣ１ａをハンダ付けすることによって基板に固定される複数の表

面実装タイプのＩＣ１や基板表面に形成されるパッド１５１０ｋ、１５１０ｋ'に接続端子（電極）ＭＣ１ａ'をハンダ付けすることによって基板に固定される複数の表面実装タイプのコンデンサＭＣ１'を含む複数の表面実装タイプの電子部品が実装されている。

【５７１５】

そして、本例では表面実装タイプのＩＣ１に隣接して（実装不可能領域を挟んで）表面実装タイプのコンデンサＭＣ１'が配置され、このコンデンサＭＣ１'の接続端子ＭＣ１ａ'がハンダ付けされるパッド１５１０ｋ、１５１０ｋ'のうち一方を、ベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））１５１３とパッドとを電気的かつ物理的に接続するサーマルパターン１５１０ｖ（図３７４（Ｂ）のハッチング部分）を有するサーマルパッド１５１０ｋ'として形成する。

【５７１６】

このように、表面実装タイプのコンデンサＭＣ１'がハンダ付けされるパッド１５１０ｋ、１５１０ｋ'のうちの１つをサーマパッド１５１０ｋ'として形成することにより、サーマルパターン１５１０ｖを有さずにその周囲がベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））１５１３に直接接続される（ベタパターン１５１３と一体的に形成される）通常のパッド１５１０ｋと比べてベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））１５１３に熱が伝わり難くなるため、表面実装タイプのコンデンサＭＣ１'をハンダ付けする際の温度低下が抑制され（放熱が抑制されて）、サーマルパッド１５１０ｋ'上のハンダを確実に溶解させることができ、通常のパッド１５１０ｋに比べてコンデンサＭＣ１'を周辺制御基板１５１０に強固に溶着させることが可能になるし、コンデンサＭＣ１'と周辺制御基板１５１０との溶着が強固になることで周辺制御基板１５１０に曲げや反りが発生しにくくなり、コンデンサＭＣ１'に隣接して配置される表面実装タイプのＩＣが剥がれ落ちにくくなるため、パチンコ機１の信頼性が向上する。

【５７１７】

また、本例ではさらに表面実装タイプのコンデンサＭＣ１'に隣接して配置する表面実装タイプのＩＣ１についても剥がれ落ちを抑制するように構成する。具体的には、図３７４（Ｂ）に示すように、ＩＣ１の接続端子ＩＣ１ａがハンダ付けされる複数のパッド１５１０ｋ、１５１０ｋ'のうちの一つを、ベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））１５１３とパッドとを電気的かつ物理的に接続するサーマルパターン１５１０ｖ（図３７４（Ｂ）のハッチング部分）を有するサーマルパッドとして形成する。

【５７１８】

このように、表面実装タイプのＩＣ１の接続端子ＩＣ１ａがハンダ付けされるパッド１５１０ｋ、１５１０ｋ'のうちの１つをサーマルパッド１５１０ｋ'として形成することにより、サーマルパターン１５１０ｖを有さずにその周囲がベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））１５１３に直接接続される（ベタパターン１５１３と一体的に形成される）通常のパッドと比べてベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））に熱が伝わり難くなるため、表面実装タイプのＩＣをハンダ付けする際の温度低下が抑制され（放熱が抑制されて）、サーマルパッド１５１０ｋ'上のハンダを確実に溶解させることができるため、通常のパッド１５１０ｋに比べてＩＣ１を周辺制御基板１５１０に強固に溶着させることが可能になるし、コンデンサＭＣ１ａ'と周辺制御基板１５１０との溶着が強固になることに加えてＩＣ１と周辺制御基板１５１０との溶着が強固になることで、コンデンサＭＣ１によって周辺制御基板１５１０に曲げや反りが発生しにくくなるだけでなく、仮に周辺制御基板１５１０に曲げや反りが発生してもＩＣ１が剥がれ落ち（実装剥がれ）にくくなるため、パチンコ機１の信頼性が向上する。

【５７１９】

なお、周辺制御基板１５１０に形成されてベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））１５１３と電気的かつ物理的に接続されるパッドの全てをサーマルパッドで形成するものに限らず、ベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））１５１３と電気的かつ物理的に接続されるランドやパッドのうちの一部のパッドをサーマルランドやサーマルパッドとして形成し、他のランドやパッドはサーマルパターンを有しな

い通常のランドやパッドとして形成してもよい。例えば、サーマルパッドの周囲に形成されてベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））１５１３と電気的かつ物理的に接続されるランド（ビア）やパッドであって、電子部品が実装されないランド（ビア）やパッドについてはサーマルパターンを有しない通常のランド（ビア）やパッドとして形成するようにしてもよい。

【５７２０】

また、上記したようにサーマルランド１３１０ｓ'およびサーマルパッド１５１０ｋ'からベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））１３１２、１５１３までの距離（サーマルパターン１３１０ｖ、１５１０ｖの長さ）は実装不可領域を挟んで隣接する電子部品の間隔よりも短くされている。これにより、サーマルランド１３１０ｓ'やサーマルパッド１５１０ｋ'にハンダ付けされる電子部品を引き剥がすような力が加わってもサーマルランド１３１０ｓ'やサーマルパッド１５１０ｋ'に近接するベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））１３１２、１５１３によってサーマルランド１３１０ｓ'やサーマルパッド１５１０ｋ'が剥がれにくくされ、さらにサーマルランド１３１０ｓ'やサーマルパッド１５１０ｋ'と表面実装タイプの電子部品との溶着が強固とされるため、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ちにくくなる。

【５７２１】

なお、本例ではＩＣ１の接続端子ＩＣ１ａがハンダ付けされる複数のパッド１５１０ｋのうち、当該ＩＣ１を安定駆動するために隣接配置するコンデンサＭＣ１'から離れた位置に設けられるパッド１５１０ｋ'を、サーマルパターン１５１０ｖを有するサーマルパッド１５１０ｋ'として形成している。具体的には、ＩＣ１の長手辺に沿って設けられる複数の接続端子ＩＣ１ａに対応して設けられる複数のパッド１５１０ｋ、１５１０ｋ'のうち、コンデンサＭＣ１'が設けられていない図示左側の短手辺に最も近い位置に設けられる接続端子ＩＣ１ａに対応して設けられるパッドをサーマルパッド１５１０ｋ'として形成している。

【５７２２】

上記したように、表面実装タイプのコンデンサＭＣ１'の接続端子ＭＣ１ａ'のうちの一方をハンダ付けするパッドをサーマルパッド１５１０ｋ'として形成することにより、周辺制御基板１５１０におけるコンデンサＭＣ１'の周囲の領域は、曲げ強度や剛性が高まり、曲げや反りなどが抑制される。また、曲げ強度や剛性はコンデンサＭＣ１'に近いほど高くなるため、ＩＣ１のコンデンサＭＣ１'に近い位置に設けられている接続端子ＩＣ１ａほどパッド１５１０ｋから剥がれにくくなる。一方で、コンデンサＭＣ１'から離れるほど曲げ強度や剛性が低下するため、コンデンサＭＣ１'から離れるほど周辺制御基板１５１０の曲げや反りなどが発生しやすくなり、ＩＣ１のコンデンサＭＣ１'から遠い位置に設けられている接続端子ＩＣ１ａほどパッド１５１０ｋから剥がれやすくなる。そのため本例では、表面実装タイプのＩＣ１の接続端子ＩＣ１ａがハンダ付けされるパッド１５１０ｋのうち、当該ＩＣ１を安定駆動するために隣接配置するコンデンサＭＣ１'から離れた位置にサーマルパッド１５１０ｋ'を形成している。これにより、コンデンサＭＣ１'から離れることで曲げ強度や剛性が低下し、ＩＣ１の接続端子ＩＣ１ａとパッド１５１０ｋとの溶着が剥がれやすい部分について、サーマルパッド１５１０ｋ'として形成し、ＩＣ１の接続端子ＩＣ１ａとの溶着を他のパッド１５１０ｋよりも強固にし、これによって周辺制御基板１５１０の曲げ強度や剛性を高めることが可能であるため、ＩＣ１の接続端子ＩＣ１ａがサーマルパッド１５１０ｋ'から剥がれにくくなる。

【５７２３】

また、表面実装タイプのコンデンサＭＣ１'の接続端子ＭＣ１ａ'のうちの一方をハンダ付けするパッドを、サーマルパターン１５１０ｖを有するサーマルパッド１５１０ｋ'として形成するだけでなく、表面実装タイプのＩＣ１の接続端子ＩＣ１ａがハンダ付けされるパッド１５１０ｋのうち、当該ＩＣ１を安定駆動するために隣接配置するコンデンサＭＣ１'から離れた位置に、サーマルパターン１５１０ｖを有するサーマルパッド１５１０ｋ'が形成されることにより、コンデンサＭＣ１'に対して設けられるサーマルパッド１５

１０ｋ'とＩＣ１に対して設けられるサーマルパッド１５１０ｋ'とによってＩＣ１が実装される領域の略全域を挟み込み、ＩＣ１が実装される領域の略全域の剛性を高めることができるため、ＩＣ１が実装される領域の曲げや反りの発生を抑制でき、表面実装タイプのＩＣ１の接続端子ＩＣ１ａがハンダ付けされるパッド１５１０ｋ、１５１０ｋ'のすべてを、サーマルパターン１５１０ｖを有しない通常のパッドで形成する場合に比べて、ＩＣ１の剥がれ落ちの抑制効果を向上させることができ、パチンコ機１の信頼性が向上する。

【５７２４】

また、本例ではコンデンサＭＣ１'に対して設けられるサーマルパッド１５１０ｋ'が有するサーマルパターン１５１０ｖと、ＩＣ１に対して設けられるサーマルパッド１５１０ｋ'が有するサーマルパターン１５１０ｖと、の形成される向きが同一とされる。具体的には、図３７４（Ｂ）のコンデンサＭＣ１'に対して設けられるサーマルパッド１５１０ｋ'が有するサーマルパターン１５１０ｖは、と、ＩＣ１に対して設けられるサーマルパッド１５１０ｋ'が有するサーマルパターン１５１０ｖとはいずれも、基端部に対して垂直または水平に交わるような向きに形成されてベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））１５１３と電気的かつ物理的に接続する。なお、図３７４（Ｂ）において図示上下方向は周辺制御基板１５１０の長手辺の基端部、図示左右方向は周辺制御基板１５１０の短手辺の基端部、に対応している。

【５７２５】

このように、実装不可能領域を挟んで隣接配置する表面実装タイプのコンデンサＭＣ１'に対して設けられるサーマルパッド１５１０ｋ'のサーマルパターン１５１０ｖと、表面実装タイプのＩＣ１に対して設けられるサーマルパッド１５１０ｋ'のサーマルパターン１５１０ｖと、を同一の向きに形成するため、特定の方向（例えば長手辺に沿った方向や短手辺に沿った方向）に対する曲げ強度をさらに高めることができ、特定の方向に対する曲げや反りの発生を抑制して表面実装タイプのＩＣ１などの特定の電子部品が剥がれ落ちを抑制できる。

【５７２６】

なお、上記したように主制御基板１３１０ではリードタイプのコンデンサＭＣ１を表面実装タイプのＩＣ１に隣接配置することで、表面実装タイプのコンデンサＭＣ１'を表面実装タイプのＩＣ１に隣接配置する周辺制御基板１５１０よりも曲げ強度や剛性が高められている。また、主制御基板１３１０では実装不可能領域を挟んで隣接配置するリードタイプのコンデンサＭＣ１に対して設けられるサーマルランド１３１０ｓ'のサーマルパターン１３１０ｖと、表面実装タイプのＩＣ１に対して設けられるサーマルパッド１３１０ｋ'のサーマルパターン１３１０ｖと、を異なる向きに形成し、特定の方向に対する曲げ強度だけでなく、特定の方向から４５度傾いた方向に対する曲げ強度を高めるように構成されるため、周辺制御基板１５１０に比べて曲げ強度や剛性が高く、表面実装タイプのＩＣ１などの特定の電子部品の剥がれ落ちの抑制効果が高い。このように、遊技の進行に関わる重要な処理を実行する主制御基板１３１０については、曲げ強度や剛性を最も高くなるように構成し、遊技の進行に関わらないが、遊技の演出を制御する周辺制御基板１５１０については、ＬＥＤなどが実装される装飾基板よりは曲げ強度や剛性が高くなるものの、主制御基板１３１０よりは曲げ強度や剛性を低く構成している。つまり、基板の重要度（遊技者や遊技店に対する不利益の度合いなど）に適した曲げ強度や剛性を有するように構成するようになっている。

【５７２７】

［サーマルランド、サーマルパッド］

次に、サーマルランドおよびサーマルパッドについて説明する。図３７５（Ａ）～（Ｌ）はＧＮＤ接続用のサーマルランドを示す説明図であり、図３７５（Ｍ）～（Ｐ）はＧＮＤ接続用のサーマルパッドを示す説明図であり、図３７５（Ｑ）はベタパターンと一体的に形成される通常のＧＮＤ接続用のランドを示す説明図であり、図３７５（Ｒ）はベタパターンと一体的に形成される通常のＧＮＤ接続用のパッドを示す説明図である。なお、図３７５ではソルダーレジスト（絶縁被膜）の表示を省略しているが、実際にはパッドやラ

ンドを除く部分（サーマルパターンを含む）はソルダーレジストで覆われている。なお、第１乃至第４実施形態に係る入力信号配線パターン用スルーホールのランドに対する絶縁被膜を被せる構成と同様にＧＮＤ接続用のパッドやランドの一部についてもソルダーレジストで覆うように構成してもよい。

【５７２８】

図３７５（Ｑ）に示すように、通常のＧＮＤ接続用のランドはベタパターンと一体的に形成され、ベタパターンの一部をソルダーレジストで覆うことなしに銅箔を円状に露出させることによって形成され、図３７５（Ｒ）に示すように、通常のＧＮＤ接続用のパッドはベタパターンと一体的に形成され、ベタパターンの一部をソルダーレジストで覆うことなしに銅箔を矩形状に露出させることによって形成される。

【５７２９】

一方、ＧＮＤ接続用のサーマルランドは、図３７５（Ａ）～（Ｌ）に示すように、ベタパターンと分離して円状に形成されるランドと、該ランドの周囲に形成されるサーマルパターンと、で構成され、サーマルパターンを介してランドとベタパターンとを電気的かつ物理的に接続する。

【５７３０】

また、サーマルランドは基端部の辺に対して４５度傾いて交わるような向きに形成されてベタパターンと電気的かつ物理的に接続するようにサーマルパターンが配置するもの（図３７５（Ａ）～（Ｆ））と、基端部に対して垂直または水平に交わるような向きに形成されてベタパターンと電気的かつ物理的に接続するようにサーマルパターンが配置するもの（図３７５（Ｇ）～（Ｌ））と、を有するようになっている。上記したように、サーマルパターンの向きによって曲げ強度が高まる方向を変化させることができる。なお、サーマルランドとして上記２種類のうちの一方のみを形成するようにしてもよいし、両方を形成するようにしてもよい。また、両方のサーマルランドを形成する場合に、一方を他方よりも少ない数とすることで他方のサーマルパターンを目印として使用するようにしてもよい。

【５７３１】

また、サーマルランドのサーマルパターンは、最大で４つ設けられ、それぞれのサーマルパターンを延伸させた仮想線がスルーホールの中心で９０度に交わるようになっている。

【５７３２】

一方、サーマルパッドは、基端部に対して垂直または水平に交わるような向きに形成されてベタパターンと電気的かつ物理的に接続するようにサーマルパターンが配置するもののみを有するようになっている（図３７５（Ｍ）～（Ｐ））。そのため、基端部に対して垂直方向または水平方向に対する曲げ強度のみを高めることができる。

【５７３３】

また、サーマルパッドのサーマルパターンは、最大で３つ設けられ、それぞれのサーマルパターンを延伸させた仮想線がパッドの中心で９０度に交わるようになっている。

【５７３４】

このようにサーマルランドは、最大で４本のサーマルパターンによってベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））と電気的に接続されるのに対し、サーマルパッドは、最大で３本のサーマルパターンによってベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））と電気的に接続されるものであるため、サーマルランドはサーマルパッドよりもベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））との物理的な接続が強くなり、サーマルパッドよりも剥離しにくくなっている

【５７３５】

すなわち、主制御基板１３１０や払出制御基板６３３は遊技の進行にかかわる重要な処理や、遊技者の利益（賞球）にかかわる重要な処理を実行するものであるため、より強度を高めるように構成され、主制御基板１３１０や払出制御基板６３３よりも重要度が低く、遊技の演出にかかわる制御を実行する周辺制御基板１５１０については過度に強度を高

めることなく、主制御基板１３１０や払出制御基板６３３よりも低い強度とされている。このように、重要度に応じて基板の強度を異ならせることで重要度の低い基板に対して過剰に強度を向上させたり（オーバースペック）、重要な基板に対して強度が不足したりすること（強度不足）を抑制でき、それぞれに最適な強度を付与して遊技機の信頼性を向上させることができる。

【５７３６】

なお、周辺制御基板１５１０に限らず、表面実装タイプ（チップ部品）のＩＣに隣接（実装不可領域を挟んで）して表面実装タイプ（チップ部品）のコンデンサを配置する基板であれば、上記構成を採用して同様の効果を奏することが可能である。また、上記した例では周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘについて説明したが、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙについても上記構成を採用して同様の効果を奏するようにしてもよい。

【５７３７】

ところで、遊技機が備える制御基板のうち遊技特典にかかる情報を扱う主制御基板については、特に公平性を担保するためいくつかの不正対策が施されている。しかし、主制御基板まるごと偽造された類似品にすり替えられた場合にはその発見は容易ではない。一方、遊技機ごとの一日のイン・アウト情報については、遊技機に接続されたホールコンピューターによって管理されているため、不審な挙動を示す遊技機の発見は可能である。そこで、本実施形態の遊技機の主制御基板には、さらに以下のような不正対策が施されている。

（１）周辺制御基板や払出制御基板、あるいはパネル中継基板とをつなぐ両端に挿入側となるコネクタ（プラグコネクタ）が設けられているハーネスが、受け側となるコネクタ（レセプタクルコネクタ）に接続された状態ではその接合部が外部からは視認できないことを利用し、主制御基板に設けられたレセプタクルコネクタの底辺内側や側壁内側に、コネクタの型番等の管理番号や納入先のメーカー名などを表記している。表記する部位は接合された状態では視認できなければよく、側壁の頂部などに表記するようにしてもよい。

（２）また、確認する側がその部位に表記されていることを認識していればいいので、表記自体の大きさについては、肉眼では視認し辛くルーペのような拡大鏡を用いて見えるぐらいの大きさで表記している。

（３）表記自体の色については、着色することなく外装色をそのまま利用しており、凹凸状に形成し光をあてたときの陰影によって視認されるように表記している。

（４）その他、コネクタが主制御基板に実装されると、完全に見えなくするようにしてもよい。この場合にも確認する側がその部位に表記されていることを認識していればいいので、例えばコネクタの裏側に表記するようにしてもよい。本実施形態の遊技機においても、始動入賞口に入球する球を検出する始動口センサが直接接続されるレセプタクルコネクタの裏側に表記している。

（５）また、表記する部位については、1か所だけでもいいし、複数箇所に表記するようにしてもよい。

（６）表記するコネクタの数については、1個だけでもいいし、複数個に表記するようにしてもよい。本実施形態の遊技機においては、（２）を適用したコネクタと、（４）を適用したコネクタとを複合して実装している。複合することで、主制御基板が偽造された類似品であることを特定することができる。

このように、事後であってもその後の防犯体制を強化することができ、抑制にもつながり被害を最小限に食い止めることができる。

【５７３８】

上記実施形態から把握し得る請求項及び請求項以外の技術的思想について、以下にその効果と共に記載する。

【５７３９】

遊技の進行に関わる主制御基板１３１０を備える遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）であって、

前記主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘとハンダ面１３１０ｙとのうちの少なくとも実装面１３１０ｘには、挿入実装タイプの電子部品（この例ではコンデンサＭＣ１）と表面実装タイプの電子部品とが複数実装され、
前記主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに実装される前記表面実装タイプの電子部品のうちの特定電子部品（この例ではＩＣ１）と前記挿入実装タイプの電子部品（この例ではコンデンサＭＣ１）とは、電子部品実装不可領域Ａを挟んで隣接配置される、
ことを特徴とする。
【５７４０】
遊技の進行に関わる主側基板（例えば、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３、機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２や、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等）を備える遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）であって、
前記主側基板（例えば、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３、機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２や、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等）は、遊技機（パチンコ機１、スロットマシン）の裏側（島設備側、スロットマシンの場合には本体部分（箱体）６００４の内側における後方側）に設けられて実装面１３１０ｘが当該遊技機の後方側を向くように配置される主制御基板１３１０と、前記主制御基板１３１０よりも遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）の前方側（遊技者側）に設けられる第２主側基板（機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板のいずれか等）と、を有し、
前記主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘには、挿入実装タイプの電子部品（この例ではコンデンサＭＣ１）と表面実装タイプの電子部品とが複数実装されるとともに、電子部品を特定可能な部品番号を表す表面側表記部が形成され、
前記第２主側基板の表実装面には、少なくとも表面実装タイプの電子部品が複数実装されるものの、前記部品番号を表す表面側表記部は形成されないものであり、
前記主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに実装される前記表面実装タイプの電子部品のうちの特定電子部品（この例ではＩＣ１）と前記挿入実装タイプの電子部品（この例ではコンデンサＭＣ１）とは、電子部品実装不可領域Ａを挟んで隣接配置される、
ことを特徴とする。
【５７４１】
遊技の進行に関わる主制御基板１３１０と、当該主制御基板１３１０への配線を接続する複数のコネクタ（この例ではコネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６）と、を備える遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）であって、
前記主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘとハンダ面１３１０ｙとのうちの少なくとも実装面１３１０ｘには、挿入実装タイプの電子部品（この例ではコンデンサＭＣ１）と表面実装タイプの電子部品とが複数実装され、
複数の前記コネクタ（この例ではコネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６）は、挿入実装タイプの電子部品（この例ではコンデンサＭＣ１）とされ、
複数の前記コネクタ（この例ではコネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６）のうち特定コネクタ（この例ではコネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６）は、前記主制御基板１３１０の一端辺（この例では主制御基板１３１０の４辺のうち長さが長い組み合わせの辺のうちの少なくとも一方）に沿って配置され、
前記主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘにおいて、前記特定コネクタ（この例ではコネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６）の左右両端から前記一端辺に対向する辺方向に延びる仮想区画線（仮想区画線ａ～ｌのうちの少なくとも隣接する２本の区画線）によって区画され

る帯状の領域内に、少なくとも一部が配置するように複数の前記表面実装タイプの電子部品のうちの特定電子部品（例えばＩＣ１）が配置される、
ことを特徴とする。
【５７４２】
遊技の進行に関わる主側基板（例えば、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３、機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２や、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等）を備える遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）であって、
前記主側基板（例えば、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３、機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２や、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等）は、遊技機（パチンコ機１、スロットマシン）の裏側（島設備側、スロットマシンの場合には本体部分（箱体）６００４の内側における後方側）に設けられて実装面１３１０ｘが当該遊技機の後方側を向くように配置される主制御基板１３１０と、前記主制御基板１３１０よりも遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）の前方側（遊技者側）に設けられる第２主側基板（機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板のいずれか等）と、を有し、
前記主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘには、挿入実装タイプの電子部品（この例ではコンデンサＭＣ１）と表面実装タイプの電子部品とが複数実装されるとともに、電子部品を特定可能な部品番号を表す表面側表記部が形成され、
前記第２主側基板の表実装面には、少なくとも表面実装タイプの電子部品が複数実装されるものの、前記部品番号を表す表面側表記部は形成されないものであり、
前記主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに実装される挿入実装タイプの電子部品（この例ではコンデンサＭＣ１）には、当該主制御基板１３１０への配線を接続する複数のコネクタ（この例ではコネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６）が含まれており、
複数の前記コネクタ（この例ではコネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６）のうち特定コネクタ（この例ではコネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６）は、前記主制御基板１３１０の一端辺（この例では主制御基板１３１０の４辺のうち長さが長い組み合わせの辺のうちの少なくとも一方）に沿って配置され、
前記主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘにおいて、前記特定コネクタ（この例ではコネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６）の左右両端から前記一端辺に対向する辺方向に延びる仮想区画線（仮想区画線ａ～ｌのうちの少なくとも隣接する２本の区画線）によって区画される帯状の領域内に、少なくとも一部が配置するように複数の前記表面実装タイプの電子部品のうちの特定電子部品（例えばＩＣ１）が配置される、
ことを特徴とする。
【５７４３】
遊技の進行に関わる主制御基板１３１０を備える遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）であって、
前記主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘとハンダ面１３１０ｙとのうちの少なくとも実装面１３１０ｘには、表面実装タイプの電子部品が複数実装され、
前記主制御基板１３１０は、
実装面１３１０ｘに配置される表実装面側配線パターンと、
ハンダ面１３１０ｙに配置されるハンダ面側配線パターンと、
前記表基板面側配線パターンと前記ハンダ面側配線パターンとを電気的に接続するスルーホールと、を備え、
前記主制御基板１３１０に形成される前記スルーホールのうちの特定スルーホールは、

複数の前記表面実装タイプの電子部品のうちの特定電子部品（この例ではＩＣ１）に隣接配置するとともに、前記表実装面１３１０ｘと前記ハンダ面１３１０ｙとの少なくとも一方にサーマルランドを有する、
ことを特徴とする。
【５７４４】
遊技の進行に関わる主制御基板１３１０を備える遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）であって、
前記主側基板（例えば、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３、機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２や、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等）は、遊技機（パチンコ機１、スロットマシン）の裏側（島設備側、スロットマシンの場合には本体部分（箱体）６００４の内側における後方側）に設けられて実装面１３１０ｘが当該遊技機の後方側を向くように配置される主制御基板１３１０と、前記主制御基板１３１０よりも遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）の前方側（遊技者側）に設けられる第２主側基板（機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板のいずれか等）と、を有し、
前記主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘと裏実装面とのうちの少なくとも表実装面には、表面実装タイプの電子部品が複数実装されるとともに、電子部品を特定可能な部品番号を表す表面側表記部が形成され、
前記第２主側基板の表実装面には、少なくとも表面実装タイプの電子部品が複数実装されるものの、前記部品番号を表す表面側表記部は形成されないものであり、
前記主制御基板１３１０は、
実装面１３１０ｘに配置される表実装面側配線パターンと、
ハンダ面１３１０ｙに配置されるハンダ面側配線パターンと、
前記表基板面側配線パターンと前記ハンダ面側配線パターンとを電気的に接続するスルーホールと、を備え、
前記主制御基板１３１０に実装される前記表面実装タイプの電子部品のうちの特定電子部品（この例ではＩＣ１）に隣接して形成されるスルーホールは、前記表実装面側ランドとしてのサーマルランドを有し、
前記主制御基板１３１０に形成される前記スルーホールのうちの特定スルーホールは、複数の前記表面実装タイプの電子部品のうちの特定電子部品（この例ではＩＣ１）に隣接配置するとともに、前記表実装面１３１０ｘと前記ハンダ面１３１０ｙとの少なくとも一方にサーマルランドを有し、
前記第２主側基板は、前記サーマルランドが形成されないように構成されてなる、
ことを特徴とする。
【５７４５】
遊技の進行に関わる主側基板（例えば、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３、機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２や、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等）を備える遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）であって、
前記主側基板（例えば、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３、機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２や、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等）は、遊技機（パチンコ機１、スロットマシン）の裏側（島設備側、スロットマシンの場合には本体部分（箱体）６００４の内側における後方側）に設けられて実装面１３１０ｘが当該遊技

機の後方側を向くように配置される主制御基板１３１０と、前記主制御基板１３１０よりも遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）の前方側（遊技者側）に設けられる第２主側基板（機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板のいずれか等）と、を有し、

前記主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘには、レジストが形成されるとともに、表面実装タイプの電子部品と挿入実装タイプの電子部品（この例ではコンデンサＭＣ１）とが複数実装され、

前記第２主側基板の表実装面には、レジストが形成されるとともに、挿入実装タイプの電子部品は実装されずに表面実装タイプの電子部品のみが複数実装され、

前記主制御基板１３１０にはベタグランドパターンが施され、前記第２主側基板にはベタグランドパターンが施されないものであり、

前記主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに実装される表面実装タイプの電子部品は、特定色（例えば黒色）の外装を有する特定電子部品（この例ではＩＣ１）を含み、

前記第２主側基板（機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板のいずれか等）の表実装面に実装される挿入実装タイプの電子部品（この例ではコンデンサＭＣ１）は、前記主制御基板１３１０に形成される絶縁被膜の色（例えば緑色）とも前記特定電子部品（この例ではＩＣ１）の色（例えば黒色）とも異なる特別色（例えば水色）の外装を有する特別電子部品（この例ではＩＣ１）を含み、

前記特定電子部品（この例ではＩＣ１）と前記特別電子部品（この例ではＩＣ１）とは、電子部品実装不可領域Ａを挟んで隣接配置される、

ことを特徴とする。

【５７４６】

遊技の進行に関わる主側基板（例えば、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３、機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２や、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等）を備える遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）であって、

前記主側基板（例えば、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３、機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２や、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等）は、遊技機（パチンコ機１、スロットマシン）の裏側（島設備側、スロットマシンの場合には本体部分（箱体）６００４の内側における後方側）に設けられて実装面１３１０ｘが当該遊技機の後方側を向くように配置されるとともに遊技の進行に関わる制御（主制御側メイン処理及び主制御側タイマ割込処理）を実行する主制御ＭＰＵ１３１０ａを備える主制御基板１３１０と、前記主制御基板１３１０よりも遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）の前方側（遊技者側）に設けられる第２主側基板（機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板のいずれか等）と、を有し、

前記主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘと裏実装面とには、絶縁被膜が形成されるとともに、電子部品間の信号を伝達する配線パターンが複数形成され、

前記第１主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに表面実装タイプの電子部品と挿入実装タイプの電子部品（この例ではコンデンサＭＣ１）とが複数実装され、

前記第２主側基板の表実装面には、挿入実装タイプの電子部品は実装されずに表面実装タイプの電子部品のみが複数実装されるものであり、

前記主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに形成される複数の配線パターンは、前記主制御基板１３１０の長手方向に沿って形成される長手配線パターン（例えばデータバスライン）よりも前記主制御基板１３１０の短手方向に沿って形成される短手配線パターンを多く含み、

前記主制御基板１３１０のハンダ面１３１０ｙに形成される複数の配線パターンは、前記主制御基板１３１０の短手方向に沿って形成される短手配線パターンよりも前記主制御基板１３１０の長手方向に沿って形成される長手配線パターンを多く含む、

ことを特徴とする。

【５７４７】

遊技の進行に関わる主側基板（例えば、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３、機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２や、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等）を備える遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）であって、

前記主側基板（例えば、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３、機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２や、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等）は、遊技機（パチンコ機１、スロットマシン）の裏側（島設備側、スロットマシンの場合には本体部分（箱体）６００４の内側における後方側）に設けられて実装面１３１０ｘが当該遊技機の後方側を向くように配置される主制御基板１３１０と、前記主制御基板１３１０よりも遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）の前方側（遊技者側）に設けられる第２主側基板（機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板のいずれか等）と、を有し、

前記主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘには、挿入実装タイプの電子部品（この例ではコンデンサＭＣ１）と表面実装タイプの電子部品とが複数実装され、

前記第２主側基板の表基板面には、挿入実装タイプの電子部品は実装されずに表面実装タイプの電子部品のみが複数実装され、

前記主制御基板１３１０にはベタグランドパターン（ベタグランド、ベタパターン）が施され、前記第２主側基板にはベタグランドパターンが施されないものであり、

前記主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに実装される挿入実装タイプの電子部品（この例ではコンデンサＭＣ１）には、当該主制御基板１３１０への配線を接続する複数のコネクタ（この例ではコネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６）が含まれており、

複数の前記コネクタ（この例ではコネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６）のうち特定コネクタ（この例ではコネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６）は、前記主制御基板１３１０の一端辺（この例では主制御基板１３１０の４辺のうち長さが長い組み合わせの辺のうちの少なくとも一方）に沿って配置され、

前記主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘにおいて、前記特定コネクタ（この例ではコネクタＭＣＮ１～ＭＣＮ６）の左右両端から前記一端辺に対向する辺方向に延びる仮想区画線（仮想区画線ａ～ｌのうちの少なくとも隣接する２本の区画線）によって区画される帯状の領域内に、少なくとも一部が配置するように複数の前記表面実装タイプの電子部品のうちの特定電子部品（例えばＩＣ１）が配置される、

ことを特徴とする。

【５７４８】

遊技の進行に関わる主制御基板１３１０を備える遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）であって、

前記主側基板（例えば、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３、機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２や、磁気センサ１０５０に設けられる磁気セ

ンサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等）は、遊技機（パチンコ機１、スロットマシン）の裏側（島設備側、スロットマシンの場合には本体部分（箱体）６００４の内側における後方側）に設けられて実装面１３１０ｘが当該遊技機の後方側を向くように配置される主制御基板１３１０と、前記主制御基板１３１０よりも遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）の前方側（遊技者側）に設けられる第２主側基板（機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板のいずれか等）と、を有し、

前記主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘと裏実装面とのうちの少なくとも表実装面には、表面実装タイプの電子部品が複数実装され、

前記第２主側基板の表基板面には、挿入実装タイプの電子部品は実装されずに表面実装タイプの電子部品のみが複数実装され、

前記主制御基板１３１０にはベタグランドパターン（ベタグランド、ベタパターン）が施され、前記第２主側基板にはベタグランドパターンが施されないものであり、

前記主制御基板１３１０は、

実装面１３１０ｘに配置される表実装面側配線パターンと、

ハンダ面１３１０ｙに配置されるハンダ面側配線パターンと、

前記表基板面側配線パターンと前記ハンダ面側配線パターンとを電気的に接続するスルーホールと、を備え、

前記主制御基板１３１０に実装される前記表面実装タイプの電子部品のうちの特定電子部品（この例ではＩＣ１）に隣接して形成されるスルーホールは、前記表実装面側ランドとしてのサーマルランドを有し、

前記主制御基板１３１０に形成される前記スルーホールのうちの特定スルーホールは、複数の前記表面実装タイプの電子部品のうちの特定電子部品（この例ではＩＣ１）に隣接配置するとともに、前記表実装面１３１０ｘと前記ハンダ面１３１０ｙとの少なくとも一方にサーマルランドを有する、

ことを特徴とする。

【５７４９】

遊技の進行に関わる主側基板（例えば、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３、機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２や、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等）を備える遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）であって、

前記主側基板（例えば、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３、機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２や、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等）は、遊技機（パチンコ機１、スロットマシン）の裏側（島設備側、スロットマシンの場合には本体部分（箱体）６００４の内側における後方側）に設けられて実装面１３１０ｘが当該遊技機の後方側を向くように配置される主制御基板１３１０と、前記主制御基板１３１０よりも遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）の前方側（遊技者側）に設けられる第２主側基板（機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板のいずれか等）と、を有し、

前記主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘには、挿入実装タイプの電子部品（この例ではコンデンサＭＣ１）と表面実装タイプの電子部品とが複数実装され、

前記第２主側基板の表基板面には、挿入実装タイプの電子部品は実装されずに表面実装

タイプの電子部品のみが複数実装され、
前記主制御基板１３１０にはベタグランドパターン（ベタグランド、ベタパターン）が施され、前記第２主側基板にはベタグランドパターンが施されないものであり、
前記主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに実装される前記表面実装タイプの電子部品のうちの特定電子部品（この例ではＩＣ１）と前記挿入実装タイプの電子部品（この例ではコンデンサＭＣ１）とは、電子部品実装不可領域Ａを挟んで隣接配置される、
ことを特徴とする。
【５７５０】
遊技の進行に関わる矩形状の主制御基板１３１０を備える遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）であって、
前記主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘとハンダ面１３１０ｙとのうちの少なくとも実装面１３１０ｘには、挿入実装タイプの電子部品（この例ではコンデンサＭＣ１）と表面実装タイプの電子部品とが複数実装され、
前記主制御基板１３１０の対向する辺それぞれを二等分する二本の分割線（垂直分割線、水平分割線）によって四等分される表実装面１３１０ｘの各領域には、挿入実装タイプの電子部品（この例ではコンデンサＭＣ１）が複数配置される、
ことを特徴とする。
【５７５１】
表面実装部品が実装される基板を備える遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）であって、
前記基板のうちの遊技の進行に関わる主制御基板１３１０は、
パッド１３１０ｋａとスルーホール１４０２ｂとを有する主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘと、
ピン１３１５の一方の端部とピン１３１５の他方の端部とを有するピン１３１５と、
接続端子ＩＣ１ａを有するＩＣ１と、
電極ＭＣ１ａ'を有するチップチップコンデンサＭＣ１'と、を備え、
前記ＩＣ１の接続端子ＩＣ１ａが前記主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘのパッド１３１０ｋａに溶着され、
前記チップチップコンデンサＭＣ１'の電極ＭＣ１ａ'が前記ピン１３１５のピン１３１５の一方の端部に溶着され、
前記ピン１３１５のピン１３１５の他方の端部が前記主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘのスルーホール１４０２ｂに溶着されている、
ことを特徴とする。
【５７５２】
表面実装部品が実装される基板を備える遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）であって、
前記基板は、
少なくともパッド１３１０ｋａとスルーホール１４０２ｂとの一方を有する主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘと、
ピン１３１５の一方の端部とピン１３１５の他方の端部とを有するピン１３１５と、の少なくとも一方を備え、
前記基板のうちの遊技の進行に関わる主側基板（例えば、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３、機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２や、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等）は、
遊技機の裏側に設けられて表基板面が当該遊技機の後方側を向くように配置されるとともに前記主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘと前記ピン１３１５とを有する主制御基板１３１０と、
前記主制御基板１３１０よりも遊技機の前方側に設けられるとともに前記主制御基板１

３１０の実装面（表面）１３１０ｘを有する第２主側基板（機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板のいずれか等）と、を備え、
前記表面実装部品は、
接続端子ＩＣ１ａが、前記主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘのパッド１３１０ｋａに溶着されるＩＣ１と、
電極ＭＣ１ａ'が、前記ピン１３１５のピン１３１５の一方の端部に溶着されるチップチップコンデンサＭＣ１'と、を有し、
前記ピン１３１５のピン１３１５の他方の端部は、前記主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘのスルーホール１４０２ｂに溶着され、
前記主制御基板１３１０に実装される前記表面実装部品は、前記ＩＣ１と前記チップチップコンデンサＭＣ１'とからなり、
前記第２主側基板（機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板のいずれか等）に実装される前記表面実装電子部品は、前記ＩＣ１のみからなる、
ことを特徴とする。
【５７５３】
遊技の進行に関わる主側基板（例えば、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３等）を備える遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）であって、
前記主側基板の基板面は表基板面（例えば主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘ）と裏基板面（例えば主制御基板１３１０のハンダ面１３１０ｙ）とからなり、表基板面には少なくとも電子部品が複数実装され、
前記電子部品は、
第１の外装色（例えばＩＣ１等の黒色の外装色）からなる表面実装タイプの電子部品と、
第２の外装色（例えばチップチップコンデンサＭＣ１'の薄茶色の外装色）からなるチップチップコンデンサＭＣ１'と、を有し、
前記チップチップコンデンサＭＣ１'は、前記第１の外装色（例えばＩＣ１等の黒色の外装色）及び前記第２の外装色（例えばチップチップコンデンサＭＣ１'の薄茶色の外装色）とは異なる特別の外装色（例えば青色の外装色）のチップチップコンデンサＭＣ１'の電極ＭＣ１ａ'それぞれにピン１３１５がハンダ付けされる特別電子部品として、前記表面実装タイプの電子部品のうちのＩＣ１に隣接配置される、
ことを特徴とする。
【５７５４】
遊技の進行に関わる主側基板（例えば、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３等）を備える遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）であって、
前記主側基板の基板面は表基板面（例えば主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘ）と裏基板面（例えば主制御基板１３１０のハンダ面１３１０ｙ）とからなり、表基板面には少なくとも電子部品が複数実装され、
前記電子部品は、
表面実装タイプの電子部品（例えば表面実装タイプの電子部品（ＩＣ１等））と、
チップチップコンデンサＭＣ１'と、を有し、
前記主側基板は、
遊技機の裏側に設けられて表基板面が当該遊技機の後方側を向くように配置される主制御基板１３１０と、
前記主制御基板１３１０よりも遊技機の前方側に設けられる第２主側基板（機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、磁気センサ１０５０に設けられる磁

気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板のいずれか等）と、を備え、
前記主制御基板１３１０に実装される電子部品は、前記表面実装タイプの電子部品と前記チップチップコンデンサＭＣ１'とからなり、
前記第２主側基板（機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板のいずれか等）に実装される電子部品は、前記表面実装タイプの電子部品のみからなり、
前記チップチップコンデンサＭＣ１'は、前記表面実装タイプの電子部品の固有の外装色（例えばＩＣ１の黒色の外装色）と当該チップチップコンデンサＭＣ１'の固有の外装色（例えば薄茶色の外装色）とは異なる特別な外装色（例えば青色の外装色）のチップチップコンデンサＭＣ１'の電極ＭＣ１ａ'それぞれにピン１３１５がハンダ付けされる特別電子部品として、前記表面実装タイプの電子部品のうちのＩＣ１に隣接配置される、
ことを特徴とする。
【５７５５】
遊技の進行に関わる主側基板（例えば、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３等）を備える遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）であって、
前記主側基板の表基板面（例えば主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘ）と裏基板面（例えば主制御基板１３１０のハンダ面１３１０ｙ）とのうちの表基板面には、少なくとも表面実装電子部品（表面実装タイプの電子部品）が複数実装され、
前記表面実装電子部品は、
所定数の接続端子（接続端子ＩＣ１ａ）を有するＩＣ１と、
該ＩＣ１よりも接続端子（電極ＭＣ１ａ'）の数が少ないチップチップコンデンサＭＣ１'と、を含み、
前記ＩＣ１の接続端子ＩＣ１ａは、前記主側基板の表基板面に形成されるパッド１３１０ｋａに直接接続され、
前記ＩＣ１のうちのチップチップコンデンサＭＣ１'の電極ＭＣ１ａ'は、補強部材１３１６を介して前記主側基板の表基板面に形成されるスルーホール１４０２ｂに接続される、
ことを特徴とする。
【５７５６】
遊技の進行に関わる主側基板（例えば、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３、機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２や、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等）を備える遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）であって、
前記主側基板の基板面は表基板面と裏基板面とからなり、表基板面には少なくとも表面実装電子部品（表面実装タイプの電子部品）が複数実装され、
前記表面実装電子部品は、
前記主側基板の前記表基板面に形成されるパッド１３１０ｋａに直接接続されるＩＣ１と、
補強部材１３１６を介して前記主側基板の前記表基板面に形成されるスルーホール１４０２ｂに間接的に接続されるチップチップコンデンサＭＣ１'と、を有し、
前記チップチップコンデンサＭＣ１'は、前記ＩＣ１よりも接続端子の数が少ないものであり、
前記主側基板は、
前記パッド１３１０ｋａと前記スルーホール１４０２ｂとが形成される主制御基板１３１０と、

前記パッド１３１０ｋａが形成される第２主側基板（機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板のいずれか等）と、を備え、
前記主制御基板１３１０に実装される前記表面実装電子部品は、前記ＩＣ１と前記チップチップコンデンサＭＣ１'とからなり、
前記第２主側基板（機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板のいずれか等）に実装される前記表面実装部品は、前記ＩＣ１のみからなる、
ことを特徴とする。
【５７５７】
遊技の進行に関わる主側基板（例えば、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３等）を備える遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）であって、
前記主側基板の表基板面（例えば主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘ）と裏基板面（例えば主制御基板１３１０のハンダ面１３１０ｙ）とのうちの表基板面には、少なくとも表面実装電子部品（表面実装タイプの電子部品）が複数実装され、
前記表面実装電子部品は、
前記主側基板の表基板面に実装された状態で、当該主側基板の表基板面上に配置する通常の表面実装タイプの電子部品と、
前記主側基板の表基板面に実装された状態で、当該主側基板の表基板面から離れた上方位置に前記通常の表面実装タイプの電子部品よりも突出するように配置するチップチップコンデンサＭＣ１'と、を有し、
前記チップチップコンデンサＭＣ１'は、前記通常の表面実装タイプの電子部品のうちのＩＣ１に隣接配置する、
ことを特徴とする。
【５７５８】
遊技の進行に関わる主側基板（例えば、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３、機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２や、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等）を備える遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）であって、
前記主側基板の基板面は表基板面と裏基板面とからなり、表基板面には少なくとも表面実装電子部品（表面実装タイプの電子部品）が複数実装され、
前記表面実装電子部品は、
前記表基板面上に配置する通常表面実装電子部品（通常の表面実装タイプの電子部品）と、
前記表基板面から離れた上方位置に配置するチップチップコンデンサＭＣ１'とを有し、
前記主側基板は、
遊技機の裏側に設けられて表基板面が当該遊技機の後方側を向くように配置される主制御基板１３１０と、
前記主制御基板１３１０よりも遊技機の前方側に設けられる第２主側基板（機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板のいずれか等）と、を備え、
前記主制御基板１３１０に実装される前記表面実装電子部品は、前記通常表面実装電子部品と該通常表面実装電子部品よりも突出するように配置される前記チップチップコンデンサＭＣ１'とからなり、

前記第２主側基板（機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板のいずれか等）に実装される表面実装電子部品は、前記通常表面実装電子部品のみからなり、
前記第１主側基板において、前記チップチップコンデンサＭＣ１'が前記通常表面実装電子部品のうちのＩＣ１に隣接配置される、
ことを特徴とする。
【５７５９】
遊技の進行に関わる主側基板（例えば、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３等）を備える遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）であって、
前記主側基板の基板面は表基板面（例えば主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘ）と裏基板面（例えば主制御基板１３１０のハンダ面１３１０ｙ）とからなり、表基板面には少なくとも表面実装電子部品（表面実装タイプの電子部品）が複数実装され、
前記表面実装電子部品は、
第１間隔（ＩＣ１の向かい合う１組の長手辺それぞれに沿って設けられる１組の接続端子ＩＣ１ａのＩＣ１本体を挟んだ短手方向の間隔）で設けられる複数の接続端子ＩＣ１ａを有するＩＣ１と、
前記第１間隔より狭い第２間隔（チップチップコンデンサＭＣ１'の短手辺それぞれに設けられる１組の電極ＭＣ１ａ'のチップチップコンデンサＭＣ１'本体を挟んだ長手方向の間隔）で設けられる複数の電極ＭＣ１ａ'を有するチップチップコンデンサＭＣ１'と、を有し、
前記ＩＣ１は、前記第１間隔で設けられる接続端子ＩＣ１ａが前記主側基板の表基板面に形成されるパッド１３１０ｋａに溶着され、
前記チップチップコンデンサＭＣ１'は、チップチップコンデンサＭＣ１'の電極ＭＣ１ａ'それぞれにピン１３１５がハンダ付けされて、前記第２間隔よりも広い第３間隔（１組のピン１３１５それぞれの間隔）で複数の接続端子（ピン１３１５）が前記主側基板の表基板面に形成されるスルーホール１４０２ｂに溶着される特別電子部品として前記ＩＣ１に隣接配置される、
ことを特徴とする。
【５７６０】
遊技の進行に関わる主側基板（例えば、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３、機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２や、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等）を備える遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）であって、
前記主側基板の基板面は表基板面と裏基板面とからなり、表基板面には少なくとも表面実装電子部品（表面実装タイプの電子部品）が複数実装され、
前記表面実装電子部品は、
通常表面実装電子部品（通常の表面実装タイプの電子部品）と、
該通常表面実装電子部品に設けられる端子部（ＩＣ１の向かい合う１組の長手辺それぞれに沿って設けられる１組の接続端子ＩＣ１ａ）同士の間隔（ＩＣ１の向かい合う１組の長手辺それぞれに沿って設けられる１組の接続端子ＩＣ１ａのＩＣ１本体を挟んだ短手方向の間隔）よりも狭い間隔（チップチップコンデンサＭＣ１'の短手辺それぞれに設けられる１組の電極ＭＣ１ａ'のチップチップコンデンサＭＣ１'本体を挟んだ長手方向の間隔）で設けられる電極ＭＣ１ａ'を有するチップチップコンデンサＭＣ１'と、を有し、
前記主側基板は、
遊技機の裏側に設けられて表基板面が当該遊技機の後方側を向くように配置される主制御基板１３１０と、
前記主制御基板１３１０よりも遊技機の前方側に設けられる第２主側基板（機能表示ユ

ニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板のいずれか等）と、を備え、
前記主制御基板１３１０に実装される電子部品は、前記通常表面実装電子部品と前記チップチップコンデンサＭＣ１'とからなり、
前記第２主側基板（機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板のいずれか等）に実装される電子部品は、前記通常表面実装電子部品のみからなり、
前記通常表面実装電子部品は、当該通常表面実装電子部品に備えられる前記端子部が前記主制御基板１３１０又は前記第２主側基板（機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板のいずれか等）の表基板面に形成されるパッド（主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成されるパッド１３１０ｋａ、磁気センサ基板１０５０ｂの前面（表面）に形成されるパッド）に溶着され、
前記チップチップコンデンサＭＣ１'は、当該チップチップコンデンサＭＣ１'の電極ＭＣ１ａ'それぞれにピン１３１５がハンダ付けされて、当該チップチップコンデンサＭＣ１'に設けられる端子部同士の間隔（チップチップコンデンサＭＣ１'の短手辺それぞれに設けられる１組の電極ＭＣ１ａ'のチップチップコンデンサＭＣ１'本体を挟んだ長手方向の間隔）よりも広い間隔（１組のピン１３１５それぞれの間隔）で複数のピン１３１５が前記主制御基板１３１０の表基板面に形成されるスルーホール１４０２ｂに溶着される特別電子部品として前記通常表面実装電子部品のうちのＩＣ１に隣接配置される、
ことを特徴とする。
【５７６１】
遊技の進行に関わる主側基板（例えば、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３等）を備える遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）であって、
前記主側基板の基板面は表基板面（例えば主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘ）と裏基板面（例えば主制御基板１３１０のハンダ面１３１０ｙ）とからなり、表基板面には少なくとも電子部品が複数実装され、
前記電子部品は、固有の形状を有する表面実装電子部品（表面実装タイプの電子部品）を含み、
該表面実装電子部品のうちのチップチップコンデンサＭＣ１'は、チップチップコンデンサＭＣ１'とは異なる形状の特別電子部品として、前記表面実装電子部品のうちのＩＣ１に隣接配置される、
ことを特徴とする。
【５７６２】
遊技の進行に関わる主側基板（例えば、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３、機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２や、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、及び第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板等）を備える遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）であって、
前記主側基板の基板面は表基板面と裏基板面とからなり、表基板面には少なくとも電子部品が複数実装され、
前記電子部品は、固有の形状を有する表面実装電子部品を含み、
前記主側基板は、
遊技機の裏側に設けられて表基板面が当該遊技機の後方側を向くように配置される主制御基板１３１０と、

前記主制御基板１３１０よりも遊技機の前方側に設けられる第２主側基板（機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板のいずれか等）と、を備え、
前記主制御基板１３１０の実装される電子部品は、前記表面実装電子部品と特別電子部品とからなり、
前記第２主側基板（機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、磁気センサ１０５０に設けられる磁気センサ基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板のいずれか等）に実装される電子部品は、前記表面実装電子部品のみからなり、
前記表面実装電子部品のうちのチップチップコンデンサＭＣ１'は、チップチップコンデンサＭＣ１'とは異なる形状の前記特別電子部品として、前記表面実装電子部品のうちのＩＣ１に隣接配置される
ことを特徴とする。
【５７６３】
［アタッカユニットの改変例１］
次に、上記とは異なる形態として、遊技盤５に取り付けられる第一アタッカユニット２４００Ａや第二アタッカユニット２６００Ａの動作が正常であるか否かの確認を容易にする構成について説明する。以下では、図１４０乃至図１４５等を参照して説明した第一アタッカユニット２４００や第二アタッカユニット２６００を改変した第一アタッカユニット２４００Ａや第二アタッカユニット２６００Ａについて、図３７６等を参照して説明する。なお、本実施形態のパチンコ機１において、第一アタッカユニット２４００Ａや第二アタッカユニット２６００Ａ以外の部材については、上述した第一アタッカユニット２４００や第二アタッカユニット２６００を有する実施形態のパチンコ機１と同じ構成であり、同じ構成については同じ符号を付して説明する。
【５７６４】
図３７６は、遊技盤５に取り付けられた異なる形態の第一アタッカユニット２４００Ａや第二アタッカユニット２６００Ａを示す斜視図である。図３７７は、遊技盤５から取り外された第一アタッカユニット２４００Ａや第二アタッカユニット２６００Ａを示す斜視図である。図３７６に示すように、第一アタッカユニット２４００Ａや第二アタッカユニット２６００Ａは、遊技盤５の前面に前方から取り付けられ、図示しないネジやビス等の固定手段によって遊技盤５に固定されている。
【５７６５】
図３７７に示すように、第一アタッカユニット２４００Ａや第二アタッカユニット２６００Ａは、ネジやビス等の固定手段が取り除かれた後に、遊技盤５の前面から前方へと取り外しが可能である。詳しくは、第一アタッカユニット２４００Ａは、略全体に透過性を有するとともに後面の一部が解放された略箱状に形成された装飾カバー２４５０Ａを備えており、該装飾カバー２４５０Ａがネジやビス等の固定手段によって遊技盤５の遊技パネル１１００の前面に前方から取り付けられている。装飾カバー２４５０Ａは、略全体に透過性を有するとともに遊技者から視認される側である前面側にパチンコ機１のテーマに沿った装飾シールが貼り付けられる装飾面２４５１Ａを有している。また、第二アタッカユニット２６００Ａは、略全体に透過性を有するとともに後面の一部が解放された略箱状に形成された装飾カバー２６５０Ａを備えており、該装飾カバー２６５０Ａがネジやビス等の固定手段によって遊技盤５の遊技パネル１１００の前面に前方から取り付けられている。装飾カバー２６５０Ａは、略全体に透過性を有するとともに遊技者から視認される側である前面側にパチンコ機１のテーマに沿った装飾シールが貼り付けられる装飾面２６５１Ａを有している。
【５７６６】

図３７８は、第一アタッカユニット２４００Ａを示す分解斜視図である。図３７８に示すように、第一アタッカユニット２４００Ａは、装飾カバー２４５０Ａに加えて、装飾カバー２４５０Ａの後面に後方から取り付けられる第一進退動装置２４５２Ａを備えている。第一進退動装置２４５２Ａは、略全体に透過性を有するとともに前面解放の箱状に形成されたケース本体２４５３Ａと、略全体に透過性を有するとともにケース本体２４５３Ａの前面を覆うように形成された板状のカバー体２４５４Ａと、を有している。また、第一進退動装置２４５２Ａは、ケース本体２４５３Ａ内に配されて、不正な磁気を検知する磁気センサ１０５０Ａと、遊技球Ｂを検知する大入賞口センサ２４０２Ａ及び第二始動口センサ２４０１Ａと、第二始動口センサ２４０１Ａへ遊技球Ｂを誘導可能な第二始動口扉２４１１Ａと、普通抽選結果に応じて第二リンク機構（図示省略）を介して第二始動口扉２４１１Ａを開閉させる始動口ソレノイド２４１２Ａと、大入賞口センサ２４０２Ａへ遊技球Ｂを誘導可能な大入賞口扉２４１３Ａと、第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果に応じて第一リンク機構２４５５Ａを介して大入賞口扉２４１３Ａを開閉させるアタッカソレノイド（図示省略）と、を更に有している。

【５７６７】

図３７９（ａ）は、大入賞口扉２４１３Ａ及び第二始動口扉２４１１Ａが進出状態に遷移された第一進退動装置２４５２Ａを示す斜視図であり、図３７９（ｂ）は、大入賞口扉２４１３Ａ及び第二始動口扉２４１１Ａが退避状態に遷移された第一進退動装置２４５２Ａを示す斜視図である。図３７９（ａ）及び図３７９（ｂ）に示すように、第一進退動装置２４５２Ａでは、第二始動口扉２４１１Ａや大入賞口扉２４１３Ａが前後方向へ移動可能にケース本体に支持され、第二始動口扉２４１１Ａや大入賞口扉２４１３Ａは、遊技領域５ａに進出する進出状態と遊技領域５ａから退避する退避状態とに遷移可能である。

【５７６８】

図３７９（ａ）に示すように、始動口ソレノイド２４１２Ａが通電されていない状態では、始動口ソレノイド２４１２Ａのプランジャがバネの付勢力により突出し、第二始動口扉２４１１Ａは、第二リンク機構を介して前方の遊技領域５ａへと進出された進出状態へと遷移される。また、図３７９（ｂ）に示すように、始動口ソレノイド２４１２Ａが通電されている状態では、始動口ソレノイド２４１２Ａのプランジャがバネの付勢力に抗して後退し、第二始動口扉２４１１Ａは、第二リンク機構を介して前方の遊技領域５ａから退避された退避状態へと遷移される。本実施形態の第二始動口扉２４１１Ａは、進出状態に遷移された場合に、遊技領域５ａを流下する遊技球Ｂの進行方向を変えるように遊技球Ｂと接触し、遊技球Ｂが第二始動口センサ２４０１Ａへと向かうことを規制するとともに、退避状態に遷移された場合に、遊技領域５ａを流下する遊技球Ｂとの接触加減が低減され、遊技球Ｂが第二始動口センサ２４０１Ａへと向かうことを規制しない。すなわち、本実施形態の第一アタッカユニット２４００Ａでは、普通抽選結果が当たりである場合に、始動口ソレノイド２４１２Ａが通電（ＯＮ）されてバネの付勢力に抗してプランジャが後退し、第二始動口扉２４１１Ａが退避状態に遷移されるため、第二始動口２００４Ａへの遊技球Ｂの受入れが可能となる。

【５７６９】

また、図３７９（ａ）に示すように、アタッカソレノイドが通電されていない状態では、アタッカソレノイドのプランジャがバネの付勢力により突出し、大入賞口扉２４１３Ａは、第一リンク機構２４５５Ａを介して前方の遊技領域５ａへと進出された進出状態へと遷移される。図３７９（ｂ）に示すように、アタッカソレノイドが通電されている状態では、アタッカソレノイドのプランジャがバネの付勢力に抗して後退し、大入賞口扉２４１３Ａは、第一リンク機構２４５５Ａを介して前方の遊技領域５ａから退避された退避状態へと遷移される。本実施形態の大入賞口扉２４１３Ａは、進出状態に遷移された場合に、遊技領域５ａを流下する遊技球Ｂの進行方向を変えるように遊技球Ｂと接触し、遊技球Ｂが大入賞口センサ２４０２Ａへと向かうことを規制するとともに、退避状態に遷移された場合に、遊技領域５ａを流下する遊技球Ｂとの接触加減が低減され、遊技球Ｂが大入賞口センサ２４０２Ａへと向かうことを規制しない。すなわち、本実施形態の第一アタッカユ

ニット２４００Ａでは、第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果が当たりである場合に、アタッカソレノイドが通電（ＯＮ）されてバネの付勢力に抗してプランジャが後退し、大入賞口扉２４１３Ａが退避状態に遷移されるため、大入賞口２００５Ａへの遊技球Ｂの受入れが可能となる。

【５７７０】

なお、本実施形態の第二始動口扉２４１１Ａ及び大入賞口扉２４１３Ａは、各ソレノイドが通電されることによって進出状態から退避状態へと遷移される態様であるが、各ソレノイドが通電されることによって退避状態から進出状態に遷移される態様であってもよい。但し、本実施形態のように第二始動口扉２４１１Ａ及び大入賞口扉２４１３Ａの進出状態において、遊技領域５ａを流下する遊技球Ｂが大入賞口センサ２４０２Ａ及び第二始動口センサ２４０１Ａへと向かうことを規制する場合には、第二始動口２００４Ａ及び大入賞口２００５Ａへの遊技球Ｂの不正入賞を抑制するとの観点から、第二始動口扉２４１１Ａ及び大入賞口扉２４１３Ａは、各ソレノイドが通電されることによって進出状態から退避状態へと遷移される態様が好ましい。

【５７７１】

また、本実施形態の第二始動口扉２４１１Ａ及び大入賞口扉２４１３Ａは、進出状態に遷移された場合に遊技領域５ａを流下する遊技球Ｂの進行方向を変えるように遊技球Ｂと接触し、遊技球Ｂが第二始動口センサ２４０１Ａ又は大入賞口センサ２４０２Ａへと向かうことを規制し、退避状態に遷移された場合に遊技領域５ａを流下する遊技球Ｂとの接触加減が低減され、遊技球Ｂが第二始動口センサ２４０１Ａ又は大入賞口センサ２４０２Ａへと向かうことを規制しない態様であったが、進出状態に遷移された場合に遊技領域５ａを流下する遊技球Ｂの進行方向を変えるように遊技球Ｂと接触し、遊技球Ｂが第二始動口センサ２４０１Ａ又は大入賞口センサ２４０２Ａへと向かうように規制し、退避状態に遷移された場合に遊技領域５ａを流下する遊技球Ｂとの接触加減が低減され、遊技球Ｂが第二始動口センサ２４０１Ａ又は大入賞口センサ２４０２Ａへと向かうように規制しない態様であってもよい。

【５７７２】

また、第二始動口扉２４１１Ａや大入賞口扉２４１３Ａは、装飾カバー２４５０Ａを取り外した状態において外部から接触可能に設けられており、始動口ソレノイド２４１２Ａやアタッカソレノイドが通電されていない状態であっても外部からの接触操作（押込み操作や引っ張り操作等）により進出状態と退避状態とに任意に遷移できるように構成されている。これにより、パチンコ機１の製造工程等において、第二始動口扉２４１１Ａや大入賞口扉２４１３Ａに対して作業者による動作確認等を可能としている。

【５７７３】

図３８０は、第二アタッカユニット２６００Ａを示す分解斜視図である。図３８０に示すように、第二アタッカユニット２６００Ａは、略全体に透過性を有する装飾カバー２６５０Ａに加えて、装飾カバー２６５０Ａの後面に後方から取り付けられる第二進退動装置２６５２Ａを備えている。第二進退動装置２６５２Ａは、略全体に透過性を有するとともに前面解放の箱状に形成されたケース本体２６５３Ａと、略全体に透過性を有するとともにケース本体２６５３Ａの前面を覆うように形成された板状のカバー体２６５４Ａと、を有している。また、第二進退動装置２６５２Ａは、不正な磁気を検知する磁気センサ１０５０Ａと、遊技球Ｂを検知する役物入賞口センサ２６０１Ａと、役物入賞口センサ２６０１Ａへ遊技球Ｂを誘導可能な役物入賞口扉２６１１Ａと、第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果に応じて第三リンク機構２６５５Ａを介して役物入賞口扉２６１１Ａを開閉させる役物入賞口ソレノイド（図示省略）と、を更に有している。磁気センサ１０５０Ａ、役物入賞口センサ２６０１Ａ、第三リンク機構２６５５Ａや役物入賞口ソレノイドは、ケース本体２６５３Ａ内に配され、役物入賞口扉２６１１Ａは、装飾カバー２６５０Ａによって開閉可能に軸支される。

【５７７４】

図３８１（ａ）は、役物入賞口扉２６１１Ａが退避状態に遷移された第二進退動装置２

６５２Ａを示す正面図であり、図３８１（ｂ）は、役物入賞口扉２６１１Ａが進出状態に遷移された第二進退動装置２６５２Ａを示す正面図である。図３８１（ａ）及び図３８１（ｂ）に示すように、第二進退動装置２６５２Ａでは、役物入賞口扉２６１１Ａは、下部の回転軸を中心に回転可能に設けられた所謂羽根状に形成されており、遊技領域５ａに進出する進出状態と遊技領域５ａから退避する退避状態とに遷移可能である。図３８１（ａ）に示すように、役物入賞口扉２６１１Ａは、役物入賞口ソレノイドが通電されていない状態では、役物入賞口ソレノイドのプランジャがバネの付勢力により突出して、前方の遊技領域５ａから退避する退避状態とされる。また、図３８１（ｂ）に示すように、役物入賞口扉２６１１Ａは、役物入賞口ソレノイドが通電されている状態では、役物入賞口ソレノイドのプランジャがバネの付勢力に抗して後退して、前方の遊技領域５ａに進出する進出状態とされる。本実施形態の役物入賞口扉２６１１Ａは、進出状態において遊技領域５ａを流下する遊技球Ｂの進行方向を変えるように遊技球Ｂと接触して遊技球Ｂが役物入賞口センサ２６０１Ａへと向かうように誘導し、退避状態において遊技領域５ａを流下する遊技球Ｂと接触して遊技球Ｂが役物入賞口センサ２６０１Ａへと向かうことを規制する。すなわち、本実施形態の第二進退動装置２６５２Ａでは、第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果が当たりである場合に、役物入賞口ソレノイドが通電（ＯＮ）され、バネの付勢力に抗してプランジャが後退することにより役物入賞口扉２６１１Ａが進出状態に遷移し、役物入賞口２００６Ａへの遊技球Ｂの受入れが可能となる。

【５７７５】

なお、役物入賞口扉２６１１Ａは、役物入賞口２００６Ａへの不正入賞を抑制するとの観点から、本実施形態では役物入賞口ソレノイドが通電されることによって退避状態から進出状態へと遷移される態様であるが、役物入賞口ソレノイドが通電されることによって進出状態から退避状態に遷移される態様であってもよい。また、役物入賞口扉２６１１Ａは、本実施形態において、進出状態において遊技領域５ａを流下する遊技球Ｂと接触して遊技球Ｂが役物入賞口センサ２６０１Ａへ向かうように誘導し、退避状態において遊技領域５ａを流下する遊技球Ｂと接触して遊技球Ｂが役物入賞口センサ２６０１Ａへと向かうことを規制する態様であるが、進出状態において遊技領域５ａを流下する遊技球Ｂと接触して遊技球Ｂが役物入賞口センサ２６０１Ａへ向かうことを規制し、退避状態において遊技領域５ａを流下する遊技球Ｂと接触して遊技球Ｂが役物入賞口センサ２６０１Ａへと向かうように誘導する態様であってもよい。

【５７７６】

また、役物入賞口扉２６１１Ａは、装飾カバー２６５０Ａを取り外した状態において外部から接触可能に設けられており、役物入賞口ソレノイドが通電されていない状態であっても外部からの接触操作（押込み操作や引っ張り操作等）により進出状態と退避状態とに任意に変化できるように構成されている。これにより、パチンコ機１の製造工程等において、役物入賞口扉２６１１Ａに対して作業者による動作確認等を可能としている。

【５７７７】

上記のような第一アタッカユニット２４００Ａや第二アタッカユニット２６００Ａが遊技盤５に組付けられたパチンコ機１では、各扉を進出状態又は退避状態に遷移させることにより、入賞口や始動口への遊技球Ｂの入球を可能に又は容易にすることができる。また、上述したように、装飾カバー２４５０Ａや装飾カバー２６５０Ａを取り外した状態においては、第二始動口扉２４１１Ａ、大入賞口扉２４１３Ａや役物入賞口扉２６１１Ａに対する接触を可能としており、パチンコ機１の製造工程での第二始動口扉２４１１Ａ、大入賞口扉２４１３Ａや役物入賞口扉２６１１Ａの動作確認を可能にしている。しかしながら、従来のパチンコ機１では、製造工程での第二始動口扉２４１１Ａ、大入賞口扉２４１３Ａや役物入賞口扉２６１１Ａの動作確認を可能にしていても、その動作内容（進出状態や退避状態への変化）が正常であるか否かを外部から判定することが困難であった。例えば、第二始動口扉２４１１Ａ、大入賞口扉２４１３Ａや役物入賞口扉２６１１Ａの出退動作は可能であるものの、その出退動作が遊技進行に支障がないか否かの判定は困難であり、仮に出退動作に不具合が生じると遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利

益を与え、ひいては、パチンコ機１の信頼性を低下させるおそれがあった。以下、このような問題を解消することを目的に、第一アタッカユニット２４００Ａ及び第二アタッカユニット２６００Ａに改変を加えた態様について説明する。

【５７７８】

図３８２（ａ）は、第二始動口扉２４１１Ａ及び大入賞口扉２４１３Ａが進出状態に遷移された第一進退動装置２４５２Ａを下面側から視た下面図であり、図３８２（ｂ）は、第二始動口扉２４１１Ａ及び大入賞口扉２４１３Ａが退避状態に遷移された第一進退動装置２４５２Ａを下面側から視た下面図である。なお、説明の便宜上、第二始動口センサ２４０１Ａと大入賞口センサ２４０２Ａを取り外した状態の図としている。図３８２（ａ）又は図３８２（ｂ）に示すように、板状に形成された第二始動口扉２４１１Ａ及び大入賞口扉２４１３Ａの下面（遊技球が流下する上面の裏側の面）には、第一アタッカユニット２４００Ａの外部から又は第一進退動装置２４５２Ａの外部から視認可能な視認部２４５６Ａが設けられている。視認部２４５６Ａは、第一アタッカユニット２４００Ａが遊技盤５から取り外された状態、又は第一進退動装置２４５２Ａが第一アタッカユニット２４００Ａから取り外された状態にて、第一進退動装置２４５２Ａの下面側から直視あるいは透過性を有する部位を透して視認可能に設けられている。なお、本例では、少なくとも第二始動口センサ２４０１Ａと大入賞口センサ２４０２Ａとが取り外された状態にて視認部２４５６Ａを第一進退動装置２４５２Ａの下面側から直視あるいは透過性を有する部位を透して視認可能に設けるようにしているが、第二始動口センサ２４０１Ａと大入賞口センサ２４０２Ａとが取り外された状態に限らず、第二始動口センサ２４０１Ａと大入賞口センサ２４０２Ａとが取り付けられた状態であっても、視認部２４５６Ａを第一進退動装置２４５２Ａの下面側から直視あるいは透過性を有する部位を透して視認可能に設けることが好ましい。第二始動口センサ２４０１Ａと大入賞口センサ２４０２Ａとが取り付けられた状態においては、退避状態にて第二始動口センサ２４０１Ａと大入賞口センサ２４０２Ａの貫通孔の内部に位置するように視認部２４５６Ａが配置されるようにしておくことで、第二始動口センサ２４０１Ａと大入賞口センサ２４０２Ａとが取り付けられた状態であっても視認部２４５６Ａが第一進退動装置２４５２Ａの下面側から直視あるいは透過性を有する部位を透して視認可能となる。

【５７７９】

本実施形態の視認部２４５６Ａは、第二始動口扉２４１１Ａ及び大入賞口扉２４１３Ａの下面（遊技球が流下する上面の裏側の面）に設けられた「★」という図の表記である。このような視認部２４５６Ａは、第二始動口扉２４１１Ａ及び大入賞口扉２４１３Ａの下面に印刷される態様であってもよいし、視認部２４５６Ａが形成されたシール状のフィルム部材が第二始動口扉２４１１Ａ及び大入賞口扉２４１３Ａの下面に貼り付けられる態様であってもよい。また、視認部２４５６Ａは、第二始動口扉２４１１Ａ及び大入賞口扉２４１３Ａの下面を隆起させて凸状の形成痕で形成される態様であってもよいし、第二始動口扉２４１１Ａ及び大入賞口扉２４１３Ａの下面を窪ませて凹状の形成痕で形成される態様であってもよい。なお、視認部２４５６Ａ自体の破損を回避するとの観点から、視認部２４５６Ａは、シール状のフィルム部材ではなく、印刷や形成痕により第二始動口扉２４１１Ａ及び大入賞口扉２４１３Ａに一体形成される態様が好ましい。

【５７８０】

図３８２（ａ）に示すように、大入賞口扉２４１３Ａが進出状態にあり遊技球Ｂと接触して遊技球Ｂが大入賞口センサ２４０２Ａへと向かうことを規制する第一進退動装置２４５２Ａの非入賞状態において、大入賞口扉２４１３Ａの視認部２４５６Ａは、ケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａよりも前方に位置している。また、第二始動口扉２４１１Ａが進出状態にあり遊技球Ｂと接触して遊技球Ｂが第二始動口センサ２４０１Ａへと向かうことを規制する第一進退動装置２４５２Ａの非入球状態において、第二始動口扉２４１１Ａの視認部２４５６Ａは、ケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａよりも前方に位置している。すなわち、大入賞口扉２４１３Ａや第二始動口扉２４１１Ａの正常な進出状態としては、視認部２４５６Ａの「★」の

表記がケース本体２４５３Ａの前端縁部よりも完全に外部に露出した状態（ケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して前方に視認部２４５６Ａの全体が位置する位置関係とされた状態）となるように視認部２４５６Ａが配置されている。このため、大入賞口扉２４１３Ａや第二始動口扉２４１１Ａを進出状態に動作させた際に、視認部２４５６Ａの「★」の表記がケース本体２４５３Ａの前端縁部よりも外部に完全に露出していない状態（例えば視認部２４５６Ａの一部が前端縁部に被さる位置関係とされた状態）の場合には、大入賞口扉２４１３Ａや第二始動口扉２４１１Ａの正常な進出状態ではなく、遊技進行に何らかの影響を与える虞のある異常を伴った進出状態ということになる。

【５７８１】

図３８２（ｂ）に示すように、大入賞口扉２４１３Ａが退避状態にあり遊技球Ｂが大入賞口センサ２４０２Ａへと向かうことを規制しない第一進退動装置２４５２Ａの入賞状態において、大入賞口扉２４１３Ａの視認部２４５６Ａは、ケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａよりも後方に位置している。また、第二始動口扉２４１１Ａが退避状態にあり遊技球Ｂが第二始動口センサ２４０１Ａへと向かうことを規制しない第一進退動装置２４５２Ａの入球状態において、第二始動口扉２４１１Ａの視認部２４５６Ａは、ケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａよりも後方に位置している。すなわち、遊技進行過程での大入賞口扉２４１３Ａや第二始動口扉２４１１Ａの正常な退避状態としては、視認部２４５６Ａの「★」の表記がケース本体２４５３Ａの前端縁部よりも内部に完全に収容された状態（ケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して後方に視認部２４５６Ａの全体が位置する位置関係とされた状態）となるように視認部２４５６Ａが配置されている。このため、大入賞口扉２４１３Ａや第二始動口扉２４１１Ａを退避状態に動作させた際に、視認部２４５６Ａの「★」の表記がケース本体２４５３Ａの前端縁部よりも内部に完全に収容されていない状態（例えば視認部２４５６Ａの一部が前端縁部に被さる位置関係とされた状態）の場合には、大入賞口扉２４１３Ａや第二始動口扉２４１１Ａの正常な退避状態ではなく、遊技進行に何らかの影響を与える虞のある異常を伴った退避状態ということになる。

【５７８２】

本実施形態のパチンコ機１では、大入賞口扉２４１３Ａや第二始動口扉２４１１Ａが進出状態である場合に、大入賞口扉２４１３Ａや第二始動口扉２４１１Ａの視認部２４５６Ａがケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して前方に位置する位置関係であることが第一進退動装置２４５２Ａの下面側である外部から視認可能であり、大入賞口扉２４１３Ａや第二始動口扉２４１１Ａが退避状態である場合に、大入賞口扉２４１３Ａや第二始動口扉２４１１Ａの視認部２４５６Ａがケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して後方に位置する位置関係であることが第一進退動装置２４５２Ａの下面側である外部から視認可能であるため、遊技盤５に取り付けられる前の第一進退動装置２４５２Ａや遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ａを下面側から目視することにより、大入賞口扉２４１３Ａや第二始動口扉２４１１Ａに設けられた視認部２４５６Ａをケース本体２４５３Ａに対する視標として、大入賞口扉２４１３Ａや第二始動口扉２４１１Ａが進出状態であるか否か又は大入賞口扉２４１３Ａや第二始動口扉２４１１Ａが退避状態であるか否かを容易に視認させることができる。よって、本実施形態のパチンコ機１では、パチンコ機１の製造工程での大入賞口扉２４１３Ａや第二始動口扉２４１１Ａの動作確認を容易にでき、大入賞口扉２４１３Ａや第二始動口扉２４１１Ａの出退動作に不具合が生じることを未然に抑制し、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、遊技者や遊技ホール等に対するパチンコ機１の信頼性を高めることができる。

【５７８３】

また、第一進退動装置２４５２Ａ（第一アタッカユニット２４００Ａ）が遊技盤５に取り付けられた後に、パチンコ機１を遊技する遊技者から視認容易であるのは第二始動口扉２４１１Ａの上面及び大入賞口扉２４１３Ａの上面であるのに対し、本実施形態の視認部

２４５６Ａが設けられるのは、第二始動口扉２４１１Ａの下面及び大入賞口扉２４１３Ａの下面であるため、仮に遊技者が第二始動口扉２４１１Ａや大入賞口扉２４１３Ａを上面側から覗き込んだとしても、遊技者が視認部２４５６Ａを視認することを不可能或いは困難にでき、遊技者が視認部２４５６Ａを視認した際に第一アタッカユニット２４００Ａの美観性やパチンコ機１の装飾性が損なわれることを抑制することができる。

【５７８４】

加えて、第一進退動装置２４５２Ａ（第一アタッカユニット２４００Ａ）が遊技盤５に取り付けられた後に、遊技球Ｂが流下するのは第二始動口扉２４１１Ａの上面及び大入賞口扉２４１３Ａの上面であるのに対し、本実施形態の視認部２４５６Ａが設けられるのは、第二始動口扉２４１１Ａの下面及び大入賞口扉２４１３Ａの下面であるため、視認部２４５６Ａを設けた場合であっても、視認部２４５６Ａ自体が遊技球の流下態様を阻害してしまうことを回避でき、視認部２４５６Ａ自体が遊技進行に不具合を与えることを抑制することができる。

【５７８５】

なお、第一進退動装置２４５２Ａの下面側からケース本体２４５３Ａを介して目視される第二始動口扉２４１１Ａの下面の視認部２４５６Ａや大入賞口扉２４１３Ａの下面の視認部２４５６Ａの視認性を高めるために、ケース本体２４５３Ａやカバー体２４５４Ａは透過性を有するように有色透明又は無色透明に形成する一方で、第二始動口扉２４１１Ａや大入賞口扉２４１３Ａは透過性を有さないように有色不透明に形成し、有色不透明に形成された第二始動口扉２４１１Ａの下面や大入賞口扉２４１３Ａの下面に視認部２４５６Ａを設けるようにしてもよい。これにより、パチンコ機１の製造工程において、視認部２４５６Ａを視標として大入賞口扉２４１３Ａや第二始動口扉２４１１Ａの動作確認をより一層容易にできる。

【５７８６】

また、第一進退動装置２４５２Ａは、進出状態に遷移された第二始動口扉２４１１Ａや大入賞口扉２４１３Ａの退避動作を規制するロック機構を更に有して構成される態様であってもよく、第二始動口扉２４１１Ａや大入賞口扉２４１３Ａに対する不正を抑制する効果を高めることができる。このような態様では、パチンコ機１の製造工程における第二始動口扉２４１１Ａや大入賞口扉２４１３Ａの動作確認の際に、ロック機構によるロックを解除した後に作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ａを下面側から目視するとともに、始動口ソレノイド２４１２Ａのバネの付勢力に抗して第二始動口扉２４１１Ａを後方へと押し込むことによって又はアタッカソレノイドのバネの付勢力に抗して大入賞口扉２４１３Ａを後方へと押し込むことによって、第二始動口扉２４１１Ａが始動口ソレノイド２４１２Ａのバネの付勢力に抗して正常な退避状態に遷移可能であるか否か又は大入賞口扉２４１３Ａがアタッカソレノイドのバネの付勢力に抗して正常な退避状態に遷移可能であるか否かが視認される。

【５７８７】

また、第一リンク機構２４５５Ａ又は第二リンク機構に支持されてケース本体２４５３Ａ内で前後方向に進出動作又は退避動作される第二始動口扉２４１１Ａや大入賞口扉２４１３Ａの態様について説明したが、第二始動口扉２４１１Ａや大入賞口扉２４１３Ａは、第一リンク機構２４５５Ａ又は第二リンク機構にケース本体２４５３Ａ外で支持されてケース本体２４５３Ａの上面又は下面に沿って前後方向に進出動作又は退避動作される態様であってもよいし、ケース本体２４５３Ａの上面又は下面で支持されて第一リンク機構２４５５Ａ又は第二リンク機構によってケース本体２４５３Ａの上面又は下面に沿って前後方向に進出動作又は退避動作される態様であってもよい。第二始動口扉２４１１Ａや大入賞口扉２４１３Ａがケース本体２４５３Ａ内で進出動作又は退避動作される場合には、第二始動口扉２４１１Ａや大入賞口扉２４１３Ａに対する不正を抑制する効果を高めることができるのに対し、第二始動口扉２４１１Ａや大入賞口扉２４１３Ａがケース本体２４５３Ａ外で進出動作又は退避動作される場合には、第二始動口扉２４１１Ａや大入賞口扉２４１３Ａに生じた動作不良等に対するメンテナンス作業の作業効率を高めることができる

。
【５７８８】
　また、視認部２４５６Ａは、第二始動口扉２４１１Ａの下面又は大入賞口扉２４１３Ａの下面であればいずれの位置に設けられてもよいし、視認部２４５６Ａの大きさはいずれの大きさで設けられてもよく、第二始動口扉２４１１Ａ又は大入賞口扉２４１３Ａに設けられた視認部２４５６Ａをケース本体２４５３Ａに対する視標として、第二始動口扉２４１１Ａ又は大入賞口扉２４１３Ａが進出状態であるか否か又は第二始動口扉２４１１Ａ又は大入賞口扉２４１３Ａが退避状態であるか否かを作業者に容易に確認させることができる。以下、このような態様について、第二始動口扉２４１１Ａや大入賞口扉２４１３Ａの各状態と視認部２４５６Ａのケース本体２４５３Ａに対する位置関係とについて詳しく説明する。
【５７８９】
　図３８３（ａ）は、進出状態の第二始動口扉２４１１Ａ及び大入賞口扉２４１３Ａを示す第一進退動装置２４５２Ａを下面視した概略図であり、図３８３（ｂ）は、退避状態の第二始動口扉２４１１Ａ及び大入賞口扉２４１３Ａを示す第一進退動装置２４５２Ａを下面視した概略図であり、図３８３（ｃ）及び（ｄ）は、動作不良状態の第二始動口扉２４１１Ａ及び大入賞口扉２４１３Ａを示す第一進退動装置２４５２Ａを下面視した概略図である。なお、図中上方は、第一進退動装置２４５２Ａが遊技盤５に取り付けられた際に遊技者側を向く前方であり、図中下方は、第一進退動装置２４５２Ａが遊技盤５に取り付けられた際に遊技者側とは反対を向く後方である。
【５７９０】
　図３８３（ａ）乃至図３８３（ｄ）に示すように、板状の大入賞口扉２４１３Ａの下面には、左右方向の中央部かつ前後方向の中央部に遊技球Ｂの直径と略同等の外径を有する視認部２４５６Ａが設けられている。なお、本例の視認部２４５６Ａは、大入賞口扉２４１３Ａの下面の前後方向の中央部に設けられればよく、大入賞口扉２４１３Ａの下面の左右方向のいずれの位置に設けられてもよい。また、本例の視認部２４５６Ａの外径は、視認容易性の観点から遊技球Ｂの直径と略同等である態様が好ましいが、遊技球Ｂの直径よりも小さい態様であってもよい。
【５７９１】
　３２９（ａ）に示すように、大入賞口扉２４１３Ａが進出状態にある場合に、視認部２４５６Ａは、ケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して予め設定された間隔を有して前方に位置する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での大入賞口扉２４１３Ａの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ａを下面側から目視することによって、視認部２４５６Ａがケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して予め設定された間隔を有して前方に位置することを確認した場合に、大入賞口扉２４１３Ａがアタッカソレノイドのバネの付勢力によって正常な進出状態に遷移可能であることを作業者に容易に視認させることができる。
【５７９２】
　図３８３（ｂ）に示すように、大入賞口扉２４１３Ａが退避状態にある場合に、視認部２４５６Ａは、ケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して予め設定された間隔を有して後方に位置する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での大入賞口扉２４１３Ａの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ａを下面側から目視するとともにアタッカソレノイドのバネの付勢力に抗して大入賞口扉２４１３Ａを後方へと押し込むことによって、視認部２４５６Ａがケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して予め設定された間隔を有して後方に位置することを確認した場合に、大入賞口扉２４１３Ａがアタッカソレノイドのバネの付勢力に抗して正常な退避状態に遷移可能であることを作業者に容易に視認させることができる。
【５７９３】

図３８３（ｃ）に示すように、大入賞口扉２４１３Ａが進出異常状態にある場合に、視認部２４５６Ａは、ケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して予め設定された間隔を有して前方に位置しない位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での大入賞口扉２４１３Ａの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ａを下面側から目視することによって、視認部２４５６Ａがケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して予め設定された間隔を有して前方に位置しないことを確認した場合に、大入賞口扉２４１３Ａがアタッカソレノイドのバネの付勢力によって正常な進出状態に遷移困難であることを作業者に容易に視認させることができる。

【５７９４】

図３８３（ｄ）に示すように、大入賞口扉２４１３Ａが退避異常状態にある場合に、視認部２４５６Ａは、ケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して予め設定された間隔を有して後方に位置しない位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での大入賞口扉２４１３Ａの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ａを下面側から目視するとともにアタッカソレノイドのバネの付勢力に抗して大入賞口扉２４１３Ａを後方へと押し込むことによって、視認部２４５６Ａがケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して予め設定された間隔を有して後方に位置しないことを確認した場合に、大入賞口扉２４１３Ａがアタッカソレノイドのバネの付勢力に抗して正常な退避状態に遷移困難であることを作業者に容易に視認させることができる。

【５７９５】

上述のように板状の大入賞口扉２４１３Ａの下面に、左右方向の中央部かつ前後方向の中央部に遊技球Ｂの直径と略同等の外径を有して設けられる視認部２４５６Ａの態様では、パチンコ機１の製造工程での大入賞口扉２４１３Ａの動作確認を行う作業者がケース本体２４５３Ａに対する視認部２４５６Ａの位置関係を視認した後、大入賞口扉２４１３Ａが正常な進出状態と正常な退避状態に遷移可能か否かを作業者に容易に判断させることができる。よって、大入賞口扉２４１３Ａの出退動作に不具合が生じることを未然に抑制し、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、遊技者や遊技ホール等に対するパチンコ機１の信頼性をより一層高めることができる。なお、本例の大入賞口扉２４１３Ａの下面に設けられる視認部２４５６Ａの態様は、例えば、第二始動口扉２４１１Ａの下面に設けられる視認部２４５６Ａに適用されてもよい。

【５７９６】

図３８３（ａ）及び３２９（ｃ）に示すように、板状の第二始動口扉２４１１Ａの下面には、左右方向の中央部かつ前後方向の後端部に遊技球Ｂの直径よりも小さい外径を有する視認部２４５６Ａが設けられている。なお、本例の視認部２４５６Ａは、第二始動口扉２４１１Ａの下面の前後方向の後端部に設けられればよく、第二始動口扉２４１１Ａの下面の左右方向のいずれの位置に設けられてもよい。また、本例の視認部２４５６Ａの外径は、形成容易性の観点から遊技球Ｂの直径よりも小さい態様が好ましいが、遊技球Ｂの直径と略同等である態様であってもよい。

【５７９７】

図３８３（ａ）に示すように、第二始動口扉２４１１Ａが進出状態にある場合に、視認部２４５６Ａは、ケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して前方に位置する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での第二始動口扉２４１１Ａの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ａを下面側から目視することによって、視認部２４５６Ａがケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して前方に位置することを確認した場合に、第二始動口扉２４１１Ａが始動口ソレノイド２４１２Ａのバネの付勢力によって正常な進出状態に遷移可能であることを作業者に容易に視認させることができる。

【５７９８】

図３８３（ｃ）に示すように、第二始動口扉２４１１Ａが進出異常状態にある場合に、視認部２４５６Ａは、ケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して下面視において接触するか又は仮想線２４５７Ａに対して後方に位置する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での第二始動口扉２４１１Ａの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ａを下面側から目視することによって、視認部２４５６Ａがケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して下面視において接触するか又は仮想線２４５７Ａに対して後方に位置することを確認した場合に、第二始動口扉２４１１Ａが始動口ソレノイド２４１２Ａのバネの付勢力によって正常な進出状態に遷移困難であることを作業者に容易に視認させることができる。

【５７９９】

上述のように第二始動口扉２４１１Ａが進出状態へと正常に遷移可能な場合には仮想線２４５７Ａに対して前方に位置し、第二始動口扉２４１１Ａが進出状態へと正常な遷移が困難な場合には仮想線２４５７Ａに対して下面視において接触するか又は仮想線２４５７Ａに対して後方に位置する視認部２４５６Ａの態様では、視認部２４５６Ａのサイズを例えば遊技球Ｂの直径よりも小さく設けることができ、視認部２４５６Ａを第二始動口扉２４１１Ａの下面に設ける際の形成容易性を高めることができる。よって、第二始動口扉２４１１Ａの出退動作に不具合が生じることを未然に抑制し、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、遊技者や遊技ホール等に対するパチンコ機１の信頼性をより一層高めることができる。なお、本例の第二始動口扉２４１１Ａの下面に設けられる視認部２４５６Ａの態様は、例えば、大入賞口扉２４１３Ａの下面に設けられる視認部２４５６Ａに適用されてもよい。

【５８００】

図３８３（ｂ）及び３２９（ｄ）に示すように、板状の第二始動口扉２４１１Ａの下面には、左右方向の中央部かつ前後方向の前端部に遊技球Ｂの直径よりも小さい外径を有する視認部２４５６Ａが設けられている。なお、本例の視認部２４５６Ａは、第二始動口扉２４１１Ａの下面の前後方向の前端部に設けられればよく、第二始動口扉２４１１Ａの下面の左右方向のいずれの位置に設けられてもよい。また、本例の視認部２４５６Ａの外径は、形成容易性の観点から遊技球Ｂの直径よりも小さい態様が好ましいが、遊技球Ｂの直径と略同等である態様であってもよい。

【５８０１】

図３８３（ｂ）に示すように、第二始動口扉２４１１Ａが退避状態にある場合に、視認部２４５６Ａは、ケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して後方に位置する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での第二始動口扉２４１１Ａの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ａを下面側から目視するとともに始動口ソレノイド２４１２Ａのバネの付勢力に抗して第二始動口扉２４１１Ａを後方へと押し込むことによって、視認部２４５６Ａがケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して後方に位置することを確認した場合に、第二始動口扉２４１１Ａが始動口ソレノイド２４１２Ａのバネの付勢力に抗して正常な退避状態に遷移可能であることを作業者に容易に視認させることができる。

【５８０２】

図３８３（ｄ）に示すように、第二始動口扉２４１１Ａが退避異常状態にある場合に、視認部２４５６Ａは、ケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して下面視において接触するか又は仮想線２４５７Ａに対して前方に位置する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での第二始動口扉２４１１Ａの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ａを下面側から目視するとともに始動口ソレノイド２４１２Ａのバネの付勢力に抗して第二始動口扉２４１１Ａを後方へと押し込むことによって、視認部２４５６Ａがケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して下面視において接触するか又は仮想線

２４５７Ａに対して前方に位置することを確認した場合に、第二始動口扉２４１１Ａが始動口ソレノイド２４１２Ａのバネの付勢力に抗して正常な退避状態に遷移困難であることを作業者に容易に視認させることができる。

【５８０３】

上述のように第二始動口扉２４１１Ａが退避状態へと正常に遷移可能な場合には仮想線２４５７Ａに対して後方に位置し、第二始動口扉２４１１Ａが退避状態へと正常な遷移が困難な場合には仮想線２４５７Ａに対して下面視において接触するか又は仮想線２４５７Ａに対して前方に位置する視認部２４５６Ａの態様では、視認部２４５６Ａのサイズを例えば遊技球Ｂの直径よりも小さく設けることができ、視認部２４５６Ａを第二始動口扉２４１１Ａの下面に設ける際の形成容易性を高めることができる。よって、第二始動口扉２４１１Ａの出退動作に不具合が生じることを未然に抑制し、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、遊技者や遊技ホール等に対するパチンコ機１の信頼性をより一層高めることができる。なお、本例の第二始動口扉２４１１Ａの下面に設けられる視認部２４５６Ａの態様は、例えば、大入賞口扉２４１３Ａの下面に設けられる視認部２４５６Ａに適用されてもよい。

【５８０４】

図３８４（ａ）は、進出状態の第二始動口扉２４１１Ａ及び大入賞口扉２４１３Ａを示す第一進退動装置２４５２Ａを下面視した概略図であり、図３８４（ｂ）は、退避状態の第二始動口扉２４１１Ａ及び大入賞口扉２４１３Ａを示す第一進退動装置２４５２Ａを下面視した概略図であり、図３８４（ｃ）及び（ｄ）は、動作不良状態の第二始動口扉２４１１Ａ及び大入賞口扉２４１３Ａを示す第一進退動装置２４５２Ａを下面視した概略図である。上記実施形態では、図３８３（ａ）乃至図３８３（ｄ）等を用いて視認部２４５６Ａのケース本体２４５３Ａに対する位置関係を視認することによって、大入賞口扉２４１３Ａの動作が正常であるか否かを作業者に容易に視認させる視認部２４５６Ａの態様や、第二始動口扉２４１１Ａの動作が正常であるか否かを作業者に容易に視認させるとともに形成容易性が高められた視認部２４５６Ａの態様について説明したが、以下、図３８４（ａ）乃至図３８４（ｄ）等を用いて視認部２４５６Ａの更に他の態様について説明する。

【５８０５】

図３８４（ａ）乃至図３８４（ｄ）に示すように、板状の大入賞口扉２４１３Ａの下面には、左右方向の中央部かつ前後方向の中央部に大入賞口扉２４１３Ａの前後方向の幅と略同等な外径を有する視認部２４５６Ａが設けられている。なお、本例の視認部２４５６Ａは、大入賞口扉２４１３Ａの下面の前後方向の中央部に設けられればよく、大入賞口扉２４１３Ａの下面の左右方向のいずれの位置に設けられてもよい。また、本例の視認部２４５６Ａの外径は、視認容易性の観点から大入賞口扉２４１３Ａの前後方向の幅と略同等である態様が好ましいが、遊技球Ｂの直径よりも大きい態様であってもよい。

【５８０６】

図３８４（ａ）に示すように、大入賞口扉２４１３Ａが進出状態にある場合に、視認部２４５６Ａは、ケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して下面視において後端部が接触する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での大入賞口扉２４１３Ａの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ａを下面側から目視することによって、視認部２４５６Ａがケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して下面視において後端部が接触することを確認した場合に、大入賞口扉２４１３Ａがアタッカソレノイドのバネの付勢力によって正常な進出状態に遷移可能であることを作業者に視認させることができる。

【５８０７】

図３８４（ｂ）に示すように、大入賞口扉２４１３Ａが退避状態にある場合に、視認部２４５６Ａは、ケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して下面視において前端部が接触する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での大入賞口扉２４１３Ａの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外され

た第一進退動装置２４５２Ａを下面側から目視するとともにアタッカソレノイドのバネの付勢力に抗して大入賞口扉２４１３Ａを後方へと押し込むことによって、視認部２４５６Ａがケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して下面視において前端部が接触することを確認した場合に、大入賞口扉２４１３Ａがアタッカソレノイドのバネの付勢力に抗して正常な退避状態に遷移可能であることを作業者に視認させることができる。

【５８０８】

図３８４（ｃ）に示すように、大入賞口扉２４１３Ａが進出異常状態にある場合に、視認部２４５６Ａは、ケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して下面視において中央部が接触する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での大入賞口扉２４１３Ａの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ａを下面側から目視することによって、視認部２４５６Ａがケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して下面視において中央部が接触することを確認した場合に、大入賞口扉２４１３Ａがアタッカソレノイドのバネの付勢力によって正常な進出状態に遷移困難であることを作業者に視認させることができる。

【５８０９】

図３８４（ｄ）に示すように、大入賞口扉２４１３Ａが退避異常状態にある場合に、視認部２４５６Ａは、ケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して下面視において中央部が接触する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での大入賞口扉２４１３Ａの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ａを下面側から目視するとともにアタッカソレノイドのバネの付勢力に抗して大入賞口扉２４１３Ａを後方へと押し込むことによって、視認部２４５６Ａがケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して下面視において中央部が接触することを確認した場合に、大入賞口扉２４１３Ａがアタッカソレノイドのバネの付勢力に抗して正常な退避状態に遷移困難であることを作業者に視認させることができる。

【５８１０】

上述のように仮想線２４５７Ａに対して下面視において視認部２４５６Ａが接触する位置によって大入賞口扉２４１３Ａが進出状態又は退避状態へと正常に遷移可能か否かを視認させる視認部２４５６Ａの態様では、大入賞口扉２４１３Ａの下面に視認部２４５６Ａを設ける際の前後方向の位置決めをする必要がなく、視認部２４５６Ａを大入賞口扉２４１３Ａの下面に設ける形成容易性を高めることができる。よって、大入賞口扉２４１３Ａの出退動作に不具合が生じることを未然に抑制し、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、遊技者や遊技ホール等に対するパチンコ機１の信頼性をより一層高めることができる。なお、本例の大入賞口扉２４１３Ａの下面に設けられる視認部２４５６Ａの態様は、例えば、第二始動口扉２４１１Ａの下面に設けられる視認部２４５６Ａに適用されてもよい。

【５８１１】

図３８４（ａ）及び図３８４（ｃ）に示す視認部２４５６Ａは、上記図３８３（ｂ）及び図３８３（ｄ）に示す視認部２４５６Ａと同様の態様であり、板状の第二始動口扉２４１１Ａの下面には、左右方向の中央部かつ前後方向の前端部に遊技球Ｂの直径よりも小さい外径を有する視認部２４５６Ａが設けられている。なお、本例の視認部２４５６Ａは、第二始動口扉２４１１Ａの下面の前後方向の前端部に設けられればよく、第二始動口扉２４１１Ａの下面の左右方向のいずれの位置に設けられてもよい。また、本例の視認部２４５６Ａの外径は、形成容易性の観点から遊技球Ｂの直径よりも小さい態様が好ましいが、遊技球Ｂの直径と略同等である態様であってもよい。

【５８１２】

図３８４（ａ）に示すように、第二始動口扉２４１１Ａが進出状態にある場合に、視認部２４５６Ａは、ケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対

して予め設定された所定の間隔を有して前方に位置する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での第二始動口扉２４１１Ａの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ａを下面側から目視することによって、視認部２４５６Ａがケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して予め設定された所定の間隔を有して前方に位置することを確認した場合に、第二始動口扉２４１１Ａが始動口ソレノイド２４１２Ａのバネの付勢力によって正常な進出状態に遷移可能であることを作業者に視認させることができる。

【５８１３】

図３８４（ｃ）に示すように、第二始動口扉２４１１Ａが進出異常状態にある場合に、視認部２４５６Ａは、ケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して予め設定された所定の間隔よりも小さい間隔を有して前方に位置するか又は仮想線２４５７Ａに対して下面視において接触する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での第二始動口扉２４１１Ａの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ａを下面側から目視することによって、視認部２４５６Ａがケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して予め設定された所定の間隔よりも小さい間隔を有して前方に位置するか又は仮想線２４５７Ａに対して下面視において接触することを確認した場合に、第二始動口扉２４１１Ａが始動口ソレノイド２４１２Ａのバネの付勢力によって正常な進出状態に遷移困難であることを作業者に視認させることができる。

【５８１４】

上述のように第二始動口扉２４１１Ａが進出状態へと正常に遷移可能な場合には仮想線２４５７Ａに対して予め設定された所定の間隔を有して前方に位置し、第二始動口扉２４１１Ａが進出状態へと正常な遷移が困難な場合には仮想線２４５７Ａに対して予め設定された所定の間隔よりも小さい間隔を有して前方に位置するか又は仮想線２４５７Ａに対して下面視において接触するような視認部２４５６Ａの態様では、視認部２４５６Ａのサイズを遊技球Ｂの直径よりも小さく設けることができ、視認部２４５６Ａを第二始動口扉２４１１Ａの下面に設ける際の形成容易性を高めることができる。よって、第二始動口扉２４１１Ａの出退動作に不具合が生じることを未然に抑制し、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、遊技者や遊技ホール等に対するパチンコ機１の信頼性をより一層高めることができる。なお、本例の第二始動口扉２４１１Ａの下面に設けられる視認部２４５６Ａの態様は、例えば、大入賞口扉２４１３Ａの下面に設けられる視認部２４５６Ａに適用されてもよい。

【５８１５】

図３８４（ｂ）及び図３８４（ｄ）に示す視認部２４５６Ａは、上記図３８３（ａ）及び図３８３（ｃ）に示す視認部２４５６Ａと同様の態様であり、板状の第二始動口扉２４１１Ａの下面には、左右方向の中央部かつ前後方向の後端部に遊技球Ｂの直径よりも小さい外径を有する視認部２４５６Ａが設けられている。なお、本例の視認部２４５６Ａは、第二始動口扉２４１１Ａの下面の前後方向の後端部に設けられればよく、第二始動口扉２４１１Ａの下面の左右方向のいずれの位置に設けられてもよい。また、本例の視認部２４５６Ａの外径は、形成容易性の観点から遊技球Ｂの直径よりも小さい態様が好ましいが、遊技球Ｂの直径と略同等である態様であってもよい。

【５８１６】

図３８４（ｂ）に示すように、第二始動口扉２４１１Ａが退避状態にある場合に、視認部２４５６Ａは、ケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して予め設定された間隔を有して後方に位置する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での第二始動口扉２４１１Ａの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ａを下面側から目視するとともに始動口ソレノイド２４１２Ａのバネの付勢力に抗して第二始動口扉２４１１Ａを後方へと押し込むことによって、視認部２４５６Ａがケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して予め設定された間隔を有して後方に位置することを確認した場合に、第

二始動口扉２４１１Ａが始動口ソレノイド２４１２Ａのバネの付勢力に抗して正常な退避状態に遷移可能であることを作業者に視認させることができる。

【５８１７】

図３８３（ｄ）に示すように、第二始動口扉２４１１Ａが退避異常状態にある場合に、視認部２４５６Ａは、ケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して予め設定された所定の間隔よりも小さい間隔を有して後方に位置するか又は仮想線２４５７Ａに対して下面視において接触する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での第二始動口扉２４１１Ａの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ａを下面側から目視するとともに始動口ソレノイド２４１２Ａのバネの付勢力に抗して第二始動口扉２４１１Ａを後方へと押し込むことによって、視認部２４５６Ａがケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対して予め設定された所定の間隔よりも小さい間隔を有して後方に位置するか又は仮想線２４５７Ａに対して下面視において接触することを確認した場合に、第二始動口扉２４１１Ａが始動口ソレノイド２４１２Ａのバネの付勢力に抗して正常な退避状態に遷移困難であることを作業者に視認させることができる。

【５８１８】

上述のように第二始動口扉２４１１Ａが退避状態へと正常に遷移可能な場合には仮想線２４５７Ａに対して予め設定された所定の間隔を有して後方に位置し、第二始動口扉２４１１Ａが進出状態又は退避状態へと正常な遷移が困難な場合には仮想線２４５７Ａに対して予め設定された所定の間隔よりも小さい間隔を有して後方に位置するか又は仮想線２４５７Ａに対して下面視において接触するような視認部２４５６Ａの態様では、視認部２４５６Ａのサイズを例えば遊技球Ｂの直径よりも小さく設けることができ、視認部２４５６Ａを第二始動口扉２４１１Ａの下面に設ける際の形成容易性を高めることができる。よって、第二始動口扉２４１１Ａの出退動作に不具合が生じることを未然に抑制し、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、遊技者や遊技ホール等に対するパチンコ機１の信頼性をより一層高めることができる。なお、本例の第二始動口扉２４１１Ａの下面に設けられる視認部２４５６Ａの態様は、例えば、大入賞口扉２４１３Ａの下面に設けられる視認部２４５６Ａに適用されてもよい。

【５８１９】

なお、本実施形態では、ケース本体２４５３Ａに対する視認部２４５６Ａの位置関係について、ケース本体２４５３Ａの前端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ａに対する視認部２４５６Ａの位置について説明したが、仮想線２４５７Ａは、例えば、カバー体２４５４Ａの後端縁部に沿って延びる態様であってもよいし、カバー体２４５４Ａの前端縁部に沿って延びる態様であってもよいし、ケース本体２４５３Ａの後端縁部に沿って延びる態様であってもよく、パチンコ機１の製造工程での動作確認を行う際にケース本体２４５３Ａに対する視認部２４５６Ａの位置を視認する作業者の作業効率の向上の観点から、視認部２４５６Ａがケース本体２４５３Ａに対する視標となるように任意に設定されることが望ましい。

【５８２０】

また、本実施形態では、「★」という図の表記である視認部２４５６Ａの態様について説明したが、視認部２４５６Ａは、第二始動口扉２４１１Ａや大入賞口扉２４１３Ａの動作確認の際にケース本体２４５３Ａに対する視標となればよく形状が異なるものであってもよい。図３８５（ａ）乃至図３８５（ｄ）は、他の態様の視認部２４５６Ａが設けられた大入賞口扉２４１３Ａの下面を示す第一進退動装置２４５２Ａを下面視した概略図である。具体的には、視認部２４５６Ａは、図３８５（ａ）に示すように「●」という図の表記であってもよいし、図３８５（ｂ）に示すように「▲」という図の表記であってもよいし、図３８５（ｃ）に示すように「■」という図の表記であってもよいし、図３８５（ｄ）に示すように左右に延びる複数の線材が前後方向に所定の間隔で並べられた図の表記であってもよい。また、視認部２４５６Ａは、「し」や「Ｕ」等の文字の表記であってもよい。なお、「●」という図の表記を用いる場合には、仮に遊技者が視認してしまった場合

に、円形の表記である点から遊技球Ｂを想起させて何らかの誤解（例えば遊技球の発射態様に関する誤解等）が生じてしまう虞がある。この点を鑑みて、「●」という図の表記を用いる場合には、遊技球Ｂの直径（例えば１１ｍｍ）よりも小さい直径（例えば１～５ｍｍ）を最大幅とする「●」の表記で形成したり、一部が欠けた「●」の表記（例えば半円状）で形成したりとしておくことで、遊技者に遊技球Ｂを想起させることをできるだけ回避するようにしておくことが望ましい。

【５８２１】

また、本例のように、第二始動口扉２４１１Ａと大入賞口扉２４１３Ａとがユニット化されている場合には特に、第一進退動装置２４５２Ａ（第一アタッカユニット２４００Ａ）を下面側から視認する作業の際に、第二始動口扉２４１１Ａと大入賞口扉２４１３Ａのいずれの部材であるか分かり難くなる虞があるため、第二始動口扉２４１１Ａと大入賞口扉２４１３Ａとで視認部２４５６Ａの態様を異なる態様にしてもよく、作業員の認識間違いを防止することができ、第二始動口扉２４１１Ａと大入賞口扉２４１３Ａで視認部２４５６Ａの態様を共通の態様にしてもよく、作業員の作業効率の向上を図ることができる。

【５８２２】

また、本実施形態では、パチンコ機１の製造工程において、第二始動口扉２４１１Ａや大入賞口扉２４１３Ａに設けられた視認部２４５６Ａを視標として第二始動口扉２４１１Ａや大入賞口扉２４１３Ａの動作確認が実施される態様について説明したが、第二始動口扉２４１１Ａや大入賞口扉２４１３Ａの動作確認は、例えば、パチンコ機１が設置される遊技ホール等において、遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ａ（第一アタッカユニット２４００Ａ）を下面側から視認することにより実施されてもよい。

【５８２３】

図３８６（ａ）は、役物入賞口扉２６１１Ａが退避状態に遷移された第二進退動装置２６５２Ａの一部を背面側から視た部分背面図であり、図３８６（ｂ）は、役物入賞口扉２６１１Ａが進出状態に遷移された第二進退動装置２６５２Ａの一部を背面側から視た部分背面図である。図３８６（ａ）又は図３８６（ｂ）に示すように、役物入賞口扉２６１１Ａの背面裏側（裏面）には、第二進退動装置２６５２Ａの外部から視認可能な視認部２６５６Ａが設けられている。視認部２６５６Ａは、第二アタッカユニット２６００Ａが遊技盤５から取り外された状態で又は第二進退動装置２６５２Ａが第二アタッカユニット２６００Ａから取り外された状態で、第二アタッカユニット２６００Ａの外部である第二アタッカユニット２６００Ａの背面側又は第二進退動装置２６５２Ａの外部である第二進退動装置２６５２Ａの背面側から直視あるいは透過性を有する部位を透して視認可能に設けられている。なお、視認部２６５６Ａは、役物入賞口扉２６１１Ａが進出状態である場合の位置と役物入賞口扉２６１１Ａが退避状態である場合の位置での変化量である距離をより大きくするとの観点から、役物入賞口扉２６１１Ａの背面裏側（裏面）の先端側に設けられることが望ましい。

【５８２４】

本実施形態の視認部２６５６Ａは、役物入賞口扉２６１１Ａの背面裏側（裏面）に設けられた「★」という図の表記である。視認部２６５６Ａは、役物入賞口扉２６１１Ａの背面裏側（裏面）に印刷される態様であってもよいし、視認部２６５６Ａが形成されたシール状のフィルム部材が役物入賞口扉２６１１Ａの背面裏側（裏面）に貼り付けられる態様であってもよい。また、視認部２６５６Ａは、役物入賞口扉２６１１Ａの背面裏側（裏面）を隆起させて凸状の形成痕で形成される態様であってもよいし、役物入賞口扉２６１１Ａの背面裏側（裏面）を窪ませて凹状の形成痕で形成される態様であってもよい。なお、視認部２６５６Ａ自体の破損を回避する観点からすると、視認部２６５６Ａは、シール状のフィルム部材ではなく、印刷あるいは形成跡により役物入賞口扉２６１１Ａに一体形成されるものであることが好ましい。

【５８２５】

図３８６（ａ）及び図３８６（ｂ）に示すように、役物入賞口扉２６１１Ａの背面裏側（裏面）には、先端部に遊技球Ｂの直径よりも大きい外径を有する視認部２４５６Ａが設

けられている。なお、本例の視認部２４５６Ａの外径は、視認容易性の観点から遊技球Ｂの直径よりも大きい態様が好ましいが、遊技球Ｂの直径と略同等である態様であってもよい。

【５８２６】

図３８６（ａ）に示すように、役物入賞口扉２６１１Ａが退避状態にあり遊技球Ｂと接触して遊技球Ｂが役物入賞口センサ２６０１Ａへと向かうことを規制する第二進退動装置２６５２Ａの非入賞状態において、役物入賞口扉２６１１Ａの視認部２６５６Ａは、装飾カバー２６５０Ａの左側の縁部（パチンコ機１を前方から見た際の左側の縁部であり、図示右側の縁部）に沿って延びる仮想線２６５７Ａに対して背面視において左側の端部が接触している。すなわち、役物入賞口扉２６１１Ａの正常な退避状態としては、視認部２６５６Ａの「★」の表記の左側の縁部が装飾カバー２６５０Ａの左側の縁部に対して背面視において接触する状態となるように視認部２６５６Ａが配置されている。このため、役物入賞口扉２６１１Ａを退避状態に動作させた際に、視認部２６５６Ａの「★」の表記の左側の縁部が装飾カバー２６５０Ａの左側の縁部に対して背面視において接触していない状態（例えば視認部２６５６Ａの右側の端部が装飾カバー２６５０Ａの左側の縁部に対して背面視において接触する状態）の場合には、役物入賞口扉２６１１Ａの正常な退避状態ではなく、遊技進行に何らかの影響を与える虞のある異常を伴った退避状態ということになる。

【５８２７】

図３８６（ｂ）に示すように、役物入賞口扉２６１１Ａが進出状態にあり遊技球Ｂが役物入賞口センサ２６０１Ａへと向かうことを規制しない第二進退動装置２６５２Ａの入賞状態において、役物入賞口扉２６１１Ａの視認部２６５６Ａは、装飾カバー２６５０Ａの左側の縁部（パチンコ機１を前方から見た際の左側の縁部であり、図示右側の縁部）に対して最も大きい予め設定された間隔を有して左方に位置している。すなわち、役物入賞口扉２６１１Ａの正常な進出状態としては、視認部２６５６Ａの「★」の表記が装飾カバー２６５０Ａの左側の縁部（パチンコ機１を前方から見た際の左側の縁部であり、図示右側の縁部）に対して最も大きい予め設定された間隔を有して左方に位置する状態となるように視認部２６５６Ａが配置されている。このため、役物入賞口扉２６１１Ａを退避状態に動作させた際に、視認部２６５６Ａの「★」の表記の左側の縁部が装飾カバー２６５０Ａの左側の縁部（パチンコ機１を前方から見た際の左側の縁部であり、図示右側の縁部）に対して最も大きい予め設定された間隔を有して左方に位置していない状態（例えば視認部２６５６Ａが装飾カバー２６５０Ａの左側の縁部（パチンコ機１を前方から見た際の左側の縁部であり、図示右側の縁部）に対して最も大きい予め設定された間隔よりも小さい間隔を有して左方に位置する状態）の場合には、役物入賞口扉２６１１Ａの正常な進出状態ではなく、遊技進行に何らかの影響を与える虞のある異常を伴った進出状態ということになる。

【５８２８】

本実施形態のパチンコ機１では、役物入賞口扉２６１１Ａが退避状態である場合に、視認部２６５６Ａが装飾カバー２６５０Ａの左側の縁部（パチンコ機１を前方から見た際の左側の縁部であり、図示右側の縁部）に沿って延びる仮想線２６５７Ａに対して背面視において左側の端部が接触する位置関係であることが第二進退動装置２６５２Ａの背面側である外部から視認可能であり、役物入賞口扉２６１１Ａが進出状態である場合に、視認部２６５６Ａが装飾カバー２６５０Ａの左側の縁部（パチンコ機１を前方から見た際の左側の縁部であり、図示右側の縁部）に対して最も大きい予め設定された間隔を有して左方に位置する位置関係であることが第二進退動装置２６５２Ａの背面側である外部から視認可能である。このため、第二進退動装置２６５２Ａを背面側から目視することにより、役物入賞口扉２６１１Ａに設けられた視認部２６５６Ａの視認態様を装飾カバー２６５０Ａに対する視標として、役物入賞口扉２６１１Ａが進出状態であるか否か又は役物入賞口扉２６１１Ａが退避状態であるか否かを容易に確認することができる。よって、本実施形態のパチンコ機１では、パチンコ機１の製造工程での役物入賞口扉２６１１Ａの動作確認を容

易にでき、役物入賞口扉２６１１Ａの出退動作に不具合が生じることを未然に抑制し、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、遊技者や遊技ホール等に対するパチンコ機１の信頼性を高めることができる。

【５８２９】

また、第二進退動装置２６５２Ａ（第二アタッカユニット２６００Ａ）が遊技盤５に取り付けられた後に、パチンコ機１を遊技する遊技者から視認容易であるのは役物入賞口扉２６１１Ａの前面であるのに対し、本実施形態の視認部２６５６Ａが設けられるのは、役物入賞口扉２６１１Ａの背面裏側（裏面）であるため、仮に遊技者が役物入賞口扉２６１１Ａを前方から覗き込んだとしても、遊技者が視認部２６５６Ａを視認することを不可能或いは困難にでき、遊技者が視認部２６５６Ａを視認した際に第二アタッカユニット２６００Ａの美観性やパチンコ機１の装飾性が損なわれることを抑制することができる。

【５８３０】

加えて、第二進退動装置２６５２Ａ（第二アタッカユニット２６００Ａ）が遊技盤５に取り付けられた後に、遊技球Ｂが接触するのは役物入賞口扉２６１１Ａの左側の側面であるのに対し、本実施形態の視認部２６５６Ａが設けられるのは、役物入賞口扉２６１１Ａの背面裏側（裏面）であるため、視認部２６５６Ａを設けたとしても、視認部２６５６Ａ自体が遊技球Ｂの流下態様を阻害してしまうことを回避でき、視認部２６５６Ａ自体が遊技進行に不具合を与えることを抑制することができる。

【５８３１】

なお、第二進退動装置２６５２Ａの背面側からケース本体２６５３Ａを介して目視される役物入賞口扉２６１１Ａの背面裏側（裏面）の視認部２６５６Ａの視認性を高めるために、ケース本体２６５３Ａやカバー体２６５４Ａは透過性を有するように有色透明又は無色透明に形成する一方で、役物入賞口扉２６１１Ａは透過性を有さないように有色不透明に形成し、有色不透明に形成した役物入賞口扉２６１１Ａの背面裏側（裏面）に視認部２６５６Ａを設けるようにしてもよい。これにより、パチンコ機１の製造工程での視認部２６５６Ａを用いた役物入賞口扉２６１３Ａの動作確認をより一層容易にできる。

【５８３２】

また、第二進退動装置２６５２Ａは、退避状態に遷移された役物入賞口扉２６１１Ａの進出動作を規制するロック機構を更に有して構成される態様であってもよく、役物入賞口扉２６１１Ａに対する不正を抑制する効果を高めることができる。このような態様では、パチンコ機１の製造工程での役物入賞口扉２６１１Ａの動作確認の際に、ロック機構によるロックを解除した後に作業者が遊技盤５から取り外された第二進退動装置２６５２Ａを背面から目視するとともに、役物入賞口ソレノイドのバネの付勢力に抗して役物入賞口扉２６１１Ａを左方へと引き出すことによって、役物入賞口扉２６１１Ａが役物入賞口ソレノイドのバネの付勢力に抗して正常な進出状態に遷移可能であるか否かが視認される。

【５８３３】

また、視認部２６５６Ａは、役物入賞口扉２６１１Ａの背面裏側（裏面）であればいずれの位置に設けられてもよいし、視認部２６５６Ａの大きさはいずれの大きさで設けられてもよく、役物入賞口扉２６１１Ａに設けられた視認部２６５６Ａを装飾カバー２６５０Ａに対する視標として、役物入賞口扉２６１１Ａが進出状態であるか否か又は役物入賞口扉２６１１Ａが退避状態であるか否かを容易に確認することができる。以下、このような態様について、役物入賞口扉２６１１Ａの各状態と視認部２６５６Ａの装飾カバー２６５０Ａに対する位置関係とについて詳しく説明する。図３８７（ａ）は、退避状態の役物入賞口扉２６１１Ａを示す第二進退動装置２６５２Ａを背面視した概略図であり、図３８７（ｂ）は、進出状態の役物入賞口扉２６１１Ａを示す第二進退動装置２６５２Ａを背面視した概略図である。

【５８３４】

図３８７（ａ）及び図３８７（ｂ）に示すように、役物入賞口扉２６１１Ａの背面裏側（裏面）には、先端部に遊技球Ｂの直径よりも小さい外径を有する視認部２４５６Ａが設けられている。なお、本例の視認部２４５６Ａの外径は、形成容易性の観点から遊技球Ｂ

の直径よりも小さい態様が好ましいが、遊技球Ｂの直径と略同等である態様であってもよい。

【５８３５】

図３８７（ａ）に示すように、役物入賞口扉２６１１Ａが退避状態にある場合に、視認部２６５６Ａは、装飾カバー２６５０Ａの左側の縁部に沿って延びる仮想線２６５７Ａに対して左方に位置する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での役物入賞口扉２６１１Ａの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第二進退動装置２６５２Ａを背面側から目視することによって、視認部２６５６Ａが装飾カバー２６５０Ａの左側の縁部に沿って延びる仮想線２６５７Ａに対して左方に位置することを確認した場合に、役物入賞口扉２６１１Ａが役物入賞口ソレノイドのバネの付勢力によって正常な退避状態に遷移可能であることを作業者に容易に視認させることができる。

【５８３６】

なお、役物入賞口扉２６１１Ａが退避状態にある場合に、視認部２６５６Ａは、装飾カバー２６５０Ａの左側の縁部に沿って延びる仮想線２６５７Ａに対して背面視において接触する（背面視において、視認部２６５６Ａが仮想線２６５７Ａに重なるように視認される）位置関係となる態様であってもよい。この態様では、パチンコ機１の製造工程での役物入賞口扉２６１１Ａの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第二進退動装置２６５２Ａを背面側から目視することによって、視認部２６５６Ａが装飾カバー２６５０Ａの左側の縁部に沿って延びる仮想線２６５７Ａに対して背面視において接触することを確認した場合に、役物入賞口扉２６１１Ａが役物入賞口ソレノイドのバネの付勢力によって正常な退避状態に遷移可能であることを作業者に容易に視認させることができる。

【５８３７】

図３８７（ｂ）に示すように、役物入賞口扉２６１１Ａが進出状態にある場合に、視認部２６５６Ａは、装飾カバー２６５０Ａの左側の縁部（パチンコ機１を前方から見た際の左側の縁部であり、図示右側の縁部）に対して最も大きい予め設定された間隔を有して左方に位置する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での役物入賞口扉２６１１Ａの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第二進退動装置２６５２Ａを背面側から目視するとともに、役物入賞口ソレノイドのバネの付勢力に抗して役物入賞口扉２６１１Ａを左方へと引き出すことによって、視認部２６５６Ａが装飾カバー２６５０Ａの左側の縁部（パチンコ機１を前方から見た際の左側の縁部であり、図示右側の縁部）に対して最も大きい予め設定された間隔を有して左方に位置することを確認した場合に、役物入賞口扉２６１１Ａが役物入賞口ソレノイドのバネの付勢力に抗して正常な進出状態に遷移可能であることを作業者に視認させることができる。

【５８３８】

上述のように役物入賞口扉２６１１Ａが退避状態へと正常に遷移可能な場合には、視認部２６５６Ａが装飾カバー２６５０Ａの左側の縁部に沿って延びる仮想線２６５７Ａに対して左方に位置し、役物入賞口扉２６１１Ａが進出状態へと正常に遷移可能な場合には、視認部２６５６Ａが装飾カバー２６５０Ａの左側の縁部（パチンコ機１を前方から見た際の左側の縁部であり、図示右側の縁部）に対して最も大きい予め設定された間隔を有して左方に位置するため、第二進退動装置２６５２Ａを背面側から目視することにより、役物入賞口扉２６１１Ａに設けられた視認部２６５６Ａを装飾カバー２６５０Ａに対する視標として、役物入賞口扉２６１１Ａが進出状態であるか否か又は役物入賞口扉２６１１Ａが退避状態であるか否かを作業者に確認させることができる。よって、本実施形態のパチンコ機１では、パチンコ機１の製造工程での役物入賞口扉２６１１Ａの動作確認を容易にでき、役物入賞口扉２６１１Ａの出退動作に不具合が生じることを未然に抑制し、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、遊技者や遊技ホール等に対するパチンコ機１の信頼性を高めることができる。

【５８３９】

なお、視認部２６５６Ａは、役物入賞口扉２６１１Ａの基端側に設けられる態様であってもよく、この態様では、視認部２６５６Ａが役物入賞口扉２６１１Ａの先端側に設けら

れる態様に比して、役物入賞口扉２６１１Ａの進出状態における視認部２６５６Ａと装飾カバー２６５０Ａの左側の縁部との間隔が小さくなるため、役物入賞口扉２６１１Ａが進出状態に正常に遷移可能であることを視認する作業者の視認性が低下するものの、役物入賞口扉２６１１Ａの幅が先端側から基端側に向かって大きくなるため、視認部２６５６Ａを役物入賞口扉２６１１Ａの背面裏側（裏面）に設ける形成容易性を高めることができる。よって、役物入賞口扉２６１１Ａの出退動作に不具合が生じることを抑制し、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを未然に抑制でき、ひいては、遊技者や遊技ホール等に対するパチンコ機１の信頼性を高めることができる。また、視認部２６５６Ａは、装飾カバー２６５０Ａの左側の縁部に対する位置が視認される態様に限定されることなく、例えば、第二進退動装置２６５２Ａのケース本体２６５３Ａの左側の端部やカバー体２６５４Ａの左側の端部対する視標とされる態様であってもよく、役物入賞口扉２６１１Ａが進出状態又は退避状態に正常に遷移可能か否かが容易に確認される。

【５８４０】

また、視認部２６５６Ａは、本実施形態では、「★」という図の表記であるが、役物入賞口扉２６１１Ａの動作確認の際の視標となればよく形状が異なるものであってもよい。具体的には、視認部２６５６Ａは、上述の視認部２４５６Ａと同様に、「●」という図の表記であってもよいし、「▲」という図の表記であってもよいし、「■」という図の表記であってもよいし、左右に延びる複数の線材が前後方向に所定の間隔で並べられた図の表記であってもよし、「し」や「Ｕ」等の文字の表記であってもよい。なお、「●」という図の表記を用いる場合には、仮に遊技者が視認してしまった場合に、円形の表記である点から遊技球Ｂを想起させて何らかの誤解（例えば遊技球の発射態様に関する誤解等）が生じてしまう虞がある。この点を鑑みて、「●」という図の表記を用いる場合には、遊技球Ｂの直径（例えば１１ｍｍ）よりも小さい直径（例えば１～５ｍｍ）を最大幅とする「●」の表記で形成したり、一部が欠けた「●」の表記（例えば半円状）で形成したりとしておくことで、遊技者に遊技球Ｂを想起させることをできるだけ回避するようにしておくことが望ましい。

【５８４１】

また、本実施形態では、パチンコ機１の製造工程において、役物入賞口扉２６１１Ａに設けられた視認部２６５６Ａを視標として役物入賞口扉２６１１Ａの動作確認が実施される態様について説明したが、役物入賞口扉２６１１Ａの動作確認は、例えば、パチンコ機１が設置される遊技ホール等において、遊技盤５から取り外された第二進退動装置２６５２Ａ（第二アタッカユニット２６００Ａ）を背面側から視認することにより実施されてもよい。

【５８４２】

［アタッカユニットの改変例２］

次に、上記とは更に異なる形態として、遊技盤５に取り付けられる第一アタッカユニット２４００Ｂや第二アタッカユニット２６００Ｂの動作が正常であるか否かの確認を容易にする構成について説明する。以下では、図１４０乃至図１４５等を参照して説明した第一アタッカユニット２４００や第二アタッカユニット２６００を更に改変した第一アタッカユニット２４００Ｂや第二アタッカユニット２６００Ｂについて、図３８８等を参照して説明する。なお、本実施形態のパチンコ機１において、第一アタッカユニット２４００Ｂや第二アタッカユニット２６００Ｂ以外の部材については、上述した第一アタッカユニット２４００や第二アタッカユニット２６００を有する実施形態のパチンコ機１と同じ構成であり、同じ構成については同じ符号を付して説明する。

【５８４３】

図３８８（ａ）は、第二始動口扉２４１１Ｂ及び大入賞口扉２４１３Ｂが進出状態に遷移された第一進退動装置２４５２Ｂを上面側から視た上面図であり、図３８８（ｂ）は、第二始動口扉２４１１Ｂ及び大入賞口扉２４１３Ｂが退避状態に遷移された第一進退動装置２４５２Ｂを上面側から視た上面図である。図３８８（ａ）又は図３８８（ｂ）に示す

ように、第一進退動装置２４５２Ｂのケース本体２４５３Ｂの上面部には、第一進退動装置２４５２Ｂの外部から視認可能な視認部２４５６Ｂが設けられている。視認部２４５６Ｂは、第一アタッカユニット２４００Ｂが遊技盤５から取り外された状態で、又は第一進退動装置２４５２Ｂが第一アタッカユニット２４００Ｂから取り外された状態で、第一進退動装置２４５２Ｂの外部である第一進退動装置２４５２Ｂの上面側から直視あるいは透過性を有する部位を透して視認可能に設けられている。

【５８４４】

本実施形態の視認部２４５６Ｂは、ケース本体２４５３Ｂの上面部に設けられた「★」という図の表記である。視認部２４５６Ｂは、ケース本体２４５３Ｂの上面部の内面や外面に印刷される態様であってもよいし、視認部２４５６Ｂが形成されたシール状のフィルム部材がケース本体２４５３Ｂの上面部の内面や外面に貼り付けられる態様であってもよい。また、視認部２４５６Ｂは、ケース本体２４５３Ｂの上面部の内面や外面を隆起させて凸状の形成痕で形成される態様であってもよいし、ケース本体２４５３Ｂの上面部の内面や外面を窪ませて凹状の形成痕で形成される態様であってもよい。なお、視認部２４５６Ｂ自体の破損を回避する観点からすると、視認部２４５６Ｂは、シール状のフィルム部材ではなく、印刷あるいは形成跡によりケース本体２４５３Ｂに一体形成されるものであることが好ましい。また、視認部２４５６Ｂは、ケース本体２４５３Ｂの上面部だけでなく、ケース本体２４５３Ｂの下面部の内面や外面に設けられる態様であってもよいし、ケース本体２４５３Ｂの側面部の内面や外面に設けられる態様であってもよい。

【５８４５】

図３８８（ａ）に示すように、大入賞口扉２４１３Ｂが進出状態にあり遊技球Ｂと接触して遊技球Ｂが大入賞口センサ２４０２Ｂへと向かうことを規制する第一進退動装置２４５２Ｂの非入賞状態において、ケース本体２４５３Ｂの視認部２４５６Ｂ（図示右側の視認部２４５６Ｂ）は、大入賞口扉２４１３Ｂの後端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ｂよりも後方に位置している。また、第二始動口扉２４１１Ｂが進出状態にあり遊技球Ｂと接触して遊技球Ｂが第二始動口センサ２４０１Ｂへと向かうことを規制する第一進退動装置２４５２Ｂの非入球状態において、ケース本体２４５３Ｂの視認部２４５６Ｂ（図示左側の視認部２４５６Ｂ）は、第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ｂよりも後方に位置している。すなわち、大入賞口扉２４１３Ｂや第二始動口扉２４１１Ｂの正常な進出状態としては、視認部２４５６Ｂの「★」の表記が大入賞口扉２４１３Ｂや第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ｂよりも後方に位置した状態となるように視認部２４５６Ｂが配置されている。このため、大入賞口扉２４１３Ａや第二始動口扉２４１１Ａを進出状態に動作させた際に、視認部２４５６Ａの「★」の表記が大入賞口扉２４１３Ｂや第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ｂよりも後方に位置していない状態（例えば視認部２４５６Ｂの一部が後端縁部に被さる位置関係とされた状態）の場合には、大入賞口扉２４１３Ｂや第二始動口扉２４１１Ｂの正常な進出状態ではなく、遊技進行に何らかの影響を与える虞のある異常を伴った進出状態ということになる。

【５８４６】

図３８８（ｂ）に示すように、大入賞口扉２４１３Ｂが退避状態にあり遊技球Ｂが大入賞口センサ２４０２Ｂへと向かうことを規制しない第一進退動装置２４５２Ｂの入賞状態において、ケース本体２４５３Ｂの視認部２４５６Ｂ（図示右側の視認部２４５６Ｂ）は、大入賞口扉２４１３Ｂの後端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ｂよりも前方に位置している。また、第二始動口扉２４１１Ｂが退避状態にあり遊技球Ｂが第二始動口センサ２４０１Ｂへと向かうことを規制しない第一進退動装置２４５２Ｂの入球状態において、ケース本体２４５３Ｂの視認部２４５６Ｂ（図示左側の視認部２４５６Ｂ）は、第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ｂよりも前方に位置している。すなわち、大入賞口扉２４１３Ｂや第二始動口扉２４１１Ｂの正常な退避状態としては、視認部２４５６Ｂの「★」の表記が大入賞口扉２４１３Ｂや第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ｂよりも前方に位置した状態となるように視認部２４

５６Ｂが配置されている。このため、大入賞口扉２４１３Ａや第二始動口扉２４１１Ａを退避状態に動作させた際に、視認部２４５６Ａの「★」の表記が大入賞口扉２４１３Ｂや第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ｂよりも前方に位置していない状態（例えば視認部２４５６Ｂの一部が後端縁部に被さる位置関係とされた状態）の場合には、大入賞口扉２４１３Ｂや第二始動口扉２４１１Ｂの正常な退避状態ではなく、遊技進行に何らかの影響を与える虞のある異常を伴った退避状態ということになる。

【５８４７】

本実施形態のパチンコ機１では、大入賞口扉２４１３Ｂや第二始動口扉２４１１Ｂが進出状態である場合に、ケース本体２４５３Ｂの視認部２４５６Ｂ（図示右側の視認部２４５６Ｂ）が大入賞口扉２４１３Ｂの後端縁部や第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ｂに対して後方に位置する位置関係であることが第一進退動装置２４５２Ｂの上面側である外部から視認可能であり、大入賞口扉２４１３Ｂや第二始動口扉２４１１Ｂが退避状態である場合に、ケース本体２４５３Ｂの視認部２４５６Ｂ（図示右側の視認部２４５６Ｂ）が大入賞口扉２４１３Ｂの後端縁部や第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ｂに対して前方に位置する位置関係であることが第一進退動装置２４５２Ｂの上面側である外部から視認可能であるため、遊技盤５に取り付けられる前の第一進退動装置２４５２Ｂや遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｂを上面側から目視することにより、ケース本体２４５３Ｂに設けられた視認部２４５６Ｂ（図示右側の視認部２４５６Ｂ）を大入賞口扉２４１３Ｂや第二始動口扉２４１１Ｂに対する視標として、大入賞口扉２４１３Ｂや第二始動口扉２４１１Ｂが進出状態であるか否か又は大入賞口扉２４１３Ｂや第二始動口扉２４１１Ｂが退避状態であるか否かを容易に確認することができる。よって、本実施形態のパチンコ機１では、パチンコ機１の製造工程での大入賞口扉２４１３Ｂや第二始動口扉２４１１Ｂの動作確認を容易にでき、大入賞口扉２４１３Ｂや第二始動口扉２４１１Ｂの出退動作に不具合が生じることを未然に抑制し、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、遊技者や遊技ホール等に対するパチンコ機１の信頼性を高めることができる。

【５８４８】

また、第一進退動装置２４５２Ｂは、遊技領域５ａの後方に配置されるとともに、遊技領域５ａの後面を区画する遊技パネル１１００の前面にはパチンコ機１を装飾する装飾面が形成されているため、第一進退動装置２４５２Ｂ（第一アタッカユニット２４００Ｂ）が遊技盤５に取り付けられた後に、仮に遊技者が第一進退動装置２４５２Ｂ（第一アタッカユニット２４００Ｂ）の上面や下面を覗き込もうとしても、遊技者が第一進退動装置２４５２Ｂ（第一アタッカユニット２４００Ｂ）の上面や下面を視認することが困難であり、遊技者が視認部２４５６Ｂを視認することを不可能或いは困難にでき、遊技者が視認部２４５６Ｂを視認した際に第一アタッカユニット２４００Ｂの美観性やパチンコ機１の装飾性が損なわれることを抑制することができる。

【５８４９】

加えて、第一進退動装置２４５２Ｂ（第一アタッカユニット２４００Ｂ）が遊技盤５に取り付けられた後に、遊技球Ｂが接触するのはカバー体２４５４Ｂの前面であるのに対し、本実施形態の視認部２４５６Ｂが設けられるのは、ケース本体２４５３Ｂの上面部であるため、視認部２４５６Ｂを設けた場合であっても、視認部２４５６Ｂ自体が遊技球の流下態様を阻害してしまうことを回避でき、視認部２４５６Ｂ自体が遊技進行に不具合を与えることを抑制することができる。

【５８５０】

なお、第一進退動装置２４５２Ｂの上面側からケース本体２４５３Ｂを介して目視される第二始動口扉２４１１Ｂや大入賞口扉２４１３Ｂの視認性を高めるために、ケース本体２４５３Ｂやカバー体２４５４Ｂは透過性を有するように有色透明又は無色透明に形成する一方で、第二始動口扉２４１１Ｂや大入賞口扉２４１３Ｂは透過性を有さないように有色不透明に形成し、有色透明又は無色透明に形成されたケース本体２４５３Ｂの上面部に

視認部２４５６Ｂを設けるようにしてもよい。これにより、パチンコ機１の製造工程において、視認部２４５６Ｂを視標として大入賞口扉２４１３Ｂや第二始動口扉２４１１Ｂの動作確認をより一層容易にできる。

【５８５１】

また、第一進退動装置２４５２Ｂは、進出状態に遷移された第二始動口扉２４１１Ｂや大入賞口扉２４１３Ｂの退避動作を規制するロック機構を更に有して構成される態様であってもよく、第二始動口扉２４１１Ｂや大入賞口扉２４１３Ｂに対する不正を抑制する効果を高めることができる。このような態様では、パチンコ機１の製造工程での第二始動口扉２４１１Ｂや大入賞口扉２４１３Ｂの動作確認の際に、ロック機構によるロックを解除した後に作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｂを上面側から目視するとともに、始動口ソレノイドのバネの付勢力に抗して第二始動口扉２４１１Ｂを後方へと押し込むことによって又はアタッカソレノイドのバネの付勢力に抗して大入賞口扉２４１３Ｂを後方へと押し込むことによって、第二始動口扉２４１１Ｂが始動口ソレノイドのバネの付勢力に抗して正常な退避状態に遷移可能であるか否か又は大入賞口扉２４１３Ｂがアタッカソレノイドのバネの付勢力に抗して正常な退避状態に遷移可能であるか否かが視認される。

【５８５２】

また、第二始動口扉２４１１Ｂや大入賞口扉２４１３Ｂは、第一リンク機構又は第二リンク機構に支持されてケース本体２４５３Ｂ内で前後方向に進出動作又は退避動作される態様であってもよいし、第一リンク機構又は第二リンク機構にケース本体２４５３Ｂ外で支持されてケース本体２４５３Ｂの上面又は下面に沿って前後方向に進出動作又は退避動作される態様であってもよいし、ケース本体２４５３Ｂの上面又は下面で支持されて第一リンク機構又は第二リンク機構によってケース本体２４５３Ｂの上面又は下面に沿って前後方向に進出動作又は退避動作される態様であってもよい。第二始動口扉２４１１Ｂや大入賞口扉２４１３Ｂがケース本体２４５３Ｂ内で進出動作又は退避動作される場合には、第二始動口扉２４１１Ｂや大入賞口扉２４１３Ｂに対する不正を抑制する効果を高めることができるのに対し、第二始動口扉２４１１Ｂや大入賞口扉２４１３Ｂがケース本体２４５３Ｂ外で進出動作又は退避動作される場合には、第二始動口扉２４１１Ｂや大入賞口扉２４１３Ｂに生じた動作不良等に対するメンテナンス作業の作業効率を高めることができる。

【５８５３】

また、視認部２４５６Ｂは、ケース本体２４５３Ｂの上面部であればいずれの位置に設けられてもよいし、視認部２４５６Ｂの大きさはいずれの大きさで設けられてもよく、ケース本体２４５３Ｂに設けられた視認部２４５６Ｂを第二始動口扉２４１１Ｂや大入賞口扉２４１３Ｂに対する視標として、第二始動口扉２４１１Ｂ又は大入賞口扉２４１３Ｂが進出状態であるか否か又は第二始動口扉２４１１Ｂ又は大入賞口扉２４１３Ｂが退避状態であるか否かを容易に確認することができる。以下、このような態様について、第二始動口扉２４１１Ｂ又は大入賞口扉２４１３Ｂの各状態と視認部２４５６Ｂの第二始動口扉２４１１Ｂ又は大入賞口扉２４１３Ｂに対する位置関係とについて詳しく説明する。

【５８５４】

図３８９（ａ）は、進出状態の第二始動口扉２４１１Ｂ及び大入賞口扉２４１３Ｂを示す第一進退動装置２４５２Ｂを上面視した概略図であり、図３８９（ｂ）は、退避状態の第二始動口扉２４１１Ｂ及び大入賞口扉２４１３Ｂを示す第一進退動装置２４５２Ｂを上面視した概略図であり、図３８９（ｃ）及び（ｄ）は、動作不良状態の第二始動口扉２４１１Ｂ及び大入賞口扉２４１３Ｂを示す第一進退動装置２４５２Ｂを上面視した概略図である。なお、図中上方は、第一進退動装置２４５２Ｂが遊技盤５に取り付けられた際に遊技者側を向く前方であり、図中下方は、第一進退動装置２４５２Ｂが遊技盤５に取り付けられた際に遊技者側とは反対を向く後方である。

【５８５５】

図３８９（ａ）乃至図３８９（ｄ）に示すように、ケース本体２４５３Ｂの上面部には

、大入賞口扉２４１３Ｂ側かつ前後方向の中央部に遊技球Ｂの直径と略同等の外径を有する視認部２４５６Ｂが設けられている。なお、本例の視認部２４５６Ｂは、視認性の観点からケース本体２４５３Ｂの上面部の大入賞口扉２４１３Ｂ側に設けられることが好ましく、ケース本体２４５３Ｂの上面部の左右方向のいずれの位置に設けられてもよい。この場合に、視認部２４５６Ｂは、上面視において、退避状態の大入賞口扉２４１３Ｂと上下方向に重なる態様であってもよいし、退避状態の大入賞口扉２４１３Ｂと上下方向に重ならない態様であってもよい。また、本例の視認部２４５６Ｂの外径は、視認容易性の観点から遊技球Ｂの直径と略同等である態様が好ましいが、遊技球Ｂの直径よりも小さい態様であってもよい。

【５８５６】

図３８９（ａ）に示すように、大入賞口扉２４１３Ｂが進出状態にある場合に、視認部２４５６Ｂは、大入賞口扉２４１３Ｂの後端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ｂに対して予め設定された間隔を有して後方に位置する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での大入賞口扉２４１３Ｂの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｂを上面側から目視することによって、視認部２４５６Ｂが大入賞口扉２４１３Ｂの後端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ｂに対して予め設定された間隔を有して後方に位置することを確認した場合に、大入賞口扉２４１３Ｂがアタッカソレノイドのバネの付勢力によって正常な進出状態に遷移可能であることを作業者に容易に視認させることができる。

【５８５７】

図３８９（ｂ）に示すように、大入賞口扉２４１３Ｂが退避状態にある場合に、視認部２４５６Ｂは、大入賞口扉２４１３Ｂの後端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ｂに対して予め設定された間隔を有して前方に位置する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での大入賞口扉２４１３Ｂの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｂを上面側から目視するとともにアタッカソレノイドのバネの付勢力に抗して大入賞口扉２４１３Ｂを後方へと押し込むことによって、視認部２４５６Ｂが大入賞口扉２４１３Ｂの後端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ｂに対して予め設定された間隔を有して前方に位置することを確認した場合に、大入賞口扉２４１３Ｂがアタッカソレノイドのバネの付勢力に抗して正常な退避状態に遷移可能であることを作業者に容易に視認させることができる。

【５８５８】

図３８９（ｃ）に示すように、大入賞口扉２４１３Ｂが進出異常状態にある場合に、視認部２４５６Ｂは、大入賞口扉２４１３Ｂの後端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ｂに対して予め設定された間隔を有して後方に位置いない位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での大入賞口扉２４１３Ｂの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｂを上面側から目視することによって、視認部２４５６Ｂが大入賞口扉２４１３Ｂの後端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ｂに対して予め設定された間隔を有して後方に位置いないことを確認した場合に、大入賞口扉２４１３Ｂがアタッカソレノイドのバネの付勢力によって正常な進出状態に遷移困難であることを作業者に容易に視認させることができる。

【５８５９】

図３８９（ｄ）に示すように、大入賞口扉２４１３Ｂが退避異常状態にある場合に、視認部２４５６Ｂは、大入賞口扉２４１３Ｂの後端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ｂに対して予め設定された間隔を有して前方に位置しない位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での大入賞口扉２４１３Ｂの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｂを上面側から目視するとともにアタッカソレノイドのバネの付勢力に抗して大入賞口扉２４１３Ｂを後方へと押し込むことによって、視認部２４５６Ｂが大入賞口扉２４１３Ｂの後端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ｂに対して予め設定された間隔を有して前方に位置しないことを確認した場合に、大入賞口扉２４１３Ｂがアタッカソレノイドのバネの付勢力に抗して正常な退避状態に遷移困難で

あることを作業者に容易に視認させることができる。
【５８６０】
上述のようにケース本体２４５３Ｂの上面部に、大入賞口扉２４１３Ｂ側かつ前後方向の中央部に遊技球Ｂの直径と略同等の外径を有して設けられる視認部２４５６Ｂの態様では、パチンコ機１の製造工程での大入賞口扉２４１３Ｂの動作確認を行う作業者が大入賞口扉２４１３Ｂに対する視認部２４５６Ｂの位置関係を視認した後に、大入賞口扉２４１３Ｂが正常な進出状態と正常な退避状態に遷移可能か否かを容易に判断させることができる。よって、大入賞口扉２４１３Ｂの出退動作に不具合が生じることを未然に抑制し、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、遊技者や遊技ホール等に対するパチンコ機１の信頼性をより一層高めることができる。なお、本例のケース本体２４５３Ｂの上面部に設けられる視認部２４５６Ｂの態様は、例えば、ケース本体２４５３Ｂの上面部の第二始動口扉２４１１Ｂ側に設けられる視認部２４５６Ｂに適用されてもよい。
【５８６１】
図３８９（ａ）及び図３８９（ｃ）に示すように、ケース本体２４５３Ｂの上面部には、退避状態の第二始動口扉２４１１Ｂと上面視において上下方向に重なる位置かつ前端部に遊技球Ｂの直径よりも小さい外径を有する視認部２４５６Ｂが設けられている。なお、本例の視認部２４５６Ｂは、ケース本体２４５３Ｂの上面部の前端部であれば左右方向のいずれの位置に設けられてもよく、視認性の観点からケース本体２４５３Ｂの上面部の第二始動口扉２４１１Ｂ側に設けられることが好ましい。具体的には、視認部２４５６Ｂは、退避状態の第二始動口扉２４１１Ｂと上面視において上下方向に重なる態様であってもよいし、退避状態の第二始動口扉２４１１Ｂと上面視において上下方向に重ならない態様であってもよい。また、本例の視認部２４５６Ｂの外径は、形成容易性の観点から遊技球Ｂの直径よりも小さい態様が好ましいが、遊技球Ｂの直径と略同等である態様であってもよい。
【５８６２】
図３８９（ａ）に示すように、第二始動口扉２４１１Ｂが進出状態にある場合に、視認部２４５６Ｂは、第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に対して予め設定された間隔を有して後方に位置し、第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部と上面視において接触しない位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での第二始動口扉２４１１Ｂの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｂを上面側から目視することによって、視認部２４５６Ｂが第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に対して予め設定された間隔を有して後方に位置し、第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部と平面視において接触しないことを確認した場合に、第二始動口扉２４１１Ｂが始動口ソレノイドのバネの付勢力によって正常な進出状態に遷移可能であることを作業者に容易に視認させることができる。
【５８６３】
図３８９（ｃ）に示すように、第二始動口扉２４１１Ｂが進出異常状態にある場合に、視認部２４５６Ｂは、第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に対して予め設定された間隔よりも小さい間隔を有して後方に位置するか、第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に対して上面視において接触するか又は第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に対して前方に位置する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での第二始動口扉２４１１Ｂの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｂを上面側から目視することによって、視認部２４５６Ｂが第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に対して予め設定された間隔よりも小さい間隔を有して後方に位置するか、第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に対して上面視において接触するか又は第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に対して前方に位置することを確認した場合に、第二始動口扉２４１１Ｂが始動口ソレノイド２４１２Ｂのバネの付勢力によって正常な進出状態に遷移困難であることを作業者に容易に視認させることができる。
【５８６４】

図３８９（ｂ）及び図３８９（ｄ）に示すように、ケース本体２４５３Ｂの上面部には、退避状態の第二始動口扉２４１１Ｂと上面視において上下方向に重なる位置かつ後端部に遊技球Ｂの直径よりも小さい外径を有する視認部２４５６Ｂが設けられている。なお、本例の視認部２４５６Ｂは、ケース本体２４５３Ｂの上面部の後端部であれば左右方向のいずれの位置に設けられてもよく、視認性の観点からケース本体２４５３Ｂの上面部の第二始動口扉２４１１Ｂ側に設けられることが好ましい。具体的には、視認部２４５６Ｂは、退避状態の第二始動口扉２４１１Ｂと上面視において上下方向に重なる態様であってもよいし、退避状態の第二始動口扉２４１１Ｂと上面視において上下方向に重ならない態様であってもよい。また、本例の視認部２４５６Ｂの外径は、形成容易性の観点から遊技球Ｂの直径よりも小さい態様が好ましいが、遊技球Ｂの直径と略同等である態様であってもよい。

【５８６５】

図３８９（ｂ）に示すように、第二始動口扉２４１１Ｂが退避状態にある場合に、視認部２４５６Ｂは、第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に対して予め設定された所定の間隔を有して前方に位置し、第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に対して上面視において接触しない位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での第二始動口扉２４１１Ｂの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｂを上面側から目視するとともに始動口ソレノイド２４１２Ｂのバネの付勢力に抗して第二始動口扉２４１１Ｂを後方へと押し込むことによって、視認部２４５６Ｂが第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に対して予め設定された所定の間隔を有して前方に位置し、第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に対して上面視において接触しないことを確認した場合に、第二始動口扉２４１１Ｂが始動口ソレノイドのバネの付勢力に抗して正常な退避状態に遷移可能であることを作業者に容易に視認させることができる。

【５８６６】

図３８９（ｄ）に示すように、第二始動口扉２４１１Ｂが退避異常状態にある場合に、視認部２４５６Ｂは、第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に対して予め設定された所定の間隔よりも小さい間隔を有して前方に位置するか、第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に対して上面視において接触するか又は第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に対して後方に位置する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での第二始動口扉２４１１Ｂの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｂを上面側から目視するとともに始動口ソレノイドのバネの付勢力に抗して第二始動口扉２４１１Ｂを後方へと押し込むことによって、視認部２４５６Ｂが第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に対して予め設定された所定の間隔よりも小さい間隔を有して前方に位置するか、第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に対して上面視において接触するか又は第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に対して後方に位置することを確認した場合に、第二始動口扉２４１１Ｂが始動口ソレノイドのバネの付勢力に抗して正常な退避状態に遷移困難であることを作業者に容易に視認させることができる。

【５８６７】

上述のようにケース本体２４５３Ｂの上面部に、退避状態の第二始動口扉２４１１Ｂと上面視において上下方向に重なる位置、かつ前端部又は後端部に遊技球Ｂの直径よりも小さい外径を有して設けられる視認部２４５６Ｂの態様では、視認部２４５６Ｂのサイズを例えば遊技球Ｂの直径よりも小さく設けることができ、視認部２４５６Ｂをケース本体２４５３Ｂの上面部に設ける際の形成容易性を高めることができる。よって、第二始動口扉２４１１Ｂの出退動作に不具合が生じることを未然に抑制し、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、遊技者や遊技ホール等に対するパチンコ機１の信頼性をより一層高めることができる。なお、本例のケース本体２４５３Ｂの上面部の第二始動口扉２４１１B側に設けられる視認部２４５６Ｂの態様は、例えば、ケース本体２４５３Ｂの上面部の大入賞口扉２４１３Ｂ側に設けられる視認部２４５６Ｂに適用されてもよい。

【５８６８】

図３９０（ａ）は、進出状態の第二始動口扉２４１１Ｂ及び大入賞口扉２４１３Ｂを示す第一進退動装置２４５２Ｂを上面視した概略図であり、図３８９（ｂ）は、退避状態の第二始動口扉２４１１Ｂ及び大入賞口扉２４１３Ｂを示す第一進退動装置２４５２Ｂを上面視した概略図であり、図３８９（ｃ）及び（ｄ）は、動作不良状態の第二始動口扉２４１１Ｂ及び大入賞口扉２４１３Ｂを示す第一進退動装置２４５２Ｂを上面側から視た上面図である。上記実施形態では、図３８９（ａ）乃至図３８９（ｄ）等を用いて視認部２４５６Ｂの第二始動口扉２４１１Ｂ又は大入賞口扉２４１３Ｂに対する位置関係を視認することによって、大入賞口扉２４１３Ｂの動作が正常であるか否かを作業者に容易に視認させる視認部２４５６Ｂの態様や、第二始動口扉２４１１Ｂの動作が正常であるか否かを作業者に容易に視認させるとともに形成容易性が高められた視認部２４５６Ｂの態様について説明したが、以下、図３９０（ａ）乃至図３９０（ｄ）等を用いて視認部２４５６Ｂの更に他の態様について説明する。

【５８６９】

図３９０（ａ）乃至図３９０（ｄ）に示すように、ケース本体２４５３Ｂの上面部には、大入賞口扉２４１３Ｂ側かつ前後方向の中央部に遊技球Ｂの直径よりも大きい外径を有する視認部２４５６Ｂが設けられている。なお、本例の視認部２４５６Ｂは、視認性の観点からケース本体２４５３Ｂの上面部の大入賞口扉２４１３Ｂ側に設けられることが好ましく、ケース本体２４５３Ｂの上面部の左右方向のいずれの位置に設けられてもよい。この場合に、視認部２４５６Ｂは、上面視において、退避状態の大入賞口扉２４１３Ｂと上下方向に重なる態様であってもよいし、退避状態の大入賞口扉２４１３Ｂと上下方向に重ならない態様であってもよい。また、本例の視認部２４５６Ｂの外径は、視認容易性の観点から遊技球Ｂの直径よりも大きい態様が好ましいが、遊技球Ｂの直径と略同等である態様であってもよい。

【５８７０】

図３９０（ａ）に示すように、大入賞口扉２４１３Ｂが進出状態にある場合に、視認部２４５６Ｂは、大入賞口扉２４１３Ｂの後端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ｂに対して上面視において前端部が接触する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での大入賞口扉２４１３Ｂの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｂを上面側から目視することによって、視認部２４５６Ｂの前端部が大入賞口扉２４１３Ｂの後端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ｂに対して上面視において接触することを確認した場合に、大入賞口扉２４１３Ｂがアタッカソレノイドのバネの付勢力によって正常な進出状態に遷移可能であることを作業者に視認させることができる。

【５８７１】

図３９０（ｂ）に示すように、大入賞口扉２４１３Ｂが退避状態にある場合に、視認部２４５６Ｂは、大入賞口扉２４１３Ｂの後端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ｂに対して上面視において後端部が接触する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での大入賞口扉２４１３Ｂの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｂを上面側から目視するとともにアタッカソレノイドのバネの付勢力に抗して大入賞口扉２４１３Ｂを後方へと押し込むことによって、視認部２４５６Ｂの後端部が大入賞口扉２４１３Ｂの後端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ｂに対して上面視において接触することを確認した場合に、大入賞口扉２４１３Ｂがアタッカソレノイドのバネの付勢力に抗して正常な退避状態に遷移可能であることを作業者に視認させることができる。

【５８７２】

図３９０（ｃ）に示すように、大入賞口扉２４１３Ｂが進出異常状態にある場合に、視認部２４５６Ｂは、大入賞口扉２４１３Ｂの後端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ｂに対して上面視において中央部が接触する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での大入賞口扉２４１３Ｂの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｂを上面側から目視することによって、視認部２４５６Ｂ

の中央部が大入賞口扉２４１３Ｂの後端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ｂに対して上面視において接触することを確認した場合に、大入賞口扉２４１３Ｂがアタッカソレノイドのバネの付勢力によって正常な進出状態に遷移困難であることを作業者に視認させることができる。

【５８７３】

図３９０（ｄ）に示すように、大入賞口扉２４１３Ｂが退避異常状態にある場合に、視認部２４５６Ｂは、大入賞口扉２４１３Ｂの後端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ｂに対して上面視において中央部が接触する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での大入賞口扉２４１３Ｂの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｂを上面側から目視するとともにアタッカソレノイドのバネの付勢力に抗して大入賞口扉２４１３Ｂを後方へと押し込むことによって、視認部２４５６Ｂの中央部が大入賞口扉２４１３Ｂの後端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ｂに対して上面視において接触することを確認した場合に、大入賞口扉２４１３Ｂがアタッカソレノイドのバネの付勢力に抗して正常な退避状態に遷移困難であることを作業者に視認させることができる。

【５８７４】

上述のように視認部２４５６Ｂが仮想線２４５７Ｂに対して上面視において接触する位置によって大入賞口扉２４１３Ｂが進出状態又は退避状態へと正常に遷移可能か否かを視認させる視認部２４５６Ｂの態様では、ケース本体２４５３Ｂの上面部に視認部２４５６Ｂを設ける際の前後方向の位置決めを容易にでき、視認部２４５６Ｂをケース本体２４５３Ｂの上面部に設ける形成容易性を高めることができる。よって、大入賞口扉２４１３Ｂの出退動作に不具合が生じることを未然に抑制し、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、遊技者や遊技ホール等に対するパチンコ機１の信頼性をより一層高めることができる。なお、本例のケース本体２４５３Ｂの上面部に設けられる視認部２４５６Ｂの態様は、例えば、ケース本体２４５３Ｂの上面部の第二始動口扉２４１１Ｂ側に設けられる視認部２４５６Ｂに適用されてもよい。

【５８７５】

図３９０（ａ）及び図３９０（ｃ）に示す視認部２４５６Ｂは、上記図３８９（ｂ）及び図３８９（ｄ）に示す視認部２４５６Ｂと同様の態様であり、ケース本体２４５３Ｂの上面部には、退避状態の第二始動口扉２４１１Ｂと上面視において上下方向に重なる位置かつ後端部に遊技球Ｂの直径よりも小さい外径を有する視認部２４５６Ｂが設けられている。なお、本例の視認部２４５６Ｂは、ケース本体２４５３Ｂの上面部の後端部であれば左右方向のいずれの位置に設けられてもよく、視認性の観点からケース本体２４５３Ｂの上面部の第二始動口扉２４１１Ｂ側に設けられることが好ましい。具体的には、視認部２４５６Ｂは、退避状態の第二始動口扉２４１１Ｂと上面視において上下方向に重なる態様であってもよいし、退避状態の第二始動口扉２４１１Ｂと上面視において上下方向に重ならない態様であってもよい。また、本例の視認部２４５６Ｂの外径は、形成容易性の観点から遊技球Ｂの直径よりも小さい態様が好ましいが、遊技球Ｂの直径と略同等である態様であってもよい。

【５８７６】

図３９０（ａ）に示すように、第二始動口扉２４１１Ｂが進出状態にある場合に、視認部２４５６Ｂは、第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に対して予め設定された所定の間隔を有して後方に位置する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での第二始動口扉２４１１Ｂの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｂを上面側から目視することによって、視認部２４５６Ｂが第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に対して予め設定された所定の間隔を有して後方に位置することを確認した場合に、第二始動口扉２４１１Ｂが始動口ソレノイドのバネの付勢力によって正常な進出状態に遷移可能であることを作業者に視認させることができる。

【５８７７】

図３９０（ｃ）に示すように、第二始動口扉２４１１Ｂが進出異常状態にある場合に、

視認部２４５６Ｂは、第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に対して予め設定された所定の間隔よりも小さい間隔を有して後方に位置するか又は第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に対して上面視において接触する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での第二始動口扉２４１１Ｂの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｂを上面側から目視することによって、視認部２４５６Ｂが第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に対して予め設定された所定の間隔よりも小さい間隔を有して後方に位置するか又は第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に対して上面視において接触することを確認した場合に、第二始動口扉２４１１Ｂが始動口ソレノイドのバネの付勢力によって正常な進出状態に遷移困難であることを作業者に視認させることができる。

【５８７８】

図３９０（ｂ）及び図３９０（ｄ）に示す視認部２４５６Ｂは、上記図３８９（ａ）及び図３８３（ｃ）に示す視認部２４５６Ｂと同様の態様であり、ケース本体２４５３Ｂの上面部には、退避状態の第二始動口扉２４１１Ｂと上面視において上下方向に重なる位置かつ前端部に遊技球Ｂの直径よりも小さい外径を有する視認部２４５６Ｂが設けられている。なお、本例の視認部２４５６Ｂは、ケース本体２４５３Ｂの上面部の前端部であれば左右方向のいずれの位置に設けられてもよく、視認性の観点からケース本体２４５３Ｂの上面部の第二始動口扉２４１１Ｂ側に設けられることが好ましい。具体的には、視認部２４５６Ｂは、退避状態の第二始動口扉２４１１Ｂと上面視において上下方向に重なる態様であってもよいし、退避状態の第二始動口扉２４１１Ｂと上面視において上下方向に重ならない態様であってもよい。また、本例の視認部２４５６Ｂの外径は、形成容易性の観点から遊技球Ｂの直径よりも小さい態様が好ましいが、遊技球Ｂの直径と略同等である態様であってもよい。

【５８７９】

図３９０（ｂ）に示すように、第二始動口扉２４１１Ｂが退避状態にある場合に、視認部２４５６Ｂは、第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に対して予め設定された間隔を有して前方に位置する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での第二始動口扉２４１１Ｂの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｂを上面側から目視するとともに始動口ソレノイドのバネの付勢力に抗して第二始動口扉２４１１Ｂを後方へと押し込むことによって、視認部２４５６Ｂが第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に対して予め設定された間隔を有して前方に位置することを確認した場合に、第二始動口扉２４１１Ｂが始動口ソレノイドのバネの付勢力に抗して正常な退避状態に遷移可能であることを作業者に視認させることができる。

【５８８０】

図３９０（ｄ）に示すように、第二始動口扉２４１１Ｂが退避異常状態にある場合に、視認部２４５６Ｂは、第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に対して予め設定された間隔よりも小さい間隔を有して前方に位置するか又は第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に対して上面視において接触する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での第二始動口扉２４１１Ｂの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｂを上面側から目視するとともに始動口ソレノイドのバネの付勢力に抗して第二始動口扉２４１１Ｂを後方へと押し込むことによって、視認部２４５６Ｂが第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に対して予め設定された間隔よりも小さい間隔を有して前方に位置するか又は第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部に対して上面視において接触することを確認した場合に、第二始動口扉２４１１Ｂが始動口ソレノイドのバネの付勢力に抗して正常な退避状態に遷移困難であることを作業者に視認させることができる。

【５８８１】

上述のようにケース本体２４５３Ｂの上面部に、退避状態の第二始動口扉２４１１Ｂと上面視において上下方向に重なる位置、かつ前端部又は後端部に遊技球Ｂの直径よりも小さい外径を有して設けられる視認部２４５６Ｂの態様では、視認部２４５６Ｂのサイズを例えば遊技球Ｂの直径よりも小さく設けることができ、視認部２４５６Ｂをケース本体２４５３Ｂの上面部に設ける際の形成容易性を高めることができる。よって、第二始動口扉

２４１１Ｂの出退動作に不具合が生じることを未然に抑制し、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、遊技者や遊技ホール等に対するパチンコ機１の信頼性をより一層高めることができる。なお、本例のケース本体２４５３Ｂの上面部の第二始動口扉２４１１Ｂ側に設けられる視認部２４５６Ｂの態様は、例えば、ケース本体２４５３Ｂの上面部の大入賞口扉２４１３Ｂ側に設けられる視認部２４５６Ｂに適用されてもよい。

【５８８２】

なお、本実施形態では、第二始動口扉２４１１Ｂや大入賞口扉２４１３Ｂに対する視認部２４５６Ｂの位置関係について、第二始動口扉２４１１Ｂの後端縁部や大入賞口扉２４１３Ｂの後端縁部に沿って延びる仮想線２４５７Ｂに対する視認部２４５６Ｂの位置について説明したが、例えば、仮想線２４５７Ｂは、大入賞口扉２４１３Ｂの中央部や前端縁部に沿って延びる態様であってもよいし、第二始動口扉２４１１Ｂの前端縁部や中央部や後端縁部に沿って延びる態様であってもよく、パチンコ機１の製造工程での動作確認を行う際に第二始動口扉２４１１Ｂや大入賞口扉２４１３Ｂに対する視認部２４５６Ｂの位置を視認する作業者の作業効率の向上の観点から、視認部２４５６Ｂが仮想線２４５７Ｂに対する視標となるように任意に設定されることが望ましい。

【５８８３】

また、本実施形態では、「★」という図の表記である視認部２４５６Ｂの態様について説明したが、視認部２４５６Ｂは、第二始動口扉２４１１Ｂや大入賞口扉２４１３Ｂの動作確認の際の視標となればよく形状が異なるものであってもよい。具体的には、視認部２４５６Ｂは、「●」という図の表記であってもよいし、「▲」という図の表記であってもよいし、「■」という図の表記であってもよいし、左右に延びる複数の線材が前後方向に所定の間隔で並べられた図の表記であってもよい。また、視認部２４５６Ｂは、「し」や「Ｕ」等の文字の表記であってもよい。なお、「●」という図の表記を用いる場合には、仮に遊技者が視認してしまった場合に、円形の表記である点から遊技球Ｂを想起させて何らかの誤解（例えば遊技球の発射態様に関する誤解等）が生じてしまう虞がある。この点を鑑みて、「●」という図の表記を用いる場合には、遊技球Ｂの直径（例えば１１ｍｍ）よりも小さい直径（例えば１～５ｍｍ）を最大幅とする「●」の表記で形成したり、一部が欠けた「●」の表記（例えば半円状）で形成したりとしておくことで、遊技者に遊技球Ｂを想起させることをできるだけ回避するようにしておくことが望ましい。

【５８８４】

また、本例のように、第二始動口扉２４１１Ｂと大入賞口扉２４１３Ｂとがユニット化されている場合には特に、第一進退動装置２４５２Ｂ（第一アタッカユニット２４００Ｂ）を下面側から視認する作業の際に、第二始動口扉２４１１Ｂと大入賞口扉２４１３Ｂのいずれの部材であるか分かり難くなる虞があるため、ケース本体２４５３Ｂの第二始動口扉２４１１Ｂ側と大入賞口扉２４１３Ｂ側とで視認部２４５６Ｂの態様を異なる態様にしてもよく、作業員の認識間違いを防止することができ、ケース本体２４５３Ｂの第二始動口扉２４１１Ｂ側と大入賞口扉２４１３Ｂ側で視認部２４５６Ｂの態様を共通の態様にしてもよく、作業員の作業効率の向上を図ることができる。

【５８８５】

また、本実施形態では、パチンコ機１の製造工程において、第二始動口扉２４１１Ｂや大入賞口扉２４１３Ｂに設けられた視認部２４５６Ｂを視標として第二始動口扉２４１１Ｂや大入賞口扉２４１３Ｂの動作確認が実施される態様について説明したが、第二始動口扉２４１１Ｂや大入賞口扉２４１３Ｂの動作確認は、例えば、パチンコ機１が設置される遊技ホール等において、遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｂ（第一アタッカユニット２４００Ｂ）を下面側から視認することにより実施されてもよい。

【５８８６】

図３９１（ａ）は、役物入賞口扉２６１１Ｂが退避状態に遷移された第二進退動装置２６５２Ｂの一部を背面側から視た部分背面図であり、図３９１（ｂ）は、役物入賞口扉２６１１Ｂが退避異常状態に遷移された第二進退動装置２６５２Ｂの一部を背面側から視た

部分背面図である。図３９１（ａ）又は図３９１（ｂ）に示すように、装飾カバー２６５０Ｂの装飾面２６５１Ｂの背面裏側（裏面）には、第二進退動装置２６５２Ｂの外部から視認可能な視認部２６５６Ｂが設けられている。視認部２６５６Ｂは、第二アタッカユニット２６００Ｂが遊技盤５から取り外された状態で、又は第二進退動装置２６５２Ｂが第二アタッカユニット２６００Ｂから取り外された状態で、第二進退動装置２６５２Ｂの外部である第二進退動装置２６５２Ｂの背面側から視認可能に設けられている。なお、視認部２６５６Ｂは、役物入賞口扉２６１１Ｂが進出状態である場合の位置と役物入賞口扉２６１１Ｂが退避状態である場合の位置での変化量である距離をより大きくするとの観点から、装飾カバー２６５０Ｂの装飾面２６５１Ｂの背面裏側（裏面）において、退避状態の役物入賞口扉２６１１Ｂの先端側に対して背面視において接触する位置に設けられることが望ましい。

【５８８７】

本実施形態の視認部２６５６Ｂは、装飾カバー２６５０Ｂの装飾面２６５１Ｂの背面裏側（裏面）に設けられた「★」という図の表記である。視認部２６５６Ｂは、装飾カバー２６５０Ｂの装飾面２６５１Ｂの背面裏側（裏面）に印刷される態様であってもよいし、視認部２６５６Ｂが形成されたシール状のフィルム部材が装飾カバー２６５０Ｂの装飾面２６５１Ｂの背面裏側（裏面）に貼り付けられる態様であってもよい。また、視認部２６５６Ｂは、装飾カバー２６５０Ｂの装飾面２６５１Ｂの背面裏側（裏面）を隆起させて凸状の形成痕で形成される態様であってもよいし、装飾カバー２６５０Ｂの装飾面２６５１Ｂの背面を窪ませて凹状の形成痕で形成される態様であってもよい。なお、視認部２６５６Ｂ自体の破損を回避する観点からすると、視認部２６５６Ｂは、シール状のフィルム部材ではなく、印刷あるいは形成跡により装飾カバー２６５０Ｂの装飾面２６５１Ｂの背面裏側（裏面）に一体形成されるものであることが好ましい。また、本例の視認部２４５６Ｂの外径は、形成容易性の観点から遊技球Ｂの直径よりも小さい態様が好ましいが、遊技球Ｂの直径と略同等又は遊技球Ｂの直径よりも大きい態様であってもよい。

【５８８８】

図３９１（ａ）に示すように、役物入賞口扉２６１１Ｂが退避状態にあり遊技球Ｂと接触して遊技球Ｂが役物入賞口センサへと向かうことを規制する第二進退動装置２６５２Ｂの非入賞状態において、装飾カバー２６５０Ｂの視認部２６５６Ｂは、役物入賞口扉２６１１Ｂに対して背面視において接触している。すなわち、役物入賞口扉２６１１Ｂの正常な退避状態としては、視認部２６５６Ｂの「★」の表記が役物入賞口扉２６１１Ｂによって完全に覆われた状態となるように視認部２６５６Ｂが配置されている。このため、役物入賞口扉２６１１Ｂを退避状態に動作させた際に、視認部２６５６Ｂの「★」の表記が役物入賞口扉２６１１Ｂによって完全に覆われていない状態（例えば視認部２６５６Ｂの一部が役物入賞口扉２６１１Ｂの右方に視認できる状態）の場合には、役物入賞口扉２６１１Ｂの正常な退避状態ではなく、遊技進行に何らかの影響を与える虞のある異常を伴った退避状態ということになる。

【５８８９】

また、役物入賞口扉２６１１Ｂが進出状態にあり遊技球Ｂが役物入賞口センサへと向かうことを規制しない第二進退動装置２６５２Ｂの入賞状態において、装飾カバー２６５０Ｂの視認部２６５６Ｂは、役物入賞口扉２６１１Ｂの先端部に対して背面視において予め設定された間隔を有して左方に位置している。すなわち、役物入賞口扉２６１１Ｂの正常な進出状態としては、視認部２６５６Ｂの「★」の表記が役物入賞口扉２６１１Ｂによって覆われることなく完全に露出した状態（例えば役物入賞口扉２６１１Ｂの先端部に対して背面視において予め設定された間隔を有して左方に位置する状態）となるように視認部２６５６Ｂが配置されている。このため、役物入賞口扉２６１１Ｂを進出状態に動作させた際に、視認部２６５６Ｂの「★」の表記の一部が役物入賞口扉２６１１Ｂによって覆われる状態、又は視認部２６５６Ｂの「★」の表記が役物入賞口扉２６１１Ｂの先端部に対して背面視において予め設定された間隔よりも小さい間隔を有して左方に位置する状態の場合には、役物入賞口扉２６１１Ｂの正常な進出状態ではなく、遊技進行に何らかの影響

を与える虞のある異常を伴った進出状態ということになる。

【５８９０】

本実施形態のパチンコ機１では、役物入賞口扉２６１１Ｂが退避状態である場合に、装飾カバー２６５０Ｂの視認部２６５６Ｂが役物入賞口扉２６１１Ｂに対して背面視において接触する位置関係であることが第二進退動装置２６５２Ｂの背面側である外部から視認可能であり、役物入賞口扉２６１１Ｂが進出状態である場合に、装飾カバー２６５０Ｂの視認部２６５６Ｂは、役物入賞口扉２６１１Ｂの先端部に対して背面視において予め設定された間隔を有して左方に位置する位置関係であることが第二進退動装置２６５２Ｂの背面側である外部から視認可能であるため、第二進退動装置２６５２Ｂを背面側から目視することにより、装飾カバー２６５０Ｂに設けられた視認部２６５６Ｂの視認態様を役物入賞口扉２６１１Ｂに対する視標として、役物入賞口扉２６１１Ｂが進出状態であるか否か又は役物入賞口扉２６１１Ｂが退避状態であるか否かを容易に確認することができる。よって、本実施形態のパチンコ機１では、パチンコ機１の製造工程での役物入賞口扉２６１１Ｂの動作確認を容易にでき、役物入賞口扉２６１１Ｂの出退動作に不具合が生じることを未然に抑制し、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、遊技者や遊技ホール等に対するパチンコ機１の信頼性を高めることができる。

【５８９１】

また、第二進退動装置２６５２Ｂ（第二アタッカユニット２６００Ｂ）が遊技盤５に取り付けられた後に、パチンコ機１を遊技する遊技者から視認容易であるのは装飾カバー２６５０Ｂの装飾面２６５１Ｂの前面であるのに対し、本実施形態の視認部２６５６Ｂが設けられるのは、装飾カバー２６５０Ｂの装飾面２６５１Ｂの背面裏側（裏面）であるため、仮に遊技者が装飾カバー２６５０Ｂを前方から覗き込んだとしても、遊技者が視認部２６５６Ｂを視認することを不可能或いは困難にでき、遊技者が視認部２６５６Ｂを視認した際に第二アタッカユニット２６００Ｂの美観性やパチンコ機１の装飾性が損なわれることを抑制することができる。

【５８９２】

加えて、第二進退動装置２６５２Ｂ（第二アタッカユニット２６００Ｂ）が遊技盤５に取り付けられた後に、遊技球Ｂが接触するのは役物入賞口扉２６１１Ｂの左側の側面であるのに対し、本実施形態の視認部２６５６Ｂが設けられるのは、装飾カバー２６５０Ｂの装飾面２６５１Ｂの背面裏側（裏面）であるため、視認部２６５６Ｂを設けたとしても、視認部２６５６Ｂ自体が遊技球Ｂの流下態様を阻害してしまうことを回避でき、視認部２６５６Ｂ自体が遊技進行に不具合を与えることを抑制することができる。

【５８９３】

なお、第二進退動装置２６５２Ｂの背面からケース本体を介して目視される装飾カバー２６５０Ｂの装飾面２６５１Ｂの背面裏側（裏面）の視認性を高めるために、ケース本体２６５３Ｂやカバー体２６５４Ｂは透過性を有するように有色透明又は無色透明に形成する一方で、役物入賞口扉２６１１Ｂは透過性を有さないように有色不透明に形成し、有色透明又は無色透明に形成した装飾カバー２６５０Ｂの装飾面２６５１Ｂの背面裏側（裏面）に視認部２６５６Ｂを設けるようにしてもよい。これにより、パチンコ機１の製造工程での視認部２６５６Ｂを用いた役物入賞口扉２６１３Ｂの動作確認をより一層容易にできる。

【５８９４】

また、第二進退動装置２６５２Ｂは、退避状態に遷移された役物入賞口扉２６１１Ｂの進出動作を規制するロック機構を更に有して構成される態様であってもよく、役物入賞口扉２６１１Ｂに対する不正を抑制する効果を高めることができる。このような態様では、パチンコ機１の製造工程での役物入賞口扉２６１１Ｂの動作確認の際に、ロック機構によるロックを解除した後に作業者が遊技盤５から取り外された第二進退動装置２６５２Ｂを背面から目視するとともに、役物入賞口ソレノイドのバネの付勢力に抗して役物入賞口扉２６１１Ｂを左方へと引き出すことによって、役物入賞口扉２６１１Ｂが役物入賞口ソレ

ノイドのバネの付勢力に抗して正常な進出状態に遷移可能であるか否かが視認される。
【５８９５】
　また、視認部２６５６Ｂは、装飾カバー２６５０Ｂの装飾面２６５１Ｂの背面裏側（裏面）であればいずれの位置に設けられてもよいし、視認部２６５６Ｂの外径はいずれの大きさで設けられてもよく、装飾カバー２６５０Ｂに設けられた視認部２４５６Ｂを役物入賞口扉２６１１Ｂに対する視標として、役物入賞口扉２６１１Ｂが進出状態であるか否か又は役物入賞口扉２６１１Ｂが退避状態であるか否かを容易に確認することができる。以下、このような態様について、役物入賞口扉２６１１Ｂの各状態と視認部２４５６Ｂの役物入賞口扉２６１１Ｂに対する位置関係とについて詳しく説明する。
【５８９６】
　図３９１（ａ）に示すように、役物入賞口扉２６１１Ｂが退避状態にある場合に、視認部２６５６Ｂは、役物入賞口扉２６１１Ｂに対して背面視において後方に位置する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での役物入賞口扉２６１１Ｂの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第二進退動装置２６５２Ｂを背面側から目視することによって、視認部２６５６Ｂが役物入賞口扉２６１１Ｂに対して背面視において後方に位置することを確認した場合に、役物入賞口扉２６１１Ｂが役物入賞口ソレノイドのバネの付勢力によって正常な退避状態に遷移可能であることを作業者に容易に視認させることができる。
【５８９７】
　また、役物入賞口扉２６１１Ｂが進出状態にある場合に、視認部２６５６Ｂは、役物入賞口扉２６１１Ｂの先端部に対して予め設定された間隔を有して左方に位置する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での役物入賞口扉２６１１Ｂの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第二進退動装置２６５２Ｂを背面側から目視するとともに、役物入賞口ソレノイドのバネの付勢力に抗して役物入賞口扉２６１１Ｂを左方へと引き出すことによって、視認部２６５６Ｂが役物入賞口扉２６１１Ｂの先端部に対して予め設定された間隔を有して左方に位置することを確認した場合に、役物入賞口扉２６１１Ｂが役物入賞口ソレノイドのバネの付勢力に抗して正常な進出状態に遷移可能であることを作業者に容易に視認させることができる。
【５８９８】
　図３９１（ｂ）に示すように、役物入賞口扉２６１１Ｂが退避異常状態にある場合に、視認部２６５６Ｂは、役物入賞口扉２６１１Ｂに対して背面視において後方に位置しない位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での役物入賞口扉２６１１Ｂの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第二進退動装置２６５２Ｂを背面側から目視することによって、視認部２６５６Ｂが役物入賞口扉２６１１Ｂに対して背面視において後方に位置しないことを確認した場合に、役物入賞口扉２６１１Ｂが役物入賞口ソレノイドのバネの付勢力によって正常な退避状態に遷移困難であることを作業者に容易に視認させることができる。
【５８９９】
　また、役物入賞口扉２６１１Ｂが進出異常状態にある場合に、視認部２６５６Ｂは、役物入賞口扉２６１１Ｂの先端部に対して予め設定された間隔よりも小さい間隔で左方に位置する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での役物入賞口扉２６１１Ｂの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第二進退動装置２６５２Ｂを背面側から目視するとともに、役物入賞口ソレノイドのバネの付勢力に抗して役物入賞口扉２６１１Ｂを左方へと引き出すことによって、視認部２６５６Ｂが役物入賞口扉２６１１Ｂの先端部に対して予め設定された間隔よりも小さい間隔で左方に位置することを確認した場合に、役物入賞口扉２６１１Ｂが役物入賞口ソレノイドのバネの付勢力に抗して正常な進出状態に遷移困難であることを作業者に容易に視認させることができる。
【５９００】
　上述のように装飾カバー２６５０Ｂの装飾面２６５１Ｂの背面に、第二進退動装置２６５２Ｂの外部から視認可能に設けられた遊技球Ｂよりも小さい外径を有する視認部２６５

６Ｂの態様では、第二進退動装置２６５２Ｂを背面側から目視することにより、装飾カバー２６５０Ｂの装飾面２６５１Ｂの背面に設けられた視認部２６５６Ｂを役物入賞口扉２６１１Ｂに対する視標として、役物入賞口扉２６１１Ｂが進出状態であるか否か又は役物入賞口扉２６１１Ｂが退避状態であるか否かを作業者に確認させることができる。よって、本実施形態のパチンコ機１では、パチンコ機１の製造工程での役物入賞口扉２６１１Ｂの動作確認を容易にでき、役物入賞口扉２６１１Ｂの出退動作に不具合が生じることを未然に抑制し、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、遊技者や遊技ホール等に対するパチンコ機１の信頼性を高めることができる。

【５９０１】

図３９２（ａ）は、退避状態の役物入賞口扉２６１１Ｂを示す第二進退動装置２６５２Ｂを背面視した概略図であり、図３９２（ｂ）は、進出状態の役物入賞口扉２６１１Ｂを示す第二進退動装置２６５２Ｂを背面視した概略図である。図３９２（ａ）に示す第二進退動装置２６５２Ｂは、３３７（ａ）又は図３９１（ｂ）に示す視認部２６５６Ｂと同様に、視認部２６５６Ｂが装飾カバー２６５０Ｂの装飾面２６５１Ｂの背面に設けられているが、視認部２６５６Ｂが退避状態の役物入賞口扉２６１１Ｂと前後方向に重ならい点で上述の図３９１（ａ）又は図３９１（ｂ）に示す視認部２６５６Ｂと異なる。

【５９０２】

図３９２（ａ）に示す態様では、役物入賞口扉２６１１Ｂが退避状態にある場合に、視認部２６５６Ｂは、役物入賞口扉２６１１Ｂの右辺（図示左辺）に対して予め設定された第１の間隔を有して右方（図示左方）に位置する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での役物入賞口扉２６１１Ｂの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第二進退動装置２６５２Ｂを背面側から目視することによって、視認部２６５６Ｂが役物入賞口扉２６１１Ｂの右辺（図示左辺）に対して予め設定された第１の間隔を有して右方（図示左方）に位置することを確認した場合に、役物入賞口扉２６１１Ｂが役物入賞口ソレノイドのバネの付勢力によって正常な退避状態に遷移可能であることを作業者に視認させることができる。

【５９０３】

また、役物入賞口扉２６１１Ｂが進出状態にある場合に、視認部２６５６Ｂは、役物入賞口扉２６１１Ｂの先端に対して予め設定された第２の間隔を有して右方（図示左方）に位置する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での役物入賞口扉２６１１Ｂの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第二進退動装置２６５２Ｂを背面側から目視するとともに役物入賞口ソレノイドのバネの付勢力に抗して役物入賞口扉２６１１Ｂを左方（図示右方）へと引き出すことによって、視認部２６５６Ｂが役物入賞口扉２６１１Ｂの右辺（図示左辺）に対して予め設定された第２の間隔を有して右方（図示左方）に位置することを確認した場合に、役物入賞口扉２６１１Ｂが役物入賞口ソレノイドのバネの付勢力に抗して正常な進出状態に遷移可能であることを作業者に視認させることができる。

【５９０４】

また、図３９２（ａ）に示す態様では、役物入賞口扉２６１１Ｂが退避異常状態にある場合に、視認部２６５６Ｂは、役物入賞口扉２６１１Ｂの右辺（図示左辺）に対して予め設定された第１の間隔よりも大きい間隔を有して右方（図示左方）に位置する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での役物入賞口扉２６１１Ｂの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第二進退動装置２６５２Ｂを背面側から目視することによって、視認部２６５６Ｂが役物入賞口扉２６１１Ｂの右辺（図示左辺）に対して予め設定された第１の間隔よりも大きい間隔を有して右方（図示左方）に位置することを確認した場合に、役物入賞口扉２６１１Ｂが役物入賞口ソレノイドのバネの付勢力によって正常な退避状態に遷移困難であることを作業者に視認させることができる。

【５９０５】

また、役物入賞口扉２６１１Ｂが進出異常状態にある場合に、視認部２６５６Ｂは、役

物入賞口扉２６１１Ｂの先端に対して予め設定された第２の間隔よりも小さい間隔を有して右方（図示左方）に位置する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での役物入賞口扉２６１１Ｂの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第二進退動装置２６５２Ｂを背面側から目視するとともに役物入賞口ソレノイドのバネの付勢力に抗して役物入賞口扉２６１１Ｂを左方（図示右方）へと引き出すことによって、視認部２６５６Ｂが役物入賞口扉２６１１Ｂの右辺（図示左辺）に対して予め設定された第２の間隔よりも小さい間隔を有して右方（図示左方）に位置することを確認した場合に、役物入賞口扉２６１１Ｂが役物入賞口ソレノイドのバネの付勢力に抗して正常な進出状態に遷移困難であることを作業者に視認させることができる。

【５９０６】

図３９２（ｂ）に示す第二進退動装置２６５２Ｂは、３３７（ａ）又は図３９１（ｂ）に示す視認部２６５６Ｂと同様に、装飾カバー２６５０Ｂの装飾面２６５１Ｂの背面裏側（裏面）において、退避状態の役物入賞口扉２６１１Ｂと視認部２６５６Ｂが背面視において前後方向に重なるように設けられる態様ではあるが、視認部２６５６Ｂが役物入賞口扉２６１１Ｂの基端側に設けられるとともに視認部２６５６Ｂの外径が遊技球Ｂの直径と略同等である点で上述の図３９１（ａ）又は図３９１（ｂ）に示す視認部２６５６Ｂの態様と異なる。

【５９０７】

図３９２（ｂ）に示す態様では、役物入賞口扉２６１１Ｂが退避状態にある場合に、視認部２６５６Ｂは、役物入賞口扉２６１１Ｂに対して背面視において前後方向に重なる位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での役物入賞口扉２６１１Ｂの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第二進退動装置２６５２Ｂを背面側から目視することによって、視認部２６５６Ｂが役物入賞口扉２６１１Ｂの基端側に対して背面視において前後方向に重なることを確認した場合に、役物入賞口扉２６１１Ｂが役物入賞口ソレノイドのバネの付勢力によって正常な退避状態に遷移可能であることを作業者に視認させることができる。

【５９０８】

また、役物入賞口扉２６１１Ｂが進出状態にある場合に、視認部２６５６Ｂは、役物入賞口扉２６１１Ｂの基端側に対して背面視において前後方向に重ならない位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での役物入賞口扉２６１１Ｂの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第二進退動装置２６５２Ｂを背面側から目視するとともに役物入賞口ソレノイドのバネの付勢力に抗して役物入賞口扉２６１１Ｂを左方（図示右方）へと引き出すことによって、視認部２６５６Ｂが役物入賞口扉２６１１Ｂの基端側に対して背面視において前後方向に重ならないことを確認した場合に、役物入賞口扉２６１１Ｂが役物入賞口ソレノイドのバネの付勢力に抗して正常な進出状態に遷移可能であることを作業者に視認させることができる。

【５９０９】

図３９２（ｂ）に示す態様では、役物入賞口扉２６１１Ｂが退避異常状態にある場合に、視認部２６５６Ｂの少なくとも一部は、役物入賞口扉２６１１Ｂに対して背面視において前後方向に重ならない位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での役物入賞口扉２６１１Ｂの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第二進退動装置２６５２Ｂを背面側から目視することによって、視認部２６５６Ｂの少なくとも一部が役物入賞口扉２６１１Ｂに対して背面視において前後方向に重ならないことを確認した場合に、役物入賞口扉２６１１Ｂが役物入賞口ソレノイドのバネの付勢力によって正常な退避状態に遷移困難であることを作業者に視認させることができる。

【５９１０】

また、役物入賞口扉２６１１Ｂが進出異常状態にある場合に、視認部２６５６Ｂの少なくとも一部は、役物入賞口扉２６１１Ｂに対して背面視において前後方向に重なる位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での役物入賞口扉２６１１Ｂの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第二進退動装置２６５２Ｂを背面側か

ら目視するとともに役物入賞口ソレノイドのバネの付勢力に抗して役物入賞口扉２６１１Ｂを左方（図示右方）へと引き出すことによって、視認部２６５６Ｂの少なくとも一部が役物入賞口扉２６１１Ｂに対して背面視において前後方向に重なることを確認した場合に、役物入賞口扉２６１１Ｂが役物入賞口ソレノイドのバネの付勢力に抗して正常な進出状態に遷移困難であることを作業者に視認させることができる。

【５９１１】

図３９２（ａ）や図３９２（ｂ）に示す装飾カバー２６５０Ｂに設けられた視認部２６５６Ｂは、役物入賞口扉２６１１Ｂに対する視標として、役物入賞口扉２６１１Ａが進出状態であるか否か又は役物入賞口扉２６１１Ａが退避状態であるか否かを作業者に確認させることができる。よって、本実施形態のパチンコ機１では、パチンコ機１の製造工程での役物入賞口扉２６１１Ａの動作確認を容易にでき、役物入賞口扉２６１１Ａの出退動作に不具合が生じることを未然に抑制し、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、遊技者や遊技ホール等に対するパチンコ機１の信頼性を高めることができる。

【５９１２】

また、視認部２６５６Ｂは、本実施形態では、「★」という図の表記であるが、役物入賞口扉２６１１Ｂの動作確認の際の視標となればよく形状が異なるものであってもよい。具体的には、視認部２６５６Ｂは、上述の視認部２４５６Ｂと同様に、「●」という図の表記であってもよいし、「▲」という図の表記であってもよいし、「■」という図の表記であってもよいし、左右に延びる複数の線材が前後方向に所定の間隔で並べられた図の表記であってもよし、「し」や「Ｕ」等の文字の表記であってもよい。なお、「●」という図の表記を用いる場合には、仮に遊技者が視認してしまった場合に、円形の表記である点から遊技球Ｂを想起させて何らかの誤解（例えば遊技球の発射態様に関する誤解等）が生じてしまう虞がある。この点を鑑みて、「●」という図の表記を用いる場合には、遊技球Ｂの直径（例えば１１ｍｍ）よりも小さい直径（例えば１～５ｍｍ）を最大幅とする「●」の表記で形成したり、一部が欠けた「●」の表記（例えば半円状）で形成したりとしておくことで、遊技者に遊技球Ｂを想起させることをできるだけ回避するようにしておくことが望ましい。

【５９１３】

また、本実施形態では、パチンコ機１の製造工程において、装飾カバー２６５０Ｂに設けられた視認部２６５６Ｂを視標として役物入賞口扉２６１１Ｂの動作確認が実施される態様について説明したが、役物入賞口扉２６１１Ｂの動作確認は、例えば、パチンコ機１が設置される遊技ホール等において、遊技盤５から取り外された第二進退動装置２６５２Ｂ（第二アタッカユニット２６００Ｂ）を背面側から視認することにより実施されてもよい。

【５９１４】

上述のアタッカユニットの改変例１では、第二始動口扉２４１１Ａ、大入賞口扉２４１３Ａや役物入賞口扉２６１１Ａのような可動片と第一進退動装置２４５２Ａや第二進退動装置２６５２Ａのような可動片を支持する本体部とのうち可動片に視認部２４５６Ａが設けられる態様について説明し、上述のアタッカユニットの改変例２では、第二始動口扉２４１１Ｂ、大入賞口扉２４１３Ｂや役物入賞口扉２６１１Ｂのような可動片と第一進退動装置２４５２Ｂや第二進退動装置２６５２Ｂのような可動片を支持する本体部とのうち本体部に視認部２４５６Ｂが設けられる態様について説明したが、視認部は、可動片と本体部の両方に設けられる態様であってもよく、一方の視認部を他方の視認部に対する視標として、可動片が進出状態であるか否か又は可動片が退避状態であるか否かを作業者に確認させることができる。よって、このような態様のパチンコ機１では、パチンコ機１の製造工程での可動片の動作確認を容易にでき、可動片の出退動作に不具合が生じることを未然に抑制し、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、遊技者や遊技ホール等に対するパチンコ機１の信頼性を高めることができる。

【５９１５】
［アタッカユニットの改変例３］
次に、上記とは更に異なる形態として、遊技盤５に取り付けられる第一アタッカユニット２４００Ｃや第二アタッカユニット２６００Ｃの動作が正常であるか否かの確認を容易にする構成について説明する。以下では、図１４０乃至図１４５等を参照して説明した第一アタッカユニット２４００や第二アタッカユニット２６００を更に改変した第一アタッカユニット２４００Ｃや第二アタッカユニット２６００Ｃについて、図３９３等を参照して説明する。なお、本実施形態のパチンコ機１において、第一アタッカユニット２４００Ｃや第二アタッカユニット２６００Ｃ以外の部材については、上述した第一アタッカユニット２４００や第二アタッカユニット２６００を有する実施形態のパチンコ機１と同じ構成であり、同じ構成については同じ符号を付して説明する。
【５９１６】
図３９３（ａ）は、第二始動口扉２４１１Ｃ及び大入賞口扉２４１３Ｃが進出状態に遷移された第一進退動装置２４５２Ｃを下面側から視た下面図であり、図３９３（ｂ）は、第二始動口扉２４１１Ｃ及び大入賞口扉２４１３Ｃが退避状態に遷移された第一進退動装置２４５２Ｃを下面側から視た下面図である。図３９３（ａ）又は図３９３（ｂ）に示すように、第一進退動装置２４５２Ｃの第二始動口扉２４１１Ｃ及び大入賞口扉２４１３Ｃの下面（遊技球が流下する上面の裏側の面）には、第一進退動装置２４５２Ｃの外部から視認可能な複数の可動片側視認部２４５８Ｃが設けられている。また、第一進退動装置２４５２Ｃのケース本体２４５３Ｃの下面部には、第一進退動装置２４５２Ｃの外部から視認可能な複数の本体側視認部２４５９Ｃが設けられている。可動片側視認部２４５８Ｃ及び本体側視認部２４５９Ｃは、第一アタッカユニット２４００Ｃが遊技盤５から取り外された状態、又は第一進退動装置２４５２Ｃが第一アタッカユニット２４００Ｃから取り外された状態にて、第一進退動装置２４５２Ｃの外部である第一進退動装置２４５２Ｃの下面側から視認可能に設けられている。なお、本例では、少なくとも第二始動口センサと大入賞口センサとが取り外された状態にて複数の可動片側視認部２４５８Ｃや複数の本体側視認部２４５９Ｃを第一進退動装置２４５２Ｃの下面側から直視あるいは透過性を有する部位を透して視認可能に設けるようにしているが、第二始動口センサと大入賞口センサとが取り外された状態に限らず、第二始動口センサと大入賞口センサとが取り付けられた状態であっても、複数の可動片側視認部２４５８Ｃや複数の本体側視認部２４５９Ｃを第一進退動装置２４５２Ａの下面側から直視あるいは透過性を有する部位を透して視認可能に設けることが好ましい。第二始動口センサと大入賞口センサとが取り付けられた状態においては、退避状態にて第二始動口センサと大入賞口センサの貫通孔の内部に位置するように複数の可動片側視認部２４５８Ｃが配置されるようにしておくことで、第二始動口センサと大入賞口センサとが取り付けられた状態であっても複数の可動片側視認部２４５８Ｃが第一進退動装置２４５２Ｃの下面側から直視あるいは透過性を有する部位を透して視認可能となる。また、複数の本体側視認部２４５９Ｃは、ケース本体２４５３Ｃの下面部だけでなく、ケース本体２４５３Ｃの上面部の内面や外面に設けられる態様であってもよいし、ケース本体２４５３Ｃの側面部の内面や外面に設けられる態様であってもよい。
【５９１７】
本実施形態の可動片側視認部２４５８Ｃ及び本体側視認部２４５９Ｃは、第二始動口扉２４１１Ｃ及び大入賞口扉２４１３Ｃの下面（遊技球が流下する上面の裏側の面）又はケース本体２４５３Ｃの下面部に設けられた「★」という図の表記である。可動片側視認部２４５８Ｃ及び本体側視認部２４５９Ｃは、第二始動口扉２４１１Ｃ及び大入賞口扉２４１３Ｃの下面又はケース本体２４５３Ｃの下面部に印刷される態様であってもよいし、可動片側視認部２４５８Ｃ又は本体側視認部２４５９Ｃが形成されたシール状のフィルム部材が第二始動口扉２４１１Ｃ及び大入賞口扉２４１３Ｃの下面又はケース本体２４５３Ｃの下面部に貼り付けられる態様であってもよい。また、可動片側視認部２４５８Ｃ及び本体側視認部２４５９Ｃは、第二始動口扉２４１１Ｃ及び大入賞口扉２４１３Ｃの下面又はケース本体２４５３Ｃの下面部を隆起させて凸状の形成痕で形成される態様であってもよ

いし、第二始動口扉２４１１Ｃ及び大入賞口扉２４１３Ｃの下面又はケース本体２４５３Ｃの下面部を窪ませて凹状の形成痕で形成される態様であってもよい。なお、可動片側視認部２４５８Ｃ及び本体側視認部２４５９Ｃ自体の破損を回避するとの観点から、可動片側視認部２４５８Ｃ及び本体側視認部２４５９Ｃは、シール状のフィルム部材ではなく、印刷や形成痕により第二始動口扉２４１１Ｃや大入賞口扉２４１３Ｃやケース本体２４５３Ｃに一体形成される態様が好ましい。

【５９１８】

図３９３（ａ）に示すように、大入賞口扉２４１３Ｃが進出状態にあり遊技球Ｂと接触して遊技球Ｂが大入賞口センサへと向かうことを規制する第一進退動装置２４５２Ｃの非入賞状態において、ケース本体２４５３Ｃの複数の本体側視認部２４５９Ｃは、大入賞口扉２４１３Ｃの複数の可動片側視認部２４５８Ｃよりも後方に位置している。また、第二始動口扉２４１１Ｃが進出状態にあり遊技球Ｂと接触して遊技球Ｂが第二始動口センサへと向かうことを規制する第一進退動装置２４５２Ｃの非入球状態において、ケース本体２４５３Ｃの複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃは、第二始動口扉２４１１Ｃの複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃよりも後方に位置している。すなわち、大入賞口扉２４１３Ｃや第二始動口扉２４１１Ｃの正常な進出状態としては、複数の本体側視認部２４５９Ｃの「★」の表記が複数の可動片側視認部２４５８Ｃの「★」の表記よりも後方に位置する状態となるように、又は、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの「★」の表記の中心を通過する仮想線２４５７Ｃが複数の本体側視認部２４５９Ｃの「★」の表記の中心を通過する仮想線２４５７Ｃよりも前方に位置する状態となるように複数の可動片側視認部２４５８Ｃ及び複数の本体側視認部２４５９Ｃが配置されている。このため、大入賞口扉２４１３Ｃや第二始動口扉２４１１Ｃを進出状態に動作させた際に、複数の本体側視認部２４５９Ｃの「★」の表記が複数の可動片側視認部２４５８Ｃの「★」の表記よりも後方に位置する状態や複数の可動片側視認部２４５８Ｃの「★」の表記の中心を通過する仮想線２４５７Ｃが複数の本体側視認部２４５９Ｃの「★」の表記の中心を通過する仮想線２４５７Ｃよりも前方に位置していない状態の場合には、大入賞口扉２４１３Ｃや第二始動口扉２４１１Ｃの正常な進出状態ではなく、遊技進行に何らかの影響を与える虞のある異常を伴った進出状態ということになる。

【５９１９】

図３９３（ｂ）に示すように、大入賞口扉２４１３Ｃが退避状態にあり遊技球Ｂが大入賞口センサへと向かうことを規制しない第一進退動装置２４５２Ｃの入賞状態において、ケース本体２４５３Ｃの複数の本体側視認部２４５９Ｃは、大入賞口扉２４１３Ｃの複数の可動片側視認部２４５８Ｃと前後方向で少なくとも一部が重なるように位置している。また、第二始動口扉２４１１Ｃが退避状態にあり遊技球Ｂが第二始動口センサへと向かうことを規制しない第一進退動装置２４５２Ｃの入球状態において、ケース本体２４５３Ｃの複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃは、第二始動口扉２４１１Ｃの複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃと前後方向で重なるように位置している。すなわち、大入賞口扉２４１３Ｃや第二始動口扉２４１１Ｃの正常な退避状態としては、複数の本体側視認部２４５９Ｃの「★」の表記が複数の可動片側視認部２４５８Ｃの「★」の表記と前後方向で少なくとも一部が重なるように位置する状態となるように、又は、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの「★」の表記の中心を通過する仮想線２４５７Ｃが複数の本体側視認部２４５９Ｃの「★」の表記の中心を通過する仮想線２４５７Ｃと前後方向で重なるように位置する状態となるように複数の可動片側視認部２４５８Ｃ及び複数の本体側視認部２４５９Ｃが配置されている。このため、大入賞口扉２４１３Ｃや第二始動口扉２４１１Ｃを進出状態に動作させた際に、複数の本体側視認部２４５９Ｃの「★」の表記が複数の可動片側視認部２４５８Ｃの「★」の表記と前後方向で少なくとも一部が重なるように位置する状態や複数の可動片側視認部２４５８Ｃの「★」の表記の中心を通過する仮想線２４５７Ｃが複数の本体側視認部２４５９Ｃの「★」の表記の中心を通過する仮想線２４５７Ｃと前後方向で重ならない状態の場合に

は、大入賞口扉２４１３Ｃや第二始動口扉２４１１Ｃの正常な退避状態ではなく、遊技進行に何らかの影響を与える虞のある異常を伴った退避状態ということになる。

【５９２０】

本実施形態のパチンコ機１では、大入賞口扉２４１３Ｃが進出状態である場合に、ケース本体２４５３Ｃの複数の本体側視認部２４５９Ｃが大入賞口扉２４１３Ｃの複数の可動片側視認部２４５８Ｃよりも後方に位置する位置関係であることが第一進退動装置２４５２Ｃの下面側である外部から視認可能であり、大入賞口扉２４１３Ｂが退避状態である場合に、ケース本体２４５３Ｃの複数の本体側視認部２４５９Ｃが大入賞口扉２４１３Ｃの複数の可動片側視認部２４５８Ｃと前後方向で少なくとも一部が重なるように位置する位置関係であることが第一進退動装置２４５２Ｃの下面側である外部から視認可能であるため、遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｃを下面側から目視することにより、ケース本体２４５３Ｃに設けられた複数の本体側視認部２４５９Ｃ及び大入賞口扉２４１３Ｃに設けられた複数の可動片側視認部２４５８Ｃを視標として、大入賞口扉２４１３Ｃが進出状態であるか否か又は大入賞口扉２４１３Ｃが退避状態であるか否かを容易に確認することができる。よって、本実施形態のパチンコ機１では、パチンコ機１の製造工程での大入賞口扉２４１３Ｃの動作確認を容易にでき、大入賞口扉２４１３Ｃの出退動作に不具合が生じることを未然に抑制し、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、遊技者や遊技ホール等に対するパチンコ機１の信頼性を高めることができる。

【５９２１】

また、本実施形態のパチンコ機１では、第二始動口扉２４１１Ｃが進出状態である場合に、ケース本体２４５３Ｃの複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃが第二始動口扉２４１１Ｃの複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃよりも後方に位置する位置関係であることが第一進退動装置２４５２Ｃの下面側である外部から視認可能であり、第二始動口扉２４１１Ｃが退避状態である場合に、ケース本体２４５３Ｃの複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃが第二始動口扉２４１１Ｃの複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃと前後方向で重なるように位置する位置関係であることが第一進退動装置２４５２Ｃの下面側である外部から視認可能であるため、遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｃを下面側から目視することにより、ケース本体２４５３Ｃに設けられた複数の本体側視認部２４５９Ｃ及び大入賞口扉２４１３Ｃに設けられた複数の可動片側視認部２４５８Ｃを視標として、第二始動口扉２４１１Ｃが進出状態であるか否か又は第二始動口扉２４１１Ｃが退避状態であるか否かを容易に確認することができる。よって、本実施形態のパチンコ機１では、パチンコ機１の製造工程での第二始動口扉２４１１Ｃの動作確認を容易にでき、第二始動口扉２４１１Ｃの出退動作に不具合が生じることを未然に抑制し、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、遊技者や遊技ホール等に対するパチンコ機１の信頼性を高めることができる。

【５９２２】

また、第一進退動装置２４５２Ｃ（第一アタッカユニット２４００Ｃ）が遊技盤５に取り付けられた後に、パチンコ機１を遊技する遊技者から視認容易であるのは第二始動口扉２４１１Ｃの上面及び大入賞口扉２４１３Ｃの上面であるのに対し、本実施形態の複数の可動片側視認部２４５８Ｃが設けられるのは、第二始動口扉２４１１Ｃの下面及び大入賞口扉２４１３Ｃの下面であるため、仮に遊技者が第二始動口扉２４１１Ｃや大入賞口扉２４１３Ｃを上面側から覗き込んだとしても、遊技者が可動片側視認部２４５８Ｃを視認することを不可能或いは困難にでき、遊技者が可動片側視認部２４５８Ｃを視認した際に第一アタッカユニット２４００Ｃの美観性やパチンコ機１の装飾性が損なわれることを抑制することができる。

【５９２３】

加えて、第一進退動装置２４５２Ｃ（第一アタッカユニット２４００Ｃ）が遊技盤５に

取り付けられた後に、遊技球Ｂが流下するのは第二始動口扉２４１１Ｃの上面及び大入賞口扉２４１３Ｃの上面であるのに対し、本実施形態の複数の可動片側視認部２４５８Ｃが設けられるのは、第二始動口扉２４１１Ｃの下面及び大入賞口扉２４１３Ｃの下面であるため、複数の可動片側視認部２４５８Ｃを設けた場合であっても、複数の可動片側視認部２４５８Ｃ自体が遊技球Ｂの流下態様を阻害してしまうことを回避でき、複数の可動片側視認部２４５８Ｃ自体が遊技進行に不具合を与えることを抑制することができる。

【５９２４】

また、第一進退動装置２４５２Ｃは、遊技領域５ａの後方に配置されるとともに、遊技領域５ａの後面を区画する遊技パネル１１００の前面にはパチンコ機１を装飾する装飾面が形成されているため、第一進退動装置２４５２Ｃ（第一アタッカユニット２４００Ｃ）が遊技盤５に取り付けられた後に、仮に遊技者が第一進退動装置２４５２Ｃ（第一アタッカユニット２４００Ｃ）の上面や下面を覗き込んだとしても、遊技者が第一進退動装置２４５２Ｃ（第一アタッカユニット２４００Ｃ）の上面や下面を視認することが困難であり、遊技者が本体側視認部２４５９Ｃを視認することを不可能或いは困難にでき、遊技者が本体側視認部２４５９Ｃを視認した際に第一アタッカユニット２４００Ｃの美観性やパチンコ機１の装飾性が損なわれることを抑制することができる。

【５９２５】

加えて、第一進退動装置２４５２Ｃ（第一アタッカユニット２４００Ｃ）が遊技盤５に取り付けられた後に、遊技球Ｂが流下するのは第二始動口扉２４１１Ｃの上面及び大入賞口扉２４１３Ｃの上面であるのに対し、本実施形態の複数の本体側視認部２４５９Ｃが設けられるのは、ケース本体２４５３Ｃの下面部であるため、複数の本体側視認部２４５９Ｃを設けた場合であっても、複数の本体側視認部２４５９Ｃ自体が遊技球Ｂの流下態様を阻害してしまうことを回避でき、複数の本体側視認部２４５９Ｃ自体が遊技進行に不具合を与えることを抑制することができる。

【５９２６】

なお、第一進退動装置２４５２Ｃの下面側からケース本体２４５３Ｃを介して目視される第二始動口扉２４１１Ｃの下面や大入賞口扉２４１３Ｃの下面の複数の可動片側視認部２４５６Ｃの視認性を高めるために、ケース本体２４５３Ｃやカバー体２４５４Ｃは透過性を有するように有色透明又は無色透明に形成する一方で、第二始動口扉２４１１Ｃや大入賞口扉２４１３Ｃは透過性を有さないように有色不透明に形成し、有色不透明に形成された第二始動口扉２４１１Ｃの下面や大入賞口扉２４１３Ｃの下面に複数の可動片側視認部２４５８Ｃを設けるようにしてもよい。これにより、パチンコ機１の製造工程において、複数の可動片側視認部２４５８Ｃを視標として大入賞口扉２４１３Ｃや第二始動口扉２４１１Ｃの動作確認をより一層容易にできる。

【５９２７】

また、第一進退動装置２４５２Ｃは、進出状態に遷移された第二始動口扉２４１１Ｃや大入賞口扉２４１３Ｃの退避動作を規制するロック機構を更に有して構成される態様であってもよく、第二始動口扉２４１１Ｃや大入賞口扉２４１３Ｃに対する不正を抑制する効果を高めることができる。このような態様では、パチンコ機１の製造工程での第二始動口扉２４１１Ｃや大入賞口扉２４１３Ｃの動作確認の際に、ロック機構によるロックを解除した後に作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｃを下面側から目視するとともに、始動口ソレノイドのバネの付勢力に抗して第二始動口扉２４１１Ｃを後方へと押し込むことによって又はアタッカソレノイドのバネの付勢力に抗して大入賞口扉２４１３Ｃを後方へと押し込むことによって、第二始動口扉２４１１Ｃが始動口ソレノイドのバネの付勢力に抗して正常な退避状態に遷移可能であるか否か又は大入賞口扉２４１３ＢＣアタッカソレノイドのバネの付勢力に抗して正常な退避状態に遷移可能であるか否かが視認される。

【５９２８】

また、第二始動口扉２４１１Ｃや大入賞口扉２４１３Ｃは、第一リンク機構又は第二リンク機構に支持されてケース本体２４５３Ｃ内で前後方向に進出動作又は退避動作される

態様であってもよいし、第一リンク機構又は第二リンク機構にケース本体２４５３Ｃ外で支持されてケース本体２４５３Ｃの上面又は下面に沿って前後方向に進出動作又は退避動作される態様であってもよいし、ケース本体２４５３Ｃの上面又は下面で支持されて第一リンク機構又は第二リンク機構によってケース本体２４５３Ｃの上面又は下面に沿って前後方向に進出動作又は退避動作される態様であってもよい。第二始動口扉２４１１Ｃや大入賞口扉２４１３Ｃがケース本体２４５３Ｃ内で進出動作又は退避動作される場合には、第二始動口扉２４１１Ｃや大入賞口扉２４１３Ｃに対する不正を抑制する効果を高めることができるのに対し、第二始動口扉２４１１Ｃや大入賞口扉２４１３Ｃがケース本体２４５３Ｃ外で進出動作又は退避動作される場合には、第二始動口扉２４１１Ｃや大入賞口扉２４１３Ｃに生じた動作不良等に対するメンテナンス作業の作業効率を高めることができる。

【５９２９】

また、複数の可動片側視認部２４５８Ｃは、第二始動口扉２４１１Ｃや大入賞口扉２４１３Ｃの下面であればいずれの位置に複数設けられてもよく、各視認部２４５８Ｃの大きさはいずれの大きさで設けられてもよいし、複数の本体側視認部２４５９Ｃは、ケース本体２４５３Ｃの下面部であればいずれの位置に複数設けられてもよく、各本体側視認部２４５９Ｃの大きさはいずれの大きさで設けられてもよいし、複数の可動片側視認部２４５８Ｃや複数の本体側視認部２４５９Ｃを視標として、第二始動口扉２４１１Ｃ又は大入賞口扉２４１３Ｃが進出状態であるか否か又は第二始動口扉２４１１Ｃ又は大入賞口扉２４１３Ｃが退避状態であるか否かを容易に確認することができる。以下、このような態様について、第二始動口扉２４１１Ｃ又は大入賞口扉２４１３Ｃの各状態と複数の可動片側視認部２４５８Ｃ及び複数の本体側視認部２４５９Ｃの位置関係とについて詳しく説明する。

【５９３０】

上述のアタッカユニットの改変例１では、可動片側に設けられた視認部をケース本体に対する視標として可動片の動作が視認される態様について説明し、上述のアタッカユニットの改変例２では、ケース本体側に設けられた視認部を可動片に対する視標として可動片の動作が視認される視認される態様について説明したが、本例の複数の可動片側視認部２４５８Ｃ及び複数の本体側視認部２４５９Ｃが設けられる態様では、アタッカユニットの改変例１と同様に、可動片側視認部２４５８Ｃをケース本体に対する視標として可動片の動作を視認させるとともに、アタッカユニットの改変例２と同様に、本体側視認部２４５９Ｃを可動片に対する視標として可動片の動作を視認させることもできるため、これらの態様の詳細な説明について、以下では省略する。

【５９３１】

図３９４（ａ）は、進出状態の第二始動口扉２４１１Ｃ及び大入賞口扉２４１３Ｃを示す第一進退動装置２４５２Ｃを下面視した概略図であり、図３９４（ｂ）は、退避状態の第二始動口扉２４１１Ｃ及び大入賞口扉２４１３Ｃを示す第一進退動装置２４５２Ｃを下面視した概略図であり、図３９４（ｃ）は、進出異常状態の第二始動口扉２４１１Ｃ及び大入賞口扉２４１３Ｃを示す第一進退動装置２４５２Ｃを下面視した概略図である。また、図３９５（ａ）は、退避異常状態の第二始動口扉２４１１Ｃ及び大入賞口扉２４１３Ｃを示す第一進退動装置２４５２Ｃを下面視した概略図であり、図３９５（ｂ）は、進出異常状態の第二始動口扉２４１１Ｃ及び大入賞口扉２４１３Ｃを示す第一進退動装置２４５２Ｃを下面視した概略図であり、図３９５（ｃ）は、退避異常状態の第二始動口扉２４１１Ｃ及び大入賞口扉２４１３Ｃを示す第一進退動装置２４５２Ｃを下面視した概略図である。なお、各図中上方は、第一進退動装置２４５２Ｃが遊技盤５に取り付けられた際に遊技者側を向く前方であり、各図中下方は、第一進退動装置２４５２Ｃが遊技盤５に取り付けられた際に遊技者側とは反対を向く後方である。

【５９３２】

図３９４（ａ）乃至図３９５（ｃ）に示すように、板状の大入賞口扉２４１３Ｃの下面には、前後方向の中央部に遊技球Ｂの直径と略同等の外径を有する複数の可動片側視認部

２４５８Ｃが左右方向に並べて設けられ、ケース本体２４５３Ｃの下面部には、大入賞口扉２４１３Ｃ側かつ前後方向の中央部に遊技球Ｂの直径と略同等の外径を有する複数の本体側視認部２４５９Ｂが左右方向に並べて設けられている。本例の可動片側視認部２４５８Ｃや本体側視認部２４５９Ｃの外径は、視認容易性の観点から遊技球Ｂの直径よりも大きい態様であってもよいし、形成容易性の観点から遊技球Ｂの直径よりも小さい態様であってもよい。

【５９３３】

図３９４（ａ）に示すように、大入賞口扉２４１３Ｃが進出状態にある場合に、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃは、複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対して下面視において予め設定された第１の間隔を有して前方に位置する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での大入賞口扉２４１３Ｃの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｃを下面側から目視することによって、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃが複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対して下面視において予め設定された第１の間隔を有して前方に位置することを確認した場合に、大入賞口扉２４１３Ｃがアタッカソレノイドのバネの付勢力によって正常な進出状態に遷移可能であることを作業者に容易にかつより正確に視認させることができる。

【５９３４】

図３９４（ｂ）に示すように、大入賞口扉２４１３Ｃが退避状態にある場合に、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃは、複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対して下面視において予め設定された第２の間隔を有して前方に位置する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での大入賞口扉２４１３Ｃの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｃを下面側から目視するとともにアタッカソレノイドのバネの付勢力に抗して大入賞口扉２４１３Ｃを後方へと押し込むことによって、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃが複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対して下面視において予め設定された第２の間隔を有して前方に位置することを確認した場合に、大入賞口扉２４１３Ｃがアタッカソレノイドのバネの付勢力に抗して正常な退避状態に遷移可能であることを作業者に容易にかつより正確に視認させることができる。

【５９３５】

図３９４（ｃ）に示すように、大入賞口扉２４１３Ｃが進出異常状態にある場合に、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃは、複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対して下面視において予め設定された第１の間隔よりも小さい間隔を有して前方に位置する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での大入賞口扉２４１３Ｃの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｃを下面側から目視することによって、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃは、複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対して下面視において予め設定された第１の間隔よりも小さい間隔を有して前方に位置することを確認した場合に、大入賞口扉２４１３Ｃがアタッカソレノイドのバネの付勢力によって正常な進出状態に遷移困難であることを作業者に容易にかつ正確に視認させることができる。

【５９３６】

図３９５（ａ）に示すように、大入賞口扉２４１３Ｃが退避異常状態にある場合に、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃは、複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対して下面視において予め設定された第２の間隔よりも大きい間隔を有して前方に位置する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での大入賞口扉２４１３Ｃの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｃを下面側から目視するとともにアタッカソ

レノイドのバネの付勢力に抗して大入賞口扉２４１３Ｃを後方へと押し込むことによって、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃが複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対して下面視において予め設定された第２の間隔よりも大きい間隔を有して前方に位置することを確認した場合に、大入賞口扉２４１３Ｃがアタッカソレノイドのバネの付勢力に抗して正常な退避状態に遷移困難であることを作業者に容易にかつ正確に視認させることができる。

【５９３７】

図３９５（ｂ）に示すように、大入賞口扉２４１３Ｃは、例えば、左右方向の一方側の支持部等に異常が生じた際等にケース本体２４５３Ｃから斜めに進出される場合がり、このような場合に、１つの視認部を視標として大入賞口扉２４１３Ｃの進出異常状態や退避異常状態を視認できないおそれがある。具体的には、視認部が大入賞口扉２４１３Ｃの下面の左右方向のいずれか一方側に設けられている場合に、大入賞口扉２４１３Ｃを支持する他方側の支持部に異常が生じた際等、大入賞口扉２４１３Ｃの一方側の視認部がケース本体２４５３Ｃの前端縁部より前方に位置し、これを目視した作業者が大入賞口扉２４１３Ｃの動作が正常であると認識するおそれがある。

【５９３８】

大入賞口扉２４１３Ｃが斜めに進出された進出異常状態にある場合に、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃは、複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対して下面視において任意の角度で傾斜する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での大入賞口扉２４１３Ｃの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｃを下面側から目視することによって、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃが複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対して下面視において任意の角度で傾斜することを確認した場合に、大入賞口扉２４１３Ｃがアタッカソレノイドのバネの付勢力によって正常な進出状態に遷移困難であることを作業者に容易にかつ正確に視認させることができる。

【５９３９】

図３９５（ｃ）に示すように、大入賞口扉２４１３Ｃが斜めに退避された退避異常状態にある場合に、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃは、複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対して下面視において任意の角度で傾斜する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での大入賞口扉２４１３Ｃの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｃを下面側から目視するとともにアタッカソレノイドのバネの付勢力に抗して大入賞口扉２４１３Ｃを後方へと押し込むことによって、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃが複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対して下面視において任意の角度で傾斜することを確認した場合に、大入賞口扉２４１３Ｃがアタッカソレノイドのバネの付勢力に抗して正常な退避状態に遷移困難であることを作業者に容易にかつ正確に視認させることができる。

【５９４０】

上述のように大入賞口扉２４１３Ｃの下面に、前後方向の中央部に遊技球Ｂの直径と略同等の外径を有する複数の可動片側視認部２４５８Ｃが左右方向に並べて設けられ、ケース本体２４５３Ｃの下面部に、大入賞口扉２４１３Ｃ側かつ前後方向の中央部に遊技球Ｂの直径と略同等の外径を有する複数の本体側視認部２４５９Ｃが左右方向に並べて設けられる態様では、パチンコ機１の製造工程での大入賞口扉２４１３Ｃの動作確認を行う作業者が複数の可動片側視認部２４５８Ｃや複数の本体側視認部２４５９Ｃを視標として、大入賞口扉２４１３Ｃが正常な進出状態と正常な退避状態に遷移可能か否かを作業者に容易にかつより正確に視認させることができる。よって、大入賞口扉２４１３Ｃの出退動作に不具合が生じることを未然に抑制し、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、遊技者や遊技ホール等に対するパチンコ機１の信頼性をより一層高めることができる。なお、本例の複数の可動片側視認部２４５８Ｃ

及び複数の本体側視認部２４５９Ｃの態様は、例えば、第二始動口扉２４１１Ｃの下面に設けられる複数の可動片側視認部２４５８Ｃやケース本体２４５３Ｃの第二始動口扉２４１１Ｃ側に設けられる複数の本体側視認部２４５９Ｃの態様に適用されてもよい。また、本例では、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃや複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃについて説明したが、仮想線２４５７Ｃは、例えば、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの前端部や後端部を通過するものであってもよいし、複数の本体側視認部２４５９Ｃの前端部や後端部を通過するものであってもよく、大入賞口扉２４１３Ｃの状態を視認する作業者の作業効率の向上の観点から、任意に設定されることが望ましい。

【５９４１】

図３９４（ａ）乃至図３９５（ｃ）に示すように、板状の第二始動口扉２４１１Ｃの下面には、前後方向の後端部に遊技球Ｂの直径よりも小さい外径を有する複数の可動片側視認部２４５８Ｃが左右方向に並べて設けられ、ケース本体２４５３Ｃの下面部には、第二始動口扉２４１１Ｃ側かつ前後方向の後端部に遊技球Ｂの直径よりも小さい外径を有する複数の本体側視認部２４５９Ｂが左右方向に並べて設けられている。本例の可動片側視認部２４５８Ｃや本体側視認部２４５９Ｃの外径は、形成容易性の観点から遊技球Ｂの直径よりも小さい態様ではあるが、視認容易性の観点から遊技球Ｂの直径と略同等の態様であってもよいし、遊技球Ｂの直径よりも大きい態様であってもよい。

【５９４２】

図３９４（ａ）に示すように、二始動口扉２４１１Ｃが進出状態にある場合に、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃは、複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対して下面視において予め設定された第１の間隔を有して前方に位置し、複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃは、第二始動口扉２４１１Ｃの後端縁部に対して予め設定された第２の間隔を有して後方に位置する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での第二始動口扉２４１１Ｃの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｃを下面側から目視することによって、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃが複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対して下面視において予め設定された第１の間隔を有して前方に位置し、複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃが第二始動口扉２４１１Ｃの後端縁部に対して予め設定された第２の間隔を有して後方に位置することを確認した場合に、第二始動口扉２４１１Ｃが始動口ソレノイドのバネの付勢力によって正常な進出状態に遷移可能であることを作業者に容易にかつより正確に視認させることができる。

【５９４３】

図３９４（ｂ）に示すように、第二始動口扉２４１１Ｃが退避状態にある場合に、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃは、複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対して下面視において予め設定された第３の間隔を有して前方に位置し、複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃは、第二始動口扉２４１１Ｃの後端縁部に対して下面視において接触する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での第二始動口扉２４１１Ｃの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｃを下面側から目視するとともに始動口ソレノイドのバネの付勢力に抗して第二始動口扉２４１１Ｃを後方へと押し込むことによって、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃが複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対して下面視において予め設定された第３の間隔を有して前方に位置し、複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃが第二始動口扉２４１１Ｃの後端縁部に対して下面視において接触することを確認した場合に、第二始動口扉２４１１Ｃが始動口ソレノイドのバネの付勢力に抗して正常な退避状態に遷移可能であることを作業者に容易にかつより正確に視認させることができる。

【５９４４】

図３９４（ｃ）に示すように、第二始動口扉２４１１Ｃが進出異常状態にある場合に、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃは、複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対して下面視において予め設定された第１の間隔よりも小さい間隔を有して前方に位置し、複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃは、第二始動口扉２４１１Ｃの後端縁部に対して予め設定された第２の間隔よりも小さい間隔を有して後方に位置する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での第二始動口扉２４１１Ｃの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｃを下面側から目視することによって、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃが複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対して下面視において予め設定された第１の間隔よりも小さい間隔を有して前方に位置し、複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃが第二始動口扉２４１１Ｃの後端縁部に対して予め設定された第２の間隔よりも小さい間隔を有して後方に位置することを確認した場合に、第二始動口扉２４１１Ｃが始動口ソレノイドのバネの付勢力によって正常な進出状態に遷移困難であることを作業者に容易にかつより正確に視認させることができる。

【５９４５】

図３９５（ａ）に示すように、第二始動口扉２４１１Ｃが退避異常状態にある場合に、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃは、複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対して下面視において予め設定された第３の間隔よりも大きい間隔を有して前方に位置し、複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃは、第二始動口扉２４１１Ｃの後端縁部に対して下面視において接触しない位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での第二始動口扉２４１１Ｃの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｃを下面側から目視するとともに始動口ソレノイドのバネの付勢力に抗して第二始動口扉２４１１Ｃを後方へと押し込むことによって、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃが複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対して下面視において予め設定された第３の間隔よりも大きい間隔を有して前方に位置し、複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃが第二始動口扉２４１１Ｃの後端縁部に対して下面視において接触しないことを確認した場合に、第二始動口扉２４１１Ｃが始動口ソレノイドのバネの付勢力に抗して正常な退避状態に遷移困難であることを作業者に容易にかつより正確に視認させることができる。

【５９４６】

図３９５（ｂ）に示すように、第二始動口扉２４１１Ｃが斜めに進出された進出異常状態にある場合に、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃは、複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対して下面視において任意の角度で傾斜するとともに、複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対して下面視において予め設定された第１の間隔よりも小さい間隔を有して前方に位置し、複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃは、第二始動口扉２４１１Ｃの後端縁部に対して下面視において任意の角度で傾斜するとともに、第二始動口扉２４１１Ｃの後端縁部に対して予め設定された第２の間隔よりも小さい間隔を有して後方に位置する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での第二始動口扉２４１１Ｃの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｃを下面側から目視することによって、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃが複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対して下面視において任意の角度で傾斜するとともに、複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対して下面視において予め設定された第１の間隔よりも小さい間隔を有して前方に位置し、複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃが第二始動口扉２４１１Ｃの後端縁部に対して下面視において任意の角度で傾斜するとともに、第二始動口扉２４１１Ｃの後端縁部に対して予め設定された第２の間隔よりも小さい間隔を有して後方に位置することを確認した

場合に、第二始動口扉２４１１Ｃが始動口ソレノイドのバネの付勢力によって正常な進出状態に遷移困難であることを作業者に容易にかつ正確に視認させることができる。

【５９４７】

図３９５（ｃ）に示すように、第二始動口扉２４１１Ｃが斜めに退避された退避異常状態にある場合に、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃは、複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対して下面視において任意の角度で傾斜するとともに、複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対して下面視において予め設定された第３の間隔よりも大きい間隔を有して前方に位置し、複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃは、第二始動口扉２４１１Ｃの後端縁部に対して下面視において任意の角度で傾斜するとともに、第二始動口扉２４１１Ｃの後端縁部に対して任意の間隔を有して後方に位置する位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での第二始動口扉２４１１Ｃの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｃを下面側から目視するとともに始動口ソレノイドのバネの付勢力に抗して第二始動口扉２４１１Ｃを後方へと押し込むことによって、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃが複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対して下面視において任意の角度で傾斜するとともに、複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対して下面視において予め設定された第３の間隔よりも大きい間隔を有して前方に位置し、複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃが第二始動口扉２４１１Ｃの後端縁部に対して下面視において任意の角度で傾斜するとともに、第二始動口扉２４１１Ｃの後端縁部に対して任意の間隔を有して後方に位置することを確認した場合に、第二始動口扉２４１１Ｃが始動口ソレノイドのバネの付勢力に抗して正常な退出状態に遷移困難であることを作業者に容易にかつ正確に視認させることができる。

【５９４８】

上述のように第二始動口扉２４１１Ｃの下面には、前後方向の後端部に遊技球Ｂの直径よりも小さい外径を有する複数の可動片側視認部２４５８Ｃが左右方向に並べて設けられ、ケース本体２４５３Ｃの下面部には、第二始動口扉２４１１Ｃ側かつ前後方向の後端部に遊技球Ｂの直径よりも小さい外径を有する複数の本体側視認部２４５９Ｂが左右方向に並べて設けられる態様では、パチンコ機１の製造工程での第二始動口扉２４１１Ｃの動作確認を行う作業者が複数の可動片側視認部２４５８Ｃや複数の本体側視認部２４５９Ｃを視標として、第二始動口扉２４１１Ｃが正常な進出状態と正常な退避状態に遷移可能か否かを作業者に容易にかつより正確に視認させることができる。よって、第二始動口扉２４１１Ｃの出退動作に不具合が生じることを未然に抑制し、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、遊技者や遊技ホール等に対するパチンコ機１の信頼性をより一層高めることができる。なお、本例の複数の可動片側視認部２４５８Ｃ及び複数の本体側視認部２４５９Ｃの態様は、例えば、大入賞口扉２４１３Ｃの下面に設けられる複数の可動片側視認部２４５８Ｃやケース本体２４５３Ｃの大入賞口扉２４１３Ｃ側に設けられる複数の本体側視認部２４５９Ｃの態様に適用されてもよい。また、本例では、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃや複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃについて説明したが、仮想線２４５７Ｃは、例えば、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの前端部や後端部を通過するものであってもよいし、複数の本体側視認部２４５９Ｃの前端部や後端部を通過するものであってもよく、大入賞口扉２４１３Ｃの状態を視認する作業者の作業効率の向上の観点から、任意に設定されることが望ましい。

【５９４９】

図３９６（ａ）乃至図３９６（ｄ）は、進出状態の大入賞口扉２４１３Ｃを示す第一進退動装置２４５２Ｃを下面視した概略図であり、いずれも可動片側視認部２４５８Ｃ及び本体側視認部２４５９Ｃの他の態様を示す。

【５９５０】

図３９６（ａ）に示すように、大入賞口扉２４１３Ｃの下面には、左右方向の中央部に遊技球Ｂの直径よりも小さい外径を有する複数の可動片側視認部２４５８Ｃが前後方向に並べて設けられ、ケース本体２４５３Ｃの下面部には、前後方向の中央部に遊技球Ｂの直径よりも大きい外径を有する複数の本体側視認部２４５９Ｂが左右方向に並べて設けられる態様であってもよい。本例では、複数の可動片側視認部２４５８Ｃ及び複数の本体側視認部２４５９Ｃを視標として、例えば、複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対する後方側の可動片側視認部２４５８Ｃの間隔を視認してもよいし、複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対する前方側の可動片側視認部２４５８Ｃの間隔を視認してもよく、大入賞口扉２４１３Ｃの進出状態及び退避状態が正常か否かを作業者に視認させることができるし、また、例えば、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対する複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃの傾きを視認し、該傾きが予め設定された角度（本例では直角）であるか否かによって大入賞口扉２４１３Ｃが斜めに進出された進出異常状態であるか否か又は大入賞口扉２４１３Ｃが斜めに退避された退避異常状態であるか否かを作業者に視認させることができる。

【５９５１】

図３９６（ｂ）に示すように、大入賞口扉２４１３Ｃの下面には、前後方向の中央部に遊技球Ｂの直径よりも小さい外径を有する複数の可動片側視認部２４５８Ｃが左右方向に並べて設けられ、ケース本体２４５３Ｃの下面部には、左右方向の一方側に遊技球Ｂの直径よりも大きい外径を有する複数の本体側視認部２４５９Ｂが前後方向に並べて設けられる態様であってもよい。本例では、複数の可動片側視認部２４５８Ｃ及び複数の本体側視認部２４５９Ｃを視標として、例えば、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対する後方側の本体側視認部２４５９Ｃの間隔を視認してもよいし、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対する前方側の本体側視認部２４５９Ｃの間隔を視認してもよく、大入賞口扉２４１３Ｃの進出状態及び退避状態が正常か否かを作業者に視認させることができるし、また、例えば、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対する複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃの傾きを視認し、該傾きが予め設定された角度（本例では直角）であるか否かによって大入賞口扉２４１３Ｃが斜めに進出された進出異常状態であるか否か又は大入賞口扉２４１３Ｃが斜めに退避された退避異常状態であるか否かを作業者に視認させることができる。

【５９５２】

図３９６（ｃ）に示すように、大入賞口扉２４１３Ｃの下面には、左右方向の一方の前端部及び左右方向の他方の後端部に遊技球Ｂの直径よりも小さい外径を有する複数の可動片側視認部２４５８Ｃが設けられ、ケース本体２４５３Ｃの下面部には、左右方向の一方の前端部及び左右方向の他方の後端部に遊技球Ｂの直径よりも小さい外径を有する複数の本体側視認部２４５９Ｂが設けられる態様であってもよい。本例では、複数の可動片側視認部２４５８Ｃ及び複数の本体側視認部２４５９Ｃを視標として、例えば、前方側の可動片側視認部２４５８Ｃに対する前方側の本体側視認部２４５９Ｃの間隔を視認してもよいし、後方側の可動片側視認部２４５８Ｃに対する後方側の本体側視認部２４５９Ｃの間隔を視認してもよく、大入賞口扉２４１３Ｃの進出状態及び退避状態が正常か否かを作業者に視認させることができるし、また、例えば、複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対する複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃの傾きを視認し、該傾きが予め設定された角度（本例では平行）であるか否かによって大入賞口扉２４１３Ｃが斜めに進出された進出異常状態であるか否か又は大入賞口扉２４１３Ｃが斜めに退避された退避異常状態であるか否かを作業者に視認させることができる。

【５９５３】

図３９６（ｄ）に示すように、大入賞口扉２４１３Ｃの下面には、前端部及び後端部に遊技球Ｂの直径よりも小さい外径を有する複数の可動片側視認部２４５８Ｃが左右方向に

並べて設けられ、ケース本体２４５３Ｃの下面部には、前端部及び後端部に遊技球Ｂの直径よりも小さい外径を有する複数の本体側視認部２４５９Ｂが左右方向に並べて設けられる態様であってもよい。本例では、複数の可動片側視認部２４５８Ｃ及び複数の本体側視認部２４５９Ｃを視標として、例えば、前方側の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対する前方側の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃの間隔を視認してもよいし、後方側の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対する後方側の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃの間隔を視認してもよく、大入賞口扉２４１３Ｃの進出状態及び退避状態が正常か否かを作業者に視認させることができるし、また、例えば、後方側の複数の可動片側視認部２４５８Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃに対する前方側の複数の本体側視認部２４５９Ｃの中心を通過する仮想線２４５７Ｃの傾きを視認し、該傾きが予め設定された角度（本例では平行）であるか否かによって大入賞口扉２４１３Ｃが斜めに進出された進出異常状態であるか否か又は大入賞口扉２４１３Ｃが斜めに退避された退避異常状態であるか否かを作業者に視認させることができる。

【５９５４】

上述のように大入賞口扉２４１３Ｃの下面に複数の可動片側視認部２４５８Ｃが設けられ、ケース本体２４５３Ｃに下面部に複数の本体側視認部２４５９Ｃが設けられる態様であっても、パチンコ機１の製造工程での大入賞口扉２４１３Ｃの動作確認を行う作業者に、複数の可動片側視認部２４５８Ｃ及び複数の本体側視認部２４５９Ｃを視標として、大入賞口扉２４１３Ｃが正常な進出状態と正常な退避状態に遷移可能か否かを容易にかつより正確に判断させることができる。よって、大入賞口扉２４１３Ｃの出退動作に不具合が生じることを未然に抑制し、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、遊技者や遊技ホール等に対するパチンコ機１の信頼性をより一層高めることができる。なお、大入賞口扉２４１３Ｃの下面に設けられる複数の可動片側視認部２４５８Ｃ及びケース本体２４５３Ｃに設けられる大入賞口扉２４１３Ｃ側の複数の本体側視認部２４５９Ｃの態様は、例えば、第二始動口扉２４１１Ｃの下面に設けられる複数の可動片側視認部２４５８Ｃやケース本体２４５３Ｃの第二始動口扉２４１１Ｃ側に設けられる複数の本体側視認部２４５９Ｃに適用されてもよい。

【５９５５】

本実施形態では、複数の可動片側視認部２４５８Ｃが下面に設けられた第二始動口扉２４１１Ｃ、複数の可動片側視認部２４５８Ｃが下面に設けられた大入賞口扉２４１３Ｃ、及び複数の本体側視認部２４５９Ｃが下面部に設けられたケース本体２４５３Ｃを備える第一進退動装置２４５２Ｃについて説明したが、第一進退動装置２４５２Ｃは、第二始動口扉２４１１Ｃ、大入賞口扉２４１３Ｃ、及びケース本体２４５３Ｃのうちの少なくとも１つに複数の視認部が設けられる態様であってもよく、複数の視認部を視標として第二始動口扉２４１１Ｃ又は大入賞口扉２４１３Ｃが正常な進出状態又は正常な退避状態へと遷移可能か否かを作業者に視認させることができる。

【５９５６】

また、本実施形態では、「★」という図の表記である視認部２４５８Ｃ、２４５９Ｃの態様について説明したが、視認部２４５８Ｃ、２４５９Ｃは、第二始動口扉２４１１Ｃや大入賞口扉２４１３Ｃの動作確認の際の視標となればよく形状が異なるものであってもよい。具体的には、視認部２４５８Ｃ、２４５９Ｃは、「●」という図の表記であってもよいし、「▲」という図の表記であってもよいし、「■」という図の表記であってもよいし、左右に延びる複数の線材が前後方向に所定の間隔で並べられた図の表記であってもよい。また、視認部２４５８Ｃ、２４５９Ｃは、「し」や「Ｕ」等の文字の表記であってもよい。なお、「●」という図の表記を用いる場合には、仮に遊技者が視認してしまった場合に、円形の表記である点から遊技球Ｂを想起させて何らかの誤解（例えば遊技球の発射態様に関する誤解等）が生じてしまう虞がある。この点を鑑みて、「●」という図の表記を用いる場合には、遊技球Ｂの直径（例えば１１ｍｍ）よりも小さい直径（例えば１～５ｍｍ）を最大幅とする「●」の表記で形成したり、一部が欠けた「●」の表記（例えば半円

状）で形成したりとしておくことで、遊技者に遊技球Ｂを想起させることをできるだけ回避するようにしておくことが望ましい。

【５９５７】

また、本例のように、第二始動口扉２４１１Ｃと大入賞口扉２４１３Ｃとがユニット化されている場合には特に、第一進退動装置２４５２Ｃ（第一アタッカユニット２４００Ｃ）を下面側から視認する作業の際に、第二始動口扉２４１１Ｃと大入賞口扉２４１３Ｃのいずれの部材であるか分かり難くなる虞があるため、第二始動口扉２４１１Ｃと大入賞口扉２４１３Ｃとで可動片側視認部２４５８Ｃの態様を異なる態様にしてもよく、作業員の認識間違いを防止することができ、第二始動口扉２４１１Ｃと大入賞口扉２４１３Ｃで可動片側視認部２４５８Ｃの態様を共通の態様にしてもよく、作業員の作業効率の向上を図ることができる。また、ケース本体２４５３Ｃの第二始動口扉２４１１Ｃ側と大入賞口扉２４１３Ｃ側とで本体側視認部２４５９Ｃの態様を異なる態様にしてもよく、作業員の認識間違いを防止することができ、ケース本体２４５３Ｃの第二始動口扉２４１１Ｃ側と大入賞口扉２４１３Ｃ側で本体側視認部２４５９Ｃの態様を共通の態様にしてもよく、作業員の作業効率の向上を図ることができる。

【５９５８】

また、本実施形態では、パチンコ機１の製造工程において、複数の可動片側視認部２４５８Ｃや複数の本体側視認部２４５９Ｃを視標として第二始動口扉２４１１Ｃや大入賞口扉２４１３Ｃの動作確認が実施される態様について説明したが、第二始動口扉２４１１Ｃや大入賞口扉２４１３Ｃの動作確認は、例えば、パチンコ機１が設置される遊技ホール等において、遊技盤５から取り外された第一進退動装置２４５２Ｃ（第一アタッカユニット２４００Ｃ）を下面側から視認することにより実施されてもよい。

【５９５９】

図３９７（ａ）は、役物入賞口扉２６１１Ｃが退避状態に遷移された第二進退動装置２６５２Ｃの一部を背面側から視た部分背面図であり、図３９７（ｂ）は、役物入賞口扉２６１１Ｃが退避異常状態に遷移された第二進退動装置２６５２Ｃの一部を背面側から視た部分背面図である。図３９８（ａ）は、役物入賞口扉２６１１Ｃが進出状態に遷移された第二進退動装置２６５２Ｃの一部を背面側から視た部分背面図であり、図３９８（ｂ）は、役物入賞口扉２６１１Ｃが進出異常状態に遷移された第二進退動装置２６５２Ｃの一部を背面側から視た部分背面図である。

【５９６０】

図３９７（ａ）乃至図３９８（ｂ）に示すように、役物入賞口扉２６１１Ｃの背面裏側（裏面）には、第二進退動装置２６５２Ｃの外部から視認可能な複数の可動片側視認部２６５８Ｃが設けられている。また、装飾カバー２６５０Ｃの装飾面２６５１Ｃの背面裏側（裏面）には、第二進退動装置２６５２Ｃの外部から視認可能な複数の本体側視認部２６５９Ｃが設けられている。複数の可動片側視認部２６５８Ｃ及び複数の本体側視認部２６５９Ｃは、第二アタッカユニット２６００Ｃが遊技盤５から取り外された状態で、又は第二進退動装置２６５２Ｃが第二アタッカユニット２６００Ｃから取り外された状態で、第二進退動装置２６５２Ｃの外部である第二進退動装置２６５２Ｃの背面側から視認可能に設けられている。なお、複数の可動片側視認部２６５８Ｃのうちの少なくとも１つの可動片側視認部２６５８Ｃは、役物入賞口扉２６１１Ｃが進出状態である場合の位置と役物入賞口扉２６１１Ｃが退避状態である場合の位置での変化量である距離をより大きくするとの観点から、役物入賞口扉２６１１Ｃの背面裏側（裏面）の先端側に設けられることが望ましい。

【５９６１】

本実施形態の可動片側視認部２６５８Ｃ及び本体側視認部２６５９Ｃは、役物入賞口扉２６１１Ｃの背面裏側（裏面）又は装飾カバー２６５０Ｃの装飾面２６５１Ｃの背面裏側（裏面）に設けられた「★」という図の表記である。可動片側視認部２６５８Ｃ及び本体側視認部２６５９Ｃは、役物入賞口扉２６１１Ｃの背面裏側（裏面）又は装飾カバー２６５０Ｃの装飾面２６５１Ｃの背面裏側（裏面）に印刷される態様であってもよいし、可動

片側視認部２６５８Ｃ又は本体側視認部２６５９Ｃが形成されたシール状のフィルム部材が役物入賞口扉２６１１Ｃの背面裏側（裏面）又は装飾カバー２６５０Ｃの装飾面２６５１Ｃの背面裏側（裏面）に貼り付けられる態様であってもよい。また、可動片側視認部２６５８Ｃ及び本体側視認部２６５９Ｃは、役物入賞口扉２６１１Ｃの背面裏側（裏面）又は装飾カバー２６５０Ｃの装飾面２６５１Ｃの背面裏側（裏面）を隆起させて凸状の形成痕で形成される態様であってもよいし、役物入賞口扉２６１１Ｃの背面裏側（裏面）又は装飾カバー２６５０Ｃの装飾面２６５１Ｃの背面裏側（裏面）を窪ませて凹状の形成痕で形成される態様であってもよい。なお、可動片側視認部２６５８Ｃ及び本体側視認部２６５９Ｃ自体の破損を回避する観点からすると、可動片側視認部２６５８Ｃ及び本体側視認部２６５９Ｃは、シール状のフィルム部材ではなく、印刷あるいは形成跡により役物入賞口扉２６１１Ｃ又は装飾カバー２６５０Ｃの装飾面２６５１Ｃに一体形成されるものであることが好ましい。

【５９６２】

図３９７（ａ）に示すように、役物入賞口扉２６１１Ｃが退避状態にあり遊技球Ｂと接触して遊技球Ｂが役物入賞口センサへと向かうことを規制する第二進退動装置２６５２Ｃの非入賞状態において、視標となる複数の可動片側視認部２６５８Ｃ及び複数の本体側視認部２６５９Ｃの位置関係は、例えば、複数の可動片側視認部２６５８Ｃの中心を通過する仮想線２６５７Ｃに対して複数の本体側視認部２６５９Ｃの中心を通過する仮想線２６５７Ｃの傾きが予め設定された角度（本例では平行）となっている。すなわち、役物入賞口扉２６１１Ｃの正常な退避状態としては、複数の可動片側視認部２６５８Ｃの「★」の表記の中心を通過する仮想線２６５７Ｃに対して複数の本体側視認部２６５９Ｃの「★」の表記の中心を通過する仮想線２６５７Ｃの傾きが平行となるように複数の可動片側視認部２４５８Ｃ及び複数の本体側視認部２４５９Ｃが配置されている。このため、役物入賞口扉２６１１Ｃを退避状態に動作させた際に、複数の可動片側視認部２６５８Ｃの「★」の表記の中心を通過する仮想線２６５７Ｃに対して複数の本体側視認部２６５９Ｃの「★」の表記の中心を通過する仮想線２６５７Ｃの傾きが平行とならない状態の場合には、役物入賞口扉２６１１Ｃの正常な退避状態ではなく、遊技進行に何らかの影響を与える虞のある異常を伴った退避状態ということになる。

【５９６３】

図３９８（ａ）に示すように、役物入賞口扉２６１１Ｃが進出状態にあり遊技球Ｂと接触して遊技球Ｂが役物入賞口センサへと向かうことを規制しない第二進退動装置２６５２Ｃの入賞状態においては、視標となる複数の可動片側視認部２６５８Ｃ及び複数の本体側視認部２６５９Ｃの位置関係は、例えば、複数の可動片側視認部２６５８Ｃの中心を通過する仮想線２６５７Ｃに対して複数の本体側視認部２６５９Ｃの中心を通過する仮想線２６５７Ｃの傾きが予め設定された角度（本例では直角）となっている。すなわち、役物入賞口扉２６１１Ｃの正常な進出状態としては、複数の可動片側視認部２６５８Ｃの「★」の表記の中心を通過する仮想線２６５７Ｃに対して複数の本体側視認部２６５９Ｃの「★」の表記の中心を通過する仮想線２６５７Ｃの傾きが直角となるように複数の可動片側視認部２４５８Ｃ及び複数の本体側視認部２４５９Ｃが配置されている。このため、役物入賞口扉２６１１Ｃを進出状態に動作させた際に、複数の可動片側視認部２６５８Ｃの「★」の表記の中心を通過する仮想線２６５７Ｃに対して複数の本体側視認部２６５９Ｃの「★」の表記の中心を通過する仮想線２６５７Ｃの傾きが直角とならない状態の場合には、役物入賞口扉２６１１Ｃの正常な進出状態ではなく、遊技進行に何らかの影響を与える虞のある異常を伴った進出状態ということになる。

【５９６４】

本実施形態のパチンコ機１では、役物入賞口扉２６１１Ｃが退避状態である場合に、複数の可動片側視認部２６５８Ｃの中心を通過する仮想線２６５７Ｃに対して複数の本体側視認部２６５９Ｃの中心を通過する仮想線２６５７Ｃの傾きが予め設定された角度（本例では平行）となる位置関係であることが第二進退動装置２６５２Ｃの背面側である外部から視認可能であり、役物入賞口扉２６１１Ｃが進出状態である場合に、複数の可動片側視

認部２６５８Ｃの中心を通過する仮想線２６５７Ｃに対して複数の本体側視認部２６５９Ｃの中心を通過する仮想線２６５７Ｃの傾きが予め設定された角度（本例では直角）となる位置関係であることが第二進退動装置２６５２Ｃの背面側である外部から視認可能であるため、遊技盤５から取り外された第二進退動装置２６５２Ｃを背面側から目視することにより、複数の可動片側視認部２６５８Ｃ及び複数の本体側視認部２６５９Ｃを視標として、役物入賞口扉２６１１Ｃが退避状態であるか否か又は役物入賞口扉２６１１Ｃが進出状態であるか否かを容易に確認することができる。よって、本実施形態のパチンコ機１では、パチンコ機１の製造工程での役物入賞口扉２６１１Ｃの動作確認を容易にでき、役物入賞口扉２６１１Ｃの出退動作に不具合が生じることを未然に抑制し、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、遊技者や遊技ホール等に対するパチンコ機１の信頼性を高めることができる。

【５９６５】

また、第二進退動装置２６５２Ｃ（第二アタッカユニット２６００Ｃ）が遊技盤５に取り付けられた後に、パチンコ機１を遊技する遊技者から視認容易であるのは装飾カバー２６５０Ｃの装飾面２６５１Ｃの前面や役物入賞口扉２６１１Ｃの前面であるのに対し、複数の可動片側視認部２６５８Ｃが設けられるのは役物入賞口扉２６１１Ｃの背面裏側（裏面）であり、複数の本体側視認部２６５９Ｃが設けられるのは装飾カバー２６５０Ｃの装飾面２６５１Ｃの背面裏側（裏面）であるため、仮に遊技者が第二進退動装置２６５２Ｃ（第二アタッカユニット２６００Ｃ）を前方から覗き込んだとしても、遊技者が複数の可動片側視認部２６５８Ｃや複数の本体側視認部２６５９Ｃを視認することを不可能或いは困難にでき、遊技者が複数の可動片側視認部２６５８Ｃや複数の本体側視認部２６５９Ｃを視認した際に第二アタッカユニット２６００Ｃの美観性やパチンコ機１の装飾性が損なわれることを抑制することができる。

【５９６６】

加えて、第二進退動装置２６５２Ｃ（第二アタッカユニット２６００Ｃ）が遊技盤５に取り付けられた後に、遊技球Ｂが接触するのは役物入賞口扉２６１１Ｃの左側の側面であるのに対し、本実施形態の複数の可動片側視認部２６５８Ｃ及び複数の本体側視認部２６５９Ｃが設けられるのは、役物入賞口扉２６１１Ｃの背面裏側（裏面）や装飾カバー２６５０Ｃの装飾面２６５１Ｃの背面裏側（裏面）であるため、複数の可動片側視認部２６５８Ｃ及び複数の本体側視認部２６５９Ｃを設けたとしても、複数の可動片側視認部２６５８Ｃ及び複数の本体側視認部２６５９Ｃ自体が遊技球Ｂの流下態様を阻害してしまうことを回避でき、複数の可動片側視認部２６５８Ｃ及び複数の本体側視認部２６５９Ｃ自体が遊技進行に不具合を与えることを抑制することができる。

【５９６７】

なお、第二進退動装置２６５２Ｃの背面からケース本体２６５３Ｃを介して目視される複数の可動片側視認部２６５８Ｃや複数の本体側視認部２６５９Ｃの視認性を高めるために、ケース本体２６５３Ｃやカバー体２６５４Ｃは透過性を有するように有色透明又は無色透明に形成する一方で、役物入賞口扉２６１１Ｃは透過性を有さないように有色不透明に形成し、有色不透明に形成した役物入賞口扉２６１１Ｃの背面裏側（裏面）に複数の可動片側視認部２６５８Ｃを設けるようにしてもよい。これにより、パチンコ機１の製造工程での複数の可動片側視認部２６５８Ｃや複数の本体側視認部２６５９Ｃを用いた役物入賞口扉２６１３Ｃの動作確認をより一層容易にできる。

【５９６８】

また、第二進退動装置２６５２Ｃは、退避状態に遷移された役物入賞口扉２６１１Ｃの進出動作を規制するロック機構を更に有して構成される態様であってもよく、役物入賞口扉２６１１Ｃに対する不正を抑制する効果を高めることができる。このような態様では、パチンコ機１の製造工程での役物入賞口扉２６１１Ｃの動作確認の際に、ロック機構によるロックを解除した後に作業者が遊技盤５から取り外された第二進退動装置２６５２Ｃを背面から目視するとともに、役物入賞口ソレノイドのバネの付勢力に抗して役物入賞口扉２６１１Ｃを左方へと引き出すことによって、役物入賞口扉２６１１Ｃが役物入賞口ソレ

ノイドのバネの付勢力に抗して正常な進出状態に遷移可能であるか否かが視認される。
【５９６９】
また、複数の可動片側視認部２６５８Ｃは、役物入賞口扉２６１１Ｃの背面裏側（裏面）であればいずれの位置に設けられてもよいし、可動片側視認部２６５８Ｃの外径はいずれの大きさで設けられてもよく、役物入賞口扉２６１１Ｃに設けられた複数の可動片側視認部２６５８Ｃを視標として、役物入賞口扉２６１１Ｃが進出状態であるか否か又は役物入賞口扉２６１１Ｃが退避状態であるか否かを容易に確認することができる。また、複数の本体側視認部２６５９Ｃは、装飾カバー２６５０Ｃの装飾面２６５１Ｃの背面裏側（裏面）であればいずれの位置に設けられてもよいし、本体側視認部２６５９Ｃの外径はいずれの大きさで設けられてもよく、装飾カバー２６５０Ｃの装飾面２６５１Ｃの背面に設けられた本体側視認部２６５９Ｃを視標として、役物入賞口扉２６１１Ｃが進出状態であるか否か又は役物入賞口扉２６１１Ｃが退避状態であるか否かを容易に確認することができる。以下、役物入賞口扉２６１１Ｃの各状態での複数の可動片側視認部２６５８Ｃと複数の本体側視認部２６５９Ｃとの位置関係について詳しく説明する。
【５９７０】
図３９７（ａ）乃至図３９８（ｂ）に示すように、役物入賞口扉２６１１Ｃの背面裏側（裏面）には、先端部及び基端部に遊技球Ｂの直径よりも小さい外径を有する複数の可動片側視認部２４５８Ｃが退避状態の役物入賞口扉２６１１Ｃの上下方向に並べて設けられ、装飾カバー２６５０Ｃの装飾面２６５１Ｃの背面裏側（裏面）には、背面視において退避状態の役物入賞口扉２６１１Ｃと少なくとも一部が重なる位置に遊技球Ｂの直径と略同等の外径を有する複数の本体側視認部２４５９Ｂが上下方向に並べて設けられている。本例の可動片側視認部２４５８Ｃや本体側視認部２４５９Ｃの外径は、視認容易性の観点から遊技球Ｂの直径よりも大きい態様であってもよいし、形成容易性の観点から遊技球Ｂの直径よりも小さい態様であってもよい。
【５９７１】
図３９７（ａ）に示すように、役物入賞口扉２６１１Ｃが退避状態にある場合に、複数の可動片側視認部２６５８Ｃの中心を通過する仮想線２６５７Ｃは、複数の本体側視認部２６５９Ｃの中心を通過する仮想線２６５７Ｃに対して傾きが予め設定された角度（本例では平行）となる位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での役物入賞口扉２６１１Ｃの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第二進退動装置２６５２Ｃを背面側から目視することによって、複数の可動片側視認部２６５８Ｃの中心を通過する仮想線２６５７Ｃが複数の本体側視認部２６５９Ｃの中心を通過する仮想線２６５７Ｃに対して傾きが予め設定された角度（本例では平行）となることを確認した場合に、役物入賞口扉２６１１Ｃが役物入賞口ソレノイドのバネの付勢力によって正常な退避状態に遷移可能であることを作業者に容易に視認させることができる。
【５９７２】
図３９７（ｂ）に示すように、役物入賞口扉２６１１Ｃが退避異常状態にある場合に、複数の可動片側視認部２６５８Ｃの中心を通過する仮想線２６５７Ｃは、複数の本体側視認部２６５９Ｃの中心を通過する仮想線２６５７Ｃに対して傾きが予め設定された角度（本例では平行）とは異なる位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での役物入賞口扉２６１１Ｃの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第二進退動装置２６５２Ｃを背面側から目視することによって、複数の可動片側視認部２６５８Ｃの中心を通過する仮想線２６５７Ｃが複数の本体側視認部２６５９Ｃの中心を通過する仮想線２６５７Ｃに対して傾きが予め設定された角度（本例では平行）とは異なることを確認した場合に、役物入賞口扉２６１１Ｃが役物入賞口ソレノイドのバネの付勢力によって正常な退避状態に遷移困難であることを作業者に視認させることができる。
【５９７３】
図３９８（ａ）に示すように、役物入賞口扉２６１１Ｃが進出状態にある場合に、複数の可動片側視認部２６５８Ｃの中心を通過する仮想線２６５７Ｃは、複数の本体側視認部２６５９Ｃの中心を通過する仮想線２６５７Ｃに対して傾きが予め設定された角度（本例

では直角）となる位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での役物入賞口扉２６１１Ｃの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第二進退動装置２６５２Ｃを背面側から目視するとともに、役物入賞口ソレノイドのバネの付勢力に抗して役物入賞口扉２６１１Ｃを左方へと引き出すことによって、複数の可動片側視認部２６５８Ｃの中心を通過する仮想線２６５７Ｃが複数の本体側視認部２６５９Ｃの中心を通過する仮想線２６５７Ｃに対して傾きが予め設定された角度（本例では直角）となることを確認した場合に、役物入賞口扉２６１１Ｃが役物入賞口ソレノイドのバネの付勢力に抗して正常な進出状態に遷移可能であることを作業者に視認させることができる。

【５９７４】

図３９８（ｂ）に示すように、役物入賞口扉２６１１Ｃが進出異常状態にある場合に、複数の可動片側視認部２６５８Ｃの中心を通過する仮想線２６５７Ｃは、複数の本体側視認部２６５９Ｃの中心を通過する仮想線２６５７Ｃに対して傾きが予め設定された角度（本例では直角）と異なる位置関係となる。このため本例では、パチンコ機１の製造工程での役物入賞口扉２６１１Ｃの動作確認の際に、作業者が遊技盤５から取り外された第二進退動装置２６５２Ｃを背面側から目視するとともに、役物入賞口ソレノイドのバネの付勢力に抗して役物入賞口扉２６１１Ｃを左方へと引き出すことによって、複数の可動片側視認部２６５８Ｃの中心を通過する仮想線２６５７Ｃが複数の本体側視認部２６５９Ｃの中心を通過する仮想線２６５７Ｃに対して傾きが予め設定された角度（本例では直角）と異なることを確認した場合に、役物入賞口扉２６１１Ｃが役物入賞口ソレノイドのバネの付勢力に抗して正常な進出状態に遷移困難であることを作業者に視認させることができる。

【５９７５】

上述のように役物入賞口扉２６１１Ｃの背面裏側（裏面）には、先端部及び基端部に遊技球Ｂの直径よりも小さい外径を有する複数の可動片側視認部２６５８Ｃが退避状態の役物入賞口扉２６１１Ｃの上下方向に並べて設けられ、装飾カバー２６５０Ｃの装飾面２６５１Ｃの背面裏側（裏面）には、背面視において退避状態の役物入賞口扉２６１１Ｃと少なくとも一部が重なる位置に遊技球Ｂの直径と略同等の外径を有する複数の本体側視認部２６５９Ｃが上下方向に並べて設けられる態様では、パチンコ機１の製造工程での役物入賞口扉２６１１Ｃの動作確認を行う作業者が複数の可動片側視認部２６５８Ｃや複数の本体側視認部２６５９Ｃを視標として、役物入賞口扉２６１１Ｃが正常な進出状態と正常な退避状態に遷移可能か否かを作業者に容易にかつより正確に視認させることができる。よって、役物入賞口扉２６１１Ｃの出退動作に不具合が生じることを未然に抑制し、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、遊技者や遊技ホール等に対するパチンコ機１の信頼性をより一層高めることができる。なお、本例では、複数の可動片側視認部２６５８Ｃの中心を通過する仮想線２６５７Ｃや複数の本体側視認部２６５９Ｃの中心を通過する仮想線２６５７Ｃについて説明したが、仮想線２６５７Ｃは、例えば、複数の可動片側視認部２６５８Ｃの左右方向の端部を通過するものであってもよいし、複数の本体側視認部２６５９Ｃの左右方向の端部を通過するものであってもよく、役物入賞口扉２６１１Ｃの状態を視認する作業者の作業効率の向上の観点から、任意に設定されることが望ましい。

【５９７６】

なお、可動片側視認部２６５８Ｃや本体側視認部２６５９Ｃは、本実施形態では、「★」という図の表記であるが、役物入賞口扉２６１１Ｃの動作確認の際の視標となればよく形状が異なるものであってもよい。具体的には、可動片側視認部２６５８Ｃや本体側視認部２６５９Ｃは、「●」という図の表記であってもよいし、「▲」という図の表記であってもよいし、「■」という図の表記であってもよいし、左右に延びる複数の線材が前後方向に所定の間隔で並べられた図の表記であってもよし、「し」や「Ｕ」等の文字の表記であってもよい。なお、「●」という図の表記を用いる場合には、仮に遊技者が視認してしまった場合に、円形の表記である点から遊技球Ｂを想起させて何らかの誤解（例えば遊技球の発射態様に関する誤解等）が生じてしまう虞がある。この点を鑑みて、「●」という図の表記を用いる場合には、遊技球Ｂの直径（例えば１１ｍｍ）よりも小さい直径（例え

ば１～５ｍｍ）を最大幅とする「●」の表記で形成したり、一部が欠けた「●」の表記（例えば半円状）で形成したりとしておくことで、遊技者に遊技球Ｂを想起させることをできるだけ回避するようにしておくことが望ましい。

【５９７７】

また、本実施形態では、パチンコ機１の製造工程において、役複数の可動片側視認部２６５８Ｃや複数の本体側視認部２６５９Ｃを視標として役物入賞口扉２６１１Ｃの動作確認が実施される態様について説明したが、役物入賞口扉２６１１Ｃの動作確認は、例えば、パチンコ機１が設置される遊技ホール等において、遊技盤５から取り外された第二進退動装置２６５２Ｃ（第二アタッカユニット２６００Ｃ）を背面側から視認することにより実施されてもよい。

【５９７８】

［主制御基板のテストポイントの変形例］

次に、主制御基板１３１０に形成されるテストポイント（テストピンやチェック端子ともいう）の変形例について説明する。なお、以下の変形例は、上記した他の実施形態と組み合わせて実行することが可能である。例えば、不正の判別容易性の向上１～不正の判別容易性の向上３や表面実装タイプの電子部品の剥離防止１～表面実装タイプの電子部品の剥離防止４のいずれか１つまたは複数と組み合わせて実行することが可能である。

【５９７９】

図３９９は、主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに形成されるテストポイントＴＰの近傍領域を示す拡大図である。図３９９（Ａ）に示すように、本例の主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘには、チェック端子としてのテストポイントＴＰが円形状に形成されている。上記したように本例では主制御基板１３１０に形成されるテストポイントＴＰのうち、少なくともグランド（ＧＮＤ）ライン及び電源ラインには、ランド形状のものではなく、ビアホール形状のテストポイントが形成されるようになっている。また、グランド（ＧＮＤ）ラインのテストポイントＴＰと電源ラインのテストポイントＴＰとにおいて、さらにランドの外形（大きさ）についても同一としてもよい。グランド（ＧＮＤ）ラインのテストポイントＴＰと電源ラインのテストポイントＴＰとを同一形状とすることで、グランド（ＧＮＤ）ラインのテストポイントであるか電源ラインのテストポイントであるかを容易に判別され難くすることができ、セキュリティが向上する。また、ビアホール形状のテストポイントＴＰとすることで電気検査を行う場合にスルーホール１３１０ｒ内にコンタクトプローブ（探針ともいう）の先端部の一部を挿入させることが可能になるため、チェック端子としてのビアホール形状のテストポイントＴＰに当接されたコンタクトプローブの先端部が滑り難くなり、短絡を防止できる。

【５９８０】

また、本例ではビアホール形状のテストポイントＴＰにおいて穴径を同一としている。そのため、グランド（ＧＮＤ）ラインのテストポイントＴＰであるか電源ラインのテストポイントＴＰであるかの判別がさらに困難となり、セキュリティが向上することに加えて、主制御基板１３１０のグランド（ＧＮＤ）ライン及び電源ラインに形成されるテストポイントＴＰに対して共通のコンタクトプローブを使用して電気検査を行うことが可能になり、作業性が向上する。また、ビアホール形状のテストポイントＴＰにおいて穴径を同一とする場合には、回路（グランド（ＧＮＤ）ラインや電源ライン）に流れる電流の大きさに応じて（比例して）所定数のテストポイントＴＰを形成するようにしてもよく、例えば大電流が流れる回路には複数個のテストポイントＴＰを形成してもよい。このように構成することにより、主制御基板１３１０の電気検査において電圧や波形、論理を確認する場合、特にグランドについてはどのテストポイントＴＰを基準に検査しても、同じ安定した測定結果が得られるようになる。

【５９８１】

また、主制御基板１３１０のグランド（ＧＮＤ）ラインと電源ラインとのうちの少なくとも一方に形成されるテストポイントＴＰの一部又は全部は、制御信号ラインに形成されるテストポイントＴＰよりも主制御基板１３１０に電源を供給するコネクタの近くに配置

される。このように構成することにより、主制御基板１３１０の電気検査において電圧や波形、論理を確認する場合に、グランド（ＧＮＤ）ラインや電源ラインのインピーダンスを極力低下させた状態で測定したり検査したりすることが可能になり、安定した測定や検査が可能になる。

【５９８２】

また、本例では主制御基板１３１０のグランド（ＧＮＤ）ラインに形成されるテストポイントＴＰと電源ラインに形成されるテストポイントＴＰとが、制御信号ラインに形成されるテストポイントＴＰの近隣に配置されないようになっている。これにより、例えば主制御基板１３１０の電気検査を手動で行う場合に、誤ってグランド（ＧＮＤ）ラインや電源ラインと制御信号ラインとが短絡されてしまうことを抑制し、グランド（ＧＮＤ）ラインや電源ラインと制御信号ラインとが短絡することにより主制御基板１３１０に実装される電子部品が故障することが防止される。

【５９８３】

また、制御信号ラインについてもグランド（ＧＮＤ）ライン及び電源ラインと同様にビアホール形状のテストポイントＴＰを形成するようにしてもよいし、ランド形状のテストポイントＴＰを形成するようにしてもよく、制御信号ラインについてもビアホール形状のテストポイントＴＰを形成する場合には、グランド（ＧＮＤ）ライン及び電源ラインに形成されるビアホール形状のテストポイントＴＰと穴径を同一にしてもよい。これにより、グランド（ＧＮＤ）ラインのテストポイントＴＰであるか電源ラインのテストポイントＴＰであるか制御信号ラインのテストポイントＴＰであるかの判別が困難になり、セキュリティが向上する。

【５９８４】

また、ビアホール形状のテストポイントＴＰにおいて、制御信号ラインについてもグランド（ＧＮＤ）ライン及び電源ラインに形成されるビアホール形状のテストポイントＴＰのランドの外形（大きさ）を同一としてもよい。この場合にも、グランド（ＧＮＤ）ラインのテストポイントＴＰであるか電源ラインのテストポイントＴＰであるか制御信号ラインのテストポイントＴＰであるかの判別が困難になり、セキュリティが向上する。

【５９８５】

［テストポイントの接触不良を解消する構成］

本例では、少なくともグランド（ＧＮＤ）ラインに形成されるビアホール形状のテストポイントＴＰのランドについて、ベタパターン（ベタグランドともいう）とテストポイントＴＰのランドとを電気的かつ物理的に接続するサーマルパターン１３１０ｖ（十字形状（一部が欠けているものでもよい）や×形状（一部が欠けているものでもよい）を有するパターン）を有するサーマルランド１３１０ｓ'として形成する。

【５９８６】

上記したようにサーマルランド１３１０ｓ'は、ベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））に設けられ、周囲の銅箔が除去された絶縁部１３１０ｗと、周囲の銅箔が残存するサーマルパターン１３１０ｖと、を備えて構成される。絶縁部１３１０ｗはランドの周囲の銅箔の一部が除去されることにより形成され、この絶縁部１３１０ｗによってサーマルパターン１３１０ｖが十字形状や×形状に形成される。サーマルランド１３１０ｓ'は、サーマルパターン１３１０ｖによって通常のランドよりもベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））との接触面積が小さくされている。このようにサーマルランド１３１０ｓ'では通常のランドよりもベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））との接触面積が小さくされるため、通常のランドと比べてベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））に熱が伝わり難くなり、電子部品をハンダ付けする際の温度低下が抑制され（放熱が抑制されて）、スルーホール１３１０ｒによって主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに付けられたハンダを主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘ側まで確実に吸い上げることができるようになる。

【５９８７】

従来、ビアホール形状のテストポイントＴＰのスルーホール１３１０ｒ内にコンタクト

プローブの先端部の一部を挿入させることにより行う電気検査では、コンタクトプローブの先端部の外周をビアホール形状のテストポイントＴＰのスルーホール１３１０ｒの内周角部に接触させて行う。そして、ビアホール形状のテストポイントＴＰのランドがサーマルパターン１３１０ｖを有しない通常のランドとして形成される場合には、通常のランドからベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））へ放熱するため電子部品をハンダ付けする際にランドの温度低下が起こりやすく、スルーホール１３１０ｒによって主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに付けられたハンダを主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘ側まで吸い上げることが困難である。そのため、ビアホール形状のテストポイントＴＰのランドがサーマルパターン１３１０ｖを有しない通常のランドとして形成される場合には、テストポイントＴＰのスルーホール１３１０ｒの内周角部がハンダで被覆されずにスルーホール１３１０ｒの内周部の銅メッキで形成される配線部が露出する。この場合には、電気検査においてテストポイントＴＰのスルーホール１３１０ｒ内にコンタクトプローブの先端部の一部を挿入させた場合に、コンタクトプローブの先端部がビアホール形状のテストポイントＴＰのスルーホール１３１０ｒの内周角部に当接し、スルーホール１３１０ｒの内周角部の配線部が破損するおそれがある。そして、ビアホール形状のテストポイントＴＰのスルーホール１３１０ｒの内周角部の配線部が破損することによって、電気検査においてコンタクトプローブとテストポイントＴＰとの接触不良が生じるため、正確な値を測定することが困難になるという問題がある。特にグランド（ＧＮＤ）ラインは各所電位の基準であるため、グランド（ＧＮＤ）ラインに形成されるテストポイントＴＰの配線部が破損して接触抵抗が発生した場合には、コンタクトプローブにより正確な測定値を得ることができないという問題がある。

【５９８８】

本例では主制御基板１３１０において、少なくともグランド（ＧＮＤ）ラインに形成されるビアホール形状のテストポイントＴＰのランドについて、ベタパターン（ベタグランドともいう）とテストポイントＴＰのランドとを電気的かつ物理的に接続するサーマルパターン１３１０ｖと、銅箔が除去された絶縁部１３１０ｗと、を有するサーマルランド１３１０ｓ'として形成することで電子部品をハンダ付けする際のサーマルランド１３１０ｓ'の温度低下が抑制されて、スルーホール１３１０ｒによって主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）に付けられたハンダを主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘ側まで確実に吸い上げることができるため、スルーホール１３１０ｒの内周角部の銅メッキで形成される配線部を吸い上げられたハンダで被覆させて保護することができるようになり、ビアホール形状のテストポイントＴＰのスルーホール１３１０ｒの内周角部の配線部分がコンタクトプローブの先端部と接触すること等によって破損することを抑止できる。

【５９８９】

また、ハンダは配線を構成する銅箔に比べて硬度が低く、粘性がある。そのため、コンタクトプローブが当接された場合にコンタクトプローブの先端部の形状に合致するように変形して、コンタクトプローブの先端部とハンダとが接触しやすくなる。またランドの銅箔の表面がハンダで覆われることによりランドの銅箔を保護して酸化を抑制できるため、コンタクトプローブとの接触不良が抑制されて正確な測定値を得ることが可能になる。

【５９９０】

なお、従来、ベタパターン（ベタグランドともいう）とランドとを電気的かつ物理的に接続するサーマルパターン１３１０ｖ（十字形状（一部が欠けているものでもよい）や×形状（一部が欠けているものでもよい）を有するパターン）と絶縁部１３１０ｗとを有するサーマルランド１３１０ｓ'は、電子部品の実装に用いられるスルーホール１３１０ｒのランドとして形成され、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに付けられたハンダを主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘ側まで確実に吸い上げてスルーホール１３１０ｒにリード線を挿入して実装面１３１０ｘにハンダ付けされる電子部品と、主制御基板１３１０の配線部と、の電気的な接続を良好にさせるために用いられる。

【５９９１】

本例では主制御基板１３１０に形成されるテストポイントＴＰのうち、少なくともグラ

ンド（ＧＮＤ）ライン及び電源ラインに形成されるテストポイントＴＰを、スルーホール１３１０ｒを有しないランド形状（パッド形状ともいう）のものではなく、スルーホール１３１０ｒを有するとともに電子部品の実装に用いられないビアホール形状とし、このテストポイントＴＰをサーマルパターン１３１０ｖと絶縁部１３１０ｗとを備えるように構成したため、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに付けられたハンダを主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘ側まで確実に吸い上げることを可能にし、ビアホール形状のテストポイントＴＰのスルーホール１３１０ｒ内の銅メッキで形成される配線部をハンダで被覆して保護することができるようになっている。これによってスルーホール１３１０ｒの内周角部の配線部の破損が抑止されて、コンタクトプローブとテストポイントＴＰとの接触不良を抑制できるため、正確な測定値を得ることができるようになる。また、本例のサーマルパターン１３１０ｖと絶縁部１３１０ｗとを備えるテストポイントＴＰは、電子部品の実装に用いられないため、従来の電子部品の実装に用いられるスルーホール１３１０ｒのランドとしてサーマルパターンと絶縁部とを備えるように構成したものに比べて大きさ（表面積）が小さい。ランドは表面積が小さいほど熱しやすい反面、冷めやすくなるため、電子部品の実装に用いられるスルーホール１３１０ｒのランドと比べて表面積が小さいテストポイントＴＰについて、サーマルパターン１３１０ｖと絶縁部１３１０ｗとを備えるように構成することにより、温度低下の抑制効果が高まり、ビアホール形状のテストポイントＴＰのスルーホール１３１０ｒ内の銅メッキで形成される配線部をハンダで被覆して保護することができる。

【５９９２】

また、本例では主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに、テストポイントＴＰを囲うＴＰ枠と、テストポイントＴＰであることを示すＴＰマークと、がベタ塗された緑色のレジスト上に白色の塗料でシルク印刷されている。これにより、製造時において主制御基板１３１０の検査を行う場合に、テストポイントＴＰの位置を特定し易くなり、作業性が向上する。なお、主制御基板１３１０がパチンコ機１に取り付けられた後にはテストポイントＴＰを用いて主制御基板１３１０の検査を行わない。つまり、主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘにシルク印刷されるテストポイントＴＰを囲うＴＰ枠と、テストポイントＴＰであることを示すＴＰマークと、は、主制御基板１３１０の製造時において基板を検査する際にのみ必要な情報であり、パチンコ機１に取り付けられた後には基板の検査が行われないため不必要な情報である。

【５９９３】

そのため、本例では主制御基板１３１０が主制御基板ボックス１３２０に収容された状態において、主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘにシルク印刷されるテストポイントＴＰに関わる情報のうちの少なくとも一部（主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘにシルク印刷されるテストポイントＴＰを囲うＴＰ枠の一部、またはテストポイントＴＰであることを示すＴＰマークの一部）が視認困難とされる。具体的には、ＴＰ枠やＴＰマークを正面視した場合に、これらの少なくとも一部（ＴＰ枠の一部またはＴＰマークの一部）と重複する主制御基板ボックス１３２０の部位に、シール（封印シールなど）を貼付したり、製造日や自社ロゴ等を刻印したり、射出成型において金型から取り出す際の押しピン（エジェクタピン）によるピン跡などが形成されるようになっている。これにより、主制御基板１３１０の製造時（主制御基板１３１０を主制御基板ボックス１３２０に収容する以前）においてはテストポイントＴＰの位置を容易に把握させることを可能にし、主制御基板１３１０をパチンコ機１に取り付けた状態（主制御基板１３１０を主制御基板ボックス１３２０に収容した状態）ではテストポイントＴＰの位置を把握困難にすることができ、セキュリティが向上する。

【５９９４】

なお、上記した例ではベタパターンに形成されるビアホール形状のテストポイントＴＰのランドを、サーマルパターン１３１０ｖを有するサーマルランド１３１０ｓ'として形成することに加えて、テストポイントＴＰの周囲に複数のビアホールが形成されるようになっている。ベタパターンにおいて複数のビアホールをテストポイントＴＰの周囲に形成

することで、電子部品をハンダ付けする際に主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙから主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに形成されるベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））に伝わる熱量を増大させることができ、ベタパターンの温度低下を抑制できる。これにより、ビアホール形状のテストポイントＴＰのサーマルランド１３１０ｓ'の周囲のベタパターンが温められて、テストポイントＴＰのサーマルランド１３１０ｓ'からベタパターンへの放熱をさらに抑制させることができるため、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに付けられたハンダをビアホール形状のテストポイントＴＰのスルーホール１３１０ｒ内に進入させやすくなる。

【５９９５】

また、複数のビアホールをテストポイントＴＰの周囲に形成することに加えて、テストポイントＴＰの周囲に形成される複数のビアホールのうちの所定数のビアホールを、サーマルランド１３１０ｓ'を備えるビアホールとして形成してもよいし、テストポイントＴＰの周囲にサーマルランド１３１０ｓ'を備えるビアホールを所定数（１個でもよいし、２個以上の複数でもよい）形成してもよい。上記したようにサーマルランド１３１０ｓ'はベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））とサーマルパターン１３１０ｖを介して電気的及び物理的に接続するものであるため、サーマルランド１３１０ｓ'からベタパターンに熱が伝わり難くなり、電子部品をハンダ付けする際に主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙから伝わった熱がサーマルランド１３１０ｓ'内にとどまって温度を上昇させる。そして、複数のサーマルランド１３１０ｓ'から徐々にベタパターンに熱が伝わり、ホール形状のテストポイントＴＰのサーマルランド１３１０ｓ'の周囲のベタパターンの温度が上昇する。これにより、テストポイントＴＰのサーマルランド１３１０ｓ'からベタパターンへの放熱をさらに抑制させることができるため、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに付けられたハンダをビアホール形状のテストポイントＴＰのスルーホール１３１０ｒ内に進入させやすくなる。

【５９９６】

また、上記した例ではビアホール形状のテストポイントＴＰのランドを、サーマルパターン１３１０ｖを有するサーマルランド１３１０ｓ'として形成することにより、電子部品をハンダ付けする際の温度低下を抑制してスルーホール１３１０ｒによって主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに付けられたハンダを主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘ側まで確実に吸い上げることを可能にし、ビアホール形状のテストポイントＴＰのスルーホール１３１０ｒ内の銅メッキで形成される配線部をハンダで被覆して保護するものを示したが、テストポイントＴＰを、スルーホール１３１０ｒを有しないランド形状またはスルーホール１３１０ｒを有してサーマルランド１３１０ｓ'を有しないビアホール形状とし、テストポイントＴＰの周囲に複数のスルーホールを形成してテストポイントＴＰの周囲に複数のスルーホール１３１０ｒを密集させるようにしてもよい。この場合には、スルーホール１３１０ｒが密集していない領域にテストポイントＴＰを形成する場合に比べて、主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘのうちのスルーホール１３１０ｒを密集させている領域においてベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））に伝わる熱量を増やすことが可能になり、これによって主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘのうちのテストポイントＴＰが形成される領域の温度低下を抑制して、ビアホール形状のテストポイントＴＰのスルーホール１３１０ｒ内の銅メッキで形成される配線部をハンダで被覆して保護することが可能である。この場合には、サーマルランドを作成することが困難な信号線などに設けられるテストポイントを、主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘのうちの複数のスルーホールが密集する領域に形成することで主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに付けられたハンダを主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘ側まで吸い上げ易くし、ビアホール形状のテストポイントＴＰのスルーホール１３１０ｒ内の銅メッキで形成される配線部をハンダで被覆して保護するようにしてもよい。

【５９９７】

また、グランド（ＧＮＤ）ラインに形成されるテストポイントＴＰについて、スルーホ

ール１３１０ｒを有しないパッド形状（ランド形状）とし、且つ電子部品が実装されないように構成し、さらにベタパターン（ベタグランドともいう）とテストポイントＴＰのパッドとを電気的かつ物理的に接続するサーマルパターンと、銅箔が除去された絶縁部と、を備えるサーマルパッドとして形成しても上記作用効果を奏することが可能である。すなわち、電子部品をハンダ付けする際のサーマルパッドの温度低下を抑制できるため、電子部品を実装する際、具体的にはリフロー炉で基板を加熱する際にサーマルパッド上にハンダペーストを塗っている場合には、このハンダペーストを確実に溶かしてサーマルパッドをハンダで被覆して保護することが可能になる。これにより、コンタクトプローブの先端部がサーマルパッドに接触すること等によって破損することを抑止できることに加え、サーマルパッドの銅箔の表面がハンダで覆われることにより、コンタクトプローブが当接された場合にコンタクトプローブの先端部の形状に合致するように変形してコンタクトプローブの先端部とハンダとが接触しやすくなるし、サーマルパッドの銅箔が保護されて酸化が抑制されるため、コンタクトプローブとの接触不良が抑制されて正確な測定値を得ることが可能になる。

【５９９８】

また、上記した例ではテストポイントＴＰを円形状に形成するものを示したが、円形状に限らず矩形状に形成するものであってもよい。なお、テストポイントＴＰを円形状に形成することにより、信号配線用のスルーホール等に紛れ込ませることができるため、セキュリティを向上させることが可能である。また、テストポイントＴＰを矩形状に形成した場合には角部を有することで、この角部が辺部分に比べて放熱しやすいため、テストポイントＴＰのランド部分やパッド部分に温度低下が起こりやすくなったり、温度にムラが発生しやすくなったりすることでハンダの溶着が不完全となるおそれが生じるのに対し、テストポイントＴＰを円形状に形成する場合には、放熱が均一に起こるため、テストポイントＴＰのランド部分やパッド部分の温度にムラが生じにくくなり、ハンダを確実に溶着させることができ、接触不良の発生を抑止できるという効果も奏する。

【５９９９】

［サーマルランドにより基板の剛性を強化する構成１］

次に、複数の電子部品、特に表面実装タイプの電子部品が実装され、且つベタパターン（ベタグランド）を有する基板（例えば主制御基板１３１０、周辺制御基板１５１０、払出制御基板６３３、電源基板６３０、ＬＥＤやドライバが実装される装飾基板等）において、基板の剛性を強化する方法について説明する。なお、以下では上記した実施形態と重複する部分についての説明を行わない。また、以下の変形例は、上記した他の実施形態と組み合わせて実行することが可能である。例えば、不正の判別容易性の向上１～不正の判別容易性の向上３や表面実装タイプの電子部品の剥離防止１～表面実装タイプの電子部品の剥離防止４のいずれか１つまたは複数と組み合わせて実行することが可能である。

【６０００】

上記テストポイントの接触不良を解消する構成において、スルーホール１３１０ｒを有しないランド形状（パッド形状ともいう）のものではなく、スルーホール１３１０ｒを有するとともに部品の実装に用いられないビアホール形状とし、ランドがサーマルパターン１３１０ｖを有するサーマルランド１３１０ｓ'として形成されるテストポイントＴＰを採用するものを示したが、本構成を基板の剛性を強化するために用いるようにしてもよい。

【６００１】

すなわち、テストポイントＴＰのランドを、サーマルパターン１３１０ｖを有するサーマルランド１３１０ｓ'として形成することにより、サーマルパターン１３１０ｖを有しない通常のランド１３１０ｓとして形成される場合に比べて主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに付けられたハンダをスルーホール１３１０ｒ内に進入させやすくなり、主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘ側まで確実に吸い上げてビアホール形状のテストポイントＴＰのスルーホール１３１０ｒ内にハンダを充填させることが可能であるため、主制御基板１３１０の剛性を強化することができる。

【６００２】
上記したように、従来、ベタパターン（ベタグランドともいう）とランドとを電気的かつ物理的に接続するサーマルパターン１３１０ｖ（十字形状（一部が欠けているものでもよい）や×形状（一部が欠けているものでもよい）を有するパターン）を有するサーマルランド１３１０ｓ'は、電子部品の実装に用いられるスルーホール１３１０ｒのランドとして形成することにより、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに付けられたハンダを主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘ側まで確実に吸い上げてスルーホール１３１０ｒにリード線を挿入して実装面１３１０ｘにハンダ付けされる電子部品と、主制御基板１３１０の配線部と、の電気的な接続を良好にさせるものであるが、本例では主制御基板１３１０に形成されるテストポイントＴＰのうち、少なくともグランド（ＧＮＤ）ライン及び電源ラインに形成されるテストポイントＴＰを、スルーホール１３１０ｒを有しないランド形状のものではなく、スルーホール１３１０ｒを有するとともに部品の実装に用いられないビアホール形状としたため、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに付けられたハンダを主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘ側まで確実に吸い上げてビアホール形状のテストポイントＴＰのスルーホール１３１０ｒ内にハンダを充填させることができるようになっている。これによって、主制御基板１３１０の剛性を強化することができるようになる。

【６００３】
また上記したように、主制御基板１３１０、周辺制御基板１５１０、払出制御基板６３３、電源基板６３０、ＬＥＤなどの発光体が実装される発光基板などには、表面実装タイプの電子部品が多数実装されている。表面実装タイプの電子部品は基板表面に形成されるパッドに接続端子をハンダ付けすることによって基板に固定されるため、スルーホール内にリード端子を挿入してこのリード端子をスルーホールやランドにハンダ付けすることによって基板に固定されるリードタイプ（挿入実装タイプ、スルーホール実装タイプ）の電子部品に比べて、横からの衝撃や基板の反りなどの変形に弱く、表面実装タイプの電子部品に対して横からの衝撃が加わった場合や基板に力が加わって反りが発生した場合には基板表面から剥がれ落ち（実装剥がれ）、遊技に関する制御に不具合が生じるおそれがある。

【６００４】
本例では上記した事情に鑑み、表面実装タイプの電子部品の剥がれ落ち（実装剥がれ）を抑制するように対策がなされている。以下、主制御基板１３１０に形成されるテストポイントＴＰによって基板の剛性を強化する構成について説明する。なお、主制御基板１３１０に限らず、少なくとも表面実装タイプの電子部品を実装する基板であれば本技術思想を適用可能である。

【６００５】
図３９９（Ａ）は、主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに形成されるテストポイントＴＰの近傍領域を示す拡大図であり、図３９９（Ｂ）は、主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに形成されるサーマルランド１３１０ｓ'を備えるテストポイントＴＰの拡大図であり、図３９９（Ｃ）は、主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに形成される通常のランド１３１０ｓを備えるスルーホール１３１０ｒの拡大図であり、図３９９（Ｄ）は、主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに形成されるテストポイントＴＰのサーマルランド１３１０ｓ'がハンダで被覆される状態を示す拡大図である。

【６００６】
図３９９（Ａ）及び図３９９（Ｂ）に示すように、本例の主制御基板１３１０では実装面１３１０ｘのグランド（ＧＮＤ）ラインに形成されるビアホール形状のテストポイントＴＰのランドについて、周囲の銅箔が除去された絶縁部１３１０ｗと、周囲の銅箔が残存し、この銅箔によってベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））とテストポイントＴＰのランドとを電気的かつ物理的に接続するサーマルパターン１３１０ｖ（十字形状（一部が欠けているものでもよい）や×形状（一部が欠けているものでもよい）を有するパターン）と、を有するサーマルランド１３１０ｓ'として形成する。

【６００７】
　また、図３９９（Ｃ）に示すようにベタパターンに形成される通常のランド１３１０ｓは周囲の銅箔が除去されることなく残存してベタパターンと一体的に形成されている。換言すると、ベタパターンに形成される通常のランド１３１０ｓは、ベタパターンと一体的に形成されるものであり、ベタパターンに形成されるスルーホール１３１０ｒを含む円形状の領域を、ソルダーレジストで被覆しないことによって区画される（ベタパターンのランド１３１０ｓを除く領域はソルダーレジストで被覆される）。そして、ベタパターンは主制御基板１３１０において広範囲に設けられるため熱され難く、これによってベタパターンに形成される通常のランド１３１０ｓからベタパターンに熱が伝わってランド１３１０ｓの温度が低下しやすくなるため、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに付けられたハンダをスルーホール１３１０ｒで吸い上げ難い。
【６００８】
　これに対し、サーマルランド１３１０ｓ'は、図３９９（Ｂ）に示すように、ランドの周囲の銅箔が除去された絶縁部１３１０ｗを有しており、銅箔が残存するサーマルパターン１３１０ｖによってベタパターンと電気的かつ物理的に接続されている。そのため、サーマルランド１３１０ｓ'ではベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））に熱が伝わり難くなり、電子部品をハンダ付けする際の温度低下が抑制される（放熱が抑制される）。
【６００９】
　これにより、ビアホール形状のテストポイントＴＰのサーマルランド１３１０ｓ'から、ベタグランドへ熱が伝わりにくくなり、サーマルパターン１３１０ｖを有しない通常のランド１３１０ｓに比べてサーマルランド１３１０ｓ'の温度低下を抑制できるため、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに付けられたハンダをビアホール形状のテストポイントＴＰのスルーホール１３１０ｒ内に進入させやすくなり、図３９９（Ｄ）に示すようにスルーホール１３１０ｒ内にハンダを充填させることが可能になることに加え、主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘのサーマルランド１３１０ｓ'やサーマルパターン１３１０ｖをハンダで被覆することが可能になる。なお、図３９９（Ｄ）ではハンダの被服状態を分かりやすくするためにソルダーレジストで被覆されている領域に対応するハッチングを表示しない。
【６０１０】
　そして、ビアホール形状のテストポイントＴＰのスルーホール１３１０ｒ内にハンダを充填させることにより、主制御基板１３１０の剛性を高めて反りや曲げを抑制することができるし、スルーホール１３１０ｒから溢れたハンダによって主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘのサーマルランド１３１０ｓ'やサーマルパターン１３１０ｖを被覆することにより、ハンダとスルーホール１３１０ｒ及びサーマルランド１３１０ｓ'並びにサーマルパターン１３１０ｖとの溶着が強固になる。これにより、主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに実装される表面実装タイプの電子部品の剥がれ落ち（実装剥がれ）を抑制することができる。
【６０１１】
　また、図３９９（Ａ）及び図３９９（Ｂ）に示すように本例では主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに、テストポイントＴＰを囲うＴＰ枠と、テストポイントＴＰであることを示すＴＰマークと、がベタ塗された緑色のレジスト上に白色の塗料でシルク印刷されている。また、主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘには、ＴＰ枠やＴＰマークの他に、実装される電子部品の部品番号、電子部品を配置する位置を示す領域等の電子部品の属性（さらに、電子部品の形状、電子部品の大きさ、電子部品の実装向き（実装方向）、電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表記部がベタ塗された緑色のレジスト上に白色の塗料でシルク印刷されている。
【６０１２】
　なお、表記部のうち、部品番号は実装されている電子部品の種別に応じた記号（例えばコンデンサを表す記号Ｃや抵抗を表す記号Ｒ等）と連番化された番号（例えば１～２０の

うち少ない数から連番で付与される番号など）との組み合わせによって構成される。一方、本例のテストポイントＴＰであることを示すＴＰマークは、図３９９（Ｂ）に示すようにテストポイントに応じた記号（この例ではＴ）と所定の番号（この例では１００）との組み合わせによって構成され、表記部の部品番号を構成する番号とは連番化されていないし、表記部の部品番号を構成する番号から離れた番号（例えば表記部の部品番号を構成する番号として１～３０のうち少ない数から連番で付与される場合に、テストポイントＴＰであることを示すＴＰマークを構成する番号として１桁多い番号や１００などのキリの良い番号で構成されるものや、ＴＰマークを構成する番号として１などの１桁の番号で構成し、表記部の部品番号を構成する番号として２桁以上の番号のうち少ない数から連番で付与されるもの等）を使用する。

【６０１３】

また、表記部では電子部品を配置する位置を示す領域を矩形状に形成する。一方、本例のテストポイントＴＰを囲うＴＰ枠は、円形状に形成される。

【６０１４】

これにより、主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘにシルク印刷されるＴＰ枠やＴＰマークを、表記部とは異なる特殊態様（特殊記号）で表記させることが可能になるため、主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘ上においてＴＰ枠やＴＰマークを見つけ出してテストポイントＴＰを特定し易くなり、検査時の作業性を向上させることができる。

【６０１５】

なお、本例ではテストポイントＴＰのＴＰマークをテストポイントに応じた記号と所定の番号との組み合わせで構成したが、所定の番号を含めることなく、テストポイントに応じた記号（例えば、Ｔ等）だけで構成するようにしてもよい。この場合にもＴＰマークを表記部の部品番号とは異なる特殊態様（特殊記号）で構成することができるため、主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘ上においてＴＰマークを見つけ出してテストポイントＴＰを特定し易くなり、検査時の作業性を向上させることができる。

【６０１６】

また、本例では主制御基板１３１０において実装面１３１０ｘのグランド（ＧＮＤ）ラインに形成されるビアホール形状のテストポイントＴＰのランドを、ベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））とテストポイントＴＰのランドとを電気的かつ物理的に接続するサーマルパターン１３１０ｖ（十字形状（一部が欠けているものでもよい）や×形状（一部が欠けているものでもよい）を有するパターン）を有するサーマルランド１３１０ｓ'として形成することに加えて、図３９９（Ａ）に示すように電子部品の実装に用いられていないスルーホールのランドを、サーマルパターン１３１０ｖを有するサーマルランド１３１０ｓ'として形成する。

【６０１７】

このように、本例ではビアホール形状のテストポイントＴＰを含む、電子部品の実装に用いられていない所定数のスルーホールが、サーマルパターン１３１０ｖを有するサーマルランド１３１０ｓ'を備えるように形成されるため、主制御基板１３１０の複数の部位の剛性を高めて反りや曲げを抑制することができ、これによって主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに実装される表面実装タイプの電子部品の剥がれ落ち（実装剥がれ）を抑制することができる。

【６０１８】

なお、ビアホール形状のテストポイントＴＰを複数設け、該複数のテストポイントＴＰのスルーホールを、サーマルパターン１３１０ｖを有するサーマルランド１３１０ｓ'を備えるように形成するようにしてもよいし、ビアホール形状のテストポイントＴＰを１つだけ設け、該テストポイントＴＰとは別に、サーマルパターン１３１０ｖを有するサーマルランド１３１０ｓ'を備え、且つ電子部品の実装に用いられていない所定数のスルーホールを備えるようにしてもよい。この場合にも主制御基板１３１０の複数の部位の剛性を高めて反りや曲げを抑制することができ、これによって主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに実装される表面実装タイプの電子部品の剥がれ落ち（実装剥がれ）を抑制するこ

とができる。
【６０１９】
　また、サーマルパターン１３１０ｖを有するサーマルランド１３１０ｓ'を備えるビアホール形状のテストポイントＴＰを少なくとも１つ備えるものであってもよく、この場合には主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘにおいて、電子部品が実装されていない領域等の剛性が低い領域や特定の電子部品が実装される等の剛性を高めたい特定領域にこのテストポイントＴＰを形成することにより、剛性を高めて特定領域における反りや曲げを抑制するようにしてもよい。
【６０２０】
　また、上記した例ではビアホール形状のテストポイントＴＰについて、サーマルパターン１３１０ｖを有するサーマルランド１３１０ｓ'を備えるように構成したが、テストポイントＴＰに限らず、電子部品の実装に用いられていないスルーホールについて、サーマルパターン１３１０ｖを有するサーマルランド１３１０ｓ'を備えるものであれば上記作用効果を奏することが可能である。
【６０２１】
［サーマルランドにより基板の剛性を強化する構成２］
　上記サーマルランドにより基板の剛性を強化する構成１では、電子部品の実装に用いられていない所定数のスルーホール（例えばテストポイントＴＰのスルーホール１３１０ｒ）について、サーマルパターン１３１０ｖを有するサーマルランド１３１０ｓ'を備えるように構成することにより、主制御基板１３１０の特定部位の剛性を高めて反りや曲げを抑制するものを示したが、上記に加えて、電子部品の実装に用いられているスルーホールについてもサーマルパターン１３１０ｖを有するサーマルランド１３１０ｓ'を備えるように構成することにより、主制御基板１３１０の特定部位の剛性を高めて反りや曲げを抑制するようにしてもよい。
【６０２２】
　例えば、上記サーマルランドにより基板の剛性を強化する構成１と同様の構成と表面実装タイプの電子部品の剥離防止１とを組み合わせて実行することにより、主制御基板１３１０の特定部位の剛性を高めて反りや曲げを抑制するようにしてもよい。以下、図４００を参照して説明する。
【６０２３】
　図４００は、主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘの一部領域を示す拡大図である。なお、以下では上記した実施形態と重複する部分についての説明を行わない。また、以下の変形例は、上記した他の実施形態と組み合わせて実行することが可能である。例えば、不正の判別容易性の向上１～不正の判別容易性の向上３や表面実装タイプの電子部品の剥離防止１～表面実装タイプの電子部品の剥離防止４のいずれか１つまたは複数と組み合わせて実行することが可能である。
【６０２４】
　図４００に示すように、本例では主制御基板１３１０に実装される表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１は、接続端子ＩＣ１ａが主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに形成されるパッド１３１０ｋにハンダ付けされ、表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１に対して、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａ（図３６４（Ａ）参照）を挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接（他の電子部品をはさむことなしに隣り合うように配置されるものであればよく、電子部品以外のスルーホールやランド１３１０ｓ、ビア、テストポイント等については設けられていてもよい）して、スルーホール１３１０ｒ内に２か所以上の折り曲げ部を有するようにフォーミングされたリード端子ＭＣ１ａ（本例では２か所の折り曲げ部を有するようにフォーミングされたリード端子ＭＣ１ａ）を挿入してこのリード端子ＭＣ１ａをスルーホール１３１０ｒやランド１３１０ｓにハンダ付けすることで基板に固定されるリードタイプ（挿入実装タイプ）のコンデンサＭＣ１が配置されている。
【６０２５】

上記したように、リード端子ＭＣ１ａは、鉄や銅またはそれらの合金からなり（銅メッキされた鉄線をさらに錫メッキしたＣＰ線や、錫メッキされたＣｕ線等）、所定の曲げ強度を有していることに加え、２か所以上の折り曲げ部を有するようにフォーミングされたリード端子ＭＣ１ａを用いることで、折り曲げ部を有していないか又は１か所の折り曲げ部を有するようにフォーミングされたリード端子に比べて強度が高くなっている。

【６０２６】

このように構成されるリードタイプ（挿入実装タイプ）のコンデンサＭＣ１をスルーホール１３１０ｒ内にリード端子ＭＣ１ａを挿入してこのリード端子ＭＣ１ａをスルーホール１３１０ｒやランド１３１０ｓにハンダ付けして主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに固定する（挿入実装する）ことにより、主制御基板１３１０の剛性を高め、反りなどの変形を抑制できる。なお、鉄は銅よりも曲げ強度が高いため、鉄又は鉄合金からなるリード端子ＭＣ１ａ（ＣＰ線）を有するコンデンサＭＣ１を用いることが望ましい。

【６０２７】

また、上記したように主制御基板１３１０では各種電子部品で構成される電子回路の安定動作を図ることを目的として、電源や信号のための配線パターン以外のグランドをいわゆるベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））で基板の両面に形成している。そして、リードタイプのコンデンサＭＣ１を主制御基板１３１０に実装する際に、グランド側のランドについて、周囲の銅箔が除去された絶縁部１３１０ｗと、周囲の銅箔が残存し、この銅箔によってベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））と電気的かつ物理的に接続するサーマルパターン１３１０ｖと、を有するサーマルランド１３１０ｓ'を採用している。

【６０２８】

これにより、電子部品を実装する際の温度低下が抑制され、リードタイプ（挿入実装タイプ）のコンデンサＭＣ１のリード端子ＭＣ１ａがスルーホール１３１０ｒ及びサーマルランド１３１０ｓ'に対して、通常のサーマルパターンを有しないランド１３１０ｓよりも強固に溶着することができるため、主制御基板１３１０の剛性が高まり、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制して、パチンコ機１の信頼性を向上させることができる。

【６０２９】

なお、上記した例では表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１に対して、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んでリードタイプ（挿入実装タイプ）のコンデンサＭＣ１を隣接配置するものを示したが、電子部品の実装に用いられているスルーホール１３１０ｒについて、サーマルパターン１３１０ｖを有するサーマルランド１３１０ｓ'を備えるように構成するものであれば、リードタイプ（挿入実装タイプ）のコンデンサＭＣ１に対して表面実装タイプの電子部品に隣接配置されるものに限られない。すなわち、表面実装タイプの電子部品から一定以上の距離を開けてリードタイプ（挿入実装タイプ）のコンデンサＭＣ１が配置されるものであってもよい。

【６０３０】

また、図４００に示すように、主制御基板１３１０では実装面１３１０ｘのグランド（ＧＮＤ）ラインに形成されるビアホール形状のテストポイントＴＰのランドについて、周囲の銅箔が除去された絶縁部１３１０ｗと、周囲の銅箔が残存し、この銅箔によってベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））と電気的かつ物理的に接続するサーマルパターン１３１０ｖ（十字形状（一部が欠けているものでもよい）や×形状（一部が欠けているものでもよい）を有するパターン）と、を有するサーマルランド１３１０ｓ'として形成する。

【６０３１】

そして、主制御基板１３１０では実装面１３１０ｘのグランド（ＧＮＤ）ラインに形成されるビアホール形状のテストポイントＴＰのランドを、サーマルパターン１３１０ｖを有するサーマルランド１３１０ｓ'として形成するため、主制御基板１３１０のハンダ面（裏面）１３１０ｙに付けられたハンダをビアホール形状のテストポイントＴＰのスルー

ホール１３１０ｒ内に進入させやすくなり、スルーホール１３１０ｒ内にハンダを充填させることが可能になり、ビアホール形状のテストポイントＴＰのスルーホール１３１０ｒ内にハンダを充填させることにより、主制御基板１３１０の剛性を高めて反りや曲げを抑制することができる。

【６０３２】

このように、リードタイプ（挿入実装タイプ）の電子部品のリード端子が挿入されてハンダ付けされるスルーホール１３１０ｒのうちの少なくとも１つ（グランド側のランド）が、サーマルランド１３１０ｓ'（電子部品の実装に用いられているサーマルランド１３１０ｓ'）を備えるように構成されるとともに、電子部品の実装に用いられていないスルーホールのランド（この例ではビアホール形状のテストポイントＴＰのランド）が、サーマルランド１３１０ｓ'（電子部品の実装に用いられていないスルーホール１３１０ｒのサーマルランド１３１０ｓ'）として形成されるため、主制御基板１３１０の剛性がさらに高まり、反りや曲げを抑制することができる。これにより、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制して、パチンコ機１の信頼性を向上させることができる。

【６０３３】

また、本例では主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘは、電子部品が密に設けられる密領域と、電子部品が疎に設けられていたり、電子部品がほとんど設けられていない疎領域と、を有し、電子部品の実装に用いられているサーマルランド１３１０ｓ'は密領域に形成され、電子部品の実装に用いられていないスルーホール１３１０ｒのサーマルランド１３１０ｓ'は疎領域に形成される。このように構成することにより、主制御基板１３１０において、密領域と疎領域との剛性を高めて主制御基板１３１０全体やサーマルランド１３１０ｓ'が形成される近傍の特定領域の剛性の均一化を図ることができ、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制して、パチンコ機１の信頼性を向上させることができる。

【６０３４】

［サーマルランドにより基板の剛性を強化する構成３］

上記サーマルランドにより基板の剛性を強化する構成２では、リードタイプ（挿入実装タイプ）の電子部品のリード端子が挿入されてハンダ付けされるスルーホール１３１０ｒのうちの少なくとも１つ（グランド側のランド）を、サーマルランド１３１０ｓ'（電子部品の実装に用いられているサーマルランド１３１０ｓ'）を備えるように構成するとともに、電子部品の実装に用いられていないスルーホールのランド（この例ではビアホール形状のテストポイントＴＰのランド）を、サーマルランド１３１０ｓ'（電子部品の実装に用いられていないスルーホール１３１０ｒのサーマルランド１３１０ｓ'）として形成することにより、主制御基板１３１０の全体やサーマルランド１３１０ｓ'が形成される近傍の特定領域の剛性を高めて、主制御基板１３１０の全体や特定領域の反りや曲げを抑制するものを示したが、リードタイプ（挿入実装タイプ）の電子部品の実装に用いられているサーマルランド１３１０ｓ'に限らず、表面実装タイプの電子部品の実装に用いられているパッドについて、サーマルパターンを有するサーマルパッドを備えるように構成した場合にも、主制御基板１３１０の特定部位の剛性を高めて反りや曲げを抑制することが可能である。以下、図４０１を参照して説明する。

【６０３５】

図４０１は、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘの一部領域を示す拡大図である。なお、以下では上記した実施形態と重複する部分についての説明を行わない。また、以下の変形例は、上記した他の実施形態と組み合わせて実行することが可能である。例えば、不正の判別容易性の向上１～不正の判別容易性の向上３や表面実装タイプの電子部品の剥離防止１～表面実装タイプの電子部品の剥離防止４のいずれか１つまたは複数と組み合わせて実行することが可能である。

【６０３６】

図４０１に示すように、本例では周辺制御基板１５１０に実装される表面実装タイプの

電子部品としてのチップ部品ＩＣ１は、接続端子ＩＣ１ａが周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッド１５１０ｋにハンダ付けされ、表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１に対して、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接（他の電子部品をはさむことなしに隣り合うように配置されるものであればよく、電子部品以外のスルーホールやランド、ビア、テストポイント等については設けられていてもよい）して、２つの電極ＭＣ１ａ'を周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成される２つのパッド１５１０ｋ、１５１０ｋ'それぞれにハンダ付けすることによって基板に固定される表面実装タイプのコンデンサＭＣ１'が配置されている。

【６０３７】

また、周辺制御基板１５１０では各種電子部品で構成される電子回路の安定動作を図ることを目的として、電源や信号のための配線パターン以外のグランドをいわゆるベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））で基板の両面に形成している。そして、表面実装タイプのコンデンサＭＣ１'を周辺制御基板１５１０に実装する際に、グランド側のパッドについて、周囲の銅箔が除去された絶縁部１５１０ｉと、周囲の銅箔が残存し、この銅箔によってベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））と電気的かつ物理的に接続するサーマルパターン１５１０ｖと、を有するサーマルパッド１５１０ｋ'を採用している。

【６０３８】

なお、表面実装タイプの電子部品の実装は、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるパッドにハンダペーストを塗り、その上に電子部品を載せてリフロー炉で加熱することによりハンダペーストを溶かして、電子部品をパッドに溶着させることにより行う。

【６０３９】

また、ベタパターンに形成される通常のパッド１５１０ｋは周囲の銅箔除去されることなく残存してベタパターンと一体的に形成されている。換言すると、ベタパターンに形成される通常のパッド１５１０ｋは、ベタパターンと一体的に形成されるものであり、ベタパターンのうちの特定の領域を含む円形状の領域を、ソルダーレジストで被覆しないことによって区画される（ベタパターンのパッド１５１０ｋを除く領域はソルダーレジストで被覆される）。そして、ベタパターンは周辺制御基板１５１０において広範囲に設けられるため熱され難く、これによってベタパターンに形成される通常のパッド１５１０ｋも熱され難くなって温度が上昇し難いため、周辺制御基板１５１０において通常のパッド１５１０ｋ上に塗られたハンダペーストが溶け難くなるおそれがある。

【６０４０】

これに対し、サーマルパッド１５１０ｋ'は、パッドの周囲の銅箔が除去された絶縁部１５１０ｉを有しており、銅箔が残存するサーマルパターン１５１０ｖによってベタパターンと電気的かつ物理的に接続されている。また、サーマルパッド１５１０ｋ'はベタパターンに比べて格段に狭い範囲にしか設けられていない。そのため、リフロー炉で加熱された場合にサーマルパッド１５１０ｋ'の温度が上昇しやすくなり、さらにサーマルパッド１５１０ｋ'からベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））に熱が伝わり難いため、電子部品をハンダ付けする際の温度低下が抑制される（放熱が抑制される）。また、電子部品を実装する際に、電子部品が実装されないサーマルパッド１５１０ｋ'について事前にハンダペーストを塗るようにしてもよく、この場合には、リフロー炉で加熱した場合に周辺制御基板１５１０においてサーマルパッド１５１０ｋ'上に塗られたハンダペーストが溶け易い。

【６０４１】

これにより、絶縁部１５１０ｉとサーマルパターン１５１０ｖを有しない通常のパッド１５１０ｋに比べてサーマルパッド１５１０ｋ'の温度が上昇しやすくなるため、周辺制御基板１５１０においてサーマルパッド１５１０ｋ'上に塗られたハンダペーストが溶けやすくなり、サーマルパッド１５１０ｋ'上に塗られたハンダペーストを完全に溶かした

状態で表面実装タイプの電子部品を溶着させることができる。
【６０４２】
表面実装タイプのコンデンサＭＣ１'の電極ＭＣ１ａ'がサーマルパッド１５１０ｋ'に対して、通常のサーマルパターンを有しないパッド１５１０ｋよりも強固に溶着されるため、周辺制御基板１５１０の剛性が高まり、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制して、パチンコ機１の信頼性を向上させることができる。なお、主制御基板１３１０についても、電子部品が実装されないサーマルパッドを設けるようにしてもよく、この場合には、主制御基板１３１０については電子部品を実装する際に、電子部品が実装されないサーマルパッドについてハンダペーストを塗らないようにし、周辺制御基板１５１０については電子部品を実装する際に、電子部品が実装されないサーマルパッド１５１０ｋ'について事前にハンダペーストを塗ることでサーマルパッド１５１０ｋ'の銅箔をハンダで被覆して保護するようにしてもよいし、主制御基板１３１０については電子部品を実装する際に、電子部品が実装されないサーマルパッドについて事前にハンダペーストを塗ることでサーマルパッドの銅箔をハンダで被覆して保護するようにしてもよいし、周辺制御基板１５１０については電子部品を実装する際に、電子部品が実装されないサーマルパッド１５１０ｋ'についてハンダペーストを塗らないようにしてもよい。また、このように構成されるサーマルパッドを、テストポイントＴＰとして用いるようにしてもよい。すなわち、ハンダで被覆して保護されるテストポイントＴＰとハンダで被覆されないテストポイントとの一方を主制御基板１３１０に設け、他方を周辺制御基板１５１０に設けるようにしてもよいし、両方を主制御基板１３１０に設け、一方を周辺制御基板１５１０に設けるようにしてもよいし、一方を主制御基板１３１０に設け、両方を周辺制御基板１５１０に設けるようにしてもよい。
【６０４３】
また、上記した例では表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１に対して、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで表面実装タイプのコンデンサＭＣ１'を隣接配置するものを示したが、電子部品の実装に用いられているパッドについて、サーマルパターン１５１０ｖを有するサーマルパッド１５１０ｋ'を備えるように構成するものであれば、表面実装タイプのコンデンサＭＣ１'に対して表面実装タイプの電子部品に隣接配置されるものに限られない。すなわち、表面実装タイプの電子部品から一定以上の距離を開けて表面実装タイプのコンデンサＭＣ１'が配置されるものであってもよい。
【６０４４】
また、図４０１に示すように、周辺制御基板１５１０では表面（実装面）１５１０ｘのグランド（ＧＮＤ）ラインに形成されるビアホール形状のテストポイントＴＰのランドについて、ベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））とテストポイントＴＰのランドとを電気的かつ物理的に接続するサーマルパターン１５１０ｖ（十字形状（一部が欠けているものでもよい）や×形状（一部が欠けているものでもよい）を有するパターン）を有するサーマルランド１５１０ｇ'として形成する。
【６０４５】
そして、周辺制御基板１５１０では表面（実装面）１５１０ｘのグランド（ＧＮＤ）ラインに形成されるビアホール形状のテストポイントＴＰのランドを、サーマルパターン１５１０ｖを有するサーマルランド１５１０ｇ'として形成するため、表面実装タイプの電子部品をハンダ付けする際に周辺制御基板１５１０のサーマルランド１５１０ｇ'に塗られたハンダペーストが溶け易くなり、サーマルパターン１５１０ｖを有しない通常のランド１５１０ｆとして形成される場合に比べて表面実装タイプの電子部品を周辺制御基板の表面（実装面）１５１０ｘに強固に溶着させることができ、周辺制御基板１５１０の剛性を高めて反りや曲げを抑制して、パチンコ機１の信頼性を向上させることができる。
【６０４６】
このように、表面実装タイプの電子部品の電極がハンダ付けされるパッドのうちの少なくとも１つ（グランド側のランド）が、サーマルパッド１５１０ｋ'（電子部品の実装に

用いられているサーマルパッド１５１０ｋ'）を備えるように構成されるとともに、電子部品の実装に用いられていないスルーホールのランド（この例ではビアホール形状のテストポイントＴＰのランド）が、サーマルランド１５１０ｇ'（電子部品の実装に用いられていないサーマランド１５１０ｇ'）として形成されるため、周辺制御基板１５１０の剛性がさらに高まり、反りや曲げを抑制することができる。これにより、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制して、パチンコ機１の信頼性を向上させることができる。

【６０４７】

また、本例では周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘは、電子部品が密に設けられる密領域と、電子部品が疎に設けられていたり、電子部品がほとんど設けられていない疎領域と、を有し、電子部品の実装に用いられているサーマルパッド１５１０ｋ'は密領域に形成され、電子部品の実装に用いられていないスルーホール１５１０ｒのサーマルランド１５１０ｇ'は疎領域に形成される。このように構成することにより、周辺制御基板１５１０において、密領域と疎領域との剛性を高めて周辺制御基板１５１０全体やサーマルパッド１５１０ｋ'とサーマルランド１５１０ｇ'とが形成される近傍の特定領域の剛性の均一化を図ることができ、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制して、パチンコ機１の信頼性を向上させることができる。

【６０４８】

なお、上記した例では電子部品の実装に用いられているサーマルパッド１５１０ｋ'と電子部品の実装に用いられていないスルーホール１５１０ｒのサーマルランド１５１０ｇ'により周辺制御基板１５１０の剛性を高めるものを示したが、電子部品の実装に用いられているサーマルパッド１５１０ｋ'と電子部品の実装に用いられていないスルーホール１５１０ｒのサーマルパッド１５１０ｋ'によっても周辺制御基板１５１０の剛性を高めるようにしてもよい。すなわち、上記サーマルランドにより基板の剛性を強化する構成３においてサーマルランド１５１０ｇ'に関する部分をサーマルパッド１５１０ｋ'に関するものに読み替えた場合でも周辺制御基板１５１０の剛性を高めることが可能である。

【６０４９】

また、図４０１に示すように上記電子部品の実装に用いられているサーマルパッド１５１０ｋ'は、矩形状に形成され、電子部品の実装に用いられていないスルーホール１５１０ｒのサーマルランド１５１０ｇ'は、円形状に形成される（電子部品の実装に用いられていないサーマルパッド１５１０ｋ'でも同じ）。矩形状のサーマルパッド１５１０ｋ'ではサーマルパターン１５１０ｖが辺部分に形成されて角部を有するのに対し、円形状のサーマルランド１５１０ｇ'は角部を有していない。また、角部は辺部分に比べて放熱しやすくなるため、矩形状のサーマルパッド１５１０ｋ'は、サーマルパッド１５１０ｋ'の温度分布にムラが発生しやすい。一方、角部を有しない丸形状（円形状）のサーマルランド１５１０ｇ'は放熱が外周全体から均一に行われるようになるため、温度分布にムラが発生しにくくなり、ハンダが不完全に溶融される領域が発生することが抑止されるため、ハンダを確実に溶着させることができ、特定制御基板の剛性が高まる。

【６０５０】

図４０１に示すように本例では電子部品の実装に用いられていないスルーホール１５１０ｒのサーマルランド１５１０ｇ'のうちの１つをテストポイントＴＰとして用いている。なお、電子部品の実装に用いられていないスルーホール１５１０ｒのサーマルランド１５１０ｇ'に替えて電子部品の実装に用いられていないサーマルパッド１５１０ｋ'を形成する場合にも、電子部品の実装に用いられていないサーマルパッド１５１０ｋ'のうちの少なくとも１つをテストポイントＴＰとして用いるようにしてよい。

【６０５１】

また、この場合には電子部品の実装時に、テストポイントＴＰとして用いる電子部品の実装に用いられていないスルーホール１５１０ｒのサーマルランド１５１０ｇ'については、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙに付けられたハンダをビアホール形状のテストポイントＴＰのスルーホール１５１０ｒ内に進入させやすくなり、スルー

ホール１５１０内にハンダを充填させるとともに、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘのサーマルランド１５１０ｇ'やサーマルパターン１５１０ｖをハンダで被覆される。また、電子部品の実装に用いられていないスルーホール１５１０ｒのサーマルランド１５１０ｇ'に替えて電子部品の実装に用いられていないサーマルパッド１５１０ｋ'を形成してテストポイントＴＰとして用いる場合にも、サーマルパッド１５１０ｋ'にハンダペーストを塗り、その上に電子部品を載せることなしにリフロー炉で加熱することにより、サーマルパッド１５１０ｋ'をハンダで被覆するようにしてもよい。これにより、サーマルランド１５１０ｇ'を備えるテストポイントＴＰやサーマルパッド１５１０ｋ'を備えるテストポイントＴＰの銅箔部がハンダで覆われるため、コンタクトプローブが当接するテストポイントＴＰの部位の酸化や、コンタクトプローブとの接触不良を抑制でき、検査において正確な測定値を得ることができるようになる。なお、テストポイントＴＰに用いられていないサーマルパッド１５１０ｋ'についてもハンダで被覆するようにしてもよい。

【６０５２】

上記したように電子部品の実装に用いられていないスルーホール１５１０ｒのサーマルランド１５１０ｇ'を備えるテストポイントＴＰや電子部品の実装に用いられていないサーマルパッド１５１０ｋ'を備えるテストポイントＴＰは、いずれも丸形状（円形状）に形成される。丸形状（円形状）のサーマルランド１５１０ｇ'やサーマルパッド１５１０ｋ'は矩形状のサーマルパッド１５１０ｋ'に比べて放熱効果にムラが生じにくいため、被覆されるハンダの厚みの均一化を図ることが可能である。電子部品の実装に用いられていないスルーホール１５１０ｒのサーマルランド１５１０ｇ'を備えるテストポイントＴＰや電子部品の実装に用いられていないサーマルパッド１５１０ｋ'を備えるテストポイントＴＰにおいて、ハンダを均一に被覆させることにより、検査での測定値のブレが抑制され、正確な測定値を得ることができる。

【６０５３】

また、スルーホールを有しないサーマルパッドを丸形状（円形状）にすれば、そもそもサーマルパッドは平らな面でありスルーホール内にハンダを充填させる必要はなく平らな面の上にハンダペーストを塗ってから溶かし固めるため、同じ大きさの丸形状（円形状）のサーマルパッドを複数設ける場合であっても、それぞれ個々に被覆されたハンダの厚みを見てもばらつき無くほぼ一定であるため、どのテストポイントＴＰからでも正確な測定値を得ることが可能になる。

【６０５４】

また、電子部品の実装に用いられていないスルーホール１５１０ｒのサーマルランド１５１０ｇ'を備えるテストポイントＴＰや電子部品の実装に用いられていないサーマルパッド１５１０ｋ'を備えるテストポイントＴＰの周囲に電子部品の実装に用いられていない複数のビアホールや電子部品の実装に用いられていない複数のパッドを形成するようにしてもよい。この場合には、電子部品をハンダ付けする際にベタパターンにおいてテストポイントＴＰの周囲に形成される複数のビアホールや複数のパッドから周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））に伝わる熱量を増大させることができ、ベタパターンの温度低下を抑制できる。これにより、電子部品の実装に用いられていないスルーホール１５１０ｒのサーマルランド１５１０ｇ'を備えるテストポイントＴＰや電子部品の実装に用いられていないサーマルパッド１５１０ｋ'を備えるテストポイントＴＰの周囲のベタパターンが温められて、テストポイントＴＰのサーマルランド１５１０ｇ'やサーマルパッド１５１０ｋ'からベタパターンへの放熱をさらに抑制させることができる。

【６０５５】

なお、上記した例ではテストポイントＴＰとしての電子部品の実装に用いられていないサーマルパッド１５１０ｋ'を周辺制御基板１５１０に設けるものを示したが、主制御基板１３１０にテストポイントＴＰとして電子部品の実装に用いられていないサーマルパッド（スルーホールを有しないもの）を設けるようにしてもよいし、主制御基板１３１０に

テストポイントＴＰとしての電子部品の実装に用いられていないサーマルランド（スルーホールを有するもの）と、テストポイントＴＰとしての電子部品の実装に用いられていないサーマルパッド（スルーホールを有しないもの）と、を設けるようにしてもよい。また、周辺制御基板１５１０にテストポイントＴＰとして電子部品の実装に用いられていないサーマルランド（スルーホールを有するもの）を設けるようにしてもよいし、周辺制御基板１５１０にテストポイントＴＰとしての電子部品の実装に用いられていないサーマルランド（スルーホールを有するもの）と、テストポイントＴＰとしての電子部品の実装に用いられていないサーマルパッド（スルーホールを有しないもの）と、を設けるようにしてもよい。また、テストポイントＴＰは、周辺制御基板１５１０に設ける場合同様、矩形状に比べて放熱効果にムラが生じにくい丸形状（円形状）に形成したものにするとよい。

【６０５６】

［サーマルランドにより基板の剛性を強化する構成４］

上記したサーマルランドにより基板の剛性を強化する構成１～３では、グランド（ＧＮＤ）ラインや電源ラインに形成されるテストポイントについて説明したが、これらの１つまたは任意の複数の組み合わせに加えて、信号ラインに形成されるテストポイントについての下記の構成を採用してもよい。なお、以下では主制御基板１３１０について説明するが、信号ラインのテストポイントＴＰが形成される基板（例えば主制御基板１３１０、周辺制御基板１５１０、払出制御基板６３３等）であれば本技術思想を適用可能である。図４０２を参照して説明する。

【６０５７】

図４０２は変形例における主制御基板１３１０の信号ラインに形成されるテストポイントＴＰの一例を示す拡大図であり、図４０２（Ａ）は主制御基板１３１０の信号ラインに形成されて電子部品の実装に用いられていない通常のランド１３１０ｓを備えるテストポイントＴＰの一例を示す拡大図であり、図４０２（Ｂ）は信号ラインに形成されて電子部品の実装に用いられていない通常のパッド１３１０ｋを備えるテストポイントＴＰの一例を示す拡大図である。なお、以下では上記した実施形態と重複する部分についての説明を行わない。また、以下の変形例は、上記した他の実施形態と組み合わせて実行することが可能である。例えば、不正の判別容易性の向上１～不正の判別容易性の向上３や表面実装タイプの電子部品の剥離防止１～表面実装タイプの電子部品の剥離防止４のいずれか１つまたは複数と組み合わせて実行することが可能である。

【６０５８】

図４０２（Ａ）に示すように、本例のテストポイントＴＰは、信号ラインに形成されて電子部品の実装に用いられていないスルーホール１３１０ｒ（ランド１３１０ｓ）を備えている。また、本例のテストポイントＴＰは、円形状に形成され、サーマルパターンを有していない通常のランド１３１０ｓを備える。

【６０５９】

そして、この例ではランド１３１０ｓは、外周縁部１３１０ｓ１が主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘにベタ塗される絶縁被膜である緑色のソルダーレジストにより覆われ、信号ラインの銅箔の一部のみが露出する。この例では、テストポイントＴＰとして用いられるため、ランド１３１０ｓにコンタクトプローブを当接させる必要があり、ランド１３１０ｓの少なくとも一部についてはソルダーレジストで覆われることなく銅箔が露出される。

【６０６０】

このように構成することにより、主制御基板１３１０の湾曲や撓みを抑制することに加え、主制御基板１３１０に形成される信号ラインの断線や剥離を防止することができる。

【６０６１】

すなわち、信号ラインのランド１３１０ｓの外周縁部１３１０ｓ１から中央方向の一定範囲をソルダーレジストで覆うため、主制御基板１３１０が湾曲したり撓んだりした場合であっても信号ラインのテストポイントＴＰのランド１３１０ｓの外周縁部１３１０ｓから銅箔部が剥離することを抑制できる。

【６０６２】
これにより、主制御基板１３１０の剛性を高めて反りや曲げを抑制して、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制でき、パチンコ機１の信頼性を向上させることができることに加えて、主制御基板１３１０が湾曲したり撓んだりした場合であってもこれら湾曲や撓みが所定の範囲であればテストポイントＴＰのランド１３１０ｓの銅箔部の剥離を抑制できるようになり、検査を正確に実施することが可能になるため、遊技機の信頼性を向上させることができる。
【６０６３】
同様に、図４０２（Ｂ）に示すように、信号ラインに形成されて電子部品の実装に用いられていないパッド１３１０ｋを備えるテストポイントＴＰは、円形状に形成され、サーマルパターンを有していない通常のパッド１３１０ｋを備える。
【６０６４】
そして、この例ではパッド１３１０ｋは、外周縁部１３１０ｓ１が主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘにベタ塗される絶縁被膜である緑色のソルダーレジストにより覆われ、信号ラインの銅箔の一部のみが露出する。この例では、テストポイントＴＰとして用いられるため、パッド１３１０ｋにコンタクトプローブを当接させる必要があり、パッド１３１０ｋの少なくとも一部についてはソルダーレジストで覆われることなく銅箔が露出される。
【６０６５】
このように構成することにより、主制御基板１３１０の湾曲や撓みを抑制することに加え、主制御基板１３１０に形成される信号ラインの断線や剥離を防止することができる。
【６０６６】
すなわち、信号ラインのパッド１３１０ｋの外周縁部１３１０ｋ１から中央方向の一定範囲をソルダーレジストで覆うため、主制御基板１３１０が湾曲したり撓んだりした場合であっても信号ラインのテストポイントＴＰのパッド１３１０ｋの外周縁部１３１０ｋ１から銅箔部が剥離することを抑制できる。
【６０６７】
これにより、主制御基板１３１０の剛性を高めて反りや曲げを抑制して、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制でき、パチンコ機１の信頼性を向上させることができることに加えて、主制御基板１３１０が湾曲したり撓んだりした場合であってもこれら湾曲や撓みが所定の範囲であればテストポイントＴＰのパッド１３１０ｋの銅箔部の剥離を抑制できるようになり、検査を正確に実施することが可能になるため、遊技機の信頼性を向上させることができる。
【６０６８】
また、図４０２（Ａ），（Ｂ）に示すように、本例ではテストポイントＴＰを囲うように設けられるＴＰ枠を、ランド１３１０ｓやパッド１３１０ｋに接続される信号ライン上に重なるようにシルク印刷する。これにより、信号ラインの剥離強度を高めることが可能になり、遊技機の信頼性が向上する。また、これに加えてテストポイントＴＰを囲うように設けられるＴＰ枠を、信号ラインの側方に設けられて広範囲に亘って形成されることで剥離しにくいベタグランド上に重なるようにシルク印刷するようにしてもよく、これによってさらに信号ラインの剥離強度を高めることが可能になり、遊技機の信頼性がさらに向上する。また、ＴＰ枠とは別に、またはＴＰ枠と同様にＴＰマークについても信号ライン上に重なるようにシルク印刷するようにしてもよいし、信号ライン上とベタグランド上とに重なるようにシルク印刷するようにしてもよい。この場合にも信号ラインの剥離強度を高めることが可能になり、遊技機の信頼性が向上する。
【６０６９】
また、信号ラインや信号ラインのランド１３１０ｓの周囲にベタグランドを設けるようにしてもよく、この場合にはベタグランドによって基板の剛性が高められて基板の反り等による影響を軽減できるため、信号ラインや信号ラインのランド１３１０ｓの剥離を抑制できる。また、この場合には、ベタグランドに形成されるビアホールを挟み込むように複

数の信号ラインや複数の信号ラインのランド１３１０ｓを形成するようにしてもよく、このビアホールをサーマルランドとして形成することによりさらに剛性を高めて基板の反り等による影響を軽減できるため、信号ラインや信号ラインのランド１３１０ｓの剥離抑制効果をさらに高めることが可能になる。

【６０７０】

なお、上記した信号ラインのテストポイントＴＰとして、信号ラインに形成されて電子部品の実装に用いられていないスルーホール１３１０ｒ（ランド１３１０ｓ）を備えるテストポイントＴＰと、信号ラインに形成されて電子部品の実装に用いられていないパッド１３１０ｋを備えるテストポイントＴＰと、について説明したが、これらのうち少なくとも一方を備えるものであればよい。

【６０７１】

また、サーマルランドにより基板の剛性を強化する構成１～サーマルランドにより基板の剛性を強化する構成３では、グランド（ＧＮＤ）ラインや電源ラインに形成されるテストポイントについて、サーマルランドやサーマルパッドを備えるように形成することによりハンダを溶着させやすくしているのに対し、本例では、信号ラインに形成されるテストポイントについて、通常のランドや通常のパッドを備えることに加えて、外周縁部から中央方向の一定範囲が主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘにベタ塗されるソルダーレジストで覆われることでハンダを溶着しにくくしている。

【６０７２】

すなわち、本例のテストポイントＴＰは、信号ラインに形成されて電子部品の実装に用いられていないスルーホール１３１０ｒ（ランド１３１０ｓ）を備えるものであり、一般的に電子部品の実装に用いられていないスルーホール１３１０ｒのランド１３１０ｓは、電子部品の実装用に設けられるスルーホール１３１０ｒのランド１３１０ｓに比べて表面積が小さく形成される。本例では、重要な信号線に設けられて不正の対象となり得るテストポイントＴＰを、電子部品の実装に用いられていないスルーホール１３１０ｒのランド１３１０ｓとして形成することで、不正な電子部品が実装されることを抑制することに加えて、スルーホール１３１０ｒのランド１３１０ｓに対して外周縁部１３１０ｓ１から中央方向の一定範囲をソルダーレジストで覆うことにより、剥き出しとされる銅箔の表面積を減らしてハンダを溶着しにくくし、これによって不正な電子部品の実装を困難にすることができる。

【６０７３】

このように、信号ラインに形成されるテストポイントについてはハンダを溶着しにくくなるため、信号ラインに形成されるテストポイントのランドやパッドに不正な電子部品をハンダ付けすることを困難にでき、セキュリティが向上する。

【６０７４】

なお、上記した例では信号ラインに形成されるテストポイントＴＰのランドやパッドについて説明したが、信号ラインに形成されて電子部品の実装に用いられていないスルーホール（ランド）やパッドであればテストポイントＴＰとして用いられるものに限らない。この場合にも信号ラインの断線や剥離の抑制や、セキュリティを向上させることが可能である。

【６０７５】

また、上記に加え、または上記とは別に（不正の判別容易性の向上１～不正の判別容易性の向上３や表面実装タイプの電子部品の剥離防止１～表面実装タイプの電子部品の剥離防止４のいずれか１つまたは複数と組み合わせて実行してもよい）、信号ラインに形成されて電子部品の実装に用いられているランドやパッドについて外周縁部から中央方向の一定範囲を主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘにベタ塗されるソルダーレジストで覆うようにしてもよい。このように構成することにより、実装される電子部品の剥離を抑制してパチンコ機１の信頼性を高めることができることに加えて、銅箔部の露出面積を減らして信号ラインを把握され難くし、回路を読み取られ難くすることが可能になるため、セキュリティが向上する。

【６０７６】
［打ち止め状態との関係］
上記した例では、打ち止め状態中にも外枠２に対する本体枠４の開放や磁気などの異常を監視し、異常を検出した場合には演出表示装置１６００にて異常が発生した旨を示すメッセージを表示するように構成したが、既に打ち止め状態に移行して遊技を制限している場合には異常の監視を行わないか（検出センサによる検出を行わない（検出信号を出力しない））、または異常を検出しても報知を行わない（検出センサによる検出信号が主制御基板１３１０や周辺制御基板１５１０に入力されても報知を行わない）ようにしてもよく、この場合には消費電力を抑えることができる。しかしながら、異常の監視を行わない場合や、異常を検出しても報知を行わないことにより、打ち止め状態中に不正が行われる可能性がある。以下、打ち止め状態中における不正対策について説明する。なお、以下では上記実施形態と異なる部分についてのみ説明し、重複した説明を行わない。
【６０７７】
また、以下ではセンサ基板１０５２Ａについて説明するが、センサ基板１０５２Ａ以外の主側基板であっても本技術思想は適用可能であるし、主側基板とは異なるサブ側基板（例えば遊技盤５に設けられてＬＥＤが実装される装飾基板）であっても本技術思想は適用可能である。また、上記した他の実施形態と組み合わせて実行することも可能である。例えば、不正の判別容易性の向上１～不正の判別容易性の向上３や表面実装タイプの電子部品の剥離防止１～表面実装タイプの電子部品の剥離防止４、サーマルランドにより基板の剛性を強化する構成１～サーマルランドにより基板の剛性を強化する構成４、第１実施形態に係る遊技盤に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成～第４実施形態に係る遊技盤に備える各装飾基板の前面（表実装面）に形成されるスルーホールのランドに対して絶縁被膜を被せる構成のいずれか１つまたは複数と組み合わせて実行することが可能である。
【６０７８】
上記したように、主側基板のうちのパチンコ機１の裏面側に設けられるとともに表面（表実装面）が遊技者とは反対側に向けられてパチンコ機１の裏面側からアクセス可能とされる主制御基板１３１０や払出制御基板６３３よりも遊技者側に設けられる、磁気センサ１０５０に設けられるセンサ基板１０５２や機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２、サブ機能表示ユニットに設けられる装飾基板、第一始動口２００２に設けられる第一始動口センサ３００２のセンサ基板、第二始動口２００４に設けられる第二始動口センサ２４０１のセンサ基板、インフォメーション表示器に設けられる裏後上第一装飾基板等は、遊技盤５に取り付けられた状態で表面（表実装面）が遊技者とは反対側に向けられておらず、パチンコ機１の表面側からアクセス可能とされているため、不正改造のターゲットとなりやすい。本例では上記不正対策を施す変形例１及び不正対策を施す変形例２と同様の構成を採用することにより打ち止め状態中における不正対策を行っている。
【６０７９】
上記したように主制御ＭＰＵ１３１０ａは球数計数処理（ステップＳ１０７）を実行すると、一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、大入賞口２００５、役物入賞口２００６、等の入賞口に受け入れられた遊技球（セーフ球）と、アウト口１００８、第一サブアウト口２０２１及び第二サブアウト口２０２２に受け入れられた遊技球（アウト球）と、の両方を計数し、セーフ球とアウト球の総数に対する払出数の割合、つまり遊技領域５ａに打ち込まれた遊技球の総数に対する払出数（払い出された賞球の総数）の割合を算出し、その算出結果を主制御内蔵ＲＡＭの特定領域におけるベース算出領域に格納する。
【６０８０】
本例では球数計数処理（ステップＳ１０７）を実行すると、主制御ＭＰＵ１３１０ａは上記した処理に加えて、発射数（ファール球として処理された球数を除く）と払出数との差分（払出数－発射数）を算出し、その算出結果を「打ち止め用カウンタ」として主制御

内蔵ＲＡＭの特定領域に格納する。打ち止めカウンタは、予め定められた初期値からの増減数を示すカウンタである。また、主制御ＭＰＵ１３１０ａは打ち止め用カウンタの値が特定値に達したか否かを判定し、打ち止め用カウンタの値が特定値に達していれば、打ち止めフラグをＯＮにする。この打ち止めフラグはパチンコ機１の電源の再投入時にＲＡＭクリアスイッチが操作されて主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されたＲＡＭ（つまり、主制御内蔵ＲＡＭ）の初期化を行うＲＡＭクリア処理（ステップＳ３８）が実行されることによりＯＦＦにされる。

【６０８１】

また、本例では球発射装置５４０から発射された遊技球を検出する発射センサ（図示しない）の検出結果に基づいて発射数（遊技領域５ａに打ち込まれた遊技球の数（ファール球として処理された球数を除く））を算出するように構成したが、一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、大入賞口２００５、役物入賞口２００６、等の入賞口に受け入れられた遊技球（セーフ球）と、アウト口１００８、第一サブアウト口２０２１及び第二サブアウト口２０２２に受け入れられた遊技球（アウト球）と、の両方の計数結果に基づいて発射数（遊技領域５ａに打ち込まれた遊技球の数（ファール球として処理された球数を除く））を算出するようにしてもよい。

【６０８２】

なお、大当り遊技中に打ち止めカウンタの値が特定値に達したときには、打ち止めフラグをＯＮにすることなしに上記打ち止め準備状態に移行し、大当り遊技の終了後に打ち止めフラグをＯＮにすることにより、大当り遊技中に打ち止めカウンタの値が特定値に達しても大当り遊技が終了するまでは打ち止め状態に移行させないようにしてもよい。すなわち、打ち止めカウンタの値が特定値に達したタイミングと、打ち止め状態とを開始するタイミングと、を異ならせるようにしてもよい。これにより、打ち止め状態の開始タイミングが遅延されて、大当り遊技における賞球獲得の機会を途中で奪うことなく与えることができるため、遊技者に不満感を与えないようにすることができる。また、この場合には大入賞口２００５以外の入賞口（例えば一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、役物入賞口２００６）に遊技球が受け入れられたときにも当該入賞口への遊技球の受け入れに基づく賞球の払出しを行うようにしてもよいし、大入賞口２００５以外の入賞口（例えば一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、役物入賞口２００６）に遊技球が受け入れられたときには当該入賞口への遊技球の受け入れに基づく賞球の払出しを行わないようにしてもよい。

【６０８３】

また本例パチンコ機１は、図４０３に示すように打ち止め状態中に主制御側タイマ割り込み処理が行われた場合に、異常検出手段（例えば磁気センサ１０５０、振動センサ、満タン検知センサ１５４、球切検知センサ５７４、扉枠開放スイッチ等の主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに検出信号が入力されるセンサやスイッチ）による検出が行われて異常検出手段からの検出信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａの所定の入力ポートの入力端子に入力されていても、当該検出信号の入力に基づく処理を実行しないようになっている。

【６０８４】

具体的には、主制御側タイマ割り込み処理が開始されると主制御ＭＰＵ１３１０ａは、打ち止め状態中であるか否かを判定し（ステップＳ１００ａ）、打ち止め状態中であると判定しなかった場合には（ステップＳ１００ａでＮＯ）、ステップＳ１００～ステップＳ１２２の処理を実行し、打ち止め状態中であると判定した場合には（ステップＳ１００ａでＹＥＳ）、ステップＳ１００～ステップＳ１２２の処理を実行することなく主制御側タイマ割り込み処理を終了する。打ち止め状態であるか否かは上記した打ち止めフラグがＯＮとされているか否かにより判別される。

【６０８５】

このように、本例のパチンコ機１では打ち止め状態中には主制御側タイマ割り込み処理が行われても異常検出手段による検出を確認することなしに無効とされるようになってい

る。なお、打ち止め状態中には異常検出手段による検出が行われないようにするようにしてもよいし、打ち止め状態中には割り込み禁止設定を行うこと等により主制御側タイマ割り込み処理が実行されないようにすることで異常検出手段による検出を無効とするようにしてもよい。

【６０８６】

また、本例のパチンコ機１は打ち止め状態となった場合には、パチンコ機１の電源の再投入時にＲＡＭクリアスイッチが操作されて主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されたＲＡＭ（つまり、主制御内蔵ＲＡＭ）の初期化を行うＲＡＭクリア処理（ステップＳ３８）が実行されることにより打ち止め状態が解除されて、通常状態に戻すことができるようになっている。

【６０８７】

なお、打ち止め状態中にもスイッチ入力処理（ステップＳ１０４）を実行して異常検出手段からの検出信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａの所定の入力ポートの入力端子に入力されていれば入力情報として主制御内蔵ＲＡＭの入力情報記憶領域に記憶するようにしてもよいし、打ち止め状態中にはスイッチ入力処理（ステップＳ１０４）を実行しないことで異常検出手段からの検出信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａの所定の入力ポートの入力端子に入力されていても入力情報として主制御内蔵ＲＡＭの入力情報記憶領域に記憶しないようにしてもよい。

【６０８８】

また、打ち止め状態中にもスイッチ入力処理（ステップＳ１０４）を実行して異常検出手段からの検出信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａの所定の入力ポートの入力端子に入力されていれば入力情報として主制御内蔵ＲＡＭの入力情報記憶領域に記憶するように構成した場合には、主制御内蔵ＲＡＭの入力情報記憶領域に入力情報が記憶される状態であるが、打ち止め状態中に主制御内蔵ＲＡＭの入力情報記憶領域に記憶されている入力情報に応じた異常報知を行わないようにすればよい。またこの場合には、主制御内蔵ＲＡＭの入力情報記憶領域は打ち止め状態が解除されたとき、つまり主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されたＲＡＭ（つまり、主制御内蔵ＲＡＭ）が初期化されたときに初期化されて入力情報がクリアされるようにしてもよい。

【６０８９】

主制御ＭＰＵ１３１０ａは、打ち止め用カウンタの値が特定値に達していると判定すると、打ち止めフラグをＯＮにするとともに打ち止めフラグがＯＮとなったことを示す打ち止め信号を周辺制御基板１５１０に出力する。周辺制御基板１５１０のＣＰＵ、ＲＡＭ、そして各種Ｉ／Ｏインターフェイス等が１つの半導体チップ上に集積された周辺制御ＩＣ１５１０ａは、主制御基板１３１０から打ち止め信号が入力されると扉枠３や遊技盤５に設けられる特定装飾基板（扉枠トップユニット４５０の扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、扉枠トップ右装飾基板４５７、扉枠左サイドユニット４２０の扉枠左サイド上装飾基板４２２、扉枠左サイドユニット４２０の扉枠左サイド下装飾基板４２３、皿左装飾レンズ２７２の後側に設けられる皿左装飾基板２７３、扉枠右サイドユニット４３０の扉枠右サイド下装飾基板４３３、皿右装飾レンズ２７７の後側に設けられる皿右装飾基板２７８、扉枠右サイドユニット４３０の扉枠右サイド上装飾基板４３２、裏前左上ロゴ装飾部３１２２を発光装飾させるための裏前左上装飾基板３１２９、裏前左ロゴ装飾部３１２１、裏前左上ロゴ装飾部３１２２、及び裏前左サブ装飾部３１２３を発光装飾させるための裏前左装飾基板３１２８、裏前下ロゴ装飾体３１６７を発光装飾させるための裏前下ロゴ装飾基板３１７３、裏前下中装飾体３１６１を発光装飾させるための裏前下中装飾基板３１６８と、裏前下左内装飾体３１６３を発光装飾させるための裏前下左内装飾基板３１６９と、裏前下左外装飾体３１６４を発光装飾させるための裏前下左外装飾基板３１７０と、裏前下右内装飾体３１６５を発光装飾させるための裏前下右内装飾基板３１７１と、裏前下右外装飾体３１６６を発光装飾させるための裏前下右外装飾基板３１７２と、裏前右ロゴ装飾部３１４１を発光装飾させるための裏前右下装飾基板３１５２、裏前右上ロゴ装飾部３１４２を発光装飾させるための裏前右上装飾基板３１５１

等）に実装されるＬＥＤを所定期間または所定のクリア条件が成立するまで所定の態様（例えば赤色で点灯させる態様（消灯でもよい））で発光制御したり、スピーカから所定期間またはクリア条件が成立するまで所定の音態様（例えば「打ち止め状態になりました。遊技を終了してください。」や警告音「ブーブー」等）で音出力制御したり、演出表示装置１６００を所定期間またはクリア条件が成立するまで所定の表示態様（例えば「１日の出玉制限１０００００発に達したので遊技を制限しています。係員をお呼び下さい。」等）で表示制御したりする。

【６０９０】

また、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、球数計数処理（ステップＳ１０７）で打ち止めフラグをＯＮにすると、賞球制御処理（ステップＳ１０８）における賞球の付与を停止し、発射許可信号設定処理（ステップＳ１１３）において払出制御基板６３３に対して遊技球Ｂの発射を許可する旨を伝える発射許可信号が発射停止論理（発射非許可論理）に設定して球発射装置５４０による遊技球の発射が禁止された状態とし、特別図柄及び特別電動役物制御処理（ステップＳ１１４）や普通図柄及び普通電動役物制御処理（ステップＳ１１６）において特別図柄表示器や普通図柄表示器における特別図柄の変動表示や普通図柄の変動表示を停止して機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２に実装されるＬＥＤ、サブ機能表示ユニットに設けられる装飾基板に実装されるＬＥＤ、インフォメーション表示器に設けられる裏後上第一装飾基板に実装されるＬＥＤを打ち止め状態時の発光態様（例えば全てのＬＥＤを消灯させる態様や、全て又は一部（例えば状態表示器）のＬＥＤを所定色（例えば赤）で点灯させる態様）で発光制御し、周辺制御基板コマンド送信処理（ステップＳ１２０）にて周辺制御基板１５１０に打ち止め信号を出力する。

【６０９１】

これにより、打ち止め状態の制御が実行されるようになり、主制御ＭＰＵ１３１０ａによって遊技が制限され、周辺制御ＩＣ１５１０ａによって扉枠３や遊技盤５に設けられる特定装飾基板に実装されるＬＥＤ、演出表示装置１６００、スピーカ等が打ち止め状態に応じた態様で制御される。

【６０９２】

本例では、周辺制御ＩＣ１５１０ａは主制御ＭＰＵ１３１０ａから打ち止め信号が入力されると打ち止め状態に応じた態様として、演出表示装置１６００に装飾図柄や通常時（遊技可能状態時）の背景画像等を表示することなく全面に打ち止め状態時の背景画像（例えば黒色）と遊技不能表示として所定期間に亘って「１日の出玉制限１０００００発に達したので遊技を制限しています。係員をお呼び下さい。」と表示した後に「遊技制限中」と表示し、扉枠３や遊技盤５に設けられる特定装飾基板のうちの扉枠３に設けられる基板に実装されるＬＥＤ（扉枠３に設けられる全てのランプやＬＥＤでもよいし、一部のランプやＬＥＤでもよい）を所定期間（例えば６０秒）に亘って赤色で点滅させた後に消灯し、扉枠３や遊技盤５に設けられる特定装飾基板のうちの遊技盤５に設けられる基板に実装されるＬＥＤ（遊技盤５に設けられる全てのランプやＬＥＤでもよいし、一部のランプやＬＥＤでもよい）を消灯し、スピーカから所定期間（例えば３０秒）に亘って「打ち止め状態になりました。遊技を終了してください。」を音出力した後に消音する。そして、クリア条件が成立すると上記打ち止め状態に応じた態様を終了して通常時の態様での制御を開始する。

【６０９３】

なお、演出表示装置１６００における打ち止め状態時の背景画像や遊技不能表示などの表示態様は、時間の経過に応じて表示の変化を伴わない静止画像とされてクリア条件が成立するまで継続し、扉枠３や遊技盤５に設けられる特定装飾基板のうちの扉枠３に設けられる基板に実装されるＬＥＤの発光態様は、打ち止め状態の開始後の所定期間を除いて発光態様の変化を伴わない消灯状態とされてクリア条件が成立するまで継続し、扉枠３や遊技盤５に設けられる特定装飾基板のうちの遊技盤５に設けられる基板に実装されるＬＥＤの発光態様は、発光態様の変化を伴わない消灯状態とされてクリア条件が成立するまで継続し、スピーカからの音出力態様は、音出力態様の変化を伴わない消音状態とされてクリ

ア条件が成立するまで継続する。また、上記した打ち止め状態時の制御は一例であり、打ち止め状態中に扉枠３や遊技盤５に設けられる特定装飾基板のうちの扉枠３に設けられる基板に実装されるＬＥＤ及び扉枠３や遊技盤５に設けられる特定装飾基板のうちの遊技盤５に設けられる基板に実装されるＬＥＤを打ち止め状態に応じた発光態様にするものであれば上記した制御に限られない。例えば、打ち止め状態中には主制御側タイマ割り込み処理が実行される毎に扉枠３や遊技盤５に設けられる特定装飾基板のうちの扉枠３に設けられる基板に実装されるＬＥＤ及び扉枠３や遊技盤５に設けられる特定装飾基板のうちの遊技盤５に設けられる基板に実装されるＬＥＤに打ち止め状態に応じた発光態様にするように信号を出力するようにしてもよい。

【６０９４】

このように、本例では打ち止め状態となった場合には、パチンコ機１に設けられる演出手段（演出表示装置１６００、扉枠３に設けられる基板に実装されるＬＥＤ、遊技盤５に設けられる基板に実装されるＬＥＤ、スピーカ等）の演出態様（表示態様、発光態様、音出力態様）を、打ち止め状態の開始後の所定期間は時間の経過に応じて変化させる動的態様にし、その後は時間の経過に応じた変化がないまたは変化が極めて小さい静的態様にする。

【６０９５】

なお、上記した打ち止め状態時の態様は一例であり、他の態様に制御するものであってもよく、打ち止め状態となった場合にはパチンコ機１に設けられる演出手段（演出表示装置１６００、扉枠３に設けられる基板に実装されるＬＥＤ、遊技盤５に設けられる基板に実装されるＬＥＤ、スピーカ等）の演出態様（表示態様、発光態様、音出力態様）を、動的態様にすることなく、直ぐに静的態様にするようにしてもよい。例えば、打ち止め状態となった場合に、演出表示装置１６００に装飾図柄や通常時（遊技可能状態時）の背景画像等を表示することなく全面に打ち止め状態時の背景画像（例えば黒色）と遊技不能表示として「１日の出玉制限１０００００発に達したので遊技を制限しています。」を表示し、扉枠３や遊技盤５に設けられる特定装飾基板のうちの扉枠３に設けられる基板に実装されるＬＥＤ（扉枠３に設けられる全てのランプやＬＥＤでもよいし、一部のランプやＬＥＤでもよい）を白色で点灯し、扉枠３や遊技盤５に設けられる特定装飾基板のうちの遊技盤５に設けられる基板に実装されるＬＥＤ（遊技盤５に設けられる全てのランプやＬＥＤでもよいし、一部のランプやＬＥＤでもよい）を消灯し、スピーカを消音するようにしてもよい。

【６０９６】

また、打ち止め状態となった場合にパチンコ機１に設けられる演出手段のうちの一部の演出手段（例えばスピーカ）についてのみ一定期間またはクリア条件が成立するまで動的態様で演出を行い、他の演出手段（演出表示装置１６００、扉枠３に設けられる基板に実装されるＬＥＤ、遊技盤５に設けられる基板に実装されるＬＥＤ等）についてはクリア条件が成立するまで静的態様で演出を行うようにしてもよい。

【６０９７】

また、特別な条件が成立している場合に打ち止め状態の制御を開始するタイミングを、打ち止めカウンタの値が特定値に達したと判定されたタイミングから遅延させる（同一の割り込み処理内で打ち止め状態に制御することなく、以降の割り込み処理内で打ち止め状態に制御する（例えば打ち止めカウンタの値が特定値に達したと判定した割り込み処理内では打ち止めフラグをＯＮすることなく、以降の割り込み処理内で打ち止めフラグをＯＮする等））ようにしてもよく、この場合には打ち止めカウンタの値が特定値に達したと判定されたタイミングから打ち止め状態の制御を開始するまでの特定期間において特定の入賞口への遊技球の受け入れに応じた賞球の獲得を可能にしてもよい。

【６０９８】

また、打ち止め状態の制御を開始するタイミングを、打ち止めカウンタの値が特定値に達したと判定されたタイミングから遅延させるように構成した場合には、打ち止めカウンタの値が特定値に達してから打ち止め状態の制御を開始するまでの特定期間における演出

表示装置１６００の表示態様、遊技盤５や扉枠３に設けられる特定装飾基板に実装されるＬＥＤの発光態様、機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２に実装されるＬＥＤの発光態様、サブ機能表示ユニットに設けられる装飾基板に実装されるＬＥＤの発光態様、インフォメーション表示器に設けられる裏後上第一装飾基板に実装されるＬＥＤの発光態様と、打ち止め状態中における演出表示装置１６００の表示態様、遊技盤５や扉枠３に設けられる特定装飾基板に実装されるＬＥＤの発光態様、機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板１４０２に実装されるＬＥＤの発光態様、サブ機能表示ユニットに設けられる装飾基板に実装されるＬＥＤの発光態様、インフォメーション表示器に設けられる裏後上第一装飾基板に実装されるＬＥＤの発光態様と、の一部又は全部を異ならせるようにしてもよい。例えば、打ち止めカウンタの値が特定値に達したと判定されたときに演出表示装置１６００に「打ち止め状態の制御を開始します。特定期間終了後、本日は遊技終了です。」等の事前報知を行い、打ち止め状態の制御を開始すると演出表示装置１６００に「打ち止め状態の制御を開始しました。本日は遊技終了です。」等の終了報知を行うようにしてもよい。これにより段階的に打ち止め状態を報知することができるようになる。

【６０９９】

また、打ち止め状態では始動口（第一始動口２００２又は第一始動口２００２と第二始動口２００４との一方）へ遊技球が入球した場合であっても機能表示ユニット１４００における特別図柄の変動表示や、サブ機能表示ユニット２２５０における第４図柄の変動表示は開始されないようになっている。そして、本例のパチンコ機１では打ち止め状態が開始されると機能表示ユニット１４００の全てのＬＥＤを打ち止め状態時の発光態様として消灯状態とし、サブ機能表示ユニット２２５０の全てのＬＥＤを打ち止め状態時の発光態様として消灯状態とし、クリア条件が成立するまで継続させる。

【６１００】

このように打ち止め状態中には演出表示装置１６００に装飾図柄や通常時（遊技可能状態時）の背景画像等を表示することなく、全面に打ち止め状態時の背景画像（例えば黒色）と遊技不能表示とを、時間の経過に関わらず表示が変化しない静的態様で表示するようになっている。これにより、打ち止め状態となったことを遊技者や遊技店員に容易に気付かせることができるようになる。

【６１０１】

上記したように本例のパチンコ機１では、打ち止め状態中には異常を検知するセンサ（磁気センサ１０５０等）やスイッチ（扉枠開放スイッチ等）の検出に基づく警告や報知を行わない。そのため、パチンコ機１に対して不正行為が行われるおそれがある。

【６１０２】

本例では上記不正対策を施す変形例１や不正対策を施す変形例２と同様の構成を採用することにより、打ち止め状態中に磁気センサ１０５０に設けられるセンサ基板１０５２Ａに対する不正対策を図っている。

【６１０３】

例えば、図３７２に示すように本例の磁気センサ１０５０ではセンサ基板１０５２Ａに設けられる配線パターン（グランド接続用の配線パターン１０５２Ａ２とセンサ本体１０５１Ａからの検出信号が伝送される配線パターン１０５２Ａ３と電源基板６３０で作成される各種電源（＋５Ｖ、＋１２Ｖ、＋２４Ｖ等の直流電源）を供給する配線パターン（電源ライン）１０５２Ａ１）をすべて略同一（±１０％程度の範囲を含む）の線幅で形成し、配線パターン１０５２Ａ１、１０５２Ａ２、１０５２Ａ３の用途（電源基板６３０で作成される各種電源（＋５Ｖ、＋１２Ｖ、＋２４Ｖ等の直流電源）を供給する配線パターン（電源ライン）１０５２Ａ１と、グランド接続用の配線パターン（ＧＮＤライン）１０５２Ａ２と、センサ本体１０５１Ａからの検出信号が伝送される配線パターン（信号ライン）１０５２Ａ３と、のいずれであるか）を特定することが困難にし、センサ基板１０５２Ａの回路を読み取られにくくすることで、打ち止め状態中における不正改造を抑制して、セキュリティを向上させることができるようになっている。

【６１０４】
　また、磁気センサ１０５０ではセンサ基板１０５２Ａに形成される配線パターンは、通常、グランド接続用の配線パターン１０５２Ａ２や各種電源（＋５Ｖ、＋１２Ｖ、＋２４Ｖ等の直流電源）を供給する配線パターン１０５２Ａ１が、センサ本体１０５１Ａからの検出信号が伝送される配線パターン１０５２Ａ３の線幅よりも太くされる。一方、本例のセンサ基板１０５２Ａに形成される配線パターンは、センサ本体１０５１Ａからの検出信号が伝送される配線パターン１０５２Ａ３を基準として、グランド接続用の配線パターン１０５２Ａ２と各種電源（＋５Ｖ、＋１２Ｖ、＋２４Ｖ等の直流電源）を供給する配線パターン（電源ライン）１０５２Ａ１との線幅を配線パターン１０５２Ａ３と略同一の線幅で形成されるように構成されており、グランド接続用の配線パターン１０５２Ａ２と各種電源（＋５Ｖ、＋１２Ｖ、＋２４Ｖ等の直流電源）を供給する配線パターン（電源ライン）１０５２Ａ１との線幅は通常よりも細くなる。そのため、センサ基板１０５２Ａに形成される配線パターンの剥離強度が弱くなり、打ち止め状態中にセンサ基板１０５２Ａの表面（表基板面）に実装される特定の電子部品を取り外すような力が加えられて、特定の電子部品の接続端子がハンダ付けされるパッドやグランド接続用の配線パターン１０５２Ａ、センサ本体からの検出信号が伝送される配線パターン１０５２Ａ３を剥す方向に力が加わった場合に、センサ基板１０５２Ａに形成される配線パターンが剥がれやすくなるため、センサ基板１０５２Ａが不正に改造されることを抑止でき、セキュリティが向上する。
【６１０５】
　また、センサ基板１０５２Ａにベタグランド（ベタパターンともいう）を形成することなく、グランド接続用の配線パターン１０５２Ａ２を形成することにより、パッドやグランド接続用の配線パターン１０５２Ａ２、センサ本体からの検出信号が伝送される配線パターン１０５２Ａ３、電源基板６３０で作成される各種電源（＋５Ｖ、＋１２Ｖ、＋２４Ｖ等の直流電源）を供給する配線パターン（電源ライン）１０５２Ａ１が剥がれやすくなるため、打ち止め状態中にセンサ基板１０５２Ａの表面（表基板面）に実装される特定の電子部品を取り外すような力が加えられて、特定の電子部品の接続端子がハンダ付けされるパッドやグランド接続用の配線パターン１０５２Ａ、センサ本体からの検出信号が伝送される配線パターン１０５２Ａ３を剥す方向に力が加わった場合に、パッドやグランド接続用の配線パターン１０５２Ａ２、センサ本体からの検出信号が伝送される配線パターン１０５２Ａ３が剥がれて回路を破壊されて、センサ基板１０５２Ａが不正に改造されることを抑止できるようになり、セキュリティが向上する。
【６１０６】
　さらに、本例のセンサ基板１０５２Ａでは、特定の電子部品の接続端子それぞれがハンダ付けされるパッド（例えばコンデンサ１０５３ａの接続端子１０５３ａ１それぞれがハンダ付けされるパッド１０５２Ａｂ）がサーマルパッドとして形成されないため、打ち止め状態中にセンサ基板１０５２Ａの基板面を視認された場合であってもベタパターンやサーマルパッドからグランド接続用の配線パターン１０５２Ａ２を特定されることを抑制できるようになっている。これにより、センサ基板１０５２Ａの回路を読み取られにくくして不正改造を抑制できるため、打ち止め状態中のセキュリティが向上する。
【６１０７】
　また、本例のセンサ基板１０５２Ａには表記部が全く形成されていないし、基板管理番号もセンサ基板１０５２Ａの前面（表面）と後面（裏面）とのいずれにも形成されていない。一方、センサ基板１０５２Ａを収容するケースには、磁気センサ１０５０の製品管理番号（例えば、ＦＤＵＦＰＡ０３Ａ）が刻印されている。そのため、打ち止め状態中にセンサ基板１０５２Ａの基板面を視認された場合であってもどのような機能を有する基板であるかを特定されることを困難にできる一方で、センサ基板１０５２Ａを収容するケースに製品管理番号が刻印されていることで、例えば製造工程において該刻印を確認してセンサ基板１０５２Ａが収容されていることを判別でき、取り付け時のミスを防止できる。なお、センサ基板１０５２Ａを収容するケースに刻印される製品管理番号は、ケースの外部から視認可能な位置（例えばケースの外側）に刻印されるものであってもよいし、ケース

の外部から視認困難または視認不能な位置（例えばケースの内側）に刻印されるものであってもよい。

【６１０８】

また、センサ基板１０５２Ａ等の打ち止め状態中における不正行為の対象となりやすい基板において、基板表面は絶縁被膜（ソルダーレジスト）がベタ塗りされている。そして、これら基板の基板表面に形成される配線パターン（例えばグランド接続用の配線パターン１０５２Ａ２とセンサ本体１０５１Ａからの検出信号が伝送される配線パターン１０５２Ａ３と電源基板６３０で作成される各種電源（＋５Ｖ、＋１２Ｖ、＋２４Ｖ等の直流電源）を供給する配線パターン（電源ライン）１０５２Ａ１）は絶縁被膜（ソルダーレジスト）によって覆われるようになっている。そのため、打ち止め状態中に基板表面を目視されても配線パターンの特定を困難にして不正に改造されることを抑制できるようになる。

【６１０９】

なお、打ち止め状態中における不正行為の対象となりやすい基板において、基板表面に形成されたパッド（表面実装タイプの電子部品の実装に用いられているものでもよいし、表面実装タイプの電子部品の実装に用いられていないものでもよい）や、スルーホール（挿入実装タイプの電子部品の実装に用いられているものでもよいし、挿入実装タイプの電子部品の実装に用いられていないものでもよい）のランド、の一部（例えば図４０２（Ｂ）に示すパッド１３１０ｋの外周縁部１３１０ｓ１や図４０２（Ａ）に示すスルーホール１３１０ｒのランド１３１０ｓの外周縁部１３１０ｓ１）または全部を、基板表面にベタ塗りされる絶縁被膜（ソルダーレジスト）で覆うようにしてもよい。この場合には、打ち止め状態中に基板表面を目視されても配線パターンの特定を困難にすることができることに加えて、剥き出しとされる銅箔の表面積を減らしてハンダを溶着しにくくし、これによって不正な部品の実装を困難にすることができるため、セキュリティが向上する。

【６１１０】

このように、本例のセンサ基板１０５２Ａは、打ち止め状態中における不正行為に対してのセキュリティの強化が図られるようになっている。また、本例ではセンサ基板１０５２Ａとは異なる向き（パチンコ機１の背面側）に表基板面が向くように設けられる主制御基板１３１０や払出制御基板６３３についても不正の判別容易性の向上１～不正の判別容易性の向上３やサーマルランドにより基板の剛性を強化する構成１～サーマルランドにより基板の剛性を強化する構成４と同様の構成を採用することにより打ち止め状態中における不正対策を行っている。

【６１１１】

例えば図４００に示すように、本例では主制御基板１３１０に実装される表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１を、接続端子ＩＣ１ａが主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに形成されるパッド１３１０ｋにハンダ付けし、表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１に対して、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接（他の電子部品をはさむことなしに隣り合うように配置されるものであればよく、電子部品以外のスルーホールやランド１３１０ｓ、ビア、テストポイント等については設けられていてもよい）して、スルーホール１３１０ｒ内に２か所以上の折り曲げ部を有するようにフォーミングされたリード端子ＭＣ１ａ（本例では２か所の折り曲げ部を有するようにフォーミングされたリード端子ＭＣ１ａ）を挿入してこのリード端子ＭＣ１ａをスルーホール１３１０ｒやランド１３１０ｓにハンダ付けすることで基板に固定されるリードタイプ（挿入実装タイプ）のコンデンサＭＣ１が配置されている。

【６１１２】

また、リードタイプの電子部品であるコンデンサＭＣ１は、主制御基板１３１０のレジストの緑色、表面実装タイプの電子部品であるチップ部品ＩＣ１の表面の黒色、表面側表記部及び捺印部の白色や黄色とは異なる目立ちやすい青色の表面を有している。本例では主制御基板１３１０のレジスト及び表面実装タイプの電子部品表面色は緑色や黒色の暗色であるのに対し、リードタイプの電子部品であるコンデンサＭＣ１は、明色の外装を有し

ており、さらに表面側表記部及び捺印部の白色や黄色の明色とは異なる青色とされているため、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘで目立ちやすい。このため、打ち止め状態中に主制御基板１３１０においてチップ部品ＩＣ１が改変されるような不正が行われた場合であっても、管理者は、複数の電子部品の中から主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘで目立ちやすいコンデンサＭＣ１を視標として、表面実装タイプの電子部品であるチップ部品ＩＣ１をより一層容易に特定することができ、主制御基板１３１０に対する不正を容易に判別することができる。

【６１１３】

また、リードタイプの電子部品であるコンデンサＭＣ１は、表面実装タイプの電子部品であるチップ部品ＩＣ１よりも実装位置が高くされる。そのため、打ち止め状態中に主制御基板１３１０においてチップ部品ＩＣ１が改変されるような不正が行われた場合であっても、管理者は、複数の電子部品の中から主制御基板１３１０において基板表面から突出して設けられるコンデンサＭＣ１を発見し易くなり、コンデンサＭＣ１を視標として、表面実装タイプの電子部品であるチップ部品ＩＣ１をより一層容易に特定することができ、主制御基板１３１０に対する不正を容易に判別することができる。

【６１１４】

本例の主制御基板１３１０は基板表面に形成される配線パターンが絶縁被膜（ソルダーレジスト）によって覆われるようになっている。そのため、打ち止め状態中に基板表面を目視されても配線パターンの特定を困難にして不正に改造されることを抑制できるようになる。また図４０２に示すように、本例では主制御基板１３１０の信号ラインに形成されるテストポイントＴＰのランドやパッドの外周縁部（外周からランドやパッドの中央方向の一定範囲）が主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘにベタ塗されるソルダーレジストで覆われるようになっている。これにより、打ち止め状態中に主制御基板１３１０の基板表面を目視されても配線パターンの特定を困難にすることができることに加えて、主制御基板１３１０に形成される信号ラインにおいて剥き出しとされる銅箔の表面積を減らしてハンダを溶着しにくくし、これによって不正な部品が実装されて信号ラインに接続されることを困難にすることができるため、セキュリティが向上する。

【６１１５】

また、表面実装タイプの電子部品としてのチップ部品ＩＣ１に対し、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接して、リードタイプ（挿入実装タイプ）の電子部品としてのコンデンサＭＣを配置するため、表面実装タイプの電子部品のみを実装する場合に比べて主制御基板１３１０の剛性を高めることができ、さらにリードタイプの電子部品が表面実装タイプの電子部品に対して電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａを挟んで（電子部品実装不可領域Ａを避けて）隣接して配置することにより、主制御基板１３１０のうちの表面実装タイプの電子部品が実装される領域における強度を部分的に高めて反りなどの変形を抑制できるため、打ち止め状態中に主制御基板１３１０に対して不正行為が行われても、重要な電子部品（この例ではチップ部品ＩＣ１）が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制できるようになり、遊技機の信頼性が向上する。

【６１１６】

また、本例ではリードタイプ（挿入実装タイプ）の電子部品としてのコンデンサＭＣのリード端子ＭＣ１ａを、２か所以上の折り曲げ部を有するようにフォーミングされた状態でスルーホール１３１０ｒやランド１３１０ｓにハンダ付けして基板に固定する。そのため、折り曲げ部を有していないか又は１か所の折り曲げ部を有するようにフォーミングされたリード端子に比べて強度が高くなり、主制御基板１３１０のうちの表面実装タイプの電子部品が実装される領域における強度を部分的に高めて反りなどの変形を抑制できるため、打ち止め状態中に主制御基板１３１０に対して不正行為が行われても、重要な電子部品（この例ではチップ部品ＩＣ１）が剥がれ落ち（実装剥がれ）ることを抑制できるようになり、遊技機の信頼性が向上する。上記したようにリード端子ＭＣ１ａは、鉄や銅またはそれらの合金からなり（銅メッキされた鉄線をさらに錫メッキしたＣＰ線や、錫メッキ

されたＣｕ線等）、所定の曲げ強度を有している。また、鉄は銅よりも曲げ強度が高いため、鉄又は鉄合金からなるリード端子ＭＣ１ａ（ＣＰ線）を有するコンデンサＭＣ１を用いることが望ましい。

【６１１７】

また、本例では主制御基板１３１０においてリードタイプ（挿入実装タイプ）の電子部品としてのコンデンサＭＣのリード端子ＭＣ１ａそれぞれがハンダ付けされるスルーホールのランドうち少なくとも一つをサーマルランドで形成し、主制御基板１３１０に形成されるベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））にサーマルパターンを介してランドを物理的に接続させるようになっている。上記したようにサーマルパターンを有するサーマルランドは、サーマルパターンを有しない通常のランドと比べてベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））に熱が伝わり難くするものであるため、特定の電子部品の接続端子それぞれがハンダ付けされるスルーホールのランドのうち少なくとも一つをサーマルランドで形成することにより、特定の電子部品をハンダ付けする際の温度低下が抑制されて（放熱が抑制されて）、主制御基板１３１０の裏面（ハンダ面１３１０ｙ）に付けられたハンダをスルーホールによって表面（実装面１３１０ｘ）側まで確実に吸い上げることが可能になるため、特定の電子部品の溶着が強固になるとともに基板の剛性が向上する。すなわち、主制御基板１３１０において、特定の電子部品の接続端子それぞれがハンダ付けされるパッドやランドのうち少なくとも一つをサーマルパッドやサーマルランドで形成することにより、特定の電子部品としてのコンデンサＩＣ１の溶着が強固になることに加え、主制御基板１３１０の剛性が高まるため、打ち止め状態中に特定の電子部品を取り外すような力が加えられた場合であってもスルーホールやグランド接続用の配線パターン（サーマルパターン）が接続されるベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））によってグランド接続用の配線パターン（サーマルパターン）が剥離したり、電子部品が剥がれ落ちたりすることを抑止できる。

【６１１８】

なお、主制御基板１３１０に限らず、払出制御基板６３３や周辺制御基板１５１０などのベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））が形成されている基板において上記構成を採用するようにしてもよく、この場合にも特定の電子部品の各基板への溶着が強固になることに加え、各基板の剛性が高まるため、打ち止め状態中に特定の電子部品を取り外すような力が加えられた場合であってもスルーホールやグランド接続用の配線パターン（サーマルパターン）が接続されるベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））によってグランド接続用の配線パターン（サーマルパターン）が剥離したり、電子部品が剥がれ落ちたりすることを抑止できる。

【６１１９】

また、特定の電子部品（例えばＩＣ、コンデンサ、トランジスタなど）の接続端子それぞれがハンダ付けされるスルーホールのランドに限らず、特定の電子部品（例えばＩＣ、コンデンサ、トランジスタなど）の接続端子それぞれがハンダ付けされるパッドのうち少なくとも一つをサーマルパッドで形成し、各基板に形成されるベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））にサーマルパターンを介してパッドを物理的に接続させるようにしてもよい。この場合にも特定の電子部品の各基板への溶着が強固になることに加え、各基板の剛性が高まるため、打ち止め状態中に特定の電子部品を取り外すような力が加えられた場合であってもパッドやグランド接続用の配線パターン（サーマルパターン）が接続されるベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））によってグランド接続用の配線パターン（サーマルパターン）が剥離したり、電子部品が剥がれ落ちたりすることを抑止できる。

【６１２０】

また本例では図３６４（Ａ）に示すようにリードタイプの電子部品を実装するための２つのスルーホール１３１０ｒ（ランド１３１０ｓを含む）の間隔（ランド１３１０ｓの最も外側の縁の間隔でも良いし、スルーホール１３１０ｒの中心の間隔でも良い）が、表面実装タイプの電子部品の外形の幅よりも広くされ、リードタイプの電子部品を実装するた

めの２つのスルーホール１３１０ｒ（ランド１３１０ｓを含む）の間に表面実装タイプの電子部品が収まるように構成されるようになっている。これにより、主制御基板１３１０のうちのリードタイプの電子部品の１組の接続端子ＭＣ１ａそれぞれがハンダ付けされる２つのスルーホール１３１０ｒ（ランド１３１０ｓを含む）によって挟まれる領域の剛性を高めて反りなどの変形を抑制することができ、この剛性が高められた領域に表面実装タイプの電子部品を実装することで打ち止め状態中に特定の電子部品を取り外すような力が加えられた場合であってもリードタイプの電子部品に隣接して配置する表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ちたりすることを抑止できる。

【６１２１】

また上記したように本例では主制御基板１３１０の信号ラインに形成されるテストポイントＴＰのランドやパッドの外周縁部（外周からランドやパッドの中央方向の一定範囲）が主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘにベタ塗されるソルダーレジストで覆われるため、打ち止め状態中に主制御基板１３１０に対して不正行為が行われて主制御基板１３１０が湾曲したり撓んだりした場合にテストポイントＴＰのランドやパッドの外周縁部がソルダーレジストで覆われない通常のランドやパッドである場合に比べて、テストポイントＴＰのランド１３１０ｓの銅箔部を剥離し難くすることができ、検査を正確に実施することが可能になることで遊技機の信頼性が向上する。

【６１２２】

また本例の主制御基板１３１０では図４０２（Ａ），（Ｂ）に示すように、テストポイントＴＰを囲うように設けられるＴＰ枠を、ランド１３１０ｓやパッド１３１０ｋに接続される信号ライン上に重なるようにシルク印刷するため、シルク印刷によっても信号ラインの剥離強度を高めることが可能になり、打ち止め状態中に主制御基板１３１０に対して不正行為が行われて主制御基板１３１０が湾曲したり撓んだりした場合にテストポイントＴＰのランドやパッドに接続される信号ライン上に重なるようにＴＰ枠がシルク印刷されない場合に比べてテストポイントＴＰのランド１３１０ｓの銅箔部を剥離し難くすることができ、検査を正確に実施することが可能になることで遊技機の信頼性が向上する。

【６１２３】

また、本例の主制御基板１３１０では上記に加えて、テストポイントＴＰを囲うように設けられるＴＰ枠を、信号ラインの側方に設けられて広範囲に亘って形成されることで剥離しにくいベタグランド上にも重なるようにシルク印刷するため、ベタグランドにシルク印刷されるＴＰ枠によって信号ラインの剥離強度を高めることが可能になり、打ち止め状態中に主制御基板１３１０に対して不正行為が行われて主制御基板１３１０が湾曲したり撓んだりした場合にＴＰ枠がベタグランド上にも重なるようにシルク印刷されない場合に比べてテストポイントＴＰのランド１３１０ｓの銅箔部を剥離し難くすることができ、検査を正確に実施することが可能になることで遊技機の信頼性が向上する。

【６１２４】

また、本例の主制御基板１３１０では上記に加えて、または上記とは別に、信号ライン上に重なるようにＴＰマークをシルク印刷するため、シルク印刷によっても信号ラインの剥離強度を高めることが可能になり、打ち止め状態中に主制御基板１３１０に対して不正行為が行われて主制御基板１３１０が湾曲したり撓んだりした場合にテストポイントＴＰのランドやパッドに接続される信号ライン上に重なるようにＴＰマークがシルク印刷されない場合に比べてテストポイントＴＰのランド１３１０ｓの銅箔部を剥離し難くすることができ、検査を正確に実施することが可能になることで遊技機の信頼性が向上する。

【６１２５】

また、本例の主制御基板１３１０では特定の電子部品（例えばＩＣ、コンデンサ、トランジスタなど）の接続端子それぞれがハンダ付けされるパッドやスルーホールのランドうち少なくとも一つを、サーマルパターンを有するサーマルパッドやサーマルランドで形成し、各基板に形成されるベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））にサーマルパターンを介してパッドやランドを物理的に接続させるようにするため、サーマルパターンを有しない通常のパッドやランドで形成する場合に比べて主制御基板１３１０の

ハンダ面（裏面）１３１０ｙに付けられたハンダをスルーホール内に充填させたり、サーマルパッド上に塗られたハンダペーストを完全に溶かした状態で表面実装タイプの電子部品を溶着させたりすることができ、これによって主制御基板１３１０の剛性を高まるため、打ち止め状態中に特定の電子部品を取り外すような力が加えられた場合であってもサーマルパッドやサーマルランドにハンダ付けされる電子部品が剥がれ落ちることを抑止できる。

【６１２６】

また、上記したように虹色演出や金色演出にて発光制御される扉枠３に設けられる基板に実装されるＬＥＤを実装する装飾基板や、遊技盤５に設けられる基板に実装されるＬＥＤを実装する装飾基板、打ち止め状態となった場合に打ち止め状態時の発光態様とされる扉枠３や遊技盤５に設けられる特定装飾基板のうちの扉枠３に設けられる基板に実装されるＬＥＤを実装する装飾基板（虹色演出や金色演出にて発光制御されるランプやＬＥＤを実装する装飾基板と一部または全部が重複するものであってもよい）や、扉枠３や遊技盤５に設けられる特定装飾基板のうちの遊技盤５に設けられる基板に実装されるＬＥＤを実装する装飾基板（虹色演出や金色演出にて発光制御されるランプやＬＥＤを実装する装飾基板と一部または全部が重複するものであってもよい）は、ＬＥＤ実装面に白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされて反射効率を高めるように構成されているため、打ち止め状態中に打ち止め状態時の発光態様とされる場合に、より明るく、そして鮮やかに（クリアに）発光装飾することができ、演出効果が高まるため、打ち止め状態となっていることを容易に気付かせることができるし、打ち止め状態中に打ち止め状態時の発光態様として消灯させる場合であっても装飾基板を目立ち難くすることができる。

【６１２７】

さらに、本例では虹色演出や金色演出にて発光制御される扉枠３に設けられる基板に実装されるＬＥＤを実装する装飾基板や、遊技盤５に設けられる基板に実装されるＬＥＤを実装する装飾基板、打ち止め状態となった場合に打ち止め状態時の発光態様とされる扉枠３や遊技盤５に設けられる特定装飾基板のうちの扉枠３に設けられる基板に実装されるＬＥＤを実装する装飾基板（虹色演出や金色演出にて発光制御されるランプやＬＥＤを実装する装飾基板と一部または全部が重複するものであってもよい）や、扉枠３や遊技盤５に設けられる特定装飾基板のうちの遊技盤５に設けられる基板に実装されるＬＥＤを実装する装飾基板（虹色演出や金色演出にて発光制御されるランプやＬＥＤを実装する装飾基板と一部または全部が重複するものであってもよい）は、ＬＥＤ実装面に電子部品の部品番号、電子部品を配置する位置を示す領域等の電子部品の属性（さらに、電子部品の形状電子部品の大きさ、電子部品の実装向き（実装方向）、電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表記部が、ベタ塗りされた白色のレジスト上に黄色の塗料でシルク印刷される。黄色は白色と同様に明色であり、且つ白色に対して目立ち難いため、打ち止め状態中に打ち止め状態時の発光態様として消灯させる場合であっても表記部を目立ち難くすることができる。また、黄色の反射率は、白色の反射率と比べて低いものの高い反射率を有しているため、ＬＥＤ実装面の反射率の均一化を図ることができるとともに発光ムラが抑制されて、打ち止め状態中に打ち止め状態時の発光態様とされる場合に、より明るく、そして鮮やかに（クリアに）発光装飾することができ、演出効果が高まるため、打ち止め状態となっていることを容易に気付かせることができる。なお、少なくともＬＥＤ実装面には表記部を設けないようにしてもよく、この場合にも打ち止め状態中に打ち止め状態時の発光態様として消灯させる場合であっても表記部が視認されることを抑制できるし、打ち止め状態中に打ち止め状態時の発光態様とされる場合に、に発光ムラが生じないように発光装飾することができ、演出効果が高まるため、打ち止め状態となっていることを容易に気付かせることができる。この場合にはＬＥＤが実装されていないＬＥＤ非実装面に表記部を設けるようにしてもよいし、ＬＥＤ実装面とＬＥＤ非実装面とのいずれにも表記部を設けないようにしてもよい。

【６１２８】

また、本例では虹色演出や金色演出にて発光制御される扉枠３に設けられる基板に実装

されるＬＥＤを実装する装飾基板や、遊技盤５に設けられる基板に実装されるＬＥＤを実装する装飾基板、打ち止め状態となった場合に打ち止め状態時の発光態様とされる扉枠３や遊技盤５に設けられる特定装飾基板のうちの扉枠３に設けられる基板に実装されるＬＥＤを実装する装飾基板（虹色演出や金色演出にて発光制御されるランプやＬＥＤを実装する装飾基板と一部または全部が重複するものであってもよい）や、扉枠３や遊技盤５に設けられる特定装飾基板のうちの遊技盤５に設けられる基板に実装されるＬＥＤを実装する装飾基板（虹色演出や金色演出にて発光制御されるランプやＬＥＤを実装する装飾基板と一部または全部が重複するものであってもよい）は、スルーホールのランドやパッドの外周部分が基板表面に形成される白色のソルダーレジストで覆われるように構成されている。そのため、ＬＥＤ実装面において銅箔が剥き出しとなっている面積を小さく抑えることができるため、打ち止め状態中に打ち止め状態時の発光態様として消灯させる場合であってもスルーホールのランドやパッドを目立ち難くすることができるし、ＬＥＤ実装面の反射率の均一化を図ることができるとともに発光ムラが抑制されて演出効果が高まるため、打ち止め状態中に打ち止め状態時の発光態様とされる場合に打ち止め状態となっていることを容易に気付かせることができる。

【６１２９】

なお、虹色演出や金色演出にて発光制御される扉枠３に設けられる基板に実装されるＬＥＤを実装する装飾基板や、遊技盤５に設けられる基板に実装されるＬＥＤを実装する装飾基板、打ち止め状態となった場合に打ち止め状態時の発光態様とされる扉枠３や遊技盤５に設けられる特定装飾基板のうちの扉枠３に設けられる基板に実装されるＬＥＤを実装する装飾基板（虹色演出や金色演出にて発光制御されるランプやＬＥＤを実装する装飾基板と一部または全部が重複するものであってもよい）や、扉枠３や遊技盤５に設けられる特定装飾基板のうちの遊技盤５に設けられる基板に実装されるＬＥＤを実装する装飾基板（虹色演出や金色演出にて発光制御されるランプやＬＥＤを実装する装飾基板と一部または全部が重複するものであってもよい）のうち、ベタグランド（ベタパターン）を有する基板にのみ上記構成を採用するようにしてもよい。

【６１３０】

また、上記したインフォメーション表示器の裏後上第一装飾基板についても打ち止め状態中には打ち止め状態時の発光態様（例えば全てのＬＥＤを消灯させる態様や、全て又は一部のＬＥＤを所定色（例えば赤）で点灯させる態様（「打ち止め状態中」と発光表示する態様等））とされる。これにより、打ち止め状態となったことを遊技者や遊技店員に容易に認識させることができるようになる。

【６１３１】

なお、インフォメーション表示器の裏後上第一装飾基板についても虹色演出や金色演出にて発光制御される扉枠３に設けられる基板に実装されるＬＥＤを実装する装飾基板や、遊技盤５に設けられる基板に実装されるＬＥＤを実装する装飾基板、打ち止め状態となった場合に打ち止め状態時の発光態様とされる扉枠３や遊技盤５に設けられる特定装飾基板のうちの扉枠３に設けられる基板に実装されるＬＥＤを実装する装飾基板（虹色演出や金色演出にて発光制御されるランプやＬＥＤを実装する装飾基板と一部または全部が重複するものであってもよい）や、扉枠３や遊技盤５に設けられる特定装飾基板のうちの遊技盤５に設けられる基板に実装されるＬＥＤを実装する装飾基板（虹色演出や金色演出にて発光制御されるランプやＬＥＤを実装する装飾基板と一部または全部が重複するものであってもよい）と同様に、ＬＥＤ実装面に白色等の明色のソルダーレジスト（保護材）をコーティングして反射効率を高めるようにしてもよく、この場合には打ち止め状態中にインフォメーション表示器が打ち止め状態時の発光態様で発光される場合に、より明るく、そして鮮やかに（クリアに）発光させることができ、演出効果が高まるため、打ち止め状態となっていることを容易に気付かせることができる。

【６１３２】

また、インフォメーション表示器の裏後上第一装飾基板のＬＥＤ実装面に緑色や黒色などの暗色のソルダーレジスト（保護材）をコーティングするものであってもよく、この場

合には打ち止め状態中にインフォメーション表示器が打ち止め状態時の発光態様で発光される場合に、ＬＥＤ実装面における光の干渉を抑制して個々のＬＥＤからの発光を区別することができるようになるため、インフォメーション表示器によって発光表示される内容を誤認させないようにできるし、打ち止め状態中にインフォメーション表示器が打ち止め状態時の発光態様として消灯される場合に裏後上第一装飾基板を目立ち難くすることができる。

【６１３３】

また、インフォメーション表示器の裏後上第一装飾基板についても虹色演出や金色演出にて発光制御される扉枠３に設けられる基板に実装されるＬＥＤを実装する装飾基板や、遊技盤５に設けられる基板に実装されるＬＥＤを実装する装飾基板、打ち止め状態となった場合に打ち止め状態時の発光態様とされる扉枠３や遊技盤５に設けられる特定装飾基板のうちの扉枠３に設けられる基板に実装されるＬＥＤを実装する装飾基板（虹色演出や金色演出にて発光制御されるランプやＬＥＤを実装する装飾基板と一部または全部が重複するものであってもよい）や、扉枠３や遊技盤５に設けられる特定装飾基板のうちの遊技盤５に設けられる基板に実装されるＬＥＤを実装する装飾基板（虹色演出や金色演出にて発光制御されるランプやＬＥＤを実装する装飾基板と一部または全部が重複するものであってもよい）と同様に、ＬＥＤ実装面に電子部品の部品番号、電子部品を配置する位置を示す領域等の電子部品の属性（さらに、電子部品の形状電子部品の大きさ、電子部品の実装向き（実装方向）、電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表記部が、ベタ塗りされた白色のレジスト上に黄色の塗料でシルク印刷されるようにしてもよい。この場合には打ち止め状態中にインフォメーション表示器が打ち止め状態時の発光態様として消灯される場合であっても表記部を目立ち難くすることができる。また、インフォメーション表示器の裏後上第一装飾基板のＬＥＤ実装面の反射率の均一化を図ることができるとともに発光ムラが抑制されて、打ち止め状態中にインフォメーション表示器が打ち止め状態時の発光態様で発光される場合に、より明るく、そして鮮やかに（クリアに）発光させることができ、演出効果が高まるため、打ち止め状態となっていることを容易に気付かせることができる。

【６１３４】

また、インフォメーション表示器の裏後上第一装飾基板のＬＥＤ実装面に表記部を設けないようにしてもよく、この場合にも打ち止め状態中に打ち止め状態時の発光態様として消灯させる場合であっても表記部が視認されることを抑制できるし、打ち止め状態中に打ち止め状態時の発光態様とされる場合に、発光ムラが生じないように発光させることができ、演出効果が高まるため、打ち止め状態となっていることを容易に気付かせることができる。またこの場合にはＬＥＤが実装されていないＬＥＤ非実装面に表記部を設けるようにしてもよいし、ＬＥＤ実装面とＬＥＤ非実装面とのいずれにも表記部を設けないようにしてもよい。

【６１３５】

また、インフォメーション表示器の裏後上第一装飾基板についても虹色演出や金色演出にて発光制御される扉枠３に設けられる基板に実装されるＬＥＤを実装する装飾基板や、遊技盤５に設けられる基板に実装されるＬＥＤを実装する装飾基板、打ち止め状態となった場合に打ち止め状態時の発光態様とされる扉枠３や遊技盤５に設けられる特定装飾基板のうちの扉枠３に設けられる基板に実装されるＬＥＤを実装する装飾基板（虹色演出や金色演出にて発光制御されるランプやＬＥＤを実装する装飾基板と一部または全部が重複するものであってもよい）や、扉枠３や遊技盤５に設けられる特定装飾基板のうちの遊技盤５に設けられる基板に実装されるＬＥＤを実装する装飾基板（虹色演出や金色演出にて発光制御されるランプやＬＥＤを実装する装飾基板と一部または全部が重複するものであってもよい）と同様に、スルーホールのランドやパッドの外周部分が基板表面に形成されるソルダーレジストで覆われるように構成してもよい。この場合には、インフォメーション表示器の裏後上第一装飾基板のＬＥＤ実装面において銅箔が剥き出しとなっている面積を小さく抑えることができるため、打ち止め状態中にインフォメーション表示器が打ち止め

状態時の発光態様として消灯される場合であってもスルーホールのランドやパッドを目立ち難くすることができるし、ＬＥＤ実装面の反射率の均一化を図ることができるとともに発光ムラが抑制されて演出効果が高まるため、打ち止め状態中に打ち止め状態時の発光態様とされる場合に打ち止め状態となっていることを容易に気付かせることができる

【６１３６】

また、インフォメーション表示器の裏後上第一装飾基板についてもベタグランド（ベタパターン）を有するように構成し、インフォメーション表示器の裏後上第一装飾基板に形成されるスルーホールのランド（電子部品が実装されているものであってもよいし、電子部品が実装されていないものであってもよい）やパッド（電子部品が実装されているものであってもよいし、電子部品が実装されていないものであってもよい）のうちの少なくとも一部について、サーマルパターンを介してベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））に物理的に接続させるようにしてもよい。これにより、インフォメーション表示器の裏後上第一装飾基板の剛性が高まるため、打ち止め状態中に特定の電子部品を取り外すような力が加えられた場合であってもスルーホールやグランド接続用の配線パターン（サーマルパターン）が接続されるベタパターン（ベタグランド（ＧＮＤ）（基板グランド））によってグランド接続用の配線パターン（サーマルパターン）が剥離したり、電子部品が剥がれ落ちたりすることを抑止できる。

【６１３７】

上記実施形態から把握し得る請求項及び請求項以外の技術的思想について、以下にその効果と共に記載する。

【６１３８】

複数の電子部品が実装される複数の基板を有する遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）であって、

前記複数の基板のうちの特定基板（主制御基板１３１０、周辺制御基板１５１０、払出制御基板６３３、電源基板６３０、ＬＥＤやドライバが実装される装飾基板等）には、

ベタグランド（ベタパターン、基板グランド、ＧＮＤ）と、

実装される電子部品の検査に用いられる複数のテストポイント（チェック端子）と、が形成されており、

前記複数のテストポイントのうちの特定テストポイント（グランドラインのテストポイント）は、銅箔が除去された絶縁部（絶縁部１３１０ｗ，１５１０ｉ）と、前記ベタグランドと接続され且つ銅箔が残存する導通部（サーマルパターン１３１０ｖ，１５１０ｖ）と、を備える、

ことを特徴とする。

【６１３９】

上記発明によれば、特定基板に形成される特定テストポイントを、銅箔が除去された絶縁部とベタグランドと接続され且つ銅箔が残存する導通部とを備えて構成したため、銅箔が除去された絶縁部を有することなしにベタグランドと接続されるテストポイントを形成する場合に比べて電子部品の実装時における温度低下を抑制でき、ハンダが不完全に溶解されることを抑制し、ハンダにより特定テストポイントを被覆することが可能になるため、コンタクトプローブ等の検査器具が接触した場合の接触不良を抑制できることに加えて破損を抑制でき、正確な検査を実行できるため、遊技機の信頼性を向上させることが可能になる。

【６１４０】

複数の電子部品が実装される複数の基板を有する遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）であって、

前記複数の基板は、

遊技に関わる処理を実行するマイクロプロセッサ（主制御ＭＰＵ１３１０ａ、払出制御ＭＰＵ６３３ａａ、表示制御ＭＰＵなど）が実装される特定制御基板（主制御基板１３１０、周辺制御基板１５１０、払出制御基板６３３、電源基板６３０等）を備え、

該特定制御基板には、
ベタグランド（ベタパターン、基板グランド、ＧＮＤ）と、
複数のスルーホール（スルーホール１３１０ｒ，１５１０ｒ）と、が形成され、
前記複数のスルーホールのうちの複数の特定スルーホール（ベタパターンに設けられるグランド（ＧＮＤ）ラインのスルーホール１３１０ｒ，１５１０ｒ等）は、前記特定制御基板に実装される電子部品の検査に用いられるテストポイント（チェック端子）として用いられるものであり、
複数の前記テストポイントのうちの特別テストポイント（グランドラインのテストポイント）は、銅箔が除去された絶縁部（絶縁部１３１０ｗ，１５１０ｉ）と、前記ベタグランドと接続され且つ銅箔が残存する導通部（サーマルパターン１３１０ｖ，１５１０ｖ）と、を備える、
ことを特徴とする。

【６１４１】

上記発明によれば、特定制御基板に形成される複数の特定スルーホールを特定制御基板に実装される電子部品の検査に用いられるテストポイントとして用いるとともに、この特定制御基板に形成される複数のテストポイントのうちの特別テストポイントを、銅箔が除去された絶縁部とベタグランドと接続され且つ銅箔が残存する導通部とを備えて構成したため、銅箔が除去された絶縁部を有することなしにベタグランドと接続されるテストポイントとして構成する場合に比べて電子部品の実装時における温度低下を抑制でき、ハンダを溶解させて特定スルーホールの内部に溶着させて特定制御基板の剛性を強化することができる。

【６１４２】

複数の電子部品が実装される複数の基板を有する遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）であって、
前記複数の基板のうちの遊技の進行に関わる処理を実行する主制御手段（主制御ＭＰＵ１３１０ａ）を備える主制御基板（主制御基板１３１０）の表基板面（実装面１３１０ｘ）には、表面実装タイプの電子部品（例えばＩＣ１）と、挿入実装タイプの電子部品（例えばコンデンサＭＣ１）と、が実装されるとともに、
ベタグランド（ベタパターン、基板グランド、ＧＮＤ）と、
複数のスルーホール（スルーホール１３１０ｒ）と、が形成され、
前記複数のスルーホールは、
前記挿入実装タイプの電子部品が実装される実装スルーホール（例えばリードタイプ（挿入実装タイプ）のコンデンサＭＣ１のリード端子ＭＣ１ａが挿入されてハンダ付けされるスルーホール１３１０ｒ）と、
前記挿入実装タイプの電子部品が実装されていない非実装スルーホール（リードタイプ（挿入実装タイプ）のリード端子が挿入されてハンダ付けされていないスルーホール１３１０ｒ）と、を有し、
前記実装スルーホールのうち特定実装スルーホール（リードタイプ（挿入実装タイプ）のコンデンサＭＣ１のリード端子ＭＣ１ａが挿入されてハンダ付けされるスルーホール１３１０ｒのグランド側のランド）は、周囲に銅箔が除去された特定絶縁部（絶縁部１３１０ｗ）と、周囲に銅箔が残存し且つ前記ベタグランドと接続される特定導通部（サーマルパターン１３１０ｖ）と、を備え、
前記非実装スルーホールのうち特別非実装スルーホール（ベタグランドに設けられるグランド（ＧＮＤ）ラインのスルーホール１３１０ｒ）は、周囲に銅箔が除去された特別絶縁部（絶縁部１３１０ｗ）と、周囲に銅箔が残存し且つ前記ベタグランドと接続される特別導通部（サーマルパターン１３１０ｖ）と、を備える、
ことを特徴とする。

【６１４３】

上記発明によれば、挿入実装タイプの電子部品が実装される実装スルーホールのうちの特定実装スルーホールを、周囲に銅箔が除去された特定絶縁部と、周囲に銅箔が残存し且

つ前記ベタグランドと接続される特定導通部と、を備えて構成し、挿入実装タイプの電子部品が実装されていない非実装スルーホールのうちの特別非実装スルーホールを、周囲に銅箔が除去された特別絶縁部と、周囲に銅箔が残存し且つ前記ベタグランドと接続される特別導通部と、を備えて構成したため、電子部品の実装時における温度低下が抑制され、ハンダが不完全に溶融されることを抑制し、特定実装スルーホールと特別非実装スルーホールの内部にハンダを進入させて溶着することが可能であるため、主制御基板の剛性を高めることができ、そりや曲げが抑制されるため、実装される電子部品が剥がれ落ちることや、銅箔が剥離することを抑制して遊技機の信頼性が向上する。

【６１４４】

複数の電子部品が実装される複数の基板を有する遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）であって、

ベタグランド（ベタパターン、基板グランド、ＧＮＤ）を有し、表基板面の略全域が絶縁膜（ソルダーレジスト）で覆われる特定制御基板（主制御基板１３１０、周辺制御基板１５１０、払出制御基板６３３、電源基板６３０等）を備え、

該特定制御基板の前記表基板面（実装面１３１０ｘ、表面（実装面）１５１０ｘ）には、

前記絶縁膜で覆われない銅箔部に前記電子部品が実装される実装部（電子部品が実装されているスルーホールやパッド）と、

前記絶縁膜で覆われない銅箔部に前記電子部品が実装されていない非実装部（電子部品が実装されていないスルーホールやパッド）と、が形成され、

前記実装部のうちの特定実装部は、周囲の銅箔が除去された特定絶縁部（絶縁部１３１０ｗ，１５１０ｉ）と、前記ベタグランドと接続し且つ周囲の銅箔が残存する特定導通部（サーマルパターン１３１０ｖ，１５１０ｖ）と、を備え、

前記非実装部のうちの特別非実装部は、周囲の銅箔が除去された特別絶縁部（絶縁部１３１０ｗ，１５１０ｉ）と、前記ベタグランドと接続し且つ周囲の銅箔が残存する特別導通部（サーマルパターン１３１０ｖ，１５１０ｖ）と、を備える、

ことを特徴とする。

【６１４５】

上記発明によれば、特定制御基板の表基板面に、絶縁膜で覆われない銅箔部に電子部品が実装される実装部と、絶縁膜で覆われない銅箔部に電子部品が実装されていない非実装部と、を形成し、実装部のうちの特定実装部を、周囲の銅箔が除去された特定絶縁部と、ベタグランドと接続し且つ周囲の銅箔が残存する特定導通部と、を備えて構成し、非実装部のうちの特別非実装部を、周囲の銅箔が除去された特別絶縁部と、ベタグランドと接続し且つ周囲の銅箔が残存する特別導通部と、を備えて構成したため、電子部品の実装時における温度低下が抑制され、ハンダが不完全に溶融されることを抑制し、特定実装部と特別非実装部とにハンダを溶着させて特定制御基板の剛性を高めることができ、そりや曲げが抑制されるため、実装される電子部品が剥がれ落ちることや、銅箔が剥離することを抑制して遊技機の信頼性が向上する。

【６１４６】

複数の電子部品が実装される複数の基板を有する遊技機であって、

ベタグランド（ベタパターン、基板グランド、ＧＮＤ）を有する特定制御基板（主制御基板１３１０、周辺制御基板１５１０）を備え、

該特定制御基板の表基板面（実装面１３１０ｘ、表面（実装面）１５１０ｘ）には、

前記電子部品が実装される実装部（電子部品が実装されているスルーホールやパッド）と、

前記電子部品が実装されていない非実装部（電子部品が実装されていないスルーホールやパッド）と、が形成され、

前記実装部のうちの特定実装部は、周囲の銅箔が除去された特定絶縁部（絶縁部１３１０ｗ，１５１０ｉ）と、前記ベタグランドと接続され且つ周囲の銅箔が残存する特定導通部（サーマルパターン１３１０ｖ，１５１０ｖ）と、を備え、

前記非実装部のうちの特別非実装部は、周囲の銅箔が除去された特別絶縁部（絶縁部１３１０ｗ，１５１０ｉ）と、前記ベタグランドと接続され且つ周囲の銅箔が残存する特別導通部（サーマルパターン１３１０ｖ，１５１０ｖ）と、を備え、
前記特定実装部は、四角形状の銅箔部（矩形状のサーマルパッド１５１０ｋ'）で形成され、
前記特別非実装部は、円形状の銅箔部（丸形状（円形状）のサーマルランド１５１０ｇ'やサーマルパッド１５１０ｋ'）で形成される、
ことを特徴とする。
【６１４７】
上記発明によれば、特定制御基板の表基板面に、電子部品が実装される実装部と、電子部品が実装されていない非実装部と、を形成し、実装部のうちの特定実装部は、周囲の銅箔が除去された特定絶縁部と、ベタグランドと接続され且つ周囲の銅箔が残存する特定導通部と、を備えて構成し、非実装部のうちの特別非実装部は、周囲の銅箔が除去された特別絶縁部と、ベタグランドと接続され且つ周囲の銅箔が残存する特別導通部と、を備えて構成し、特定実装部を四角形状の銅箔部で形成し、特別非実装部を円形状の銅箔部で形成するため、電子部品の実装時における温度低下が抑制され、ハンダが不完全に溶融されることを抑制し、特定実装部と特別非実装部とにハンダを溶着させて特定制御基板の剛性を高めることができ、そりや曲げが抑制されるため、実装される電子部品が剥がれ落ちることや、銅箔が剥離することを抑制して遊技機の信頼性が向上する。また、電子部品が実装されていない特別非実装部を円形状の銅箔部で形成したため、放熱が外周全体から均一に行われるようになり、特別非実装部の温度分布にムラが発生しにくくなるため、ハンダが不完全に溶融される領域が発生することを抑止でき、ハンダを均一に溶着できるため、特定制御基板の剛性が高まる。
【６１４８】
複数の電子部品が実装される複数の基板を有する遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）であって、
ベタグランド（ベタパターン、基板グランド、ＧＮＤ）を有し、表基板面の略全域が絶縁膜（ソルダーレジスト）で覆われる特定基板（主制御基板１３１０、周辺制御基板１５１０）を備え、
該特定基板の前記表基板面（実装面１３１０ｘ、表面（実装面）１５１０ｘ）には、
電子部品が実装される実装用接合部（電子部品が実装されているスルーホールやパッド）と、
電子部品が実装されない非実装用接合部（電子部品が実装されていないスルーホールやパッド）と、
表基板面側信号用パターン（信号ライン、制御信号ライン、信号線、信号のための配線パターン）と、が形成され、
前記非実装用接合部のうちの前記ベタグランドと接続される特定非実装用接合部（グランドラインのテストポイント）は、銅箔が除去された絶縁部（絶縁部１３１０ｗ，１５１０ｉ）と、銅箔が残存して前記ベタグランドと接続する導通部（サーマルパターン１３１０ｖ，１５１０ｖ）と、を備え、
前記非実装用接合部のうちの前記表基板面側信号用パターンと接続される特別非実装用接合部（信号ラインのテストポイント）は、少なくとも一部が前記絶縁膜で覆われる（ランド１３１０ｓの外周縁部１３１０ｓ１が主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘにベタ塗される絶縁被膜である緑色のソルダーレジストにより覆われ、信号ラインの銅箔の一部のみが露出する）、
ことを特徴とする。
【６１４９】
上記発明によれば、電子部品が実装されない非実装用接合部のうちのベタグランドと接続される特定非実装用接合部を、銅箔が除去された絶縁部と、銅箔が残存してベタグランドと接続する導通部と、を備えて構成するため、特定非実装用接合部については電子部品

の実装時における温度低下が抑制されて、ハンダが不完全に溶融されることを抑制できるため、特定非実装用接合部にハンダを溶着させて特定基板の剛性を高めることができ、そりや曲げが抑制されて実装される電子部品が剥がれ落ちることや、表基板面側信号用パターンが剥離することを抑制して遊技機の信頼性が向上することに加え、電子部品が実装されない非実装用接合部のうちの表基板面側信号用パターンと接続される特別非実装用接合部を、少なくとも一部が絶縁膜で覆われるように構成するため、特定基板に反りや曲げが生じた場合であっても絶縁膜によって表基板面側信号用パターンと接続される特別非実装用接合部が剥離することを抑制できるようになり、遊技機の信頼性が向上する。

【６１５０】

複数の電子部品が実装される複数の基板を有する遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）であって、

ベタグランド（ベタパターン、基板グランド、ＧＮＤ）を有し、複数の電子部品が実装される表基板面の略全域が絶縁膜（ソルダーレジスト）で覆われる特定基板（主制御基板１３１０、周辺制御基板１５１０）を備え、

該特定基板の前記表基板面（実装面１３１０ｘ、表面（実装面）１５１０ｘ）には、

実装される電子部品の検査に用いられる複数のテストポイント（グランドラインのテストポイントや信号ラインのテストポイント等）と、

表基板面側信号用配線パターン（主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘや周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成される信号ライン、制御信号ライン、信号線、信号のための配線パターン）と、が形成され、

前記複数のテストポイントのうちの前記ベタグランドと接続される特定テストポイント（グランドラインのテストポイント）は、周囲の銅箔が除去されてハンダが溶着されない絶縁部（絶縁部１３１０ｗ，１５１０ｉ）と、周囲の銅箔部が残存してハンダを溶着可能な導通部（サーマルパターン１３１０ｖ，１５１０ｖ）と、を備え、

前記複数のテストポイントのうちの前記表基板面側信号用配線パターンと接続される特別テストポイント（信号ラインのテストポイント）は、前記表基板面側信号用配線パターンと接続される表基板面側ランド部（ランド１３１０ｓ）と、前記特定基板の裏基板面（主制御基板１３１０のハンダ面１３１０、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ））に形成される裏基板面側信号用配線パターン（主制御基板１３１０のハンダ面１３１０や周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ）に形成される信号ライン、制御信号ライン、信号線、信号のための配線パターン）と接続される裏基板面側ランド部（主制御基板１３１０のハンダ面１３１０や周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ）に形成される信号ラインのスルーホールのランド）と、を備え、

前記表基板面側ランド部は、少なくとも一部が前記絶縁膜で覆われてハンダを溶着不能とされる溶着不能部（外周縁部から中央方向の一定範囲であって、主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘにベタ塗されるソルダーレジストで覆われる部分）を有する、

ことを特徴とする。

【６１５１】

上記発明によれば、実装される電子部品の検査に用いられる複数のテストポイントのうちのベタグランドと接続される特定テストポイントを、周囲の銅箔が除去されてハンダが溶着されない絶縁部と、周囲の銅箔部が残存してハンダを溶着可能な導通部と、を備えて構成し、複数のテストポイントのうちの表基板面側信号用配線パターンと接続される特別テストポイントを、表基板面側信号用配線パターンと接続される表基板面側ランド部と、裏基板面側信号用配線パターンと接続される裏基板面側ランド部と、を備えて構成し、表基板面側ランド部の少なくとも一部が絶縁膜で覆われてハンダを溶着不能とされる溶着不能部を有するため、表基板面側信号用配線パターンと接続されることで不正の対象となりやすい特別テストポイントにハンダを溶着しにくくし、これによって特別テストポイントに対して不正な電子部品が実装されることを抑制でき、電子基板への不正に対するセキュリティを向上させることができる。

【６１５２】

複数の電子部品が実装される複数の基板を有し、所定の始動条件の成立に基づいて図柄変動遊技を行い、該図柄変動遊技の結果に応じて遊技利益を付与する遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）において、
遊技者に付与した遊技利益に基づいて算出される所定値（出玉量）が特定値に達したか否かを判定する判定手段（主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが出玉量が特定値に達したか否かを判定する部分）と、
前記所定値が前記特定値に達したと判定された場合に、以降の遊技を前記所定値が前記特定値に達したと判定される以前よりも抑制される抑制態様で制御する遊技抑制手段（主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが打ち止め状態に制御する部分）と、
磁気を検知可能な磁気検出手段（磁気検出素子ＭＳＤ）が実装される磁気検出基板（磁気センサ基板１０５０ｂ）と、
該磁気検出基板が磁気を検出したことを報知可能な磁気検出報知手段（扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤを異常報知発光態様に発光制御する部分、又は／及び遊技盤５側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤを異常報知発光態様（消灯でもよいし、所定色（例えば赤色）の点灯でもよい）に発光制御する部分。）と、を備え、
前記磁気検出報知手段は、前記遊技抑制手段による抑制態様での制御中には前記磁気検出基板が磁気を検出したことを報知しないものであり、
前記磁気検出基板は、実装された部品を特定可能な部品番号が記された表記部（表面側表記部、裏面側表記部）を基板両面（表基板面と裏基板面）のいずれにも設けないように構成される、
ことを特徴とする。
【６１５３】
上記発明によれば、所定値が特定値に達したと判定された場合に、以降の遊技を抑制態様で制御するため、例えば以降の遊技で遊技利益の付与を抑制することで遊技停止を促すことにより、多くの遊技利益を付与した遊技機の管理の適正化を図ることができる。また、遊技抑制手段による抑制態様での制御中には磁気検出基板が磁気を検出したことを報知しないため、遊技抑制手段による抑制態様での制御中にも磁気検出基板が磁気を検出したことを報知する場合に比べて電力消費を抑制できるようになる。また、遊技抑制手段による抑制態様での制御中には磁気検出基板が磁気を検出したことを報知しないことで磁気検出基板に対する不正が行われるおそれがあるが、磁気検出基板において実装された部品を特定可能な部品番号が記された表記部を基板両面のいずれにも設けないように構成するため、磁気検出基板の回路を把握されにくくなり、磁気検出基板に実装される磁気検出手段に不正が行われることを抑制できる。
【６１５４】
複数の電子部品が実装される複数の基板を有し、所定の始動条件の成立に基づいて図柄変動遊技を行い、該図柄変動遊技の結果に応じて遊技利益を付与する遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）において、
遊技者に付与した遊技利益に基づいて算出される所定値（出玉量）が特定値に達したか否かを判定する判定手段（主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが出玉量が特定値に達したか否かを判定する部分）と、
前記所定値が前記特定値に達したと判定された場合に、以降の遊技を抑制態様で制御する遊技抑制手段（主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが打ち止め状態に制御する部分）と、
表基板面の略全域に絶縁膜が形成される特定基板（例えば主制御基板１３１０）と、
特定の異常（例えば本体枠４に対して扉枠３が開放されたことや外枠２に対して本体枠４が開放されたことを検出した扉開放異常状態）を検知可能な異常検知手段（例えば扉枠開放スイッチや本体枠開放スイッチ）と、
該異常検知手段が前記特定の異常を検知した場合に、該異常に対応するエラー制御を実

行可能な異常制御手段（扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤを異常報知発光態様に発光制御する部分、又は／及び遊技盤５側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤを異常報知発光態様（消灯でもよいし、所定色（例えば赤色）の点灯でもよい）に発光制御する部分。）と、を備え、

前記異常制御手段は、前記遊技抑制手段による抑制態様での制御中には前記異常検知手段が前記特定の異常を検知しても当該異常に対応するエラー制御を実行しないものであり、

前記特定基板の表基板面には、複数の前記電子部品のうちの特定電子部品（コンデンサＭＣ１）と、複数の前記電子部品のうちの特別電子部品（ＩＣ１）と、が隣接して配置され、

前記特定電子部品は、前記特定基板の表基板面に形成される前記絶縁膜の色（例えば緑色）とも前記特別電子部品の色（例えば黒色）とも異なる色（例えば水色）の外装を有する、

ことを特徴とする。

【６１５５】

上記発明によれば、所定値が特定値に達したと判定された場合に、以降の遊技を抑制態様で制御するため、例えば以降の遊技で遊技利益の付与を抑制することで遊技停止を促すことにより、多くの遊技利益を付与した遊技機の管理の適正化を図ることができる。また、遊技抑制手段による抑制態様での制御中には異常検知基板が特定の異常を検知しても当該異常に対応するエラー制御を実行しないため、遊技抑制手段による抑制態様での制御中にも当該異常に対応するエラー制御を実行する場合に比べて電力消費を抑制できるようになる。また、遊技抑制手段による抑制態様での制御中には異常検知基板が特定の異常を検知しても当該異常に対応するエラー制御を実行しないことで特定基板に対する不正が行われるおそれがあるが、特定基板において特別電子部品の近傍に特定基板の表基板面に形成される絶縁膜の色とも特別電子部品の色とも異なる色の特定電子部品を実装するため、特定基板が改変されていないかをチェックをする際に、特定電子部品を目安として特定電子部品を容易にチェックすることができ、特別電子部品が不正な電子部品に改変されたことの発見が容易になる。

【６１５６】

複数の電子部品が実装される複数の基板を有し、所定の始動条件の成立に基づいて図柄変動遊技を行い、該図柄変動遊技の結果に応じて遊技利益を付与する遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）において、

遊技者に付与した遊技利益に基づいて算出される所定値（出玉量）が特定値に達したか否かを判定する判定手段（主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが出玉量が特定値に達したか否かを判定する部分）と、

前記所定値が前記特定値に達したと判定された場合に、以降の遊技を抑制態様で制御する遊技抑制手段（主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが打ち止め状態に制御する部分）と、

表基板面に挿入実装タイプの電子部品と表面実装タイプの電子部品とが実装される特定基板（例えば主制御基板１３１０）と、

特定の異常（例えば本体枠４に対して扉枠３が開放されたことや外枠２に対して本体枠４が開放されたことを検出した扉開放異常状態）が発生した場合に、該異常に対応するエラー制御を実行可能な異常制御手段（扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤを異常報知発光態様に発光制御する部分、又は／及び遊技盤５側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤを異常報知発光態様（消灯でもよいし、所定色（例えば赤色）の点灯でもよい）に発光制御する部分。）と、を備え、

前記異常制御手段は、前記遊技抑制手段による抑制態様での制御中には前記特定の異常が発生しても当該異常に対応するエラー制御を実行しないものであり、
前記特定基板の表基板面に実装される複数の前記挿入実装タイプの電子部品のうちの特定電子部品（挿入実装タイプのコンデンサＭＣ１）と、複数の前記表面実装タイプの電子部品のうちの特別電子部品（表面実装タイプのＩＣ１）と、を電子部品実装不可領域を挟んで隣接配置した、
ことを特徴とする。
【６１５７】
上記発明によれば、所定値が特定値に達したと判定された場合に、以降の遊技を抑制態様で制御するため、例えば以降の遊技で遊技利益の付与を抑制することで遊技停止を促すことにより、多くの遊技利益を付与した遊技機の管理の適正化を図ることができる。また、遊技抑制手段による抑制態様での制御中には異常検知基板が特定の異常を検知しても当該異常に対応するエラー制御を実行しないため、遊技抑制手段による抑制態様での制御中にも当該異常に対応するエラー制御を実行する場合に比べて電力消費を抑制できるようになる。また、遊技抑制手段による抑制態様での制御中に異常検知基板が特定の異常を検知しても当該異常に対応するエラー制御を実行しないことで特定基板に対する不正が行われた場合であっても、特定基板の表基板面に実装される複数の前記挿入実装タイプの電子部品のうちの特定電子部品と、複数の前記表面実装タイプの電子部品のうちの特別電子部品と、を電子部品実装不可領域を挟んで隣接配置するため、特定電子部品によって主制御基板の剛性を高めて主制御基板の曲げや反りを抑制でき、表面実装タイプの電子部品が剥がれ落ちることが抑制されて遊技機の信頼性が向上する。
【６１５８】
複数の電子部品が実装される複数の基板を有し、所定の始動条件の成立に基づいて図柄変動遊技を行い、該図柄変動遊技の結果に応じて遊技利益を付与する遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）において、
遊技者に付与した遊技利益に基づいて算出される所定値（出玉量）が特定値に達したか否かを判定する判定手段（主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが出玉量が特定値に達したか否かを判定する部分）と、
前記所定値が前記特定値に達したと判定された場合に、以降の遊技を抑制態様で制御する遊技抑制手段（主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが打ち止め状態に制御する部分）と、
複数の電子部品が実装される表基板面の略全域が絶縁膜で覆われる特定基板（例えば主制御基板１３１０）と、
特定の異常（例えば本体枠４に対して扉枠３が開放されたことや外枠２に対して本体枠４が開放されたことを検出した扉開放異常状態）が発生した場合に、該異常に対応するエラー制御を実行可能な異常制御手段（扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤを異常報知発光態様に発光制御する部分、又は／及び遊技盤５側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤを異常報知発光態様（消灯でもよいし、所定色（例えば赤色）の点灯でもよい）に発光制御する部分。）と、を備え、
前記異常制御手段は、前記遊技抑制手段による抑制態様での制御中には前記特定の異常が発生しても当該異常に対応するエラー制御を実行しないものであり、
前記特定基板の前記表基板面には、表基板面側信号用配線パターン（主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘや周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成される信号ライン、制御信号ライン、信号線、信号のための配線パターン）が形成されるとともに、複数のテストポイント（グランドラインのテストポイントや信号ラインのテストポイント等）が形成され、
前記複数のテストポイントのうちの特定テストポイント（主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに形成される信号ラインのテストポイント）は、前記表基板面側信号用配線パ

ターンと接続され、かつ一部に前記絶縁膜で覆われてハンダを溶着不能とされる溶着不能部（主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに形成される信号ラインのテストポイントとして形成されるスルーホール１３１０のランド１３１０ｓの外周縁部から中央方向の一定範囲であって、主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘにベタ塗されるソルダーレジストで覆われる部分）を有する、
ことを特徴とする。
【６１５９】
上記発明によれば、所定値が特定値に達したと判定された場合に、以降の遊技を抑制態様で制御するため、例えば以降の遊技で遊技利益の付与を抑制することで遊技停止を促すことにより、多くの遊技利益を付与した遊技機の管理の適正化を図ることができる。また、遊技抑制手段による抑制態様での制御中には異常検知基板が特定の異常を検知しても当該異常に対応するエラー制御を実行しないため、遊技抑制手段による抑制態様での制御中にも当該異常に対応するエラー制御を実行する場合に比べて電力消費を抑制できるようになる。また、遊技抑制手段による抑制態様での制御中に異常検知基板が特定の異常を検知しても当該異常に対応するエラー制御を実行しないことで特定基板に対する不正が行われた場合であっても、特定基板の表基板面に形成される複数のテストポイントのうちの表基板面側信号用配線パターンと接続される特定テストポイントを、一部に絶縁膜で覆われてハンダを溶着不能とされる溶着不能部を有するように構成したため、表基板面側信号用配線パターンと接続されることで不正の対象となりやすい特定テストポイントにハンダを溶着しにくくし、これによって特定テストポイントに対して不正な電子部品が実装されることを抑制でき、特定基板への不正に対するセキュリティを向上させることができる。
【６１６０】
複数の電子部品が実装される複数の基板を有し、所定の始動条件の成立に基づいて図柄変動遊技を行い、該図柄変動遊技の結果に応じて遊技利益を付与する遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）において、
遊技者に付与した遊技利益に基づいて算出される所定値（出玉量）が特定値に達したか否かを判定する判定手段（主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが出玉量が特定値に達したか否かを判定する部分）と、
前記所定値が前記特定値に達したと判定された場合に、以降の遊技を抑制態様で制御する遊技抑制手段（主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが打ち止め状態に制御する部分）と、
複数の電子部品が実装される表基板面の略全域が絶縁膜で覆われる特定基板（例えば主制御基板１３１０）と、
特定の異常（例えば本体枠４に対して扉枠３が開放されたことや外枠２に対して本体枠４が開放されたことを検出した扉開放異常状態）が発生した場合に、該異常に対応するエラー制御を実行可能な異常制御手段（扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤを異常報知発光態様に発光制御する部分、又は／及び遊技盤５側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤを異常報知発光態様（消灯でもよいし、所定色（例えば赤色）の点灯でもよい）に発光制御する部分。）と、を備え、
前記異常制御手段は、前記遊技抑制手段による抑制態様での制御中には前記特定の異常が発生しても当該異常に対応するエラー制御を実行しないものであり、
該特定基板の前記表基板面には、
電子部品が実装される実装用スルーホール（電子部品が実装されているスルーホール）と、
電子部品が実装されない非実装用スルーホール（電子部品が実装されていないスルーホール）と、が形成され、
前記非実装用スルーホールのうちの特別非実装用スルーホール（信号ラインのテストポイントとして形成されるスルーホール）は、表基板面側配線パターンと電気的に接続され

る表基板面側ランド（ランド１３１０ｓ）と、裏基板面側配線パターンと電気的に接続される裏基板面側ランド（主制御基板１３１０のハンダ面１３１０に形成される信号ラインのスルーホールのランド）と、を有し、
前記表基板面側ランドは、外周縁部が前記絶縁膜で覆われる（主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘに形成される信号ラインのテストポイントとして形成されるスルーホール１３１０のランド１３１０ｓの外周縁部が、主制御基板１３１０の実装面１３１０ｘにベタ塗されるソルダーレジストで覆われる）、
ことを特徴とする。
【６１６１】
上記発明によれば、所定値が特定値に達したと判定された場合に、以降の遊技を抑制態様で制御するため、例えば以降の遊技で遊技利益の付与を抑制することで遊技停止を促すことにより、多くの遊技利益を付与した遊技機の管理の適正化を図ることができる。また、遊技抑制手段による抑制態様での制御中には異常検知基板が特定の異常を検知しても当該異常に対応するエラー制御を実行しないため、遊技抑制手段による抑制態様での制御中にも当該異常に対応するエラー制御を実行する場合に比べて電力消費を抑制できるようになる。また、遊技抑制手段による抑制態様での制御中に異常検知基板が特定の異常を検知しても当該異常に対応するエラー制御を実行しないことで特定基板に対する不正が行われた場合であっても、電子部品が実装されない非実装用スルーホールのうちの、表基板面側配線パターンと電気的に接続される表基板面側ランドと、裏基板面側配線パターンと電気的に接続される裏基板面側ランドと、を有する特別非実装用スルーホールが、表基板面側ランドの外周縁部を絶縁膜で覆われるように構成したため、表基板面側信号用配線パターンと接続されることで不正の対象となりやすい特別非実装用スルーホールの表基板面側ランドにハンダを溶着しにくくし、これによって特別非実装用スルーホールの表基板面側ランドに対して不正な電子部品が実装されることを抑制でき、特定基板への不正に対するセキュリティを向上させることができる。
【６１６２】
複数の電子部品が実装される複数の基板を有し、所定の始動条件の成立に基づいて図柄変動遊技を行い、該図柄変動遊技の結果に応じて遊技利益を付与する遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）において、
遊技者に付与した遊技利益に基づいて算出される所定値（出玉量）が特定値に達したか否かを判定する判定手段（主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが出玉量が特定値に達したか否かを判定する部分）と、
前記所定値が前記特定値に達したと判定された場合に、以降の遊技の進行を抑制する抑制状態に制御する遊技抑制手段（主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが打ち止め状態に制御する部分）と、
複数の発光体が実装される表基板面の略全域が絶縁膜で覆われる特定発光基板（例えば扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）の各種装飾基板）と、
該特定発光基板に実装される複数の発光体を制御する発光制御手段（周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣ１５１０ａが扉枠ユニットの各種装飾基板に実装されるＬＥＤを制御する部分）と、を備え、
前記発光制御手段は、前記遊技抑制手段による抑制状態の制御中に前記特定発光基板に実装される複数の前記発光体を前記抑制状態に応じた態様（例えば白色や赤色に点灯（点滅を含まないものでもよい）させる態様等）に制御し、
前記特定発光基板には、
前記表基板面に配置される表基板面側信号配線パターン（扉枠ユニットの各種装飾基板の表基板面に形成される信号ライン）と、
裏基板面に配置される裏基板面側信号配線パターン（扉枠ユニットの各種装飾基板の裏基板面に形成される信号ライン）と、
前記表基板面側信号配線パターンと電気的に接続される表基板面側ランド（扉枠ユニッ

トの各種装飾基板の表基板面に形成される信号ラインのスルーホールのランド）と、前記裏基板面側信号配線パターンと電気的に接続される裏基板面側ランド（扉枠ユニットの各種装飾基板の裏基板面に形成される信号ラインのスルーホールのランド）と、を接続するスルーホールと、が形成され、

前記特定発光基板に形成される前記スルーホールのうち、前記発光体を含む電子部品が実装されない特定スルーホール（電子部品が実装されていないスルーホール）は、少なくとも一部が前記絶縁膜で覆われる特定表基板面側ランドを有する（信号ラインに設けられて電子部品が実装されていないスルーホールのランドの外周縁部から中央方向の一定範囲であって、扉枠ユニットの各種装飾基板の表基板面にベタ塗されるソルダーレジストで覆われる部分）、

ことを特徴とする。

【６１６３】

上記発明によれば、所定値が特定値に達したと判定された場合に、以降の遊技を抑制態様で制御するため、例えば以降の遊技で遊技利益の付与を抑制することで遊技停止を促すことにより、多くの遊技利益を付与した遊技機の管理の適正化を図ることができる。また、遊技抑制手段による抑制態様での制御中に抑制状態に応じた態様に制御される複数の発光体が実装される特定発光基板に形成されるスルーホールのうち、発光体を含む電子部品が実装されない特定スルーホールが、少なくとも一部が絶縁膜で覆われる特定表基板面側ランドを有するように形成されるため、特定発光基板の表基板面における反射率の均一化を図ることができ、遊技抑制手段による抑制態様での制御が行われている場合に特定発光基板に実装されている複数の発光体を抑制状態に応じた態様に制御してムラなく効率的に発光させることが可能になることで遊技抑制手段による抑制態様での制御が行われていることを遊技者に気付かせやすくなる。

【６１６４】

複数の電子部品が実装される複数の基板を有し、所定の始動条件の成立に基づいて図柄変動遊技を行い、該図柄変動遊技の結果に応じて遊技利益を付与する遊技機（パチンコ機１、スロットマシン等）において、

遊技者に付与した遊技利益に基づいて算出される所定値（出玉量）が特定値に達したか否かを判定する判定手段（主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが出玉量が特定値に達したか否かを判定する部分）と、

前記所定値が前記特定値に達したと判定された場合に、以降の遊技の進行を抑制する抑制状態に制御する遊技抑制手段（主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが打ち止め状態に制御する部分）と、

複数の発光体が実装される複数の発光基板（例えば扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）に設けられて複数のＬＥＤが実装される基板や、遊技盤５側に設けられて複数のＬＥＤが実装される基板）と、を備え、

前記遊技抑制手段による抑制状態の制御中には、前記複数の発光基板のうちの表基板面の略全域が白色の絶縁膜で覆われる特定発光基板（例えば扉枠ユニット（扉枠３に設けられる扉枠左サイドユニット４２０、扉枠右サイドユニット４３０、皿ユニット２００及び扉枠トップユニット４５０等）に設けられて複数のＬＥＤが実装される基板）と表基板面の略全域が緑色又は黒色の絶縁膜で覆われる特別発光基板（例えば裏後上可動装飾体３２１０のインフォメーション表示器の裏後上第一装飾基板）とのそれぞれに実装される複数の発光体が前記抑制状態に応じた発光態様に制御され、

前記特別発光基板は、

前記表基板面に配置される表基板面側信号配線パターン（例えば裏後上可動装飾体３２１０のインフォメーション表示器の裏後上第一装飾基板の表基板面に形成される信号ライン）と、

裏基板面に配置される裏基板面側信号配線パターン（例えば裏後上可動装飾体３２１０のインフォメーション表示器の裏後上第一装飾基板の裏基板面に形成される信号ライン）

と、
前記表基板面側信号配線パターンと電気的に接続される表基板面側ランド（例えば裏後上可動装飾体３２１０のインフォメーション表示器の裏後上第一装飾基板の表基板面に形成される信号ラインに設けられるスルーホールのランド）と、前記裏基板面側信号配線パターンと電気的に接続される裏基板面側ランド（例えば裏後上可動装飾体３２１０のインフォメーション表示器の裏後上第一装飾基板の裏基板面に形成される信号ラインに設けられるスルーホールのランド）と、を接続するスルーホールと、を有し、
前記特別発光基板に形成される前記スルーホールのうち、前記発光体を含む電子部品が実装されない特別スルーホール（例えば裏後上可動装飾体３２１０のインフォメーション表示器の裏後上第一装飾基板に形成される信号ラインに設けられるスルーホールのうちのＬＥＤを含む電子部品が実装されていないスルーホール）は、少なくとも一部が前記絶縁膜で覆われる特別表基板面側ランド（裏後上可動装飾体３２１０のインフォメーション表示器の裏後上第一装飾基板に形成される信号ラインに設けられるスルーホールのうちのＬＥＤを含む電子部品が実装されていないスルーホールのランドであって、当該ランドの外周縁部から中央方向の一定範囲であって、扉枠ユニットの各種装飾基板の表基板面にベタ塗されるソルダーレジストで覆われる部分を有するランド）を有する、
ことを特徴とする。
【６１６５】
上記発明によれば、所定値が特定値に達したと判定された場合に、以降の遊技を抑制態様で制御するため、例えば以降の遊技で遊技利益の付与を抑制することで遊技停止を促すことにより、多くの遊技利益を付与した遊技機の管理の適正化を図ることができる。また、遊技抑制手段による抑制態様での制御中に抑制状態に応じた態様に制御される複数の発光体が実装される複数の発光基板のうちの表基板面の略全域が緑色又は黒色の絶縁膜で覆われる特別発光基板に形成されて発光体を含む電子部品が実装されない特別スルーホールが、少なくとも一部が絶縁膜で覆われる特別表基板面側ランドを有するように形成されるため、特別発光基板の表基板面における反射率の均一化を図ることができることに加えて、特別発光基板以外の基板に実装されている発光体からの光が特別発光基板の表基板面で反射することを抑制できることで、遊技抑制手段による抑制態様での制御中に特別発光基板の表基板面に実装される複数の発光体が発光していると誤認されることを抑制できる。
【６１６６】
［発光装飾部の変形例］
次に、遊技盤５に着脱可能に設けられた発光装飾部の変形例について、図４０４～図４０９を参照して詳細に説明する。図４０４は、裏前左装飾ユニット３１２０や裏後下演出ユニット３３００が取り付けられた遊技盤５を示す正面図である。図４０４に示すように、遊技盤５は、複数の発光装飾部を有しており、本実施形態において、発光装飾部は、例えば上述された、裏前左装飾ユニット３１２０や、裏後下演出ユニット３３００等である。
【６１６７】
裏後下演出ユニット３３００は、遊技盤５の上下方向の中央部かつ下方の位置に取り付けられている。上記したように裏後下演出ユニット３３００は、互いに左右に隣接している裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２を有している。裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２は、基端側が夫々前後方向の軸周りに回動可能にかつ昇降可能に支持されている。
【６１６８】
裏後下演出ユニット３３００は、パチンコ機１の通常状態において、遊技者側から視認困難な退避位置に退避され、特定の演出発生時や電源投入時の動作確認等の特定の状態において、遊技者側から視認容易な出動位置に出動される。裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２は、裏後下演出ユニット３３００が出動位置に出動された際に、基端側を中心として夫々の先端側が上方へ移動するように回動すると共に上昇し、裏後左可動装飾体３３０１の右辺と裏後右可動装飾体３３０２の左辺とが互いに当接する状態

となり、本実施形態では遊技盤５の中央部に「Ａ」の文字を図案化した大きな装飾体を出現させる。なお、裏後左可動装飾体３３０１及び裏後右可動装飾体３３０２は同一の構成を有しており、以下では、裏後左可動装飾体３３０１についてのみ詳細に説明する。

【６１６９】

図４０５は、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１を示す分解斜視図である。図４０５に示すように、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１は、表実装面に複数のＬＥＤ３３１５ａが実装された裏後左可動装飾基板３３１５と、裏後左可動装飾基板３３１５が収納される収納部３３１６と、を有している。

【６１７０】

裏後左可動装飾基板３３１５は、遊技者に対峙するように配置される表実装面に、複数のフルカラーＬＥＤ３３１５ａが実装されている。複数のＬＥＤ３３１５ａは、例えば、前面に対して垂直方向の光軸を中心として１３０度の角度の範囲で光を照射可能な広角のトップビュータイプのＬＥＤを含んで構成されてもよいし、水平方向の光軸を中心として１３０度の角度の範囲で光を照射可能な広角のサイドビュータイプのＬＥＤを含んで構成されてもよいし、広角のトップビュータイプのＬＥＤや広角のサイドビュータイプのＬＥＤに限らず通常のトップビュータイプのＬＥＤや通常のサイドビュータイプのＬＥＤを含んで構成されてもよい。

【６１７１】

また、裏後左可動装飾基板３３１５の表実装面には、白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされるとともに、複数のＬＥＤ３３１５ａが実装される位置やＬＥＤ３３１５ａの部品番号等を示す表記部（図示省略）が形成されている。表記部は、例えば白色のソルダーレジストに近い明るさの黄色等でシルク印刷されることが望ましく、白色のソルダーレジストとともに裏後左可動装飾基板３３１５における発光ムラを抑制することができる。このような観点から、裏後左可動装飾基板３３１５の表実装面には、複数のＬＥＤ３３１５ａを除く他の電子部品が実装されないことが好ましい。

【６１７２】

収納部３３１６は、透明樹脂を後面解放の箱状に形成したケース体３３１７と、透明樹脂を板状に形成したカバー体３３１８と、を有している。ケース体３３１７は、遊技者側を向けて配置される前面部３３１７ａと、前面部３３１７ａの端部に沿って形成され前面部３３１７ａから後方に延びる板状の側壁部３３１７ｂと、を有している。

【６１７３】

ケース体３３１７の前面部３３１７ａには、メッキ、絵柄、などの加工が施されてもよく、裏後左可動装飾体３３０１として文字やキャラクタ等の意匠（本例では「Ａ」の文字を図案化した意匠）を表現するようになっている。また、前面部３３１７ａは、裏後左可動装飾基板３３１５の表実装面に実装された複数のＬＥＤ３３１５ａから光が照射される部分において、全体が光を透過可能とされるものであってもよいし、光を透過可能な部分と光を透過不可能な部分とが混在するものであってもよい。光を透過可能な部分は、無色透明であってもよいし、有色透明であってもよい。また、光を透過可能な部分は、レンズカット等の光を拡散させる加工が施されたものであってもよいし、光を拡散させる加工が施されていないものであってもよい。なお、前面部３３１７ａと裏後左可動装飾基板３３１５との間に透光性の部材（例えば拡散レンズ等）をさらに備える態様であってもよく、この場合には、透光性の部材とケース体３３１７とを一体で形成することで二重構造としてもよいし、透光性の部材とケース体３３１７とを別体で形成するようにしてもよい。

【６１７４】

ケース体３３１７内には、表実装面が前面部３３１７ａと対向するように裏後左可動装飾基板３３１５が位置決めされるとともに、位置決めされた裏後左可動装飾基板３３１５がネジやビス等の固定部材によってケース体３３１７に取り付けられる。この後、裏後左可動装飾基板３３１５が取り付けられたケース体３３１７の解放された後面を覆うようにカバー体３３１８がネジやビス等の固定部材によってケース体３３１７に取り付けられる。

【６１７５】
カバー体３３１８は、ケース体３３１７の形状に応じて板状に形成されている。すなわち、本例では、「Ａ」の文字を図案化した意匠の一部（「Ａ」の文字を図案化した意匠の左側部）の形状に応じて形成されたケース体３３１７に応じて、カバー体３３１８も「Ａ」の文字を図案化した意匠の一部（「Ａ」の文字を図案化した意匠の左側部）の形状に応じて形成される。また、カバー体３３１８には、カバー体３３１８の縁部を残して形成される第１開口３３１８ａと、カバー体３３１８の縁部の一部を切り欠いて形成される第２開口３３１８ｂとが形成されている。
【６１７６】
図４０６（ａ）は、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１の背面を示す背面図であり、図４０６（ｂ）は、図４０６（ａ）のＡ－Ａ断面図である。図４０６（ａ）に示すように、裏後左可動装飾基板３３１５の裏実装面には、ＬＥＤ３３１５ａを除く他の複数の電子部品が実装されている。複数の電子部品は、例えば複数のＬＥＤ３３１５ａの発光を制御するＬＥＤドライバ３３１５ｂ、電力を熱として放散する抵抗３３１５ｃ、及び外部との接続に用いられるコネクタ３３１５ｄ等であり、ＬＥＤドライバ３３１５ｂ、抵抗３３１５ｃ及びコネクタ３３１５ｄは、ＬＥＤ３３１５ａが発光される際に発熱し得る。
【６１７７】
カバー体３３１８の第１開口３３１８ａ及び第２開口３３１８ｂは、裏後左可動装飾基板３３１５の裏実装面に実装された発熱し得る電子部品であるＬＥＤドライバ３３１５ｂ、抵抗３３１５ｃ及びコネクタ３３１５ｄの位置に応じて形成されており、裏後左可動装飾体３３０１の背面視において、ＬＥＤドライバ３３１５ｂ、抵抗３３１５ｃ又はコネクタ３３１５ｄの外径よりも大きい内径で形成される態様が好ましく、裏後左可動装飾基板３３１５の裏実装面に部分的に密集して実装されたＬＥＤドライバ３３１５ｂ及び抵抗３３１５ｃを予め設定された間隔を設けて囲うように形成される態様がより好ましい。
【６１７８】
上述した裏後左可動装飾体３３０１では、複数のＬＥＤ３３１５ａが発光される際のＬＥＤドライバ３３１５ｂ、抵抗３３１５ｃ及びコネクタ３３１５ｄが放熱し、暖められた収納部３３１６内の空気の一部が第１開口３３１８ａ及び第２開口３３１８ｂを介して収納部３３１６の外部へと放出される。しかしながら、従来のパチンコ機１では、裏後左可動装飾体３３０１の収納部内で空気が滞留するため複数のＬＥＤ３３１５ａが発光される際のＬＥＤドライバ３３１５ｂ、抵抗３３１５ｃ及びコネクタ３３１５ｄの放熱により暖められた空気を効果的に外部へと放出することが困難であり、例えば裏後左可動装飾基板３３１５の温度が上昇して複数のＬＥＤ３３１５ａが誤発光し、遊技者や遊技機が設置される遊技ホール等に不利益を与えるおそれがあり、ひいては、遊技機の信頼性を低下させるおそれがある。また、裏後左可動装飾体３３０１を裏後下演出ユニット３３００に取り付ける際や裏後下演出ユニット３３００を遊技盤５に取り付ける際に、第１開口３３１８ａ又は第２開口３３１８ｂを介して作業者の手がＬＥＤドライバ３３１５ｂ、抵抗３３１５ｃ又はコネクタ３３１５ｄと接触するおそれがあり、例えば作業者の手と接触したＬＥＤドライバ３３１５ｂ、抵抗３３１５ｃ又はコネクタ３３１５ｄが損傷して複数のＬＥＤ３３１５ａが誤発光し、遊技者や遊技機が設置される遊技ホール等に不利益を与えるおそれがあり、ひいては、遊技機の信頼性を低下させるおそれもある。以下、このような問題を解消することを目的に、裏後左可動装飾体３３０１に改変を加えた態様について説明する。
【６１７９】
図４０６（ｂ）に示すように、本実施形態の裏後左可動装飾体３３０１には、裏後左可動装飾基板３３１５とカバー体３３１８との間に予め設定された間隔Ｓ１の隙間Ｓを形成するように、カバー体３３１８がケース体３３１７に取り付けられている。詳しくは、カバー体３３１８の前面（内面）には、裏後左可動装飾基板３３１５に向かって延びて裏後左可動装飾基板３３１５に当接する複数の当接部３３１８ｃが形成されており、カバー体

３３１８がケース体３３１７に取り付けられる際に複数の当接部３３１８ｃが裏後左可動装飾基板３３１５に当接することによって裏後左可動装飾基板３３１５とカバー体３３１８との間に予め設定された間隔Ｓ１の隙間Ｓが形成される。

【６１８０】

カバー体３３１８の当接部３３１８ｃは、カバー体３３１８の前面（内面）からの高さが上記予め設定された間隔Ｓ１と同等であればよく、例えば円柱状に形成されてもよいし、角柱状に形成されてもよい。また、当接部３３１８ｃには、カバー体３３１８をケース体３３１７に固定する場合や、裏後左可動装飾基板３３１５をケース体３３１７に固定する場合に、ネジやビス等の固定部材が挿通されてもよい。

【６１８１】

図４０７は、裏後下演出ユニット３３００の裏後左可動装飾体３３０１の背面の一部を示す斜視図である。図４０７に示すように、裏後左可動装飾基板３３１５の裏実装面には、特定の条件が成立する場合、第１開口３３１８ａに対応する領域を示す第１領域表示部３３１５ｆ、及び第２開口３３１８ｂに対応する領域を示す第２領域表示部３３１５ｇが形成される。特定の条件は、所定の光量の光が裏後左可動装飾体３３０１の背面に照射されることであり、例えば、裏後左可動装飾体３３０１を裏後下演出ユニット３３００に取り付ける際や裏後下演出ユニット３３００を遊技盤５に取り付ける作業場において、作業者が裏後左可動装飾体３３０１の背面を視認する際に裏後左可動装飾体３３０１の背面が上方に向けられ、裏後左可動装飾体３３０１の背面に作業場の照明の光が照射される場合等である。

【６１８２】

本実施形態の裏後左可動装飾体３３０１では、作業者が裏後下演出ユニット３３００を遊技盤５に取り付けようと裏後左可動装飾体３３０１の背面を視認した際等裏後左可動装飾体３３０１の背面に光が照射された場合に、裏後左可動装飾基板３３１５の裏実装面に、第１開口３３１８ａの縁に応じた影によって第１領域表示部３３１５ｆが形成されるとともに第２開口３３１８ｂの縁に応じた影によって第２領域表示部３３１５ｇが形成され、これら第１領域表示部３３１５ｆ及び第２領域表示部３３１５ｇは、裏後左可動装飾体３３０１の背面に第１開口３３１８ａ及び第２開口３３１８ｂが形成されていることを作業者に報知することができる。よって、作業者の手が第１開口３３１８ａ及び第２開口３３１８ｂを介して裏後左可動装飾基板３３１５の裏実装面に実装されたＬＥＤドライバ３３１５ｂ、抵抗３３１５ｃ又はコネクタ３３１５ｄと接触することが低減され、ＬＥＤドライバ３３１５ｂ、抵抗３３１５ｃ又はコネクタ３３１５ｄの損傷により裏後左可動装飾基板３３１５が誤作動して遊技者や遊技機が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、遊技機の信頼性の低下を抑制することができる。

【６１８３】

裏後左可動装飾基板３３１５は、表実装面に加えて裏実装面にも白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされることが好ましい。裏実装面にコーティングされた白色のソルダーレジストは、第１開口３３１８ａ及び第２開口３３１８ｂの縁の影によって裏後左可動装飾基板３３１５の裏実装面に形成される第１領域表示部３３１５ｆ及び第２領域表示部３３１５ｇとのコントラストが大きいため、裏後左可動装飾体３３０１に特定の条件が成立した際に作業者が第１領域表示部３３１５ｆ及び第２領域表示部３３１５ｇを容易に視認することができる。よって、作業者の手が第１開口３３１８ａ及び第２開口３３１８ｂを介して裏後左可動装飾基板３３１５の裏実装面に実装されたＬＥＤドライバ３３１５ｂ、抵抗３３１５ｃ又はコネクタ３３１５ｄと接触することがより一層低減され、ＬＥＤドライバ３３１５ｂ、抵抗３３１５ｃ又はコネクタ３３１５ｄの損傷により裏後左可動装飾基板３３１５が誤作動して遊技者や遊技機が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、遊技機の信頼性の低下を抑制することができる。

【６１８４】

また、裏後左可動装飾基板３３１５の裏実装面には、ＬＥＤ３３１５ａを除く他の電子部品であるＬＥＤドライバ３３１５ｂ、抵抗３３１５ｃ又はコネクタ３３１５ｄ等の配置

の位置や向きや部品番号等を示す表記部が黄色やピンク色等の明色でシルク印刷されることが好ましい。明色の表記部は、裏実装面にコーティングされた白色のソルダーレジストとともに、裏後左可動装飾基板３３１５の裏実装面に形成される第１領域表示部３３１５ｆ及び第２領域表示部３３１５ｇとのコントラストが大きいため、裏後左可動装飾体３３０１に特定の条件が成立した際に作業者が第１領域表示部３３１５ｆ及び第２領域表示部３３１５ｇを視認することをより一層容易にすることができる。

【６１８５】

なお、裏後左可動装飾基板３３１５の裏実装面には、ＬＥＤ３３１５ａを除く他の電子部品であるＬＥＤドライバ３３１５ｂ、抵抗３３１５ｃ又はコネクタ３３１５ｄ等の配置の位置や向きや部品番号等を示す表記部が茶色や黒色等の暗色でシルク印刷される態様であってもよく、暗色の表記部は、裏後左可動装飾基板３３１５の裏実装面に形成される第１領域表示部３３１５ｆ及び第２領域表示部３３１５ｇと重なる位置に形成されることが好ましい。このような暗色の表記部は、第１領域表示部３３１５ｆ及び第２領域表示部３３１５ｇが重ねて形成されることにより、裏実装面にコーティングされた白色のソルダーレジストに対してコントラストをより大きくでき、裏後左可動装飾体３３０１に特定の条件が成立した際に、作業者が第１領域表示部３３１５ｆ及び第２領域表示部３３１５ｇを視認することをより一層容易にすることができる。

【６１８６】

ＬＥＤ３３１５ａを除く他の電子部品であるＬＥＤドライバ３３１５ｂ、抵抗３３１５ｃ又はコネクタ３３１５ｄ等のうちＬＥＤドライバ３３１５ｂの付近に複数実装される抵抗３３１５ｃ等の電子部品は、茶色や黒色等の暗色の外装を有する場合に、第１領域表示部３３１５ｆ及び第２領域表示部３３１５ｇと重なる位置に実装されることが好ましい。このような暗色の外装を有する抵抗等は、第１領域表示部３３１５ｆ及び第２領域表示部３３１５ｇが重ねて形成されることにより、裏実装面にコーティングされた白色のソルダーレジストに対してコントラストをより大きくでき、裏後左可動装飾体３３０１に特定の条件が成立した際に、作業者が第１領域表示部３３１５ｆ及び第２領域表示部３３１５ｇを視認することをより一層容易にすることができる。

【６１８７】

カバー体３３１８は、不透明又は有色透明に形成されてもよいが、裏後左可動装飾基板３３１５の裏実装面に形成される第１領域表示部３３１５ｆ及び第２領域表示部３３１５ｇの視認性の観点から無色透明に形成されることが好ましい。例えばカバー体３３１８が不透明である場合には、裏後左可動装飾基板３３１５の裏実装面に第１領域表示部３３１５ｆ及び第２領域表示部３３１５ｇがより大きく形成されるものの、カバー体３３１８自体によって第１領域表示部３３１５ｆ及び第２領域表示部３３１５ｇの視認が阻害されるおそれがあり、また例えばカバー体３３１８が有色不透明である場合には、カバー体３３１８と第１領域表示部３３１５ｆ及び第２領域表示部３３１５ｇとが一体となり第１領域表示部３３１５ｆ及び第２領域表示部３３１５ｇの視認が阻害されるおそれがあり、カバー体３３１８は、第１領域表示部３３１５ｆ及び第２領域表示部３３１５ｇの視認を阻害するおそれが低減される無色透明に形成されることが好ましい。

【６１８８】

また、カバー体３３１８の厚さは、例えば０．２ｍｍ～４．０ｍｍの範囲であることが好ましい。第１開口３３１８ａ及び第２開口３３１８ｂから裏後左可動装飾基板３３１５に実装された電子部品が突出することなく露出された状態であることを前提とする場合、例えば、裏後左可動装飾基板３３１５に実装される最も背の高い電子部品の実装高さが１．９ｍｍ（ＳＯＰタイプのＩＣ）であり、裏後左可動装飾基板３３１５に実装される最も背の低い電子部品の実装高さが０．２ｍｍ（ＪＩＳ規格０４０２タイプチップコンデンサやチップ抵抗等）であるため、カバー体３３１８の厚さは、隙間Ｓの間隔Ｓ１を無視すれば、１．９ｍｍ以上であることが好ましく、後述する隙間Ｓの間隔Ｓ１の大きさを考慮して、１．９ｍｍ未満に形成されてもよい。なお、裏後左可動装飾基板３３１５の裏実装面に第１領域表示部３３１５ｆ及び第２領域表示部３３１５ｇを形成する第１開口３３１８

ａ又は第２開口３３１８ｂの影の幅は、カバー体３３１８の厚さに比例しており、過剰に小さい場合に視認性が低下するとの観点、及び過剰に大きい場合に第１領域表示部３３１５ｆ及び第２領域表示部３３１５ｇの示す範囲が不明確になるとの観点から、カバー体３３１８の厚さは、例えば、０．５ｍｍ～３．０ｍｍの範囲であることがより好ましい。

【６１８９】

カバー体３３１８は、第１開口３３１８ａ及び第２開口３３１８ｂを形成する縁部が平面又は曲面状に面取りされる態様が好ましい。第１開口３３１８ａ及び第２開口３３１８ｂを形成するカバー体３３１８の縁部が面取りされることにより、カバー体３３１８の縁部にて光が乱反射されるため、裏後左可動装飾基板３３１５の裏実装面に形成される第１領域表示部３３１５ｆ及び第２領域表示部３３１５ｇの明度をより一層低下させることができ、第１領域表示部３３１５ｆ及び第２領域表示部３３１５ｇの視認性をより一層向上させることができる。

【６１９０】

カバー体３３１８と裏後左可動装飾基板３３１５との間に形成される隙間Ｓの間隔Ｓ１は、裏後左可動装飾基板３３１５の裏実装面に実装されたＬＥＤドライバ３３１５ｂ、抵抗３３１５ｃ又はコネクタ３３１５ｄ等の電子部品の裏実装面からの高さよりも大きいことが望ましく、裏後左可動装飾基板３３１５に実装された電子部品の先端部が第１開口３３１８ａ又は第２開口３３１８ｂを介して裏後左可動装飾体３３０１の外部に突出することを抑制でき、例えば遊技盤５に取り付けられるよりも前の複数の裏後左可動装飾体３３０１を重ねて保管する際等に、ＬＥＤドライバ３３１５ｂ、抵抗３３１５ｃ又はコネクタ３３１５ｄ等の電子部品が裏後左可動装飾体３３０１の外部のものと接触して破損することを抑制することができる。なお、コネクタ３３１５ｄは、ＬＥＤドライバ３３１５ｂ及び抵抗３３１５ｃに比して裏後左可動装飾基板３３１５の裏実装面からの高さが大きいため、カバー体３３１８と裏後左可動装飾基板３３１５との間に形成される隙間Ｓの間隔Ｓ１は、コネクタ３３１５ｄの裏後左可動装飾基板３３１５の裏実装面からの高さよりも小さくてもよい。

【６１９１】

カバー体３３１８と裏後左可動装飾基板３３１５との間に形成される隙間Ｓの間隔Ｓ１は、例えば、０．２ｍｍ～７．０ｍｍの範囲であることが好ましい。第１開口３３１８ａ及び第２開口３３１８ｂから裏後左可動装飾基板３３１５に実装された電子部品が突出することなく露出された状態であることを前提とする場合、例えば、裏後左可動装飾基板３３１５に実装される最も背の高い電子部品の実装高さが１．９ｍｍ（ＳＯＰタイプのＩＣ）であり、裏後左可動装飾基板３３１５に実装される最も背の低い電子部品の実装高さが０．２ｍｍ（ＪＩＳ規格０４０２タイプチップコンデンサやチップ抵抗等）であるため、隙間Ｓの間隔Ｓ１は、０．２ｍｍ以上であればよい。なお、裏後左可動装飾基板３３１５の裏実装面に第１領域表示部３３１５ｆ及び第２領域表示部３３１５ｇを形成する第１開口３３１８ａ又は第２開口３３１８ｂの影の幅は、隙間Ｓの間隔Ｓ１に反比例しており、過剰に小さい場合に視認性が低下するとの観点と、及び過剰に大きい場合に第１領域表示部３３１５ｆ及び第２領域表示部３３１５ｇが示す範囲が不明確になるとの観点から、隙間Ｓの間隔Ｓ１は、例えば、１．０ｍｍ～６．０ｍｍの範囲であることがより好ましい。

【６１９２】

本実施形態では、第１領域表示部３３１５ｆや第２領域表示部３３１５ｇの視認性を高めるために、第１開口３３１８ａや第２開口３３１８ｂの内径に対し、カバー体３３１８の厚さと隙間Ｓの間隔Ｓ１との間でそれぞれが適度な値で形成される。より具体的には、例えば、隙間Ｓの間隔Ｓ１が０．２ｍｍである場合に、電子部品がカバー体３３１８から外部に突出しないように、カバー体３３１８の厚さが１．７ｍｍ以上となるが、隙間Ｓの間隔Ｓ１が０．２ｍｍではカバー体３３１８と裏後左可動装飾基板３３１５とが近すぎるため、第１領域表示部３３１５ｆや第２領域表示部３３１５ｇを視認できないおそれがある。よって本実施形態では、第１領域表示部３３１５ｆ又は第２領域表示部３３１５ｇがＳＯＰタイプのＩＣが横並びに２個実装された領を示す場合に、隙間Ｓの間隔Ｓ１を４．

０ｍｍカバー体３３１８の厚さを２．０ｍｍとしてもよいし、隙間Ｓの間隔Ｓ１を６．０ｍｍカバー体３３１８の厚さを３．０ｍｍとしてもよい。

【６１９３】

なお、本実施形態ではカバー体３３１８が板状に形成されて裏後左可動装飾基板３３１５と平行に配置される態様について説明したが、カバー体３３１８は、第１開口３３１８ａや第２開口３３１８ｂが形成される位置において、裏後左可動装飾基板３３１５に対して傾斜する部分的な傾斜面が形成された態様であってもよく、第１開口３３１８ａの縁に応じた影によって形成される第１領域表示部３３１５ｆや第２開口３３１８ｂの縁に応じた影によって形成される第２領域表示部３３１５ｇの視認性を高めることができる。また、本実施形態では、第１開口３３１８ａや第２開口３３１８ｂがカバー体３３１８を垂直に切り欠いて形成されているが、第１開口３３１８ａや第２開口３３１８ｂの内面がカバー体３３１８の前面や後面に対して傾斜するようにカバー体３３１８を切り欠いて第１開口３３１８ａや第２開口３３１８ｂを形成する態様であってもよく、第１開口３３１８ａの縁に応じた影によって形成される第１領域表示部３３１５ｆや第２開口３３１８ｂの縁に応じた影によって形成される第２領域表示部３３１５ｇの視認性を高めることができる。

【６１９４】

また、カバー体３３１８に形成される当接部３３１８ｃは、例えば裏後左可動装飾基板３３１５に位置決め孔を設け、支柱上部に位置決め孔に挿入される突部を設けた分銅のような形状に形成されてもよく、カバー体３３３１８と裏後左可動装飾基板３３１５との間隔Ｓ１を規制する効果に加えて、カバー体３３１８のケース体３３１７に対する位置決めを容易にすることができる。

【６１９５】

カバー体３３１８には、カバー体３３１８がケース体３３１７に取り付けられた際の安定性を向上させる観点から、複数の当接部３３１８ｃが形成される態様が好ましい。複数の当接部３３１８ｃは、第１開口３３１８ａや第２開口３３１８ｂの周辺を囲むように形成され、第１開口３３１８ａの縁に応じた影によって形成される第１領域表示部３３１５ｆや第２開口３３１８ｂの縁に応じた影によって形成される第２領域表示部３３１５ｇとともに、裏後左可動装飾体３３０１の背面に第１開口３３１８ａ及び第２開口３３１８ｂが形成されていることを作業者に報知することができる。よって、作業者の手が第１開口３３１８ａ及び第２開口３３１８ｂを介して裏後左可動装飾基板３３１５の裏実装面に実装されたＬＥＤドライバ３３１５ｂ、抵抗３３１５ｃ又はコネクタ３３１５ｄと接触することがより一層低減される。なお、複数の当接部３３３１８ｃは、第１開口３３１８ａや第２開口３３１８ｂの周囲を囲むように形成することが困難な場合には、第１開口３３１８ａや第２開口３３１８ｂの開口間に形成されればよく、カバー体３３１８の強度を向上させることができる。

【６１９６】

また、ケース体３３１７の側壁部３３１７ｂには、側壁部３３１７ｂに対して垂直な複数のリブが形成されてもよい。複数のリブは、側壁部３３１７ｂの内側の表面に形成される場合に、ケース体３３１７の強度を高めることができるとともに、複数のリブがかまぼこ状の凹凸に形成されるレンチキュラーレンズとして作用し、側壁部３３１７ｂを裏後左可動装飾基板３３１５に実装したＬＥＤ３３１５ａが放つ光の乱反射部材として機能させることができる。なお、複数のリブは、側壁部３３１７ｂの外側の表面に形成される場合に、ケース体３３１７の強度を高めることに加えて、側壁部３３１７ｂの外側の表面積を増加させて放熱効果を高めることができる。

【６１９７】

なお、ケース体３３１７とカバー体３３１８は、例えば裏後左可動装飾基板３３１５が取り付けられた平板状のカバー体３３１８がケース体３３１７に取り付けられる態様であってもよいし、裏後左可動装飾基板３３１５が取り付けられた断面コの字型のケース体３３１７にカバー体３３１８が取り付けられる態様であってもよいし、また、断面コの字型

のケース体３３１７の前面部３３１７ａ側に開口を設け、開口側にＬＥＤドライバ３３１５ｂ、抵抗３３１５ｃ及びコネクタ３３１５ｄ等の電子部品が向くように裏後左可動装飾基板３３１５をケース体３３１７側に取り付ける態様（この態様では、カバー体３３１８は開口が設けられない平板状に形成されてもよい。）であってもよい。

【６１９８】

図４０８は、図４０６のＢ－Ｂ断面図である。図４０８に示すように、カバー体３３１８に形成された複数の開口（３つの第１開口３３１８ａと１つの第２開口３３１８ｂ）は、カバー体３３１８と裏後左可動装飾基板３３１５との間に形成された隙間Ｓを介して連通している。このため、本実施形態の裏後左可動装飾体３３０１では、ＬＥＤドライバ３３１５ｂ、抵抗３３１５ｃ又はコネクタ３３１５ｄ等の電子部品が発熱した際に、裏後左可動装飾体３３０１の暖められた空気が一方の開口を介して外部に放出されるとともに他方の開口を介して外部の空気が裏後左可動装飾体３３０１内へと流入され、裏後左可動装飾体３３０１内で空気の流れを生じさせ得る。この結果、裏後左可動装飾体３３０１内で空気が滞留することを抑制し、複数のＬＥＤ３３１５ａが発光される際のＬＥＤドライバ３３１５ｂ、抵抗３３１５ｃ及びコネクタ３３１５ｄの発熱による熱を効果的に外部へと放熱することができ、例えば裏後左可動装飾基板３３１５の温度が上昇して複数のＬＥＤ３３１５ａが誤発光して遊技者や遊技機が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制し、ひいては、遊技機の信頼性の低下を抑制することができる。

【６１９９】

３つの第１開口３３１８ａ及び１つの第２開口３３１８ｂは、上下方向に少なくとも一部が重なるようにカバー体３３１８に形成されている。このため、本実施形態の裏後左可動装飾体３３０１では、ＬＥＤドライバ３３１５ｂ、抵抗３３１５ｃ又はコネクタ３３１５ｄ等の電子部品が発熱した際に、裏後左可動装飾体３３０１の暖められた空気が上方の第１開口３３１８ａを介して外部に放出されるとともに下方の第２開口３３３１９ｂを介して外部の空気が裏後左可動装飾体３３０１内へと流入され、裏後左可動装飾体３３０１内で図中に矢印で示すように下方から上方への空気の流れを生じさせ得る。この結果、裏後左可動装飾体３３０１内で空気が滞留することをより一層効果的に抑制し、複数のＬＥＤ３３１５ａが発光される際のＬＥＤドライバ３３１５ｂ、抵抗３３１５ｃ及びコネクタ３３１５ｄの発熱による熱を効果的に外部へと放熱することができ、例えば裏後左可動装飾基板３３１５の温度が上昇して複数のＬＥＤ３３１５ａが誤発光して遊技者や遊技機が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制し、ひいては、遊技機の信頼性の低下を抑制することができる。

【６２００】

第２開口３３１８ｂは、ケース体３３１７の側壁部３３１７ｂの一部を切り欠いた切欠部３３１７ｃと一体に形成されている。このため、ＬＥＤドライバ３３１５ｂ、抵抗３３１５ｃ又はコネクタ３３１５ｄ等の電子部品が発熱し、裏後左可動装飾体３３０１の暖められた空気が上方の第１開口３３１８ａを介して外部に放出される際に、下方の第２開口３３１９ｂを介してより多くの外部の空気を裏後左可動装飾体３３０１内へと流入させることができ、裏後左可動装飾体３３０１内で図中に矢印で示すように下方から上方への空気の流れを生じさせ得る。この結果、裏後左可動装飾体３３０１内で空気が滞留することをより一層効果的に抑制し、複数のＬＥＤ３３１５ａが発光される際のＬＥＤドライバ３３１５ｂ、抵抗３３１５ｃ及びコネクタ３３１５ｄの発熱による熱を効果的に外部へと放熱することができる。

【６２０１】

また、第２開口３３１８ｂがケース体３３１７の側壁部３３１７ｂの一部を切り欠いた切欠部３３１７ｃと一体に形成され、裏後左可動装飾体３３０１がパチンコ機１の演出等に応じて動作されるものであるため、裏後左可動装飾体３３０１が動作する際に切欠部３３１７ｃを介して第２開口３３１８ｂから外部の空気が裏後左可動装飾体３３０１内へと流入し、第１開口３３１８ａを介して裏後左可動装飾体３３０１内の空気が外部へと放出される。この結果、裏後左可動装飾体３３０１内で図中に矢印で示すように下方から上方

への空気の流れを生じさせ、裏後左可動装飾体３３０１内で空気が滞留することをより一層効果的に抑制し、複数のＬＥＤ３３１５ａが発光される際のＬＥＤドライバ３３１５ｂ、抵抗３３１５ｃ及びコネクタ３３１５ｄの発熱による熱を効果的に外部へと放熱することができる。

【６２０２】

ＬＥＤドライバ３３１５ｂ、抵抗３３１５ｃ又はコネクタ３３１５ｄ等の電子部品のうちコネクタ３３１５ｄは、その嵌合口が裏後左可動装飾基板３３１５の裏実装面に対して垂直ないわゆるライトアングル型であることが好ましい。ライトアングル型のコネクタ３３１５ｄは、嵌合口が第２開口３３１８ｂの切欠部３３１７ｃを向くように裏後左可動装飾基板３３１５の裏実装面に実装されており、第２開口３３１８ｂの切欠部３３１７ｃを介して、コネクタ３３１５ｄの嵌合口へのコネクタの着脱を容易にすることができる。また、ライトアングル型のコネクタ３３１５ｄは、後述するストレイト型のコネクタに比して裏後左可動装飾基板３３１５の裏実装面からの高さが小さいため、第２開口３３１８ｂから裏後左可動装飾体３３０１内に流入する空気の流れを害することを抑制することができる。

【６２０３】

図４０９は、他の態様の裏後左可動装飾体３３０１を示す断面図である。図４０９に示すように、コネクタ３３１５ｄは、嵌合口が裏後左可動装飾基板３３１５の裏実装面に対して平行ないわゆるストレイト型のものが実装されてもよい。ストレイト型のコネクタ３３１５ｄは、第２開口３３１８ｂに対応ように裏後左可動装飾基板３３１５の裏実装面に実装された場合に、第２開口３３１８ｂから裏後左可動装飾体３３０１内に流入する空気の流れを害するおそれがあるため、最も上方の第１開口３３１８ａに対応するように裏後左可動装飾基板３３１５の裏実装面の上部に実装されることが好ましい。このようなストレイト型のコネクタ３３１５ｄは、先端部が第１開口３３１８ａを介して裏後左可動装飾体３３０１の外部に突出するため、図中に矢印で示すように、裏後左可動装飾基板３３１５を介して伝わるＬＥＤドライバ３３１５ｂや抵抗３３１５ｃの発熱による熱を先端部から裏後左可動装飾体３３０１の外部へと放出することができる。また、最も上方の第１開口３３１８ａに対応するように実装されたストレイト型のコネクタ３３１５ｄは、裏後左可動装飾体３３０１内の空気の流れを害することを抑制できるとともにコネクタ３３１５ｄの嵌合口へのコネクタの着脱を容易にすることもできる。なお、コネクタ３３１５ｄは、例えばコネクタ３３１５ｄを除くＬＥＤドライバ３３１５ｂや抵抗３３１５ｃ等の電子部品を上下から挟むように裏後左可動装飾基板３３１５の上部及び下部に最も上方の第１開口３３１８ａ又は第２開口３３１８ｂに対応するようにそれぞれ実装される態様であってもよい。

【６２０４】

なお、上記実施形態では、裏後左可動装飾基板３３１５の裏実装面に実装されるＬＥＤドライバ、抵抗及びコネクタ等の電子部品の位置に対応するように第１開口３３１９ａ及び第２開口３３１９ｂが形成されており、第１開口３３１９ａは、裏後左可動装飾基板３３１５の裏実装面に部分的に密集して実装されたＬＥＤドライバ及び抵抗を予め設定された間隔を設けて囲うように形成されているが、第１開口３３１９ａは、裏後左可動装飾基板３３１５の裏実装面に実装されたＬＥＤドライバ及び抵抗を含む全ての電子部品の各々が１つの第１開口３３１９ａから外部に露出するように裏後左可動装飾体３３０１に複数形成される態様であってもよく、複数の第１開口３３１９ａ及び第２開口３３１９ｂを介して裏後左可動装飾体３３０１内で下方から上方への空気の流れを生じさせ、裏後左可動装飾体３３０１内で空気が滞留することをより一層効果的に抑制し、ＬＥＤドライバ、抵抗及びコネクタの発熱による熱を効果的に外部へと放熱することができる。

【６２０５】

また、上記実施形態のカバー体３３１８には、裏後左可動装飾基板３３１５の裏実装面に実装されるＬＥＤドライバ、抵抗及びコネクタ等の全ての電子部品の位置に対応するように第１開口３３１９ａ及び第２開口３３１９ｂが形成されてもよいし、裏後左可動装飾

基板３３１５の裏実装面に実装されるＬＥＤドライバ、抵抗及びコネクタ等の電子部品のうちの少なくとも一部の電子部品の位置に対応するように第１開口３３１９ａ及び第２開口３３１９ｂが形成されてもよい。裏後左可動装飾基板３３１５の裏実装面に実装される位置に対応する位置に開口が形成されない電子部品は、該電子部品の発熱に対する放熱効率が低下するものの裏後左可動装飾体３３０１の外部から接触されることをより一層抑制でき、外部からの接触により電子部品が損傷することを抑制することができる。

【６２０６】

上記裏後左可動装飾体３３０１では、裏後左可動装飾体３３０１が出動位置に出動されて複数のＬＥＤ３３１５ａが発光される際に、裏後左可動装飾体３３０１の暖められた空気が一方の開口を介して外部に放出されるとともに他方の開口を介して外部の空気が裏後左可動装飾体３３０１内へと流入され、裏後左可動装飾体３３０１内で空気の流れを生じさせるため、複数のＬＥＤ３３１５ａが発光される際のＬＥＤドライバ３３１５ｂ、抵抗３３１５ｃ及びコネクタ３３１５ｄの発熱による熱を効果的に外部へと放熱することができる。また、これに加えて、上記裏後左可動装飾体３３０１では、裏後左可動装飾体３３０１が出動位置に出動される際や退避位置に退避される際の動作時に、第２開口３３１８ｂの切欠部３３１７ｃを介して外部の空気が裏後左可動装飾体３３０１内へと流入されるとともに第１開口３３１８ａを介して暖められた空気が外部に放出され、裏後左可動装飾体３３０１内で空気の流れを生じさせるため、複数のＬＥＤ３３１５ａが発光される際のＬＥＤドライバ３３１５ｂ、抵抗３３１５ｃ及びコネクタ３３１５ｄの発熱による熱を効果的に外部へとより一層放熱することができる。よって、裏後左可動装飾基板３３１５の温度が上昇して複数のＬＥＤ３３１５ａが誤発光して遊技者や遊技機が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制し、ひいては、遊技機の信頼性の低下を抑制することができる。

【６２０７】

上記実施形態では、パチンコ機１の演出等に応じて出退動される裏後左可動装飾体３３０１において、カバー体３３１８に第１開口３３１８ａや第２開口３３１８ｂが形成され、裏後左可動装飾基板３３１５とカバー体３３１８との間に隙間Ｓが形成される態様について説明したが、カバー体に第１開口や第２開口が形成されて装飾基板とカバー体との間に隙間が形成される態様は、装飾基板と装飾基板を収納する収納部とを有する他の装飾体に適用されてもよく、以下、裏前左装飾ユニット３１２０について説明する。

【６２０８】

裏前左装飾ユニット３１２０は、表実装面に複数のＬＥＤ３１２８ａ～３１２８ｉが実装された裏前左装飾基板３１２８と、表実装面にＬＥＤが実装された裏前左上装飾基板３１２９と、表実装面に複数のＬＥＤ３１３０ａ～３１３０ｄが実装された裏前左下装飾基板３１３０と、裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９及び裏前左下装飾基板３１３０が収納される収納部を構成する裏前左第二装飾体３１２５及び裏前左装飾体ベース３１２７と、を有している。

【６２０９】

裏前左装飾体ベース３１２７は、全体が透明に形成されており、平板状の装飾板部３１２７ａと、正面視において、装飾板部３１２７ａの右辺を除く左辺、上辺及び下辺に設けられた基板保持部３１２７ｂと、を有している。また、裏前左装飾体ベース３１２７は、前方から裏前左第二装飾体３１２５が取り付けられることによって、裏前左第二装飾体３１２５とともに左辺解放の箱状の収納部を構成し得る。詳しくは、基板保持部３１２７ｂの左辺に表実装面が右方を向くように裏前左装飾基板３１２８を保持させ、基板保持部３１２７ｂの上辺に表実装面が下方を向くように裏前左上装飾基板３１２９を保持させ、基板保持部３１２７ｂの下辺に表実装面が上方を向くように裏前左下装飾基板３１３０を保持させた後に、裏前左第二装飾体３１２５が前方から裏前左装飾体ベース３１２７に取り付けられ、裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９及び裏前左下装飾基板３１３０は、裏前左第二装飾体３１２５及び裏前左装飾体ベース３１２７とから構成される収納部に収納される。

【６２１０】
　また、裏前左装飾ユニット３１２０は、裏前左第二装飾体３１２５の前面に取り付けられる裏前左第一装飾体３１２４と、裏前左第二装飾体３１２５と裏前左装飾体ベース３１２７との間に取り付けられる裏前左第三装飾体３１２６と、を有しており、裏前左第一装飾体３１２４、裏前左第二装飾体３１２５及び裏前左第三装飾体３１２６は、全体が透明に形成されており、裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０に実装されたＬＥＤの発光に応じて発光装飾される。
【６２１１】
　裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０に実装される複数のＬＥＤは、例えば、前面に対して垂直方向の光軸を中心として１３０度の角度の範囲で光を照射可能な広角のトップビュータイプのＬＥＤを含んで構成されてもよいし、水平方向の光軸を中心として１３０度の角度の範囲で光を照射可能な広角のサイドビュータイプのＬＥＤを含んで構成されてもよいし、広角のトップビュータイプのＬＥＤや広角のサイドビュータイプのＬＥＤに限らず通常のトップビュータイプのＬＥＤや通常のサイドビュータイプのＬＥＤを含んで構成されてもよい。
【６２１２】
　裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０の表実装面には、白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされるとともに、複数のＬＥＤが実装される位置や部品番号を示す表記部（図示省略）が形成されてもよい。該表記部は、例えば白色のソルダーレジストに近い明るさの黄色等でシルク印刷されることが望ましく、白色のソルダーレジストとともに裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０における発光ムラを抑制することができる。同様の観点から、裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０の表実装面には、複数のＬＥＤを除く他の電子部品が実装されないことが好ましい。
【６２１３】
　裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０の裏実装面には、ＬＥＤを除く他の電子部品が実装されている。他の電子部品は、例えば複数のＬＥＤの発光を制御するＬＥＤドライバ、電力を熱として放散する抵抗や、外部との接続に用いられるコネクタ等であり、これらＬＥＤドライバ、抵抗及びコネクタは、対応するＬＥＤが発光される際に発熱し得る。
【６２１４】
　裏前左第二装飾体３１２５及び裏前左装飾体ベース３１２７とから構成される本実施形態の収納部には、裏前左装飾基板３１２８の裏実装面に実装されたＬＥＤドライバ、抵抗及びコネクタ等の電子部品の位置に対応するように左側の側面に複数の第１開口と第２開口とが形成されている。該収納部には、裏前左上装飾基板３１２９の裏実装面に実装されたＬＥＤドライバ、抵抗及びコネクタ等の電子部品の位置に対応するように上面に第３開口が形成され、裏前左下装飾基板３１３０の裏実装面に実装されたＬＥＤドライバ、抵抗及びコネクタ等の電子部品の位置に対応するように下面に第４開口が形成されてもよい。第１開口、第３開口及び第４開口は、収納部の縁部を残して形成され、第２開口は、収納部の縁部の一部（例えば、収納部の側面と下面とで形成される縁部）を切り欠いて形成される。また、第１開口乃至第４開口は、ＬＥＤドライバ、抵抗及びコネクタの外径よりも大きい内径で形成されることが好ましく、各基板の裏実装面に部分的に密集して実装されたＬＥＤドライバ及び抵抗を予め設定された間隔を設けて囲うように形成されることがより好ましい。
【６２１５】
　本実施形態の裏前左装飾ユニット３１２０には、裏前左第二装飾体３１２５及び裏前左装飾体ベース３１２７とから構成される収納部の左側の側面と裏前左装飾基板３１２８との間、収納部の上面と裏前左上装飾基板３１２９との間、及び収納部の下面と裏前左下装飾基板３１３０との間に、予め設定された間隔の隙間が形成されている。詳しくは、収納

部の内面に各基板に向かって延びて各基板に当接する複数の当接部が形成されており、各当接部が裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０に当接することにより収納部の内面と裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９及び裏前左下装飾基板３１３０との間に予め設定された間隔の隙間が形成される。

【６２１６】

なお、収納部の当接部は、収納部の内面からの高さが予め設定された間隔と同等であればよく、例えば円柱状に形成されてもよいし、角柱状に形成されてもよい。また、当接部には、裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０を裏前左装飾体ベース３１２７に固定する場合に、ネジやビス等の固定部材が挿通されてもよい。

【６２１７】

裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０の裏実装面には、裏前左装飾ユニット３１２０に所定の光量の光が照射されるような特定の条件が成立する場合、第１開口乃至第４開口に対応する領域を示す領域表示部が形成される。特定の条件は、例えば裏前左装飾ユニット３１２０が遊技盤５に取り付けられる作業等において、作業場の照明の光が裏前左装飾ユニット３１２０に照射される場合等である。

【６２１８】

本実施形態の裏前左装飾ユニット３１２０では、作業者が裏前左装飾ユニット３１２０を遊技盤５に取り付けようと裏前左装飾ユニット３１２０を視認した際に、裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０の裏実装面に、第１開口乃至第４開口の縁に応じた影が投影されて領域表示部が形成され、該領域表示部によって、裏前左装飾ユニット３１２０に第１開口乃至第４開口が形成されていることを作業者に報知することができる。この結果、作業者の手が第１開口乃至第４開口を介して裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０の裏実装面に実装されたＬＥＤドライバ、抵抗又はコネクタと接触することが低減され、ＬＥＤドライバ、抵抗又はコネクタの損傷により裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０が誤作動して遊技者や遊技機が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、遊技機の信頼性の低下を抑制することができる。

【６２１９】

裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０は、表実装面に加えて裏実装面にも白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされる。裏実装面にコーティングされた白色のソルダーレジストは、第１開口乃至第４開口の縁の影によって形成される領域表示部とのコントラストを大きくし、裏前左装飾ユニット３１２０に特定の条件が成立した際に作業者が領域表示部を視認することをより一層容易にすることができる。よって、作業者の手が第１開口乃至第４開口を介して裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０の裏実装面に実装されたＬＥＤドライバ、抵抗又はコネクタと接触することがより一層低減され、ＬＥＤドライバ、抵抗又はコネクタの損傷により裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０が誤作動して遊技者や遊技機が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、遊技機の信頼性の低下を抑制することができる。

【６２２０】

また、裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０の裏実装面には、ＬＥＤを除く他の電子部品であるＬＥＤドライバ、抵抗又はコネクタ等の配置の位置や向きや部品番号等を示す表記部が黄色やピンク色等の明色でシルク印刷される。明色の表記部は、裏実装面にコーティングされた白色のソルダーレジストとともに、裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０の裏実装面に第１開口乃至第４開口の縁の影によって形成される領域表示部とのコント

ラストが大きいため、作業者が領域表示部を視認することをより一層容易にすることができる。

【６２２１】

なお、裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０の裏実装面には、ＬＥＤを除く他の電子部品であるＬＥＤドライバ、抵抗又は等の配置の位置や向きや部品番号等を示す表記部が茶色や黒色等の暗色でシルク印刷される態様であってもよく、暗色の表記部は、裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０の裏実装面に形成される領域表示部と重なる位置に形成されることによって、裏実装面にコーティングされた白色のソルダーレジストに対して領域表示部をより一層目立たせることができ、作業者が領域表示部を視認することをより一層容易にすることができる。

【６２２２】

ＬＥＤを除く他の電子部品であるＬＥＤドライバ、抵抗又はコネクタ等のうちＬＥＤドライバの付近に複数実装される抵抗等の電子部品は、茶色や黒色等の暗色の外装を有する場合に、裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０の裏実装面において、領域表示部と重なる位置に実装される態様であってもよく、裏実装面にコーティングされた白色のソルダーレジストに対して領域表示部をより一層目立たせることができ、作業者が領域表示部を視認することをより一層容易にすることができる。

【６２２３】

裏前左第二装飾体３１２５及び裏前左装飾体ベース３１２７から構成される収納部は、不透明又は有色透明であってもよいが、裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０の裏実装面に形成される領域表示部の視認性の観点から無色透明に形成されることが好ましい。例えば収納部が不透明である場合には、裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０の裏実装面に領域表示部が大きく形成されるものの、収納部自体によって領域表示部の視認が阻害されるおそれがあり、また例えば収納部が有色透明である場合には、収納部と領域表示部とが一体となり領域表示部の視認が阻害されるおそれがあるため、収納部は、領域表示部の視認を阻害するおそれが低減される無色透明に形成されることが好ましい。

【６２２４】

また、裏前左第二装飾体３１２５及び裏前左装飾体ベース３１２７から構成される収納部の厚さは、例えば０．２ｍｍ～４．０ｍｍの範囲であることが好ましい。裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０に実装された電子部品が第１開口乃至第４開口から突出することなく露出された状態であることを前提とする場合、例えば、裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０に実装される最も背の高い電子部品の実装高さが１．９ｍｍ（ＳＯＰタイプのＩＣ）であり、裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０に実装される最も背の低い電子部品の実装高さが０．２ｍｍ（ＪＩＳ規格０４０２タイプチップコンデンサやチップ抵抗等）であるため、収納部の厚さは、隙間の間隔を無視すれば、１．９ｍｍ以上であることが好ましく、隙間の間隔の大きさを考慮して、１．９ｍｍ未満に形成されてもよい。なお、裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０の裏実装面に領域表示部を形成する第１開口３１８ａ乃至第４開口の影の幅は、収納部の厚さに比例しており、過剰に小さい場合に視認性が低下するとの観点、及び過剰に大きい場合に領域表示部の示す範囲が不明確になるとの観点から、収納部の厚さは、例えば、０．５ｍｍ～３．０ｍｍの範囲であることがより好ましい。

【６２２５】

裏前左第二装飾体３１２５及び裏前左装飾体ベース３１２７から構成される収納部は、第１開口乃至第４開口を形成する縁部が平面又は曲面状に面取りされる。第１開口乃至第４開口を形成する収納部の縁部が面取りされることにより、収納部の縁部での光の乱反射

が増大するため、裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０の裏実装面に形成される領域表示部の明度をより一層低下させることができ、領域表示部の視認性をより一層向上させることができる。

【６２２６】

裏前左第二装飾体３１２５及び裏前左装飾体ベース３１２７から構成される収納部と裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０との間に形成される隙間の間隔は、ＬＥＤドライバ、抵抗又はコネクタ等の電子部品の裏実装面からの高さよりも大きいことが望ましく、裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０に実装された電子部品の先端部が第１開口乃至第４開口を介して収納部の外部に突出することを抑制でき、例えば遊技盤５に取り付けられるよりも前の複数の裏前左装飾ユニット３１２０を重ねて保管する際等に、ＬＥＤドライバ、抵抗又はコネクタ等の電子部品が裏前左装飾ユニット３１２０の外部のものと接触して破損することを抑制することができる。なお、コネクタは、ＬＥＤドライバ及び抵抗に比して裏実装面からの高さが大きいため、隙間の間隔は、コネクタの裏実装面からの高さよりも小さくてもよい。

【６２２７】

裏前左第二装飾体３１２５及び裏前左装飾体ベース３１２７から構成される収納部と裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０との間に形成される隙間の間隔は、例えば、０．２ｍｍ～７．０ｍｍの範囲であることが好ましい。裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０に実装された電子部品が突出することなく第１開口乃至第４開口から露出された状態であることを前提とする場合、例えば、裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０に実装される最も背の高い電子部品の実装高さが１．９ｍｍ（ＳＯＰタイプのＩＣ）であり、裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０に実装される最も背の低い電子部品の実装高さが０．２ｍｍ（ＪＩＳ規格０４０２タイプチップコンデンサやチップ抵抗等）であるため、隙間Ｓの間隔Ｓ１は、０．２ｍｍ以上であればよい。なお、裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０の裏実装面に領域表示部を形成する第１開口乃至第４開口の影の幅は、隙間の間隔に反比例しており、過剰に小さい場合に視認性が低下するとの観点と、及び過剰に大きい場合に領域表示部が示す範囲が不明確になるとの観点から、隙間の間隔は、例えば、１．０ｍｍ～６．０ｍｍの範囲であることがより好ましい。

【６２２８】

本実施形態では、領域表示部の視認性を高めるために、第１開口乃至第４開口の内径に対し、収納部の厚さと隙間の間隔との間でそれぞれが適度な値で形成される。より具体的には、例えば、隙間の間隔が０．２ｍｍである場合に、電子部品が収納部から外部に突出しないように、収納部の厚さが１．７ｍｍ以上となるが、隙間の間隔が０．２ｍｍでは収納部と裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０とが近すぎるため、領域表示部を視認できないおそれがある。よって本実施形態では、領域表示部がＳＯＰタイプのＩＣが横並びに２個実装された領を示す場合に、隙間の間隔を４．０ｍｍ収納部の厚さを２．０ｍｍとしてもよいし、隙間の間隔を６．０ｍｍ収納部の厚さを３．０ｍｍとしてもよい。

【６２２９】

なお、本実施形態では収納部が矩形の箱状に形成されて裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０と各々平行に配置される態様について説明したが、収納部は、第１開口乃至第４開口が形成される位置において、裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０に対して傾斜する部分的な傾斜面が形成された態様であってもよく、第１開口乃至第４開口の縁に応じた影によって形成される領域表示部の視認性を高めることができる。また、本実施形態では、第１開口乃至第４開口が収納部を垂直に切り欠いて形成されているが、第１開口乃至第

４開口の内面が収納部の各面に対して傾斜するように収納部を切り欠いて第１開口乃至第４開口を形成する態様であってもよく、第１開口乃至第４開口の縁に応じた影によって形成される領域表示部の視認性を高めることができる。

【６２３０】

また、収納部の側壁部には、側壁部に対して垂直な複数のリブが形成されてもよい。複数のリブは、側壁部の内側の表面に形成される場合に、収納部の強度を高めることができるとともに、複数のリブがかまぼこ状の凹凸に形成されるレンチキュラーレンズとして作用し、側壁部を裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０に実装したＬＥＤが放つ光の乱反射部材として機能させることができる。なお、複数のリブは、側壁部の外側の表面に形成される場合に、収納部の強度を高めることに加えて、側壁部の外側の表面積を増加させて放熱効果を高めることができる。

【６２３１】

裏前左第二装飾体３１２５及び裏前左装飾体ベース３１２７から構成される収納部に形成された複数の第１開口及び第２開口は、収納部と裏前左装飾基板３１２８との間に形成された隙間を介して連通している。本実施形態の裏前左装飾ユニット３１２０では、ＬＥＤドライバ、抵抗又はコネクタ等の電子部品が発熱した際に、収納部内の暖められた空気が一方の開口を介して外部に放出されるとともに他方の開口を介して外部の空気が収納部内へと流入し、収納部内で空気の流れを生じさせ得る。この結果、収納部内で暖められた空気が収納部内で滞留することを抑制し、複数のＬＥＤが発光される際のＬＥＤドライバ、抵抗及びコネクタの発熱による熱を効果的に収納部の外部へと放熱することができ、例えば裏前左装飾基板３１２８の温度が上昇して複数のＬＥＤが誤発光し、遊技者や遊技機が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制し、ひいては、遊技機の信頼性の低下を抑制することができる。

【６２３２】

複数の第１開口及び１つの第２開口は、上下方向に少なくとも一部が重なるように収納部に形成されている。このため、本実施形態の裏前左装飾ユニット３１２０では、ＬＥＤドライバ、抵抗又はコネクタ等の電子部品が発熱した際に、収納部内の暖められた空気が上方の第１開口を介して外部に放出されるとともに下方の第２開口を介して外部の空気が収納部内へと流入し、収納部内で下方から上方への空気の流れを生じさせ得る。この結果、収納部内で空気が滞留することをより一層効果的に抑制し、複数のＬＥＤが発光される際のＬＥＤドライバ、抵抗及びコネクタの発熱による熱を効果的に外部へと放熱することができ、例えば裏前左装飾基板３１２８の温度が上昇して複数のＬＥＤが誤発光し、遊技者や遊技機が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制し、ひいては、遊技機の信頼性の低下を抑制することができる。

【６２３３】

第２開口は、収納部の左側の側面と収納部の下面の一部を切り欠いた切欠部とによって形成されている。このため、本実施形態の裏前左装飾ユニット３１２０では、ＬＥＤドライバ、抵抗又はコネクタ等の電子部品が発熱し、収納部内の暖められた空気が上方の第１開口を介して外部に放出される際に、下方の第２開口を介してより多くの外部の空気が収納部内へと流入し、収納部内で下方から上方への空気の流れを生じさせ得る。この結果、収納部内で空気が滞留することをより一層効果的に抑制し、複数のＬＥＤが発光される際のＬＥＤドライバ、抵抗及びコネクタの発熱による熱を効果的に外部へと放熱することができる。

【６２３４】

また、本実施形態の裏前左装飾ユニット３１２０では、収納部の上面に第３開口が形成され、収納部の下面に第４開口が形成されているため、ＬＥＤドライバ、抵抗又はコネクタ等の電子部品が発熱し、収納部内の暖められた空気が上方の第１開口及び第３開口を介して外部に放出されるとともに下方の第２開口及び第４開口を介してより多くの外部の空気が収納部内へと流入し、収納部内で下方から上方への空気の流れを生じさせ得る。この結果、収納部内で空気が滞留することをより一層効果的に抑制し、複数のＬＥＤが発光さ

れる際のＬＥＤドライバ、抵抗及びコネクタの発熱による熱を効果的に外部へと放熱することができ、例えば裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９又は裏前左下装飾基板３１３０の温度が上昇して複数のＬＥＤが誤発光して遊技者や遊技機が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制し、ひいては、遊技機の信頼性の低下を抑制することができる。

【６２３５】

ＬＥＤドライバ、抵抗又はコネクタ等の電子部品のうちコネクタは、その嵌合口が裏前左装飾基板３１２８の裏実装面に対して垂直ないわゆるライトアングル型であることが好ましい。トライアングル型のコネクタは、嵌合口が第２開口の切欠部を向くように裏前左装飾基板３１２８の裏実装面に実装されており、第２開口の切欠部を介して、コネクタの嵌合口へのコネクタの着脱を容易にすることができる。また、ライトアングル型のコネクタは、後述するストレイト型のコネクタに比して裏前左装飾基板３１２８の裏実装面からの高さが小さいため、第２開口から裏前左装飾ユニット３１２０内に流入する空気の流れを害することを抑制することができる。

【６２３６】

コネクタは、嵌合口が裏前左装飾基板３１２８の裏実装面に対して平行ないわゆるストレイト型のものが実装されてもよい。ストレイト型のコネクタは、第２開口に対応ように裏前左装飾基板３１２８の裏実装面に実装された場合に、第２開口から裏前左装飾ユニット３１２０内に流入する空気の流れを害するおそれがあるため、最も上方の第１開口に対応するように裏前左装飾基板３１２８の裏実装面の上部に実装されることが好ましい。このようなストレイト型のコネクタは、先端部が第１開口を介して裏前左装飾ユニット３１２０の外部に突出するため、裏前左装飾基板３１２８を介して伝わるＬＥＤドライバや抵抗の発熱による熱を先端部から裏前左装飾ユニット３１２０の外部へと放出することができる。また、最も上方の第１開口に対応するように実装されたストレイト型のコネクタは、裏前左装飾ユニット３１２０内の空気の流れを害することを抑制できるとともにコネクタの嵌合口へのコネクタの着脱を容易にすることもできる。なお、コネクタは、例えばコネクタを除くＬＥＤドライバや抵抗等の電子部品を上下から挟むように裏前左装飾基板３１２８の上部及び下部に最も上方の第１開口又は第２開口に対応するようにそれぞれ実装される態様であってもよい。

【６２３７】

なお、上記実施形態では、裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９及び裏前左下装飾基板３１３０の裏実装面に実装されるＬＥＤドライバ、抵抗及びコネクタ等の電子部品の位置に対応するように第１開口乃至第４開口が形成されており、第１開口乃至第４開口は、各基板の裏実装面に部分的に密集して実装されたＬＥＤドライバ及び抵抗を予め設定された間隔を設けて囲うように形成されているが、第１開口、第３開口及び第４開口は、各基板の裏実装面に実装されたＬＥＤドライバ及び抵抗を含む全ての電子部品の各々が開口から外部に露出するように収納部に複数形成される態様であってもよく、各開口を介して収納部内で下方から上方への空気の流れを生じさせ、収納部内で空気が滞留することをより一層効果的に抑制し、複数のＬＥＤが発光される際のＬＥＤドライバ、抵抗及びコネクタの発熱による熱を効果的に外部へと放熱することができる。

【６２３８】

また、上記実施形態の収納部には、裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９及び裏前左下装飾基板３１３０の裏実装面に実装されるＬＥＤドライバ、抵抗及びコネクタ等の全ての電子部品の位置に対応するように第１開口乃至第４開口が形成されてもよいし、裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９及び裏前左下装飾基板３１３０の裏実装面に実装されるＬＥＤドライバ、抵抗及びコネクタ等の電子部品のうちの少なくとも一部の電子部品の位置に対応するように第１開口乃至第４開口が形成されてもよい。裏前左装飾基板３１２８、裏前左上装飾基板３１２９及び裏前左下装飾基板３１３０の裏実装面に実装される位置に対応する位置に開口が形成されない電子部品は、該電子部品の発熱に対する放熱効率が低下するものの裏前左装飾ユニット３１２０の外部から接触さ

れることをより一層抑制でき、外部からの接触により電子部品が損傷することを抑制することができる。

【６２３９】

［インフォメーション表示器］

次にインフォメーション表示器３２１３を用いた変形例について説明する。近年では遊技人口の減少が著しくなっており、新規の遊技者の取り込みが急務とされているが、従来に比べて遊技自体が複雑化しており、新規の遊技者には遊技を敬遠されるおそれがある。以下では、遊技に関する情報を表示するインフォメーション表示器３２１３を設ける変形例について説明する。なお、以下のインフォメーション表示器の説明では、上述のインフォメーション表記器と同様の構成について重複して説明される場合がある。

【６２４０】

本例では、上記した裏後上可動装飾体３２１０の五つの７セグメント表示部に替えて、ドットマトリクス表示部を用いたインフォメーション表示器３２１３を裏後上可動装飾体３２１０に設けている。インフォメーション表示器３２１３は、遊技に関する情報を表示する状態（遊技情報表示モード）と、遊技演出を実行する状態（遊技演出モード）と、に表示内容を切り替えることが可能とされている。

【６２４１】

インフォメーション表示器３２１３は、特定期間に操作手段が操作された場合に、表示内容を切り替え可能とされている。インフォメーション表示器３２１３は、例えば第１制御乃至第４制御のうちの１つ乃至任意の組み合わせの制御を実行可能である。インフォメーション表示器３２１３は、第１制御において、客待ちデモ演出の実行中に演出操作部３０１等の操作部が操作された場合に表示内容を切り替える。インフォメーション表示器３２１３は、第２制御において、遊技店員のみが操作可能な操作手段（例えばパチンコ機１の裏面側に設けられるＲＡＭクリアスイッチを押圧した場合や設定キースイッチ１３１１ａ）が操作された場合に表示を切り替えて遊技に関する情報を表示する。インフォメーション表示器３２１３は、第３制御において、演出表示装置１６００にて変動演出の実行中に演出操作部３０１等の操作部が操作された場合に表示を非表示として演出操作部３０１等の操作部を操作した変動演出の終了後に表示内容を切り替える。インフォメーション表示器３２１３は、第４制御において、演出表示装置１６００にて変動演出の実行中に演出操作部３０１等の操作部が操作された場合に当該変動演出中は表示内容の切り替えを行うことなく、実行中のモード（遊技情報表示モード、遊技演出モード）を継続して各モードに応じた表示を行い、演出操作部３０１等の操作部を操作した変動演出の終了後に表示内容を切り替える。

【６２４２】

図４１０（Ａ）～（Ｃ）は、遊技に関する情報が表示されたインフォメーション表示器３２１３を示す正面図である。図４１０（Ａ）～（Ｃ）に示すように、インフォメーション表示器３２１３は、遊技に関する情報を表示する状態（遊技情報表示モード）において、「大当り」、「左打ち←」、「右打ち→」などの遊技に関する情報を表示するようになっている。上記したように本例のパチンコ機１では、時短時（低確率時短状態（時短状態ともいう）、高確率時短状態（確変状態ともいう））に第二始動口２００４への遊技球の入球を狙った遊技（いわゆる「右打ち」）が行われるようになっている。また、時短時は、第二始動口２００４が頻繁に開状態とされるため、通常時（低確率非時短状態（通常状態ともいう）、高確率非時短状態）よりも始動入賞（第一始動口２００２への遊技球の入賞、第二始動口２００４への遊技球の入賞）し易くなり、遊技者に有利な状態である。しかし、時短時に遊技者が第二始動口２００４への遊技球の入球を狙った遊技（いわゆる「右打ち」）を行わない場合に、遊技者は、有利な状態を享受することができないおそれがあり、本例のパチンコ機１では図４１０（Ｃ）に示すように、時短時に遊技者が第二始動口２００４への遊技球の入球を狙った遊技（いわゆる「右打ち」）を行うように指示する表示として、インフォメーション表示器３２１３に「右打ち→」を表示するようになっている。これにより時短時であるにもかかわらず遊技者が有利な状態を享受できないことを

防止し、遊技者に不利益を与えないようにすることができる。
【６２４３】
　また、本例のパチンコ機１では、通常時（低確率非時短状態（通常状態ともいう）、高確率非時短状態）には第一始動口２００１への遊技球の入賞を狙った遊技（いわゆる「左打ち」）が行われるようになっている。通常時には第二始動口２００４が滅多に開状態とされないことに加えて、開状態となる期間が時短時に比べて極めて短くされているため、通常時は、第二始動口２００４への遊技球の入球を狙った遊技を行う遊技者に不利益を与えるおそれがある。このため、本例のパチンコ機１では図４１０（Ｂ）に示すように、通常時に遊技者が第一始動口２００１への遊技球の入球を狙った遊技を行うように指示する表示として、インフォメーション表示器３２１３に「左打ち←」を表示するようになっている。これにより通常時に遊技者に不利益を与えないようにすることができる。
【６２４４】
　本実施形態のパチンコ機１では、インフォメーション表示器３２１３のドットマトリクスに表示される情報によって、左打ち（センター役物２５００の左側への遊技球の打込操作）や右打ち（遊技領域５ａの周縁の一部を構成する外レール１００１から内方へ突出している衝止部１００６に当接する強さで打込む）を指示したり、大当りとなった場合にその旨を通知して大入賞口２００５への入球を狙った遊技を行うように指示したりすることができ、熟練した遊技者だけでなく経験の浅い遊技者にも不利益を与えないようにしている。
【６２４５】
　また、インフォメーション表示器３２１３を遊技に関する情報を表示する専用の表示器としてもよく、このような態様では、特定期間に操作手段が操作された場合に、インフォメーション表示器３２１３に表示される情報を切り替えるようにしてもよい。なお、遊技に関する情報は、上記図４１０（Ｂ）、（Ｃ）に示すような遊技を案内するための情報（右打ち、左打ち等）と、図４１０（Ａ）に示すような変動演出の抽選結果（第一特別抽選結果、第二特別抽選結果）に関する情報（大当り、はずれ、確変大当り、時短大当り等）と、当落の抽選確率に関わる設定情報（設定変更処理で設定されるパチンコ機１の設定値や実際に実行された変動演出の回数に対する大当りの発生確率等）と、アウト口１００８により回収された遊技球の球数（遊技領域５ａに発射された遊技球のうちアウト口１００８により回収された遊技球の球数）と、特定入賞装置（第一始動口２００２、第二始動口２００４、大入賞口２００５、一般入賞口２００１等のうち一つ又は任意の複数の組み合わせ（全部でもよい）、例えば第一始動口２００２及び第二始動口２００４に入賞した遊技球の球数等）に入賞した遊技球の球数（遊技領域５ａに発射された遊技球のうち特定入賞装置に入賞した遊技球の球数）と、を含むものであってもよいし、これらの遊技に関する情報のうちの１つ乃至任意の組み合わせの情報を含むものであってもよい。
【６２４６】
　なお、本実施形態のインフォメーション表示器３２１３は、外レール１００１及び内レール１００２の内側に設けるように構成したが、インフォメーション表示器３２１３は、外レール１００１及び内レール１００２の外側に設けるように構成してもよい。これにより外レール１００１及び内レール１００２の内側の領域での設計の自由度が増し、構造物や可動物を設けて装飾性や演出効果を高めることができる。また、本実施形態ではインフォメーション表示器３２１３にドットマトリクス表示部を用いる例について説明したが、ドットマトリクス表示部に限らず７セグメント表示部を用いて遊技に関する情報を表示するようにしてもよい。また、インフォメーション表示器３２１３をパチンコ機１の裏面側に配置するように構成し、インフォメーション表示器３２１３に遊技店員を対象とする遊技に関する情報を表示させてもよく、パチンコ機１の前面側での設計の自由度が増し、構造物や可動物を設けて装飾性や演出効果を高めることができる。
【６２４７】
　また、インフォメーション表示器３２１３は、裏後上可動装飾体３２１０の裏後上第一装飾基板に赤色の単色発光のＬＥＤが実装され、上記した金色演出や虹色演出の実行中に

もインフォメーション表示器３２１３については金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾を行わずに金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾とは異なる色で発光させる態様であってもよい。これにより、金色発光や虹色演出の実行中であってもインフォメーション表示器３２１３に表示される遊技に関する情報を遊技者に確実に伝えることができるようになる。なお、単色発光のＬＥＤは、金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾の実行中であっても金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾と区別可能であってインフォメーション表示器３２１３の表示内容を識別可能な発光色であれば他の色（青色等）であってもよい。

【６２４８】

インフォメーション表示器３２１３は、遊技に関わる重要な情報を表示するものであり、裏後上可動装飾体３２１０の裏後上第一装飾基板の表面（ＬＥＤが実装されていない裏実装面にも同一色の絶縁膜を形成するようにしてもよいし、表面とは異なる色の絶縁膜を裏面に形成するようにしてもよい）には、暗色（例えば緑、黒、紫、紺等）の絶縁膜が形成（レジスト処理）されている。これにより、裏後上第一装飾基板のＬＥＤが実装される表実装面において光の干渉が抑制され、複数のＬＥＤそれぞれからの光を独立して視認でき、インフォメーション表示器３２１３において様々な情報を明瞭に表示させることができる。また、金色演出や虹色演出の実行時に金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾を行うＬＥＤが設けられる基板の表面には明色（本例では白色）の絶縁膜が形成されているのに対し、遊技者や遊技店員にとって重要な情報を表示する裏後上可動装飾体３２１０に設けられる裏後上第一装飾基板の表面（ＬＥＤが実装されていない裏実装面にも同一の絶縁膜を形成するようにしてもよいし、表面とは異なる色の絶縁膜を裏面に形成するようにしてもよい）には暗色（例えば緑色、黒色、紫色、紺色等）の絶縁膜が形成されるため、ＬＥＤの発光に不具合が生じた場合に基板の表面に形成される絶縁膜の色によって重要な役割を担うＬＥＤであるか否かの判別を容易にすることができる。

【６２４９】

裏後上可動装飾体３２１０の裏後上第一装飾基板のＬＥＤが実装される前面（表実装面）には、各ＬＥＤと対応する部品番号と、ＬＥＤを配置する位置を示す領域等の電子部品の属性（さらに、電子部品の形状、電子部品の大きさ、電子部品の実装向き（実装方向）、電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部と、が白色（白色に限らず、黄色や黒色等でもよい）の塗料でシルク印刷されている。裏後上第一装飾基板のＬＥＤが実装される前面（表実装面）に占める領域のうち表面側表記部（白色（白色に限らず、黄色や黒色等でもよい）の塗料でシルク印刷される領域）が占める領域は、レジスト（暗色（例えば緑、黒、紫、紺等）の絶縁膜）が占める領域よりも少なくされている。そのため、裏後上第一装飾基板のＬＥＤが実装される前面（表実装面）における反射効率を、裏後上第一装飾基板のＬＥＤが実装される前面（表実装面）にレジストのみが形成される場合と同様に略均一化することが可能になるため、発光ムラの発生を抑制できるし、実装される複数のＬＥＤそれぞれから放出される光の干渉を抑制する効果の低下を抑制できる。

【６２５０】

なお、裏後上第一装飾基板のＬＥＤが実装される前面（表実装面）にシルク印刷される表面側表記部については同一種類の電子部品を所定のグループ毎に纏めて表示するようにしてもよい。例えば、裏後上第一装飾基板の前面（表実装面）に実装される５個のＬＥＤに対して「ＬＥＤ１～５」などのように１つの表面側表記部を設けるようにしてもよい。この場合には電子部品のそれぞれに表面側表記部を設ける場合に比べて表面側表記部の裏後上第一装飾基板のＬＥＤが実装される前面（表実装面）に占める割合を低減することが可能であるため、裏後上第一装飾基板のＬＥＤが実装される前面（表実装面）における反射効率をより均一にすることができるようになる。また、裏後上第一装飾基板のＬＥＤが実装される前面（表実装面）には表面側表記部をシルク印刷しないようにしてもよく、この場合にはＬＥＤが実装されない裏実装面に裏面側表記部をシルク印刷や、箔抜き文字、レジスト抜き文字、等によって形成するようにしてもよいし、裏後上第一装飾基板のＬＥＤが実装される前面（表実装面）に表面側表記部を箔抜き文字や、レジスト抜き文字、等

によって形成するようにしてもよい。

【６２５１】

また、裏後上第一装飾基板のＬＥＤ実装面に設けられるＬＥＤ以外の電子部品として暗色（黒色や緑色、紫色等）の外装（ケースやパッケージ、ハウジング等）を有する電子部品（例えば、緑色のハウジングを有するコネクタ等）のみを実装するようにしてもよいし、ＬＥＤ素子のパッケージを含む所定数の電子部品全てについて暗色（黒色や緑色、紫色等）の外装（ケースやパッケージ、ハウジング等）を有する電子部品（例えば、黒色のパッケージを有するＬＥＤ素子や緑色のハウジングを有するコネクタ等のうちいずれか一つ又は複数（任意の組み合わせ））のみを実装するようにし、白色や明色の外装を有する電子部品についてはＬＥＤ非実装面に実装するようにしてもよい。これにより、裏後上第一装飾基板のＬＥＤ実装面に実装される電子部品によってＬＥＤ実装面の反射率が向上することを抑制できるとともに、ＬＥＤ実装面での光の干渉を抑制できるため、インフォメーション表示器３２１３に表示される文字や数字絵柄等の情報を明瞭に表示することができ、遊技者にこれらの情報を確実に伝えることができるようになる。

【６２５２】

上記したように、金色演出や虹色演出の実行中にパチンコ機１に異常が発生した場合には、上記した金色演出や虹色演出の実行時に金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾を行うＬＥＤのうち遊技盤５に設けられる複数のＬＥＤを消灯状態にし、扉枠３に設けられているＬＥＤを異常報知発光態様（最大輝度（光量）の赤色で点滅発光）で発光制御するようになっている。なお、パチンコ機１に異常が発生した場合の具体例は、例えば、本体枠４に対する扉枠３の開放を検出した場合（扉枠３の開放によって扉枠３に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤによる発光を視認し難い状態となった場合）、図示しない振動センサが所定期間（例えば３０秒）継続して遊技盤５の振動を検出した場合（パチンコ機１を叩く等の行為が行われていることを検出した場合、パチンコ機１が振動することによって扉枠３や遊技盤５に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤによる発光や演出表示装置１６００の表示がぶれて視認し難い状態となっている場合）、満タン検知センサ１５４からの検出信号が入力された場合（下皿２０２が遊技球で満タンになっていることを検出した場合）、球切検知センサ５７４からの検出信号が入力された場合（誘導通路５７０ａ内に遊技球が存在していないことを検出した場合等のゴト行為が行われている可能性の低いエラー）などの軽微なエラーが発生した場合、電波照射ゴトを検出した場合（電磁波等によって扉枠３や遊技盤５に設けられている複数の特定装飾基板それぞれに実装されるＬＥＤによる発光にノイズが入ったり演出表示装置１６００の表示にノイズが入っている場合）、磁石ゴトを検出した場合、第二始動口２００４が開放していない場合に第二始動口センサ２４０１からの検出信号が入力された場合、大当り遊技状態や小当り遊技状態でない場合に大入賞口センサ２４０２からの検出信号が入力されたとき等のゴト行為の行われている可能性の高いエラー）などの重大なエラーが発生した場合、等である。

【６２５３】

一方、インフォメーション表示器３２１３の表示については、金色演出や虹色演出の実行中に異常が発生した場合であっても消灯させることなく継続するようになっている。このように遊技盤５や扉枠３に設けられて金色演出や虹色演出の実行中に金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾を行う特定装飾基板（白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされ、特定装飾基板のＬＥＤが実装されている表実装面（ＬＥＤ実装面）には実装される電子部品や他の装飾基板との混同を避けるための文字や記号（電子部品の部品番号）、電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が、明度や彩度の高い色（例えば、黄色や黄緑色等の明色）のインクを用いてスクリーン印刷により施されている）に実装されるＬＥＤは、異常が発生した場合に金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾を終了するものの、裏後上可動装飾体３２１５（暗色（例えば緑

、黒、紫、紺等）の絶縁膜が形成される裏後上第一装飾基板に実装されるＬＥＤ）は、異常が発生しても表示を継続する（変動時間が経過するまで予め決められている点灯パターンを継続する）ようになっており、異常の発生時にも遊技に関する情報を表示してこれらの情報を報知することができる。なお、上記した重大なエラーのうち特定の遊技停止条件を満たす重大なエラー（主制御基板１３１０の異常が発生する等）が発生した場合には、遊技球の発射や抽選を含んだ遊技の実行を停止する遊技停止状態にするとともに、裏後上可動装飾体３２１０の裏後上第一装飾基板に実装される複数のＬＥＤの点灯パターンを変更して重大なエラーに応じた表示（例えば「ＳＴＯＰ！」という遊技停止用の表示など）を行ったり、裏後上可動装飾体３２１０に設けられる裏後上第一装飾基板に実装される複数のＬＥＤを一斉に消灯させるようにしてもよく、この場合には重大なエラーの発生を即座に判断することができるようになる。また、特定の遊技停止条件を満たすものとしては、上記した重大なエラー（主制御基板１３１０の異常が発生する等）に限らず、例えば、特定の閾値を超えた大量の出玉（例えば１０万発の払い出し）が計数された場合等の射幸心を過度に高めてしまう状況の発生が判定されることも対象にしても良い。

【６２５４】

また、インフォメーション表示器３２１３の表示を継続するか又はインフォメーション表示器３２１３を消灯させて非表示にするかを異常の種類に応じて変更するようにしてもよく、例えば上記した軽微なエラーが発生した場合にはインフォメーション表示器３２１３の表示を継続し、上記した重大なエラーが発生した場合にはインフォメーション表示器３２１３を消灯して非表示にするようにしてもよい。これにより、異常の程度を判別することが可能になる。

【６２５５】

また、上記したように金色演出や虹色演出の実行時に金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾を行うＬＥＤは周辺制御基板１５１０の周辺制御部１５１１によって約３３．３ｍｓごとに行われる周辺制御部定常処理で制御されるのに対し、裏後上可動装飾体３２１０に設けられる裏後上第一装飾基板のＬＥＤは主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵによって約４ｍｓごとに行われる主制御側タイマ割込処理で制御されるようになっている。このように、主制御基板１３１０からの制御信号に基づいて周辺制御基板１５１０の周辺制御部１５１１が金色発光を実行するＬＥＤを制御する場合に比べて短い周期でインフォメーション表示器３２１３の表示内容を更新することができ、仮に不具合が発生してインフォメーション表示器３２１３に本来表示する内容とは異なる内容が表示された場合であっても直ぐ（４ｍｓ後）に表示内容を更新して本来の表示内容に変更することができ、遊技者等に不利益を与えない。すなわち、遊技に関する重要な（重要度の高い）情報を表示するインフォメーション表示器３２１３については、金色演出や虹色演出などの変動演出に応じて発光制御されて金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾を行うＬＥＤよりも短い周期で制御信号を出力してＬＥＤの発光態様を更新するため、インフォメーション表示器３２１３の表示内容に不具合が生じた場合であっても直ぐに正常な表示内容に変更することができ、本来とは異なる内容が表示されて遊技者に不利益を与えることを抑制できる。また、主制御基板１３１０からの制御信号に基づいて周辺制御基板１５１０の周辺制御部１５１１がインフォメーション表示器３２１３を制御するように構成した場合には主制御基板１３１０と周辺制御基板１５１０との間で通信エラーが生じてインフォメーション表示器３２１３によって示される情報に不具合が発生するおそれがあるが、本例では主制御基板１３１０がインフォメーション表示器３２１３を直接制御することで、周辺制御基板１５１０の周辺制御部１５１１がインフォメーション表示器３２１３を制御する場合に比べてインフォメーション表示器３２１３によって示される情報に不具合が発生し難くなり、遊技者に不利益を与えることを抑制できる。

【６２５６】

なお、上記実施形態（変形例を含む全ての実施形態）では特定装飾基板の複数のＬＥＤを実装する表面（ＬＥＤ実装面）に白色のソルダーレジスト（保護材）をコーティングし、この白色のソルダーレジスト（保護材）上に、実装されるＬＥＤ等の電子部品や他の装

飾基板との混同を避けるための文字や記号（電子部品の部品番号）、電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部を黄色のインクを用いてスクリーン印刷し、特定装飾基板に実装される複数のＬＥＤを表面側表記部の黄色に類似する色で発光させる金色演出（金色発光）を実行するものを示したが、本技術思想は他の演出であっても適用可能である。例えば、表面側表記部を黄緑色のインクを用いてスクリーン印刷し、特定装飾基板に実装される複数のＬＥＤを表面側表記部の黄緑色に類似する色で発光させる演出を実行するようにしてもよい。即ち、特定装飾基板に実装される複数のＬＥＤの発光色と、表面側表記部の色と類似する色で発光させる演出であれば本技術思想を適用可能である。

【６２５７】

また、特定装飾基板に実装されるＬＥＤ以外の電子部品については表面側表記部を設けないようにしてもよいし、ＬＥＤが実装されない裏実装面に裏面側表記部を設けるようにしてもよい。また、特定装飾基板の複数のＬＥＤが実装される表実装面には白色（ベージュ色、アイボリー色、クリーム色、生成り、オフホワイト等の白色と認められる（類似する）色を含む）や明色の外装（ケースやパッケージ、ハウジング等）を有する電子部品（例えば、白色のパッケージを有するＬＥＤ素子や白色のハウジングを有するコネクタ等のうちいずれか一つ又は複数（任意の組み合わせ））のみを実装するようにする一方（白色のパッケージを有するＬＥＤ素子のみを実装して他の電子部品を実装しないものを含む）、複数のＬＥＤが実装されない裏実装面に少なくとも白色や明色の外装を有しない電子部品（例えば黒色の外装を有する抵抗や複数のＬＥＤの発光を制御する回路（例えば、定電流駆動回路）、茶色の外装を有するコンデンサ、白色とは異なる色（水色や黄色等）のハウジングを有するコネクタ等）を実装するようにしてもよい（裏面に白色や明色の外装を有しない電子部品のみを配置するものに限らず、白色や明色の外装を有しない電子部品と白色や明色の外装を有する電子部品と、の一方または両方を配置するものでもよい）。これにより、ＬＥＤが実装される表実装面における反射効率の低下が抑制されて特定装飾基板の光量を高めることができるため、上記した金色演出や虹色演出などで実行される金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾を発光ムラのない状態で実行することができるとともにインパクトのある演出を実行することができ、遊技興趣が向上する。

【６２５８】

また、特定装飾基板に実装される複数のＬＥＤのパッケージの色を白色（ベージュ色、アイボリー色、クリーム色、生成り、オフホワイト等の白色と認められる（類似する）色を含む）としてもよく、この場合には特定装飾基板に実装されるＬＥＤ自体の外装色によっても反射効率が低下することを抑制できるため、特定装飾基板の光量を高めることができる。また、特定装飾基板として一方の表面に白色のパッケージを有する複数のＬＥＤと白色のハウジングを有するコネクタとの両方を実装する第１特定装飾基板と、一方の表面に白色のパッケージを有する複数のＬＥＤを実装すると共に他方の表面に白色とは異なる色（例えば水色や黄色等）のハウジングを有するコネクタを実装する第２特定装飾基板と、を備えるようにしてもよい。この場合には反射率の低下を抑制する効果が高い（反射率の高い）白色のハウジングを有するコネクタについてはＬＥＤの実装される表実装面と同一の表面（ＬＥＤ実装面（表実装面ともいう））に実装する一方で、反射率の低下を抑制する効果が低い（反射率を低下させるおそれのある、反射率が低い）白色以外のハウジングを有するコネクタ（白色だけでなく反射率が高い（白色に近い）明色以外のハウジングを有するコネクタとしてもよい）についてはＬＥＤの実装される表実装面とは異なる表面（ＬＥＤ非実装面（裏実装面ともいう））に実装してＬＥＤの実装される表実装面における反射効率を高く維持することが可能になる。なお、本技術思想は白色のハウジングの有するコネクタ等の白色の外装を有する電子部品についてＬＥＤ非実装面に実装することを除外するものではなく、白色の外装を有する電子部品についてもＬＥＤ非実装面に実装することでＬＥＤ実装面においてＬＥＤ以外の電子部品によって反射効率が低下することを抑止できるため、ＬＥＤ実装面における反射効率を高く維持してＬＥＤの発光を効率よく

使用して光量の低下を抑制することができる。

【６２５９】

また、上記した例では金色演出や虹色演出の実行時に金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾を行うＬＥＤを実装する特定装飾基板全ての、表面に白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされるものを示したが、これに限られるものではなく、金色演出や虹色演出の実行時に金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾を行うＬＥＤを実装する特定装飾基板のうちの一部の装飾基板については表面に白色以外（例えば緑色や黒色）のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされるものであってもよいし、金色演出や虹色演出の実行時に金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾を行うＬＥＤを実装する特定装飾基板のうちの全て若しくは一部の装飾基板についてはＬＥＤを実装している表面にのみ白色のソルダーレジスト（保護材）でコーティングし（白色の絶縁被膜を形成し）、ＬＥＤを実装していない裏面には白色以外（例えば緑色や黒色等の暗色）のソルダーレジスト（保護材）でコーティングするものであってもよい（白色以外の絶縁被膜を形成する）。また、特定装飾基板とハーネスで接続される基板（中継基板やドライバ基板、ＬＥＤを実装する装飾基板等の他の基板）についても接続されている特定装飾基板と同様の構成、すなわち特定装飾基板の表面に白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされるとともに、実装されている電子部品や他の装飾基板との混同を避けるための文字や記号（電子部品の部品番号）、電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が明度や彩度の高い色（例えば、黄色や黄緑色等の明色等）のインクを用いてスクリーン印刷されていれば、特定装飾基板とハーネスで接続される基板（中継基板やドライバ基板、ＬＥＤを実装する装飾基板等の他の基板）についても表面に白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされるとともに表面側表記部が明度や彩度の高い色（例えば、黄色や黄緑色等の明色等）のインクを用いてスクリーン印刷されるようにしてもよい。即ち、遊技盤５には、白色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされている基板と緑色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされている基板とが混載しているため、例えば特定装飾基板に不具合が発生して特定装飾基板のハーネスを確認したり、接続を確認したりする場合、特定装飾基板と接続されている基板が特定装飾基板と同じ色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされていたり、表面側表記部が同じ色のインクを用いてスクリーン印刷されていることにより特定装飾基板と接続されている基板を素早く発見することと他の基板（緑色のソルダーレジスト（保護材）がコーティングされている基板）と間違うことなく確認できる。

【６２６０】

また、特定装飾基板とハーネスで接続されている基板とのそれぞれについて同一色の外装を有するコネクタを用いるようにしてもよく、この場合にはコネクタの外装色によっても特定装飾基板と接続されている基板を判別することができるようになるため、特定装飾基板と接続されている基板を素早く発見することができる。また、特定装飾基板とハーネスで接続される基板（中継基板やドライバ基板、ＬＥＤを実装する装飾基板等の他の基板）の表実装面（遊技機の前方に向けられる面）に実装されるコネクタについても白色の外装を有するコネクタとし、白色とは異なる色の外装を有するコネクタについては特定装飾基板とハーネスで接続される基板の裏実装面（遊技機の後方に向けられる面）に実装するようにしてもよい（ＬＥＤ非実装面に白色の外装を有するコネクタを実装するものを除外しない）。これにより、特定装飾基板と接続されている基板をより的確に素早く見つけることができるし、特定装飾基板とハーネスで接続される基板の表実装面についても反射効率の低下を抑制することができ、遊技機に設けられているＬＥＤ等の発光体による発光を効率よく使用して光量の低下を抑制することができる。

【６２６１】

なお、上記した例ではパチンコ機１の前面側から視認可能なインフォメーション表示器３２１３を示したが、これに限らずパチンコ機１の背面側にパチンコ機１の背面側からの

み視認可能なインフォメーション表示器を配置するようにしてもよく、この場合にはインフォメーション表示器に遊技機に関する遊技店員等に向けた情報（大当りの回数、エラーの発生状況、賞球払出数、打ち込み数、所定の入賞口（全ての入賞口の入球数をまとめて表示するものでもよいし、複数の入賞口それぞれを別個に表示するものでもよいし、所定数（１個を含む）毎にまとめて表示するものでもよい）への入球数、等）を表示するようにしてもよい。また、パチンコ機１の背面側にインフォメーション表示器を配置した場合にも上記したようなパチンコ機１の前面側から視認可能なインフォメーション表示器３２１３と同様の制御（例えば異常発生時にも消灯することなく継続して発光する等）を実行するようにしてもよい。

【６２６２】

また、パチンコ機１の背面側には発光演出を実行する発光体が設けられていないか、パチンコ機１の前面側に比べて発光演出を実行する発光体の設けられる個数が少ないため、パチンコ機１の背面側にインフォメーション表示器を配置した場合にはインフォメーション表示器の視認を他の発光体によって妨げられ難いし、島設備内が暗くなっていることでインフォメーション表示器がパチンコ機１の前面側に設けられた場合に比べてインフォメーション表示器の表示内容を視認し易い。

【６２６３】

また、パチンコ機１の背面側にインフォメーション表示器を配置した場合には、このインフォメーション表示器では発光演出を行わず、遊技者とは別の遊技店員等に情報を表示するだけであるため、発光色は然程重要ではないし、光量も然程高くなくても遊技店員等に情報を認識させることが可能である。そのため、上記した虹色演出や金色演出を実行する複数の特定装飾基板のＬＥＤ実装面には白色の絶縁被膜が形成されるとともに、ＬＥＤ実装面の前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の一部又は全部が白色の絶縁被膜により覆われた状態となっているのに対し、パチンコ機１の背面側に配置されるインフォメーション表示器の裏後上第一装飾基板のＬＥＤ実装面には緑色や黒色等の暗色の絶縁被膜が形成されるようにしてもよいし、これに加えて又はこれと別にＬＥＤ実装面の前面（表実装面）側ランドＫＲＤｘ１の全部が絶縁被膜により覆われない状態とされるようにしてもよい。これにより、暗色の絶縁被膜が形成された裏後上第一装飾基板に実装されるＬＥＤを暗い島設備内で発光させた場合にＬＥＤの発光が際立つし、反射率が高過ぎないことで眩しく感じさせないようにすることができるため、インフォメーション表示器に表示される情報を確実に伝えることができるようになる。また、裏後上第一装飾基板に暗色の絶縁被膜が形成されることで暗い島設備内に配置する裏後上第一装飾基板に形成される配線パターンを識別し難くすることができ、セキュリティを向上することができる。

【６２６４】

扉枠３や遊技盤５に設けられて金色演出や虹色演出の実行時に金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾を行う各種の装飾基板を、透光性を有する材料によって形成される装飾体等（ケースやカバーなどでもよい）に設ける一方で、金色発光や虹色演出の実行時に金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾を行わない裏後上第一装飾基板が収納される裏後上可動装飾体３２１０（ケースやカバーなどでもよい）を、透光性を有しない材料によって形成するようにしてもよく、この場合には基板の設けられている装飾体（ケースやカバーなどでもよい）が透光性を有するか否かによっても重要な役割を担うＬＥＤが実装されているか否かの判別が可能となる。

【６２６５】

図４１１（ａ）は、インフォメーション表示器３２１３の正面側を示す斜視図であり、図４１１（ｂ）は、インフォメーション表示器３２１３の背面側を示す斜視図である。また、図４１２は、図４１１（ａ）のＡ－Ａ断面を示す断面図である。図４１１乃至図４１２に示すように、金色発光の実行時に金色発光しないインフォメーション表示器３２１３に設けられる裏後上第一装飾基板３２１４は、裏後上可動装飾体３２１０（ケースやカバーなどでもよい）に収納されている。裏後上可動装飾体３２１０（ケースやカバーなどでもよい）は、裏後上第一装飾基板３２１４の表面（ＬＥＤ３２１４ａの実装面）を覆う箱

状の表側裏後上可動装飾体３２１５と、裏後上第一装飾基板３２１４の裏面（ＬＥＤ３２１４ａの非実装面）を覆う裏側裏後上可動装飾体３２１０ａと、を有している。

【６２６６】

また、裏後上可動装飾体３２１０は、表側裏後上可動装飾体３２１５と裏側裏後上可動装飾体３２１０ａとが溶着等によって強固に接着され、裏後上第一装飾基板３２１４を強固に収納する態様であってもよく、この場合には、裏後上可動装飾体３２１０の一部を破壊することにより裏後上可動装飾体３２１０から裏後上第一装飾基板３２１４を脱離可能とすることができる。このようなインフォメーション表示器３２１３によれば、裏後上可動装飾体３２１０（ケースやカバーなどでもよい）の一部を破壊しなければ裏後上可動装飾体３２１０から裏後上第一装飾基板３２１４を脱離できないため、裏後上第一装飾基板３２１４が非正規の基板に不正に交換されることを抑制でき、非正規の基板が誤作動した際に遊技者や遊技機が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制し、パチンコ機１の信頼性が低下することを抑制することができる。

【６２６７】

なお、扉枠３や遊技盤５に設けられて金色演出や虹色演出の実行時に金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾を行う各種の装飾基板が設けられる装飾体等（ケースやカバーなどでもよい）は、該装飾体の一部を破壊することなく装飾基板を脱離可能な状態となるようにしてもよい。扉枠３や遊技盤５に設けられて重要な情報を表示することなく金色演出や虹色演出の実行時に金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾を行うＬＥＤ等の発光手段（インフォメーション表示器３２１３に比べて重要度の低い発光手段）については、装飾体等（ケースやカバーなどでもよい）を破壊することなく発光手段を交換することができるため、該装飾体のメンテナンスを容易にすることができる。

【６２６８】

また、本実施形態の裏後上可動装飾体３２１０では、裏後上第一装飾基板３２１４の表面（ＬＥＤ３２１４ａの実装面）が表側裏後上可動装飾体３２１５のみによって覆われ、裏後上第一装飾基板３２１４の表面（ＬＥＤ３２１４ａの実装面）を覆う表側裏後上可動装飾体３２１５と裏後上第一装飾基板３２１４の裏面（ＬＥＤ３２１４ａの非実装面）を覆う裏側裏後上可動装飾体３２１０ａとが裏後上第一装飾基板３２１４の裏面側で当接するようになっている。換言すると、表側裏後上可動装飾体３２１５と裏側裏後上可動装飾体３２１０ａとの合わせ部は、裏後上第一装飾基板３２１４の裏面側に位置するように構成されている。このため、表側裏後上可動装飾体３２１５と裏側裏後上可動装飾体３２１０ａとの合わせ部分から裏後上可動装飾体３２１０内に光が進入した場合であっても、裏後上第一装飾基板３２１４の表面に光が進入することを抑制し、裏後上第一装飾基板３２１４の発光ムラを抑制することができる。なお、表側裏後上可動装飾体３２１５と裏側裏後上可動装飾体３２１０ａとの合わせ部は、少なくとも裏後上第一装飾基板３２１４の前面側とならないように構成されるものであればよく、裏後上第一装飾基板３２１４の表面と裏面との間で表側裏後上可動装飾体３２１５と裏側裏後上可動装飾体３２１０ａとが当接する（表側裏後上可動装飾体３２１５と裏側裏後上可動装飾体３２１０ａとの合わせ部が裏後上第一装飾基板３２１４の側面に位置するように当接する）ように構成した場合にも、前記作用効果と同様の作用効果を奏することができる。

【６２６９】

裏後上可動装飾体３２１０（ケースやカバーなどでもよい）の内部には、裏後上第一装飾基板３２１４に実装される複数のＬＥＤ３２１４ａそれぞれから照射される光が互いに干渉することを抑制する干渉抑制手段を形成するようにしてもよい。本実施形態の表側裏後上可動装飾体３２１５は、遊技者側を向く内面部３２１５ａと、内面部３２１５ａの一部から後方に延びて裏後上第一装飾基板３２１４の表面（ＬＥＤ３２１４の実装面）に当接する内面部３２１５ｂと、を有している。また、表側裏後上可動装飾体３２１５には、内面部３２１５ｂを含む内面部３２１５ａを貫通する孔状の複数の貫通部３２１６が形成されている。複数の貫通部３２１６は、裏後上第一装飾基板３２１４に実装される複数の

ＬＥＤ３２１４ａに対応するように形成されており、複数の貫通部３２１６の各々には、裏後上第一装飾基板３２１４に実装される複数のＬＥＤ３２１４ａのうちの１つのＬＥＤ３２１４ａが配置され、裏後上第一装飾基板３２１４の表面（ＬＥＤ３２１４ａの実装面）が内面部３２１５ｂによって区画されている。これにより、裏後上第一装飾基板３２１４に実装される複数のＬＥＤ３２１４ａそれぞれから照射される光の進行方向が規制され、裏後上第一装飾基板３２１４の表面（ＬＥＤ３２１４ａの実装面）に隣接して実装されるＬＥＤ３２１４ａから照射される光が互いに干渉することが抑制され、複数の発光手段の発光色を個々に識別しやすくすることができる。また、インフォメーション表示器３２１３において点灯しているＬＥＤ３２１４ａと消灯しているＬＥＤ３２１４ａとを明確に区別することができるため、インフォメーション表示器３２１３に遊技に関する情報を明瞭に表示させることができるようになる。

【６２７０】

また、上記したように異常が発生した場合には、特定装飾基板に実装されて金色演出や虹色演出の実行時に金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾を行うＬＥＤのうち遊技盤５に設けられる複数のＬＥＤを消灯させる一方、インフォメーション表示器３２１３については、通常の輝度を維持した状態で発光させるため、異常時に遊技窓部内の明るさが低下された状態がインフォメーション表示器３２１３による発光を際立たせることができ、インフォメーション表示器３２１３に表示される遊技に関する情報を視認し易くできる。また、異常が発生した場合には、特定装飾基板に実装されて金色演出や虹色演出の実行時に金色演出の発光装飾（金色発光）や虹色演出の発光装飾を行うＬＥＤのうち扉枠３に設けられているＬＥＤを異常報知発光態様（最大輝度（光量）の赤色で点滅発光）で発光制御するが、裏後上可動装飾体３２１０（ケースやカバーなどでもよい）の内部に裏後上第一装飾基板３２１４に実装される複数のＬＥＤ３２１４ａそれぞれによって照射される光の干渉を互いに抑制する干渉抑制手段を有するため、扉枠３に設けられているＬＥＤを異常報知発光態様（最大輝度（光量）の赤色で点滅発光）で発光制御している状況でも裏後上第一装飾基板３１２４に実装される複数のＬＥＤ３１２４ａそれぞれの発光状態を判別し易くできる。

【６２７１】

本実施形態のインフォメーション表示器３２１３では、裏後上第一装飾基板３２１４のＬＥＤ３２１４ａが実装される表実装面に暗色のソルダーレジストがコーティングされているため（暗色の絶縁被膜が形成されているため）、貫通部３２１６内に設けられるＬＥＤ３２１４ａから照射される光が貫通部３２１６外に漏れた場合であっても光の拡散を抑制することができる。

【６２７２】

裏後上第一装飾基板３２１４の裏面（ＬＥＤ３２１４ａの非実装面）を覆う裏後上可動装飾体３２１０ａは、最低限の開口のみが形成されるものであってもよい。例えば、裏後上第一装飾基板３２１４の裏面（ＬＥＤ３２１４ａの非実装面）を覆う裏側裏後上可動装飾体３２１０ａには、裏後上第一装飾基板３２１４の裏面（ＬＥＤ３２１４ａの非実装面）に実装されたコネクタ３２１４ｂ用の開口３２１０ｂのみが形成されればよい。これにより、裏後上可動装飾体３２１０の裏面側から表側裏後上可動装飾体３２１５に形成される貫通部３２１６内に光が進入することを抑制し、インフォメーション表示器３２１３で誤った情報が表示されることを抑制でき、インフォメーション表示器３２１３に表示される情報の信頼度を向上させることができる。

【６２７３】

本実施形態の裏後上可動装飾体３２１０は、表側裏後上可動装飾体３２１５と裏側裏後上可動装飾体３２１０ａとが溶着等によって強固に接着されて形成されているが、例えば、表側裏後上可動装飾体３２１５と裏側裏後上可動装飾体３２１０ａとの嵌め合いによって強固に接着されて形成されてもよい。具体的には、表側裏後上可動装飾体３２１５の内面部３２１５ａから裏側裏後上可動装飾体３２１０ａに向かって延びる第１当接部３２１７を形成し、裏側裏後上可動装飾体３２１０ａの後方側に表側裏後上可動装飾体３２１５

に向かって延びて第１当接部３２１７と互いに当接する第２当接部３２１０ｃを形成し、第１当接部３２１７又は第２当接部３２１０ｃに、ピンとピンが強固に嵌め合わされる孔とを形成する態様であってもよく、裏後上可動装飾体３２１０の一部を破壊することにより裏後上可動装飾体３２１０から裏後上第一装飾基板３２１４を脱離可能となる構成とすることができる。

【６２７４】

また、表側裏後上可動装飾体３２１５には、内面部３２１５ａから裏後上第一装飾基板３２１４に向かって延びる位置決めピン３２１８が形成されてもよい。位置決めピン３２１８は、裏後上第一装飾基板３２１４が表側裏後上可動装飾体３２１５に取り付けられる際に裏後上第一装飾基板３２１４に形成された孔３２１４ｃに挿入されることにより、表側裏後上可動装飾体３２１５に取り付けられる裏後上第一装飾基板３２１４の位置決めを容易にすることができる。

【６２７５】

第１当接部３２１７や第２当接部３２１０ｃや位置決めピン３２１８は、例えば、円柱状に形成されてもよいし、角柱状に形成されてもよい。なお、第１当接部３２１７は、第２当接部３２１０ｃに当接する当接面部と該当接面部に形成されて第２当接部３２１０ｃに形成されたピンが挿入される孔や開口（又は、第２当接部３２１０ｃに形成された孔や開口に挿入されるピン）とを有する態様であってもよいし、第２当接部３２１０ｃに形成された孔や開口に挿入されるピンのみで構成される態様であってもよい。また、位置決めピン３２１８は、裏後上第一装飾基板３２１４に当接して内面部３２１５ｂとともに裏後上第一装飾基板３２１４を支持する支持面部と該支持面部の上部に形成されて裏後上第一装飾基板３２１４に形成された孔や開口に挿入されるピン（又は、裏後上第一装飾基板３２１４に形成されたピンが挿入される孔や開口）とから構成される態様であってもよいし、裏後上第一装飾基板３２１４に形成された孔や開口に挿入されるピンのみで構成される態様であってもよい。

【６２７６】

上述のインフォメーション表示器３２１３では、表側裏後上可動装飾体３２１５と裏側裏後上可動装飾体３２１０ａとが溶着等によって強固に接着され、裏後上可動装飾体３２１０の一部を破壊しなければ裏後上可動装飾体３２１０から裏後上第一装飾基板３２１４を脱離できないように構成されており、裏後上第一装飾基板３２１４が非正規の基板に不正に交換されることが抑制されている。しかしながら、重要度の高い発光演出に使用される複数のＬＥＤ３２１４ａが実装された裏後上第一装飾基板３２１４は、裏後上第一装飾基板３２１４を収納する裏後上可動装飾体３２１０とともに非正規の装飾体及び発光基板に交換されるおそれがあり、このような場合には、例えばパチンコ機１を管理する管理者であっても装飾体及び発光基板が正規品か否かを確認することが困難であるため、非正規の発光基板が作動した際に遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与え、ひいては、パチンコ機１の信頼性を低下させるおそれがあった。以下、このような問題を解消することを目的に、裏後上可動装飾体３２１０の表側裏後上可動装飾体３２１５に改変を加えた態様について説明する。

【６２７７】

［表側裏後上可動装飾体の改変例１］

図４１３は、表側裏後上可動装飾体３２１５Ａ及び表側裏後上可動装飾体３２１５Ａから取り外された裏後上第一装飾基板３２１４の一部を示す斜視図である。図４１４は、表側裏後上可動装飾体３２１５Ａ及び表側裏後上可動装飾体３２１５Ａに取り付けられた裏後上第一装飾基板３２１４の一部を示す斜視図である。図４１３又は図４１４に示すように、表側裏後上可動装飾体３２１５Ａは、後面解放の箱状に形成されている。該表側裏後上可動装飾体３２１５Ａの内面部（内面部３２１５ａ、内面部３２１５ｂ、及び内面部３２１５ｃ等）に複数の視認部３２１９Ａが形成されている点で、上述の実施形態の表側裏後上可動装飾体３２１５と異なり、本実施形態の複数の視認部３２１９Ａは、表側裏後上可動装飾体３２１５Ａの後方側から裏後上第一装飾基板３２１４が配置された後に、裏後

上第一装飾基板３２１４によって覆われて外部から視認不可能とされる。

【６２７８】

本実施形態の視認部３２１９Ａは、表側裏後上可動装飾体３２１５Ａに設けられた「★」というマークの表記である。このような視認部３２１９Ａは、表側裏後上可動装飾体３２１５Ａの表側（前側）及び外側面側には設けられておらず、表側裏後上可動装飾体３２１５Ａの裏側（後側）にのみ設けられている。視認部３２１９Ａは、表側裏後上可動装飾体３２１５Ａに印刷される態様であってもよいし、視認部３２１９Ａが形成されたシール状のフィルム部材が表側裏後上可動装飾体３２１５Ａに貼り付けられる態様であってもよい。また、複数の視認部３２１９Ａは、表側裏後上可動装飾体３２１５Ａを隆起させて凸状の形成痕で形成される態様であってもよいし、表側裏後上可動装飾体３２１５Ａを窪ませて凹状の形成痕で形成される態様であってもよいし、これら印刷される態様、フィルム部材が貼り付けられる態様、及び形成痕で形成される態様が組み合わされた態様であってもよい。なお、視認部３２１９Ａ自体の破損や離脱を回避するとの観点から、視認部３２１９Ａは、シール状のフィルム部材ではなく、印刷や形成痕により表側裏後上可動装飾体３２１５Ａに一体形成される態様が好ましい。

【６２７９】

本実施形態のインフォメーション表示器３２１３では、例えば、重要度の高い裏後上第一装飾基板３２１４を表側裏後上可動装飾体３２１５Ａに収納することで、裏後上第一装飾基板３２１４にアクセスする不正行為や埃等の外的要因による不具合の発生を抑止できる。また、裏後上第一装飾基板３２１４が裏後上第一装飾基板３２１４を収納する裏後上可動装飾体３２１０とともに非正規の発光基板及び該発光基板を収納する装飾体とに不正に交換された場合であっても、表側裏後上可動装飾体３２１５Ａから裏後上第一装飾基板３２１４を取り外して表側裏後上可動装飾体３２１５Ａに形成された複数の視認部３２１９Ａの有無を調べることにより、表側裏後上可動装飾体３２１５Ａが正規品であるか非正規品であるかを確認することができ、例えば、裏後上第一装飾基板３２１４が表側裏後上可動装飾体３２１５Ａごと不正に交換されるような不正行為についても発見および抑制が可能となる。この結果、裏後上第一装飾基板３２１４に対する不正行為や不具合によって遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、パチンコ機１の信頼性の低下を抑制することができる。

【６２８０】

加えて、本実施形態のインフォメーション表示器３２１３では、視認部３２１９Ａが表側裏後上可動装飾体３２１５Ａの後方側から配置される裏後上第一装飾基板３２１４に覆われて外部から視認不可能とされており、裏後上可動装飾体３２１０の少なくとも一部を破壊して表側裏後上可動装飾体３２１５Ａから裏後上第一装飾基板３２１４を取り外さなければ視認部３２１９Ａを確認することができない。このため、視認部３２１９Ａの秘匿性を高めることができ、正規品である表側裏後上可動装飾体３２１５Ａを模倣して形成される非正規品の装飾体に視認部を作成することを困難にでき、裏後上第一装飾基板３２１４が裏後上第一装飾基板３２１４を収納する裏後上可動装飾体３２１０とともに非正規の発光基板及び該発光基板を収納する装飾体とに不正に交換された場合であっても、表側裏後上可動装飾体３２１５Ａから裏後上第一装飾基板３２１４を取り外して表側裏後上可動装飾体３２１５Ａに形成された複数の視認部３２１９Ａを確認することにより、表側裏後上可動装飾体３２１５Ａが正規品であるか非正規品であるかを確認することができる。

【６２８１】

複数の視認部３２１９Ａは、表側裏後上可動装飾体３２１５Ａの後面部を介して配置される裏後上第一装飾基板３２１４に覆われて外部から視認不可能とされる位置であれば表側裏後上可動装飾体３２１５Ａのいずれの位置に設けられてもよいし、複数の視認部３２１９Ａの大きさはいずれの大きさで設けられてもよいし、複数の視認部３２１９Ａの形状は予め設定された形状であればいずれの形状で設けられてもよいし、複数の視認部３２１９Ａの色は無着色又はいずれの色で着色されてもよく、視認部３２１９Ａを視標として表側裏後上可動装飾体３２１５Ａが正規品であるか非正規品であるかを容易に確認させるこ

とができる。
【６２８２】
複数の視認部３２１９Ａは、視認部３２１９Ａの秘匿性を高めて表側裏後上可動装飾体３２１５Ａの模倣品である非正規品の作成をより一層困難にさせるとの観点から、例えば、表側裏後上可動装飾体３２１５Ａにおいて裏後上第一装飾基板３２１４の表実装面に覆われる範囲の内面に分散して形成される態様が好ましい。具体的には、位置決めピン３２１８の基端側の内面部３２１５ａや、複数の貫通部３２１６が形成される内面部３２１５ｂや、基板支持突起３２３０の頂点側の内面部３２１５ｃなどに複数の視認部３２１９Ａが分散して形成される態様が好ましい。なお、本例では、表側裏後上可動装飾体３２１５Ａから裏後上第一装飾基板３２１４の端を少し浮かせただけでは外部から全ての視認部３２１９Ａを確認することが出来ないように、設置された裏後上第一装飾基板３２１４の基板端からの距離を異ならせるように視認部３２１９Ａが夫々配置されている。つまり、表側裏後上可動装飾体３２１５Ａから裏後上第一装飾基板３２１４を完全に取り外さなければ全ての視認部３２１９Ａを外部から確認することができないようになっているため、視認部３２１９Ａの秘匿性を高めるとともに、正規品である表側裏後上可動装飾体３２１５Ａを模倣して形成される非正規品の装飾体に視認部３２１９Ａを作成することをより一層困難にすることができる。
【６２８３】
また、本実施形態のインフォメーション表示器３２１３を不正に加工して非正規のインフォメーション表示器が作成されるような場合には、正規の裏後上第一装飾基板３２１４に少なくとも外部からの操作信号を受信するような不正な電子部品等を実装することも考えられ、そのような場合には非正規の裏後上第一装飾基板が正規の裏後上第一装飾基板３２１４よりも大きくなったり、不正な電子部品の実装に伴い正規の裏後上可動装飾体３２１０の所定部位を削り取って非正規の裏後上可動装飾体が形成されることが考えられる。こうした場合を鑑み、本実施形態では、裏後上可動装飾体３２１０の内面部が削り取られる際に表側裏後上可動装飾体３２１５Ａの視認部３２１９Ａも削り取られて不正の証拠を明確にできるように、裏後上第一装飾基板３２１４に当接する内面部３２１５ｂおよび基板支持突起３２３０の頂点側の内面部３２１５ｃに視認部３２１９Ａを配置することとしている。これにより、複数の視認部３２１９Ａの有無を確認することにより、表側裏後上可動装飾体３２１５Ａに不正な加工が施されたか否かを確認することができる。
【６２８４】
また、表側裏後上可動装飾体３２１５Ａの内面部３２１５ａ、３２１５ｂ、３２１５ｃに形成される複数の視認部３２１９Ａの位置や数は、例えば、パチンコ機１の特定の条件（機種や同一機種であっても製造ロット等の製造条件）に応じて予め設定された形成パターンに応じて形成される態様が好ましく、予め視認部３２１９Ａの存在を知る者（パチンコ機１の管理者やパチンコ機１のメンテナスを行う作業者等）のみが形成パターンに応じて表側裏後上可動装飾体３２１５Ａの確認をでき、正規品である表側裏後上可動装飾体３２１５Ａを模倣して形成される非正規品の装飾体に視認部３２１９Ａを作成することをより一層困難にすることができる。
【６２８５】
複数の視認部３２１９Ａを設ける態様としては、例えば少なくとも一部の視認部３２１９Ａを予め視認部３２１９Ａの存在を知る者（パチンコ機１の管理者やパチンコ機１のメンテナスを行う作業者等）でなければ発見が困難となる位置に設ける態様にしておくことが好ましい。例えば、本実施形態では、複数の貫通部３２１６が形成される内面部３２１５ｂに視認部３２１９Ａを複数設けているが、視認部３２１９Ａを設ける位置として、複数の貫通部３２１６に囲われない位置Ａと、複数の貫通部３２１６に囲われる位置Ｂと、に夫々視認部３２１９Ａを設けるようにしている。特に、位置Ｂには他よりも小さい視認部３２１９Ａを複数の貫通部３２１６に紛れるかたちで配置しており、このような視認部３２１９Ａは、表側裏後上可動装飾体３２１５Ａから裏後上第一装飾基板３２１４が取り外された場合であっても予め各位置の視認部３２１９Ａの存在を知る者（パチンコ機１の

管理者やパチンコ機１のメンテナスを行う作業者等）でなければより小さく形成された視認部３２１９Ａを発見することが困難となり、正規品である表側裏後上可動装飾体３２１５Ａを模倣して形成される非正規品の装飾体に視認部３２１９Ａを作成することをより一層困難にすることができる。

【６２８６】

また、複数の貫通部３２１６に囲われる位置Ｂに他よりも小さい視認部３２１９Ａを複数の貫通部３２１６に紛れるかたちで配置するにあたって、模倣者による発見をより困難にする別例として、視認部３２１９Ａを貫通部３２１６の形状を模した態様にしておくことが例示できる。例えば、貫通部３２１６の形状が略円形状の孔（例えば楕円の状）である場合には位置Ｂの視認部３２１９Ａも同様の略円形状のマーク（例えば楕円のマーク）にしたり、貫通部３２１６の形状が略四角形状の孔（例えば正方形の孔）である場合には位置Ｂの視認部３２１９Ａも同様の略四角形状のマーク（例えば正方形のマーク）にしたりすることが例示できる。このように貫通部３２１６の形状と同類の形態からなるマークの視認部３２１９Ａを設けることで、模倣者による発見をより困難にすることができる。

【６２８７】

図４１５（ａ）乃至（ｄ）は、表側裏後上可動装飾体３２１５Ａの一部を示す背面図である。本実施形態では、「★」というマークの表記である複数の視認部３２１９Ａの態様について説明したが、複数の視認部３２１９Ａは、表側裏後上可動装飾体３２１５Ａが正規品か非正規品かを確認する際の視標となればよく形状が異なるものであってもよい。具体的には、視認部３２１９Ａは、図４１５（ａ）に示すように「●」というマークの表記であってもよいし、図４１５（ｂ）に示すように「▲」というマークの表記であってもよいし、図４１５（ｃ）に示すように「■」というマークの表記であってもよいし、図４１５（ｄ）に示すように一方に延びる複数の線材が一方と直角な他方に所定の間隔で並べられたマークの表記であってもよいし、「し」や「Ｕ」等の文字の表記であってもよい。なお、視認部３２１９Ａにマークの表記を採用する場合には、マークの一部が欠けた表記（例えば、「●」の表記の場合には半円状等の表記）であってもよく、予め視認部３２１９Ａの存在を知る者（パチンコ機１の管理者やパチンコ機１のメンテナスを行う作業者等）を除いて、視認部３２１９Ａが表側裏後上可動装飾体３２１５Ａを確認する際の視標であると認識すること自体を困難にすることができる。

【６２８８】

また、表側裏後上可動装飾体３２１５Ａの内面部３２１５ａや内面部３２１５ｂに形成される複数の視認部３２１９Ａの大きさや形状は、例えば、パチンコ機１の特定の条件（機種や同一機種であっても製造ロット等の製造条件）に応じて予め設定された形成パターンに応じて形成される態様が好ましく、予め視認部３２１９Ａの存在を知る者（パチンコ機１の管理者やパチンコ機１のメンテナスを行う作業者等）のみが形成パターンに応じて表側裏後上可動装飾体３２１５Ａの確認をでき、正規品である表側裏後上可動装飾体３２１５Ａを模倣して形成される非正規品の装飾体に視認部３２１９Ａを作成することをより一層困難にすることができる。なお、複数の視認部３２１９Ａの形成パターンにおいて、複数の視認部３２１９Ａの大きさや形状は統一されてもよいし、複数の視認部３２１９Ａの大きさや形状は異なってもよい。

【６２８９】

複数の視認部３２１９Ａの色は、いずれの色であってもよいが、例えば、表側裏後上可動装飾体３２１５Ａと同色であってもよいし、表側裏後上可動装飾体３２１５Ａに類似する色であってもよいし、裏後上第一装飾基板３２１４にコーティングされるソルダーレジストに応じて暗色であってもよい。複数の視認部３２１９Ａが表側裏後上可動装飾体３２１５Ａと同色又は類似する色である場合には、視認部３２１９Ａの視認性を低下させることができ、予め視認部３２１９Ａの存在を知る者（パチンコ機１の管理者やパチンコ機１のメンテナスを行う作業者等）でなければ視認部３２１９Ａを視認することが困難となり、正規品である表側裏後上可動装飾体３２１５Ａを模倣して形成される非正規品の装飾体に視認部３２１９Ａを作成することをより一層困難にすることができる。また、複数の視

認部３２１９Ａが裏後上第一装飾基板３２１４にコーティングされるソルダーレジストに応じて暗色である場合には、貫通部３２１６内に設けられるＬＥＤ３２１４ａから照射される光が貫通部３２１６外に漏れた際に光の拡散を抑制することができる。

【６２９０】

図４１５（ａ）乃至（ｄ）に示すように、表側裏後上可動装飾体３２１５Ａの内面部３２１５ｂに形成される視認部３２１９Ａは、内面部３２１５ｂに形成される複数の貫通部３２１６の特定の配列パターンに準じて形成される態様であってもよい。複数の貫通部３２１６が特定の配列パターンに準じて形成されている場合に、予め視認部３２１９Ａの存在を知る者（パチンコ機１の管理者やパチンコ機１のメンテナスを行う作業者等）を除いては、視認部３２１９Ａが貫通部３２１６であると勘違いさせることができ、視認部３２１９Ａの秘匿性が高められ、正規品である表側裏後上可動装飾体３２１５Ａを模倣して形成される非正規品の装飾体に視認部を作成することをより一層困難にすることができる。

【６２９１】

［裏後上可動装飾体の改変例２］

図４１６は、表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂ及び表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂから取り外された裏後上第一装飾基板３２１４の一部を示す斜視図である。図４１７は、表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂ及び表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂに取り付けられた裏後上第一装飾基板３２１４の一部を示す斜視図である。後面解放の箱状に形成された表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂには複数の視認部３２１９Ｂが形成されており、図４１６又は図４１７に示すように、本実施形態の複数の視認部３２１９Ｂは、表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂの内面部３２１５ａと、表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂの外周立壁部３２１５ｄの先端面部３２１５ｅとに形成されており、表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂの後方側から配置される裏後上第一装飾基板３２１４に覆われていないものを含む点で、改変例１の複数の視認部３２１９Ａと異なる。

【６２９２】

本実施形態の視認部３２１９Ｂは、表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂに設けられた「★」というマークの表記である。このような視認部３２１９Ｂは、表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂの表側（前側）及び外側面側には設けられておらず、表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂの裏側（後側）にのみ設けられている。視認部３２１９Ｂは、表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂに印刷される態様であってもよいし、視認部３２１９Ｂが形成されたシール状のフィルム部材が表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂに貼り付けられる態様であってもよい。また、複数の視認部３２１９Ｂは、表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂを隆起させて凸状の形成痕で形成される態様であってもよいし、表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂを窪ませて凹状の形成痕で形成される態様であってもよいし、これら印刷される態様、フィルム部材が貼り付けられる態様、及び形成痕で形成される態様が組み合わされた態様であってもよい。なお、視認部３２１９Ｂ自体の破損や離脱を回避するとの観点から、視認部３２１９Ｂは、シール状のフィルム部材ではなく、印刷や形成痕により表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂに一体形成される態様が好ましい。

【６２９３】

本実施形態のインフォメーション表示器３２１３では、例えば、重要度の高い裏後上第一装飾基板３２１４を表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂに収納することで、裏後上第一装飾基板３２１４にアクセスする不正行為や埃等の外的要因による不具合の発生を抑止できる。また、表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂに視認部３２１９Ｂを形成しておき、その視認部３２１９Ｂを裏後上第一装飾基板３２１４が収納された状態でも裏後上第一装飾基板３２１４によって覆われない位置に配置しておくことで、表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂが正規品か非正規品かを視認部３２１９Ｂの有無を調べることにより確認でき、例えば、裏後上第一装飾基板３２１４が表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂごと不正に交換されるような不正行為についても発見および抑制が可能となる。また、視認部３２１９Ｂが裏後上第一装飾基板３２１４によって覆われていないため、表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂに設けられた視認部３２１９Ｂを認識することによって、この表側裏後上可動装飾体３２

１５Ｂが正規品か非正規品かを調べる対象の部品であることを容易に認識できる。この結果、裏後上第一装飾基板３２１４に対する不正行為や不具合によって遊技者や遊技機が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、遊技機の信頼性の低下を抑制することができる。

【６２９４】

加えて、本実施形態のインフォメーション表示器３２１３では、表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂの裏面側にて段差を有する複数の内面部（内面部３２１５ａ、先端面部３２１５ｅ等）に視認部３２１９Ｂが夫々形成されており、そのうちの先端面部３２１５ｅに形成された視認部３２１９Ｂは、表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂに裏後上第一装飾基板３２１４が取り付けられた状態であっても、裏面側から認識できるように配置されている。このため、表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂの視認部３２１９Ｂを裏面側から認識することによって、この表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂが正規品か非正規品かを調べる対象の部品であることを容易に認識できる。

【６２９５】

先端面部３２１５ｅに形成された視認部３２１９Ｂは、表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂの裏側から認識可能であれば先端面部３２１５ｅのいずれの位置に設けられてもよいし、視認部３２１９Ｂの大きさはいずれの大きさで設けられてもよいし、視認部３２１９Ｂの形状は予め設定された形状であればいずれの形状で設けられてもよいし、複数の視認部３２１９Ｂの色は無着色又はいずれの色で着色されてもよく、視認部３２１９Ｂを視標として表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂが正規品であるか非正規品であるかを容易に確認させることができる。

【６２９６】

また、先端面部３２１５ｅに形成された視認部３２１９Ｂの位置や数は、例えば、パチンコ機１の特定の条件（機種や同一機種であっても製造ロット等の製造条件）に応じて予め設定された形成パターンに応じて形成される態様が好ましく、予め先端面部３２１５ｅに形成された視認部３２１９Ｂの存在を知る者（パチンコ機１の管理者やパチンコ機１のメンテナスを行う作業者等）のみが形成パターンに応じて表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂの確認をでき、正規品である表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂを模倣して形成される非正規品の装飾体に視認部３２１９Ｂを作成することをより一層困難にすることができる。

【６２９７】

また、先端面部３２１５ｅに形成された視認部３２１９Ｂの大きさは、いずれの大きさで設けられてもよいが、不正を試みる者に対してその存在を認識し難くするとの観点から、例えば、先端面部３２１５ｅに形成された視認部３２１９Ｂを他の視認部３２１９Ｂよりも小さく形成する態様であってもよい。具体的には、表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂの内面部３２１５ａに形成される視認部３２１９Ｂを先端面部３２１５ｅに形成された視認部３２１９Ｂよりも相対的に大きく形成しておくこととし、裏後上第一装飾基板３２１４に覆われない位置に形成される視認部３２１９Ｂ（先端面部３２１５ｅに形成された視認部３２１９Ｂ）を不正を試みる者が見落とす可能性を高めることできる。また、このような視認部３２１９Ｂは、表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂから裏側裏後上可動装飾体３２１０ａが取り外された場合であっても予め視認部３２１９Ｂの存在を知る者（パチンコ機１の管理者やパチンコ機１のメンテナスを行う作業者等）でなければより小さく形成された視認部３２１９Ｂを視認することが困難となり、正規品である表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂを模倣して形成される非正規品の装飾体に視認部３２１９Ｂを作成することをより一層困難にすることができる。なお、先端面部３２１５ｅに複数の視認部３２１９Ｂを形成する場合には、それらの大きさは、少なくとも一部が同一である態様であることが好ましく、それによって予め視認部３２１９Ｂの存在を知る者（パチンコ機１の管理者やパチンコ機１のメンテナスを行う作業者等）の確認作業を容易にできる。

【６２９８】

また、本実施形態では、先端面部３２１５ｅに形成された視認部３２１９Ｂと他の視認部３２１９Ｂとを共通の「★」というマークの表記である複数の視認部３２１９Ｂの態様

について説明したが、先端面部３２１５ｅに形成された視認部３２１９Ｂと他の視認部３２１９Ｂは、表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂが正規品か非正規品かを確認する際の視標となればよく形状が異なるものであってもよい。具体的には、先端面部３２１５ｅに形成された視認部３２１９Ｂを「●」というマークの表記をしつつ、表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂの内面部３２１５ａに形成される視認部３２１９Ｂを「▲」というマークの表記にしてもよい。また、先端面部３２１５ｅに形成された視認部３２１９Ｂと他の視認部３２１９Ｂとを共通のマークを採用する場合には、例えば、先端面部３２１５ｅに形成された視認部３２１９Ｂのみマークの一部が欠けた表記（例えば、「●」の表記の場合には半円状等の表記）であってもよく、予め視認部３２１９Ｂの存在を知る者（パチンコ機１の管理者やパチンコ機１のメンテナスを行う作業者等）を除いて、先端面部３２１５ｅに形成された視認部３２１９Ｂが表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂを確認する際の視標であると認識すること自体を困難にすることができる。

【６２９９】

先端面部３２１５ｅに形成された視認部３２１９Ｂの色は、いずれの色であってもよいが、例えば、表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂと同色であってもよいし、表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂに類似する色であってもよいし、裏後上第一装飾基板３２１４にコーティングされるソルダーレジストに応じて暗色であってもよい。先端面部３２１５ｅに形成された視認部３２１９Ｂが表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂと同色又は類似する色である場合には、視認部３２１９Ｂの視認性を低下させることができ、予め視認部３２１９Ｂの存在を知る者（パチンコ機１の管理者やパチンコ機１のメンテナスを行う作業者等）でなければ視認部３２１９Ｂを視認することが困難となり、正規品である表側裏後上可動装飾体３２１５Ｂを模倣して形成される非正規品の装飾体に視認部３２１９Ａを作成することをより一層困難にすることができる。また、先端面部３２１５ｅに形成された視認部３２１９Ｂが裏後上第一装飾基板３２１４にコーティングされるソルダーレジストに応じて暗色である場合には、貫通部３２１６内に設けられるＬＥＤ３２１４ａから照射される光が貫通部３２１６外に漏れた際に光の拡散を抑制することができる。

【６３００】

なお、上述のインフォメーション表示器３２１３では、箱状の表側裏後上可動装飾体３２１５に対して裏後上第一装飾基板３２１４を覆うように裏側裏後上可動装飾体３２１０ａが取り付けられる態様について説明したが、インフォメーション表示器３２１３は、箱状の表側裏後上可動装飾体３２１５に対して裏後上第一装飾基板３２１４の少なくとも一部を覆うように裏側裏後上可動装飾体３２１０ａが取り付けられる態様であってもよいし、箱状の表側裏後上可動装飾体３２１５に対して裏側裏後上可動装飾体３２１０ａが取り付けられない態様であってもよい。

【６３０１】

［裏後上可動装飾体の改変例３］

図４１８は、裏後上可動装飾体３２１０Ｃ及び裏後上可動装飾体３２１０Ｃから取り外された裏後上第一装飾基板３２１４を示す分解斜視図である。図４１８に示すように、本実施形態の裏後上可動装飾体３２１０Ｃは、裏後上第一装飾基板３２１４が裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃに収納されており、裏後上第一装飾基板３２１４に加えて裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃを収納する点で、上述の改変例１及び改変例２の裏後上可動装飾体と異なる。以下、裏後上可動装飾体３２１０Ｃの態様について説明するが、改変例１及び改変例２の裏後上可動装飾体と重複する点の説明については省略される。

【６３０２】

裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃは、裏面（後面）解放の箱状に形成された不透明な表側収納部材３２１４Ｃ１と、表側収納部材３２１４Ｃ１の解放された裏面を覆う不透明な裏側収納部材３２１４Ｃ６と、を有している。裏側収納部材３２１４Ｃ６は、板状に形成されてもよいし、表面（前面）解放の箱状に形成されてもよく、表側収納部材３２１４Ｃ１に収納された裏後上第一装飾基板３２１４の裏面側の位置で表側収納部材３２１４Ｃ１と当接するように形成されている。このため、表側収納部材３２１４Ｃ１と裏側収納

部材３２１４Ｃ６との合わせ部分から裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃ内に光が進入した場合であっても、裏後上第一装飾基板３２１４の表面に光が進入することを抑制し、裏後上第一装飾基板３２１４の発光ムラを抑制することができる。なお、表側収納部材３２１４Ｃ１と裏側収納部材３２１４Ｃ６との合わせ部は、少なくとも裏後上第一装飾基板３２１４の前面側とならないように構成されるものであればよく、裏後上第一装飾基板３２１４の表面と裏面との間で表側収納部材３２１４Ｃ１と裏側収納部材３２１４Ｃ６とが当接する（表側収納部材３２１４Ｃ１と裏側収納部材３２１４Ｃ６との合わせ部が裏後上第一装飾基板３２１４の側面に位置するように当接する）ように構成した場合にも、前記作用効果と同様の作用効果を奏することができる。

【６３０３】

また、裏側収納部材３２１４Ｃ６には、最低限の開口のみが形成されればよく、例えば、裏後上第一装飾基板３２１４の裏面（ＬＥＤ３２１４ａの非実装面）を覆う裏側収納部材３２１４Ｃ６には、裏後上第一装飾基板３２１４の裏面（ＬＥＤ３２１４ａの非実装面）に実装されたコネクタ用の開口３２１４Ｃ７のみが形成されればよい。これにより、裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃ内に光が進入することを抑制し、インフォメーション表示器３２１３Ｃで誤った情報が表示されることを抑制でき、インフォメーション表示器３２１３Ｃに表示される情報の信頼度を向上させることができる。

【６３０４】

表側収納部材３２１４Ｃ１は、裏面（後面）解放の箱状に形成されており、板状の表面（前面）部３２１４Ｃ２と、表面部３２１４Ｃ２の端部から後方に延びる側壁部３２１４Ｃ３と、を有している。表面部３２１４Ｃ２には、表面部３２１４Ｃ２を前後方向に貫通する孔状の複数の貫通部３２１４Ｃ４が形成されている。複数の貫通部３２１４Ｃ４は、表側収納部材３２１４Ｃ１に収納された裏後上第一装飾基板３２１４に実装された複数のＬＥＤ３２１４ａに対応するように形成されており、複数の貫通部３２１４Ｃ４の各々には、裏後上第一装飾基板３２１４に実装される複数のＬＥＤ３２１４ａのうちの１つのＬＥＤ３２１４ａが配置される。

【６３０５】

また、表側収納部材３２１４Ｃ１の内面部には、裏後上第一装飾基板３２１４に実装される複数のＬＥＤ３２１４ａそれぞれから照射される光が互いに干渉することを抑制する干渉抑制手段が形成されている。該干渉抑制手段は、表面部３２１４Ｃ２の内面部の一部から後方に延びて裏後上第一装飾基板３２１４の表実装面（ＬＥＤ３２１４ａの実装面）に当接するように形成されている。この結果、裏後上第一装飾基板３２１４に実装される複数のＬＥＤ３２１４ａそれぞれから照射される光の進行方向が規制され、裏後上第一装飾基板３２１４の表面（ＬＥＤ３２１４ａの実装面）に隣接して実装されるＬＥＤ３２１４ａから照射される光が互いに干渉することが抑制され、複数の発光手段の発光色を個々に識別しやすくすることができる。また、インフォメーション表示器３２１３Ｃにおいて点灯しているＬＥＤ３２１４ａと消灯しているＬＥＤ３２１４ａとを明確に区別することができるため、インフォメーション表示器３２１３Ｃに遊技に関する情報を明瞭に表示させることができる。

【６３０６】

図４１９は、裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃが収納された裏後上可動装飾体３２１０Ｃを示す分解斜視図である。図４１８又は図４１９に示すように、裏後上可動装飾体３２１０Ｃは、裏面（後面）解放の箱状に形成された表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１と、表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１の解放された裏面を覆う裏側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ６とを有している。裏側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ６は、板状に形成されてもよいし、表面（前面）解放の箱状に形成されてもよい。また、裏側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ６には、最低限の開口のみが形成されればよく、例えば、裏後上第一装飾基板３２１４の裏面（ＬＥＤ３２１４ａの非実装面）を覆う裏側収納部材３２１４Ｃ６に形成されたコネクタ用の開口３２１４Ｃ７に対応する開口３２１０Ｃ７のみが形成されればよい。これにより、裏後上可動装飾体３２１０Ｃ内に光が進入することをより一層抑制し、イン

フォメーション表示器３２１３Ｃで誤った情報が表示されることを抑制でき、インフォメーション表示器３２１３Ｃに表示される情報の信頼度を向上させることができる。

【６３０７】

表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１は、裏面（後面）解放の箱状に形成されており、板状の表面（前面）部３２１０Ｃ２と、表面部３２１０Ｃ２の端部から後方に延びる側壁部３２１０Ｃ３と、を有している。表面部３２１０Ｃ２には、表面部３２１０Ｃ２を前後方向に貫通する孔状の複数の貫通部３２１０Ｃ４が形成されている。複数の貫通部３２１０Ｃ４は、裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃとともに表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１に収納された裏後上第一装飾基板３２１４に実装された複数のＬＥＤ３２１４ａに対応するように（表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１に収納された表側収納部材３２１４Ｃ１に形成された複数の貫通部３２１４Ｃ４に対応するように）形成されており、複数の貫通部３２１０Ｃ４の各々には、裏後上第一装飾基板３２１４に実装される複数のＬＥＤ３２１４ａのうちの１つのＬＥＤ３２１４ａが配置される。

【６３０８】

表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１の表面部３２１０Ｃ２は、裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃが表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１に収納された際に表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１の表面部３２１４Ｃ２と当接するため、裏後上第一装飾基板３２１４に実装される複数のＬＥＤ３２１４ａそれぞれから照射される光の進行方向が規制され、裏後上第一装飾基板３２１４の表面（ＬＥＤ３２１４ａの実装面）に隣接して実装されるＬＥＤ３２１４ａから照射される光が互いに干渉することが抑制され、インフォメーション表示器３２１３Ｃにおいて点灯しているＬＥＤ３２１４ａと消灯しているＬＥＤ３２１４ａとを明確に区別することができるため、インフォメーション表示器３２１３Ｃに遊技に関する情報を明瞭に表示させることができるようになる。

【６３０９】

また、表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１は、表面部３２１０Ｃ２から後方に延びて表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１の内面部を区画する区画壁部３２１０Ｃ５を更に有している。区画壁部３２１０Ｃ５は、裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃが収納される位置に裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃを囲うように形成される。また、区画壁部３２１０Ｃ５は、表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１に収納される裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃが嵌め合わされる嵌合部３２１０Ｃ５ａと、嵌合部３２１０Ｃ５ａに嵌め合わされた裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃを係止可能な先端が鉤状に形成された係止部３２１０Ｃ５ｂと、を有している。係止部３２１０Ｃ５ｂは、嵌合部３２１０Ｃ５ａと対向するように区画壁部３２１０Ｃ５において部分的に独立して形成されており、これにより係止部３２１０Ｃ５ｂが有する可撓性によって、表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１に対する裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃの着脱を容易にすることができる。なお、本実施形態の区画壁部３２１０Ｃ５は、区画壁部３２１０Ｃ５の強度を高めるとの観点から、側壁部３２１０Ｃ３から連続して形成されているが、側壁部３２１０Ｃ３と連続することなく独立して形成される態様であってもよい。

【６３１０】

上述の裏後上可動装飾体３２１０Ｃを有して構成されるインフォメーション表示器３２１３Ｃは、遊技に関する情報を表示する状態（遊技情報表示モード）において、「大当り」、「左打ち←」、「右打ち→」などの遊技に関する情報を表示するようになっている。上記したように本例のパチンコ機１では、時短時（低確率時短状態（時短状態ともいう）、高確率時短状態（確変状態ともいう））に第二始動口２００４への遊技球の入球を狙った遊技（いわゆる「右打ち」）が行われるようになっている。また、時短時は、第二始動口２００４が頻繁に開状態とされるため、通常時（低確率非時短状態（通常状態ともいう）、高確率非時短状態）よりも始動入賞（第一始動口２００２への遊技球の入賞、第二始動口２００４への遊技球の入賞）し易くなり、遊技者に有利な状態である。しかし、時短時に遊技者が第二始動口２００４への遊技球の入球を狙った遊技（いわゆる「右打ち」）を行わない場合に、遊技者は、有利な状態を享受することができないおそれがあり、本例

のパチンコ機１では、時短時に遊技者が第二始動口２００４への遊技球の入球を狙った遊技（いわゆる「右打ち」）を行うように指示する表示として、インフォメーション表示器３２１３Ｃに「右打ち→」を表示するようになっている。これにより時短時であるにもかかわらず遊技者が有利な状態を享受できないことを防止し、遊技者に不利益を与えないようにすることができる。

【６３１１】

また、本例のパチンコ機１では、通常時（低確率非時短状態（通常状態ともいう）、高確率非時短状態）には第一始動口２００２への遊技球の入賞を狙った遊技（いわゆる「左打ち」）が行われるようになっている。通常時には第二始動口２００４が滅多に開状態とされないことに加えて、開状態となる期間が時短時に比べて極めて短くされているため、通常時は、第二始動口２００４への遊技球の入球を狙った遊技を行う遊技者に不利益を与えるおそれがある。このため、本例のパチンコ機１では、通常時に遊技者が第一始動口２００２への遊技球の入球を狙った遊技を行うように指示する表示として、インフォメーション表示器３２１３Ｃに「左打ち←」を表示するようになっている。これにより通常時に遊技者に不利益を与えないようにすることができる。

【６３１２】

本実施形態のパチンコ機１では、インフォメーション表示器３２１３Ｃのドットマトリクス表示部に表示される情報によって、左打ち（センター役物２５００の左側への遊技球の打込操作）や右打ち（遊技領域５ａの周縁の一部を構成する外レール１００１から内方へ突出している衝止部１００６に当接する強さで打込む）を指示したり、大当りとなった場合にその旨を通知して大入賞口２００５への入球を狙った遊技を行うように指示したりすることができ、熟練した遊技者だけでなく経験の浅い遊技者にも不利益を与えないようにしている。

【６３１３】

また、インフォメーション表示器３２１３Ｃを遊技に関する情報を表示する専用の表示器としてもよく、このような態様では、特定期間に操作手段が操作された場合に、インフォメーション表示器３２１３Ｃに表示される情報を切り替えるようにしてもよい。なお、遊技に関する情報は、遊技を案内するための情報（右打ち、左打ち等）と、変動演出の抽選結果（第一特別抽選結果、第二特別抽選結果）に関する情報（大当り、はずれ、確変大当り、時短大当り等）と、当落の抽選確率に関わる設定情報（設定変更処理で設定されるパチンコ機１の設定値や実際に実行された変動演出の回数に対する大当りの発生確率等）と、アウト口１００８により回収された遊技球の球数（遊技領域５ａに発射された遊技球のうちアウト口１００８により回収された遊技球の球数）と、特定入賞装置（第一始動口２００２、第二始動口２００４、大入賞口２００５、一般入賞口２００１等のうち一つ又は任意の複数の組み合わせ（全部でもよい）、例えば第一始動口２００２及び第二始動口２００４に入賞した遊技球の球数等）に入賞した遊技球の球数（遊技領域５ａに発射された遊技球のうち特定入賞装置に入賞した遊技球の球数）と、を含むものであってもよいし、これらの遊技に関する情報のうちの１つ乃至任意の組み合わせの情報を含むものであってもよい。

【６３１４】

なお、本実施形態のインフォメーション表示器３２１３Ｃは、外レール１００１及び内レール１００２の内側に設けるように構成したが、インフォメーション表示器３２１３Ｃは、外レール１００１及び内レール１００２の外側に設けるように構成してもよい。これにより外レール１００１及び内レール１００２の内側の領域での設計の自由度が増し、構造物や可動物を設けて装飾性や演出効果を高めることができる。また、本実施形態ではインフォメーション表示器３２１３Ｃにドットマトリクス表示部を用いる例について説明したが、ドットマトリクス表示部に限らず７セグメント表示部を用いて遊技に関する情報を表示するようにしてもよい。また、インフォメーション表示器３２１３Ｃをパチンコ機１の裏面側に配置するように構成し、インフォメーション表示器３２１３Ｃに遊技店員を対象とする遊技に関する情報を表示させてもよく、パチンコ機１の前面側での設計の自由度

が増し、構造物や可動物を設けて装飾性や演出効果を高めることができる。
【６３１５】
　また、本実施形態の裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃは、裏側収納部材３２１４Ｃ６を有して構成されているが、裏側収納部材３２１４Ｃ６を有しない態様であってもよい。同様に、本実施形態の裏後上可動装飾体３２１０Ｃは、裏側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ６を有して構成されているが、裏側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ６を有しない態様であってもよい。このような態様の裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃや裏後上可動装飾体３２１０Ｃでは、例えば裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃや裏後上可動装飾体３２１０Ｃが遊技盤５に取り付けられた後に、遊技パネル１１００によって裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃや裏後上可動装飾体３２１０Ｃ内に外部から光が進入することが抑制され、インフォメーション表示器３２１３Ｃにおいて点灯しているＬＥＤ３２１４ａと消灯しているＬＥＤ３２１４ａとを明確に区別することができ、インフォメーション表示器３２１３Ｃに遊技に関する情報を明瞭に表示させることができる。
【６３１６】
　本実施形態のインフォメーション表示器３２１３Ｃのドットマトリクス表示部は、上述のインフォメーション表示器３２１３のドットマトリクス表示部よりも小型化が図られ、裏後上第一装飾基板３２１４が裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃに収納され、裏後上第一装飾基板３２１４を収納する裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃが更に裏後上可動装飾体３２１０Ｃに収納されているが、このようなインフォメーション表示器３２１３Ｃであっても、正規のインフォメーション表示器３２１３Ｃが非正規のインフォメーション表示器に交換されるような不正行為が行われるおそれがある。このような不正行為が行われて不具合が生じた場合には、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与え、ひいては、パチンコ機１の信頼性を低下させるおそれがある。以下、このような問題を解消することを目的に、裏後上可動装飾体３２１０Ｃに改変を加えた態様について説明する。
【６３１７】
　図４２０は、裏後上可動装飾体３２１０Ｃの表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１を示す背面図である。図４１９又は図４２０に示すように、後面解放の箱状に形成された表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１には、背面側から視認可能な複数の視認部３２１９Ｃが形成されている。このような視認部３２１９Ｃは、表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１の前面及び側面には設けられておらず、表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１の背面にのみ設けられている。具体的には、複数の視認部３２１９Ｃは、表面部３２１０Ｃ２の背面や側壁部３２１０Ｃ３の背面や区画壁部３２１０Ｃ５の背面に形成されている。
【６３１８】
　本実施形態の視認部３２１９Ｃは、表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１に設けられた「★」というマークの表記である。視認部３２１９Ｃは、表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１に印刷される態様であってもよいし、視認部３２１９Ｃが形成されたシール状のフィルム部材が表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１に貼り付けられる態様であってもよい。また、複数の視認部３２１９Ｃは、表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１を隆起させて突状の成型痕で形成される態様であってもよいし、表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１を窪ませて凹状の成型痕で形成される態様であってもよいし、これら印刷される態様、フィルム部材が貼り付けられる態様、及び成型痕で形成される態様が組み合わされた態様であってもよい。なお、視認部３２１９Ｃ自体の破損や離脱を回避するとの観点から、視認部３２１９Ｃは、シール状のフィルム部材ではなく、印刷や成型痕により表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１に一体形成される態様が好ましい。
【６３１９】
　本実施形態のインフォメーション表示器３２１３Ｃでは、例えば、重要度の高い裏後上第一装飾基板３２１４を裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃに収納した後、更に裏後上可動装飾体３２１０Ｃに収納することで、裏後上第一装飾基板３２１４にアクセスする不正行為や埃等の外的要因による不具合の発生を抑止することができる。また、裏後上第一

装飾基板３２１４が裏後上第一装飾基板３２１４を収納する裏後上可動装飾体３２１０Ｃとともに非正規の発光基板及び該発光基板を収納する装飾体とに不正に交換された場合であっても、遊技盤５から裏後上可動装飾体３２１０Ｃを取り外して表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１に形成された複数の視認部３２１９Ｃの有無を調べることにより、表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１が正規品であるか非正規品であるかを確認することができ、例えば、裏後上第一装飾基板３２１４が表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１ごと不正に交換されるような不正行為についても発見および抑制が可能となる。この結果、裏後上第一装飾基板３２１４に対する不正行為や不具合によって遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、パチンコ機１の信頼性の低下を抑制することができる。

【６３２０】

加えて、本実施形態のインフォメーション表示器３２１３Ｃでは、表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１の視認部３２１９Ｃが表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１に収納される裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃによって覆われない位置に形成されており、遊技盤５から裏後上可動装飾体３２１０Ｃを取り外した後に表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１に形成された複数の視認部３２１９Ｃの有無を容易に調べることができ、表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１が正規品であるか非正規品であるかを容易に確認することができる。この結果、裏後上第一装飾基板３２１４が表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１ごと不正に交換されるような不正行為についての発見および抑制が可能となり、裏後上第一装飾基板３２１４に対する不正行為や不具合によって遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、パチンコ機１の信頼性の低下を抑制することができる。

【６３２１】

表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１の視認部３２１９Ｃは、表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１の側壁部３２１０Ｃ３の頂部（表面部３２１０Ｃ２から後方に延びる側壁部３２１０Ｃ３の後端面）に複数形成されている。表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１の側壁部３２１０Ｃ３の頂部は、表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１の背面視において、裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃに収納される裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃとの間に間隔を有しているとともに、裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃの後端面と前後方向の距離も有しているため、予め視認部３２１９Ｃの存在を知る者（パチンコ機１の管理者やパチンコ機１のメンテナスを行う作業者等）でなければ視認部３２１９Ｃの発見が困難となり、正規品である表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１を模倣して形成される非正規品の装飾体に視認部３２１９Ｃを作成することを困難にすることができる。

【６３２２】

また、視認部３２１９Ｃは、表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１の区画壁部３２１０Ｃ５の頂部（表面部３２１０Ｃ２から後方に延びる区画壁部３２１０Ｃ５の後端面）に複数形成されてもよい。表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１の区画壁部３２１０Ｃ５の頂部は、表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１の背面視において、裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃの後端面と前後方向の距離を有しているため、予め視認部３２１９Ｃの存在を知る者（パチンコ機１の管理者やパチンコ機１のメンテナスを行う作業者等）でなければ視認部３２１９Ｃの発見が困難となり、正規品である表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１を模倣して形成される非正規品の装飾体に視認部３２１９Ｃを作成することを困難にすることができる。特に、表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１の色と裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃの色が異なる場合には、裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃに視線が誘導され易く、裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃの近傍に位置する視認部３２１９Ｃの発見が困難となり、正規品である表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１を模倣して形成される非正規品の装飾体に視認部３２１９Ｃを作成することをより一層困難にすることができる。また、同様の観点から、視認部３２１９Ｃは、嵌合部３２１０Ｃ５ａや係止部３２１０Ｃ５ｂの頂部に形成される態様であってもよい。

【６３２３】

また、表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１の複数の視認部３２１９Ｃは、表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１に収納される裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃによって覆われる位置に形成される被覆視認部３２１９Ｃａを含む態様であってもよい。具体的には、被覆視認部３２１９Ｃａは、表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１の表面部３２１０Ｃ２の背面において、裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃが収納される位置に貫通部３２１０Ｃ４を避けて形成されており、表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１から裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃを完全に取り外さなければ被覆視認部３２１９Ｃａを外部から確認することができないようになっている。この結果、被覆視認部３２１９Ｃａを含む複数の視認部３２１９Ｃ全体としての秘匿性が高められ、正規品である表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１を模倣して形成される非正規品の装飾体に複数の視認部３２１９Ｃを作成することを困難にすることができる。

【６３２４】

なお、被覆視認部３２１９Ｃａは、表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１に収納される裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃによって覆われる位置に形成されればよく、例えば、図４２０に示すように複数の貫通部３２１０Ｃ４に囲われない位置に形成されてもよいし、複数の貫通部３２１０Ｃ４に囲われる位置に形成されてもよいし、これらの位置の夫々に複数形成されてもよい。複数の貫通部３２１０Ｃ４に囲われる位置に形成される被覆視認部３２１９Ｃａは、予め設定されたパターンで配置された複数の貫通部３２１０Ｃ４に囲われるように空きスペースに形成されてもよいし、予め設定されたパターンで配置された複数の貫通部３２１４Ｃの少なくとも１つに替えて形成されてもよく、被覆視認部３２１９Ｃａが複数の貫通部３２１０Ｃ４に紛れるかたちで形成され、このような被覆視認部３２１９Ｃａは、表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１から裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃが取り外された場合であっても予め各位置の視認部３２１９Ｃの存在を知る者（パチンコ機１の管理者やパチンコ機１のメンテナスを行う作業者等）でなければ被覆視認部３２１９Ｃａを発見することが困難となり、正規品である表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１を模倣して形成される非正規品の装飾体に複数の視認部３２１９Ｃを作成することをより一層困難にすることができる。

【６３２５】

表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１は、複数の視認部３２１９Ｃに加えて、視認部３２１９Ｃを模して形成される複数の特定視認部３２１９Ｃ１を有する態様であってもよい。特定視認部３２１９Ｃ１は、視認部３２１９Ｃに対して形状や大きさや色等が異なるように形成され、正規品である表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１を模倣して形成される非正規品の装飾体に視認部３２１９Ｃを作成することを困難にすることができる。特定視認部３２１９Ｃ１は、視認部３２１９Ｃと特定視認部３２１９Ｃ１との誤認を抑制するとの観点から、表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１の背面視において、裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃが収納される位置を区画する区画壁部３２１０Ｃ５の外側に形成される態様が望ましい。

【６３２６】

なお、裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃ及び裏後上可動装飾体３２１０Ｃは、不透明の樹脂から形成されればよいが、裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃと裏後上可動装飾体３２１０Ｃとは、例えば異なる色の樹脂から形成されてもよく、裏後上可動装飾体３２１０Ｃに収納された裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃの視認性を高めることができ、裏後上可動装飾体３２１０Ｃに裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃを着脱する作業者の作業効率を高めることができる。

【６３２７】

図４２１（ａ）乃至（ｆ）は、表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１の一部を示す背面図である。本実施形態では、「★」というマークの表記である複数の視認部３２１９Ｃの態様について説明したが、複数の視認部３２１９Ｃは、表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１が正規品か非正規品かを確認する際の視標となればよく、各々の形状が異なるものであってもよい。具体的には、視認部３２１９Ｃは、また、視認部３２１９Ｃは、図４２１（ａ

）に示すように「●」というマークの表記であってもよいし、図４２１（ｂ）に示すように「▲」というマークの表記であってもよいし、図４２１（ｃ）に示すように「■」というマークの表記であってもよいし、図４２１（ｄ）に示すように一方に延びる複数の線材が一方と直角な他方に所定の間隔で並べられたマークの表記であってもよいし、「し」や「Ｕ」等の文字の表記であってもよい。

【６３２８】

また、視認部３２１９Ｃにマークの表記を採用する場合には、マークの一部が欠けた表記（例えば、「●」の表記の場合には半円状等の表記）であってもよく、予め視認部３２１９Ｃの存在を知る者（パチンコ機１の管理者やパチンコ機１のメンテナスを行う作業者等）を除いて、視認部３２１９Ｃが表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１を確認する際の視標であると認識すること自体を困難にすることができる。具体的には、図４２１（ｅ）に示すように、視認部３２１９Ｃの欠けた部分が、表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１の背面視において、側壁部３２１０Ｃ３や区画壁部３２１０Ｃ５の外側の辺に接するように形成される態様であってもよいし、図４２１（ｆ）に示すように、視認部３２１９Ｃの欠けた部分が、表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１の背面視において、側壁部３２１０Ｃ３や区画壁部３２１０Ｃ５の内側の辺に接するように形成される態様であってもよい。

【６３２９】

表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１に形成される複数の視認部３２１９Ｃの大きさや形状は、例えば、パチンコ機１の特定の条件（機種や同一機種であっても製造ロット等の製造条件）に応じて予め設定された形成パターンに応じて形成される態様が好ましく、視認部３２１９Ｃの存在を知る者（パチンコ機１の管理者やパチンコ機１のメンテナスを行う作業者等）のみが形成パターンに応じて表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１の視認部３２１９Ｃの確認をでき、正規品である表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１を模倣して形成される非正規品の装飾体に視認部３２１９Ｃを作成することをより一層困難にすることができる。なお、複数の視認部３２１９Ｃの形成パターンにおいて、複数の視認部３２１９Ｃの大きさや形状は統一されてもよいし、複数の視認部３２１９Ｃの大きさや形状は異なってもよい。

【６３３０】

複数の視認部３２１９Ｃの色は、いずれの色であってもよいが、例えば、表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１と同色であってもよいし、表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１に類似する色であってもよい。複数の視認部３２１９Ｃが表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１と同色又は類似する色である場合には、視認部３２１９Ｃの視認性を低下させることができ、予め視認部３２１９Ｃの存在を知る者（パチンコ機１の管理者やパチンコ機１のメンテナスを行う作業者等）でなければ視認部３２１９Ｃを視認することが困難となり、正規品である表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１を模倣して形成される非正規品の装飾体に視認部３２１９Ｃを作成することを困難にすることができる。

【６３３１】

本実施形態では、裏後上可動装飾体３２１０Ｃの表側裏後上可動装飾体３２１０Ｃ１に視認部３２１９Ｃを形成する態様について説明したが、裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃの表側収納部材３２１４Ｃ１にも、上述の裏後上可動装飾体の変形例１乃至裏後上可動装飾体の変形例３に記載の視認部と同様に視認部を形成してもよく、例えば、裏後上第一装飾基板３２１４から裏後上第一装飾基板３２１４とともに裏後上第一装飾基板収納部３２１４Ｃだけが非正規の発光基板及び該発光基板を収納する収納部とに不正に交換された場合であっても、遊技盤５から裏後上可動装飾体３２１０Ｃを取り外して表側収納部材３２１４Ｃ１に形成された複数の視認部の有無を調べることにより、表側収納部材３２１４Ｃ１が正規品であるか非正規品であるかを確認することができ、例えば、裏後上第一装飾基板３２１４が表側収納部材３２１４Ｃ１ごと不正に交換されるような不正行為についても発見および抑制が可能となる。この結果、裏後上第一装飾基板３２１４に対する不正行為や不具合によって遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、パチンコ機１の信頼性の低下を抑制することができる。

【６３３２】
［主制御基板ボックスの改変例］
図４２２は、主制御ユニット１３００を示す背面斜視図であり、図４２３は、主制御ユニット１３００を示す分解斜視図である。図４２２又は図４２３に示すように、本実施形態の主制御ユニット１３００は、遊技内容及び遊技球の払出し等を制御する主制御基板１３１０Ａ（図１７０を参照）と、主制御基板１３１０Ａを収容して基板ホルダ１２００に取付けられる主制御基板ボックス１３２０Ａと、主制御基板ボックス１３２０Ａの解放を規制する複数の封印機構１３２５Ａと、を備えている。
【６３３３】
本実施形態の主制御基板１３１０Ａには、遊技性能を設定することができる設定変更基板が一体に形成されており、上述の主制御ＭＰＵ１３１０Ａａ等に加えて、パチンコ機１の設定値の切り替えと設定値の確認とを行うことができる設定キースイッチ１３１１Ａａ、設定値を選択して切り替えることができる設定切替ボタン、パチンコ機１の設定値の切り替えが許可されている状態を示す設定変更許可ランプ等を備えている。なお、主制御ユニット１３００は、上述の主制御基板１３１０と設定変更基板１３１１とを各々別に備える態様であってもよいし、設定変更基板１３１１を備えておらず設定値の変更が不可能な態様であってもよい。
【６３３４】
主制御基板ボックス１３２０Ａは、カバー体１３２１Ａとベース体１３２６Ａとから構成されている。カバー体１３２１Ａとベース体１３２６Ａとは、ポリカーボネートの樹脂製であり、透明な箱状に形成されている。カバー体１３２１Ａとベース体１３２６Ａにより形成される内部空間には、主制御基板１３１０Ａを収容することができるようになっている。カバー体１３２１Ａとベース体１３２６Ａとは、ポリカーボネートの樹脂製により透明に成型されているため、主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘや裏面側の状態（不正な改変が行われているか否か、又は不正な電子部品が実装されているか否か）を、主制御基板ボックス１３２０Ａの外側から目視によって確認することができるようになっている。
【６３３５】
本実施形態の主制御基板ボックス１３２０Ａでは、主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘがカバー体１３２１Ａと対向するように主制御基板１３１０Ａがカバー体１３２１Ａに収納された後に、該カバー体１３２１Ａがベース体１３２６Ａに取り付けられ、主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘが後方を向くようにベース体１３２６Ａが遊技盤５の後部に取り付けられる。なお、主制御基板ボックス１３２０Ａは、実装面１３１０Ａｘとは逆の裏面がベース体１３２６Ａと対向するように主制御基板１３１０Ａがベース体１３２６Ａに収納された後に、該ベース体１３２６Ａにカバー体１３２１Ａが取り付けられ、主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘが後方を向くようにベース体１３２６Ａが遊技盤５の後部に取り付けられる態様であってもよい。
【６３３６】
また、主制御基板ボックス１３２０Ａは、カバー体１３２１Ａとベース体１３２６Ａとにそれぞれ対応するように複数の封印機構１３２８Ａを備えている。封印機構１３２８Ａは、ベース体１３２６Ａに対してカバー体１３２１Ａが閉じられた後（主制御基板ボックス１３２０Ａが閉じられた後）に、ベース体１３２６Ａからカバー体１３２１Ａが取り外される際（主制御基板ボックス１３２０Ａが開けられる際）に破壊されるため、ベース体１３２６Ａに対するカバー体１３２１Ａの開閉の痕跡（主制御基板ボックス１３２０Ａの開閉の痕跡）を残すことができる。この結果、本実施形態の主制御基板ボックス１３２０Ａでは、パチンコ機１の管理者等が封印機構１３２８Ａを目視して開閉の痕跡を確認することにより、主制御基板ボックス１３２０Ａの不正な開閉を発見することができ、ひいては主制御基板１３１０Ａへの不正行為に対する抑止力を高めることができる。
【６３３７】
封印機構１３２８Ａは、例えばワンウェイネジ等を含み、主制御基板ボックス１３２０

Ａが閉じられる際に、ワンウェイネジ等によりカバー体１３２１Ａとベース体１３２６Ａとを固定することによって構成される。このような封印機構１３２８Ａは、例えばカバー体１３２１Ａを介して視認される主制御基板１３１０Ａの視認性を確保するとの観点から、主制御基板ボックス１３２０Ａの背面視において、カバー体１３２１Ａとベース体１３２６Ａの端部に設けられることが望ましく、本実施形態の封印機構１３２８Ａは、カバー体１３２１Ａ及びベース体１３２６Ａの右方の辺に所定の間隔を有して２つ並べて設けられている。なお、封印機構１３２８Ａは、例えば遊技盤５に対する主制御基板ボックス１３２０Ａの取り付け容易性を阻害しない態様であれば、カバー体１３２１Ａ及びベース体１３２６Ａの複数の辺に設けられる態様であってもよい。

【６３３８】

従来、主制御基板ボックス１３２０Ａのカバー体１３２１Ａやベース体１３２６Ａには、その製造時に複数の成型痕１３２０Ｘが形成される。複数の成型痕１３２０Ｘは、成型を行う際に溶解した樹脂が金型へと流入される流入口の形状に応じて形成される複数のゲート痕１３２０Ｘ１と、成型された樹脂を金型から取外すためのエジェクタピンに押圧されて形成される複数のエジェクタピン痕１３２０Ｘ２と、を含んでいる。複数のゲート痕１３２０Ｘ１は、主制御基板ボックス１３２０Ａとして組み立てられたカバー体１３２１Ａやベース体１３２６Ａの外側の面に形成されるのに対し、複数のエジェクタピン痕１３２０Ｘ２は、主制御基板ボックス１３２０Ａとして組み立てられたカバー体１３２１Ａやベース体１３２６Ａの内側の面に形成される。

【６３３９】

近年、基板に実装される電子部品の小型化が図られており、これに伴って、主制御基板１３１０Ａには、リード付きの電子部品を基板のスルーホールに挿入して接合する挿入実装タイプの電子部品に替えて、電子部品の電極を基板の表面に設けられたパッドに接合する表面実装タイプの電子部品が実装されるようになっている。表面実装タイプの電子部品は、挿入実装タイプの電子部品に比して、基板への接合強度は劣るものの電子部品の小型化（最大寸法の縮小化）及び単位面積あたりに実装される電子部品の密度を高められる点で優れている。

【６３４０】

図４２４は、従来のカバー体１３２１を介して視認される主制御基板１３１０Ａの一部を示す部分拡大図である。図４２４に示すように、従来の主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘには、複数の表面実装タイプの電子部品１３１０Ａｎ及び複数の挿入実装タイプの電子部品１３１０Ａｍが実装されている。しかしながら、主制御基板１３１０Ａに縮小化が図られた最大寸法Ｗを有する複数の表面実装タイプの電子部品１３１０Ａｎが実装された場合には、カバー体１３２１を介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘが視認される際に、直径寸法Ｌを有する成型痕１３２０Ｘと重畳する表面実装タイプの電子部品１３１０Ａｎが成型痕１３２０Ｘ内に収まることによって強調され、該表面実装タイプの電子部品１３１０Ａｎが他の表面実装タイプの電子部品とは異なる特別の電子部品であると作業者に誤認され、主制御基板１３１０Ａの検査などが正常に実施されないおそれがある。

【６３４１】

具体的には、表面実装タイプの電子部品１３１０Ａｎの最大寸法Ｗ（例えば、背面視における長辺の長さ）が５．０ｍｍであり、該表面実装タイプの電子部品１３１０Ａｎに重畳する成型痕１３２０Ｘの直径寸法Ｌ（例えば、背面視における最も大きな直径）が１１．０ｍｍの場合に、表面実装タイプの電子部品１３１０Ａｎが成型痕１３２０Ｘ内に収まってしまい、成型痕１３２０Ｘが表面実装タイプの電子部品１３１０Ａｎを強調しているかのように視認され、該表面実装タイプの電子部品１３１０Ａｎが他の表面実装タイプの電子部品１３１０Ａｎとは異なる特別の電子部品であると作業者に誤認され、主制御基板１３１０Ａの検査などが正常に実施されないおそれがある。この結果、主制御基板１３１０Ａに不具合が生じた場合には、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与え、ひいては、パチンコ機１の信頼性を低下させるおそれがあった。以下、このよ

うな問題を解消することを目的に、主制御基板ボックス１３２０Ａに改変を加えた態様について説明する。

【６３４２】

図４２５は、カバー体１３２１Ａとカバー体１３２１Ａを介して視認される主制御基板１３１０Ａとの一部を示す背面図である。図４２５に示すように、本実施形態のゲート痕１３２０Ｘ１やエジェクタピン痕１３２０Ｘ２は、主制御基板ボックス１３２０Ａの背面視において、直径寸法Ｌが表面実装タイプの電子部品の最大寸法Ｗよりも大きく形成されている。ゲート痕１３２０Ｘ１は、例えば金型に流入される樹脂の流入効率の観点から直径寸法Ｌの縮小化が困難であり、エジェクタピン痕１３２０Ｘ２は、例えばエジェクタピンがカバー体１３２１Ａを押す際の圧力を分散させるために直径寸法Ｌの縮小化が困難である。このため、本実施形態の成型痕１３２０Ｘは、主制御基板ボックス１３２０Ａの背面視において、複数の表面実装タイプの電子部品のうちの特定の表面実装タイプの電子部品（小型化が図られた電子部品であり、例えば、ＩＣ１３１０Ａ１、抵抗１３１０Ａ２、トランジスタ１３１０Ａ３やコンデンサ１３１０Ａ４等）最大寸法Ｗよりも直径寸法Ｌが大きく形成されている。

【６３４３】

上述の観点から、本実施形態のケート痕１３２０Ｘ１やエジェクタピン痕１３２０Ｘ２は、具体的には、８．０～１４．０ｍｍの直径寸法Ｌでカバー体１３２１Ａに形成されている。また、ＩＣ１３１０Ａ１、抵抗１３１０Ａ２、トランジスタ１３１０Ａ３やコンデンサ１３１０Ａ４等の特定の表面実装タイプの電子部品は、具体的には、２．０～７．０ｍｍの最大寸法Ｗで形成されている。

【６３４４】

成型痕１３２０Ｘは、主制御基板ボックス１３２０Ａの背面視において（カバー体１３２１Ａを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認した際に）、複数の表面実装タイプの電子部品のうちの特定の表面実装タイプの電子部品（小型化が図られた電子部品であり、例えば、ＩＣ１３１０Ａ１、抵抗１３１０Ａ２、トランジスタ１３１０Ａ３やコンデンサ１３１０Ａ４等）と重畳しない位置に形成されている。この結果、ＩＣ１３１０Ａ１、抵抗１３１０Ａ２、トランジスタ１３１０Ａ３やコンデンサ１３１０Ａ４等の電子部品がゲート痕１３２０Ｘ１やエジェクタピン痕１３２０Ｘ２である成型痕１３２０Ｘ内に収まって強調されることが抑制され、カバー体１３２１Ａを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認する作業者の誤認を抑制することができ、主制御基板１３１０Ａの検査などが正常に実施されて主制御基板１３１０Ａに生じる不具合が抑制され、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、パチンコ機１の信頼性の低下を抑制することができる。

【６３４５】

以下、ＩＣ１３１０Ａ１、抵抗１３１０Ａ２、トランジスタ１３１０Ａ３やコンデンサ１３１０Ａ４等の特定の表面実装タイプの電子部品と重畳しない位置に形成される成型痕１３２０Ｘの具体例として、主制御基板ボックス１３２０Ａの背面視において、成型痕１３２０Ｘが主制御基板１３１０Ａと重畳する位置に形成される態様について説明する。

【６３４６】

図４２６は、カバー体１３２１Ａとカバー体１３２１Ａを介して視認される主制御基板１３１０Ａとの一部を示す背面図である。図４２６に示すように、主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘは、ＩＣ１３１０Ａ１、抵抗１３１０Ａ２、トランジスタ１３１０Ａ３やコンデンサ１３１０Ａ４等の表面実装タイプの電子部品や挿入実装タイプの電子部品が密に実装されている密領域１３１０Ａ６と、電子部品が実装されていない疎領域１３１０Ａ７と、疎領域１３１０Ａ７において破線等の表記で囲まれたテスト領域１３１０Ａ８と、に区画することができる。なお、疎領域１３１０Ａ７には、表面実装タイプの電子部品や挿入実装タイプの電子部品が疎に実装されてもよい。また、テスト領域１３１０Ａ８には、主制御基板１３１０Ａの検査時などに、主制御基板１３１０Ａの検査用の電子部

品等が実装可能である。テスト領域１３１０Ａ８は、上述した別例の「空きの試験用回路」と同一の回路領域であってもよいし、「空きの試験用回路」と類似する回路領域であってもよい。

【６３４７】

図４２６に示す主制御基板１３１０Ａにおいて、ゲート痕１３２０Ｘ１やエジェクタピン痕１３２０Ｘ２である成型痕１３２０Ｘは、カバー体１３２１Ａを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認した際に、実装面１３１０Ａｘの密領域１３１０Ａ６を避けるようにカバー体１３２１Ａに形成される。ＩＣ１３１０Ａ１、抵抗１３１０Ａ２、トランジスタ１３１０Ａ３やコンデンサ１３１０Ａ４等の特定の表面実装タイプの電子部品が複数実装される密領域１３１０Ａ６を避けて成型痕１３２０Ｘがカバー体１３２１Ａに形成されるため、例えば、カバー体１３２１Ａを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認する作業者の視認方向に個人差等によって誤差が生じた場合であっても、ＩＣ１３１０Ａ１、抵抗１３１０Ａ２、トランジスタ１３１０Ａ３やコンデンサ１３１０Ａ４等の特定の表面実装タイプの電子部品がゲート痕１３２０Ｘ１やエジェクタピン痕１３２０Ｘ２である成型痕１３２０Ｘ内に収まって強調されることを抑制することができる。この結果、主制御基板１３１０Ａの検査などが正常に実施され、主制御基板１３１０Ａに生じる不具合が抑制され、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、パチンコ機１の信頼性の低下を抑制することができる。

【６３４８】

また、ゲート痕１３２０Ｘ１やエジェクタピン痕１３２０Ｘ２である成型痕１３２０Ｘは、カバー体１３２１Ａを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認した際に、実装面１３１０Ａｘのテスト領域１３１０Ａ８を避けるようにカバー体１３２１Ａに形成される。主制御基板１３１０Ａの検査時において、ＩＣ１３１０Ａ１、抵抗１３１０Ａ２、トランジスタ１３１０Ａ３やコンデンサ１３１０Ａ４等の特定の表面実装タイプの電子部品が複数実装されるテスト領域１３１０Ａ８を避けて成型痕１３２０Ｘがカバー体１３２１Ａに形成されるため、例えば、カバー体１３２１Ａを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認する作業者の視認方向に個人差等によって誤差が生じた場合であっても、ＩＣ１３１０Ａ１、抵抗１３１０Ａ２、トランジスタ１３１０Ａ３やコンデンサ１３１０Ａ４等の特定の表面実装タイプの電子部品がゲート痕１３２０Ｘ１やエジェクタピン痕１３２０Ｘ２である成型痕１３２０Ｘ内に収まって強調されることを抑制することができる。この結果、主制御基板１３１０Ａの検査などが正常に実施され、主制御基板１３１０Ａに生じる不具合が抑制され、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、パチンコ機１の信頼性の低下を抑制することができる。

【６３４９】

また、ゲート痕１３２０Ｘ１やエジェクタピン痕１３２０Ｘ２である成型痕１３２０Ｘは、カバー体１３２１Ａを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認した際に、実装面１３１０Ａｘの密領域１３１０Ａ６やテスト領域１３１０Ａ８を避けて疎領域１３１０Ａ７と重畳するようにカバー体１３２１Ａに形成される。疎領域１３１０Ａ７には電子部品が実装されていないため、例えば、カバー体１３２１Ａを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認する作業者の視認方向に個人差等によって誤差が生じた場合であっても、ＩＣ１３１０Ａ１、抵抗１３１０Ａ２、トランジスタ１３１０Ａ３やコンデンサ１３１０Ａ４等の特定の表面実装タイプの電子部品がゲート痕１３２０Ｘ１やエジェクタピン痕１３２０Ｘ２である成型痕１３２０Ｘ内に収まって強調されることを抑制することができる。この結果、主制御基板１３１０Ａの検査などが正常に実施され、主制御基板１３１０Ａに生じる不具合が抑制され、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、パチンコ機１の信頼性の低下を抑制することができる。なお、複数の成型痕１３２０Ｘのうち少なくとも一部の成型痕１３２０Ｘが疎領域１３１０Ａ７と重畳するようにカバー体１３２

１Ａに形成される態様であればよく、カバー体１３２１Ａを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認する作業者の誤認を抑制することができる。

【６３５０】

上記では、特定の表面実装タイプの電子部品と重畳しない位置に形成される成型痕１３２０Ｘの具体例として、主制御基板ボックス１３２０Ａの背面視において、成型痕１３２０Ｘが主制御基板１３１０Ａと重畳する位置に形成される態様について説明したが、以下では作業員の誤認をより確実に抑制するために、成型痕１３２０Ｘが主制御基板１３１０Ａと重畳しない位置に形成される態様について説明する。

【６３５１】

図４２７は、カバー体１３２１Ａとカバー体１３２１Ａを介して視認される主制御基板１３１０Ａとを示す背面図である。図４２７に示すように、カバー体１３２１Ａは、カバー体１３２１Ａを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認した際に、主制御基板１３１０Ａと重畳しない基板外領域１３２１Ａ１と、封印機構１３２８Ａが設けられた封印機構設置領域１３２１Ａ２と、を有している。基板外領域１３２１Ａ１は、主制御ユニット１３００の背面視において、主制御基板１３１０Ａを囲うようにカバー体１３２１Ａに設けられ、封印機構設置領域１３２１Ａ２は、主制御基板１３１０Ａの一方の短辺側に位置するように（本実施形態では、カバー体１３２１Ａの背面視においてカバー体１３２１Ａの左辺に位置するように）カバー体１３２１Ａに設けられている。

【６３５２】

エジェクタピン痕１３２０Ｘ２は、基板外領域１３２１Ａ１に形成されてもよい。エジェクタピン痕１３２０Ｘ２は、封印機構設置領域１３２１Ａ２を除いた基板外領域１３２１Ａ１に形成されてもよいし、主制御基板１３１０Ａを挟んで封印機構設置領域１３２１Ａ２とは反対の他方の短辺側に位置するように（カバー体１３２１Ａの背面視においてカバー体１３２１Ａの右辺に位置するように）基板外領域１３２１Ａ１に形成されてもよい。基板外領域１３２１Ａ１には特定の表面実装タイプの電子部品が存在しないため、カバー体１３２１Ａを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認する際に、特定の表面実装タイプの電子部品がエジェクタピン痕１３２０Ｘ２内に収まって強調されることを抑制することができる。この結果、カバー体１３２１Ａを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認する作業者の誤認をより確実に抑制することができ、主制御基板１３１０Ａの検査などが正常に実施され、主制御基板１３１０Ａに生じる不具合を抑制でき、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、パチンコ機１の信頼性の低下を抑制することができる。

【６３５３】

なお、基板外領域１３２１Ａ１の幅が上記の成型痕１３２０Ｘの直径寸法Ｌよりも小さい場合であっても、エジェクタピン痕１３２０Ｘ２は、エジェクタピンがカバー体１３２１Ａを押す際の圧力を分散させるように、単位面積あたりに複数形成されればよく、この場合に、エジェクタピン痕１３２０Ｘ２の直径寸法Ｌの値を上記の８．０ｍｍよりも小さくすることができる。また、複数のエジェクタピン痕１３２０Ｘ２のうち少なくとも一部のエジェクタピン痕１３２０Ｘ２が基板外領域１３２１Ａ１に形成される態様であればよく、カバー体１３２１Ａを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認する作業者の誤認を抑制することができる。また、基板外領域１３２１Ａ１が十分に広く設けられている場合には、基板外領域１３２１Ａ１にゲート痕１３２０Ｘ１が形成されてもよく、上記エジェクタピン痕１３２０Ｘ２と同様の作用・効果を奏することができる。

【６３５４】

ゲート痕１３２０Ｘ１やエジェクタピン痕１３２０Ｘ２等の成型痕１３２０Ｘは、封印機構設置領域１３２１Ａ２に形成されない態様が望ましく、封印機構１３２８Ａの破壊の有無が視認される際に、ゲート痕１３２０Ｘ１やエジェクタピン痕１３２０Ｘ２等の成型

痕１３２０Ｘによって封印機構１３２８Ａの視認作業が阻害されることを抑制することができる。

【６３５５】

上記では、特定の表面実装タイプの電子部品と重畳しない位置に形成される成型痕１３２０Ｘの態様について説明したが、以下では作業員の誤認をより一層抑制するために、成型痕１３２０Ｘが主制御基板１３１０Ａに設けられる他の構成と重畳しない位置に形成される態様について説明する。

【６３５６】

図４２６に示すように、主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘには、表面実装タイプの電子部品や挿入実装タイプの電子部品の検査時に用いられるテストポイント１３１０Ａ９ａ、電子部品の実装に用いられないスルーホール１３１０Ａ９ｂ、表面実装タイプの電子部品や挿入実装タイプの電子部品の情報（例えば、電子部品の部品番号や電子部品の配置方向等を示す情報。）を示す複数の表記部、及び主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘに露出する銅箔等が形成されてもよい。これらテストポイント１３１０Ａ９ａ、スルーホール１３１０Ａ９ｂ、表記部及び銅箔等は、上述の特定の表面実装タイプの電子部品と同様に、カバー体１３２１Ａを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認した際に成型痕１３２０Ｘと重畳する場合に、成型痕１３２０Ｘ内に収まるテストポイント１３１０Ａ９ａ、スルーホール１３１０Ａ９ｂ、表記部及び銅箔等が他のテストポイント１３１０Ａ９ａ、スルーホール１３１０Ａ９ｂ、表記部及び銅箔等よりも強調され、作業者がテストポイント１３１０Ａ９ａ、スルーホール１３１０Ａ９ｂ、表記部及び銅箔等を誤認し、主制御基板１３１０Ａの検査などが正常に実施されないおそれがある。

【６３５７】

本実施形態のゲート痕１３２０Ｘ１やエジェクタピン痕１３２０Ｘ２である成型痕１３２０Ｘは、カバー体１３２１Ａを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認した際に、テストポイント１３１０Ａ９ａ、スルーホール１３１０Ａ９ｂ、表記部及び銅箔等と重畳しないようにカバー体１３２１Ａに形成される。この結果、テストポイント１３１０Ａ９ａ、スルーホール１３１０Ａ９ｂ、表記部及び銅箔等がゲート痕１３２０Ｘ１やエジェクタピン痕１３２０Ｘ２である成型痕１３２０Ｘ内に収まって強調されることを抑制し、カバー体１３２１Ａを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認する作業者の誤認をより一層抑制することができ、主制御基板１３１０Ａの検査などが正常に実施される。よって、主制御基板１３１０Ａに生じる不具合が抑制され、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、パチンコ機１の信頼性の低下を抑制することができる。

【６３５８】

主制御基板１３１０Ａの疎領域１３１０Ａ７には、テストポイント１３１０Ａ９ａ、スルーホール１３１０Ａ９ｂ、表記部及び銅箔等がいずれも設けられていない無使用領域１３１０Ａ７ａが区画されてもよい。ゲート痕１３２０Ｘ１やエジェクタピン痕１３２０Ｘ２である成型痕１３２０Ｘは、カバー体１３２１Ａを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認した際に、疎領域１３１０Ａ７の無使用領域１３１０Ａ７ａと重畳するようにカバー体１３２１Ａに形成されてもよい。無使用領域１３１０Ａ７ａには特定の表面実装タイプの電子部品、テストポイント１３１０Ａ９ａ、スルーホール１３１０Ａ９ｂ、表記部及び銅箔等が設けられていないため、ＩＣ１３１０Ａ１、抵抗１３１０Ａ２、トランジスタ１３１０Ａ３やコンデンサ１３１０Ａ４等の特定の表面実装タイプの電子部品、テストポイント１３１０Ａ９ａ、スルーホール１３１０Ａ９ｂ、表記部及び銅箔等がゲート痕１３２０Ｘ１やエジェクタピン痕１３２０Ｘ２である成型痕１３２０Ｘ内に収まって強調されることをより確実に抑制することができる。この結果、カバー体１３２１Ａを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認する作業者の誤認を抑制することができ、主制御基板１３１０Ａの検査などが正常に実施され、主制御基板１３１０Ａに生じる不具合を抑制でき、遊技者やパチンコ機１が設置される

遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、パチンコ機１の信頼性の低下を抑制することができる。なお、複数の成型痕１３２０Ｘのうち少なくとも一部の成型痕１３２０Ｘが無使用領域１３１０Ａ７ａと重畳するようにカバー体１３２１Ａに形成される態様であってもよく、カバー体１３２１Ａを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認する作業者の誤認をより確実に抑制することができる。

【６３５９】

また、主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘには、上述したように主制御基板１３１０Ａの検査時などに検査用の電子部品等が実装されるテスト領域１３１０Ａ８が区画されており、該テスト領域１３１０Ａ８には、テストポイント１３１０Ａ９ａ、スルーホール１３１０Ａ９ｂ、表記部及び銅箔等がいずれも設けられてもよい。該テスト領域１３１０Ａ８において、ゲート痕１３２０Ｘ１やエジェクタピン痕１３２０Ｘ２である成型痕１３２０Ｘは、カバー体１３２１Ａを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認した際に、テストポイント１３１０Ａ９ａ、スルーホール１３１０Ａ９ｂ、表記部及び銅箔等と重畳しない位置にカバー体１３２１Ａに形成されてもよい。この結果、テスト領域１３１０Ａ８においてもテストポイント１３１０Ａ９ａ、スルーホール１３１０Ａ９ｂ、表記部及び銅箔等がゲート痕１３２０Ｘ１やエジェクタピン痕１３２０Ｘ２である成型痕１３２０Ｘ内に収まって強調されることが抑制され、カバー体１３２１Ａを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認する作業者の誤認を抑制することができ、主制御基板１３１０Ａの検査などが正常に実施され、主制御基板１３１０Ａに生じる不具合を抑制でき、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、パチンコ機１の信頼性の低下を抑制することができる。

【６３６０】

なお、テスト領域１３１０Ａ８には、パチンコ機１の開発過程や公安での実機試験時において、試験専用の表面実装タイプの電子部品が実装されるが、カバー体１３２１Ａに形成されるゲート痕１３２０Ｘ１やエジェクタピン痕１３２０Ｘ２である成型痕１３２０Ｘの直径寸法Ｌは、試験専用の表面実装タイプの電子部品の最大寸法Ｗよりも大きくなるおそれがあり、上記のようにゲート痕１３２０Ｘ１やエジェクタピン痕１３２０Ｘ２である成型痕１３２０Ｘが、カバー体１３２１Ａを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認した際に、テストポイント１３１０Ａ９ａ、スルーホール１３１０Ａ９ｂ、表記部及び銅箔等と重畳せず、かつ試験専用の表面実装タイプの電子部品が実装される位置と重畳しない位置にカバー体１３２１Ａに形成されるようにしてもよい。この結果、パチンコ機１の開発過程や公安での実機試験時において、試験専用の表面実装タイプの電子部品、テストポイント１３１０Ａ９ａ、スルーホール１３１０Ａ９ｂ、表記部及び銅箔等がゲート痕１３２０Ｘ１やエジェクタピン痕１３２０Ｘ２である成型痕１３２０Ｘ内に収まって強調されることが抑制され、作業者の誤認をより確実に抑制することができる。

【６３６１】

なお、本実施形態の成型痕１３２０Ｘは、主制御基板ボックス１３２０Ａの背面視において（カバー体１３２１Ａを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認した際に）、ＩＣ１３１０Ａ１、抵抗１３１０Ａ２、トランジスタ１３１０Ａ３やコンデンサ１３１０Ａ４等である特定の表面実装タイプの電子部品、テストポイント１３１０Ａ９ａ、スルーホール１３１０Ａ９ｂ、表記部及び銅箔等の最大寸法Ｗよりも小さい直径寸法Ｌを有して形成される場合に、該特定の表面実装タイプの電子部品、テストポイント１３１０Ａ９ａ、スルーホール１３１０Ａ９ｂ、表記部及び銅箔等と重畳するようにカバー体１３２１Ａに形成されてもよい。主制御基板ボックス１３２０Ａの背面視において成型痕１３２０Ｘの直径寸法Ｌが特定の表面実装タイプの電子部品、テストポイント１３１０Ａ９ａ、スルーホール１３１０Ａ９ｂ、表記部及び銅箔等の最大寸法Ｗよりも小さい場合には、該特定の表面実装タイプの電子部品、テストポイント１３１０Ａ９ａ、スルーホール１３１０Ａ９ｂ、表記部及び銅箔等が成型痕１３２０Ｘ内に収まらないため、

電子部品、テストポイント１３１０Ａ９ａ、スルーホール１３１０Ａ９ｂ、表記部及び銅箔等が成型痕１３２０Ｘによって強調されることが抑制される。この結果、主制御基板１３１０Ａの検査などを正常に実施でき、主制御基板１３１０Ａに生じる不具合が抑制され、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、パチンコ機１の信頼性の低下を抑制することができる。また、カバー体１３２１Ａに形成される成型痕１３２０Ｘの設計容易性を高めることができる。

【６３６２】

また、本実施形態のカバー体１３２１Ａには、上述のＲＡＭクリアスイッチ１３１０ｆ、エラー解除スイッチ、決定キーボタン又は設定切替ボタン１３１１ｂ等が混同されないように、各々スイッチやボタンにそれぞれ対応する位置に、各ボタンの名称や説明等の文字が黒色等で印刷された透明なシールが貼られてもよいし、主制御基板ボックス１３２０Ａが対応するパチンコ機１の機種名（主制御基板１３１０Ａが対応するパチンコ機１の機種名）が黒色で印刷された透明なシールが貼られてもよいし、主制御基板１３１０Ａの型番等が黒色で印刷された透明なシールが貼られてもよいし、これらのシールに替えてカバー体１３２１Ａに各文字が凹凸等で形成されていてもよく、シールが貼られたり文字が形成される領域である文字領域が区画されている。

【６３６３】

成型痕１３２０Ｘがカバー体１３２１Ａの文字領域に形成された場合に、成型痕１３２０Ｘが文字領域内の文字の視認を阻害するおそれがあるとの観点から、ゲート痕１３２０Ｘ１やエジェクタピン痕１３２０Ｘ２である成型痕１３２０Ｘは、カバー体１３２１Ａの文字領域を避けるようにカバー体１３２１Ａに形成されてもよい。このような態様では、成型痕１３２０Ｘがカバー体１３２１Ａに設けられた文字の視認を阻害することが抑制され、主制御基板ボックス１３２０Ａ及び主制御基板１３１０Ａが正常に取り扱われることにより、主制御基板１３１０Ａに生じる不具合が抑制され、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、パチンコ機１の信頼性の低下を抑制することができる。

【６３６４】

図４２８（ａ）乃至（ｆ）は、成型痕１３２０Ｘが形成されたカバー体１３２１Ａの一部を示す部分拡大図である。本実施形態のゲート痕１３２０Ｘ１やエジェクタピン痕１３２０Ｘ２である成型痕１３２０Ｘは、図４２８（ａ）に示すように、円形の枠内が窪んだ凹部としてカバー体１３２１Ａに形成されている。なお、成型痕１３２０Ｘは、図４２８（ｂ）に示すように、三角形の枠内が窪んだ凹部であってもよいし、図４２８（ｃ）に示すように、四角形の枠内が窪んだ凹部であってもよいし、他の多角形の枠内が窪んだ凹部であってもよい。また、成型痕１３２０Ｘは、図４２８（ｄ）に示すように、円形又は多角形が欠けた形状の枠内が窪んだ凹部であってもよいし、図４２８（ｅ）に示すように、平面に傷状に形成されるものや、図４２８（ｆ）に示すように、カバー体１３２１Ａから隆起する突部であってもよいし、図４２８（ｇ）に示すように、円形や多角形の多重の枠状に形成される凹凸部であってもよい。

【６３６５】

［カバー体の改変例］

図４２９は、カバー体１３２１Ｂとカバー体１３２１Ｂを介して視認される主制御基板１３１０Ａの一部を示す背面図である。図４２９に示すように、本実施形態のカバー体１３２１Ｂは、成型痕１３２０Ｙが形成される位置が成型痕１３２０Ｙの直径寸法Ｌの大きさや成型痕１３２０Ｙの視認態様に基づいて規定される点で上述のカバー体１３２１Ａと異なる。以下、カバー体１３２１Ｂの態様について説明するが、カバー体１３２１Ａと重複する点の説明については省略される。

【６３６６】

カバー体１３２１Ｂに形成される複数の成型痕１３２０Ｙは、図４２８（ａ）乃至（ｄ）に示すように、枠内が窪んだ凹部として形成されて枠の線の内側が透過性を有する透明な視認態様の複数の透明成型痕１３２０Ｙ１と、図４２８（ｅ）乃至（ｆ）に示すように

、枠内の傷や斜面や凹凸によって枠の線の内側が透過性を有しない半透明又は不透明な視認態様の複数の不透明成型痕１３２０Ｙ６と、を含んでいる。

【６３６７】

本実施形態のカバー体１３２１Ｂは、カバー体１３２１Ｂを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認した際に、主制御基板１３１０Ａと重畳しない基板外領域１３２１Ｂ１と、主制御基板１３１０Ａと重畳する基板内領域１３２１Ｂ２と、を有しており、複数の透明成型痕１３２０Ｙ１は、カバー体１３２１Ｂの基板外領域１３２１Ｂ１に形成される。この結果、カバー体１３２１Ｂを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認した際に、透明成型痕１３２０Ｙ１内に表面実装タイプの電子部品が位置することを抑制でき、表面実装タイプの電子部品が透明成型痕１３２０Ｙ１によって強調されることを抑制することができる。よって、カバー体１３２１Ｂを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認する作業者の誤認を抑制することができ、主制御基板１３１０Ａの検査などが正常に実施され、主制御基板１３１０Ａに生じる不具合を抑制でき、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、パチンコ機１の信頼性の低下を抑制することができる。

【６３６８】

なお、複数の透明成型痕１３２０Ｙ１のうち少なくとも一部の透明成型痕１３２０Ｙ１が基板内領域１３２１Ｂ２と重畳するようにカバー体１３２１Ｂに形成される態様であってもよい。具体的には、一部の透明成型痕１３２０Ｙ１は、カバー体１３２１Ｂを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認した際に、表面実装タイプの電子部品、テストポイント１３１０Ａ９ａ、スルーホール１３１０Ａ９ｂ、表記部及び銅箔等と重畳しないようにカバー体１３２１Ｂの基板内領域１３２１Ｂ２に形成される。この結果、表面実装タイプの電子部品、テストポイント１３１０Ａ９ａ、スルーホール１３１０Ａ９ｂ、表記部及び銅箔等が透明成型痕１３２０Ｙ１内に収まって強調されることを抑制し、カバー体１３２１Ｂを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認する作業者の誤認を抑制することができ、主制御基板１３１０Ａの検査などが正常に実施される。よって、主制御基板１３１０Ａに生じる不具合が抑制され、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、パチンコ機１の信頼性の低下を抑制することができる。

【６３６９】

透明成型痕１３２０Ｙ１が基板内領域１３２１Ｂ２に形成される際に、透明成型痕１３２０Ｙ１は、カバー体１３２１Ｂを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認した際に、上述のように主制御基板１３１０Ａに区画された無使用領域と重畳するようにカバー体１３２１Ｂに形成されてもよい。無使用領域には特定の表面実装タイプの電子部品、テストポイント１３１０Ａ９ａ、スルーホール１３１０Ａ９ｂ、表記部及び銅箔等が設けられていないため、特定の表面実装タイプの電子部品、テストポイント１３１０Ａ９ａ、スルーホール１３１０Ａ９ｂ、表記部及び銅箔等が透明成型痕１３２０Ｙ１内に収まって強調されることをより確実に抑制することができる。この結果、カバー体１３２１Ｂを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認する作業者の誤認を抑制することができ、主制御基板１３１０Ａの検査などが正常に実施され、主制御基板１３１０Ａに生じる不具合を抑制でき、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、パチンコ機１の信頼性の低下を抑制することができる。

【６３７０】

また、透明成型痕１３２０Ｙ１が基板内領域１３２１Ｂ２に形成される際に、透明成型痕１３２０Ｙ１は、カバー体１３２１Ｂを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認した際に、上述のように主制御基板１３１０Ａに区画されたテスト領域と重畳するようにカバー体１３２１Ｂに形成されてもよい。テスト領域には、テストポイント１３１０Ａ９ａ、スルーホール１３１０Ａ９ｂ、表記部及び銅箔等がいずれも設

けられるため、テスト領域と重畳するように形成される透明成型痕１３２０Ｙ１は、カバー体１３２１Ｂを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認した際に、テストポイント１３１０Ａ９ａ、スルーホール１３１０Ａ９ｂ、表記部及び銅箔等と重畳しない位置にカバー体１３２１Ｂに形成される。この結果、テスト領域においてもテストポイント１３１０Ａ９ａ、スルーホール１３１０Ａ９ｂ、表記部及び銅箔等が透明成型痕１３２０Ｙ１内に収まって強調されることが抑制され、カバー体１３２１Ｂを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認する作業者の誤認を抑制することができ、主制御基板１３１０Ａの検査などが正常に実施され、主制御基板１３１０Ａに生じる不具合を抑制でき、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、パチンコ機１の信頼性の低下を抑制することができる。

【６３７１】

なお、上記のテスト領域には、パチンコ機１の開発過程や公安での実機試験時において、試験専用の表面実装タイプの電子部品が実装されるが、カバー体１３２１Ｂに形成される透明成型痕１３２０Ｙ１の直径寸法Ｌは、試験専用の表面実装タイプの電子部品の最大寸法Ｗよりも大きくなるおそれがあり、上記のように透明成型痕１３２０Ｙ１が、カバー体１３２１Ｂを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認した際に、テストポイント１３１０Ａ９ａ、スルーホール１３１０Ａ９ｂ、表記部及び銅箔等と重畳せず、かつ試験専用の表面実装タイプの電子部品が実装される位置と重畳しない位置にカバー体１３２１Ｂに形成されるようにしてもよい。この結果、パチンコ機１の開発過程や公安での実機試験時において、試験専用の表面実装タイプの電子部品、テストポイント１３１０Ａ９ａ、スルーホール１３１０Ａ９ｂ、表記部及び銅箔等が透明成型痕１３２０Ｙ１内に収まって強調されることが抑制され、作業者の誤認をより確実に抑制することができる。

【６３７２】

図４３０（ａ）及び（ｂ）は、カバー体１３２１Ｂとカバー体１３２１Ｂを介して視認される主制御基板１３１０Ａとの一部を示す部分拡大図である。図４３０（ａ）及び（ｂ）に示すように、複数の不透明成型痕１３２０Ｙ６は、カバー体１３２１Ｂの基板内領域１３２１Ｂ２に形成される。不透明成型痕１３２０Ｙ６は、その枠内が透過性を有しない半透明又は不透明な視認態様であるため、カバー体１３２１Ｂを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認した際に、ＩＣ１３１０Ａ１、抵抗１３１０Ａ２、トランジスタ１３１０Ａ３やコンデンサ１３１０Ａ４等である特定の表面実装タイプの電子部品、テストポイント１３１０Ａ９ａ、スルーホール１３１０Ａ９ｂ、表記部及び銅箔等と重畳する場合であっても、重畳するＩＣ１３１０Ａ１、抵抗１３１０Ａ２、トランジスタ１３１０Ａ３やコンデンサ１３１０Ａ４等である特定の表面実装タイプの電子部品、テストポイント１３１０Ａ９ａ、スルーホール１３１０Ａ９ｂ、表記部又は銅箔等の視認を困難とするだけで、重畳するＩＣ１３１０Ａ１、抵抗１３１０Ａ２、トランジスタ１３１０Ａ３やコンデンサ１３１０Ａ４等である特定の表面実装タイプの電子部品、テストポイント１３１０Ａ９ａ、スルーホール１３１０Ａ９ｂ、表記部又は銅箔等が不透明成型痕１３２０Ｙ６によって強調されることを抑制することができる。この結果、カバー体１３２１Ｂを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認する作業者の誤認を抑制することができ、主制御基板１３１０Ａの検査などが正常に実施され、主制御基板１３１０Ａに生じる不具合が抑制され、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、パチンコ機１の信頼性の低下を抑制することができる。なお、複数の不透明成型痕１３２０Ｙ６のうちの一部の不透明成型痕１３２０Ｙ６は、カバー体１３２１Ｂの基板外領域１３２１Ｂ１に形成されてもよく、カバー体１３２１Ｂを成型する金型の設計容易性を高めることができる。

【６３７３】

また、複数の透明成型痕１３２０Ｙ１は、カバー体１３２１Ｂを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認した際に重畳する表面実装タイプの電子部

品の最大寸法Ｗよりも直径寸法Ｌが小さく形成される場合に、カバー体１３２１Ｂの基板内領域１３２１Ｂ６に形成されてもよい。主制御基板ボックス１３２０Ａの背面視において透明成型痕１３２０Ｙ１が重畳する表面実装タイプの電子部品の最大寸法Ｗよりも直径寸法Ｌが小さい場合には、該表面実装タイプの電子部品が透明成型痕１３２０Ｙ１内に収まらないため、表面実装タイプの電子部品が透明成型痕１３２０Ｙ１によって強調されることを抑制することができる。この結果、カバー体１３２１Ｂを介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認する作業者の誤認を抑制することができ、主制御基板１３１０Ａの検査などが正常に実施され、主制御基板１３１０Ａに生じる不具合が抑制され、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、パチンコ機１の信頼性の低下を抑制することができる。

【６３７４】

なお、透明成型痕１３２０Ｙ１は、主にカバー体１３２１Ｂを金型から押し出すエジェクタピンによって形成され、図４２７（ａ）乃至（ｄ）に示すエジェクタピン痕と同様に枠の線の内側が透過性を有する透明な視認態様を有している。また、不透明成型痕１３２０Ｙ６は、主に金型に樹脂を流し込む流入口によって形成され、図４２７（ｅ）又は（ｇ）に示すゲート痕と同様に円形の多重の枠状の凹凸部として形成されて枠の線の内側が透過性を有しない半透明又は不透明な視認態様を有している。

【６３７５】

また、上述した本実施形態のカバー体には、複数の成型痕が形成されるが、カバー体に形成される成型痕に応じて上述の各態様の複数の成型痕が組み合わされて形成されてもよく、特定の表面実装タイプの電子部品、テストポイント、スルーホール、表記部又は銅箔等が成型痕によって強調されることが抑制され、カバー体を介して主制御基板１３１０Ａの実装面１３１０Ａｘを後方側から視認する作業者の誤認をより一層抑制することができ、主制御基板１３１０Ａの検査などが正常に実施されて主制御基板１３１０Ａに生じる不具合が抑制され、遊技者やパチンコ機１が設置される遊技ホール等に不利益を与えることを抑制でき、ひいては、パチンコ機１の信頼性の低下を抑制することができる。

【６３７６】

［電子部品の不正な改変を抑制する構成の変形例］

次に、上記サブ側基板のうちパチンコ機１に設けられて遊技演出に用いられる可動体や電飾装置（ＬＥＤ等の発光体）、スピーカなどを制御するドライバＩＣ５やＭＰＵ等が実装される基板（例えば周辺制御基板１５１０、演出用可動装飾体を動作させる駆動モータや駆動ソレノイド等を制御する駆動基板、スピーカを制御する駆動基板、発光体を制御する発光制御基板、パチンコ機１で使用される電源を生成する電源ＩＣが実装される基板等）において、実装される電子部品が改変される等の基板に対する不正を抑制する構成について説明する。

【６３７７】

なお、以下では一例としてＭＰＵの他、可動体の駆動モータを制御するドライバＩＣ５（チョッパ型２相バイポーラ駆動のステッピングモータドライバ）が実装された周辺制御基板１５１０について説明するが、サブ側基板のうちのパチンコ機１に設けられて遊技演出に用いられる可動体や電飾装置（ＬＥＤ等の発光体）、スピーカなどを制御するドライバＩＣ５やＭＰＵ等が実装される基板（例えば周辺制御基板１５１０、演出用可動装飾体を動作させる駆動モータや駆動ソレノイド等を制御する駆動基板、スピーカを制御する駆動基板、発光体を制御する発光制御基板、パチンコ機１で使用される電源を生成する電源ＩＣが実装される基板等）であれば本技術思想は適用可能である。

【６３７８】

また、下記に説明する電子部品の不正な改変を抑制する構成の変形例１～電子部品の不正な改変を抑制する構成の変形例５は、それぞれ単独での実施が可能であるが、各技術思想を組み合わせて実行することによっても本課題を解決することが可能である。さらに、上記した他の実施形態と組み合わせて実行することも可能である。

【６３７９】

［電子部品の不正な改変を抑制する構成の変形例１］
　電子部品の不正な改変を抑制する構成の変形例１では、遊技機の管理者等が、本体枠４を外枠２に対して開放し、透明なカバー体１５０１を介して周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘを目視することにより、周辺制御基板１５１０に実装されている電子部品が不正に改変されるような不正が行われたか否かを判別することが可能となっている。詳しくは、周辺制御基板１５１０に対する不正を目視によって判別する場合、例えば、パチンコ機１にて実行される演出の制御に関して重要な電子部品について改変の形跡の有無が目視によって判別され、重要な電子部品に改変の形跡が確認されると、周辺制御基板１５１０に不正が有ると判定される。しかしながら、従来の周辺制御基板１５１０では、実装面（表面）１５１０ｘに複数の電子部品が実装されているため、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘを目視した管理者等が、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに実装されている複数の電子部品の中から重要な電子部品を見つけ出すこと（特定すること）が困難であった。
【６３８０】
　本例の周辺制御基板１５１０では上記した事情に鑑み、複数の電子部品の中から目視によって重要な電子部品を容易に特定できるように対策がなされている。図４３１（Ａ）～（Ｆ）及び図４３２（Ｇ）は、上記した別例の周辺制御基板１５１０における電子部品の実装状態の一例を示す説明図である。
【６３８１】
　図４３１（Ａ）に示すように、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘには、複数の表面実装タイプの電子部品が実装されている。
【６３８２】
　本例の周辺制御基板１５１０には＋１２Ｖ用ヒューズを介して遊技盤５の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）を駆動制御する＋１２Ｖ系ドライバ回路が設けられている。
【６３８３】
　＋１２Ｖ系ドライバ回路は、遊技盤５の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）を駆動する表面実装タイプのドライバＩＣ５（部品番号：ＩＣ５）、この表面実装タイプのドライバＩＣ５から駆動モータに出力される出力電流を適正設定するための抵抗ＭＲ６０（部品番号：ＭＲ６０）および抵抗ＭＲ６１（部品番号：ＭＲ６１）（以下、「＋１２Ｖ系ドライバ回路に設けられる抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１」と記載する場合がある。）と、その他、駆動モータに規定を超える電流が流れたことを検出するための抵抗ＭＲ６３（部品番号：ＭＲ６３）や、制御周波数を設定するための抵抗ＭＲ６４（部品番号：ＭＲ６４）とコンデンサＭＣ３０（部品番号：ＭＣ３０）と、から主として構成されている。
【６３８４】
　本実施形態では、周辺制御基板１５１０の、＋１２Ｖ系ドライバ回路に設けられる抵抗ＭＲ６１は、表面実装タイプ（いわゆる、ＳＭＤタイプ）の抵抗であり、上記したように駆動モータに出力される出力電流（トルク）を適正設定するための電子部品であり、例えば、許容値を外れる抵抗値の抵抗が実装された場合には、可動体の動きがぎくしゃくしたり、動作の途中で停止したりと正規の動作とは異なり正常な動作が行えなくなる。このように、ドライバＩＣ５に接続されている抵抗のような電子部品であってもドライバＩＣ５そのものの性能に影響を与えているため、抵抗一つ選択する際にも中には精度が要求されるもの（許容される最小値と最大値との幅が小さいものや、温度の変化に対して変動幅が小さいもの等）もあり、不用意に許容する値の振れ幅が大きな部品を選択した場合には、要求する性能を満足しないために思わぬ不具合を招いてしまう。
【６３８５】
　周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに実装される表面実装タイプの電子部品であるドライバＩＣ５（この例では、遊技盤５の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）を駆動する表面実装タイプのドライバＩＣ５等の遊技演出上重要な電子部品）の近傍には、表面実装タイプの電子部品である抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１、抵抗ＭＲ６３や抵抗ＭＲ６４およびコンデンサＭＣ３０が実装され、周辺制御基板１５１０の実装面（

表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによって表面実装タイプのドライバＩＣ５と電気的に接続されるとともに、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによって表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０それぞれが電気的に接続されている。例えば、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０およびＭＲ６１は、表面実装タイプのドライバＩＣ５から駆動モータに出力される出力電流を適正設定することができ、いずれも許容する値の振れ幅が小さく（ばらつき±１％の抵抗）、温度変化に対しても変動幅が小さいものを使用しており、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置している。なお、１つの表面実装タイプのドライバＩＣ５に隣接して少なくとも１個の表面実装タイプの抵抗が配置されるものであればよい。また、電子部品実装不可領域Ｂには、ビアや配線パターンが形成されていてもよいが、表面実装タイプのドライバＩＣ５と表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０との間、および表面実装タイプのドライバＩＣ５と表面実装タイプの抵抗ＭＲ６１との間に、他の電子部品を実装しないように規制し、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０およびＭＲ６１それぞれを表面実装タイプのドライバＩＣ５に対して最も隣接する位置に実装するようになっている。また、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０と表面実装タイプの抵抗ＭＲ６１との間に、他の電子部品を実装しないよう規制し、最も隣接する位置に実装についても電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域を挟んで隣接配置するようにしてもよい。

【６３８６】

表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０およびＭＲ６１は、上述したように、表面実装タイプのドライバＩＣ５から駆動モータに出力される出力電流を適正設定する電子部品であるため、周辺制御基板１５１０に形成される表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０およびＭＲ６１の部品番号は、電子部品実装不可領域Ｂを避けて形成されている。すなわち、電子部品実装不可領域にはビアや配線パターンが形成されていてもよいが、他の電子部品が実装されないとともに、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０およびＭＲ６１の部品番号についても形成されないようになっている。本例ではその他、抵抗ＭＲ６１や抵抗ＭＲ６４およびコンデンサＭＣ３０の部品番号についても同様に電子部品実装不可領域Ｂを避けて形成されている。なお、ドライバＩＣ５についても例えば１番端子を示す番号や記号は電子部品実装不可領域Ｂ内への形成を許容し、部品番号については電子部品実装不可領域Ｂを避けて形成してもよい。

【６３８７】

また、本例の周辺制御基板１５１０に実装される電子部品は、その多く（周辺制御基板１５１０に実装される電子部品の半数以上、なお周辺制御基板１５１０に実装される電子部品のうちの最も多くの割合を占めるものでもよい）が黒色の外装で構成されており、遊技盤５の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）を駆動する表面実装タイプのドライバＩＣ５も黒色の外装を有している。一方、遊技盤５の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）を駆動する表面実装タイプのドライバＩＣ５に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置する、例えば、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０は、黒色とは異なる水色（青色や黄緑色等でもよい）の外装を有している。これにより、周辺制御基板１５１０において水色の外装を有する表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０を見つけ出しやすくなり、この表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０を視標として該表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置する表面実装タイプのドライバＩＣ５を特定し易くなる。

【６３８８】

すなわち、管理者が周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘを目視する際に、パチンコ機１にて実行される演出の制御に関して重要な電子部品である表面実装タイプのドライバＩＣ５の近傍（電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置される）に実装された表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０を、表面実装タイプのドライバＩＣ５が実装されている位置を示す視標のように作用させることができ、管理者は、周辺制御基板１５１０において表面実装タイプのドライバＩＣ５が改変されるような不正が行われた場合であっても、複数の電子部品の中から表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０を視標として表面実装タイプのドライバＩＣ５を容易に特定して周辺制御基板１５１０に対する不正が行われたか否かを容

易に判別することができるようになる。これにより、周辺制御基板１５１０に実装される電子部品が改変されるような不正を抑制することが可能となってパチンコ機１のセキュリティの向上を図ることができるし、不正が行われた場合であっても不正が行われたことをすぐに発見することができ、遊技者に不利益を与えない。

【６３８９】

このように、パチンコ機１にて実行される演出の制御に関して重要な電子部品である表面実装タイプのドライバＩＣ５が黒色とは異なる水色（青色や黄緑色等でもよい）の外装を有する表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置することを知っている管理者は、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０を視標として表面実装タイプのドライバＩＣ５を特定することが可能である一方、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置する表面実装タイプのドライバＩＣ５がパチンコ機１にて実行される演出の制御に関して重要な電子部品であることを知らない者（周辺制御基板１５１０を不正に改変しようとする者）には、黒色とは異なることで目に付きやすい水色（青色や黄緑色等でもよい）の外装を有する表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０に注目させてこの表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０が改変されるような不正を行わせるように仕向けることで、重要な電子部品である表面実装タイプのドライバＩＣ５が改変されることを抑制することができるようになる。

【６３９０】

なお、表面実装タイプのドライバＩＣ５に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで黒色とは異なる水色（青色や黄緑色等でもよい）の外装を有する表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０およびＭＲ６１を黒色とは異なる水色（青色や黄緑色等でもよい）の外装を有するように構成してもよく、この場合には黒色とは異なる水色（青色や黄緑色等でもよい）の外装を有する抵抗を複数個のグループでまとまって配置することができるため、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘにおいて、まとまって配置される表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０およびＭＲ６１が目立ちやすくなる。また、この場合に表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０と抵抗ＭＲ６１とのそれぞれを、電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域を挟んで隣接配置することにより、黒色とは異なる水色（青色や黄緑色等でもよい）の外装を有する表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０と抵抗ＭＲ６１とをより一体的に配置することができるようになり、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０およびＭＲ６１を一層目立たせることができる。

【６３９１】

また、表面実装タイプのドライバＩＣ５の外装には少なくとも黒色を有するものであればよく、黒色と黒色以外の色とを含む複数の色の外装を有するものであってもよいし、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０の外装には少なくとも黒色とは異なる特定色（この例では水色）を有するものであればよく、特定色と特定色以外の色とを含む複数の色の外装を有するものであってもよい。つまり、表面実装タイプのドライバＩＣ５の外装と表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０の外装との一方又は両方は複数の色を含むように構成されていてもよい。ただし、表面実装タイプのドライバＩＣ５の外装には表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０の外装の特定色を含まず、且つ表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０の外装には表面実装タイプのドライバＩＣ５の外装の黒色を含まないことが望ましい。このように構成することにより、表面実装タイプのドライバＩＣ５と表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０との一方にのみ用いられる色によって表面実装タイプのドライバＩＣ５と表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０とを判別することが可能になる。

【６３９２】

また、遊技盤５の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）を駆動する表面実装タイプのドライバＩＣ５に隣接して複数の表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１を配置する場合には、両方ともにでもよいが、少なくとも１つについては黒色とは異なる色（青色や水色、黄緑色等）の外装を有する表面実装タイプの抵抗を配置すればよく、遊技盤５の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）を駆動する表面実装タイプのドライバＩＣ５に隣接して黒色とは異なる色（青色や水色、黄緑色等）の外装を有する表面実装タイプの

抵抗の他に、黒色の外装を有する表面実装タイプの抵抗が配置されていてもよい。例えば、遊技盤５の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）を駆動する表面実装タイプのドライバＩＣ５に隣接して黒色の外装を有する表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０と黒色とは異なる色の外装を有する表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０とが配置されていてもよい。

【６３９３】

また、遊技盤５の＋１２Ｖ系電気的駆動源（駆動モータ）を駆動する表面実装タイプのドライバＩＣ５に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置する表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０の外装に用いられる色は、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘにおいて他の電子部品の外装に用いられていないものであってもよい。つまり、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに実装される複数の電子部品のうちの表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０のみが特定色の外装を有するように構成し、他の電子部品は特定色とは異なる色の外装を有するように構成してもよい。このように構成することにより、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘにおいて表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０のみが特定色の外装を有するものとなるため、特定色の外装を有する電子部品を探すだけで表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０を特定することができ、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０の特定が容易になる。

【６３９４】

なお、周辺制御基板１５１０に実装されるコネクタについては、リードタイプの電子部品（リード部品ともいう）を用いて周辺制御基板１５１０に形成されるスルーホールに挿入実装するように構成してもよく、この場合には、コネクタのＧＮＤ端子がハンダ付けされるスルーホールのランドをサーマルランドとして形成するように構成してもよい。この場合には、コネクタと周辺制御基板１５１０との溶着が強固になり、コネクタが抜き差しされた場合に配線パターンやランドが剥離することを抑制できる。また、周辺制御基板１５１０に実装される表面実装タイプの電子部品のうちの特定電子部品（例えば特定の抵抗や特定のコンデンサ等）の接続端子がハンダ付けされるパッドをサーマルパッドとして形成するようにしてもよく、この場合には通常のパッドに比べて表面実装タイプの電子部品と周辺制御基板１５１０との溶着が強固になり、周辺制御基板１５１０に曲げや反りが発生しても特定電子部品が剥がれ落ち（実装剥がれ）にくくなる。

【６３９５】

なお、周辺制御基板１５１０に＋１２Ｖ系ドライバ回路を設けることなく、周辺制御基板１５１０の後続基板（ドライバ基板等）に電気的駆動源（駆動モータ）を駆動制御する＋１２Ｖ系ドライバ回路を設けるようにしてもよい。

【６３９６】

また、上記したように主制御基板１３１０においては、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに抽選契機となる始動入賞信号や異常を検出する磁器センサ検知信号が入力されるセキュリティ上重要な電子部品として、表面実装タイプのＩＣ１が実装されるとともに、この表面実装タイプのＩＣ１と電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域Ａ（図３６４（Ａ）参照）を挟んでコンデンサＭＣ１が隣接配置されている。また、本例の主制御基板１３１０に実装される電子部品は、その多くが黒色の外装で構成されており、表面実装タイプのＩＣ１も黒色の外装を有している。一方、表面実装タイプのＩＣ１に電子部品実装不可領域Ａを挟んで隣接配置するコンデンサＭＣ１は、黒色とは異なる青色（水色や黄緑色、緑色などでもよい）の外装を有しているため、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおいて青色の外装を有するコンデンサＭＣ１を見つけ出しやすくなり、このコンデンサＭＣ１を視標として該コンデンサＭＣ１に電子部品実装不可領域Ａを挟んで隣接配置する表面実装タイプのＩＣ１を特定し易くなっている。

【６３９７】

なお、セキュリティ上重要な電子部品としての表面実装タイプの表面実装タイプのＩＣ１に電子部品実装不可領域Ａを挟んで隣接配置するコンデンサＭＣ１の外装に用いられる色は、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおいて他の電子部品の外装に用いられていないものであってもよい。つまり、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３

１０ｘに実装される複数の電子部品のうちのコンデンサＭＣ１のみが特別色の外装を有するように構成し、他の電子部品は特別色とは異なる色の外装を有するように構成してもよい。このように構成することにより、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおいてコンデンサＭＣ１のみが特別色の外装を有するものとなるため、特別色の外装を有する電子部品を探すだけでコンデンサＭＣ１を特定することができ、コンデンサＭＣ１の特定が容易になる。

【６３９８】

また、主制御基板１３１０では周辺制御基板１５１０に比べて重要な電子部品を特定し易くなるように構成される。具体的には、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘにおいて、表面実装タイプのドライバＩＣ５に電子部品実装不可領域Ａを挟んで隣接配置する例えば表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０は基板上に形成されるパッドに接続端子がハンダ付けされて周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘからの突出量がリードタイプの電子部品に比べて小さい表面実装タイプの電子部品とされるのに対し、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおいて、表面実装タイプのＩＣ１に電子部品実装不可領域Ａを挟んで隣接配置するコンデンサＭＣ１は２か所以上の折り曲げ部を有するようにフォーミングされたリード（本例では２か所の折り曲げ部を有するようにフォーミングされたリード）を基板に挿入してハンダ付けされて主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘからの突出量が表面実装タイプの電子部品に比べて大きいリードタイプの電子部品とされる。リードタイプの電子部品は表面実装タイプの電子部品に比べて基板表面からの突出量が大きいことで目に付きやすくなる。

【６３９９】

さらに、本例では周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘにおいて、表面実装タイプのドライバＩＣ５に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置する表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０の外装に用いられる黒とは異なる色として、光沢のない（つや消し、又は光沢が弱い、若しくはほとんど光沢のない）ものが用いられている。一方、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおいて、表面実装タイプのＩＣ１に電子部品実装不可領域Ａを挟んで隣接配置するコンデンサＭＣ１の外装に用いられる黒とは異なる色として、光沢のある（又は光沢が強い）ものが用いられている。光沢のない（つや消し、又は光沢が弱い、若しくはほとんどない）電子部品に比べて光沢のある（又は光沢が強い）電子部品の方が遊技店内の照明等の反射等によって目に付きやすくなる。

【６４００】

また、上記したように周辺制御基板１５１０に実装される電子部品はその多くが黒色の外装を有するもので構成されており、周辺制御基板１５１０と同様に、主制御基板１３１０に実装される電子部品についてもその多くが黒色の外装を有するもので構成されている。また、本例の主制御基板１３１０や周辺制御基板１５１０に実装されている電子部品の外装の黒色は、光沢のない（つや消し、又は光沢が弱い、若しくはほとんど光沢のない）ものとされている。すなわち、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘや周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに実装されている電子部品の多くは光沢のない（つや消し、又は光沢が弱い、若しくはほとんど光沢のない）黒色の外装を有するものとされている。

【６４０１】

そして、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおいては、光沢のない（つや消し、又は光沢が弱い、若しくはほとんど光沢のない）黒色の外装を有する多数の電子部品が実装されている中に、光沢のある（又は光沢が強い）青色の外装を有するコンデンサＭＣ１が設けられるため、遊技店内の照明等の反射によってコンデンサＭＣ１が目に付きやすい。一方、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘにおいては、光沢のない（つや消し、又は光沢が弱い、若しくはほとんど光沢のない）黒色の外装を有する多数の電子部品が実装されている中に、光沢のない（つや消し、又は光沢が弱い、若しくはほとんど光沢のない）水色の外装を有する表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０が設けられるため、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０による遊技店内の照明等の反射が弱いか又は反射がほ

とんど起こらないことで表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０が目に付き難い。このように、主制御基板１３１０では、周辺制御基板１５１０に比べて重要な特別電子部品（この例では表面実装タイプのＩＣ１）に電子部品実装不可領域Ａを挟んで隣接配置する特定電子部品（この例ではコンデンサＭＣ１）が目に付きやすくなっている。

【６４０２】

このように本例では周辺制御基板１５１０において表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０を見つけ出すことよりも主制御基板１３１０においてコンデンサＭＣ１を見つけ出すことの方が容易となるように構成されており、これによってコンデンサＭＣ１に電子部品実装不可領域Ａを挟んで隣接配置する重要な電子部品である表面実装タイプのＩＣ１を特定し易くなる。すなわち、パチンコ機１にて実行される演出の制御に関して重要な電子部品が実装される周辺制御基板１５１０に比べて、より重要度の高い、抽選契機となる始動入賞信号や異常を検出する磁器センサ検知信号が入力されるセキュリティ上重要な電子部品が実装される主制御基板１３１０においては、不正の発見がより迅速に行えるようになっている。これにより主制御基板１３１０に対する不正を抑制することが可能になり、たとえ不正が行われた場合であっても該不正をすぐに発見することができ、遊技者に不利益を与えない。

【６４０３】

［電子部品の不正な改変を抑制する構成の変形例２］

次に、電子部品の不正な改変を抑制する構成の変形例２について説明する。電子部品の不正な改変を抑制する構成の変形例１では、重要な部品に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで黒色とは異なる色の外装を有する特定電子部品を隣接配置することにより重要な部品に対する不正を抑制するものを示したが、重要な部品に隣接配置する特定電子部品の外装に用いられる黒色とは異なる色として、基板上で目立ち難い色にすることで、事前に特定電子部品の外装が基板上で目立ち難い色であることを知っている遊技機の管理者には特定電子部品の見つけ出すことを容易にする一方、事前に特定電子部品の外装が基板上で目立ち難い色であることを知らない者（重要な部品を不正に改変しようとする者）には、特定電子部品を見つけ出すことを困難にして重要な部品が改変されることを抑制するようにしてもよい。

【６４０４】

図４３１（Ｂ）に示すように、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘにおいて、表面実装タイプのドライバＩＣ５に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置し、表面実装タイプのドライバＩＣ５と周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによって電気的に接続する表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０の外装には、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘの略全域にコーティングされるソルダーレジスト（保護剤）の色とのコントラストが小さい色が用いられている。なお、本例では１つの表面実装タイプのドライバＩＣ５に隣接して表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０とＭＲ６１とＭＲ６４とＭＲ６３との複数の抵抗が配置されて、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによって表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０とＭＲ６１とＭＲ６４とＭＲ６３とのそれぞれが表面実装タイプのドライバＩＣ５と電気的に接続されているが、１つの表面実装タイプのドライバＩＣ５に隣接して少なくとも１個の表面実装タイプの抵抗が配置されるものであればよい。また、電子部品実装不可領域Ｂには、ビアや配線パターンが形成されていてもよいが、表面実装タイプのドライバＩＣ５と表面実装タイプの抵抗（抵抗ＭＲ６０、ＭＲ６１、ＭＲ６４、ＭＲ６３）との間に、他の電子部品を実装しないよう規制し、最も隣接する位置に実装するようになっている。また、１つの表面実装タイプのドライバＩＣ５に隣接して表面実装タイプの抵抗（抵抗ＭＲ６０、ＭＲ６１、ＭＲ６４、ＭＲ６３）を複数配置する場合には、表面実装タイプの抵抗（抵抗ＭＲ６０、ＭＲ６１、ＭＲ６４、ＭＲ６３）それぞれについても電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域を挟んで隣接配置するようにしてもよい。

【６４０５】

具体的には、本例の周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘは緑色のソルダーレジストでコーティングされており、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに実装される表面実装タイプのドライバＩＣ５は黒色の外装を有する一方、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘにおいて、表面実装タイプのドライバＩＣ５に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置する表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０、ＭＲ６１、ＭＲ６４は黄緑色の外装を有している。

【６４０６】

周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに実装される表面実装タイプのドライバＩＣ５は黒色の外装を有しているため、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される緑色のソルダーレジストに対してのコントラストが大きく、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘにおいて目に付きやすい。一方、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに実装される表面実装タイプのドライバＩＣ５に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置する表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０、ＭＲ６１、ＭＲ６４は黄緑色の外装を有しているため、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される緑色のソルダーレジストに対してのコントラストが小さく、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘにおいて目に付きにくい。

【６４０７】

重要な部品である表面実装タイプのドライバＩＣ５は周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される緑色のソルダーレジストに対してのコントラストが大きい黒色の外装を有することで周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘにおいて目に付きやすくされているものの、本例の周辺制御基板１５１０に実装される電子部品はその多くが黒色の外装で構成され、黒色の外装を有する多数の電子部品の一つとして設けられているため、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘを目視して表面実装タイプのドライバＩＣ５を特定することは困難とされる。

【６４０８】

一方、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに実装される表面実装タイプのドライバＩＣ５に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置する表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０、ＭＲ６１、ＭＲ６４は、周辺制御基板１５１０に実装される黒色の外装を有する多数の電子部品の中に実装されるものの、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される緑色のソルダーレジストに対してのコントラストが小さい黄緑色の外装を有することで周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘにおいて目に付きにくくなっている。

【６４０９】

本例では周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに実装される電子部品において大多数を占める黒色の外装を有する電子部品については周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される緑色のソルダーレジストに対してのコントラストが大きくされているものの、黒色の外装を有する多数の電子部品の一つとして設けられていることで周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘを目視して電子部品の種別を特定することが困難であり、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘにおいて大多数を占める黒色の外装を有する電子部品のうちの特別電子部品（この例では表面実装タイプのドライバＩＣ５）に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置する特定電子部品（この例では表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０）については、黒色とは異なる黄緑色の外装を有するものの、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される緑色のソルダーレジストに対してのコントラストが小さくされていることで周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘを視認した者に特定電子部品の存在を気付かれにくくすることができる。

【６４１０】

このように、パチンコ機１にて実行される演出の制御に関して重要な電子部品である特別電子部品（この例では表面実装タイプのドライバＩＣ５）が、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される緑色のソルダーレジストに対してのコントラスト

が小さい黄緑色の外装を有する特定電子部品（この例では表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０）に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置することを知っている管理者は、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘにおいて特定電子部品を容易に見つけ出すことができ、この特定電子部品を視標として特別電子部品を特定することが容易である一方、特別電子部品に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置する特定電子部品が周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される緑色のソルダーレジストに対してのコントラストが小さい黄緑色の外装を有することを知らない者（周辺制御基板１５１０を不正に改変しようとする者）には特定電子部品の存在を気付かれにくくなり、この特定電子部品を視標として特別電子部品を特定することが困難になるため、重要な電子部品である特別電子部品が改変されることを抑制することができるようになる。

【６４１１】

また主制御基板１３１０においても周辺制御基板１５１０と同様に、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装されるセキュリティ上重要な特別電子部品（この例では表面実装タイプのＩＣ１）は黒色の外装を有しているため、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される緑色のソルダーレジストに対してのコントラストが大きく、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおいて目に付きやすくなっているものの、主制御基板１３１０に実装される黒色の外装を有する多数の電子部品の一つとして設けられているため、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘを目視して特別電子部品を特定することは困難とされる。

【６４１２】

一方、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおいては、セキュリティ上重要な特別電子部品（この例では表面実装タイプのＩＣ１）に電子部品実装不可領域Ａを挟んで隣接配置する特定電子部品（この例ではコンデンサＭＣ１）は、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される緑色のソルダーレジストに対してのコントラストが大きい色（この例では青色）の外装を有するように構成されており、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおいて目に付きやすくなっている。そのため、主制御基板１３１０においては青色の外装を有する特定電子部品を見つけ出しやすくなり、この特定電子部品を視標として該特定電子部品に電子部品実装不可領域Ａを挟んで隣接配置する特別電子部品を特定し易くなる。

【６４１３】

これにより、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおいてセキュリティ上重要な特別電子部品（この例では表面実装タイプのＩＣ１）が、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに形成される緑色のソルダーレジストに対してのコントラストが大きい色（この例では青色）の外装を有する特定電子部品（この例ではコンデンサＭＣ１）に電子部品実装不可領域Ａを挟んで隣接配置することを知っている管理者は、特定電子部品を視標として特別電子部品を特定することが可能である一方、特定電子部品に電子部品実装不可領域Ａを挟んで隣接配置する特別電子部品がセキュリティ上重要な電子部品であることを知らない者（主制御基板１３１０を不正に改変しようとする者）には、黒色とは異なることで目に付きやすい青色（青色や黄緑色等でもよい）の外装を有する特定電子部品に注目させてこの特定電子部品が改変されるような不正を行わせるように仕向けることで、重要な電子部品である特別電子部品が改変されることを抑制することができるようになる。

【６４１４】

なお、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘにおいて、パチンコ機１にて実行される演出の制御に関して重要な電子部品である特別電子部品（この例では表面実装タイプのドライバＩＣ５）に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置する特定電子部品（この例では表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０、ＭＲ６１、ＭＲ６４）が目立ち難い色の外装を有するように構成されるものであればよく、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成されるソルダーレジストの色と特定電子部品の外装の色との組み合わせは上記したものに限られない。例えば、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０

ｘの略全域に緑色のソルダーレジストを形成し、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに実装される特定電子部品として周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成されるソルダーレジストの緑色と類似する色（例えば黄緑色や、水色等）の外装を有するように構成してもよい。

【６４１５】

また、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘや周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成されるソルダーレジストの色とのコントラストの大きさを変化させるものに限らず、ソルダーレジストの色と色の三属性（色相（色の違い）、彩度（鮮やかさの度合い）、明度（明るさの度合い））の差を変化させるようにしてもよい。例えば、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに実装される多数の電子部品（重要な電子部品である特別電子部品（この例では表面実装タイプのドライバＩＣ５）を含む）については周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される緑色のソルダーレジストに対して色の三属性のうちの少なくとも一つの差が大きくなるような外装色を有するように構成し、特別電子部品に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置する特定電子部品特定電子部品（この例では表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０、ＭＲ６１、ＭＲ６４）については周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される緑色のソルダーレジストに対して色の三属性のうちの全ての差が小さくなるような外装色を有するように構成するようにしてもよい。この場合にも上記と同様の効果を奏することが可能である。

【６４１６】

また、パチンコ機１にて実行される演出の制御に関して重要な電子部品である特別電子部品（この例では表面実装タイプのドライバＩＣ５）に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置する特定電子部品（この例では表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０、ＭＲ６１、ＭＲ６４）の外装に用いられる色は、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘにおいて他の電子部品の外装に用いられていないものであってもよい。つまり、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに実装される複数の電子部品のうちの特定電子部品（この例では表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０、ＭＲ６１、ＭＲ６４）のみが特定色の外装を有するように構成し、他の電子部品は特定色とは異なる色の外装を有するように構成してもよい。このように構成することにより、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘにおいて特定電子部品（この例では表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０、ＭＲ６１、ＭＲ６４）のみが特定色の外装を有するものとなるため、特定色の外装を有する電子部品を探すだけで特定電子部品（この例では表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０、ＭＲ６１、ＭＲ６４）を特定することができ、特定電子部品（この例では表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０、ＭＲ６１、ＭＲ６４）の特定が容易になる。

【６４１７】

また主制御基板１３１０においても周辺制御基板１５１０と同様に、セキュリティ上重要な特別電子部品（この例では表面実装タイプのＩＣ１）に電子部品実装不可領域Ａを挟んで隣接配置する特定電子部品（この例ではコンデンサＭＣ１）の外装に用いられる色は、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおいて他の電子部品の外装に用いられていないものであってもよい。つまり、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘに実装される複数の電子部品のうちの特定電子部品（この例ではコンデンサＭＣ１）のみが特別色の外装を有するように構成し、他の電子部品は特別色とは異なる色の外装を有するように構成してもよい。このように構成することにより、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおいて特定電子部品（この例ではコンデンサＭＣ１）のみが特別色の外装を有するものとなるため、特別色の外装を有する電子部品を探すだけで特定電子部品（この例ではコンデンサＭＣ１）を特定することができ、特定電子部品（この例ではコンデンサＭＣ１）の特定が容易になる。

【６４１８】

また上記に加えて、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘにおいて、演出の制御に関して重要な電子部品である特別電子部品（この例では表面実装タイプのドライ

バＩＣ５）に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置する特定電子部品（この例では表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０、ＭＲ６１、ＭＲ６４）の外装に用いられる色として、光沢のない（つや消し、又は光沢が弱い、若しくはほとんど光沢のない）ものを用いるようにしてもよい。上記したように、周辺制御基板１５１０に実装される電子部品はその多くが光沢のない（つや消し、又は光沢が弱い、若しくはほとんど光沢のない）黒色の外装を有するもので構成されており、この中に、光沢のない（つや消し、又は光沢が弱い、若しくはほとんど光沢のない）色の外装を有する特定電子部品が設けられるため、特定電子部品による遊技店内の照明等の反射が弱いか又は反射がほとんど起こらないことで特定電子部品が目に付き難い。

【６４１９】

さらに、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおいて、セキュリティ上重要な特別電子部品（この例では表面実装タイプのＩＣ１）に電子部品実装不可領域Ａを挟んで隣接配置する特定電子部品（この例ではコンデンサＭＣ１）の外装に用いられる色として光沢のある（又は光沢が強い）ものを用いるようにしてもよい。上記したように、主制御基板１３１０に実装される電子部品はその多くが光沢のない（つや消し、又は光沢が弱い、若しくはほとんど光沢のない）黒色の外装を有するもので構成されており、この中に、光沢のある（又は光沢が強い）色の外装を有する特定電子部品が設けられるため、特定電子部品による遊技店内の照明等の反射等によって特定電子部品が目に付きやすくなる。

【６４２０】

このように本例では周辺制御基板１５１０においては、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０、ＭＲ６１、ＭＲ６４を見つけ出すことを困難にして表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０、ＭＲ６１、ＭＲ６４に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置する表面実装タイプのドライバＩＣ５を特定し難くし、これによって重要な電子部品である表面実装タイプのドライバＩＣ５が不正に改変されることを抑制するのに対し、主制御基板１３１０においては、コンデンサＭＣ１に注目させてこのコンデンサＭＣ１が改変されるような不正を行わせるように仕向け、これによって重要な電子部品である表面実装タイプのＩＣ１が不正に改変されることを抑制することができるようになっている。

【６４２１】

また、主制御基板１３１０と周辺制御基板１５１０とにおいて重要な電子部品が不正に改変されることを抑制するための手段を異ならせるため、主制御基板１３１０と周辺制御基板１５１０との一方において重要な電子部品を特定された場合であっても他方の基板においては重要な電子部品を特定され難くなる。すなわち、重要な電子部品に対する不正な改変が多数の基板に亘ること（被害の拡大）を抑制することができる。

【６４２２】

なお、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘにおいて、演出の制御に関して重要な電子部品である特別電子部品（この例では表面実装タイプのドライバＩＣ５）の近傍に設けられるスルーホールのランドについて上記スルーホールのランドに対する絶縁被膜を被せる構成を採用するようにしてもよい。この場合には、スルーホールの通常のランドに比べてランドの銅箔のうちのソルダーレジストによって覆われずに露出する部分の面積を少なくすることができ、これによって銅箔による遊技店内の照明等の反射等を抑制できるため、特別電子部品の存在が気付かれ難くなる。

【６４２３】

また、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘにおいて、演出の制御に関して重要な電子部品である特別電子部品（この例では表面実装タイプのドライバＩＣ５）に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置する特定電子部品（この例ではコンデンサＭＣ１）の電極がハンダ付けされるパッドについて上記スルーホールのランドに対する絶縁被膜を被せる構成と同様の構成を採用するようにしてもよい。すなわち、パッドの外周縁を含む一部をソルダーレジストで覆うように構成するようにしてもよく、この場合には通常のパッドに比べてパッドの銅箔のうちのソルダーレジストによって覆われずに露出する部

分の面積を少なくすることができ、これによって銅箔による遊技店内の照明等の反射等を抑制できるため、特定電子部品の存在が気付かれ難くなる。

【６４２４】

［電子部品の不正な改変を抑制する構成の変形例３］

次に、電子部品の不正な改変を抑制する構成の変形例３について説明する。電子部品の不正な改変を抑制する構成の変形例３では、重要な部品に電子部品実装不可領域を挟んで複数の特定電子部品を配置することにより重要な部品に対する不正を抑制するようになっている。以下に説明する。

【６４２５】

図４３１（Ｃ）に示すように本例の周辺制御基板１５１０は、実装面（表面）１５１０ｘにおいて、外形サイズの異なる表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０及び抵抗ＭＲ６１と抵抗ＭＲ６４とが表面実装タイプのドライバＩＣ５に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置し、それぞれ表面実装タイプのドライバＩＣ５と周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによって電気的に接続するようになっている。なお、本例では１つの表面実装タイプのドライバＩＣ５に隣接して表面実装タイプの抵抗（抵抗ＭＲ６０、抵抗ＭＲ６１、抵抗ＭＲ６４）が複数配置されて、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによって表面実装タイプの抵抗（抵抗ＭＲ６０、抵抗ＭＲ６１、抵抗ＭＲ６４）それぞれが電気的に接続されているが、１つの表面実装タイプのドライバＩＣ５に隣接して少なくとも１個の表面実装タイプの抵抗（抵抗ＭＲ６０、抵抗ＭＲ６１、抵抗ＭＲ６４のうちのいずれか１つ）が配置されるものであればよい。また、電子部品実装不可領域Ｂには、ビアや配線パターンが形成されていてもよいが、表面実装タイプのドライバＩＣ５と表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０との間と、表面実装タイプのドライバＩＣ５と表面実装タイプの抵抗ＭＲ６１との間と、表面実装タイプのドライバＩＣ５と表面実装タイプの抵抗ＭＲ６４との間に、他の電子部品を実装しないよう規制し、最も隣接する位置に実装するようになっている。また、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０と表面実装タイプの抵抗ＭＲ６１と表面実装タイプの抵抗ＭＲ６４とについても電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域を挟んで隣接配置するようにしてもよい。また、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによって表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０と表面実装タイプの抵抗ＭＲ６１と表面実装タイプの抵抗ＭＲ６４とのそれぞれを電気的に接続するようにしてもよい。

【６４２６】

表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１は、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに設けられている同種（機能が同じ）の電子部品（この例では表面実装タイプの抵抗）の中で相対的に小さい外形サイズを有し、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６４は、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに設けられている同種（機能が同じ）の電子部品（この例では表面実装タイプの抵抗）の中で相対的に大きい外形サイズを有している。

【６４２７】

このように、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに設けられている表面実装タイプの抵抗の中で外形サイズが相対的に小さい表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１と、外形サイズが相対的に大きい表面実装タイプの抵抗ＭＲ６１と、のそれぞれを表面実装タイプのドライバＩＣ５に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置して周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによって表面実装タイプのドライバＩＣ５と電気的に接続させることにより、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０と抵抗ＭＲ６１と抵抗ＭＲ６４との外形サイズの差が大きい同種（機能が同じ）の電子部品が周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘ上で目に付きやすくなるため、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０と抵抗ＭＲ６１と抵抗ＭＲ６４とを見つけ出しやすくなり、この表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０と抵抗ＭＲ６１と抵抗ＭＲ６４とを視標として該表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０と抵抗ＭＲ６１と抵抗ＭＲ６４とに電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置する表面実装タイプのドライバＩＣ５を特定し易くなる。

【６４２８】
すなわち、管理者が周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘを目視する際に、パチンコ機１にて実行される演出の制御に関して重要な電子部品である表面実装タイプのドライバＩＣ５の近傍（電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置される）に実装されて周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによってそれぞれ表面実装タイプのドライバＩＣ５に電気的に接続する、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに設けられている表面実装タイプの抵抗の中で外形サイズが相対的に小さい表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１と、外形サイズが相対的に大きい表面実装タイプの抵抗ＭＲ６４と、を、表面実装タイプのドライバＩＣ５が実装されている位置を示す視標のように作用させることができ、管理者は、周辺制御基板１５１０において表面実装タイプのドライバＩＣ５が改変されるような不正が行われた場合であっても、複数の電子部品の中から表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１と、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６４と、を視標として表面実装タイプのドライバＩＣ５を容易に特定して周辺制御基板１５１０に対する不正が行われたか否かを容易に判別することができるようになる。これにより、周辺制御基板１５１０に実装される電子部品が改変されるような不正を抑制することが可能となってパチンコ機１のセキュリティの向上を図ることができるし、不正が行われた場合であっても不正が行われたことをすぐに発見することができ、遊技者に不利益を与えない。
【６４２９】
なお、図４３１（Ｃ）に示すように周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに設けられている表面実装タイプの抵抗の中で外形サイズが相対的に小さい表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１と、外形サイズが相対的に大きい表面実装タイプの抵抗ＭＲ６４と、を表面実装タイプのドライバＩＣ５の４つの辺のうちの同一の辺の側方に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置して周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによってドライバＩＣ５の同一の辺に設けられる接続端子にそれぞれを電気的に接続させるものに限らず、図４３１（Ｄ）に示すように、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに設けられている表面実装タイプの抵抗の中で外形サイズが相対的に小さい表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１と、外形サイズが相対的に大きい表面実装タイプの抵抗ＭＲ６３と、を表面実装タイプのドライバＩＣ５の４つの辺のうちの異なる辺の側方に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置して周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによってドライバＩＣ５の異なる辺に設けられる接続端子にそれぞれを電気的に接続させるようにしてもよい。この場合には、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０と抵抗ＭＲ６１と抵抗ＭＲ６３との外形サイズの差が大きい同種（機能が同じ）の電子部品が表面実装タイプのドライバＩＣ５の４つの辺のうちの異なる辺の側方に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置して周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによって電気的に接続されるため、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０と抵抗ＭＲ６１と抵抗ＭＲ６３とが周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘ上で目に付きやすくなり、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０と抵抗ＭＲ６１と抵抗ＭＲ６３とを見つけ出しやすくなるため、この表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０と抵抗ＭＲ６１と抵抗ＭＲ６３とを視標として該表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０と抵抗ＭＲ６１と抵抗ＭＲ６３とに電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置する表面実装タイプのドライバＩＣ５を特定し易くなる。
【６４３０】
また、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに設けられている表面実装タイプの抵抗の中で外形サイズが相対的に小さい表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１の外装に用いられる色と、外形サイズが相対的に大きい表面実装タイプの抵抗ＭＲ６４、６３の外装に用いられる色と、を異ならせるようにしてもよい。例えば、図４３１（Ｃ）、（Ｄ）に示すように、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに設けられている表面実装タイプの抵抗の中で外形サイズが相対的に小さい表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１については水色等の特定色の外装を有するように構成し

、外形サイズが相対的に大きい表面実装タイプの抵抗ＭＲ６４、６３については特定色とは異なる色（例えば黒色等）の外装を有するように構成するようにしてもよい。この場合には、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０の外装が有する色は周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘにおいて他の電子部品の外装には用いられないようにしてもよい。この場合には、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０の外装のみが有する色によって表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０を見つけ出すことが容易になる。

【６４３１】

また、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに設けられている表面実装タイプの抵抗の中で外形サイズが相対的に小さい表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１の外装には少なくとも特定色を有するものであればよく、特定色と特定色以外の色とを含む複数の色の外装を有するものであってもよいし、外形サイズが相対的に大きい表面実装タイプの抵抗ＭＲ６４、６３の外装には少なくとも特定色とは異なる色を有するものであればよく、複数の色の外装を有するものであってもよい。つまり、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに設けられている表面実装タイプの抵抗の中で外形サイズが相対的に小さい表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１の外装と外形サイズが相対的に大きい表面実装タイプの抵抗ＭＲ６４、６３の外装との一方又は両方は複数の色を含むように構成されていてもよい。ただし、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに設けられている表面実装タイプの抵抗の中で外形サイズが相対的に大きい表面実装タイプの抵抗ＭＲ６４、６３の外装には、外形サイズが相対的に小さい表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１の特定色を含まず、且つ外形サイズが相対的に小さい表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１の外装には外形サイズが相対的に大きい表面実装タイプの抵抗ＭＲ６４、６３の外装の色を含まないことが望ましい。このように構成することにより、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに設けられている表面実装タイプの抵抗の中で外形サイズが相対的に小さい表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１と外形サイズが相対的に大きい表面実装タイプの抵抗ＭＲ６４、６３との一方にのみ用いられる色によって表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１と表面実装タイプの抵抗ＭＲ６４、６３とを特定することが可能になる。

【６４３２】

また、相対的に小さい外形サイズを有する表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１は、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに実装されている全ての表面実装タイプの抵抗の平均の外形サイズよりも小さい外形サイズを有するものであってもよいし、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに実装されている全ての表面実装タイプの抵抗の中で最も小さい外形サイズを有するものであってもよい。同様に、相対的に大きい外形サイズを有する表面実装タイプの抵抗ＭＲ６４、６３は、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに実装されている全ての表面実装タイプの抵抗の平均の外形サイズよりも大きい外形サイズを有するものであってもよいし、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに実装されている全ての表面実装タイプの抵抗の中で最も大きい外形サイズを有するものであってもよい。

【６４３３】

また、抵抗値が異なる複数の表面実装タイプの抵抗を表面実装タイプのドライバＩＣ５に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置し、それぞれ表面実装タイプのドライバＩＣ５と周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによって電気的に接続するようにしてもよい。この場合には、相対的に小さい値を有する表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１は、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに実装されている全ての表面実装タイプの抵抗の平均値よりも小さい値を有するものであってもよいし、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに実装されている全ての表面実装タイプの抵抗の中で最も小さい値を有するものであってもよい。同様に、相対的に大きい値を有する表面実装タイプの抵抗ＭＲ６４、６３は、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに実装されている全ての表面実装タイプの抵抗の平均値よりも大きい値を有するものであってもよいし、周辺制御基板１５１０の実装面（表

面）１５１０ｘに実装されている全ての表面実装タイプの抵抗の中で最も大きい値を有するものであってもよい。

【６４３４】

また、上記したように主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおいて、表面実装タイプのＩＣ１に電子部品実装不可領域Ａを挟んで隣接配置し、表面実装タイプのＩＣ１に周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによって電気的に接続するコンデンサＭＣ１は、表面実装タイプのＩＣ１に対して１個だけしか設けられていないものの、２か所以上の折り曲げ部を有するようにフォーミングされたリード（本例では２か所の折り曲げ部を有するようにフォーミングされたリード）を基板に挿入してハンダ付けされるリードタイプの電子部品であるため、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおいて表面実装タイプの電子部品よりも突出量が大きくされ、さらに青色（水色や黄緑色、緑色などでもよい）の外装を有し、且つ当該青色が光沢を有する（又は光沢が強い）ように構成されるため、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘ上で目に付きやすくなっている。そのため、主制御基板１３１０においてはコンデンサＭＣ１を見つけ出しやすくなり、このコンデンサＭＣ１を視標として該コンデンサＭＣ１に電子部品実装不可領域Ａを挟んで隣接配置する表面実装タイプのＩＣ１を特定し易くなる。

【６４３５】

これにより、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおいてセキュリティ上重要な表面実装タイプのＩＣ１が、コンデンサＭＣ１に電子部品実装不可領域Ａを挟んで隣接配置することを知っている管理者は、コンデンサＭＣ１を視標として表面実装タイプのＩＣ１を特定することが可能である一方、コンデンサＭＣ１に電子部品実装不可領域Ａを挟んで隣接配置する表面実装タイプのＩＣ１がセキュリティ上重要な電子部品であることを知らない者（主制御基板１３１０を不正に改変しようとする者）には、コンデンサＭＣ１に注目させてこのコンデンサＭＣ１が改変されるような不正を行わせるように仕向けることで、重要な電子部品である表面実装タイプのＩＣ１が改変されることを抑制することができるようになる。

【６４３６】

このように本例では周辺制御基板１５１０と主制御基板１３１０とで重要な電子部品が不正に改変されることを抑制するための手段を異ならせるため、主制御基板１３１０と周辺制御基板１５１０との一方において重要な電子部品を特定された場合であっても他方の基板においては重要な電子部品を特定され難くなる。すなわち、重要な電子部品に対する不正な改変が多数の基板に亘ること（被害の拡大）を抑制することができる。

【６４３７】

［電子部品の不正な改変を抑制する構成の変形例４］

次に、電子部品の不正な改変を抑制する構成の変形例４について説明する。電子部品の不正な改変を抑制する構成の変形例４では、重要な部品に電子部品実装不可領域を挟んで複数の特定電子部品を配置し、この複数の特定電子部品として少なくとも第１特定色の外装を有する第１特定電子部品と第２特定色の外装を有する第２特定電子部品とを有することにより重要な部品に対する不正を抑制するようになっている。以下に説明する。

【６４３８】

図４３１（Ｅ）に示すように本例の周辺制御基板１５１０は、実装面（表面）１５１０ｘにおいて、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０と抵抗ＭＲ６１と抵抗ＭＲ６３と抵抗ＭＲ６４とが表面実装タイプのドライバＩＣ５に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置し、それぞれ表面実装タイプのドライバＩＣ５と周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによって電気的に接続するようになっている。なお、本例では１つの表面実装タイプのドライバＩＣ５に隣接して表面実装タイプの抵抗（抵抗ＭＲ６０、抵抗ＭＲ６１、抵抗ＭＲ６４）が複数配置されて、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによって表面実装タイプの抵抗（抵抗ＭＲ６０、抵抗ＭＲ６１、抵抗ＭＲ６４）それぞれが電気的に接続されているが、１つの表

面実装タイプのドライバＩＣ５に隣接して少なくとも１個の表面実装タイプの抵抗（抵抗ＭＲ６０、抵抗ＭＲ６１、抵抗ＭＲ６４のいずれか一つ）が配置されるものであればよい。また、電子部品実装不可領域Ｂには、ビアや配線パターンが形成されていてもよいが、表面実装タイプのドライバＩＣ５と表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０との間と、表面実装タイプのドライバＩＣ５と表面実装タイプの抵抗ＭＲ６１との間と、表面実装タイプのドライバＩＣ５と表面実装タイプの抵抗ＭＲ６３との間と、表面実装タイプのドライバＩＣ５と表面実装タイプの抵抗ＭＲ６４との間に、他の電子部品を実装しないよう規制し、最も隣接する位置に実装するようになっている。また、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０と表面実装タイプの抵抗ＭＲ６１と表面実装タイプの抵抗ＭＲ６４とについても電子部品を実装することができない電子部品実装不可領域を挟んで隣接配置するようにしてもよい。また、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによって表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０と表面実装タイプの抵抗ＭＲ６１と表面実装タイプの抵抗ＭＲ６４とを電気的に接続するようにしてもよいし、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０と表面実装タイプの抵抗ＭＲ６１と表面実装タイプの抵抗ＭＲ６４とのそれぞれを周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによって電気的に接続することなしにそれぞれを周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによって表面実装タイプのドライバＩＣ５と電気的に接続するようにしてもよい。

【６４３９】

表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１は、水色（青色や黄緑色等でもよい）の外装を有し、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６４は、黒色の外装を有している。また、本例では表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１と表面実装タイプの抵抗ＭＲ６４とは周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによって電気的に接続されている。

【６４４０】

このように、水色の外装を有する表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１と、黒色の外装を有する表面実装タイプの抵抗ＭＲ６４と、のそれぞれを表面実装タイプのドライバＩＣ５に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置して周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによって表面実装タイプのドライバＩＣ５と電気的に接続させることにより、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１と抵抗ＭＲ６４との同種（機能が同じ）の電子部品であるものの外装の色が異なることで周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘ上で目に付きやすくなり、これによって表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１と抵抗ＭＲ６４とを見つけ出しやすくなるため、この表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１と抵抗ＭＲ６４とを視標として該表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１と抵抗ＭＲ６４とに電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置する表面実装タイプのドライバＩＣ５を特定し易くなる。

【６４４１】

すなわち、管理者が周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘを目視する際に、パチンコ機１にて実行される演出の制御に関して重要な電子部品である表面実装タイプのドライバＩＣ５の近傍（電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置される）に実装されてそれぞれ表面実装タイプのドライバＩＣ５に周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによって電気的に接続する、水色の外装を有する表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１と、黒色の外装を有する表面実装タイプの抵抗ＭＲ６４と、を、表面実装タイプのドライバＩＣ５が実装されている位置を示す視標のように作用させることができ、管理者は、周辺制御基板１５１０において表面実装タイプのドライバＩＣ５が改変されるような不正が行われた場合であっても、複数の電子部品の中から表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１と、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６４と、を視標として表面実装タイプのドライバＩＣ５を容易に特定して周辺制御基板１５１０に対する不正が行われたか否かを容易に判別することができるようになる。これ

により、周辺制御基板１５１０に実装される電子部品が改変されるような不正を抑制することが可能となってパチンコ機１のセキュリティの向上を図ることができるし、不正が行われた場合であっても不正が行われたことをすぐに発見することができ、遊技者に不利益を与えない。

【６４４２】

なお、上記した例では同種（機能が同じ）の電子部品を表面実装タイプのドライバＩＣ５に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置して周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによって表面実装タイプのドライバＩＣ５と電気的に接続させるものを示したが、異なる（機能が異なる）電子部品を表面実装タイプのドライバＩＣ５に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置して周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによって表面実装タイプのドライバＩＣ５と電気的に接続させるものであってもよい。例えば、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１と、表面実装タイプのコンデンサと、を黒色の外装を有する表面実装タイプのドライバＩＣ５に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置して周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによって表面実装タイプのドライバＩＣ５と電気的に接続させるようにしてもよい。また、この場合には表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１については第１特定色（例えば水色）の外装を有するものとし、表面実装タイプのコンデンサについて第２特定色（例えば茶色）を有するものにすればよく、この場合にも黒色の外装で構成されている電子部品が多く実装されている周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘにおいて少数しか設けられていない第１特定色と第２特定色とを見つけ出しやすくなり、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１と表面実装タイプのコンデンサとを視標として表面実装タイプのドライバＩＣ５を特定し易くなる。

【６４４３】

また、図４３１（Ｅ）に示すように水色の外装を有する表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１と、黒色の外装を有する表面実装タイプの抵抗ＭＲ６４と、を表面実装タイプのドライバＩＣ５の４つの辺のうちの同一の辺の側方に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置してドライバＩＣ５の同一の辺に設けられる接続端子にそれぞれを周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによって表面実装タイプのドライバＩＣ５と電気的に接続させるものに限らず、図４３１（Ｆ）に示すように、水色の外装を有する表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１と、黒色の外装を有する表面実装タイプの抵抗ＭＲ６３と、を表面実装タイプのドライバＩＣ５の４つの辺のうちの異なる辺の側方に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置してドライバＩＣ５の異なる辺に設けられる接続端子にそれぞれを周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによって表面実装タイプのドライバＩＣ５と電気的に接続させるようにしてもよい。この場合には、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１と抵抗ＭＲ６３との異なる外装色を有する同種（機能が同じ）の電子部品が表面実装タイプのドライバＩＣ５の４つの辺のうちの異なる辺の側方に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置して周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによって電気的に接続されるため、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１と抵抗ＭＲ６３とが周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘ上で目に付きやすくなり、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１と抵抗ＭＲ６３とを見つけ出しやすくなるため、この表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１と抵抗ＭＲ６３とを視標として該表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１と抵抗ＭＲ６３とに電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置する表面実装タイプのドライバＩＣ５を特定し易くなる。

【６４４４】

また、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１の外装には少なくとも特定色（この例では水色）を有するものであればよく、特定色と特定色以外の色とを含む複数の色の外装を有するものであってもよいし、表面実装タイプの抵抗６４、６３の外装には少

なくとも特定色とは異なる色（この例では黒色）を有するものであればよく、複数の色の外装を有するものであってもよい。つまり、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１の外装と表面実装タイプの抵抗６４、６３の外装との一方又は両方は複数の色を含むように構成されていてもよい。ただし、表面実装タイプの抵抗６４、６３の外装には、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１の特定色を含まず、且つ表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１の外装には表面実装タイプの抵抗６４、６３の外装の色を含まないことが望ましい。このように構成することにより、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１と表面実装タイプの抵抗６４、６３との一方にのみ用いられる色によって表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１と表面実装タイプの抵抗６４、６３とを特定することが可能になる。

【６４４５】

また、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１の外装が有する特定色は周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘにおいて他の電子部品の外装には用いられないものとしてもよい。この場合には、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１の外装のみが有する特定色によって表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０および抵抗ＭＲ６１を見つけ出すことが容易になる。

【６４４６】

また、上記したように主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおいて、表面実装タイプのＩＣ１に電子部品実装不可領域Ａを挟んで隣接配置し、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによって表面実装タイプのＩＣ１に電気的に接続するコンデンサＭＣ１は、表面実装タイプのＩＣ１に対して１個だけしか設けられていないものの、２か所以上の折り曲げ部を有するようにフォーミングされたリード（本例では２か所の折り曲げ部を有するようにフォーミングされたリード）を基板に挿入してハンダ付けされるリードタイプの電子部品であるため、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおいて表面実装タイプの電子部品よりも突出量が大きくされ、さらに青色（水色や黄緑色、緑色などでもよい）の外装を有し、且つ当該青色が光沢を有する（又は光沢が強い）ように構成されるため、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘ上で目に付きやすくなっている。そのため、主制御基板１３１０においてはコンデンサＭＣ１を見つけ出しやすくなり、このコンデンサＭＣ１を視標として該コンデンサＭＣ１に電子部品実装不可領域Ａを挟んで隣接配置する表面実装タイプのＩＣ１を特定し易くなる。

【６４４７】

これにより、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおいてセキュリティ上重要な表面実装タイプのＩＣ１が、コンデンサＭＣ１に電子部品実装不可領域Ａを挟んで隣接配置することを知っている管理者は、コンデンサＭＣ１を視標として表面実装タイプのＩＣ１を特定することが可能である一方、コンデンサＭＣ１に電子部品実装不可領域Ａを挟んで隣接配置する表面実装タイプのＩＣ１がセキュリティ上重要な電子部品であることを知らない者（主制御基板１３１０を不正に改変しようとする者）には、コンデンサＭＣ１に注目させてこのコンデンサＭＣ１が改変されるような不正を行わせるように仕向けることで、重要な電子部品である表面実装タイプのＩＣ１が改変されることを抑制することができるようになる。

【６４４８】

このように本例では周辺制御基板１５１０と主制御基板１３１０とで重要な電子部品が不正に改変されることを抑制するための手段を異ならせるため、主制御基板１３１０と周辺制御基板１５１０との一方において重要な電子部品を特定された場合であっても他方の基板においては重要な電子部品を特定され難くなる。すなわち、重要な電子部品に対する不正な改変が多数の基板に亘ること（被害の拡大）を抑制することができる。

【６４４９】

［電子部品の不正な改変を抑制する構成の変形例５］

次に、電子部品の不正な改変を抑制する構成の変形例５について説明する。電子部品の

不正な改変を抑制する構成の変形例５では、重要な部品に電子部品実装不可領域を挟んで複数の特定電子部品を配置することにより重要な部品に対する不正を抑制するようになっている。以下に説明する。

【６４５０】

図４３２（Ｇ）に示すように本例の周辺制御基板１５１０は、実装面（表面）１５１０ｘにおいて、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０及び抵抗ＭＲ６１や、抵抗ＭＲ６３、抵抗ＭＲ６４が表面実装タイプのドライバＩＣ５に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置し、それぞれ周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによって表面実装タイプのドライバＩＣ５と電気的に接続する。

【６４５１】

また、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０及び抵抗ＭＲ６１や、抵抗ＭＲ６３、抵抗ＭＲ６４は、表面実装タイプのドライバＩＣ５の４つの辺のうちの異なる辺の側方に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置して周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによってドライバＩＣ５の異なる辺に設けられる接続端子にそれぞれを電気的に接続される。本例では、図４３２（Ｇ）の表面実装タイプのドライバＩＣ５の図示左辺側に、表面実装タイプのドライバＩＣ５の図示左辺に設けられる接続端子と周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによって電気的に接続するように表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０、抵抗ＭＲ６１、抵抗ＭＲ６４が設けられるとともに、表面実装タイプのドライバＩＣ５の図示下辺側に、表面実装タイプのドライバＩＣ５の図示下辺に設けられる接続端子と電気的に接続するように表面実装タイプの抵抗ＭＲ６３が設けられる。

【６４５２】

このように、表面実装タイプの抵抗（抵抗ＭＲ６０、抵抗ＭＲ６１、抵抗ＭＲ６３、抵抗ＭＲ６４）を表面実装タイプのドライバＩＣ５の４つの辺のうちの異なる辺の側方に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置して周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによって表面実装タイプのドライバＩＣ５と電気的に接続させるため、表面実装タイプのドライバＩＣ５を囲う（表面実装タイプの抵抗（抵抗ＭＲ６０、抵抗ＭＲ６１、抵抗ＭＲ６３、抵抗ＭＲ６４）を表面実装タイプのドライバＩＣ５の４つの辺のうちの向かい合う辺の側方に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置することで表面実装タイプの抵抗（抵抗ＭＲ６０、抵抗ＭＲ６１、抵抗ＭＲ６３、抵抗ＭＲ６４）によって表面実装タイプのドライバＩＣ５を挟み込むものでもよい）ように表面実装タイプの抵抗（抵抗ＭＲ６０、抵抗ＭＲ６１、抵抗ＭＲ６３、抵抗ＭＲ６４）という同種（機能が同じ）の電子部品が設けられるようになり、表面実装タイプの抵抗（抵抗ＭＲ６０、抵抗ＭＲ６１、抵抗ＭＲ６３、抵抗ＭＲ６４）を特定することによって管理者は、表面実装タイプの抵抗（抵抗ＭＲ６０、抵抗ＭＲ６１、抵抗ＭＲ６３、抵抗ＭＲ６４）を視標として表面実装タイプのドライバＩＣ５を容易に特定することが可能になるため、周辺制御基板１５１０において表面実装タイプのドライバＩＣ５が改変されるような不正が行われた場合であっても周辺制御基板１５１０に対する不正が行われたか否かを容易に判別することができるようになる。つまり、管理者は、表面実装タイプの抵抗（抵抗ＭＲ６０、抵抗ＭＲ６１、抵抗ＭＲ６３、抵抗ＭＲ６４）を特定することにより、この表面実装タイプの抵抗（抵抗ＭＲ６０、抵抗ＭＲ６１、抵抗ＭＲ６３、抵抗ＭＲ６４）に囲われる（挟み込まれる）表面実装タイプのドライバＩＣ５を直ぐに特定することができるようになる。これにより、周辺制御基板１５１０に実装される電子部品が改変されるような不正を抑制することが可能となってパチンコ機１のセキュリティの向上を図ることができるし、不正が行われた場合であっても不正が行われたことをすぐに発見することができ、遊技者に不利益を与えない。なお、表面実装タイプのドライバＩＣ５の４つの辺のうちの異なる２以上の辺の側方のそれぞれに抵抗ＭＲ６０を設けて周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによって表面実装タイプのドライバＩＣ５と電気的に接続させるものであればよい。

【６４５３】

また、本例では表面実装タイプのドライバＩＣ５の４つの辺のうちの異なる辺の側方に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置してドライバＩＣ５の異なる辺に設けられる接続端子に周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによってそれぞれを電気的に接続される表面実装タイプの抵抗（抵抗ＭＲ６０、抵抗ＭＲ６１、抵抗ＭＲ６３、抵抗ＭＲ６４）は、黒色の外装を有する表面実装タイプのドライバＩＣ５とは異なる水色（青色や黄緑色等でもよい）の外装を有するように構成される。上記したように、本例の周辺制御基板１５１０に実装される電子部品は、その多く（周辺制御基板１５１０に実装される電子部品の半数以上、なお周辺制御基板１５１０に実装される電子部品のうちの最も多くの割合を占めるものでもよい）が黒色の外装で構成されているため、水色（青色や黄緑色等でもよい）の外装を有する表面実装タイプの抵抗（抵抗ＭＲ６０、抵抗ＭＲ６１、抵抗ＭＲ６３、抵抗ＭＲ６４）によって黒色の外装を有する表面実装タイプのドライバＩＣ５を囲う（挟み込む）ことにより、周辺制御基板１５１０において水色の外装を有する表面実装タイプの抵抗（抵抗ＭＲ６０、抵抗ＭＲ６１、抵抗ＭＲ６３、抵抗ＭＲ６４）を見つけ出しやすくなり、この表面実装タイプの抵抗（抵抗ＭＲ６０、抵抗ＭＲ６１、抵抗ＭＲ６３、抵抗ＭＲ６４）を視標として該表面実装タイプの抵抗（抵抗ＭＲ６０、抵抗ＭＲ６１、抵抗ＭＲ６３、抵抗ＭＲ６４）に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置する表面実装タイプのドライバＩＣ５を特定し易くなる。

【６４５４】

なお、表面実装タイプの抵抗（抵抗ＭＲ６０、抵抗ＭＲ６１、抵抗ＭＲ６３、抵抗ＭＲ６４）の外装には少なくとも特定色（この例では水色）を有するものであればよく、特定色と特定色以外の色とを含む複数の色の外装を有するものであってもよい。このように構成することにより、表面実装タイプの抵抗（抵抗ＭＲ６０、抵抗ＭＲ６１、抵抗ＭＲ６３、抵抗ＭＲ６４）にのみ用いられる色によって表面実装タイプの抵抗（抵抗ＭＲ６０、抵抗ＭＲ６１、抵抗ＭＲ６３、抵抗ＭＲ６４）を特定することが可能になる。また、表面実装タイプの抵抗（抵抗ＭＲ６０、抵抗ＭＲ６１、抵抗ＭＲ６３、抵抗ＭＲ６４）の外装が有する特定色は周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘにおいて他の電子部品の外装には用いられないものとしてもよい。この場合には、表面実装タイプの抵抗（抵抗ＭＲ６０、抵抗ＭＲ６１、抵抗ＭＲ６３、抵抗ＭＲ６４）の外装のみが有する特定色によって表面実装タイプの抵抗（抵抗ＭＲ６０、抵抗ＭＲ６１、抵抗ＭＲ６３、抵抗ＭＲ６４）を見つけ出すことが容易になる。

【６４５５】

また、黒色の外装を有する表面実装タイプのドライバＩＣ５を囲う（挟み込む）表面実装タイプの抵抗（抵抗ＭＲ６０、抵抗ＭＲ６１、抵抗ＭＲ６３、抵抗ＭＲ６４）のうち少なくとも一つについて水色（青色や黄緑色等でもよい）等の特定色の外装を有するように構成すればよく、ドライバＩＣ５と同様の黒色の外装を有する表面実装タイプの抵抗と水色（青色や黄緑色等でもよい）等の特定色の外装を有する抵抗とによって黒色の外装を有する表面実装タイプのドライバＩＣ５を囲う（挟み込む）ようにしてもよい。この場合にも同種（機能が同じ）の電子部品でありながらも異なる色の外装を有する抵抗によってドライバＩＣ５を囲う（挟み込む）ことにより、周辺制御基板１５１０において水色等の特定色の外装を有する表面実装タイプの抵抗と黒色の外装を有する表面実装タイプの抵抗とを見つけ出しやすくなり、この表面実装タイプの抵抗を視標として該表面実装タイプの抵抗に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置する表面実装タイプのドライバＩＣ５を特定し易くなる。

【６４５６】

また、黒色の外装を有する表面実装タイプのドライバＩＣ５を囲う（挟み込む）表面実装タイプの抵抗（抵抗ＭＲ６０、抵抗ＭＲ６１、抵抗ＭＲ６３、抵抗ＭＲ６４）として、第１特定色（例えば水色）の外装を有する表面実装タイプの抵抗（例えば抵抗ＭＲ６０）と、第１特定色とは異なる第２特定色（例えば茶色）の外装を有する表面実装タイプの抵抗（例えばＭＲ６３）と、を設けるようにしてもよい。この場合にも同種（機能が同じ）の電子部品でありながらも異なる色の外装を有する抵抗によってドライバＩＣ５を囲う（

挟み込む）ことにより、周辺制御基板１５１０において第１特定色の外装を有する表面実装タイプの抵抗と第２特定色の外装を有する表面実装タイプの抵抗とを見つけ出しやすくなり、この表面実装タイプの抵抗（例えば抵抗ＭＲ６０、６３）を視標として該表面実装タイプの抵抗に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置する表面実装タイプのドライバＩＣ５を特定し易くなる。

【６４５７】

なお、上記した例では同種（機能が同じ）の電子部品を表面実装タイプのドライバＩＣ５を囲う（挟み込む）ように設けるものを示したが、異なる電子部品によって表面実装タイプのドライバＩＣ５を囲う（挟み込む）ように設けるものであってもよい。例えば、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０と、表面実装タイプのコンデンサと、を黒色の外装を有する表面実装タイプのドライバＩＣ５を囲う（挟み込む）ように配置してそれぞれを表面実装タイプのドライバＩＣ５に周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによって表面実装タイプのドライバＩＣ５と電気的に接続させるようにしてもよい。また、この場合には表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０については第１特定色（例えば水色）の外装を有するものとし、表面実装タイプのコンデンサについて第２特定色を有するものとしてもよく、この場合にも黒色の外装で構成されている電子部品が多く実装されている周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘにおいて少数しか設けられていない第１特定色と第２特定色とを見つけ出しやすくなり、表面実装タイプの抵抗ＭＲ６０と表面実装タイプのコンデンサとを視標として表面実装タイプのドライバＩＣ５を特定し易くなる。

【６４５８】

また、上記したように主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおいて、表面実装タイプのＩＣ１に電子部品実装不可領域Ａを挟んで隣接配置し、周辺制御基板１５１０の実装面（表面）１５１０ｘに形成される配線パターンによって表面実装タイプのＩＣ１に電気的に接続するコンデンサＭＣ１は、表面実装タイプのＩＣ１に対して１個だけ設けられるものであり、表面実装タイプのＩＣ１を囲う（挟み込む）ようには設けられていないものの、２か所以上の折り曲げ部を有するようにフォーミングされたリード（本例では２か所の折り曲げ部を有するようにフォーミングされたリード）を基板に挿入してハンダ付けされるリードタイプの電子部品であるため、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおいて表面実装タイプの電子部品よりも突出量が大きくされ、さらに青色（水色や黄緑色、緑色などでもよい）の外装を有し、且つ当該青色が光沢を有する（又は光沢が強い）ように構成されるため、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘ上で目に付きやすくなっている。そのため、主制御基板１３１０においてはコンデンサＭＣ１を見つけ出しやすくなり、このコンデンサＭＣ１を視標として該コンデンサＭＣ１に電子部品実装不可領域Ａを挟んで隣接配置する表面実装タイプのＩＣ１を特定し易くなる。

【６４５９】

これにより、主制御基板１３１０の実装面（表面）１３１０ｘにおいてセキュリティ上重要な表面実装タイプのＩＣ１が、コンデンサＭＣ１に電子部品実装不可領域Ａを挟んで隣接配置することを知っている管理者は、コンデンサＭＣ１を視標として表面実装タイプのＩＣ１を特定することが可能である一方、コンデンサＭＣ１に電子部品実装不可領域Ａを挟んで隣接配置する表面実装タイプのＩＣ１がセキュリティ上重要な電子部品であることを知らない者（主制御基板１３１０を不正に改変しようとする者）には、コンデンサＭＣ１に注目させてこのコンデンサＭＣ１が改変されるような不正を行わせるように仕向けることで、重要な電子部品である表面実装タイプのＩＣ１が改変されることを抑制することができるようになる。

【６４６０】

このように本例では周辺制御基板１５１０と主制御基板１３１０とで重要な電子部品が不正に改変されることを抑制するための手段を異ならせるため、主制御基板１３１０と周辺制御基板１５１０との一方において重要な電子部品を特定された場合であっても他方の基板においては重要な電子部品を特定され難くなる。すなわち、重要な電子部品に対する

不正な改変が多数の基板に亘ること（被害の拡大）を抑制することができる。
【６４６１】
なお、上記実施例では、周辺制御基板１５１０に実装された＋１２Ｖ系ドライバ回路を構成する電子部品、具体的にドライバＩＣ５に接続される抵抗ＭＲ６０やＭＲ６１を視標に用いる場合について説明したが、他の機能を構成する回路の一部の電子部品を、支障のない範囲でドライバＩＣ５に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで隣接配置し、これをドライバＩＣ５の視標に利用するようにしてもよい。つまり、重要な電子部品を見つけるうえで視標に利用する電子部品は、必ずしも共通の機能を実現するために構成された回路の一部の電子部品でなくてもよく、視標に都合のよい電子部品を利用すればよい。その場合は、配線の引き回しなどを考慮すると、隣接する他の機能を構成する回路の一部の電子部品を用いるのが望ましい。電子部品は抵抗以外にも、コンデンサやコイル、ダイオードでもよい。
【６４６２】
また、上記実施例では、周辺制御基板１５１０に実装された＋１２Ｖ系ドライバ回路について説明したが、ドライバＩＣ５をＭＰＵとは別基板に実装して、同じ基板ボックス内に収納される＋１２Ｖ系ドライバ回路基板としてもよい。つまり、基板ボックスに収納される複数の基板同士を、ハーネスやコネクタを用いて接続するような形態でもよい。
【６４６３】
また、重要な電子部品を構成とする回路（例えば、可動体を駆動モータを用いて制御する回路の他、可動体を駆動ソレノイドを用いて制御する回路や、スピーカを制御する回路や発光体を制御する回路、あるいは、パチンコ機１で使用される電源を生成する回路等）ごとに視標に利用する電子部品を選択して設けるようにしてもよい。重要な電子部品を構成とする回路が同一の基板に複数回路設けられている場合には、回路単位で視標を設けるようにするとよい。あるいは、重要な電子部品を構成とする回路が基板ごとに設けられている場合には、基板単位で視標を設けるようにしてもよいし、基板ボックスに収納されるいずれかの基板に視標を設け、基板ボックス単位にしてもよい。できるだけ多くの基板や基板ボックスに設けるのが望ましい。いく箇所にも設けただけ見落とす可能性も大きく見落とす可能性に期待が持てる。
【６４６４】
また、上記実施例では、視標となる電子部品を含む重要な電子部品を構成とする回路は、基板ボックスが遊技機に取り付けられた状態で基板ボックスの外部から視認できる面に実装していたが、視認できない面に実装してもよい。あるいは、視標に用いる電子部品を、重要な電子部品が実装される面とは反対側の面に実装するようにしてもよい。一の基板とその他の基板とで、一の面以外に位置の面とは反対側の面に視標を設けておくようにすることで、見落とす可能性があり見落とす可能性に期待が持てる。なお、上記実施例では、視標となる電子部品を重要な電子部品の他、多数の電子部品と同一の面に実装した場合、つまり実装した面の実装密度が高い状態では視標となる電子部品の外装色につや無しの黄緑色の抵抗を採用したことにより、その他、外装色が黒色の多数の電子部品に取り囲まれる中、見落とす可能性があり、一方、視標となる電子部品を重要な電子部品とは反対側の面に実装した場合、つまり実装した面の実装密度が低い状態であっても、レジストの色（緑色）に近い色にしておくことで見落とす可能性に期待が持てる。
【６４６５】
また、重要な電子部品と視標となる電子部品以外の電子部品についても、視標となる電子部品の近くに配置するようにして可能な限り紛れ込ますようにするとよい。このような場合では、視標にした電子部品の大きさに揃えるようにするのが望ましい。なお、意識的に電子部品を密に配置にする場合、電子部品の識別情報ともなる部品番号を電子部品の近くにシルク印刷することが難しくなる。このような場合は別途電子部品が実装された面と同一の面に部品番号領域を設け、そこにまとめてシルク印刷するとよい。電子部品が実装された領域を囲み線で囲い、部品番号領域には実装した電子部品の並び向きに一致させて部品番号をまとめてシルク印刷する。部品番号領域についても囲み線で囲い、それぞれの

囲み線で囲んだ領域同士を線で結んだり、あるいはそれぞれの領域近くに「Ａ」であるとか一文字のアルファベットで示される共通記号を印刷したりなどして、紐付けるようにしておくとよい。

【６４６６】

また、上記実施例では、視標として表面実装タイプの抵抗を採用したが、外装色が黄緑色の他、外装には何も記されていない表面実装タイプの抵抗にした。一般的に表面実装タイプの抵抗の外装には抵抗値が記されているが、本発明では管理者のみが知りうることで、目立たせないようにするためにも外装は外装色一色のみにしている。

【６４６７】

また、重要な電子部品を構成とする回路を実装する基板では、視標にした電子部品が実装されている位置を管理者が特定し易いように、例えば、遊技機に対して垂直に取り付けられる基板では、基板の上側半分の領域内に実装するようにしたり、あるいは取り付けた状態では見えない側の面のほうに実装するようにしている。こうすることで時間短縮になる。

【６４６８】

また、重要な電子部品を構成とする回路ごとに視標に利用する電子部品の外装色を異ならせるようにしてもよく、例えば＋１２Ｖ系ドライバ回路の視標にする電子部品の外装色についてはつや無しの黄緑色で、スピーカを制御する回路の視標にする電子部品の外装色はつや無しの水色にするようにしておけば、可動体の可動範囲がおかしい場合には、外装色が黄緑色の視標にした電子部品を探しあてればよく、異常の症状から視標の色を特定することができる。仮に黄緑色の外装色の電子部品が実装されていれば、重要な電子部品を含む回路の故障とも考えられるし、実装されているはずの視標とした電子部品ではなく別の色の電子部品が実装されていれば、悪意によるものだと判断することができる。なお、同じ機能の回路を複数回路備える場合においては、基板の同一面、あるいは両側の面に分けて実装しても、視標にする電子部品の外装色は同じ色の外装色にしておくとよい。

【６４６９】

また、上記実施例では、ＭＰＵが実装されている周辺制御基板１５１０について説明したが、ドライバＩＣ５をＭＰＵとは別基板に実装した＋１２Ｖ系ドライバ回路基板にして、発明を適用するようにしてもよい。＋１２Ｖ系ドライバ回路基板は、周辺制御基板１５１０と、駆動モータとの間に位置する中継基板としても機能し、可動体を複数備える遊技機では複数の駆動モータが必要となり、一つの駆動モータに対しドライバ回路が一回路設けられる。そのため、各種信号を中継するために複数個のコネクタも実装されている。コネクタが抜き差しされるときには基板がたわむなど、基板に実装されている各種電子部品の接続端子にはストレスが生じる。これを避けるため重要な電子部品を構成とする回路については、可能な限りコネクタの実装位置から離して配置するのが望ましい。上記実施例のドライバＩＣ５のパッケージには、一辺１２端子、計４８端子のＱＦＰを採用しており、四方に１２端子ある端子がそれぞれハンダで固定されるため、前記したストレスに対してさほど気にすることはないが、視標に利用した電子部品である抵抗ＭＲ６０は端子が２つのみであるため、ストレスで剥離を起こさないためにも、遊技機に対して垂直に取付けられる基板に対し、コネクタが端子を水平方向に横並びの状態で実装される場合は、コネクタの下方にドライバＩＣ５を実装し、さらにドライバＩＣ５の下方の辺のさらに下方の位置に、ドライバＩＣ５との間に電子部品実装不可領域Ｂを挟んで抵抗ＭＲ６０を隣接配置するとよい。仮にさらにその下方に同様なコネクタが実装されている場合は、その他のドライバＩＣもしくはドライバＩＣに相当するその他の電子部品、例えば、計１４端子以上を有する集積回路を間に挟むとよい。

【６４７０】

また、上記実施例では、周辺制御基板１５１０に実装された＋１２Ｖ系ドライバ回路を構成するドライバＩＣ５に接続される抵抗ＭＲ６０やＭＲ６１を視標に用いる場合について説明したが、主制御基板では重要な電子部品の視標にコンデンサを用い、周辺制御基板１５１０とは異なる機能の電子部品を採用している。このように、一方は抵抗を視標に、

他方はコンデンサを視標にするといった異なる種類の電子部品を各々採用することで、一方を見落とす可能性に期待が持てる

【６４７１】

また、主制御基板で視標としたコンデンサの外装色を、重要な電子部品とその周辺に実装される黒色の外装色の電子部品や、実装される基板の面にコーティングされる緑色のソルダーレジストに対し、コントラストを考慮して一般的な外装色である茶系色からつやが有るあざやかな色合いの青色に変更しており、また、コンデンサには周辺制御基板でも使用される表面実装タイプのコンデンサを採用し、その表面実装タイプのコンデンサの両端の電極を、それぞれリードフレームの一方端に直接溶着して他方端を基板に形成したスルーホールに挿入し、基板ボックスに収納される基板を外側から見たとき、視標であるコンデンサがより近い位置で確認できるようにしている。このように、一方は目立ち難く、他方は目立ち易くするといった異なる手段をとることで、一方を見落とす可能性に期待が持てる。

【６４７２】

また、基板ボックスに収納される基板に本実施例に記載されている発明を適用する場合、基板ボックスを開封しなければならない点では改善の余地はあるが、目立ち難くするといった観点からすれば、重要な電子部品を構成とする回路を実装する基板が収納される基板ボックスを、無色透明なものに替えて有色透明なものにしてもよい。例えば、黒色系の有色透明な基板ボックスであれば、前記したように重要な電子部品とその周辺に実装される電子部品の外装は一般的な黒色としているため、視標となる電子部品が実装された位置を特定することが可能な管理者からすれば異なった外装色（つや無し黄緑色）の視標の電子部品に気づき易い。このような場合では、視標とする電子部品の大きさは小さめのほうが望ましい。

【６４７３】

また、重要な電子部品を構成とする回路を実装する基板が収納される基板ボックスの面に通気孔をあけ、わざと視標となる電子部品と重なるように通気孔の位置を配置して、視標とした電子部品の外装色が異なることを判別し難くするようにしてもよい。

【６４７４】

なお、主制御基板は、抽選結果を導出する機能を有する回路が実装されているため、遊技機の取り付けられる基板の中では最も重要な基板であることから、サブ系基板で視標に用いた表面実装タイプの抵抗を、主制御基板では、実装されている外装色が黒色のいずれかの表面実装タイプの抵抗のパッドの外形サイズを、その他の表面実装タイプの抵抗のパッドの外形サイズよりも大きくするようにしてもよい。比較的電流を多く流す回路の抵抗のパッドに適用すれば、パッドからの放熱が促され表面実装タイプの抵抗自体の大きさをワンサイズ、ツーサイズ小さめの大きさにすることができ、トータル的に見れば実装に必要な面積も小さくすることができる。

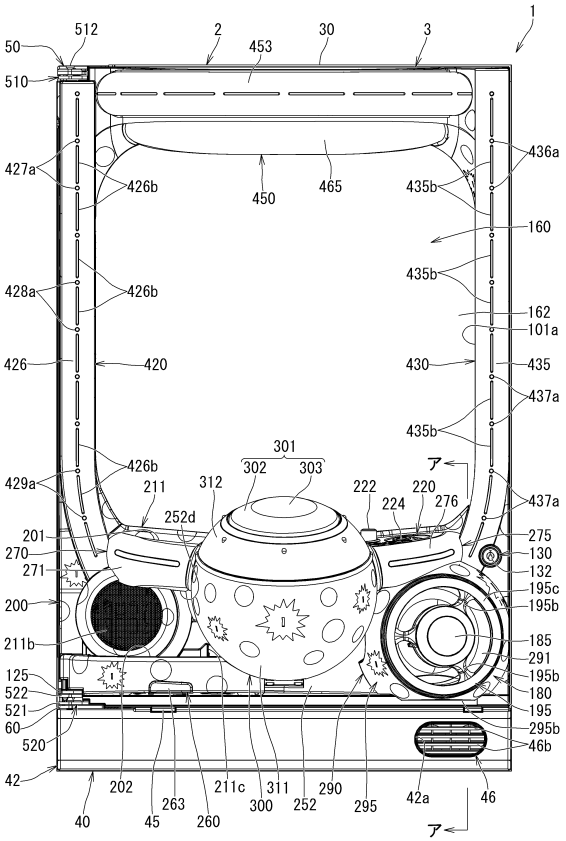
【６４７５】

このように、上記実施例では、サブ系基板（メイン系基板である主制御基板が抽選結果を導出するのに必要な回路が実装されているのに対し、可動体の他、映像や音で抽選結果に対する演出を実行するために必要な回路が実装されている基板）の基板として、周辺制御基板１５１０を例示し、特に周辺制御基板１５１０に実装された＋１２Ｖ系ドライバ回路を構成する電子部品、具体的にドライバＩＣ５（チョッパ型２相バイポーラ駆動のステッピングモータドライバ）に接続される抵抗ＭＲ６０やＭＲ６１（駆動モータに出力される出力電流を適正設定するための外部接続部品）等を視標に用いる場合について説明したが、ドライバＩＣ５に接続されている抵抗のような電子部品であってもドライバＩＣ５そのものの性能に影響を与えるため、抵抗一つ選択するさいにも中には精度が要求されるもの（許容される最小値と最大値との幅が小さいものや、温度の変化に対して変動幅が小さいもの等）もあり、不用意に許容する値の振れ幅が大きな部品を選択した場合には、要求する性能を満足しないために思わぬ不具合（例えば、可動体の動きがぎくしゃくしたり、動作の途中で停止したりする不具合等）を招いてしまう。

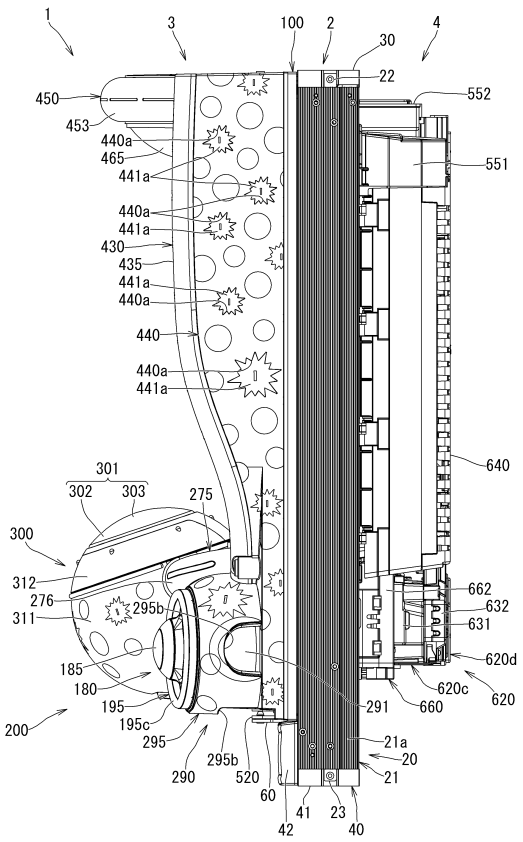
【６４７６】
例示した重要な電子部品であるドライバＩＣ５は、実際には開発者が望む制御形態を満足するためには一種類の電子部品だけで満足させることはできず、そのため電子部品メーカーでは、外見が同じ、端子の機能が共通で端子番号も同じだけど、それ以外の端子については異なる機能を有するシリーズ商品化された電子部品が多く存在する。（例えば、ドライバに内蔵されている出力回路は同じ性能であるにもかかわらず、入力回路がパラレル信号入力タイプのものやシリアル信号入力タイプのものがある）これらは外見も同じであるため、異なる型番のシリーズ商品を不用意に実装してしまうと、可動体が全く動かなかったり、意図しない動きをしたりするおそれがある。
【６４７７】
すなわち、悪意を持って周辺制御基板を複製し、遊技客を装って無用なトラブルを誘発させようとしても視標を探しあて、重要な電子部品とは異なる電子部品が実装されていることが分かれば不利益を被ることを避けることができるし、以降抑止力も働く。
また、本来、遊技機の不正対象が主制御基板であって、周辺制御基板も複製してすり替えたつもりが誤って異なる電子部品を採用したことによって、主制御基板による不正がうまくいかなかったとしても、可動体の動作に異常が認められたさいには視標を探しあて、重要な電子部品とは異なる電子部品が実装されていることが分かれば主制御基板を狙った何らかの不正が、主制御基板にくわだてられていることを察知でき、以降不利益を被ることを避けることができる。
【６４７８】
以上、本発明を実施するための形態について説明したが、上記した実施形態は本技術思想を逸脱しない限り、適宜変更が可能である。すなわち、上記実施形態の一部を変更したものや上記複数の実施形態を組み合わせたものであっても本技術思想を適用可能とされる。
【６４７９】
また、遊技球を用いて遊技を行うパチンコ機の基板と該基板を収納する収納部とについて説明したが、例えば、遊技媒体として遊技球の替わりにコインを用いて遊技を行うスロットマシンにおいて、重要度の高い用途に使用される複数の発光体が実装された発光基板と該発光基板を収納する収納部とに適用することが可能である。
【符号の説明】
【６４８０】
１　パチンコ機
２　外枠
３　扉枠
４　本体枠
５　遊技盤
５ａ　遊技領域
１０００　前構成部材
１１００　遊技パネル
１３００　主制御ユニット
１３１０Ａ　主制御基板
１３２０Ｘ、１３２０Ｙ　成型痕
１３２０Ａ、１３２０Ｂ　カバー体
３０００　裏ユニット
３３００　裏後下演出ユニット
３２１０　裏後上可動装飾体
３２１３　インフォメーション表示器
３２１４　裏後上第一装飾基板
３２１４ａ　ＬＥＤ
３２１９Ｃ　視認部

【図面】

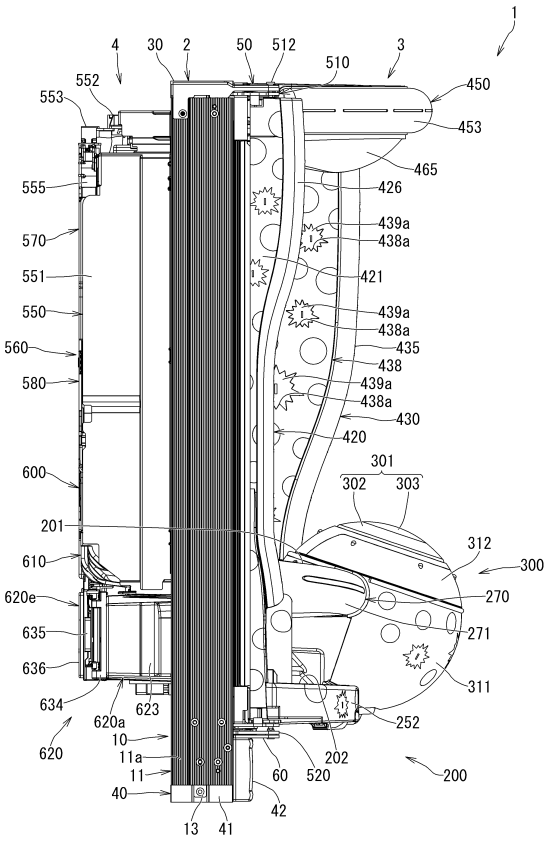
【図１】


1
512
2
453
30
3
50
510
427a
426b
450
465
435b
436a
160
428a
162
101a
426
420
430
435
437a
429a
211
312
222
220
224
276
252d
201
275
270
271
130
132
195c
200
195b
211b
185
291
125
522
521
60
520
180
195
295b
46b
42
202
263
211c
311
290
42a
46
40
45
260
300
252
295
ア

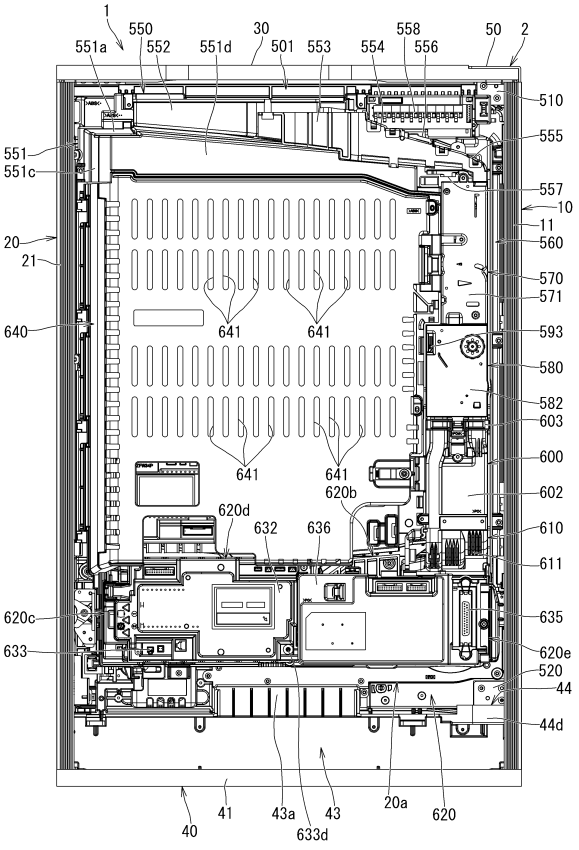
【図２】


1
3
100
2
4
30
22
552
450
453
440a
465
441a
551
430
435
640
301
302
303
275
300
312
276
311
295b
662
632
631
620d
185
180
195
195c
295
620c
620
660
291
200
21a
20
290
295b
520
21
60
41
23
42
40

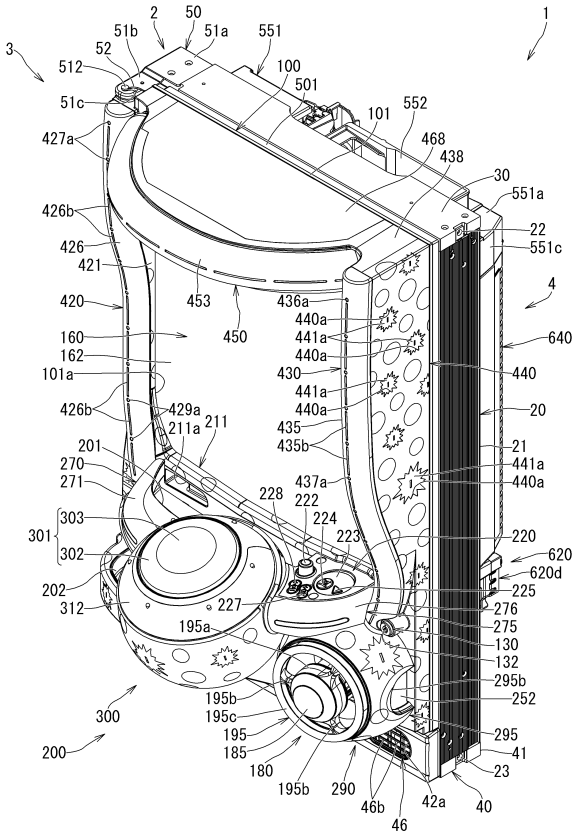
【図３】


1
4
30
2
50
512
510
3
552
450
553
453
465
555
426
439a
438a
570
421
551
550
435
560
438
580
430
420
600
301
302
303
201
312
610
300
620e
270
635
271
636
311
634
623
620a
252
620
10
202
11a
60
520
200
11
40
42
13
41

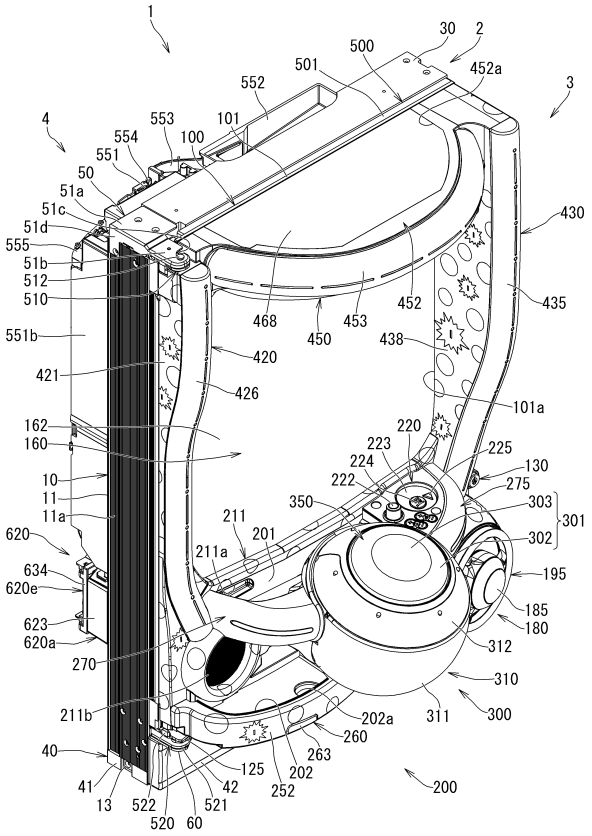
【図４】


1
550
551a
552
551d
30
501
553
554
558
556
50
2
510
551
555
551c
557
10
11
20
560
21
570
571
640
641
641
593
580
582
603
641
641
600
620b
602
620d
632
636
610
611
620c
635
633
620e
520
44
44d
40
41
43a
43
633d
20a
620

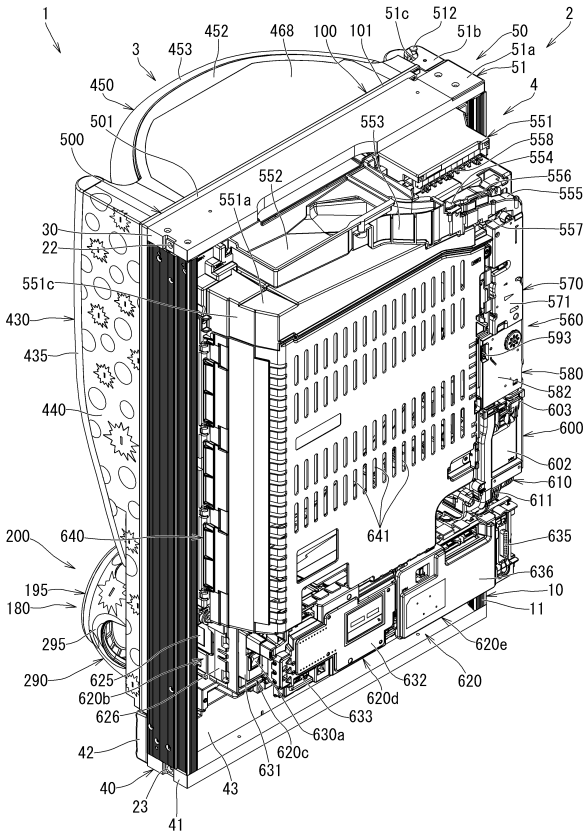
【図５】



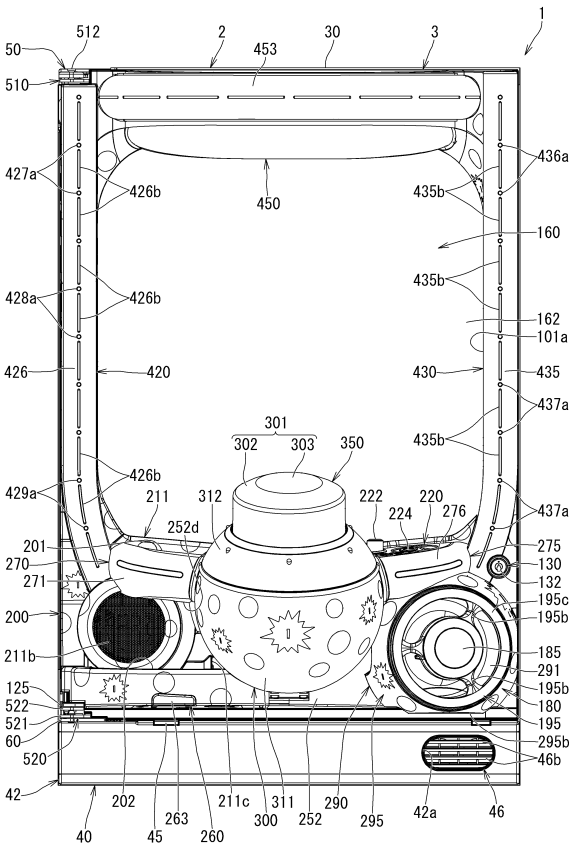
【図６】



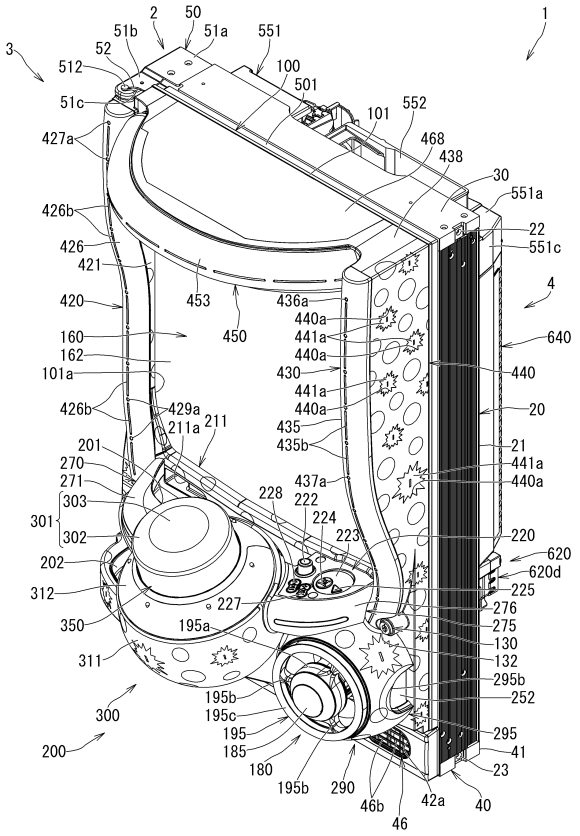
【図７】



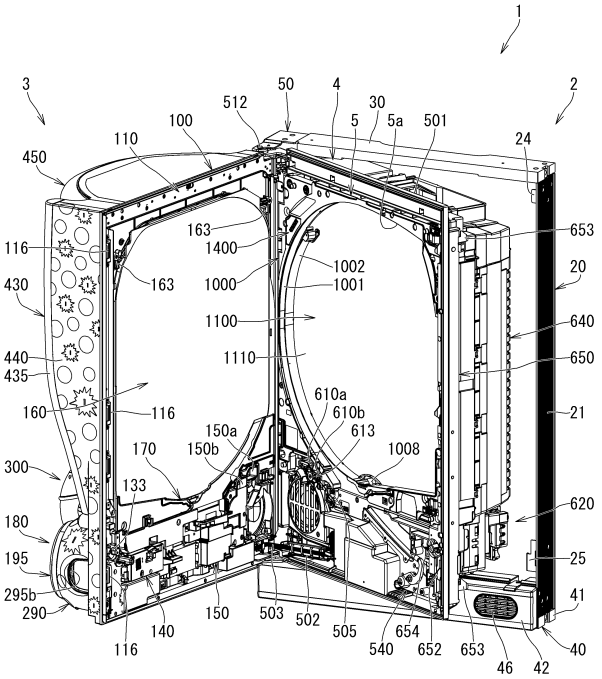
【図８】



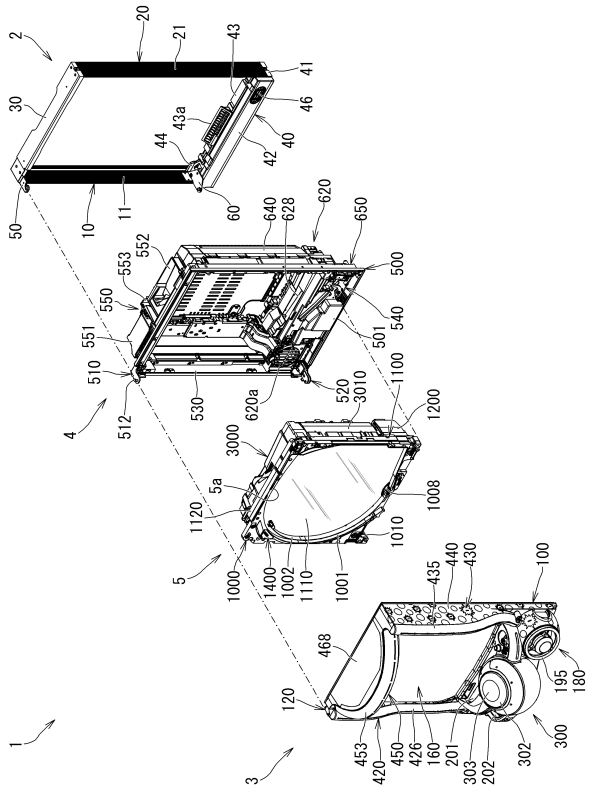
【図９】



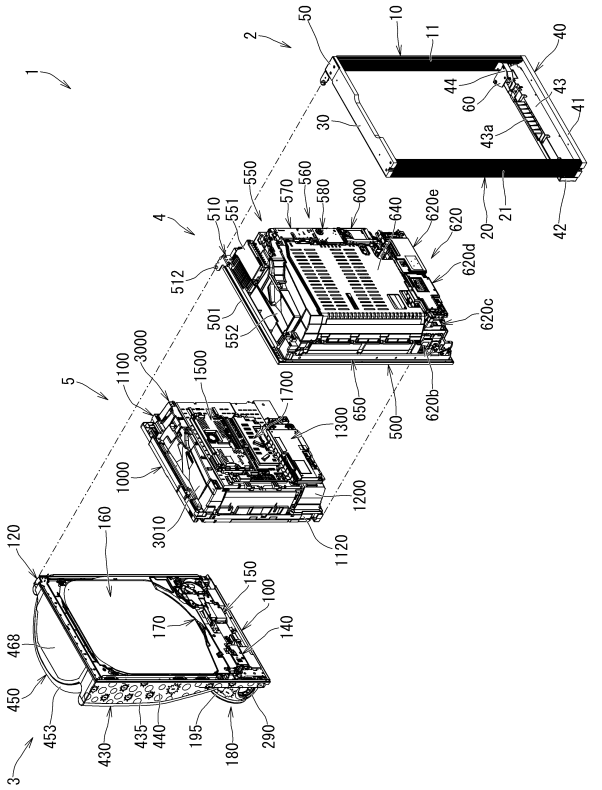
【図１０】



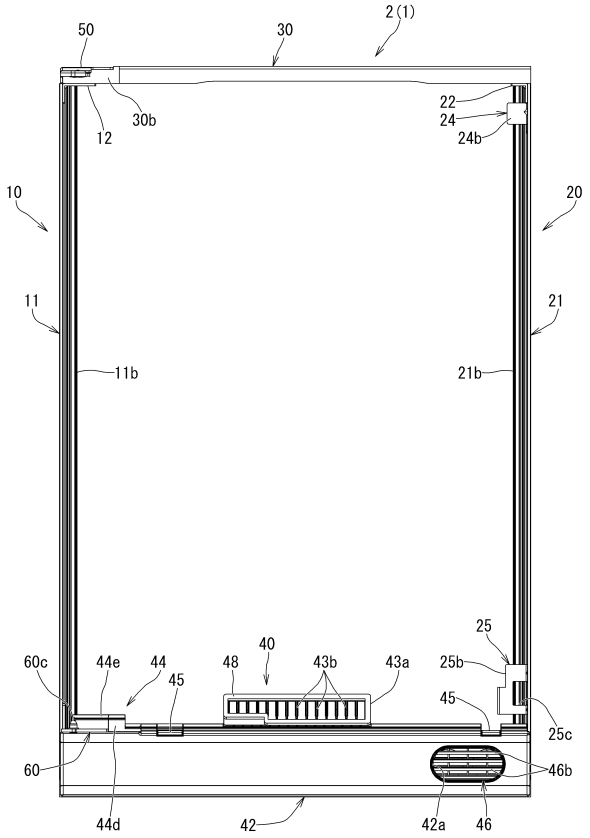
【図１１】



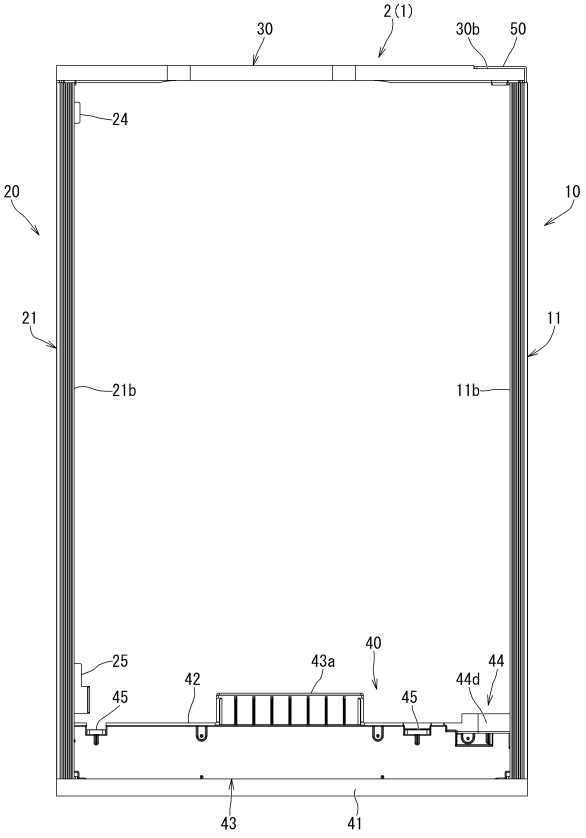
【図１２】



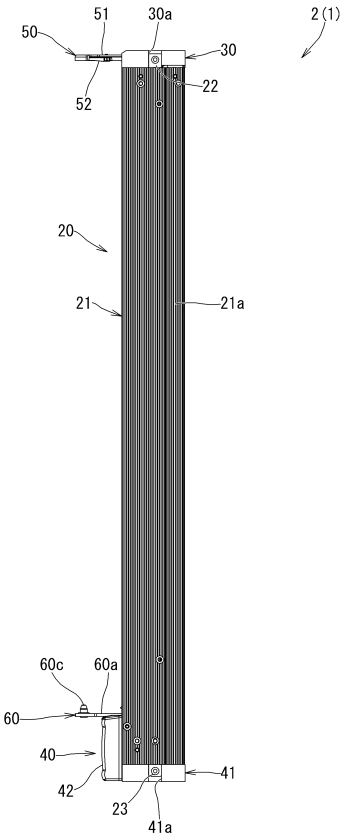
【図１３】



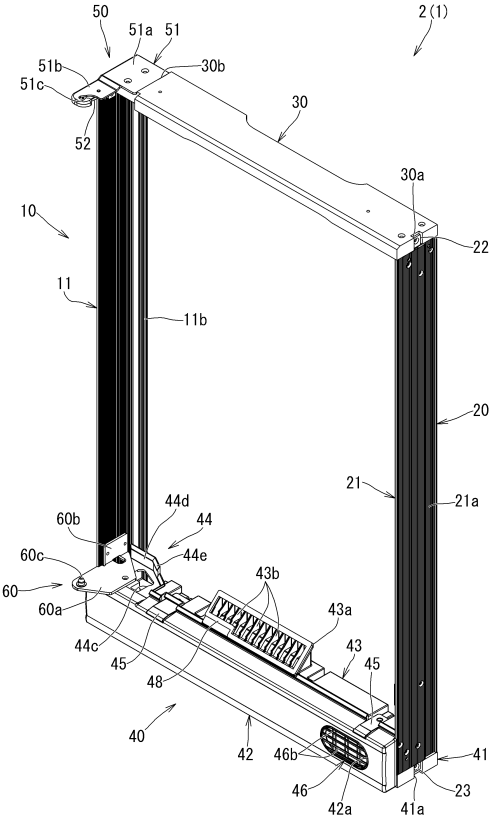
【図１４】



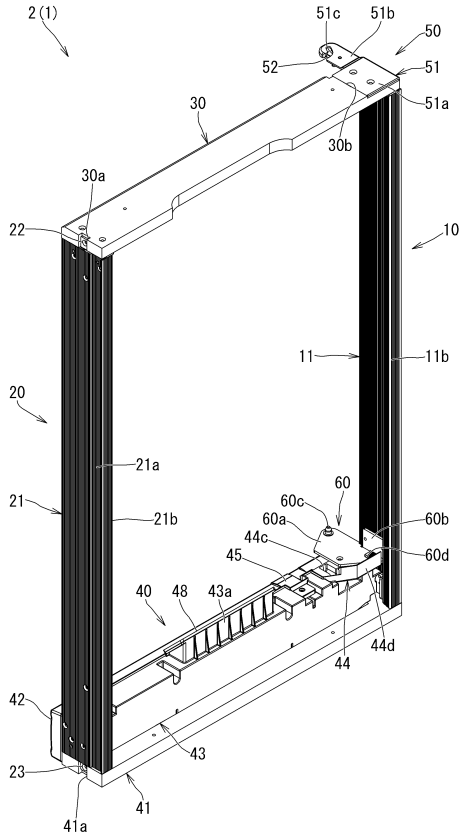
【図１５】



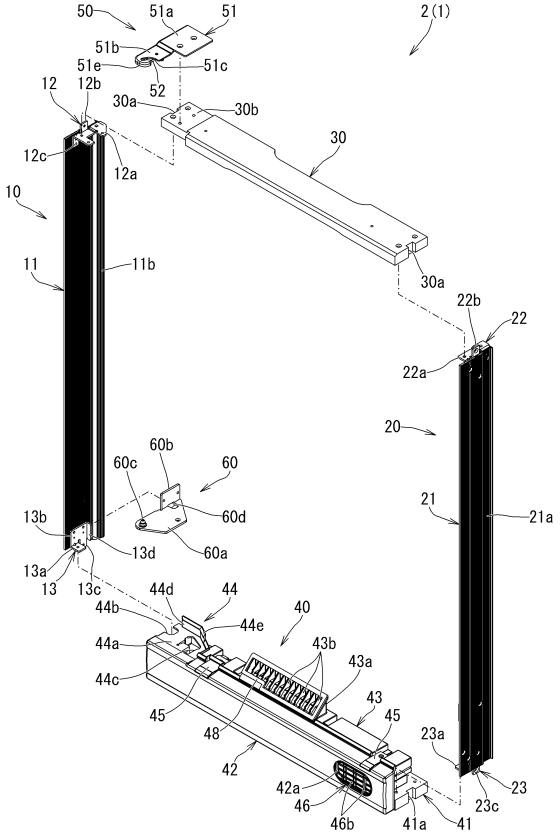
【図１６】



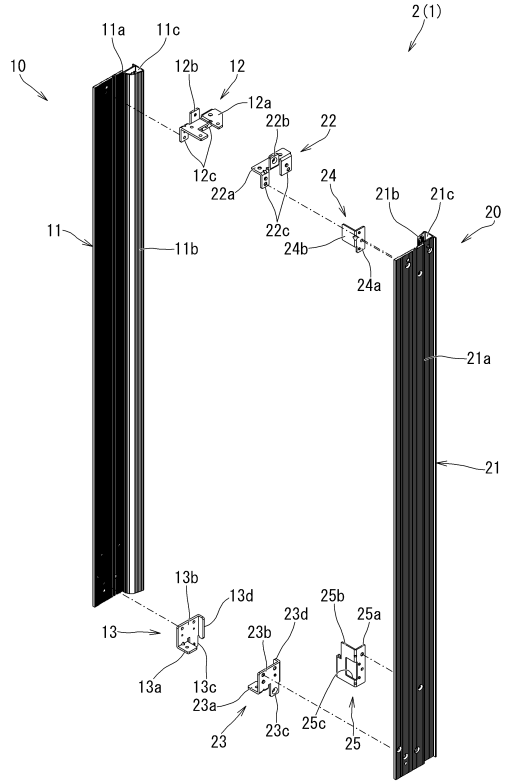
【図１７】



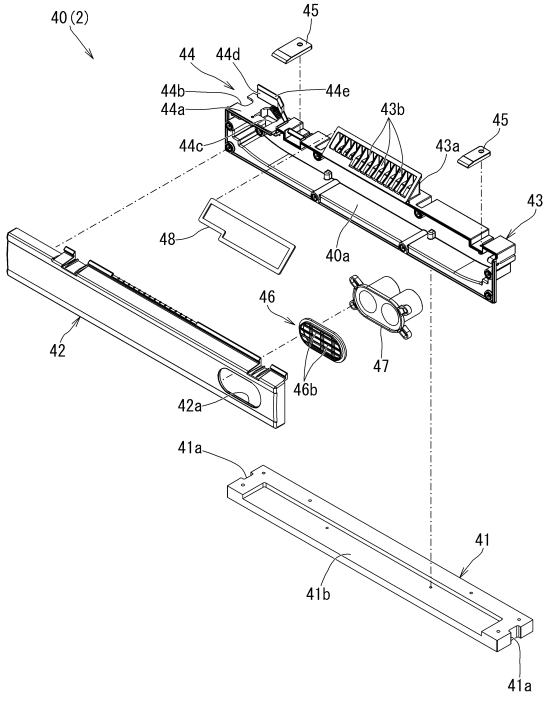
【図１８】



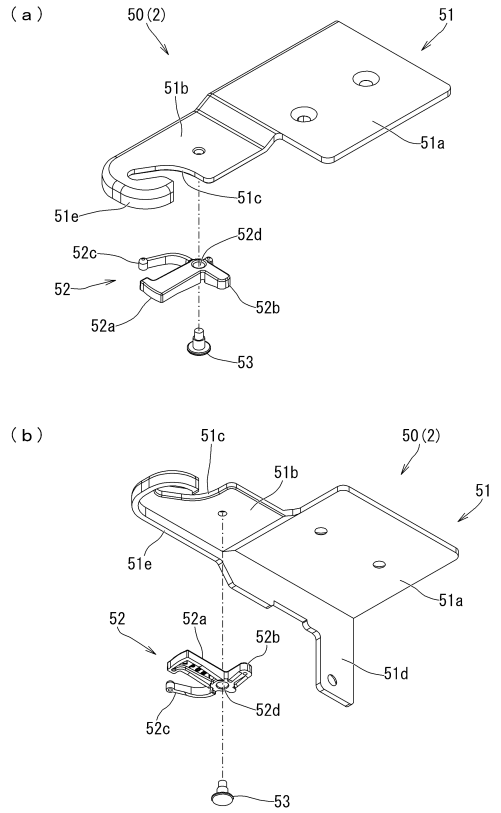
【図１９】



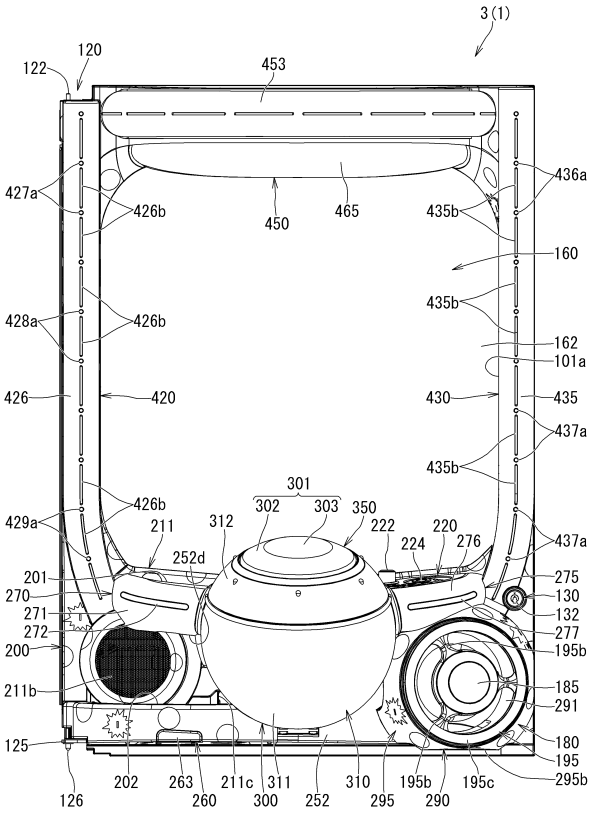
【図２０】



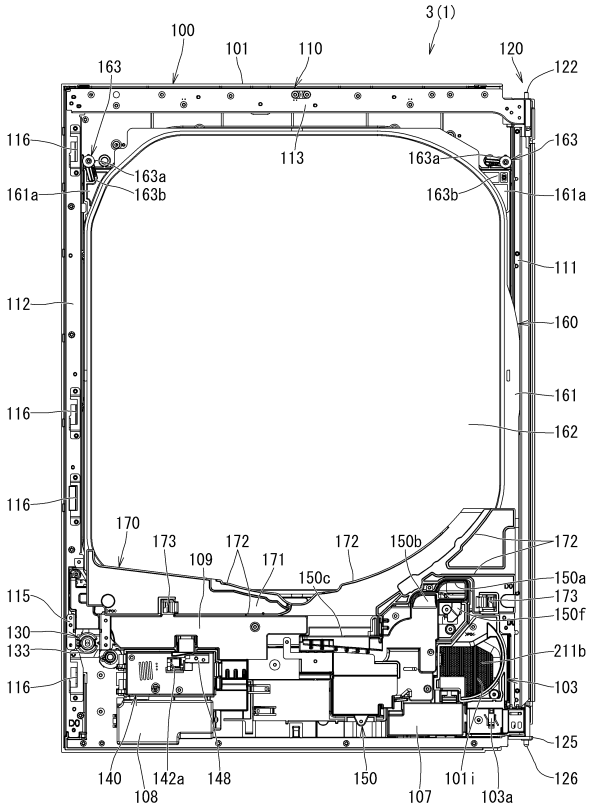
【図２１】



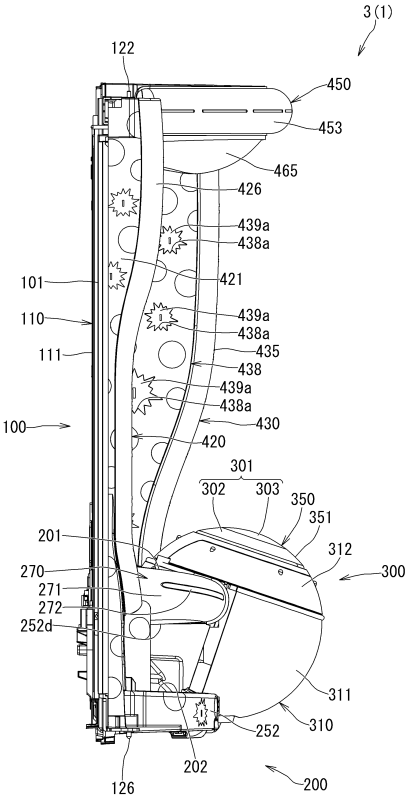
【図２２】



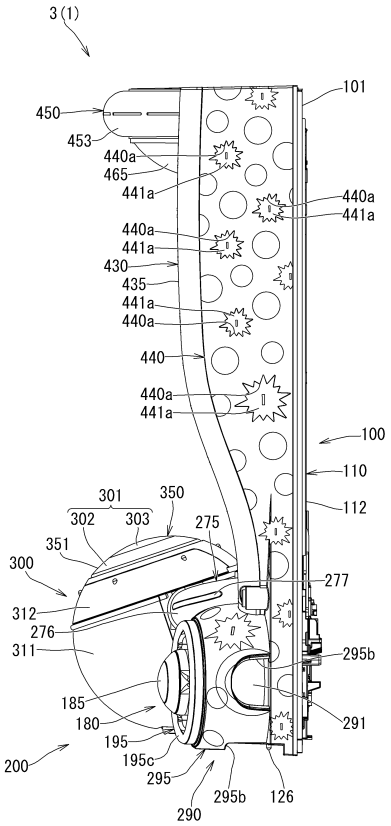
【図２３】



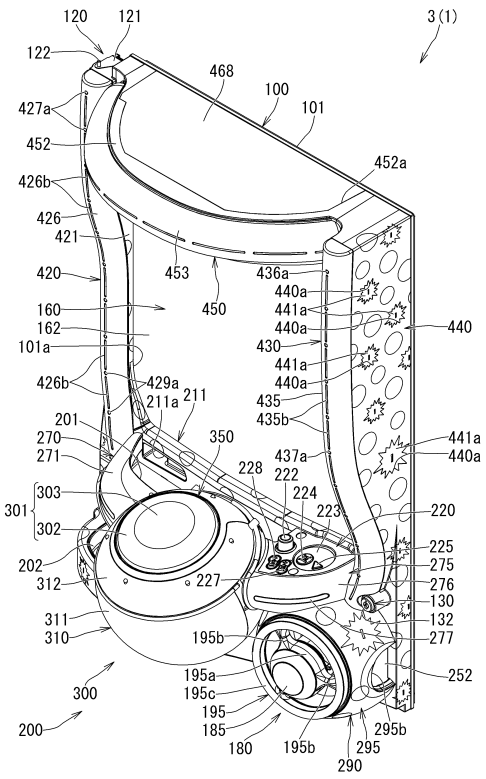
【図２４】



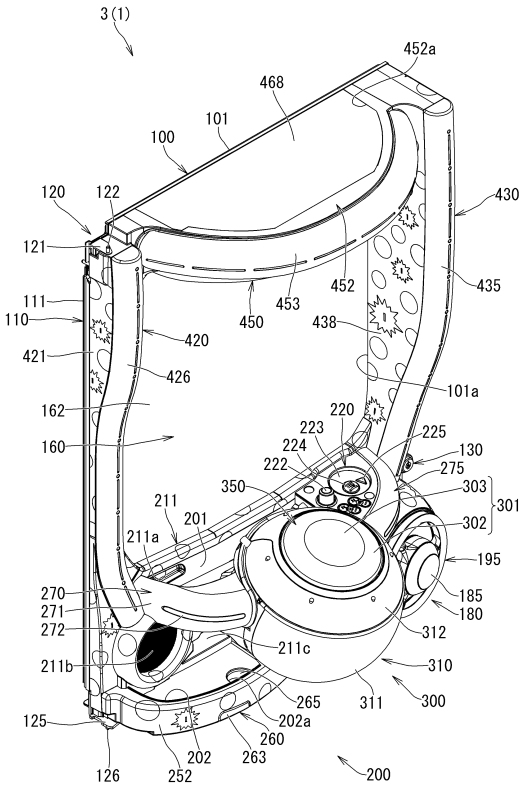
【図２５】



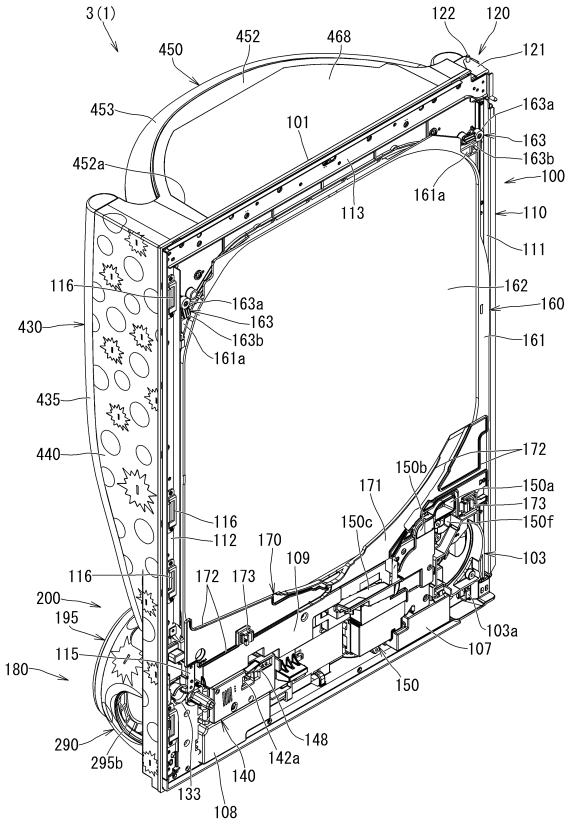
【図２６】



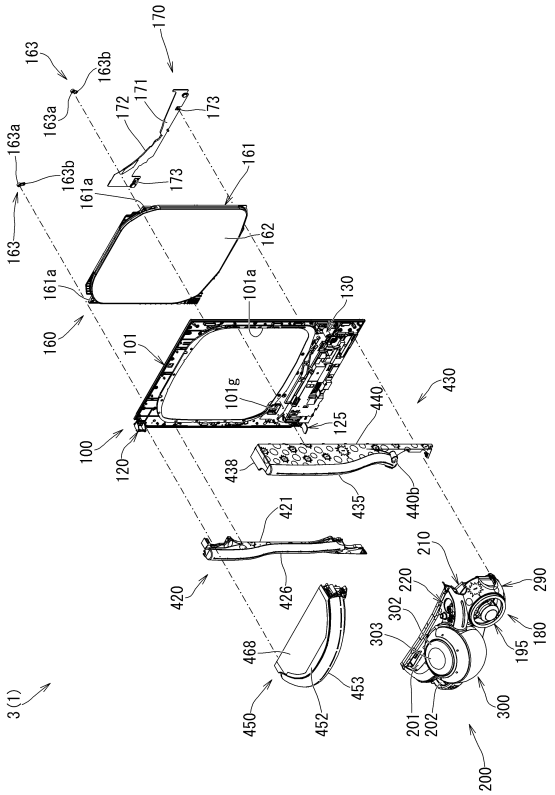
【図２７】



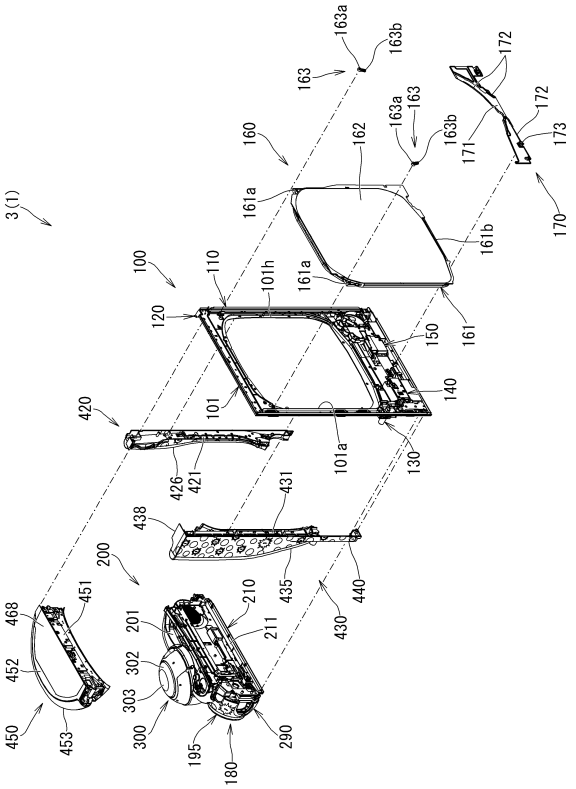
【図２８】



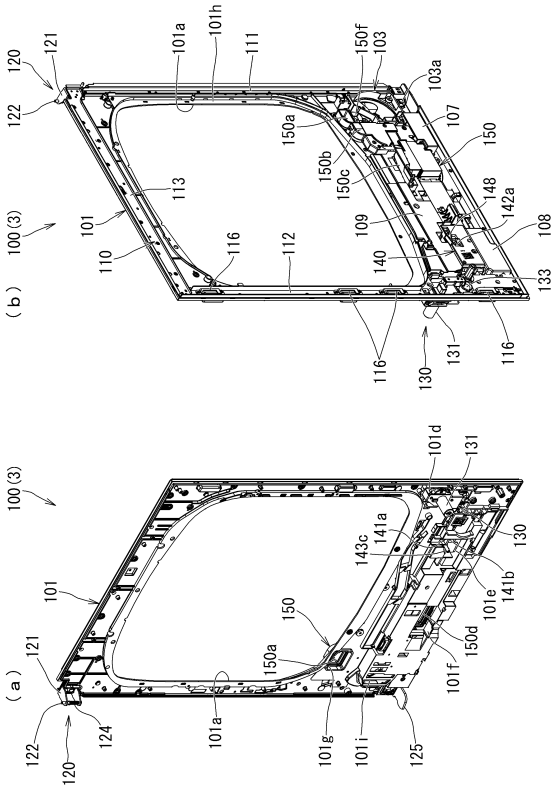
【図２９】



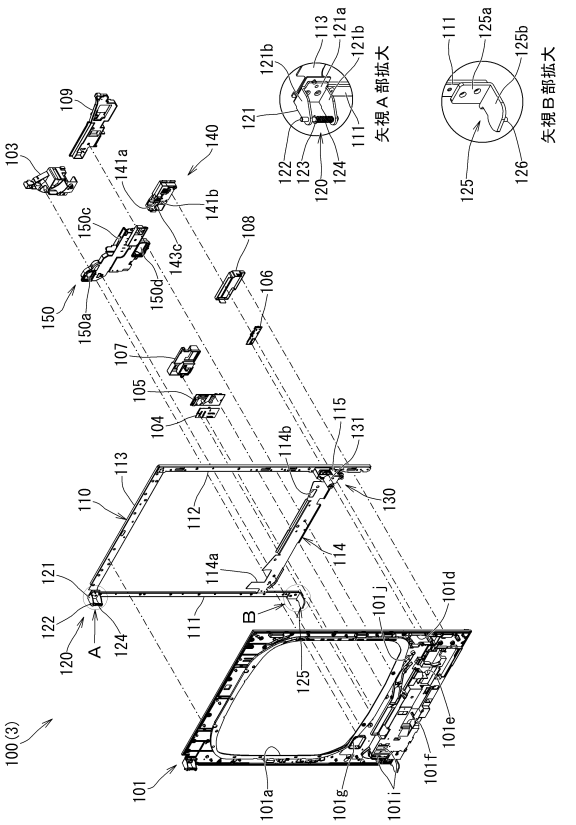
【図３０】



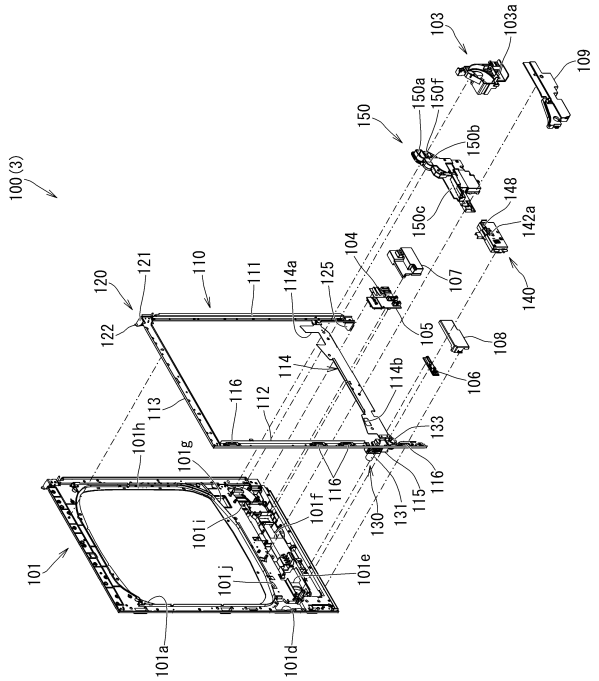
【図３１】



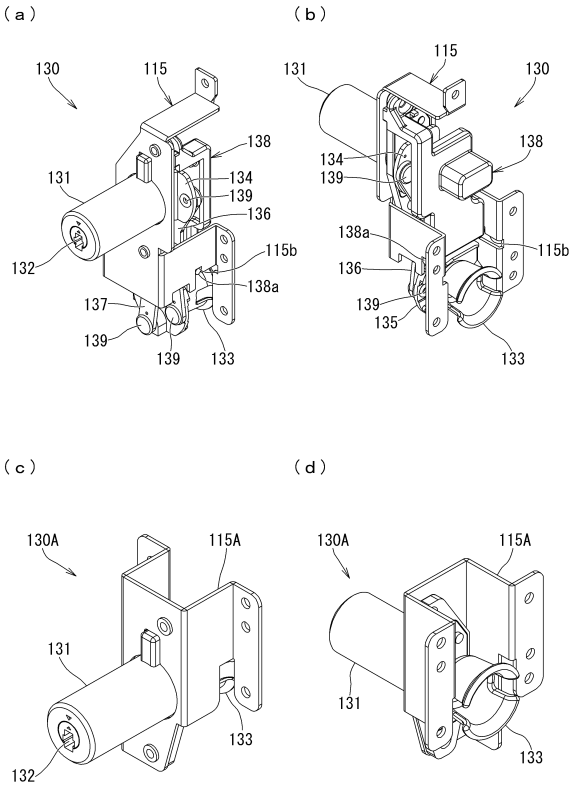
【図３２】



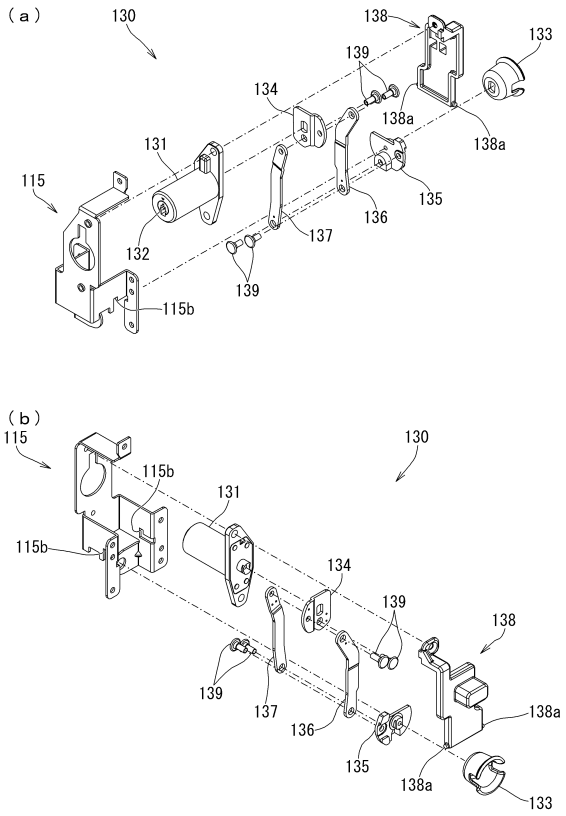
【図３３】



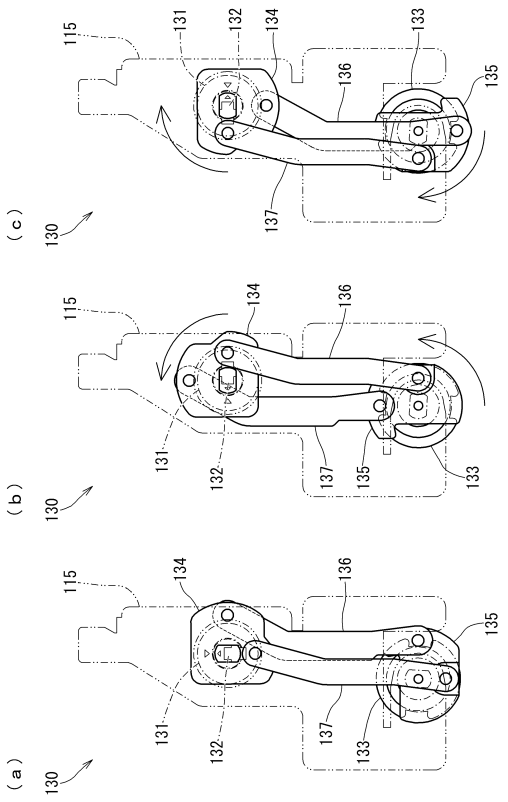
【図３４】



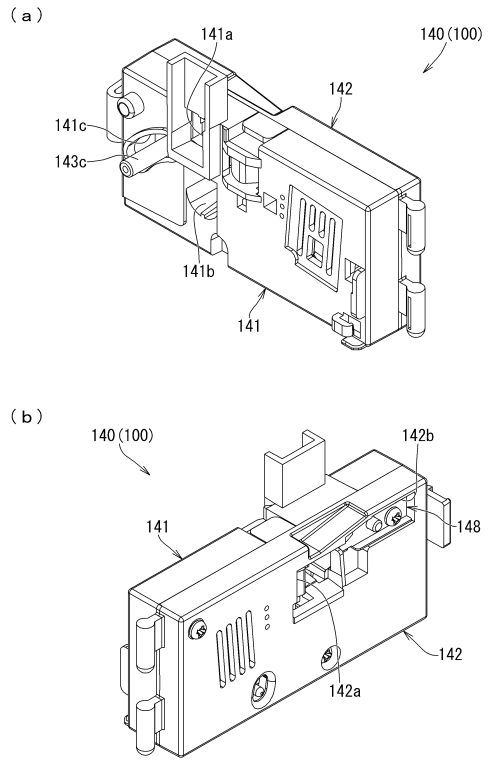
【図３５】



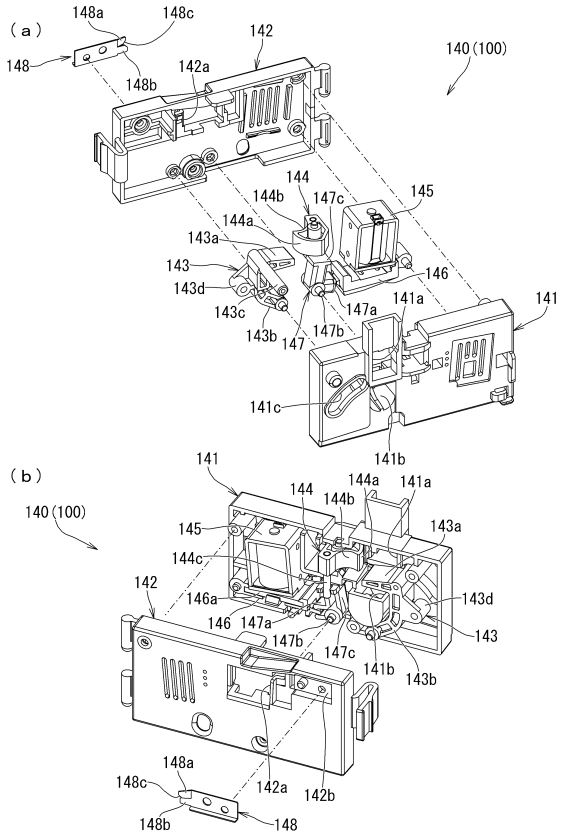
【図３６】



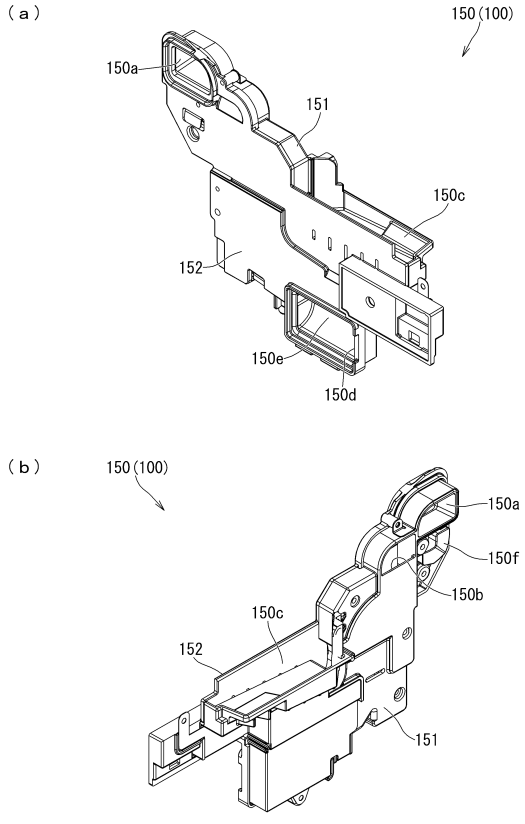
【図３７】



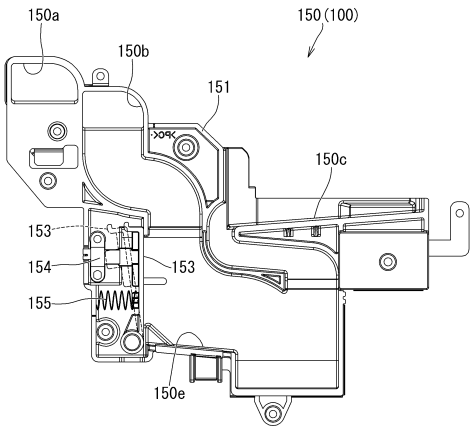
【図３８】



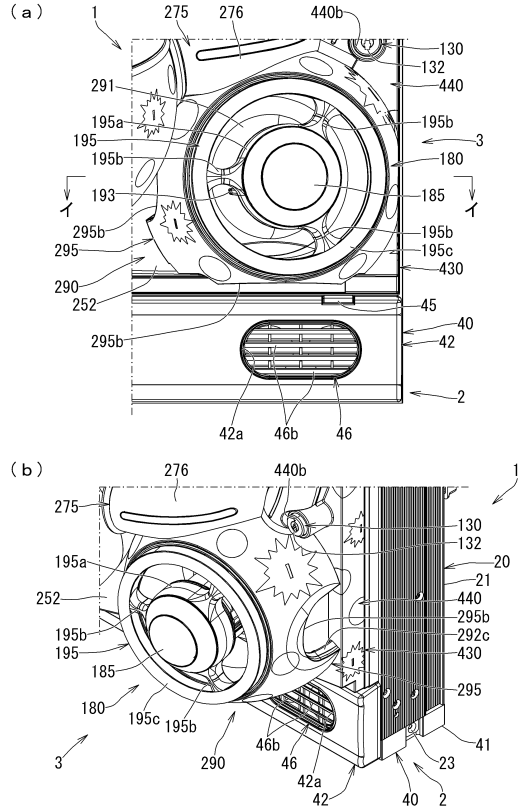
【図３９】



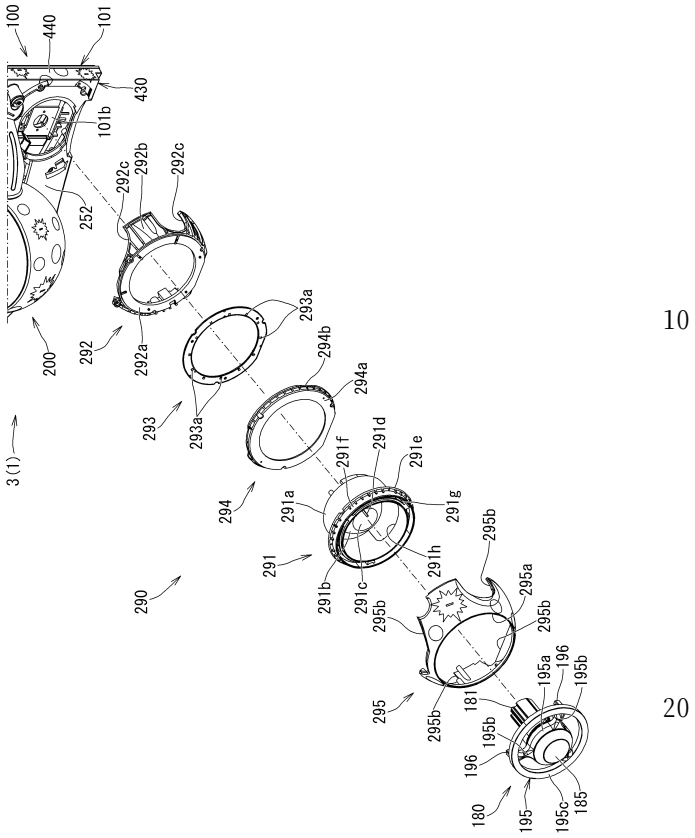
【図４０】



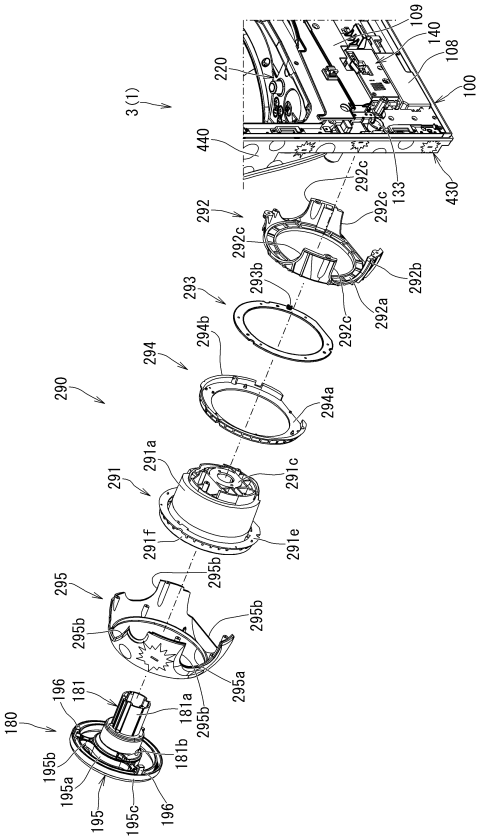
【図４１】



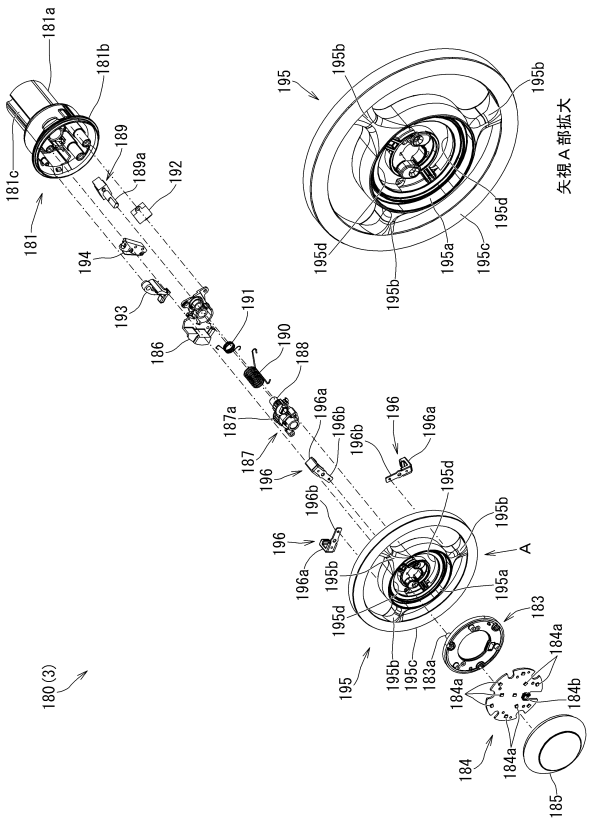
【図４２】



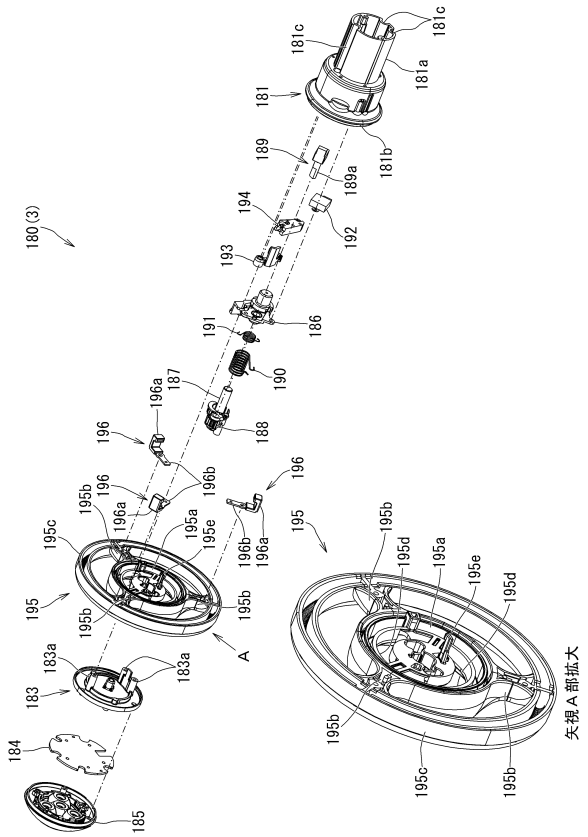
【図４３】



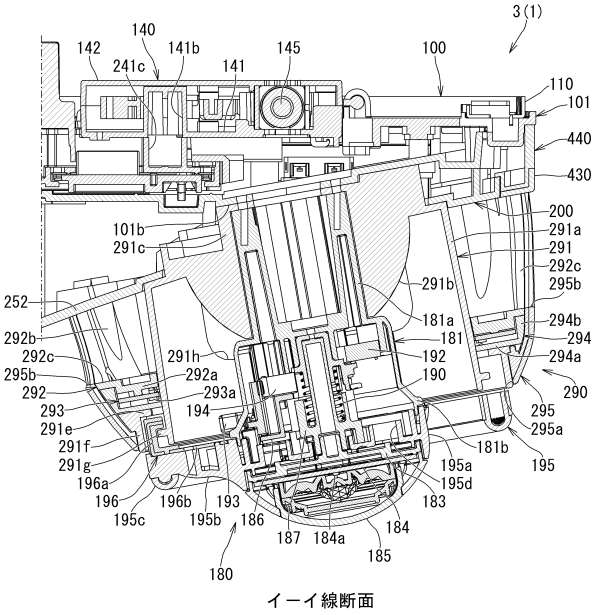
【図４４】



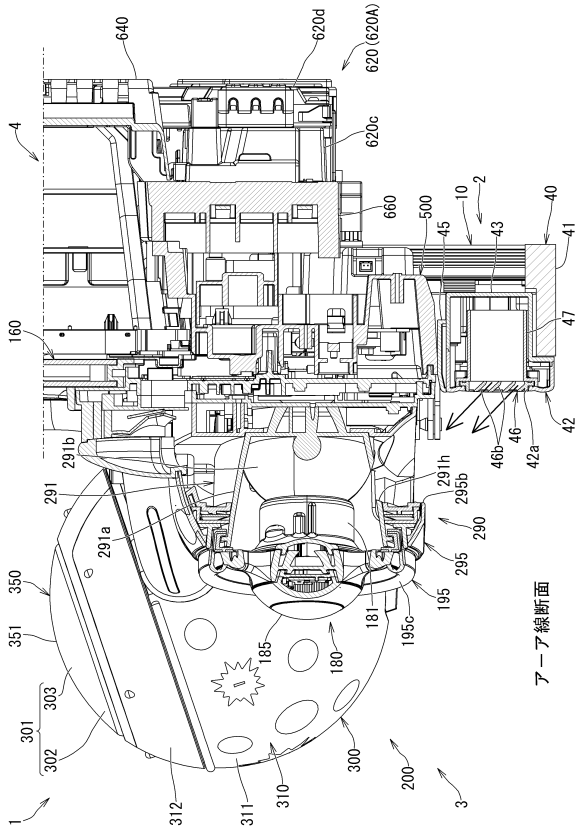
【図４５】



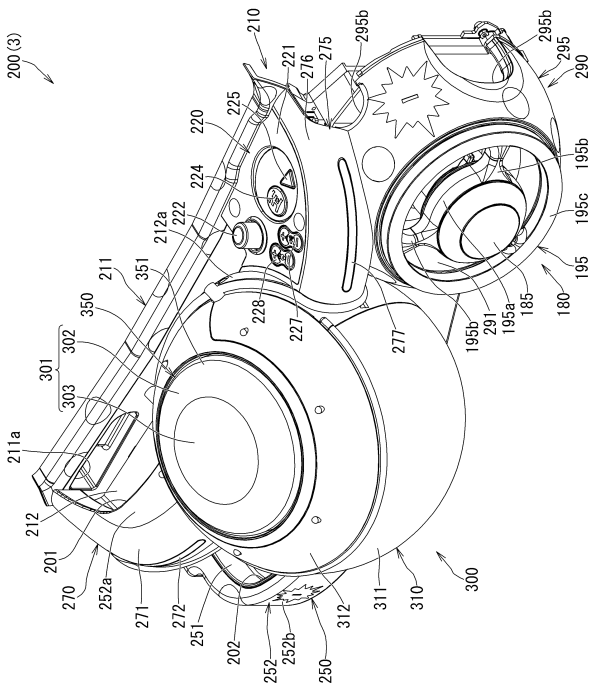
【図４６】



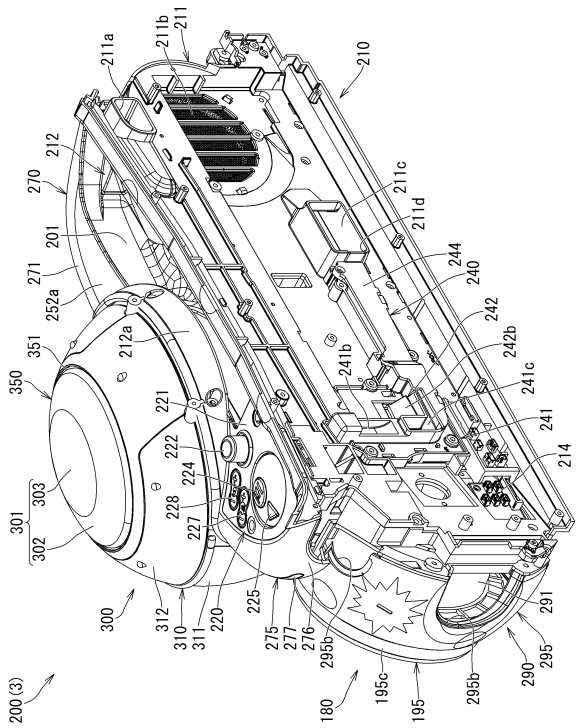
【図４７】



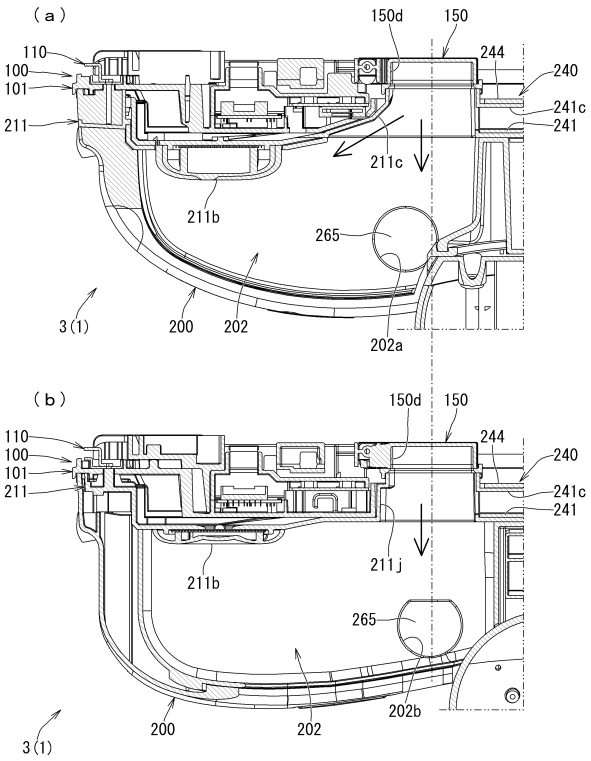
【図４８】



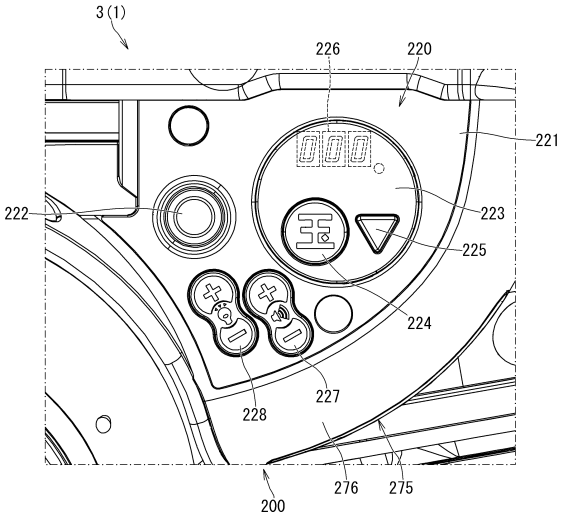
【図４９】



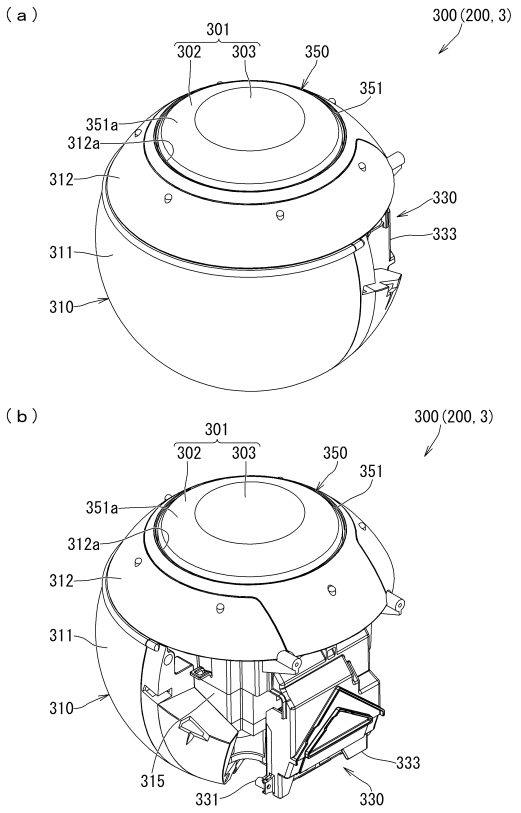
【図５０】



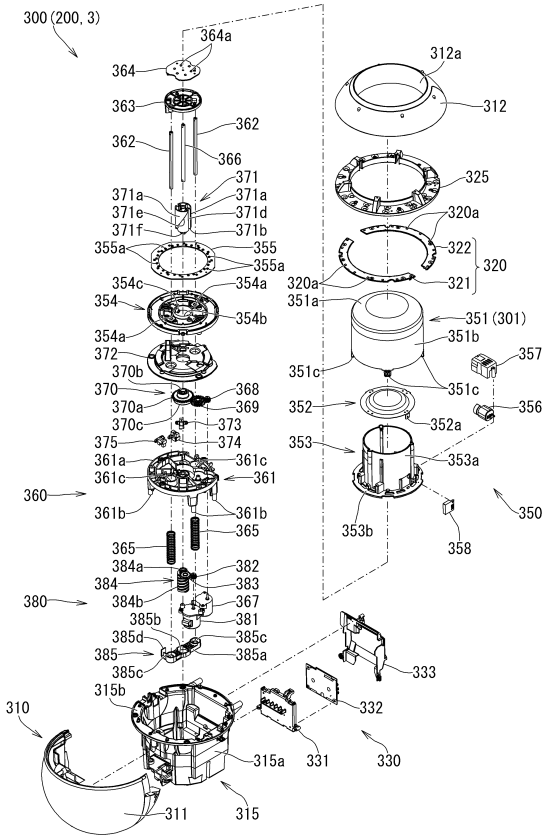
【図５１】



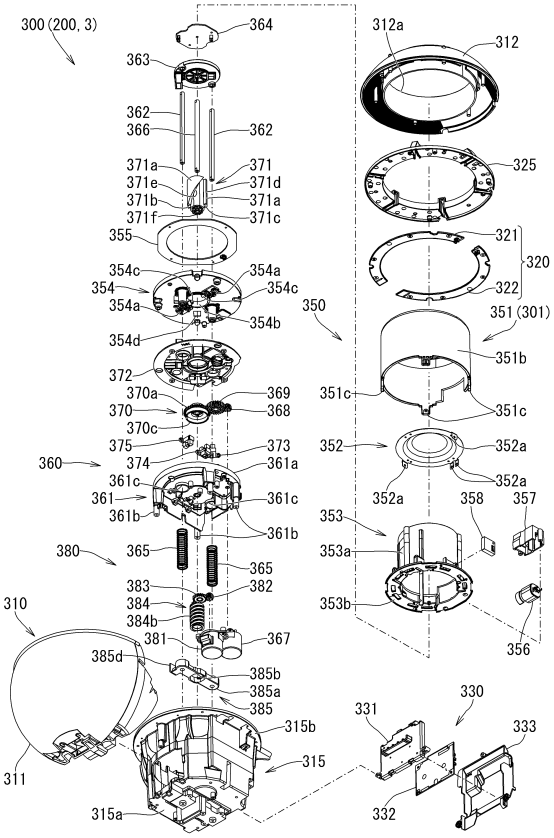
【図５２】



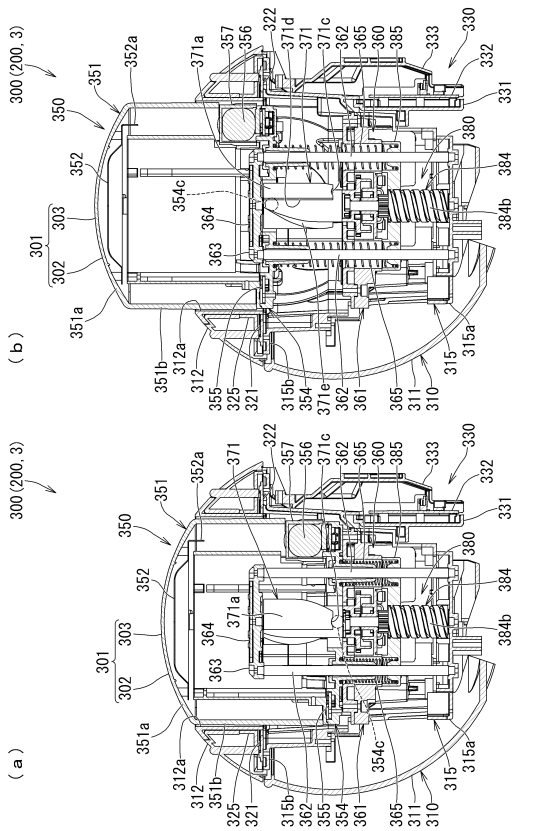
【図５３】



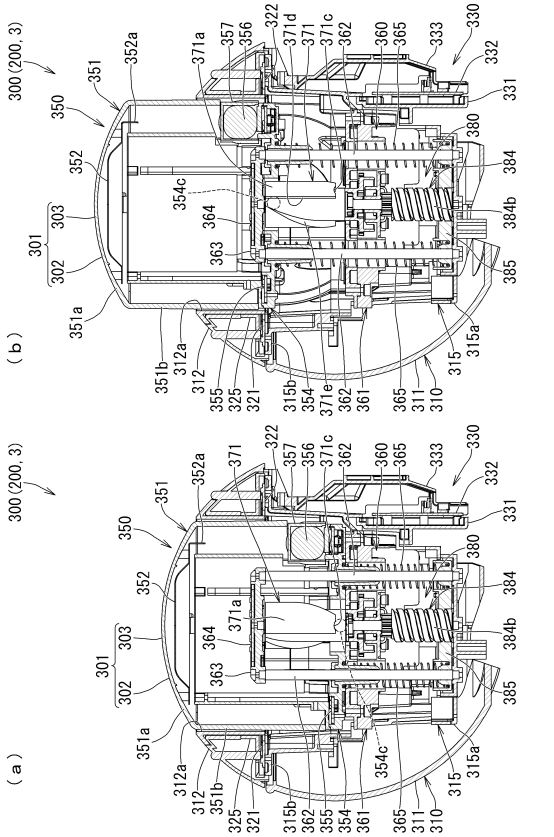
【図５４】



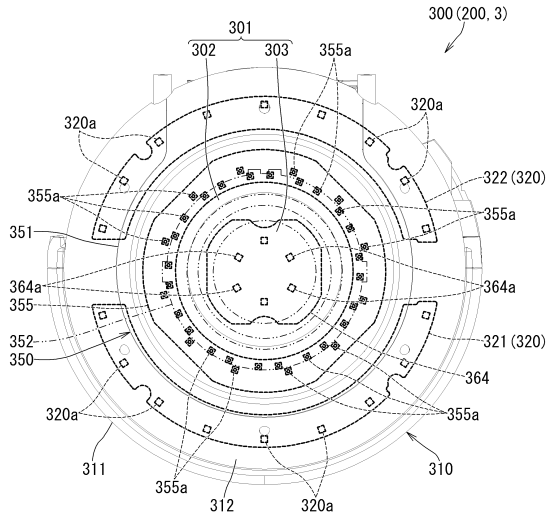
【図５５】



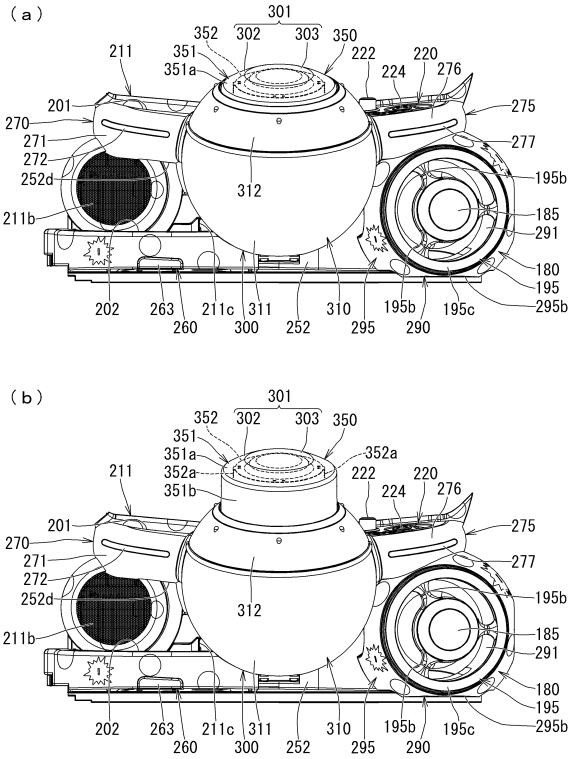
【図５６】



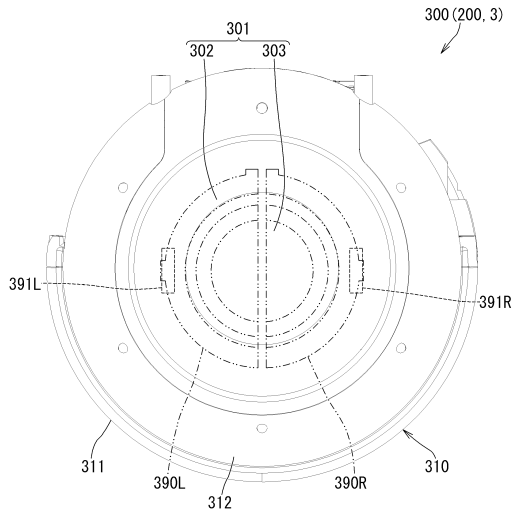
【図５７】



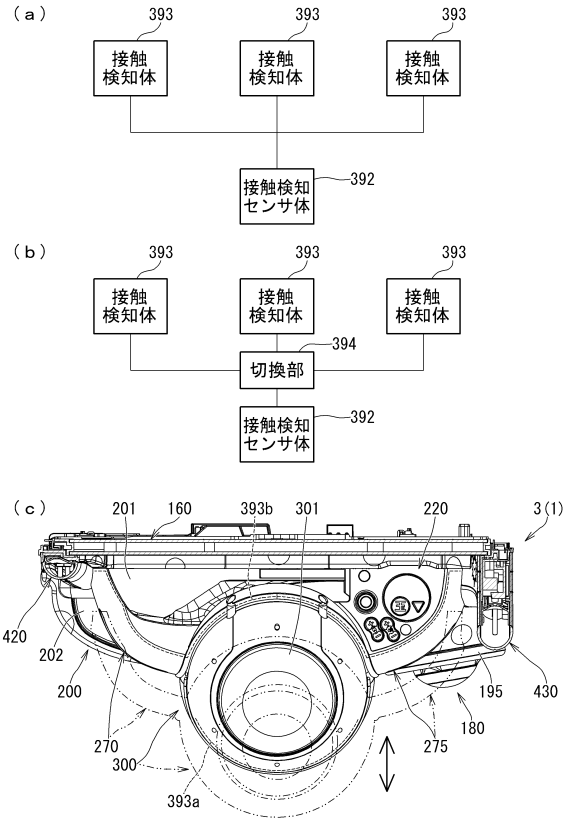
【図５８】



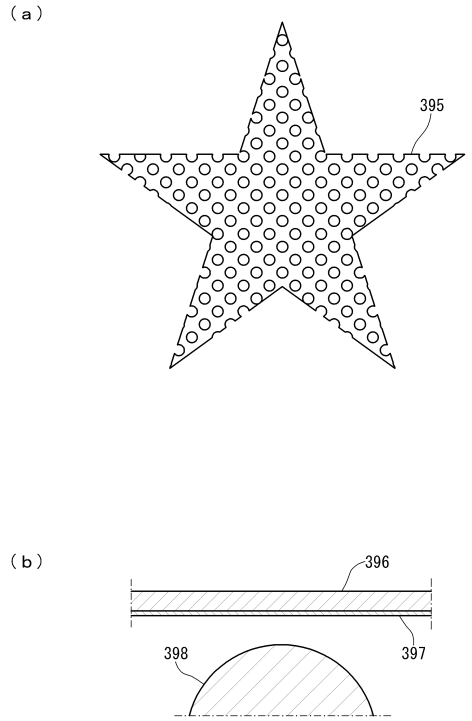
【図５９】



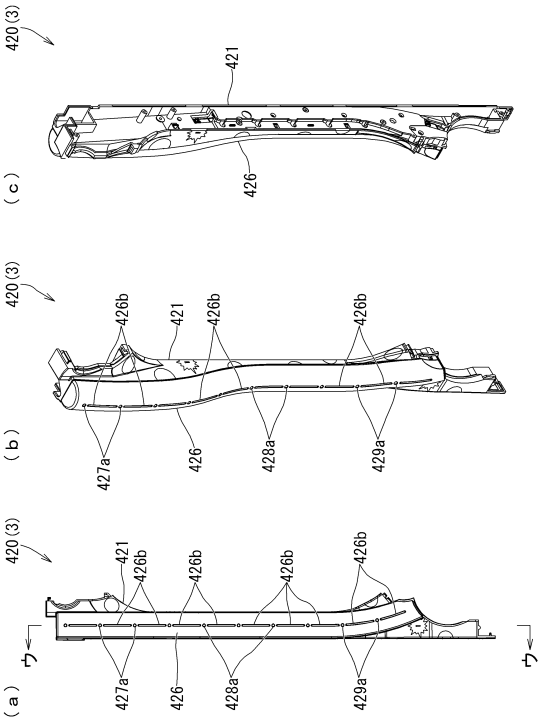
【図６０】



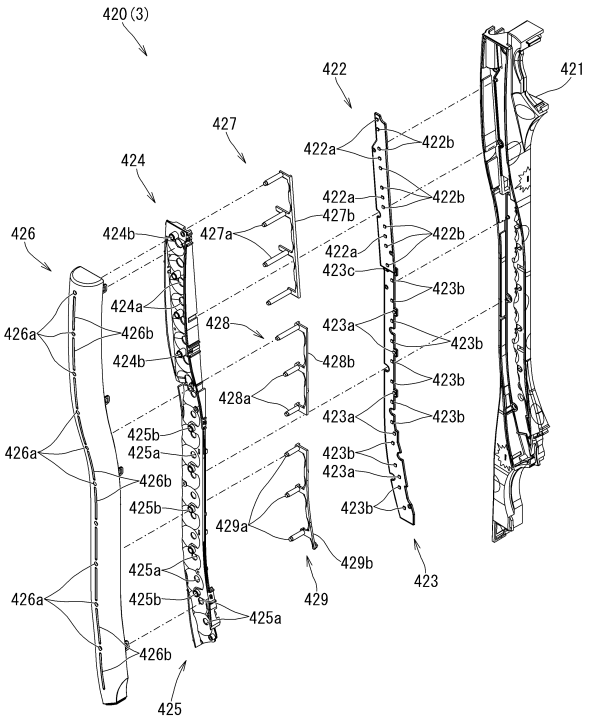
【図６１】



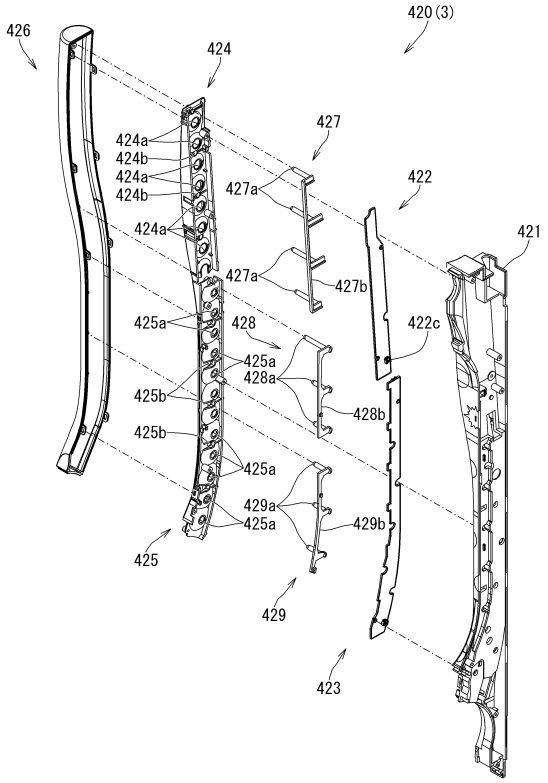
【図６２】



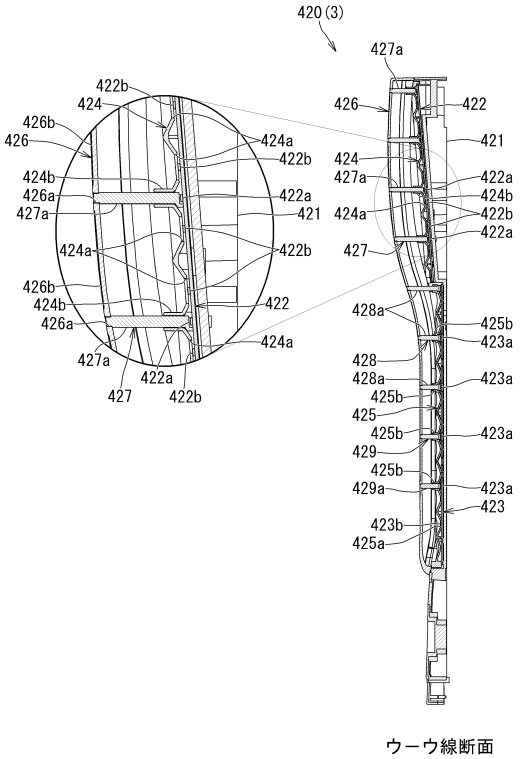
【図６３】



【図６４】

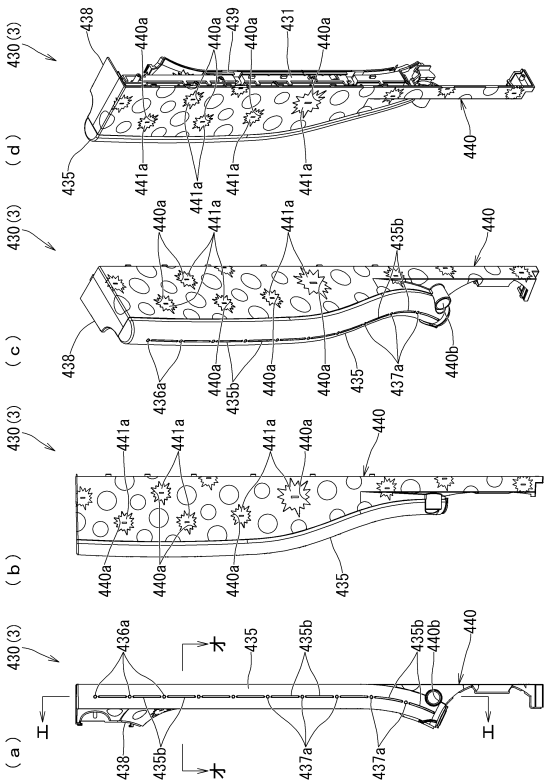


【図６５】

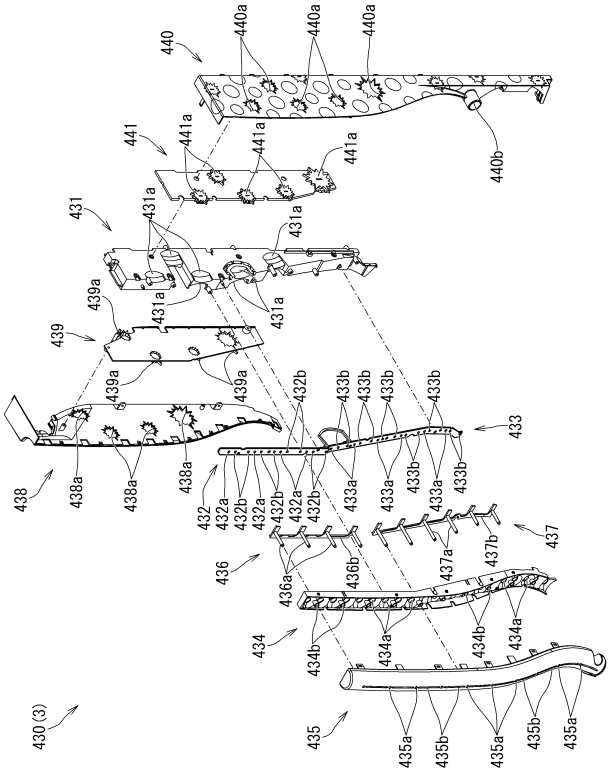


ウーウ線断面

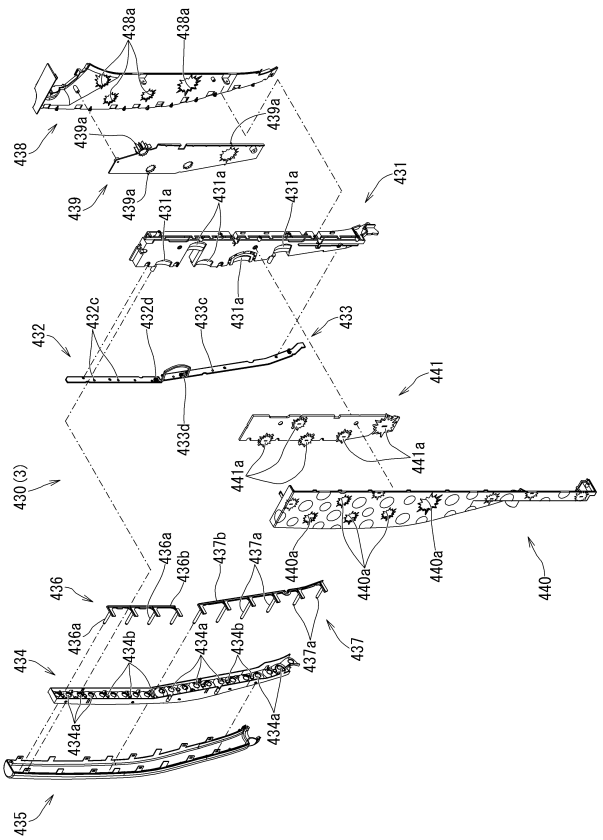
【図６６】



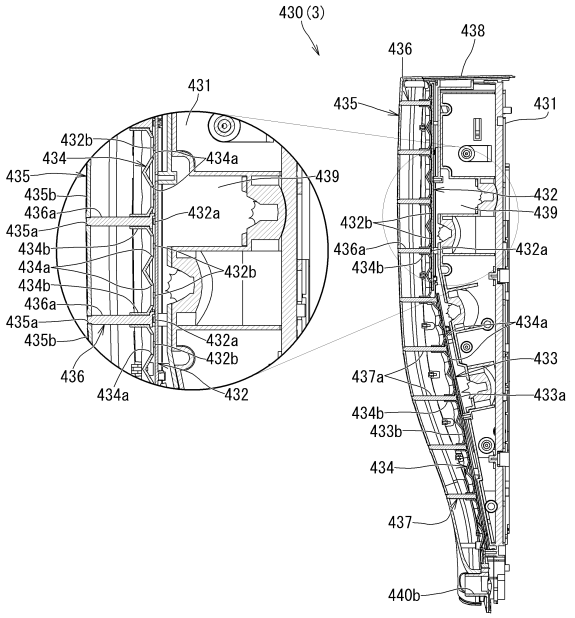
【図６７】



【図６８】

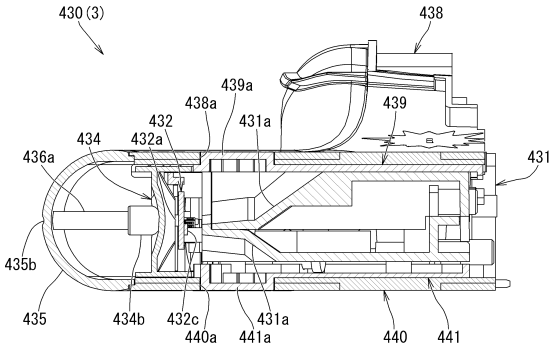


【図６９】



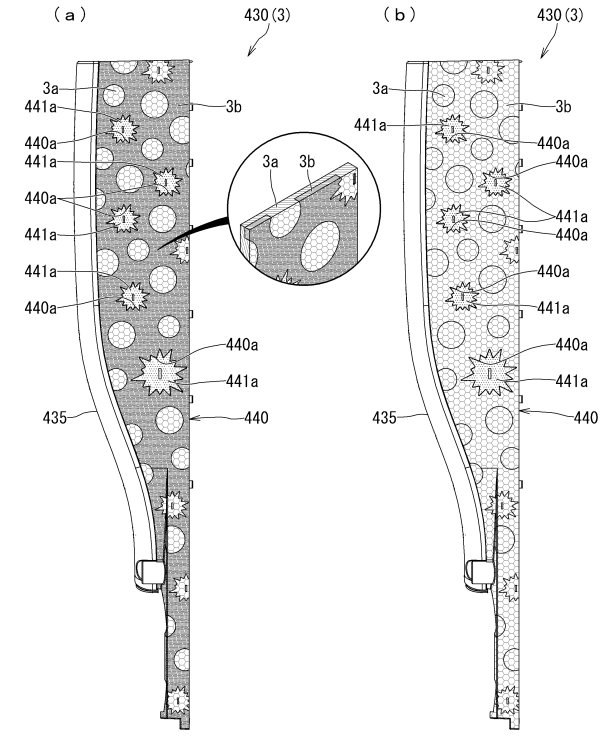
エーエ線断面

【図７０】

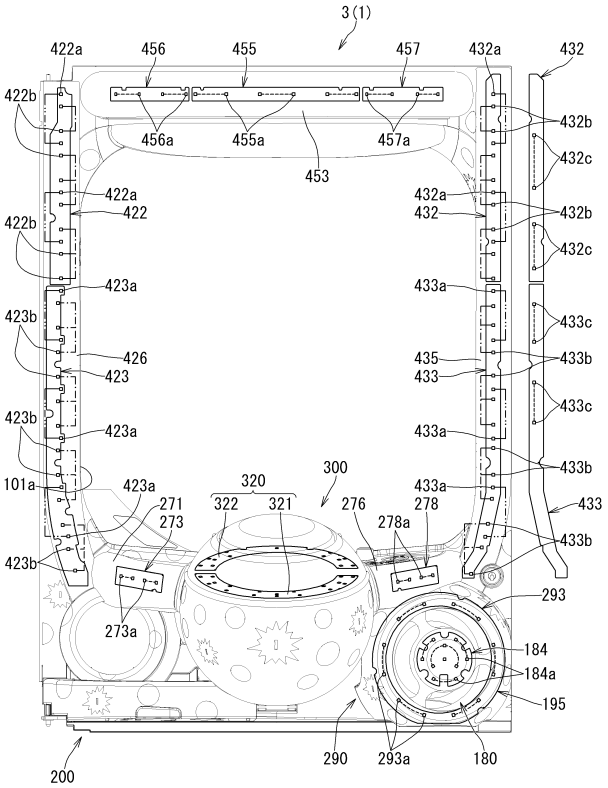


オーオ線断面

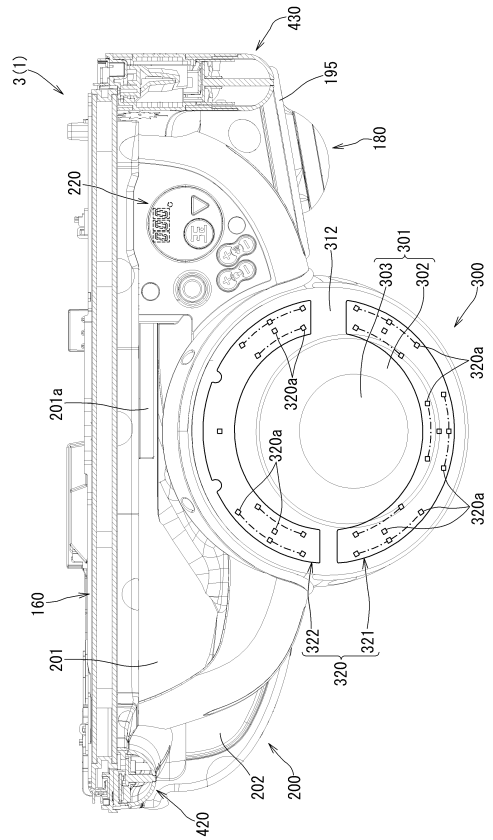
【図７１】



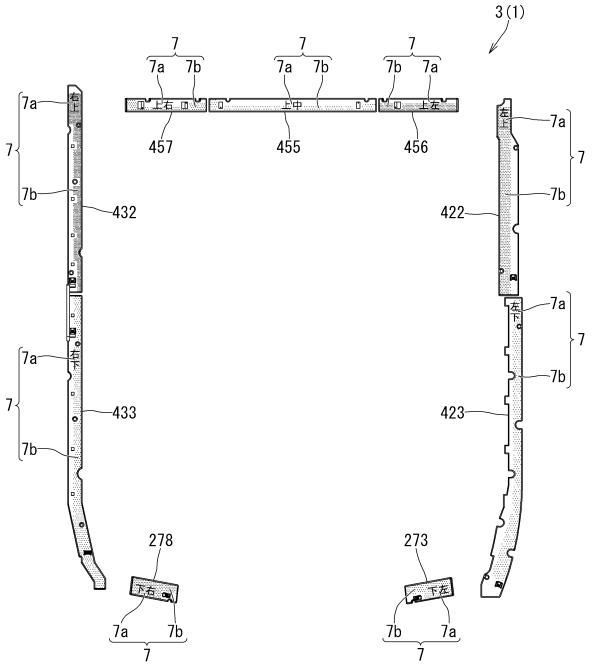
【図７２】



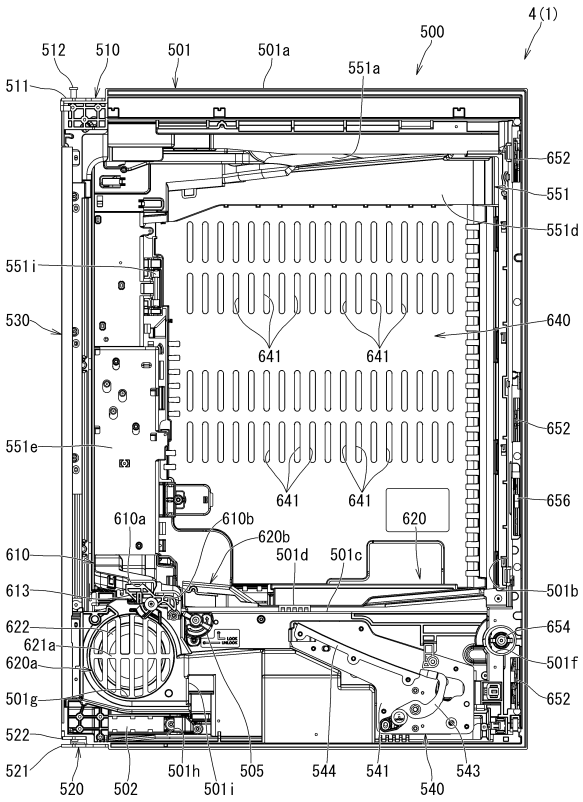
【図７３】



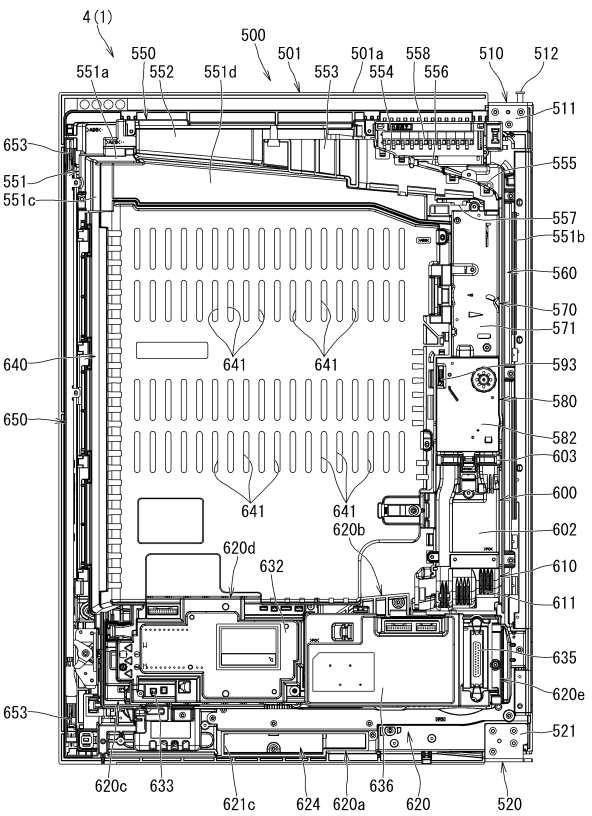
【図７４】



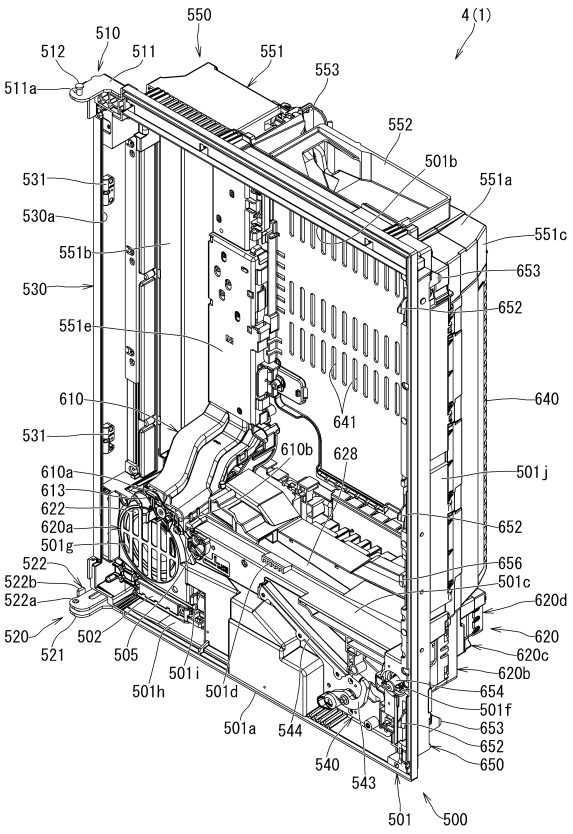
【図７５】



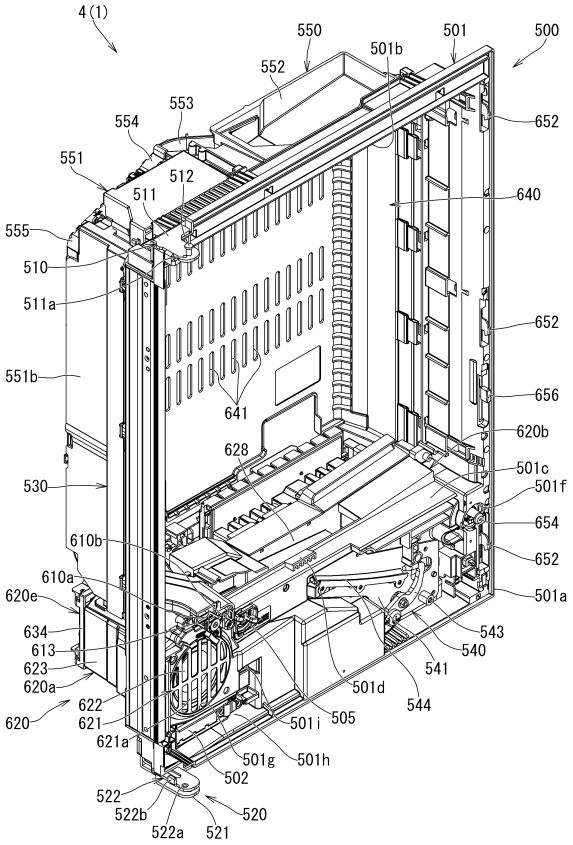
【図７６】



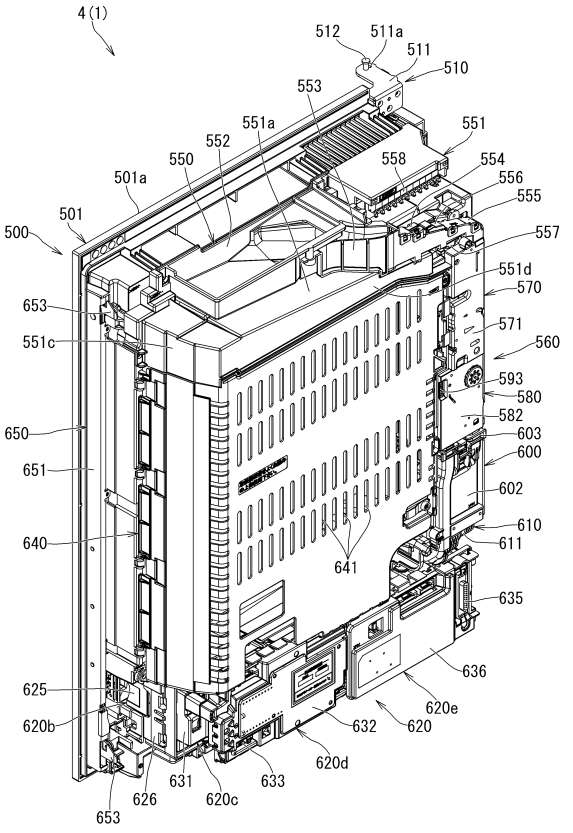
【図７７】



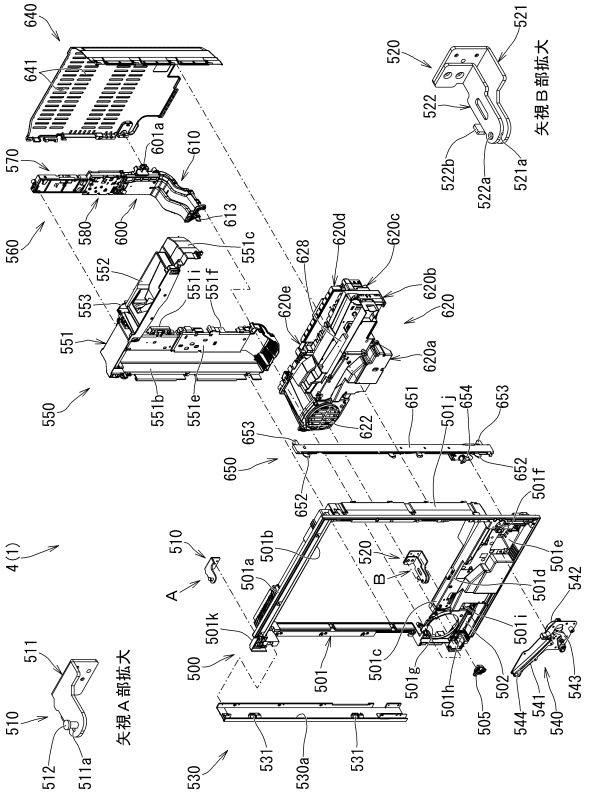
【図７８】



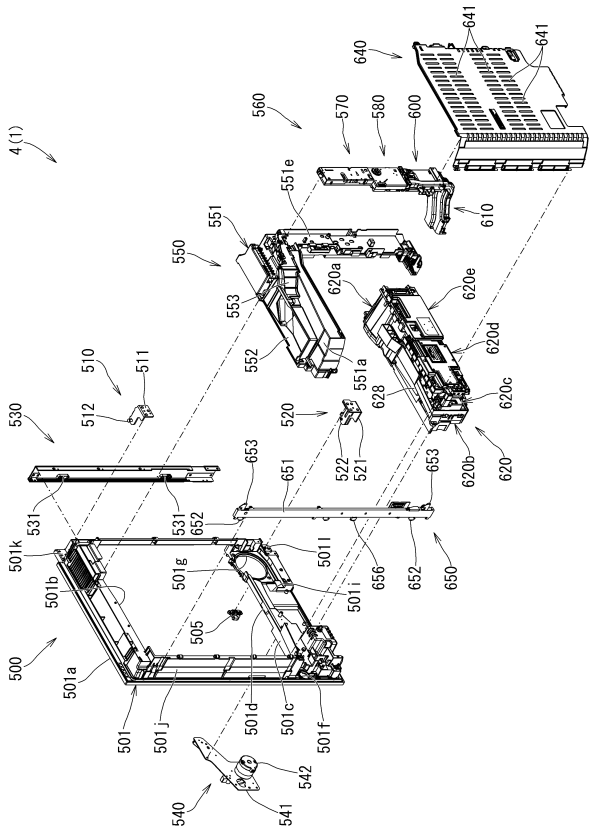
【図７９】



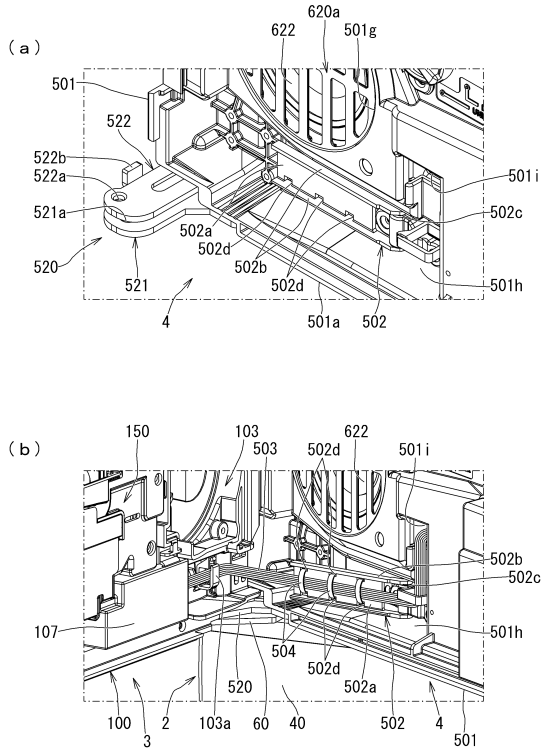
【図８０】



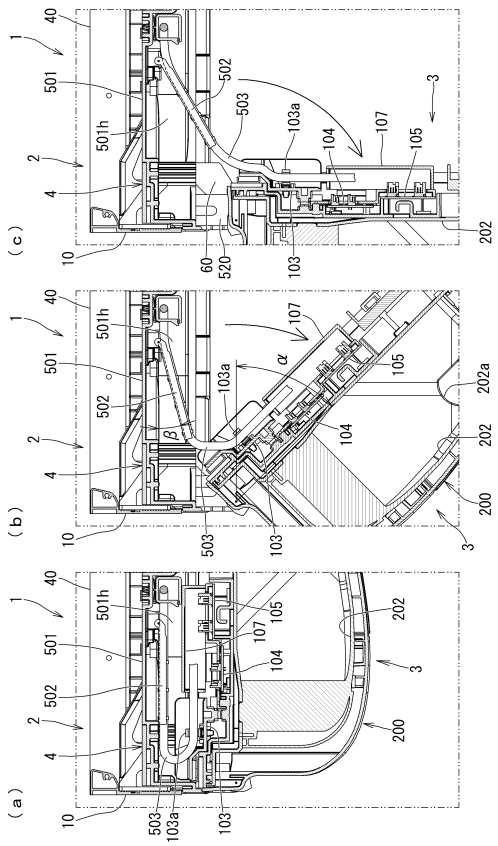
【図８１】



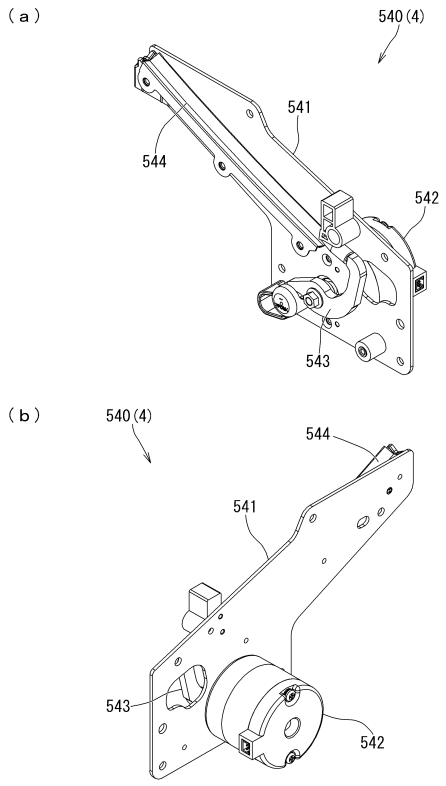
【図８２】



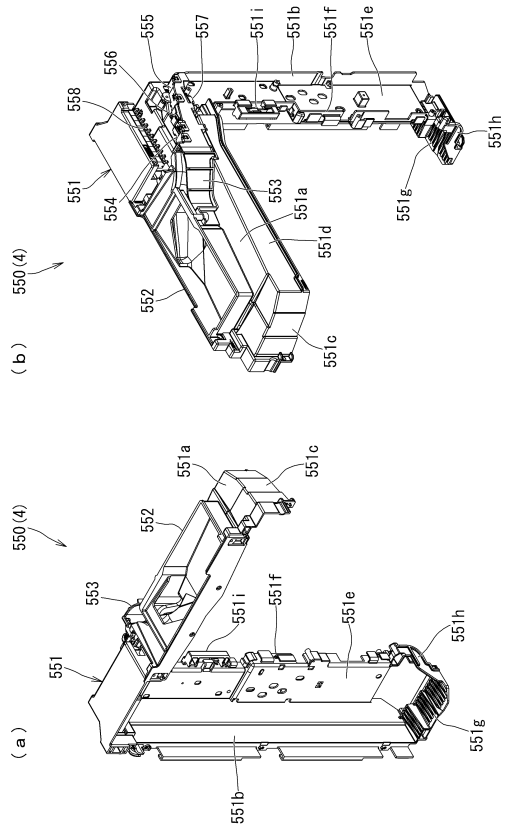
【図８３】



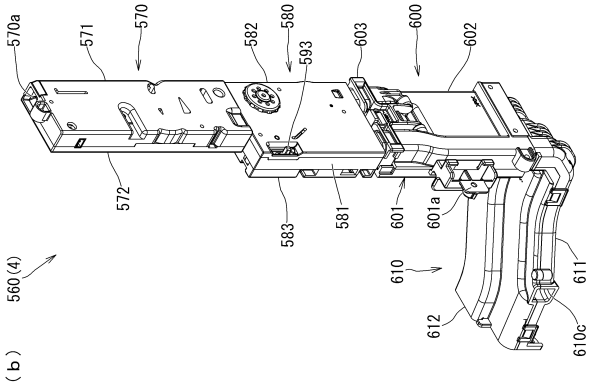
【図８４】



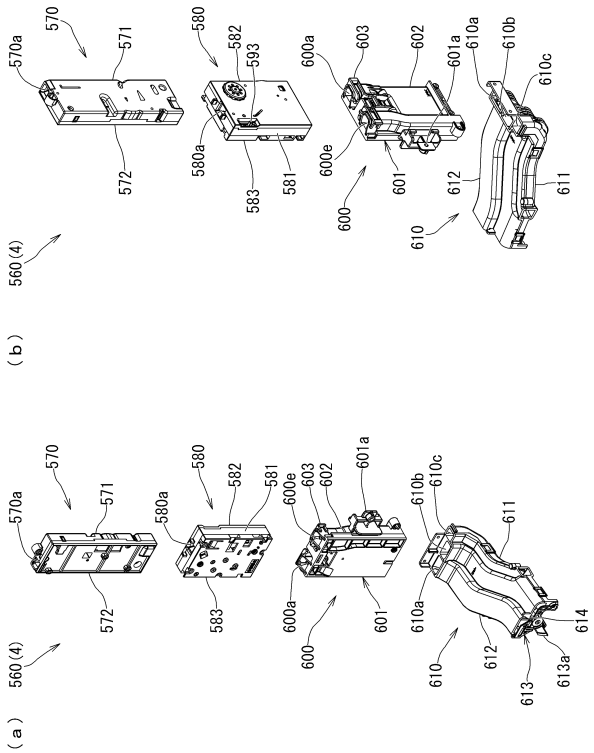
【図８５】



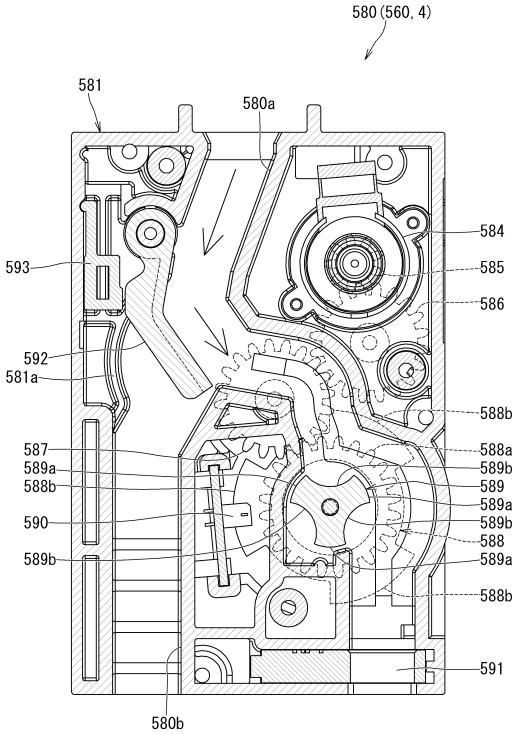
【図８６】



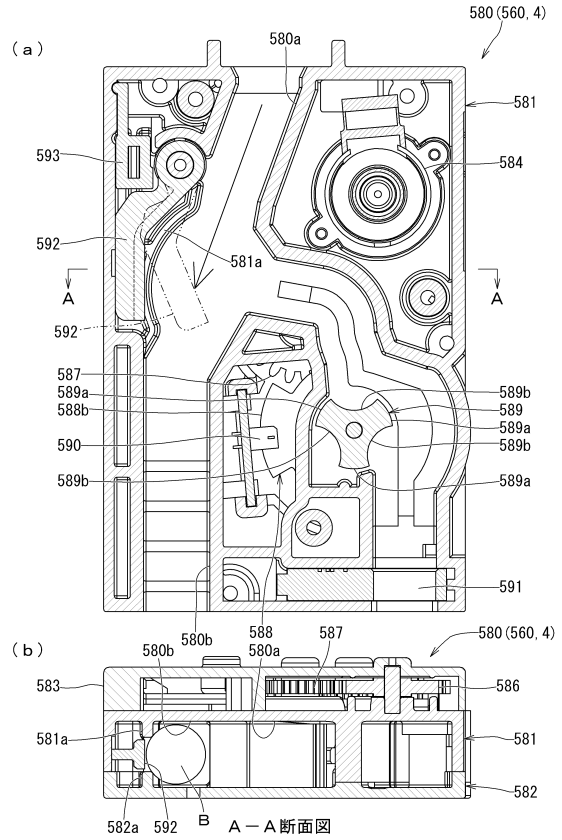
【図８７】



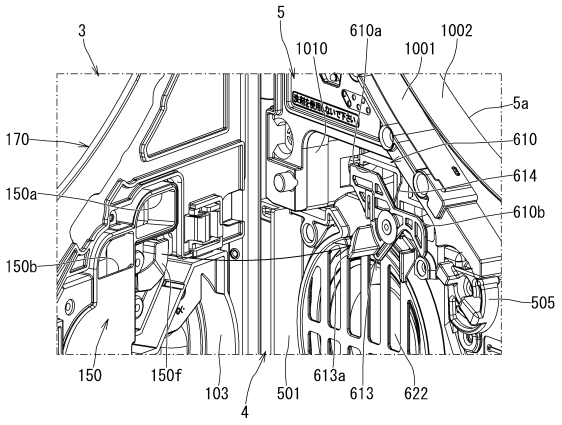
【図８８】



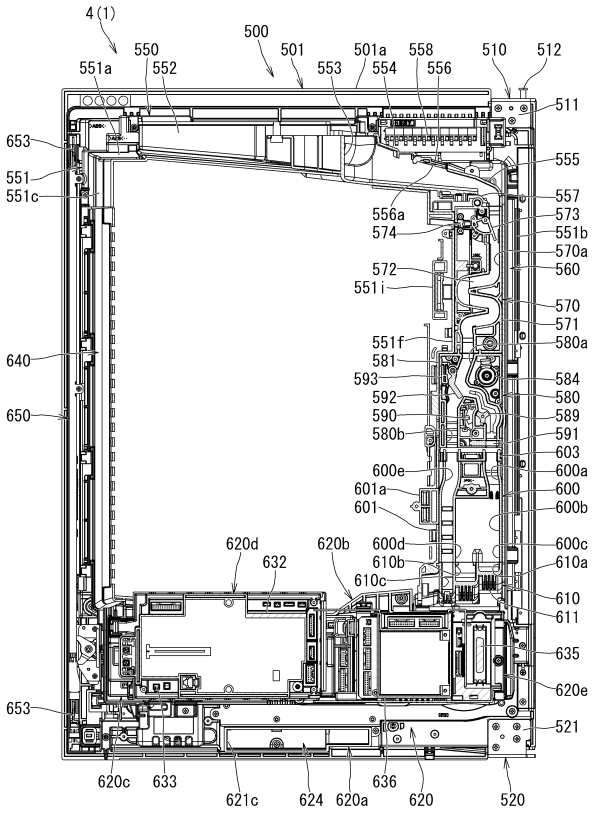
【図８９】



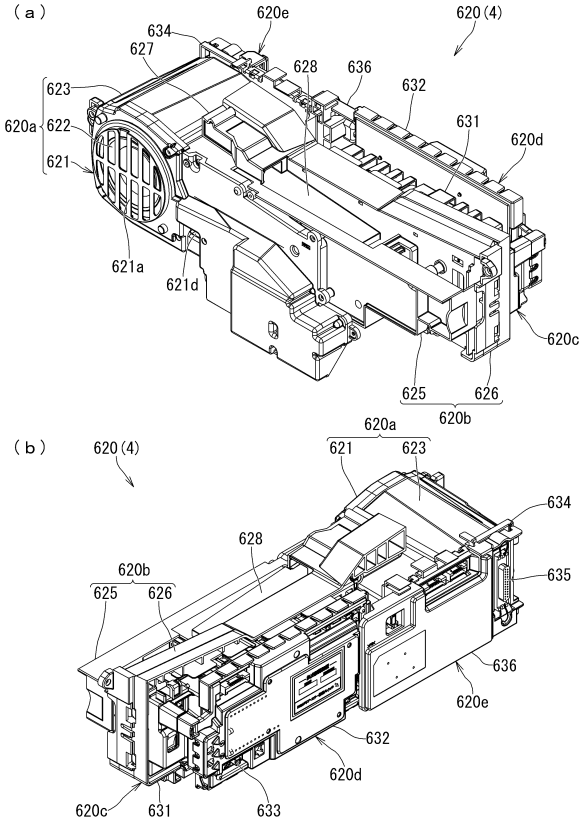
【図９０】



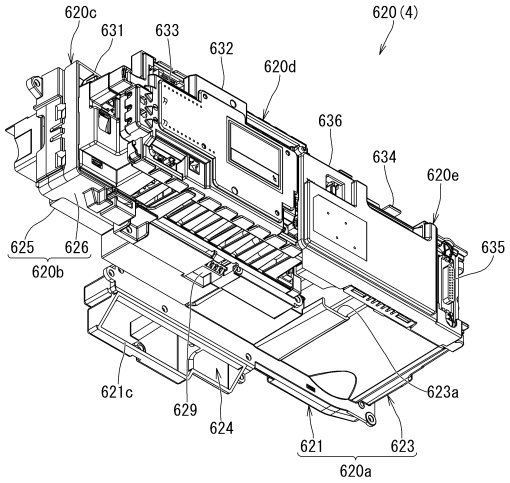
【図９１】



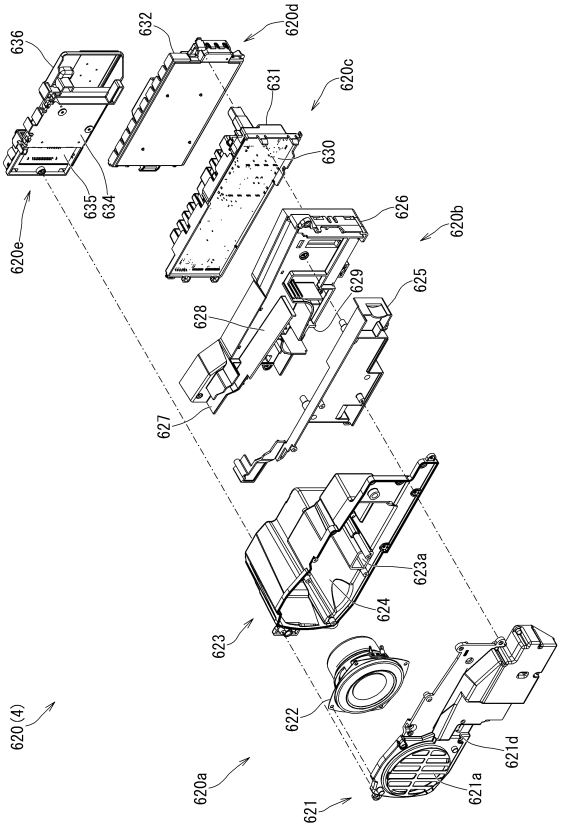
【図９２】



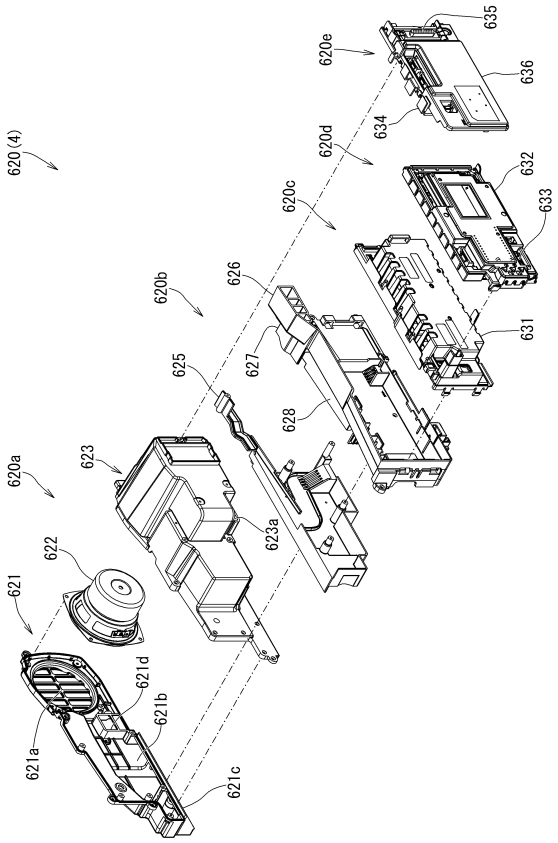
【図９３】



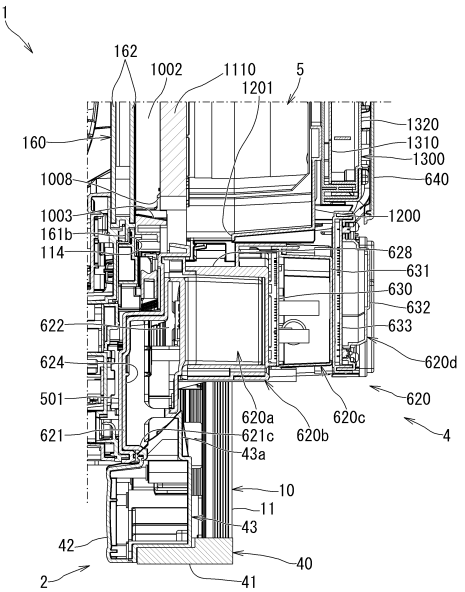
【図９４】



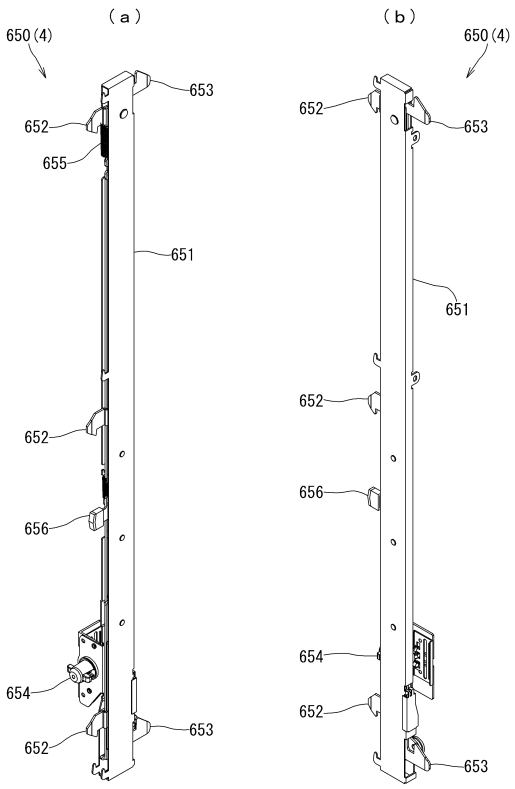
【図９５】



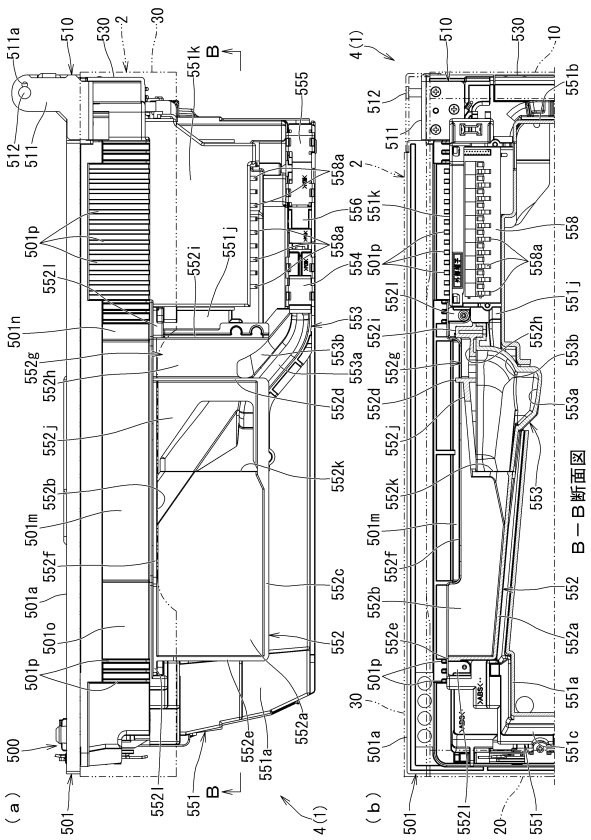
【図９６】



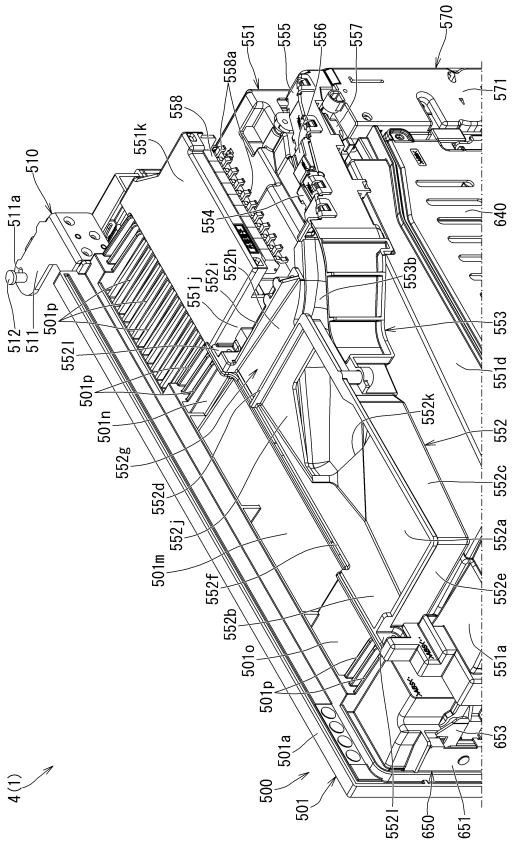
【図９７】



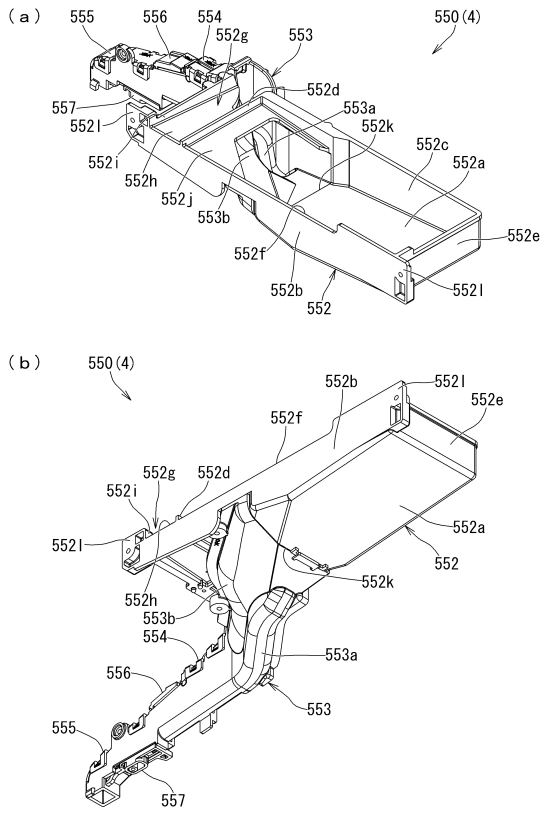
【図９８】



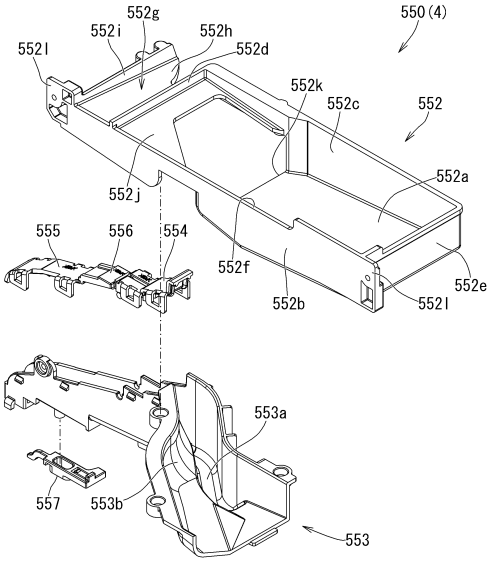
【図９９】



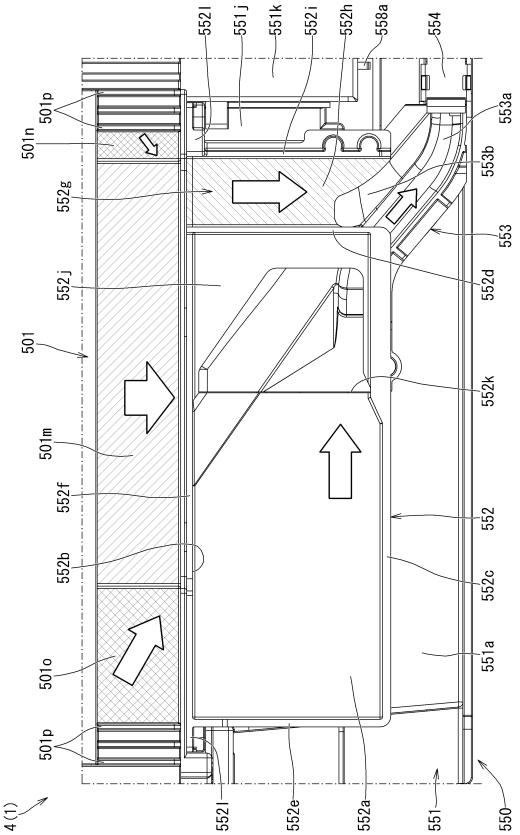
【図１００】



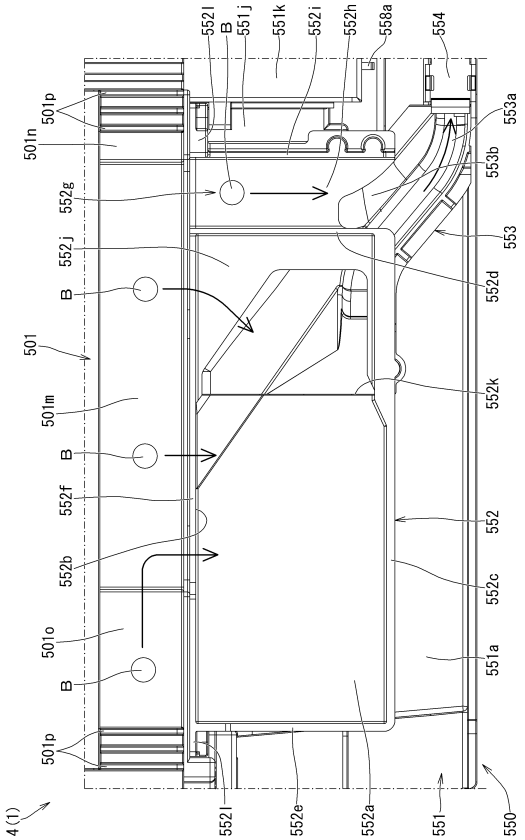
【図１０１】



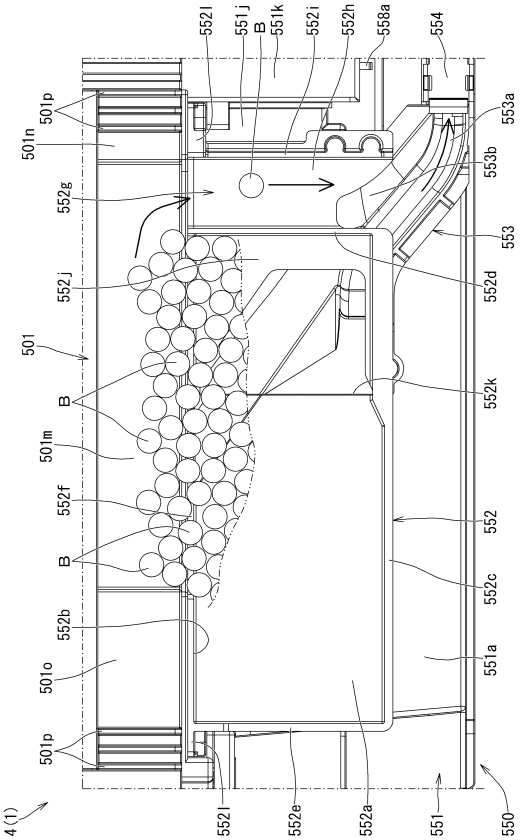
【図１０２】



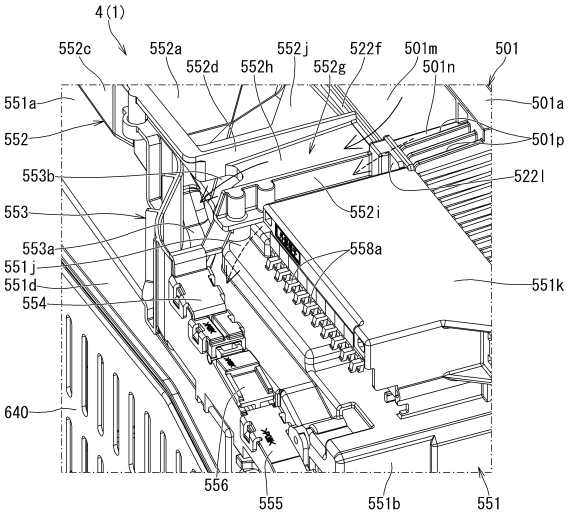
【図１０３】



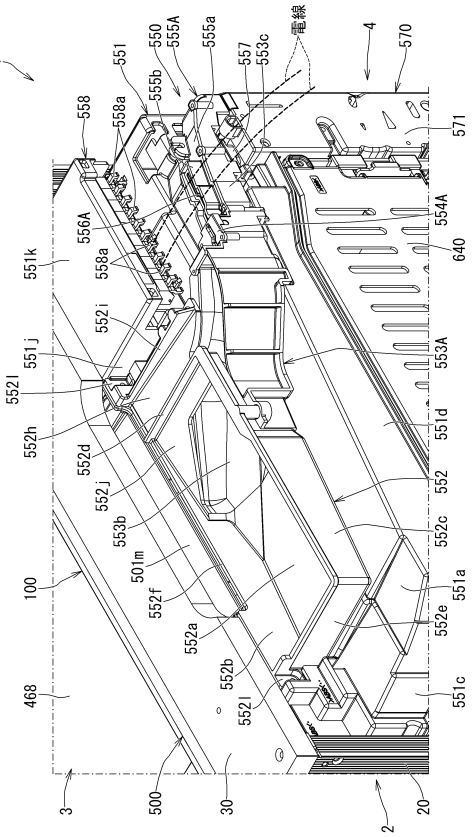
【図１０４】



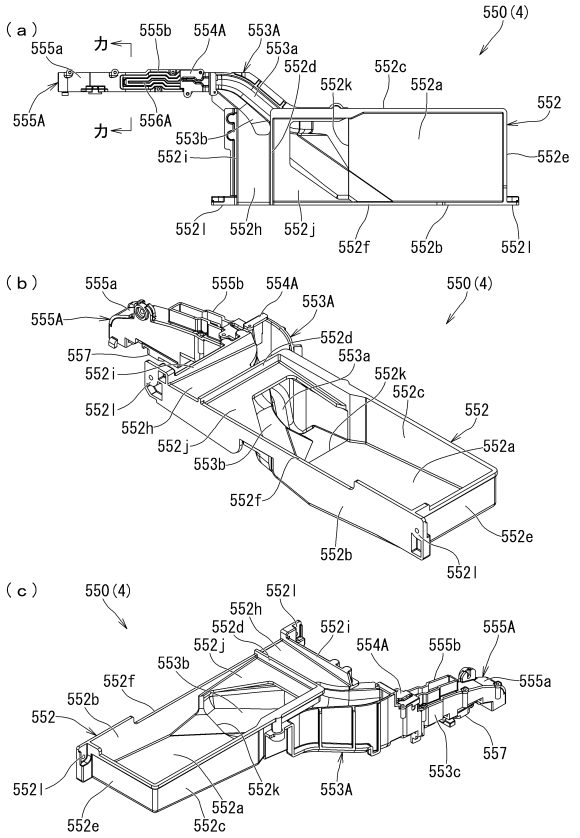
【図１０５】



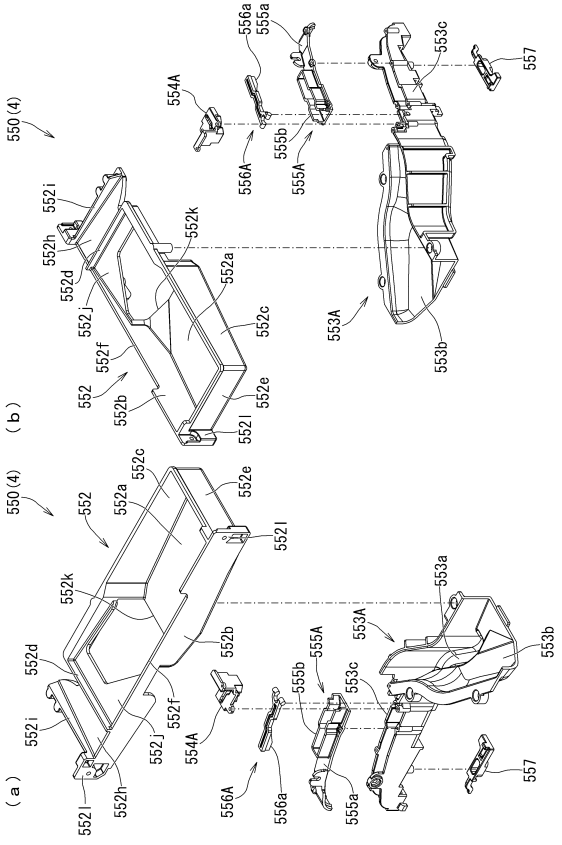
【図１０６】



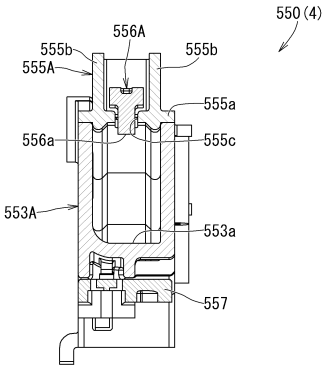
【図１０７】



【図１０８】

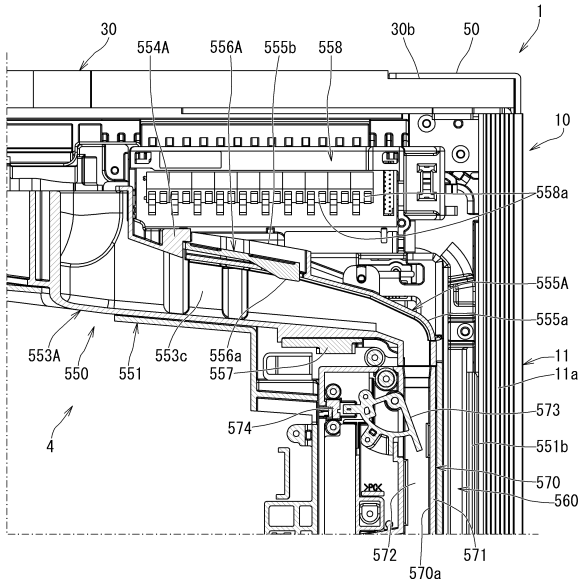


【図１０９】

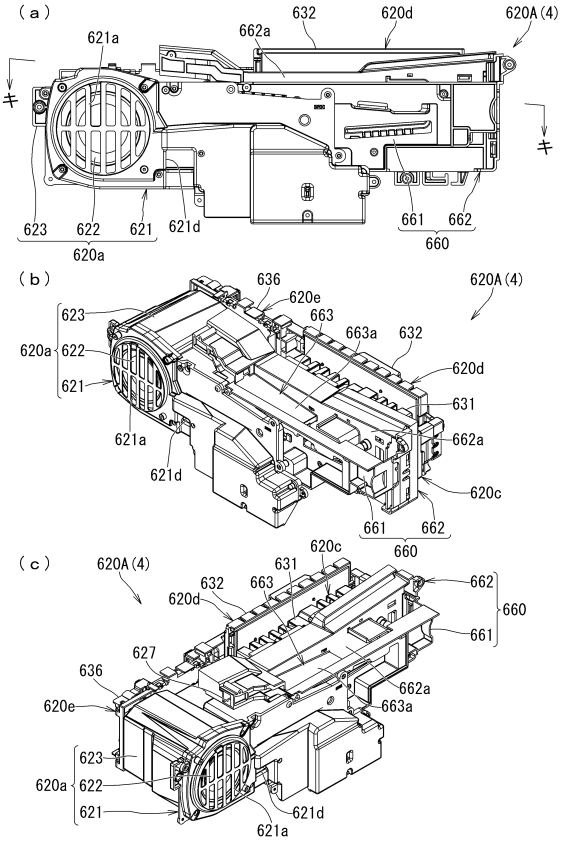


カーカ線断面

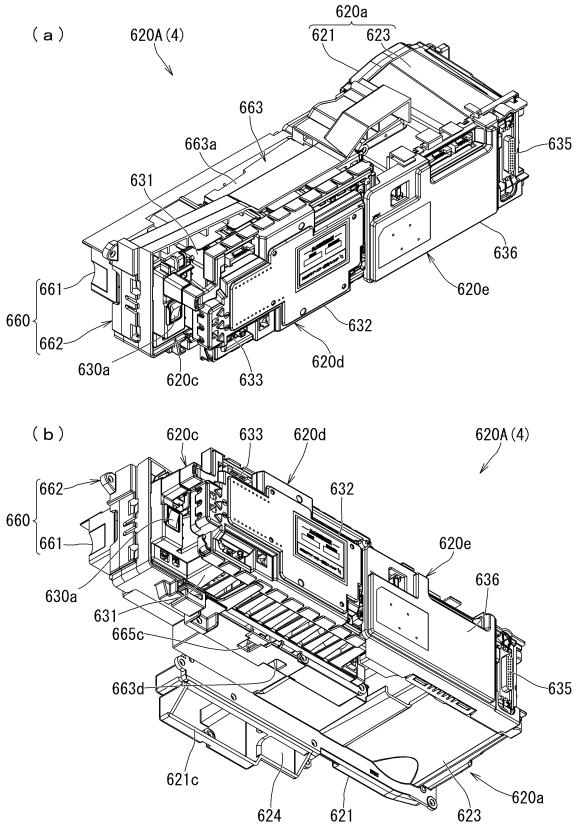
【図１１０】



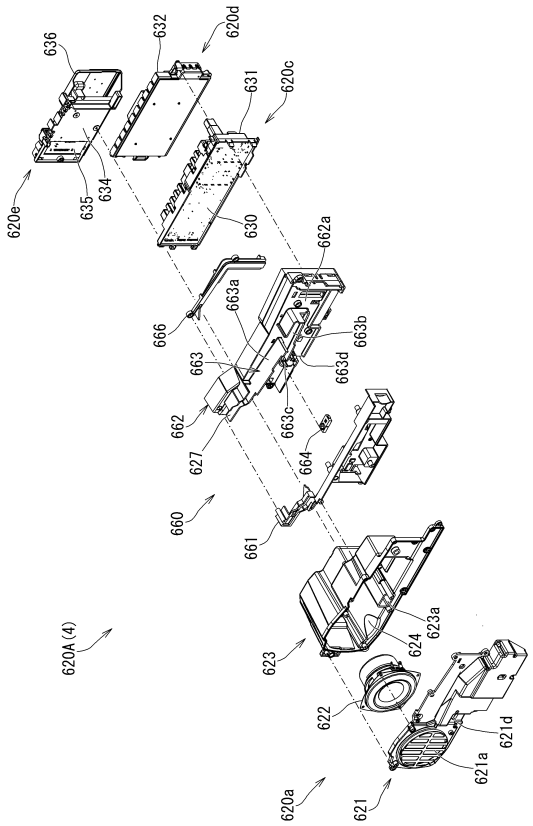
【図１１１】



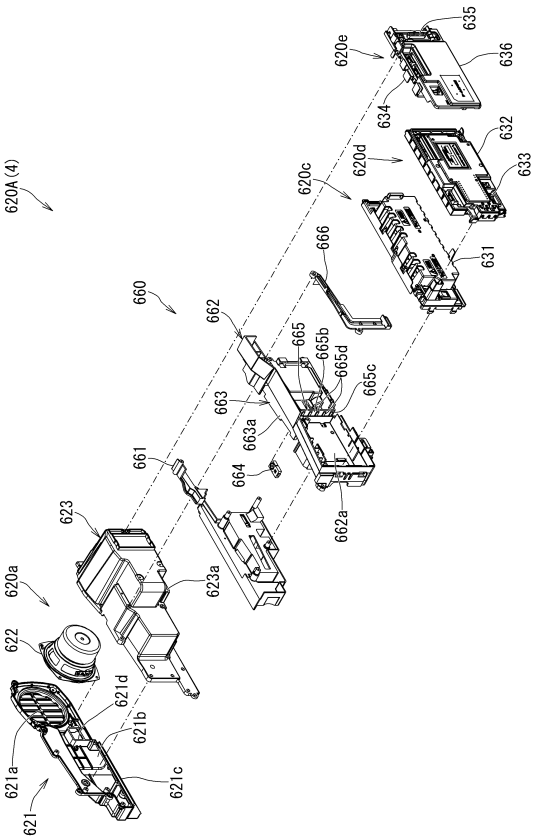
【図１１２】



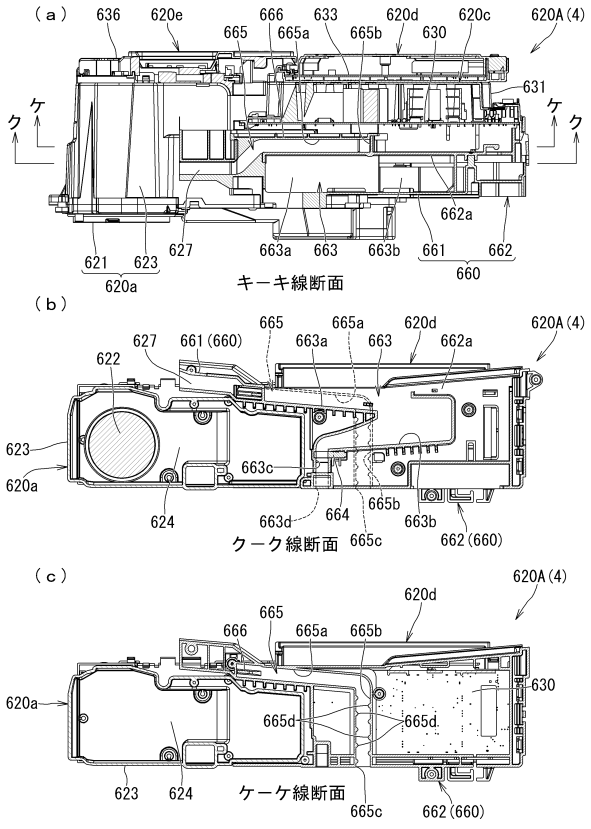
【図１１３】



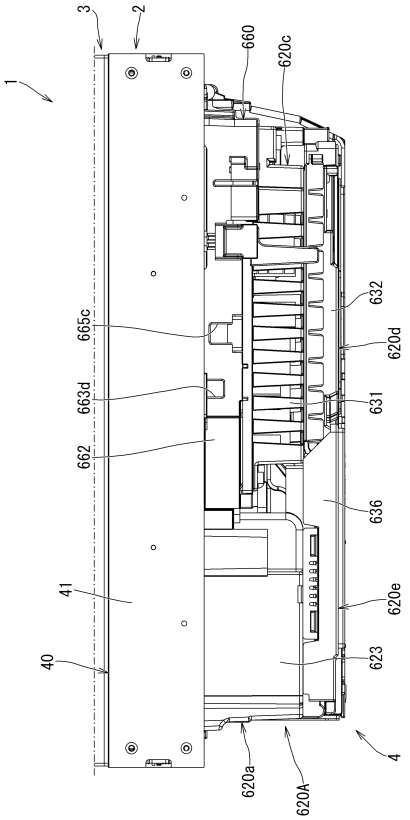
【図１１４】



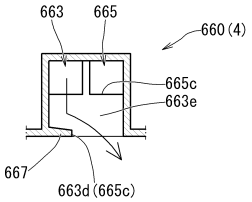
【図１１５】



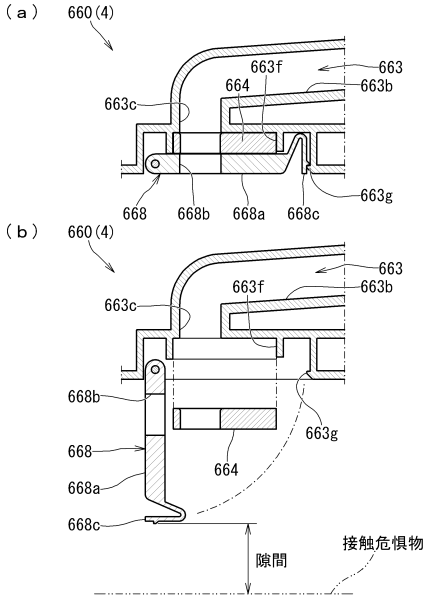
【図１１６】



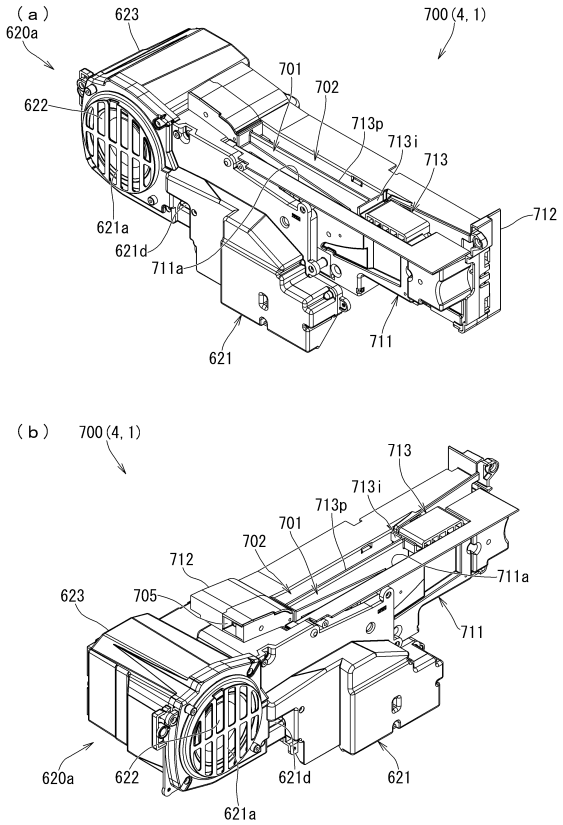
【図１１７】



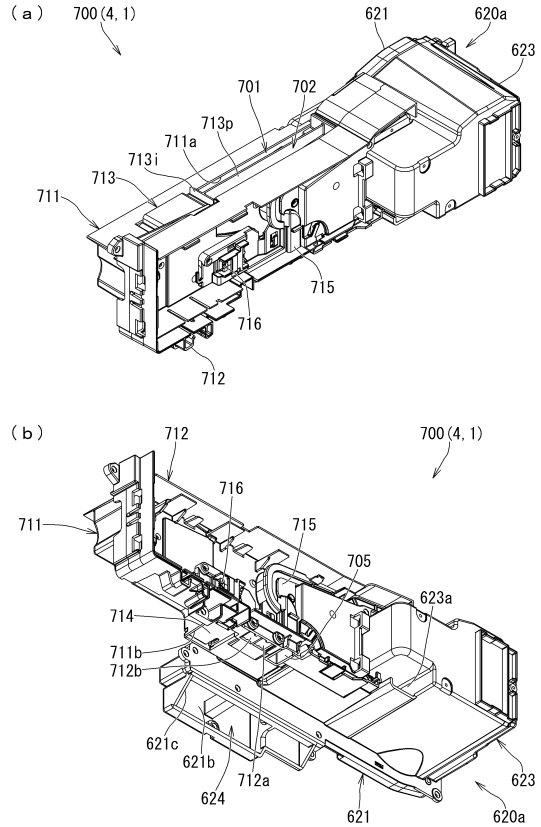
【図１１８】



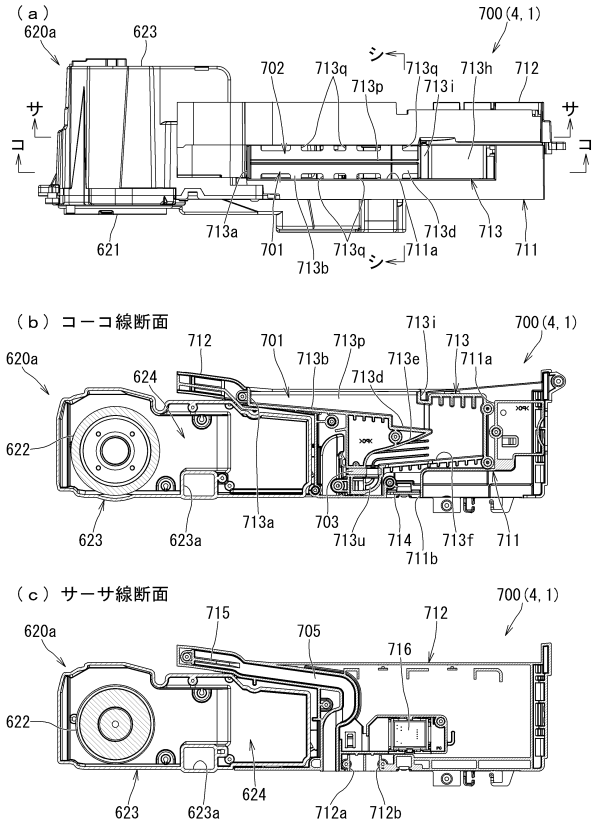
【図１１９】



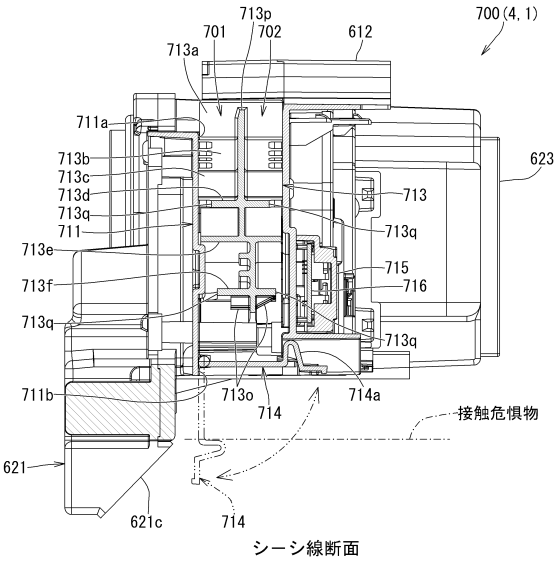
【図１２０】



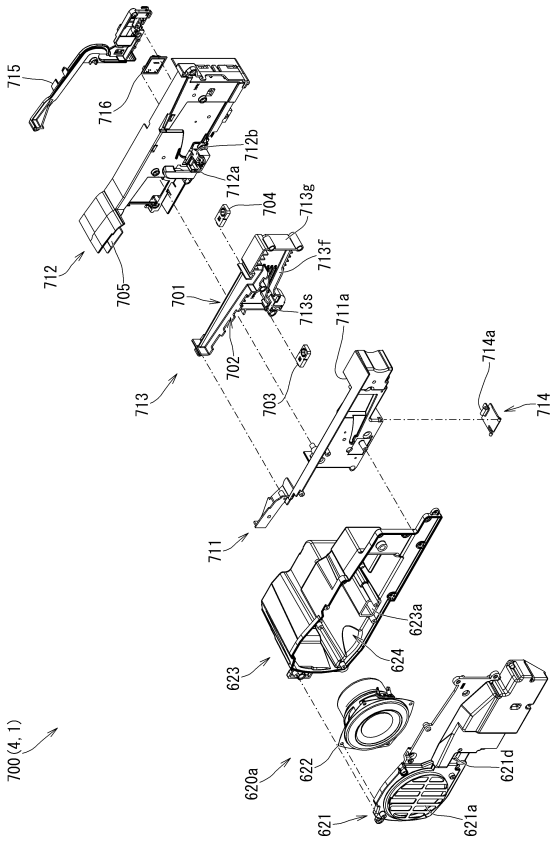
【図１２１】



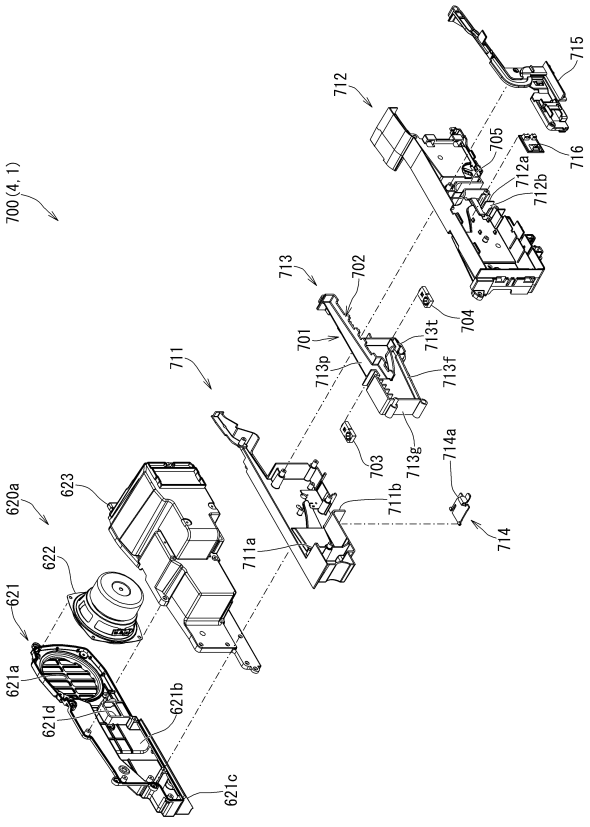
【図１２２】



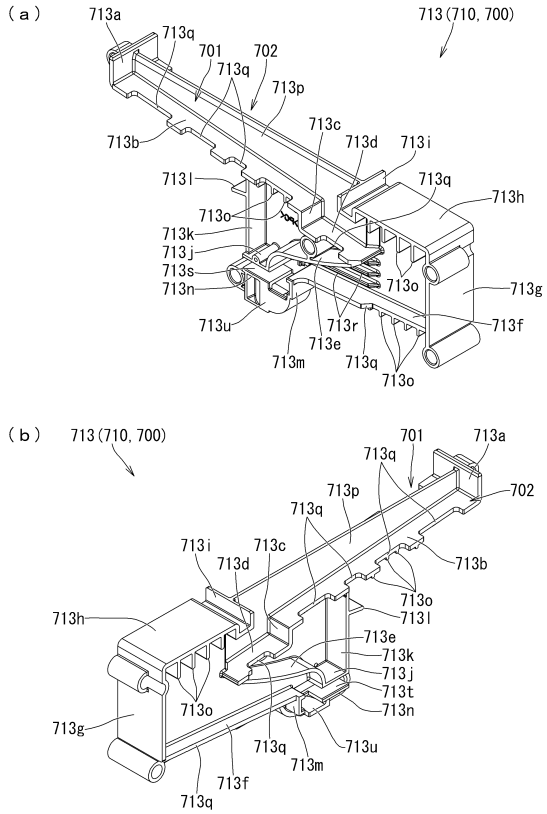
【図１２３】



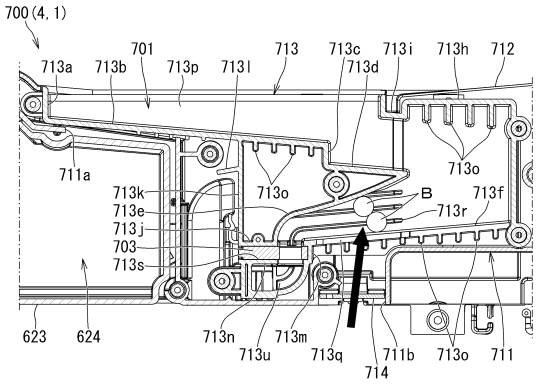
【図１２４】



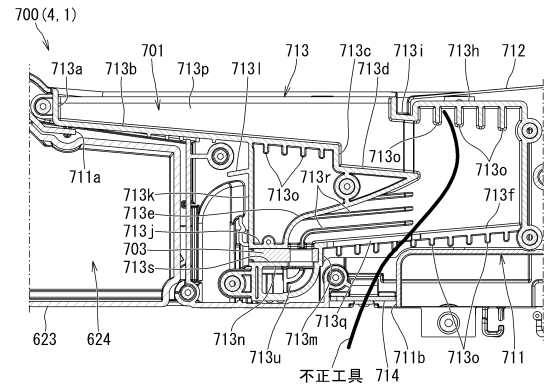
【図１２５】



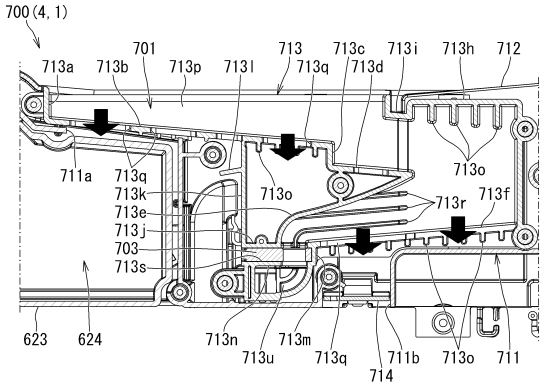
【図１２６】



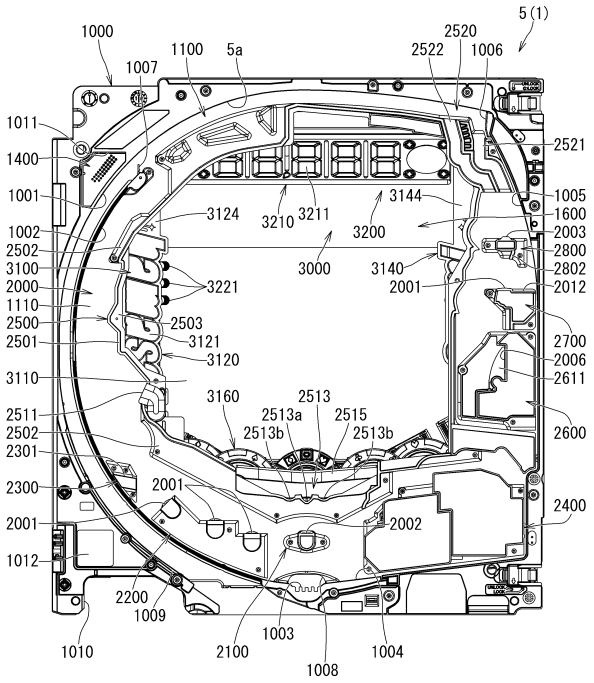
【図１２７】



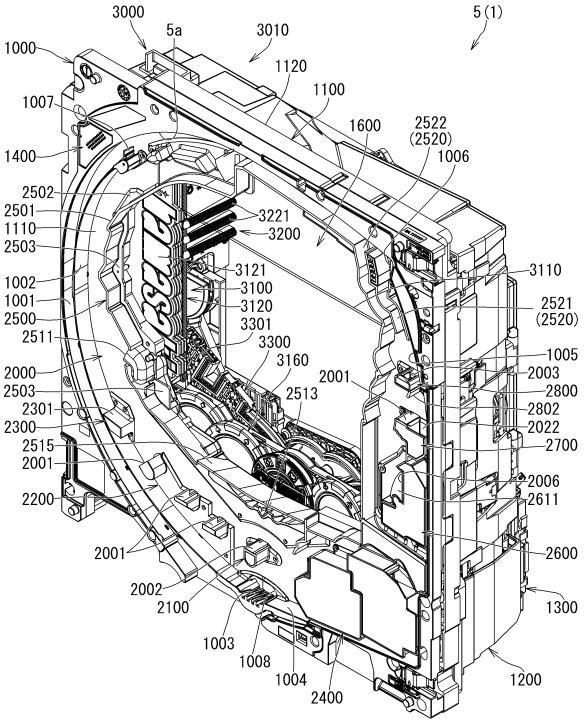
【図１２８】



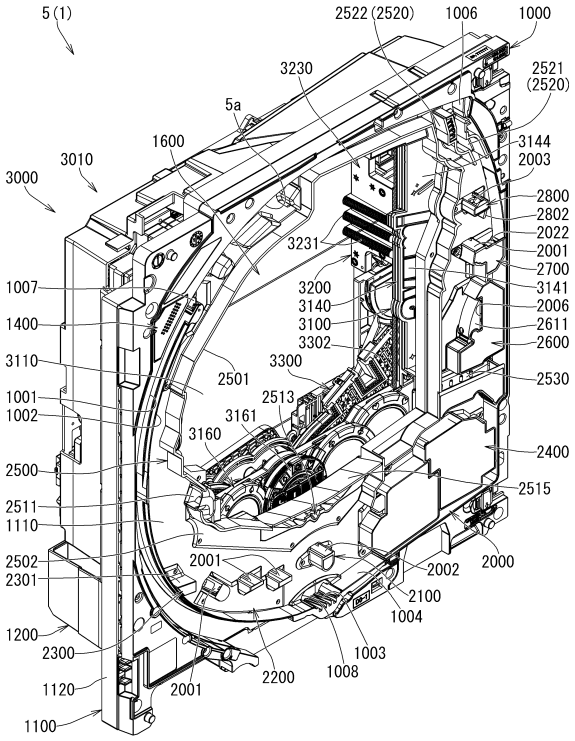
【図１２９】



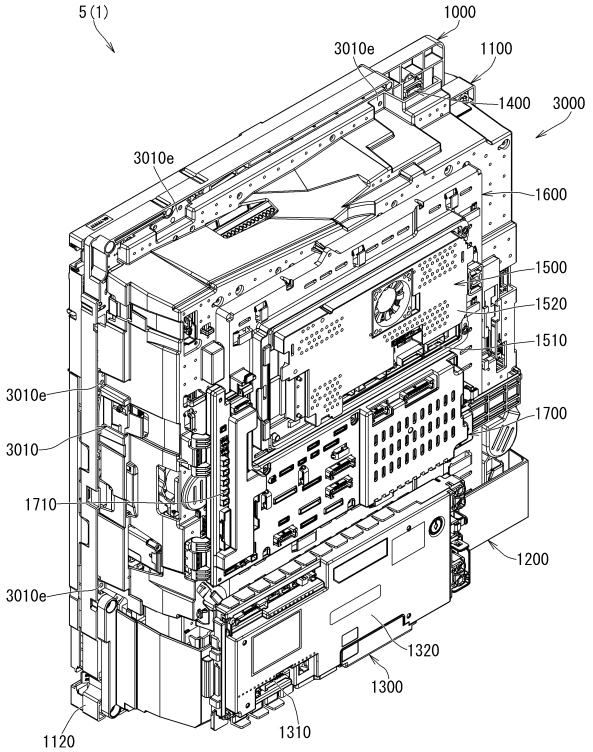
【図１３０】



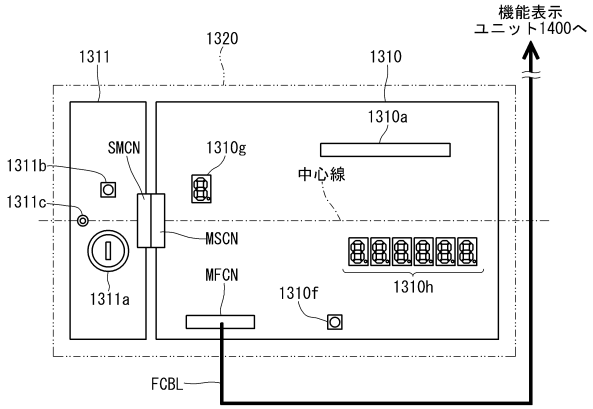
【図１３１】



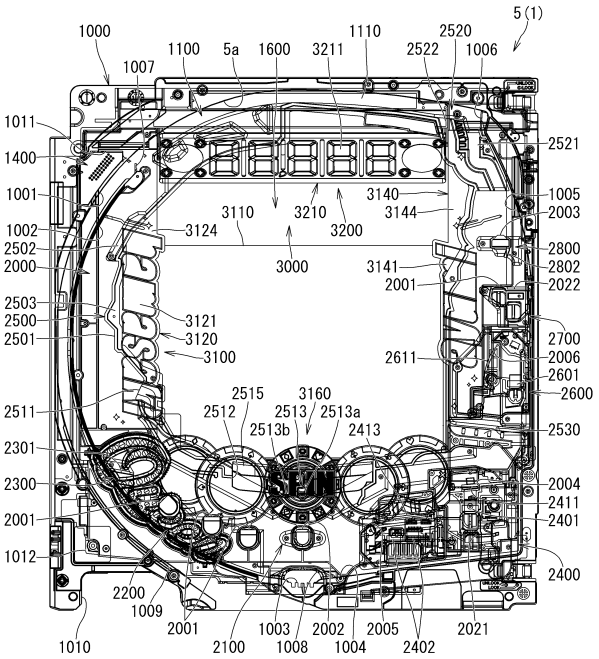
【図１３２】



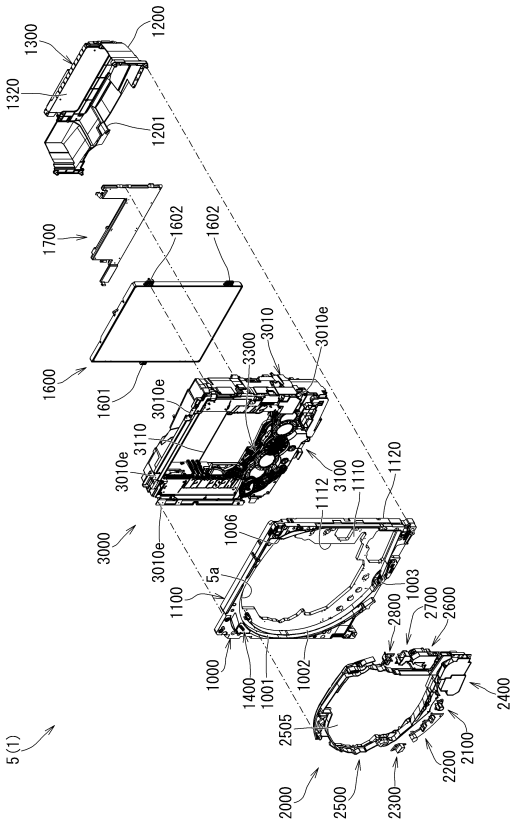
【図１３３】



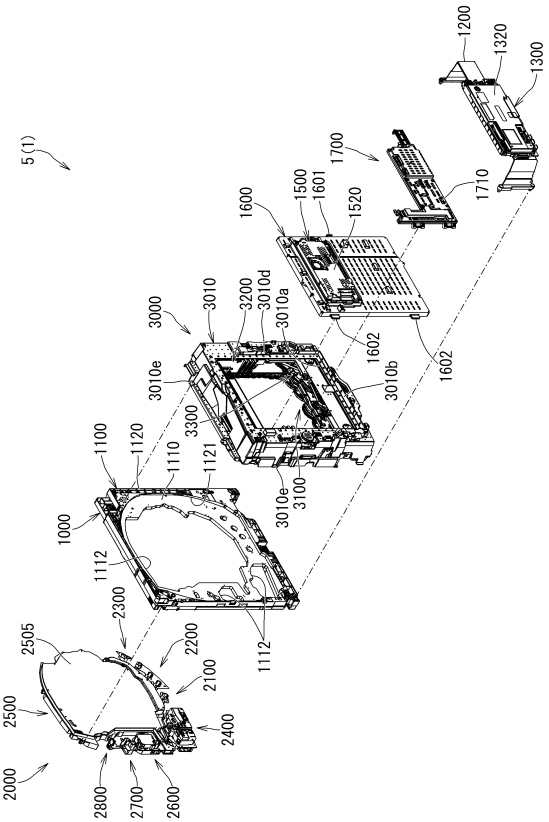
【図１３４】



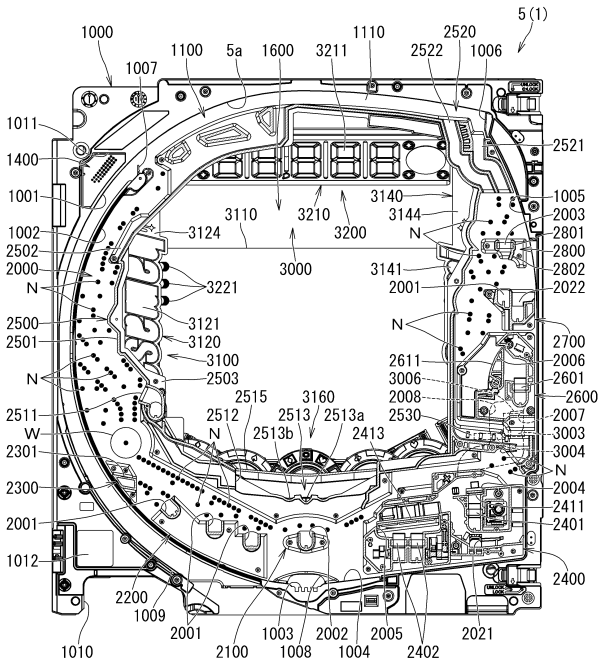
【図１３５】



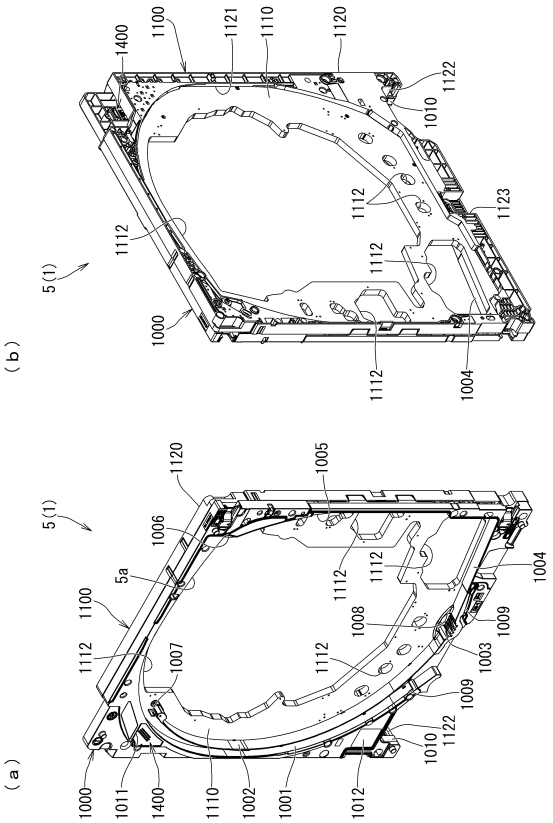
【図１３６】



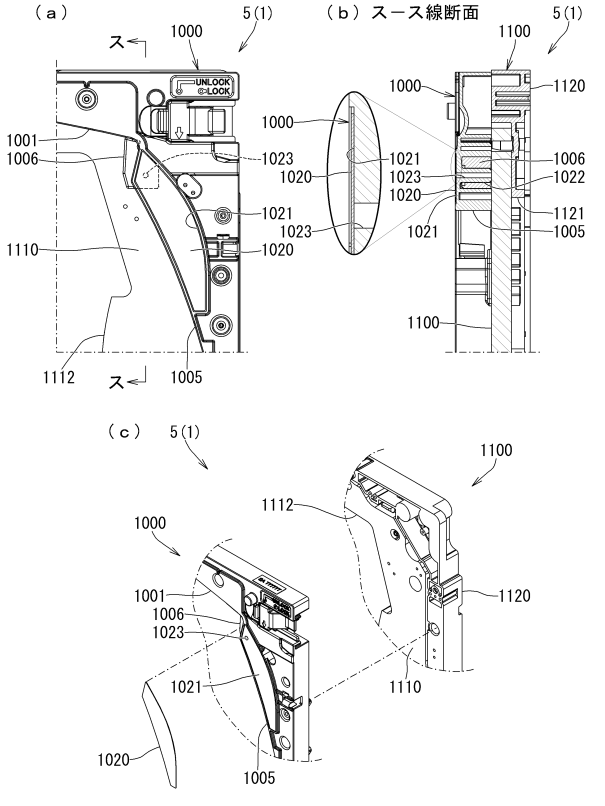
【図１３７】



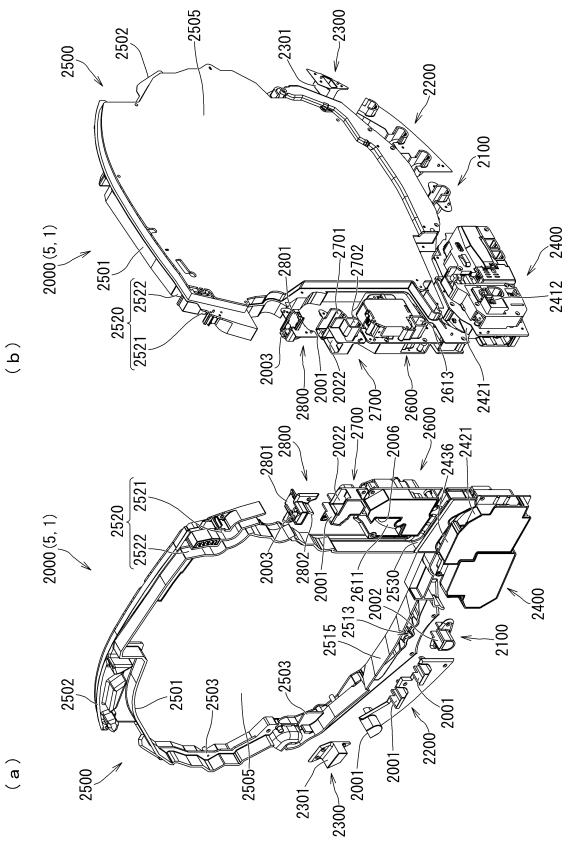
【図１３８】



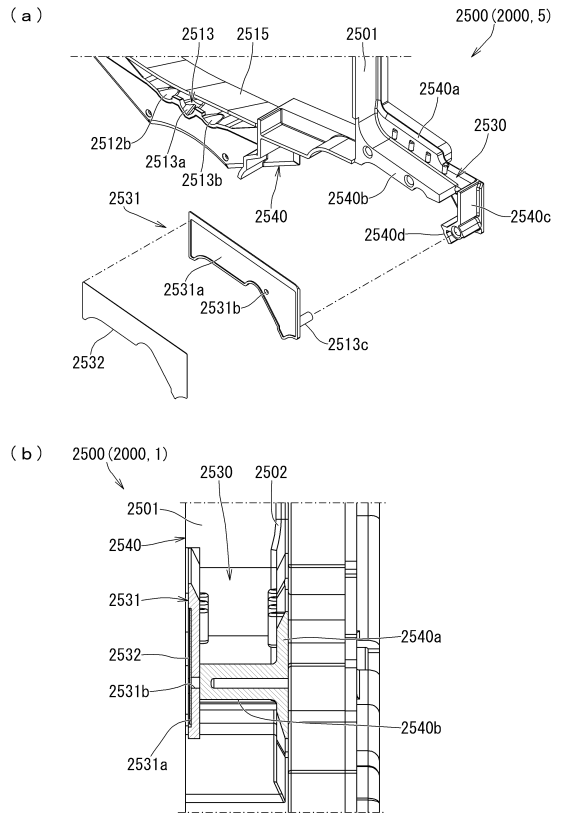
【図１３９】



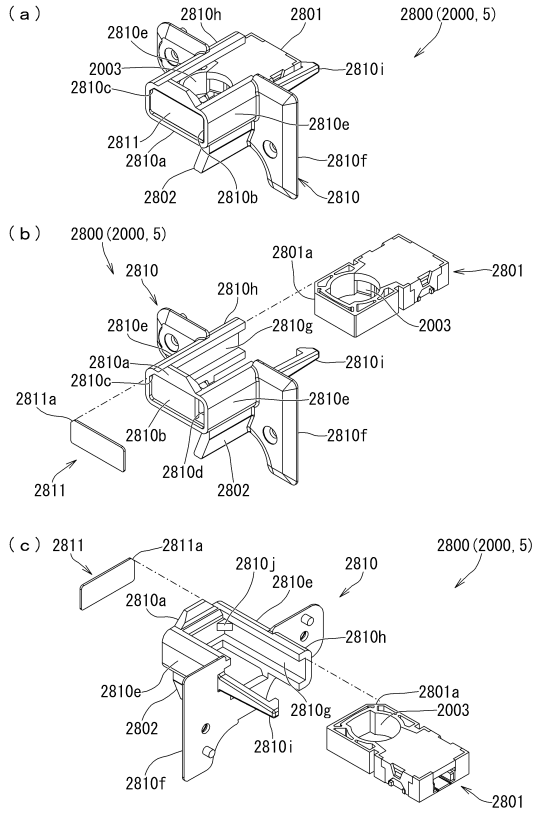
【図１４０】



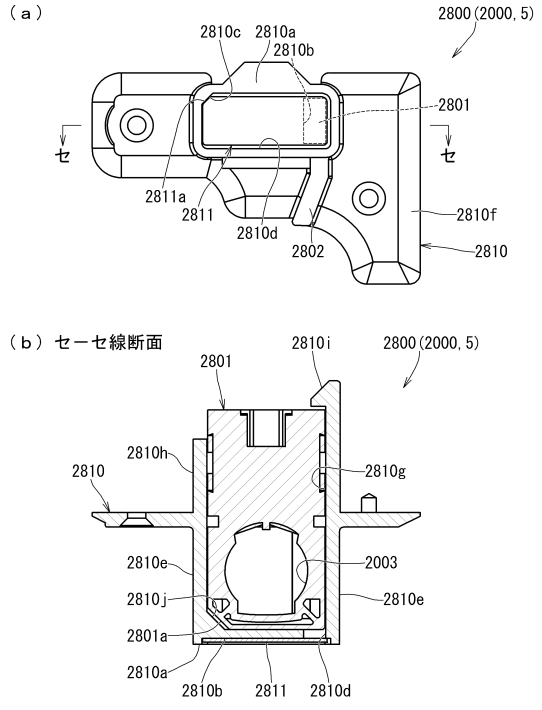
【図１４１】



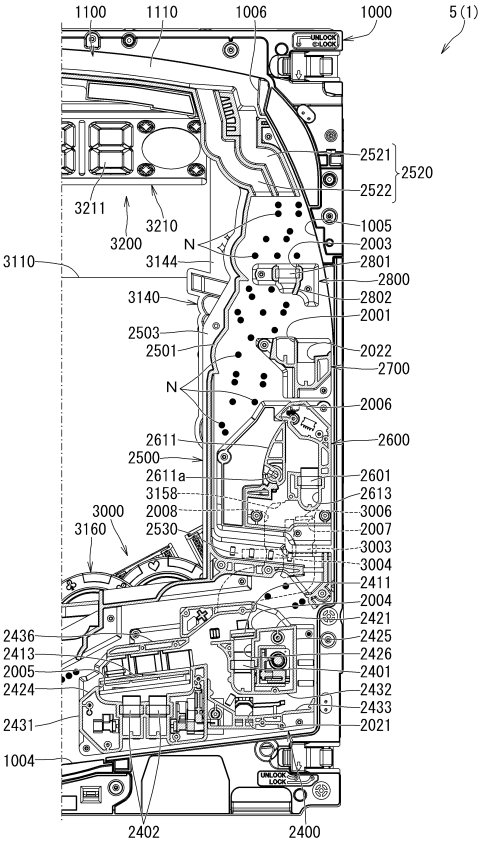
【図１４２】



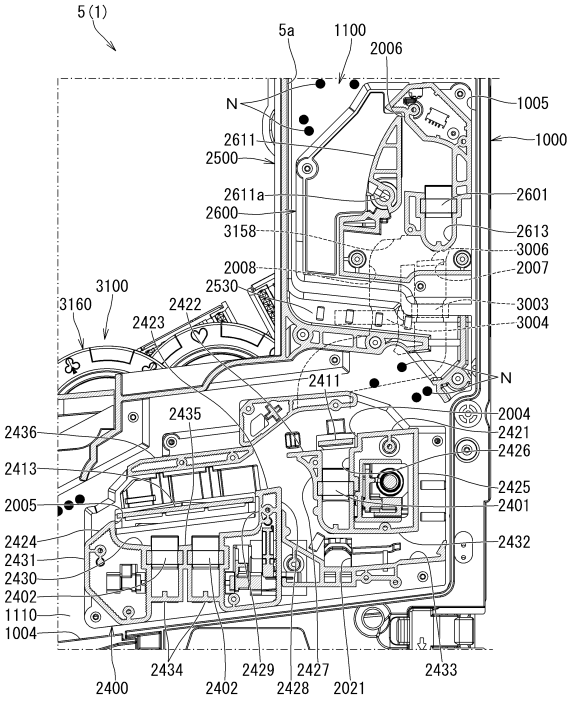
【図１４３】



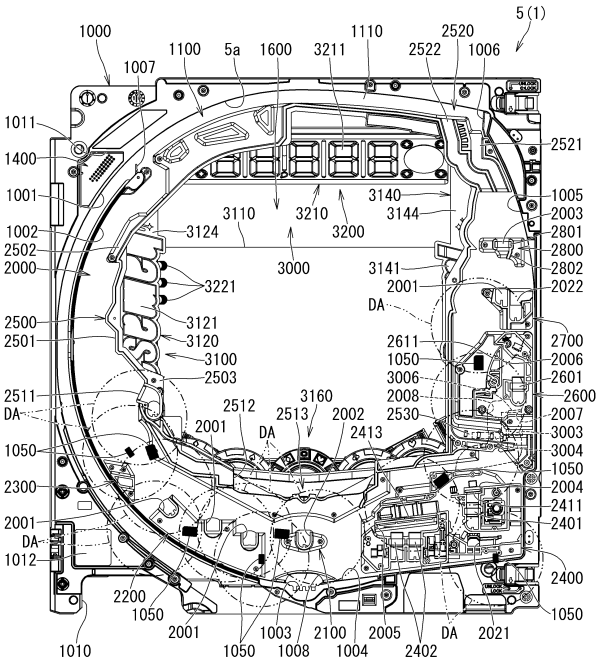
【図１４４】



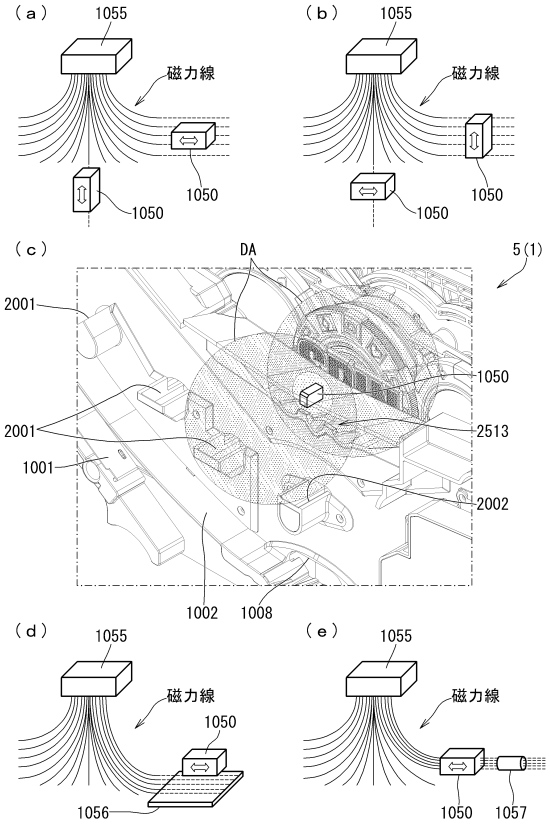
【図１４５】



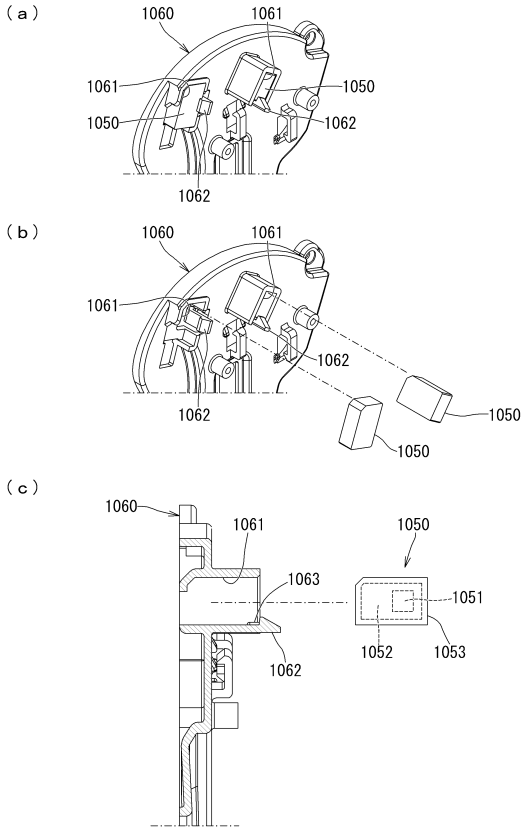
【図１４６】



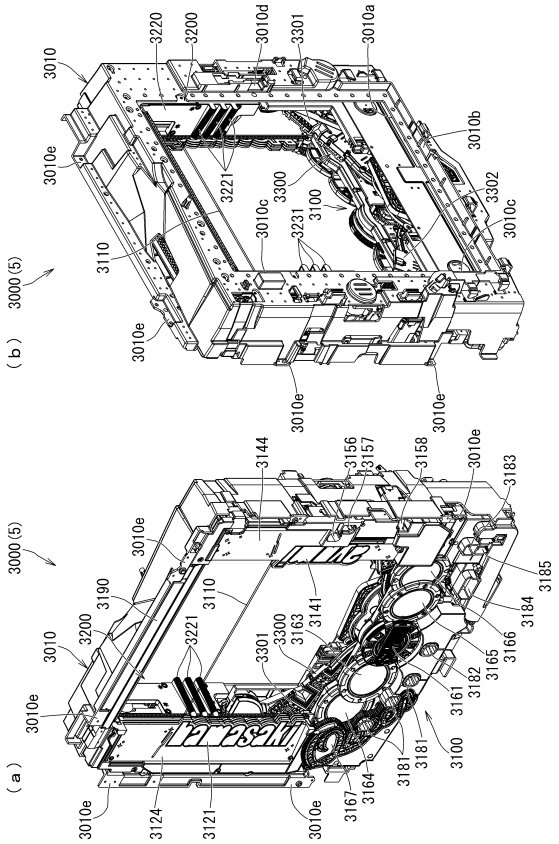
【図１４７】



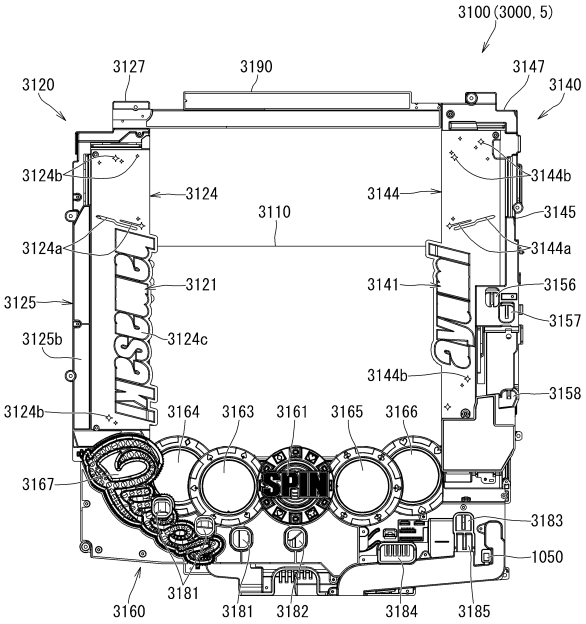
【図１４８】



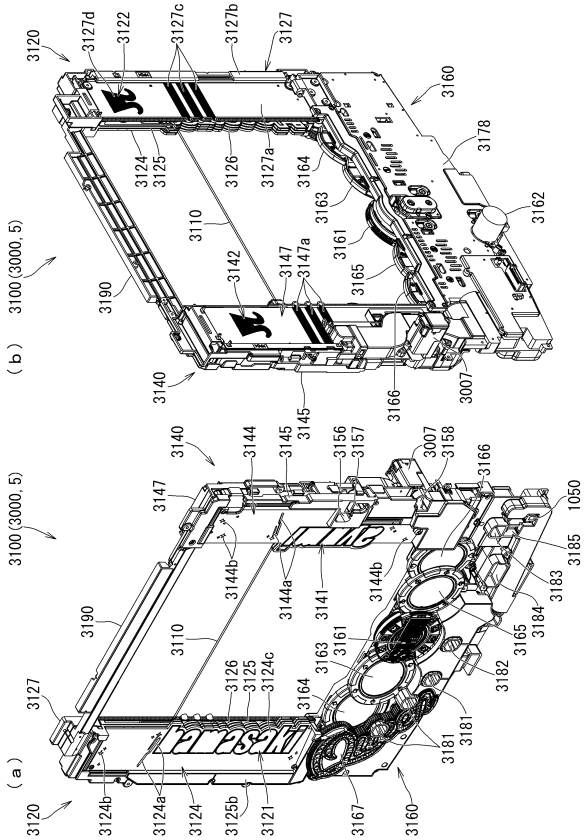
【図１４９】



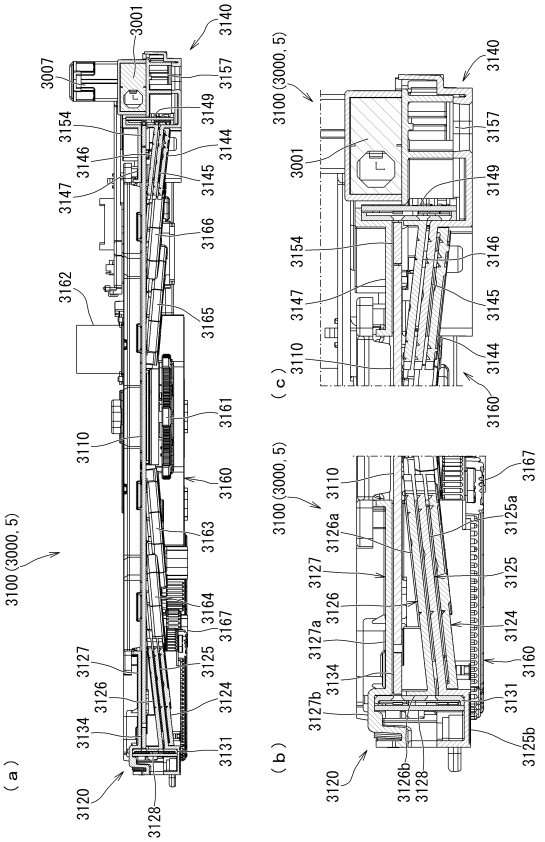
【図１５０】



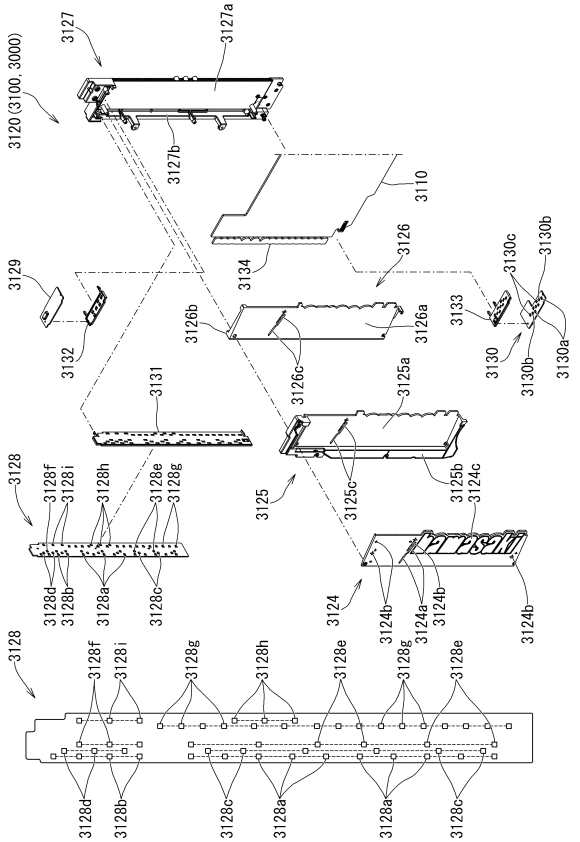
【図１５１】



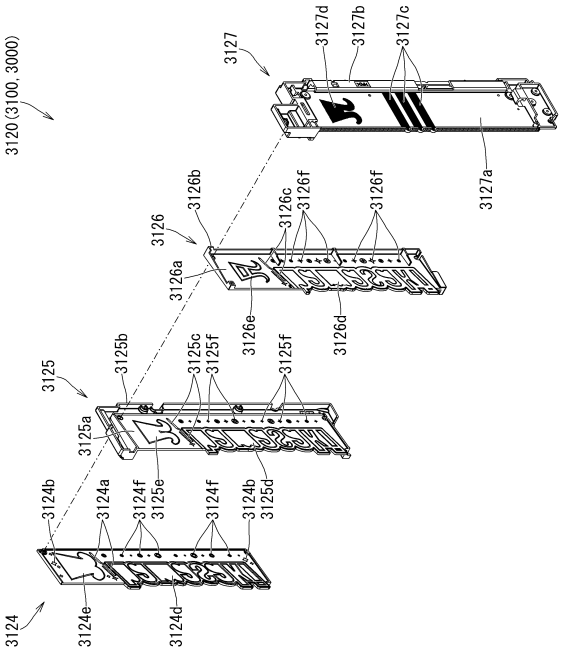
【図１５２】



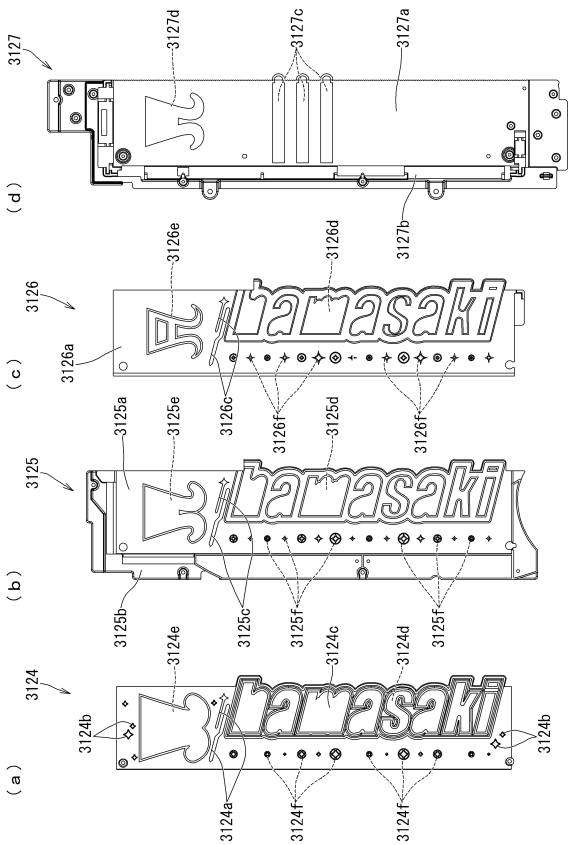
【図１５３】



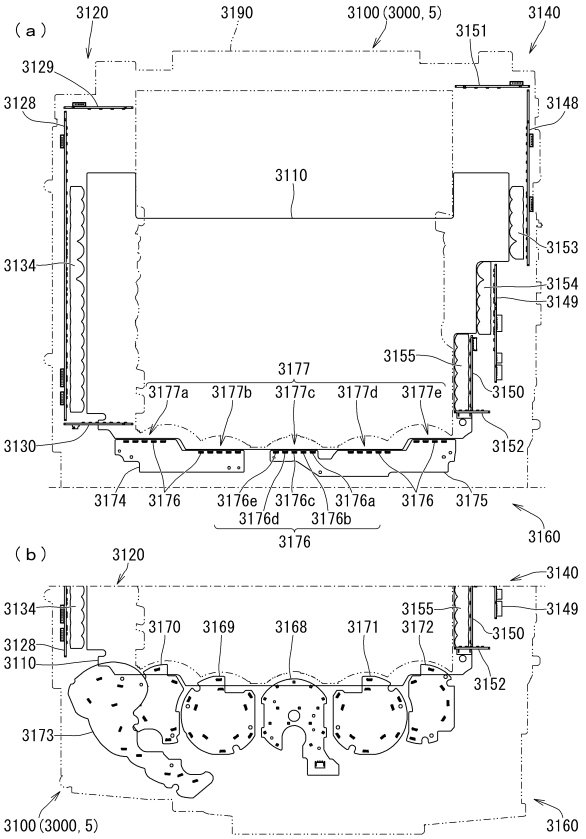
【図１５４】



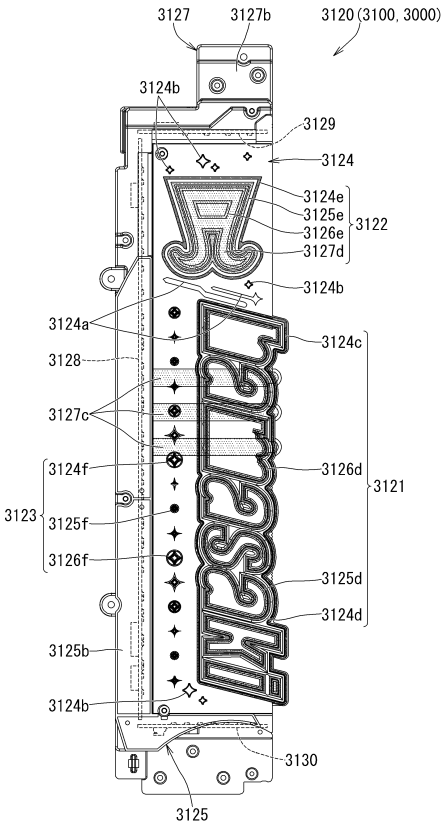
【図１５５】



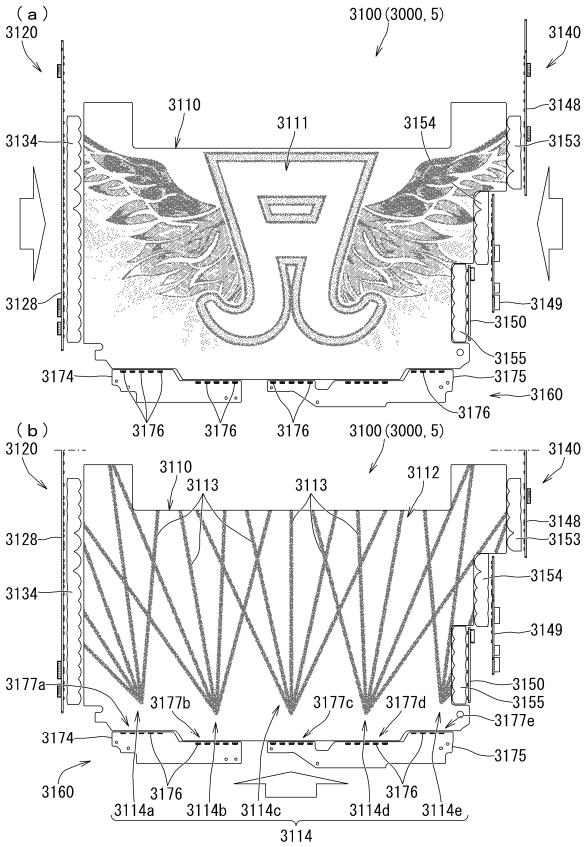
【図１５６】



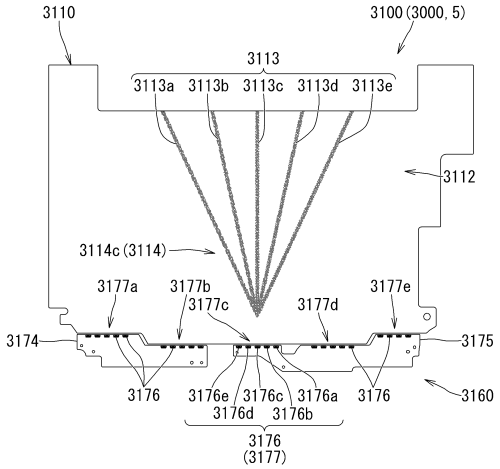
【図１５７】



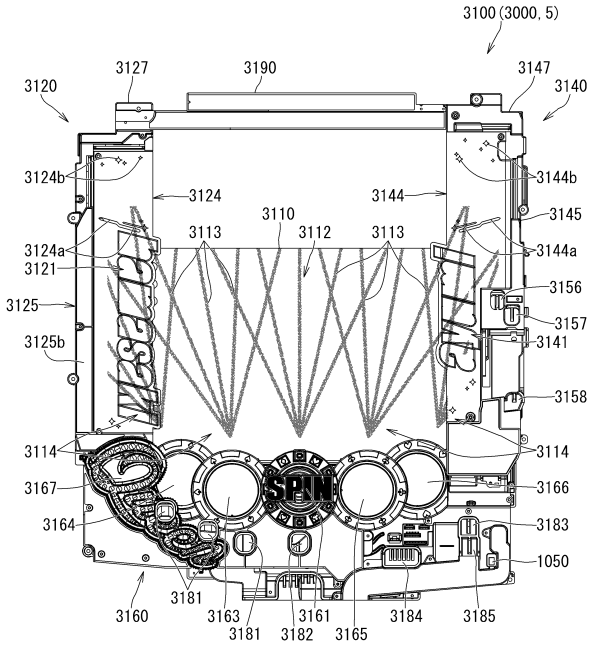
【図１５８】



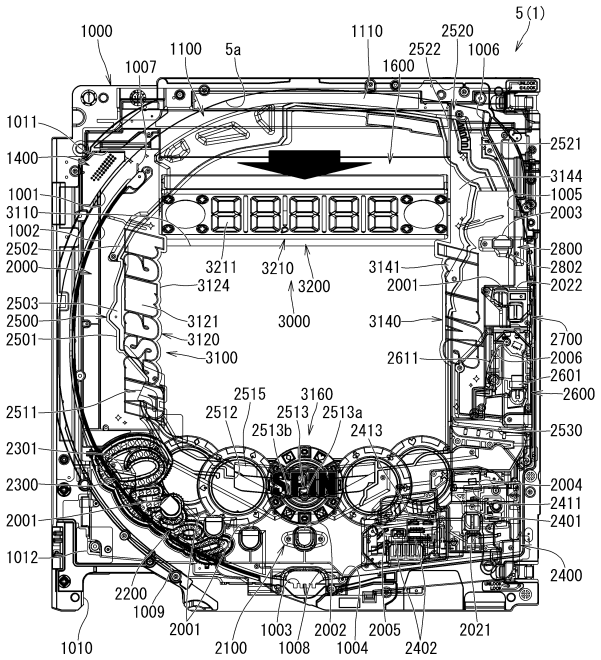
【図１５９】



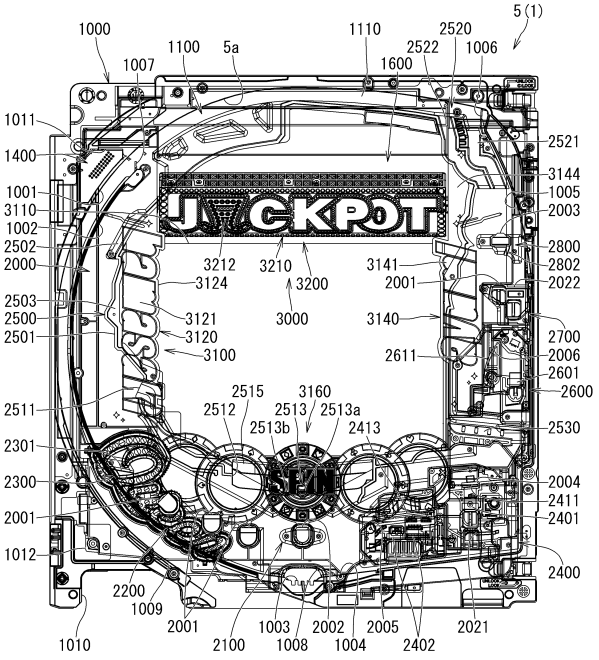
【図１６０】



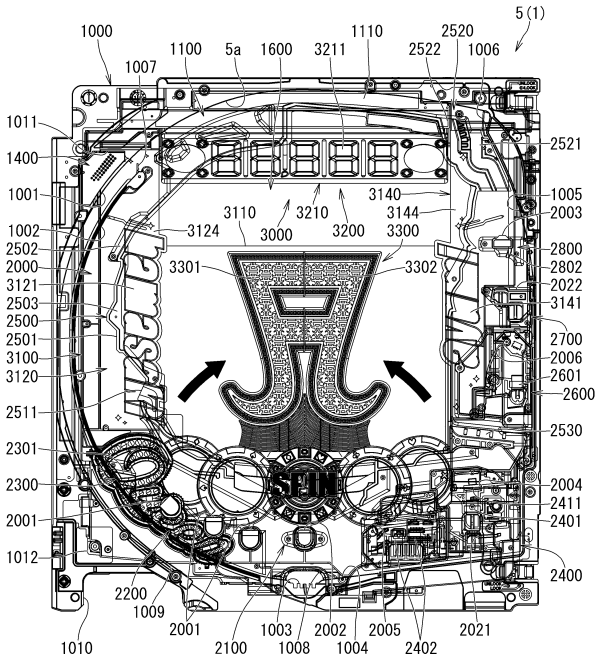
【図１６１】



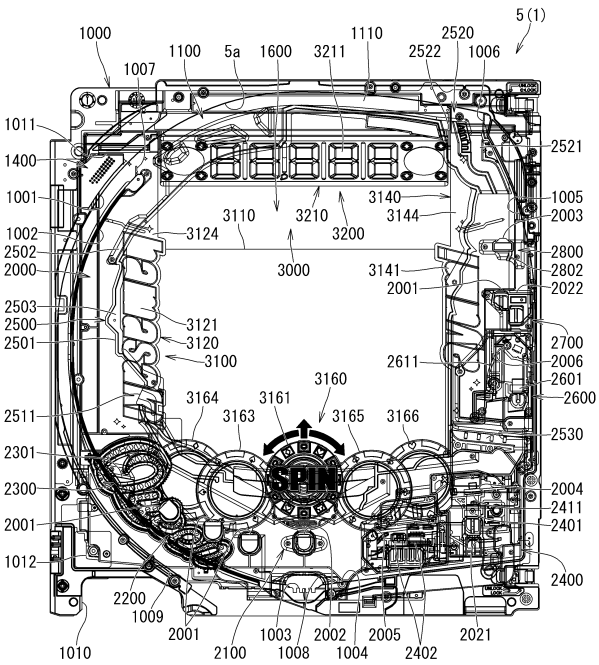
【図１６２】



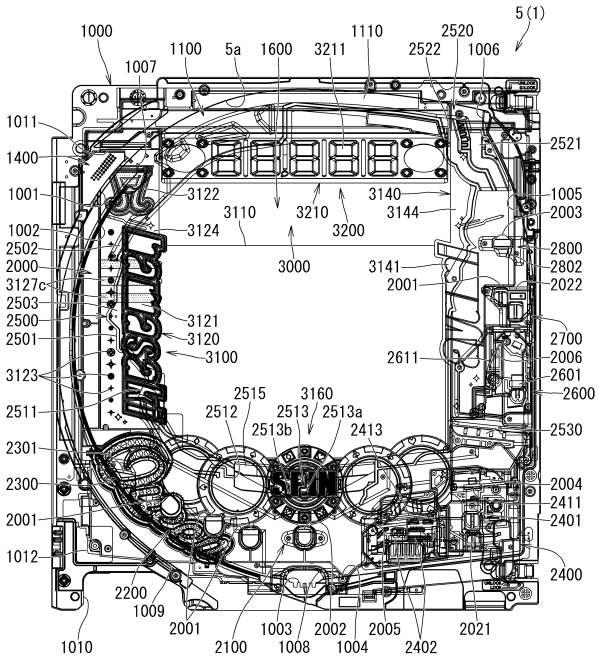
【図１６３】



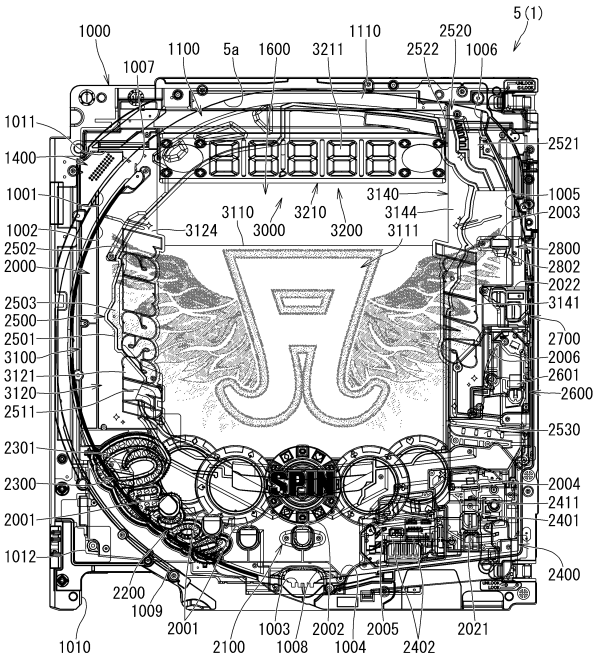
【図１６４】



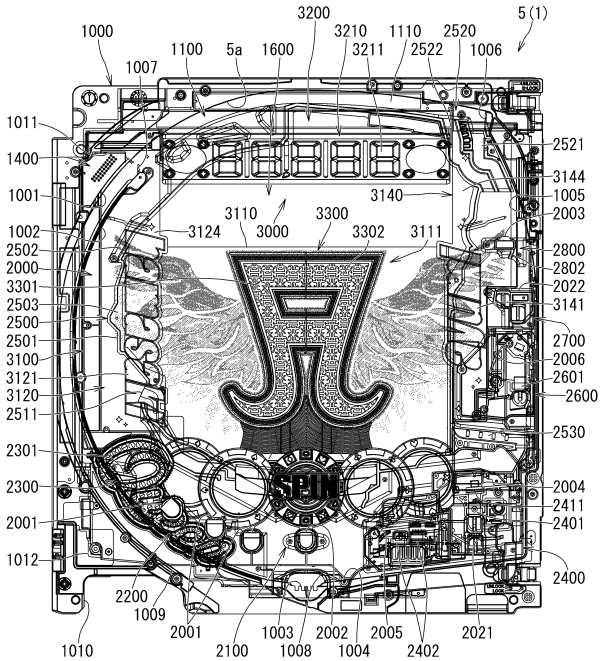
【図１６５】



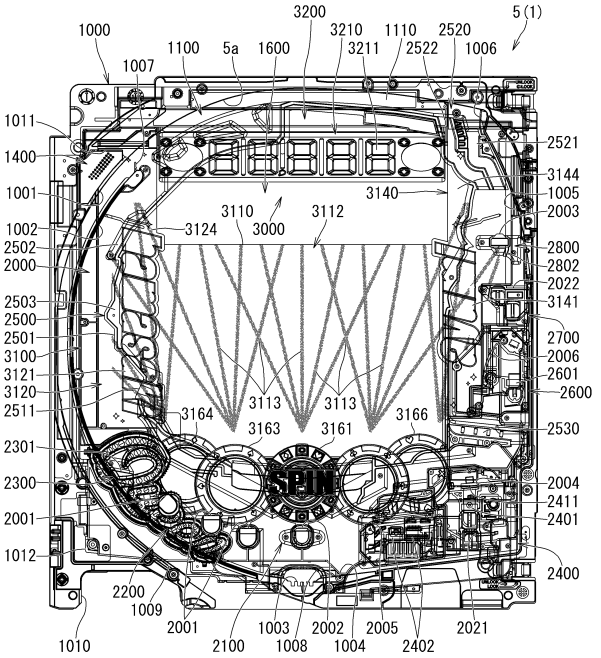
【図１６６】



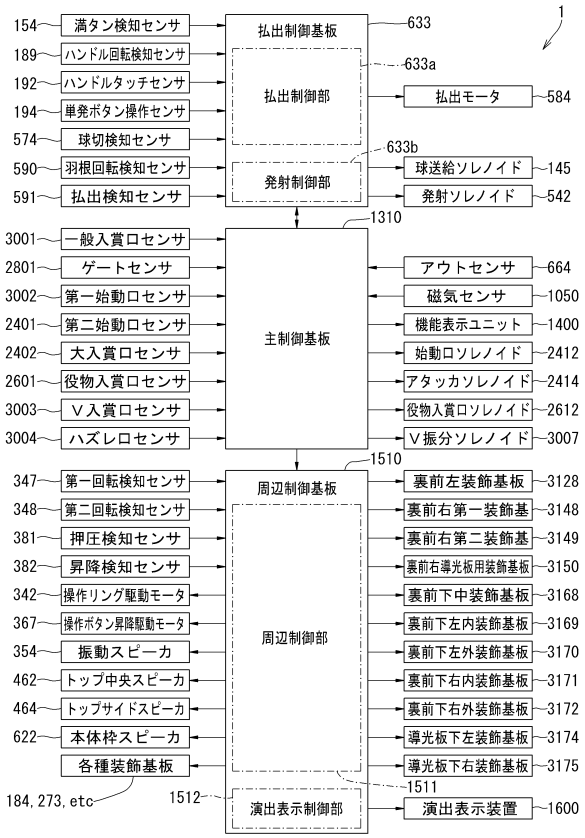
【図１６７】



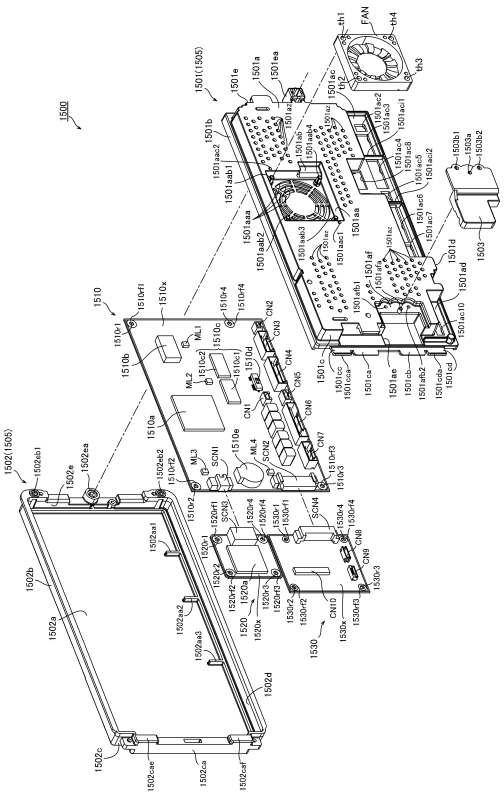
【図１６８】



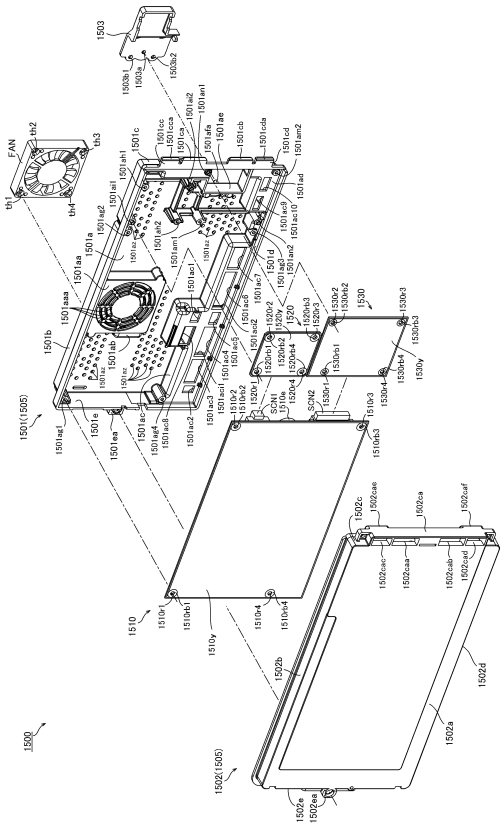
【図１６９】



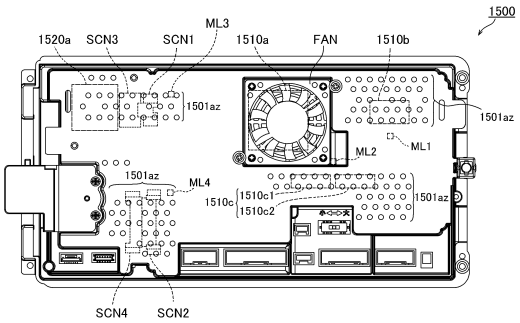
【図１７０】



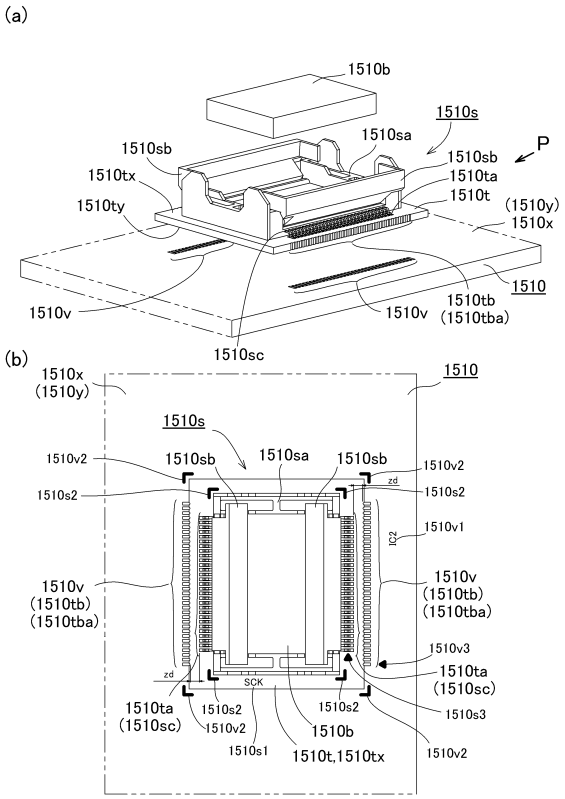
【図１７１】



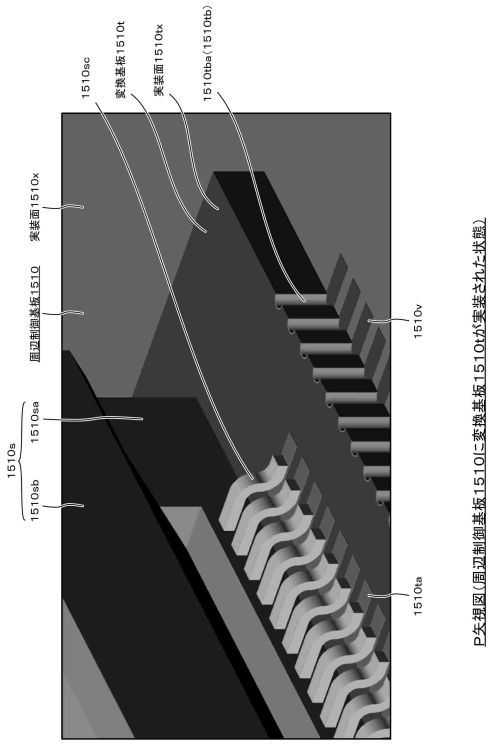
【図１７２】



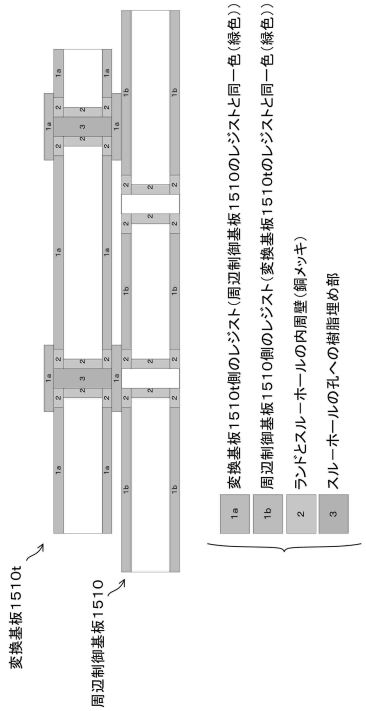
【図１７３】



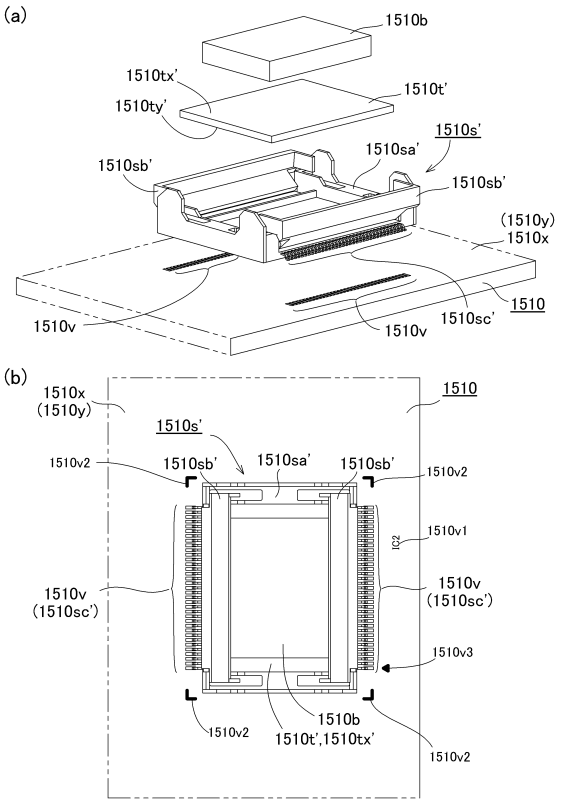
【図１７４】



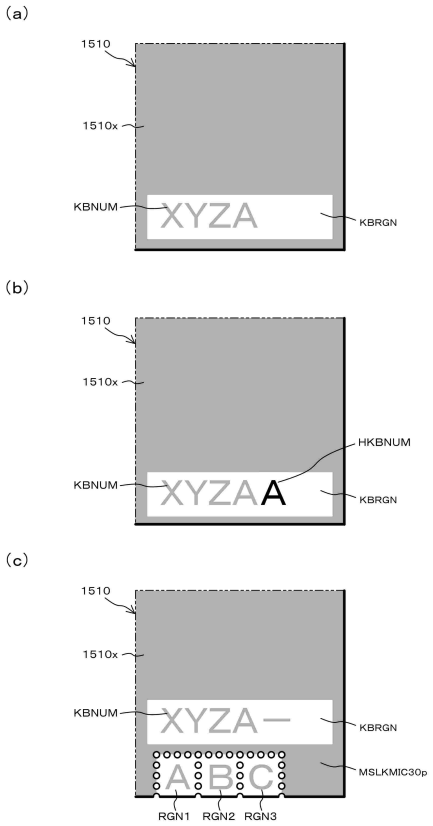
【図１７５】



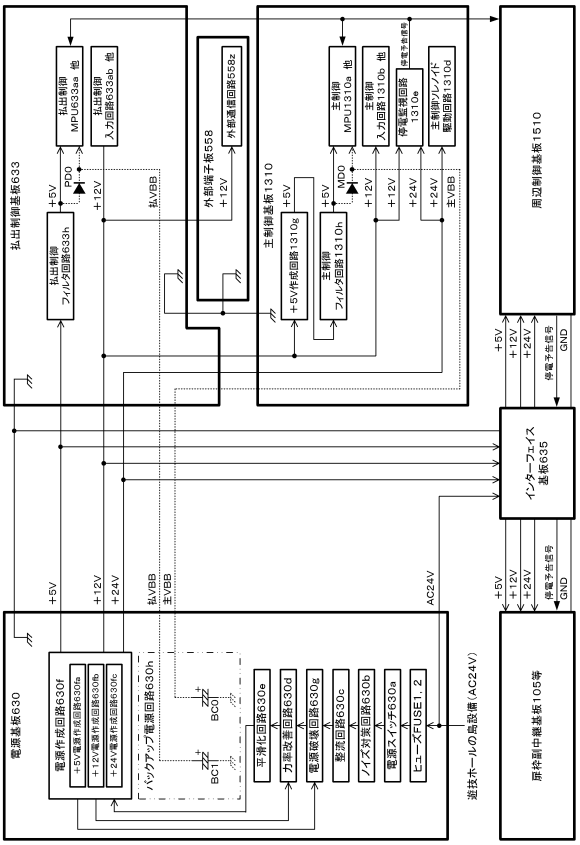
【図１７６】



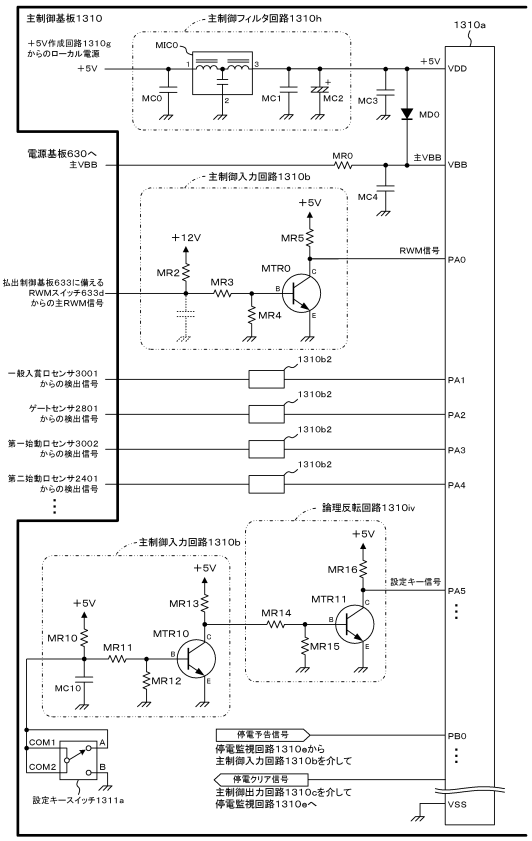
【図１７７】



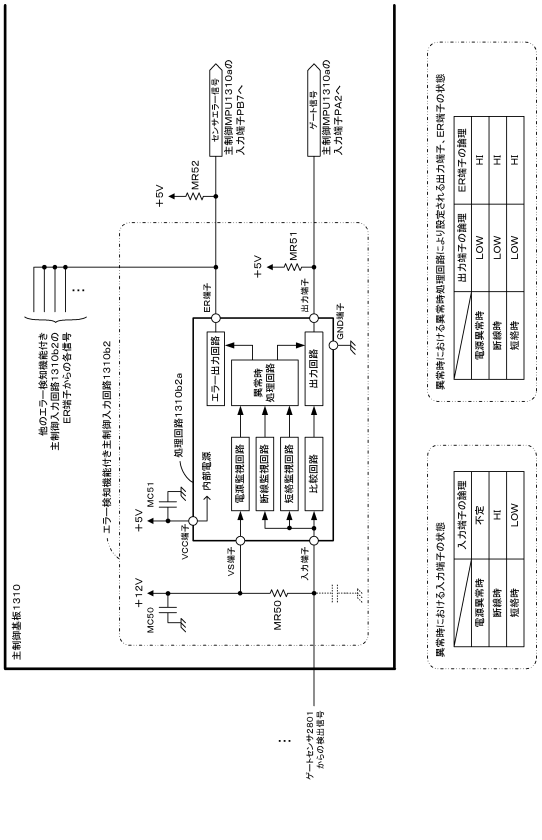
【図１７８】



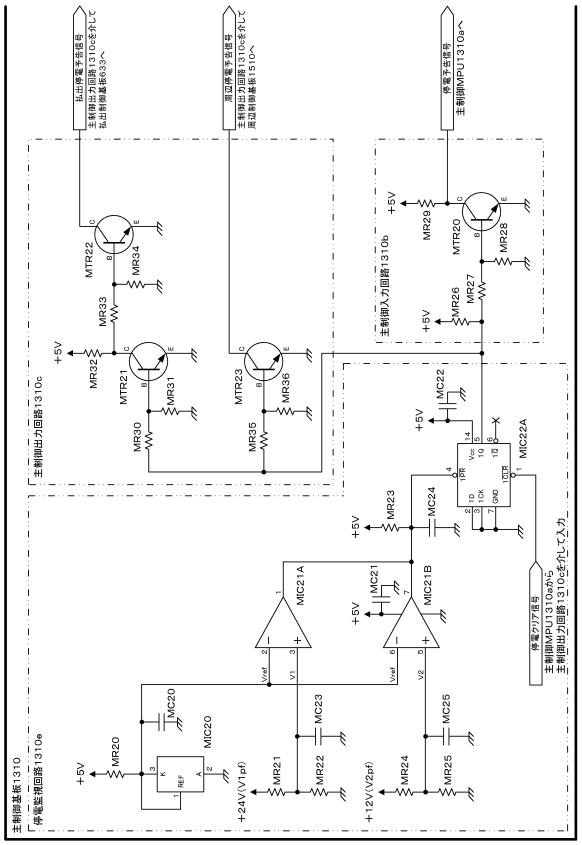
【図１７９】



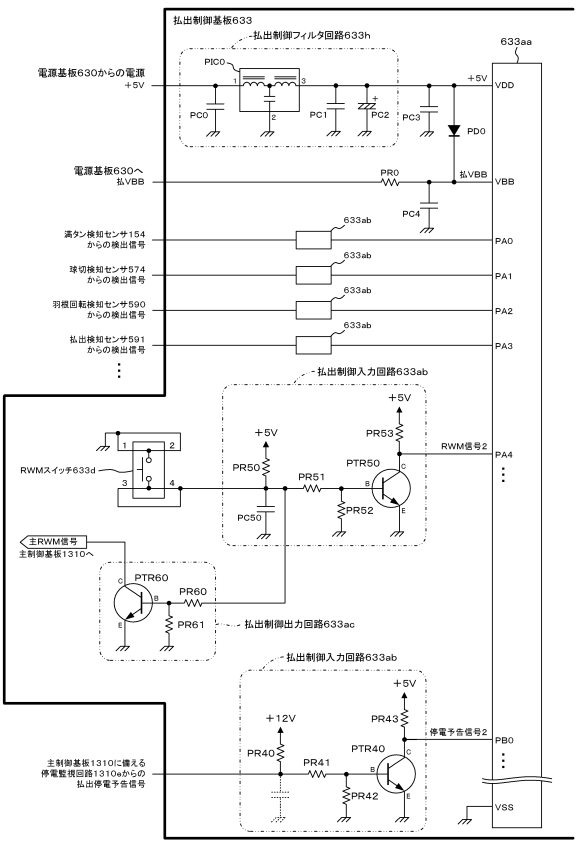
【図１８０】



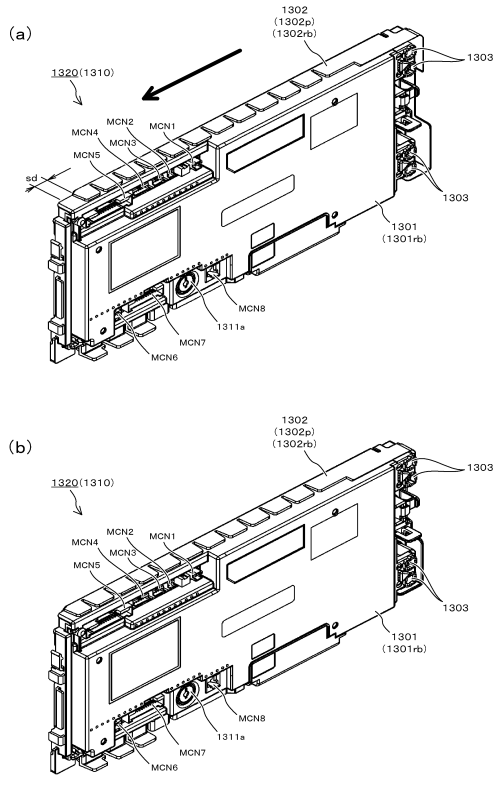
【図１８１】



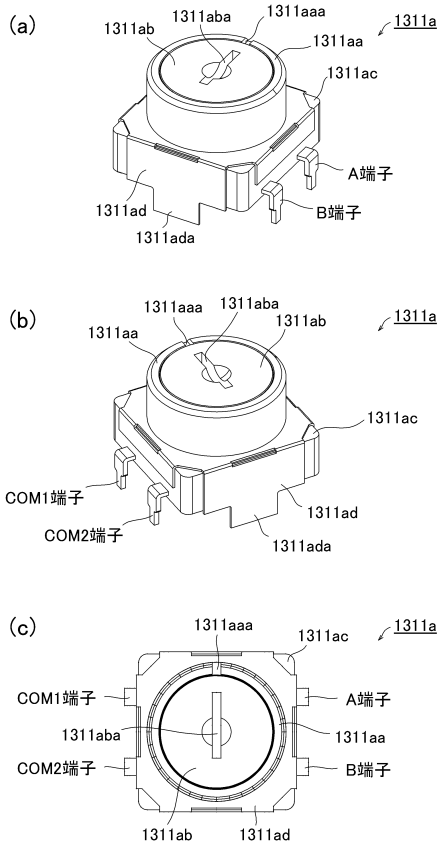
【図１８２】



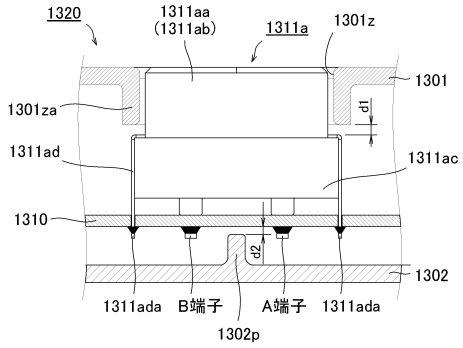
【図１８３】



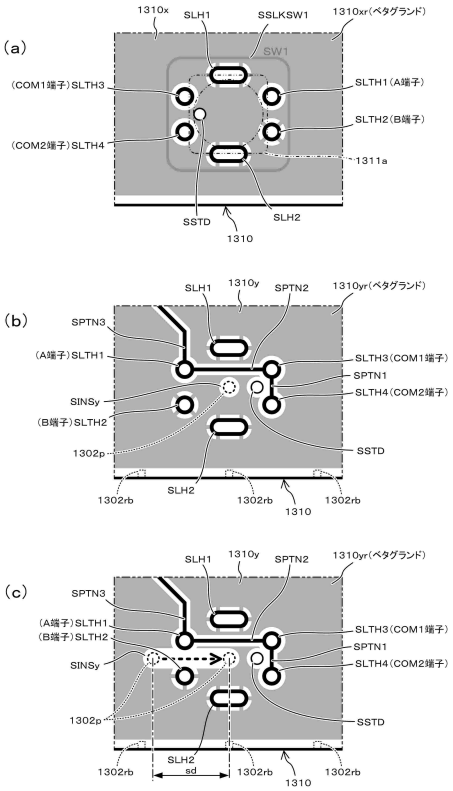
【図１８４】



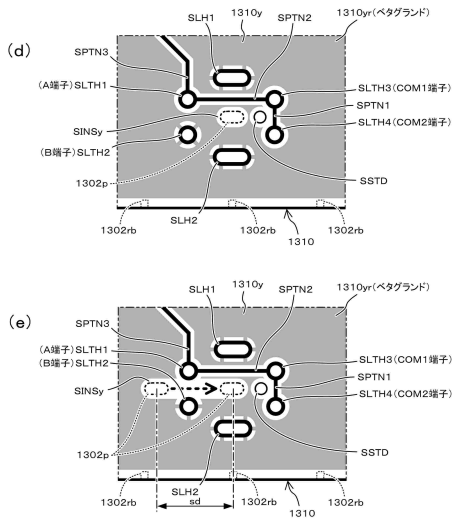
【図１８５】



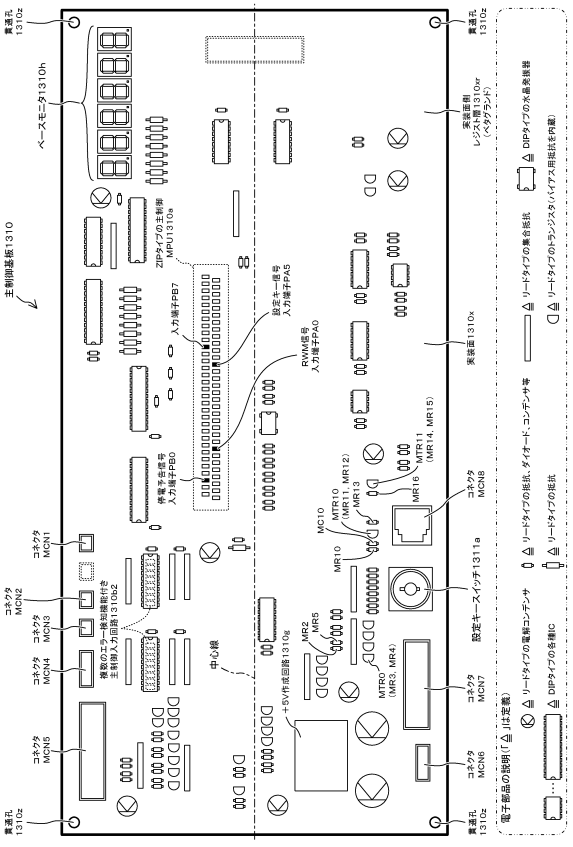
【図１８６】



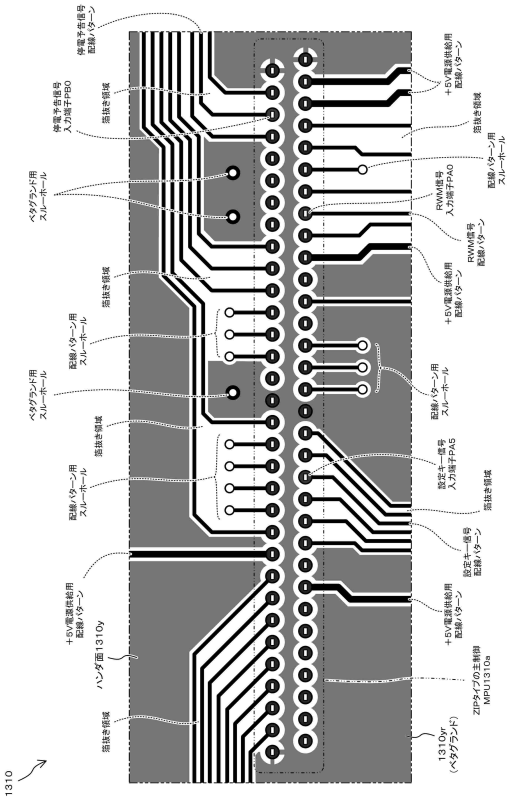
【図１８７】



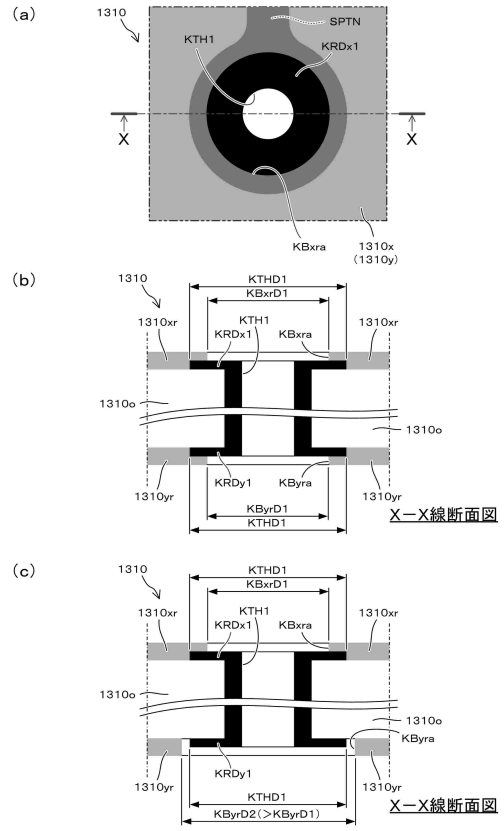
【図１８８】



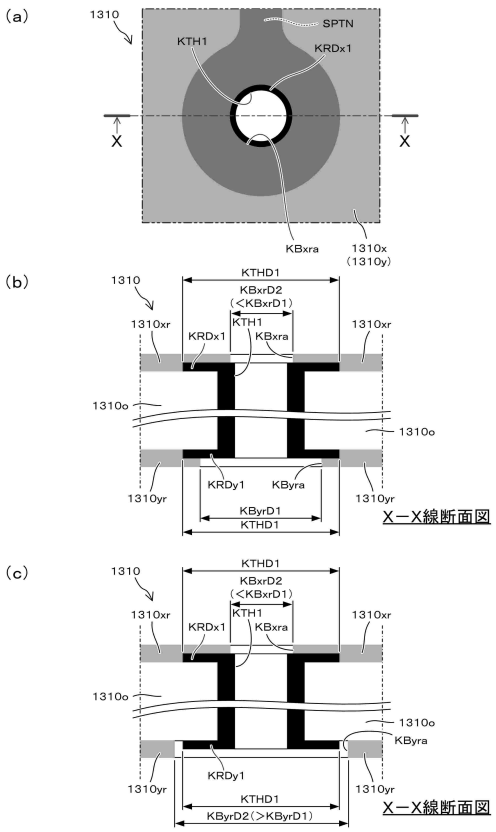
【図１８９】



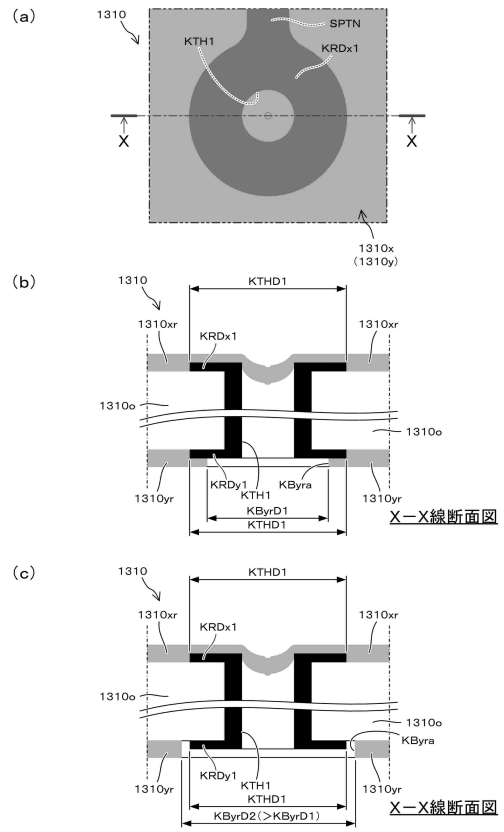
【図１９０】



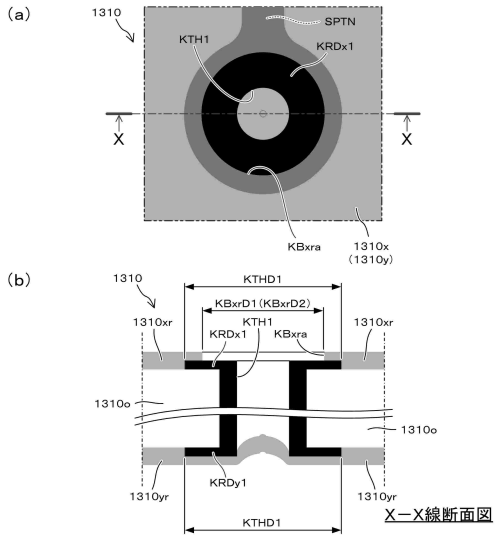
【図１９１】



【図１９２】

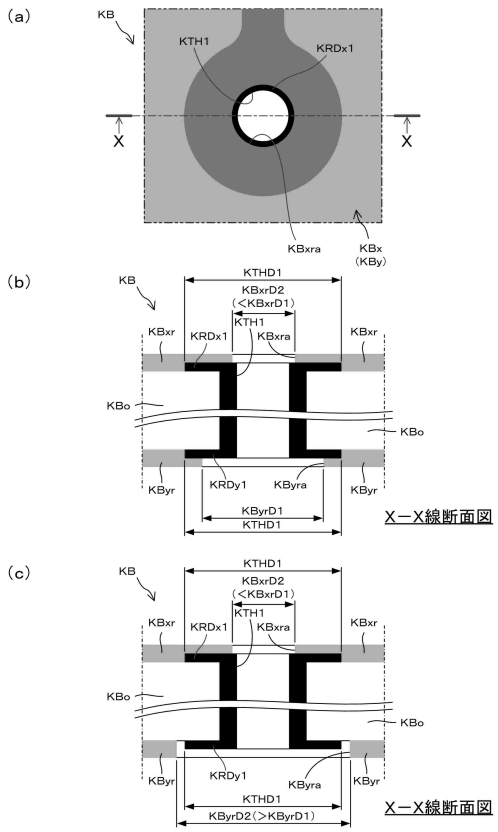


【図１９３】

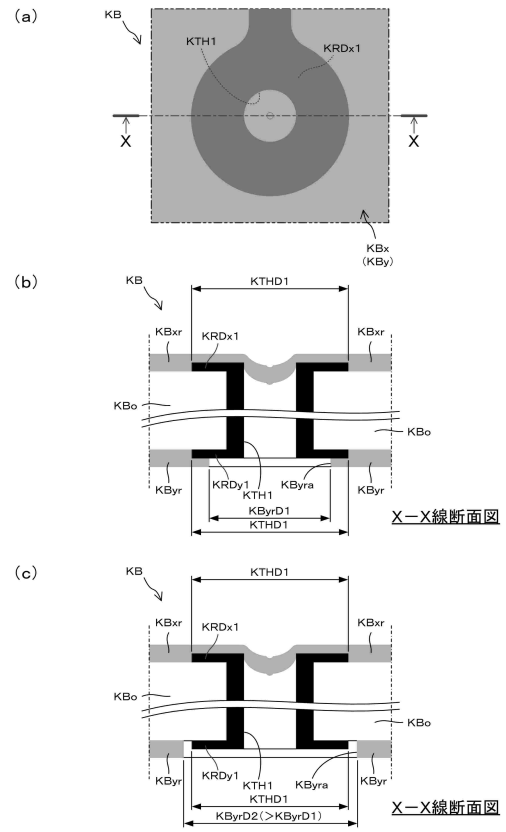


【図１９４】

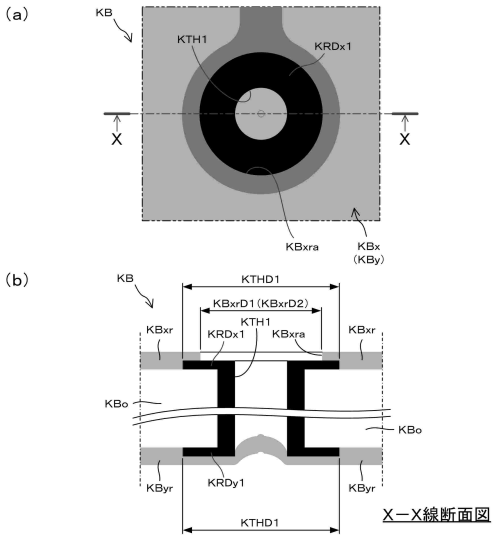
【図１９５】



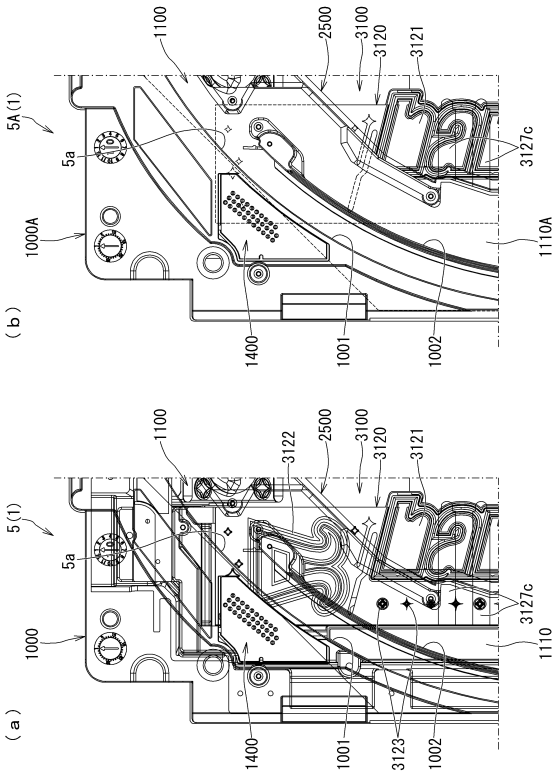
【図１９６】



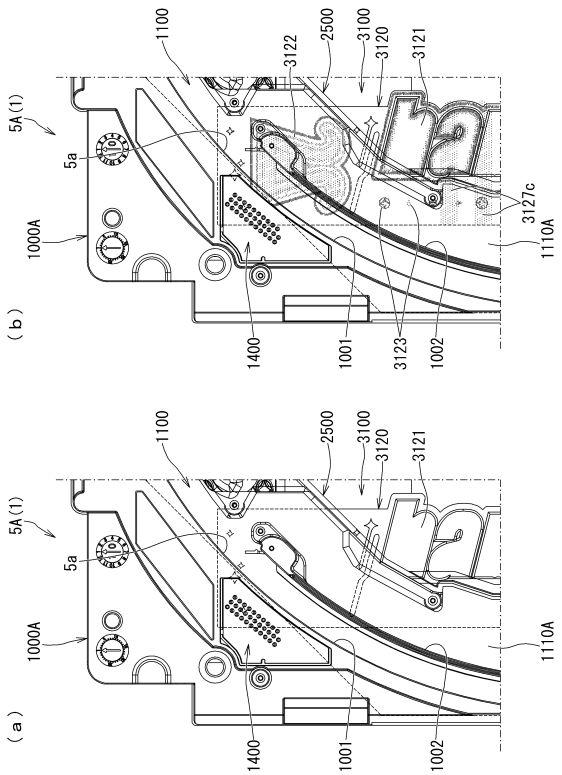
【図１９７】



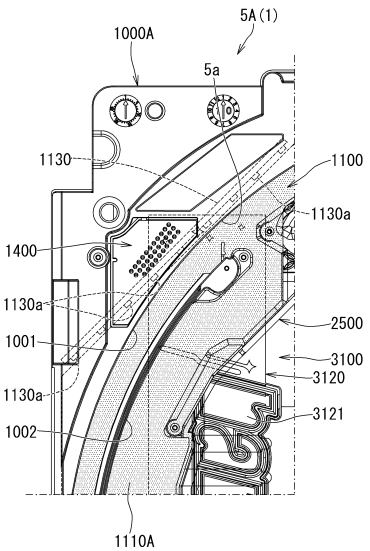
【図１９８】



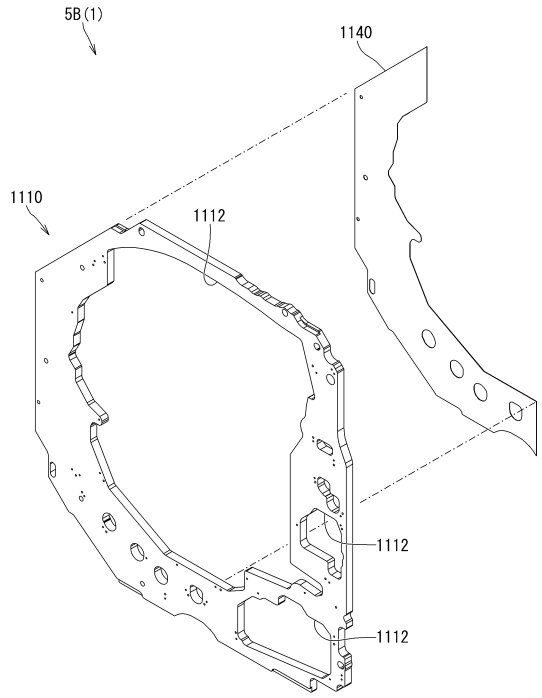
【図１９９】



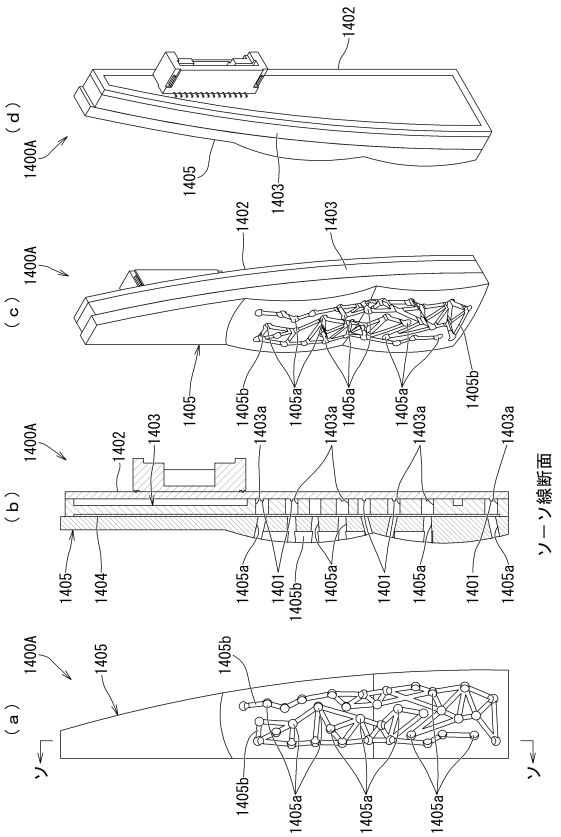
【図２００】



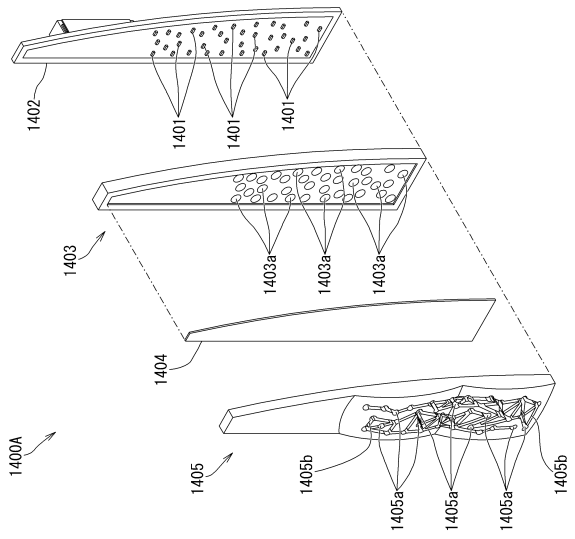
【図２０１】



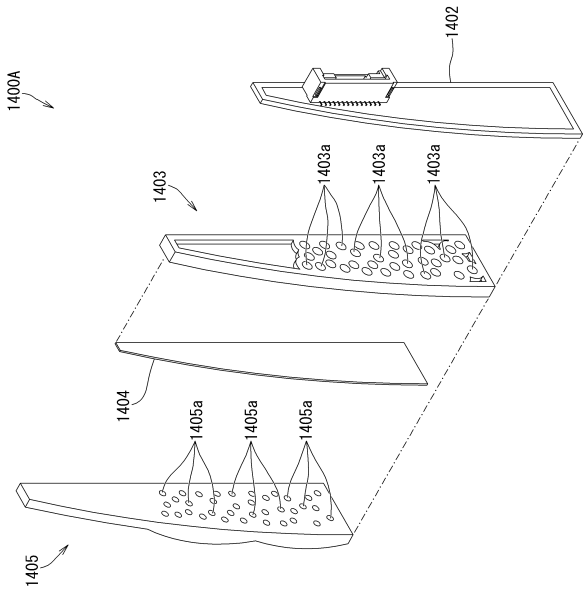
【図２０２】



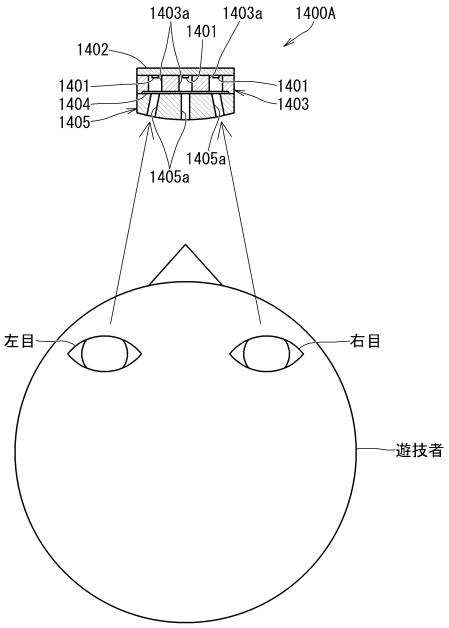
【図２０３】



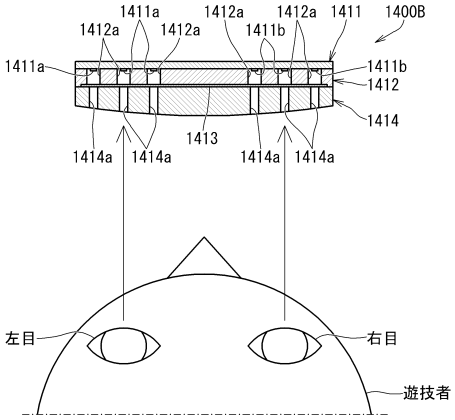
【図２０４】



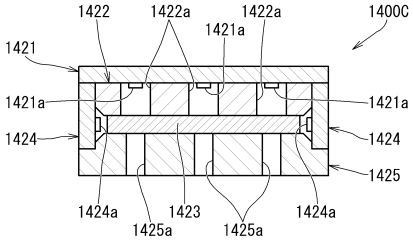
【図２０５】



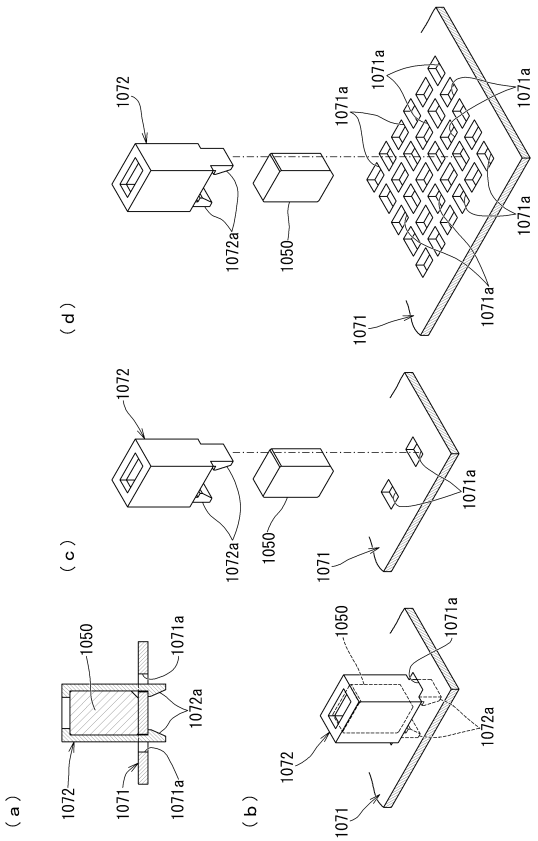
【図２０６】



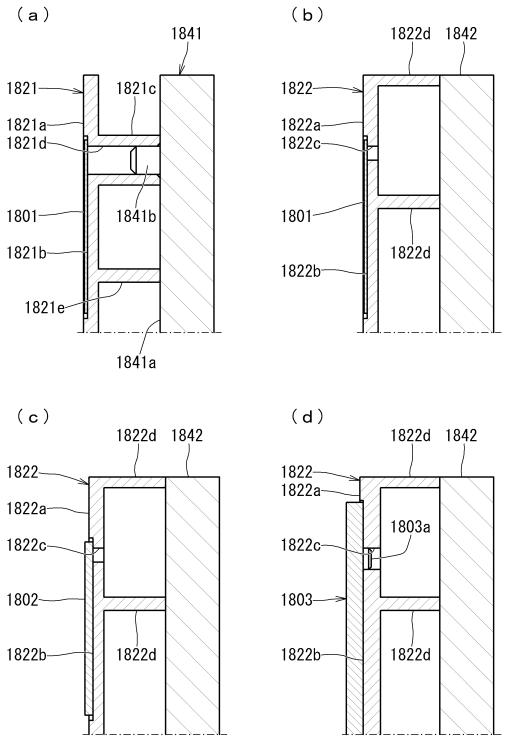
【図２０７】



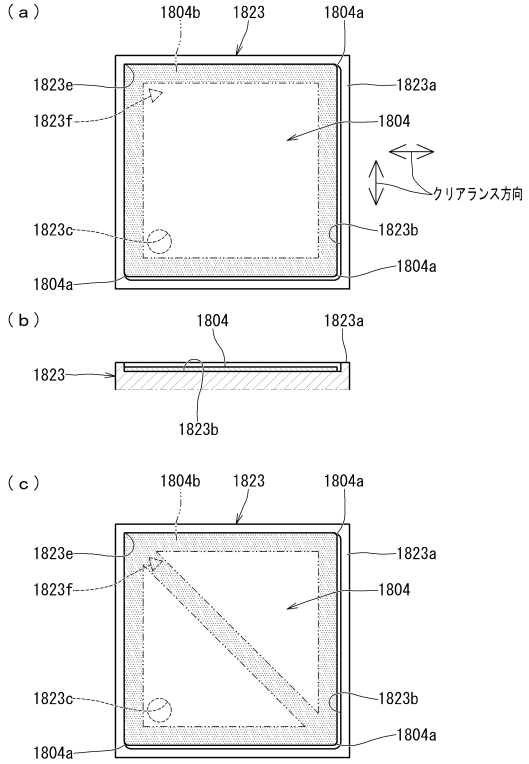
【図２０８】



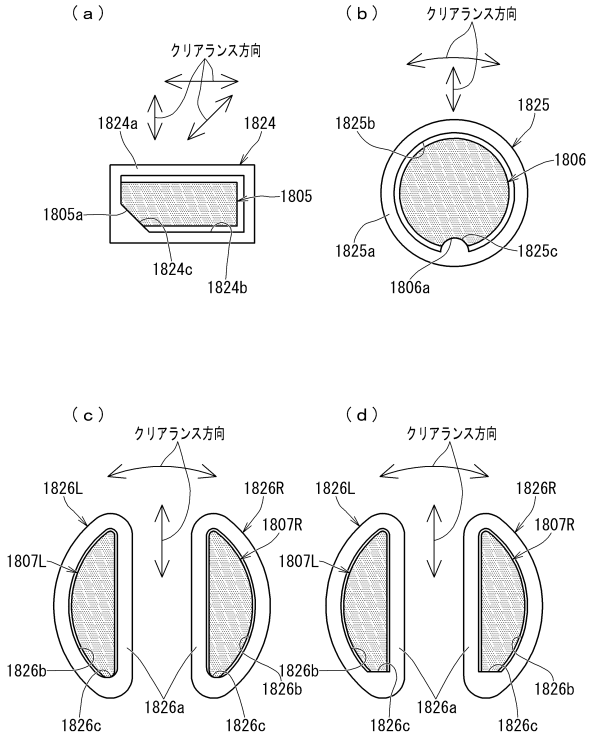
【図２０９】



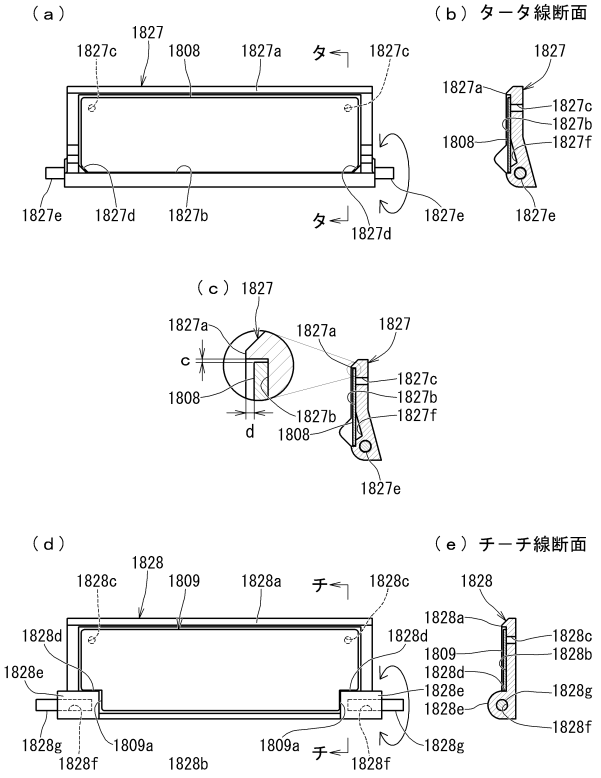
【図２１０】



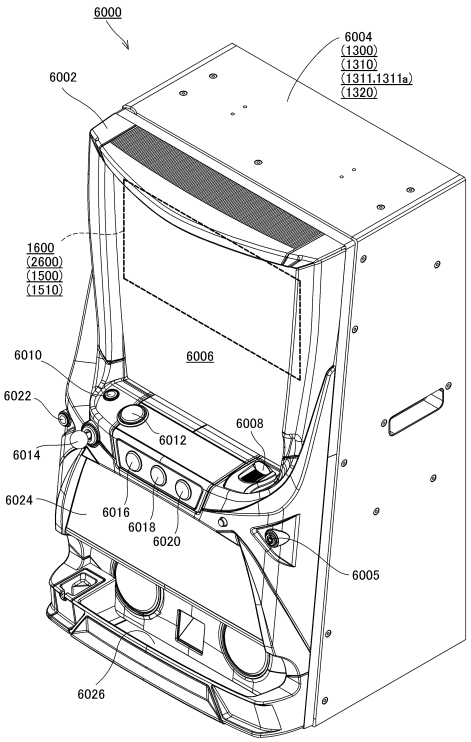
【図２１１】



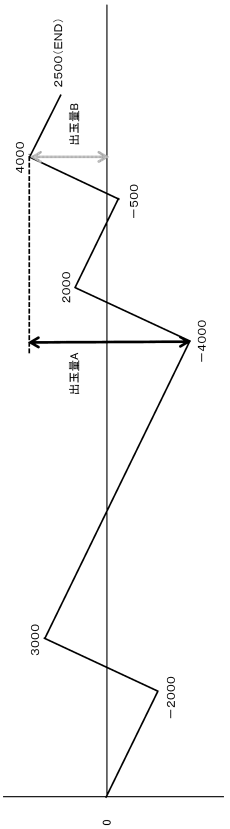
【図２１２】



【図２１３】



【図２１４】



【図２１５】

・出玉量、遊技制限期間のクリア条件

（a）制限クリアパターン選択スイッチの位置が「1」の場合　⇒ラムクリアを伴う場合のみ初期化

電源投入パターン	電源投入時操作の態様		遊技状態	出玉量	遊技制限	報知態様
	RAMクリアスイッチ	設定キー				
電源投入パターン1（通常の電源投入）	なし	なし	維持	維持	維持	ＬＥＤ点光：青 表示／音声：出玉量、打ち止め状態は維持されています。
電源投入パターン2（RAMクリア）	あり	なし	クリア	クリア	クリア	ＬＥＤ点光：赤 表示／音声：出玉量、打ち止め状態をクリアしました。
電源投入パターン3（設定変更）	あり	あり	クリア	クリア	クリア	ＬＥＤ点光：赤 表示／音声：出玉量、打ち止め状態をクリアしました。
電源投入パターン4（設定確認）	なし	あり	維持	維持	維持	ＬＥＤ点光：青 表示／音声：出玉量、打ち止め状態は維持されています。
電源投入パターン5（管理遊技機回有）	なし	なし	維持	維持	維持	ＬＥＤ点光：青 表示／音声：出玉量、打ち止め状態は維持されています。

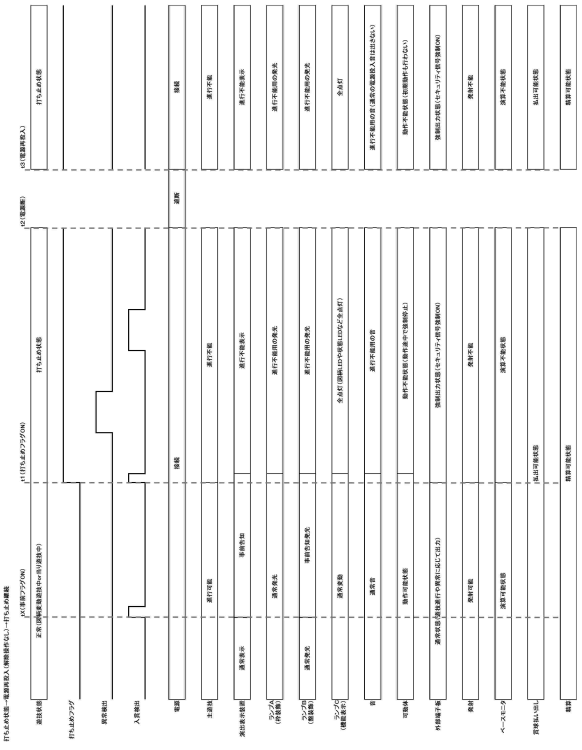
（b）制限クリアパターン選択スイッチの位置が「2」の場合　⇒ラムクリアを伴わない場合に初期化／非初期化を選択可能

電源投入パターン	電源投入時操作の態様		遊技状態	出玉量	遊技制限	報知態様
	RAMクリアスイッチ	設定キー				
電源投入パターン1（通常の電源投入）	なし	なし	維持	クリア	クリア	ＬＥＤ点光：黄 表示／音声：出玉量、打ち止め状態をクリアしました。
電源投入パターン2（RAMクリア）	あり	なし	クリア	クリア	クリア	ＬＥＤ点光：赤 表示／音声：出玉量、打ち止め状態をクリアしました。
電源投入パターン3（設定変更）	あり	あり	クリア	クリア	クリア	ＬＥＤ点光：赤 表示／音声：出玉量、打ち止め状態をクリアしました。
電源投入パターン4（設定確認）	なし	あり	維持	維持	維持	ＬＥＤ点光：青 表示／音声：出玉量、打ち止め状態は維持されています。
電源投入パターン5（管理遊技機回有）	なし	なし	維持	維持	維持	ＬＥＤ点光：青 表示／音声：出玉量、打ち止め状態は維持されています。

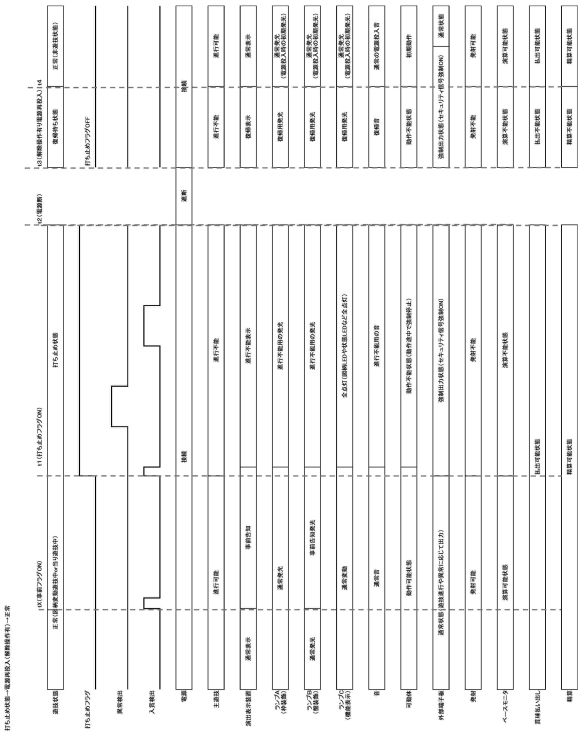
（c）制限クリアパターン選択スイッチの位置が「3」の場合　⇒ラムクリアを伴う場合に初期化／非初期化を選択可能

電源投入パターン	電源投入時操作の態様		遊技状態	出玉量	遊技制限	報知態様
	RAMクリアスイッチ	設定キー				
電源投入パターン1（通常の電源投入）	なし	なし	維持	維持	維持	ＬＥＤ点光：青 表示／音声：出玉量、打ち止め状態は維持されています。
電源投入パターン2（RAMクリア）	あり	なし	クリア	維持	維持	ＬＥＤ点光：白 表示／音声：出玉量、打ち止め状態は維持されています。
電源投入パターン3（設定変更）	あり	あり	クリア	クリア	クリア	ＬＥＤ点光：赤 表示／音声：出玉量、打ち止め状態をクリアしました。
電源投入パターン4（設定確認）	なし	あり	維持	維持	維持	ＬＥＤ点光：青 表示／音声：出玉量、打ち止め状態は維持されています。
電源投入パターン5（管理遊技機回有）	なし	なし	維持	維持	維持	ＬＥＤ点光：青 表示／音声：出玉量、打ち止め状態は維持されています。

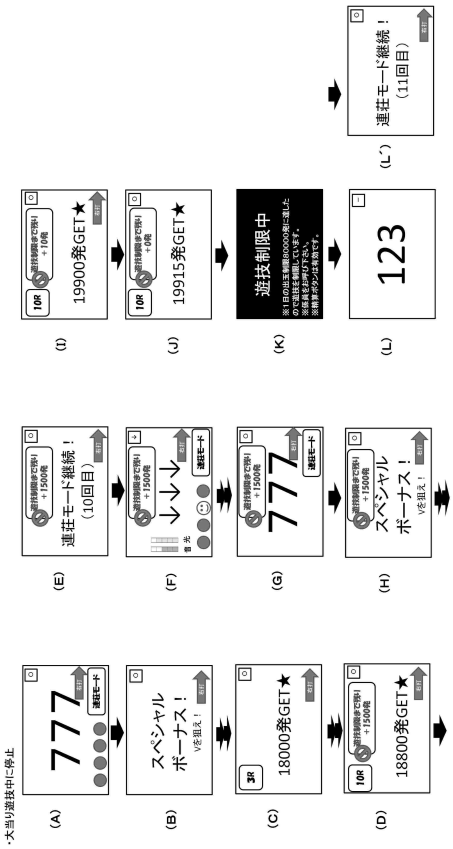
【図２１６】



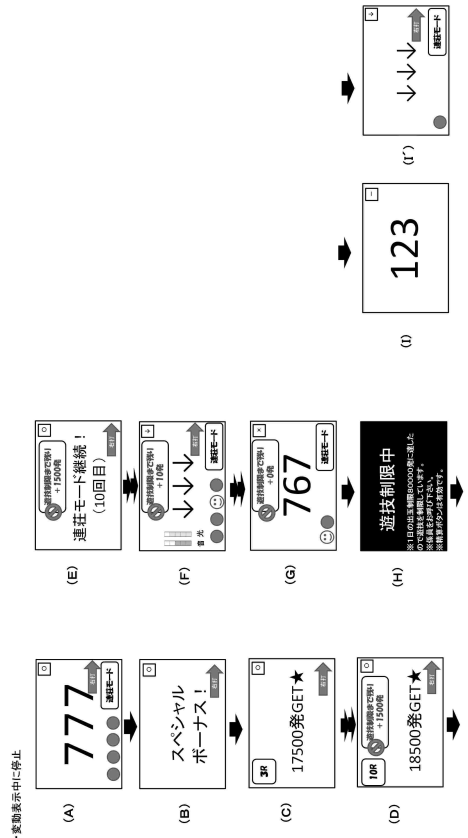
【図２１７】



【図２１８】



【図２１９】

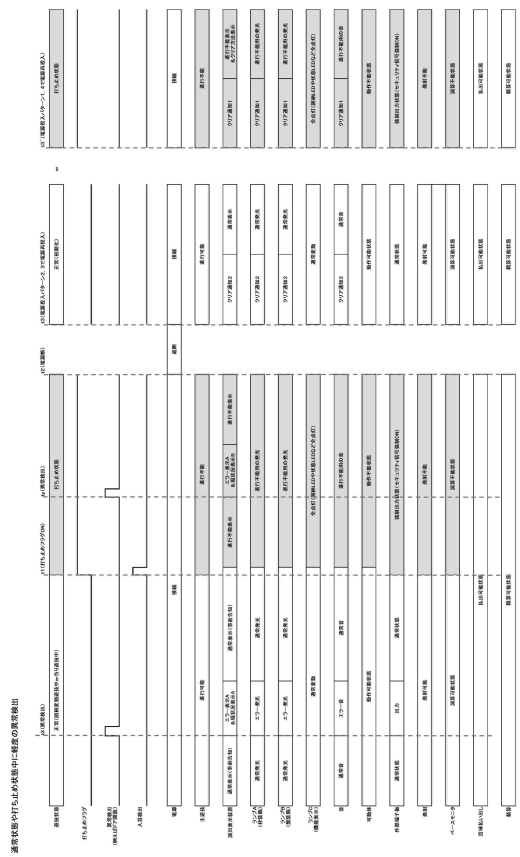


【図２２０】

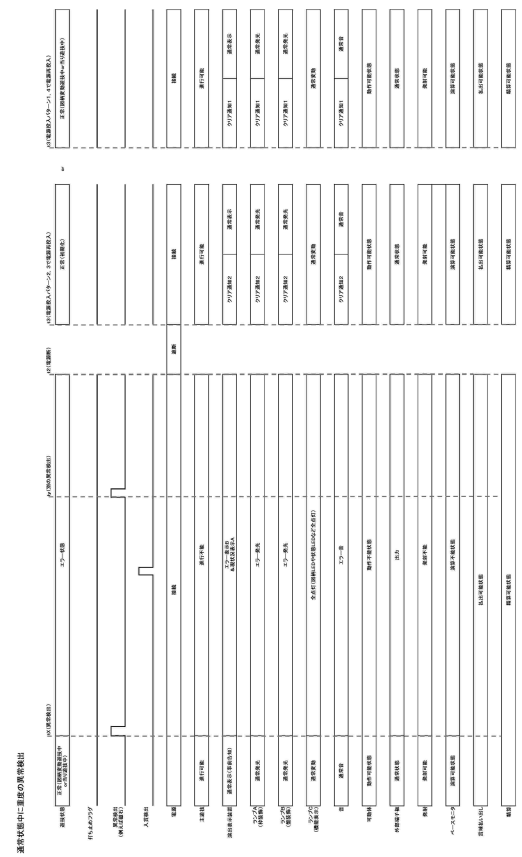
初回クリアパターン選択スイッチの位置が「4」の場合 ※出玉量は初期化、遊技制限は初期化／非初期化を選択可能

電源投入パターン	電源投入時操作の影響		遊技状態	出玉量	遊技制限	報知態様
	RAMクリアスイッチ	設定キー				
電源投入パターン1（通常の電源投入）	なし	なし	維持	クリア	維持	LED発光：緑 表示器：出玉量をクリアしました。打ち止めの状態は維持されています。
電源投入パターン2（RAMクリア）	あり	なし	クリア	クリア	クリア	LED発光：赤 表示器：出玉量、打ち止めの状態をクリアしました。
電源投入パターン3（設定変更）	あり	あり	クリア	クリア	クリア	LED発光：赤 表示器：出玉量、打ち止めの状態をクリアしました。
電源投入パターン4（設定確認）	なし	あり	維持	クリア	維持	LED発光：緑 表示器：出玉量をクリアしました。打ち止めの状態は維持されています。
電源投入パターン5（管理遊技機回復）	なし	なし	維持	維持	維持	LED発光：青 表示器：出玉量、打ち止めの状態は維持されています。

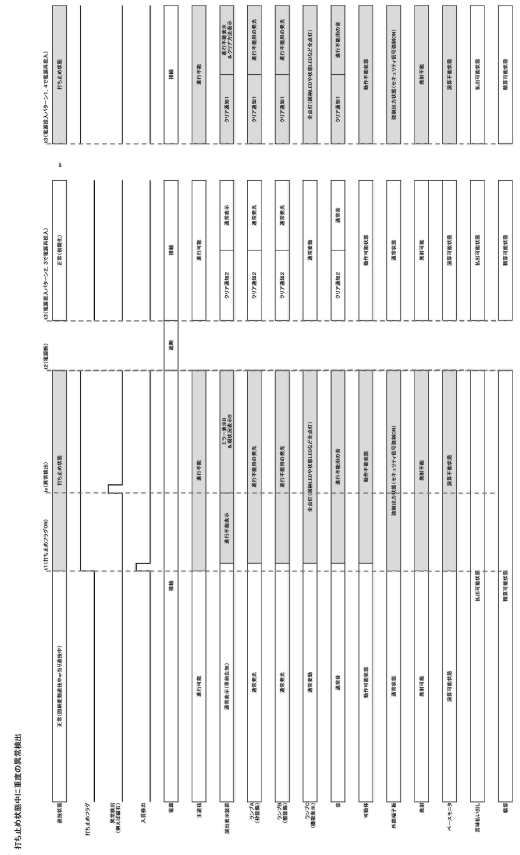
【図２２１】



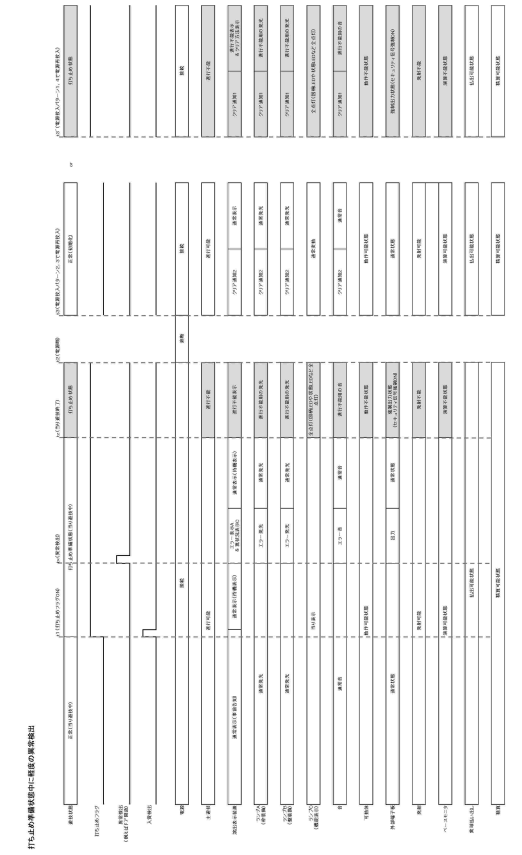
【図２２２】



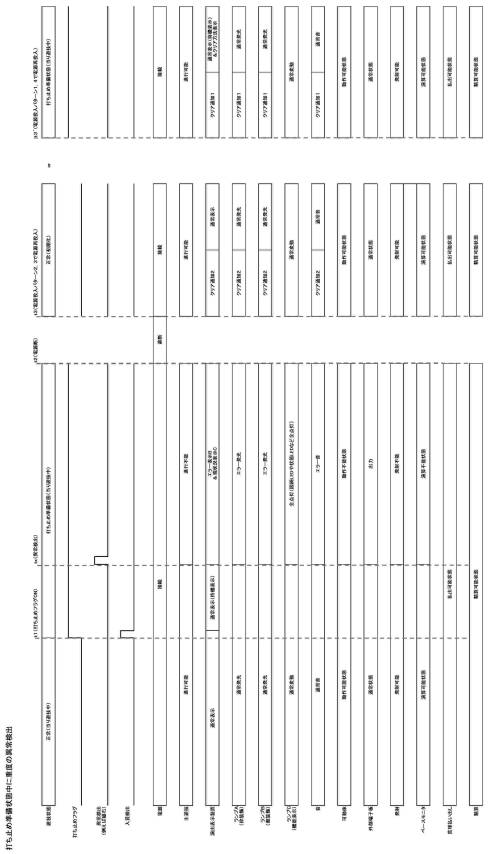
【図２２３】



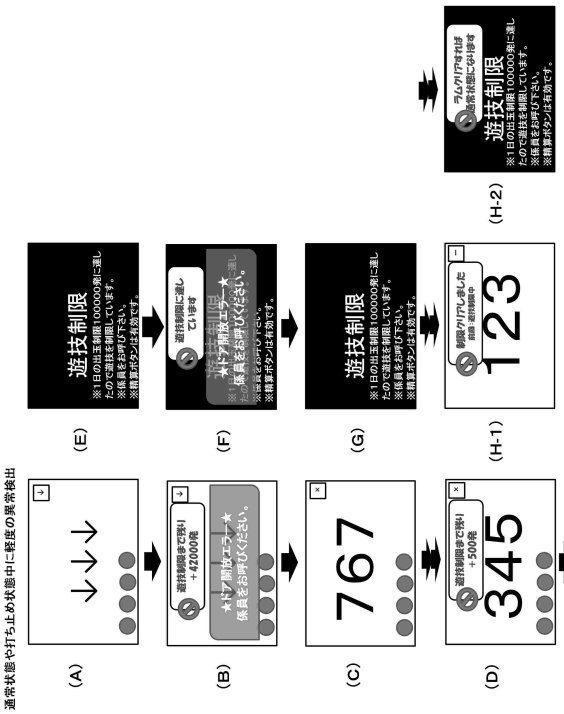
【図２２４】



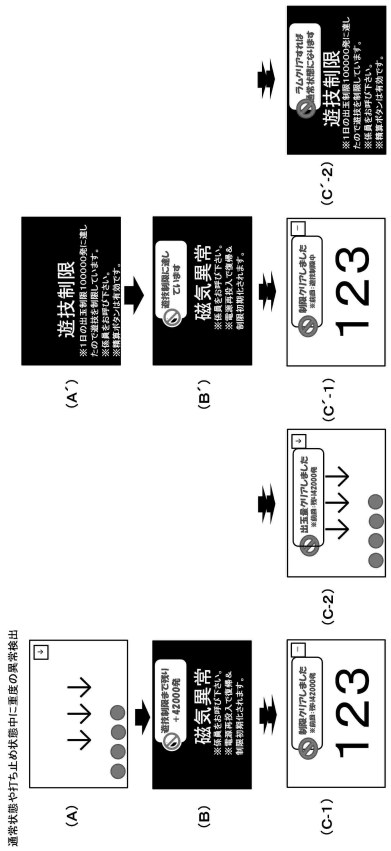
【図２２５】



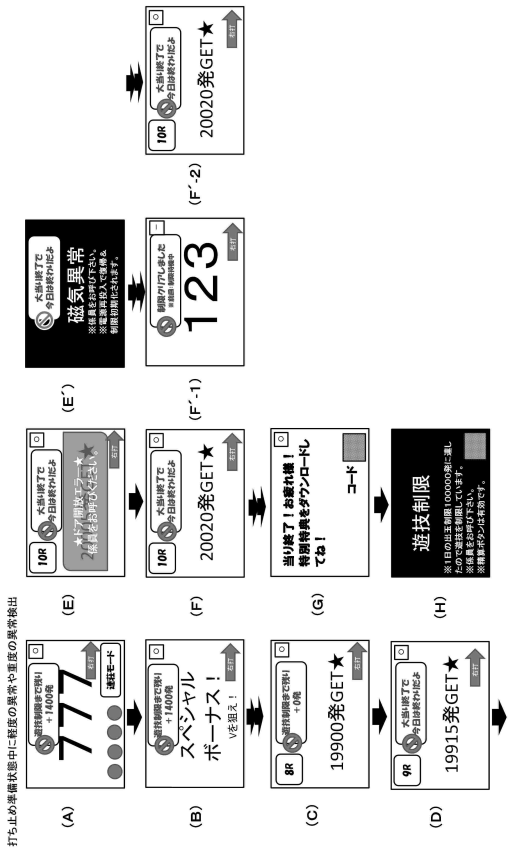
【図２２６】



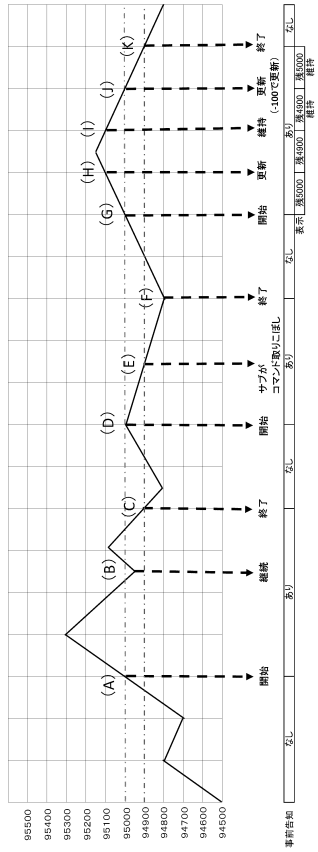
【図２２７】



【図２２８】



【図２２９】



【図２３０】

・外部出力信号の出力の有無（制限クリアパターン選択スイッチの位置が「４」の場合）

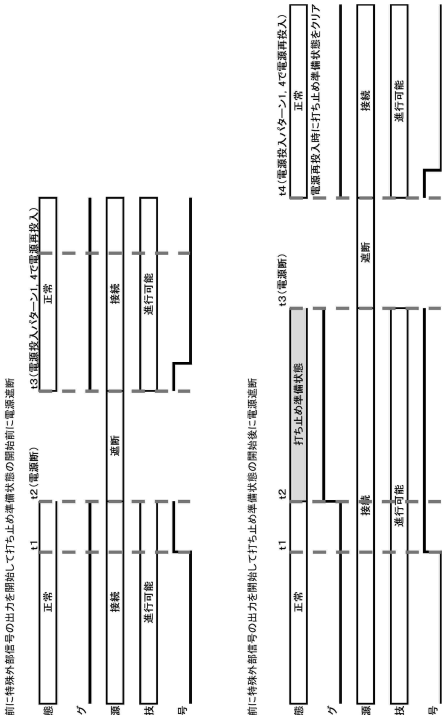
（A）特殊外部信号の出力あり・・・制限クリアパターンテーブル４（ａ）

電源投入パターン	電源投入時条件の態様		遊技状態	出玉量	打ち止め準備状態	打ち止め状態（遊技制限）	報知態様
	RAMクリアスイッチ	設定キー					
電源投入パターン１（通常の電源投入）	なし	なし	維持	クリア	クリア	維持	ＬＥＤ発光：緑 表示／音声：出玉量クリアしました。打ち止め状態は維持されています（打ち止め準備状態をクリアしました）。
電源投入パターン２（ＲＡＭクリア）	あり	なし	クリア	クリア	クリア	クリア	ＬＥＤ発光：赤 表示／音声：出玉量、打ち止め状態（打ち止め準備状態）をクリアしました。
電源投入パターン３（設定変更）	あり	あり	クリア	クリア	クリア	クリア	ＬＥＤ発光：赤 表示／音声：出玉量、打ち止め状態（打ち止め準備状態）をクリアしました。
電源投入パターン４（設定確認）	なし	あり	維持	クリア	クリア	維持	ＬＥＤ発光：緑 表示／音声：出玉量クリアしました。打ち止め状態は維持されています（打ち止め準備状態をクリアしました）。
電源投入パターン５（遊技機初期化）	なし	なし	維持	維持	維持	維持	ＬＥＤ発光：緑 表示／音声：出玉量、打ち止め状態（打ち止め準備状態）は維持されています。

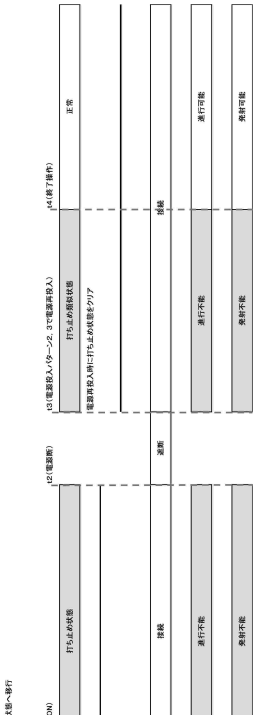
（B）特殊外部信号の出力なし・・・制限クリアパターンテーブル４（ｂ）

電源投入パターン	電源投入時条件の態様		遊技状態	出玉量	打ち止め準備状態	遊技制限	報知態様
	RAMクリアスイッチ	設定キー					
電源投入パターン１（通常の電源投入）	なし	なし	維持	クリア	維持	維持	ＬＥＤ発光：緑 表示／音声：出玉量をクリアしました。打ち止め状態（打ち止め準備状態）は維持されています。
電源投入パターン２（ＲＡＭクリア）	あり	なし	クリア	クリア	クリア	クリア	ＬＥＤ発光：赤 表示／音声：出玉量、打ち止め状態（打ち止め準備状態）をクリアしました。
電源投入パターン３（設定変更）	あり	あり	クリア	クリア	クリア	クリア	ＬＥＤ発光：赤 表示／音声：出玉量、打ち止め状態（打ち止め準備状態）をクリアしました。
電源投入パターン４（設定確認）	なし	あり	維持	クリア	維持	維持	ＬＥＤ発光：緑 表示／音声：出玉量をクリアしました。打ち止め状態（打ち止め準備状態）は維持されています。
電源投入パターン５（遊技機初期化）	なし	なし	維持	維持	維持	維持	ＬＥＤ発光：緑 表示／音声：出玉量、打ち止め状態（打ち止め準備状態）は維持されています。

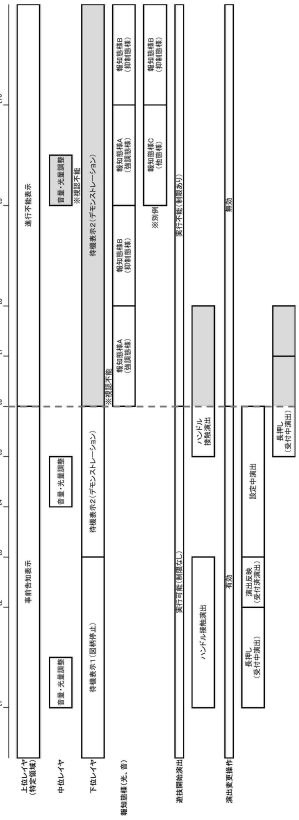
【図２３１】



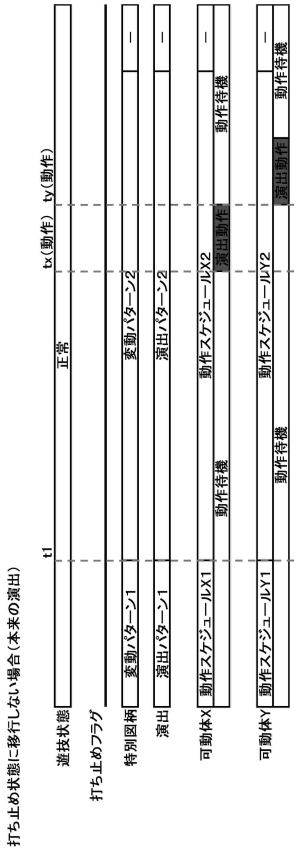
【図２３２】



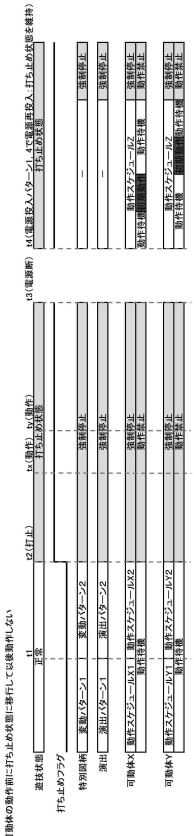
【図２３３】



【図２３４】



【図２３５】



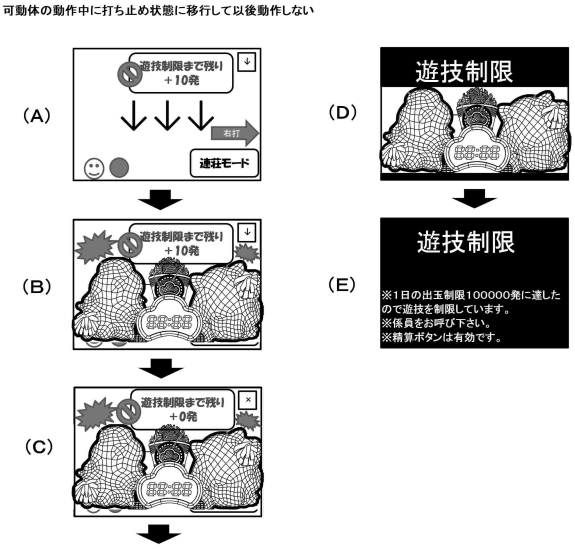
【図２３６】



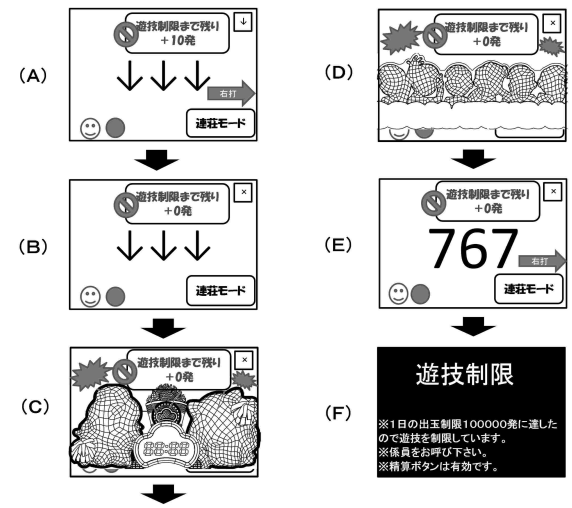
【図２３７】



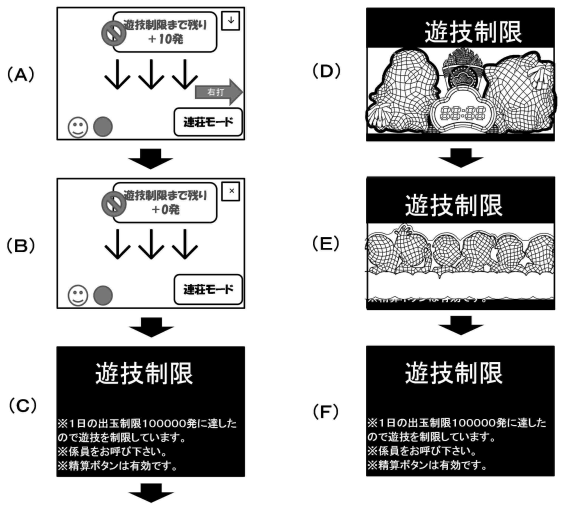
【図２３８】



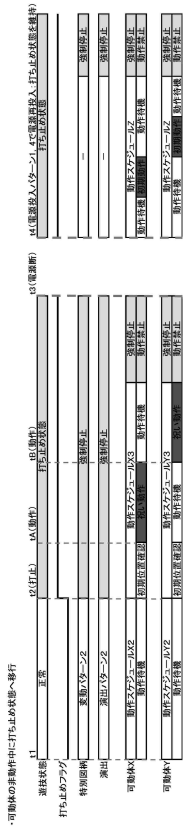
【図２３９】



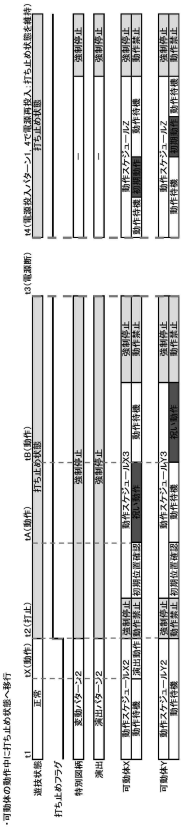
【図２４０】



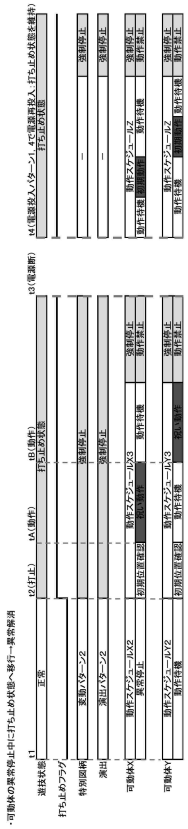
【図２４１】



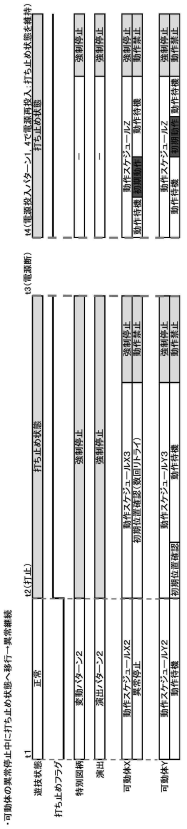
【図２４２】



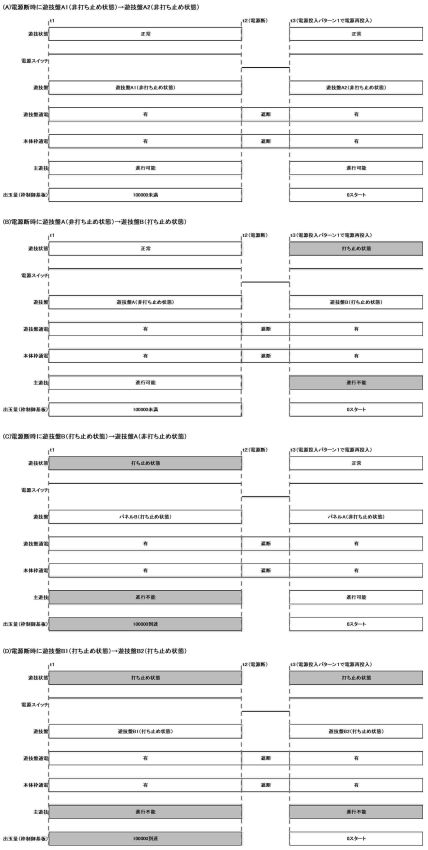
【図２４３】



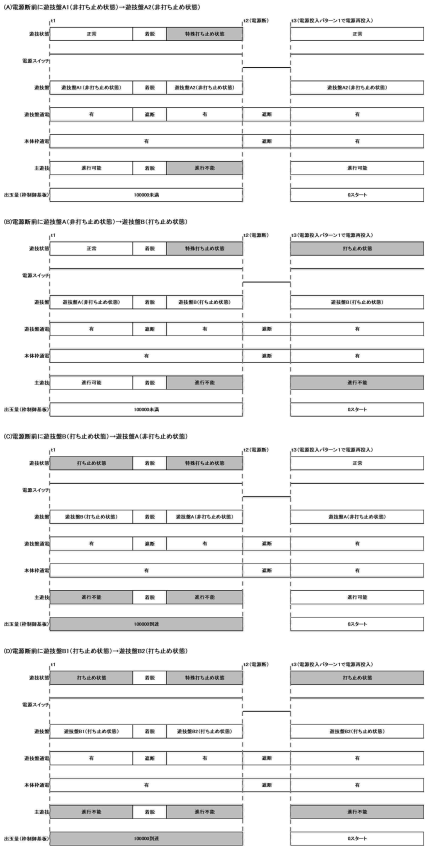
【図２４４】



【図２４５】



【図２４６】

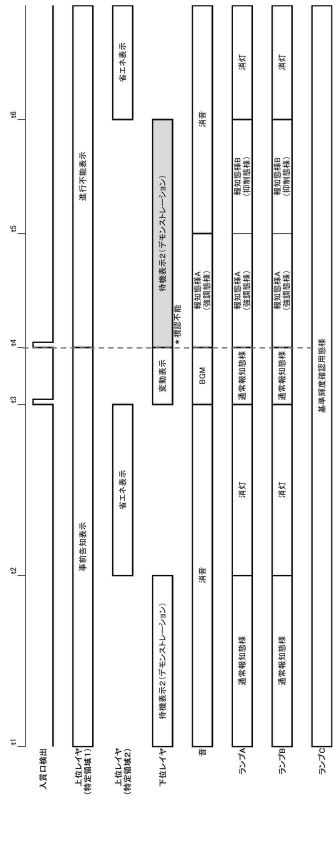


【図２４７】

●打ち止め状態中に省エネモードに移行

	音	ランプA	ランプB	ランプC	演出表示装置
通常の待機状態	有→無	通常報知態様	通常報知態様	基準輝度確認用態様	待機表示1、2 （下位レイヤ）
省エネモード	無	消灯	消灯		省エネ表示 （上位レイヤ）
打ち止め状態 （省エネモード併発無）	有→無	報知態様A→B	報知態様A→B		進行不能表示 （上位レイヤ）
打ち止め状態 （省エネモード併発有）	無	消灯	消灯		進行不能表示＆省エネ表示 （上位レイヤ）

【図２４８】

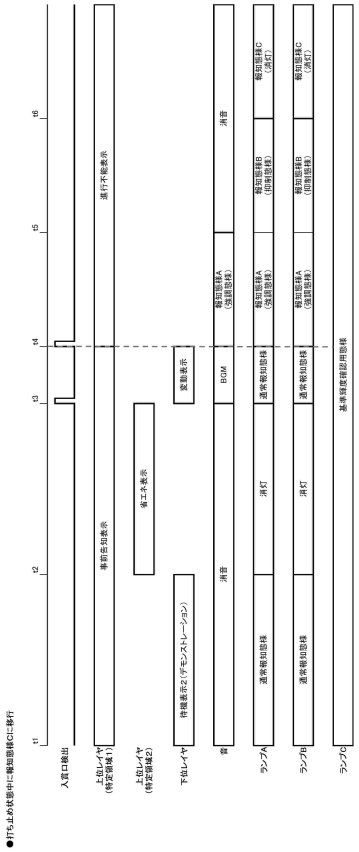


【図２４９】

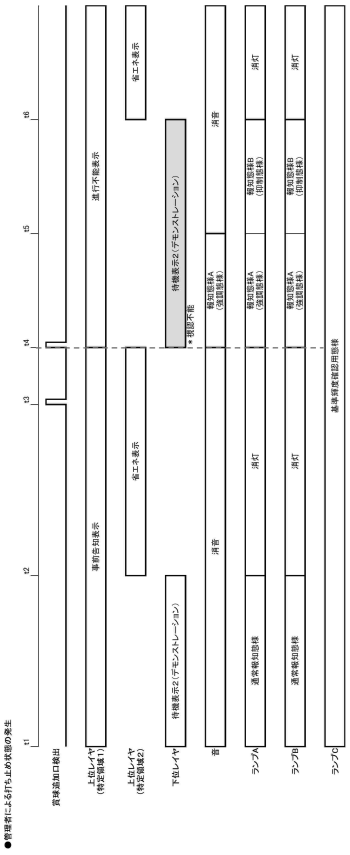
●打ち止め状態中に報知態様Cに移行

	音	ランプA	ランプB	ランプC	演出表示装置
通常の待機状態	有→無	通常報知態様	通常報知態様	基準輝度確認用態様	待機表示1、2 （下位レイヤ）
省エネモード	無	消灯	消灯		省エネ表示 （上位レイヤ）
打ち止め状態	有→無	報知態様 A→B→C	報知態様 A→B→C		進行不能表示 （上位レイヤ）

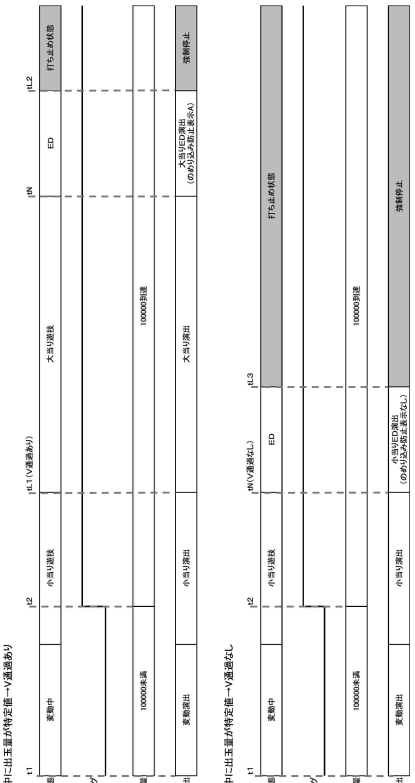
【図２５０】



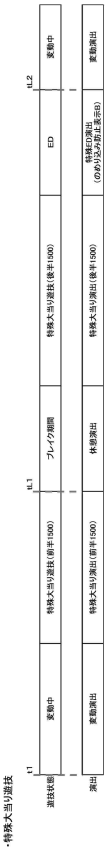
【図２５１】



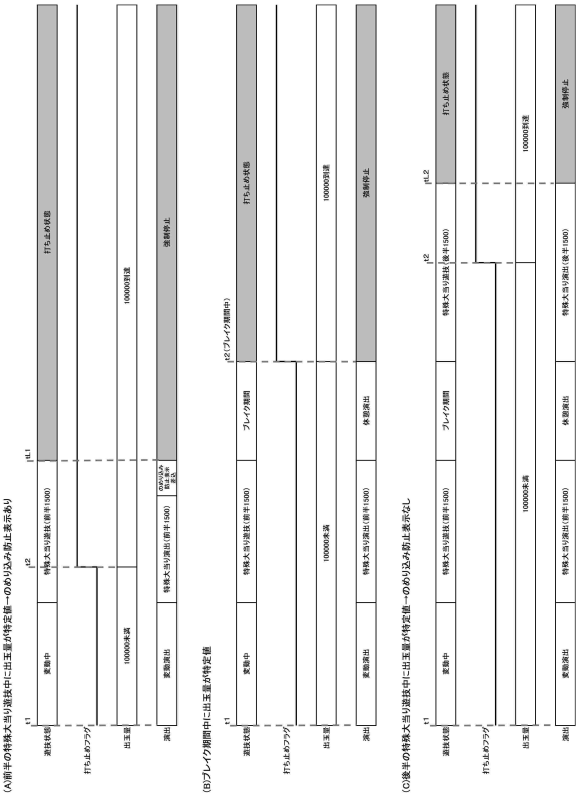
【図２５２】



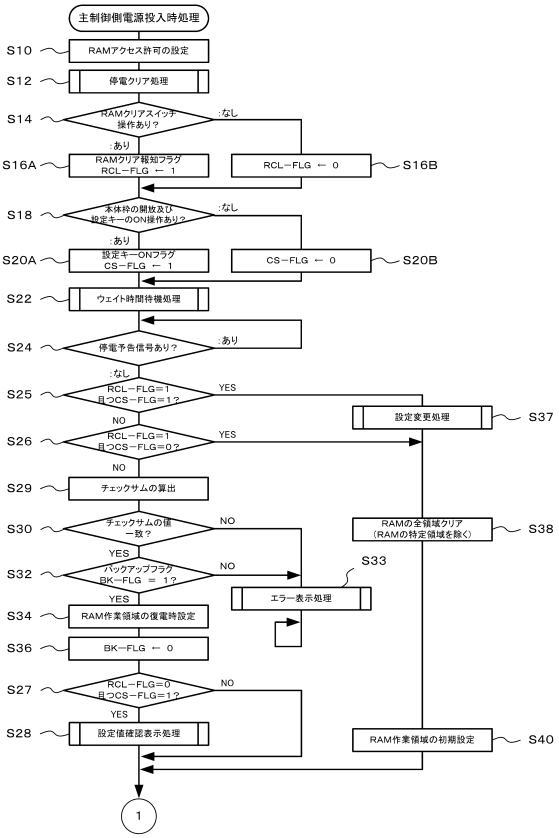
【図２５３】



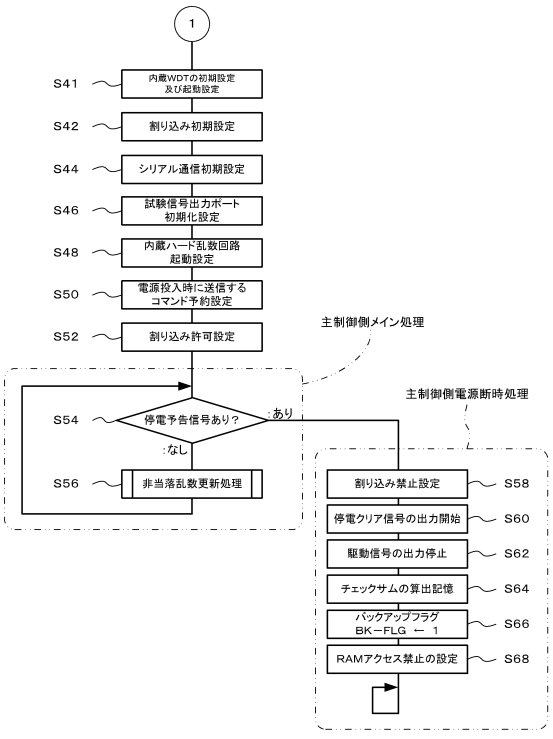
【図２５４】



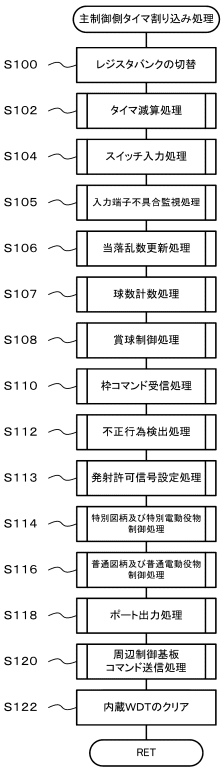
【図２５５】



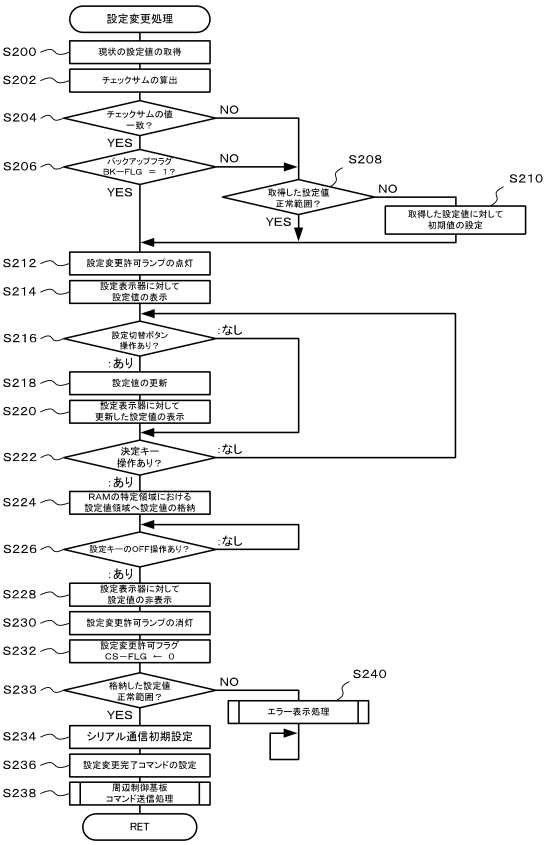
【図２５６】



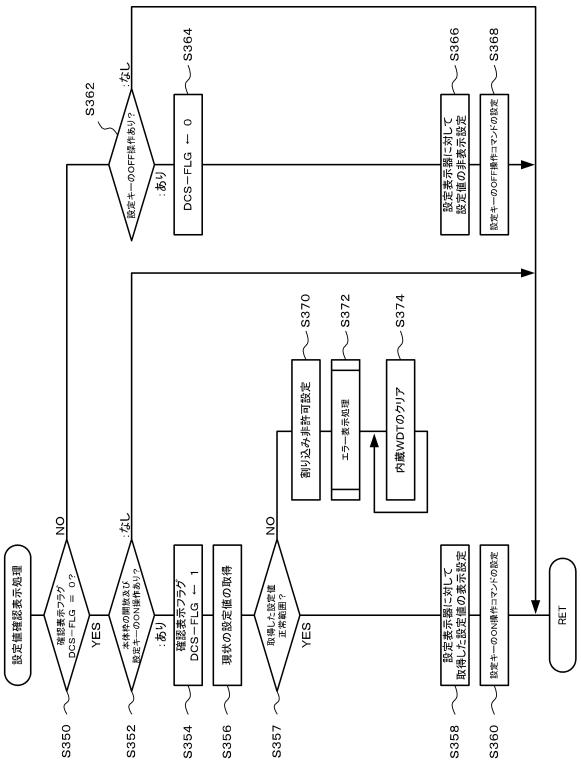
【図２５７】



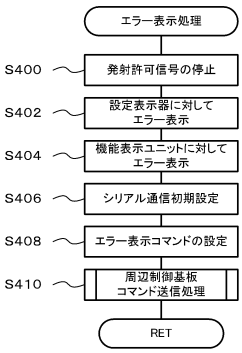
【図２５８】



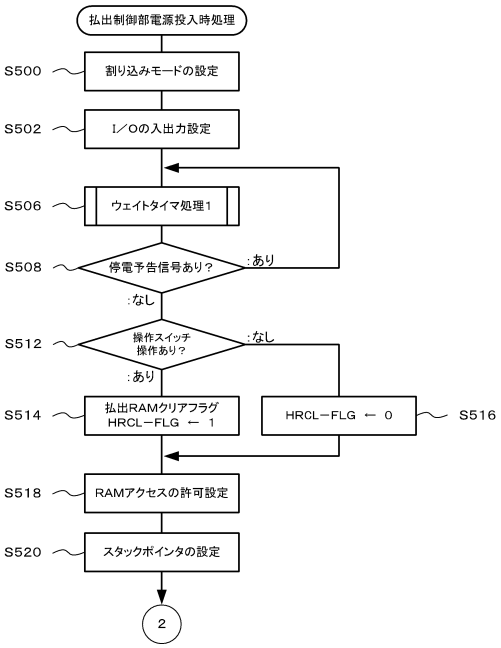
【図２５９】



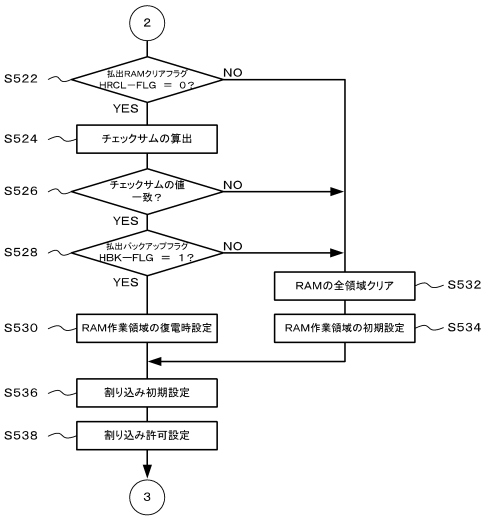
【図２６０】



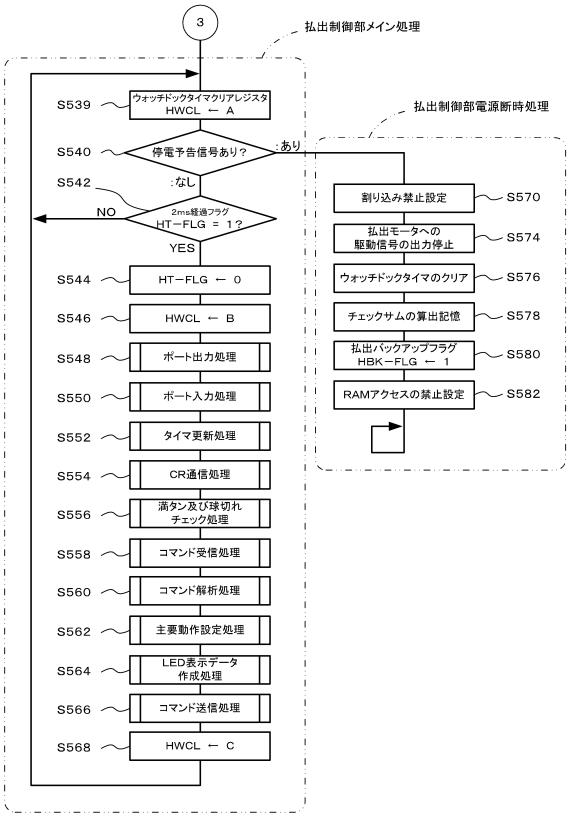
【図２６１】



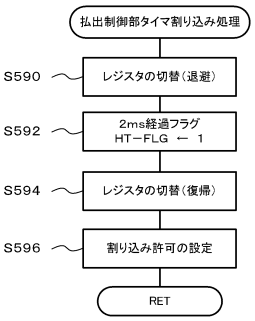
【図２６２】



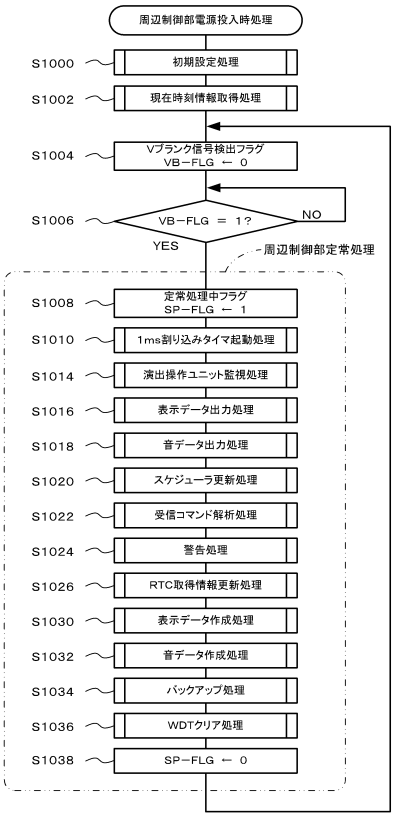
【図２６３】



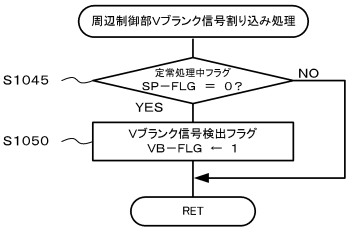
【図２６４】



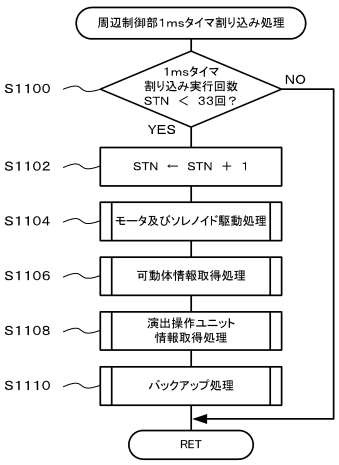
【図２６５】



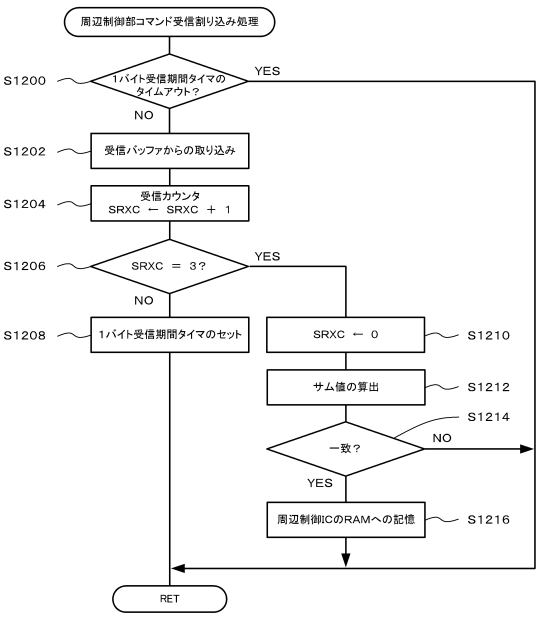
【図２６６】



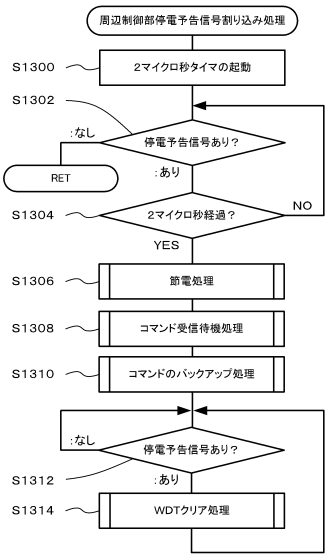
【図２６７】



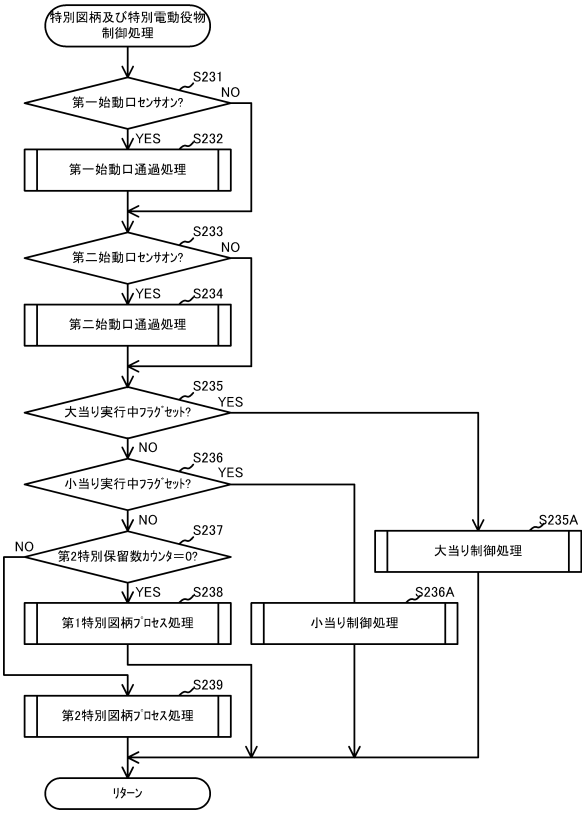
【図２６８】



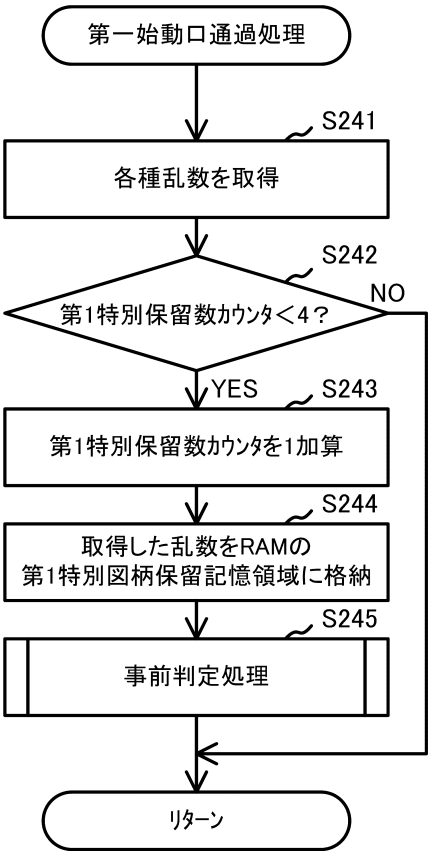
【図２６９】



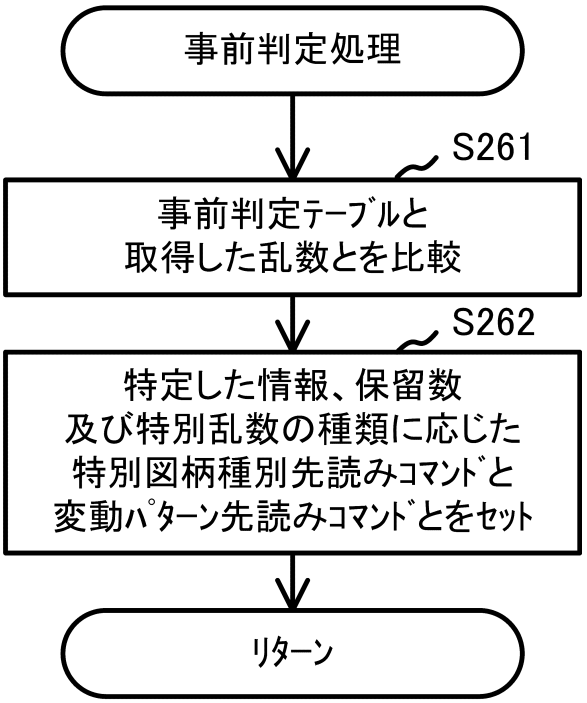
【図２７０】



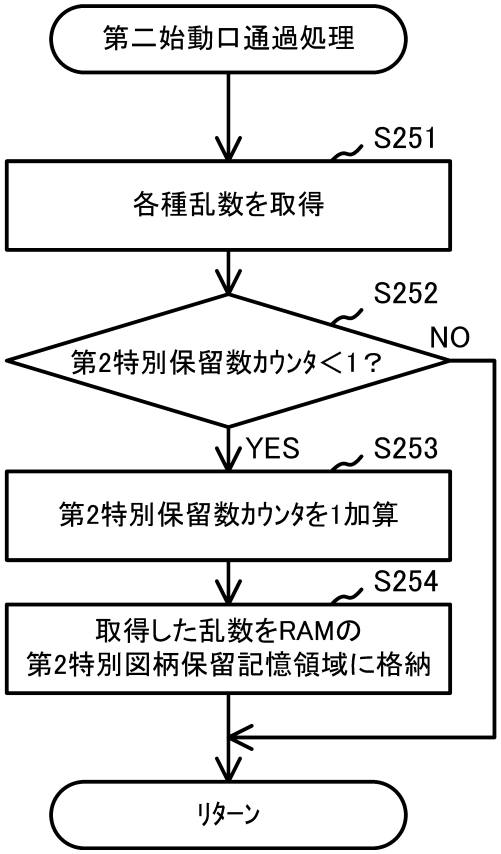
【図２７１】



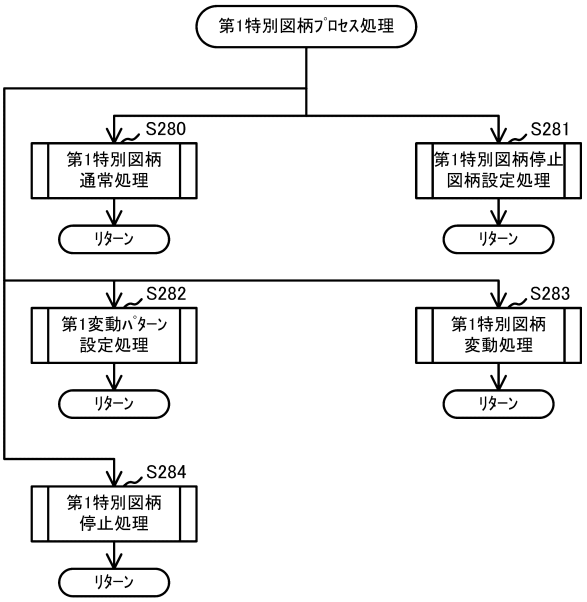
【図２７２】



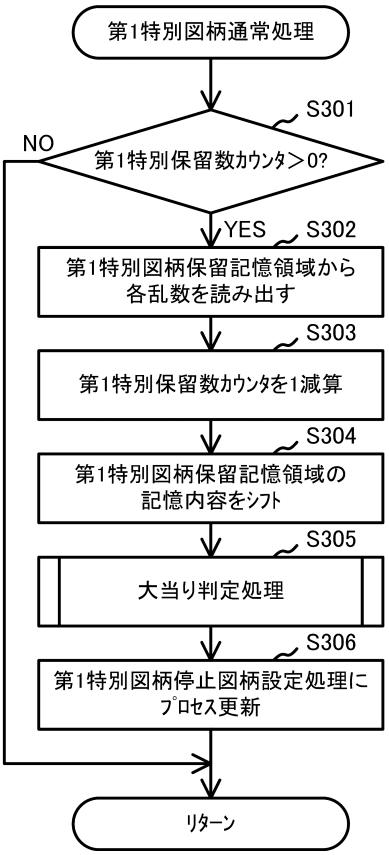
【図２７３】



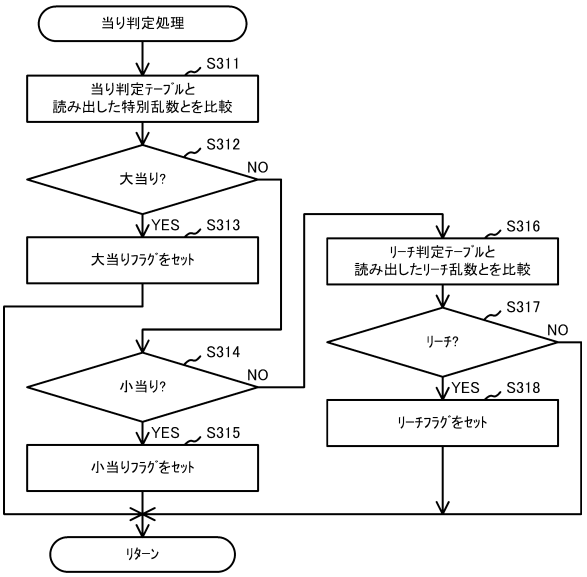
【図２７４】



【図２７５】



【図２７６】



【図２７７】

(A)当り判定テーブル

		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
第一特別乱数	大当り確率	1/319	1/309	1/299	1/289	1/279	1/269
	小当り確率	3/319	3/319	3/319	3/319	3/319	3/319
第二特別乱数	大当り確率	1/319	1/309	1/299	1/289	1/279	1/269
	小当り確率	144/319	144/319	144/319	144/319	144/319	144/319

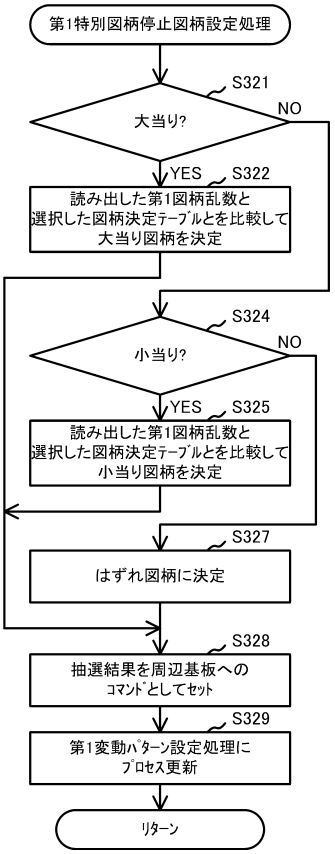
(B)大当り図柄決定テーブル:図柄乱数(0-199)

	2R大当り	5R時短大当り	15R確変大当り
第一図柄乱数	92	100	8
第二図柄乱数	8	100	92

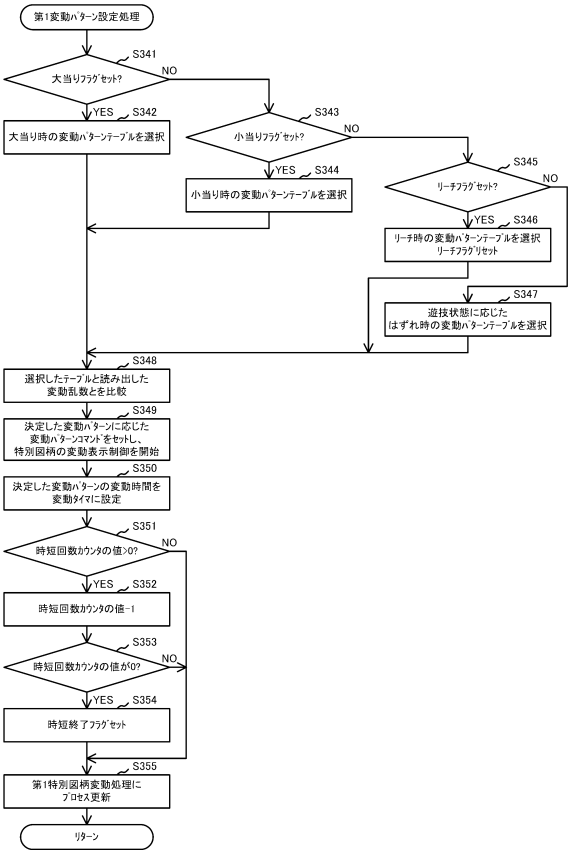
(C)小当り図柄決定テーブル:図柄乱数(0-199)

	第一小当り	第二小当り
第一図柄乱数	200	0
第二図柄乱数	20	180

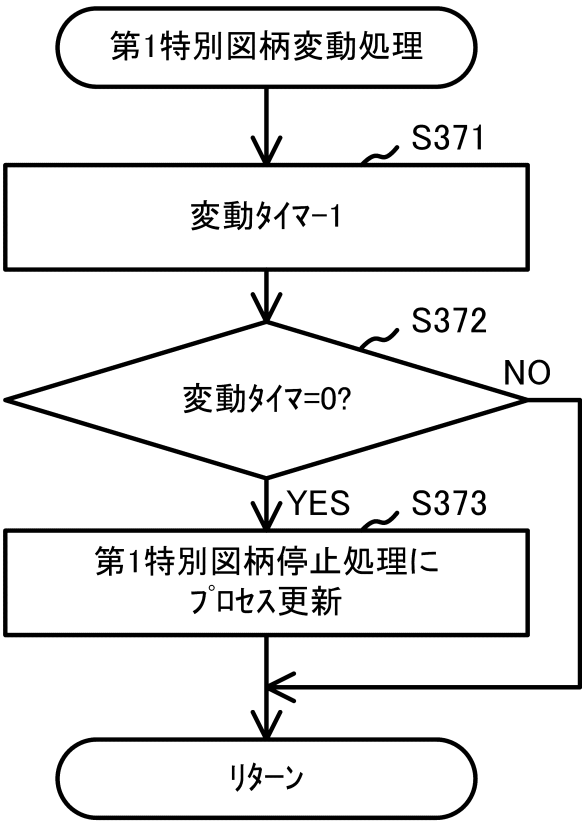
【図２７８】



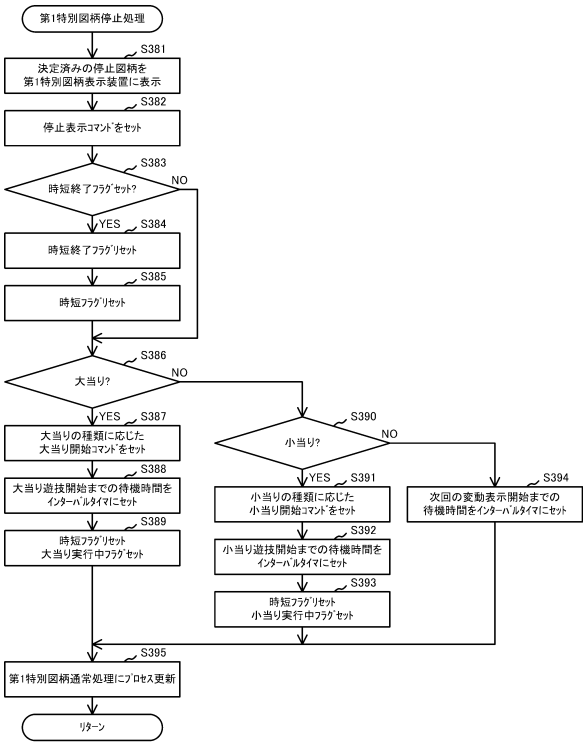
【図２７９】



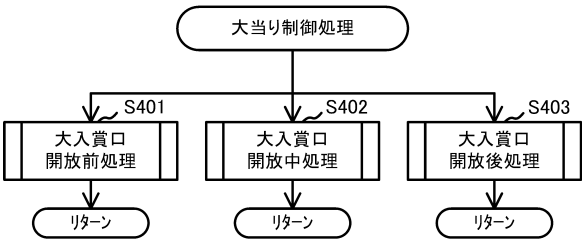
【図２８０】



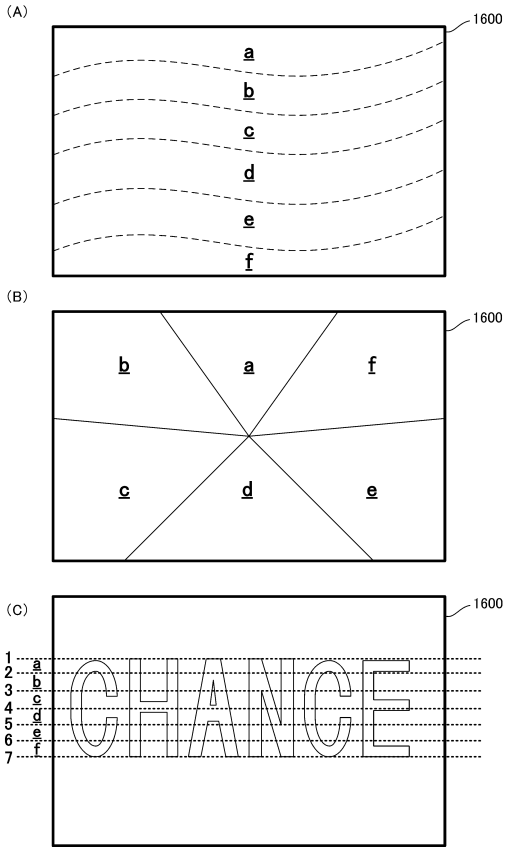
【図２８１】



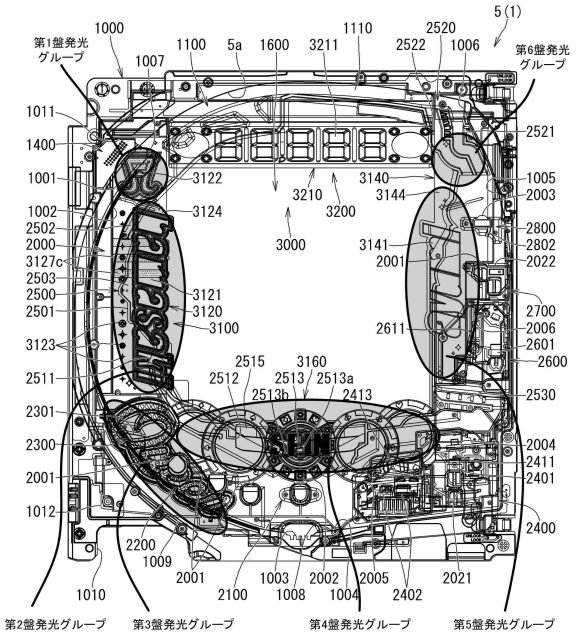
【図２８２】



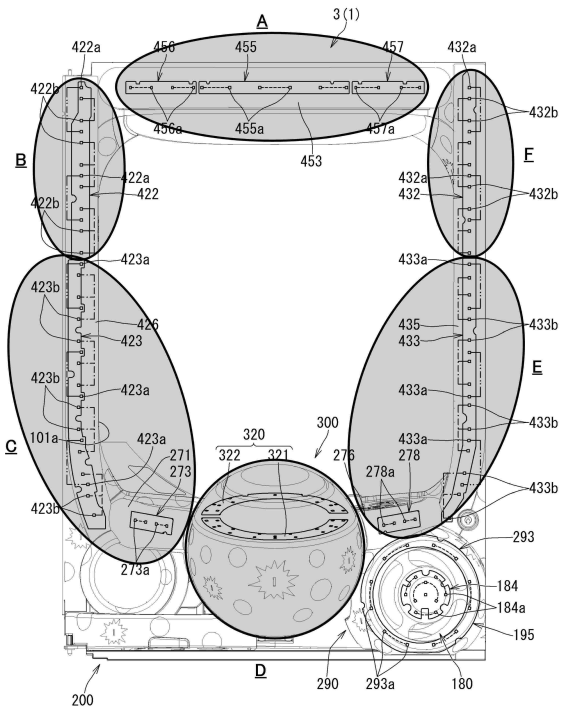
【図２８３】



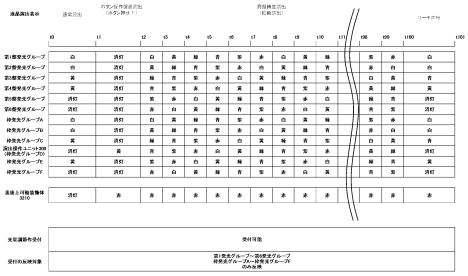
【図２８４】



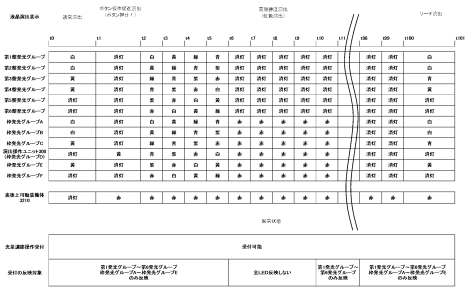
【図２８５】



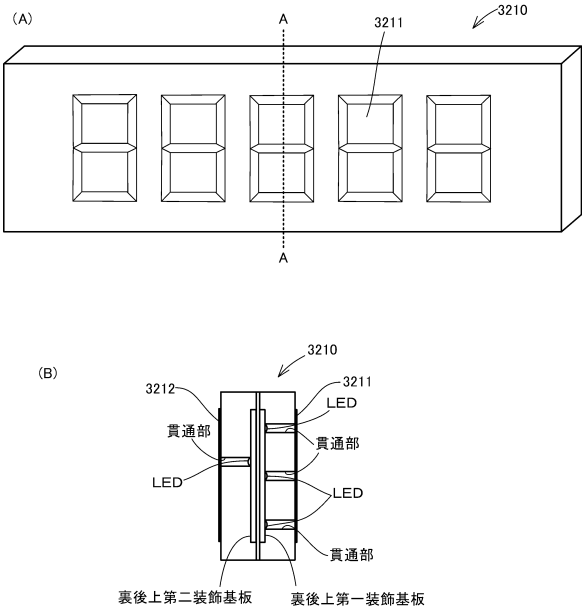
【図２８６】



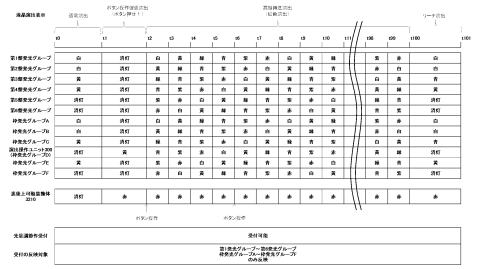
【図２８７】



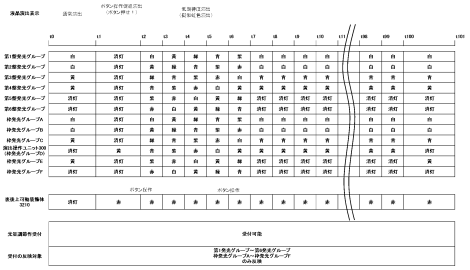
【図２８８】



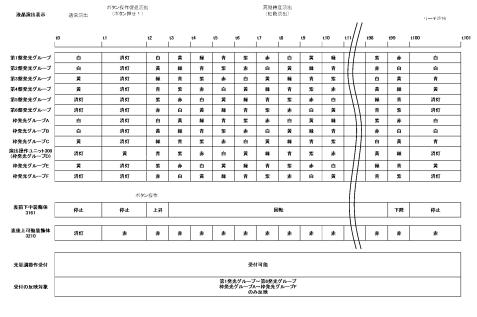
【図２８９】



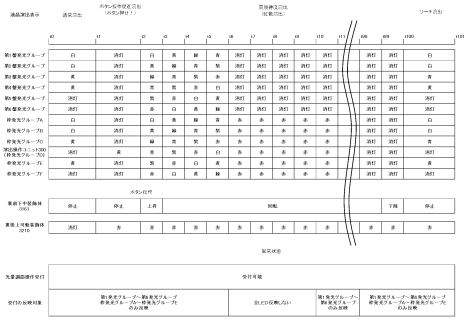
【図２９０】



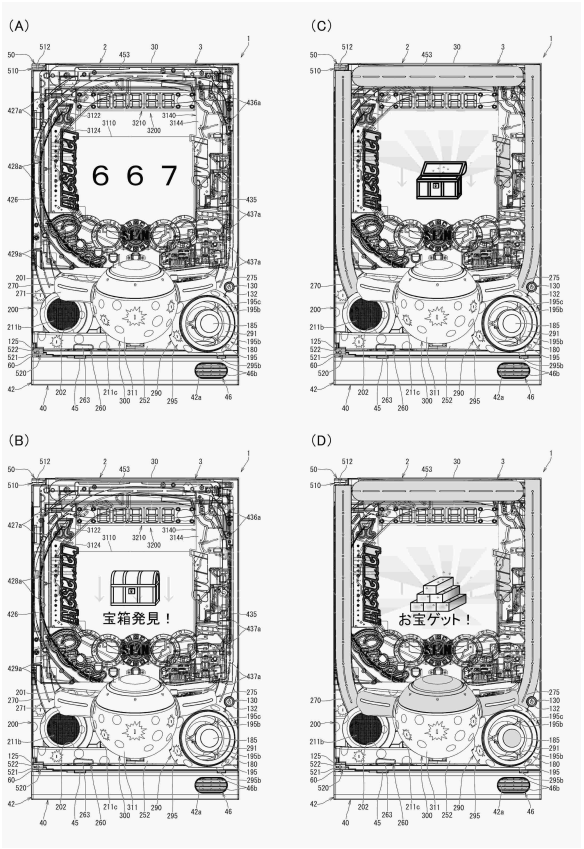
【図２９１】



【図２９２】



【図２９３】



【図２９４】

(A)

演出表示装置	通常演出	高期待度演出（金色演出）		リーチ演出	図柄停止
	t0	t1 t2	t4		t5
特定の装飾基板（遊技盤5）	白	消灯	黄	－	消灯
特定の発光手段（扉枠3）	白	消灯	黄	－	消灯
裏後上第一装飾部3211	消灯	赤	赤 t3	赤	消灯

ボタン操作

光量調節作受付	受付可能		
反映可能な基板	光量調節可能な装飾基板	特定の装飾基板のみ	光量調節可能な装飾基板

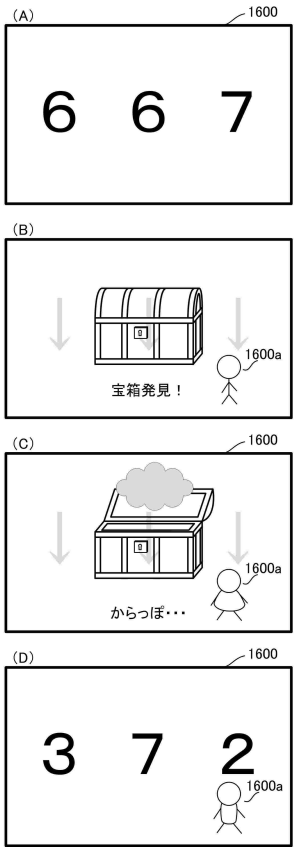
(B)

演出表示装置	通常演出	低期待度演出（金色演出）		通常演出	図柄停止
	t0	t1 t2	t3		t5
特定の装飾基板（遊技盤5）	白	消灯	黄	白	消灯
特定の発光手段（扉枠3）	白	消灯	黄	白	消灯
裏後上第一装飾部3211	消灯	赤	赤	赤	消灯

ボタン操作

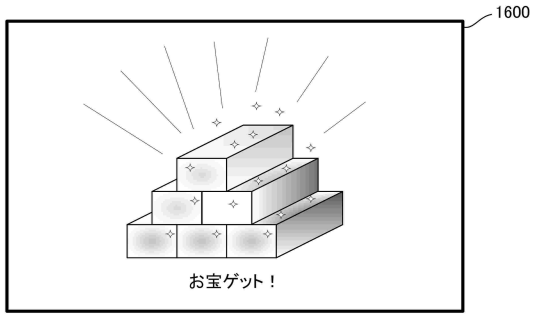
光量調節作受付	受付可能		
反映可能な基板	光量調節可能な装飾基板	特定の装飾基板のみ	光量調節可能な装飾基板

【図２９５】

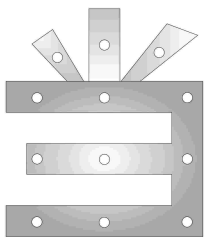


【図２９６】

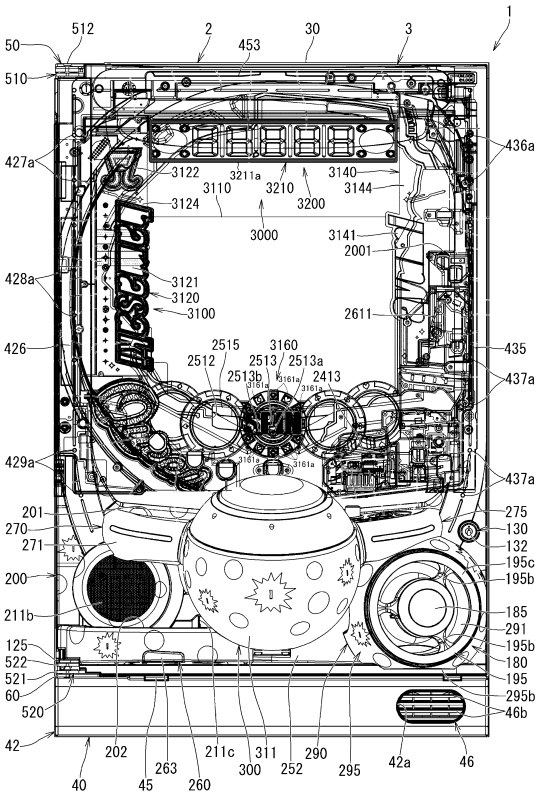
(A)



(B)



【図２９７】



【図２９８】

(A)

演出表示装置　通常演出　高期待度演出（金色演出）　リーチ演出　図柄停止

	t'0	t'1	t'2	t'4	t'5
特定の装飾基板（遊技盤5）	白	消灯	黄	－	消灯
特定の発光手段（扉枠3）	白	消灯	黄	－	消灯
裏後上第一装飾部 3211	消灯	赤	赤 t'3	赤	消灯

光量調節ボタン操作

光量	輝度3

(B)

演出表示装置　通常演出　低期待度演出（金色演出）　通常演出　図柄停止

	t'0	t'1	t'2	t'4	t'5
特定の装飾基板（遊技盤5）	白	消灯	黄	－	消灯
特定の発光手段（扉枠3）	白	消灯	黄	－	消灯
裏後上第一装飾部 3211	消灯	赤	赤 t'3	赤	消灯

光量調節ボタン操作

光量	輝度3	輝度4

【図２９９】

(A)

演出表示装置　通常演出　高期待度演出（金色演出）　リーチ演出　図柄停止

	t''0	t''1	t''2	t''4	t''5
特定の装飾基板（遊技盤5）	白	消灯	黄	－	消灯
特定の発光手段（扉枠3）	白	消灯	黄	－	消灯
裏後上第一装飾部 3211	消灯	赤	赤 t''3	赤	消灯

音量3→4

音量	音量3	音量4

(B)

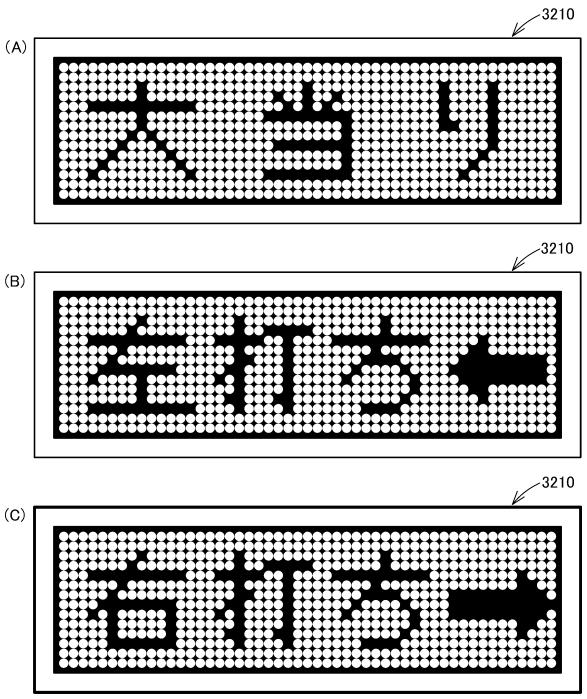
演出表示装置　通常演出　低期待度演出（金色演出）　通常演出　図柄停止

	t''0	t''1	t''2	t''4	t''5
特定の装飾基板（遊技盤5）	白	消灯	黄	－	消灯
特定の発光手段（扉枠3）	白	消灯	黄	－	消灯
裏後上第一装飾部 3211	消灯	赤	赤 t''3	赤	消灯

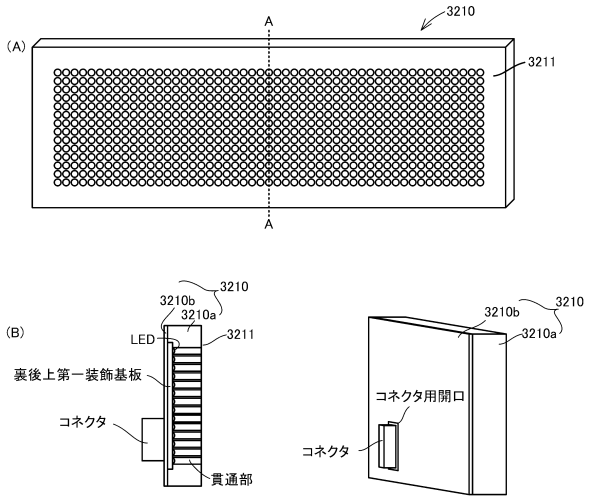
音量3→4

音量	音量3	音量4

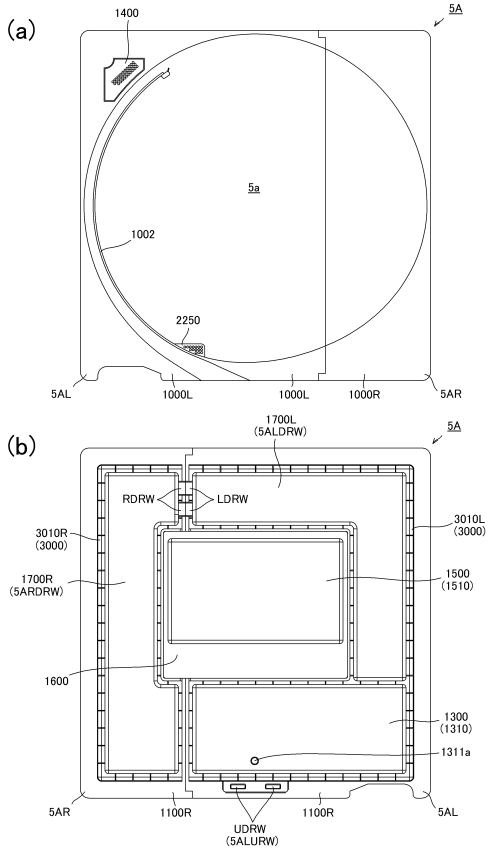
【図３００】



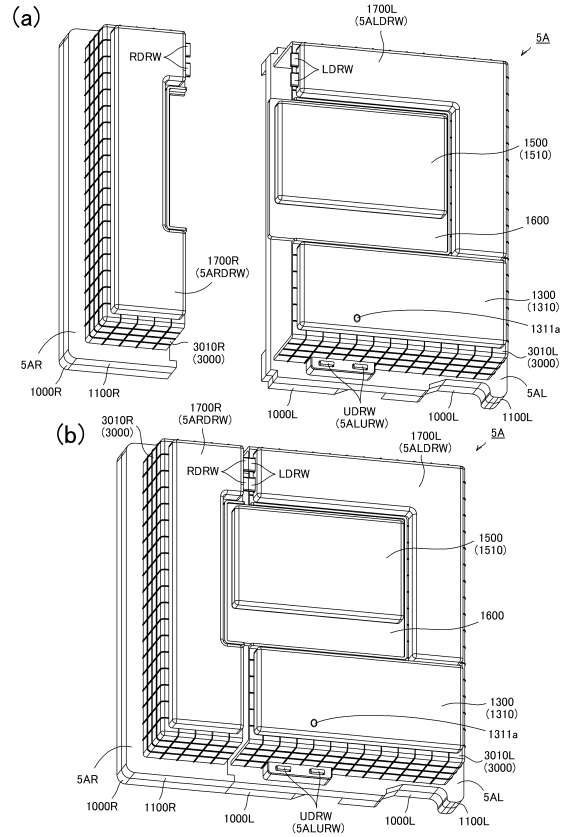
【図３０１】



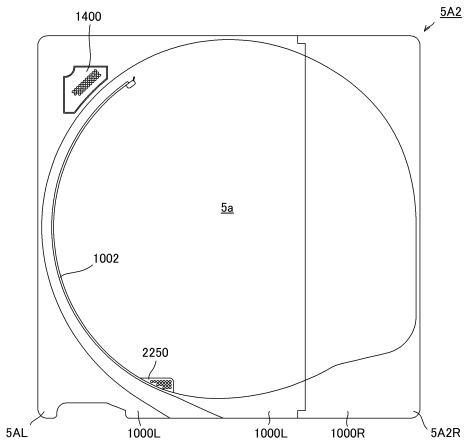
【図３０２】



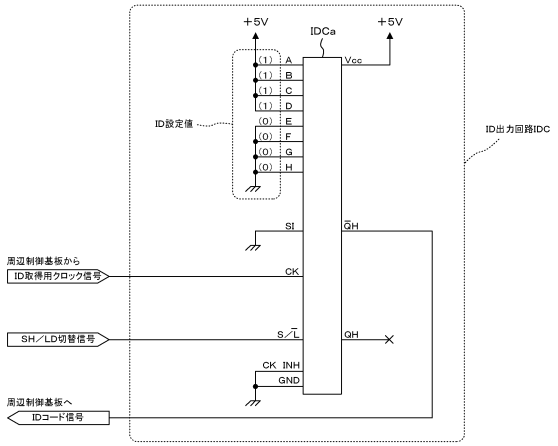
【図３０３】



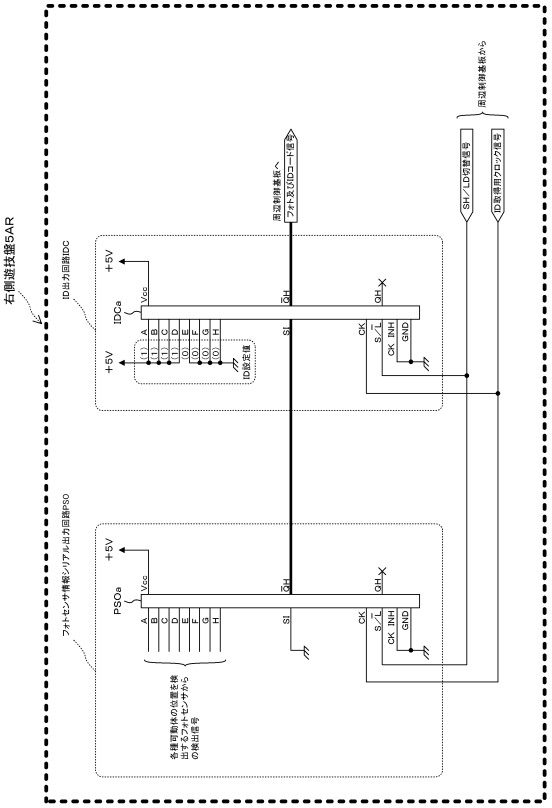
【図３０４】



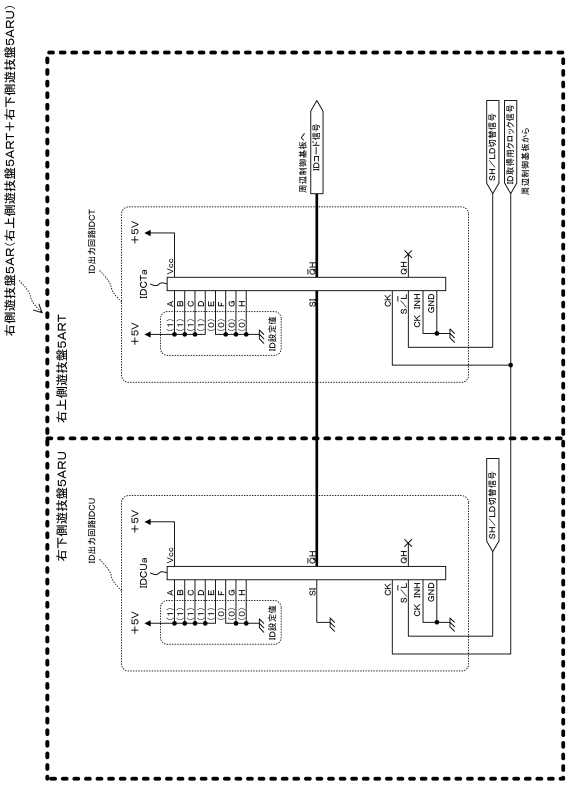
【図３０５】



【図３０６】



【図３０７】



【図３０８】

(a)パチンコ機Aとして適合する組み合わせ（○：対象）

	ID判定対象	適合ID品のID（2進数）	不適合ID品のID（2進数）
左前遊技盤5AL			
右前遊技盤5AR	○	11110000B	←左記と異なるID
遠出操作ユニット300A	○	00110000B	←左記と異なるID
扉枠ユニット			

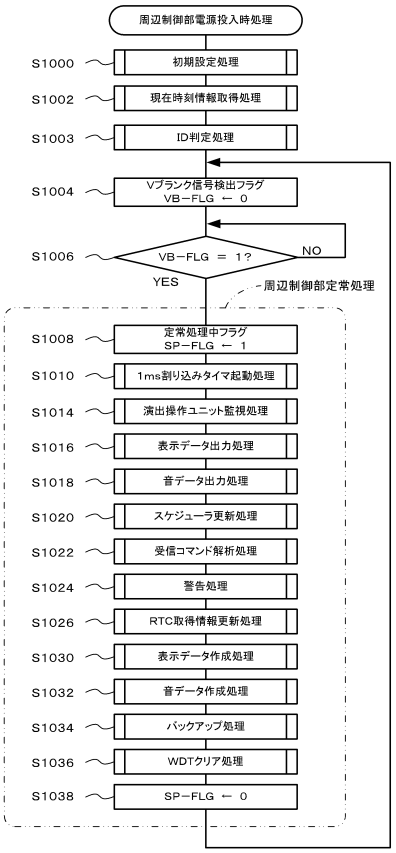
(b)パチンコ機Bとして適合する組み合わせ（○：対象）

	ID判定対象	適合ID品のID（2進数）	不適合ID品のID（2進数）
左前遊技盤5BL			
右前遊技盤5AR	○	11110000B	←左記と異なるID
遠出操作ユニット300B	○	00110001B	←左記と異なるID
扉枠ユニット			

(c)パチンコ機A（パチンコ機B）によるID判別（○:適合、×:不適合、△:識別不可）

	右前遊技盤5AR	遠出操作ユニット300A（300B）	主制御―払出制御	扉枠ユニット	状態	エラー中のパチンコ機の挙動	対処法
左前遊技盤5AL/5BLに備える周辺制御基板1510（周辺制御MC1510A）	○	○	○		状態1：正常	正常動作（エラーが無い）	なし
	×	○	○		状態2：IDエラー1	エラー対応1（IDエラー1対応）	電源遮断後に適合ID品に交換
	○	×	○		状態3：IDエラー2	エラー対応2（IDエラー2対応）	適合ID品に交換
	○	○	×		状態4：IDエラー3	エラー対応3（IDエラー3対応）	電源遮断後に適合ID品に交換
	×	×	○		状態5：IDエラー4	エラー対応4	電源遮断後に適合ID品に交換
	×	○	×		状態6：IDエラー1、3	エラー対応5	電源遮断後に適合ID品に交換
	○	×	×		状態7：IDエラー2、3	エラー対応6	電源遮断後に適合ID品に交換
	△	○	○		状態8：未接続エラー1	エラー対応7	電源遮断後に接続を確認
	○	△	○		状態9：未接続エラー2	エラー対応8	電源遮断後に接続を確認
	△	△	○		状態10：未接続エラー3	エラー対応9	電源遮断後に接続を確認

【図３０９】



【図３１０】

電源投入時（停電からの復旧、瞬停からの復旧を含む。）における各種エラー対応（具体例１）

エラー対応の番号	音声	扉枠ユニットの各種LED	遊技盤の各種LED	演出表示装置	枠表示ユニット	サブ演出表示装置	枠表示ユニット	サブ機能表示ユニット	遊技盤側可動体	扉枠ユニット側可動体
エラー対応1（IDエラー1対応）	起動音楽の終了後に「係員をお呼びください」というアナウンス音声と共に、所定のエラー報知音を2回流してアナウンスそしてエラー報知音を繰り返し流す	消灯	消灯	黒色の背景に「電源遮断中」、「しばらくお待ちください」の文字表示と共に、「電源を遮断してください」の報知文字を表示する	所定のLEDが点灯する	消灯	未動作	未動作	未動作
エラー対応2（IDエラー2対応）	エラー対応1（IDエラー1対応）と同一			黒色の背景に「電源遮断中」、「しばらくお待ちください」の文字表示と共に、「電源を遮断してください」の報知文字を表示する		エラー対応1（IDエラー1対応）と同一				
エラー対応3（IDエラー3対応）	起動音楽の終了後に「係員をお呼びください」というアナウンス音声と共に、所定のエラー報知音を2回流してアナウンスそしてエラー報知音を繰り返し流す	エラー対応1（IDエラー1対応）と同一		黒色の背景に「電源遮断中」、「しばらくお待ちください」の文字表示と共に、「電源を遮断してください」の報知文字を表示する	所定のLEDが点灯する（各行も同様に点灯）	起動音楽の開始と同時に、所定の背景画像に「主制御基板のエラー」という報知文字を表示する	所定のLEDが点灯する	所定のLEDが点灯する	動作	動作
エラー対応4	エラー対応1（IDエラー1対応）と同一			エラー対応1（IDエラー1対応）と同一		エラー対応1（IDエラー1対応）と同一				
エラー対応5	エラー対応3と同一			エラー対応3と同一		エラー対応3と同一				
エラー対応6	エラー対応3と同一			エラー対応3と同一		エラー対応3と同一				
エラー対応7	起動音楽の終了後に「遊技盤のセーブ＆リセットを実行してください」というアナウンス音声と共に、所定のエラー報知音を4回流してアナウンスそしてエラー報知音を繰り返し流す	赤色に点滅	赤色に点滅	黒色の背景に「遊技盤のセーブ＆リセットを実行してください」の文字表示と共に、「遊技盤のセーブ＆リセットを実行してください」の報知文字を表示する	所定のLEDが点灯する	起動音楽の開始と同時に、所定の背景画像に「遊技盤のセーブ＆リセットを実行してください」という報知文字を表示する	所定のLEDが点灯する	消灯	未動作	未動作
エラー対応8	起動音楽の終了後に「係員をお呼びください」というアナウンス音声と共に、所定のエラー報知音を2回流してアナウンスそしてエラー報知音を繰り返し流す	赤色に点滅	赤色に点滅	黒色の背景に「遊技盤のセーブ＆リセットを実行してください」の文字表示と共に、「電源を遮断してください」の報知文字を表示する	所定のLEDが点灯する	起動音楽の開始と同時に、所定の背景画像に「遊技盤のセーブ＆リセットを実行してください」という報知文字を表示する	所定のLEDが点灯する	所定のLEDが点灯する	動作	動作
エラー対応9	エラー対応7＋エラー対応8			エラー対応7＋エラー対応8		エラー対応7と同一				

【図３１１】

電源投入後（停電からの復旧、瞬停からの復旧を含む。）の演出の進行時または客待ち時における磁気検知を伴わない各種エラー対応（具体例１）

エラー対応の番号	音声	扉枠ユニットの各種LED	遊技盤の各種LED	演出表示装置	枠表示ユニット	サブ演出表示装置	枠表示ユニット	サブ機能表示ユニット	遊技盤側可動体	扉枠ユニット側可動体
エラー対応1（IDエラー1対応）	「係員をお呼びください」というアナウンス音声と共に、所定のエラー報知音を2回流してアナウンスそしてエラー報知音を繰り返し流す	消灯	消灯	演出時の画像または客待ち時の画像に「遊技盤のセーブ＆リセットを実行してください」の報知文字を表示する	所定のLEDが点灯する	消灯	未動作	未動作	未動作
エラー対応2（IDエラー2対応）	エラー対応1（IDエラー1対応）と同一			演出時の画像または客待ち時の画像に「遊技盤のセーブ＆リセットを実行してください」という報知文字を表示する		エラー対応1（IDエラー1対応）と同一				
エラー対応3（IDエラー3対応）	「係員をお呼びください」というアナウンス音声と共に、所定のエラー報知音を2回流してアナウンスそしてエラー報知音を繰り返し流す	エラー対応1（IDエラー1対応）と同一		演出時の画像または客待ち時の画像に「主制御基板のエラー」という報知文字を表示する	所定のLEDが点灯する（各行も同様に点灯）	エラー対応1（IDエラー1対応）と同一	所定のLEDが点灯する	所定のLEDが点灯する	動作	動作
エラー対応4	エラー対応1（IDエラー1対応）と同一			エラー対応1（IDエラー1対応）＋エラー対応2（IDエラー2対応）		エラー対応1（IDエラー1対応）と同一				
エラー対応5	エラー対応3と同一			エラー対応3＋エラー対応1（IDエラー1対応）		エラー対応1（IDエラー1対応）と同一				
エラー対応6	エラー対応3と同一			エラー対応3＋エラー対応2（IDエラー2対応）		エラー対応2（IDエラー2対応）と同一				
エラー対応7	「遊技盤の本体接続です」というアナウンス音声と共に、所定のエラー報知音を4回流してアナウンスそしてエラー報知音を繰り返し流す	赤色に点滅	赤色に点滅	演出時の画像または客待ち時の画像に「遊技盤のセーブ＆リセットを実行してください」の本体接続という報知文字を表示する	所定のLEDが点灯する	所定のLED点灯	未動作	未動作	未動作	未動作
エラー対応8	「演出操作ユニットの本体接続です」というアナウンス音声と共に、所定のエラー報知音を4回流してアナウンスそしてエラー報知音を繰り返し流す	赤色に点滅	赤色に点滅	演出時の画像または客待ち時の画像に「遊技盤のセーブ＆リセットを実行してください」の本体接続という報知文字を表示する	所定のLEDが点灯する	エラー対応7と同一				
エラー対応9	エラー対応7＋エラー対応8			エラー対応7＋エラー対応8		エラー対応7と同一				

【図３１２】

電源投入後（停電からの復旧、瞬停からの復旧を含む。）の演出の進行時または客待ち時における磁気検知を伴う各種エラー対応（具体例１）

エラー対応の番号	音声	扉枠ユニットの各種LED	遊技盤の各種LED	演出表示装置	枠表示ユニット	サブ演出表示装置	枠表示ユニット	サブ機能表示ユニット	遊技盤側可動体	扉枠ユニット側可動体
エラー対応1（IDエラー1対応）	「係員をお呼びください」というアナウンス音声と共に、所定のエラー報知音を2回流してアナウンスそしてエラー報知音を繰り返し流す	消灯	消灯	演出時の画像または客待ち時の画像に「遊技盤のセーブ＆リセットを実行してください」の報知文字を表示する	所定のLEDが点灯する	消灯	未動作	未動作	未動作	未動作
エラー対応2（IDエラー2対応）	エラー対応1（IDエラー1対応）と同一			演出時の画像または客待ち時の画像に「遊技盤のセーブ＆リセットを実行してください」という報知文字を表示する		エラー対応1（IDエラー1対応）と同一				
エラー対応3（IDエラー3対応）	「係員をお呼びください」というアナウンス音声と共に、所定のエラー報知音を2回流してアナウンスそしてエラー報知音を繰り返し流す	エラー対応1（IDエラー1対応）と同一		演出時の画像または客待ち時の画像に「主制御基板のエラー」という報知文字を表示する	所定のLEDが点灯する（各行も同様に点灯）	エラー対応1（IDエラー1対応）と同一	所定のLEDが点灯する	所定のLEDが点灯する	動作	動作
エラー対応4	エラー対応1（IDエラー1対応）と同一			エラー対応1（IDエラー1対応）＋エラー対応2（IDエラー2対応）		エラー対応1（IDエラー1対応）と同一				
エラー対応5	エラー対応3と同一			エラー対応3＋エラー対応1（IDエラー1対応）		エラー対応1（IDエラー1対応）と同一				
エラー対応6	エラー対応3と同一			エラー対応3＋エラー対応2（IDエラー2対応）		エラー対応2（IDエラー2対応）と同一				
エラー対応7	「遊技盤の本体接続です」というアナウンス音声と共に、所定のエラー報知音を4回流してアナウンスそしてエラー報知音を繰り返し流す	赤色に点滅	赤色に点滅	演出時の画像または客待ち時の画像に「遊技盤のセーブ＆リセットを実行してください」の本体接続という報知文字を表示する	所定のLEDが点灯する	所定のLED点灯	未動作	未動作	未動作	未動作
エラー対応8	「演出操作ユニットの本体接続です」というアナウンス音声と共に、所定のエラー報知音を4回流してアナウンスそしてエラー報知音を繰り返し流す	赤色に点滅	赤色に点滅	演出時の画像または客待ち時の画像に「遊技盤のセーブ＆リセットを実行してください」の本体接続という報知文字を表示する	所定のLEDが点灯する	エラー対応7と同一				
エラー対応9	エラー対応7＋エラー対応8			エラー対応7＋エラー対応8		エラー対応7と同一				

【図３１３】

電源投入時（停電からの復旧、瞬停からの復旧を含む。）の演出の進行時または客待ち時における磁気検知を伴う各種エラー対応（具体例2）

エラー対応の番号	音声	扉枠ユニットの各種LED	遊技盤の各種LED	演出表示装置	サブ演出表示装置	機能表示ユニット	サブ機能表示ユニット	遊技盤側可動体	扉枠ユニット側可動体
エラー対応1（IDエラー1対応）	所定のエラー報知音を1回流し、「遊技盤の接続エラーが発生しました。電源を切ってから遊技盤を確認してください」という報知文字を表示し、そしてアナウンス音を繰り返し流す	赤色に点滅	消灯	黒色の背景に「遊技盤エラー発生」、「エラー番号：1」、「遊技盤の接続エラーが発生しました。電源を切ってから遊技盤を確認してください」という報知文字を表示し、パチンコ機の遊技盤接続エラー箇所を点灯させた画像を表示する	黒色の背景を表示する	所定のLEDが点灯する	所定のLEDが点灯する（客待ち時：消灯）	動作	未動作
エラー対応2（IDエラー2対応）	所定のエラー報知音を1回流し、「演出操作ユニットの接続エラーが発生しました。電源を切ってから演出操作ユニットを確認してください」という報知文字を表示し、「演出操作ユニットの接続エラー」一般報知音、そしてアナウンス音を繰り返し流す	赤色に点滅	消灯	黒色の背景に「演出操作ユニット発生」、「エラー番号：2」、「演出操作ユニットの接続エラーが発生しました。電源を切ってから演出操作ユニットを確認してください」という報知文字を表示し、パチンコ機の遊技盤接続エラー箇所を点灯させた画像を表示する	エラー対応1（IDエラー1対応）と同一				
エラー対応3（IDエラー3対応）	所定のエラー報知音を1回流し、「係員をお呼びください」というアナウンス音を繰り返し流す	赤色に点滅	消灯	黒色の背景に「主基板エラー発生」、「エラー番号：3」、「主基板の接続エラーが発生しました。電源を切ってから遊技盤を確認してください」という報知文字を表示、遊技盤と枠との組み合わせ不可の画像を表示する	黒色の背景を表示する	所定のLEDが点灯する	所定のLED（客待ち時：消灯）	動作	動作
エラー対応4	エラー対応1（IDエラー1対応）と同一								
エラー対応5	エラー対応3と同一				エラー対応1（IDエラー1対応）と同一				
エラー対応6	エラー対応3と同一				エラー対応2（IDエラー2対応）と同一				
エラー対応7	所定のエラー報知音を1回流し、「扉ユニットエラーです」というアナウンス音を流し、エラー報知音、そしてアナウンス音を繰り返し流す	赤色に点滅	消灯	演出時の画像または客待ち時の画像を進行し、「エラー番号：1」、「扉ユニットの接続エラーが発生しました。電源を切ってから扉ユニットを確認してください」という報知文字を表示する	演出時の画像または客待ち時の画像を表示する	所定のLEDが点灯する	所定のLED（客待ち時：消灯）	動作	動作
エラー対応8	エラー対応7と同一								
エラー対応9	エラー対応7と同一								

【図３１４】

電源投入後（停電からの復旧、瞬停からの復旧を含む。）の演出の進行時または客待ち時における磁気検知を伴わない各種エラー対応（具体例2）

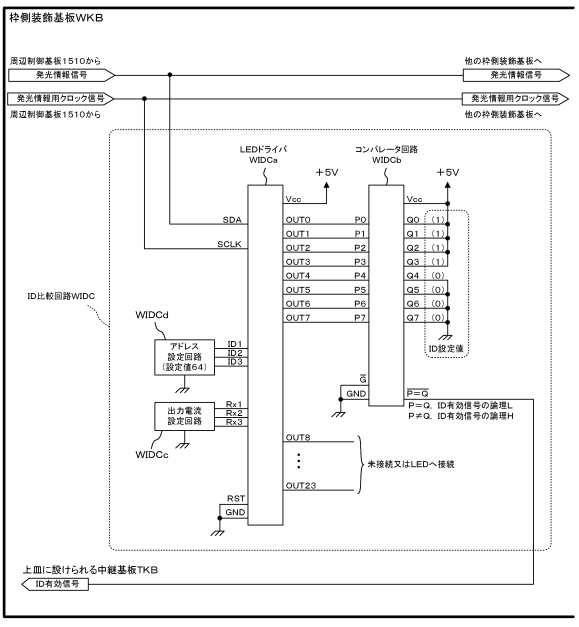
エラー対応の番号	音声	扉枠ユニットの各種LED	遊技盤の各種LED	演出表示装置	サブ演出表示装置	機能表示ユニット	サブ機能表示ユニット	遊技盤側可動体	扉枠ユニット側可動体
エラー対応1（IDエラー1対応）	所定のエラー報知音を1回流し、「遊技盤の接続エラーが発生しました。電源を切ってから遊技盤を確認してください」という報知文字を表示し、パチンコ機の遊技盤接続エラー箇所を点灯させた画像を表示する	赤色に点滅	消灯	黒色の背景に「遊技盤エラー発生」、「エラー番号：1」、「遊技盤の接続エラーが発生しました。電源を切ってから遊技盤を確認してください」という報知文字を表示し、パチンコ機の遊技盤接続エラー箇所を点灯させた画像を表示する	黒色の背景を表示する	所定のLEDが点灯する（客待ち時：消灯）	所定のLEDが点灯する	動作	未動作
エラー対応2（IDエラー2対応）	所定のエラー報知音を1回流し、「演出操作ユニットの接続エラーが発生しました。電源を切ってから演出操作ユニットを確認してください」という報知文字を表示し、「演出操作ユニットの接続エラー」一般報知音、そしてアナウンス音を繰り返し流す	赤色に点滅	消灯	黒色の背景に「演出操作ユニット発生」、「エラー番号：2」、「演出操作ユニットの接続エラーが発生しました。電源を切ってから演出操作ユニットを確認してください」という報知文字を表示し、パチンコ機の遊技盤接続エラー箇所を点灯させた画像を表示する	エラー対応1（IDエラー1対応）と同一				
エラー対応3（IDエラー3対応）	所定のエラー報知音を1回流し、「係員をお呼びください」というアナウンス音を繰り返し流す	赤色に点滅	消灯	黒色の背景に「主基板エラー発生」、「エラー番号：3」、「主基板の接続エラーが発生しました。電源を切ってから遊技盤を確認してください」という報知文字を表示、遊技盤とホールの組み合わせ不可の画像を表示する	黒色の背景を表示する	所定のLEDが点灯する	所定のLED（客待ち時：消灯）	動作	動作
エラー対応4	エラー対応1（IDエラー1対応）と同一								
エラー対応5	エラー対応3と同一				エラー対応1（IDエラー1対応）と同一				
エラー対応6	エラー対応3と同一				エラー対応2（IDエラー2対応）と同一				
エラー対応7	所定のエラー報知音を1回流し、「扉ユニットエラーです」というアナウンス音を流し、エラー報知音、そしてアナウンス音を繰り返し流す	赤色に点滅	消灯	演出時の画像または客待ち時の画像を進行し、「エラー番号：1」、「扉ユニットの接続エラーが発生しました。電源を切ってから扉ユニットを確認してください」という報知文字を表示する	演出時の画像または客待ち時の画像を表示する	所定のLEDが点灯する	所定のLED（客待ち時：消灯）	動作	動作
エラー対応8	エラー対応7と同一								
エラー対応9	エラー対応7と同一								

【図３１５】

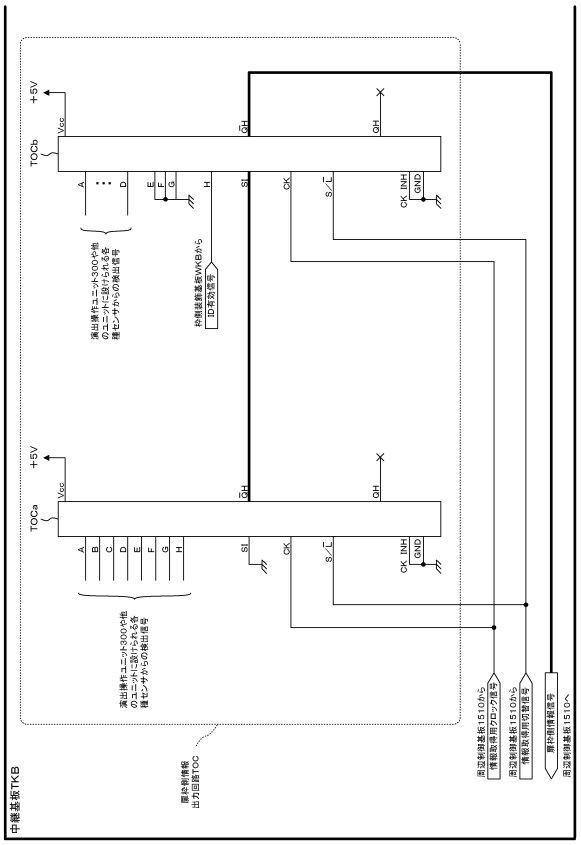
電源投入後（停電からの復旧、瞬停からの復旧を含む。）の演出の進行時または客待ち時における磁気検知を伴う各種エラー対応（具体例2）

エラー対応の番号	音声	扉枠ユニットの各種LED	遊技盤の各種LED	演出表示装置	サブ演出表示装置	機能表示ユニット	サブ機能表示ユニット	遊技盤側可動体	扉枠ユニット側可動体
エラー対応1（IDエラー1対応）	所定のエラー報知音を1回流し、「遊技盤の接続エラーが発生しました。電源を切ってから遊技盤を確認してください」という報知文字を表示し、そしてアナウンス音を繰り返し流す	赤色に点滅	消灯	黒色の背景に「遊技盤エラー発生」、「エラー番号：1」、「遊技盤の接続エラーが発生しました。電源を切ってから遊技盤を確認してください」という報知文字を表示し、パチンコ機の遊技盤接続エラー箇所を点灯させた画像を表示する	黒色の背景を表示する	所定のLEDが点灯する	所定のLED（客待ち時：消灯）	動作	未動作
エラー対応2（IDエラー2対応）	所定のエラー報知音を1回流し、「演出操作ユニットの接続エラーが発生しました。電源を切ってから演出操作ユニットを確認してください」という報知文字を表示し、「演出操作ユニットの接続エラー」一般報知音、そしてアナウンス音を繰り返し流す	赤色に点滅	消灯	黒色の背景に「演出操作ユニット発生」、「エラー番号：2」、「演出操作ユニットの接続エラーが発生しました。電源を切ってから演出操作ユニットを確認してください」という報知文字を表示し、パチンコ機の遊技盤接続エラー箇所を点灯させた画像を表示する	エラー対応1（IDエラー1対応）と同一				
エラー対応3（IDエラー3対応）	所定のエラー報知音を1回流し、「係員をお呼びください」というアナウンス音を繰り返し流す	赤色に点滅	消灯	黒色の背景に「主基板エラー発生」、「エラー番号：3」、「主基板の接続エラーが発生しました。電源を切ってから遊技盤を確認してください」という報知文字を表示、遊技盤とホールの組み合わせ不可の画像を表示する	黒色の背景を表示する	所定のLEDが点灯する	所定のLED（客待ち時：消灯）	動作	動作
エラー対応4	エラー対応1（IDエラー1対応）と同一								
エラー対応5	エラー対応3と同一				エラー対応1（IDエラー1対応）と同一				
エラー対応6	エラー対応3と同一				エラー対応2（IDエラー2対応）と同一				
エラー対応7	所定のエラー報知音を1回流し、「扉ユニットエラーです」というアナウンス音を流し、エラー報知音、そしてアナウンス音を繰り返し流す	赤色に点滅	消灯	演出時の画像または客待ち時の画像を進行し、「エラー番号：1」、「扉ユニットの接続エラーが発生しました。電源を切ってから扉ユニットを確認してください」という報知文字を表示する	演出時の画像または客待ち時の画像を表示する	所定のLEDが点灯する	所定のLED（客待ち時：消灯）	動作	動作
エラー対応8	エラー対応7と同一								
エラー対応9	エラー対応7と同一								

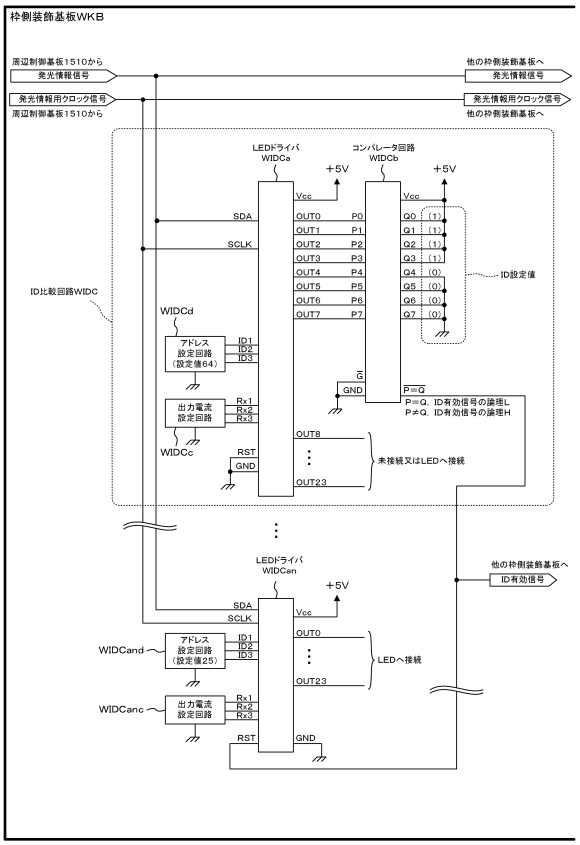
【図３１６】



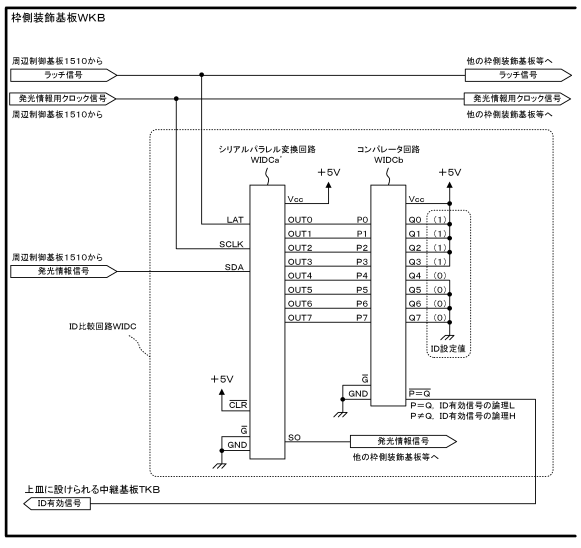
【図３１７】



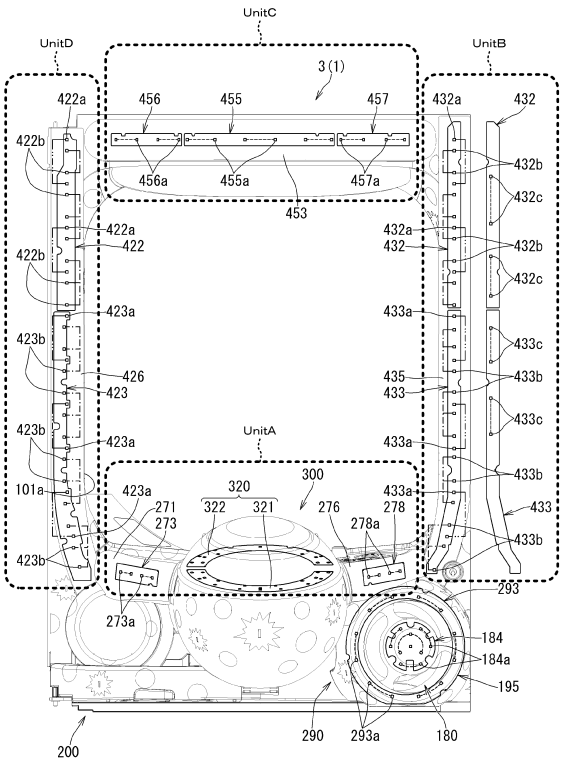
【図３１８】



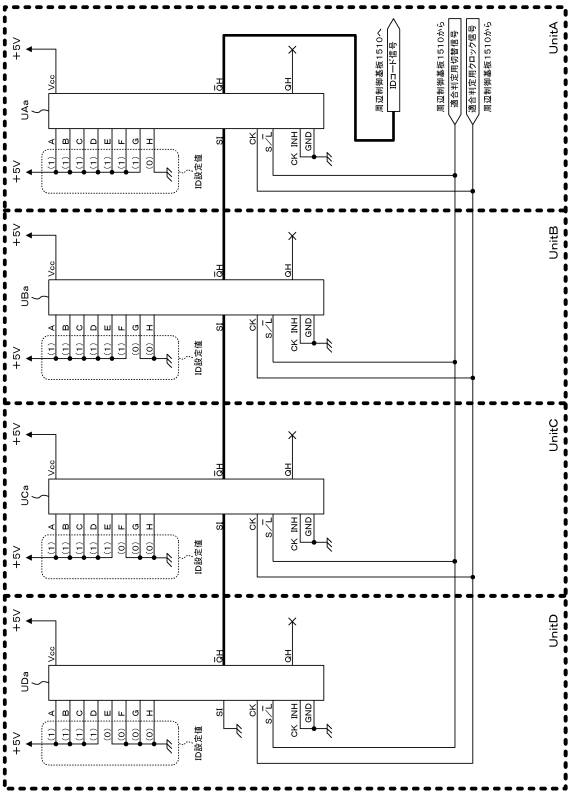
【図３１９】



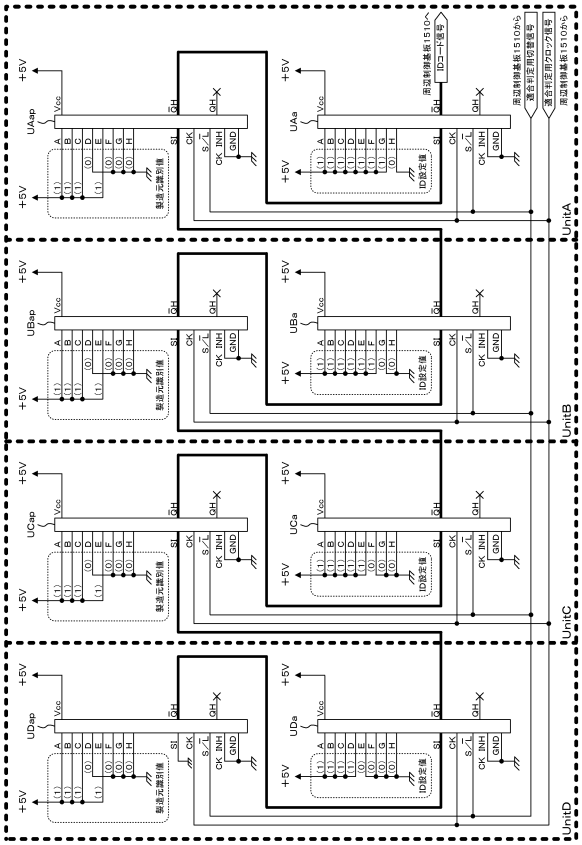
【図３２０】



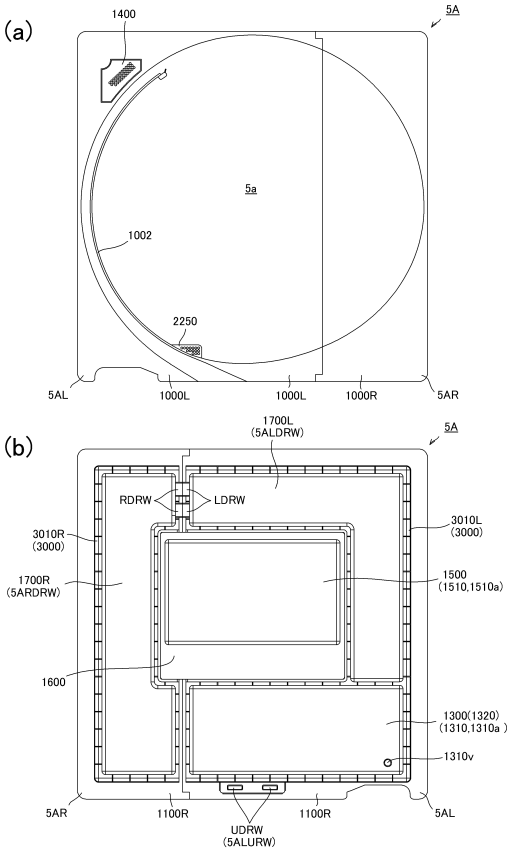
【図３２１】



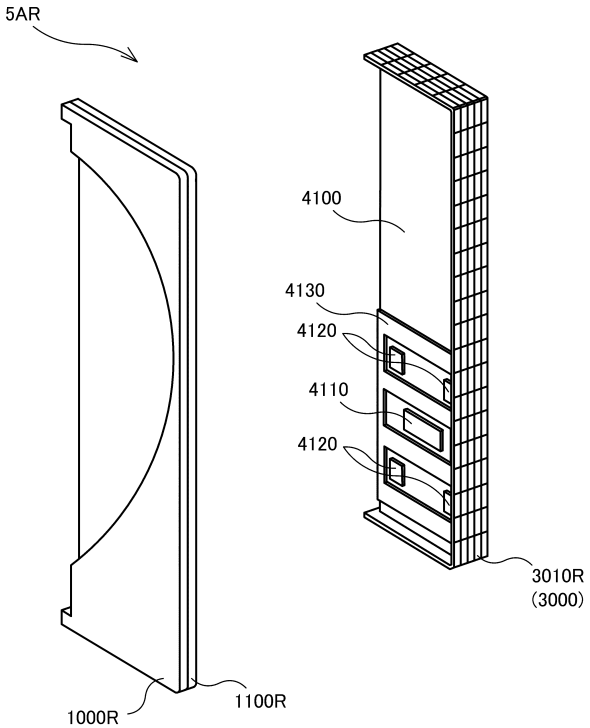
【図３２２】



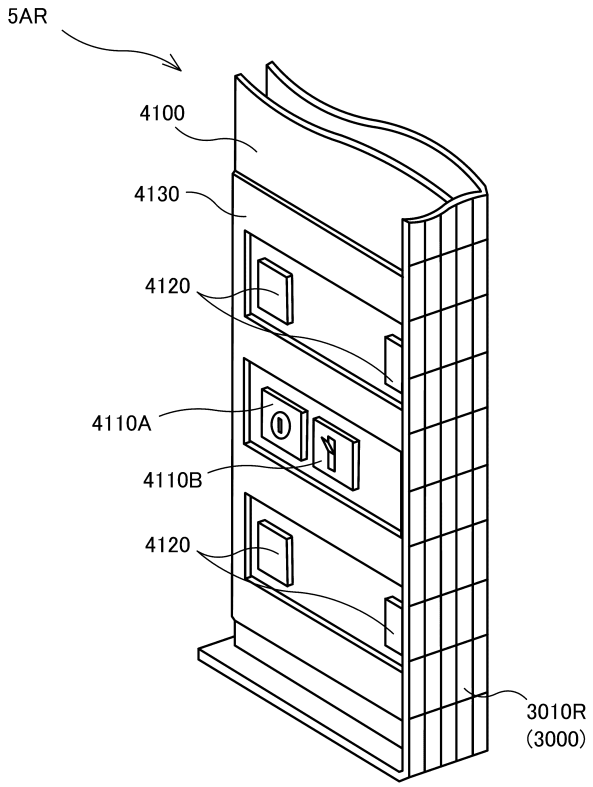
【図３２３】



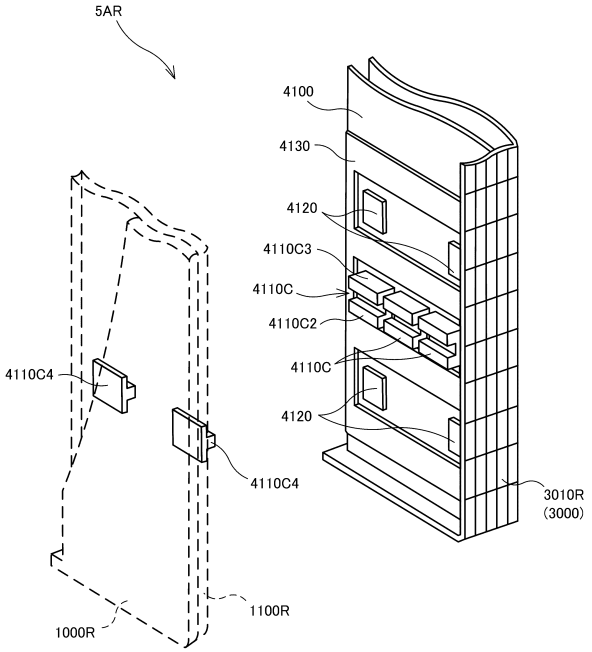
【図３２４】



【図３２５】



【図３２６】



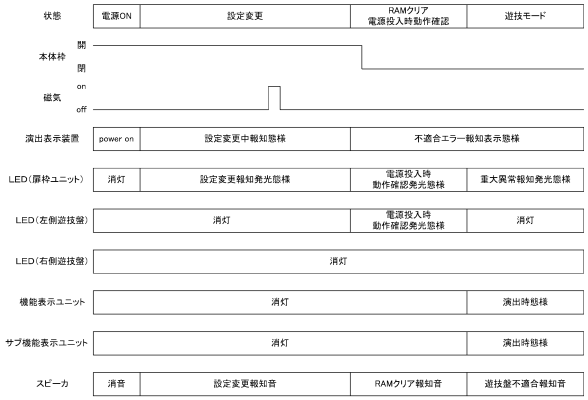
【図３２７】

状態	電源ON	設定変更	RAMクリア 電源投入時動作確認	遊技モード
本体枠	開 閉			
演出表示装置	power on	設定変更中報知態様	演出時態様	
LED（扉枠ユニット）	消灯	設定変更報知発光態様	電源投入時 動作確認発光態様	重大異常報 知発光態様	演出時態様
LED（左側遊技盤）	消灯		電源投入時 動作確認発光態様	消灯	演出時態様
LED（右側遊技盤）	消灯	設定変更報知発光態様	電源投入時 動作確認発光態様	重大異常報 知発光態様	演出時態様
機能表示ユニット	消灯			演出時態様
サブ機能表示ユニット	消灯			演出時態様
スピーカ	消音	設定変更報知音	RAMクリア報知音	演出時態様

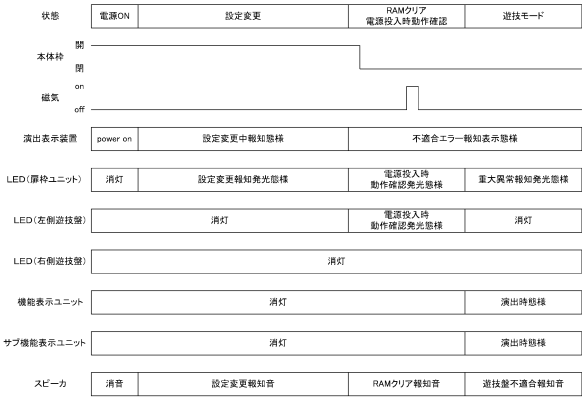
【図３２８】

状態	電源ON	設定変更	RAMクリア 電源投入時動作確認	遊技モード
本体枠	開 閉			
演出表示装置	power on	設定変更中報知態様	不適合エラー報知表示態様	
LED（扉枠ユニット）	消灯	設定変更報知発光態様	電源投入時 動作確認発光態様	重大異常報知発光態様
LED（左側遊技盤）	消灯		電源投入時 動作確認発光態様	消灯
LED（右側遊技盤）	消灯			
機能表示ユニット	消灯			演出時態様
サブ機能表示ユニット	消灯			演出時態様
スピーカ	消音	設定変更報知音	RAMクリア報知音	遊技盤不適合報知音

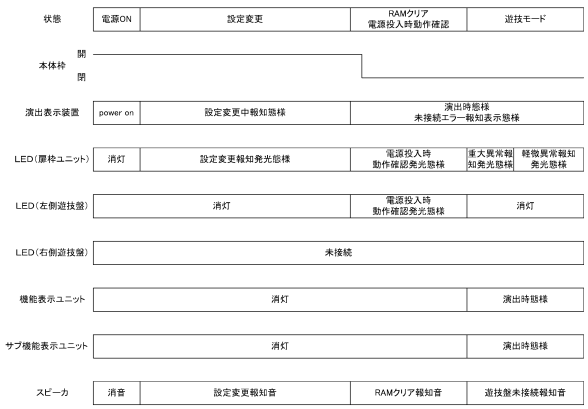
【図３２９】



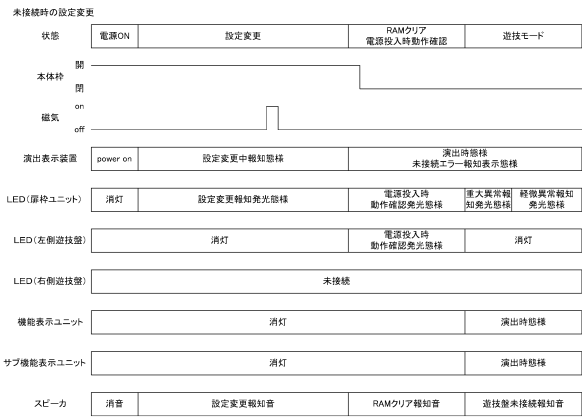
【図３３０】



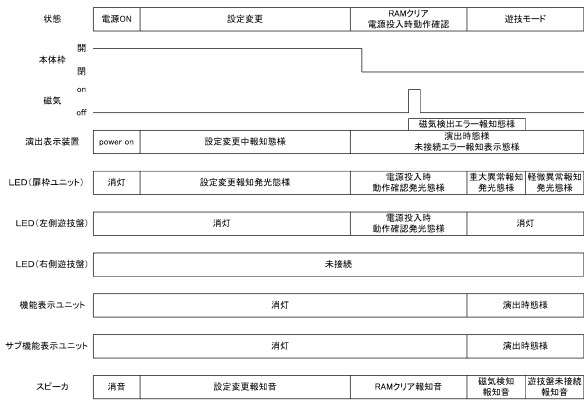
【図３３１】



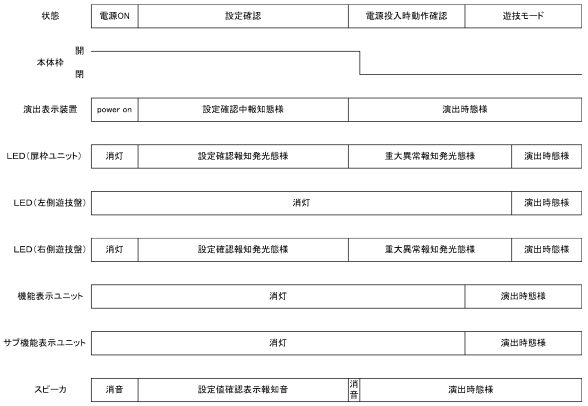
【図３３２】



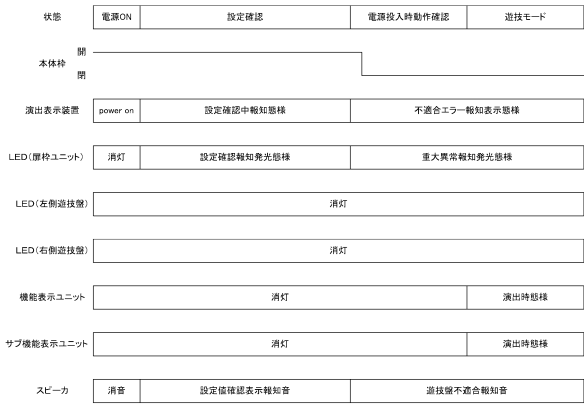
【図３３３】



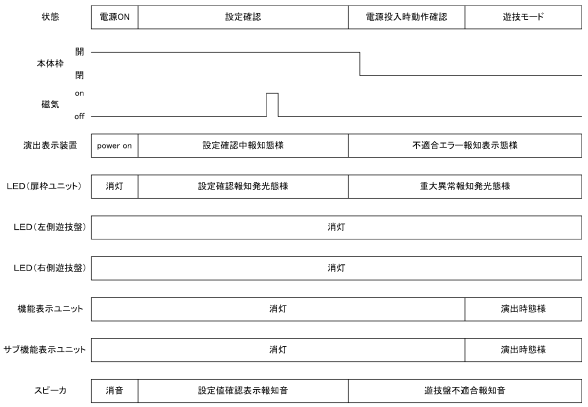
【図３３４】



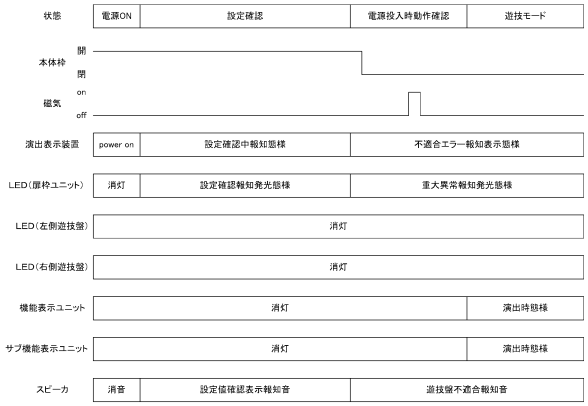
【図３３５】



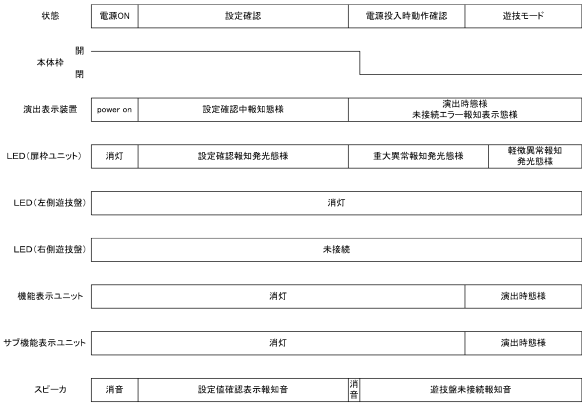
【図３３６】



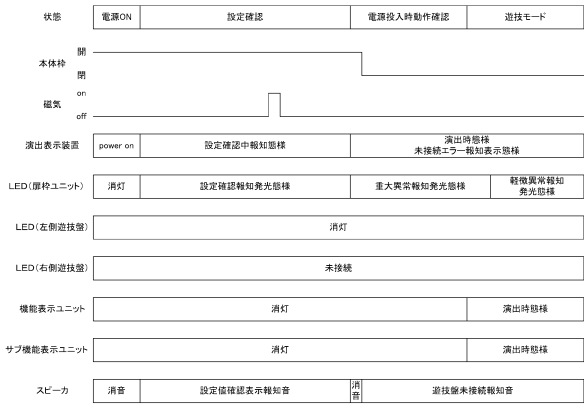
【図３３７】



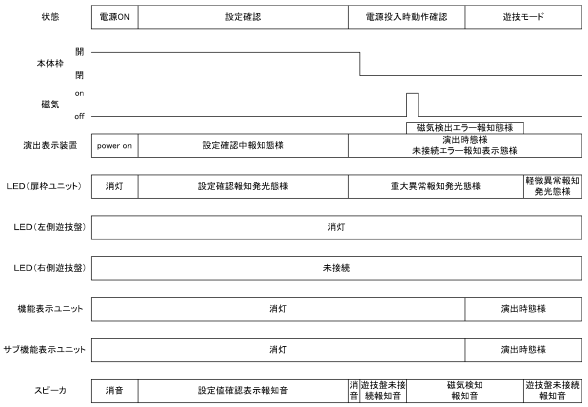
【図３３８】



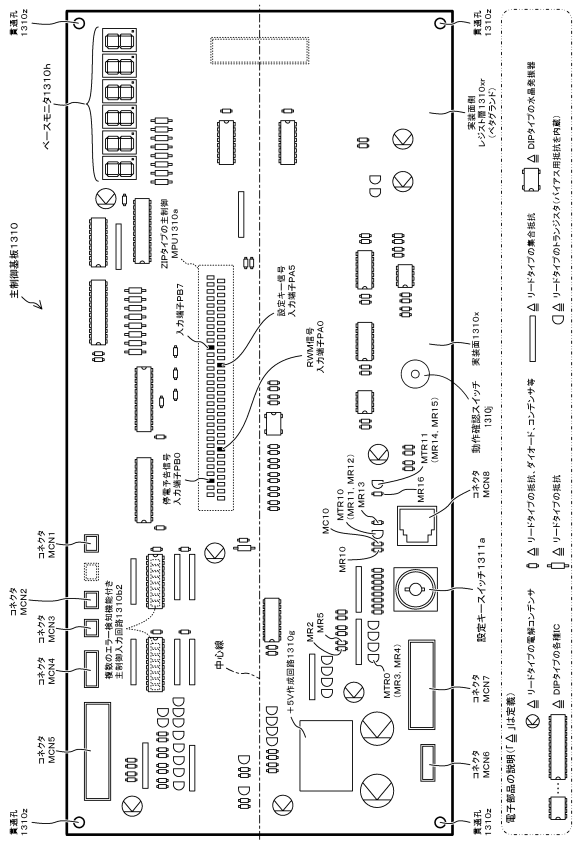
【図３３９】



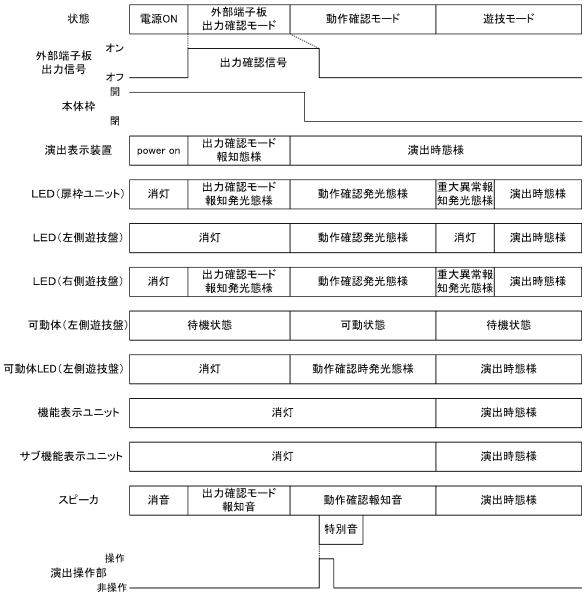
【図３４０】



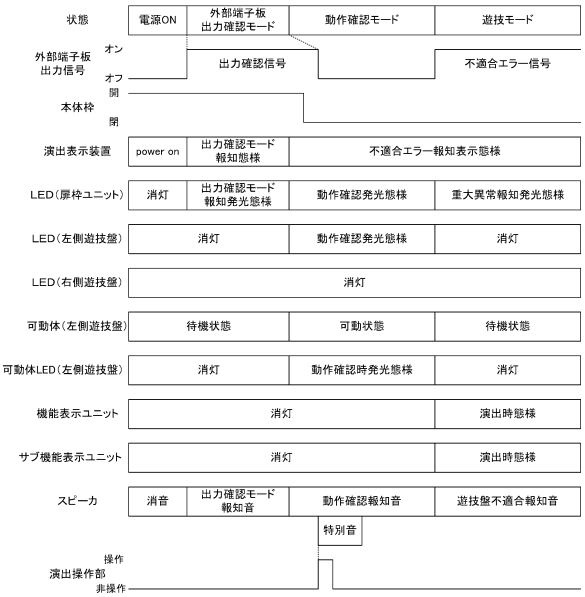
【図３４１】



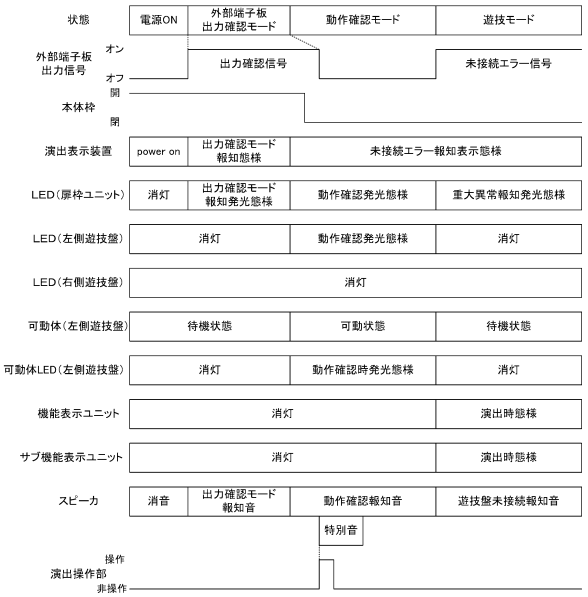
【図３４２】



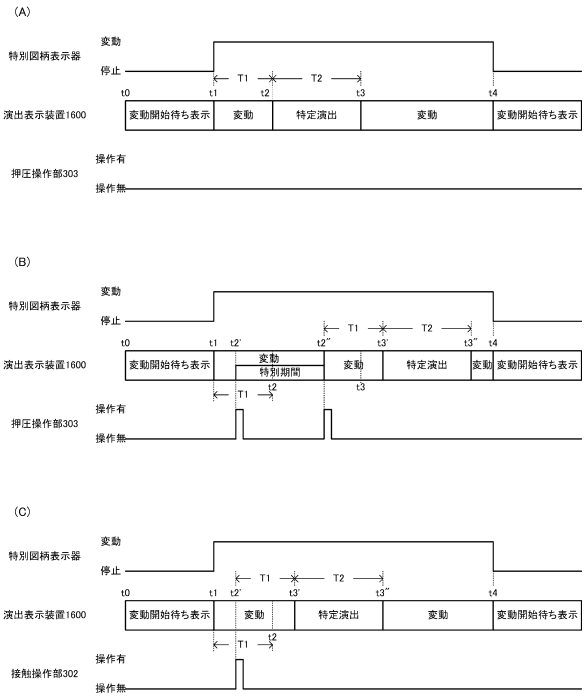
【図３４３】



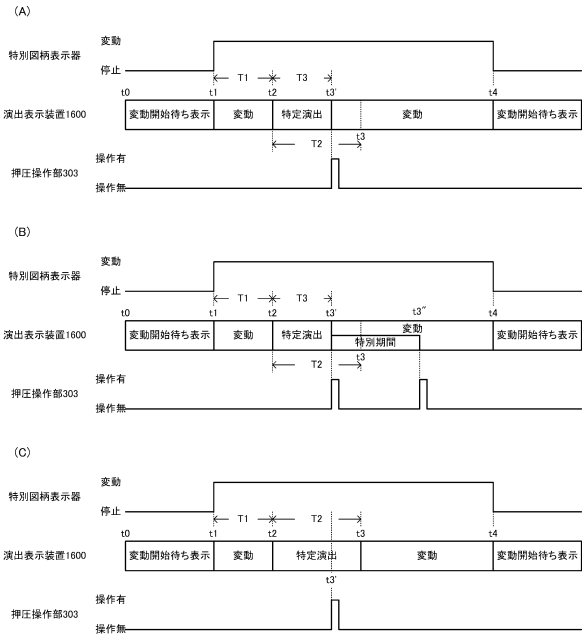
【図３４４】



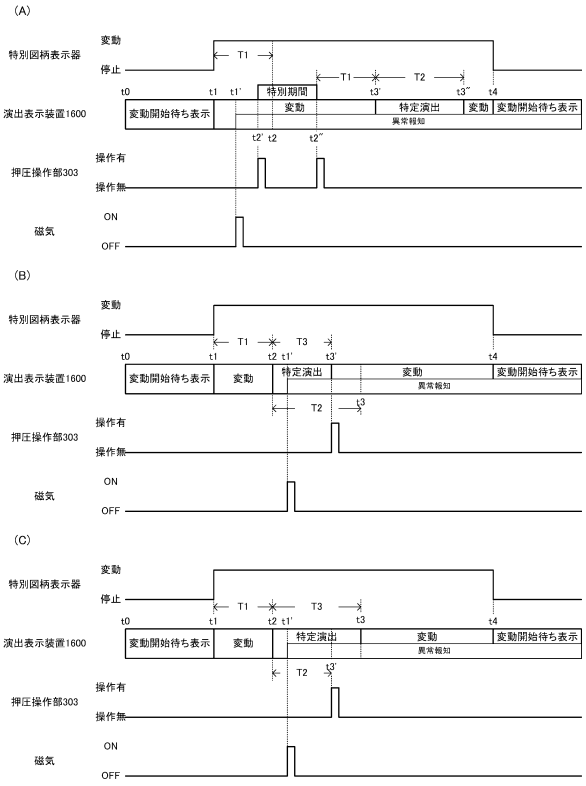
【図３４５】



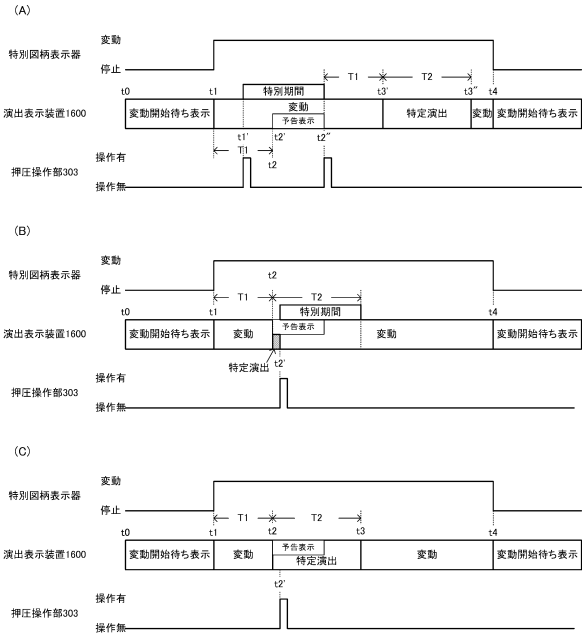
【図３４６】



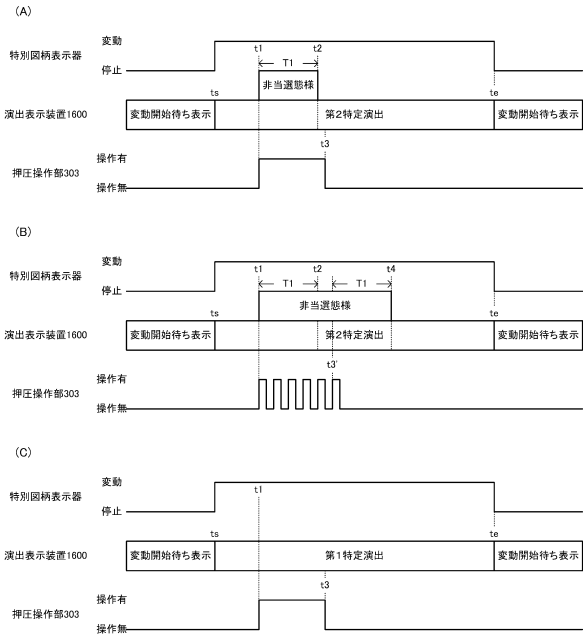
【図３４７】



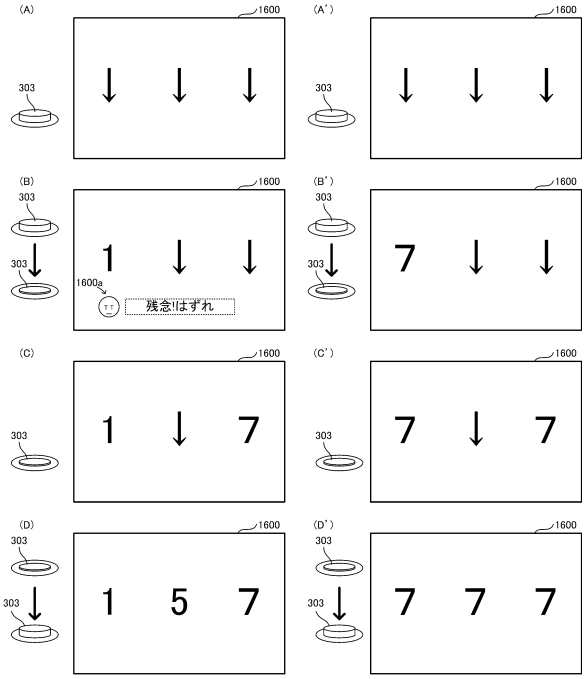
【図３４８】



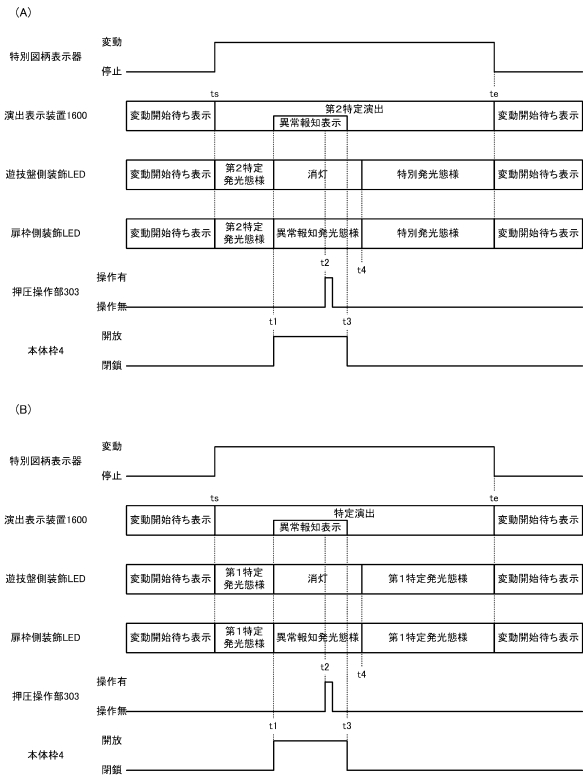
【図３４９】



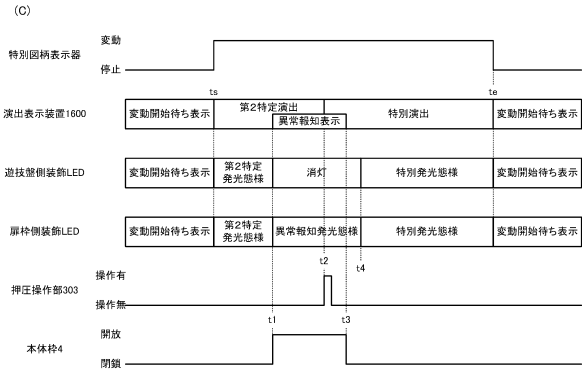
【図３５０】



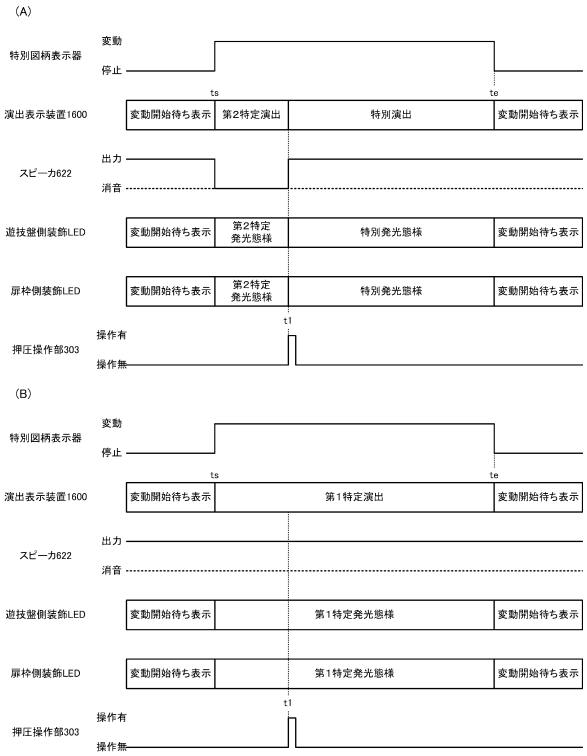
【図３５１】



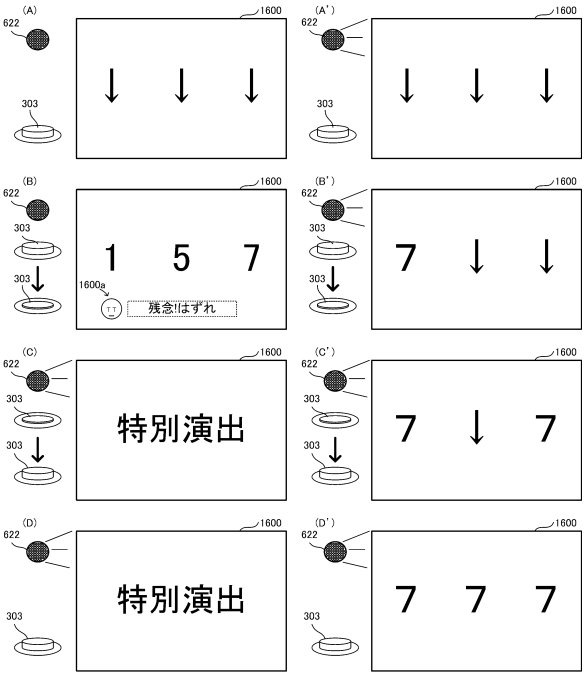
【図３５２】



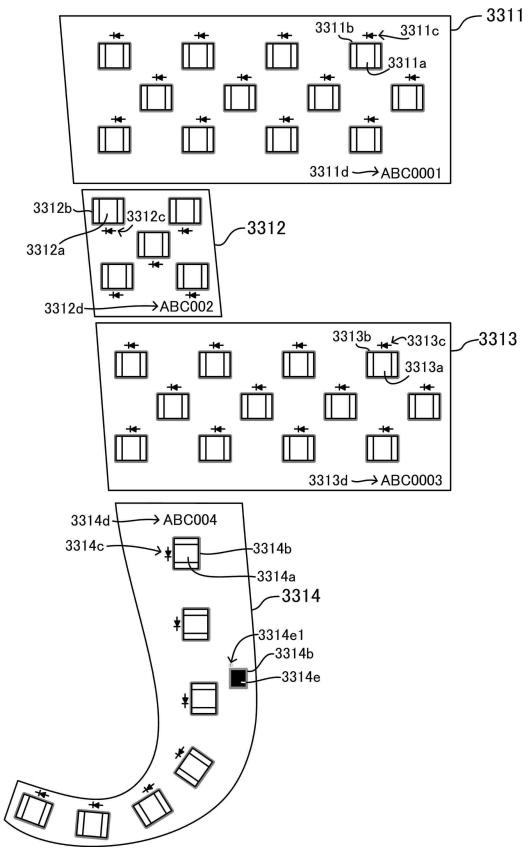
【図３５３】



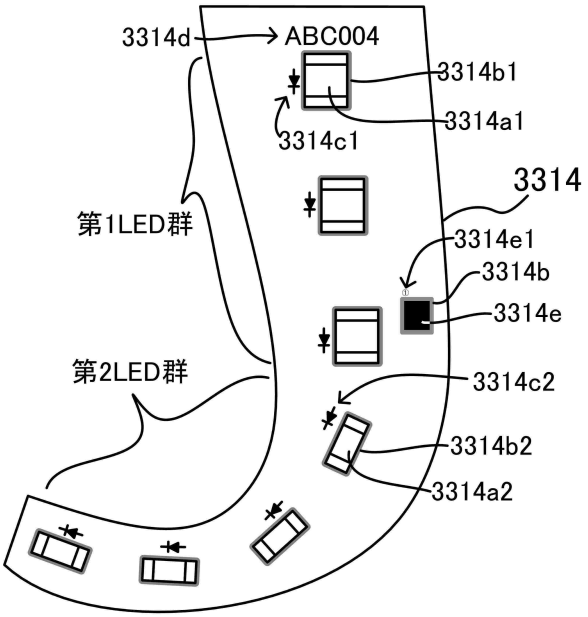
【図３５４】



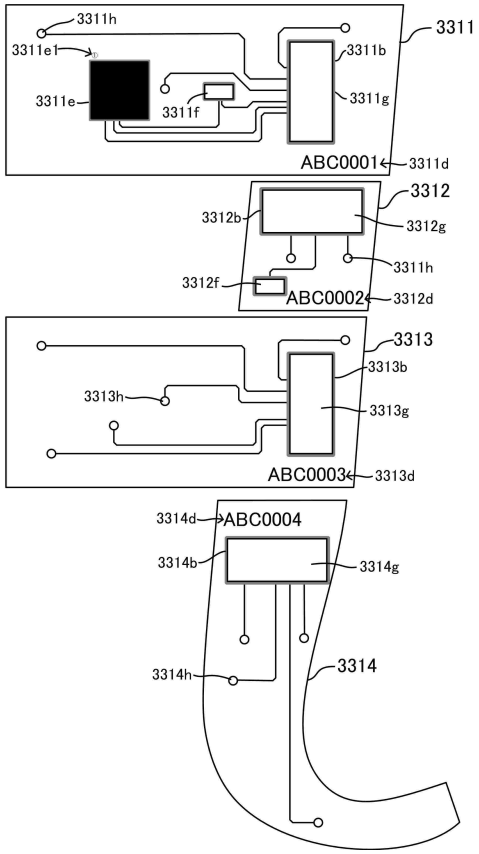
【図３５５】



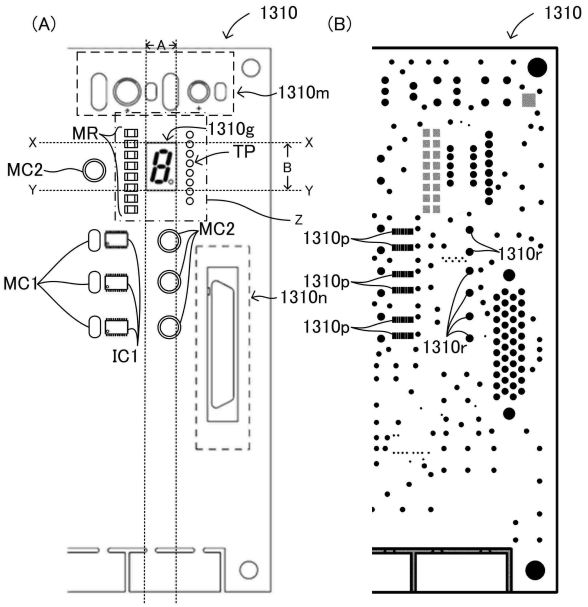
【図３５６】



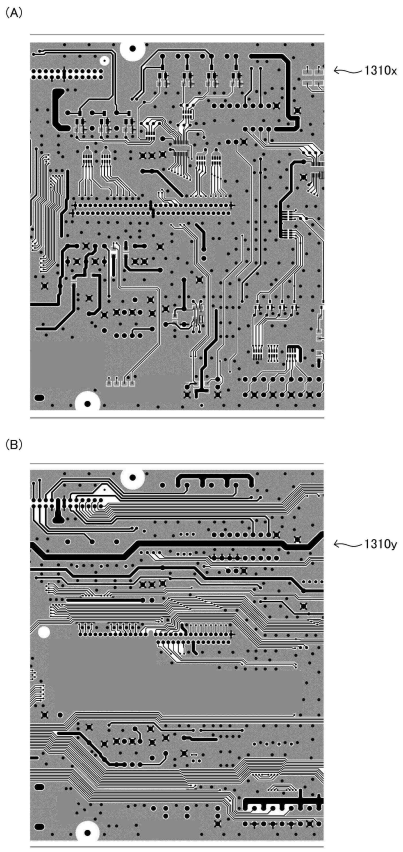
【図３５７】



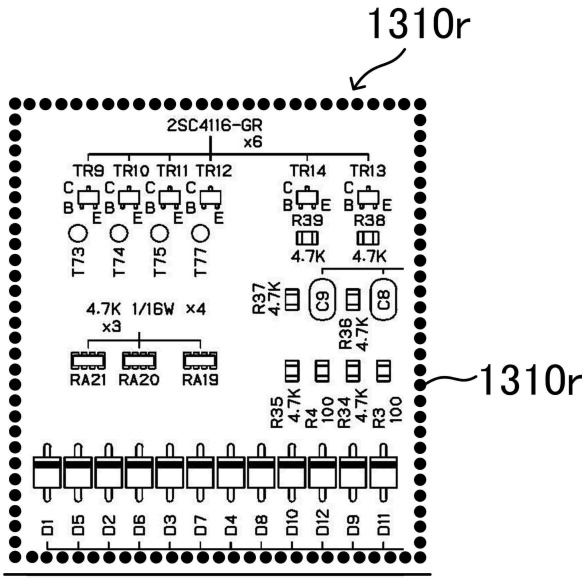
【図３５８】



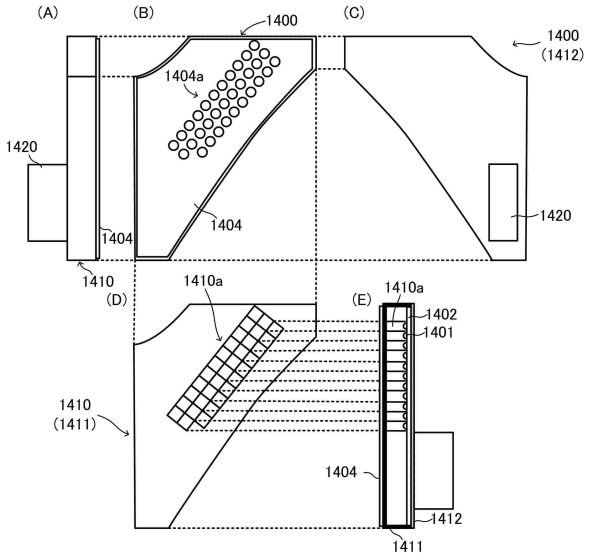
【図３５９】



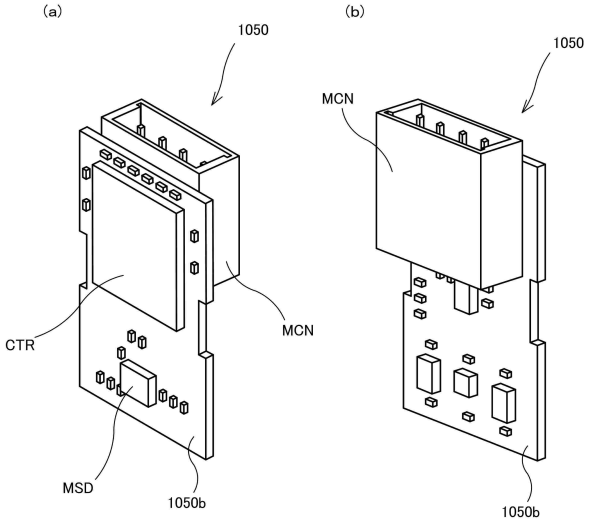
【図３６０】



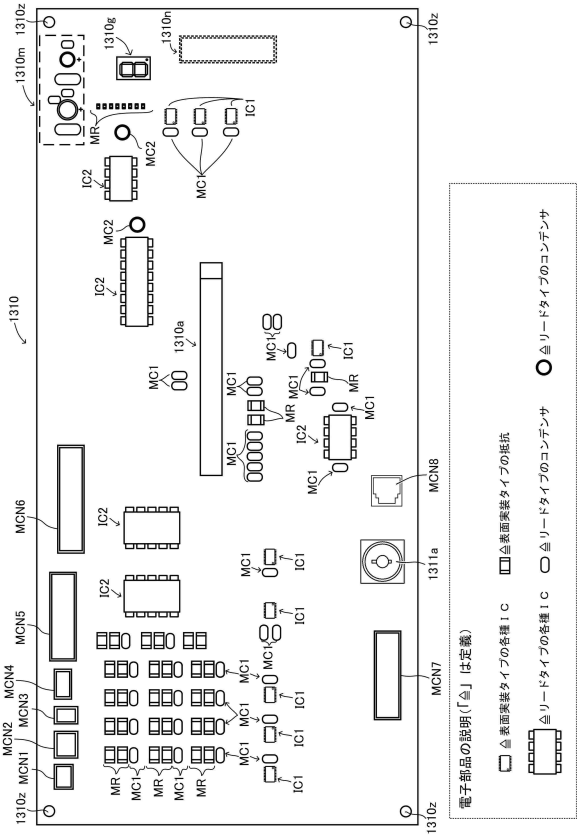
【図３６１】



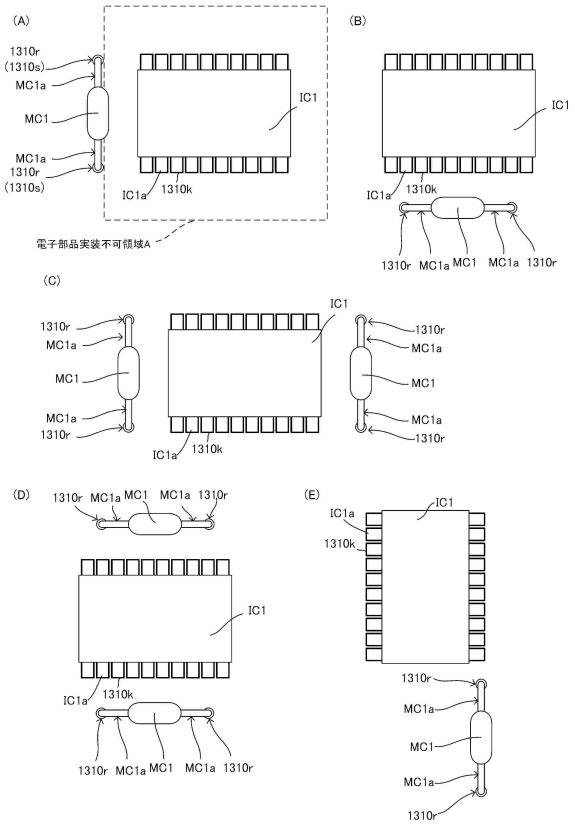
【図３６２】



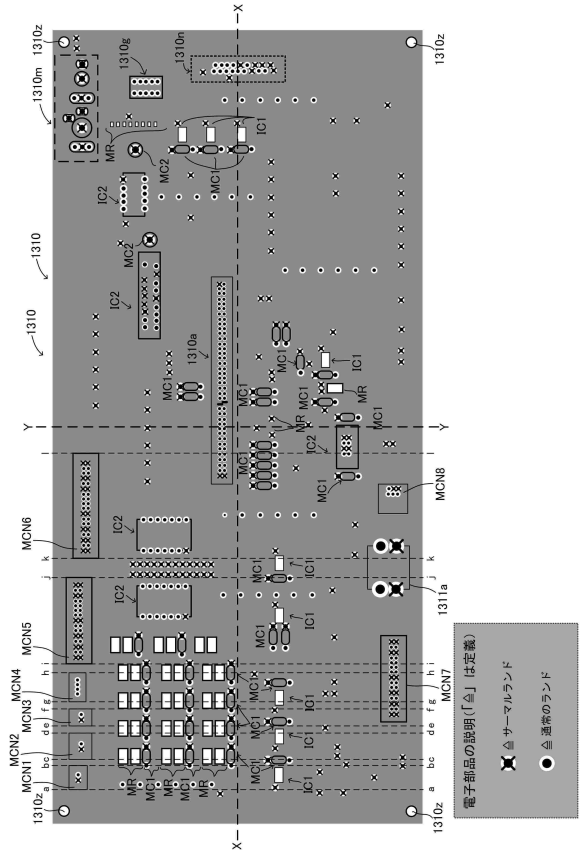
【図３６３】



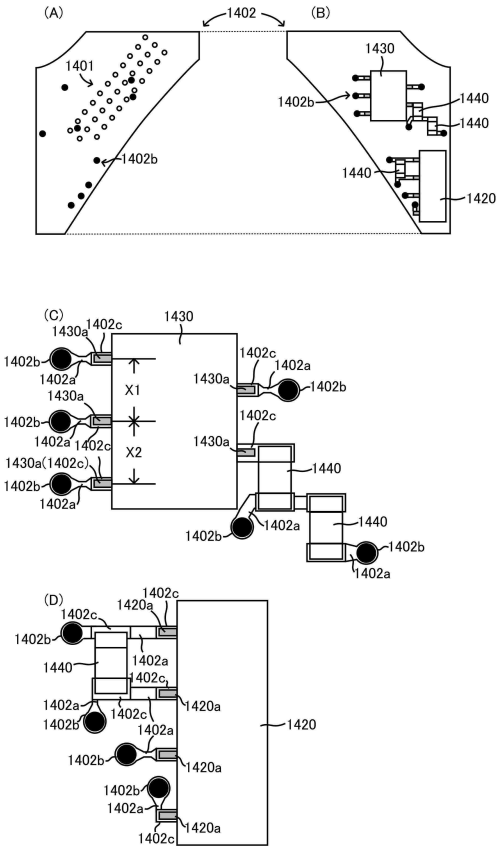
【図３６４】



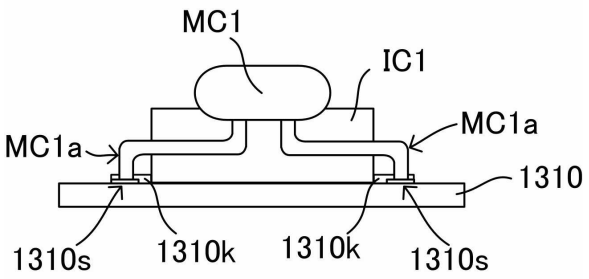
【図３６５】



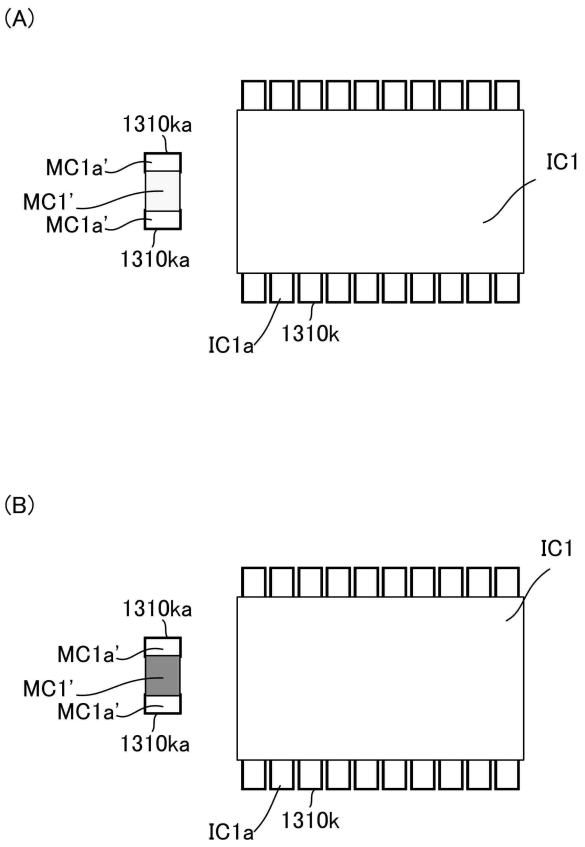
【図３６６】



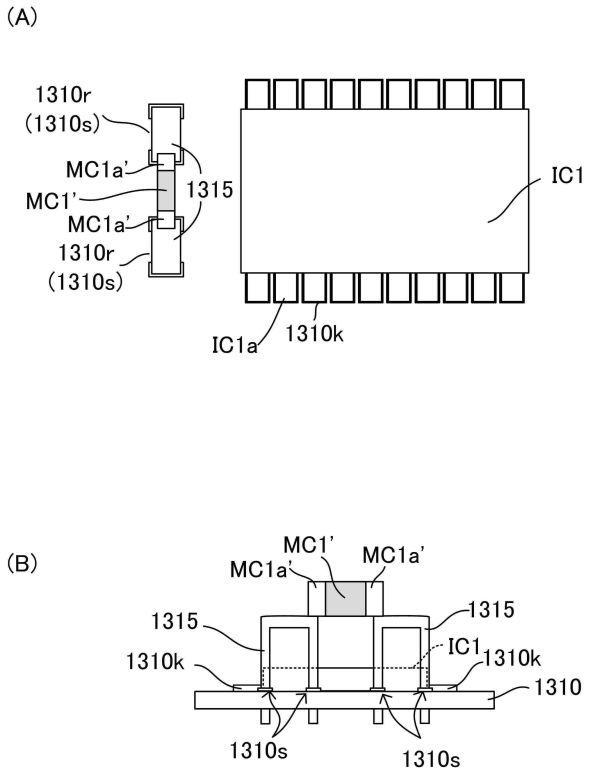
【図３６７】



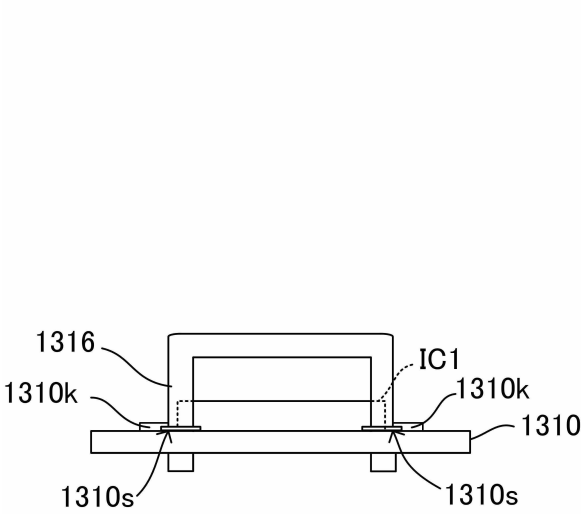
【図３６８】



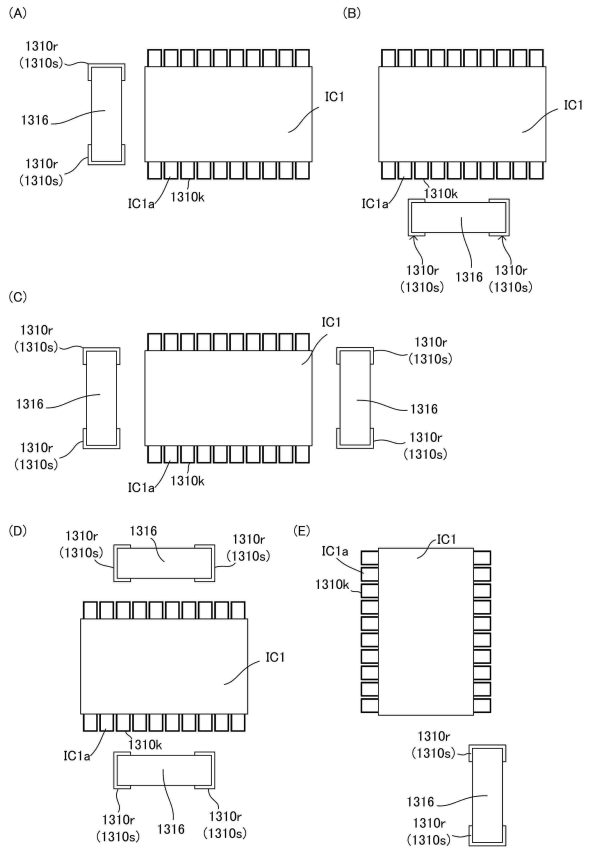
【図３６９】



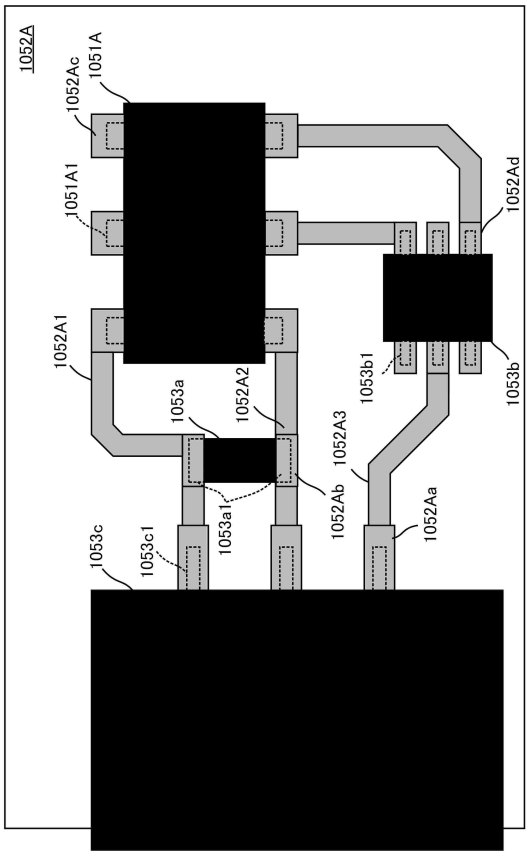
【図３７０】



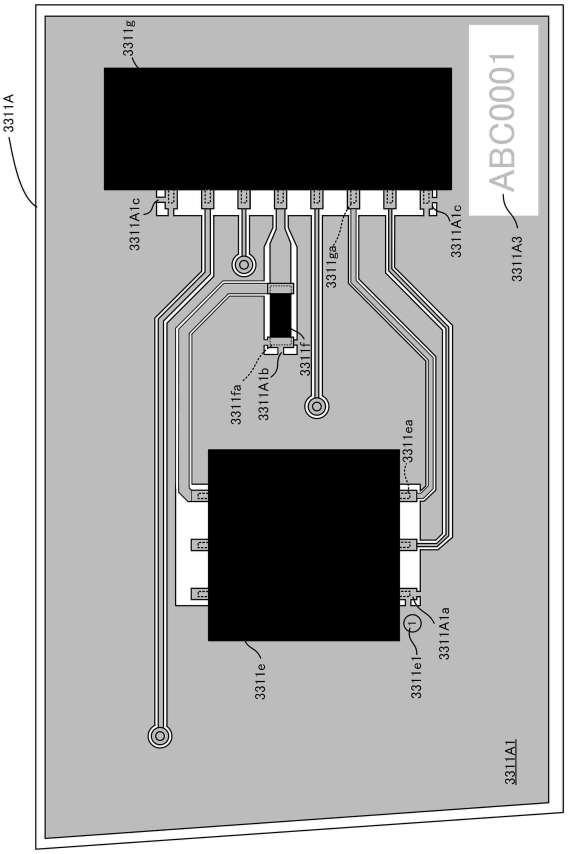
【図３７１】



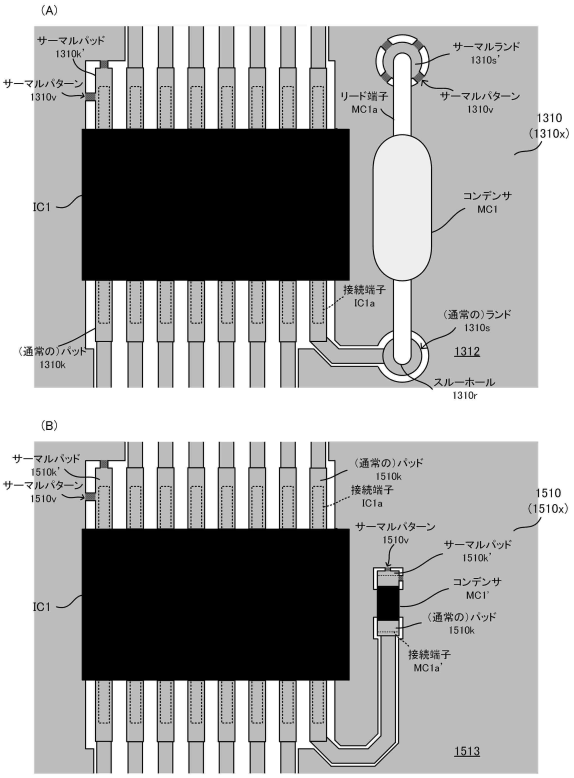
【図３７２】



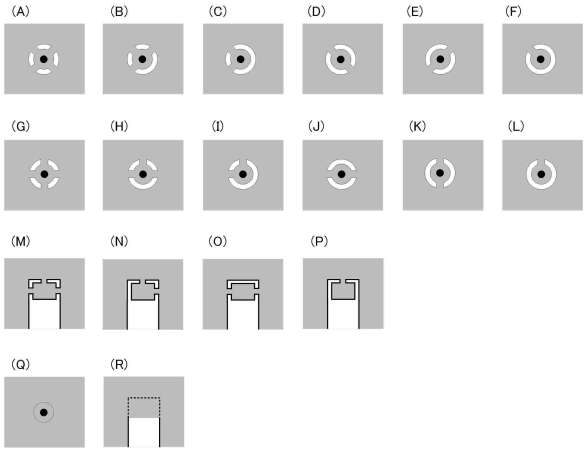
【図３７３】



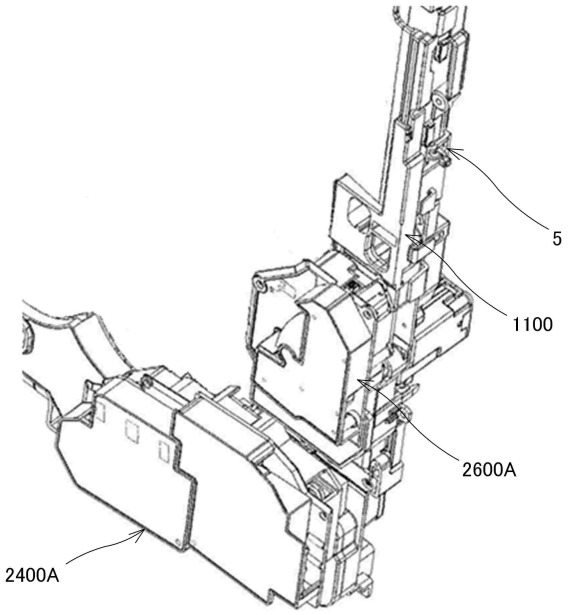
【図３７４】



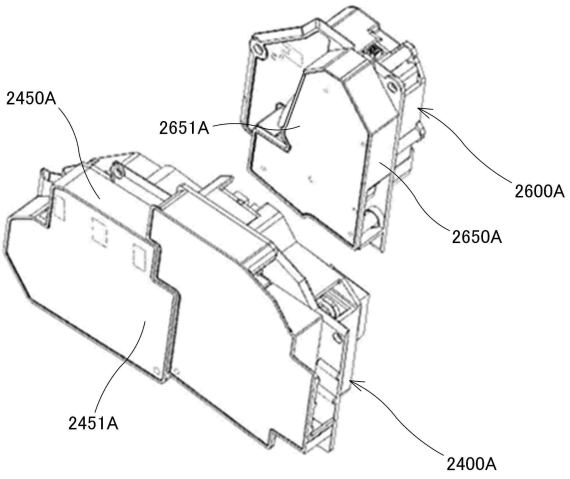
【図３７５】



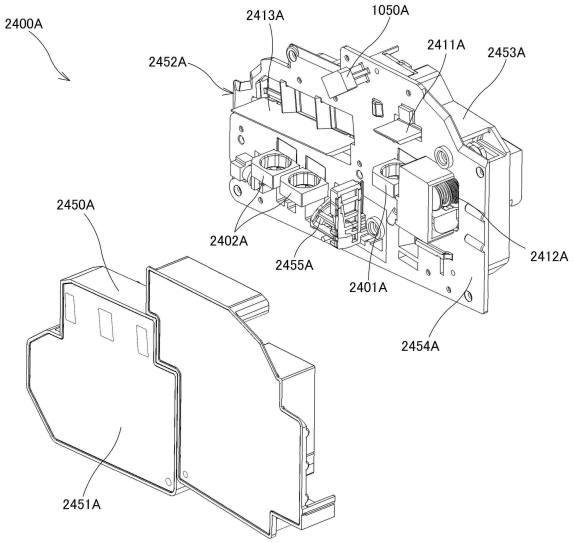
【図３７６】



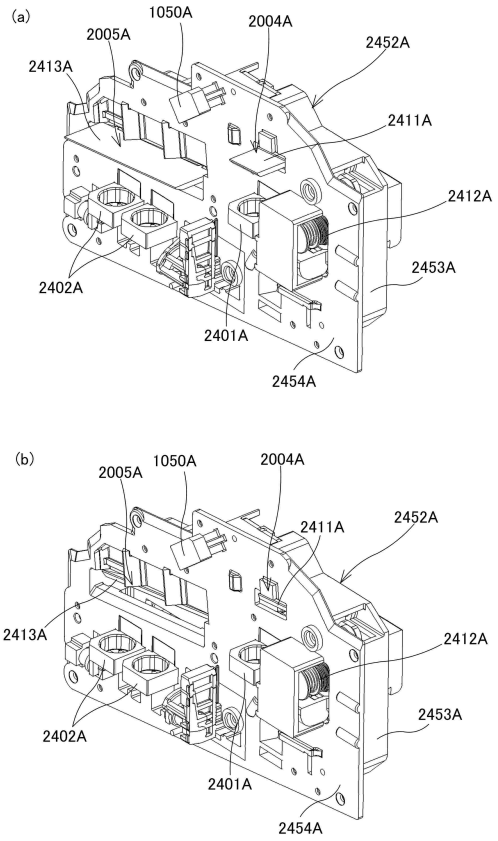
【図３７７】



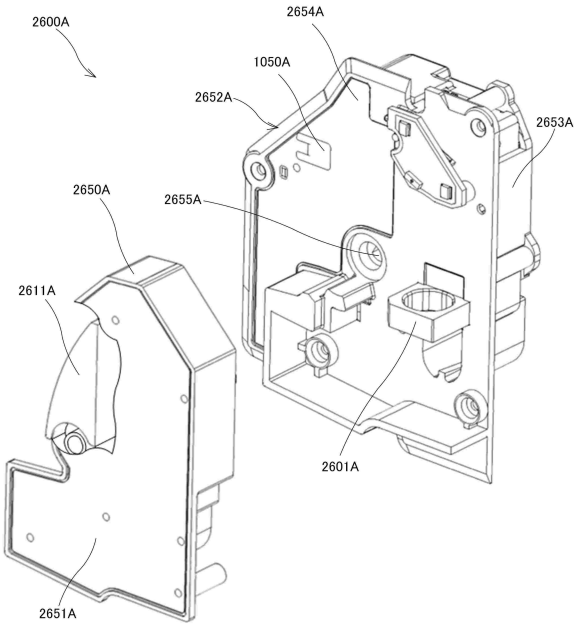
【図３７８】



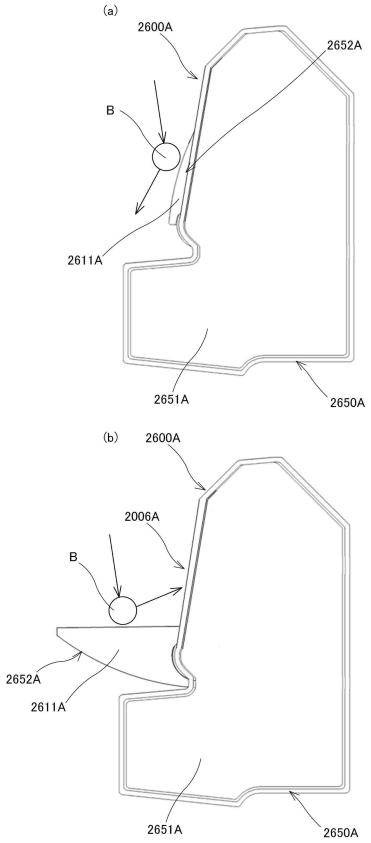
【図３７９】



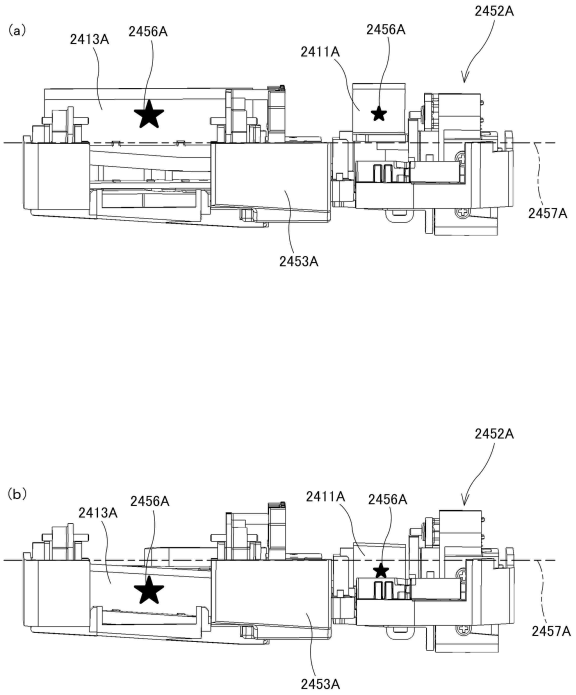
【図３８０】



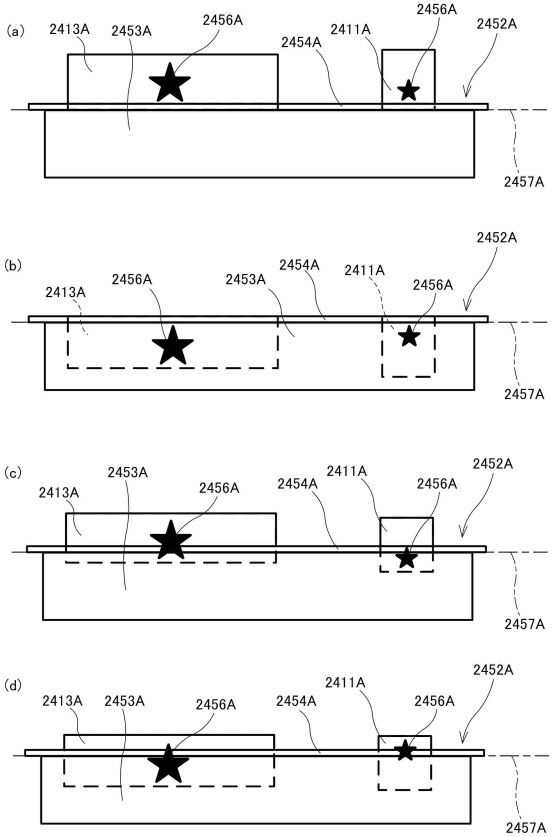
【図３８１】



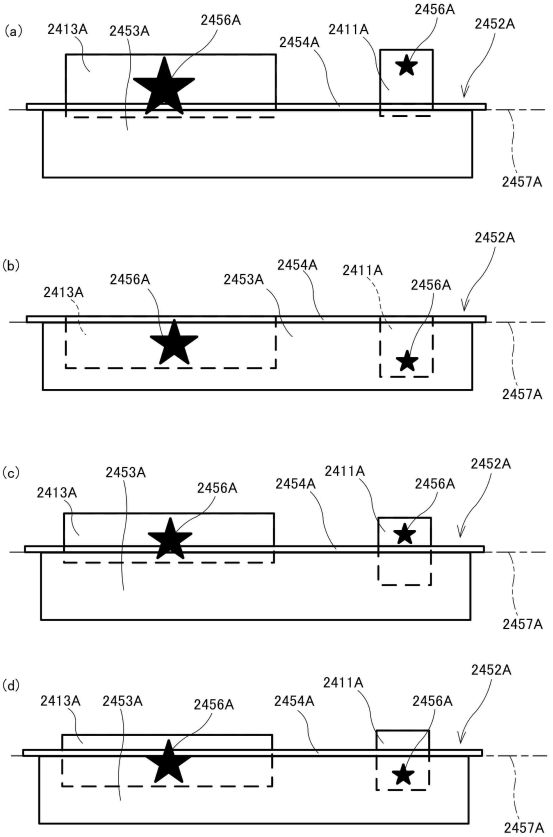
【図３８２】



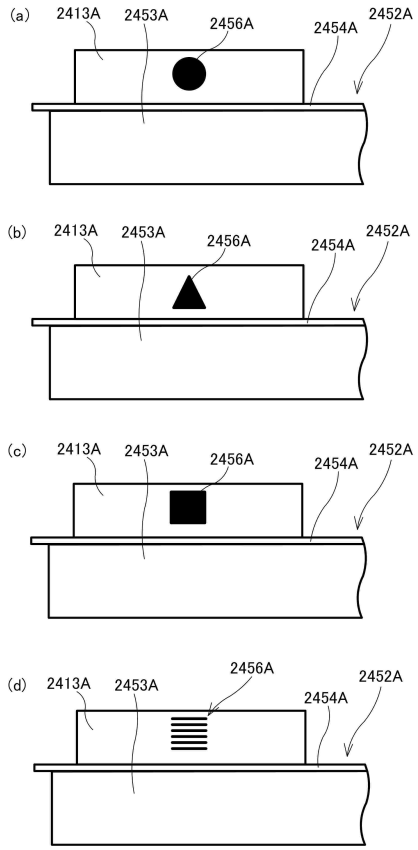
【図３８３】



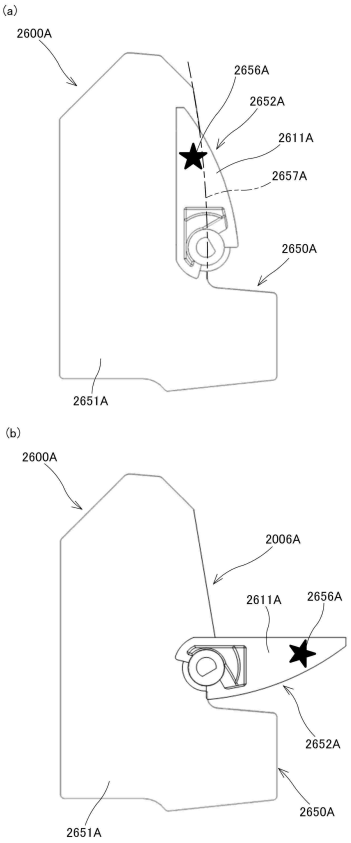
【図３８４】



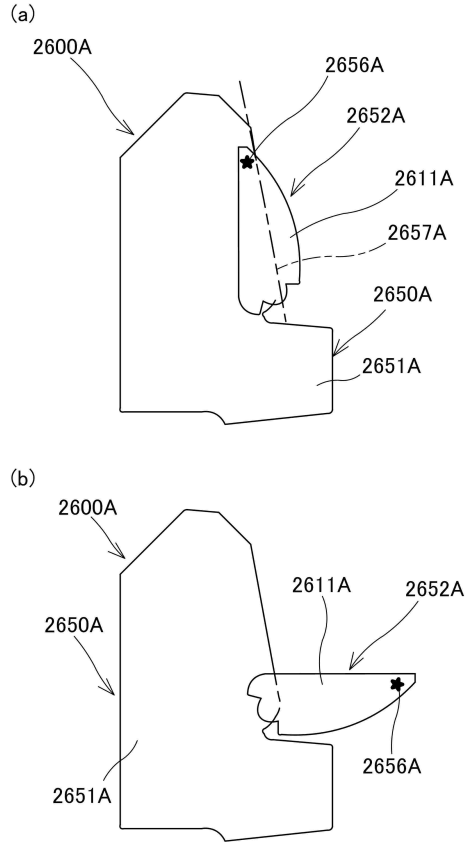
【図３８５】



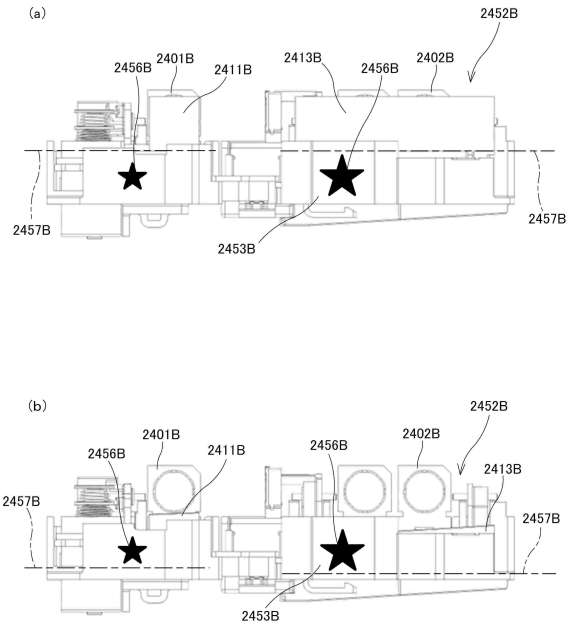
【図３８６】



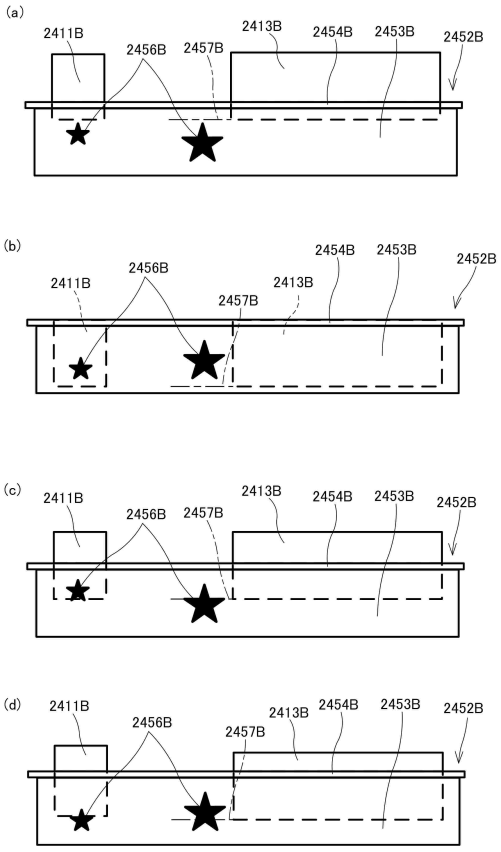
【図３８７】



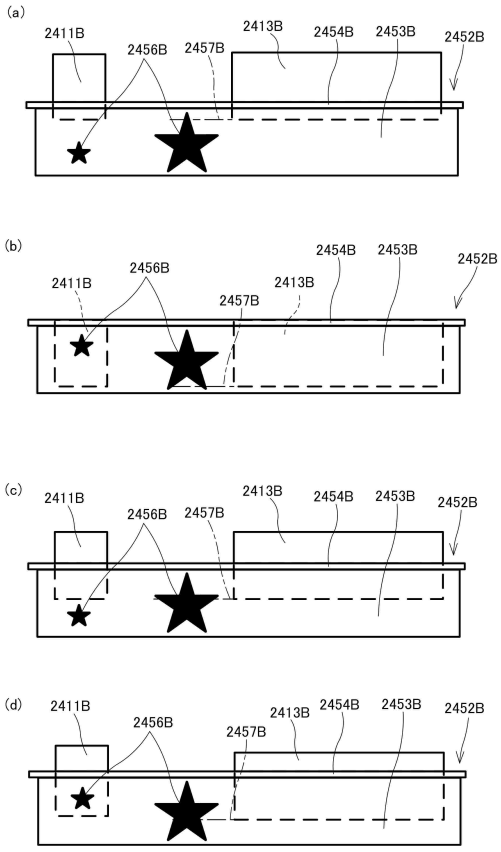
【図３８８】



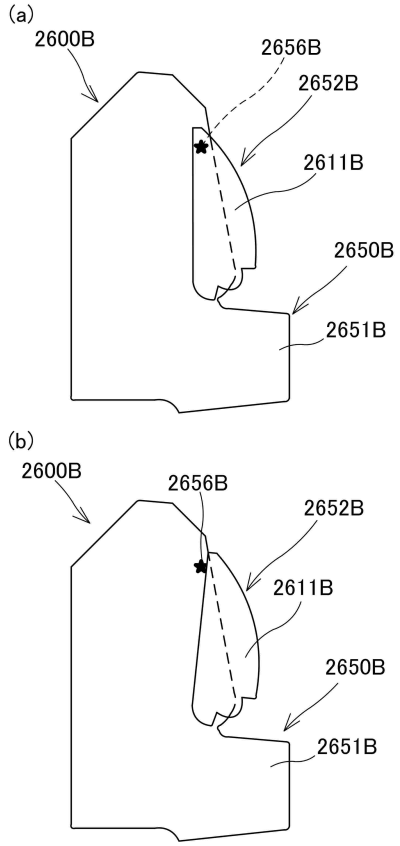
【図３８９】



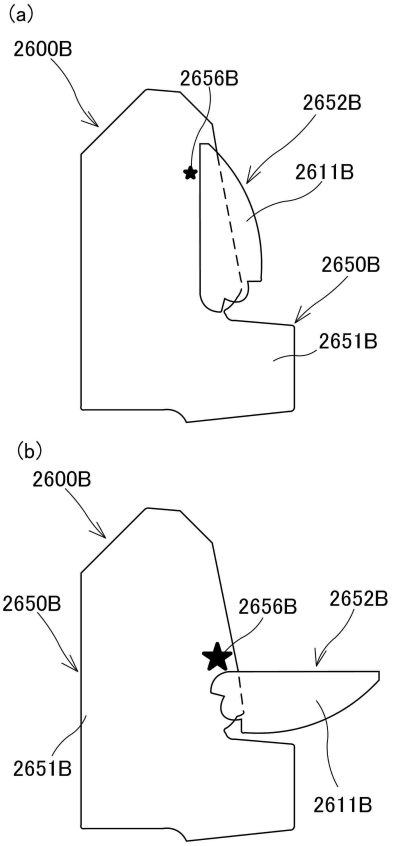
【図３９０】



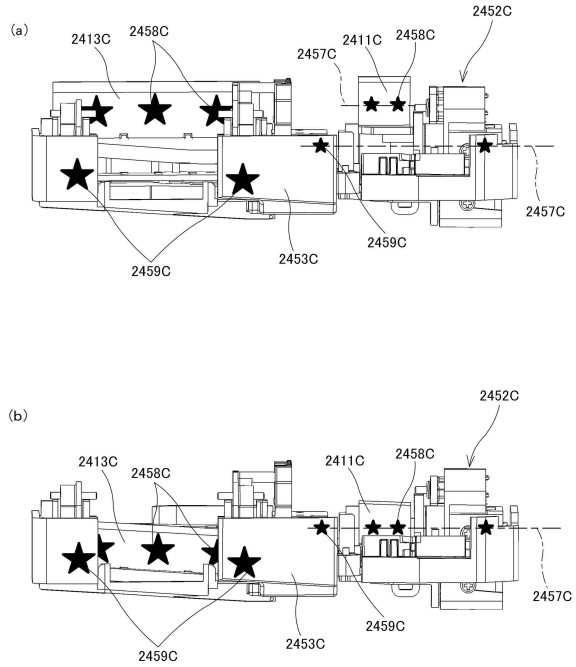
【図３９１】



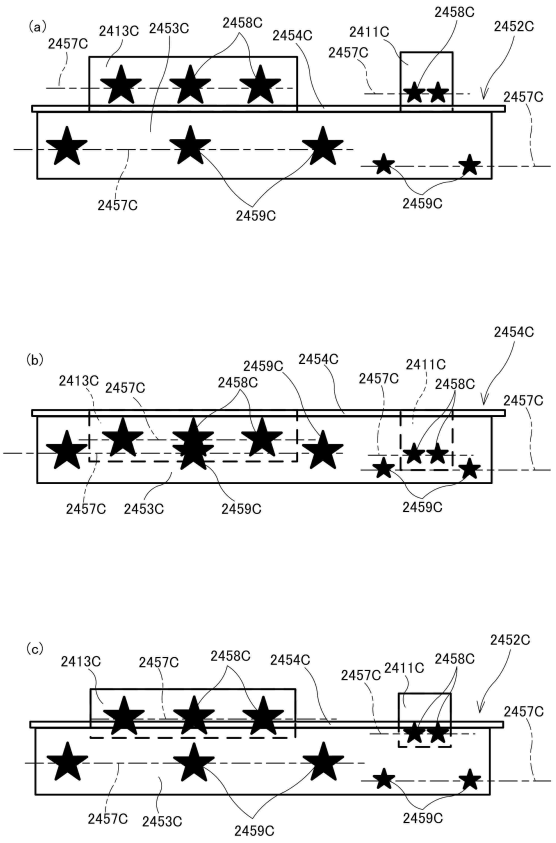
【図３９２】



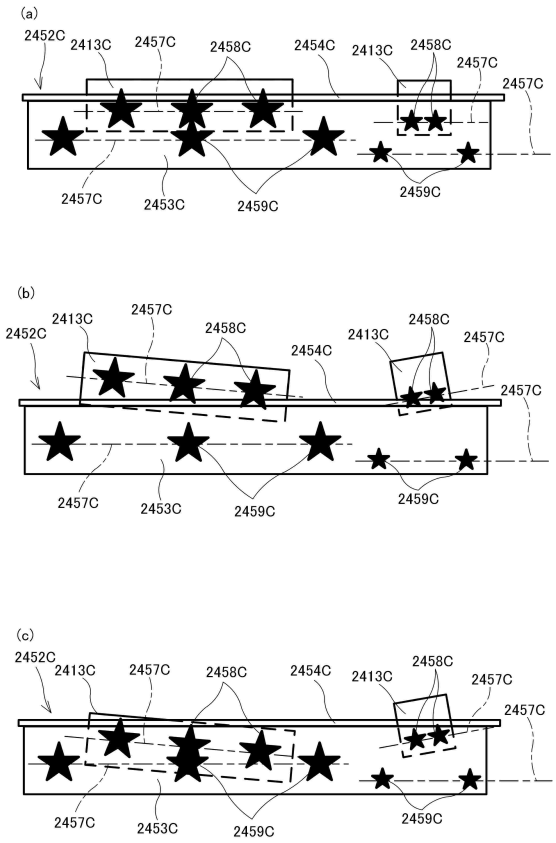
【図３９３】



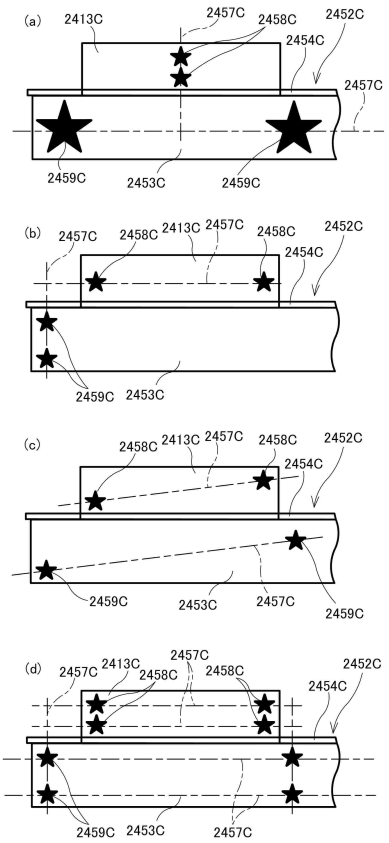
【図３９４】



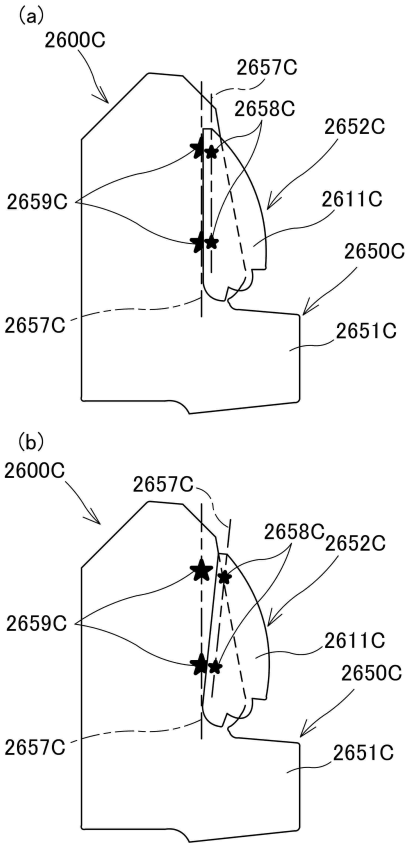
【図３９５】



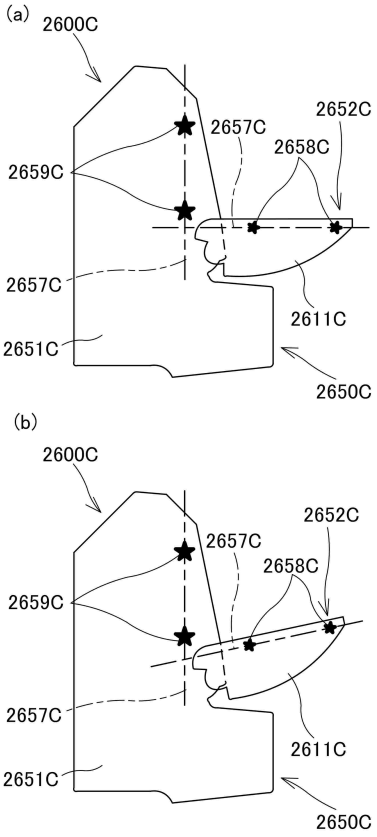
【図３９６】



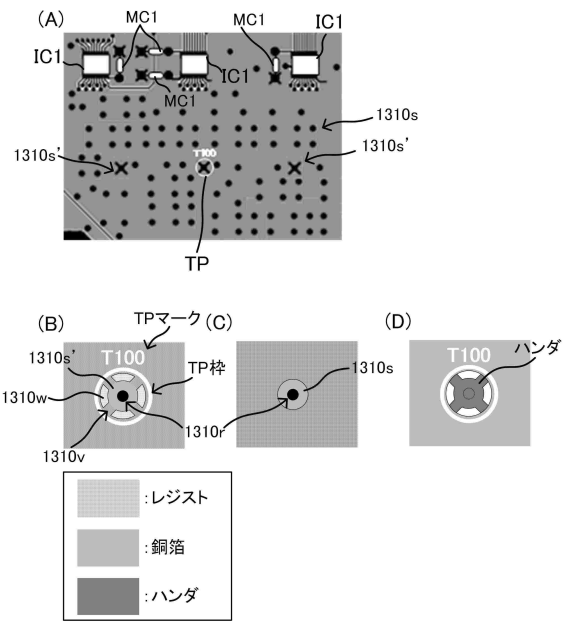
【図３９７】



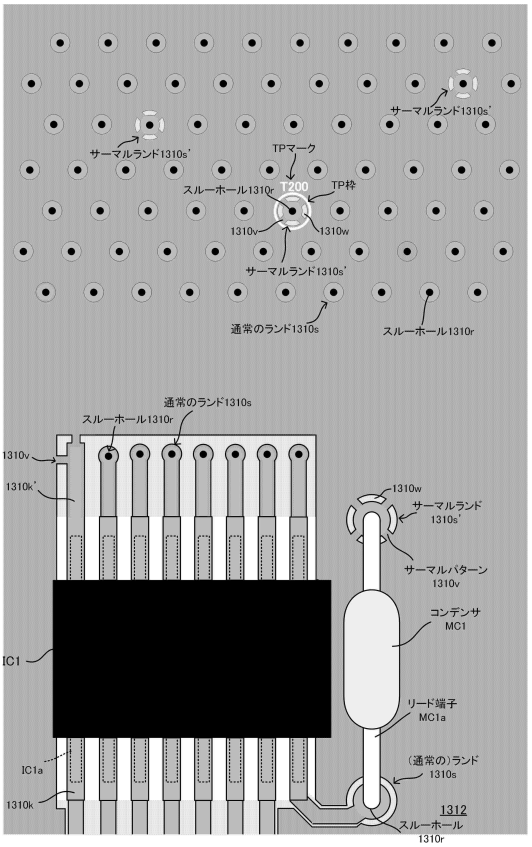
【図３９８】



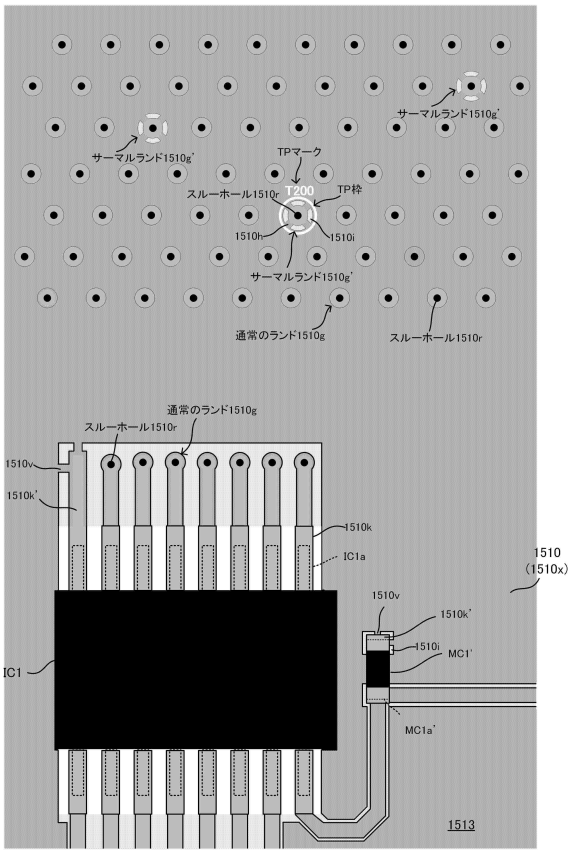
【図３９９】



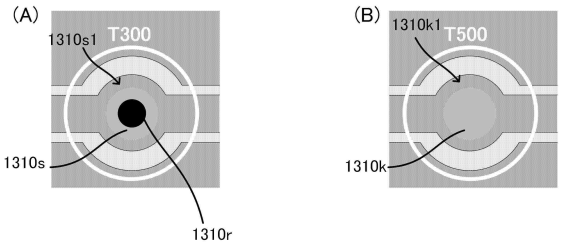
【図４００】



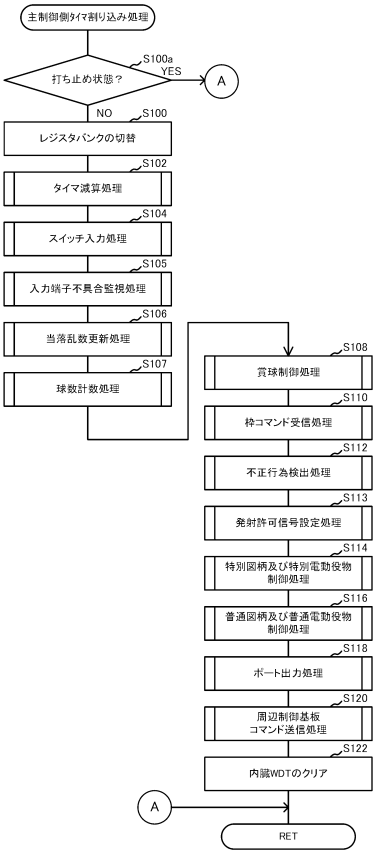
【図４０１】



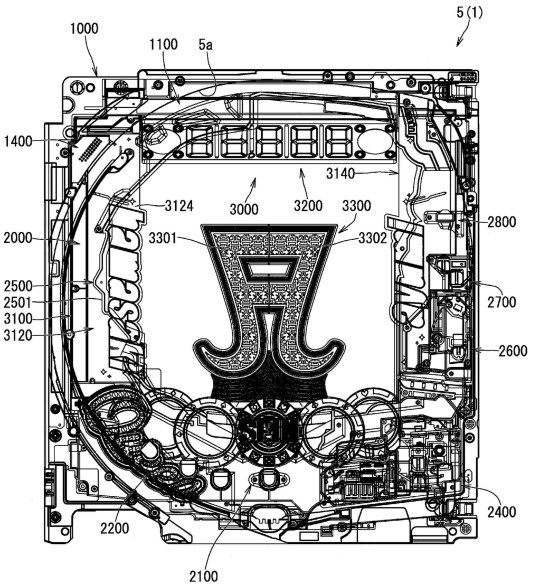
【図４０２】



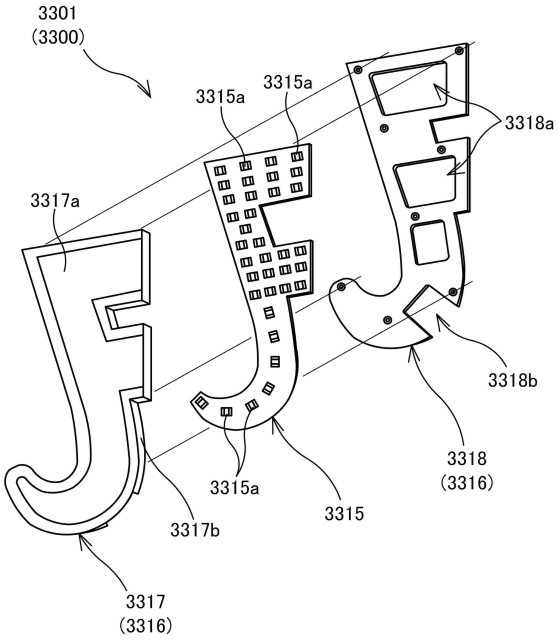
【図４０３】



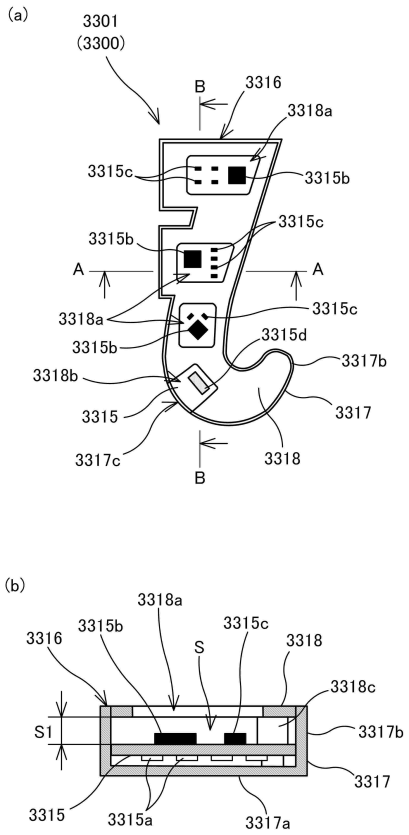
【図４０４】



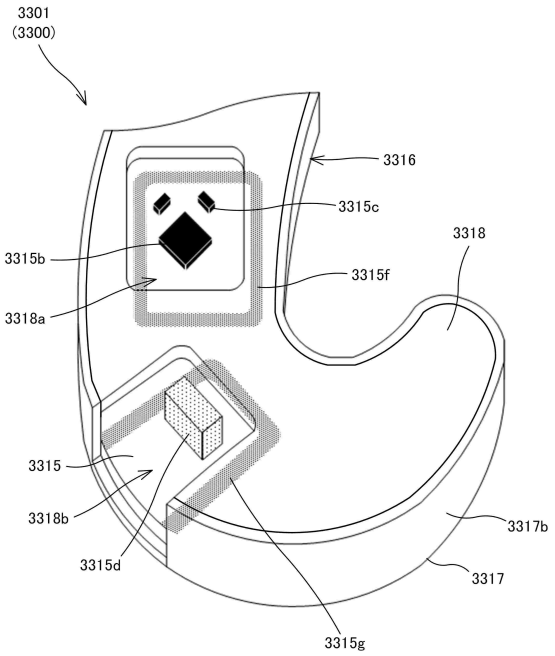
【図４０５】



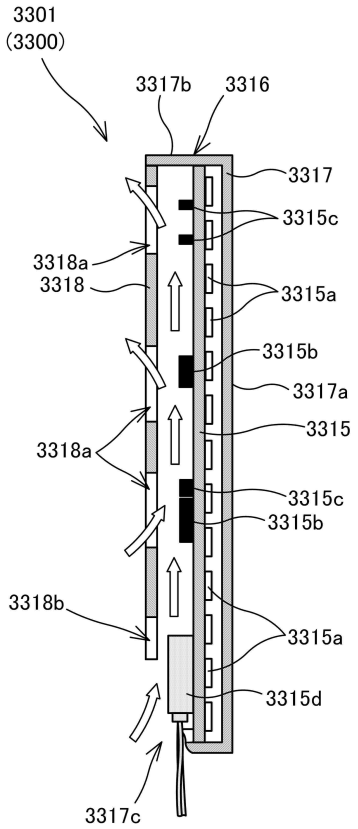
【図４０６】



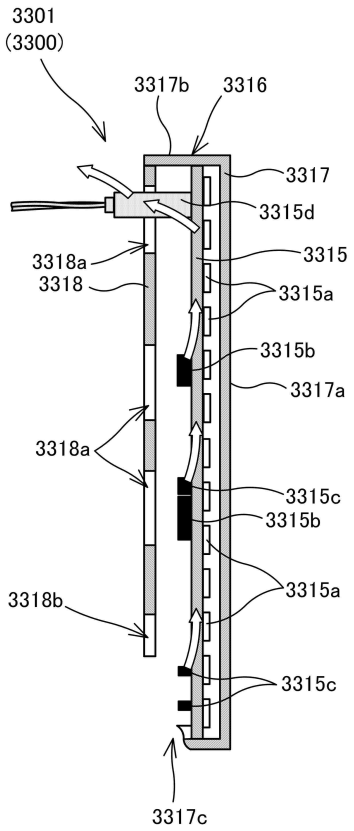
【図４０７】



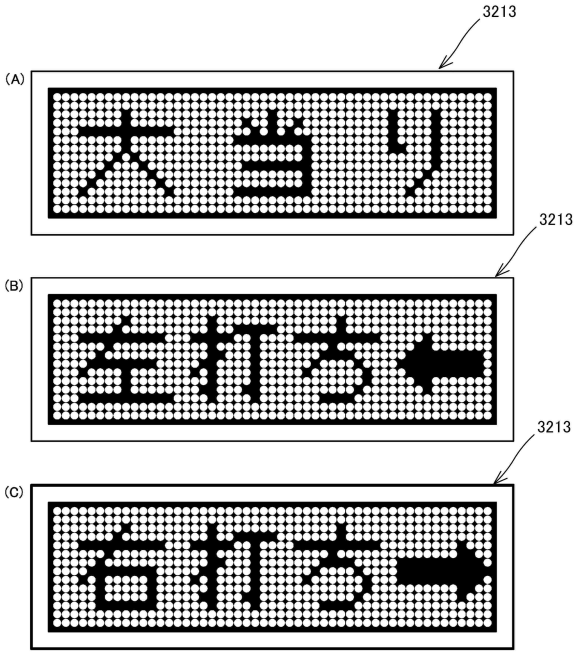
【図４０８】



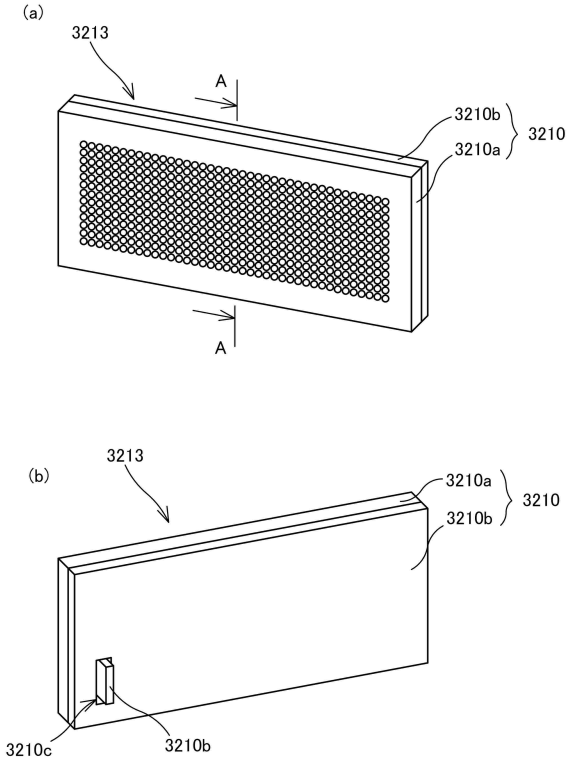
【図４０９】



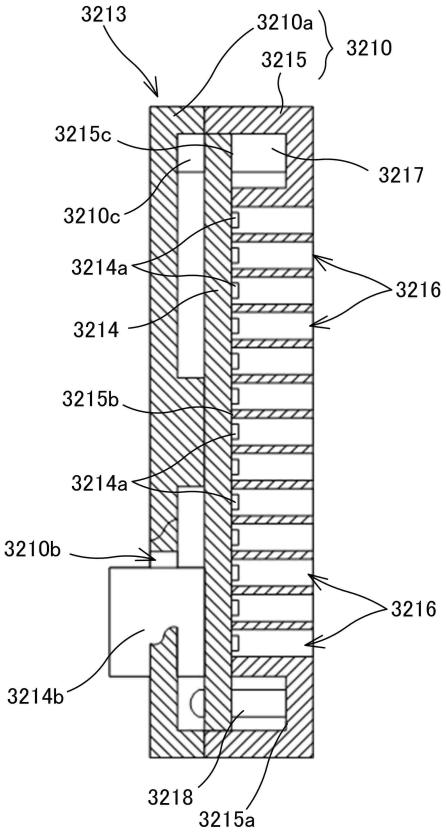
【図４１０】



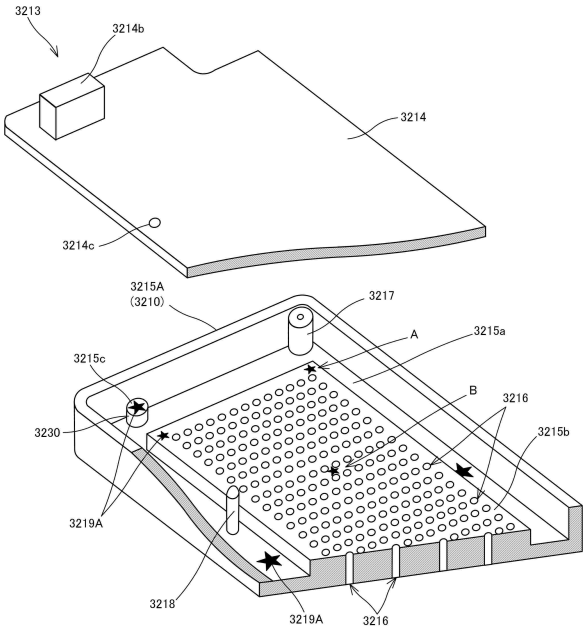
【図４１１】



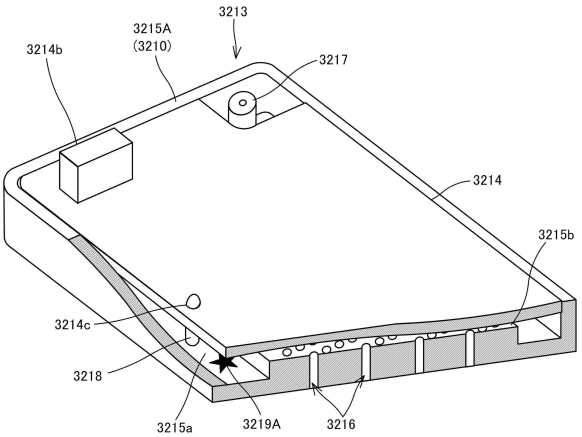
【図４１２】



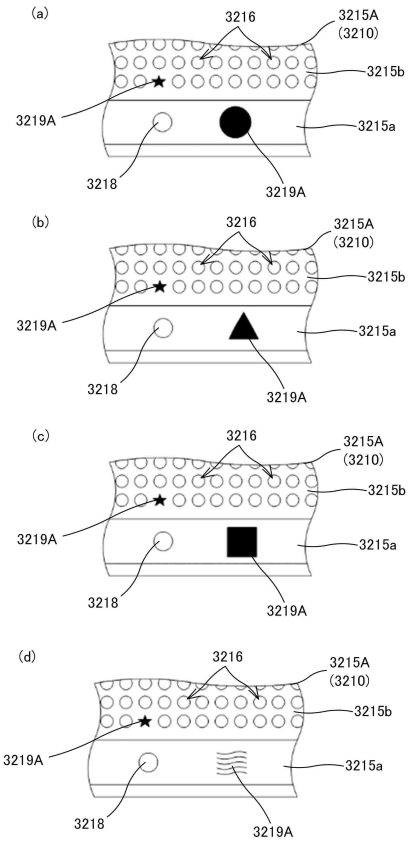
【図４１３】



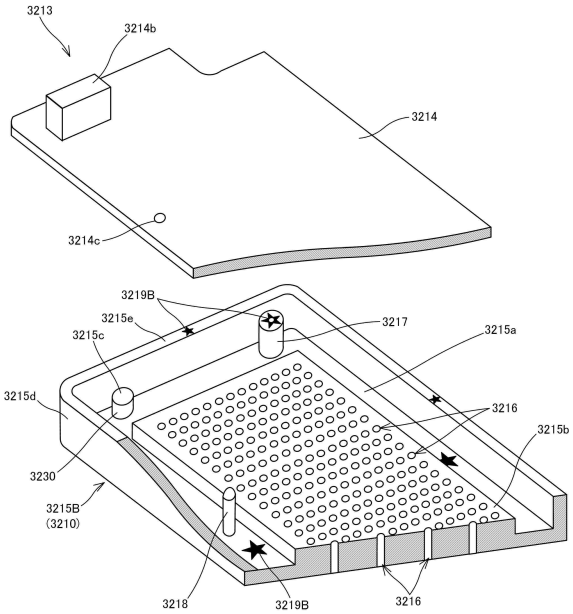
【図４１４】



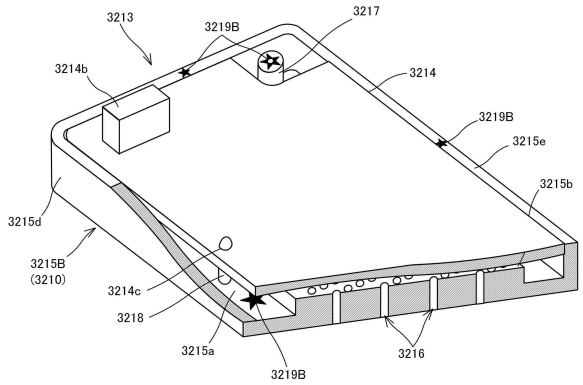
【図４１５】



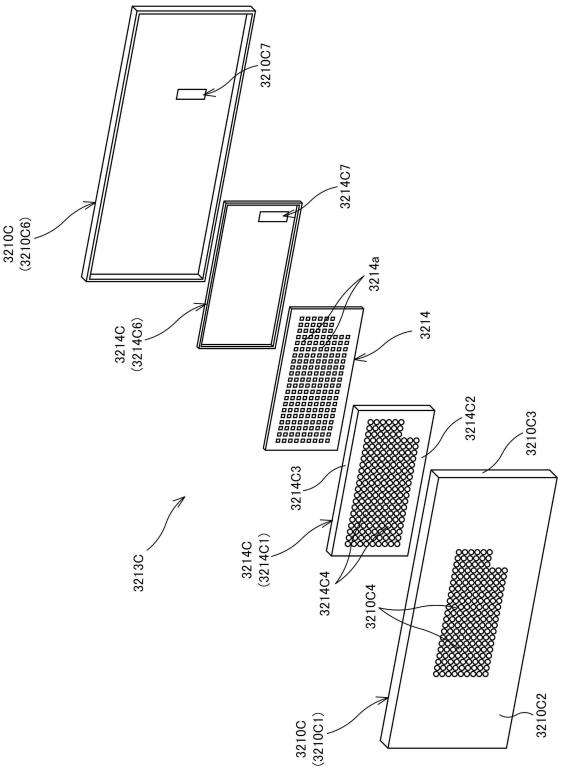
【図４１６】



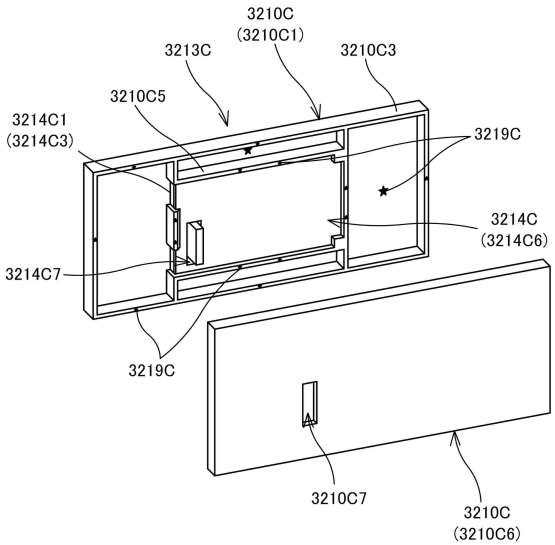
【図４１７】



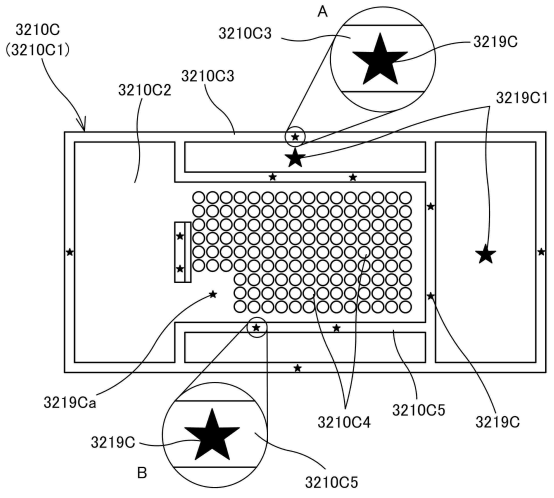
【図４１８】



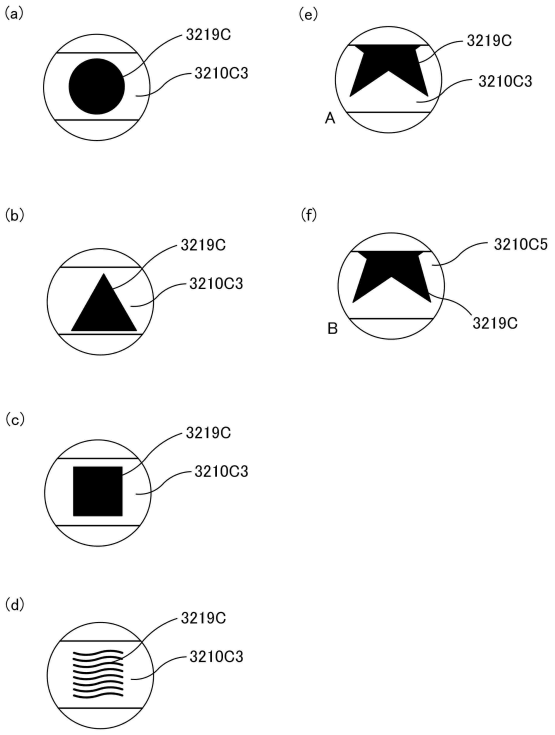
【図４１９】



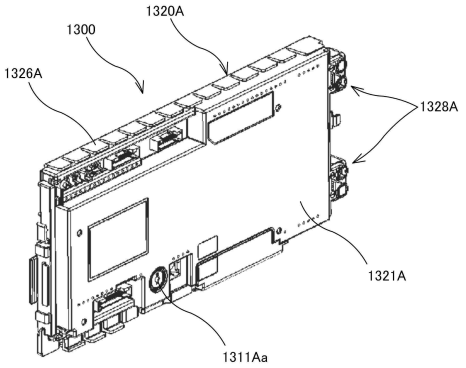
【図４２０】



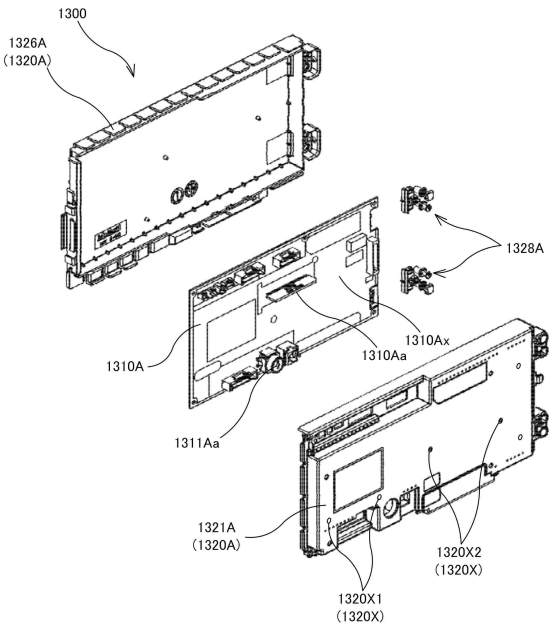
【図４２１】



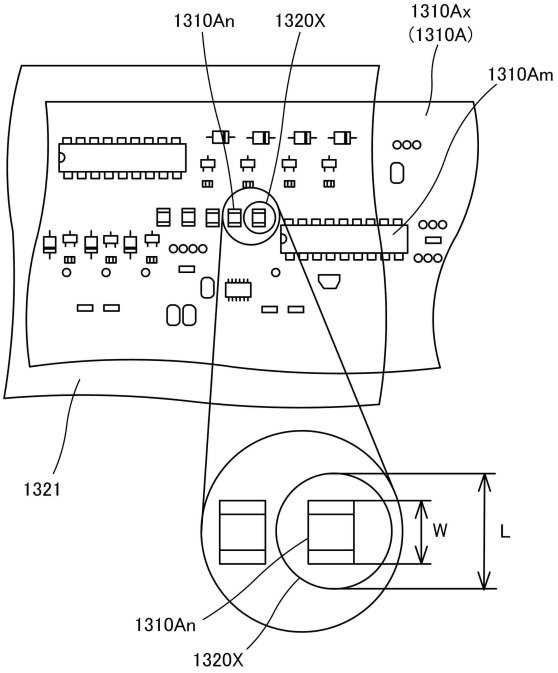
【図４２２】



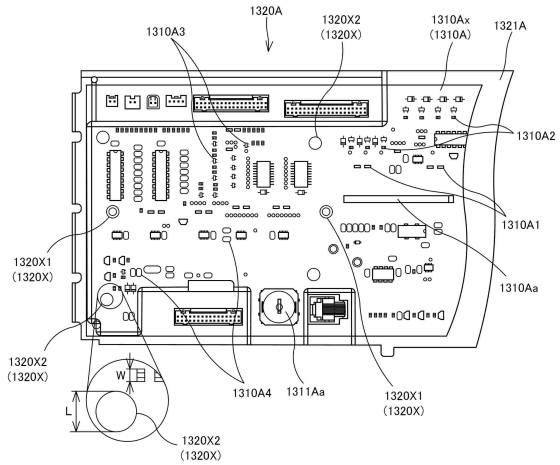
【図４２３】



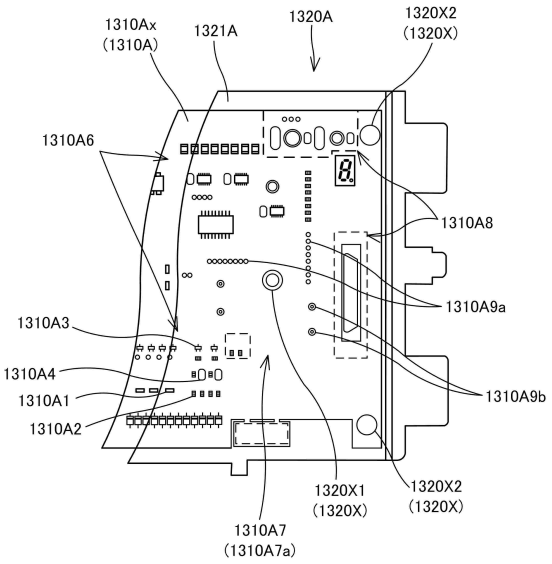
【図４２４】



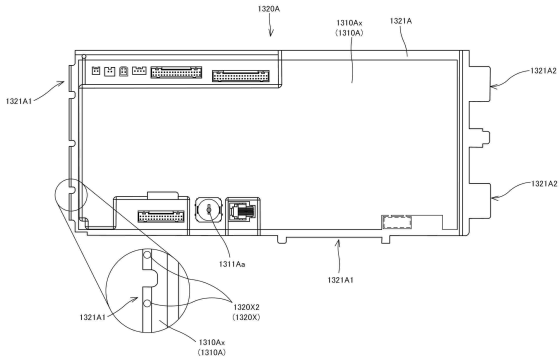
【図４２５】



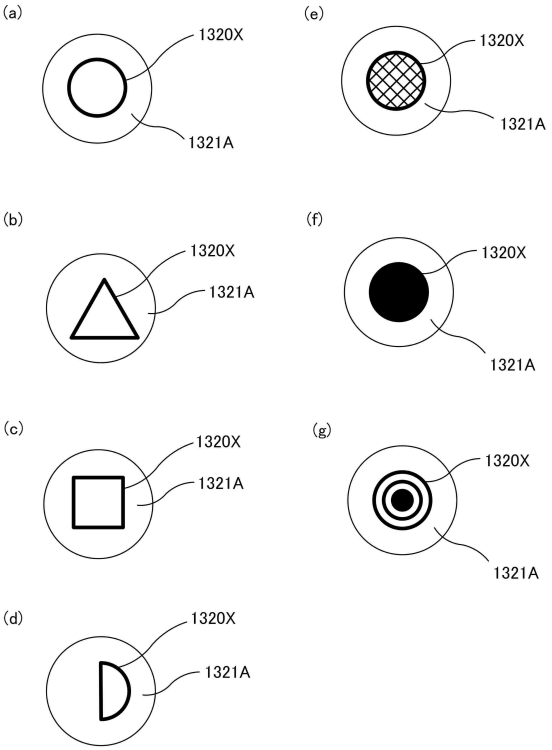
【図４２６】



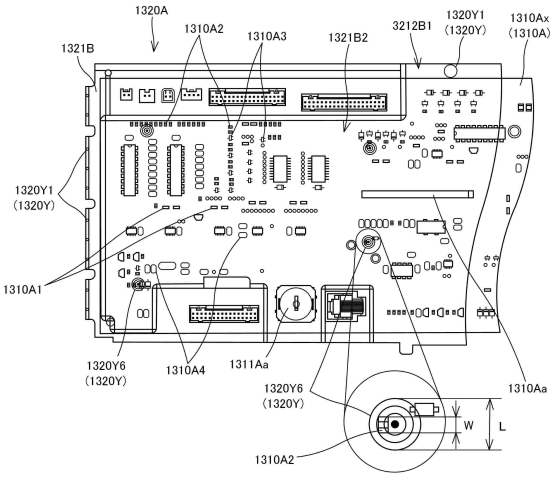
【図４２７】



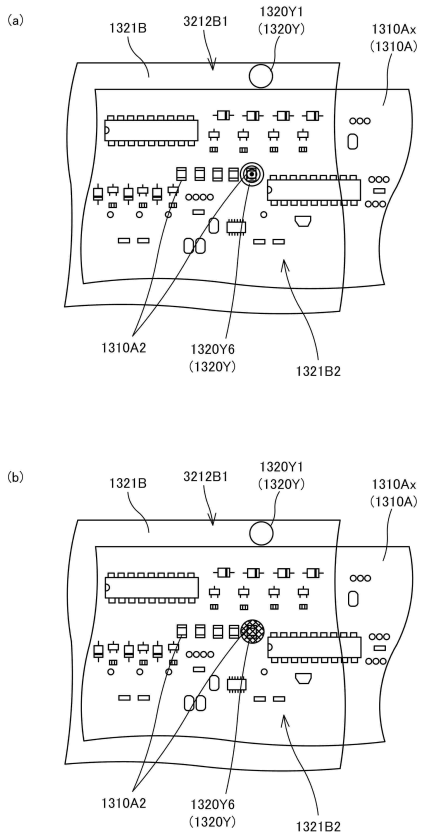
【図４２８】



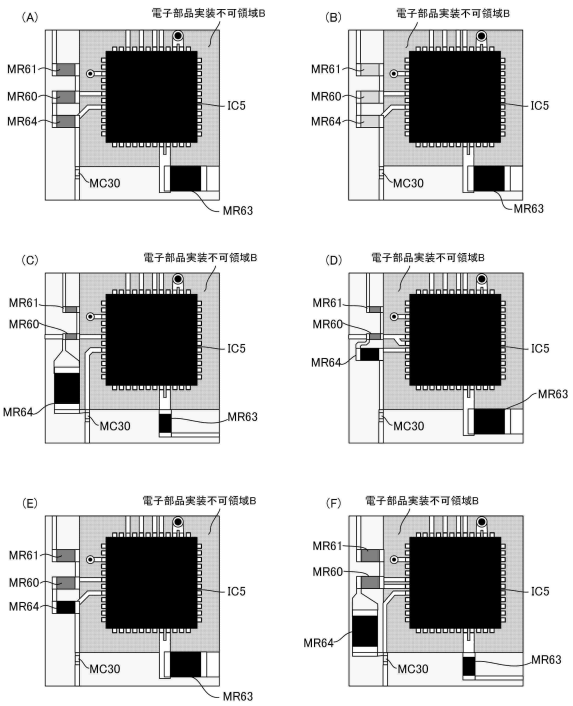
【図４２９】



【図４３０】



【図４３１】



【図４３２】

